

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127

津 寺 遺 跡 5

山 陽 自 動 車 道
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

15

(第1分冊)

1998

日本道路公団中国支社津山工事事務所
岡 山 県 教 育 委 員 会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127

津 寺 遺 跡 5

山 陽 自 動 車 道
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

15

(第1分冊)

1998

日本道路公団中国支社津山工事事務所
岡 山 県 教 育 委 員 会



1. 古代の掘立柱建物群（南から）



2. 掘立柱建物群を囲む溝（南から）



土墳墓と出土遺物



1. 弥生時代中期の土器



2. 古墳時代前期の土器



3. 古墳時代後期の土器

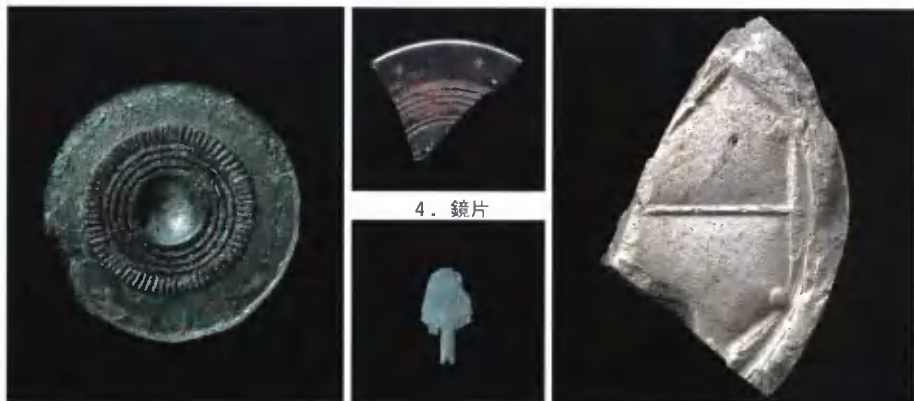
卷頭図版 4



1. 中世の土器



2. 袋状土壙-116 出土絵画土器



3. 銅鏡

4. 鏡片

6. 軒丸瓦片

序

山陽自動車道は、大阪府吹田市を起点として瀬戸内海沿岸の主要都市を結び、山口県下関市に至る総延長約487kmの高速自動車道であります。岡山県においては、昭和63年3月の笠岡～早島インターの供用開始に始まり、平成5年12月には県内全線を開通することができました。広島県においても平成5年10月に全線が開通しており、ここに岡山県と九州を結ぶ交通の大動脈が完成することとなりました。

この山陽自動車道を建設するにあたり、建設省および日本道路公団では、その予定路線内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて岡山県教育委員会と協議し、昭和56年から記録保存のための発掘調査を岡山県教育委員会に委託して実施してまいりました。その成果は、14冊の報告書として岡山県教育委員会によりまとめられています。

第15分冊にあたる本書には、昭和63年から平成4年にかけて実施した岡山市津寺遺跡の発掘調査の成果を収載しました。津寺遺跡は、岡山ジャンクションの位置に所在する弥生時代～近世の集落遺跡で、その発掘調査は87,000m²にもおよぶ大規模なものとなりましたが、本書に報告するような数々の貴重な成果をあげることができました。この本が、埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、教育・学術のために広く活用されることを期待します。

最後に、発掘調査の実施や本書の編成にあたって御尽力いただいた岡山県教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深甚なる謝意を表すものであります。

平成10年3月

日本道路公団中国支社津山工事事務所

所長 安達靖夫

序

瀬戸内海に面した岡山県は、温暖な気候と豊かな風土にめぐまれ、いにしえを知る手掛かりとなる遺跡が数多く存在し、古代吉備の中核として栄えてまいりました。高速自動車道路網の整備に伴い、平成5年12月に県内全線が開通した山陽自動車道は、地域相互の経済・文化の交流を促進する新たな交通網として、重要な役割を果たしています。

この山陽自動車道の建設にあたって岡山県教育委員会では、その予定路線内に所在する埋蔵文化財の保護を図るため、繰り返し協議・調整をしてまいりました。現状での保存が困難なものについては、記録保存の措置を講ずることとし、昭和56年から建設省岡山国道工事事務所あるいは日本道路公団広島建設局の委託を受けて、発掘調査を実施してまいりました。その結果については、既に14冊の報告書として刊行したところです。

津寺遺跡は、弥生時代から近世にかけての集落跡で、古代の官衙跡や護岸施設などの存在が明らかとなり、この地域を代表する遺跡として注目を集めていますが、第15分冊にあたる「津寺遺跡5」では、この中心地区の発掘調査成果を収載しました。この地区では、県内において調査例の少ない古代官衙跡をはじめ、古墳時代前期の大規模な集落跡や多数の遺物が副葬された中世の土壙墓の検出など、多数の成果をあげることができました。

この報告書が、埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、教育・学術のために広く活用されることを期待します。

最後に、発掘調査の実施や本書の作成にあたっては、山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会の先生方に有益な御助言と御指導を賜り、また関係者各位から多大な御協力をいただきました。ここに深甚なる謝意を表すものであります。

平成10年3月

岡山県古代吉備文化財センター
所長 藪本克之

例 言

1. 本書は、山陽自動車道建設に伴い、日本道路公団から岡山県教育委員会が委託を受けて、岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査した津寺遺跡（岡山市津寺）の報告書である。
2. 津寺遺跡の発掘調査は昭和61年度の一次調査の後、昭和63年度から平成4年度にかけて実施した。本報告書は、そのうち昭和63年度から平成2年度に行った発掘調査の報告の一部である。掲載した箇所は、津寺遺跡中屋調査区にあたる。
また、掲載箇所の調査担当者は、高畑知功、吉田正士、山本了峰、土井一行、井上弘、大橋雅也、中野雅美、福田計治、久保恵理子、後藤信義、亀山行雄、古市秀治、田代健二、飯島賢治、山磨康平、浅倉秀昭、福田正継、小松原基弘、谷岡孝久である。
3. 発掘調査および、報告書作成にあたっては、山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会を設け、下記の方々に委員を委嘱した。対策委員各位からは終始有益なご指導とご助言をいただいた。記して深謝の意を表す次第である。

水内 昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

鎌木 義昌（岡山県文化財保護審議会委員）平成4年度まで

西岡憲一郎（岡山県遺跡保護調査団）平成3年5月まで（昭和63年度を除く）

西川 宏（岡山県遺跡保護調査団）

間壁 菫子（倉敷考古館）

高見 周夫（岡山県遺跡保護調査団）

根木 修（岡山市教育委員会）

新納 泉（岡山大学）昭和60年4月～平成3年5月

平成5年度から

稲田孝司（岡山大学）平成3年5月～平成5年3月

土井基司（岡山大学）平成3年5月～平成5年6月

亀田修一（岡山理科大学）平成5年度から

4. 特殊な遺物および自然科学分野における鑑定、同定等については、下記の諸氏、機関に依頼し、有益な教示を得、一部の成果については、報告文をいただいた。記して深く感謝の意を表す次第である。

- | | |
|------------------|------------------|
| ・ 出土動物遺体の同定 | 松井 章（奈良国立文化財研究所） |
| ・ 出土人骨の鑑定 | 池田次郎（九州国際大学） |
| ・ 出土人骨の鑑定 | 井上貴央（鳥取大学） |
| ・ 種子の鑑定 | 沖 陽子（岡山大学） |
| ・ 出土石器の石材同定 | 妹尾 護（倉敷芸術科学大学） |
| ・ 出土土器の胎土分析 | 白石 純（岡山理科大学） |
| ・ 出土サヌカイトの産地同定 | 〃（ 〃 ） |
| ・ 出土瓦の鑑定 | 大脇 潔（近畿大学） |
| ・ 出土土器の赤色顔料の成分分析 | 本田光子（別府大学） |

- ・ 出土鉄滓の成分分析 大澤正己
- ・ 出土陶磁器の産地同定 大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）
- ・ 出土木材の年代測定 バリノ・サーヴェイ株式会社
- ・ 出土木材の樹種同定 ♪
- ・ 出土花粉・植物珪酸体の同定 ♪

5. 本書の作成は、平成8年度に岡山県古代吉備文化財センター津寺事務所で行った。整理作業は、発掘調査担当者の協力のもと、高畑知功、福田正継、中野雅美、小延祥夫、山本晋也、清水竜太が担当した。
6. 本書の執筆は、発掘調査および整理担当者があたり、文責はそれぞれ文末に記した。
7. 遺物写真については、江尻泰幸氏の協力と援助を仰いだ。
8. 本書の第1章、第2章については、津寺遺跡の分冊の最終分となるためそのほとんどを一部加筆して再録とした。
9. 本書の編集は、各調査区ごとに整理担当が行い、全体の編集、構成は高畑、中野が担当した。
10. 本書に収載した遺物および記録の一切は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325-3）に保管している。

凡 例

1. 本報告書に記載された高度は、海拔高であり、方位は第1図～第6図は国土座標系の座標北を示し、古代の遺構図については磁北と真北を並記したが、その他特に示さない限り磁北であり、遺跡付近の磁北線偏差は西偏 $6^{\circ}30''$ を測る。
2. グリッドは国土地理院第5座標系により、100mごとに設定した。
3. 本報告書記載の各遺構・遺物実測図の縮尺率は下記の通り統一したが、例外については縮尺を明記した。

遺構 竪穴住居・掘立柱建物：1/60 袋状土壇・土壇・焼成土壇・土壇墓・井戸：1/30

遺物 土器：1/4 土製品：1/3 石器・石製品：1/3 金属器：1/3

4. 遺構・遺物の番号は「津寺遺跡4」からひきつづきの通し番号を付した。
5. 遺物番号は、土器には番号だけを、土器以外のものには、材質を示すため下記の略号を番号の前に付した。

土製品：C 石器・石製品：S 金属器：M 木器・木製品：W ガラス製品：G

6. 本報告書に掲載した遺構上の被熱範囲、焼土、炭の分布範囲は、下記のスクリーントーンで表した。



7. 土器実測図で表現する中軸線左右の白抜きは、小破片のために口径復元に不確実性があることを示す。
8. 遺物名については、壺形土器、甕形土器、高杯形土器などを壺 甕 高杯のように略して用いた。
9. 遺構名で用いる袋状土壇とは、径1m内外、深さ1m内外に復元できる弥生時代の土壇を特に抽出したものである。
10. 各時期の「遺構に伴わない遺物」については調査区が広いため、表3、第7図で示した配列順序で橋脚P5区から橋脚P1区までをA、盛土M8I区から排水区H1までをB、排水区H2から橋脚P6区までをCとして説明する。
11. 本報告書中に用いる時代区分は、一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために文化史区分、世紀を併用した。また、弥生時代から古墳時代前半の時期区分については、「津寺遺跡2」の序説Vに示す時期区分に基づいている。なお、本書では古墳時代は在地の須恵器出現、普及をめぐりに便宜的に前半期と後半期に分けるものである。
12. 本報告書に掲載した地図のうち、第2図は建設省国土地理院発行の1/25,000の地形図「総社東部」「倉敷」を複製し加筆したものである。

目 次

巻頭カラー写真図版

序

例 言

凡 例

目 次

第1章 津寺遺跡の地理的・歴史的環境	1
第2章 調査の経緯と経過	5
第1節 調査の経緯と経過	5
第2節 調査・整理の組織	8
第3節 調査の方法と日誌抄	11
第4節 報告書作成の方法と体制	20
第5節 時期区分について	22
第3章 調査区の概要	25
第1節 調査区の概要	25
(1) 調査区の概要と位置	25
(2) 基本層序	26
第2節 弥生時代の遺構・遺物	27
(1) 弥生時代の概要	29
(2) 竪穴住居	35
(3) 掘立柱建物	81
(4) 土器棺墓	85
(5) 袋状土壙	88
(6) 土壙	142
(7) 井戸	177
(8) 溝	178
(9) 土器溜り	179
(10) 遺構に伴わない遺物	184
第3節 古墳時代前期の遺構・遺物	191
(1) 古墳時代前期の概要	193
(2) 竪穴住居	199
(3) 掘立柱建物	383
(4) 土器棺墓	386
(5) 土壙	388
(6) 溝	413
(7) 土器溜り	423

(8) 水田	430
(9) 柱穴	431
(10) 遺構に伴わない遺物	431
第4節 古墳時代後期の遺構・遺物	445
(1) 古墳時代後期の概要	447
(2) 竪穴住居	454
(3) 掘立柱建物	494
(4) 土壙	495
(5) 溝	496
(6) 遺構に伴わない遺物	498
第5節 古代の遺構・遺物	501
(1) 古代の概要	503
(2) 掘立柱建物	509
(3) 柱穴列	526
(4) 土壙	527
(5) 焼成土壙	537
(6) 溝	539
(7) 柱穴	583
(8) 遺構に伴わない遺物	584
第6節 中世の遺構・遺物	595
(1) 中世の概要	597
(2) 掘立柱建物	603
(3) 土壙墓	606
(4) 土壙	613
(5) 井戸	631
(6) 焼成土壙	633
(7) 溝	634
第7節 近世の遺構・遺物	642
(1) 近世の概要	642
(2) 掘立柱建物	650
(3) 土壙	657
(4) 井戸	670
(5) 溝	673
(6) 遺構に伴わない遺物	680
第8節 まとめ	682
第4章 自然科学分野における分析	687
第1節 津寺遺跡(中屋調査区)出土鉄滓の金属学的調査	大澤 正己 687
第2節 津寺遺跡中屋調査区から検出された歯牙について	井上 貴央 693

第3節	津寺遺跡中屋調査区出土赤色顔料について	本田 光子	695
第4節	津寺遺跡中屋調査区出土サヌカイト製剥片の産地について	白石 純	696
第5節	津寺遺跡5出土土器の胎土分析	白石 純	697
第5章	津寺遺跡のまとめ		707
第1節	弥生時代の津寺遺跡		707
第2節	古墳時代前期の津寺遺跡		712
第3節	古墳時代後期の津寺遺跡		718
第4節	古代の津寺遺跡		722
第5節	中世の津寺遺跡		731
第6節	近世の津寺遺跡		735

- ・遺構一覧表
- ・遺物観察表
- ・遺構名称対照表
- ・写真図版
- ・報告書抄録

目 次

第1図 収載遺跡位置図(1/1,000,000)	1	第37図 竪穴住居-199出土遺物(2)	57
第2図 周辺遺跡分布図(1/25,000)	3	第38図 竪穴住居-199出土遺物(3)	58
第3図 ジャンクション植栽部位置図(1/3,000)	7	第39図 竪穴住居-200(1/60)・出土遺物(1)	59
第4図 津寺遺跡周辺地形図(1/5,000)	12	第40図 竪穴住居-200出土遺物(2)	60
第5図 ジャンクション部分地形図(1/3,000)	14	第41図 竪穴住居-200出土遺物(3)	61
第6図 津寺遺跡ジャンクション部分調査区割図 (1/3,000)	15	第42図 竪穴住居-200出土遺物(4)	62
第7図 調査区位置図(1/2,500)	25	第43図 竪穴住居-200出土遺物(5)	63
第8図 縄文時代包含層(1/60)・出土遺物	26	第44図 竪穴住居-201(1/60)・出土遺物(1)	64
第9図 弥生時代全体図(1/600)	27	第45図 竪穴住居-201出土遺物(2)	65
第10図 弥生時代部分全体図(1)(1/300)	30	第46図 竪穴住居-202(1/60)・出土遺物	66
第11図 弥生時代部分全体図(2)(1/300)	31	第47図 竪穴住居-203(1/60)	67
第12図 弥生時代部分全体図(3)(1/300)	32	第48図 竪穴住居-203出土遺物	68
第13図 弥生時代部分全体図(4)(1/300)	33	第49図 竪穴住居-204(1/60)	69
第14図 弥生時代部分全体図(5)(1/300)	34	第50図 竪穴住居-204出土遺物	70
第15図 竪穴住居-187(1/60)・出土遺物	35	第51図 竪穴住居-205(1/60)	71
第16図 竪穴住居-188(1/60)	36	第52図 竪穴住居-205出土遺物(1)	72
第17図 竪穴住居-188出土遺物	37	第53図 竪穴住居-205出土遺物(2)	73
第18図 竪穴住居-189(1/60)・出土遺物	38	第54図 竪穴住居-205上部土器溜り(1/30)・出土遺物(1)	74
第19図 竪穴住居-190(1/60)・出土遺物	39	第55図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(2)	75
第20図 竪穴住居-191(1/60)・出土遺物	40	第56図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(3)	76
第21図 竪穴住居-192(1/60)	41	第57図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(4)	77
第22図 竪穴住居-192出土遺物(1)	42	第58図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(5)	78
第23図 竪穴住居-192出土遺物(2)	43	第59図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(6)	79
第24図 竪穴住居-192出土遺物(3)	44	第60図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(7)	80
第25図 竪穴住居-193A・B・C(1/60)	45	第61図 掘立柱建物-49(1/60)・出土遺物	81
第26図 竪穴住居-193A・B・C出土遺物	46	第62図 掘立柱建物-50(1/60)	82
第27図 竪穴住居-194(1/60)・出土遺物	47	第63図 掘立柱建物-51(1/60)	83
第28図 竪穴住居-195(1/60)	48	第64図 掘立柱建物-52(1/60)	84
第29図 竪穴住居-195・P-3(1/30)	49	第65図 土器棺墓-12(1/30)・出土遺物	85
第30図 竪穴住居-195出土遺物(1)	50	第66図 土器棺墓-13(1/30)・出土遺物	86
第31図 竪穴住居-195出土遺物(2)	51	第67図 土器棺墓-14(1/30)・出土遺物	87
第32図 竪穴住居-196・197(1/60)	52	第68図 土器棺墓-15(1/30)・出土遺物	88
第33図 竪穴住居-196出土遺物	53	第69図 袋状土壙-81(1/30)・出土遺物	89
第34図 竪穴住居-198(1/60)	54	第70図 袋状土壙-82(1/30)・出土遺物	89
第35図 竪穴住居-198出土遺物	55	第71図 袋状土壙-83(1/40)	90
第36図 竪穴住居-199(1/60)・出土遺物(1)	56	第72図 袋状土壙-83(1/30)	91

第73图	袋状土壙-84(1/30)	92
第74图	袋状土壙-85(1/30)	92
第75图	袋状土壙-86(1/30)·出土遺物	93
第76图	袋状土壙-87(1/30)·出土遺物(1)	94
第77图	袋状土壙-87出土遺物(2)	95
第78图	袋状土壙-87出土遺物(3)	96
第79图	袋状土壙-88(1/30)·出土遺物	97
第80图	袋状土壙-89(1/30)·出土遺物	97
第81图	袋状土壙-90(1/30)	98
第82图	袋状土壙-91(1/30)·出土遺物	98
第83图	袋状土壙-92(1/30)	99
第84图	袋状土壙-93(1/30)·出土遺物	99
第85图	袋状土壙-94(1/30)·出土遺物	100
第86图	袋状土壙-95(1/30)·出土遺物	100
第87图	袋状土壙-96(1/30)·出土遺物	101
第88图	袋状土壙-97(1/30)·出土遺物	102
第89图	袋状土壙-98(1/30)·出土遺物	103
第90图	袋状土壙-99(1/30)·出土遺物	103
第91图	袋状土壙-100(1/30)·出土遺物	104
第92图	袋状土壙-101(1/30)·出土遺物	104
第93图	袋状土壙-102(1/30)·出土遺物	105
第94图	袋状土壙-103(1/30)·出土遺物	105
第95图	袋状土壙-104(1/30)·出土遺物	106
第96图	袋状土壙-105(1/30)	106
第97图	袋状土壙-105出土遺物	107
第98图	袋状土壙-106(1/30)·出土遺物	108
第99图	袋状土壙-107(1/30)·出土遺物	108
第100图	袋状土壙-108(1/30)·出土遺物	109
第101图	袋状土壙-109·110(1/30)·出土遺物	110
第102图	袋状土壙-111(1/30)·出土遺物	111
第103图	袋状土壙-112(1/30)	112
第104图	袋状土壙-113(1/30)·出土遺物	112
第105图	袋状土壙-114(1/30)·出土遺物	113
第106图	袋状土壙-115(1/30)·出土遺物	113
第107图	袋状土壙-116(1/30)·出土遺物	114
第108图	袋状土壙-117·118(1/30)·出土遺物	115
第109图	袋状土壙-119(1/30)·出土遺物	116
第110图	袋状土壙-120(1/30)·出土遺物	117
第111图	袋状土壙-121(1/30)·出土遺物	118
第112图	袋状土壙-122(1/30)·出土遺物	119

第113图	袋状土壙-123(1/30)·出土遺物(1)	120
第114图	袋状土壙-123出土遺物(2)	121
第115图	袋状土壙-123出土遺物(3)	122
第116图	袋状土壙-123出土遺物(4)	123
第117图	袋状土壙-123出土遺物(5)	124
第118图	袋状土壙-123出土遺物(6)	125
第119图	袋状土壙-124(1/30)·出土遺物	126
第120图	袋状土壙-125(1/30)	126
第121图	袋状土壙-126(1/30)	127
第122图	袋状土壙-127(1/30)·出土遺物	127
第123图	袋状土壙-128(1/30)	128
第124图	袋状土壙-129(1/30)·出土遺物	128
第125图	袋状土壙-130(1/30)·出土遺物	129
第126图	袋状土壙-131(1/30)·出土遺物(1)	130
第127图	袋状土壙-131出土遺物(2)	131
第128图	袋状土壙-132(1/30)·出土遺物(1)	131
第129图	袋状土壙-132出土遺物(2)	132
第130图	袋状土壙-133(1/30)	133
第131图	袋状土壙-134(1/30)	133
第132图	袋状土壙-135(1/30)·出土遺物	134
第133图	袋状土壙-136(1/30)·出土遺物	134
第134图	袋状土壙-137(1/30)	135
第135图	袋状土壙-138(1/30)·出土遺物	135
第136图	袋状土壙-139(1/30)	135
第137图	袋状土壙-139出土遺物	136
第138图	袋状土壙-140(1/30)·出土遺物	137
第139图	袋状土壙-141(1/30)·出土遺物	138
第140图	袋状土壙-142(1/30)	138
第141图	袋状土壙-143(1/30)·出土遺物	139
第142图	袋状土壙-144(1/30)	140
第143图	袋状土壙-145(1/30)	140
第144图	袋状土壙-146(1/30)	140
第145图	袋状土壙-147(1/30)	141
第146图	袋状土壙-148(1/30)	141
第147图	土壙-334(1/30)·出土遺物	142
第148图	土壙-335(1/30)·出土遺物(1)	143
第149图	土壙-335出土遺物(2)	144
第150图	土壙-336(1/30)·出土遺物	145
第151图	土壙-337(1/30)·出土遺物	145
第152图	土壙-338(1/30)·出土遺物	146

第153図	土壙-339 (1/30)・出土遺物	147	第193図	土壙-398 (1/30)・出土遺物	173
第154図	土壙-340 (1/30)・出土遺物	148	第194図	土壙-399 (1/30)・出土遺物	173
第155図	土壙-341 (1/30)・出土遺物	148	第195図	土壙-400 (1/30)・出土遺物	174
第156図	土壙-342 (1/30)	149	第196図	土壙-401 (1/30)	174
第157図	土壙-343 (1/30)・出土遺物	149	第197図	土壙-402 (1/30)・出土遺物	174
第158図	土壙-342出土遺物	150	第198図	土壙-403 (1/30)・出土遺物	175
第159図	土壙-344 (1/30)・出土遺物	151	第199図	土壙-404 (1/30)・出土遺物	175
第160図	土壙-345~351 (1/30)	152	第200図	土壙-405 (1/30)・出土遺物	176
第161図	土壙-352~358 (1/30)	153	第201図	土壙-406 (1/30)・出土遺物	176
第162図	土壙-359 (1/30)・出土遺物	154	第202図	井戸-7 (1/30)	177
第163図	土壙-360 (1/30)・出土遺物	154	第203図	井戸-8 (1/30)・出土遺物	177
第164図	土壙-361~363 (1/30)	154	第204図	溝-457 (1/60)・出土遺物	178
第165図	土壙-364 (1/30)	155	第205図	溝-458 (1/80)・出土遺物	178
第166図	土壙-365 (1/30)・出土遺物	155	第206図	土器溜り-10 (1/20)・出土遺物	179
第167図	土壙-366 (1/30)・出土遺物	155	第207図	土器溜り-11 (1/40)・出土遺物(1)	180
第168図	土壙-367 (1/30)・出土遺物	156	第208図	土器溜り-11出土遺物(2)	181
第169図	土壙-368 (1/30)・出土遺物	157	第209図	土器溜り-11出土遺物(3)	182
第170図	土壙-369・370 (1/30)・土壙-369出土遺物	158	第210図	遺構に伴わない遺物(1)	183
第171図	土壙-371 (1/30)・出土遺物	158	第211図	遺構に伴わない遺物(2)	184
第172図	土壙-372 (1/30)・出土遺物	159	第212図	遺構に伴わない遺物(3)	185
第173図	土壙-373 (1/30)・出土遺物	160	第213図	遺構に伴わない遺物(4)	186
第174図	土壙-374 (1/30)・出土遺物	161	第214図	遺構に伴わない遺物(5)	187
第175図	土壙-375 (1/30)・出土遺物	161	第215図	遺構に伴わない遺物(6)	188
第176図	土壙-376 (1/30)・出土遺物	161	第216図	遺構に伴わない遺物(7)	189
第177図	土壙-377~383 (1/30)	162	第217図	遺構に伴わない遺物(8)	190
第178図	土壙-384 (1/30)・出土遺物	163	第218図	古墳時代前期全体図(1/600)	191
第179図	土壙-385 (1/30)・出土遺物	164	第219図	古墳時代前期部分全体図(1)(1/300)	194
第180図	土壙-386 (1/30)・出土遺物	164	第220図	古墳時代前期部分全体図(2)(1/300)	195
第181図	土壙-387 (1/30)・出土遺物	165	第221図	古墳時代前期部分全体図(3)(1/300)	196
第182図	土壙-388 (1/30)・出土遺物	166	第222図	古墳時代前期部分全体図(4)(1/300)	197
第183図	土壙-389 (1/30)	167	第223図	古墳時代前期部分全体図(5)(1/300)	198
第184図	土壙-390 (1/30)	167	第224図	竪穴住居-206 (1/60)	199
第185図	土壙-391 (1/30)・出土遺物	167	第225図	竪穴住居-206出土遺物	200
第186図	土壙-392・393 (1/30)	168	第226図	竪穴住居-207 (1/60)・出土遺物	201
第187図	土壙-394 (1/30)	168	第227図	竪穴住居-208 (1/60)・出土遺物	202
第188図	土壙-394出土遺物	169	第228図	竪穴住居-209 (1/60)	202
第189図	土壙-395 (1/30)・出土遺物(1)	170	第229図	竪穴住居-210 (1/60)・中央穴(1/30)	203
第190図	土壙-395出土遺物(2)	171	第230図	竪穴住居-210出土遺物	204
第191図	土壙-396 (1/30)・出土遺物	172	第231図	竪穴住居-211 (1/60)・出土遺物	205
第192図	土壙-397 (1/30)	172	第232図	竪穴住居-212 (1/60)・出土遺物(1)	205

第233图	竖穴住居—212出土遺物(2)	206	第273图	竖穴住居—226出土遺物(2)	244
第234图	竖穴住居—213(1/60)·出土遺物(1)	207	第274图	竖穴住居—227(1/60)	244
第235图	竖穴住居—213出土遺物(2)	208	第275图	竖穴住居—227出土遺物	245
第236图	竖穴住居—213出土遺物(3)	209	第276图	竖穴住居—228(1/60)·出土遺物	246
第237图	竖穴住居—214(1/60)	210	第277图	竖穴住居—229(1/60)·出土遺物	247
第238图	竖穴住居—214出土遺物	211	第278图	竖穴住居—230(1/60)·出土遺物	248
第239图	竖穴住居—215(1/60)·出土遺物(1)	212	第279图	竖穴住居—231(1/60)·出土遺物	249
第240图	竖穴住居—215出土遺物(2)	213	第280图	竖穴住居—232(1/60)	250
第241图	竖穴住居—215出土遺物(3)	214	第281图	竖穴住居—232出土遺物	251
第242图	竖穴住居—216(1/60)·出土遺物	215	第282图	竖穴住居—233·235·236·243·244(1/60)	252
第243图	竖穴住居—217(1/60)	216	第283图	竖穴住居—233(1/60)	253
第244图	竖穴住居—217出土遺物(1)	217	第284图	竖穴住居—233出土遺物(1)	254
第245图	竖穴住居—217出土遺物(2)	218	第285图	竖穴住居—233出土遺物(2)	255
第246图	竖穴住居—218(1/60)	219	第286图	竖穴住居—234(1/60)	256
第247图	竖穴住居—218出土遺物(1)	220	第287图	竖穴住居—234方形土壙(1/25)	257
第248图	竖穴住居—218出土遺物(2)	221	第288图	竖穴住居—234出土遺物	258
第249图	竖穴住居—218出土遺物(3)	222	第289图	竖穴住居—235(1/60)·出土遺物	259
第250图	竖穴住居—218出土遺物(4)	223	第290图	竖穴住居—236(1/60)	260
第251图	竖穴住居—218出土遺物(5)	224	第291图	竖穴住居—236出土遺物	261
第252图	竖穴住居—218出土遺物(6)	225	第292图	竖穴住居—237(1/60)	262
第253图	竖穴住居—218出土遺物(7)	226	第293图	竖穴住居—237出土遺物	263
第254图	竖穴住居—218出土遺物(8)	227	第294图	竖穴住居—238(1/60)	263
第255图	竖穴住居—218出土遺物(9)	228	第295图	竖穴住居—239(1/60)	264
第256图	竖穴住居—218出土遺物(10)	229	第296图	竖穴住居—240(1/60)·出土遺物	265
第257图	鏡出土狀況(1/10)	230	第297图	竖穴住居—239·240·241(1/80)	266
第258图	竖穴住居—218出土遺物(11)	230	第298图	竖穴住居—241出土遺物	267
第259图	竖穴住居—219(1/60)	231	第299图	竖穴住居—242(1/60)·出土遺物	267
第260图	竖穴住居—219出土遺物(1)	232	第300图	竖穴住居—243(1/60)·出土遺物	268
第261图	竖穴住居—219出土遺物(2)	233	第301图	竖穴住居—244(1/60)·出土遺物	269
第262图	竖穴住居—219出土遺物(3)	234	第302图	竖穴住居—245(1/60)	270
第263图	竖穴住居—220(1/60)·出土遺物(1)	235	第303图	竖穴住居—245出土遺物	271
第264图	竖穴住居—220出土遺物(2)	236	第304图	竖穴住居—246(1/60)·出土遺物	272
第265图	竖穴住居—221(1/60)·出土遺物	236	第305图	竖穴住居—247(1/60)	273
第266图	竖穴住居—32(1/60)	237	第306图	竖穴住居—247出土遺物(1)	274
第267图	竖穴住居—222~225(1/60)	238	第307图	竖穴住居—247出土遺物(2)	275
第268图	竖穴住居—222·223出土遺物	239	第308图	竖穴住居—248(1/60)	275
第269图	竖穴住居—224(1/60)·出土遺物	240	第309图	竖穴住居—248出土遺物	276
第270图	竖穴住居—225(1/60)·出土遺物	241	第310图	竖穴住居—249(1/60)	277
第271图	竖穴住居—226·227·228(1/60)	242	第311图	竖穴住居—249出土遺物	278
第272图	竖穴住居—226出土遺物(1)	243	第312图	竖穴住居—250(1/60)	279

第313图	竖穴住居-250出土遺物	280	第353图	竖穴住居-276~280(1/60)	318
第314图	竖穴住居-251(1/60)·出土遺物	280	第354图	竖穴住居-276(1/30·1/60)	319
第315图	竖穴住居-252(1/60)	281	第355图	竖穴住居-276出土遺物(1)	320
第316图	竖穴住居-252(1/30)·出土遺物(1)	282	第356图	竖穴住居-276出土遺物(2)	321
第317图	竖穴住居-252出土遺物(2)	283	第357图	竖穴住居-276出土遺物(3)	322
第318图	竖穴住居-253(1/60)	284	第358图	竖穴住居-277(1/60)	323
第319图	竖穴住居-253出土遺物	285	第359图	竖穴住居-277(1/60)·出土遺物(1)	324
第320图	竖穴住居-254(1/60)·出土遺物	286	第360图	竖穴住居-277出土遺物(2)	325
第321图	竖穴住居-255(1/60)	287	第361图	竖穴住居-278(1/60)	325
第322图	竖穴住居-256(1/60)·出土遺物	287	第362图	竖穴住居-279(1/60)	326
第323图	竖穴住居-257(1/60)·出土遺物	288	第363图	竖穴住居-280(1/60)	326
第324图	竖穴住居-258(1/60)	289	第364图	竖穴住居-281(1/60)·出土遺物	327
第325图	竖穴住居-259(1/60)·出土遺物	290	第365图	竖穴住居-282(1/60)·出土遺物(1)	328
第326图	竖穴住居-260(1/60)·出土遺物	291	第366图	竖穴住居-282出土遺物(2)	329
第327图	竖穴住居-261·262(1/60)	292	第367图	竖穴住居-283(1/60)	330
第328图	竖穴住居-261出土遺物	293	第368图	竖穴住居-283(1/30)·出土遺物(1)	331
第329图	竖穴住居-263·264(1/60)	294	第369图	竖穴住居-283出土遺物(2)	332
第330图	竖穴住居-263·264(1/60)	295	第370图	竖穴住居-284(1/60)·出土遺物	333
第331图	竖穴住居-263出土遺物(1)	296	第371图	竖穴住居-285(1/60)·出土遺物	334
第332图	竖穴住居-263出土遺物(2)	297	第372图	竖穴住居-286(1/60)·出土遺物	335
第333图	竖穴住居-265(1/60)	298	第373图	竖穴住居-287(1/60)·出土遺物	336
第334图	竖穴住居-265出土遺物	299	第374图	竖穴住居-288(1/60·1/30)	337
第335图	竖穴住居-266(1/60)	300	第375图	竖穴住居-288出土遺物	338
第336图	竖穴住居-267·268(1/60)·出土遺物(1)	301	第376图	竖穴住居-289(1/60)·出土遺物	339
第337图	竖穴住居-267出土遺物(2)	302	第377图	竖穴住居-290(1/60)·出土遺物	340
第338图	竖穴住居-267出土遺物(3)	303	第378图	竖穴住居-291(1/60)	340
第339图	竖穴住居-269(1/60)·出土遺物	304	第379图	竖穴住居-292(1/60)·出土遺物	341
第340图	竖穴住居-270(1/60)·出土遺物	305	第380图	竖穴住居-293(1/60)	341
第341图	竖穴住居-271(1/60)·出土遺物	306	第381图	竖穴住居-293出土遺物	342
第342图	竖穴住居-272(1/60)	307	第382图	竖穴住居-294(1/60)·出土遺物	342
第343图	竖穴住居-272(1/60)·出土遺物(1)	308	第383图	竖穴住居-295(1/60)·出土遺物(1)	343
第344图	竖穴住居-272出土遺物(2)	309	第384图	竖穴住居-295出土遺物(2)	344
第345图	竖穴住居-272出土遺物(3)	310	第385图	竖穴住居-296(1/60)·竖穴住居-296·297 出土遺物(1)	345
第346图	竖穴住居-272出土遺物(4)	311	第386图	竖穴住居-296·297出土遺物(2)	346
第347图	竖穴住居-273(1/60)	312	第387图	竖穴住居-296·297出土遺物(3)	347
第348图	竖穴住居-273出土遺物(1)	313	第388图	竖穴住居-296·297出土遺物(4)	348
第349图	竖穴住居-273出土遺物(2)	314	第389图	竖穴住居-297(1/60)	349
第350图	竖穴住居-274(1/60)·出土遺物	315	第390图	竖穴住居-297(1/60)	350
第351图	竖穴住居-275(1/60)	316	第391图	竖穴住居-297出土遺物	351
第352图	竖穴住居-275出土遺物	317			

第392图	竖穴住居-298 (1/60 · 1/30)	352
第393图	竖穴住居-298出土遺物	353
第394图	竖穴住居-299 (1/60 · 1/30) · 出土遺物(1)	354
第395图	竖穴住居-299出土遺物(2)	355
第396图	竖穴住居-300 · 301 (1/60)	357
第397图	竖穴住居-300出土遺物(1)	358
第398图	竖穴住居-300出土遺物(2)	359
第399图	竖穴住居-301出土遺物	360
第400图	竖穴住居-302 (1/60)	361
第401图	竖穴住居-302出土遺物	362
第402图	竖穴住居-303 (1/60) · 出土遺物(1)	364
第403图	竖穴住居-303出土遺物(2)	365
第404图	竖穴住居-304 (1/60)	366
第405图	竖穴住居-304出土遺物(1)	367
第406图	竖穴住居-304出土遺物(2)	368
第407图	竖穴住居-305 (1/60)	368
第408图	竖穴住居-306 (1/60)	369
第409图	竖穴住居-306出土遺物	370
第410图	竖穴住居-307 (1/60) · 出土遺物	370
第411图	竖穴住居-308 · 309 (1/60)	372
第412图	竖穴住居-308 · 309出土遺物	373
第413图	竖穴住居-310 (1/60)	374
第414图	竖穴住居-310出土遺物(1)	375
第415图	竖穴住居-310出土遺物(2)	376
第416图	竖穴住居-310出土遺物(3)	377
第417图	竖穴住居-310出土遺物(4)	378
第418图	竖穴住居-310出土遺物(5)	379
第419图	竖穴住居-311 (1/60)	379
第420图	竖穴住居-311出土遺物	380
第421图	竖穴住居-312 (1/60)	381
第422图	竖穴住居-312出土遺物	382
第423图	掘立柱建物-53 (1/60) · 出土遺物	383
第424图	掘立柱建物-54 (1/120) · 出土遺物	384
第425图	掘立柱建物-54 (1/100 · 1/120)	385
第426图	掘立柱建物-54「布掘」断面(1/30)	386
第427图	土器棺墓-16 (1/20) · 出土遺物	387
第428图	土器棺墓-17 (1/20) · 出土遺物	387
第429图	土壙-407 (1/30) · 出土遺物	388
第430图	土壙-408 (1/30) · 出土遺物	388
第431图	土壙-409 (1/30) · 出土遺物	389

第432图	土壙-410 (1/30) · 出土遺物	389
第433图	土壙-411 (1/30) · 出土遺物	390
第434图	土壙-412 (1/30) · 出土遺物	390
第435图	土壙-413 (1/30) · 出土遺物	391
第436图	土壙-414 (1/30) · 出土遺物	391
第437图	土壙-415 (1/30) · 出土遺物	392
第438图	土壙-416 (1/30) · 出土遺物	392
第439图	土壙-417 (1/30)	393
第440图	土壙-418 (1/30) · 出土遺物	393
第441图	土壙-419 (1/30)	394
第442图	土壙-420 (1/30) · 出土遺物	394
第443图	土壙-421 (1/30) · 出土遺物	394
第444图	土壙-422 (1/30)	394
第445图	土壙-423 (1/30) · 出土遺物	395
第446图	土壙-424 (1/30)	395
第447图	土壙-425 (1/30)	395
第448图	土壙-426 (1/30) · 出土遺物(1)	396
第449图	土壙-426出土遺物(2)	397
第450图	土壙-427 (1/30)	398
第451图	土壙-428 (1/30)	398
第452图	土壙-429 (1/30)	398
第453图	土壙-430 (1/30)	398
第454图	土壙-431 (1/30)	399
第455图	土壙-432 (1/30)	399
第456图	土壙-433 (1/30)	399
第457图	土壙-434 (1/30)	399
第458图	土壙-435 (1/30)	400
第459图	土壙-436 (1/30)	400
第460图	土壙-437 (1/30)	400
第461图	土壙-438 (1/30)	400
第462图	土壙-439 (1/30)	400
第463图	土壙-440 (1/30) · 出土遺物(1)	401
第464图	土壙-440出土遺物(2)	402
第465图	土壙-440出土遺物(3)	403
第466图	土壙-440出土遺物(4)	404
第467图	土壙-440出土遺物(5)	405
第468图	土壙-441 (1/30)	405
第469图	土壙-442 (1/30)	406
第470图	土壙-443 (1/30) · 出土遺物(1)	406
第471图	土壙-443出土遺物(2)	407

第472図	土壙-444 (1/30)	408	第512図	柱穴-1 出土遺物	431
第473図	土壙-445 (1/30)	408	第513図	遺構に伴わない遺物(1)	432
第474図	土壙-446 (1/30)・出土遺物	408	第514図	遺構に伴わない遺物(2)	433
第475図	土壙-447 (1/30)	408	第515図	遺構に伴わない遺物(3)	434
第476図	土壙-448 (1/30)・出土遺物	409	第516図	遺構に伴わない遺物(4)	435
第477図	土壙-449 (1/30)	410	第517図	遺構に伴わない遺物(5)	436
第478図	土壙-450 (1/30)	410	第518図	遺構に伴わない遺物(6)	437
第479図	土壙-451 (1/30)	410	第519図	遺構に伴わない遺物(7)	438
第480図	土壙-452 (1/30)・出土遺物	411	第520図	遺構に伴わない遺物(8)	439
第481図	土壙-453 (1/30)・出土遺物	411	第521図	遺構に伴わない遺物(9)	440
第482図	土壙-454 (1/30)	412	第522図	遺構に伴わない遺物(10)	441
第483図	土壙-455 (1/30)	412	第523図	遺構に伴わない遺物(11)	442
第484図	土壙-456 (1/30)	412	第524図	遺構に伴わない遺物(12)	443
第485図	土壙-457 (1/30)・出土遺物	412	第525図	遺構に伴わない遺物(13)	444
第486図	溝-16 (1/60)	413	第526図	古墳時代後期全体図(1/600)	445
第487図	溝-16出土遺物(1)	414	第527図	古墳時代後期部分全体図(1)(1/300)	448
第488図	溝-16出土遺物(2)	415	第528図	古墳時代後期部分全体図(2)(1/300)	449
第489図	溝-459 (1/30)	416	第529図	古墳時代後期部分全体図(3)(1/300)	450
第490図	溝-460 (1/30)	416	第530図	古墳時代後期部分全体図(4)(1/300)	451
第491図	溝-461 (1/30)・出土遺物	416	第531図	竪穴住居-313 (1/60)	452
第492図	溝-102 (1/30)・出土遺物	416	第532図	竪穴住居-313出土遺物(1)	453
第493図	溝-104 (1/30)・出土遺物	417	第533図	竪穴住居-313出土遺物(2)	454
第494図	溝-462 (1/30)	418	第534図	竪穴住居-314 (1/60)・出土遺物	455
第495図	溝-463 (1/30)・出土遺物	418	第535図	竪穴住居-315出土遺物	456
第496図	溝-464 (1/60・1/30)	418	第536図	竪穴住居-316 (1/30)	456
第497図	溝-464出土遺物	419	第537図	竪穴住居-316出土遺物	457
第498図	溝-100 (1/30)・出土遺物	420	第538図	竪穴住居-317 (1/60)・出土遺物	458
第499図	溝-465 (1/30)・出土遺物	421	第539図	竪穴住居-318 (1/60)・出土遺物	459
第500図	溝-466 (1/30)	421	第540図	竪穴住居-319 (1/60)・出土遺物	460
第501図	溝-467 (1/30)・出土遺物	422	第541図	竪穴住居-320 (1/60)	461
第502図	溝-468 (1/30)・出土遺物	422	第542図	竪穴住居-320出土遺物	462
第503図	土器溜り-12出土遺物	423	第543図	竪穴住居-321 (1/60)・出土遺物	463
第504図	土器溜り-13出土遺物(1)	424	第544図	竪穴住居-321 (1/30)	464
第505図	土器溜り-13出土遺物(2)	425	第545図	竪穴住居-322 (1/60)・出土遺物	464
第506図	土器溜り-13出土遺物(3)	426	第546図	竪穴住居-323 (1/60)	465
第507図	土器溜り-14出土遺物	426	第547図	竪穴住居-324 (1/60)	466
第508図	土器溜り-15 (1/80)	427	第548図	竪穴住居-324 (1/30)・出土遺物	467
第509図	土器溜り-15出土遺物(1)	428	第549図	竪穴住居-325 (1/60)	468
第510図	土器溜り-15出土遺物(2)	429	第550図	竪穴住居-325出土遺物(1)	469
第511図	水田層 (1/50)・出土遺物	430	第551図	竪穴住居-325出土遺物(2)	470

第552図	竪穴住居-325出土遺物(3)	471
第553図	竪穴住居-325出土遺物(4)	472
第554図	竪穴住居-325出土遺物(5)	473
第555図	竪穴住居-326(1/60)・出土遺物	474
第556図	竪穴住居-327(1/60)・出土遺物	474
第557図	竪穴住居-328(1/60)・出土遺物	475
第558図	竪穴住居-329(1/30)	475
第559図	竪穴住居-330(1/60・1/30)	476
第560図	竪穴住居-330出土遺物(1)	477
第561図	竪穴住居-330出土遺物(2)	478
第562図	竪穴住居-331(1/60・1/30)	479
第563図	竪穴住居-332(1/60)・出土遺物	481
第564図	竪穴住居-333(1/60・1/30)	482
第565図	竪穴住居-334(1/60・1/30)	483
第566図	竪穴住居-335(1/60・1/30)	484
第567図	竪穴住居-336(1/60)	485
第568図	竪穴住居-337(1/60)	486
第569図	竪穴住居-337出土遺物	487
第570図	竪穴住居-338(1/60)	487
第571図	竪穴住居-339(1/60)・出土遺物	488
第572図	竪穴住居-340(1/60)・出土遺物	489
第573図	竪穴住居-341(1/60)・出土遺物	489
第574図	竪穴住居-342(1/60・1/30)・出土遺物(1)	490
第575図	竪穴住居-342出土遺物(2)	491
第576図	竪穴住居-343(1/60)・出土遺物	492
第577図	竪穴住居-344(1/60)・出土遺物	493
第578図	竪穴住居-345(1/30)	494
第579図	掘立柱建物-55(1/60)	494
第580図	土壇-458(1/30)・出土遺物	495
第581図	溝-469(1/30・1/60)・出土遺物	496
第582図	溝-470・471(1/80・1/40)	497
第583図	溝-472(1/30)・出土遺物	497
第584図	溝-473(1/30)	498
第585図	溝-474(1/30)・出土遺物	498
第586図	遺構に伴わない遺構(1)	498
第587図	遺構に伴わない遺構(2)	499
第588図	遺構に伴わない遺構(3)	500
第589図	古代全体図(1/600)	501
第590図	古代部分全体図(1)(1/300)	504
第591図	古代部分全体図(2)(1/300)	505

第592図	古代部分全体図(3)(1/300)	506
第593図	古代部分全体図(4)(1/300)	507
第594図	古代部分全体図(5)(1/300)	508
第595図	掘立柱建物-56(1/60)・出土遺物(1)	509
第596図	掘立柱建物-56出土遺物(2)	510
第597図	掘立柱建物-57(1/60)・出土遺物	511
第598図	掘立柱建物-58(1/60)・出土遺物	512
第599図	掘立柱建物-59(1/60)	513
第600図	掘立柱建物-59出土遺物	514
第601図	掘立柱建物-60(1/60)・出土遺物	515
第602図	掘立柱建物-61(1/60)・出土遺物	516
第603図	掘立柱建物-62(1/60)・出土遺物	517
第604図	掘立柱建物-63(1/60)・出土遺物(1)	518
第605図	掘立柱建物-63出土遺物(2)	519
第606図	掘立柱建物-64(1/60)	520
第607図	掘立柱建物-65(1/80)・出土遺物	521
第608図	掘立柱建物-66(1/60)	522
第609図	掘立柱建物-67(1/60)	523
第610図	掘立柱建物-68(1/60)	524
第611図	掘立柱建物-69(1/60)	525
第612図	柱穴列-3(1/60)	526
第613図	柱穴列-4(1/60)	526
第614図	土壇-459(1/30)	527
第615図	土壇-460(1/30)	527
第616図	土壇-461(1/30)・出土遺物	527
第617図	土壇-462(1/30)・出土遺物	528
第618図	土壇-463(1/30)・出土遺物	529
第619図	土壇-464(1/30)・出土遺物	530
第620図	土壇-465(1/30)・出土遺物	530
第621図	土壇-466(1/30)	531
第622図	土壇-467(1/30)	531
第623図	土壇-468(1/30)	531
第624図	土壇-469(1/30)・出土遺物	532
第625図	土壇-470(1/30)・出土遺物(1)	532
第626図	土壇-470出土遺物(2)	533
第627図	土壇-471(1/30)・出土遺物	533
第628図	土壇-472(1/30)	534
第629図	土壇-473(1/30)	534
第630図	土壇-474(1/30)	534
第631図	土壇-474出土遺物	535

第632図	土城-475(1/30)・出土遺物	535	第672図	溝-480内壘3(1/30)・出土遺物	569
第633図	土城-476(1/30)	536	第673図	溝-481(1/30)	570
第634図	土城-476出土遺物	537	第674図	溝-482(1/30)	570
第635図	焼成土城-8(1/30)・出土遺物	537	第675図	溝-483(1/30)・出土遺物	570
第636図	溝-475・476(1/80)	538	第676図	溝-484(1/30)・出土遺物	570
第637図	溝-476(1/30)	539	第677図	溝-485(1/30)	570
第638図	溝-475出土遺物(1)	540	第678図	溝-486・487(1/60・1/30)	571
第639図	溝-475出土遺物(2)	541	第679図	溝-486出土遺物	572
第640図	溝-475出土遺物(3)	542	第680図	溝-E27・E28出土遺物(1)	573
第641図	溝-475出土遺物(4)	543	第681図	溝-E27・E28出土遺物(2)	574
第642図	溝-476出土遺物(1)	544	第682図	溝-E27・E28(1/50)	575
第643図	溝-476出土遺物(2)	545	第683図	溝-E27・E28出土遺物	576
第644図	溝-476出土遺物(3)	546	第684図	溝-488(1/30)	576
第645図	溝-476出土遺物(4)	546	第685図	溝-488出土遺物	577
第646図	溝-477~479(1/100)	547	第686図	溝-489(1/40)・出土遺物	578
第647図	溝-477A(1/30)・出土遺物(1)	548	第687図	溝-S27(1/30)	579
第648図	溝-477A出土遺物(2)	549	第688図	溝-S28(1/30)	579
第649図	溝-477B(1/30)・出土遺物	549	第689図	溝-S27・S28出土遺物(1)	580
第650図	溝-478A(1/30)・出土遺物	550	第690図	溝-S27・S28出土遺物(2)	581
第651図	溝-478B(1/30)・出土遺物	550	第691図	溝-490(1/30)・出土遺物	582
第652図	溝-478C(1/30)・出土遺物	551	第692図	溝-491(1/30)・出土遺物	583
第653図	溝-479(1/30)・出土遺物	551	第693図	溝-492(1/30)・出土遺物	583
第654図	溝-W28(1/60)	552	第694図	柱穴-2出土遺物	583
第655図	溝-W28出土遺物	553	第695図	遺構に伴わない遺物(1)	585
第656図	溝-N28(1/150)	554	第696図	遺構に伴わない遺物(2)	586
第657図	溝-N28出土遺物(1)	555	第697図	遺構に伴わない遺物(3)	587
第658図	溝-N28出土遺物(2)	556	第698図	遺構に伴わない遺物(4)	588
第659図	溝-N28出土遺物(3)	557	第699図	遺構に伴わない遺物(5)	589
第660図	溝-N28出土遺物(4)	558	第700図	遺構に伴わない遺物(6)	590
第661図	溝-N28出土遺物(5)	559	第701図	遺構に伴わない遺物(7)	591
第662図	溝-480(1/30)	560	第702図	遺構に伴わない遺物(8)	592
第663図	溝-480出土遺物(1)	561	第703図	遺構に伴わない遺物(9)	593
第664図	溝-480出土遺物(2)	562	第704図	遺構に伴わない遺物(10)	594
第665図	溝-480出土遺物(3)	563	第705図	中世全体図(1/600)	595
第666図	溝-480出土遺物(4)	564	第706図	中世部分全体図(1)(1/300)	598
第667図	溝-480出土遺物(5)	565	第707図	中世部分全体図(2)(1/300)	599
第668図	溝-480出土遺物(6)	566	第708図	中世部分全体図(3)(1/300)	600
第669図	溝-480出土遺物(7)	567	第709図	中世部分全体図(4)(1/300)	601
第670図	溝-480内壘1(1/10)・出土遺物	568	第710図	中世部分全体図(5)(1/300)	602
第671図	溝-480内壘2(1/30)・出土遺物	569	第711図	掘立柱建物-70(1/60)・出土遺物	603

第712图	掘立柱建物-71(1/60)·····	604	第752图	土壙-504(1/60)·出土遺物·····	627
第713图	掘立柱建物-72(1/60)·····	605	第753图	土壙-505(1/30)·出土遺物·····	627
第714图	土壙墓-18(1/30)·····	606	第754图	土壙-506(1/30)·····	627
第715图	土壙墓-19(1/30)·····	606	第755图	土壙-507(1/30)·出土遺物·····	628
第716图	土壙墓-20(1/30)·出土遺物(1)·····	607	第756图	土壙-508(1/30)·出土遺物·····	628
第717图	土壙墓-20出土遺物(2)·····	608	第757图	土壙-509(1/30)·出土遺物·····	628
第718图	土壙墓-21(1/30)·出土遺物·····	609	第758图	土壙-510(1/30)·出土遺物·····	629
第719图	土壙墓-22(1/30)·出土遺物·····	609	第759图	土壙-511(1/40)·出土遺物·····	630
第720图	土壙墓-23·24(1/30)·出土遺物·····	609	第760图	井戸-9(1/30)·出土遺物(1)·····	631
第721图	土壙墓-25(1/30)·出土遺物·····	610	第761图	井戸-9出土遺物(2)·····	632
第722图	土壙墓-26(1/30)·出土遺物·····	611	第762图	井戸-10(1/30)·····	633
第723图	土壙墓-27(1/30)·····	612	第763图	烧成土壙-9(1/30)·····	633
第724图	土壙墓-28(1/30)·····	612	第764图	烧成土壙-10(1/30)·····	634
第725图	土壙墓-29(1/30)·····	612	第765图	溝-493(1/30·1/60)·出土遺物·····	634
第726图	土壙-477·478(1/30)·····	613	第766图	溝-494~497(1/100)·溝-495出土遺物·····	635
第727图	土壙-479·480(1/30)·····	613	第767图	溝-496出土遺物·····	635
第728图	土壙-481(1/30)·出土遺物·····	613	第768图	溝-498·499(1/30·1/60)·出土遺物·····	636
第729图	土壙-482(1/30)·出土遺物·····	614	第769图	溝-500(1/30)·····	637
第730图	土壙-483(1/30)·出土遺物·····	615	第770图	溝-501(1/30)·····	637
第731图	土壙-484(1/30)·出土遺物·····	615	第771图	溝-502(1/30)·出土遺物·····	637
第732图	土壙-485(1/30)·出土遺物·····	616	第772图	溝-503(1/30)·····	638
第733图	土壙-486(1/30)·出土遺物·····	617	第773图	溝-504(1/30)·出土遺物·····	638
第734图	土壙-487(1/30)·出土遺物·····	618	第774图	溝-505(1/30)·出土遺物·····	639
第735图	土壙-488(1/30)·出土遺物·····	618	第775图	溝-506(1/30)·····	639
第736图	土壙-489(1/30)·出土遺物·····	619	第776图	溝-507(1/30)·····	639
第737图	土壙-490(1/30)·出土遺物·····	619	第777图	溝-508(1/30)·出土遺物·····	639
第738图	土壙-491(1/30)·出土遺物·····	620	第778图	溝-509(1/30)·····	639
第739图	土壙-492(1/30)·出土遺物·····	620	第779图	溝-510(1/30)·····	639
第740图	土壙-493(1/30)·出土遺物·····	621	第780图	溝-511(1/30)·····	640
第741图	土壙-494(1/60)·出土遺物·····	621	第781图	溝-512(1/30)·····	640
第742图	土壙-495(1/30)·出土遺物·····	622	第782图	溝-513(1/30)·出土遺物·····	640
第743图	土壙-496(1/60)·出土遺物(1)·····	622	第783图	溝-330~337·341·514~520(1/200)·····	641
第744图	土壙-496出土遺物(2)·····	623	第784图	溝-521~528(1/30)·····	641
第745图	土壙-497(1/30)·出土遺物·····	624	第785图	近世全体图(1/600)·····	643
第746图	土壙-498(1/30)·出土遺物·····	624	第786图	近世部分全体图(1)(1/300)·····	645
第747图	土壙-499(1/30)·出土遺物·····	625	第787图	近世部分全体图(2)(1/300)·····	646
第748图	土壙-500(1/40)·····	625	第788图	近世部分全体图(3)(1/300)·····	647
第749图	土壙-501(1/30)·出土遺物·····	626	第789图	近世部分全体图(4)(1/300)·····	648
第750图	土壙-502(1/30)·出土遺物·····	626	第790图	近世部分全体图(5)(1/300)·····	649
第751图	土壙-503(1/30)·出土遺物·····	626	第791图	掘立柱建物-73(1/60)·····	650

第792図	掘立柱建物-74 (1/80)・出土遺物	652	第832図	溝-529 (1/30)・出土遺物	673
第793図	掘立柱建物-75 (1/60)・出土遺物	653	第833図	溝-530・531 (1/40・1/80)・出土遺物	674
第794図	掘立柱建物-76 (1/60)	654	第834図	溝-532・533 (1/30)・出土遺物	675
第795図	掘立柱建物-77 (1/60)	655	第835図	溝-534 (1/30)・出土遺物	676
第796図	掘立柱建物-78 (1/60)	656	第836図	溝-536 (1/30)・出土遺物	677
第797図	土壙-512・513 (1/30)	657	第837図	溝-537出土遺物	677
第798図	土壙-514 (1/30)・出土遺物	657	第838図	溝-538・539・540 (1/30)	678
第799図	土壙-515 (1/30)	657	第839図	溝-538出土遺物(1)	678
第800図	土壙-516 (1/30)	658	第840図	溝-539出土遺物	678
第801図	土壙-517 (1/30)	658	第841図	溝-538出土遺物(2)	679
第802図	土壙-518 (1/30)	658	第842図	溝-541 (1/30)	680
第803図	土壙-519 (1/30)	658	第843図	溝-542 (1/30)	680
第804図	土壙-520 (1/30)・出土遺物	659	第844図	溝-543 (1/30)	680
第805図	土壙-521・522 (1/30)	659	第845図	溝-544~546 (1/30)	680
第806図	土壙-523・524 (1/30)・土壙-523出土遺物	660	第846図	遺構に伴わない遺物(1)	681
第807図	土壙-525 (1/30)	660	第847図	遺構に伴わない遺物(2)	681
第808図	土壙-526 (1/30)	660	第848図	サヌカイト原産地分布範囲と津寺中屋調査区 出土石器の分布図	696
第809図	土壙-527・528 (1/30)・出土遺物	661	第849図	中屋調査区出土 弥生、古墳前期土器の生産地推定	703
第810図	土壙-529・530 (1/30)	661	第850図	中屋調査区出土 弥生、古墳前期土器の生産地推定	703
第811図	土壙-531・532 (1/30)	662	第851図	中屋調査区出土 須恵器の生産地推定	704
第812図	土壙-533~535 (1/30)	662	第852図	8世紀中葉一括土器の比較	704
第813図	土壙-536 (1/30)・出土遺物	663	第853図	8世紀中葉一括土器の比較	705
第814図	土壙-537 (1/30)	663	第854図	瓦のタタキ種別による比較	705
第815図	土壙-538~540 (1/30)	663	第855図	瓦のタタキ種別による比較	706
第816図	土壙-541 (1/30)	664	第856図	時期別遺構分布図	708
第817図	土壙-542 (1/30)	664	第857図	津寺遺跡弥生時代全体図 (1/1,500)	709
第818図	土壙-543 (1/30)	664	第858図	津寺遺跡古墳時代前期全体図 (1/1,500)	713
第819図	土壙-544 (1/30)	664	第859図	竪穴住居の変遷 (1/300)	716
第820図	土壙-545 (1/30)・出土遺物	665	第860図	津寺遺跡古墳時代後期全体図 (1/1,500)	719
第821図	土壙-546 (1/30)	665	第861図	津寺遺跡古代全体図 (1/1,500)	723
第822図	土壙-547 (1/30)	666	第862図	長方形区画・遺構配置図 (1/900)	725
第823図	土壙-548 (1/30)	666	第863図	掘立柱建物方位図 (1/300)	726
第824図	土壙-549 (1/30)	666	第864図	掘立柱建物の規模(津寺)	727
第825図	土壙-550・551 (1/30)・出土遺物	667	第865図	須恵器(食器)の法量	728
第826図	土壙-552 (1/40)・出土遺物	668	第866図	土師器(食器)の法量	728
第827図	土壙-553 (1/40)・出土遺物	669	第867図	津寺遺跡中・近世全体図 (1/1,500)	733
第828図	土壙-554 (1/30)・出土遺物	669	第868図	津寺遺跡における近世集落の分布 (1/4,000)	735
第829図	井戸-11 (1/30)・出土遺物	670			
第830図	井戸-12 (1/30)・出土遺物	671			
第831図	井戸-13 (1/30)・出土遺物	672			

表 目 次

表 1 発掘調査一覧表	21	表 6 津寺遺跡出土土師器、須恵器の胎土分析一覧表	700
表 2 編年対比表	23	表 7 中屋調査区出土土器(奈良時代)の胎土分析一覧表	701
表 3 津寺遺跡調査区一覧表	25	表 8 中屋調査区瓦胎土一覧表	702
表 4 ガラス製小玉一覧表	607	表 9 弥生時代の遺構・遺物消長概要	708
表 5 津寺遺跡出土剥片の化学組成	696	表 10 近世集落の消長	736

巻 頭 図 版 目 次

巻頭図版 1

1. 古代の掘立柱建物群 (南から)
2. 掘立柱建物群を囲む溝 (南から)

巻頭図版 2

土壙墓-20 (南から) と出土遺物

巻頭図版 3

1. 弥生時代中期の土器
2. 古墳時代前期の土器
3. 古墳時代後期の土器

巻頭図版 4

1. 中世の土器
2. 袋状土壙-116出土絵画土器
3. 銅鏡
4. 鏡片
5. 銅鏃
6. 軒丸瓦片

図 版 目 次

図版 1

1. 竪穴住居-194 (北東から)
2. 竪穴住居-195遺物出土状況 (東から)
3. 竪穴住居-195柱穴遺物出土状況 (南西から)

図版 2

1. 竪穴住居-196 (南東から)
2. 竪穴住居-198 (南東から)
3. 竪穴住居-199 (東から)

図版 3

1. 竪穴住居-200遺物出土状況 (西から)
2. 竪穴住居-202遺物出土状況 (南東から)
3. 竪穴住居-203 (北東から)

図版 4

1. 竪穴住居-204 (南東から)
2. 竪穴住居-205 (北西から)
3. 竪穴住居-205上面土器溜まり (南西から)

図版 5

1. 掘立柱建物-49 (南東から)
2. 掘立柱建物-49柱穴遺物出土状況 (北から)
3. 掘立柱建物-51 (北から)

図版 6

1. 土器棺墓-12 (北西から)
2. 土器棺墓-14 (南から)
3. 土器棺墓-15 (南から)

図版 7

1. 袋状土壙-83 (南から)
2. 袋状土壙-83土層断面 (南西から)
3. 袋状土壙-87遺物出土状況 (北西から)

図版 8

1. 袋状土壙-97上層遺物出土状況 (東から)
2. 袋状土壙-105下層遺物出土状況 (南西から)
3. 袋状土壙-108遺物出土状況 (南西から)

図版 9

1. 袋状土壙-123遺物出土状況 (南から)
2. 袋状土壙-125 (南西から)
3. 袋状土壙-129遺物出土状況 (南東から)

図版 10

1. 袋状土壙-131遺物出土状況 (北から)
2. 袋状土壙-135遺物出土状況 (南から)
3. 袋状土壙-139遺物出土状況 (南東から)

図版11

1. 土壙-394遺物出土状況 (東から)
2. 土壙-395上層遺物出土状況 (南から)
3. 土壙-400遺物出土状況 (北西から)

図版12

1. 溝-458 (北西から)
2. 溝-458土層断面 (西から)
3. 土器溜まり-11 (南から)

図版13

1. 竪穴住居-206 (北西から)
2. 竪穴住居-210 (南から)
3. 竪穴住居-212遺物出土状況 (北東から)

図版14

1. 竪穴住居-192・212・213調査状況 (北から)
2. 竪穴住居-192・212・213 (北から)
3. 竪穴住居-215 (北から)

図版15

1. 竪穴住居-217遺物出土状況 (南から)
2. 竪穴住居-217 (西から)
3. 竪穴住居-219 (北から)

図版16

1. 竪穴住居-229 (西から)
2. 竪穴住居-230 (南から)
3. 竪穴住居-231遺物出土状況 (南から)

図版17

1. 竪穴住居-232 (北から)
2. 竪穴住居-232方形土壙周辺敷石 (西から)
3. 竪穴住居-234 (北から)

図版18

1. 竪穴住居-234南側床面 (北から)
2. 竪穴住居-237 (北から)
3. 竪穴住居-245 (西から)

図版19

1. 竪穴住居-248 (南西から)
2. 竪穴住居-249上層 (北西から)
3. 竪穴住居-249下層 (南西から)

図版20

1. 竪穴住居-252 (西から)
2. 竪穴住居-252中央部床面 (西から)
3. 竪穴住居-253 (北から)

図版21

1. 竪穴住居-257 (南から)
2. 竪穴住居-273上層遺物出土状況 (西から)
3. 竪穴住居-273下層遺物出土状況 (西から)

図版22

1. 竪穴住居-275遺物出土状況 (南西から)
2. 竪穴住居-276遺物出土状況 (南東から)
3. 竪穴住居-277 (南から)

図版23

1. 竪穴住居-281遺物出土状況 (南東から)
2. 竪穴住居-282遺物出土状況 (北東から)
3. 竪穴住居-283遺物出土状況 (南東から)

図版24

1. 竪穴住居-283・285 (東から)
2. 竪穴住居-286 (北から)
3. 竪穴住居-287 (北から)

図版25

1. 竪穴住居-288遺物出土状況 (北西から)
2. 竪穴住居-293遺物出土状況 (東から)
3. 竪穴住居-295遺物出土状況 (東から)

図版26

1. 竪穴住居-298 (北から)
2. 竪穴住居-298遺物出土状況 (北から)
3. 竪穴住居-302遺物出土状況 (南から)

図版27

1. 竪穴住居-303・304 (南から)
2. 竪穴住居-308・309 (南から)
3. 竪穴住居-311遺物出土状況 (東から)

図版28

1. 掘立柱建物-54遠景 (南西から)
2. 掘立柱建物-54遠景 (東から)
3. 掘立柱建物-54近景 (西から)

図版29

1. 土器棺墓-16 (北から)
2. 土器棺墓-17 (南東から)
3. 土壙-426遺物出土状況 (南から)
4. 土壙-440遺物出土状況 (西から)

図版30

1. 土壙-443遺物出土状況 (西から)
2. 土壙-448遺物出土状況 (南から)

3. 水田層断面 (西から)

図版31

1. 竪穴住居-320 (南から)
2. 竪穴住居-325遺物出土状況 (東から)
3. 竪穴住居-325 (南から)

図版32

1. 竪穴住居-330遺物出土状況 (北東から)
2. 竪穴住居-330カマド周辺遺物出土状況 (南東から)
3. 竪穴住居-331 (南西から)

図版33

1. 竪穴住居-333 (南東から)
2. 竪穴住居-335 (南東から)
3. 竪穴住居-343遺物出土状況 (北西から)

図版34

1. 竪穴住居-344遺物出土状況 (南西から)
2. 竪穴住居-344カマド (南西から)
3. 土壙-458遺物出土状況 (北東から)

図版35

1. 長方形区画溝北西隅 (西から)
2. 長方形区画溝北西建物群 (西から)
3. 長方形区画溝北西建物群 (東から)

図版36

1. 掘立柱建物-56 (北西から)
2. 掘立柱建物-59 (北から)
3. 掘立柱建物-60 (西から)

図版37

1. 掘立柱建物-61 (北から)
2. 掘立柱建物-63 (北東から)
3. 掘立柱建物-64・66 (南から)

図版38

1. 掘立柱建物-65 (東から)
2. 掘立柱建物-65 (南から)
3. 掘立柱建物-65 (南から)

図版39

1. 掘立柱建物-67 (西から)
2. 掘立柱建物-68 (西から)
3. 焼成土壙-8遺物出土状況 (南から)

図版40

1. 溝-475・476遺物出土状況 (南東から)
2. 溝-477~479 (南東から)

3. 区画溝の土層断面 (東から)

図版41

1. 土壙墓-26人骨検出状況 (西から)
2. 土壙-482遺物出土状況 (北から)
3. 土壙-529遺物出土状況 (西から)

図版42

1. 土壙-540遺物出土状況 (南から)
2. 井戸-9 (北から)
3. 井戸-10 (東から)

図版43

1. 焼成土壙-10 (北から)
2. 溝-494~497検出状況 (北東から)
3. 溝-513土層断層 (南から)

図版44

1. 中屋M9 I 調査区検出中世遺構群遠景 (南西から)
2. 中屋M9 I 調査区検出中世遺構群近景 (北西から)
3. 中屋M11 II 調査区検出溝群 (西から)

図版45

1. 中屋H I 調査区検出近世遺構群 (南から)
2. 中屋H I 調査区検出近世遺構群 (北から)
3. 中屋H II 調査区検出近世遺構群 (北から)

図版46

1. 中屋M8 I 調査区検出近世遺構群遠景 (西から)
2. 中屋M8 I 調査区検出近世遺構群近景 (南から)
3. 中屋M8 I 調査区検出近世遺構群近景 (北から)

図版47

1. 掘立柱建物-73 (南から)
2. 土壙-544~546・548~550 (東から)
3. 土壙-590検出状況 (南から)

図版48

1. 井戸-11 (南から)
2. 井戸-11石組み状況 (東から)
3. 土壙-580・581、溝-532・533検出状況 (北から)

図版49

1. 中屋M8 I 調査区調査状況 (南から)
2. 中屋M8 I 調査区調査状況 (南西から)
3. 中屋M9 I 調査区調査後全景 (西から)

図版50

1. 作業風景 (西から)
2. 作業風景 (南東から)

3. 作業風景 (西から)

図版51

竪穴住居-193出土遺物(1/4)

図版52

竪穴住居-200出土遺物(1)(1/4)

図版53

竪穴住居-200出土遺物(2)(1/4)

図版54

竪穴住居-200出土遺物(3)(1/4)

図版55

竪穴住居-205出土遺物と土器棺墓-14使用土器(1/4)

図版56

竪穴住居-205上部土器溜まり出土遺物と建物-49
柱穴出土土器(1/4)

図版57

土器棺墓-12・13と弥生時代中期の土器(1/4)

図版58

袋状土壙-123出土遺物(1)(1/4)

図版59

袋状土壙-123出土遺物(2)(1/4)

図版60

土壙-335出土遺物(1/4)と弥生時代の土製品
および鉄製品(1/2)

図版61

弥生時代の石製品(1/2、1/3)

図版62

竪穴住居-213出土遺物(1/4)

図版63

竪穴住居-215出土遺物(1/4)

図版64

竪穴住居-218出土遺物(1)(1/4)

図版65

竪穴住居-218出土遺物(2)(1/4)

図版66

竪穴住居-218出土遺物(3)(1/4)

図版67

竪穴住居-218出土遺物(4)(1/4)

図版68

竪穴住居-218出土遺物(5)(1/4)

図版69

竪穴住居-263出土遺物(1)(1/4)

図版70

竪穴住居-263出土遺物(2)(1/4)

図版71

竪穴住居-272出土遺物(1/4)

図版72

竪穴住居-299出土遺物と竪穴住居-301出土遺物(1)(1/4)

図版73

竪穴住居-301出土遺物(2)(1/4)

図版74

古墳時代前期の鉄製品(1/2)

図版75

古墳時代前期の銅鉄と土製品(1/2)

図版76

竪穴住居-325出土遺物(1)(1/4、1/1)

図版77

竪穴住居-325出土遺物(2)(1/4)と部分拡大

図版78

古代の土器(1)(1/4)

図版79

古代の土器(2)(1/4)

図版80

古代の土器(3)(1/4)

図版81

古代の大形土器(1/4)と鉄製品(1/2)

図版82

土師器の暗文と丸瓦の半截断面

図版83

硯片(1/3)と丸瓦(1)(1/4)

図版84

丸瓦(2)と平瓦(1)(1/4)

図版85

平瓦(2)(1/4)

図版86

土壙-540出土遺物(1/3)

図版87

土壙-504出土遺物(1/5)と土壙墓-20出土鏡(1/1)

図版88

近世の遺物(1/1、1/2)

第1章 津寺遺跡の地理的・歴史的環境

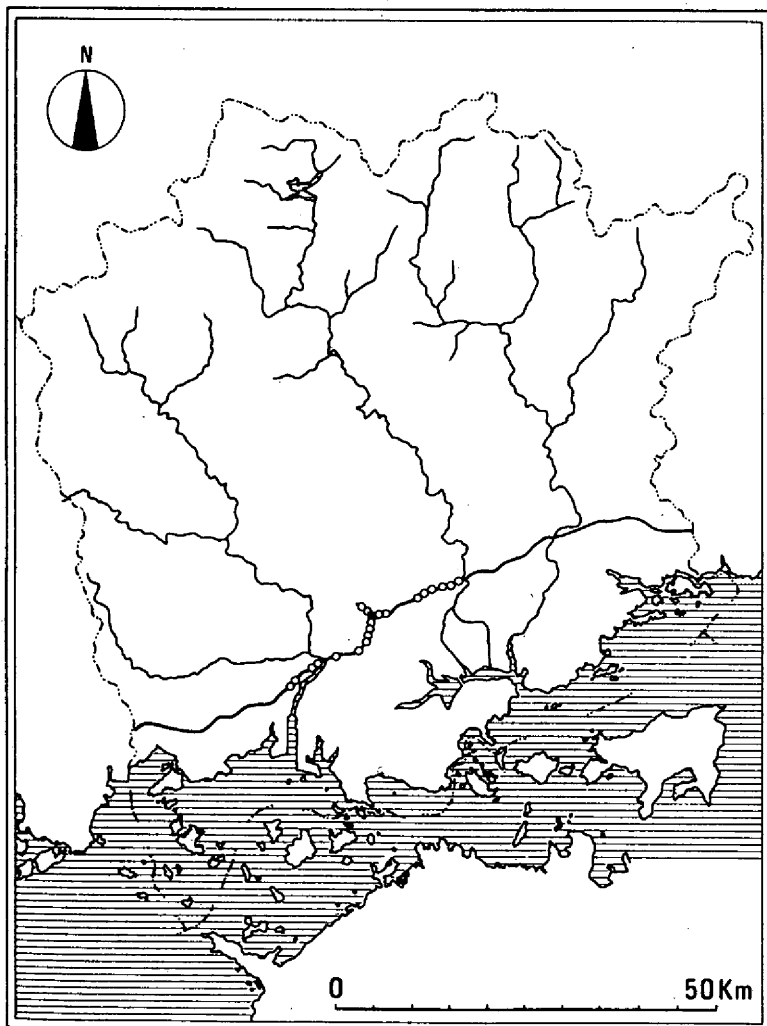
本報告書に掲載した津寺遺跡は、岡山県岡山市津寺に所在し、北緯34度40分、東経133度50分に位置する。岡山市の北西端にあたるこの地域は、古高梁川の氾濫原であり、肥沃な谷底平野を形成し、旧河道の痕跡をかいま見ることできる。吉備高原に水源を求める現在の足守川がこの平野を南流している。津寺遺跡は、この足守川の東岸にあり、現地表では海拔高4.5m前後にあたり、現在は水田の景観が望める。遺跡西側には、仕手倉山（標高223.8m）を高峰とする小起伏山地とこれに派生する標高40～70mほどの低丘陵がひろがる。これらの丘陵は、主として花崗岩・閃緑岩といった中世代の深成岩からなり、一部泥質岩、流紋岩のホルンフェスが認められる。遺跡北東側は、標高200m以下の名越山、太鼓山、太平山を高峰とする丘陵地が広がる。これらは、基本的には深成岩である花崗岩で形成されているが、ホルンフェス化した砂質岩石、凝灰岩、凝灰角礫岩等の固結堆積物や火山性岩石で形成された小丘陵が派生している。また、この南には、ホルンフェス化した砂質岩石・泥質岩石で

形成された標高162mの孤立した中山丘陵が位置する。

津寺遺跡は前述したような環境にあり、その良好な地理的条件の下、この地域には古くから人の足跡を辿ることができる。最も古い遺物としては、甫崎天神山遺跡（第2図5、以下同）のナイフ形石器などが知られるが、旧石器時代に関する情報は散見できるにすぎない。

縄文時代の遺跡は、早期から晩期にわたるまで見ることができる。特に、津寺遺跡の南西、倉敷市矢部には、矢部貝塚（45）などで知られるように良好な貝塚が形成されている。また縄文時代後期末の土器片にイネ粃痕跡が確認された総社市窪木遺跡は、弥生時代以降、躍動的に展開するこの地域に先鞭をつけるものとして知られる。

弥生時代になると遺跡は倍速的に増加する。前期には、前述



第1図 収載遺跡位置図(1/1,000,000)

の窪木遺跡に隣接する南溝手遺跡、また足守川下流域の岩倉遺跡(77)、川入遺跡(79)などが知られる。特に、南溝手遺跡では、比較的豊富な遺物とともに朝鮮半島との交流が推し量られる松菊里型の竪穴住居等の遺構が近年調査された。足守川下流域の沖積地には、このほか、前期末から中期の高田遺跡(73)、中期の貝塚が知られる新邸遺跡(75)、後期の上東式の指標遺跡として著名な上東遺跡(76)、また、足守川河川改修によって近年調査された足守川加茂遺跡(60)、矢部南向遺跡(61)など数多くの遺跡が集中している。後期における集落遺跡の急増と規模の肥大化は、備前の百間川遺跡群と呼応し、沖積地における可耕地の増大による結果として評価されている。また、この大集落遺跡の展開の中で、もう一つの側面として首長の台頭が挙げられる。これは墳墓遺跡に示唆的に見ることができる。足守川西岸の低丘陵には、後期前半～末葉の甫崎天神山遺跡(5)の土壙墓群・土器棺墓群、後期後半の雲山鳥打弥生墳丘墓群(38)、末葉から古墳時代初頭にかけての郷境墳墓群(10)などがある。また、これらとやや離れた独立丘陵には楯築弥生墳丘墓(67)、女男岩遺跡(68)、辻山田遺跡(69)が位置し、これらが足守川下流域に展開した大集落の首長と構成員の墓域であることは疑いない。特に傑出した規模をもつ楯築弥生墳丘墓の存在は、木槨墓の検出と相まって異彩を放つものである。さらにまた、特殊器台形土器・特殊壺形土器という吉備に特有の土器の採用とそれに象徴されると評価されている埋葬祭祀の共通性は、集落間の共同体連合の紐帯を指し示していることと思われる。このような集落間の連合の進展は、次なる時代の先駆となり、この地域の先進性を窺い知る有力な証である。

古墳時代には、先述した集落遺跡は、そのほとんどが弥生時代後期後半から継続的に発展、拡大を遂げる。これらの中には、山陰・畿内など他地域産の土器の出土も多く見られ、人的交流が頻繁に行われていたことが明らかである。また前方後円墳に代表される造墓活動は、中枢地である畿内と遜色なく活発に行われている。特殊器台形土器・特殊壺形土器は、特殊器台形埴輪・特殊壺形埴輪に姿を変え、やがて埴輪へと変化するが、このことから前方後円墳祭祀の創出にあたり、この地の勢力が畿内と密接に関わっていたと評価される。大塚古墳(46)は、奈良県箸墓の1/6の規模の擬型の前部方を有する出現期の前方後円墳の一つである。また、中山茶臼山古墳は、いまだ確定的な評価が定まらないものの、備前の浦間茶臼山と対峙する出現期の大型前方後円墳である可能性が高い。一方、先述した郷境墳墓群は、古墳時代になっても、造墓活動を継続させたものであるが、これらは、弥生時代からの墳丘墓の系譜を引くものとして評価され、移行期の複雑な状況を物語るものと考えられる。このほか前期の古墳としては矢部古墳群A(15)などが挙げられる。この地域における古墳時代の頂点は、造山古墳(31)、作山古墳をもってむかえる。その周囲にも千足古墳、榊山古墳が所在し、全国的に見てもその卓越性と先進性が窺える。また、榊山古墳で見られたような朝鮮半島と密接に結びついた遺物も数多く認められることも特筆すべきことである。高塚遺跡(2)、菅生小学校裏山遺跡では、多量の初期須恵器、陶質土器、軟質土器が出土し、また窪木葉師遺跡では、これらの他、吉備の古墳時代の特徴の一つである鉄生産と関わる鉄錠の出土を見た。後半期にも、日差山丘陵、王墓山丘陵を中心として群集墳が造営され、巨大勢力の一翼を担っている。

古墳時代の吉備の独自性は、やがて吸収され、衰退していくが、律令体制下になってもなおその残影は色濃い。日畑廃寺跡(71)、惣爪廃寺跡(72)に代表される寺院建立に首長層の勢力は力を注いでいる。また、現在では「津峴つさきのうまや駅家」と比定する所見がある矢部廃寺が存在し、古代山陽道の沿線となる。津寺遺跡においても、その地名が記すように、足守川の古代の津としての性格を合わせ持つ可能



山陽自動車道関連調査遺跡—★…報告済 ☆…未報告
●…古墳 ○…弥生墓 ■…寺院・屋敷跡 ▲…城跡
□…散布地その他

第2図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

性は高く、当時の交通の要所として重要視されていたものと考えられる。なお、古代朝鮮式山城として評価されている鬼ノ城は、津寺遺跡北遠方に築城されており、遠く瀬戸内海沿岸までも一望できる。このほか、二子御堂奥古窯址群などの窯跡も確認されている。

中・近世には、この地は、戦乱の舞台としてしばしば歴史上に登場する。特に、戦国期の備中高松城の水攻めが著名である。築堤跡(24)を現在でも見ることができるが、このほかにも数多くの山城が残る。甫崎天神山遺跡(5)では、この水攻めの際の毛利方の陣と考えられる甫崎天神山城が近年の発掘調査で明らかとなった。これ以降、足守川流域は、水田開発が進み、現在の景観に近くなっていくものと考えられる。現在でも、湛井十二か郷用水の分水路の一つである加茂用水が、灌漑用水として用いられている。湛井堰の築造は、1584年(天正十二年)までは確実にさかのぼり、その起源としては、1182年(寿永元年)に妹尾太郎兼康により築造されたという伝承をもつ。

以上、概観してみたように、津寺遺跡の位置するこの地域は、言うまでもなく吉備の中核地であり、当遺跡は、その躍動感溢れる展開の中で一つの拠点集落として位置づけられよう。(大橋)

1. 津寺遺跡
2. 高塚遺跡
3. 三手遺跡
4. 政所遺跡
5. 甫崎天神山遺跡
6. 雲山遺跡
7. 黒住遺跡
8. 後池内遺跡
9. 前池内遺跡
10. 郷境墳墓群
11. 矢部堀越遺跡
12. 矢部奥田遺跡
13. 矢部古墳群B
14. 矢部大崎遺跡
15. 矢部古墳群A
16. 二子14号墳
17. 堂山裏古墳群
18. 御崎神社古墳
19. 観音山古墳群
20. 勝負谷古墳群
21. 名越山裏山古墳群
22. 鼓山古墳群
23. 杉尾古墳群
24. 高松城附水攻築堤跡
25. 蜂谷城跡
26. 高松遺跡
27. 加茂城跡
28. 庚申山古墳群
29. 雲上山古墳群
30. 車塚古墳
31. 造山古墳
32. 造山古墳附第1号墳
33. 造山古墳附第2号墳
34. 造山古墳附第3号墳
35. 造山古墳附第4号墳
36. 造山古墳附第5号墳(千足古墳)
37. 造山古墳附第6号墳
38. 雲山鳥打弥生墳丘墓群
39. 黒住山古墳群
40. 向場古墳群
41. 江田山古墳群
42. 江田山山麓古墳群
43. 矢部大山谷古墳群
44. 矢部古墳群
45. 矢部貝塚
46. 大崎古墳
47. 鷹ノ巣城跡
48. 日差山北遺跡
49. 日差山古墳群
50. 日差山城跡
51. 日差廃寺跡
52. 日差遺跡
53. 勝負谷古墳
54. 二子古墳群
55. 二子御堂屋敷跡
56. 二子御堂奥古窯址群
57. 御堂奥遺跡
58. 岩部奥遺跡
59. 砂原北遺跡
60. 足守川加茂遺跡
61. 矢部南向遺跡
62. 鯉喰神社弥生墳丘墓
63. 矢部廃寺跡
64. 琵琶池北遺跡
65. 山地遺跡
66. 王墓山古墳群
67. 楯築弥生墳丘墓
68. 女男岩遺跡
69. 辻山田遺跡
70. 日畑廃寺跡
71. 日畑城跡
72. 惣爪廃寺跡
73. 東惣爪遺跡(高田遺跡)
74. 藤の木遺跡
75. 新邸遺跡
76. 上東遺跡
77. 岩倉遺跡
78. 才楽遺跡
79. 川入遺跡

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯と経過

高規格幹線道路網計画のうち、山陽自動車道は、大阪・吹田～山口・下関間をほぼ東西にむすぶもっとも重要な高速道路の一つである。1971（昭和46）年には基本計画が策定され、翌年にはルート決定をみたので、岡山県教育委員会は、さっそく'72年に国庫補助をうけて県内予定路線にふくまれる範囲につき遺跡分布調査事業にとりくんだ。その後、建設工事区間が定まり、工事事務所が開設されるのに先だって、そのたびごと事前の発掘調査をすすめてきたところである。重複をさけるため、詳細については既報告書にゆだねたい。

このたび報告する津寺遺跡は、備中南部の高松平野、足守川下流域左岸につくられる岡山ジャンクションの建設に伴って実施されたものの一部である。この場所は、東西に走る山陽自動車道と、山陰から南下してくる中国横断自動車道とのまさに結接点に当たるから、発掘対象面積も膨大で周辺を含めると約10万㎡にも及び、そのうち一集落としてとらえることのできる安定した微高地を検出し、その大きさは南北約300m、東西約220mであることが判明した。そして微高地上の遺構密度の高さもまた県下屈指の一つに挙げえる結果を得た。

さて1986（昭和61）年12月8日、県庁内において開催された協議会は、以後の取り組みを決する画期的なものであった。言い換えれば建設側と保存側とがはじめて同じ円卓テーブルについて双方の意見交換を開始した記念すべき会議となった、といえる。建設促進側からは花房副知事を先頭に土木部長をはじめ道路建設課などのおもだった役職職員が出席。対する、文化財保存行政を担う県教育庁からは教育長、教育次長、文化課長などの役職職員がこれに加わり、山陽自動車道や中国横断自動車道など岡山県内における幹線自動車道の建設と埋蔵文化財問題との調整ないし各種の問題点に関する協議が、実務者レベルに先立って県職のトップレベルによって、はじまったのである。建設工事の着工前において行われる地形、地質、気候、水利、経済、環境、関連公共事業、用地など多岐にわたる条件整備の中にあって文化財問題が優先して論議されはじめたのはこの時点を皮切りとする。こうした下地があって、翌'87（昭和62）年度にいたり、全国的にみておそらく初めてと評価されてよい「幹線自動車道埋蔵文化財調査対策協議会」が発足することとなった。ふりかえてみると、昭和40年代前半において山陽新幹線や中国縦貫道といった大型幹線道の敷設が県内で進められたのを機に、これら建設工事に惹起して文化財保存行政の陣容がなお不十分さをかこいながらもようやく整えられはじめたのであった。この時期を第一期とすれば、ほぼ20年を経過した昭和60年代前半における山陽自動車道および中国横断自動車道の建設に代表される、訪れようとする大規模開発の波は、第二期として位置付けできる。必然的にふたたび文化財行政に緊張感が高まってきたことは言うまでもない。文化財行政の歩みおよそ20年の間に、議決機関である県文化課から、執行機関といえる岡山県古代吉備文化財センター（以下、県文化財センターと略称）が分離・創設されたのは1984（昭和59）年のことであった。そして県文化財センターに15名の調査員を配した調査第二課が新設されたのは'87（昭和62）

年で、それは上記のような背景があったからにはほかならない。ともかく同年6月11日に開かれた第一回めの「幹線自動車道埋蔵文化財調査対策協議会」では、「岡山市高松地区を中心に倉敷ジャンクション～岡山インターチェンジ間のスケジュールと調査要員計画について」と題し、関係機関による協議が進められた。これをうけて、同年6月3日には県文化課と県文化財センターとで相談しつつ「山陽自動車道倉敷～岡山間の埋蔵文化財調査について」との標題のもとに、山陽自動車道の建設計画を再確認し、埋蔵文化財の分布状態をおさえ問題点などについて総括した。おもな諸点を列記すると、こうである。

- ①倉敷ジャンクション～岡山インターまでは16.3km。うちに遺跡数20箇所を数え、対象面積は約306,650㎡で昭和61年度に13,700㎡を終了。62年度に50,400㎡の発掘調査を予定し、65年度以降に対応しなければならない面積は242,550㎡にのぼる。
- ②62年度調査については、調査体制も整えられほぼ予定どおり執行できるものと考えられる。本年度以降については、供用開始から逆算して63年度と64年度（平成元年度）の2か年でおよそ200,000㎡を超える面積の調査が必要となる。
- ③調査対象面積のうち、三手・津寺・政所地区が大部分を占めるが、津寺地区は弥生時代から古墳時代さらに奈良時代にかけての複合遺跡と考えられる。こうした状況から考えると調査員の月当たりの調査面積は、百間川遺跡とほぼ同様の140㎡、あるいはそれ以下と予想される。
- ④調査員一人当たり月140㎡とすれば、年間1,680㎡が調査可能である。仮に200,000㎡を発掘調査するには120人を要する。2年間で完掘するとなれば年60～73人の調査員が必要となってくるので、専門調査員の確保さえ相当厳しいものがある。

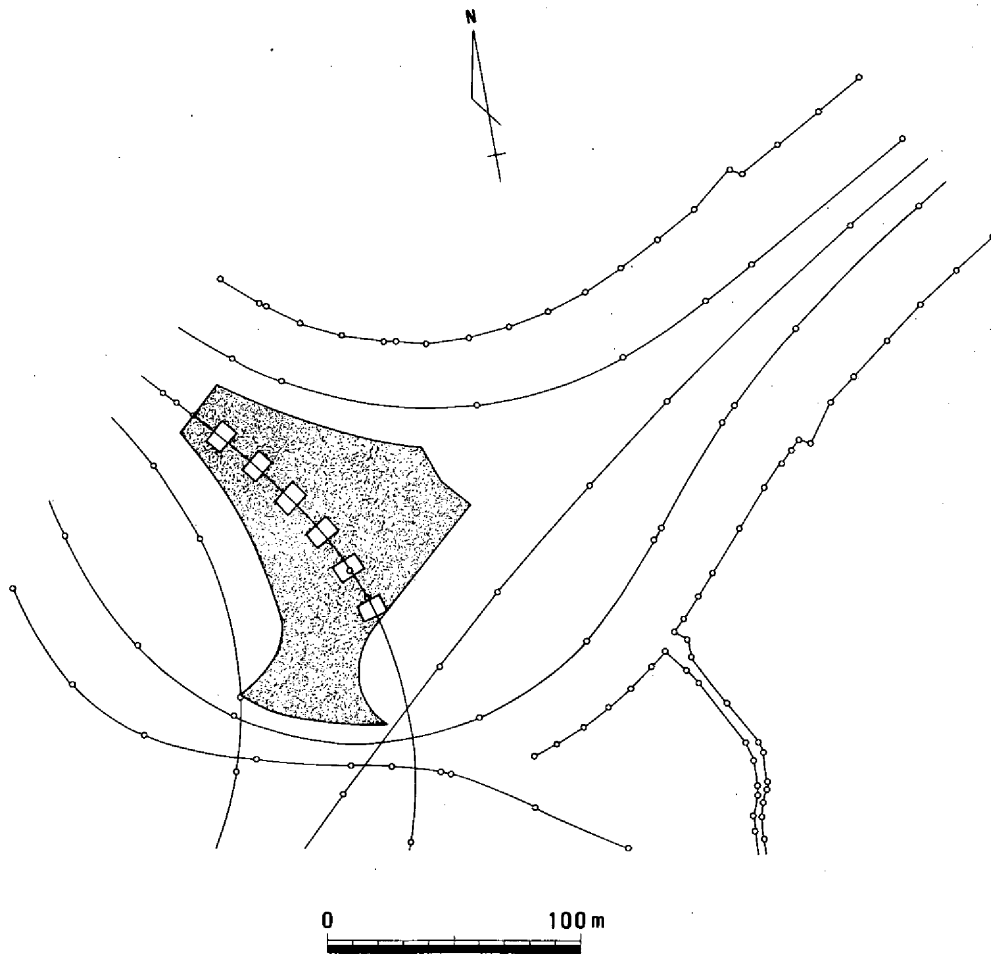
このような現状と予測を踏まえたうえで、問題点を次のように整理し、これらの解決をめざして積極的に対処する方針がさだまった。

- ①昭和62年度現在、山陽自動車道関連の職員は15名であるが、さらに45～60名の増員は可能か。内部移動・新規採用・教員からの受入・臨時的採用・市町村職員の転入などが検討課題となる。
- ②調査対象地のうち保存の観点に立って現状凍結できる区域はないか。暫定二車線供用の箇所・植栽部分の取り扱い・側道部分の後年時対応など。
- ③工期・工法の変更は考えられないか。土盛り工法から高架への設計変更・供用開始時期の延期といった課題への取り組み。
- ④調査方法の改善などによって迅速化が図られないか。機械力導入による能率化・測量、写真撮影、排水などの委託化などについての見直し。

膨大な調査面積を眼前にして、短期決戦を余儀なくされた県教育委員会は、こうして味曾有の経験を重ねることとなった。今回報告する、昭和63年度の調査員体制は前年度にくらべ倍増という言葉を上回る33名体制が、さらに平成元年度には45名体制が敷かれることに決した。剣が峰にたった'88年度には、県土木部より技師の出向を仰ぎ測量の速度を早めたほか、教職現場から発掘調査員への転任を図り、岡山県においては初めて調査補助員の制度を設け若い戦力に期待し、さらに倉敷市や総社市などから短期的に専門調査員の応援を依頼するなど、当面成し得るあらゆる努力を払ってきた。それでもなお全調査員の稼働能力と調査面積を照らし合わせたとき、期間内で完全に発掘し終える予想がたちにくい。したがって、発掘調査は開通予定に入っている二車線の道路幅に、やむなく限定する処置をとったところもある。

日々の調査は、基本的には3名の調査員で1班を構成し、しかも各班には30名ほどの作業員が従事する。したがって次には、いかに多数の作業員を配置できるかが課題となり、この難関を解決してはじめて全体としての発掘体制が整うわけである。現今では、人員の確保はそう容易でない。農業に専従している戸数は極端に減少しているからである。こうした情勢分析のもとに遠隔地から作業員を確保するため、専用の送迎バスルートを新設し、常時500名の登録者を得ることができた。当然のことながら曇天の時には、毎朝バスを運行させるか否か司令室と連絡をとらなければならない、といった厄介な早朝勤務も入ってきた。また、排土のためのベルトコンベアーはすべて騒音の少ない電動式に改め、常備しておく排水ポンプには必要な200Vを引き込むなど、できるかぎりの効率化を図ったところである。現地では他に、水利権を維持しなければならないという難問が介在していた。南流する足守川の左岸堤防に沿う幅50cm程度の小水路は、一見したかぎりではありふれた素掘りの溝にすぎなかったが、地元にとっては下流域の水田を養うかけがえのない給水路であったから、切り回しを重ねながら発掘調査を、実施せざるを得なかった。またジャンクション西辺に新たにつくられる西川は大規模なボックス工法が採用されたので、これについても水利権がらみで同様に急ぎ調査を完遂させなければならなかったのである。

第3図は「ジャンクションの植栽部」の範囲図で、後年次に調査を実施する地点である。この「ジャンクションの植栽部」については、『津寺遺跡2』に詳細を記している。後年次に調査対象となる面積は約6,128㎡である。(葛原)



第3図 ジャンクション植栽部位置図(1/3,000)

第2節 調査・整理の組織

発掘調査は日本道路公団と岡山県の委託契約に基づき岡山県教育委員会が当たった。なお、契約事項は文化課が行い、発掘調査は岡山県古代吉備文化財センターが担当した。

昭和61年度（一次調査）	主 任 岡田祥司	主 事 飯島賢治
岡山県教育庁	主 任 片山淳司	主 事 佐伯英樹
教 育 長 宮地暢夫	調査第二課長 葛原克人	主 事 谷岡孝久
教 育 次 長 石井敏雄	課長補佐（第一係長）正岡睦夫	平成元年度（発掘調査）
文化課	文化財保護主幹 小柴充明	岡山県教育庁
課 長 高橋誠記	文化財保護主査 山磨康平	教 育 長 竹内康夫
課 長 代理 逸見英邦	文化財保護主査 二宮治夫	教 育 次 長 竹本博明
埋蔵文化財係長 正岡睦夫	文化財保護主査 吉田正士	文化課
主 任 仁宮秀博	文化財保護主任 中野雅美	課 長 吉尾啓介（11月30日まで）
岡山県古代吉備文化財センター	文化財保護主任 川崎 肇	課 長 鬼澤佳弘（12月1日以降）
所 長 橋本泰夫	文化財保護主事 小田卓生	課 長 代理 河野 衛
総 務 課 長 佐々木清	文化財保護主事 福田計治	課長補佐（埋蔵文化財係長）伊藤 晃
主 査 遠藤勇次	主 事 龜山行雄	主 査 藤川洋二
主 任 花本静夫	主 事 大橋雅也	岡山県古代吉備文化財センター
調査課長 河本 清	主 事 後藤信義	所 長 長瀬日出明
文化財保護主査 井上 弘	第 二 係 長 松本和男	次 長 河本 清
文化財保護主任 浅倉秀昭	文化財保護主査 岡田 博	総 務 課 長 竹原成信
主 事 大智 浩	文化財保護主査 浅倉秀昭	課長補佐（総務係長）藤本信康
昭和63年度（発掘調査）	文化財保護主任 栗尾昭和	主 任 岡田祥司
岡山県教育庁	文化財保護主任 垣内一也	主 任 平松郁男
教 育 長 竹内康夫	文化財保護主任 井上 篤	主 任 片山淳司
教 育 次 長 前 亮治	文化財保護主事 片山泰輔	調査第二課長 葛原克人
文化課	主 事 佐守 学	課長補佐（第一係長）井上 弘
課 長 吉尾啓介	主 事 澤山孝之	文化財保護主査 吉田正士
課 長 代理 河野 衛	主 事 柴田英樹	文化財保護主査 二宮治夫
課長補佐（埋蔵文化財係長）伊藤 晃	主 事 弘田和司	文化財保護主査 林 久夫
主 査 藤川洋二	第 三 係 長 高畑知功	文化財保護主任 光永真一
岡山県古代吉備文化財センター	文化財保護主査 福田正継	文化財保護主任 源 俊二
所 長 水田 稔	文化財保護主事 光永真一	文化財保護主事 広瀬隆明
総 務 課 長 佐々木清	文化財保護主事 広瀬隆明	文化財保護主事 安井 悟
総 務 主 幹 藤本信康	主 事 田代健二（備前市教委出向）	主 事 大橋雅也
主 任 花本静夫	主 事 小松原基弘	第 二 係 長 高畑知功

第2節 調査・整理の組織

文化財保護主任 中野雅美
 文化財保護主任 島崎 東
 文化財保護主事 福田計治
 文化財保護主事 山本了峰
 主 事 村田秀石
 主 事 石黒 勉
 主 事 後藤信義
 主 事 土井一行
 第三係長 岡田 博
 文化財保護主任 井上 篤
 文化財保護主事 片山泰輔
 文化財保護主事 亀山行雄
 主 事 澤山孝之
 主 事 柴田英樹
 主 事 古市秀治
 主 事 波田野宏和
 調査第三課長 正岡睦夫
 課長補佐(第一係長) 松本和男
 第二係長 浅倉秀昭
 文化財保護主査 古谷野寿郎
 文化財保護主任 川崎 肇
 主 事 森 宏之
 平成2年度(発掘調査)
 岡山県教育庁
 教 育 長 竹内康夫
 教 育 次 長 杉井道夫
 文化課
 課 長 鬼澤佳弘
 課 長 代理 光吉勝彦
 課長補佐(埋蔵文化財係長) 伊藤 晃
 主 査 藤川洋二
 岡山県古代吉備文化財センター
 所 長 長瀬日出明
 次 長 河本 清
 総務課長 竹原成信
 課長補佐(総務係長) 藤本信康
 主 査 平松郁男
 主 任 坂本英幸

調査第二課長 葛原克人
 課長補佐(第一係長) 井上 弘
 文化財保護主査 二宮治夫
 文化財保護主査 林 久夫
 文化財保護主任 光永真一
 文化財保護主任 井上 篤
 文化財保護主任 源 俊二
 文化財保護主事 広瀬隆明
 文化財保護主事 安井 悟
 主 事 大橋雅也
 第二係長 高畑知功
 文化財保護主査 吉田正士
 文化財保護主査 中野雅美
 文化財保護主事 福田計治
 文化財保護主事 山本了峰
 文化財保護主事 亀山行雄
 主 事 古市秀治
 主 事 久保恵里子
 第三係長 岡田 博
 文化財保護主査 野上和信
 文化財保護主任 栗尾昭和
 文化財保護主事 片山泰輔
 主 事 澤山孝之
 主 事 柴田英樹
 調査第三課長 正岡睦夫
 課長補佐(第一係長) 松本和男
 文化財保護主査 江見正己
 文化財保護主任 平井泰男
 文化財保護主任 川崎 肇
 文化財保護主事 平松義則
 主 事 横山伸一郎
 第二係長 浅倉秀昭
 文化財保護主査 窪田廣志
 文化財保護主査 古谷野寿郎
 主 事 弘田和司
 主 事 森 宏之
 主 事 守屋佳慶
 平成3年度(発掘調査)

岡山県教育庁
 教 育 長 竹内康夫
 教 育 次 長 森崎岩之助
 文化課
 課 長 鬼澤佳弘(12月31日まで)
 課 長 渡邊淳平(1月1日以降)
 課 長 代理 大橋義則
 課長補佐(埋蔵文化財係長) 柳瀬昭彦
 主 査 時長 勇
 岡山県古代吉備文化財センター
 所 長 横山常實
 次 長 河本 清
 総務課長 藤本信康
 課長補佐(総務係長) 小西親男
 主 査 平松郁男
 主 任 坂本英幸
 調査第二課長 正岡睦夫
 第二係長 浅倉秀昭
 文化財保護主事 亀山行雄(調査)
 主 事 古市秀治(調査)
 平成4年度(発掘調査・報告書作成)
 岡山県教育庁
 教 育 長 竹内康夫
 教 育 次 長 森崎岩之助
 文化課
 課 長 渡邊淳平
 課 長 代理 松井新一
 課長補佐(埋蔵文化財係長) 柳瀬昭彦
 主 査 時長 勇
 岡山県古代吉備文化財センター
 所 長 横山常實
 次 長 河本 清
 文化財保護主事 葛原克人
 総務課長 北原 求
 課長補佐(総務係長) 小西親男
 主 査 石井 茂
 主 任 石井善晴
 主 任 三宅秀吉

第2章 調査の経緯と経過

調査第二課長 正岡睦夫（報告書）
 第二係長 浅倉秀昭（報告書）
 文化財保護主査 古谷野寿郎（報告書）
 文化財保護主査 中野雅美（報告書）
 文化財保護主事 澤山孝之（調査・報告書）
 文化財保護主事 柴田英樹（調査・報告書）
 平成5年度（報告書作成）
 岡山県教育庁
 教育長 森崎岩之助
 教育次長 岸本憲二
 文化課
 課長 渡邊淳平
 課長代理 松井新一
 課長補佐（埋蔵文化財係長）高畑知功
 主査 時長 勇
 岡山県古代吉備文化財センター
 所長 横山常實
 次長 葛原克人
 総務課長 北原 求
 課長補佐（総務係長）小西親男
 主査 石井 茂
 主査 石井善晴
 主任 三宅秀吉
 調査第二課長 伊藤 晃
 課長補佐（第一係長）井上 弘
 文化財保護主査 野上恵司
 文化財保護主査 中野雅美
 文化財保護主事 牧 良二
 文化財保護主事 大橋雅也
 文化財保護主事 澤山孝之
 平成6年度（報告書作成）
 岡山県教育庁
 教育長 森崎岩之助
 教育次長 岸本憲二
 文化課
 課長 大場 淳

課長代理 松井新一
 課長補佐 高畑知功
 主任 若林一憲
 岡山県古代吉備文化財センター
 所長 河本 清
 次長 葛原克人
 総務課長 丸尾洋幸
 課長補佐 杉田卓美
 主査 石井善晴
 主任 三宅秀吉
 調査第二課長 伊藤 晃
 課長補佐 井上 弘
 文化財保護主査 長谷川澄博
 文化財保護主任 小林関士
 文化財保護主事 龜山行雄
 文化財保護主事 澤山孝之
 主事 金田善敬
 平成7年度（報告書作成）
 岡山県教育庁
 教育長 森崎岩之助
 教育次長 黒瀬定生
 文化課
 課長 大場 淳
 課長代理 樋本俊二
 参事 葛原克人
 課長補佐 高畑知功
 主任 若林一憲
 岡山県古代吉備文化財センター
 所長 河本 清
 次長 葛原克人（文化課兼務）
 次長 高塚恵明
 総務課長 丸尾洋幸
 課長補佐 井戸丈二
 主査 石井善晴
 主任 木山伸一
 調査第一課長 正岡睦夫

課長補佐 岡田 博
 文化財保護主任 大村俊幸
 文化財保護主事 山本晋也
 文化財保護主事 龜山行雄
 文化財保護主事 大橋雅也
 主事 谷口広幸
 主事 杉山一雄
 主事 澁田東美
 平成8年度（報告書作成）
 岡山県教育庁
 教育長 森崎岩之助
 教育次長 黒瀬定生
 文化課
 課長 大場 淳
 課長代理 松井英治
 参事 葛原克人
 課長補佐 平井 勝
 主査 若林一憲
 岡山県古代吉備文化財センター
 所長 河本 清
 次長 高塚恵明
 次長 葛原克人（文化課本務）
 文化財保護参事 正岡睦夫
 総務課長 丸尾洋幸
 課長補佐 井戸丈二
 主査 木山伸一
 調査第一課長 高畑知功
 課長補佐 中野雅美
 文化財保護主幹 福田正継
 文化財保護主査 二宮治夫
 文化財保護主任 小延祥夫
 文化財保護主事 山本晋也
 主事 清水竜太

第3節 調査の方法と日誌抄

津寺遺跡の発掘調査は、昭和61年度の1次調査（確認調査）に引き続き、昭和63年度から平成2年度にかけて本格的に実施された。また平成3・4年度には、水路付け替えなどの付帯工事に伴う調査のみが行われた。昭和63年度から平成2年度の3か年には、延べ面積約8万㎡をこえる調査計画が立てられ、このほかにも、同じく山陽自動車道関係で隣接する三手遺跡、高塚遺跡、政所遺跡の調査が同時進行せざるを得ない状況であった。これらの調査を遂行すべく、教員出向者を大幅に増員し、津寺遺跡に限って言えば、昭和63年度には33名、平成元年度33名、平成2年度35名の調査員が発掘調査にあたった。これらの調査員は、2～3名で1パーティを組み、さらに総勢400名を超える作業員を動員し、センター設立以来の大規模発掘調査を実施した。

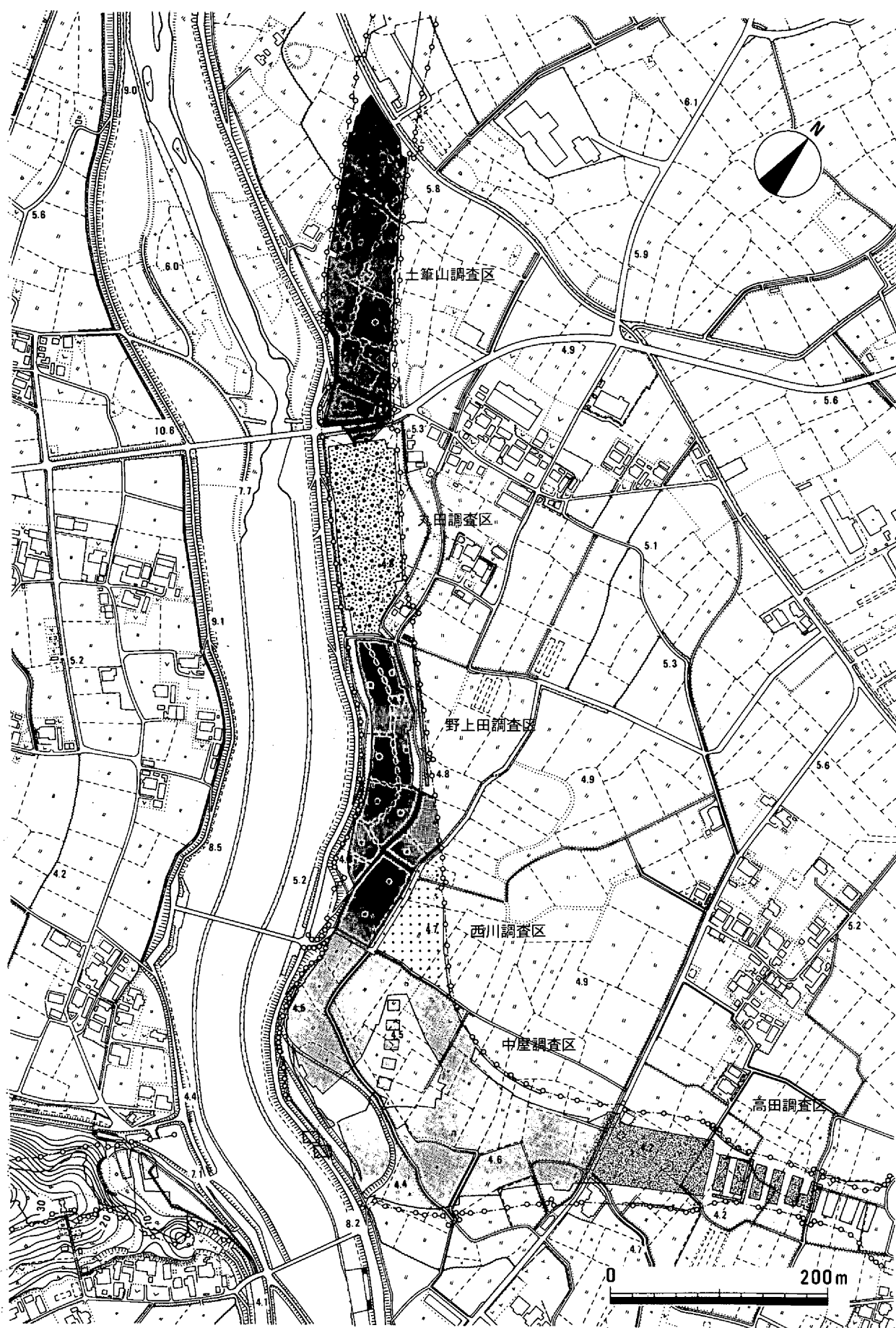
調査区は小字名をとって、北から土筆山調査区、丸田調査区、野上田調査区、西川調査区、中屋調査区、高田調査区の大きく6区分をおこない、それぞれをさらに、調査行程、工事行程との兼ね合いで第6図に示すような100を超える小調査区に分割して各パーティが実際の調査にあたった。大きくは、土筆山調査区から高田調査区へと調査を進行させたが、特に工事行程との調整の関係上、隣り合う小調査区が必ずしも、同時ないしは連続して調査を行えず、遺構の整合性が把握しきれない側面があったことも否めない。

実際の調査は、調査範囲が現在では水田景観であったため、重機によって現代の水田層から近世水田層・包含層の一部を除去し、以下無遺物の基盤層と判断された層位まで順次、人力によって掘り下げ、遺構・遺物の検出に努めた。特に岡山ジャンクション部分の微高地では、弥生時代から近世にいたる複数の遺構面が認められ、それらがほぼ同一面で重複するなど、非常に調査に困難をきわめた。また野上田調査区の低位部では、類例のない大規模護岸施設が明らかになり、激しい湧水と寒風の中、その検出と実測作業には、おびただしい時間と労力がかかった。

遺構の実測・測量は、国土地理院第5座標系に基づき、グリッドを設定し行った（第6図）。起点は津寺遺跡と同時に発掘作業を開始した三手遺跡の北端にあたる $X=-145400$ 、 $Y=-48700$ とし、大きく100mグリッドを設け、さらに、その中を10mの小グリッドに分割した。大グリッド分割は、X軸の起点を0とし、アラビア数字で東方向へ増加し、Y軸は起点をAとし、アルファベット大文字で南方向へ以下B、C、Dと続くように呼称した。小グリッド分割は、10mごとにX軸は00～09、Y軸はa～jに区分した。グリッド名は、各北西交点を優先することとし、P18グリッドないしは、Pa1800グリッドのように呼称する。以下本文中のグリッド記載はこれによるものとする。

津寺遺跡日誌抄

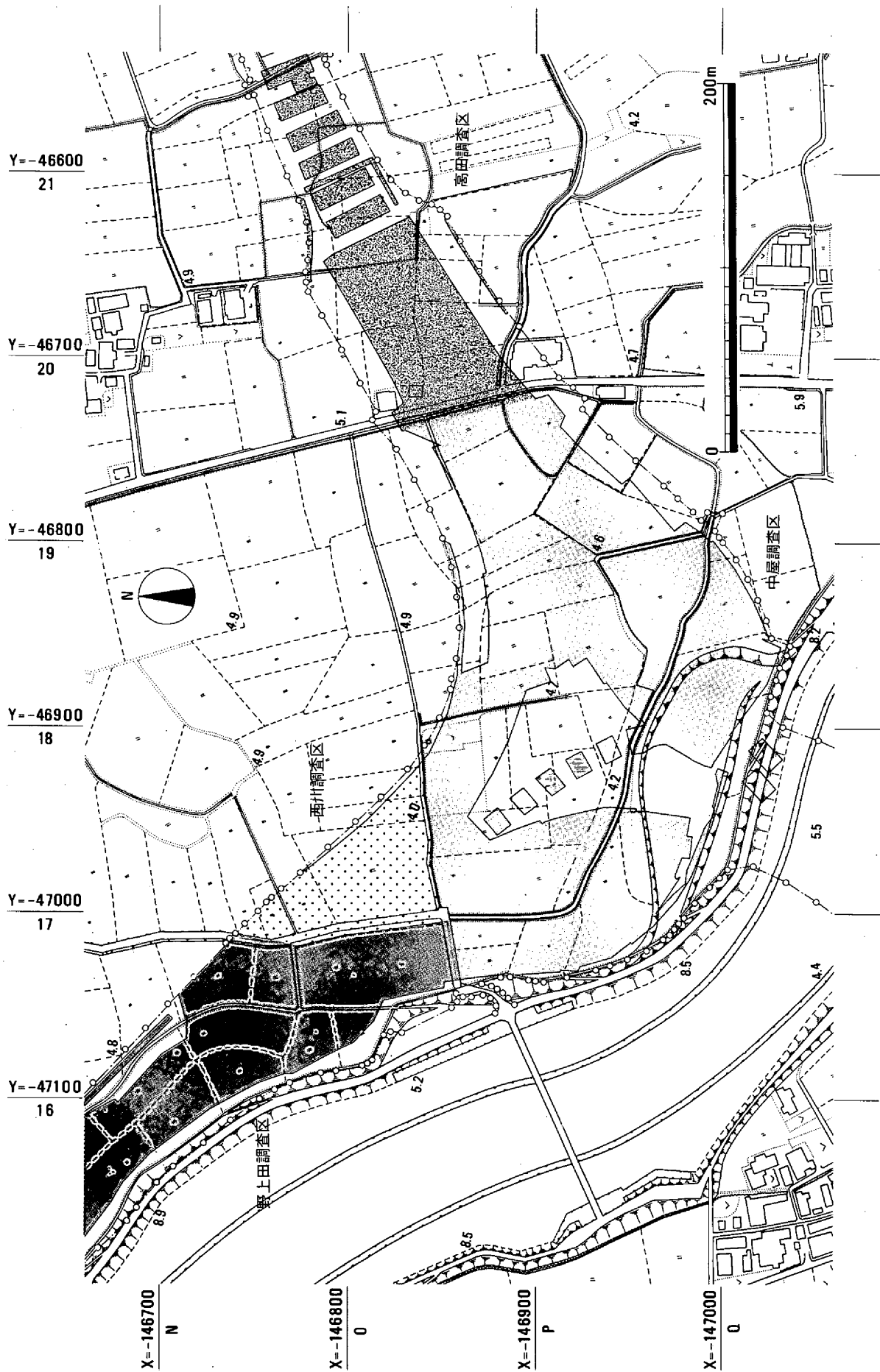
昭和61年度		4月11日（月）	土筆山1～3区調査着手
昭和62年	1月12日（月）	調査準備	丸田I・V区調査着手
	1月13日（火）	1次調査着手	中屋P7区調査着手
	2月10日（月）	1次調査終了	中屋A2区調査着手
昭和63年度			中屋H1区調査着手
昭和63年	4月1日（金）	調査準備	野上田8区調査着手



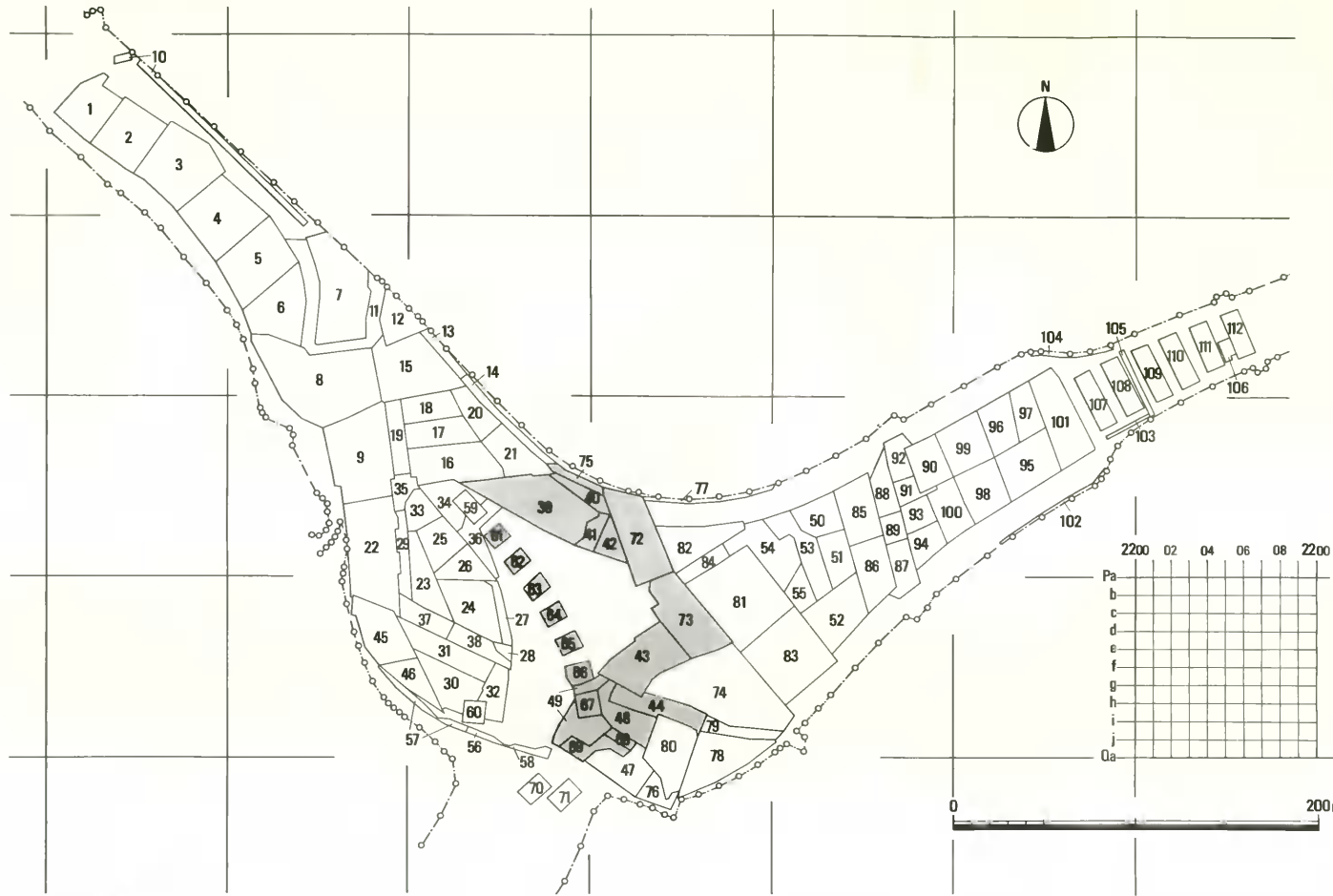
第4図 津寺遺跡周辺地形図(1/5,000)

第3節 調査の方法と日誌抄

4月18日(月)	野上田1区調査着手		中屋H1区調査終了
4月23日(土)	野上田1区調査終了	10月19日(水)	中屋P4区調査終了
4月25日(月)	西川2・3区(仮設用 水部分)調査着手		中屋P2区調査着手
4月28日(木)	西川2・3区(仮設用 水部分)調査終了	11月8日(火)	野上田9区西調査着手
5月2日(月)	野上田3区調査着手	11月18日(金)	中屋P1区調査着手
5月6日(金)	中屋T1区調査着手	12月1日(木)	土筆山4a区調査着手
5月27日(金)	埋蔵文化財保護対策委 員会開催	12月8日(木)	中屋M3I区調査着手
		12月21日(水)	中屋P6区調査着手
5月30日(月)	土筆山5区調査着手	平成元年 1月7日(土)	中屋A1区調査着手
6月7日(火)	中屋T1区調査終了	1月17日(火)	中屋P3区調査終了
6月10日(金)	土筆山3区調査終了	1月23日(月)	野上田6区調査着手
6月23日(木)	中屋P7区調査終了	1月28日(土)	西川1区調査着手
6月27日(月)	中屋P5区調査着手	1月30日(月)	西川3区調査着手
6月29日(水)	丸田II区調査着手	1月31日(火)	中屋AP7区調査着手
6月30日(木)	野上田3区調査終了		埋蔵文化財保護対策委 員会開催
7月1日(金)	野上田2区調査着手		丸田IE区調査終了
7月6日(水)	中屋A2区調査終了		野上田5区調査終了
7月7日(木)	中屋P4区調査着手		中屋P6区調査終了
7月30日(土)	野上田2区調査終了	2月1日(水)	土筆山1A区調査着手
8月1日(月)	野上田4区調査着手		中屋BP7区調査着手
8月22日(月)	丸田I区調査終了		中屋P2区調査終了
9月2日(金)	野上田7区調査着手	2月2日(木)	丸田農機道区調査着手
	中屋H2区調査着手	2月4日(土)	土筆山4区調査着手
9月10日(土)	中屋P5区調査終了	2月6日(月)	中屋H2区調査終了
9月12日(月)	中屋P3区調査着手	2月10日(金)	土筆山5b区調査着手
	土筆山1・2区調査終了	2月14日(火)	土筆山4区調査終了
9月13日(火)	中屋H3区調査着手	2月15日(水)	中屋H4区調査着手
9月27日(火)	丸田III区調査着手	2月18日(土)	西川2区調査着手
9月30日(金)	野上田4区調査終了	3月3日(金)	土筆山5区調査終了
10月3日(月)	丸田V区調査終了	3月6日(月)	丸田4区調査着手
	野上田5区調査着手	3月8日(水)	土筆山1A区調査終了
10月12日(水)	埋蔵文化財保護対策委 員会開催	3月9日(木)	中屋P1区調査終了
10月13日(木)	丸田IE区調査着手	3月13日(月)	中屋AP7区調査終了
10月14日(金)	中屋M1区調査着手	3月17日(金)	埋蔵文化財保護対策委 員会開催
	中屋M2区調査着手	3月18日(土)	中屋A1区調査終了
		3月25日(土)	野上田調査区護岸施設



第5図 ジャンクション部分地形図(1/3,000)



津寺遺跡調査担当一覧

番号	調査区	担当者	調査年度	報告書
	土筆山1～9	正岡睦夫・小柴孝明・川崎馨・松本和男・垣内一也・佐守学 二宮治夫・林久夫・源俊二・小田卓生・亀山行雄	S63・H1	90
	丸田1～5	岡田博・浅倉秀昭・栗尾昭和・井上篤・弘田和可・波多野宏和	S63・H1	90
1～6	野上田1～5	浅倉・栗尾	S63	90
7	野上田7区	片山泰輔・澤山孝之・柴田英樹	S63	98
8	野上田8区	光永真一・広瀬隆明・佐伯英樹	S63	98
9	野上田9区	光永・広瀬・安井悟・佐伯	S63・H1	98
10	野上田10Ⅰ区	二宮・林・源	H1	90
11	野上田10Ⅱ区	片山・澤山・柴田	H1	98
12	西川1区	光永・広瀬・佐伯・浅倉・栗尾	S63	98
13	西川2区	高畑知功・田代健二・飯島賢治	S63	98
14	西川3区	福田正継・小松原基弘・谷岡孝久	S63	98
15	西川4区	光永・広瀬・安井	H1	98
16	西川5区	片山・澤山・柴田	H1	98
17	西川6区	亀山・古市秀治	H1	98
18	西川7区	井上弘・吉田正士・大橋雅也	H1	98
19	西川8区	光永・広瀬・安井	H1	98
20	西川9区	光永・広瀬・安井	H1	98

21	西川10区	高崎東・村田秀石・石黒勉	H1	98
22	中屋M1区	中野雅美・福田計治・後藤信義	S63	98
23	中屋M2区	中野・福田計・後藤	S63	
24	中屋M3Ⅰ区	井上弘・山勝康平・吉田・大橋	S63・H1	
25	中屋M3Ⅱ区	亀山・古市	H1	
26	中屋M3Ⅲ区	亀山・古市	H1	
27	中屋M3Ⅳ区	井上弘・吉田・大橋	H1	
28	中屋M3Ⅴ区	井上弘・吉田・大橋	H1	
29	中屋M4区	中野・福田計・後藤	H1	98
30	中屋M5Ⅰ区	高崎・村田・石黒・光永・安井・広瀬	H1	
31	中屋M5Ⅱ区	高畑・山本了峰・土井	H1	
32	中屋M5Ⅲ区	光永・広瀬・安井	H1	
33	中屋M6Ⅰ区	中野・福田計・後藤	H1	98
34	中屋M6Ⅱ区	亀山・古市	H1	
35	中屋M6Ⅲ区	光永・広瀬・安井	H1	98
36	中屋M6Ⅳ区	亀山・古市	H2	
37	中屋M7Ⅰ区	中野・福田計・後藤	H1	
38	中屋M7Ⅱ区	井上弘・吉田・大橋	H1	
39	中屋M8Ⅰ区	高畑・吉田・山本・土井一行	H1・H2	

第6図 津寺遺跡ジャンクション部分調査区割図(1/3,000)

40	中屋M8Ⅱ区	井上弘・吉田・大橋	H1	
41	中屋M8Ⅲ区	高畑・吉田・山本	H2	
42	中屋M8Ⅳ区	中野・福田計・久保麻里子	H2	
43	中屋M9Ⅰ区	中野・福田計・後藤	H1	
44	中屋M9Ⅱ区	中野・福田計・後藤・久保	H1・H2	
45	中屋M10Ⅰ区	高崎・村田・石黒	H1	
46	中屋M10Ⅱ区	高崎・村田・石黒	H1	
47	中屋M11Ⅰ区	高畑・吉田・山本	H2	
48	中屋M11Ⅱ区	中野・福田計・久保	H2	
49	中屋M11Ⅲ区	亀山・古市	H2	
50	中屋M12Ⅰ区	光永・広瀬・安井	H2	
51	中屋M12Ⅱ区	亀山・古市	H2	
52	中屋M12Ⅲ区	二宮・源	H2	
53	中屋M12Ⅳ区	二宮・源	H2	
54	中屋M12Ⅴ区	岡田・野上和信・栗尾・井上篤	H2	
55	中屋M12Ⅵ区	高畑・吉田・山本	H2	
56	中屋M13Ⅰ区	高畑・吉田・山本	H2	
57	中屋M13Ⅱ区	中野・福田計・久保	H2	
58	中屋M13Ⅲ区	亀山・古市	H2	
59	中屋A1区	高畑・田代・飯島	S63	
60	中屋A2区	高畑・田代・飯島	S63	
61	中屋P1区	高畑・田代・飯島	S63	
62	中屋P2区	高畑・田代・飯島	S63	
63	中屋P3区	高畑・田代・飯島	S63	
64	中屋P4区	高畑・田代・飯島	S63	
65	中屋P5区	高畑・田代・飯島	S63	
66	中屋P6区	山勝・大橋・吉田	S63	
67	中屋P7区	高畑・田代・飯島	S63	
68	中屋T1区	浅倉・亀山	S63	
69	中屋T2区	亀山・古市	H1	
70	中屋AP7区	亀山	S63	
71	中屋BP7区	山勝・吉田・大橋	S63	
72	中屋H1区	福田正・小松原・谷岡	S63	
73	中屋H2区	福田正・小松原・谷岡	S63	
74	中屋H3区	正岡・小柴・川崎	S63	
75	中屋H4区	福田正・小松原・谷岡	S63	
76	中屋H5区	井上弘・吉田・大橋	H1	
77	中屋H6区	井上弘・林・亀山・大橋・古市	H2	
78	中屋B1区	古谷野寿郎・川崎・森宏之	H1	
79	中屋B2区	古谷野・川崎・森	H1	
80	中屋B3区	古谷野・川崎・森	H1	
81	中屋E1区	岡田・野上・栗尾・井上篤・波多野	H1・H2	
82	中屋E2区	光永・広瀬・安井	H2	
83	中屋E3区	二宮・源・井上篤	H1・H2	
84	中屋E4区	光永・広瀬・安井	H2	
85	中屋3ⅡⅠ区	片山・澤山・柴田	H2	
86	中屋3ⅡⅡ区	井上弘・林・大橋	H2	
87	中屋3ⅡⅢ区	光永・広瀬・安井	H2	
88	中屋3ⅡⅣ区	光永・広瀬・安井	H2	
89	中屋3ⅡⅤ区	光永・広瀬・安井	H2	
90	高田3ⅡⅠ区	中野・福田計・久保	H2	
91	高田3ⅡⅡ区	中野・福田計・久保	H2	
92	高田3ⅡⅢ区	亀山・古市	H2	
93	高田3ⅡⅣ区	井上弘・亀山・大橋・古市	H2	
94	高田3ⅡⅤ区	片山・澤山・柴田	H2	
95	高田M1Ⅰ区	井上弘・林・井上篤・大橋	H2	
96	高田M1Ⅱ区	片山・澤山・柴田	H2	
97	高田M1Ⅲ区	浅倉・窪田廣志・守屋佳康	H2	
98	高田M1Ⅳ区	井上弘・林・大橋	H2	
99	高田M1Ⅴ区	片山・澤山・柴田	H2	
100	高田M1Ⅵ区	井上弘・林・大橋	H2	
101	高田A1区	浅倉・窪田・守屋	H2	
102	高田H1区	亀山・古市	H3	
103	高田H2区	澤山・柴田	H4	
104	高田北用水区	浅倉・窪田・守屋	H2	
105	高田用水Ⅰ区	江見正己・平松義則・横山伸一郎	H2	
106	高田用水Ⅱ区	古谷野・弘田・森	H2	
107	高田P1	江見・平松・横山	H1・H2	
108	高田P2	江見・平松・横山	H2	
109	高田P3	江見・平松・横山	H2	
110	高田P4	江見・平松・横山	H2	
111	高田P5	平井泰男・川崎	H2	
112	高田P6	平井・川崎	H2	

第2章 調査の経緯と経過

	11月22日(水)	西川10区調査着手			着手
	12月2日(土)	土筆山10区調査着手			高田用水Ⅰ区調査着手
	12月5日(火)	中屋M6Ⅱ区調査着手		4月10日(火)	中屋M6Ⅳ区調査着手
	12月18日(月)	中屋M9Ⅱ区調査着手		4月17日(火)	中屋H6区調査終了
	12月20日(火)	野上田10Ⅱ区調査終了		5月7日(月)	高田A1区調査着手
	12月23日(土)	土筆山9区調査着手		6月4日(月)	中屋M11Ⅰ区調査着手
	12月26日(火)	土筆山8・9区調査終了		6月7日(木)	高田P5・P6調査着手
平成2年	1月16日(火)	丸田ⅣB区調査終了		6月8日(金)	中屋3BUⅡ区調査終了
	1月17日(水)	中屋E1区調査着手			中屋M8Ⅲ区調査終了
	1月26日(金)	土筆山6・7区調査終了			中屋M11Ⅲ区調査着手
	1月30日(火)	中屋H5区調査着手		6月9日(土)	高田M1Ⅰ区調査着手
	2月3日(土)	中屋M6Ⅲ区調査着手		6月12日(火)	埋蔵文化財保護対策委員会開催
	2月19日(月)	土筆山10区調査終了			中屋M8Ⅳ区調査終了
		中屋E2区調査着手			中屋M11Ⅱ区調査着手
	2月20日(火)	埋蔵文化財保護対策委員会開催		6月14日(木)	中屋M6Ⅳ区調査終了
		西川7区調査終了		6月18日(月)	中屋M9Ⅱ区調査終了
		中屋M8Ⅱ区調査着手		6月20日(水)	中屋M12Ⅰ区調査着手
	2月26日(月)	西川6区調査終了		6月25日(月)	中屋E2区調査終了
	3月3日(土)	中屋H5区調査終了			中屋E4区調査着手
	3月5日(月)	中屋M3Ⅴ区調査着手		6月28日(木)	中屋M12Ⅱ区調査着手
	3月10日(土)	中屋M6Ⅲ区調査終了		7月4日(水)	中屋E4区調査終了
	3月12日(月)	中屋M3Ⅴ区調査終了		7月14日(土)	高田M1Ⅱ区調査着手
	3月31日(土)	西川4・5・9・10区調査終了		7月17日(火)	中屋3BUⅠ区調査終了
		中屋M6Ⅱ、M8Ⅰ、M8Ⅱ、M9Ⅰ、M9Ⅱ区調査終了		7月23日(月)	高田M1Ⅲ区調査着手
				7月30日(月)	中屋M11Ⅲ区調査終了
					高田P5・P6区調査終了
平成2年度				7月31日(火)	中屋E3区調査終了
平成2年	4月2日(月)	調査準備		8月1日(水)	中屋M12Ⅲ区調査着手
	4月4日(水)	中屋E2、E3区調査着手		8月29日(水)	中屋M12Ⅰ区調査終了
		中屋H6区調査着手		8月30日(木)	中屋3BⅠ区調査着手
		中屋M8Ⅲ、M8Ⅳ区調査着手			高田P1～P4調査終了
		中屋3BUⅠ、3BUⅡ区調査着手			高田用水Ⅰ区調査終了
	4月5日(木)	高田P1～P4区調査		8月31日(金)	中屋M11Ⅱ区調査終了
					中屋E1区調査終了
				9月1日(土)	高田M1Ⅳ区調査着手
					高田3BⅠ区調査着手

第3節 調査の方法と日誌抄

9月4日(火)	高田M1V区調査着手		中屋M13Ⅱ、M13Ⅲ調
9月10日(月)	中屋M12V区調査着手		査終了
	高田A1区調査終了		高田M1V、M1Ⅵ区
9月27日(水)	埋蔵文化財保護対策委		調査終了
	員会開催		高田3BV区調査終了
10月1日(月)	高田用水Ⅱ区調査着手	12月24日(月)	中屋M13Ⅰ区調査終了
10月3日(水)	高田用水Ⅱ区調査終了	12月25日(火)	中屋M12Ⅳ区調査終了
10月5日(金)	中屋M12Ⅵ区調査着手	12月27日(木)	中屋M12V区調査終了
10月15日(月)	中屋3BⅡ区調査着手	平成3年 3月1日(金)	埋蔵文化財保護対策委
10月18日(木)	中屋3BⅠ区調査終了		員会開催
10月20日(土)	高田M1Ⅲ区調査終了	平成3年度	
10月22日(月)	高田北用水区調査着手	平成4年 2月15日(土)	高田H1区調査着手
	高田3BⅡ区調査着手	2月28日(金)	高田H1区調査終了
10月23日(火)	中屋M12Ⅱ区調査終了		埋蔵文化財保護対策委
10月25日(木)	高田M1Ⅰ区調査終了		員会開催
	高田M1Ⅵ区調査着手	平成4年度	
10月26日(金)	高田3BⅢ区調査着手	平成4年 4月9日(木)	高田H2区調査着手
10月30日(火)	高田北用水区調査終了	4月30日(木)	高田H2区調査終了
11月1日(木)	中屋M11Ⅰ区調査終了	7月20日(水)	埋蔵文化財保護対策委
11月7日(水)	中屋M12Ⅲ区調査終了		員会開催
11月8日(木)	中屋M12Ⅳ区調査着手	平成5年度	
11月9日(金)	高田3BV区調査着手	平成5年 10月8日(金)	埋蔵文化財保護対策委
11月13日(火)	高田3BⅣ区調査着手		員会開催
11月26日(月)	中屋M13Ⅰ区調査着手	平成6年度	
11月27日(火)	埋蔵文化財保護対策委	平成6年 9月22日(木)	埋蔵文化財保護対策委
	員会開催		員会開催
	高田M1Ⅱ区調査終了	平成7年 2月15日(水)	埋蔵文化財保護対策委
11月29日(木)	中屋3BⅡ区調査終了		員会開催
	高田3BⅢ区調査終了	平成7年度	
11月30日(金)	中屋E1区調査終了	平成7年 8月18日(金)	埋蔵文化財保護対策委
12月1日(土)	中屋3BⅢ区調査着手		員会開催
	高田M1Ⅳ区調査終了	平成8年 2月15日(木)	埋蔵文化財保護対策委
12月4日(火)	高田3BⅠ、3BⅡ区		員会開催
	調査終了	平成8年度	
12月5日(水)	中屋M13Ⅱ区調査着手	平成8年 9月24日(火)	埋蔵文化財保護対策委
12月13日(木)	中屋M13Ⅲ区調査着手		員会開催
	高田3BⅣ区調査終了	平成9年 2月14日(金)	埋蔵文化財保護対策委
12月15日(土)	中屋3BⅢ区調査終了		員会開催
12月20日(木)	中屋M12Ⅵ区調査終了		

第4節 報告書作成の方法と体制

(1) 報告書作成の方法

津寺遺跡は、調査対象面積が8.7万㎡におよぶ広大なものであった。このため、小字境を境界として大きく土筆山・丸田・西川・中屋・高田の5調査区を設定し、各々の調査区単位での報告書の作成を実施した。しかし、中屋調査区については、ジャンクション部分の中心を占め、検出された遺構・遺物は残存状態も良好で膨大な量であった。このため、中屋調査区については単一の報告書では完結できないと判断され、分割して報告書を作成することとなった。中屋調査区の報告は、『津寺遺跡2』から始まり『津寺遺跡3』、『津寺遺跡4』と続き、今回報告の『津寺遺跡5』をもって完了する。

中屋調査区の報告書は、4分冊に集録されたが、各々の遺構・遺物の番号は同一調査区での重複を避けるため引き続きの番号としている。また、溝などの各分冊に跨る遺構については、当初の番号を使用している。このような基本的な問題については、『津寺遺跡2』の作成段階で調査担当者で基本的な方針を確認し、『津寺遺跡2』の報告書にも「報告書作成の方法」として明示した。しかしながら、各報告書によっては遺構・遺物の取り扱いに若干の共通認識にずれが生じていることも事実である。これは津寺遺跡全体としての整合性を図るという基本方針が崩れるとともに、報告書を利用される側に混乱を生じさせる結果となっている。今回の報告書作成においては、津寺遺跡および中屋調査区の最後の報告書となるため、混乱をより助長させる危惧をいだきつつも当初に示された基本的な方針に沿って報告書の作成に努めた。

平成8年度の山陽自動車道建設に伴う発掘調査にかかわる報告書の作成は、7名を配置して実施されたが、内1名は他の遺跡を担当したため、津寺遺跡の中屋調査区は6名で行った。この6名は、専門職員3名、教員からの出向2名、さらに専門の臨時職員1名の構成であった。この内、今回整理対象調査区の発掘調査を担当したのは専門職員の3名のみで、当センター全体の組織上必ずしも調査担当者が整理作業に直接携わることができない状況が生じた。このため、他の調査担当者の調査区については整理担当者が分担し、遺構・遺物など個々の問題についての確認作業を密にするとともに担当者の意見、判断を求めながら整理作業を進めた。しかし、調査終了後6年以上の年月が経過しており、整理作業は困難を極めた。さらに、対象となる遺構・遺物は膨大な量であり、網羅的に整理し報告することは不可能に近く、なお不十分な点をかこっているのは言うまでもない。(中野)

(2) 報告書作成の体制

整理担当職員6名は、発掘担当者の専門職員3名を班長とする3班に分け基本的な作業単位とした。3班の整理担当分は、発掘担当者が実施した調査区を基本とし、他の調査担当者分を全体の遺構数、遺物数をもとに分担した。しかし、各々の班の分担量は均一ではなく、負担の大きい班が存在したことも事実である。また、全体的な内容の作業については、各々の担当を決めて進行させた。

各班には、実測・トレース・復元の作業員を配置し、円滑な作業の実施に努めた。各班の調査区の整理分担は以下のとおりである。

表1 発掘調査一覧表

調 査 区	遺構数	遺物数	調 査 担 当	整理担当
津寺・中屋P1区	33	59	高畑・田代・飯島	高畑・小延
津寺・中屋P2区	35	48	高畑・田代・飯島	高畑・小延
津寺・中屋P3区	28	36	高畑・田代・飯島	高畑・小延
津寺・中屋P4区	26	38	高畑・田代・飯島	高畑・小延
津寺・中屋P5区	25	13	高畑・田代・飯島	高畑・小延
津寺・中屋P7区	12	23	高畑・田代・飯島	高畑・小延
津寺・中屋M8Ⅰ区	95	157	高畑・吉田・山本了・土井	高畑・小延
津寺・中屋M8Ⅲ区	36	36	高畑・吉田・山本了	高畑・小延
合 計	290	410		
津寺・中屋H1区	76	90	福田正・小松原・谷岡	福田・清水
津寺・中屋H2区	32	80	福田正・小松原・谷岡	福田・清水
津寺・中屋H4区	20	10	福田正・小松原・谷岡	福田・清水
津寺・中屋T1・T2区	12	58	浅倉・亀山・古市	福田・清水
津寺・中屋M11Ⅲ区	11	58	亀山・古市	福田・清水
合 計	151	296		
津寺・中屋M8Ⅳ区	54	28	中野・福田計・久保	中野・山本晋
津寺・中屋M9Ⅰ区	131	122	中野・福田計・後藤	中野・山本晋
津寺・中屋M9Ⅱ区	28	29	中野・福田計・後藤・久保	中野・山本晋
津寺・中屋M11Ⅱ区	30	109	中野・福田計・久保	中野・山本晋
津寺・中屋P6区	18	10	山磨・大橋・吉田	中野・山本晋
津寺・中屋M8Ⅱ区	37	37	井上弘・吉田・大橋	中野・山本晋
合 計	298	335		
総 合 計	739	1,041		

整理協力者

熊代明美 澁田東美 吉田万里子 柏野由美子 長谷川彩 森久仁江 近藤明子 川原啓子
 藤田さち子 杉本弘美 川崎康代 辻尚子 渡辺弘子 高塚睦子 明楽美和子 山本恵美子
 神原さちみ

なお、遺構・遺物の写真撮影については、堀家純一、政田孝の各氏の援助を得た。

最後に、酷暑の夏、厳寒の冬、日々発掘調査や整理作業に従事され、調査員を助けて数々の成果を共にされた作業員の方々に、深く感謝申し上げます。(中野)

第5節 時期区分について

津寺遺跡では、縄文時代から近世の遺構・遺物が検出されている。特に、弥生時代中期から古墳時代前半期のものが多い。各遺構・遺物について記述するにあたり、全体を検討したうえで、詳細な土器の編年作業と時期区分を行うのが望ましいが、津寺遺跡の遺物量は莫大なものであり、数年間にわたって整理作業と報告書の刊行が行われるため、従来の編年を大枠で踏襲し、一応の目安を呈示することにした。これは百間川遺跡で行っている大枠での時期区分に合わせたもので、編年上の問題や地域性の問題は、今後のまとめの中で示されていくものと考えている。

土器の編年や時期区分は古くから行われており、大規模な発掘が実施されて多量の土器が出土するたびに、各報告書において呈示されてきた。近年では高橋 護氏による型式学に基づく詳細な編年が出され、また、高畑知功氏によるまとめとしての編年も示された。それぞれの編年を対比するのはかならずしも明確でない部分もあるが、従来の研究を参考にしながら対比関係を一覧表としておきたい。

弥生時代前期をⅠ～Ⅲ、同中期をⅠ～Ⅲ、同後期をⅠ～Ⅳ、古墳時代前半期をⅠ～Ⅲに大別した。なお、文中では弥生時代前期Ⅰは弥・前・Ⅰ、古墳時代前半Ⅱは古・前・Ⅱのように表記する。以下各時期の特徴的な点について概述する。

弥・前・Ⅰは段と無軸木葉文を主体とする時期、弥・前・Ⅱでは壺に削り出し突帯が施文され、甕へのヘラガキ沈線文が使用されるようになり、弥・前・Ⅲは壺や甕のヘラガキ沈線が多条化する。壺では断面三角形の突帯を多用している。前期を通じて高杯はきわめて少ない。津寺遺跡出土の土器には前期のものは少ない。

弥・中・Ⅰは壺や甕のヘラガキ沈線がクシガキ文に変化し、その新相では甕のクシガキ文は消失する。壺には突帯とクシガキ文を施すものが多い。弥・中・Ⅱは従来から呼称されている菰池式に対応し、これまで新相のものが多く出土していたが、津寺遺跡では古相のものも多く、今後標識的な資料となりうるものである。この時期には高杯が普及し、器台が出現する。新相の壺や甕の胴部下半の内面ヘラケズリ技法が出現し、他地域との差異も明瞭となる。弥・中・Ⅲは、凹線文が盛行する時期で、壺や甕の胴部下半の内面ヘラケズリが一般化する。口縁端部の拡張も著しく、外面には凹線文が施される。器台の普及もこの時期からである。少量ではあるが畿内で盛行するタタキ技法が認められる。

弥・後・Ⅰは長頸壺が成立し、頸部の凹線文が沈線文に変化し、甕とともに内面ヘラケズリが頸部直下まで行われるようになる。高杯の脚部は長いものが多く、沈線文がクシガキ文に変化する時期である。弥・後・Ⅱは長頸壺の頸部が上開から下開へと変化し、高杯の口縁部は外方へ拡張し、脚部は少し短くなり、端部を薄くするものが多い。高杯には備前と異なり、口縁部と皿部の接合部が内方へ突出し、脚端部が肥厚するものが新相まで残存する。新相では杯部と脚部を別造りとするものが出現し、一般化する。弥・後・Ⅲは長頸壺の最終段階で、高杯は短脚化し、器形が小型化する。一方、特殊な大型器台が祭祀用として出現する。小型土器には水漉し粘土を使用するものが見られるようになる。弥・後・Ⅳは従来の酒津式土器の主体となる時期で、甕の口縁部は擬凹線文を施すものが現れる。

古・前・Ⅰは下田所式と呼ばれている時期で、甕の口縁部は擬凹線文からクシガキ文に変化し、壺や鉢の口縁部は外上方へ大きく拡張するものが多い。壺の胴部は球形化を示す。古・前・Ⅱは亀川上層式に対応し、甕の口縁部のクシガキ文が退化し、底部は完全な丸底に変化する。古・前・Ⅲは土器の胎土が粗くなり、高杯の脚部は長くなり、内面のヘラケズリが施されるようになる。 (正岡)

表2 編年対比表

		津 寺	上東・川入	百間川	雄 町		高橋編年	
弥 生 時 代	前 期	弥・前・Ⅰ		百・前・Ⅰ		津 島	I期 { a b c	
		弥・前・Ⅱ		百・前・Ⅱ	雄町1	門 田	II期 { a b c	
		弥・前・Ⅲ		百・前・Ⅲ	雄町2			
	中 期	弥・中・Ⅰ		鬼川市0	百・中・Ⅰ	高 田	南 方	III期 { a b
		雄町3						
		弥・中・Ⅱ				百・中・Ⅱ	船山5	菰 池
	菰 池							
	雄町4							
	後 期	弥・中・Ⅲ	鬼川市Ⅰ	百・中・Ⅲ	前山東	前山Ⅱ	V期 { a b	
					雄町5			
	後 期	弥・後・Ⅰ	鬼川市Ⅱ	百・後・Ⅰ	雄町6	仁 佐	VI期 { a b	
					雄町7			
		弥・後・Ⅱ	鬼川市Ⅲ	百・後・Ⅱ	雄町8	上 東	VII期 { a b c d	
					雄町9			
		弥・後・Ⅲ	オノ町Ⅰ	百・後・Ⅲ	雄町10			
+					グランド 上 層			
弥・後・Ⅳ		オノ町Ⅱ	百・後・Ⅳ	雄町11	酒 津	VIII期 { a b c d		
	雄町12							
古 墳 時 代	前 期	古・前・Ⅰ	下田所	百・古・Ⅰ	王泊六層	IX期 { a b c d e		
		古・前・Ⅱ	亀川上層	百・古・Ⅱ				
	古・前・Ⅲ	+	百・古・Ⅲ	雄町13				
		川入・大溝上層		雄町14				
				雄町15	XI期 { a b			

また、古墳時代中期は、古・中・Ⅰ、古・中・Ⅱに、古墳時代後期は古・後・Ⅰ、古・後・Ⅱ、古・後・Ⅲに分けて時期を現わしている。

第3章 調査区の概要

第1節 調査区の概要

(1) 調査区の概要と位置

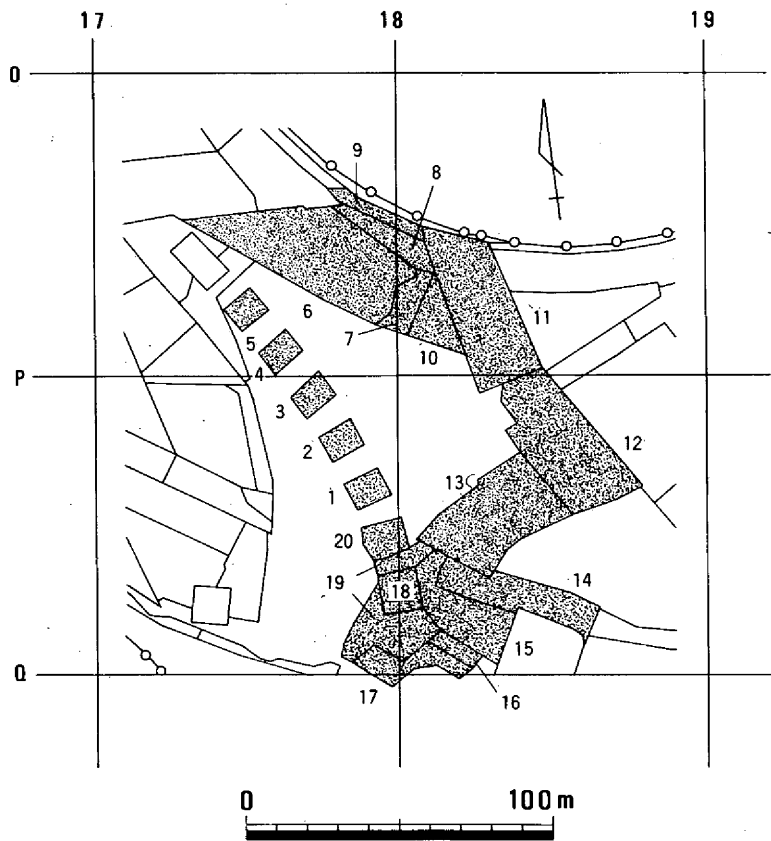
本調査区は岡山ジャンクションの中央部にあたり、中屋調査区と呼称している。植栽中央部の7橋脚(1~5・18・20)、盛土部(6~8・10・13~15・19)、排水部(9・11・12)、沈砂池(16・17)の計20区、約7,550m²が調査対象地である。基準グリッドではO・P17区の東半分、O・P18区の西半分にあたり、小字名は中屋である。北西側に西川調査区が所在する。

足守川左岸に位置し、旧足守川および関連する支流により形成された沖積平野である。条里等の地割りは確認できない。調査区内の田面高は海拔3.9m~4.9mをはかり、M8Ⅰ~M8Ⅲ(6~8)、H4区(9)付近が海拔4.9mの高所部にあたり、そこより微高地が西、南、東の方向に緩やかに高さを減じながら下降し、西、南側は足守川に向う。時代により微高地規模は若干変化をしているが、基本的には南流する河川に従い、南北に長く、東西が少し短い形状を呈する。旧河道、水田跡等を区切り境にして、本調査区を含む微高地規模を推測すると、東西に200m以上、南北に400m以上になる可能性が考えられる。

弥生前期の土壙から始まり、弥生中期・後期、古墳前期・中期・後期、古代、中世、近世の

表3 津寺遺跡調査区一覧表

番号	調査区	調査年度
1	中屋P5区	S63
2	中屋P4区	S63
3	中屋P3区	S63
4	中屋P2区	S63
5	中屋P1区	S63
6	中屋M8Ⅰ区	H1・H2
7	中屋M8Ⅲ区	H2
8	中屋M8Ⅱ区	H1
9	中屋H4区	S63
10	中屋M8Ⅳ区	H2
11	中屋H1区	S63
12	中屋H2区	S63
13	中屋M9Ⅰ区	H1
14	中屋M9Ⅱ区	H1・H2
15	中屋M11Ⅱ区	H2
16	中屋T1区	S63
17	中屋T2区	H1
18	中屋P7区	S63
19	中屋M11Ⅲ区	H2
20	中屋P6区	S63



第7図 調査区位置図(1/2,500)

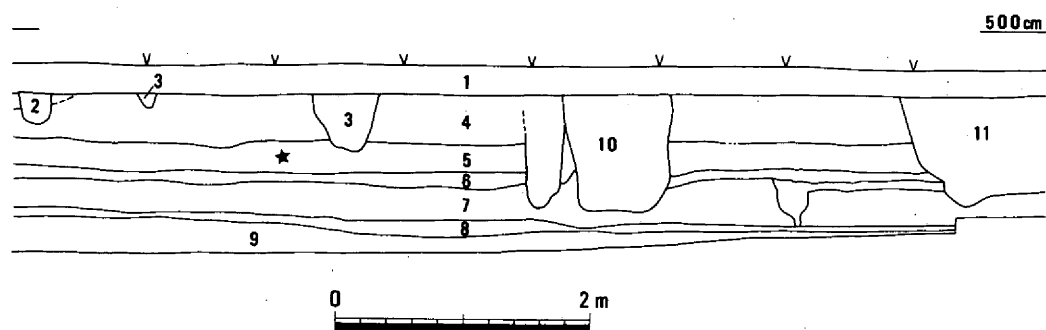
遺構、遺物の密集度が高く、長期間にわたり非常に安定した微高地であったことをうかがわせる。

ちなみに、P5区(1)の中央が北緯34°40'27"、東経133°49'17"に位置する。(高畑)

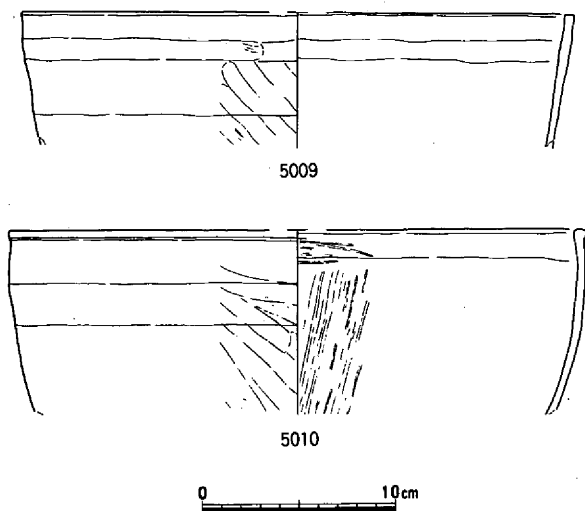
(2) 基本層序

中屋調査区は主に水田として利用されていた場所であり、農業用水は足守川の流路と同方向で、基本的に北から南へ通水する用排水の流路が設けられている。ここではP1区(5)の土層を中心に説明を加え、さらに南100mに位置するP7区(18)との比較を行う。P1区の北壁断面では水田面(海拔470cm)から耕作土、床土までが約20cm、その下位に乾田であることを裏付ける鉄・マンガンの互層が認められる。本来、遺構は床土下より検出可能であるが、凝集する鉄分、マンガン層を除去してはじめて遺構のプランが明瞭に検出できる。大半の地区で弥生時代から近世までの各時代の遺構がほぼ同一面で検出できる。この事実から本域は後世に何度か大規模な整地事業が実施され、微高地の上面が削平を受けたものと考えられる。奈良時代の官衙遺構の建設事業も一要因であろう。

第8図は、第1層が水田耕作土、第2層が近・現代の暗渠排水溝、第11層が古墳時代前期の竪穴住居、第10層が弥生時代後期の土壌の土層断面を表わしている。海拔450cmにおいて多少鮮明度の差は



- | | | | |
|-----------|-------------|--------------|-------------|
| 1 耕作土 | 4 淡灰茶色微砂 | 7 茶色粘質微砂 | 10 弥生時代後期土壌 |
| 2 暗渠 | 5 暗茶褐色弱粘質微砂 | 8 茶灰色粘質微砂 | 11 古墳時代竪穴住居 |
| 3 暗茶褐色粘質土 | 6 茶褐色粘質微砂 | 9 茶灰色粘土(基盤層) | |

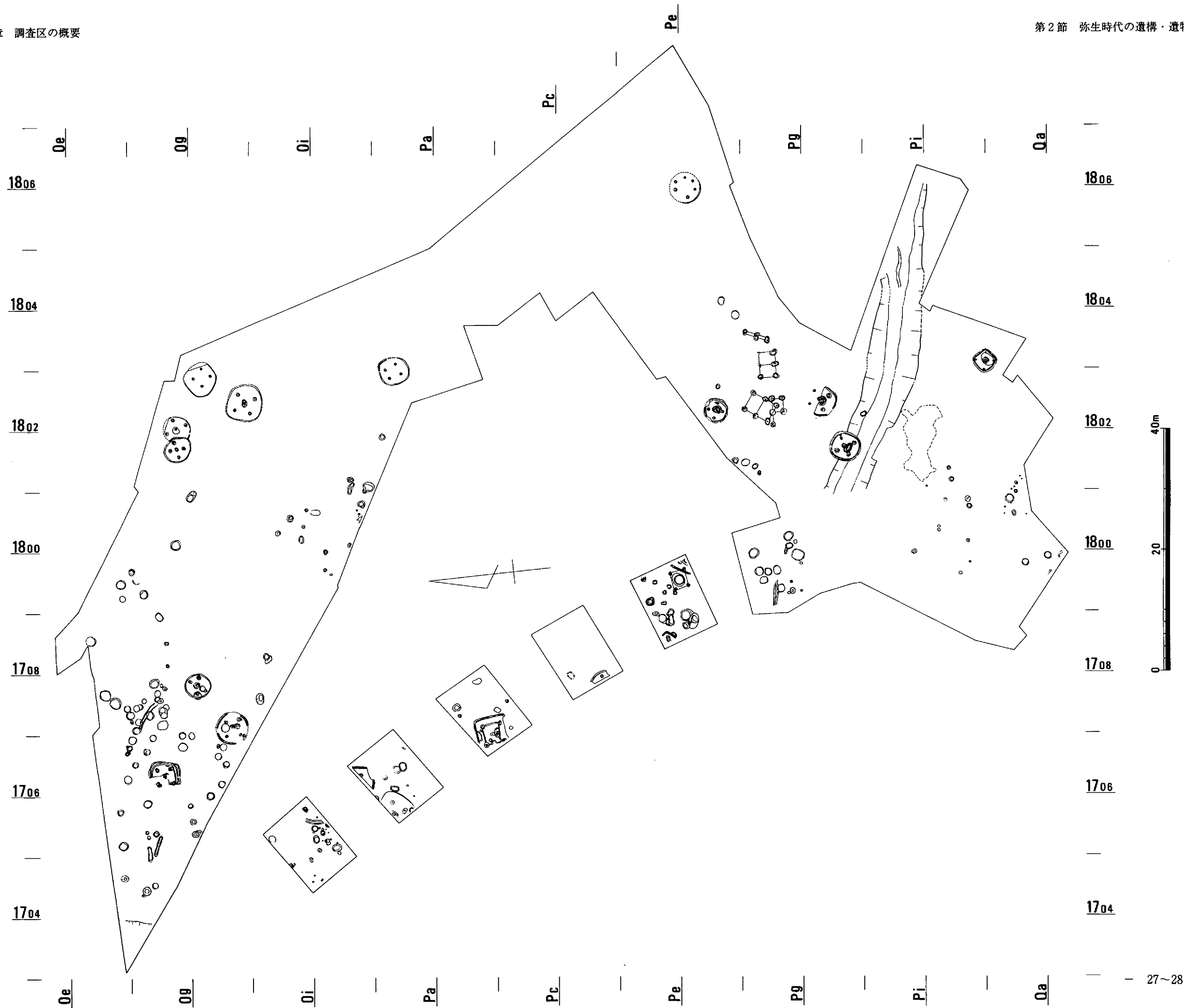


あるが地下遺構の存在がほぼ明らかになる。当然、掘下げが進むにつれて遺構の輪郭が明確になることは言うまでもない。

第4層から第8層は洪水等の作業で運搬され、長期にわたり堆積した微砂層である。第9層は基盤層(ベース)呼称した粘土層で、海拔高350cmを測る。5009、5010が第5層から1か所にまとまって出土しており、洪水等の際に混入した可能性がある縄文時代晩期の深鉢の破片である。

P7区(18)は水田面(海拔445cm)がP1区に比べて25cm低く、基盤層は340cmを測り、P1区に比べて約10cm低くなっている。(高畑)

第8図 縄文時代包含層(1/60)・出土遺物



第9図 弥生時代全体図(1/600)

第2節 弥生時代の遺構・遺物

(1) 弥生時代の概要

今回報告する中屋調査区では竪穴住居19軒、掘立柱建物4棟、土器棺墓4基、袋状土壙67基、土壙73基、井戸2基、溝2条、土器溜り2か所、総数169の遺構が出土している。それらに伴う遺物は多く、土器994点、石器100点、土製品6点、金属器5点、総数1,105点の実測図を掲載した。

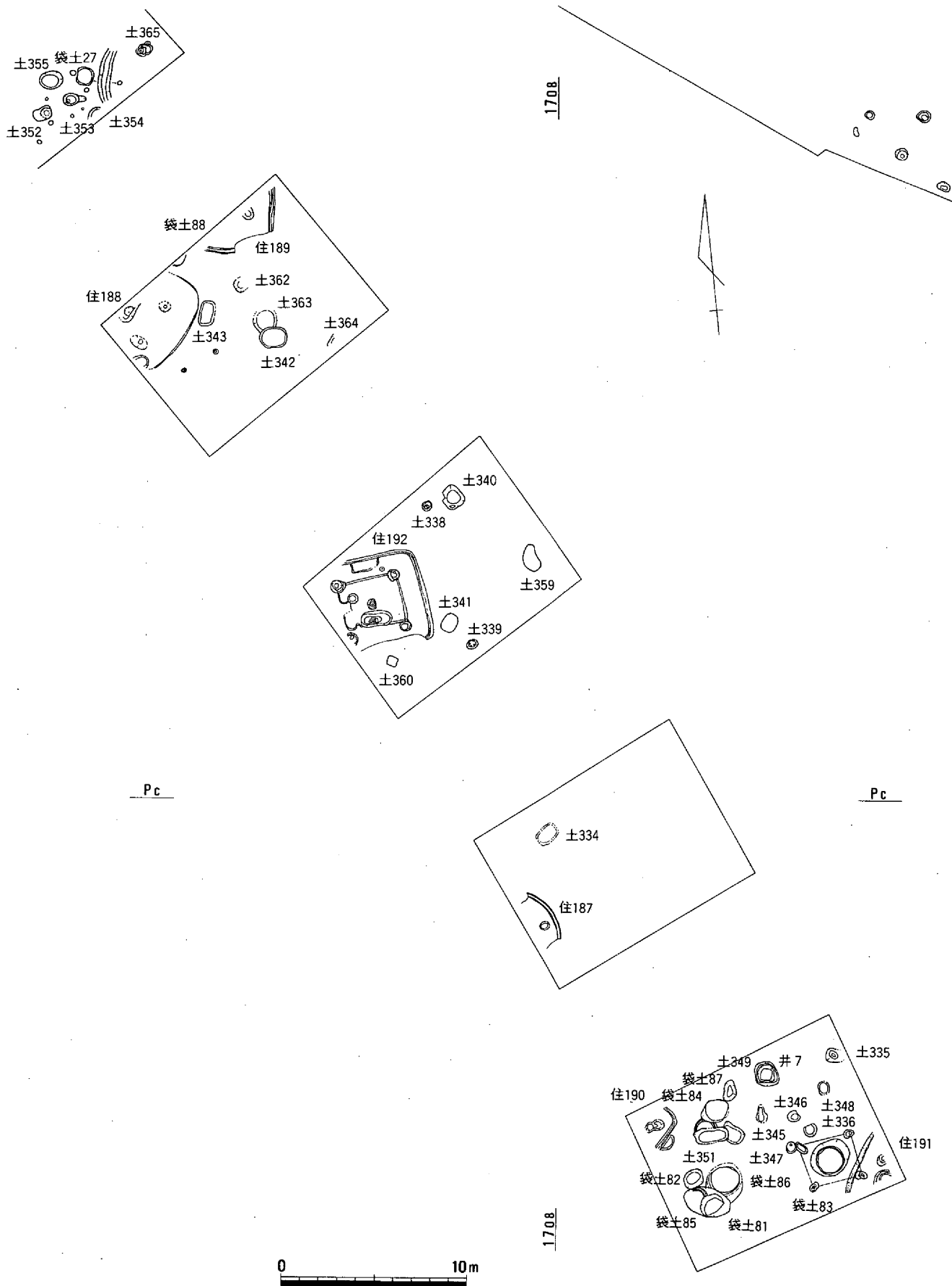
遺構の最も古いものは、弥・前・Ⅲの土壙でP4区(橋脚)から出土しており、他に例は認められない。続いて、弥・中・Ⅲ、弥・後・Ⅰ、弥・後・Ⅱ、弥・後・Ⅲ、弥・後・Ⅳの遺構の存在が認められるが、必ずしも本調査区の継続利用が行なわれていたものではなく、遺構の空白期間があったり、占地場所の移動があったりしながら集落が形成された様子が竪穴住居の分布から看取できる。

まず、弥・中・Ⅲの竪穴住居が8軒と最も多く、それらはO17・18区の南半分、P17・18の北半分に集中し、岡山ジャンクション部分ではその分布が東西180m、南北90mの範囲内にまとまる。住居平面形は隅丸方形、円形であり、竪穴住居-187、188、196~201がそれらにあたる。弥・後・Ⅰの竪穴住居は3軒であり、O17区の南東に比較的まとまって所在する。この分布は北側に位置する西川調査区から続く、弥・後・Ⅰの住居分布の南端に近い場所になる。住居平面形は隅丸方形、円形であり、竪穴住居-189、193、194がそれらにあたる。弥・後・Ⅱの竪穴住居は4軒であり、弥・中・Ⅲ、弥・後・Ⅰと重複する占地ではなく、P18区の南西にまとまって所在する。住居平面形は隅丸方形、円形であり、竪穴住居-202~205がそれである。さらに南側に広がる集落である。弥・後・Ⅲの竪穴住居は1軒のみであり、O17区の南東に所在する。平面形は円形を呈する。まったく単独の出土であり、廃棄の方法にも丁寧な行為が伴っている。竪穴住居-195がそれにあたる。弥・後・Ⅳの竪穴住居は3軒であり、P17の北東隅にまとまって所在する。平面形は比較的整備された隅丸方形を呈する。竪穴住居-190、191では同一個体の土器片が両住居から出土している。

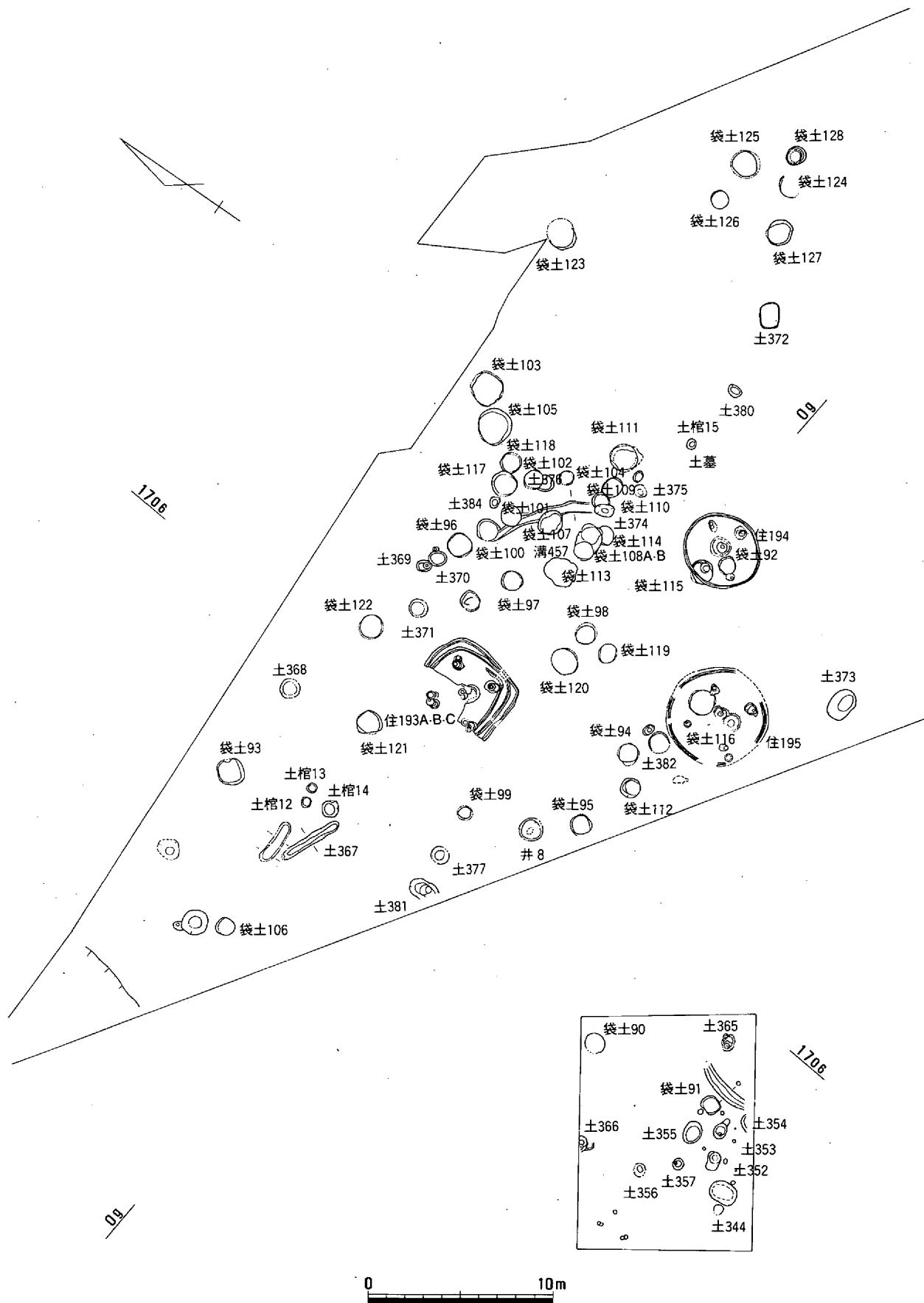
各時期の竪穴住居は、弥・後・Ⅲの単独出土の竪穴住居-195を除くと、比較的まとまる分布の形態を看取することができる。それぞれの竪穴住居は各期ごとに数軒でまとまり、占地場所においても充分に見極めがなされており、各期相互の重複があまり認められない。おそらく一定の規則で竪穴住居が配置され、集落が形成されたのであろう。基本的には北から南に延びる微高地方向を利用して、数軒の竪穴住居群が南北に長く、東西に狭い帯状の集落単位を構成している。

次に本調査区で比較的多く出土している袋状土壙についてみると、その分布はOeからQa付近までの南北160m、東西は1704から1804付近まで約100mの範囲内に67基がおさまる。これは北西部の弥・後・Ⅰと南西部の弥・後・Ⅱの竪穴住居の分布とほぼ一致し、両集落が少し間隔を置いて繋がる格好となる。しかし、袋状土壙の大半は弥・後・Ⅰの前半期に所属し、弥・中・Ⅲ、弥・後・Ⅱの時期に伴う袋状土壙は数基である。袋状土壙-131は弥・後・Ⅱの集落内にある唯一のものである。他に弥・中・Ⅲの新しい様相をもつ灰白色系の土器と弥・後・Ⅰの古い様相の土器とが伴出する例が多く、代表的なものとして袋状土壙-87、123、132等が認められる。また、弥・後・Ⅱの段階において集落内に掘立柱建物が4棟まとまって出土しており、袋状土壙から掘立柱建物への変化、あるいは共存の一端をのぞかせている。土壙は73基で、弥・中・Ⅲ、弥・後・Ⅰが多く33基を数える。(高畑)

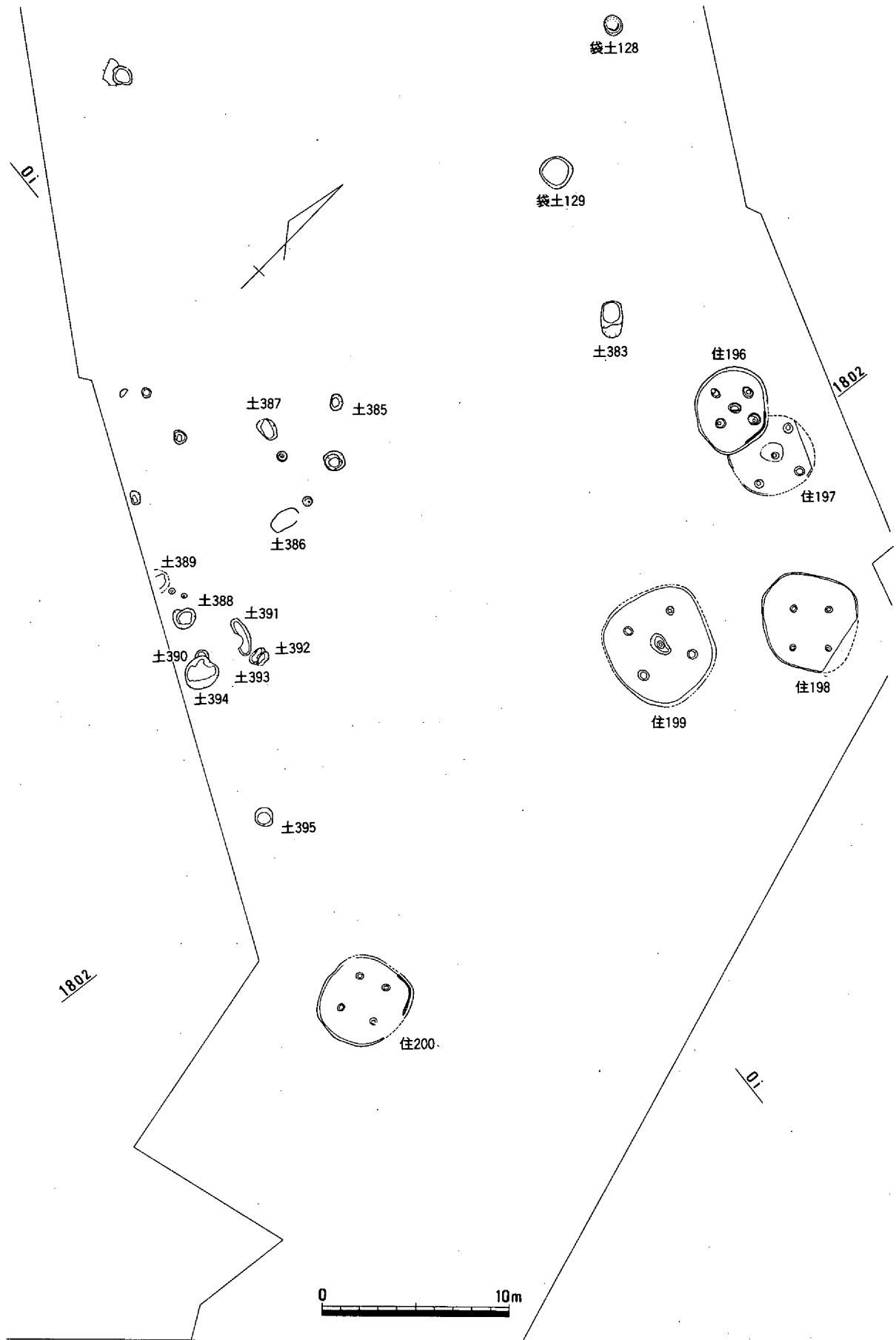
第3章 調査区の概要



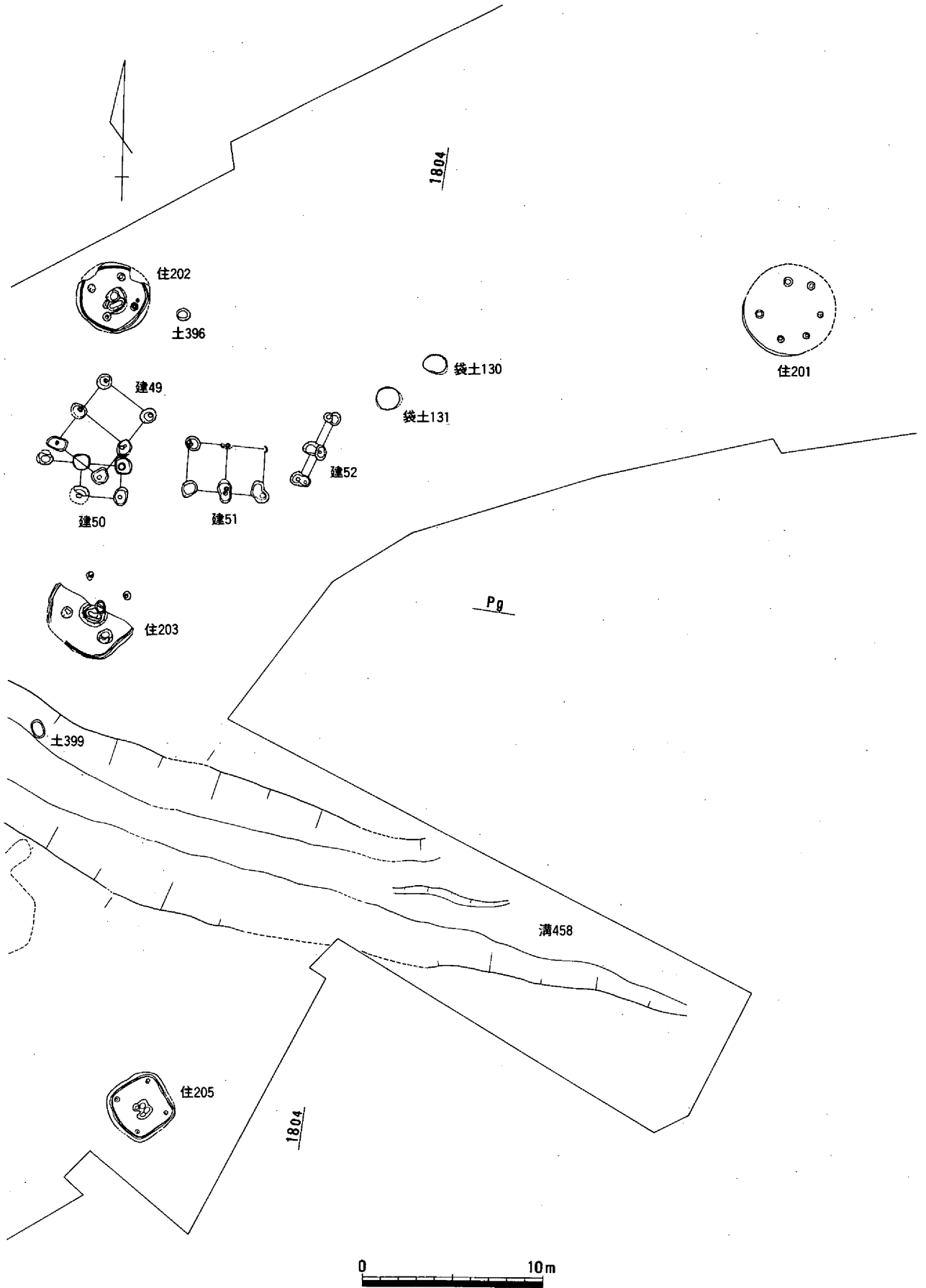
第10図 弥生時代部分全体図(1)(1/300)



第11図 弥生時代部分全体図(2)(1/300)



第12図 弥生時代部分全体図(3)(1/300)



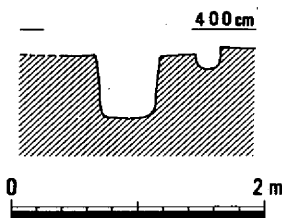
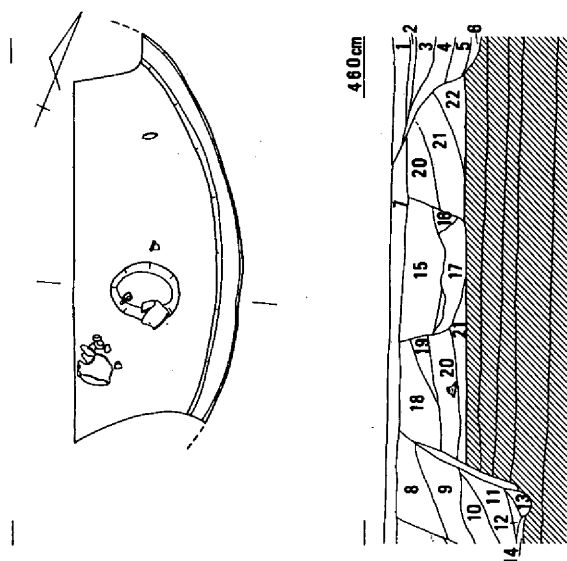
第13図 弥生時代部分全体図(4)(1/300)

(2) 竪穴住居

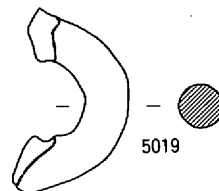
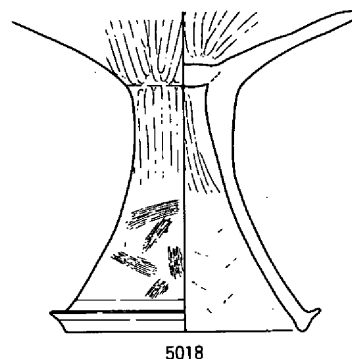
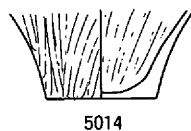
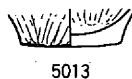
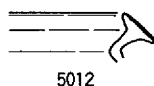
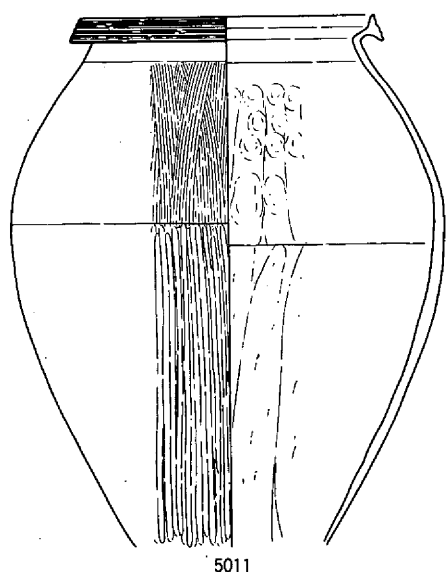
竪穴住居-187 (第15図)

P17区の北東、微高地のほぼ中央に位置する円形の住居である。南側を弥・後・Ⅳの竪穴住居-190、北側を奈良時代中頃の溝-475により切られ、約1/5の残存であるが推定直径570cmをはかる。床面海拔高は380cmをはかり、壁体溝、柱穴1本が確認されている。住居の掘り方は第7層下から基盤の暗黄色シルト層まで約55cmをはかり、第18層から第22層が本住居の埋土となる。ここより5011~5019の遺物が出土している。甕の頸部内面は比較的鋭い屈曲部をもつ。

口縁上端が拡張され、凹線文が施されており、胴部内面下半に縦位のヘラケズリが認められる。高杯の口縁は凹線文、杯部内外面はヘラミガキ、脚部内面はヘラケズリである。弥・中・Ⅲの古相に比定できる。
(高畑)



- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1 灰色土 | 8 暗黄褐色土 | 15 暗灰褐色粘質土 |
| 2 灰色・褐色混合土層 | 9 暗黄褐色土 | 16 灰褐色砂質土 |
| 3 黄褐色・灰色混合土 | 10 暗黄褐色土 | 17 褐色粗砂混土 |
| 4 灰褐色土 | 11 暗褐色土 | 18 暗灰色土 |
| 5 黄灰褐色砂質土 | 12 暗褐色・黄褐色混合土 | 19 黄灰色土 |
| 6 灰黄色砂質土 | 13 黄褐色弱粘質土 | 20 黄褐色土 |
| 7 灰褐色土 | 14 貼床 | 21 淡黄褐色砂質土 |
| | | 22 淡褐色砂質土 |



第15図 竪穴住居-187(1/60)・出土遺物

竪穴住居-188 (第16・17図)

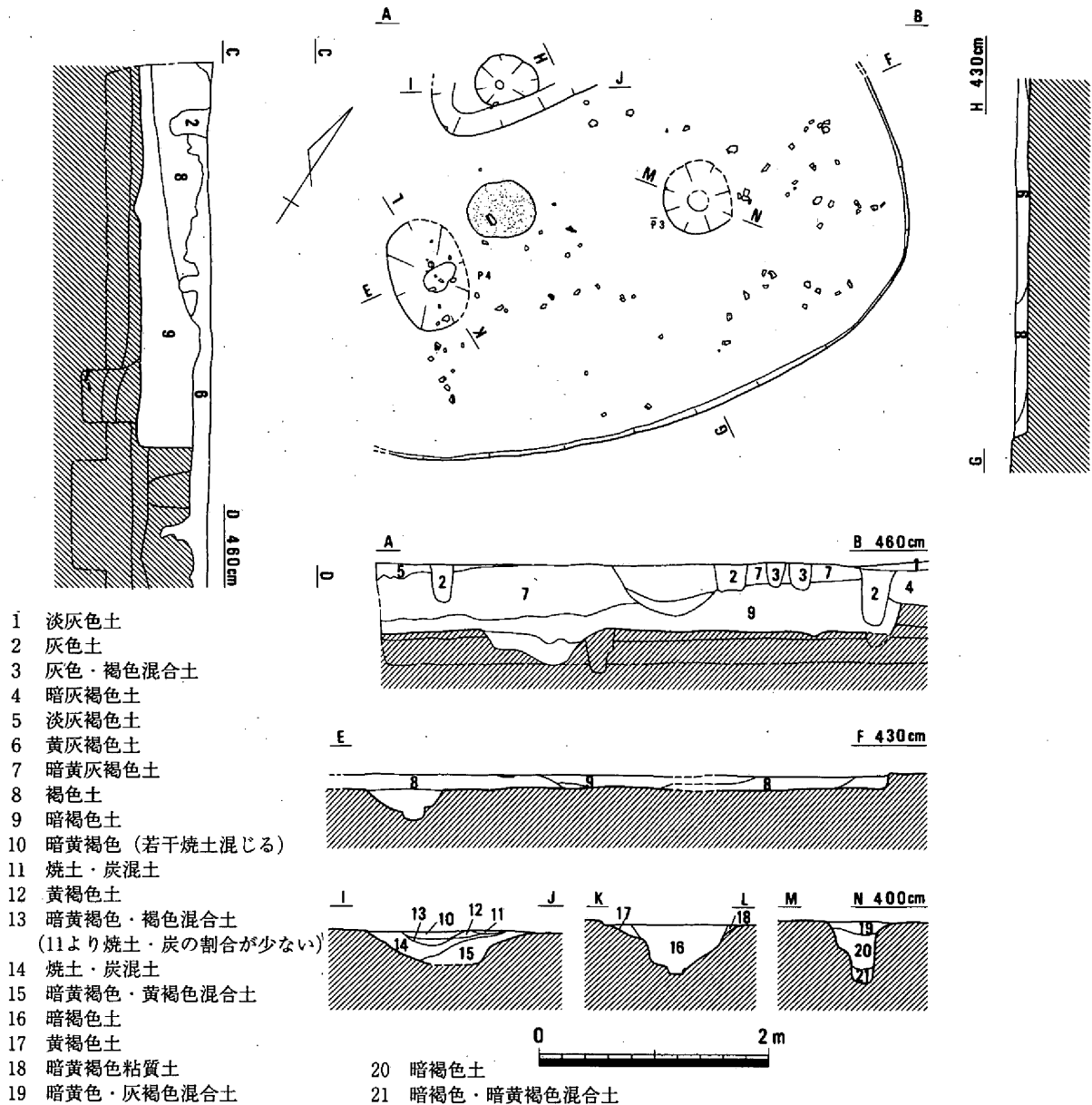
O17区の南辺中央、竪穴住居-187より北西36mに位置する隅丸方形の住居である。また、2m東隣には、弥・後・Iの竪穴住居-189が所在する。底面海拔高は391cmにて、床面には中央穴、焼土面が各々1、柱穴2本が確認された。中央穴は2段掘りであり、埋土である第10、11、13、14層には炭、焼土塊が認められた。焼土面は53×58cmのほぼ円形を呈し、それを挟むP-3、P-4間の距離は234cmをはかる。

遺物は第9層中に多く認められたが、ほとんどのものが小破片である。なかでも土器片が多く、他にサヌカイト製の石器、鉄製品等がある。壺、甕、高杯、鉢等があり、壺、甕、高杯、鉢ともに口縁部に2~7条の凹線文が巡り、高杯外面の脚端にもヨコナデの凹凸が認められる。器壁は総じて均一した薄手に仕上げられており、色調は灰白色と黄橙色系統が認められる。

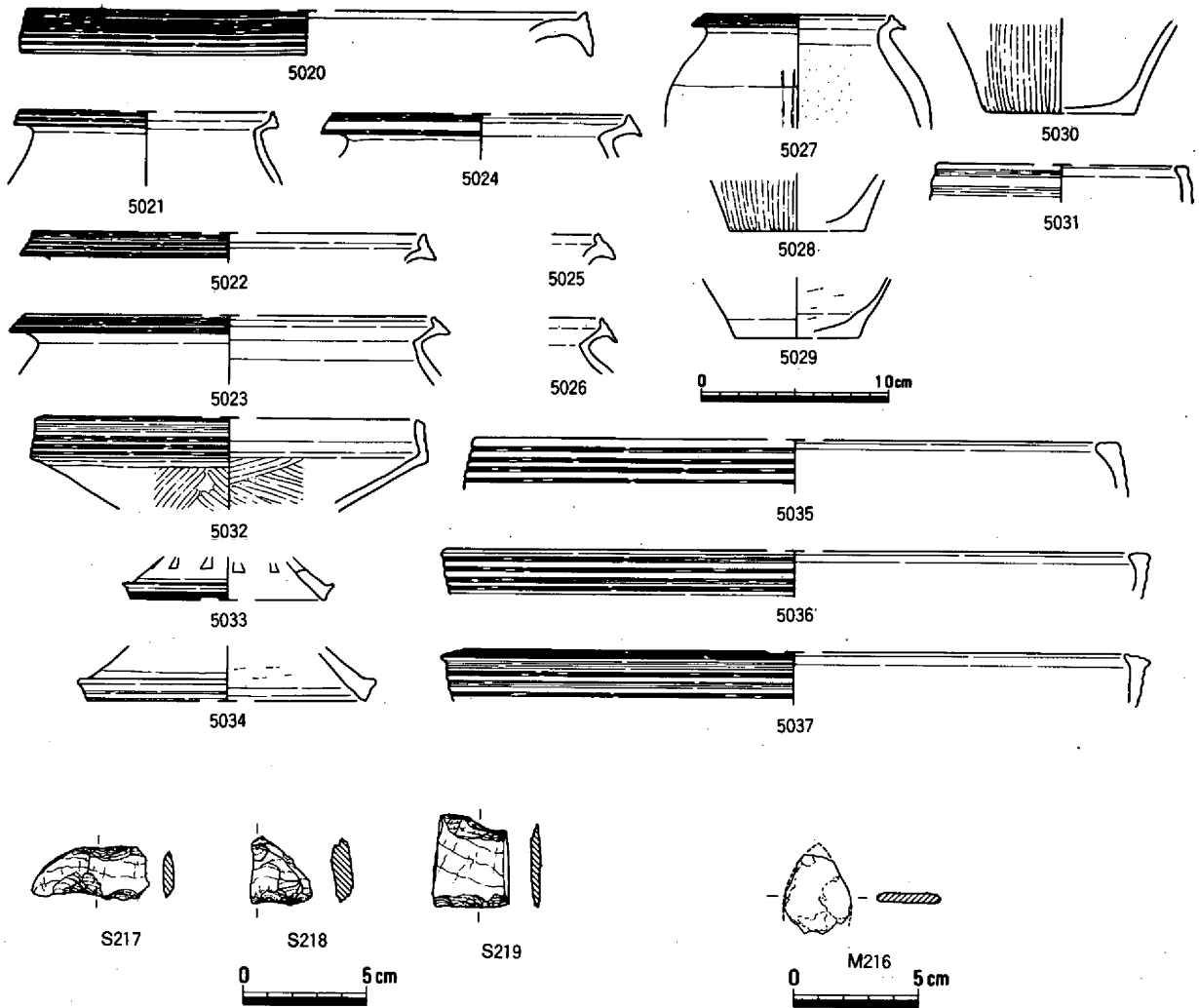
これらの特徴より、弥・中・Ⅲの中相段階のものと理解できる。

5027は上記の諸特徴とは異なる甕であり、弥・後・Iの範疇のものである。

(高畑)



第16図 竪穴住居-188(1/60)



第17図 竪穴住居-188出土遺物

竪穴住居-189 (第18図)

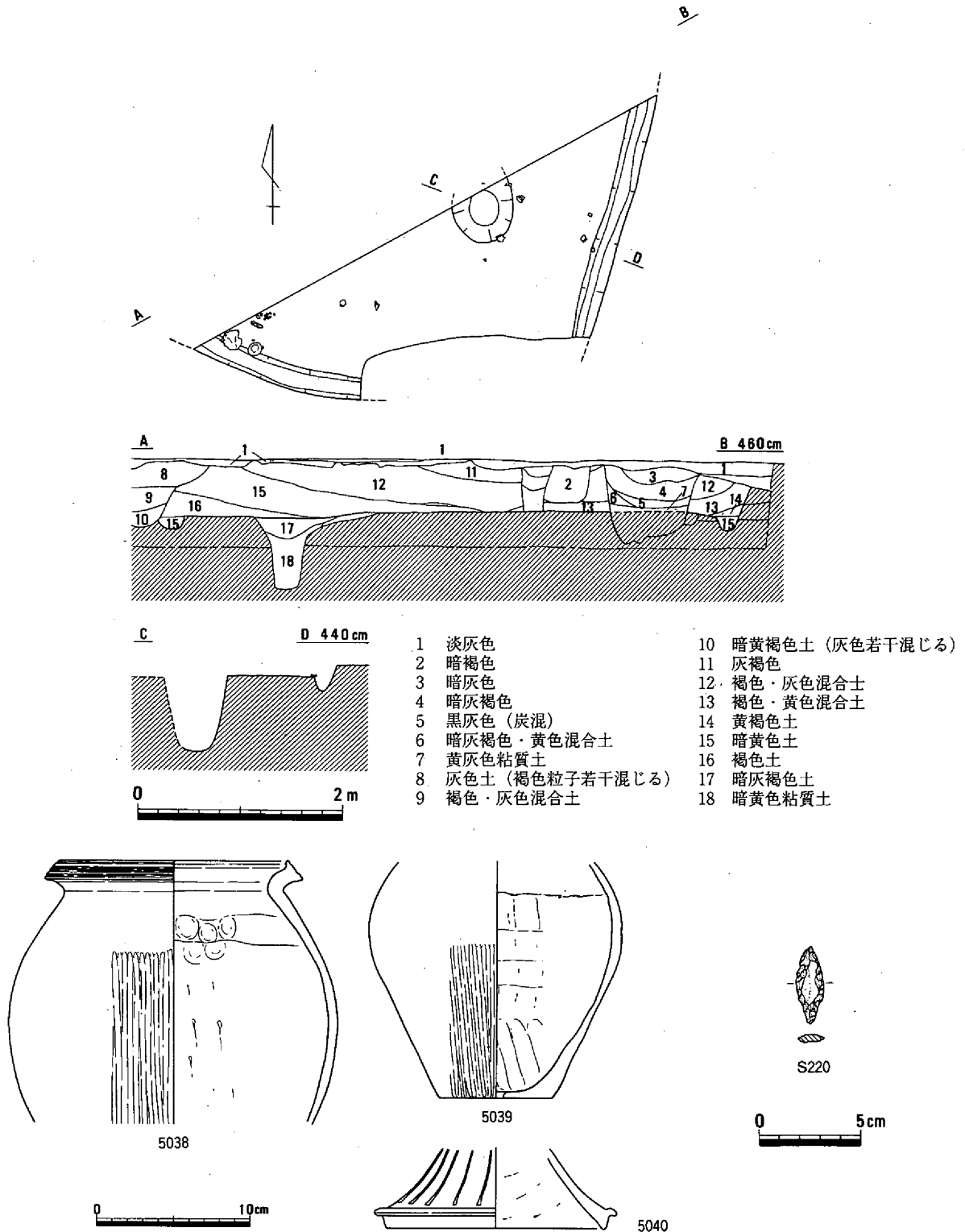
O17区の南辺中央、竪穴住居-188の東隣に位置する方形の住居である。南東隅部を古・前・Ⅱの古相の竪穴住居-215により切られ、南西部を奈良時代中頃の溝-479により切られている。海拔高393.9cmをはかる床面には壁体溝ならびに南東部に柱穴1本が確認された。おそらく4本からなる主柱穴のうちの1本である。その柱穴規模は上端にて径60cm、下端径30cm、深さ71.7cmをはかり、北壁AB断面にのぞく南西柱穴と同じ高さである。住居内の埋土は6層からなり、第11層から16層がそれにあたる。出土遺物は下位層からのものであり、5038、5039は北辺壁体溝上面から、5040は南東柱穴の埋土上面からの出土である。5038は煮沸に使用されており、器外面に煤の付着が認められる甕である。甕の調整は外面に縦位のヘラミガキ、内面くびれ部下位までの縦位ヘラケズリが施されている。5039、5040等と同様に橙色系の色調であり、器壁の均一性を欠いている。また、ヘラケズリも粗い状況を示している。住居の廃棄は弥・後・Ⅰに比定できる。(高畑)

竪穴住居-190 (第19図)

前述した竪穴住居-187~189同様に調査は橋脚部分の掘り方内に限定したために住居を完掘できず、部分的な内容の把握にとどまったもの一群である。

第3章 調査区の概要

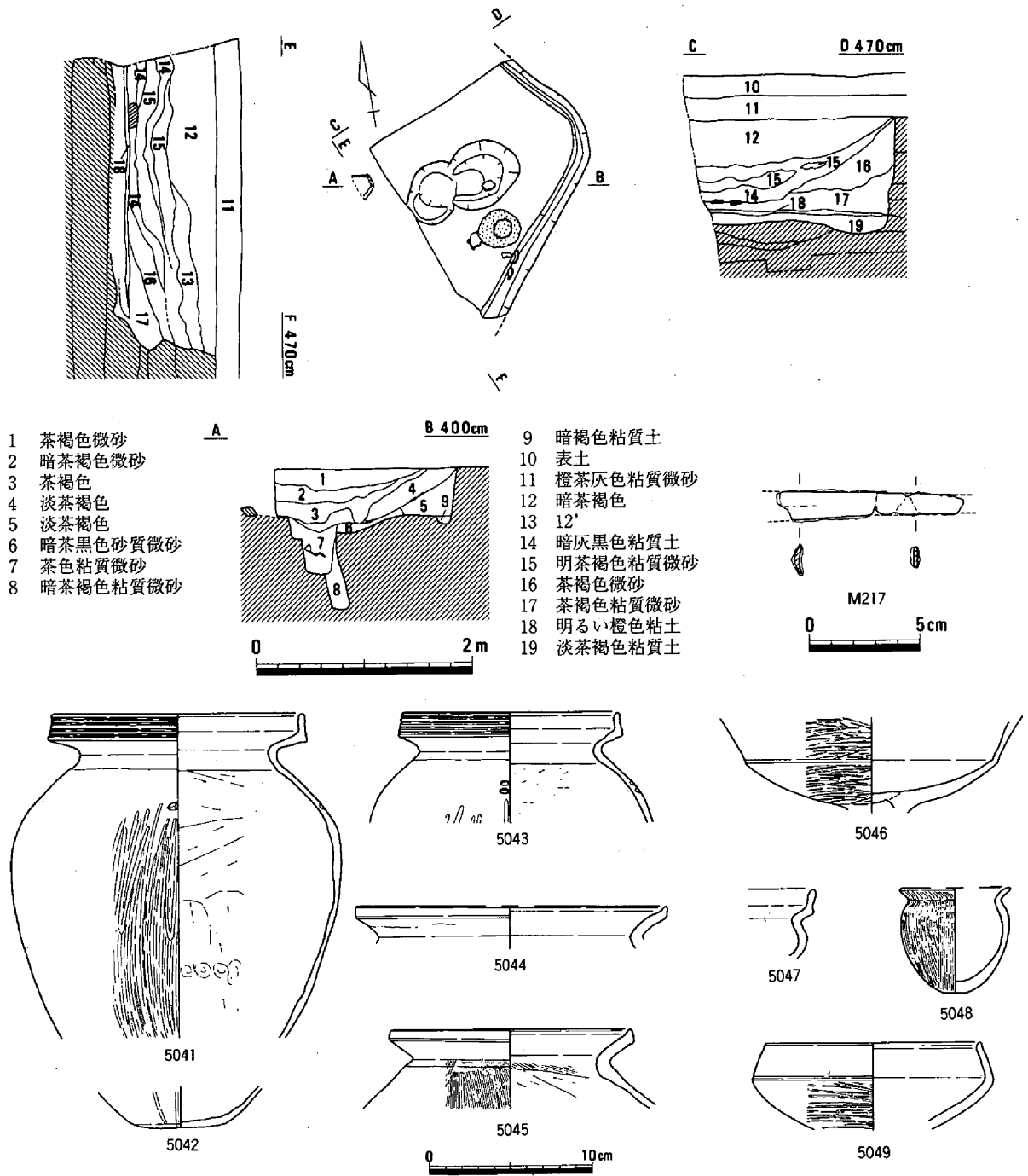
竪穴住居-190はP17区の東辺中央付近、弥・後・IVの竪穴住居-191から西側10mに位置する住居である。現田面から135cm下位に床面があり、海拔高325.6cmをはかる。床面は比較的硬質の粘土層まで達した後に第19層で埋め、第18層の明るい橙色粘土を敷きつめ床としている。床面には壁体溝、粘土塊、柱穴1、作業台と考えられる平坦面を持つ石(13×20cm)を確認した。壁体の高さは約100cmをはかり、最も残存の良い部類に入る。床面粘土塊は34×38×7cmをはかる。柱穴は床面から深さ



第18図 竪穴住居-189(1/60)・出土遺物

170cmと105cmをはかる2穴が切り合って検出され、浅い方が最終床面に伴うものである。柱根を抜取った後に土器を入れたようである。

遺物はあまり多くはないが、埋土、床面、柱穴内から10数片が出土している。柱穴内の出土は5041、5043、5046、5048、5049であり、5041、5043の甕は口縁部拡張部に4条のヘラ描沈線文が施され、肩部にはこの種の甕によくみうけられる米粒状の刺突圧痕が認められる。5042、5044、5047は埋土中からの出土であり、5047は第3層の炭に混入しての出土である。5045は床面からの出土である。5044、5045、5048の胎土分析を行い、3点とも吉備南部の土器との結果を得ている。住居廃棄の時期は5041、5043の甕の形態、技法等から弥・後・IVの新相と考えられる。(高畑)



第19図 竪穴住居-190(1/60)・出土遺物

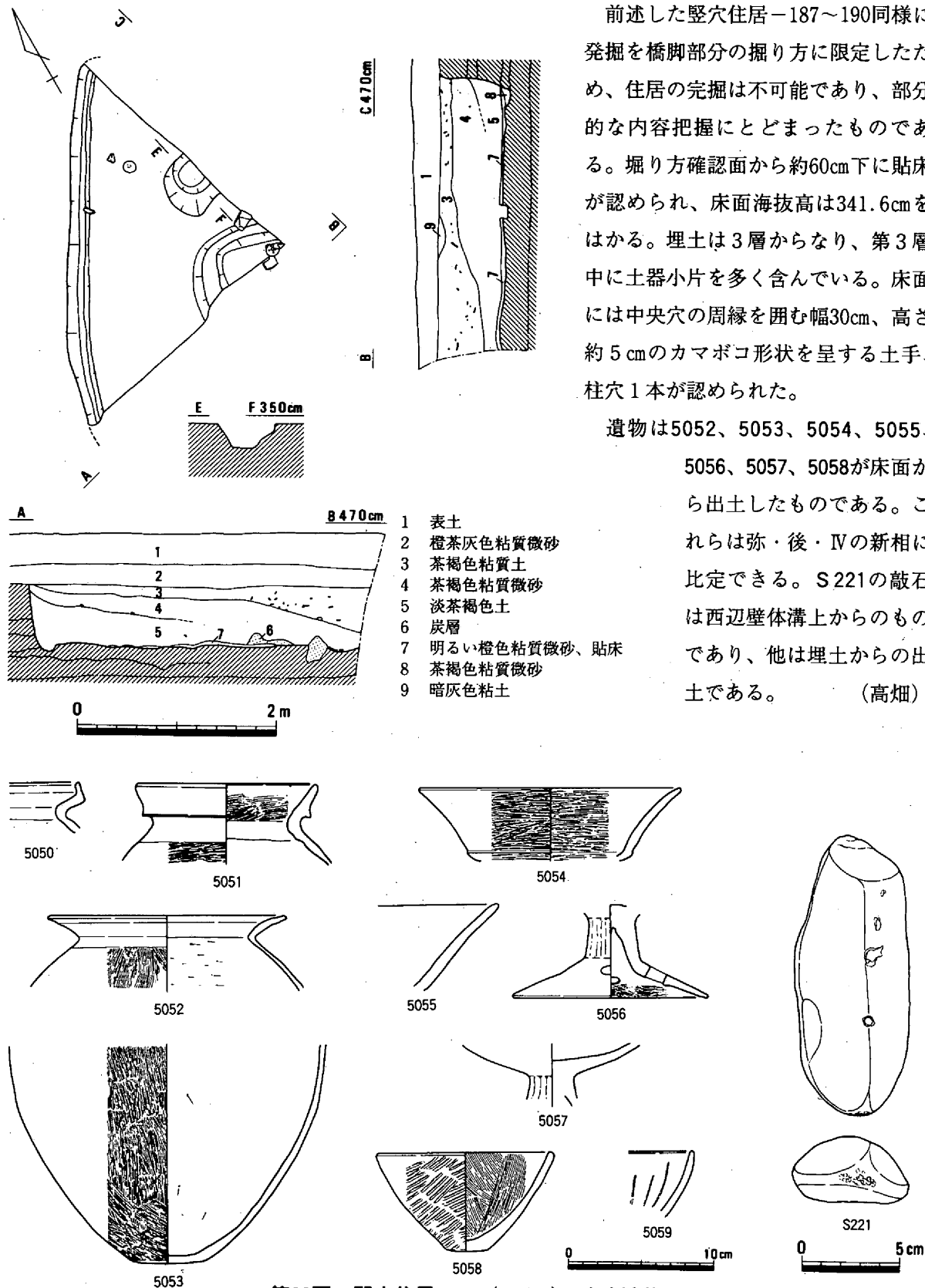
竪穴住居-191 (第20図)

P17区東辺中央、竪穴住居-190の東10.5mに位置する方形(隅丸)の住居である。竪穴住居-190とほぼ同時期のものである。

前述した竪穴住居-187~190同様に発掘を橋脚部分の掘り方に限定したため、住居の完掘は不可能であり、部分的な内容把握にとどまったものである。掘り方確認面から約60cm下に貼床が認められ、床面海拔高は341.6cmをはかる。埋土は3層からなり、第3層中に土器小片を多く含んでいる。床面には中央穴の周縁を囲む幅30cm、高さ約5cmのカマボコ形状を呈する土手、柱穴1本が認められた。

遺物は5052、5053、5054、5055、

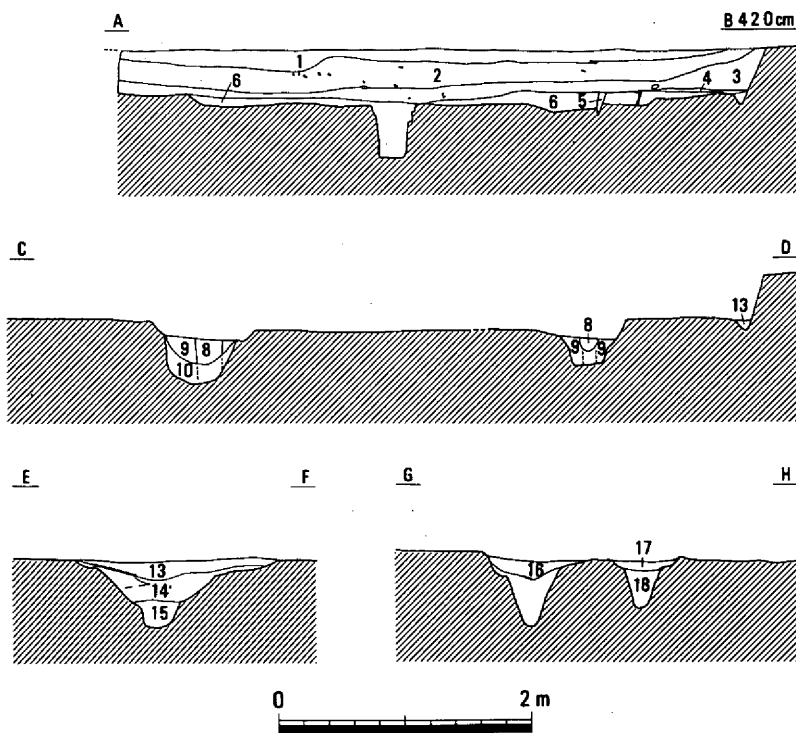
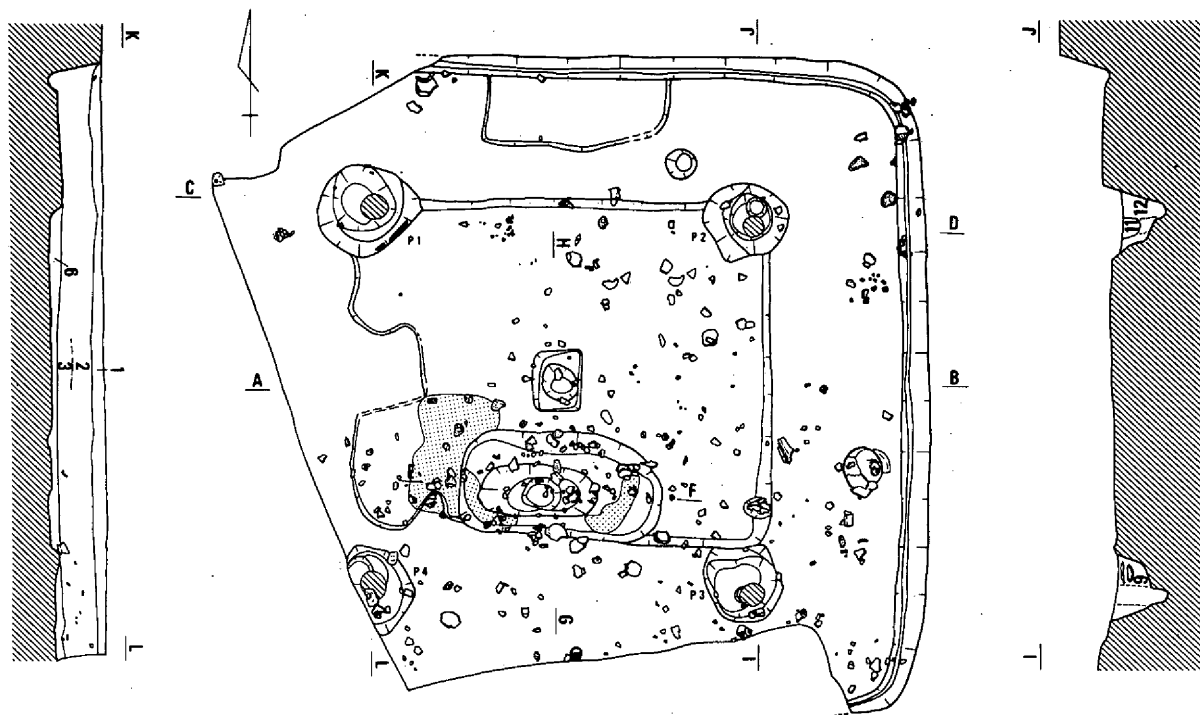
5056、5057、5058が床面から出土したものである。これらは弥・後・IVの新相に比定できる。S221の敲石は西辺壁体溝上からのものであり、他は埋土からの出土である。(高畑)



第20図 竪穴住居-191 (1/60)・出土遺物

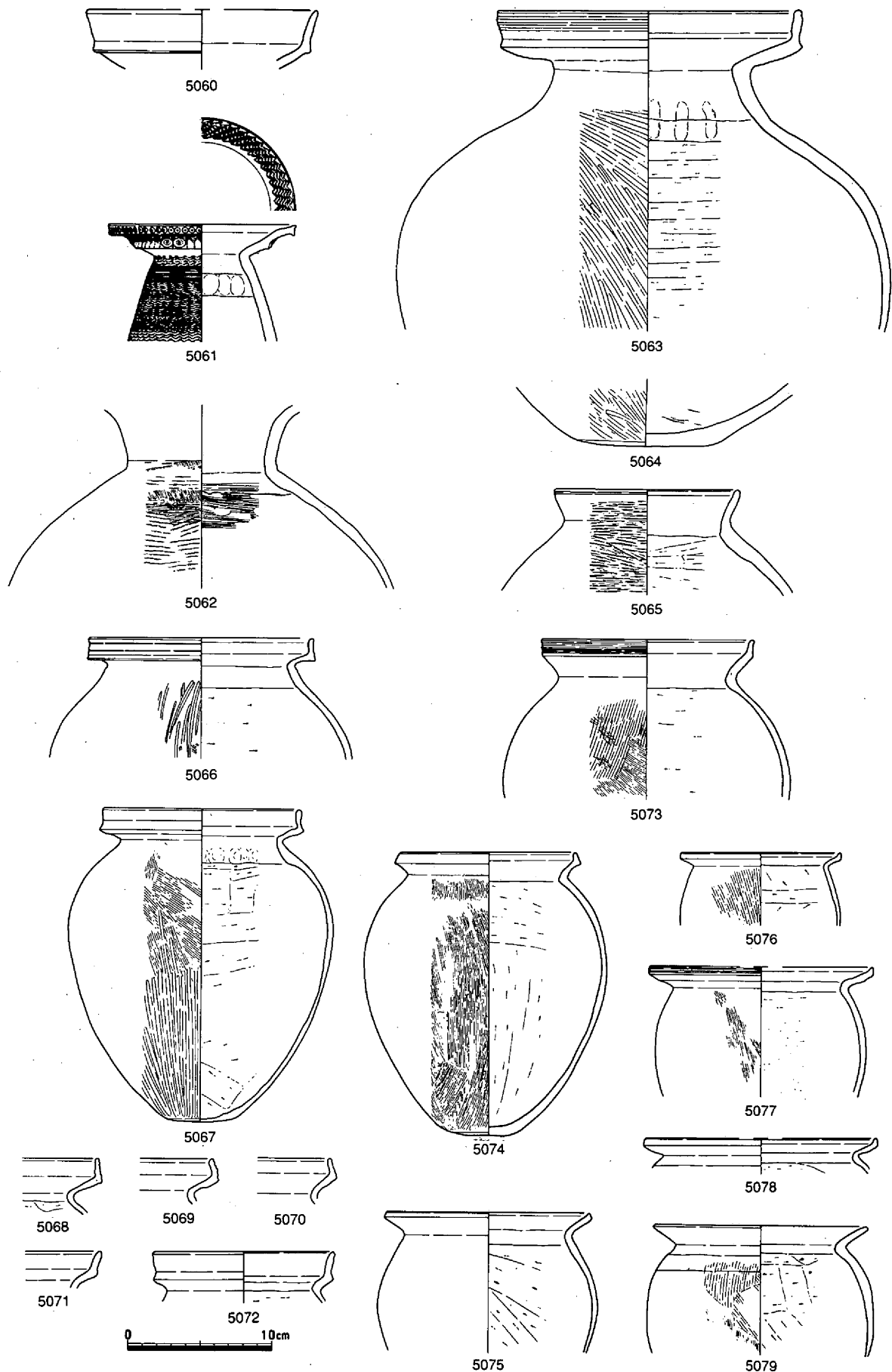
竪穴住居-192 (第21~24図)

P 17区の北東、竪穴住居-213に南側の壁体部分を切られた方形の住居である。短辺が510cm、長辺(558) cmをはかる中形にて、四辺にベッド状遺構と呼称する幅100cm、高さ10cmの高床部が設けられている。床面海拔高は361.8cmである。高床部と床部の境となる四隅に支柱穴4本が配され、その柱

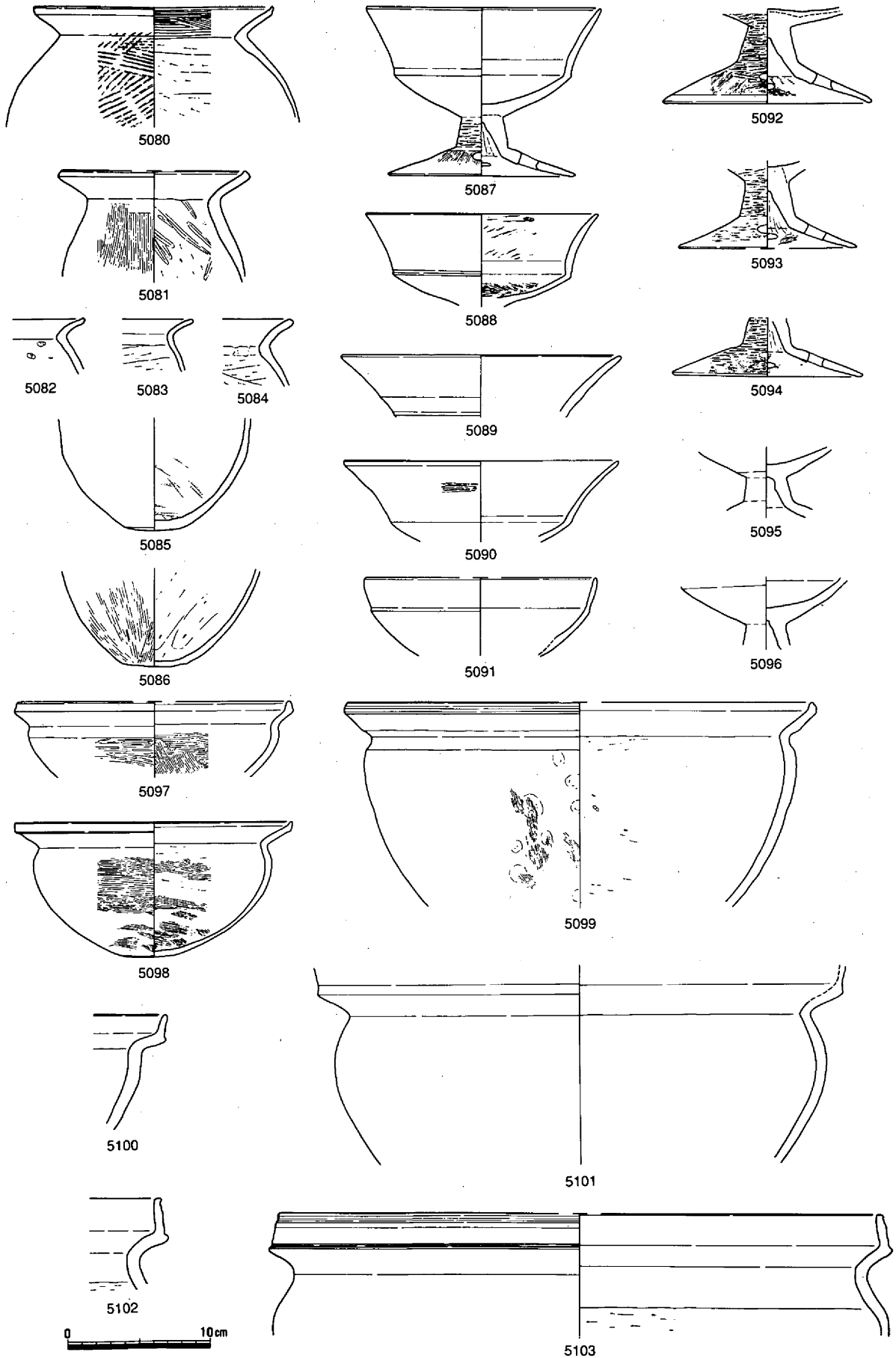


- 1 淡茶色粘質微砂
- 2 茶色粘質微砂
- 3 暗茶色粘質微砂
- 4 鈍い橙色(粘)
- 5 暗茶褐色土
- 6 暗茶灰褐色粘質微砂
- 7 暗茶橙色粘質微砂
- 8 暗茶色粘質微砂
- 9 暗茶灰色粘質微砂
- 10 暗灰茶色粘質微砂
- 11 暗灰茶色粘質微砂
- 12 暗灰茶色粘質微砂
- 13 暗灰茶色粘質微砂
- 14 暗灰茶褐色粘質微砂
- 15 暗灰茶褐色粘質微砂
- 16 暗灰茶褐色粘質微砂
- 17 暗灰茶褐色粘質微砂
- 18 暗灰茶褐色粘質微砂

第21図 竪穴住居-192 (1/60)



第22図 豎穴住居-192出土遺物(1)

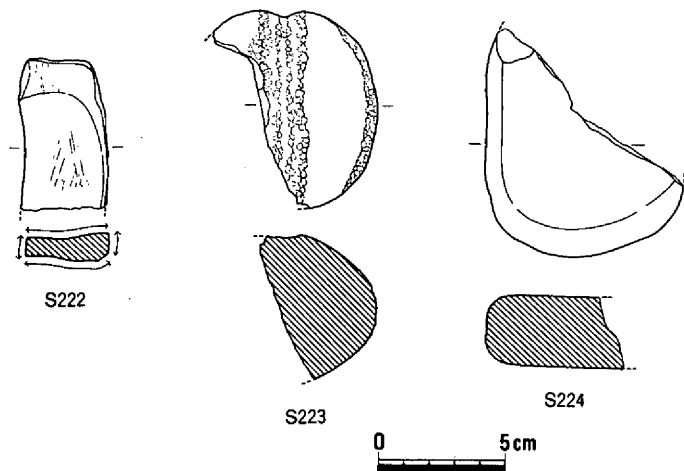
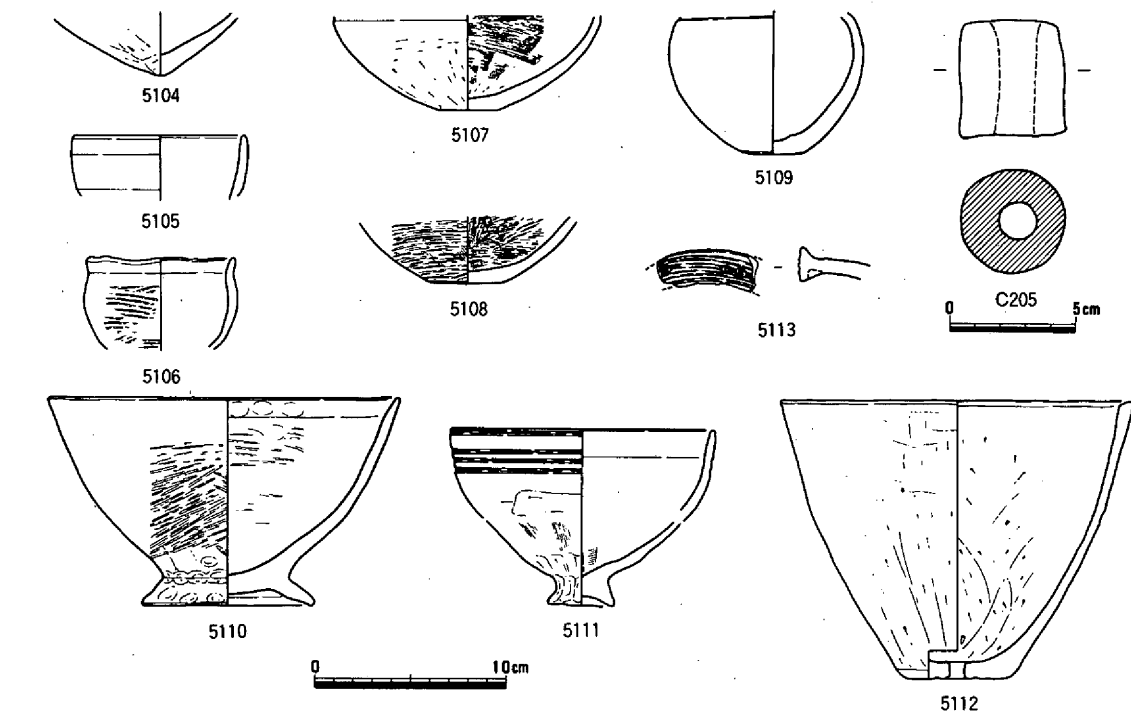


第23図 豎穴住居-192出土遺物(2)

間は300cmをはかる。床面の南辺には長辺160cm、短辺85cm、深さ55cmで、2段からなる楕円形の土壇、中央には長辺47cm、短辺37cm、深さ45cmで段をもつ長方形の土壇が付設されている。両土壇内および周辺には焼土粒、炭片が認められる。埋土はレンズ状の堆積であり、各層に土器片が包含されているが、なかでも第2層に多くの遺物が認められた。遺物の平面的な分布は住居の東、南側方向から投棄された形状を残している。

遺物は壺、甕、高杯、鉢、手焙形土器等があり、甕の数が多いようである。5062、5070が床面、5060、5073、5106は床面南辺の楕円形土壇内からの出土である。

5060～5065は壺であり、なかでも5061は器形、文様等において他と異なるものである。口径12.8cm、残存高8.2cmをはかる口縁、頸部であり、口縁外面は2個1単位の円形浮文が6か所、そして竹管文が一巡し、口縁内面、頸部には少し粗目の櫛描き波状文が巡る。色調は浅黄橙色を呈し、胎土は1mm以下の砂粒を含む。5062は胴部外面に細筋のタタキメが横位にみられ、内部はハケメである。器外面



第24図 竪穴住居-192出土遺物(3)

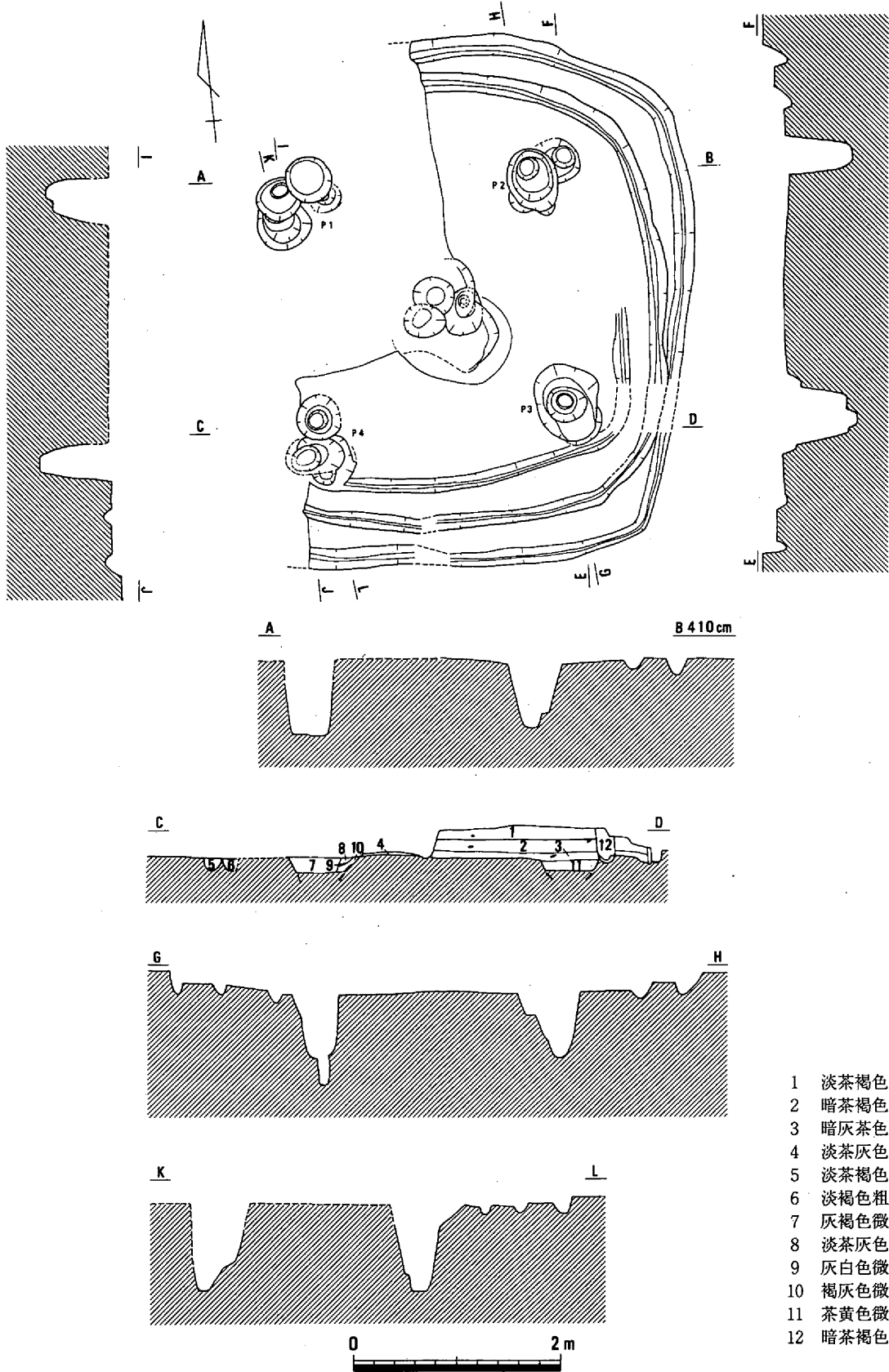
には赤色顔料の塗布が観察できる。

壺、甕ともに平底を残しており、竪穴住居-190、191に近い時期のものであり、弥・後・IVに比定できる。他に土錘、石錘、砥石の破損したものが投棄されていた。(高畑)

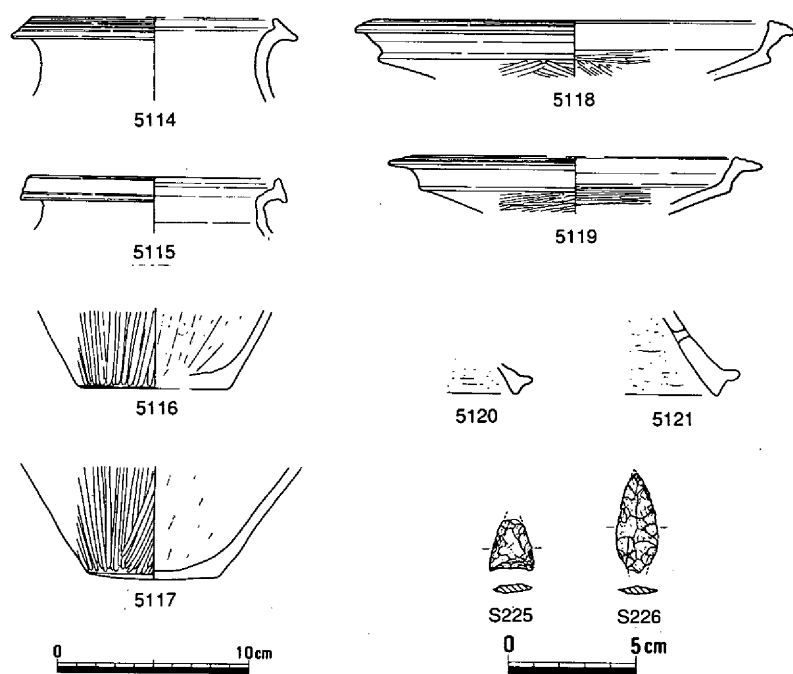
竪穴住居-193 (第25・26図)

O17区のほぼ中央の東南側に位置し、古・前・I、IIの竪穴住居-229、230に西側半分を切られ、東側を竪穴住居-226、227に切られている隅丸方

形の住居である。相似形に2回の建て替えが行われており、小形から大形への拡張がなされ、計3軒の痕跡をとどめる。面積は10㎡未満から約20㎡、そして、約25㎡と大規模化している。床面海拔高は



第25図 竪穴住居-193A・B・C (1/60)



第26図 竪穴住居-193A・B・C・出土遺物

360cmをはかる。3軒とも主柱穴は4本からなり、ほぼ同一場所にて若干移動している。浅い中央穴もほぼ同様の移動が認められる。柱間は226~277cmをはかる。

遺物は住居内の埋土中に若干みられた程度で非常に少なく、それも小片である。壺、甕、高杯があり、5115がP-2柱穴内から、5118が床面からであり、他は埋土中からの出土である。色調は橙色系統であり、5117、5121の胎土が少し粗いようである。5115、5117は弥生時代中期末の形状を残してはいるが、後期に入

るものと考えられ、弥・後・Iの新相には廃絶したと思われる。

S225、S226はサヌカイト製の石鏃である。S225が竪穴住居-193Bであり、S226が竪穴住居-193Aの出土である。

(高畑)

竪穴住居-194 (第27図)

O17区の中央から南東、竪穴住居-193から東に約11.5mに位置する円形の住居である。

本住居の北側および西側は袋状土壌が多く分布しており、ここより南東側には分布がほとんどみられないようである。

住居平面形は正円ではなく、長軸428cm、短軸394cmの不整円形で南北に短く、東西に少し広がっている。検出面から床面までの深さは20cmであり、床面海拔高は405.5cmをはかる。床面積12.37㎡と小形に属し、床面には壁ぎわを一周する壁体溝、主柱穴4本、周提帯を伴う中央穴1、作業台と考えられる28×19×11.6cmの平坦面をもつ石等が付設されている。

主柱穴間の距離はP-1~P-4、P-2~P-3間が245cm、P-1~P-2間が148cm、P-3~P-4間が143cmをはかり住居平面形の長軸とは異なる。棟の方向は東西を示すものと考えられる。P-1、P-2は底部に2本の柱穴掘り方を残すことから住居の拡張が行われた可能性が高い。中央穴は直径約55cmの円形にて深さ29cmの播鉢状を呈し、その周縁を幅約20~35cm、高さ3~4cmの粘土を貼り付けた土手が1巡し、その径は110cmをはかる。中央穴内には焼土、炭等の小ブロックが比較的多く認められ、火所(炉)として機能していた可能性が高いと考えられる。

遺物は5122、5123、5125の甕2点と高杯1点が床面近くの埋土から出土しているが、すべて小片である。甕の器内面は横位のヘラケズリが施され、口縁端部は上方に少し引き出されている。土器の年代は弥・後・Iの新相段階であり、本住居はこの時期に廃棄されたと考えられる。

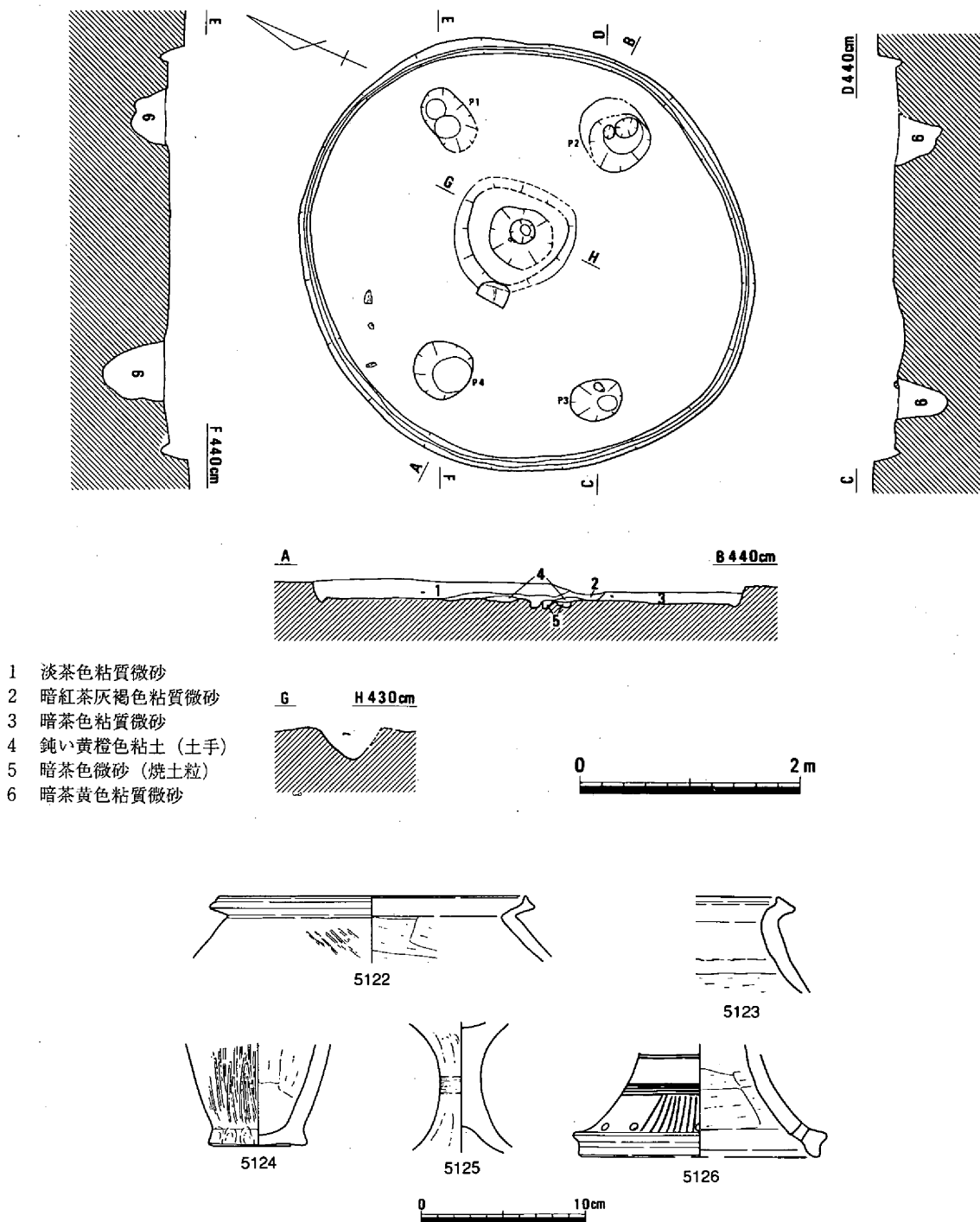
なお、本住居は袋状土壌2基を切って作られており、中央穴すぐ南側の床面下から袋状土壌-92、

西側の壁体溝の下位より袋状土壙-115が確認されている。そして、5124、5126は袋状土壙-92の埋土中からの出土である。2基ともに本住居よりは古い袋状土壙である。(高畑)

竪穴住居-195 (第28~31図)

〇17区の中央から南東、竪穴住居-194から南西に約4mに位置する円形の住居である。本住居周辺には同時期と考えられる遺構、遺物はほとんど認められない。

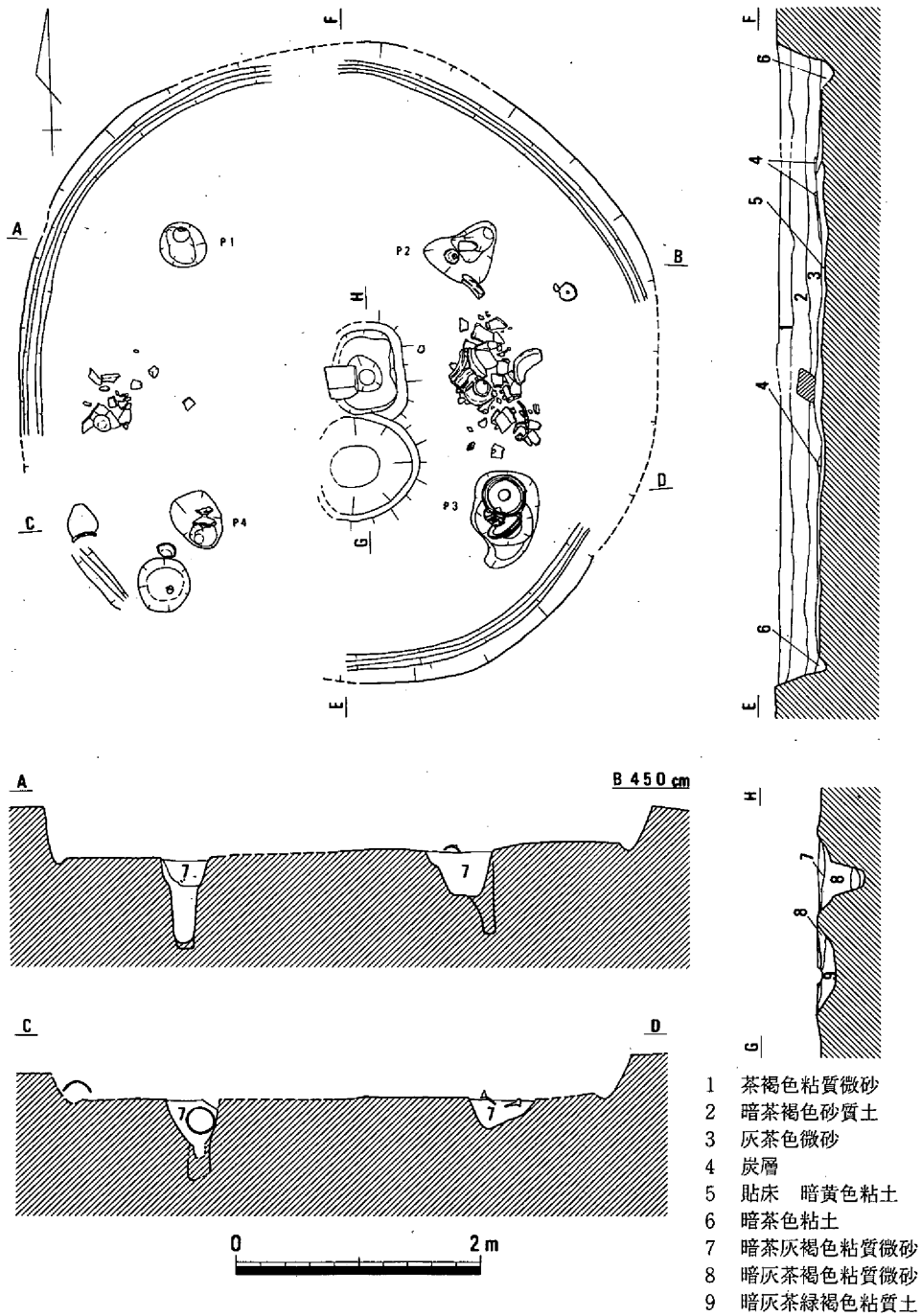
住居平面形はほぼ円形であり、直径526~540cmをはかる。埋土は人為的に客土されたような水平堆積状態を呈しており、検出面から床面までの深さは35cmで床面海拔高は396cmをはかる。床面積は



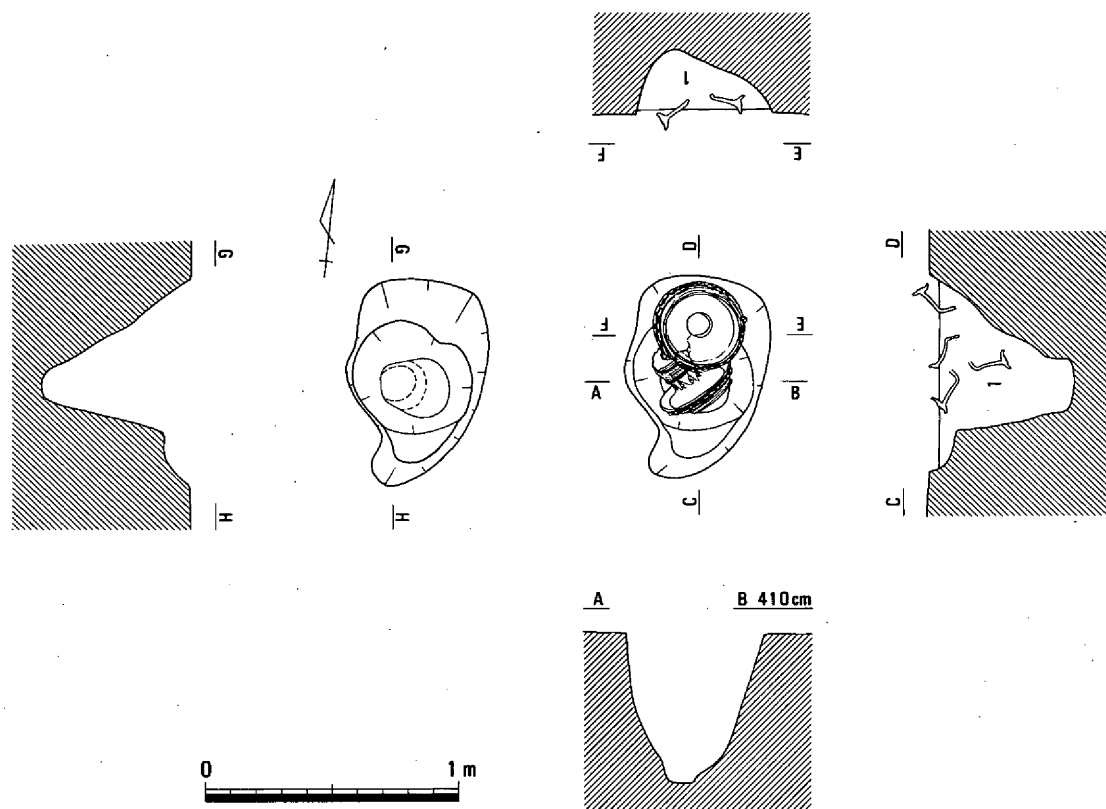
第27図 竪穴住居-194(1/60)・出土遺物

19.80㎡の中形に属し、床面には壁ぎわを一周する壁体溝、支柱穴4本、周提帯を伴う中央穴1、中央穴南側の周提帯をもつ土壇、小土壇、作業台と考えられる27×25×15cmの平坦面をもつ石等が付設されている。

支柱穴の間隔は243~252cmと近似するものであり、その平面はほぼ方形を呈する。中央穴は長軸68cm、短軸53cm、深さ13cmの隅丸方形の上段と上端直径約30cm、下端直径12cm、深さ27cmの円形の下段からなる。埋土は4層からなり、第8層より下位層に炭が多く認められる。その南側に位置する土壇は直径約80cmの円形にて深さ3~4cmをはかる断面皿状の浅い土壇である。第8層の直上は炭層で覆われており、その上位は灰、炭の混じる砂質土である。両土壇とも周縁を一巡する幅7~8cm、高さ



第28図 竪穴住居-195(1/60)



第29図 竪穴住居-195・P-3(1/30)

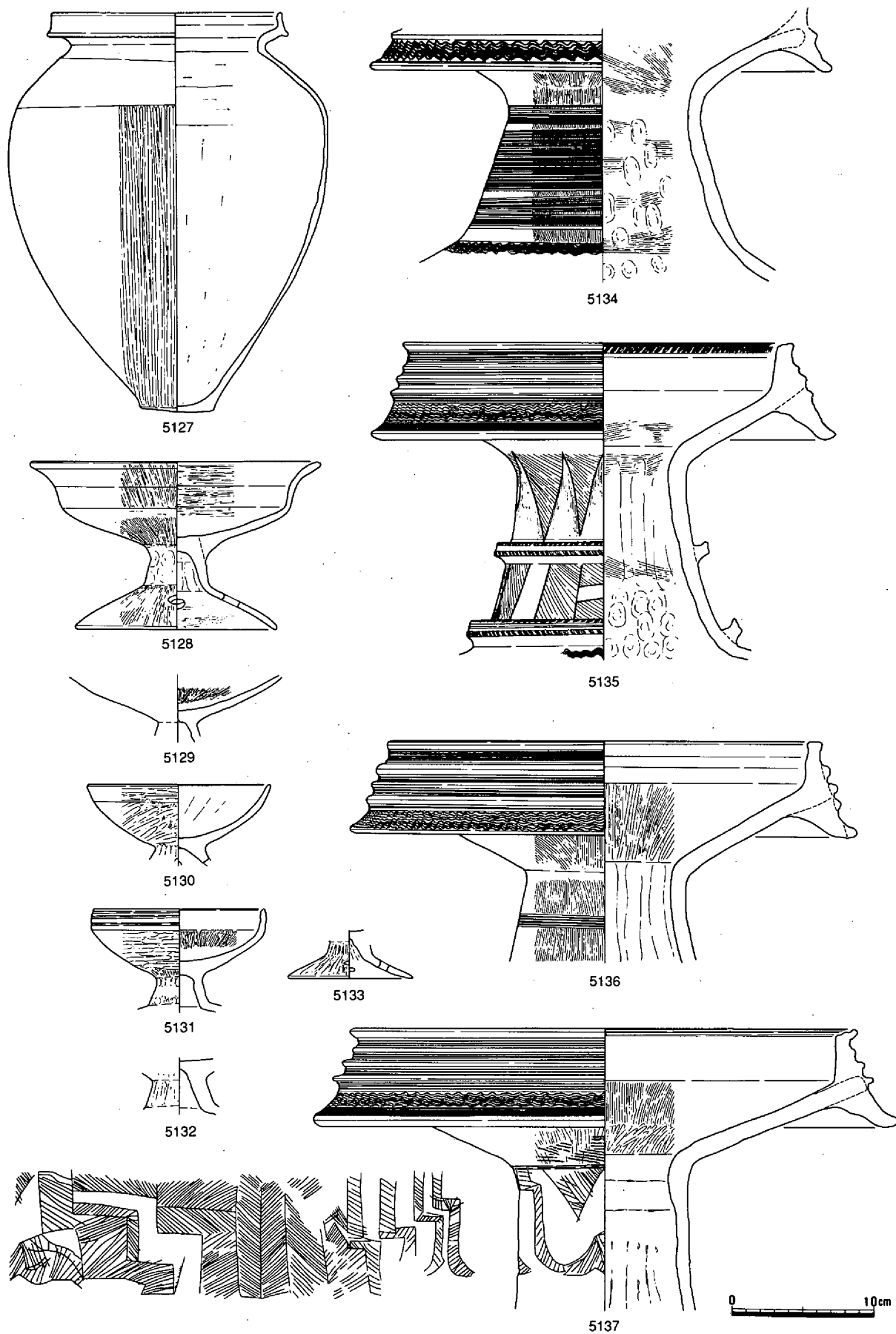
1～2 cmの土手が認められる。

遺物は住居床面と柱穴掘り方内、および小土壌内から出土しており、その分布範囲は中央穴を中心にして東西に分かれている。東側分布では5134、5137、5129、5131、5133、5138、S227、M219が出土している。5134、5137、5138の大形壺の口縁から頸部が破碎された状態でP-2、P-3間の床面からまとまって出土、5129、5131の高杯がP-2の上面および周辺からであり、5133の高杯が床面より少し浮いた状態での出土である。5135、5136の大形壺の口縁から頸部の2点がP-3内の出土である。その状況は従来の柱穴掘り方の北側部分の拡幅を行い、柱を抜取りその後に壺と他の破片を埋め込んだようである。5135、5136は床面出土の5134、5137、5138と共に胴部は失なわれており、住居内にはみあたらないところから口縁と筒部利用の器台に転用されていた可能性が考えられる。

S227の砥石とM219の鎌はP-2内からの出土であり、P-3の遺物出土状況と同様に柱穴底から約24～45cm上位の埋土中に認められた。

西側の遺物分布は5127、5128、5130、5132、5139、M218がみられ、5127の甕はほぼ完形で横転した状態で出土している。5139はP-1、P-4間の床面から破碎された状態で出土しており、その上には15×12cmの角礫が置かれていた。5130はP-4の南側小土壌の上面、5132の高杯脚は小土壌の底面に近い位置での出土である。5128の高杯はほぼ完形であり、P-4の柱穴底より約43cm上位で横倒しの状態で出土している。M218は5139の近くで出土した鉄鏃である。P-1内からも柱穴底から約6cm上位で土器片が出土している。

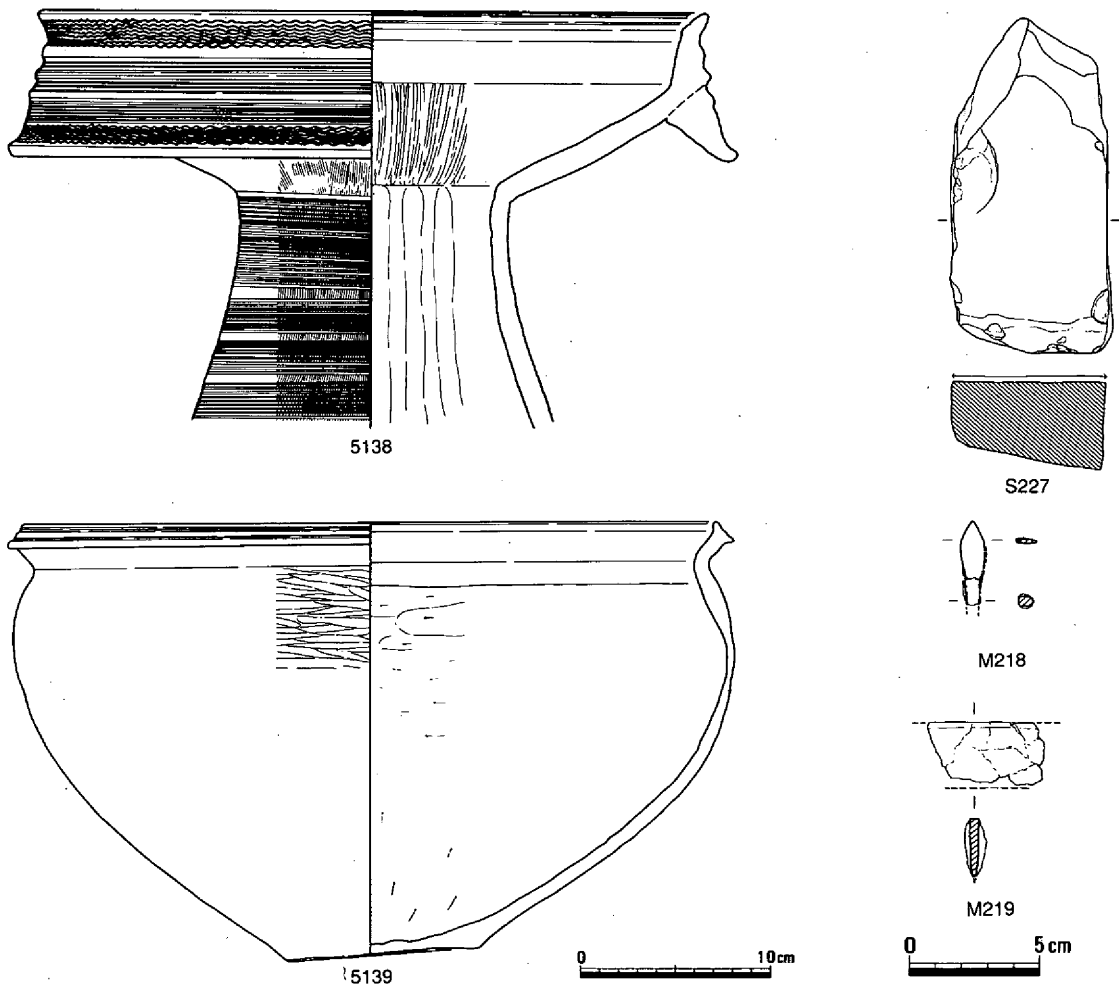
P-1～P-4の柱穴では柱の抜取り後に土器、石器等の埋納行為が行われた状況を留めている。何らかの行事に伴って、実施された儀式的可能性が指摘できる。



第30図 竪穴住居-195出土遺物(1)

出土遺物のなかには、器台に転用された可能性の強い壺口縁が5個体分あり、頸部と胴部の接合部が分離した上半分の長頸形状を残すものである。すべて複合口縁であり、口径は5135が27.5cm、5136が28.8cm、5137が35.5cm、5138が36.4cmと大形品ばかりで残存の器高は16～22.7cmをはかる。口縁部は頸部からのびて逆「ハ」の字形に開く端面部の上下に粘土を貼り付け、拡張し、「T」字形の接合断面を作り出している。立体的には傘スタンド形状となり、その外面は装飾性の強い口縁部文様が施されている。その文様構成は櫛描き沈線文と貼り付け突帯文からなる。口縁部の最下位に7～8条からなる櫛描き波状文が一巡し、中位に凹線文状の3本の貼り付け突帯文、最上位に櫛描き沈線文が巡る。器面の仕上がりは非常にシャープな感じを受ける。「ハ」の字形に開く頸部には5134、5136、5138のような平行の櫛描き沈線文、5135のようにタガ状の粘土紐貼り付け、綾杉や三角形等の幾何学文様の施された5135、5137等がある。口縁内面はハケメ、ヘラミガキ、頸部はシボリメとユビオサエが認められる。色調は5134が灰白色、5135～5137が橙色、5139が鈍い黄橙色であり、胎土中に細砂を含む。

5127は口径15.4cm、胴部最大径22.4cm、底径5.1cm、器高28.5cmをはかり、煮沸に使用された甕である。5128～5133はすべて短脚の高杯であり、色調は橙色系統にまとまり、胎土中に細砂を含んでいる。5128は完形であり、口径20.1cm、底径13.9cm、器高12.0cmをはかる。これらの土器の特徴は、弥・後・ⅢからⅣへの過渡的様相を呈しており、まさに楯築弥生墳丘墓の時期と考えられる。(高畑)

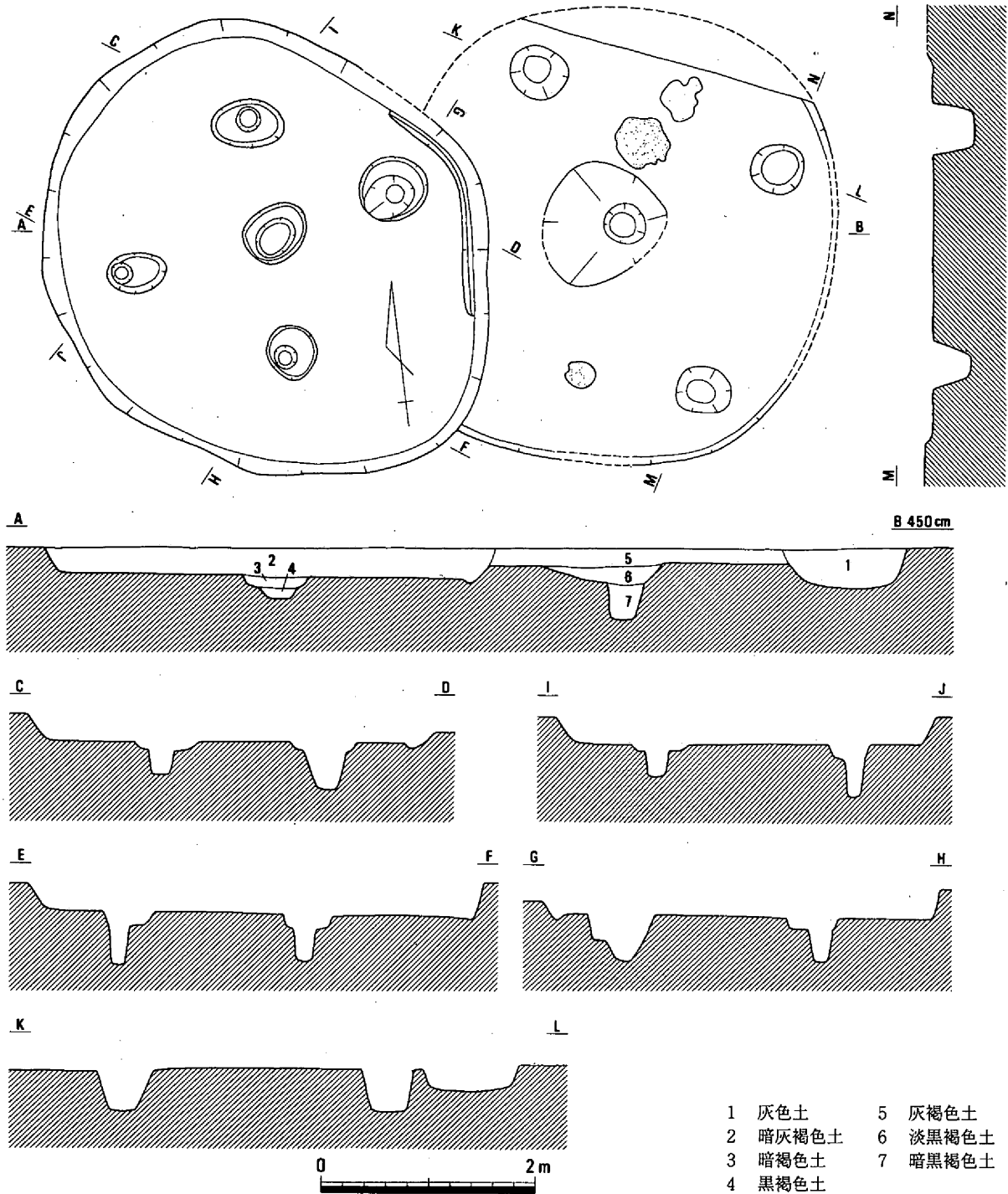


第31図 竪穴住居-195出土遺物(2)

竪穴住居-196 (第32・33図)

中屋調査区北端部の竪穴住居-198に近接した位置に存在し、東側部分は後述する竪穴住居-197と重複していた。

平面形は長径470cm、短径394cmの不整形な形態になり、東側の床面には極めて浅い壁体溝の一部を検出した。この竪穴住居の柱構造は4本柱で、中央穴は楕円形に近い形を呈し、断面形は「U」字形で2段に掘り窪められていた。



第32図 竪穴住居-196・197(1/60)

出土遺物の石器には、完形品の太型蛤刃石斧S228と大型蛤刃石斧転用敲石S230以外に、先端部分を欠損したサヌカイト製の石鏃S229がある。また土器には、甕の口縁部5140・5141や底部5142～5145と高杯の杯部5146・5147や脚部5148以外に、表面に鋸歯文を有する小破片5149も存在する。この土器片は、胎土・焼成・色調や施文手法などから、南方向約15mの地点に位置する竪穴住居-199から出土した小型の鉢5198の底部である可能性が強い。

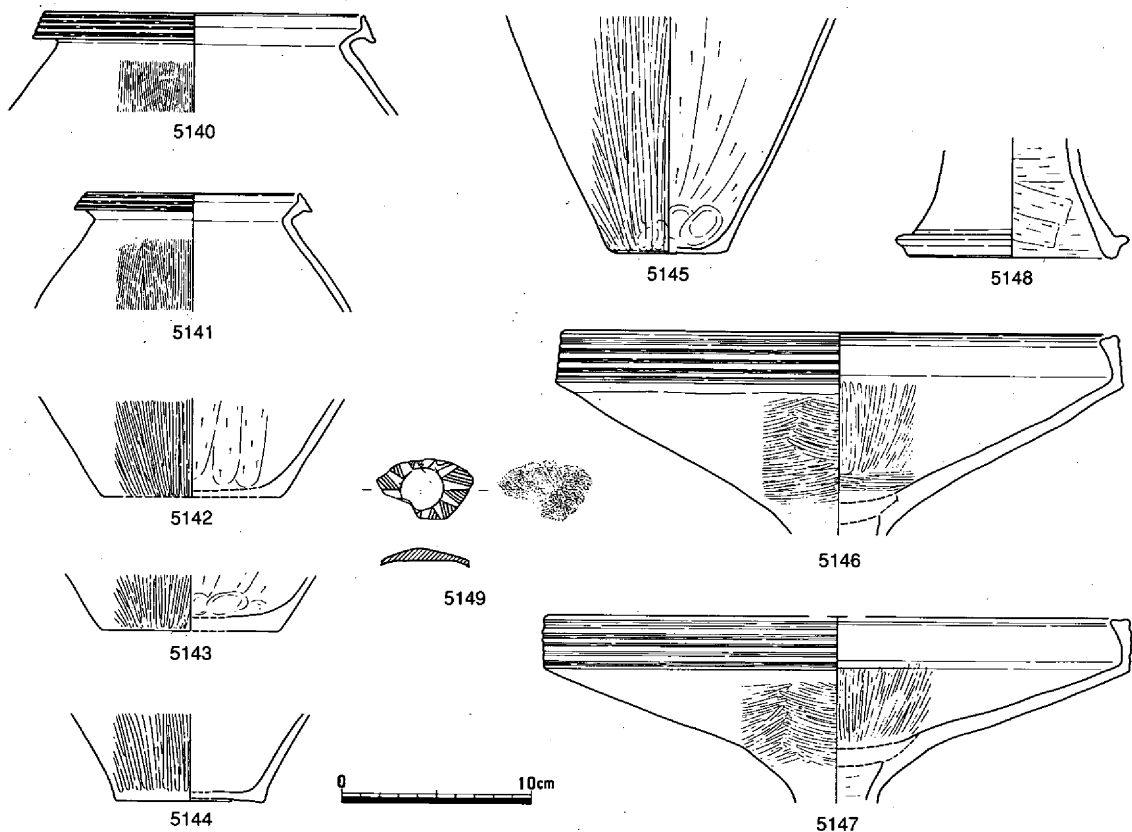
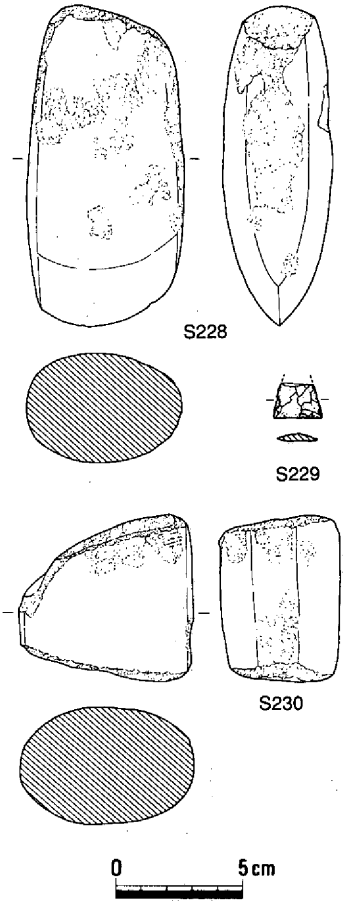
この竪穴住居の時期は、出土した土器の調整手法や形態的特徴などから、弥・中・Ⅲに属するであろう。(福田)

竪穴住居-197 (第32図)

中屋調査区の北端部に位置し、西側部分が前述の竪穴住居-196に新しく切られていた。

平面形は長径440cm、短径414cmの隅丸方形に近い形態で、床面の3か所に焼土面が認められた。この竪穴住居の柱構造は4本柱であるが、南西方向の柱穴は竪穴住居-196によって削平され、精査したにもかかわらず検出できなかった。中央穴は2段に掘り窪められており、その底部には暗黒褐色土が堆積していた。

この竪穴住居は遺物が出土しなかったが、遺構の切り合いから判断して、弥・中・Ⅲに近い時期に属するであろう。(福田)

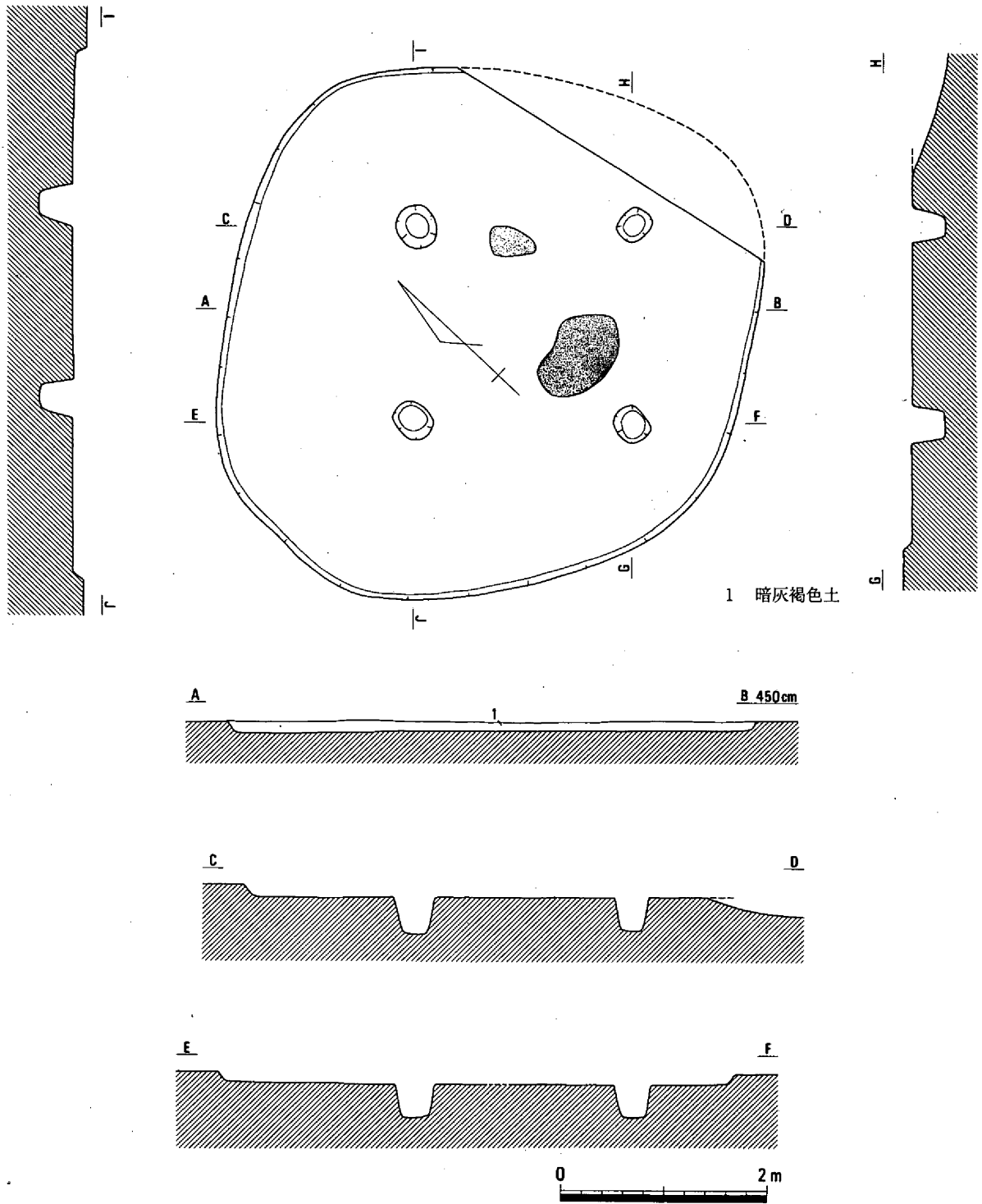


第33図 竪穴住居-196出土遺物

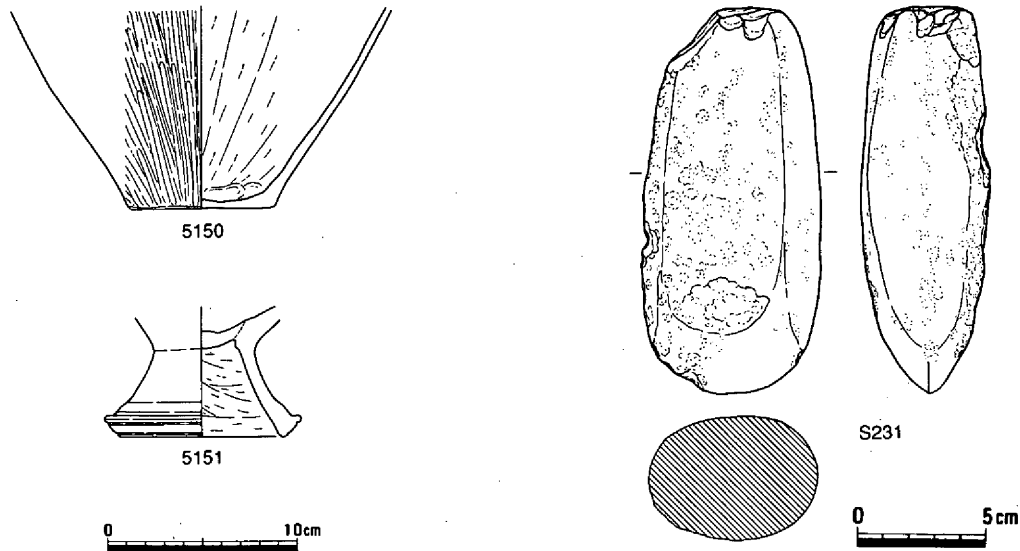
竪穴住居-198 (第34・35図)

この竪穴住居も中屋調査区の北端部に位置し、北西方向の約12mと約10mの地点には、前述した竪穴住居-196と竪穴住居-197が存在する。また南西方向に向かって約8mの近接した地点には竪穴住居-199も認められ、周辺にはほぼ同時期の竪穴住居がまとまった状態で検出された。

この竪穴住居の床面は、検出面から約10cmを測るだけの極めて浅い位置で、東側になる調査区境界



第34図 竪穴住居-198 (1/60)



第35図 竪穴住居-198出土遺物

部分を掘り下げた側溝の断面によって、その存在が明らかになったのである。

平面形は長径554cm、短径526cmの東西方向に長い不整形な形態を呈し、精査したにもかかわらず壁体溝と中央穴は検出できなかった。この竪穴住居の柱構造は4本柱であるが、存在した柱穴の位置が中央よりやや南東の方向に寄っていた。床面の2か所に焼土面が確認されたが、竪穴住居そのものの残存状態が悪いこともあって、出土した遺物は著しく少なかった。

図示できた出土遺物は、土器片2点5150・5151と完形に近い大型蛤刃石斧S231であるが、これらの土器と石器の調整手法や形態の特徴などから推定して、この竪穴住居-198の時期は弥・中・Ⅲに属するであろう。(福田)

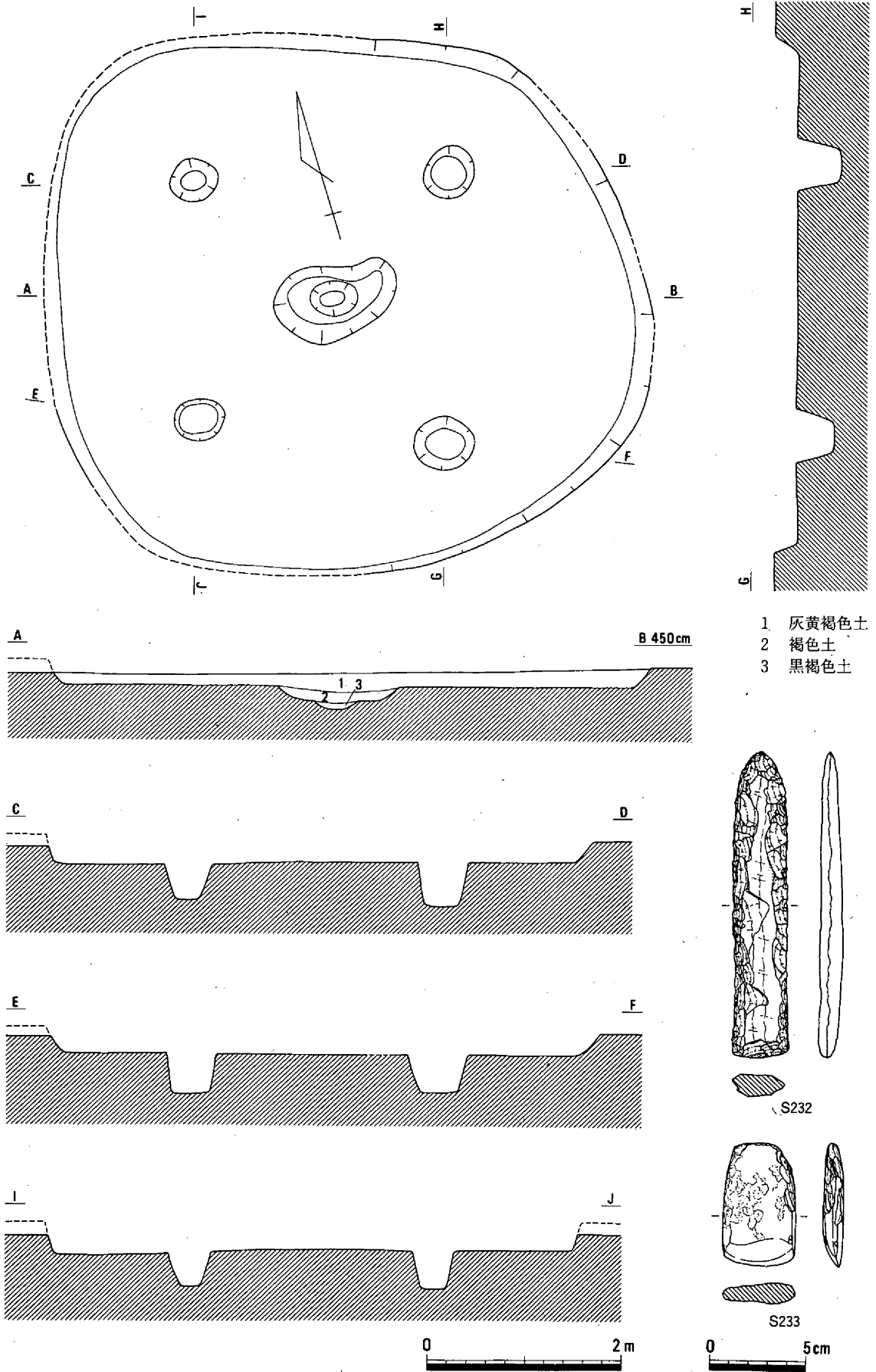
竪穴住居-199 (第36~38図、図版2-3)

中屋調査区の北側に位置するこの竪穴住居は、この報告書に掲載した弥生時代に属する竪穴住居のうちでは最も規模が大きく、床面積は26.40㎡であった。この竪穴住居の北方向には竪穴住居-196と竪穴住居-197が重複した状態で存在し、北東方向には竪穴住居-198が確認されている。

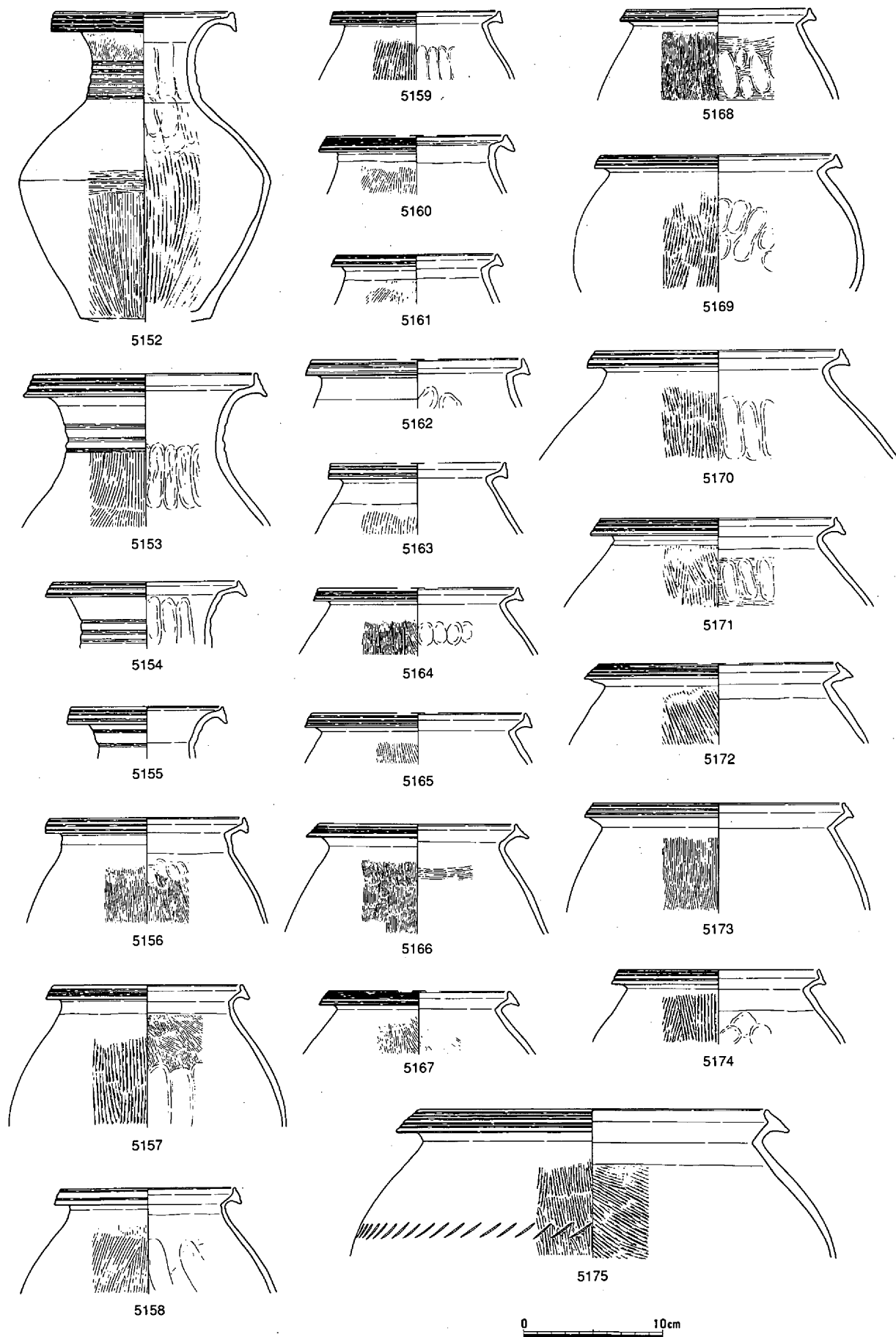
平面形は長径622cm、短径560cmの隅丸多角形と思われる歪んだ形態になり、壁体溝は存在しなかった。この竪穴住居の柱構造は4本柱であり、中央穴は2段に掘り窪められて断面形が浅い「U」字形を呈していた。竪穴住居の平面形が歪んだ形になっていたこともあって、検出された柱穴や中央穴は、床面の中央よりもやや北西方向に片寄った位置であった。

この竪穴住居から出土した石器には、完形品で長大な石槍S232と小型で扁平な石斧S233がある。土器はいずれも破片で完形品が認められないが、比較的出土量の多い壺5152~5155、甕5156~5185、高杯5186~5192・5194~5197以外に、大型の台付鉢5193や製塩土器5199なども存在する。壺または甕の口縁端部外面には凹線または擬凹線を有し、壺の頸部には凹線が巡らされている。外面の胴部上位にはハケメを施し、下位にはヘラミガキを行っている。内面の胴部上位にはユビオサエの上面にハケメを施し、下位はヘラケズリである。高杯の口縁端部外面にも凹線または擬凹線を有するが、上位面に鋸歯文が存在するもの5191も認められる。杯部の下位は、内外面ともヘラミガキを施している。

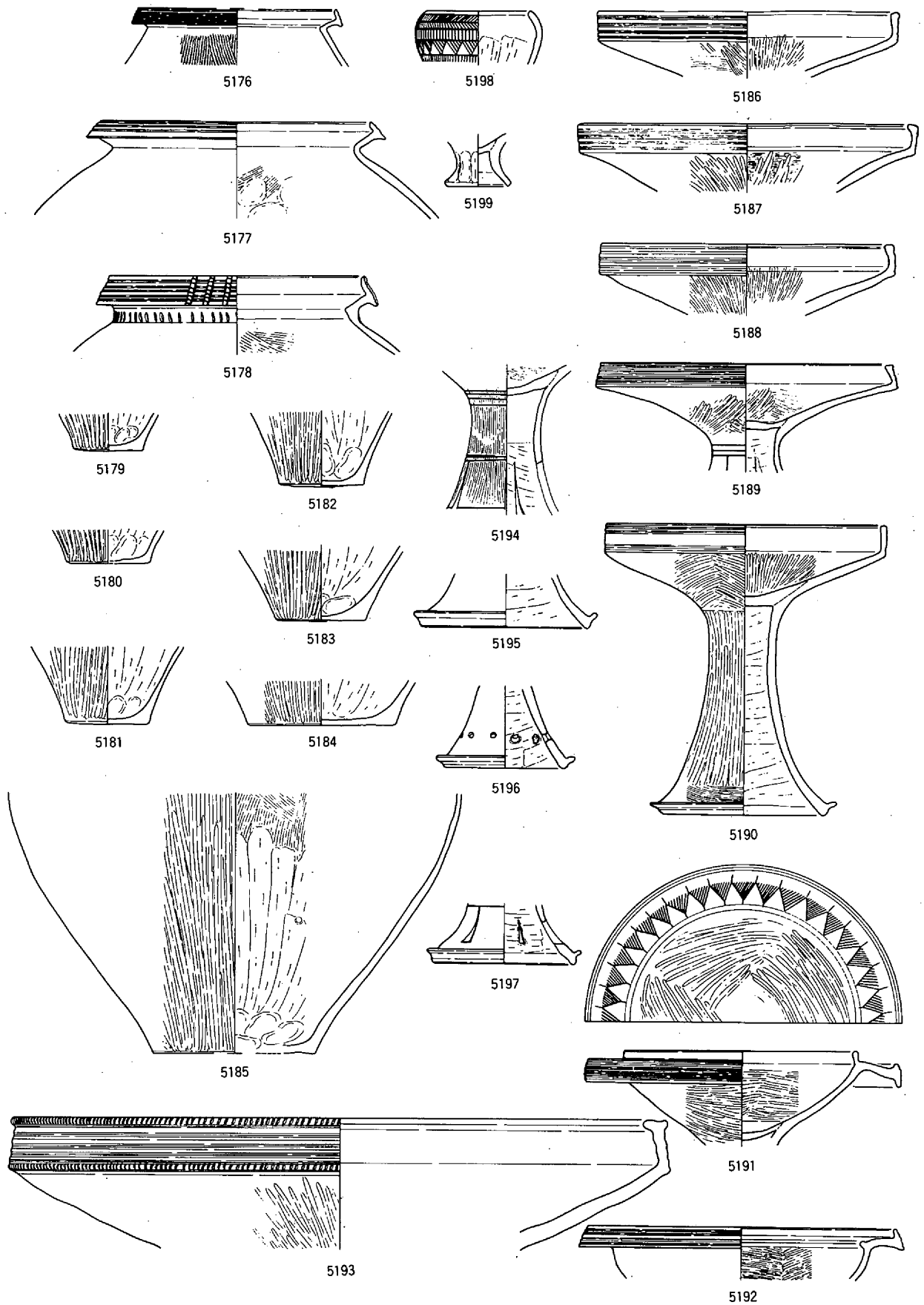
出土した土器の調整手法や形態的特徴から、この竪穴住居は弥・中・Ⅲの時期に属する。(福田)



第36図 竪穴住居-199 (1/60)・出土遺物(1)



第37図 竪穴住居-199出土遺物(2)



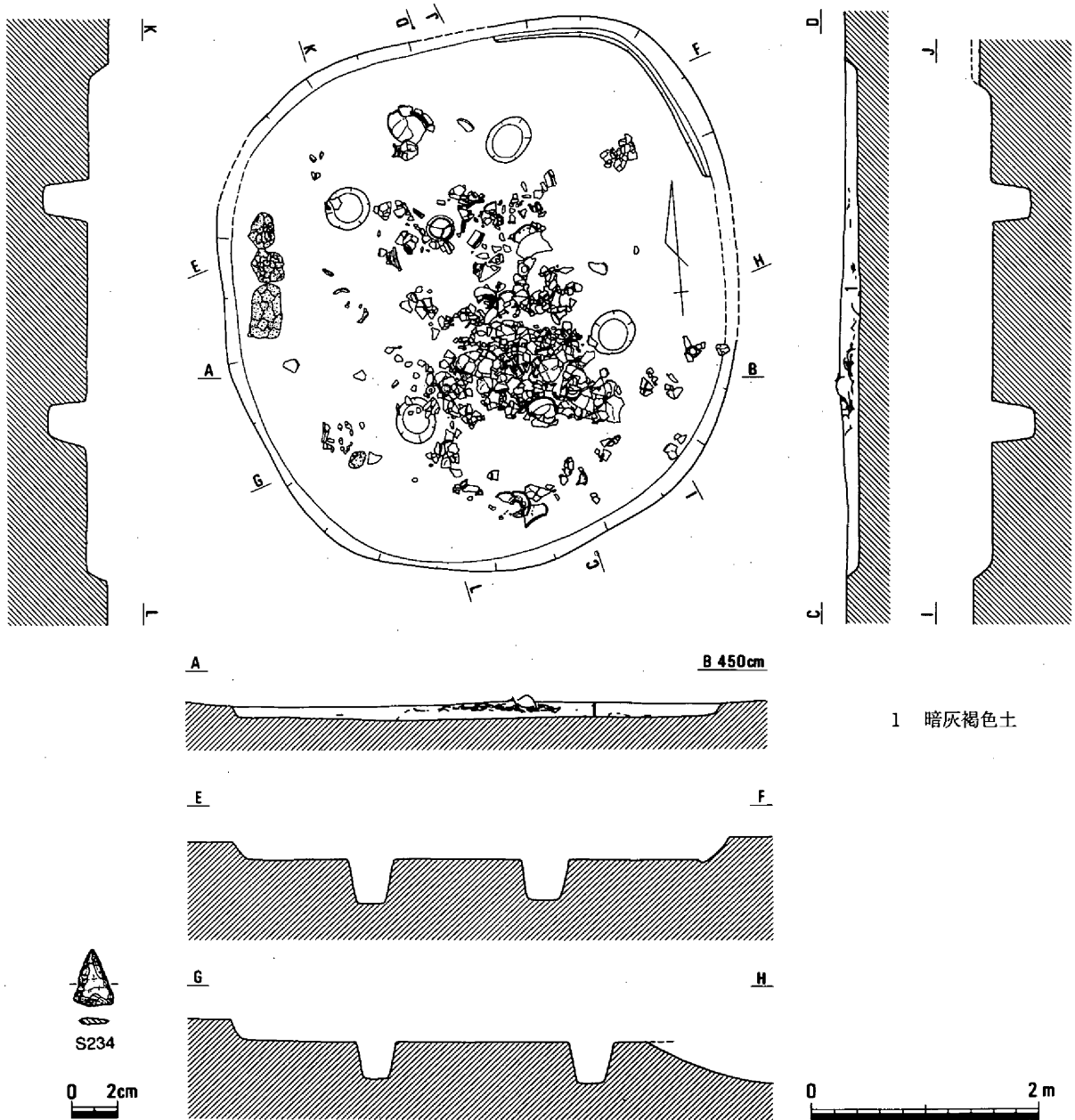
第38図 竪穴住居-199出土遺物(3)

竪穴住居-200 (第39~43図)

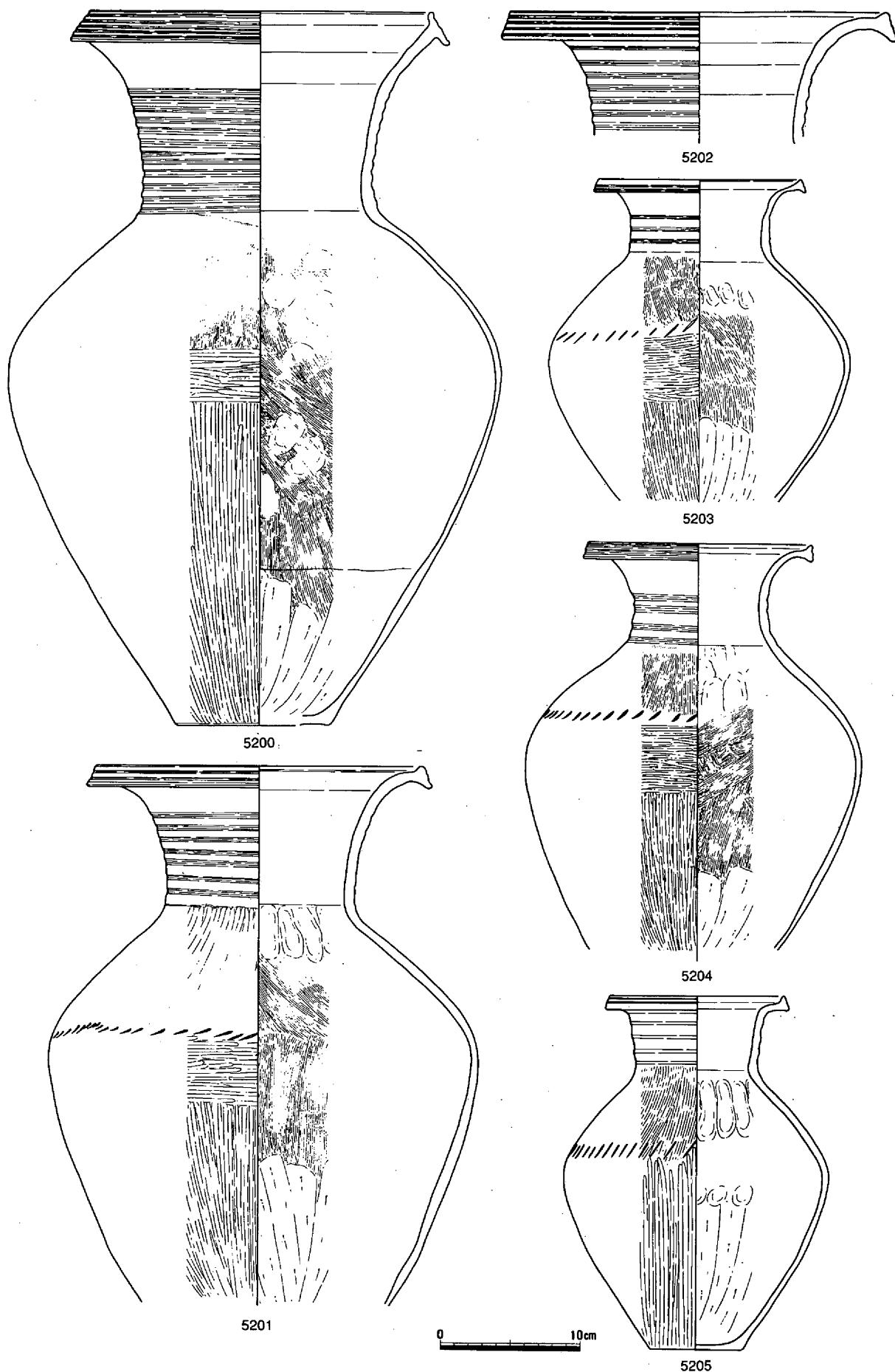
この竪穴住居は、中屋調査区の中央部よりやや北側へ寄った地点に位置するが、近接した周辺に弥生時代の竪穴住居は検出されていない。発掘調査を実施した範囲で最も近い竪穴住居は、北方向約25mに存在する竪穴住居-199である。

竪穴住居の平面形は、長径480cm、短径470cmを測る不整形を呈し、北東方向の隅に極めて浅い壁体溝の一部を検出したが、中央穴は確認できなかった。この竪穴住居の柱構造は4本柱であるものの、柱間が153~196cmと不揃いで、柱穴の位置も床面の中央よりやや南西方向へ寄っていた。

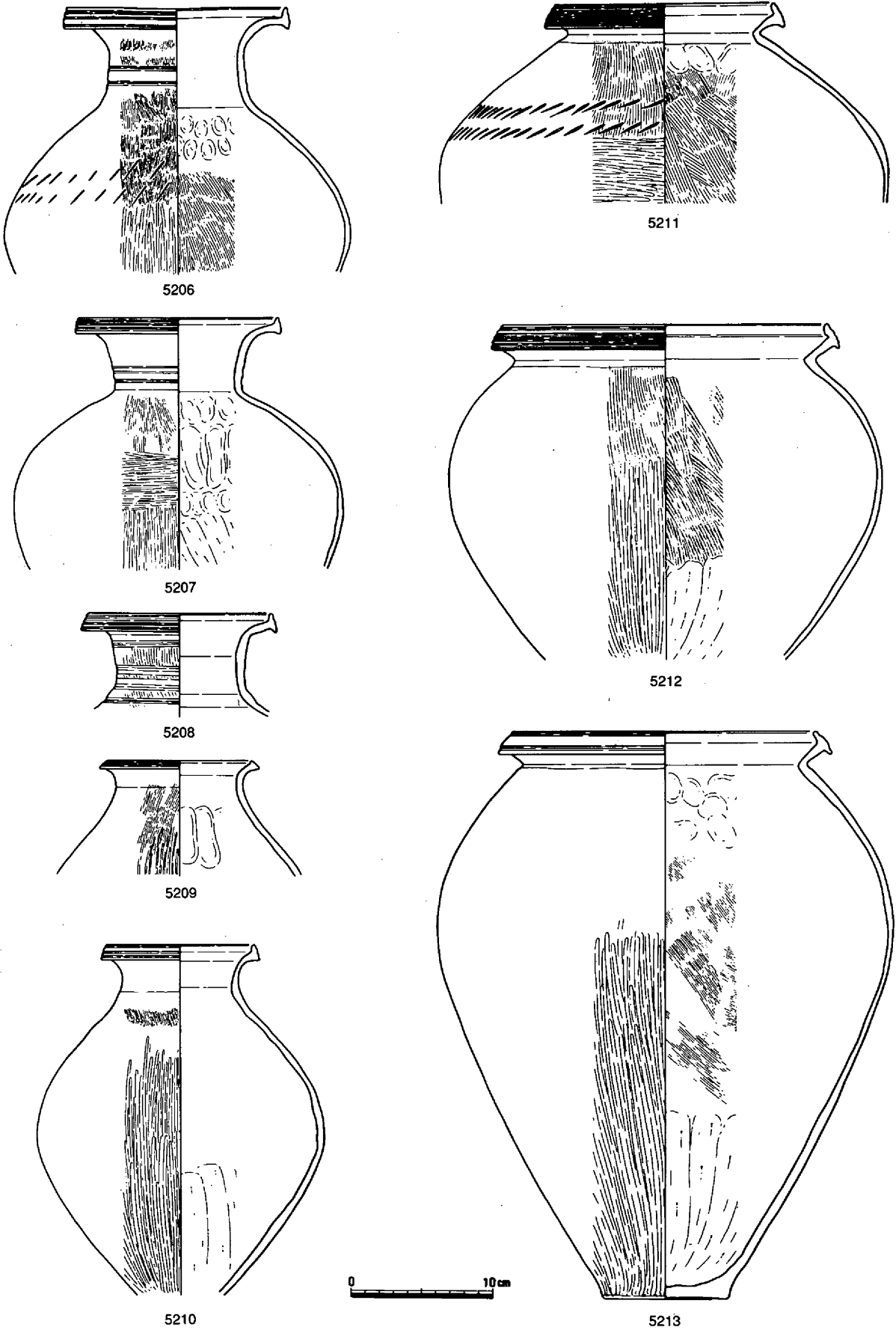
この竪穴住居は、検出面からの深さが8~15cmと極めて浅く、残存状態が悪く思われたが、接合すれば完形品となる大型土器を含む大量の土器(巻頭図版3-1)が出土しただけでなく、西側の壁体に近接した地点から、床面に密着して土器製作に使用する材料と推定される粘土塊も採集した。



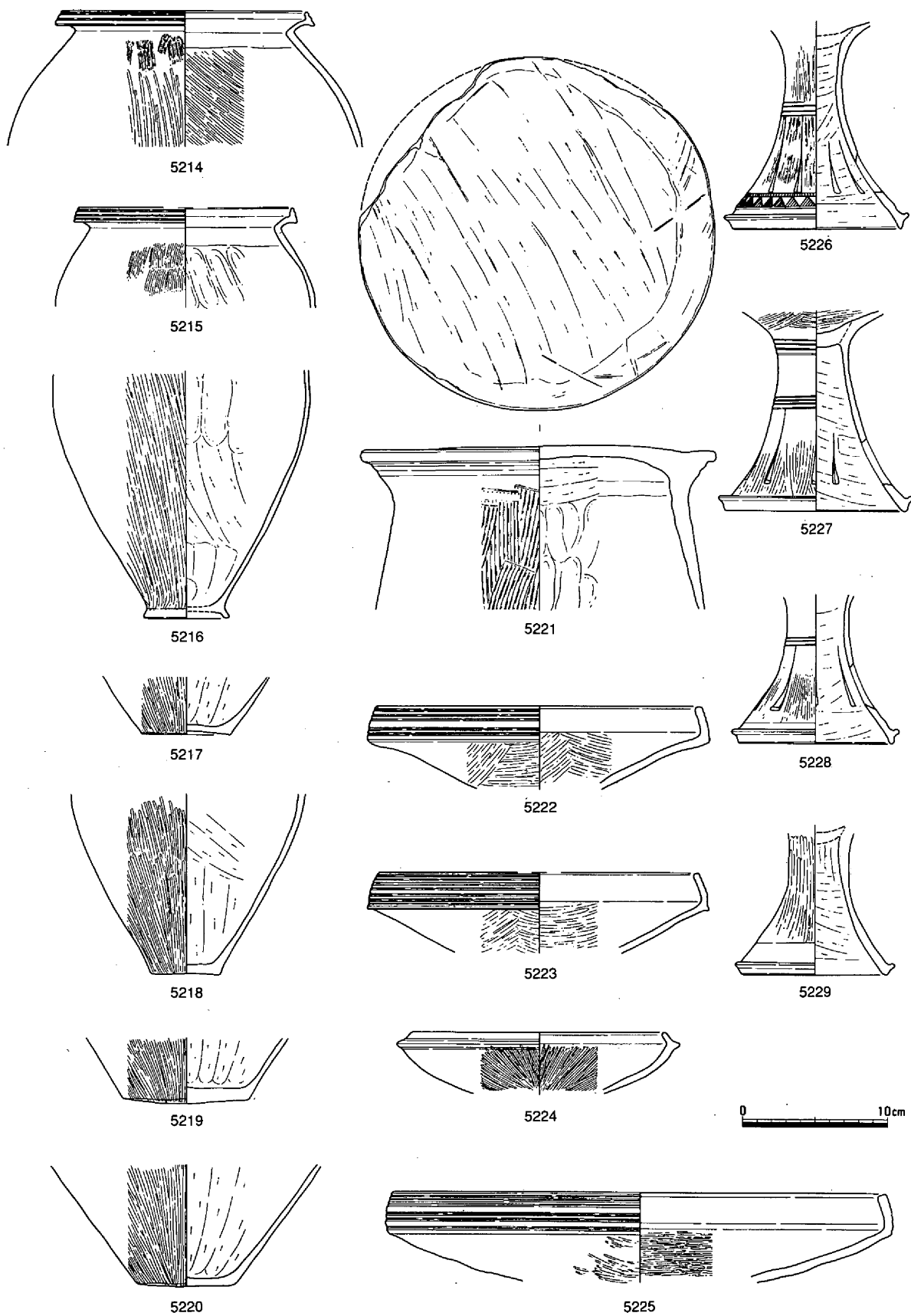
第39図 竪穴住居-200 (1/60)・出土遺物(1)



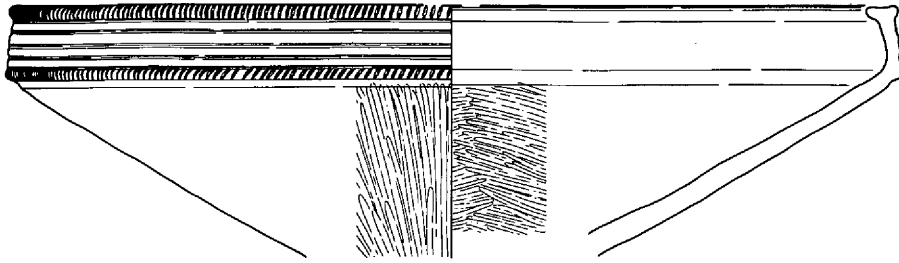
第40図 竪穴住居-200出土遺物(2)



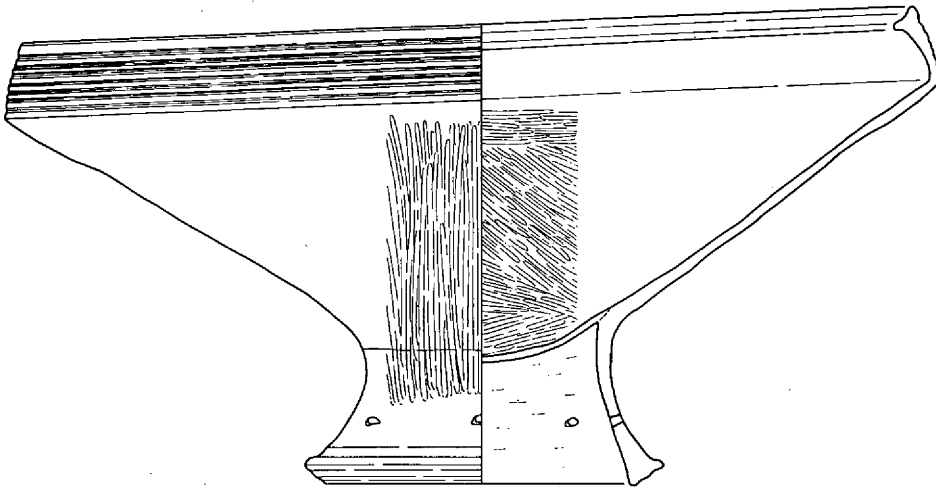
第41図 竪穴住居-200出土遺物(3)



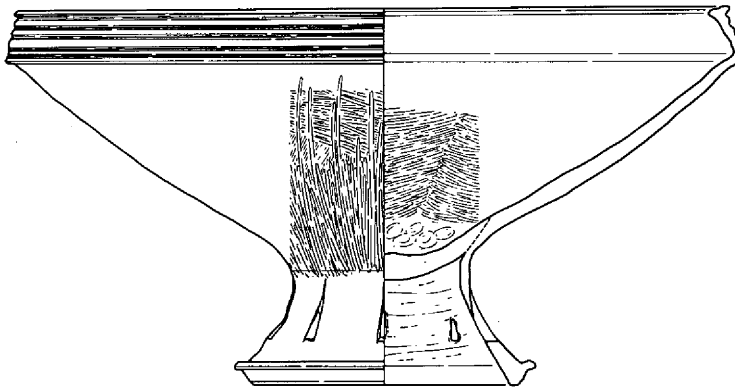
第42図 竪穴住居-200出土遺物(4)



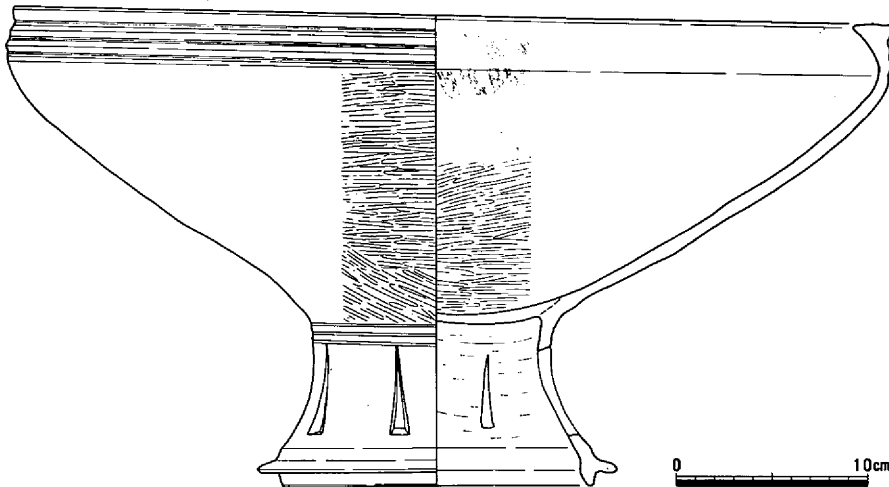
5230



5231



5232



5233



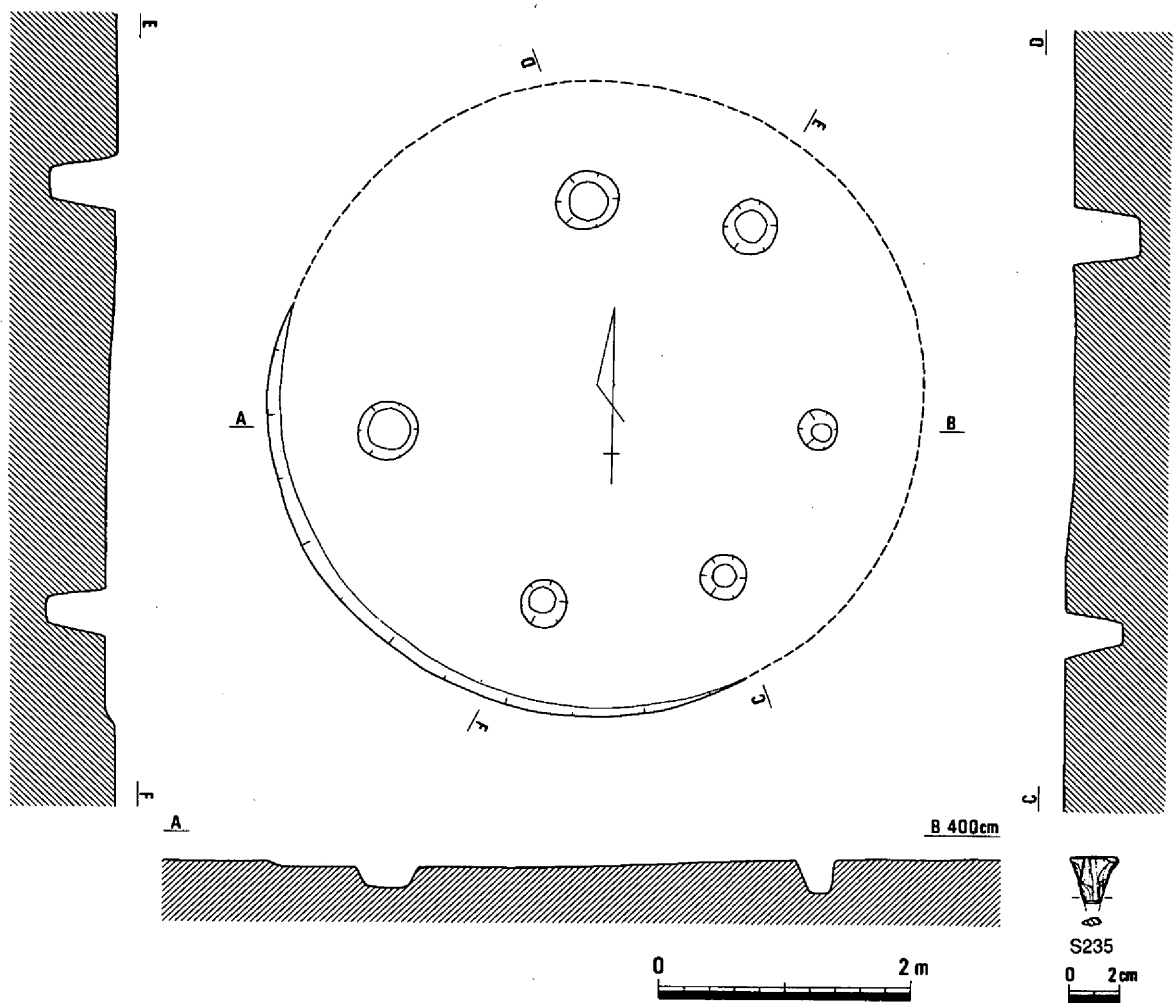
第43図 竪穴住居-200出土遺物(5)

第3章 調査区の概要

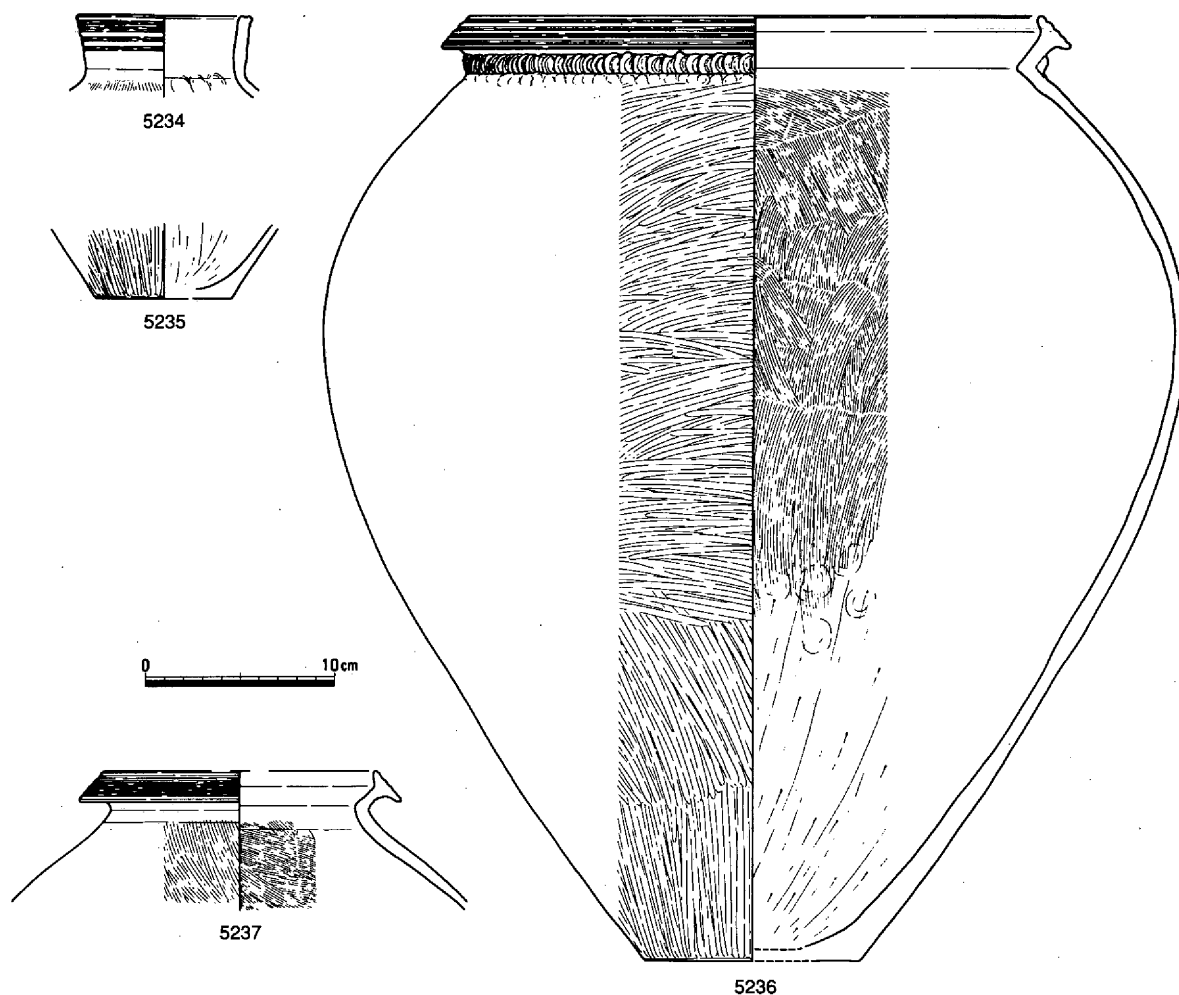
出土した石器はサヌカイト製の石鏃S234が1点だけであったが、土器には壺5200～5210、甕5211～5220、高杯5222～5224・5226～5229以外に、回転台形土器5221や、完形品を含む大型台付鉢5225・5230～5233などの珍しい器種も認められる。

壺と甕の口縁端部外面には凹線または擬凹線を有し、大型の壺の頸部には2条または3条の凹線が巡らされている。外面の胴部上位にはハケメを施し、下位にはヘラミガキを行っている。内面の胴部上位にはハケメを施し、下位は縦または斜め方向のヘラケズリである。高杯の口縁端部外面にも凹線または擬凹線を有するが、口縁端部内面はいずれもヨコナデを施している。杯部の下位は内外面ともヘラミガキを行っているが、脚部は透かしを有するもの5226～5228と存在しないもの5229とがある。特に5226の脚部外面には、縦方向の透かし10個以外に鋸歯文も認められる。これらの高杯の脚部は、脚端部はヨコナデを施し、内面はヘラケズリを行っている。回転台形土器は上半部だけの破片で、脚部などの下半部は不明である。上面の平坦部分はヘラケズリを行い、筒部との境界付近の外面はヨコナデを施している。筒部の上位外面には縦方向のハケメが存在し、内面にはユビオサエ痕跡が認められる。大型台付鉢の台部には半円形または二等辺三角形の透かしを有し、内外面の調整手法は高杯と同じである。なお台部の欠損した5230は、竪穴住居-199から出土した5193と同一個体である。

これらの土器の調整手法や形態的特徴から、竪穴住居-200は弥・中・Ⅲの時期になる。（福田）



第44図 竪穴住居-201(1/60)・出土遺物(1)



第45図 竪穴住居-201出土遺物(2)

竪穴住居-201 (第44・45図)

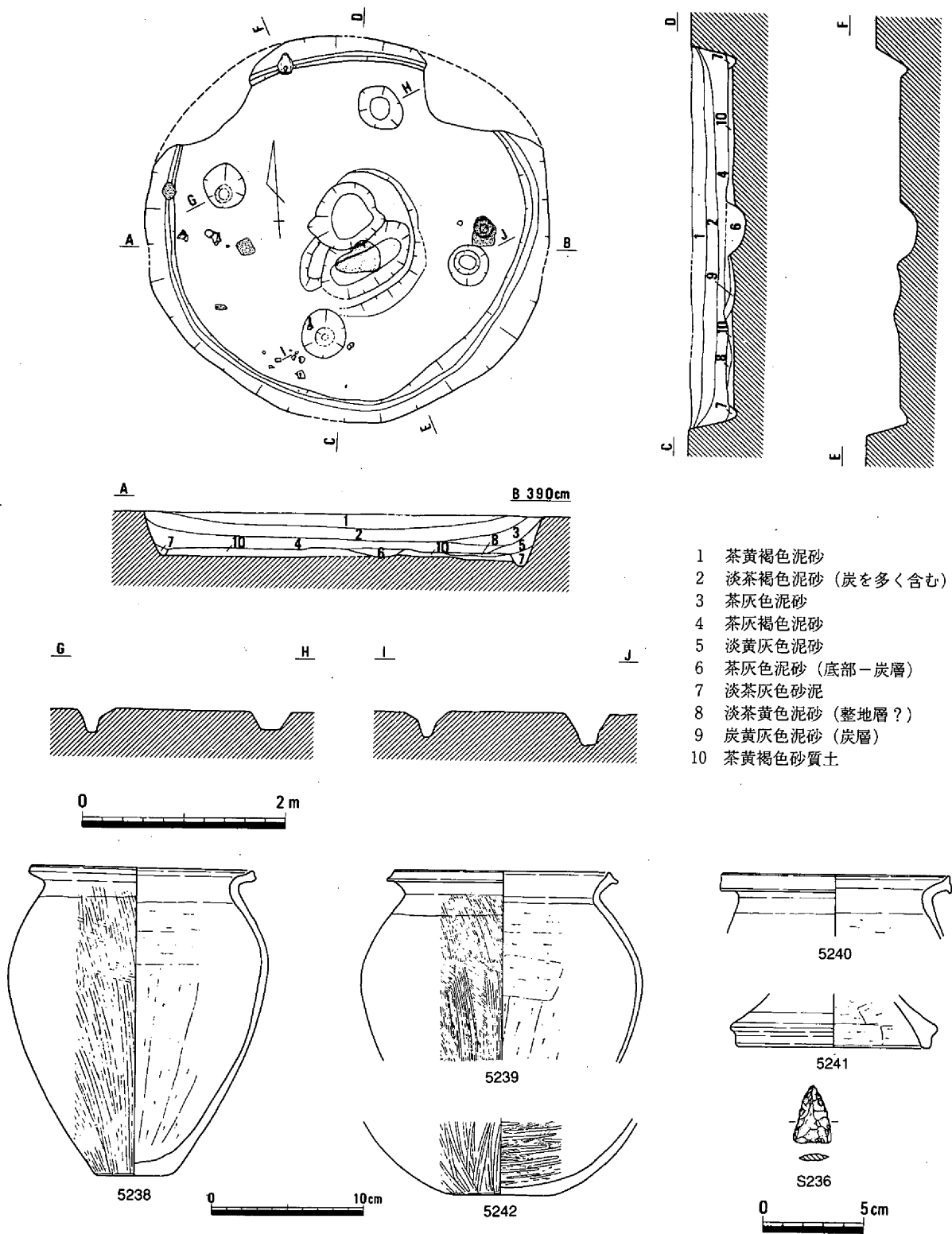
中屋調査区のほぼ中央に位置するが、周辺に弥生時代の竪穴住居は検出されていない。

平面形は円形と推定されるが、残存状態が悪くて壁体が確認できたのは南西側の一部だけである。床面を精査したが、壁体溝と中央穴は存在しなかった。この竪穴住居の柱構造は6本柱になると思われるが、柱穴間の距離に12.9~23.9cmと著しい差があり、北西部分にさらに別の柱穴があった可能性も残している。

この竪穴住居から出土した石器は、先端部の欠損したサヌカイト製の石錐S235が1点だけである。土器も比較的少なく、弥・中・Ⅲの時期である直口壺の口縁部5234、壺または甕の底部5235、大型の甕5236、甕の口縁部破片5237の4点にすぎない。直口壺の口縁部外面には4条の凹線が存在し、上端部分は中央部が浅く窪んだ面が認められる。口縁部は内外面とも全体にヨコナデを施しているが、胴部外面には縦方向のハケメが存在し、頸部内面にはユビオサエの痕跡がある。底部の外面は縦方向のヘラミガキを行い、内面は縦方向のヘラケズリを施している。大型の甕の計測値は、口径29.9cm、底径11.2cm、器高50.1cmである。口縁部の外面には4条の凹線が存在し、外面の頸部には粘土紐を貼り付けた連続刺突文が巡らされている。口縁部は内外面ともヨコナデを施し、胴部外面はヘラミガキを行っている。胴部内面の上位はハケメが存在し、下位はヘラケズリを施している。甕の口縁部破片の調整手法も大型の甕と似ているが、胴部外面には縦または斜め方向のハケメが認められる。(福田)

竪穴住居-202 (第46図)

この竪穴住居は、調査区中央のやや南側に位置し、竪穴住居-201の西約32mに検出された。竪穴住居の南約10数mには同時期と考えられる竪穴住居-203・204が存在している。平面形は、直径約400cmの円形を呈しており、深さは床面から約45m残存していた。竪穴住居内には、第1~10層が堆



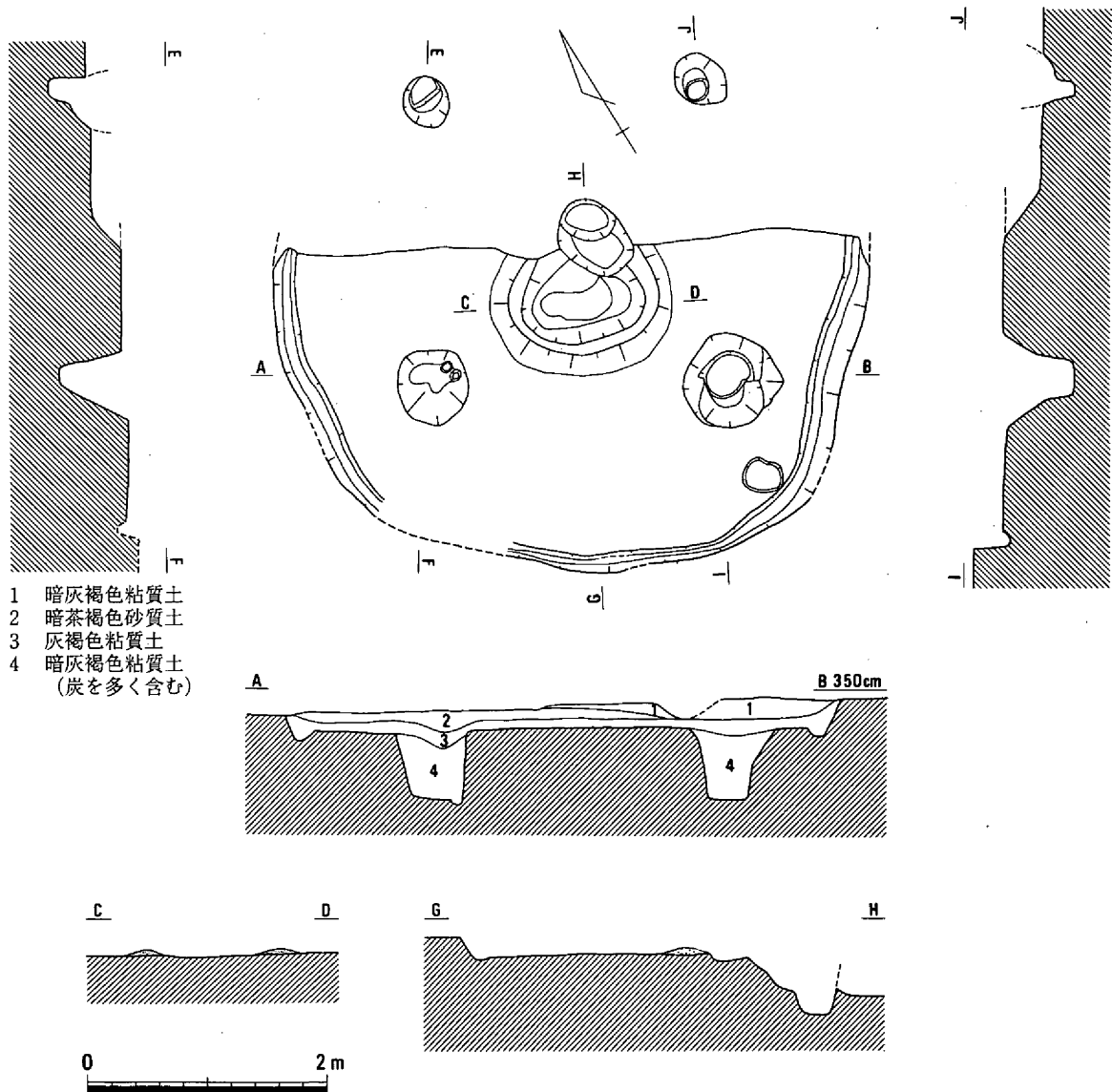
- 1 茶黄褐色泥砂
- 2 淡茶褐色泥砂 (炭を多く含む)
- 3 茶灰色泥砂
- 4 茶灰褐色泥砂
- 5 淡黄灰色泥砂
- 6 茶灰色泥砂 (底部-炭層)
- 7 淡茶灰色砂泥
- 8 淡茶黄色泥砂 (整地層?)
- 9 炭黄灰色泥砂 (炭層)
- 10 茶黄褐色砂質土

第46図 竪穴住居-202(1/60)・出土遺物

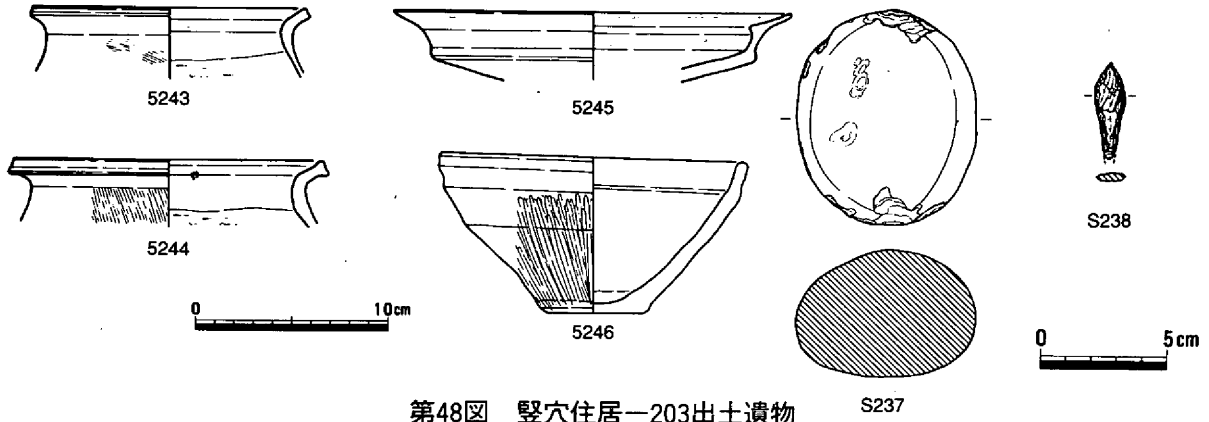
積していたが、第10層上面が堅くしまっており床面と考えられ、第10層は貼り床層である。

床面には、やや外側に4本の柱穴を確認した。柱穴は、いずれも直径40~50cmで、深さは20~30cmであった。柱穴の柱間は、ほぼ270cm前後の位置に配されていた。床面の外側には、幅約15cmの壁体溝が巡っている。床面の中央部には、直径約70cmの不正円形を呈する中央穴が存在した。中央穴の深さは約20cmを測る。また、中央穴の南東側には中央穴に隣接して80×100cmの楕円形の凹みが存在する。この凹みの周囲には幅約40cm、高さ約5cmの粘土帯を巡らしている。この中には、炭、焼土などが堆積していた。状況からみて作業場的なものと考えられる。また、床面には図示した土器などが散在していた。さらに、床面の3か所には径約20cm大の粘土塊が検出された。この粘土塊は、淡黄褐色の粘土で土器製作等に使用されたものであると考えられる。このように小さく小分された状態で保管されていたものであろうか。

出土遺物には、5238~5242の土器の他S236の石鏃が検出されている。5238~5240の甕は、頸部から大きく外反する口縁部をもつ。端部は上下に肥厚させている。内面は頸部までヘラケズリを施している。これらの土器は、弥生後期中頃の特徴を示している。(中野)



第47図 竪穴住居-203(1/60)



第48図 竪穴住居-203出土遺物

竪穴住居-203 (第47・48図)

この竪穴住居は、調査区の南側に位置し、竪穴住居-202の南約12mに検出された。竪穴住居の北側半分は後世の溝によって大きく削平を受けていた。残存部から径約500cmの円形の平面形を呈すると推定される。深さは床面から約20cm残存していた。

床面には、南側に柱穴が2本検出され、さらに北側の削平部からも柱穴の一部が2本残存しており、4本柱であることが明らかとなった。柱穴は、径60~80cmで深さは約60cmであった。床面の外周には、幅約15cmの壁体溝が巡っている。床面の中央部には、中央穴が一部残存していた。深さは約45cmを測る。中央穴の南西部には、竪穴住居-202でも認められた粘土帯を肩部に巡らしたくぼみが検出された。このくぼみは中央穴に一部取り付くように存在している。出土遺物としては、床面および堆積土から図示したものが検出された。

甕の5243・5244は、頸部から外反する口縁部で、端部は少し肥厚気味である。外面は、ハケメで調整しており、内面は頸部までヘラケズリを施している。高杯の5245は、杯部口縁は斜上方に立ち上がり、端部は外方向に大きく延びる。口縁端面は、端部を肥厚させた際のヨコナデによりくぼんでいる。5246の鉢は、安定した平底から斜上方に体部を立ち上げ、さらに角度を変えて口縁部をつくりだしている。外面はヘラミガキを施している。また、S237、238の石器も出土している。

これらの出土した土器は、いずれも弥生後期中頃の特徴をもっており、近接して存在する竪穴住居-202、204と同時期頃と考えられる。 (中野)

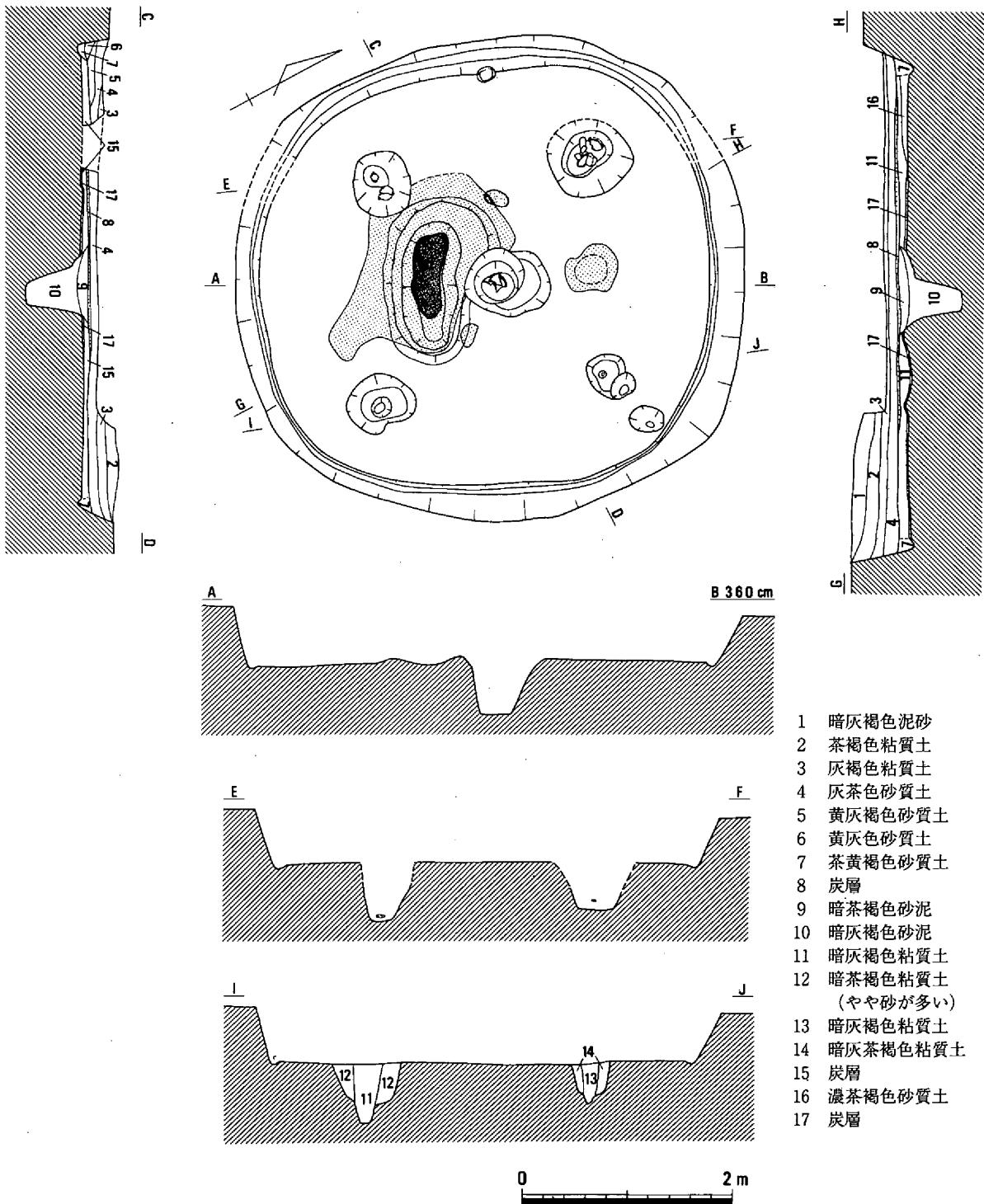
竪穴住居-204 (第49・50図)

竪穴住居-204は、調査区の南側に位置し、竪穴住居-203の南西約3mに検出された。竪穴住居の上部には古墳時代の竪穴住居-295が重なりあっており北側はそのため削平を受けていた。規模は495×465cmで平面形はほぼ円形を呈している。深さは床面から約55cm残存していた。床面は2面検出され、第1面は第8層上面で床面になる。第8層は、貼り床層で竪穴住居中央部を中心に数cm淡黄褐色粘質土が貼られており、堅い面となっていた。第2面は、最下層の第17層が貼り床で、図示した平面図は第2面のものである。第1面、第2面とも柱穴等のものは重なりあっている。床面には、径60~70cmの柱穴が4本検出されており、深さ40~50cmを測る。柱穴の柱痕跡も残存していた。床面の外周には、幅10~15cmの壁体溝が巡っている。床面中央には、径約60cmの中央穴が存在し、深さは約50cmである。また、中央穴の南側には竪穴住居-202、203でも認められた粘土帯を巡らしたくぼみが確認された。このくぼみは、約120×50cmの楕円形を呈しており、深さは約5cmと浅い。くぼみの中央

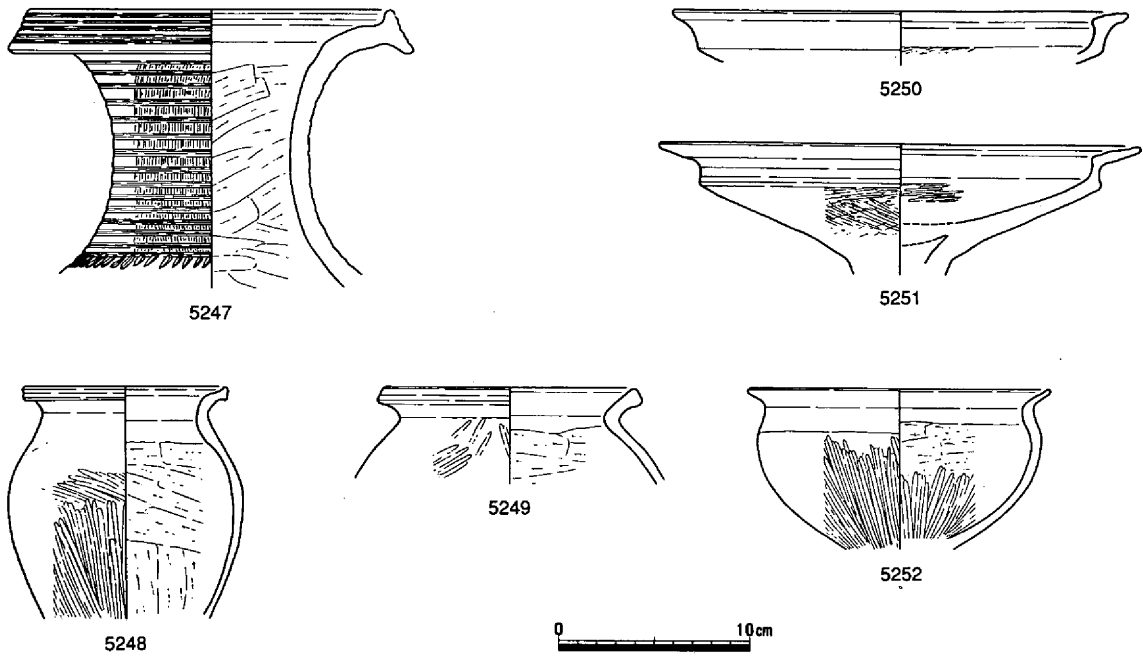
には焼土面も認められ、くぼみを中央に炭層が広く検出されている。

このように近接する竪穴住居-202~204は、平面形、構造等も酷似しており、時期もほぼ同時期のものである。

出土遺物は、図示した土器、鉄器、石器が各堆積より検出されている。5247は、いわゆる長頸壺で、頸部から大きく外反する口縁部をもち口縁部は上下肥厚させて端面をつくりだしている。端面には5条の凹線文を巡らしている。また、頸部にも凹線文を多条に施し、最下部には刺突文を巡らしている。

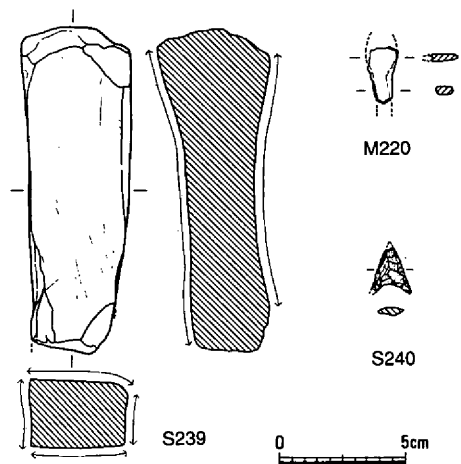


第49図 竪穴住居-204 (1/60)



内面は、口縁部近くまでヘラケズリをおこなっている。甕の5248・5249は、体部外面をヘラミガキ、内面を頸部までヘラケズリを施している。高杯の5250・5251は、杯部口縁は上方に立ち上がり、端部は横方向に大きく肥厚させている。端面には、凹線文状の凹凸をもつ。杯部外面は、ヘラミガキを施すが、5251はヘラミガキの前にヘラケズリを行い器壁を調整している。5252は、外反する口縁部で器壁は薄い。内外面は、ヘラミガキを施す。

また、S 239の砥石、S 240の石鏃、さらにM220の鉄鏃が出土している。



第50図 竪穴住居-204出土遺物

これらの出土遺物は、弥生後期の特徴を示している。(中野)

竪穴住居-205 (第51~60図)

この竪穴住居は調査区の南端に位置し、竪穴住居-204の南東約22mに検出された。規模は、398×330cmと小規模で平面形は丸みのある隅丸方形を呈している。深さは床面まで約65cmで残存状態は良好であった。床面には、柱穴が4本検出されたが、いずれも床面の隅部に位置している。柱穴は、径約30cmで深さは約37cmを測る。床面の外周には、幅約10cmの壁体溝が巡る。床面中央には、90×90cmの不整形な中央穴が存在し、深さは約10cmを測る。竪穴住居内の堆積層は、第1~第5層でレンズ状に堆積している。特に最上層には、第54図のように土器の集積が認められた。この土器の集積は、各器種を含んだ大量のものであった。また、下部の各層からも出土遺物が検出されたが、最上層の土器の集積層からの時期差はほとんど認められなかった。

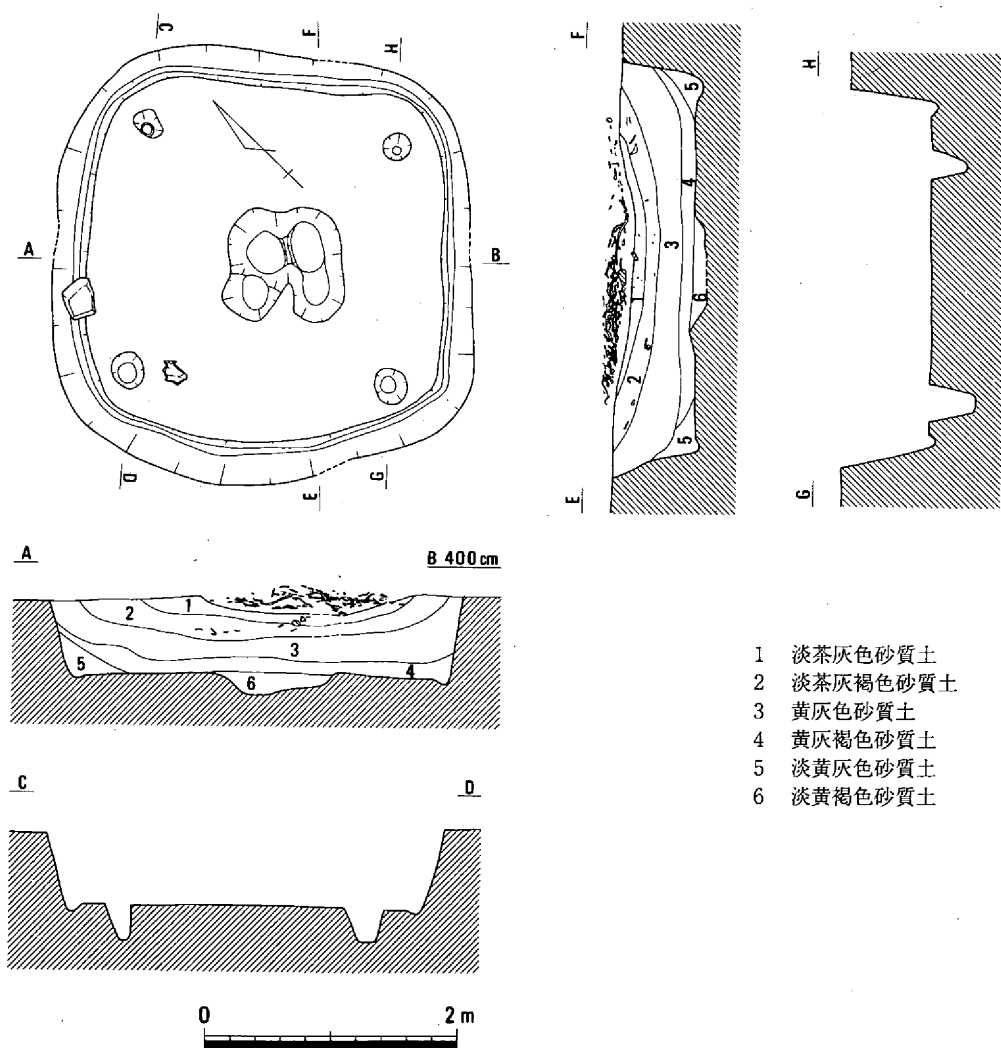
5253~5278、S 241は、最上層の土器の集積層の下部から出土した遺物である。

5253~5257の壺は、いわゆる長頸壺の5255~5257と外反する口縁部をもつ5253・5254がある。5254

は、頸部からゆるやかに外反する口縁部で、端部は5253と同じように丸くおさめている。外面は、タテ方向のハケメののち体部下半はヘラミガキで、一部頸部までヘラミガキを施している。内面は、底部から頸部近くまでヘラケズリを施し、頸部周辺をハケメで調整している。5255～5257は、外反した口縁部で端部を大きく上下に肥厚される5256・5257と小さく肥厚させる5255がある。5256・5257の口縁端面には、4条ほどの凹線文を巡らしている。頸部にも肩部まで凹線文を巡らしており、5257の凹線文は螺旋状に施文している。凹線文の下部には刺突文が巡る。外面体部は、ハケメののち肩部までヘラミガキで調整している。内面は、口縁部、頸部をヘラミガキでその下部はヘラケズリを施す。

5258～5267の甕は、その大半は頸部から外反する口縁部で端部を肥厚させている。5264は、口縁端部を丸くおさめている。口縁端部を肥厚させる端面には、凹線文を施す5260～5263・5267や凹線文をもたない5258・5259・5265・5266がある。外面は、基本的にはハケメののち下半をヘラミガキを施している。内面は頸部までヘラケズリをおこなう。

5269～5273の高杯は、5269が古相で混入と思われ、杯部口縁部の端面をもたない5270がある。脚部は、端部を丸くおさめている5272と備中地域の特徴である5271のような端面を肥厚させるような古相の形態を残すものがある。

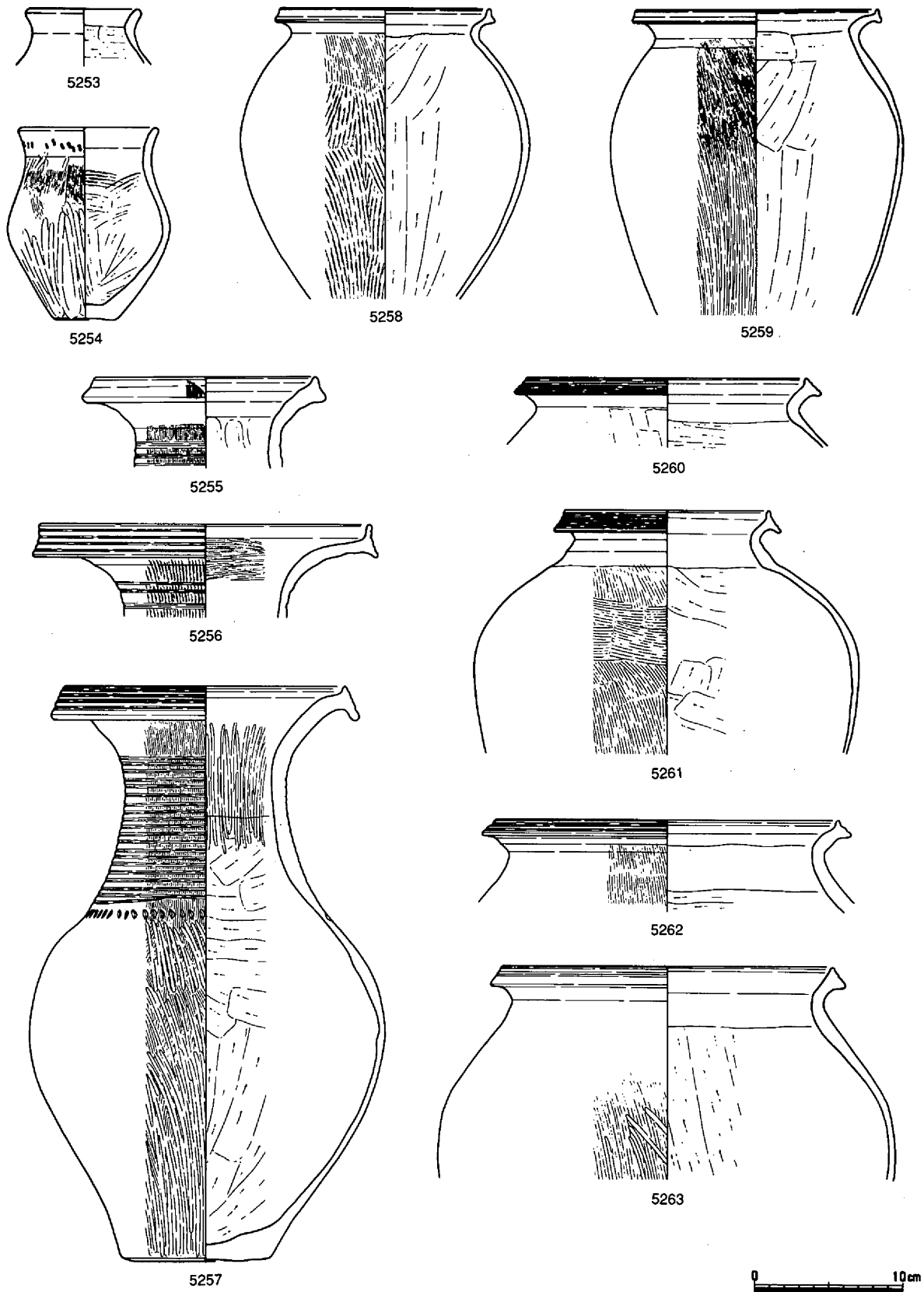


- 1 淡茶灰色砂質土
- 2 淡茶灰褐色砂質土
- 3 黄灰色砂質土
- 4 黄灰褐色砂質土
- 5 淡黄灰色砂質土
- 6 淡黄褐色砂質土

第51図 竪穴住居-205(1/60)

第3章 調査区の概要

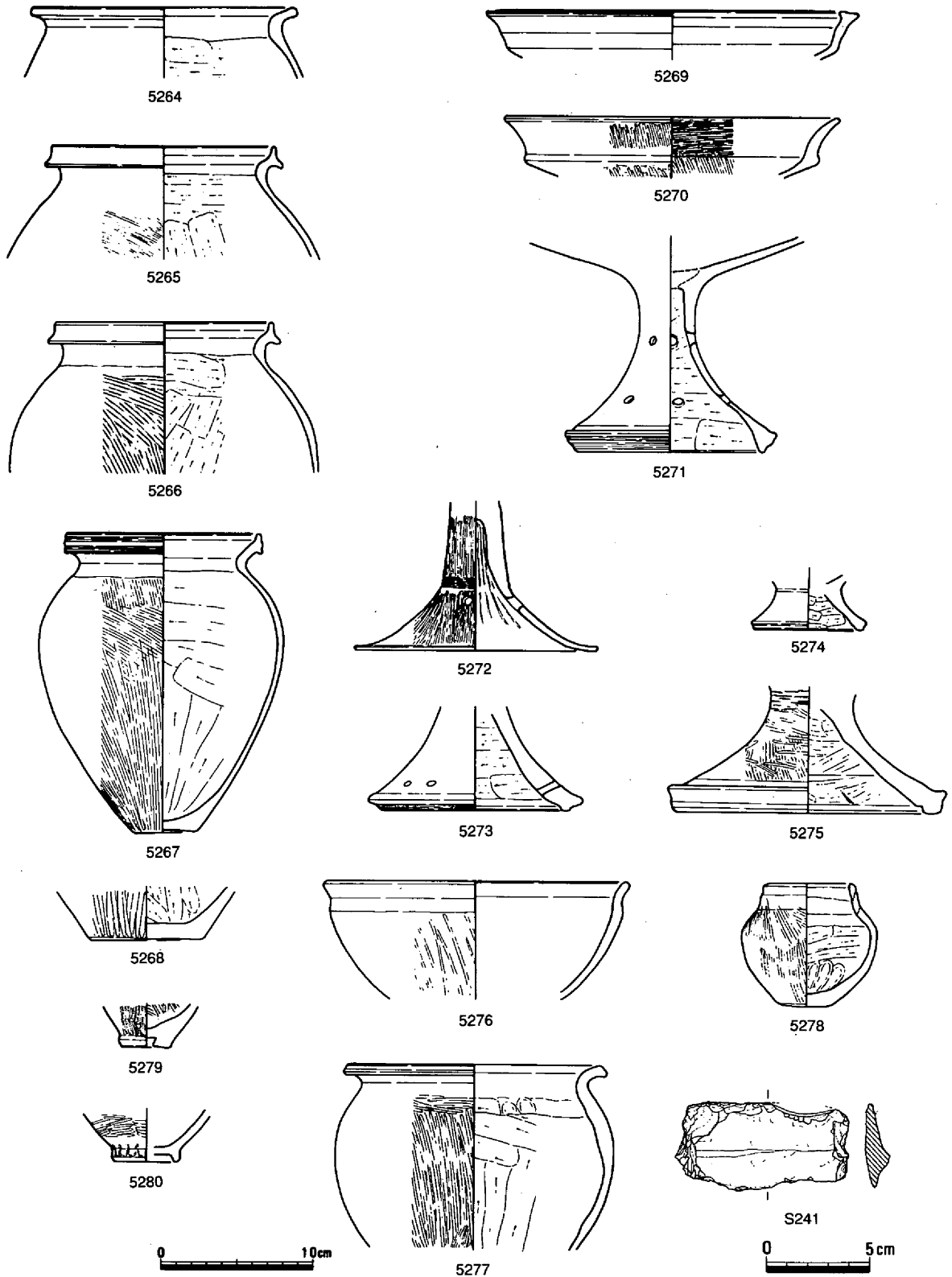
5276・5277の鉢は、口縁端部を丸くおさめる5276と端部を肥厚させる5277がある。5278は、小形の壺と考えられるもので、内傾しながら立ち上がる口縁部をもつ。



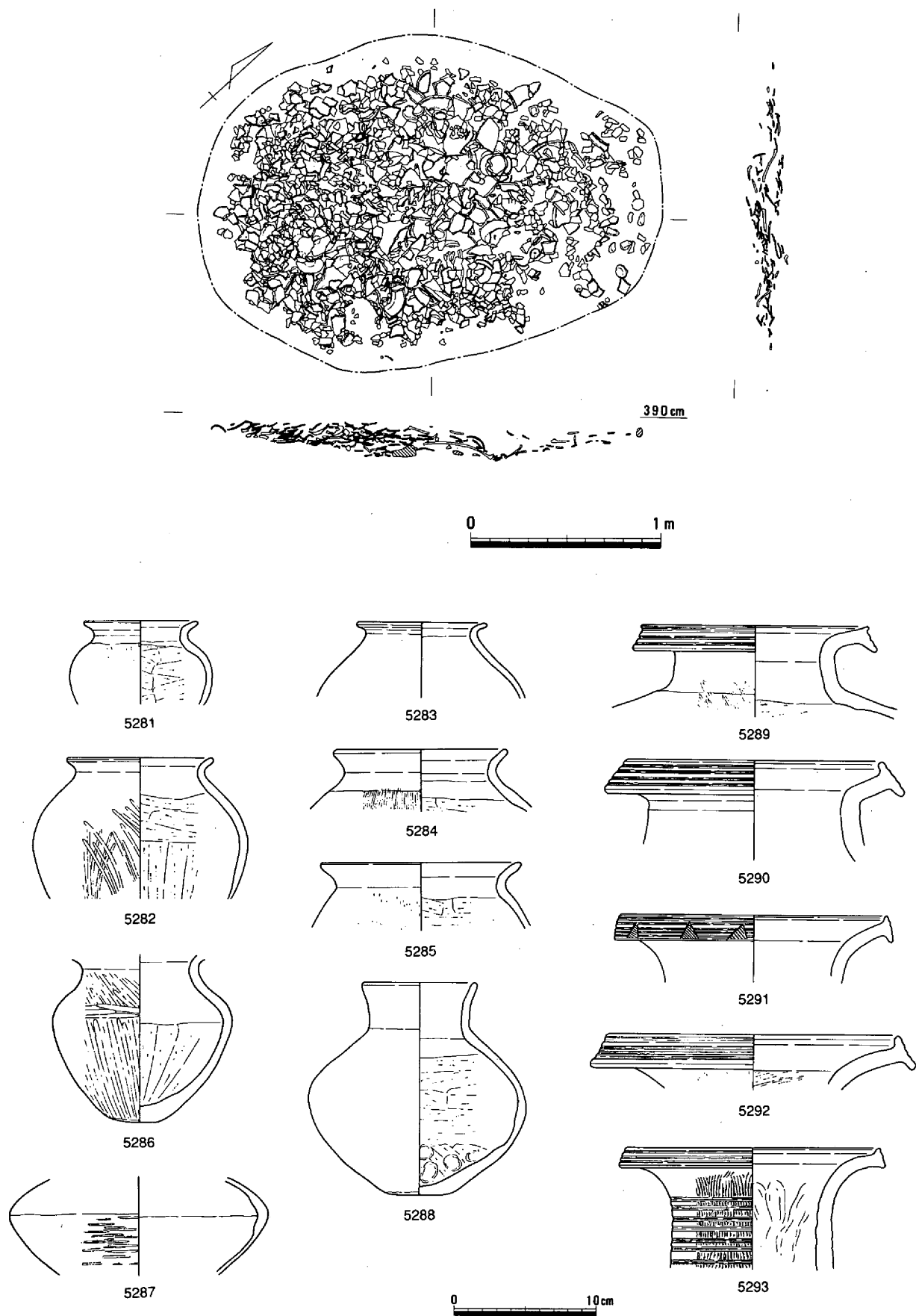
第52図 豎穴住居-205出土遺物(1)

S241は、サヌカイト製の打製石包丁である。

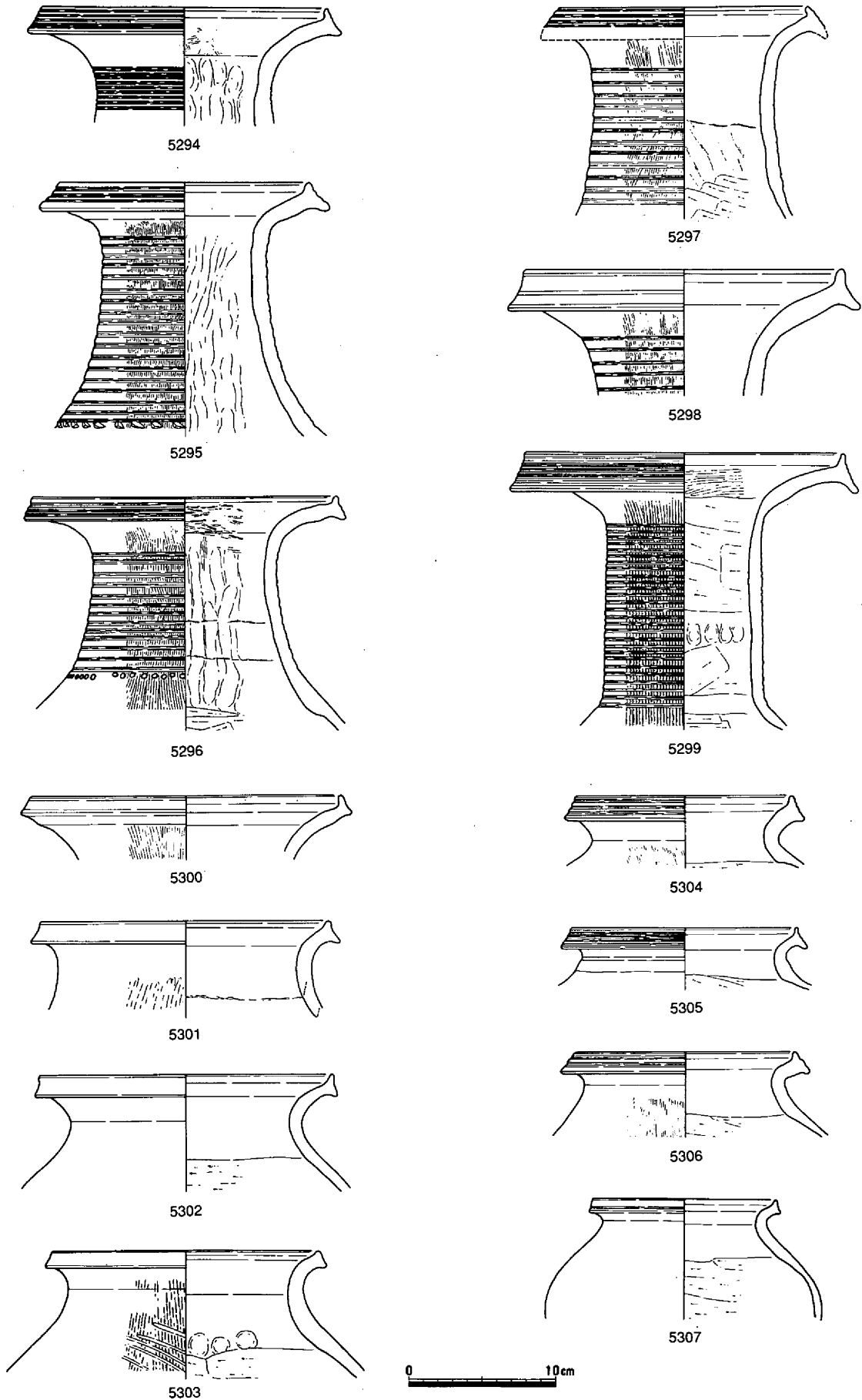
これらの出土遺物は、一部には古相のものも含まれるものの、おおむね弥生後期中頃の特徴を示している。



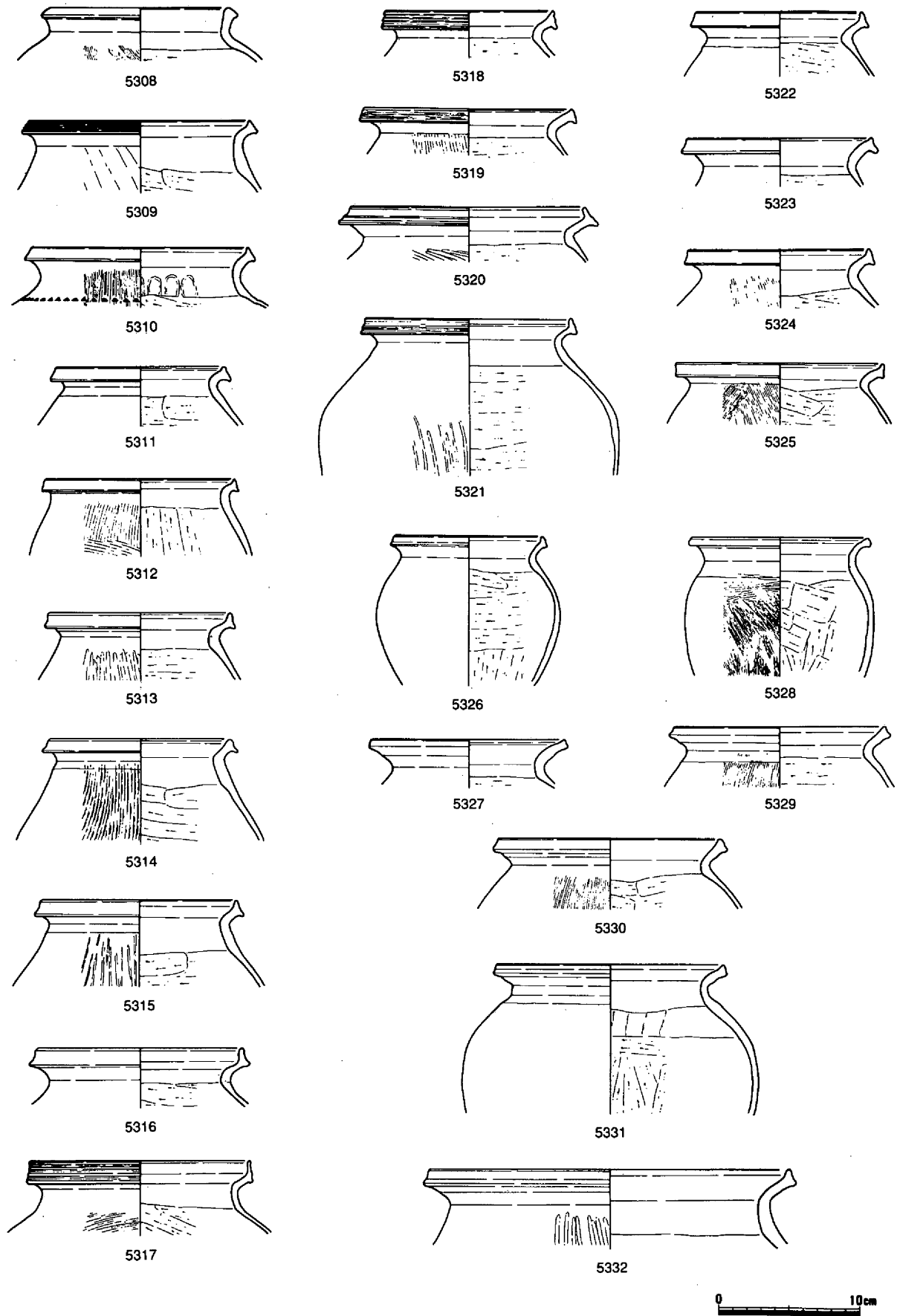
第53図 竪穴住居-205出土遺物(2)



第54図 竪穴住居-205上部土器溜り(1/30)・出土遺物(1)



第55図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(2)

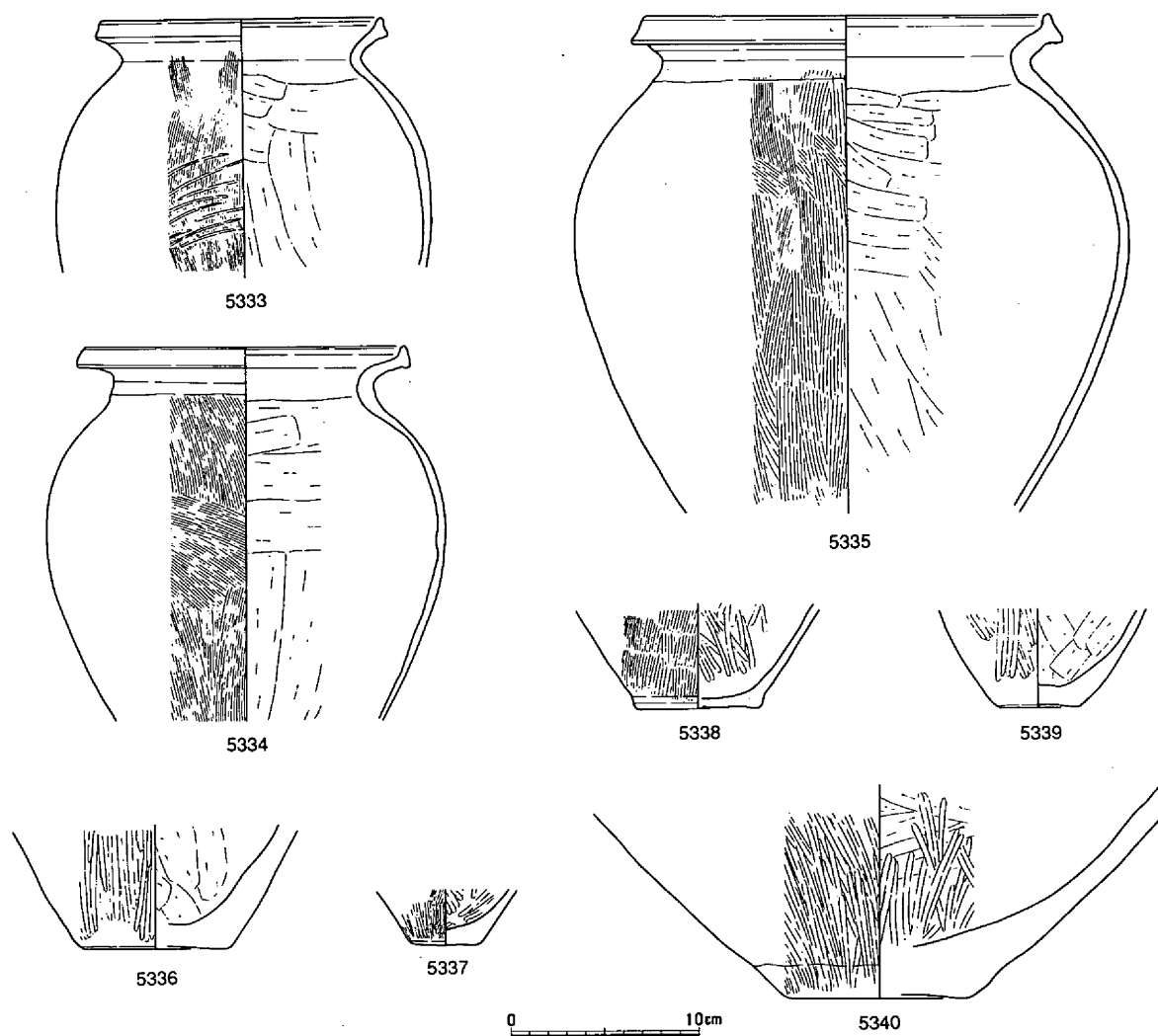


第56図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(3)

5281～5283は、最上層の土器の集積層から出土したものである。検出当初は、あたかも土壙として認識されたものである。しかし、竪穴住居-205の平面形の検出と、堆積状況およびその位置関係から竪穴住居の最上層と判断された。この集積層は、竪穴住居の埋没過程の最終段階のくぼみに一括投棄されたと思われる。

壺には、口縁端部を上下に肥厚させ、その端面に凹線文を施す長頸壺などと、口縁端部を丸くおさめる5281～5288がある。5281～5288は、その中には5282・5284・5285のような甕と分別できないものも含まれているが、ここでは甕としてとりあつかった。5281～5286、5283～5285は頸部から外反する口縁部をもち、5288はやや外傾しながら上方に立ち上がる。5289・5290は、頸部が「ハ」の字に開き、屈曲気味に外反する口縁部をもつ。5291～5299は、いわゆる長頸壺で、頸部から肩部にかけて「ハ」の字状に開くものが大半であるが、5299のように直線的に延びるものもある。この長頸壺には、口縁端面に凹線文を施文するものと5298のように凹線文を施さないものがある。

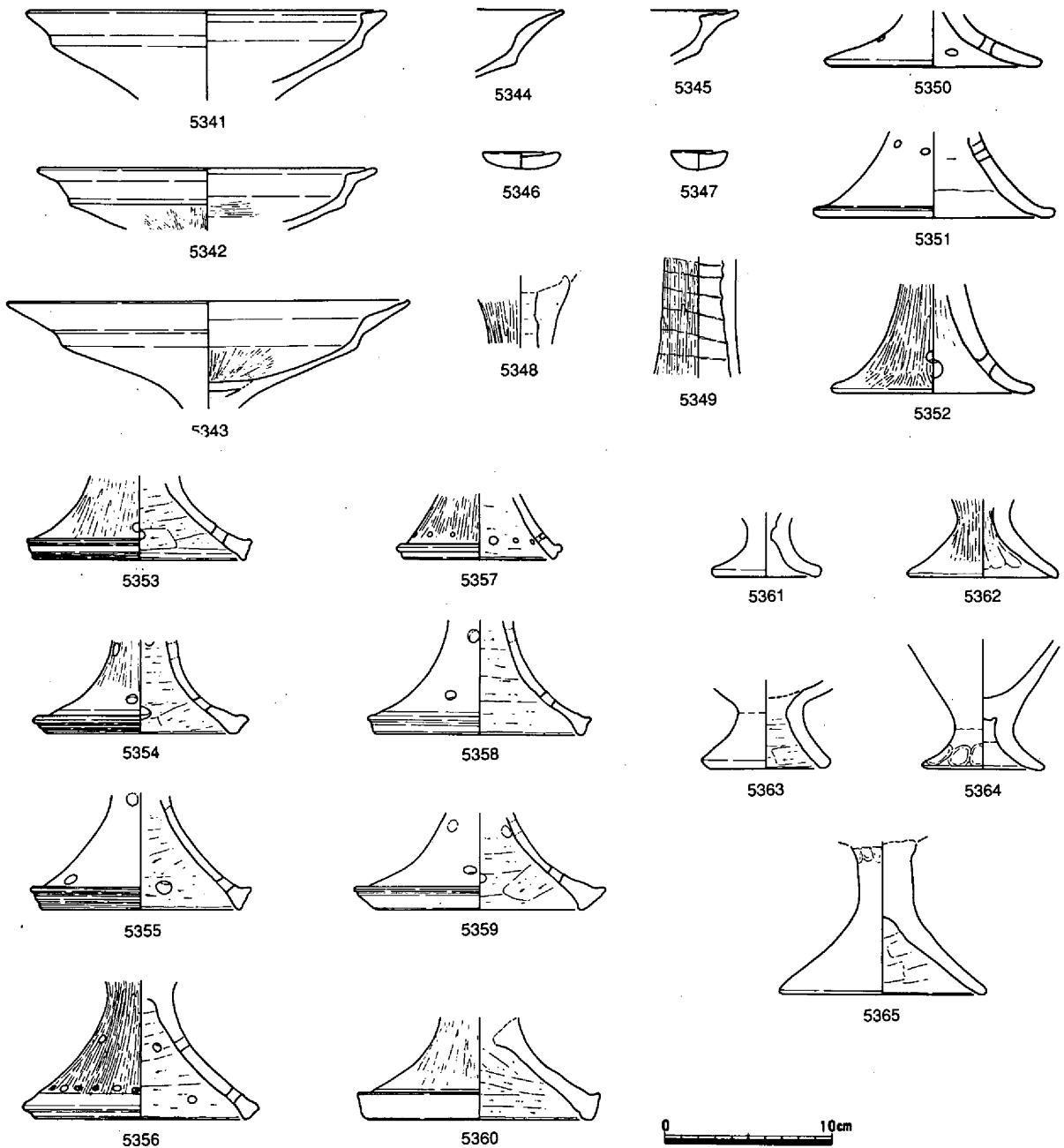
5301～5303は、やや大形の器形で壺か甕の分別がしがたいものも含んでいる。5304～5335の甕は、頸部から屈曲気味に「く」の字に外反する口縁部をもち、口縁端部は上下に肥厚する。外面は、ハケメ、ヘラミガキによって調整され、内面は頸部までヘラケズリをおこなっている。5310のように肩部



第57図 竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物(4)

に刺突文を施文するものもある。

5341～5345は、高杯の杯部で、5341のように口縁端面が水平で肥厚が小さいものから、5343・5344のように口縁端面が外側に長く延び、内側の端面の稜線をまだ残すものまである。5345は、端面にまだ凹線文を施している。5346・5347は、杯部と脚部を分離する円盤充填の部分である。5349は、脚柱部で内側は本来ヘラケズリをおこなうが省略されている。このため粘土粗の巻き上げが明瞭に残っており、制作時には上部を下にして裾部に巻き上げている状況を示している。脚部の端部は、5350～5352の丸くおさめているものと5353～5359のように肥厚させる両者がある。端部を肥厚された端面には、凹線文を施すものと施さないものがある。外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリをおこなう。脚

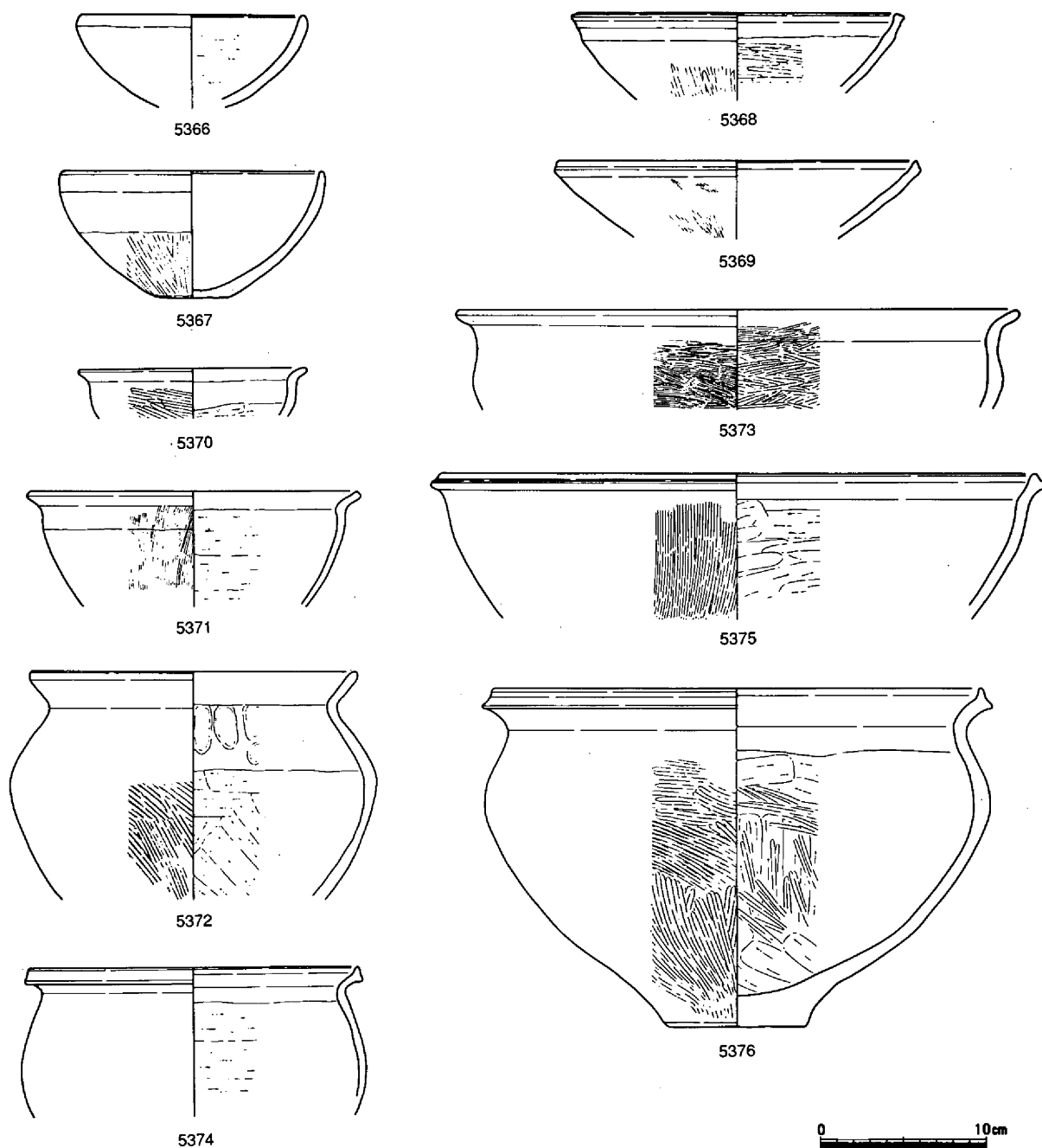


第58図 竪穴住居一205上部土器溜り出土遺物(5)

柱部には、その大半に穿孔を入れている。また、5360～5365の器種が不明の脚部がある。

5366～5376の鉢には、小形のものから大形のものまで出土している。5366・5367は、小形のもので内湾気味に立ち上がる口縁部で、端部は丸くおさめている。5368・5369は、外傾する口縁部で端面をもつ。5370～5376は、いずれも頸部から外反する口縁部をもっている。口縁端部を丸くおさめる5370～5373があり、5374～5376は端部を肥厚させている。外面は、ハケメとヘラミガキによる調整をおこなっており、内面は基本的にはヘラケズリを施し、のちヘラミガキによって仕上げている。鉢は、器形、大きさが変化に富んでいるが、この時期頃から小形の鉢が徐々に多くなっていく。

5377～5380の器台は、小形の5377、大形の5380などがある。口縁部は、いずれも筒部から大きく外



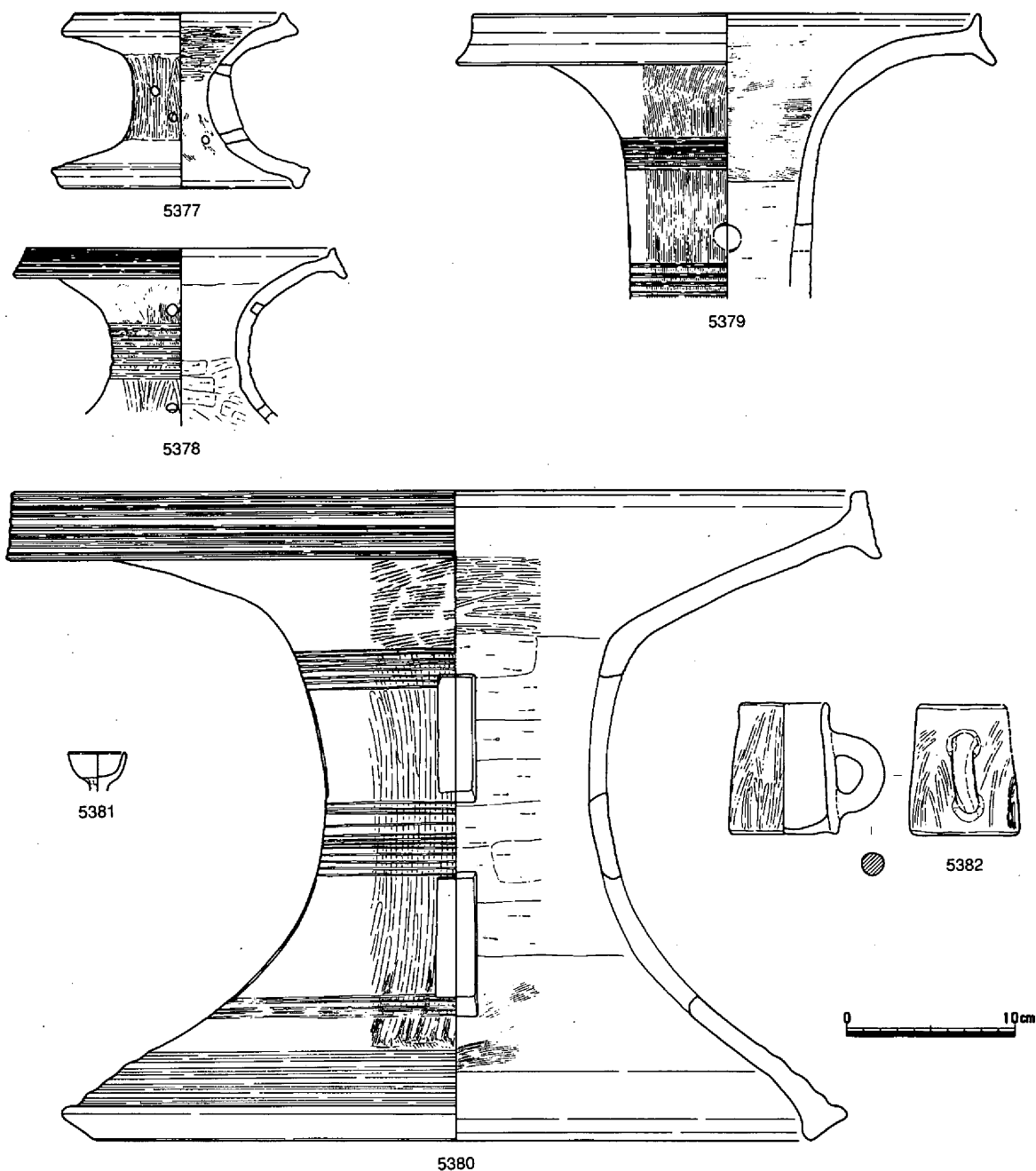
第59図 豎穴住居-205上部土器溜り出土遺物(6)

反し、口縁端部は上下に肥厚させて端面をつくっている。端面には、凹線文を巡らす5378・5380やヨコナデを仕上げている5377・5379がある。脚部は、ふんばり気味で端部は5377・5380のように上下に肥厚させている。脚裾部には5380のように凹線文を巡らしている。筒部は、小形の5377には認められないが5378～5380には凹線文を巡らしており、5380には3か所に施文している。透かしは、円孔のものと方形のものがある。外面は、ハケメのちヘラミガキを基本としている。内面は、脚部、筒部はヘラケズリ、口縁部はヘラミガキ、ヨコナデで仕上げている。

5381は高杯形の手握ね土器、5382はコップ形土器で、丁寧につくられている。

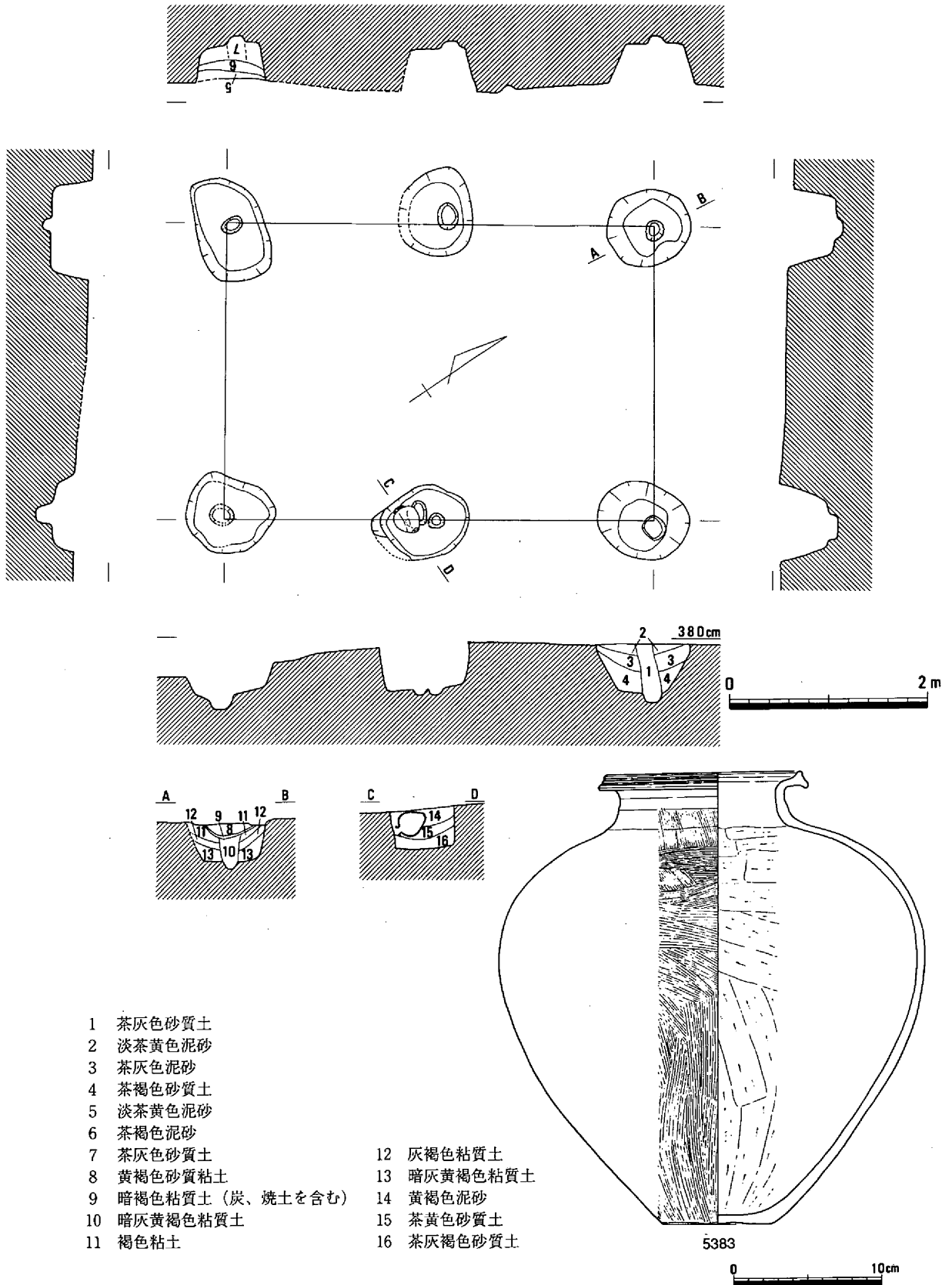
以上、これらの土器は、いずれも弥生後期中頃の特徴を示している。

(中野)



第60図 豎穴住居-205上部土器溜り出土遺物(7)

(3) 掘立柱建物

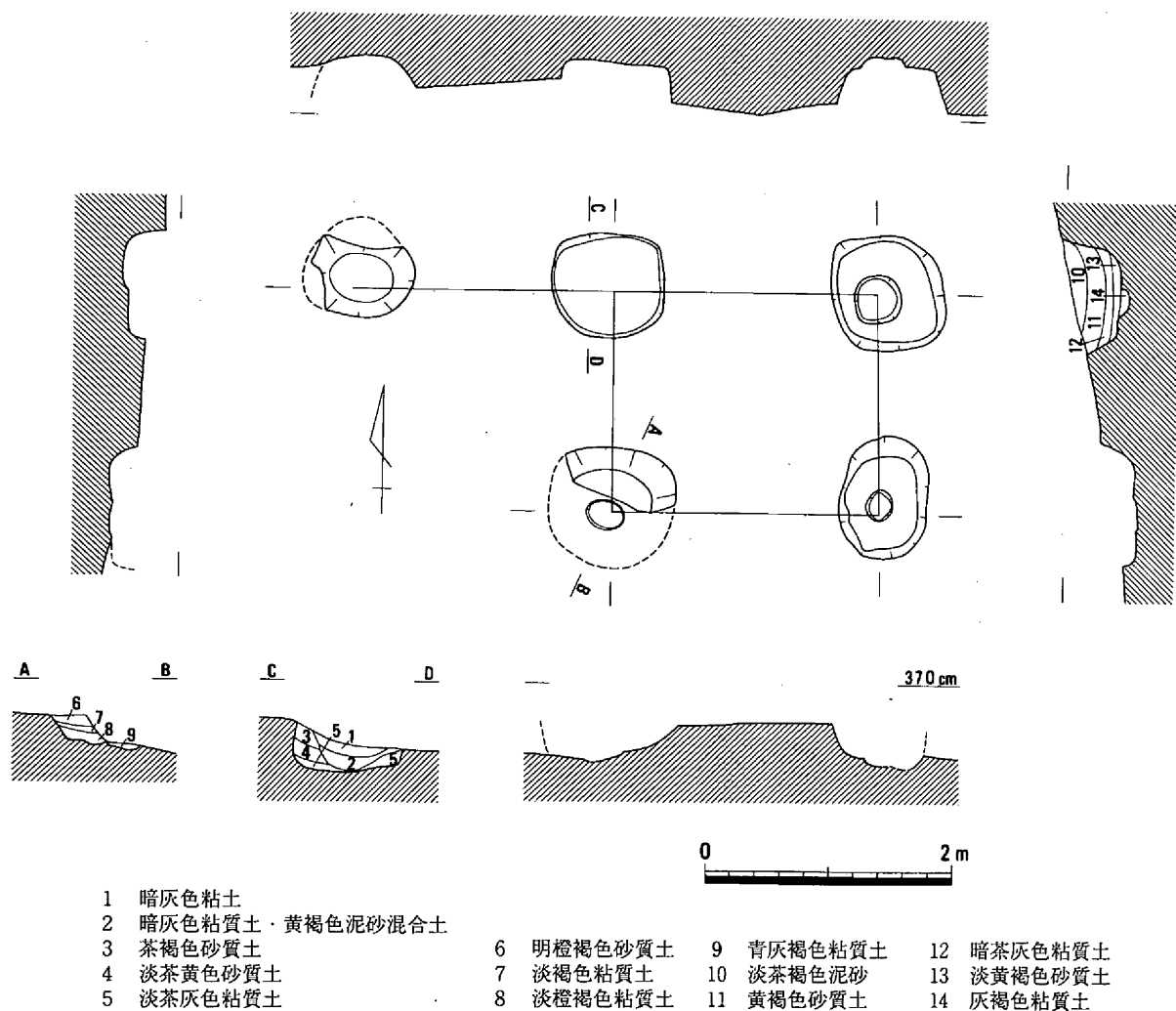


第61図 掘立柱建物-49(1/60)・出土遺物

弥生時代の掘立柱建物は、津寺遺跡ではいままでに1棟しか報告されていない。今回の調査区では、弥生後期の掘立柱建物が集中して4棟が検出された。竪穴住居はいままでに数多く報告されているにもかかわらず、掘立柱建物は今回報告分も含めて5棟しか検出されていない。掘立柱建物が未調査区の別地点に集中して存在するのか、あるいは数少ない集落形態を示すのか判断はできないものの、いずれにしてもやや特異なあり方を示している。 (中野)

掘立柱建物-49 (第61図)

この掘立柱建物は、調査区中央のやや南寄りに位置し、竪穴住居-202の南約2mに検出された。規模は、2×1間で、桁行は434~438cm、梁間は、303cmを測る。桁の柱間は、210~226cmである。面積は約13.2㎡を測る。柱穴は、円形ないし不整形を呈しており、大きさは112×75cm~78×84cmで、深さは45~62cmの規模をもつ。柱穴の中には、柱痕跡を残しているものもあり、重みによって柱穴底部に沈みこんだ痕跡を残していた。また、柱穴底部には、2か所に柱痕跡を残しているものもあり、建て替えられたものと考えられる。さらにその柱穴には、図示した5283の壺が完形品で検出されたものもある。この壺は、底部よりやや浮いた状態で横方向に置かれており、意識的に何かの目的をもって埋められた可能性が高いと考えられる。出土遺物としては、5383以外に各柱穴から弥生期の土器が少量検出されている。

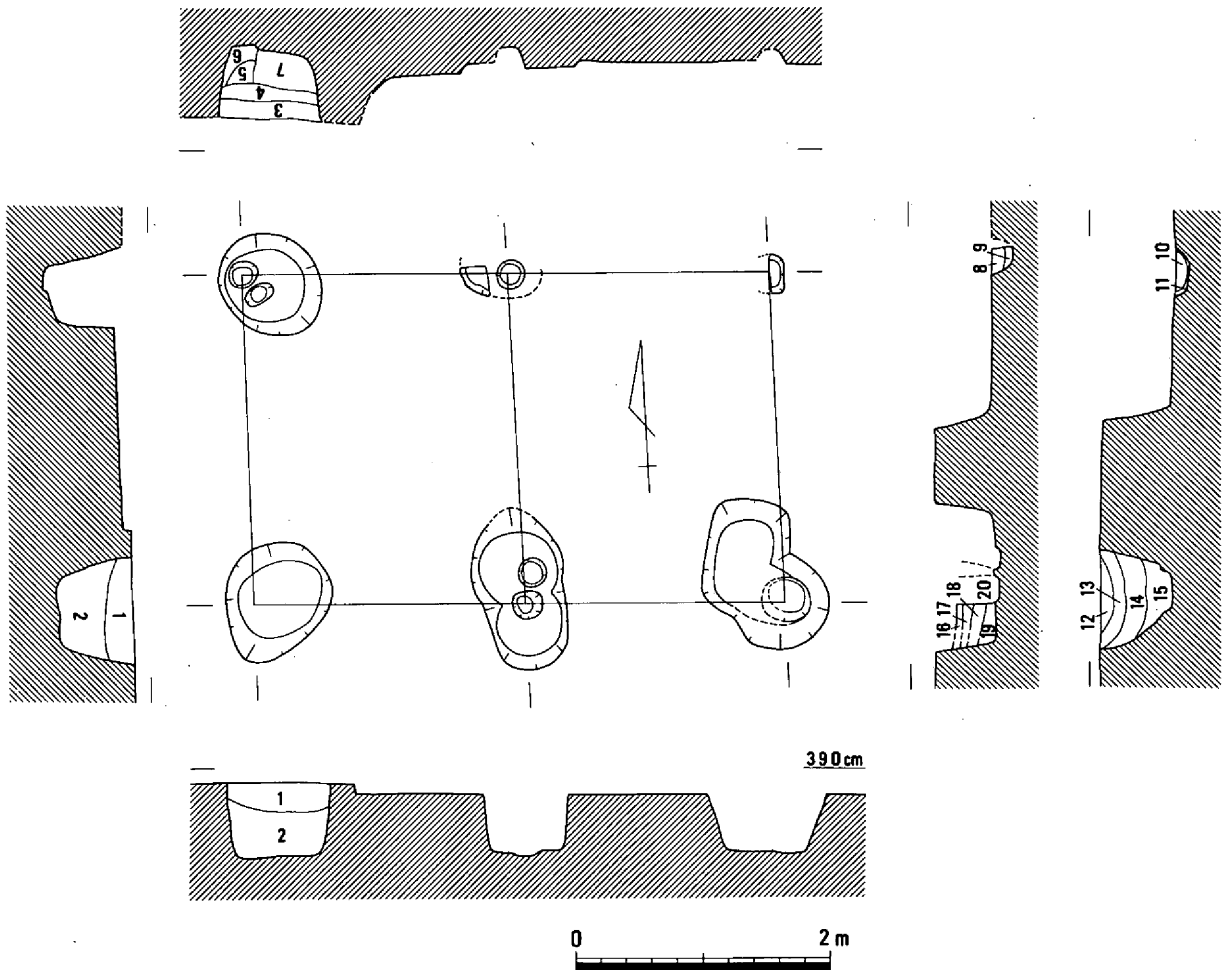


第62図 掘立柱建物-50 (1/60)

5283は、「ハ」の字に開く頸部から屈曲気味に大きく外反する口縁部をもち、端部は上下に肥厚させ外面に端面をつくりだしている。端面には、凹線文を数条巡らしている。外面は、タテおよびヨコ方向のハケメによって調整されており、内面は頸部まで底部からヘラケズリを施している。5383は、弥生後期中頃の特徴を示している。(中野)

掘立柱建物-50 (第62図)

この掘立柱建物は、調査区中央のやや南寄りに位置し、掘立柱建物-49の南側に一部重なり検出された。掘立柱建物と直接切り合っていないため先後関係は明らかでない。掘立柱建物-50の南側には、後世の大溝が存在し大きく削平を受けているため残存状態は良くなく全体の規模も明らかでない。検出された規模は、2×1間分東西方向に長辺をもつもので、南西の柱穴は削平のため検出できなかった。桁行は約407cmで、梁間は約179cmを測る。梁間は、桁行に比べて柱間が狭く、やや細長い建物となるため南側に延びる可能性が高いと思われる。桁の柱間は、205~215cmで、柱穴は隅丸方形および



- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1 灰茶褐色砂質土 | 6 茶褐色砂質土 | 11 淡灰褐色砂質土 | 16 黄褐色砂質土 |
| 2 淡褐色砂質土 | 7 暗茶褐色砂質土 | 12 茶褐色砂質土 | 17 茶黄褐色砂質土 |
| 3 茶黄色砂質土 | 8 淡茶灰色砂質土 | 13 淡黄灰色砂質土 | 18 淡茶黄色砂質土 |
| 4 暗茶黄褐色砂質土 | 9 淡灰褐色砂質土 | 14 茶灰色砂質土 | 19 淡黄灰色砂質土 |
| 5 灰茶褐色砂質土 | 10 暗茶褐色粘質土 | 15 暗灰褐色砂質土 | 20 淡茶灰色砂質土 |

第63図 掘立柱建物-51 (1/60)

楕円形を呈している。深さは、深いところで約55cm残存していた。柱穴の底部の中央には、柱の沈み込んだ柱痕が残っているものもあった。この建物は、南側に伸びる可能性があるため、総柱建物になることも考えられそうでそうすれば西側にも伸びる可能性ももっている。出土遺物は、弥生期と思われる土器の細片が少量検出されている。この建物の時期は、埋土等から考えて掘立柱建物-49と同時期であろう。(中野)

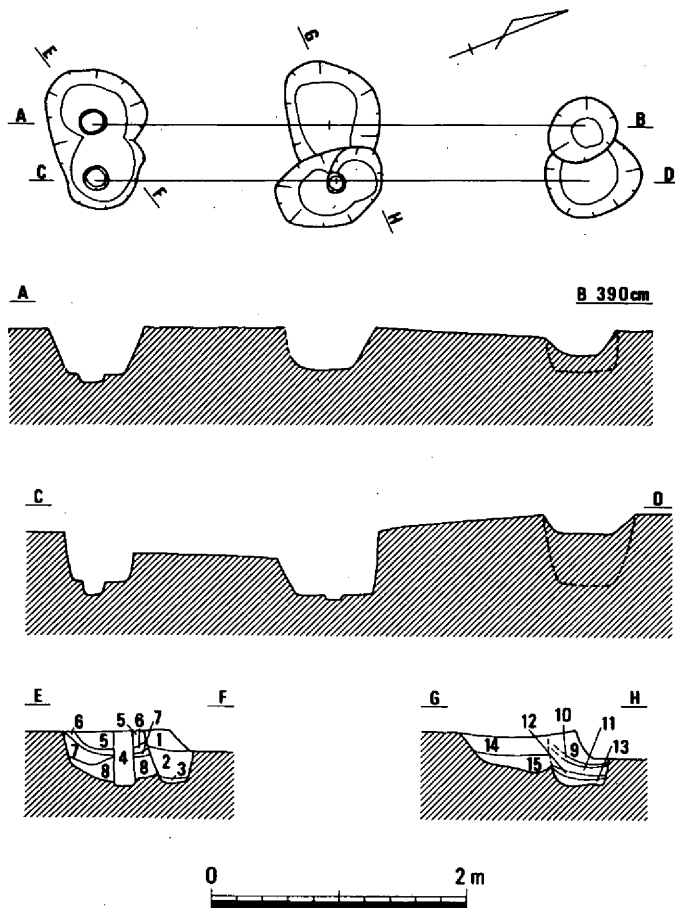
掘立柱建物-51 (第63図)

掘立柱建物-51は、掘立柱建物-49・50の東側に近接して検出された。規模は、2×1まで長辺は掘立柱建物-50とほぼ同じで東西方向に向いている。桁行は414~416cm、梁間は260cmで、掘立柱建物-49とほぼ同様である。桁の柱間は204~214cmを測り、柱穴は円形および楕円形を呈している。柱穴は重複しており、建て替えがおこなわれたと考えられる。柱穴は約90~100cm前後の規模で、深さは深いもので58cmを測る。P-1、P-2は、古墳時代前期の竪穴住居-287に削平されていたが、床面の貼り床面の下部に一部残存していた。出土遺物としては、土器の細片が検出されたが時期を限定できるものではなかった。しかし、竪穴住居との切り合いおよび埋土等から掘立柱建物-49・50と同時期と考えられる。(中野)

掘立柱建物-52 (第64図)

この掘立柱建物は、掘立柱建物-51の東側に近接して検出された。建物は、3本の柱穴が重複して確認され柱穴列として検出されたが、埋土等からみて前述した掘立柱建物-49~50と酷似しており、

掘立柱建物を構成する柱穴列と判断してこの項で取りあつかった。周辺域は、竪穴住居等により大きく削平を受けているため柱穴も削平されたと思われる。柱穴は、2本が一对となっており、建て替えがおこなわれたことを示している。長さは約380cm前後あり、柱間は164~200cm、188~197cmを測る。平面形は、円形および楕円形を呈する。出土遺物は認められなかった。(中野)



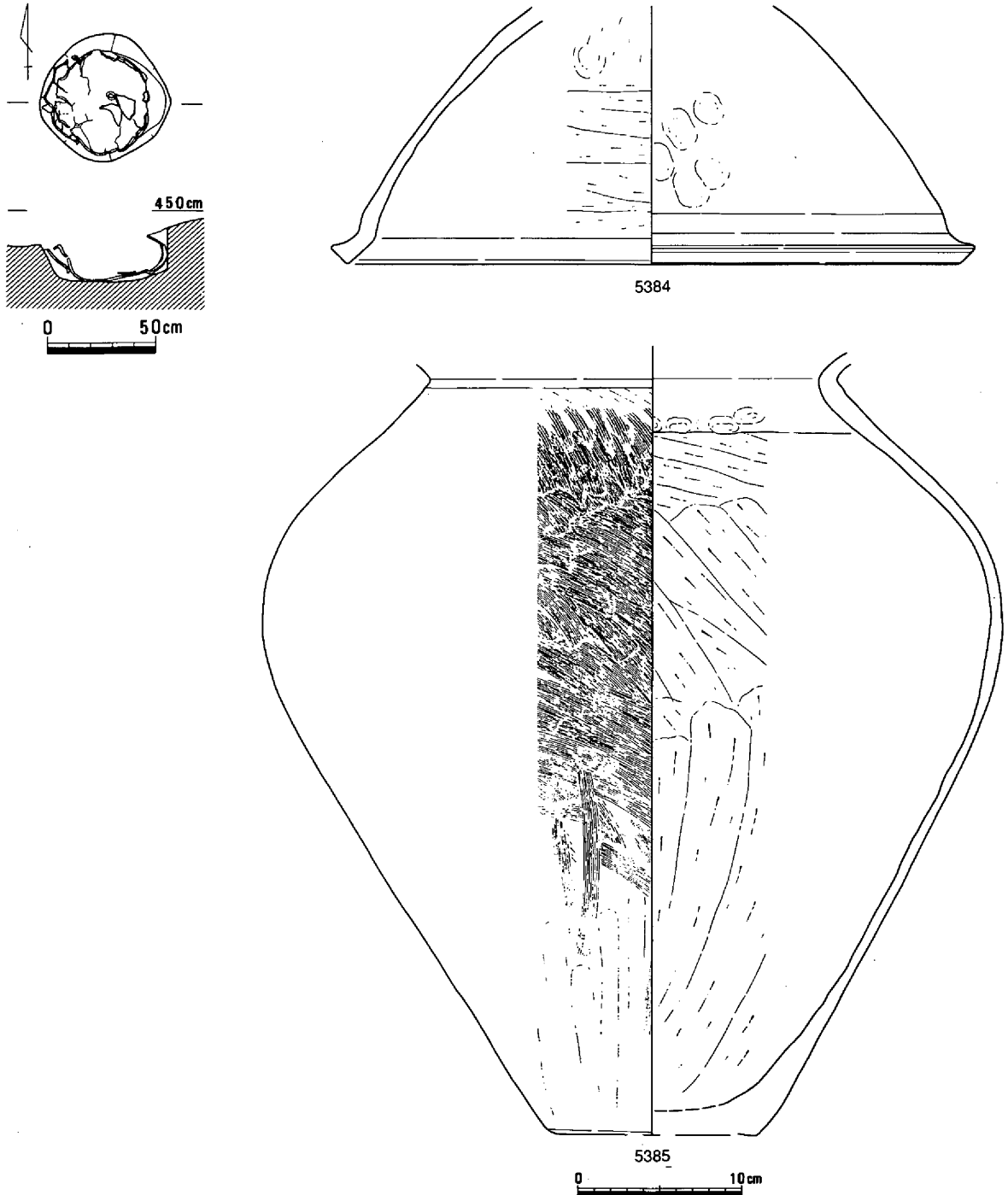
- | | |
|-----------|---------------|
| 1 淡茶灰色砂質土 | 11 茶灰褐色砂質土 |
| 2 淡茶黄色砂質土 | 12 黄褐色砂質土 |
| 3 茶灰色砂質土 | (10層と同じ) |
| 4 淡茶灰色泥砂 | 13 茶灰色砂質土 |
| (下層は砂質土) | (炭を含む) |
| 5 淡黄褐色泥砂 | 14 茶黄色砂質土 |
| 6 茶褐色砂質土 | (茶褐色土、黄褐色土互層) |
| 7 淡茶黄色泥砂 | 15 茶褐色砂質土 |
| 8 淡茶褐色砂質土 | (炭を多く含む) |
| 9 淡茶黄色砂質土 | |
| 10 黄褐色砂質土 | |

第64図 掘立柱建物-52 (1/60)

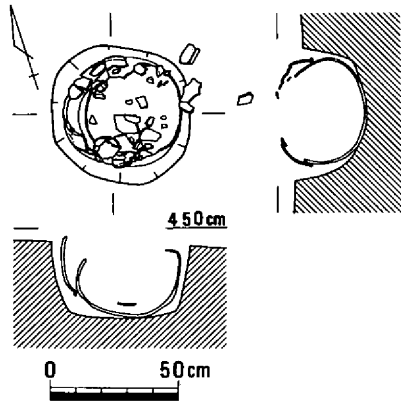
(4) 土器棺墓

土器棺墓-12 (第65図、図版6-1・57)

017のほぼ中央、3棺で一群を構成する墓地の西端に位置する。奈良時代中頃の東西区画溝により削平を受け、土壌および土器棺の上半部が破損、消失した状況で出土している。大甕の口縁部を打ち欠き、胴部下半に直径約2cmの円孔を穿ち、鉢でもって蓋をした土器棺である。直径60cm、深さ25cmの不整円形の土壌内に甕の体部を掘り方底に接着、安定させ、底部を東、口縁部を西側に向けて埋設



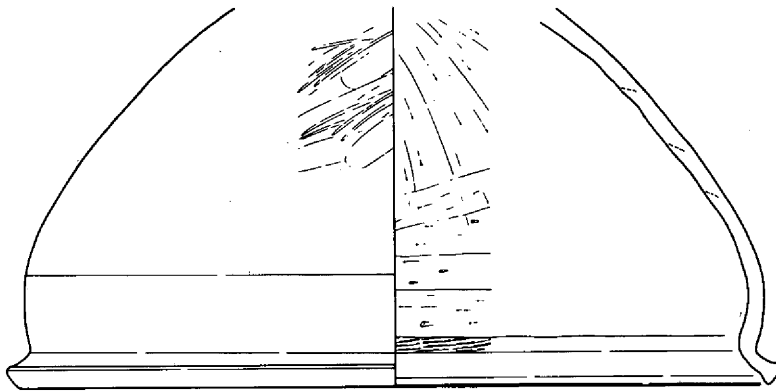
第65図 土器棺墓-12 (1/30)・出土遺物



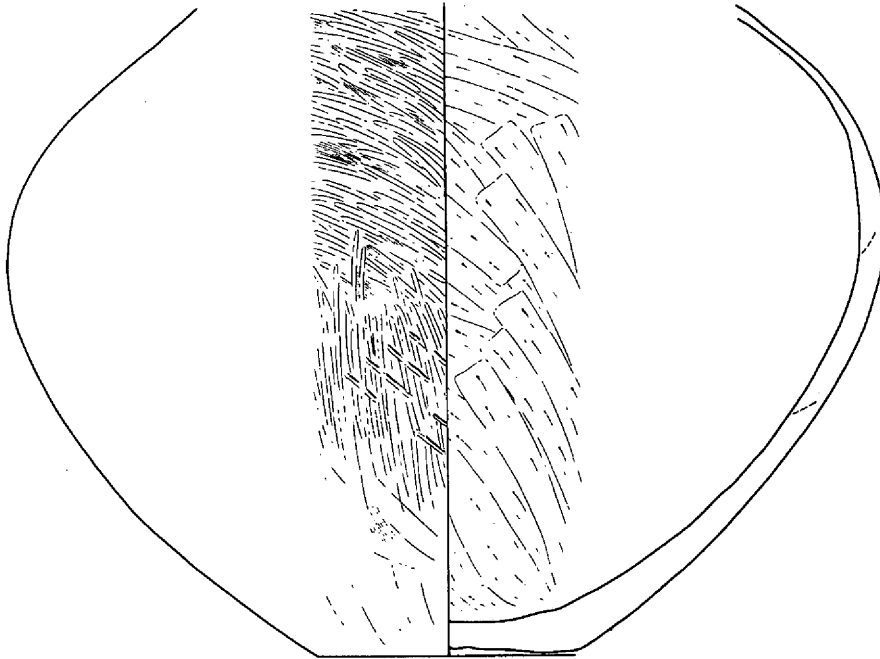
している。棺身に転用された甕は、器高48.2cm、胴部最大径45.4cm、底径12.9cm、棺蓋の鉢は口径37.2cm、器高約16.0cmをはかる。甕内堆積土の水洗いを行ったが遺物は認められなかった。弥・後・Iの中相に比定できる。(高畑)

土器棺墓-13 (第66図、図版57)

〇17区の中央、3棺で一群を構成する墓地の北端にあたり、土器棺墓-12の30cm東側に位置する。土器棺墓-12と同様に奈良時代中頃の溝により上半部を破損、消失している。壺の口縁部を打ち欠いて棺身とし、鉢を棺蓋に転用している土器棺である。長さ57.5×55cm、深さ30cmの円形土坑底に壺の胴部下半を



5386



5387

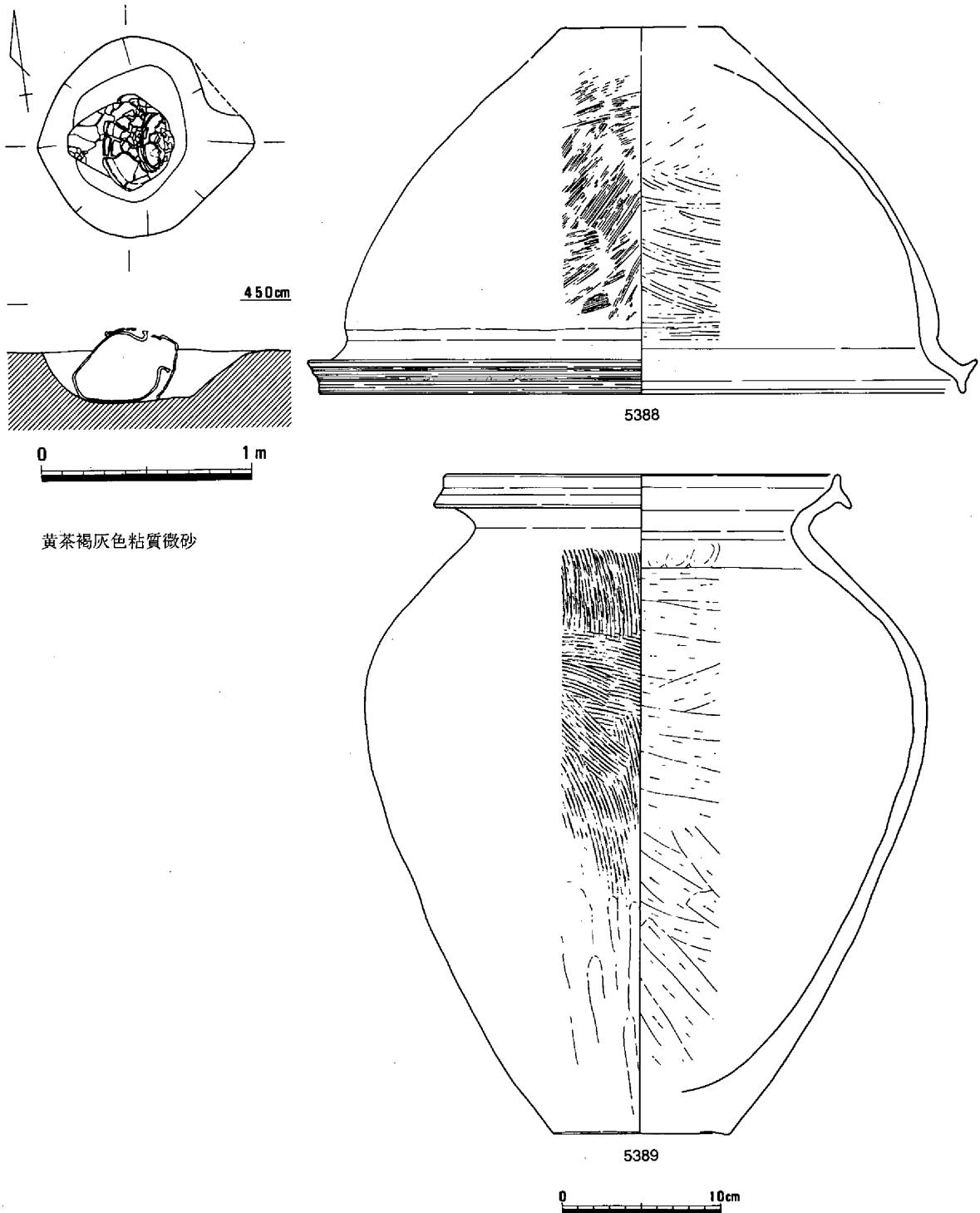


第66図 土器棺墓-13 (1/30)・出土遺物

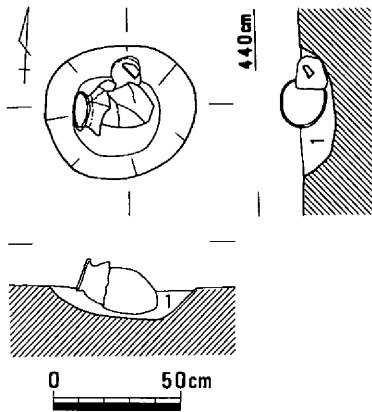
接着させ、斜めに60°傾向けた状態で埋設している。土器棺墓-12と同様に西に口縁部を向け、東に底部を向けている。土壙底は海拔415cmをはかり、土器棺墓-12より約2cm低く掘り込まれている。甕の胴部最大径は46.0cm、底径13.6cm、残存高34.3cm、鉢は口径39.2cm、胴部最大径38.7cm、残存高20.1cmをはかる。棺内は無遺物であった。弥・後・I～IIに比定できる。 (高畑)

土器棺墓-14 (第67図、図版6-2・55)

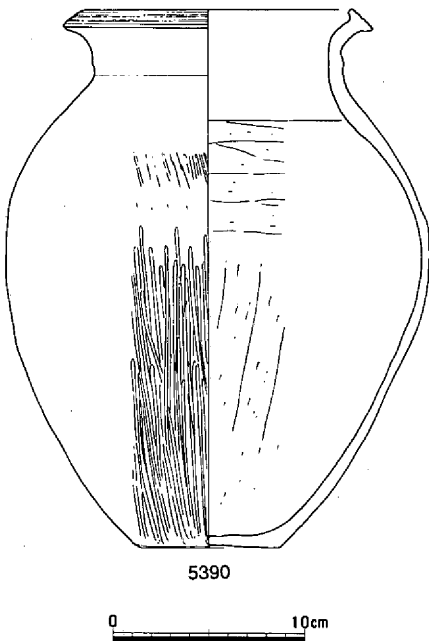
〇17区の中央、3棺で一群を構成する墓地の南端にあたり、土器棺墓-12、13の70cm南側に位置す



第67図 土器棺墓-14(1/30)・出土遺物



1 暗茶褐色粘質微砂（炭混じり）



第68図 土器棺墓-15(1/30)

・出土遺物

る。後世の削平により棺蓋（鉢）の一部が欠損するのみで、前者の2棺よりも残存状況が良好である。甕、鉢ともに打ち欠き、穿孔などの無い土器を使用した土器棺である。土壌の掘り方は103×95cm、深さ24cmの不整形円形であり、他の2棺より大形である。その埋設の方向は東に口縁部、西に底部を向け、斜めに23°傾けており、他の2棺と異なる方法である。土壌底は海拔402cmをはかり、3棺の中では最も深いものである。甕の規模は最も小形で、口径13.9cm、最大径22.0cm、底径7.1cm、器高28.5cmをはかる。鉢は口径40.8cm、最大径37.5cm、残存高20.1cmをはかり、他の2棺の規模に近い。甕内は無遺物である。弥・後・Iに比定できる。（高畑）

土器棺墓-15（第68図、図版6-3）

O17の中央から東、土器棺墓-14から26.5m東に位置する土器棺墓である。長さ60×53cm、深さ14cmの円形土壌内に土器棺が埋設され、口縁部を西に、底部を東にして斜め24°に傾いた状態である。土器は壺のみの単独出土であり、胴部下半に焼成後の直径7.5cmの穿孔が認められた。胴部東側に接して18×12×8cm、重さ2kg強の河原石が置かれており、棺の押えの状態であった。壺は口径13.9cm、最大径22.0cm、底径7.1cm、器高28.5cmをはかり、他の棺身に転用された壺、甕よりさらに小形品である。壺内には遺物は認められなかった。弥・後・Iの範疇である。

本土器棺墓は竖穴住居-194から北東に3.5m離れた場所であり、出土遺物等から両遺構が同時に併存していた可能性が強いと考えられる。このような関係は前述した竖穴住居-193A・B・Cの3軒と土器棺墓-12・13・

14の3基にも見られる。同時期の竖穴住居と土器棺墓（小児棺）がわずかな距離をおいて営まれる事実、津寺遺跡では土器棺墓が弥生時代後期の集落の西側に配置される傾向が看取できる。（高畑）

（5）袋状土壌

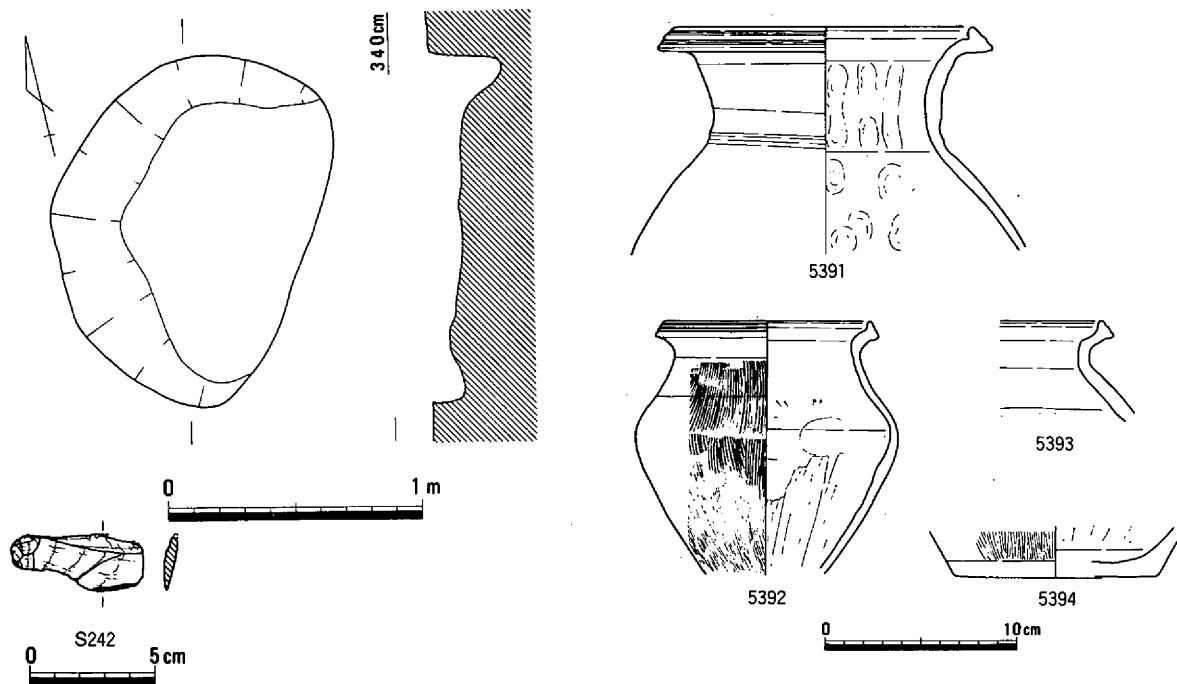
袋状土壌-81（第69図）

P17区の東辺中央部、橋脚（P5区）掘り方内に7基の袋状土壌が存在する。その分布は東西にわかれ、西側に6基、東側に1基の状態である。西側はさらに南北にわかれ、袋状土壌-81は南側4基のうちの南端に位置する。

本土壌および袋状土壌-85の上位には260×165cm、深さ60cmをはかる楕円形の落込みがあり、その埋土は下位にあった袋状土壌-81・85が崩れた後に堆積した状況を示す。そのためか残存状態が悪く、

東側の約半分を消失している。残存部で上面径136cm、底面径136cm、底面までの深さは10cmをはかり、底部周縁に約30cmの溝を巡らしている。

遺物は埋土からの出土であり、土器小片が30点、石器1点があるが、実測可能なものは非常に少な



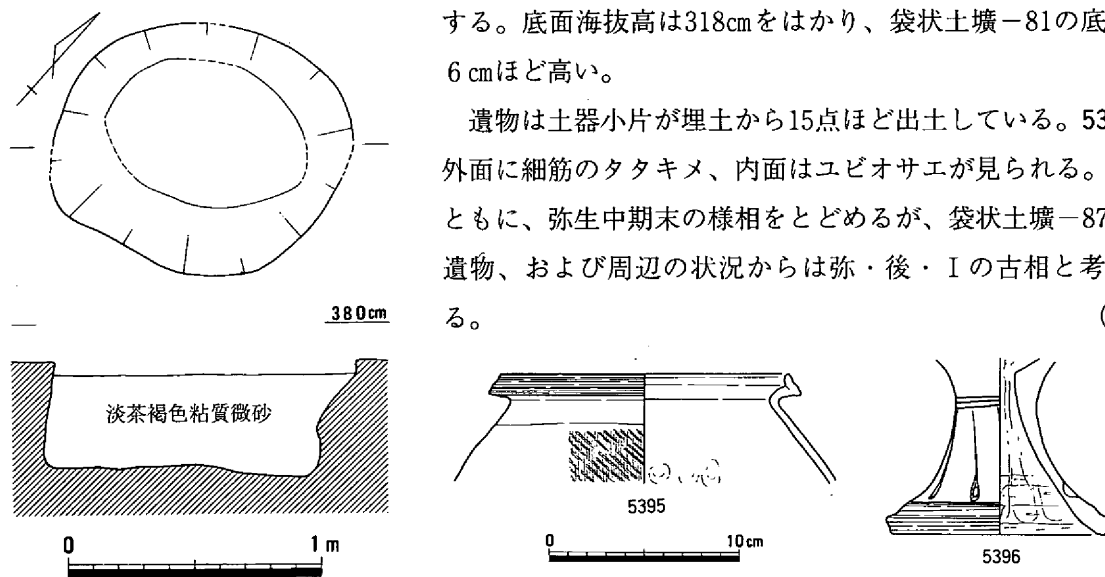
第69図 袋状土壇-81(1/30)・出土遺物

く、5392~5394、S242が図化できたものである。弥・後・Iの範疇であろう。なお、5391は上面での遊離である。(高畑)

袋状土壇-82(第70図)

P17区の東辺中央部、袋状土壇-81の北側1mに位置する小規模な土壇である。上端部径は120×105cm、深さ45cmをはかり、楕円形の平面にて断面は袋状を呈する。底面海拔高は318cmをはかり、袋状土壇-81の底部より6cmほど高い。

遺物は土器小片が埋土から15点ほど出土している。5395は器外面に細筋のタタキメ、内面はユビオサエが見られる。高杯とともに、弥生中期末の様相をとどめるが、袋状土壇-87の出土遺物、および周辺状況からは弥・後・Iの古相と考えられる。(高畑)



第70図 袋状土壇-82(1/30)・出土遺物

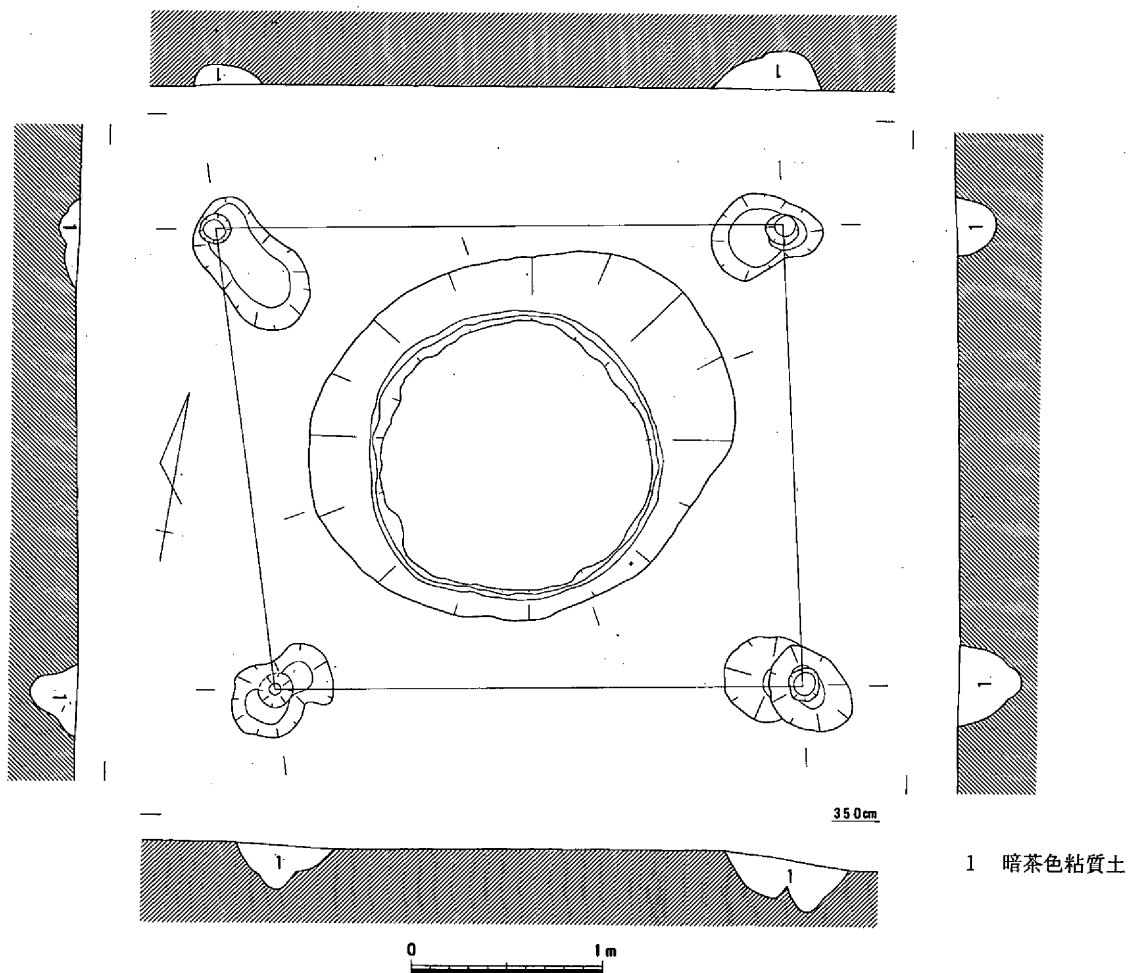
袋状土壙-83 (第71・72図、図版7-1・2)

P17区の東辺中央部、袋状土壙-82より6m東にあり、7基まとまる袋状土壙の東端に位置する。本来、上屋が存在した貯蔵穴と考えられ、1×1間の建物の4柱穴掘り方が袋状土壙-83を方形に囲んでいる。西川、中屋調査区内の袋状土壙283基中にも上屋を持つと考えられるものはこれ1基である。

上面径227cm、底面径158cm、深さ92cmをはかり、平面は正円形に近く、断面形は袋状を呈する。底面海拔高は246cmをはかり、底面周囲には幅2～8cm、深さ3～8cmの溝が一巡する。

埋土は12～13層からなり、堆積断面は北東壁で南に下降する土層、北西壁で砂時計内の砂堆積と同じく、中央に一度盛り上がり、そして南に下降する土層が看取できる。この状況から袋状土壙内に北側の方向から物が投げ込まれ、中央に盛り上がりながら南に流れ落ちたと考えられる。しかし、まとめて一度に投げ込まれたとは考えがたく、不用になった土、炭、灰、土器等を随時処理したようである。これは貯蔵穴として使用された袋状土壙の壁上部が崩壊し、壁際に埋土の間層として混入している事実からも理解することができる。

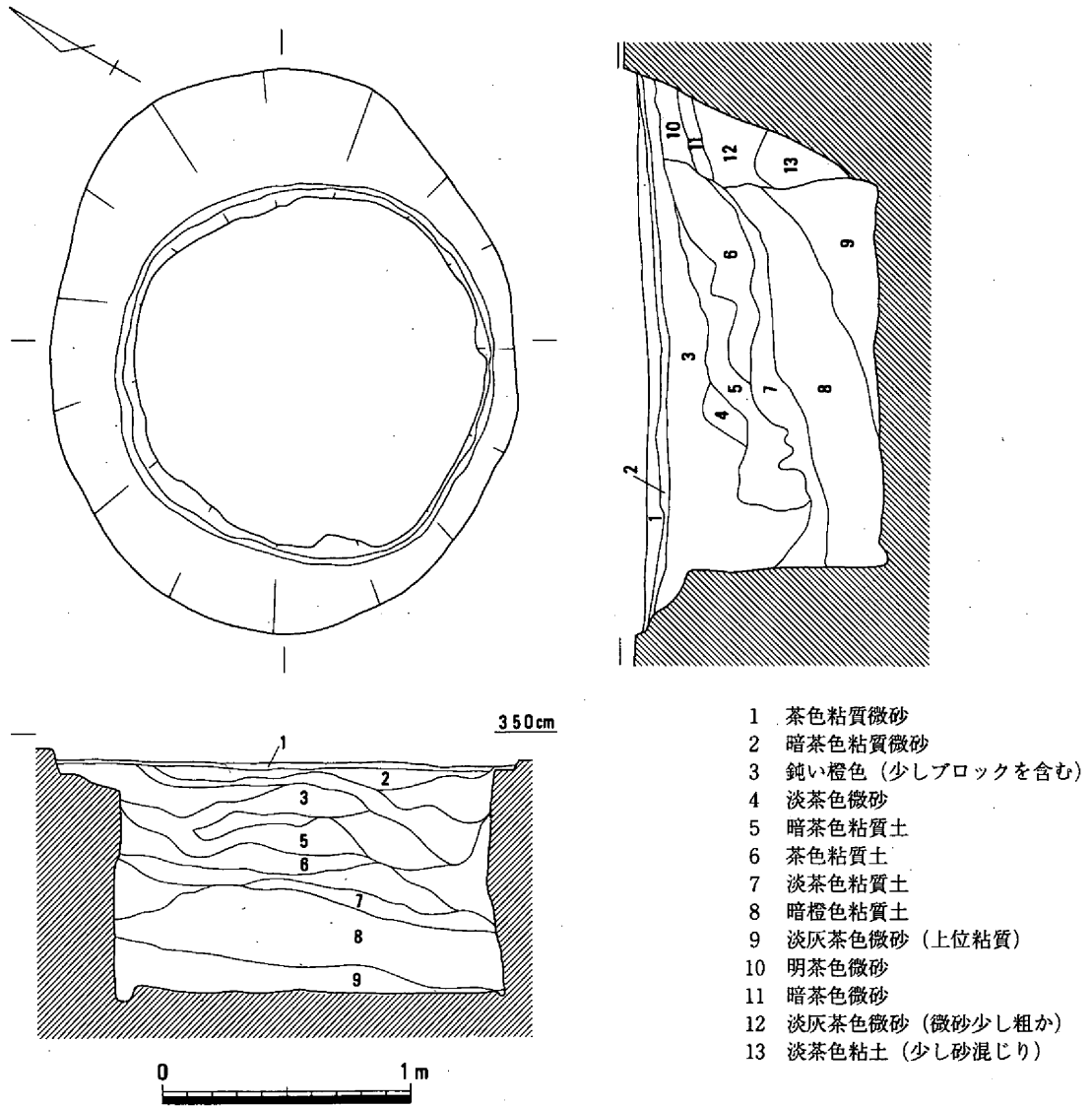
上屋を支える下部構造は4本の柱穴からなり、柱間は北辺296cm、東辺243cm、南辺277cm、西辺246cmをはかり、平面は方形を呈する。主軸がN-80°-Wの東西に長い掘立柱建物が考えられる。柱穴は1回の建替えが行なわれて痕跡をとどめ総数8穴となっており、建物が少し大きくなっている。柱



第71図 袋状土壙-83(1/40)

穴は直径40cm前後にて深さ10~33cmをはかるが総じて浅いようである。埋土は内側の古い方が淡茶色粘質土であり、新しい方が暗茶色粘質土である。弥生時代後期前半以前の遺構は袋状土壙-83と同様に浅く、後世の削平による影響が考えられる。後期後半期の遺構では後期前半期ほどは浅くなく、竪穴住居を例にとれば、検出面から床面までの深さが100cmをはかるものがある。

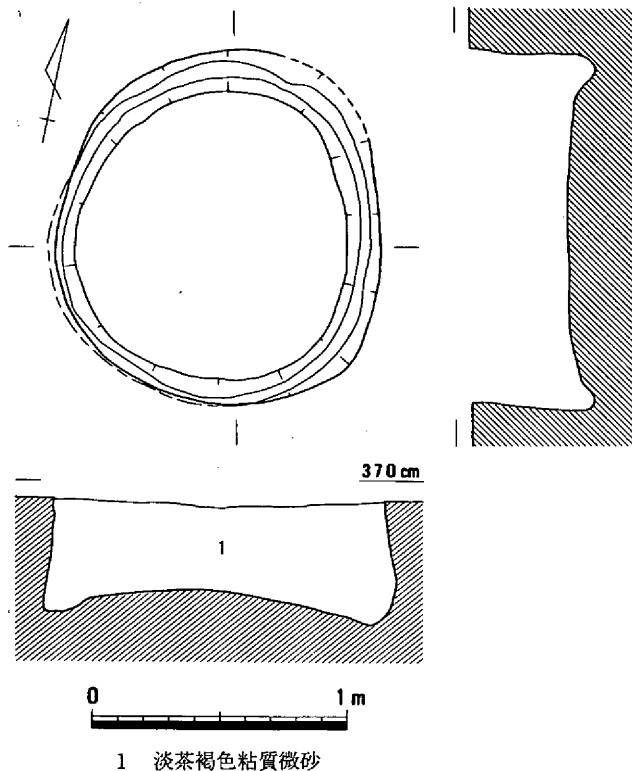
遺物は袋状土壙、4柱穴のどちらからも確認されておらず、袋状土壙内への土器の投棄は行なわれていない。時期的には周辺の袋状土壙に類する弥・後・Iの範疇であろう。(高畑)



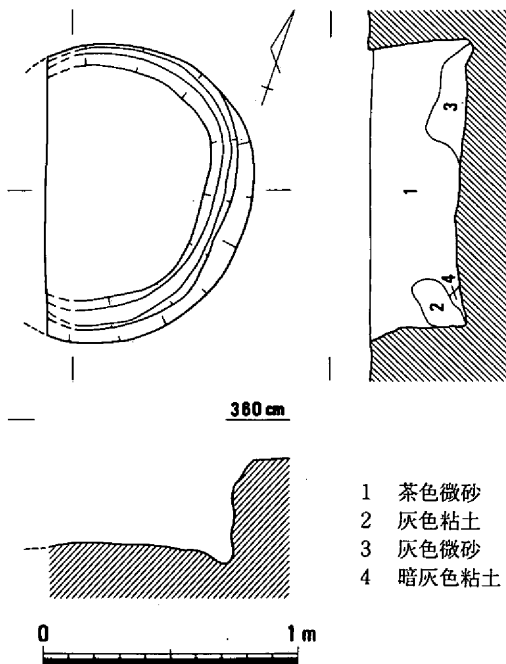
第72図 袋状土壙-83(1/30)

袋状土壙-84 (第73図)

P17区の東辺中央西側、袋状土壙-87の西隣に位置し、上端部がほとんど接している。土壙-351の下位より出土したもので、遺構検出面は海拔364cmをはかる。上端長径141cm、短径135cm、深さ38cmの円形を呈する袋状土壙であり底面周縁に幅約13cm、深さ10cmの溝が巡る。埋土は淡茶褐色粘質微



第73図 袋状土壙-84 (1/30)



第74図 袋状土壙-85 (1/30)

砂の1層のみであり、底部断面は凸状を呈し、海拔325cmをはかる。

この袋状土壙の断面形状は上部が内傾し、底面中央が盛り上がり、周囲に溝を有する形態である。P5（橋脚掘り方）内から出土した袋状土壙6基のうち4基までが周囲に溝を有する形態であるが、全調査区では少数に属する形態である。O17区を中心に、袋状土壙135基が調査された西川調査区では、底面周囲に溝を有する形態の袋状土壙は見られず、他ではP17区を中心にする中屋調査区において認められる。本袋状土壙を含め、そこより西側に広がり、溝-12付近まで分布している。（高畑）
袋状土壙-85（第74図）

P17区の東辺中央西側、袋状土壙-84から南西に2.5m、袋状土壙-86の西隣に位置する。袋状土壙-81、82、85、86は近接して1か所に集中しており、本土壙は西端に所在する。西側約1/4を側溝により削平を受けた中形規模のもので、遺構検出面は海拔346cmである。上端部径は120cm、底面径は110cm、深さ35cmの円形を呈する袋状土壙である。埋土は4層からなり、第2・3層の灰色粘土、灰色微砂がブロック状に認められた。底面は凸状であり海拔309cmをはかる。断面形状は上部に向かって内傾し、底面中央が盛り上がり、周囲に溝を有する形態である。袋状土壙-84より若干小形であるが、ほぼ同様の造りである。

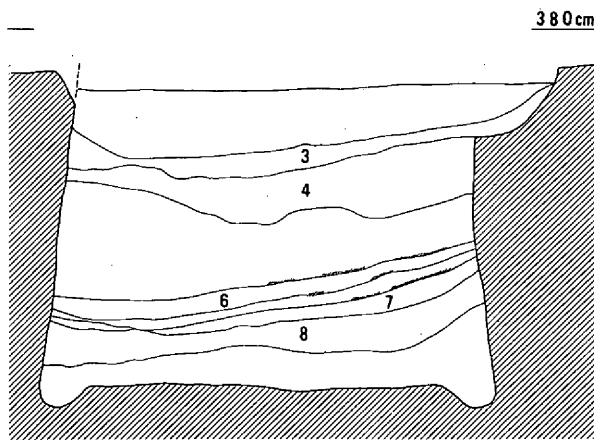
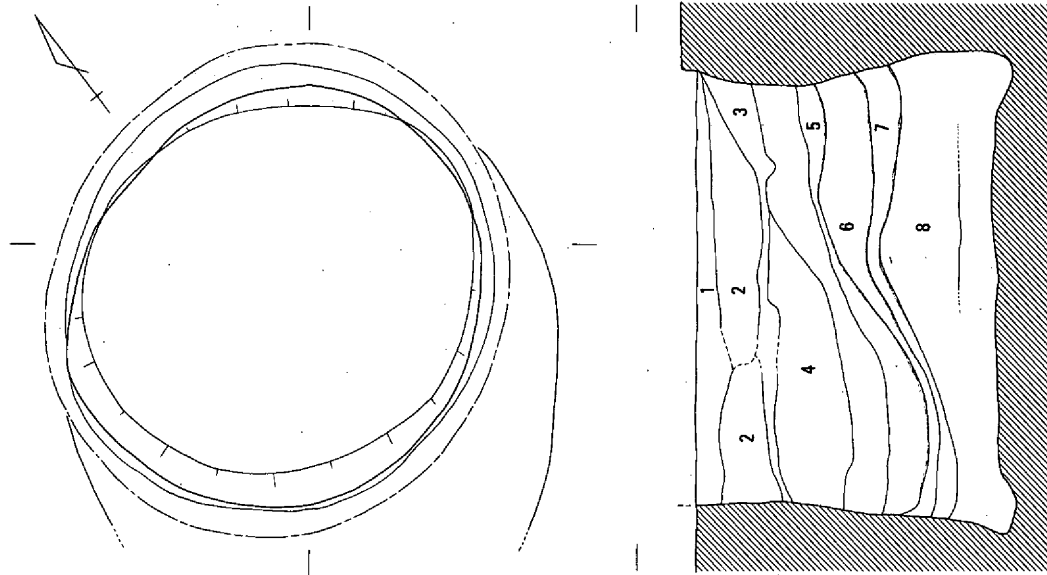
遺物は土器小片が出土しているが、実測は不可能である。細部の特徴からは、弥・中・IV～弥・後・Iの範疇と考えられる。（高畑）

袋状土壙-86（第75図）

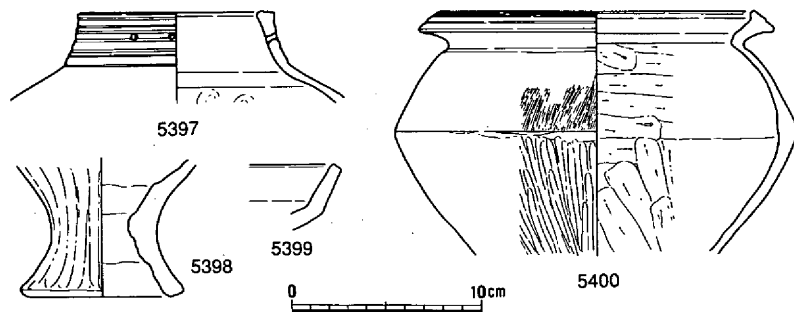
P17区の東辺中央西側、袋状土壙-85から北東2.7mに位置する残存状態の良好な袋状土壙である。遺構の検出面は海拔365

cmであるが、周辺の海拔394cm付近にて同時期の土器片、炭等が分布し、本土壌上位の海拔375cmでも本土壌と関連する遺物が認められた。検出面よりさらに上位から掘り込まれていた可能性が強い。

上端長径170cm、短径153cm、底面径195cm、深さ128cmをはかる大形の袋状土壌であり、底面周縁に幅20cm、深さ8cmの溝が巡る。断面形状は平坦な底面から上部に向って約80°で内傾しながら立上がっており、いわゆる袋の形状を呈している。埋土は10層からなり、堆積状況は東側から西側に下降す



- 1 灰茶色土
- 2 淡茶褐色粘質微砂
- 3 灰茶褐色粘質微砂
- 4 茶褐色粘質土
- 5 炭層
- 6 明茶褐色粘質土
- 7 明茶褐色粘質土
- 8 暗灰褐色粘土

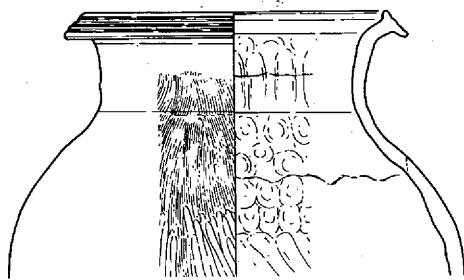
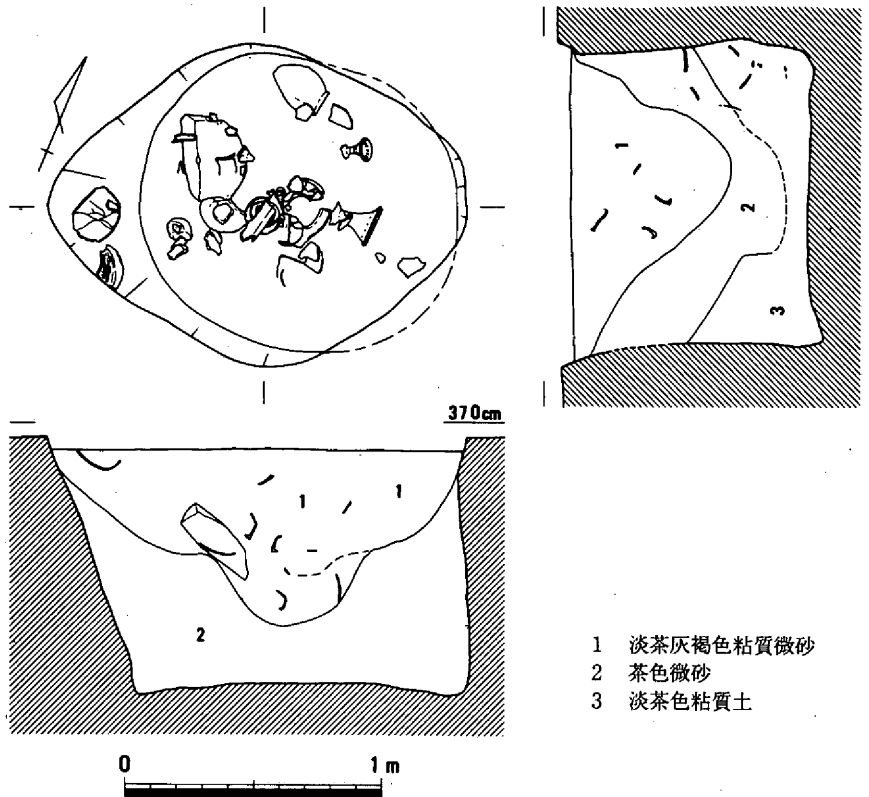


第75図 袋状土壌-86(1/30)・出土遺物

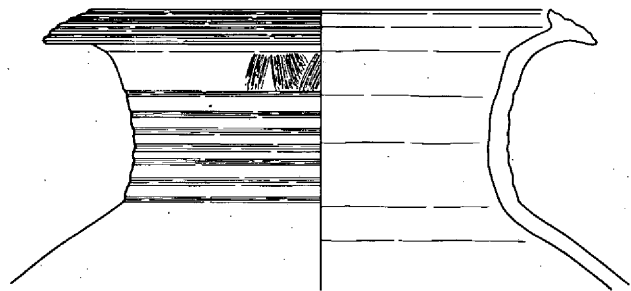
第3章 調査区の概要

る土、炭層からなる。それらは一度に投棄されたものではなく、第5・6層、第6・7層、第7・8層の間層に幅1~2cmの筋状の炭層が認められる。

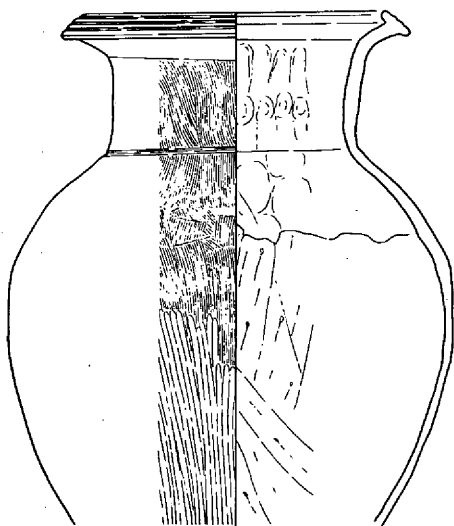
遺物は第7・8層の下位層から約60点が出土しているがすべて小片である。図化した以外に器台、製塩土器等の細片が含まれる。弥・中・Ⅳの土器片もみられるが、廃棄の時期は弥・後・Ⅰと考えられる。(高畑)



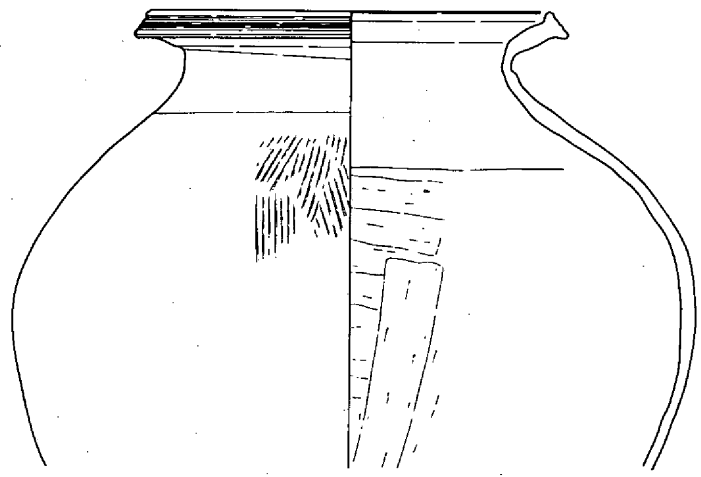
5401



5403



5402



5404



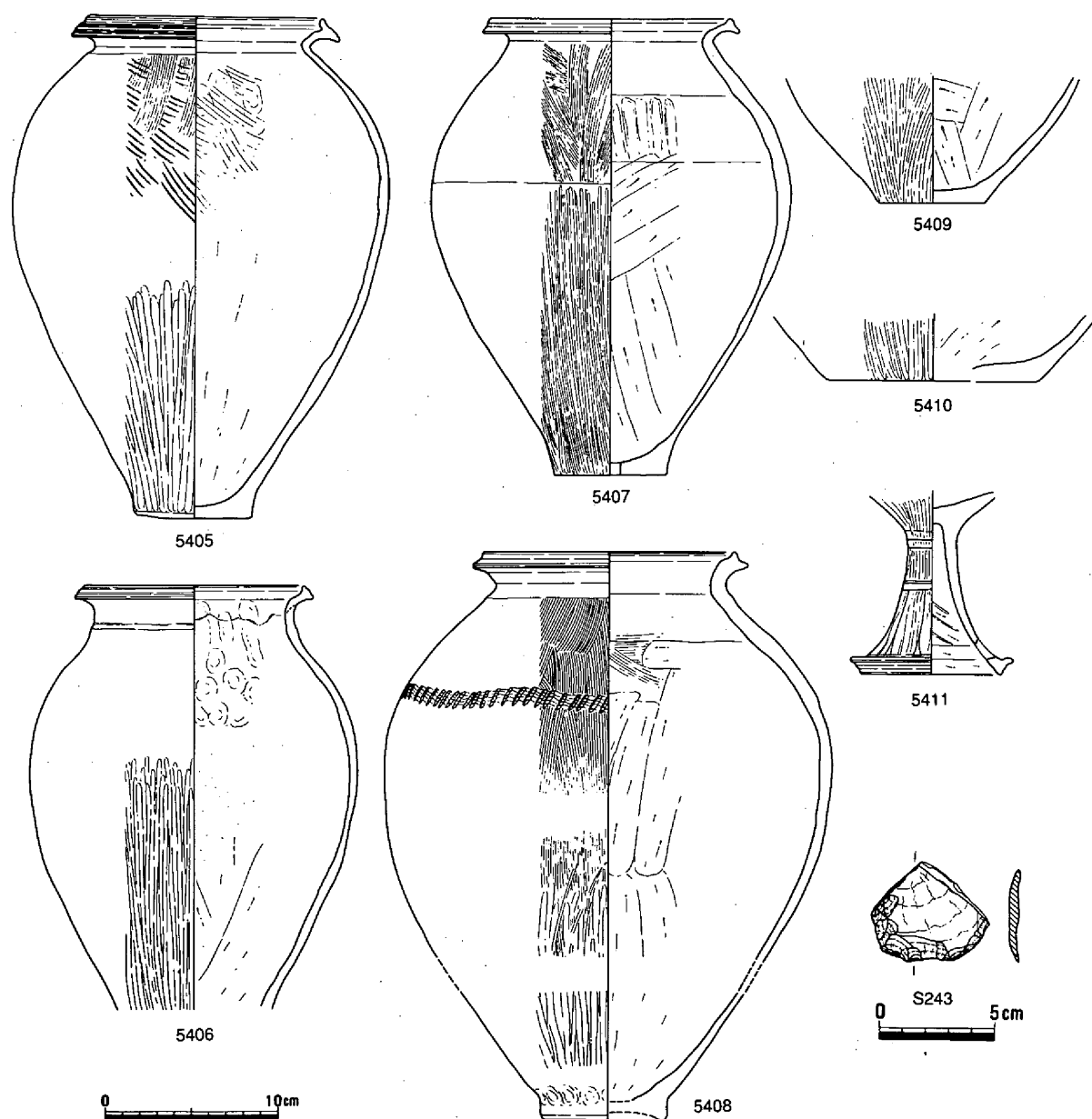
第76図 袋状土壌-87(1/30)・出土遺物(1)

袋状土壙-87 (第76~78図、図版7-3)

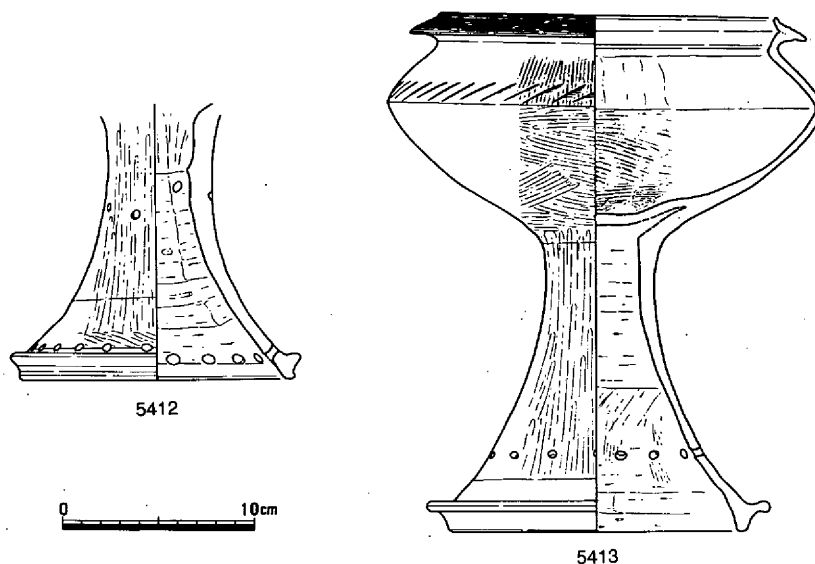
P17区の東辺中央西側、袋状土壙-84と接し、7基中北端に位置する。田面から約35cm下、検出面は暗茶色粘質土層中の海拔365cmである。

上端口径163cm、底面径128cm、深さ98cmをはかる円形の袋状土壙である。底面の周囲は浅い溝の形状を呈し、底面中央が盛り上がる。土壙壁面は若干内傾気味であるが、ほぼ垂直に立あがる部分が多い。埋土はレンズ状の堆積状況を示す3層からなる。遺物は第1層中に最も多く、土器では5407、5408、5411等が石や土砂とともに投棄された状態で出土している。石の大きいものは36×25×12cmをはかる。第2、3層からも5402、5404、5406の土器が出土している。また、検出面より上位では5405、5412、5413等の土器がある。5406、5407、5408、5409は煮沸に使用された甕であり、器外面に煤が付着しており、そのうちの5407は底部中央に1.35×0.95cmの焼成後の円孔が認められる。

土器の外面色調は灰色、黄色、橙色を基調とし、5402、5405、5411が灰白系、5403、5411、5412、



第77図 袋状土壙-87出土遺物(2)



第78図 袋状土壙—87出土遺物(3)

5413が黄色系、他が橙色系である。また、壺5401、5402の胴部、肩部内面には粘土紐の接合痕が輪積状に認められる。5401～5403、5406、5411、5413等は弥生時代中期末の様相をとどめ、5407、5408が新しい様相をもっている。

袋状土壙は弥・後・Iの古相段階で廃絶したものと考えられ、不用になった物の処理穴と化したようである。

(高畑)

袋状土壙—88 (第79図)

O17区の南辺中央、東よりに位置する。橋脚掘り方(P2)の北西辺側溝内で確認したものであり、約1/3の調査を行った。東側肩部を奈良時代の東西溝—479により削平されており、中央部には中世の柱穴が掘り込まれている。そして、西隣5mには本土壙より若干古相と考えられる竪穴住居—188が所在する。

断面では海拔439mにて遺構の確認が可能であるが、調査時は土壙の上端が海拔390mにてはじめて明瞭に検出できる状態であった。

上端部径は約96cm、底面径約87cm、深さ126cmをはかる円形の袋状土壙であり、壁面は上部が少し内傾し、平坦な床面をもつ形態である。底面の海拔高は312cmをはかる。埋土は6層からなり、第13層は埋戻されており、第9層～第12層は自然に堆積した状況と考えられる。

遺物は第13層中から出土しており、壺、甕の破片が各1点である。5414は口径14cm、胴部最大径21.5cm、残存の器高11.9cmをはかる。口縁部外面に3条の凹線文、器外面は細かい縦、斜位のハケメ、内面は粘土紐の接合部にユビオサエの痕跡が明瞭に認められる。5415の甕は口径16cm、胴部最大径24cm、残存する器高24cmをはかる。5414の壺と同様に口縁部に3条の凹線文、胴部下半は縦位のヘラミガキ、器内面上位にユビオサエ、下位はヘラケズリであり、外面に煤が多く付着している。袋状土壙—87出土の新しい様相をもつ5404、5407、5408等の土器と共通点を有している。

弥・後・Iの古相段階において廃棄された袋状土壙であろう。

(高畑)

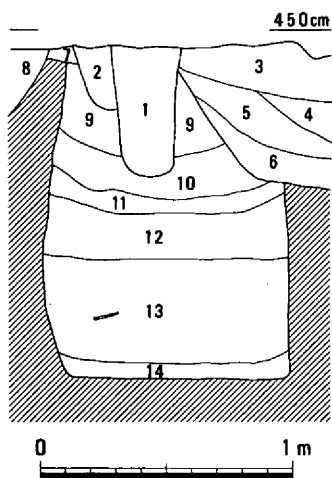
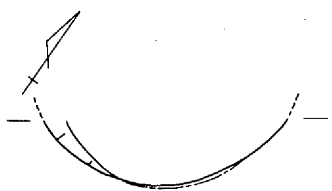
袋状土壙—89 (第80図)

O17区の南辺、中央から東よりに位置し、O17区における袋状土壙群の南限を示す。袋状土壙—88

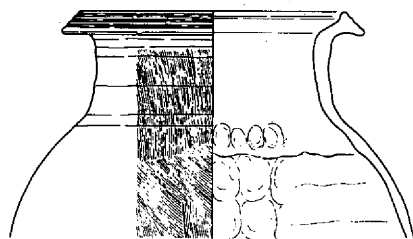
と同様に橋脚掘り方（P2）の南西辺側溝内で検出したものであり、袋状土壇-88から5.4m南、竪穴住居-188の南隅床面下に所在する。検出面は海拔390cmであり、竪穴住居-188を造る時点で上部に削平を受けている。上端部径75cm、底面径44cm、深さ50cmの楕円形を呈する袋状土壇であり、底面海拔高は339cmをはかる。断面は円筒形

と上部が外傾する両方の形態もち、小形の部類に入る袋状土壇である。

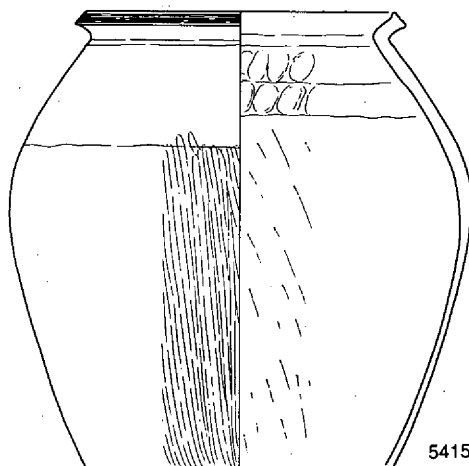
遺物は第3層中から甕、高杯の破片が出土している。竪穴住居-188との前後関係、土器の特徴等から弥・中・Ⅲの古相に比定できる。
(高畑)



- 1 灰色土
- 2 灰色土
- 3 灰色土（褐色粒子若干混じる）
- 4 褐色・灰色混合土
- 5 褐色・灰色混合土（灰色が強い）
- 6 暗黄褐色土（灰色若干混じる）
- 7 灰色土
- 8 暗灰褐色土
- 9 灰褐色土
- 10 灰褐色・黄褐色混合土
- 11 褐色土
- 12 暗黄色砂質土
- 13 黄褐色砂質土
- 14 暗黄色粘質土

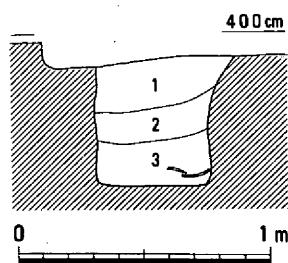
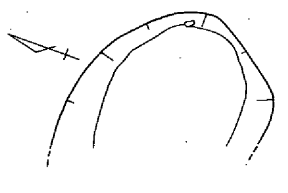


5414

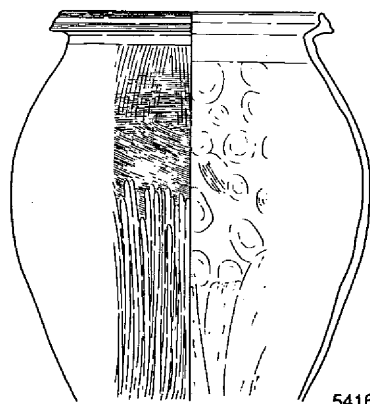


5415

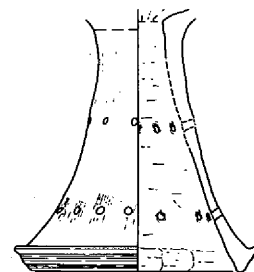
第79図 袋状土壇-88(1/30)・出土遺物



- 1 淡褐色土
- 2 淡黄褐色土
- 3 黄褐色土



5416



5417

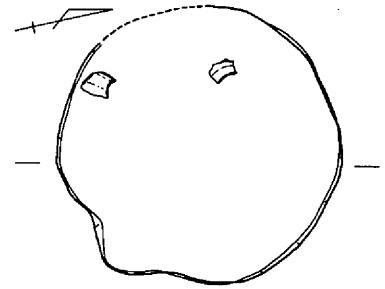


第80図 袋状土壇-89(1/30)・出土遺物

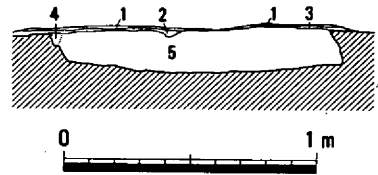
袋状土壇-90 (第81図)

○17区の南東に位置する。古墳時代前期の竪穴住居の床面下より出土したものであり、わずかに底の部分が残存している。上端部径112cm、底面径99cm、深さ17cm、底面海拔高353cmをはかる。第5層が埋土であり土器小片が2点出土している。第1層から第3層が竪穴住居-218の貼り床である。弥・後・Iに比定できる。

(高畑)



400cm



- 1 明橙色粘質微砂
- 2 橙色粘質微砂
- 3 明褐色微砂
- 4 暗灰色微砂
- 5 暗灰茶色粘質微砂

第81図 袋状土壇-90(1/30)

層が粘土ブロックを含む。遺物は第3層中が最も多く、甕、高杯等の破片がみられた。色調は6点ともに橙色系が基調になっており、胎土は5423のみが精良である。弥・後・Iに比定できる。

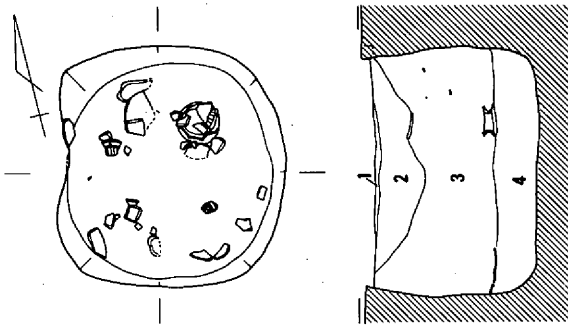
(高橋)

袋状土壇-92 (第83図)

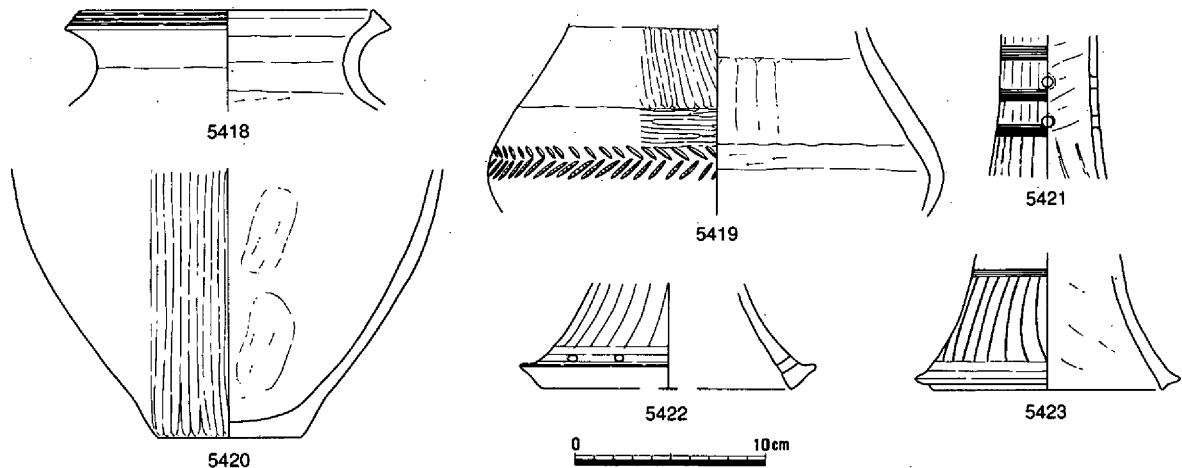
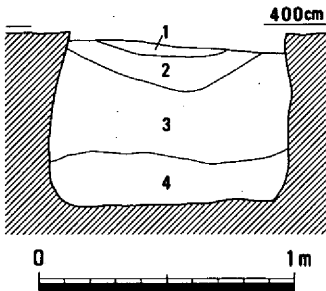
○17区を中心に分布する袋状土壇群の東南端に位置する。住居床面下から検出したものであり、竪穴住居-194を作る時点で削平を受けた

袋状土壇-91 (第82図)

○17区の南東、袋状土壇-90の南6mに位置する。上端部径97cm、底面径85cm、深さ67cm、底面海拔高327cmをはかる円形の袋状土壇である。壁面の上部が内傾するもので、底面は平坦である。埋土は4層からなり、第1層から第3層までが微砂であり、第4



- 1 暗茶灰褐色微砂
- 2 暗茶灰褐色微砂
- 3 暗茶色微砂
- 4 鈍い橙色
+暗茶褐色
ブロック粘土



第82図 袋状土壇-91(1/30)・出土遺物

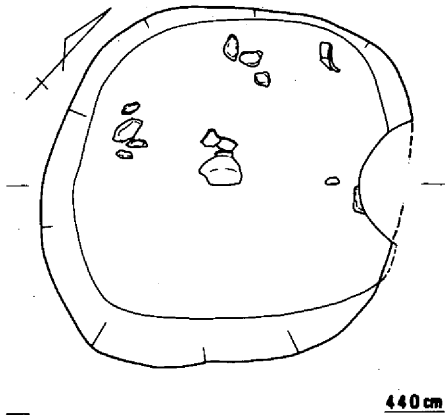
と考えられる。上端部径99cm、底面径96cm、深さ71cm、床面海拔高333cmをはかる。壁面上部内傾するが、床面形状は湧水のため不明。埋土は7層からなり、下部は砂時計の堆積状況に似る。

遺物は小片が出土しており、特徴から弥・後・Iに比定できる。

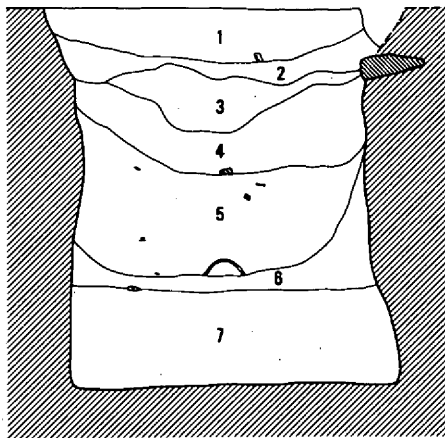
(高畑)

袋状土壇-93 (第84図)

O17区のほとんど中央、土器棺墓12~14がまとまるより約3m北側に位置する。上端部径140cm、底面径124cm、深さ148cm、底面海拔高277cmをはかり、隅丸方形を呈する袋状土壇である。埋土は7層からなり、第7層が水平な堆積で、

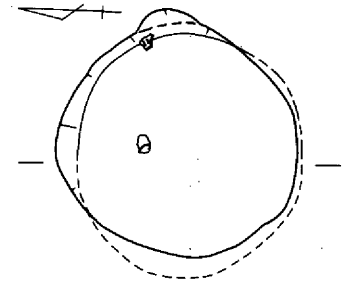


440 cm

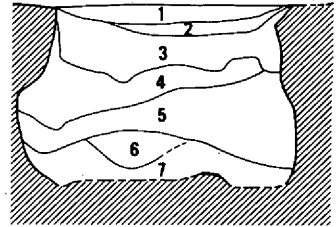


- 1 暗茶褐色粘質微砂 (粘り少し)
- 2 茶黄褐色粘質微砂 (粘り少し) マンガン多く含む
- 3 黄褐色粘質土 (微砂)
- 4 暗黄褐色細砂 (やや砂の粒が大きい)
- 5 暗黄褐色粘質細砂 (炭多し)
- 6 暗黄褐色粘質細砂 (炭少し)
- 7 砂層

第84図 袋状土壇-93 (1/30)・出土遺物

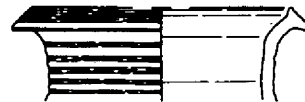


420 cm

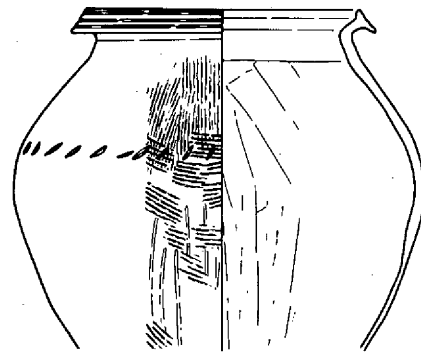


- 1 暗茶色微砂
- 2 明茶色粘質微砂
- 3 暗茶黒色粘質土
- 4 暗茶黄色粘質土
- 5 淡茶灰色粘質土
- 6 暗茶黒灰色粘質土
- 7 暗茶黒色粘土

第83図 袋状土壇-92 (1/30)



5424



5425



5426



5427

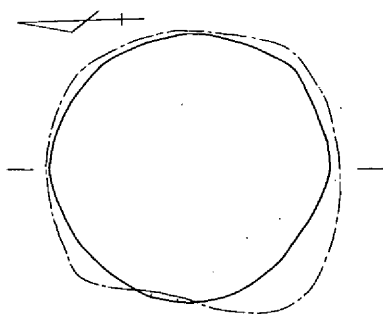


第6層～第1層がレンズ状の堆積を呈する。

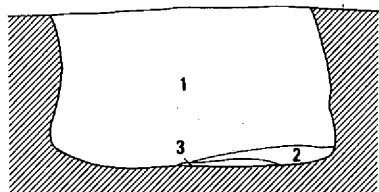
遺物は第5層中にみられ、壺、甕、高杯等の破片がある。甕5425は口径14.2cm、最大径21.4cmをはかり、器外面に細筋の右下がりタタキメが認められ、煤が付着している。 (高畑)

袋状土壇-94 (第85図)

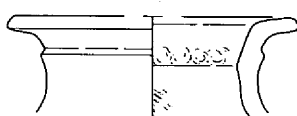
○17区の中央から東南、竪穴住居-193Aから6m南に位置する。上端部径109cm、底面径124cm、深さ62cm、床面海拔高353cm



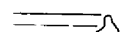
430cm



- 1 暗灰褐色粘質微砂
- 2 淡赤褐色粘質微砂
- 3 赤褐色粘質微砂



5428



5430



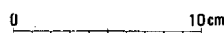
5431



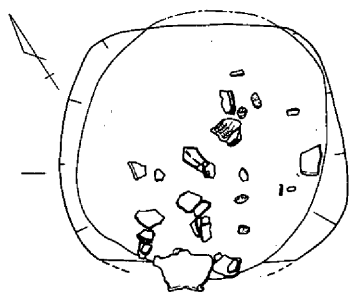
5432



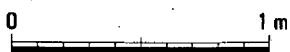
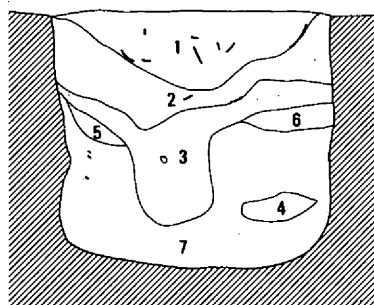
5429



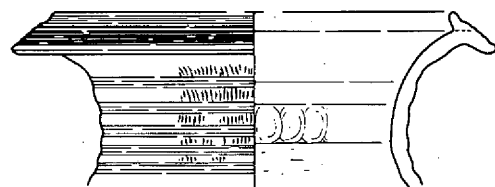
第85図 袋状土壇-94 (1/30)・出土遺物



430cm



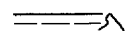
- 1 暗茶褐色灰色粘質微砂
- 2 暗褐色粘質微砂 (粘り少々) やや砂状
- 3 暗(茶)黒褐色灰色粘質微砂 (炭を多く含む、4より粘りが大)
- 4 暗黄褐色微砂 (砂粒がやや大きい) (炭を多く含む)
- 5 黄(褐)色粘質土
- 6 黄褐色砂質土 (炭が少ない)
- 7 黄褐色砂質土 (炭を含む)



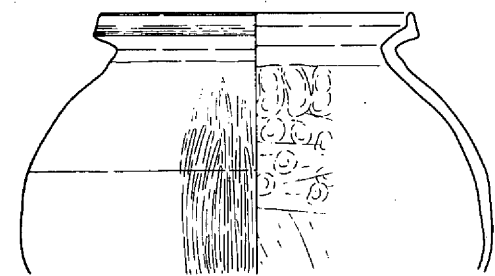
5433



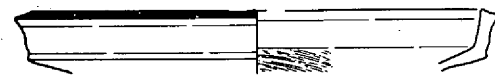
5434



5435



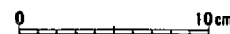
5436



5437



5438



第86図 袋状土壇-95 (1/30)・出土遺物

をはかる円形の袋状土壙である。埋土中より土器片が50点ほど出土しているが、図示可能なものは少ない。弥・後・Iの古相に比定できる。 (高畑)

袋状土壙-95 (第86図)

O17区の中央から東南、袋状土壙-94より西3.5mに位置する。占地場所は袋状土壙-94、99、112、116と近いグループである。上端部径118cm、底面径106cm、深さ102cm、底面海拔高311cmをはかる隅丸方形の土壙である。断面が円筒形になり、底面中央が窪む形状を呈する。

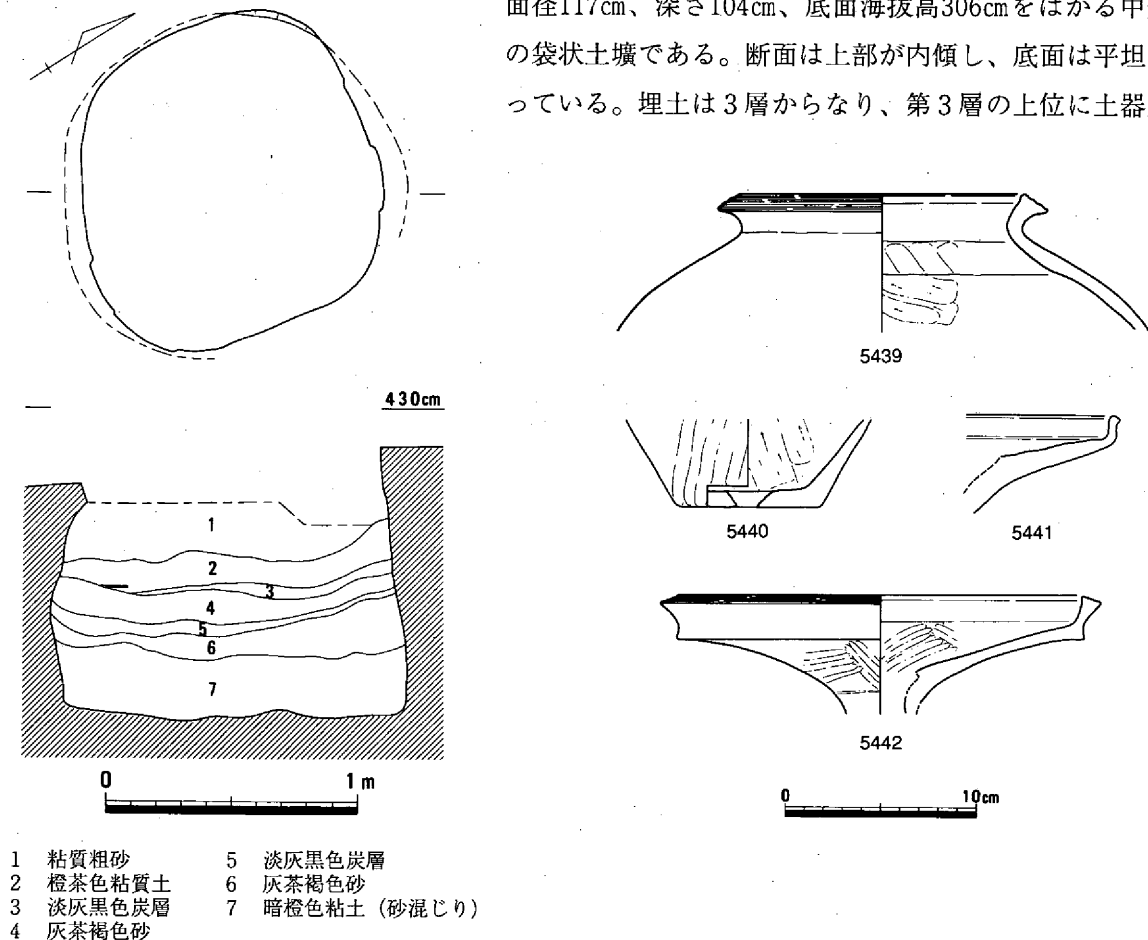
遺物は第1層中から50片、第2層以下は少なく14片である。5434、5435は弥生中期末の様相を留めるが、大半の土器は弥・後・Iの段階で投棄されている。 (高畑)

袋状土壙-96 (第87図)

O17区の袋状土壙が最も多くまとまる場所に所在し、その位置はO17区の東側、東西中央線上にあたる。南西4.3mにはほぼ同時期の竪穴住居-193が見られる。上端部径140cm、底面径140cm、深さ108cm、底面海拔高は307cmをはかる袋状土壙である。壁面の上部が内傾し、中央が窪む形態であり、土壙内の埋土は7層からなる。遺物は第2層中から甕、高杯等の破片が出土している。これらの特徴から弥・後・Iの古相に比定できる。 (高畑)

袋状土壙-97 (第88図、図版8-1)

O17区の東側中央、袋状土壙-96の南2.2mに位置する。袋状土壙-113、108、114、109、110、111等と近い距離で東西に並んでいる。上端部径110cm、底面径117cm、深さ104cm、底面海拔高306cmをはかる中規模の袋状土壙である。断面は上部が内傾し、底面は平坦になっている。埋土は3層からなり、第3層の上位に土器片が



第87図 袋状土壙-96 (1/30)・出土遺物

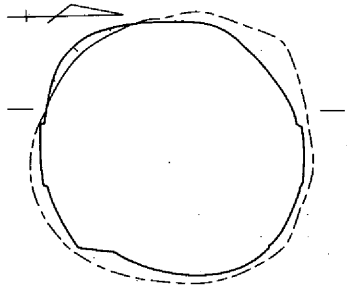
多くみられた。

遺物は甕が多く、これらの特徴は弥・後・Iの古相に比定できる。

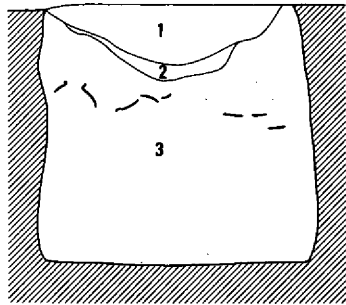
(高畑)

袋状土壙-98 (第89図)

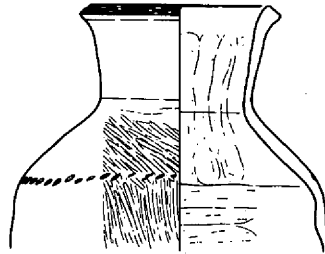
O17区の東南、竪穴住居-193から東南4mに位置する。袋状土壙-119、120の3基で一群をなす。上端部径105cm、底面径122cm、



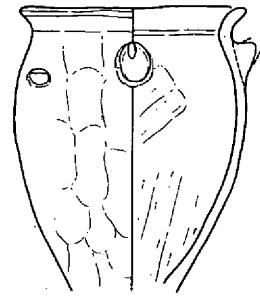
430cm



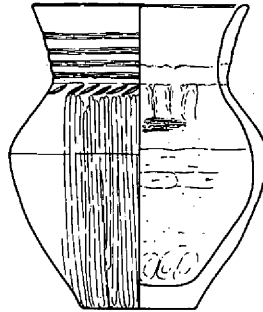
- 1 鈍い橙色粘質土 (ベース)
- 2 焼土塊含む+炭層+灰
- 3 茶褐色粘質微砂



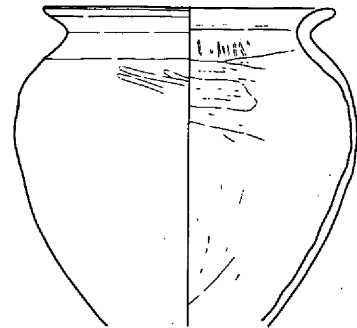
5443



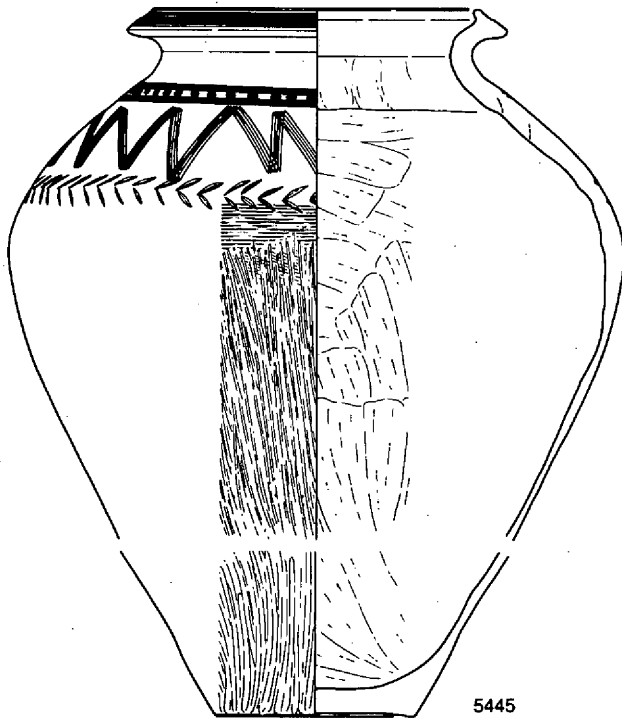
5446



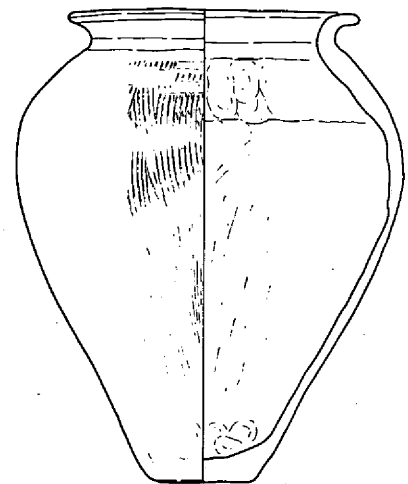
5444



5447



5445

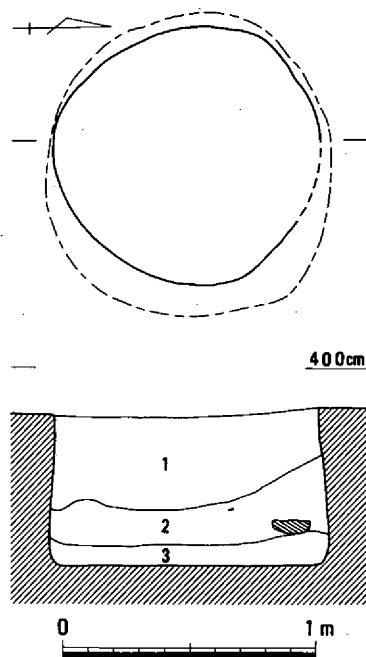


5448

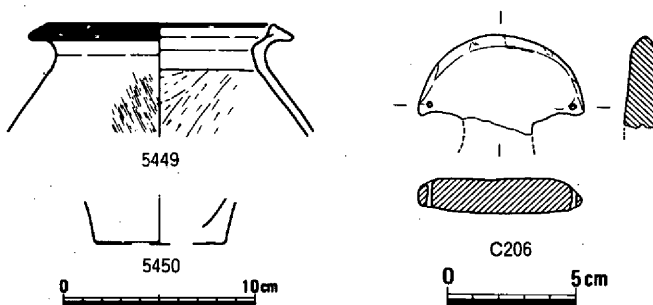


第88図 袋状土壙-97 (1/30)・出土遺物

深さ62cm、床面海拔高321cmをはかる円形の袋状土壌である。袋状土壌-119、120との底面海拔高は近い数値であり、数cm異なる程度である。断面は上部が内傾し、床面が平坦な形態を呈する。埋土は3層からなり、微砂が主な堆積物となっている。第2層には幅15cm、厚さ6cmをはかる緑色片岩が投棄されていた。



遺物は甕と分銅形土製品の破片がみられる。C206は下半が欠損しており、残存長3.9cm、幅6.5cm、厚さ1.3cm、孔径0.2cm、重さ39.94gをはかる。弥・後・Iの古相に比定できる。(高畑)

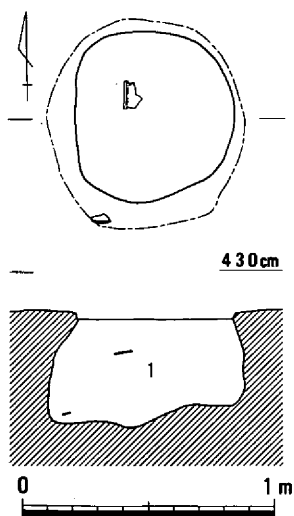


- 1 暗茶褐色粘質微砂 (にごった砂、粘土)
- 2 茶色粘質砂
- 3 暗茶色粘質砂

第89図 袋状土壌-98 (1/30)・出土遺物

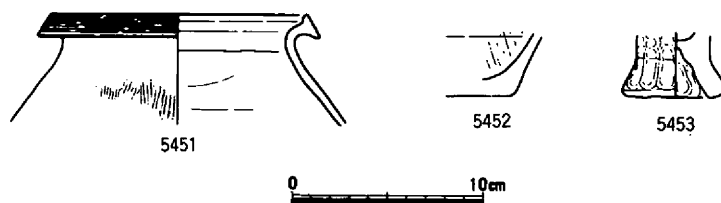
袋状土壌-99 (第90図)

〇17区の南東、袋状土壌-95の北西5.4mに位置し、袋状土壌-95、112、94、116と伴に一群をなす。上端部径70cm、底面径85cm、深さ45cm、床面海拔高369cmをはかる不整形円形の袋状土壌である。断面は壁面上部が内傾し、底面が窪む形態である。埋土は1層からなり、若干の土器片を含む。遺物は甕、製塩土器の小片がみられ、その特徴から弥・後・Iの古相に比定できる。(高畑)



袋状土壌-100 (第91図)

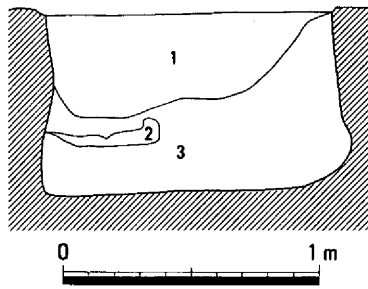
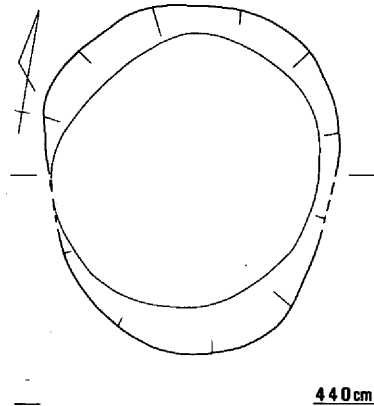
〇17区の東、袋状土壌-96の南東0.4mに位置し、袋状土壌-101～105、117、118等と近接し、ほぼ同間隔に並ぶ。当然、相互の存在を意識し、単期間に掘開されたと考えられる。



- 1 暗(黄)茶褐色粘質微砂 (炭を含む)

第90図 袋状土壌-99 (1/30)・出土遺物

上端部径138cm、床面径108cm、深さ73cm、床面海拔高351cmをはかる円形の袋状土壇である。断面は壁面の上部が内傾し、底面は平坦である。壁面の下半、および底面はいわゆる基盤層と呼称した黄橙色系の粘土の層中で完結している。周辺の袋状土壇-101、107、102等も底面が粘土層中で完結する部類である。

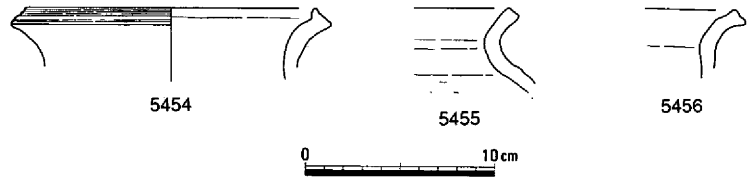


埋土は大きく2層からなり、第2層は粘土ブロックの混入である。

遺物は甕、鉢等の小片が認められるが、わずかである。タタキメの施された甕の胴部破片もみられた。(高畑)

袋状土壇-101 (第92図)

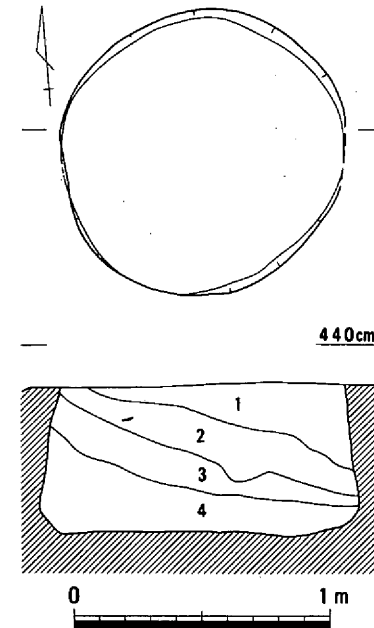
〇17区の東中央、袋状土壇-100のすぐ東隣に位置する。19基ほどで小ブロックを形成しており、袋状土壇-96、100と伴に3



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 鈍い橙色粘土
- 3 茶色微砂

第91図 袋状土壇-100(1/30)・出土遺物

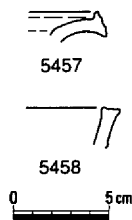
基が直線的に並ぶ。上端部径115cm、底面径109cm、深さ59cm、床面海拔高366cmをはかる正円形に近い袋状土壇である。断面は壁面上部が内傾し、床が平坦な形態である。埋土は4層からなり、堆積している微砂は西側からの投入、投棄が考えられる状態を示す。遺物はほとんどなく、第2層中に小片数点が認められたのみである。



遺物は壺、高杯小片であり、弥・中・Ⅲの様相も認められるが、5458は弥・後・Ⅰの古相と考えられる。(高畑)

袋状土壇-102 (第93図)

〇17区の東中央、袋状土壇-101の東1.3mに位置する。上端部径112cm、底面径105cm、深さ45cm、底面海拔高376cmをはかる正円形に近い袋状土壇である。埋土は4層からなり第1層は炭粒を多量に含み、第2層は炭のみである。第3、4層は微砂の堆積である。



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗茶色微砂
- 3 茶色微砂
- 4 暗茶色微砂

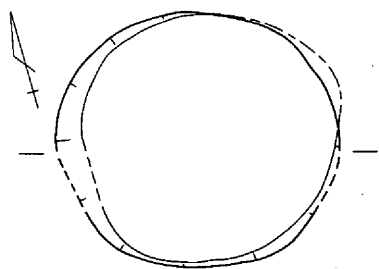
第92図 袋状土壇-101(1/30)・出土遺物

遺物は第1層に少し認められ、甕、高杯等の小破片である。土器の形態、技法の特徴から、弥・後・Ⅰの古相に比定で

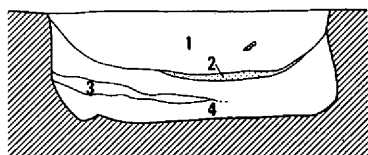
きる。 (高畑)

袋状土壌-103 (第94図)

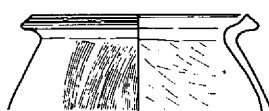
〇17区の東中央、袋状土壌-105の南西隣に位置する。上端部径190cm、底面径195cm、深さ70cm、底面海拔高353cmをはかる不整形円形の袋状土壌である。今回報告する袋状土壌では2番目の規模を有する大形品である。断面は壁面の上部が内傾し、底面が平坦になる。埋土は9層からなり、その堆積状況は2つに大別できる。つまり第9層から第5層までが北側からの投込み、流入で堆積した土層で、第6、4層から第1層が第5層堆積後に再び土壌を穿って埋没した土である。遺物は弥・後・Iの古相以外に弥・



440cm



- 1 茶色微砂
- 2 炭層
- 3 明茶色微砂
- 4 明茶灰色微砂



5459



5460

第93図 袋状土壌-102 (1/30)・出土遺物

前・Ⅲの甕口縁小片が混在していた。

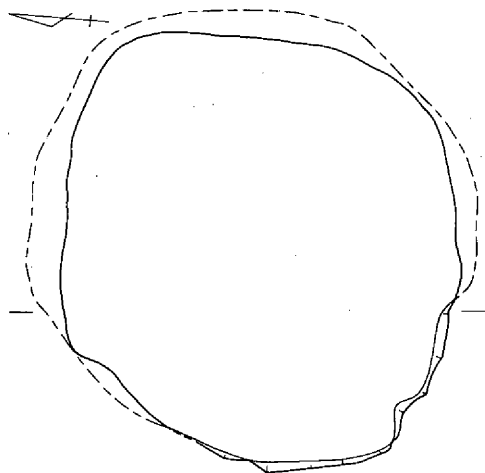
(高畑)

袋状土壌-104 (第95図)

〇17区の東中央、袋状土壌-102の南東0.9mに位置する。19基のグループ中では最小の部類に入る。

上端部径78cm、底面径70cm、深さ37cm、床面海拔高386cmをはかる円形の袋状土壌である。断面は壁面上部が内傾し、平坦な床面を呈する。埋土は2層からなり、第2層に焼土、炭粒を含む。

遺物は甕2点であり、弥・後・Iと考えられる。 (高畑)



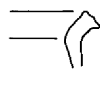
440cm



5461



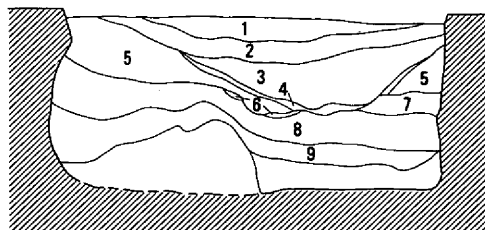
5462



5463



5464

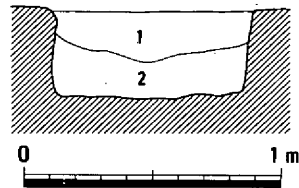
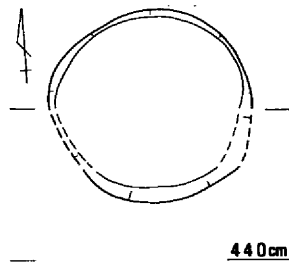


- 1 暗茶灰褐色粘質微砂 (マンガン多く含む)
- 2 暗黄茶褐色粘質微砂 (マンガン含む)
- 3 暗黄褐色粘質微砂 (粘り少々)
- 4 黄褐色粘質微砂
- 5 暗黄褐色粘質微砂 (3に比べ明るい、粘り少々)
- 6 黄褐色粘質微砂 (土)
- 7 暗黄褐色粘質微砂 (粘り少々)
- 8 暗灰黄褐色粘質微砂 (細砂) (粘り少々) (灰色が強くなる)
- 9 暗灰褐色粘質微砂 (細砂) (粘り少々) (8より強い)

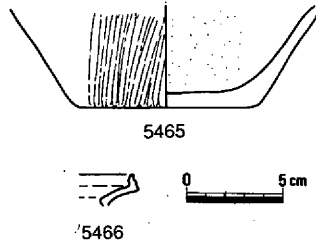
第94図 袋状土壌-103 (1/30)・出土遺物

袋状土壙-105 (第96・97図、図版8-2)

〇17区の東中央部、袋状土壙-103の南西隣に位置する。袋状土壙-103より若干小振りであるが、全体では大きい方に属する。上部径204cm、底面径174cm、深さ94cm、底面海拔高329cmをはかる円形の袋状土壙である。断面は壁面の上部が内傾するものと考えられるが、壁面の崩れにより変形をしており、床面形状においても湧水のため把握できなかつた。埋土は12層からなるが、中層はブロック状にまとまった土層が集中している。

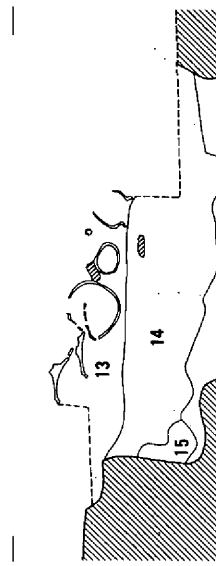
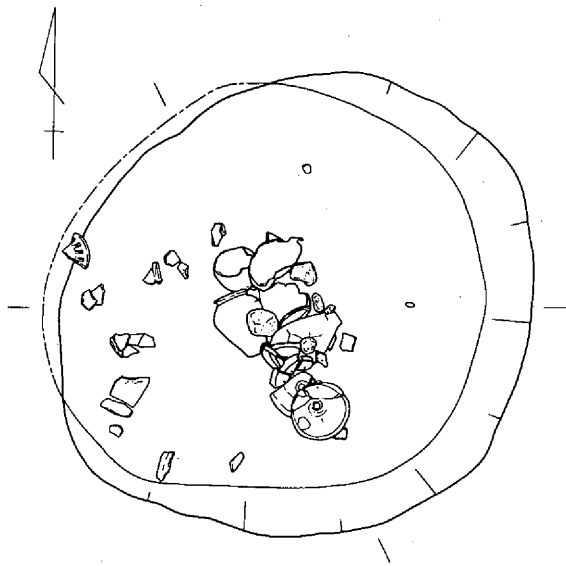


- 1 暗茶褐色粘質砂
- 2 淡灰茶色微砂、焼土炭



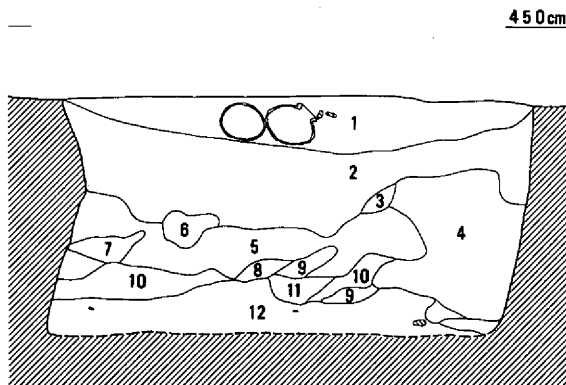
遺物は第1層と第12層に包含されており、第1層に完形品が多く、第12層に破片がみられた。5467~5471、5472、5474が第1層中であり、5473、5476が第12層周辺出土の土器である。

第95図 袋状土壙-104 (1/30)・出土遺物



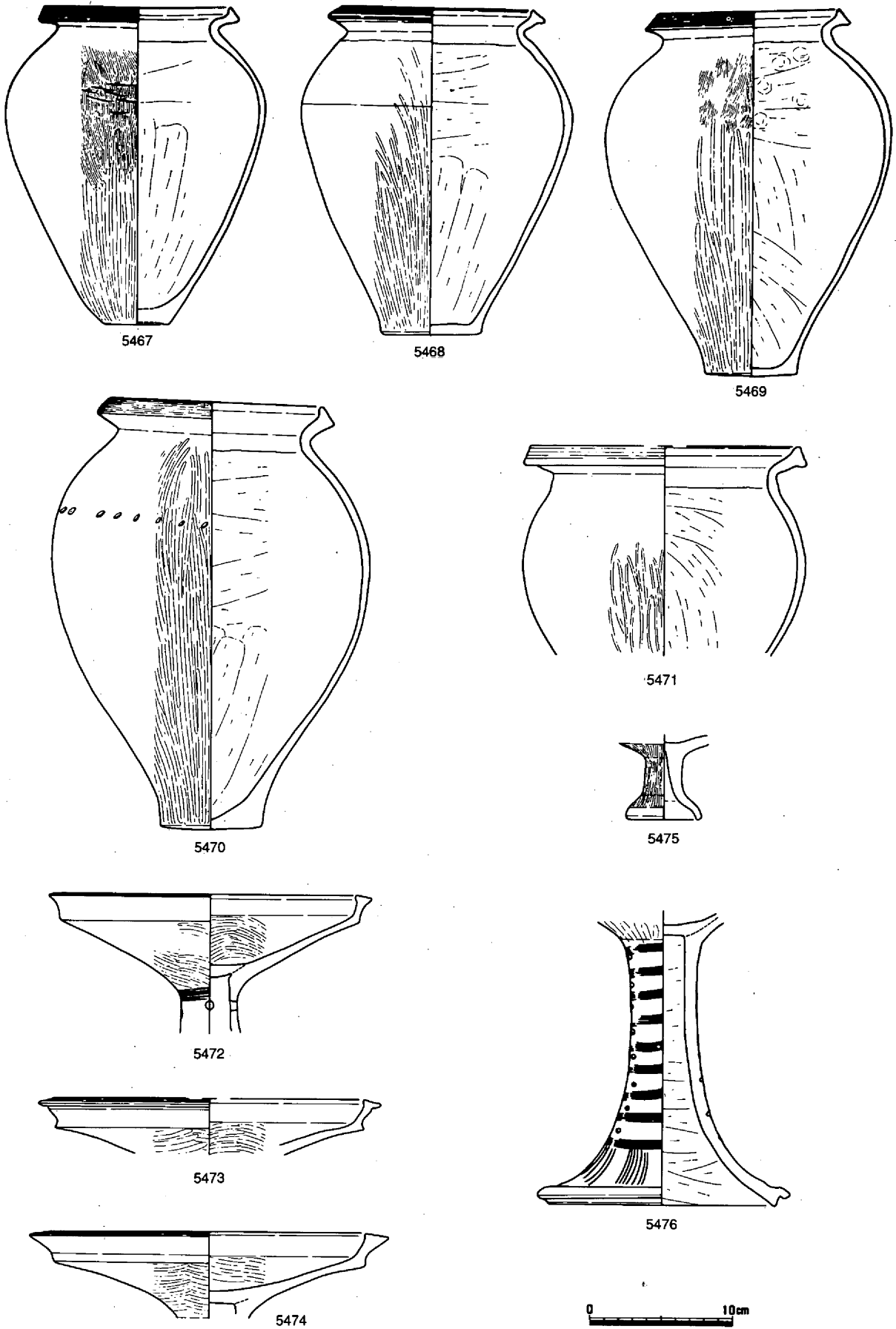
5467~5470の甕胴部全面は煤が付着しており、煮沸に利用されている。弥・後・Iの中相に比定できる。(高畑) 袋状土壙-106 (第98図)

〇17区の中央西南6mに位置する。他の袋状土壙より西側に外れて所在する。北東8mには袋状土壙-93がある。上部径106cm、底面径98cm、深さ62cm、海拔高350cmをはかる。断面は壁面上部が内傾し、底面が平坦な形態を呈する。埋土は微砂を基調とする

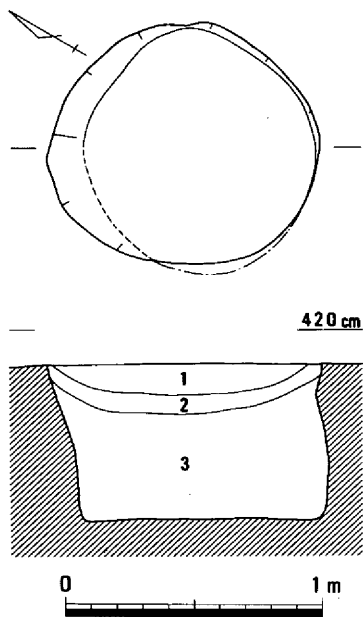


- 1 暗茶黄褐色粘質微砂 (マンガン多く含む、炭を含む)
- 2 暗黄褐色粘質微砂 (粘り少々)
- 3 黄褐色砂質粘土
- 4 黄褐色粘質土
- 5 暗青緑黄褐色微砂 (細砂に近い) (炭の黒色を伴う)
- 6 暗黄褐色粘土
- 7 暗黄褐色質土
- 8 淡黄色細砂
- 9 黄褐色粘土 (基盤の土の落ち込みか?)
- 10 暗黄褐色微砂 (細砂に近し) (炭の黒色薄し)
- 11 暗灰黄褐色粘質微砂 (粘土に近し)
- 12 暗黄褐色粘質微砂
- 13 暗茶黄褐色粘質微砂 (マンガン多く含む、茶が強い)
- 14 (暗)黄褐色粘質微砂
- 15 黄褐色粘質土 (砂を含む) (炭の点在)

第96図 袋状土壙-105 (1/30)



第97図 袋状土壙-105出土遺物



第98図 袋状土壌-106 (1/30)・出土遺物

3層からなり、レンズ状に堆積を呈する。第2層中には炭粒が若干量認められる。袋状土壌の壁面は周囲が粘質微砂であり、床面の一部が基盤層に近い粘質微砂である。

遺物は甕の破片が出土しており、器外面に煤の付着が認められる。弥・後・Iに比定できる。

(高畑)

袋状土壌-107 (第99図)

〇17区の東中央付近、袋状土壌-101の1 m南側に位置する。19基ほどの袋状土壌が集中するほぼ中央部分に所在する。上端部径145cm、底面径125cm、深さ37cm、床面海拔高384cmをはかる不整楕円形の土壌である。断面の床面

近くは上部が内傾する方向をもつが、上位で筒状を呈し、床面は平坦である。床面と壁面周囲約25cm上位までが粘性の基盤層である。

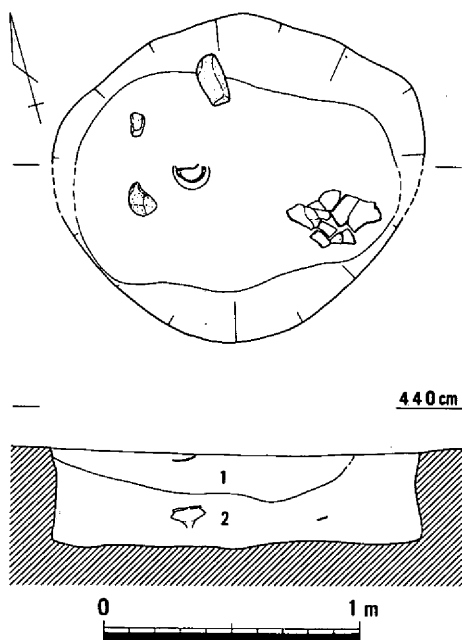
埋土は2層からなり、両層とも土器片および石 (20×10×10cm) 等が投込まれている。これらの遺物は床面に接着するものは認められない。

遺物は少なく、破片が中心である。弥・後・Iの古相に比定できる。

(高畑)

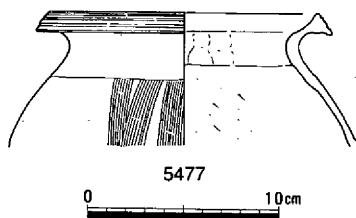
袋状土壌-108 A、B (第100図、図版8-3)

〇17区の東中央部の少し南にあり、袋状土壌114と切り合い関係になる。袋状土壌-108も新旧が切り合う2基からなり、西側の新しい方がA、東側の古い方がBと

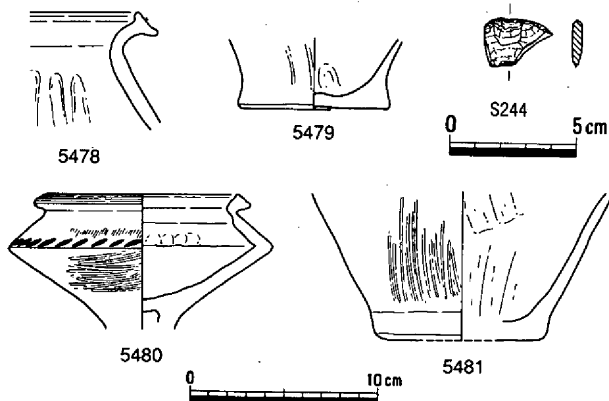


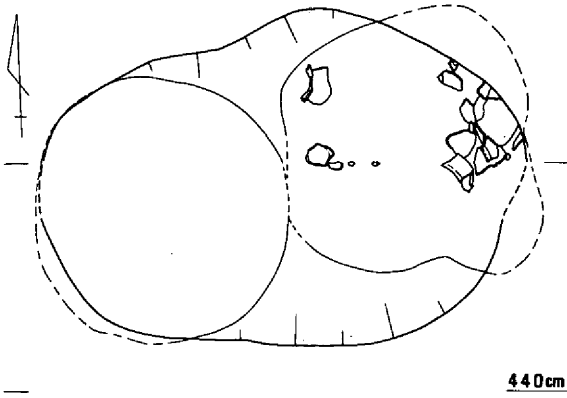
1 暗茶褐色粘質微砂 (硬質) 2 茶灰色微砂

第99図 袋状土壌-107 (1/30)・出土遺物

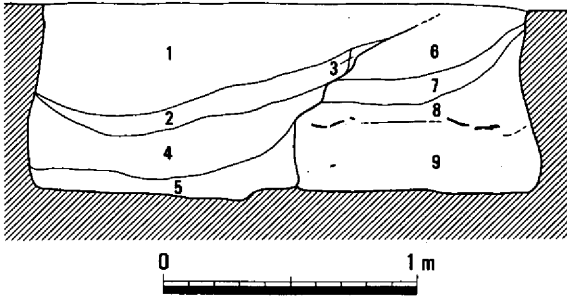


1 暗茶褐色弱粘質微砂
2 暗茶褐色弱粘質微砂
3 黒茶褐色砂質微砂





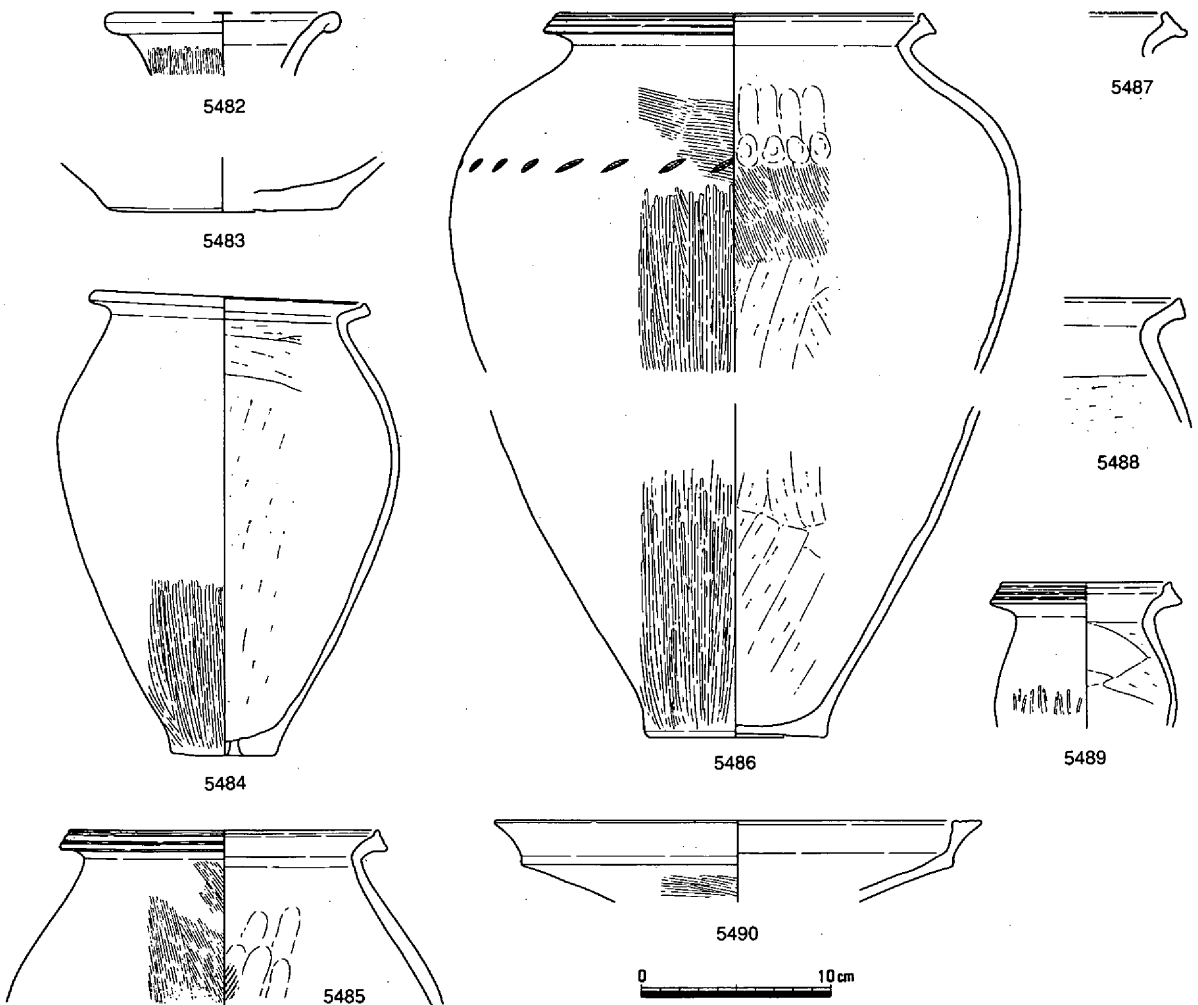
440cm



呼称した。Aの上端部径93cm、底面径107cm、深さ77cm、底面海拔高347cmをはかる円形の袋状土壌である。

Bは上端部径118cm、深さ75cm、底面海拔高349cmをはかる不整楕円形を呈す。断面はA、Bともに壁面の上部が内傾し、床面が平坦な形状を示すところの、いわゆる袋状土壌である。A、Bは形状、規模ともに近似しており、Bか

- 1 茶色粘質微砂（土器小片）ベースブロック混入
- 2 茶灰色微砂（薄い土器片を多く含む）
- 3 暗茶灰褐色粘質土
- 4 暗茶灰色微砂
- 5 暗灰茶色微砂
- 6 茶色微砂
- 7 暗灰茶褐色粘質土（炭多い）
- 8 灰茶褐色粘質土
- 9 茶褐色粘質砂



第100図 袋状土壌-108(1/30)・出土遺物

らAに掘り変えられた可能性が強い。埋土はともにレンズ状の堆積が主であるが、Bの第8層、第9層間に凸状の高まりが認められ、土器片が周縁に散布する。

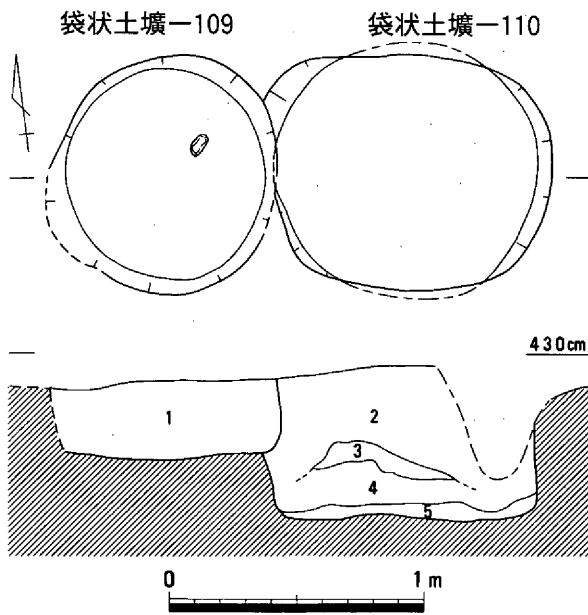
遺物はBの第8・9層間出土が中心で、5482～5484、5486、5488～5490がそれらにあたる。5482は縁状の口縁をもつ壺であり、色調は鈍い黄橙色を呈する。5484、5486の甕は器外面に煤の付着が認められ、煮沸具に使用されている。5484には焼成後の底部穿孔が認められ、孔径0.8cmをはかる。5490の高杯の特徴等から、Bは弥・後・Iの中相段階には廃棄されており、その後にAが掘られている。Aの壁が崩壊したことにより廃棄されている。 (高畑)

袋状土壌-109、110 (第101図)

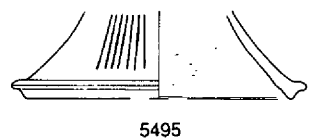
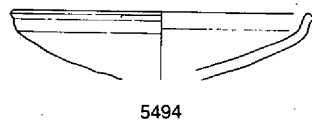
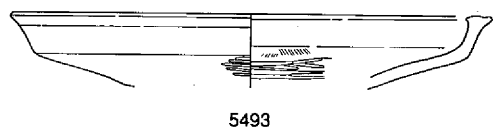
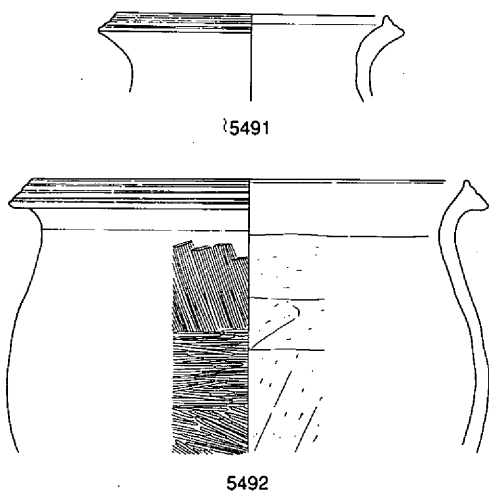
O17区の東側中央少し南、袋状土壌-108Bの1m東側に位置する。袋状土壌-108同様に2基の土壌が切り合い、袋状土壌-109が袋状土壌-110の西端部分を切る格好となる。袋状土壌-109は上端部径95cm、底面径85cm、深さ31cm、底面海拔高388cmをはかる。埋土は茶色微砂が1層であり、遺物は高杯5495が1点である。袋状土壌-110は上端部径119cm、底面径105cm、深さ60cm、床面海拔高363

cmをはかる円形の袋状土壌である。両土壌とも断面は壁面の上部が内傾する袋状土壌であり、底面は平坦に近いものである。埋土は5層からなり、砂時計の堆積に似た凸状を呈する。

遺物は5491～5494の壺、甕、高杯が出土しており、全体的に少量である。弥・後・Iに比定できる。 (高畑)



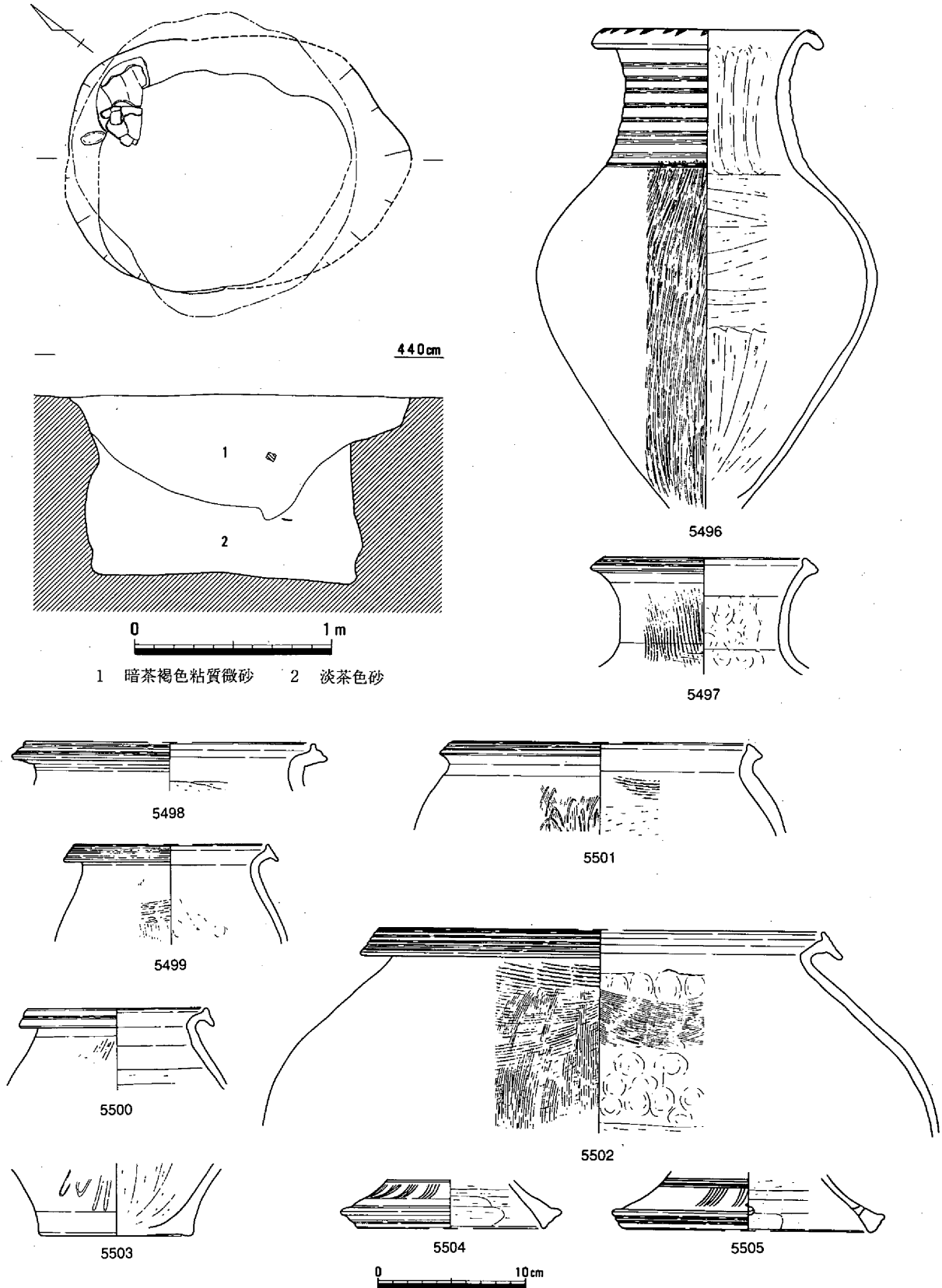
- 1 茶色微砂
- 2 暗茶色粘質微砂 (石灰質)
- 3 黄橙色ブロック
- 4 暗茶褐色粘質微砂
- 5 淡灰茶色微砂



第101図 袋状土壌-109・110(1/30)・出土遺物

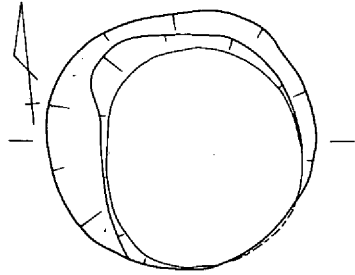
袋状土壇-111 (第102図)

〇17区の東側中央少し南、袋状土壇-110の東隣に位置する。19基ほどからなる袋状土壇群の南東



1 暗茶褐色粘質微砂 2 淡茶色砂

第102図 袋状土壇-111(1/30)・出土遺物

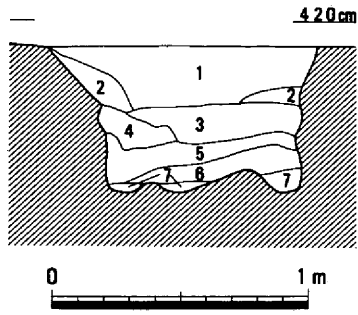


端に所在する。上端部径176cm、底面径115cm、深さ94cm、床面海拔高325cmをはかる。断面は壁面が上部で内傾し、底面が少し高まりをもつ形態であり、壁面が橙色粘土の基盤層であり、底面は微砂である。

遺物は第2層に大形片がみられ、5496、5499、5502、5505等がそれにあたる。

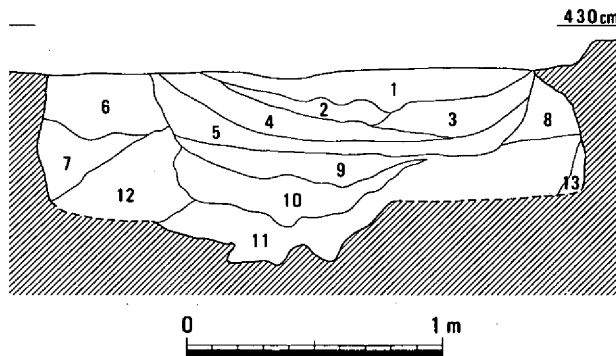
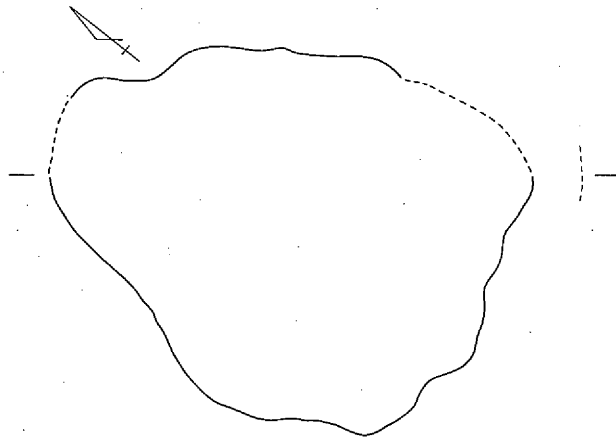
弥・後・Iの古相に比定できる。

(高畑)



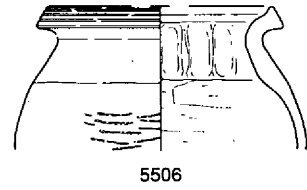
- 1 暗茶灰色粘質微砂
- 2 暗茶灰色粘質微砂
- 3 淡茶褐色粘質微砂
- 4 淡茶褐色微砂
- 5 淡茶褐色微砂
- 6 黄褐色粘質微砂
- 7 淡黄褐色粘質微砂

第103図 袋状土坑—112(1/30)

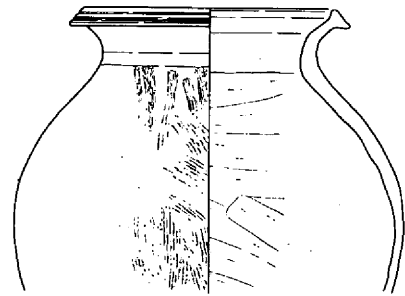


- 1 褐色砂質土細砂 (焼土、炭、土器片を多く含む)
- 2 淡褐色砂質土細砂 (炭を含む)
- 3 黄褐色砂質土細砂 (炭を若干含む)
- 4 黄褐色砂質土細砂 (炭を若干含む、やや粘性を帯びる)
- 5 暗黄褐色砂質土細砂 (やや粘性を帯びる)
- 6 黄褐色砂質土細砂
- 7 淡黄褐色砂質土細砂
- 8 黄褐色砂質土細砂
- 9 淡黄褐色砂質土粗砂 (ベースの土質と類似する)
- 10 黄灰緑色粘性砂質土微砂 (粗砂が混入)
- 11 暗灰青色砂質土粗砂 (同色粘性土がブロック状に混入する)
- 12 灰青色粘質土
- 13 灰青色粘性砂質土微砂 (ベースの土が混入)

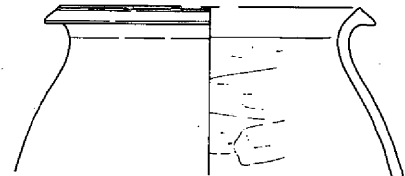
第104図 袋状土坑—113(1/30)・出土遺物



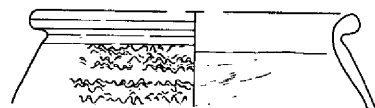
5506



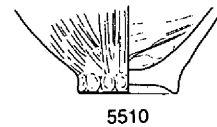
5507



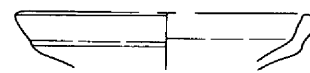
5508



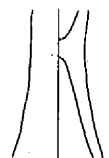
5509



5510



5511



5512



袋状土壙-112 (第103図)

〇17区の南東、袋状土壙-94、袋状土壙-95の間に所在する。上端部径106cm、底面径85cm、深さ58cm、床面海拔高は352cmをはかる。

断面は壁面上部が外傾し、床面周囲に溝をもつ形状である。弥・後・Iの可能性が考えられる。(高畑)

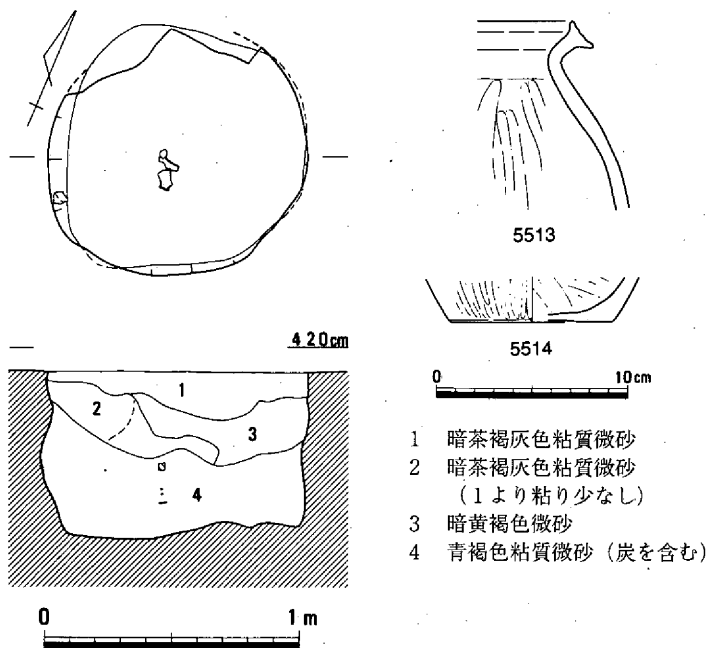
袋状土壙-113 (第104図)

〇17区の東側中央少し南、袋状土壙-108の西隣に位置する。上端部径188cm、床面径210cm、深さ75cm、底面海拔高335cmをはかる。

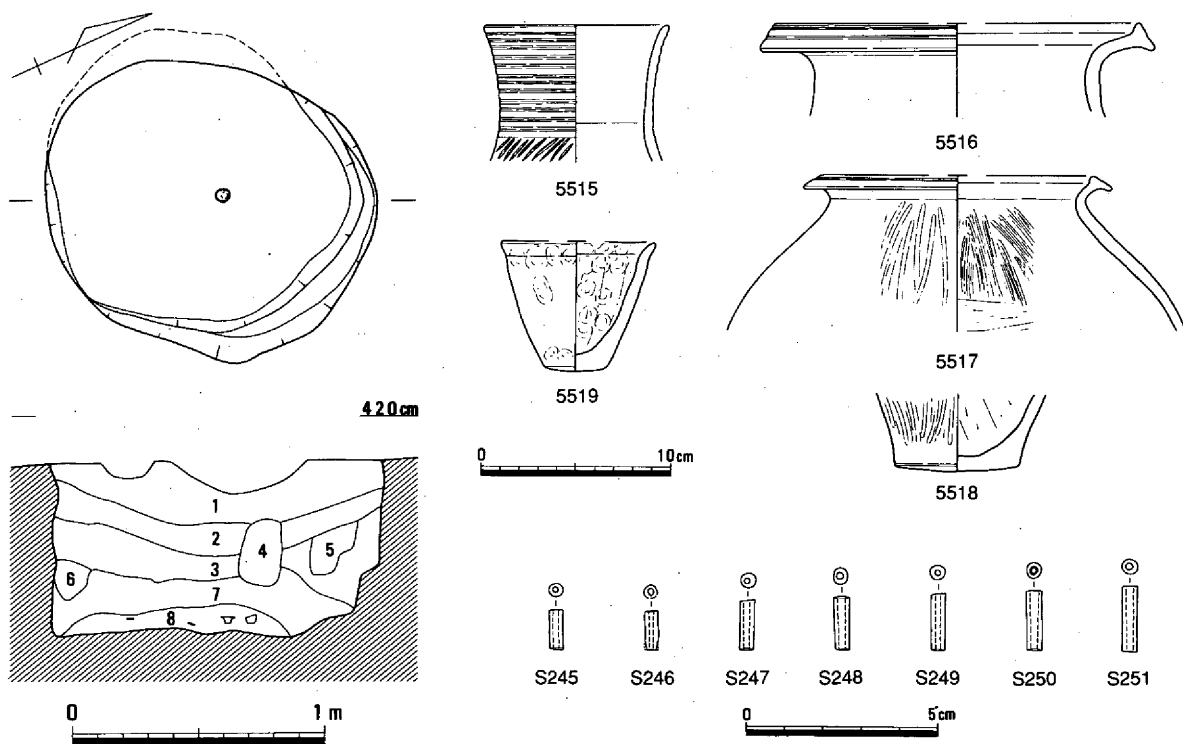
弥・後・Iに比定できる。(高畑)

袋状土壙-114 (第105図)

〇17区の東側中央少し南、袋状土壙-108Bの東隣に位置する。上端部径106cm、床面径105cm、深さ6cm、底面海拔高は344cmをはかる。断面は壁面が筒状にて、床面は平坦ではない形



第105図 袋状土壙-114 (1/30)・出土遺物

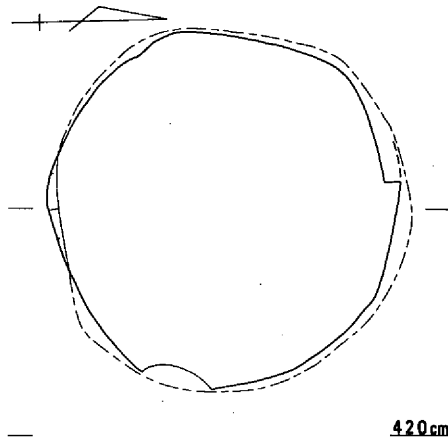


第106図 袋状土壙-115 (1/30)・出土遺物

状である。弥・後・Iの古相に比定できる。

(高畑)

袋状土壙-115 (第106図)



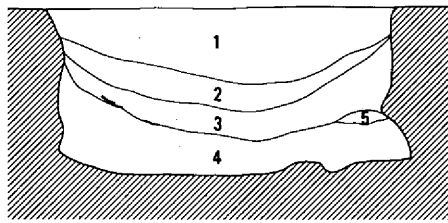
〇17区の東南、袋状土壙-92の西隣に位置する。両土壙とも弥・後・Iの竪穴住居-194により切られており、竪穴住居より古い。上端部径131cm、底面径130cm、深さ70cm、底面海拔高333cmをはかる。断面は筒状を呈し、床面は平坦に近い形状である。埋土は8層からなり、第3層中に炭層、第8層に土器片が約30点と7個の緑色擬灰岩製の管玉が認められた。

弥・後・Iの古相に比定できる。

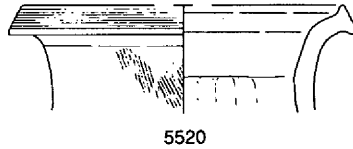
(高畑)

袋状土壙-116 (第107図)

〇17区の東南、袋状土壙-94から南東3.5mに位置する。



- | | |
|-------------|---------------|
| 1 暗灰褐色粘質微砂 | 4 暗青黄褐色粘質微砂 |
| 2 暗青黄褐色粘質微砂 | 5 灰色微砂 (粘り少々) |
| 3 暗青黄褐色粘質微砂 | |



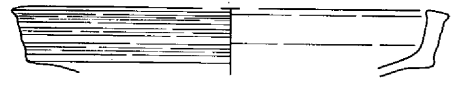
5520



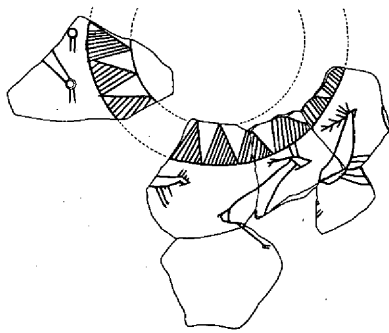
5521



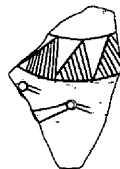
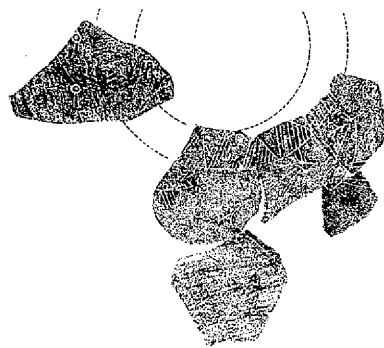
5522



5523



5524



第107図 袋状土壙-116(1/30)・出土遺物

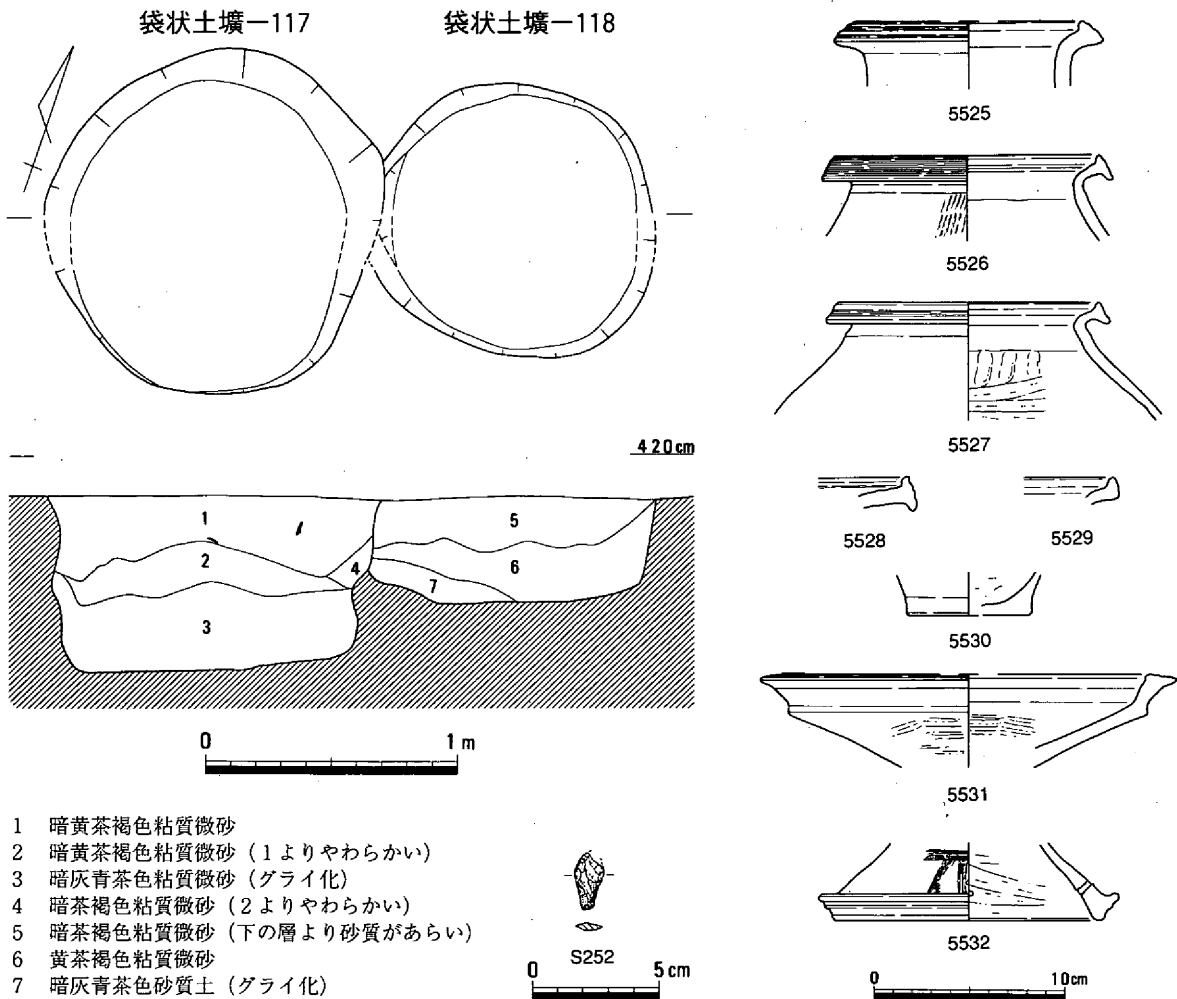
弥・後・Ⅲの竪穴住居-195の床面下よりの検出である。上端部径137cm、床面径145cm、深さ66cm、床面海拔高328cmをはかる円形の袋状土壌である。断面は壁面が上部で内傾し、床面が窪む形状を呈する。埋土は大きく4層からなり、第2層・第3層間に細い炭の層が入り、第3層・第4層間に土器片が50点ほど含まれていた。

遺物は壺、甕、高杯等の小片がみられたが、なかでも特筆すべきものに5524、線刻による絵画土器がある。土器溜り-10出土の破片と接合したものである。壺形の土器と考えられるもので、最大径18.5cm、残存器高10.5cmをはかり、色調は灰白色にて胎土中に細かい砂が認められる。頸部に一巡する山形の鋸歯文、その下位に頭を右に向けて走る獣が描かれている。牡鹿が2頭、犬? 1頭、鳥が2羽である。刃の幅0.5mm以下の鋭利な刃物で刻まれている。このような鹿が線刻された土器は、岡山市津島遺跡出土の高杯、総社市堀遺跡出土の壺、岡山市米田遺跡の鉢等が知られている。津島遺跡の線刻が最も近似しているようである。

他の遺物では5520が灰白色を呈する壺の口縁であり、5521~5523は橙色を基調とする色調である。弥・中・Ⅲの要素を残すものもみられるが、本袋状土壌は弥・後・Ⅰの古相段階では廃棄され、ゴミ穴に転用されたようである。 (高畑)

袋状土壌-117、118 (第108図)

○17区東側中央、袋状土壌-105の南西隣に位置する。両土壌は東西に並び、袋状土壌-117が袋状



第108図 袋状土壌-117・118 (1/30) ・出土遺物

土壌の西端を切る格好である。

袋状土壌-117は上端部径136cm、底面径119cm、深さ69cm、底面海拔高335cmをはかり、平面は円形を呈す。断面は壁面上部が内傾し、床面が平坦な形状を呈す。埋土は微砂からなる4層で、その堆積状況は砂時計にみられる凸状の砂の堆積に似る。

遺物は壺、甕、高杯の5525~5531の小片が第1層から出土している。色調は橙色を基調とする土器である。5526は器外面に煤が付着しており、煮沸に用いられた痕跡をとどめる。高杯5531からは袋状土壌-117の廃棄が、弥・後・Iの中相段階に行なわれたと考えられる。

袋状土壌-118は上端部径113cm、底面径102cm、深さ41cm、底面海拔高361cmをはかり、平面は円形である。断面は壁面上部が外傾し、床面が窪む形状を呈している。埋土は3層からなりレンズ状の堆積である。埋土中に弥・後・Iの小片が若干認められた。5532が図示できた高杯の脚である。底径14.0cm、残存高4.1cmをはかり、器外面に櫛描きによる直線文、内面横位のヘラケズリが認められる。

弥・後・Iの古相と考えられる。

(高畑)

袋状土壌-119 (第109図)

○17区の東南、竪穴住居-193と194に挟まれた中間に位置する。袋状土壌-98、120の南東0.5mに所在し、3基で一単位となっている。上端部径110cm、底面径108cm、深さ63cm、底面海拔高327cmをはかり、平面は円形を呈する。断面は東壁面の上部が内傾、西壁面の上部が筒状となるが、西側は崩壊等に伴う補修の可能性も考えられる。床面は平坦な形状を呈する。

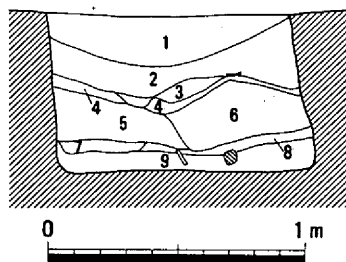
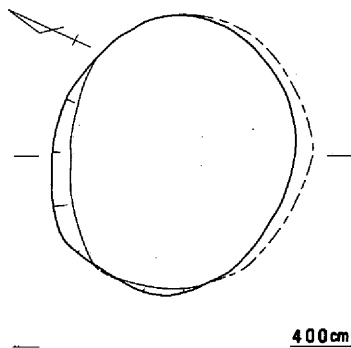
埋土は9層からなり、微砂の堆積が主であるが、第3層のように粘土塊が投棄された場合がある。埋土中からは壺、甕、高杯等の小破片が出土しており、5533~5536がそれにあたる。色調には2系統があり、5533、5534が黄色系、5535、5536が橙色系である。

これらの土器の特徴から、弥・中・Ⅲ~弥・後・Iの古相に比定できる。

(高畑)

袋状土壌-120 (第110図)

○17区の東南、袋状土壌-98の西隣に位置する。まとまっている袋状土壌-98、119、120のうちでは大形であり、上端部154cm、底面径148cm、深さ64cm、底面海拔高324cmをはかり、平面は円形を呈す。断面は壁面上部が内傾し、床面は平坦な形状を呈する。埋土は5層で、レンズ状の堆積をしており、第1、3層は微砂、第2、5層は橙色粘土からなり第4層が炭の堆積である。第1、2、3層をカットする柱穴状穴は古墳時代前



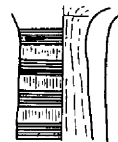
- 1 暗茶褐色粘質土
- 2 暗茶褐色砂
- 3 鈍い(暗)橙色粘土
- 4 橙灰色粘質微砂
- 5 鈍い橙色粘質砂土
- 6 橙色粘質砂土
- 7 砂
- 8 淡灰黒色微砂
- 9 鈍い橙色粘土



5533



5534



5535



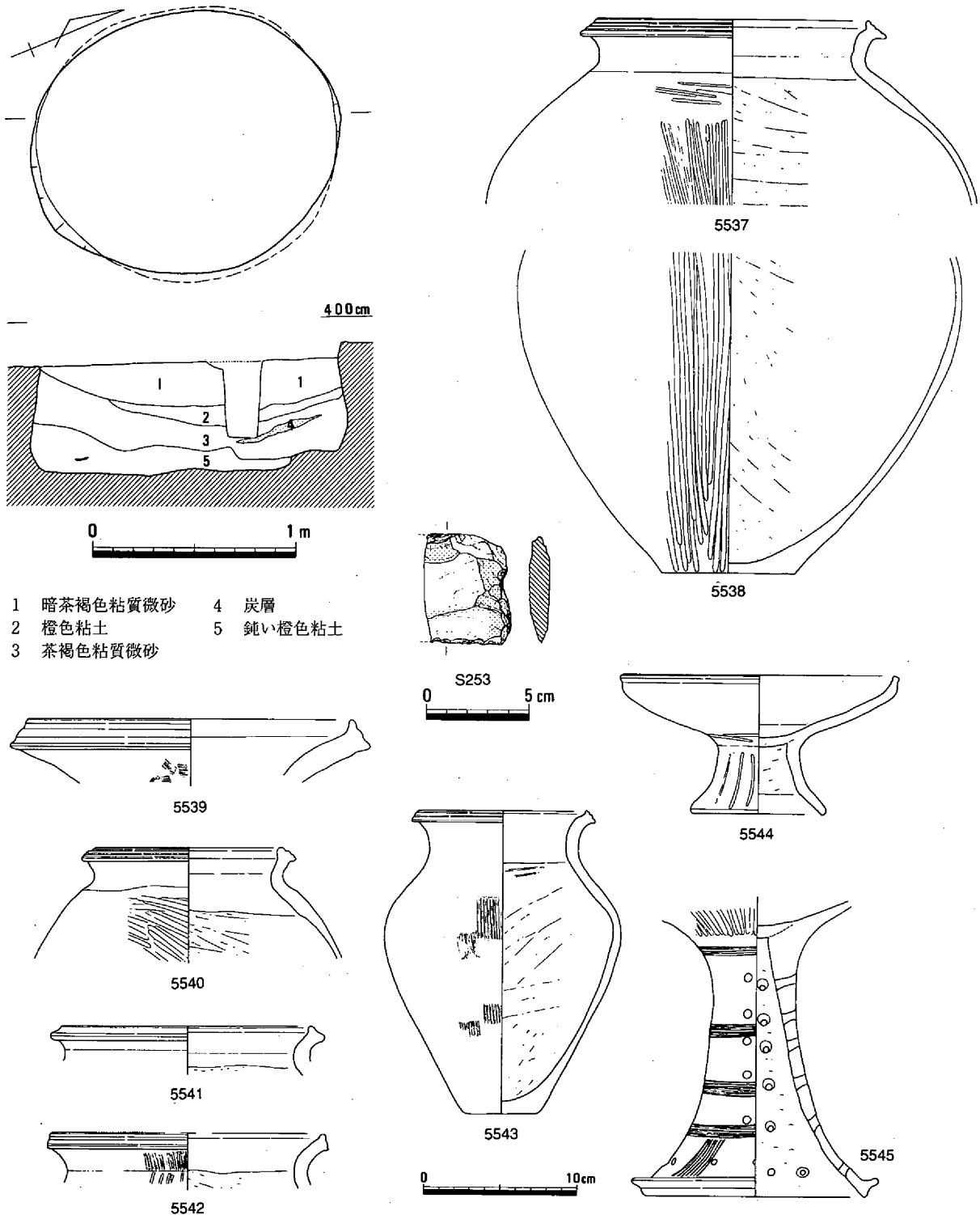
5536



第109図 袋状土壌-119(1/30)・出土遺物

期の竪穴住居-228に付設する土壇断面である。

遺物は壺、甕、高杯等の土器片とサヌカイト製の石包丁の破損品が出土している。5539、5542、5543等が下層からの遺物である。5538、5540、5543、5544の4点は器外面に煤が付着しており、なかでも、5544の高杯は口縁部分のみの煤の付着より高杯から蓋に転用して使用された可能性が強い。完形品は無く、煮沸等の被熱行為の継続により破損した土器が投棄された状況を示している。石包丁もしかりであり、破損して使用不可能になった物として処理されている。伴出したサヌカイト製剥片の



第110図 袋状土壇-120(1/30)・出土遺物

蛍光X線分析での産地推定では、香川県坂出市金山地域の原産地領域に入っている。

袋状土壙-97、竪穴住居-194、195のサヌカイト製剥片からも同様の結果が出ている。

本袋状土壙の時期は、弥・後・Iの中相である。 (高畑)

袋状土壙-121 (第111図)

〇17区の東南、竪穴住居-193の北西約3mのところの位置する。袋状土壙の集中部分から少し外れた場所に所在しており、この傾向は住居域の西側にゆくに従って認められる。

上端部径154cm、底面径148cm、深さ64cm、底面海拔高324cmをはかり、平面は円形である。断面は壁面上部が内傾し、底面が平坦な形状を呈する。埋土は6層からなり、レンズ状の堆積を示し、第1～第5層までが微砂、第6層が厚さ約2cmの炭層である。なお、第1層中には焼土、炭等を多く含んでおり、約50点の土器小片が出土している。また、土器小片の中には灰白色を呈し、器壁の均一な破片が少量混在している。

遺物は第1層の出土が多く、甕5546、高杯5547が図化可能なものである。

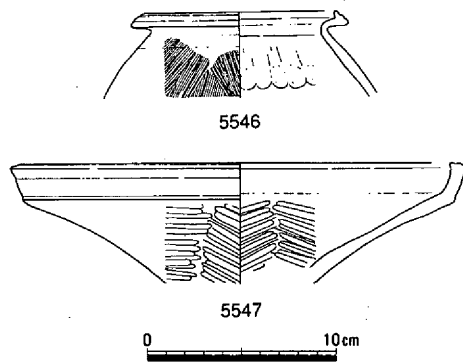
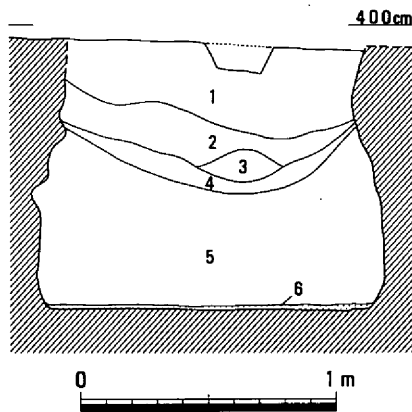
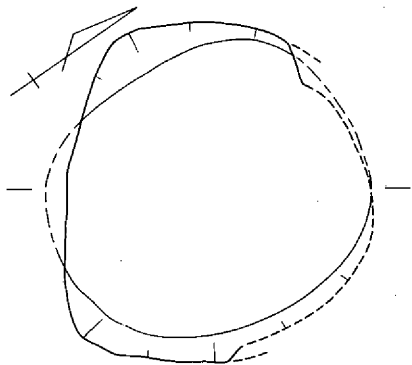
弥・後・Iの古相に比定できる。 (高畑)

袋状土壙-122 (第112図)

〇17区の中央横線上東側、竪穴住居-193の北側約3mに位置する。19基ほどの袋状土壙が集中する場所の西端に少し離れて所在する。

上端部径126cm、底面径142cm、深さ69cm、底面海拔高312cmをはかり、平面は円形を呈する。断面の形状は壁面上部が内傾し、底面が平坦となるいわゆる袋状土壙である。埋土は5層からなるが、第1層は古墳時代前期の竪穴住居-222の貼り床面であり、第2層から第5層までが本来の埋土である。第2層から第4層が炭粒を含む微砂であり、第5層が粘土である。

遺物は壺、甕、高杯、鉢等の破片があり、5548が第5層、5549～5554は上層からの出土である。5548の口縁部凹線上に



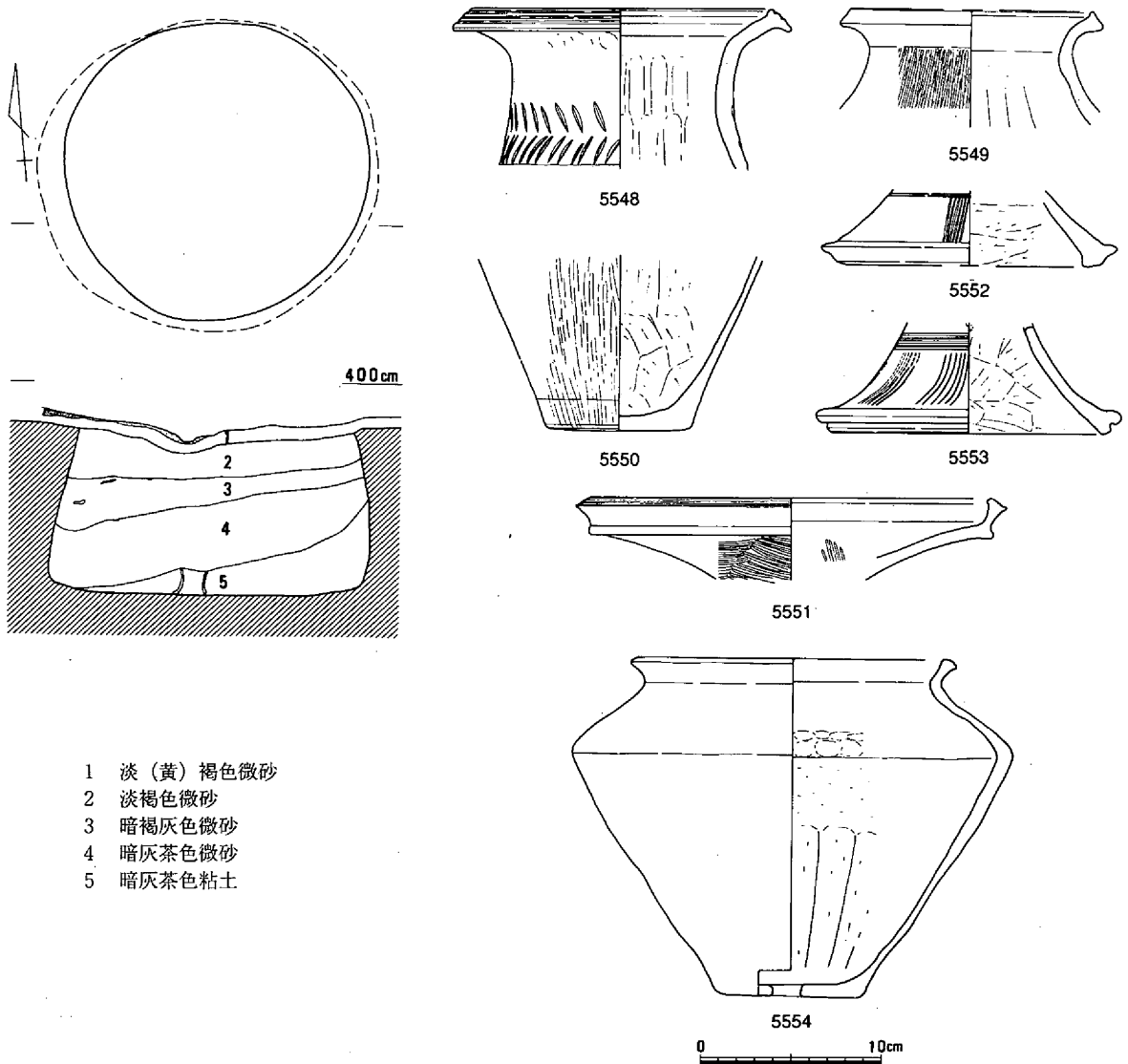
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗茶褐色微砂 | 4 灰褐色微砂 (粗砂に近い) |
| 2 暗褐色微砂 (粗砂に近い) | 5 茶灰色微砂 (粗砂に近い) |
| 3 暗褐色微砂 (粗砂に近い) | 6 炭層 |

第111図 袋状土壙-121 (1/30)・出土遺物

3個1単位の円形竹管文が巡る。5550の器外面には煤の付着が認められる。

弥・後・Iの古相～中相に比定できる。

ここまでの、P5の7基、P2の2基、P1の2基、M8Iの31基、計42基の袋状土壙の説明を加えた。一応断面の形態から壁面上部が内傾する1型、円筒状の2型、上部が外傾する3型の3種に、底面の形態が平らなA型、中央が窪むB型、中央が盛り上がるC型、周囲に溝のあるD型の4種に分け、組合せを1A型～3D型の12に分類した。壁面の形態では1型が最も多く、2型、3型の順序となり、底面の形態ではA型が最も多く、B型、C型、D型の順序となる。従来より袋状土壙と呼称された断面形状をもつものも多く、2型としたものの中には掘り方のベースが微砂のため使用時において壁面の崩壊した可能性の強いものを含むことも考えられ、3型についても最大径部分が後世の上部掘削によったもの等が含まれる可能性がある。用途面は貯蔵穴の可能性が強いが、42基中からはそれを実証できる遺物は発見されていない。規模の大小、掘り方外壁の土質（粘土・微砂）にも差が認められる。機能の消失時点で廃棄物の処理穴として利用されているものが多いと考えられる。（高畑）



- 1 淡（黄）褐色微砂
- 2 淡褐色微砂
- 3 暗褐色微砂
- 4 暗灰茶色微砂
- 5 暗灰茶色粘土

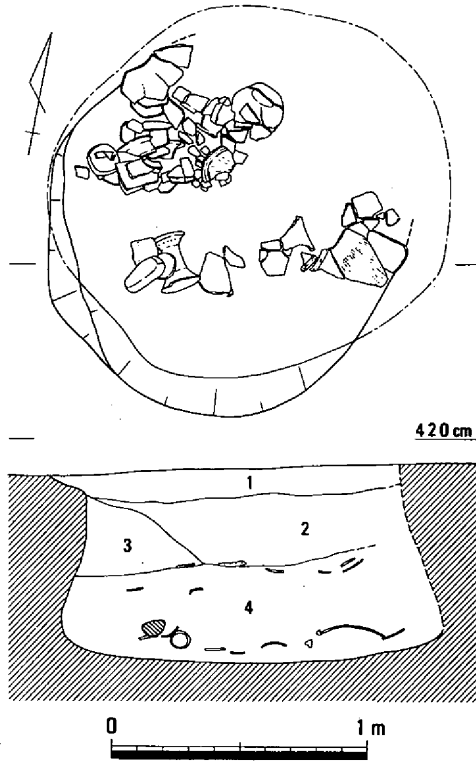
第112図 袋状土壙—122(1/30)・出土遺物

袋状土壙-123 (第113図~第118図)

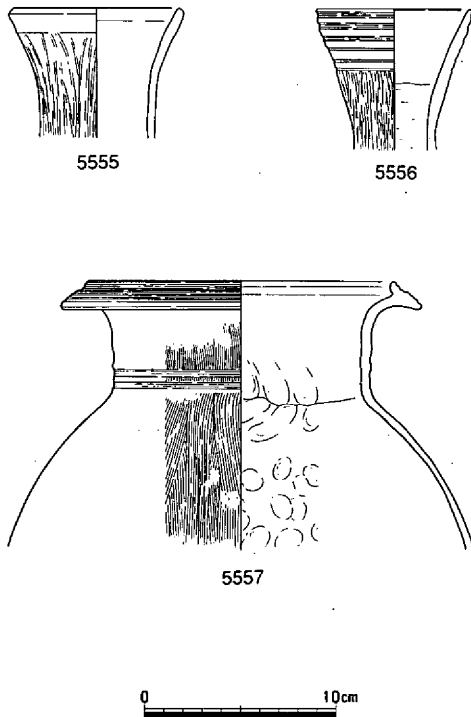
○17区北西部で竪穴住居-247の下部で検出された。検出面で推定150cmの径を測り、いったんすぼまり、底部付近で最大径約152cmの規模を持つ。検出面からの深さは76cm、底面の海拔高は337cmを測る。

上部の1~3層の埋土は、ややグライ化した黄色粘質土であり、多量の遺物が下部の4層から出土している。なお、4層上面で薄い炭層が確認された。この状況から、4層において、一括の土器廃棄状況が認められ、この後自然に埋没したと思われる。

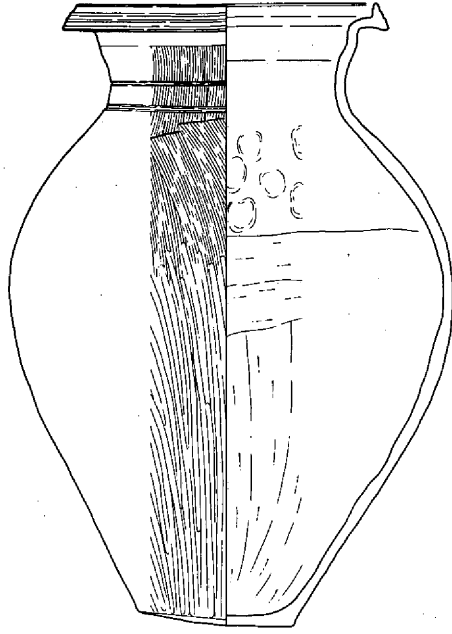
遺物整理段階で確認できた個体数は、大形の壺5、小形の壺5、壺の口縁部1、大形の甕4、中形の甕7、甕の口縁部2、大形の高杯5、小形の高杯2、高杯の口縁部3、同脚部1、台付鉢2、直口壺2がある。この他に壺か甕の底部7個体があり、総計46個体以上の土器が確認された。このうち5555~5596までを図示している。5555・5556は直口壺である。5557~5563は壺。5564~5566は小形の壺である。5567~5582は甕である。5583~5586は壺か甕の体部片である。5587~5593は高杯、5594は台付鉢である。



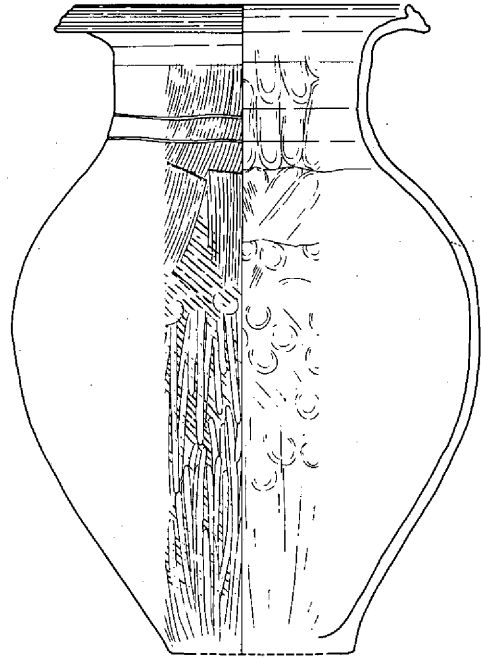
- 1 明黄色ブロック混じり茶褐色~青灰色粘質土
- 2 青黄色粘質土 (炭含む)
- 3 青黄色粘質土 (微~細砂多し)
- 4 明黄灰色粘質土 (土器多く含む)



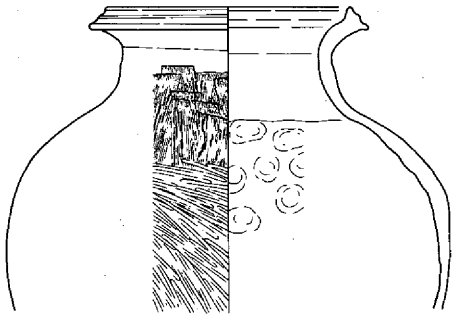
第113図 袋状土壙-123 (1/30)・出土遺物(1)



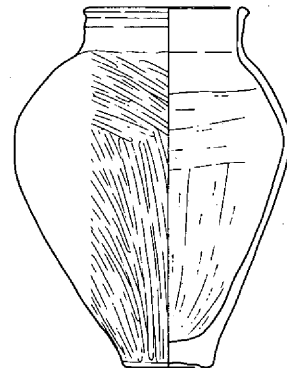
5559



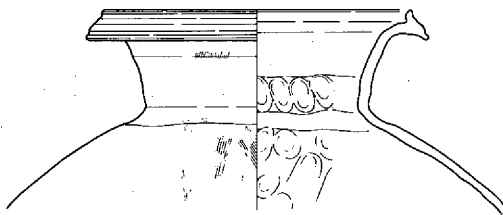
5560



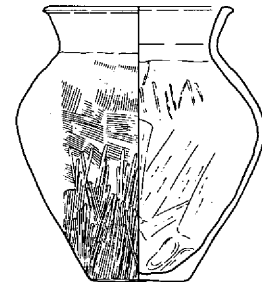
5561



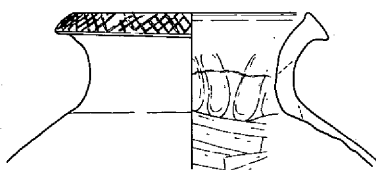
5564



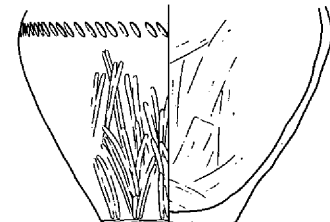
5562



5565



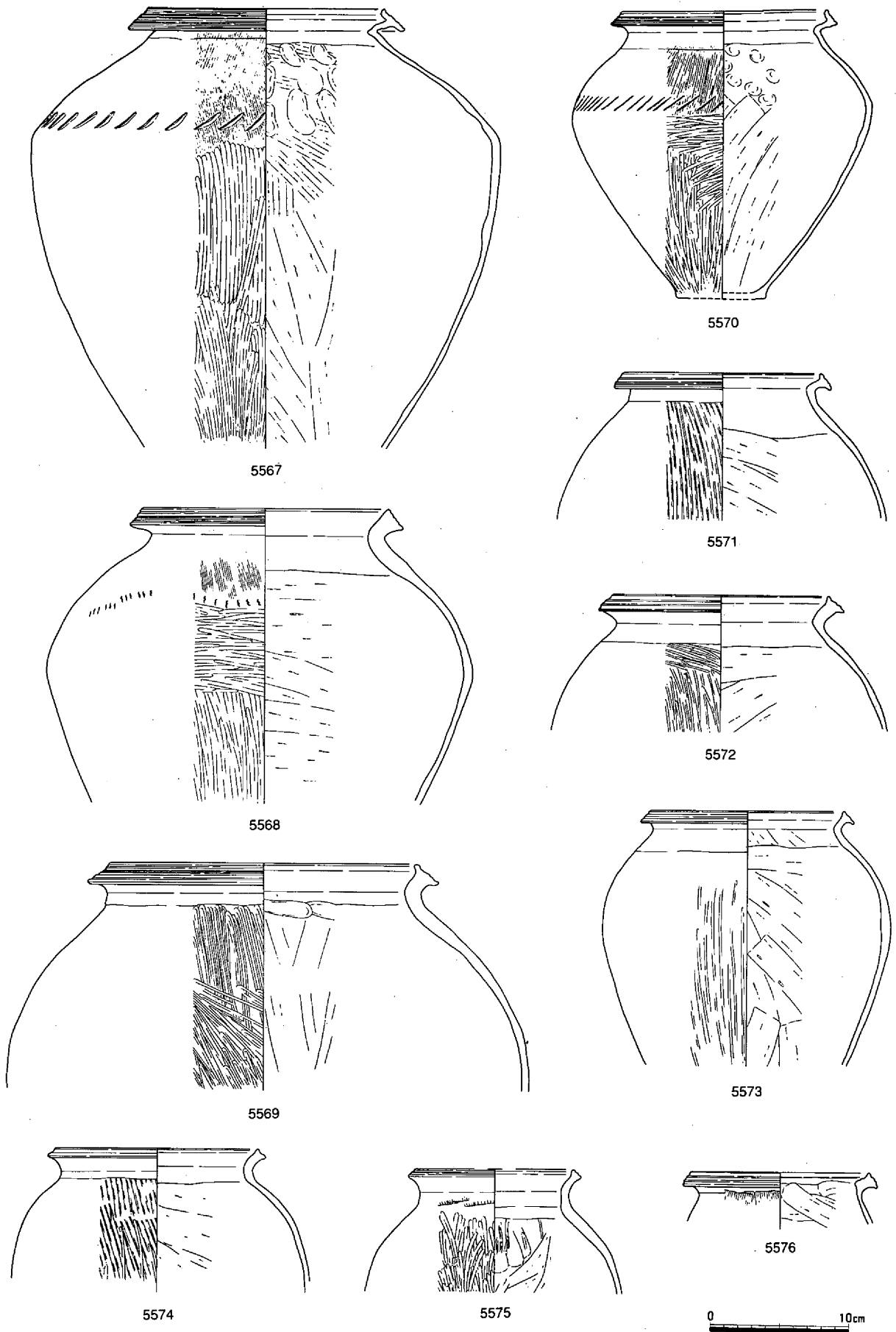
5563



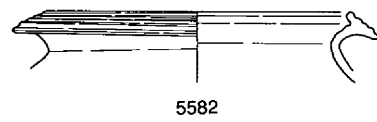
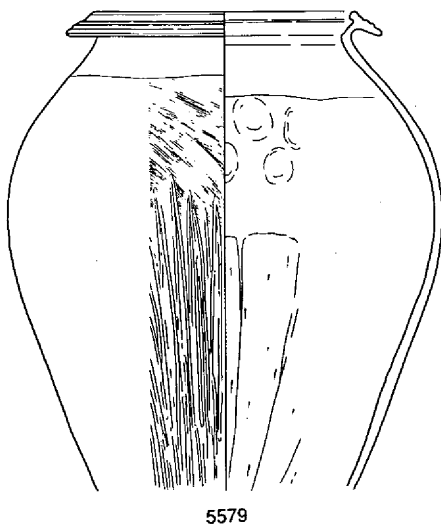
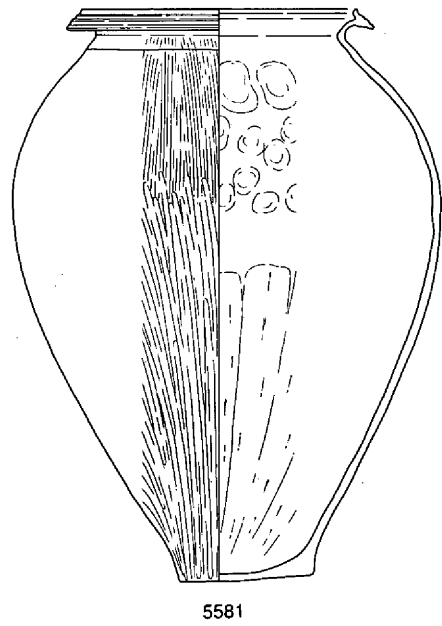
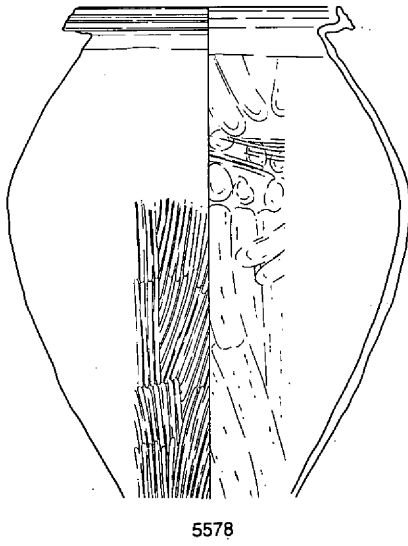
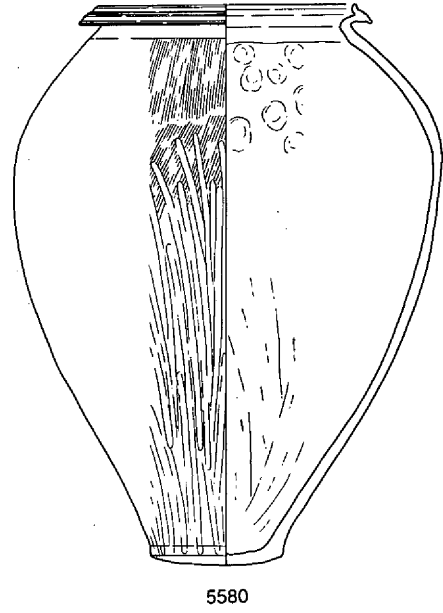
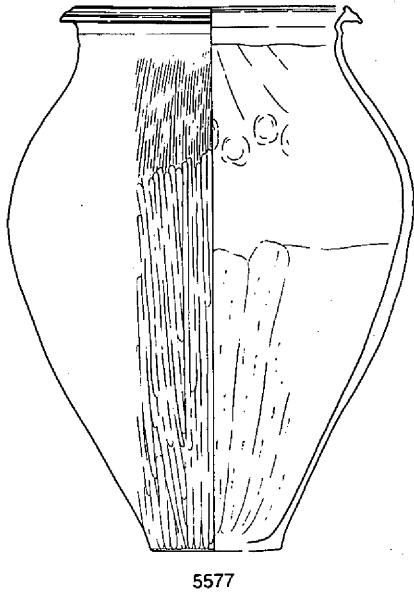
5566



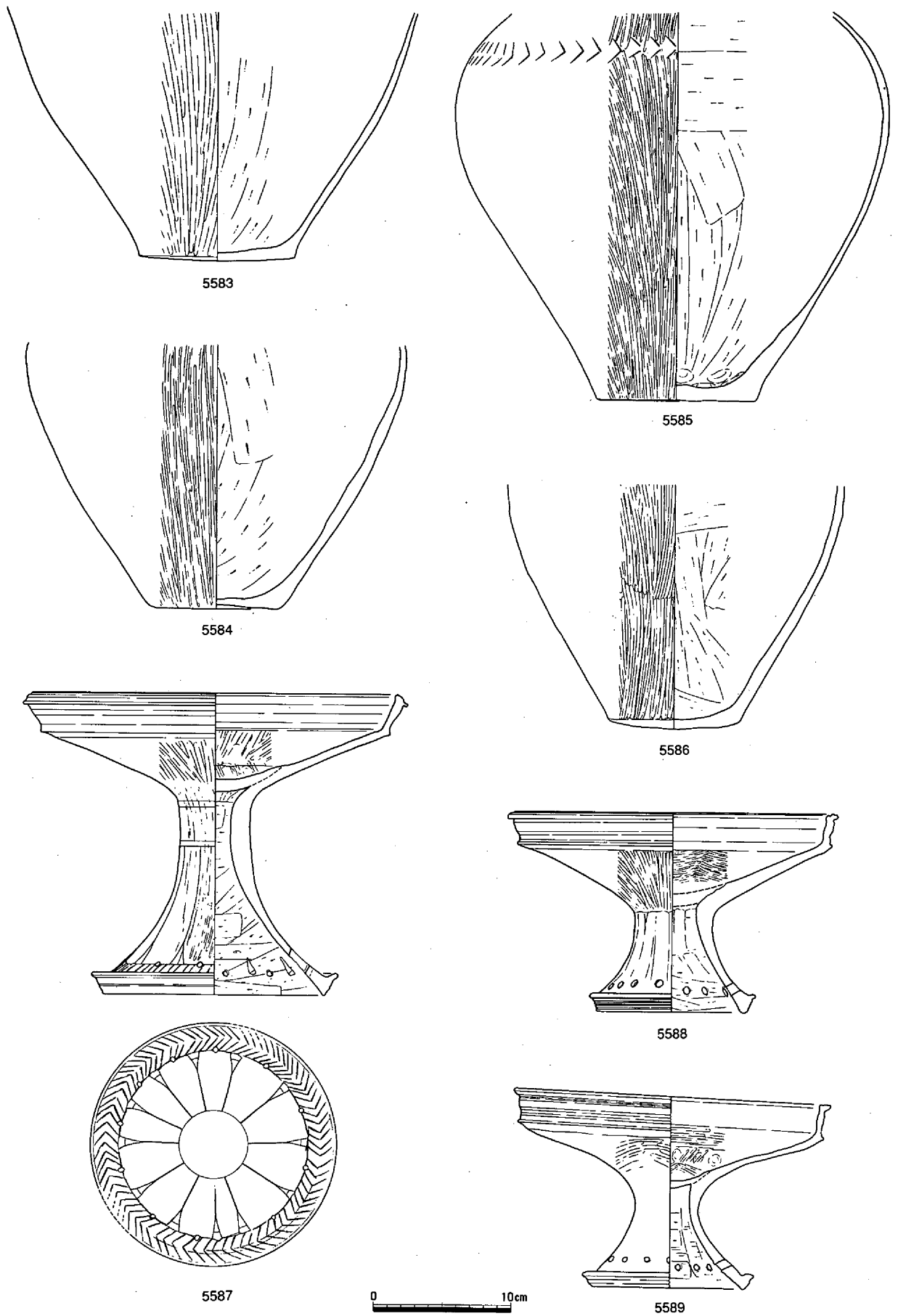
第114図 袋状土壙-123出土遺物(2)



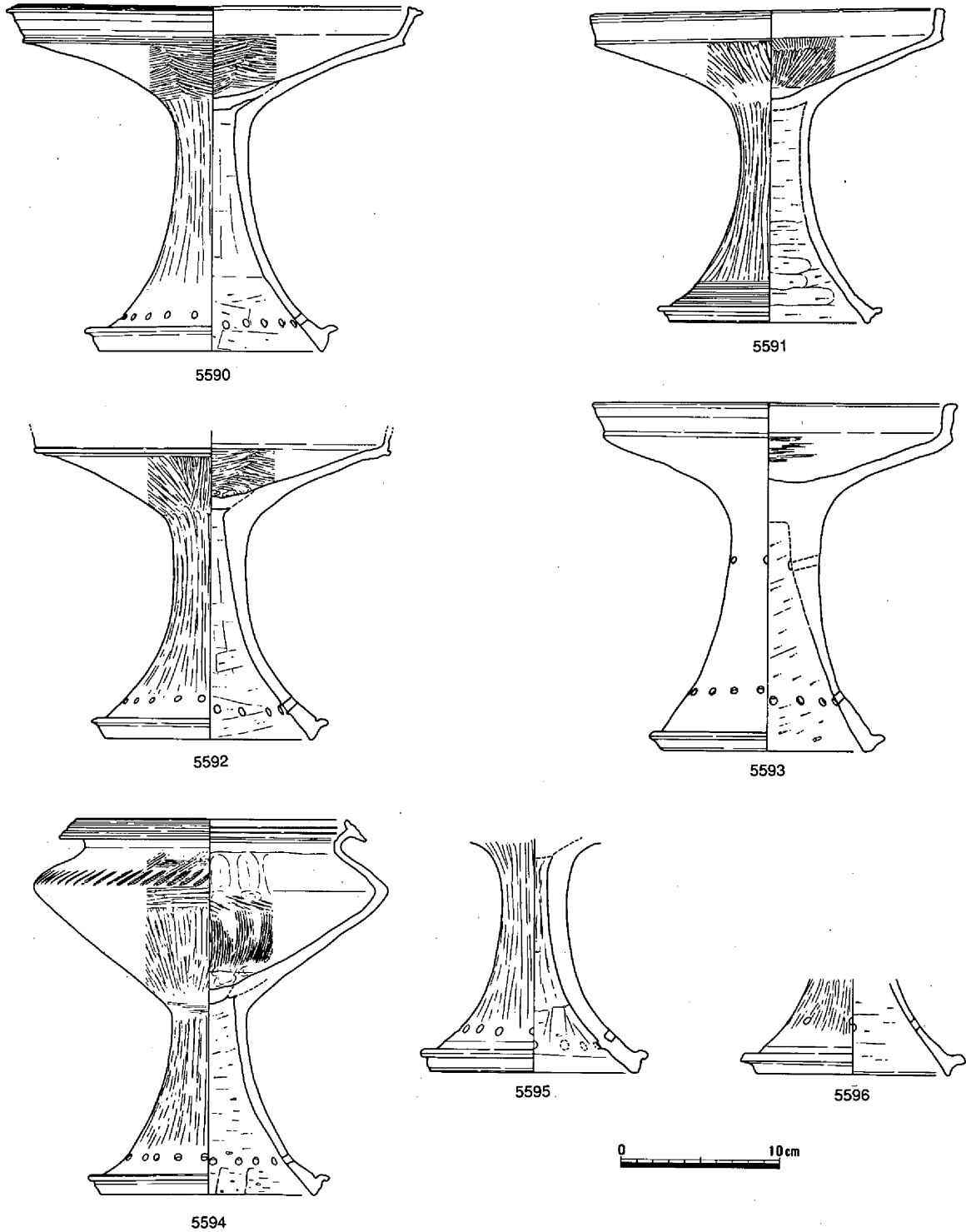
第115図 袋状土壙-123出土遺物(3)



第116図 袋状土壇一123出土遺物(4)



第117図 袋状土壙-123出土遺物(5)



第118図 袋状土壙—123出土遺物(6)

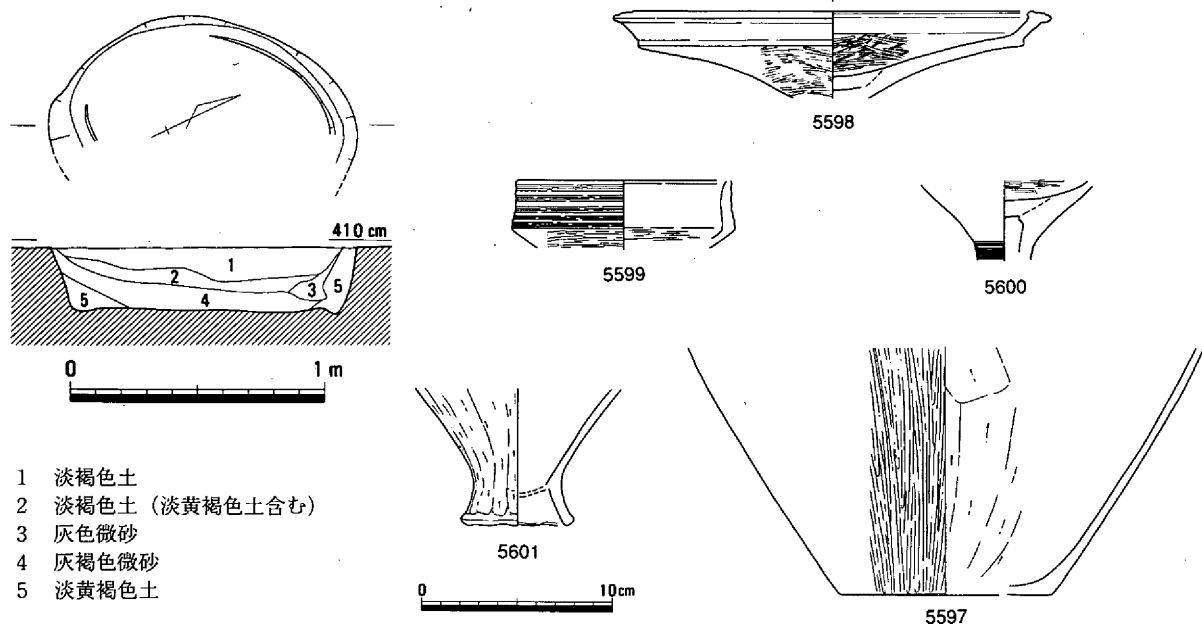
これらの出土遺物のうちに、灰白色の色調を持つものと褐色系の色調を持つものが混在している。また、その細部の特徴においても、弥生中期後半のもの、後期の様相の初現をしめす個体もある。この現象が廃棄時の一括性のみを示すのか、使用時の同時性を反映したものかは即断できないが、このような状況を示す他の袋状土壙の存在もあり、非常に興味深い資料の一つとなろう。このようなことからこの袋状土壙の時期はここでは弥・中・Ⅲといったん判断しておく。(大橋)

袋状土壙-124 (第119図)

O17区東部、袋状土壙-123の南東12mで検出された。他の遺構によって削平されており、確認できたのはその西半のみである。最大推定径123cmを測り、検出面からの深さ約25cmほど残存していた。底面の海拔高は382cmである。底部には幅10cm、深さ4cmほどの溝が巡る状況を把握した。

出土遺物は5597~5601を図示したが、これらから弥・後・Iと考えた。

(大橋)



第119図 袋状土壙-124 (1/30)・出土遺物

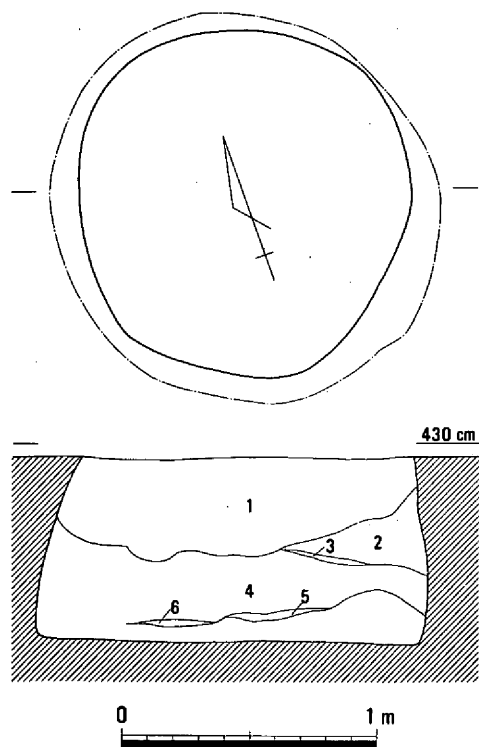
袋状土壙-125 (第120図)

O17区東部、袋状土壙124の北約1mで検出したものである。古墳時代後期の竪穴住居-325の下部に位置する。検出面で径131cmの円形を呈する。壁面はやや外方に傾斜し、底部で最大径155cmを測った。底面の海拔高は350cmを測る。

埋土は下半にブロック塊を多く含むものであり、ある程度人為的に埋め戻した様相がうかがえた。なお、出土遺物は、この下半の埋土に少量の細片が混入している程度であり、このことも人為的な埋め戻しの傍証となろう。

出土遺物は図示していないものの、弥生時代中期末段階と思われる棒状浮文を施した口縁部の小片と甕の体部破片を確認している。

(大橋)

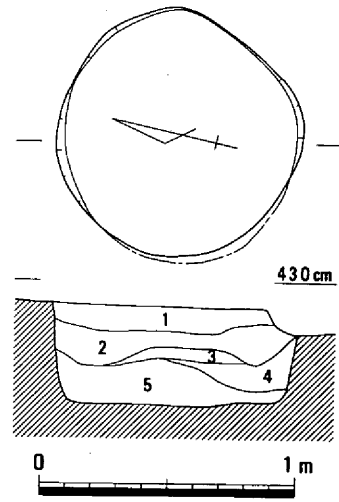


- | | |
|-----------------|-----------|
| 1 暗茶褐色粘質土 | 4 明茶色粘質土 |
| 2 淡黄色粘質土 (土器含む) | 5 灰黄茶色粘質土 |
| 3 茶褐色粘質土 (炭含む) | 6 明黄茶色粘質土 |

第120図 袋状土壙-125 (1/30)

袋状土壇-126 (第121図)

袋状土壇-125の1m西で確認した袋状土壇である。他の袋状土壇と比較しやや小形のものであり、検出面での径96cmを測る円形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、下面径もほぼ同じである。底面の海拔高は382cmである。出土遺物は細片のみでこれから詳細な時期を判断できないものの弥・後・I段階の可能性が高いと思われる。(大橋)



- 1 暗茶褐色粘質土
- 2 明茶色粘質土 (微砂多く含む)
- 3 明茶色粘質土
- 4 黒茶褐色粘質土 (炭多く含む)
- 5 淡黄茶色粘質土

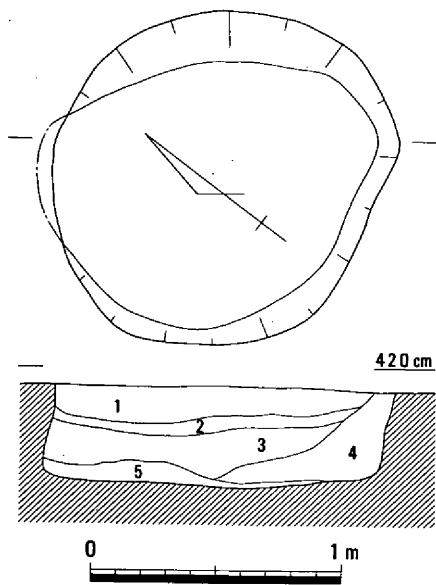
第121図 袋状土壇-126(1/30)

袋状土壇-127 (第122図)

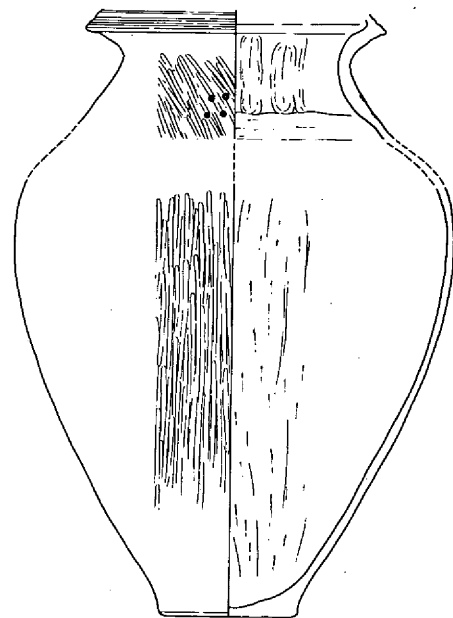
袋状土壇-124の南西約1mで検出したものである。最大径141cmを測る不整円形を呈し、深さは約40cmを測る。壁面はほぼ垂直気味である。底面の海拔高は373cmである。埋土には黒褐色の炭層を挟み、人為的な埋め戻し行為がうかがえた。

出土遺物は、5602~5604の3個体を図示したが、このほか壺か甕の底部破片3個体がある。5602は壺である。接点はないものの図上で復元した。口縁部に凹線、頸部下端には竹管文が4個施され、黒斑をもつ。5603は小形の甕である。5604は頸部に凹線が施されている。

これらの遺物の特徴から、この袋状土壇の時期を弥・後・I段階と推測した。(大橋)



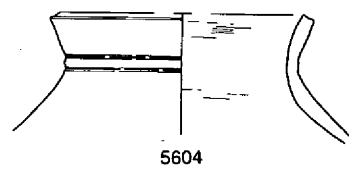
- 1 明茶褐色粘質土 (灰黄色ブロック土含む)
- 2 黒褐色粘質土 (炭、土器多く含む)
- 3 黄褐色粘質土
- 4 青灰黄色粘質土 (微砂多く含む)
- 5 灰黒茶色粘質土 (土器含む、砂礫多く含む)



5602



5603



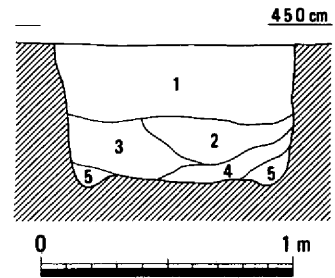
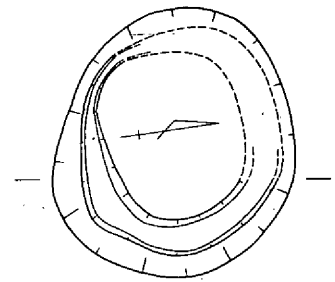
5604

0 10cm

第122図 袋状土壇-127(1/30)・出土遺物

袋状土壙-128 (第123図)

袋状土壙-124の北東約1mに位置する。袋状土壙-124~128までの5基は約6m四方の中にかたまって密集する。長径116cm、短径96cmのやや楕円形の平面形をなす。検出面からの深さは55cmあり、底面の海拔高は387cmを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面には周囲に最大幅約14cm、深さ5cmほどの溝が巡る状況が観察された。出土遺物は細片が少量のみあるため、周囲の袋状土壙の状況から、弥生時代後期前半の時期を考えている。(大橋)

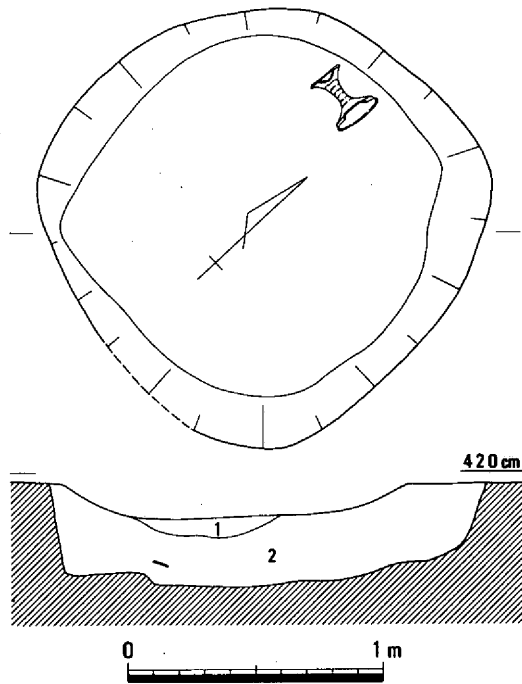


- 1 暗茶褐色粘質土
- 2 黄灰色粘質土 (炭含む)
- 3 黄灰色粘質土
- 4 暗灰黄色粘質土 (微砂含む)
- 5 暗灰黄色微砂

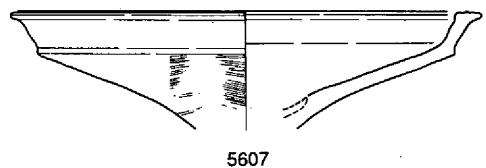
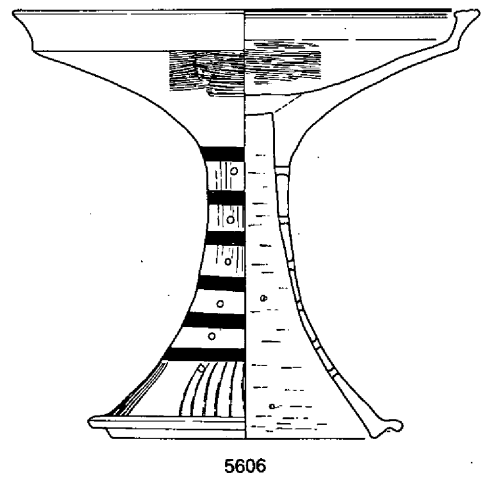
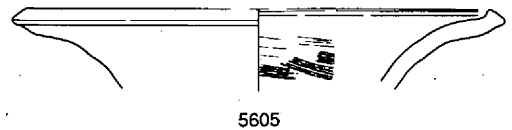
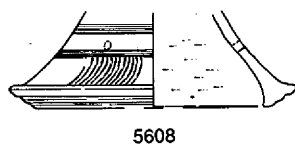
袋状土壙-129 (第124図)

袋状土壙-124~128が検出された一群からやや離れ、約8m南東に位置する。一辺150~160cmの隅丸方形の平面形を有し、検出面からの深さは40cmと浅い。底面は、やや凹凸のある状況を呈する。底面の海拔高は375cmを測る。出土遺物は5605~5608の4点を図示したが、このうち5606の高杯はほぼ完形で底面近くから出土し、5606の高杯は軸部に6個一列で3方向に透かし穴が施されている。これらの出土遺物から、時期は弥・後・I段階と推測している。(大橋)

第123図 袋状土壙-128 (1/30)



- 1 茶色粘質土
- 2 青緑粘質土 (微砂含む)



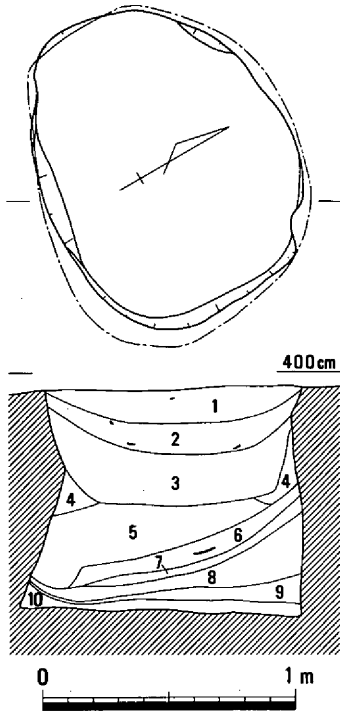
第124図 袋状土壙-129 (1/30)・出土遺物

袋状土坑-130 (第125図)

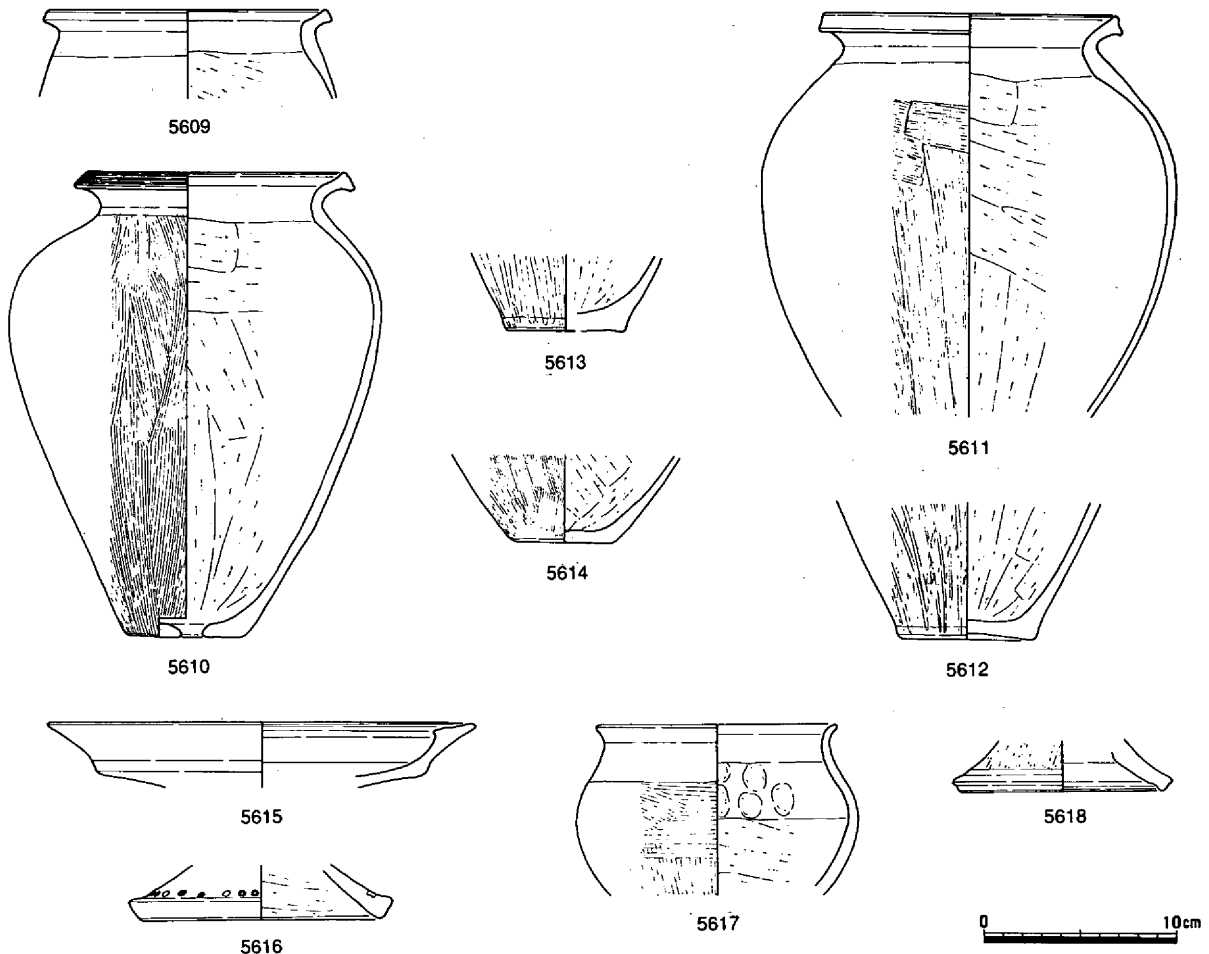
この土坑は調査区中央のやや南東部に位置し、竪穴住居-202のほぼ東約15mに検出された。規模は、127×122cmで平面形は楕円形を呈している。深さは約87cmを測り、断面形はI-a形を呈する。底部は、ほぼ水平に掘られている。土坑内は、第1～第10層が堆積しており、下層の第5～第9層は、土坑の北側から堆積した状況をよく示している。出土遺物は、各層より出土したが、上下層の時期差は認められなかった。

甕の5609～5612は、頸部から屈曲気味に外反する口縁部をもつ5609や頸部から大きく外反する5610・5611がある。外面は、ハケメで内面は頸部までヘラケズリを施す。高杯の5615・5616は、杯部の口縁は斜上方に立ち上がり、端部を横に肥厚させている。

(中野)



- | | |
|--------------------|-----------|
| 1 灰茶褐色砂質土 | 6 暗灰褐色砂質土 |
| 2 暗灰茶褐色砂質土 (炭を含む) | 7 黄褐色砂質土 |
| 3 暗灰茶褐色粘質泥砂 (炭を含む) | 8 茶褐色砂質土 |
| 4 暗茶褐色砂質土 | 9 黄褐色泥砂 |
| 5 黄茶褐色砂質土 | 10 暗茶褐色泥砂 |

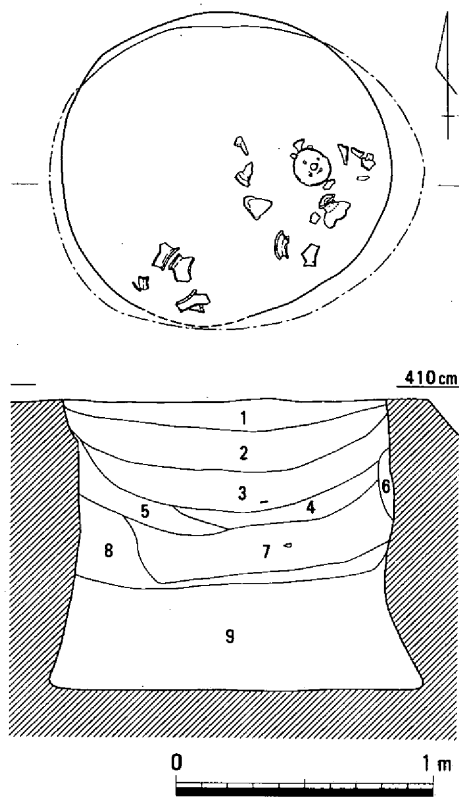


第125図 袋状土坑-130 (1/30)・出土遺物

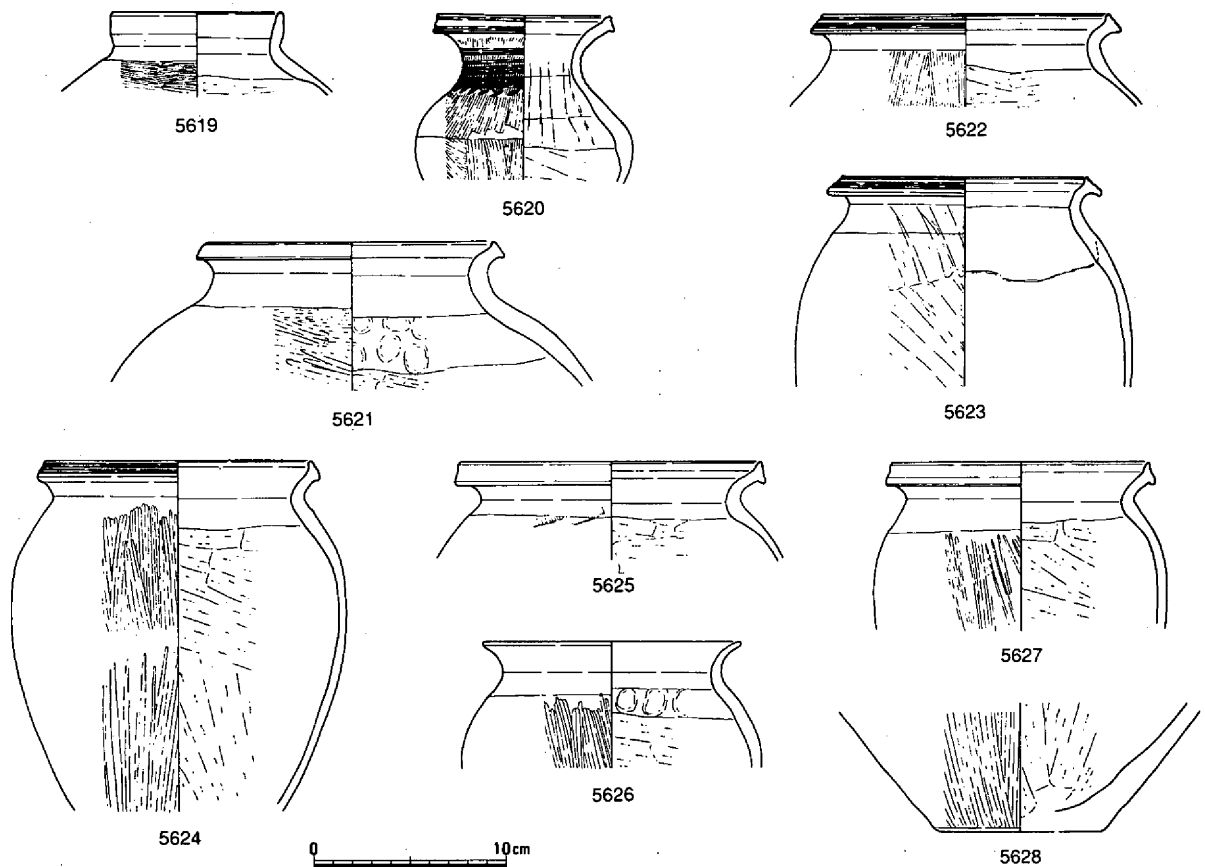
袋状土壌-131 (第126・127図)

土壌は、袋状土壌-130の北西約2mに近接して検出された。規模は128×145cmで平面形は円形を呈している。深さは約115cmを測り、残存状態は良い。断面は裾広がりになっており、底部はほぼ水平に掘られている。土壌内には、第1～第9層がレンズ状に堆積しており、各層には炭、焼土を含んでいた。

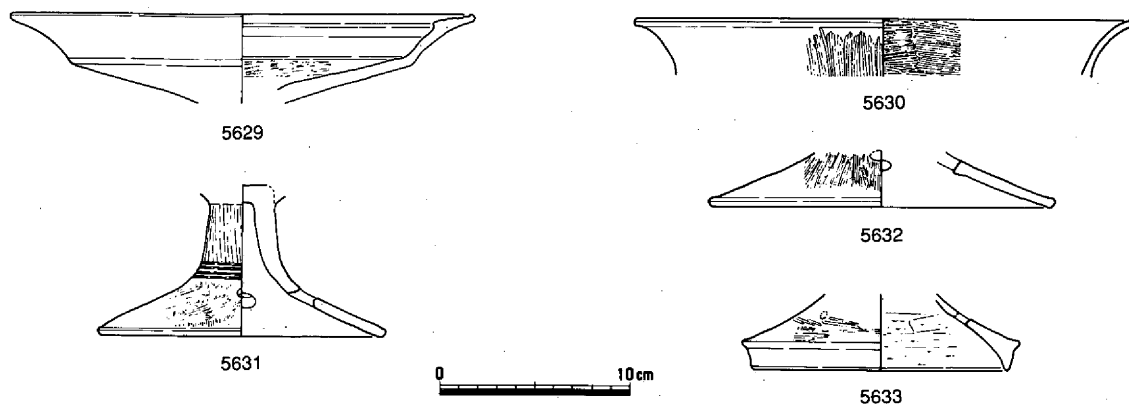
出土遺物としては5619～5633などの土器が検出された。壺の5619、5620は、口縁部が上方に立ち上がる5619や頸部から大きく外反する5620がある。甕の5622～5627は、口縁端部を上下に肥厚させる5621～5625・5627、丸くおさめている5626がある。これらの土器はいずれも、袋状土壌-130と同時期と考えられる。(中野)



- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 茶褐色砂質土
(土器片を含む) | 6 暗灰黄色砂質土 |
| 2 淡茶褐色砂質土
(焼土を少量含む) | 7 暗黄黒色粘質土
(土器、炭、焼土を含む) |
| 3 黄褐色砂質土 | 8 暗黄褐色粘質土
(炭、焼土を含む) |
| 4 暗黄褐色砂質土
(炭、焼土を少量含む) | 9 暗茶褐色砂質土
(炭、少量を含む) |
| 5 暗黄褐色砂質土
(炭、焼土を含む) | |



第126図 袋状土壌-131(1/30)・出土遺物(1)

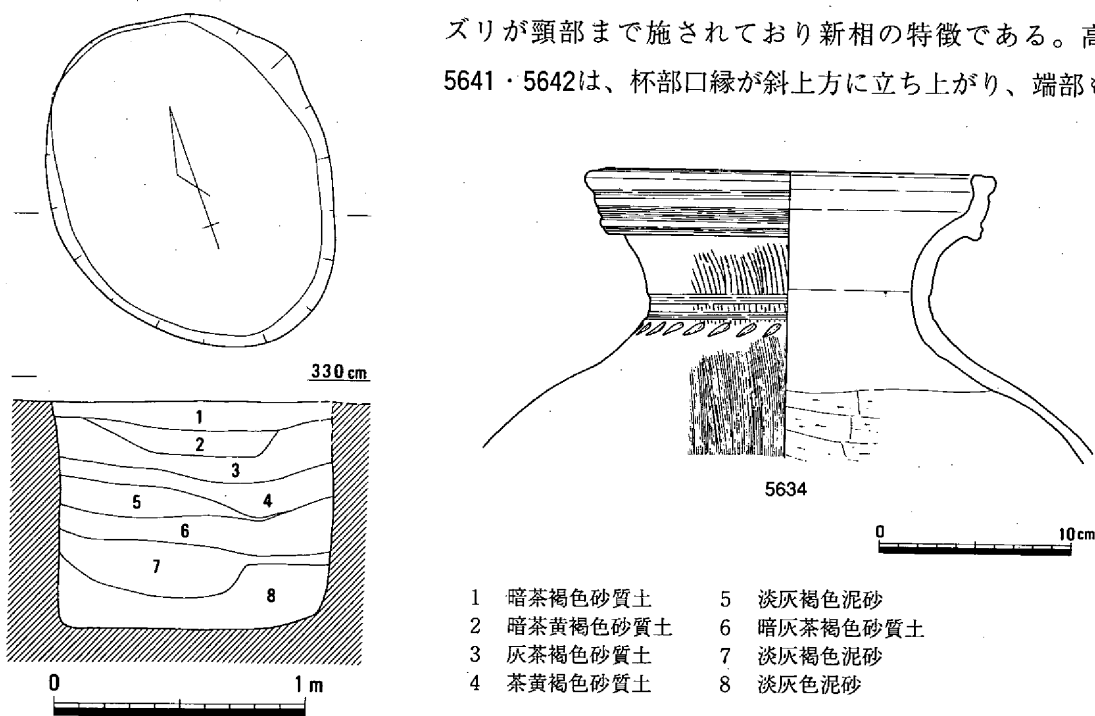


第127図 袋状土壇-131出土遺物(2)

袋状土壇-132 (第128・129図)

この土壇は、調査区中央のやや南側に位置し、竪穴住居-202の南西約7mに検出された。規模は139×113cmで、平面形は楕円形を呈している。深さは約90cmを測り、断面形はⅡ-a形を呈している。底部はほぼ水平で、底部から上方に立ち上がる。土壇内は、第1～8層が堆積している。出土遺物は図示した土器などが各層より検出された。

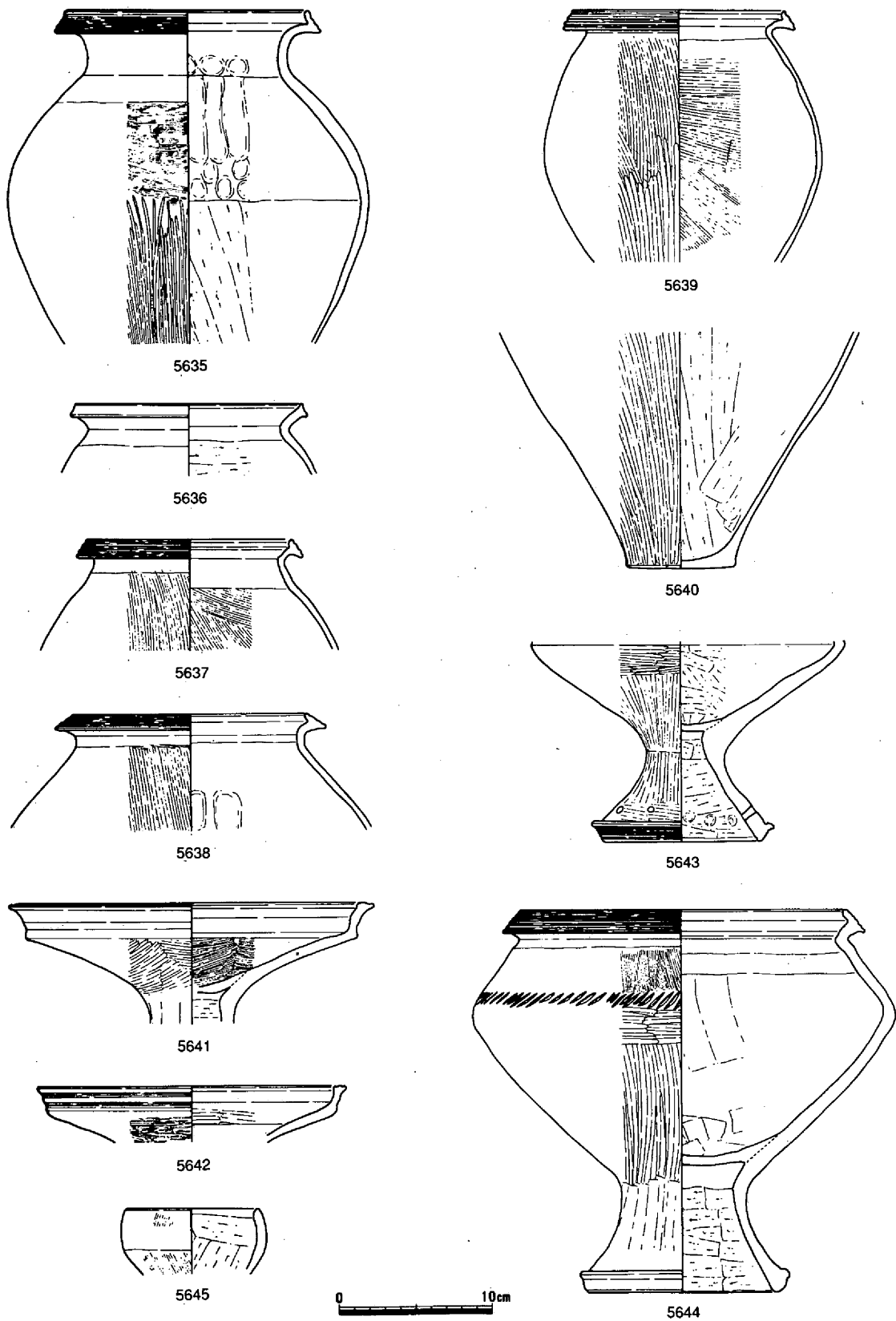
壺には5634と5635がある。5634は、頸部から大きく外反しさらに上方に立ち上がる口縁部をもつ。口縁端面および側面には、凹線文を施す。頸部には2本の凹線文を巡らし、その下部には刺突文を巡らしている。外面は荒いハケメで、内面は頸部近くまでヘラケズリで調整している。この土器は、当地域では認められないものである。5635は、頸部は広くなり短くなってきている。甕の5636～5639には、口縁部に凹線文をもつ5637～5639と凹線文をもたない5636がある。5637～5639は、内面がハケメで調整されており古相の様相を示す。5636は、内面のヘラケズリが頸部まで施されており新相の特徴である。高杯の5641・5642は、杯部口縁が斜上方に立ち上がり、端部も横方



第128図 袋状土壇-132(1/30)・出土遺物(1)

第3章 調査区の概要

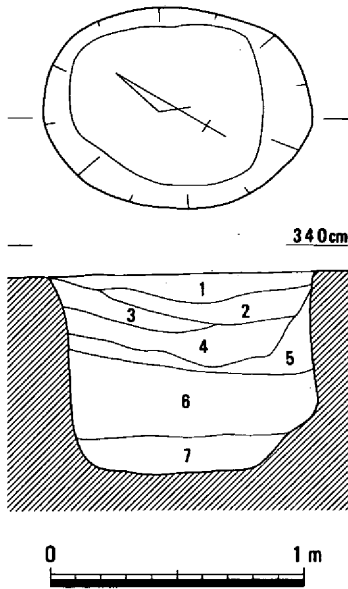
向に肥厚させており新相の状況を示している。これらの土器は、弥生中期末の古い様相と弥生後期初頭の新しい様相が混ざった状況である。 (中野)



第129図 袋状土壙-132出土遺物(2)

袋状土壇-133 (第130図)

この土壇は、袋状土壇-132の北西約1mに近接して検出された。106×81cmの規模で平面形は楕円形を呈している。深さは約78cmで断面形はI-b形を呈する。底部はほぼ水平で、底部から上方に立ち上がっている。土壇内は第1～第7層が堆積しており、土壇の下層には第6・7層の粘質土が堆積していた。出土遺物としては少量の土器が検出されたが、時期が不明である。埋土等から袋状土壇-132とほぼ同時期と考えられる。



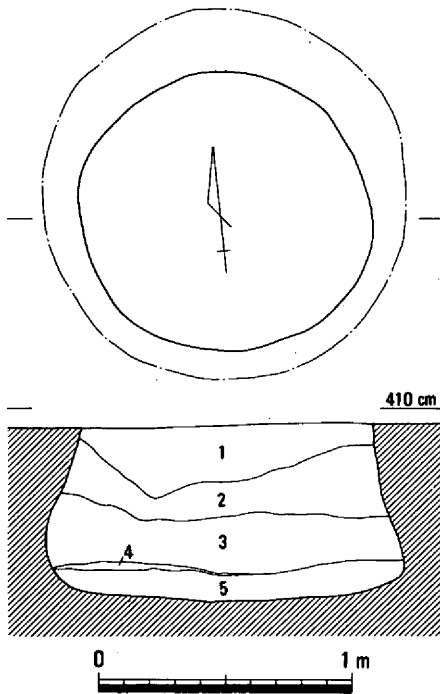
袋状土壇-132・133の存在する位置は、西側および北西側に袋状土壇140～148が数多く検出されており、これらの袋状土壇も含めて一群をなしていると考えられる。(中野)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 黄褐色砂質土 | 5 淡灰褐色泥砂 |
| 2 暗茶褐色砂質土 | 6 灰茶褐色粘質土 |
| 3 茶褐色砂質土 | 7 暗灰色粘質土 |
| 4 暗灰褐色粘土 | |

第130図 袋状土壇-133(1/30)

袋状土壇-134 (第131図)

P18区の南西で検出した円形の袋状土壇である。上面が径118cmを測るのに対し、平坦な底面は径146cmと広がっている。高さ70cmある壁面は、標高334cmを測る底面から内傾してたちあがる。埋土の上層はレンズ状の堆積をなすが、水平に堆積する下層には薄い炭化物層が認められた。遺物は、凹線文をめぐらす壺の頸部が出土しており、弥・後・Iでも古相を呈する。(亀山)

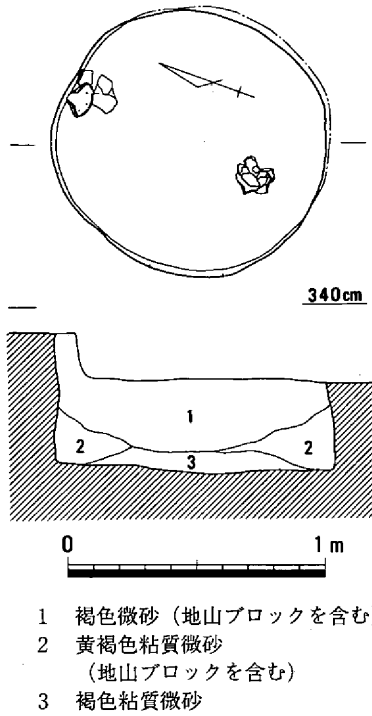


- | |
|------------------------|
| 1 褐色微砂 |
| 2 暗褐色粘質微砂 |
| 3 暗黄褐色粘質微砂 (地山ブロックを含む) |
| 4 炭層 |
| 5 褐灰色中 |

第131図 袋状土壇-134(1/30)

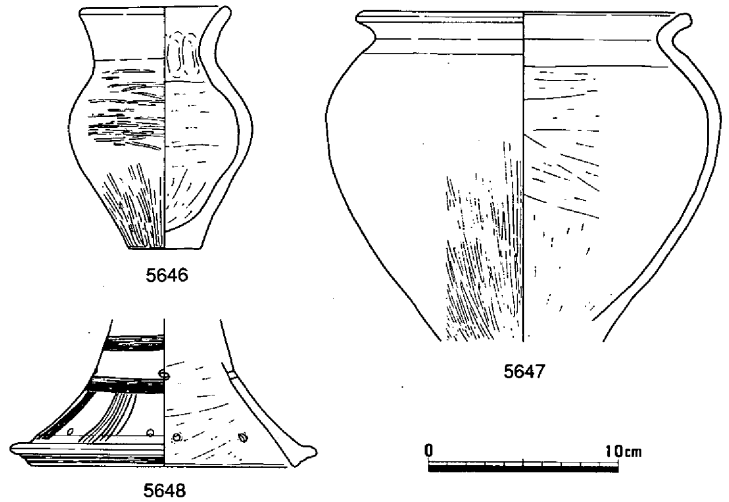
袋状土壇-135 (第132図)

袋状土壇-134の西10mで検出したもので、P17区の南東に位置している。上面径108cm、底面径105cmを測る円筒形をなし、現状での深さは53cmを測る。平坦な底面の標高は273cmと今回報告した袋状土壇のなかでは最も低い位置にある。土壇底部には埋土が凸字形に堆積し、その周囲に崩落した壁面に由来する粘土ブロックが認められることから、開口部が狭まる袋状に復元される。土壇内から出土した遺物に、壺・鉢・高杯がある。5647は底部を欠いているが、脚台を備えた鉢になるものと思われる。口径は17.0cmを測り、外反



- 1 褐色微砂 (地山ブロックを含む)
- 2 黄褐色粘質微砂 (地山ブロックを含む)
- 3 褐色粘質微砂

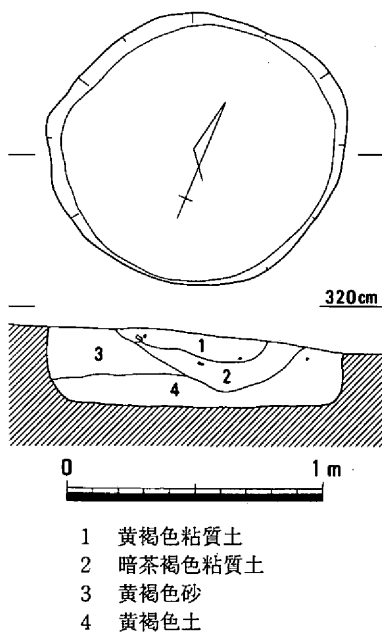
する口縁端部を丸くおさめている。肩の張る体部は、外面をヘラミガキで調整し、内面を頸部直下までヘラケズリする。高杯5648は脚部のみであるが、裾部に透かしの退化表現が見られる。これらは弥・後・Iの特徴を示している。(亀山)



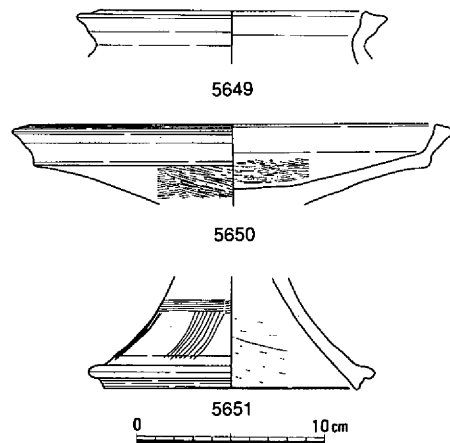
第132図 袋状土壌-135(1/30)・出土遺物

袋状土壌-136 (第133図)

Q17区の北東で検出したもので、袋状土壌-135の南3mに位置している。深さ32cmの円形をした土壌で、上面径118cm、底面径106cmを測る。底面は平坦で、その標高は281cmと袋状土壌-134よりわずかに高い。土壌内には、水平に堆積した3・4層を切って、径74cm、深さ22cmのくぼみ状に土器や炭を含む1・2層が堆積しており、二次的な掘り返しが想定される。埋土からは、甕5649と高杯5650・5651が出土している。このうち口径21.4cmを測る高杯は、わずかに肥厚した口縁端部に沈線をめぐらしており、弥・後・Iに位置付けられる。(亀山)



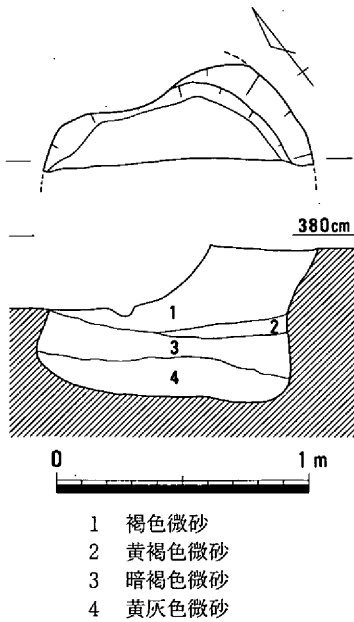
- 1 黄褐色粘質土
- 2 暗茶褐色粘質土
- 3 黄褐色砂
- 4 黄褐色土



第133図 袋状土壌-136(1/30)・出土遺物

袋状土壙-137 (第134図)

袋状土壙-135の西2mで検出した土壙で、Q17区の北東に位置する。調査区の南端にかかって検出したため全形を知りえないが、現状では上面径105cm、底面径92cm以上の円形ないし不整円形に復元される。高さ58cmある壁面は、内傾ぎみにたちあがり、中程で外傾に転じて開口部にいたる。底面は南東に向かって傾斜しており、最深部の標高は317cmを測る。埋土は、最下層が凸字状の堆積を示し、開口部の狭い袋状を呈していたことを想起させる。一部の調査にとどまったためか遺物は出土しておらず、詳細な時期は明らかでないが、隣接する遺構とほぼ同時期の後期前半におさまるものとみて大過ないであろう。(亀山)



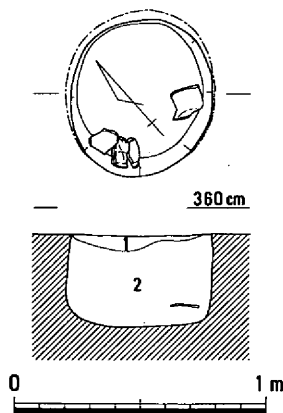
第134図 袋状土壙-137(1/30)

袋状土壙-138 (第135図)

P18区の南西に位置する土壙で、袋状土壙-134の北東10mで検出した。規模は、上面径63cm、底面径53cmと小形で、深さ36cmの円筒形をなす。底面は平坦で、その標高は313cmを測る。土壙内に堆積した埋土の下層から、口径9.4cm、器高11.7cmを測る小形の甕5652が出土している。なだらかな体部から屈曲して開く口縁部は端部を上方に拡張して面をなし、弥・後・Iに比定される。(亀山)

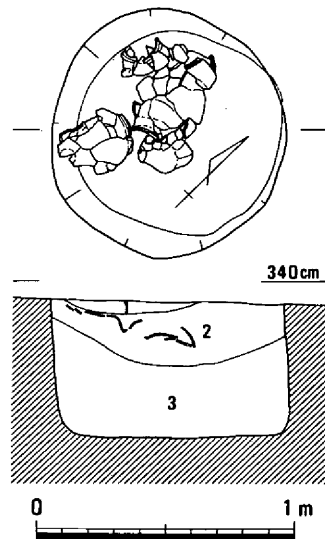
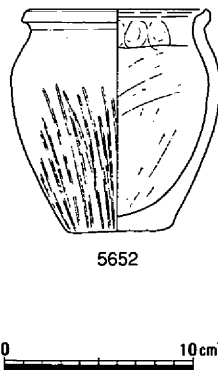
袋状土壙-139 (第136・137図)

袋状土壙-134の北5m、袋状土壙-138の南西6mで検出した土壙で、P18区の南西に位置する。上面は、径98cmの不整な円形をなすが、底面は径82cmの円形を呈し、深さは53cmある。壁面は、標高279cmを測る底面から垂直に立ち上がり、断面は凹字形をなす。埋土はレンズ状の堆積をなすが、その上層からは西側から廃棄された状況で、弥生土器が多数



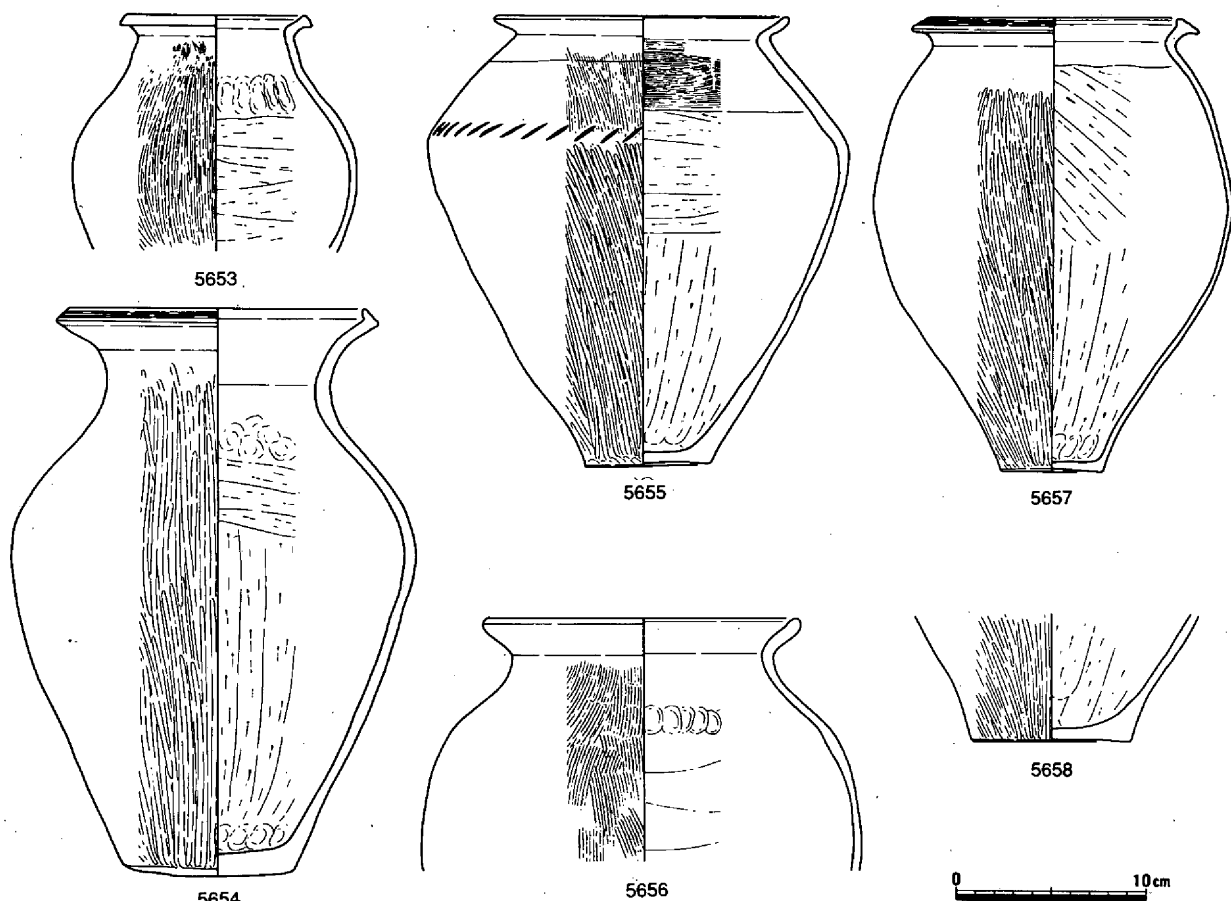
- 1 暗茶褐色細砂
- 2 暗褐色粘土

第135図 袋状土壙-138(1/30)・出土遺物



- 1 褐色微砂
- 2 黄褐色微砂
- 3 暗黄褐色微砂

第136図 袋状土壙-139(1/30)



第137図 袋状土壙-139出土遺物

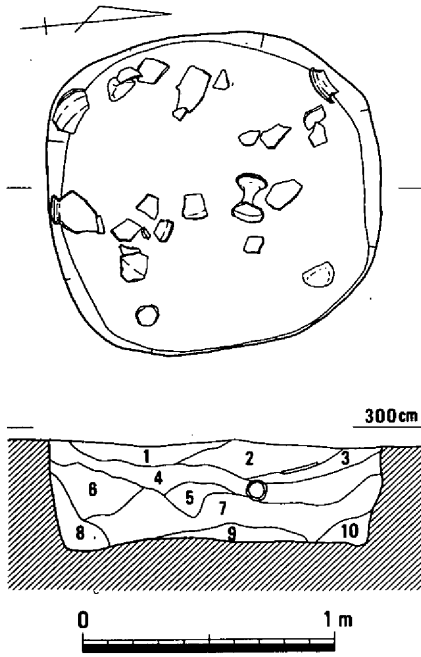
出土している。壺5653は、上方に向かってすぼまる頸部から屈折して開く口縁部をもち、その端部はわずかに下方へ拡張されて終わる。5654は、肩の張る体部と長く屈曲する頸部から斜め上方に開く口縁部をもつ壺である。口縁の端部は上方に拡張し、外面に2条の凹線をめぐらす。いずれも体部の外面をヘラミガキ、内面をヘラケズリで調整する。5655は肩の張る甕で、短い口縁部は、屈折して広がり、端部を丸くおさめている。5657は、なだらかな体部から屈曲してのびる口縁部をもち、端部は上下に拡張して凹線を飾る。これらは概ね弥・後・Iの範疇で理解できるものである。（亀山）

袋状土壙-140（第138図）

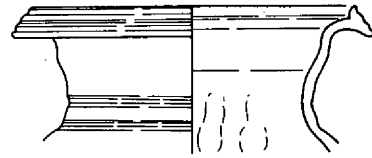
P17区南東隅で検出された。この袋状土壙-140～袋状土壙-136までの9基が約10m四方の中に密在している。検出面で一辺約120cmあまりの隅丸方形を呈し、深さは40cmほど残存していた。壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、上部が削平されているため、上部がすぼまる可能性はある。底面の海拔高は255cmである。底面の周囲は、断面観察によればやや窪むものの平面では溝状のものは捉え切れていない。埋土は4層以下の下部については、やや不自然な堆積状況であり人為的な埋め戻しが想定される。

遺物は、4層下面に多く出土している。5659・5660・5661は壺、5662・5663は高杯である。5659は、口縁端部を上下に拡張させ、凹線で飾る。また頸部下端にも凹線を施すものである。5660は頸部下端に刺突状の工具痕跡が認められた。5663は小形の高杯で浅い椀状の杯部を持つ。

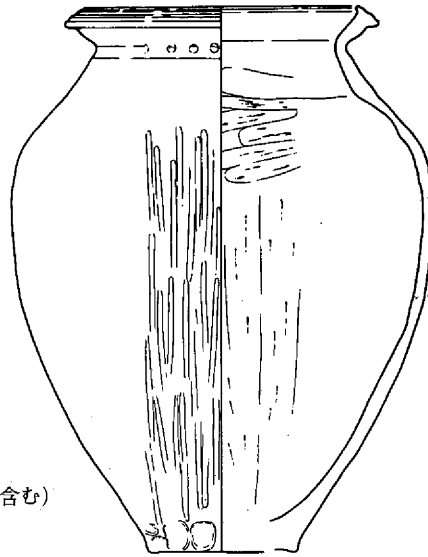
5659の壺と5663の高杯は灰白色の色調を呈するものであり、またその特徴からやや時期差があると思われるが、袋状土壙の時期は弥・後・I段階と考えた。（大橋）



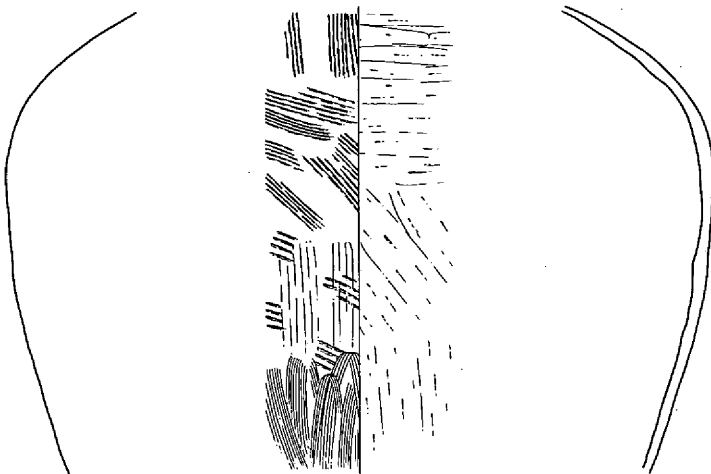
- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 灰褐色砂質土 (炭含む) | 6 褐色砂質土 (炭含む) |
| 2 青灰褐色砂質土 (炭多し) | 7 灰褐色砂質土 (粘性強い、炭含む) |
| 3 青灰褐色砂質土 | 8 灰色粘質土 |
| 4 灰褐色砂質土 (粘性あり) | 9 灰色粘質土 |
| 5 灰色砂質土 (炭含む) | 10 灰色粘質土 |



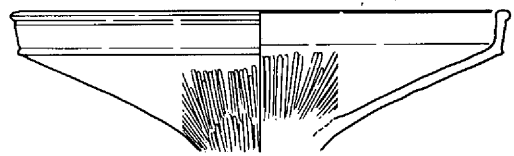
5659



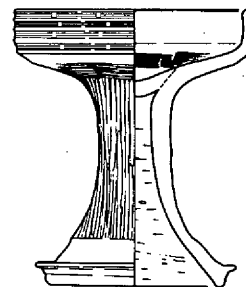
5660



5661



5662



5663

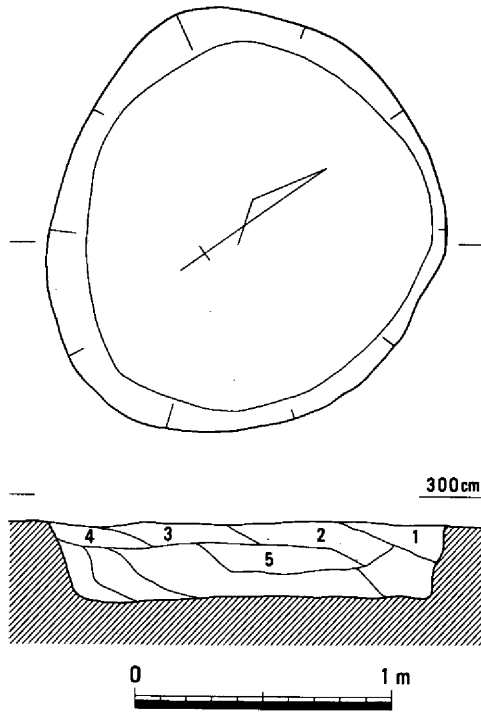


第138図 袋状土壇-140(1/30)・出土遺物

袋状土壇-141 (第139図)

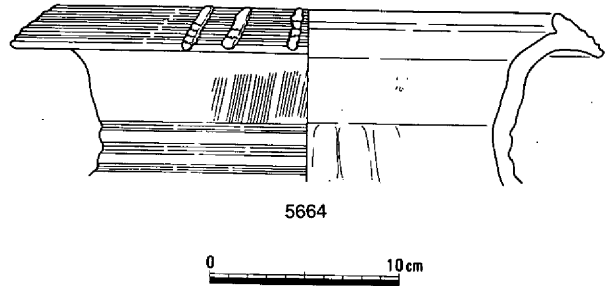
袋状土壇-140の2m北東に位置する。中世の溝によって大きく削平されており、その下部のみ確認したものである。径150~160cmほどの楕円形を呈し、検出面からの深さは30cmほどを測る。残存部分までの壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であり、周囲の溝などは確認されない。

埋土は、全体的に中世の溝の影響を受けてグライ化しており、青灰色を呈する。また、堆積の傾斜も自然的なものではなく西から東へと傾斜しており、この方向から土を埋めて充填したものと推測さ



れる。なお、9層からは焼土も確認された。

出土遺物は5664の壺を図示したが、このほか壺の体部片があるのみで量は少ない。5664は、口縁端部を上方に拡張し、端面を形成するもので、この端面に棒状浮文を施している。また、頸部には凹線を施す。色調



- 1 青灰色砂質土
- 2 灰茶褐色砂質土
- 3 暗青灰色砂質土 (粘性あり)
- 4 暗青灰色砂質土
- 5 青灰色砂質土 (粘性土ブロック・炭多し)

第139図 袋状土壌-141 (1/30)・出土遺物

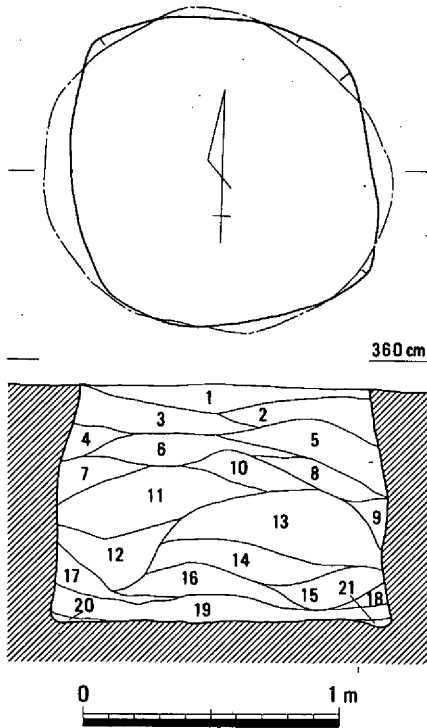
は浅黄色を呈するものである。

出土遺物が少ないため、詳細な時期判断に苦しむが、5664を参考にすれば、この袋状土壌の時期を弥・中・Ⅲ段階と考えるても差し支えないであろう。(大橋)

袋状土壌-142 (第140図)

袋状土壌-140の南西約3 mに位置する。検出面では、長軸方向で120cm、短軸方向で115cmの規模を測る隅丸方形を呈する。底面は径135cmほどの円形をなし、深さは96cm残存している。比較的残存状況がよいものと思われる。壁面は、やや内側へ傾斜し立ち上がるものがあるが、中位ほどで、わずかに膨らむ状況が確認された。また、断面観察により底面の周囲がやや窪むことが把握できたが、平面では溝などは検出できなかった。

埋土は、6～18層については、土塊を投げ込んだような状況が看取され、この袋状土壌も人為的に埋め戻したことが推測された。また、出土遺物もなく、このことも傍証の1つとして考えられた。



- 1 濃茶褐色粘質土 (炭、焼土含む)
- 2 暗濃茶褐色粘質土 (炭、焼土含む)
- 3 茶褐色粘質土 (炭、焼土含む)
- 4 黄茶褐色砂質土 (炭、焼土含む)
- 5 黄茶褐色砂質土 (炭、焼土含む、しまり強い)
- 6 茶褐色砂質土 (炭、焼土含む)
- 7 濃茶褐色砂質土 (炭、焼土含む)
- 8 茶褐色砂質土 (炭、焼土含む)
- 9 淡茶褐色砂質土
- 10 濃茶褐色砂質土
- 11 黄茶褐色砂質土 (炭、焼土含む)
- 12 淡茶褐色砂質土 (炭、焼土含む)
- 13 濃茶褐色砂質土 (炭、焼土含む)
- 14 淡薄茶褐色砂質土 (しまりあり、炭、焼土含む)
- 15 淡茶褐色砂質土 (炭、焼土含む)
- 16 淡茶褐色砂質土
- 17 黄茶褐色砂質土
- 18 黄茶褐色砂質土
- 19 黄灰茶褐色粘質土
- 20 黄茶灰褐色粘質土
- 21 黄灰茶褐色粘質土

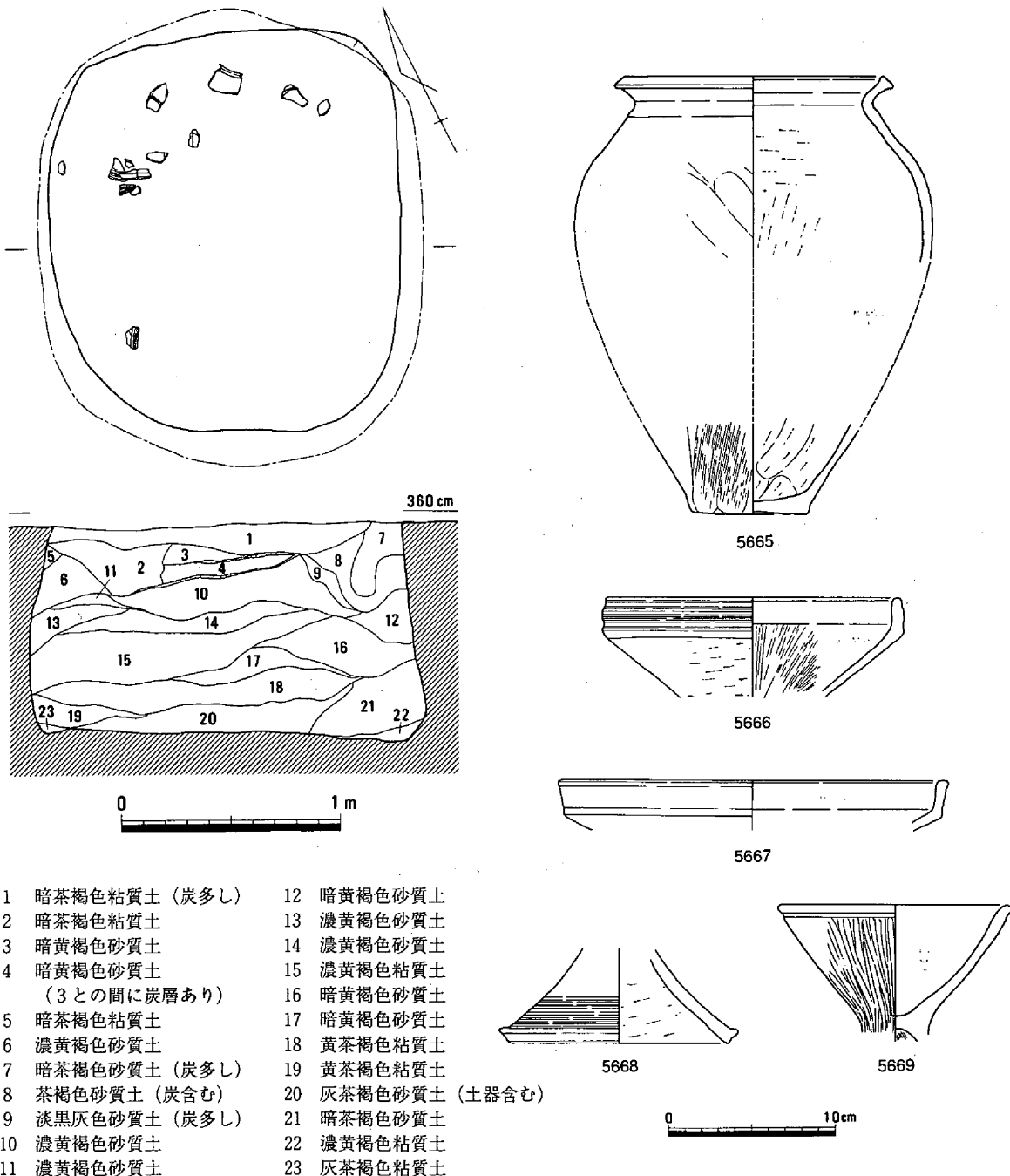
第140図 袋状土壌-142 (1/30)

出土遺物がなく、時期の判断は難しいが、他の袋状土壙の状況から考えて、弥生時代中期後半から後期前半と考えている。
(大橋)

袋状土壙-143 (第141図)

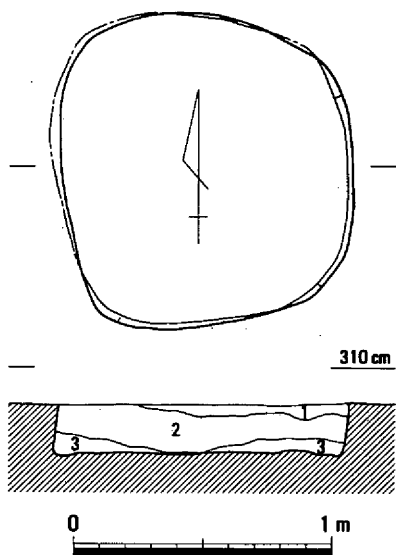
袋状土壙-142の4 m南東に位置する。検出面での掘り方の平面形は隅丸方形を呈する。長軸方向で180cm、短軸方向で160cmの規模を持ち、他のものと比較して大形の形態を有する。深さは約100cmを測り、底面の海拔高は258cmと袋状土壙-142とほぼ同じである。壁面はやや内傾し、底面では一回り大きな規模を持つ。また、袋状土壙-142と同様、底面の周囲がわずかに窪むようである。

不自然な埋土の堆積状況からこの袋状土壙も西側から土を投げ込んで埋め戻していることが看取された。なお、4層の上面、下面、および9層は炭層であり、この段階での何らかの行為を想起させる



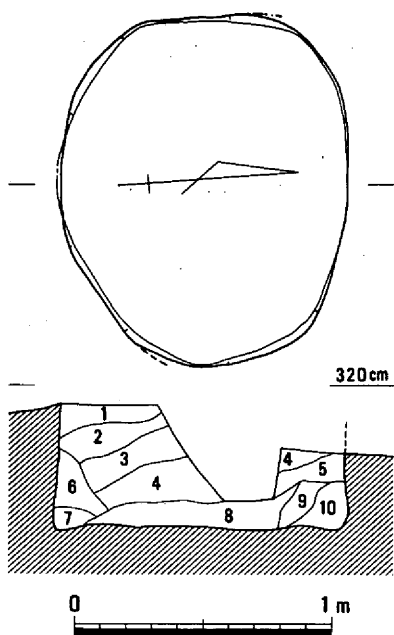
- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1 暗茶褐色粘質土 (炭多し) | 12 暗黄褐色砂質土 |
| 2 暗茶褐色粘質土 | 13 濃黄褐色砂質土 |
| 3 暗黄褐色砂質土 | 14 濃黄褐色砂質土 |
| 4 暗黄褐色砂質土
(3との間に炭層あり) | 15 濃黄褐色粘質土 |
| 5 暗茶褐色粘質土 | 16 暗黄褐色砂質土 |
| 6 濃黄褐色砂質土 | 17 暗黄褐色砂質土 |
| 7 暗茶褐色砂質土 (炭多し) | 18 黄茶褐色粘質土 |
| 8 茶褐色砂質土 (炭含む) | 19 黄茶褐色粘質土 |
| 9 淡黒灰色砂質土 (炭多し) | 20 灰茶褐色砂質土 (土器含む) |
| 10 濃黄褐色砂質土 | 21 暗茶褐色砂質土 |
| 11 濃黄褐色砂質土 | 22 濃黄褐色粘質土 |
| | 23 灰茶褐色粘質土 |

第141図 袋状土壙-143 (1/30)・出土遺物



- 1 濃茶褐色砂質土 (炭含む)
- 2 淡茶褐色～灰茶褐色砂質土 (炭含む)
- 3 暗茶褐色粘質土 (炭含む、土器あり)

第142図 袋状土壌-144 (1/30)



- 1 青灰褐色砂質土 (炭含む)
- 2 灰オリーブ褐色砂質土
- 3 茶褐色砂質土
- 4 濃茶褐色砂質土
- 5 明黄褐色砂質土
- 6 暗茶褐色砂質土
- 7 灰茶褐色粘質土
- 8 灰茶褐色粘質土 (やや茶色強い)
- 9 暗黄茶褐色砂質土
- 10 灰茶褐色粘質土

第143図 袋状土壌-145 (1/30)

ものである。

遺物は、主に上層から出土している。図示したものは、5665が甕、5666～5668が高杯、5669は台付鉢として考えた。このほか甕の口縁部が3個体ある。出土状況から考えて、これらの遺物がこの土壌の使用時期を反映はしないと思われるものの、大きな時期差は想定できず、弥生時代中期末～後期初頭段階と考えている。

(大橋)

袋状土壌-144 (第142図)

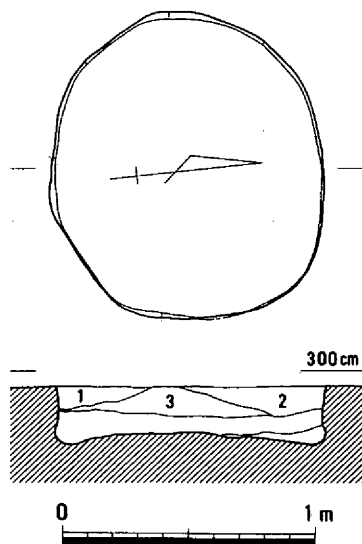
袋状土壌-140の南西隣で検出した隅丸方形の掘り方を有するものである。現在の水路によって削平され、深さわずか20cmを確認したのみである。125×115cmほどの規模を測り、底面の海拔高は276cmである。残存している壁面はほぼ垂直に立ち上がるものの上部の形態は不明である。

出土遺物が無く、詳細な時期については言及できないものの、他と袋状土壌との比較から弥生時代中期末～後期初頭と判断した。

(大橋)

袋状土壌-145 (第143図)

袋状土壌-146を挟んで袋状土壌-140の反対側に位置する。平面形は楕円形であり、長軸方向で138cm、短軸方向で110cmの規模を有する。壁面はほぼ垂直に立ち上がるものであるが上部が削平されていると思われ、詳細は不明である。深さは50cmを測り、底面の海拔高265cmほどである。底面の周囲に窪みが観察される。



- 1 淡灰茶褐色砂質土
- 2 淡茶褐色砂質土
- 3 濃茶褐色砂質土

第144図 袋状土壌-146 (1/30)

出土遺物がなく、周囲の状況から弥生時代中期末～後期初頭と推測した。(大橋)

袋状土壇-146 (第144図)

袋状土壇-140の南隣で検出された。大きく上部を現在の水路で削平されており、下部を確認したのみである。検出面で120×105cmの楕円形を呈する。深さは約20cm残存していたにすぎない。底面の海拔高は275cmである。また、底面は平坦で周囲がわずかに窪むことが観察された。

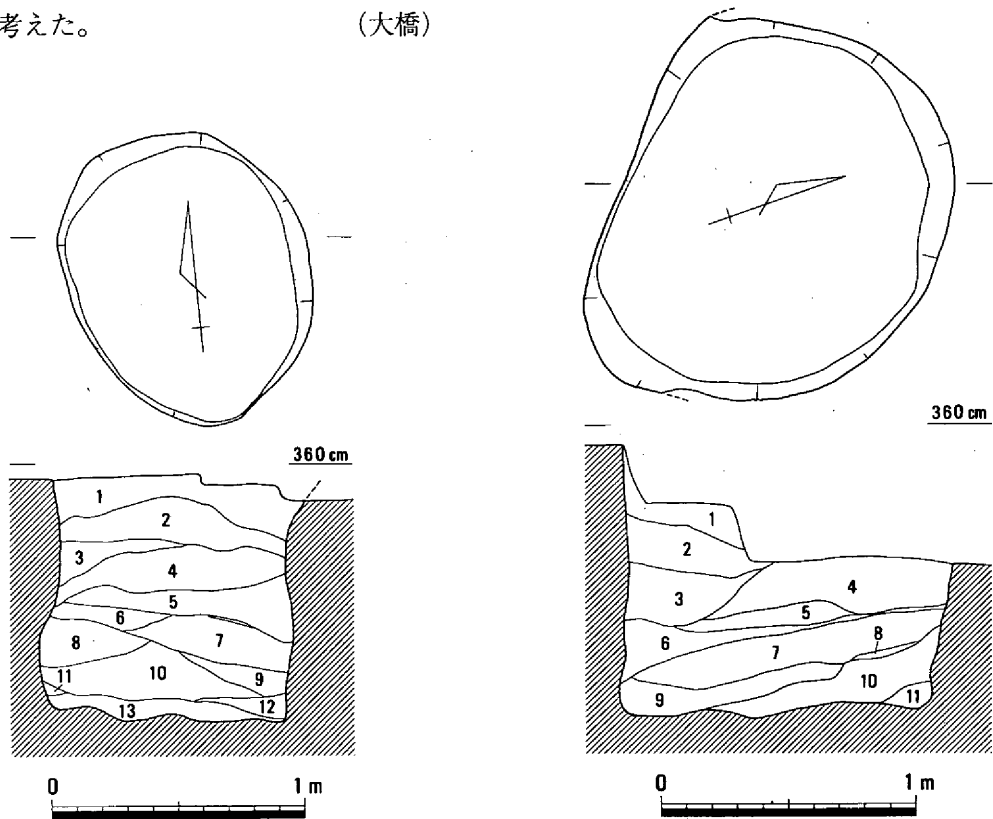
出土遺物がなく、周囲の状況から弥生時代中期末～後期初頭の範囲で考えている。(大橋)

袋状土壇-147 (第145図)

袋状土壇-148の北東隣に位置する。長軸方向で115cm、短軸方向で90cmの楕円形の掘り方平面形を有する。深さは96cmあり、底面の海拔高は260cmであった。壁面は、底部から一旦膨らんだ後、内傾して上部へと立ち上がる様相をしめす。また、下位の埋土が東側へと傾斜する状況から自然堆積とは考えにくい。出土遺物に内面ヘラケズリが上位まである壺か甕の体部破片があり、これからこの袋状土壇の時期を弥生時代後期初頭の範囲と判断した。(大橋)

袋状土壇-148 (第146図)

袋状土壇-147の東隣に位置する。長径170cm、短径126cmを測る楕円形の平面形状を示す。深さ105cmを測り、底面海拔高は244cmである。壁面は垂直気味に立ち上がる。底面は平坦気味ではあるが周囲がやや窪む。出土遺物が無く、諸状況から弥生時代後期初頭と考えた。(大橋)



- | | | | |
|-------------------|-------------|-------------------|---------------------|
| 1 濃茶褐色砂質土 (炭含む) | 8 黄茶褐色砂質土 | 1 濃茶褐色砂質土 | 7 明黄茶褐色砂質～粘性土 (炭含む) |
| 2 茶褐色砂質土 | 9 黄茶褐色砂質土 | 2 濃茶褐色砂質土 (しまり強い) | 8 濃茶褐色砂質土 |
| 3 黄茶褐色砂質土 | 10 濃茶褐色砂質土 | 3 濃茶褐色砂質土 (やや暗い) | 9 灰茶褐色粘質土 |
| 4 黄茶褐色砂質土 | 11 濃茶褐色砂質土 | 4 明黄茶褐色砂質土 | 10 灰茶褐色粘質土 (粘性強い) |
| 5 黄茶褐色砂質土 (炭焼土含む) | 12 濃茶灰褐色砂質土 | 5 茶褐色砂質土 | 11 灰色粘質土 (炭含む) |
| 6 茶褐色砂質土 | 13 濃茶灰褐色砂質土 | 6 濃茶褐色砂質～粘性土 | |
| 7 黄茶褐色砂質土 | | | |

第145図 袋状土壇-147 (1/30)

第146図 袋状土壇-148 (1/30)

(6) 土壌

総数73基を数え、袋状土壌67基を上まわる数である。竪穴住居周辺より袋状土壌の近くにある土壌が多いようである。それぞれの時期の所属は、微高地上に所在する住居遺構の数に比例しているようである。土壌内に土器等の遺物があり、時期が明確になるもの39基、埋土の色調および検出の高さ等から時期を判断した34基がある。

土壌は弥・前・Ⅲからみられ、弥・中・Ⅱが無く、弥・中・Ⅲの前半のものが9基、橋脚（P 2、3 E）から北東方向に分布する。後半のもの5基である。弥・後・Ⅰが最も多く19基を数え、弥・後・Ⅱはほとんどみられない。弥・後・Ⅱ～弥・後・Ⅲが1基であり、弥・後・Ⅳが4基となっている。土器が充満するものから無遺物のものまで様々である。 (高畑)

土壌-334 (第147図)

P 17区の北東、弥・中・Ⅲの竪穴住居-187の北側約3 mに位置する。調査区ではP 4区（橋脚）内に所在する。長さ133cm、幅87cm、深さ30cm、底面海拔高320cmをはかる隅丸長方形の土壌である。検出面は350cmと低く、古墳時代前期の竪穴住居-206、208を作る際に上部が掘削を受けたものと考えられる。土壌内には暗黄褐色で粘質の強い土が詰まっており、平面形内で検出面とほぼ同じ高さに土器片の散布がみられた。

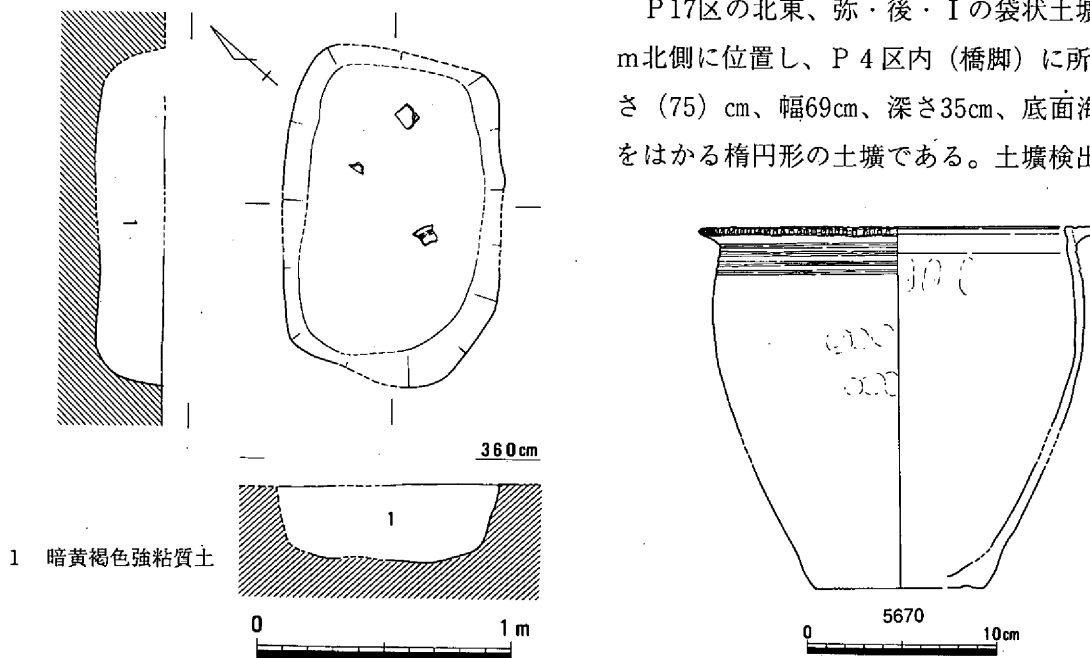
遺物は甕の破片のみであり、推定口径17.6cm、底径9.0cm、器高19.0cmをはかる。逆L字形の口縁をもち、口縁端に刻目、平坦面に2条の沈線が施されており、くびれ部に同一工具によると見られる4条の沈線が認められる。器内外面にユビオサエがみられ、外面には極細の横位のナデが施されている。色調は外面が灰褐色、内面は鈍い橙色であり、胎土中に1～2 mmの石英粒を多く含む。器壁は薄く、器外面上位2/3に煤が付着しており、煮沸に使用されている。

弥・前・Ⅲの新相に比定できる。

(高畑)

土壌-335 (第148・149図)

P 17区の北東、弥・後・Ⅰの袋状土壌-83の4.5 m北側に位置し、P 4区内（橋脚）に所在する。長さ(75) cm、幅69cm、深さ35cm、底面海拔高345cmをはかる楕円形の土壌である。土壌検出面は380cm

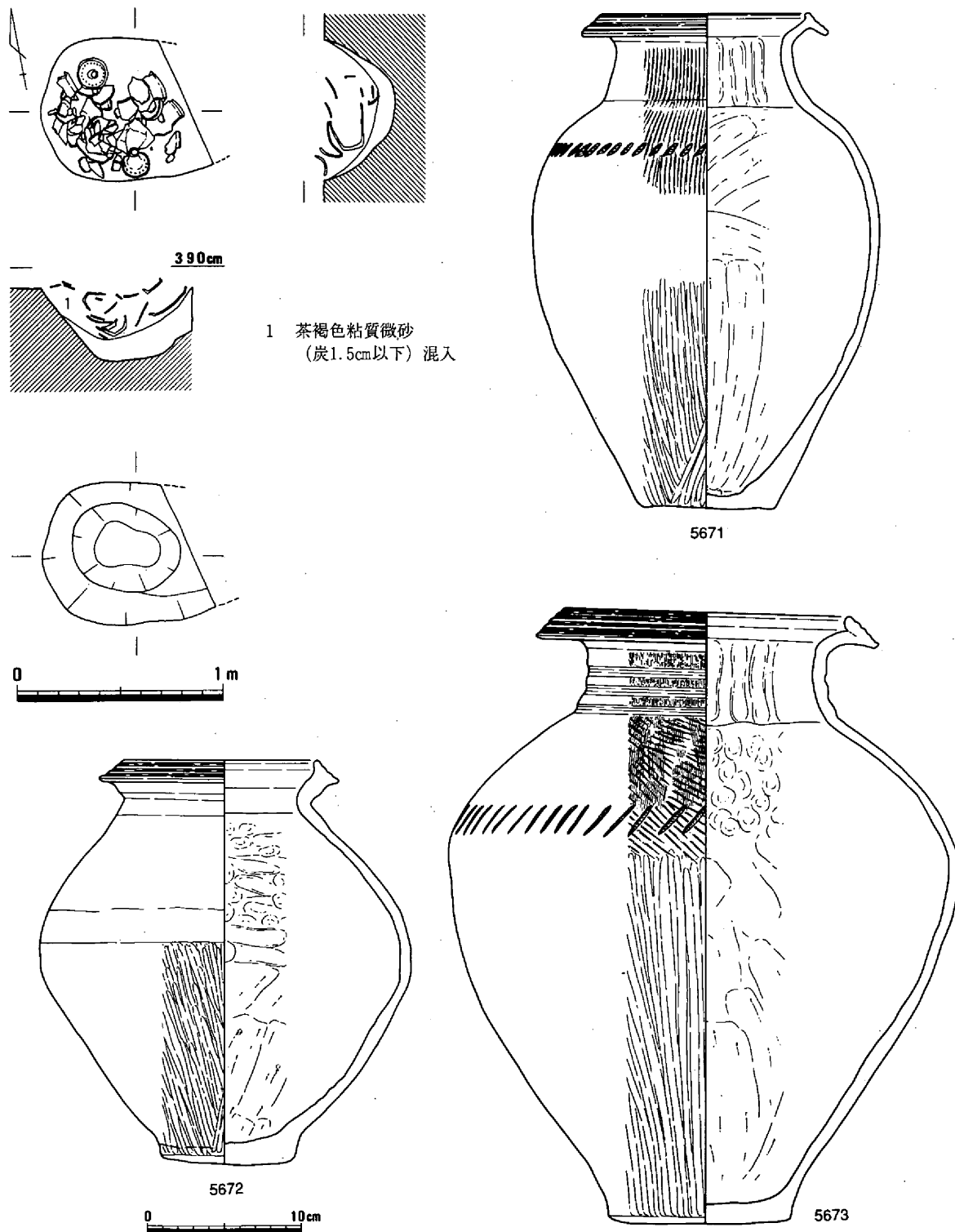


第147図 土壌-334 (1/30)・出土遺物

で、周辺の同時期の袋状土壇等とほぼ同じ高さである。土壇断面は椀形を呈し、その中に土器片が折れ重なり詰まった状態で出土している。

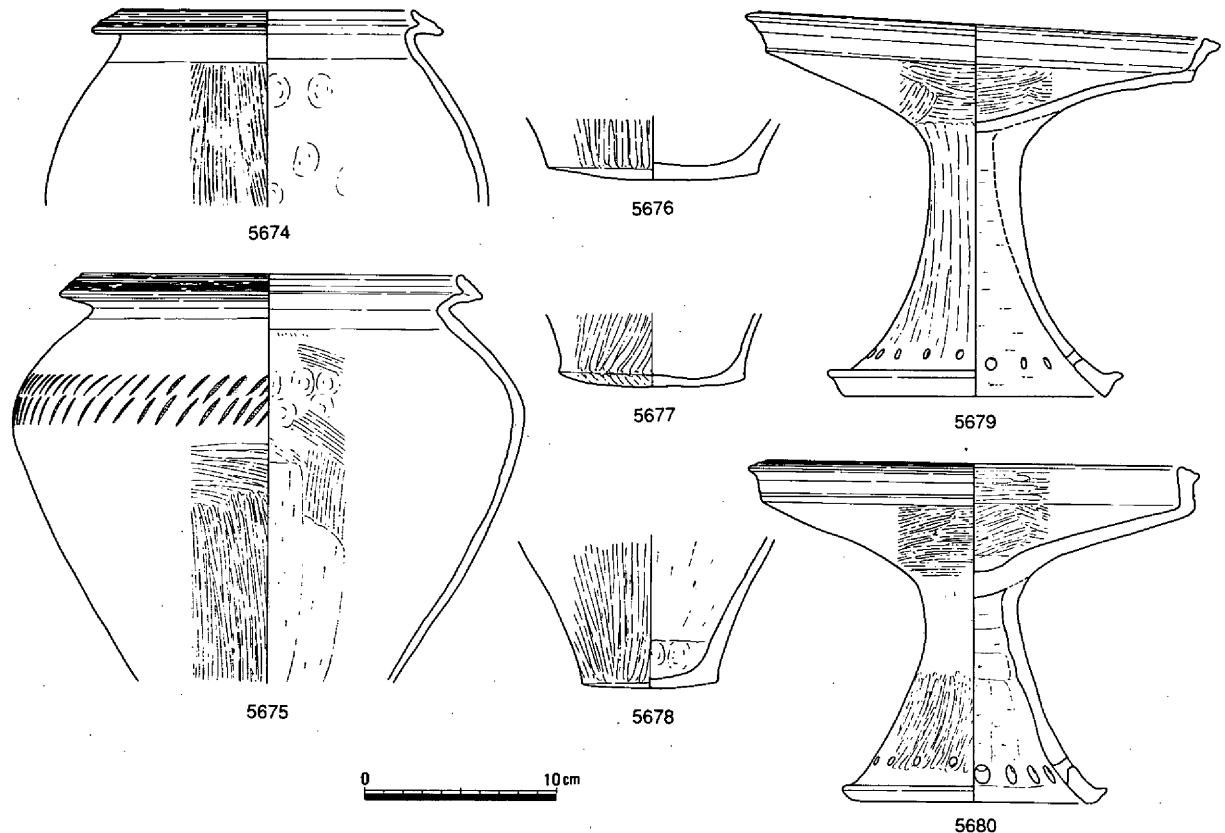
遺物は壺、甕、高杯等であり、5671～5673、5679、5680がほぼ完形に復元可能であった。個々の土器の特徴は、弥・中・Ⅲの新相と弥・後・Ⅰの古相の混在した様相を示している。

まず、色調において弥・中・Ⅲの新相と考えられる5672、5674～5677、5679の灰白色系の甕、壺、



第148図 土壇-335(1/30)・出土遺物(1)

高杯があり、5671、5673、5678、5680は弥・後・Iの古相と考えられる橙色系の壺、高杯である。器壁では5674～5679が薄手であり、5671～5673と5680が厚手の部類に入る。これは壺、甕の底部や高杯の器壁の厚薄に顕著にあらわれており、薄い均一の器壁から厚い器壁へと変化をしている。5673～5675の壺、甕の口縁部は折り返しが認められ、口縁下端が上部に跳ねているものもみられる。器内面のヘラケズリは5671のみが胴部全体におよぶが、他は胴部下半縦位のヘラケズリである。



第149図 土壙一335出土遺物(2)

ちなみに、壺5671の法量は口径13.0cm、最大径22.2cm、底径9.0cm、器高32.1cm、甕5672は口径12.4cm、最大径24.1cm、底径8.6cm、器高26.1cm、5673は口径18.1cm、最大径32.8cm、底径11.6cm、器高39.8cmをはかる。高杯5679は口径23.5cm、底径13.8cm、器高20.4cm、高杯5680は口径21.8cm、底径11.8cm、器高18.1cmをはかる。5673は破損後に火を受けた痕跡が認められる。5675は器外面に丹が塗布されている甕である。

これらの土器の共伴関係は本遺跡では特別な例ではなく、比較のみられるものである。

弥・後・Iの古相段階として把握しておきたい。

(高畑)

土壙一336 (第150図)

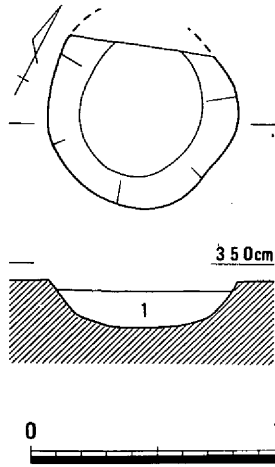
P17区の北東、弥生時代後期初頭の袋状土壙、土壙等が集中する場所に所在し、袋状土壙一83の北隣に位置する。検出面は海拔343cmであり、淡茶灰色微砂層を掘り込み平面は円形を呈する。長さ77cm、幅73cm、深さ19cm、底面海拔高325cmをはかり、断面は浅い椀形を呈する小土壙である。

遺物は茶褐色粘質微砂の埋土中から甕の口辺部が一片出土したのみである。口径15.6cm、残存高4.7cmをはかり、色調は淡黄色を呈する。器外面胴部は縦位のハケメ、内面は屈曲部より少し下位か

ら横位のヘラケズリが施されている。均一した器壁ではあるが、胎土中に1～5mmの石英粒が認められる。

弥・後・Iの古相に比定できる。

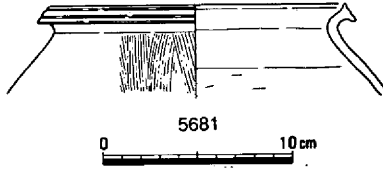
(高畑)



第150図 土壙-336(1/30)・出土遺物

土壙-337 (第151図)

P17区の北東、土壙-336と同じP5区(橋脚)に所在し、土壙-336より7m西側に位置する。検出面は海拔348cmであり、淡茶灰色微砂層を掘り込み平面は不整円形を呈する。長さ100cm、幅(36)cm、深さ23cm、底面海拔高323cmをはかり、断面は皿形を呈する土壙である。埋土は茶褐色粘質微砂が詰まっており、下位には10mm以下の炭粒が認められる。



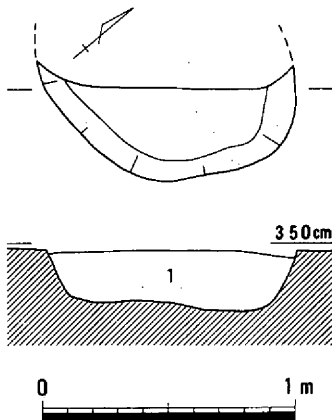
1 暗茶色粘質土

遺物は埋土上面から高杯の脚片が出土したのみである。5682は底

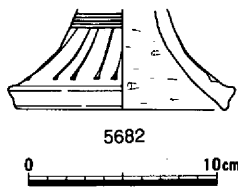
径が10.9cm、残存高5.3cmをはかり、色調は橙色である。器外面は鋭いヘラ状工具による縦位、横位の線刻がみられ、脚の裾文様を構成している。内面は横位のヘラケズリが全面におよび、胎土中には1～5mmの石英粒が認められる。

弥・後・Iの古相に比定できる。

(高畑)



第151図 土壙-337(1/30)・出土遺物



1 暗茶色粘質土

土壙-338 (第152図)

P17区の北東、弥・後・IVの竪穴住居-192の北東2mに位置する。長さ60cm、幅51cm、深さ24cm、底面海拔高408cmをはかる不整方形の土壙である。土壙検出面は432cmであり、断面は碗形にて段を持つ。土壙掘り方の南隅に直径26cm、下端径16～18cmの柱穴状の穴が掘られており、2段になっている。土器片は下段の柱穴状掘り方

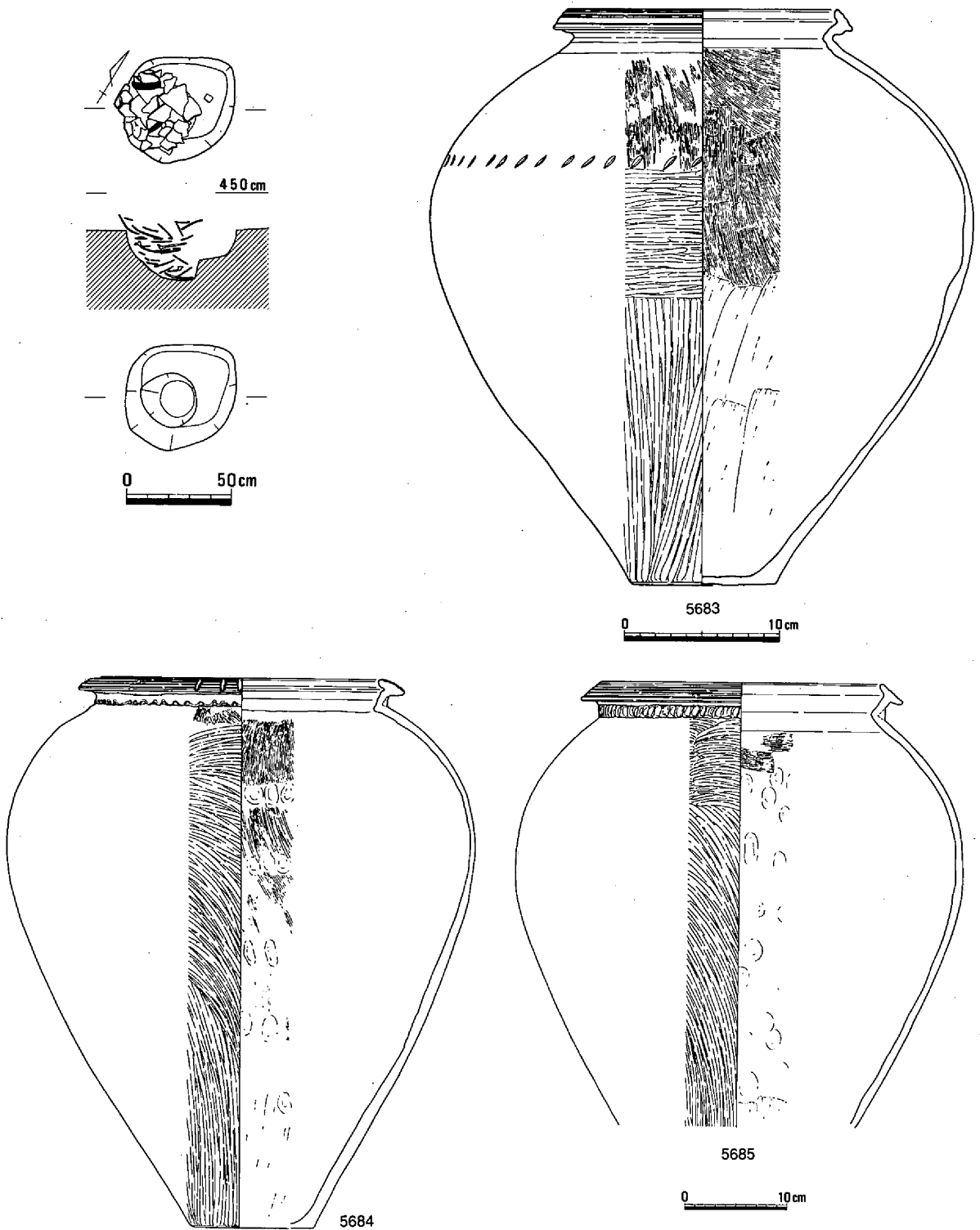
底から土壙上面まで詰まっており、柱根の抜取り後に破碎された土器が入れられた可能性が考えられる。

遺物は土壙底から上面まで重なり合って詰め込まれており、埋土が入る余裕があまり無い状態である。復元により3個体分の甕の破片が投棄されていたことが判明し、5683～5685がそれにあたる。

5683は中層と下層の破片が接合した甕で、口径17.4cm、最大径35.0cm、底径9.5cm、器高(37.4)cmをはかり、色調は灰白色である。胎土中には1mmの石英粒が多く、角閃石をも含む。器内外面の調整では折返しの拡張する口縁に3条の凹線、胴部外面上位は縦位のハケメ、最大径付近は横位のヘラミガキ、上位との境目に刺突による列点文、下位は縦位のヘラミガキが施されている。内面上半は

第3章 調査区の概要

縦・斜位のハケメ、下半は縦位のヘラケズリが施され、器壁は均一に仕上げられている。胴部下半に黒斑が認められる。5684は口径26.5cm、最大径44.9cm、底径11.9cm、器高(53.2)cmをはかる大形の甕である。口縁拡張部に3本1組の棒状浮文が4か所に配され、頸部には押圧の加わった粘土紐が一巡している。器外面は主にヘラミガキ、内面は下位底部付近にヘラケズリがあり、他は円滑な仕上げナデが極細のハケにより施されている。弥・中・Ⅲの新相に比定できる。(高畑)

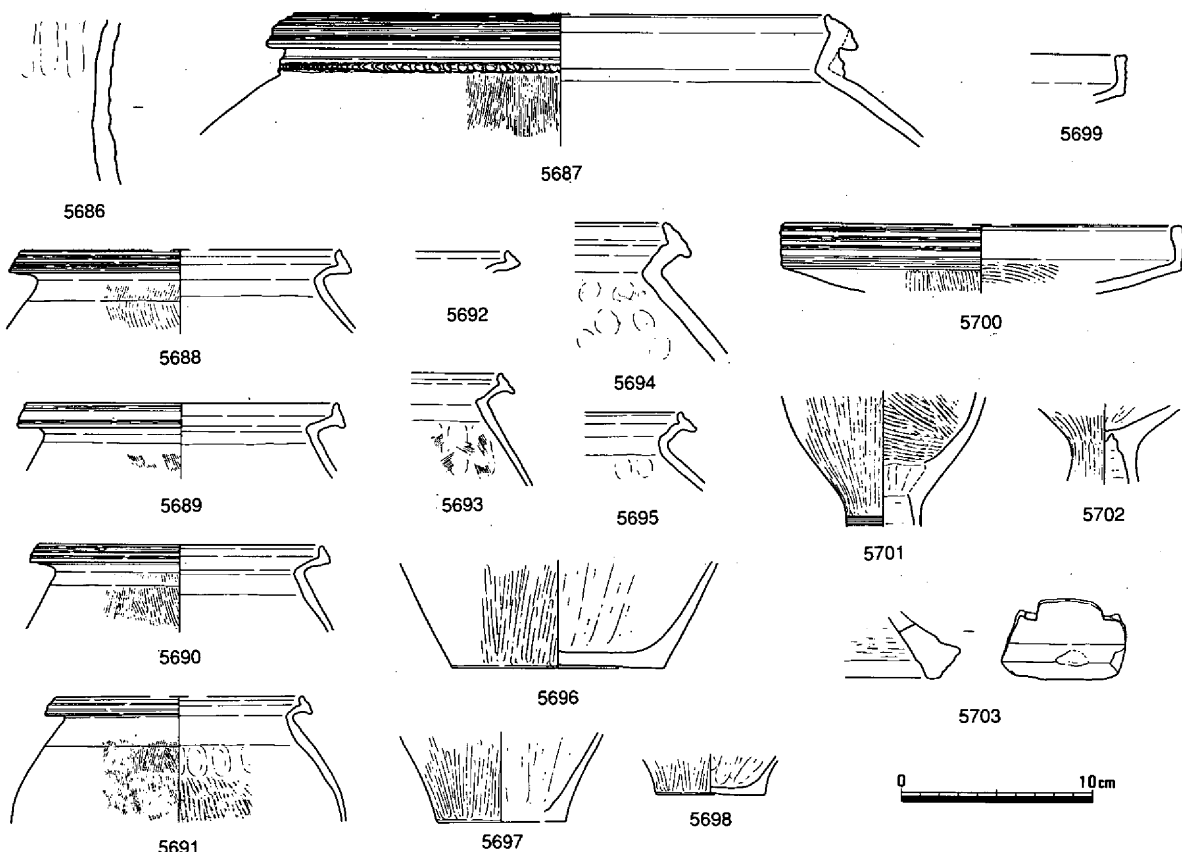
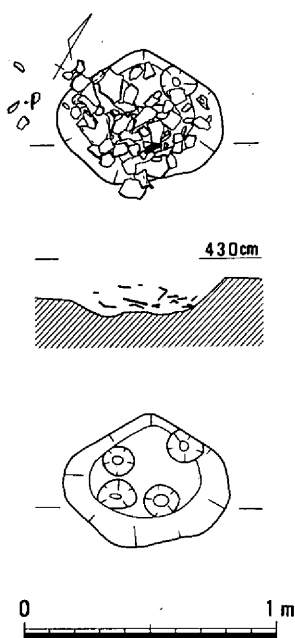


第152図 土壙-338(1/30)・出土遺物

土壙-339 (第153図)

P17区の北東、土壙-338と同じP3区(橋脚)に所在し、土壙-338より南東7.5mに位置する。長さ64cm、幅52cm、深さ15cm、底面海拔高418cmをはかり、断面は皿形を呈する不整円形の土壙である。土壙検出面は420cmであり、その面にて60×80cmの範囲に土器片の散布が認められ、土壙底まで土器は折り重なる状況である。底面に浅い窪地が4か所みられる。

遺物は壺、甕、高杯等の破片であり、甕の個体数が目立ち、壺は1点のみである。甕の折返し口縁には2~5条の凹線文が巡り、その拡張部下位が少し垂れ下がるものが認められる。内面くびれ部には明瞭な角度を持つものが多い。5695の口縁部内面には丹塗りが施されている。高杯は若干内湾しつつ上方に立ち上がる口縁をもち、そこには凹線文が施されており、5699は外面に丹塗りが認められる。5686~5703



第153図 土壙-339(1/30)・出土遺物

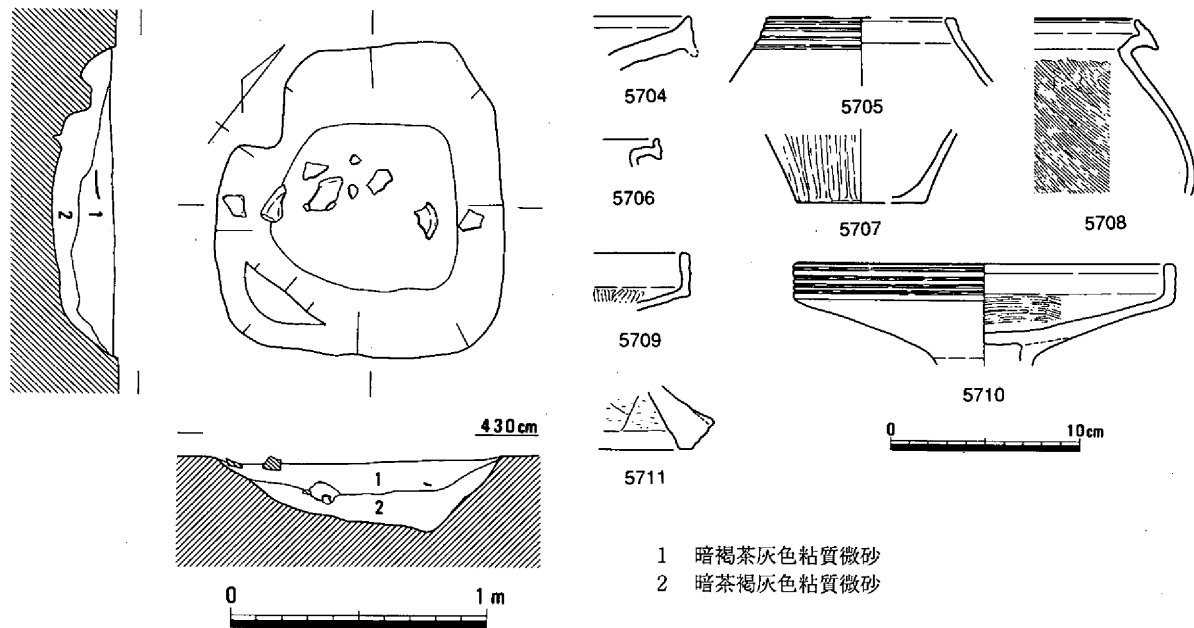
の色調は黄、橙色系であり、灰白色系統のものではない。

弥・中・Ⅲの古相に比定できる。

(高畑)

土壙-340 (第154図)

P17区の北東、土壙-338、339と同じP3区(橋脚)に所在し、弥・中・Ⅲの土壙-338の東隣に



第154図 土壙-340(1/30)・出土遺物

位置する。長さ124cm、幅112cm、深さ29cm、底面海拔高391cmをはかり、断面楕形を呈する不整形の土壙である。土壙検出面は海拔424cmであり、暗茶褐色粘質微砂層を掘り込んでつくられている。埋土は2層からなり、レンズ状の堆積状況を呈する。

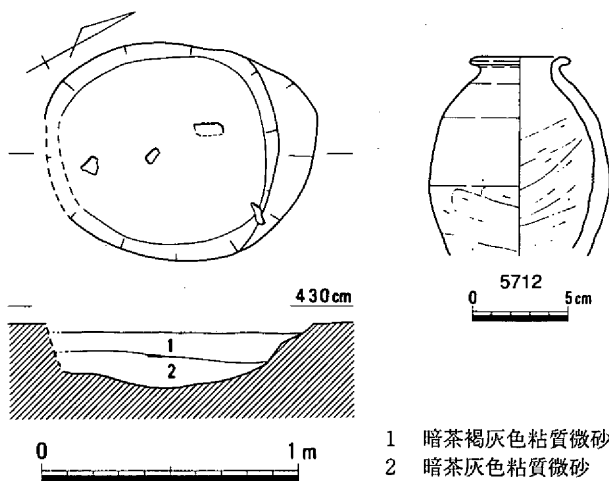
遺物は第1層の暗褐茶灰色粘質微砂内に含まれており、壺、甕、高杯等の破片がある。5705は口辺部に4条の凹線文が施された無頸壺である。5708の折返し口縁拡張部の6条の凹線上に棒状浮文がみられる。5710は口径19cm、残存高5.4cmをはかる高杯であり、土壙-339の5699、5700等と同時期と考えられる。色調は5706、5707、5709が灰白色であり、他は黄、橙色系である。

弥・中・Ⅲの古相に比定できる。

(高畑)

土壙-341 (第155図)

P17区の北東、土壙-338~340と同じP3区(橋脚)に所在し、土壙-339の北側1.3mに位置する。

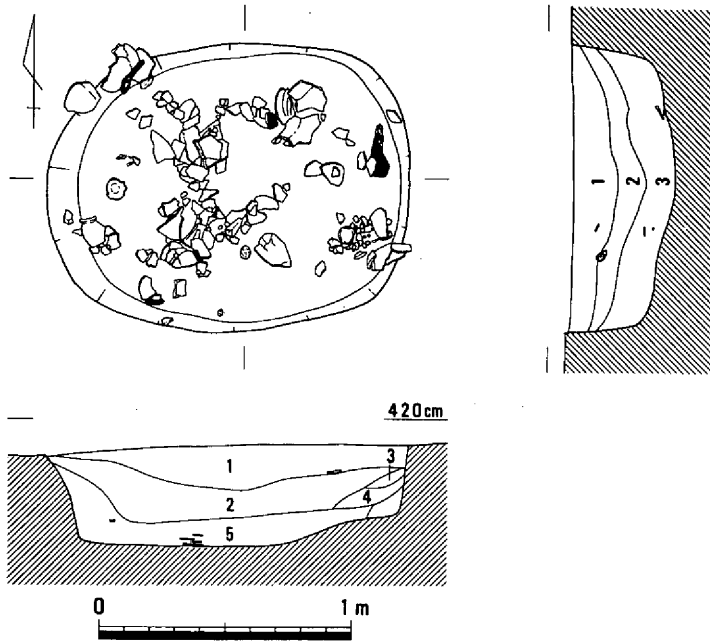


第155図 土壙-341(1/30)・出土遺物

長さ105cm、幅85cm、深さ26cm、底面海拔高398cmをはかり、断面は皿形を呈する楕円形の土壙である。土壙検出面は423cmであり、埋土は2層からなる。第2層の暗茶褐色粘質微砂層中から土器片数点が出土している。

遺物は甕5712のみである。口径4.2cm、最大径9.5cm、残存高10.5cmをはかる。器外面の胴部上半をナデ、下半をヘラケズリ、内面は深く抉り取るようなヘラケズリが施されている。

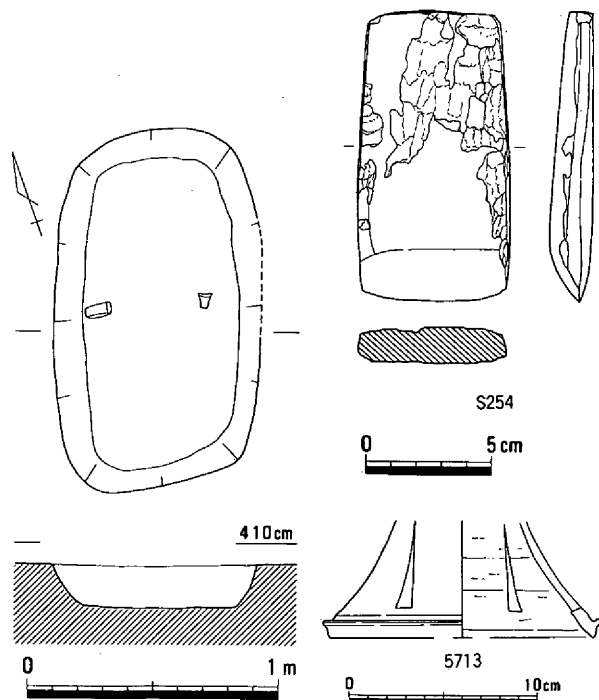
弥・後・Ⅰに比定できる。(高畑)



- 1 淡暗黄褐色やや粘質土（焼土・炭を少量含む）
- 2 暗茶褐色やや粘質土（焼土を少量含む、炭を多量含む）
- 3 淡灰褐色やや砂質土
- 4 淡暗灰褐色やや砂質土
- 5 淡暗灰褐色やや粘質土（炭・焼土をごく少量含む）

第156図 土壌-342(1/30)

5層中である。5715、5721は古・前・Ⅰの竪穴住居-214の土壌内出土の破片と接合したものである。壺、甕ともに折返し口縁がみられ、拡張区は凹線文で飾られる。器外面は上半がハケメ、下半がヘラミガキであり、内面は上半がハケメ、下半がヘラケズリのように縦位の調整が中心となる。高杯では



第157図 土壌-343(1/30)・出土遺物

土壌-342(第156・158図)

○17区の南東、P2区(橋脚)に所在し、弥・中・Ⅲの竪穴住居-188の東側3.7mに位置する。長さ143cm、幅114cm、深さ40cm、底面海拔高370cmをはかり、断面は皿形を呈する楕円形の土壌である。土壌検出面は413cmであり、埋土は大きくレンズ状堆積の3層からなる。第1層~第2層、第5層は粘質土層、他は砂質土であり、各層とも焼土、炭を含むが、なかでも第2層中には多量の炭が含まれていた。

遺物は3層から出土しているが、第1層、第5層に多く、底面に接着するものもみられた。5718、5720、5735が第1層、5714、5717、5719、5721~5723、5725、5727、5730、5732が床着、その他が床面に近い第

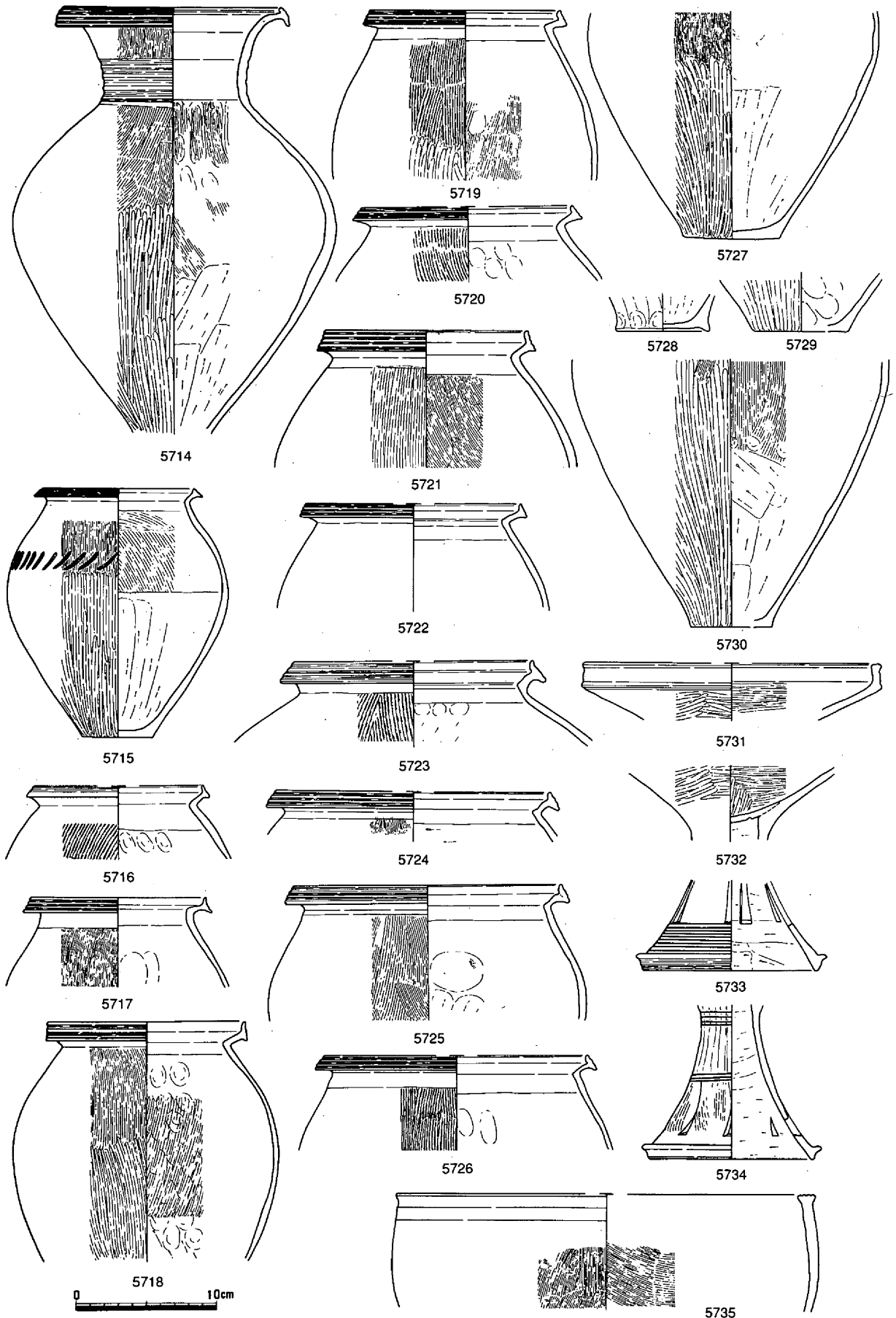
5層中である。5715、5721は古・前・Ⅰの竪穴住居-214の土壌内出土の破片と接合したものである。壺、甕ともに折返し口縁がみられ、拡張区は凹線文で飾られる。器外面は上半がハケメ、下半がヘラミガキであり、内面は上半がハケメ、下半がヘラケズリのように縦位の調整が中心となる。高杯では器内外面ヘラミガキ、脚の筒部内面ヘラケズリのように横位の調整が中心である。

色調は5716、5721、5723、5725、5726、5729、5731~5735の11点が灰白色を呈し、他は黄・橙色系統である。胎土はどの個体も1mm以下の石英、長石、雲母を含み、器壁は均一して薄く仕上げられている。

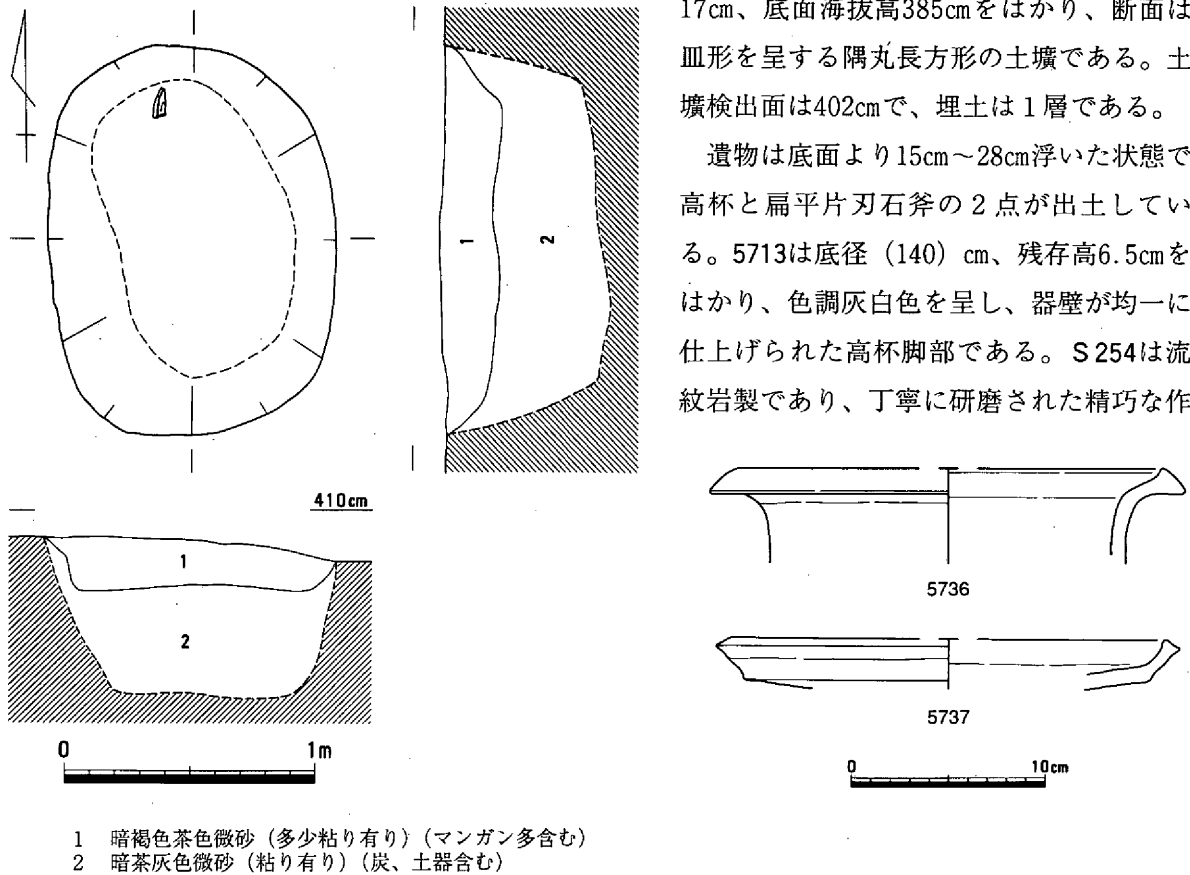
5715は口縁から底部までほぼ全面に煤が付着し、煮沸に使用された痕跡をとどめる。消耗したり、破損した土器がほぼ同時に投棄された土壌と考えられる。

弥・中・Ⅲの中相と考えられる。(高畑)土壌-343(第157図)

○17区の南東、P2(橋脚)に所在し、土壌-342から北西に2.5m、竪穴住居-188の東隣に位置する。長さ140cm、幅83cm、深さ



第158図 土壙-342出土遺物



- 1 暗褐色茶色微砂 (多少粘り有り) (マンガン多含む)
- 2 暗茶灰色微砂 (粘り有り) (炭、土器含む)

第159図 土壙-344 (1/30)・出土遺物

りの完形品である。長さ11.45cm、刃部幅5.79cm、中間部幅6.1cm、基部幅5.28cm、厚み0.95~1.59cm、重さ219.4gをはかる。基部近くに剥離痕が認められ、使用を物語っている。単に廃棄処分されたものとも考えがたく、何らかの理由で土壙に添えられた可能性も考えておきたい。

弥・中・Ⅲの新相に比定できる。 (高畑)

土壙-344 (第159図)

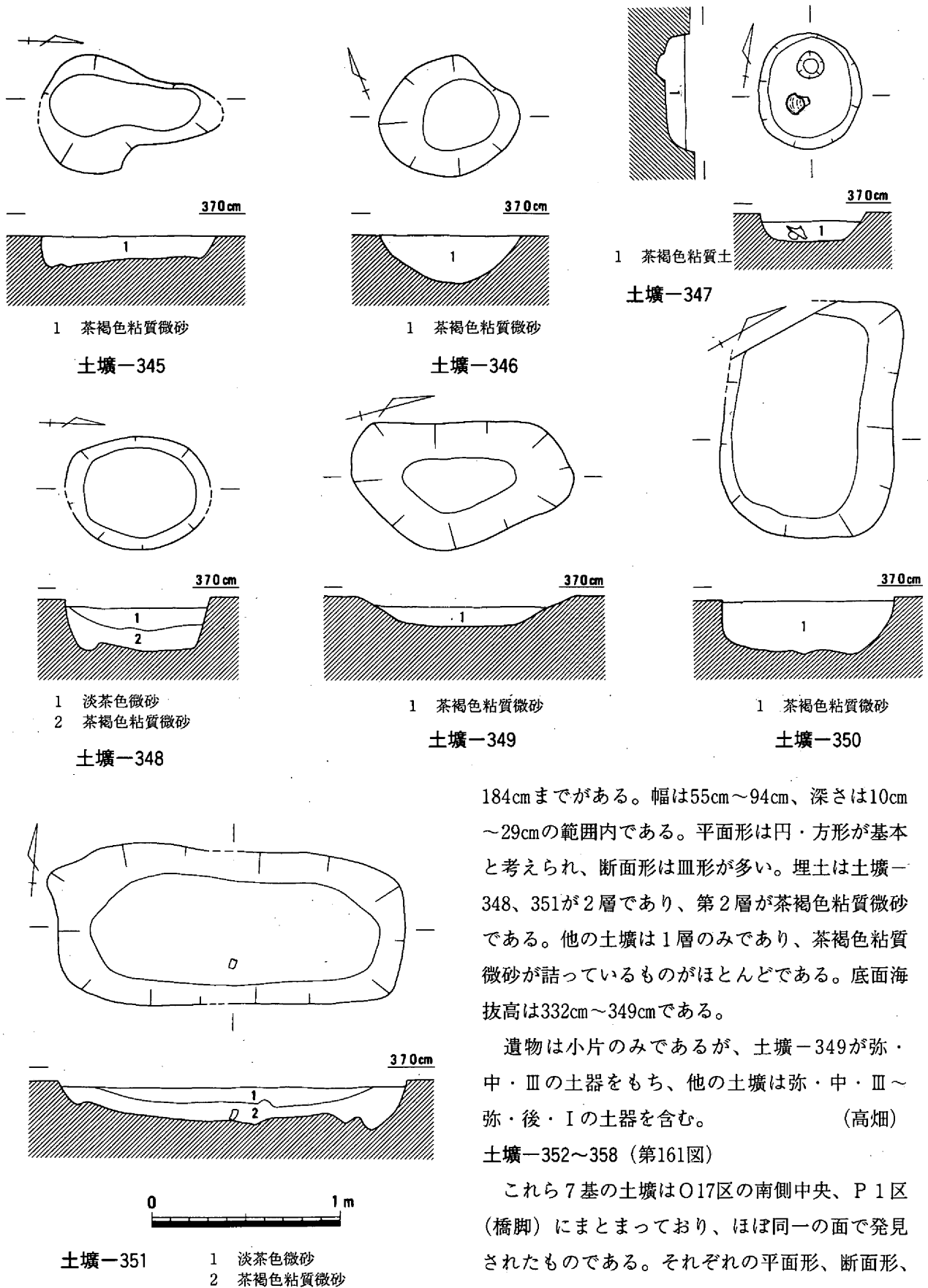
O17区の南東、P1区 (橋脚) に所在し、小土壙の集合する西端に位置する。長さ155cm、幅114cm、深さ64cm、底面海拔高335cmをはかり、断面は皿形を呈する楕円形の土壙である。長軸を南北方向に持ち、浅い部類に入る。土壙検出面は400cmで、埋土は2層からなるが、第2層については本土壙のものか否かが把握できていない。

遺物は第1層の暗褐色茶色微砂中からの出土であり、壺、高杯片が各1点である。2点とも小片であり、色調は橙色系統である。

弥・後・Ⅰの古相に比定できる。 (高畑)

土壙-345~351 (第160図)

これら7基の土壙はP17区の北東、P5区 (橋脚) にまとまっており、周辺にみられる弥・後・Ⅰの袋状土壙-81~87等と同一面で発見されたものである。土壙-335のように土壙内に遺物を多く持つものと異なり、土壙-347のように多くて6点、土壙-345のように無遺物のもの、土壙-346、348~351のように1点から4点の小片を含むものまでがみられた。そのうち土壙-346のように土壙-347との土器片が接合する場合もある。それぞれの平面形、断面形、規模は異なり、長さでは63cm~



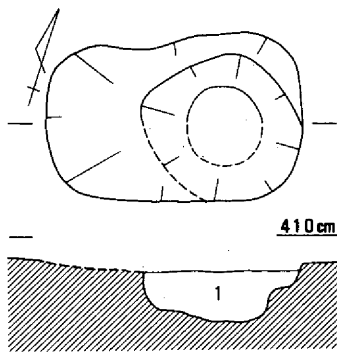
第160図 土壌-345~351 (1/30)

184cmまでがある。幅は55cm~94cm、深さは10cm~29cmの範囲内である。平面形は円・方形が基本と考えられ、断面形は皿形が多い。埋土は土壌-348、351が2層であり、第2層が茶褐色粘質微砂である。他の土壌は1層のみであり、茶褐色粘質微砂が詰っているものがほとんどである。底面海拔高は332cm~349cmである。

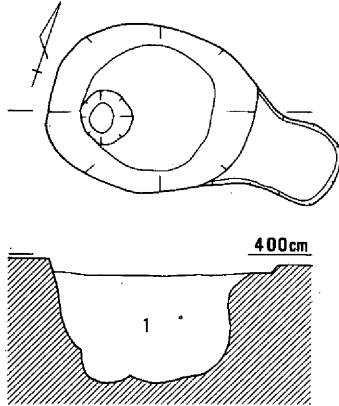
遺物は小片のみであるが、土壌-349が弥・中・Ⅲの土器をもち、他の土壌は弥・中・Ⅲ~弥・後・Ⅰの土器を含む。(高畑)

土壌-352~358 (第161図)

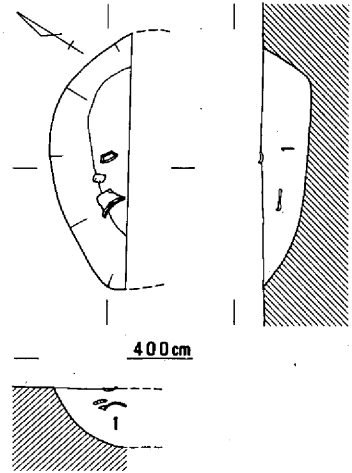
これら7基の土壌はO17区の南側中央、P1区(橋脚)にまとまっており、ほぼ同一の面で発見されたものである。それぞれの平面形、断面形、規模は異なり、長さでは60cm~124cmまでがある。100cm前後の長さのものが多く、幅では59cm~128



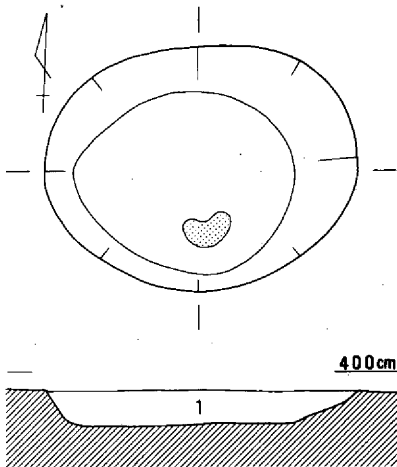
1 暗褐茶色微砂
土壌-352



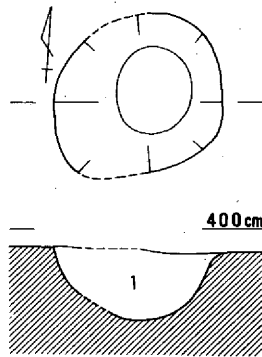
1 暗茶色微砂 (炭を含む)
土壌-353



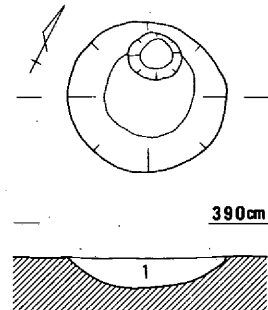
1 暗茶灰色微砂 (粘砂)
土壌-354



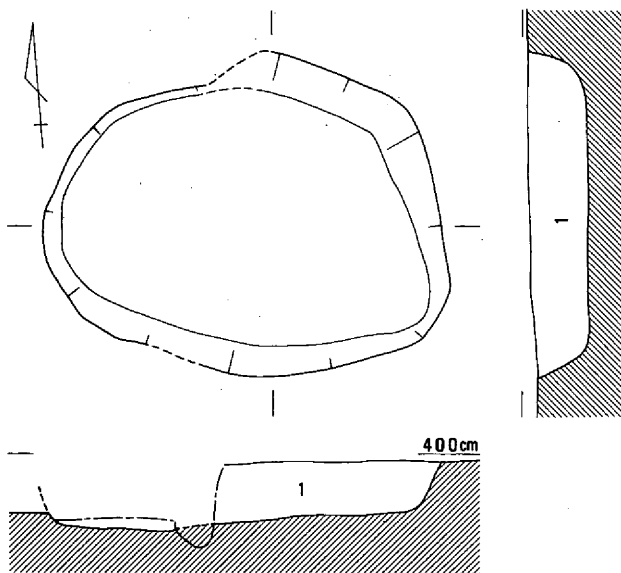
1 暗茶灰色粘質微砂
土壌-355



1 暗茶灰色粘質微砂
土壌-356



1 暗茶色粘質微砂
土壌-357



土壌-358 1 暗茶褐灰色微砂 (粘少)

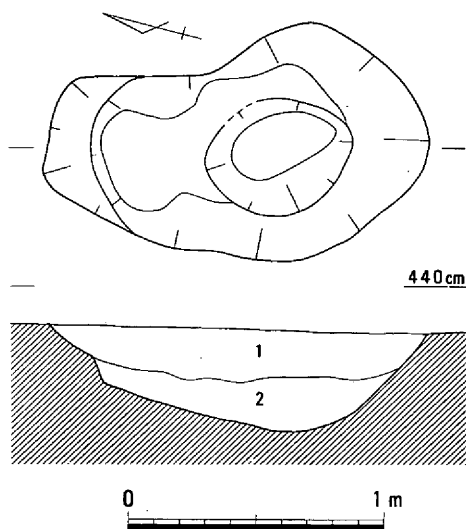
第161図 土壌-352~358 (1/30)

cm、深さで11cm~49cmをはかる。平面形は円形が多く、断面は椀、皿形である。埋土はどれも1層のみであり、茶色系の微砂が詰まっている。底面海拔高は349cm~378cmをはかる。土壌-345~351の場所より北東70mの位置にある土壌-352~358は土壌底の高さが約30cmほど上位であり、高所部に設けられた土壌群であることがわかる。

遺物は土壌-354に破片があり、弥・後・Iに比定できる。他の土壌も近い時期のものと考えられる。(高畑)

土壌-359 (第162図)

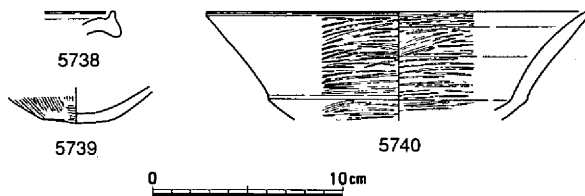
P17区の北東、P3区(橋脚)に所在し、竪穴住居-192より5.3m東側に位置する。長さ150cm、幅90cm、深さ42cm、底面海拔高383cmをはかり、断面椀形を呈する不整



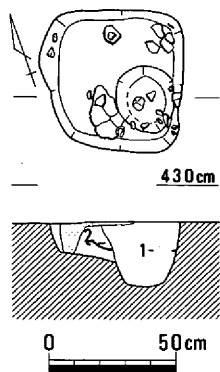
1 暗茶灰黒色粘質微砂 2 茶褐色粘質微砂

楕円形の土壙である。下端面に58cm×47cm、深さ7.5mの1段深い小土壙形状が認められる。埋土は2層からなり第1層中に土器小片、炭等がみられ、第2層ではわずかな出土である。

遺物は実測可能なもの3点のみで、5739の甕底、5740の高杯部が本土壙の時期を示すものである。弥・後・IVの新相に比定できる。(高畑)



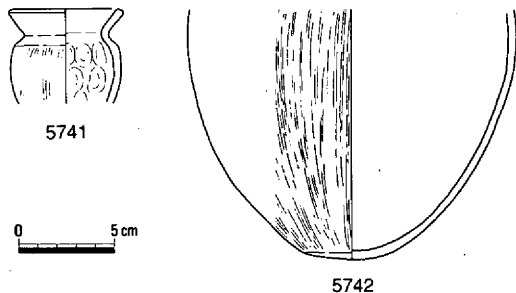
第162図 土壙-359(1/30)・出土遺物



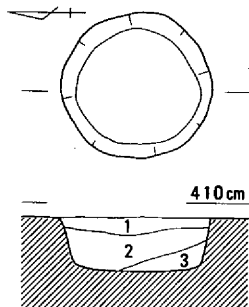
1 暗灰茶色粘質微砂
2 暗茶色粘質微砂

土壙-360 (第163図)

P17区の北東、P3区(橋脚)に所在し、土壙-341の西南2.8mに位置する。長さ56cm、幅56cm、深さ15cm、底面海拔高400cmをはかる柱穴状の土壙である。遺物は上位から出土しており、5741、5742の甕がある。弥・後・IVの新相に比定できる。(高畑)

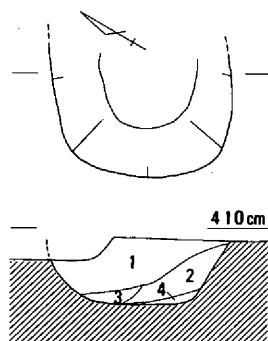


第163図 土壙-360(1/30)・出土遺物



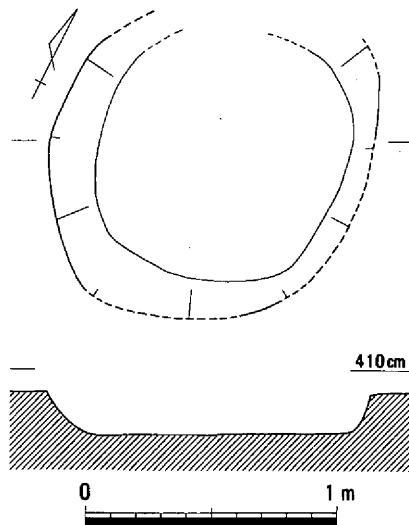
1 淡褐色やや砂質土
2 暗茶褐色砂質土
3 黄褐色やや粘質土

土壙-361



1 暗灰褐色土
2 暗灰褐色土
3 黄灰褐色土
4 黄褐色土

土壙-362



土壙-363

第164図 土壙-361~363(1/30)

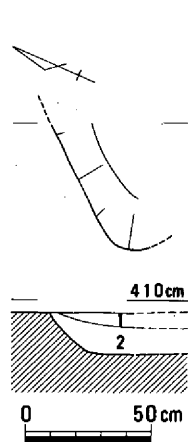
土壙-361~363 (第164図)

〇17区の南東、P2区(橋脚)に所在し、ほぼ同時期と考えられる土壙-342、343、袋状土壙-88等とともに比較的まとまった状況で出土している。土壙-362、363は古墳時代前期の竪穴住居-215によりカットされての出土である。土壙-361は長さ60cm、幅59cm、深さ21cm、底面海拔高383cmをはかり、断面碗形を呈する円形の土壙である。土壙埋土は3層からなり、第1、2層が砂質であり、第3層が粘質土である。土壙-362は幅70cm、深さ26cm、底面海拔高383cmをはかり、断面碗形を呈する。平面形および長さは削平のため不明である。土壙-363は長さ141cm、幅125cm、深さ17cm、底面海拔高385cmをはかり、断面皿形を呈する円形の土壙である。

遺物は3基とも見られないが、土壙等の周辺出土状況から弥・後・Iの範疇を想定しておきたい。
(高畑)

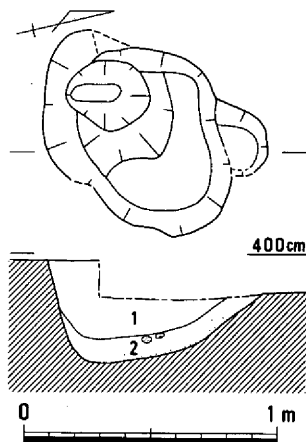
土壙-364 (第165図)

〇17区の南東、P2区(橋脚)に所在し、土壙-361~363等と同様と考えられる出土状況である。大半を側溝と溝により削平されており、規模は把握できず、深さ16cmのみが判明している。床面海拔



- 1 暗黄色褐色土
- 2 暗黄色弱粘質土

第165図 土壙-364 (1/30)

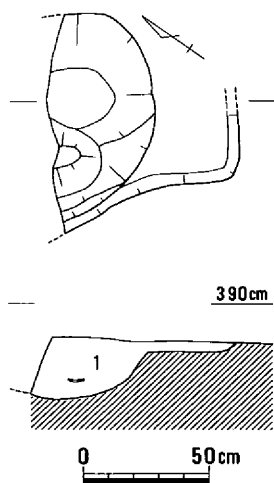
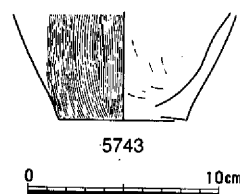


- 1 暗茶灰色微砂
- 2 暗灰茶色粘質微砂

第166図 土壙-365 (1/30)・出土遺物

高は389cmをはかり、土壙-361~363とも近い数値を示す。

弥・後・Iの所産と考えておきたい。
(高畑)



- 1 暗茶灰色微砂

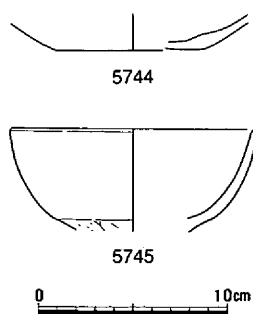
第167図 土壙-366 (1/30)・出土遺物

土壙-365 (第166図)

〇17区の南側中央、P1区(橋脚)に所在し、土壙-354から北東3.5 mに位置する。長さ90cm、幅80cm、深さ40cm、底面海拔高357cmをはかる不整形の土壙である。2基が重複した形状であるが、具体性は把握できていない。検出は海拔400cmであり、周辺の遺構と大差は認められない。埋土は2層からなり、第1、2層ともに微砂である。

遺物は甕の底部5743が1点のみであり、時期は弥・後・Iの範疇で把えておきたい。

(高畑)



土壙-366 (第167図)

〇17区の南側中央、P1区(橋脚)に所在

し、弥・後・Iの土壙がまとまっている場所より約3m離れた所に位置する。平面が方形と、その内側に平面が円形の2土壙が接する形で存在し、切り合い関係にあるのか、2土壙で1遺構なのかが判然としない。円形の土壙は長さ84cm、幅(44)cm、深さ25cm、底面海拔高353cmをはかり、断面は椀形を呈する。土壙検出面は以外と低く、海拔375cmであり、埋土は1層である。

遺物は暗茶灰色微砂中より5744の壺底、5745の高杯部の破片が出土している。5744は底径7.4cm、残存高(1.8)cmをはかり、色調は橙色である。5745は口径13.0cm、残存高(5.4)cmをはかり、色調浅黄橙色である。2点とも胎土は精良であり、水漉しの粘土が使用されている。

弥・後・IVに比定できる。

(高畑)

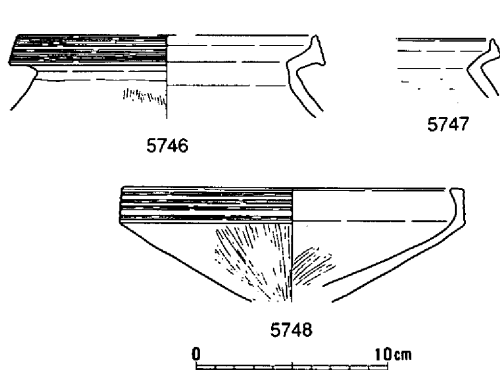
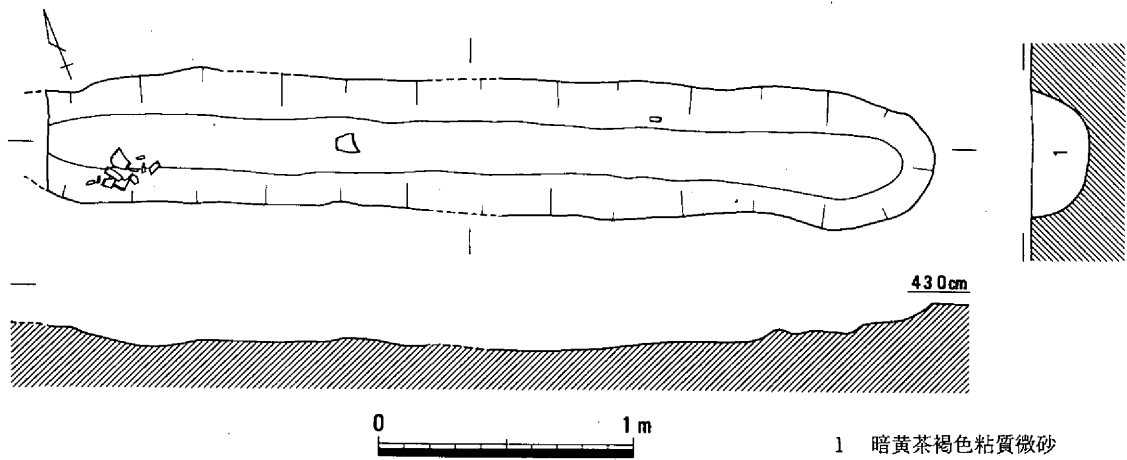
土壙-367 (第168図)

O17区のほぼ中央、M8I区(盛土)の西端部に所在し、弥・後・Iの3基まとまる土器棺墓12~14の西隣に位置する。東西方向に長い溝状の土壙であり、現存長347cm、幅55cm、深さ23cm、底面海拔高405cmをはかり、断面椀形を呈する。土壙底はかならずしも平坦ではない。土壙検出面は4.27cmをはかり、埋土は暗黄茶褐色粘質微砂の1層である。

遺物は少なく、土器片は底面から遊離した状態での出土であり、甕2点、高杯1点である。5746、5747は器内面くびれ部に比較的鋭い稜線をとどめている。5748は口径17.8cm、残存高6.0cmをはかる高杯部であり、色調灰白色を呈し、橙色系統の他の2点とは異なる。

それらの特徴から土壙は弥・中・IIIの古相に比定できる。

(高畑)



土壙-368 (第169図)

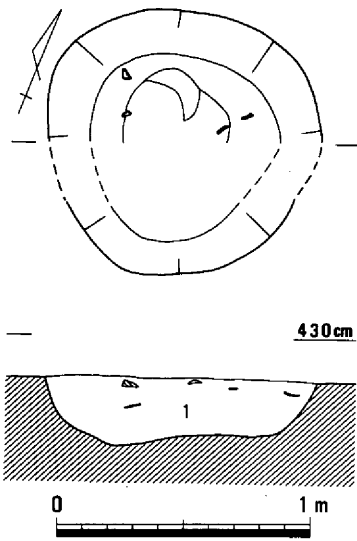
O17区のほぼ中央東側に所在し、M8I区(盛土)の袋状土壙が集中する北辺部、袋状土壙-93の東側4.2mに位置する。長さ109cm、幅108cm、深さ23cm、底面海拔高390cmをはかり、断面は皿形を呈する円形の土壙である。土壙検出面は413cmであり、P2区(橋脚)の土壙-342と同レベルの検出面である。埋土は暗灰黒色粘質土の1層で、下位にゆくにしたがって砂質の割合が増えている。

第168図 土壙-367(1/30)・出土遺物

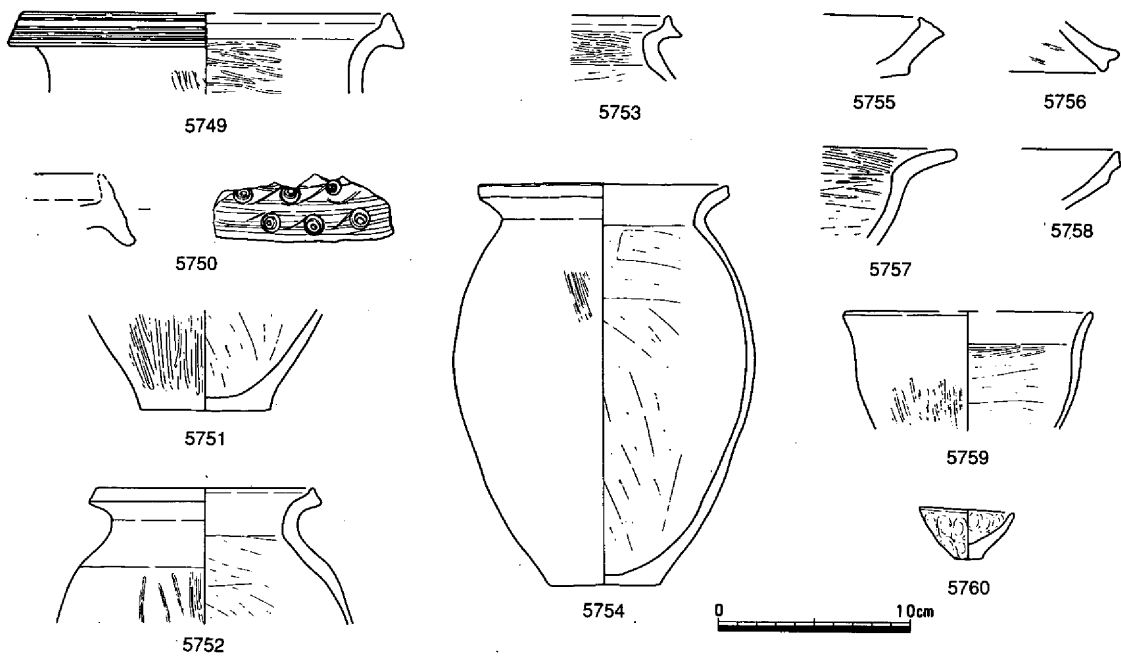
遺物は土壙上面に近い場所から多く出土しており、

大半が土器片である。長頸壺、甕、高杯、鉢、手捏ね等があり、5760が完形品である。5750は長頸壺の口縁と考えられ、上下に拡張された部分に凹線文が施され、その上位に竹管による2重の円形スタンプ文が2列で一巡するようである。竹管文から竹管文の中心距離は2.5cm間隔であり、円形スタンプを連続して結ぶ沈線が認められる。甕5751、5752は器外面に煤が付着し、甕5754は器外面に被熱による剥離痕跡が認められる。鉢5757、5758は器内面に煤の付着が残る。5760は完形品であり、口径5.1cm、底径1.5cm、器高2.6cmをはかる手捏ねの鉢である。器内外面はユビオサエが顕著であり、色調はにぶい褐色を呈する。5749～5760の胎土は細砂によりほぼ均一した状況を示し、色調においても灰白色系統はみられず、にぶい橙、褐色系統が主となっている。

弥・後・Ⅰ～弥・後・Ⅱの所産と考えられる。(高畑)



1 暗灰黒色粘質土(下位砂質)



第169図 土壙-368(1/30)・出土遺物

土壙-369・370(第170図)

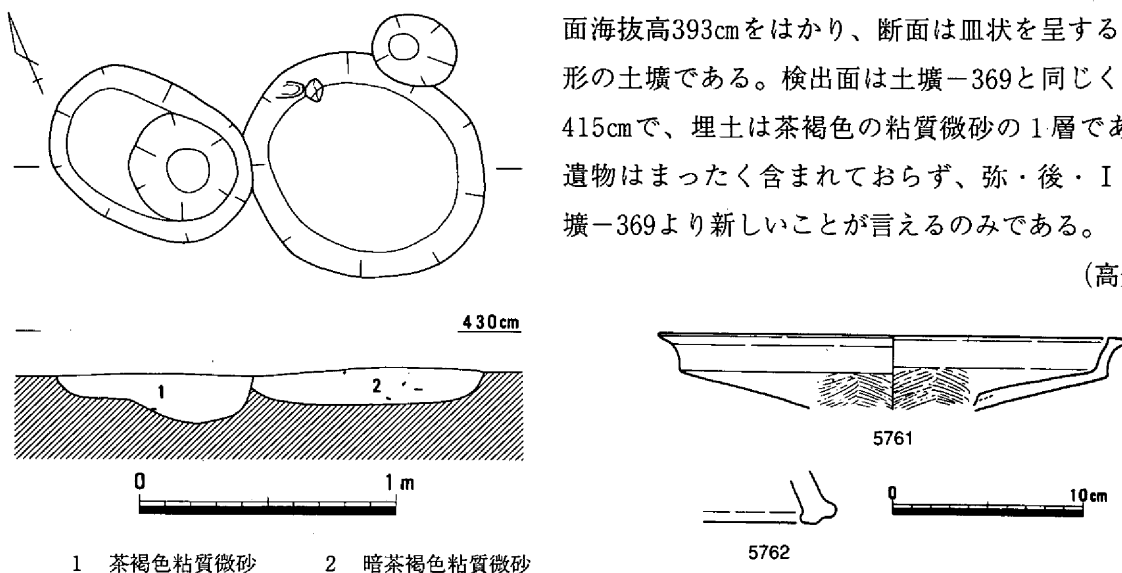
〇17区東側中央、M8Ⅰ区(盛土)の西側に所在し、19基の袋状土壙がまとまっている北西部、袋状土壙-96の西隣に位置する。土壙-369は長さ98cm、幅85cm、深さ14cm、底面海拔高392cmをはかり、断面は皿形を呈する円形の土壙である。遺構検出面は415cmで、埋土は暗茶褐色粘質微砂の1層である。第2層中には10cm×10cm位の河原石2個と土器片が出土している。

遺物は土器片が15点出土しており、実測可能なもの2点である。高杯5761は口径24.8cm、残存高3.9cmをはかり、色調は橙色を呈する。5762は器台の脚部と考えられ、胎土中には細砂を含み、色調は橙色を呈する。

土器の形状から、弥・後・Iの古相に比定できる。

土壙-370は土壙-369の掘り方西側を一部掘削した格好で作られており、弥・後・Iの古相より新しいものである。長さ82cm、幅59cm、深さ19cm、底面海拔高393cmをはかり、断面は皿状を呈する楕円形の土壙である。検出面は土壙-369と同じく海拔415cmで、埋土は茶褐色の粘質微砂の1層である。遺物はまったく含まれておらず、弥・後・Iの土壙-369より新しいことが言えるのみである。

(高畑)

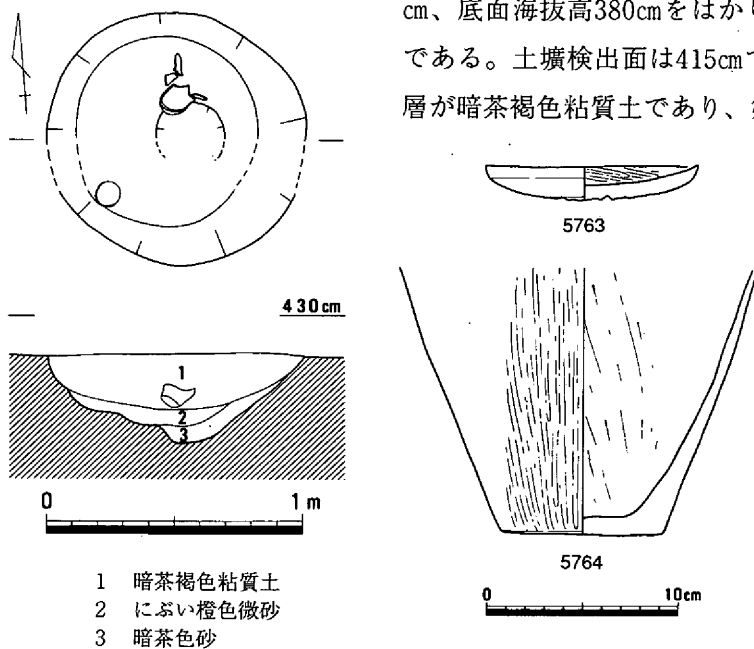


第170図 土壙-369・370(1/30)・土壙-369出土遺物

土壙-371 (第171図)

O17区の東側中央に所在し、袋状土壙-122の南東2.6mに位置する。長さ103cm、幅96cm、深さ35cm、底面海拔高380cmをはかり、断面は碗形を呈する円形の土壙である。土壙検出面は415cmであり、埋土は3層からなる。第1層が暗茶褐色粘質土であり、第2、3層が微砂層である。

遺物は第1層中より土器片が約10点出土しており、甕、高杯等がある。5764は投棄された状況での出土である。5763は大形高杯、あるいは台付鉢の底部充填に使用された皿状の栓である。直径11.3cm、高さ1.9cmをはかり、外面底には脚の筒部内ヘラケズリの際に生じたヘラ先の線刻痕跡をとどめる。5764は甕の底部で、底径8.5cm、残存高14.1cmをはかり、色調は橙色を呈する。器外面には煤が付着



第171図 土壙-371(1/30)・出土遺物

しており、煮沸に使用された痕跡を留める。

弥・後・Iの前半に比定できる。

円形にて直径100cm前後をはかるこの手の土壙は、土壙あるいは袋状土壙に比較的多く、最も一般

的な日常の数値であった可能性が強い。伴出のサヌカイト片は金山産である。 (高畑)

土壙-372 (第172図)

O17区の南東、M8 I区 (盛土) のほぼ中央部に所在し、弥・後・Iの竪穴住居-194の北東10mに位置する。長さ138cm、幅97cm、深さ33cm、底面海拔高386cmをはかり、断面は平坦であり、平面は方形を呈する。掘り方、壁面はほぼ垂直に掘り込まれており、平面形および底面も丁寧に作られた形状である。

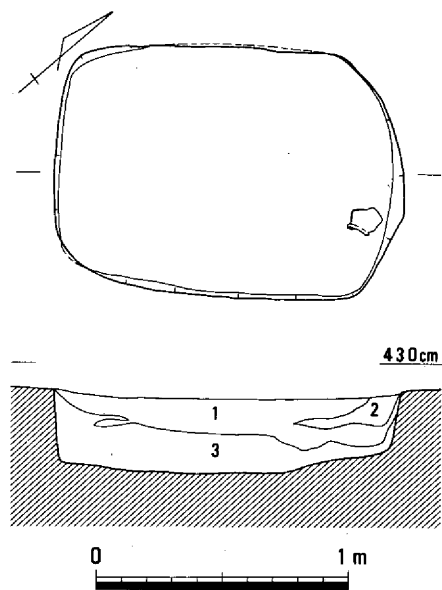
遺物は第1、3層に含まれており、壺、甕、高杯等の破片がみられ、5765~5768、5773、5774が上層出土、5771、5775が下層出土である。しかし、実際大きさが計測できる土器は少なく、部分的には5773の口径、5772、5775、5776の底径のみが可能である。5765~5776は色調が灰白色系統のものはなく、ほとんどが橙色を基調としており、5770、5771、5774の3点が褐色系統である。胎土中には1mm以下の白色小砂粒を含み、焼成は良好である。

弥・後・Iの範疇でとらえられるが、高杯5773が新しい様相をもつ1点である。 (高畑)

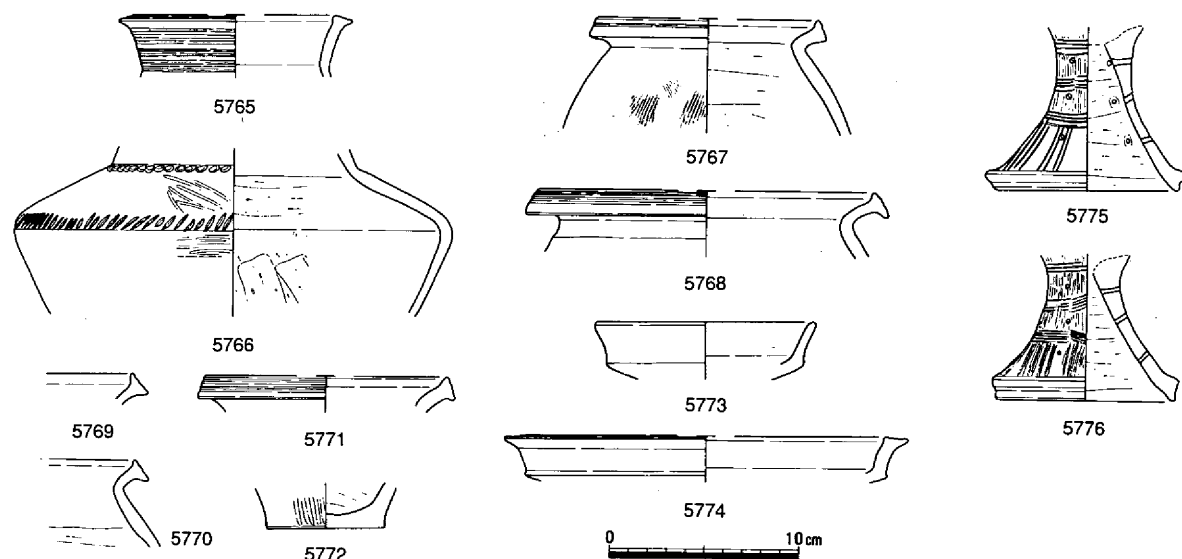
土壙-373 (第173図)

O17区の南東、M8 I区 (盛土) の中央南側に所在し、弥・後・IIIの竪穴住居-195の東南約3mに位置する。土壙内北側には奈良時代の須恵器小片を含む、85×73cm、深さ43cmの段をもつ隅丸方形の土壙が重複する格好で掘り込まれており、土壙-373の底面が破壊されている。

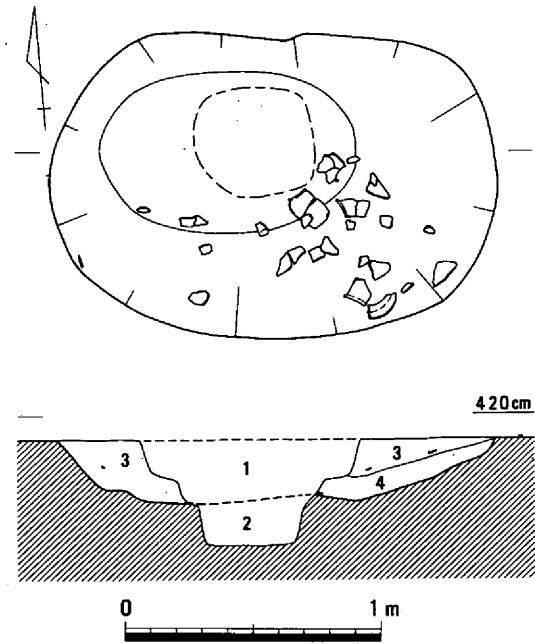
土壙-373は長さ175cm、幅120cm、深さ24cm、底面海拔高386cmをはかり、断面が皿形を呈する楕円形の土壙である。土壙検出面は410cmで埋土は第3、4層の2層であり、第1、2層が奈良時代の土壙-468の埋土である。



- 1 黒茶褐色粘質微砂
- 2 暗茶褐色粘質微砂
- 3 黄褐色粘質微砂 (粘り少々)



第172図 土壙-372 (1/30)・出土遺物



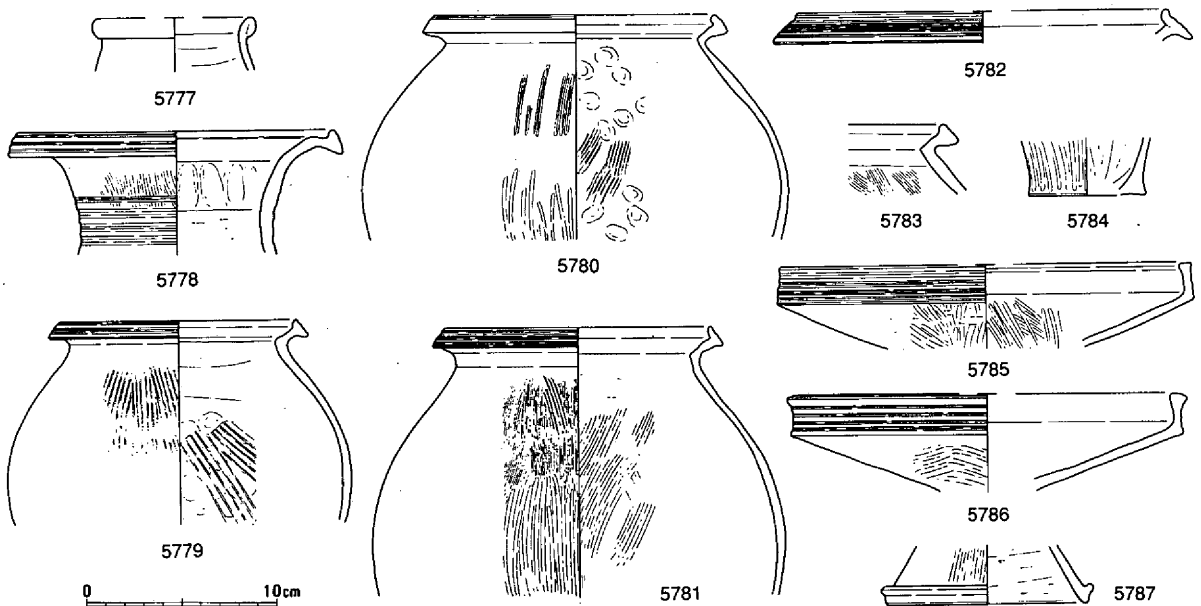
- 1 淡灰茶黒色粘質微砂
- 2 淡灰茶黒色粘質微砂 (ブロック多い)
- 3 暗灰茶黒色粘質土
- 4 灰橙色粘質砂

遺物は土壙-468により一部破壊を受けたと考えられるが、第3、4層中に含まれており、南東部から投棄された状況で出土している。壺、甕、高杯の破片が多く約40点を数える。5777は折り重しの玉縁状の口縁をもつ壺であり、色調は褐灰色を呈する。胎土中には1mm以下の白色小砂粒を含み、器壁の均一化等と共に他の土器についても共通する要素である。壺、甕、高杯ともに口辺、頸部等に凹線文が施されており、器内面上半はハケメが主である。色調では灰白系統が5779~5781、5785、5787であり、それに近いものが、5779、5782、5786の灰黄色系統である。

弥・中・Ⅲの古相に比定できる。 (高畑)

土壙-374 (第174図)

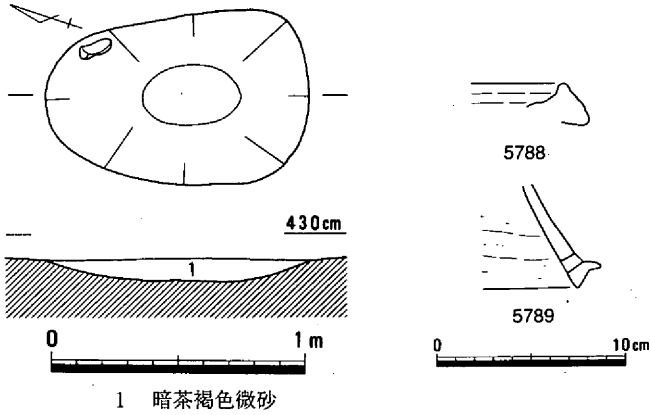
○17区の南東、北辺中央部で19基の袋状土壙が集合する群内に所在し、弥・後・Ⅰの竪穴住居-194



第173図 土壙-373(1/30)・出土遺物

より4m北北西に位置する。袋状土壙-109の掘り方西側を切って作られている。長さ103cm、幅69cm、深さ9cm、底面海拔高411cmをはかり、断面が皿状を呈する不整楕円形の土壙である。南側の幅が68cm、北側の幅が50cmをはかり、北側が多少狭まる形状である。土壙検出面は420cmであり、埋土は暗茶褐色微砂の1層である。用途、機能等については不明である。

遺物は埋土中より少量の土器片が出土しており、壺、高杯等である。5788、5789ともに小片であり、胎土中に1mm以下の白色小砂粒を含み、色調は5788が浅黄橙色、5789が鈍い黄橙色を呈する。



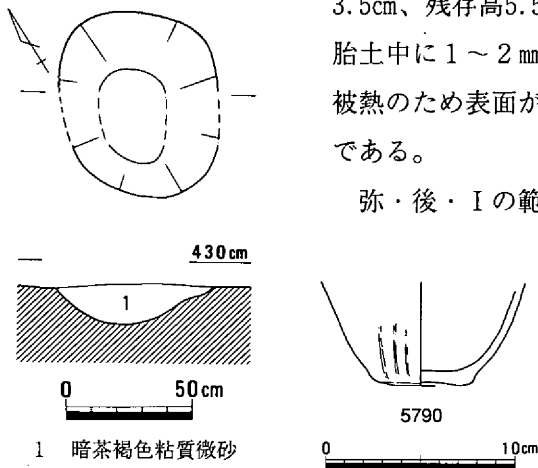
1 暗茶褐色微砂
第174図 土壌-374(1/30)・出土遺物

弥・後・Iの古相に比定できる。(高畑)
土壌-375(第175図)

O17区の南東、M8 I区(盛土)の中央に所在し、土壌-374と同様に19基がまとまる袋状土壌群内、土壌-374の1.3m南東に位置する。長さ75cm、幅60cm、深さ15cm、底面海拔高405cmをはかり、断面が皿形を呈する隅丸方形の土壌である。土壌検出面は420cmであり、埋土は暗茶褐色粘質微砂の1層である。

遺物は甕5790の底部片のみであり、底径3.5cm、残存高5.5cmをはかる。色調は器外面橙色、内面は灰白を呈し、胎土中に1~2mmの白色小砂粒を含む。器外面は煤が付着し、さらに被熱のため表面が剥落して凹凸が著しく、器内外面ともに調整が不明である。

弥・後・Iの範疇と考えられる。(高畑)



1 暗茶褐色粘質微砂
第175図 土壌-375(1/30)・出土遺物

土壌-376(第176図)

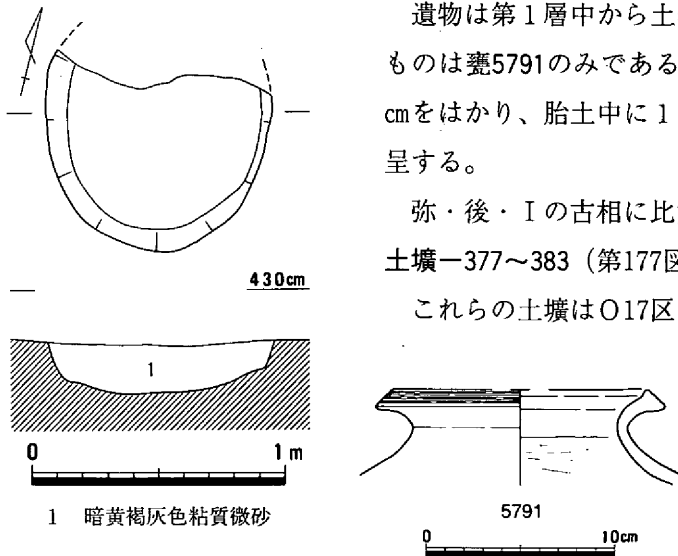
O17区の南東、M8 I区(盛土)のほぼ中央に集中する袋状土壌群中に所在し、土壌-375の北東4.3mのところの位置する。本土壌は袋状土壌-102により掘り方の北側を切られた状態で出土している。残存長67cm、幅90cm、深さ20cm、底面海拔高389cmをはかり、断面が皿形を呈する楕円形の土壌である。土壌検出面は海拔410cmをはかり、埋土は暗黄褐灰色粘質微砂の1層である。

遺物は第1層中から土器小片約20点が出土しており、実測可能なものは甕5791のみである。推定復元での口径は13.4cm、残存高5.2cmをはかり、胎土中に1~2mmの白色小砂粒を含み、色調は橙色を呈する。

弥・後・Iの古相に比定できる。(高畑)

土壌-377~383(第177図)

これらの土壌はO17区の南東、M8 I区、M8 II区(盛土)北側に所在し、竪穴住居、袋状土壌が集中する範囲内に位置する。土壌の長さは63~194cm、幅50~116cm、深さは12~33cm、平面形は円・方・楕円形等、断面は皿・椀形と様々である。土壌検出面は海拔412cm~424cmまで



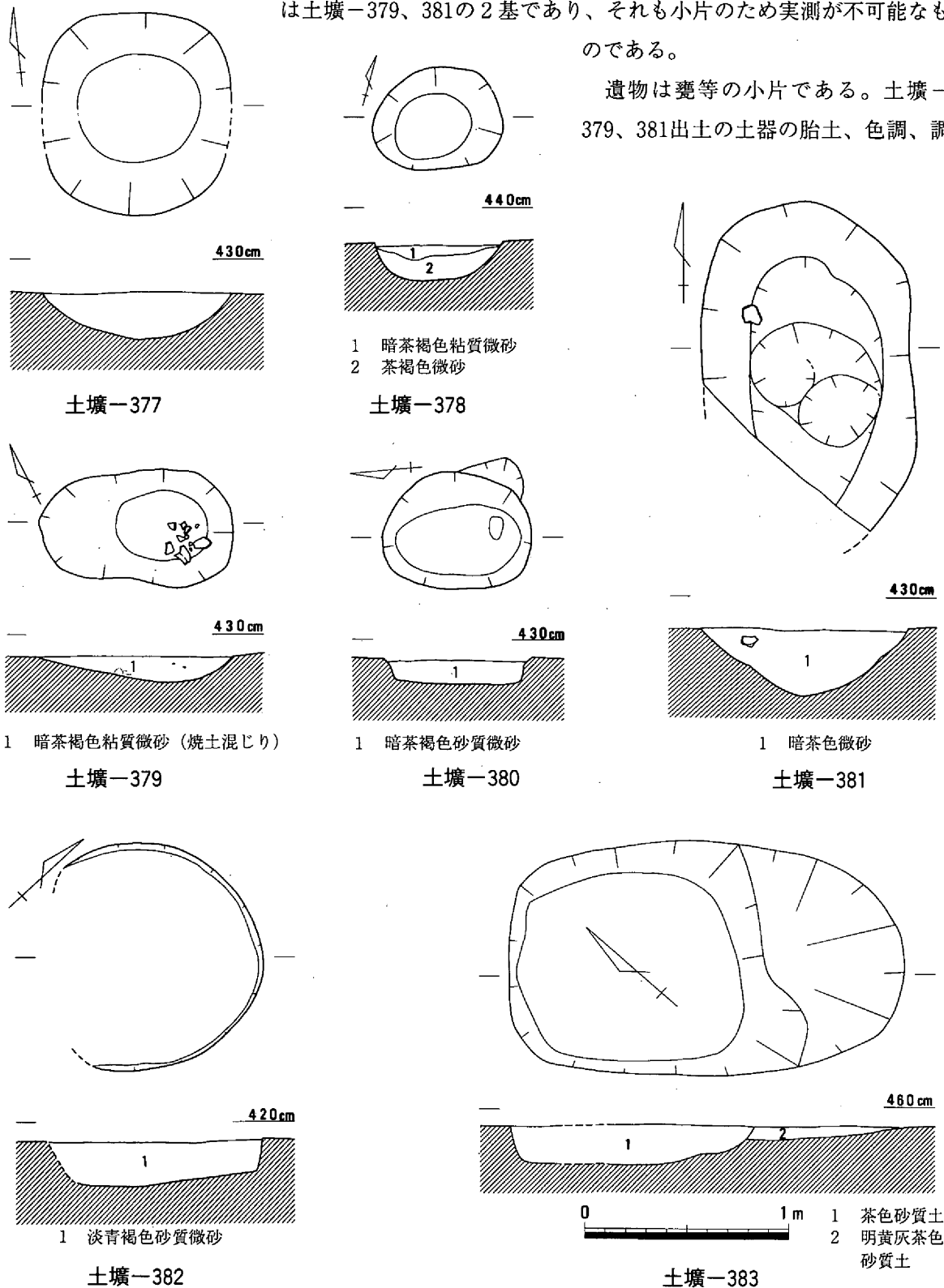
1 暗黄褐灰色粘質微砂
第176図 土壌-376(1/30)・出土遺物

第3章 調査区の概要

が多いが、土壙-383のみ海拔450cmをはかる。土壙底も検出面と比例しており、海拔381cm~407cmまでが多く、土壙-383のみが他より高く、海拔430cmをはかる。この形状は土壙それぞれの機能にも関連をもつが、ここでは北東から南西に高さを減じる微高地の高低に即しているものと考えられる。

埋土は茶色系の微砂が堆積しており、その中に土器等の遺物を含むものは土壙-379、381の2基であり、それも小片のため実測が不可能なものである。

遺物は甕等の小片である。土壙-379、381出土の土器の胎土、色調、調



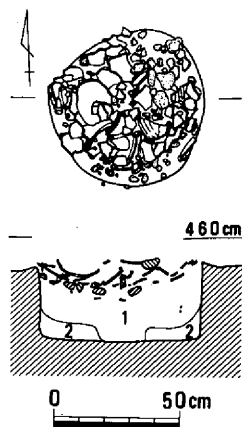
第177図 土壙-377~383(1/30)

整技法等の特徴から、弥・後・Iの範疇に比定できる。他の土壌も近い時期と推定できる。(高畑)

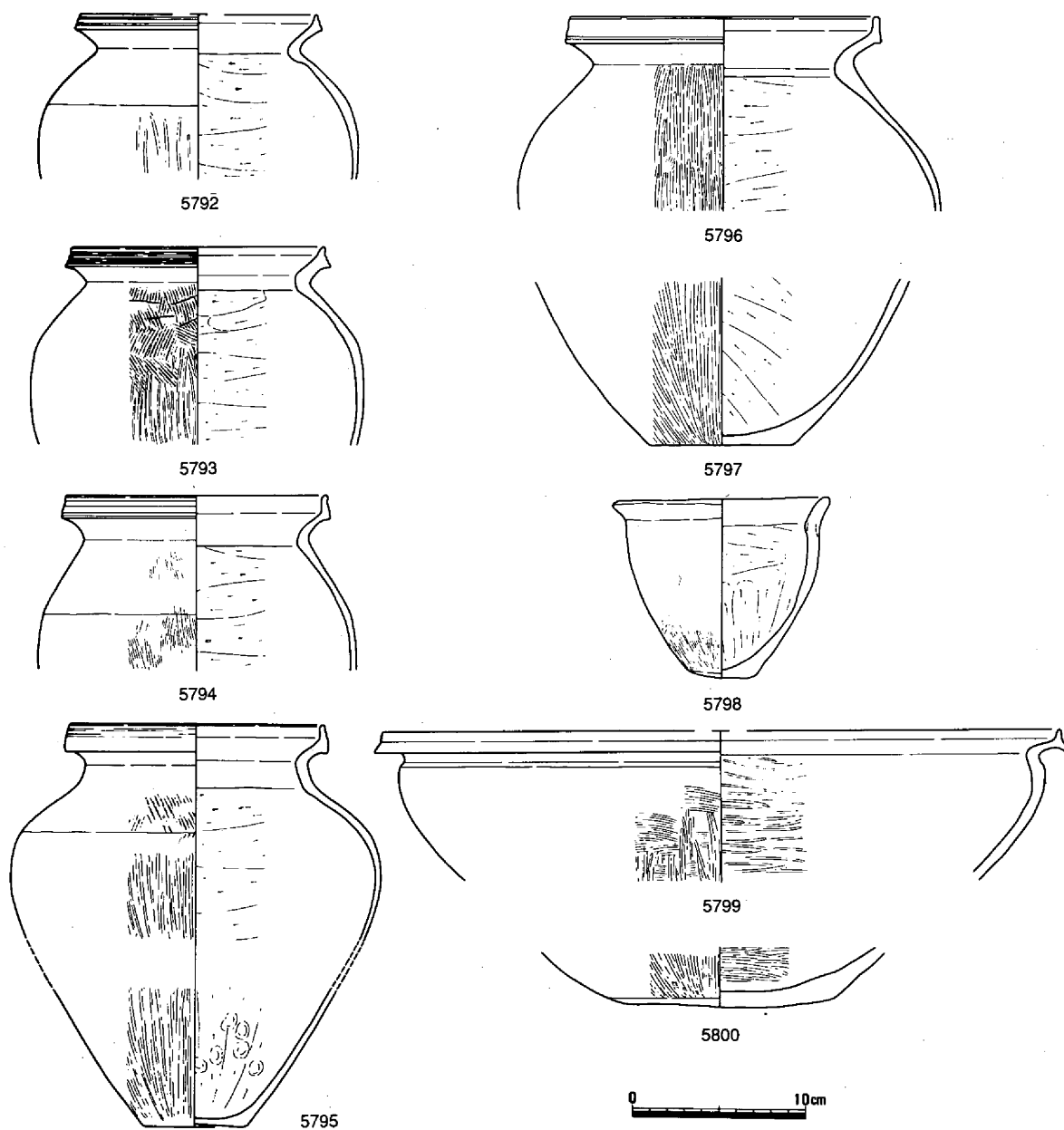
土壌-384 (第178図)

○17区の東南、M8 I区(盛土)の中央部北側に所在し、弥・後・Iの袋状土壌-100、101、117に囲まれた状況でもって、袋状土壌-117の西隣に位置する。長さ61cm、幅61cm、深さ31cm、底面海拔高419cmをはかり、断面が箱形を呈する円形の土壌である。埋土は2層からなり、第1層中には土器片、砂利、焼土、炭粒等がみられる。

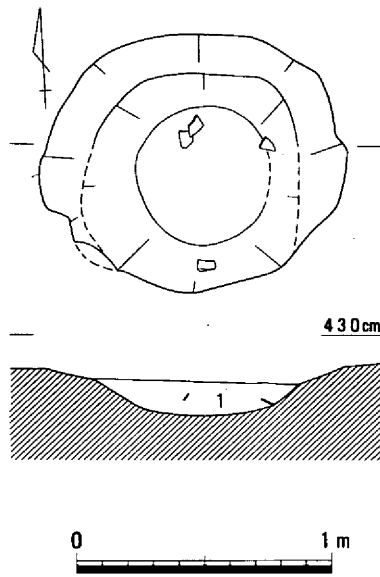
遺物は甕、鉢の破片が多く、上方垂直に拡張される口縁部が目立ち、器



- 1 暗茶灰色粘質微砂 (炭・焼土?を含む 粘土に近し)
- 2 暗茶灰色粘質微砂 (砂粒が1よりも大きい)



第178図 土壌-384 (1/30)・出土遺物



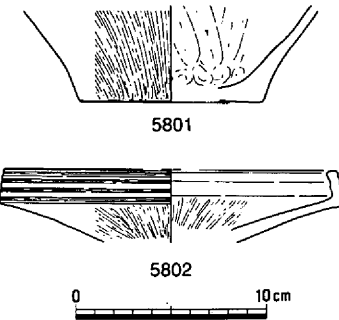
1 暗茶褐色粘質微砂

第179図 土壙-385(1/30)・出土遺物

壁も均一化し、薄手に仕上げられている。土壙-221より新しい様相を示す。弥・後・Ⅲの新相に位置づけられる。(高畑)

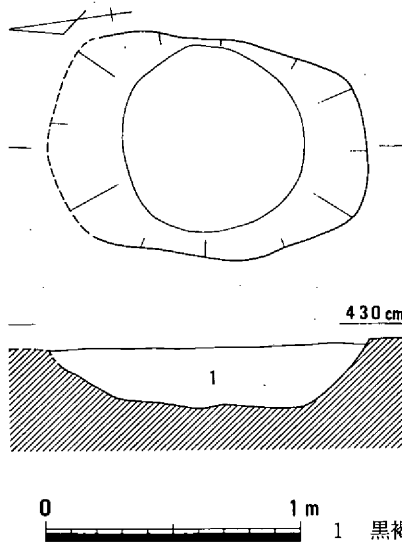
土壙-385 (第179図)

○18区の南西、M8Ⅲ区(盛土)のほぼ中央に所在し、土壙-383より南に約15mの場所に位置する。土壙-386、387の両土壙と共に約3mの間隔でまとまっている。長さ121cm、幅102cm、深さ20cm、底面海拔高398cmをはかり、断面は皿形を呈する不整形の土壙である。土壙検出面は海拔418cmであり、埋土は暗茶褐色粘質微砂の1層である。



遺物は埋土中より甕の底部

と高杯の杯部が出土しており、5801、5802ともに破片である。5801は器外面縦位のヘラミガキ、内面は縦位のヘラケズリが施されている。煮沸に使用されたもので外面には煤が付着し、被熱の痕跡が認められる。5802は推定口径17.4cm、残存高3.8cmをはかり、色調褐灰色を呈す



第180図 土壙-386(1/30)・出土遺物

る。また、胎土中には1mm前後の白色小砂粒を含む。

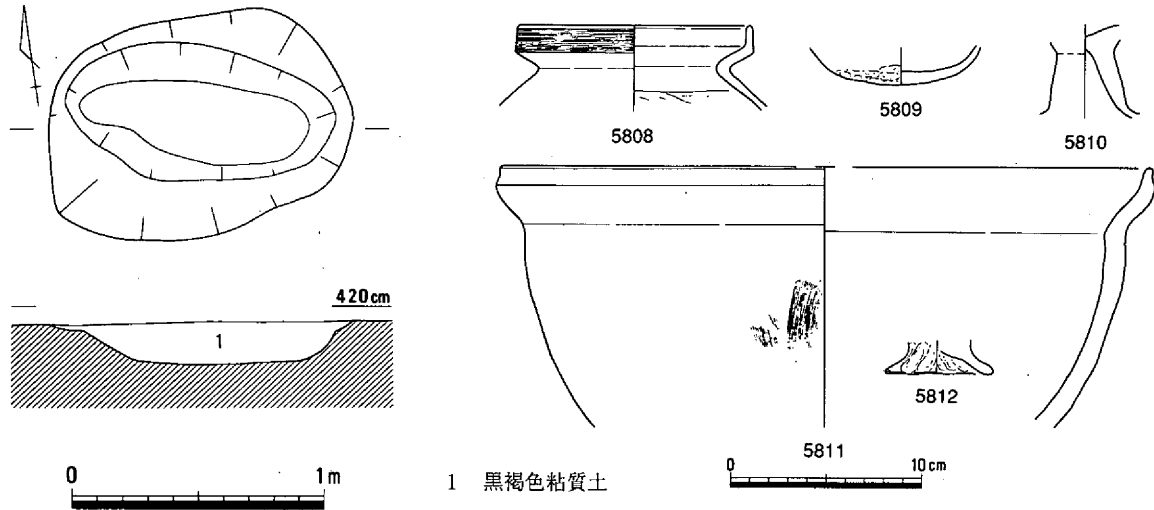
弥・中・Ⅲの古相に比定できる。

(高畑)

土壙-386 (第180図)

○18区の南西、M8Ⅲ区(盛土)の中央東側に所在し、土壙-385から2.6m南に位置する。長さ125cm、幅87cm、深さ17cm、底面海拔高396cmをはかり、断面は皿形を呈する隅丸方形の土壙である。土壙検出面は海拔424cmをはかり、埋土は黒褐灰色粘質微砂の一層である。

遺物は埋土中より壺、甕、高杯等が出土しており、すべてが小片である。5803~5807の5点の口縁部には3~4条の凹線文が施されており、5806のような折り返しの口縁もみられる。胎土は5807の精良なものを除き、5803~5806には1mm以下の白色小砂粒が認められる。色調は灰色系統のみで、5803、



第181図 土壙-387(1/30)・出土遺物

5806が灰白色を呈し、従来から弥生時代中期末の特徴ある色として取上げられているものである。

弥・中・Ⅲの古相に比定できる。

土壙-385とは同時期の土壙であり、上端の平面が隅丸方形で、下端面が円形を呈するという共通点を持っている。また、土壙-388、391、394、395も同時期のものであり、北西から南東の方向で幅10m、長さ23mの範囲内にまとまっている。これらの土壙群は、ここより15mほど東側に土壙と同様に北西から南東に並ぶ竪穴住居-196~200と関連をもって存在した可能性が高いと考えられる。

(高畑)

土壙-387 (第181図)

〇18区の南西、M8Ⅲ・Ⅳ区(盛土)の南側に所在し、10×23mの範囲内に弥・中・Ⅲの土壙が集中する西端に位置する。土壙の周辺には古墳時代中期から奈良時代中頃にかけての須恵器片の散布が認められた。

長さ120cm、幅87cm、深さ17cm、底面海拔高397cmをはかり、断面が皿形を呈する楕円形の土壙である。土壙の検出面は海拔415cmをはかり、埋土は黒褐色粘質土の1層である。

遺物は埋土中より5808~5812の甕、鉢、高杯、製塩土器等の破片が出土している。甕5808は口径12.1cm、残存高4.3cmをはかり、口縁部に櫛描沈線が8条施されている。色調は鈍い褐色を呈し、胎土中に1mm前後の白色小砂粒を含んでいる。岡山では「ボウフラ」と呼称されている甕であり、煮沸に用いられる場合が多いようである。5809は土壙の下位から出土した鉢状の土器であり、底部外面にユビオサエの痕跡が著しく残る。色調は浅黄橙色を呈し、胎土中に1mm前後の白色小砂粒を含む。5810は土壙の中ほどから出土した高杯であり、色調は浅黄橙色を呈し、胎土は水漉し粘土が使用されている。5812は底径5.5cm、残存高2.2cmをはかる製塩土器の脚部であり、色調は赤橙色を呈し、胎土中に1~2mmの白色小砂粒を含む。これらが、まったく同時期の所産とは考えがたいが、5808、5809、5812より、弥・後・Ⅳから古・前・Ⅰにかけての時期が考えられる。

M8Ⅲ区(盛土)では土壙の他に、100以上の柱穴が出土しており、そのうち48個に遺物が入っている。中世が2個、古代が1個、古墳時代が3個、弥生時代が15個と最も多い状況である。各時代に

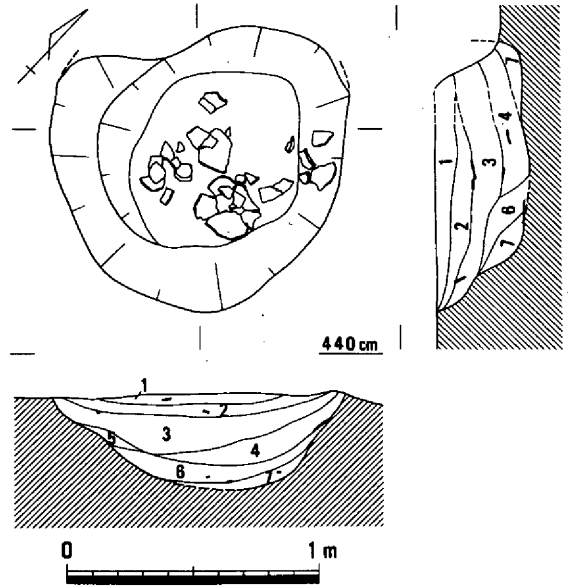
よる使用頻度では弥生時代が最もよく利用されている。

(高畑)

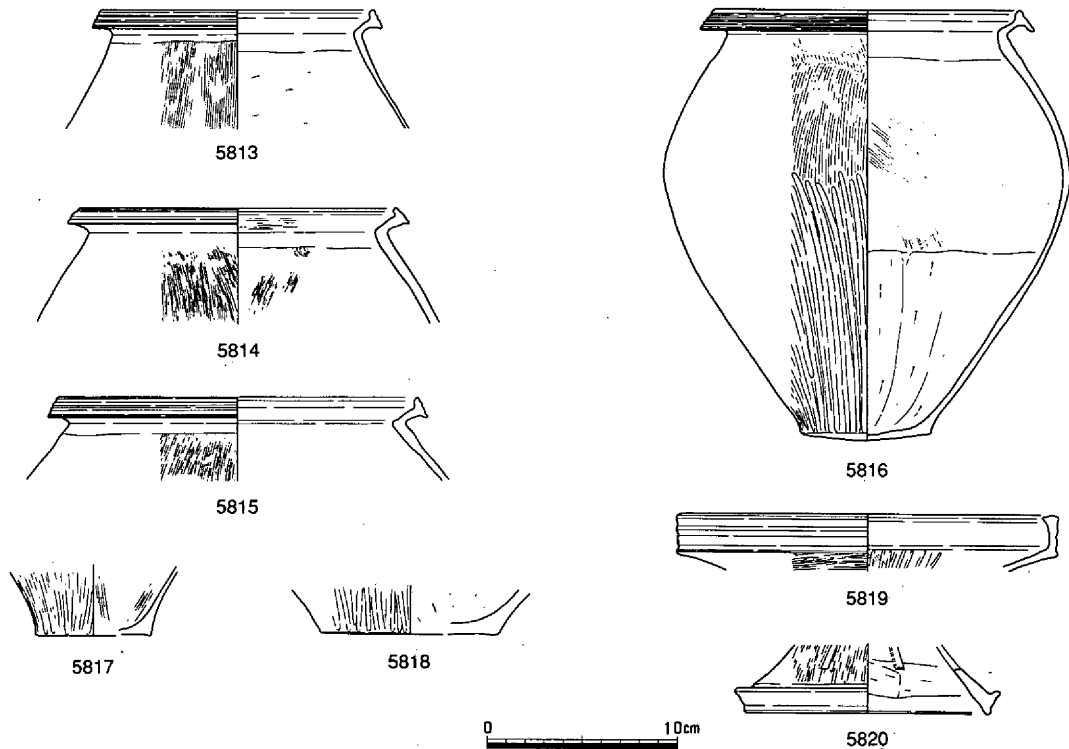
土壙-388 (第182図)

土壙は調査区中央のやや北側に位置し、土壙-389の東約1mに検出された。土壙の規模約115×113cmで平面形は不整円形を呈している。深さは約37cmで、断面形は椀形を呈する。土壙は2段に掘られており、土壙内は第1～第7層がレンズ状に堆積している。出土遺物は、土壙の下部より図示した土器が出土した。

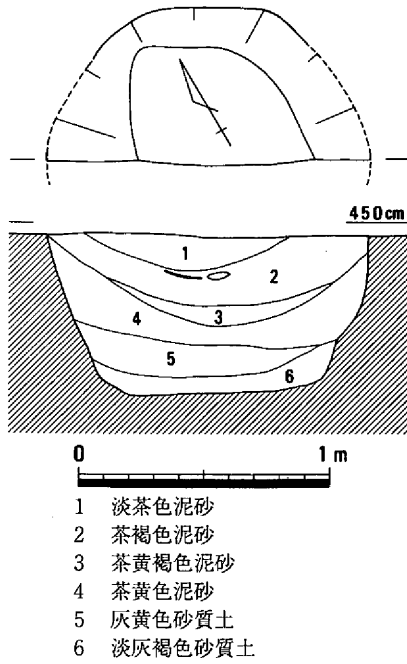
5813～5816は甕で、頸部から「く」の字に屈曲する口縁部をもつ。口縁端部は、上下に肥厚させており、端面には数条の凹線文を巡らしている。口縁部内面は、5814のようにヨコナデで仕上げる前にハケメを施しているものもある。外面は、やや細目のハケメを縦方向に施したのち、体部下半をヘラミガキで調整している。内面は、体部中位までヘラケズリで、上部は5814・5816のようにハケメとナデで調整している。5819・5820の高杯は、杯部の口縁部は内湾気味に上方に立ち上がり、口縁部の端面と側面は凹線文を施している。これらの土器は、弥生中期末の特徴を示している。(中野)



- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色泥砂 | 5 黄褐色砂泥 |
| 2 暗褐色泥砂
(土器粒含む) | 6 暗黄褐色砂質土
(黄色土粒多く含む) |
| 3 暗黄灰色砂質土
(黄色土粒混在) | 7 暗褐色砂質土 |
| 4 黒褐色粘質土
(炭化物含、黄色土粒混在) | |



第182図 土壙-388(1/30)・出土遺物



第183図 土壙-389(1/30)

- 1 淡茶色泥砂
- 2 茶褐色泥砂
- 3 茶黄褐色泥砂
- 4 茶黄色泥砂
- 5 灰黄色砂質土
- 6 淡灰褐色砂質土

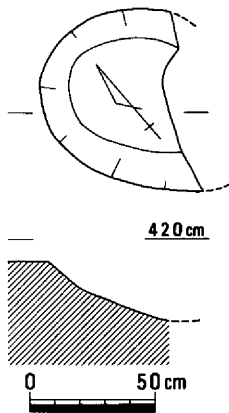
土壙-389 (第183図)

土壙は、調査区中央のやや北側に位置しており、土壙-388の西約1mに検出された。土壙の南側は調査区外であるため北側半分程が検出され、約130cmの円形ないし楕円形を呈すると考えられる。深さは約64cm残存しており、断面形は椀形を呈していることからみて、この土壙は袋状土壙になる可能性も考えられる。土壙内は、第1～第5層がレンズ状に堆積しており、出土遺物としては弥生中期末～後期初頭の土器が少量出土した。(中野)

土壙-390 (第184図)

この土壙は調査区中央のやや北側に位置し、土壙-394の西側に重なって検出された。土壙の西側は、土壙-394によって切られているものの残存状況からみて、平面形は楕円形を呈すると考えられる。長さは不明であるが、幅は約70cmで、深さは約22cmを測る。土壙の埋土は土壙-391と同様であった。

出土遺物は認められなかったが、埋土等からみて土壙-388などの周辺の土壙と同時期であろうか。(中野)

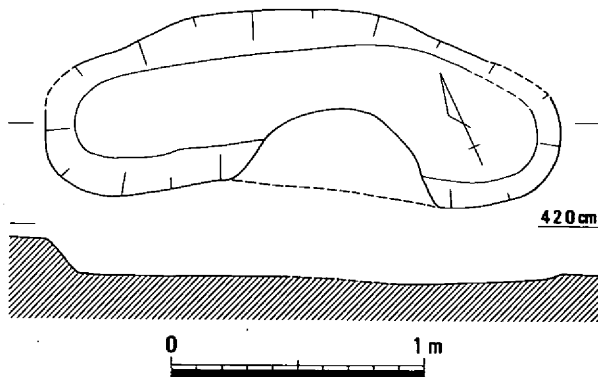


第184図 土壙-390(1/30)

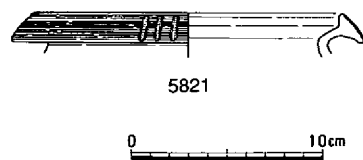
土壙-391 (第185図)

この土壙は調査区中央のやや北側に位置し、土壙-391の北約2mに検出された。土壙の南側の一部は、後世の削平を受けている。規模は、長さは約202cm、幅は約66cmを測り、平面形は長楕円形を呈している。深さは約13cmで、断面形は皿形を呈する。土壙の長軸は、北西から南西方向にとっている。

出土遺物としては、図示した5821の他少量の土器が検出されている。5821は、頸部から大きく外反する口縁部を持ち、口縁端部は上下に肥厚させている。口縁端面には、細かい凹線文を巡らしている。さらに凹線文の上部には3本1対の棒状浮文が付いている。その特徴から、弥生中期末～後期初頭と考えられる。(中野)



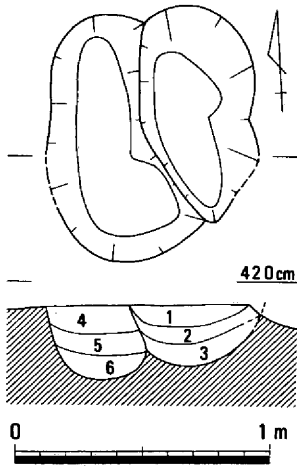
第185図 土壙-391(1/30)・出土遺物



土壌-392 (第186図)

この土壌は、調査区の中央やや北寄りに位置し、土壌-391の東側に隣接して検出された。土壌は86×45cmを測り平面形は長楕円形を呈しており、南北方向に長軸をとる。深さは約24cmで、断面形は楕形を呈する。土壌内は、第1～第3層がレンズ状に堆積している。出土遺物は、少量の土器が検出されたが時期が不明であるが、埋土等から弥生期とした。

(中野)



- | | |
|----------|----------|
| 1 暗黄褐色砂泥 | 4 暗黄褐色砂泥 |
| 2 灰褐色砂泥 | 5 灰褐色砂泥 |
| 3 黄灰色粗砂 | 6 黄灰色粗砂 |

第186図 土壌-392・393 (1/30)

土壌-393 (第186図)

この土壌は、土壌-392と一部平行に重なるように検出された。切り合い関係は、土壌-392に切られており古い。規模は、土壌-392よりやや大きく98×53cmを測り、平面形は長楕円形を呈しており、平面形、規模も土壌-392と類似している。深さは約29cmで、断面形は楕形を呈する。土壌内には、第1～第3層が堆積しており、出土遺物は少量の土器が検出された。

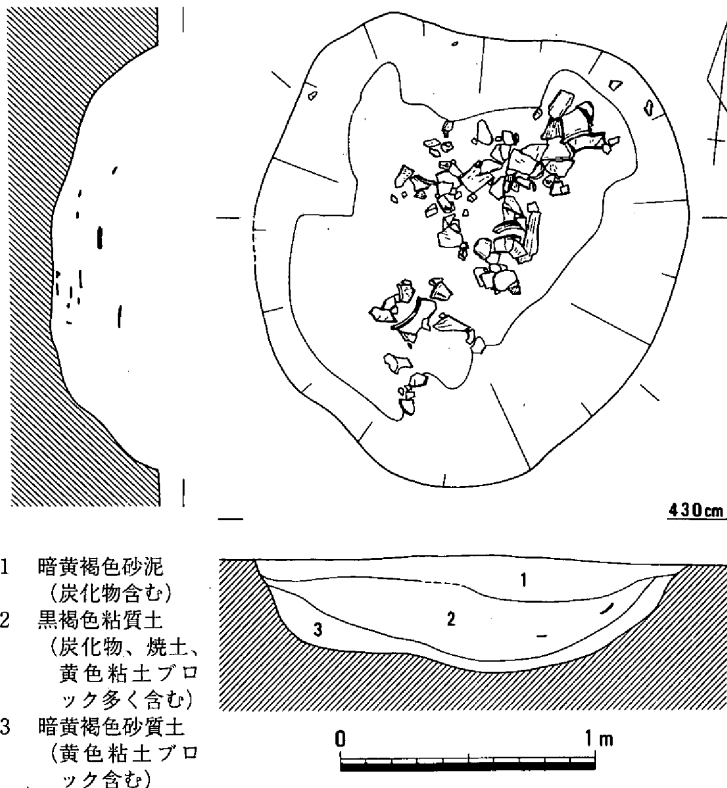
(中野)

土壌-394 (第187図)

土壌-394は、土壌-388～394を含めて近接する位置に存在する。土壌は、183×169cmで平面形は不整形円形を呈している。深さは約47cmで、断面形は楕形を呈する。土壌内は、第1～第3層がレンズ状に堆積している。第1層には炭化物、第2層には焼土および炭化物を含んでいる。また、第2層の黒褐色粘質

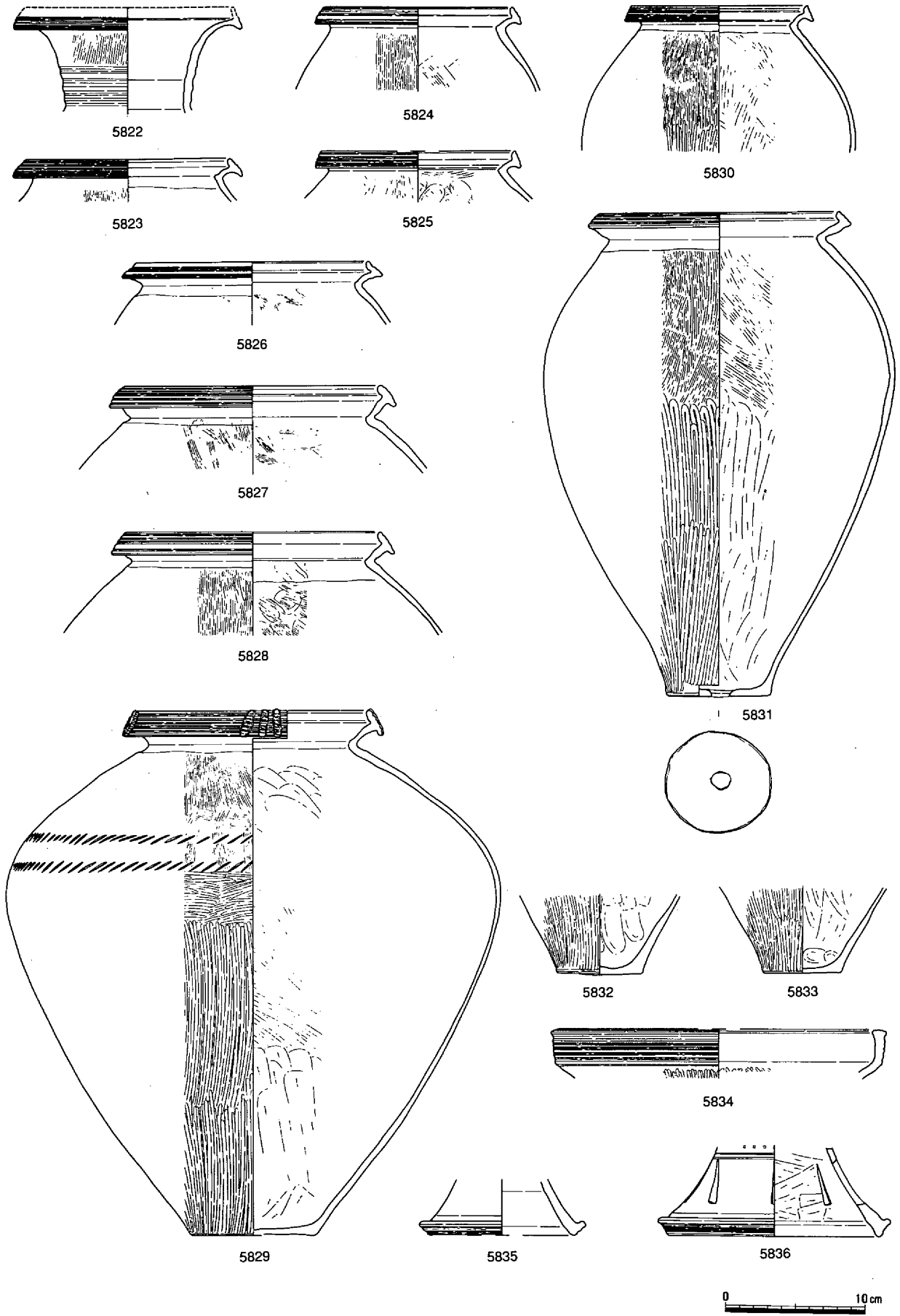
土中には黄色粘土のブロックが多く含まれている。出土遺物は、第2、3層から多く検出されている。

壺の5822は、頸部から外反する口縁部をもち、端部は上下に肥厚させている。端面には数条の凹線文を施す。外面はハケメで調整している。5829は、器形、文様等壺的な様相を示すがここでは甕として取りあつかった。口縁端面には、3本1組の棒状浮文を4か所に配している。また、肩部には、刺突文を2列に巡らしている。外面は、ハケメののち体部下半をヘラミガキを施す。5831の甕は、外面をハケメののち体部下半をヘラミガキで仕上げている。内面は、体部上部をハケメ、下部をヘラケズリを



- | |
|---------------------------------------|
| 1 暗黄褐色砂泥
(炭化物含む) |
| 2 黒褐色粘質土
(炭化物、焼土、
黄色粘土ブロック多く含む) |
| 3 暗黄褐色砂質土
(黄色粘土ブロック含む) |

第187図 土壌-394 (1/30)



第188図 土壙-394出土遺物

施す。5822～5836の土器は、いずれも弥生中期末の特徴を示す。

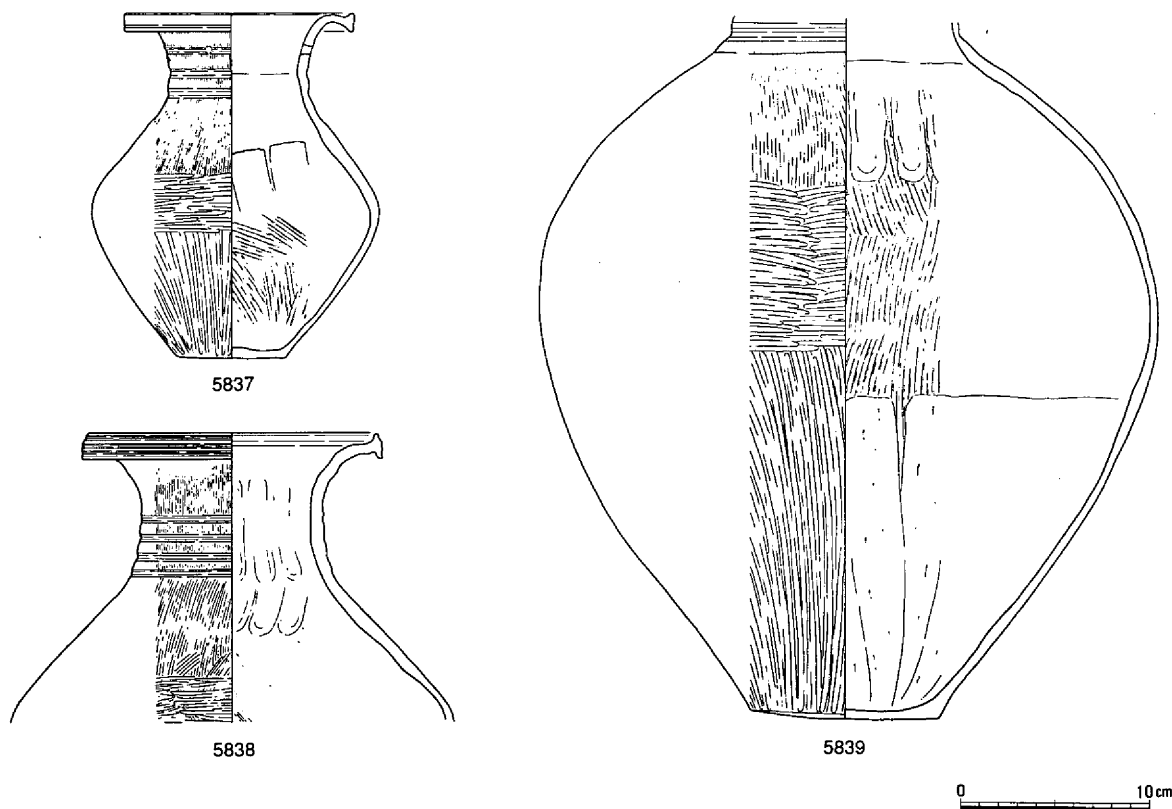
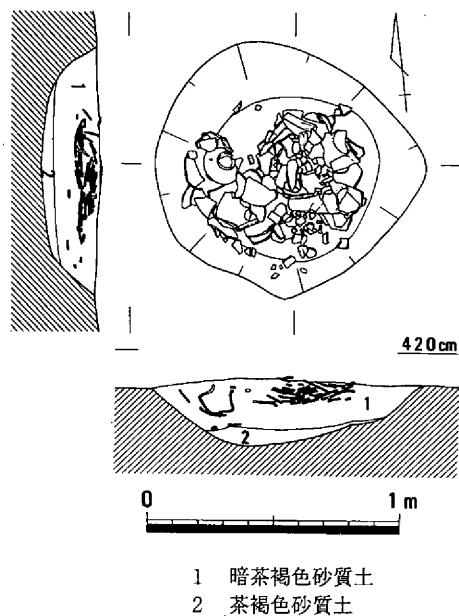
(中野)

土壙—395 (第189図)

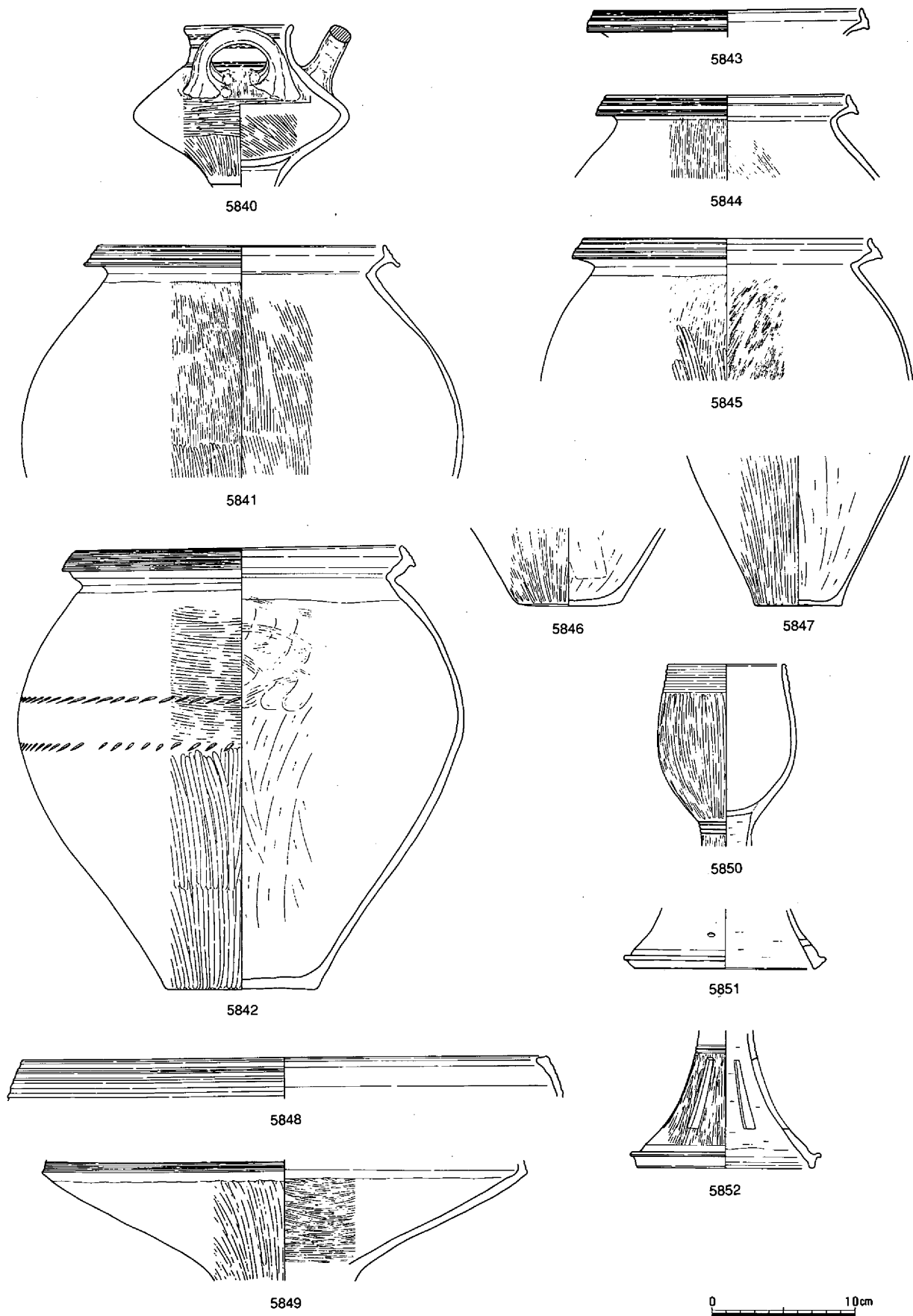
この土壙は、土壙—388～394が集中して存在していた位置から少し離れており、土壙—394の南東約7mに検出された。土壙は、108×103cmの規模で、平面形はほぼ円形を呈している。深さは約27cmで、断面形は楕円形を呈する。土壙内は、上下2層が堆積しており、上層の暗茶褐色砂質土には土器が集積していた。

壺の5837～5840には、長頸壺の5837～5839と水差し形の5840がある。5837は、小形の壺で、大きく外反する口縁部をもつ。頸部には3条の凹線文を施す。外面は、ハケメののち、体部最大径より下半をヘラミガキで調整する。体部の最大径付近は横方向に、下半を縦方向にヘラミガキを施す。内面は、下半をヘラケズリする5839や下部までハケメを施す5837・5840があるが、5837～5840はおおむね同様な調整である。甕の5841～5847には、器高が低い5842と器高の高い5843～5845がある。内外面の調整は、壺と同様である。5848～5852は高杯で、5848・5849はやや大形のものである。杯部の口縁部は内傾して立ち上がる。端面には凹線文を施している。これらの土器は、土壙—388・394とほぼ同時期と考えられる。

(中野)



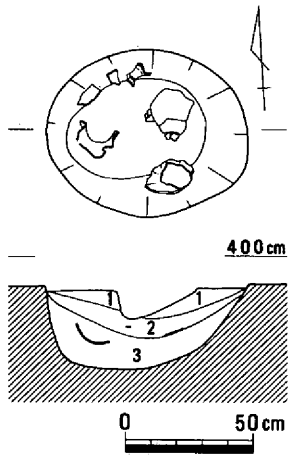
第189図 土壙—395(1/30)・出土遺物(1)



第190図 土壙一395出土遺物(2)

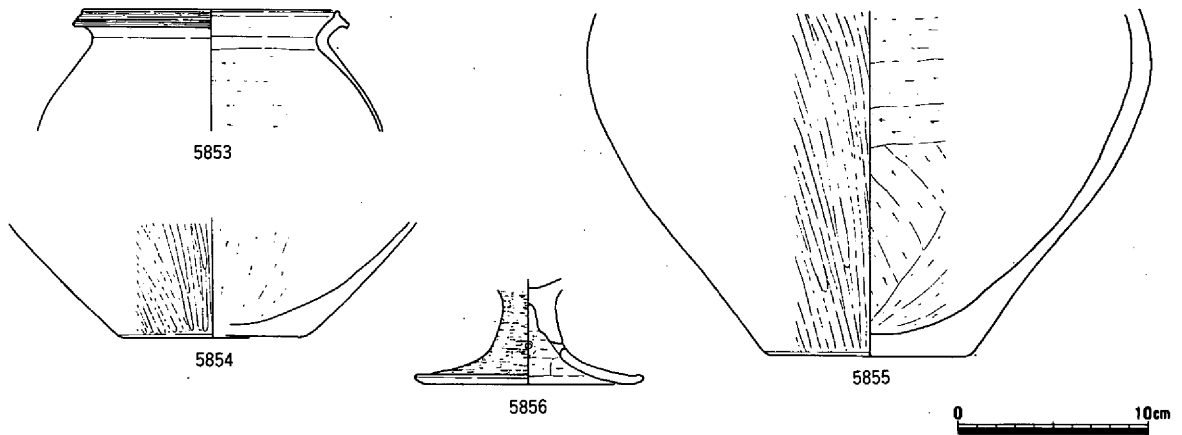
土壙-396 (第191図)

この土壙は、調査区中央やや南側の竪穴住居-202の東約2mに隣接して検出された。79×67cmで平面形は楕円形を呈している。深さは約34cmで、土壙内には第1～第3層がレンズ状に堆積している。断面形は椀形を呈する。出土遺物は第3層の最下層に多く、図示した5853～5855などが出土した。図示した土器は、いずれも弥生後期前半の特徴を示しており、隣接する竪穴住居-202と同時期と考えられる。このことからこの土壙は、竪穴住居に付属する施設と考えられる。



- 1 淡茶褐色砂質土
- 2 暗橙褐色砂質土
- 3 暗茶褐色粘質微砂 (炭まじり)

(中野)

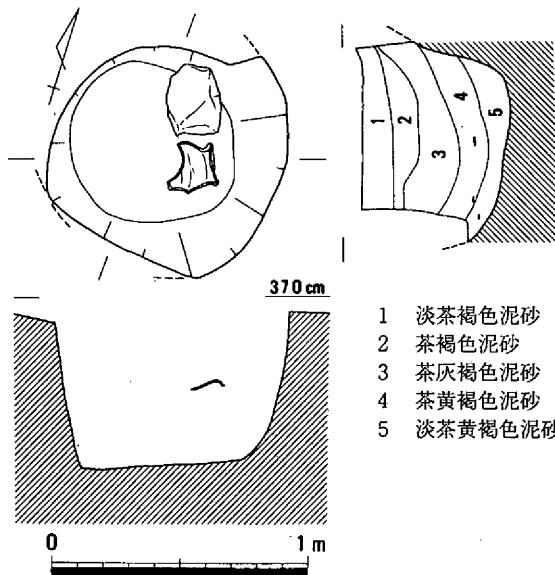


第191図 土壙-396(1/30)・出土遺物

土壙-397 (第192図)

土壙は、調査区中央やや南側の袋状土壙-79の北約1mに隣接して検出された。土壙は後世の削平を受けていたものの、99×92cmで平面形はほぼ円形を呈している。深さは約56cmで、断面形は箱形であり、規模や深さなどから袋状土壙の可能性も考えられる。土壙内は、第1～第5層がレンズ状に堆積しており、出土遺物は弥生後期前半の土器が少量検出された。

(中野)



- 1 淡茶褐色泥砂
- 2 茶褐色泥砂
- 3 茶灰褐色泥砂
- 4 茶黄褐色泥砂
- 5 淡茶黄褐色泥砂

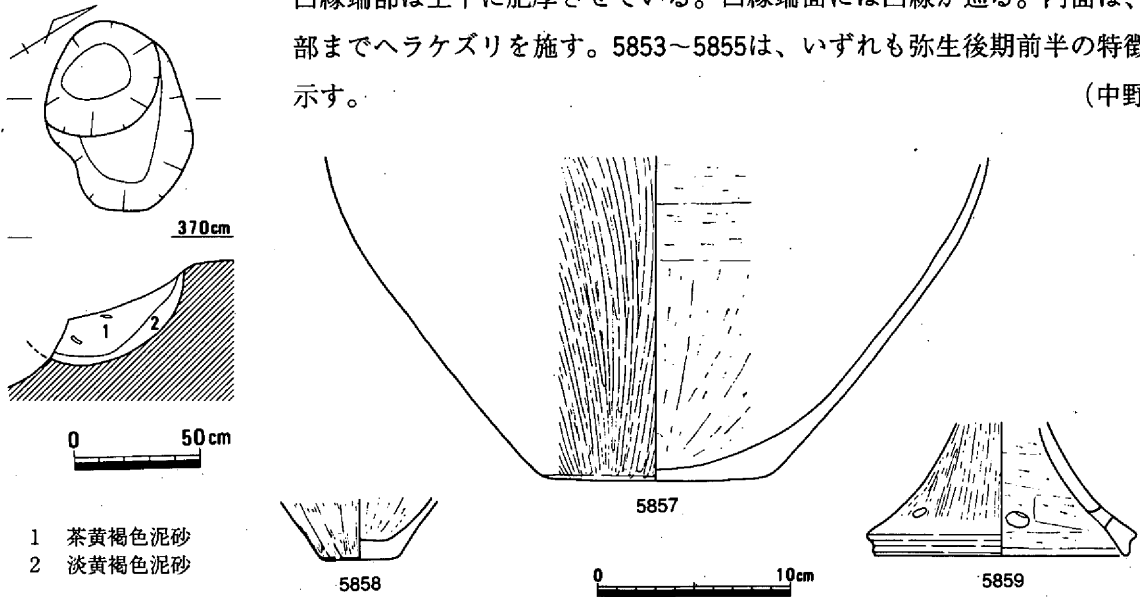
第192図 土壙-397(1/30)

土壙-398 (第193図)

この土壙は、調査区中央やや南側に位置しており、袋状土壙-133の南北約1mに検出された。土壙の南側は、後世の溝によって大きく削平を受けていた。規模は、76×56cmで平面形は楕円形を呈している。深さは約36cmを測り、断面形は椀形を呈する。土壙内は、上層に茶黄褐色泥砂、下層に淡黄褐色泥砂の2層が堆積しており、出土遺物は上層から検出された。

5853の甕は、頸部から外反する口縁部をもち、

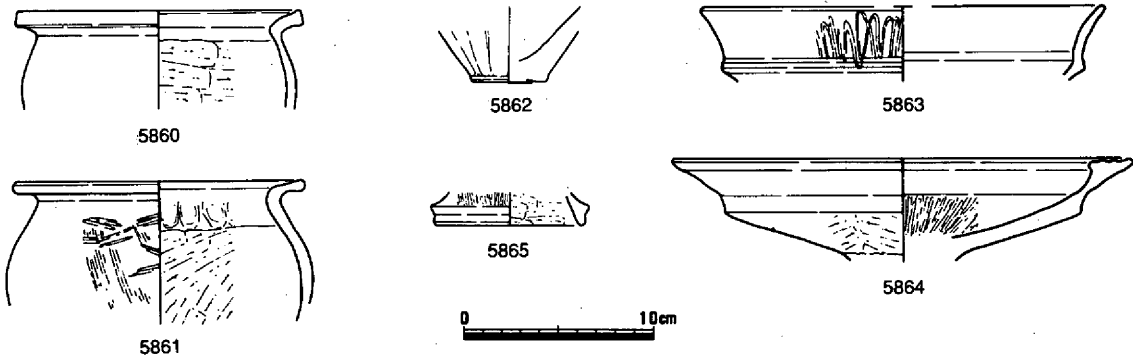
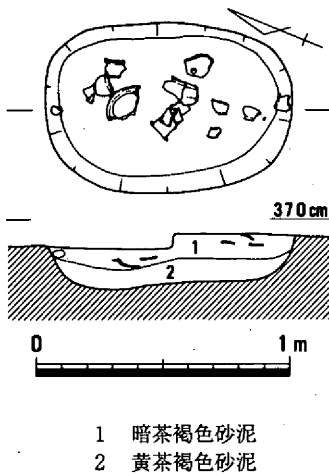
口縁端部は上下に肥厚させている。口縁端面には凹線が巡る。内面は、頸部までヘラケズリを施す。5853～5855は、いずれも弥生後期前半の特徴を示す。
(中野)



第193図 土壌-398(1/30)・出土遺物

土壌-399 (第194図)

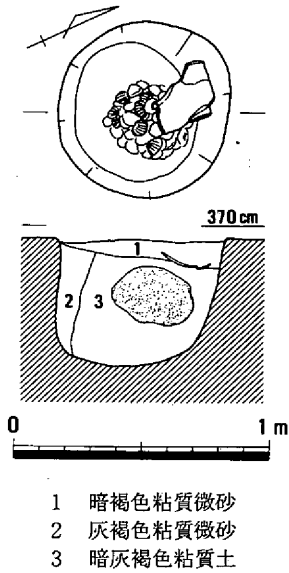
この土壌は、調査区南側の竪穴住居-203の南約5mに検出された。上部は後世の溝によって削平を受けており残存状態は良くなかった。規模は、97×67cmで平面形は楕円形を呈している。深さは約22cmで、断面形は皿形を呈する。土壌内には、上下2層がレンズ状に堆積しており、上層から図示した土器が検出された。5860・5861の甕は、頸部から大きく外反し、「く」の字口縁をもつ。口縁端部は、5860が上下にわずかに肥厚させており、5861は丸くおさめている。5863・5864の高杯を出土している。
(中野)



第194図 土壌-399(1/30)・出土遺物

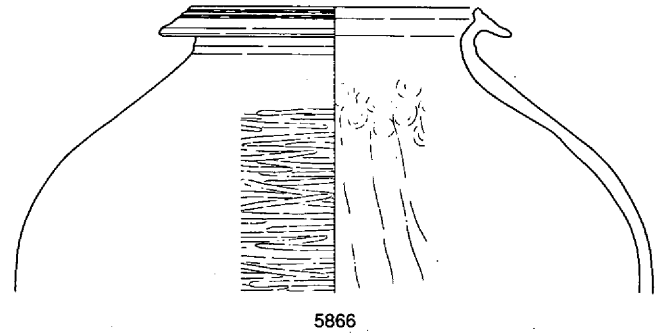
土壌-400 (第195図)

P18区の南西で検出した土壌である。検出面の規模は、径70cmの円形で、深さは51cmを測る。標高314cmの底面は窪み、断面はU字形をなす。下層からは殻長4cm前後のハイガイを主体とする貝殻が、



- 1 暗褐色粘質微砂
- 2 灰褐色粘質微砂
- 3 暗灰褐色粘質土

径30cmほどの団塊となって検出された。周辺の埋土からも貝殻の印象が確認され、本来は壙内に充満していたことが推測される。その上層から出土した5866は甕の上半部で、張りのある肩部から窄まって開く口縁は端部を上下に拡張され2条の凹線をめぐらす。弥・後・I期に位置付けられるものである。(亀山)



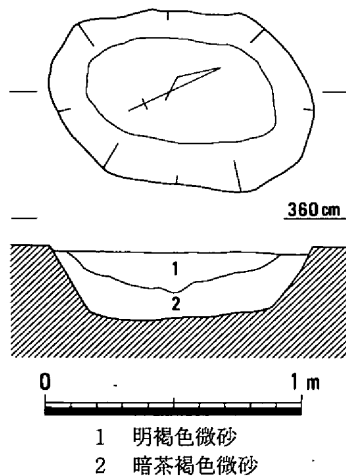
第195図 土壌-400(1/30)・出土遺物

土壌-401 (第196図)

不整な楕円形を呈する土壌で、P18区の南西で検出した。検出面の規模は、長さ104cm、幅79cmを測り、現状の深さは27cmある。標高321cmにある底面は平坦で、断面は逆台形をなす。出土遺物はないが、周辺の遺構と同様に弥生後期前半に属するものと思われる。(亀山)

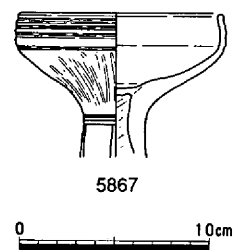
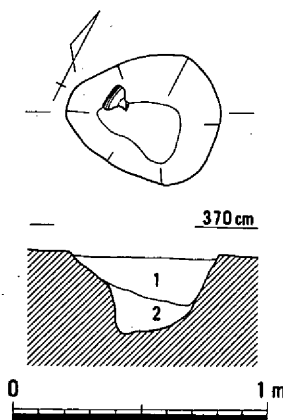
土壌-402 (第197図)

土壌-401の5m西で検出した土壌で、P18区の南西に位置している。上面は不整な円形を呈し、その規模は長さ61cm、幅52cm、深さ33cmを測る。底面は東側が一段深くなっており、その標高は327cmある。埋土は上下2層に分かれ、その上層から5867が出土している。5867は口径10.5cmを測る高杯で、浅い体部から内湾ぎみにたちあがる口縁の外面には4条の凹線をめぐらす。杯部と一体につくられた脚部には透かしを飾る。これは弥・後・Iの範疇でとらえられるものである。(亀山)



- 1 明褐色微砂
- 2 暗茶褐色微砂

第196図 土壌-401(1/30)

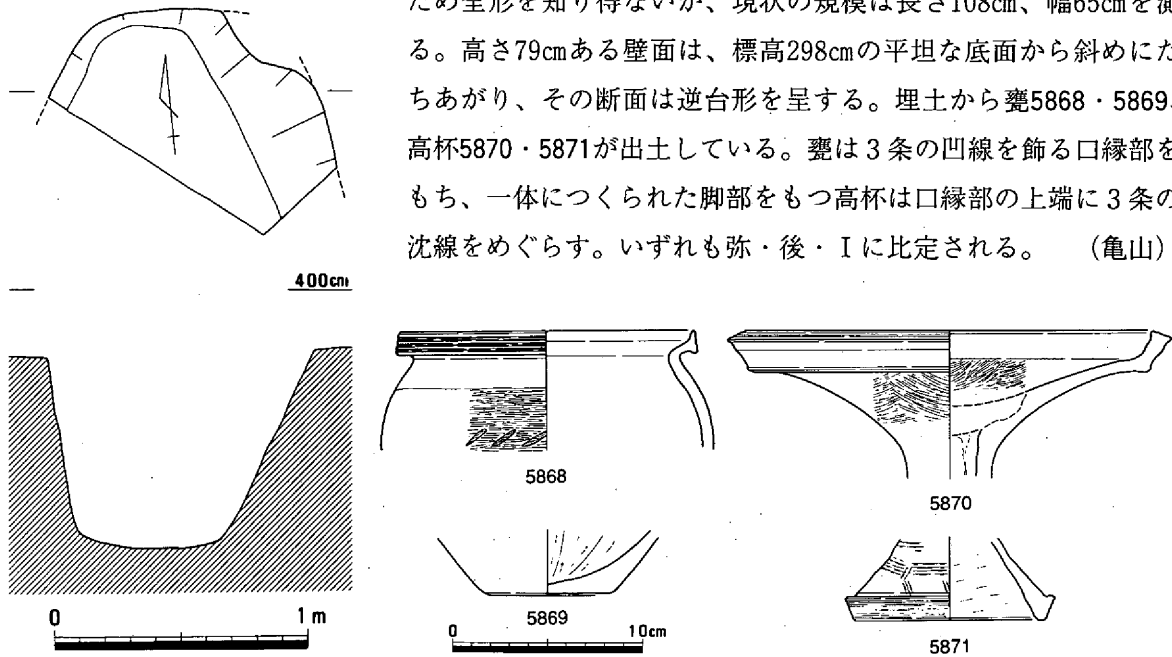


- 1 暗褐色微砂
- 2 暗茶褐色微砂

第197図 土壌-402(1/30)・出土遺物

土壌-403 (第198図)

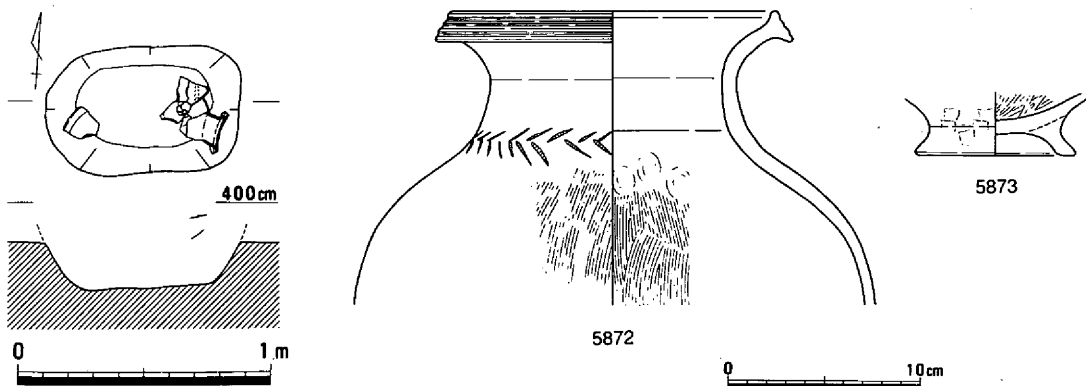
Q18区の北東に位置する土壌で、土壌-402の南15mで検出した。調査区の隅にかかって検出したため全形を知り得ないが、現状の規模は長さ108cm、幅65cmを測る。高さ79cmある壁面は、標高298cmの平坦な底面から斜めにたちあがり、その断面は逆台形を呈する。埋土から甕5868・5869、高杯5870・5871が出土している。甕は3条の凹線を飾る口縁部をもち、一体につくられた脚部をもつ高杯は口縁部の上端に3条の沈線をめぐらす。いずれも弥・後・Iに比定される。(亀山)



第198図 土壌-403(1/30)・出土遺物

土壌-404 (第199図)

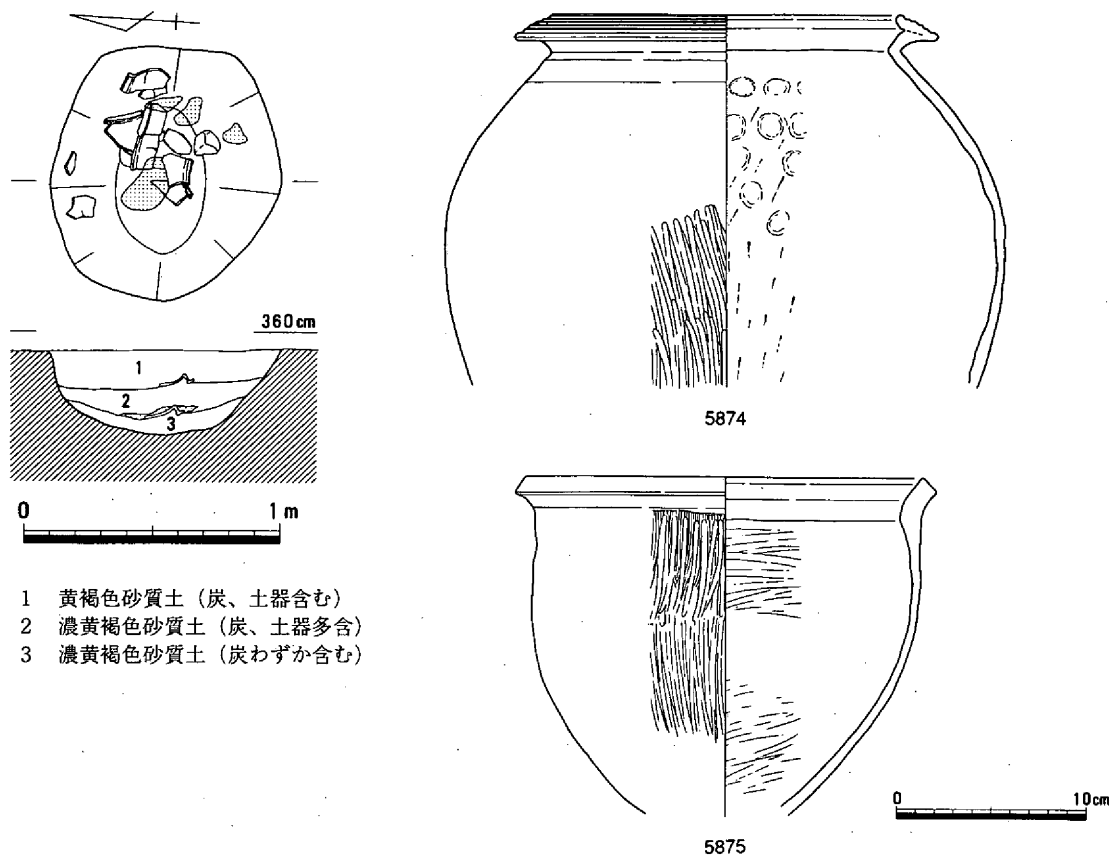
土壌-402の南東17mで検出した土壌で、P18区の南西に位置する。長さ76cm、幅49cmの楕円形を呈し、深さは遺物の出土状況からして30cm以上に復元される。底面はわずかに西に傾斜するもののほぼ平坦で、その標高は366cmを測る。上層から出土した5872は口径16.8cmを測る壺で、上下に拡張した口縁部には3条の凹線をめぐらす。上方に窄まる頸部と体部の間にはハ字形の刺突文を飾る。弥・後・I期に位置付けられるものである。(亀山)



第199図 土壌-404(1/30)・出土遺物

土壌-405 (第200図)

この土壌は、袋状土壌-142の南約1mに検出された。規模は、101×90cmを測り、楕円形を呈する。土壌の長軸は東西方向にとっている。深さは約34cmで、断面形は椀形を呈している。土壌内は、第1



- 1 黄褐色砂質土 (炭、土器含む)
- 2 濃黄褐色砂質土 (炭、土器多含)
- 3 濃黄褐色砂質土 (炭わずか含む)

第200図 土壙-405(1/30)・出土遺物

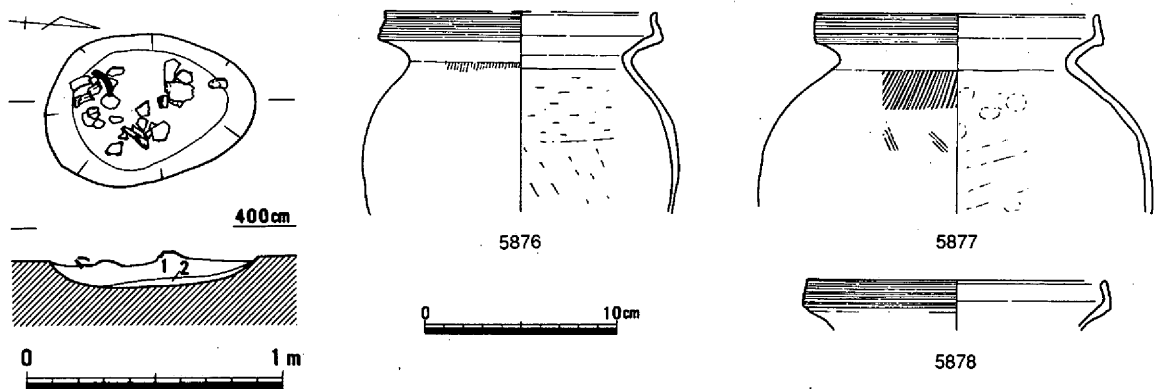
～第3層がレンズ状に堆積している。土壙内からは、5874・5875の土器が出土した。土器は、弥生後期の前半の特徴を示している。

(清水)

土壙-406 (第201図)

この土壙は、土壙-402の南側約9mに位置している。規模は、南北約82cm、東西約60cmを測り、平面形は楕円形を呈している。土壙の深さは約11cmと浅く、残存状態は良くない。断面形は皿形で、土壙内には上下2層が堆積していた。第1層の上面には、図示した5876～5878の土器が検出された。これらの土器は、その特徴から弥・後・IVと考えられる。

(清水)



- 1 淡茶褐色土
- 2 淡茶褐色砂

第201図 土壙-406(1/30)・出土遺物

(7) 井戸

井戸-7 (第202図)

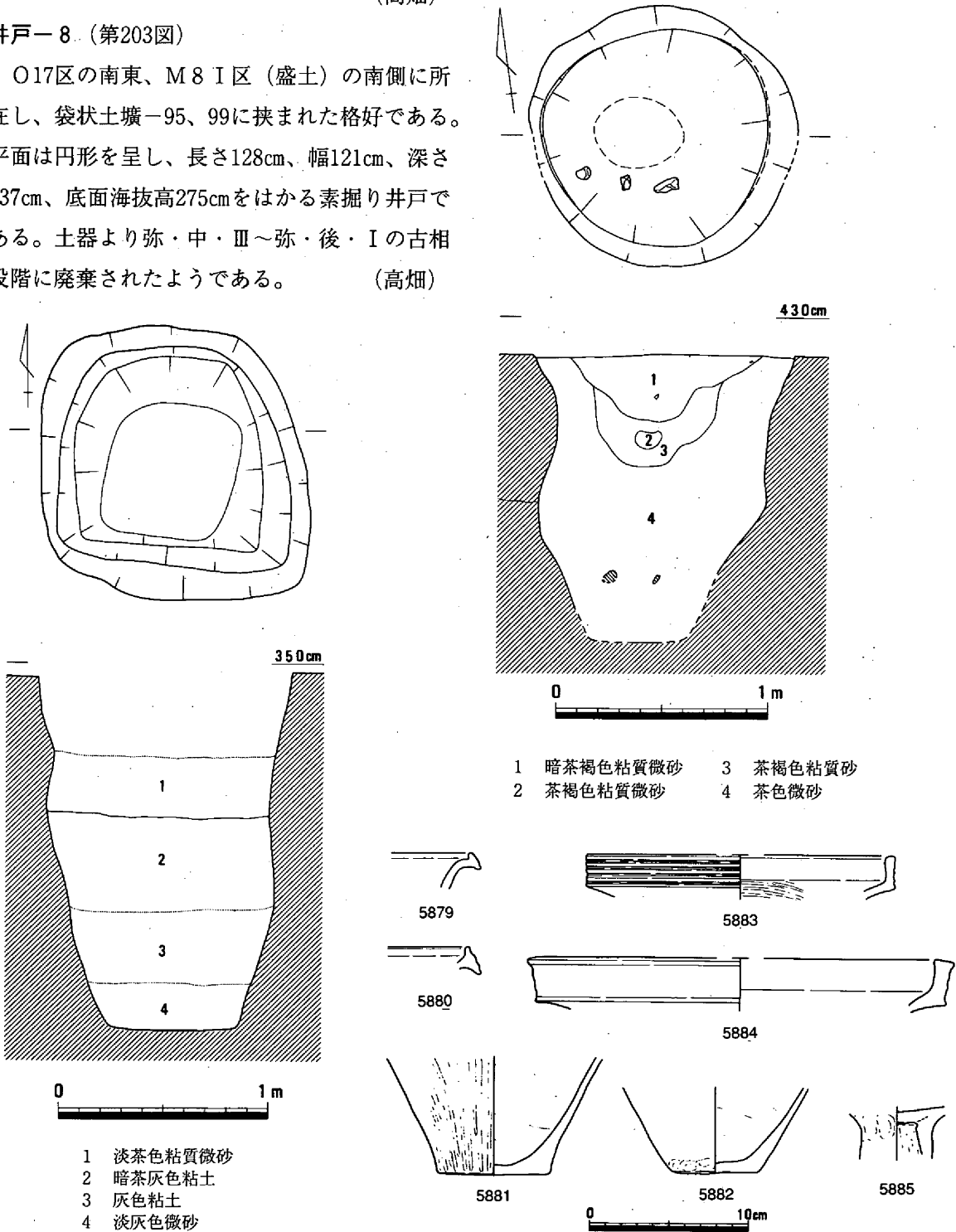
P17区の北東、P5区(橋脚)の北側に所在し、弥・後・Iの袋状土壙、土壙がまとまる範囲に位置する。平面は隅丸方形を呈し、長さ130cm、幅126cm、深さ170cm、底面海拔高176cmをはかる素掘り井戸である。埋戻されたと考えられるが、遺物は認められない。弥・後・Iの所産と考えられる。

(高畑)

井戸-8 (第203図)

O17区の南東、M8I区(盛土)の南側に所在し、袋状土壙-95、99に挟まれた格好である。平面は円形を呈し、長さ128cm、幅121cm、深さ137cm、底面海拔高275cmをはかる素掘り井戸である。土器より弥・中・Ⅲ~弥・後・Iの古相段階に廃棄されたようである。

(高畑)



第202図 井戸-7 (1/30)

第203図 井戸-8 (1/30)・出土遺物

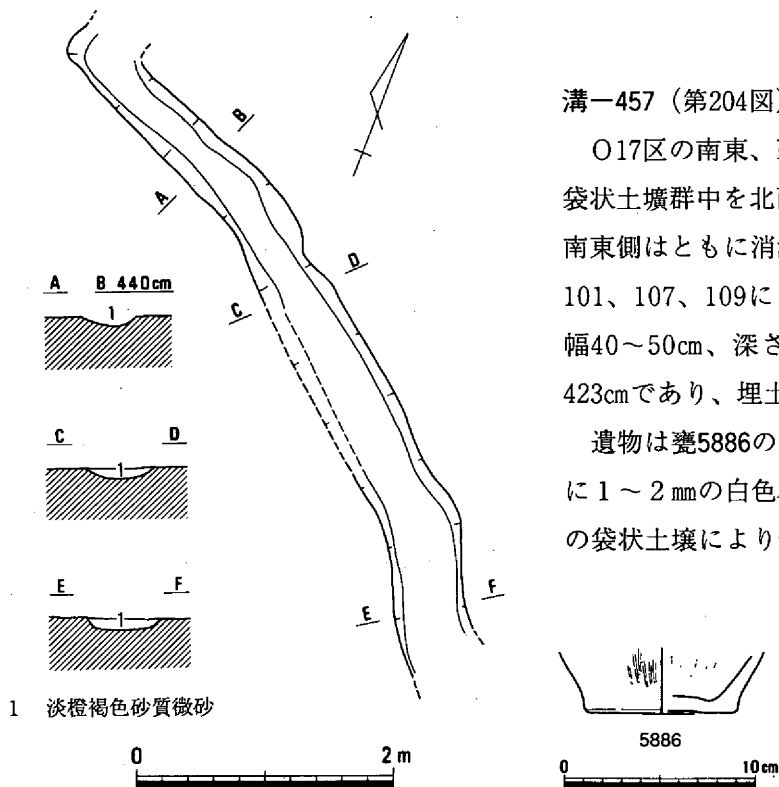
(8) 溝

溝-457 (第204図)

O17区の南東、M8I区(盛土)の中央北側に所在し、袋状土壌群中を北西から南東に走っている。溝の北西側、南東側はともに消滅しており、溝本体は袋状土壌-100、101、107、109により切られている。現存長は約6m、幅40~50cm、深さ約8cmをはかる。溝の検出面は海拔423cmであり、埋土は淡橙褐色砂質微砂の1層である。

遺物は甕5886のみであり、色調黒褐色を示し、胎土中に1~2mmの白色小砂粒を含む。甕の特徴、弥・後・Iの袋状土壌により切られていることなどから、溝の時期は弥・中・Ⅲ~弥・後・Iの範疇と考えられる。

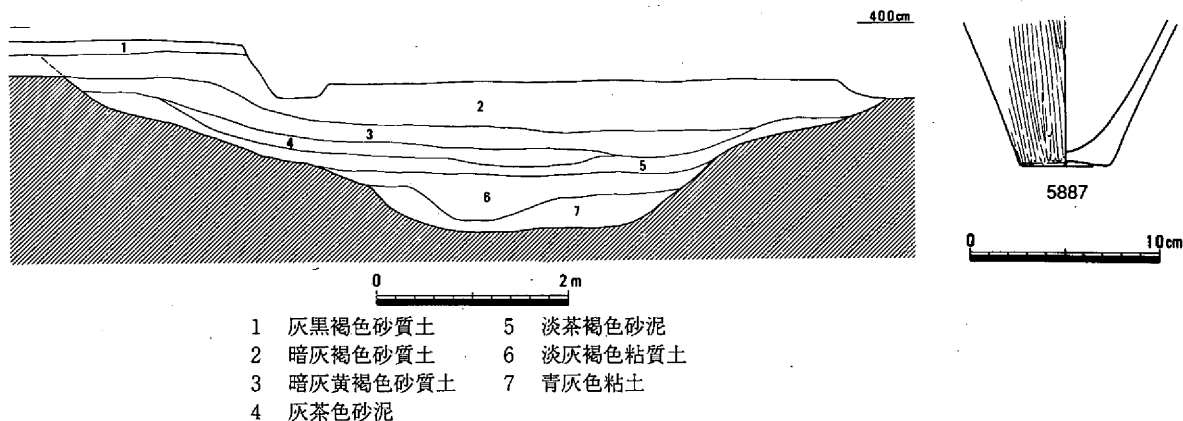
機能については不明であり、具体性が伴わないが、水の流走する溝とは考えにくい。(高畑)



第204図 溝-457(1/60)・出土遺物

溝-458 (第205図)

この溝は、調査区の南側に検出された。溝の存在する位置は、微高地上の開析部にあたり、中屋調査区の北西部で検出されている溝-12と合流する可能性がある。溝は、北西から北側にやや湾曲しながら東南東方向に流走する。規模は、幅約450cm、深さ約90cmを測り、二段に掘られている。溝内の堆積は、第2~7層が堆積していた。出土遺物としては、土器が少量検出されている。5887は、甕の底部と考えられるもので、外面はタテ方向のヘラミガキ、内面ナデを施されている。さらに、調査時には溝の底部近くから弥生前期の甕の破片を数点出土したのを確認しているが、事情により図示できなかった。これらのことから出土遺物は弥生前期~弥生中期前半期の特徴を示している。(中野)



第205図 溝-458(1/80)・出土遺物

(9) 土器溜り

土器溜り-10 (第206図)

O17区の南東、M8 I区 (盛土) の西側に所在する。

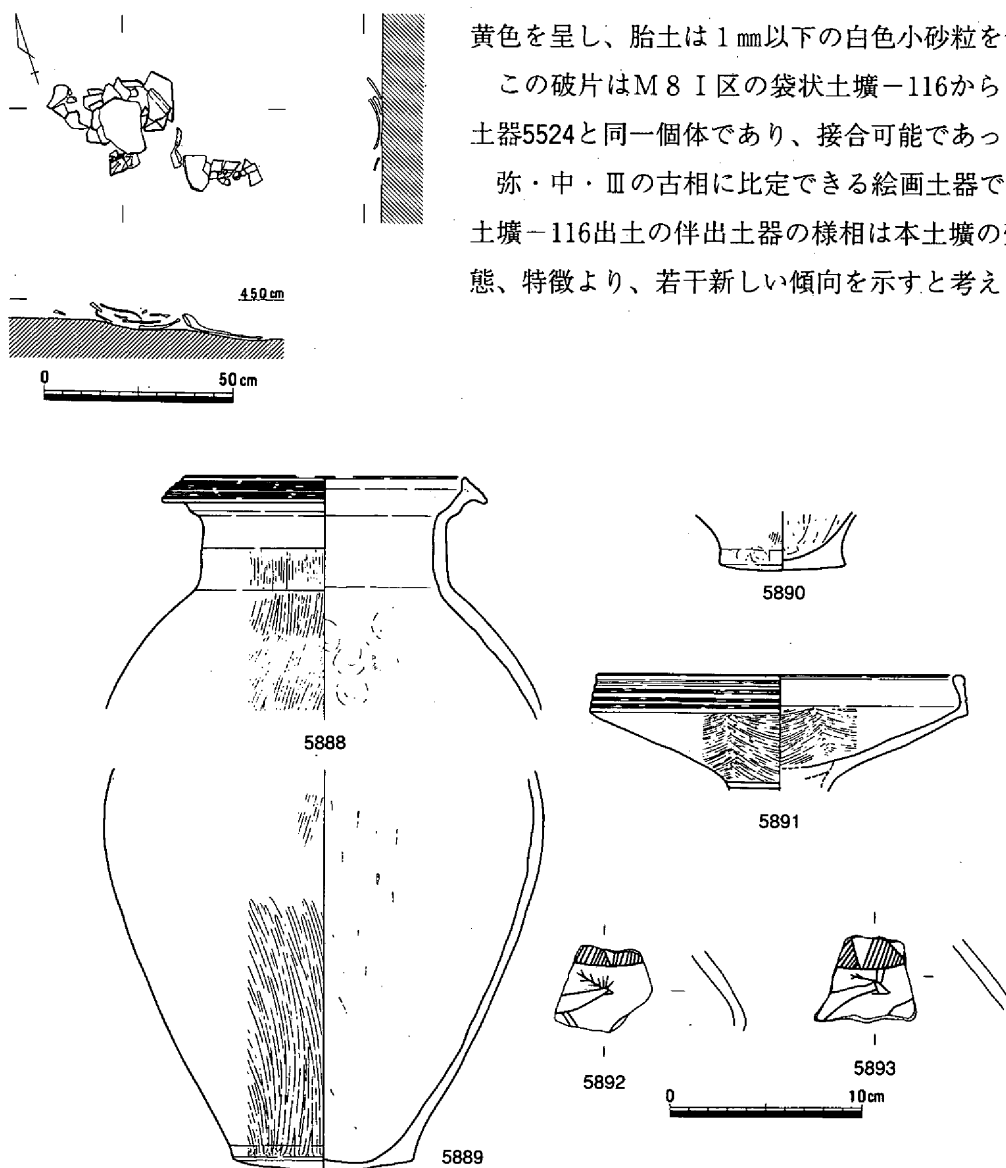
土器の検出面は海拔450cm付近であり、その分布は30×60cmの範囲にまとまって出土している。土壙形状は確認できていない。

遺物は5888～5893であり、壺、甕、高杯が出土している。5888と5889は同一個体であり、推定口径14.8cm、底径9.6cm、推定器高33cmをはかり、色調は浅黄橙色を呈し、胎土中に1mm以下の白色小砂粒を含む。5890は甕の底部と思われ、底径6.5cmをはかり、色調は鈍い褐色を呈する。煮沸に用いられており、外面には煤の付着が認められる。高杯5891は口径19cm、残存高6.2cmをはかり、杯部から立ち上がる口辺には5888と同様に凹線文が巡る。色調は灰白色を呈する。5892、5893は線刻による鋸齒文、牡鹿の描かれた壺の胴部片である。5892に描かれている牡鹿の尻は、5893の牡鹿の前にある線刻がそうであり、両破片は接合するものである。色調は淡黄色を呈し、胎土は1mm以下の白色小砂粒を含んでいる。

この破片はM8 I区の袋状土壙-116から出土した絵画土器5524と同一個体であり、接合可能であった。

弥・中・Ⅲの古相に比定できる絵画土器であるが、袋状土壙-116出土の伴出土器の様相は本土壙の壺、高杯の形態、特徴より、若干新しい傾向を示すと考えられる。

(高畑)

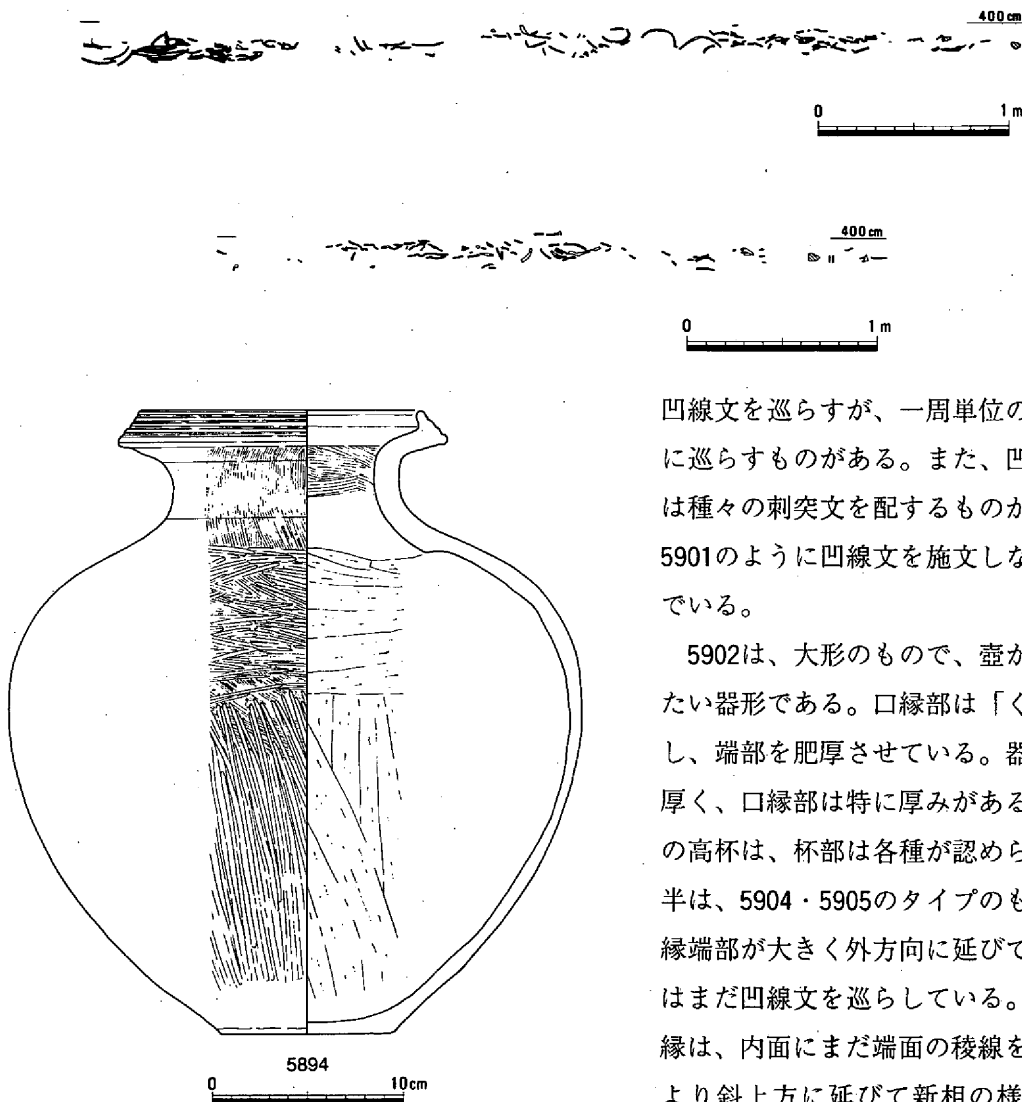


第206図 土器溜り-10(1/20)・出土遺物

土器溜り-11 (第207~209図)

この土器溜りは、調査区の南側に位置し、溝-458の南側に隣接して検出された。土器溜りおよび溝-458の存在する地点は、微高地部の開析部にあたる。このため、土器の投棄場所として設定されたと考えられる。土器溜りは、東西約12m、南北約5mの範囲に第207図の断面図に示すように土器が集積していた。土器群の中には、復元すると完形になる個体も数多く存在する。このことから、何らかの祭祀に使用されたのち一括投棄された一群も含んでいる可能性が考えられる。図示した土器は、一部であり、大量の個体数が存在する。

5894~5901の壺は、5894の頸部の短いものといわゆる5896~5901のような長頸壺がある。5894は、頸部から屈曲気味に外反する口縁部をもち、端部は上方に肥厚させている。端面には、4条の凹線文を巡らしている。外面は、ハケメののちヘラミガキ、内面は頸部をハケメ、肩部より下をヘラケズリを施している。5895は、さほど長くなく、外反する口縁部をもち、端部を上下に肥厚させて端面をつくりだしている。端面には、凹線文を巡らし、上端、下端には刺突文を配している。頸部には凹線文を施す。長頸壺は、頸部から外反する口縁部で、端部を肥厚させ端面に凹線文を巡らす。頸部には、

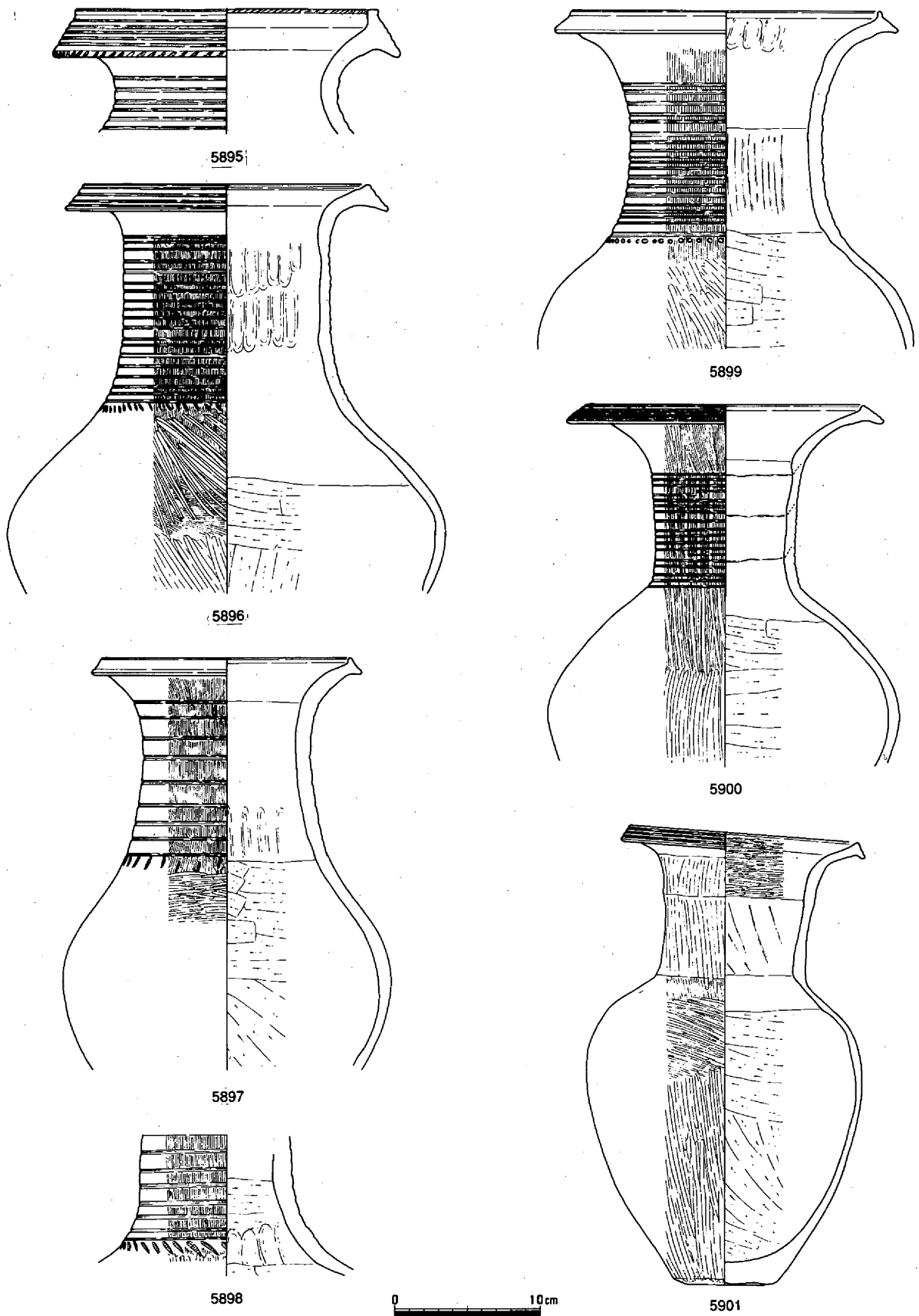


凹線文を巡らすが、一周単位のものや螺旋状に巡らすものがある。また、凹線文の下端には種々の刺突文を配するものが多い。さらに5901のように凹線文を施文しないものも含んでいる。

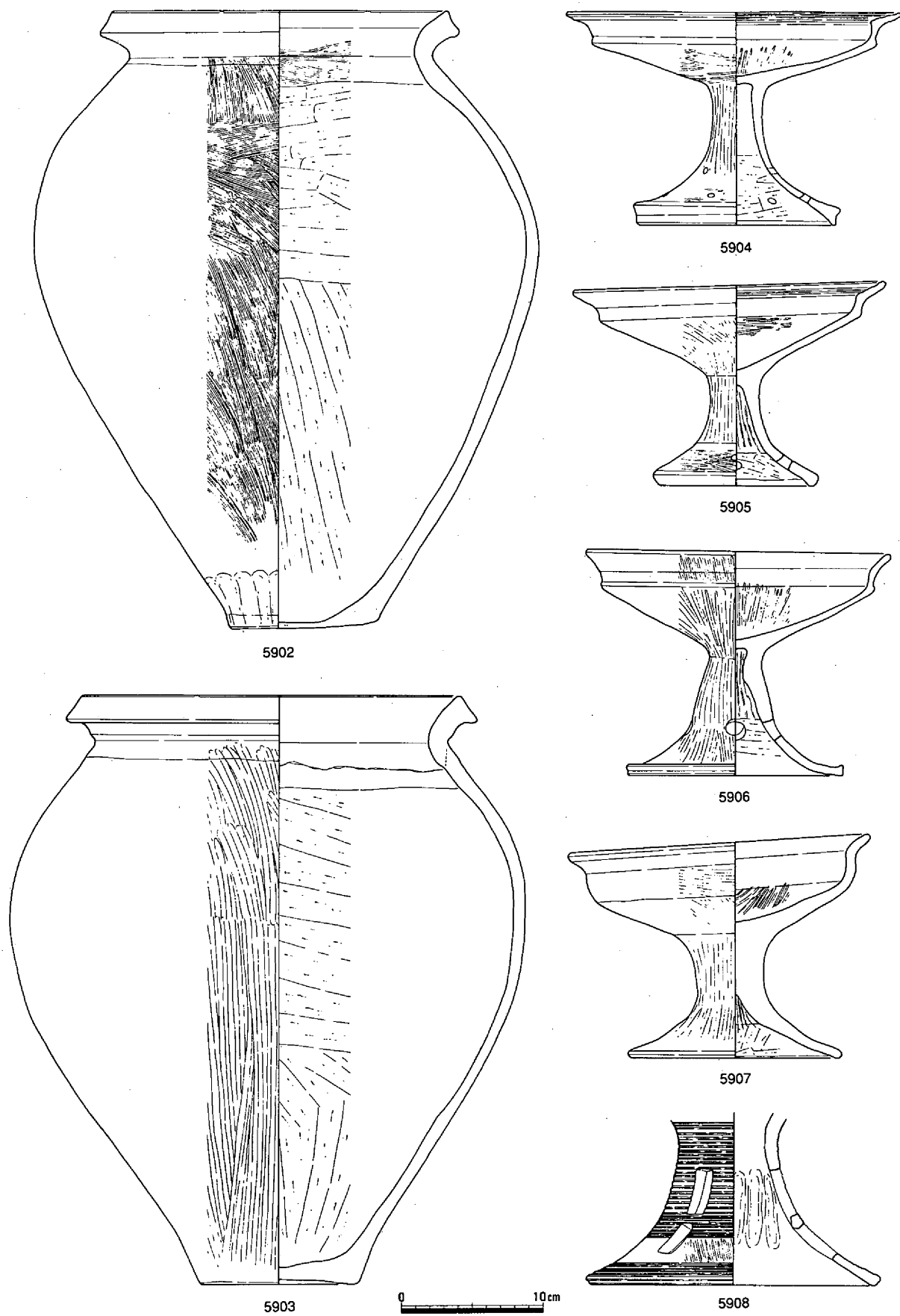
5902は、大形のもので、壺か甕か判断しがたい器形である。口縁部は「く」の字に外反し、端部を肥厚させている。器壁は全体的に厚く、口縁部は特に厚みがある。5904~5907の高杯は、杯部は各種が認められた。その大半は、5904・5905のタイプのもので、杯部口縁端部が大きく外方向に延びている。端面にはまだ凹線文を巡らしている。5906の杯部口縁は、内面にまだ端面の稜線を残しているが、より斜上方に延びて新相の様相を示している。

第207図 土器溜り-11 (1/40)・出土遺物(1)

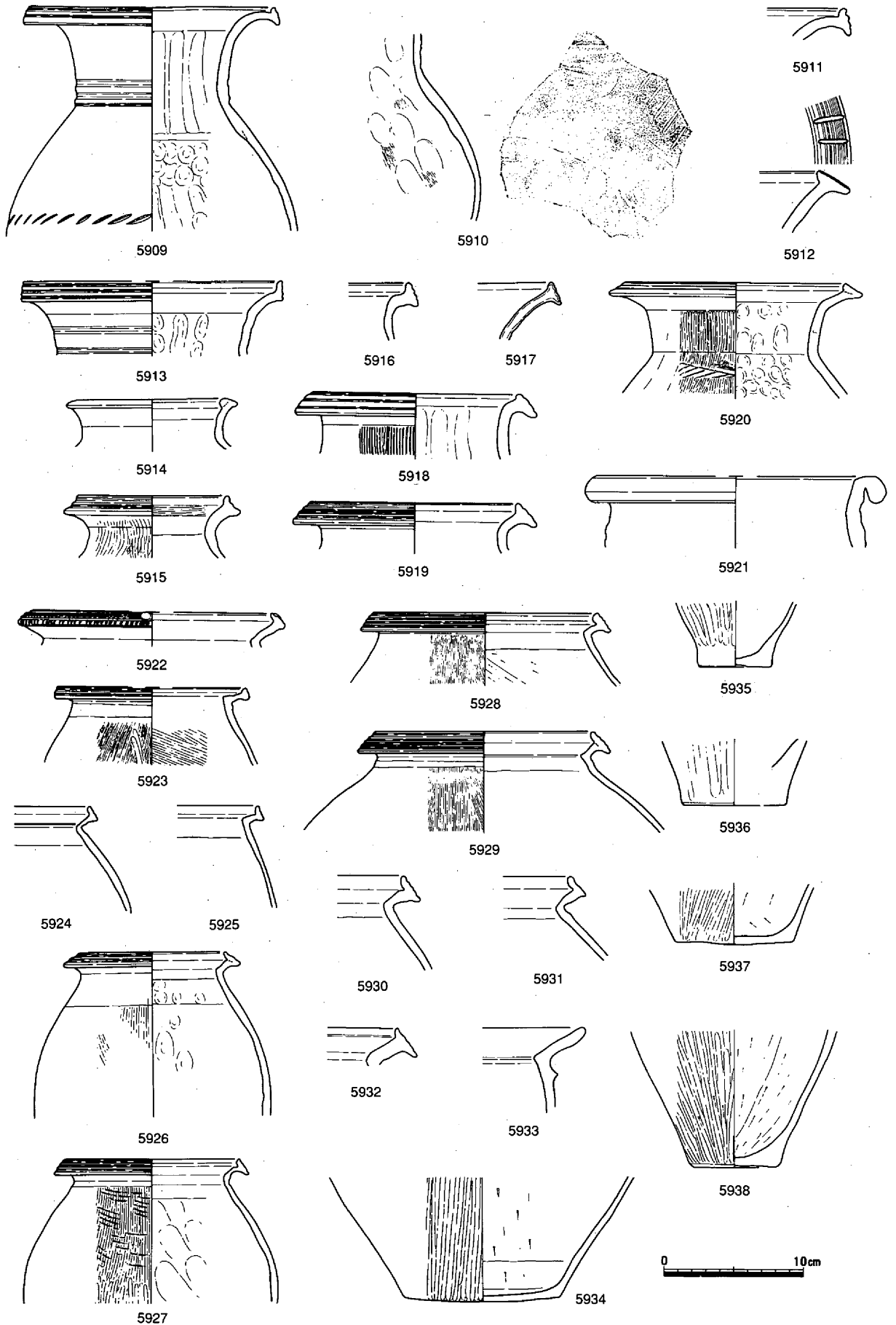
(中野)



第208図 土器溜り-11出土遺物(2)



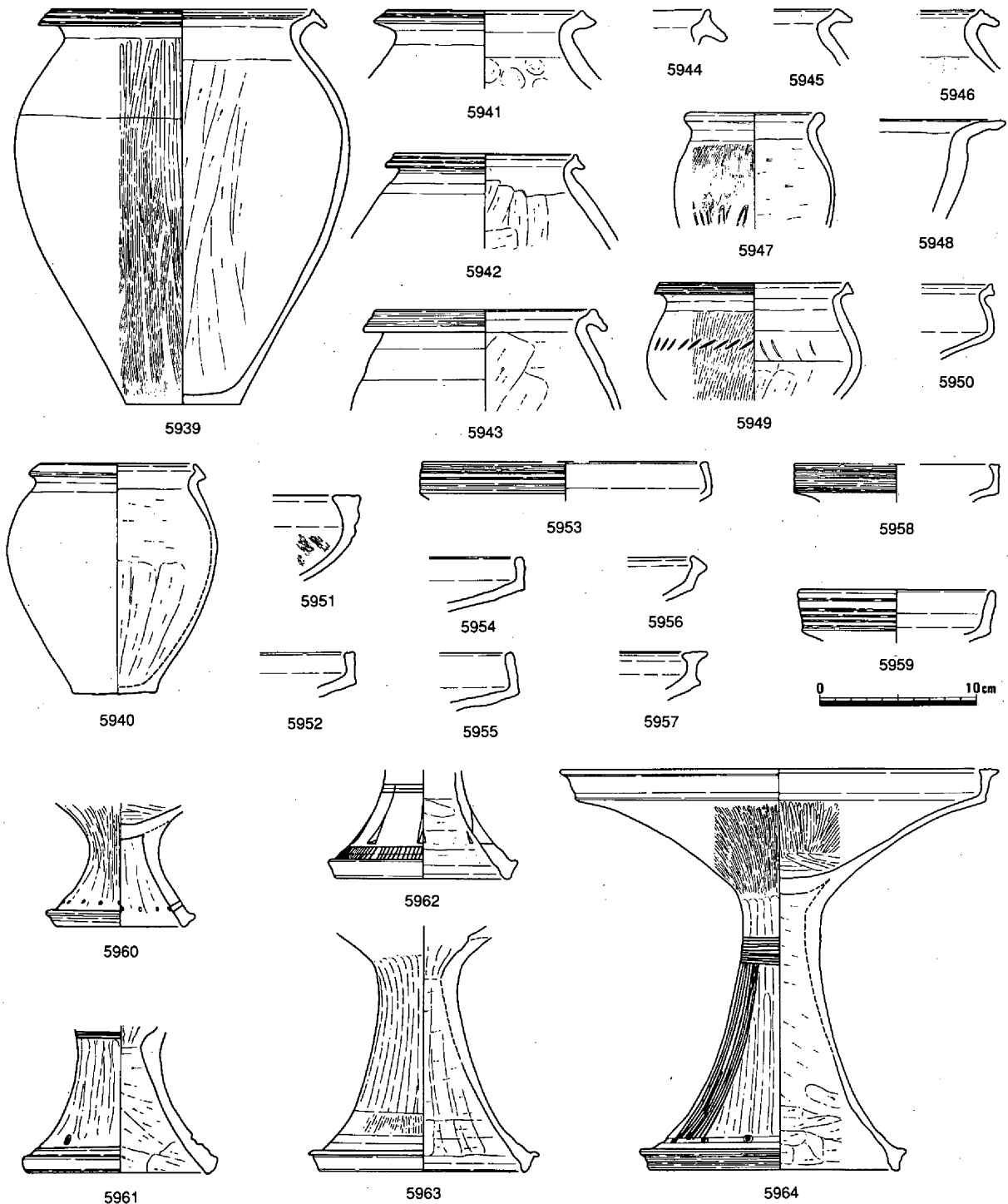
第209図 土器溜り-11出土遺物(3)



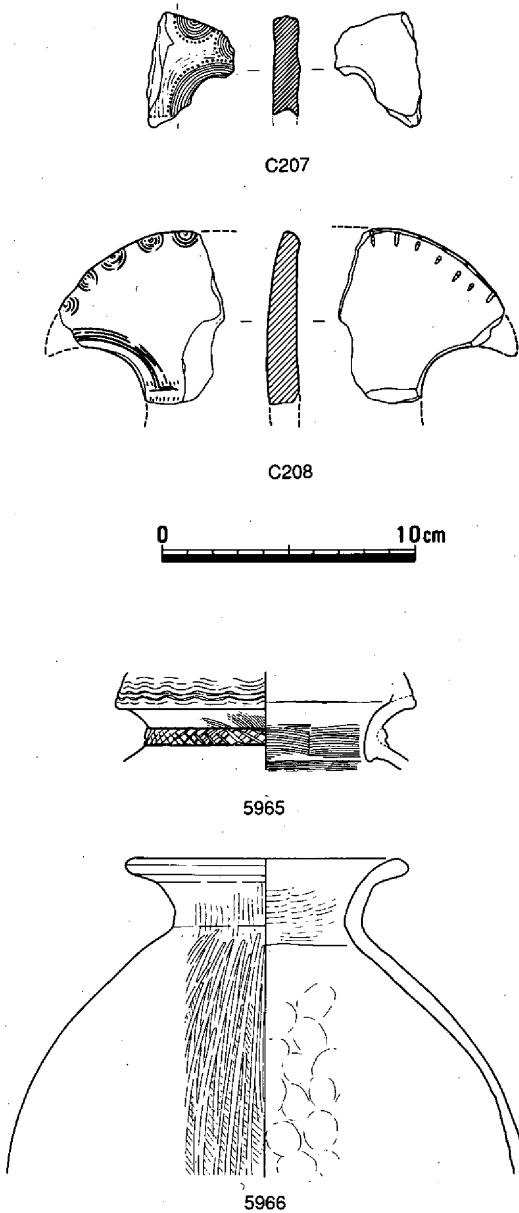
第210図 遺構に伴わない遺物(1)

(10) 遺構に伴わない遺物

ここで取り上げる遺物は調査中に遊離して出土したもの、明らかに時期の異なる遺構から出土したものである。なかでも、弥生時代中期中葉から弥生時代後期末の土器が多く、とりわけ弥・中・Ⅲ～弥・後・Ⅰの時期の土器が大部分を占める。また、それらに伴うと考えられる分銅形土製品、紡錘車、ヒサゴ形の土製品等もみられる。土器について多いのは石器類であり、サヌカイト製の石鎌・石包



第211図 遺構に伴わない遺物(2)



第212図 遺構に伴わない遺物(3)

丁・スクレイパー等がみられ、他に磨製石斧、石錘、叩石等がある。総数62点のうち、完形品は14点であり、他の48点は欠損部をもっている。あるいは転用して利用された可能性があるが、明確ではない。第210図から第217図までの掲載遺物は、調査区位置図で示した1～20(P5区～P6区)の配列順序である。橋脚P5区から橋脚P1区までをA、盛土M8I区から排水区H1までをB、排水区H2から橋脚P6区までをCとして説明を加える。

A: 5909～5971の壺、甕、高杯、鉢があり、弥・中・Ⅲ～弥・後・Ⅰの土器が多く、弥・後・Ⅳの土器が数点である。弥・中・Ⅲ～弥・後・ⅠではP1区が

20点、P3区が19点、P5区が5点、P2区が12点の総数56点である。これらの遺物は住居埋土内から出土したものが多く、P1区では5912、5920、5924、5925、5930、5931、5937、5945の8点が古墳時代前期の竪穴住居-218からである。また、同時代の竪穴住居-217からは5915、5927、5938、5946、5947、5955、5957～5959、5964の土器とC207の分銅形土製品の計12点が出土している。P3区でも5913、5916、5921～5923、5926、5933、5942、5943、5947、5950、5952、5954、5956、5960、5962の土器とC208の分銅形土製品の計17点が古墳時代前期の竪穴住居-212から出土している。そのうち、5933と5965はこの地域で頻繁にみられるものではなく、共伴の遺物とは趣を異にする土器である。5933は形態等の特徴から北部九州にみられる甕形土器であり、共伴遺物より弥・中・Ⅲ～弥・後・Ⅰの時期に比定することが可能である。5965の形態等の特徴は岡山県よりさらに西の地域にみられる土器であり、5966～5971等とほぼ同時期の弥生時代後期後半の可能性が強い。埋土にはさらに多くの土器片がみられたが、ほとんどが弥生時代の中期末・後期初頭と弥生時代後期後半に限定される。これ

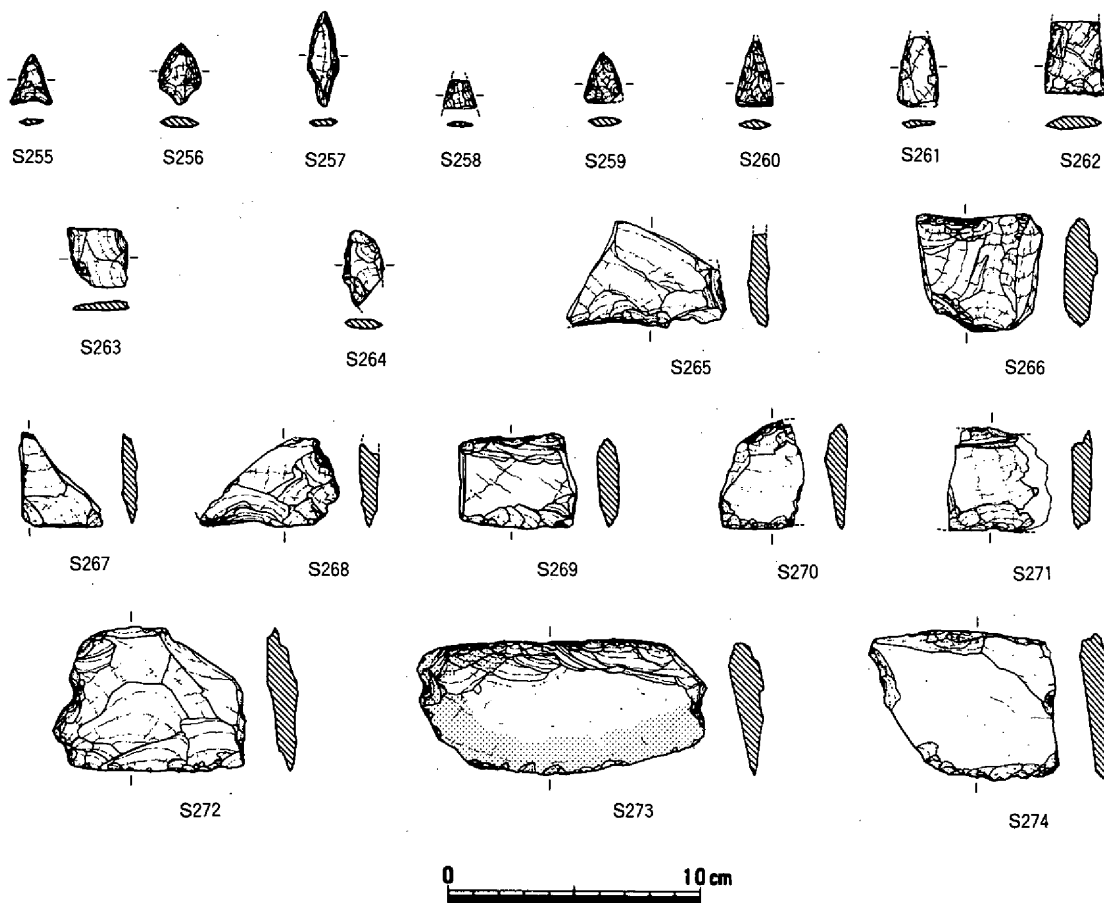
らの土器は古墳時代初頭に後の集落形成に伴い、竪穴住居の建替え等の掘削、あるいは埋戻しに伴い何らかの理由で混入したものであろう。おそらく、遠くから運搬したものではなく、当時の居住域内での変化に伴って生じた結果であろう。この事実は、A地区がこの二つの時期におおいに利用されたことを物語っており、本地区を占地する遺構からも同様のことが言えそうである。

石器はP1区からP5区までみられ、なかでもサヌカイト製によるものが多く、石鏃、石包丁、スクレイパー等がある。その他に加工痕のあるものとか、剥片等がみられ、A地区では103点を数えることができる。P1区はS261、S266、S271の他に9点、P2区はS256～S258、S263、S264、S268、S269の他に38点、P3区はS255、S262、S265、S267、S270、S273、S274の他に19点、P4区はS259、S260、P5区は18点である。土器と同様に住居埋土内のものがみられ、弥・中・Ⅲから弥・後・Ⅰまでの時期に伴うものを中心になると考えられる。

蛍光X線分析法によるサヌカイト製剥片の産地同定では、竪穴住居、土壌、袋状土壌内出土の5点、すべて香川県坂出市の金山地域に推定されている。

B：5972～5984の壺、甕、高杯、鉢、水差し形土器などがあり、弥・中・Ⅱの中相、5973～5978、5980～5983は弥・中・Ⅲの新相～弥・後・Ⅰの古相、5984が弥・後・Ⅳに比定できるものである。

5973、5974はセットになる蓋と壺であり、色調は浅黄橙色を呈し、胎土は水漉し粘土によるものである。5973は口径8.5cm、器高1.7cmをはかり、天井部に爪と2孔一対の小孔をもつ。5974は玉縁に近い折り曲げの口縁をもち、口径8.0cm、底径6.4cm、器高10.2cmをはかり、胴部上半には入念な分割の

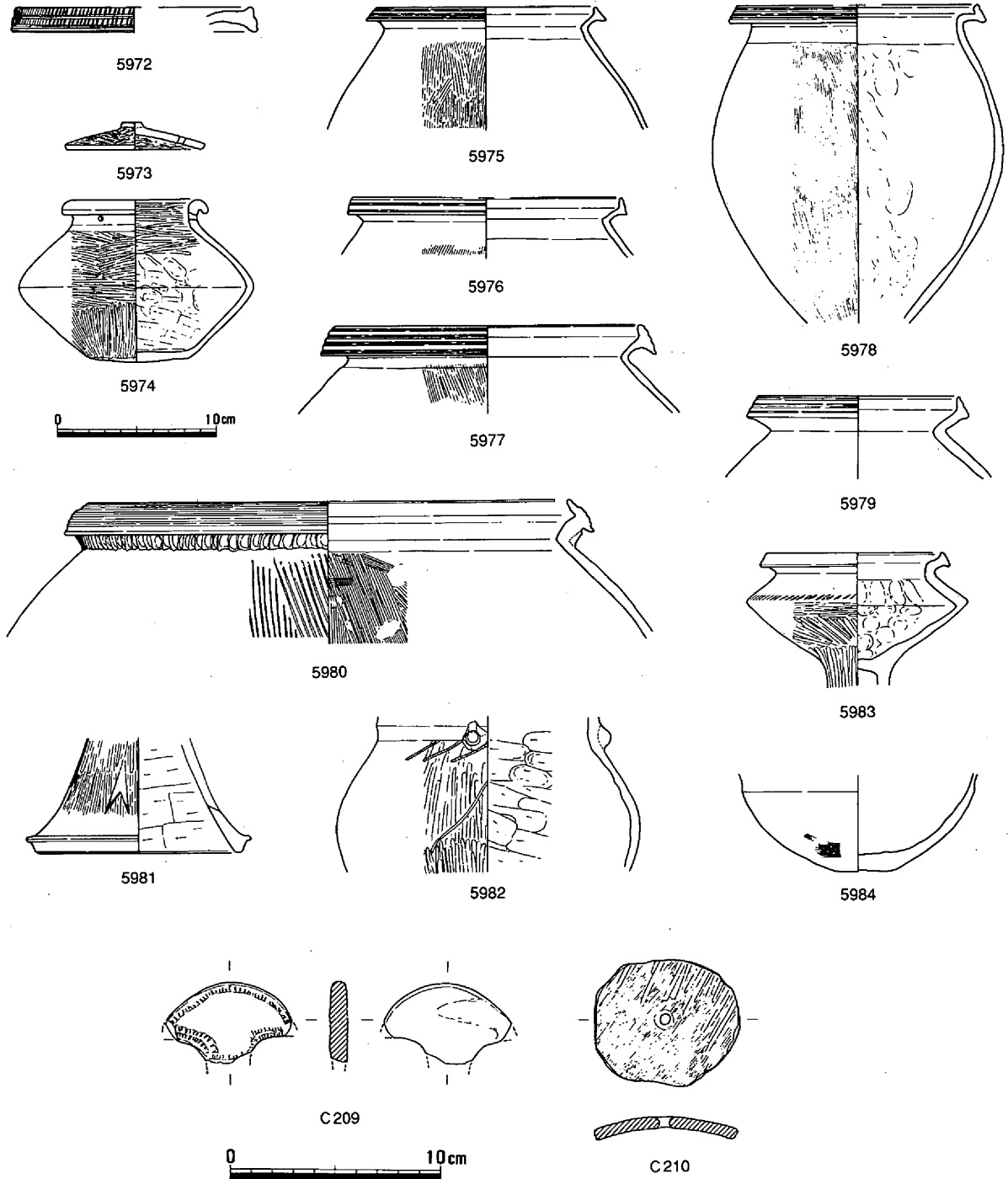


第213図 遺構に伴わない遺物(4)

ヘラミガキが施された壺である。蓋にみられた小孔が壺の頸部にも2孔一対でみられる。蓋とともに器外面に明赤褐色の化粧土が施された壺であり、底面から胴部下半にかけて9×9cm黒斑が認められる。高杯5981は裾部に矢羽根形の透し孔が設けられた珍しいものであり、色調は灰白色を呈する。

土製品はH1区よりC209の分銅形土製品、C210の土器片利用の紡錘車の2点が出土している。おそらく、2点ともに弥・中・Ⅲ～弥・後・Ⅰの時期に伴う可能性が強い遺物である。

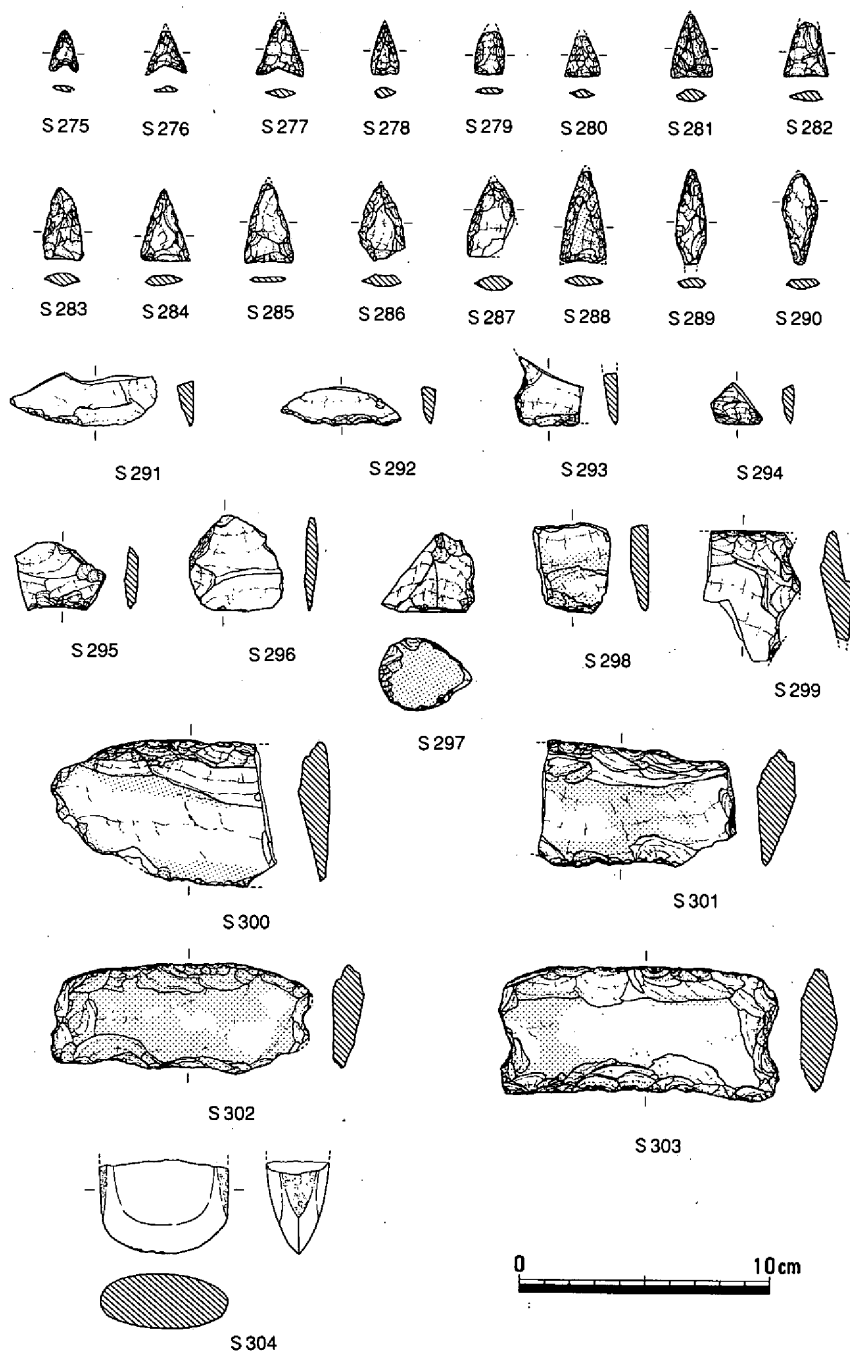
石器の掲載は総数30点であり、S304の石斧以外はすべてサヌカイト製品である。他にも剥片等が多く出土していると考えられる。ちなみにM8Ⅰ区では剥片、欠損品等を含めると56点あり、そのう



第214図 遺構に伴わない遺物(5)

ちの16点が加工痕をもつ製品である。M 8 I区は石鏃が多く、S 275～S 278、S 281、S 282、S 286、S 287、S 289、S 290の10点がそれにあたり、凹基式、平基式、有茎の三種類がある。石鏃の完形品はS 281のみであり、長さ2.25cm、幅1.65cm、厚さ0.5cm、重さ1.8gをはかる。他はどこか一部が欠損したことが多い。他の石器においても欠損品が多く、S 303の打製石包丁が完形品である。長さ11.1cm、幅5.3cm、厚さ1.45cm、重さ11.1gをはかり、比較的厚さがあり、一部に摩耗痕が認められる。

S 275～S 304の石器は、弥生時代中期後半と弥生時代後期前半の居住域内の出土であり、弥・中・Ⅲ～弥・後・Ⅰの所産であろう。 (高畑)

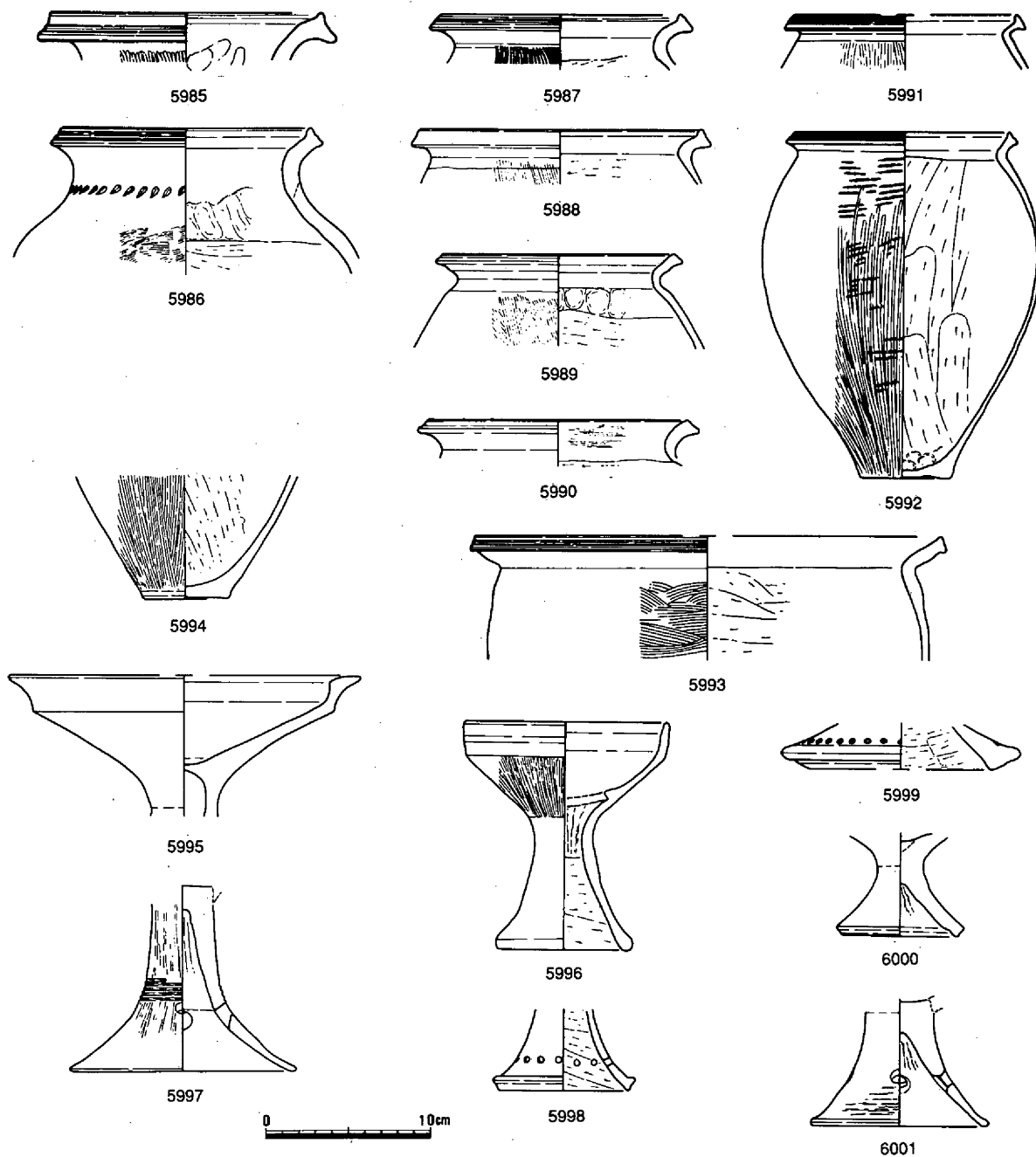


第215図 遺構に伴わない遺物(6)

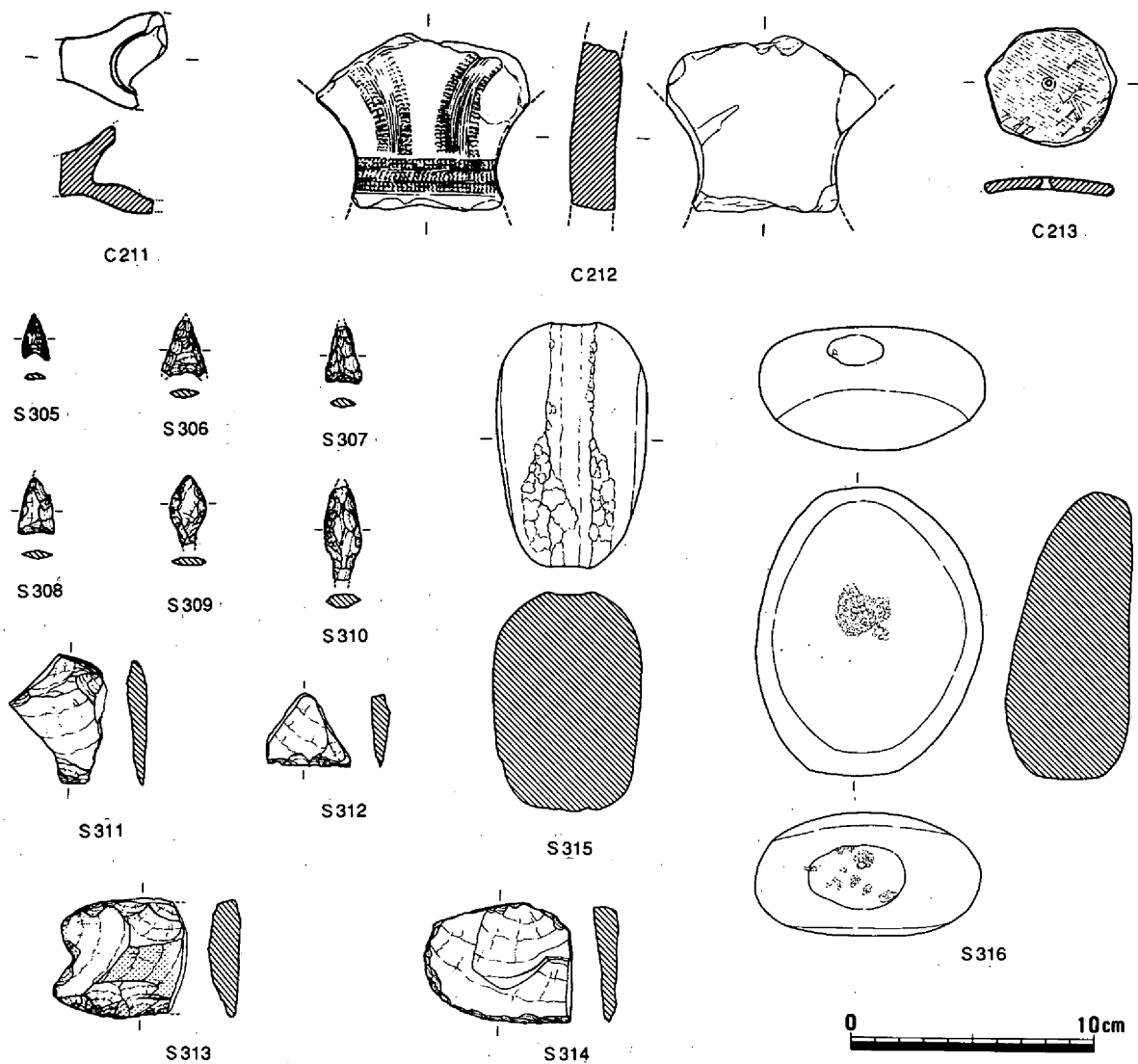
C：この地域での弥生中期の遺物は、遺構が少ないためほとんど認められなかった。遺物の中心は、遺構の存在に比例するように弥生後期の前半～中頃の時期のものがその大半を占めた。また、弥生後期後半の遺物も皆無に近かった。

地形的には、調査区の大半が微高地にあたるが、溝-1の存在する地点およびその南側には北西から南東方向に微高地の開析部が存在し凹部の地形を呈している。この凹部には、土器溜り-11が検出されており、居住域とはなっていないが、弥生時期の包含層が若干存在している。この地域を中心に遊離した遺物が検出されている。

第216図に図示した土器は、いずれも弥生後期前半～中頃の時期のものである。5985・5986の壺は、頸部から外反した口縁部をもつ。口縁端部は、上下に肥厚させており、端面には数条の凹線が廻って



第216図 遺構に伴わない遺物(7)



第217図 遺構に伴わない遺物(8)

いる。5986の頸部には刺突文が廻り、外面はヘラミガキで仕上げている。内面は、肩部下をヘラケズリで調整している。

5987～5992の甕は、頸部から外反する口縁部をもつものと、「く」の字に屈曲する口縁部をもつものがある。口縁端部は、上下に肥厚させ、端面に凹線を廻らすものとヨコナデで仕上げる二者がある。いずれも頸部でヘラケズリをおこなう。また、5995～6001の高杯および脚部、5993の鉢なども出土している。

土製品には、C211～C213などがある。C211は、ひさご形の土製品である。C212の分銅形土製品は両端が欠損しているものの、残存部から考えてやや大形のものである。厚さは約0.9cmで、表面には櫛による施文が認められる。C213の紡錘車は、土器を再利用しており、径は5.4～4.9cm、厚さ約0.5cm、重さ約16.3gを測る。外面は、タタキおよび工具によるナデが残っている。また、S305～S316の石器も出土している。

(中野)



第218図 古墳時代前期全体図(1/600)

第3節 古墳時代前期の遺構・遺物

(1) 古墳時代前期の概要

今回報告の古墳時代前期では、竪穴住居が107軒、掘立柱建物2棟、土器棺墓2基、土壙51基、溝10条、土器溜り4か所、水田1か所、遺物は土器が最も多く2,082点、次いで土錘等の土製品104点、砥石等の石製品69点、鍬・鉋等の鉄製品63点、鍬・鏡等の銅製品5点等を掲載している。

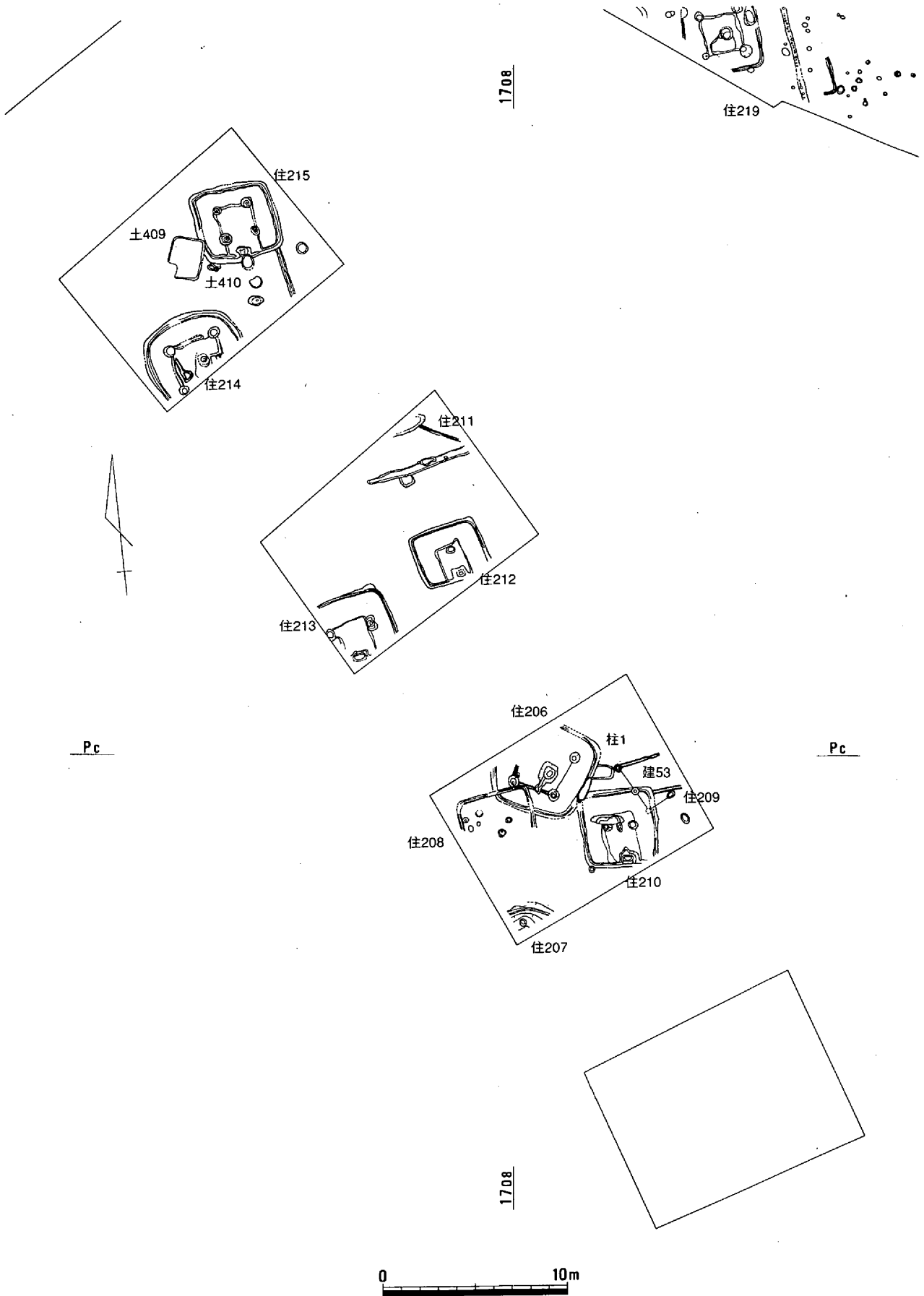
調査区8,050㎡内では、ほぼ全域に竪穴住居が分布しており、総数107軒以上を数える。そのうち、竪穴住居、その他の遺構の分布が希薄な場所が2か所認められ、1か所は南側調査区の橋脚（P5・6区）から、Pi線・180s線の交差点に所在する低位部の水田を結ぶ東西線上であり、幅7m、長さ約60mをはかる。この地区に関しては、おそらく西川調査区から南流する溝-16が低位部に流れ込む流路の可能性をうかがわせる。この地区を境に竪穴住居は北側と南側にわかれている。もう1か所は計画的な空地と考えられるもので、微高地の形状に沿って作られた東側低位部の水田域と、微高地上の竪穴住居-258、265、274、290、295、298、299を孤状に結ぶ線の間、一律幅約23mで遺構の存在しない場所が設けられている。集落全体で共に利用する場所であったり、洪水等から集落を守るための必要不可欠な安全地帯であった可能性が考えられる。集落内における竪穴住居の在り方は、1軒の単独なものから5、6軒ほどの切り合い関係がみられるものまで様々である。例えば、O17区の東南にみられる竪穴住居-233~236、243、244は6軒が切り合っており、出土遺物等から少なくとも4時期に分かれることが判明している。竪穴住居-235→236・244→233・234→243の順序となるが、233・244の2軒間の距離が近すぎ、並立しがたいとなれば5時期になる可能性が出てくる。また、この6軒では古墳時代初頭の竪穴住居が含まれていないことより、本調査区では6時期の集落が展開していることとなる。それらは、各時期とも全域に分散した状況が確認されており、古・前・Iの古相が11軒、古・前・Iの中相が16軒、古・前・Iの新相が21軒、古・前・Iの新相と古・前・IIの古相間が21軒、古・前・IIの古相の10軒までが出土遺物、住居切り合い関係で把握できる。津寺全域では、古墳時代初頭から30軒前後で始まり、ほぼ同数で古・前・IIの古相までは継続しているようであり、古・前・IIの新相段階で竪穴住居数が激減している。

竪穴住居高床部の開口方向と方形土壙の付設位置を出入口と想定すると、南にそれらを設けているものが多い。そのうち南南東と南南西に口を向ける二者が存在する。後者はPf線上、1800~180s間に比較的まとまって所在し、継続した集落の1単位を形成した可能性もうかがえる。前者は調査区の西側全体に認められる。

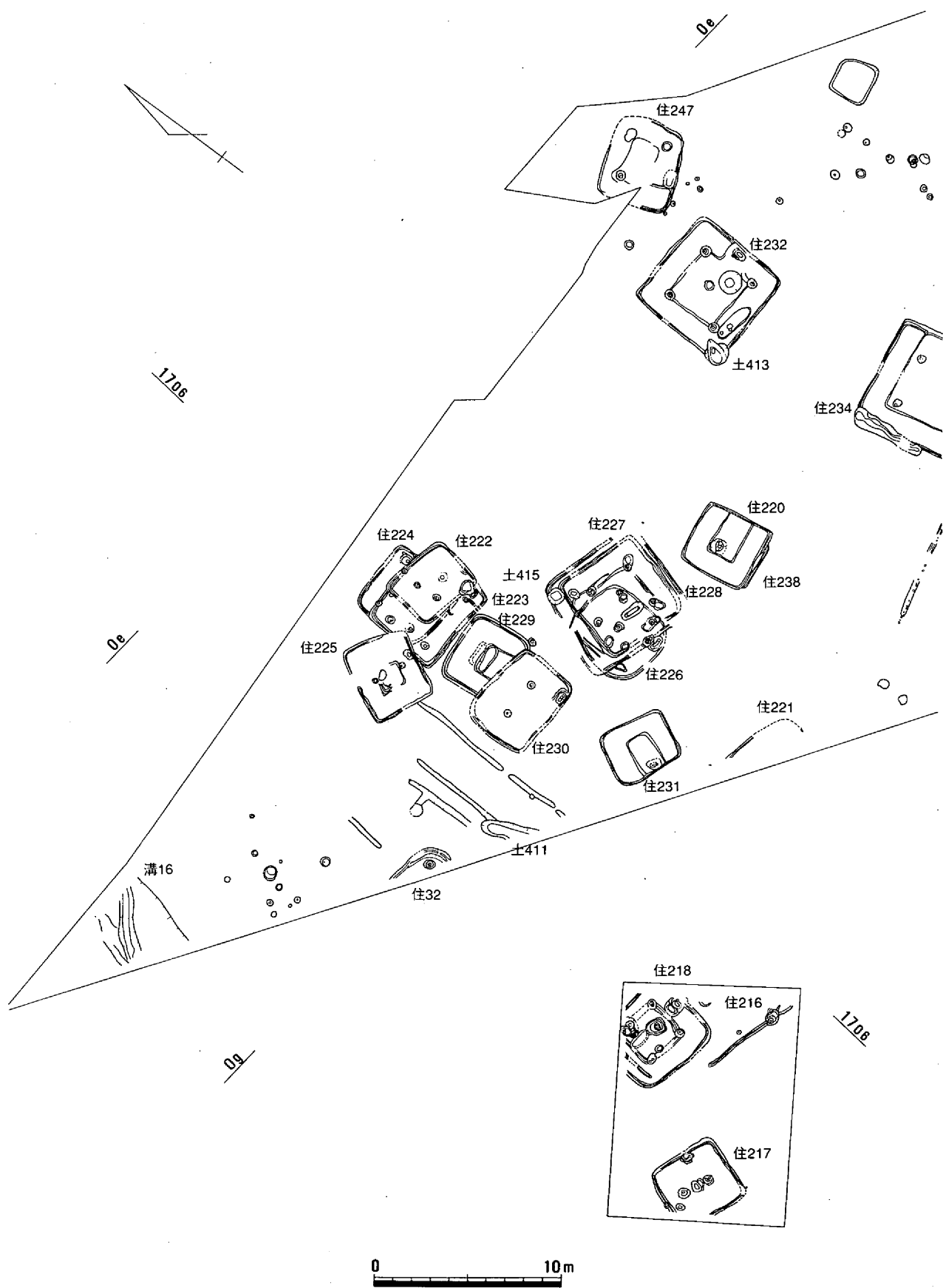
掘立柱建物は竪穴住居数に比べて非常に少なく、2棟のみである。掘立柱建物はO17区の東南に所在し、微高地の東側縁辺と溝-16に挟まれた集落の中央部に位置する。柱穴の掘り方は「布掘」、そして周囲には柵を廻らす可能性の高い4×1間の特異な建物である。古・前・I期でも早い時期にこの場所を占地しており、竪穴住居の棟等の方向も柵等と同方向をとるものがみられる。

土器棺墓はP17区の南東、竪穴住居-304の北、東に各1基が所在する。墓地は本地区と、O17区の北西、N17区の南西に土器棺墓、土壙墓等約20基が所在する2か所である。（高畑）

第3章 調査区の概要

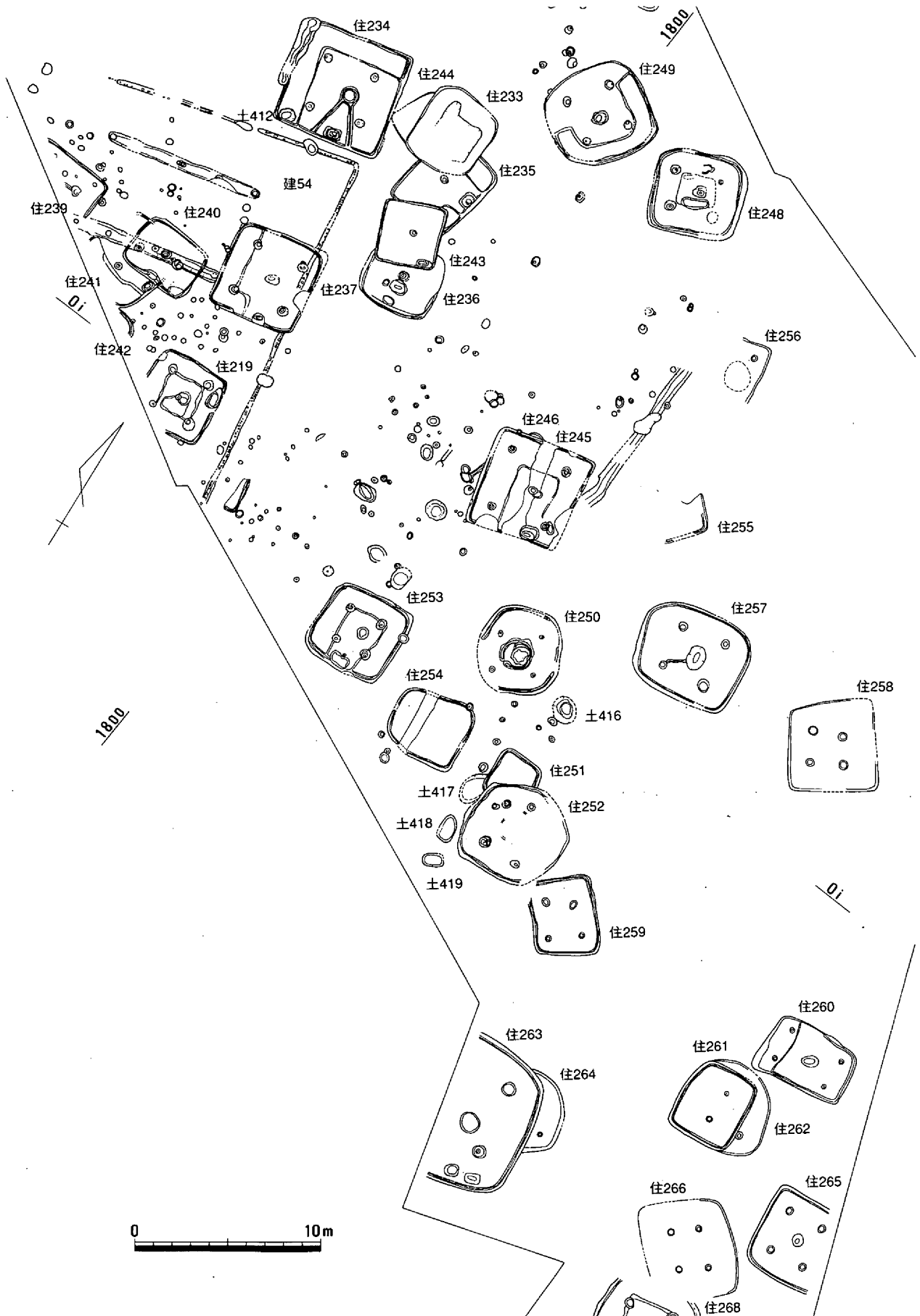


第219図 古墳時代前期部分全体図(1)(1/300)

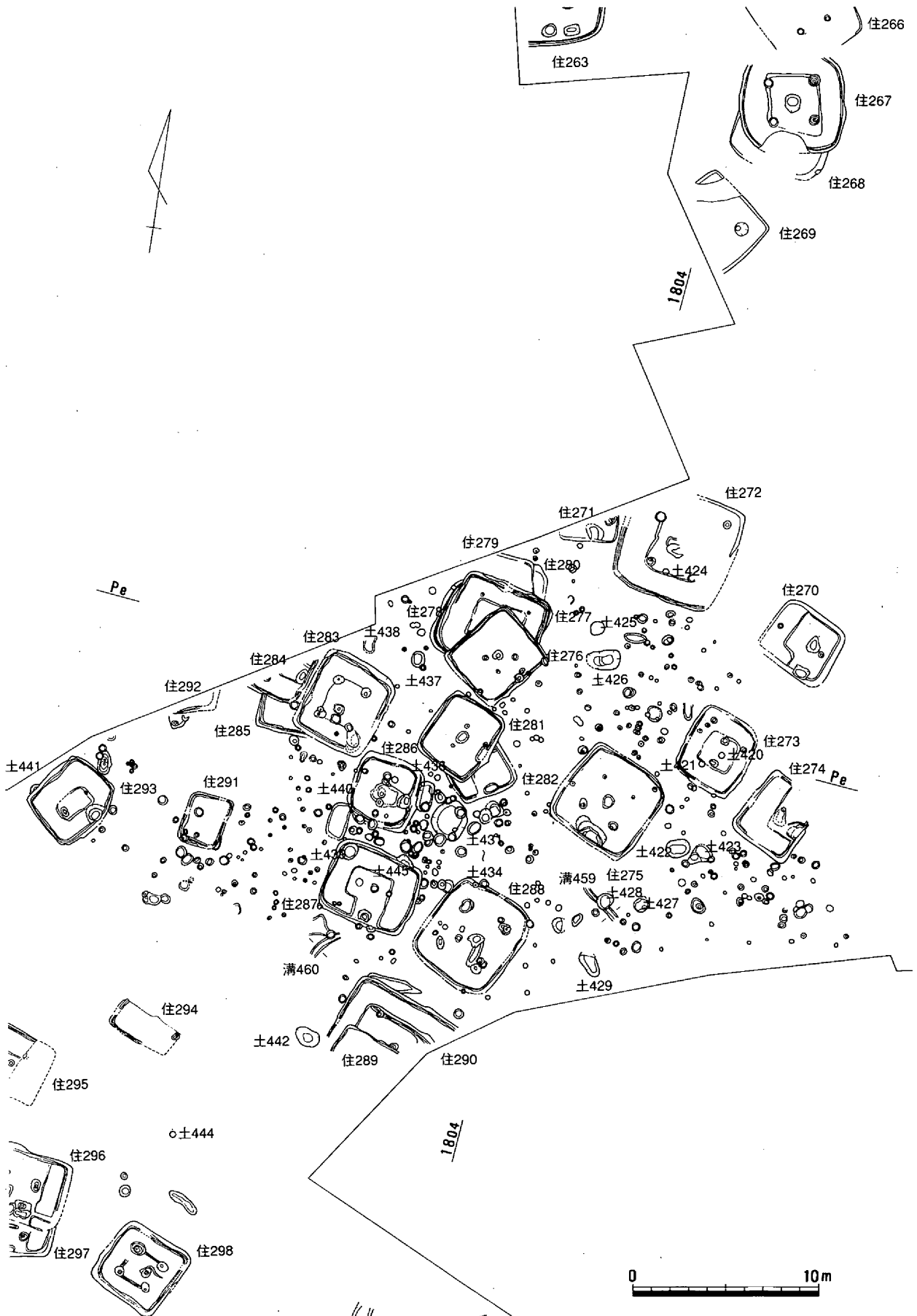


第220図 古墳時代前期部分全体図(2)(1/300)

第3章 調査区の概要



第221図 古墳時代前期部分全体図(3)(1/300)



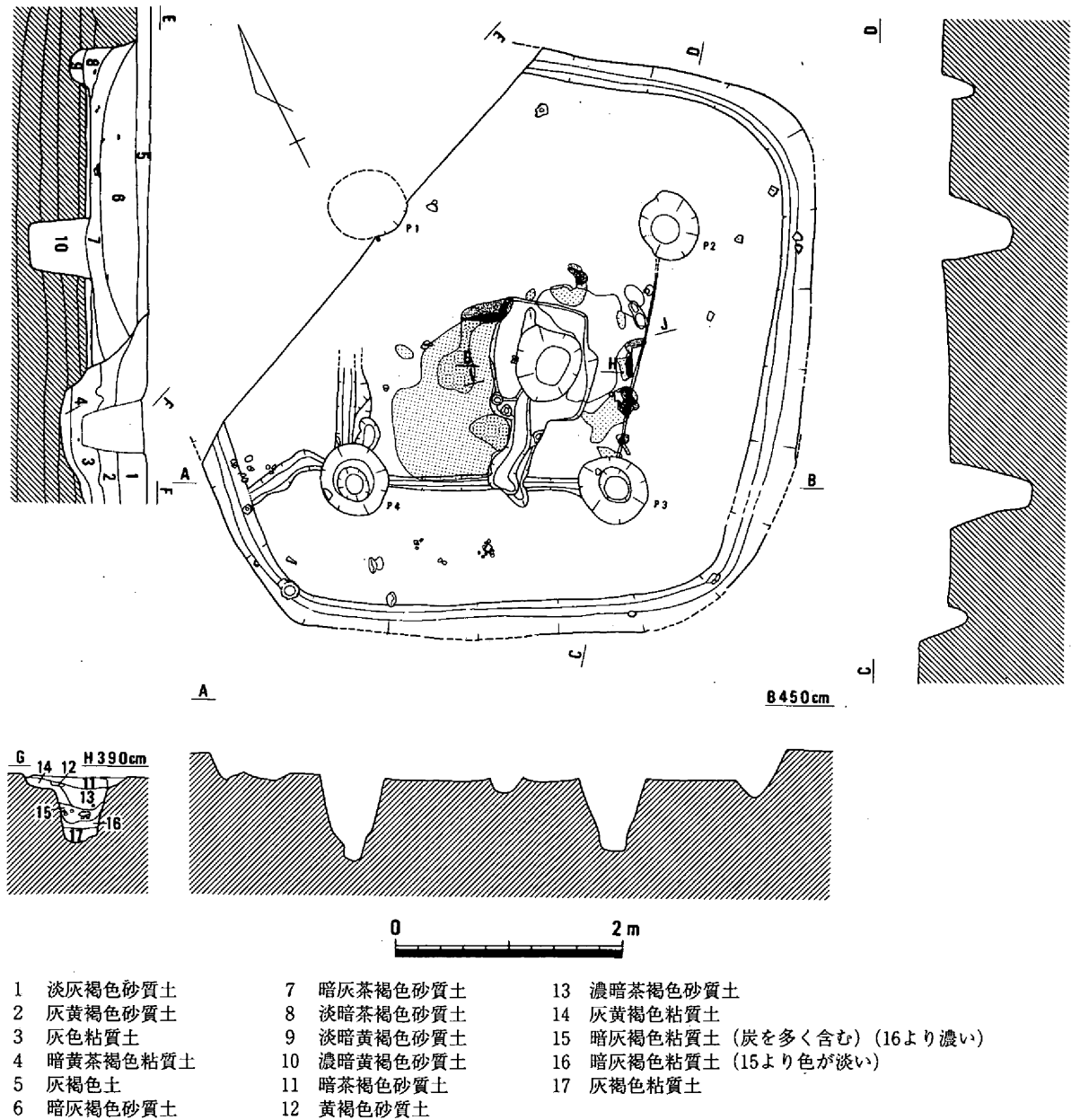
第222図 古墳時代前期部分全体図(4)(1/300)

(2) 竪穴住居

今回報告の調査区では古墳時代前期の竪穴住居が107軒確認されている。弥・後・Ⅳの約3軒前後の竪穴住居が、古墳時代初頭で10軒前後となり、古・前・Ⅰの中相から古・前・Ⅱにかけて増加をたどり70軒前後となる。古・前・Ⅱの最終段階で再び数軒に減少している。本微高地が最も大規模に利用された痕跡をとどめる時期であり、微高地上には竪穴住居、用排水路等の居住域、微高地東側と南西側に水田域が形成されている。 (高畑)

竪穴住居-206 (第224図、図版13)

P17区の北東、橋脚 (P4区) に所在する。古墳時代前期の竪穴住居-208、209により切られ、さらに北東にある古墳時代後期の竪穴住居-314に切られている。長さ (520) cm、幅 (510) cm、床面

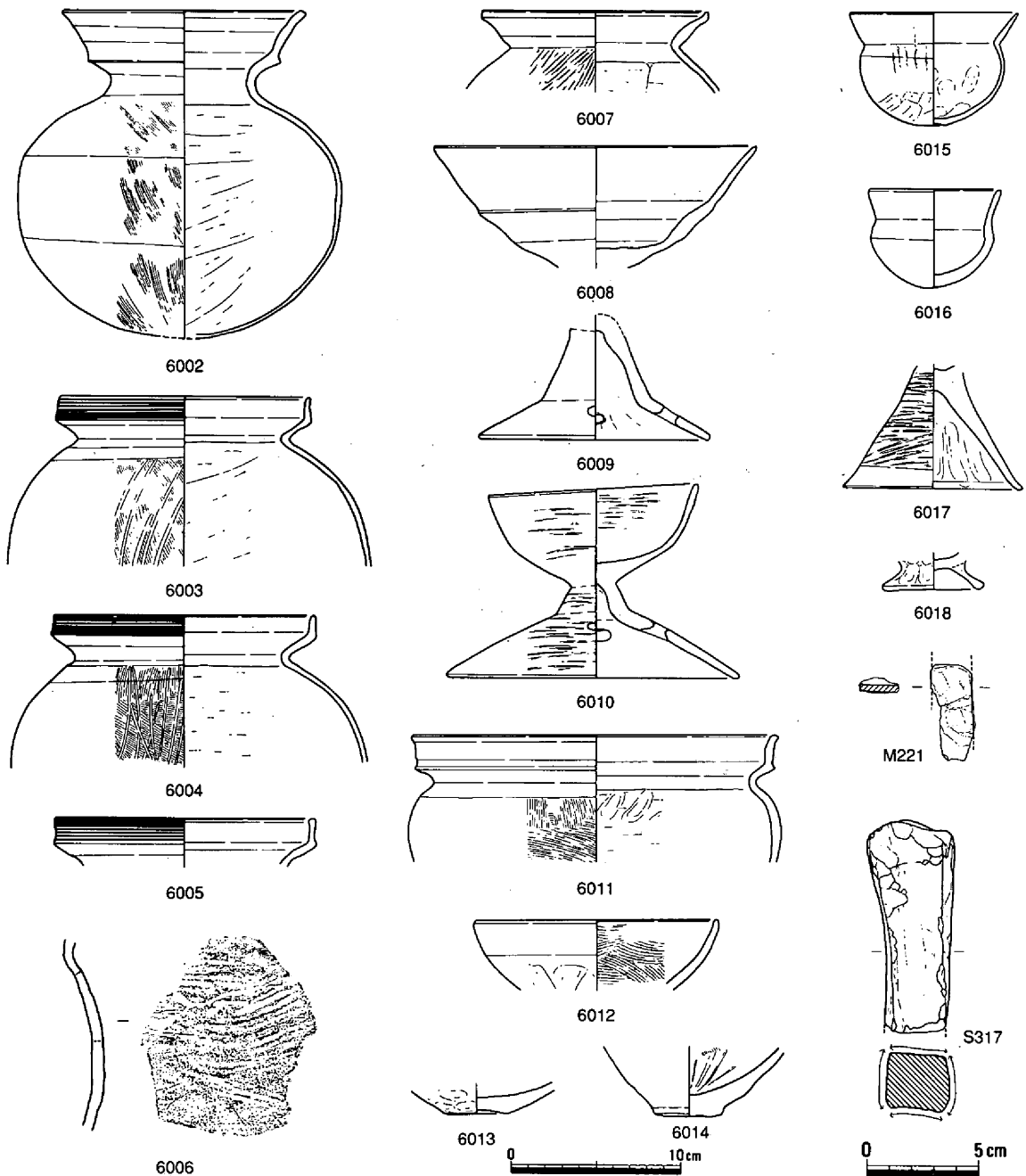


第224図 竪穴住居-206 (1/60)

第3章 調査区の概要

海拔高384.3cmをはかる隅丸方形の竪穴住居である。住居の北面が広く、それに伴って北辺の柱穴間が南辺柱間より約30cm長く、262cmをはかる。中央東側に上端が方形、下端が円形を呈する中央穴を有し、深さ60cmをはかる。中央穴東側に小石を敷きつめ、その周辺に焼土が認められる。中央穴西側には130×100cmの範囲に炭の分布が認められる。

遺物の出土量は竪穴住居-210より多く、壺、甕、高杯、鉢、埴、器台、鉄器、砥石等が出土している。6002は口径13.8cm、最大径18.8cm、器高19.5cmをはかり、複合口縁をもつ丹塗りの壺である。器壁は薄く削り、底部は丸底に仕上げている。甕は6003~6005の器種が多く、口縁部に10条前後の櫛描沈線文が施され、外面に煤の付着するものが多い。高杯6009は中央穴近くで出土したものである。



第225図 竪穴住居-206出土遺物

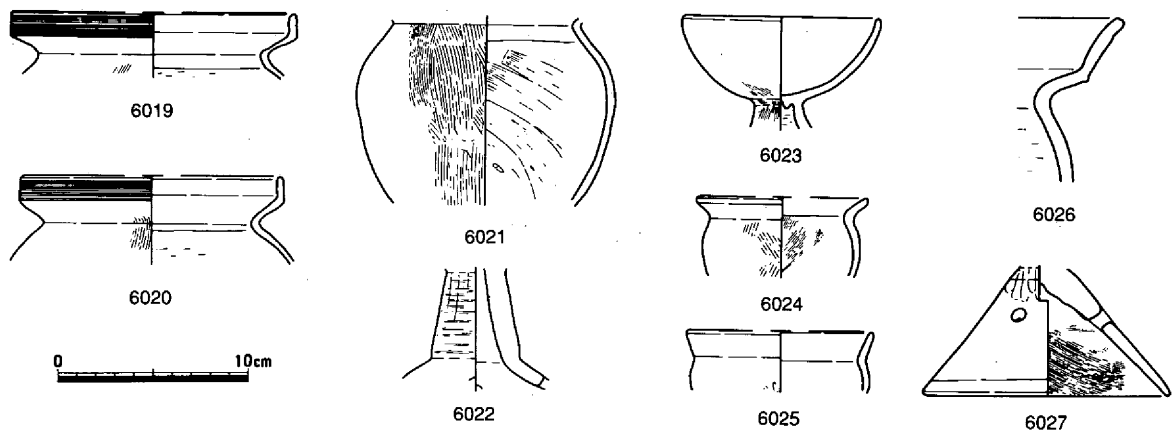
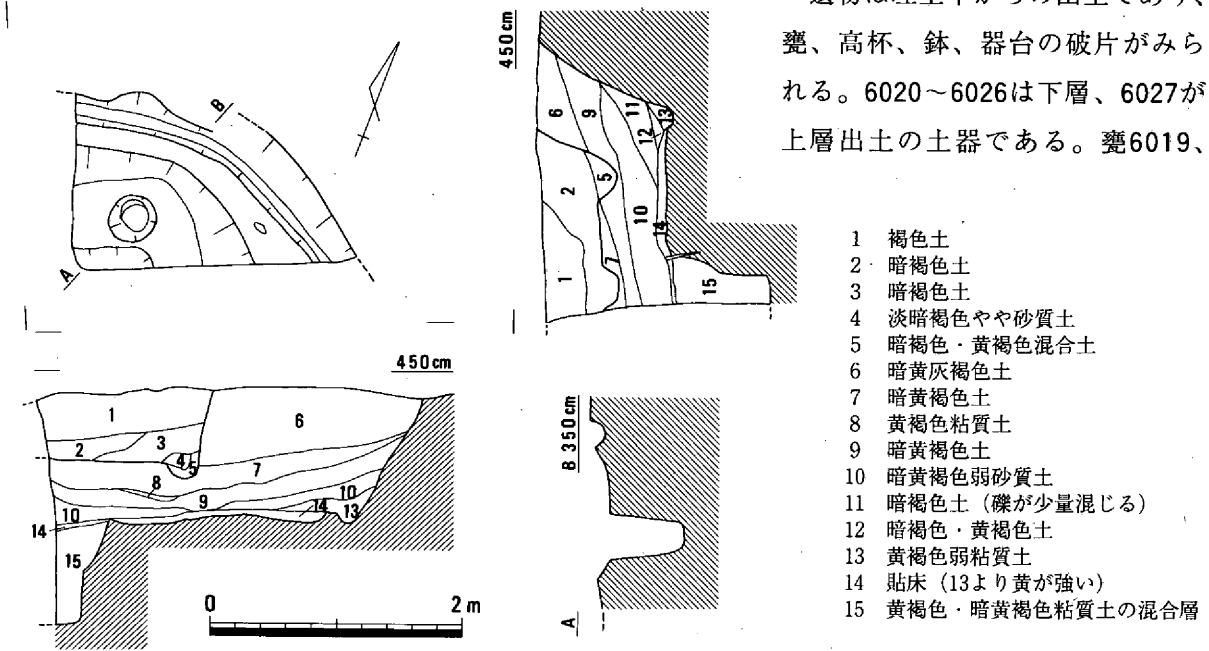
古・前・Iの新相に比定できる。

(高畑)

竪穴住居-207 (第226図)

P17区の北東、橋脚(P4区)に所在し、竪穴住居-206の南方5mに位置する。住居北東隅のみの調査にとどまり、部分的に形状が把握できる程度である。断面では竪穴住居-209の埋没後に小形の竪穴住居が設けられているが、明確にはしえなかった。壁体の高さは約100cmと深く、床面は第14層の黄褐色粘質土による貼床であり、床面海拔高330cmをはかる。埋土はレンズ状の堆積をしており、第6層~第13層がそれにあたる。

遺物は埋土中からの出土であり、甕、高杯、鉢、器台の破片がみられる。6020~6026は下層、6027が上層出土の土器である。甕6019、



第226図 竪穴住居-207(1/60)・出土遺物

6020と同じ口縁部の出土が多く、なかでも外に向って少し傾く口縁が目立つ状況である。6022の透し穴は4孔であり、6027の器台脚部の透し穴は3孔である。

古・前・Iの新相に比定できる。

(高畑)

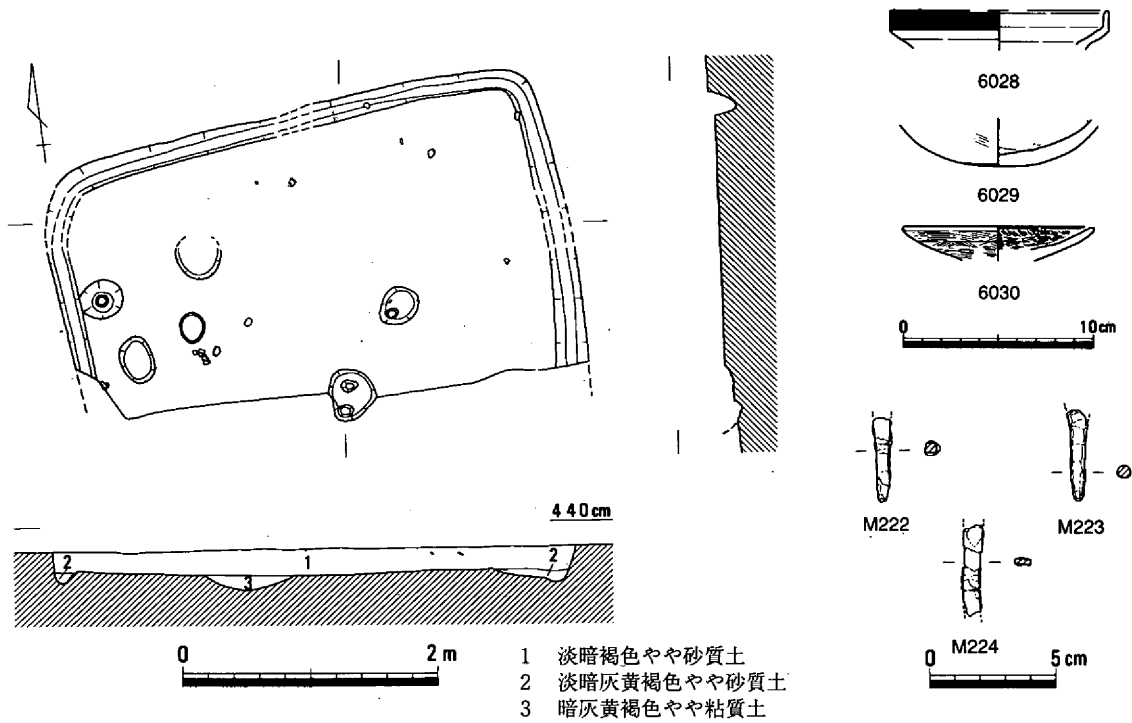
竪穴住居-208 (第227図)

P17区の北東、橋脚(P4区)に所在し、竪穴住居-206の一部を切って西側に位置する。長さ402

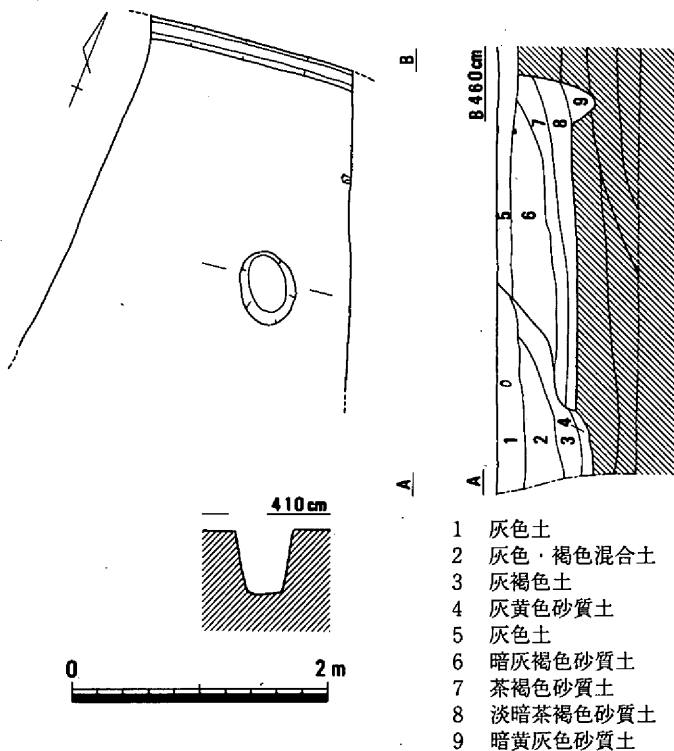
第3章 調査区の概要

cm、幅(244)cm、底面海拔高401cmをはかる。南側を奈良時の東西溝により削平を受けており、付属施設については明らかではない。本住居が切る竪穴住居-206の床面海拔高は384.3cmであり、本住居の床面より約25cm低い位置である。

遺物は非常に少なく、土器小片が数点と鉄器が3点である。甕、鉢、器台であり、6028は口径11.3



第227図 竪穴住居-208(1/60)・出土遺物



第228図 竪穴住居-209(1/60)

cmをはかる中形の甕である。小片からの時期決定は困難であるが、古・前・Iの新相の竪穴住居-206を切っている事実から、古・前・Iの新相より新しい時期ととらえていきたい。(高畑)

竪穴住居-209(第228図)

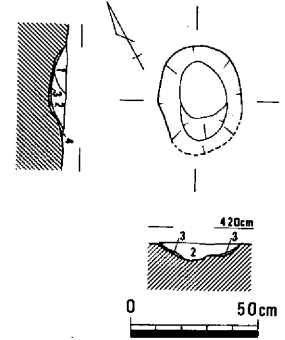
P17区の北東、橋脚(P4区)に所在し、竪穴住居-210により住居西辺を切られている。方形を呈すると考えられるが、北辺の一部のみの残存であり、具体性にかける。底面海拔高は396cmをはかり、床面には幅15cm、深さ約17cmをはかる壁体溝、60×42cm、深さ50cmの柱穴が1本の状況である。

遺物は土器小片が1点である。古・前・Iの中・新相の竪穴住居-210により切られている。(高畑)

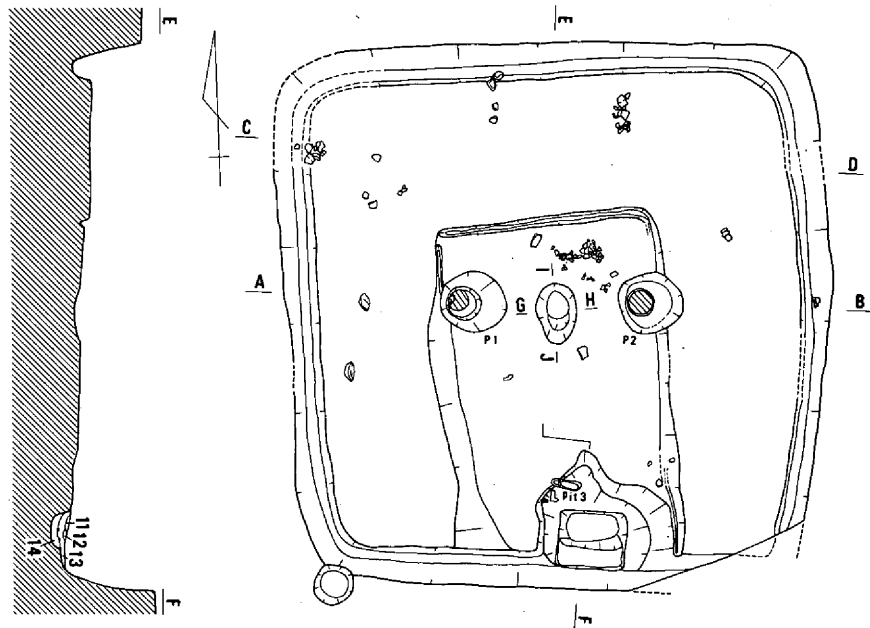
竪穴住居-210 (第229・230図)

P17区の北東、橋脚(P4区)に所在し、竪穴住居-209を切り、竪穴住居-206の南西隣に位置する。狭い場所に5軒の古墳時代前期の竪穴住居が密集している。そのなかではあまり破壊を受けておらず、住居の形状が比較的あきらかになったものである。長さ430cm、幅430cm、床面積15.34㎡、床面海拔高354.4cmをはかる正方形の竪穴住居である。南を除いて北、西、東の三方に床面より約10cm高い「コ」字形の高床部を設け、床面中央の東西柱間143cmをはかる深さ73~83cmの2柱穴。その間に中央穴、南辺に方形土壇が付設されている。

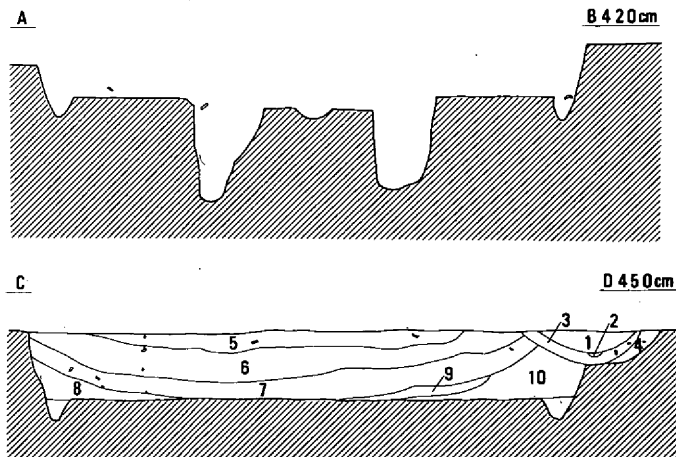
中央穴は43×32cm、深さ12cmをはかり、南北に長くて浅い楕円形の土壇である。土壇内面南側は焼土面を形成しており、長期にわたり火が使



- 1 暗黄褐色粘質土 3 炭
- 2 暗茶褐色粘質土 4 焼土



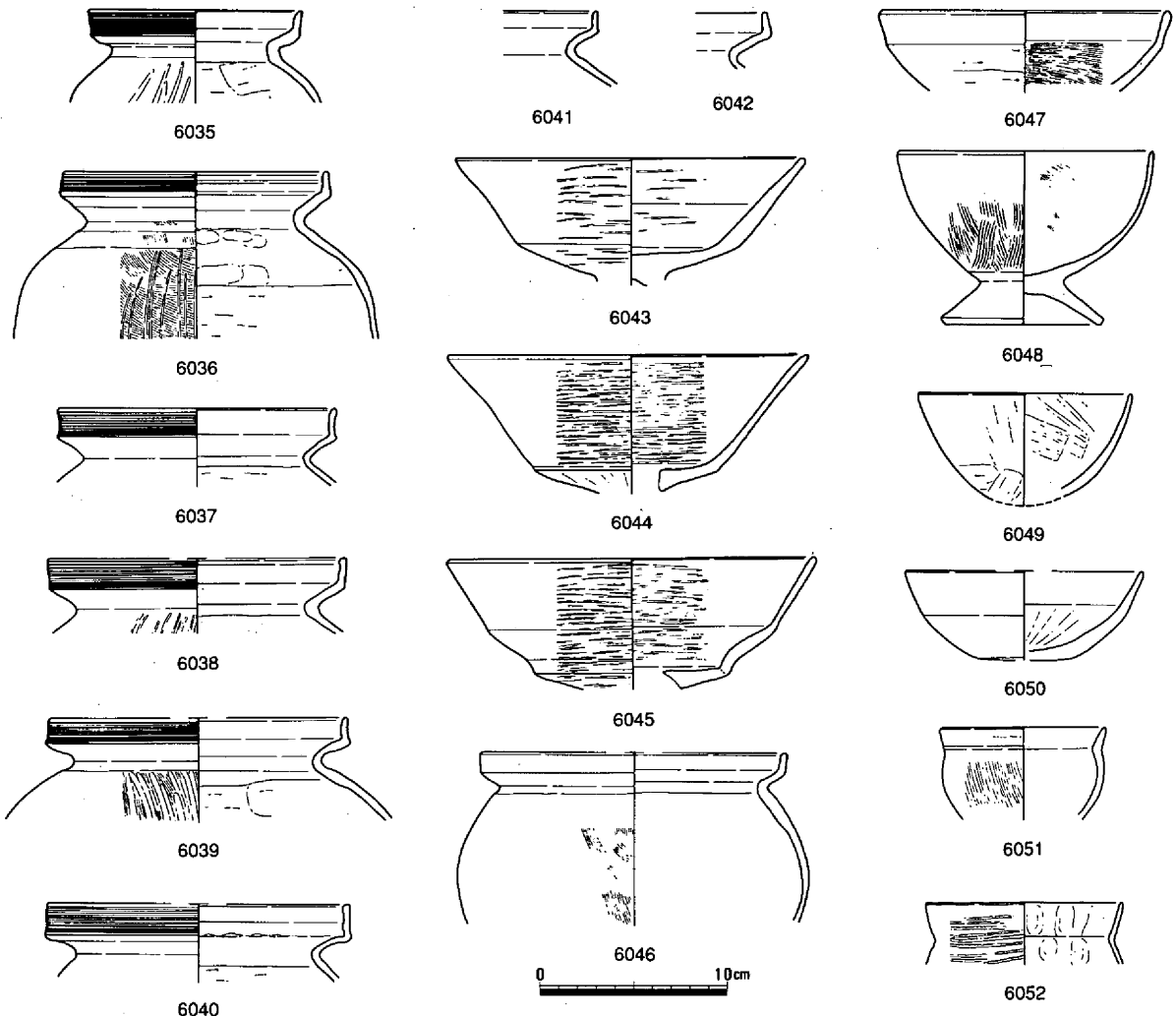
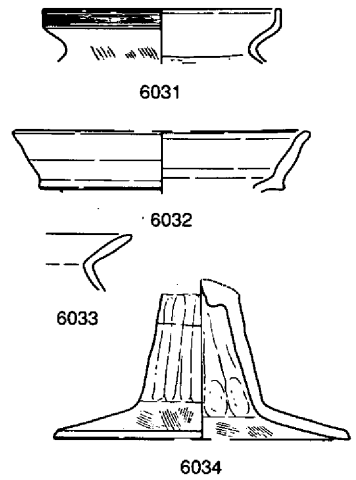
- 1 暗褐色土 (マンガン多し)
- 2 炭混土
- 3 暗褐色・黄褐色混合土
- 4 暗褐色土 (やや色がうすい)
- 5 暗褐色弱粘質土 (マンガン多し)
- 6 暗黄褐色弱粘質土
- 7 暗黄褐色土
- 8 暗褐色砂質土
- 9 暗褐色・暗黄褐色混合土
- 10 暗褐色弱砂質土
- 11 濃黄褐色粘質土
- 12 灰褐色粘質土
- 13 暗茶褐色粘質土
- 14 暗茶褐色砂質土



第229図 竪穴住居-210(1/60)・中央穴(1/30)

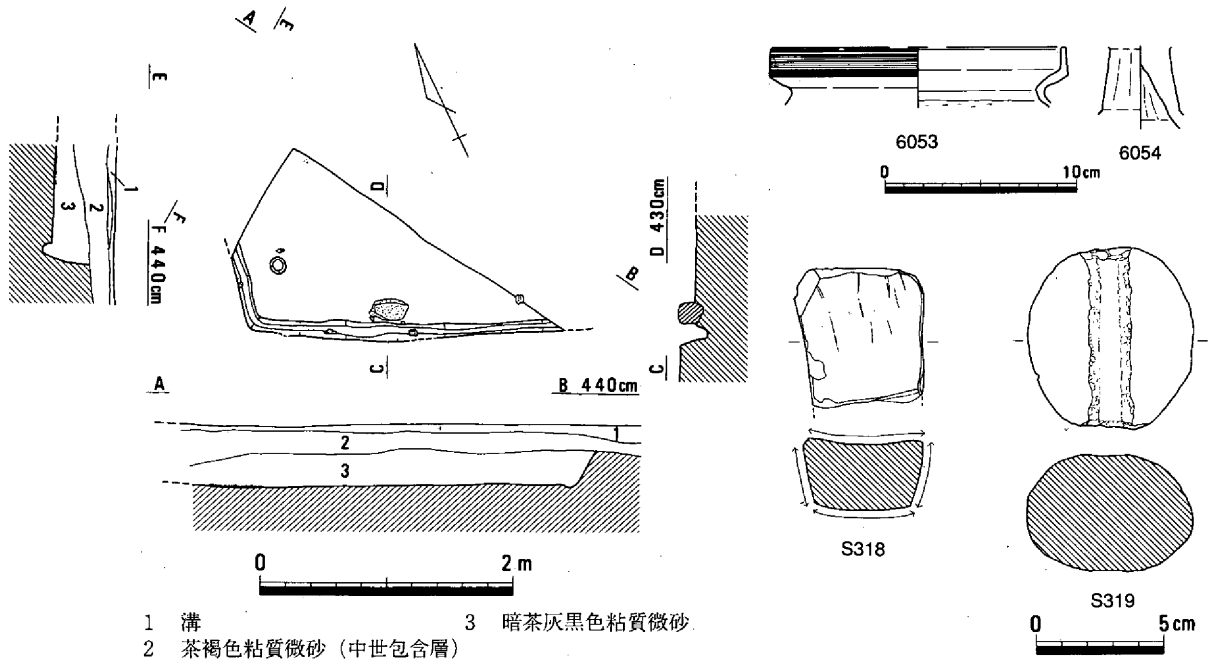
用されたことを物語っている。焼土面以外の底部には約1cmの厚さで炭層が認められる。従来からポケットと呼称された方形土壇は南辺内側にあり、不整形の浅い土壇内に54×29cm、深さ15cmの長方形土壇がさらに掘り込まれている。不整形土壇の北西隅には長さ23cm、幅7cm、深さ5～8cmをはかる長方形の土壇P-3が東西方向に設けられている。竪穴住居-232、234、235等にほぼ同様のものが認められ、住居の出入口に関する施設の可能性が考えられる。東西方向に棟をもつ小形の竪穴住居であり、南側中央部に出入口の存在が想定できる。埋土はレンズ状の堆積であり、第5層～第10層まで土器の小片がみられるが、下層にゆくにしがたい土器の大形片が認められた。

遺物は竪穴住居-208より多く出土しており、竪穴住居-206より少ない。6031、6035～6042等の甕が最も多く、6035は床面、6037はP-2内、6039は床面近く、他は床面から浮いた状態での出土である。口縁部には6～10条の櫛描き沈線文がみられ、6038～6040は8条施されている。6032は灰白色を呈し、胎土は山陰の領域に入る。高杯6045は高床部北西隅に近い壁体溝上、床面に接

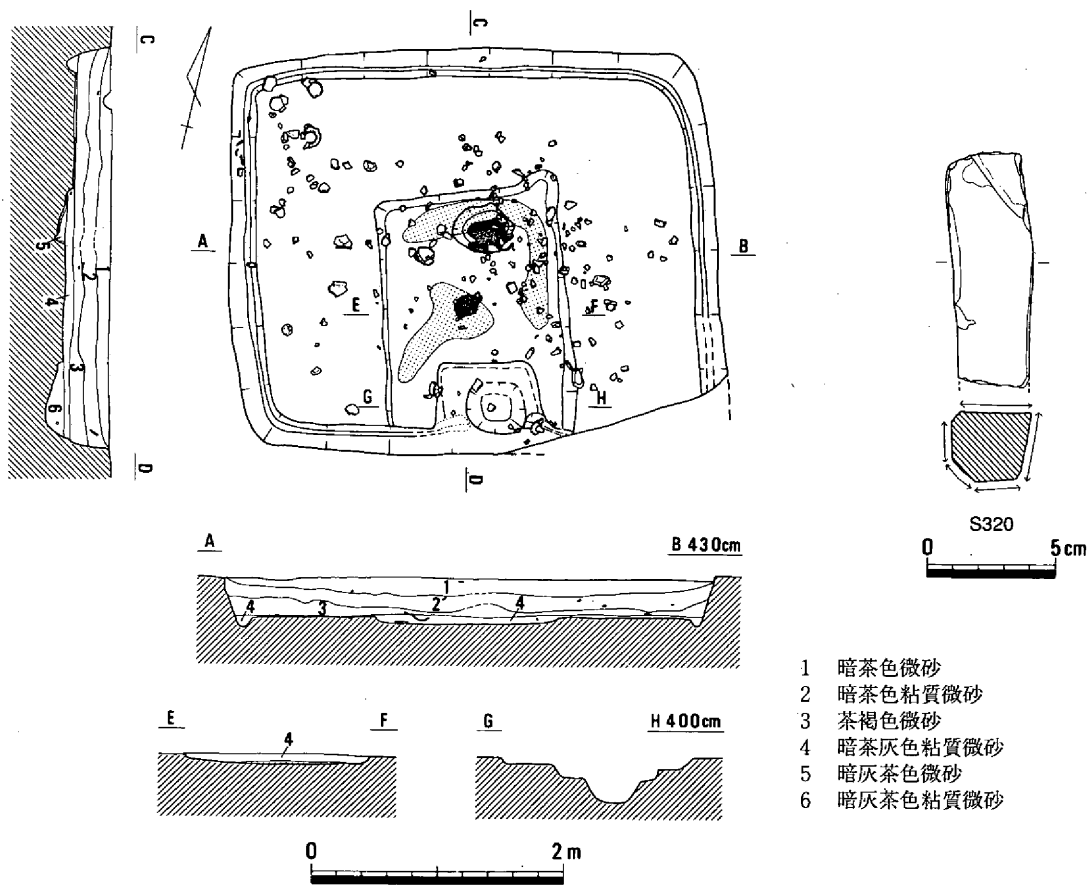


第230図 竪穴住居-210出土遺物

しての出土である。鉢6050はP-2内出土である。柱穴内の遺物は古・前・Iの中相、床面の遺物は古・前・Iの新相と考えられる。
(高畑)



第231図 竪穴住居-211(1/60)・出土遺物



第232図 竪穴住居-212(1/60)・出土遺物(1)

竪穴住居-211 (第231図)

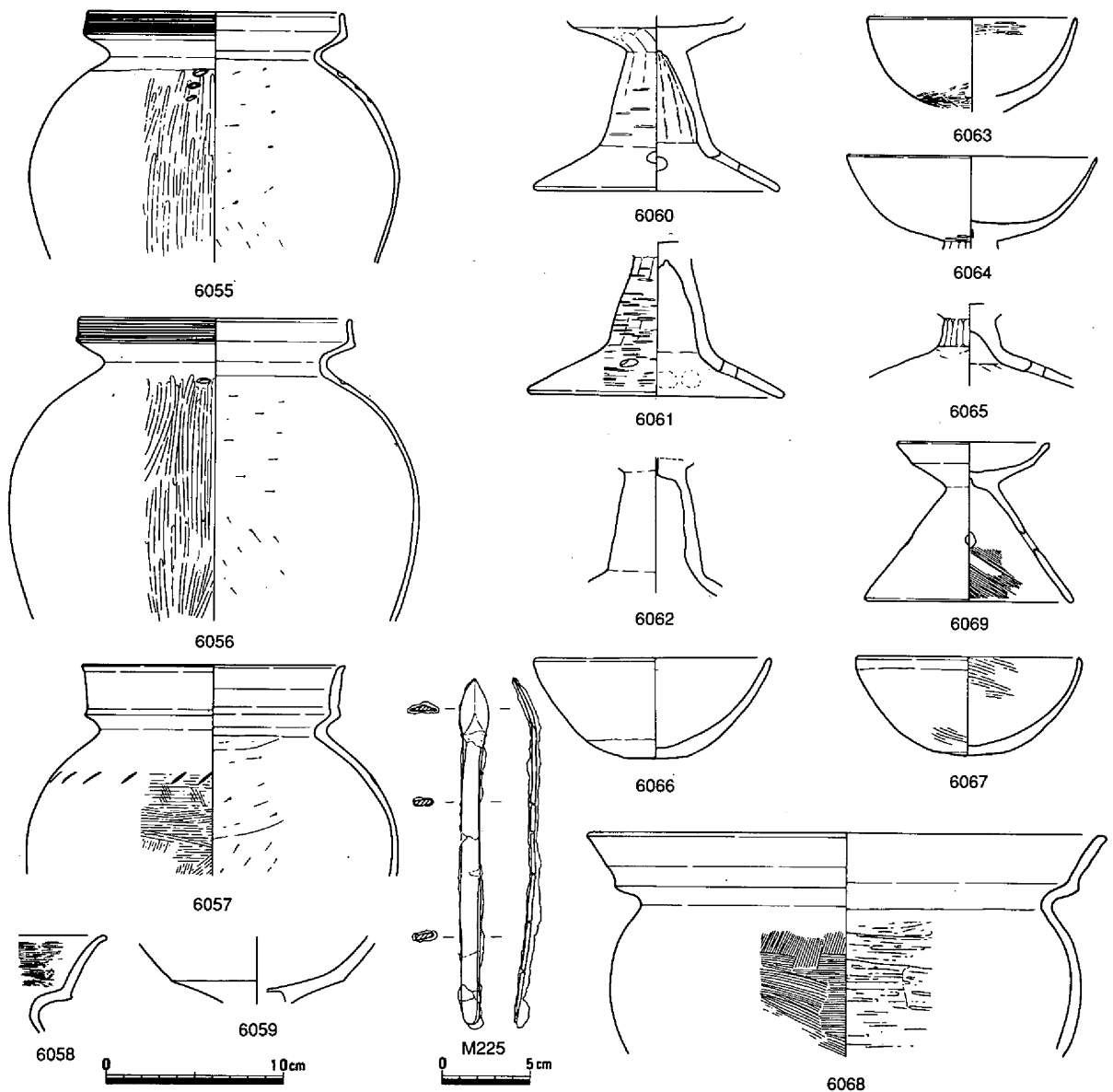
P17の北東、橋脚 (P3区) に所在し、竪穴住居-212の北方4.5mに位置する。側溝部分にあたり、住居の南西隅部分の調査に限定した。住居平面は若干歪であるが、方形になるものと考えられる。第2層の中世包含層を除去すると、住居の上端部が海拔435cmにて確認でき、そこよりマイナス28cmにて床面に達する。床面には壁体溝、小穴、焼土面および、壁体溝に沿って長さ25cm、幅13cm、厚さ20cmの作業台と考えられる平石がみられる。

遺物は床面から甕6053・石錘S319、壁体溝上より高杯6054・砥石S318の4点が出土している。

古・前・Iの古~中相の幅を考えておきたい。 (高畑)

竪穴住居-212 (第232・233図)

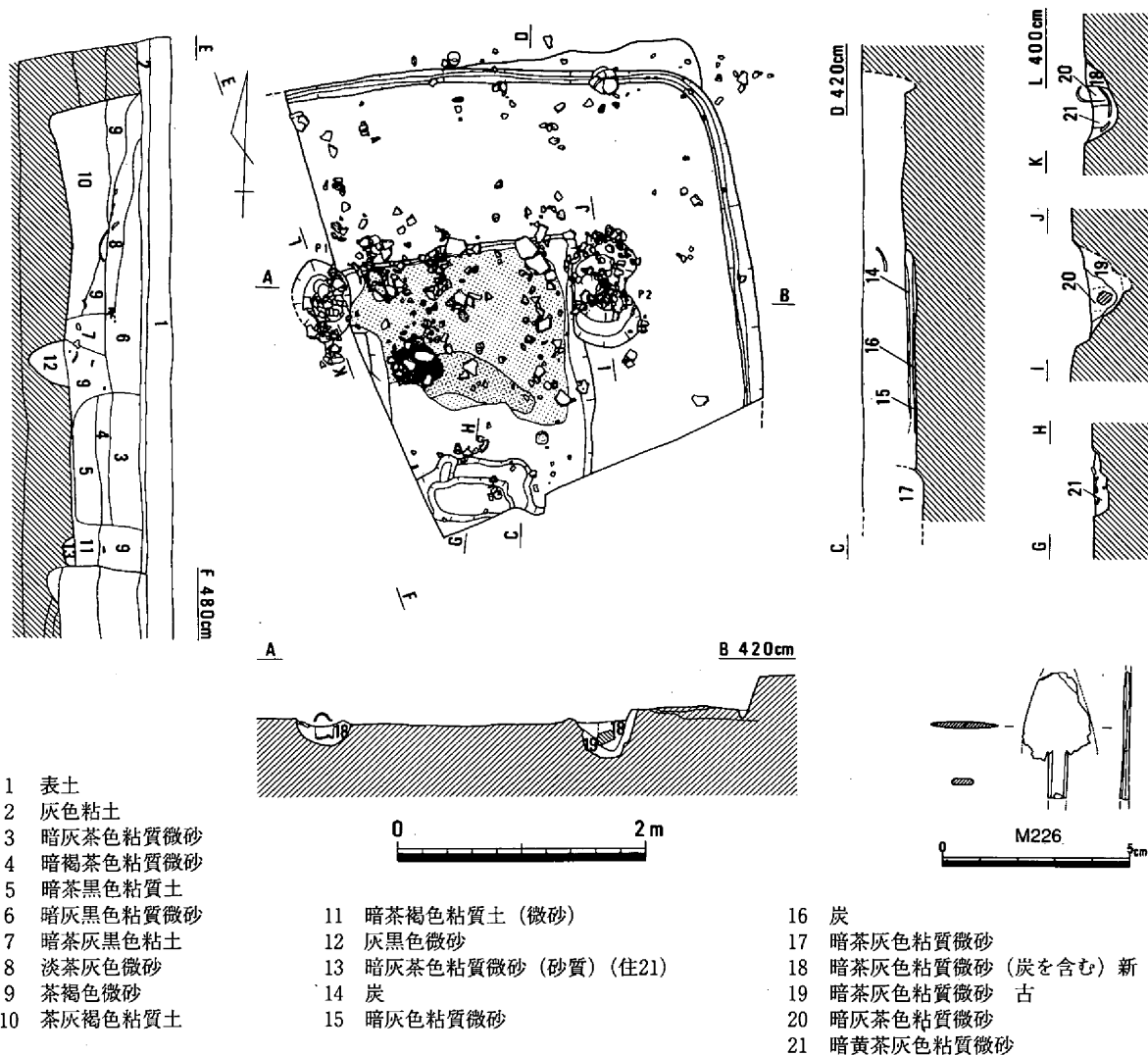
P17区の北東、橋脚 (P3区) に所在し、竪穴住居-211より南に4.5m、竪穴住居-213より2.5m東に位置する。長さ386cm、幅318cm、床面積10.28m²、床面海拔高374cmをはかる方形の小形住居である。竪穴住居-210と同じ作りであり、南面を除き北、西、東の三方に床面より約8cm高い「コ」字



第233図 竪穴住居-212出土遺物(2)

形の高床部を設けている。床面の北側には49×35cm、深さ約4cmの土壇があり、底面南側の32×25cmの範囲で土壇底に沿った焼土面がみられる。床面中央にも25×17cmの焼土面がみられ、両方が長期にわたり火所として機能している。南辺内側には80×50cm、深さ約10cmの土壇内に46×40cm、深さ17cmの隅丸方形の土壇がみられ、蓋等をして貯蔵穴に使用した可能性も考えられる。

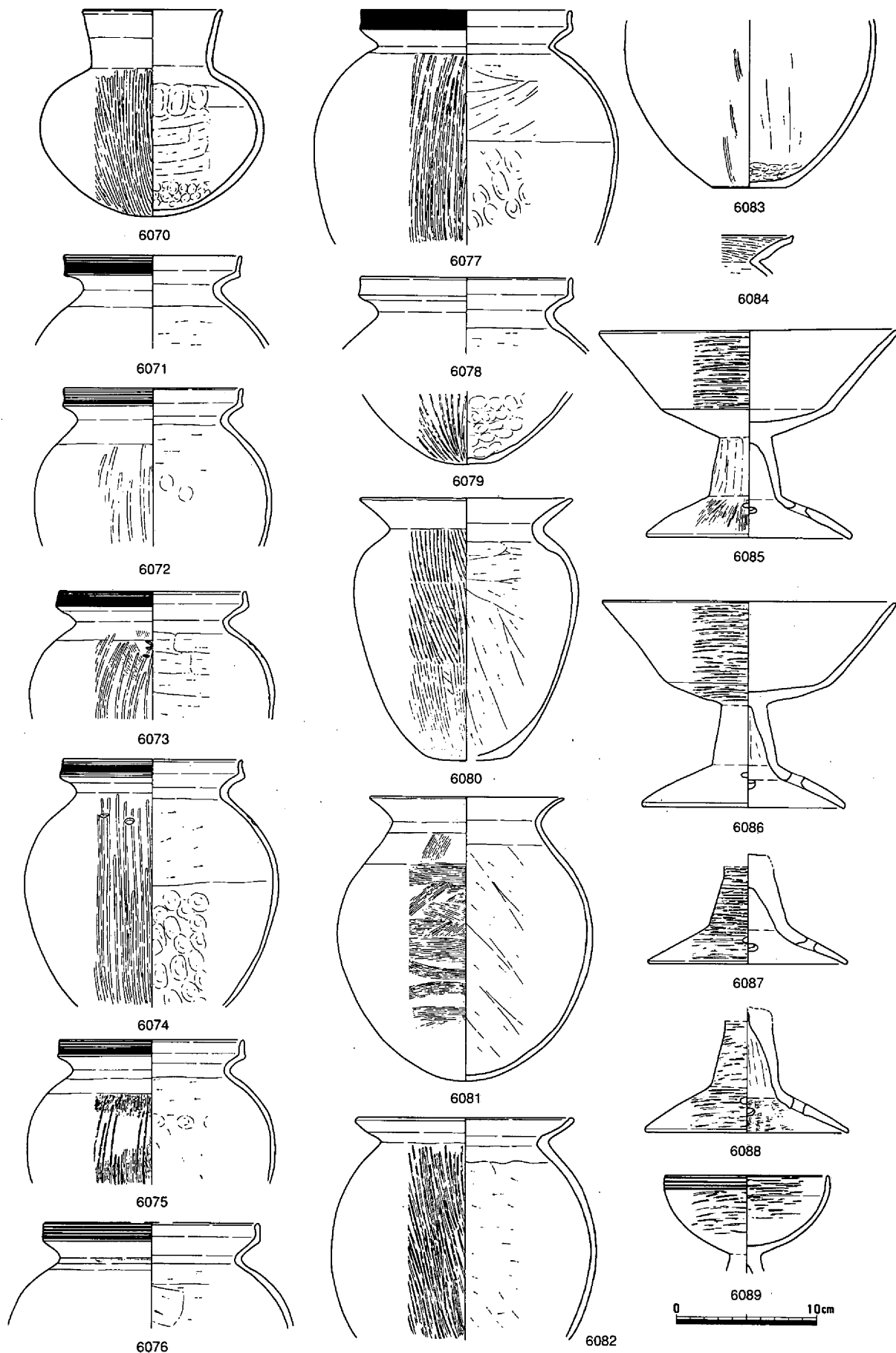
出土遺物は全体に散布をみたが、床面に伴うものはなく床面から浮いた状態での出土である。図示した6055～6068の甕・高杯・鉢・器台などの他に、砥石、M225の鉞がみられ、古・前・Iの新相に比定できる。(高畑)



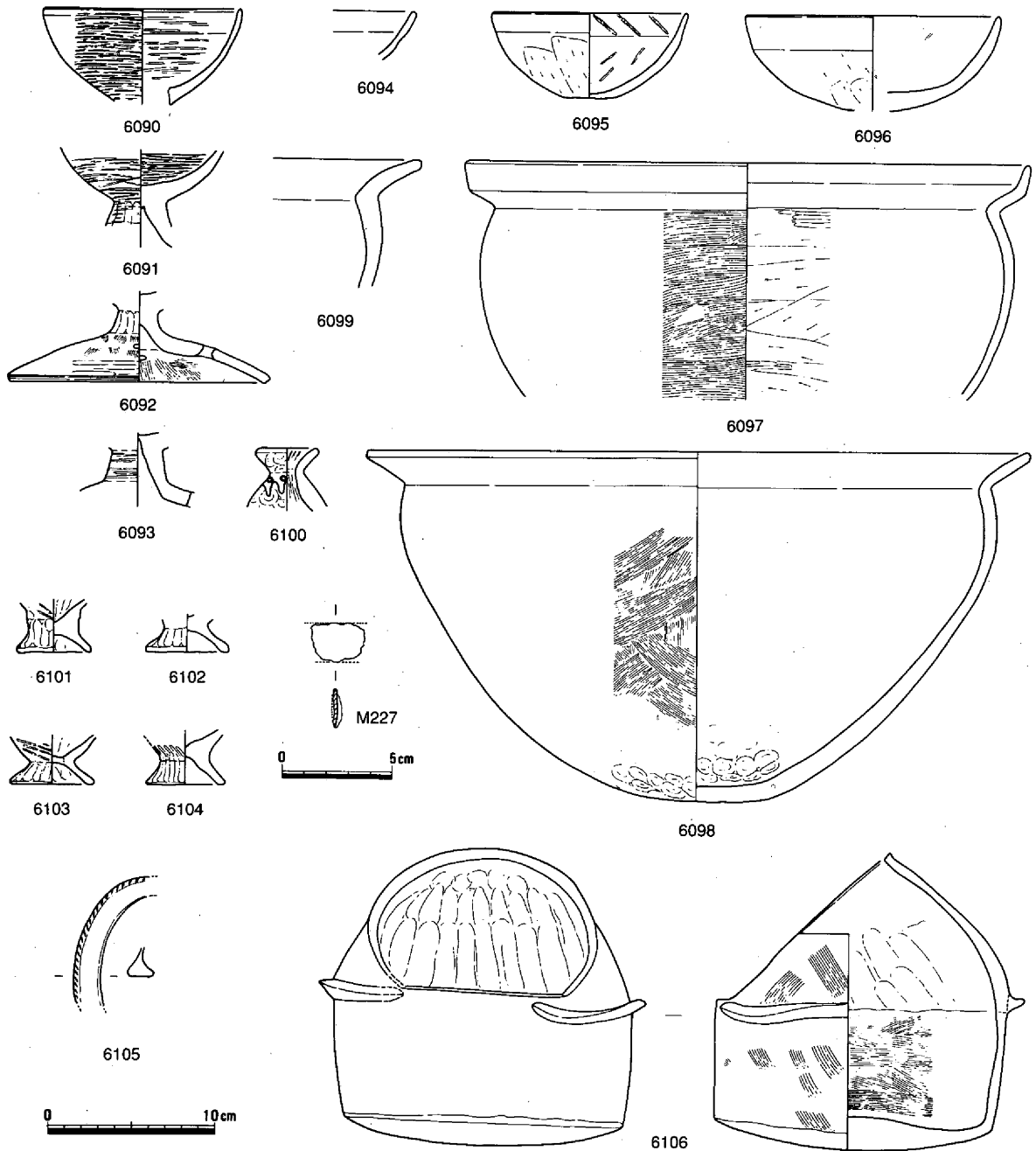
第234図 竪穴住居-213(1/60)・出土遺物(1)

竪穴住居-213 (第234～236図)

P17区の北東、橋脚(P3区)の南に所在し、竪穴住居-212の西南2.5mに位置する。住居は長さ(376)cm、幅(330)cmであり、推定復元では長さ376cm以上、幅450cm以上をはかり、平面は東西に長い方形を呈する。床面海拔高365cmをはかり、約15cm高い高床部を「コ」字形に設けており、支柱穴2、方形土壇1、小土壇1がみられる。支柱穴は高床部から掘り込まれており、柱間は226cmをはかる。床面南辺に90×53cm、深さ7cmの方形土壇、その内側に68×35cm、深さ10cmをはかる同形の土壇が設けられている。床面中央西側には10cm²の焼土面があり、それを中心に40×30cmの被熱範囲が認



第235図 竪穴住居-213出土遺物(2)



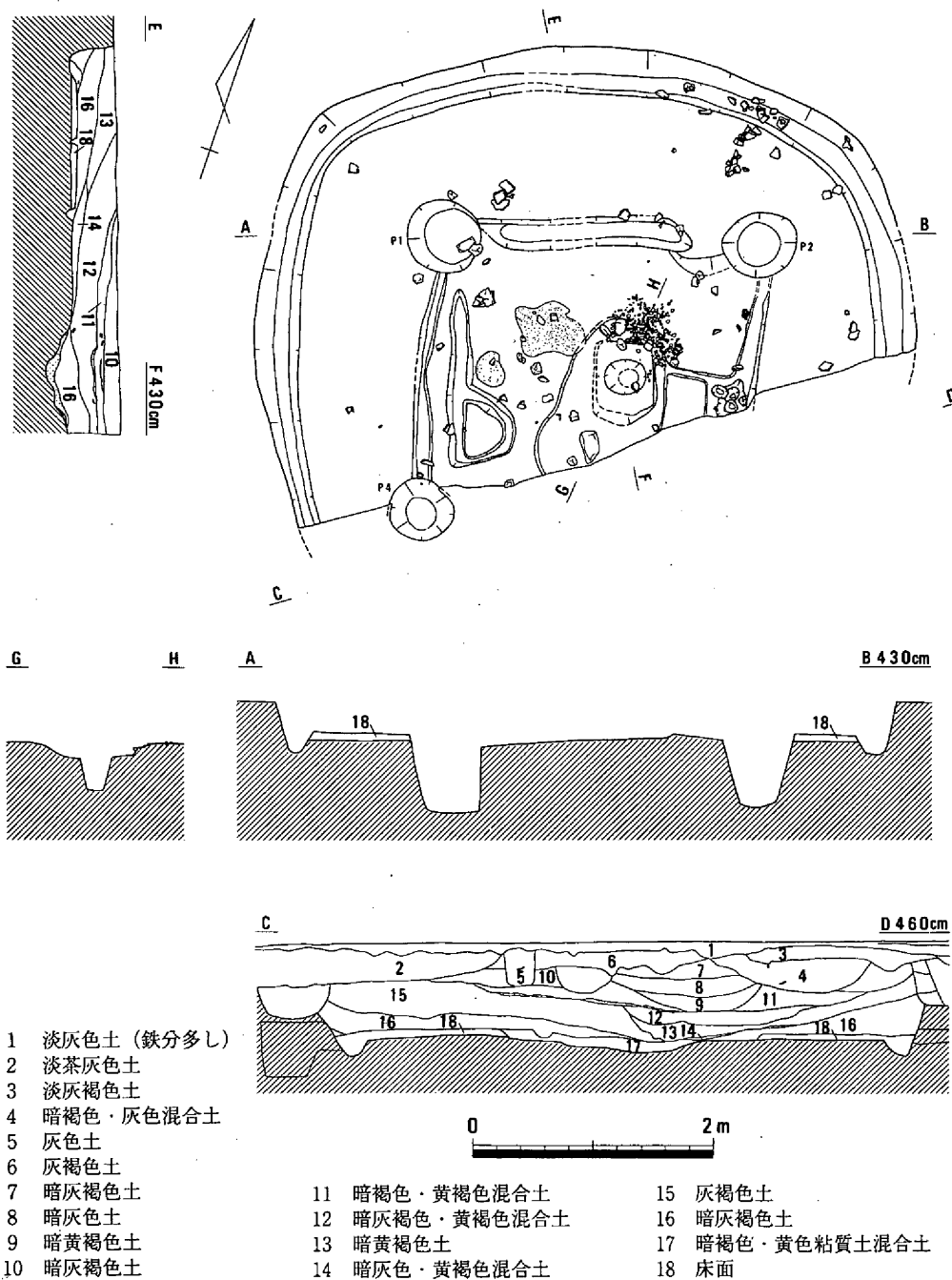
第236図 竪穴住居-213出土遺物(3)

められる。東側には、2面からなる炭層があり、そこより北側に180×130cmの範囲に炭の分布が認められる。方形土壇の北側中央には長さ20cm、幅9cm、深さ6.2cmの小土壇がみられる。

遺物は竪穴住居-189との混在のおそれがあるが、住居内ほぼ全域に土器小片が散布しており、なかでもP-1、P-2と床の周辺に多くみられるが、床面出土のものはあまり認められない。土器では壺、甕、高杯、鉢、手焙り型土器、手捏ね土器、製塩土器があり、他に鉄製品、貼床内の銅鏃、土器片と共に投棄された拳大の自然石11.6kgが認められる。壺6070はP-1埋没時点で入っている。他の住居と同様に甕6071~6079が多く、口縁部は8条の櫛描き沈線が巡るものが目立つ。次いで高杯6085~6093がみられ、脚部中空にて裾部円孔は4穴である。甕6081は形態、器外面の調整が他器と異なり、胎土分析でも生産地の領域が不明である。古・前・Iの新相に比定できる。(高畑)

竪穴住居-214 (第237・238図)

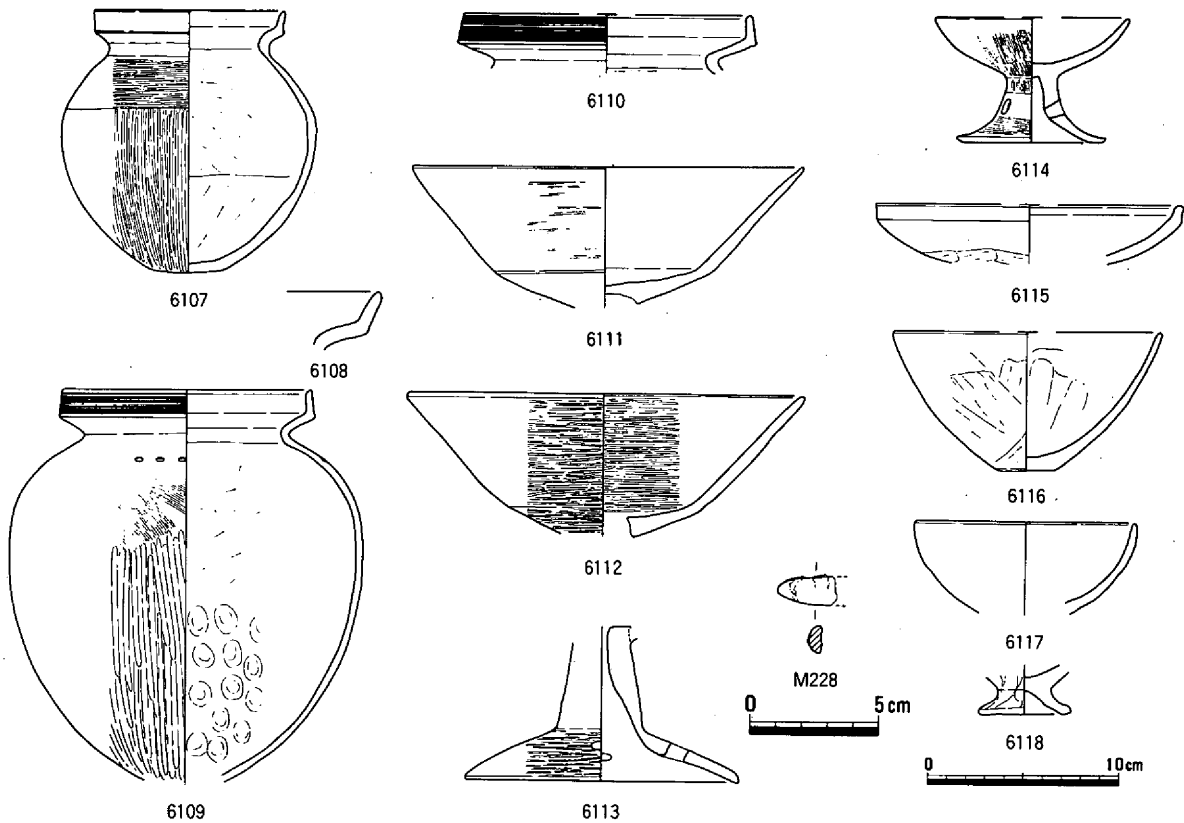
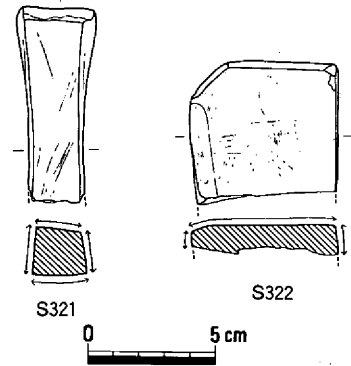
〇17区の南東、橋脚 (P2区) に所在し、竪穴住居-215の南々西2.5mに位置する。住居形状は竪穴住居-206に非常に類似をする。長さ546cm、幅 (360) cm、床面海拔高369.8cmをはかり、主柱穴4本からなる隅丸方形の竪穴住居である。四方に床面より約6cm高い床部を設けており、海拔375cmをはかる。床面には柱穴とそれらを結ぶ溝、中央穴等がみられ、柱間はP-1~P-2間が253cm、P-4~P-1間が234cmをはかり、北辺が西辺より約20cm長い形状を呈する。中央穴は住居中央から40cm東側に作られており、150×80cm、深さ約6cmの浅い楕円形の土壇内に70×50cm、深さ約6cmの浅い方形土壇を設け、さらにその中心に35×28cm、深さ27cmの円形土壇を掘り込んでいる。埋土の



第237図 竪穴住居-214 (1/60)

第16層下は中央穴内の炭層である。砂利敷きは140×100cmであり、中央穴の北東側にみられ、焼土面は中央穴の西側に2か所存在する。

遺物は住居内のほぼ全域に散布しており、土器小片が中心である。床面出土のものは少ないが、床面に近いところからの出土が目立つ状況である。壺、甕、高杯、鉢、製塩土器、砥石、鉈が出土している。甕6107は口径10cm、最大径13.5cm、底径4.0cm、器高13.8cmをはかり、器外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリが施されており、小さな平底を残す。甕6109、6110は口縁屈曲部の角度が鋭く、櫛描き沈線文の甕では古相を呈している。高杯6113も脚部の中実から中空への移行状況を呈している。古・前・Iの中相に比定できる。(高畑)



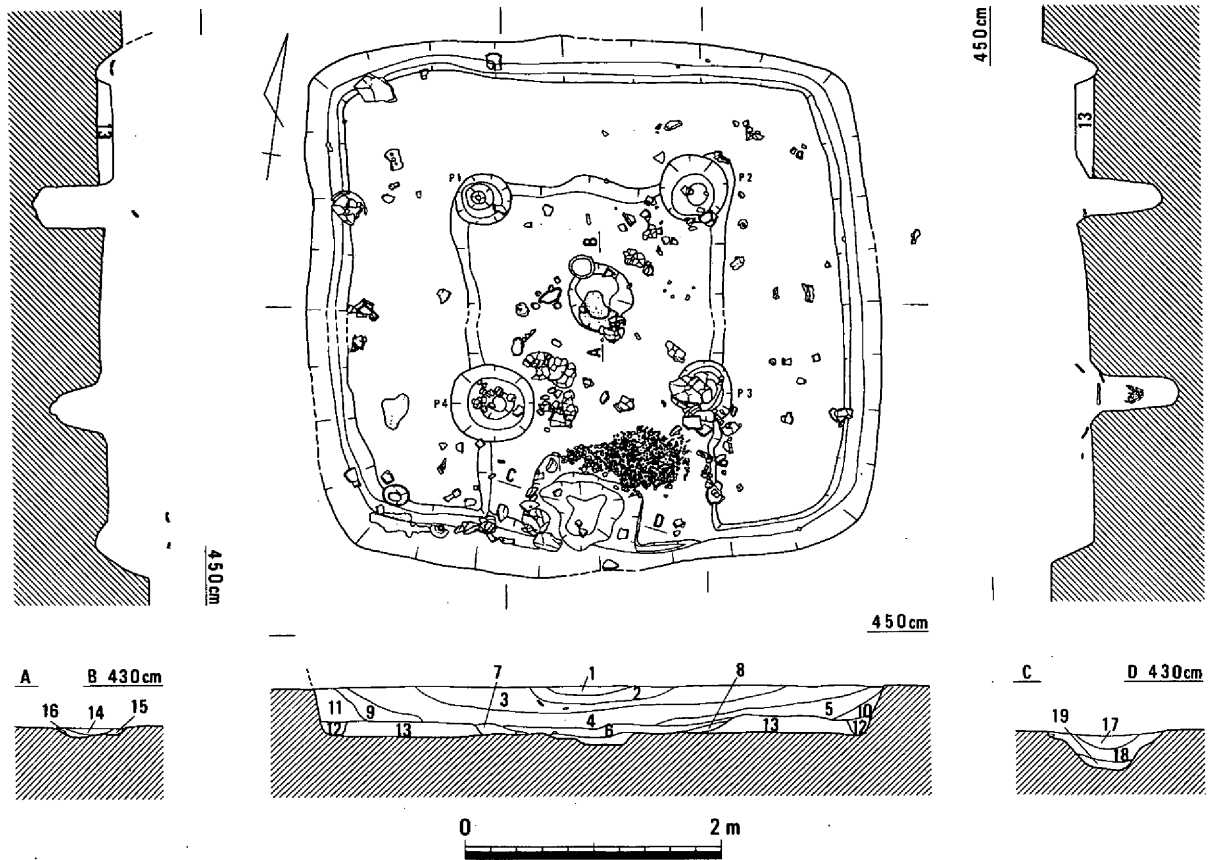
第238図 竪穴住居-214出土遺物

竪穴住居-215 (第239~241図)

○17区の南東、橋脚(P2区)に所在し、竪穴住居-214の北北東2.5mに位置する。長さ450cm、幅430cm、床面積15.1㎡、床面海拔高373cmをはかる方形で小形の住居である。南側を除く三方向に「コ」字形の高床部を設け、約10cm低い床面(5㎡)には4本の柱穴、中央穴、方形土壇と砂利敷きがみられる。柱間は157~171cmをはかり、床面中央に位置する中央穴の南側底に焼土面が形成されている。この中央穴焼土面は高床部の設けてない方向、あるいは方形土壇が所在する方向に存在する傾向が認められる。

第3章 調査区の概要

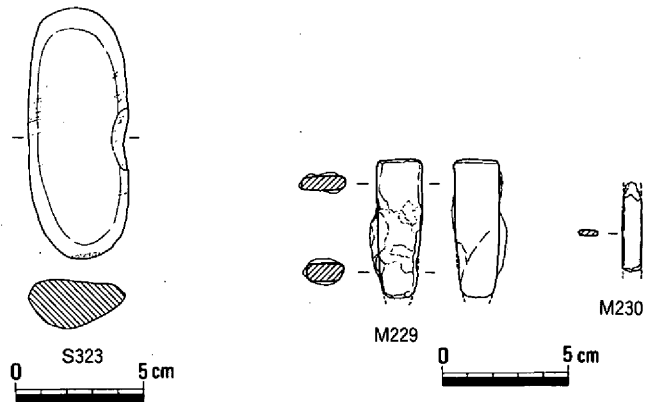
遺物は住居内全体に散布しており、住居廃棄後に投入されたものであろう。しかし、P-3では柱を抜き取り後に土器の埋納がみられることより、廃棄に伴う何らかの行為が実施されている。6122～



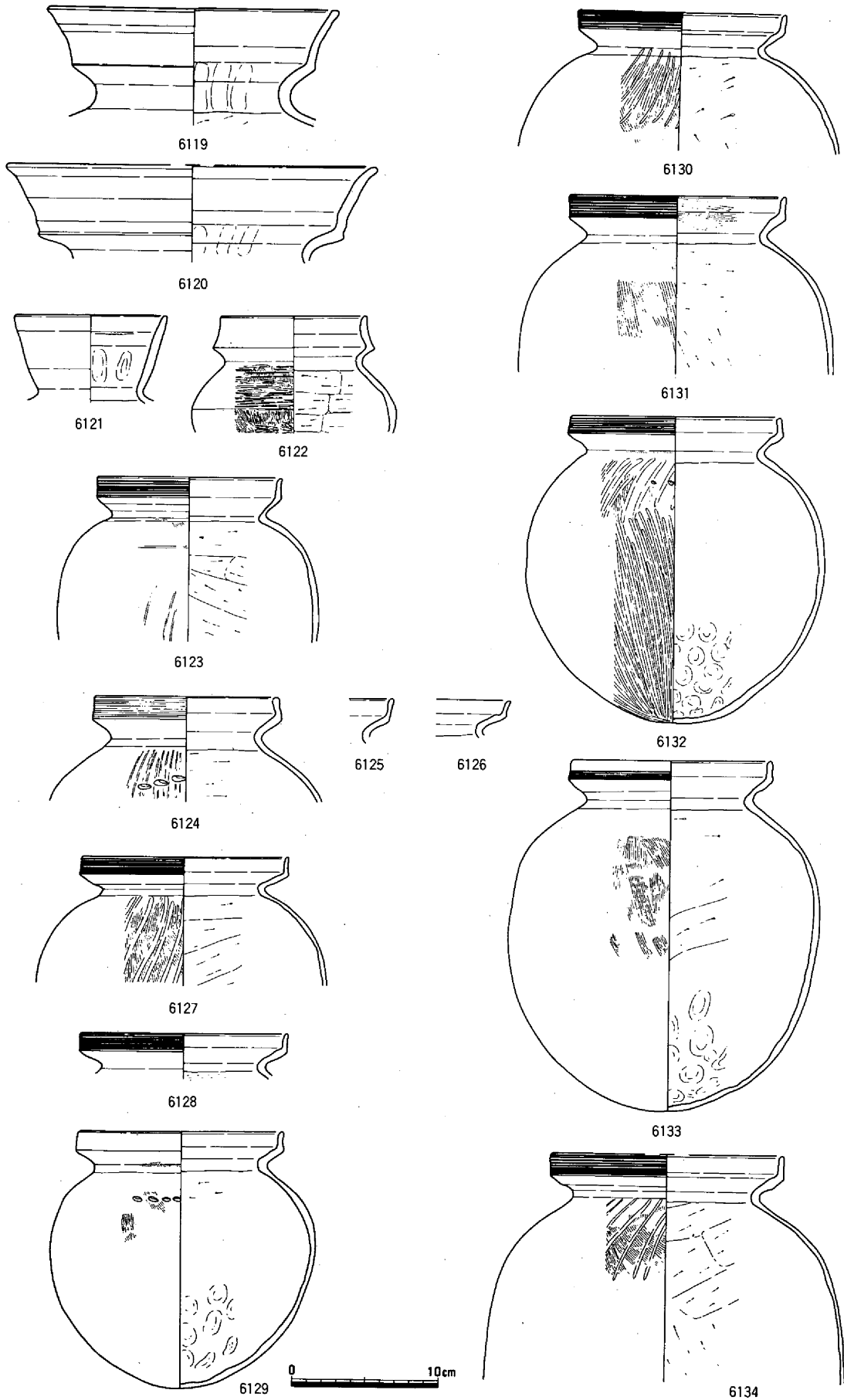
- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 灰黄褐色粘質土 | 11 淡暗黄褐色やや砂質土 (10より黄色が強くMn含む) |
| 2 暗茶褐色やや粘質土 (炭を含む) | 12 暗濃黄褐色やや粘質土 |
| 3 黄褐色やや粘質土 | 13 暗濃黄褐色粘質土 |
| 4 淡暗黄褐色やや砂質土 | 14 炭・焼土混土 |
| 5 淡暗黄褐色やや砂質土 (4よりやや粘質) | 15 黄灰色土 |
| 6 淡暗黄褐色やや粘質土 | 16 焼土 |
| 7 淡暗褐色やや粘質土 | 17 暗灰黄色土 |
| 8 淡暗黄褐色やや粘質土 (6より黄色い) | 18 暗黄褐色土 |
| 9 濃暗黄褐色やや粘質土 | 19 暗黄色粘質土 |
| 10 淡暗黄褐色やや砂質土 (4、5よりやや濃い) | |

6135、6137～3140、6145、6147～6149、6153等は比較的早い時期に投棄されたようであり、6124、6125、6127、6129、6153はP-3の埋土後の柱穴上にまとまって出土した甕、鉢である。これらの甕には外面の調整が省略されたものがあわれている。

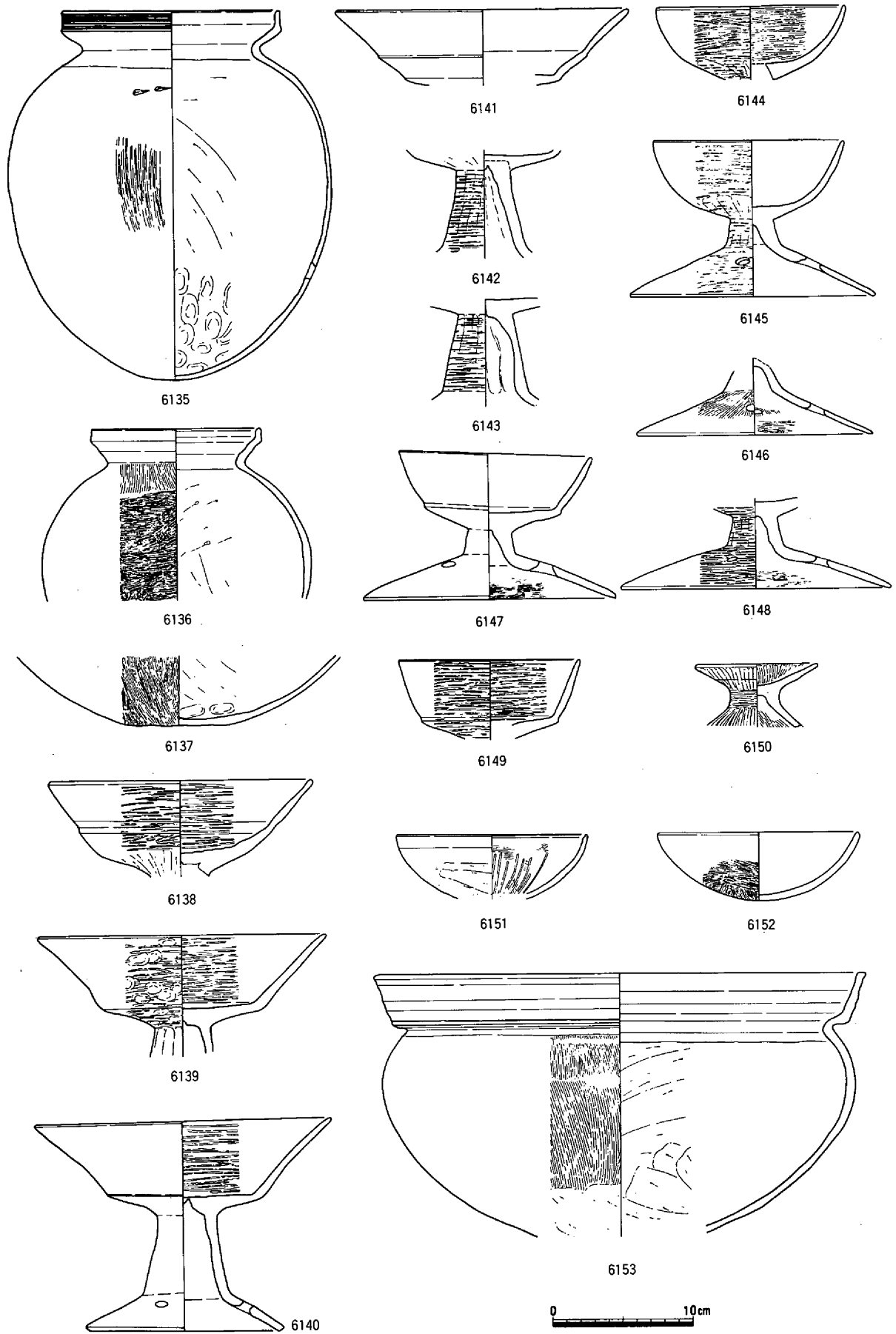
古・前・IIの古相に比定することが可能である。 (高畑)



第239図 竪穴住居-215(1/60)・出土遺物(1)



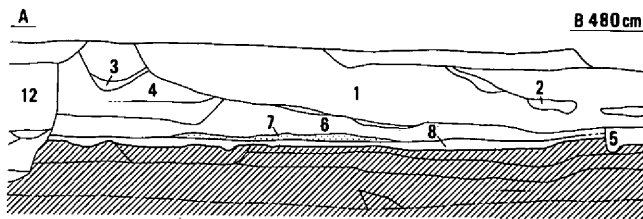
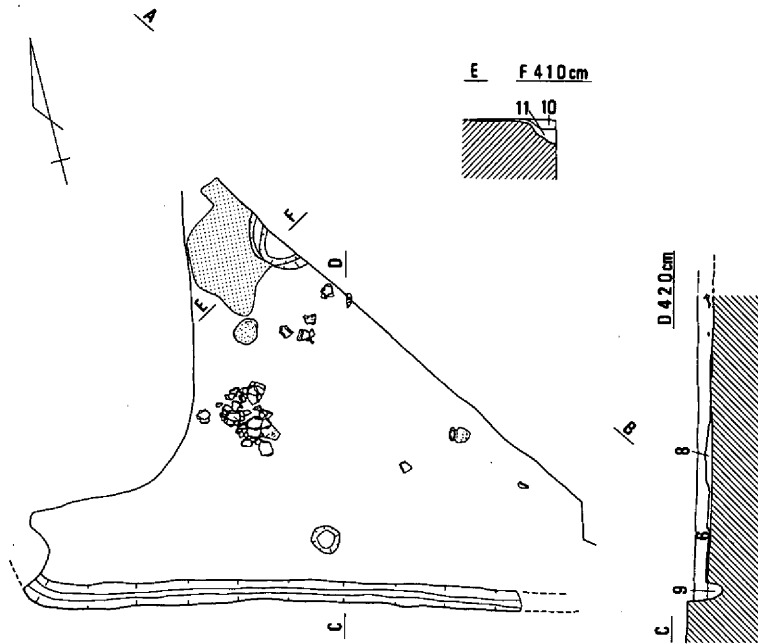
第240図 竪穴住居-215出土遺物(2)



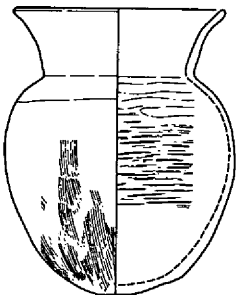
第241図 竪穴住居-215出土遺物(3)

竪穴住居-216 (第242)

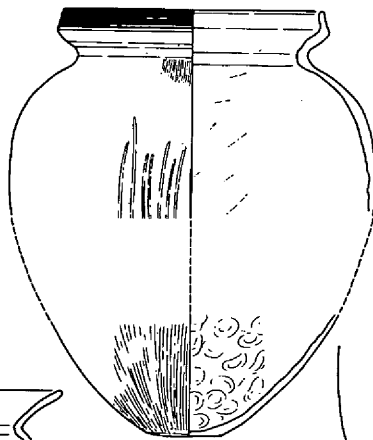
○17区の中央南、橋脚 (P 1 区) に所在し、古・前・Ⅱの古相の竪穴住居-218に切られ、竪穴住居-217の北東4 mに位置する。住居南辺の壁体溝と少しの床面が残り、西側は竪穴住居により約半分が削平されている。床面海拔高393cmをはかり、床面には中央穴、小穴が認められる。中央穴は約60cmの円形にて深さ17cm以上と推定され、中央穴西側には100×50cmの範囲



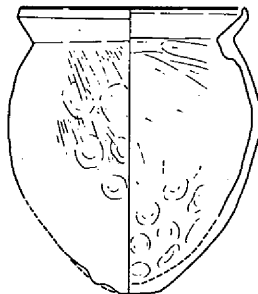
- 1 暗灰色微砂
- 2 灰色黄褐色粘土の互層
- 3 暗灰茶色微砂
- 4 暗茶灰褐色微砂
- 5 暗茶灰褐色粘質微砂
- 6 暗茶色粘質微砂
- 7 炭
- 8 貼り床
- 9 暗茶灰色粘質 (少々) 微砂
- 10 暗灰白色微砂
- 11 炭 (暗茶灰色微砂に含まれる)
- 12 灰黒色粘質微砂 (竪穴住居-埋土)



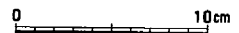
6154



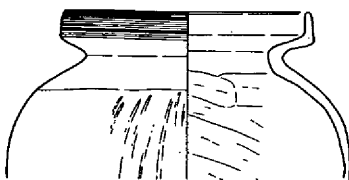
6157



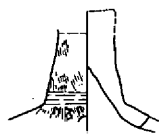
6158



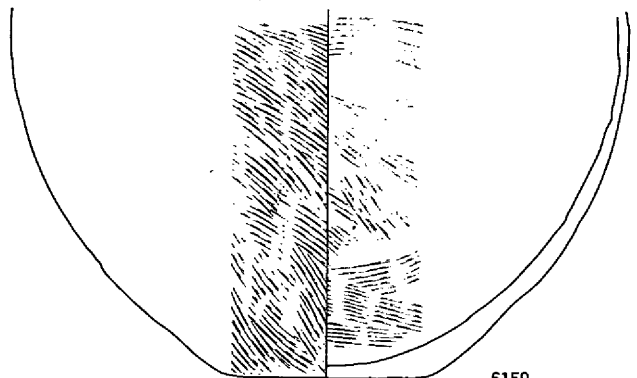
6155



6156



6160



6159

第242図 竪穴住居-216 (1/60)・出土遺物

に炭が分布する。小穴は直径20cm、深さ約8cmをはかる。方形の住居であり、おそらく高床部の存在しない構造と考えられる。

遺物は6158を除けば、すべて住居内床面の出土であり、廃絶期を示す土器と考えられる。6154は完形品であり、口径11cm、最大径12cm、器高15.1cmをはかる。色調は鈍い橙色を呈し、精良な胎土の壺である。6157～6159は平底を残す土器であり、古・前・Iの中相に比定できる。 (高畑)

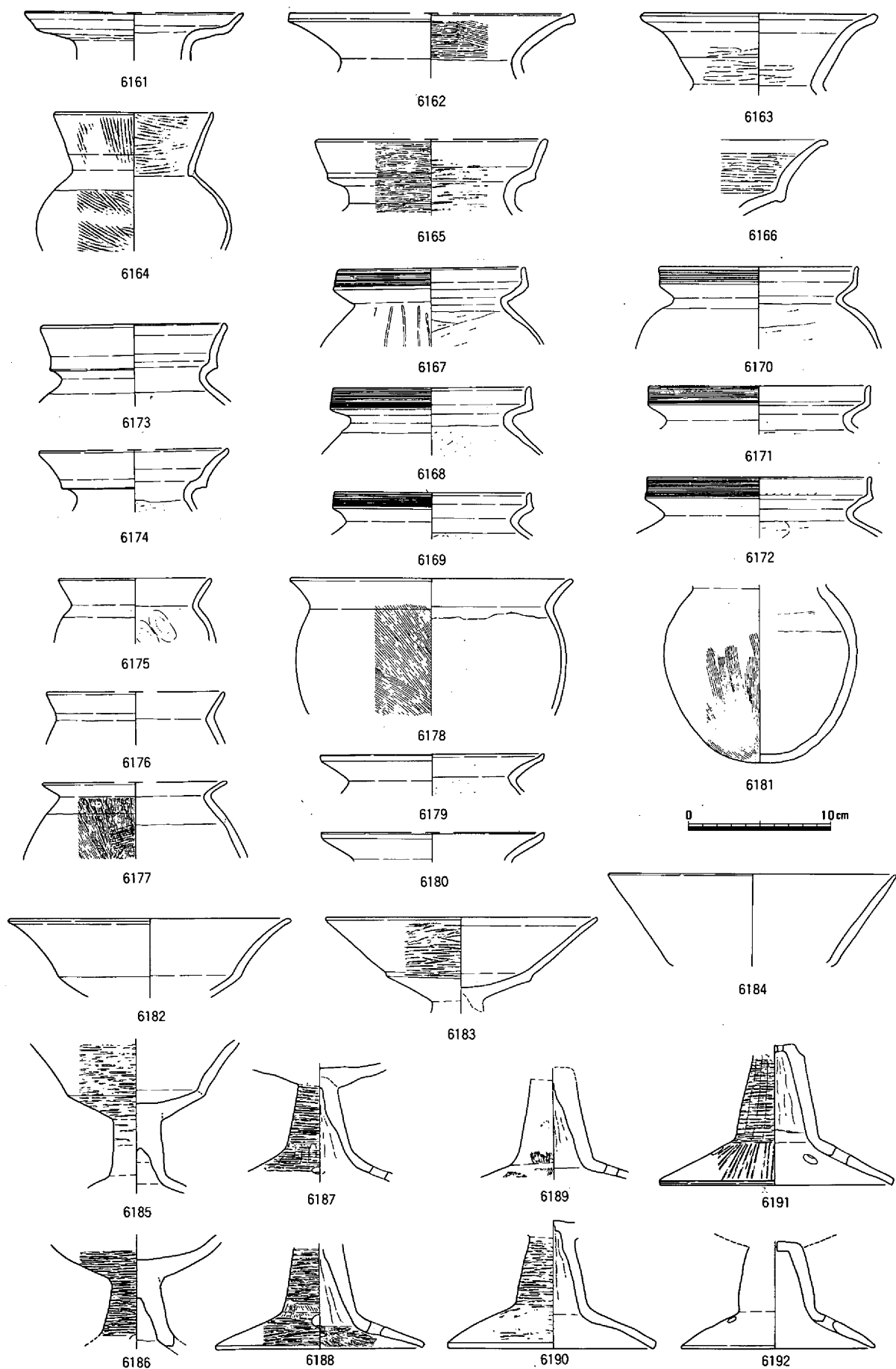
竪穴住居-217 (第243～245図)

○17区の中央南、橋脚 (P1区) に所在し、竪穴住居-216の南西4mに位置する。長さ400cm、幅380cm、床面積13.38㎡、床面海拔高388.6cmをはかる方形の竪穴住居である。現存する壁の高さは75cmをはかり、床面には壁体溝、支柱穴2、中央穴、方形土壇が付設されている。柱間は158cmをはかり、その中間に62×47cm、深さ10cmで北側に焼土面をもつ中央穴がみられる。1回の作り変えが認められる。中央穴より方形土壇の間は長さ185cm、幅135cmの粘土による貼床があり、その中央にかけて炭分布が認められる。方形土壇は段をもつ通常のものであるが、上段の浅い土壇の平面形が他のものと異なる。方形土壇は17cmの深さであり、西南部に3cm以下の砂利による敷石がみられる。

遺物は住居内の南西部に散布しており、ほとんど床面から浮いた状態であり、河原石等が土器片とともに投棄されている。壺6164、高杯6187、6189が床面近くの出土である。6167～6172の甕、6182～

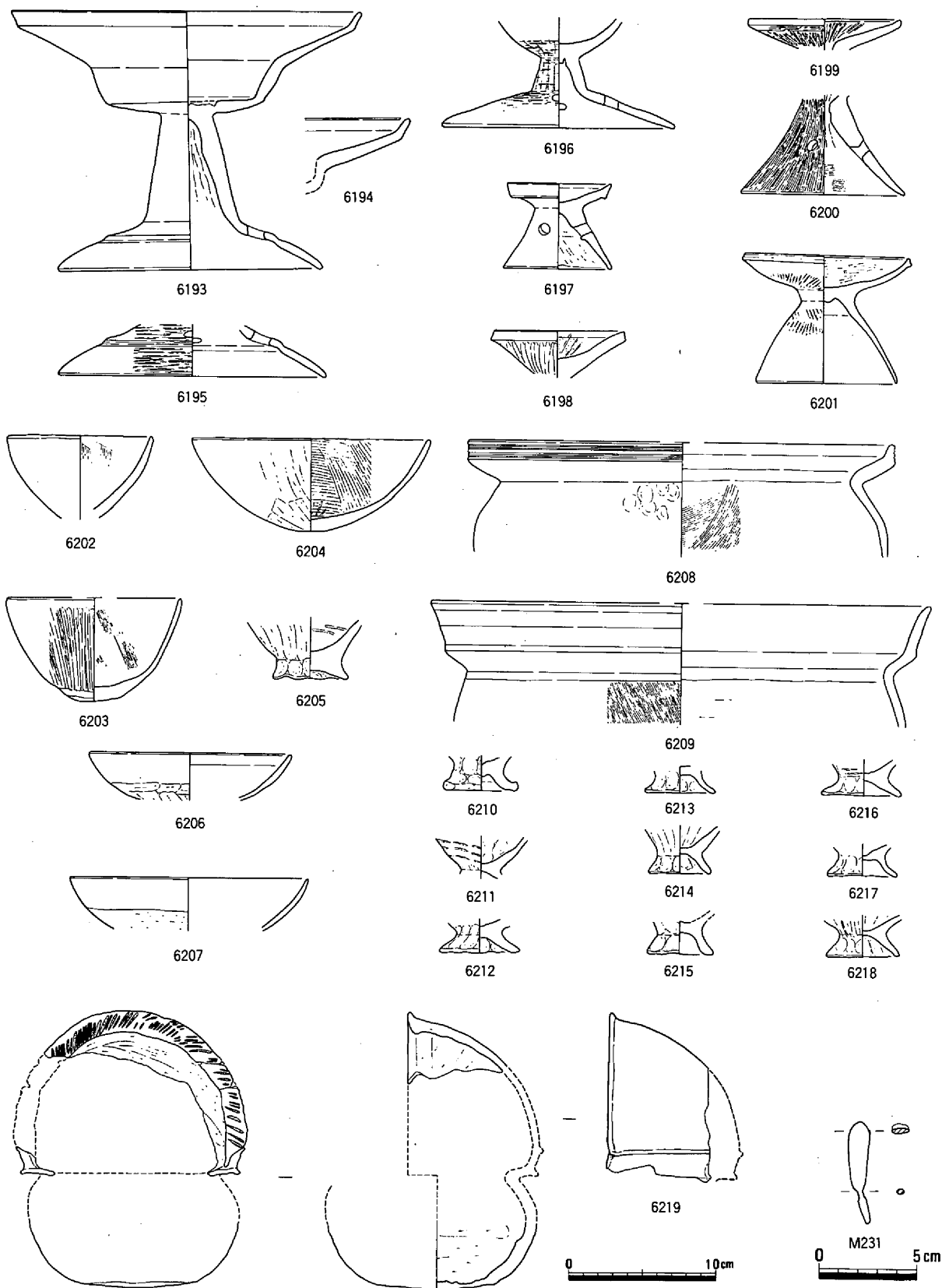


第243図 竪穴住居-217 (1/60)



第244図 竪穴住居-217出土遺物(1)

6192の高杯脚6202~6207の鉢は時期差が認められ、古・前・Ⅰの中相で廃棄され、古・前・Ⅱの古相段階まで遺物の投棄が継続されている。Ⅰ-Ⅱの土層断面には地震による液状化現象の噴砂が認めら

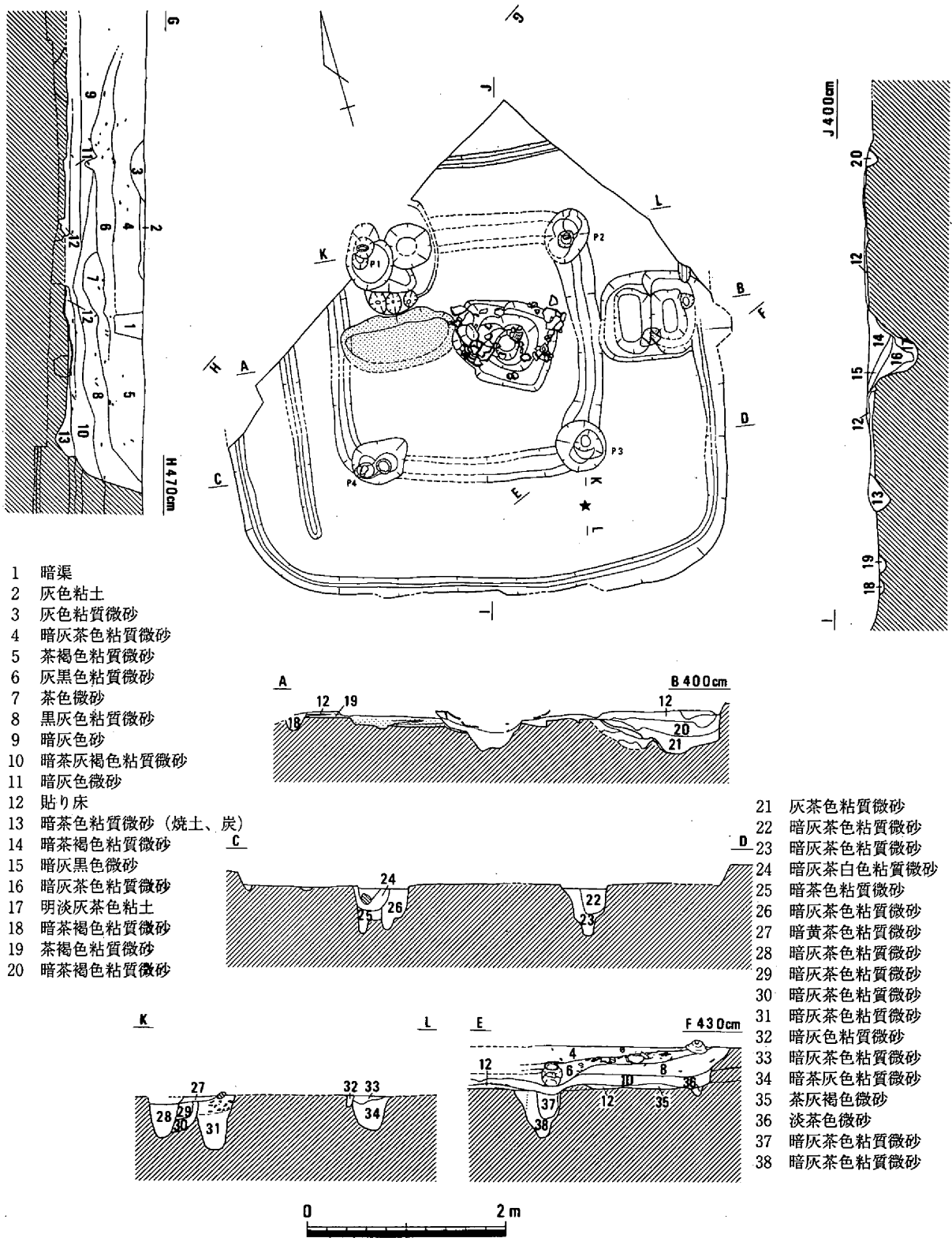


第245図 竪穴住居-217出土遺物(2)

れる。第14層の灰茶色砂である。本住居の床面を破り、埋土を貫通している。 (高畑)

竪穴住居-218 (第246~258図)

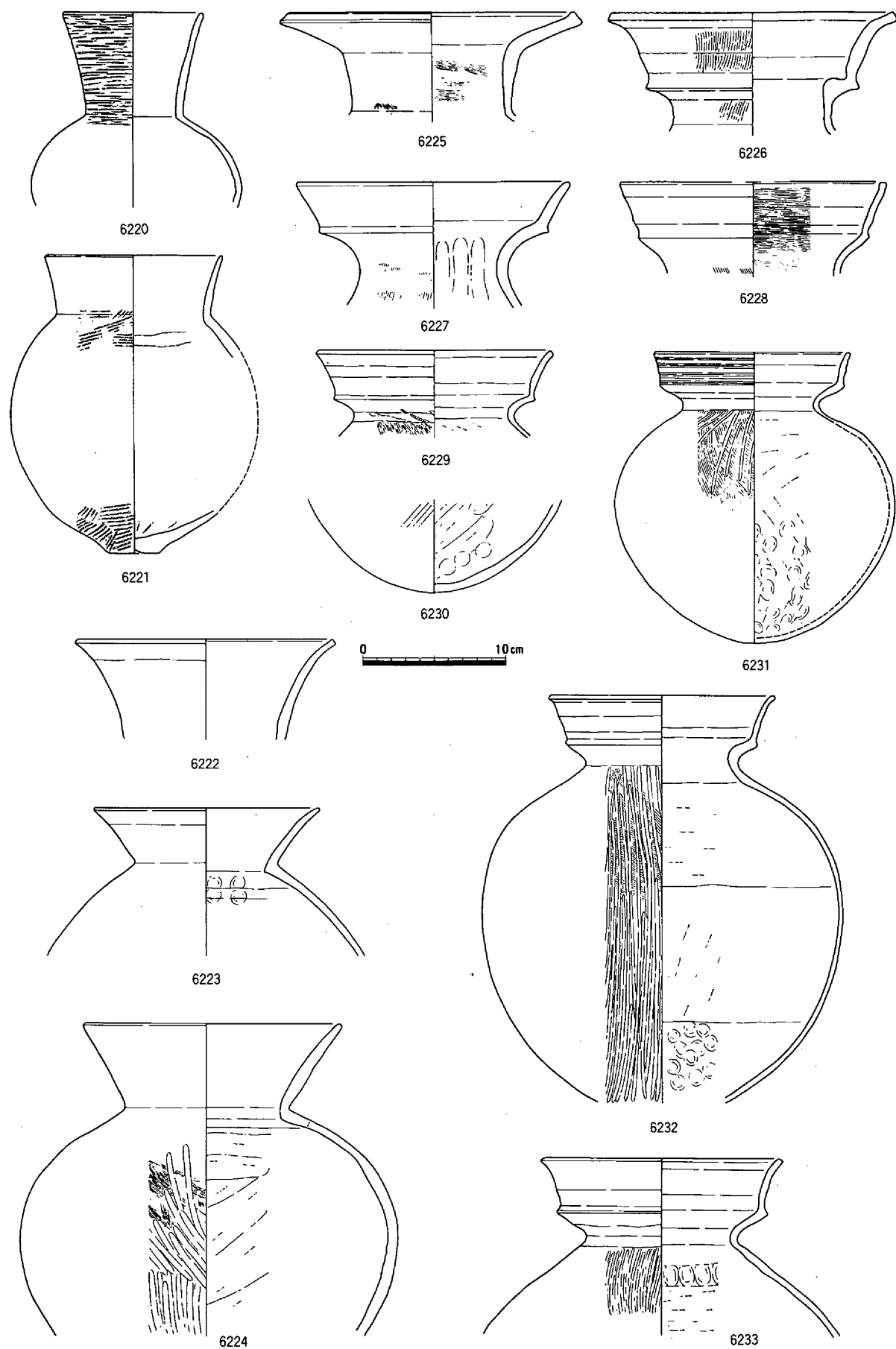
O17区の中央南、橋脚 (P1区) に所在し、竪穴住居-217の北東3.5mに位置する。古墳時代中期の竪穴住居-313に切られ、古・前・Iの竪穴住居-216を切る方形の竪穴住居である。長さ496cm、



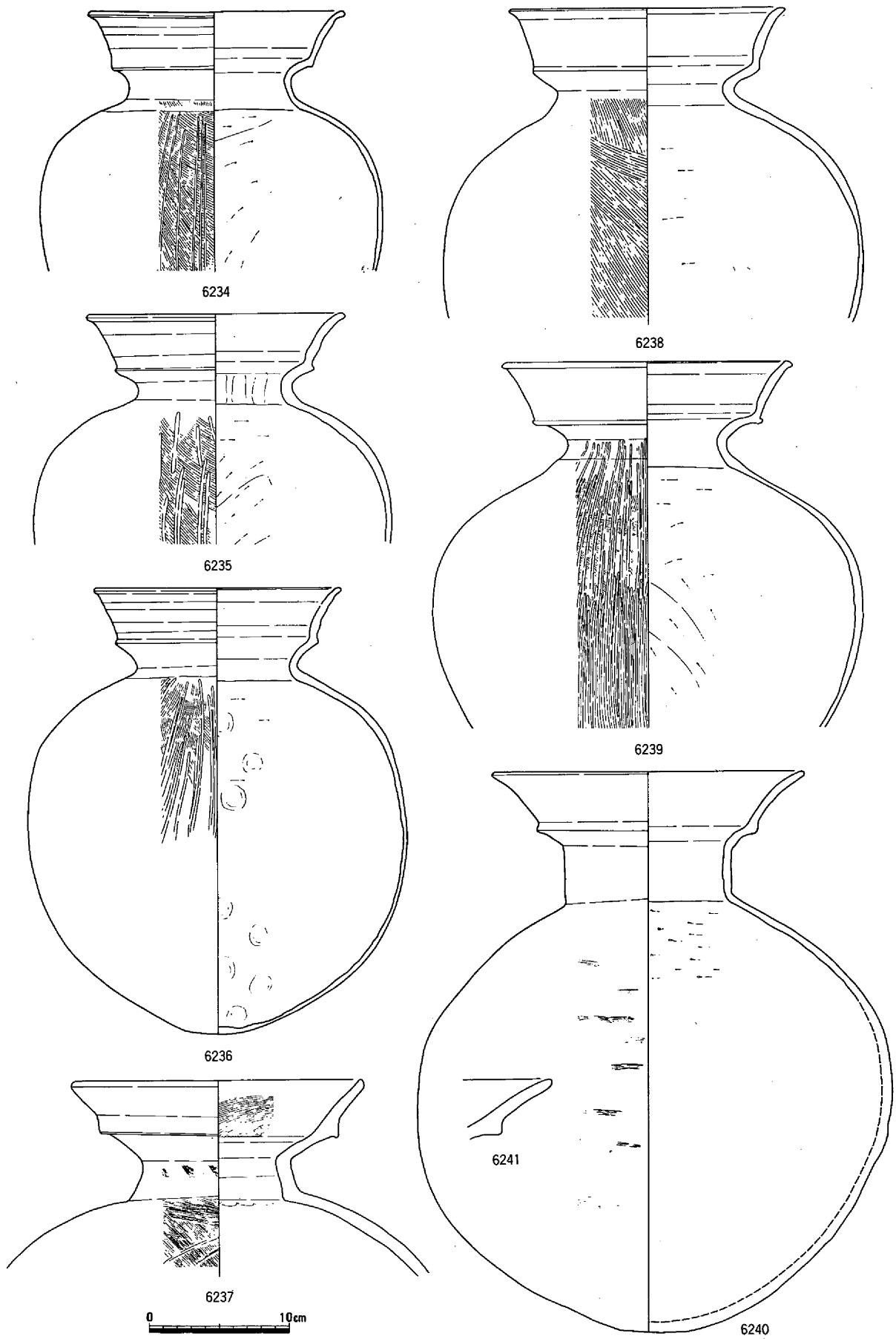
- 1 暗渠
- 2 灰色粘土
- 3 灰色粘質微砂
- 4 暗灰茶色粘質微砂
- 5 茶褐色粘質微砂
- 6 灰黒色粘質微砂
- 7 茶色微砂
- 8 黒灰色粘質微砂
- 9 暗灰色砂
- 10 暗茶灰褐色粘質微砂
- 11 暗灰色微砂
- 12 貼り床
- 13 暗茶色粘質微砂 (焼土、炭)
- 14 暗茶褐色粘質微砂
- 15 暗灰黒色微砂
- 16 暗灰茶色粘質微砂
- 17 明淡灰茶色粘土
- 18 暗茶褐色粘質微砂
- 19 茶褐色粘質微砂
- 20 暗茶褐色粘質微砂

- 21 灰茶色粘質微砂
- 22 暗灰茶色粘質微砂
- 23 暗灰茶色粘質微砂
- 24 暗灰茶白色粘質微砂
- 25 暗茶色粘質微砂
- 26 暗灰茶色粘質微砂
- 27 暗黄茶色粘質微砂
- 28 暗灰茶色粘質微砂
- 29 暗灰茶色粘質微砂
- 30 暗灰茶色粘質微砂
- 31 暗灰茶色粘質微砂
- 32 暗灰色粘質微砂
- 33 暗灰茶色粘質微砂
- 34 暗灰茶色粘質微砂
- 35 茶灰褐色微砂
- 36 淡茶色微砂
- 37 暗灰茶色粘質微砂
- 38 暗灰茶色粘質微砂

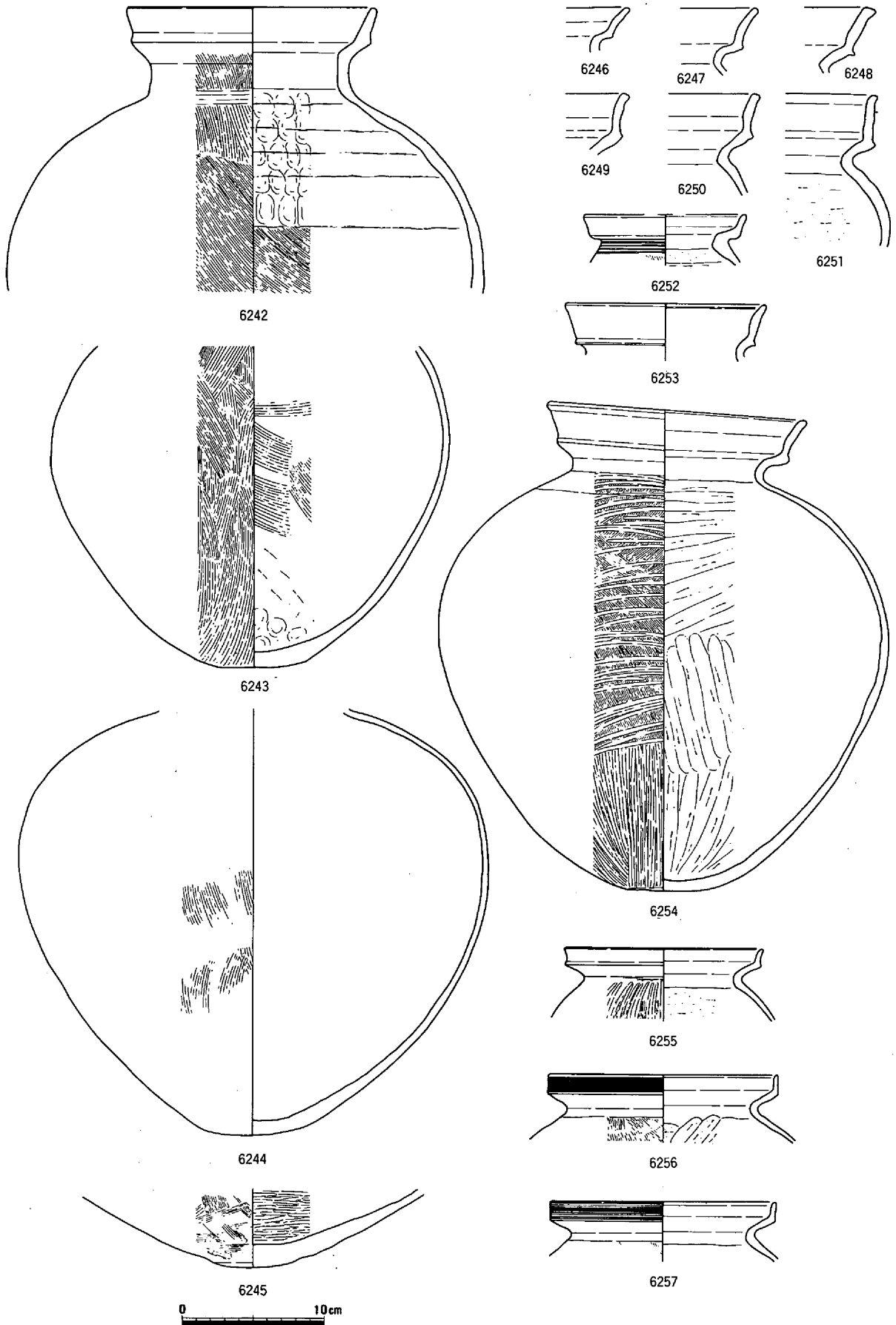
第246図 竪穴住居-218 (1/60)



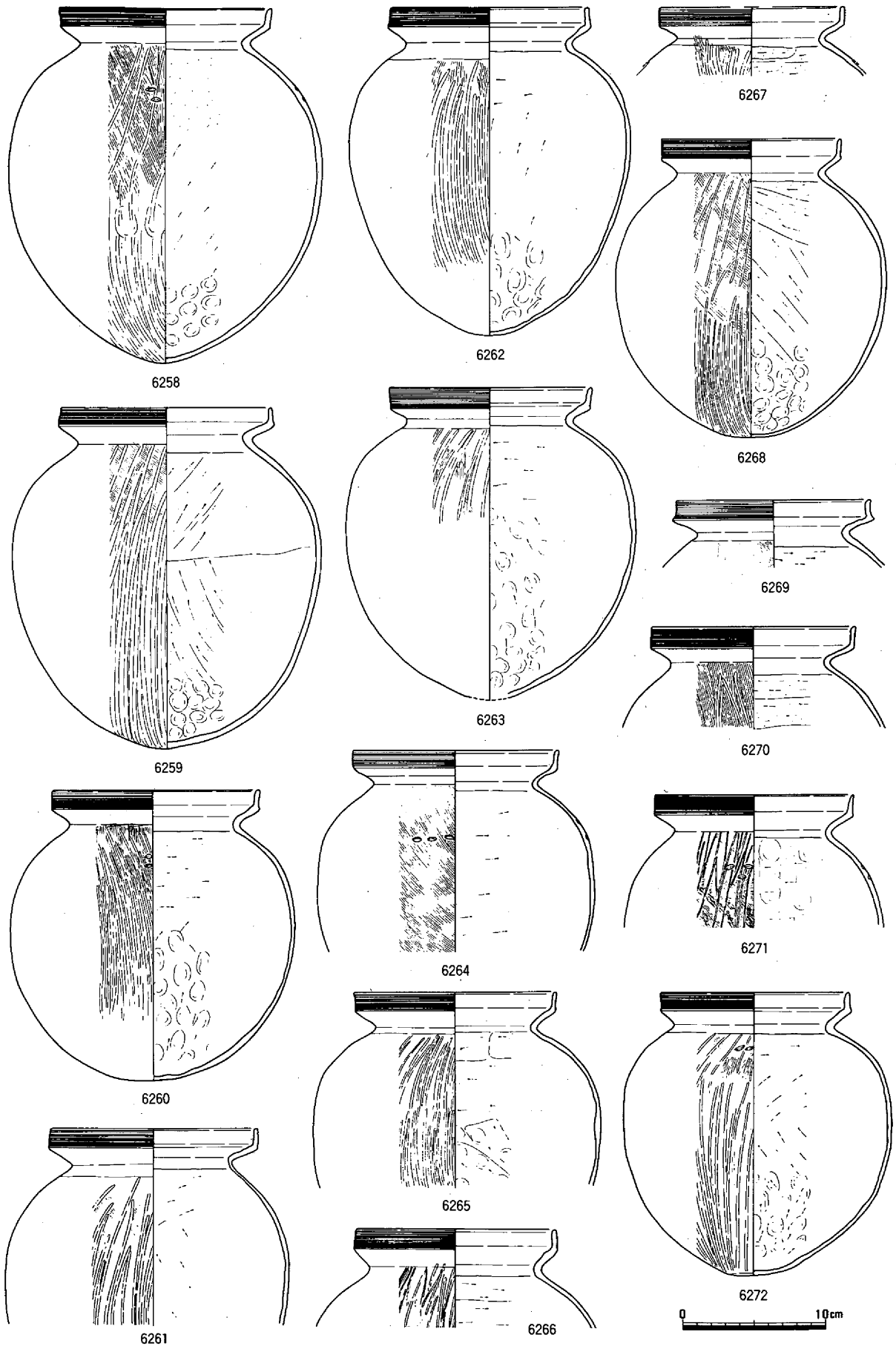
第247図 竪穴住居-218出土遺物(1)



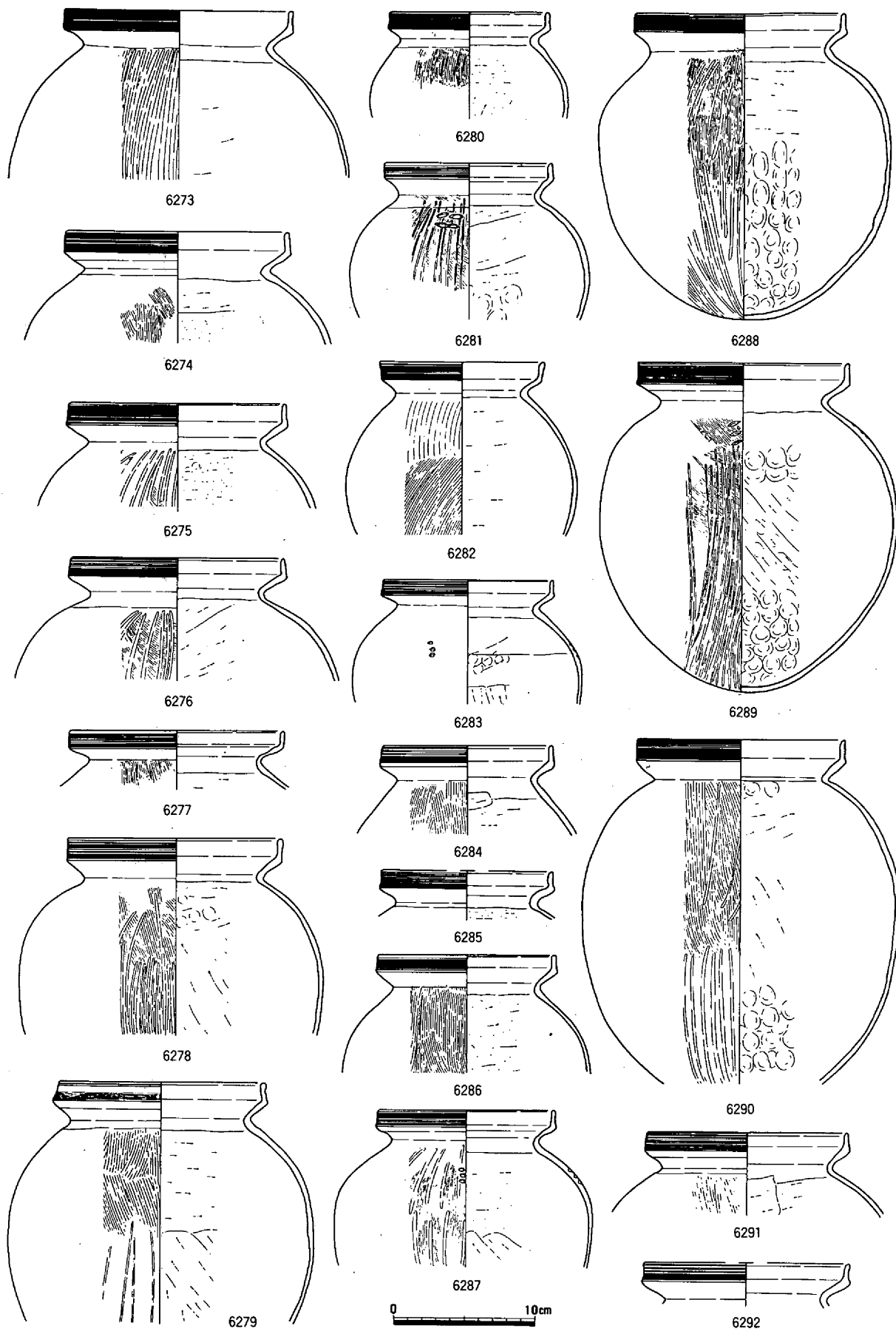
第248図 豎穴住居-218出土遺物(2)



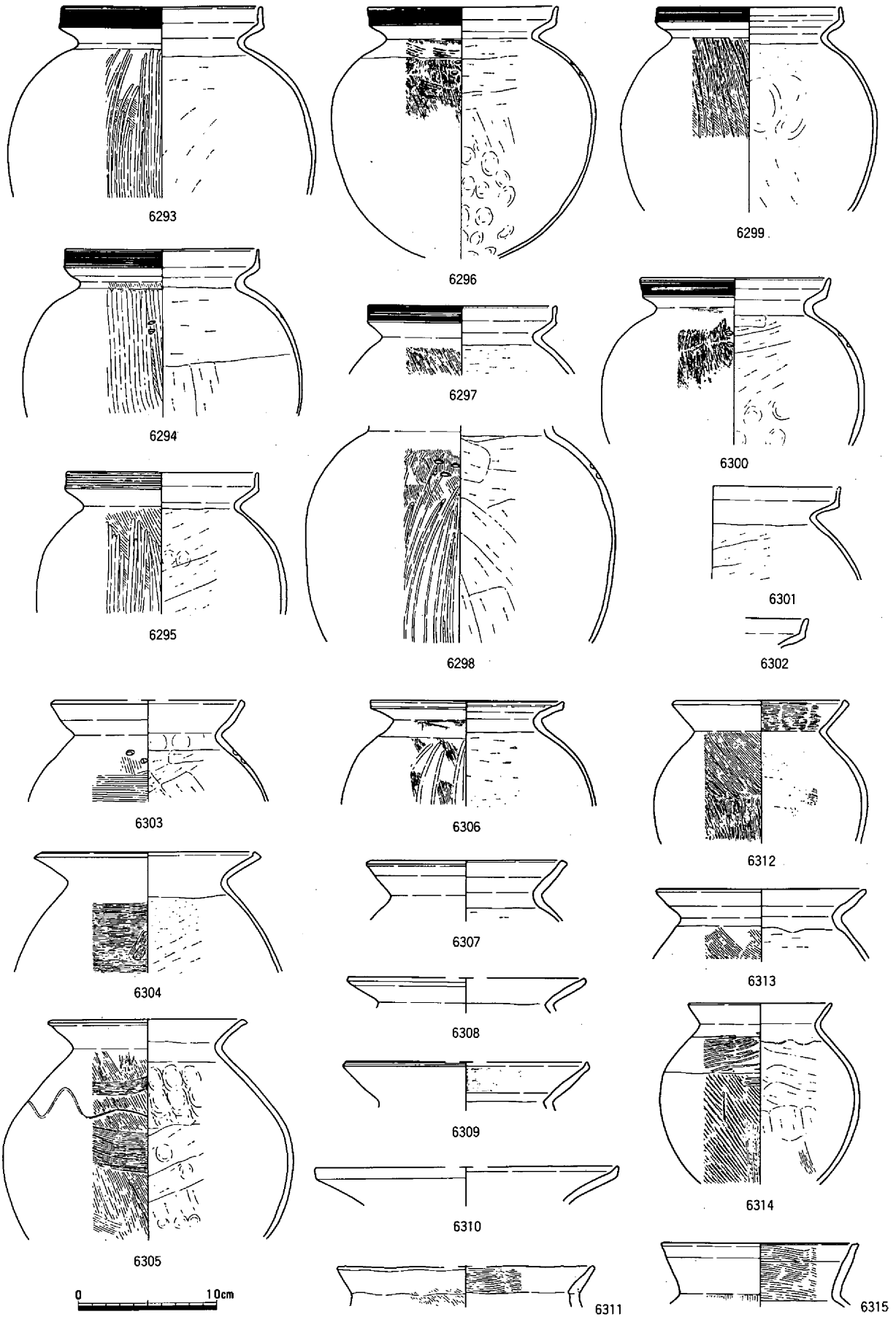
第249図 竪穴住居-218出土遺物(3)



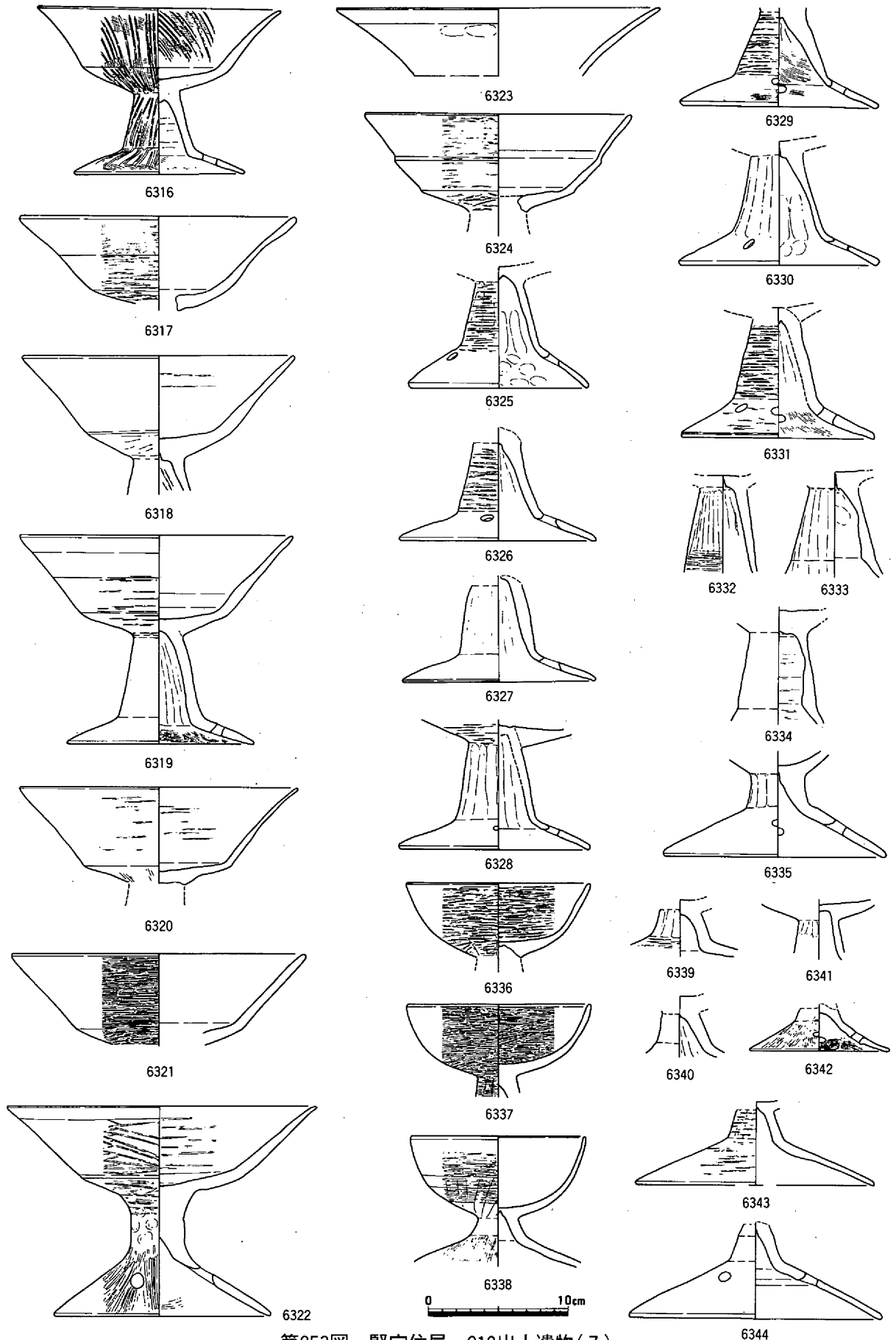
第250図 豎穴住居-218出土遺物(4)



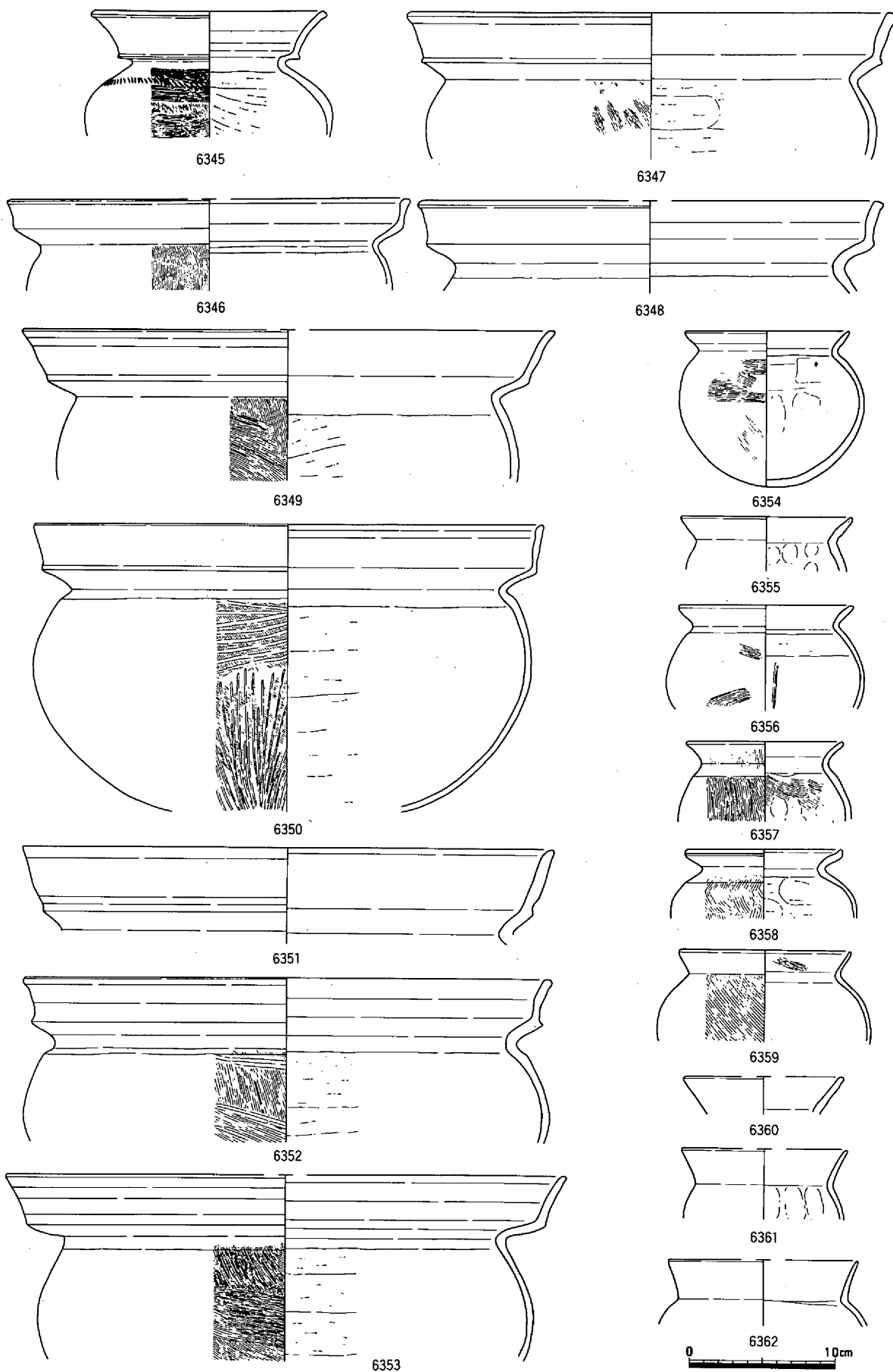
第251図 竪穴住居-218出土遺物(5)



第252図 竪穴住居-218出土遺物(6)



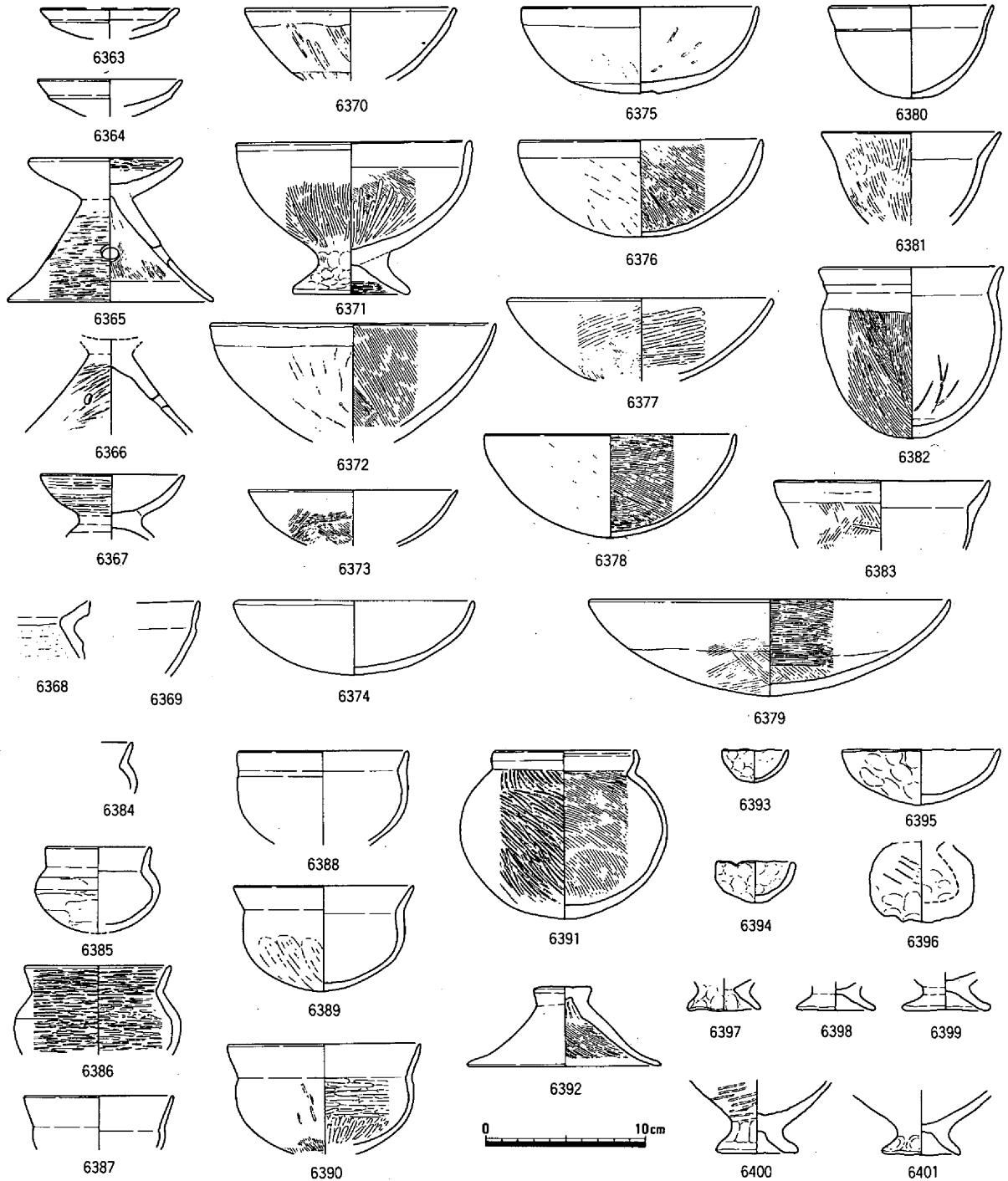
第253図 竪穴住居-218出土遺物(7)



第254図 豎穴住居-218出土遺物(8)

第3章 調査区の概要

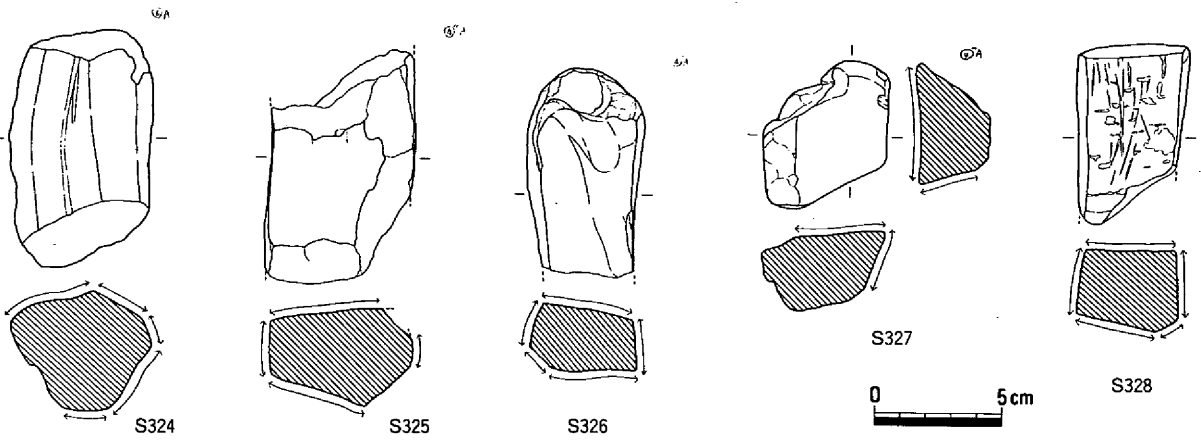
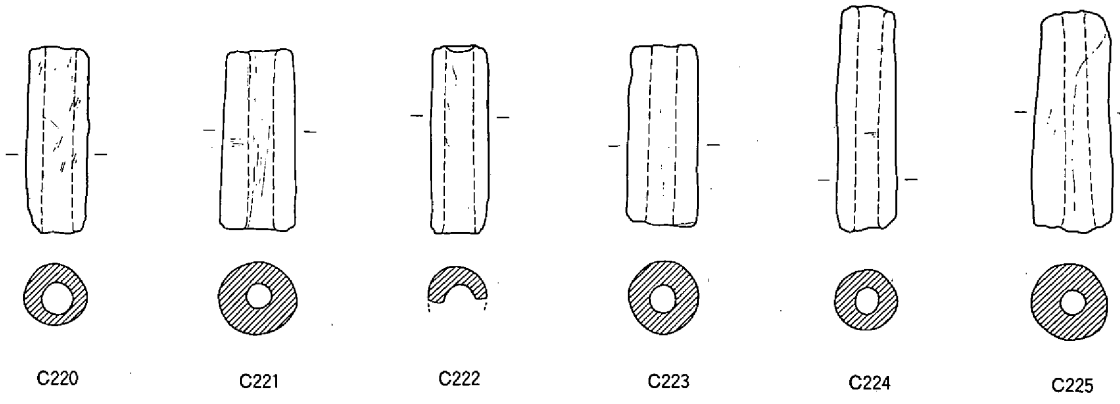
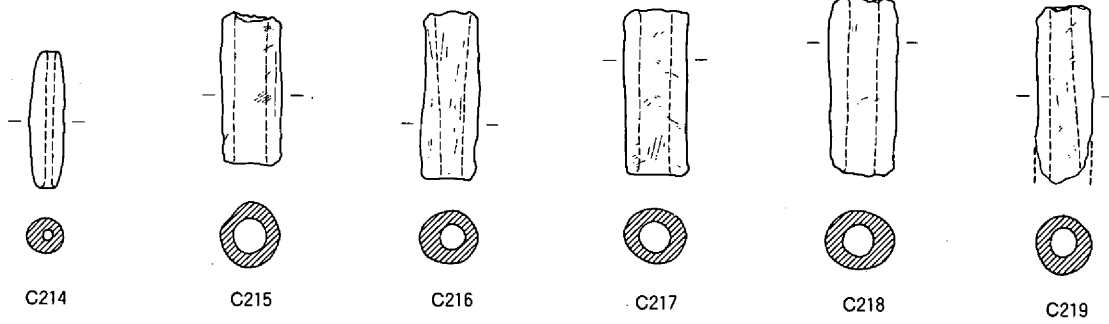
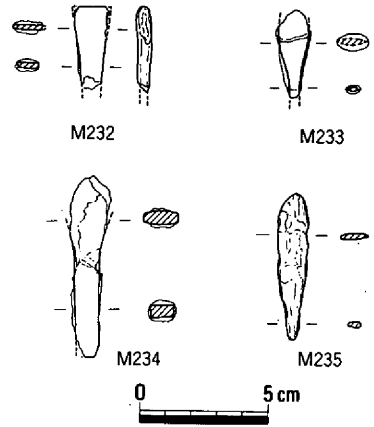
幅(494)cm、床面海拔高365cmをはかり、小形の住居から一回り拡張された住居である。床面には壁体溝、P-1~P-4の主柱穴、東壁に方形土壇、中央穴、中央穴西に炭の詰った土壇がみられ、本住居より1段階古い、長さ、幅ともに約370cmの方形住居の付設遺構との重複、切り合いが認められる。四方に高床部を設け、床面との比高差3~8cm、中央穴は西側の古い中央穴の東を掘り、古いものを取り込んで大きくしている。長さ100cm、幅85cmの不整形の内側に長さ60cm、幅54cmの円形土壇を設け、深さ30cmをはかる。埋土は第4層~第11層であり、多くの土器片を含んでいる。なかでもE-F断面の第6層に多く、ほぼ同レベル全域にみられ、土器溜りの形状を呈している。おそらく、



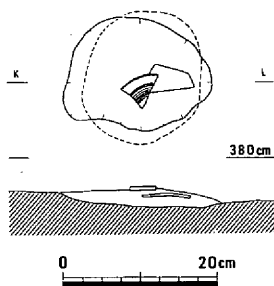
第255図 竪穴住居-218出土遺物(9)

周辺住居におけるまとまった廃棄処分の状況と考えられる。

遺物は第8層～第11層の間層をもつことから、住居廃棄後に少し時間が経過して投棄されたと考えられる。また、P-3の南側30cmで出土した鏡片は第10層の下位、床面近くではあるが鏡片の下に土器片が認められ、住居廃棄後の投棄と考えられる。すなわち、ほとんどの遺物が住居使用時に直接伴うものではないと考えられる。ここでは壺、甕、高杯、鉢、手捏ね土器、製塩土器等182点、鉄器4点、土錘12点、砥石5点、鏡片1点を掲載した。他に多くの土器小片があり、高

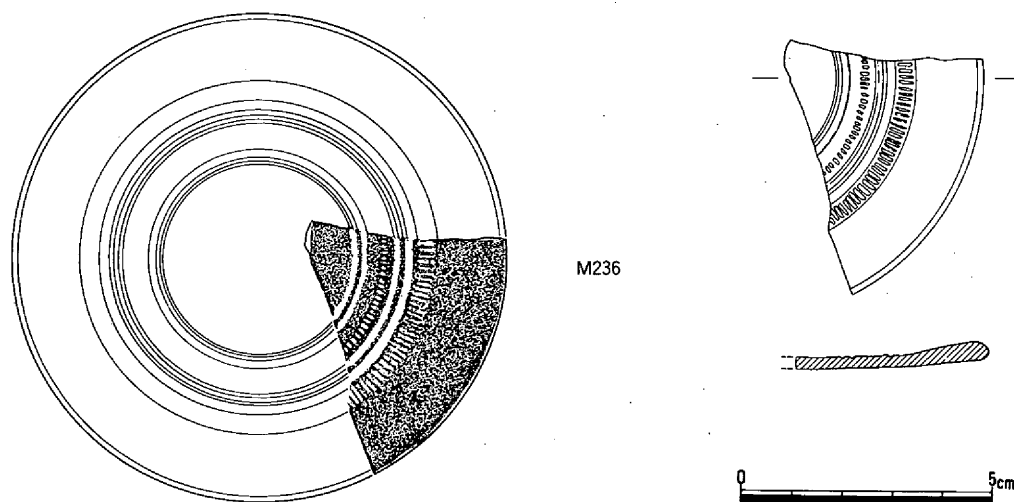


第256図 竪穴住居-218出土遺物(10)



第257図 鏡出土状況
(1/10)

杯脚だけでも50点を数え、甕6288の形態・規格(780g)では、およそ20個体分の破片が残っている。壺、甕ともに底部の丸底化が進んでいるが、6221のタタキの甕、6244、6245の大形壺に平底、あるいは器壁の厚い底部が認められる。甕6256～6302の類は丸底であり、口縁部に施される櫛描き沈線文は5～11条まであり、7条が最も多く、8・9・7・6条の順にみられる。47個体中の器外面に煤の付着したものが半数ほどみられ、調整では肩部に2～4個の米粒状の圧痕文が12個体に認められる。甕6303～6305の器外面には文様状にヨコハケの



第258図 竪穴住居-218出土遺物(11)

調整があり、6303のように米粒状の圧痕が施されたものがある。高杯では6322、6325、6326、6330、6331、6334のように透し穴が3孔あるものが比較的多く認められる。鉢は大形品が目立ち、口径28cm～39cmのものがある。これらには煤の付着は認められない。6357、6358、6382の小物に煤の付着がみられる。6379は口径22.6cm、器高6.1cmをはかり、器内外面は横位、斜位のハケメ調整である。色調はにぶい橙色を呈し、1mm前後の白色小砂粒を含み、底面に黒斑が認められる。他にラップ底の製塩土器の破片がみられ、土製品では管状の土錘がある。

M236は床面から約2cm浮いた状態で鏡背を上にして出土しており、床面との間にはさらに6×4cmの土器片を含む。出土地点は平面が19×14cmの不整形で、浅い凹地状を呈するが、床面の凹凸の一部と考えられる。また、鏡片の周囲18×15cm範囲の土色が他と異なっていたが、染み付いた漠然とした状況であり、鏡の成分等の影響により変化した可能性が考えられる。

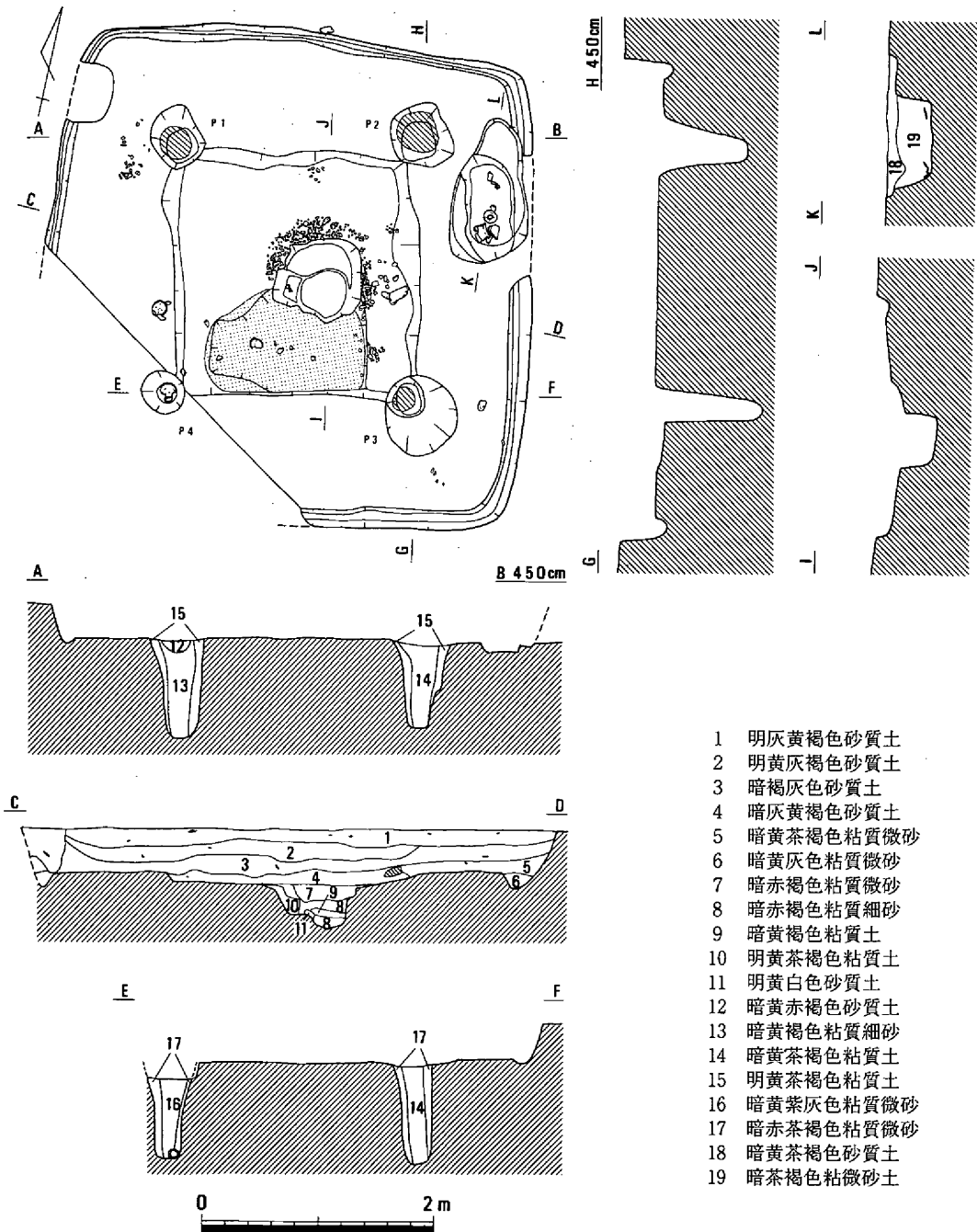
鏡片は直径10.15cmをはかる内行花文鏡の約1/5にあたり、三角形状を呈し、重さ18.21gをはかる。連弧文様を花卉に見たてれば四花文であろう。鏡縁部5.4cm、中心に向い3.9cmまでが残り、外縁より櫛歯文帯、圈文2条、櫛歯文帯、圈文2条、そして内行花文帯へと続くが、鈕は欠損している。鏡背には丹が付着している。破鏡後の割れ口は入念に研磨され、円滑な仕上げとなっており、この状態で使用されたものと思われる。現在も鏡面にはぼんやりと物が写り、今も光沢を放っている。

以上の状況から、鏡をも含めほとんどの遺物が住居廃棄後に投げ込まれたことを物語っている。

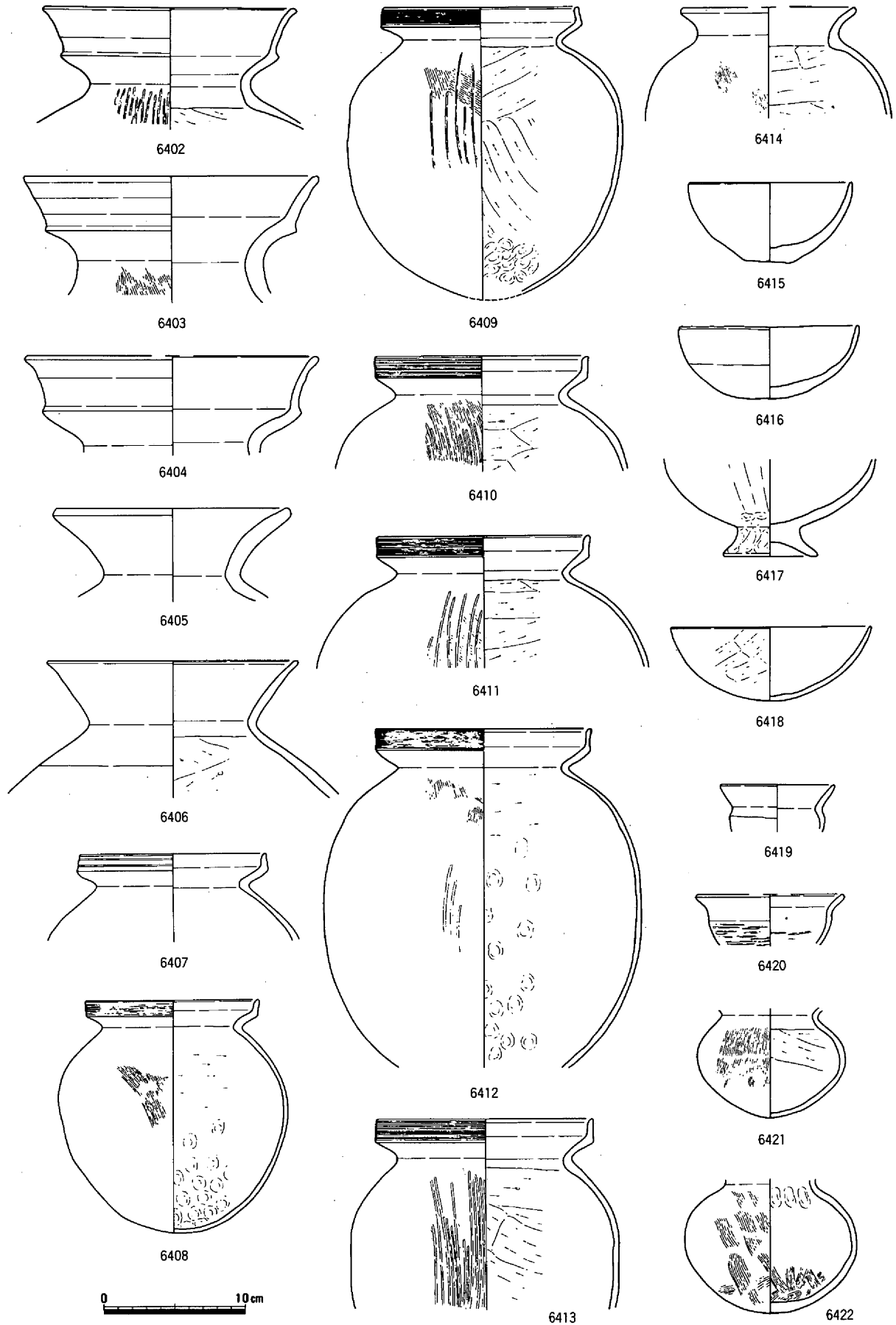
M6、M237、M271の鏡を出土した3軒の住居は古・前・Ⅱに比定でき、ほぼ同時期に同じ行為が存在したことが理解できる。本住居は3軒のうちでは若干古相を呈している。 (高畑)

竪穴住居-219 (第259~262図)

○17区の南東端、盛土(M8Ⅰ区)に所在し、建物-54の南東約4mに位置する。長さ424cm、幅418cm、床面積約16㎡、床面海拔高388.8cmをはかる正方形の竪穴住居である。床面より約10cm高い幅約100cmの床部を四方に設け、方形土壇と支柱穴4本を配する。柱間は北辺220cm、東辺232cm、南辺205cm、西辺215cmをはかり、平均218cmのほぼ方形であり、4柱穴ともに直径約15cmをはかる柱痕跡が認められる。方形土壇は住居北東隅に近い場所にあり、125×66cm、深さ10cmの不整楕円形土壇の

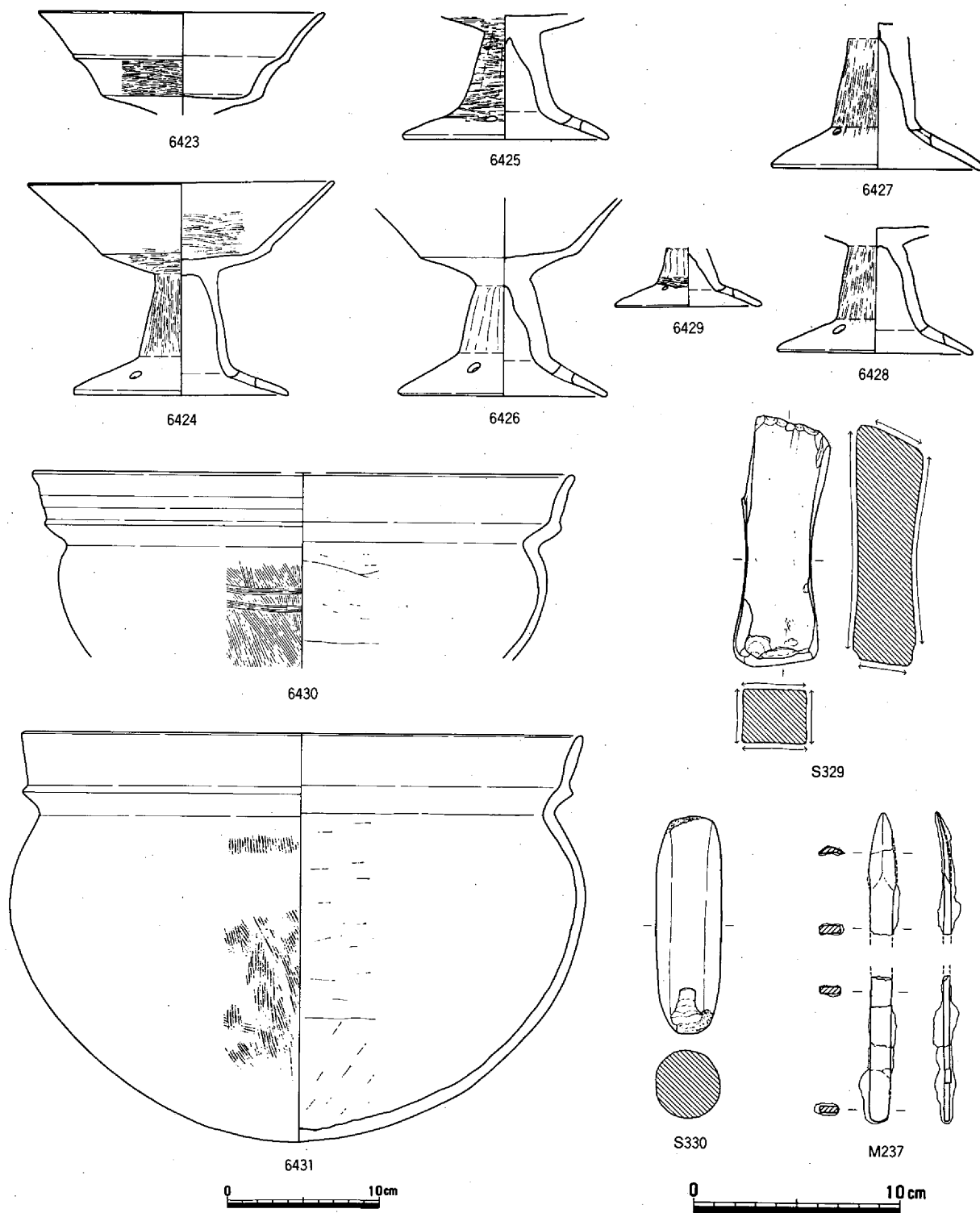


第259図 竪穴住居-219(1/60)

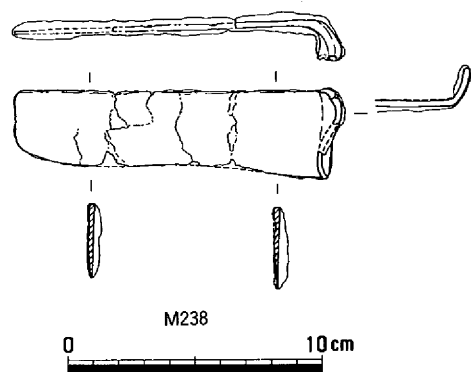


第260図 竪穴住居-219出土遺物(1)

内側に90×40cm、深さ24cmの隅丸長方形の土壙を南に寄せて掘り込んでいる。床面には2段からなる中央穴があり、上段は150×145cm、深さ10cm前後にて方形を呈し、下段は90×90cm、深さ42.5cmをはかり、不整円形を呈する。中央穴の北側周縁を中心に幅30~40cmで直径10cm未満の砂利が敷かれており、この構造は竪穴住居-206、214にみられるものと同様である。中央穴南側には140×90cm、深さ6~7cmをはかる土壙が併設されており、炭、焼土塊等を多く含んでいる。これも竪穴住居-214に

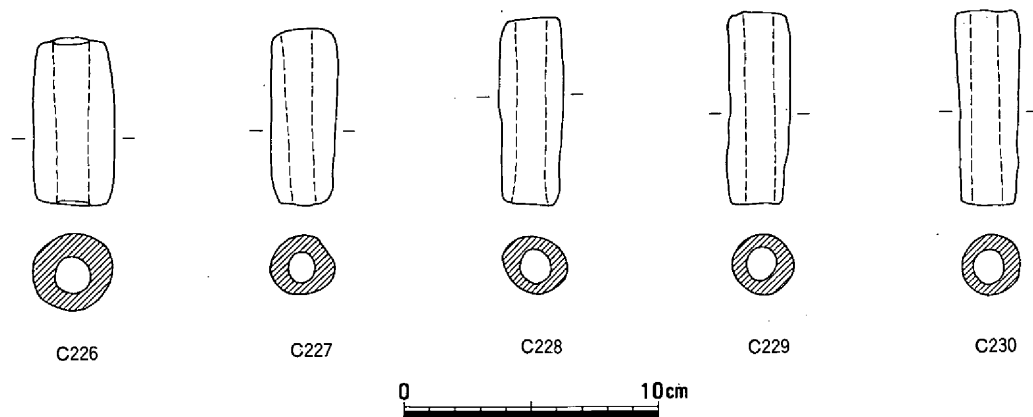


第261図 竪穴住居-219出土遺物(2)



みられる配置状況に近いものであるが、焼土面は確認していない。住居規模は内部構造の類似する竪穴住居-206、214とは異なり、一回り小さい竪穴住居-210、215に近いものである。四方に高床部、深い中央穴、炭の入った浅い土壇をもつ竪穴住居から、3方に高床部、開口方向に方形土壇をもつ竪穴住居に移行する過渡的な様相とも見ることが可能である。

遺物は埋土中のものが中心であり、壺6405、高杯6425がP-4内、鉢6420がP-2内、壺6422、甕6410が方形



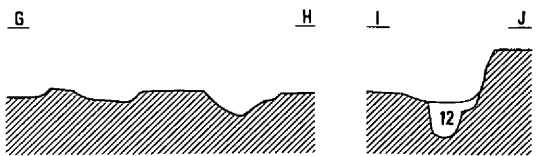
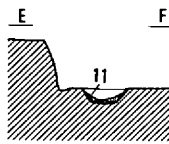
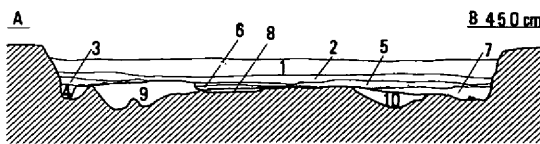
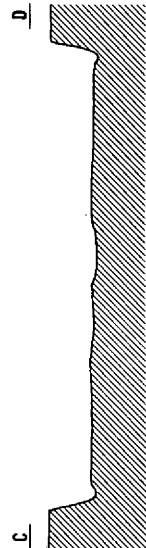
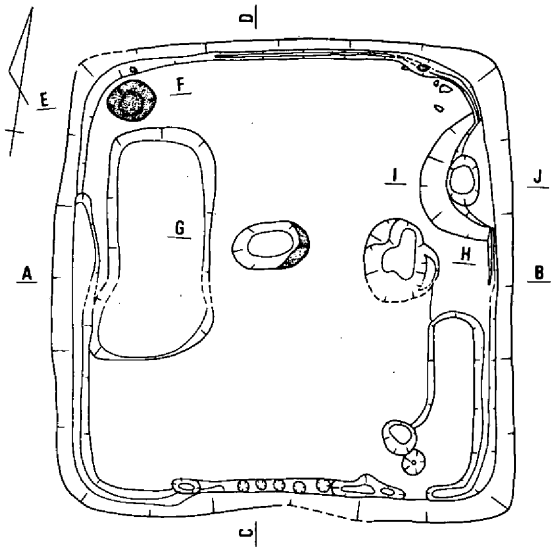
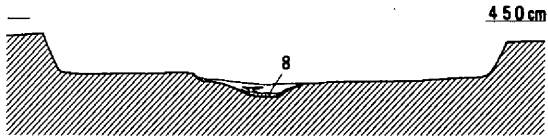
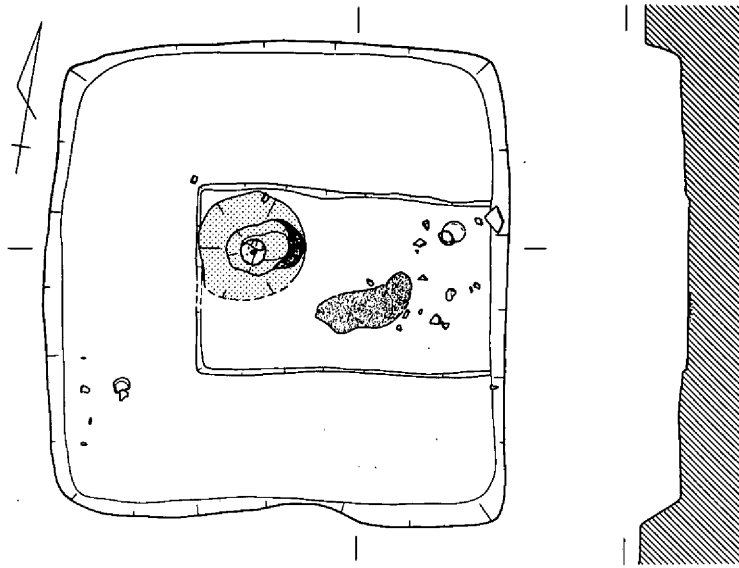
第262図 竪穴住居-219出土遺物(3)

土壇内、高杯6423、鎌M238が床面近くから出土している。6405は器内外面ともに被熱痕跡がみられる。6425は柱穴底に近い所からの出土である。埋土中からは廃棄されたと考えられる30個体以上の土器が出土しており、器種では6407~6413、6423~6428等の甕、高杯が多く、他の器種の出土数をうわまわっている。他には少し欠損した砥石、敲石、さらに鉄器(鉋)の完形に近いもの、土錘の完形品等がみられる。ただ単純に廃棄したとは考えがたい一面を持っている。甕6408~6414は器外面に煤が付着しており、甕6406、台付鉢6417は被熱痕跡をとどめる。6408~6414等の甕は穀物の煮沸に使用された痕跡を内面底にとどめ、ごはんの一部が焦げてしまい付着している場合がある。ここでは容量が2ℓ未満から5ℓ以上までの甕が認められる。高杯は脚裾部の透し穴が3孔のものばかりであり、中空の脚部である。

時期は古・前・Iの新相から古・前・IIの古相にかけてのものと考えられる。(高畑)

竪穴住居-220 (第263・264図)

O17区の中央やや東、竪穴住居-226~228の1m東側に位置する。長さ378cm、幅364cm床面積11.58㎡、床面海拔高400cmをはかり、南北に少し長い方形の竪穴住居である。東辺を除く北、西、南の3方に高床部を設けており、床面より7~8cm高くなる。南辺に開口部を設ける住居が多い中で、東の方向に開口部を設ける住居は珍しく、今回は2~3軒であるが、内部構造にまでは一致が及ばない。高床部には施設はなく、200×150cmをはかる床面には中央穴と焼土面がみられる。中央穴は床の北西隅にあり、直径約85cmの浅い土壇内に60×60cmの土壇が設けられており、床面から底部まで15cm



- 1 茶褐色粘質微砂
- 2 暗褐色土
- 3 茶色微砂
- 4 鈍い橙色
- 5 暗灰茶色粘質砂
- 6 炭層
- 7 暗灰色粘質微砂
- 8 灰・炭混土
- 9 灰茶橙色砂質土
- 10 暗灰茶色粘質砂
- 11 暗茶色砂質土
- 12 暗灰茶褐色+鈍い橙色粘質土

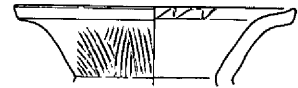
をはかる。土壙内全体が1.5～2 cmの炭層に覆われており、炭を除去すると小土壙の東壁焼土面があらわれ、西側底部には逆転した高杯がみられた。床面中央には80×30cmをはかる焼土面がみられる。

遺物は中央穴内から高杯6438、高床部から高杯6439、床面から甕6435が出土しており、6432、6434、6436、6437、S 331が埋土中からである。甕6435は丸底化が進んでおり、6436にみられる口縁屈曲部の鋭さもなく、古・前・Iの新相から古・前・IIの古相に比定できるものと考えられる。

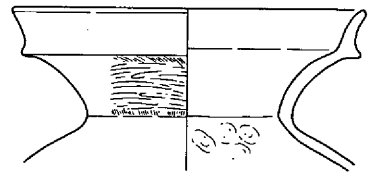
さらに、高床部、床面除去後に壁体溝、中央穴、焼土壙、土壙等



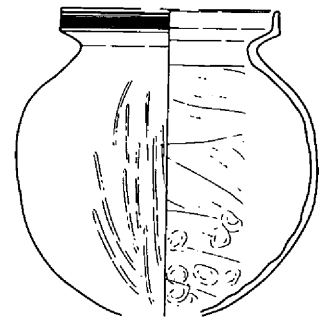
6432



6433



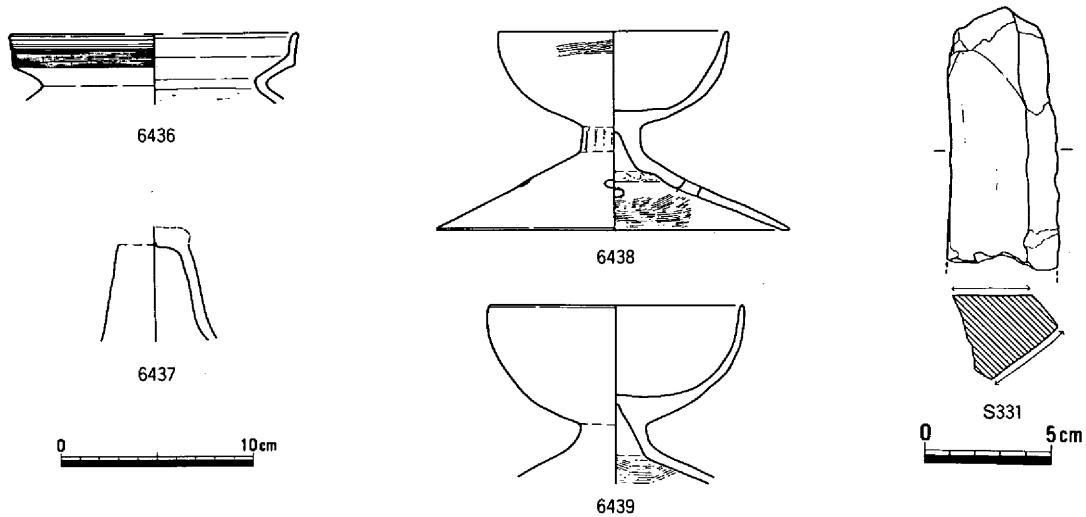
6434



6435

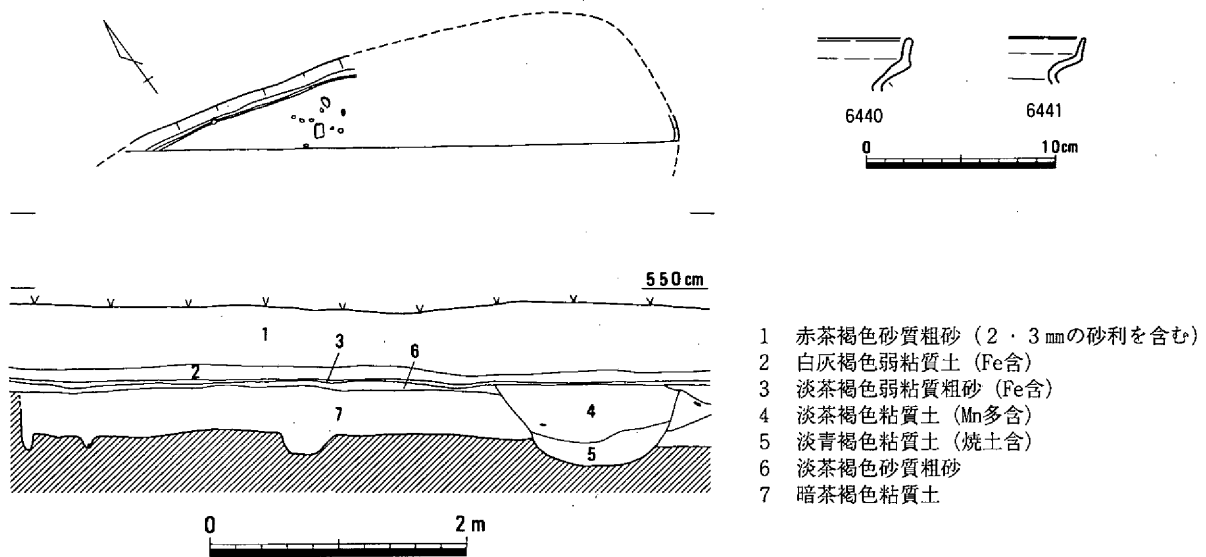


第263図 竪穴住居一220(1/60)・出土遺物(1)



第264図 竪穴住居-220出土遺物(2)

があらわれている。第4層、第8層、第9層、第10層、第11層、第12層が下位遺構の埋土である。北西隅の38×32cm、深さ11cmをはかる土壇底面は焼土化しており、厚さ約2cmの炭層が堆積している。また、中央にも第1床面とはほぼ同規模の中央穴があり、土壇東側内壁が焼土化しており、二か所の火所があったことがわかる。どの土壇にも遺物は含まれておらず、壺6433が床面の北東隅より出土したのみである。

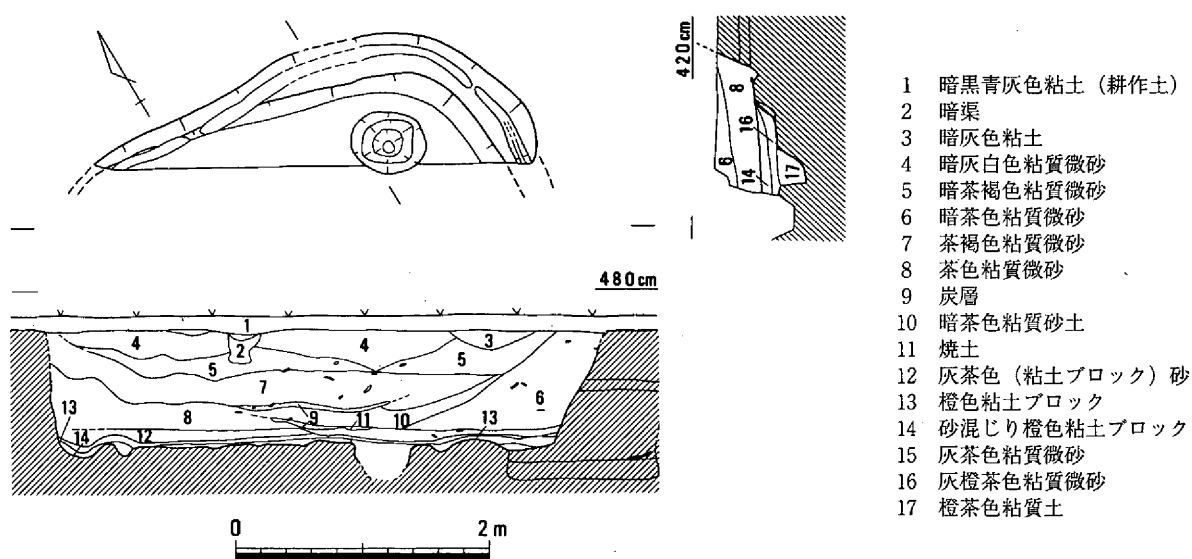


第265図 竪穴住居-221(1/60)・出土遺物

下位が最初の住居であり、古・前・Iの時期に作られ、立替えが一回実施されたものが上位の竪穴住居-220である。 (高畑)

竪穴住居-221 (第265図)

O17区の東南中央、盛土(M8I区)の中央西に所在し、竪穴住居-231の2.5m南東に位置する。住居は北東隅のみの調査であり、大半が盛土植栽部分の下に残っている。北辺460cm、東辺100cmまでの確認であり、規模及び床面構造については不明である。海拔550cmが調査前の果樹園であり、第1



第266図 竪穴住居—32(1/60)

層が耕作土、第2・3層が昭和の水田層にあたる。第4層は肥前系陶磁器の小片が出土している。住居の検出は海拔4.55cmであり、床面海拔高420.9cmをはかり、壁体溝をもつ。床面には甕の細片が出土している。

遺物は甕6440、6441の2片であり、口縁部には6～7条の櫛描き沈線文が施されている。6441は精良な粘土が使用されている。2点ともこの種の甕では新しい様相を呈しており、古・前・Iの新相～古・前・IIの古相あたりに比定できる。

(高畑)

竪穴住居—32 (第266図)

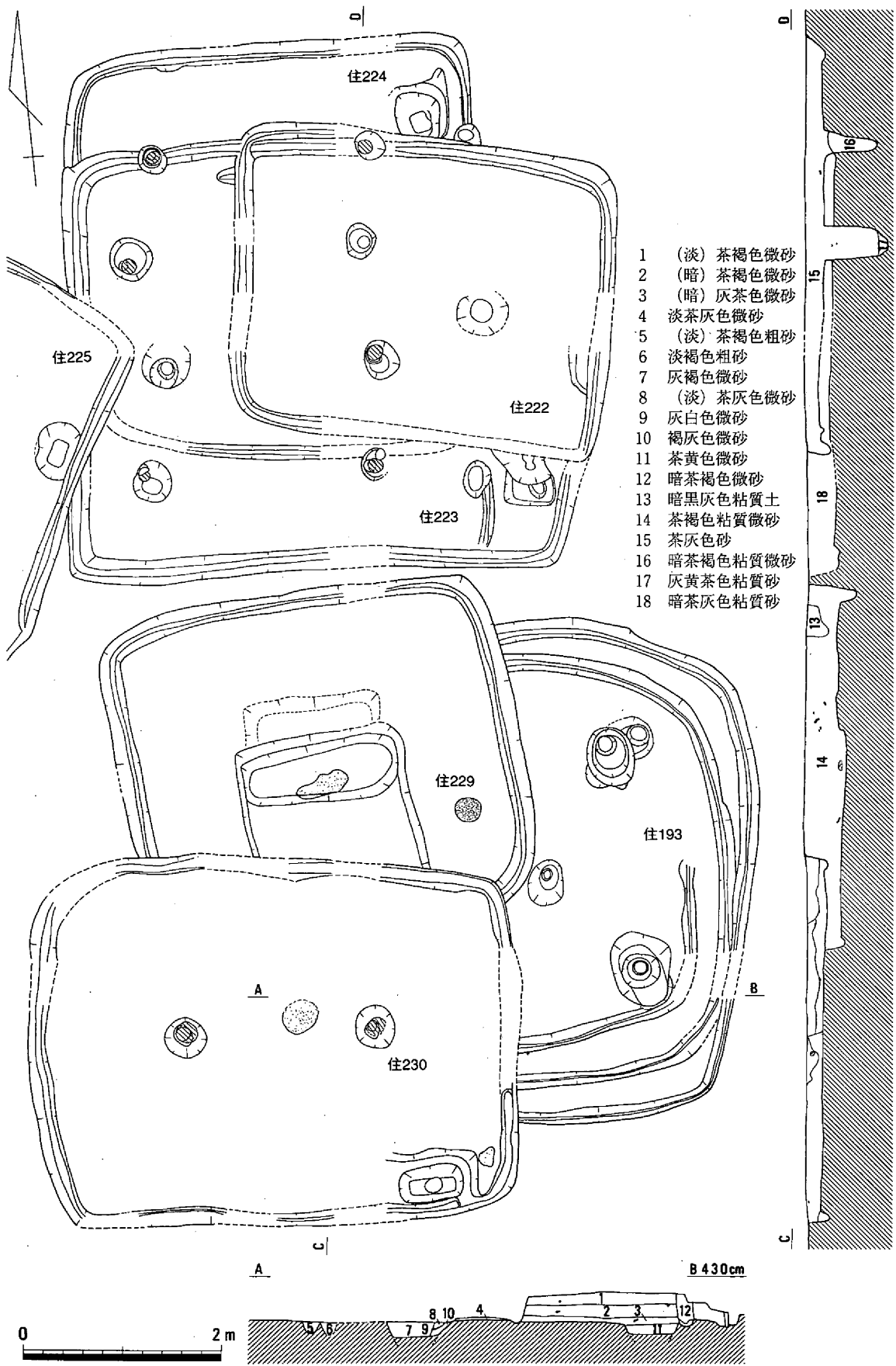
本住居は「津寺遺跡3」により報告が行なわれている。O17区の中央南、竪穴住居—231の10m西側に位置する。2回の立替えがおこなわれた隅丸方形の竪穴住居であり、古い住居は長さ397cm、幅360cm、床面海拔高は360cmをはかる。主柱穴は4本からなり、弥・後・IV以前に比定されている。1回目の立替え住居は下層のものより大形化しており、長さ467cm、幅420cmをはかり、南東を除く三方に高床部を設けている。下層の主柱穴とは少しずれるが、ほぼ近いところに4本を配し、中央穴、方形土壇が設けられている。2回目の立替え住居は、以前の住居の高床部以外の床面に粘土を貼って、床面を水平（海拔365cm）にし、主柱穴は踏襲している。また、住居が放棄される段階で柱が抜き取られていることが記されており、時期は古・前・Iに比定されている。

今回の土層断面では第12層が最も新しい住居であり、床面海拔高は360～372cmをはかり凹凸が認められる。中位の住居は床面海拔高358～367cmをはかり、床面の一部が、最も新しい住居床面に切られた格好となる。さらに下層の住居は床面海拔高353～357cmで凹凸がみられる。遺物の床面からの出土はなく、すべて小片である。高杯脚部、タタキメのみられる口甕片、器台片等があり、古・前・Iの範囲と考えられる。

(高畑)

竪穴住居—222・223 (第267・268図)

O17区の中央東側、盛土(M8 I区)に所在し、竪穴住居—222～224、229、230の5軒が12.5m×5.5mの範囲内に南北に並んで出土している。竪穴住居—222～225の4軒が切り合いながら一塊にまとまり、その南側に竪穴住居—229、230が切り合っている。ちなみに、竪穴住居—193は弥生時代後



第267図 竪穴住居—222～225 (1/60)

期前半期のものである。O17区の中央東側は竪穴住居がまとまっており、溝-16の東側も住居の集中度の高い場所である。

竪穴住居-222は長さ384cm、幅315cm、床面積10.87㎡、床面海拔高386cmをはかり、東面に長い方形の竪穴住居である。住居西辺に幅約1mの高床部の痕跡と考えられる断面があるが、竪穴住居-223の造成時に上部が削平された可能性がある。床面には中央より少し東側に直径52cm、深さ12.1cmの炭が堆積した小土壙があり、中央穴と考えられる。この中央穴の下位には弥生時代後期前半の袋状土壙-122がみられる。竪穴住居-222が上層の住居である。

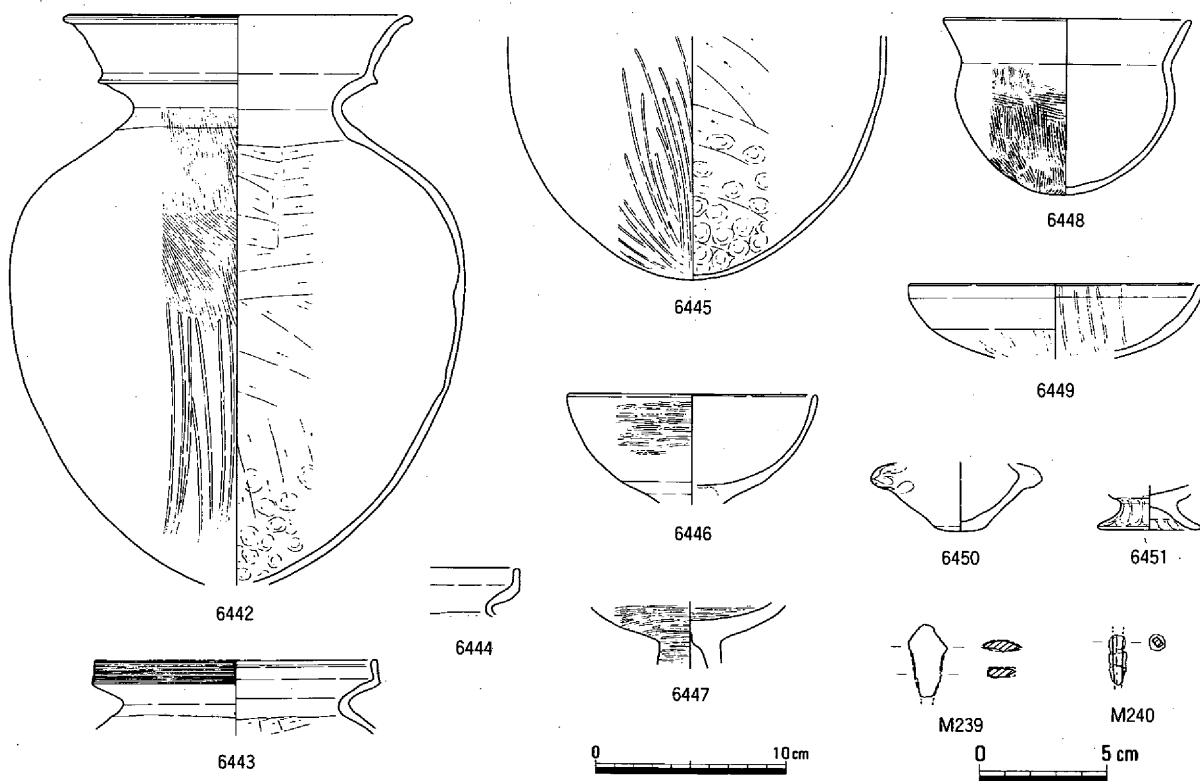
竪穴住居-223は長さ445cm、幅430cm、床面積19.13㎡、床面海拔高385cmをはかる。主柱穴は4本からなり、3本に柱痕が認められ、北辺の柱間237cm、東辺230cm、南辺233cm、西辺212cmをはかる。柱穴の深さは西辺が35cm前後、東辺が52cmであり柱穴内にはあまり遺物が認められない。

遺物は両住居のものが混在した格好でとりあがっており、3軒の切り合い関係が十分に把握できなかったことに起因している。壺、甕、高杯、鉢、手捏ね土器、製塩土器等が出土しており、6445のように甕底部の丸底化の進んだ形状が認められる。6449も器外面の下半にヘラケズリ、内面暗文風のヘラミガキがみられ、この器種では新しい特徴を有している。6442、6446、6448は土壙内よりの出土である。

竪穴住居-222が竪穴住居-223により切られているが、大きい時間差は認められないようである。古・前・Iの新相～古・前・IIの古相にかけての遺物である。 (高畑)

竪穴住居-224 (第267・269図)

竪穴住居-223、224に切られた状況で出土した住居である。長さ428cm、幅410cm、床面積15.70㎡、床面海拔高395.7cmをはかり、平面は東辺が50cm広い台形となる。床面には壁体溝、柱穴、方形土壙



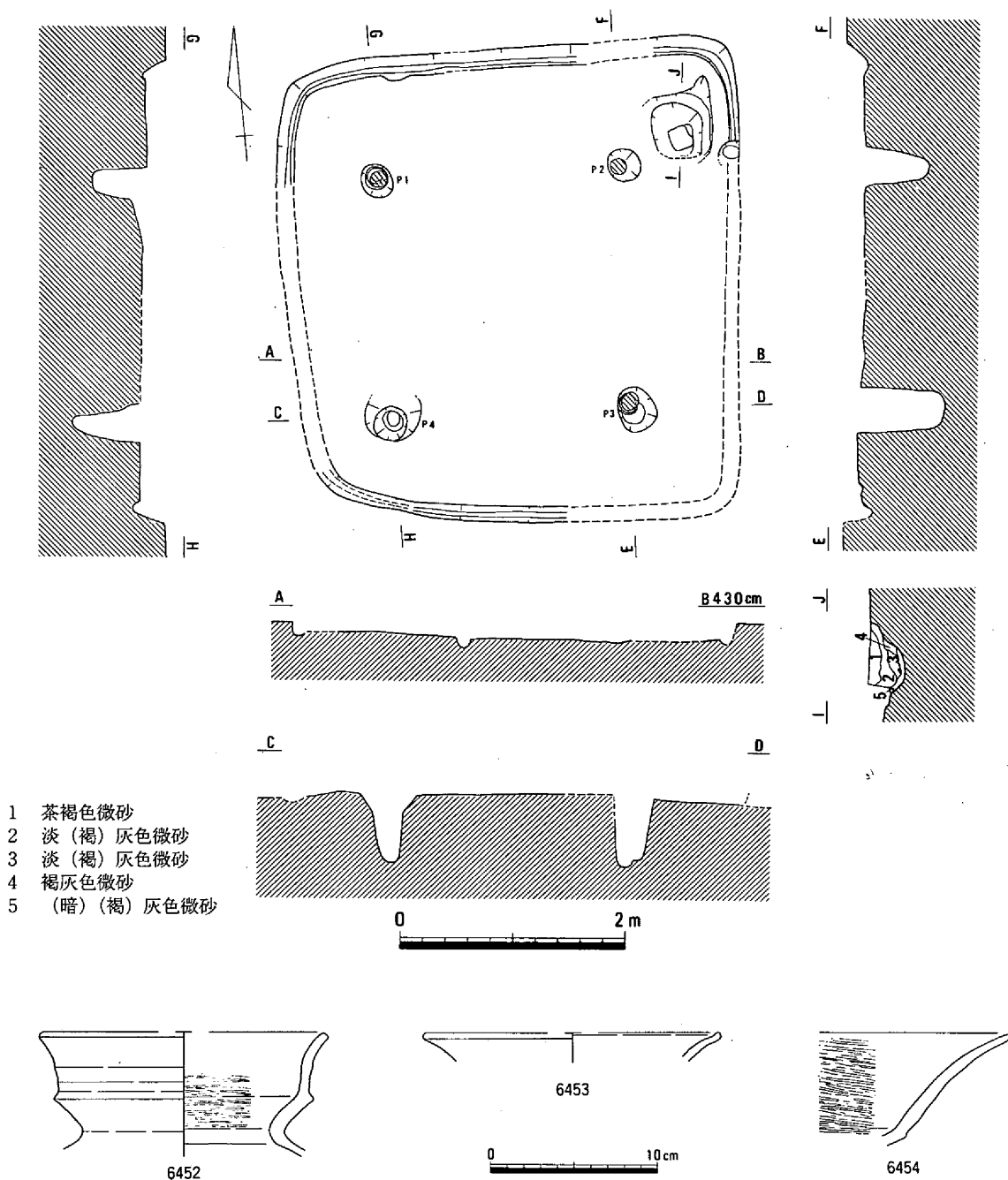
第268図 竪穴住居-222・223出土遺物

第3章 調査区の概要

がみられるが上位の住居による破壊が各所にみられる。主柱穴は4本からなり、そのうち3本に柱痕がみられ、直径15cm前後をはかる。柱間は北辺が214cm、東辺212cm、南辺210cm、西辺215cmをはかり、各柱穴の深さはP-1が54cm、P-2が57cm、P-3が68cm、P-4が71cmと南側2本が深くなる。方形土壇は珍しく北東隅に設けられており、上端径が60cm、下端の径が20cm、深さ33cmをはかる。

遺物は埋土中から6452~6454が出土しており、古・前・Iの中相と考えられる。

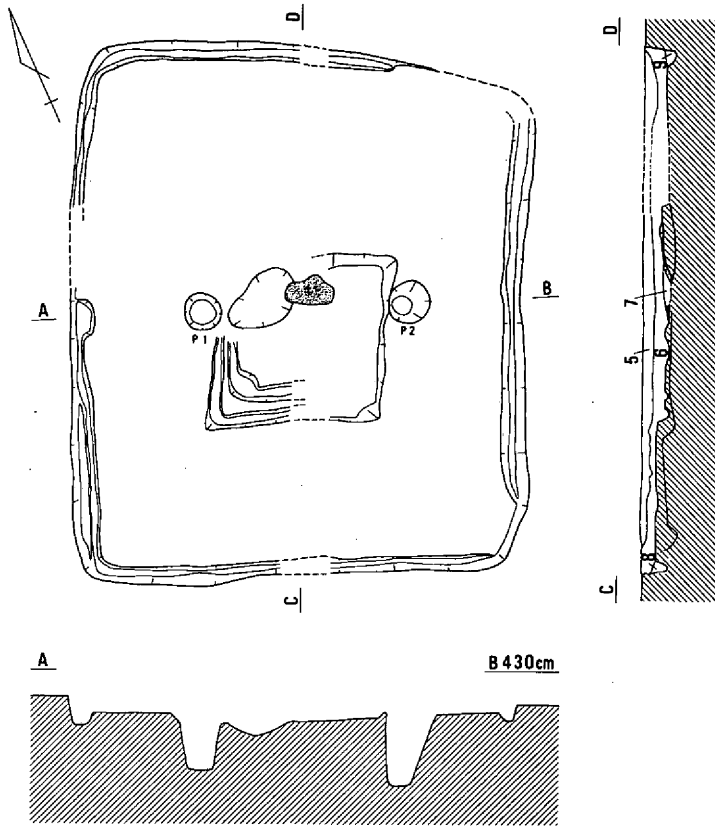
3軒の竪穴住居は224→223→222の順序で作られており、竪穴住居-224と223は平面形や柱穴の配置等の住居規模が非常に近い数値を示す。おそらく、同一意識の中で竪穴住居-223を新たに南側に作り変えたものと考えられる。そして、その後に竪穴住居-222がつくられている。(高畑)



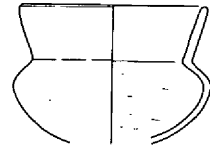
第269図 竪穴住居-224(1/60)・出土遺物

竪穴住居-225 (第267・270図)

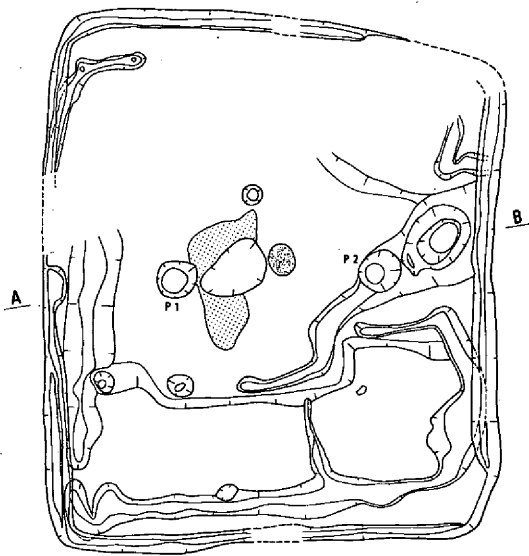
〇17区の中央東側、Of線上に位置する竪穴住居-224を切って作られている。本住居の棟方向は竪穴住居-222~224等の棟方向とは異なり、長軸はN-69°-Wと東方向に振って作られている。長さ428cm、幅358cm、床面積13.83m²、



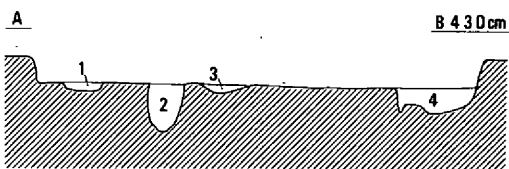
6455



6456



S332



- 1 暗橙褐色砂質微砂 (若干炭を含む)
- 2 暗赤茶褐色粘質土
- 3 茶褐色砂質微砂
- 4 暗橙褐色粘質土
- 5 暗茶褐色砂質土
- 6 暗褐色粘質微砂 (粘性強)
- 7 暗灰褐色粘質微砂 (粘性強)
- 8 暗茶褐色粘質微砂 (粘性強)
- 9 暗黄褐色粘質微砂 (粘性強)

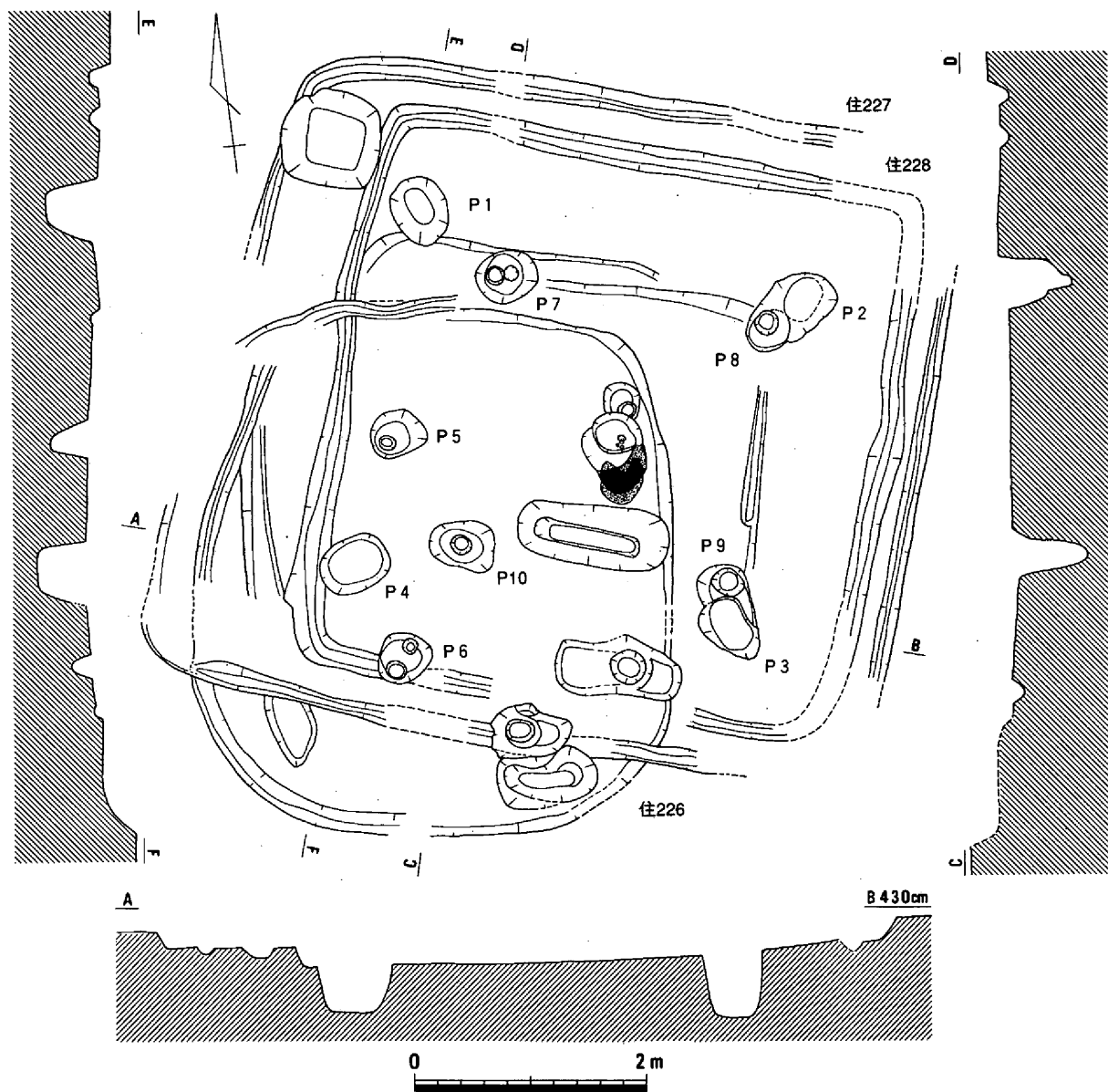
第270図 竪穴住居-225(1/60)・出土遺物

床面海拔高は390.2cmをはかる。平面形は東辺より西辺が約40cm長く、台形を呈する。住居内四方に高床部、そして柱穴、中央の140×130cmの床面には60×40cmの中央穴が設けられ、その南に焼土面が認められる。さらに下位には、ほぼ同形同大の住居があり、南側に高床部、東辺に方形土壇が設けられている。柱穴は同一の場所を利用しており、柱間は154cmをはかり、深さは36~40cmである。

遺物は土器片が15点とS332の砥石である。古・前・Ⅱの古相に比定できる。 (高畑)

竪穴住居-226 (第271~273図)

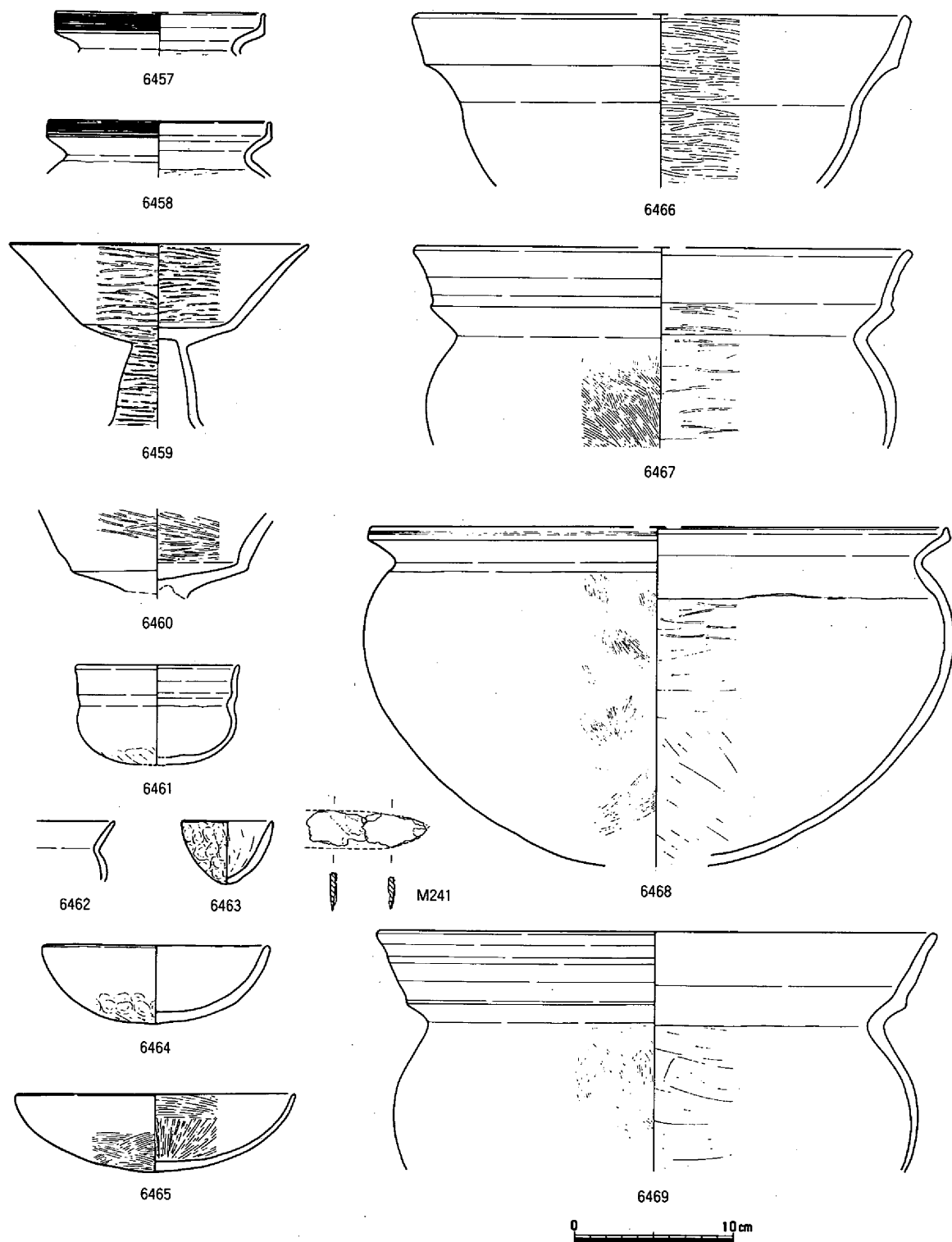
〇17区の南東、盛土 (M8 I区) に所在し、竪穴住居-230の東側1.5mに位置する。竪穴住居-226、227、228の3軒が切り合った状況を呈しており、さらにもう一軒分の柱穴、方形土壇が竪穴住居-226内より確認されている。長さ455cm、幅405cm、床面積18.0㎡、床面海拔高394cmをはかり、平面は不整隅丸方形を呈する。壁体溝以外の付属施設は確認困難であり、柱穴も把握できなかった。しかし、住居平面内より本住居には伴ないそうにない支柱穴4本がみられ、P-5、P-6が西辺の柱



第271図 竪穴住居-226・227・228 (1/60)

穴にあたり、柱間198cmをはかり、東に約200cmに対応する柱穴が認められる。柱穴南辺の南側中央にある2穴が方形土壇の可能性をもっている。

遺物は前述した住居の床面と考えられる海拔39.4cmを前後する付近から出土している。甕、高杯、手捏ね土器、鉢の土器があり、S241等の鉄製品がみられる。床着のものは6457～6460、6464、6449等がみられる。6470は床面下位の出土である。

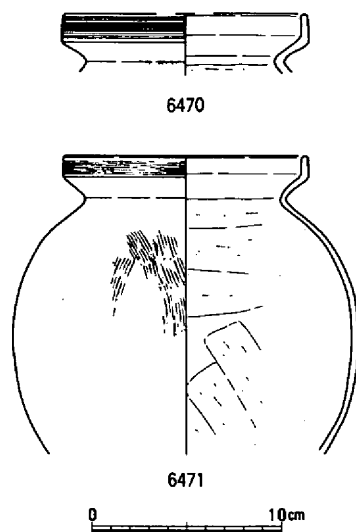


第272図 竪穴住居-226出土遺物(1)

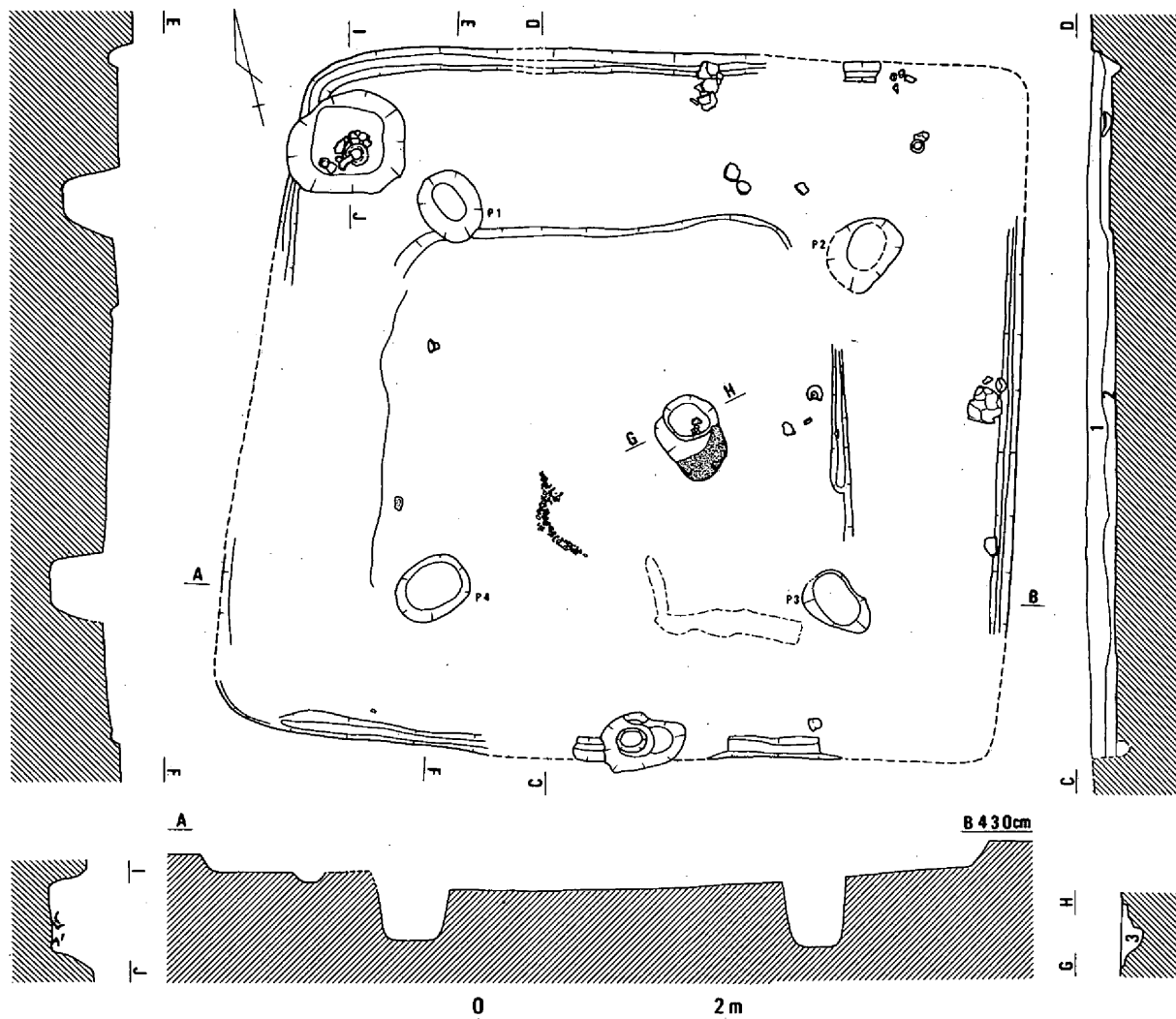
古・前・Ⅱの古相に比定が可能か。(高畑)

竪穴住居-227 (第271・274・275図)

長さ636cm、幅578cm、床面積34.02㎡、床面海拔高は38.50cmをはかり、平面は方形を呈する竪穴住居である。床面には壁体溝、柱穴、方形土壇、中央穴が付設されている。床面規模は大形の部類に入り、竪穴住居-232に近い数値を示す。4本の支柱穴の柱間は北辺が340cm、東辺が290cm、南辺が326cm、西辺317cmをはかり、深さは50~60cmである。柱穴平面は楕円形を呈し、中央に向う主軸をもっており、柱穴内を結ぶ溝、および段状の遺構が存在する。これは四方に高床部があった可能性が考えられ、北辺には幅125cmで床面より約5cm高い床部が認められる。住居中央の東よりに60×45cm、深さ約13cmの中央穴があり、南側に接して45×20cmをはかる焼土面がみられる。さらに南側には幅約20cmで「L」



第273図 竪穴住居-226
出土遺物(2)



1 暗黄茶色砂質土 2 暗灰褐色粘質微砂 3 暗褐灰色粘質微砂

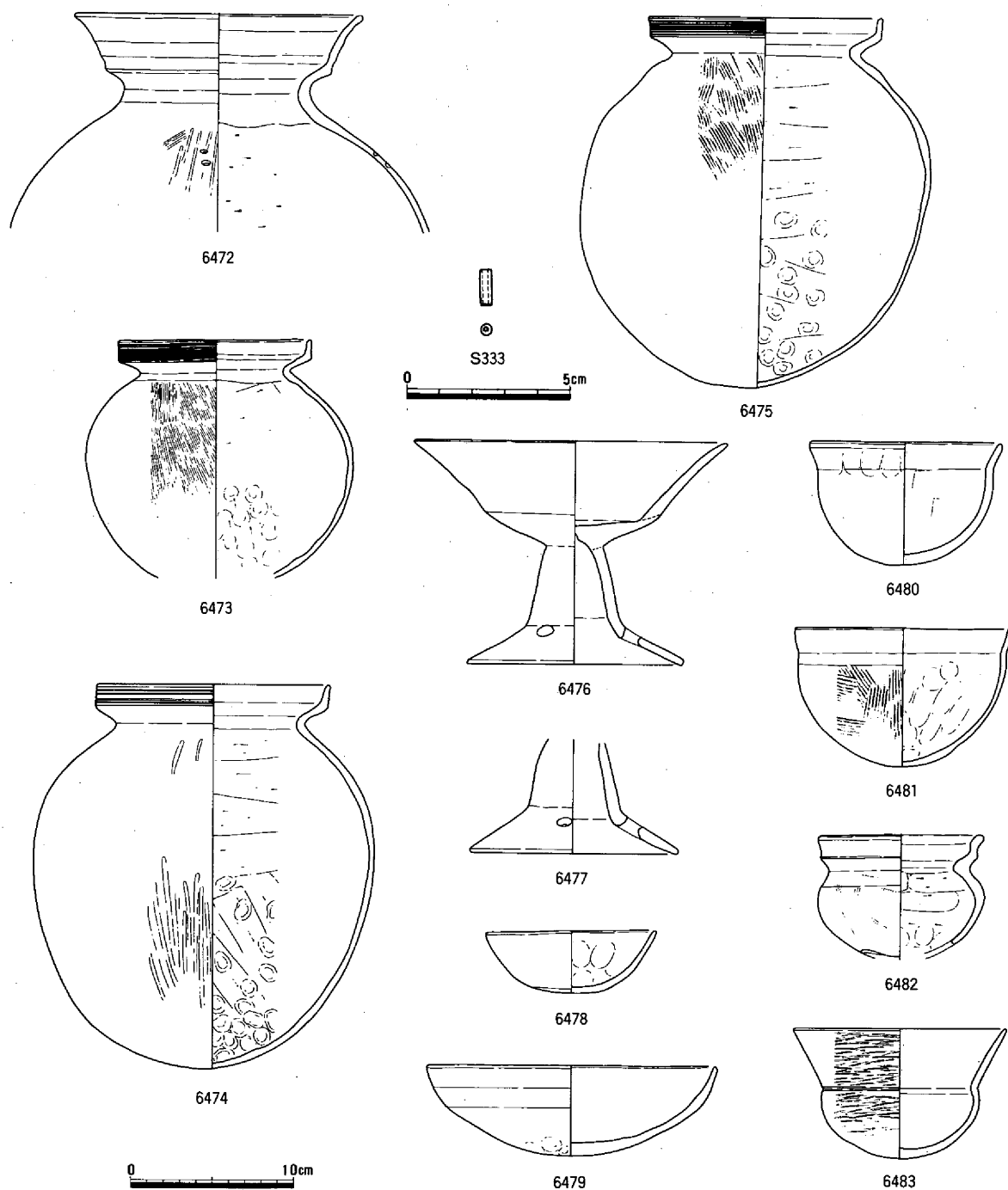
第274図 竪穴住居-227(1/60)

字形の砂利敷きが2が所認められる。

遺物は主に住居内の東側半分に分布しており、また、北西隅の方形土壙底にもみられる。壺、甕、高杯、鉢、小形丸底壺等が出土しており、甕6473、6475、高杯6477、鉢6481が床面よりの出土であり、6473のように口径11.6cm、器高(14.6)cmの小形の器種が認められる。壺6472、高杯6476、鉢6478が方形土壙底よりの出土であり、高杯は床面出土のものともに透し穴が3孔である。6483は口径12.9cm、器高8.0cmをはかり、ほぼ完形である。

古・前・Ⅱの範疇に比定できる。

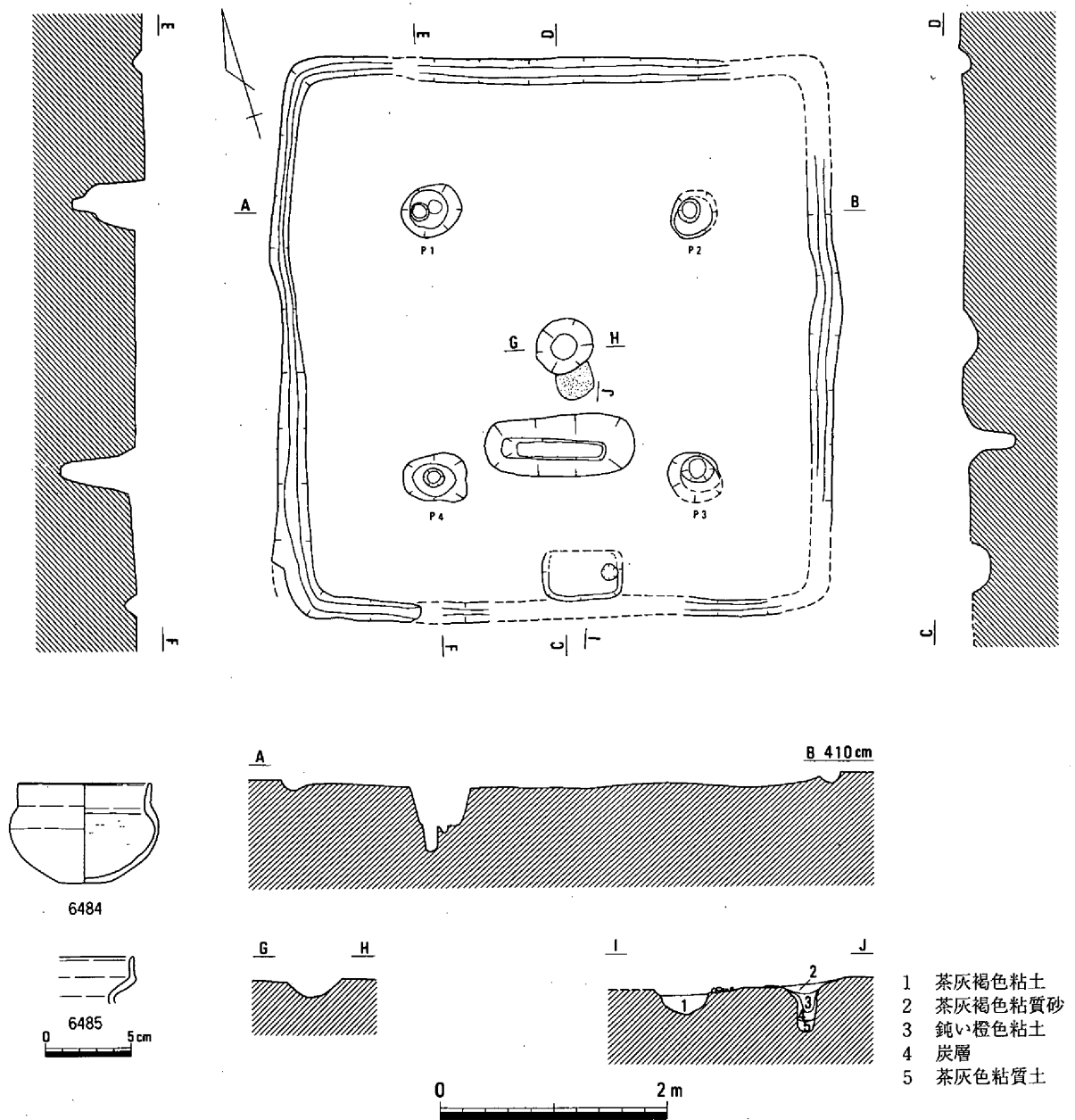
(高畑)



第275図 竪穴住居-227出土遺物

竪穴住居-228 (第271・275・276図)

竪穴住居-228は竪穴住居-227に先行する住居であり、228→227→226の順序で作られている。長さ500cm、幅494cm、床面積22.93m²、床面海拔高388.5cmをはかり、平面は方形を呈する。床面には壁体溝、柱穴、中央穴、方形土壇等がみられる。主柱穴は4本からなり、P-1～P-2の北辺柱間が237cm、東辺が229cm、南辺が222cm、西辺が234cmをはかる。中央には50×45cm、深さ13cmをはかる中央穴が配され、南に焼土面がみられる。中央穴の南側35cmには152×54cmをはかる東西に細長い土壇があり、さらに内側に長さ92cm、幅19cm、深さ45cmの土壇が掘り込まれており、土壇内第4層は炭である。南辺壁体部には70×47cm、深さ16cmをはかる方形土壇が付設されているが、他の柱穴等に切られており、確実に本住居に伴うか否かは不明である。この3軒も前出の竪穴住居-222～224と同様に切り合いの前後関係に困難を極め、遺物の所属に若干問題が残る。

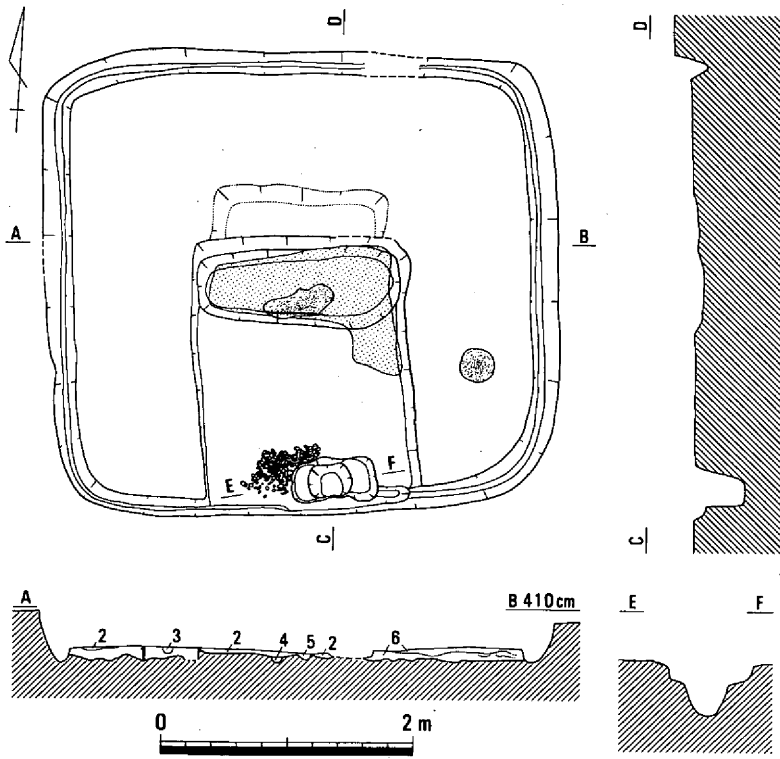


第276図 竪穴住居-228 (1/60)・出土遺物

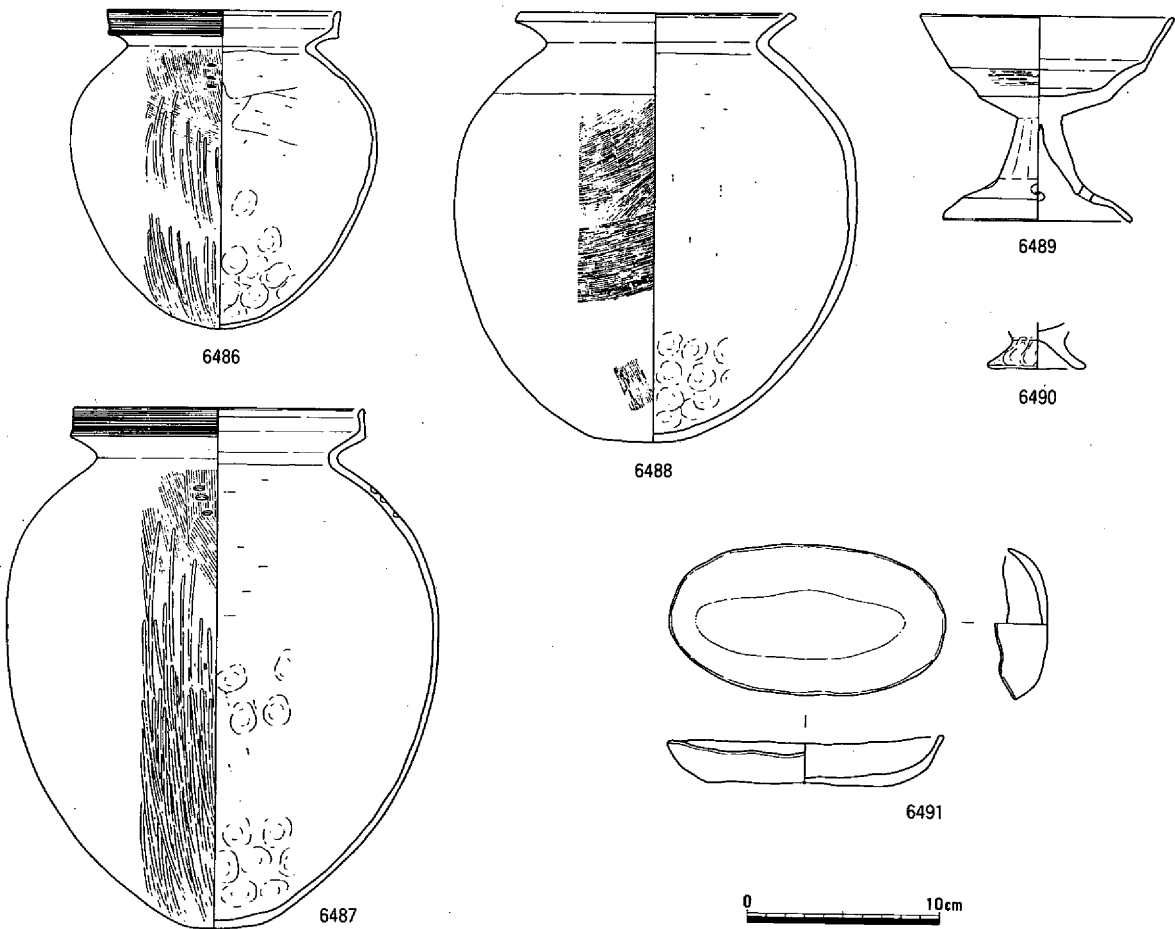
遺物は6484が床面、6485が
 方形土壇出土であり、古・
 前・Iの中、新相の範疇に比
 定できる。 (高畑)

竪穴住居-229 (第277図)

〇17区の中央東側、竪穴住
 居-223の南隣に位置する。
 長さ406cm、幅364cm、床面積
 12.87㎡、床面海拔高371.2cm
 をはかる方形の竪穴住居であ
 る。住居内の東、西、北に高
 床部があり、南側が開口する



- 1 暗茶褐色砂質土
- 2 暗茶黄褐色粘質土
- 3 暗茶黄褐色粘質土
- 4 暗茶黄褐色粘質細砂
- 5 暗茶褐色粘質細砂
- 6 暗茶黄褐色粘質細砂

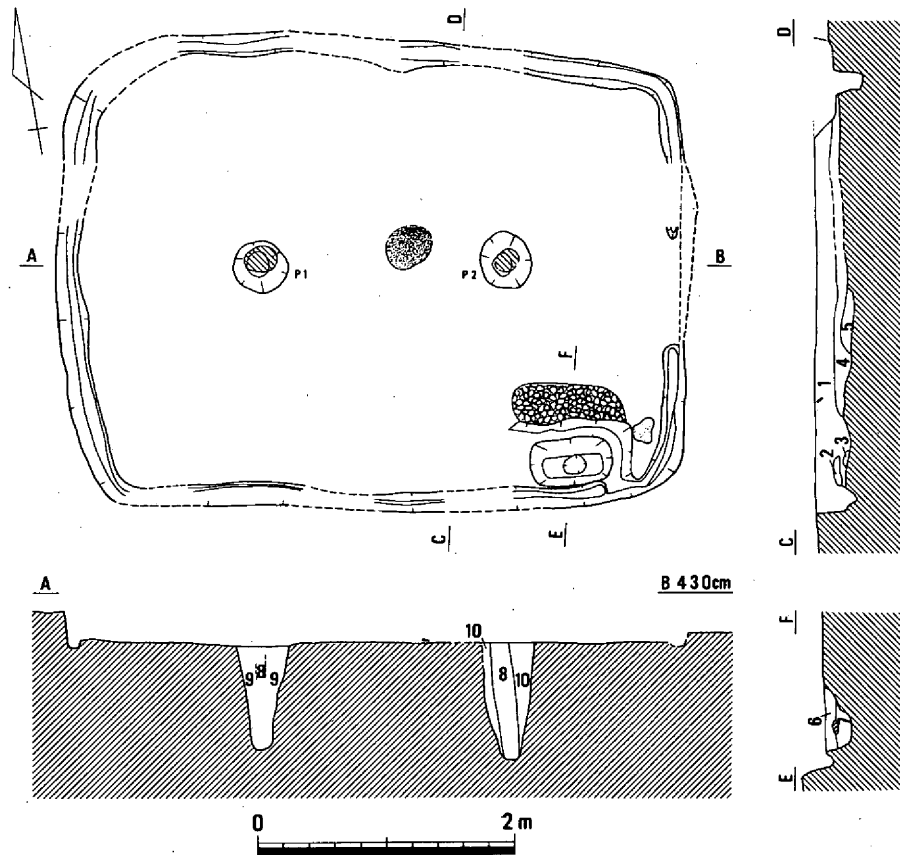


第277図 竪穴住居-229(1/60)・出土遺物

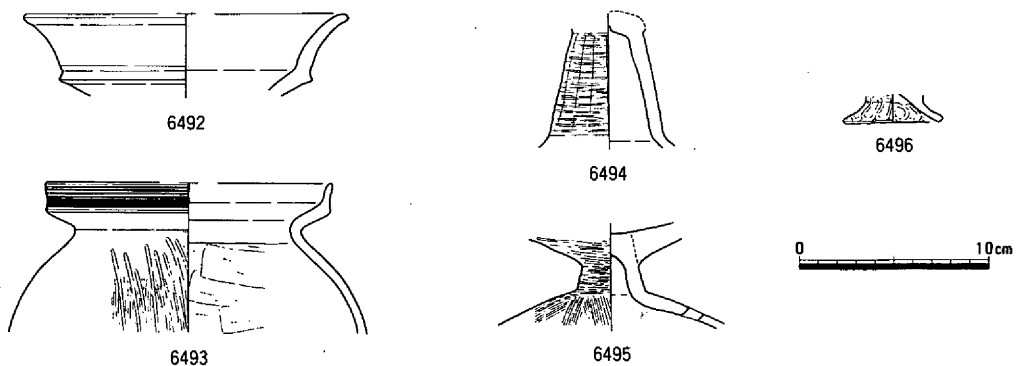
第3章 調査区の概要

形態で、北側高床部の幅が130cmをはかり、東西高床部より約37cm広い。第1、6層がそれにあたり、床面より約10cm高く貼床されており、東側には直径25cmの焼土面がみられる。住居中央に長さ155cm、幅60cm、深さ約4cmで炭の詰まった土壙があり、土壙底の南側には焼土面がみられる。南辺には段をもつ方形土壙と敷石が配されており、土壙の深さは約43cmをはかる。

遺物は甕、高杯、製塩土器、手捏ね土器が出土しており、甕6488は讃岐の土器である。古・前・Iの中相に比定できる。(高畑)



- | | |
|------------|-------------|
| 1 淡茶褐色砂質微砂 | 6 暗赤褐色粘質土 |
| 2 茶褐色砂質微砂 | 7 暗灰赤褐色粘質微砂 |
| 3 淡黄褐色砂質微砂 | 8 黒灰褐色粘土 |
| 4 白茶褐色砂質微砂 | 9 暗茶褐色粘質砂 |
| 5 明橙褐色砂質微砂 | 10 橙色灰黒混じり |



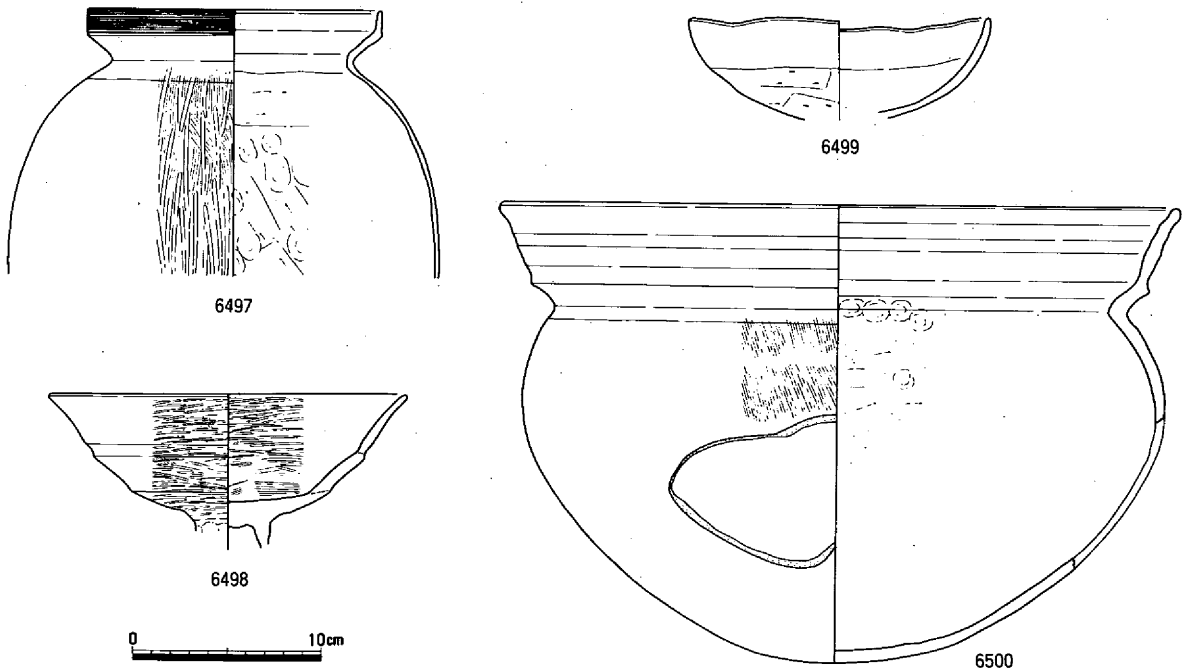
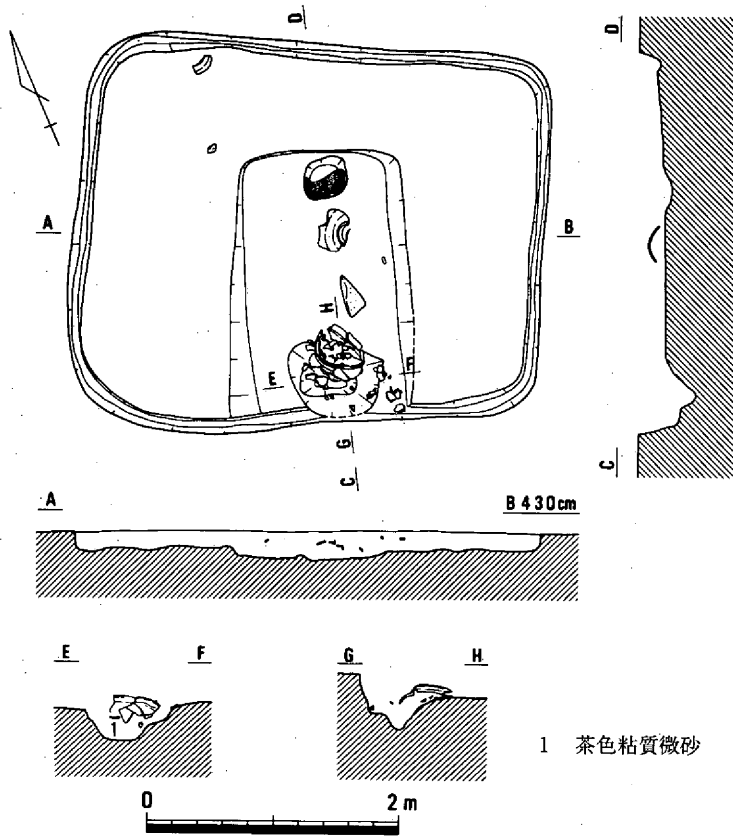
第278図 竪穴住居-230(1/60)・出土遺物

竪穴住居-230 (第278図)

○17区の中央東側、竪穴住居-231の2.5m北側に位置する。竪穴住居-229を切って作られた住居であり、長さ488cm、幅376cm、床面積16.45㎡、床面海拔高390.5cmをはかり、東西に長い隅丸方形を呈する。床面には壁体溝、柱穴、方形土壇、敷石、焼土等が認められる。支柱穴は2本で柱間190cm

をはかり、直径約20cmの土壌化した柱が残り、P-2では深さ95cmの柱穴底まで柱痕が認められる。柱間の中央東よりに27×24cmの焼土面が所在する。方形土壇は南東隅に配されており、通常の段を持ち、長さ(100)cm、幅55cm、深さ22cmをはかる。その北側に長さ87cm、幅35cmの範囲に砂利による敷石があり、東側には焼土面をもつ。この方向に配置される方形土壇はあまりみられず、普通は住居の南辺中央にあるものが多い。

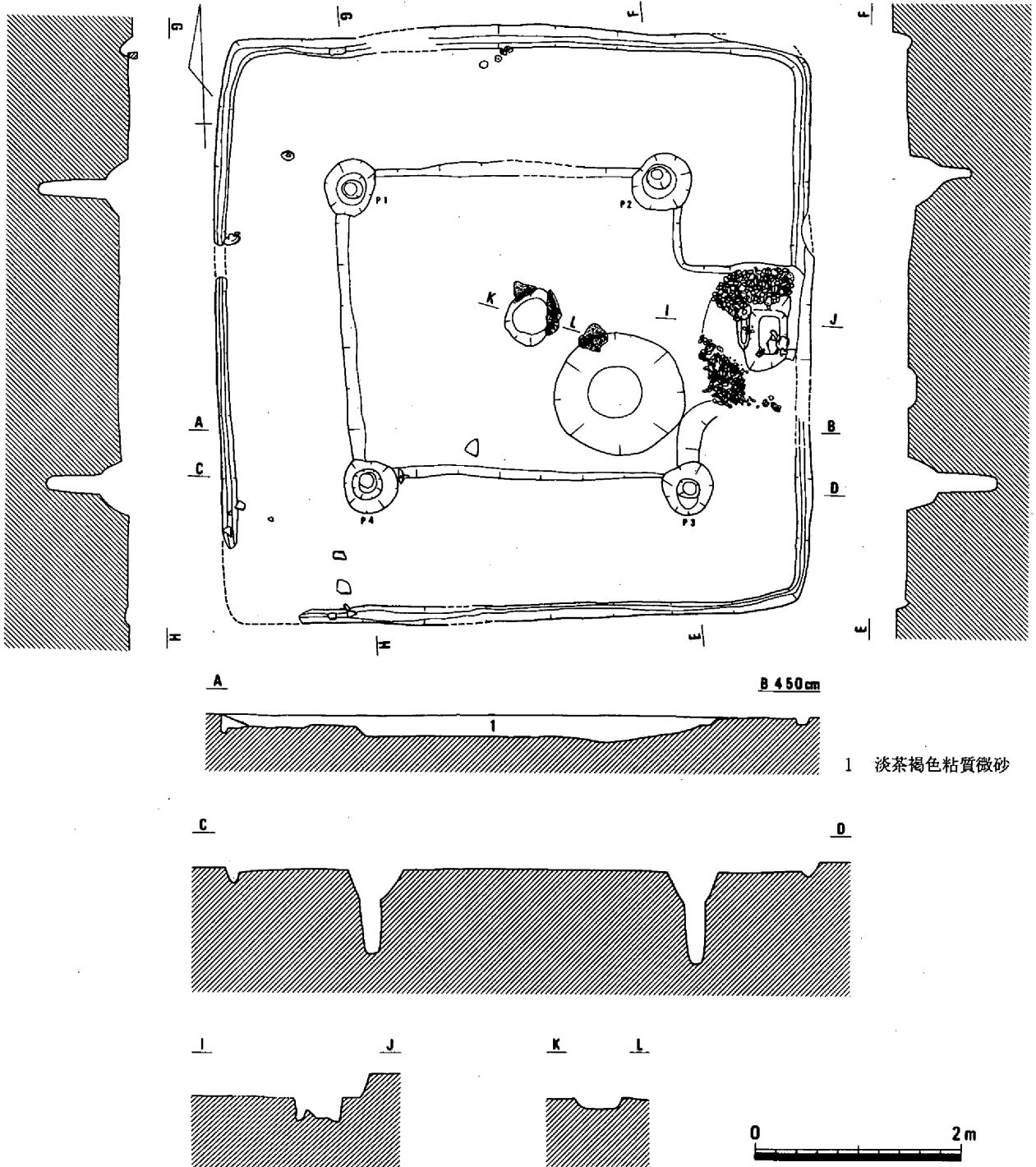
遺物は埋土中からであり、壺、甕、高杯、製塩土器等である。古・前・I～IIに比定できる。
(高畑)



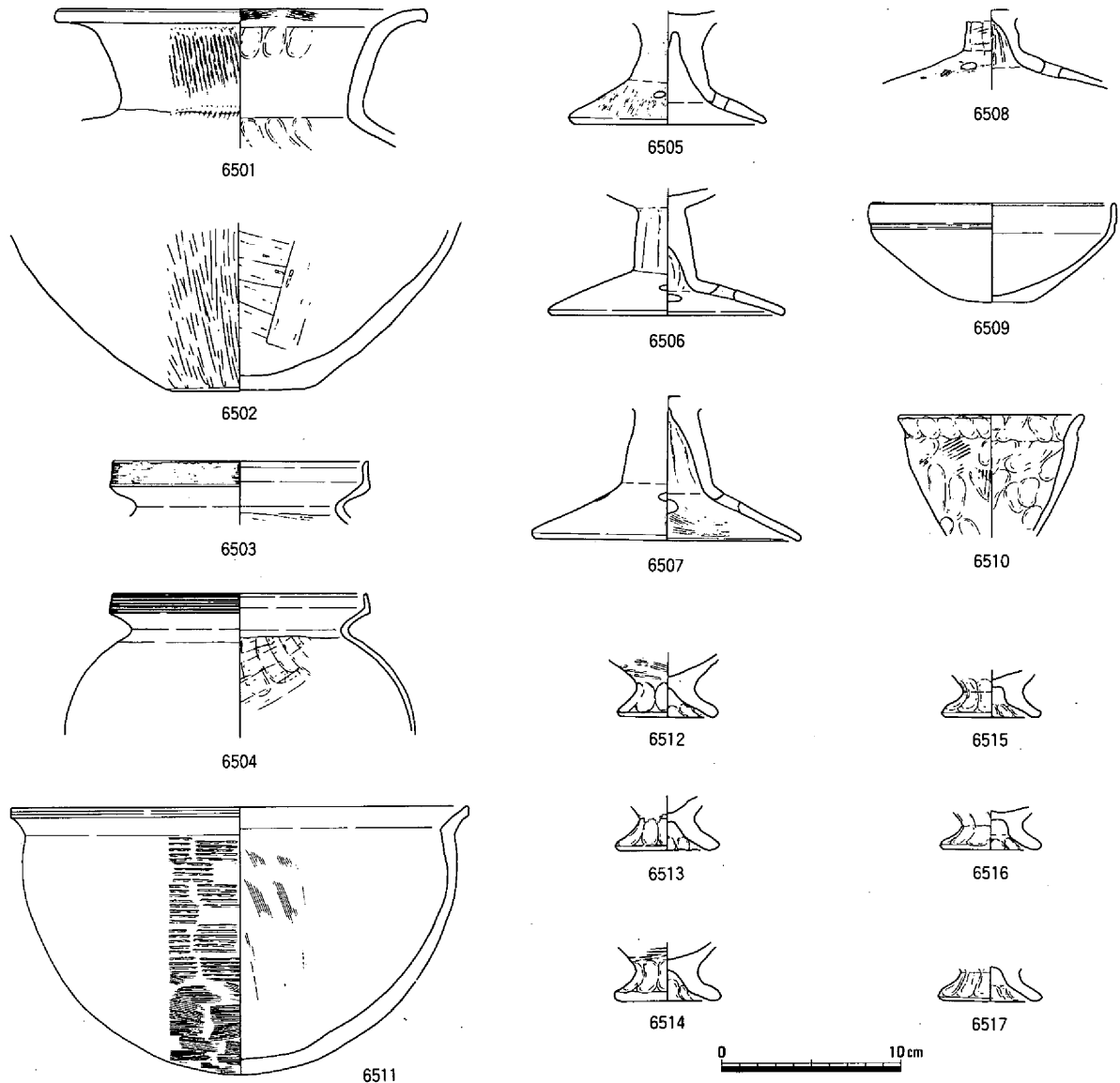
第279図 竪穴住居-231 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-231 (第279図)

〇17区の南東、中央寄り、竪穴住居-230の南側2.5mに位置する。長さ374cm、幅310cm、床面積10.37㎡、床面海拔高395cmをはかり、平面が隅丸方形を呈する竪穴住居である。最も小形の部類に入る住居であり、内部構造ともに竪穴住居-212と酷似する。柱穴の使用がなされない住居であり、床面に東、西、北の3方向に高床部が設けられており、床面より5~6cm高い。床部には35×29cm、深さ5.7cmをはかる中央穴があり、ほとんどの中央穴に共通する南側、あるいは方形土壌の方向にむく



第280図 竪穴住居-232 (1/60)



第281図 竪穴住居-232出土遺物

焼土面が認められる。住居南辺中央には通常の段をもつ70×57cm、深さ29cmの方形土壇が付設されている。

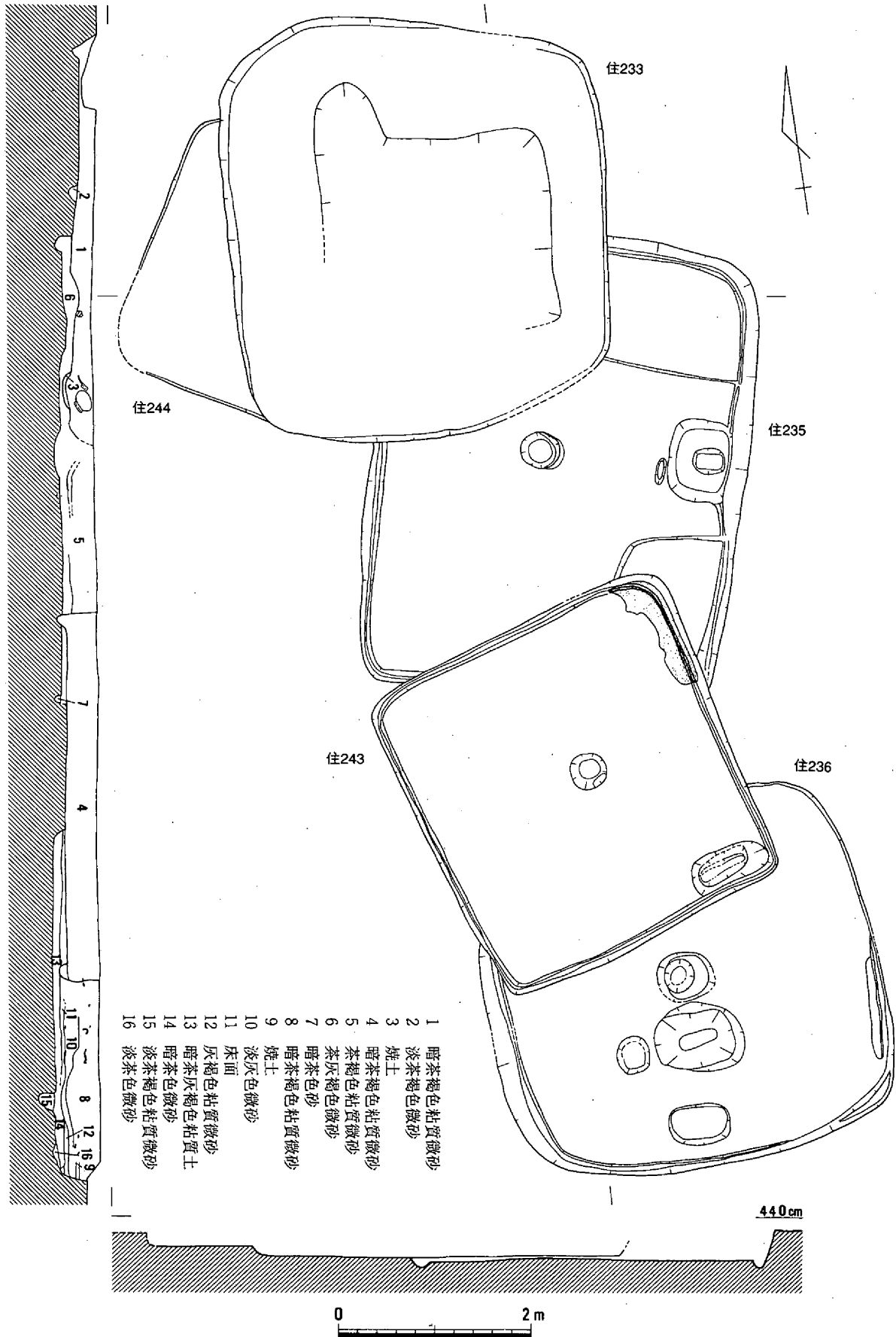
遺物は方形土壇内の土器出土状況より、廃棄後に投棄されたものと考えられる。甕、高杯、鉢がみられ、6500以外は破片である。6500は口径35.1cm、器高24.2cmをはかる丸底の鉢であり、胴部に内側からの穿孔が認められる。

古・前・Ⅱの範疇の土器であろう。

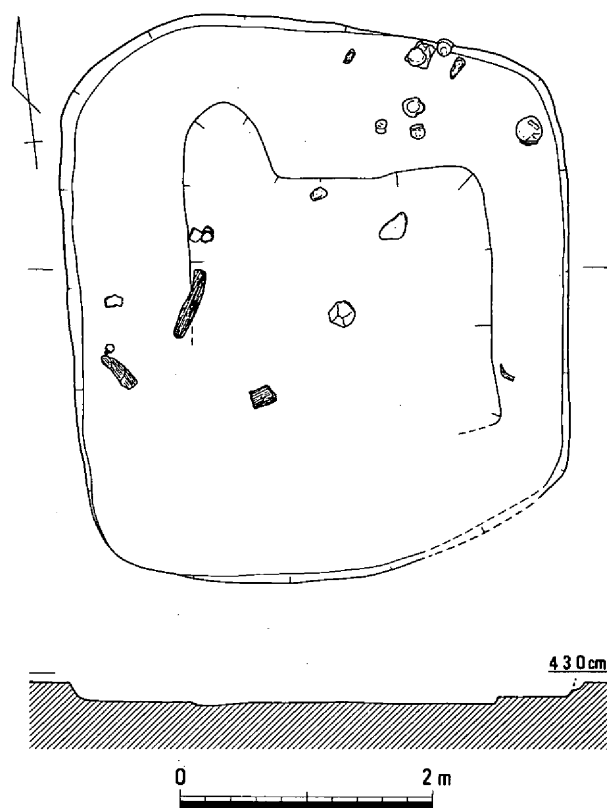
(高畑)

竪穴住居-232 (第280・281図)

O17区の東側、Of線上に所在し、竪穴住居-234の北側6.5mに位置する。北側を除く住居周辺は幅6.5m以上の空き地に囲まれて存在する。方形の住居であり、長さ576cm、幅570cm、床面積30.49m²、床面海拔高404cmをはかり、4本の支柱穴である。東側の一部を開口部として4方に高床部が設けられており、幅は110cm位であるが、南側が他より約20cm広く作られている。高床部の高さは8～13cmである。柱穴は高床部と床面との境の四隅に配され、北辺のP-1～P-2の柱間が293cm、東辺304



第282図 竪穴住居—233・235・236・243・244(1/60)



第283図 竪穴住居-233(1/60)

cm、南辺308cm、西辺282cmをはかる。柱穴底は西辺が深く78~87cm、東辺が63~67cmである。床面には中央穴、方形土壙、それに伴う「コ」字形の敷石、小土壙、焼土が確認されている。中央穴は東西58cm、南北45cm、深さ約10cmをはかり、土壙内側より上端にかけて焼土面が東、南側にみられ、総数3か所となる。方形土壙は73×40cm、深さ25cmをはかり、すぐ西側に45×13cm、深さ25cmの小土壙、小穴がみられる。竪穴住居-210等にみられた同形態のものであり、出入口に関連する施設との考えも聞かれる。砂利敷石は1~8cmをはかる小円礫が用されている。本時代では規模の大きい住居の部類に入り、本調査では第5番目位の規模になる。古・前・Iの中相と考えられる。(高畑)

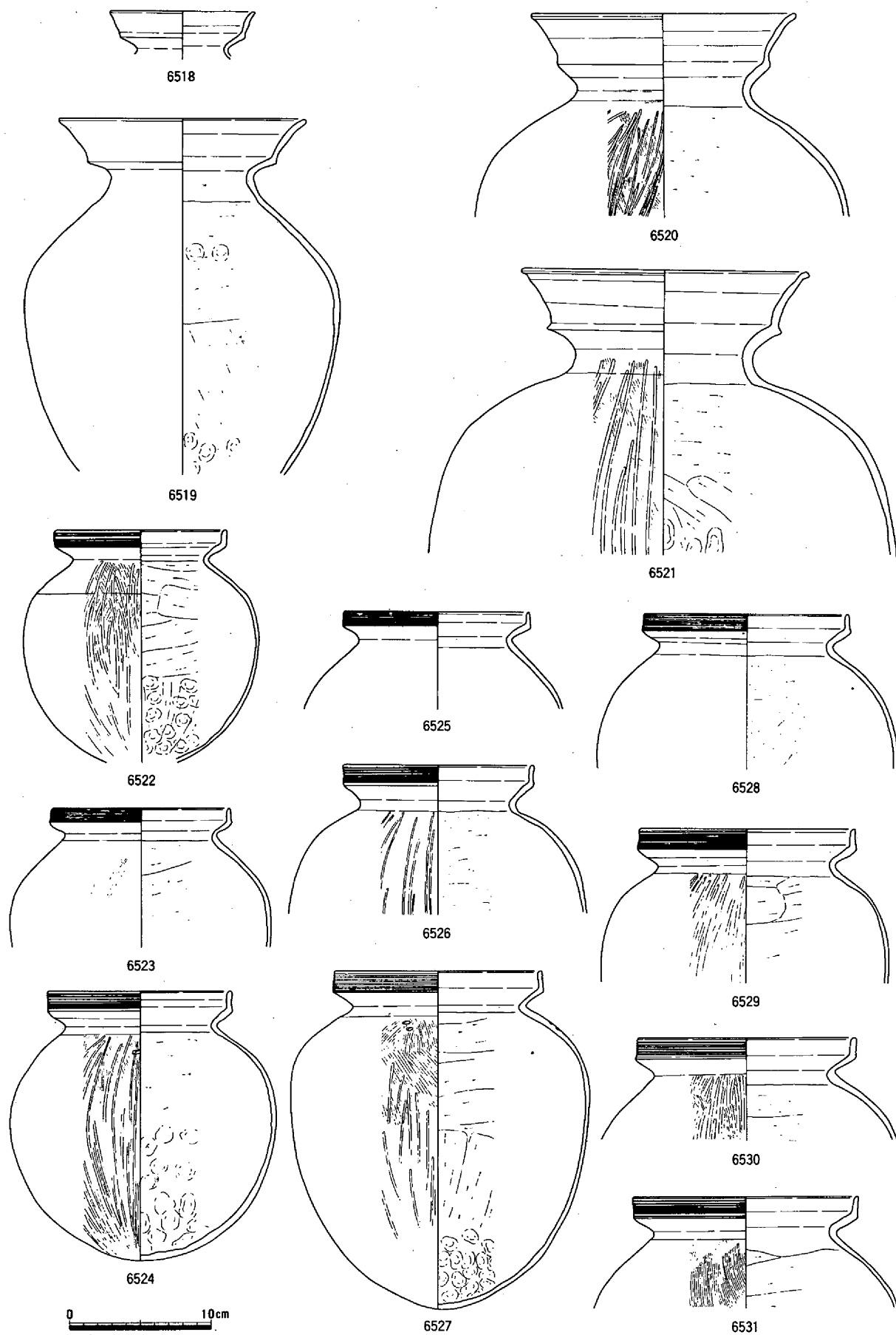
竪穴住居-233(第282~285図)

○17区の南東、18線の西側に所在し、南北に13m、東西に6.5mの範囲内に5軒の竪穴住居が切り合って南北の帯となっている。北から竪穴住居-233、244、235、243、236の順序である。5軒ともに住居の配置方向が異なる。住居の平面形、規模、高床部・中央穴・土壙・小土壙・焼土等の有無、および位置においてどの住居間にも少しずつ差異が認められ、同形同大のものは存在しない。強いて共通点を求めれば、竪穴住居-233、235、236の長辺、あるいは短辺の長さに約390cmの単位が使用されており、さらに長・短辺の数値を検討すれば、おおよそ30cmまでの小単位の可能性も考えられる。

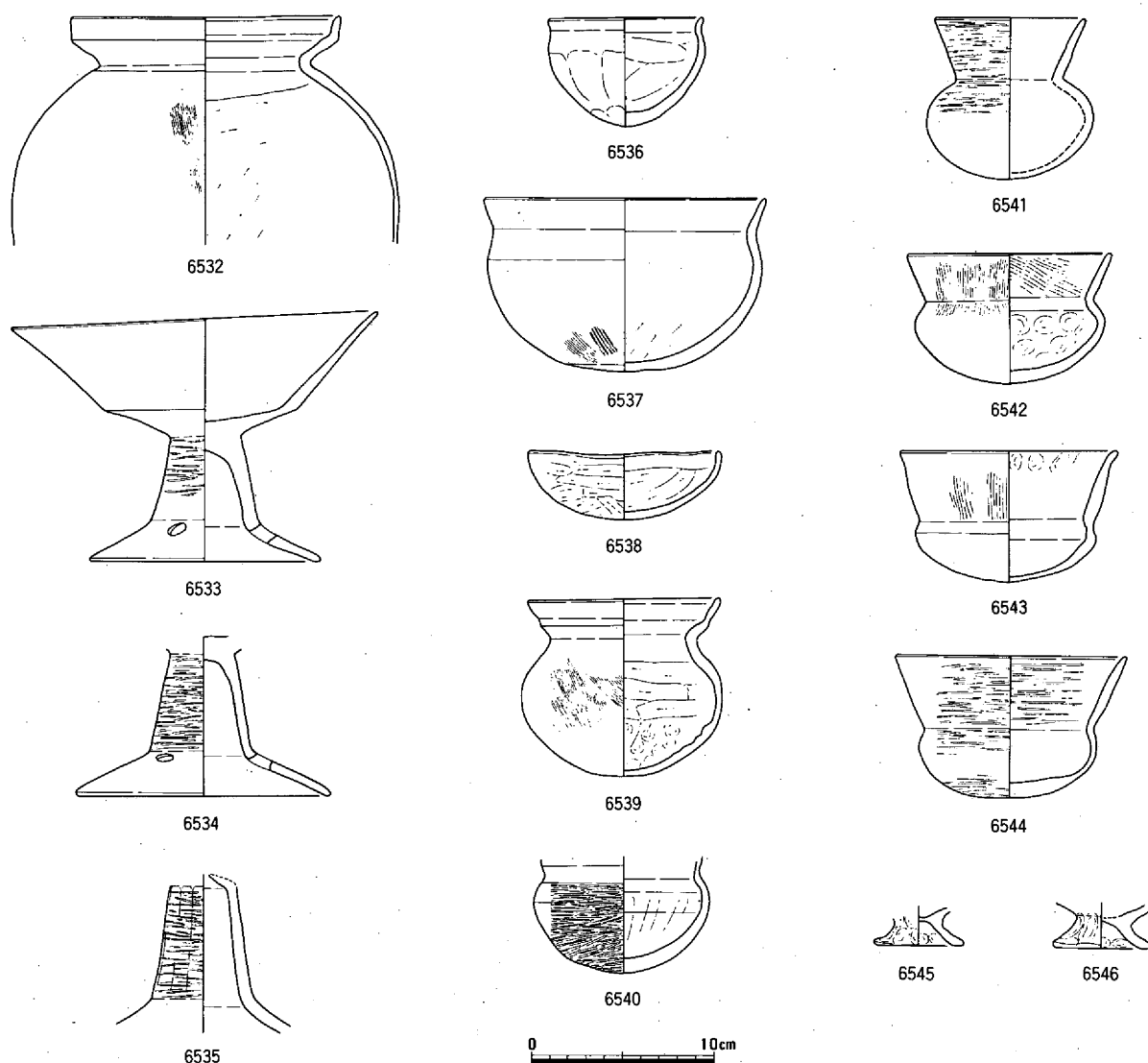
住居の作られた順序は古い方から竪穴住居-235→244→236→233→243と移動し、古・前・Iの中相~古・前・IIの古相までの時期幅が考えられる。

竪穴住居-233は竪穴住居-235、244の一部を破壊して作られた住居であり、長さ450cm、幅394cm、床面積15.09m²、床面海拔高402.2cmをはかる。西側が東側より100cm以上広く、平面形が台形を呈する竪穴住居である。南側を除く3方に削り出しの高床部を設け、床面との比高差2~10cmをはかる。床面には壁体溝、中央穴、柱穴、方形土壙、土壙、小土壙、砂利の敷石等の付属施設は皆無であり、火所とも考えられる焼土面もみだせず、まさに、住居建設中の遺構の状況をとどめている。高床部だけをもち、他の施設をまったく持たない竪穴住居は本調査では初めてであり、具体的に住居として使用された形跡をとどめていない。おそらく、この住居規模であれば、他の竪穴住居の例から考えても、柱があつてしかるべき形状である。

遺物は住居内の北東、西側に集中しており、同方向から投棄された様子を呈し、土器、石、炭化材等がみられる。床面の遺物はほとんどみられない状況である。おおよそ、29個体の土器があり、器種



第284図 竪穴住居-233出土遺物(1)



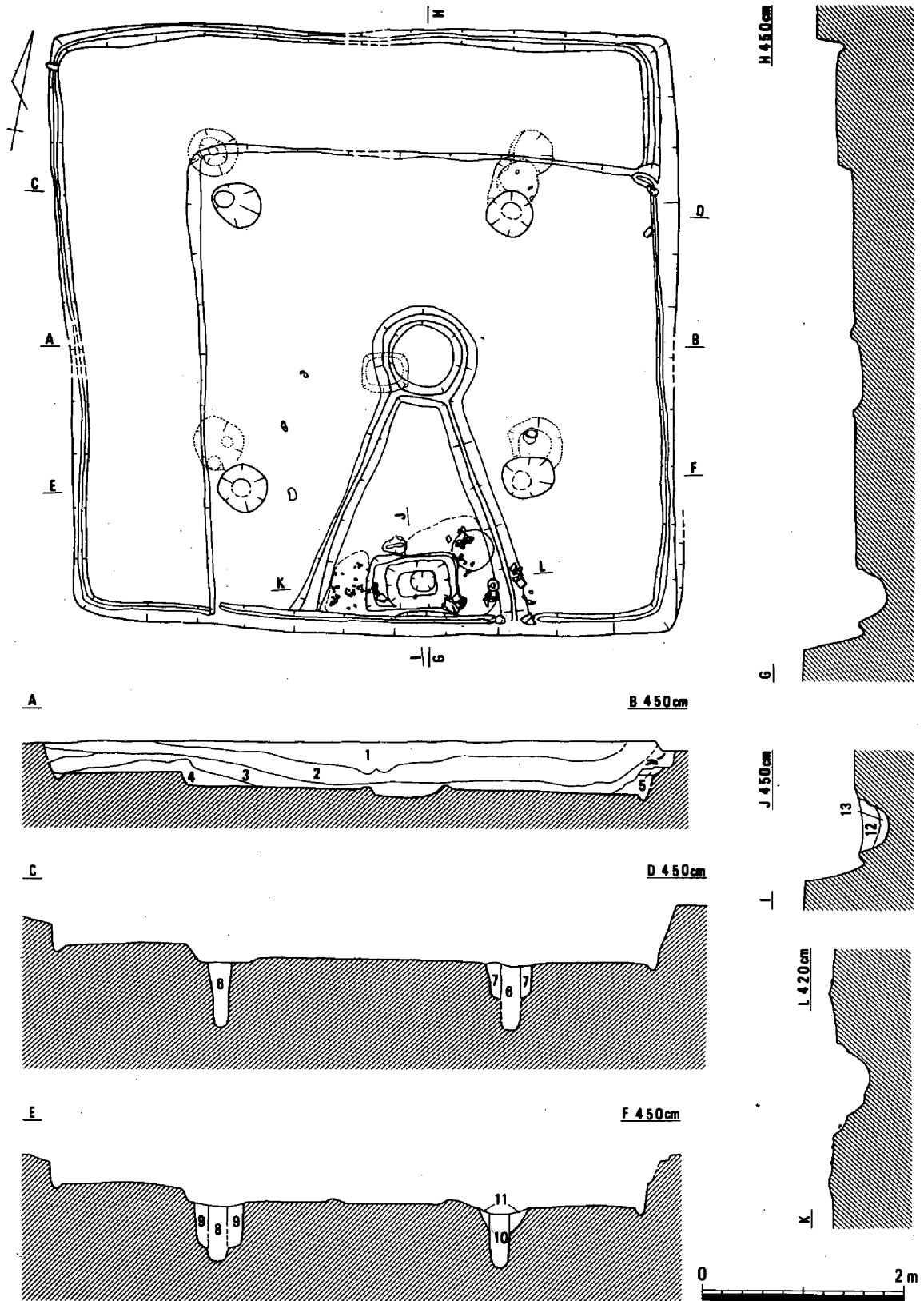
第285図 豎穴住居-233出土遺物(2)

では壺、甕、高杯、鉢、小形丸底壺、製塩土器等がみられる。甕と小形品の出土が目立っている。北東部から投棄されたものに、甕6523・6524・6528・6530～6532、高杯6534・6535、小形品6539・6541・6542、製塩土器6546があり、西からのものに、壺6521、高杯6533、鉢6538、小形丸底壺6540・6543がある。北東から多くの土器の投棄がされており、なかには完形品も含まれている。壺6520、甕6525、小形丸底壺6544の3点が床面に近い場所からの出土である。また、壺6519、甕6522・6524・6527・6529、小形丸底壺6539・6542・6543には胴部、底部に煤が付着している。6522～6532の拡張された口辺部には6～10条の櫛描き沈線文がみられ、6523～6528が7～8条と最も多い。肩部に施文される米粒状の刺突圧痕は6524、6527にみられる。高杯6533、6534は脚内中空にて、透し穴は3孔である。水漉しの粘土が使用された土器に6533、6534、6541、6544等があり、礫を含むものに6546がある。

土器の投棄された時期は、古・前・Iの新相～古・前・IIの古相あたりであろうか。 (高畑)

豎穴住居-234 (第286～288図)

〇17区の東南側、豎穴住居-232の6.5m南側、豎穴住居-244の西隣に位置する。長さ616cm、幅

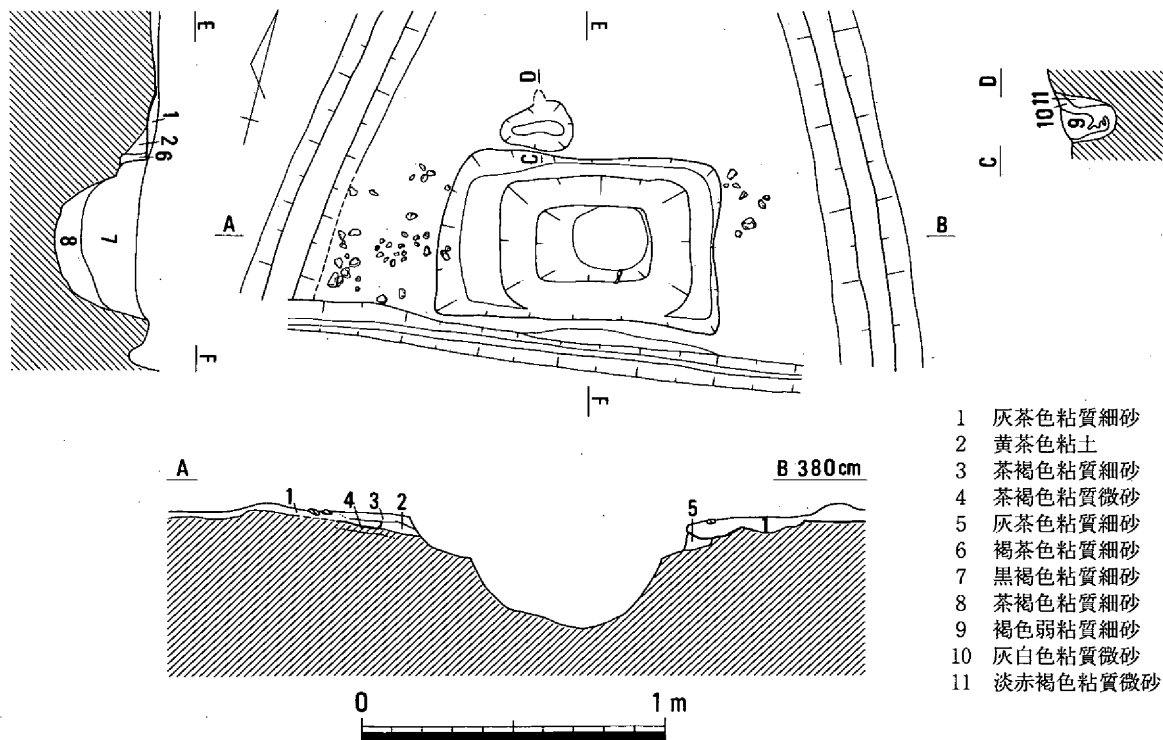


- | | | | |
|--------------|-----------|-------------------------------|----------|
| 1 暗茶褐色微砂 | 5 茶色粘質土 | 9 明茶色粘質細砂 (炭混じり) | 13 茶灰色細砂 |
| 2 暗茶色粘質土 | 6 褐茶色粘質細砂 | 10 褐茶色粘質細砂 | |
| 3 暗茶色粘質砂 | 7 茶褐色粘質細砂 | 11 黒褐色粘質細砂 (黄茶色粘質土のブロックと炭を含む) | |
| 4 暗灰色砂 (細) 炭 | 8 茶褐色粘質細砂 | 12 茶褐色粘質細砂 (黒褐色ブロックと炭を含む) | |

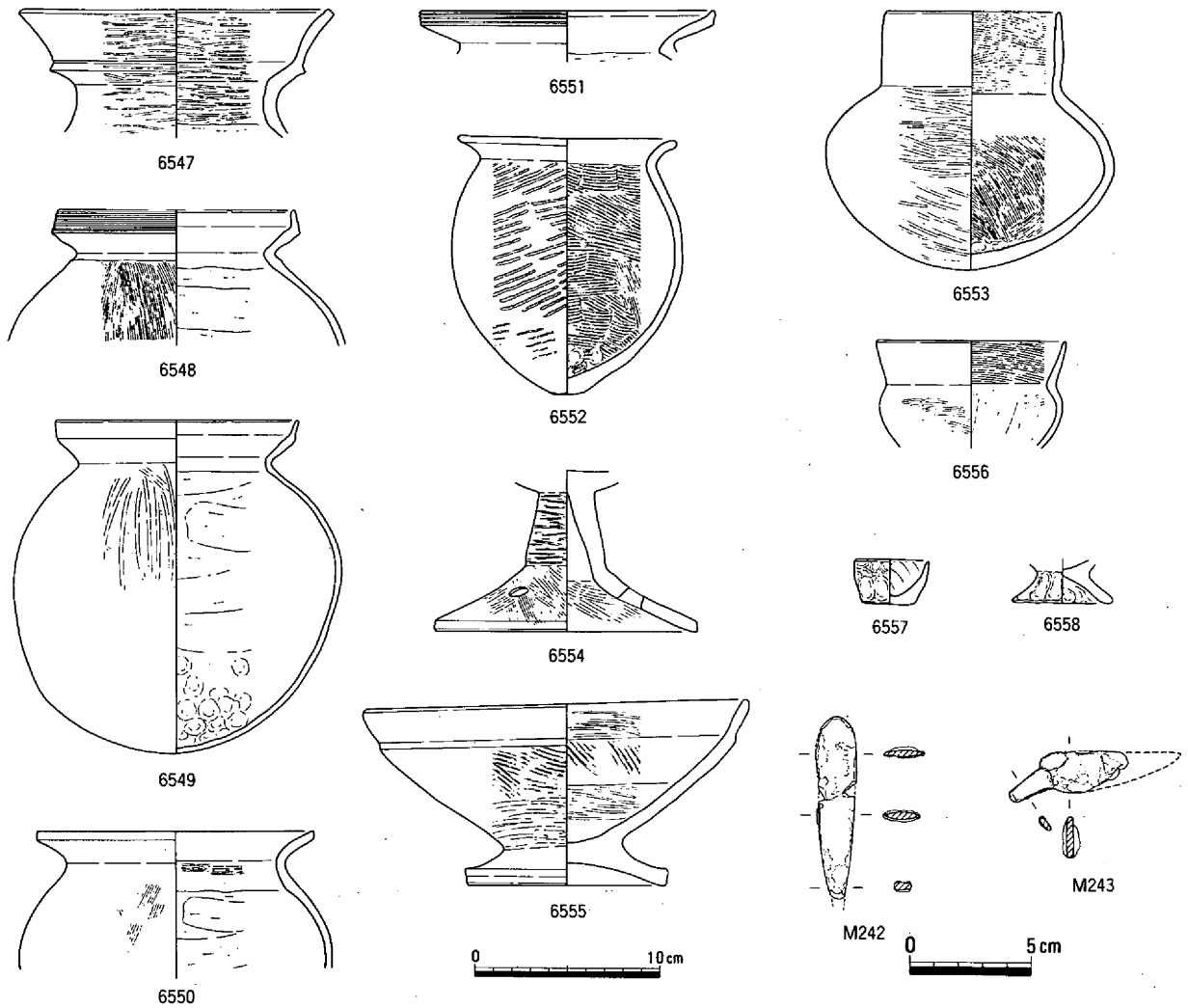
第286図 竪穴住居-234 (1/60)

600cm、床面積33.68㎡、床面海拔高369.8cmをはかる方形の住居である。規模は大形の部類に入り、本調査での住居床面積は第4番目に入る。床は北、西の両辺に幅110cm、高さ約18cmの高床部が設けられており、高床面積11.5㎡をはかる。約20㎡の床面には東、南の辺に壁体溝、柱穴、中央穴と方形土壇を囲む土手、敷石、小土壇等がみられる。柱穴は4本からなり若干東側に偏る配置を呈する。北辺の柱間が283cm、東辺が269cm、南辺が274cm、西辺が288cmをはかる。柱穴掘り方は直径45~50cm、深さ60cm前後で、土壌化した柱痕跡の直径は18cmをはかる。中央穴は主柱穴の対角線交点より少し東側に配置されており、幅約20cm、高さ約4cmの土手状の高まりが中央穴を一周する。さらに、その土手が南側の方形土壇に向かい「ハ」字形に広がり、方形土壇の両側を通り南辺の壁体に取り付く格好となる。まさに前方後円形の土手の平面形状を呈する。中央穴は直径約70cm、深さ約12cmをはかる円形の土壇であり、土壇底には炭層の堆積がみられ、炉としての使用を物語っている。方形土壇は通常の段を持ち、上段上端は長さ90cm、幅55cm、深さ約10cm、下段の上端は長さ63cm、幅45cm、深さ約23cmをはかる。埋土は2層で第7、8層がそれにあたり、粘質微砂のレンズ状の堆積が認められるが、炭、焼土等の遺物は認められない。3方にある段の状況からは、長軸に沿った方向に板状のものによる蓋がかけられた可能性が強い。砂利による一面の石敷きは、北側の一部を少し開けた状態で幅約30cmをもって方形土壇を「コ」字形に廻っている。小土壇は石敷きの開いている場所に方形土壇と並行して設けられており、東西の長さ24cm、南北幅7~17cmをはかり、平面は楕円形を呈する。深さ約20cmをはかり、掘り方の壁には鉄分が凝集している。竪穴住居-210、213、217、232、235等に認められたものと形状、配置場所等に共通点が見い出され、同目的・同機能を果していた小土壇と考えられる。住居への出入口に関連する遺構と考えられつつある。

遺物の出土量はあまり多くなく、壺、甕、高杯、鉢、埴、手捏ね土器、製塩土器、鉄器片等がみられる。床面からの出土物は明確におさえられず、ほとんどのものが浮いた状態での出土である。少し



第287図 竪穴住居-234方形土壇(1/25)



第288図 竪穴住居-234出土遺物

まとめて遺物が見られたのは方形土壇の周辺であり、土手に接着する6550、石敷きの砂利に接する6551、6553、6555の脚台等がある。他に床面近くの6547、埋土中の6557等がある。しかし、方形土壇堆積最終段階で入ったと考えられる6555の鉢部が、砂利に接して出土した6555の脚台と接合すること等により、これらの遺物は住居廃絶から少し時間が経過した後に投棄されたようである。

これらの遺物は古・前・Iの中相に比定できる。

さらに、本住居の下位から同形同大で竪穴住居-234に先行する住居が確認されている。それは、竪穴住居-234の床面を剥ぐことにより発見されたもので、柱穴、中央穴、土壇等がみられる。支柱穴4本の位置は全体的に北にあがり、西辺の柱穴が西に寄った形状である。北辺の柱間は303cm、東辺が293cm、南辺が303cm、西辺が290cmをはかり、西辺を除く3辺の柱間が20~30cm広がっている。中央穴は新しい中央穴を除去すると、その西側土手の下位より出土し、長さ45cm、幅40cm、深さ28cmをはかる方形の土壇である。すぐ、東隣に接して幅50cm、深さ5cm位で炭の詰まった浅い土壇が併設されている。

古い住居からの遺物は、竪穴住居-234の南東柱穴に切られた格好で検出された支柱穴内の甕6552が唯一の土器である。口径11.7cm、最大径12.5cm、底径1.6cm、器高14.1cmをはかり、ほぼ完形である。小さい底部を残す小形のタタキ甕であり、器外面に細筋にて右上がりのタタキメが施されており、

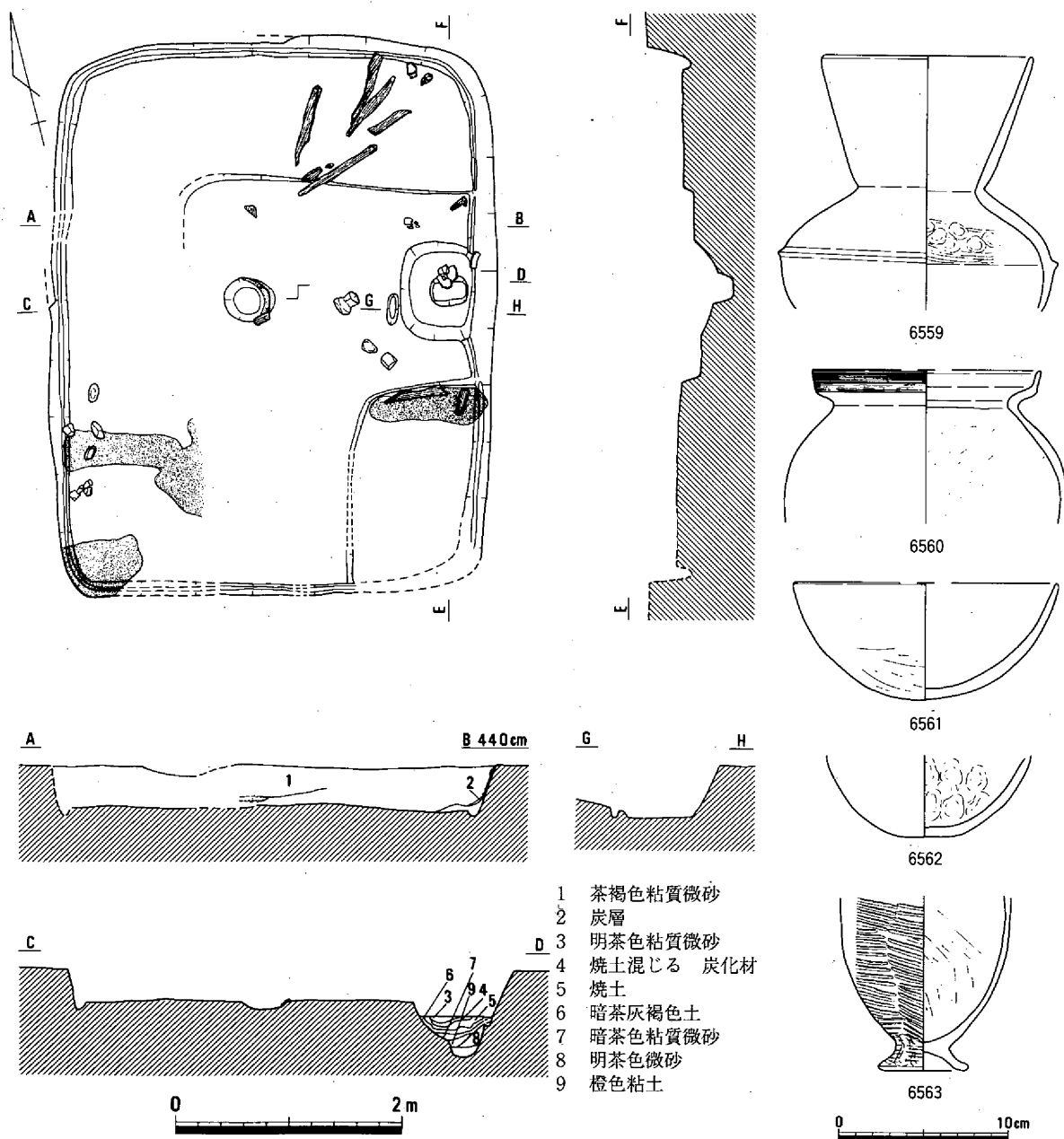
器内面はハケメによる横位の調整がみられ、色調はにぶい橙色を呈する。器外面には煤が付着しており、煮沸に使用された痕跡をとどめる。通常の胎土とは異なると考えたが、胎土の分析では岡山県南部の領域に入ることが判明している。

この2軒の住居の関係は、古い住居の平面規模を変えずに、中央穴、柱穴、高床部等の床面改築が実施されたことを物語っている。古い住居に伴う柱穴から出土した甕6552は、柱の抜取り後に埋土が行なわれ、再び径26cm、深さ約25cmの土壌が掘り込まれ埋納されている。土壌内には口縁を上にして約55°の傾斜でもって置かれており、改築に際しての地鎮、あるいは何らかの行為が実施された状況を残す可能性が強い。

(高畑)

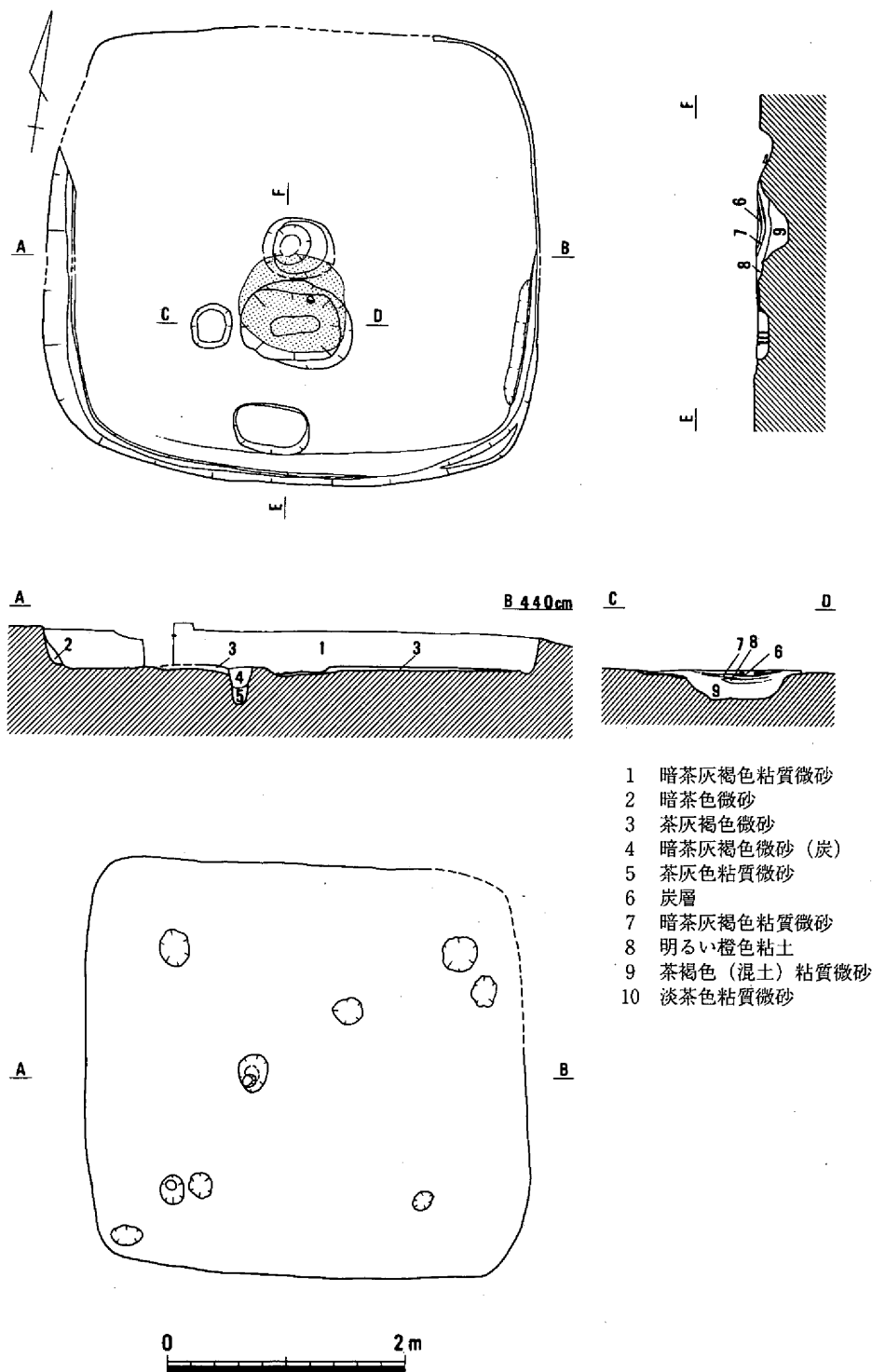
竪穴住居-235 (第289図)

5軒の住居が南北方向に切り合い、竪穴住居-235は北側から3軒目にあたる。竪穴住居-233、



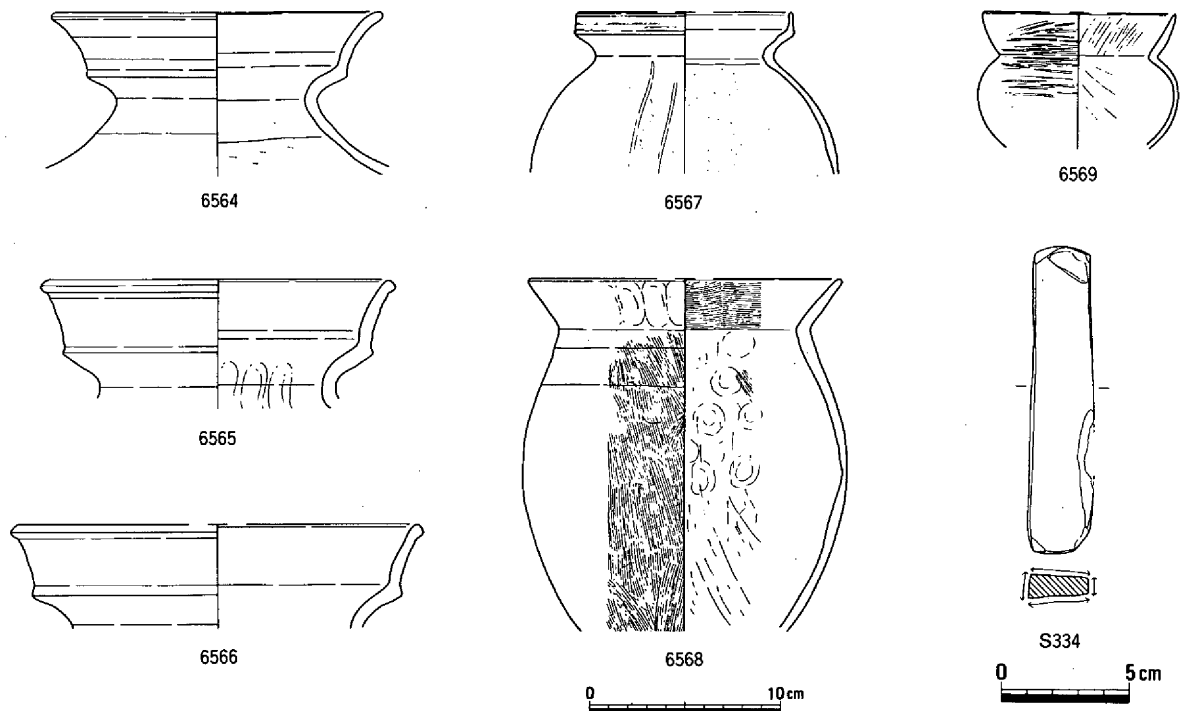
第289図 竪穴住居-235 (1/60)・出土遺物

243により切られており、部分的に削平を受けているが、両住居の床面は本住居の床面までは達していない。長さ492cm、幅390cm、床面積17.13m²、床面海拔高388.5cmをはかる隅丸方形の住居である。火災を受けており、床面北東部には炭化材（垂木）が中央に向かって倒れた状況をとどめ、床面南側半分では炭化材2本とまとまった焼土の範囲が残されている。住居内の北辺、西辺と南東辺に高床部が設けられており、幅約100cm、高さ3～8cmをはかる。若干、変則的な高床部の配置である。中央少し西側に長さ41cm、幅36.5cm、深さ9cmの浅い中央穴があり、高床部のない開口部、方形土壙に向く



- 1 暗茶灰褐色粘質微砂
- 2 暗茶色微砂
- 3 茶灰褐色微砂
- 4 暗茶灰褐色微砂（炭）
- 5 茶灰色粘質微砂
- 6 炭層
- 7 暗茶灰褐色粘質微砂
- 8 明るい橙色粘土
- 9 茶褐色（混土）粘質微砂
- 10 淡茶色粘質微砂

第290図 竪穴住居-236(1/60)



第291図 竪穴住居-236出土遺物

中央穴の内面東側に焼土面がみられる。方形土壙は長さ88cm、幅60cm、深さ19.5cm、さらに内面底に長さ34cm、幅28cm、深さ20cmの土壙が設けられている。本土壙の断面形態は稀少なのである。また、方形土壙の西側前方に長さ28cm、幅9cm、深さ7.5cmをはかる小土壙が付設されており、竪穴住居-233等にみられる同類の遺構である。

遺物は中央穴の周辺に6559・6560・6562、炭化材に混じって6563、南西隅に6561と河原石4個がみられる。6559、6560、6561、6563は床面に近い場所からの出土であり、6559、6560は浮いた状態の出土となる。まして、6560は方形土壙の埋没後の投棄となり、火災時に伴う土器との関連がつかみにくい。厳密に言えば、床面に接地する炭化材も少なく、住居廃棄後の堆積土の傾斜に沿って中央に下がる状況がみられる。廃絶後に少し時間が経過して火災にあったのであろうか。残った10本の炭化材はコナラ属コナラ亜属コナラ節が9本、コナラ属アカガシ亜属が1本である。

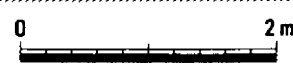
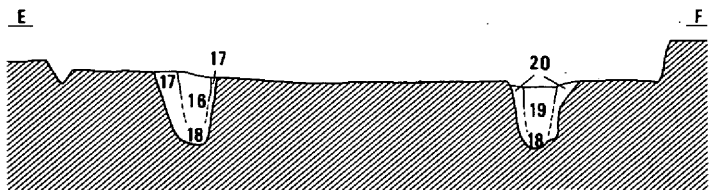
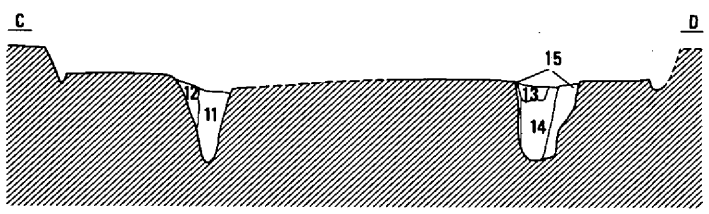
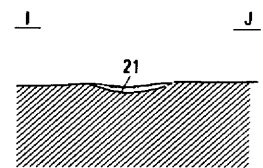
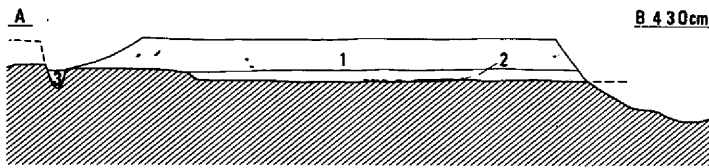
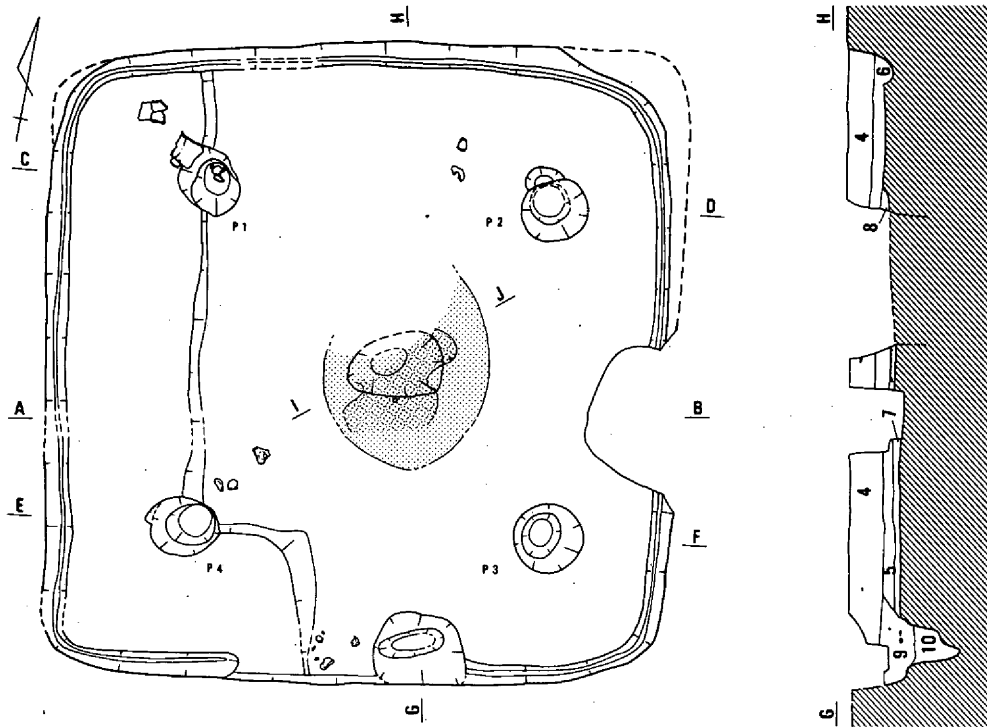
火災の時期は古・前・Iの中相に比定できる。

(高畑)

竪穴住居-236 (第290・291図)

5軒の住居が南北方向に切り合い、竪穴住居-236は北側から5番目にあたる。竪穴住居-243により北側の壁体部分に削平を受けている。長さ416cm、幅386cm、床面積13.82㎡、床面海拔高385.4cmをはかる隅丸方形の住居である。床面に高床部はなく、浅い壁体溝、中央穴、方形土壙、土壙等がみられる。A・B断面では第3層が新しい住居の床面であり、第3層下に薄い炭層がみられ、古い時期の住居床面と考えられる。また、第2層が古い住居の埋土であり、第1層が新しい住居の埋土にあたる。古い住居の時期には少なくとも西側に高床部が存在した可能性も指摘できる。北側の60×50cm、深さ9.2cmの中央穴が新しい住居に伴い、その南にある84×59cm、深さ28cmの土壙は古い住居に伴う可能性がある。南側壁体の中央に位置する64×46cm、深さ8cmの土壙の所属住居は不明である。住居規模は竪穴住居-217、220、229等に近似するものである。

さらに下位より、長さ370cm、幅348cm、床面積(12.45) m²、床面海拔高376.3cmをはかる隅丸方形の住居状平面形が確認されている。柱穴にはなりそうにない浅い小穴が9本みられるが、性格は不明である。本住居も竪穴住居-234と同様にはほぼ同規模の平面形を持つ住居が1~2回の立替えを行っている。



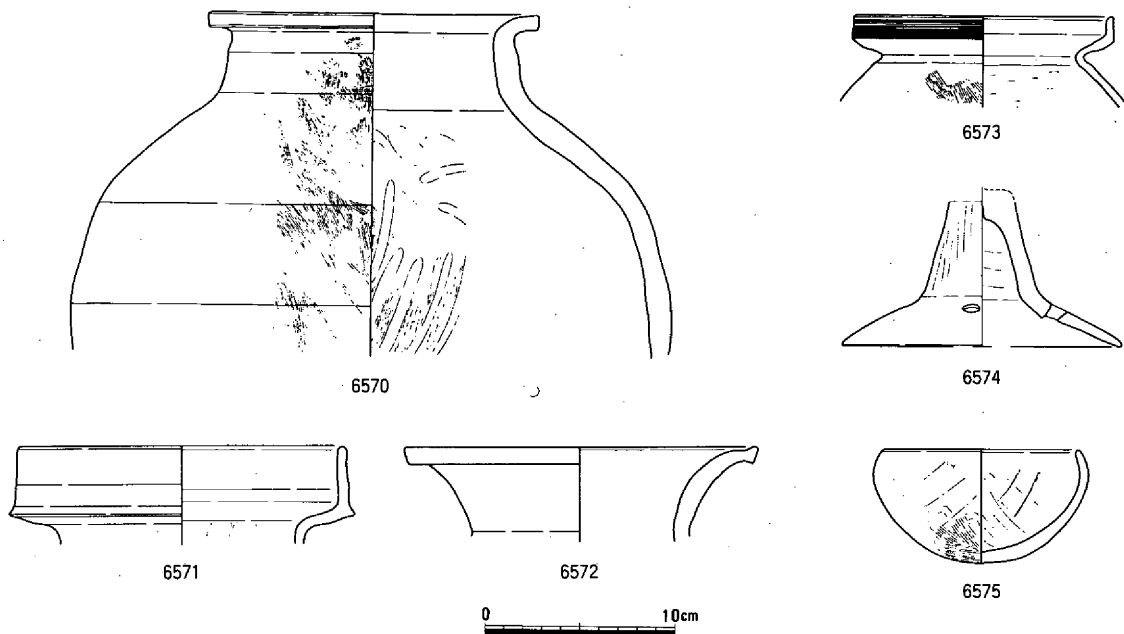
- 1 暗茶褐色微砂
- 2 暗灰色微砂
- 3 暗灰茶色微砂
- 4 灰茶色微砂
- 5 灰色微砂
- 6 茶灰色微砂
- 7 黄灰色微砂
- 8 青灰色微砂
- 9 暗茶灰色微砂
- 10 暗灰青色微砂
- 11 暗黒青色微砂
- 12 灰青色微砂
- 13 灰褐色微砂
- 14 暗青灰色微砂
- 15 茶灰色微砂
- 16 茶灰褐色微砂
- 17 淡茶灰色微砂
- 18 暗灰青色微砂
- 19 褐灰色微砂
- 20 茶灰色微砂
- 21 灰青色微砂

第292図 竪穴住居-237(1/60)

遺物は新しい住居に伴うものと埋土中も含め、6564～6569の土器とS338の砥石、他に甕6567の同形態の口縁部小片が多くみられる。遺物はすべて破片、欠損品であり土器では口縁の1/4の残存が最も大きいものである。甕6568は器外面底部に煤が付着しており、煮沸に利用された器である。壺・甕の形態、手法の特徴等から、古・前・Iの新相に比定することが可能である。 (高畑)

竪穴住居-237 (第292・293図)

O17区の東南、竪穴住居-234の南南東5.5mに位置する方形の竪穴住居である。住居の中央および

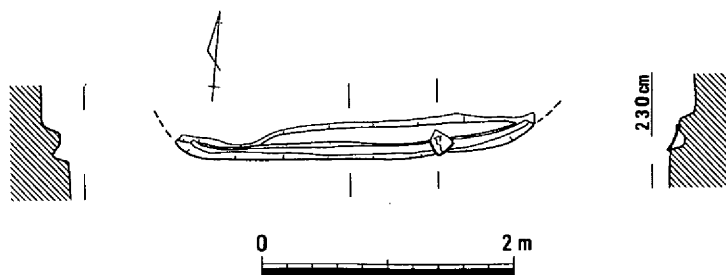


第293図 竪穴住居-237出土遺物

周辺部を近世の井戸、土壌等により破壊を受けている。住居は長さ510cm、幅494cm、床面積(21.86) m²、床面海拔高385cmをはかる。埋土はA・B断面の第1・2層、G・H断面の第4・5層で微砂からなり、土器小片、炭粒を含む。そして、第7層が貼り床面の黄灰色微砂である。住居内の西辺から南辺の一部にかけて「L」字形に幅約100cm、高さ約10cmの高床部があり、一方床部には厚さ約5cmの貼り床、柱穴、中央穴、方形土壇が設けられている。主柱穴は4本からなり、北辺が260cm、東辺263cm、南辺271cm、西辺270cmをはかる。その中央には、長さ(173)cm、幅127cm、深さ9cmの浅い窪みがあり、ほぼ全体に炭が分布し、なかでも長さ76cm、幅(50)cmの中央穴と考えられる周辺に集中している。方形土壇は南辺壁体のほぼ中央にあり、ほぼ通常的位置を占めており、長さ73cm、幅57

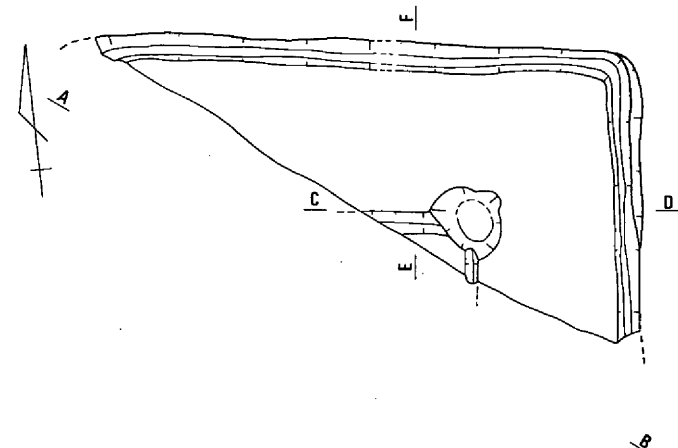
cm、深さ53cmをはかる。住居平面規模は竪穴住居-228に近く、主柱穴の配置は大形住居である竪穴住居-234に類似する。

遺物は非常に少なく、またすべて小破片である。壺6570、高杯6574の2点が床面、甕6573が方形土壇内、壺6572がP-1下層、壺



第294図 竪穴住居-238(1/60)

6571、鉢6575が埋土中からの出土である。なお、甕6573と同形態の口縁部小片は他の器種より多くみられる。

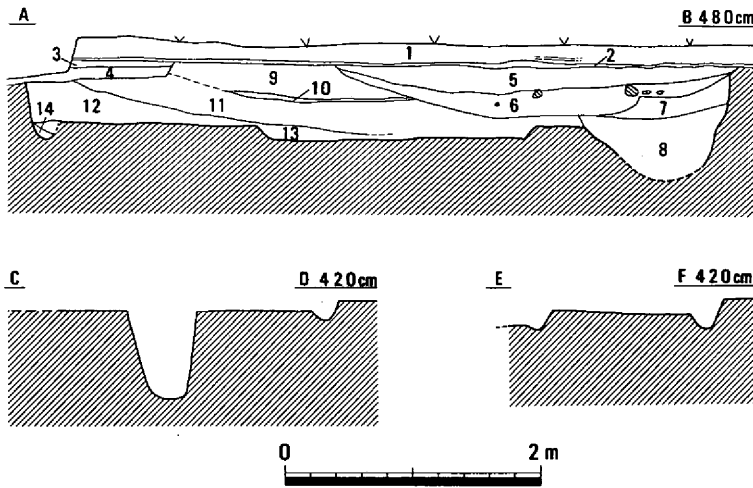


廃絶期は、古・前・Iの中相段階に比定が可能である。

(高畑)

竪穴住居-238 (第294図)

O17区の東南、竪穴住居-226~228の3軒がまとまる東隣に位置し、竪穴住居-220に9割以上を削平されている。残存の南辺部は長さ(284)cm、幅(30)cm、床面海拔高410cmをはかり、壁体溝と少しの床面が確



- 1 暗灰色土
- 2 黄橙褐色粘質砂
- 3 灰青色粘質砂
- 4 黄灰色粘質砂
- 5 淡灰色粘質微砂
- 6 灰青色粘質微砂
- 7 暗茶褐色粘質微砂、Mn
- 8 暗茶褐色粘質砂 (ベース橙色ブロック入)
- 9 淡茶褐色粘質微砂
- 10 暗紅色土 (焼土ブロック)
- 11 茶褐色微砂
- 12 暗茶褐色粘質土
- 13 暗黄橙色粘質土
- 14 暗茶色微砂

第295図 竪穴住居-239 (1/60)

認できる。遺物は丹塗りの胴部小片が壁体溝上に認められ、竪穴住居-220の関連から古・前・Iの新相以前と考えられる。

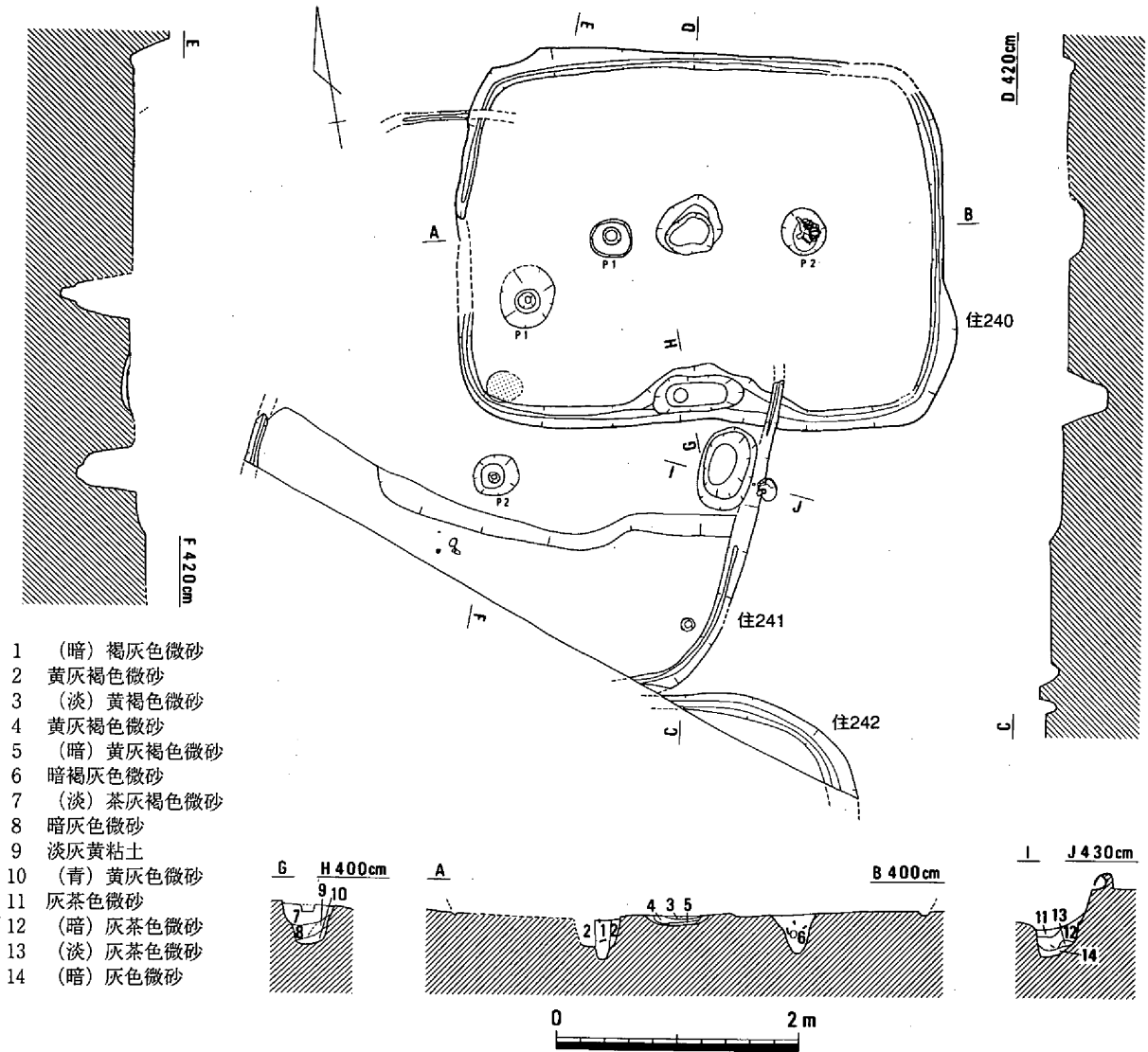
(高畑)

竪穴住居-239 (第295・297図)

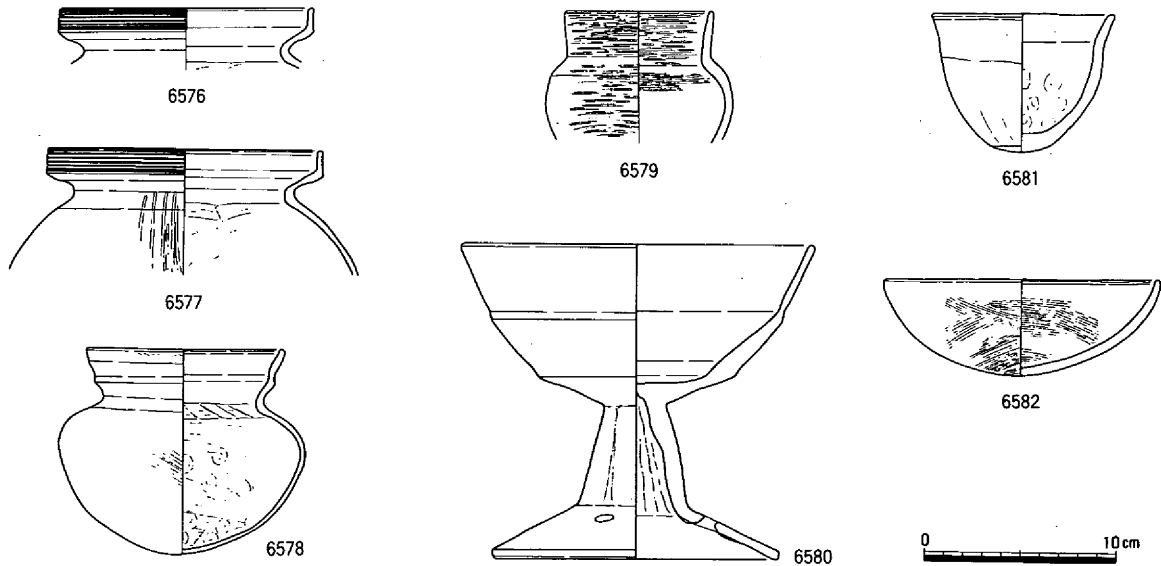
O17区の南東中央、竪穴住居-240の西側2.5mに位置する方形の住居である。大半が植栽部内にあり、住居北東部のみ調査である。長さ(420)cm、幅(230)cm、床面海拔高は387.6cmをはかる。上層からの堆積、利用状況は、第1層が昭和期の水田耕作土、第2層が鉄分層、その下位は厚さ4~5cmのマンガンの沈着層が形成され、乾田の構造を呈している。第5、6層は近世の土壌埋土であり、第7、8層が古墳時代前期の建物-54の柱穴掘り方埋土である。そして、第9~13層が本住居の埋土であり、第10層付近に焼土塊、土器片がみられる。住居内には海拔400cmをはかる2辺の高床部、柱穴1本が確認されている。

遺物は弥生時代中期末~後期、弥・後・Ⅲ、Ⅳの土器片が包含されていたが、明確に時期を決定する出土状況はつかめていない。しかし、建物-54により切られていることより、古墳時代前期より古いことが言える。住居形態、周辺の切り合い関係等から弥生時代後期末~古墳時代初頭に比定しておきたい。

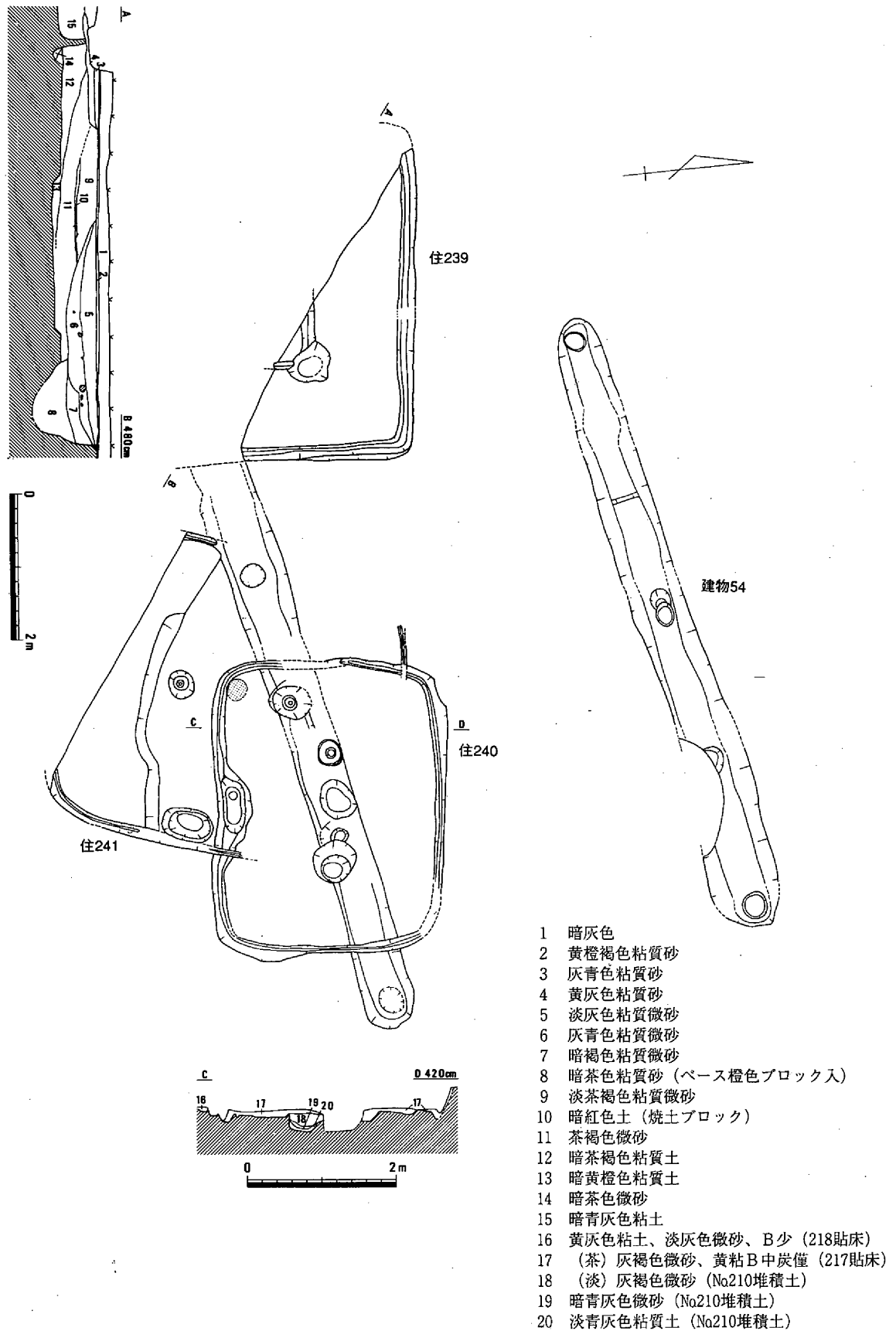
(高畑)



- 1 (暗) 褐灰色微砂
- 2 黄灰褐色微砂
- 3 (淡) 黄褐色微砂
- 4 黄灰褐色微砂
- 5 (暗) 黄灰褐色微砂
- 6 暗褐灰色微砂
- 7 (淡) 茶灰褐色微砂
- 8 暗灰色微砂
- 9 淡灰黄粘土
- 10 (青) 黄灰色微砂
- 11 灰茶色微砂
- 12 (暗) 灰茶色微砂
- 13 (淡) 灰茶色微砂
- 14 (暗) 灰色微砂



第296図 竪穴住居-240(1/60)・出土遺物



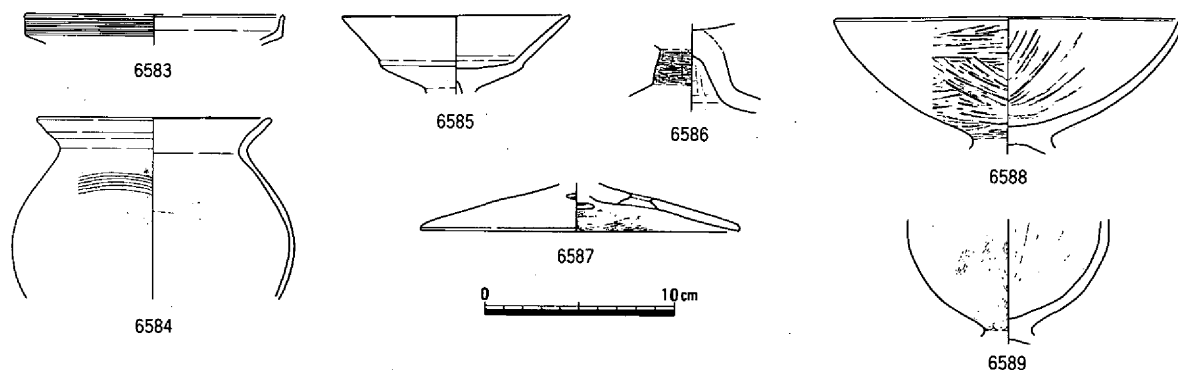
第297図 竪穴住居—239・240・241(1/80)

竪穴住居-240 (第296・297図)

○17区の東南中央、竪穴住居-237の西隣に位置し、竪穴住居-241により南西側に削平を受けている。長さ412cm、幅316cm、床面積11.34m²、床面海拔高374.8cmをはかる、東西に長い隅丸方形の住居である。この手の長方形を呈する住居は長辺、短辺の対角線の角度が37°前後になり、長・短辺比率が2:1.5になる場合が多いようである。

床面には壁体溝、柱穴、中央穴、方形土壇がみられる。支柱穴は長軸に沿う2本からなり、柱間160cm、直径36cm、深さ33~38cmをはかる。P-2の柱根は抜取られて、土器が埋納されており、P-1については柱痕跡はあるが土器片が混入している。中央穴は柱穴間にあり、2基が重複した状況を示しており、長さ55cm、幅50cm内におさまり、深さ8cmをはかる。平面は不整形であり、第4層と第5層間に厚さ約1mの炭層がみられる。方形土壇は南壁体の中央にみられ、長さ70cm以上、幅37cm、深さ約31cmをはかり、埋土は第9層が粘土小塊がつまり、他は灰色系の微砂である。

遺物は甕6576~高杯6580がP-2内からの出土であり、6581が住居南東部、6582が埋土中からの出



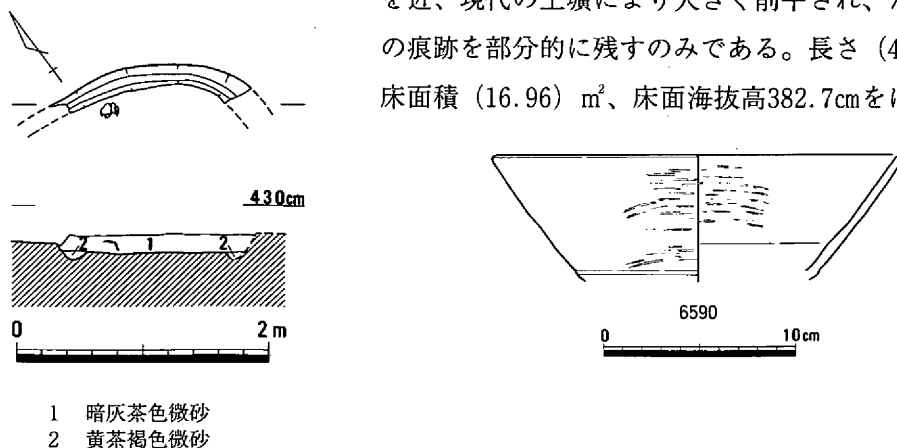
第298図 竪穴住居-241出土遺物

土である。支柱を抜き取り、柱穴に埋納された土器より、本住居は古・前・Iの新相段階に廃絶されたと考えられる。

(高畑)

竪穴住居-241 (第297・298図)

竪穴住居-240の南西側を大きく削平して作られている隅丸方形の住居である。本住居も北側半分を近、現代の土壇により大きく削平され、かろうじて壁体溝の痕跡を部分的に残すのみである。長さ(460)cm、幅420cm、床面積(16.96)m²、床面海拔高382.7cmをはかる。床面には



第299図 竪穴住居-242(1/60)・出土遺物

第3章 調査区の概要

南側に高床部、支柱穴2本、東側壁の中央に方形土壙がみられる。高床部は床より約10cm高く、柱間は151cm、中央穴は直径約25cmをはかり、焼土面および炭層が認められる。方形土壙は長さ70cm、幅45cm、深さ約30cmをはかり、第11層に炭粒がみられ、第12～14層は灰茶色系の微砂である。

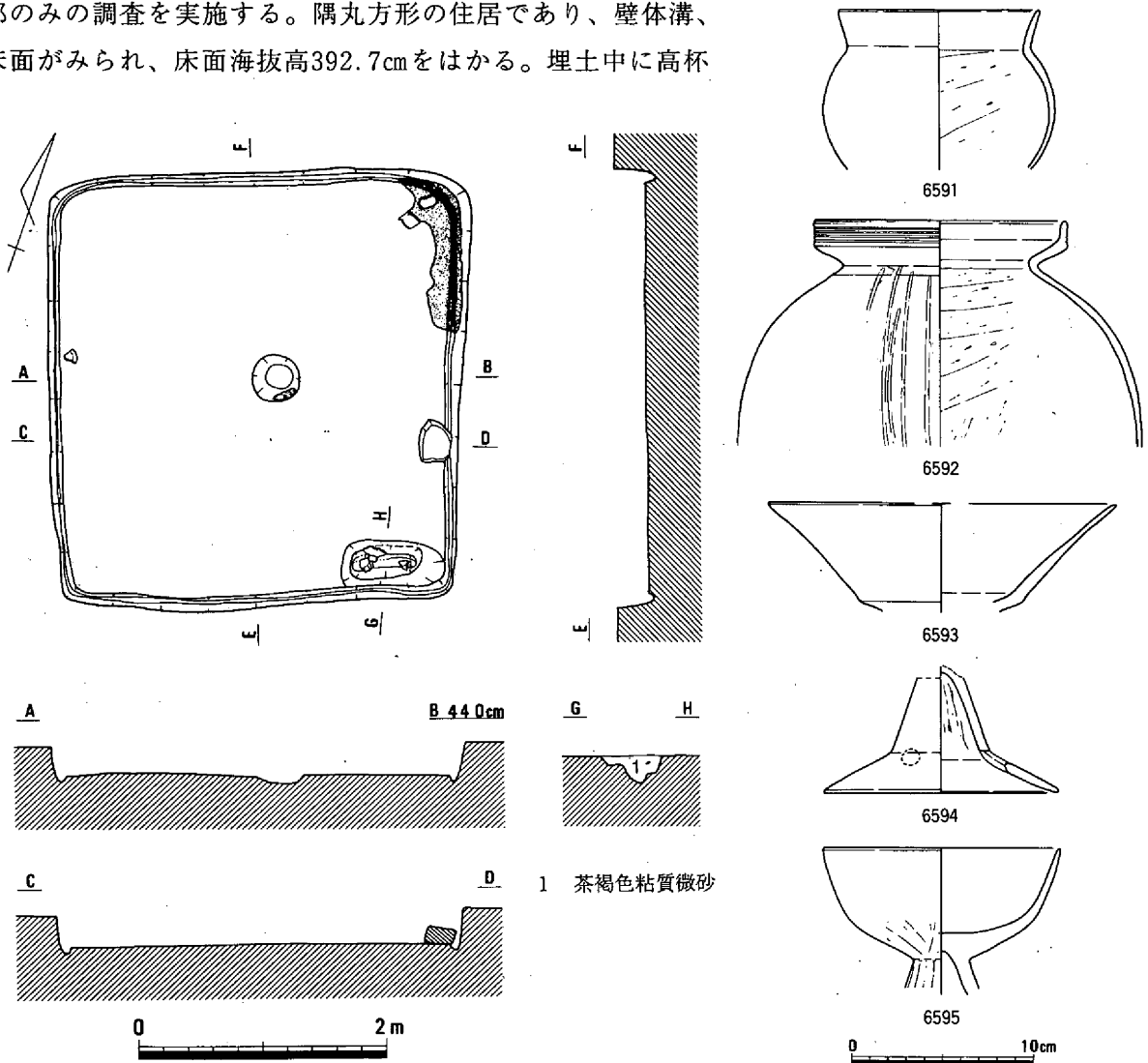
遺物は甕6584がP-1内、高杯6585・6589が床面、6587が方形土壙内、甕6583・高杯6586が埋土、低脚杯6588が東側壁体上の外側より出土している。

古・前・Iの新相から古・前・IIの古相に比定できる。

(高畑)

竪穴住居-242 (第299図)

竪穴住居-240の南側に位置し、竪穴住居-239同様に北東部のみの調査を実施する。隅丸方形の住居であり、壁体溝、床面がみられ、床面海拔高392.7cmをはかる。埋土中に高杯



第300図 竪穴住居-243(1/60)・出土遺物

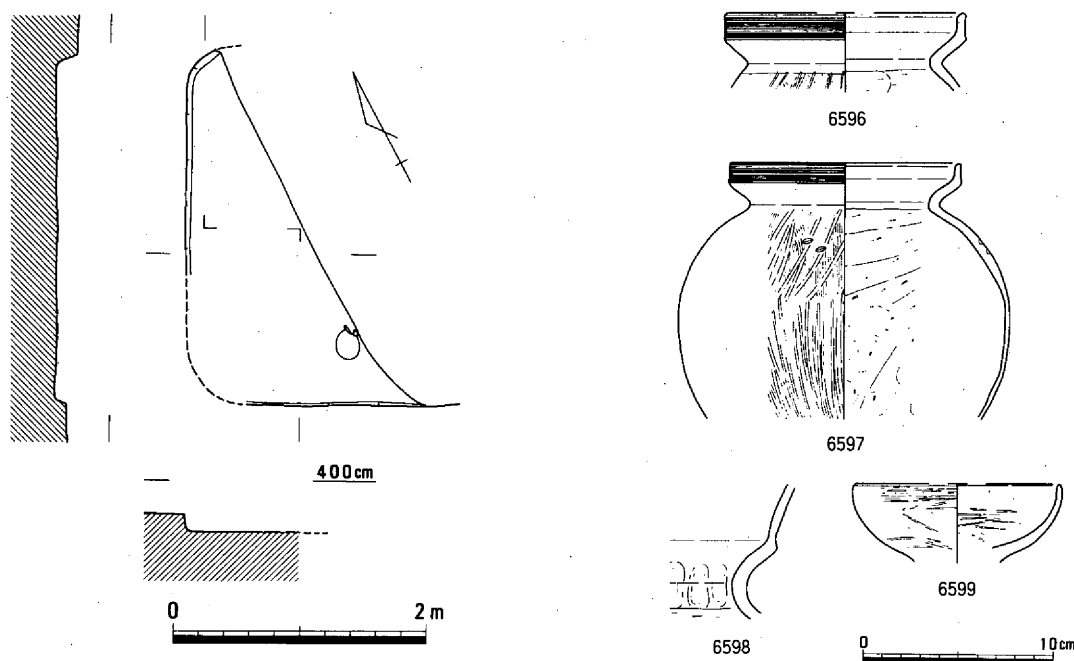
6590の破片が出土している。古・前・IIの範疇に入る高杯の可能性が高い。

(高畑)

竪穴住居-243 (第300図)

〇17区の東南東、竪穴住居-233～236までの5軒の住居が切り合い、北から4番目に位置する。竪穴住居-235、236を切る方形の小形竪穴住居であり、長さ360cm、幅332cm、床面積10.99㎡、床面海拔高393.5cmをはかる。床面には高床部、柱穴は無く、壁体溝、中央穴、方形土壙、焼土がみられる。

中央穴は直径38cm、深さ68cmをはかり、南側あるいは方形土壇の方向に向く土壇の内側が焼土面と化している。方形土壇は住居南東隅に南辺に並行して設けられ、86×50cm、深さ24cmをはかる。東辺の壁体溝上には35×25cm、厚さ12.3cmの平坦面を持つ石が配されている。作業台と考えられるこの石も



第301図 竪穴住居-244(1/60)・出土遺物

火を受け、剥離していることなどより、北側に所在する焼土との関係等から火災を受けた住居の可能性が強い。

遺物は少なく、甕6591、高杯6593・6594が方形土壇埋土中、甕6592が焼土の上面、高杯6595が床面近くの出土であり、火災後に投棄されたものであろう。古・前・Ⅱの古相に比定できる。(高畑)

竪穴住居-244(第301図)

O17区の東南東、竪穴住居-234の東隣に位置し、竪穴住居-233により東側半分に削平を受けている隅丸方形の小形竪穴住居である。長さ280cm、幅(156)cm、床面海拔高408.7cmをはかり、床面の付属施設は何ら認められない。本報告では最も小さい住居規模に入るものである。

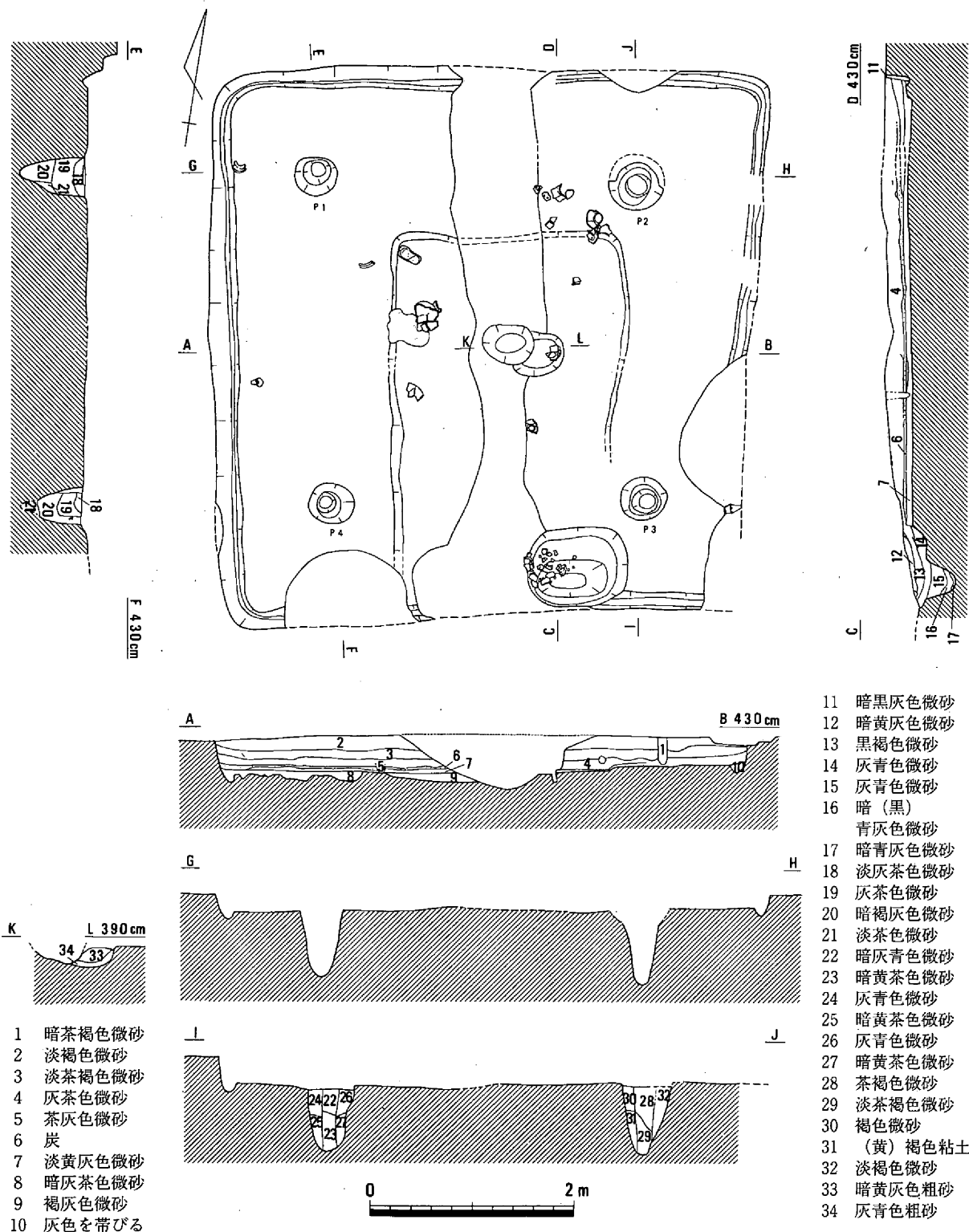
遺物は南東側の床面に甕6597が1点、土圧により押し潰された状態で出土しており、甕6596、壺6598、高杯6599は埋土中の土器片である。

廃絶期は古・前・Ⅰの中相～新相段階と考えられる。

さて、ここで南北に並んで切り合う5軒の竪穴住居の整理をすると、まず5軒ともに古墳時代前期に建てられた住居である。住居の向きは様々であり、高床部、方形土壇、中央穴等の位置もしかりである。縦割りの住居土層断面では、竪穴住居-233、244の床面が海拔410cm前後と高く、竪穴住居-235、236が海拔392cm前後と低く、竪穴住居-243が海拔395cmをはかる中間の底面高である。切り合い関係から見た築造では、竪穴住居-233が竪穴住居-244、235の2軒を切り、竪穴住居-243が竪穴住居-235、236の2軒を切って作られており、竪穴住居-233と243が新しいことがわかる。出土遺物からの検討では竪穴住居-235→244→236→233→243の順序で作られたものと考えられるが、同一の器形での比較資料が少ないため、充分には把握できていないのが現状である。(高畑)

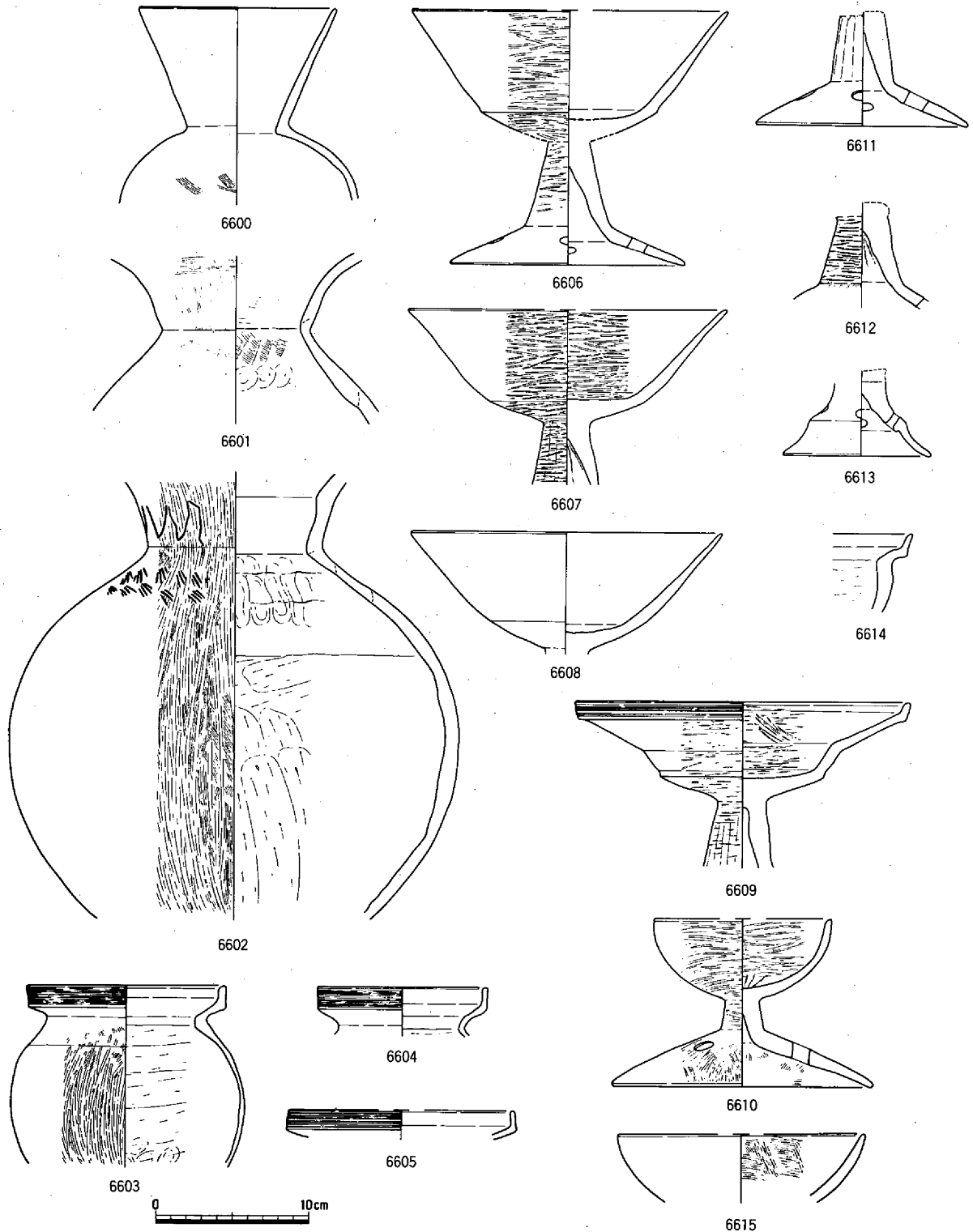
竪穴住居-245 (第302・303図)

〇18区の西南、盛土 (M8 III区) に所在し、竪穴住居-237の12.5m東に位置する。住居中央、および周辺を近世の遺構による破壊を受けている竪穴住居である。長さ554cm、幅540cm、床面積26.82m²、床面海拔高385cmをはかり、平面は方形を呈する。埋土は第2～5層であり、第6層が厚さ2cmの炭層である。第7層が厚さ約4cmをはかる貼り床であり、第8、9層が住居掘り方の最下層の凹凸に詰



第302図 竪穴住居-245 (1/60)

まった土である。検出面から床面までの深さ約30cm、掘り方底までは45cmをはかる。住居内は高床部、柱穴、中央穴、方形土壙、焼土面などがみられる。高床部は東、西、北の「コ」の字形に付き、南が開口されており、床面より4～5cm高く、幅は西、北が150cm、東が100cmをはかる。柱間は北辺が312cm、東辺312cm、南辺315cm、西辺が少し広く330cmをはかる。中央穴は2穴みられ、新しいものが、50×40cm、深さ63cmをはかる。方形土壙は南辺の中央東よりにあり、通常の作りで上段上端98×77cm、



第303図 竪穴住居-245出土遺物

深さ22.5cm、下段上端66×37cm、深さ24cmをはかる。焼土面は中央穴西側の高床部に近い床面にみられ、40×33cmと少し東西に広がっている。柱間等の配置は少し規模の大きい竪穴住居-232と近い数値を示す。

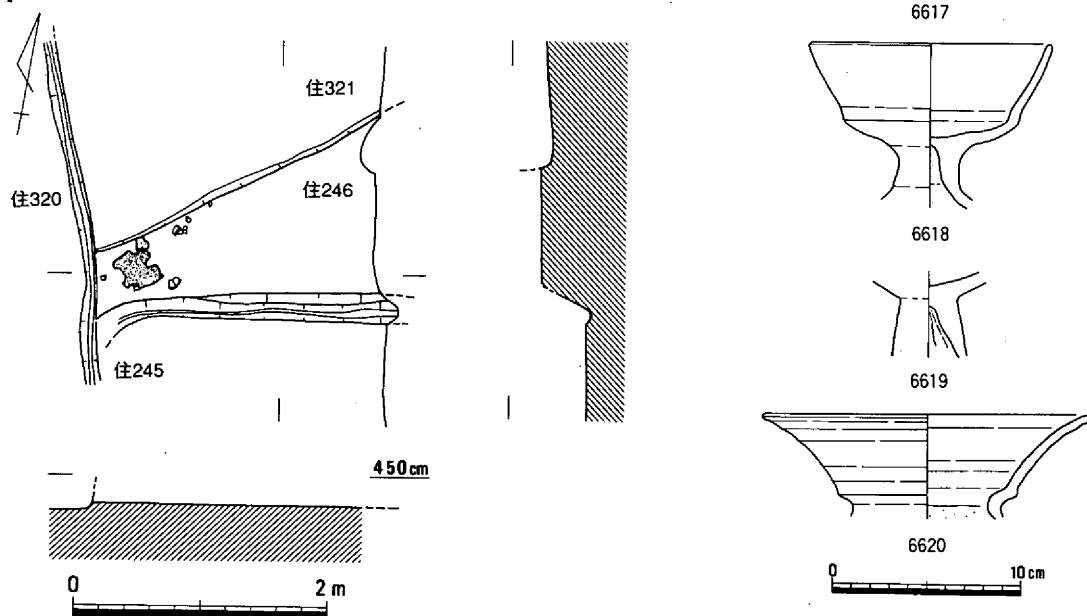
遺物は支柱穴の内側にみられ、6600から6615がそれにあたる。出土の状況から床面に伴うと考えられるのは鉢6615のみである。大半は炭層である第6層上面からの出土が多く、壺6600～6602・甕6603・高杯6606・6609・6613がある。あたかも、藁状の物を燃焼させ、その上に土器を投棄した状態にも読み取れる。他には高杯6607、6611、6614が方形土壇内埋土、高杯6610がP-4内、鉢6615が床面、甕6604、6605、6608、6612が埋土中からの出土である。P-1～P-4内でも土器小片の出土はみられるが、抜き取り後の埋納とは考えがたい出土状況である。ちなみにP-3が25片、P-4が19片、P-1・P-2が5～6片である。

廃棄された土器の形態、手法等の特徴から、古・前・Iの中相に比定が可能である。 (高畑)

竪穴住居-246 (第304図)

O18区の西南、盛土(M8Ⅲ区)に所在し、北、西側を古墳時代後期の竪穴住居-320・321、南側を古墳時代前期の竪穴住居-245、東側を近世の溝-538により削平を受けており、残る床面積は1.83m²をはかれるのみである。竪穴住居-321の床面海拔高は424.4cm、竪穴住居-245の床面海拔高は385cm、竪穴住居-320の床面海拔高は422cmをはかる。竪穴住居-246が床面海拔高427cmと最も高い位置にいるわけであり、一軒だけが浮き上がった状況になっている。まさに、床面ではあるがどの部分にあたるのかがまったく見当がつかない残存状況である。床面には16×16cmの範囲に焼土面が認められる。

遺物は焼土面の周辺からの出土であり、7点のうち甕6616のみが実測可能である。6617～6620は本住居に確実に伴うものではなく、掘り下げの際に近くでとり上げた遺物である。時期は古墳時代前期に比定可能である。(高畑)



第304図 竪穴住居-246(1/60)・出土遺物

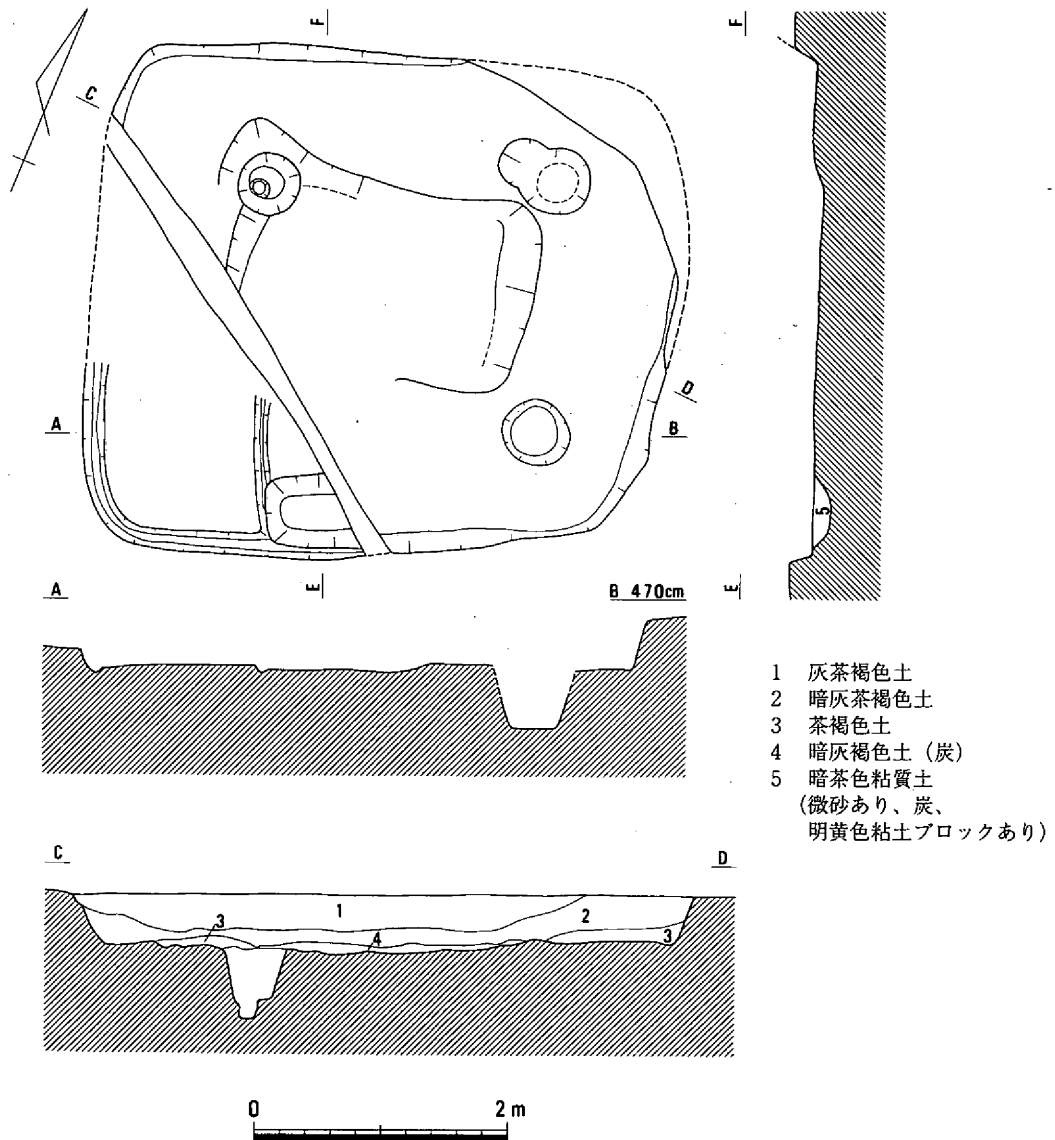
竪穴住居-247 (第305~307図)

O17区東側中央付近に位置する。調査区境にまたがって検出されたため、検出状況がやや異なるものの、1軒の竪穴住居として作図合成した。

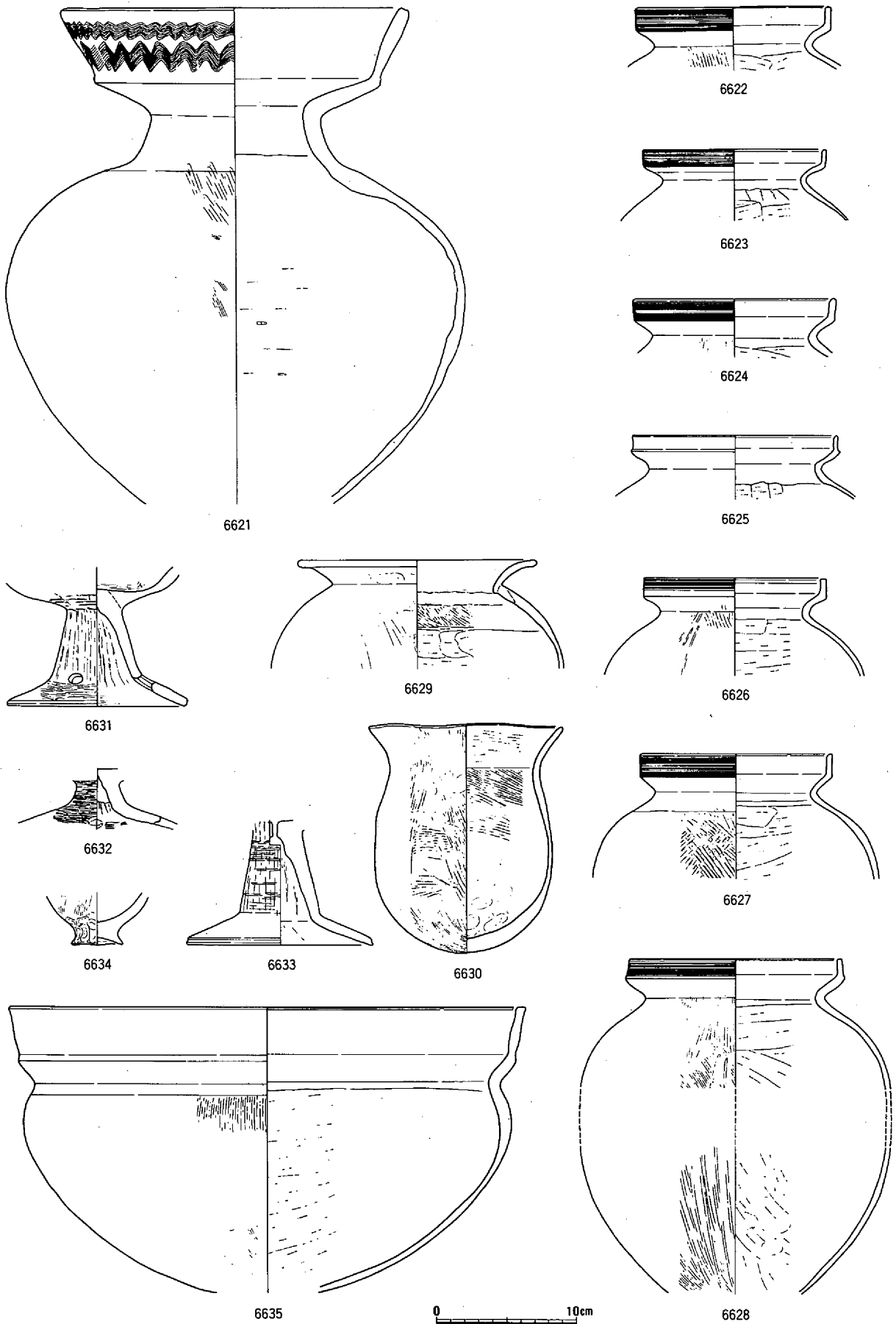
主軸を北北西に向ける方形の竪穴住居である。長辺で460cm、短辺で410cmの規模を有し、検出面から床面まで約50cm残存していた。主柱穴は4本柱と思われ、うち3本のみ検出している。床面の四周に高床部を確認しており、壁体溝は一部で確認されたのみである。また、南辺中央部の壁体より、幅約60cm、長さ推定90cmほど、深さ15cmの方形土壙の一部を確認した。中央穴は不明である。

出土遺物は、6621~6639を図示した。6621は壺、6622~6628は吉備型甕、6631~6633が高杯、6634は台付鉢か。6635~6638は鉢であり、6639は手焙りである。これらはほとんどが埋土の上層から出土しているが、うち、6637の鉢と6639の手焙りは方形土壙から出土している。なお、図示していないが、製塩土器の小破片もここから出土している。

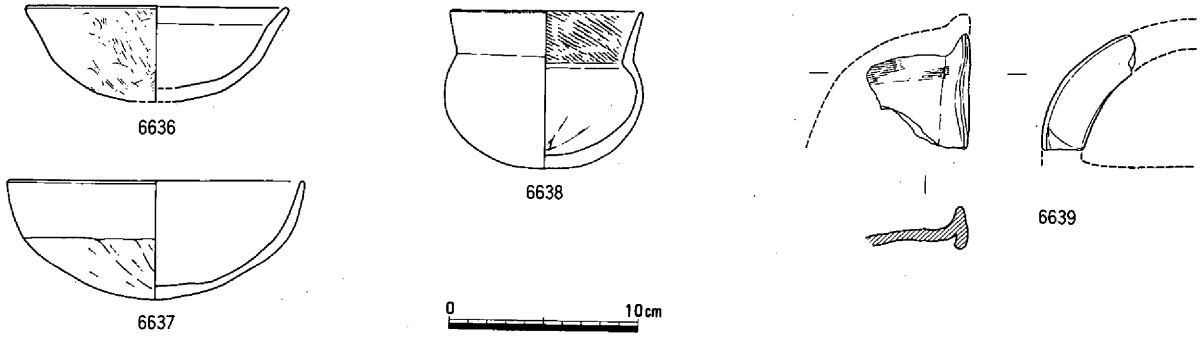
これらの出土遺物を勘案し、この竪穴住居の時期を古・前・I段階に推測している。 (大橋)



第305図 竪穴住居-247 (1/60)



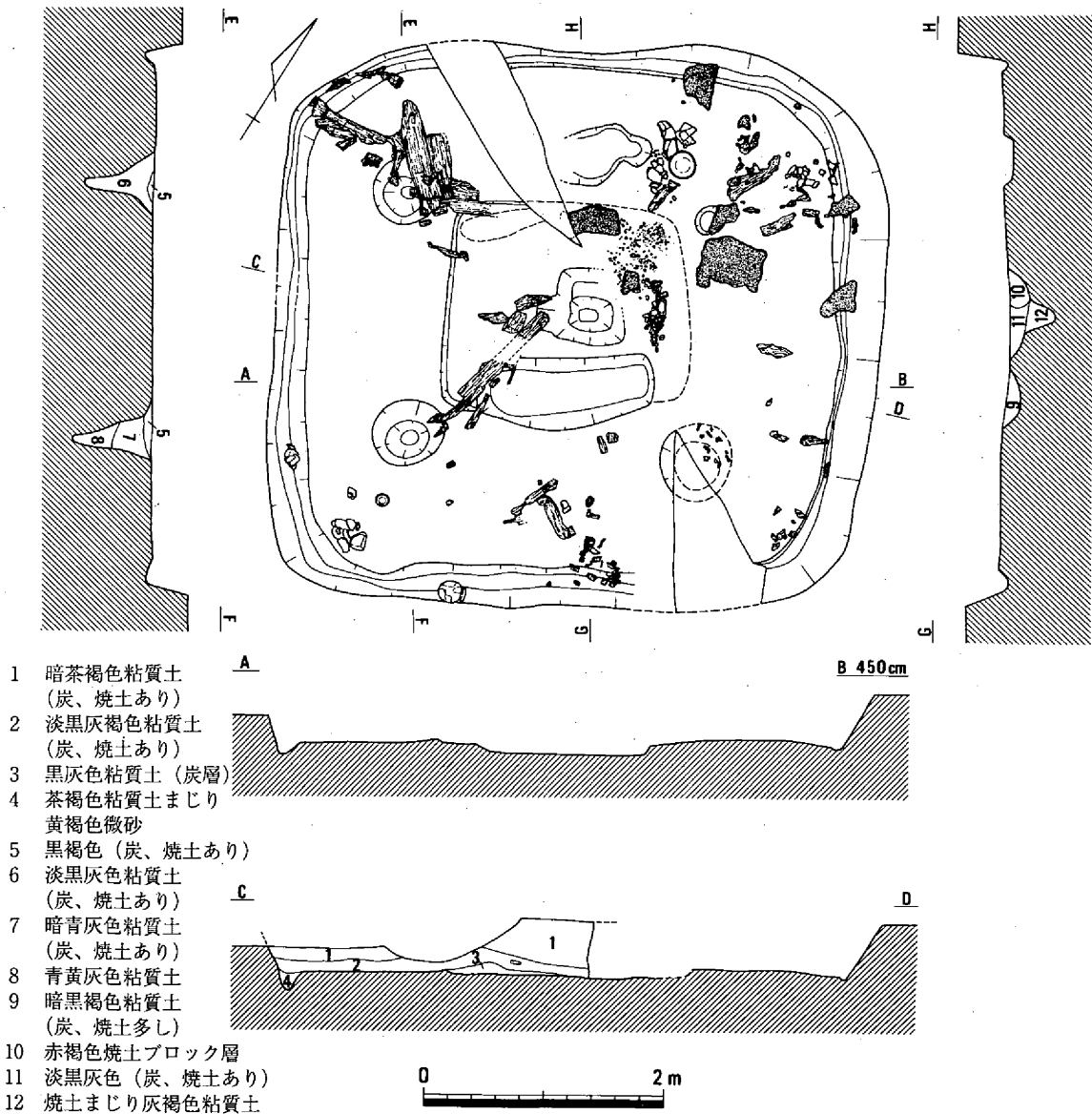
第306図 竪穴住居-247出土遺物(1)



第307図 竪穴住居-247出土遺物(2)

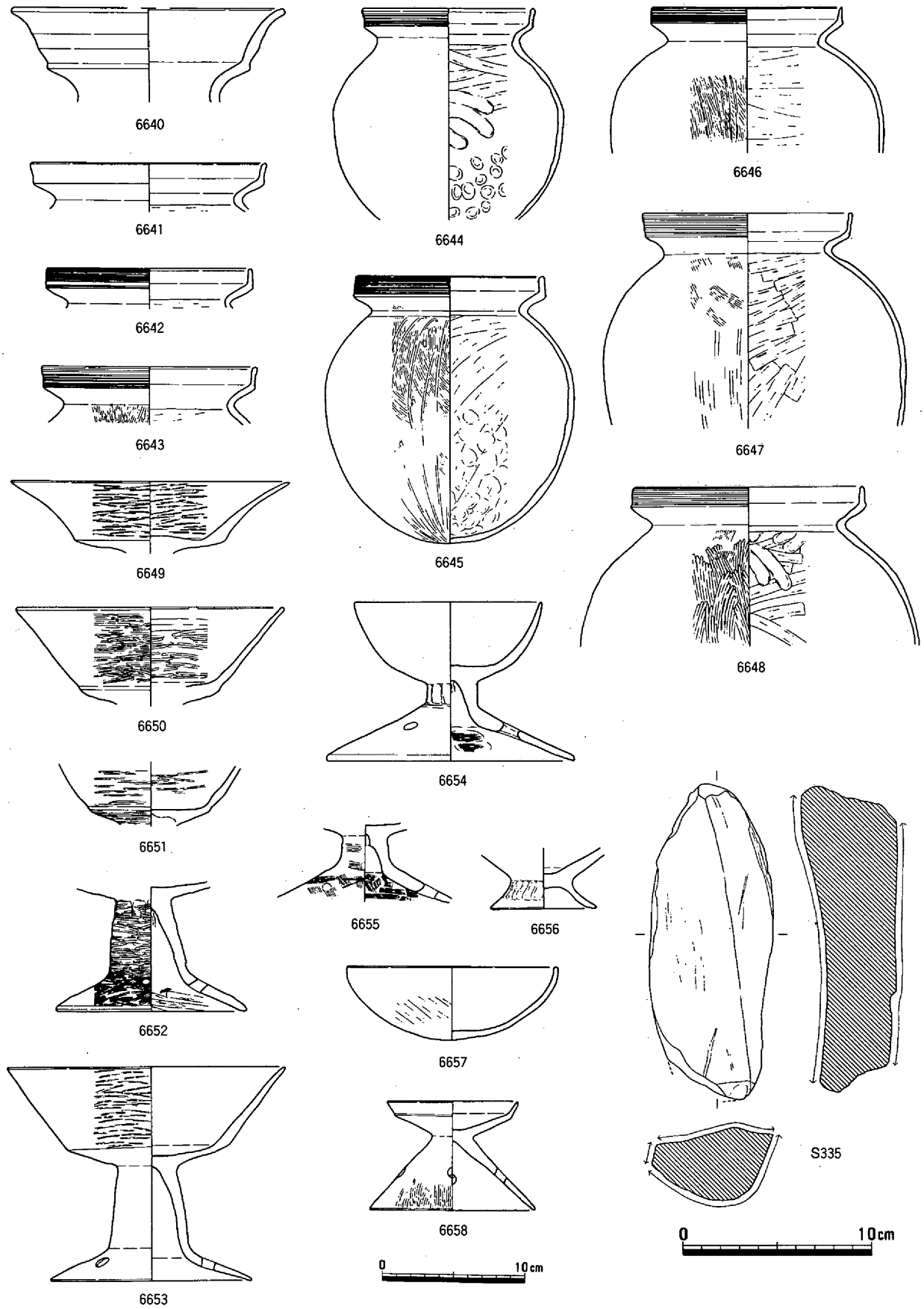
竪穴住居-248 (第308・309図)

〇18区西側、竪穴住居-247の南西約18mで検出したやや隅丸方形を呈する竪穴住居である。主軸を北西に採り、長軸方向で500cm、短軸方向で460cmほどの規模を有する。検出面からの床面まで深さ

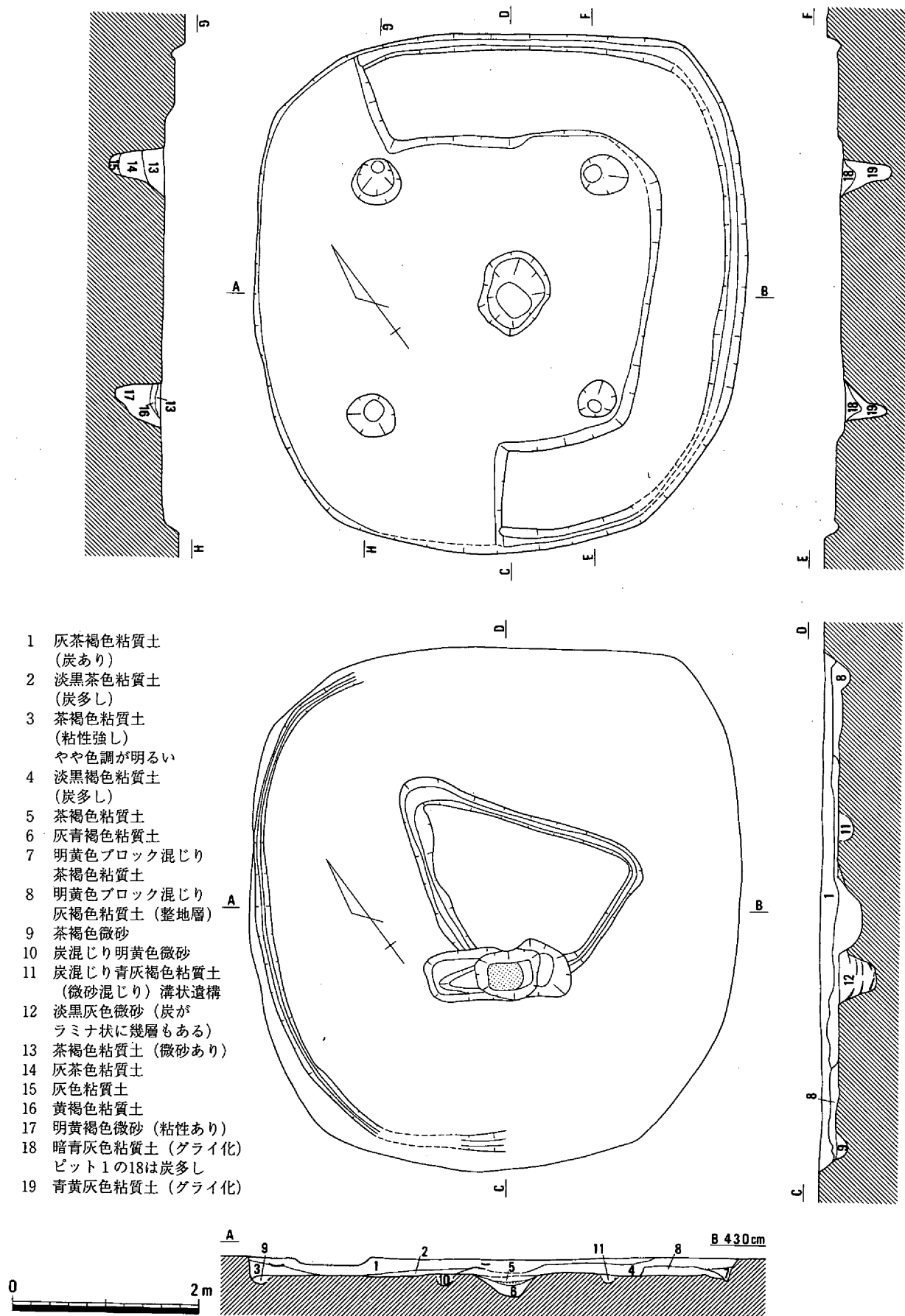


- 1 暗茶褐色粘質土
(炭、焼土あり)
- 2 淡黒灰褐色粘質土
(炭、焼土あり)
- 3 黒灰色粘質土 (炭層)
- 4 茶褐色粘質土まじり
黄褐色微砂
- 5 黒褐色 (炭、焼土あり)
- 6 淡黒灰褐色粘質土
(炭、焼土あり)
- 7 暗青灰色粘質土
(炭、焼土あり)
- 8 青黄灰色粘質土
- 9 暗黒褐色粘質土
(炭、焼土多し)
- 10 赤褐色焼土ブロック層
- 11 淡黒灰色 (炭、焼土あり)
- 12 焼土まじり灰褐色粘質土

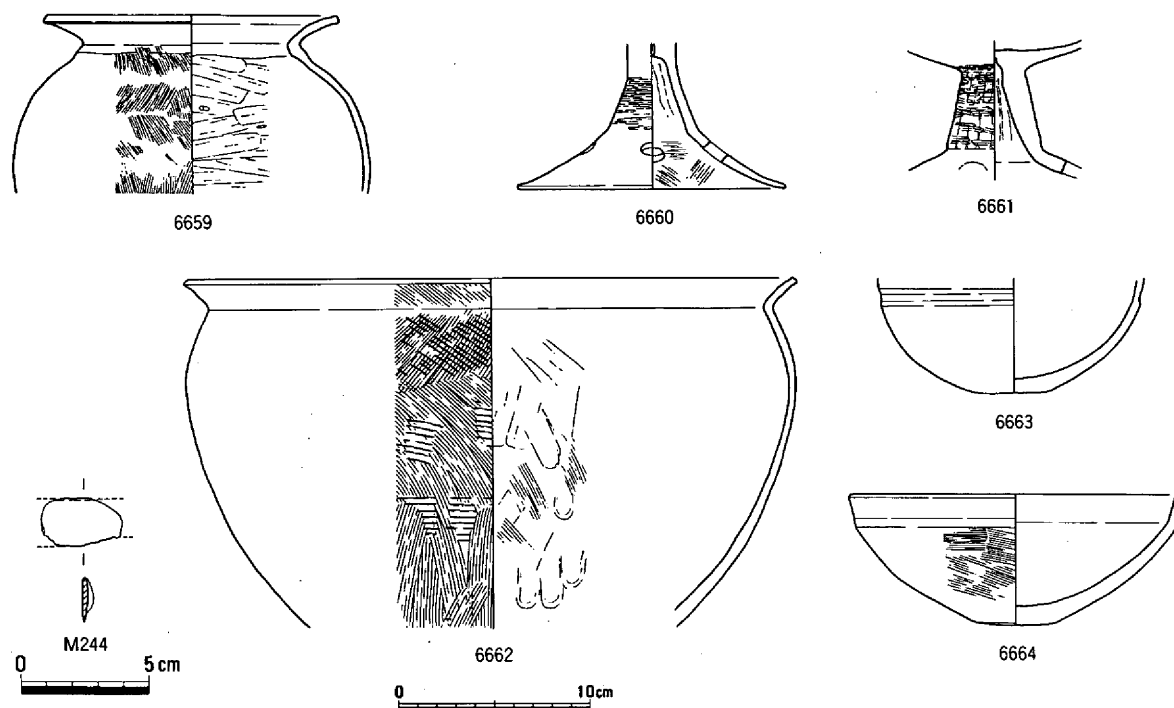
第308図 竪穴住居-248 (1/60)



第309図 竪穴住居-248出土遺物



第310図 竪穴住居-249(1/60)



第311図 竪穴住居-249出土遺物

約50cm残存していた。主柱穴は4本で構成され、幅18cmほどの壁体溝が周囲に検出された。床面四周には幅120cmほどの高床部が巡り、一段低くなった床面中央部に深さ約35cmの方形の中央穴が検出された。また、この中央穴の南東に浅い窪みが確認されており、中央穴の掻き出しによるものと推測される。さらに、北西側の高床部にも不整形な窪みが検出された。

この住居は、火災を受けており、炭化材が顕著に認められた。炭化材は特に西半に多く、その状況から東隅から出火したものと推測された。

出土遺物は6640～6658、S 335を図示したが、このほか波状文が施された壺の体部破片、製塩土器がある。竪穴住居の時期は、これらを参考にすれば、古・前・I～IIと推測される。(大橋)
竪穴住居-249 (第310・311図)

竪穴住居-248の西隣に位置する。やや歪な隅丸方形を呈する竪穴住居であり、長軸方向で565cm、短軸方向で530cmの規模を有す。検出面からの床面までの深さは約15cmである。主柱は4本柱であり、この周囲に逆「コ」字形に幅75cmの高床部が構築されている。壁体溝は、この高床部上でしか検出されなかった。中央穴は、住居中央に長軸方向で約80cmを測る不整楕円形を呈するものである。第310図下の平面図は、この竪穴住居の床面下で検出したこれに先立つ住居構造の一部と思われる壁体溝と方形土壌である。古段階の住居の貼床等は確認されていない。さらに、古段階の住居の方形土壌は中央部が方形に一段深くなっており、炭層が互層状に堆積していた。なお、この方形土壌の北側に三角形を呈する溝を確認したが、性格等は不明である。これらのことから、新段階の住居が、建て替えに伴い古段階の住居プランを踏襲しながらも、その床面を削平し、新たな床面を嵩上げし構築したものと推測される。

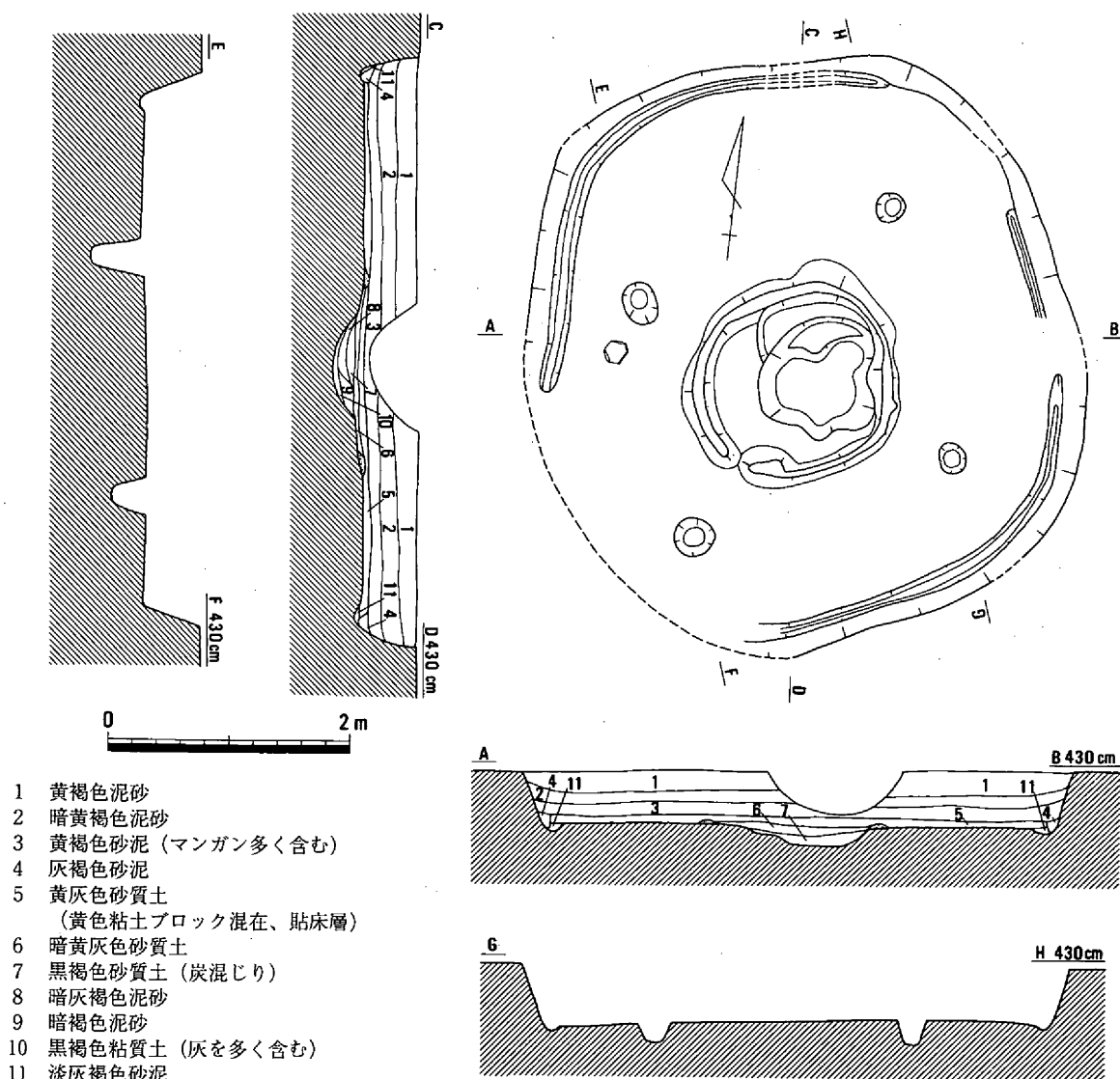
出土遺物は6659～6664の土師器とM244の刀子状の鉄器破片を図示した。6659の甕、6660の高杯は非在地系と思われる。この竪穴住居の時期は、古・前・I段階と考えている。(大橋)

竪穴住居-250 (第312・313図)

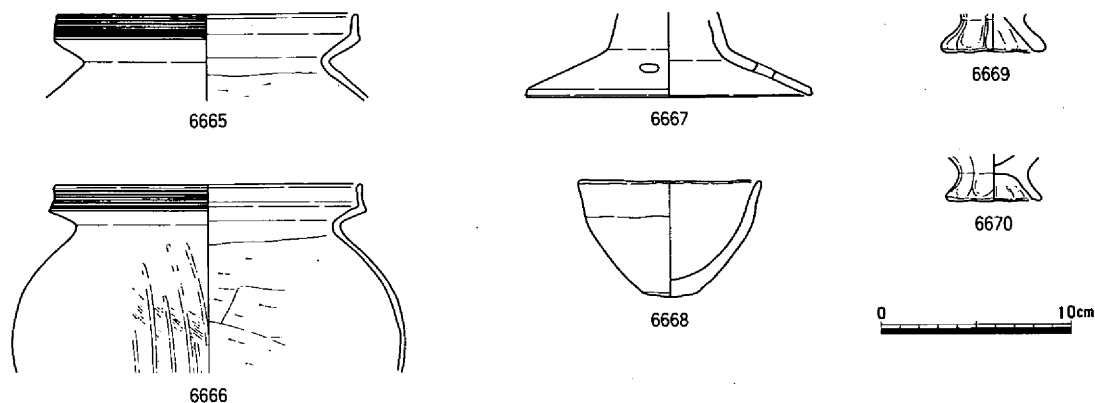
竪穴住居-246の南に位置する。平面的に検出できたのは1面だけであるが、土層断面図では2面の床面を確認している。新段階は3層下面で海拔高386cm、古段階は第5層(貼床)下面で海拔高380cmを測り、前者には第4層、後者には第11層の壁体溝が伴うと考えられる。

第312図は古段階の状況で、南西角は明瞭に検出できずやや丸みを帯びているが、ほぼ隅丸方形を呈している。壁体溝は幅8~15cm、床面からの深さ2cm足らずの細く浅いもので、北西側および南西側は途切れている。支柱穴は4本で、直径25~30cm、深さは15~40cmを測る。中央穴は東西約90cm、南北約110cmの不整形で、北側に低い階段状の段を有している。中央穴の周囲は上面幅5cm、下面幅約15cmの土堤状の高まりが築かれている。中央穴の最下層には炭の堆積が認められることから屋内炉の可能性があり、炉内に水が流入しないために構築された可能性が高い。

出土遺物には甕、高杯、鉢、製塩土器などがある。高杯の脚部6667が中空気味であるが甕6666の胴部にあまり張りがみられないことから、古・前・I期に比定されると考えられる。(渡邊)



第312図 竪穴住居-250 (1/60)



第313図 竪穴住居-250出土遺物

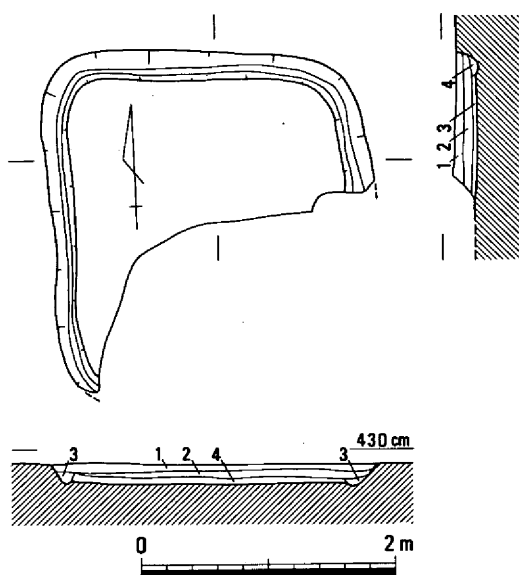
竪穴住居-251 (第314図)

竪穴住居-250の南に位置する。後述する竪穴住居-252に南東側を切られているが、残存部で南北270cm、東西250cmを測り、南北に長軸を持つ長方形を呈すると考えられる。床面の海拔高は376cmを測る。壁体溝が検出されているが、床面からの深さ2~4cmと浅い。支柱穴や中央穴、被熱面などは検出できなかった。推定長250~270cmと小形であり、もともと支柱穴を持たないのであろう。竪穴住居-252に切られた部分に炉等が存在する可能性もある。

出土遺物は細片が少量出土したのみで時期の判断はしかねるが、切り合いから後述する竪穴住居-252より古いことから、古・前・I期の範疇で考えられる。 (渡邊)

竪穴住居-252 (第315~317図)

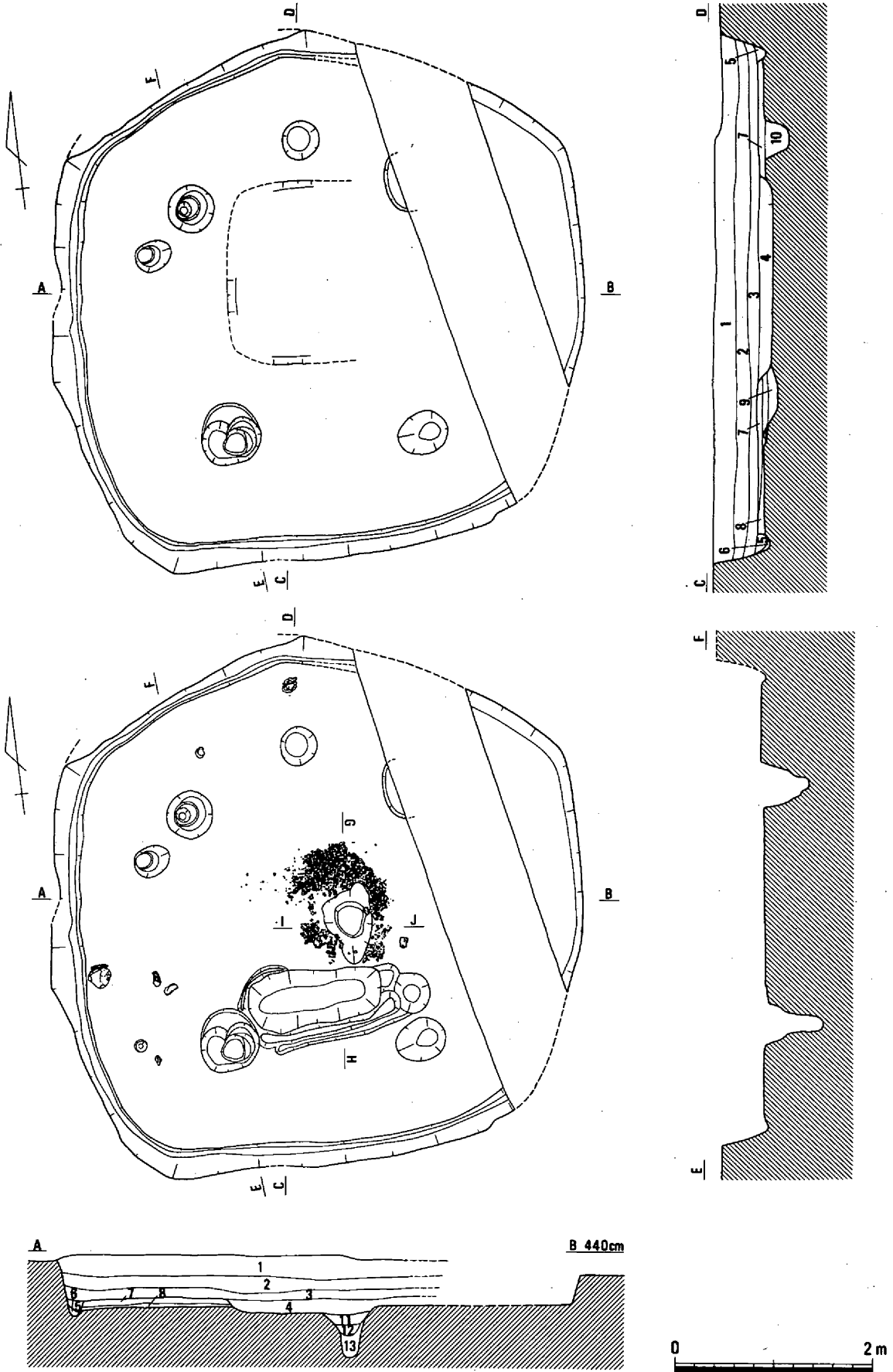
竪穴住居-251の南東側に重複する住居である。北側に頂点をもつ五角形を呈する。2面の床面が確認され、第315図上段が新段階、下段が古段階の検出状況である。支柱穴や壁体溝の状況から拡



第314図 竪穴住居-251 (1/60)・出土遺物

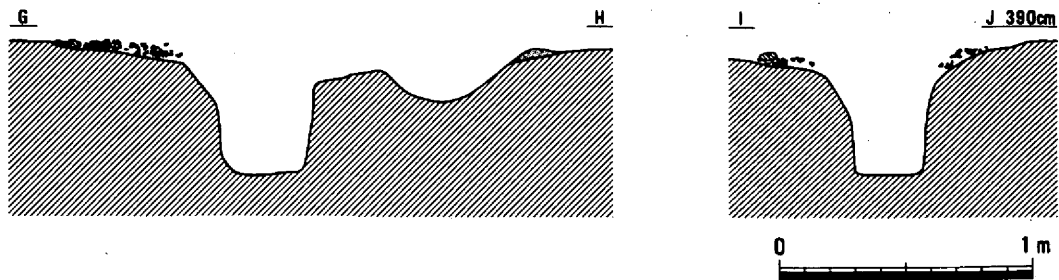
張などの建替えが行われず、床面を貼り替えただけと想定される。

新段階は断面の状況から、前段階の床面に貼床を施した後、低床部を掘りくぼめた状況が看取される。高床部は東側では明確に段差を検出できなかったが、東側床面も他の3方と同じくらいの高さを測り、東側にも高床部があったと想定される。床面の海拔高は低床部で約380cm、周囲で392cmを測る。

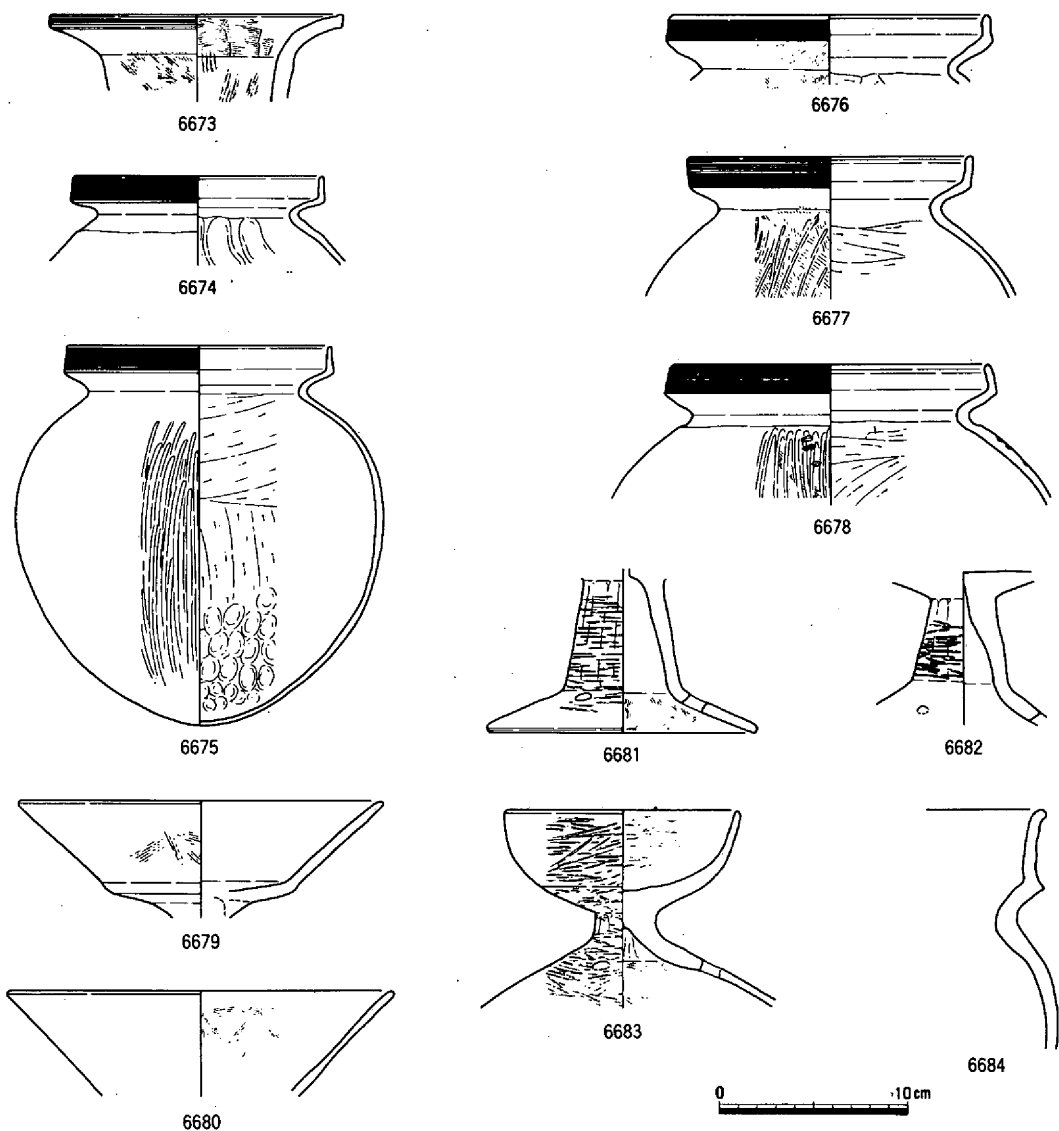


第315図 竪穴住居-252(1/60)

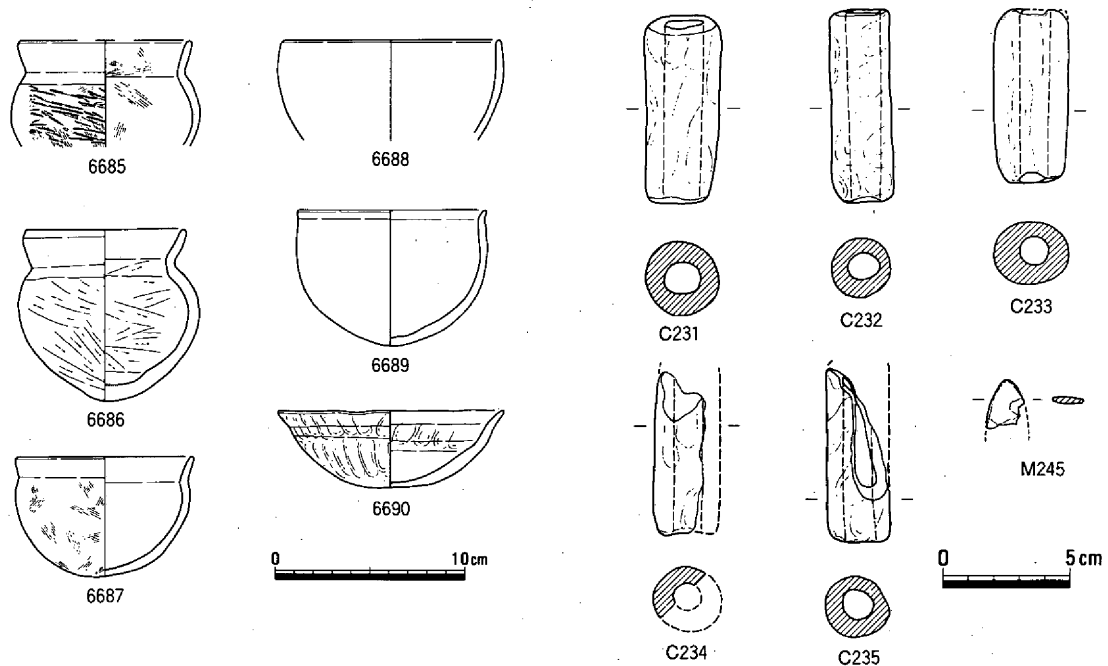
第3章 調査区の概要



- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 茶灰色泥砂 | 8 茶灰色砂質土 (黄褐色土含む) |
| 2 茶褐色泥砂 | 9 灰茶色砂質土 |
| 3 茶灰褐色泥砂 | 10 灰黄色砂質土 |
| 4 灰黄褐色砂質土 (炭焼土含む) | 11 灰黄褐色砂質土 (黄色土粒多く含む) |
| 5 茶灰色砂質土 | 12 灰褐色粘質土 |
| 6 茶灰褐色砂質土 | 13 灰黄褐色粘質土 (黄色土粒多く含む) |
| 7 茶黄褐色砂 (貼床) | |



第316図 竪穴住居-252(1/30)・出土遺物(1)



第317図 竪穴住居-252出土遺物(2)

主柱穴は各々の角に位置する5本と考えられるが、北角の柱穴は他の柱穴が50~60cmの深さを測るのに対して30cm程度と浅い。また他の4本について古段階の位置を踏襲したと考えられるが、北角の柱穴はC-D断面にみられるように貼床層で覆われており、新段階には使用されていなかった可能性が高い。壁体溝については調査段階では新段階の床面において平面的に検出できず、古段階の床面に伴って検出されたものであるが、主柱穴と同様に壁体溝も古段階のものを踏襲したと考えている。

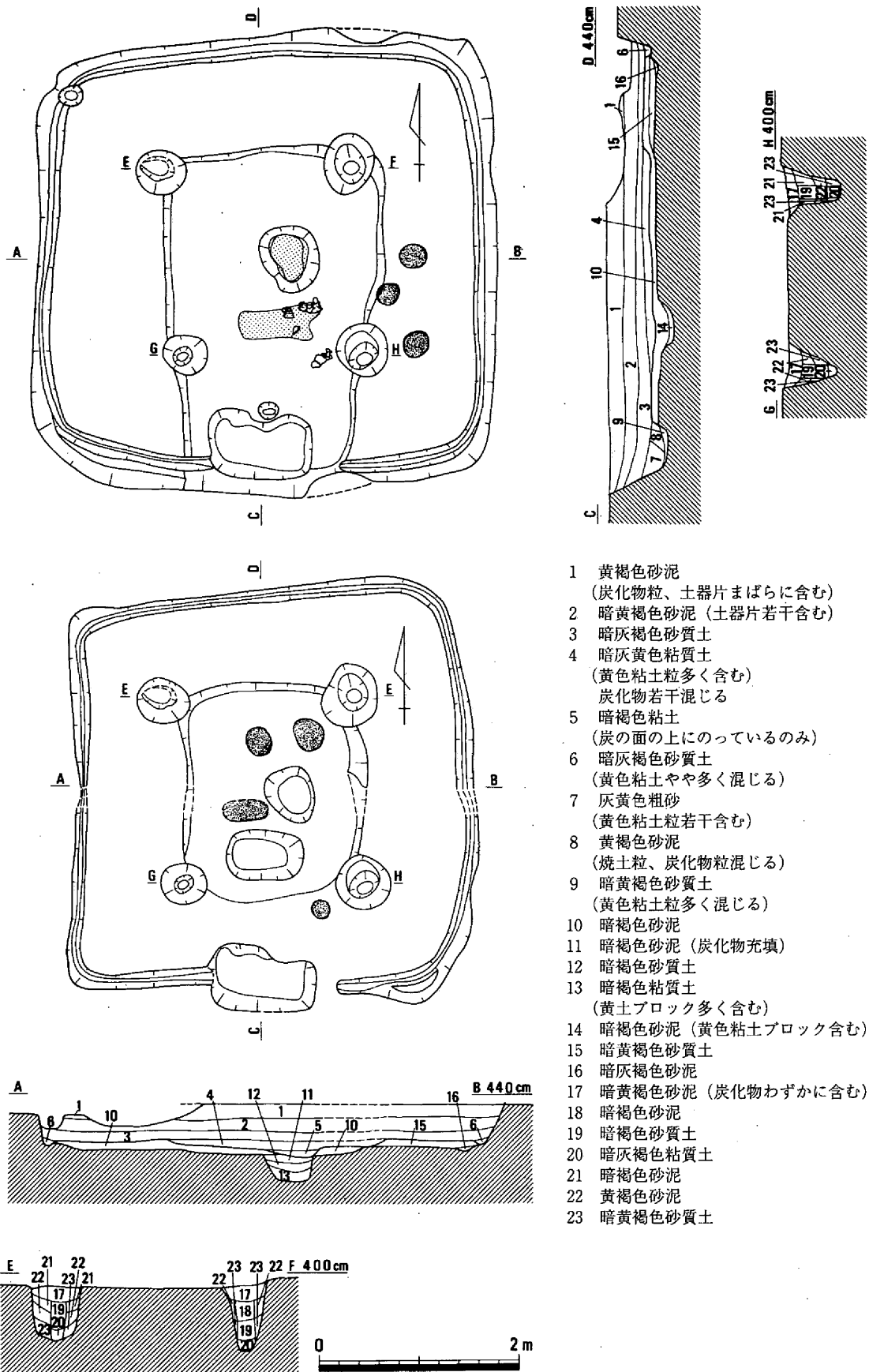
古段階では中央穴と土壙が検出されている。中央穴は上面は不整形だが底部は径約30cmの円形で、検出面からの深さ45cm、海拔高332cmを測る。周囲には3cm未満の小礫によるバラスがみられる。中央穴内面には被熱痕跡や炭面は認められず、埋土にも炭化物や焼土は混在していなかった。中央穴の南側の土壙は東西135cm、南北55cmの不整長方形で、検出面からの深さ20cm、海拔高360cmを測る。北側の肩は南側より8cm低く、また南側から西側にかけて高さ2cm程度の粘土堤を巡らし、南側裾部にはさらに幅10cm、深さ約2cmの溝をうがち、東側の深さ4cmの浅い柱穴状の遺構に連結させている。

出土遺物のうち6675・6683・6687・6690が古段階の床面直上で出土しており、古・前・I期に比定される。その他は新段階床面より上層で出土しており、古・前・I期の新しい段階から遅くとも古・前・II期の初期には埋没したと考えられる。(渡邊)

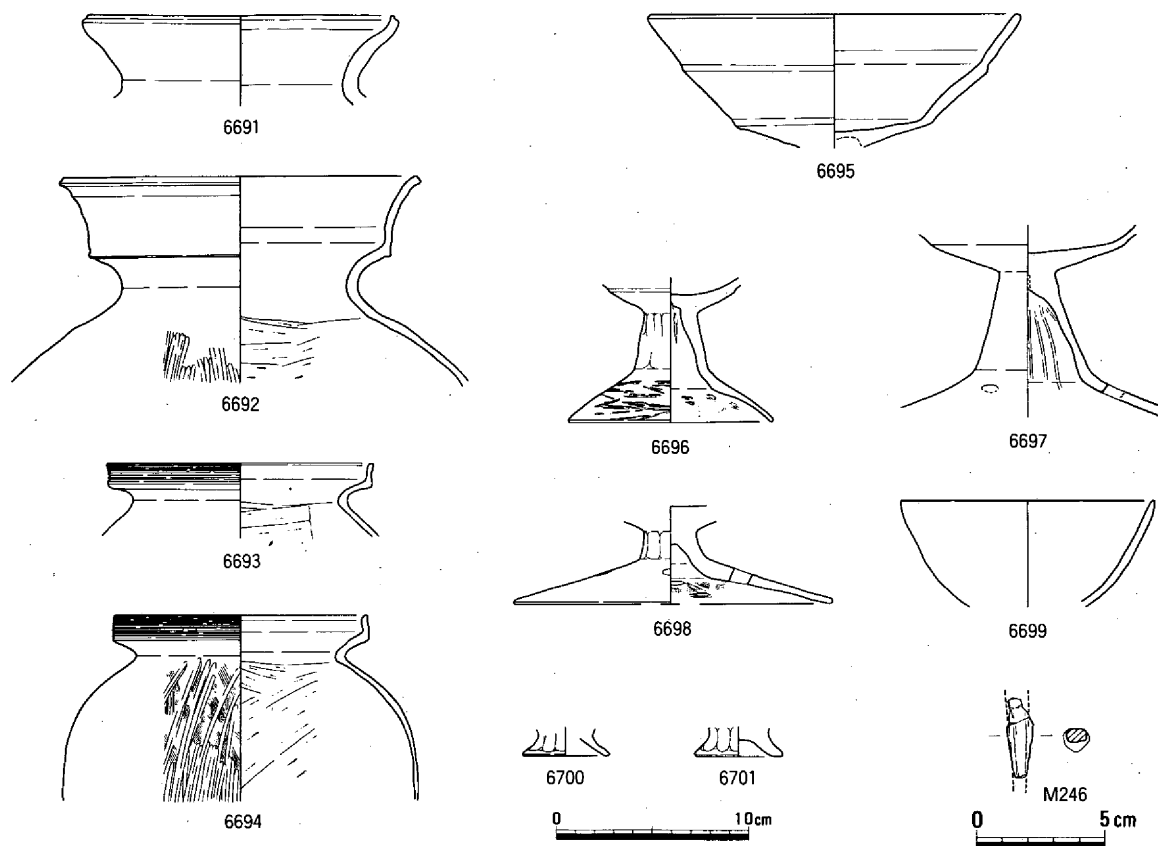
竪穴住居-253 (第318・319図)

竪穴住居-250の西に位置する。床面は2面あり、若干の拡張が認められる。第318図上段が新段階(拡張後)、下段が古段階(拡張前)の状況である。

新段階の規模は南北470cm×東西460cmのやや隅に丸みを帯びた正方形を呈している。西・北・東の3方に高床部を有し、高床部のない南辺中央には方形土壙を配している。床面の海拔高は高床部上で395cm、低床部で390cmを測る。主柱穴は4本で、位置や埋土の状況から古段階のものを踏襲していると推察される。中央穴は浅い不整形のもので、上面および前面に炭の堆積が認められる。前面の炭範



第318図 竪穴住居-253(1/60)



第319図 竪穴住居-253出土遺物

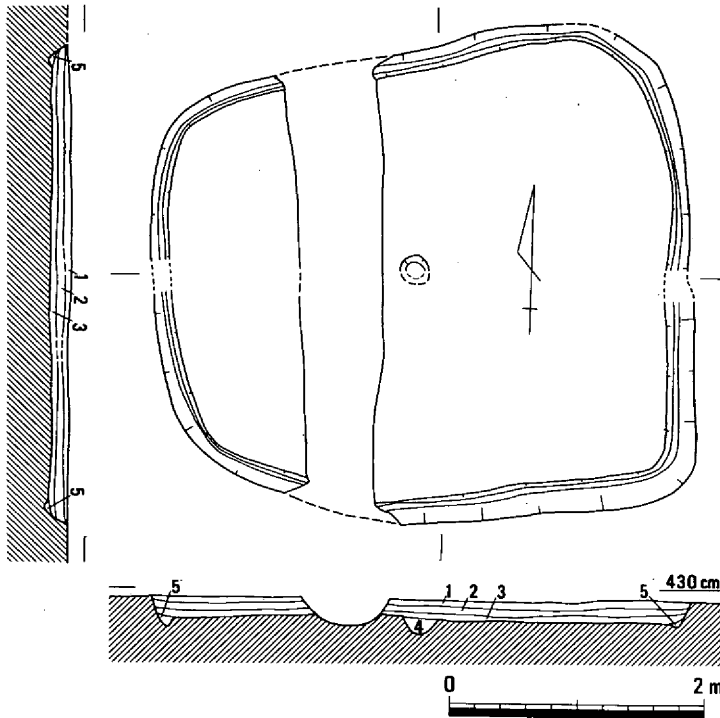
厩付近で6692等の土器が出土している。被熱面は中央穴には認められず、中央穴の東側の高床部上で3か所検出されている。方形土壇の規模は上面で105×60cmの長方形で、床面からの深さは10cm前後である。埋土には炭化物粒や焼土粒が若干混在していたが、明確な被熱痕跡は認められなかった。また、方形土壇の北側に20×15cmの小柱穴が検出されているが、『津寺遺跡4』所載の竪穴住居-142および竪穴住居-155においても同様の位置に同様の小柱穴（土壇）が付随していた例が挙げられる。その機能として方形土壇の蓋に伴う支柱、入り口から降りるはしごに伴う穴などが考えられる。

古段階の規模は南北、東西ともに390～400cmのほぼ正方形で、床面積でいえば新段階の75%程度である。新段階と同じく3方に高床部を持つが、南にむかって徐々に高さを減じており、南辺中央部の段差は明瞭でない。床面の海拔高は高床部で385cm前後、低床部で375～380cmを測る。南辺中央部の方形土壇は壁体溝の外側に張り出しており、本段階に伴わない可能性が高い。中央穴は南北60cm×東西50cm、深さ23cmの不整形で、南側には南北50cm×東西77cm、深さ19cmの隅丸長方形を呈した土壇があり、この南側の土壇が方形土壇の役割を果たしていた可能性が考えられる。この土壇の周囲には炭面が広がっていた。又、中央穴周辺の低床部において被熱面が4か所検出されている。

出土遺物には壺、甕、高杯、製塩土器といった土器のほか、鉄鏃の茎ではないと思われる小鉄器片が出土している。時期は高杯に短脚のものとやや長脚化したものが認められることから、両者が新・古の時期差を表わすとしても古・前・I期の範疇で考えられる。 (渡邊)

竪穴住居-254 (第320図)

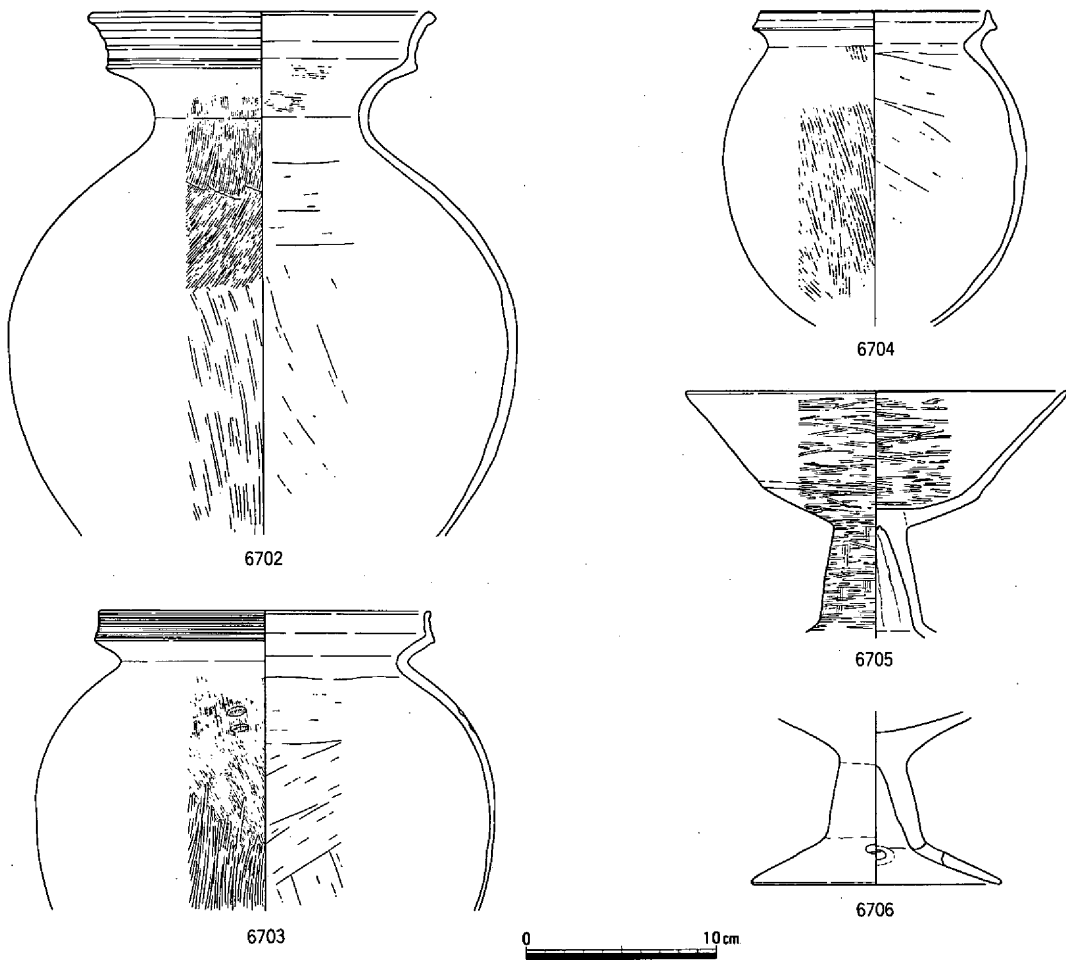
竪穴住居-250および253の南側に位置する。南北370cm、東西420cmのややいびつな隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは15cm、床面の海拔高は405cm前後で、高床部はなかった。中央に上面径25



cm、深さ13cmの小柱穴があるのみで他に主柱穴は検出されなかった。被熱面や炭面も認められなかった。

図示した壺6702、甕6704、高杯6705は東辺中央部の壁際、甕6703は北辺中央部の壁際、高杯6706は床中央部の床面直上においてそれぞれ検出されたものである。6704の肩部には2個の爪形の刺突が施されている。時期は古・前・I期の新しい段階に比定されよう。(渡邊)

- | | |
|----------|----------|
| 1 黄褐色砂泥 | 4 暗灰褐色砂泥 |
| 2 黄褐色泥砂 | 5 暗黄色砂泥 |
| 3 暗黄褐色砂泥 | |



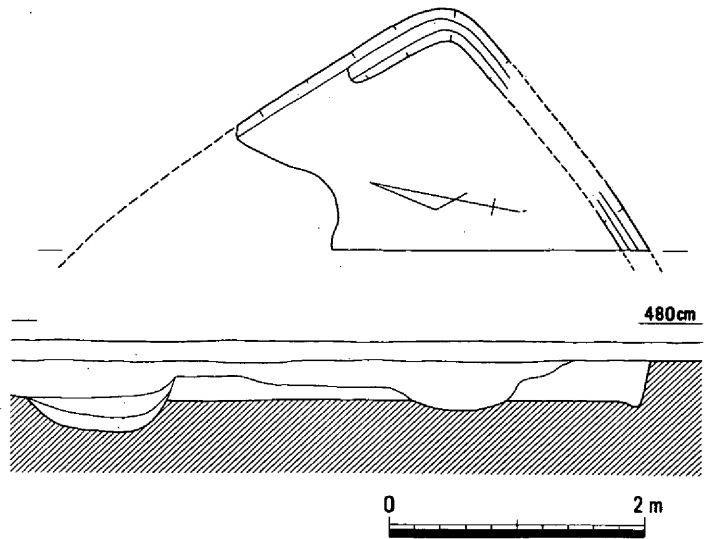
第320図 竪穴住居-254(1/60)・出土遺物

竪穴住居-255 (第321図)

中屋調査区の北端地点に検出された竪穴住居であるが、東側に位置する隅の一部分がわずかに残存しただけで、全容を明らかにすることはできなかった。

平面形は方形または長方形を呈し、床面の一部に壁体溝を確認したものの、柱穴や中央穴などは発見できなかった。

この竪穴住居から出土した遺物は図化することができなかったが、わずかに採集された小破片の土器の調整手法や形態的特徴などから判断して、おそらく古・前・Iまたは古・前・IIの時期に属するであろう。(福田)



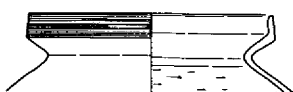
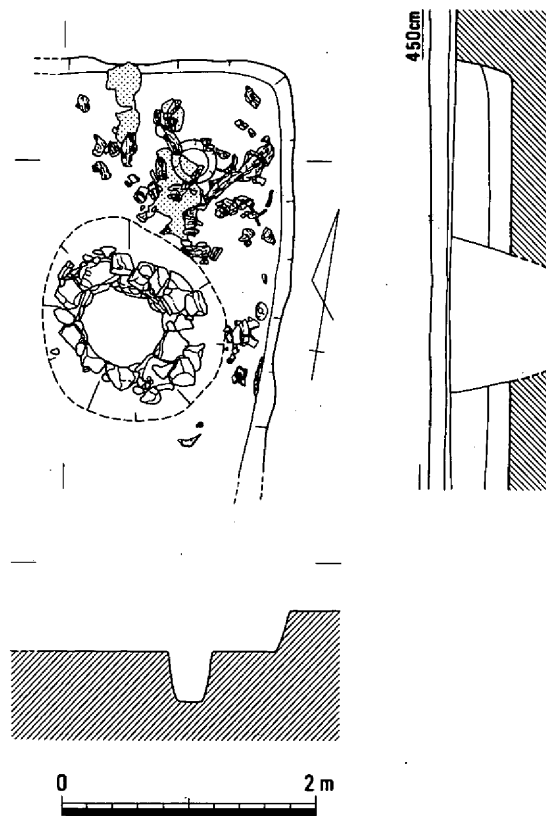
第321図 竪穴住居-255 (1/60)

竪穴住居-256 (第322図)

この竪穴住居も中屋調査区の北端部分に位置するが、南東方向約8mの地点には後述する竪穴住居-257が検出されている。この竪穴住居は、中世の井戸(井戸-10)を調査していた時に、掘り方の壁面から土器片や炭化物などが出土したため、その存在が確認されたのである。

この竪穴住居の平面形も方形または長方形を呈するが、壁体溝は存在しなかった。柱構造は4本柱と推定され、北東方向に位置する柱穴だけが確認できた。この竪穴住居は火災を受けており、床面から多量の炭化物や焼土が出土した。

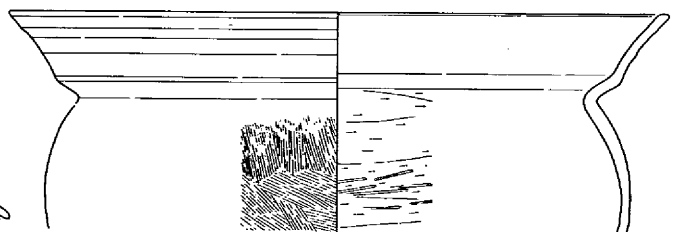
出土遺物として甕6707、高杯6708、鉢6709があるが、その調整手法や形態的特徴から、古・前・IIになる。(福田)



6707



6708



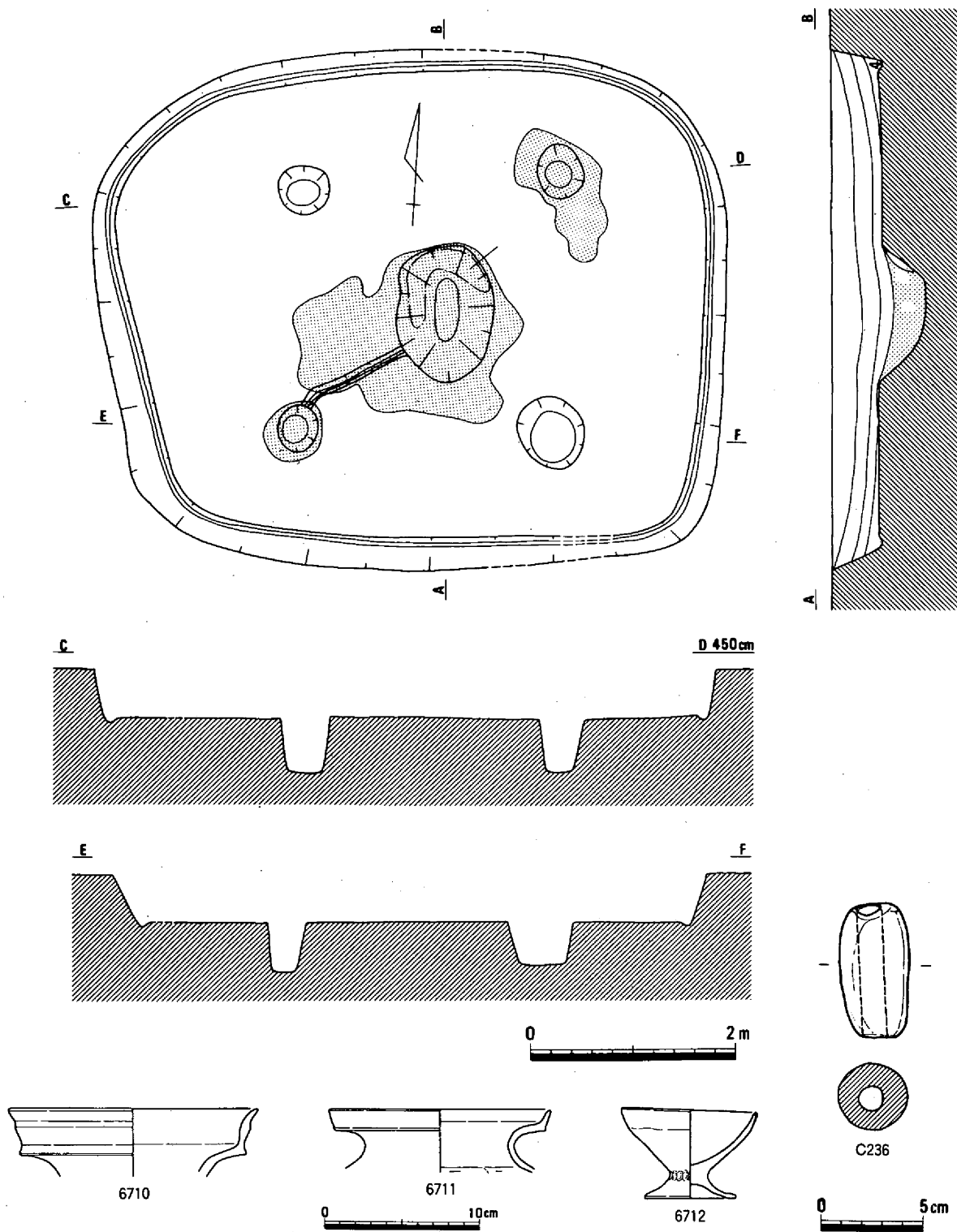
6709

第322図 竪穴住居-256 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-257 (第323図、図版21-1)

中屋調査区の北側部分に位置し、東方約9mの地点には竪穴住居-258が、また南西方向約9mの地点には竪穴住居-250がそれぞれ検出されている。

平面形は長径606cm、短径510cmの隅丸方形に近い形態を呈するが、北側の壁面が南側のそれよりもやや広がっている。壁体溝は床面の周囲に跡切れることなく確認され、中央穴は南北方向に長い楕



第323図 竪穴住居-257 (1/60)・出土遺物

円形になっていた。この竪穴住居の柱構造は4本柱で、中央穴と南西方向に位置する柱穴を結ぶ浅い溝も検出された。中央穴の周辺だけでなく、北東方向と南西方向に位置する柱穴の付近にも焼土が確認され、中央穴の北側壁面には砂利が存在した。

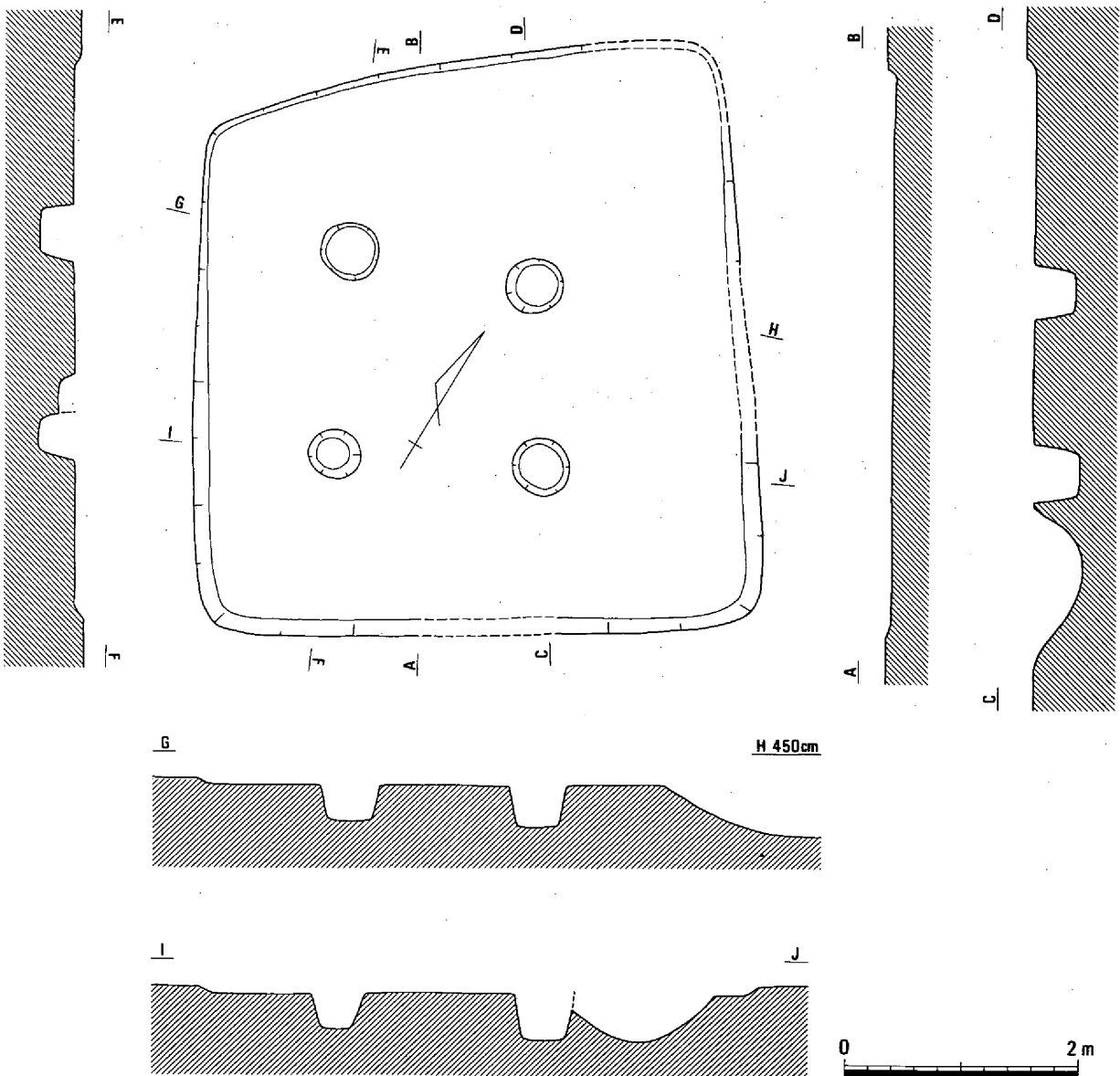
この竪穴住居から出土した遺物には、土錘C236 1点と3点の土器6710~6712があるが、その土器の調整手法や形態的特徴などから、古・前・Iの時期に属するであろう。(福田)

竪穴住居-258 (第324図)

中屋調査区の北側に位置し、西方向約9mの地点には竪穴住居-257が存在する。

平面形は長径512cm、短径474cmの北側隅が張り出した不整形を呈し、壁体溝や中央穴は検出できなかった。この竪穴住居の柱構造は4本柱であるが、柱穴の位置が全体に南西方向に寄っており、柱穴間の距離も不揃いになっていた。

図示できる出土遺物はないが、おそらく古・前・IIの時期になるであろう。(福田)



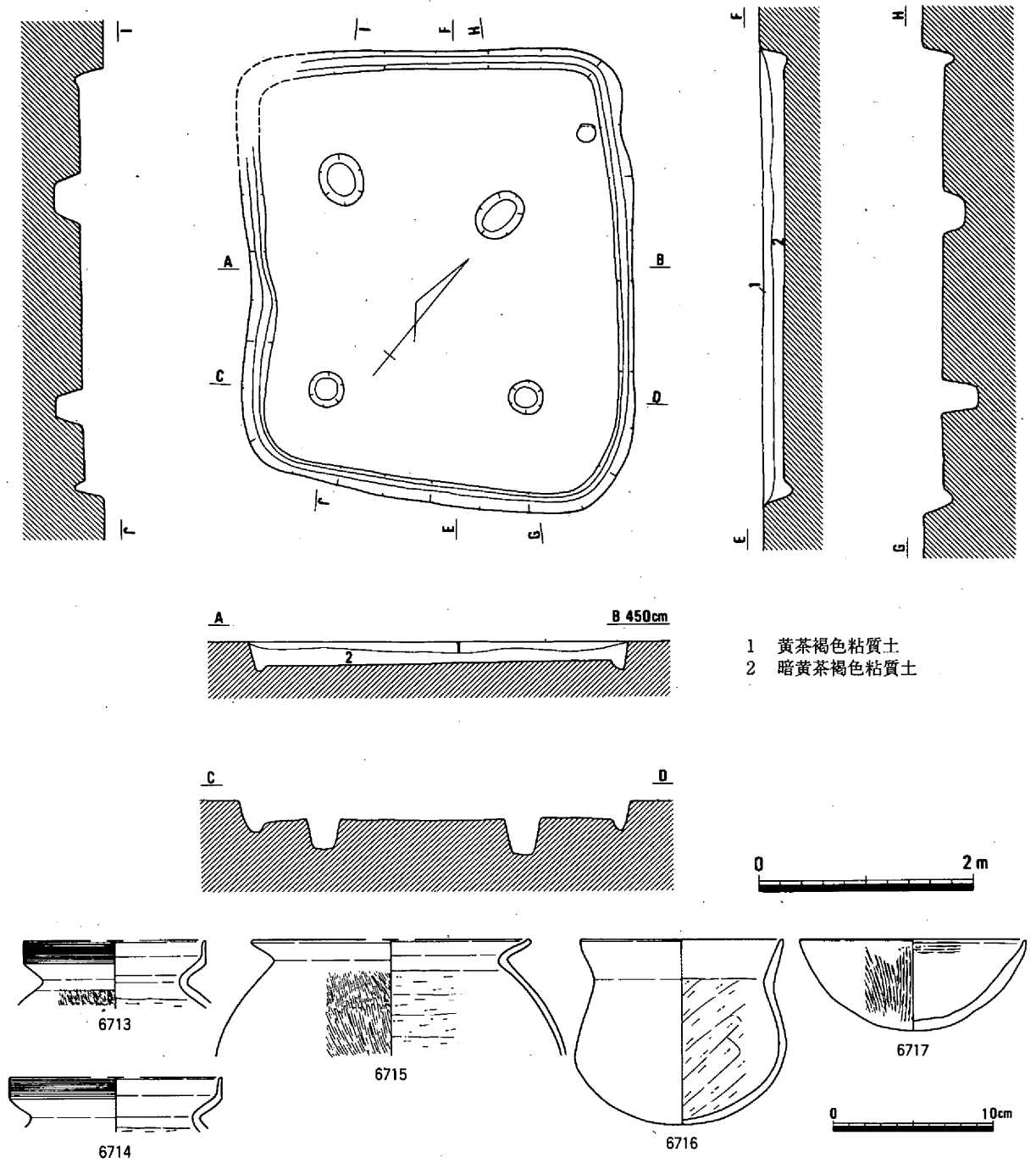
第324図 竪穴住居-258 (1/60)

竪穴住居-259 (第325図)

中屋調査区の北側部分に位置し、西方向の隅は竪穴住居-252に接している。

平面形は不整形を呈し、北東方向の壁面が南西方向のそれよりも少し広がっている。壁体溝は床面の周囲に検出されたが、中央穴は存在しなかった。この竪穴住居の柱構造は4本柱であるが、確認した柱穴の位置が全体に南西方向へ寄っていた。また南北方向に長い楕円形を呈する北方向の柱穴は、やや南側の中央へ寄った地点に存在した。

出土した遺物は完形品の鉢6716を含む甕6713~6715などの土器だけであるが、その調整手法や形態の特徴などから、竪穴住居-259は古・前・IIの時期に属するであろう。 (福田)

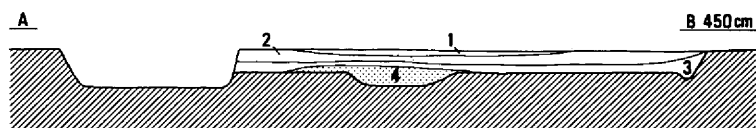
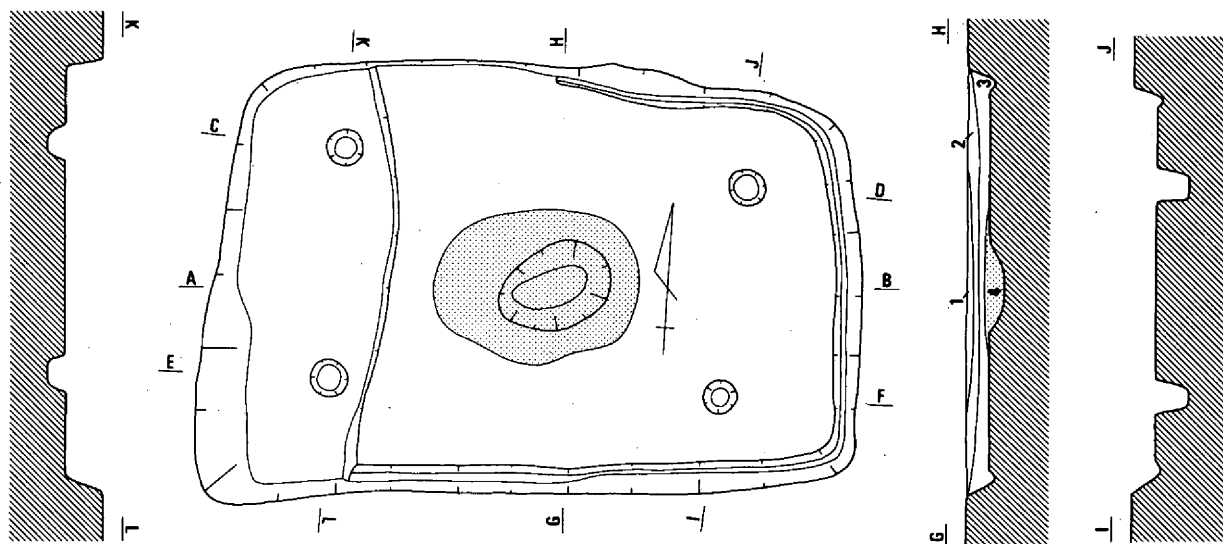


第325図 竪穴住居-259 (1/60)・出土遺物

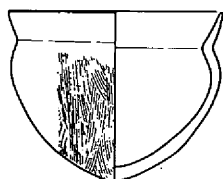
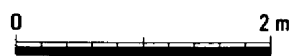
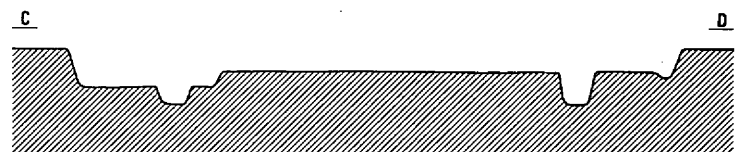
竪穴住居-260 (第326図)

中屋調査区の中央部よりやや北側へ寄った地点に位置し、南西方向の隅が竪穴住居-262に接する状態になっていた。

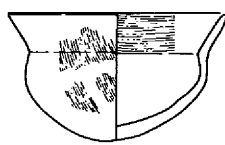
平面形は長径520cm、短径340cmの不整長方形を呈するが、西側の壁面が東側のそれよりもやや広くなっていた。この竪穴住居の西側部分は、古代の掘立柱建物群を取り囲む溝によって削平されていたが、壁体や2か所の柱穴は検出することができた。床面の周囲には、北西方向の一部分を除いて壁体



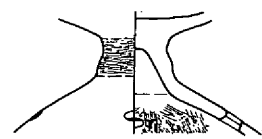
- 1 灰褐色砂質土
- 2 暗茶褐色粘質土
- 3 暗褐色粘質土
(炭化物含む)
- 4 炭化物



6719



6720



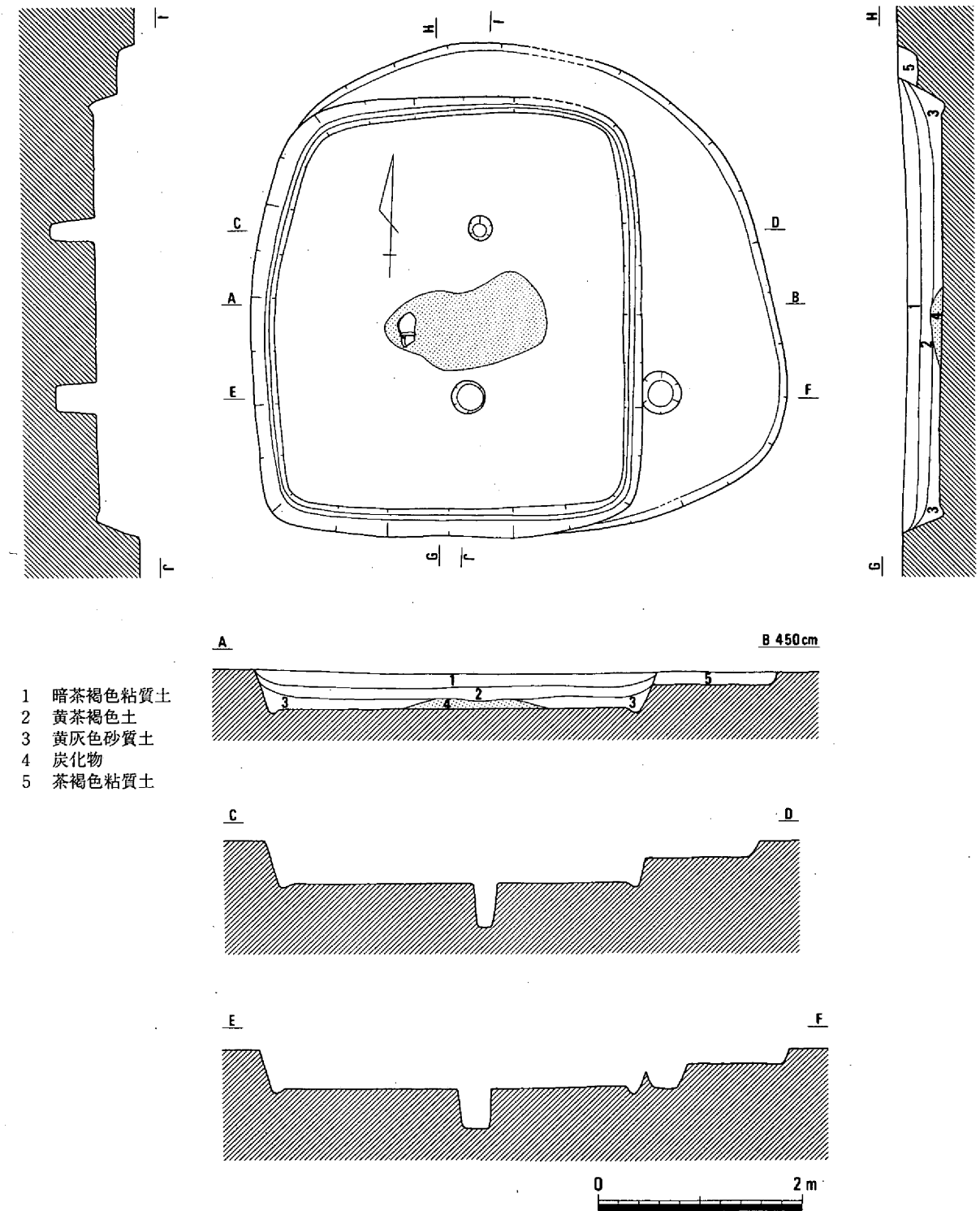
6721

第326図 竪穴住居-260 (1/60)・出土遺物

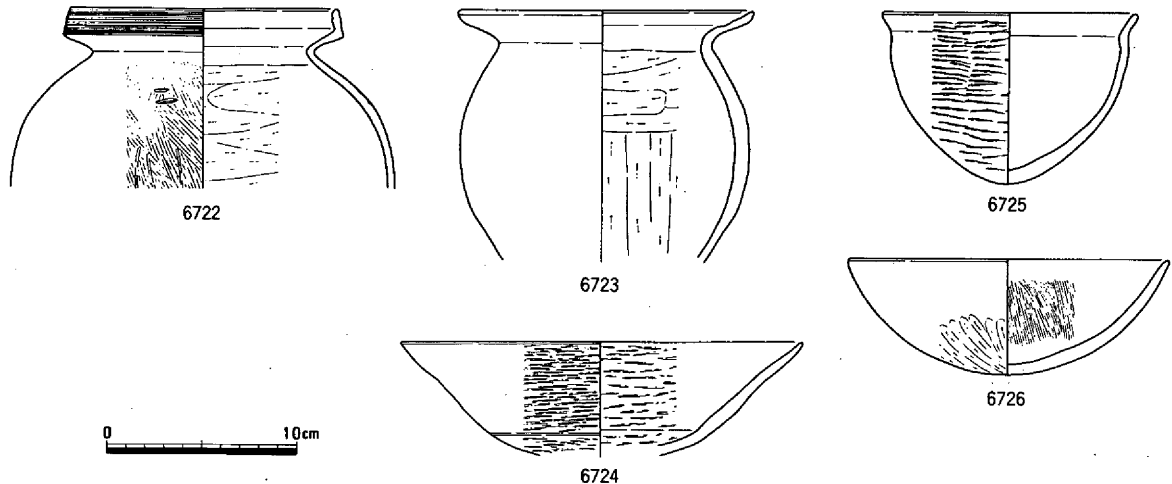
第3章 調査区の概要

溝が存在し、楕円形に似た形状の中央穴の周囲には、焼土が認められた。柱構造は4本柱だが、平面形が不整長方形であったため、柱穴間の距離は東西方向が南北方向の約2倍になっていた。

この竪穴住居から出土した遺物は、甕の口縁部小破片6718、完形または完形に近い小型の鉢6719・6720、杯部も脚端部も欠損した短脚の高杯6721などの土器だけであるが、その調整手法や形態的特徴から判断して、古・前・Iの時期に属すると考える。(福田)



第327図 竪穴住居-261・262(1/60)



第328図 竪穴住居-261出土遺物

竪穴住居-261・262（第327・328図）

この竪穴住居は、中屋調査区の中央部よりやや北側に位置する。北東方向に隣接した地点には前述した竪穴住居-260が存在し、南東方向から南方向にかけての近接した地点には、竪穴住居-265、竪穴住居-266、竪穴住居-267などが検出される。また少し離れた南西方向約14mの所には、竪穴住居-263と竪穴住居-264が重複した状態で確認されている。

このように竪穴住居2軒の周辺には、古墳時代前期に属する竪穴住居が、比較的密集した状態で検出されたのである。

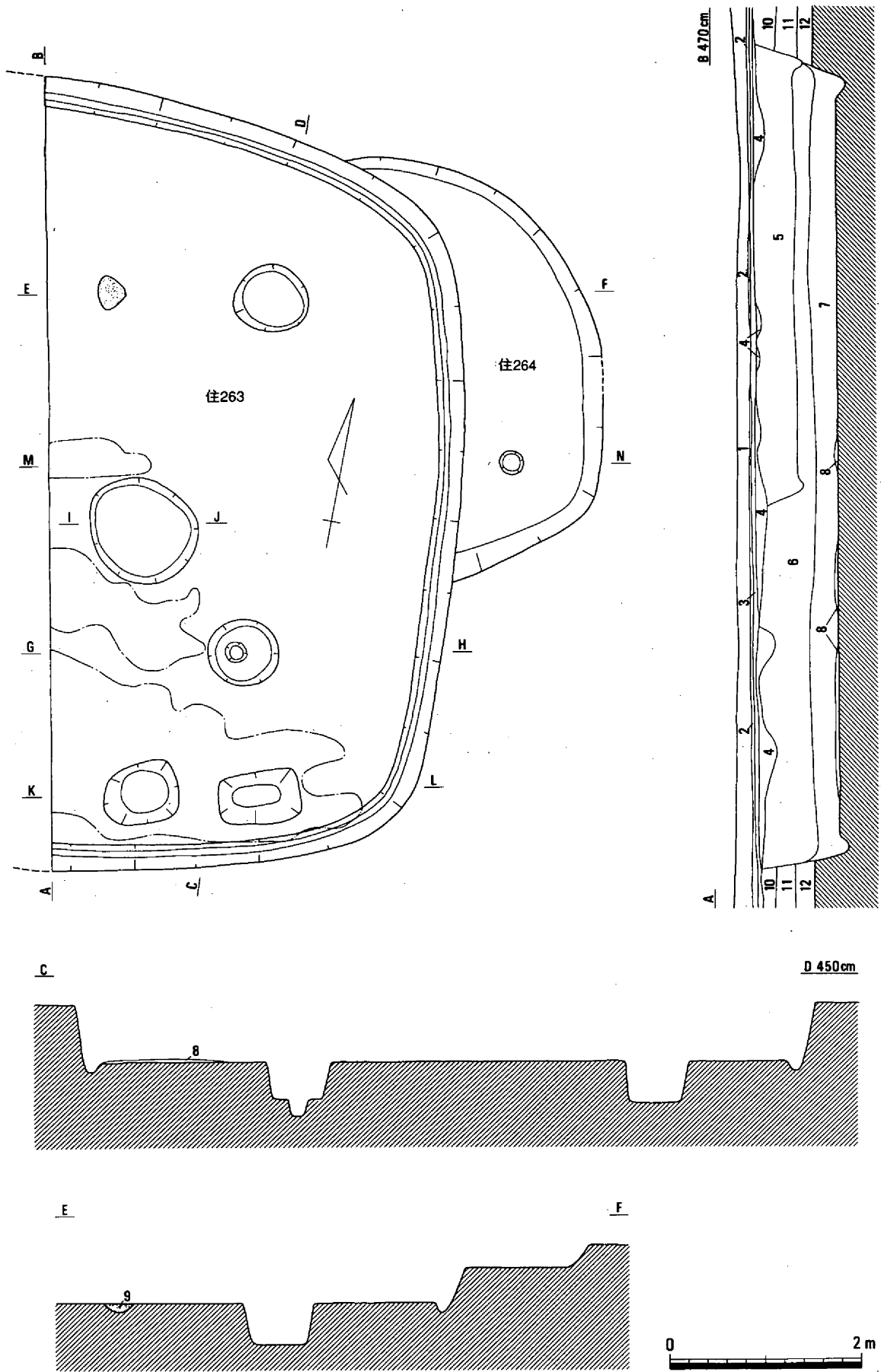
竪穴住居-261の平面形は、長径430cm、短径378cmの南北方向がやや長い隅丸長方形に近い形を呈し、それぞれの壁面がいずれも外側へ少しだけ湾曲していた。この竪穴住居の柱構造は2本柱で、床面の周囲には壁体溝が巡らされていた。床面の中央部を精査したが、中央穴は存在しなかった。床面の中央部には焼土が認められ、床面に密着して土器片が出土した。検出した2か所の柱穴は南側のものがやや規模が大きく、柱穴間の距離は163cmになっていた。

出土遺物としては、2点の甕6722・6723、高杯の杯部6724、2点の鉢6725・6726がある。6722の甕は、外面の肩部に縦方向に並ぶ2個の刺突文を有し、外面に9条の櫛描沈線が認められる口縁部が内傾して立ち上がる。口縁部から頸部にかけては内外面ともヨコナデを行い、胴部の内面は横方向のヘラケズリを施し、胴部の外面にはハケメが認められる。6723の甕は、口縁部が「く」字状に外反して斜め上方に立ち上がる。口縁部は内外面ともヨコナデを行っているが、胴部の内面は横または縦方向のヘラケズリを施している。高杯の杯部は、内外面とも横方向のヘラミガキを施している。胎土に水漉粘土を使用した6725の鉢は、口縁部が「く」字状に短く外反する。外面には横方向のタタキが認められ、内面は全体にヨコナデを施している。口縁部が内湾して立ち上がる6726の鉢は、外面の底部にヘラケズリを行い、内面に縦方向のハケメが認められる。

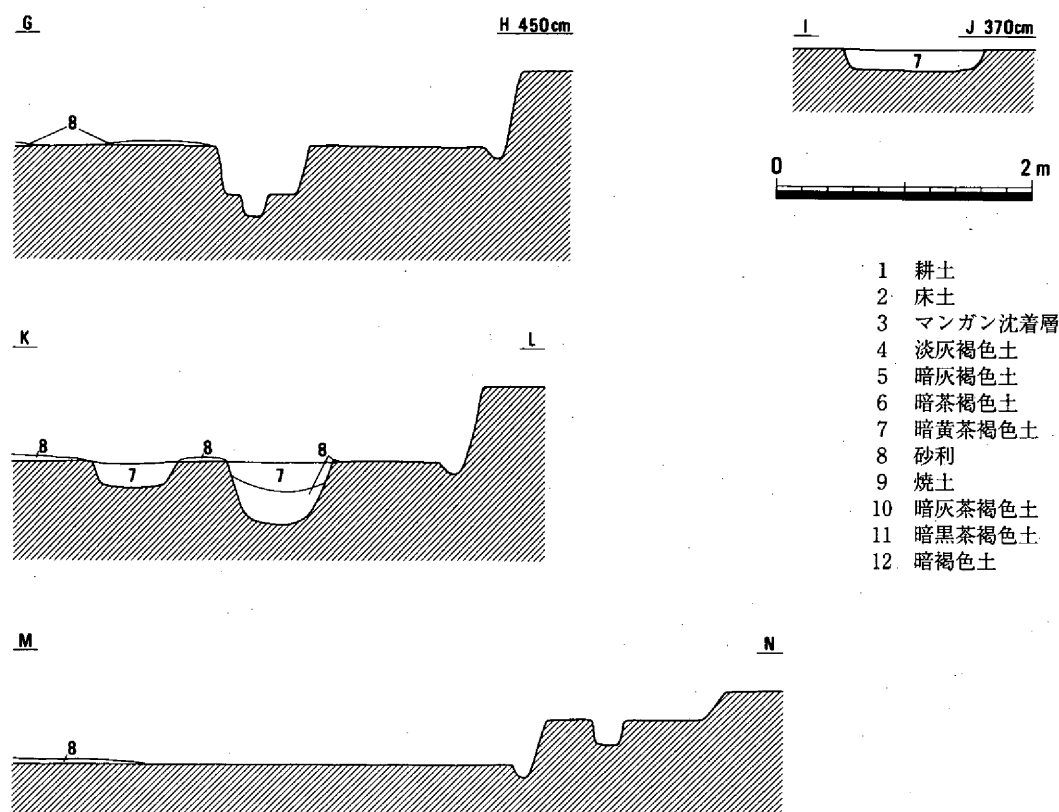
これらの土器の調整手法や形態的特徴から、竪穴住居-261は古・前・Iの時期になるであろう。

竪穴住居-261に切られた竪穴住居-262の平面形は不整形な形態を呈し、床面積は約5.13㎡になるであろう。壁体溝はなく、検出された1か所だけの柱穴から判断して、4本柱になると考える。

出土遺物はないが、遺構の切り合い状況から推定して古・前・Iの時期と思われる。（福田）



第329図 竪穴住居-263・264 (1/60)



第330図 竪穴住居-263・264(1/60)

竪穴住居-263・264 (第329～332図)

この2軒の竪穴住居も、中屋調査区の中央部よりやや北側に位置する。竪穴住居-263の西側約半分の部分は、調査範囲外になるので、全容を明らかにすることができなかった。しかしながら、この竪穴住居-263の規模は極めて大きく、津寺遺跡の竪穴住居のうちでも最大級のものである。

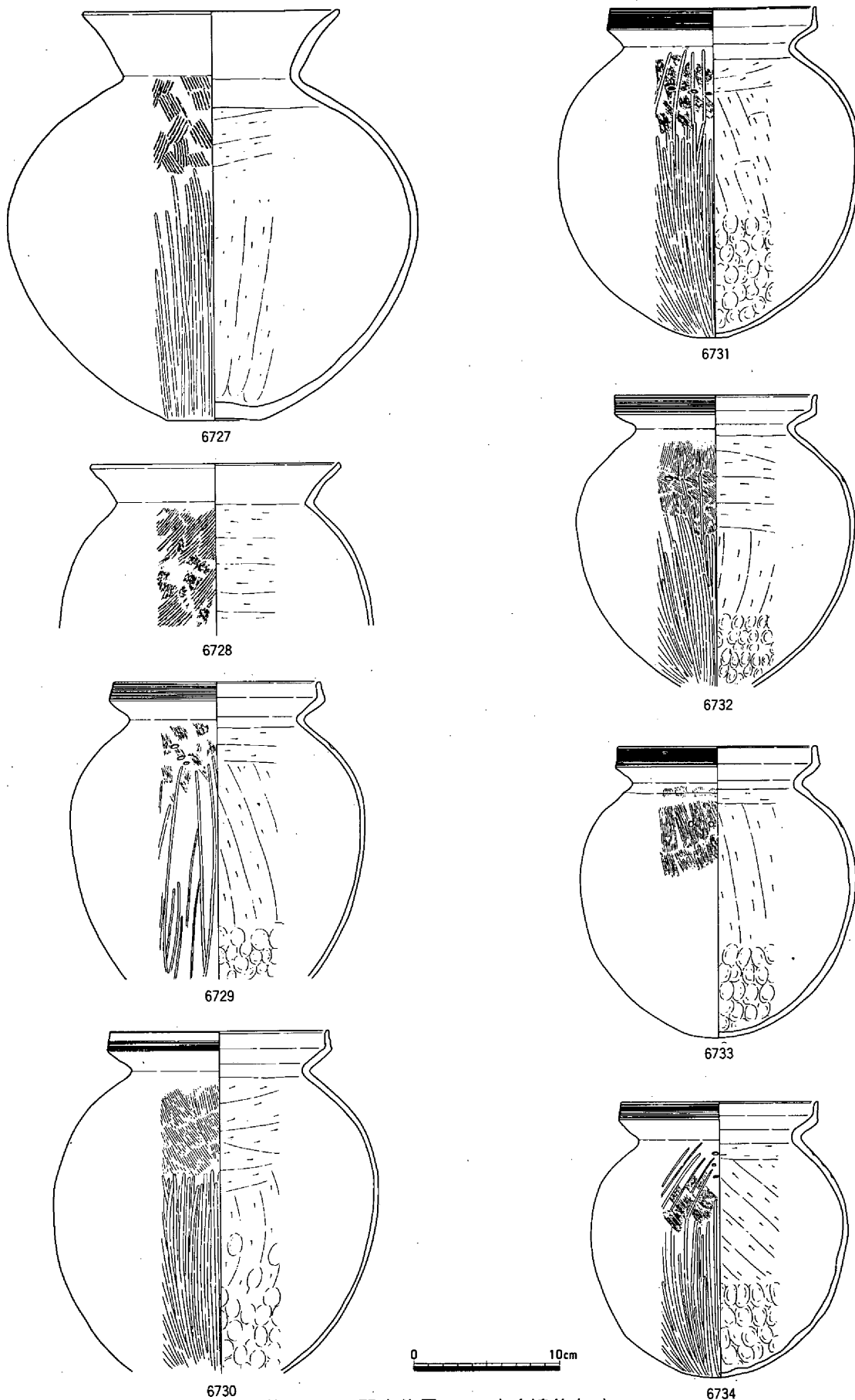
大規模な竪穴住居-263の平面形は隅丸方形または隅丸長方形を呈し、調査によって明らかになった南北方向の最大値は826cmである。北側の壁面は外側へ緩やかに外湾し、床面の周囲には壁体溝を巡らせている。この竪穴住居の柱構造は4本柱で、検出した2か所の柱穴間の距離は372cmである。南側床面の広い範囲にわたって砂利が敷き詰められ、その砂利を除去すると壁体溝に近接して2基の土壌が存在した。また北側へ寄った床面には、内部に焼土が詰まった浅い窪みも認められた。

この竪穴住居-263からは、1点の土錘C237を含む比較的多くの土器6727～6749が出土した。それらの土器の調整手法や形態的特徴などから、竪穴住居-263は古・前・I～IIの時期と考える。

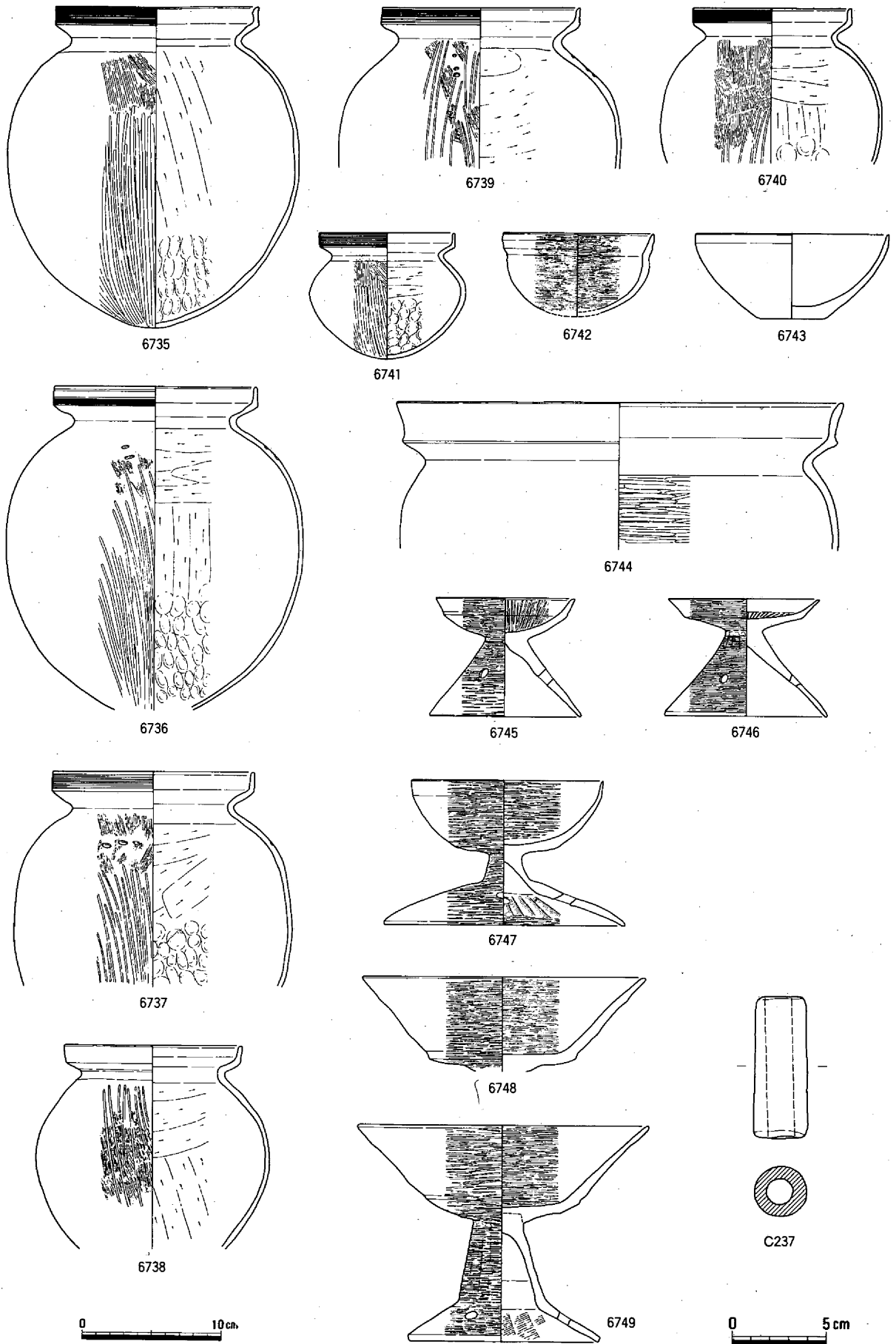
竪穴住居-264は、前述した大規模な竪穴住居-263と重複していた。平面形は不整形な形態を呈し、南東方向の床面で柱穴を検出した。この柱穴の位置から判断すると、竪穴住居-264の柱構造は4本柱と思われる。床面の周囲には壁体溝はなく、中央穴の部分は削平されていた。

竪穴住居-264から出土した遺物はないが、遺構の切り合い状態から推定して、竪穴住居-263と同時期もしくは竪穴住居-263の時期よりも古くなると考えられる。ところが竪穴住居-264の平面形から弥生時代までも遡るとは思われなから、この竪穴住居の時期は古・前・Iとしておきたい。

なお調査範囲境界部分に暗灰褐色を呈する竪穴住居の土層断面を検出したが、西側部分が調査範囲外になるため、精査することができなかった。 (福田)



第331図 竪穴住居-263出土遺物(1)



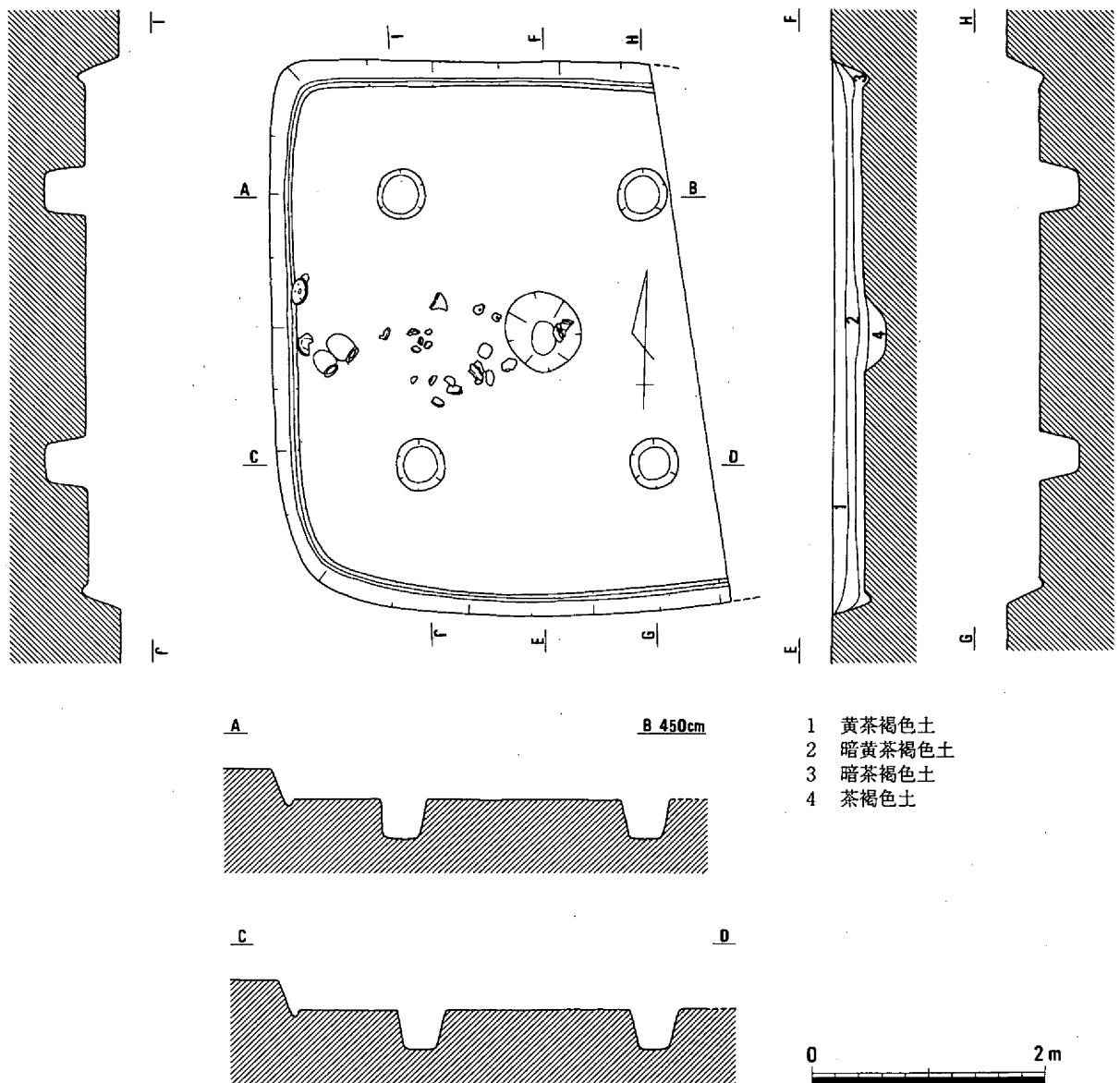
第332図 豎穴住居-263出土遺物(2)

竪穴住居-265 (第333・334図)

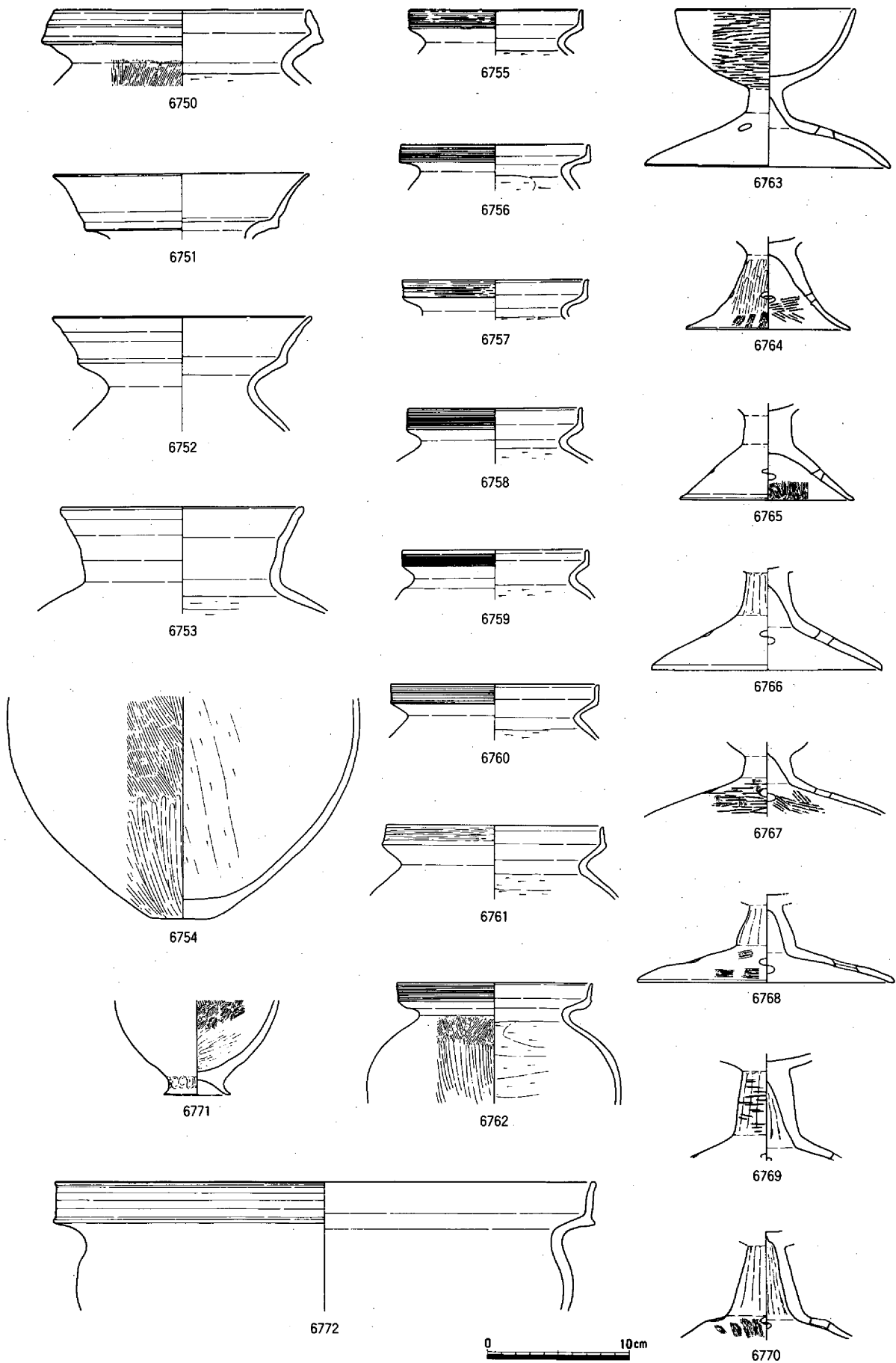
中屋調査区のほぼ中央部に位置し、西側に近接して竪穴住居-266が存在する。また北西方向約9~10mの地点には、竪穴住居-260、竪穴住居-261、竪穴住居-262が検出され、古墳時代前期の竪穴住居が比較的密集した状態で確認されている。

この竪穴住居の平面形は方形を呈し、床面の周囲には幅が狭くて浅い壁体溝が巡らされている。東側の壁面が不明なので東西方向の距離は計測できないが、南北方向のそれは474cmである。中央穴は円形に近い形で、断面形が「U」字形となり、内部に土器片を含む茶褐色土が堆積していた。この竪穴住居の柱構造は4本柱で、柱穴間の距離が198~232cmになっていた。

出土遺物は、いずれも土器で、壺6751~6754、甕6750・6755~6762、高杯6763~6770、台付きの土器6771、大型鉢6772などがあるが、6750の甕は古い時期のものが混在していると考えられる。これらの土器の調整手法や形態的特徴から、竪穴住居-265は古・前・I~IIの時期に属するであろう。(福田)



第333図 竪穴住居-265 (1/60)



第334図 豎穴住居-265出土遺物

竪穴住居-266 (第335図)

中屋調査区の中央部よりやや北側に位置するが、残存状態が極めて悪く、床面の痕跡をかすかに留めているだけであった。この竪穴住居の南側には、竪穴住居-267と竪穴住居-268が重複した状態で存在し、北東側には竪穴住居-265が近接して検出されている。また北方向約8~13m付近の地点には、竪穴住居-260、竪穴住居-261、竪穴住居-262が確認されている。

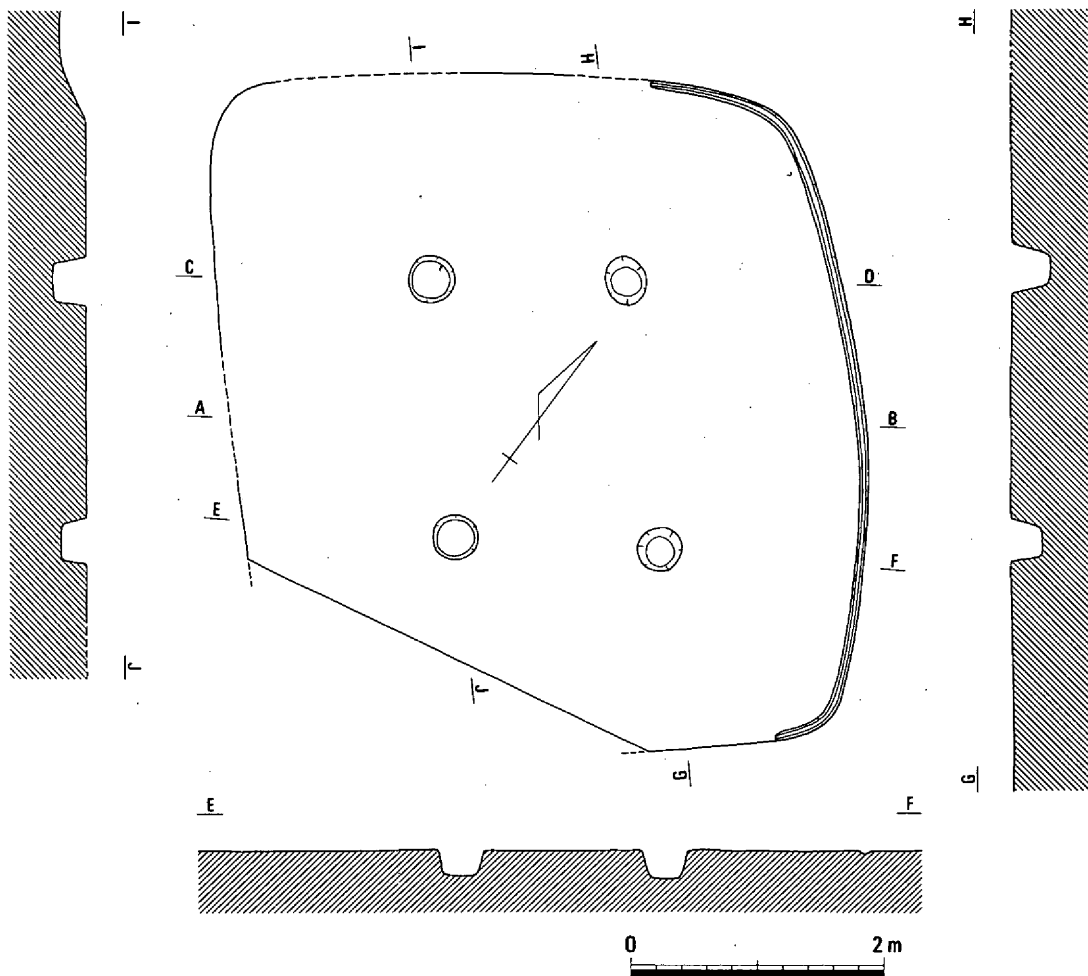
平面形は長径536cm、短径494cmの不整形を呈し、北東側の一部に検出された幅が狭くて浅い壁体溝は、外側へ湾曲して張り出していた。この竪穴住居の柱構造は4本柱であるが、中央穴は存在しなかった。

竪穴住居そのものの残存状態が悪かったこともあって、図化が可能な遺物は出土しなかった。わずかに採集した土器片の調整手法や形態特徴は、古・前・I~IIの時期のものであろう。(福田)

竪穴住居-267・268 (第336~338図)

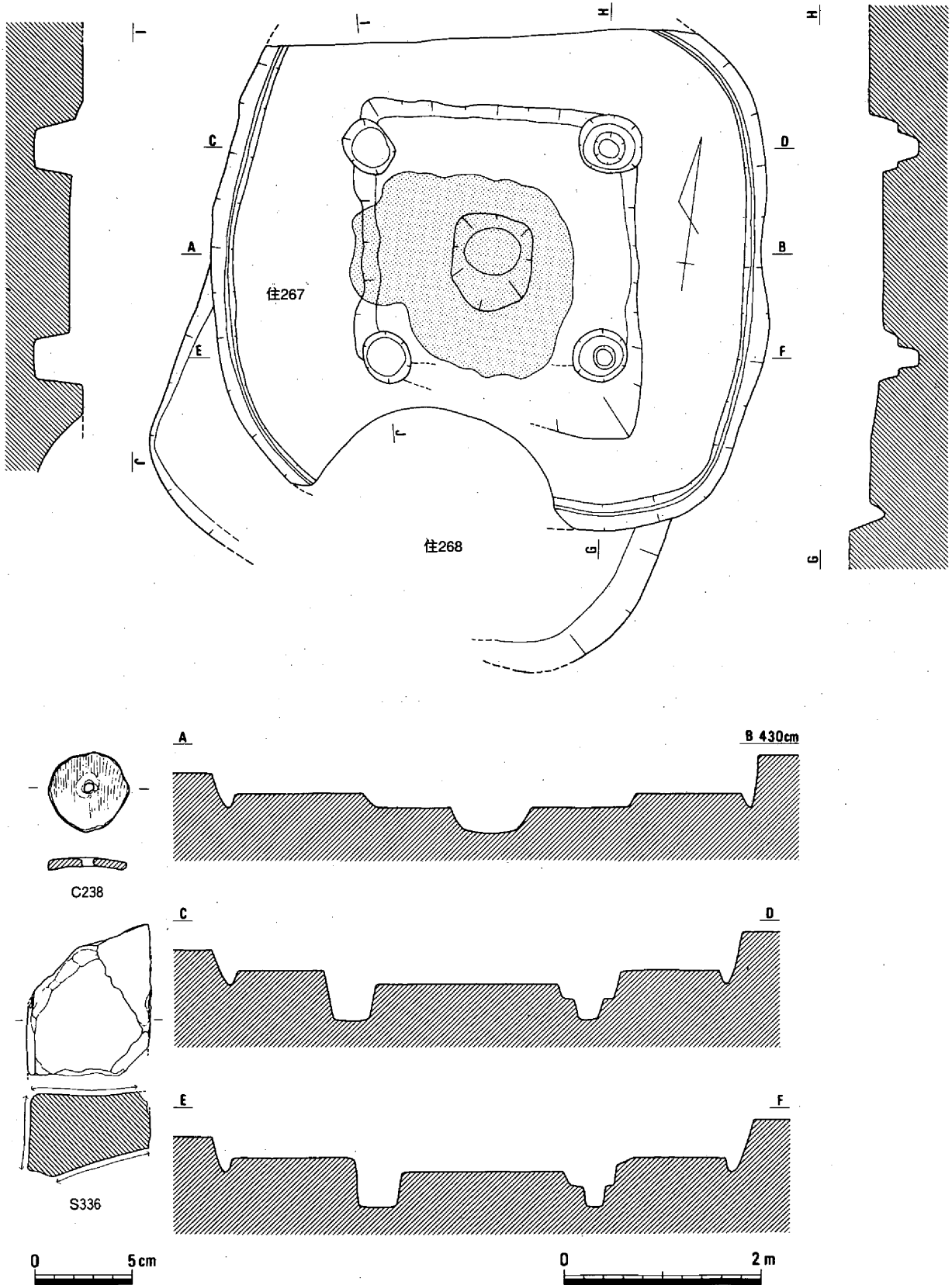
重複した竪穴住居-267と竪穴住居-268は、中屋調査区の中央部よりやや北側に位置している。北側には前述した竪穴住居-266が存在し、南側には竪穴住居-269が確認されている。この2軒の竪穴住居が位置する地点の東側には、古墳時代前期に属する遺構が存在しなかった。

竪穴住居-267と竪穴住居-268は、古代の掘立柱建物群を囲む溝によって遺構そのものが削平されているが、竪穴住居-267の平面形は、長径566cm、短径506cmの隅丸長方形と考えられる。床面の周



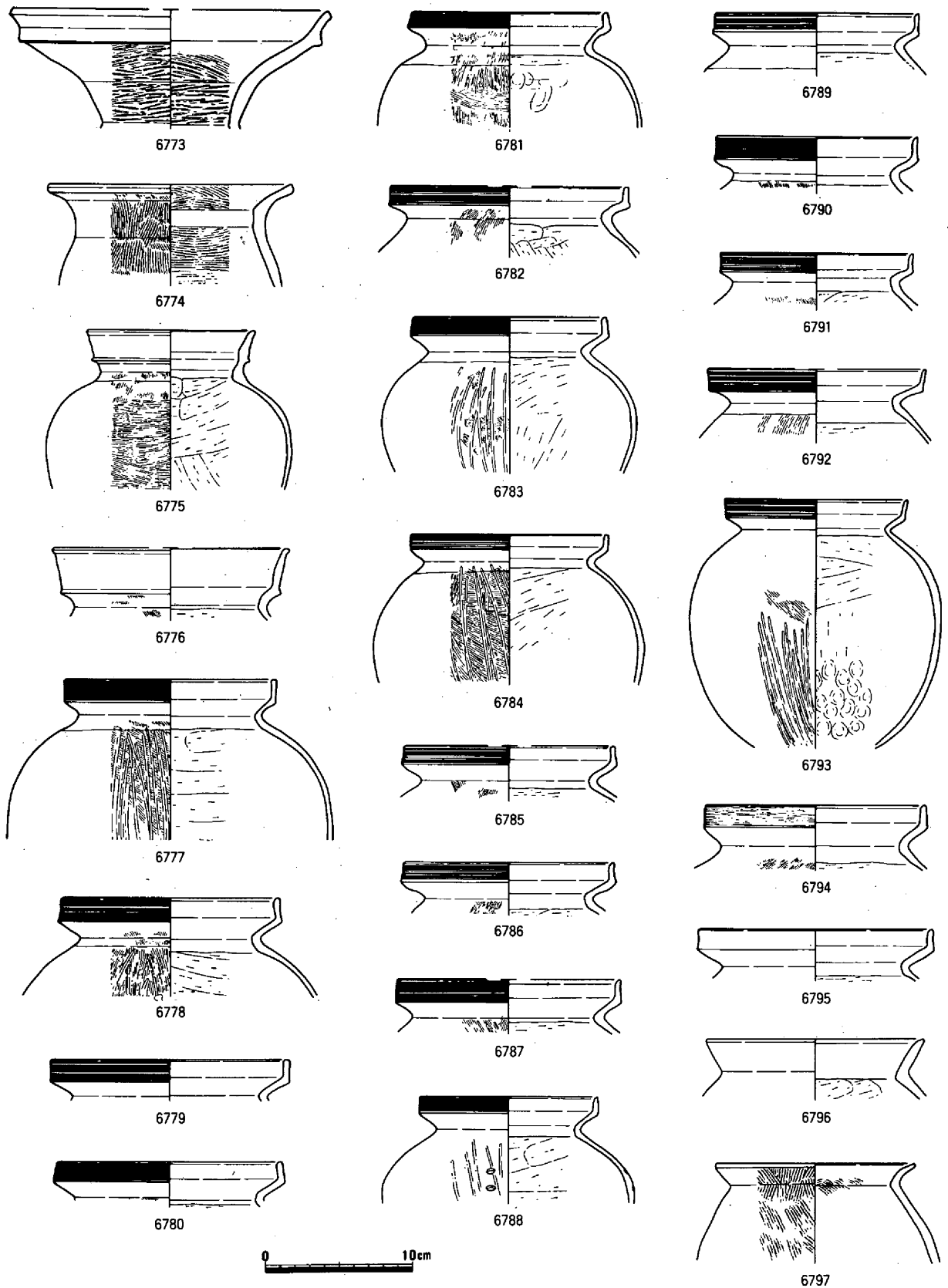
第335図 竪穴住居-266 (1/60)

囲には比較的深い壁体溝が巡らされ、中央部が長方形に約10~15cm低くなった高床部を全体に形成していた。この竪穴住居の柱構造は4本柱で、柱穴間の距離が214~242cmになっていた。床面の中心に

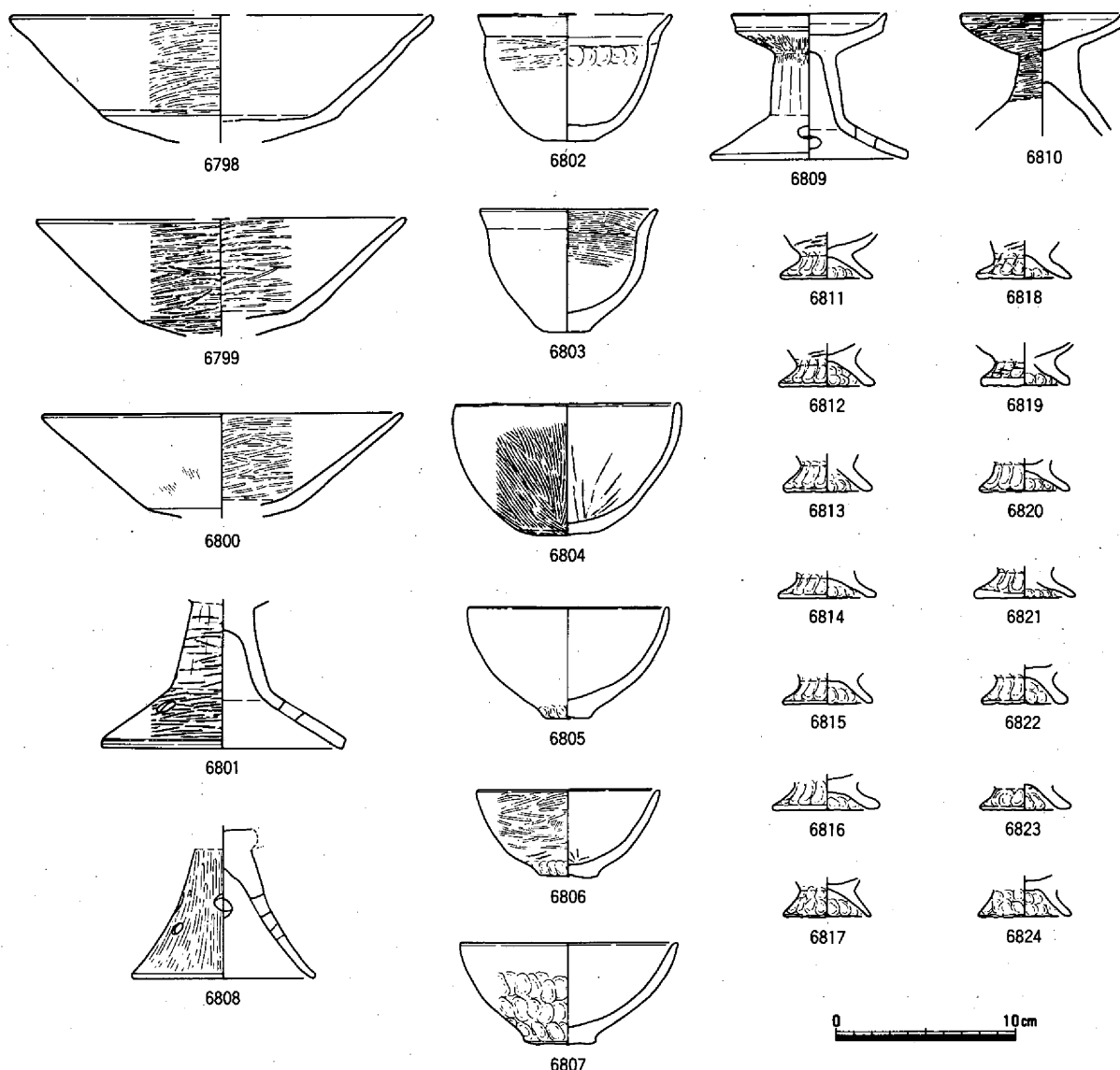


第336図 竪穴住居-267・268(1/60)・出土遺物(1)

は断面形が「U」字形を呈する中央穴が存在し、その中央穴周辺の比較的広い範囲の床面に焼土が認められた。



第337図 竪穴住居-267出土遺物(2)



第338図 竪穴住居-267出土遺物(3)

竪穴住居-267の出土遺物には、土器6773~6824以外に土器片を利用した紡錘車C 238と砥石片S 335もある。これらの大量の土器の調整手法や形態的特徴のみならず全体の器種構成を考慮すれば、竪穴住居-267は古・前・Iの時期に属するであろう。

竪穴住居-267に削平されている竪穴住居-268は、壁体溝が存在しなかった。平面形は隅丸方形または隅丸長方形を呈するようであるが、全容は把握できなかった。

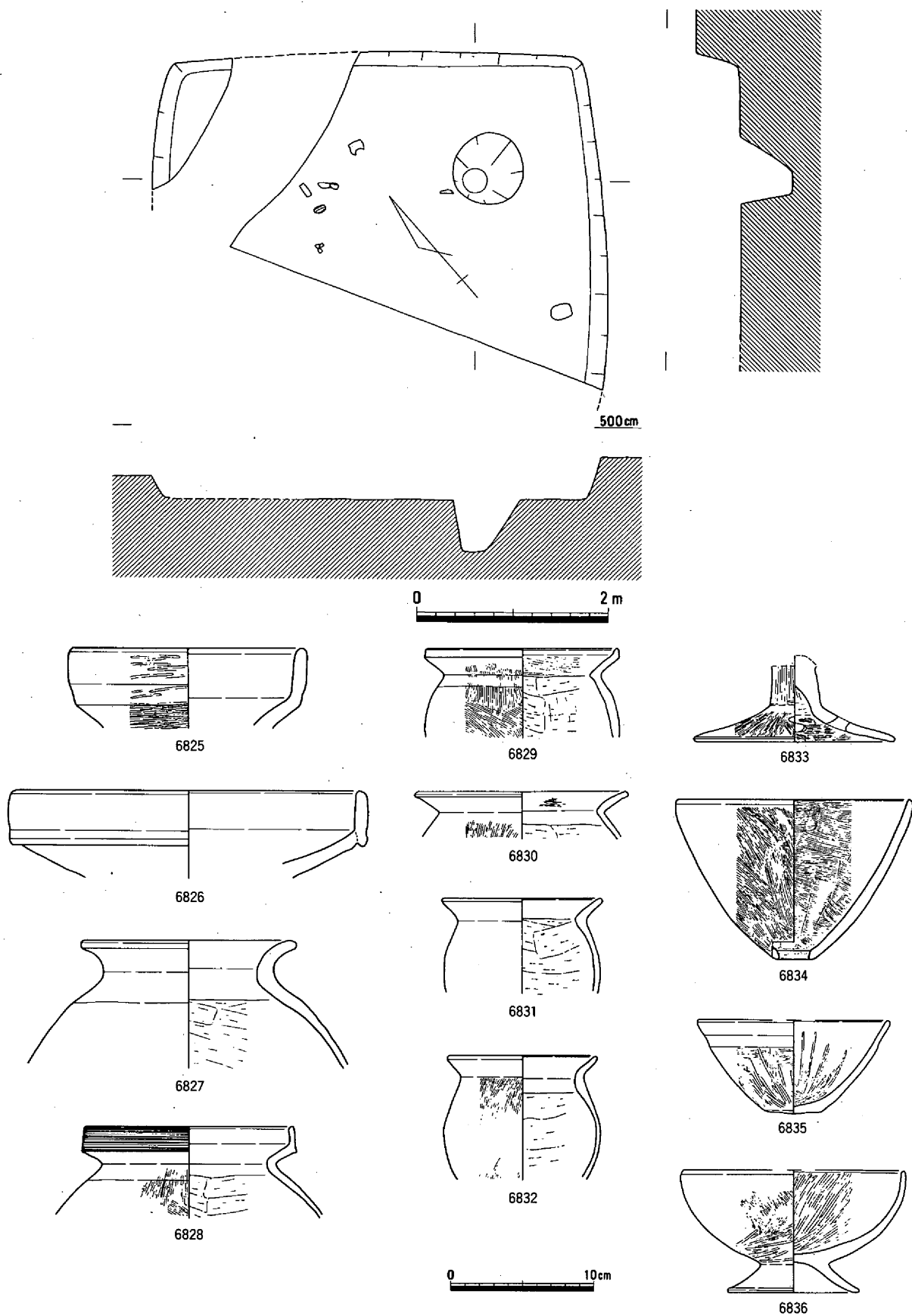
遺物は出土していないが、遺構の切り合いから古・前・Iの時期としておきたい。(福田)

竪穴住居-269 (第339図)

中屋調査区のほぼ中央部に位置するが、西側部分は調査範囲外になるため、調査できなかった。

平面形は方形または長方形を呈し、検出した1か所だけの柱穴の位置から、この竪穴住居の柱構造は4本柱になると考えられた。床面の周囲に壁体溝はなく、中央穴は検出できなかった。

この竪穴住居から出土した遺物は、いずれも土器6825~6836である。これらの土器の調整手法や形態的特徴などから、竪穴住居-269は古・前・Iの時期に属すると考える。(福田)



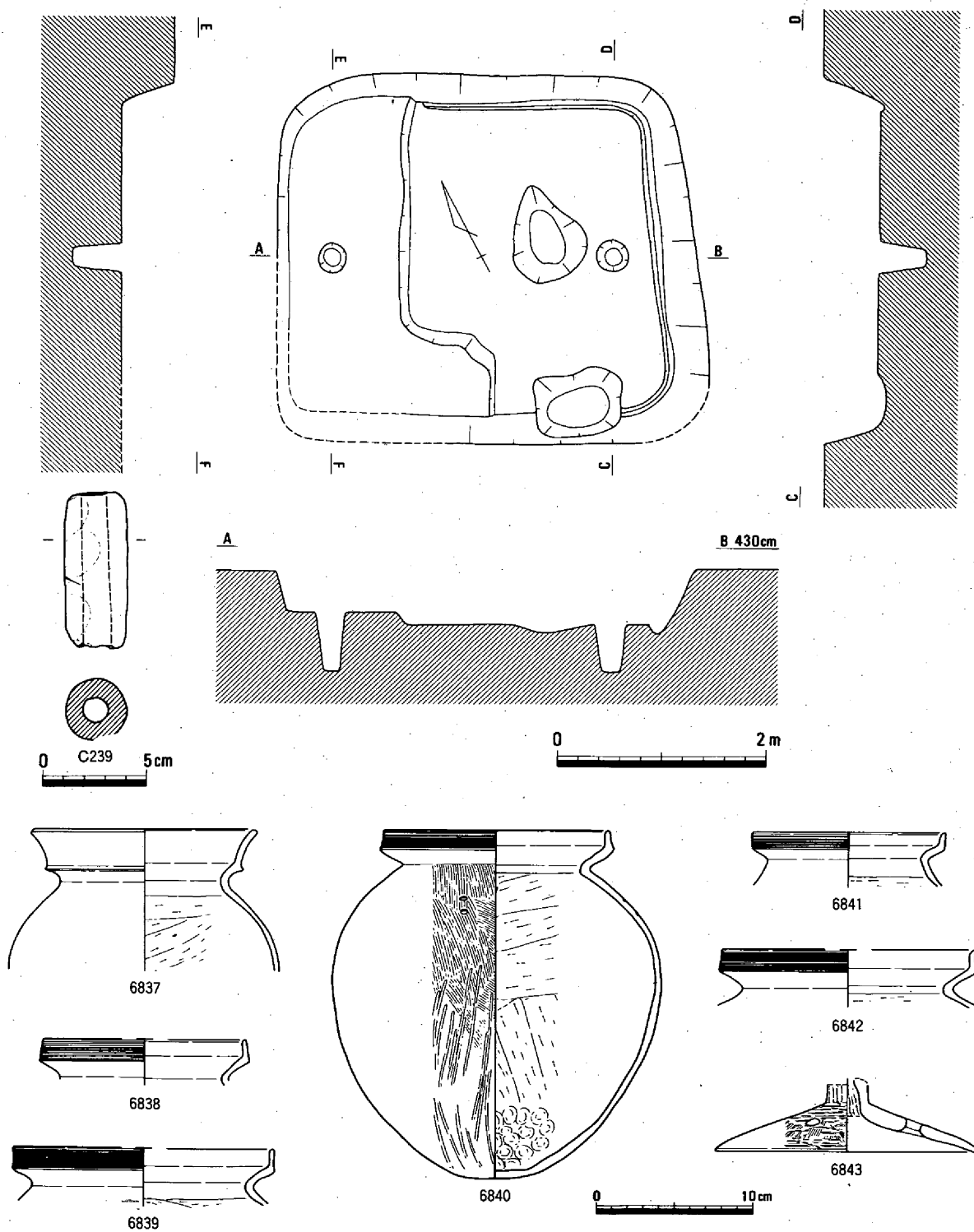
第339図 竪穴住居-269 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-270 (第340図)

中屋調査区の中央部よりやや南側に位置するが、東側には古墳時代前期の遺構が存在しない。

この竪穴住居の平面形は隅丸方形を呈し、北西側から南西側にかけての床面が約13cmほど高くなっていた。柱構造は距離が270cmの2本柱で、床面の低い東側には壁体溝が存在していた。

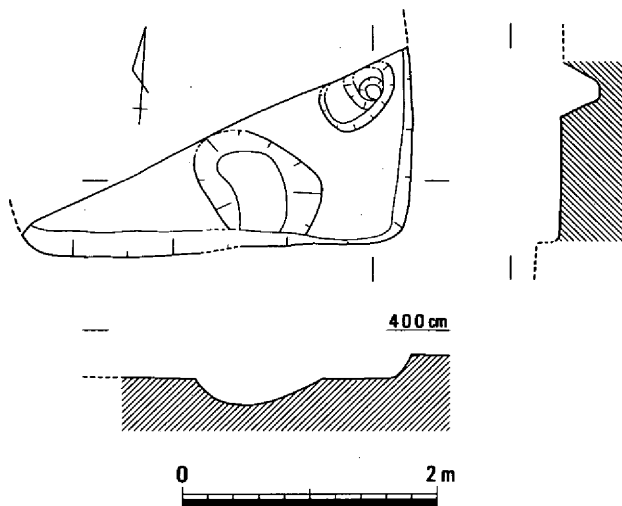
出土遺物としては、調整手法や形態的特徴が古・前・Iの時期に属すると推定される甕6837~6842や高杯6843などの土器以外に、土錘C239が検出されている。(福田)



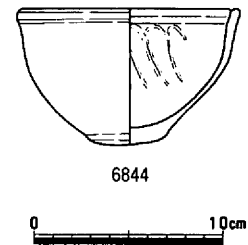
第340図 竪穴住居-270 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-271 (第341図)

この竪穴住居は、竪穴住居-270の北西約10mに位置し、竪穴住居-272の西側に隣接して検出された。竪穴住居の大半は調査区外であるため一部を検出したにとどまった。このため規模は不明であるが、検出状況から推察して長さ約350cm前後の小規模な竪穴住居と推定される。深さは床面まで約15cm残存しており、床面の南辺中央部付近には方形土壌を推定させる落ち込みが検出されている。また、柱穴と思われるものも1基確認されている。さらに、壁体溝は検出できなかった。



出土遺物は、図示した鉢の完形品と土器が少量検出されている。6844は、小形の鉢で、内面をオサエ・ナデで調整している。この土器は、その特徴から古墳時代初頭。(中野)



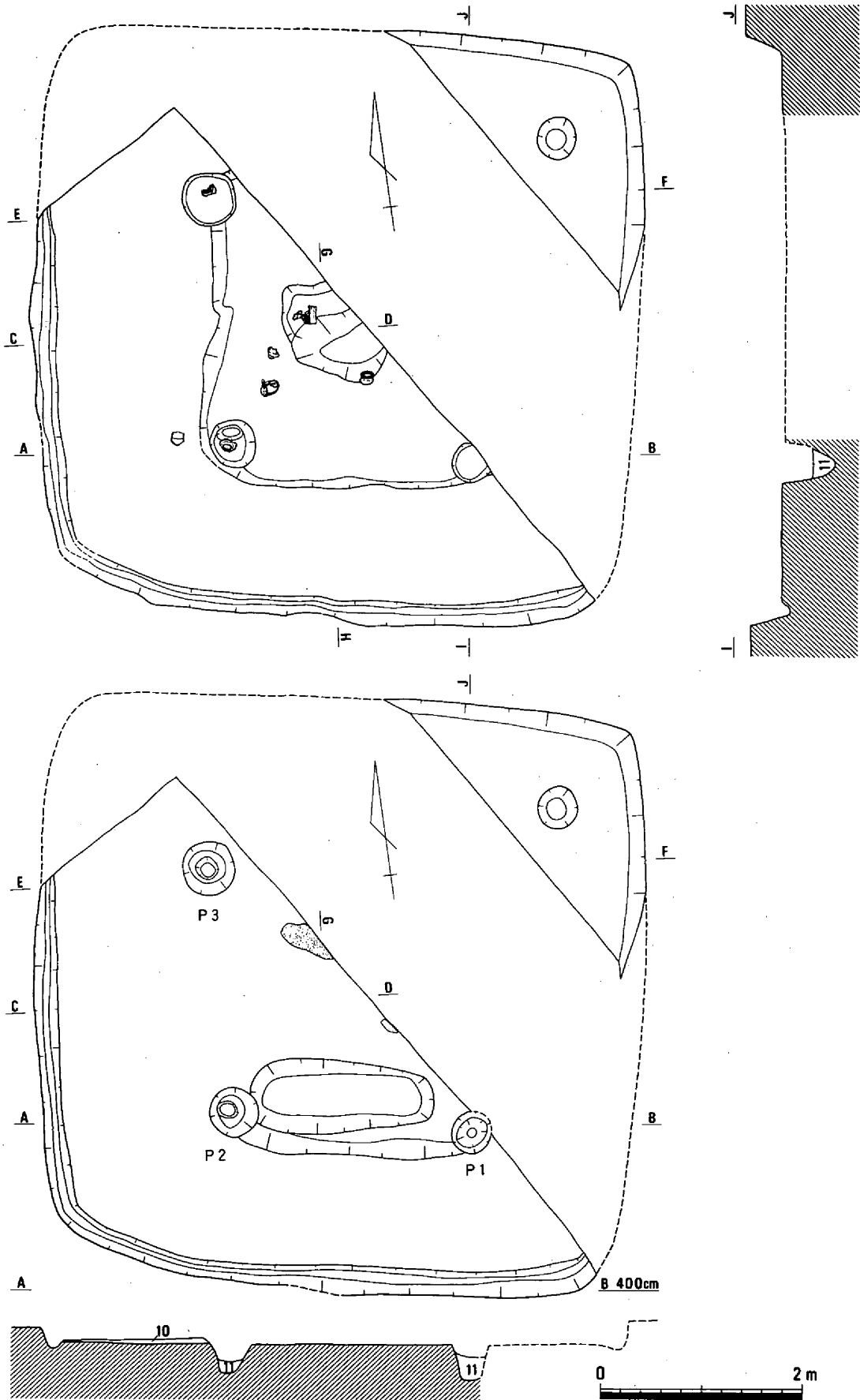
第341図 竪穴住居-271 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-272 (第342~346図)

竪穴住居-272は、竪穴住居-271の東側に隣接して検出された。竪穴住居は、後世の削平と調査区間の未調査部のため全容は明かではない。しかしながら、検出した部分から推察すると規模は約608×596cmを測り、周辺域の竪穴住居に比べると大形のものである。床面は上下2面確認されており、上部の第1床面は外周に壁体溝が廻り、その内側には3辺ないし4辺に高床部が設けられている。床面中央の1段低い部分には、不正形の中央穴が確認されている。柱穴は、高床部の内側角部に3本確認されており、このことから4本柱と考えられる。柱間は、約240cm前後で柱穴は直径40~50cmである。柱穴の深さは約35cmを測る。出土遺物は、中央穴周辺に検出されており、第343図6845~6851が出土した。

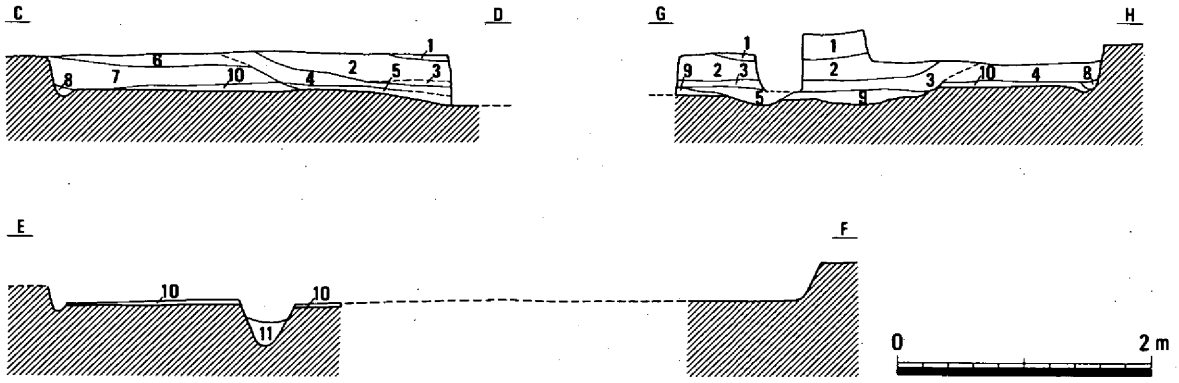
下部の第2床面は、外周に壁体溝が廻り、柱穴は第1床面のものと共通している。柱穴P1とP2の間のやや内側には、約180×75cmの長楕円形を呈する土壌が存在する。また、この土壌の北側には焼土面も確認されている。出土遺物は少量の土器が出土した。

6852~6881の土器は、埋土および第1床面近くから出土したものである。6852~6862の壺は、二重口縁をもつものが多く認められ、他に6852~6854の斜上方に立ち上がる口縁をもつものや6855の胎土が異なるものがある。また、6864・6865の小形の壺も出土している。6866~6870は吉備型甕で、6869は小形で体部が短い。6870は、「く」の字口縁の甕で、個体数は少なかった。6871~6876の高杯は、6871・6872および6849・6850の杯部から段になるものが多い。他に6877~6879は皿形の鉢、小形器台の6880、鼓形器の6881、さらに6882~6885の製塩土器が検出されている。古墳時代初頭。(中野)



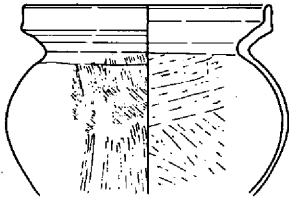
第342図 竪穴住居-272(1/60)

第3章 調査区の概要

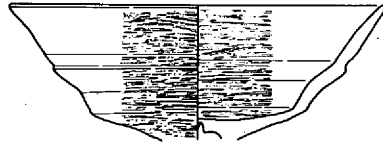


- 1 暗黄褐色泥砂
- 2 黒褐色泥砂
- 3 黄黒褐色泥砂
- 4 黄黒色泥砂
- 5 黄灰褐色泥砂

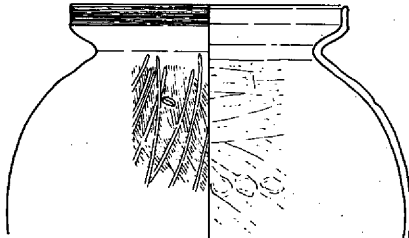
- 6 暗褐色泥砂
- 7 暗褐色砂質土
- 8 茶褐色砂質土
- 9 淡黄灰色泥砂
- 10 黄灰色泥砂
- 11 茶灰色泥砂



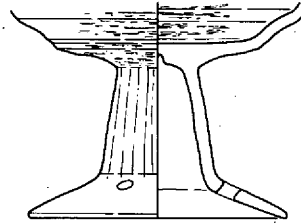
6845



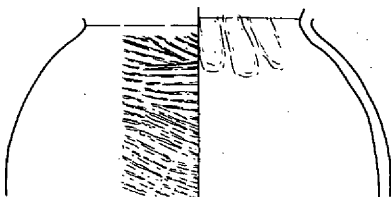
6849



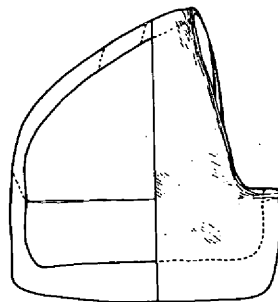
6846



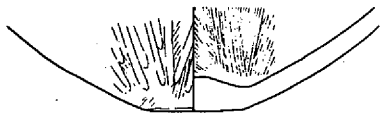
6850



6847



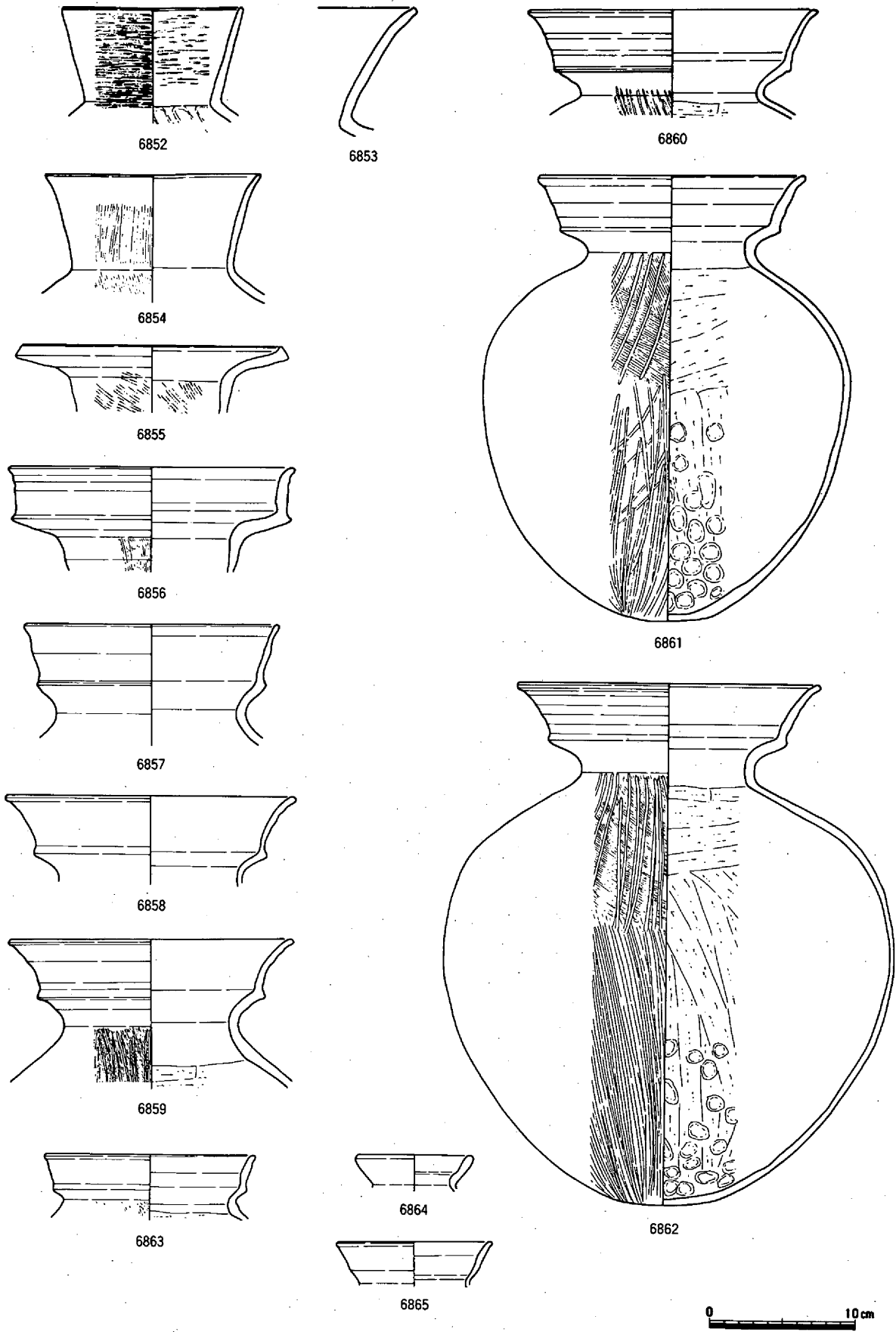
6851



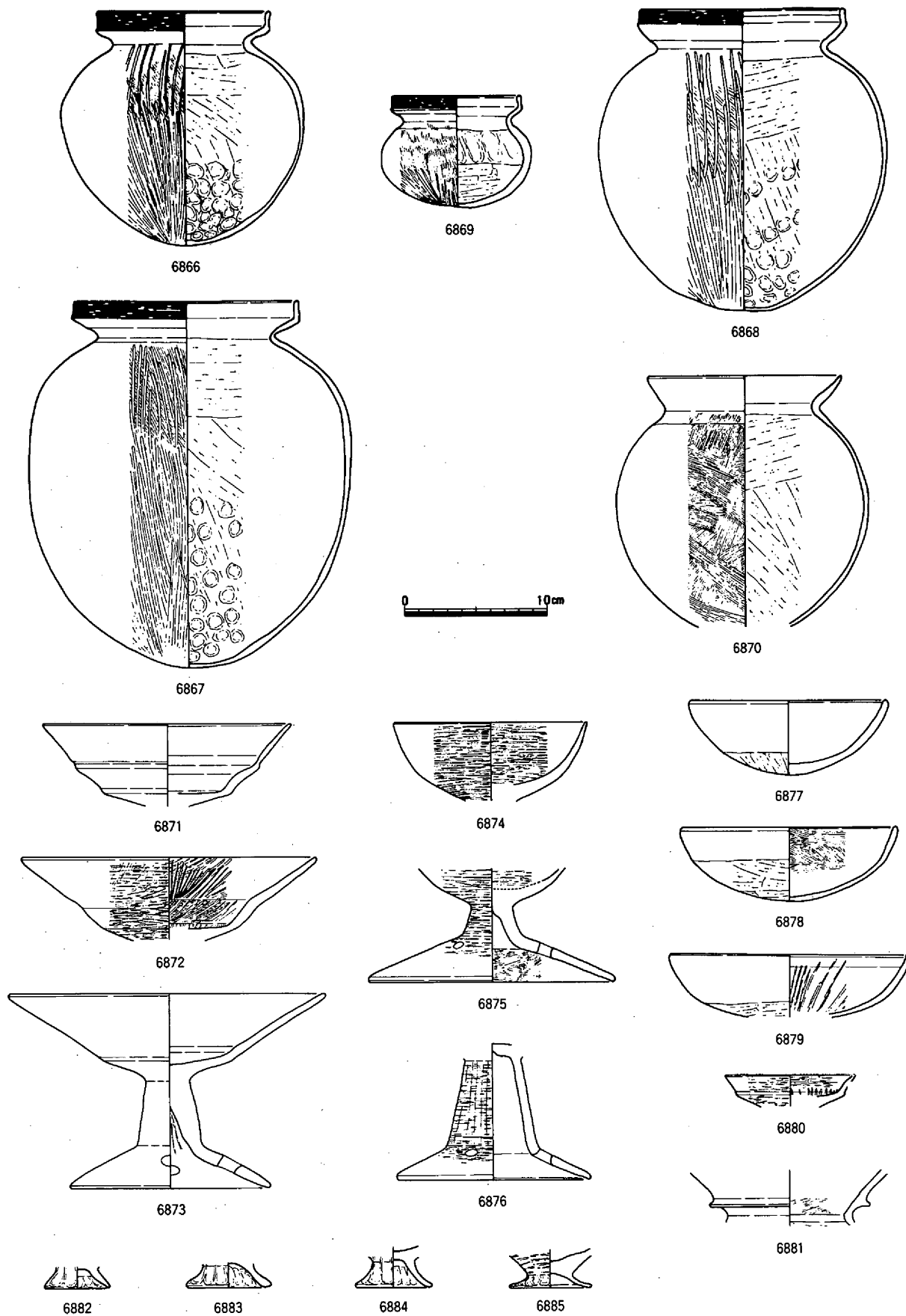
6848



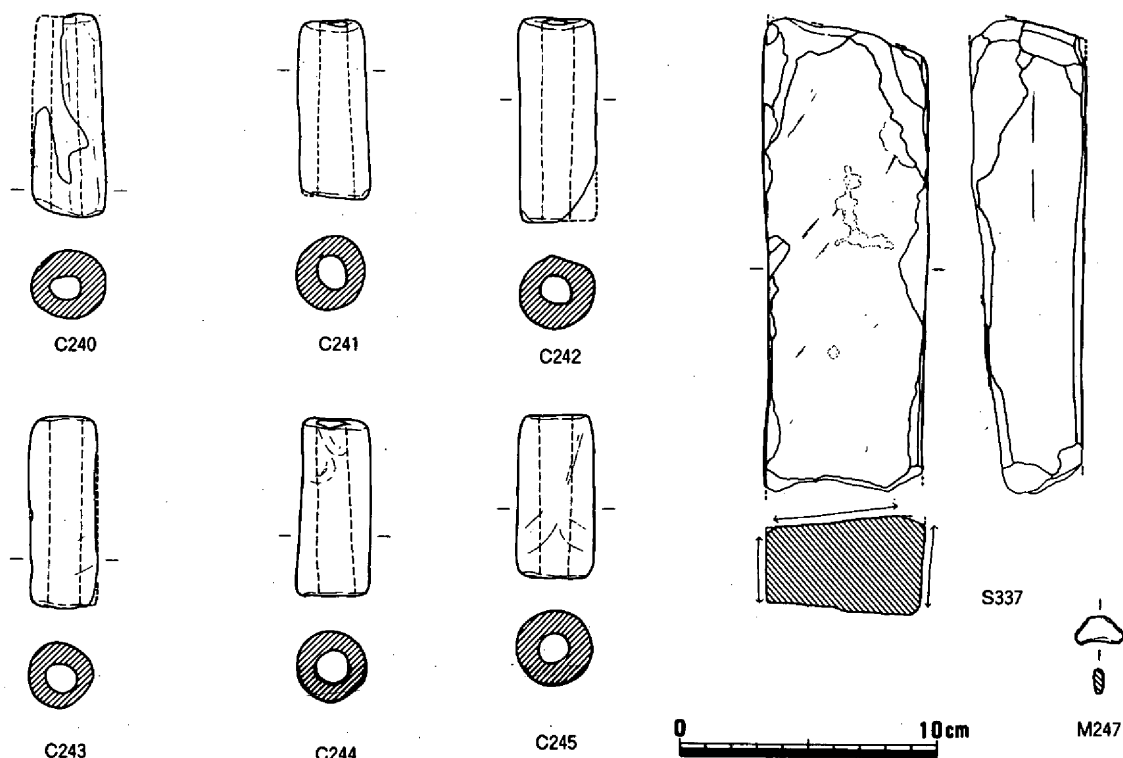
第343図 竪穴住居-272(1/60)・出土遺物(1)



第344図 豎穴住居-272出土遺物(2)



第345図 竪穴住居-272出土遺物(3)



第346図 竪穴住居-272出土遺物(4)

竪穴住居-273 (第347~349図)

この竪穴住居-273は、竪穴住居-272の南東約5mに位置し、竪穴住居-274・275に近接して検出された。規模は約424×368cmを測り、平面形は方形を呈している。長軸はほぼ南北方向にとる。床面は上下2面確認されている。上部の第1床面は、床面外周に壁体溝が廻り、その内側には、幅約1m弱の高床部が配されている。その高床部に取り囲まれた床面中央部は一段低くなっており、長軸方向に柱穴が2本検出されている。

下部の第2床面は、高床部はなく、壁体溝も部分的に確認された。床面中央部には、柱穴が2本存在しており、第1床面の柱穴とほぼ重なっている。東辺の壁体溝には不整形な方形土壌が検出されている。また、柱穴の中間部には焼土面が存在している。出土遺物は、方形土壌周辺を中心に検出されている。6889・6891・6895・6896・6901・6902・6905・6915・6916、などが出土している。さらにM248の鉄鏝も検出されている。

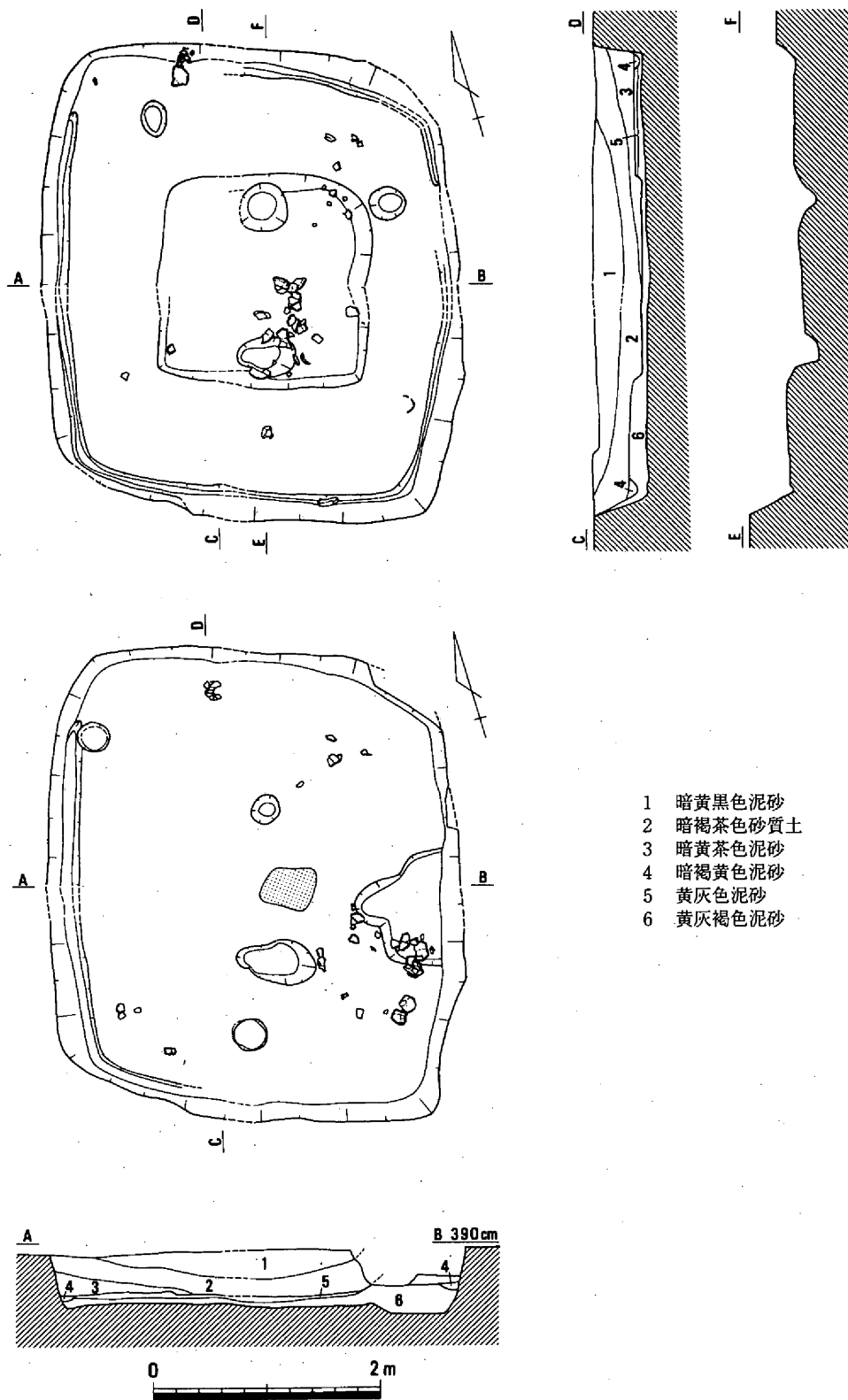
6886~6892の壺は、6887~6889の二重口縁をもつもの、6886・6891・6892の上方に立ち上がる口縁をもつものとさらに6890のタイプの3者があった。6890は、頸部から斜上方に開き、さらに屈曲して外側に延びる口縁部で、端部を肥厚させている。この土器は胎土が他の土器とは異なっている。6891・6892は、類似した器形をしており、頸部から「く」の字状に屈曲して斜上方に立ち上がる口縁部をもつ。外面は、ハケメののち体部下半をヘラミガキを施している。

6893~6903の甕は、6893~6899の「く」の字口縁をもつものと、いわゆる吉備型甕の6900~6903がある。6893~6899は、外面にタタキを施す6899、ハケメの6896・6898・6899がある。内面はほとんどヘラケズリで、6899のようにハケメで調整するものもある。他に6904~6907の高杯、6908~6917の鉢

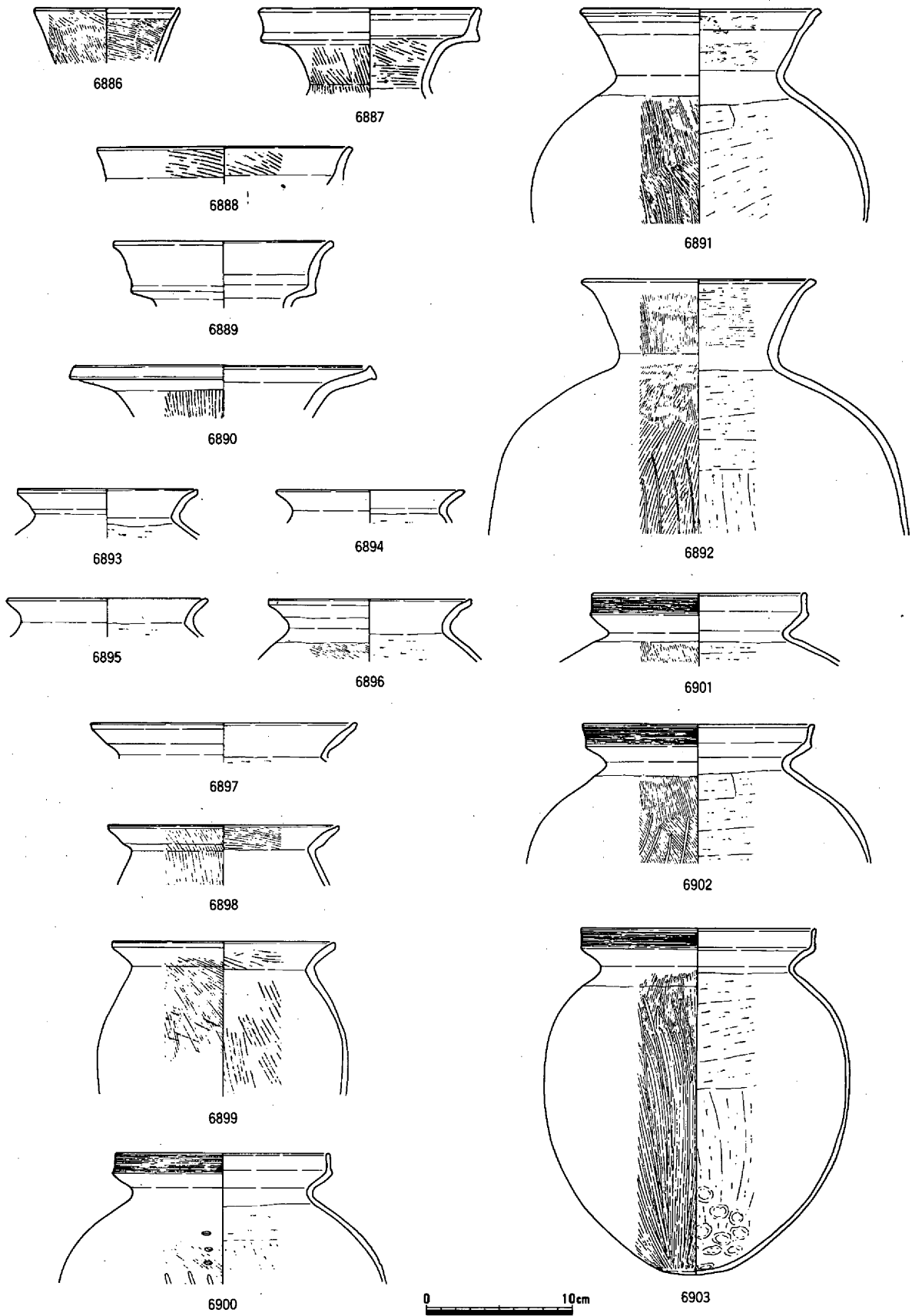
がある。特に、6916~6915の小形の鉢の個体数が多かったのは特徴的である。また、S338・339の砥石も出土している。

出土した土器は、古墳時代初頭の特徴を示している。

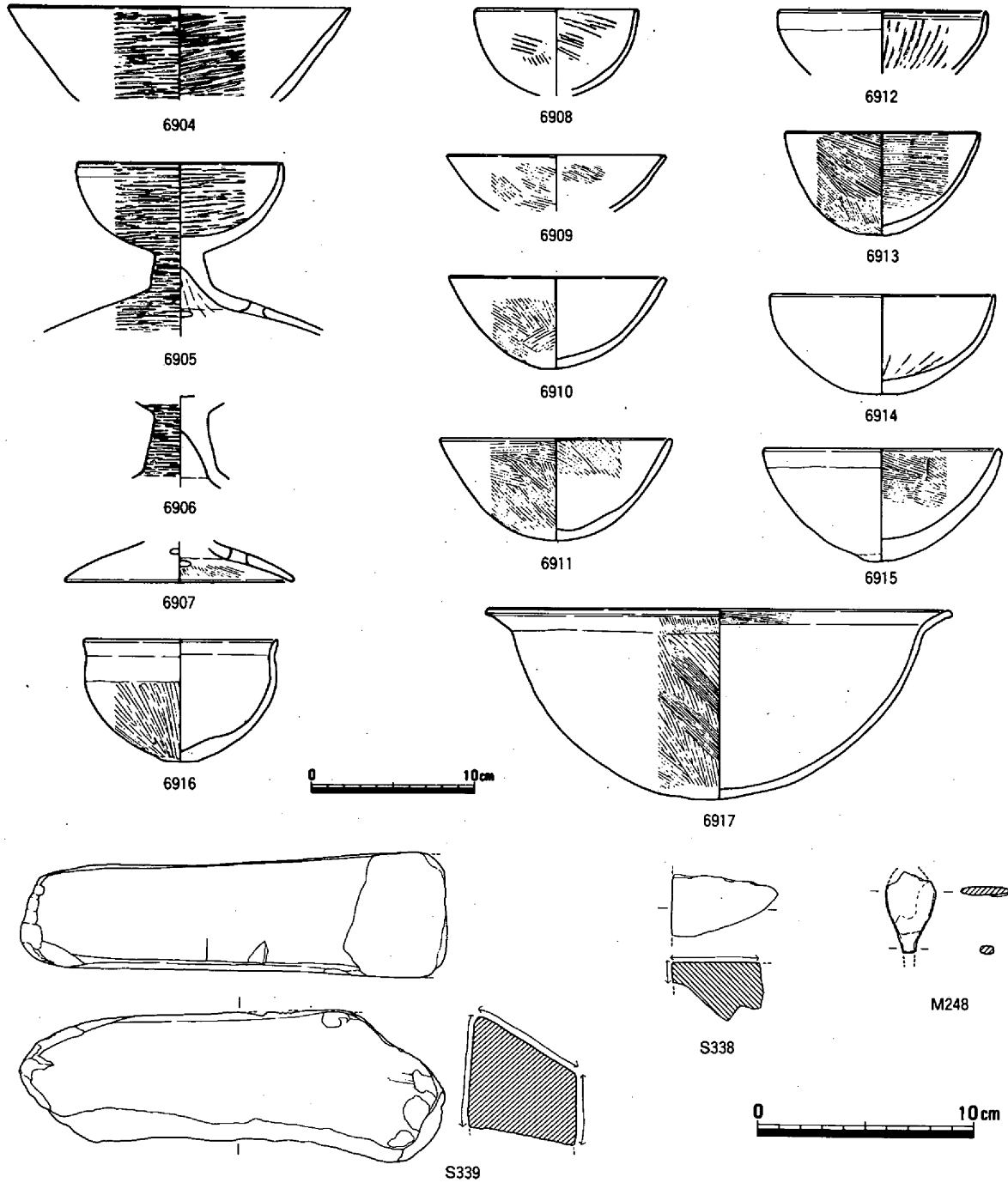
(中野)



第347図 竪穴住居-273(1/60)



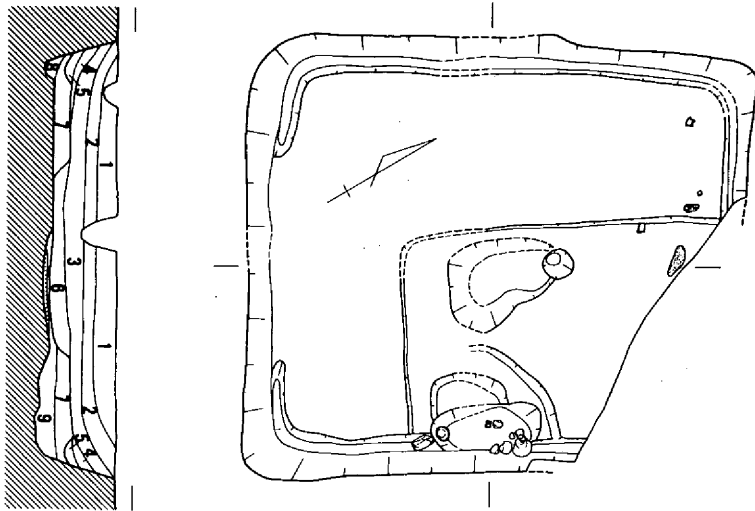
第348図 竪穴住居-273出土遺物(1)



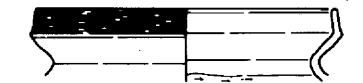
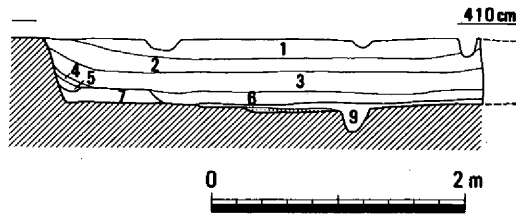
第349図 竪穴住居-273出土遺物(2)

竪穴住居-274 (第350図)

竪穴住居は、竪穴住居-273の南東約1mに近接して検出された。竪穴住居-273・275などと竪穴住居の長軸の向きが同じである。規模は、392×346cmを測り、平面形は方形を呈している。床面は2面確認されており、図示したのは下部の第2床面である。床面には、壁体溝が廻り、竪穴住居-282と同様な「L」の字状の高床部をもっている。また、東辺中央部の壁体際には方形土壇が存在する。さらに、床面中央部には不正形な中央穴が検出されている。柱穴は中央部の端部に1本存在するが他には認められなかった。出土遺物は、6918~6930などの土器と石器が出土した。第2床面からは、



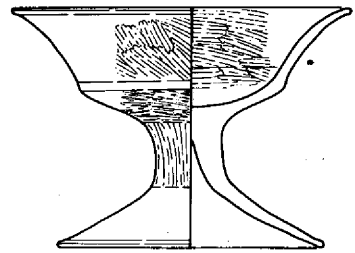
- 1 淡茶褐色砂質土
- 2 暗橙褐色砂質土
- 3 暗黄褐色砂質土
- 4 暗橙褐色粘質土
- 5 暗黄褐色粘質土
- 6 黄褐色砂質土
- 7 明黄褐色砂質土
- 8 黄黒褐色砂質土
- 9 淡黄灰色粘質土



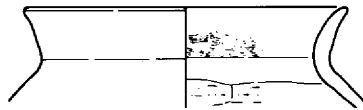
6918



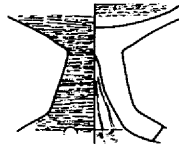
6921



6923



6919



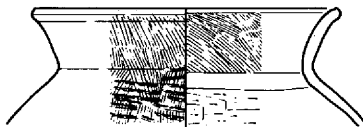
6922



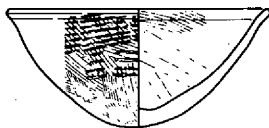
6924



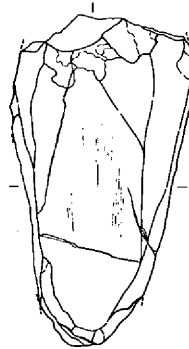
6925



6920



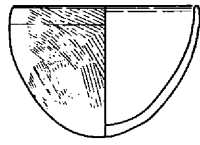
6926



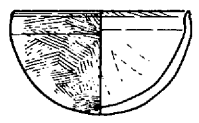
S340



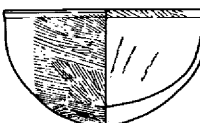
6927



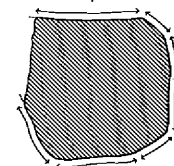
6928



6929



6930



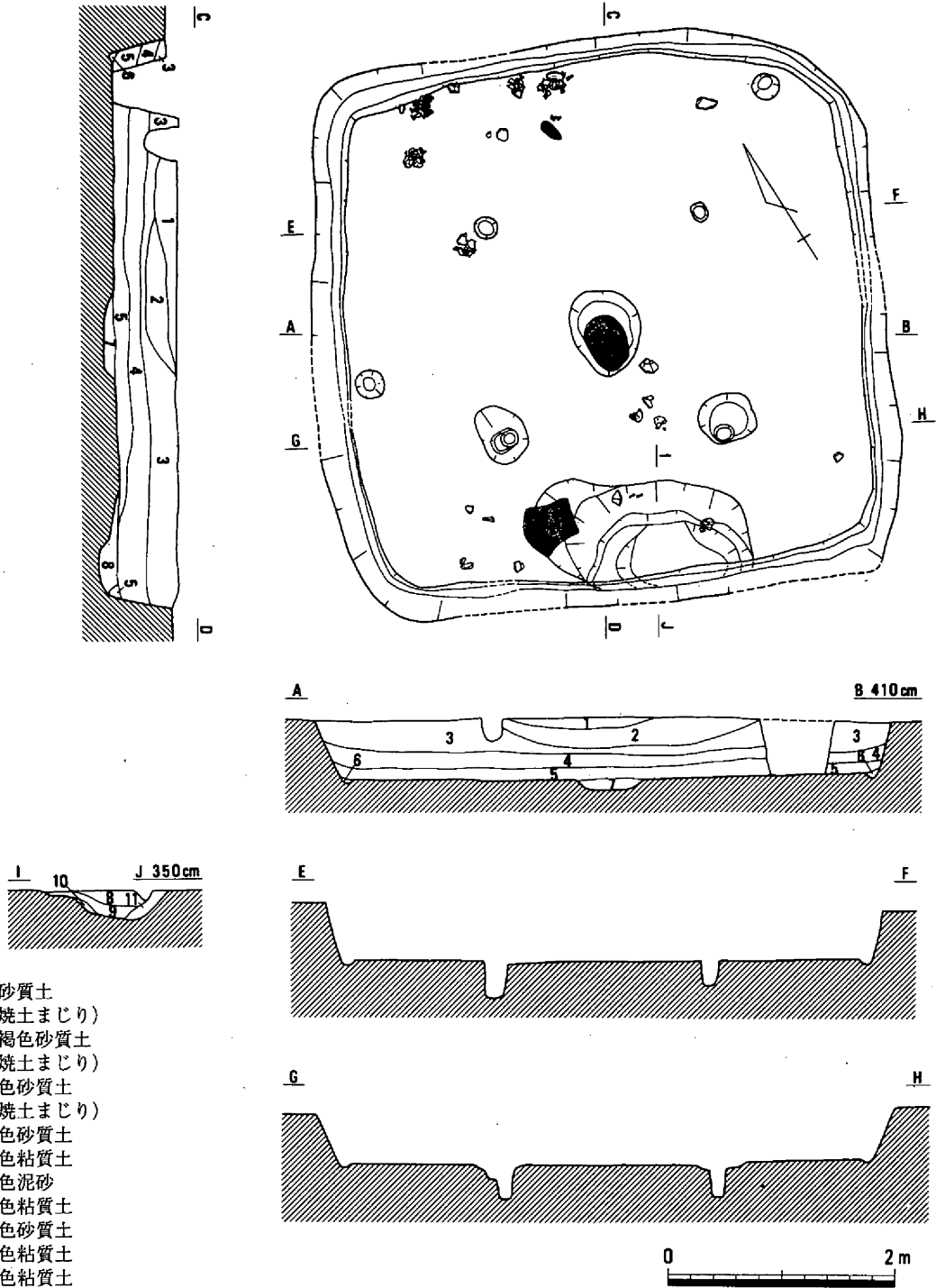
第350図 竪穴住居-274(1/60)・出土遺物

6921・6923・6926が検出された。古墳時代初頭。

(中野)

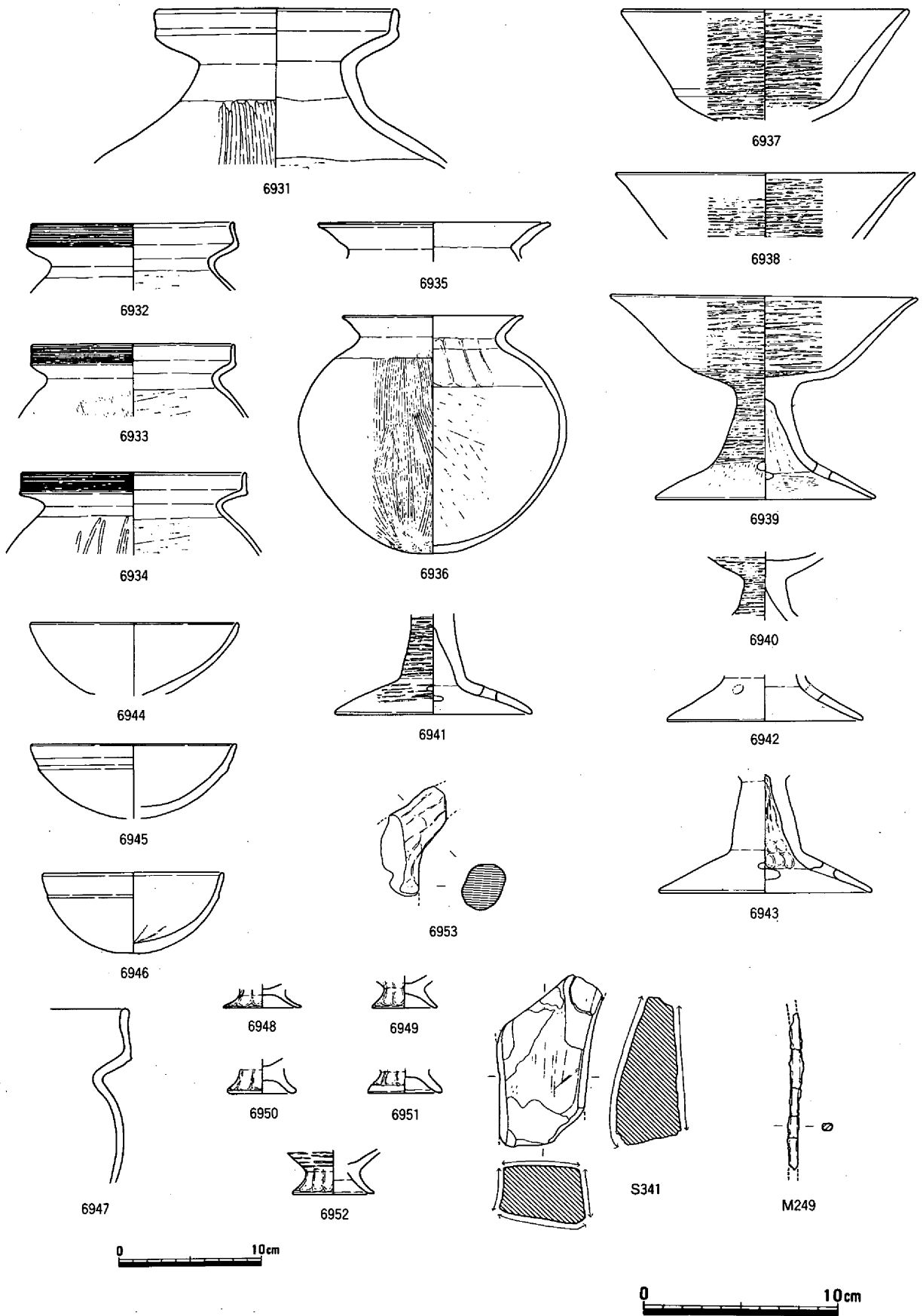
竪穴住居-275 (第351・352図)

竪穴住居-275は、竪穴住居-273の南西約1.5mに検出された。規模は、504×500cmで、平面形は方形を呈している。床面までの深さは約55cmと良好に残存していた。床面の周りには壁体溝が廻り、床面中央部には60×75cmの楕円形の中央穴が存在する。柱穴は4本柱で、柱間は約190cmを測る。また、南辺の中央壁体際には方形土壌が検出された。



- 1 褐色砂質土
(炭、焼土まじり)
- 2 暗黄褐色砂質土
(炭、焼土まじり)
- 3 淡褐色砂質土
(炭、焼土まじり)
- 4 黄褐色砂質土
- 5 灰黄色粘質土
- 6 暗褐色泥砂
- 7 黒黄色粘質土
- 8 灰褐色砂質土
- 9 暗灰色粘質土
- 10 灰茶色粘質土
- 11 暗黄灰色泥砂

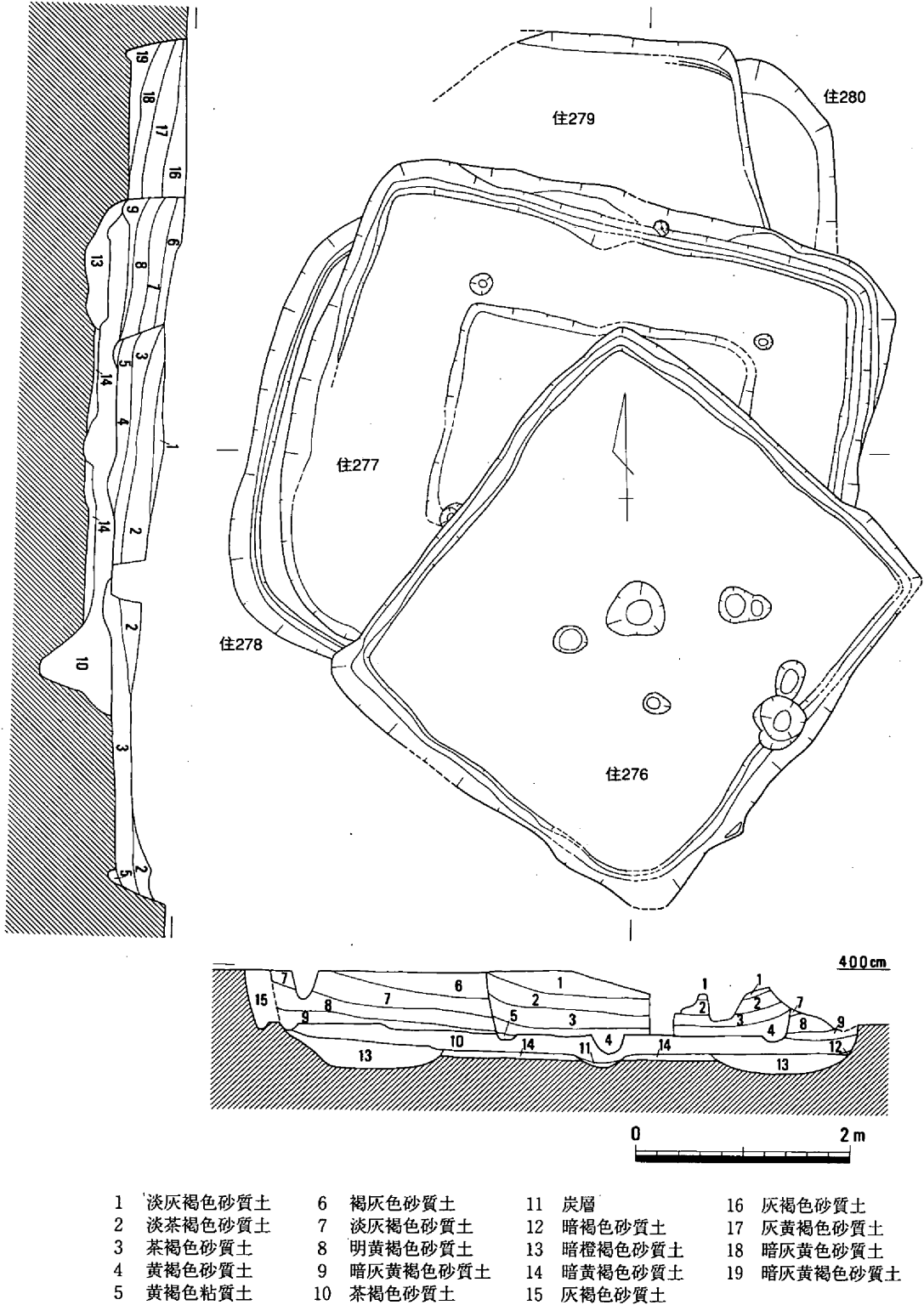
第351図 竪穴住居-275(1/60)



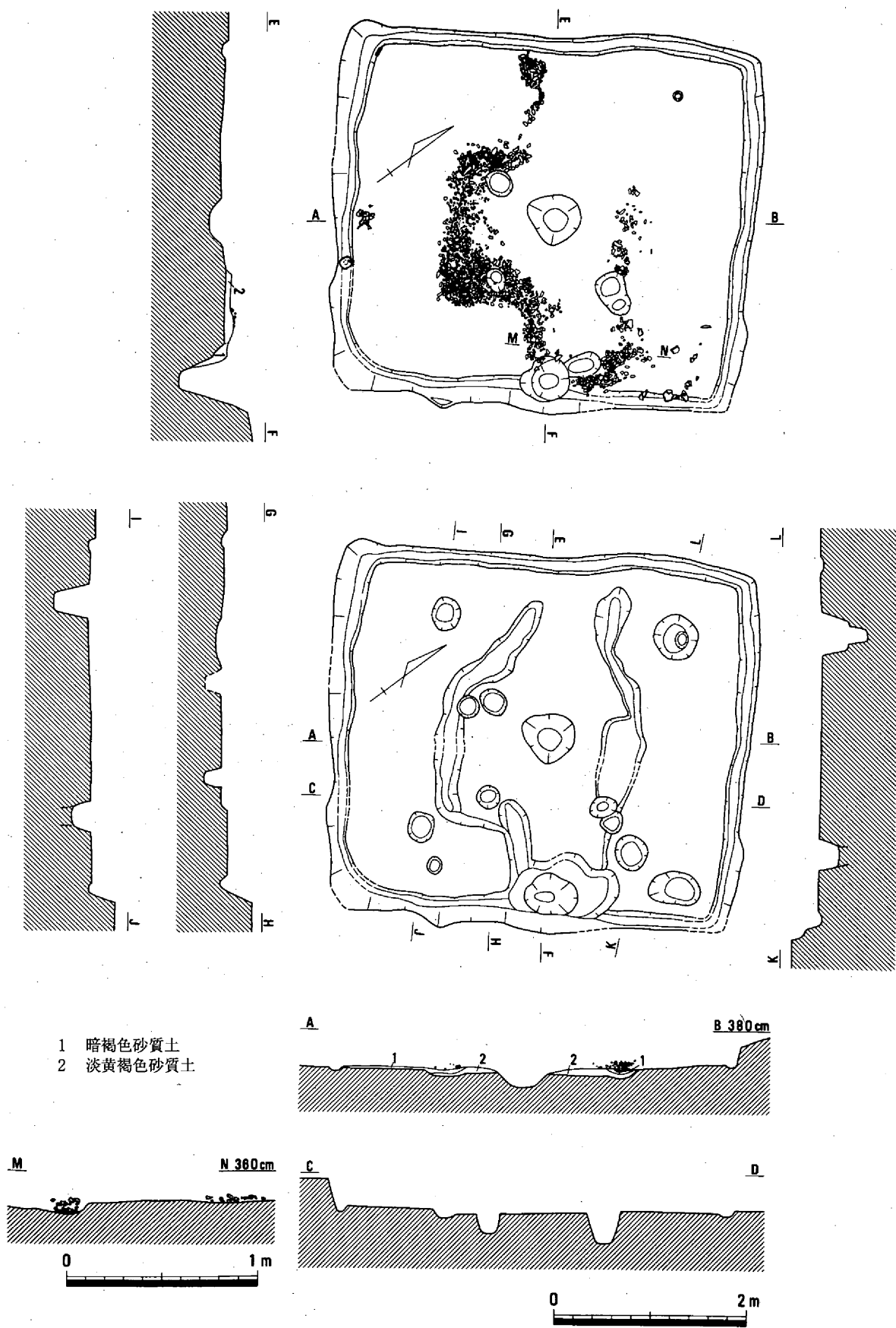
第352図 豎穴住居-275出土遺物

第3章 調査区の概要

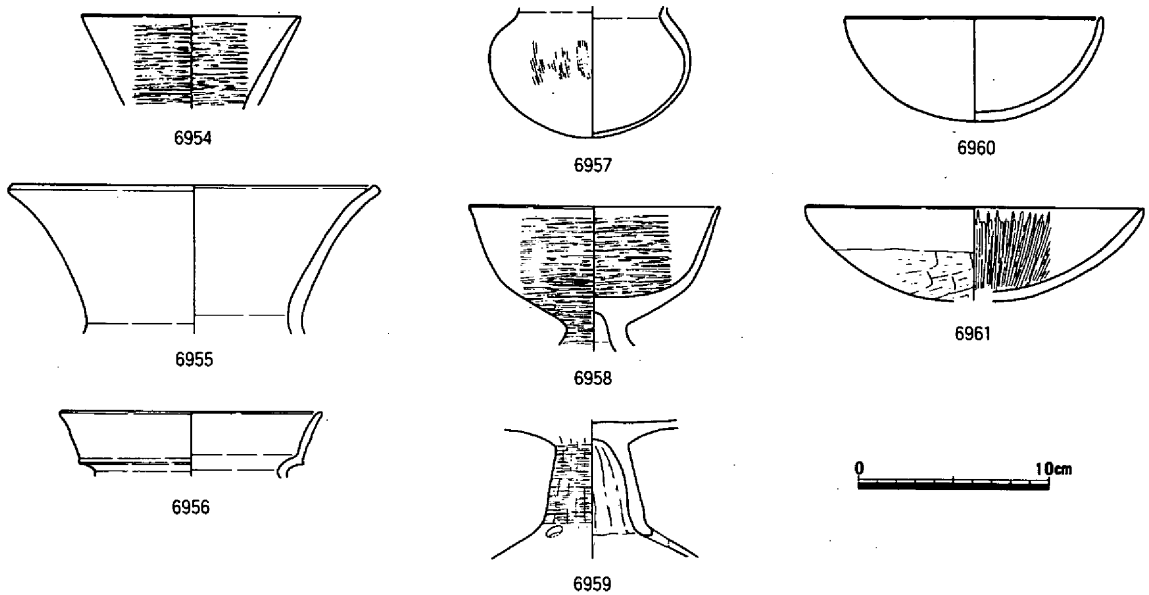
出土遺物は、床面より甕・高杯・鉢など5個体分が完形ないし完形に近い形で出土した。また、6946の鉢は竪穴住居-282出土の破片と接合した。他の土器は埋土から多量に検出されたが破片がほとんどであった。出土した土器は、いずれも古墳時代初頭の特徴を示している。また、S341の砥石、M249の鉄器が検出されている。(中野)



第353図 竪穴住居-276~280(1/60)



第354図 竪穴住居-276 (1/30・1/60)



第355図 竪穴住居-276出土遺物(1)

竪穴住居-276 (第353~357図)

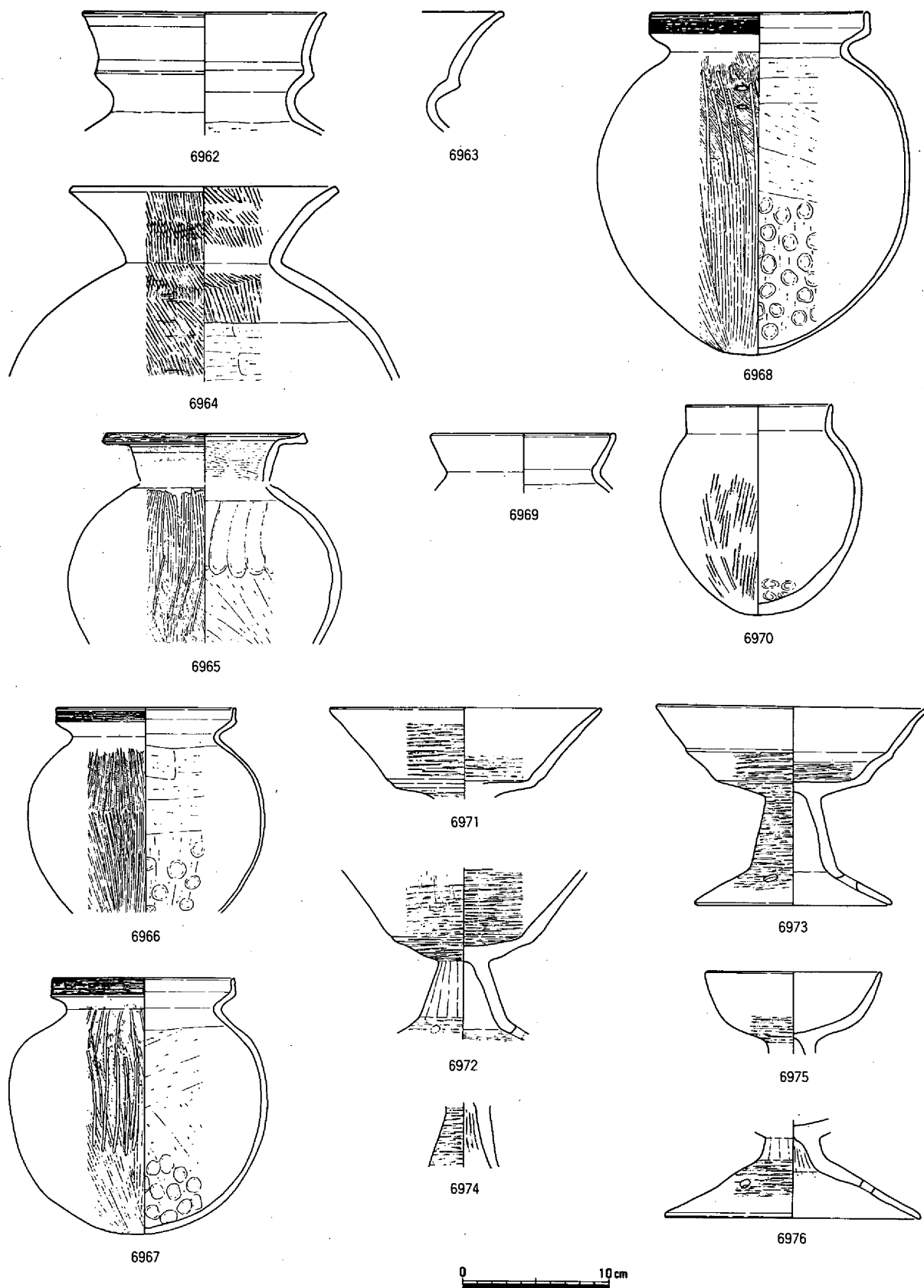
竪穴住居-276は、竪穴住居-275の北西約5.5mに位置し、竪穴住居-276~280が重なり合って検出された。竪穴住居-276~280は、第353図のように重複しており、竪穴住居-276は其中でも最も新しい。規模は、約444×390cmで、平面形は方形を呈している。竪穴住居の長軸は、北西から北東方向にとるが、下部の竪穴住居-277~280とはやや異なる。床面までの深さは約60cmで残存状態は良好であった。床面には、外周に壁体溝が廻り、床面中央部には楕円形の中央穴が存在する。また、床面中央部には、長軸方向にやや長く200×150cmの方形に低くなっており、その低い部分には砂利が部分的に敷かれているのが残存していた。さらに、この砂利は短辺方向にもカギ形状に延びている。床面中央を中心とする低い部分は、変則的な形状で、その部分には砂利が敷かれていたものと考えられる。柱穴は、中央穴の周辺に3本確認できたが、柱間が短く補助柱と考えられる。長辺の東側壁体際には、楕円形を呈する方形土壇も検出されている。出土遺物は、床面からは6954~6961などが出土した。

第354図の下部の平面図は、当初の竪穴住居の掘り方の図である。この面では、柱穴が隅部近くに4本が検出された。また、砂利が敷かれていた部分は浅い溝状になり排水的な施設も加味されていたと考えられる。

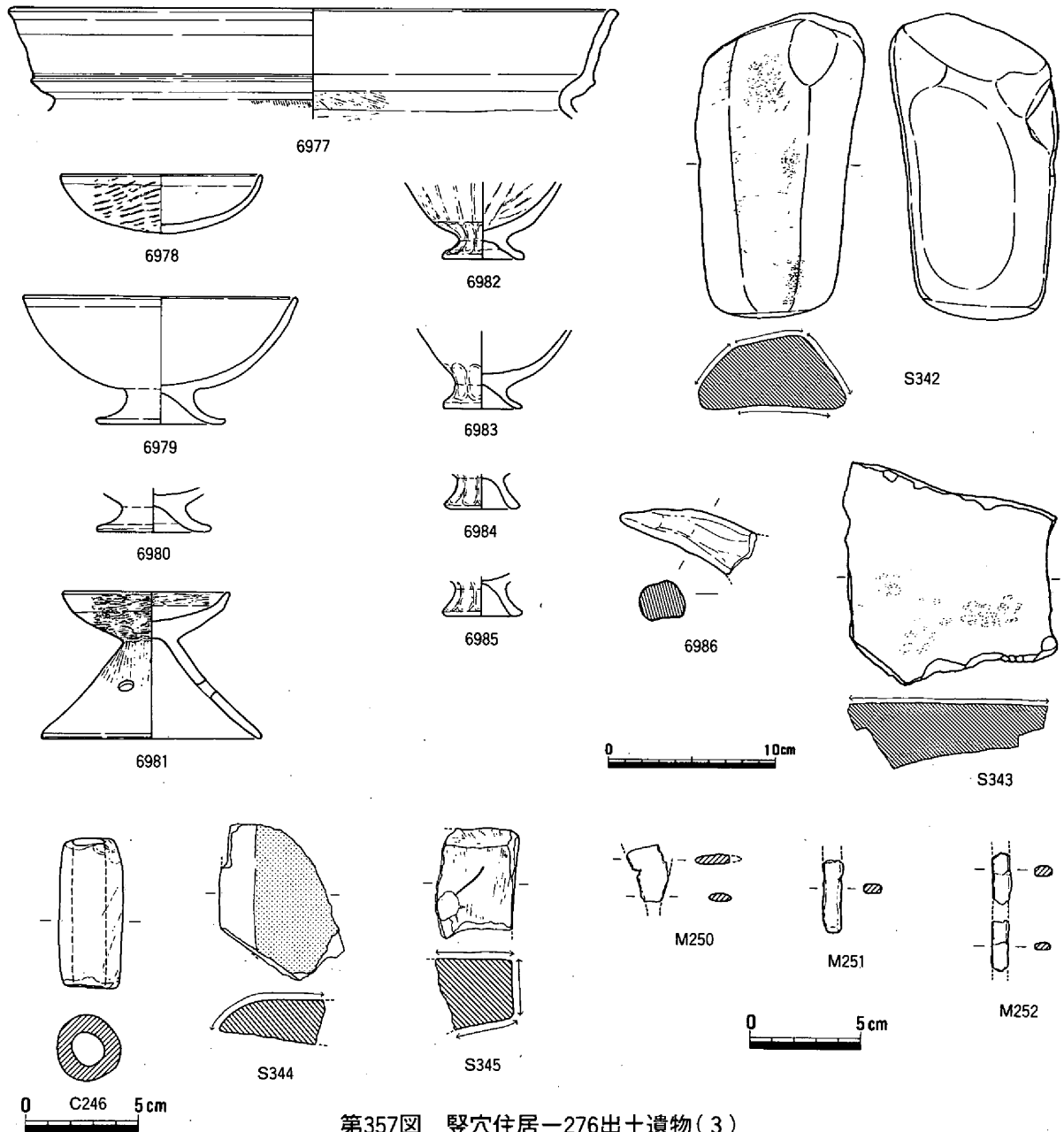
6954~6961は床面出土の土器で、6962~6986は埋土からの検出である。6962~6965の壺は二重口縁をもつ6962・6963や、「く」の字口縁の6964さらに胎土の異なる6965のタイプのものがある。6967~6969は甕で、6967の吉備型甕は体部が球形気味になっており新相の特徴を表している。6969は、「L」の字口縁で端部を内側に引き出している。6971~6976の高杯は、6972のように杯部がやや深くなっている。6975・6976は、杯部が椀形になる短脚の高杯である。他に鉢、器台、製塩土器、土製支脚などが出土している。さらに、S 342~S 345は砥石で、M250~M252は鉄鏝と考えられる。C 246の管状土錘もある。

出土した土器は、床面・埋土とも時期差はなく古墳時代初頭である。

(中野)



第356図 豎穴住居-276出土遺物(2)

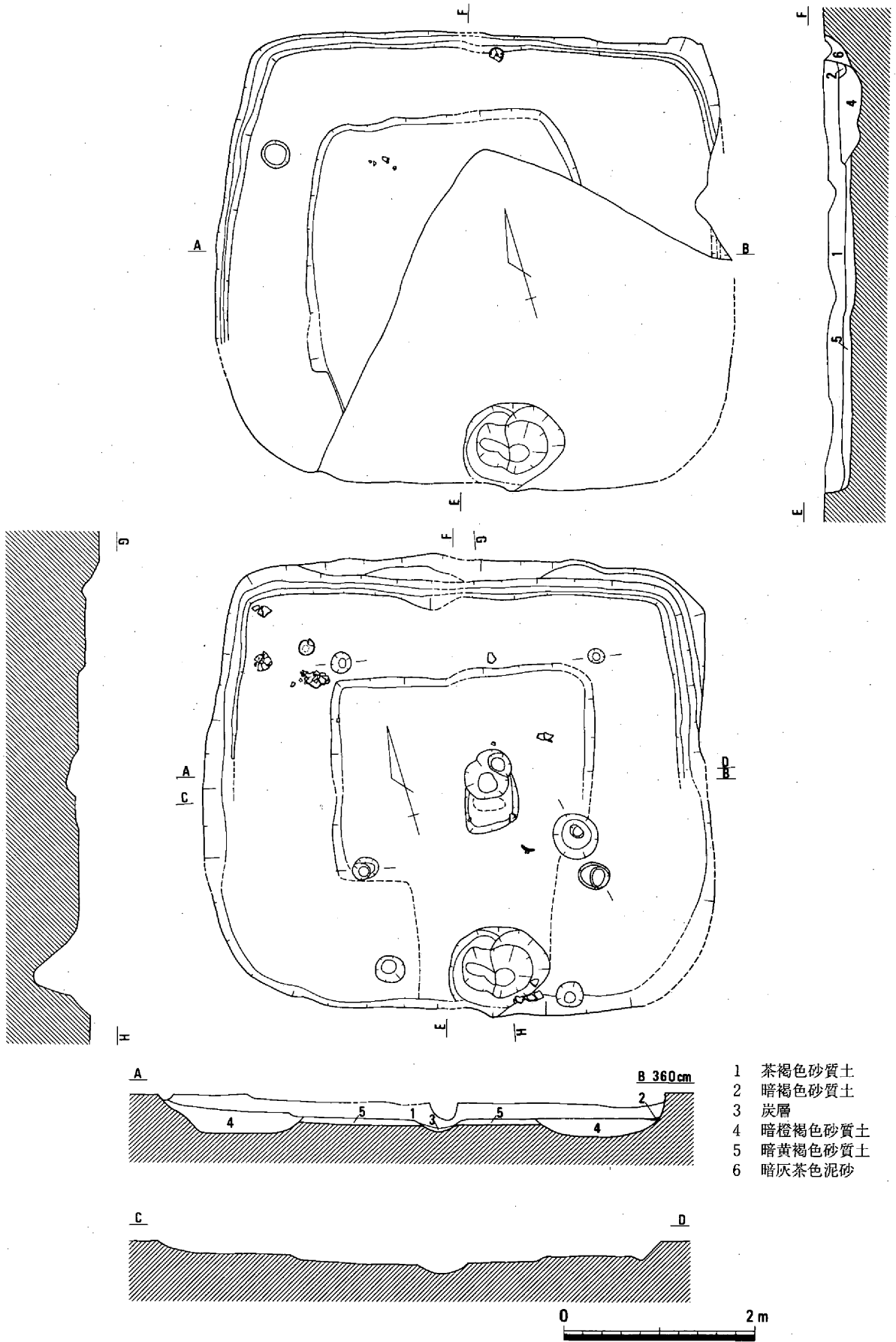


第357図 竪穴住居-276出土遺物(3)

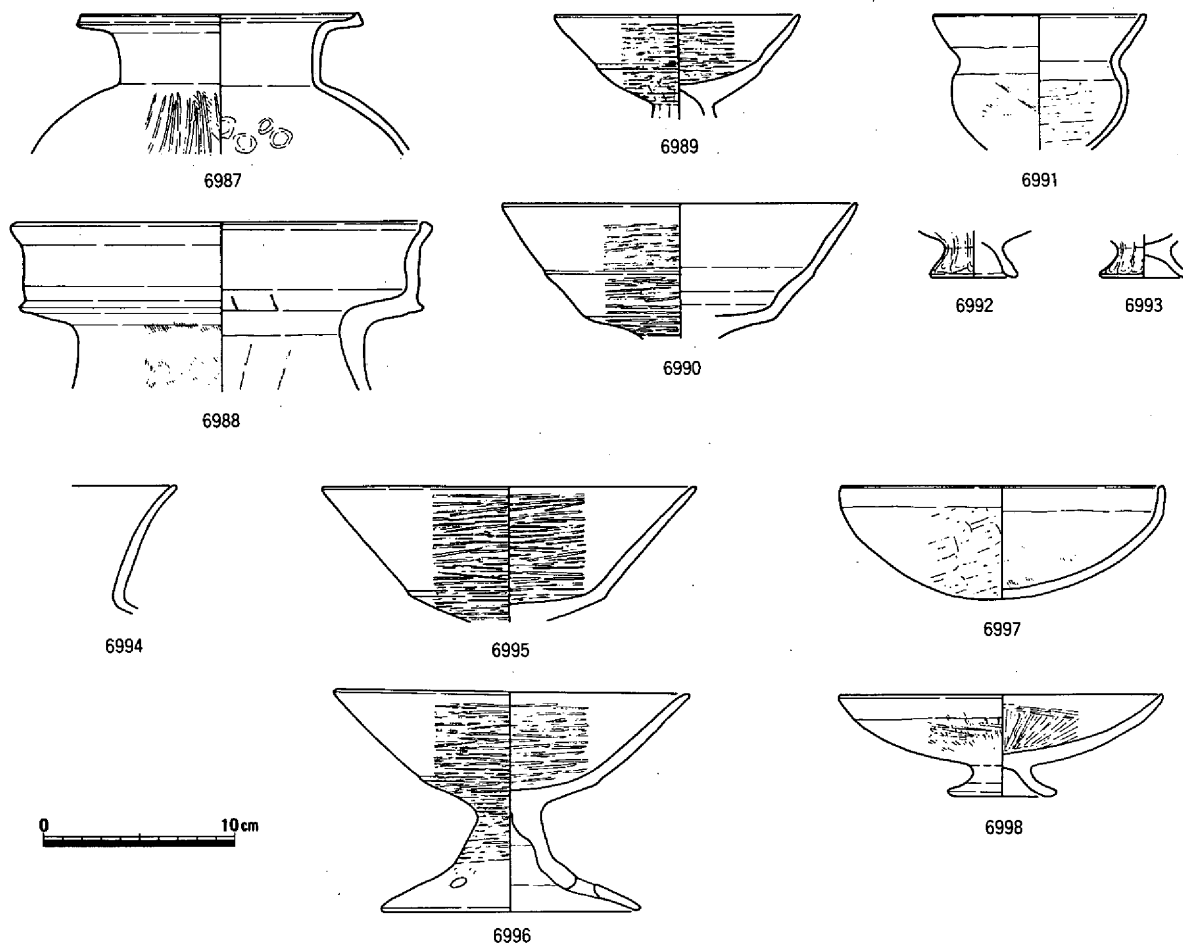
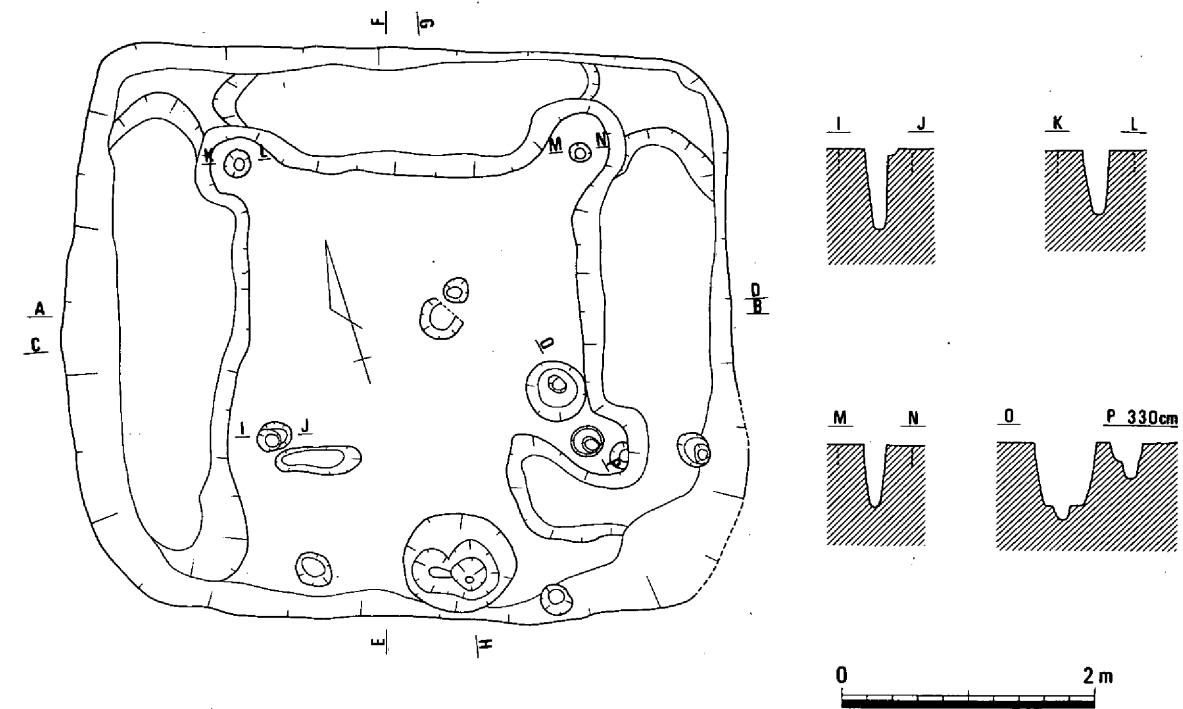
竪穴住居-277 (第353・358~360図)

この竪穴住居は、竪穴住居-276と重なって検出された。竪穴住居の南側は、竪穴住居-276によって削平されていたが、規模は約530×485cmを測る。平面形は方形を呈している。床面は2面確認されており、上部の第1床面は下部の第2床面より約15cmも床を上げている。上部の第1床面は、南側が削平を受けているため全容は不明であるが、外周には壁体溝が廻り、その内側には約80~150cm幅の高床部を設けている。柱穴は検出できておらず、南辺の壁体際には不整楕円形を呈する方形土壌が確認されている。

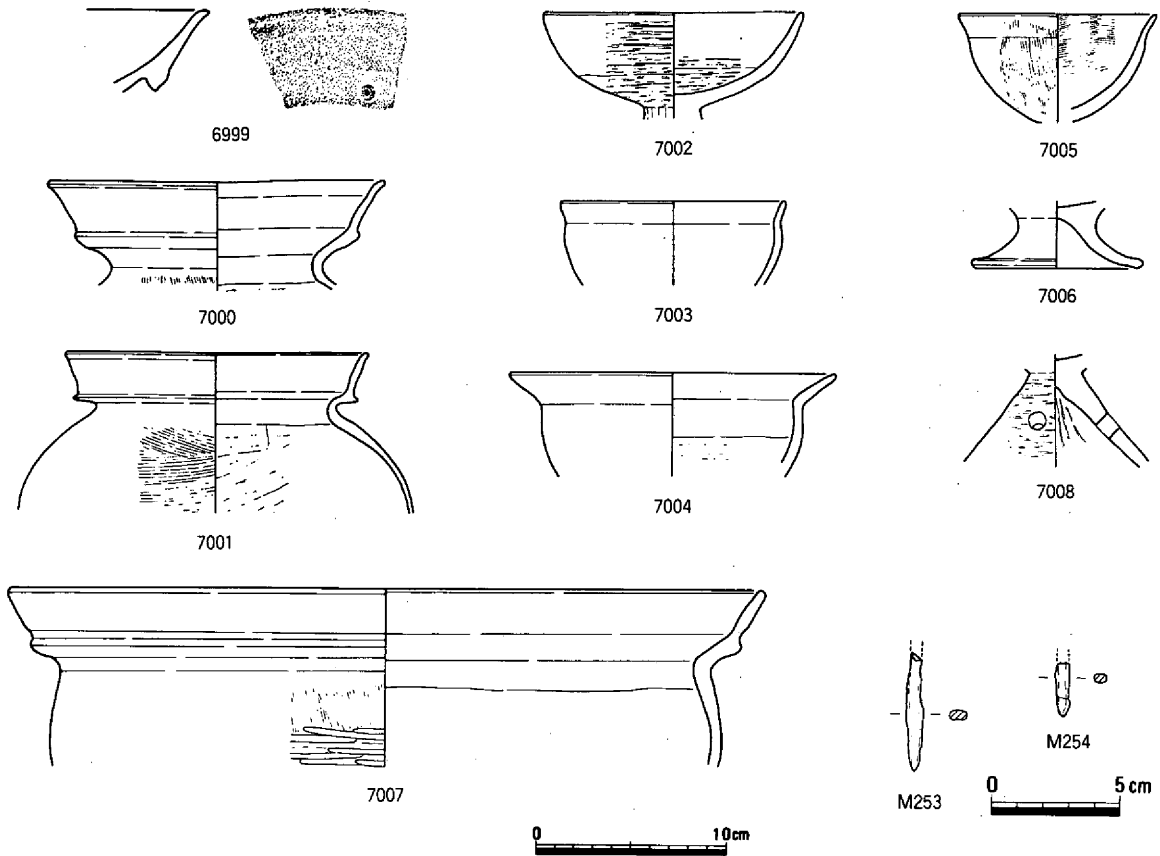
下部の第2床面では、外周には壁体溝が廻っており、その内側には約80~100cm幅の高床部が存在する。高床部は、「コ」の字形でなく南辺側にも少し張り出している。床面中央は、高床部に囲まれて約280×200cmの長形状に低くなっており、さらに方形土壌の存在する南辺際まではカギ形状にな



第358図 竪穴住居-277 (1/60)



第359図 竪穴住居-277(1/60)・出土遺物(1)



第360図 竪穴住居-277出土遺物(2)

って低い部分が続いている。床面中央には、中央穴が検出されており、深さは約10cmを測る。柱穴は、4本柱で長軸方向に長く配されている。

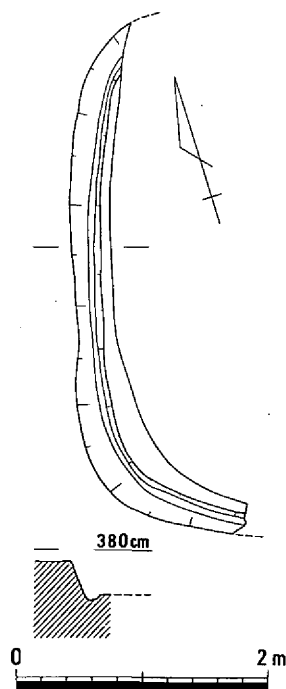
第2床面の下部には第359図のように下部構造が検出された。出入口部の南辺を除く、3辺の壁体際には幅約100cm、深さ15~20cmを掘り込んでいる。これは除湿効果を意識した施設であろうか。

出土遺物は、6987~6993が上部の第1床面から検出されたものである。完形品は含まれておらず破片のみであった。6987は胎土が異なる土器で、四国系のものである。また図示していないが畿内産と考えられる角閃石を多く含む甕も出土している。

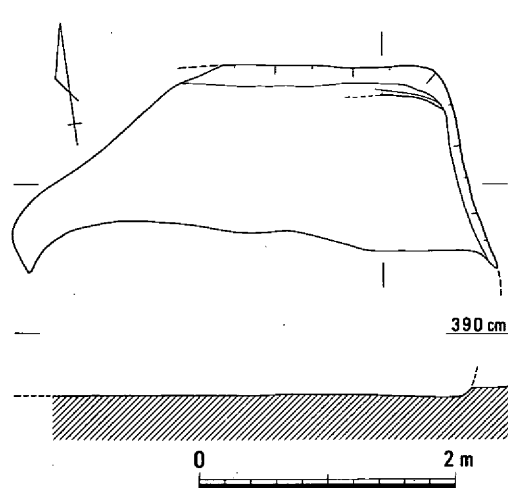
6994~6998は、下部の第2床面出土のもので、6990~6998は完形品であった。6998は低脚杯で胎土も異なり、山陰からの搬入品であろうか。

6999~7008は、堆積土から出土した土器で、他にM253・M254の鉄鏃と考えられる鉄器も検出されている。以上の土器は、第1床面・第2床面とも時期差は認められず、古墳時代初頭の特徴を示している。

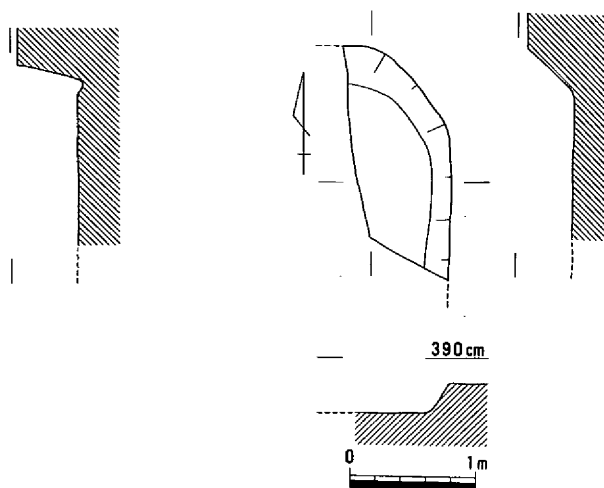
(中野)



第361図 竪穴住居-278
(1/60)



第362図 竪穴住居-279(1/60)



第363図 竪穴住居-280(1/60)

竪穴住居-278 (第353・361図)

この竪穴住居は、竪穴住居-277の西側に検出された。竪穴住居は、竪穴住居-277にその大半を切られており、西側の一部しか残存していなかった。規模は不明であるが、残存状況から推察して平面形は方形を呈すると推定される。床面までの深さは、第353図のように約50cmで、第15層が堆積していた。床面の外周には、壁体溝が検出できた。出土遺物は認められなかった。出土遺物から、竪穴住居は竪穴住居-277が南西部にずれたような位置関係にあり、竪穴住居-278から竪穴住居-277に立て替えられたと考えられ、時期差はあまりないと思われる。(中野)

竪穴住居-279 (第353・362図)

竪穴住居-279は、竪穴住居-277の北側に位置する。竪穴住居-277に切られているため一部しか確認できなかった。このため規模は不明であるが、平面形は隅丸方形か方形と推定される。床面までの深さは、第353図のように第16~19層がレンズ状に堆積していた。床面の北辺端には壁体溝が一部検出されている。出土遺物はないが竪穴住居-277とほぼ同時期であろう。(中野)

竪穴住居-280 (第353・363図)

この竪穴住居は、第353図の竪穴住居群の中では最も古い。竪穴住居-277・279に切られているため北東部の一部しか残存しているにすぎない。規模は不明であるが、平面形は残存状況から方形を呈すると推定される。床面までの深さは約25cmを測る。出土遺物は認められなかったが、竪穴住居-276~279とほとんど時期差はないと考えられる。(中野)

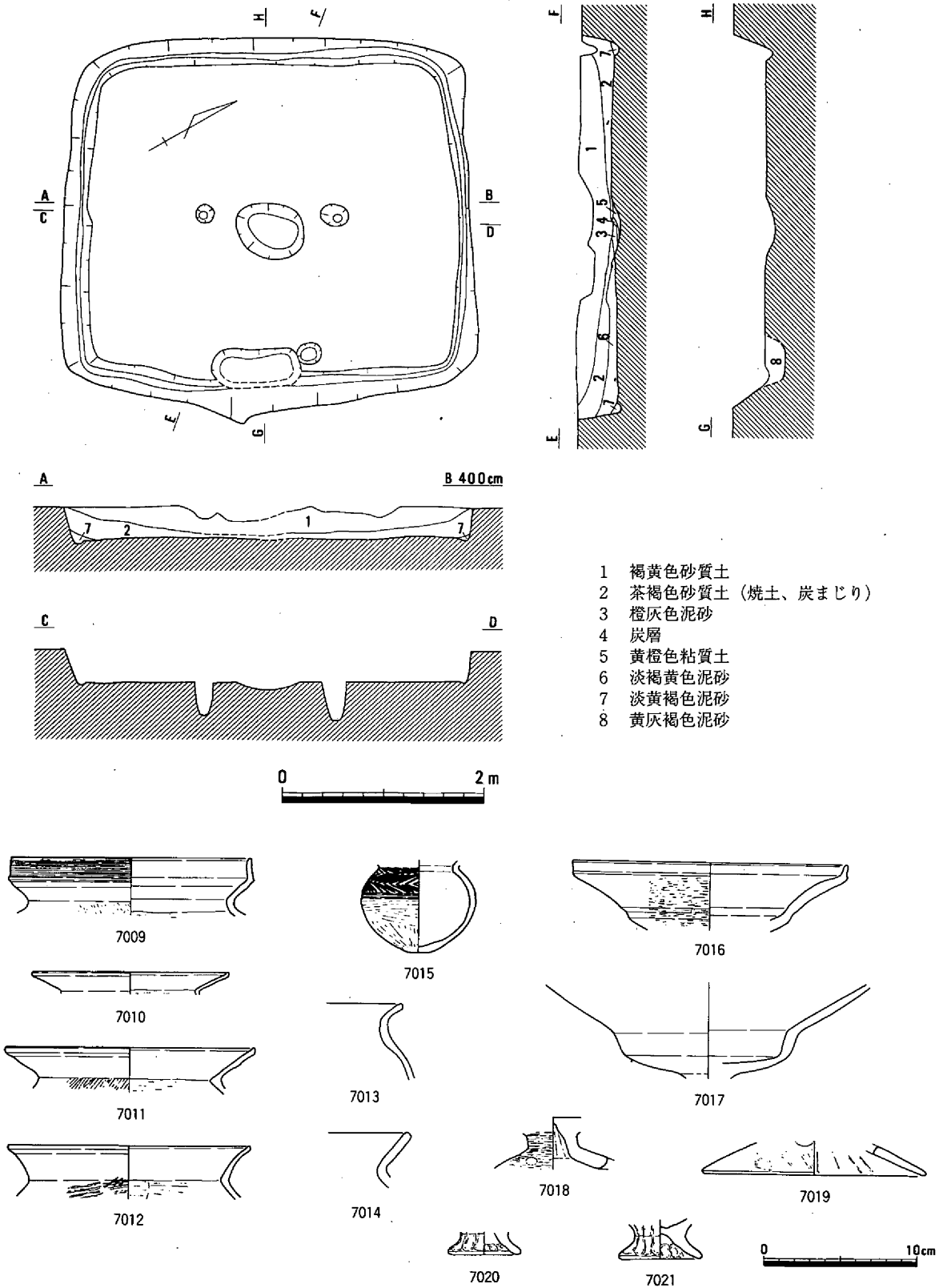
竪穴住居-281 (第364図)

竪穴住居-281は、竪穴住居-276の南側に隣接する位置で、竪穴住居-282の上部に検出された。規模は、410×370cmを測り、平面形は方形を呈している。長軸の向きはN-30°-東にとるが、周辺には竪穴住居-283など向きが類似する竪穴住居が目立っている。床面までの深さは約28cmで、第1・2層がレンズ状に堆積していた。床面には、外周に壁体溝が廻る。床面中央部には、長軸方向に柱穴が2本存在する。柱穴は、直径約25cmとやや小さく、深さは約38cmを測る。また、柱間は約133cmであった。柱穴と柱穴の間には、約65×55cmで平面形は楕円形の中央穴が確認されており、深さは約8cmと浅い。さらに、東辺の壁体際には方形土壌が検出された。規模は約90×40cmで長楕円形を呈

しており、深さは約20cmを測る。出土遺物は、床面からは7015の小壺の他に吉備型甕や高杯の破片が検出されている。他の図示した遺物は埋土からの出土である。

7009～7021の土器は、いずれも古墳時代初頭の特徴を示している。

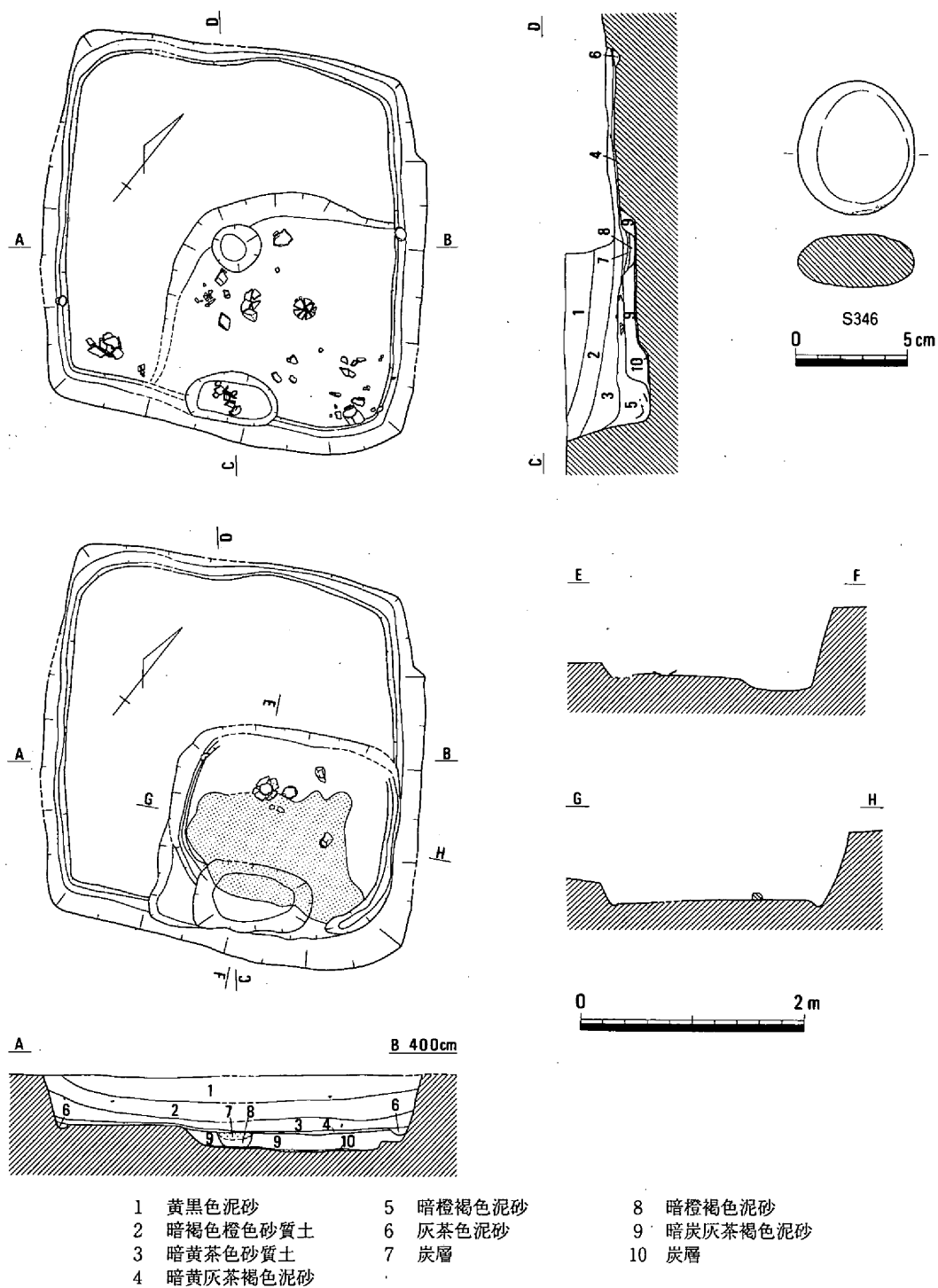
(中野)



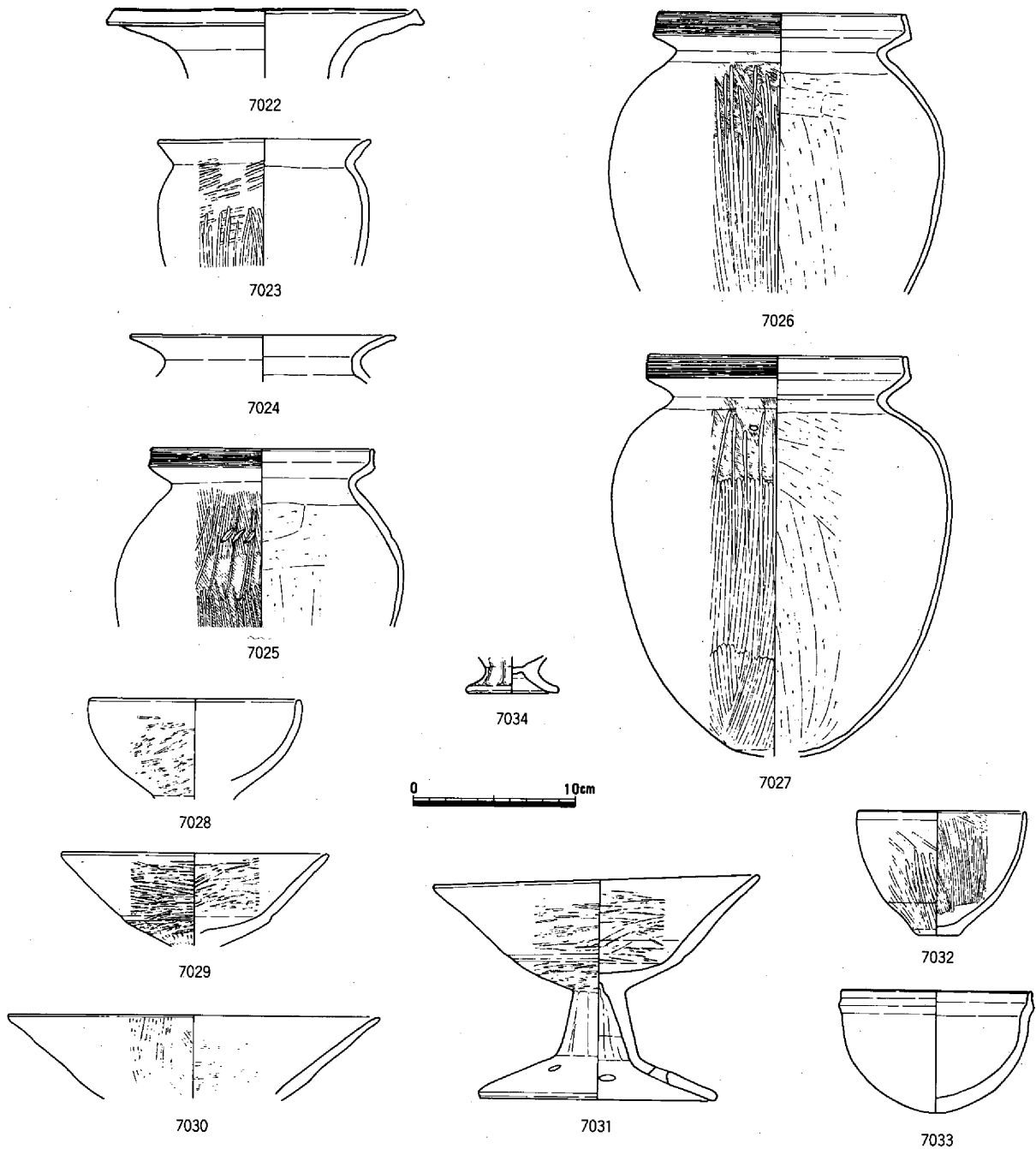
第364図 竪穴住居一281(1/60)・出土遺物

竪穴住居-282 (第365・366図)

この竪穴住居は、竪穴住居-281の南東側に重なって検出された。竪穴住居の北西部は竪穴住居-281に切られているため残存状態は良くなかった。床面には2面検出されており、上部の第1床面では、「L」字状に高床部をもうけており、外周には壁体溝が廻る。南東部は一段低くなっており、床面中央部には中央穴が存在する。南辺の壁体際の中央には方形土壇が検出されている。出土遺物は、南東部の低い部分を中心に出土した。7027・7031~7033などがある。



第365図 竪穴住居-282 (1/60)・出土遺物(1)



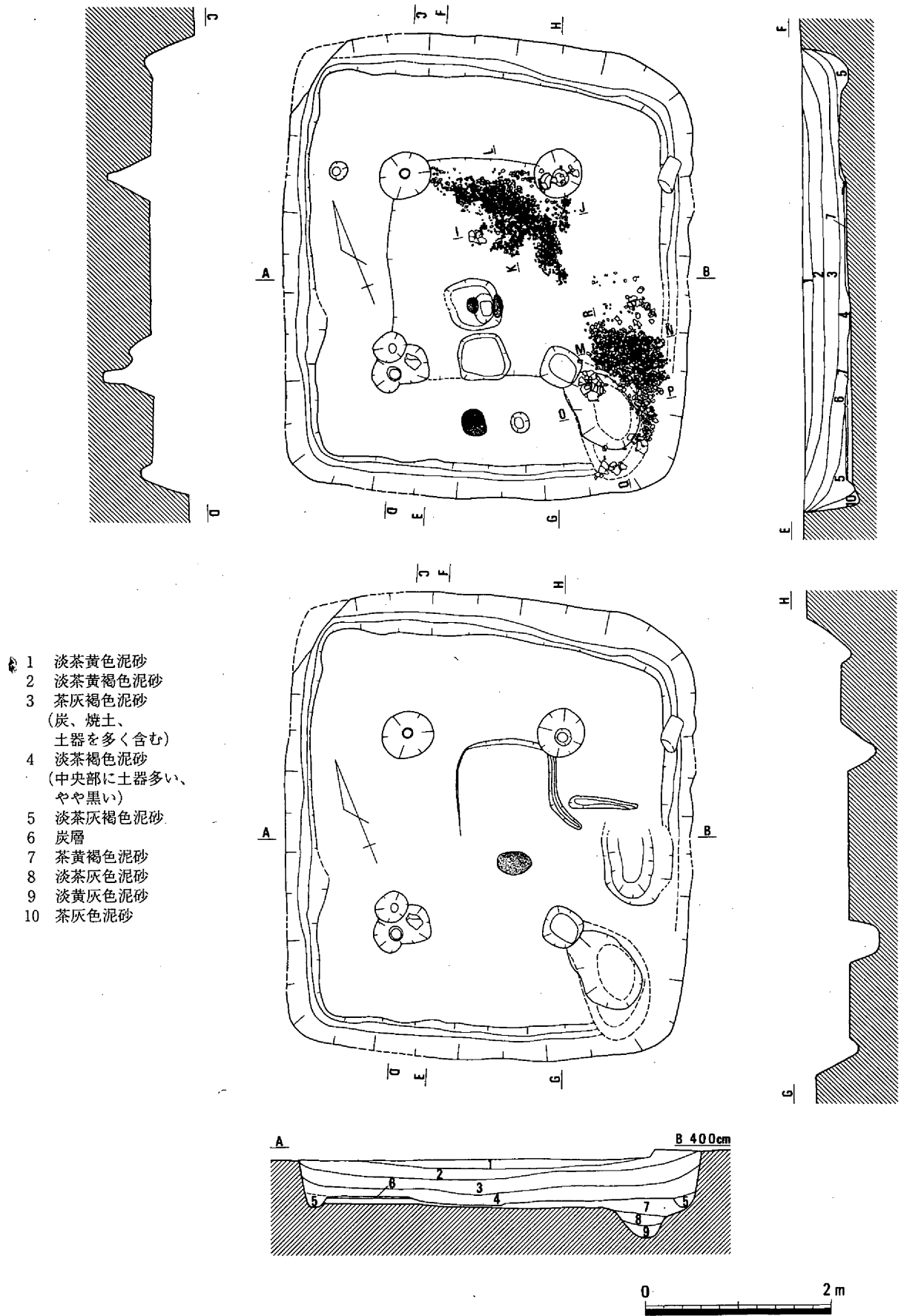
第366図 竪穴住居-282出土遺物(2)

第2床面では、高床部、方形土壇は大小はあるものの第1床面と同一場所に存在した。南東部の一段低い部は高床部と約10cm程の差をもっており、高床部との境には壁体溝を掘っている。また、一面には炭層が広く認められた。出土遺物もこの地点から検出されている。出土した土器は、7025・7026の他に高杯などがある。

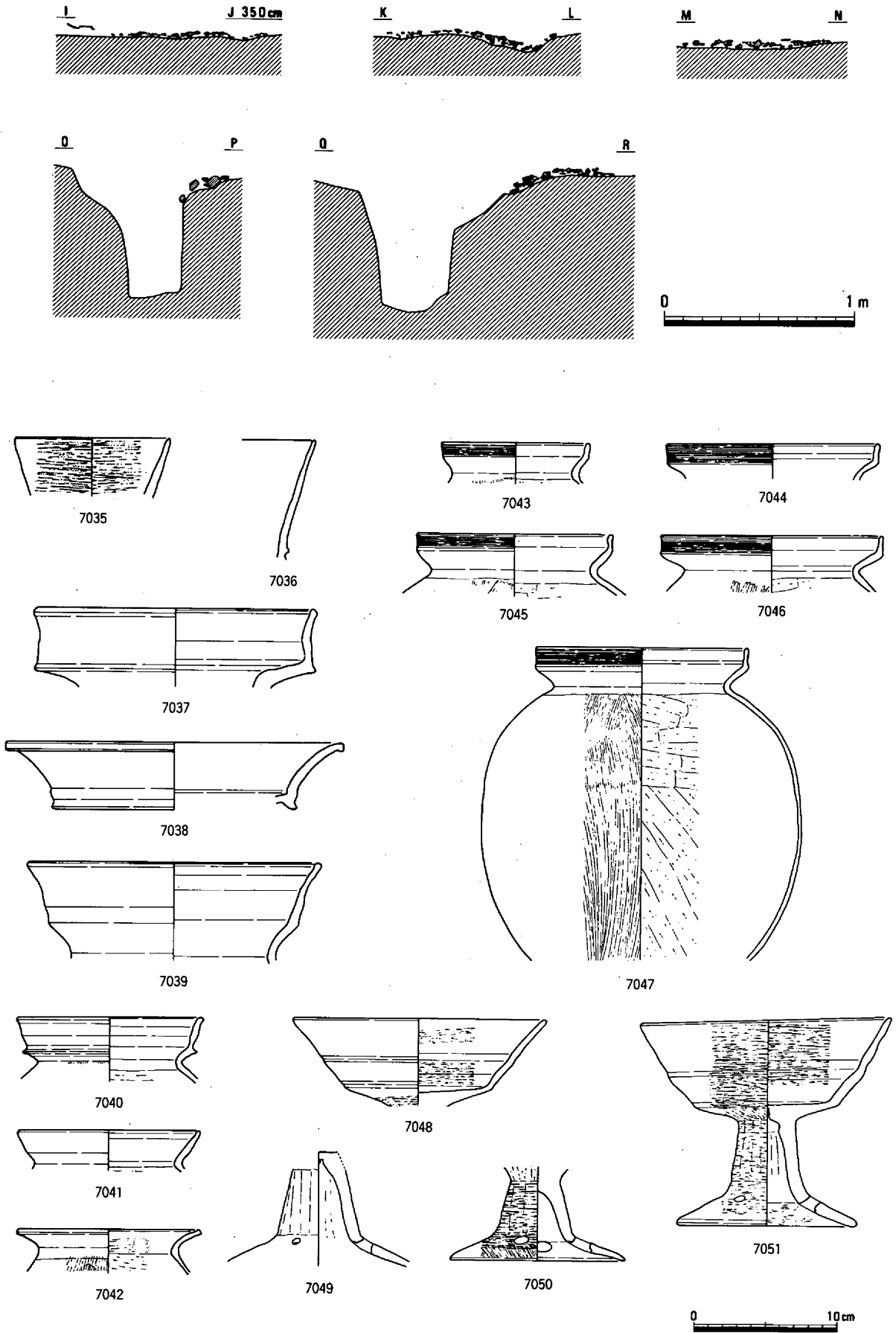
第1・2床面から出土した土器には時期差は認められず、古墳時代初頭である。 (中野)

竪穴住居-283 (第367~369図)

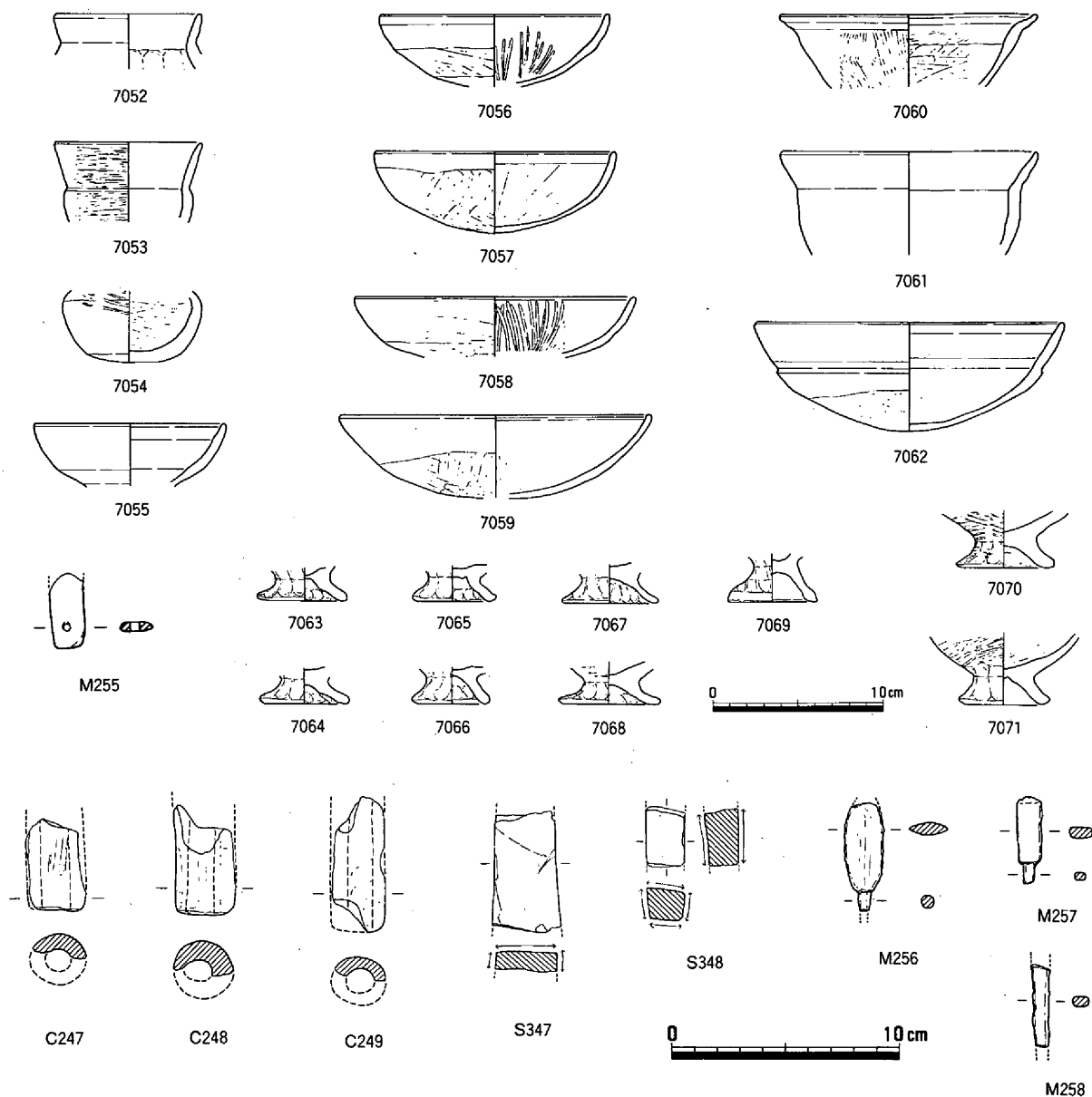
竪穴住居-283は、竪穴住居-282の西約2.5mに検出された。規模は約498×432cmで、平面形は隅



第367図 竪穴住居-283(1/60)



第368図 竪穴住居-283(1/30)・出土遺物(1)



第369図 竪穴住居-283出土遺物(2)

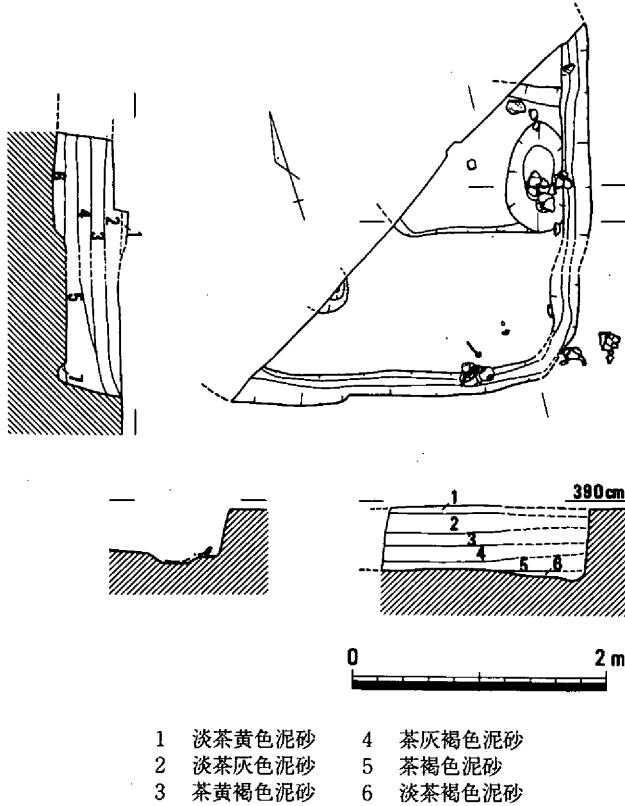
丸方形を呈している。長辺は南北方向にとる。床面は2面あり、上部の第1床面は外周に壁体溝が廻り、柱穴は4本で構成されている。柱間は約215cmと約164cmで長辺に広くとっている。柱穴の外側は、幅約90cm前後の高床部が「コ」の字に存在する。床面中央から東辺際は一段低くなっている。床面中央には、径、約50cmの中央穴が検出されている。また、竪穴住居の南東隅にも土壇状の落ち込みが存在する。さらに、壁体際と中央穴の北側には、0.5~数cmの砂利が敷かれていた。

第2床面は、柱穴および壁体溝は同一場所である。東辺の壁体際には方形土壇が存在する。床面中央の低い場所はやや狭くなっている。

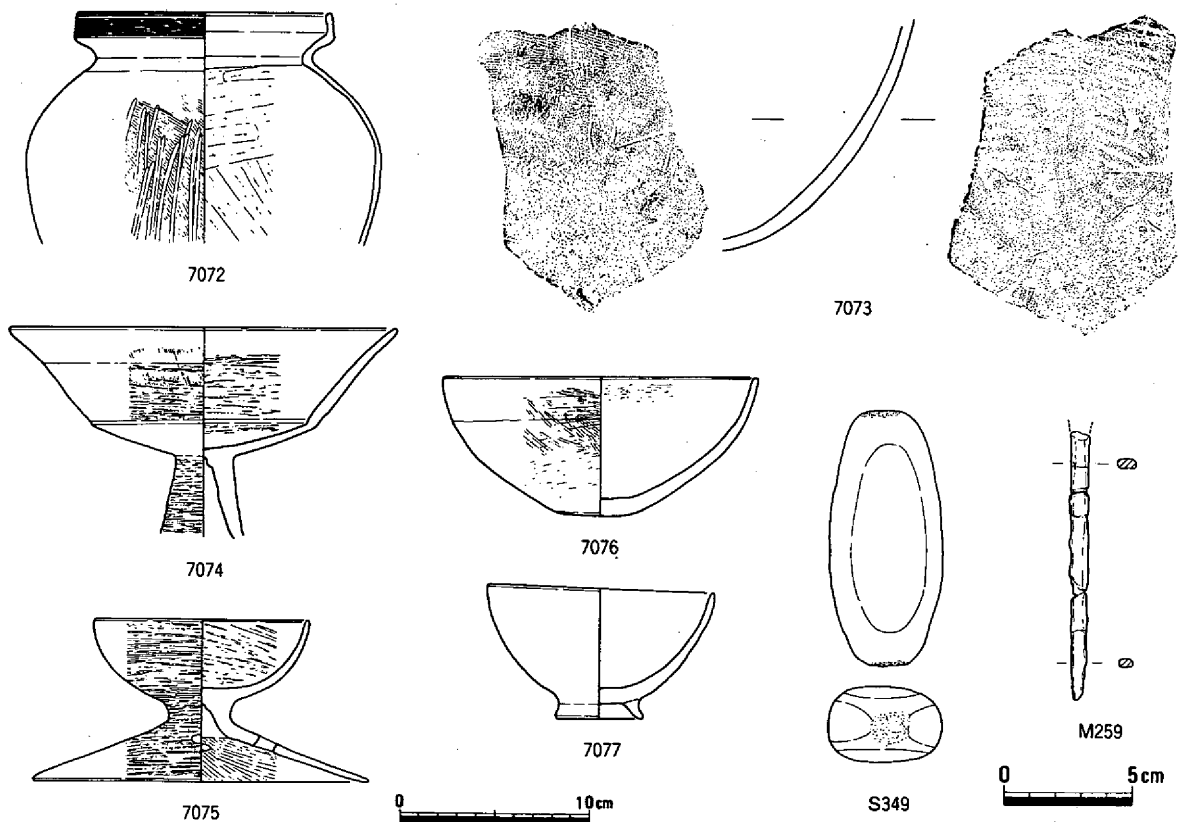
出土遺物は、7035~7071などの土器の他にM255の銅鏃、M256~M257の鉄鏃、さらにC247~C249の管状土錘、S347、S348の砥石などが検出されている。出土した土器は、古墳時代初頭の特徴を示している。
(中野)

竪穴住居-284 (第370図)

この竪穴住居-284は竪穴住居-283の西側に近接して検出され、ほぼ平行する位置関係にある。竪穴住居の北西部は調査区外のため、南東部を検出しただけである。このため規模は不明であるが、残存状態から推察すると平面形は隅丸方形と推定され、南北方向が長辺と考えられる。深さは、床面まで約50cmで、第1～第6層がレンズ状に堆積している。床面には、壁体溝が廻り、その内側には幅約1mの高床部が「コ」の字に配されると推定される。また、東辺の壁体際には、約90×45cmの楕円形を呈する方形土塋が存在する。さらに床面には柱穴の一部が確認されており、その位置関係からみて2本柱と考えられる。出土遺物は、方形土塋と床面に図示した遺物が検出されている。(中野)



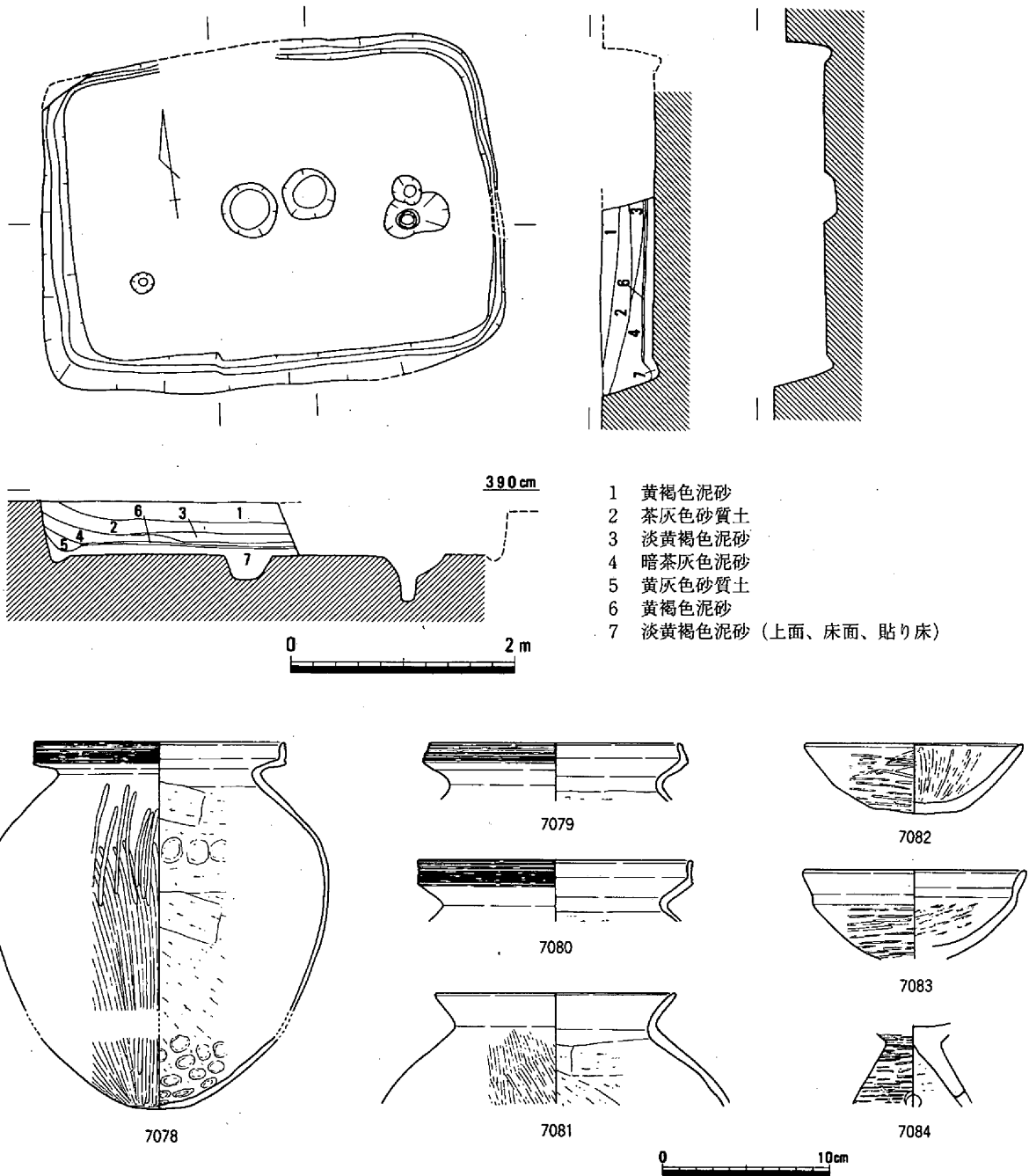
- | | |
|----------|----------|
| 1 淡茶黄色泥砂 | 4 茶灰褐色泥砂 |
| 2 淡茶灰色泥砂 | 5 茶褐色泥砂 |
| 3 茶黄褐色泥砂 | 6 淡茶褐色泥砂 |



第370図 竪穴住居-284 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-285 (第371図)

この竪穴住居は竪穴住居-283・284と重なっており、その下部に検出された。竪穴住居-283・284に切られているため残存状態は良くなく、竪穴住居の南西隅部だけが良好に検出された。規模は約412×310cmを測り、平面形は隅丸方形を呈している。竪穴住居の長辺は東西方向にとる。床面は、2面確認されており、図示した平面図は下部の第2床面である。第1床面は、貼り床を施しており、壁体溝が廻っている。第2床面には床面中央部に中央穴が存在し、柱穴は東側の一体しか検出できなかったが、2本で構成されていたと考えられる。出土遺物は7078から7084などが出土した。7082は、角閃石を含み胎土が異なる。時期は古墳時代初頭。(中野)

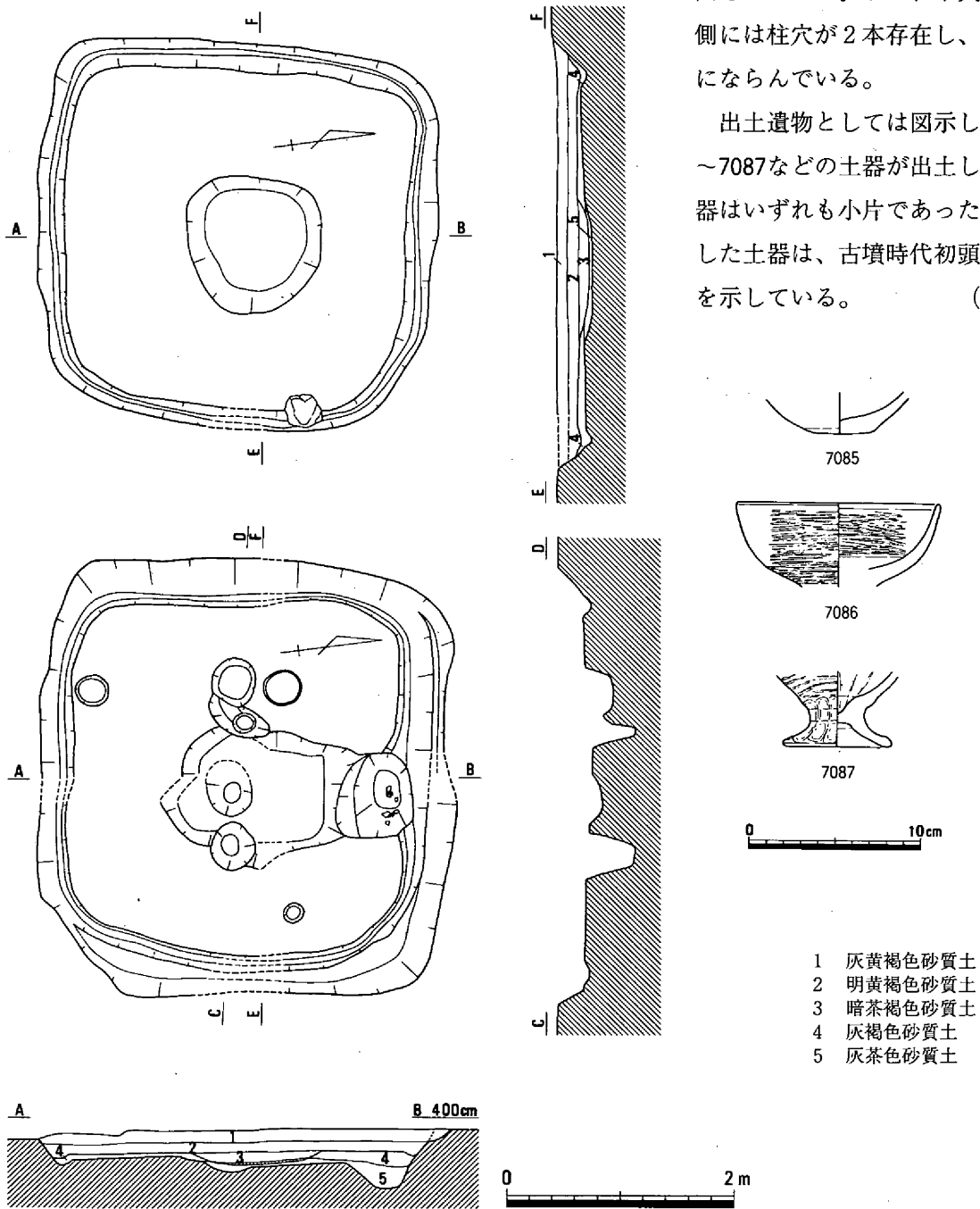


第371図 竪穴住居-285 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-286 (第372図)

竪穴住居は、竪穴住居-283の南東側に隣接して検出された。規模は約354×342cmを測り、平面形は隅丸方形を呈している。床面は上下2面が確認されており、上面の第1床面には第4層を貼り床している。第1床面は、外周に壁体溝が廻り、中央部には約115×120cmの楕円形をした中央穴が存在する。柱穴は検出できなかったが、第2床面の2本柱の柱穴が重複すると考えられる。第2床面は、北辺際中央には方形土壇が存在し、この部分が出入口と思われる。方形土壇は、75×65cmで深さは約20cmを測る。外周には壁体溝が廻り、その内側には幅約100cm前後の高床部が「コ」の字につくられている。床面中央から方形土壇にかけては一段低くなっており、その中央部には40×50cmの中央穴が検出されている。また、中央穴の西側には柱穴が2本存在し、直線的にならんでいる。

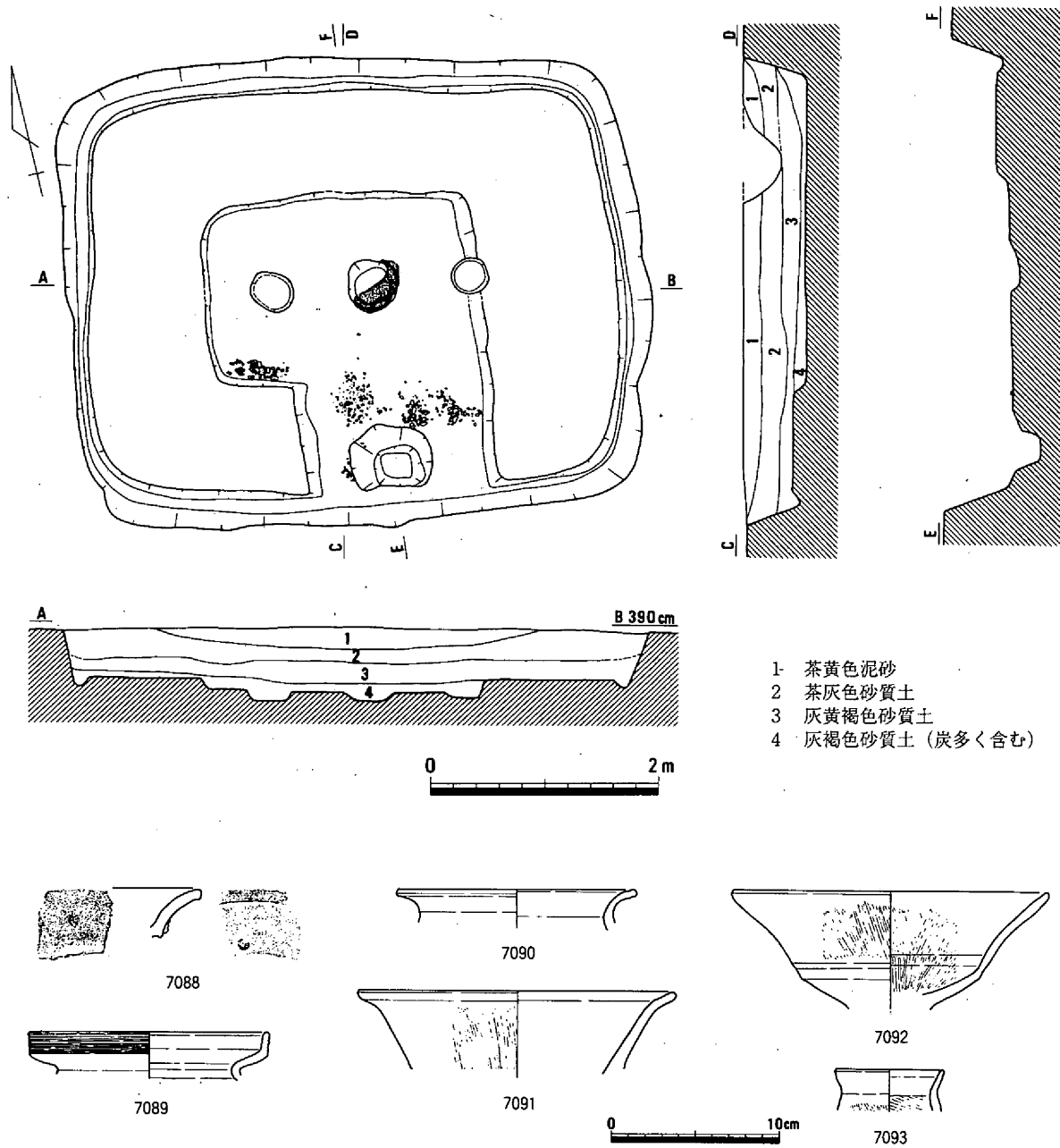
出土遺物としては図示した7085～7087などの土器が出土した。土器はいずれも小片であった。出土した土器は、古墳時代初頭の特徴を示している。(中野)



第372図 竪穴住居-286 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-287 (第373図)

竪穴住居-287は、竪穴住居-286の南側約1mに隣接して検出された。規模は、508×418cmで、平面形は隅丸方形を呈している。深さは床面まで約55cmで、第1～第4層が堆積している。床面の外周には壁体溝が廻りさらに内側には幅100cm前後、高さ約10cmの高床部が存在する。床面の中央部と出入口部はカギ形状に低くなっている。柱穴は2本で、長軸に平行に掘られている。柱穴の中間部には径約45cmの円形の中央穴が検出されている。また、南辺の壁体際には長さ約70cm、幅約50cm、深さ約23cmの方形土壇が存在し、方形土壇の南側を中心に砂利が部分的に残存しており、敷かれていたものと考えられる。出土遺物は、各層より少量の土器が出土したが破片がほとんどであった。図化できたものは7088～7093であった。これらの土器はいずれも古墳時代初頭の特徴を示している。(中野)

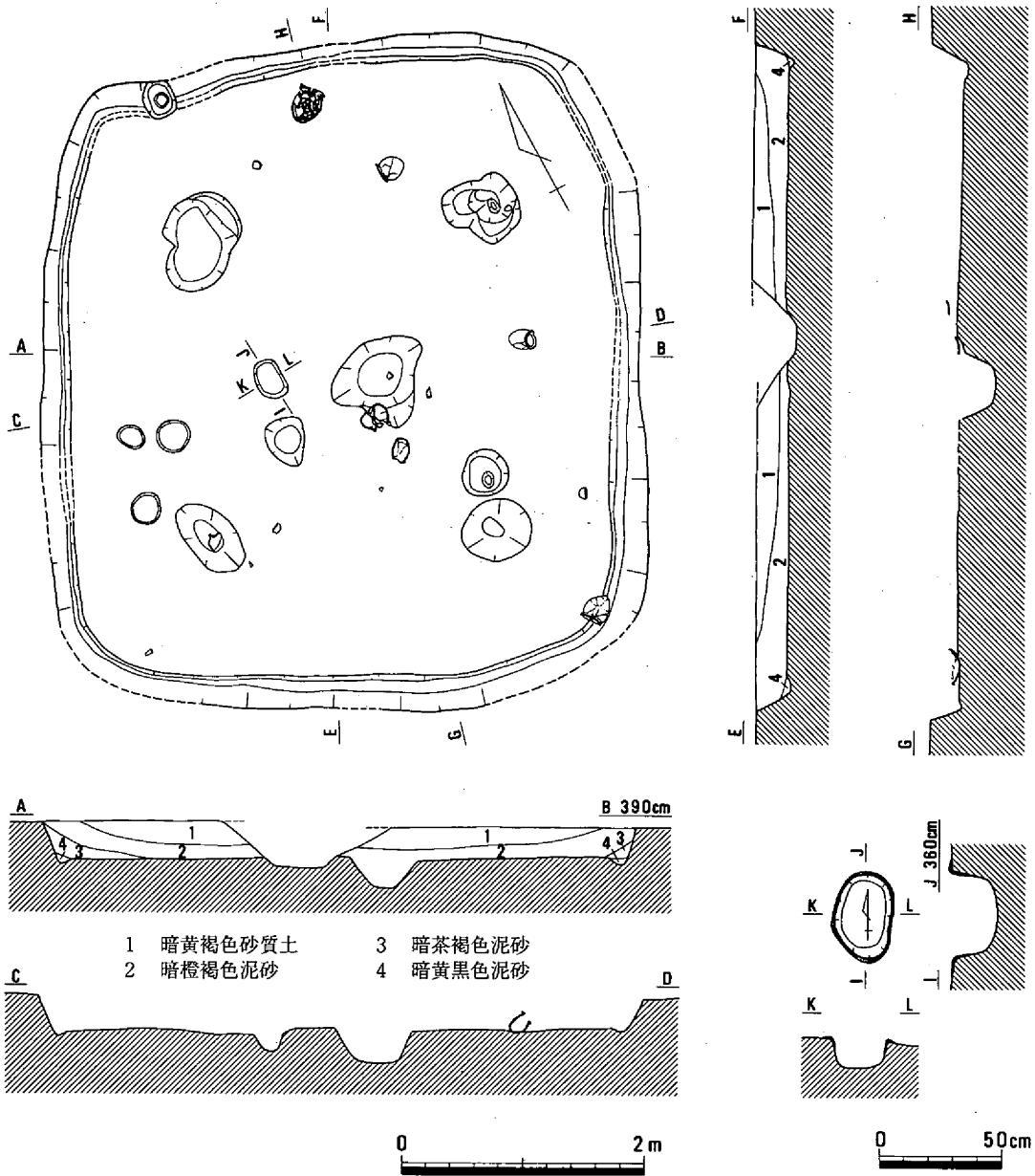


第373図 竪穴住居-287 (1/60)・出土遺物

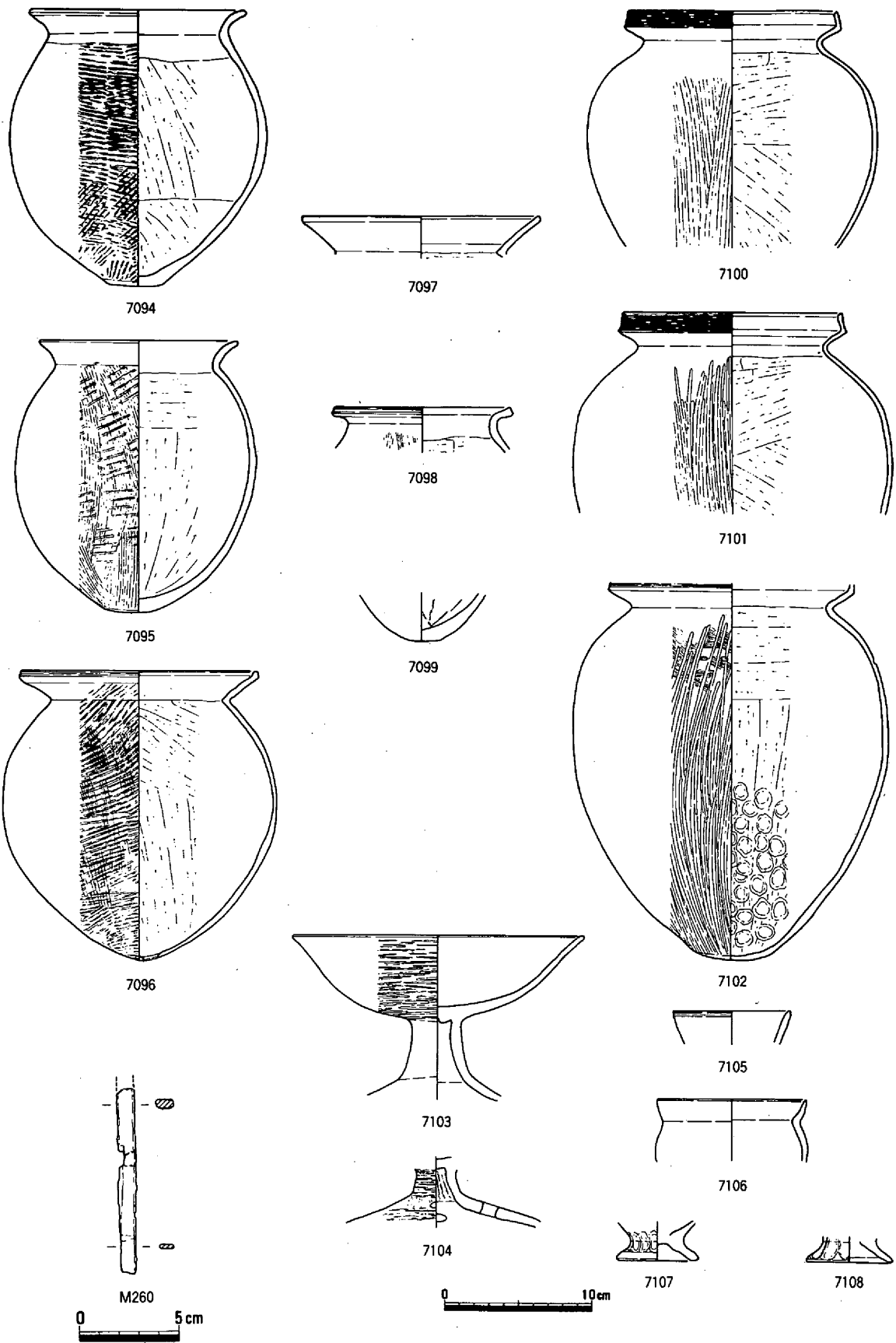
竪穴住居-288 (第374・375図)

この竪穴住居は、竪穴住居-287の東約1mに隣接して検出された。規模は560×500cmで、平面形は隅丸方形を呈している。深さは床面約25cmを測り、床面には外周に壁体溝が廻る。柱穴は、4本確認されており、柱間約250cmである。床面中央には、やや不整形な中央穴が存在する。また、中央穴の西側には、炉状のものが検出された。35×25cmの規模で楕円形を呈しており、壁面上部は焼土面となっている。また、床面には完形品 (7094~7096・7100~7102・7103) が多く出土した。

出土した土器は、壺は認められず甕が主体であった。甕には、「く」の字口縁の7094~7097、讃岐系の7098、さらに吉備型甕があった。7094~7096は外面体部にタタキを施しており、7096・7097は胎土が異なっていた。また、7098も角閃石を多く含み胎土が異なっていた。これらの土器はいずれも古墳時代初頭である。他にM260の鉄鏃も出土している。 (中野)



第374図 竪穴住居-288 (1/60・1/30)



第375図 竪穴住居-288出土遺物

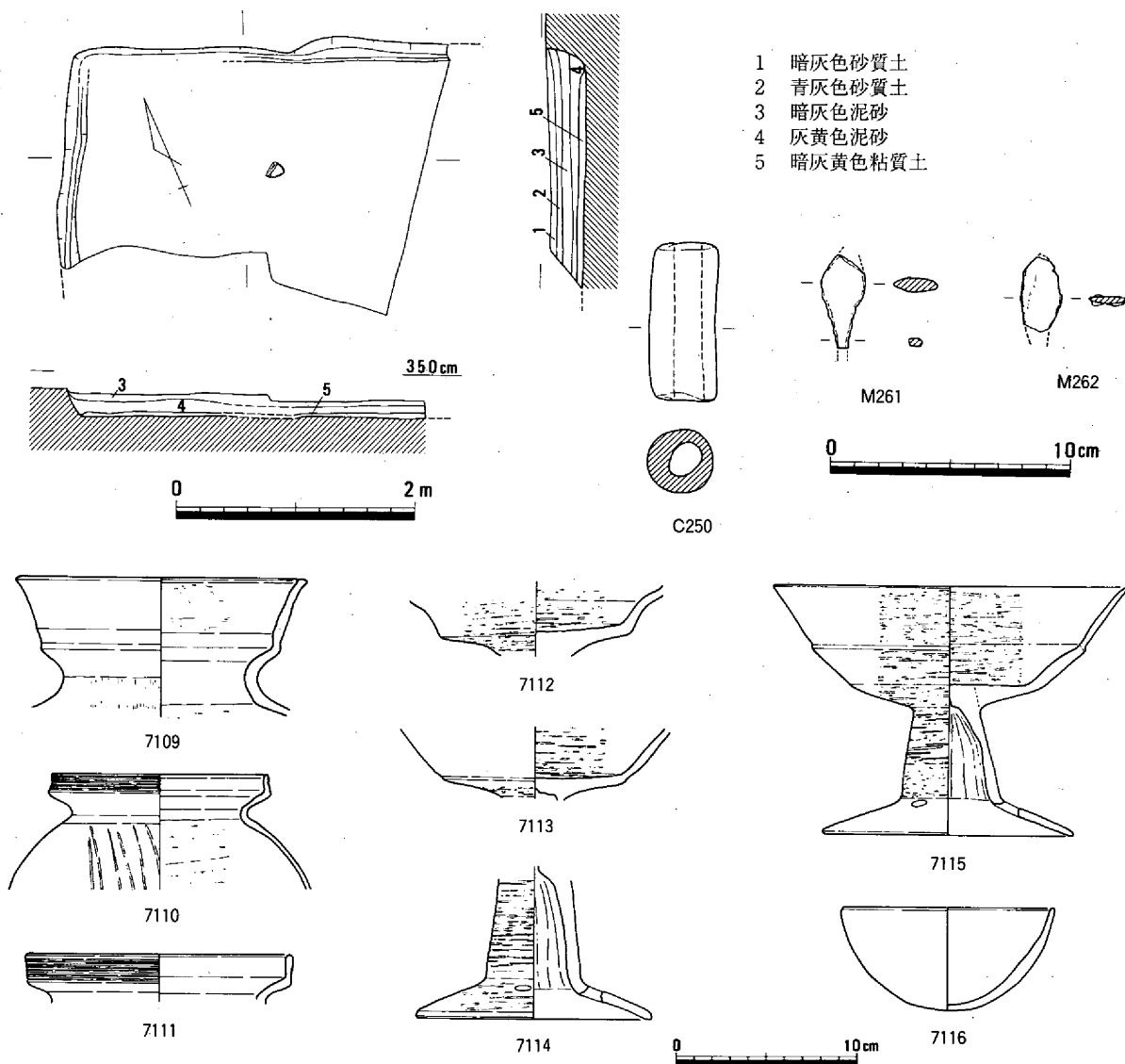
竪穴住居-289 (第376図)

この竪穴住居は、竪穴住居-290を切って検出された。後世の削平を大きく受けているため残存状態は悪い。規模は不明であるが、平面形は方形を呈すると推定される。床面には、壁体溝が廻っていたが、柱穴は確認できなかった。

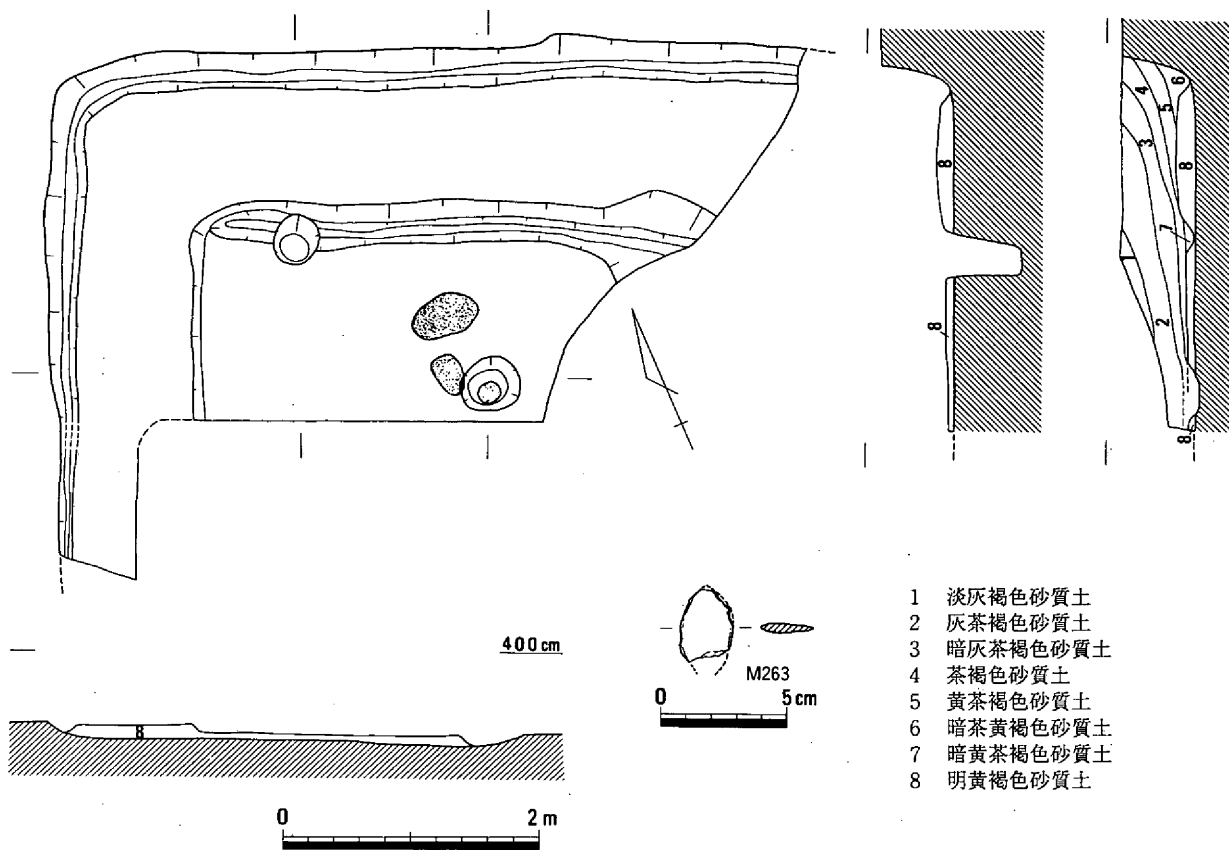
出土遺物は、7109~7116の土器の他にC250の管状土錘、M261・262の鉄鏃が出土している。出土した土器はいずれも古墳時代初頭の特徴を示している。 (中野)

竪穴住居-290 (第377図)

竪穴住居は、竪穴住居-289の北側に切り合って検出された。竪穴住居は、東側は調査区外で、南側は竪穴住居-289や後世の大溝によって大きく削平されている。このため規模は不明であるが、残存部から復元すると一辺6mをこえる大形のものになり、平面形は隅丸方形と推定される。床面には第8層が貼り床されており、床面中央部は一段低くなっている。柱穴は1本が検出されており、床面中央部には中央穴も存在する。中央穴周辺には焼土面が2か所検出されている。出土遺物は、M263の鉄鏃のみであった。古墳時代初頭。 (中野)



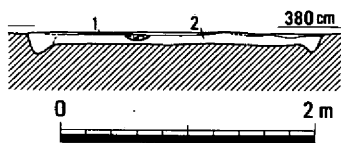
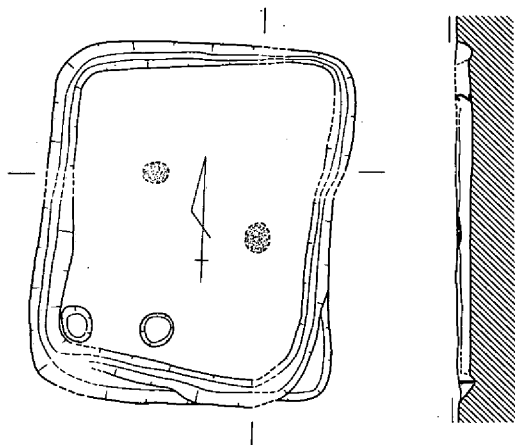
第376図 竪穴住居-289 (1/60)・出土遺物



第377図 竪穴住居-290 (1/60)・出土遺物

竪穴住居-291 (第378図)

この竪穴住居-291は、竪穴住居-287の西側約6mに位置している。規模は約286×234cmでやや小規模なものである。平面形は、隅丸方形を呈している。床面には、第1層が厚さ数cmで貼り床されている。床面の外周には壁体溝が廻っており、柱穴は検出できなかった。なお、床面には径約20cmの範囲の焼土面が2か所に存在した。出土遺物としては、吉備型の破片が数点出土している。時期は古墳時代初頭である。(中野)

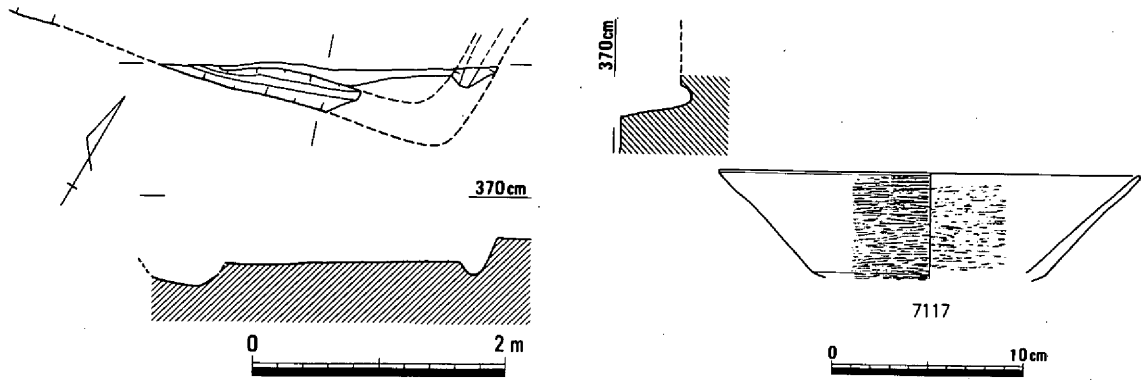


1 茶褐色泥砂 2 茶黄色泥砂

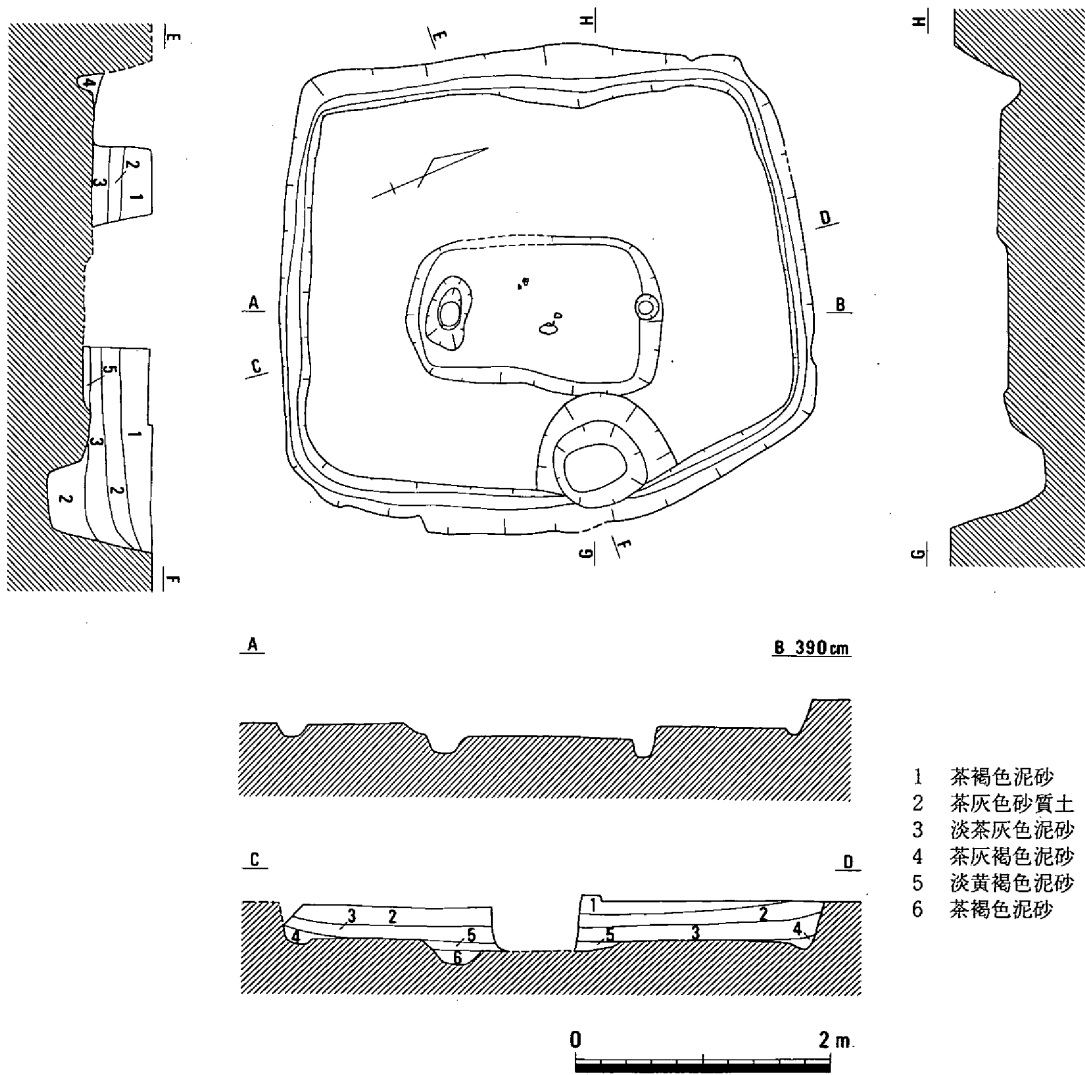
第378図 竪穴住居-291 (1/60)

竪穴住居-292 (第379図)

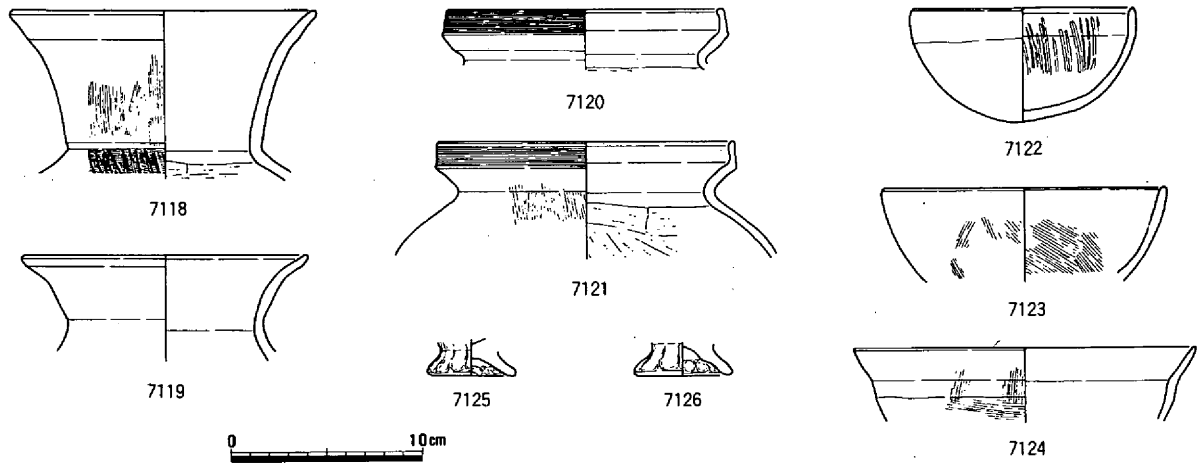
竪穴住居は、竪穴住居-291の北約4mに位置している。検出されたのは竪穴住居の南東部の一部で、大半は調査区外に存在する。このため規模は不明であるが、竪穴住居の隅角が復元できるため平面形は隅丸方形を呈すると推定される。深さは床面まで約10cmを測り、壁体溝が検出されている。出土遺物は7117の高杯だけであった。時期は古墳時代初頭と考えられる。(中野)



第379図 竪穴住居-292(1/60)・出土遺物



第380図 竪穴住居-293(1/60)



第381図 竪穴住居-293出土遺物

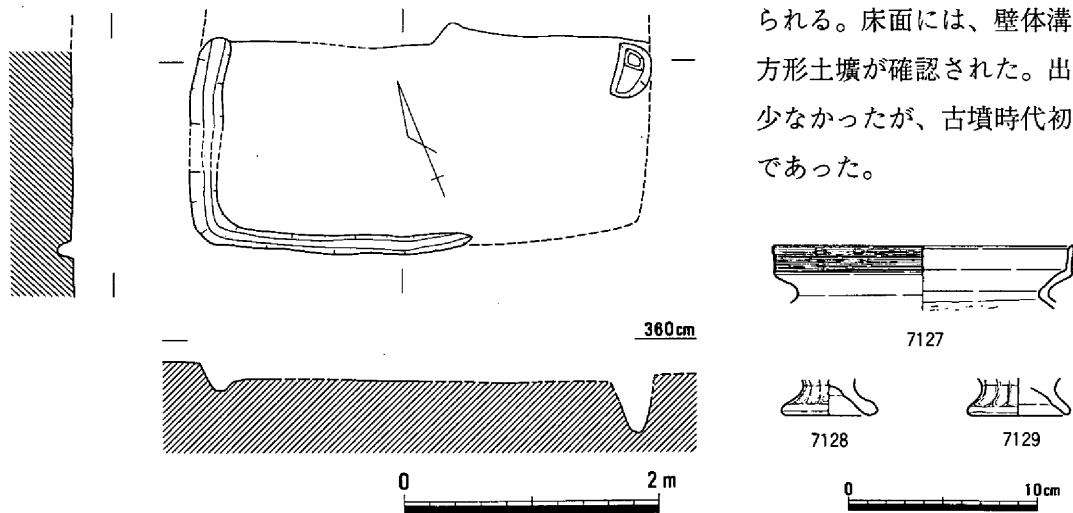
竪穴住居-293 (第380・381図)

竪穴住居-293は、竪穴住居-292の南西約5mに検出された。竪穴住居は、奈良時代の柱穴列および後世の大溝によって削平を受けており、部分的に残存状態は良くなかった。規模は418×380cmで、平面形は不整の隅丸方形を呈する。出入口と考えられる東辺が胴張りになっている。深さは床面まで約37cmで、第1～第3層がレンズ状に堆積していた。床面中央には、約203×125cmの隅丸長方形を呈する部分が低くなっており、柱穴も2本も確認されている。床面の東端には方形土壇が検出されている。また、床面の外周には壁体溝が廻る。出土遺物は、7118～7124などの土器が出土しており、古墳時代初頭と考えられる。(中野)

竪穴住居-294 (第382図)

この竪穴住居は、竪穴住居-293の南東約9mに位置している。竪穴住居の北側は、後世の大溝により大きく削平を受けていたため、南側だけ検出できた。しかし、南側の上部も削平を受けており、残存状態は良くなかった。このため規模は不明であるが、東西方向は約490cmと推定される。平面形

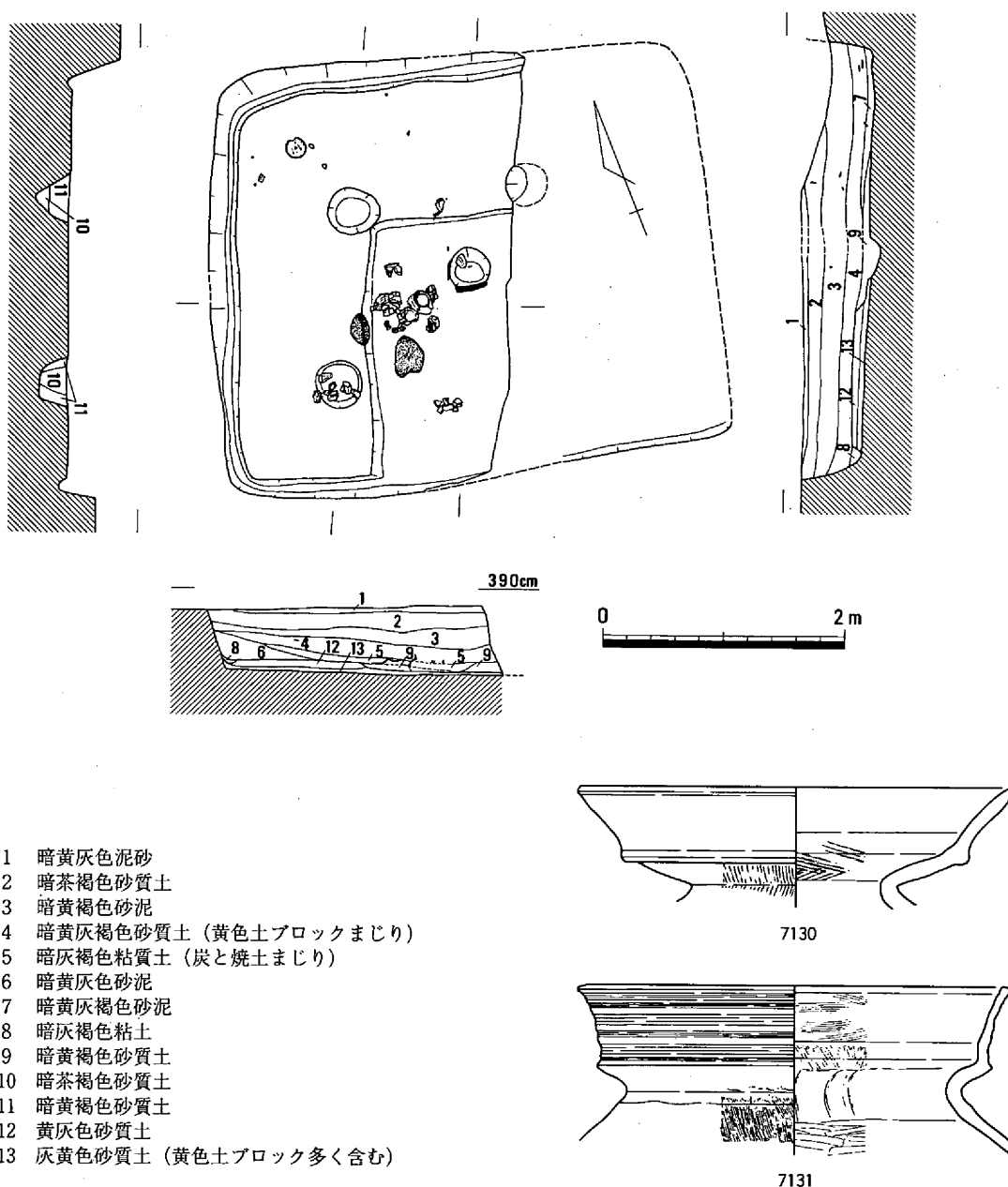
は残存状態からみて隅丸方形と考えられる。床面には、壁体溝の一部と方形土壇が確認された。出土遺物は少なかったが、古墳時代初頭の土器であった。(中野)



第382図 竪穴住居-294 (1/60)・出土遺物

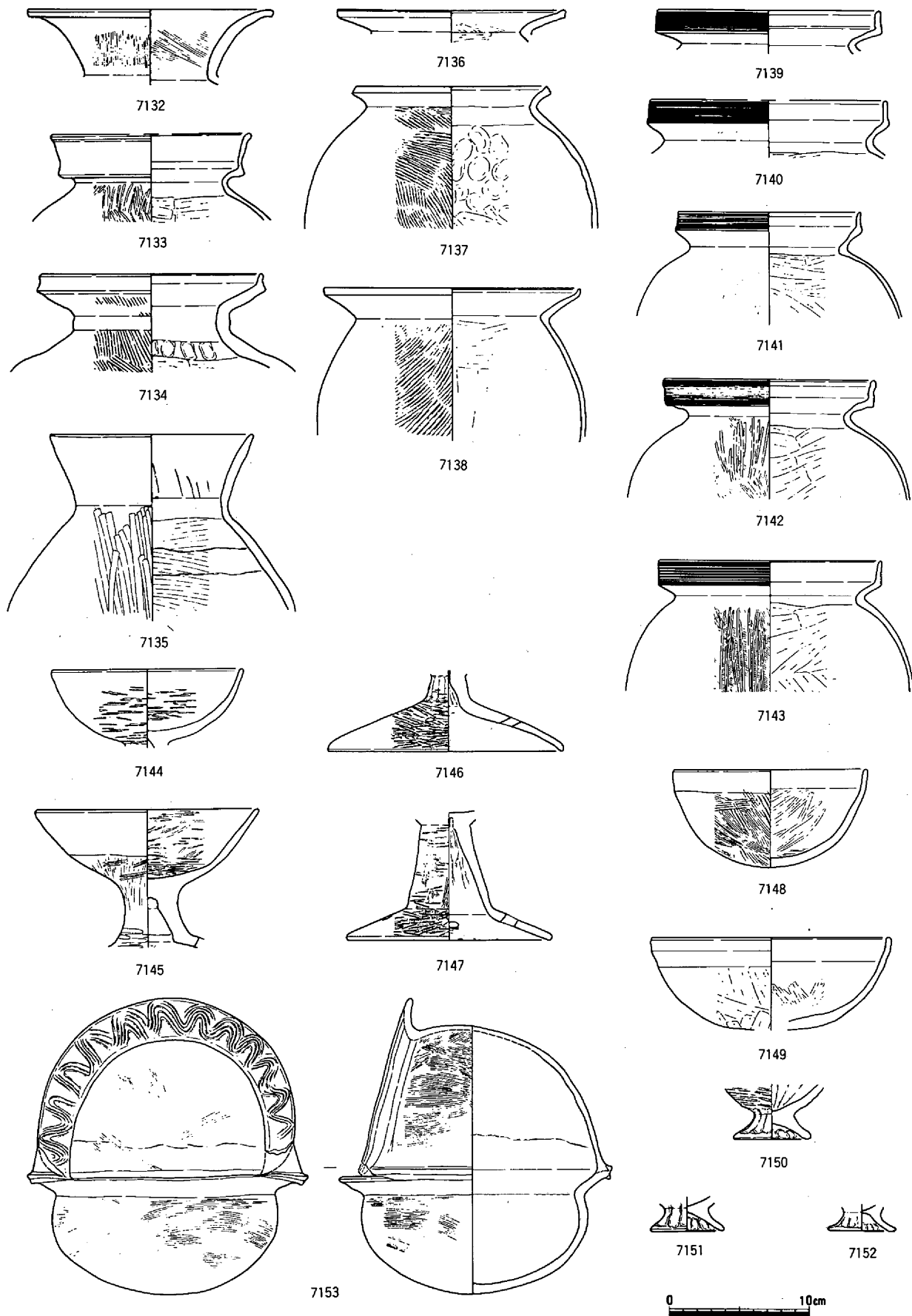
竪穴住居-295 (第383・384図)

竪穴住居-292の南に位置する。東側は隣接する調査区との境の側溝により欠するが、残存部より南北365cm、東西420cm前後の長方形を呈すると推定される。北・西の2辺で高床部が検出されている。主柱穴は3本しか検出されていないが、その配置から4本柱であったと考えられ、東辺にも高床部があったと想定される。床面の海拔高は高床部で330~334cm、低床部で320cmを測る。西南の柱穴内の底面には小円礫があり、柱の沈降を防ぐための敷石と考えられる。低床部北半中央には35cm×33cmの円形で、深さ9cm程度の土壙がある。埋土内から炭や焼土などは検出されなかったが、西南側の肩部が被熱していた。南側にももう1か所被熱面が認められ、その西側の高床部との境には焼土が散布していた。また、この周辺から比較的多くの土器が出土している。



- 1 暗黄灰色泥砂
- 2 暗茶褐色砂質土
- 3 暗黄褐色砂泥
- 4 暗黄灰褐色砂質土 (黄色土ブロックまじり)
- 5 暗灰褐色粘質土 (炭と焼土まじり)
- 6 暗黄灰色砂泥
- 7 暗黄灰褐色砂泥
- 8 暗灰褐色粘土
- 9 暗黄褐色砂質土
- 10 暗茶褐色砂質土
- 11 暗黄褐色砂質土
- 12 黄灰色砂質土
- 13 灰黄色砂質土 (黄色土ブロック多く含む)

第383図 竪穴住居-295(1/60)・出土遺物(1)

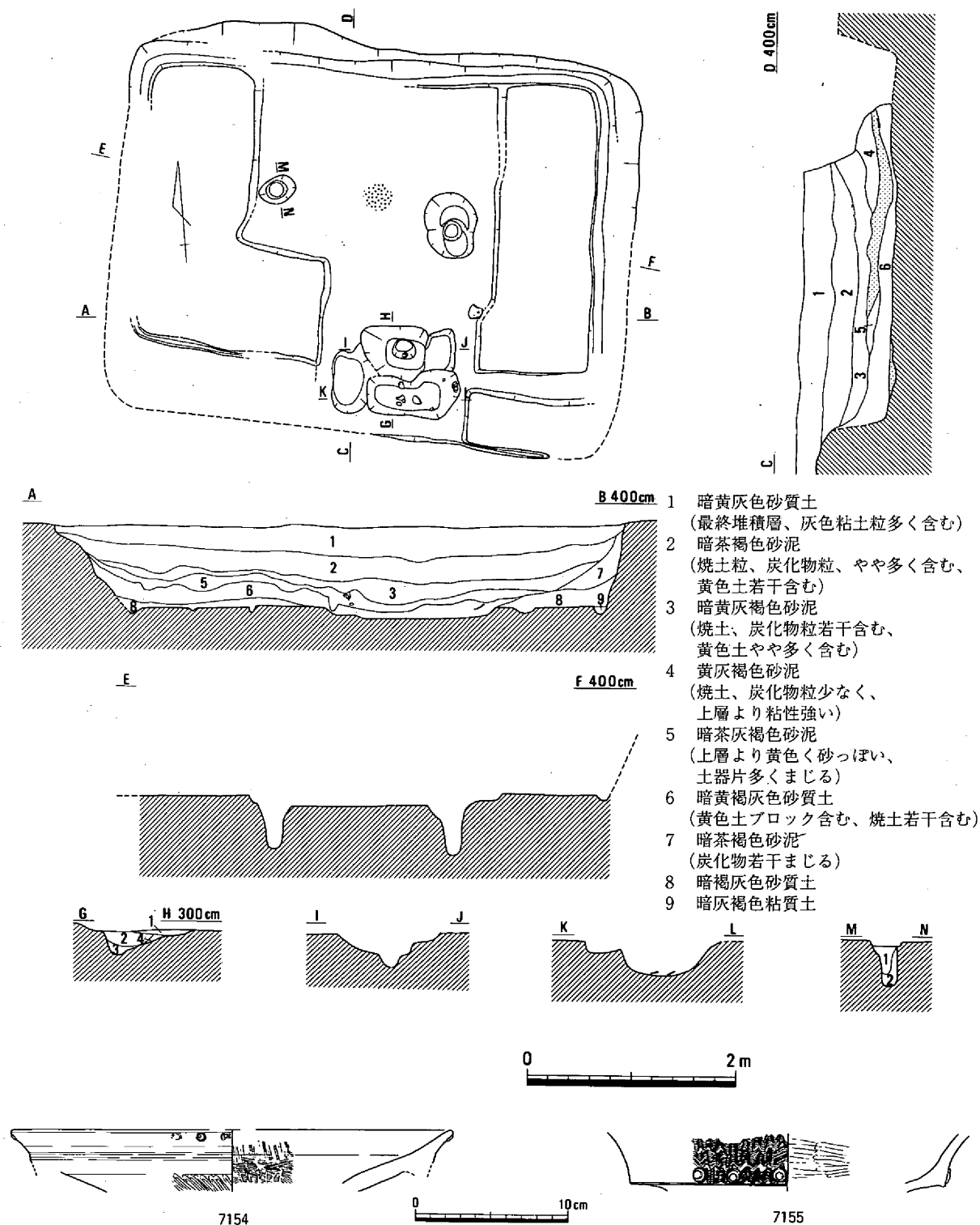


第384図 竪穴住居一295出土遺物(2)

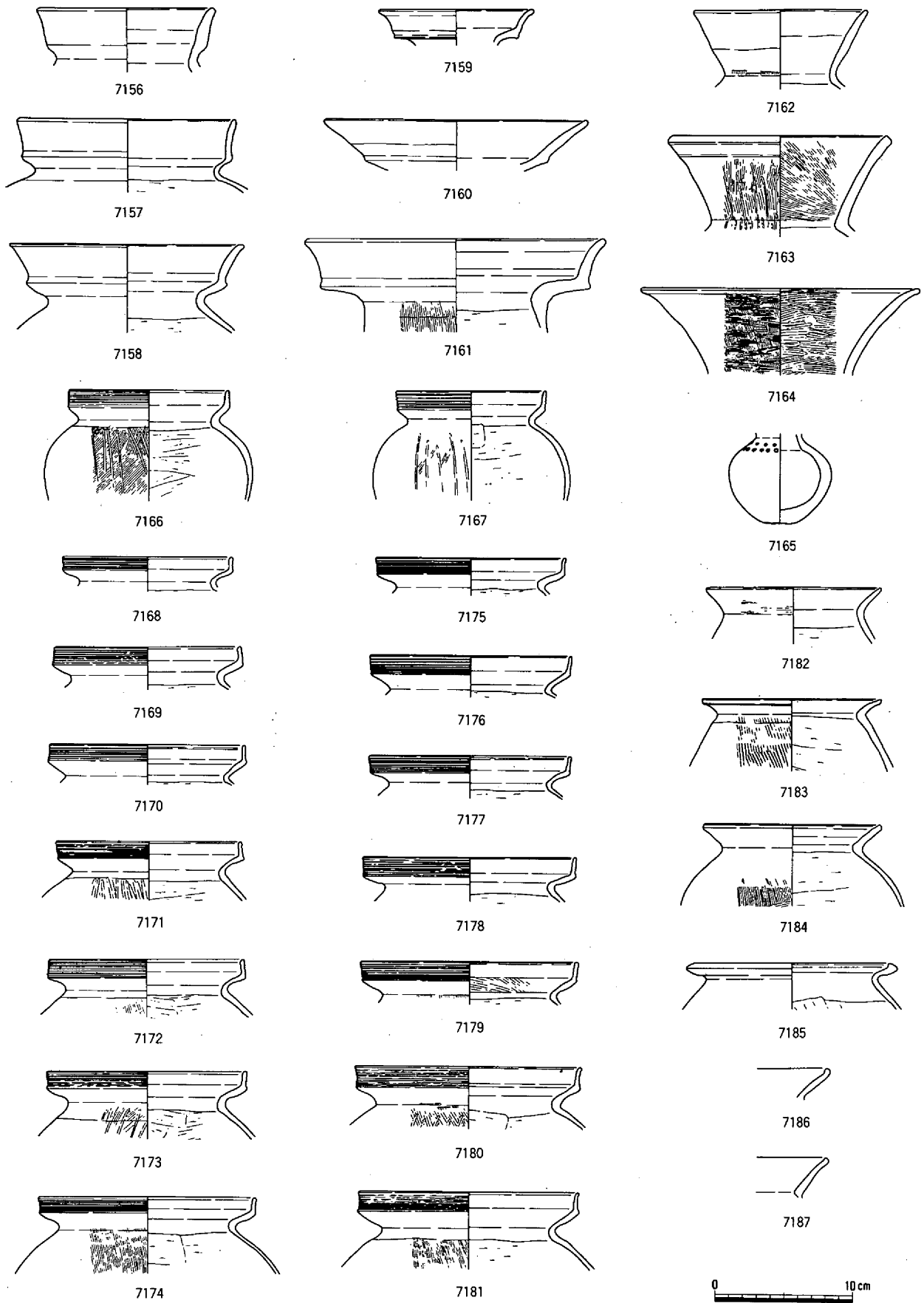
出土遺物には壺、甕、高杯、鉢、製塩土器、手焙り形土器などがある。手焙り形土器7153はほぼ完形であるが煤の付着や被熱痕跡などは認められなかった。時期は古・前・I期に比定される。(渡邊)

竪穴住居-296・297 (第385~391図)

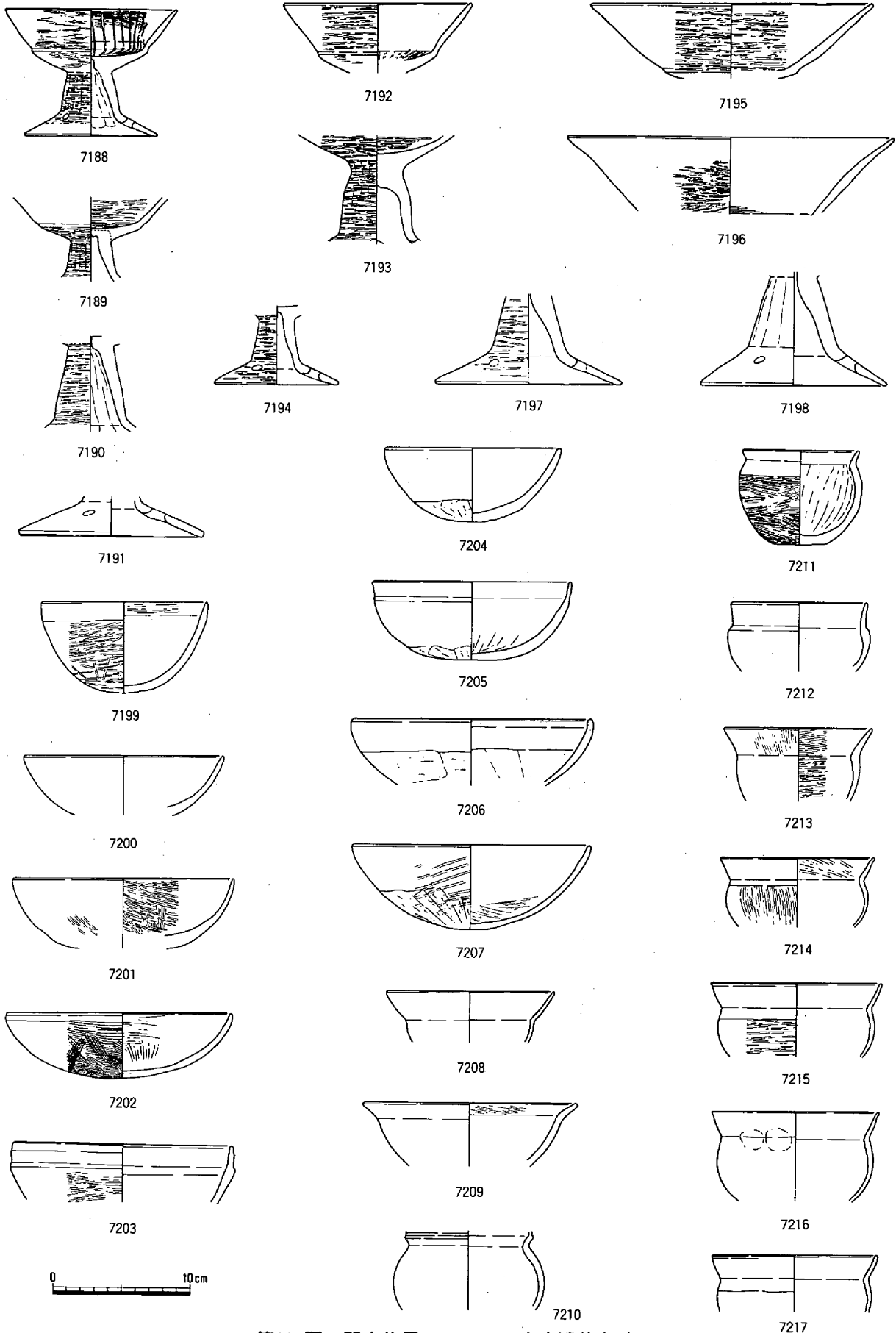
竪穴住居-295の南に位置する。竪穴住居-296と竪穴住居-297は大部分が重複しており、調査時



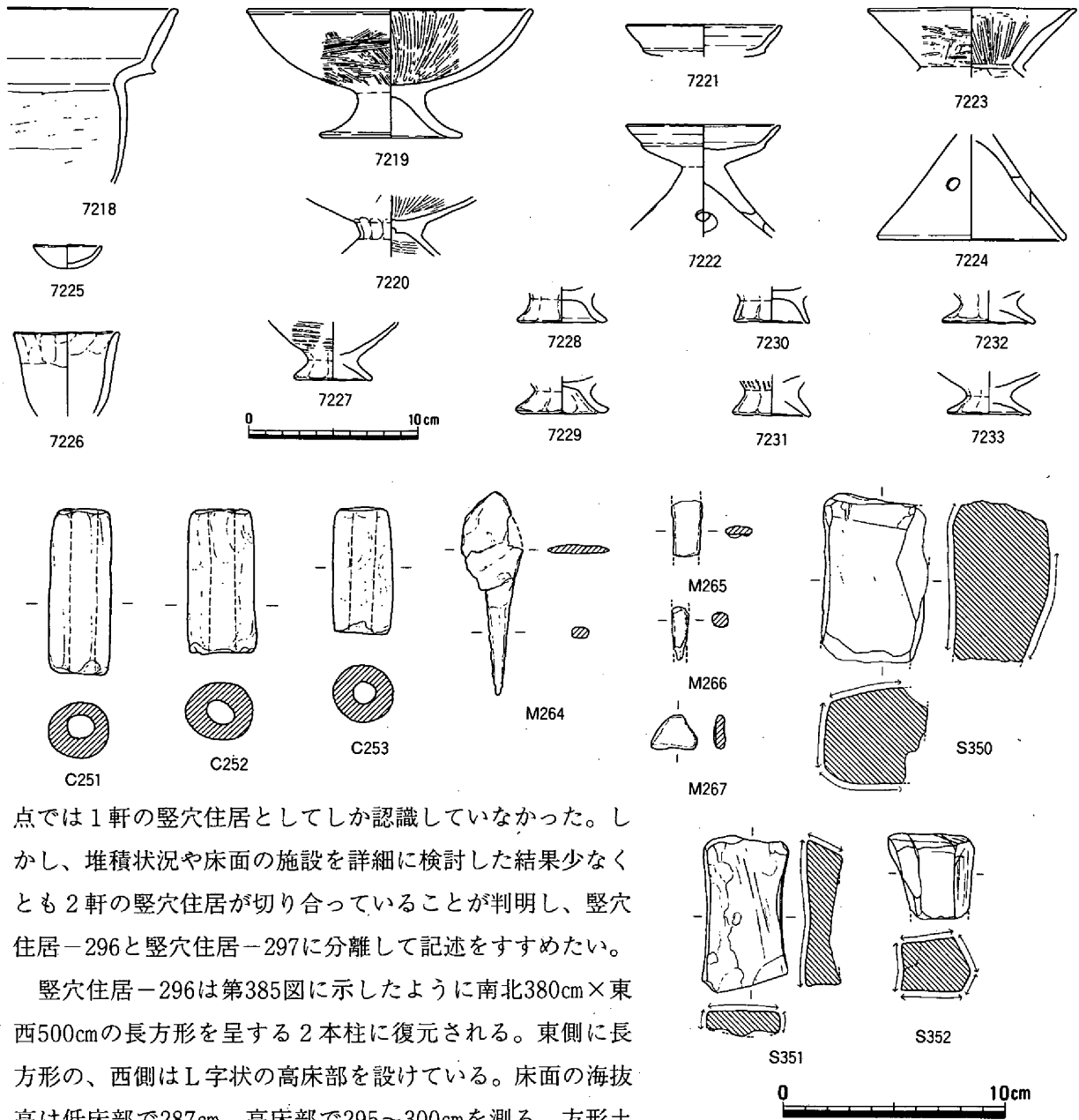
第385図 竪穴住居-296 (1/60)・竪穴住居-296・297出土遺物(1)



第386図 竪穴住居-296・297出土遺物(2)



第387図 竪穴住居-296・297出土遺物(3)

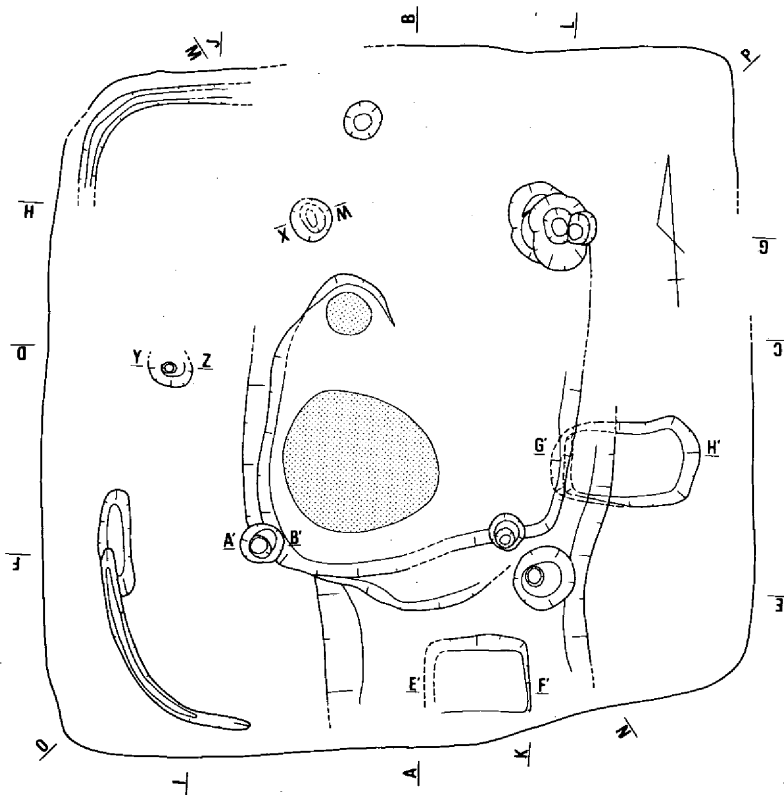
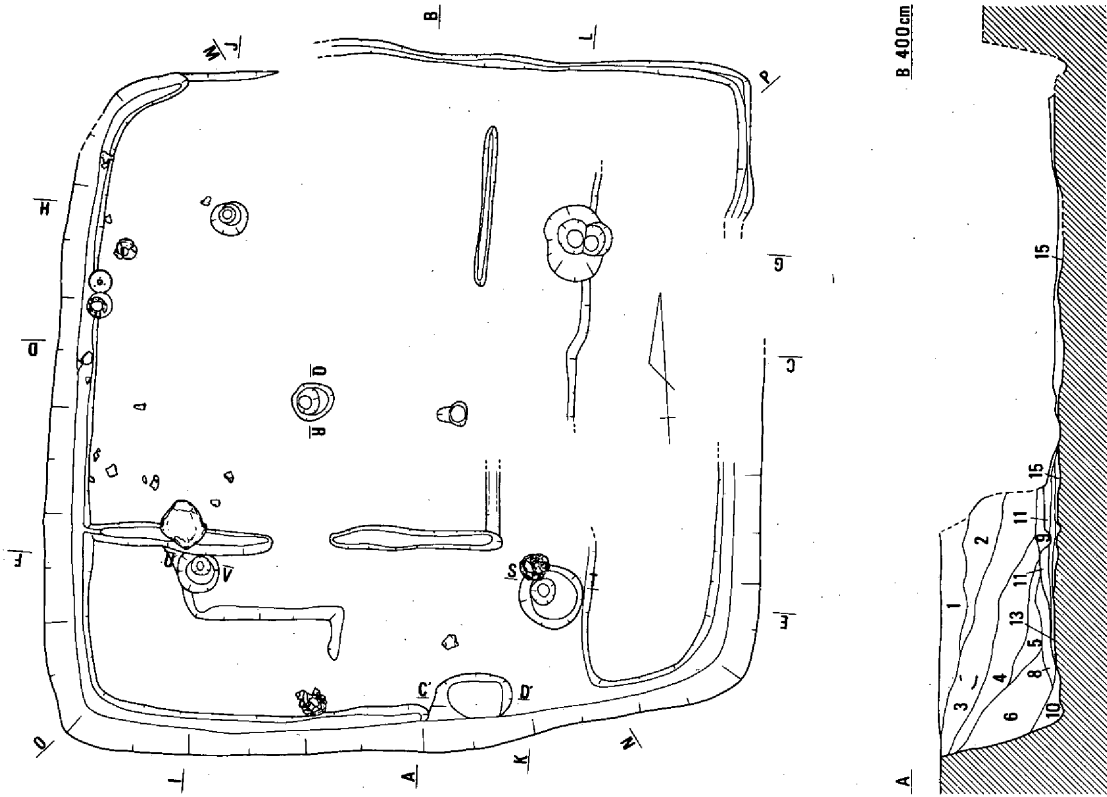


点では1軒の竪穴住居としてしか認識していなかった。しかし、堆積状況や床面の施設を詳細に検討した結果少なくとも2軒の竪穴住居が切り合っていることが判明し、竪穴住居-296と竪穴住居-297に分離して記述をすすめたい。

竪穴住居-296は第385図に示したように南北380cm×東西500cmの長方形を呈する2本柱に復元される。東側に長方形の、西側はL字状の高床部を設けている。床面の海拔高は低床部で287cm、高床部で295~300cmを測る。方形土壇は2つ切り合っているが、いずれも180cm×90cm前後の同規模の不整長方形で、底面の海拔高は北側が285cm、南側が266cmを測る。埋土には炭や焼土が混じっていた。方形土壇の両側には浅い段があるが、これらはそれぞれの方形土壇に伴う可能性が高い。切り合いから北側が新しく、高床部上に壁体溝と思われる東西方向の小溝がみられることから縮小が行われたと推察される。この方形土壇内からは7216・7228が出土している。また出土位置から7154・7161・7165~7168・7171・7172・7196・7202・7204・7207・7210・7220・7221が当住居に伴うと特定できる。

竪穴住居-297は第389図に示したように1辺約560cmの隅丸方形を呈する4本柱に復元される。少なくとも2面の床面が確認され、壁体溝の状況から拡張が想定される。新段階の状況は上段で、東側と西南角で高床部を検出した。床面の海拔高は高床部で300cm、低床部で295cmを測る。また、北西側の床面にはL字状に途切れながらも小溝が検出されているが、間仕切りもしくは別段階の壁体溝の可能

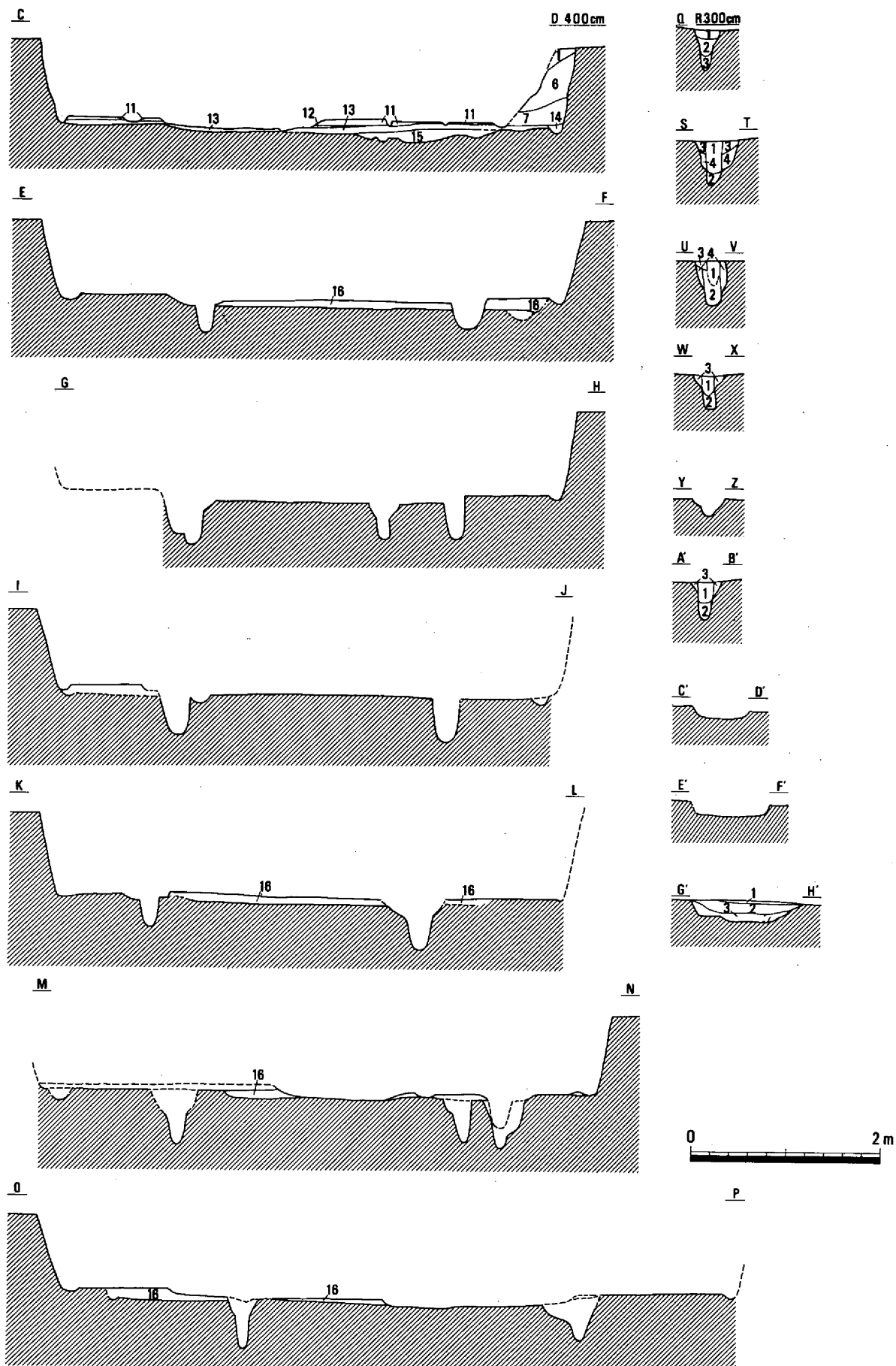
第388図 竪穴住居-296・297
出土遺物(4)



- 1 暗黄灰色砂質土
- 2 暗茶灰褐色砂泥
(炭、焼土やや多い)
- 3 暗黄灰褐色砂泥
(土器片多い)
- 4 暗黄褐色砂質土
(炭、土器少)
- 5 暗灰褐色砂質土
- 6 暗茶褐色砂泥
(炭少、黄色ブロック含む)
- 7 暗茶褐色砂質土
(黄色土ブロック含む)
- 8 暗褐灰色砂質土
- 9 暗茶褐灰色粘質土
(焼土堆積)
- 10 暗黄褐色砂泥
- 11 暗黄灰色粘質土
- 12 暗黄灰色砂質土 (貼床)
- 13 暗黄褐色砂質土 (貼床層)
- 14 暗灰褐色粘質土
- 15 暗褐色黄色砂質土
(整地層の可能性あり)
- 16 暗黄褐色砂質土



第389図 竪穴住居-297 (1/60)

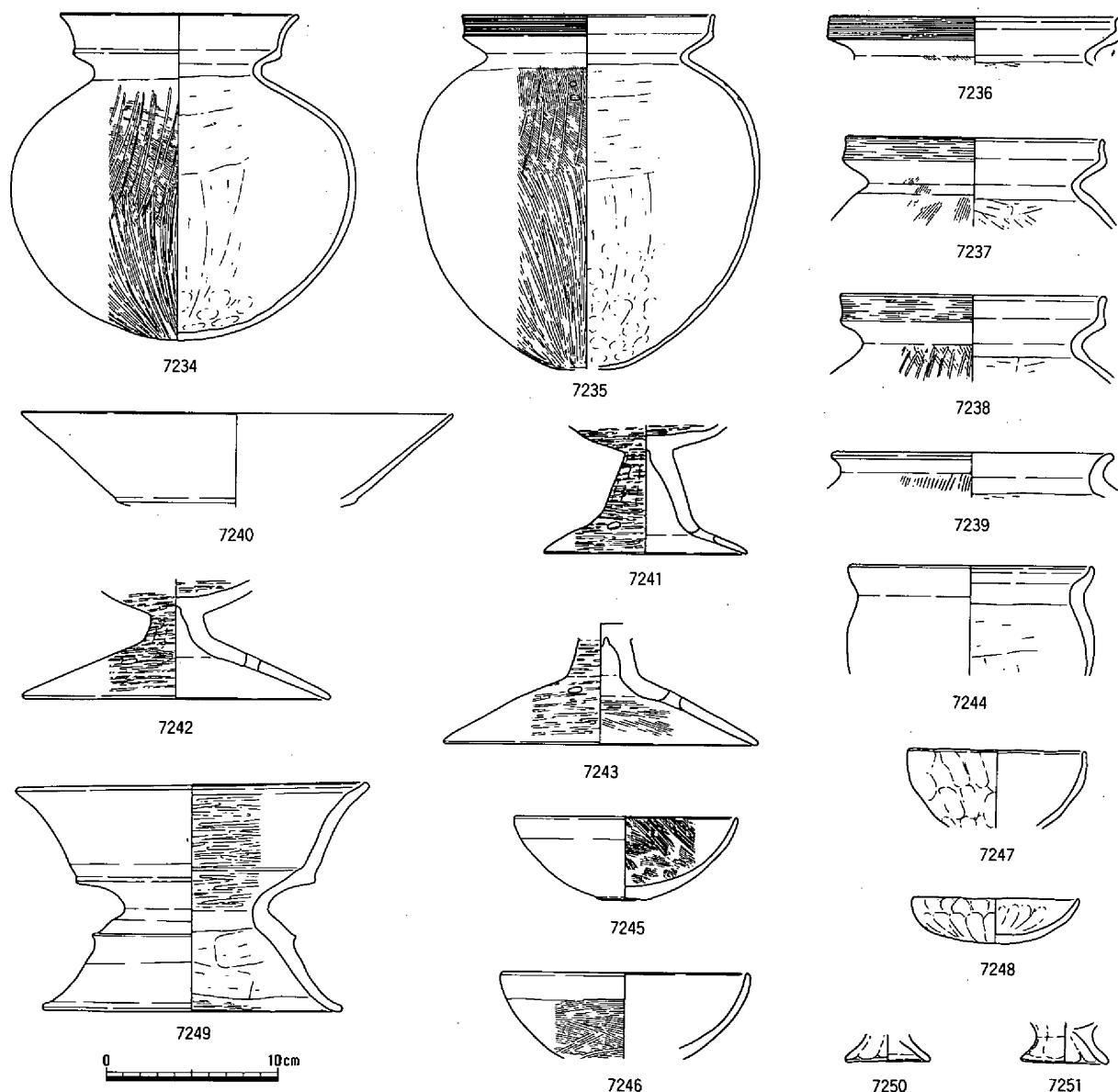


第390図 竪穴住居-297 (1/60)

性が考えられる。調査時点で最も新しい床面と考えたのがこの面で、この面において土器も出土している。竪穴住居-296には重ならない位置から出土していることから当住居の床面に確実に伴うと考えられ、第391図に図示した。方形土壙は南側中央部にあるが、古段階と重複した位置にあり、浅く不整形なことから古段階のくぼみを利用したものと考えられる。7215は中央部の柱穴から出土している。

古段階の状況は下段で、北西角と南西角で壁体溝が検出されたのみで、規模は不明である。主柱穴は4本と考えられる。高床部も明確にできなかったが、東西両側が若干高くなっている。特に中央部がくぼんでおり、その底面には炭が広がっていた。床面の海拔高は最も高い所で298cm、中央部で285cmを測る。方形土壙は南側中央にあり、80cm×60cmの長方形で、深さ約18cmを測る。

出土遺物のうち、出土状況や層位からどちらの竪穴住居に伴うか特定できたのは先述したとおりで、ほかは特定できなかった。しかし高杯や鉢の中で比較的新しい様相が看取されるものが竪穴住居-296に伴っていることから、竪穴住居-297は古・前・I期の幅でとらえられ、竪穴住居-296も遅く

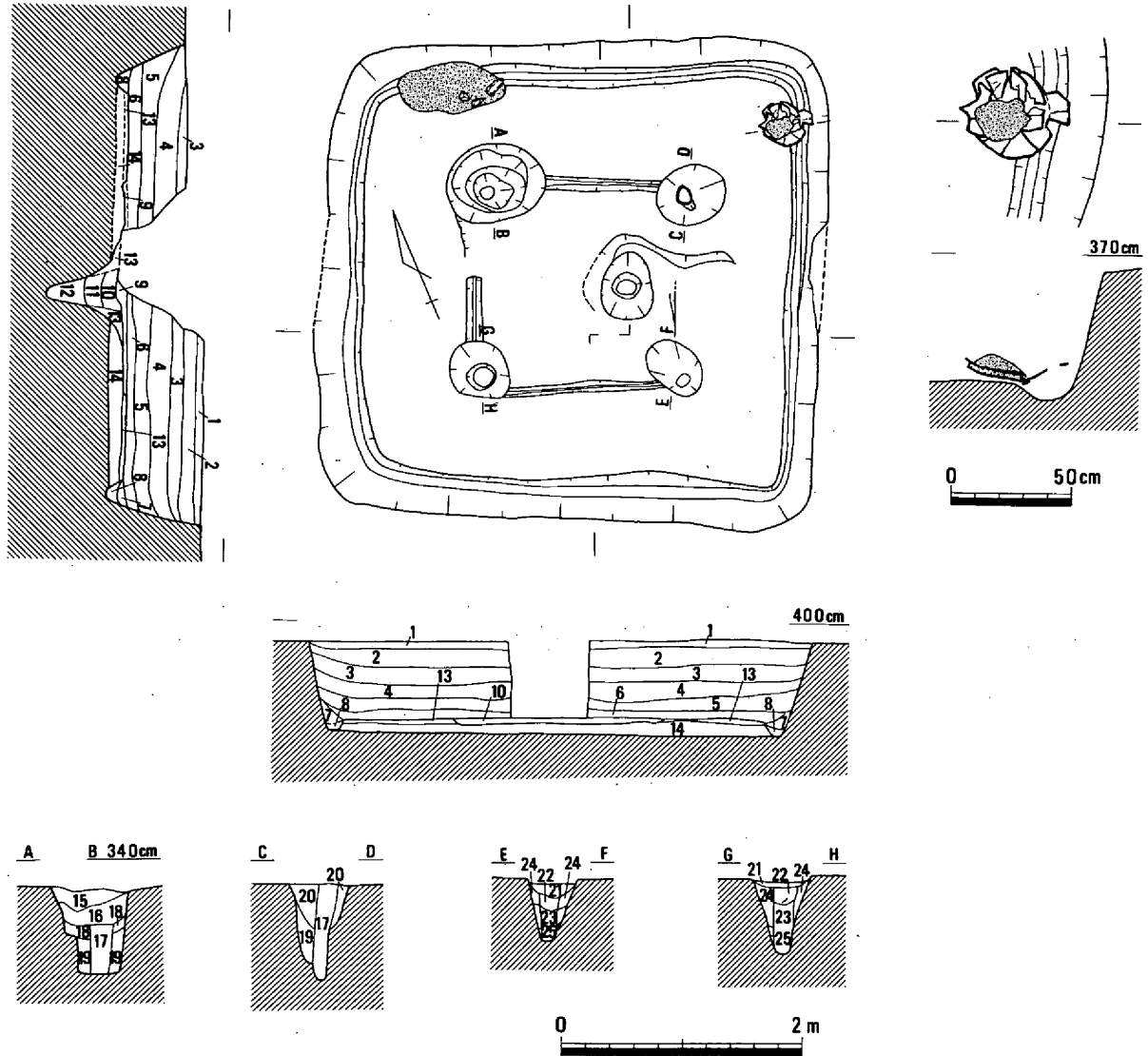


第391図 竪穴住居-297出土遺物

とも古・前・Ⅱ期の早い段階には埋没していたと考えられる。なお、鉄製品が比較的多く出土しているが、いずれも鉄片と思われる。砥石、土錘も出土している。 (渡邊)

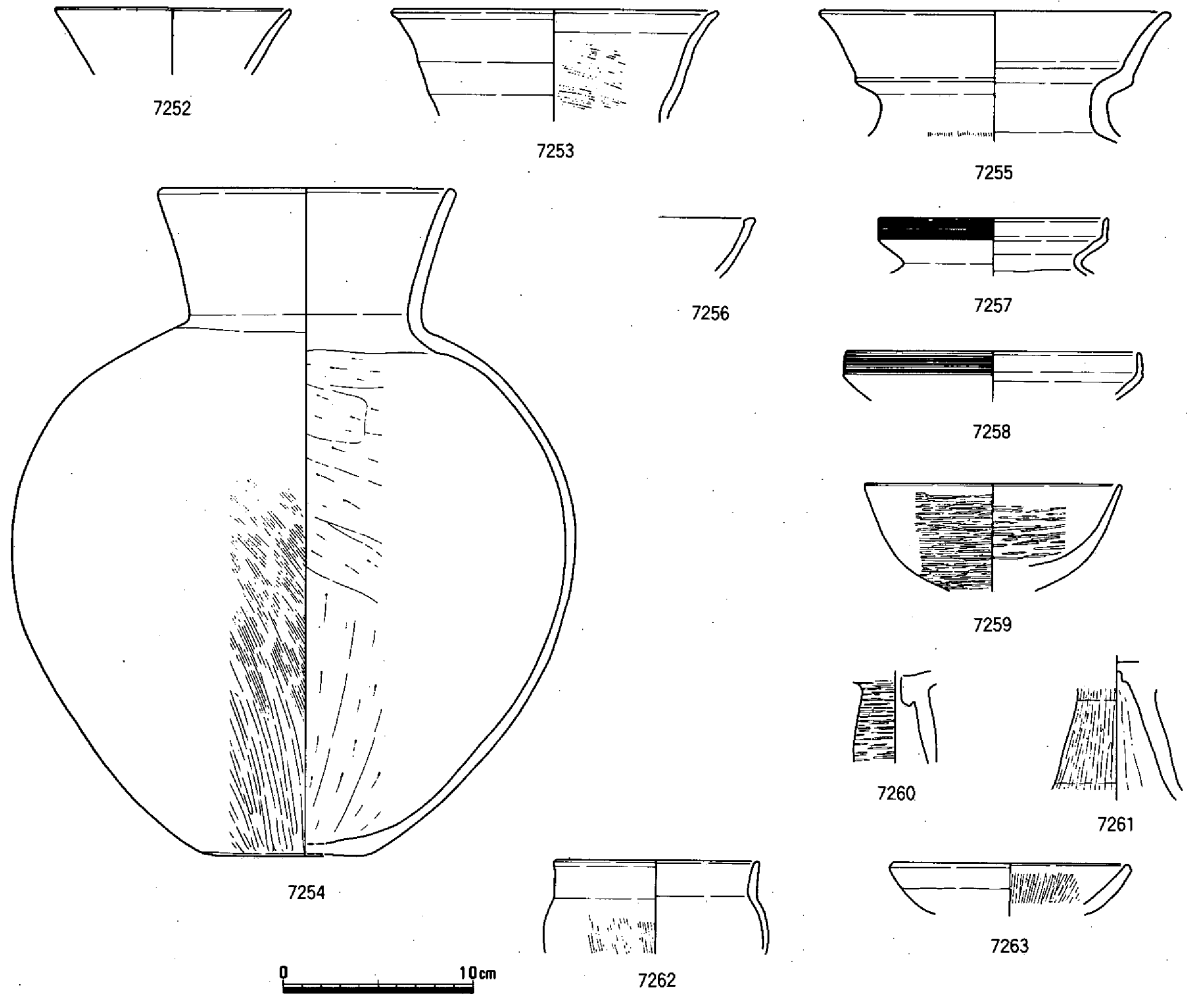
竪穴住居-298 (第392・393図)

竪穴住居-297の東に位置する。1辺約400cmの隅丸正方形で、中央部に160cm四方の低床部を設けている。支柱穴は4本で、低床部の各々の角に位置する。また、高床部と低床部の間には幅約10cm、深さ2cmの浅い溝を巡らしている。床面の海拔高は高床部で320cm、低床部で315cm前後を測る。低床



- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 黄灰褐色粘質土 | 14 黄灰褐色砂質土 (高床部) |
| 2 暗黄褐色粘質土 | 15 灰茶褐色粘質土 |
| 3 黄灰褐色泥砂 | 16 黄茶褐色泥砂 |
| 4 暗灰茶褐色泥砂 | 17 灰褐色粘質土 |
| 5 茶褐色泥砂 | 18 茶褐色泥砂 |
| 6 黄茶褐色泥砂 (上層よりやや砂っぽい) | 19 茶褐色砂質土 |
| 7 暗黄褐色砂質土 | 20 黄灰褐色粘質泥砂土 |
| 8 暗灰褐色粘質土 | 21 暗灰褐色粘質土 (炭化物多く含み、黄色土ブロック含む) |
| 9 暗灰褐色砂質土 | 22 暗灰褐色砂質土 |
| 10 暗茶褐色粘質土 (焼土、炭化物多く含む) | 23 暗褐色灰砂質土 |
| 11 暗灰褐色砂質土 | 24 暗灰褐色砂泥 |
| 12 黄灰褐色粘質土 | 25 暗黄褐色砂泥 |
| 13 暗灰褐色砂泥 | |

第392図 竪穴住居-298 (1/60・1/30)



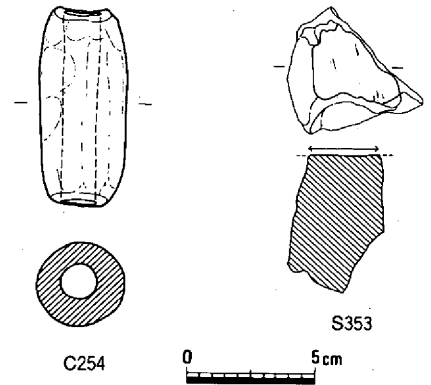
部床面にあたる第10層下面には炭が堆積し、一部被熱していた。中央穴は上面55×42cmの楕円形、底面径25cmの円形で、上部に焼土や炭化物を多く含んでいた。深さは約60cm、底面の海拔高は254cmを測る。高床部の北西角には粘土塊が遺存しており、北東角でも中に同質の粘土を入れたままの状態ですて壺7254が出土している。これらの粘土は土器製作に使用された可能性が高く、屋内で貯蔵・保管していたとみられる。

出土遺物には壺、甕、高杯、鉢のほか土錘や砥石がある。時期は古・前・I期に比定される。(渡邊)

竪穴住居-299 (第394・395図)

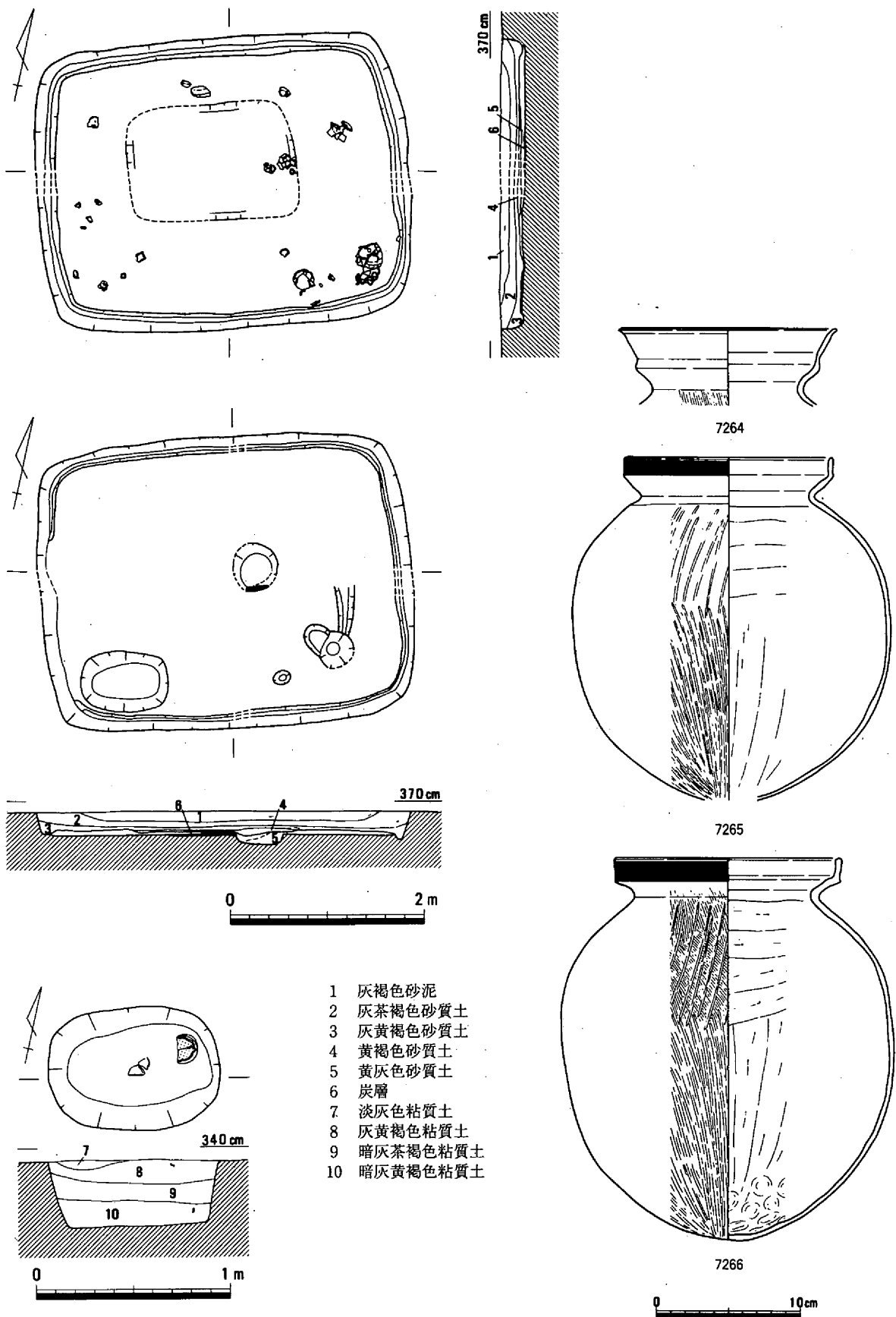
竪穴住居-298の東南に位置する。南北300cm×東西380cmの長方形を呈している。床面が2面確認されているが壁体溝の状況から、床面の張り直しのみ行われたと推察される。

上段が新段階の状況で、新段階は中央に120cm×175cmの長方形の低床部を有している。床面の海拔高は低床部で338cm、高床部で340cmを測り、あまり比高差がみられない。比較的多くの土器が出土しており、7265・7266・7373は高床部の南東角からまとめて出土している。7264・7267～7271・



第393図 竪穴住居-298
出土遺物

第3章 調査区の概要



- 1 灰褐色砂泥
- 2 灰茶褐色砂質土
- 3 灰黄褐色砂質土
- 4 黄褐色砂質土
- 5 黄灰色砂質土
- 6 炭層
- 7 淡灰色粘質土
- 8 灰黄褐色粘質土
- 9 暗灰茶褐色粘質土
- 10 暗灰黄褐色粘質土

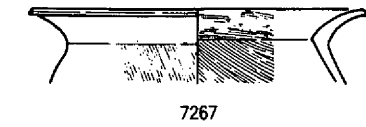
第394図 竪穴住居-299(1/60・1/30)・出土遺物(1)

7273・7275も新段階の床面直上で出土している。

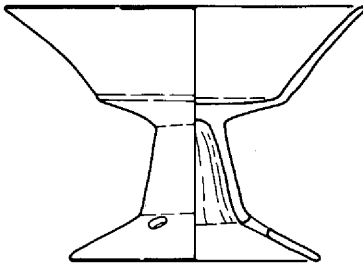
下段は古段階の状況で、中央部が若干低くなっているものの、低床部は明確に検出しえなかった。床面の海拔高は334cm～337cmを測る。中央部の若干くぼんだ所には薄く炭の堆積が認められた。また、中央部やや東よりで直径約50cm、深さ18cmの円形の中央穴が検出された。中央穴内には炭が堆積して

おり、南肩口には焼土が散布していた。住居内南西角では90cm×63cmの隅丸長方形の土壇が検出されたが、この土壇内と第5層から出土した土器片が接合しており、当住居に確実に伴うと考えられる。検出面からの深さは30cmをこえ、壁面もほぼ直立するしっかりした土壇で、底面の海拔高は320cmを測る。土壇内には炭や焼土は堆積しておらず、被熱痕跡も認められなかった。

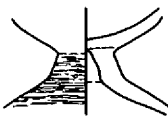
時期は確実に古段階に伴う遺物は土壇から出土した7272のみで特定はできないが、古・前・I期の幅のなかで掘削、埋没したと考えられる。
(渡邊)



7267



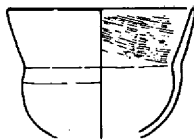
7268



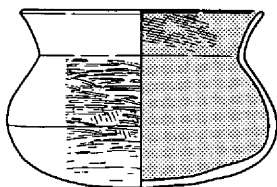
7269



7270



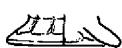
7271



7272



7274



7276



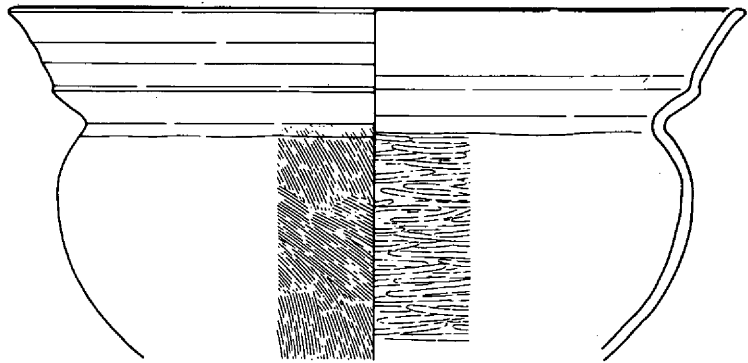
7277



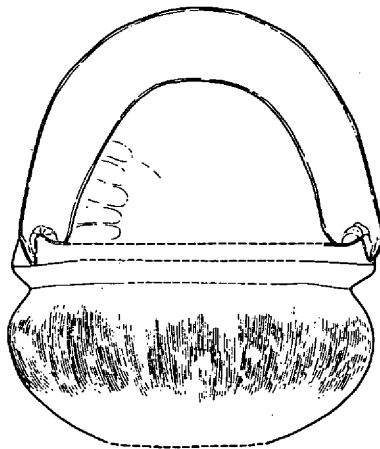
7278



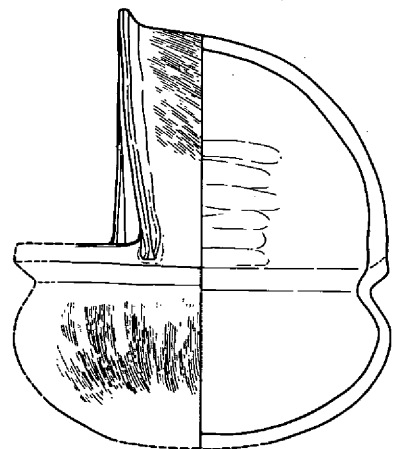
7279



7273



7275



第395図 竪穴住居-299出土遺物(2)

竪穴住居-300 (第396~398図)

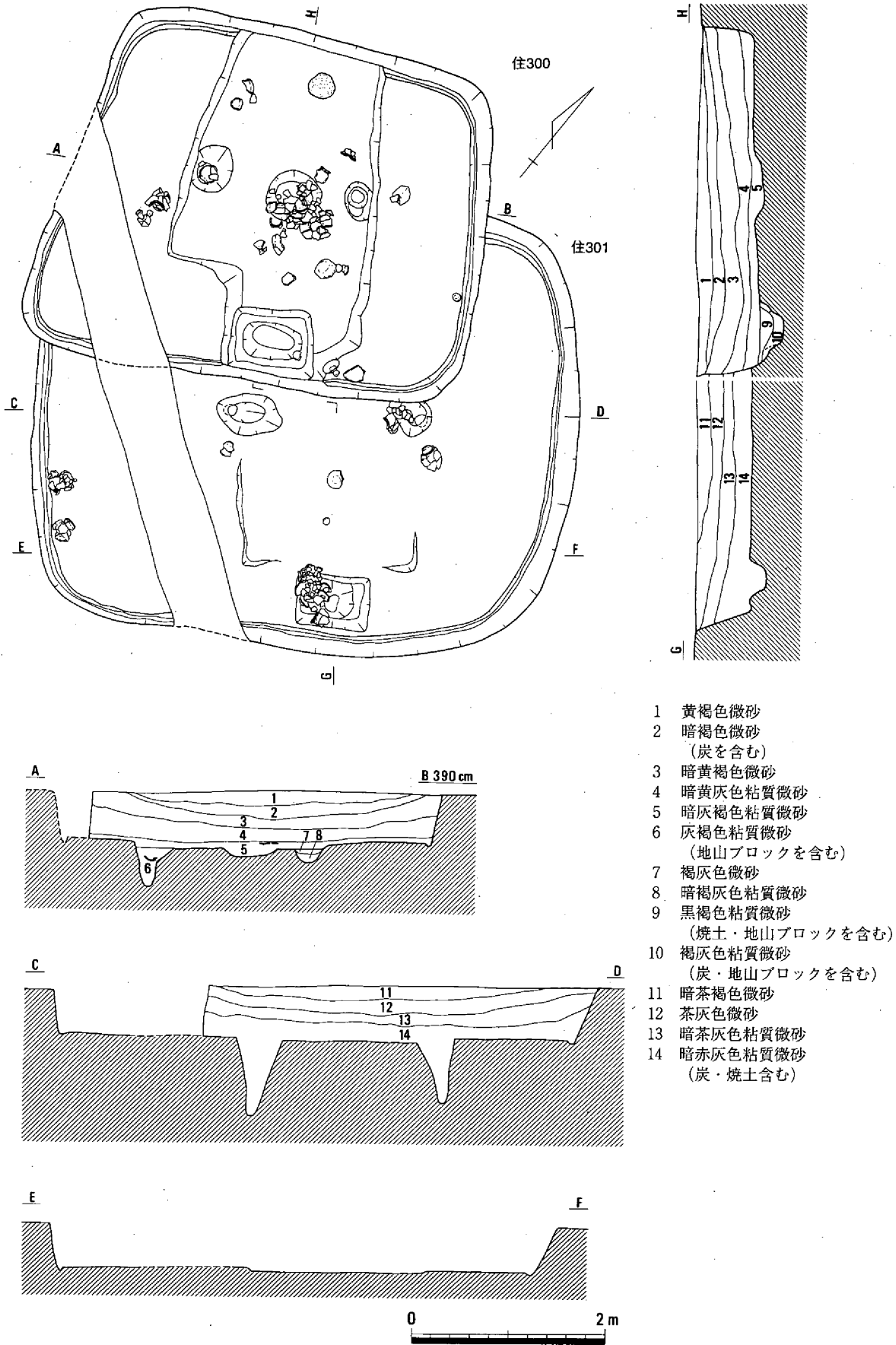
P18区の南西に位置するもので、竪穴住居-301の西側を壊してつくられている。検出面の規模は長辺455~365cm、短辺376cmを測り、長軸をN-62°-Eにもつ台形を呈する。検出面からの深さは63cmあり、標高320cmを測る床の面積は13m²ある。床面の北東と南西には、黄褐色土を盛り上げて幅117cm、高さ6cmの高床部が設けられている。このうち南西の高床部は、北東に向かって80cmほどのびており、鍵形の平面形をなす。この高床部と壁体との間には、幅6cm、深さ4cmの溝がめぐっている。2本ある支柱は高床部の内縁に接して据えられており、その柱間は162cmを測る。柱穴の掘り方は径52cm、深さ40cmの円形をなし、埋土に土器片を含むことから住居廃絶にあたって柱材は抜き取られたものと思われる。高床部が途切れる南東辺中央には、壁体に接するように方形の土壇が設けられている。2段に掘り込まれており、上段は長さ87cm、幅73cm、深さ12cmの長方形、下段は長さ62cm、幅38cm、深さ11cmの楕円形を呈する。高床部に挟まれた床面は、薄い黄褐色土を硬く叩きしめて貼り床を行っている。その中央には径59cm、深さ10cmの円形を呈する土壇が掘り込まれている。側面には被熱痕跡があり、その周辺で土器がまとまって出土している。また、この土壇の北西には、径25cmの範囲で被熱痕跡が認められた。

遺物には、壺・甕・高杯・鉢・小形壺・器台などの土師器のほか、紡錘車C255や土錘C256がある。壺には在地系の7281~7283と、非在地系の7280がある。甕は短い二重口縁に櫛描沈線を飾る在地の甕で、中形の7284・7286・7289・7293と小形の7285・7287・7288・7291・7292に分けられる。高杯には、椀形の杯部に短い脚部を備えた7294・7295と、屈折する杯部に中空につくられた長い脚部をもつ7296~7299がある。7303~7307は皿形をなす鉢で、7308・7309は二重口縁をもつ大形の鉢である。土器片を利用した紡錘車C255は、径2.7cm、重量3gを測り、C256の管状土錘は長さ6.9cm、径2.7cm、重量34gある。これらはいずれも古・前・Ⅱ期の特徴を示している。(亀山)

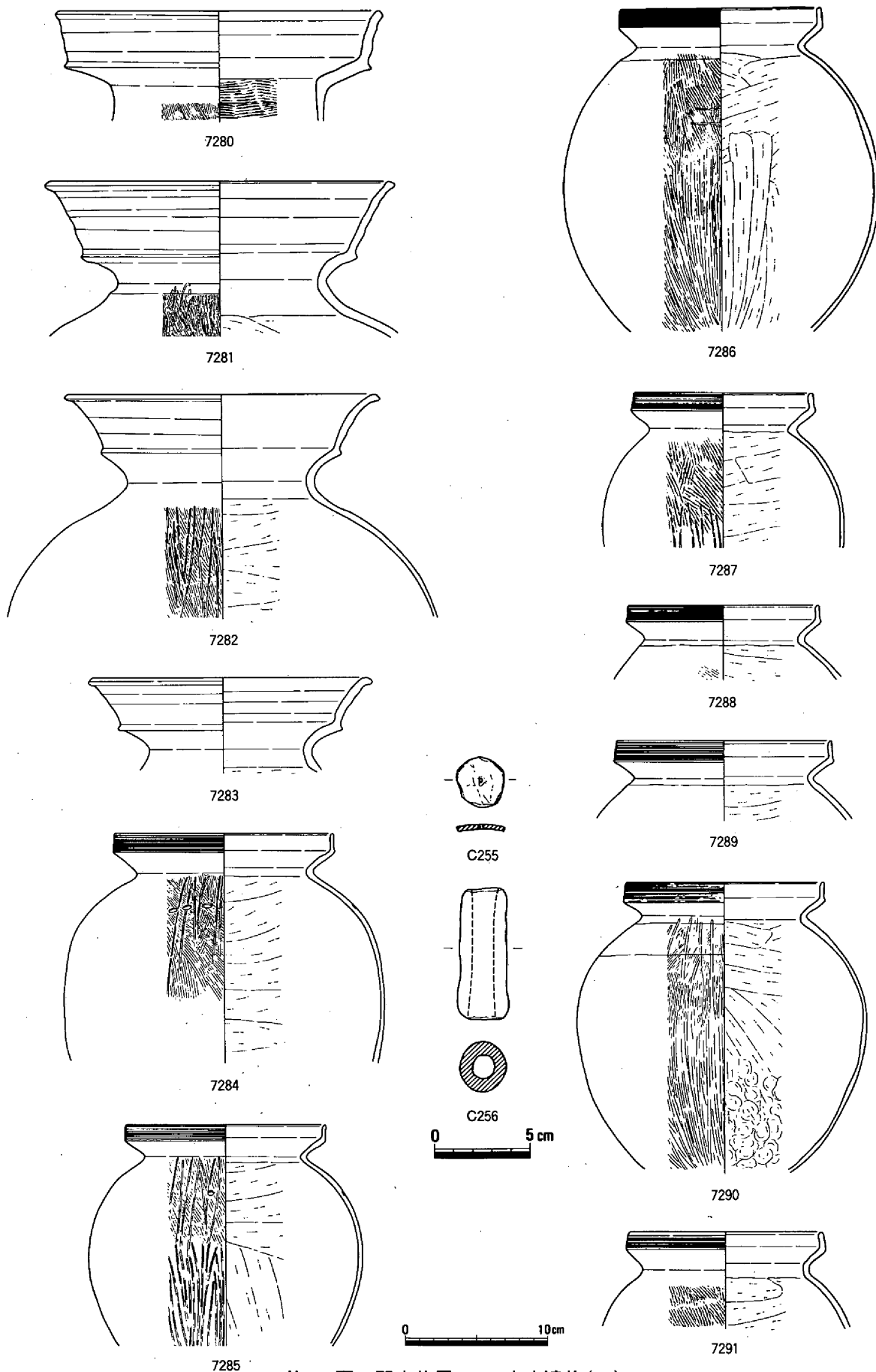
竪穴住居-301 (第396・399図)

竪穴住居-300と重複して検出した住居で、P18区の南西に位置する。西半を竪穴住居-300により切られているため、正確な規模は不明であるが、現状では長さ561cm、幅452cm以上の、N-53°-Eに長軸をもつ隅丸方形をなす。現状の深さは57cmで、標高322cmを測る床面は竪穴住居-300よりもわずかに高い。20m²あまりに復元される床面の周囲には幅10cm、深さ5cmの壁体溝がめぐっている。支柱は2本あり、その柱間は196cmを測る。柱穴の掘り方は径70cm、深さ81cmあり、柱材の抜き取り穴からは土器片が出土している。この支柱に沿うようにわずかな段差が認められ、北東と南西に高床部が設けられていたものと思われる。その幅は南西が206cm、北東が125cmと、南西の高床部が広がっている。南東辺中央の壁際には、2段に掘り込まれた方形の土壇が設けられている。上段は長さ77cm、幅67cm、深さ10cmの長方形、下段は長さ47cm、幅38cm、深さ8cmの楕円形を呈し、粘質を帯びた埋土からは土器が出土している。

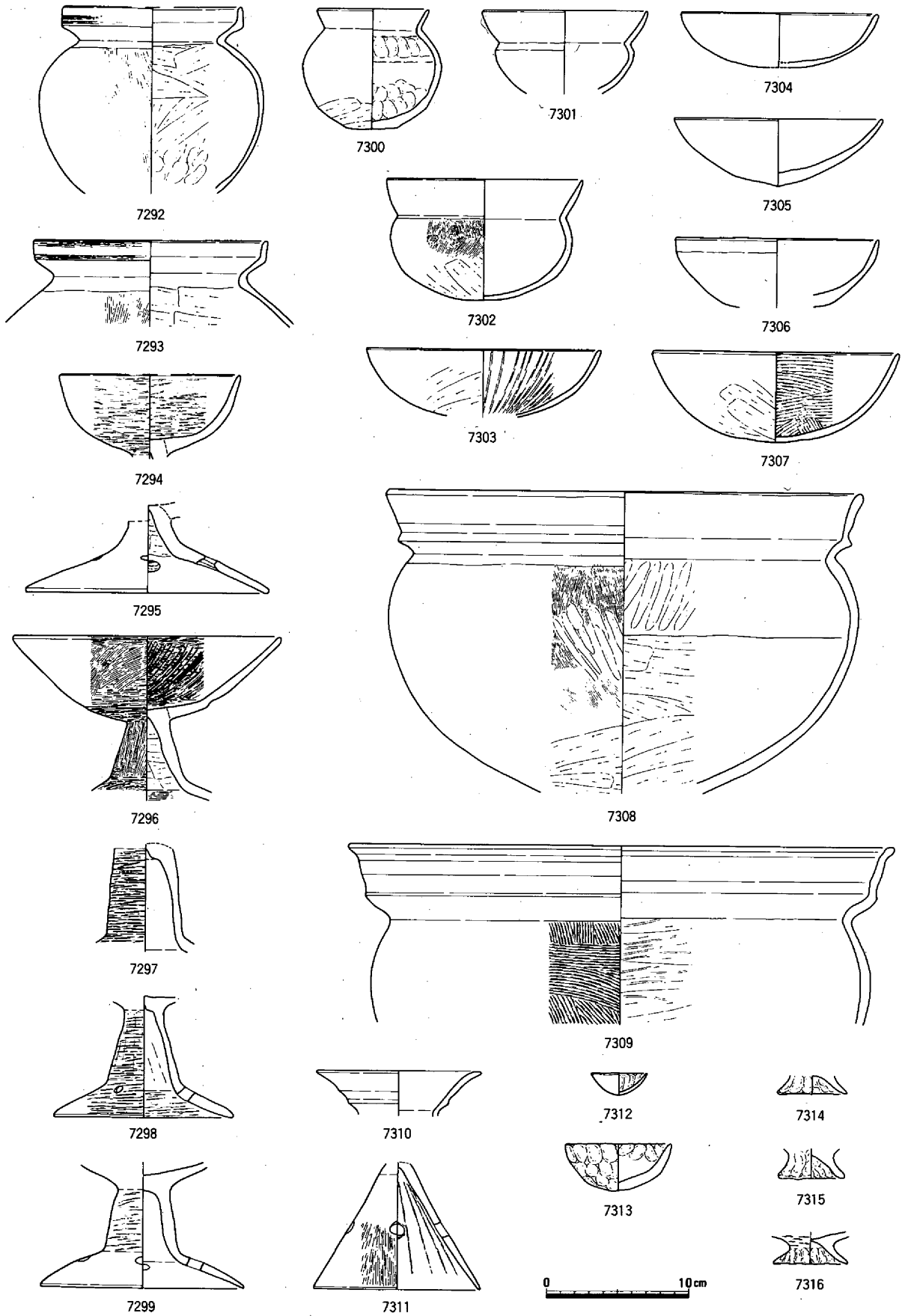
この住居からは、壺・甕・高杯・鉢などの土師器のほか、紡錘車C257が出土している。壺には直口をもつ7317と二重口縁をもつ7318があるが、いずれも非在地系の土器である。7319~7324は短い二重口縁に櫛描沈線を飾る在地の甕で、倒卵形をなす体部の肩にはA1・A2類の刺突記号が見られる。7331は壺形、7332は鉢形につくられた手捏ね土器である。紡錘車C257は土器片を径3.3cmの円盤状に加工したもので、重量は4.9gある。これらはその特徴から古・前・Ⅰに比定され、竪穴住居-300との切り合いと矛盾しない。(亀山)



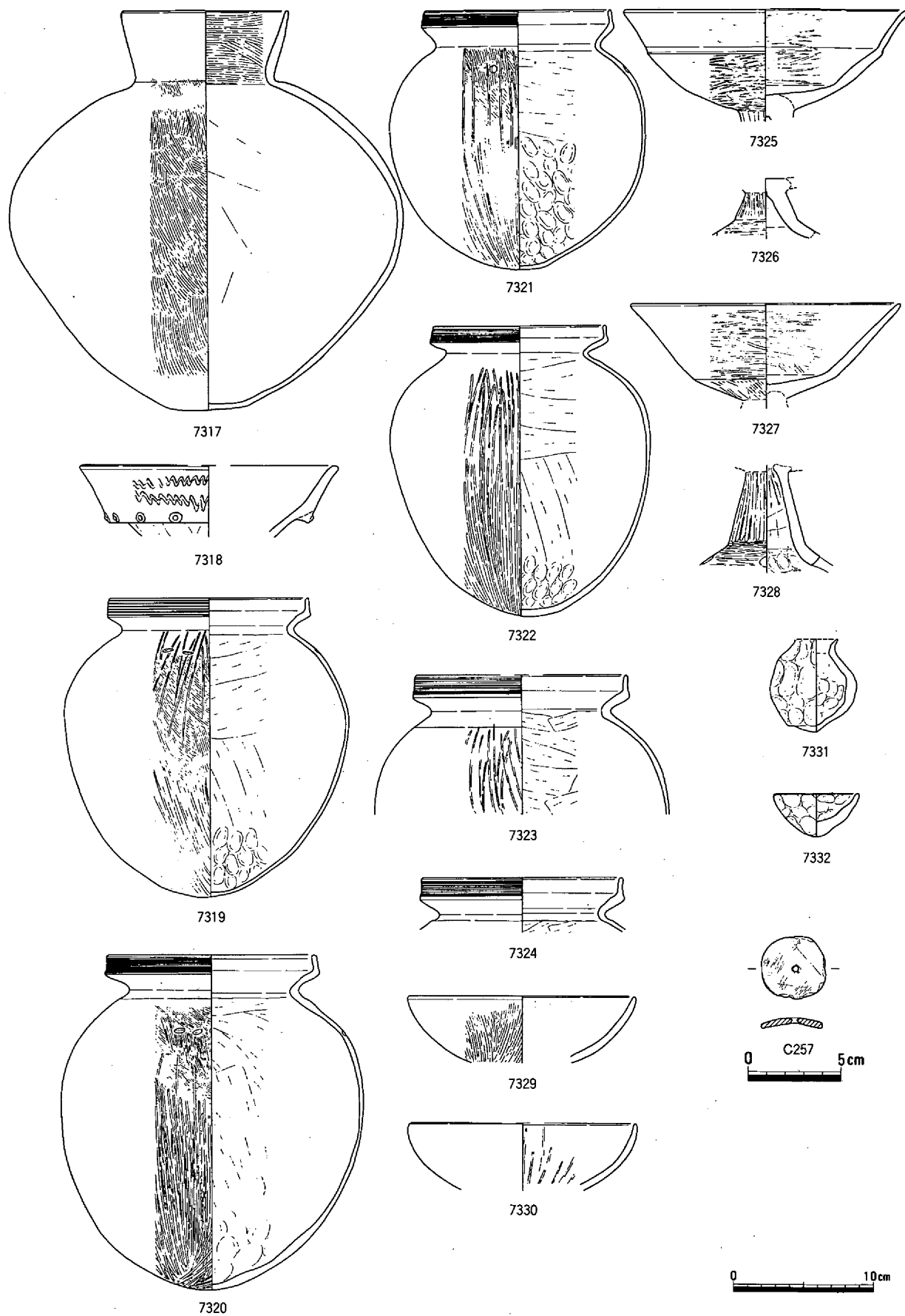
第396図 竪穴住居-300・301(1/60)



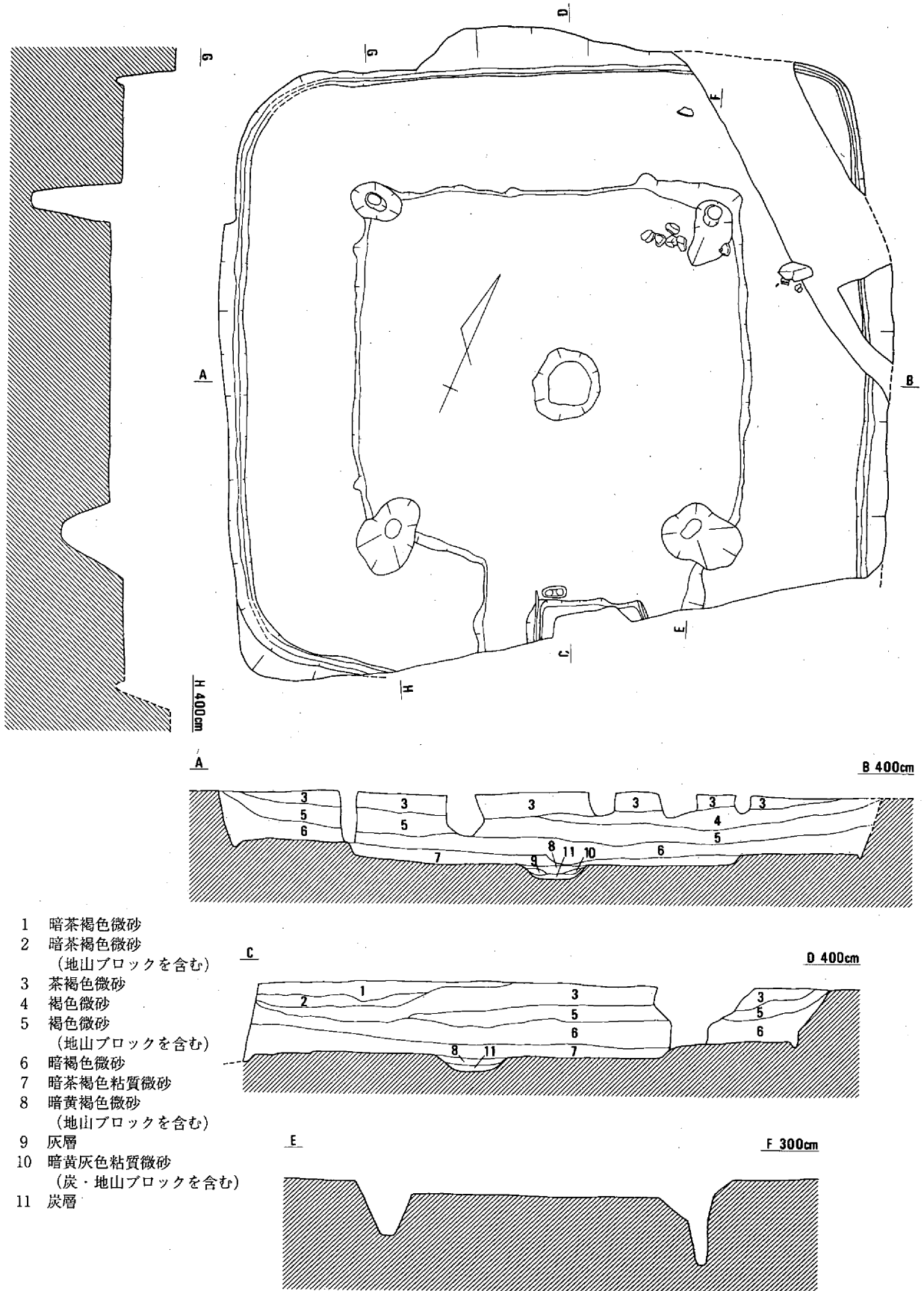
第397図 豎穴住居-300出土遺物(1)



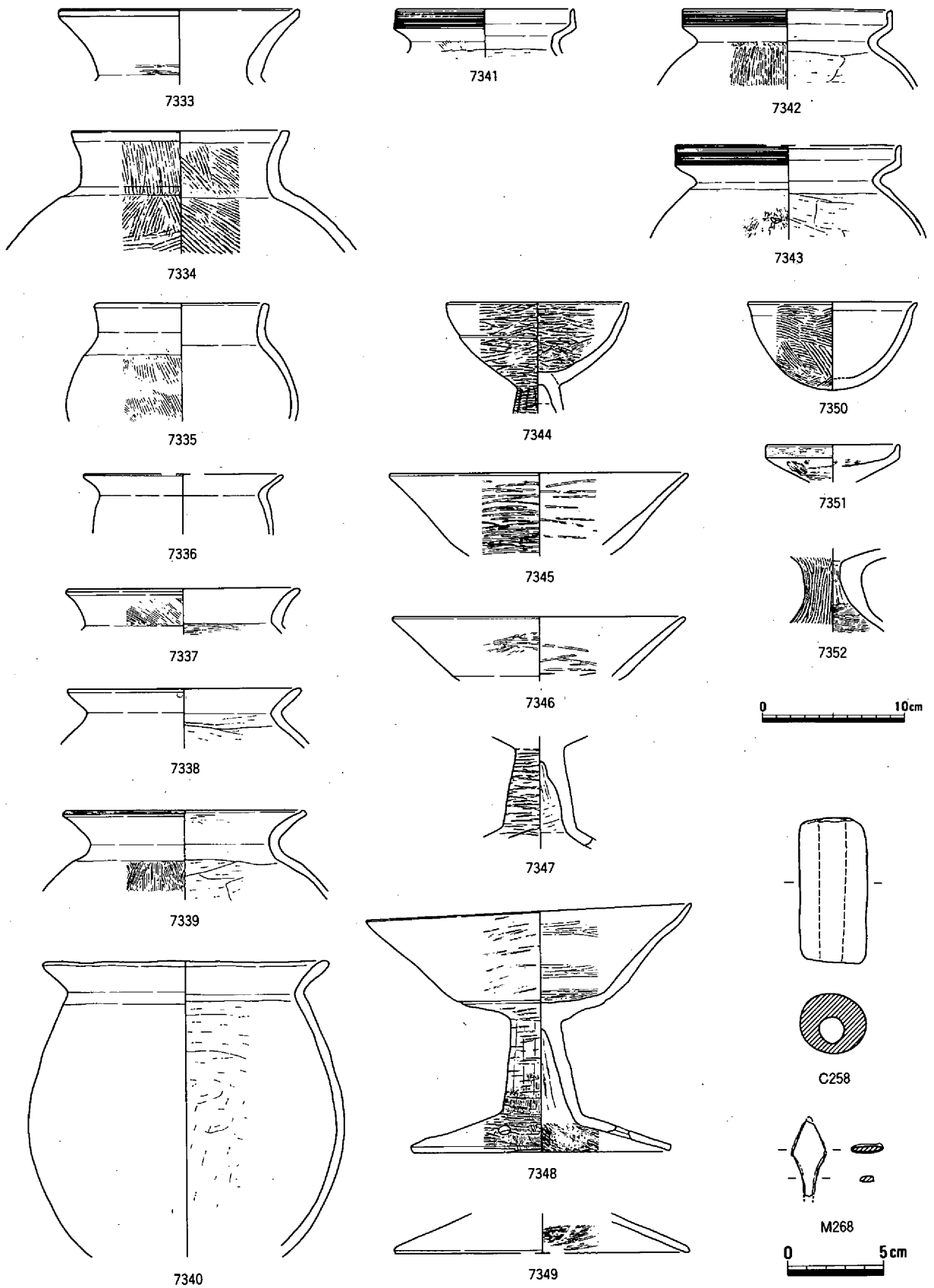
第398図 竪穴住居一300出土遺物(2)



第399図 竪穴住居-301出土遺物



第400図 竪穴住居-302 (1/60)



第401図 竪穴住居-302出土遺物

竪穴住居-302 (第400・401図)

竪穴住居-300の西16mで検出したもので、ちょうどQ18の交点に位置する。南東は調査区外に延びるため正確な規模は不明であるが、現状では長さ708cm、幅640cmの方形を呈し、面積は40m²に還元される。検出面からの深さは80cmあり、床面の標高は303cmを測る。その周囲には幅10cm、深さ7cmの壁体溝がめぐっている。南を除く3方の壁体に沿って、幅135cm、高さ13cmの高床部が設けられている。その面積は17m²あまりで、床面積の42%を占める。高床部の途切れる南辺中央の壁際には、方形の土壙が検出された。全体を確認するに至らなかったが、2段に掘り込まれているようで、長さ130cm、幅80cmと推定される。東西の側辺には狭い溝が認められ、板材による仕切り状の施設が設けられていた可能性がある。また、この土壙の北西縁に接して長さ25cm、幅13cm、深さ8cmの小ピットが穿たれている。出入り口にかかわる痕跡とも考えられる。高床部の内縁に接して4本の主柱が確認された。柱間は313~358cmを測り、その掘り方は径56~88cm、深さ45~73cmの円形をなす。主柱に囲まれた床面は地山土で薄い貼り床を施され、その中央には径78cm、深さ14cmの円形を呈する土壙が設けられている。壁面には被熱痕跡があり、内部には炭・灰の堆積が認められる。

住居内からは土師器(壺・甕・高杯・鉢・器台)のほか、土錘、鉄鎌が出土している。7333・7334は壺の口縁部で、いずれも非在地系の土器である。甕には、く字形口縁をもつ7335~7340と櫛描沈線を飾る短い二重口縁を備えた7341~7343とがあり、前者が主体をなす。土錘C258は長さ7.1cm、径3.6cmの管状をなし、重量は90gある。鉄鎌M268は三角形の身をもつもので、茎の先端を欠いているが、現状の長さ3.9cm、幅1.7cm、重量4gを測る。このほか、北東の主柱付近で10数cmの円礫が6個まとまって出土しているが、その用途については不明である。この住居から出土した土器は、古・前・Iでも古い様相を示している。

(亀山)

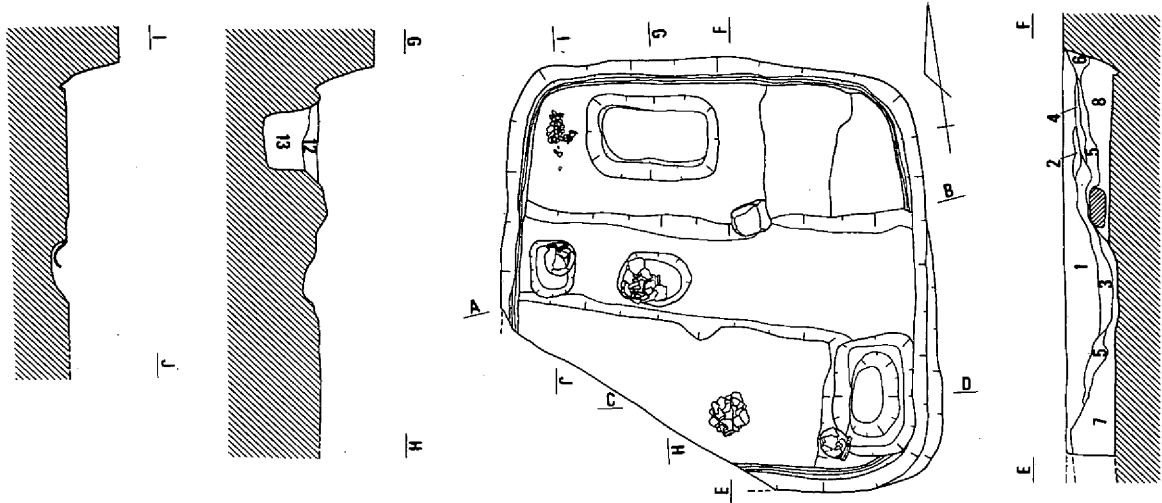
竪穴住居-303 (第402・403図)

P17区の南東に位置する主柱を持たない小形の住居で、竪穴住居-302の西2mで検出した。調査区にかかって検出したため南西隅は未調査であるが、現状では長さ340cm、幅337cmの方形をなし、想定される面積は約13m²と小さい。検出面からの深さは40cmあり、床面の標高は325cmを測る。その南北には幅125cm、高さ8cmの高床部が設けられている。北の高床部には方形の土壙が穿たれていた。長さ103cm、幅68cm、深さ43cmあり、上部は淡褐色土で埋められていた。高床部と壁体との間には、幅7cm、深さ5cmの溝がめぐっており、その南西端は2段に掘り込まれた方形土壙に接続している。方形をなす上段は長さ100cm、幅67cm、深さ16cm、楕円形を呈する下段は長さ69cm、幅39cm、深さ20cmを測る。高床部の間の床面は貼り床を施されており、その中央西よりには径59cm、深さ10cmの楕円形を呈する土壙が穿たれている。壁面はわずかに被熱し、炭・灰層が薄く遺存していた。また、その西側では、長さ45cm、幅33cm、深さ12cmの方形をなす土壙が検出された。これらの土壙からは完形の土器が出土している。

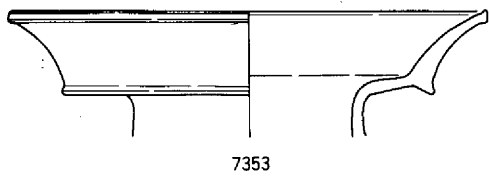
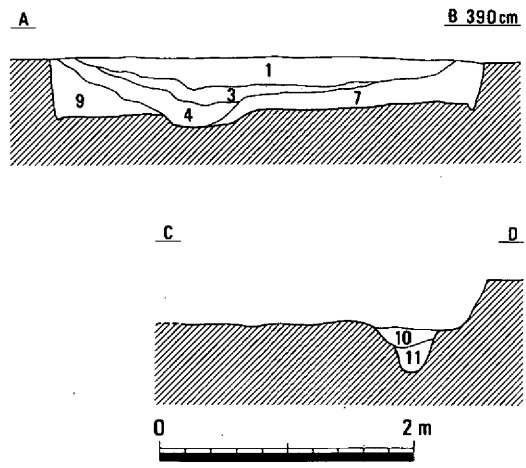
出土遺物には壺や甕・高杯・鉢のほか鉄鎌がある。壺には在地系の7354・7355と非在地系の7353とがある。く字形口縁をもつ甕7365は、褐色の胎土に角閃石を含む畿内からの搬入品である。短い二重口縁に櫛描沈線を飾る7358~7364は在地の甕で、体部は球形をなす。鉢には浅い体部から屈折して開く口縁部をもつ7370・7371と、皿形をなす7369、製塩に用いられた7372がある。鉄鎌M269は長さ12.2cm、幅3.3cm、重量27gを測る。刃部は内湾し、基部は左に折り曲げている。これらの遺物は竪穴住居-302のものより後出し、古・前・IIに位置付けられる。

(亀山)

第3章 調査区の概要



- 1 褐灰色微砂
- 2 暗灰色微砂
- 3 暗灰色微砂
(黄色ブロックを含む)
- 4 黄褐色微砂
- 5 黒灰色粘質微砂
- 6 暗黄茶色
- 7 黄茶褐色微砂
- 8 暗褐色微砂
- 9 黄茶色微砂
- 10 暗褐色微砂
- 11 暗褐色粘質微砂
- 12 淡褐色微砂
- 13 暗褐色粘質微砂



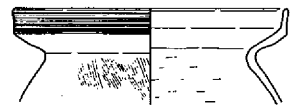
7353



7356



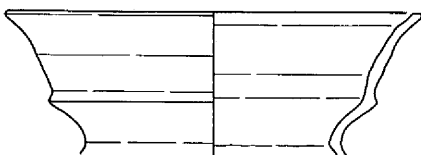
7354



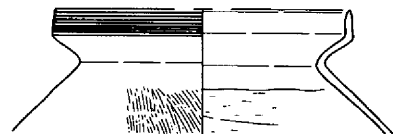
7357



7358

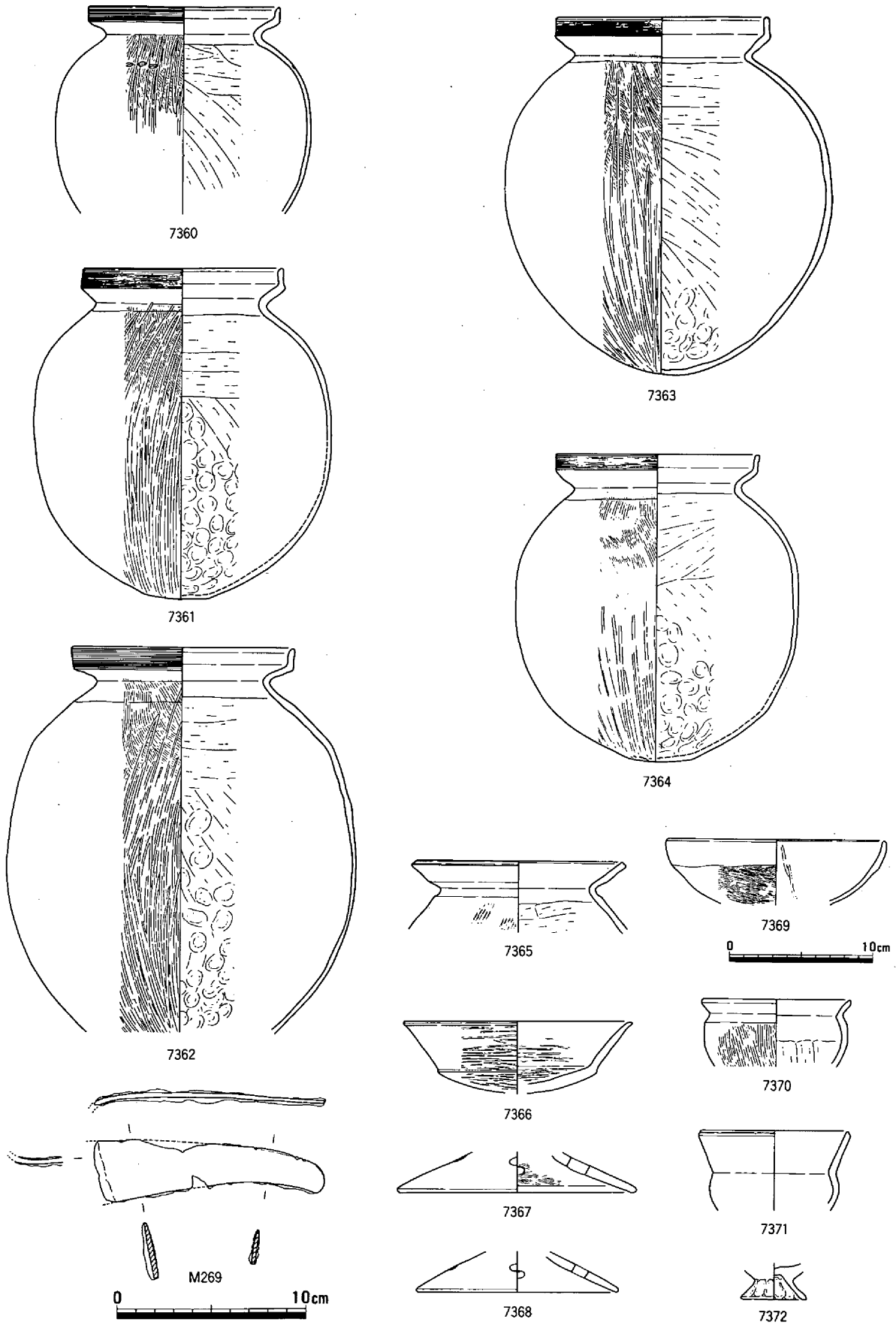


7355



7359

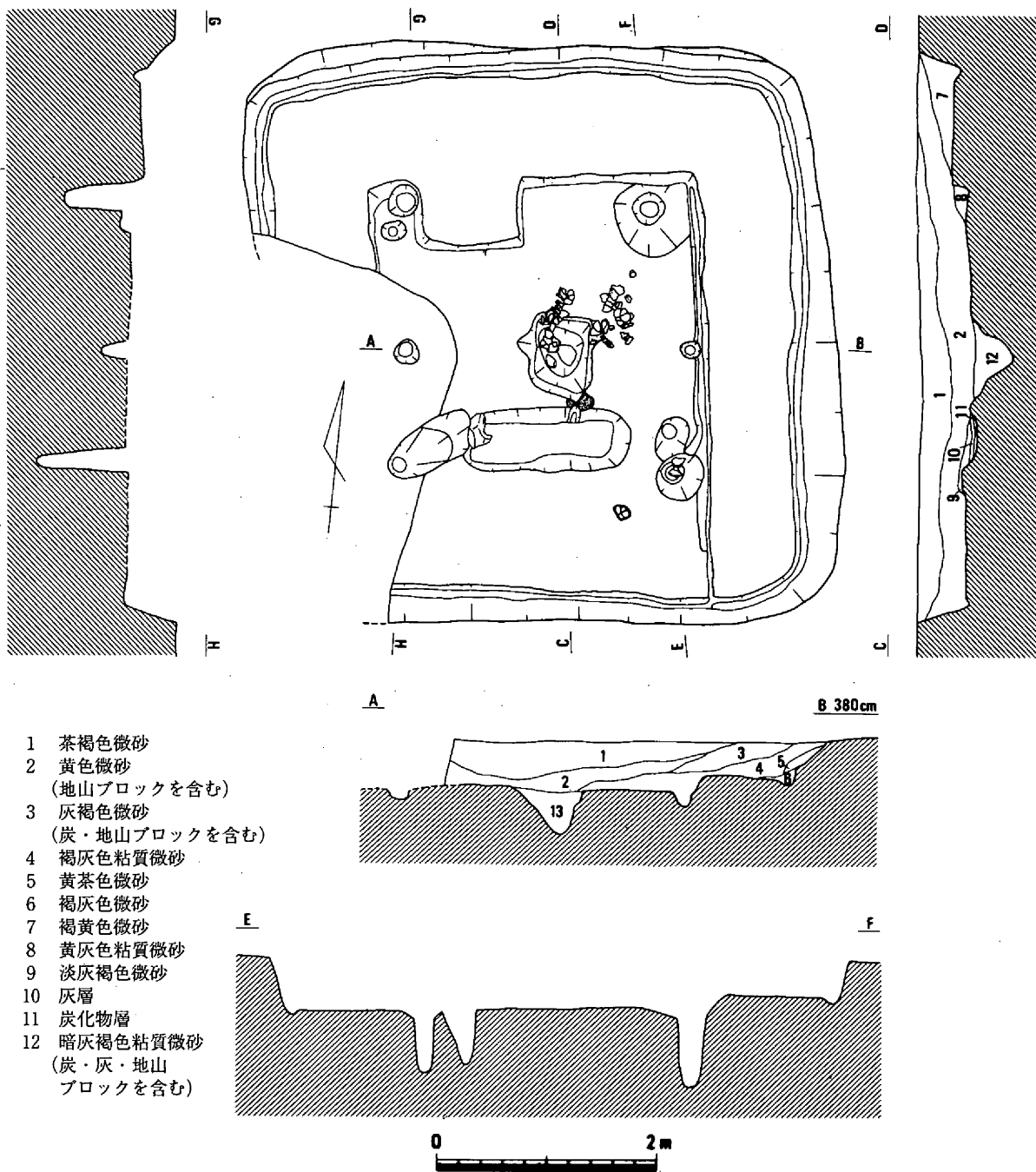
第402図 竪穴住居-303(1/60)・出土遺物(1)



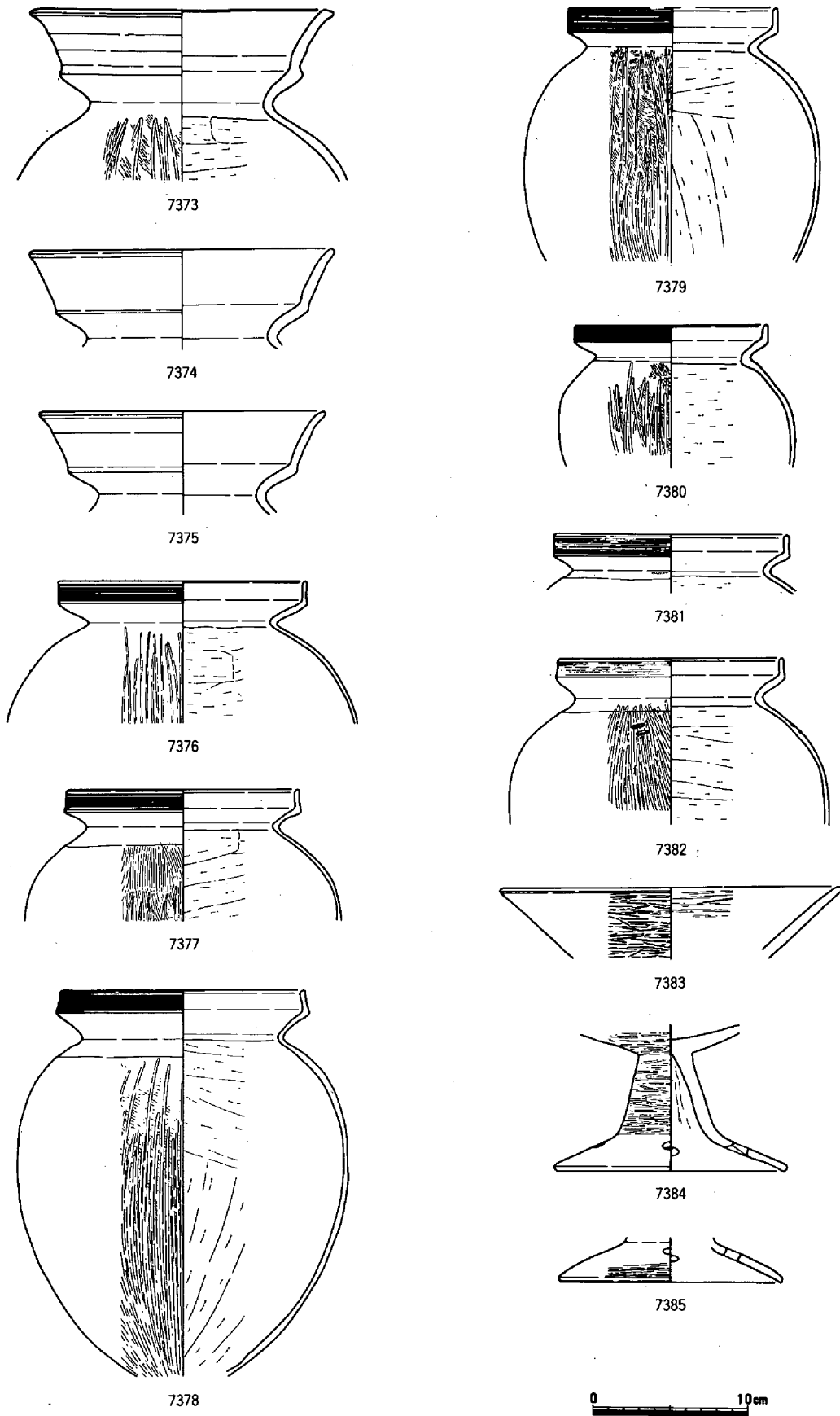
第403図 豎穴住居-303出土遺物(2)

竪穴住居-304 (第404~406図)

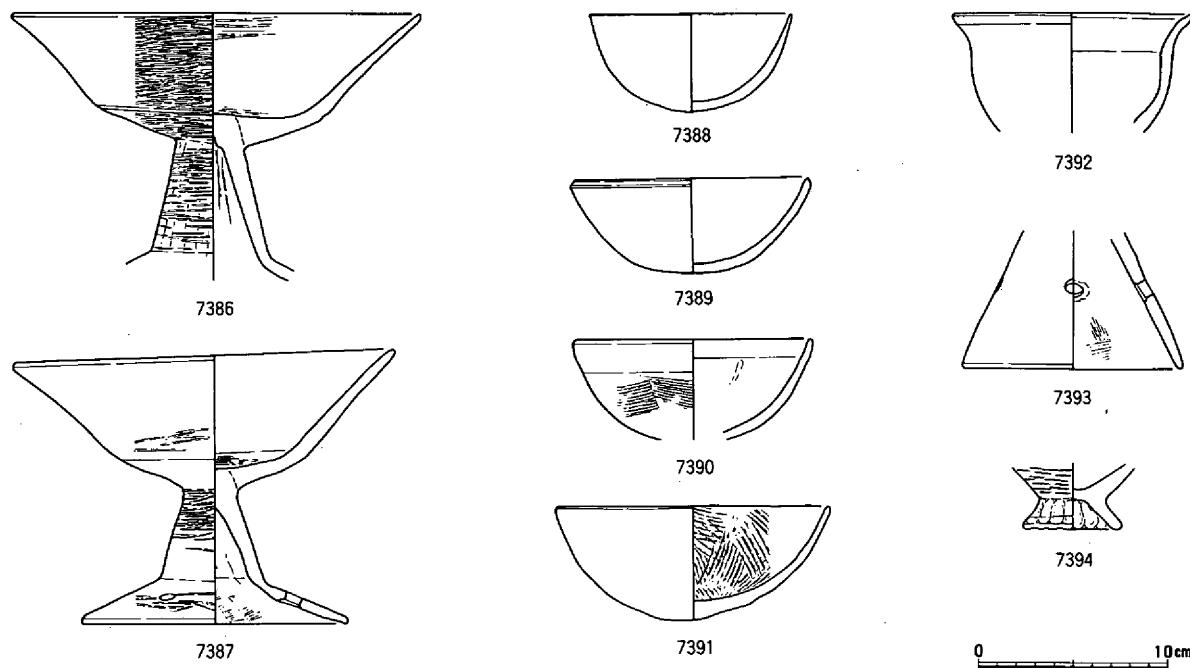
竪穴住居-302の北西下層で検出した住居で、P17区の南西に位置する。南西は竪穴住居-306に切られているため正確な規模は明らかでないが、現状では長さ526cm、幅518cmの方形を呈する。検出面からの深さは47cmあり、床面の標高は307cmを測る。その周囲には幅12cm、深さ6cmの壁体溝がめぐり、その面積は約24m²と推定される。南を除く3方の床面には、黄褐色土を盛り上げて幅112cm、高さ13cmの高床部が設けられている。このうち北辺には、長さ100cm、幅53cmを測る方形の張り出しがつくりだされている。また東辺の内縁には狭い溝が走るが、高床部の構築に伴う痕跡と考えられる。高床部の内縁に接して据えられた4本の支柱は、壁体から140~160cmの位置にある。柱間は227~250



第404図 竪穴住居-304 (1/60)

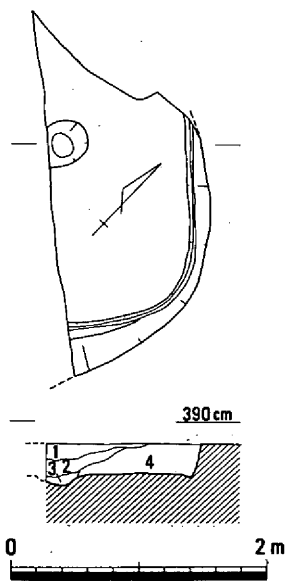


第405図 竪穴住居-304出土遺物(1)



第406図 竪穴住居-304出土遺物(2)

cmあり、柱穴の掘り方は径47cm、深さ72cmを測る。また、東西の柱筋の中ほどには、径23cm、深さ24cmの柱穴があり、桁を支持する補助柱の痕跡と考えられる。主柱に囲まれた床面の中央には、2段に掘り込まれた方形の土壇が設けられている。上段は長さ78cm、幅57cm、深さ14cmの方形をなすのに対し、下段は長さ48cm、幅38cm、深さ26cmの不整円形を呈する。埋土には炭・灰が含まれていた。その南に接して穿たれた長方形の土壇は、長さ153cm、幅61cm、深さ12cmあり、底面にはやはり炭・灰層が薄く遺存していた。



- 1 茶褐色微砂
- 2 茶褐色微砂
(地山ブロックを多く含む)
- 3 暗灰色微砂 (炭を含む)
- 4 灰色微砂

第407図 竪穴住居-305
(1/60)

遺物は中央穴周辺からまとまって出土している。壺7373~7375は上方に開く二重口縁をもつ。7376~7382は短い二重口縁に櫛描沈線をめぐらす甕で、体部は倒卵形をなす。高杯は、屈折して広がる杯部に別づくりの脚部を挿入して接合しており、裾脚部には3ないし4つの透かし孔を穿つ。7388~7391は碗形をなす鉢で、内外面にハケメを残すものがある。器台7393は脚台部のみであるが、脚径に比して脚高は高く、裾部に4つの透かし孔を飾る。これらの土器は古・前・Iに位置付けられるもので、切り合い関係からしても竪穴住居-306に先行し、竪穴住居-302に後出する。(亀山)

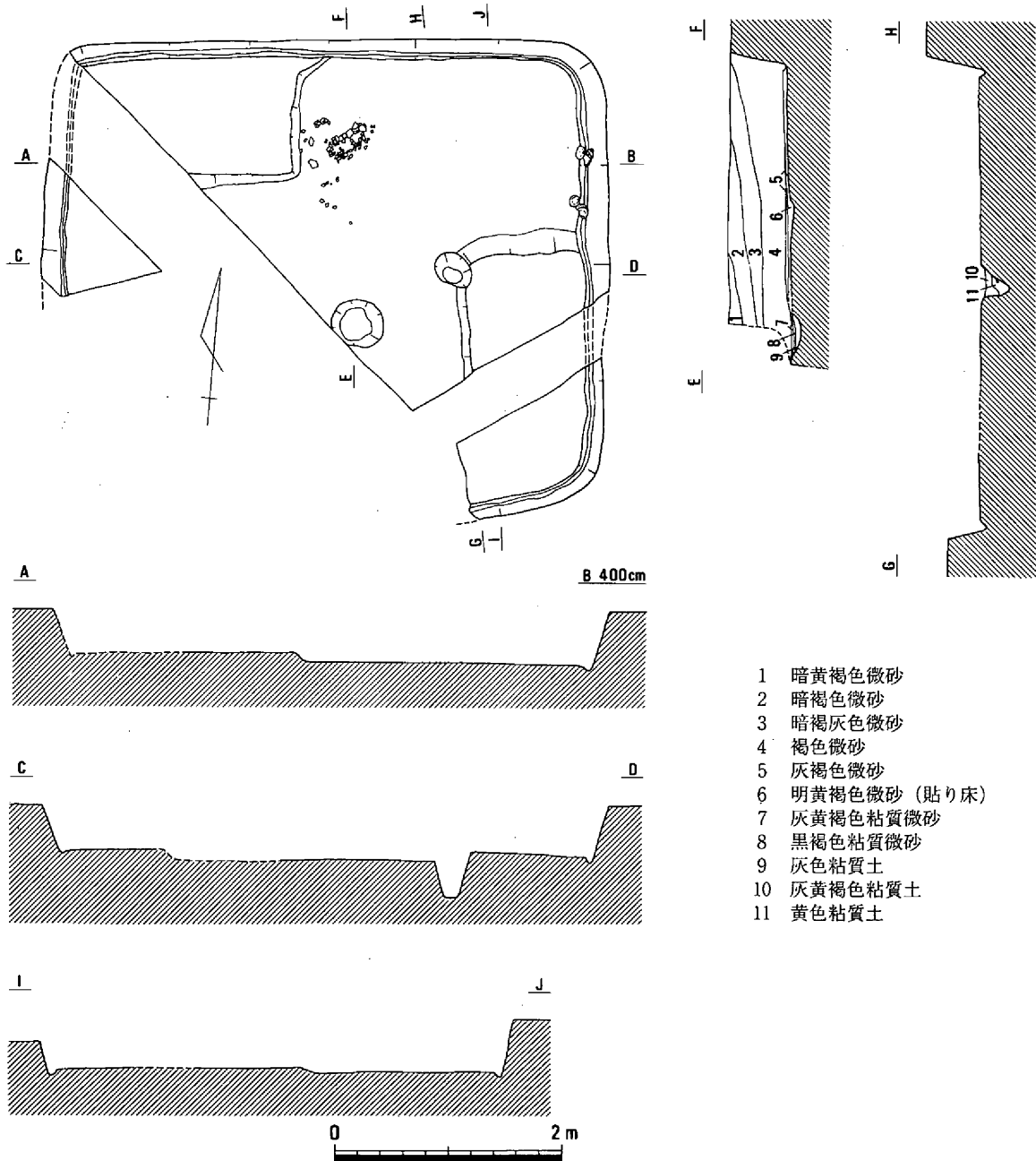
竪穴住居-305 (第407図)

竪穴住居-302・306に切られており、東隅を確認するにとどまった。このため全体の規模は不明であるが、現状の深さは23cmあり、床面の標高は349cmを測る。床面の周囲には幅7cm、深さ5cmの壁体溝がめぐり、これから80cm離れた位置で、径38cm、深さ7cmの浅

い土壌を検出している。遺物は出土していないが、その切り合い関係からすれば弥生時代末まで遡る可能性がある。
(亀山)

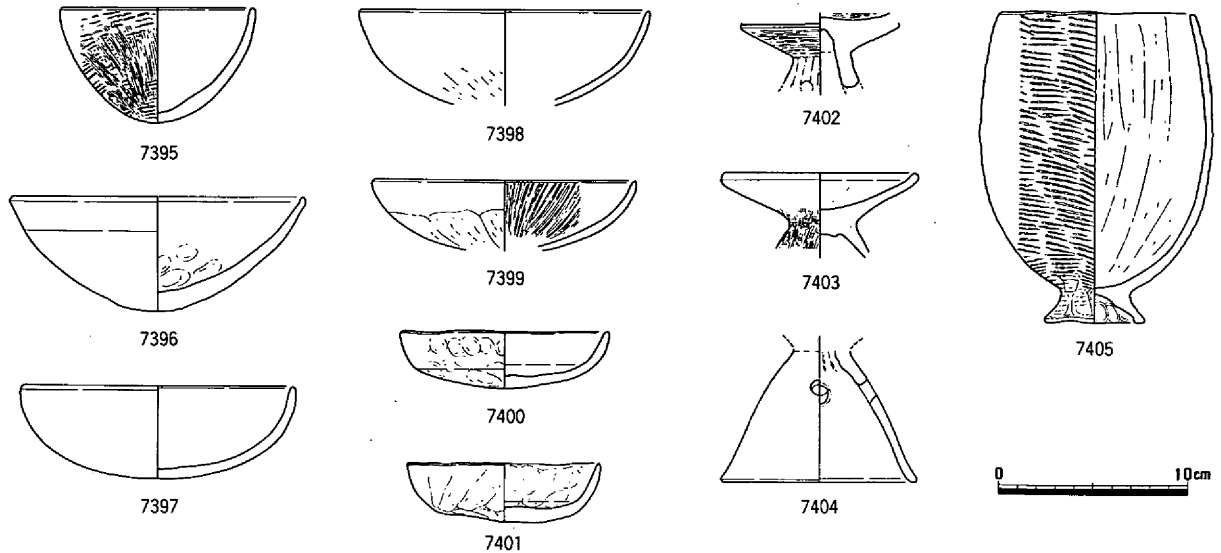
竪穴住居-306 (第408・409図)

Q18区の南西に位置する住居で、竪穴住居-302の北東上層で検出した。南西隅は検出できなかったが、現状では長さ500cm、幅420cmの、N-84°-Eに長軸をもつ長方形を呈する。検出面からの深さは53cmあり、標高329cmを測る床の面積は約18m²と推定される。幅8cm、深さ6cmの壁体溝がめぐる床面の北と東には、幅120cm、高さ7cmの高床部が設けられている。北の高床部は西へつながっているが、南が未検出であるため、東と一連のものであるかどうか明らかでない。東の高床部に接して柱穴が1基検出されている。径37cm、深さ24cmあり、その位置関係からすれば主柱は2本で構成され



- 1 暗黄褐色微砂
- 2 暗褐色微砂
- 3 暗褐色灰色微砂
- 4 褐色微砂
- 5 灰褐色微砂
- 6 明黄褐色微砂 (貼り床)
- 7 灰黄褐色粘質微砂
- 8 黒褐色粘質微砂
- 9 灰色粘質土
- 10 灰黄褐色粘質土
- 11 黄色粘質土

第408図 竪穴住居-306 (1/60)



第409図 竪穴住居-306出土遺物

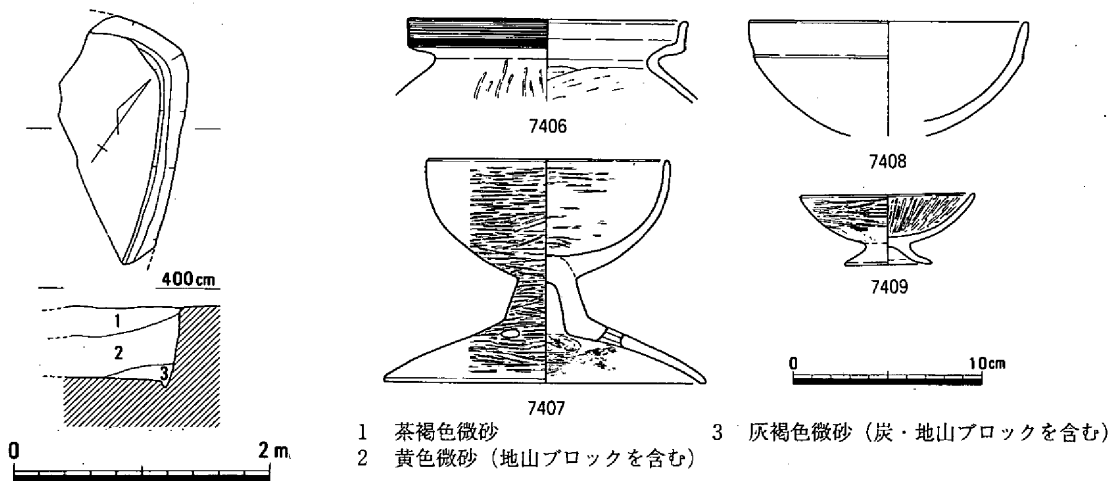
ていたと見られ、その柱間は230cm前後と想定される。床面の中央南よりには、径47cm、深さ8cmの土壇が設けられている。壁面はわずかに被熱し、炭・灰層が薄く遺存していた。

遺物は北東の床面から出土しているが、小形の器種が多く、その量も少ない。鉢には碗形の7395と皿形の7396~7401がある。このうち、7395は外面に叩きを残す非在地系の土器であり、7400・7401は手捏ね土器である。7402~7404は小形の器台で、他地域から搬入された可能性もある。7405は製塩に用いられた深鉢形の土器であるが、被熱の痕跡はない。これらは竪穴住居-302出土の土器に後出し、古・前・Ⅱに比定される。
(亀山)

竪穴住居-307 (第410図)

竪穴住居-306の西11mで検出した方形住居の北隅部分で、P17区の南東に位置する。検出面からの深さは57cmあり、幅11cm、深さ5cmの壁体溝がめぐる床面の標高は328cmを測る。

出土遺物には甕や高杯、鉢などがある。このうち7409は小さな脚台を備えた皿形をなす山陰系の土器である。これらは古・前・Ⅱに位置付けられる。
(亀山)



- 1 茶褐色微砂
- 2 黄色微砂 (地山ブロックを含む)
- 3 灰褐色微砂 (炭・地山ブロックを含む)

第410図 竪穴住居-307(1/60)・出土遺物

竪穴住居—308・309（第411・412図）

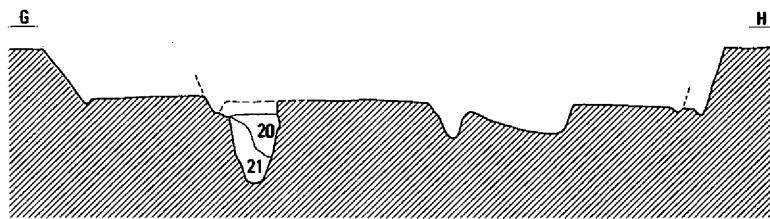
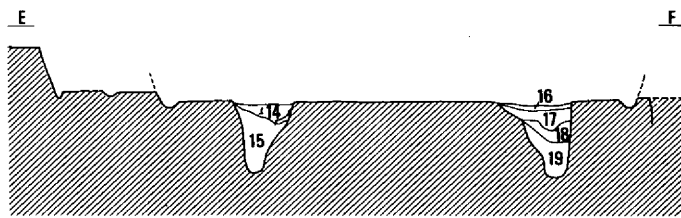
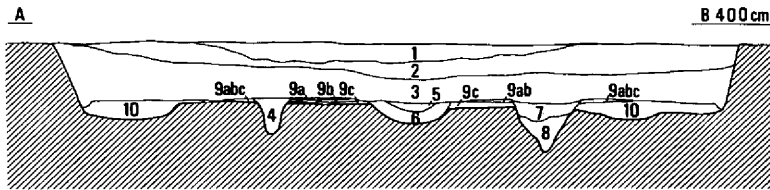
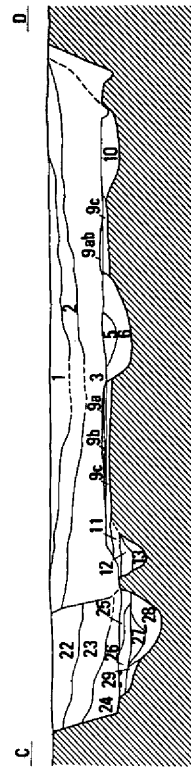
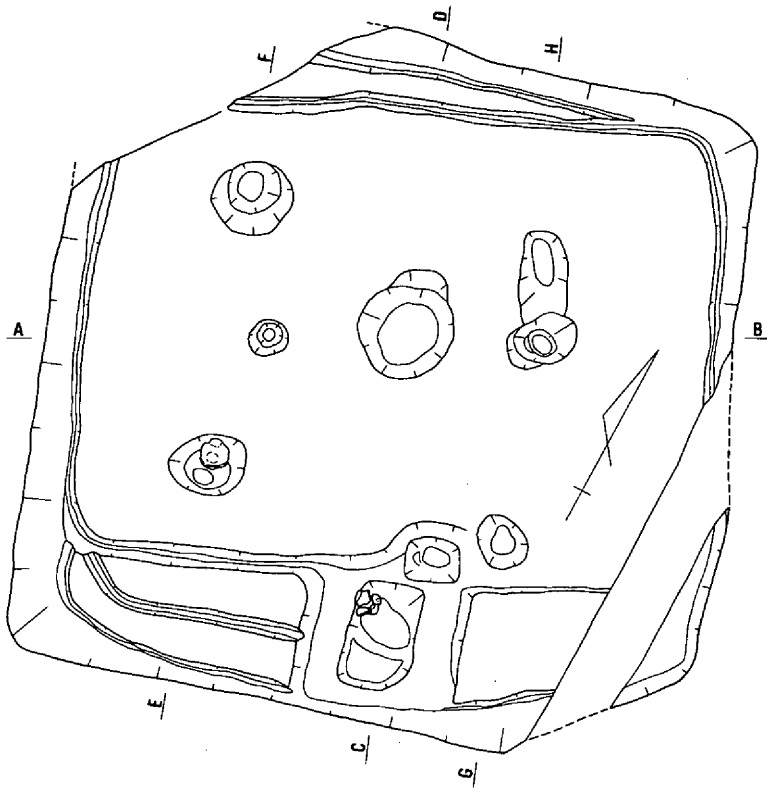
竪穴住居—304の北12mで検出したもので、3軒の住居が重複している。長さ465cm、幅542cmを測る竪穴住居—308 aは、長さ548cm、幅542cmを測る308 bへと拡張されている。検出面からの深さは52cmで、床面の標高は340cmを測る。南東辺の中央に設けられた長さ60cm、幅52cm、深さ33cmの方形土壙は、住居の拡張にともなって南へ30cmほど広がっている。その東西には高床部が設けられていたようで、この土壙の周辺よりも7cmほど高くなっている。主柱は4本あり、その柱間は231~241cmを測る。竪穴住居—308からは、壺・鉢・小形壺が出土している。二重口縁をもつ壺7410は在地の土器で、丸い体部は外面をハケメ、内面をヘラケズリで調整する。いずれも古・前・Ⅱに属するものである。

竪穴住居—309は長さ535cm、幅368cmを測り、長軸をN-64°-Eにもつ17m²あまりの長方形を呈する。検出面からの深さは41cmあり、標高345cmを測る床面の周囲には幅13cm、深さ7cmの壁体溝をめぐらしている。この壁体溝に接続するように、南東辺の中央には長さ43cm、幅36cm、深さ32cmの長方形を呈する土壙が掘り込まれている。主柱は2本あり、壁体からそれぞれ130・150cmの位置にある。柱穴の掘り方は径52cm、深さ41cmあり、その柱間は215cmを測る。床面の中央には径78cm、深さ21cmの円形をなす土壙が穿たれている。竪穴住居—309からは甕・高杯・鉢のほか、土錘や鉄鏃が出土している。C259~264は管状土錘で、長さ6.5~7.8cm、径2.7~3.0cm、重量43~68gある。鉄鏃M270は茎を欠いているが、木葉形の身をもつもので、長さ3.8cm、幅1.7cm、重量4.3gある。これらは古・前・Ⅰでも新しい特徴を有している。 (亀山)

竪穴住居—310（第413~418図）

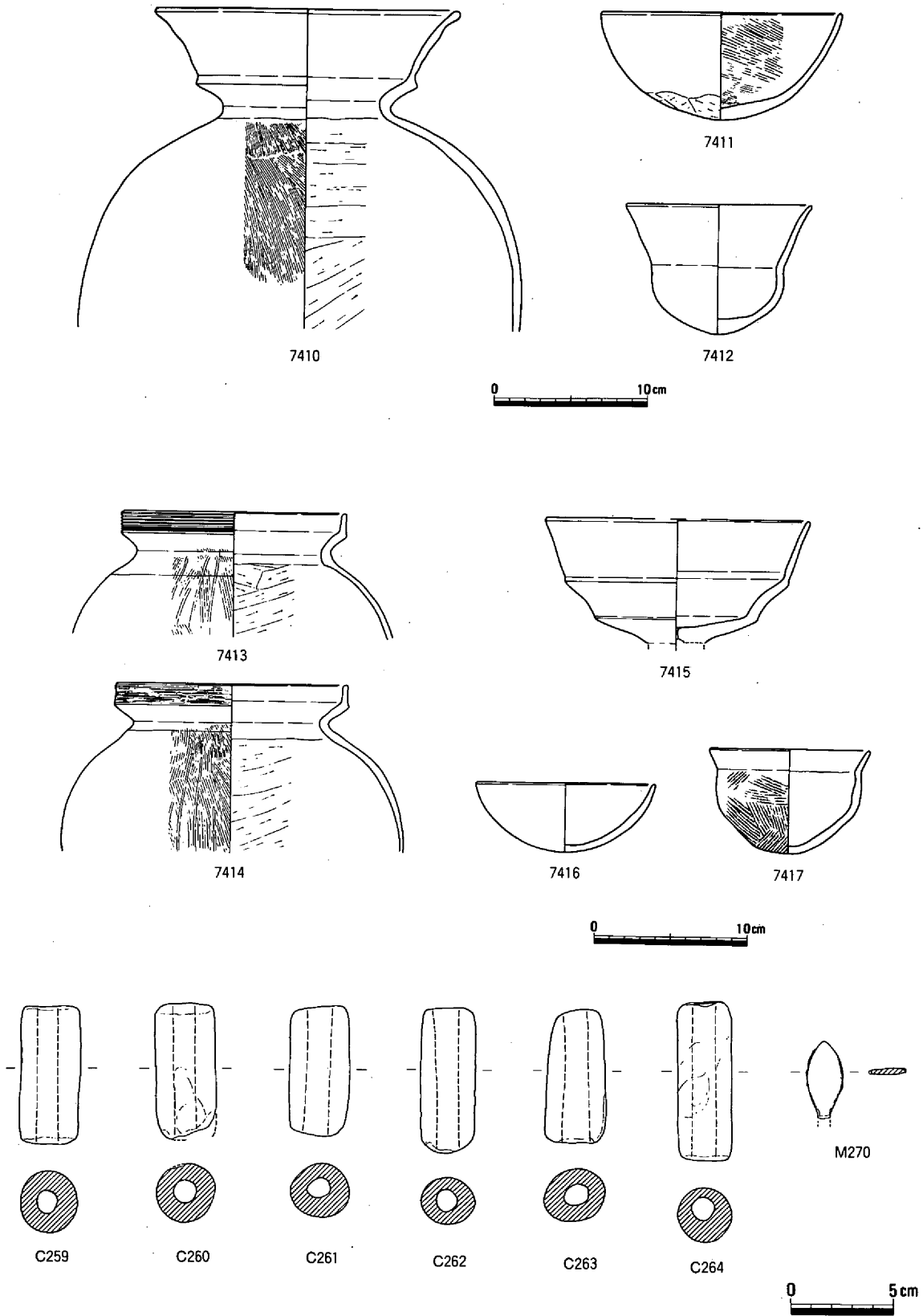
P18区の南西に位置し、竪穴住居—308・309の北西1mで検出した。長さ461cm、幅376cmの長方形をなし、主軸をN-53°-Eにおく。検出面からの深さは52cmで、床面の標高は340cmを測る。14m²ある床面の周囲には幅20cm、深さ13cmの壁体溝がめぐっている。南西を除く3方には、幅110cm、高さ8cmの高床部が設けられている。北の高床部には長さ82cm、幅48cm、深さ34cmを測る方形の土壙が掘り込まれている。また、高床部の途切れる南西の壁際にも方形土壙が穿たれている。2段に掘り込まれた上段は長さ92cm、幅80cm、深さ20cmの方形を呈し、下段は長さ56cm、幅38cm、深さ18cmの不整形円形をなす。この土壙の北東縁に接して溝状の窪みが見られる。長さ40cm、深さ5cmを測るが、その具体的な機能については明らかでない。2本ある主柱は高床部に接して据えられており、その柱間は195cmを測る。柱穴の掘り方は径55cm、深さ47cmあり、径15cmほどの柱痕跡が確認されている。

埋土の上層からは、壺・甕・高杯・鉢などの土師器のほか土錘、銅鏡といった遺物が廃棄された状態で多量に出土している。大きく開く二重口縁をもつ7418は、畿内に系譜をもつ壺である。7420は外面に丹塗りを施す壺で、県北部から持ち込まれたものと思われる。7423~7426は在地の壺である。7433~7455は二重口縁をもつ甕で、球形をなす体部の肩にはA1・A2・B2・B3類の刺突記号が見られる。く字形口縁をもつ甕はいずれも非在地系土器で、7460は畿内から搬入された可能性がある。高杯は長脚の7462~7475と短脚の7476~7479に分けられる。いずれも脚部は中空につくられ、裾には3つの透かし孔を飾る。7480~7490は皿形の鉢で、7494・7495は二重口縁をもつ大形の鉢である。製塩土器7499~7504は脚台を備えた深鉢形をなす。器台7496~7498は脚径に比して器高が低く、裾部に4つの透かし孔を穿つ。銅鏡M271は、面径6.6cmの重圈文鏡である。縁は幅1.1cm、厚さ0.3cmの平縁で、幅0.6cmの外区には櫛歯文を飾り、内区には3重の圈線をめぐらす。鈕は径1.5cm、高さ0.5cmの半球形をなし、断面長方形の孔を穿つ。これらは古・前・Ⅱでも新しい様相を示すものが多い。(亀山)

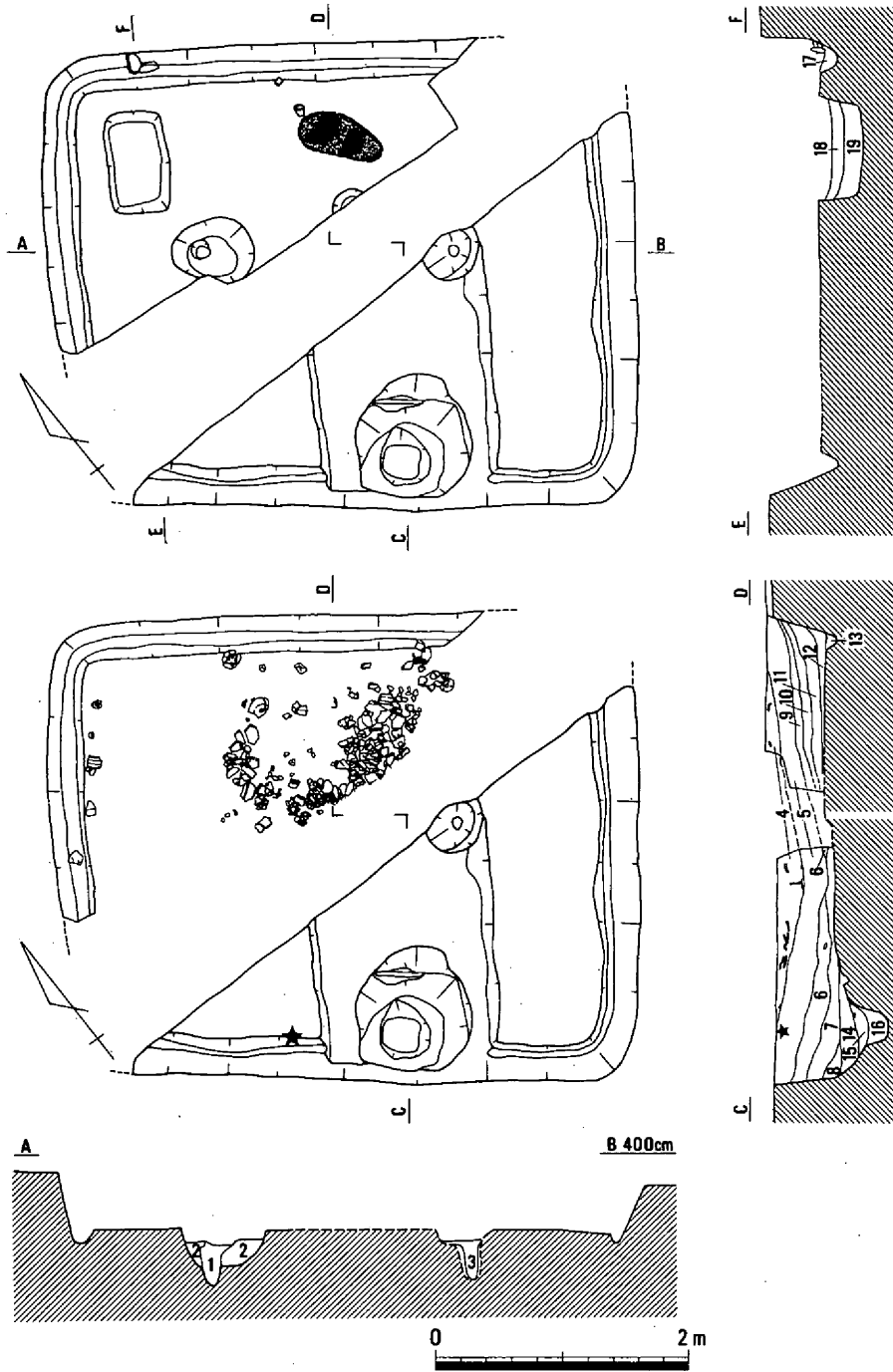


- 1 暗褐色微砂
- 2 褐色微砂
- 3 淡青灰褐色微砂
- 4 灰褐色微砂
- 5 暗灰褐色粘質微砂
- 6 暗灰褐色微砂
- 7 灰褐色粘質微砂
- 8 灰黄褐色粘質微砂
- 9 a 床 a (新)
- 9 b 床 b (中)
- 9 c 床 c (古)
- 10 暗黄褐色粘質微砂
- 11 灰黄褐色粘質微砂
- 12 灰黄褐色粘質微砂
- 13 灰黄褐色微砂
- 14 暗褐色粘質土
- 15 暗茶色粘質土
- 16 暗灰褐色微砂
- 17 暗灰黄褐色粘質微砂
- 18 灰黄褐色粘質微砂
- 19 暗褐灰色粘質微砂
- 20 暗褐色粘質微砂
(黄色ブロックを含む)
- 21 暗黄褐色粘質土
(黄色ブロックを含む)
- 22 暗褐色微砂
- 23 淡青灰褐色微砂
- 24 暗青炭褐色微砂
(炭・焼土を含む)
- 25 褐色粘質微砂
- 26 暗褐色粘質微砂
- 27 暗黄褐色微砂
- 28 暗褐色粘質微砂
- 29 暗黄褐色粘質微砂

第411図 竪穴住居-308・309(1/60)

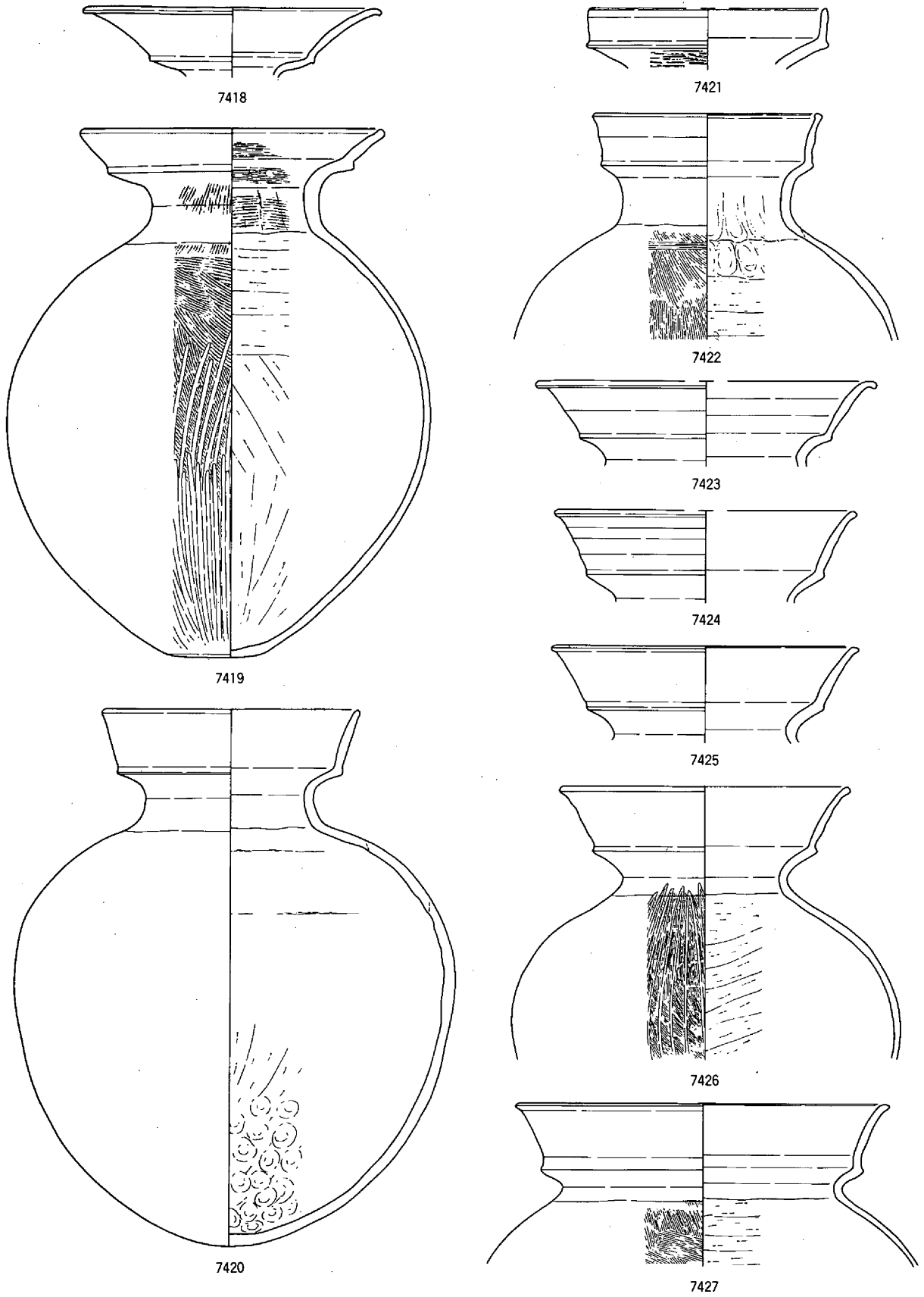


第412図 豎穴住居-308・309出土遺物

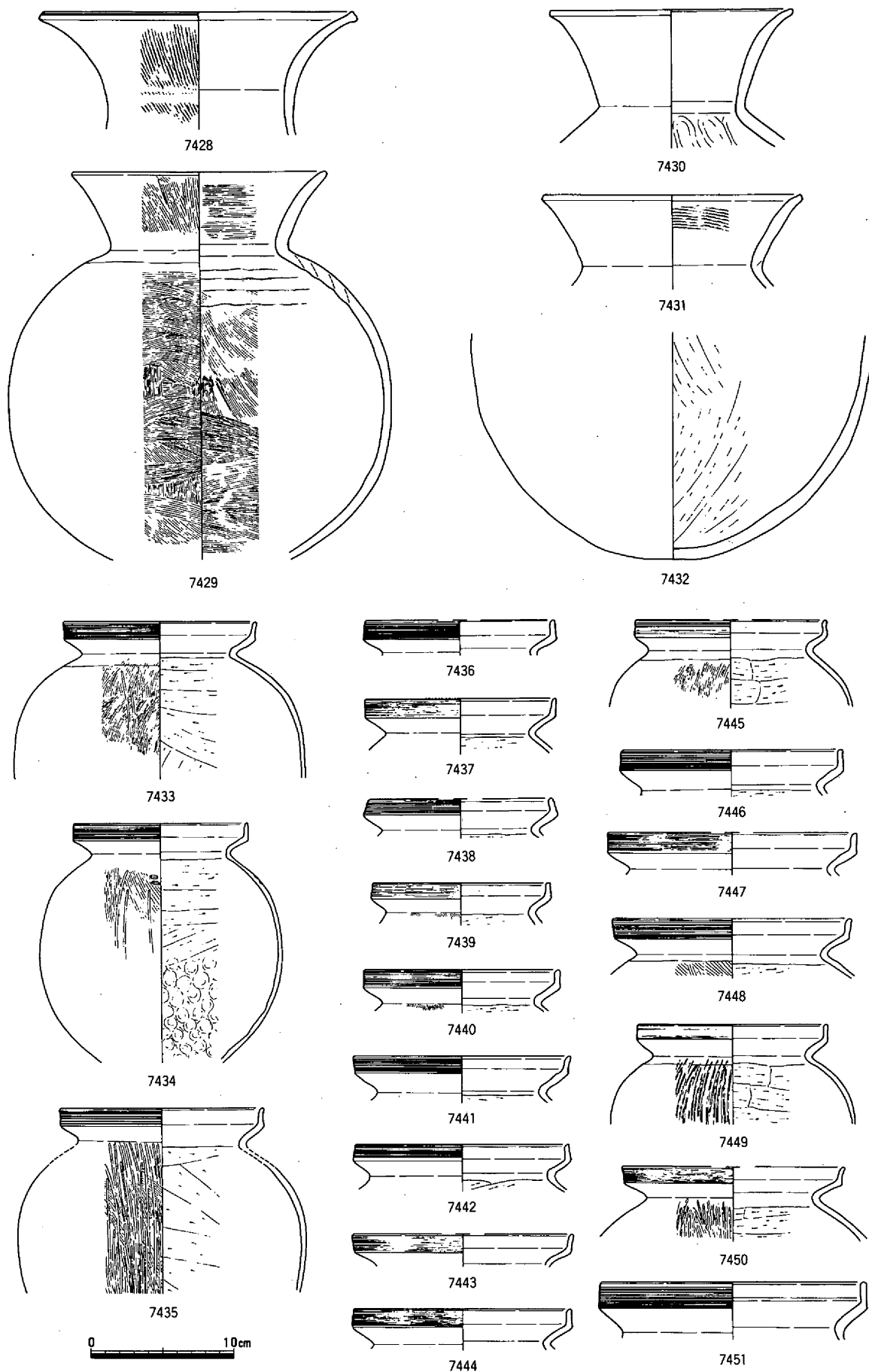


- | | |
|--------------|----------------|
| 1 灰黒色粘質微砂 | 11 灰黒色粘質微砂 (炭) |
| 2 茶褐色粘質微砂 | 12 茶褐色粘質微砂 (炭) |
| 3 暗灰黄褐色粘質土 | 13 (耕作土) |
| 4 暗褐色粘質微砂 | 14 暗褐色粘質微砂 |
| 5 褐色粘質微砂 | 15 暗灰黄褐色粘質土 |
| 6 淡青灰黄褐色粘質微砂 | 16 暗褐色粘質微砂 |
| 7 淡青灰褐色粘質微砂 | 17 淡茶褐色微砂 |
| 8 黄褐色細砂 | 18 淡茶褐色微砂 |
| 9 淡茶褐色微砂 | 19 淡茶褐色粘質微砂 |
| 10 淡茶褐色粘質微砂 | |

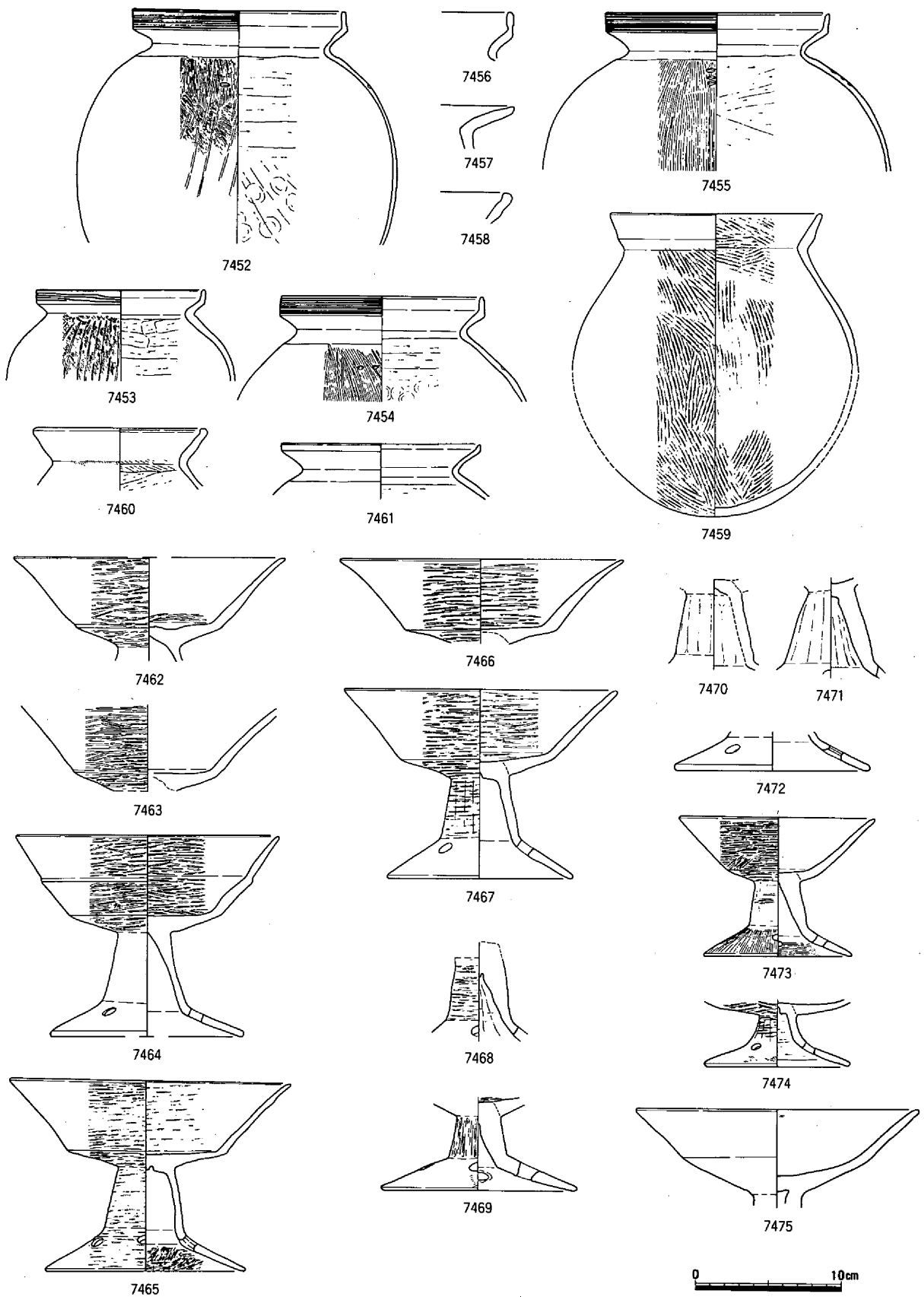
第413図 竪穴住居-310(1/60)



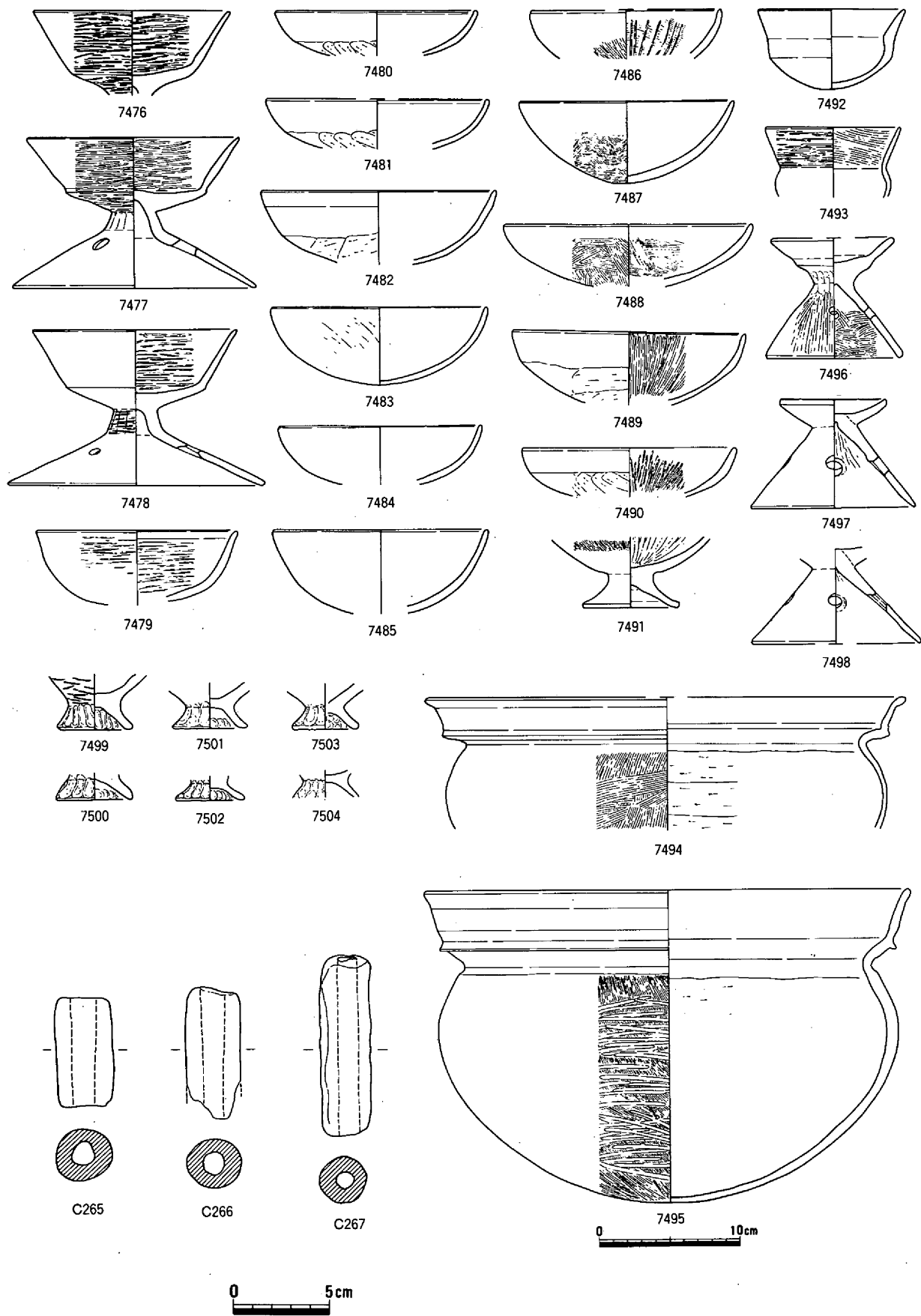
第414図 竪穴住居-310出土遺物(1)



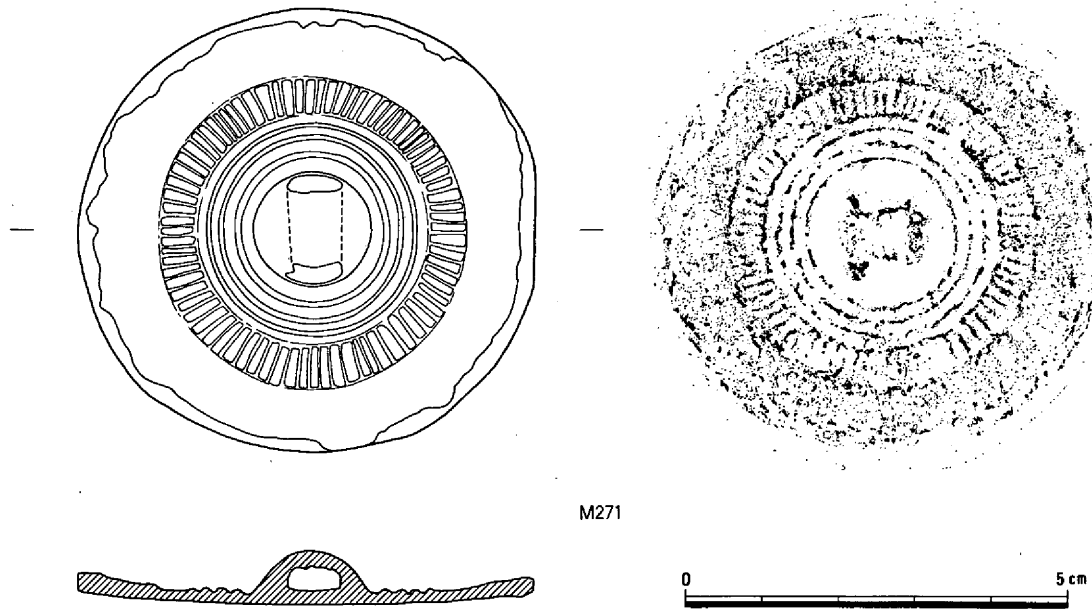
第415図 竪穴住居-310出土遺物(2)



第416図 竪穴住居-310出土遺物(3)



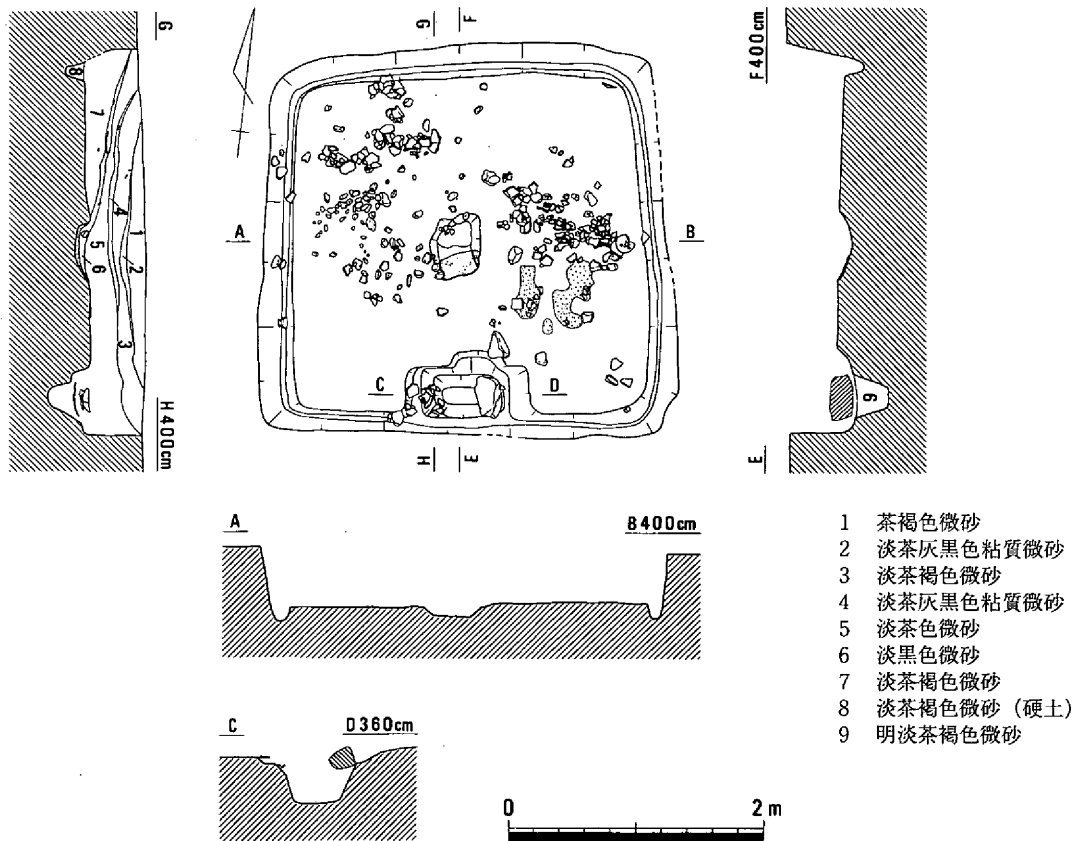
第417図 竪穴住居-310出土遺物(4)



第418図 豎穴住居-310出土遺物(5)

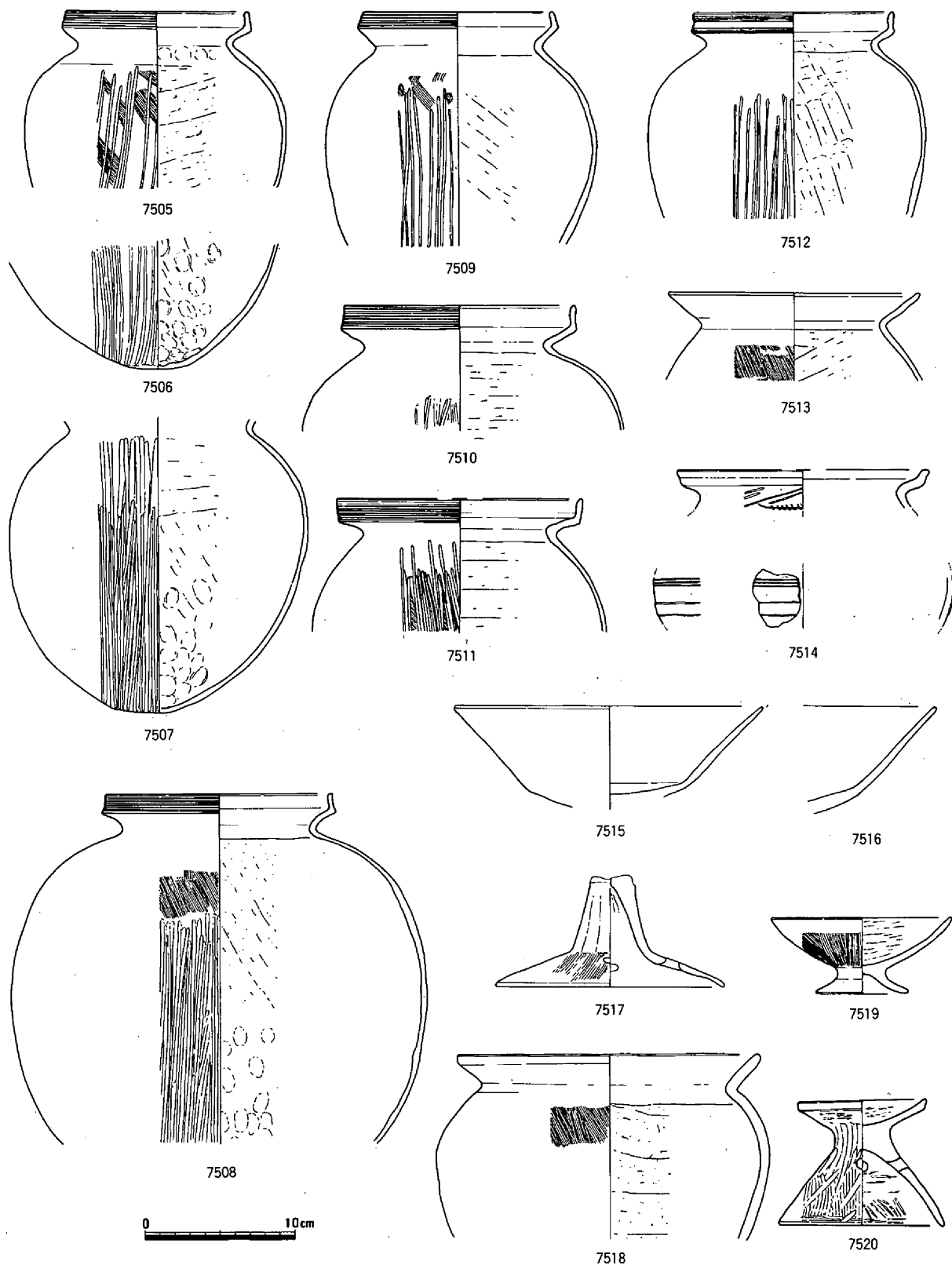
豎穴住居-311 (第419・420図)

P17区の東南、18線の西側に所在し、豎穴住居-312の西側6.5mに位置する。水田耕作土、床土の



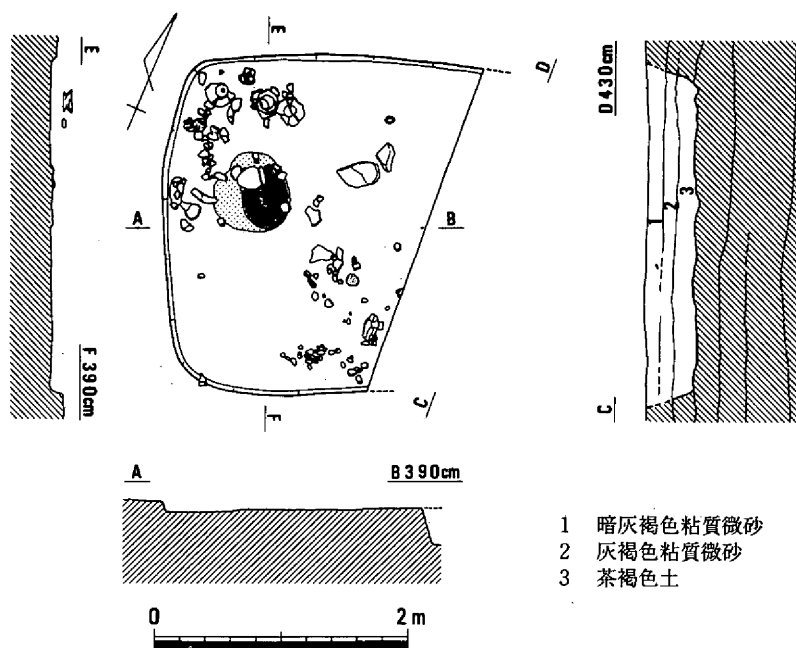
第419図 豎穴住居-311(1/60)

除去後に検出した方形の竪穴住居であり、厳密には南辺が北辺より広い形態の台形を呈する。長さ330cm、幅310cm、床面積8.15m²、床面海拔高341.3cmをはかる小形の住居である。埋土はレンズ状の堆積で7層からなり、すべて茶褐色系の微砂を基調にしている。第2、4、6層の細い帯は炭を中心



第420図 竪穴住居一311出土遺物

に焼土粒を含み、第6層には土器片を多く含む。床面に接する土器は少なく、大半が第6層の傾斜に沿う格好で投棄されており、土器以外では河原石、粘土塊等がみられる。河原石は西側、土器は北西側、河原石・粘土・土器の混在は東側から投げ込まれた状況を呈している。ちなみに、住居内河原石の重量は12.87kgをはかり、1石が200~300gのものが多い。床面には壁体溝、方形土壇、中央穴、焼土面がみられ、柱穴、高床



第421図 竪穴住居-312(1/60)

部は設けられていない。中央穴は長さ50cm、幅40cm、深さ約10cmをはかり、南北に長い隅丸方形を呈し、土壇底は北側にあり、南側には東西35cm、南北18cmをはかる焼土面がみられる。他の中央穴に伴う焼土面と同様、方形土壇に向く方向が激しく焼土化している。方形土壇は通常の2段からなり、上段上端98×60cm、深さ13cm、下段上端65×34cm、深さ27.5cmをはかる。本土壇は第9層の明淡茶褐色微砂で埋没しており、埋没後の東端部に35×20cm、厚さ17cmの大きな石が置かれている。

遺物で床面近くから出土したものに、低脚杯7519、器台7520の2点があり、他はすべて廃棄後に少し時間が経過してから投げ込まれたものである。東側からは甕7505・7506・7509・7512・7513、高杯7516・7517等が投棄され、北西側からは甕7507・7508・7518、高杯7515等が投棄されている。甕7510は方形土壇の上面、甕7511は壁体溝内、甕7514は住居北側から出土している。製塩土器の小片が土壇化の状態出土している。

胎土分析では甕7513が県南、甕7514が東海、低脚杯7519が山陰の胎土領域に入る結果が出ている。

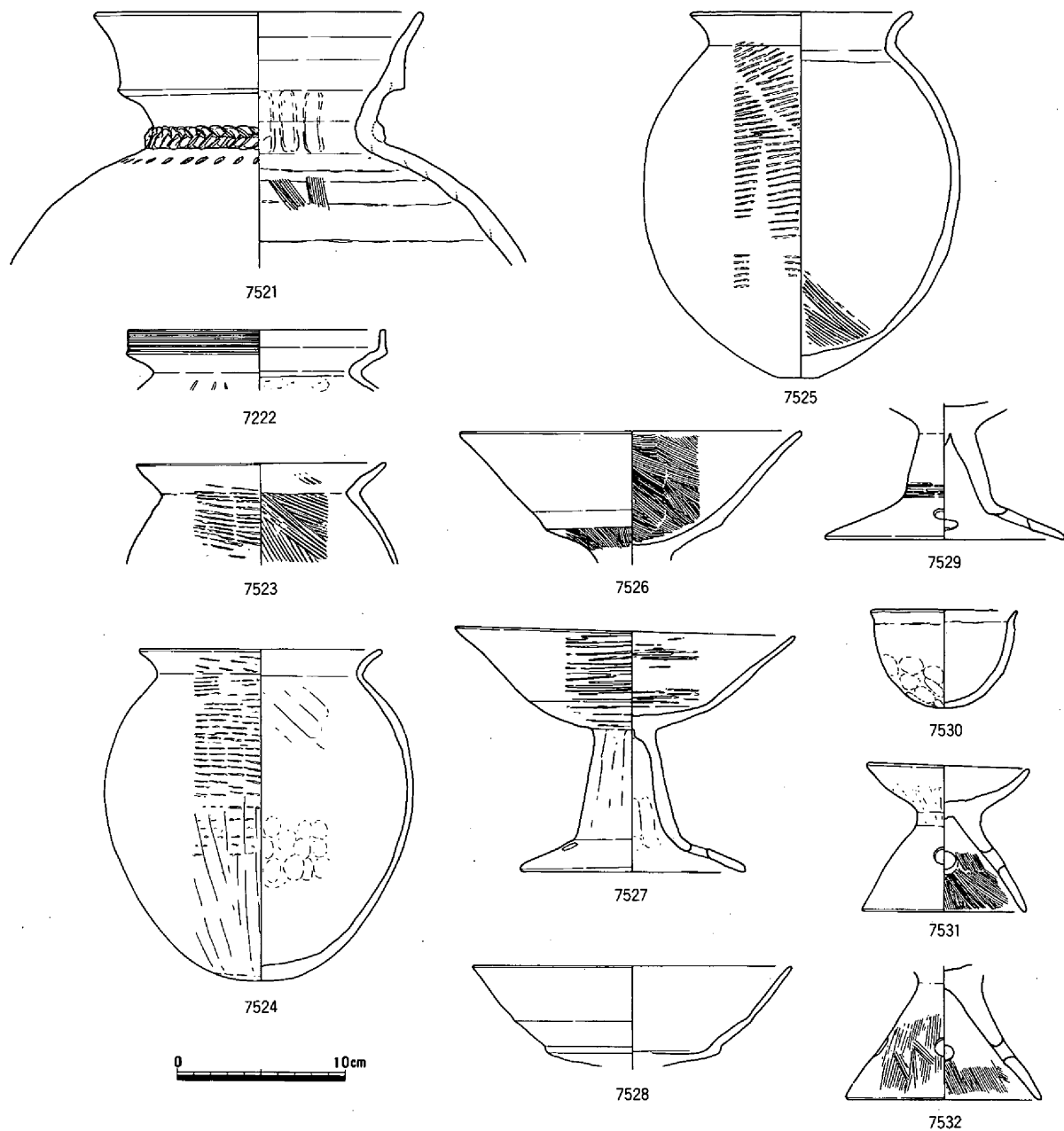
古・前・Iの中相に比定することが可能である。

(高畑)

竪穴住居-312 (第421・422図)

P17区の東南、橋脚(P7区)に所在し、竪穴住居-311の東側6.5mに位置する。竪穴住居-311と同様に水田床土の除去後に検出された隅丸方形の竪穴住居である。長さ(3.20)m以上、幅268cm、床面海拔高368cmをはかり、平面形が東西に長い小形の住居である。埋土は3層であり、微砂が基調となっている。床面には高床部、壁体溝、柱穴はみられず、焼成土壇のみである。火所は西壁に近い場所に設けられており、45×39cmの範囲が被熱し、さらに内側の35×29cmには硬質の焼土面が幅7cmで環状に巡っている。ドーナツ形の焼土面内側に2cm位低くなっており、浅い焼成土壇を形成している。被熱範囲をうまわる63×60cmの炭分布が認められ、炉および周辺を覆っている。

遺物は住居廃棄に投棄されたものと考えられ、床面に接着するものは認められない。しかし、住居中央北側にある35×18cm、厚さ12cmの花崗岩製の平坦面をもつ石だけが床面に置かれている。遺物は



第422図 竪穴住居-312出土遺物

北西、南の二方向から投げ込まれた状況を呈し、北西側に土器が多く、南側では土器が少なく、河原石、粘土塊などが見られる。炉を中心にそこより北西側から出土したものに壺7521、甕7523・7524、高杯7526・7527・7528・7529、鉢7530、器台7531、南では甕7522・7525、器台7532がある。どの器種も破損をしているものであり、7524、7525、7527等が復元可能になったものである。壺7521の胴部内面は粘土紐の輪積み痕跡をよく留めており、外面頸部には粘土紐の貼り付け、肩部に刺突による列点文が一巡する。甕7523～7525の3点は「く」の字形に折曲がる口辺部をもち、胴部外面にタタキメが施されている。このタタキメの施文は右下り、平行、左下りと3点がそれぞれ異なる。器内面はハケメ、ユビオサエによる調整がなされ、底部は丸底、平底の二者が認められる。

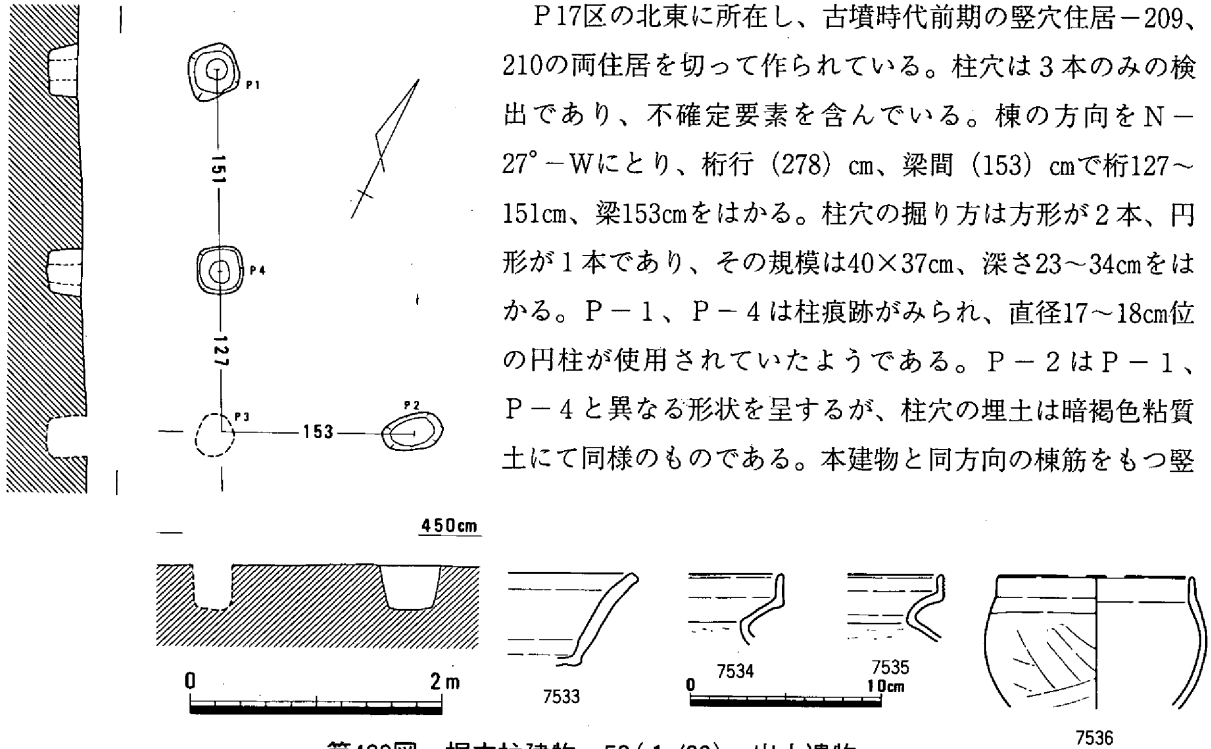
廃棄の時期は、古・前・Iの中相に比定が可能である。

(高畑)

(3) 掘立柱建物

本報告の掘立柱建物は2棟であり、橋脚（P4区）と盛土（M8I区）で確認されたものである。堅穴住居の総数107軒に比較すると非常に少ない数であるが、従来から古墳時代前期の掘立柱建物の出土例はあまり知られておらず、併存をしていない事実に注目すべきであろう。（高畑）

掘立柱建物—53（第423図）



第423図 掘立柱建物—53(1/60)・出土遺物

穴住居はほとんど認められない。

遺物はP-2内出土の土器片が4点であり、それらのもつ形態、調整等の特徴より古・前・Iの範疇でとらえることができる。（高畑）

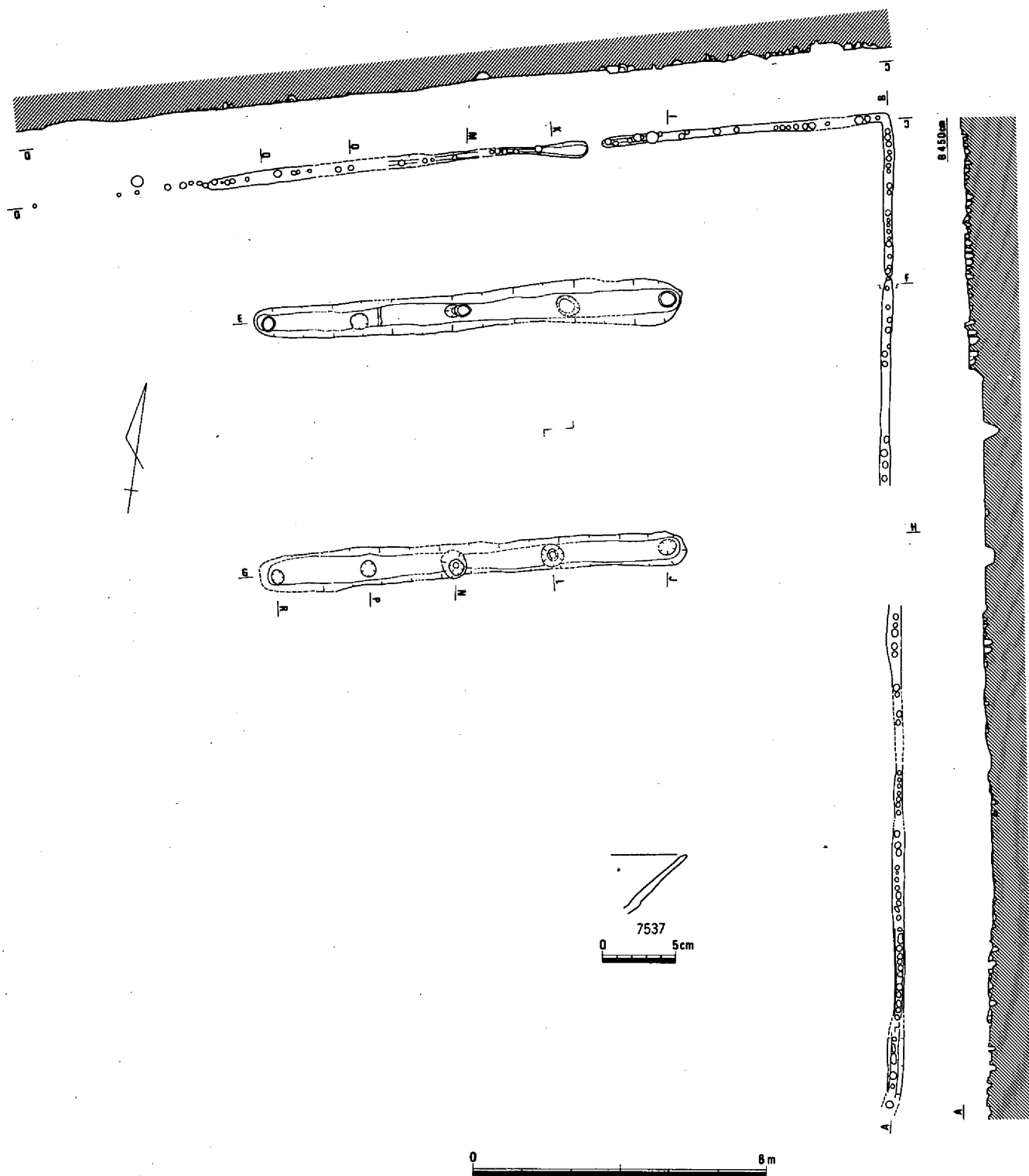
掘立柱建物—54（第424～426図）

O17区の東南、古墳時代前半期の堅穴住居—239～241等と切り合う掘立柱建物であり、布掘の掘り方をもつ。桁行802～817cm、梁間515～522cm、床面積約42m²をはかり、棟方向をN-77.5°-Eにとる。北側桁行の柱穴掘り方は、東西方向に長さ875cm、幅98cm、深さ50～70cmの溝状の土塋を設けている。土塋底面は必ずしも水平ではなく、高低差が認められる。そして、底面に5本の柱を配置するために、柱の基底を安定させる直径30cm前後、深さ数cmから30cmの掘り方を設けている。柱材を挿入後に埋土を行っている。南側桁行の柱穴掘り方も、長さ(875)cm、幅85cm、深さ65～70cmの溝状の土塋を掘り、底面はほぼ水平に整形されている。底面の柱材配置の状況は北側桁行とはほぼ同様である。布掘内の柱の配置は、東西が直線的に通っているが、南北に関しては柱間の乱れがあり、建物平面は少し歪んだ長方形になる。

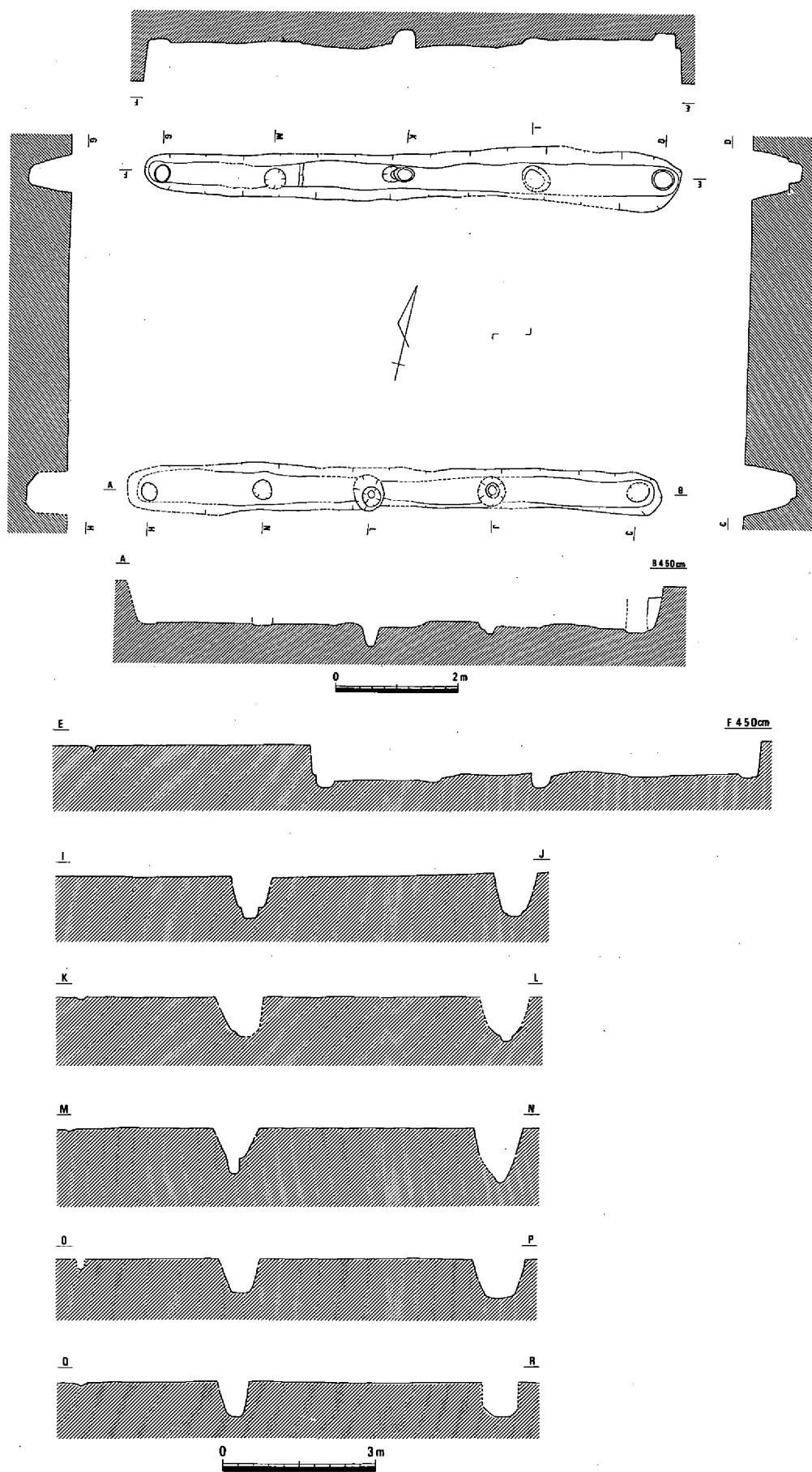
遺物は土器の細片が少しみられた程度で、高杯7537が北側布掘内よりの出土である。南側布掘内からは「ボウフラ」の細片がみられた。

第3章 調査区の概要

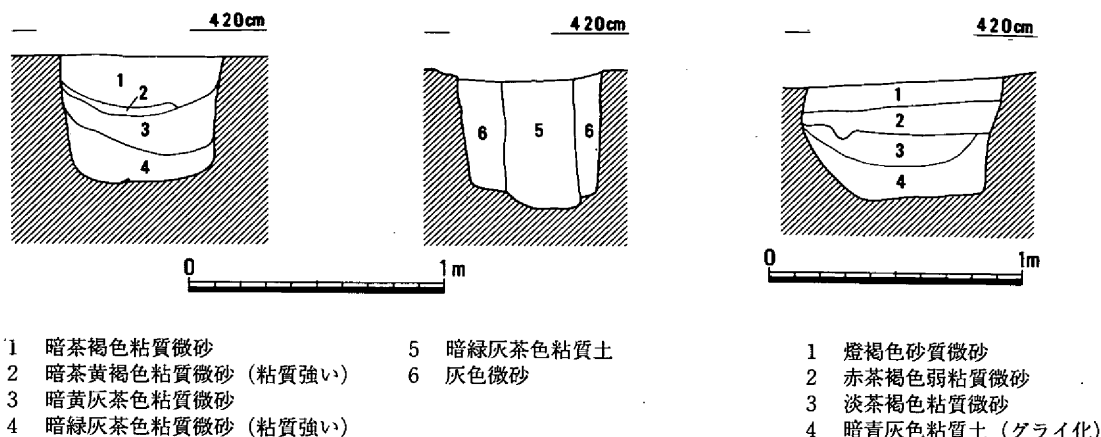
掘立柱建物-54は柱穴の掘り方も非常に珍しい「布掘」の方法がとられており、この時期においても特異な建物であった可能性が強いことを示している。さらに、本建物は周辺を柵により囲まれており、建物の北側2.7mに桁行と並行して走る幅約20cm、深さ15cmの東西溝があり、溝内には直径5～25cmの柱痕が認められ、直径10cm前後のものが中心である。確認できる溝の全長は15.85mである。また、建物東側4.1mには梁間と並行する溝、および柱痕が南北に20.55mまで確認されている。北柵



第424図 掘立柱建物-54 (1/120)・出土遺物



第425図 掘立柱建物-54 (1/100・1/120)



第426図 掘立柱建物-54「布掘」断面 (1/30)

の西への延長は後世の削平等により消滅しており、15.55m以上は確認できない。東柵の一部も竪穴住居により削平をうけているが、他は残りもよく、南に下がるほど掘り方の形状が顕著にあらわれている。ちなみに、東側壁の断面では溝上端(37)cm、深さ56cmをはかり、その中央に直径約16cmの先に丸みを持つ光頭形の柱痕が認められる。掘り方は上端から垂直に約34cm掘り下げ、平坦面より直径を23cm、13cmと階段状に窄めて下げており、底面は約8cmをはかる。

ここで、柵の平面形、規模について調査区全体から検討をしてみる。仮に西に延びるとすれば、延長方向である橋脚(P1区)に出現をするが、ここでは確認されていない。また、東辺に対応する柵も橋脚(P2、3、4区)において確認ができない。少なくとも建物-54を囲む方形の柵が存在したとすれば、盛土(M8I区)と橋脚(P1、2、3、4区)に挟まれた内側にあり、最大でも南北35m、東西25.5m以内におさまるであろう。

切り合い関係は、竪穴住居-239が建物-54の掘り方に切られ、建物-54は竪穴住居-240に切られ、竪穴住居-241は竪穴住居-240と建物-54を切る。その順序は、竪穴住居-239→掘立柱建物-54→竪穴住居-240→竪穴住居-241となり、弥・後・IV～古・前・Iの住居が古・前・Iの古相の建物に切られ、さらに古・前・Iの中相の住居に切られる状況となる。(高畑)

(4) 土器棺墓

土器棺墓-16 (第427図)

竪穴住居-304の北西1.5mで検出したもので、P18区の南東に位置する。棺を納める墓壙は径45cmの円形をなし、深さ28cmある断面はU字形をなす。棺身は、標高367cmある墓壙の底面に接して、開口部が東を向くように斜めに据えられていた。

棺身は、口径20.5cm、胴径30.6cm、器高37.0cmを測る壺の口縁部を打ち欠き、径13cmの孔を開けて用いている。打ち欠いた口縁部は、棺を固定するように墓壙との間隙に詰められており、棺の加工がこの場でなされたことを窺わせる。開口部を覆う蓋には、土器片があてられているが、遺存が悪く器種等は不明である。

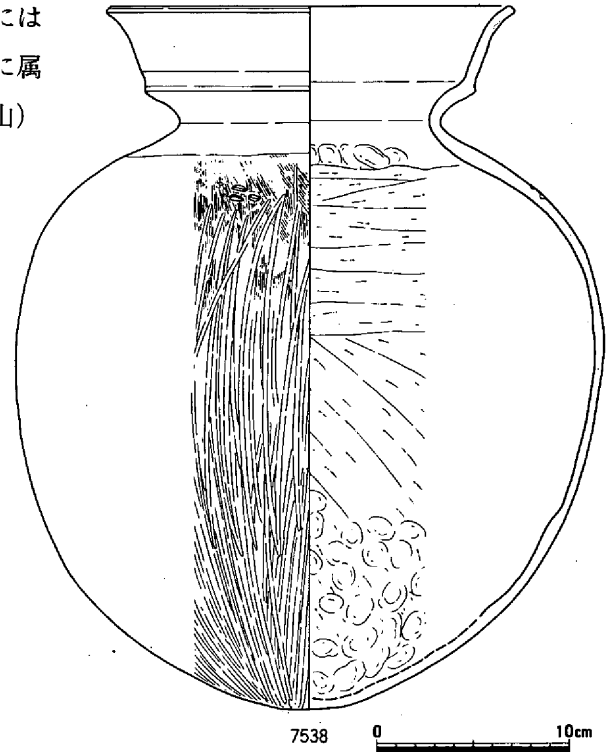
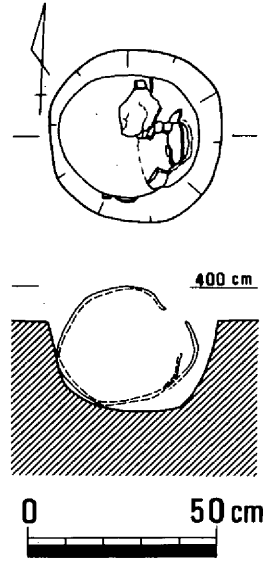
棺身に用いられた壺は、大きく開く二重口縁をもち、球形をなす体部の肩にはC3類の刺突記号を

施す。外面はハケメとヘラミガキで調整し、内面にはヘラケズリとユビオサエの痕を残す。古・前・Ⅱに属するものである。
(亀山)

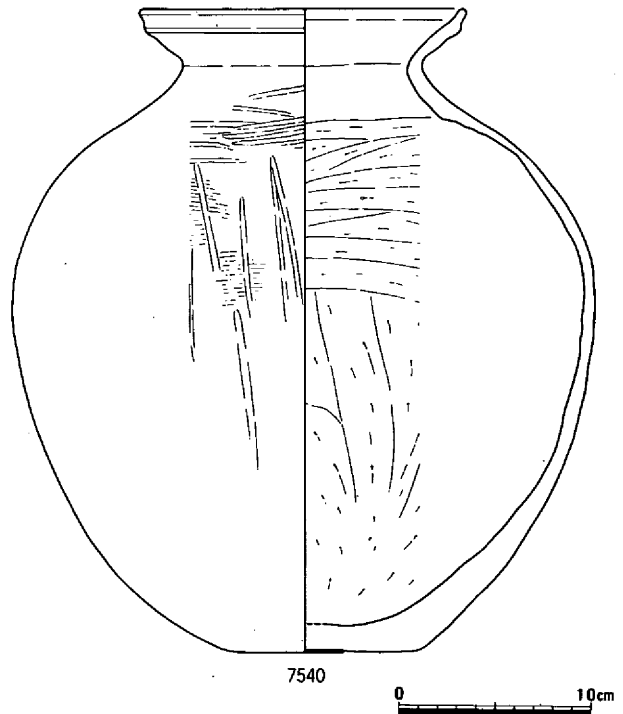
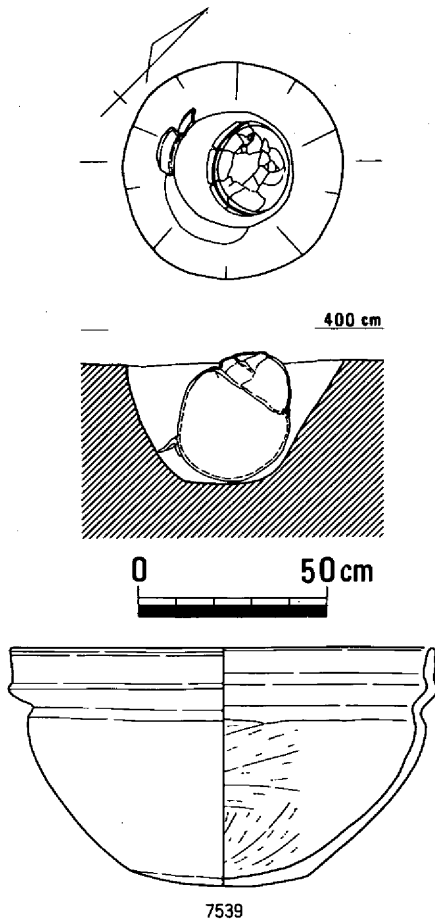
土器棺墓-17

(第428図)

竪穴住居-306の西に接して検出したもので、P18区の南東に位置する。棺を納める墓壙は径58cmの円形をなす。深さ32cmにある底面は平坦で標高359cmを測り、その断面は逆台形をなす。棺身は開口部を北東に向けて墓壙内に斜めに据え



第427図 土器棺墓-16(1/20)・出土遺物



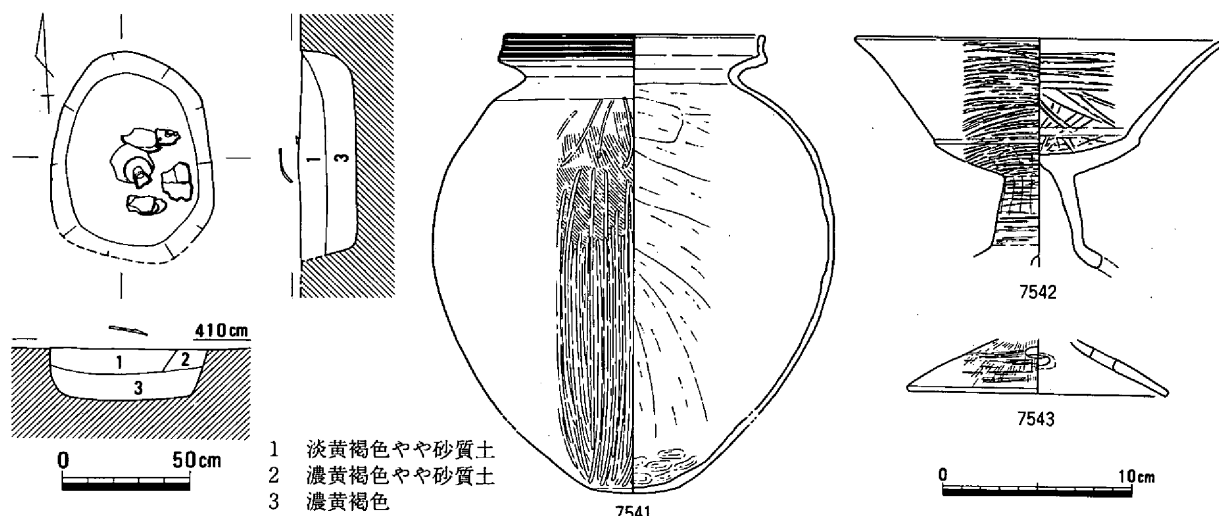
第428図 土器棺墓-17(1/20)・出土遺物

られていた。

棺身に用いられたのは口径16.7cm、胴径30.4cm、器高33.9cmを測る壺で、頸部から屈折して開く口縁部は上端をつまみあげて外傾する凹面をなす。肩の張る体部は外面をヘラミガキ、内面をヘラケズリで調整する。その使用にあたっては、口縁部を打ち欠いて径18cmの孔を開けている。また、打ち欠いた口縁部は、棺を傾けるように墓壙下部の隙間に詰められていた。開口部を覆う蓋には、口径22.0cm、器高12.5cmを測る鉢があてられている。二重になる口縁部は直立し、下方に窄まる体部との間には鈍い稜をなす。外面はナデで調整し、内面はヘラケズリで仕上げている。その特徴からすれば弥・後・IVまで遡る可能性がある。

(亀山)

(5) 土壌



第429図 土壌-407(1/30)・出土遺物

総数51基の土壌が確認されており、形状等に統一化された共通点は認められない。

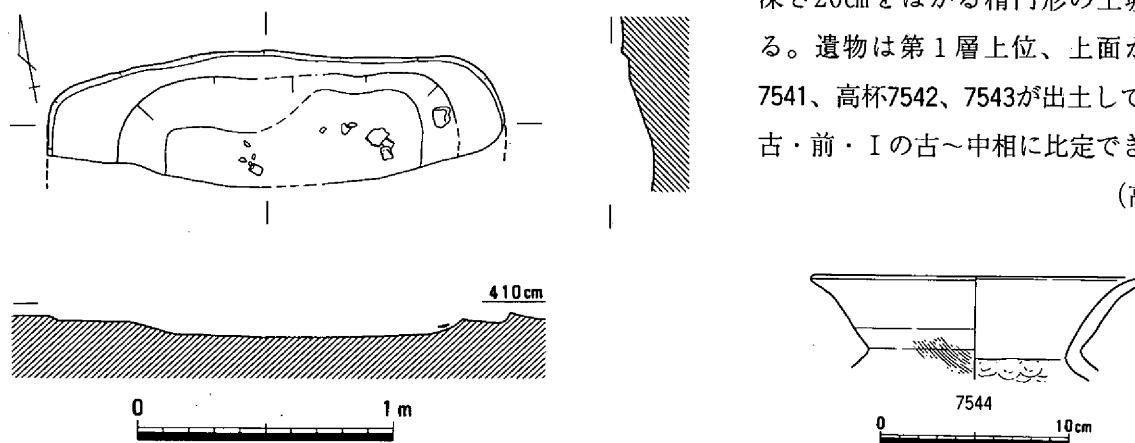
(高畑)

土壌-407 (第429図)

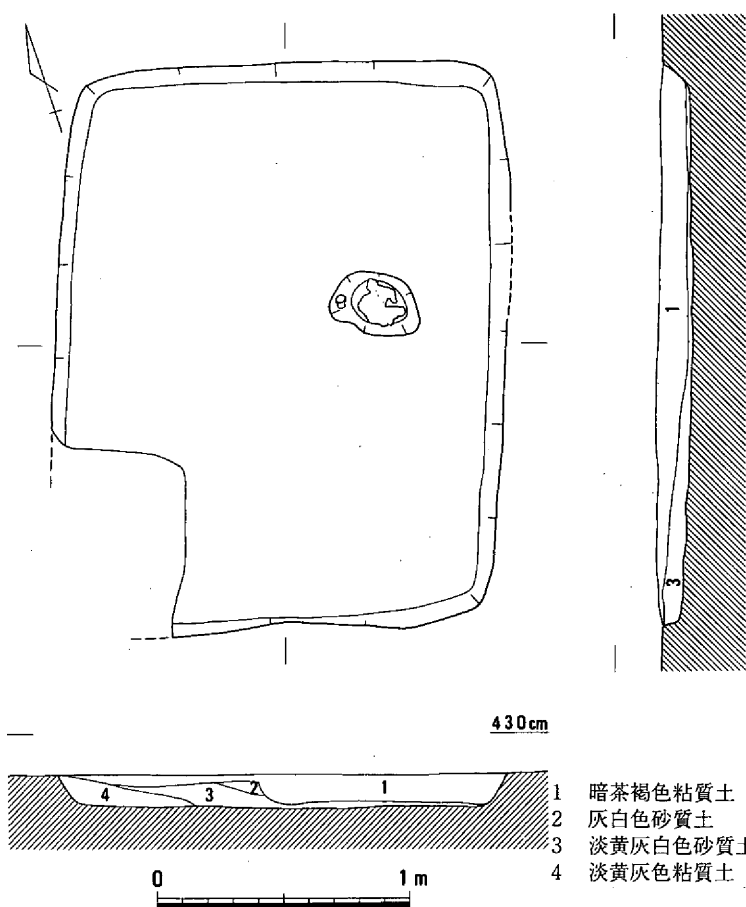
O17区の南東、橋脚 (P2区) に所在し、竪穴住居-215の下位に位置する。長さ(81)cm、幅63cm、

深さ20cmをはかる楕円形の土壌である。遺物は第1層上位、上面から甕7541、高杯7542、7543が出土しており、古・前・Iの古~中相に比定できる。

(高畑)



第430図 土壌-408(1/30)・出土遺物



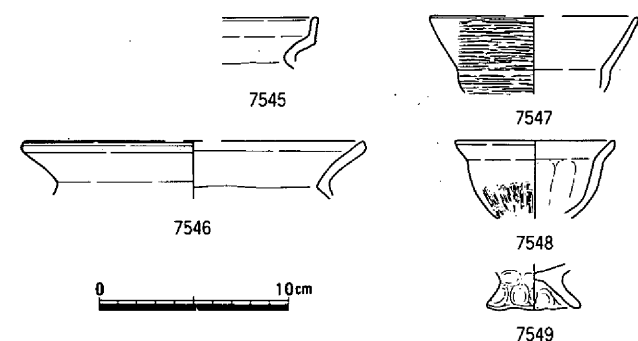
土壙-408 (第430図)

P17区の北東、橋脚 (P4区) に所在し、竪穴住居-210の上位に位置する。長さ178cm、幅 (54) cm、深さ10cm、底面海拔高396cmをはかる土壙である。

遺物は土器小片であり、壺7544の1点の実測可能なものである。古墳時代中頃の土器と考えられる。(高畑)

土壙-409 (第431図)

O17区の南東、橋脚 (P2区) に所在し、竪穴住居-215を切つて上位に位置する。南北224cm、幅178cm、深さ14cm、床面積3.47m²、床面海拔高400cmをはかる方形の土壙である。床面は平坦であり、中央東側には36×24cm、深さ6cmの浅い土壙が所在し、底部は焼土化している。長期間にわたる使用が考えられ、住居あるいは作業場的な性格の遺構と考えられる。埋土は4層からなり、第1層の暗茶褐色粘質土以外は砂質土が中心



第431図 土壙-409 (1/30)・出土遺物

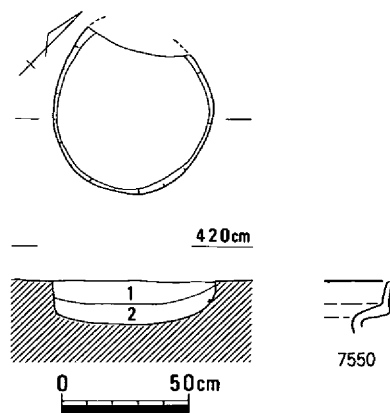
となる。

遺物は埋土中からの出土であり、すべて土器の小片である。甕、小形丸底壺、製塩土器がみられる。

古・前・IIの新相段階に廃棄された遺構の可能性が高い。(高畑)

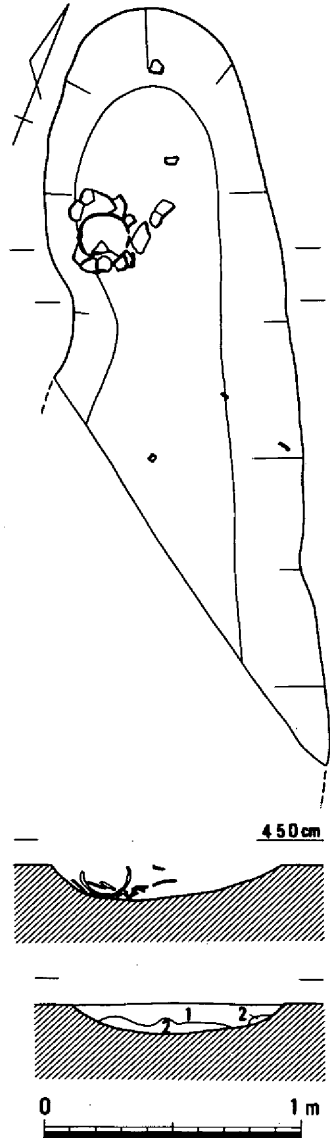
土壙-410 (第432図)

O17区の南東、土壙-409の南隣に位置する円形の土壙である。長さ70cm、幅64cm、深さ17cm、床面海拔高389cmをはかり、埋土は2層からなる。周辺には土壙-



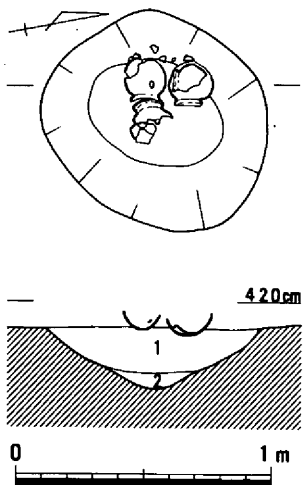
- 1 淡茶褐色やや粘質土
- 2 淡暗茶褐色やや砂質土

第432図 土壙-410 (1/30)・出土遺物



- 1 暗茶灰褐色砂質土 (2より硬い)
- 2 暗黄灰茶色砂質土

第433図 土壌-411 (1/30)・出土遺物



- 1 暗茶灰褐色粘質微砂
- 2 住居の埋土

第434図 土壌-412 (1/30)・出土遺物

407をはじめ、10基弱の土壌がまとまっているが、性格、機能等については不明である。

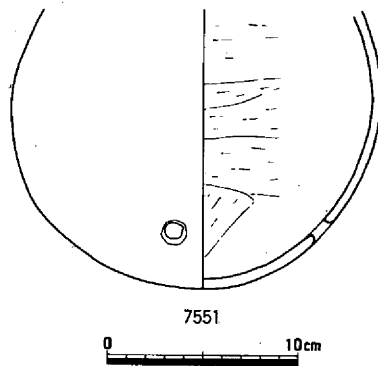
遺物は埋土中に土器小片が1点のみである。岡山南部特有の甕であり、口縁部の立上がりに10条の櫛描き沈線文が施されている。

古墳時代前期の範疇である。 (高畑)

土壌-411 (第433図)

O17区の中央南東、盛土 (M8 I区) に所在し、竪穴住居-32、231のほぼ中間に位置する。南側半分が植栽部に残るもので、長さ (235) cm、幅94cm、深さ13cm、床面海拔高427cmをはかる。南北に長い溝状の土壌であり、断面形は皿状を呈し、埋土は2層の砂質土からなる。

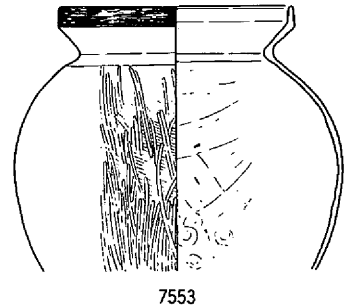
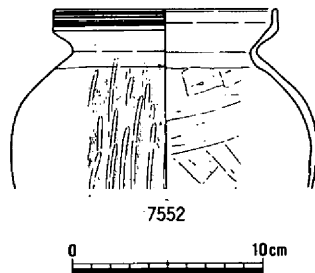
遺物は北西部の土壌底より甕7551が出土しており、底部近くに焼成後の穿孔が認められる。直径1.3cmの円孔であり、内面より外に向かって力が加えられている。丸底にて、最大径19.4cm、器高 (14.9) cmをはかり、器内面は横位のヘラケズリが施され器壁は均一化している。内外面ともににぶい橙色を呈し、0.1~2mmの石英、長石等の白色小砂粒と赤色土粒を多く含んでいる。



古墳時代の前期末~中期にかけての時期と考えられる。 (高畑)

土壌-412 (第434図)

O17区の東南、古墳時代前期の竪穴住居-234の南西隅を切って、そこに位置する。長さ90cm、幅78cm、深さ24cm、床面海拔高385cmをはかる楕円形の土壌である。埋土は1層であり、



第2層は竪穴住居-234の堆積土である。

遺物は第1層の暗茶灰褐色粘質微砂内に含まれており、甕2個体分が横転した状況で出土している。ともに「ボウフラ」と呼称される県南部特有の在地の甕であり、両者ともに底部を欠損している。口径は11.5cm～12.2cmで小形の部類に入り、丸底を呈するものと思われる。口縁部立上がりには6～8条の櫛描き沈線文がみられ、胴部外面は縦、斜位のハケメ、さらにヘラ

ミガキによる縦位の暗文が施されている。内面は通常のヘラケズリとユビオサエがみられる。煮沸用であり、胴部を中心に口縁近くまで煤が付着している。

土壙廃棄後、埋土が少したまった段階で土器が投棄されたようである。

2点とも古・前・Ⅱの範疇でとらえることができる。

(高畑)

土壙-413 (第435図)

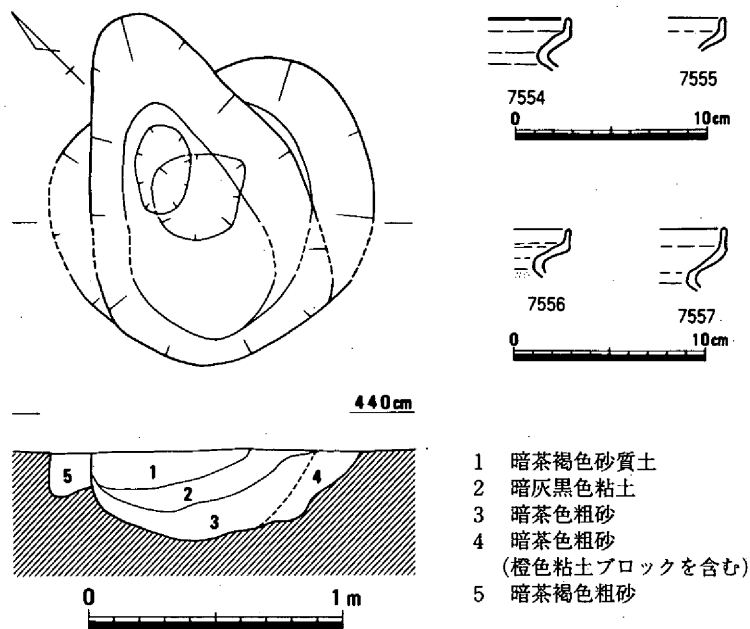
O17区東側、Of線上に所在し、竪穴住居-232の南西隅に位置する。2～3基の土壙が切り合う状態であるが、土壙413は南北方向上端、下端ともに歪んだ楕円形を呈する。長さ143cm、幅90cm、深さ35cm、床面海拔高389cmをはかる。

遺物は埋土中から甕7554・7555、7556・7557が出土している。土器の特徴、切り合い関係から竪穴住居-232より新しい時期であり、古・前・Ⅱの新相に比定できる。

(高畑)

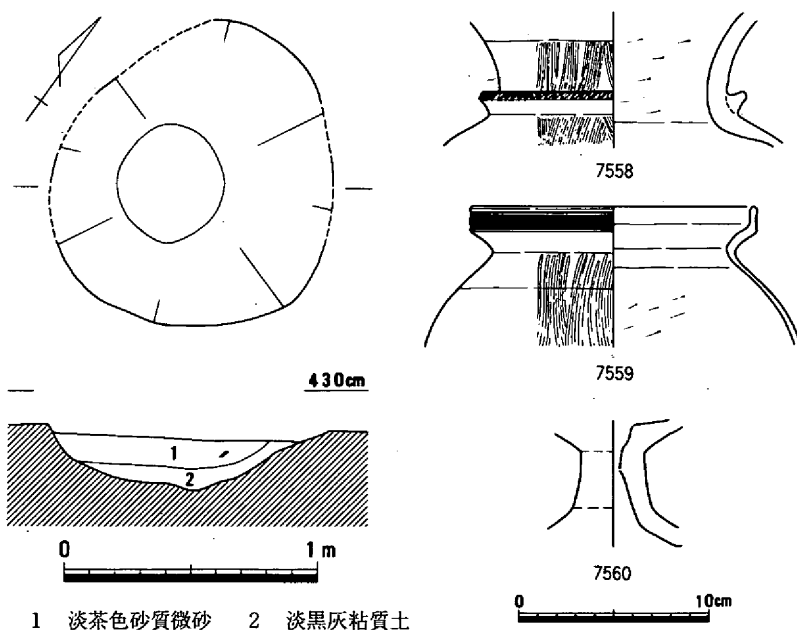
土壙-414 (第436図)

O17区の中央、溝-16より約7m東に位置する土壙である。長さ124cm、幅113cm、深さ33cm、床面海拔高386cmをはかり、平面は不



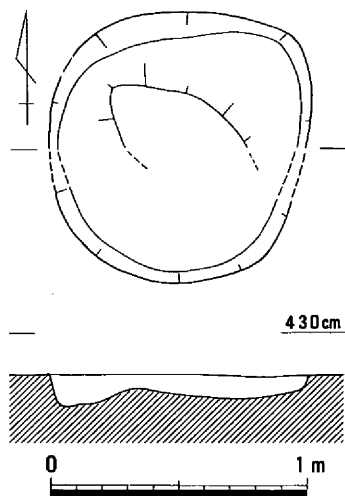
第435図 土壙-413 (1/30)・出土遺物

- 1 暗茶褐色砂質土
- 2 暗灰黒色粘土
- 3 暗茶色粗砂
- 4 暗茶色粗砂
- 5 暗茶褐色粗砂 (橙色粘土ブロックを含む)



- 1 淡茶色砂質微砂
- 2 淡黒灰粘質土

第436図 土壙-414 (1/30)・出土遺物



第437図 土壌-415(1/30)・出土遺物

整円形を呈する。

遺物は7558~7560の3点であり、古・前・である。(高畑
土壌-415(第437図)

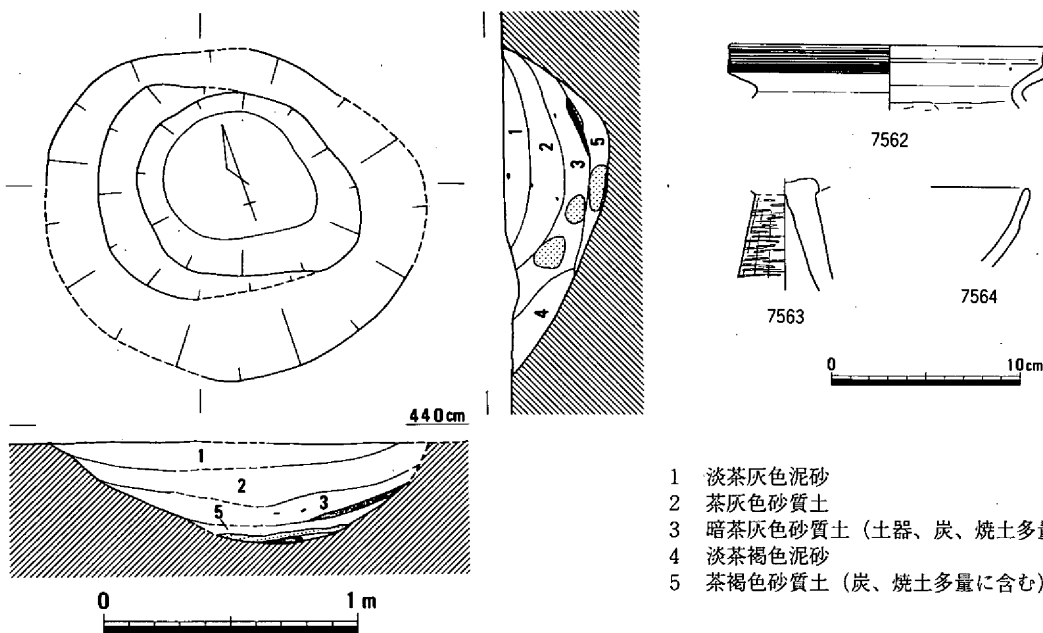
○17区の中央東、竪穴住居-227の北西に位置する。長さ107
cm、幅100cm、深さ12cm、床面海拔高402cmをはかる不整形の土
坑であり、床面は中央が少し盛り上がる形状を呈している。

遺物は埋土中より土器片1点が出土してい
る。壺、あるいは甕の口縁になると考えられ
る。口縁部の内外面にはヨコナデの凹凸が顕
著に認められ、色調は橙色を呈し、胎土中
には1mm前後の白色小砂粒を多く含んでおり、
焼成は良好である。古墳時代前期の範疇であ
ろう。(高畑)

土壌-416(第438図)

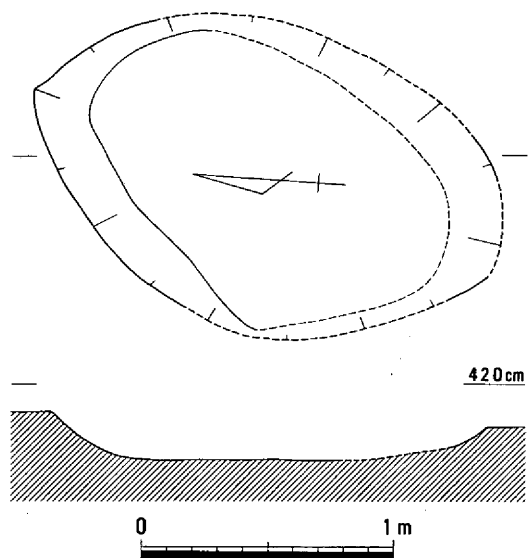
この土壌は、調査区の中央やや北側に位置し、竪穴住居-251の南東約1mに近接して検出された。
周辺には同時期の竪穴住居が数多く存在する。土壌は、149×132cmの規模で、平面はほぼ円形を呈し
ている。深さは約42cmを測り、断面形は椀形を呈する。土壌内は、第1~第5層がレンズ状に堆積し
ており、第3・5層には炭、焼土を多量に含んでいた。出土遺物は、各層から土器が少量検出された。
図示した7562~7564以外は図示できるものは少なかった。

7562はいわゆる吉備型甕で、頸部から外反し、さらに上方に立ち上がる口縁部をもつ。口縁端面
には櫛描沈線文を施している。内面は頸部までヘラケズリを施している。7563は高杯の脚部で、外面に
ヘラミガキをおこなっている。7564は鉢の破片である。これらの土器は、いずれも古墳時代前期の特
徴を示している。(中野)



第438図 土壌-416(1/30)・出土遺物

- 1 淡茶灰色泥砂
- 2 茶灰色砂質土
- 3 暗茶灰色砂質土(土器、炭、焼土多量に含む)
- 4 淡茶褐色泥砂
- 5 茶褐色砂質土(炭、焼土多量に含む)



第439図 土壙-417(1/30)

土壙-417 (第439図)

土壙は、土壙-416のほぼ南約5mに位置しており、竪穴住居-252・253の西側に切り合って検出された。規模は、193×122cmで平面形はやや不整の楕円形を呈している。深さは約18cmを測り、断面形は皿形を呈する。土壙内の埋土は他の同時期の土壙と類似していた。

出土遺物は、古墳時代前期と考えられる土器片が数点検出されている。土壙の性格については不明である。(中野)

土壙-418 (第440図)

この土壙は、土壙-417の南約1m、竪穴住居-253の西数10cmに隣接して検出された。規模は、150×86cmで、平面形は楕円形を呈している。

深さは約13cmと浅く、断面形は皿形を呈する。

出土遺物は、土器の小片が数点出土し、古墳時代前期のものであった。(中野)

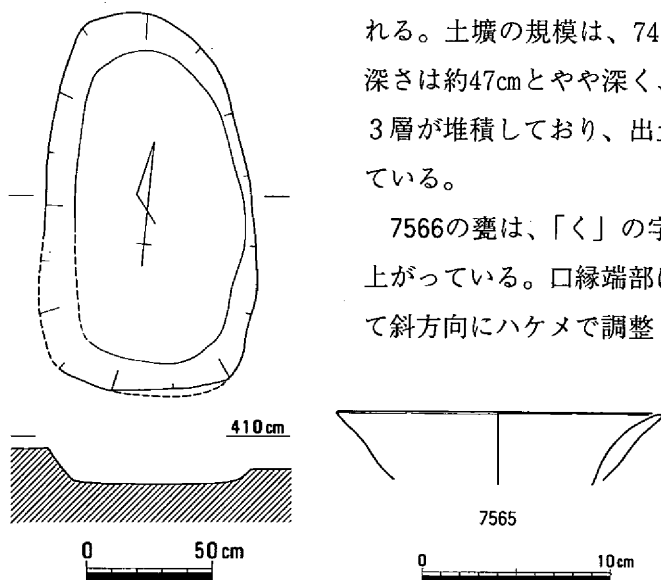
土壙-419 (第441図)

この土壙は、土壙-418の南側約1mに検出された。土壙の規模は109×73cmで、平面形は楕円形を呈している。深さは約16cmとやや浅く、断面形は皿形を呈する。土壙内は、暗茶褐色泥砂が堆積していた。

出土遺物は、底部よりやや浮いた状態で土器が少量検出された。時期は古墳時代前期の特徴を示している。(中野)

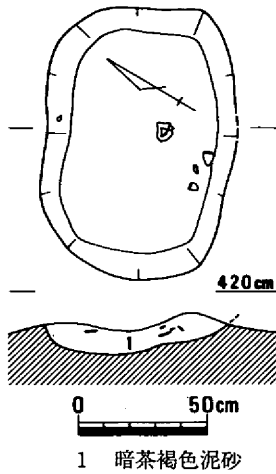
土壙-420 (第442図)

この土壙は、調査区中央のやや東寄りに位置しており、竪穴住居-273の下部に検出された。竪穴住居と同時期であるため、竪穴住居に伴うものである可能性が考えられる。土壙の規模は、74×42cmで平面形は不整楕円形を呈している。深さは約47cmとやや深く、断面形は箱形を呈する。土壙内は第1～第3層が堆積しており、出土遺物は古墳時代前期の土器が少量検出されている。

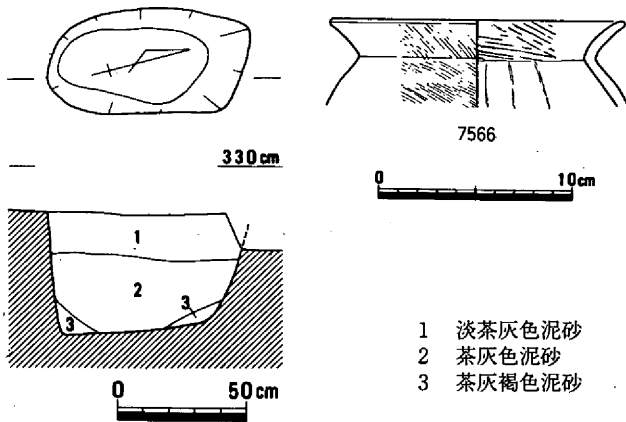


第440図 土壙-418(1/30)・出土遺物

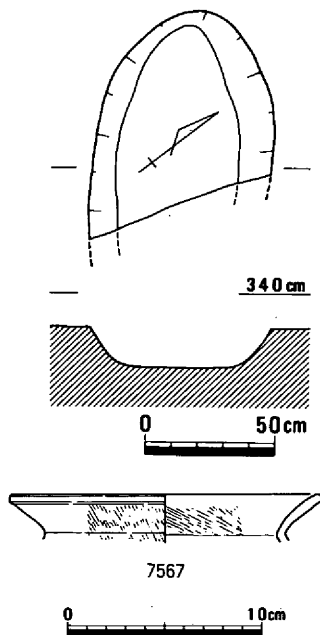
7566の甕は、「く」の字口縁をもち、やや外湾気味に斜上方に立ち上がっている。口縁端部は丸くおさめている。外面は、口縁部も含めて斜方向にハケメで調整している。口縁部の内面は、ハケメ、ナデを施しており、頸部下は板状の工具により調整している。これらの特徴は古墳時代前期の特徴を示しており、上部の竪穴住居-273出土の土器とは時期差は認められない。(中野)



第441図 土壙-419(1/30)



第442図 土壙-420(1/30)・出土遺物



第443図 土壙-421(1/30)・出土遺物

土壙-421 (第443図)

この土壙は、土壙-420の西側約0.5mに位置し、土壙-420と同様に竪穴住居-273の下部から検出された。土壙の東側は削平されており、ほぼ半分程残存していた。幅は69cmで平面形は楕円形を呈すると考えられる。深さは約15cmで、断面形は皿形を呈している。出土遺物は土器が少量検出された。

7567の甕は、「く」の字形の口縁部をもち、端部は丸くおさまられている。内外面ともハケメで調整したのちヨコナデによって仕上げている。この土器は、土壙-420出土のものと同時期であるため、竪穴住居に伴うものである可能性がある。(中野)

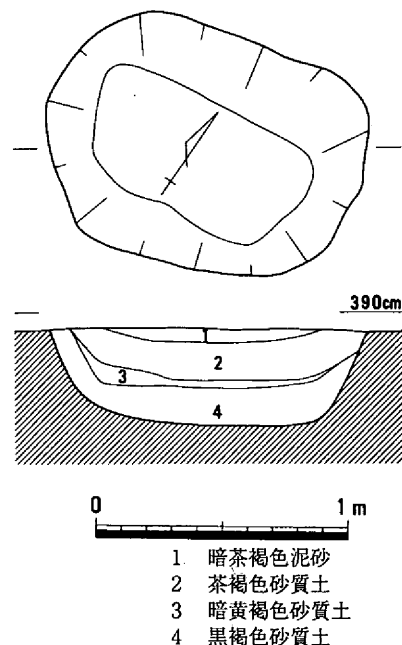
土壙-422 (第444図)

土壙は、土壙-421の南約4mに検出された。規模は、130×94cmで平面形は楕円形を呈している。深さは約38cmを測り、断面形は皿形を呈する。土壙内は、第1～第4層がレンズ状に堆積している。

出土遺物は古墳時代前期の土器が数点検出されている。(中野)

土壙-423 (第445図)

土壙は調査区やや東寄りに位置し、竪穴住居-274の南西約2mに検出された。規模は136×103cmで平面形は不整楕円形を呈



第444図 土壙-422(1/30)

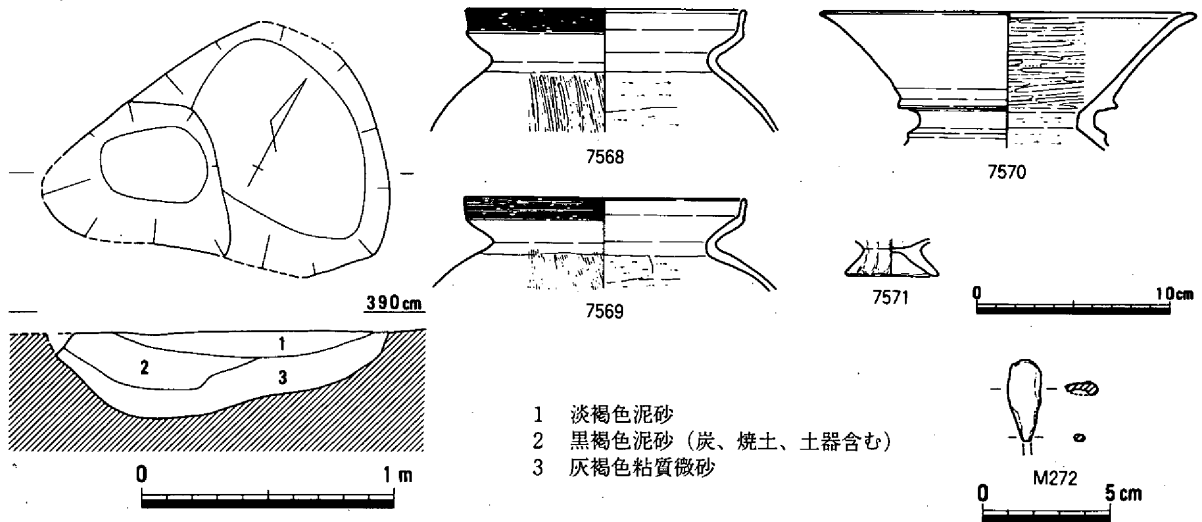
している。深さは約31cmを測り、断面形は皿形を呈する。土壌内は第1～第3層が堆積しており、第2層には炭、焼土を多く含んでいる。また出土遺物も第2層を中心に検出されている。

7568・7569は、いわゆる吉備型甕で、「く」の字口縁部から上方に立ち上がる。端面には、櫛描沈線文を施文している。外面はハケメののちヘラミガキ、内面は頸部までヘラケズリをおこなう。7575の鼓形器台は、杯部内面は横方向のヘラミガキを丁寧に施している。7571は製塩土器の脚部で、他4個体分検出されている。他に高杯片も少量出土している。

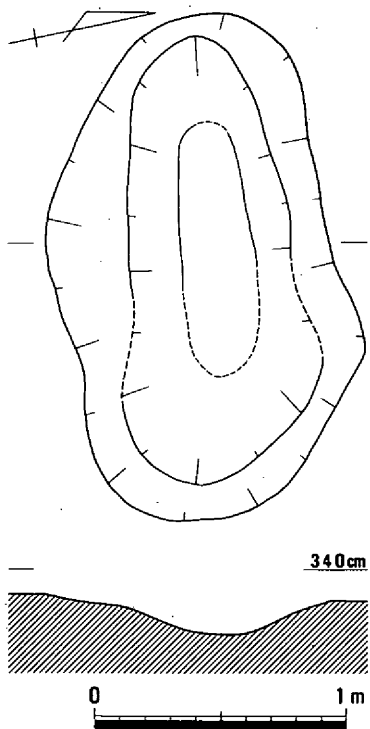
M272の鉄器は、残存状態からみて鉄鏃と考えられる。

これらの遺物はいずれも古墳時代前期の特徴を示している。

(中野)



第445図 土壌-423 (1/30)・出土遺物



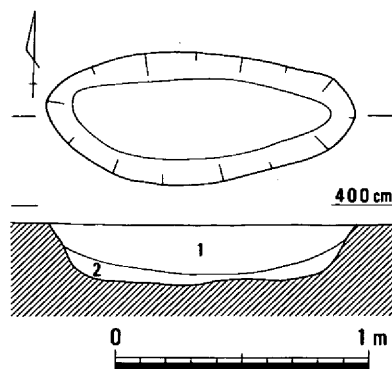
第446図 土壌-424 (1/30)

土壌-424 (第446図)

土壌は、土壌-425の北約4mに位置し、竪穴住居-272の下部に検出された。規模は202×120cmで、平面形は不整楕円形を呈している。深さは約15cmと浅く、断面形は皿形を呈する。土壌内からは古墳時代前期の土器が数点検出された。竪穴住居-

272と同時期であるため、竪穴住居に伴う可能性もある。

(中野)



- 1 明褐色砂質土 (炭、焼土まじり)
- 2 明黄褐色砂質土

第447図 土壌-425 (1/30)

土壌-425 (第447図)

土壌は、土壌-424の南側約4mに検出された。122×58cmで平面形は長楕円形を呈している。深さは約23cmで、断面形は碗形を呈する。出土遺物は認められなかつ

たが埋土等からみて古墳時代前期であろう。

(中野)

土壙—426 (第448・449図)

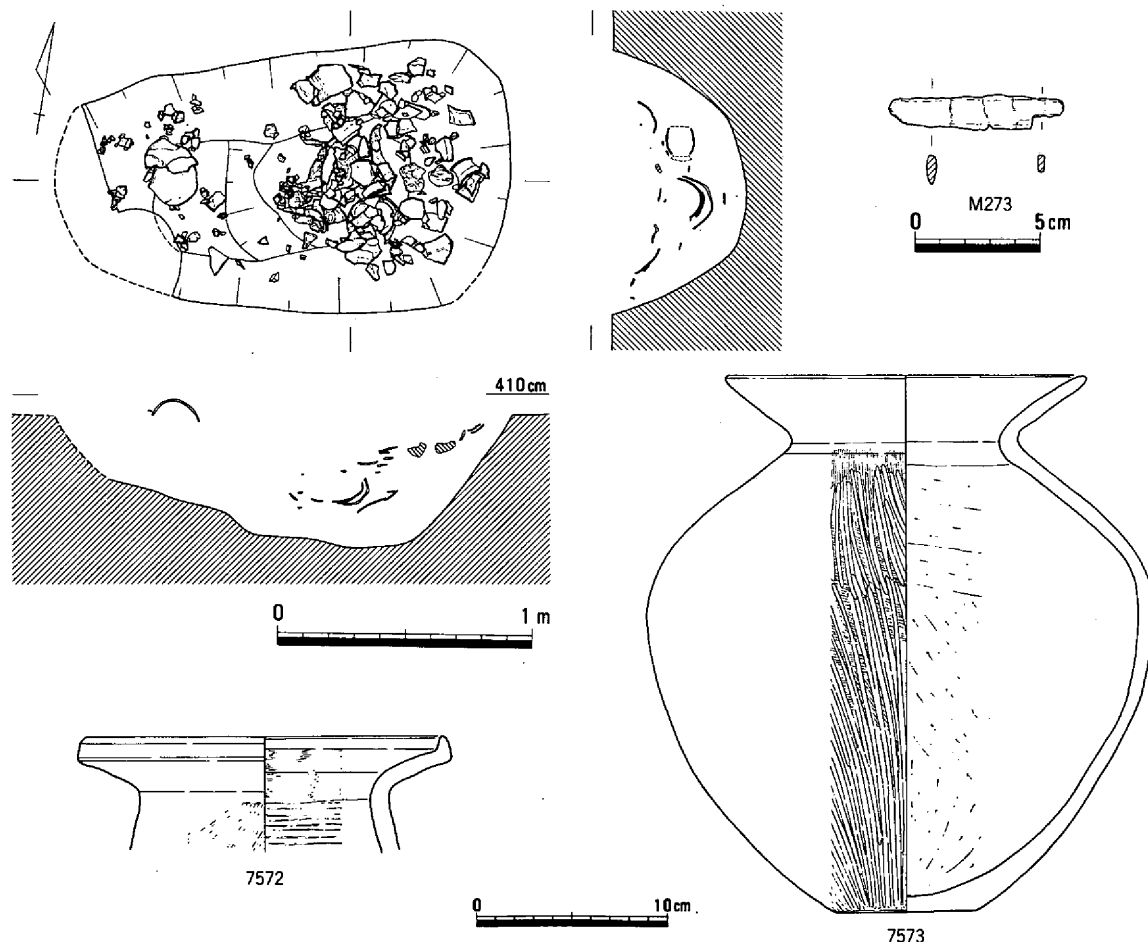
この土壙は、土壙—425の南西約1mに位置しており、周辺は竪穴住居がとりまくように存在する。土壙の西端は削平を受けていたものの長さは推定約165cm、幅約105cmを測る。平面形は、不整楕円形を呈しており、深さは約53cmを測る。土壙の底部は、水平ではなく西側が浅く徐々に東側に深く掘られている。出土遺物は、底部よりやや浮いた位置から中位ぐらいの深さまでに土器などが集中して検出された。

7572・7573の壺は、「ハ」の字に開く頸部から大きく外反しさらに上方に延びる口縁部をもつ7572と、「く」の字口縁部をもつ7573がある。7573は、口縁部内外面をヨコナデ、外面体部をタテ方向のハケメのちヘラミガキを施す。内面は頸部までヘラケズリをおこなっている。

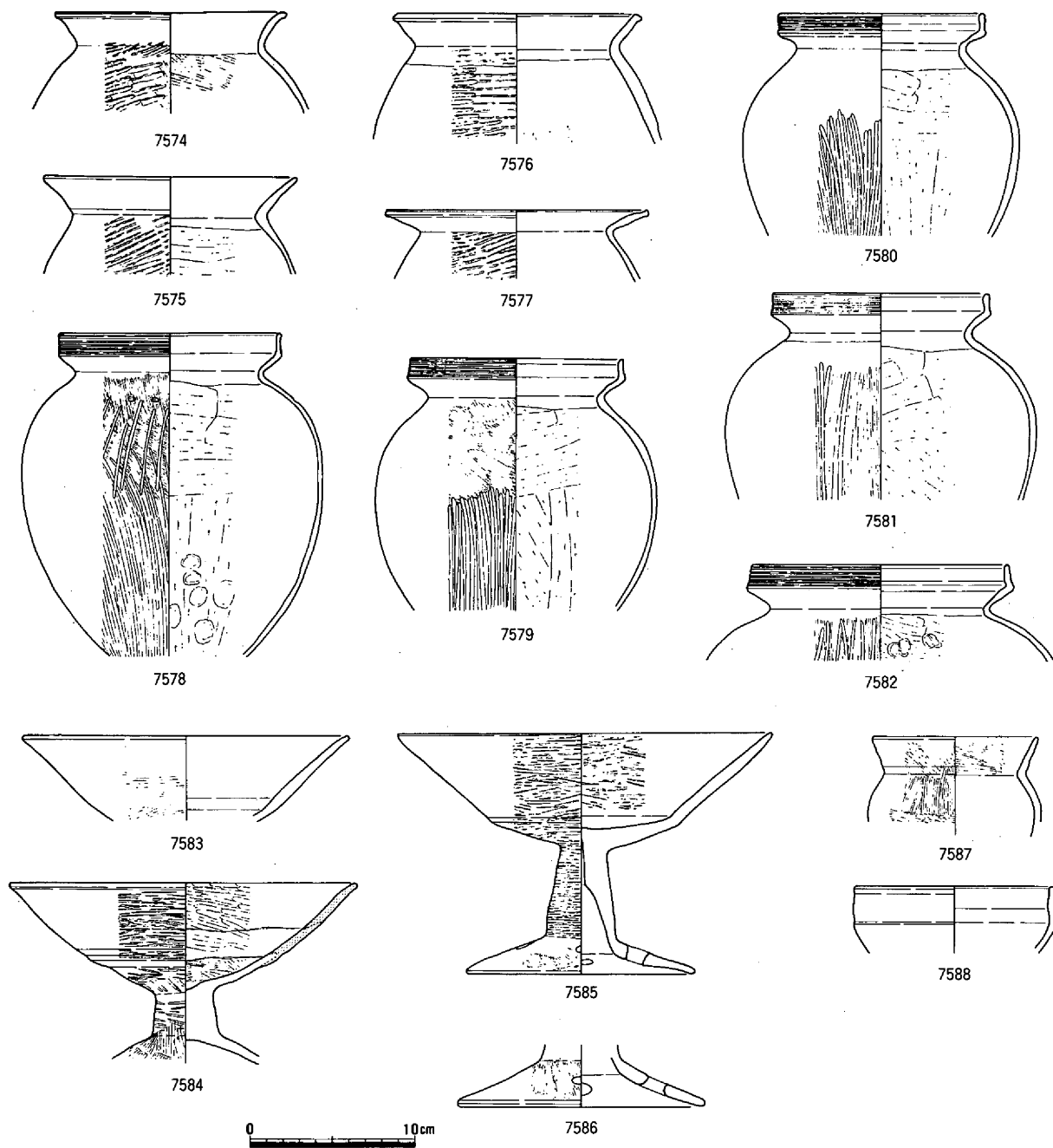
7574～7582の甕は、「く」の字口縁部をもつ7574～7577と口縁端面に櫛描沈線文を施す吉備型甕の両者がある。7574～7577は、口縁部の細部に変化があるものの、外面体部は右上がりのタタキを施している。内面は、ハケメの7574、ヘラケズリの7575などがある。

7583～7586の高杯は、7583・7585・7586のような当地域で普遍的に認められるものと異なる7584がある。7585は、脚部に比べて大きめの杯部をもち、脚裾部は「ハ」の字状に開く。7584は、杯部の底部と口縁部の境目の稜線があまく、脚柱部は空洞ではない。また、7584は角閃石を多く含み、杯部の底部と口縁部の粘土が異なっている。時期は古墳時代前期。

(中野)



第448図 土壙—426 (1/30)・出土遺物(1)



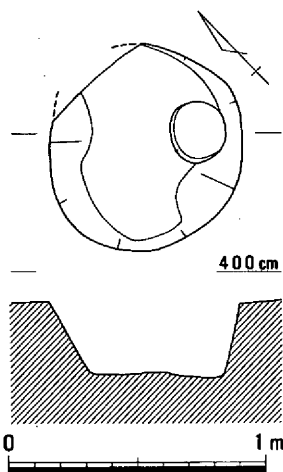
第449図 土壙-426出土遺物(2)

土壙-427 (第450図)

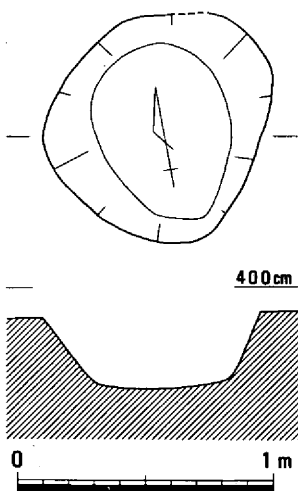
この土壙は、土壙-423の南西約3 mに検出された。土壙の北側の一部は削平を受けていた。規模は長さ約82cmで、平面形はほぼ円形を呈している。深さは約29cmで、断面形は箱形を呈する。土壙の底部東端には、直径約20cm、深さ約3 cmの柱穴痕状の落ち込みが確認されている。土壙の平面形等からも柱穴である可能性もある。(中野)

土壙-428 (第451図)

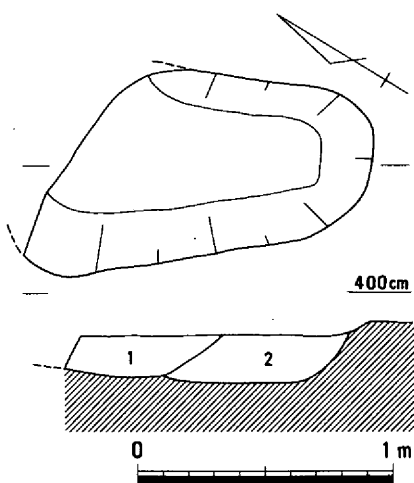
土壙-428は、土壙-427の西約1 mに検出された。規模は91×85cmで、平面形はやや不整な円形を呈している。深さは約30cmで、断面形は箱形を呈する。出土遺物は古墳時代初頭の土器が出土してい



第450図 土壙-427(1/30)



第451図 土壙-428(1/30)



1 茶灰色泥砂 2 黄茶灰色泥砂

第452図 土壙-429(1/30)

る。また、焼土塊も検出されている。(中野)

土壙-429 (第452図)

この土壙は、土壙-428の南側約2.5mに検出された。土壙の北側は削平を受けており、長さは不明であるが幅は約74cmを測り、平面形は不整楕円形を呈すると推定される。深さは約19cmを測り、断面形は皿形を呈する。上層に茶灰色泥砂、下層に黄茶灰色泥砂が堆積している。出土遺物はないが、埋土等から古墳時代初頃か。(中野)

土壙-430 (第453図)

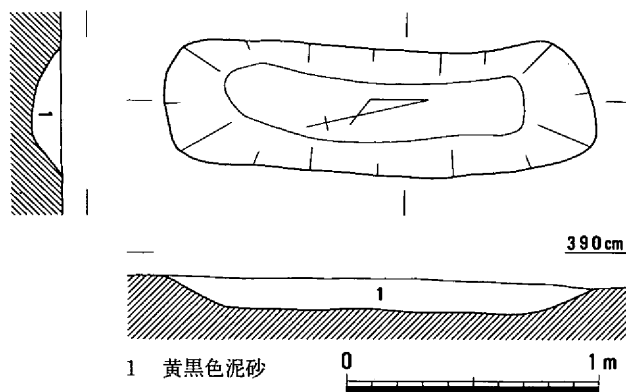
土壙-430は、竪穴住居-288の下部に検出された。長さは約169cmで幅は約50cmを測り、平面形は不整の長方形を呈している。深さは約13cmを測り、土壙内には黄黒色泥砂が単層で堆積していた。出土遺物は認められなかったが埋土等から古墳時代初頭と考えられる。(中野)

土壙-431 (第454図)

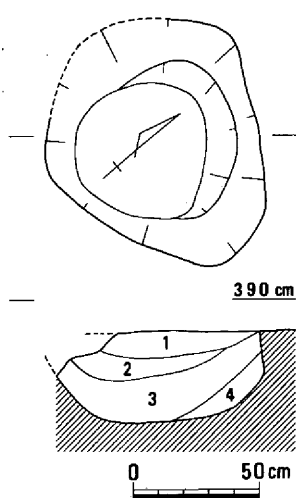
この土壙は、竪穴住居-282南約50cmに位置し、土壙の南西部を土壙-432に一部切られて検出された。規模は90×83cmと推定され、平面形は楕円形を呈している。深さは約36cmを測り、断面形は椀形を呈する。土壙内は、第1～第4層がレンズ状に堆積していた。出土遺物としては、土器が少量検出されたが時期を限定できるものはなかった。しかし、埋土等からみて古墳時代初頭と考えられる。(中野)

土壙-432 (第455図)

土壙-432は、土壙-431の南西部に切り合って検出された。規模は72×74cmで、平面形は楕円形を呈している。深さは約20cmで、断面形は皿形を呈する。土壙内は上下2層で土壙-433の堆積土と類似している。出土遺物は、古墳時代初頭の土器が少量検出された。(中野)

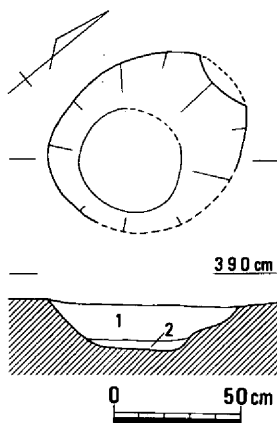


第453図 土壙-430(1/30)



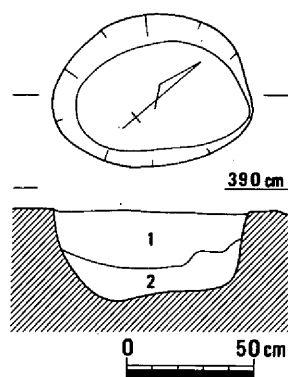
- 1 茶黄色泥砂
- 2 茶黄色砂質土
- 3 茶褐色泥砂
- 4 黄茶色粘質土

第454図 土壙-431(1/30)



- 1 黒褐色泥砂
- 2 黄褐色泥砂

第455図 土壙-432(1/30)



- 1 黒褐色砂質土
- 2 暗黄褐色泥砂

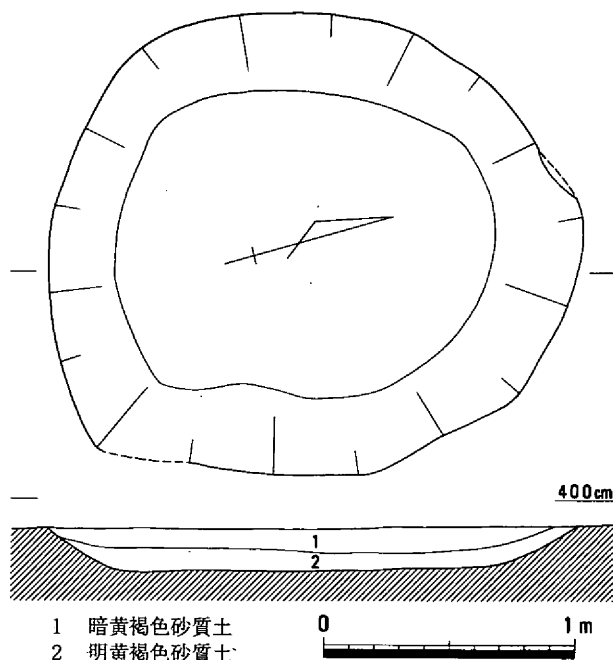
第456図 土壙-433(1/30)

土壙-433 (第456図)

この土壙-433は、土壙-432の南西側、土壙-434の東側に隣接して検出された。土壙の規模は78×60cmを測り、平面形は楕円形を呈している。深さは約32cmで、断面形は箱形を呈する。土壙内は、上層に黒褐色砂質土、下層に暗黄褐色泥砂が堆積している。出土遺物はなかったが、土壙-432と酷似した埋土であるため、土壙-432と同様な時期と考えられる。また、周辺には柱穴状の土壙が多く存在することなどから、土壙-432・433も柱穴の可能性も考えられる。(中野)

土壙-434 (第457図)

土壙は、土壙-63の西側に隣接して検出された。土壙の周辺には竪穴住居が数多く存在している。



- 1 暗黄褐色砂質土
- 2 明黄褐色砂質土

第457図 土壙-434(1/30)

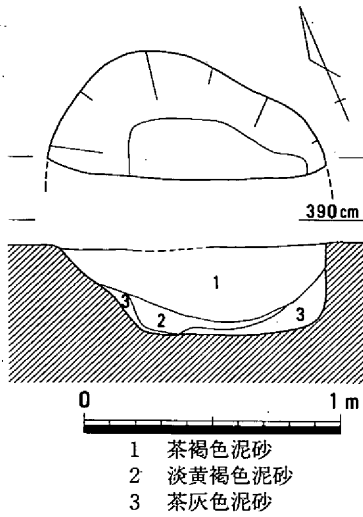
規模は213×183cmで、平面形は不整形円形を呈している。深さは約16cmで、断面形は皿形を呈する。土壙内は、上下2層がレンズ状に堆積している。出土遺物は検出されなかったが、埋土等から古墳時代初頭と考えられる。(中野)

土壙-435 (第458図)

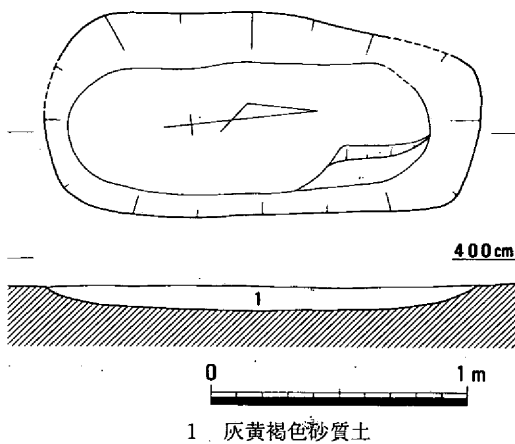
この土壙は、土壙-434の南西約2mに位置し、竪穴住居-287の北側に接して検出された。土壙の南側は、竪穴住居-287に切られているが、長さ約107cmを測る。幅は不明で、深さは約35cmである。平面形は、土壙の残存状態からみて円形ないし楕円形を呈すると考えられる。土壙内は、第1～第3層が堆積しており、出土遺物はなかった。埋土等から古墳時代初頭か。(中野)

土壌-436 (第459図)

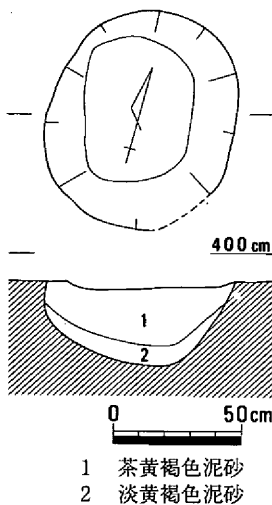
土壌-436は、土壌-435の北約2.5mに位置し、竪穴住居-286の東側に接して検出された。土壌の長さは約169cmで幅は約80cmを測り、平面形は隅丸の長方形を呈している。長軸は南北にとり深さは約10cmと浅く、断面形は皿形を呈する。出土遺物は認められなかったが、竪穴住居-286を切っているものの埋土等から古墳時代初頭か。 (中野)



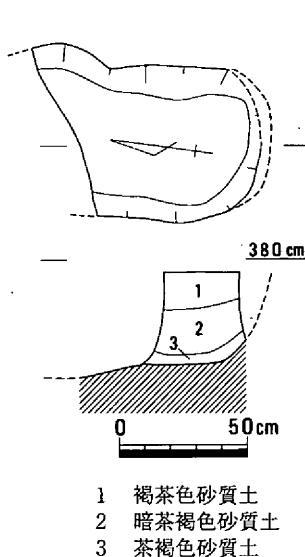
第458図 土壌-435 (1/30)



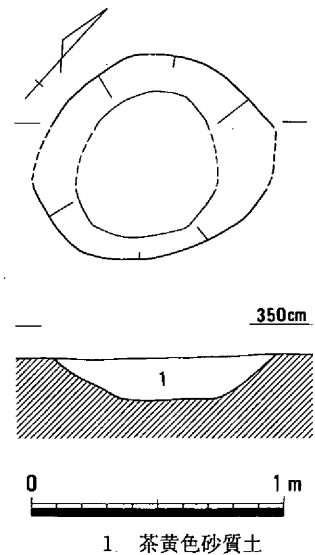
第459図 土壌-436 (1/30)



第460図 土壌-437 (1/30)



第461図 土壌-438 (1/30)



第462図 土壌-439 (1/30)

土壌-437 (第460図)

この土壌は、竪穴住居-276の西約1mに検出された。規模は約87×74cmで、平面形はほぼ円形を呈している。深さは約33cmを測り、断面形は碗形を呈する。土壌内は、上下2層がレンズ状に堆積していた。出土遺物は検出できなかったが、埋土等からみて古墳時代初頭と考えられる。 (中野)

土壌-438 (第461図)

土壌は、土壌-437の西側約2mに検出された。土壌の北側は削平を受けており、幅約61cmで平面形は長楕円形と推定される。深さは、約53cmを測る。土壌内には第1～第3層が堆積しており、出土遺物は認められなかった。しかし埋土等からみて古墳時代初頭か。 (中野)

土壌-439 (第462図)

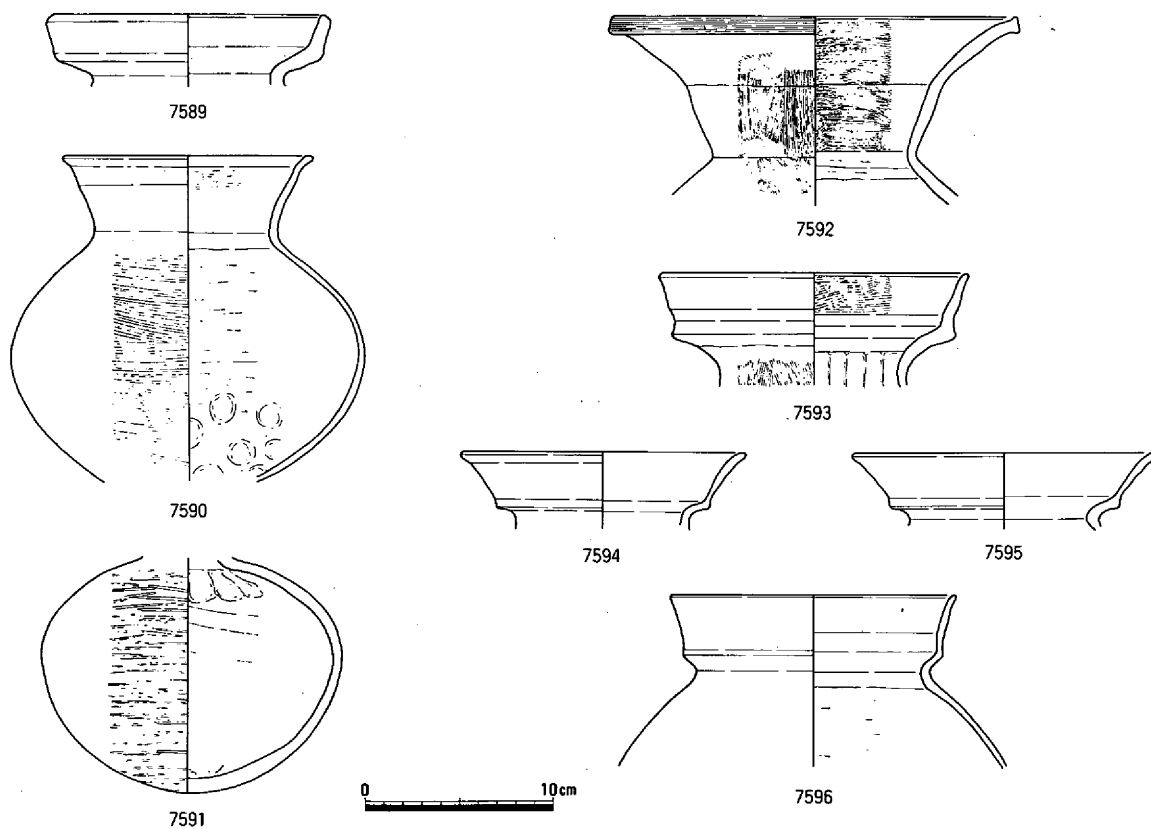
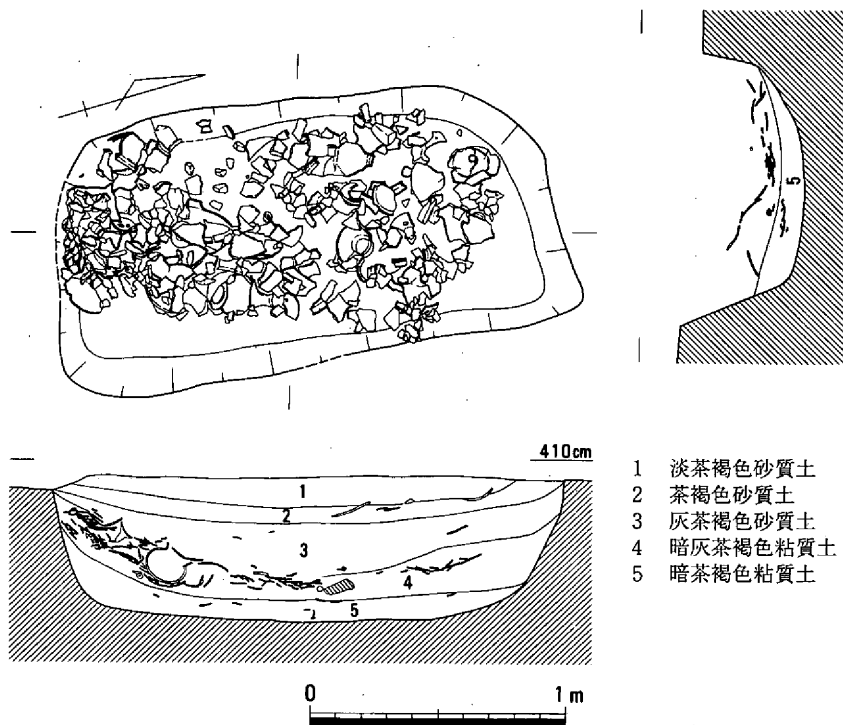
この土壌は、土壌-440の南東側約数十cmに隣接し、竪穴住居-287の北西隅部の下部に検出された。土壌の規模は、約97×79cmで平面形はほぼ円形を呈している。深さは約16cmを測り、断面形は皿形を呈する。出土遺物は検出できなかったが埋土等から古墳時代初頭

と考えられる。

(中野)

土壙-440 (第463~467図)

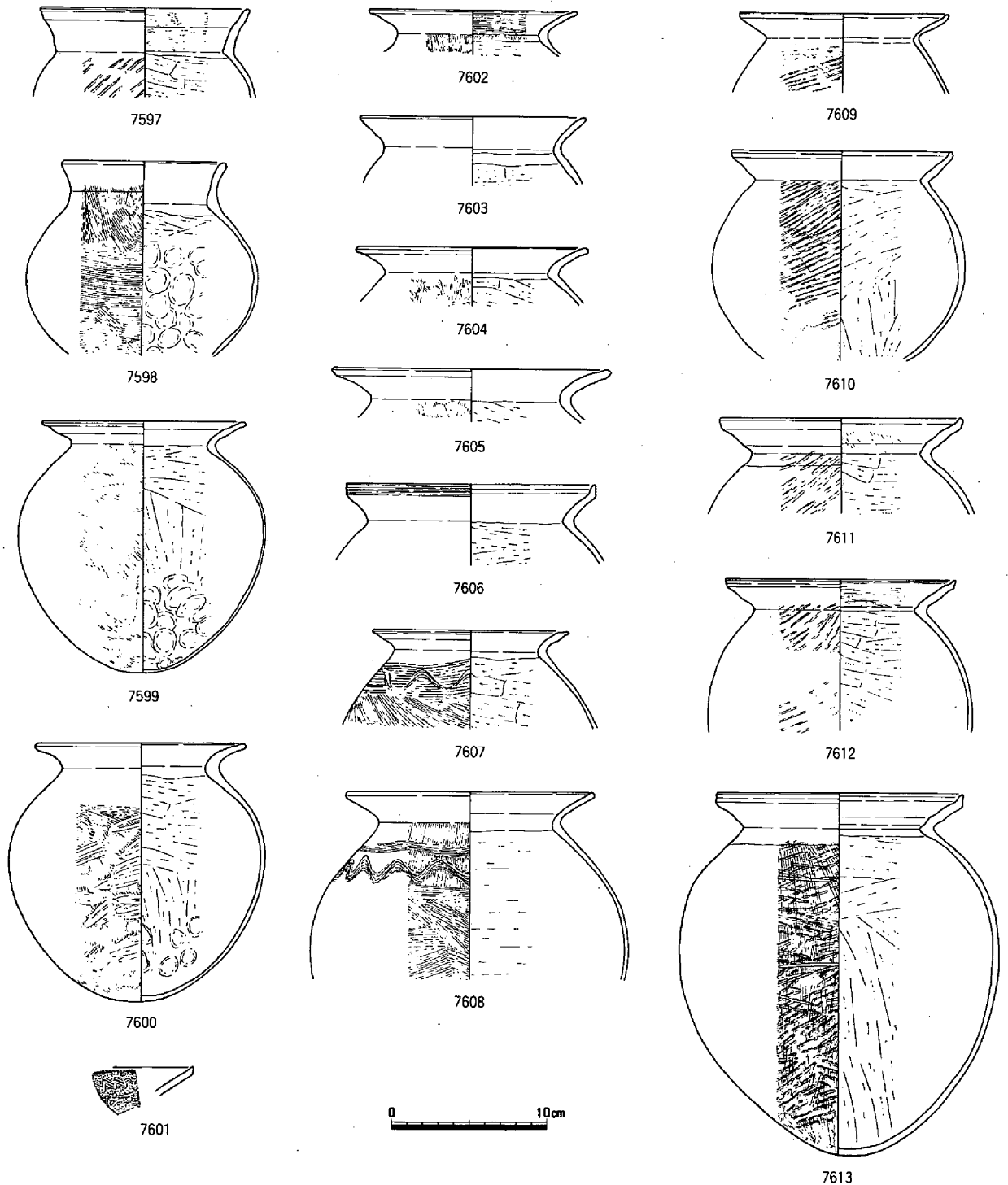
この土壙は、竪穴住居-286の南西側に接して検出された。規模は長さが約205cm、幅が約108cmを測り、平面形は不整の長方形を呈している。深さは約57cmで、土壙内には第1~第5層がレンズ状に堆積している。出土遺物は各層に認められたが、特に第4層中には土器が大量に集積していた。出土した土器には完形品も含まれており、器棺も各種が検出されている。検出された土器は、いずれも周辺に存在する竪穴住居と同時期のものである。また、この土壙は形態的に墓壙である可能性も考



第463図 土壙-440 (1/30)・出土遺物(1)

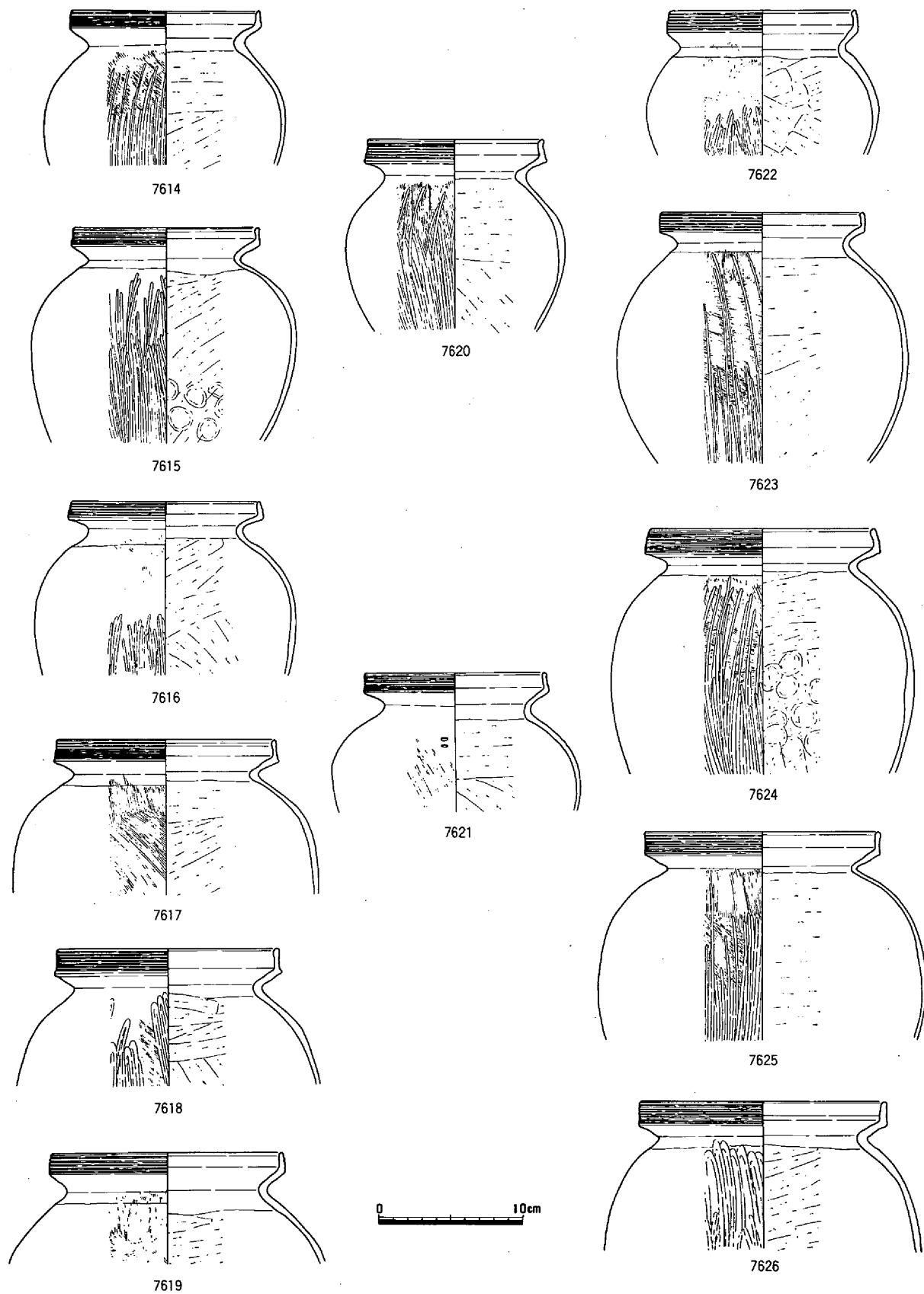
えられたが、遺物の出土状況などからみて墓墳ではないと判断された。

7589～7595の壺は、二重口縁をもつものと、「く」の字口縁をもつものがある。7592は胎土がやや異なる。7596～7526の甕には、7596の二重口縁をもつ山陰系と「く」の字口縁をもつ7597～7613さらに7614～7626の吉備型甕がある。7607・7608は、胎土が異なり、肩部には櫛描きによる波状文・平行直線文を施文している。7597・7609～7613は、外面体部にタタキを施しており、7613はやや胎土が異なる。また、7601も異なる胎土を使用しており、口縁部の外面には波状文を施している。7627～7645の

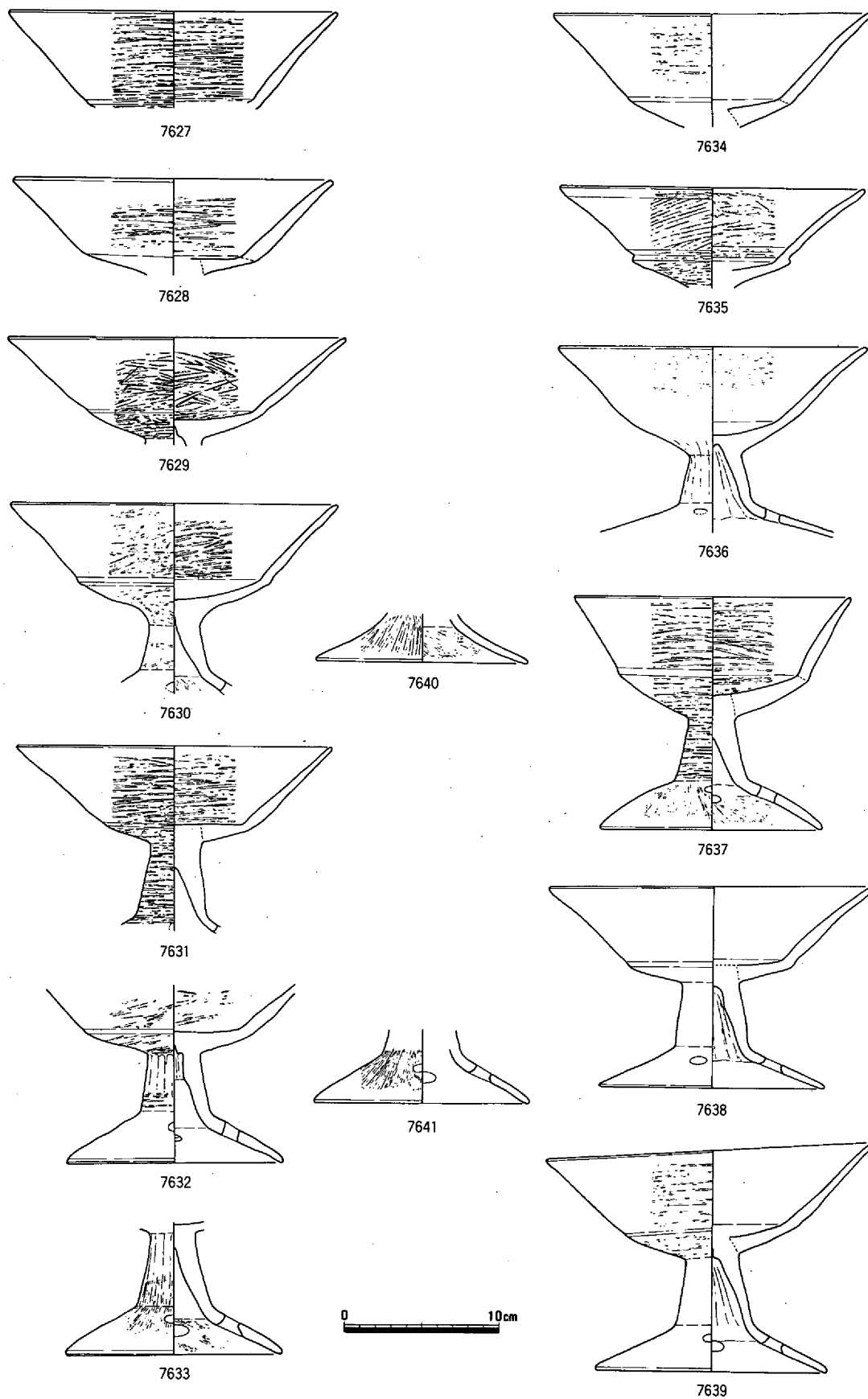


第464図 土境一440出土遺物(2)

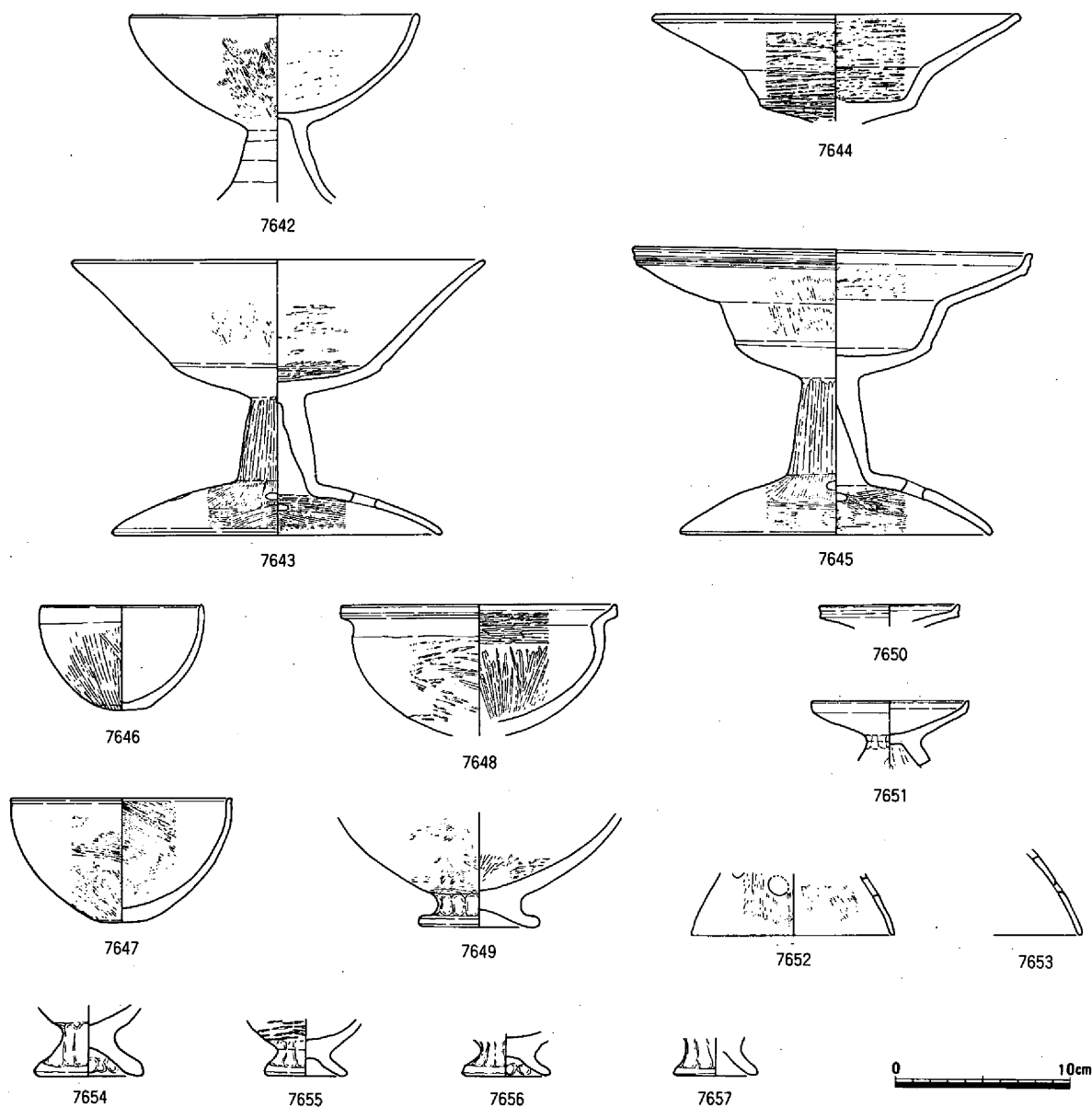
高杯には、7627～7639・7643の当地域で認められるものと、7644・7645の胎土が異なり、杯部に特徴をもつものがある。



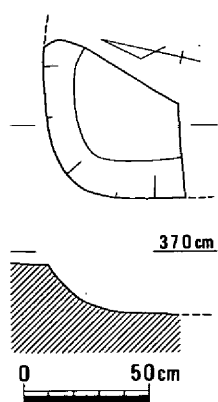
第465図 土壙-440出土遺物(3)



第466図 土壙—440出土遺物(4)



第467図 土壙-440出土遺物(5)



第468図 土壙-441
(1/30)

これらの土器は、いずれも古墳時代初頭の特徴を示している。(中野) 土壙-441 (第468図)

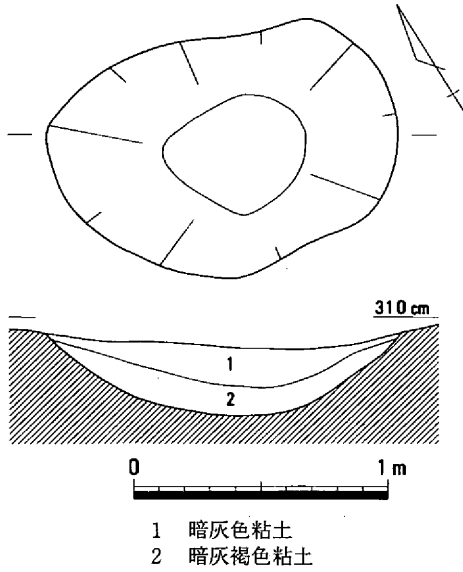
この土壙は、調査区中央のやや南寄りに位置し、竪穴住居-293の西側に検出された。土壙は、竪穴住居に切られており、西側の一部を確認した。このため規模・形態は不明で、深さは約23cmを測る。

出土遺物は、吉備型甕の破片が数点検出されている。古墳時代初頭。

(中野)

土壙-442 (第469図)

土壙-442は、調査区中央のやや南寄りに位置し、竪穴住居-289の西側約1mに近接して検出された。土壙は、後世の大溝の肩口に位置しているため、上部は削平されている。規模は、137×96cmを測り、平面形は楕円



第469図 土壌-442(1/30)

形を呈している。深さは約32cmで、断面形は皿形を呈する。土壌内は第1・2層がレンズ状に堆積しており、出土遺物は認められなかった。しかし埋土等からみて古墳時代初頭か。 (中野)

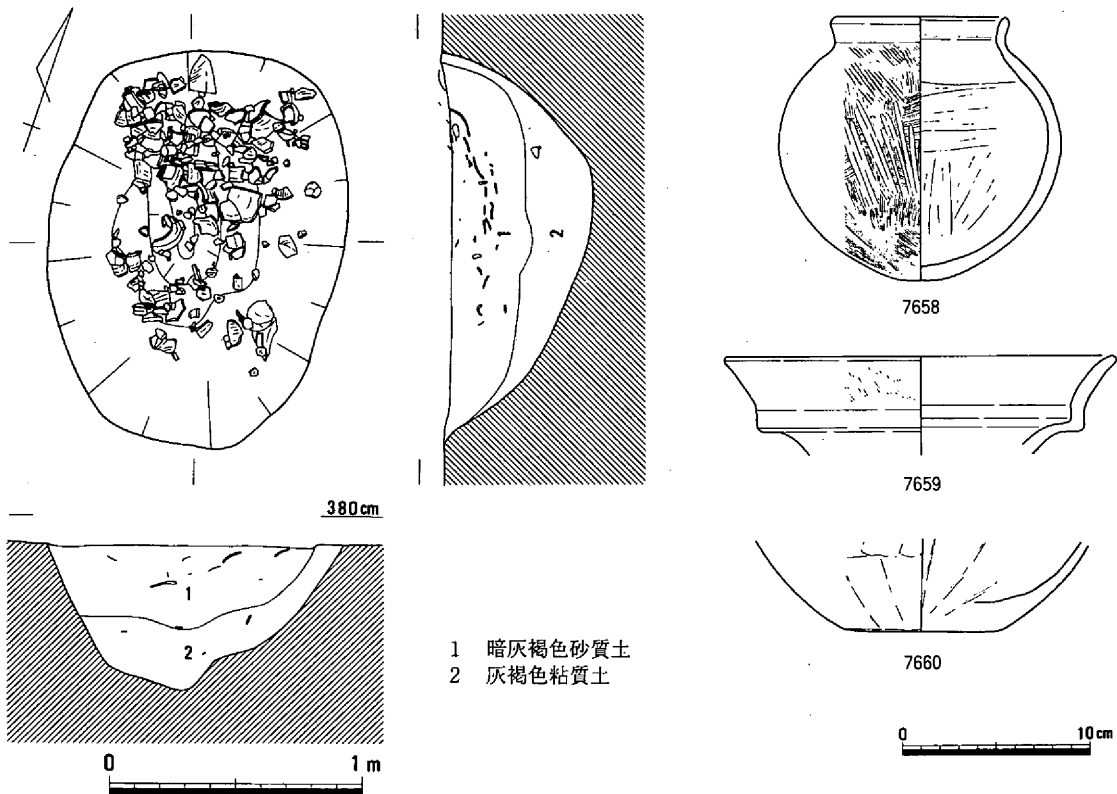
土壌-443 (第470・471図)

この土壌は、調査区南側に位置し、竪穴住居-299の南西に隣接して検出された。土壌の規模は、長さが約157cmで、幅が約117cmを測り、平面形は楕円形を呈している。深さは約60cmで断面形は碗形を呈する。土壌内は、上下2層で上層に暗灰褐色砂質土、下層に灰褐色粘質土が堆積していた。出土遺物は、その大半が上層から検出されたものである。

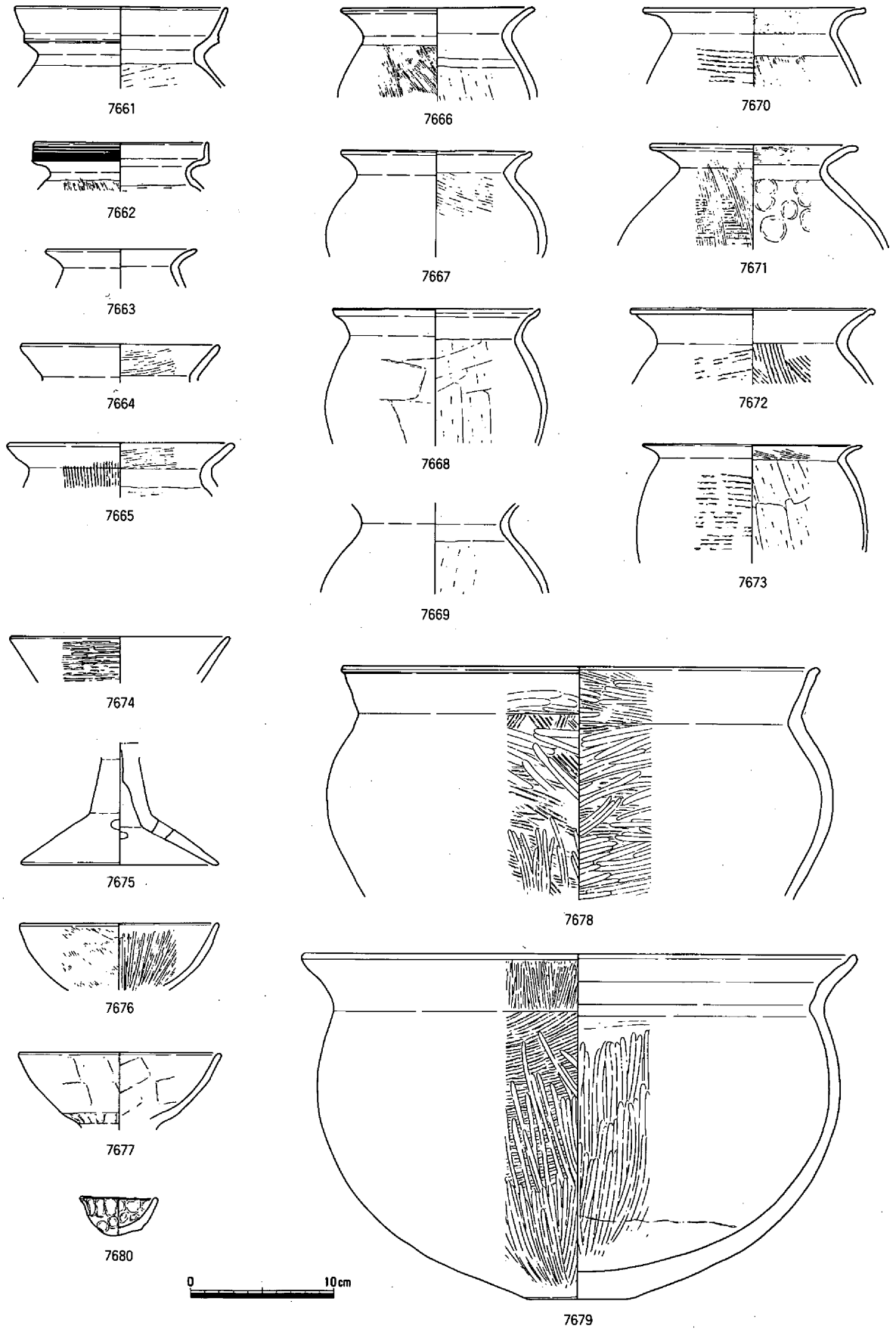
7658・7659の壺は、短頸の上方に立ち上がる口縁部をもつ7658といわゆる二重口縁の7659がある。

7661~7673の甕は、この土壌の特徴として吉備型甕が少なく図示した7662の他には数点しか出土していない。7663~7673は、「く」の字口縁をもつもので、7670~7673にはタタキを施している。

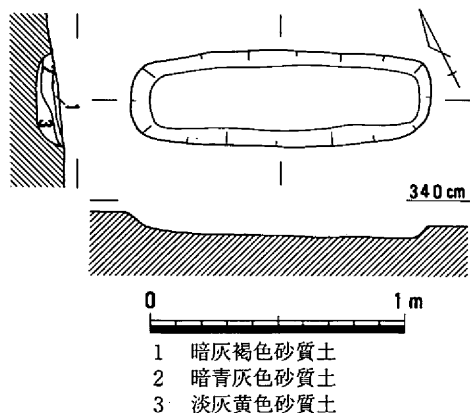
7674・7675の高杯も個体数が少なかった。7676~7679の鉢は、小形の7676・7677と大形の7678・7679がある。7678・7679は、「く」の字に口縁をもつもので、頸部からややくせをもって立ち上がる。7680の手捏ね土器も出土している。



第470図 土壌-443(1/30)・出土遺物(1)



第471図 土壇-443出土遺物(2)



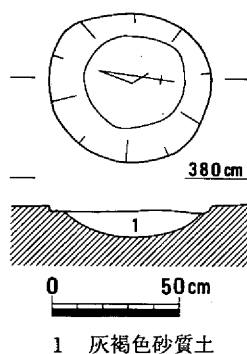
第472図 土壌-444 (1/30)

これらの土器は、組成に特徴をもっており、古墳時代初頭の時期である。(中野)

土壌-444 (第472図)

土壌は、調査区南側に位置し、竪穴住居-203の南側約2 mに検出された。土壌の長さは約117 cm、幅は約38 cmを測り、平面形は長楕円形を呈している。深さは約9 cmで、断面形は皿型を呈する。土壌内は第1～第3層が堆積しており、古墳時代初頭の土器が少量出土した。

(中野)



第473図 土壌-445 (1/30)

土壌-445 (第473図)

この土壌は、調査区の南側に位置し、土壌-444の南約3 mに検出された。規模は65×61 cmの平面形はほぼ円形を呈している。深さは約12 cmを測り、断面形は椀形を呈する。出土遺物は認められなかったが埋土等から古墳時代初頭と考えられる。

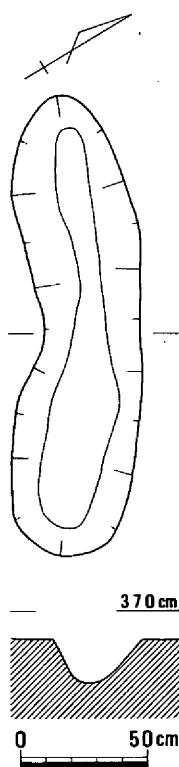
(中野)

土壌-446 (第474図)

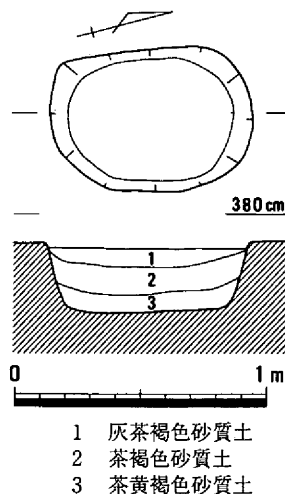
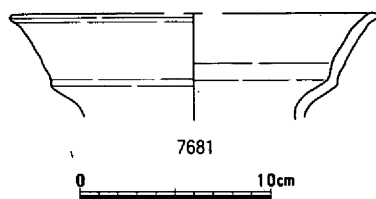
土壌は、調査区の南側に位置し、土壌-445の東側約2 mに検出された。規模は、長さ約185 cm、幅約49 cmで溝状を呈している。深さは約16 cmを測る。出土遺物は、図示した二重口縁の壺の7681の他に少量の土器が検出されている。

(中野)

土壌-447 (第475図)



第474図 土壌-446 (1/30)・出土遺物



第475図 土壌-447 (1/30)

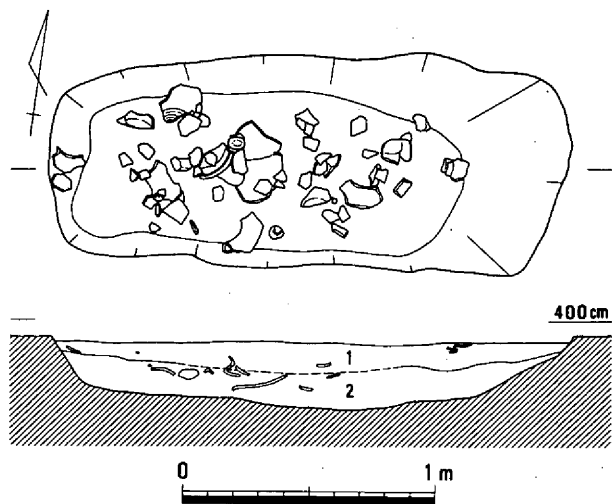
この土壌は、調査区南端のほぼ中央部に位置し、竪穴住居-297の約5 mに検出された。規模は、85×56 cmで平面形は楕円形を呈している。深さは約28 cmを測り、断面形は楕円形を呈している。深さは約28 cmを測り、断面形は箱型を呈する。土壌内は、第1～第3層がレンズ状に堆積していた。出土遺物としては土器の細片が数点検出されたが時期を限定できるものではなかった。しかし、埋土等から古墳時代初頭か。(中野)

土壙—448 (第476図)

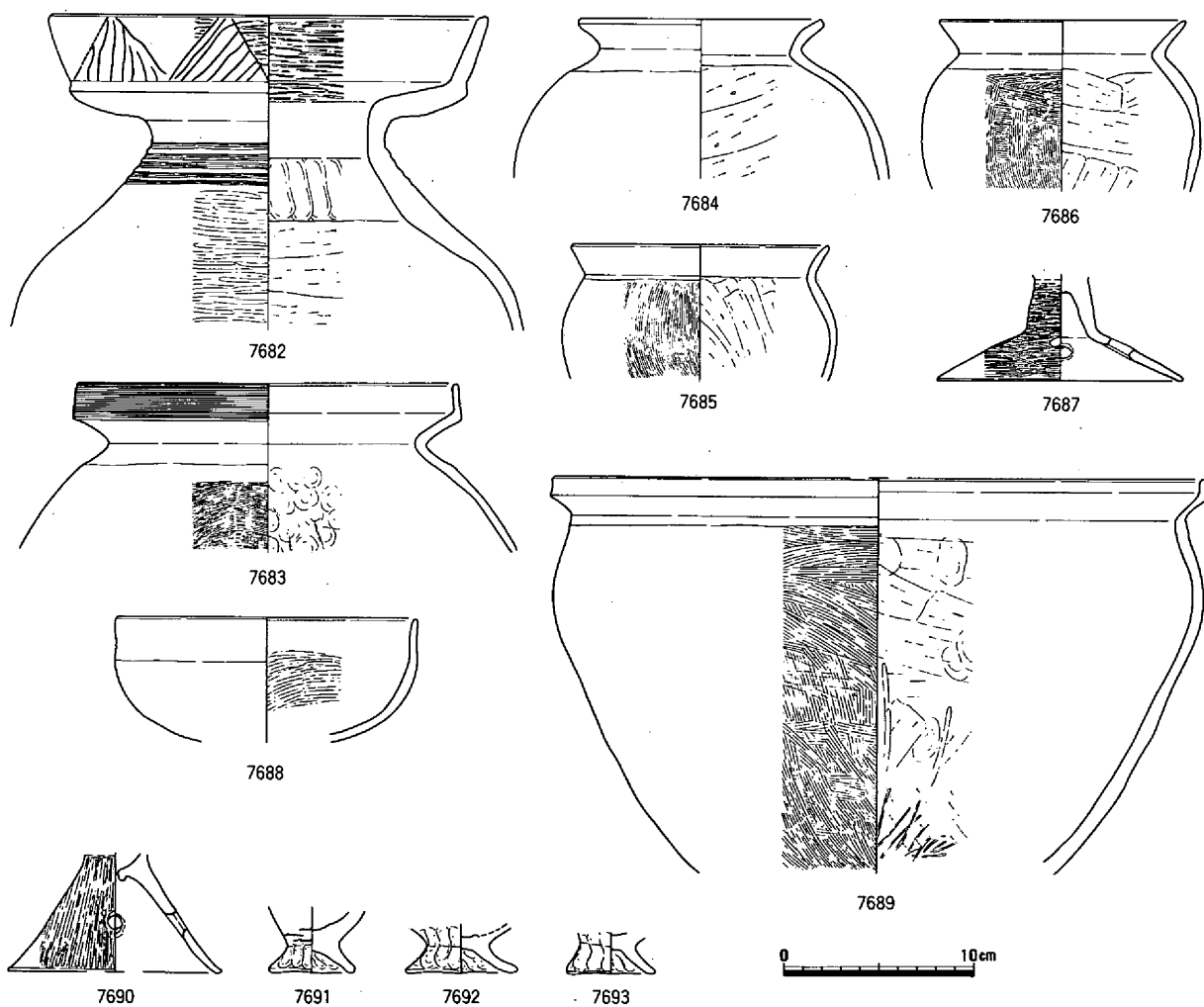
P17区の南東に位置する土壙である。長さ204cm、幅86cmの長方形を呈し、検出面からの深さは29cmを測る。標高365cmの底面から立ち上がる壁面は、東側のみやや緩やかな傾斜をもち、その断面は逆台形をなす。埋土の下層からは、西から

廃棄された状態で多くの土器が出土した。壺7682は体部から窄まる短い頸部をもち、二重になる口縁部には鋸歯文を描く。甕にはく字形の口縁部をもつ7684~7686と、短くたちあがる口縁部に櫛描沈線を飾る7683とがある。高杯7687や器台7690の脚部には4つの透かし孔を穿つ。7688・7689は鉢で、脚台を備えた7691~7693は製塩に使用されたものである。これらの中には弥生時代末に遡るものもあるが、概ね古・前・Iの範疇でとらえられる。

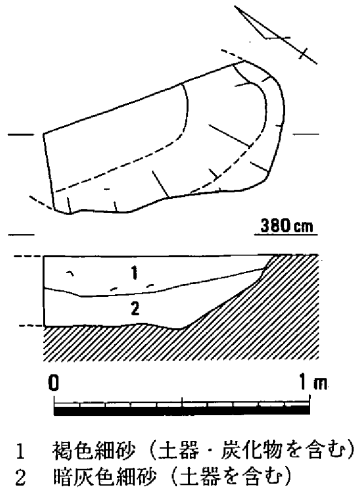
(亀山)



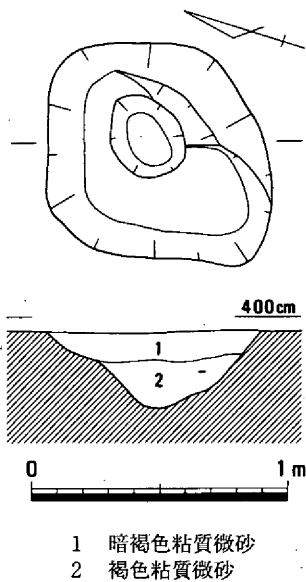
1 暗褐色粘質微砂 (土器多い) 2 暗褐色粘質微砂



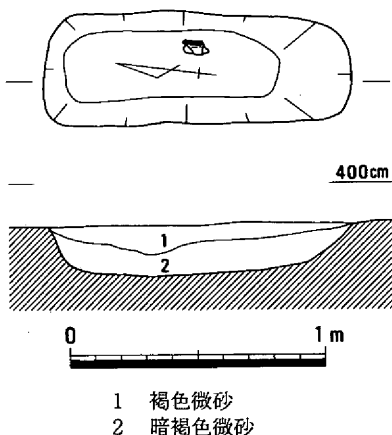
第476図 土壙—448(1/30)・出土遺物



第477図 土壌-449 (1/30)



第478図 土壌-450 (1/30)



第479図 土壌-451 (1/30)

土壌-449 (第477図)

土壌-448の4 m東で検出したもので、P17区の南東に位置する。調査区の隅にかかって検出されたため、全形を明らかにできなかったが、現状では長さ98cm、幅51cmの長方形をなす。標高313cmを測る底面は平坦で、検出面からの深さは29cmある。上下2層に分かれる埋土のうち、上層から土器片が少量出土している。小片のため詳細な時期は不明であるが、古墳時代前期のものともみて大過はないであろう。(亀山)

土壌-450 (第478図)

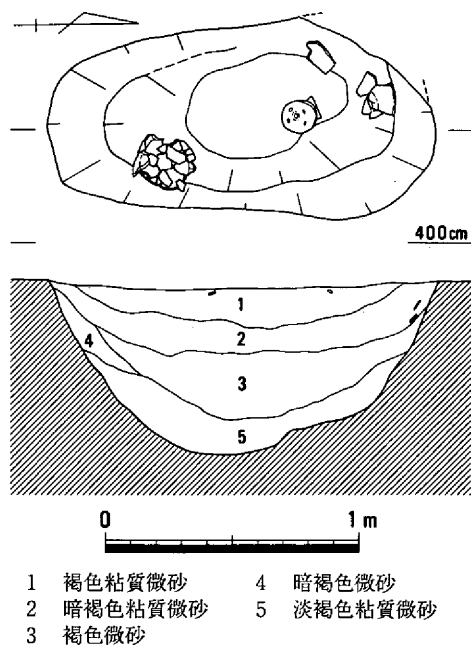
P17区の南東に位置する土壌で、土壌-448の北3 mで検出した。上面は不整な方形をなし、その規模は長さ108cm、幅89cmを測る。深さ31cmの位置にある底面は窪み、最深部の標高は364cmを測る。下層の埋土から土器片がわずかに出土しているが、小片のため細かな時期は明らかでない。しかし、周辺状況からみて古墳時代前期に属するものと思われる。(亀山)

土壌-451 (第479図)

竪穴住居-308・309の南辺に接して検出した土壌で、P17区の南東に位置する。長方形をなす上面は、長さ120cm、幅45cmを測り、主軸をほぼ南北におく。現状の深さは20cmと浅く、平坦な底面は標高364cmを測る。南の壁面はやや緩やかなものの、それ以外では急な傾斜をもって立ち上がり、断面は逆台形を呈する。出土した土器は少量であり、正確な時期は詳らかではないが、他の遺構との関係からして古墳時代前期である可能性が高い。(亀山)

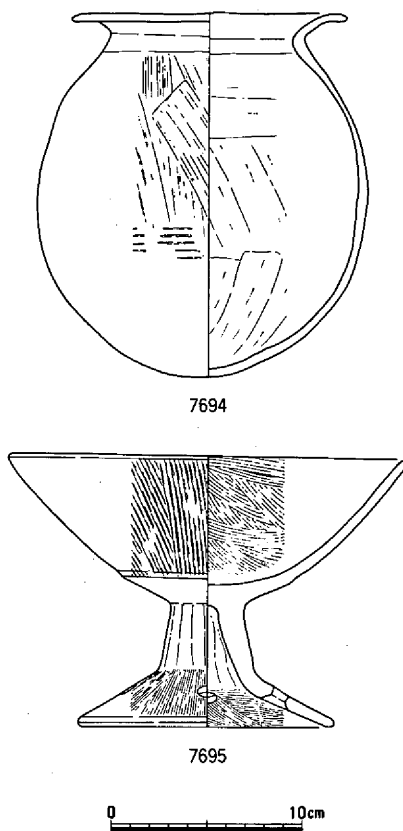
土壌-452 (第480図)

P17区の南東に位置する土壌で、竪穴住居-308・309の北辺に接している。調査区境にかかって検出したため南東隅を欠いているが、長さ153cm、幅78cmの南北に長い楕円形に復元される。検出面からの深さは67cmあり、底面は標高364cmを測る。断面U字形をなす土壌内には埋土がレンズ状に堆積しており、その上層からは完形の土器2点が出土している。7694は甕で、口径12.1cm、器高19.2cmを測る。く字形に外反する口縁部は弱いヨコナデで調整されており、楕円形をなす体部はタタキで成形した後、外面を板によるナデ、内面をヘラケズリで粗く調整する。高杯7695は、口径20.5cm、脚径13.0cm、器高14.3cmを測る。杯部は深く、内外をハケメで調整する。中実ぎみにつくられた脚部は、裾に4つの透かし孔を飾る。これらの土器は古・前・Ⅱ期に比定され、この土壌の廃絶した時期を示している。(亀山)



土壌-453 (第481図)

P17区の東南、橋脚 (P7区) に所在し、古墳時代前期の竪穴住居-311の3 m南西に位置する。長さ65cm、幅62cm、深さ13cm、床面海拔高381cmをはかる土壌である。断面形は皿状を呈し、埋土は淡灰色粘質微砂の1層である。



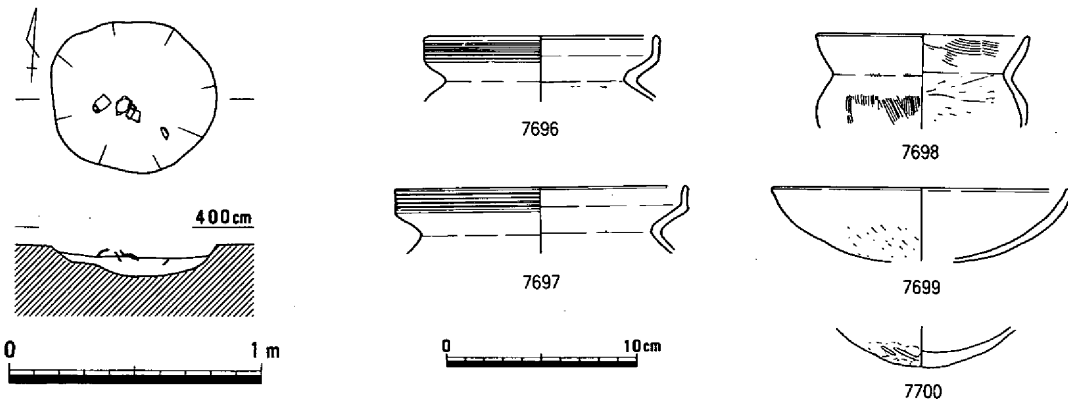
第480図 土壌-452 (1/30)・出土遺物

遺物は埋土の上位から出土しており、甕、鉢がみられる。甕7696、7697は口縁部に5条の櫛描き沈線文が施されており、口径12cm、15.2cmをはかる。鉢7699は口径15.2cm、器高3.9cmをはかり、色調は灰白色を呈する。外面下半にヘラケズリが施されており、胎土中に0.1~1mmの白色小砂粒を含む。

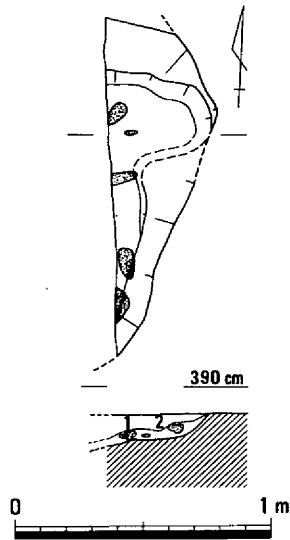
土器の形態、調整の特徴から古・前・IIの古相に比定できる。 (高畑)

土壌-454 (第482図)

P18区西端の中央南よりに位置する土壌で、調査区境にかかって検出した。このため全形を把握するに至らなかったが、現状では長さ132cm、幅43cm以上の楕円形をなす。検出面からの深さは3cmと浅く、平坦な底面は標高366cmを測る。埋土の特徴や他の遺構との関係から古墳時代のものと考えたが、僅かに出土した土器片の中には弥生土器と思われるものもあり、この時代まで遡る可能性もある。 (亀山)



第481図 土壌-453 (1/30)・出土遺物



- 1 暗褐色粘質微砂
- 2 褐色粘質微砂

第482図 土壌-454(1/30)

土壌-455 (第483図)

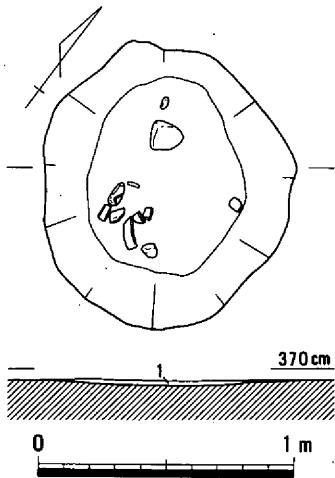
土壌-454の8m東で検出した土壌で、P18区東端の中央南よりに位置する。北西から南東に長い円形をなす上面は、長さ113cm、幅98cmを測る。現状では浅い窪み状を呈しており、深さは3cmを測るにすぎない。土壌内からは、若干の礫と少量の土器片が出土しているが、小片のため時期を決定する手掛かりに乏しい。しかし、他の遺構との関係からして古墳時代前期に属するものと見て大過ないであろう。(亀山)

土壌-456 (第484図)

P18区東端の中央南よりに位置する土壌で、土壌-454の1.5m南東で検出した。上面は不整な円形を呈し、その規模は長さ44cm、幅40cmを測る。現状で高さ9cmある壁面は、標高350cmを測る平坦な底面から斜め上方に立ち上がり、断面は逆台形を呈する。褐灰色をなす埋土からは、古・前・Iに比定される鉢が出土している。二重口縁をもつ大形の鉢で、屈曲する頸部と体部との境界は強く屈折しており、備後地方にその系譜をたどることができる。(亀山)

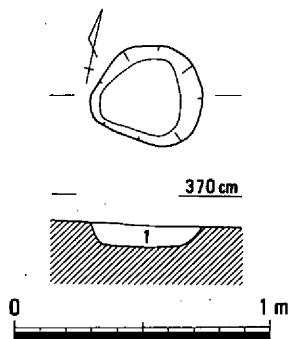
土壌-457 (第485図)

土壌-454の南東0.8mで検出した土壌で、P18区東端の中央南よりに位置する。北半については調査できなかったが、現状では、幅66cm、長さ67cm以上の、北西から南東に長い楕円形を呈する。高さ19cmある壁面は、標高341cmを測る底面から緩やかに屈曲して立ち上がり、断面は浅いU字形をなす。埋土は2層に分かれるが、そのうちの上層から口径15.4cm、器高25.5cmを測る甕が出土している。短い二重口縁には櫛描沈線を飾り、倒卵形をなす体部の肩にはA2類の刺突記号を施す。古・前・Iに位置付けられるものである。(亀山)



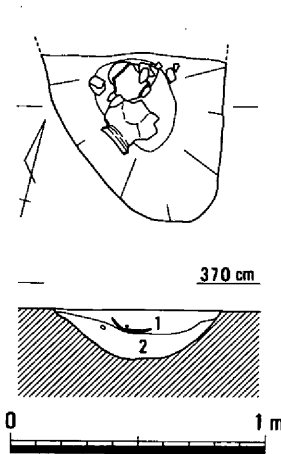
- 1 暗褐色粘質微砂

第483図 土壌-455(1/30)



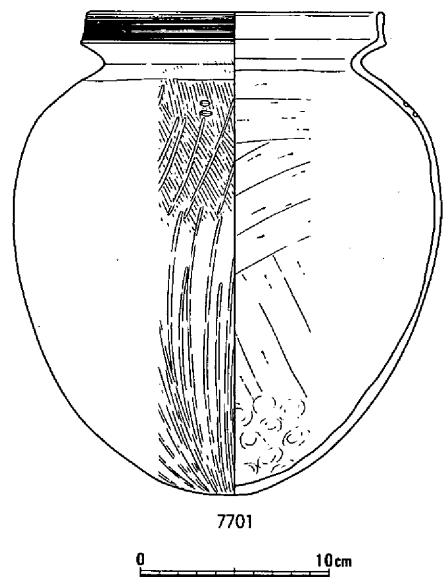
- 1 褐灰色粘質微砂

第484図 土壌-456(1/30)



- 1 褐灰色粘質微砂
- 2 暗褐色粘質微砂

第485図 土壌-457(1/30)・出土遺物



(6) 溝

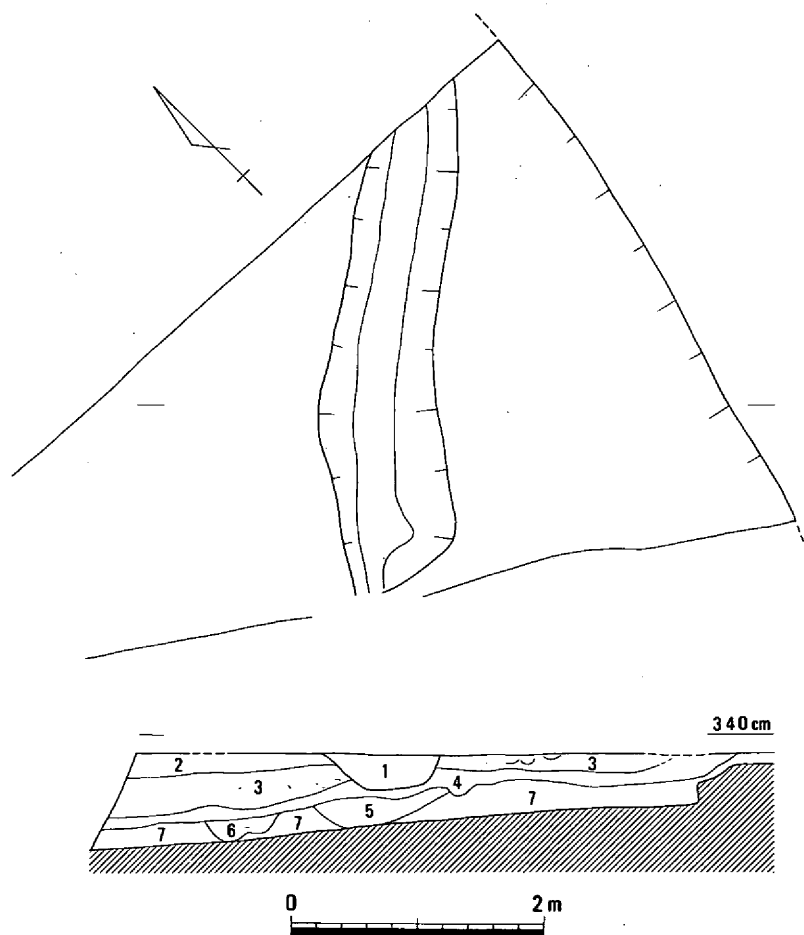
溝-16 (第486~488図)

O17区中央西側、盛土 (M8 I 区) の西端に所在し、微高地中央を南流する溝である。西川調査区の溝-5 と呼称された東端の溝から継続すると考えられ、P 線上にて南流する方向を東南に振り変え、P18区の微高地縁辺にまでおよぶ可能性がある。

河道東側の肩口は海拔335cmをはかり、そこより西に向って約15°の傾斜で下降している。おそらく、古い地形に即する傾きと考えられる。第3層茶褐色砂質土内に土器等の遺物が集中しており、微高地の縁に近い所に大形品が多くみられる。第1層の溝状の遺溝は溝-16より新しく、第6層は古く、埋土中に弥・中・Ⅲの土器片を含んでいる。溝-16の底面は第3層下になると思われるが、断面における溝の立ち上がりは把握できず、溝幅約4.5mの下がりのみを確認している。海拔265~300cm付近では溝状の窪みが錯綜する状況がみられたが、溝として完結しがたい不明瞭な状況である。おそらく、洪水等の流速により変化する場所であり、広く浅い窪みの形状を呈していた可能性が考えられる。

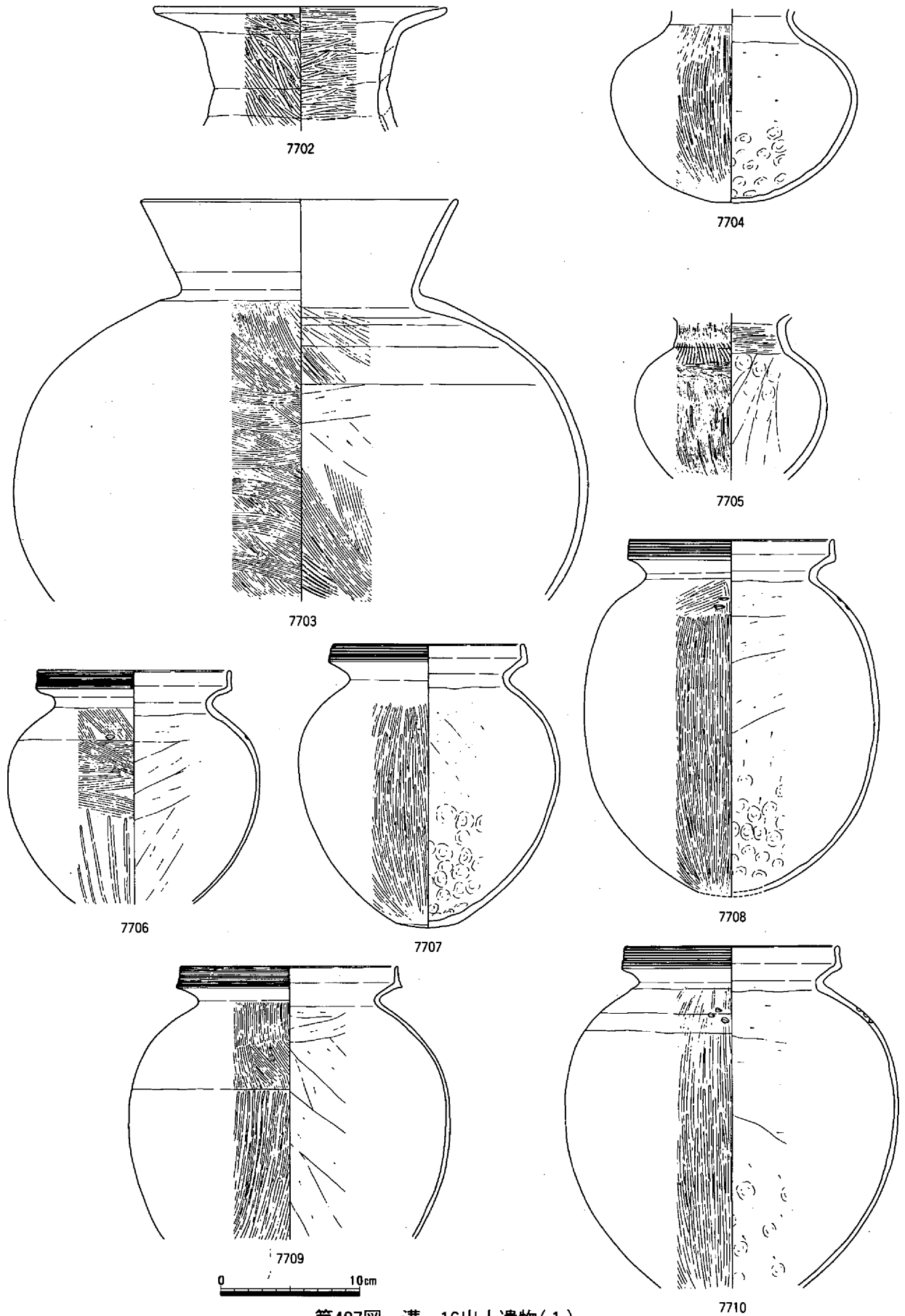
遺物は溝の東側微高地から投棄された状況を呈し、肩口から約1~3mの幅内にまとまってみられる。土器では壺、甕、高杯、鉢、手捏ね土器があり、鉄製品も2点含まれている。西川調査区の溝-5、および中屋調査区の溝-16から出土している弥・後・Ⅳ~古・前・Ⅰの中相、なかでも土器廃棄のピークが古・前・Ⅰの古相になる等から、これらが同一の溝であることが理解できる。

壺7702、7703は器内面に粘土紐の接合痕跡をとどめ、粘土紐の幅は3cm前後にて内傾の接合がおこなわれている。甕7706~7711は県南部特有の甕であり、立上がる口縁部に6~9条の櫛描き沈線文、器外面は縦・斜位のハケメ後、暗文風に縦位のヘラミガキが施され、器内面はヘラケズリ後、底部近くにユビオサエが顕著である。7706、7708、7710のように肩部に米粒状の刺突文があり、その刺突数は

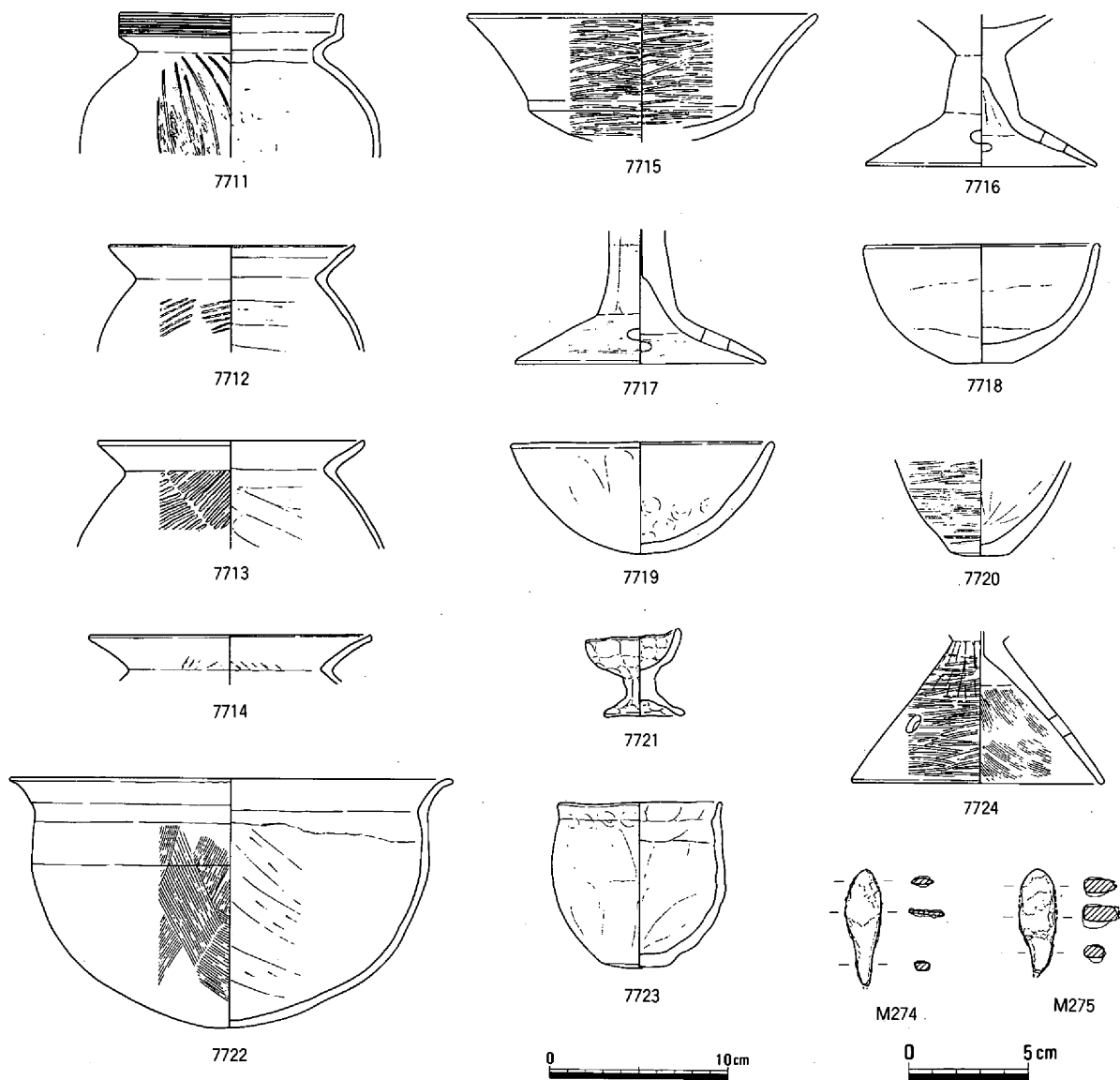


- 1 暗茶褐色粘質土
- 2 暗茶灰色粘質土
- 3 茶褐色砂質土
- 4 茶褐色粘質土
- 5 暗茶褐色微砂
- 6 茶褐色微砂
- 7 淡茶色微砂

第486図 溝-16 (1/60)



第487図 溝-16出土遺物(1)



第488図 溝-16出土遺物(2)

1～3個である。この手の甕は煮沸に使用されているものが多く、7706～7708、7710には底部から上半にかけて煤が付着している。ちなみに、頭部までの容量は7707が約3ℓ、7708が5ℓ強であろうか。

甕7712、7713は右上がりのタタキメが施されており、7712は胎土中に金雲母、角閃石が認められる。「く」の字状の口辺部にて器内面は横・斜位のヘラケズリが施されている。胎土中に2mm前後の白色小砂粒を含み、焼成は良好である。7721は口径9cm、底径3.6cm、器高9.3cmをはかる手捏ね土器（高杯）の完形品である。色調は鈍い橙色を呈し、胎土中に粗砂が認められる。

他に鉄鏝の可能性のある鉄製品が2点出土しており、同形同大に近いものであるが、M274が鉄鏝らしく、M275は未製品の感じを受ける。

これらの遺物と西川調査区から継続する溝内出土遺物は、集落から廃棄されており、その投棄時期、投棄状態も非常に近いものである。すでに弥生時代後期末から投棄が始まっており、古・前・Iの中相の新しい段階ではほぼ投棄が終了をしているようである。しかし、溝-16より溝-5の方が少し長い間、投棄が続いたようである。なかでも、土器の量が多いのは、古・前・Iの古相期全般と中相期

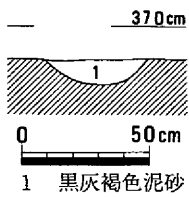
に一部がかかる時である。前々回報告の溝-16内には在地の土器に混在して、北陸系の甕2309、畿内系の甕2216、山陰系の器台2487、その他にも播磨、讃岐、阿波地域の甕、壺等が出土しており、この地域における古・前・I～II期の中心的集落になる可能性が強い場所である。(高畑)

溝-459 (第489図)

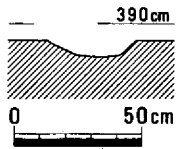
この溝は、竪穴住居-275の南約2mに検出された。溝は全長約2m程しか検出されていない。幅約40cm、深さ約8cmを測る。溝内には黒灰褐色泥砂が堆積していた。出土遺物は古墳時代初頭の土器が少量検出されている。(中野)

溝-460 (第490図)

溝-460は、溝-459の西約15mに位置し、竪穴住居-287の南約1mに検出された。溝の検出は一部で、全長約2mを確認しただけであった。幅は約35cm、深さは約7cmを測る。出土遺物としては、古墳時代初頭の土器が数点出土した。(中野)



第489図 溝-459 (1/30)



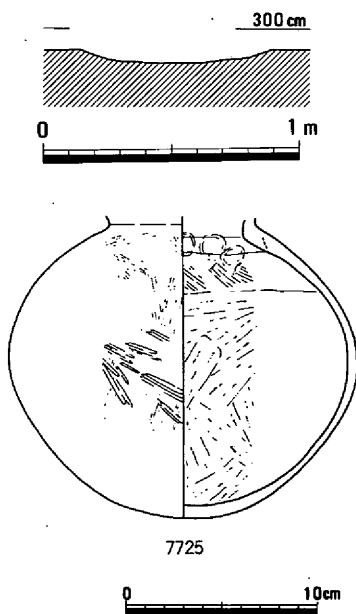
第490図 溝-460 (1/30)

溝-461 (第491図)

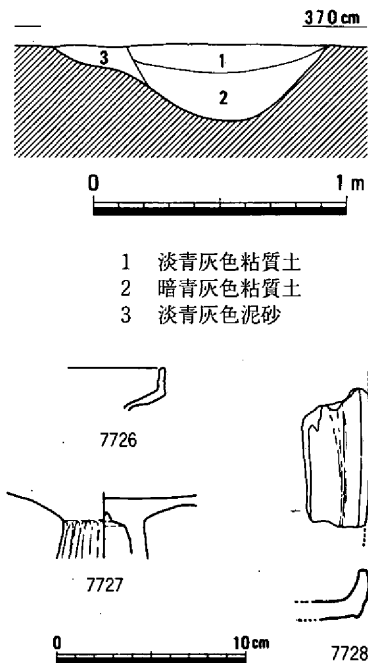
この溝は、調査区の南東部に位置し、古墳時代初頭の水田の下部に検出された。溝は北西から南東方向に延びており、全長約5mを確認した。幅は約75cm、深さは約5cmを測る。出土遺物は、古墳時代初頭の土器が少量検出された。(中野)

溝-102 (第492図)

溝-102は、すでに報告されている溝の延長部で、溝-461の西約8mに検出された。溝は削平を受けており深い部分が残存していた。幅約108cm、深さは約29cmを測り、第1～第3層が堆積していた。出土遺物は図示した7726～7728などが出土した。7728は、口縁部の一部であるが円弧を描かず直線的に延びる。器種は不明である。時期は、古墳時代初頭。(中野)



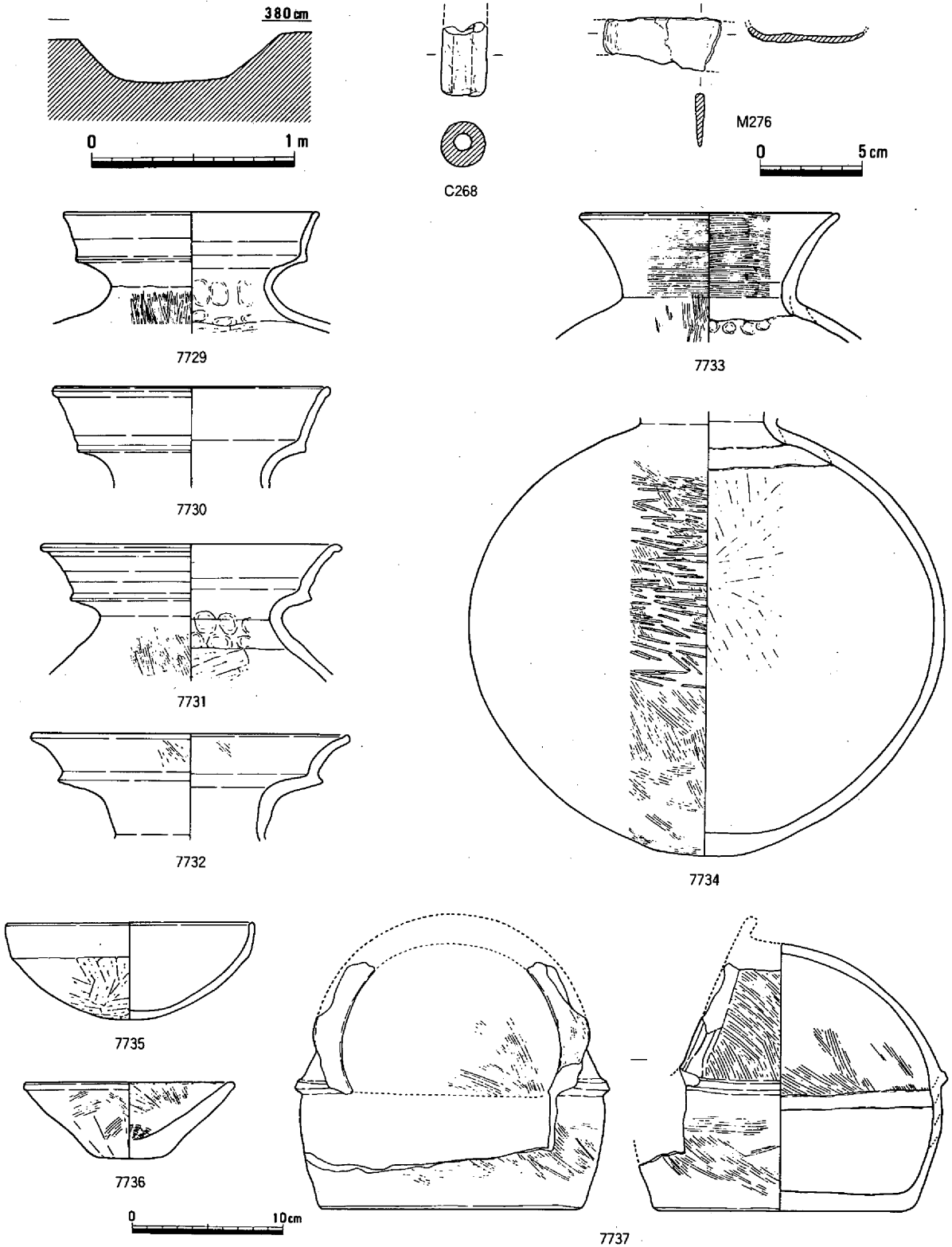
第491図 溝-461 (1/30)・出土遺物



第492図 溝-102 (1/30)・出土遺物

溝-104 (第493図)

この溝も溝-102と同様に、すでに報告されている溝の延長部である。溝はほぼ南北方向に延びており、幅約102cm、深さは約22cmを測る。出土遺物は豊富で、図示した7729~7737などの土器の他C268の土錘、M276の鉄器が出土した。



第493図 溝-104 (1/30)・出土遺物

7729～7734の壺は、二重口縁をもつ7729～7732と大きく外反する7733がある。甕および高杯はほとんど認められなかった。7735・7736は鉢で、7735の外面はヘラケズリを施し器壁を調整している。7737は手焙り型土器である。これらの土器はいずれも古墳時代初頭である。 (中野)

溝-462 (第494図)

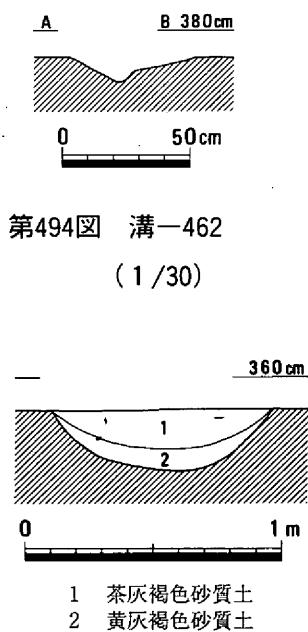
この溝は、溝-104の西側約10mに検出された。溝は北西方向にやや内湾しながら北東から南西方向に延びている。規模は、幅が約52cmで、深さは約9cmを測る。出土遺物は、土器片が数点検出されたが時期を限定できるものではなかった。しかし、溝は古墳時代初頭の土器溜り-12・13の下部で検出されており、おおむねこの時期であろう。 (中野)

溝-463 (第495図)

溝-463は、溝-462の西側に近接して検出された。溝は、ほぼ南北方向に約6m程検出され、流路としての溝とは考えがたい。規模は、幅約85cm、深さ約25cmを測る。溝内は、上下2層がレンズ状に堆積している。出土遺物は認められなかったが、埋土等から古墳時代初頭と考えられる。 (中野)

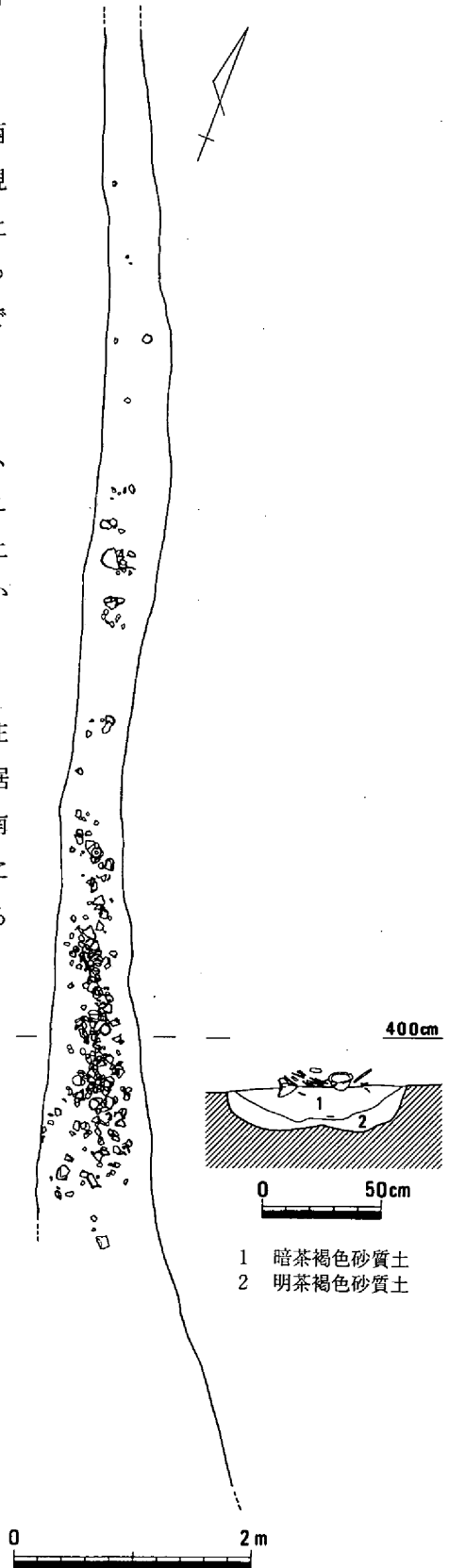
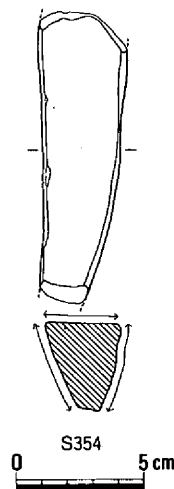
溝-464 (第496・497図)

P18区の西南、18線上の橋脚 (P7区) に所在し、竪穴住居-311、312の中間に位置する。全長13.0m、北から南に裾広がりに幅30～100cmをはかる南北溝である。北北西から南東方向に流走していたと考えられるが、北側、南側調査区においても確認されておらず、相当に後世の削平を受けている

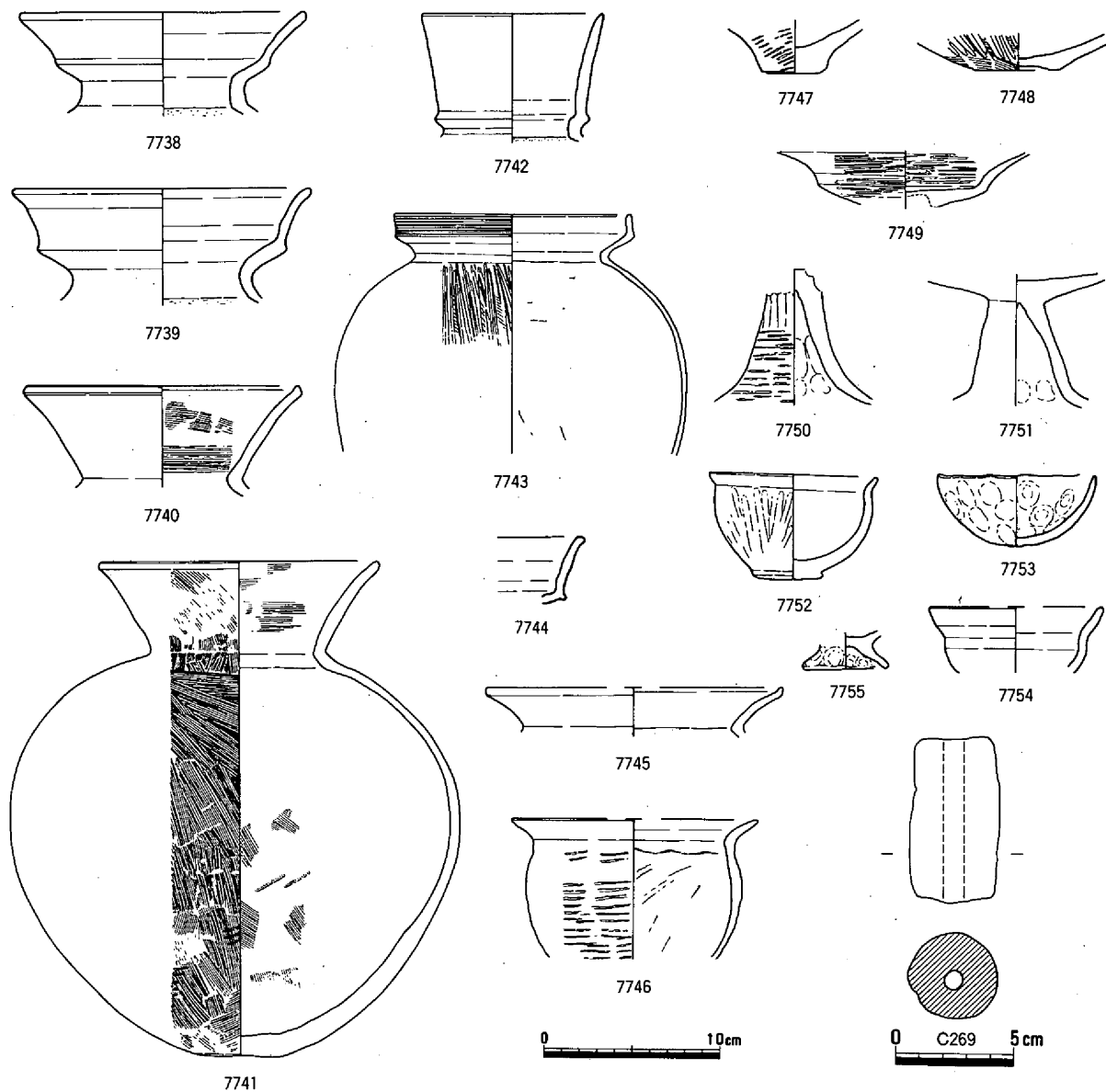


第494図 溝-462 (1/30)

第495図 溝-463 (1/30)・出土遺物



第496図 溝-464 (1/60・1/30)



第497図 溝-464出土遺物

ようである。

北端の床面海拔高は368cm、南端の床面海拔高は361cm、中央部は365.5cmをはかる。埋土は2層からなり、第2層には遺物は含まれておらず、第1層の暗茶褐色砂質土上層部に比較的まとまって土器が分布している。焼土粒、炭等もみられる。

土器等の遺物は溝内のほぼ全域に認められるが、その分布は北側が薄く、南側に濃い状況を呈する。大半の土器は破損の状態での出土であり、溝-464の廃絶後に投棄されたものである。壺、甕、高杯、鉢、製塩土器と土錘1点がみられ、7740、7742、7743、7745、7749、7753、7754は土器が密集する南側、7741等は土器が数布する北側の場所からの出土である。大形品ではほぼ完形に近いものに壺7741があり、口径15.9cm、最大径26.0cm、底径5.0cm、器高28.4cmをはかり、鈍い橙色を呈する。小形品では鉢7752があり、口径9.3cm、底径3.9cm、器高6.2cm、鉢7753は口径8.8cm、器高4.1cmをはかり、両方とも橙色を基調としており、胎土中に1mm以下の白色小砂粒を含む。壺7742は口径10.2cm、器高(7.4)cmの直口壺口辺部であり、色調は浅黄橙色を呈する。北陸、山陰地方において見受けられるも

のである。古・前・Ⅰの中相に比定できる。

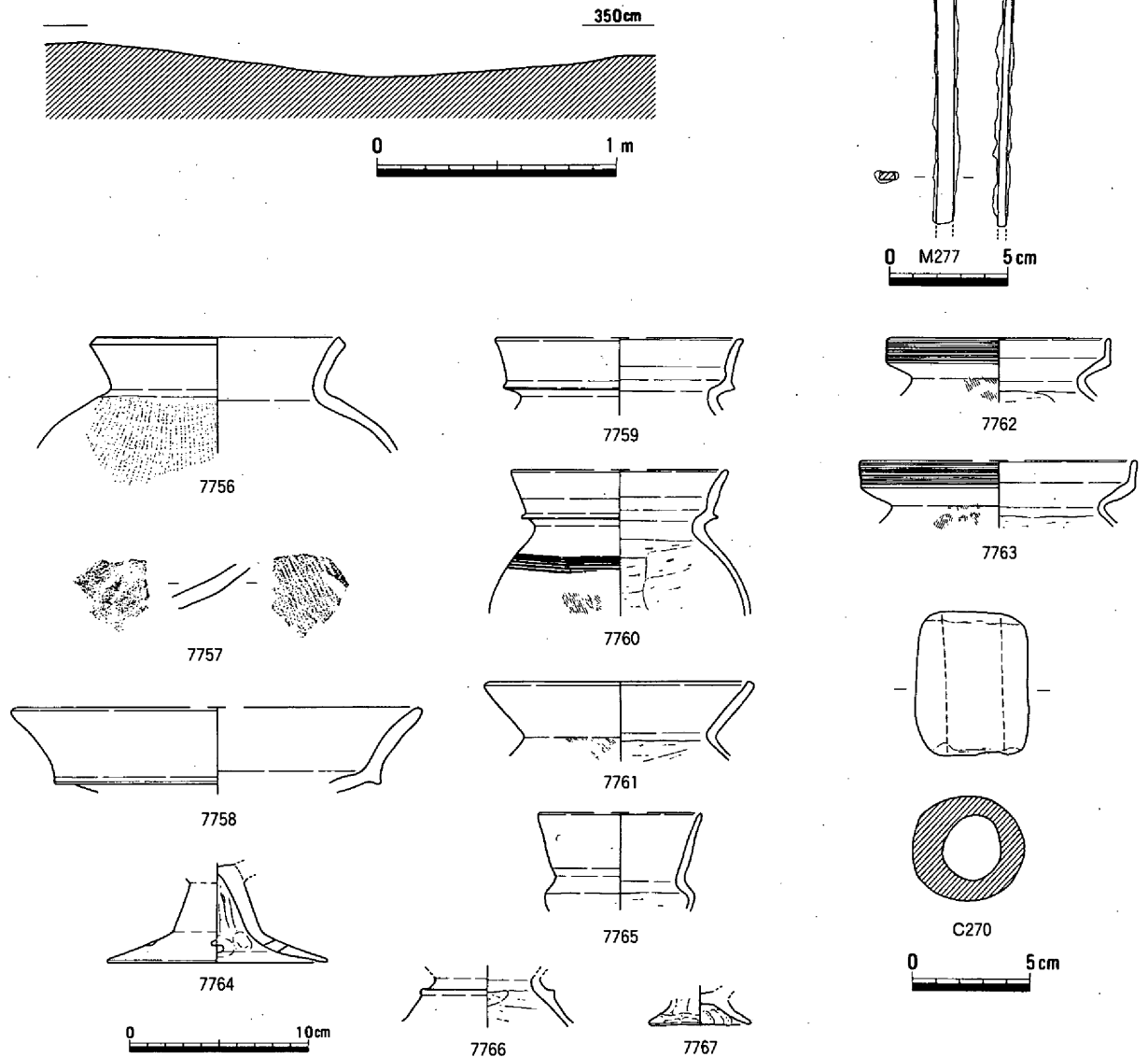
(高畑)

溝-100 (第498図)

P18区の南西を南北に走る溝である。幅2.2mのわりに深さは10cmと浅く、自然の地形である可能性が高い。

出土遺物には、陶質土器や土師器のほか、鉄製品、土製品がある。陶質土器7756・7757は壺で、径13.5cmを測る口縁端部は凹面をなし、張りのある体部には縄蓆文を施す。7758は二重口縁をもつ壺である。7759・7760は山陰系の甕で、二重につくる口縁はヨコナデで調整し、体部には平行沈線をめぐらす。7761は畿内系の甕で、口縁端部をわずかにつまみあげる。7766は山陰系の器台で、鼓形をなす。M277は鉞で、長さ13.6cm、幅0.8cm、厚さ0.3cm、重量14.6gを測る。基部をわずかに欠損しているもののほぼ完形である。C270は管状土錘で、4.8cmを測る径に対して長さは6.1cmと短く、ずんぐりとした円筒形をなす。孔径は2.7cmと大きく、重量は110.8gある。これらは古・前・Ⅰ～Ⅱに比定されるものの、陶質土器については古・前・Ⅲまで下る可能性がある。

(亀山)

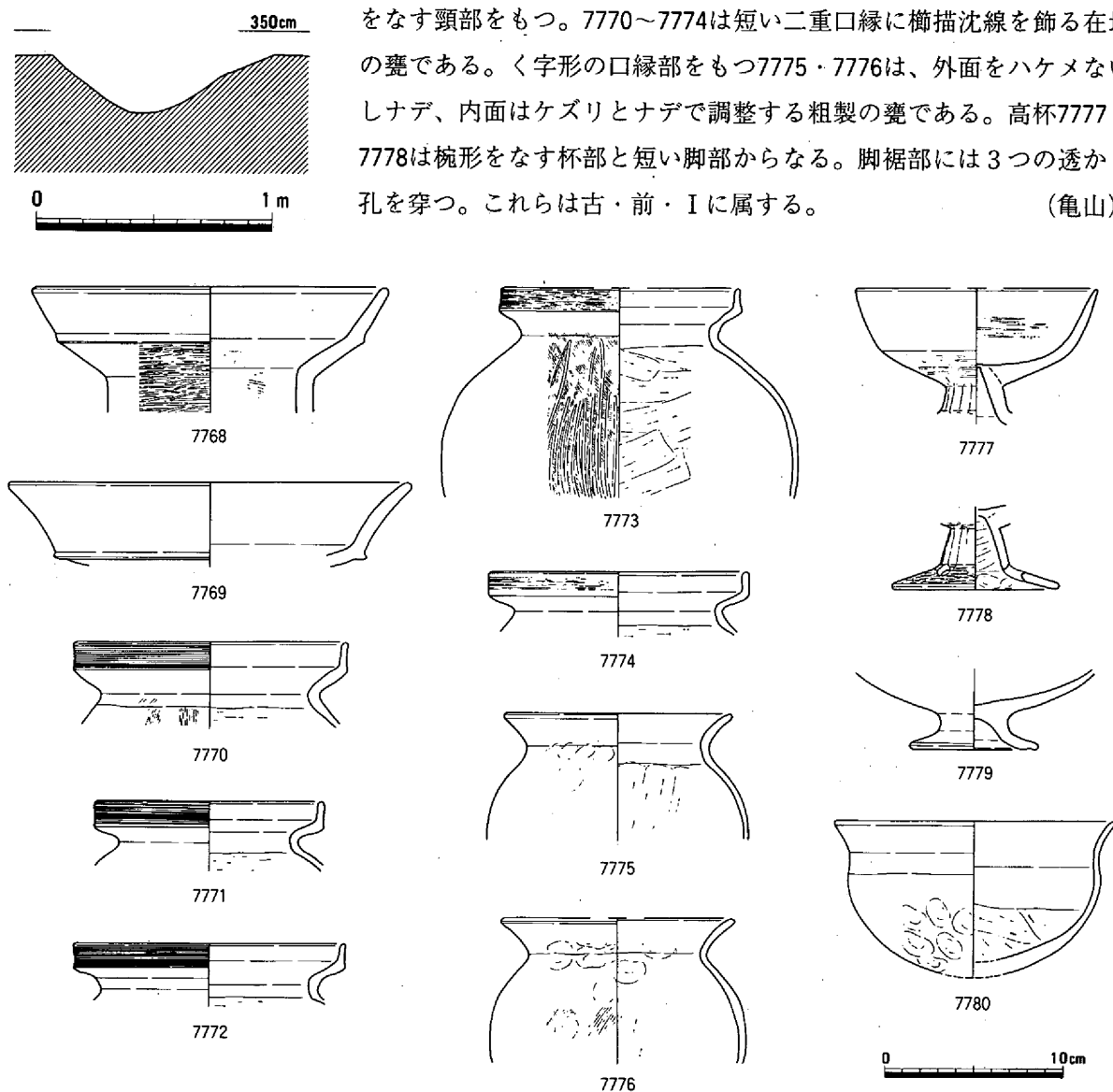


第498図 溝-100(1/30)・出土遺物

溝-465 (第499図)

溝-100の1m東を北から南へ走る溝である。上幅92cm、深さ24cmあり、断面はく字形をなす。

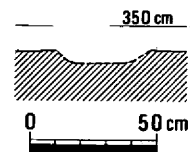
埋土からは、土師器7768~7780が出土している。7768・7769は二重口縁をもつ壺で、前者は円筒形をなす頸部をもつ。7770~7774は短い二重口縁に櫛描沈線を飾る在地の甕である。く字形の口縁部をもつ7775・7776は、外面をハケメないしナデ、内面はケズリとナデで調整する粗製の甕である。高杯7777・7778は椀形をなす杯部と短い脚部からなる。脚裾部には3つの透かし孔を穿つ。これらは古・前・Iに属する。(亀山)



第499図 溝-465 (1/30)・出土遺物

溝-466 (第500図)

P18区の南西で検出した溝で、溝-100・461の上層を、これらと直交するように東西に走る。上幅は36cmあり、深さは6cmと浅い。遺物を出土していないため正確な時期は不明であるが、溝-100・461との切り合いや周辺の遺構との関係から、古・前・Ⅲ~古・中・Ⅱにおさまるものと思われる。(亀山)

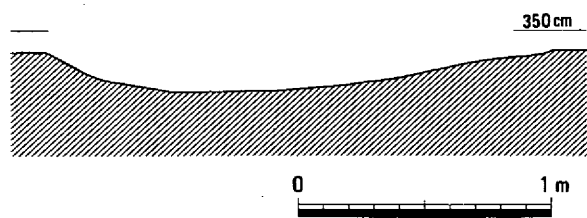


第500図 溝-466 (1/30)

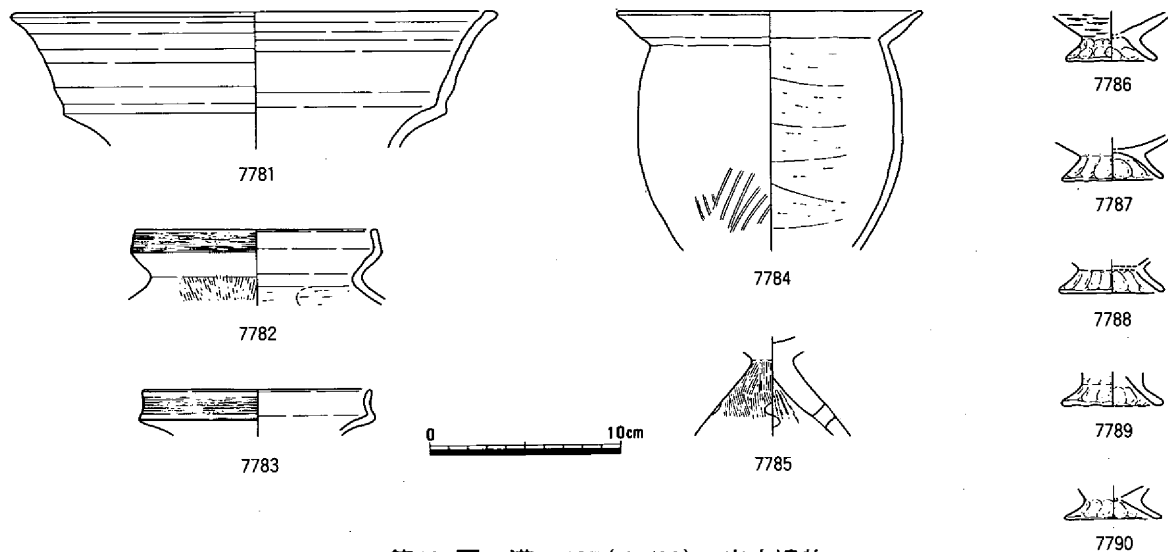
溝-467 (第501図)

溝-466の6m南をわずかに湾曲しながら東西に走る溝で、P18区の南西に位置する。上幅は2mほどあるが、検出面からの深さは15cmしかなく、人為的な遺構かどうか明らかでない。

埋土からは、若干の土師器が出土している。7781は上方に向かって開く二重口縁をもつ壺である。



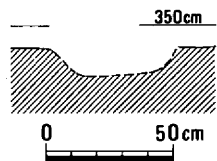
甕には、短い二重口縁に櫛描沈線をめぐらす7782・7783と、く字形の口縁部をもつ7784とがある。このほかに器台7785や製塩土器の脚台部7786～7790がある。これらは概ね古・前・Ⅱの時期を示している。(亀山)



第501図 溝-467(1/30)・出土遺物

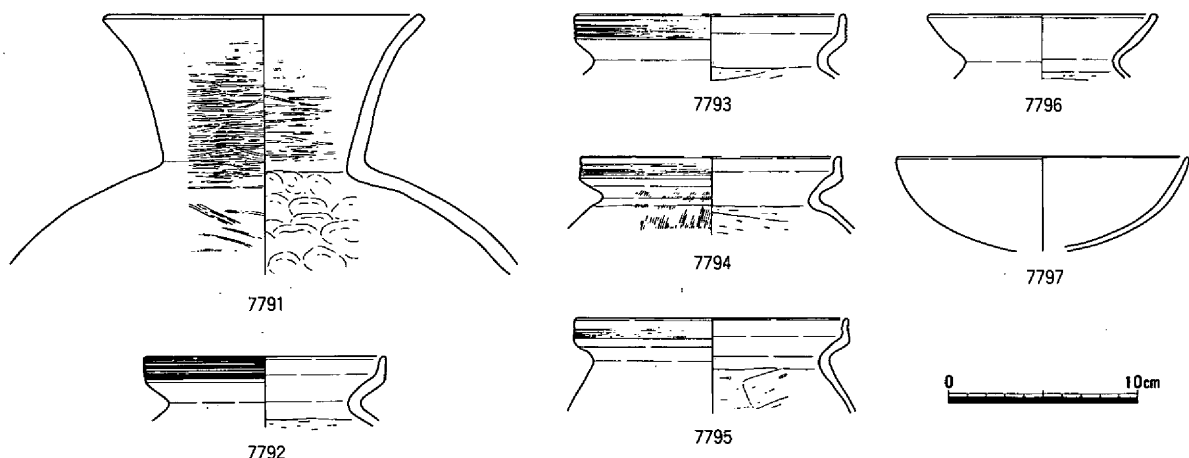
溝-468 (第502図)

P18区の南西で検出した溝で、溝-466の1.2m南をほぼ東西に走っている。検出長は12.5mを測り、西端は竪穴住居-306に切られて終わっている。上幅1m、深さ10cmの浅い溝で、埋土から土師器を出土している。7791は口頸部が上方に向かって広がる壺で、口径は16.2cmを測る。口頸部は内外面にヘラミガキを施し、体部の内面にはユビオサエの痕を顕著に残す。7792～7795は在地の甕で、櫛描沈線で飾る短い二重口縁を備えている。7796はく字形の口縁部をもつ甕で、その端部はわずかに肥厚して終わる。胎土の特徴から河内からの搬入品と見られる。



古・前・Ⅱの範疇で捉えられるものである。

(亀山)



第502図 溝-468(1/30)・出土遺物

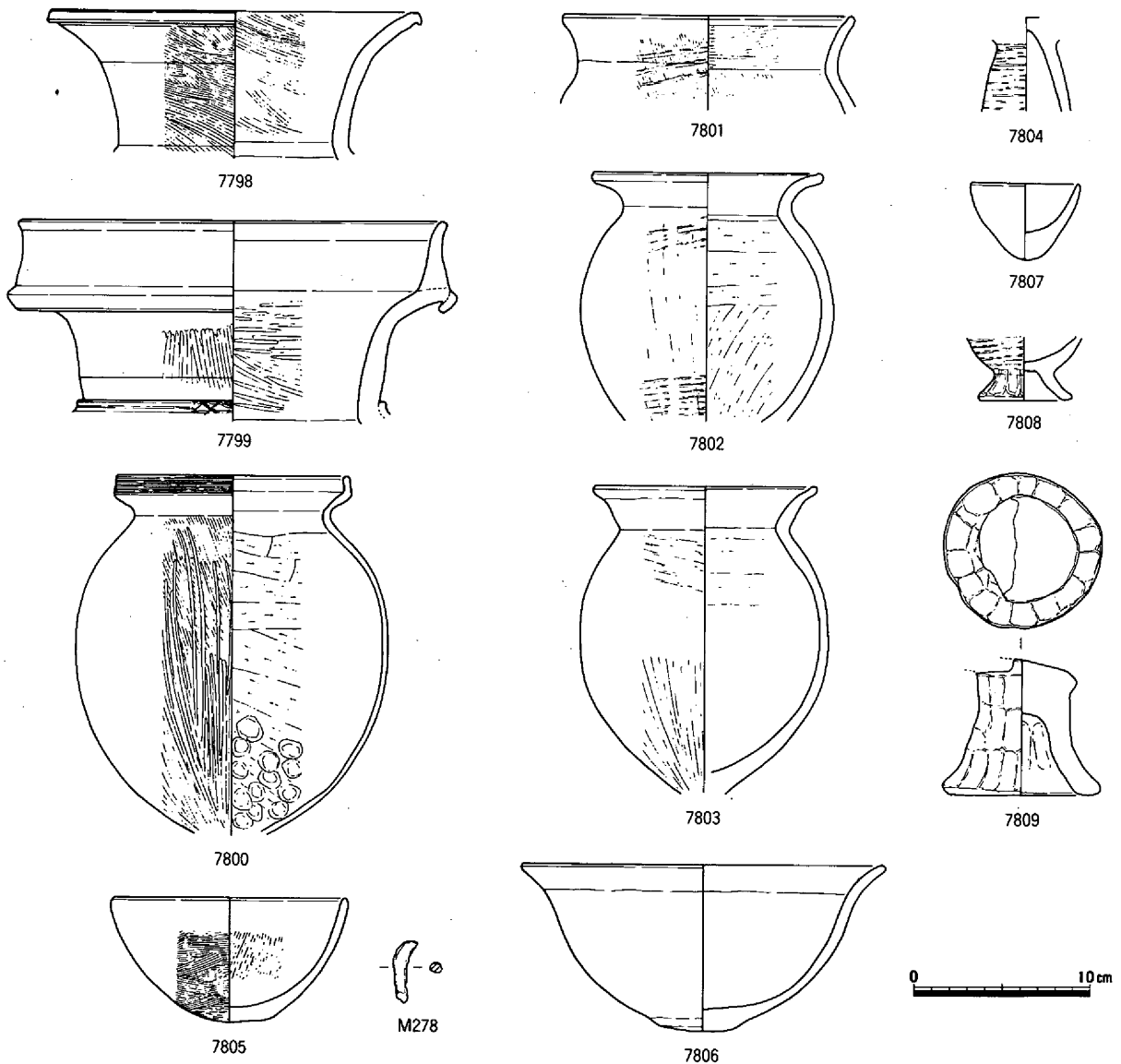
(7) 土器溜り

土器溜り-12 (第503図)

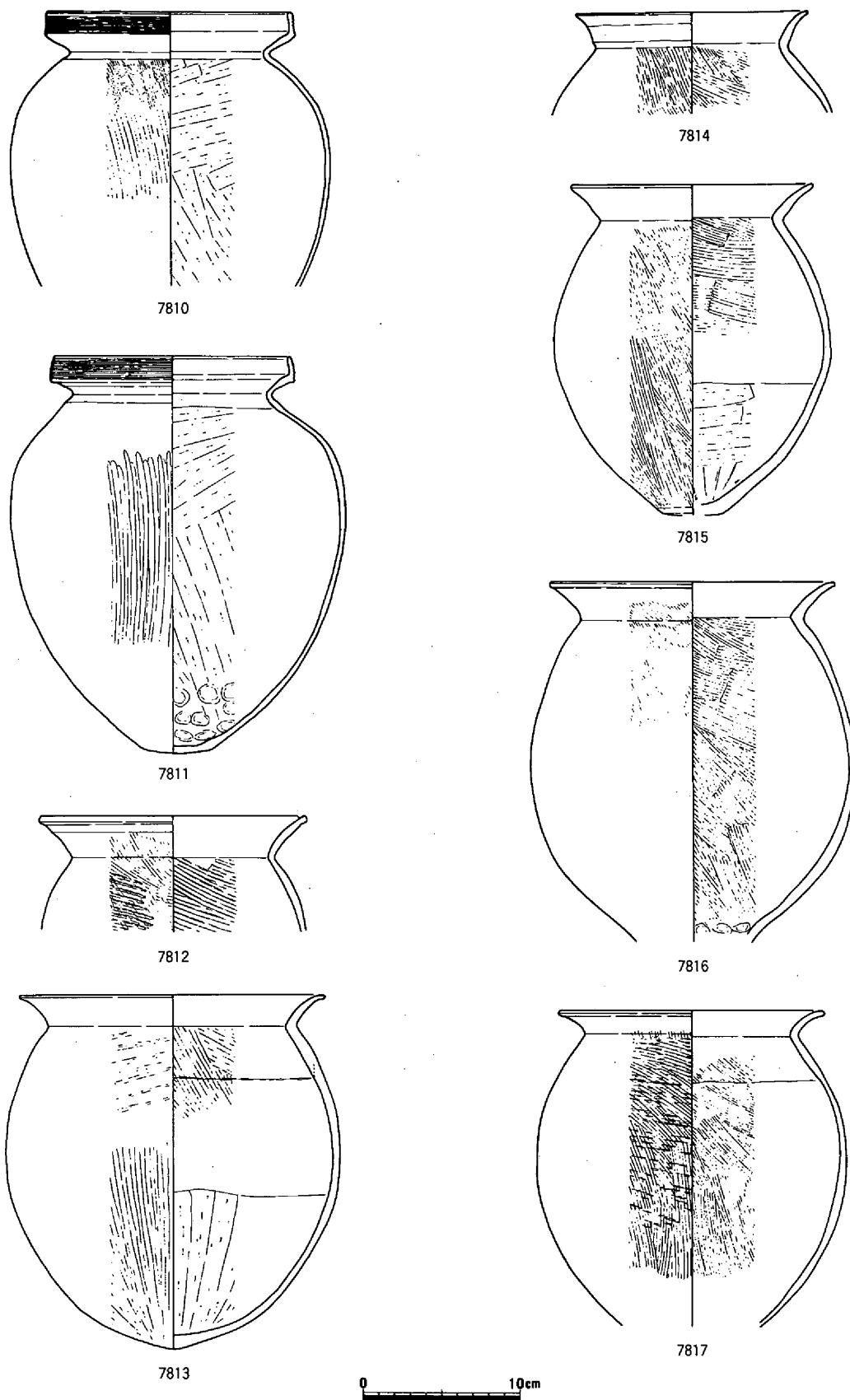
この土器溜りは、調査区の南東端部に位置しており、竪穴住居-299の南東に隣接して検出された。土器溜りは、すでに報告されている土器溜り-5の延長部になる可能性がある。範囲は、約3×2mに広がって検出され、完形は含まれていなかった。出土遺物は、7798~7809などの土器の他鉄器も検出されている。

7798・7799の壺は、頸部からゆるやかに外反する口縁をもつ7798、二重口縁をもつ7799がある。7798は、口縁端部を下方に少しつまみ出しており、口縁内外面はハケメにより調整している。さらに胎土も異なる。7799は、頸部に突帯を貼り付けその上に斜格子状に施文している。この7798・7799とも当地域の系譜をひく壺ではない。

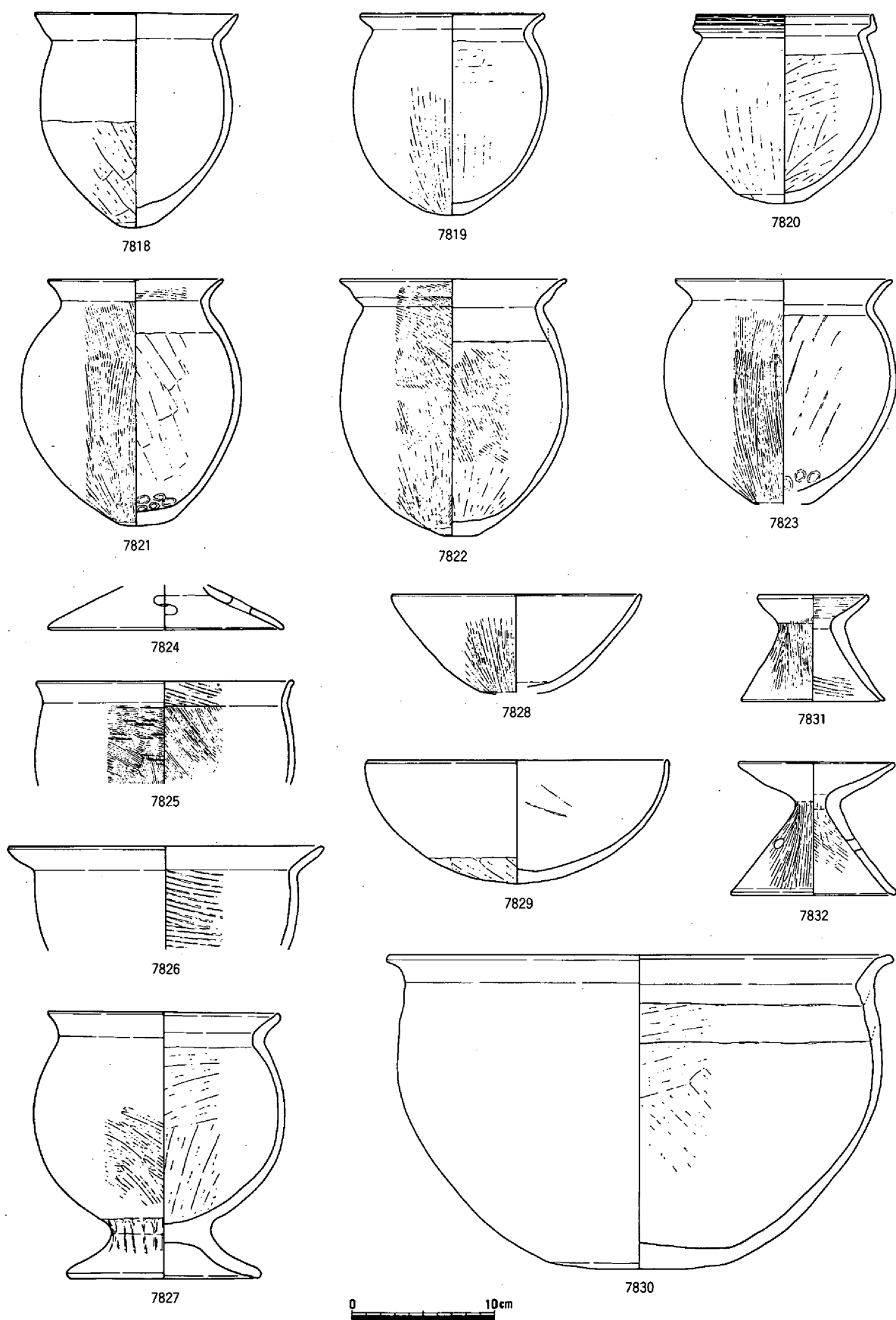
7801~7803の甕には、7800の吉備型甕と「く」の字口縁をもつ7801~7803がある。吉備型甕は、他



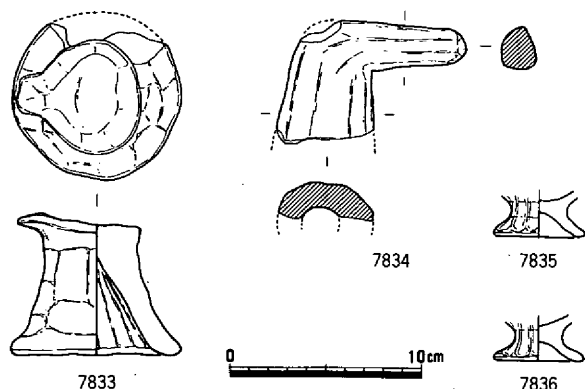
第503図 土器溜り-12出土遺物



第504図 土器溜り-13出土遺物(1)



第505図 土器溜り-13出土遺物(2)



第506図 土器溜り-13出土遺物(3)

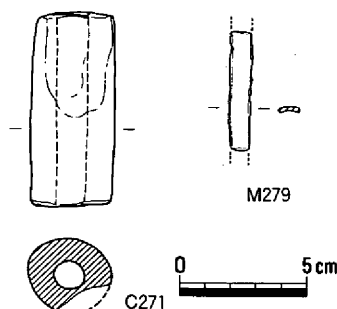
土器溜り-13 (第504~506図)

この土器溜りは、調査区の南端に位置し、土器溜り-12の西側約6mに検出された。土器溜りの周辺には、同時期の竪穴住居が取り囲むように存在する。土器溜りは、東西約7m、南北約2mの範囲に土器が集積していた。これらの土器群には完形品を多く含んでいた。図示した7810~7836は一部で他に大量の個体数があった。

出土土器には、壺はほとんど含まれておらず小片が数点含まれていただけであった。7810~7823の甕には、いわゆる吉備形甕の7810・7811と7812~7819・7821~7823の「く」の字に口縁をもつ両者があった。7810・7811は、口縁部の立ち上がりは長く、胴部の最大径は肩部にある。また、体部下半は卵倒形にやや長くなっており、底部もまだ明瞭に残存している。7810・7811は、吉備型甕の中でも古相の様相を示している。「く」の字口縁をもつ甕は、口縁部は外湾気味で、端部は細目に整形している。外面体部は、タタキやハケメで調整しているものが多く、ヘラケズリを施すものもある。7820は、「く」の字口縁をもつ甕の体部に、ぎこちない吉備型甕の口縁部をもつ特徴的な土器である。この土器は、形態、調整から「く」の字口縁の甕の製作者によると考えられる。さらに、吉備型甕は土器溜り-12と同様にその個体数は少なかった。

高杯は、7824以外にはほとんど認められなかった。このことも土器溜り-12と同様である。7825~7829の鉢には、胎土が異なり、外面体部にタタキを施す7825、台付鉢となる7827があった。7831・7832の小形の器台は、杯部と脚部が筒状になっており当地域ではあまり認められない器形である。

これらの土器は、土器溜り-12と組成が類似しており、吉備型・高杯の割合が少なかった。時期は古墳時代初頭の特徴を示している。(中野)



第507図 土器溜り-14
出土遺物

土器溜り-14 (第507図)

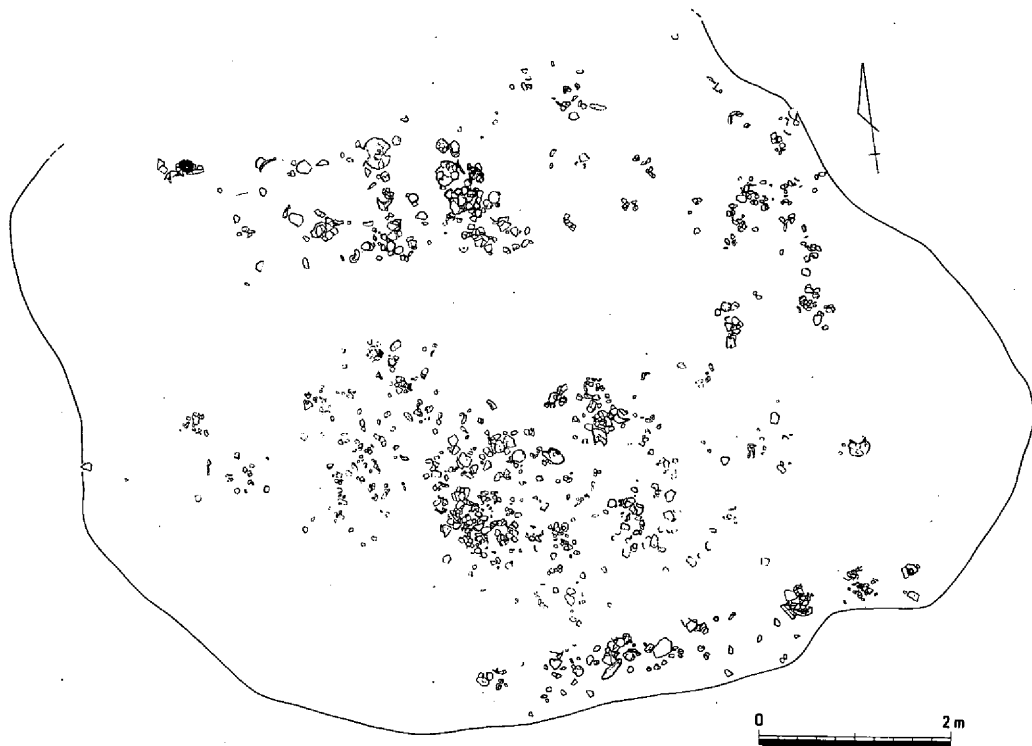
土器溜りは、土器溜り-13の北約2mに位置している。範囲は、約2.5×1.5mに小片の土器などが集積していた。土器は図示できるようなものはなかった。土器の他土錘や鉄器が出土している。C271は、土錘で管状を呈している。長さは約5cm、厚さ約3cmを測り、重さは約39.9gである。M279の鉄器は、鉄鏃および鉞の基部と考えられる。

出土した小片の土器群は、土器溜り-12・13と同様にいずれも古墳時代初頭の特徴を有している。(中野)

の甕に比べてその個体数は少なかった。7801~7803は、いずれも外面体部にタタキを施している。

高杯の7864は、他に個体はほとんどない。鉢には7805や7806のものがある。7807は手捏ね土器、7808は製塩土器である。7809は、土製支脚で内外面ともオサエ・ナデによって仕上げている。また、M278の鉄器も出土している。用途については不明である。

これらの土器は、いずれも古墳時代初頭の特徴を示している。(中野)



第508図 土器溜り-15(1/80)

土器溜り-15 (第508～510図)

この土器溜りは、調査区の南側に位置し、竪穴住居-295の西約8mに検出された。その範囲は、東西約11m、南北約7mで、土器を中心に多数の遺物が集中して検出された。土器溜りの北側は、後世の溝によって削平を受けていた。土器溜りの周辺には、同時の竪穴住居が多数存在しており、さらに南東約30mにも他の土器溜りが3か所確認されている。出土遺物には、7837～7881の土師器や土錘、鉄器などがある。

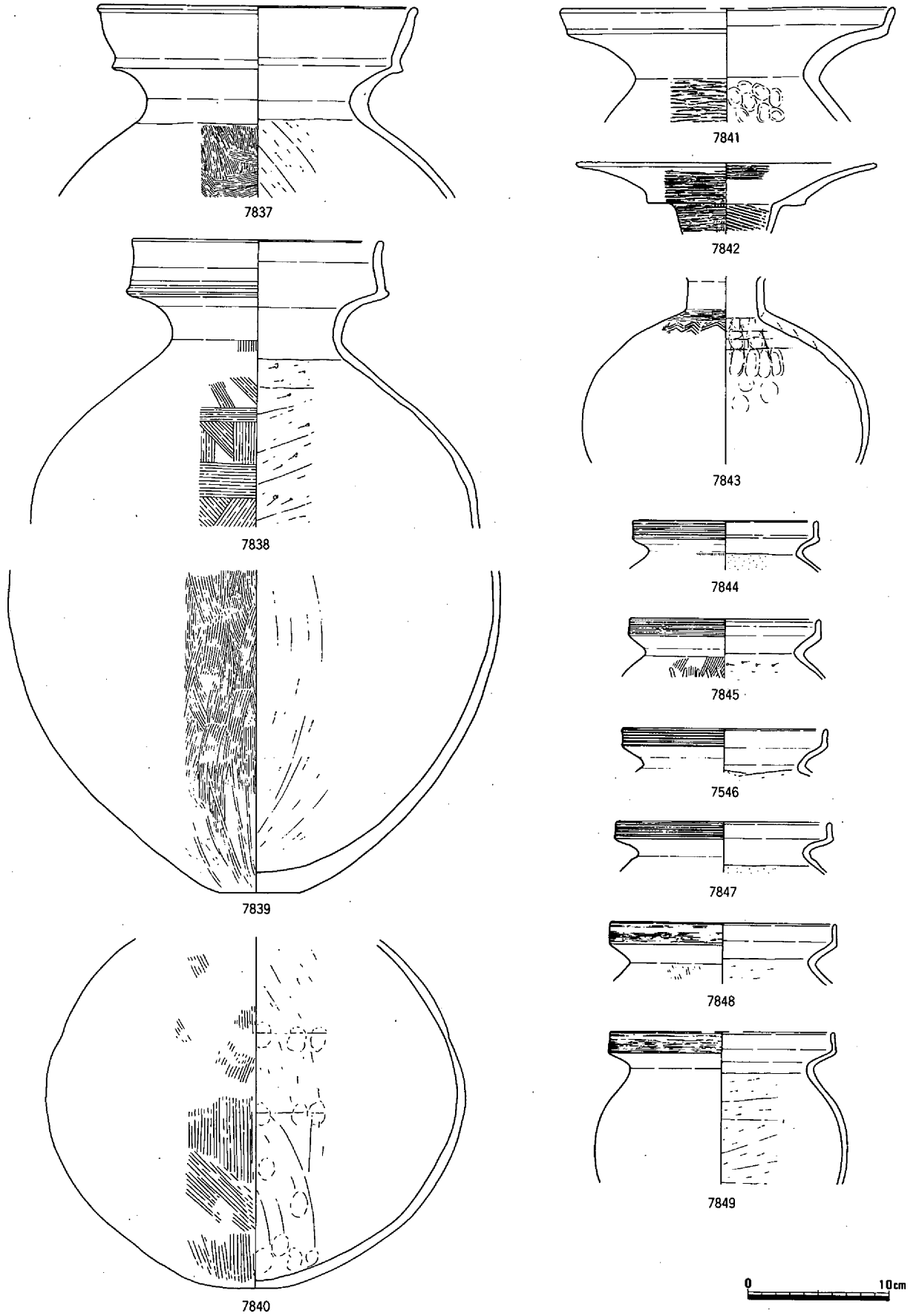
7837～7843が壺である。7837・7838・7841は、頸部から大きく外反し、上部に立ち上がる口縁部をもつ。7837は斜め上方に立ち上がり、7838は、外湾気味にのびる。また、7841は短かく斜め上方に立ち上がる口縁部である。体部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施している。7842は、外面丹塗りで、頸部から斜め上方に立ち上がり、屈曲気味に大きく外方向に広がる口縁部をもつ。7843は、直立する頸部で、肩部には波状文を施している。

7844～7856の甕は、7850～7854の「く」の字口縁部をもつものといわれる吉備型甕の7844～7849に大別できる。7844～7849の吉備型甕は、頸部から外反し、さらに上方向に立ち上がる口縁部で、口縁端面には櫛描沈線を施す。7850～7854の「く」の字口縁をもつ甕は、7850のように口縁端部を上方向につまみ出すもの、7854の内側にやや肥厚させるものがある。7855の体部には、タタキののちハケメで調整している。

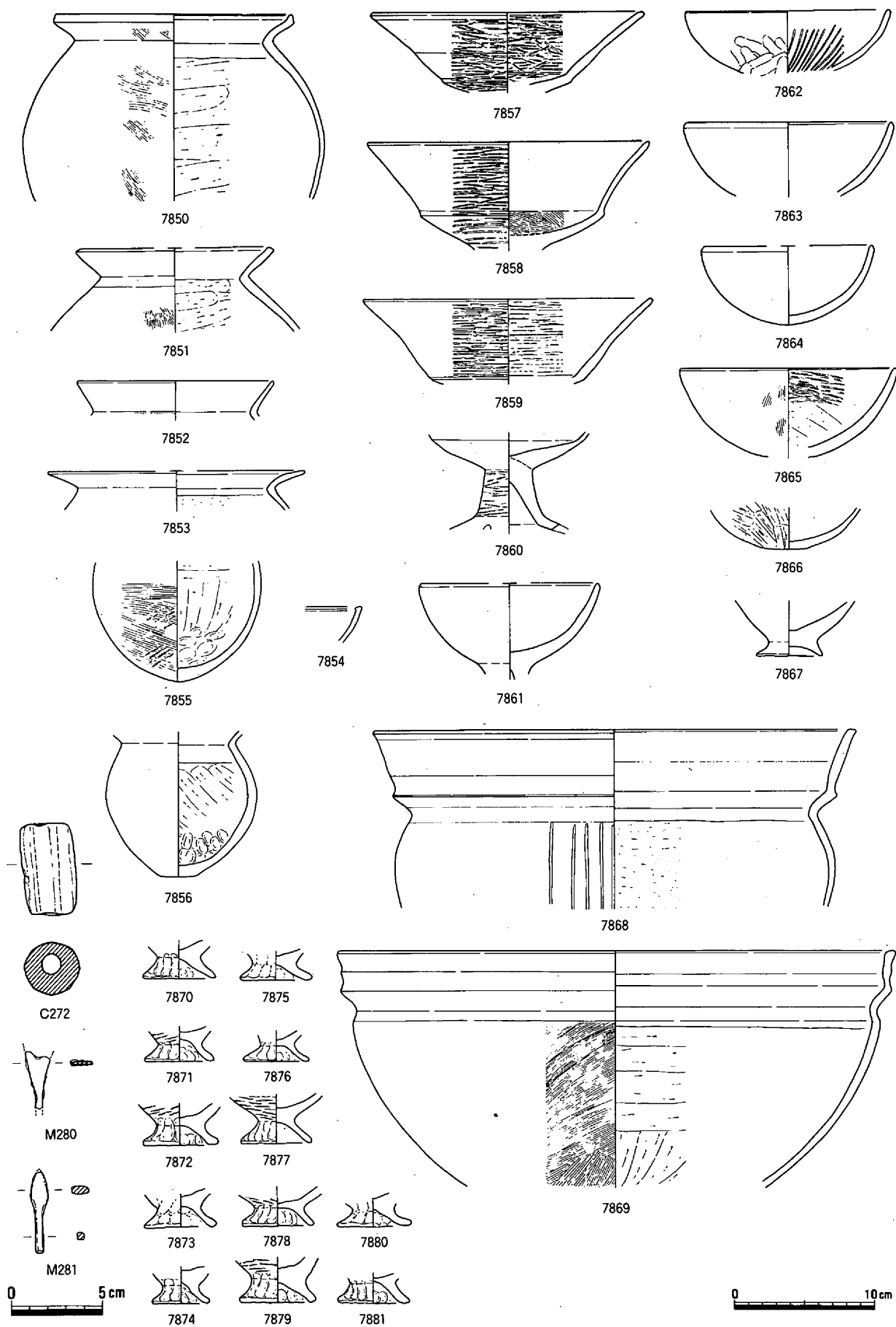
その他7857～7861の高杯、7862～7869の鉢などが出土している。鉢には、7862～7867の椀形を呈するものや、台付の小形品と7868・7869の大形の鉢がある。7870～7881は、製塩土器で台部はオサエ、外面体部はタタキで調整している。C272の土錘、M280・M281の鉄鏃も検出されている。

これらの出土遺物は、その特徴から古・前・I～IIと考えられる。

(清水)



第509図 土器溜り-15出土遺物(1)



第510図 土器溜り-15出土遺物(2)

(8) 水田

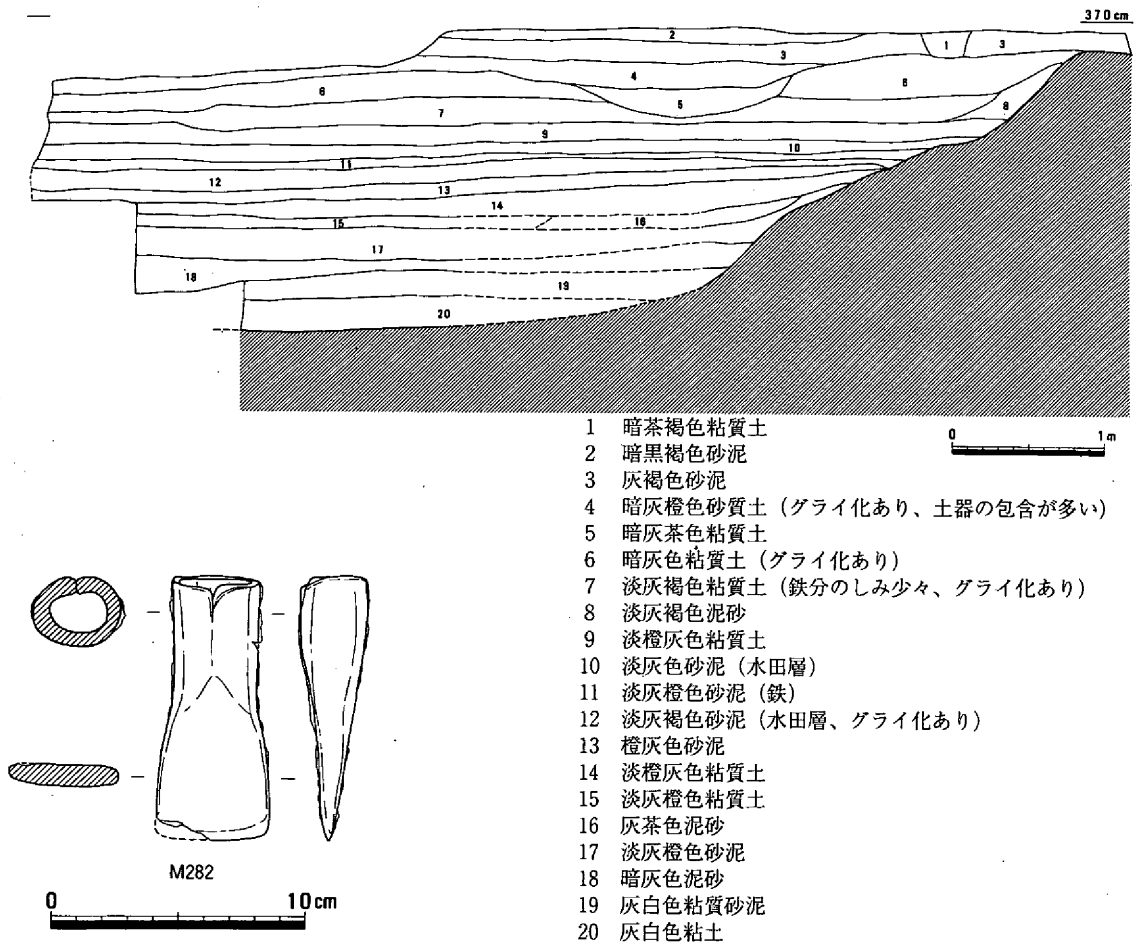
古墳時代前期の水田は、今回報告分の東側の低位部に広範に展開しており、『津寺遺跡4』において報告している続きと考えられる。水田は、古墳時代前期を中心に数面の水田層を確認している。この項で取り扱う水田は、第223図に示しているように、調査区の南東端部にあたる。この水田は、東側に広がる水田が一部西側に入り込んだように検出された。この水田が検出された地点（IHM 9 II区）は、他の調査区よりも一段低くなっており、弥生時代の微高地の開析部が低位部に接続する地点にあたる。また、現代用水路もこの地点に存在しており、弥生時代よりの地形が綿々と継続していた状況を示していた。

水田層は、第511図の第10、12層にあたり、畦畔等は検出できなかった。上面の水田層の上部には古墳時代前期の土器が包含しており、M282の鉄斧も出土した。第10層の上面水田は、厚さ約10cmの淡灰色砂泥層である。下部の第11層は鉄、マンガンの分離集積層である。第11面の下部には第12層の水田層が存在する。水田層は、淡灰褐色砂泥層で上部の水田層と類似している。いずれの水田層とも古墳時代前期と考えられる。

また、さらに下部の第15、16層も水平堆積しており、水田層の可能性が考えられる。時期は上層の水田層と同様に古墳時代前期の範疇と思われる。

さらに第17～20層は、弥生時代前半期の溝-458の堆積層である。

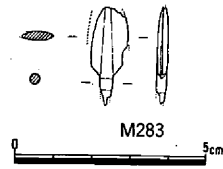
(中野)



第511図 水田層(1/50)・出土遺物

(9) 柱穴

P17区の北東、橋脚（P4区）に所在し、古墳時代前期の竪穴住居-206の壁体溝下位に位置する。銅鏃は直径約3cm、凹状の小穴からの出土であり、全長2.6cm、幅0.95cm、厚さ0.27cm、重量1.84gをはかる。全体的に磨耗がみられ、先端部、茎部は欠損部分が認められる。



第512図 柱穴-1出土遺物

出土の状況からは、古墳時代前期の竪穴住居-206に伴う可能性が強いものと考えられる。

なお、銅鏃の成分分析では竪穴住居-213出土の銅鏃とともに銅の含有量が17%~20%と非常に少ない結果が出ている。銅：錫：鉛の比が1：2：2の割合となっている。（高畑）

(10) 遺構に伴わない遺物

ここでの対象遺物は、橋脚（P5区）から排水（H1区）までのもので、弥生時代の遺構に伴わない遺物として掲載したと同地区のものである。基本的には側溝等の掘り下げの際に遊離して出土したもの、まったく時代の異なる竪穴住居、土壙等の遺構に混入していたものである。土器が最も多く、ついで砥石が24点、叩き石等7点、土錘7点、土製勾玉1点である。土器では甕、高杯、鉢、製塩土器等が出土しており、橋脚（P1区）では7882が側溝、7888~7891が竪穴住居-216の床面下位、7895・7896が竪穴住居-313の埋土、7899・7900・7904も他の遺構の埋土内である。7895、7896、7899の甕は形状、調整等が在地の土器と異なるようである。石器はS360の砥石、S365、S367、S368の叩き石があり、石材には流紋岩、玢岩が使用されている。

橋脚（P2区）では7901、7902の2点が出土しており、高杯7901が竪穴住居-188の埋土上である。石器は6点とも包含層出土であり、S355、S356、S358、S361、S363の5点の砥石とS369の叩き石である。S369は玢岩、他は流紋岩が石材として利用されている。

橋脚（P3区）では7887、7898、7908がみられ、壺7887は畿内系、7908は山陰系の可能性がある。S362の砥石が1点出土しており、石材は流紋岩が利用されている。

橋脚（P4区）は製塩土器7906、7907の2点と甕7892である。石器はS357、S359の砥石が2点であり、S357は石材にホルンフェルス、S359は流紋岩が利用されている。

橋脚（P5区）は壺7883・7885、甕7897、鉢7903・7905の5点である。石器ではS366の流紋岩製の砥石が1点出土している。

橋脚（P7区）ではS364の玢岩製の叩き石、砂岩による砥石S370が各1点出土している。

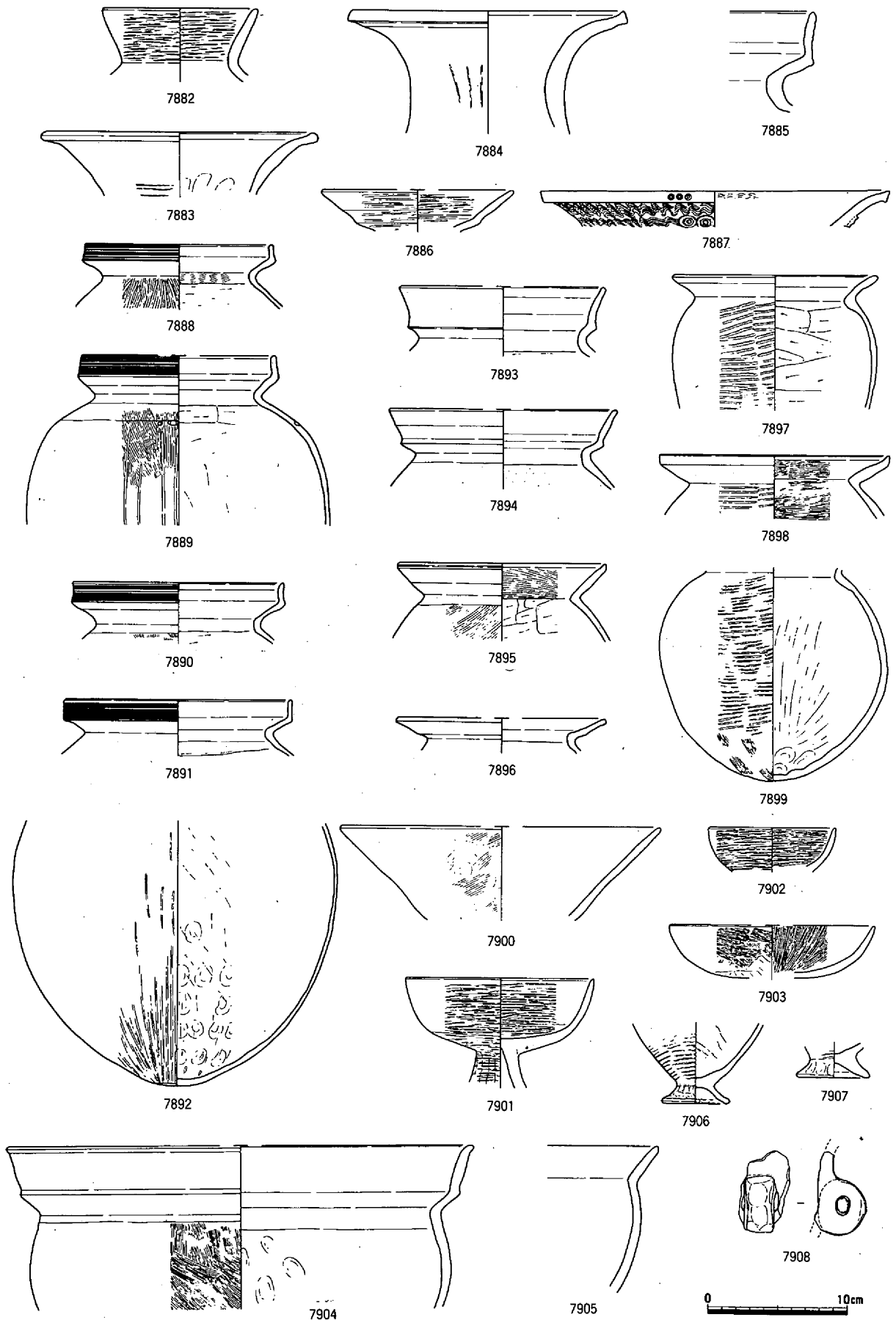
盛土（M8Ⅰ区）では甕7916が1点、S382~385の砥石4点、土製勾玉が1点出土している。砥石はS384が古銅輝石安山岩であり、他は流紋岩製である。

盛土（M8Ⅱ区）はC275の土錘、S371の流紋岩製の砥石S371のが出土している。

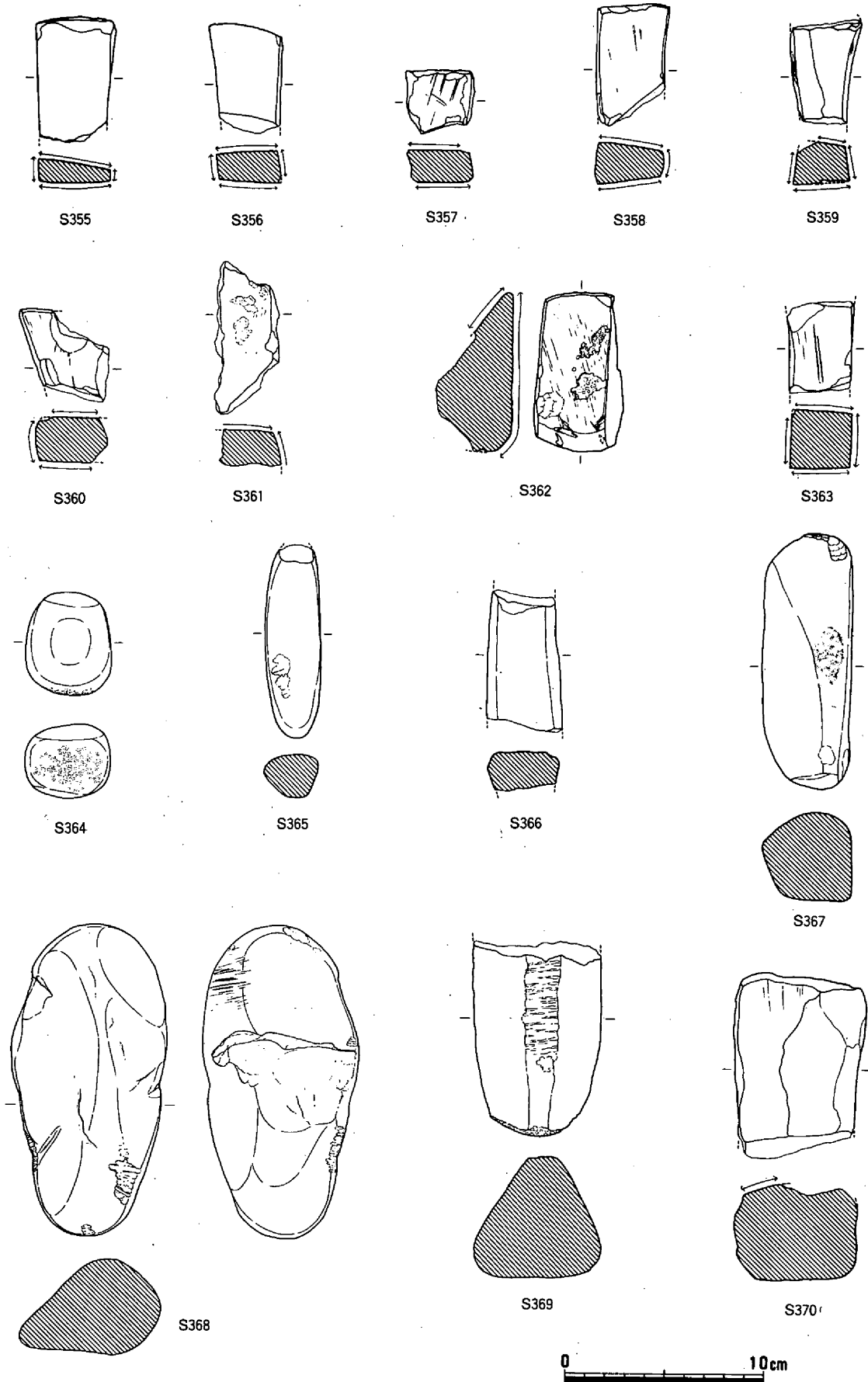
盛土（M8Ⅲ区）ではC273、C278の土錘と流紋岩製の砥石S372と叩き石S381の各1点が出土している。

盛土（M8Ⅳ区）はC276、C277の土錘2点、流紋岩製の砥石S376の1点が出土している。

排水（H1区）は県南部特有の甕7909~7915、高杯7917の8点、土錘C274、C279の2点、石器は



第513図 遺構に伴わない遺物(1)

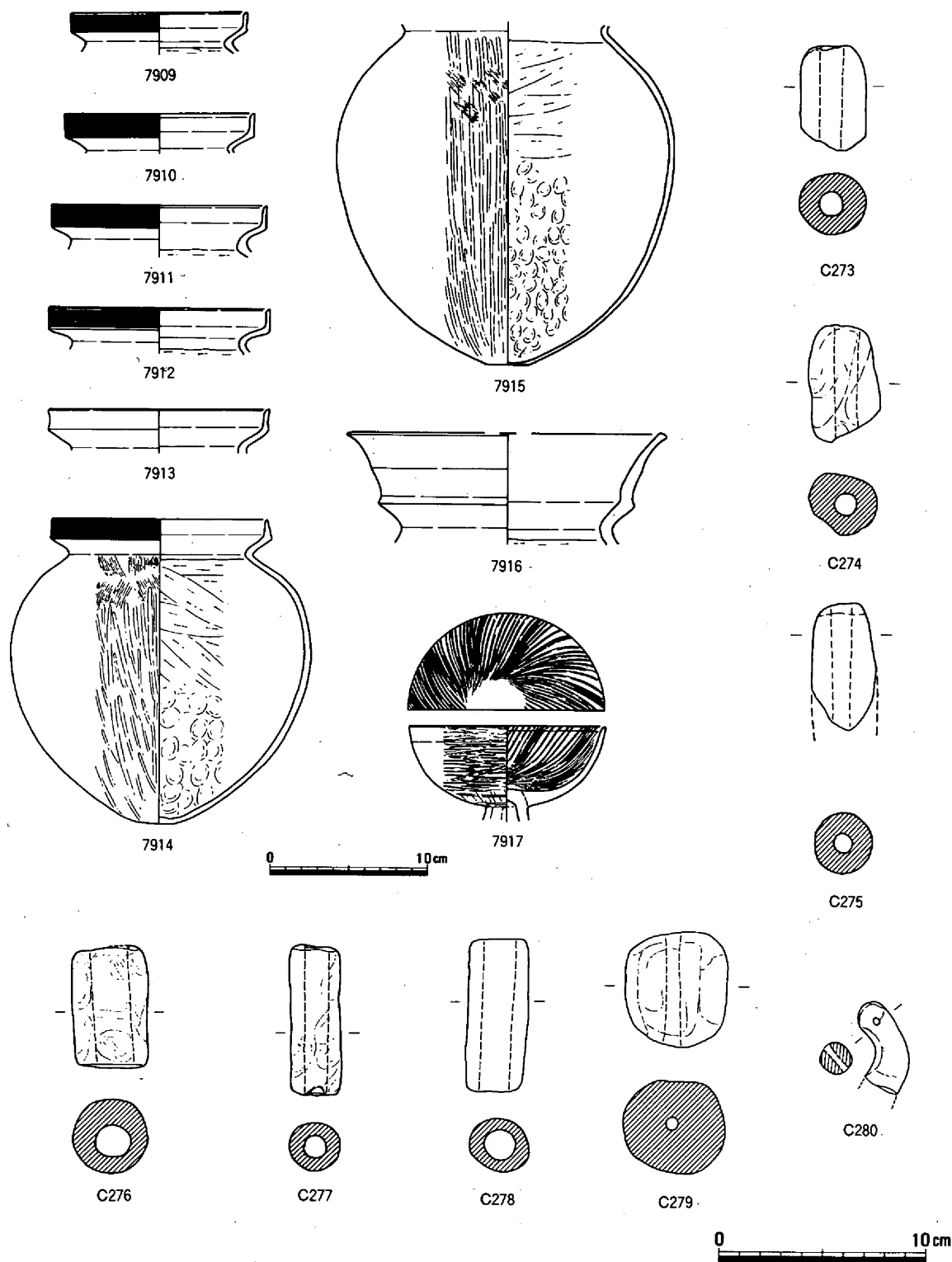


第514図 遺構に伴わない遺物(2)

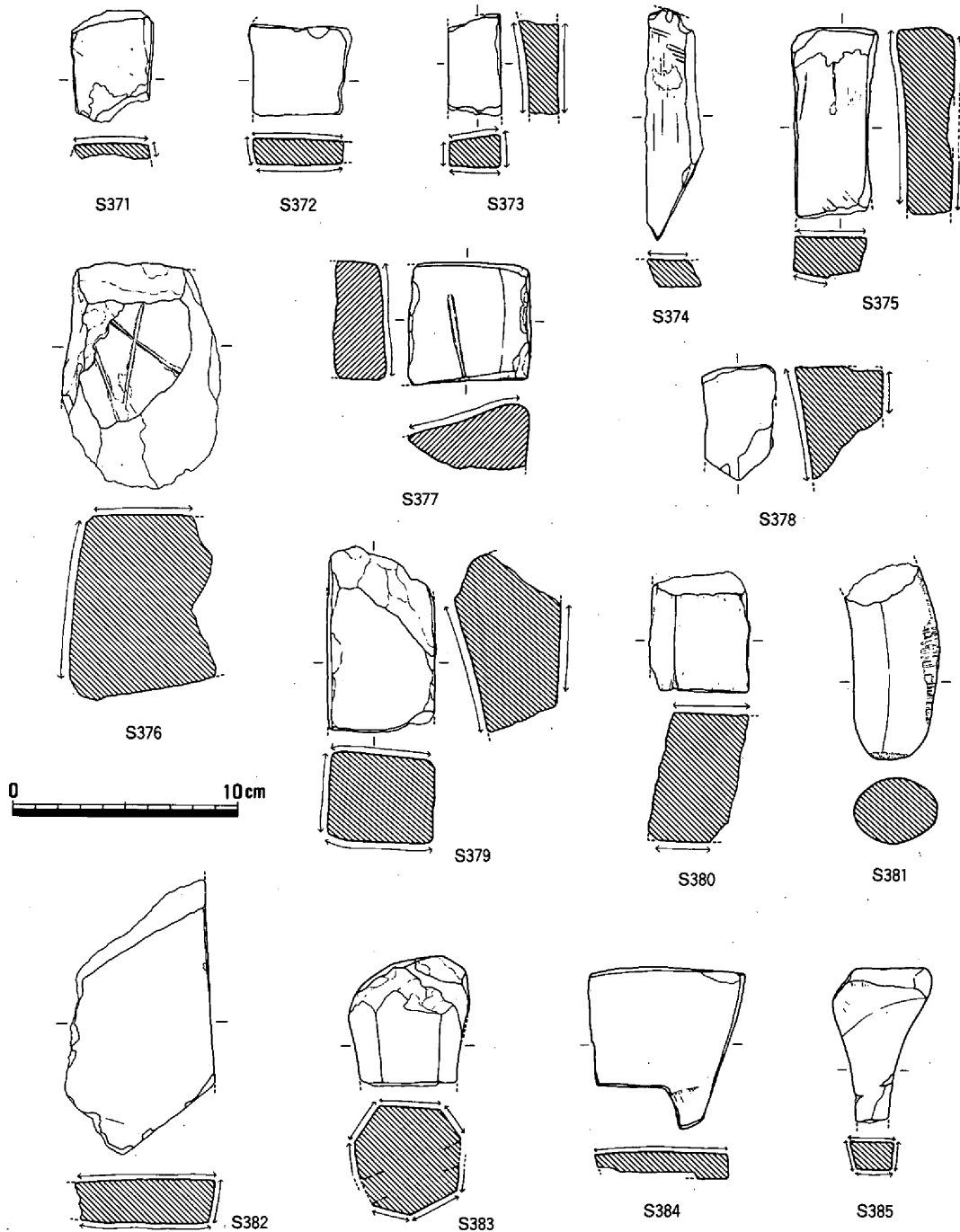
第3章 調査区の概要

S 373～S 375、S 377～S 380の砥石 7 点が出土しており、石材は S 374が頁岩、S 380が古銅輝石安山岩であり、他はすべて流紋岩が利用されている。

ここまでとりあげた遺物は、叩き石 S 367・S 368、土錘 C 276・C 279の 4 点を除けば、土器、砥石、土錘のすべてが破片である。なかでも、砥石については 24 点すべてが破損しており、廃棄処分されたものと考えられる。



第515図 遺構に伴わない遺物(3)

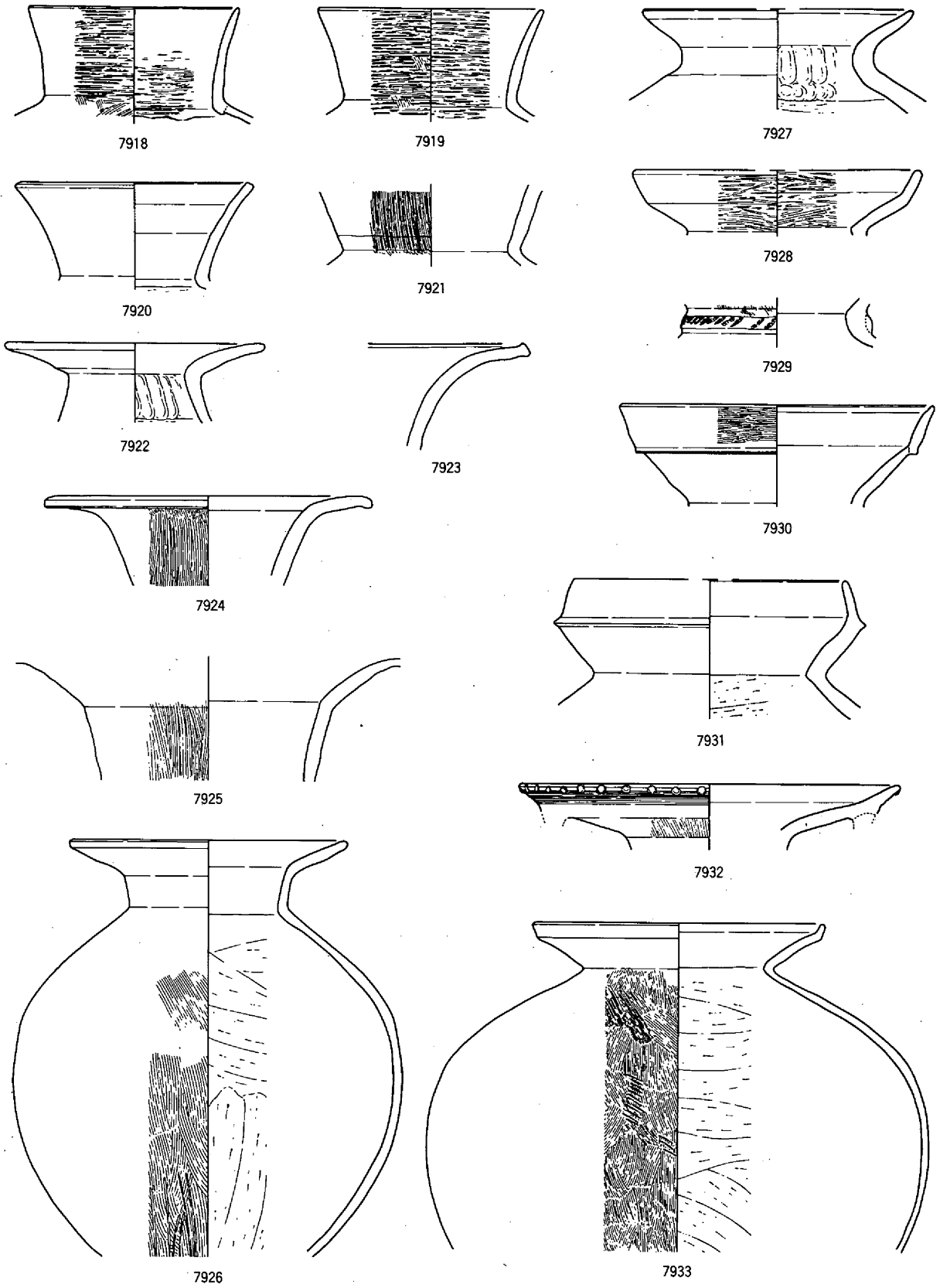


第516図 遺構に伴わない遺物(4)

土器では県南部特有の甕7889等が多くみられるが、他地域の甕と思われる7895～7897、7899等も認められる。古・前・Ⅰの全般の土器がみられ、古・前・Ⅱが一部認められる。(高畑)

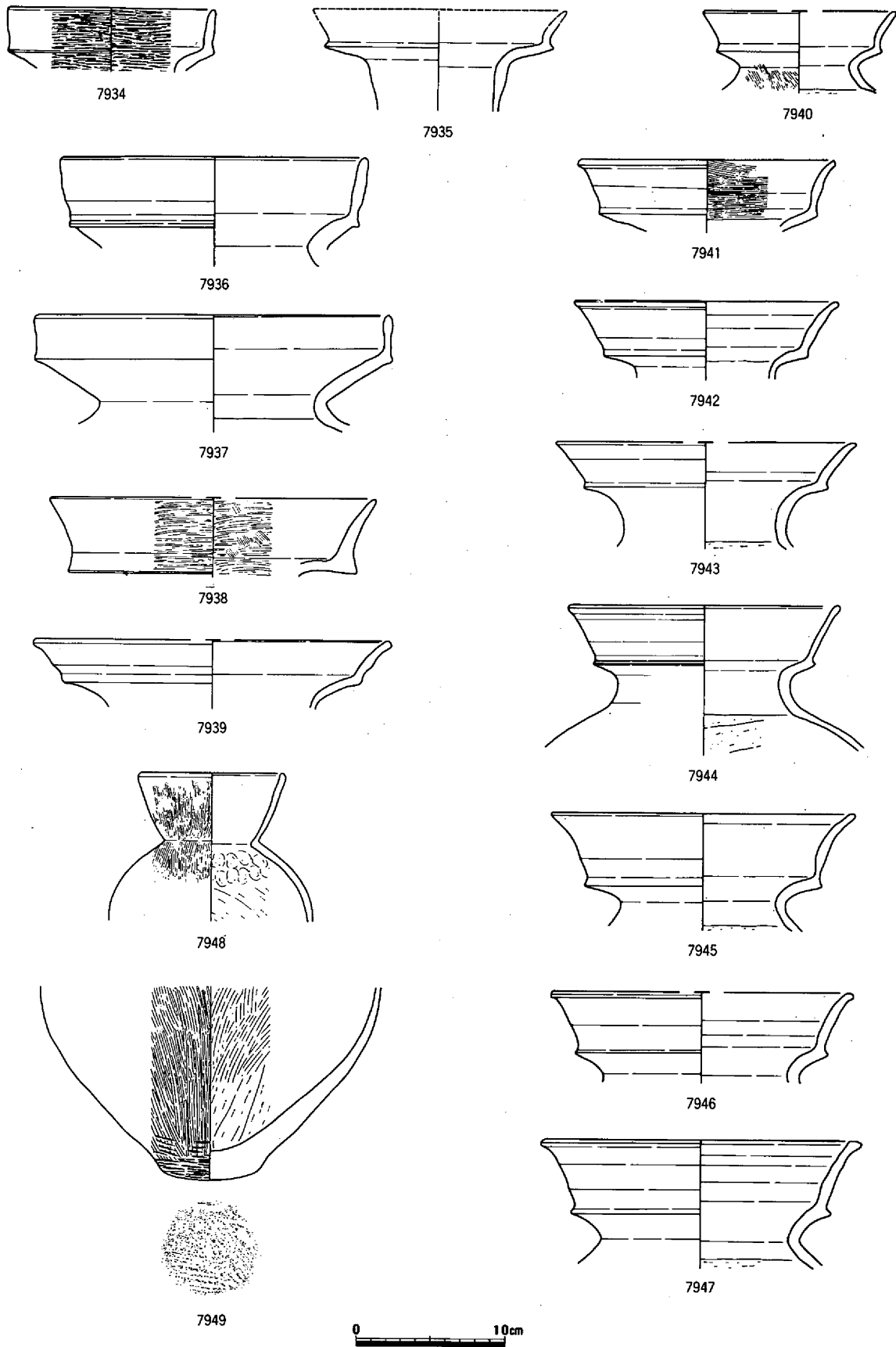
C：この地域では、古墳時代前期の居住域として数多くの遺構が検出されている。これに対応するように遺物も土器を中心に膨大な量が出土している。遺物は、遺構および包含層からの検出が中心であるが、古墳時代前期の遺構の上層には後の時期の遺構が数多く存在し、後の遺構にも多くの遺物が混入していた。

7918～7949の壺は、多様な形態のものが検出されている。大きくは二重口縁をもつ壺とそうでない

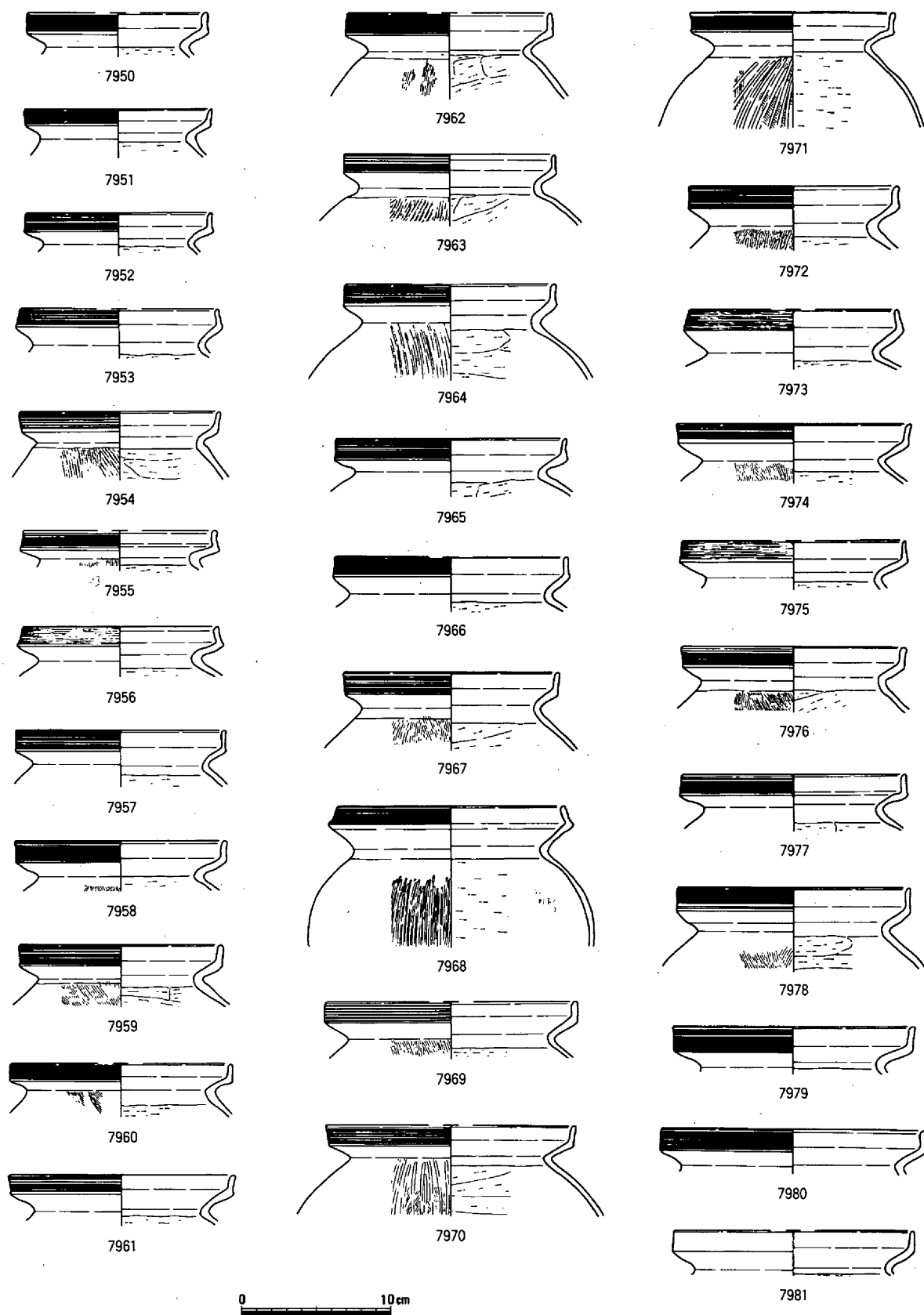


0 10cm

第517図 遺構に伴わない遺物(5)

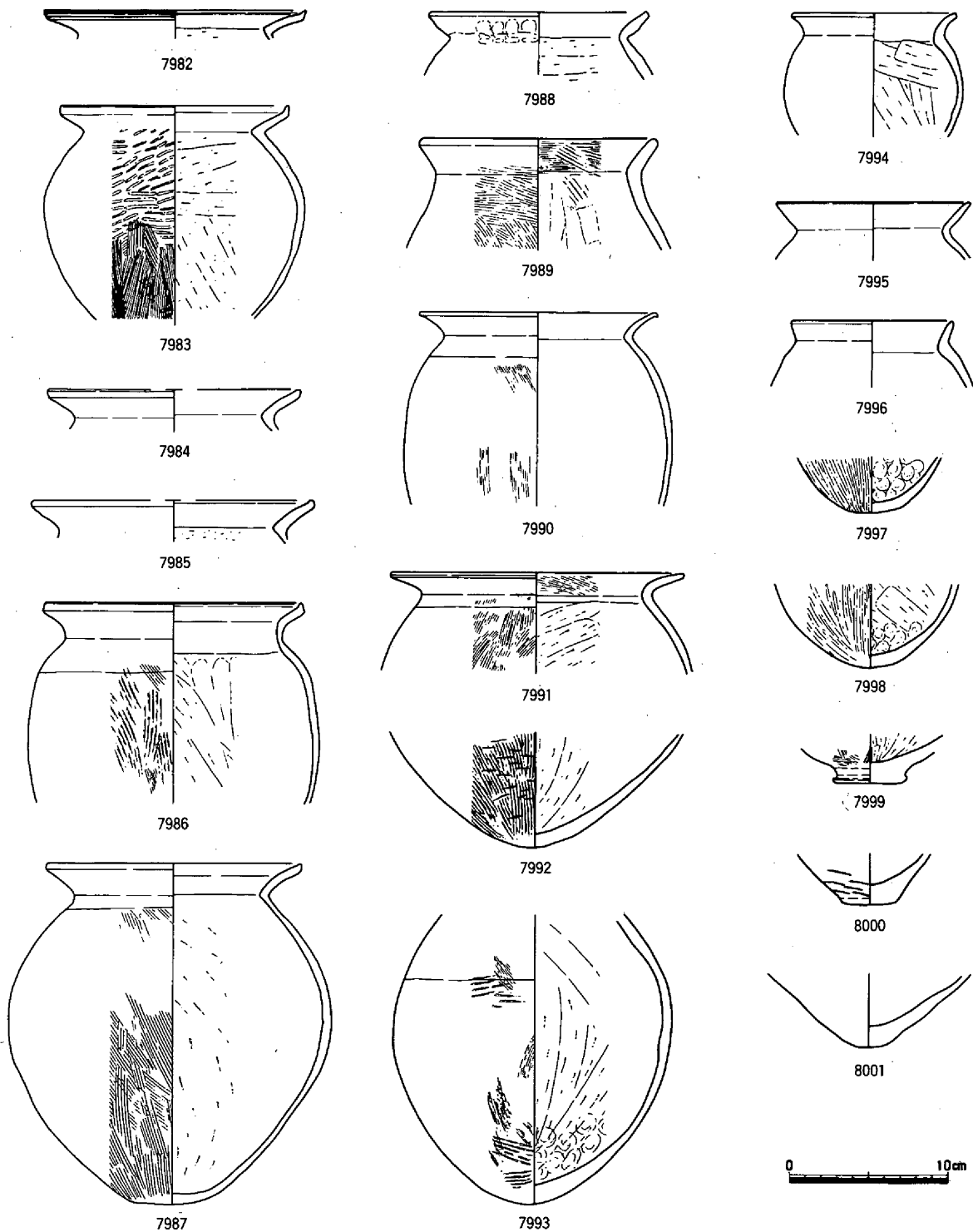


第518図 遺構に伴わない遺物(6)

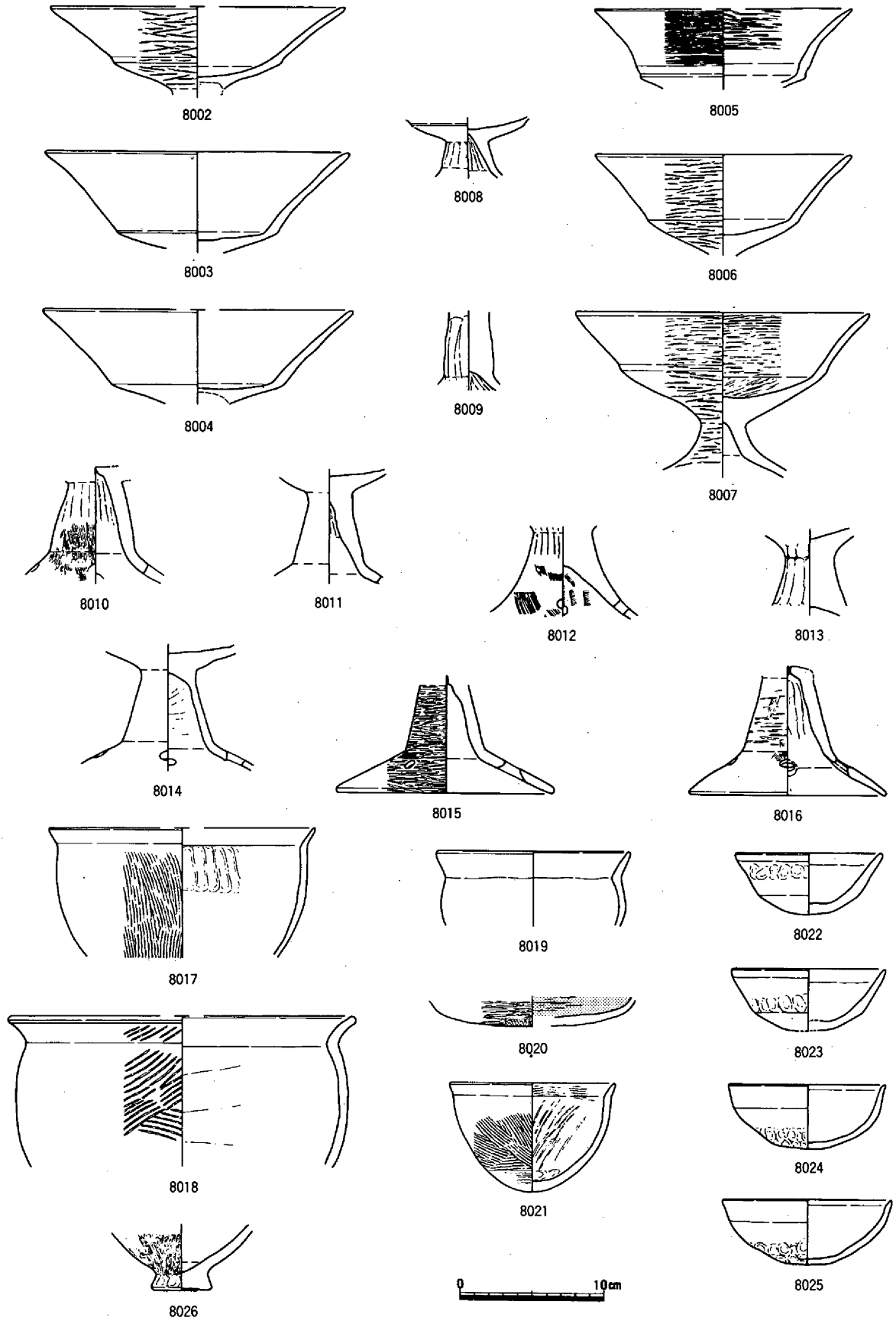


第519図 遺構に伴わない遺物(7)

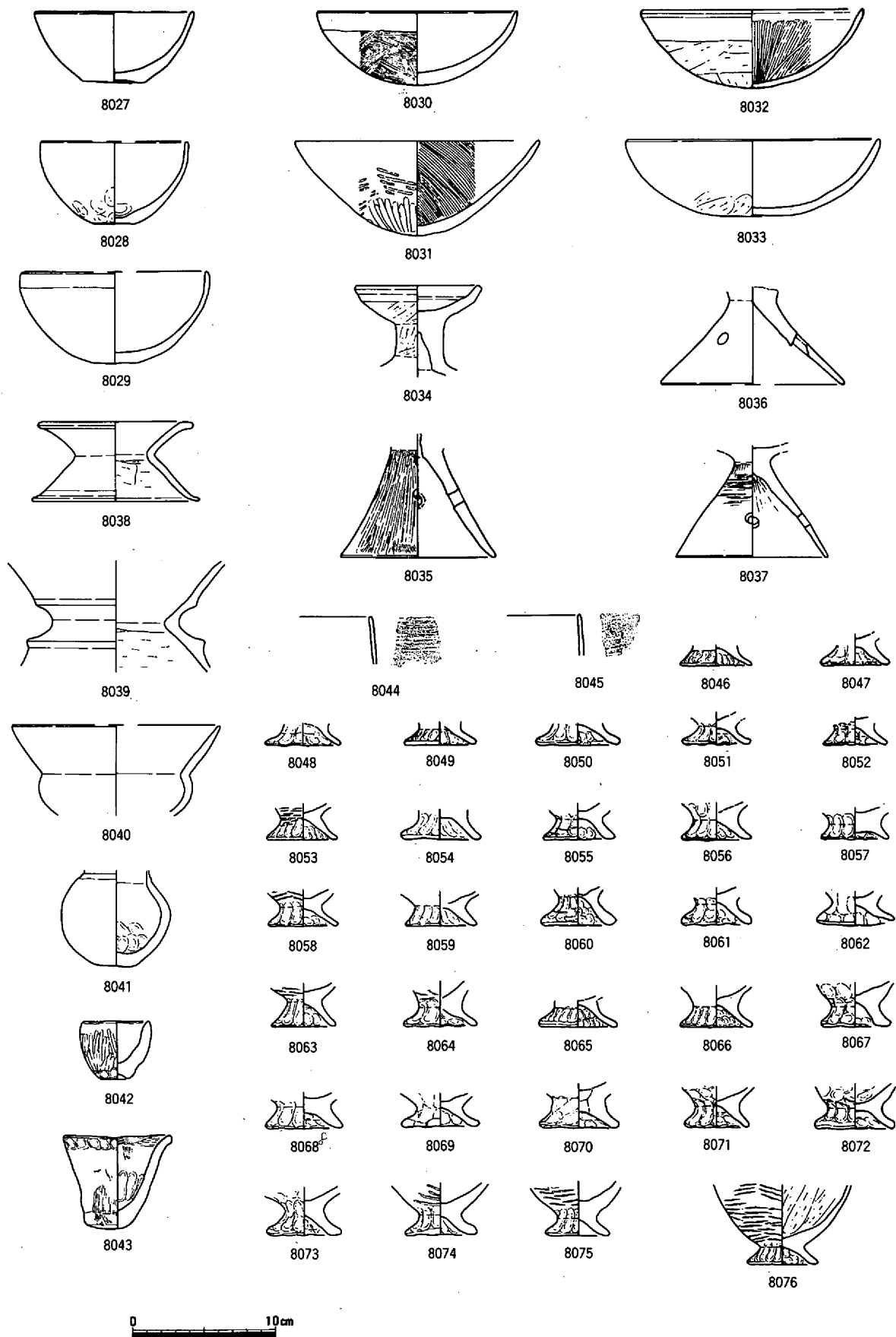
ものに分けられる。7918~7920は、頸部から上方および斜上方にやや外傾しながら立ち上がる口縁部をもつ。7918、7919は、外面をハケメののち丁寧なヘラミガキののちヨコナデで仕上げている。7922は、内傾する頸部から外方向に屈曲する口縁部である。7923~7925は、胎土中に角閃石を含むもので、外傾する頸部から外反する口縁部をもつ。口縁端部は、やや肥厚させる7923や丸くおさめる7924がある。この口縁部をもつ壺の外面は、特徴的にハケメを施している。7926も同様の形態であるが胎土が異なっている。7927は、頸部から大きく外反する口縁部である。7933は、いわゆる「く」の字口縁で、



第520図 遺構に伴わない遺物(8)



第521図 遺構に伴わない遺物(9)



第522図 遺構に伴わない遺物(10)

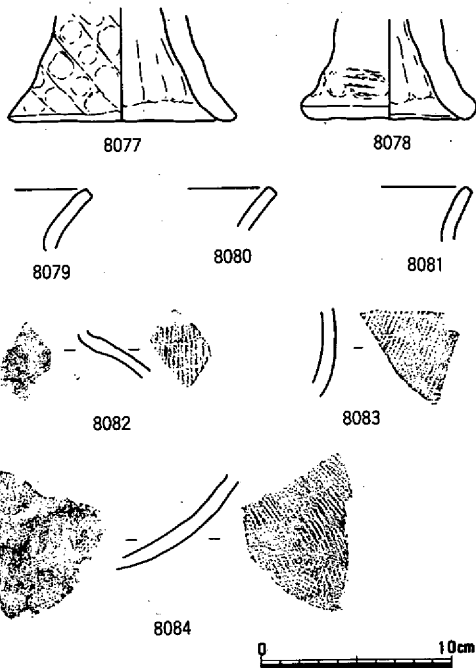
端部をさらに上方につまみ出している。外面は、タタキののちハケメを施している。7929は、頸部に突帯を廻らし、さらにその突帯に施文している。

7928・7930～7932・7934～7947は、複合口縁をもつもので、種々の形態を有している。7928は、頸部から外反し、さらに斜上方に立ち上がる口縁部をもつ。7930・7931は特徴的な形態で、頸部から大きく外反したのち、さらに外傾および内傾して立ち上がる。7932は、大きく外反し、さらに斜めに延びており、下方にも垂れ下がる口縁部をもつ。口縁端面には、凹線を5条廻らし、口縁端部に円形浮文を配している。7934・7936・7937は、頸部から「く」の字状に屈曲し、さらに上方に立ち上がる口縁部をもつ。7934は、内外面とも丁寧なヘラミガキを施している。7935は、やや長めの上方に立ち上がる頸部から大きく外反し、さらに外反気味に斜上方に延びる口縁部をもつ。7940～7947は、いわゆる二重口縁の壺である。頸部から外反し、さらに外反して立ち上がる7940・7941・7945のものと斜上方に直線的に延びる7944がある。また、頸部から大きく外反するものが大半を占めるが、ゆるやかに外反する7943もある。口縁端部は、丸くおさめるものが多く、7947のようにやや肥厚させているものもある。

7950～8001の甕は、大きくは、吉備型甕と「く」の字口縁をもつものに大別できる。7950～7981の吉備型甕は、量的には半数以上を占めている。頸部から「く」の字状に屈曲し、さらに上方に立ち上がる口縁部をもつ。口縁端面には、櫛描沈線を施しているが、例外的に7981のように沈線をもたないものもある。体部外面は、ハケメののちヘラミガキを施す。内面は、頸部下をヘラケズリをおこない、底部および肩部にユビオサエ痕を残している。この吉備型甕は、時期的にも幅をもっており、おもに体部の形態変化によって時期差が認められるが、口縁部による判別は困難である。器形は、小形のものからやや大形のものまで存在する。

7982～8001は、いわゆる「く」の字口縁をもつ甕である。7982・7983は、頸部から「く」の字に屈曲し、さらに上方につまみ出している口縁部をもつ。7983は、体部外面をタタキののち下半をハケメ

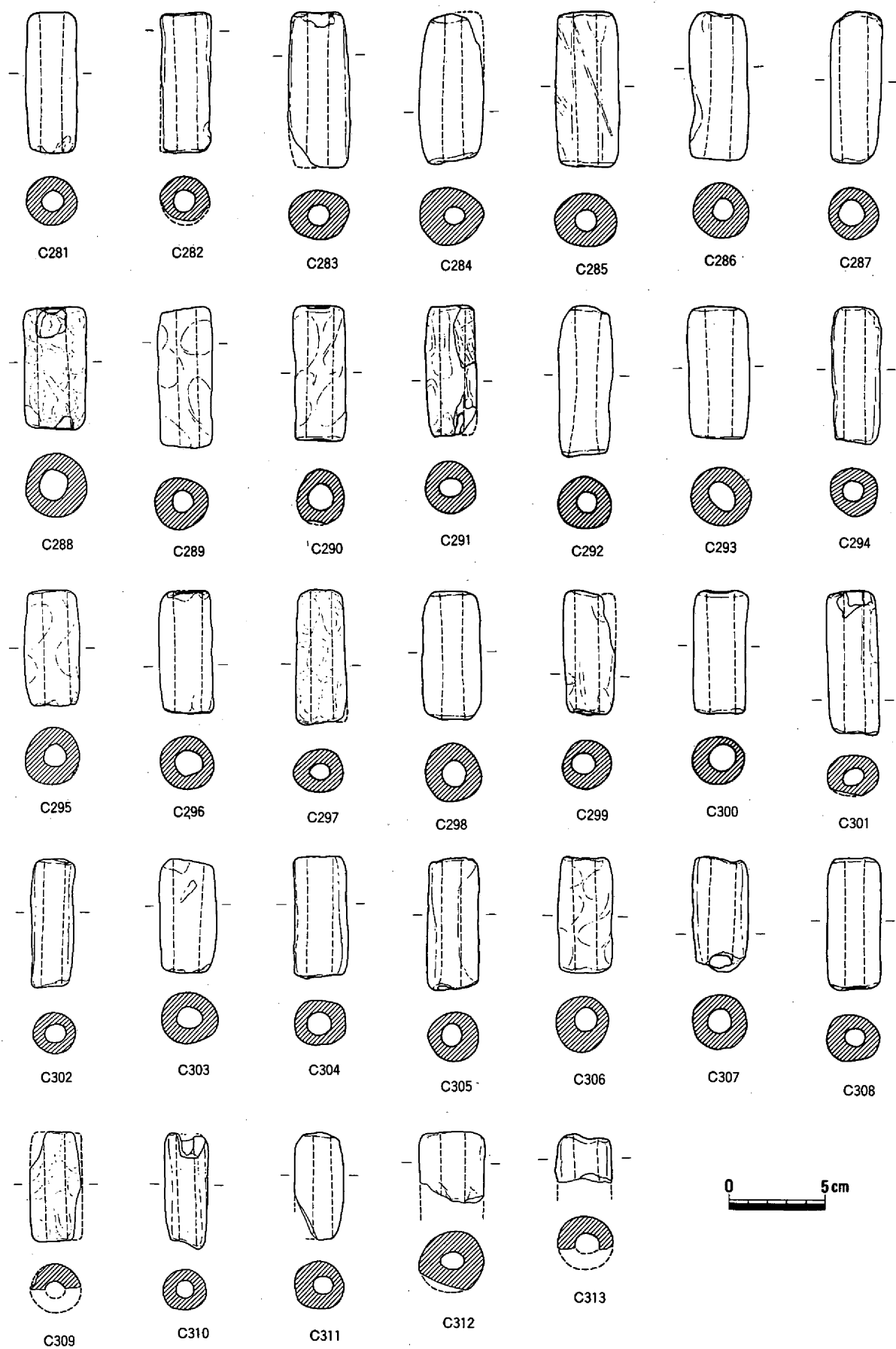
で調整している。内面はヘラケズリをおこなっている。この「く」の字口縁をもつ甕は、基本的には外面をタタキおよびハケメを施しており、内面はヘラケズリをおこなっている。底部は、やや尖り気味のものが多く認められる。



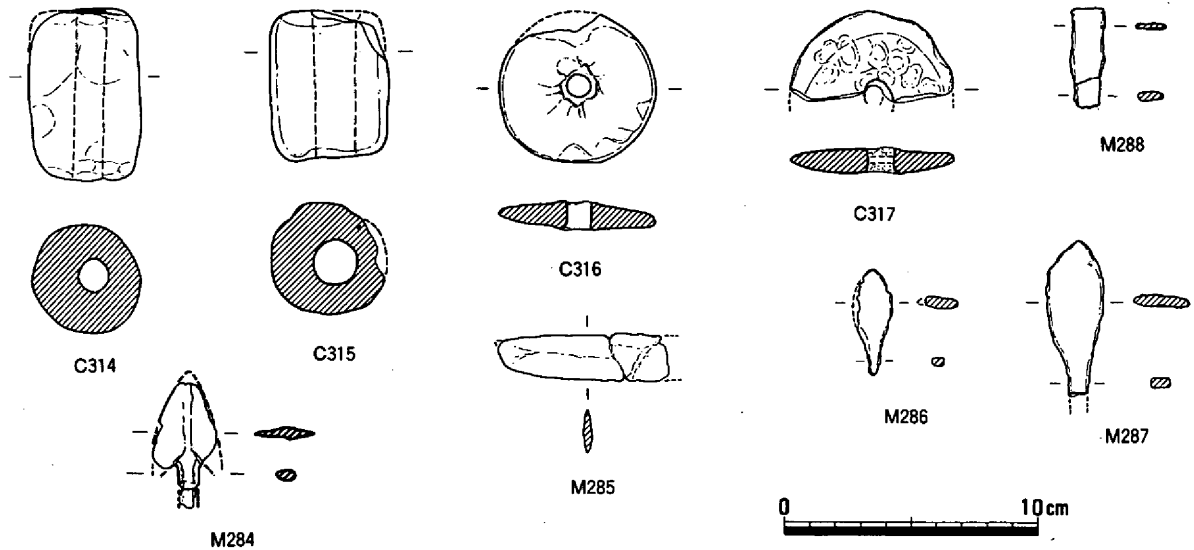
8002～8016の高杯は、吉備型甕と同様に量的には多く出土している。杯部は、やや小さめの底部から斜上方にやや外反気味に立ち上がる。内外面とも丁寧なヘラミガキを横方向に施している。脚部は、8010・8014～8016が基本的な形態で、脚裾部は「ハ」の字に開く。外面は、ハケメののちヘラミガキをおこなっている。内面は、脚柱部にはシボリ痕が残り、ヘラケズリを施している。また、8008のような小形のものも認められる。さらに、8009、8012・8013のような脚柱部のものもある。

第523図 遺構に伴わない遺物(11)

8017～8033の鉢には多様な形態のものがある。大き



第524図 遺構に伴わない遺物(12)



第525図 遺構に伴わない遺物(13)

さも小形のものから大形のものがあり、大形のものには図示できなかったが二重口縁をもつ。8017～8021は、外反する口縁部をもち、外面はハケメで調整している。8020は、内面に朱が一面に付着している特徴的な鉢で、竪穴住居-299出土の7272の土器と同一形態と考えられる。形態的にも特徴的であり、朱壺としての専門的な器である可能性もある。8022～8025は、やや小形のもので碗形を呈する。外面には、オサエ痕を残している。8027～8029は、底部が残り、内湾するものである。8031は、尖り気味の底部で、外面にはタタキ、内面にはハケメを施している。8032、8033は、普遍的に認められる形態で、外面の下半部はヘラケズリ、内面はヘラミガキで調整している。

8034～8039の器台は、8034の形態のもの、8038・8039の鼓形に大別できる。8034は、脚柱部から裾部に屈曲しており特徴的な形態である。8036・8037の脚部は普遍的に認められるもので、「ハ」の字に裾部が開く。

8040は小形丸底壺で、他に8041～8043の小形品も出土している。

8044～8076は製塩土器で、製塩炉は検出されていないものの、他の遺構や包含層中から量的にも多く出土している。

8077・8078は、土製支脚の脚部で「ハ」の字に開く。内外面ともオサエ・ナデにより調整している。

8079～8084は陶質土器の広口壺である。調査区南端部を中心に出土した。焼成・胎土など類似しており、同一個体の破片と考えられる。また、溝-100出土の7756・7757も同一個体であろう。口縁部は、頸部から「く」の字状に屈曲しており、口縁端部は「コ」の字になり端面中心部がややへこむ。外面の肩部下は縄文を施しており、その上に沈線が廻る。体部下半は、8084のように沈線は配されていない。体部内面は、板状の工具およびナデで仕上げている。また、内面の壁表面にはわずかな凹凸が認められ、石などの当具痕と考えられる。溝-100では、7761の布留式と共伴しており、時期的にも限定できる。岡山では、古墳時代前期のものは遊離遺物として報告されている例はあるものの、溝-100のように土器が伴った例は初めてである。

その他の遺物としては、土錘、紡錘車、鉄器などがある。

(中野)



第526図 古墳時代後期全体図(1/600)

第4節 古墳時代後期の遺構・遺物

(1) 古墳時代後期の概要

ここで取り扱う遺構・遺物は、須恵器出現以降の時期のもので、おおむね5世紀前半以降とした。中屋調査区の古墳時代後期の状況は、「津寺遺跡2」から順次報告され全体像が明らかになりつつあるが、この項では今回の報告分についての概要を記す。

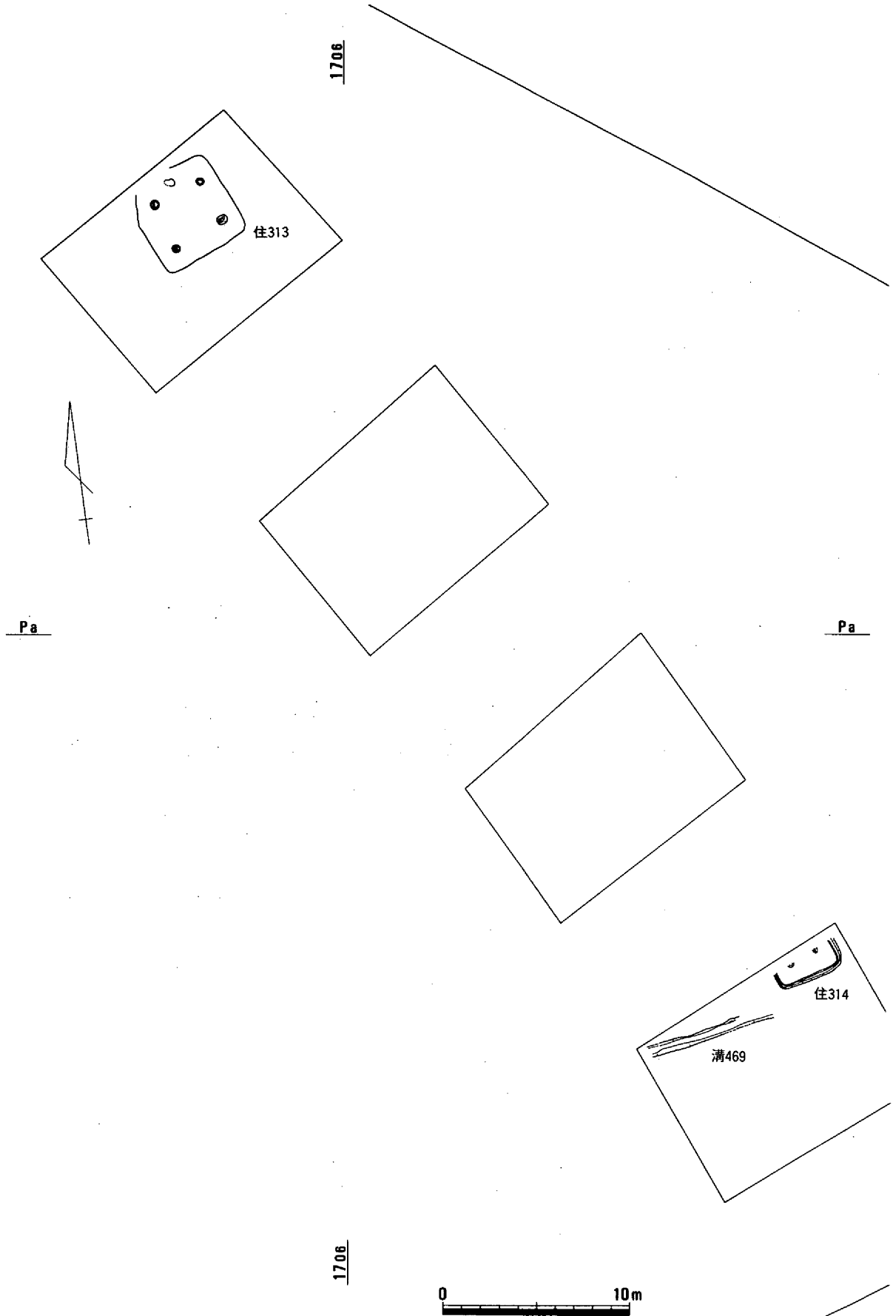
今回報告分の遺構は、竪穴住居33軒、掘立柱建物1棟、土壇1基、溝6条である。これら検出された遺構は、おおむね5世紀後半～6世紀初頭と6世紀後半～7世紀初頭の時期に大別できる。検出された遺構の内、5世紀後半を中心とするものは竪穴住居15軒、土壇1基で、6世紀後半を中心とする時期のものは竪穴住居18軒、掘立柱建物1棟、溝6条を数える。しかし、竪穴住居については検出が困難で平面形が明確でないもの、出土遺物が少ないため時期の特定が不安定なものも含まれていることも事実である。

まず5世紀後半～6世紀初頭の遺構は、先述したように竪穴住居、土壇が検出されている。竪穴住居は15軒検出されており、大きく3地点に集中する傾向が認められる。竪穴住居-313、315～317・324～327・329が調査区の北側に、また竪穴住居-339～343が調査区中央の東側に、さらに調査区の南端には竪穴住居-344・345が存在する。これらの竪穴住居は、切り合って存在するものもあり、今回報告分の調査区内では3～4軒が単位となっていた可能性もある。竪穴住居の大きさは、竪穴住居-324・325などが比較的大きく、竪穴住居-343は床面積が約5.8㎡と小さい。柱穴は、検出できなかったものも含まれるが4本柱で構成されるものが多く、これは竪穴住居の大きさに起因すると考えられる。竪穴住居の形態は、正方形は少なく、カマドの位置から縦長の長方形を呈する形態が多く認められた。また、カマドの位置は、検出されなかったものも多いが、おおむね北西～北東方向に向いており、竪穴住居の北辺の中央部に位置する竪穴住居の中には焼失しているものも含まれており、竪穴住居-317・324・342などがある。竪穴住居の時期は、その大半が5世紀後半～6世紀初頭であるが、竪穴住居-325は検出された15軒の中でも最も古相の様相を示している。また、竪穴住居-325からは、大形器台4本を含む多量の須恵器・土師器が出土している。

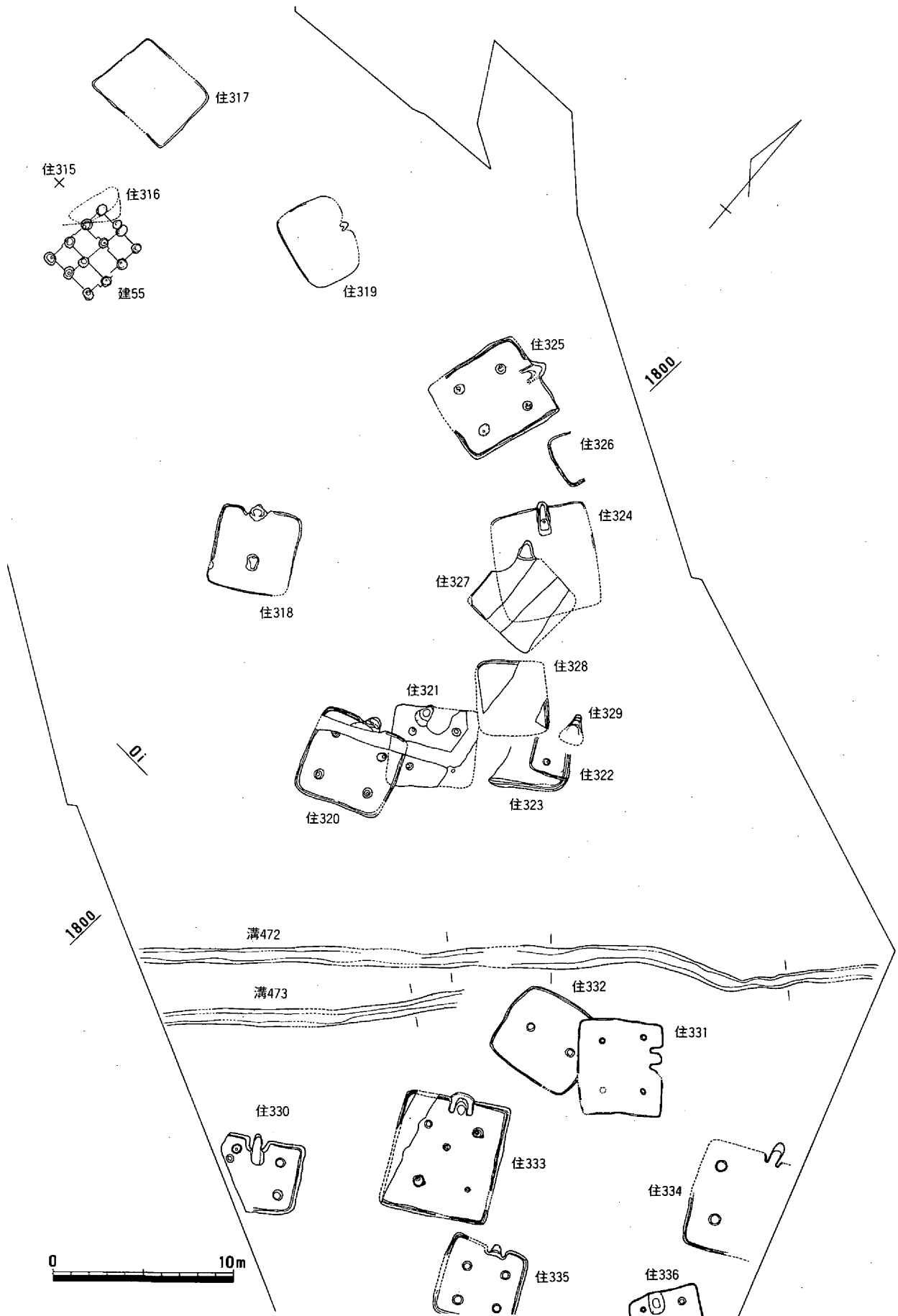
次に6世紀後半～7世紀初頭の遺構は、竪穴住居、掘立柱建物、溝が検出されている。検出されている遺構はそのほとんどが調査区の北側に集中している。竪穴住居18軒は、溝-472・473を挟んでその両側に集中し、掘立柱建物もその範囲に含まれる。竪穴住居の分布は、5世紀代のあり方とは明らかに違いを示している。竪穴住居の大きさは大小が存在し、特に竪穴住居-333は床面積約36㎡と大きく、竪穴住居-328・337は比較的小さい。形態は、正方形、長方形を呈するものが存在する。柱穴は、竪穴住居-332の2本柱もあるが、その大半は4本柱で構成されている。カマドは検出できなかったものもあるが、原則的には存在し、北東～北西方向に向く位置にある。カマドの位置は、例外なく北辺の中央部に存在する。掘立柱建物は1棟検出されており、2間×3間の総柱建物で倉庫と考えられる。溝は6本検出されたが、溝-472・473は、溝の両側に集中して存在する竪穴住居を画するような位置に存在する。また、遺物は前述した遺構の時期を中心に相当量出土している。

以下、各々の遺構・遺物について記す。

(中野)

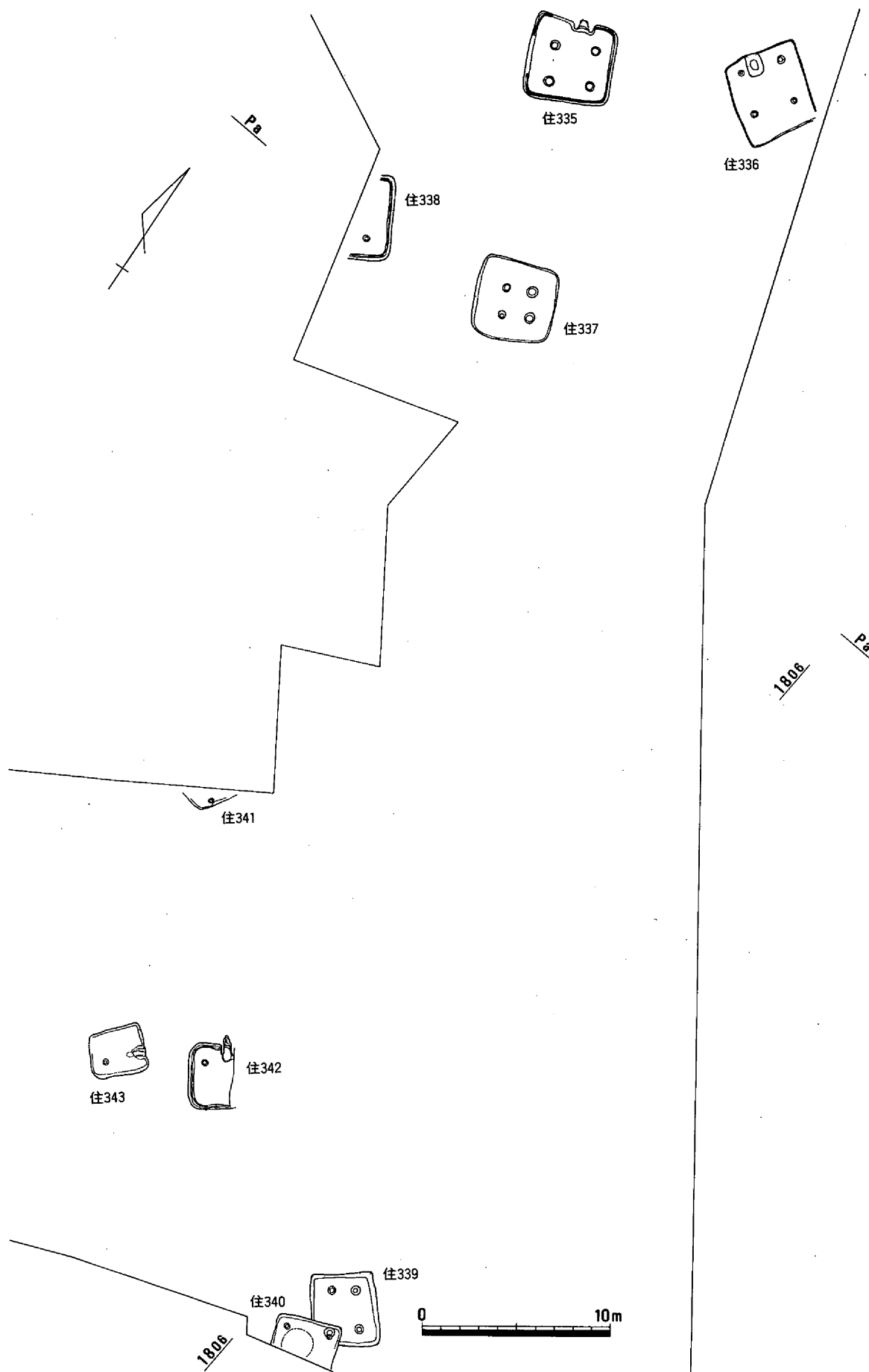


第527図 古墳時代後期部分全体図(1)(1/300)

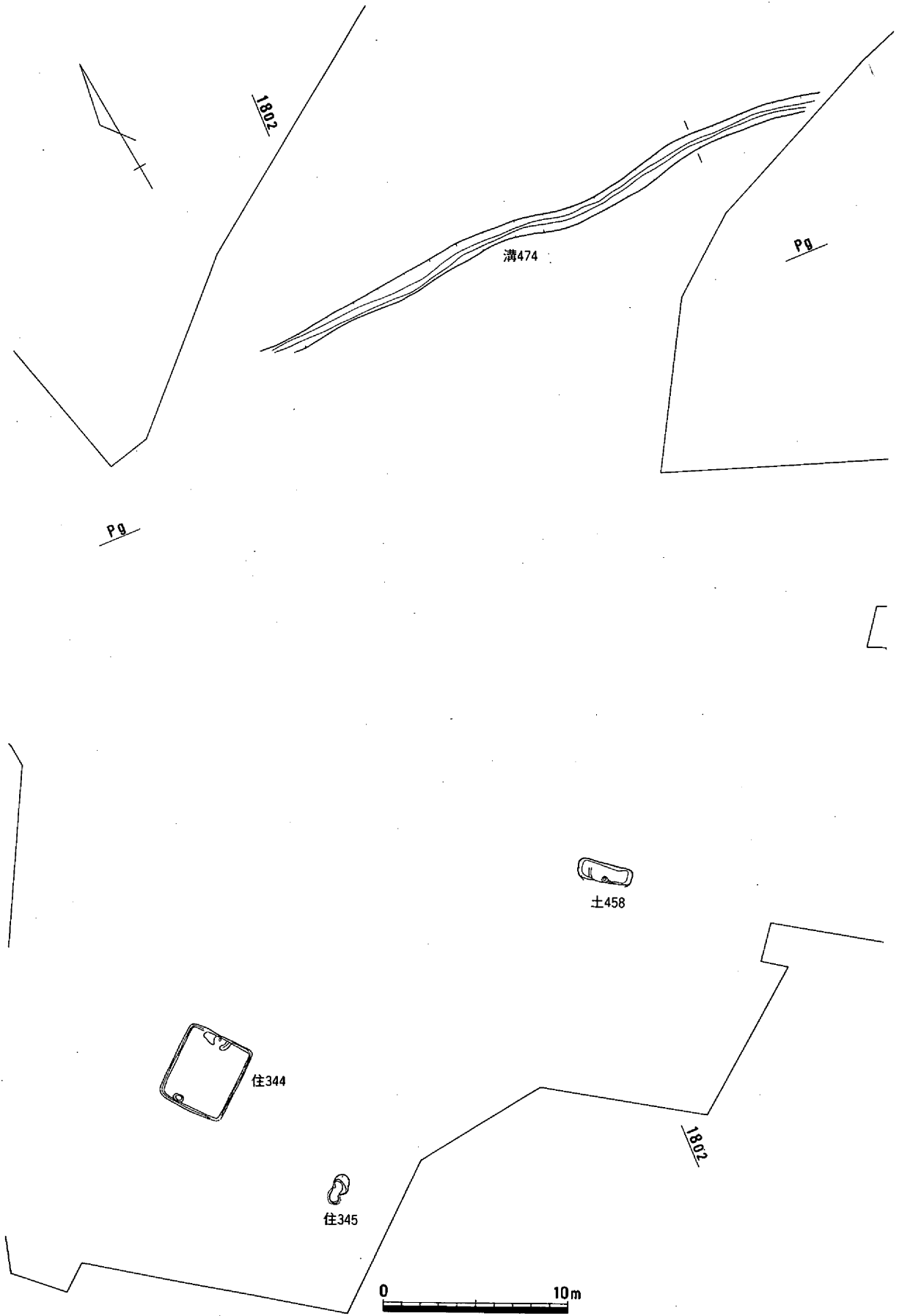


第528図 古墳時代後期部分全体図(2)(1/300)

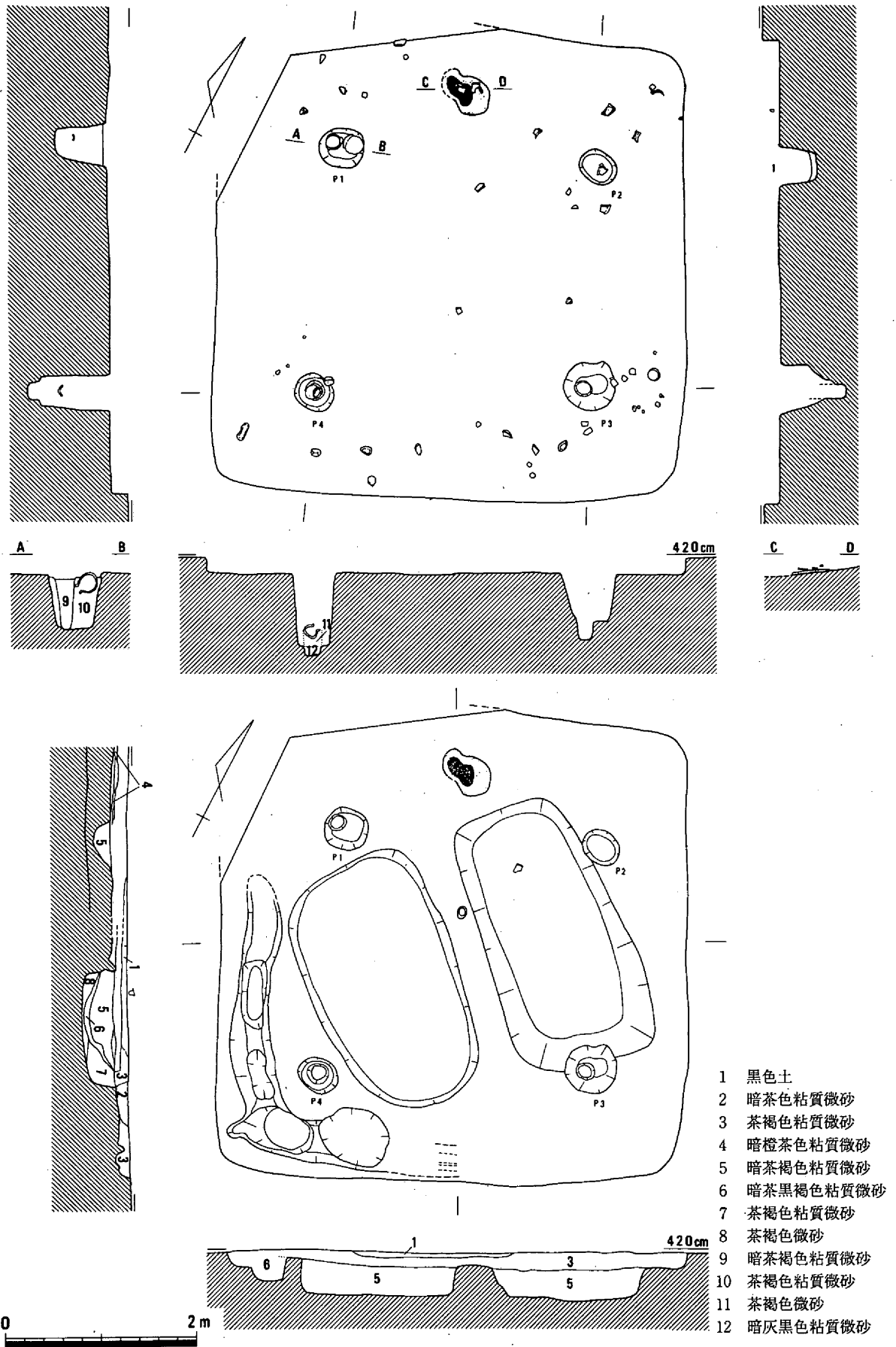
第3章 調査区の概要



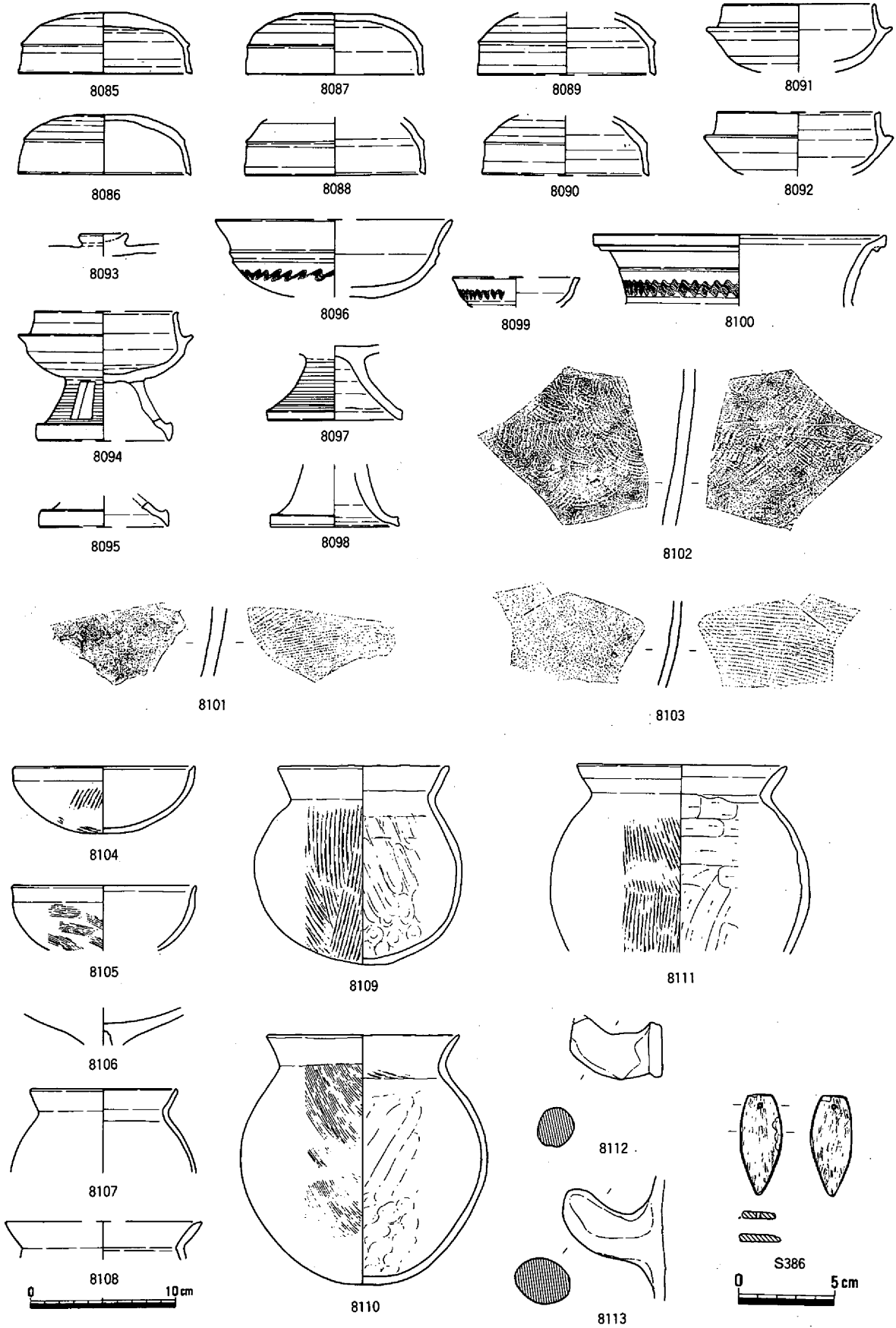
第529図 古墳時代後期部分全体図(3)(1/300)



第530図 古墳時代後期部分全体図(4)(1/300)



第531図 竪穴住居-313(1/60)



第532図 竪穴住居-313出土遺物(1)

(2) 竪穴住居

古墳時代中期・後期の竪穴住居は、調査区内では古墳時代前期の竪穴住居ほど多くなく、総数33軒である。その分布は北側に濃く、南側に薄い状況を呈する。5世紀後半から6世紀前半と考えられる竪穴住居14軒、6世紀末から7世紀初頭の竪穴住居11軒、6世紀後半の竪穴住居1軒、不明の竪穴住居7軒を数える。5世紀末から6世紀初頭の竪穴住居は微高地の高所を中心にして、環状にまとまって分布する傾向がうかがえる。

(高畑)

竪穴住居-313 (第531~533図)

O17区の南、橋脚(P1区)に所在し、17os、Oi線の交点東側に位置する。長さ502cm、幅492cm、床面積約23m²、床面海拔高403.5cmをはかる方形の竪穴住居である。後世に削平を受け、壁体の高さ20cm弱であり、床面に支柱穴4本と焼土面のみで壁体溝、方形土壙は認められない。柱間は北辺で276cm、東辺235cm、南辺278cm、西辺270cmをはかり、東辺の柱間が他より約35~40cm短くなっている。柱穴は直径45~55cm、深さ40~90cm、柱痕径は約15cmであり、北辺のP-1、P-2が浅く、南辺のP-3、P-4が深くなっている。焼土面はP-1、P-2間の中央北側にあり、被熱範囲は60×38cmの不整形円形を呈し、その内側の35×20cmが焼土化している。カマドの可能性が考えられる。

床面下位には住居の中心を境に隅丸方形の土壙2基と北西隅に「L」字の溝状土壙が配されている。土壙は長さ270~290cm、幅約160cm、深さ35~40cm、「L」字の溝状土壙は長さ280cm、幅35~45cmをはかる。両遺構とも本住居の下部構造として住居と同時期に作られたものと考えられる。

遺物は第1層中および、床面、埋土、柱穴内より出土している。須恵器、土師器、石製品、他に10個以上の河原石が土器と混在して出土している。須恵器8086~8088、8096、8099、8100が第1層より出土しており、杯蓋では口径12.0~12.4cm、器高4.2cm前後をはかる。土器の回転は8086、8087が左廻り、8088、8096が右廻りである。床面からは高杯脚8097、土師器8105、8107、8111があり、すべて破片である。埋土からは須恵器8085、8089~8095、8098、8101、土師器8114、8106、8108が出土している。

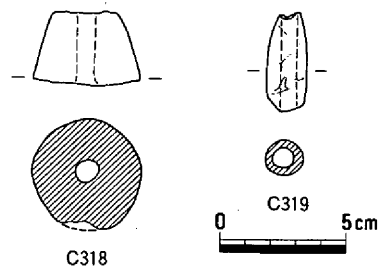
柱穴P-1からは、柱の抜き取り後に埋納された甕8110が出土しており、口径13.4cm、最大径17.2cm、器高17.3cmをはかる。色調は浅黄橙色を呈する。P-4からは、柱の埋土上層より逆転の状態で甕8109が出土しており、口径11.9cm、最大径14.6cm、器高13.8cmをはかる。色調は赤橙色を呈する。2点とも完形品であり、胴部に黒斑が認められる。8109が古く、8110が新しい甕であろう。床面下位の西側土壙から甕把手8112、東側土壙から須恵器大形壺8103の破片が出土している。他に滑石による剣形模造品S386があり、長さ5.25cm、幅2.15cm、厚さ0.4cm、重量7.5gをはかる。土製品では紡錘車C318があり、長さ2.9cm、幅4.3cm、厚さ2.0cm、重量42.3gをはかる。

胎土分析を行った須恵器8085、8086、8088、8091、8092、8094、8099、8100、8101、8103は陶邑領域と推定され、ほぼ同一の生産地から供給された可能性が高い。

この時期の須恵器杯蓋、杯身の天井部、底部のヘラケズリは左廻りのものが多く、右廻りのヘラケズリは少なくなりつつあり、全体の3割位であろうか。

住居は5世紀の第4四半期に比定が可能であろう。

(高畑)



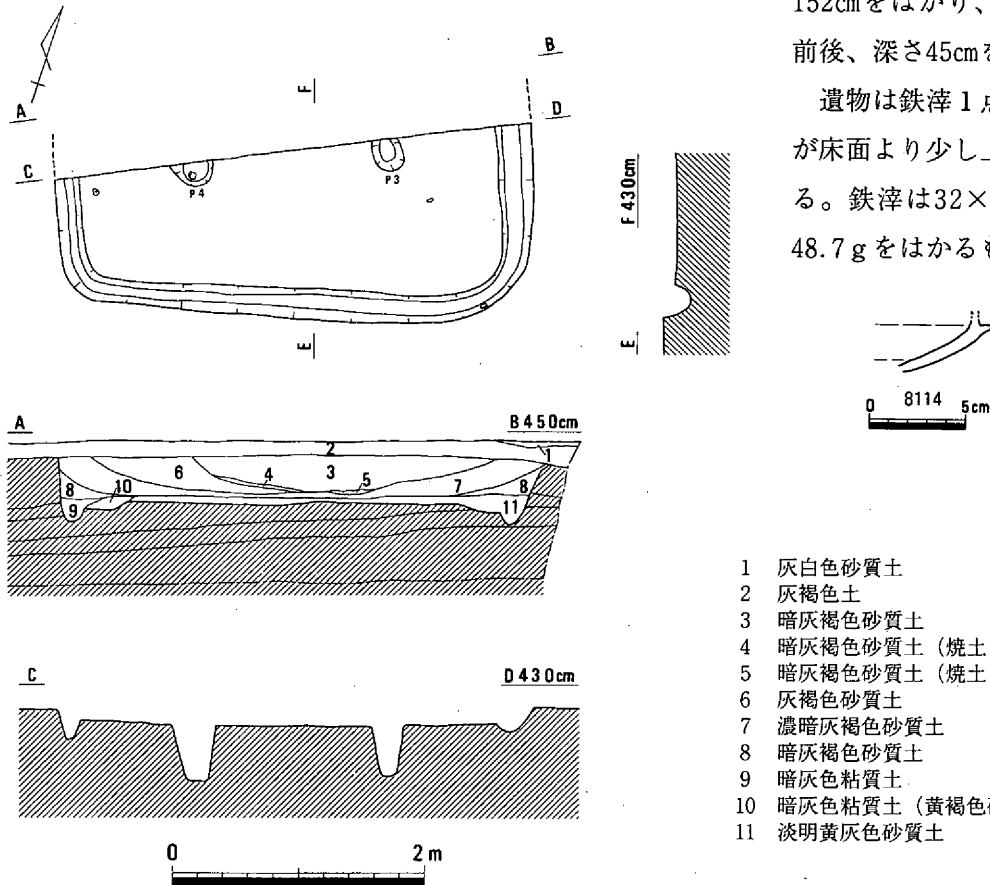
第533図 竪穴住居-313出土遺物(2)

竪穴住居-314 (第534図)

P17区の北東、橋脚(P4区)に所在し、溝-469の東に位置する。調査は住居南側半分のみであり、長さ378cm、幅(150)cm、床面海拔高400cmをはかる竪穴住居である。埋土は9層からなり、レンズ状の堆積状況を呈す。検出面より床面までの高さ約30cmをはかり、床面には、壁体溝と支柱穴2

本までを確認している。柱間は152cmをはかり、柱穴の直径30cm前後、深さ45cmをはかる。

遺物は鉄滓1点、須恵器片1点が床面より少し上から出土している。鉄滓は32×26×13mm、重量48.7gをはかるもので金属学的調



- 1 灰白色砂質土
- 2 灰褐色土
- 3 暗灰褐色砂質土
- 4 暗灰褐色砂質土 (焼土を多く含む)
- 5 暗灰褐色砂質土 (焼土を多く含む)
- 6 灰褐色砂質土
- 7 濃暗灰褐色砂質土
- 8 暗灰褐色砂質土
- 9 暗灰色粘質土
- 10 暗灰色粘質土 (黄褐色砂質土)
- 11 淡明黄灰色砂質土

第534図 竪穴住居-314(1/60)・出土遺物

査では精錬鍛冶滓であることが判明している。杯身8114は5.5×5.5cmの小片であり、器外面には天井部から受部の手前2cmのところまで左廻りのヘラケズリが及んでいる。

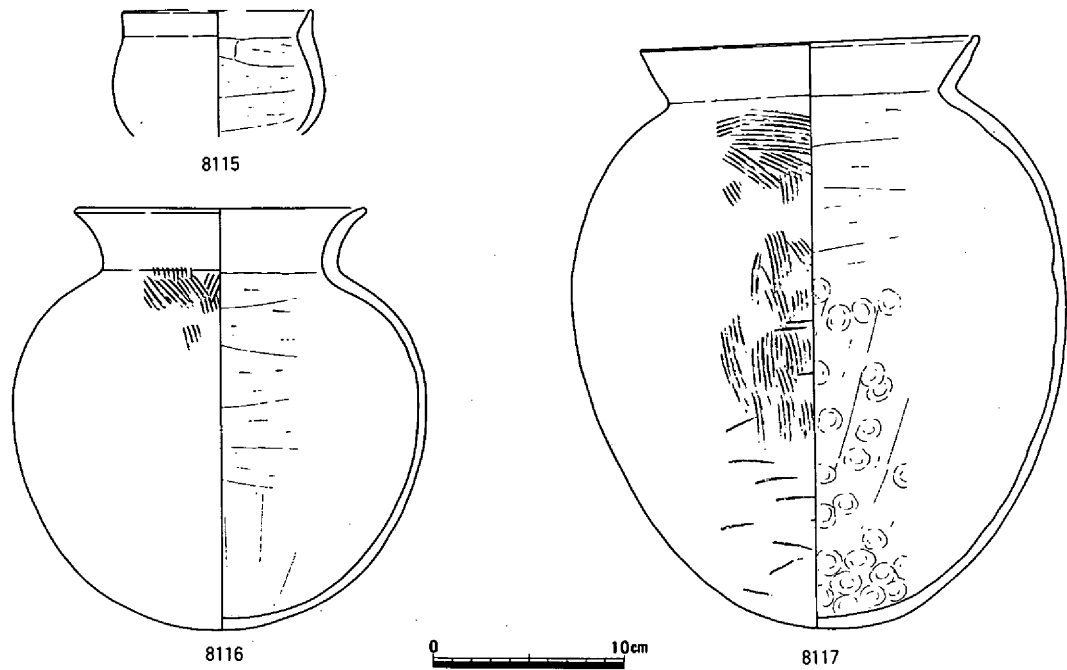
時期は6世紀の前半の中で押えておきたい。

(高畑)

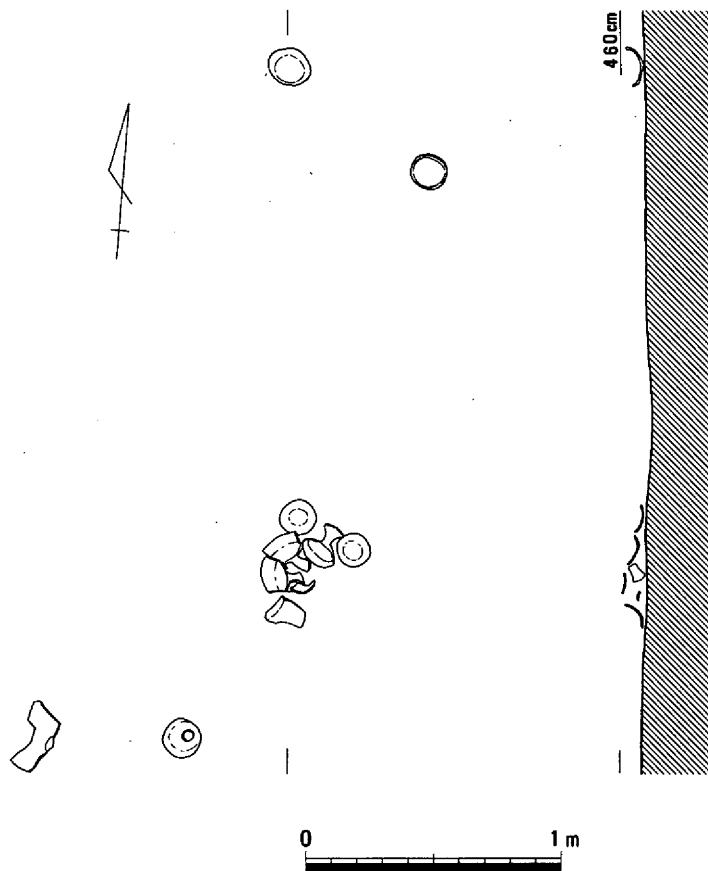
竪穴住居-315 (第535図)

O17区の東南、竪穴住居-317の南側約4mに位置する。150×100cmの範囲に分布する焼土と土器により住居と想定したものである。しかし、明瞭な付属施設を伴っておらず、いま一つ確定的なものではない。

遺物は床面と考えられる海拔440cm付近に8115~8117が出土している。押し潰され状態での出土であったが、3個体ともほぼ完形に復元が可能である。8115は底が抜かれている感じを受ける。甕8116は口径15.0cm、最大径21.55cm、器高22.4cmをはかり、橙色を呈する。甕8117は口径17.8cm、最大径26.1cm、器高31.1cmをはかり、橙色を呈する。2点とも外面は荒い縦、斜位のハケメ、内面ヘラケズリ、ユビオサエが認められる。胴部には2点とも煤の付着がみられ、煮沸に使用された痕跡をとどめ



第535図 竪穴住居-315出土遺物



第536図 竪穴住居-316(1/30)

る。

5世紀後半の時期を考慮しておきたい。(高畑)

竪穴住居-316 (第536・537図)

〇17区の東南、竪穴住居-317の南側約4m、竪穴住居-315の東側2.5mに位置する。竪穴住居-315、316間に近世の溝-532、533が2m幅で南流しており、両遺構の検出は困難な状況であった。

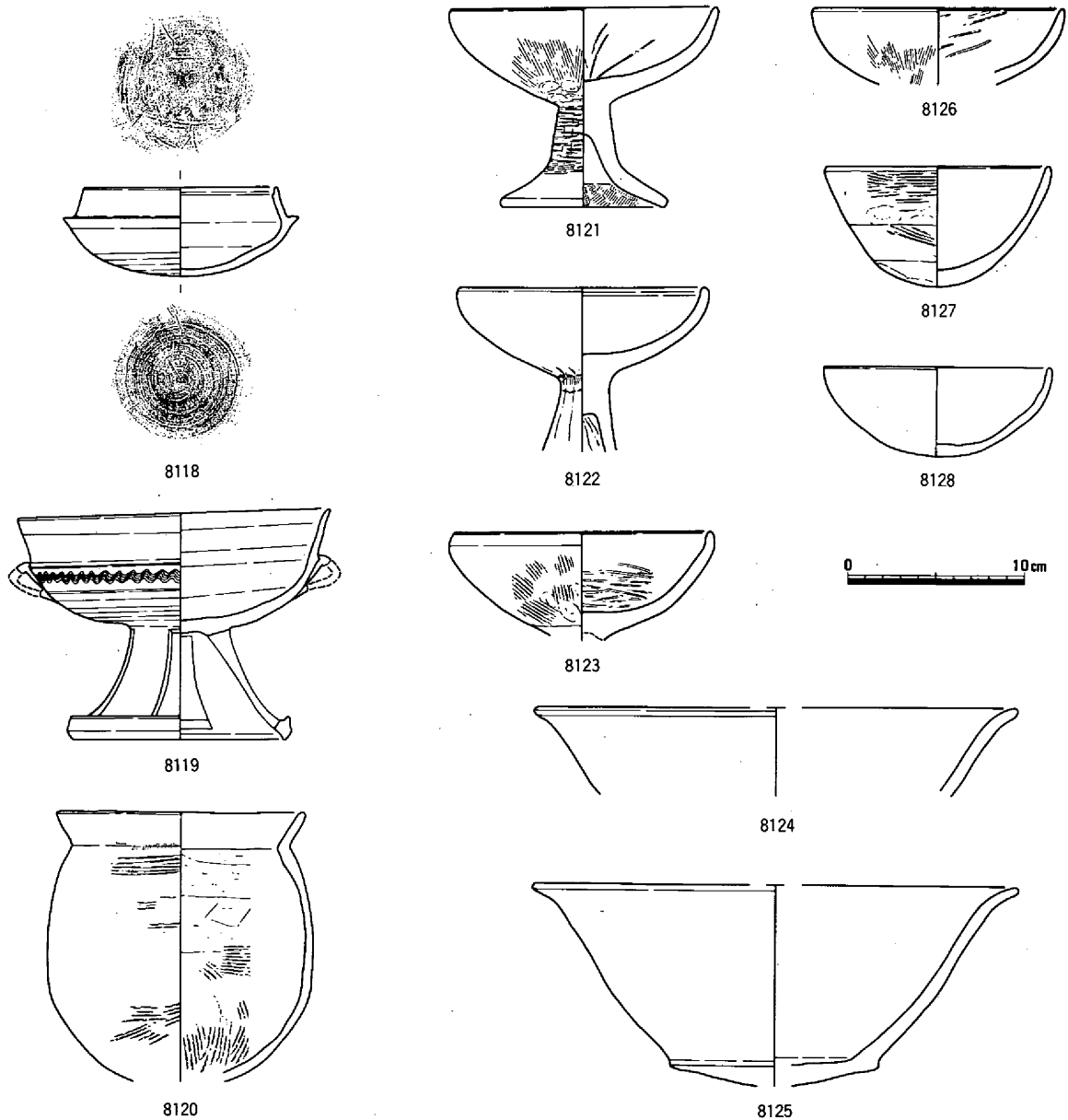
本住居も竪穴住居-315と同様に遺物の分布状態から住居を想定したものである。遺物が南北方向3.1m、東西1.5mの範囲に散布しており、北、南に大きく分かれている。北側に高杯8123、須恵器杯身8118、南側中央に高杯8119・8121、甕8120、鉢8127・8128がまとまっている。南側には高杯8112・8125が出土してお

り、すべての遺物の接地面が海拔450～451cmをはかる。ほぼ同レベルに11点の土器が認められることから、おそらく住居床面ではなかろうかと考えている。ちなみに、これらの接地面は竪穴住居-315の遺物接地面より約10cm高い位置になる。

これらの遺物は使用、あるいは廃棄の同時性を示すものであり、須恵器杯身、無蓋高杯が各1点、土師器甕1点、土師器高杯6点、鉢2点がある。杯身8118は口径11.0cm、最大径13.45cm、器高5.1cmをはかり、ヘラケズリは右、土器の回転は左廻りである。天井部に松葉状の線刻、内面には方形に仕上げナデが施されている。8119は把手が欠損しているが、ほとんど完形であり、口径17.9cm、器高13.0cm、底径13.2cmをはかる。脚部の窓は四方透しであり、杯部ヘラケズリは右、土器の回転は左廻りである。甕8120は煮沸に使用されており、外面胴部下半に煤が付着し、内面中位から下半にかけて外面からの被熱痕跡が認められる。高杯は2種類あり、8121等が小形、8125が大形品である。

これらの遺物は5世紀末と考えられる。

(高畑)



第537図 竪穴住居-316出土遺物

竪穴住居-317 (第538図)

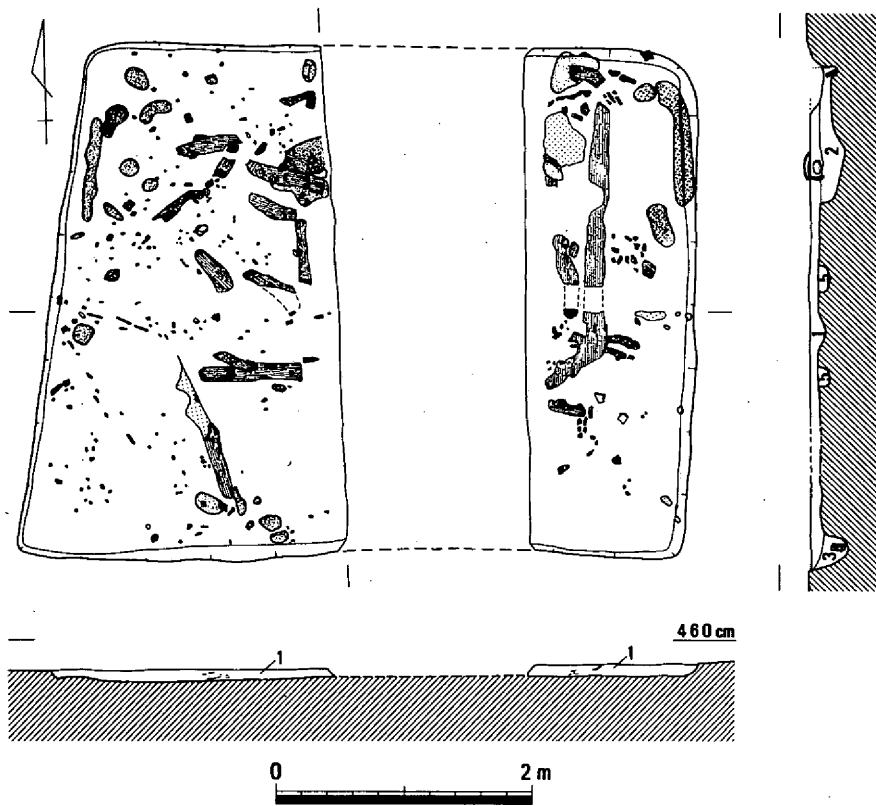
O17区の中央東側、竪穴住居-319の7 m西側に位置する。住居中央部を南北に近世の溝2条が分断している。長さ516cm、幅410cm、床面積81.93m²、床面海拔高428.8cmをはかる平面が台形の竪穴住居である。火災を受けて廃棄されたと考えられる住居で、床面には炭化材がほぼ全面に分布している。あまり良い残存状況ではないが、一部の炭化材は住居の長、短辺に平行してみられ、その方向からは棟に関係する使用材と考えられる。住居東側にみられる南北2 mの炭化材はまさにそのものであろう。また、火災時の焼土が住居内随所にみられ、炭化材除去後にも床面付近で5か所ほど認められた。

床面北側に浅い焼土層があり、近世の溝に一部を破壊されているが、50×(45) cm、深さ約7 cmをはかり、その中央に土器が1点残されている。床面には支柱穴も確認されていないが、壁体溝は断面においてのみ押えられている。断面状況は壁体溝内のほぼ中央に厚さ2.5~5 cm、残存長約10 cmの粘

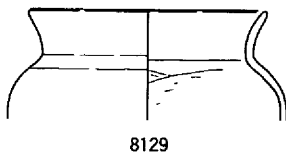
質土がみられ、その様子は板材が壁体内に埋め込まれたようである。

遺物は土器3点と滑石製の白玉2点が出土している。甕8129、8130は土師器であり、口径12.2cm、27.3cmをはかる。壺8131は須恵器であり、外面は平行のタタキメ、内面はナデが施されている。

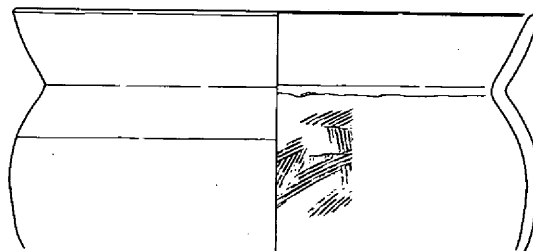
S 387、S 388は滑石



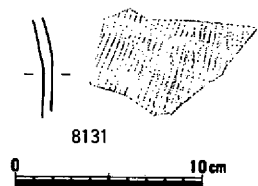
- 1 暗灰茶褐色粘質土 (炭・粘土多い)
- 2 暗赤灰褐色粘質微砂
- 3 暗茶褐色粘質土
- 4 暗黄茶褐色粘質土
- 5 暗赤茶褐色粘質土



8129



8130



8131



第538図 竪穴住居-317(1/60)・出土遺物

製の白玉であり、S387は径4.6mm、厚さ2.4mm、重量0.07gをはかる。

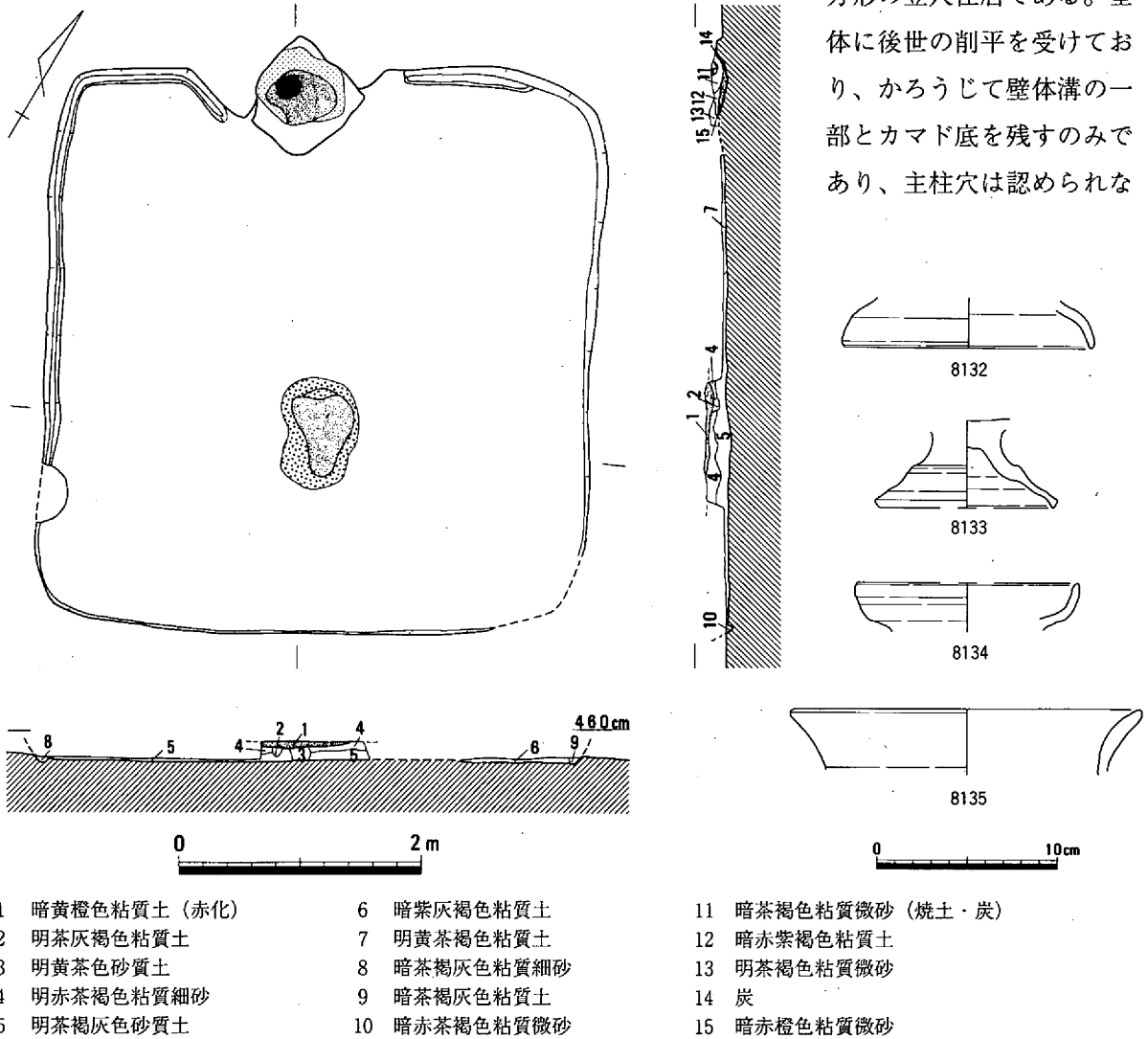
これらの土器の特徴から火災は5世紀後半の頃と考えられる。

(高畑)

竪穴住居-318 (第539図)

○17区の東南、竪穴住居-320の西側6.5mに位置する。長さ464cm、幅452cm、床面積19.68㎡、床

面海拔高436.5cmをはかる
 方形の竪穴住居である。全
 体に後世の削平を受けてお
 り、かろうじて壁体溝の一
 部とカマド底を残すのみで
 あり、主柱穴は認められな



第539図 竪穴住居-318(1/60)・出土遺物

い。中央部少し南側に残る65×50cmの焼土面は埋土上に残されたもので、本住居より新しい時期のものである。壁体溝は住居北西側に「L」字状に残存しており、深さ約6cmをはかる。カマドは住居の短辺、北側中央に付設されており、本調査区はこの時期の住居のカマドとしてはこの位置が多い。

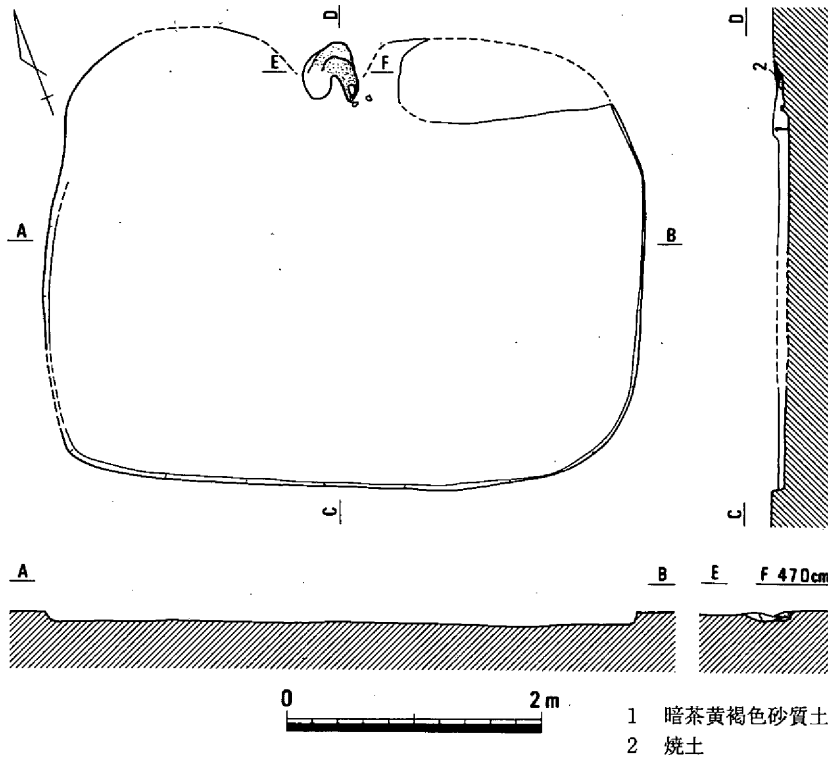
遺物はカマド内からの出土であり、須恵器3点、土師器1点はすべて破片である。杯蓋8132は口径(13.6)cmをはかり、土器の回転方向は右廻りである。高杯8133は底径(9.6)cmをはかり、土器の回転方向は右廻りである。

これらの土器の特徴から6世紀末の年代が想定される。

(高畑)

竪穴住居-319 (第540図)

○17区の中央東、竪穴住居-317の7m東側に位置する。同時に併存したと考えられる竪穴住居-318、326が住居間距離約14mでもって東と東南方向に位置する。長さ470cm、幅360cm、床面積14.98



m²、床面海拔高437cmをはかる隅丸方形の竪穴住居である。平面形は東西に長く、床面には壁体溝、支柱穴はなく、北側長辺中央にカマド底のみがみられる。その被熱範囲は70×50cmであり、中央部に焼土面が認められる。

遺物はカマド周辺に須恵器片が数点みられた

第540図 竪穴住居-319(1/60)・出土遺物

が、実測可能なものは杯蓋8136のみである。口径(12.6)cmをはかり、天井部はヘラキリ未調整となっている。土器の回転方向は右廻りである。

土器の形状より、まさに6世紀末から7世紀初頭の土器と考えられる。

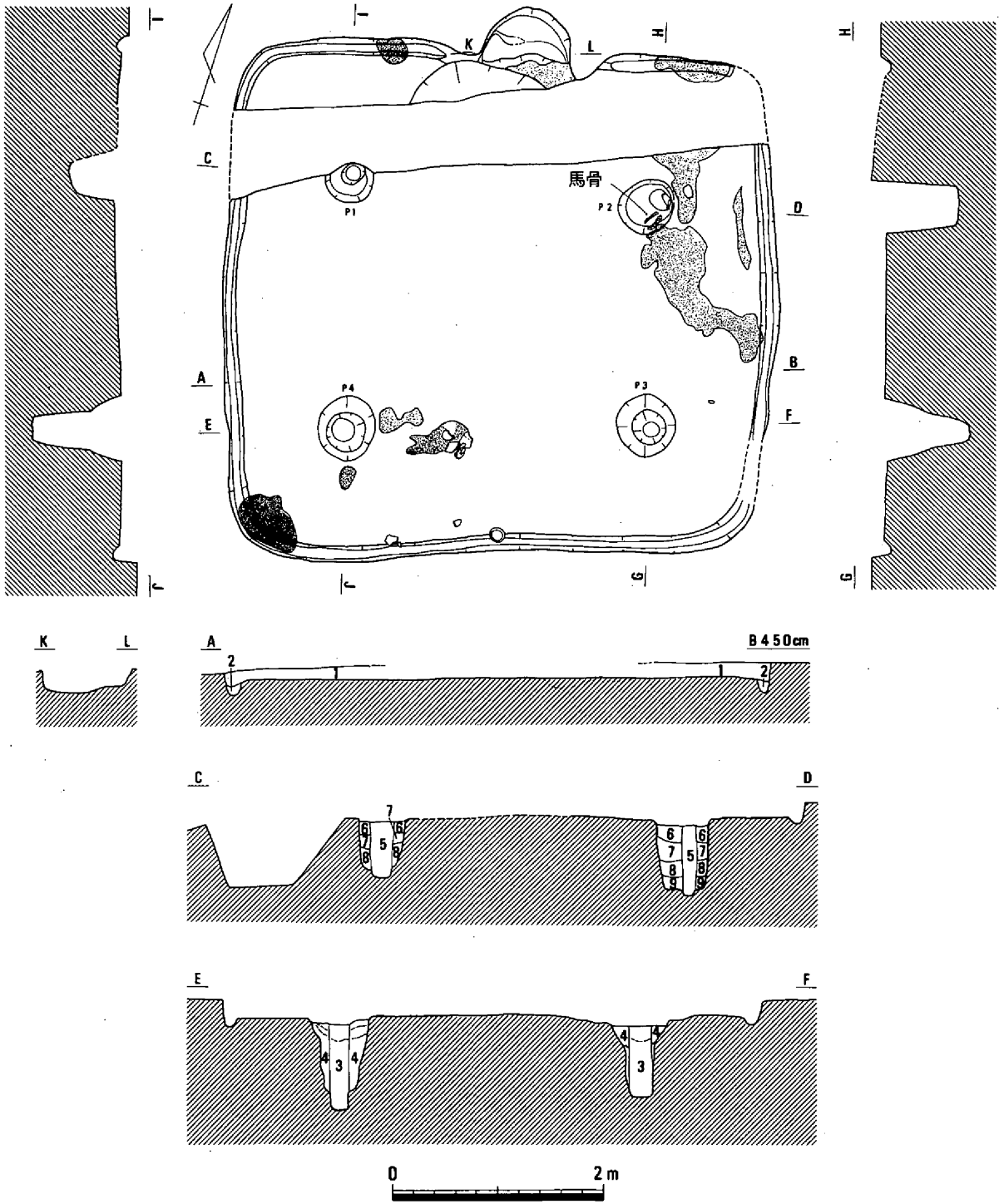
(高畑)

竪穴住居-320 (第541・542図、図版31-1)

○18区の東南、盛土(M8 I・Ⅲ区)に跨って所在し、竪穴住居-318の東側7mに位置する。長さ530cm、幅500cm、床面積23.58m²、床面海拔高422cmをはかる方形の竪穴住居である。平面形は東西が30cm長い格好となり、北側短辺部中央にカマドが付設されている。埋土は第1層の茶褐色粘質土からなり、床面には火災を受けた住居にみられるまとまった焼土ブロックが分布する。その分布は支柱穴4本を結んだ線外と壁体との間に認められ、北、東、南側に多い。支柱穴の柱間は北辺293cm、東辺220cm、南辺292cm、西辺248cmをはかり、P-2とP-3間が対面する柱間より28cm狭い。柱穴の直径55cm、深さ54~83cmをはかり南辺が北辺の2穴より10~29cm深く掘られている。カマドは60×20cmの焼土面を残すのみで、下部構造に直径約80cm、深さ約20cmの土壙が所在する。

遺物は須恵器8137~8140、土師器8141~8145がみられ、8142がP-1内、壺8141は焼土ブロック上、他は床面に近い位置からの出土である。杯蓋8137は口径(13.0)cm、器高4.2cm、杯身8138は口径11.05cm、最大径13.01cm、器高4.17cm、高杯8139は口径(12.7)cm、底径8.4cm、器高7.4cmをはかり、色調は灰白色を呈する。3点とも土器の回転方向は右廻りであり、杯蓋は左廻りのヘラケズリが認め

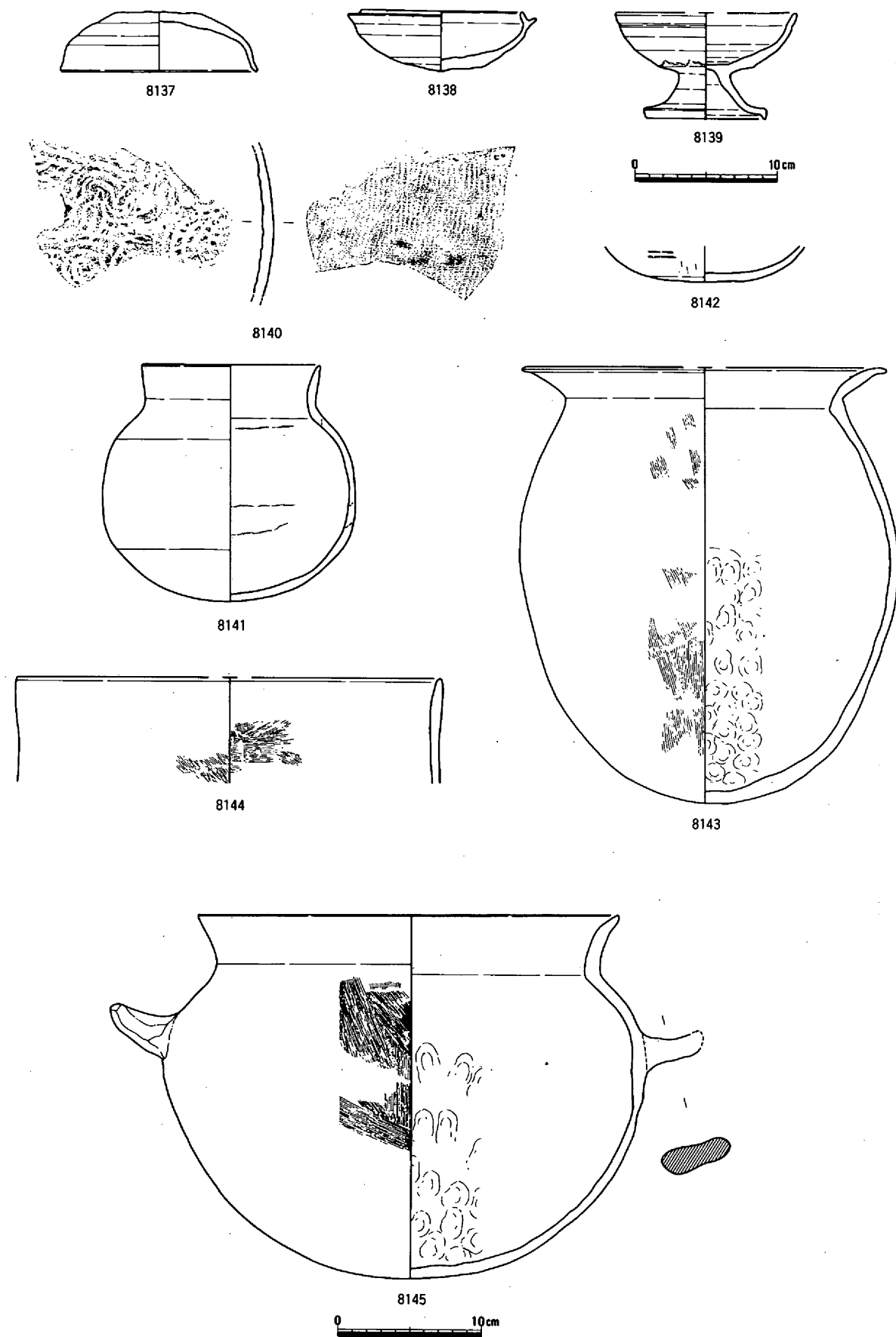
られる。土師器は壺、甕、甑、把手付甕があり、総じて荒い作りにて色調は橙色系統が多い。甕8143はカマドの西脇から出土しており、口径(24.8)cm、最大径27cm、器高29.8cmをはかり、器外面に煤が付着している。把手付甕8145は口径(28.7)cm、最大径33.5cm、器高25.4cmをはかり、扁平な把手が付けられている。器外面は縦・斜位のハケメ、内面はユビオサエがみられる。



- | | | | |
|-----------|------------|---------------|-----------|
| 1 茶褐色粘質土 | 3 暗茶褐色粘質微砂 | 5 黄茶褐色粘質土(柱痕) | 7 黄茶色粘質土 |
| 2 暗茶褐色粘質土 | 4 黄褐色粘質微砂 | 6 茶褐色粘質土 | 8 淡黄茶色粘質土 |
| | | | 9 黄茶色粘質土 |

第541図 竪穴住居-320(1/60)

第3章 調査区の概要



第542図 豎穴住居-320出土遺物

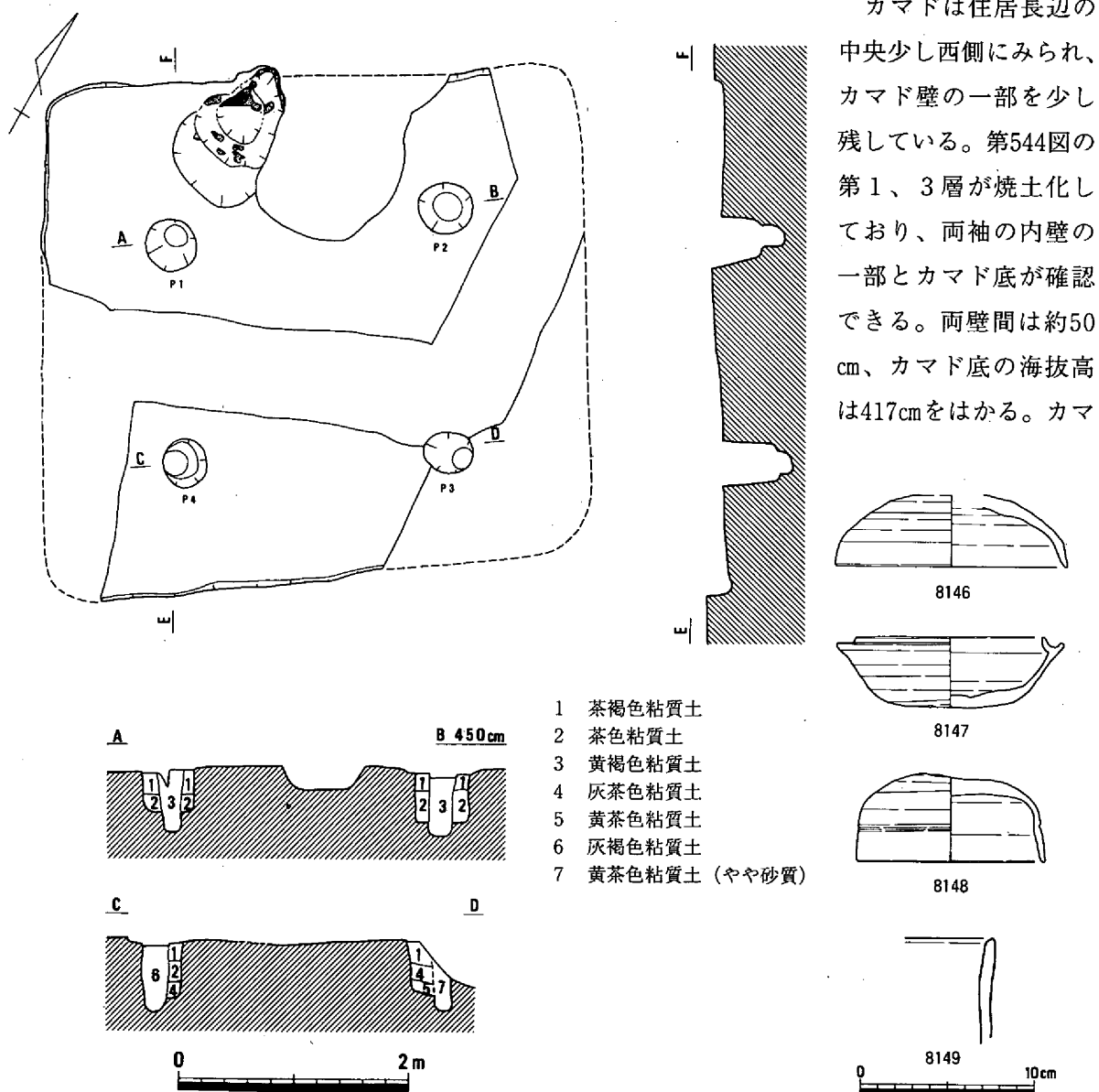
柱穴P-2の第6層内からは馬の上顎部が出土しており、一部欠損がみられるが歯の部分が「U」字形に残っている。歯先が北東に向いており、全長29.5cm、幅9.0cmをはかる。歯の数15本を数え、両側奥歯間の最大幅約5cmをはかる。

住居の焼失時期は出土遺物のうちの須恵器杯身より、6世紀末以降と考えられる。 (高畑)

竪穴住居-321 (第543図)

〇18区の西南、盛土 (M8 I・Ⅲ区) に跨って所在し、竪穴住居-328の南隣に位置する。前述の竪穴住居-320により住居西南部を少し切られている。また、溝・土壙等の後世の遺構による削平は住居東側に顕著に認められる。長さ (408) cm、幅440cm、床面積約20㎡、床面海拔高424.4cmをはかる方形の竪穴住居である。床面にはカマドと支柱穴4本があり、壁体溝はみられない。

支柱穴の柱間は北辺が238cm、東辺217cm、南辺250cm、西辺198cmをはかり、住居平面形と同じく東西に長軸を持つ。柱穴の直径45cm前後、深さ58~72cmをはかり、P-2、P-3の南辺が浅い掘り方である。

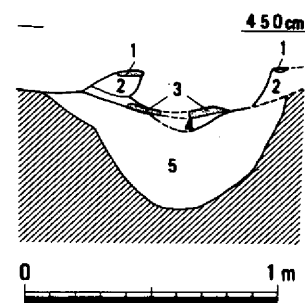
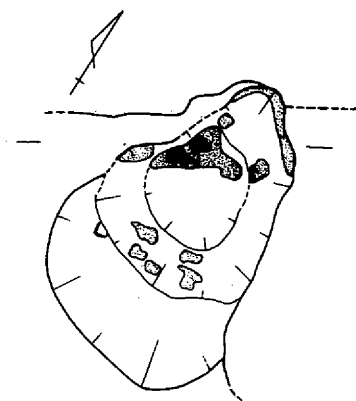


第543図 竪穴住居-321 (1/60)・出土遺物

下位に下部構造と考えられる土壌がみられ、長さ145cm、幅100cm以上の不整楕円形を呈する。深さ約50cmをはかり、埋土は2～3層の褐色系の粘質土で行なわれており、土器小片を含んでいる。

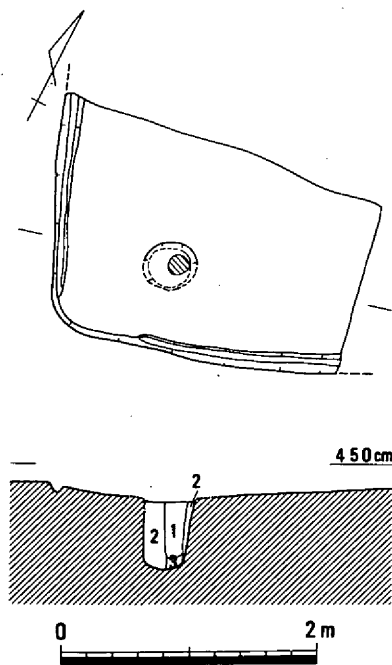
遺物はカマド西側、P-1の北西部床面近くから出土しており、須恵器3点、土師器1点である。杯蓋8146は口径13.2cm、天井部ヘラケズリ左方向、土器の回転は右廻りである。杯身8147は口径10.7cm、最大径13.0cm、器高4.1cmをはかる完形品である。底部はヘラキリであり、土器の回転は右廻りである。蓋8148は口径10.6cm、器高5.1cmをはかり天井部はヘラケズリであり、内面天井部は仕上げナデが施されている。土器の回転は右廻りである。壺等の蓋になる可能性の強い器高のあるものである。

これらの須恵器の形態、特徴等より、6世紀末から7世紀初頭の時期が考えられる。なお、竪穴住居-320との切り合い関係では本住居が古くなるが、須恵器杯蓋、身では竪穴住居-320が古くなる。当然、切り合い関係が優先であり、両住居が非常に近接した時期の中で立て替えられたことが理解でき、ひいては須恵器の使用期間にまで及ぶ問題をも提起している。
(高畑)



- 1 赤褐色焼土 (上部)
- 2 褐色粘質土
- 3 赤褐色焼土 (下部)
- 4 黒茶褐色粘質土
- 5 灰茶褐色粘質土

第544図 竪穴住居-321(1/30)

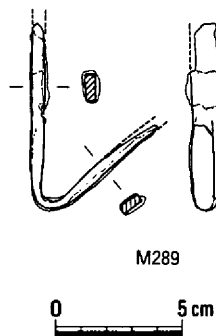


- 1 褐茶灰色粘質微砂
- 2 茶黄灰色粘質微砂
- 3 2と同じだが、粘土ブロックと褐色土ブロックあり

第545図 竪穴住居-322(1/60)・出土遺物

竪穴住居-322 (第545図)

O18区の東南、竪穴住居-321の北東3mに位置する。近世の溝、土壌等により掘削されており、住居の南西隅を含める全体の20%ほどが残るものである。残存長は東西258cm、幅178cmをはかる。床面海拔高は431cmをはかり、床面には幅



10～15cm、深さ4～7cmの壁体溝、柱穴1本が確認されている。柱穴は位置や規模等から、主柱穴4本のうちの南西柱穴にあたると思われる。柱穴直径40cm、深さ56cm、下端径30cmをはかる。柱穴内には柱痕跡がみられ、直径13～18cmをはかる円柱状を呈しており、第1層の褐茶灰色粘質微砂に

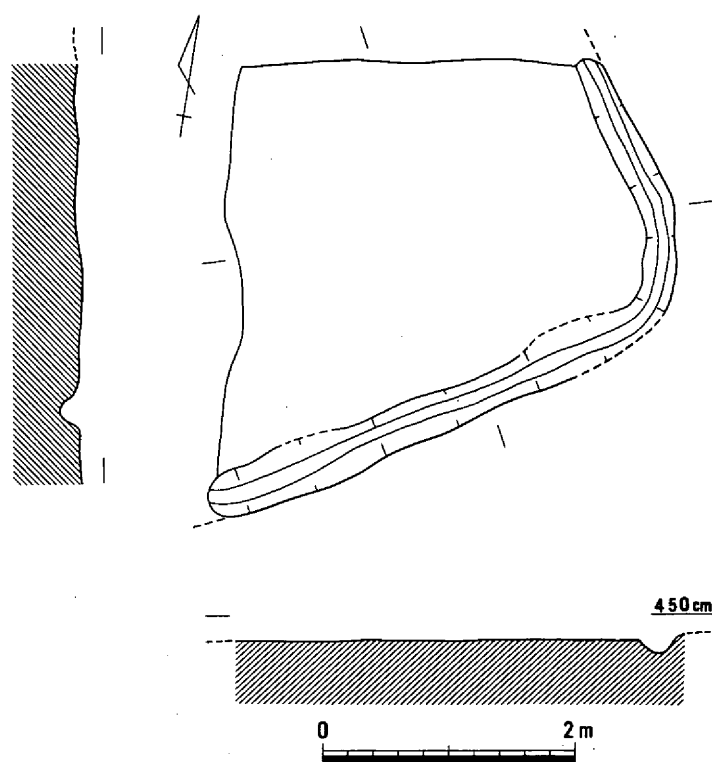
土壌化している。柱を設置したときの埋土は第2層の茶黄灰色粘質微砂であり、柱は住居の中央に向う側に埋設されている様子が理解できる。

遺物は埋土中から古墳時代前期の土器片、須恵器小片、M289の鉄器等が出土している。M289は長さ12.3cm、幅5.5cm、厚さ0.2cmをはかり、断面は長方形を呈するが、器種は不明である。

住居の時期は明確にはしえないが、古墳時代後半の範疇と考えておきたい。(高畑)

竪穴住居-323 (第546図)

〇18区の東南、竪穴住居-321の東隣に位置する。竪穴住居-322と同様に近世の溝、土壌等により掘削を受けており、住居の南東隅を含めた40%ほどが残るものであり、残存長東西394cm、南北326cmをはかる。床面海拔高は429.8cmをはかり、床面には幅20~35cmの壁体溝状の溝がみられる。壁体溝の深さは10~13cmをはかり、非常にはっきりとした溝である。しかし、この溝の継続は北側、西側でも確認されていない。西側は近世溝にて掘削されているが、まだ溝の西端部で北北西に向かって曲がろうとする様子がうかがえる。しかし、北側は確認がむずかしく、すぐ北側1mにある竪穴住居-329のカマドの関係が把握できていない。



第546図 竪穴住居-323 (1/60)

この溝の幅は他の住居の壁体溝と比較して、非常に広く、あるいは住居以外の遺構と考えることも可能であるが、類例を待ちたい。

遺物は埋土中より須恵器小片が出土しており、竪穴住居-322より切り合いでは古く、古墳時代後半の時期を想定しておきたい。

ここまでの11軒の住居は(P4区~M8 I・Ⅲ区)のものであり、5世紀後半から6世紀前半の住居が5軒、6世紀第4四半期から7世紀初頭のもの4軒、不明のものが2軒ある。しかし、5世紀後半~6世紀前半としたものの中には、竪穴住居-315、316のように住居構造が不明で遺物分布のみで想定したものが

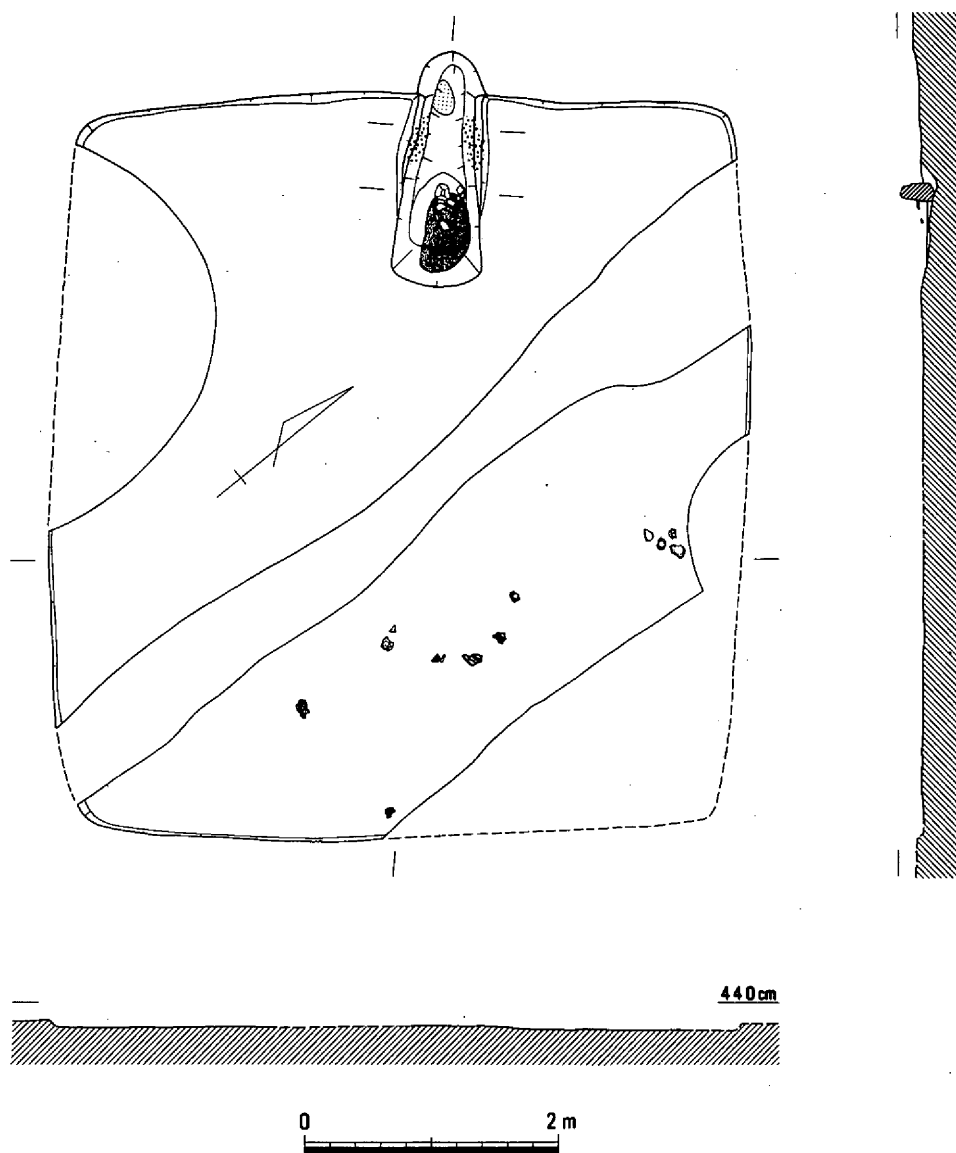
含まれる。また、この2軒の遺物分布は近接しており、同住居の可能性も考えられる。竪穴住居-313、315~317は5世紀後半のなかで廃棄された住居と考えられる。竪穴住居-318~321は非常に近い時期のものであり、竪穴住居-318、320は6世紀末まで、竪穴住居-319、321は7世紀初頭までの須恵器を含んでいる。少なくとも6世紀第4四半期前後に何らかの要因で集落が形成され始めた時点の西端の住居群である。(高畑)

竪穴住居-324 (第547・548図)

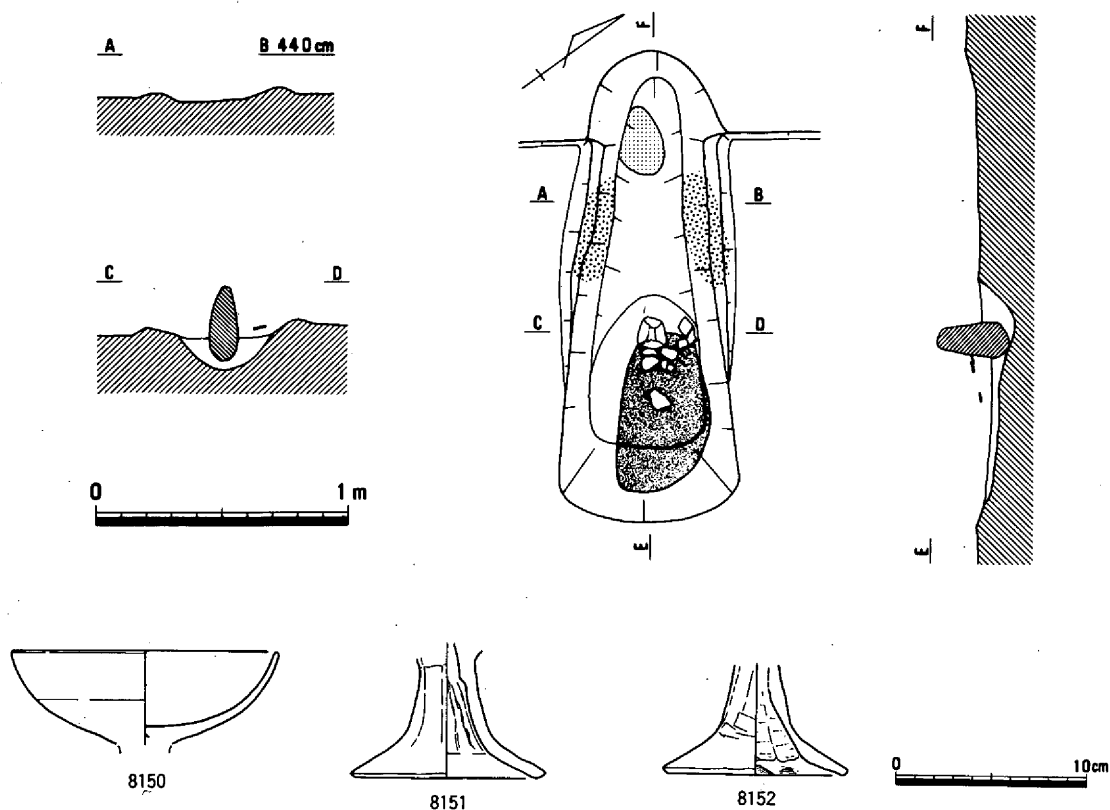
〇18区西側中央で検出された竪穴住居である。近世の溝と土壌によって大きく削平されており、また検出面から床面までの深さも5cm未満と遺存状況はきわめて悪い。なお、後述する竪穴住居-327と重複し、これに先行する。

竪穴住居は、北西にその主軸をとり、595×550cmの規模を有する。床面の海拔高は420cmである。カマドを北西辺中央やや右寄りに作りつけ、その主軸は住居主軸とほぼ同一である。カマドは両袖部がわずかに確認でき、袖間の幅50cm、長さ70cmほどを測る。煙道は住居外に約35cm延びる。赤化した燃焼部分は一段低くなりここに支柱石が立脚しており、土師器の破片が散在していた。支柱穴は確認できず、住居規模が大きいものの無柱構造をとっていた可能性がある。

出土遺物は、住居床面東半にわずかに残っており、8150~8152の土師器を図示している。8151はカマド部分から出土している。このほか土師器甕の体部小片と須恵器の器台小破片があり、器台は竪穴住



第547図 竪穴住居-324 (1/60)



第548図 竪穴住居-324(1/30)・出土遺物

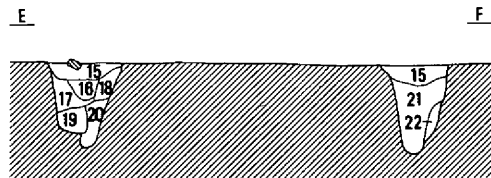
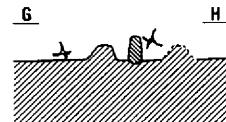
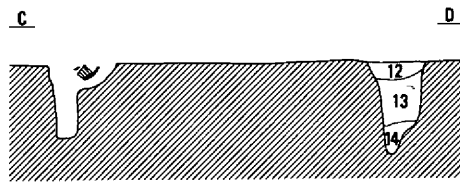
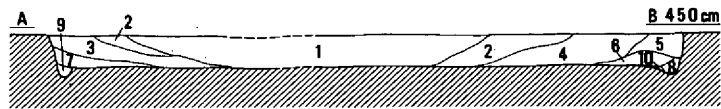
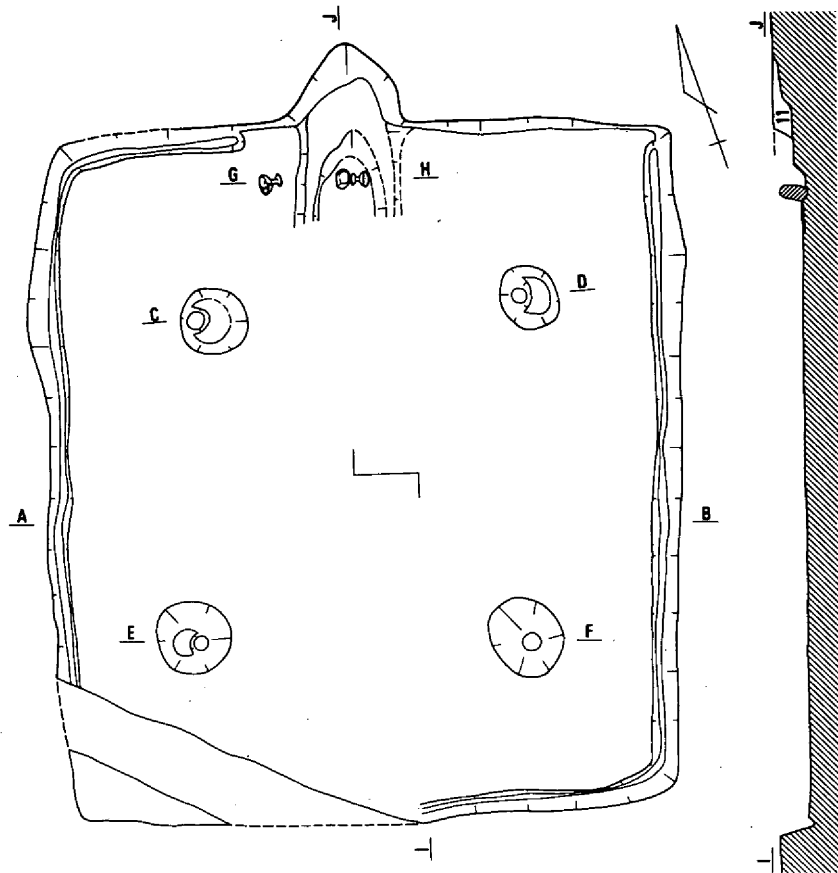
居-325出土の8165と接合した。

出土遺物を勘案すればこの竪穴住居の時期を古・中・Ⅱ段階と考えることが可能であろう。(大橋) 竪穴住居-325 (第549~554図)

竪穴住居-324の3m北東で検出された竪穴住居である。住居の主軸を北北東に向け、長辺で550cm、短辺で500cmの規模を有する方形の掘り方である。検出面から床面までは26cmの深さがある。床面の海拔高は418cmと竪穴住居-324とほぼ同じである。幅10~15cmの壁体溝は北側辺東部分を除いた三方向で検出されたが、非常に認識しづらいものであった。支柱穴は4本で構成され、柱間は270cmを測った。カマドは北側辺中央に作りつけられ、その主軸は住居主軸と同一である。カマドの遺存状況はきわめて悪く、西側の袖部がかろうじて確認できたのみである。煙道は住居外に約50cm延び、推定される両袖部間の幅は50cmほどである。燃烧部は床面から一段下がり、支柱石が残っていたが、その床面はあまり赤化していなかった。これは使用期間が短かったのか、丁寧な掻き出しによるものか判断はできなかった。なお、カマドの内側と西側袖の外側に土師器高杯が出土している。また、住居埋土から比較的多量の土器が出土した。特に1層から多く、住居廃絶後に廃棄されたものと理解される。

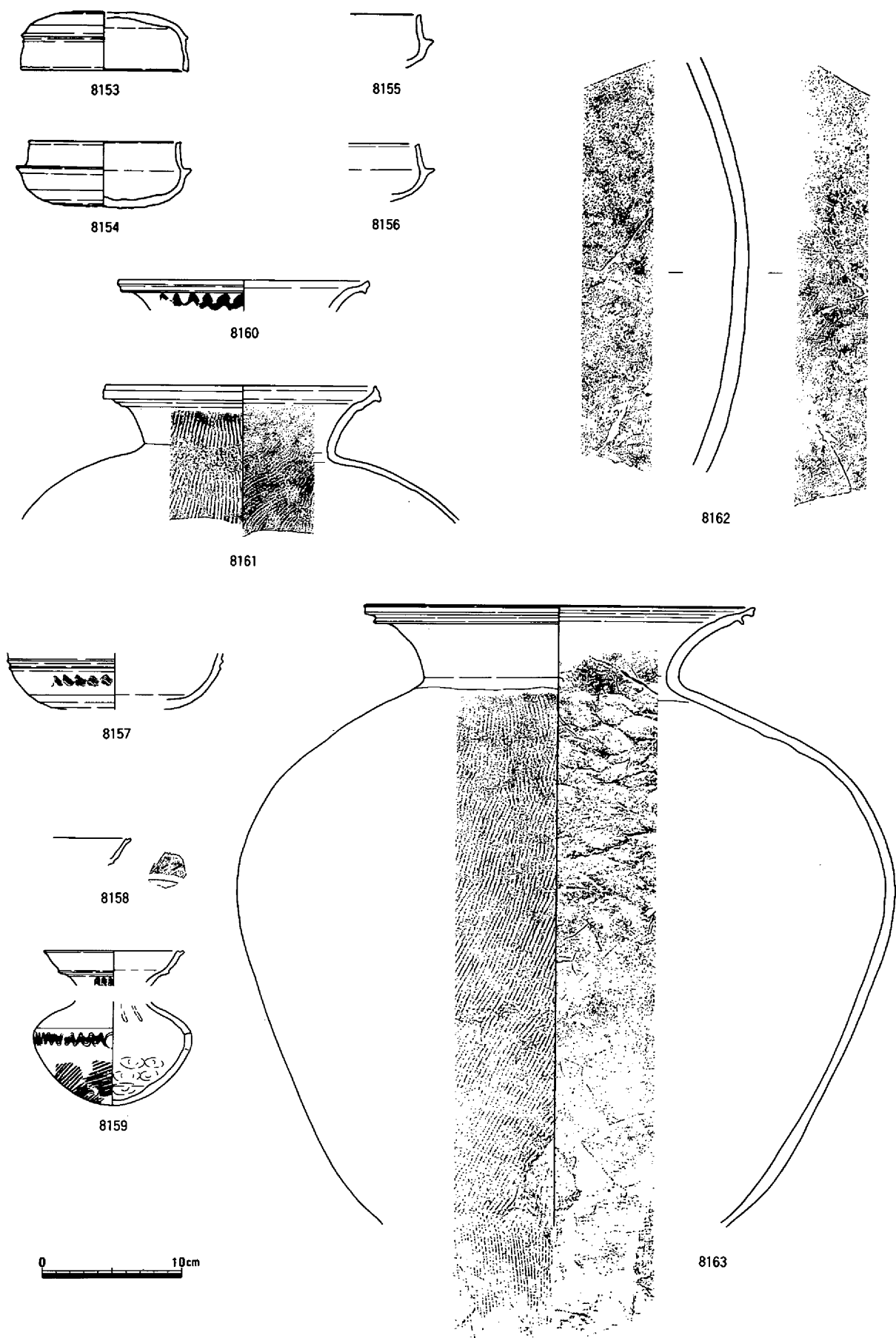
図示した出土遺物は、8153~8167が須恵器、8168~8193が土師器である。8153は蓋、8154~8156は杯、8160・8161は壺、8162・8163は甕である。8162の体部破片は、褐灰色を呈し、外面が5本/cmほどの粗いハケメで調整され、内面は無文当て具の可能性が有る。総社市奥ヶ谷窯出土遺物とはやや異なるものの類例は少ない。8164~8167は器台である。いずれも鋭利な突帯と波状文で飾るが、8164~8166がプロポーシオンが似るのに対し、8167は水平方向に口縁端部を拡張させ端面を形成し、深い杯部を有する。8168・8170は壺、8171~8173は甕である。8174~8187は高杯であり、うち8186の高杯は

第3章 調査区の概要

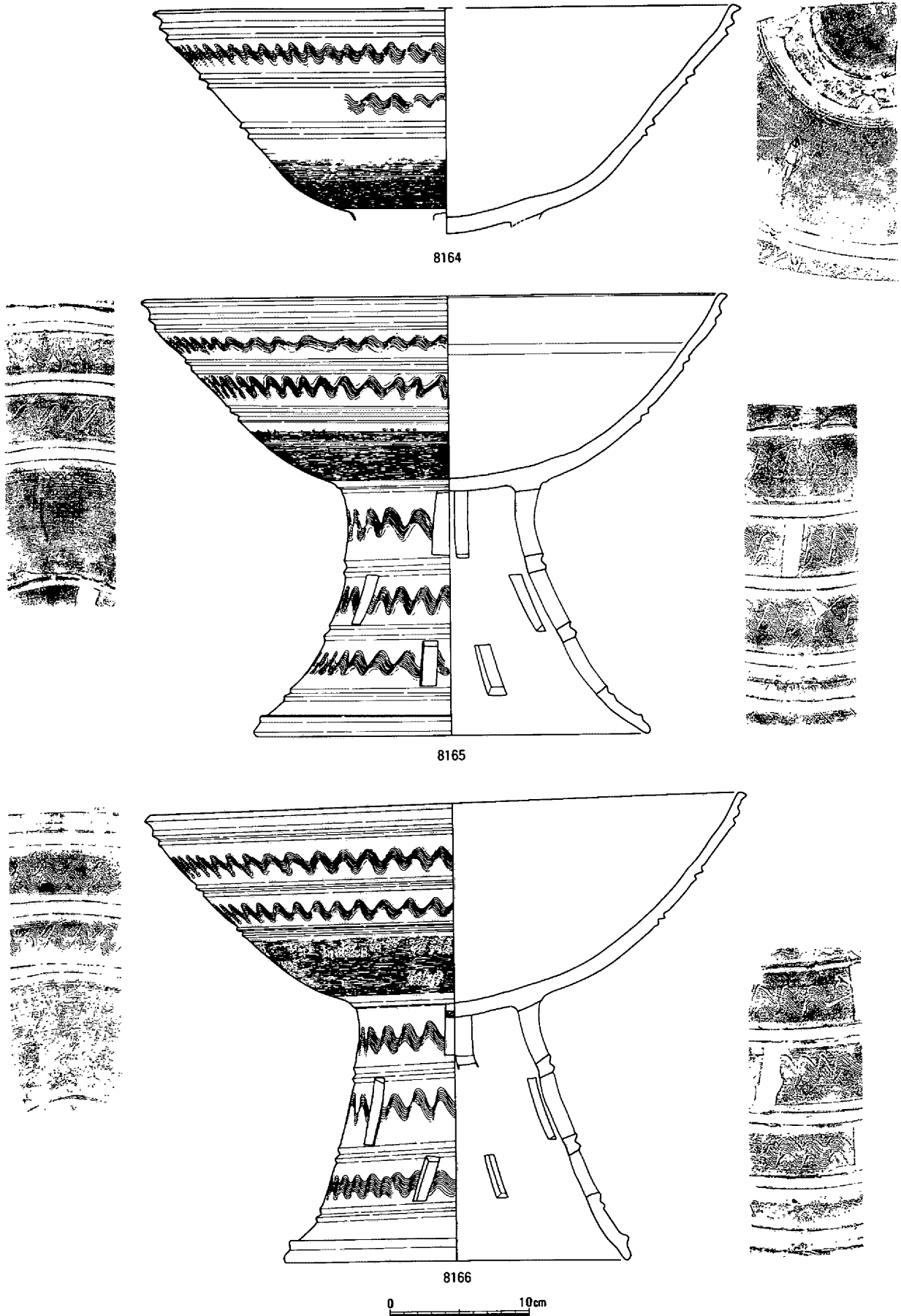


- | | | |
|------------------------|---------------------|----------------------|
| 1 黒茶褐色粘質土 (土師器小片を多く含む) | 9 茶褐色粘質土 (マンガン多し) | 17 灰黄色粘質土 |
| 2 薄黒茶褐色粘質土 | 10 黄灰色粘質土 | 18 灰黄茶色粘質土 |
| 3 暗茶褐色粘質土 | 11 薄灰茶褐色粘質土 | 19 淡灰黄色粘質土 |
| 4 明茶灰色粘質土 | 12 茶灰色粘質土 | 20 明灰黄色粘質土 |
| 5 茶灰色粘質土 | 13 暗茶褐色粘質土 (炭、焼土含む) | 21 明黄茶色粘質土 |
| 6 黄灰色粘質土 | 14 灰黄色粘質土 (炭、焼土含む) | 22 黒茶色粘質土 (炭、焼土多く含む) |
| 7 茶褐色粘質土 | 15 暗灰茶褐色粘質土 | |
| 8 黄褐色粘質土 | 16 灰茶色粘質土 | |

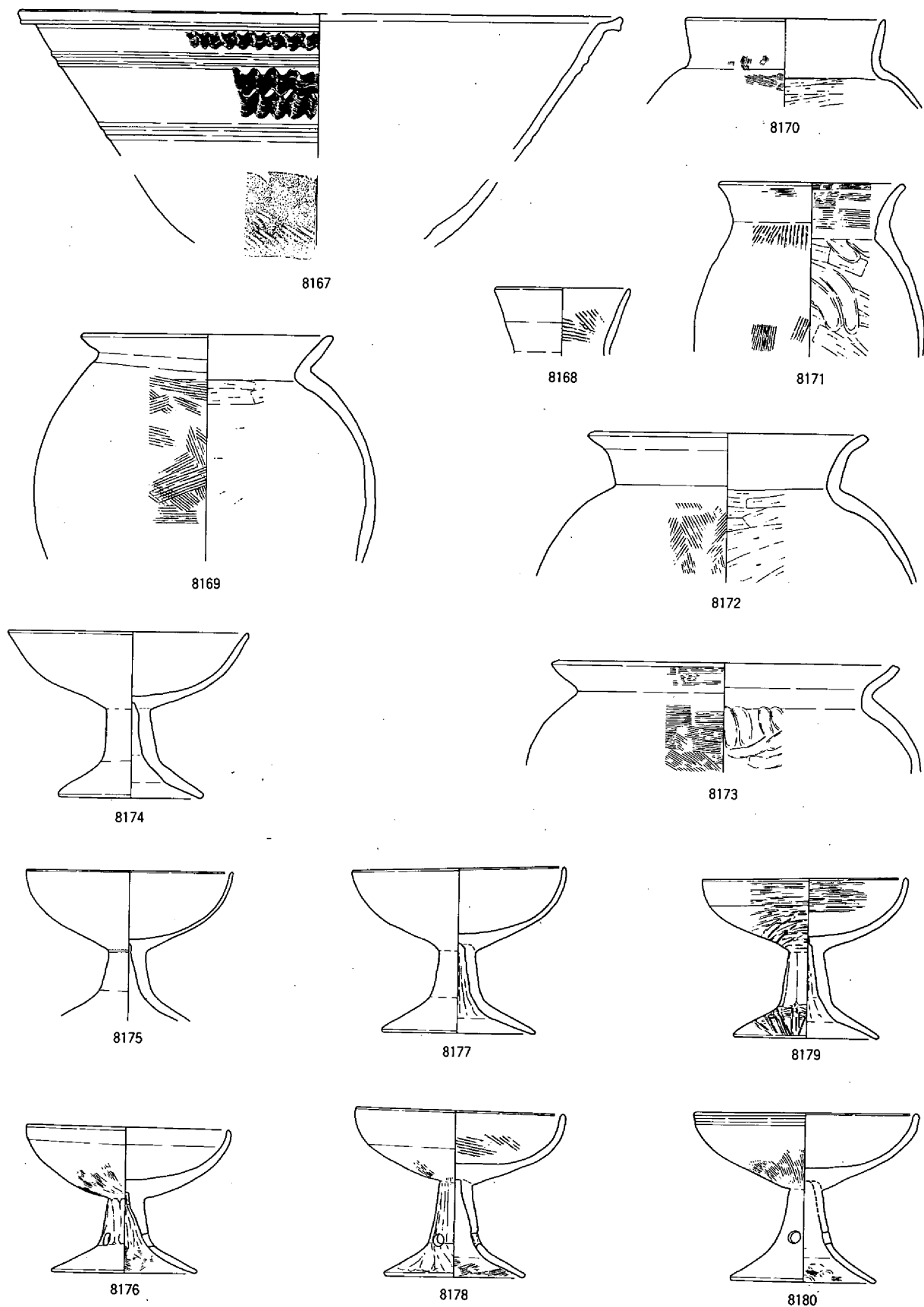
第549図 竪穴住居-325(1/60)



第550図 豎穴住居-325出土遺物(1)



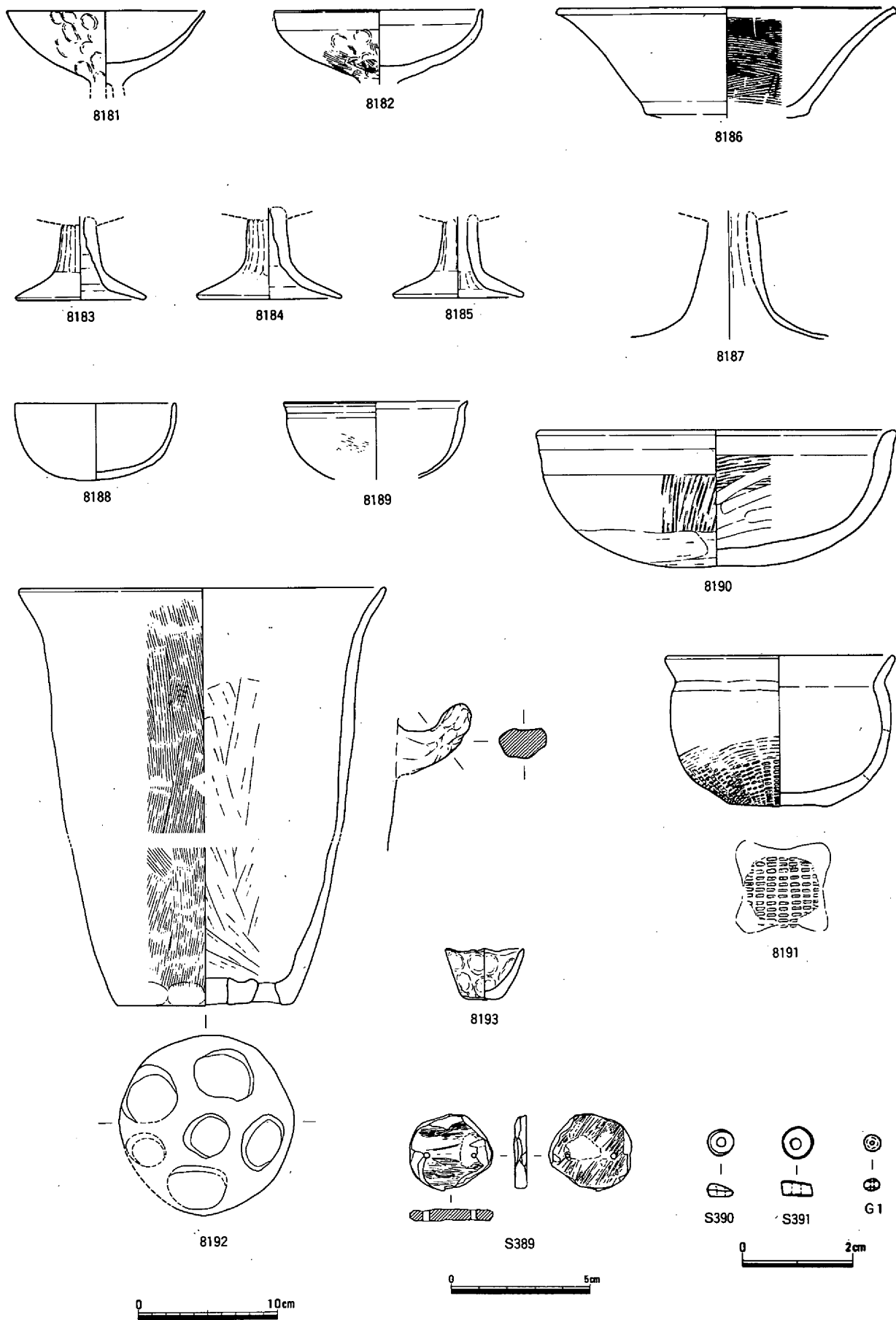
第551図 豎穴住居-325出土遺物(2)



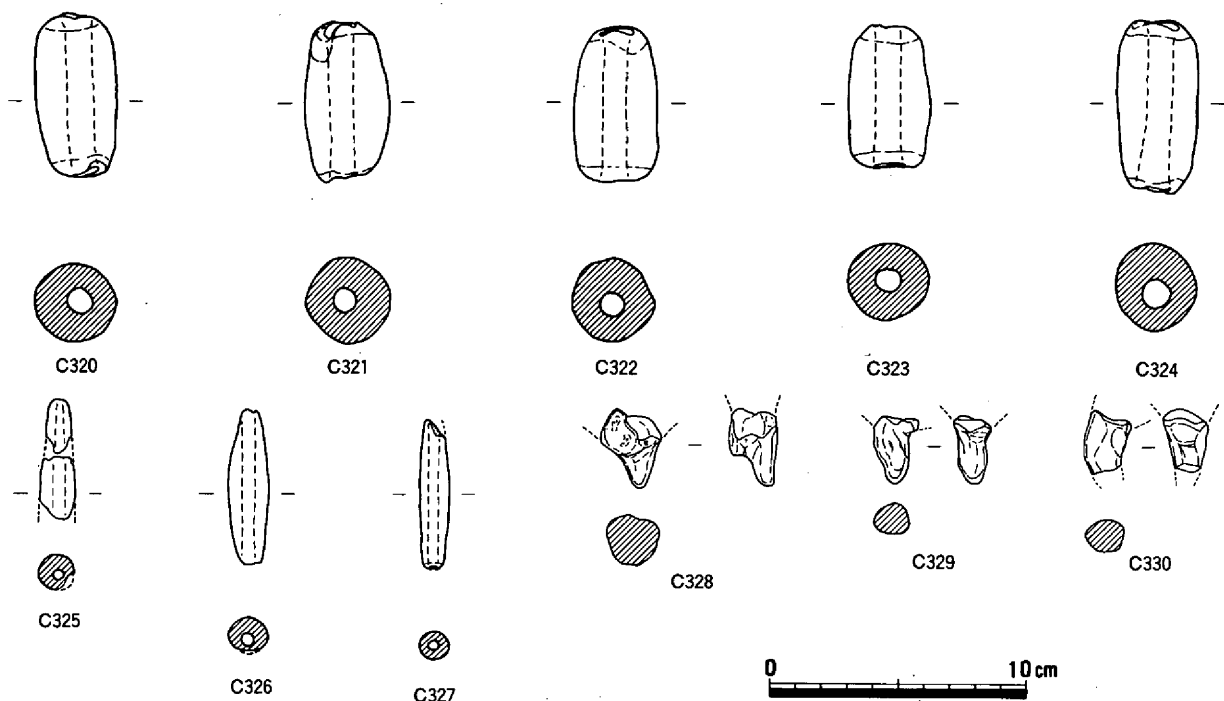
0 10 cm

第552図 豎穴住居-325出土遺物(3)

第3章 調査区の概要



第553図 竪穴住居-325出土遺物(4)



第554図 竪穴住居-325出土遺物(5)

大きく外方に広がる杯部を有する。8188~8191は鉢であり、8191の底部付近は籠目がある。8192は甌、8193は手捏ねである。図示していないものも合わせ、確認できた個体数は須恵器杯3、蓋2、甕もしくは壺3、高杯1、罍2、器台4、椀1、土師器甕20以上、高杯40以上、鉢4、甌3、手捏ね3、製塩土器破片である。このほか、S389は滑石製の有孔円盤、S390・S391は白玉、G1はガラス玉である。C320~C327が土錘である。C328~C330は土製品であり、全体の形状は不明であるものの何らかの動物・器物を象ったものであろうか。

竪穴住居の時期は、これらを参考にして古・中・Ⅱと判断したが、これらの出土遺物で特に注目されるのは8165の器台である。この住居からは脚部のみが出土し、近隣の竪穴住居-324・327に接合資料があると共に、約100m遠く離れた調査区からこの杯部が出土している。このことは、人の移動と共に単位集団のあり方を考える上で示唆に富む。また、個体分類のうち前述した須恵器の器台のあり方、および杯・蓋が少なく、高杯が非常に多いこと、さらに器物を象ったと思われる土製品の出土といったことから単位集団を越えた大きな集落内における祭祀行為後の一括廃棄状況の一端がうかがえるであろう。

(大橋)

竪穴住居-326 (第555図)

竪穴住居-324と竪穴住居-325の間に位置する。南半の一部のみを確認した。検出面から床面までの深さは5cmほどと、残存状況は悪い。遺存している一辺で285cmを測るやや小形の竪穴住居である。平面形は方形をなすものと推測される。床面の海拔高は440cmを測る。残存している箇所ではカマドは無かったものの、北側辺に作りつけられていた可能性はある。支柱穴は検出できず、その小形の規模から無柱構造をとるものと推測される。

出土遺物は少なく8194のほか土師器小片があるのみである。8194は須恵器の高杯として図示したが蓋の可能性もある。

出土遺物を参考にすれば、この竪穴住居の時期は、6世紀前半に求めることが可能かもしれない。(大橋)

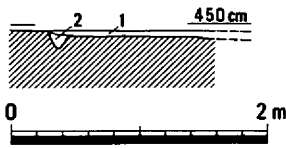
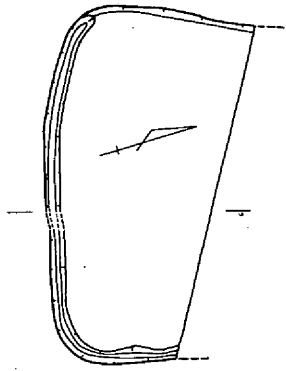
竪穴住居-327 (第556図)

竪穴住居-324の南東部と重複する。近世の溝、土壌によって大きく削平されており、明確な切り合い状況は確認できなかったものの、検出した諸状況から竪穴住居-324より後出する可能性を考えた。残存状況は悪く、検出面から床面まで10cm未満である。床面の海拔高は435cmを測った。復元される規模は一辺450cm程度の方角を呈するものである。住居主軸は南北である。主柱穴は明確に検出されず、不明である。無柱構造であった可能性はある。カマドは北西隅に作りつけられており、煙道は住居外にほとんど延びない。燃焼部は赤化していた。

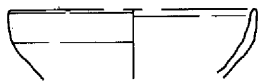
出土遺物は図示した土師器の甕とともに前述したように8165と接合する小破片があるが、遺物量が少ないため時期を決定する資料に欠く。このため、ここでは竪穴住居の時期を5世紀後半から6世紀前半段階と大きく捉えておく。(大橋)

竪穴住居-328 (第557図)

竪穴住居-327の南東隣で検出された。その床面のほとんどを近世の溝によって削平されており、住居の壁体溝と床面の一端を検出したのみである。復元される住居の規模は一辺4mほどの方形であ



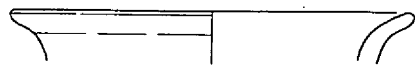
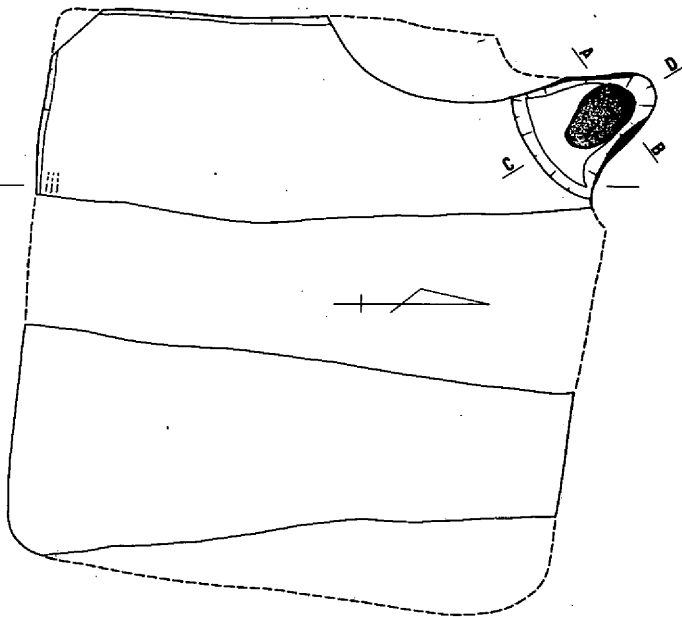
- 1 薄茶褐色粘質土
- 2 暗灰茶色粘質土



8194



第555図 竪穴住居-326 (1/60)・出土遺物



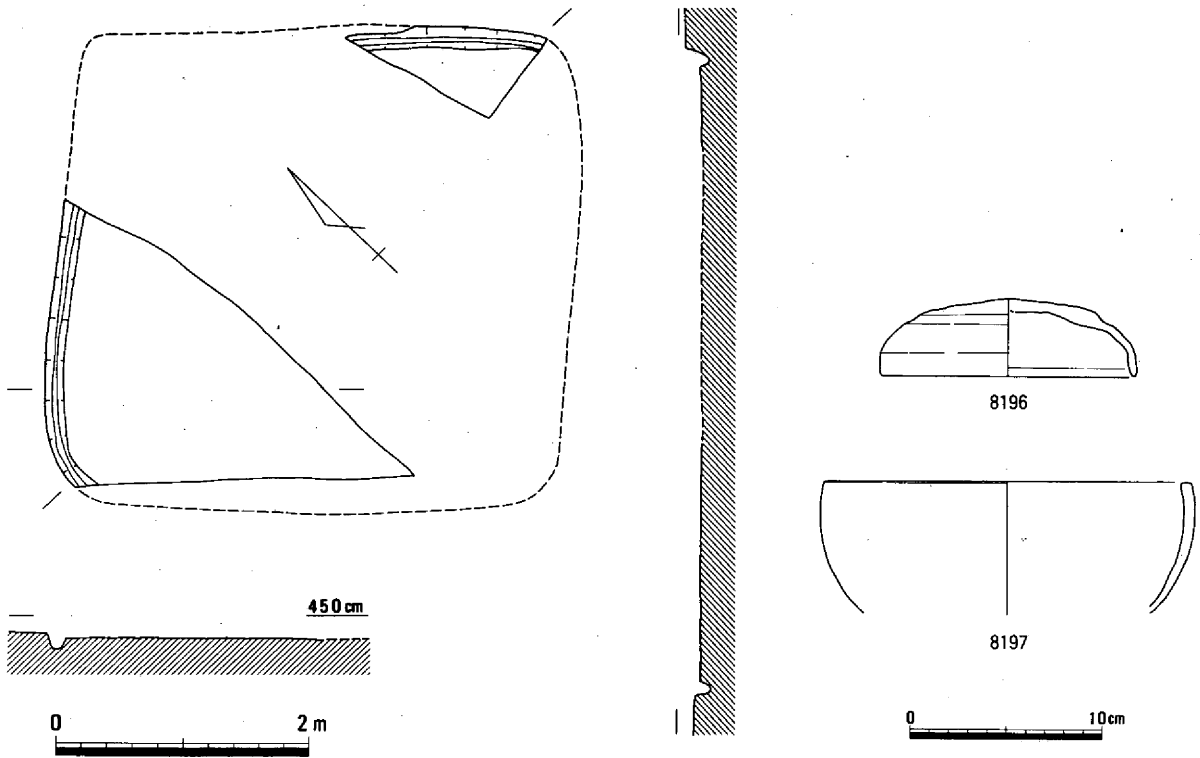
8195



- 1 濃茶色粘質土 (マンガン、鉄分多し)



第556図 竪穴住居-327 (1/60)・出土遺物



第557図 竪穴住居-328(1/60)・出土遺物

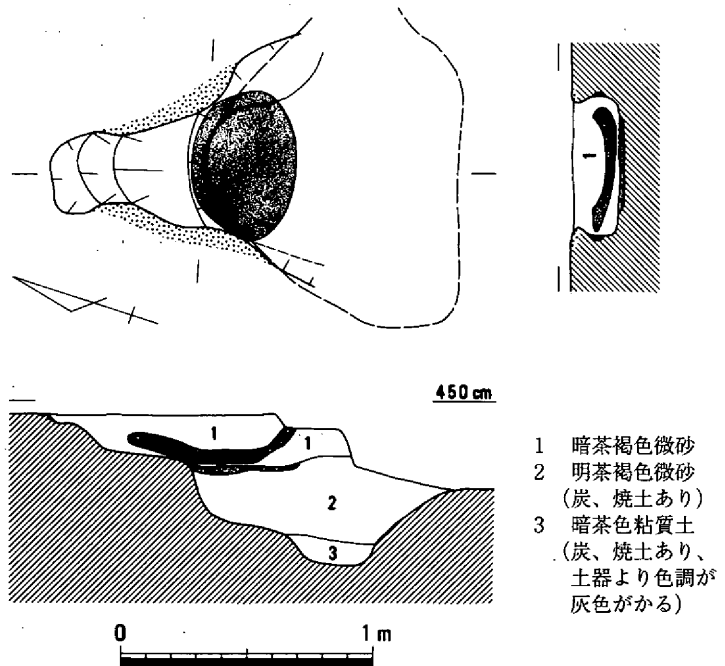
り、検出面から床面までの深さは5cm未満である。柱穴は検出されず、無柱であった可能性がある。カマドは検出されず、付属していたかどうかは不明である。床面の海拔高は430cmを測った。

出土遺物は8196が須恵器蓋、8197は土師器の鉢である。出土遺物が少ないため詳細な時期を決定するのに躊躇するが8196を参考にすれば6世紀前半段階と考えることは可能であろう。(大橋)

竪穴住居-329 (第557図)

竪穴住居-328の東隣で検出された住居のカマド部分である。竪穴住居自体の掘り方は検出できず不明であるが、竪穴住居-327同様、住居の北西隅に作りつけられていたことを想定した。主軸を北北西に持ち、燃焼部の幅約50cm、床面の海拔高425cmを測る。このカマド燃焼部から前面にかけての下部に幅120cm、深さ40cmの規模を有する不整形な土壇が検出された。カマドの下部構造と考えられるものである。

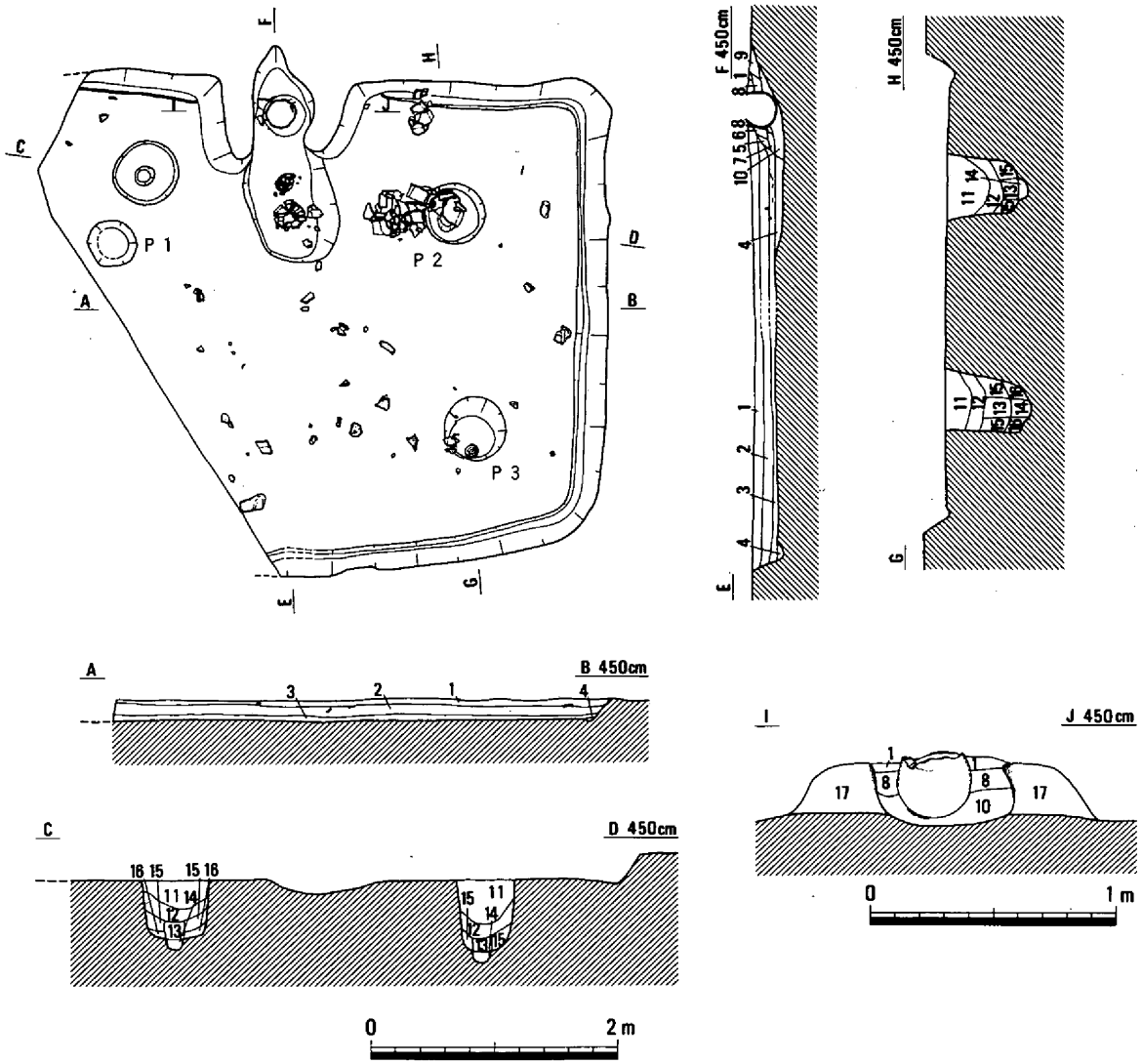
遺構の時期について言及できる遺物は無いものの5世紀後半から6世紀前半を想定した。(大橋)



第558図 竪穴住居-329(1/30)

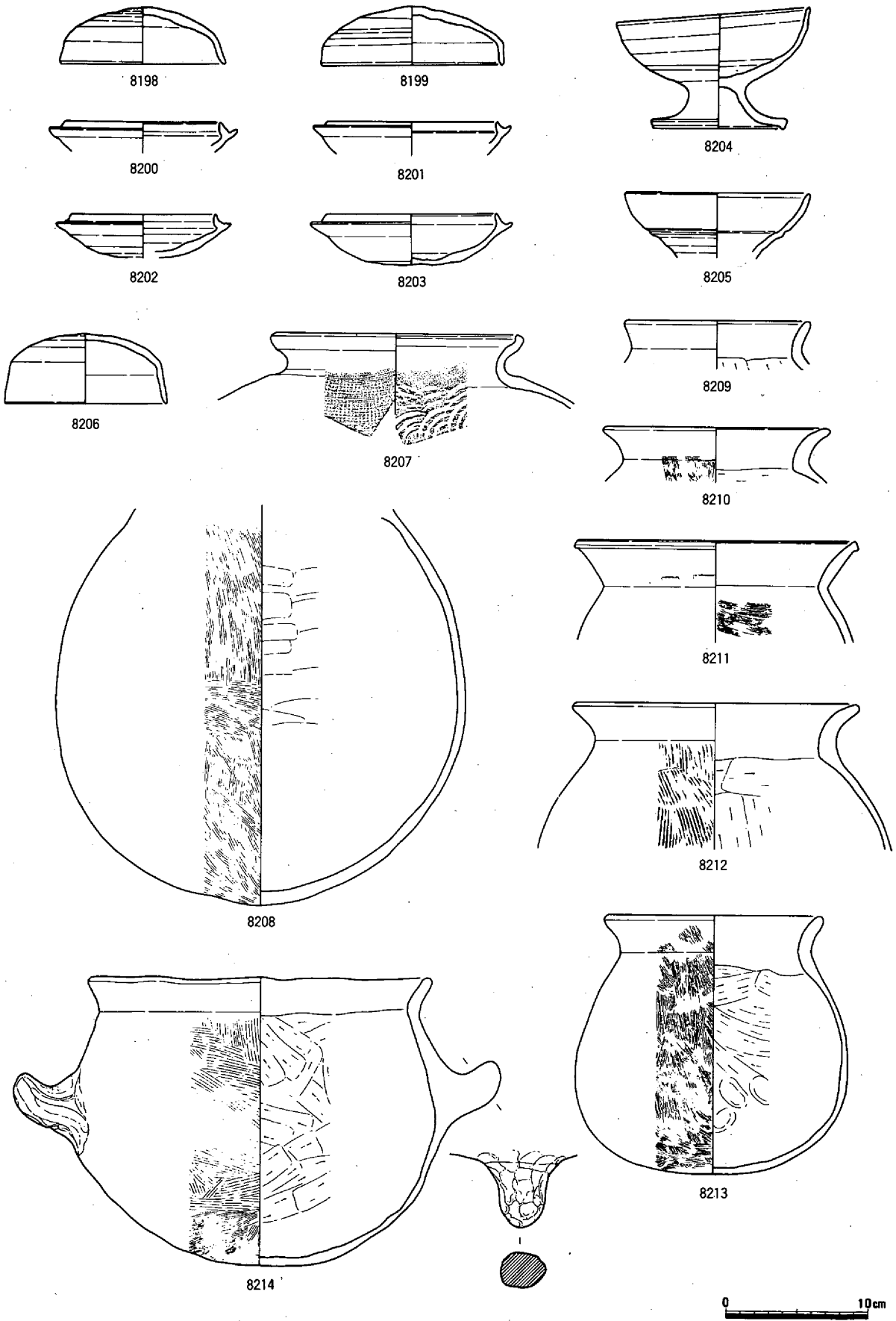
竪穴住居-330 (第559~561図)

この竪穴住居は、竪穴住居-329の南約28mに位置している。竪穴住居の南西部は調査区外となっているため全容は明らかでなかった。規模は、横が推定約500cm前後と考えられ、縦は約405cmを測る。平面形は、検出状況から方形を呈すると考えるが、南辺はやや胴張り気味である。床面までの深さは約20cmで、第1~第3層が堆積していた。床面の外周には壁体溝が廻り、埋土は第4層の暗灰褐色砂質土であった。北辺の壁体のほぼ中央部には、造り付けのカマドが検出された。カマドは、残存状態が良好で、袖部は高さが約25cm前後残存していた。カマドの中央部には、8208の甕が検出され、その検出状況からみてカマドに掛けていた位置と考えられる。この位置は、壁体際の線状に位置する。また、前庭部および燃烧部は一段低く掘り窪められており、8213の甕などの土器や焼土、炭が堆積して

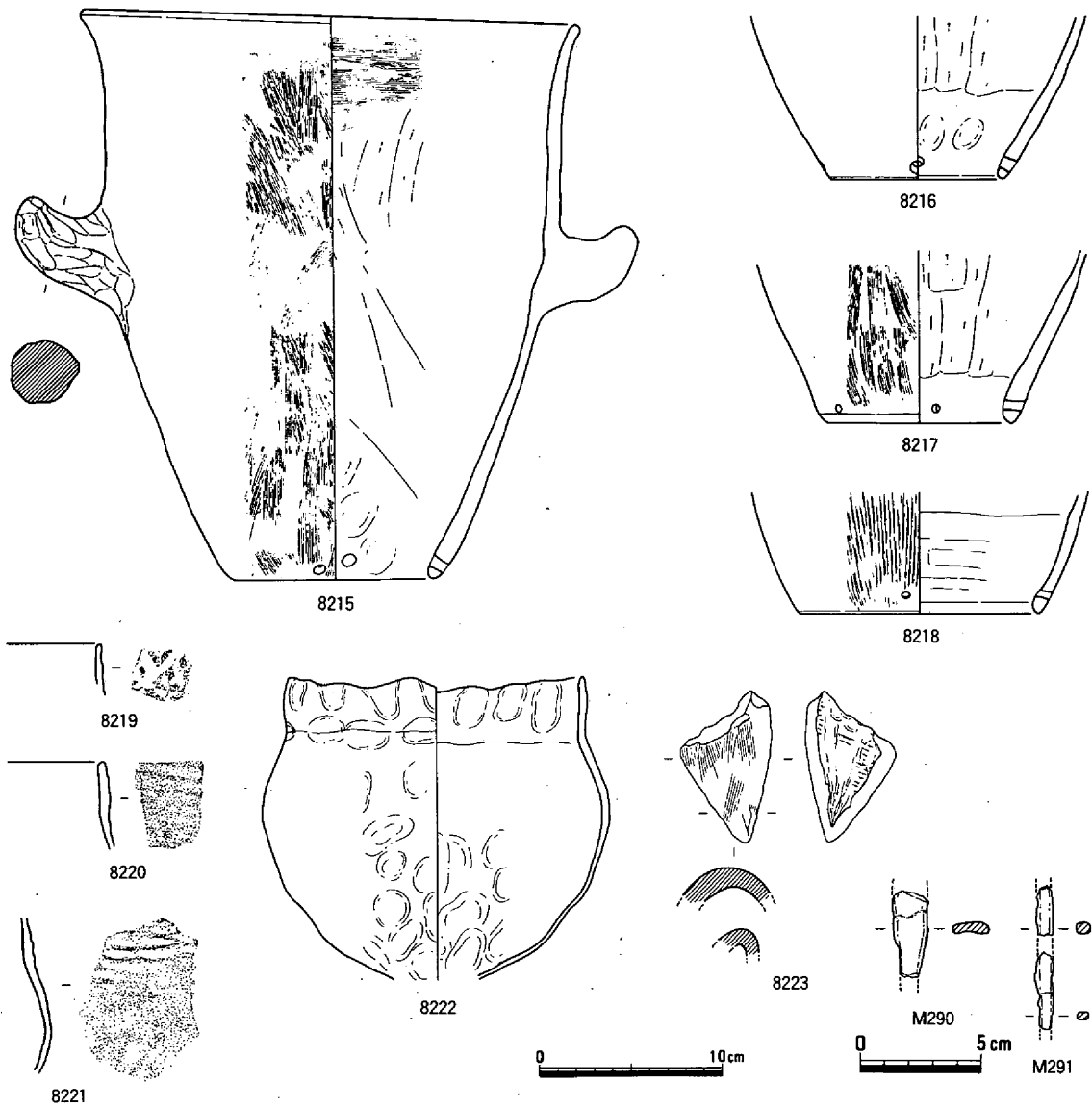


- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 黄褐色泥砂 (土器片若干含む) | 9 褐灰色泥砂 (焼土粒含む) ←煙道 |
| 2 暗灰褐色泥砂 (土器片炭化物含む) | 10 黒褐色粘質土 (焼土、土器粒多く含む、灰の影響で黒い) |
| 3 灰褐色砂泥 (土器片多く含む) | 11 灰褐色泥砂 |
| 4 暗灰褐色砂質土 ←壁体溝 | 12 暗黄褐色泥砂 |
| 5 灰褐色砂質土 ←カマド崩壊時 (天井などの土) | 13 暗褐色砂泥 |
| 6 赤褐色砂泥 | 14 暗灰褐色砂泥 |
| 7 褐灰色砂質土 | 15 黄褐色砂泥 |
| 8 褐灰色粘質土 (焼土、炭化物多く含む) | 16 黄灰色砂泥 (暗褐色砂質土をブロック状で含む) |
| | 17 黄灰色砂 |

第559図 竪穴住居-330 (1/60・1/30)



第560図 竪穴住居-330出土遺物(1)



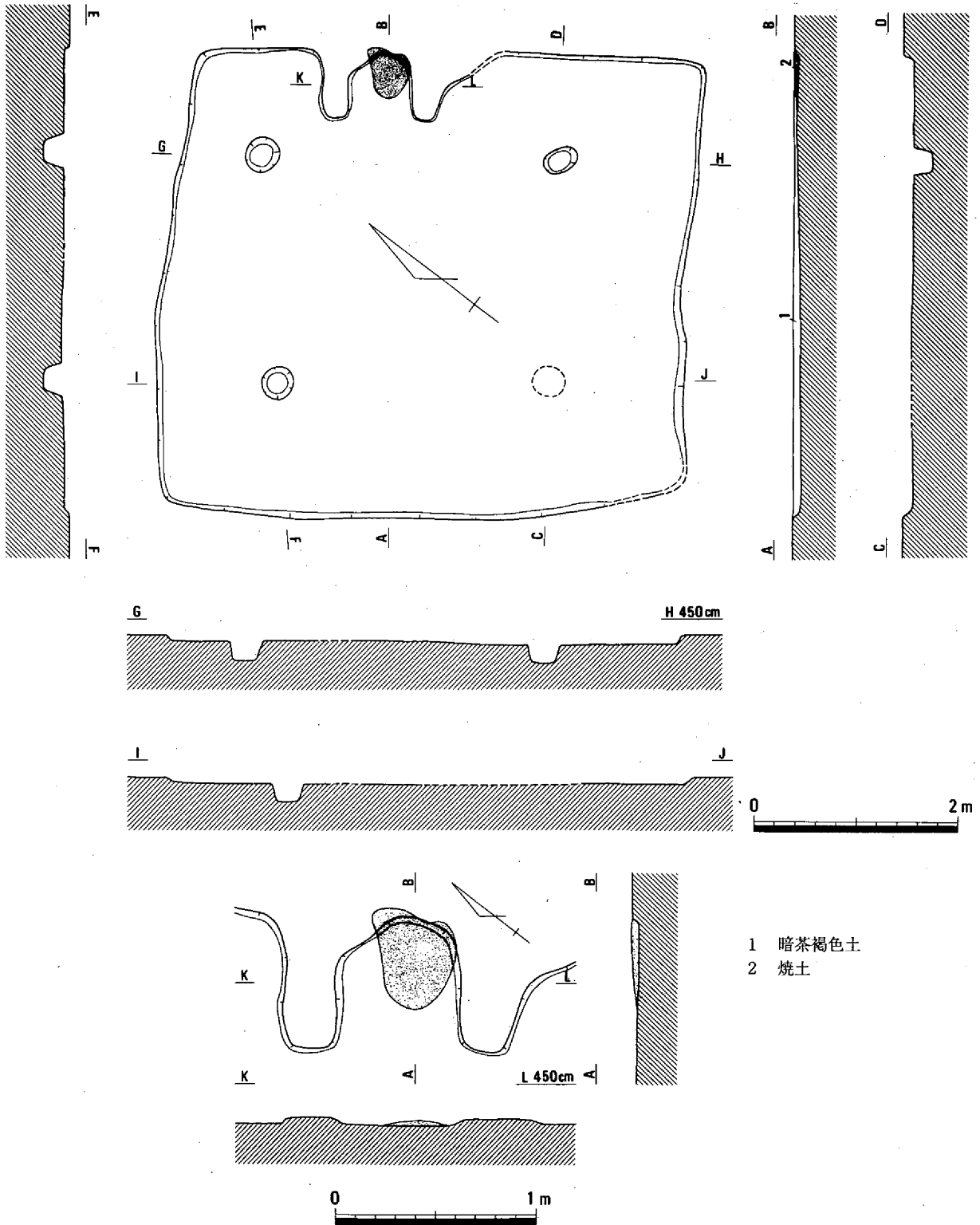
第561図 竪穴住居-330出土遺物(2)

いた。柱穴は、P 1～P 3の3本が確認され、4本柱で構成されていたと考えられる。柱穴は、直径約50cmで深さは60～70cmであった。また、柱痕跡も明瞭に確認された。床面には、図示した土器などが検出され、P 2の周辺には8214の鍋、8215の甑が出土している。出土遺物は、図示した以外にも多くの土器が検出されている。

8198～8207は須恵器で、8198・8199の杯蓋、8200～8203の杯身の他無蓋高杯の8204、隙の8205さらに蓋と考えられる8206や甕の8207がある。8208～8223は土師器で、8208～8213が甕である。甕の口縁は外反して端部を丸くおさめるものが大半で、8211のように「く」の字口縁をもつものもある。8214は把手付の鍋で、体部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施しており、甕の調整と同様である。8215～8218は甑で、底部近くに4か所の穿孔がある。8219～8222は製塩土器で、8219～8221の口縁部にはタタキが付く。8223は、先端部が尖り、上部も断面が正円を呈さずやや歪んでおり、その形態的な特徴から角杯形になると考えられる。6世紀終末。(中野)

竪穴住居-331 (第562図、図版32-3)

中屋調査区の北側に位置し、後述する竪穴住居-332の北東隅の一部を削平して造られていた。この竪穴住居の東方向約10mの地点には竪穴住居-334が存在し、南西方向約12mの地点には竪穴住居-333が検出されている。このように竪穴住居-331の周辺には、古墳時代後期に属する竪穴住居が



第562図 竪穴住居-331 (1/60・1/30)

比較的多く確認されている。

竪穴住居-331の平面形は、長径524cm、短径462cmの方形に近い形態を呈し、北東側壁面の北側隅へ寄った位置に造り付けのカマドを検出した。カマドの内部には被熱面が認められたが、遺物は何も存在しなかった。この竪穴住居の柱構造は4本柱であるが、南側の柱穴は、古代の掘立柱建物群を囲む溝に削平されて確認できなかった。床面の周囲に、壁体溝は検出できなかった。

出土遺物はないが、土師器や須恵器が伴う竪穴住居-332との遺構の切り合いや造り付けのカマドを有する竪穴住居であることなどから、竪穴住居-331は古墳時代後期の5世紀末から6世紀後半にかけての時期に構築されたと考える。(福田)

竪穴住居-332 (第563図)

中屋調査区の北側に、竪穴住居-331によって北東隅が削平された状態で検出された竪穴住居である。南方向約8mの地点には、竪穴住居-333が確認されている。

平面形は長径524cm、短径462cmの隅丸長方形を呈し、各辺の壁面は外側へわずかに湾曲して張り出している。床面の周囲には全体に壁体溝を巡らせるが、中央穴は存在しなかった。この竪穴住居の柱構造は2本柱で、柱穴間の距離は254cmになっていた。

この竪穴住居から出土した遺物として、4点の土師器8224~8227と2点の須恵器8228・8229だけでなく、欠損した水晶製の切子玉S392も認められる。これらの土器の調整手法や形態的特徴から、竪穴住居-332は古墳時代後期の6世紀後半の時期に属する。(福田)

竪穴住居-333 (第564図、図版33-1)

竪穴住居-333は中屋調査区の北側に位置し、北方向約8mの地点には竪穴住居-331と竪穴住居-332が重複して存在する。また南東方向に隣接して竪穴住居-335が検出され、南西方向約10mの地点には竪穴住居-330が確認されている。このように竪穴住居-333の周辺には、古墳時代後期に属する竪穴住居が比較的密集している。

平面形は長径660cm、短径594cmの長方形を呈し、北西側壁面のほぼ中央部に造り付けのカマドを検出した。カマドの中央部は、浅く窪んで内部に焼土が認められたが、遺物は出土しなかった。この竪穴住居の柱構造は、柱穴間の距離が218~295cmと比較的広い4本柱で、床面の周囲全体に壁体溝が巡らされている。この竪穴住居で特筆すべきことは、中央部よりやや北西方向へ寄った地点の床面に、炉跡が確認されたことである。この炉跡は、径約40cmで断面形が浅い「U」字形を呈し、周囲の壁面が高熱を受けて赤色に変化するとともに、表面の一部はガラス質になっていた。炉の底部には炭化物が充満し、周辺から鉄滓が採集された。

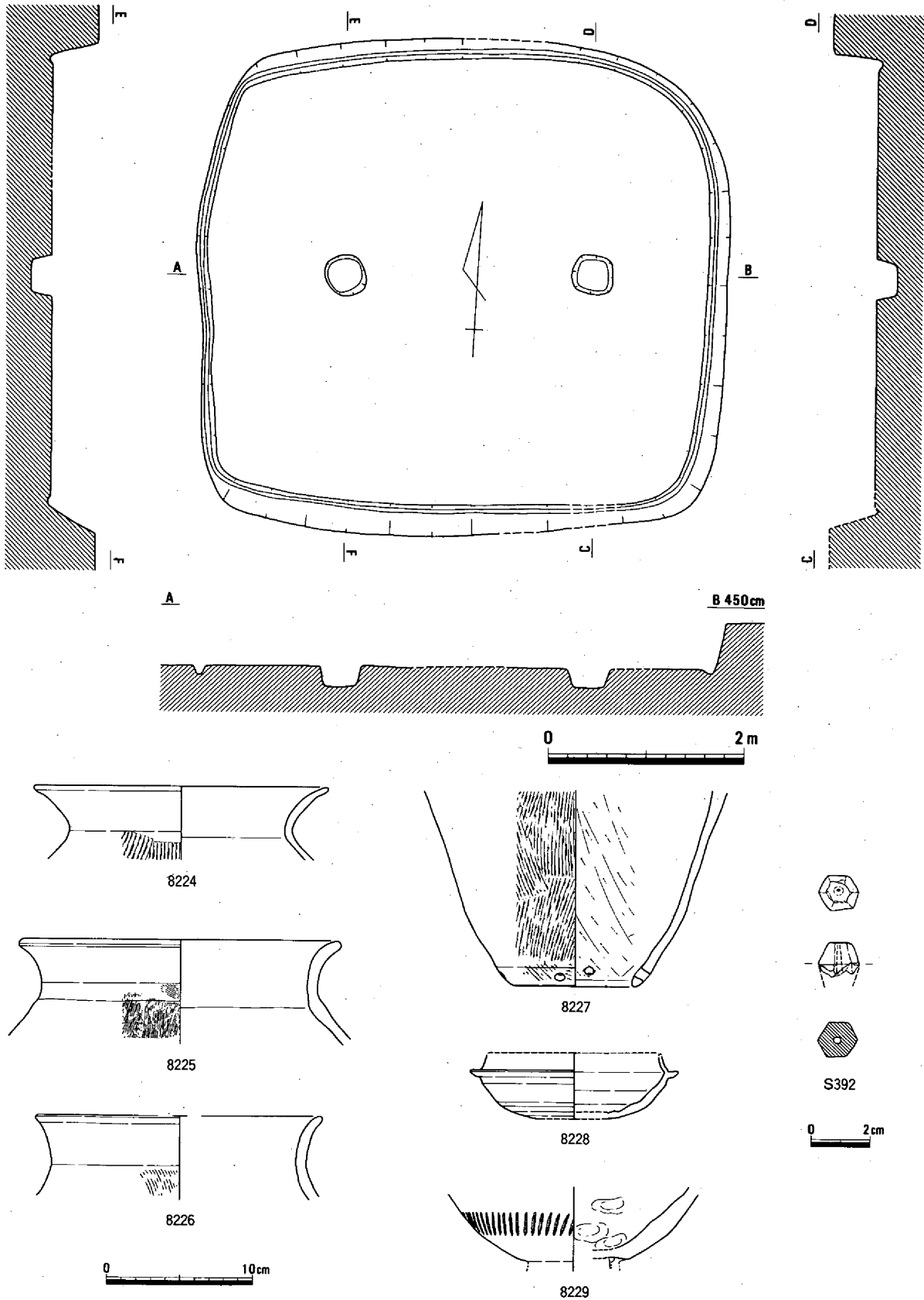
この竪穴住居は5世紀末から6世紀後半にかけての時期に属するであろうが、竪穴住居そのものの規模が大きく、周辺に鉄滓が散布する炉跡が伴うことから、鉄生産に関係した特殊な竪穴住居であったと考えられる。(福田)

竪穴住居-334 (第565図)

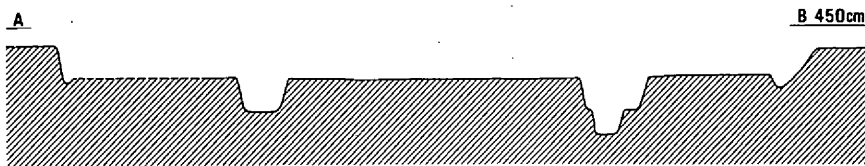
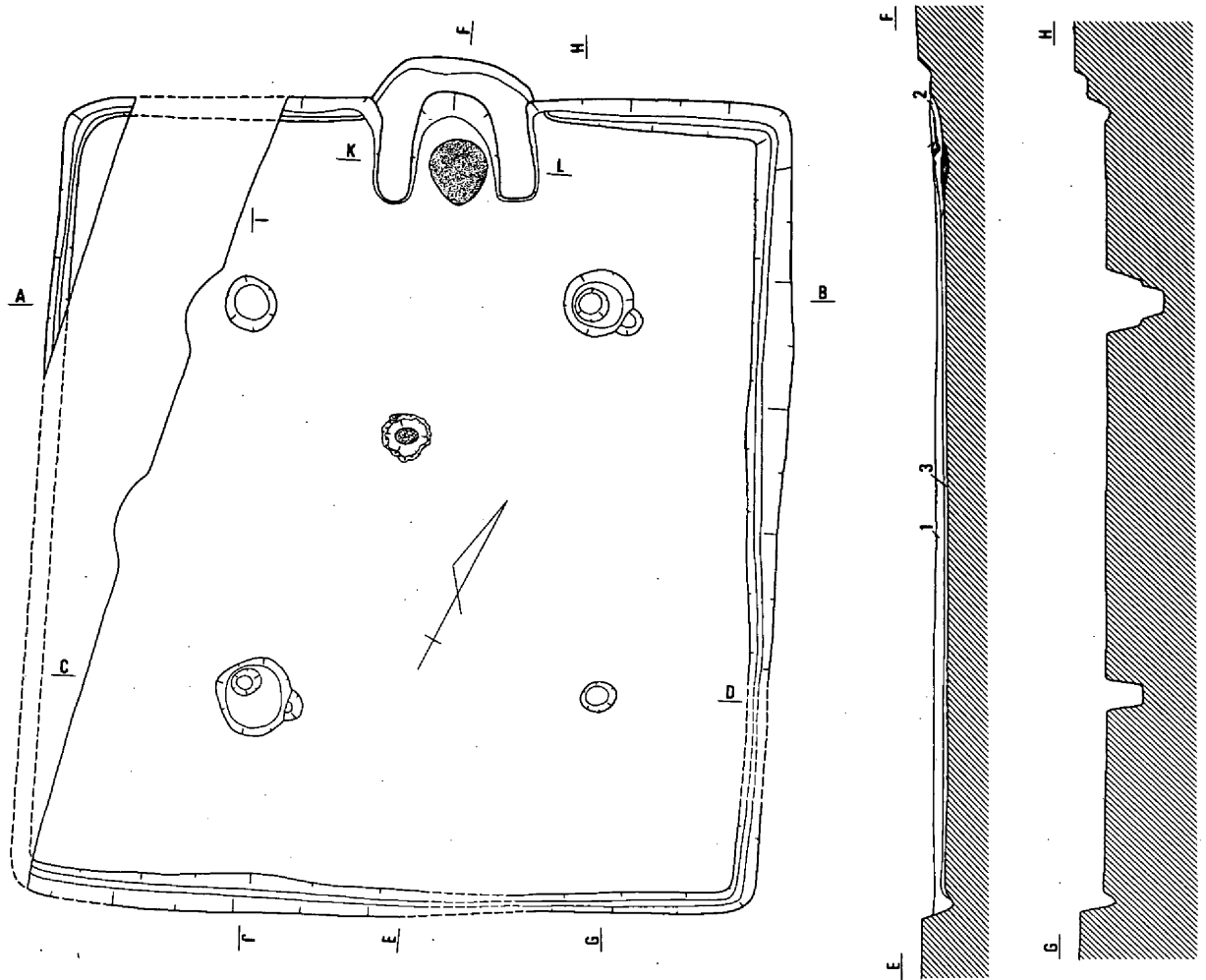
中屋調査区の北側に位置する竪穴住居であるが、残存状態が極めて悪く、全容を明らかにすることができなかった。検出したのは造り付けのカマド、壁体溝の一部、2か所の柱穴だけである。

この竪穴住居の平面形は方形または長方形を呈し、北西側の壁面に造り付けのカマドが存在する。カマドの中心部は浅く窪み、被熱面が認められた。柱構造は4本柱で、残存した柱穴間の距離は295cmである。床面の周囲に壁体溝が巡らされていたと考えるが、検出したのは南隅の部分だけである。

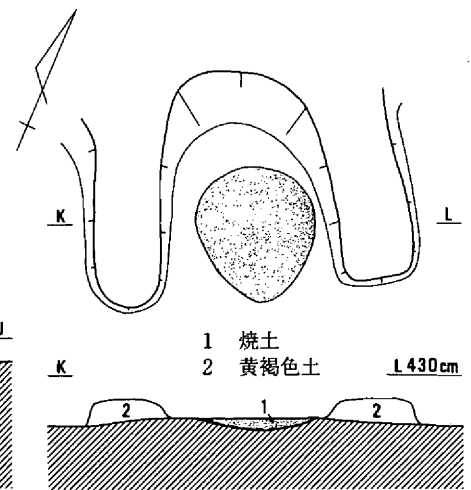
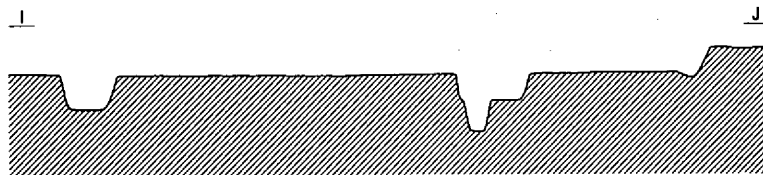
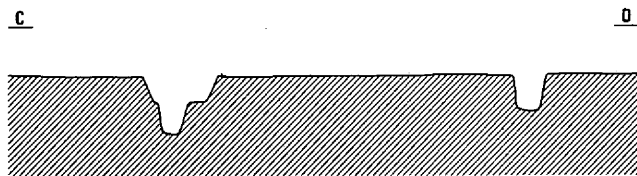
この竪穴住居は、残存状態が極めて悪かったこともあって出土遺物はないが、古墳時代後期の5世紀末から6世紀後半にかけての時期に属するであろう。(福田)



第563図 竪穴住居-332(1/60)・出土遺物

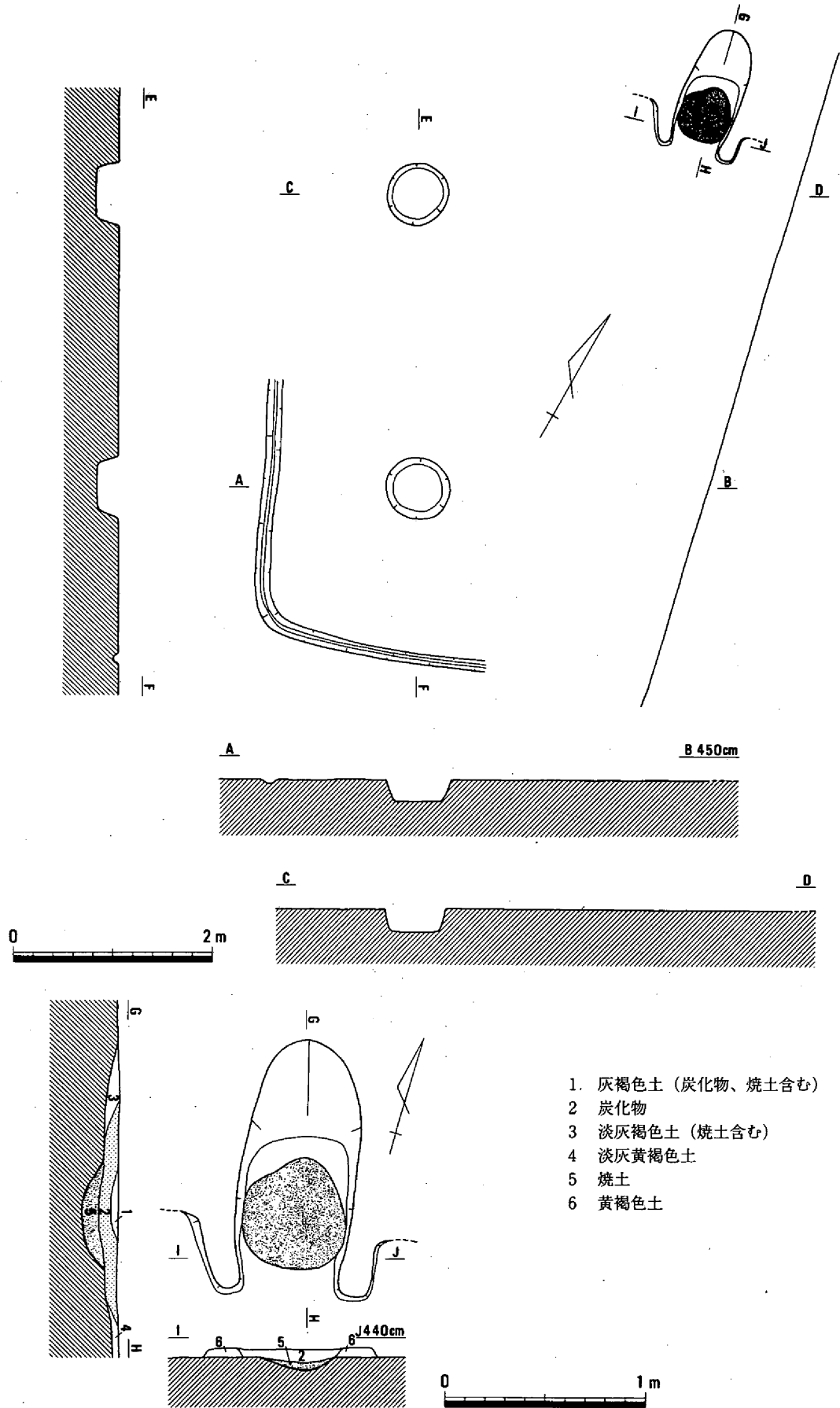


- 1 淡黄灰褐色土
- 2 灰茶褐色土
(炭化物多く含む)
- 3 黄褐色土



- 1 焼土
- 2 黄褐色土

第564図 竪穴住居-333(1/60・1/30)



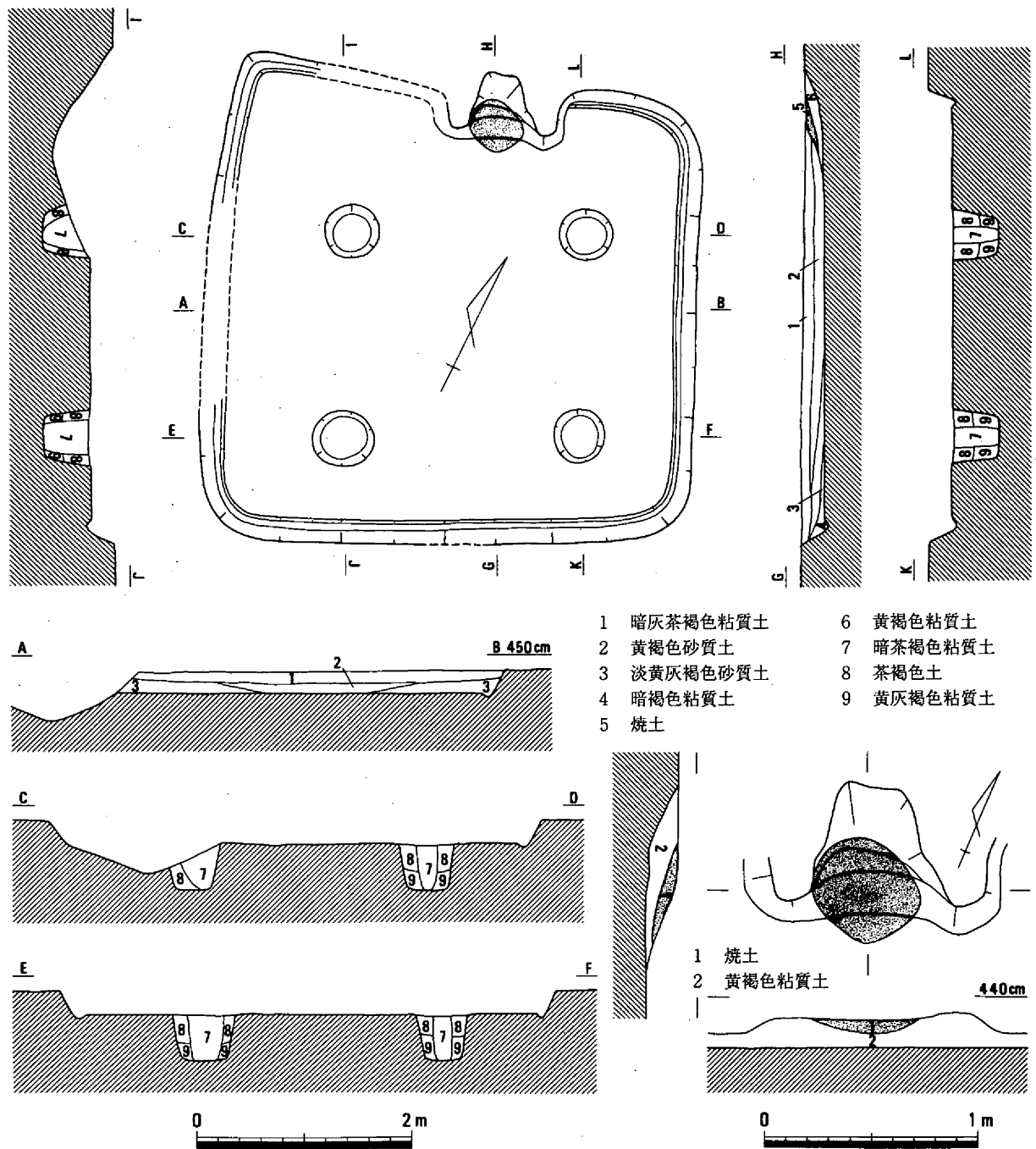
1. 灰褐色土（炭化物、焼土含む）
2. 炭化物
3. 淡灰褐色土（焼土含む）
4. 淡灰黄褐色土
5. 焼土
6. 黄褐色土

第565図 竪穴住居-334(1/60・1/30)

竪穴住居-335 (第566図、図版33-2)

この竪穴住居も中屋調査区の北側に位置するが、北西方向に隣接して竪穴住居-333が存在し、東方向約11mの地点には竪穴住居-336が確認されている。また西方向約14mには竪穴住居-330があり、南方向約13mには竪穴住居-337が検出されている。

竪穴住居-335の平面形は、長径458cm、短径454cmの方形に近い形態を呈し、北西側の壁面に造り付けのカマドが存在する。カマドの内部には黄褐色粘質土の上面に焼土が認められたが、遺物は何も検出できなかった。床面の周囲には壁体溝が巡らされていたが、西側については古代の掘立柱建物群を囲む溝によって部分的に削平されていた。この竪穴住居の柱構造は4本柱で、柱穴間の距離の計測



第566図 竪穴住居-335(1/60・1/30)

値が188~219cmになっていた。竪穴住居の内部には、上位から床面にかけて暗灰茶褐色粘質土、黄褐色砂質土、淡黄灰褐色砂質土、暗褐色粘質土が堆積し、柱穴内には暗茶褐色粘質土の柱痕跡を検出した。この竪穴住居の残存状態はそんなに悪くなかったが、図化できる遺物は出土しなかった。

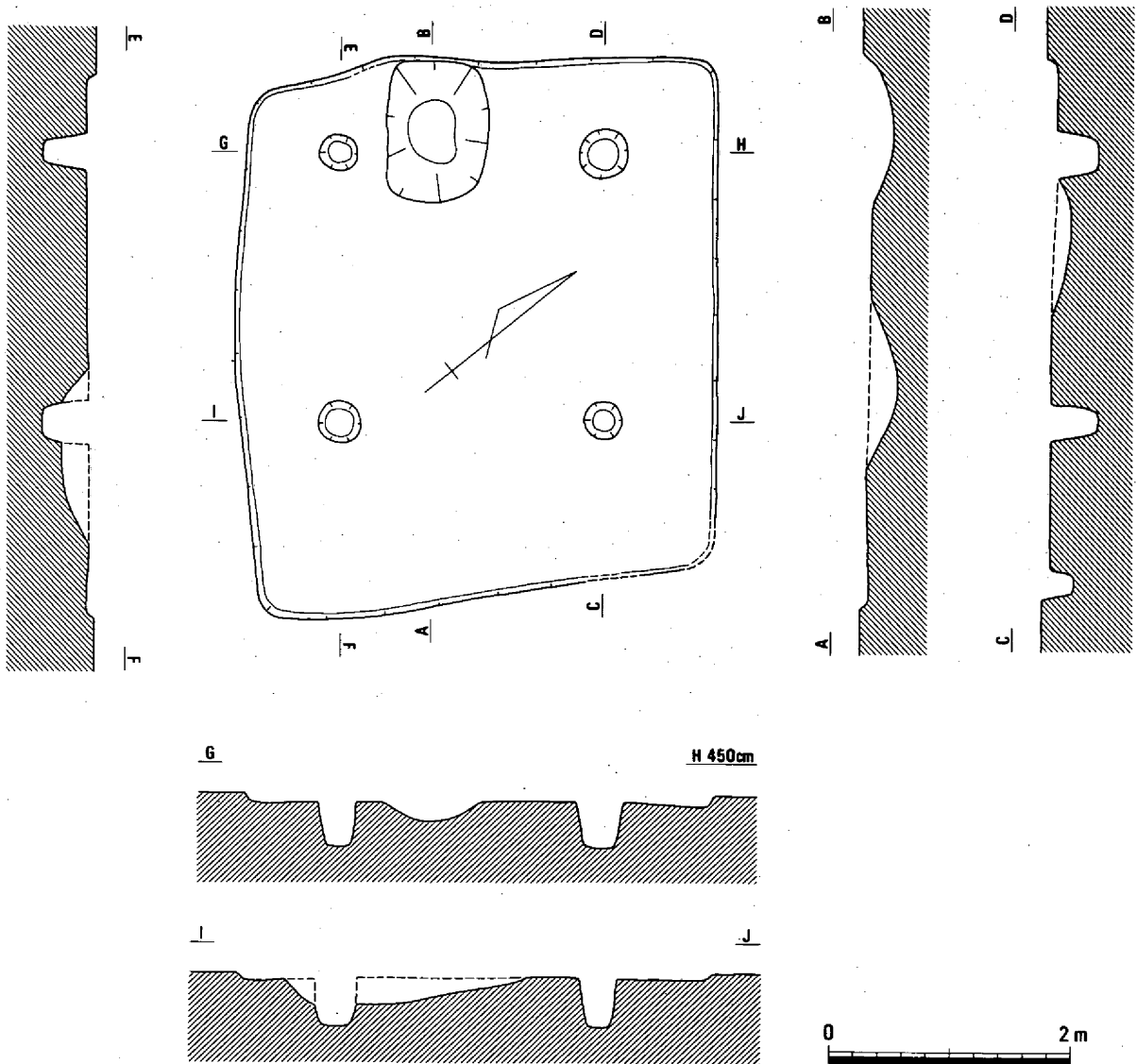
出土した小破片の須恵器で、杯身になると思われるものを観察した結果、6世紀後半の時期のものと考えられた。(福田)

竪穴住居-336 (第567図)

中屋調査区の北側に位置し、北方向に隣接して竪穴住居-334が存在し、西方向約10mの地点には竪穴住居-335が検出されている。

平面形は長径466cm、短径404cmの歪んだ長方形を呈し、北西側の壁面に接して造り付けのカマドの痕跡が認められた。その平面形は隅丸長方形で、中央部が浅く窪んでいた。この竪穴住居の柱構造は4本柱で、4か所の柱穴が床面の西側へ寄った位置になっていた。

この竪穴住居の出土遺物はないが、5世紀末から6世紀後半の時期に属するであろう。(福田)



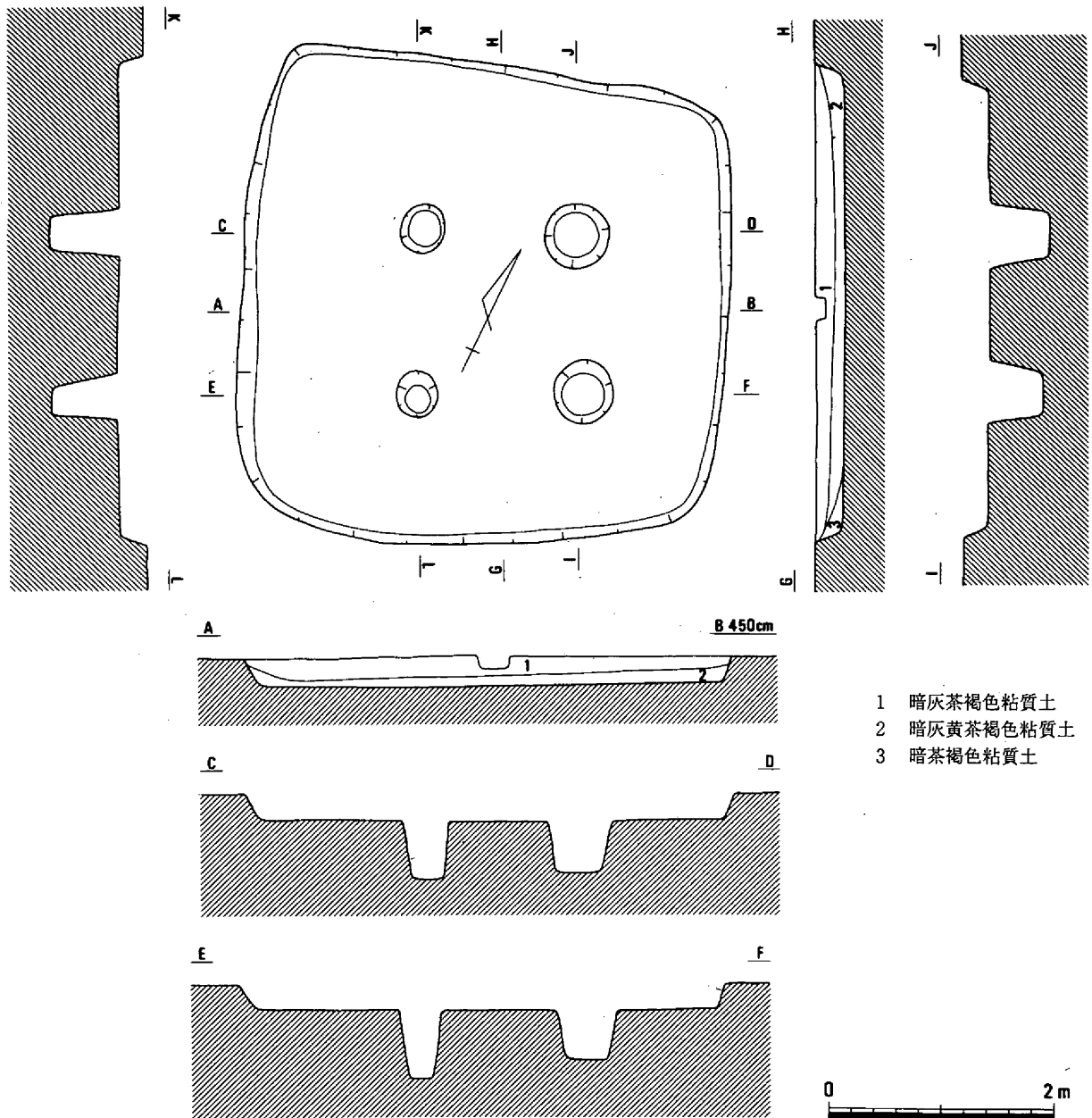
第567図 竪穴住居-336(1/60)

竪穴住居-337 (第568・569図)

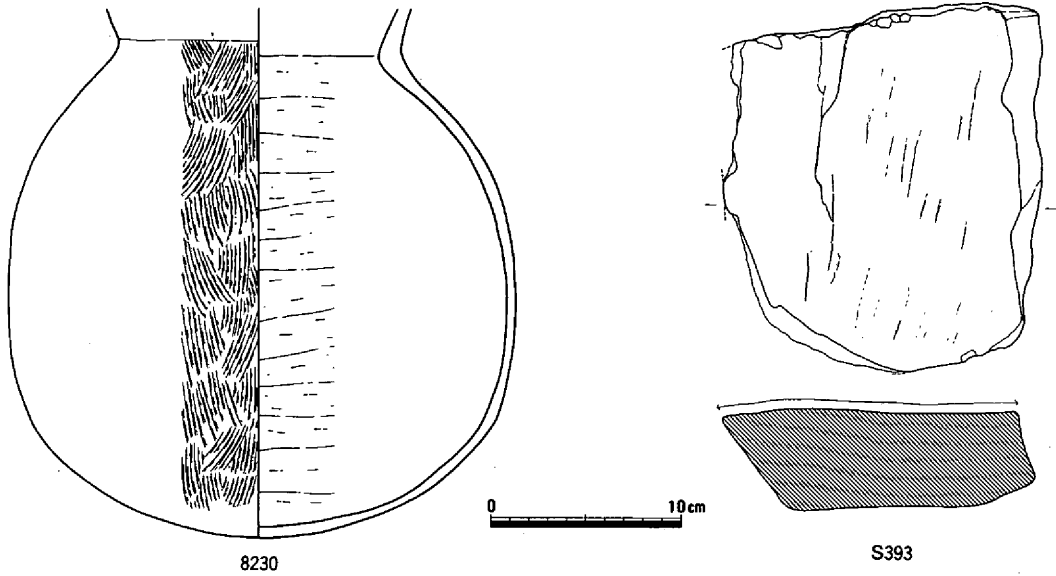
中屋調査区の中央部よりやや北側へ寄った地点に位置し、西方向約10mには竪穴住居-338が存在する。また北方向約13mの地点には竪穴住居-335が検出され、さらに北側にも古墳時代後期に属する数軒の竪穴住居が確認されているが、この竪穴住居-337の南側には古墳時代後期のいかなる遺構も存在しなかった。

この竪穴住居の平面形は、長径436cm、短径428cmの隅丸方形に近い形態を呈し、造り付けのカマドは存在しなかった。この竪穴住居-337の柱構造は4本柱であるが、柱穴間の距離が221~226cmで、北東側に位置する2か所の柱穴は南西側のものより規模が大きくなっていた。床面の周囲を精査したが、壁体溝は確認できなかった。

出土した土器に甕8230があるが、古墳時代後期に属するものの詳細な時期は不明である。(福田)



第568図 竪穴住居-337(1/60)



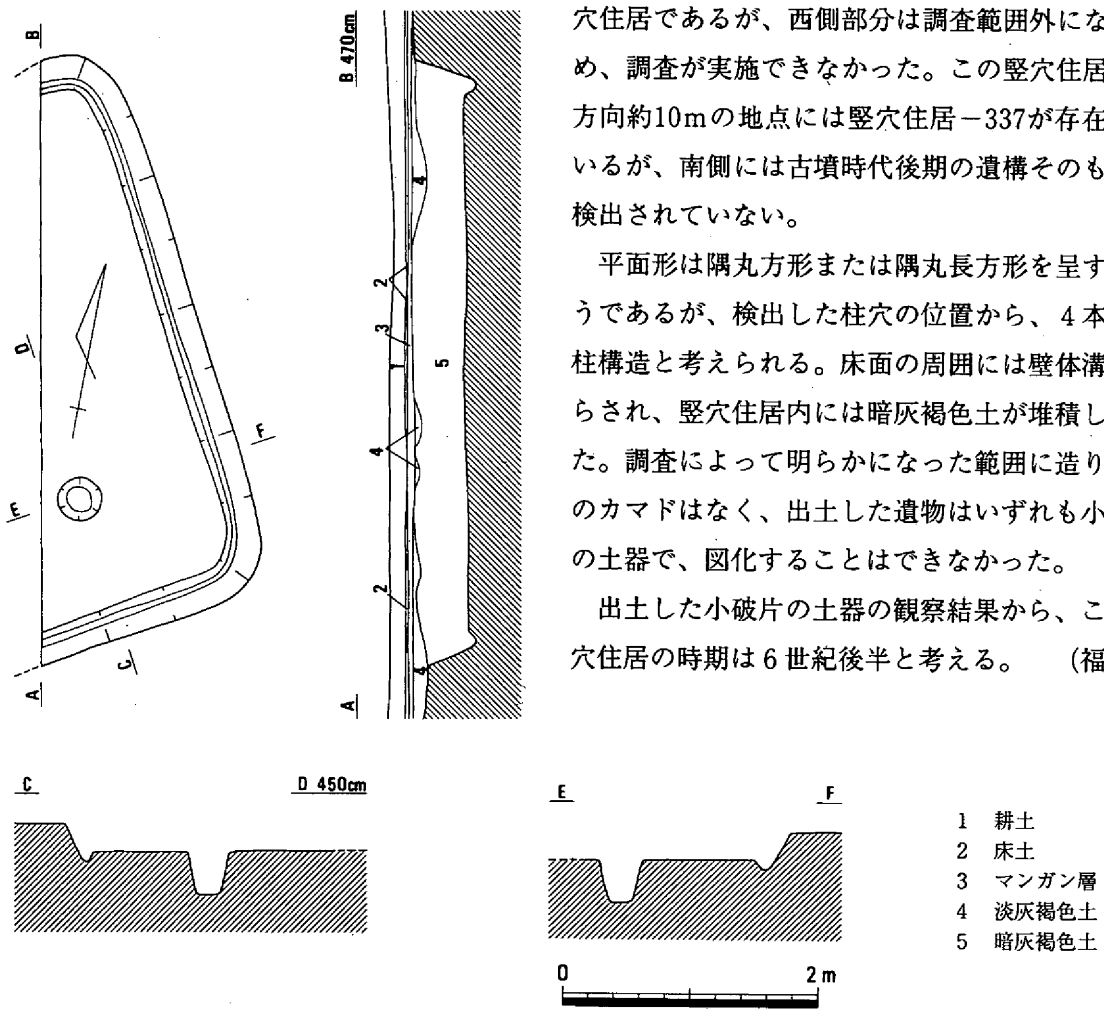
第569図 竪穴住居-337出土遺物

竪穴住居-338 (第570図)

中屋調査区の中央部よりやや北側に位置する竪穴住居であるが、西側部分は調査範囲外になるため、調査が実施できなかった。この竪穴住居の東方向約10mの地点には竪穴住居-337が存在しているが、南側には古墳時代後期の遺構そのものが検出されていない。

平面形は隅丸方形または隅丸長方形を呈するようであるが、検出した柱穴の位置から、4本柱の柱構造と考えられる。床面の周囲には壁体溝が巡らされ、竪穴住居内には暗灰褐色土が堆積していた。調査によって明らかになった範囲に造り付けのカマドはなく、出土した遺物はいずれも小破片の土器で、図化することはできなかった。

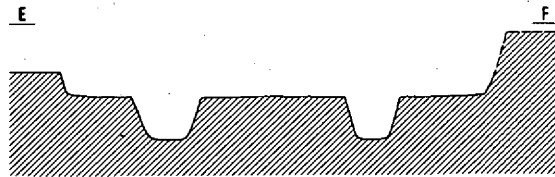
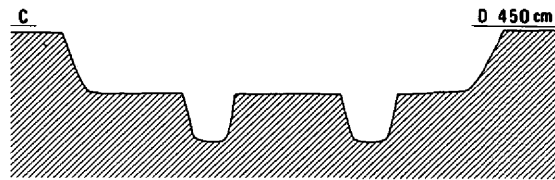
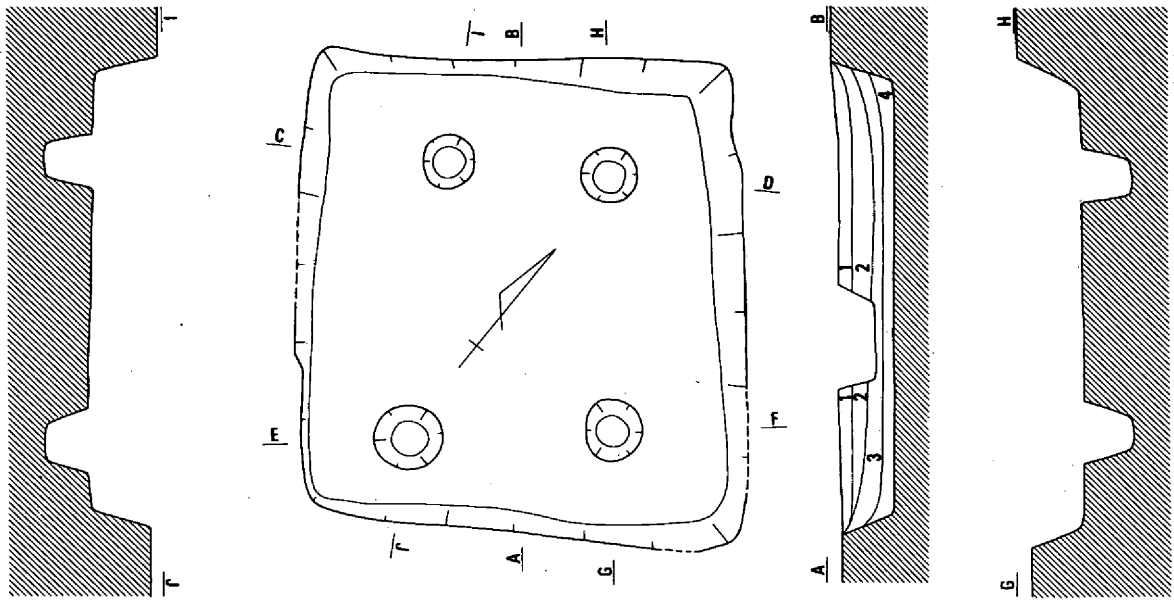
出土した小破片の土器の観察結果から、この竪穴住居の時期は6世紀後半と考える。(福田)



第570図 竪穴住居-338(1/60)

竪穴住居-339 (第571図)

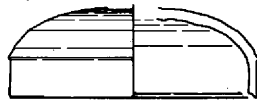
中屋調査区の中央部よりやや南側に、後述する竪穴住居-340と重複して存在した。



- 1 黒灰褐色粘質土
- 2 灰黄褐色粘質土
- 3 暗灰褐色砂質土
- 4 暗灰黄褐色砂質土



8231



8232



8236



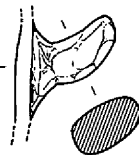
8233



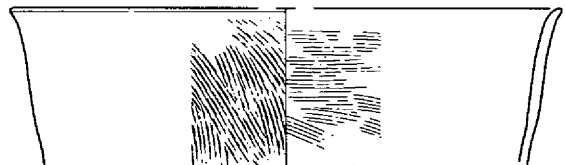
8234



8235



8238



8237



第571図 竪穴住居-339(1/60)・出土遺物

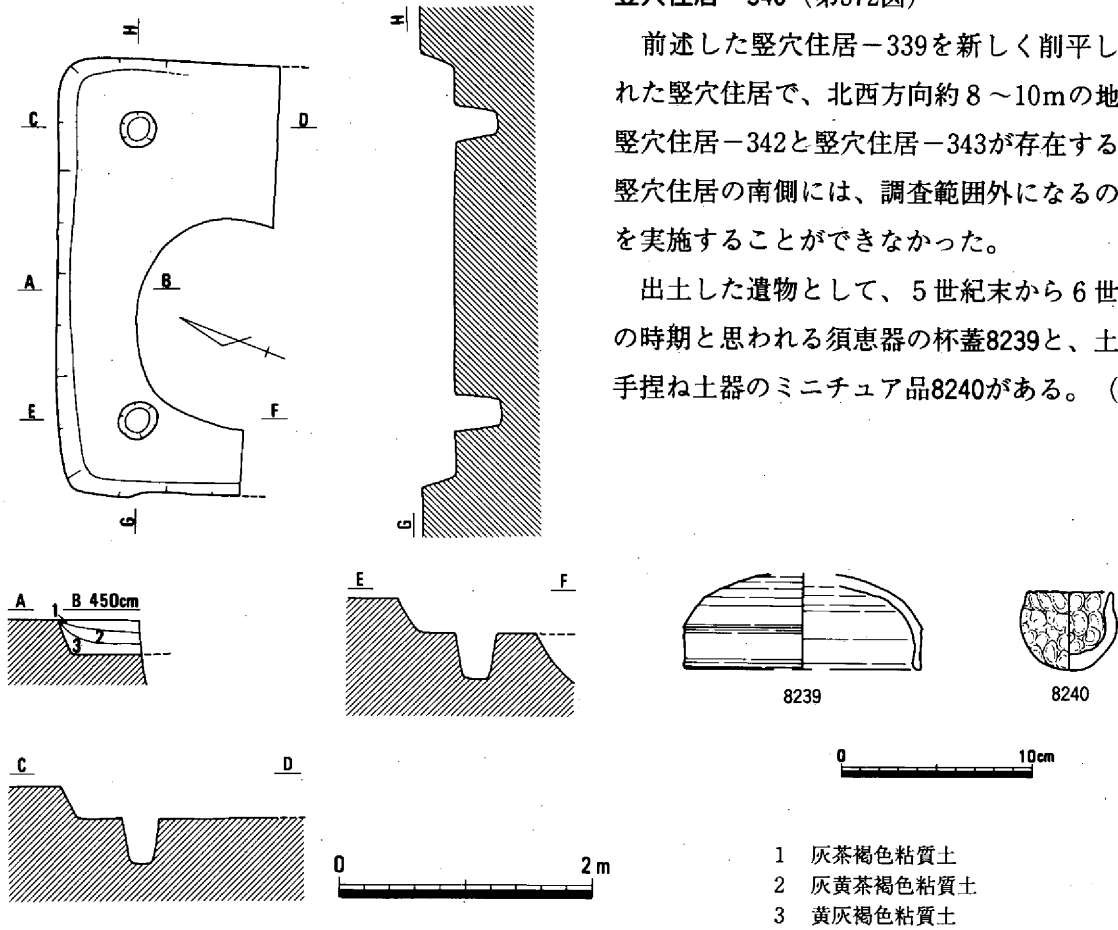
平面形は長方形を呈し、柱構造は4本柱で、壁体溝やカマドは存在しなかった。

出土した遺物には、須恵器8231~8234と土師器8236~8238がある。これらの土器の調整手法や形態的特徴から、竪穴住居-339は5世紀末から6世紀初頭の時期に属すると考える。(福田)

竪穴住居-340 (第572図)

前述した竪穴住居-339を新しく削平して造られた竪穴住居で、北西方向約8~10mの地点には竪穴住居-342と竪穴住居-343が存在する。この竪穴住居の南側には、調査範囲外になるので調査を実施することができなかった。

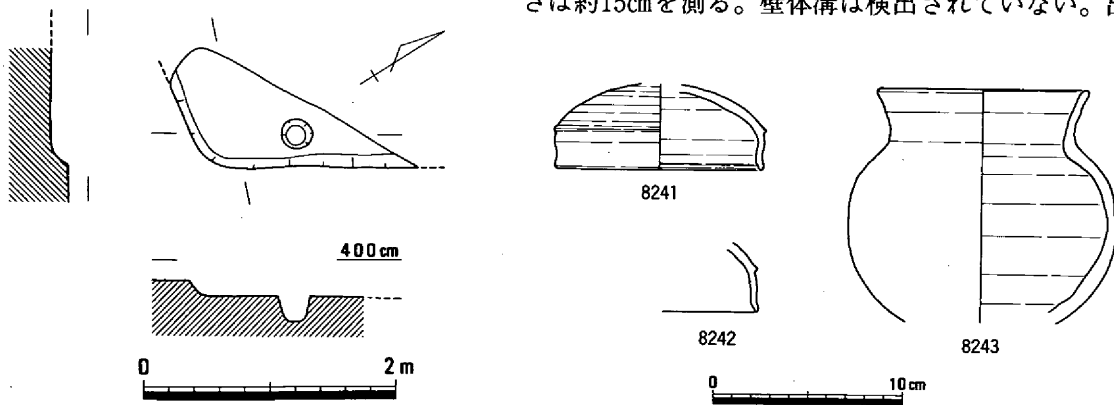
出土した遺物として、5世紀末から6世紀初頭の時期と思われる須恵器の杯蓋8239と、土師器の手捏ね土器のミニチュア品8240がある。(福田)



第572図 竪穴住居-340(1/60)・出土遺物

竪穴住居-341 (第573図)

この竪穴住居は、竪穴住居-340の北西約25mに位置している。検出されたのは竪穴住居の南東隅部の一部で、大半は調査外に存在する。このため規模、平面形については不明である。床面までの深さは約15cmを測る。壁体溝は検出されていない。出土遺



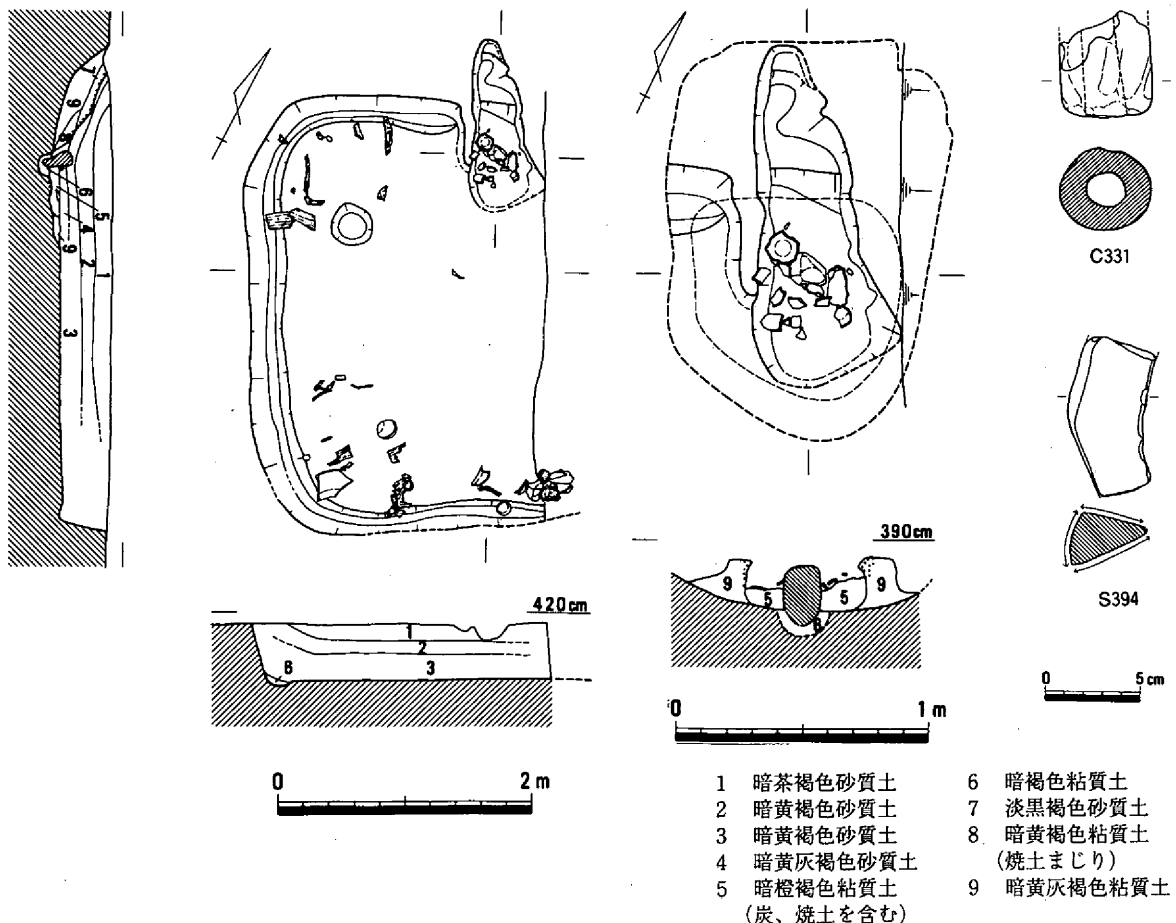
第573図 竪穴住居-341(1/60)・出土遺物

物は8241～8243の他に土師器の小片が少量出土した。8241・8242の須恵器の杯蓋は、口縁端面は退化しているものの端面内側の稜線を残している。8243の壺は、斜上方に直線的に延びる口縁部をもつ。時期は5世紀後半と考えられる。(中野)

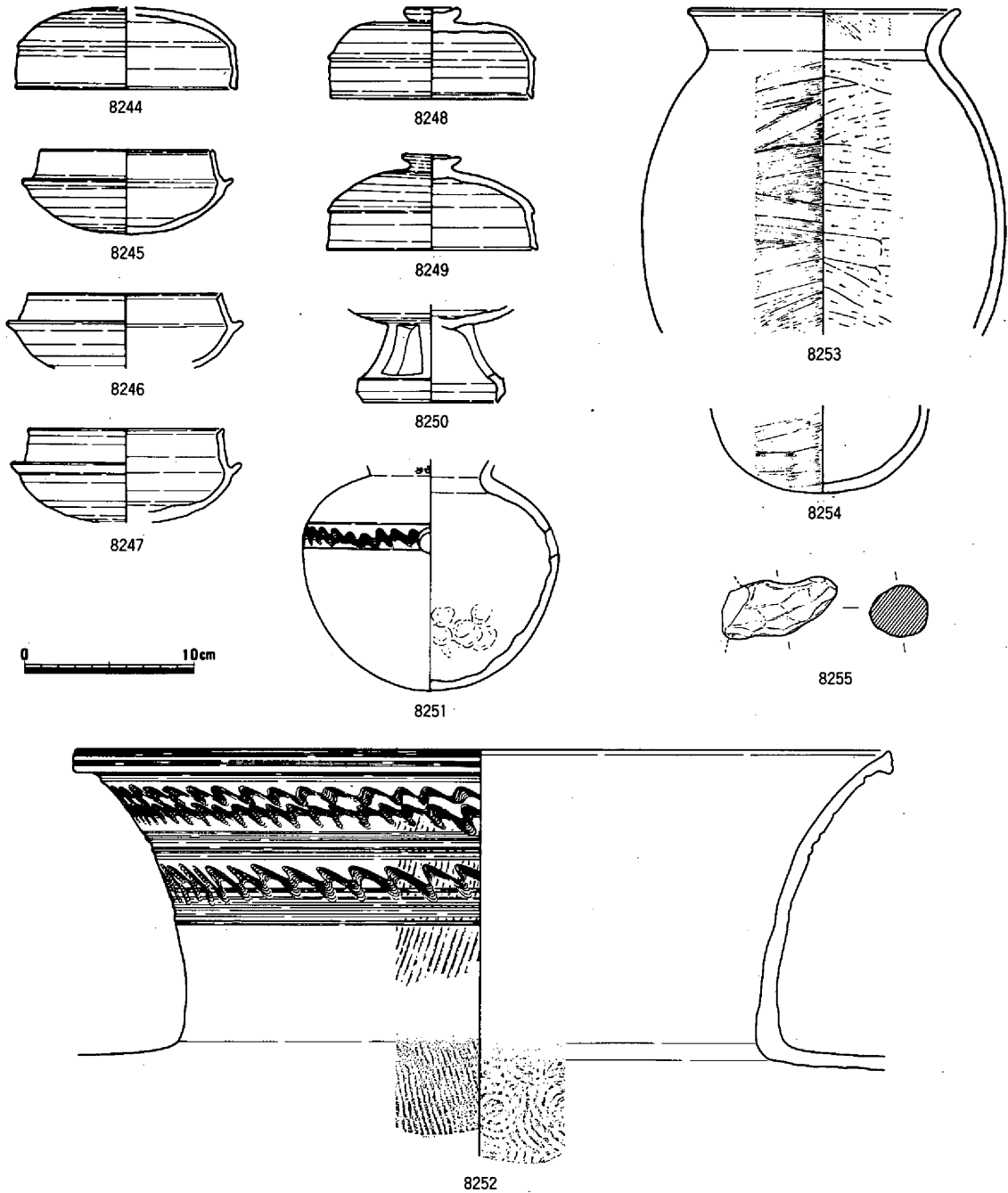
竪穴住居-342 (第574・575図)

竪穴住居-342は、竪穴住居-341の南東約12mに位置している。竪穴住居は、西側の約半分強が検出された。規模は、長さがカマドの位置から推察して400cm前後と推定される。幅は約348cmで、平面形は方形を呈すると考えられる。床面までの深さは約43cmで、外周には壁体溝が廻る。北辺には、造り付けのカマドが検出され、残存状態は良好であった。カマドは、当初第9層下面まで掘り下げ、第7～9層でカマドを造り出している。したがってカマドの床面は第7層上面となっており焼土面となっていた。また、カマドの中央部には、やや大きめの河原石を立てて支柱としており、支柱をささえるため下部を掘り窪めて立てていた。煙出し部は、竪穴住居の外側に延びている。カマド中央部の支柱周辺には甕の破片が認められた。床面には、図示した土器などが散在しており、炭化材も部分的に検出されており焼失したものと考えられる。

出土遺物は、図示したものがその大半で、須恵器が多く出土している。8244の杯蓋は、口縁端面を残している。8245～8247の杯身は、口縁部立ち上がりは内傾し、体部から天井部は丸みをおびている。他に有蓋高杯の蓋の8248・8249、脚部に3方の透かしをもつ高杯の8250、さらにやや胴長の碌の8251、大甕の8252がある。土師器は、甕、コシキの把手がある。時期は5世紀後半。(中野)



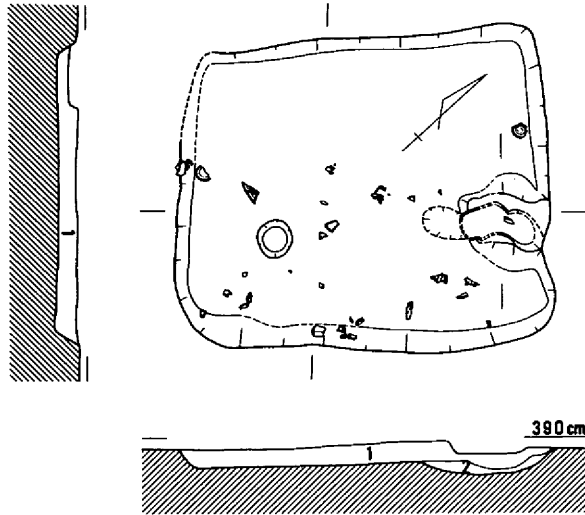
第574図 竪穴住居-342(1/60・1/30)・出土遺物(1)



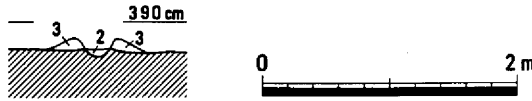
第575図 竪穴住居-342出土遺物(2)

竪穴住居-343 (第576図)

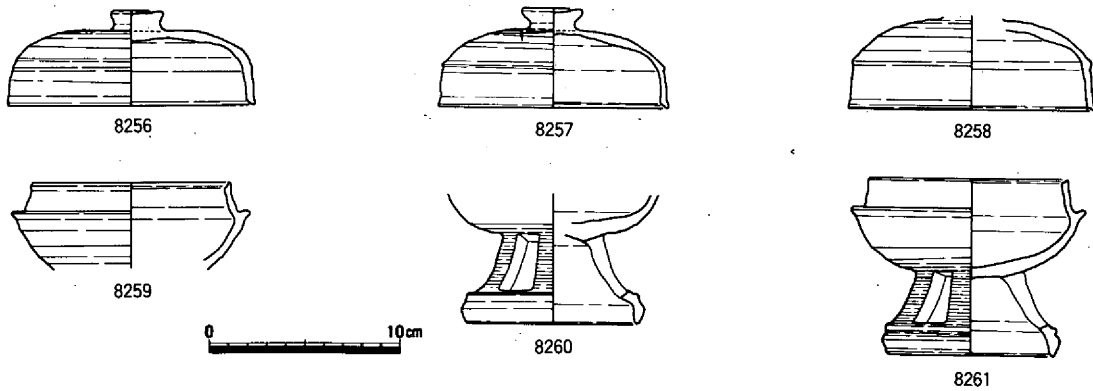
この竪穴住居は、竪穴住居-342の西側約2mに位置している。竪穴住居は、上部の中世の遺構に部分的に削平を受けていた。規模は、約290×254cmで、平面形は方形を呈する小規模な竪穴住居であった。床面までの深さは約13cmで、外周には壁体溝は検出できなかった。北辺の中央やや東寄りには造り付けのカマドが確認された。カマドは、煙道部は削平されており、燃焼部が残存していた。カマドは部分的に焼土面が残っていたが、支柱は検出できなかった。柱穴は、1基を確認したが構成する柱穴は検出できなかった。床面には、図示した土器などが出土した。また、堆積土からも少量の土器が検出された。



出土遺物としては、図示した以外に土師器の甕、壺の破片が少量出土した。8256～8261は、有蓋高杯である。8256～8258は、つまみ付の蓋で、口縁部端面はやや内側に傾斜するものの明瞭に残している。天井部は、8258は丸みをもつが、8256はさほどでもない。8259～8261の杯部の天井部は8259・8261とも丸みをもっている。脚部は8260・8261とも3方に透かしをもつ。脚部外面はカキ目を施している。これらの須恵器は、いずれも5世紀後半の特徴を示している。(中野)



- 1 暗茶褐色泥砂
- 2 黒褐色泥砂(炭、焼土まじり)
- 3 暗黒褐色泥砂



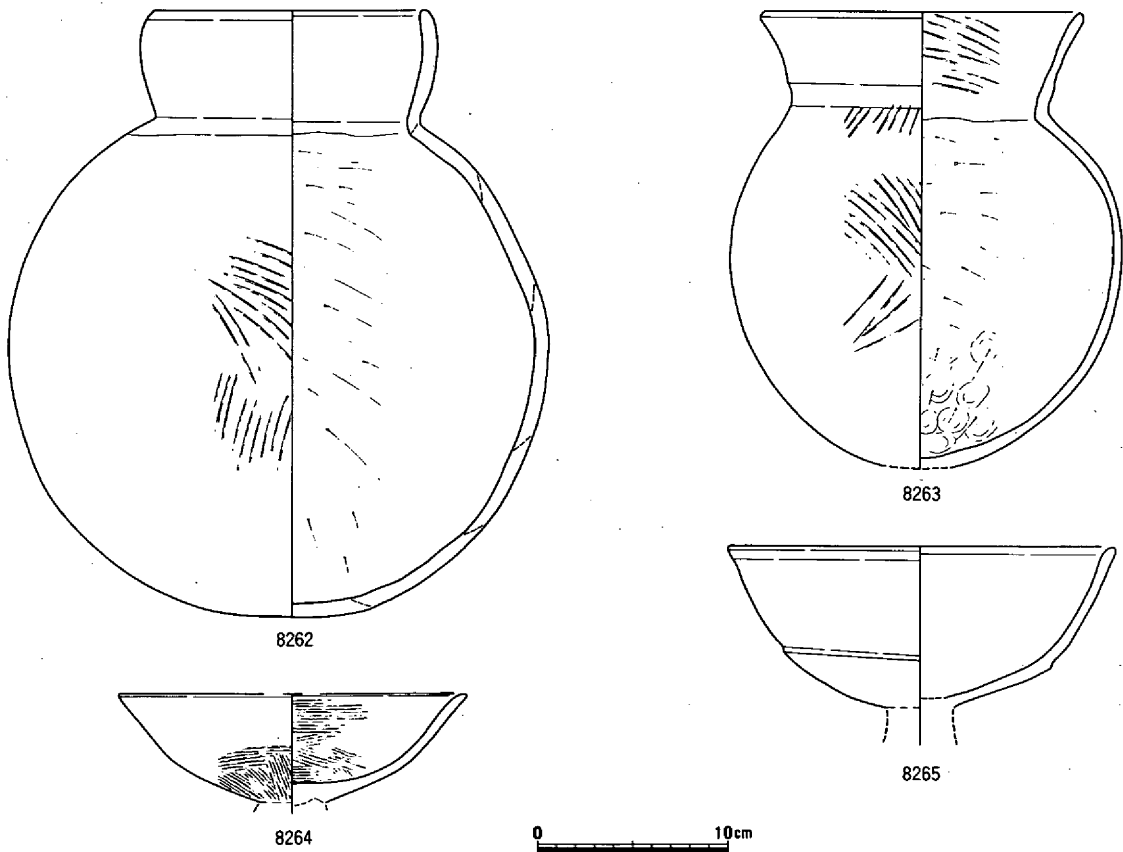
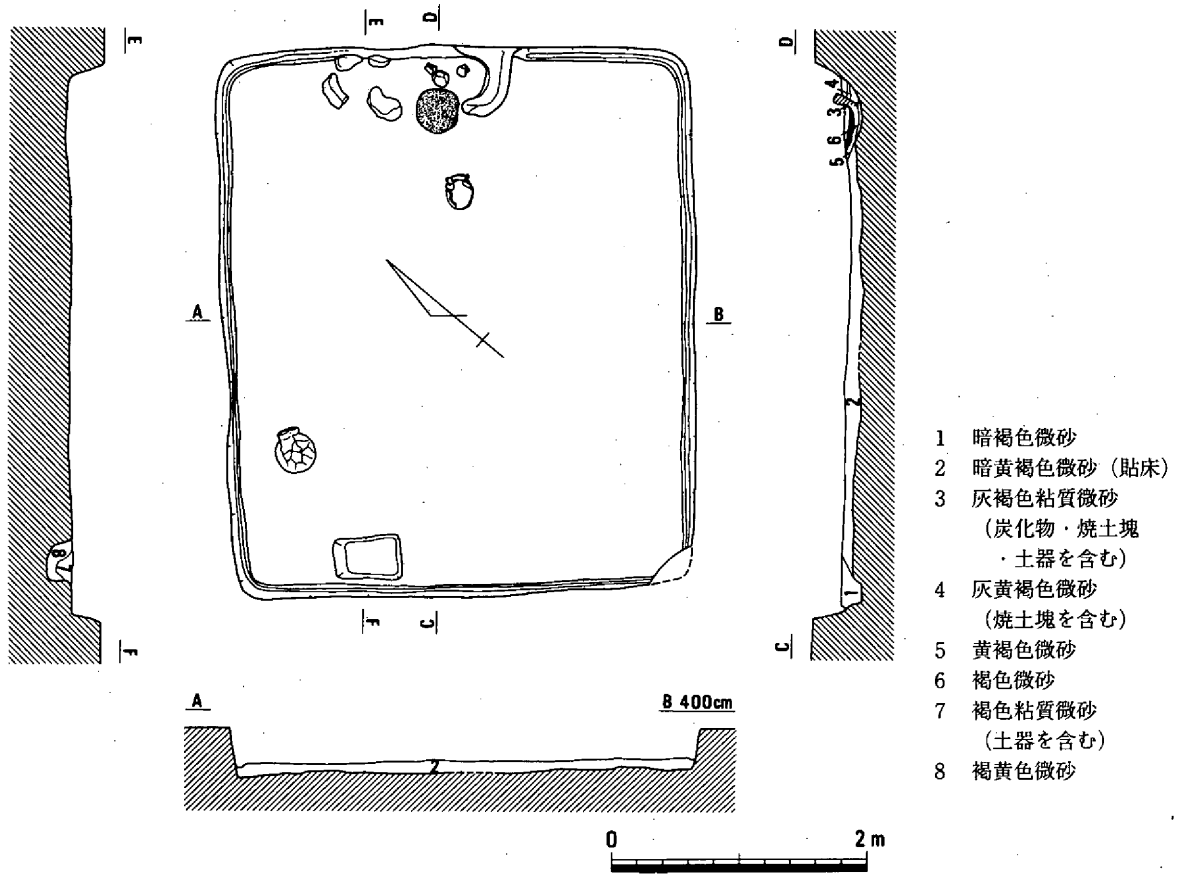
第576図 竪穴住居-343(1/60)・出土遺物

竪穴住居-344 (第577図)

P17区の南東に位置する竪穴住居で、主軸をN-53°-Eにおく方形を呈する。長さ434cm、幅376cmを測り、検出面から深さ30cmの位置にある床面の標高は350cmを測る。床面積は14㎡あり、その周囲には幅10cm、深さ5cmの壁体溝がめぐる。柱穴は確認できず、主柱以外で上屋を支える構造を想定せざるをえない。北東辺の中央につくりつけられたカマドは、大きく損壊してその一部が西側に散在しており、住居の廃絶にあたって故意に破壊された可能性が強い。長さ60cm、幅40cmある燃焼室には支脚石が残り、その前面には径35cmの範囲で被熱面が認められる。煙道は壁体に向かって急な傾斜をもって立ち上がり、屋外へ長く延びる可能性は少ない。南西辺の西側に設けられた土壇は、長さ53cm、幅36cm、深さ16cmの方形で、内部は粘質土が埋積していた。

床面からわずかに浮いた状態で8262～8265が出土している。壺8262・甕8263は外面を粗いハケメ、内面をヘラケズリで調整する。高杯はいずれも杯部のみで、8265は屈折する深い杯部をもつ。これらは古・中・Iに比定され、西川調査区の竪穴住居-49とともにカマドをもつ住居としては古相に属する。

(亀山)

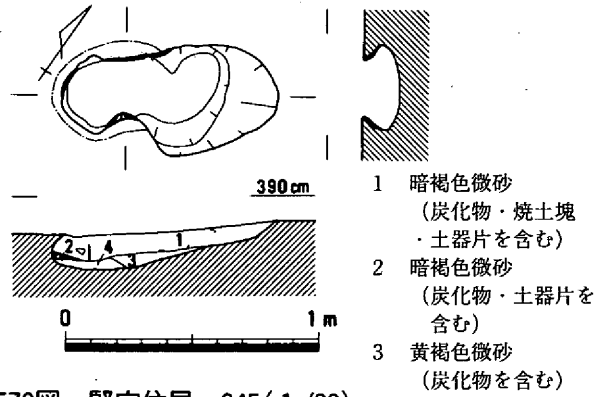


第577図 竪穴住居-344(1/60)・出土遺物

竪穴住居-345 (第578図)

竪穴住居-302の上層で検出したもので、P18区の南西に位置する。カマドを確認するにとどまったため、住居の規模や形態については不明である。このカマドは北東辺に設けられていたようで、北東に向かって幅43cmほどの煙道が緩やかに延びる。燃烧室は幅35cmあり、高さは14cmほど遺存している。

遺物は出土していないが、周辺の状況からして中期に属する可能性が高い。(亀山)



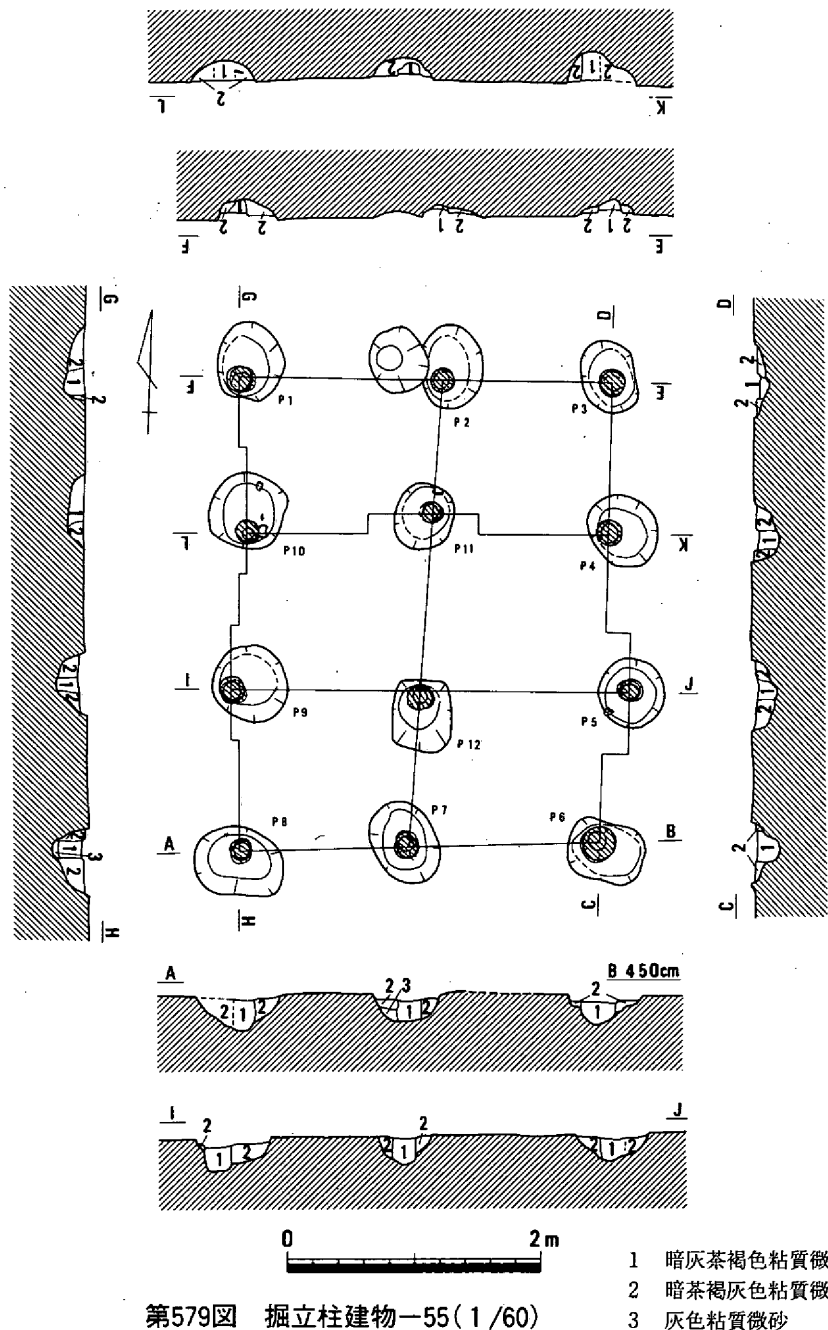
第578図 竪穴住居-345(1/30)

(3) 掘立柱建物

掘立柱建物-55 (第579図)

O17区の東南、古墳時代中期の竪穴住居-317の南側4.5mに位置する。桁行364~375cm、梁間284~312cmをはかり、主軸をN-2°-Wにとる3×2間の掘立柱建物である。中央棟筋が両側の桁行方向と大きく異なるが、柱痕の中心は真直に通っている。桁行の柱間120cm前後、梁間は130~150cm、床面積は10.6㎡である。柱穴掘り方は円形にて45~72cm、深さ11~26cm、柱痕の直径は15~20cmをはかる。

遺物はP-1、P-4~P-10、P-12内より須恵器小片が出土しているが、あまりにも細片ゆえに時期を決定しがたい。しかし、形状等からは概ね7世紀代の可能性を指摘できるものである。(高畑)



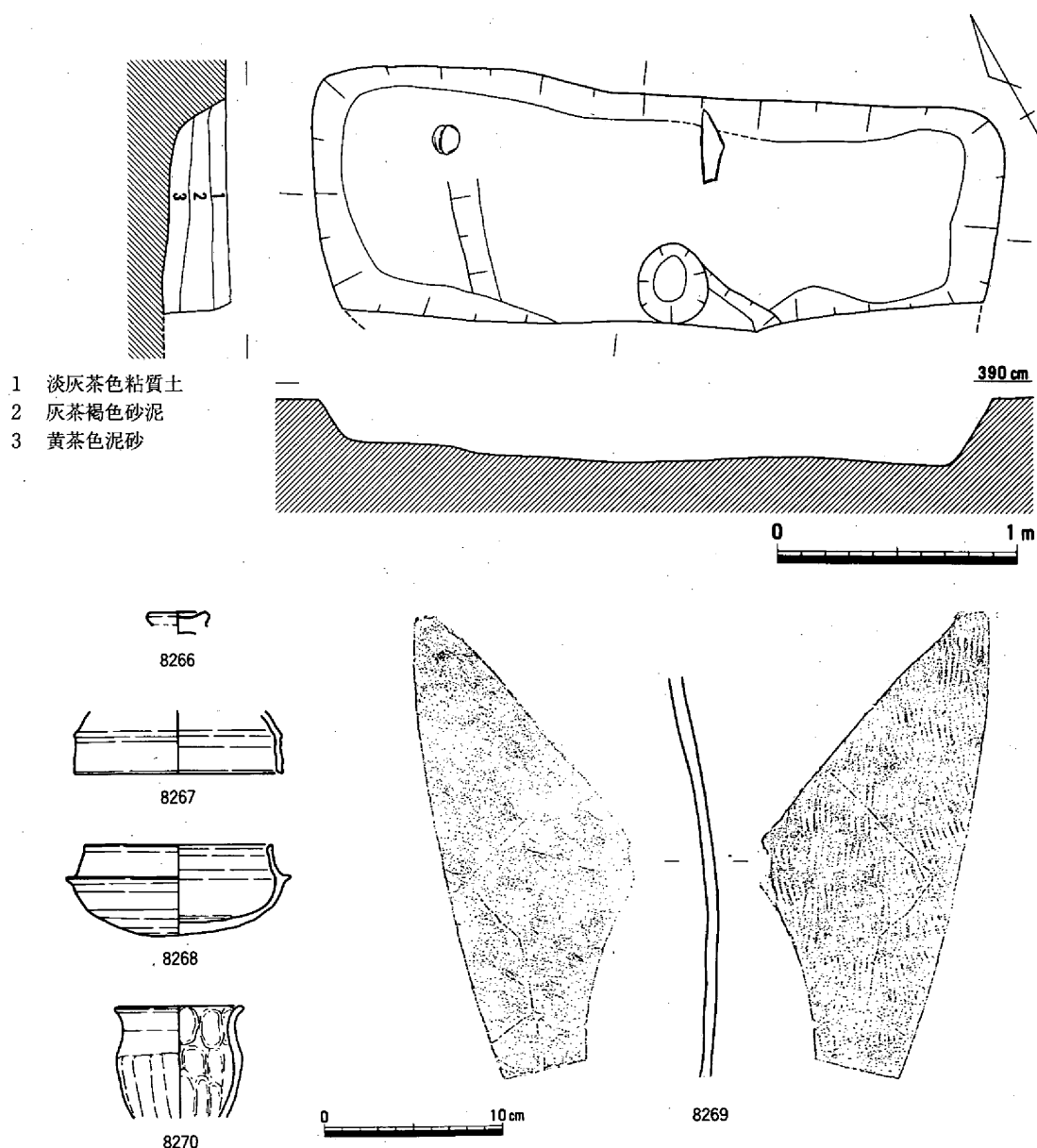
第579図 掘立柱建物-55(1/60)

(4) 土坑

土坑-458 (第580図)

この土坑は、竪穴住居-344の東側約20mに位置している。規模は、長さ約285cmで、幅は南側が検出されていないため不明である。平面形は、検出状況から推察すると長方形を呈すると推定される。深さは約28cmで、断面形は台形を呈する。土坑内は、第1～第3層がレンズ状に堆積している。土坑の底部はやや凹凸があった。出土遺物は、8268・8269が底部から検出され、他には図示したものも含めて堆積土から少量の須恵器と土師器が出土している。

8267の杯蓋は、体部と口縁部との境の稜線はやや甘くなっている。口縁端面は、内側に傾斜しているものの稜線は残している。8268の杯身は、やや小形化しており、天井部は丸みをもっている。8269は、大甕の体部片で、外面に平行タタキ、内面は同心円タタキをナデ消している。8270は小形の土師器の壺である。これらの土器は、その特徴から5世紀後半～6世紀初頭と考えられる。(中野)



第580図 土坑-458(1/30)・出土遺物

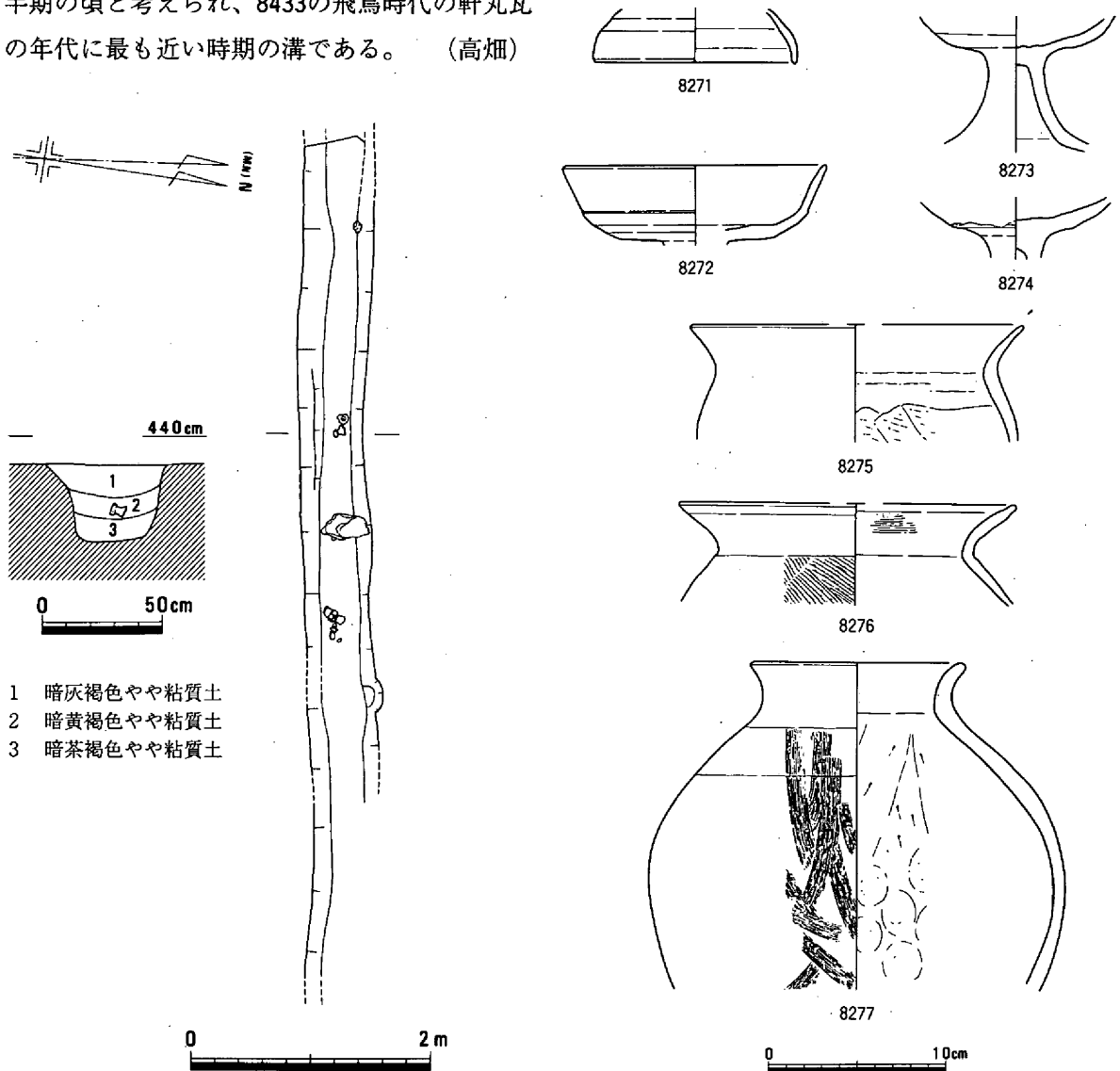
(5) 溝

古墳時代の溝は後期の時期のものが6条みられる。高田調査区でみられた溝と同様に住居のまともりを画する可能性が考えられるものであり、幅、深さ等に共通性が認められるものである。(高畑) 溝-469 (第581図)

P17区の北東中央、橋脚(P4区)に所在し、竪穴住居-314の西側1.5mに位置する。おおよそ、東西方向に7.3mが認められ、幅60cm、深さ65cm、底面の海拔高は397cmをはかる。断面は台形状を呈し、埋土は3層からなる。溝-469はO18区の西南に所在する溝-473に接続する可能性がある。

遺物は溝底より浮いた状態で出土しており、第2層中に多いようである。須恵器、土師器ともに破片である。また、中央部には40×22cm、厚さ約10cmの石がみられる。杯蓋8271は口径11.1cm、高杯8272は口径14.6cmをはかる。高杯8273は被熱痕跡があり、二次焼成を受けている。これらの須恵器の回転方向は右廻りであり、土師器8275とは共伴するものと考えられる。

須恵器の形態手法の特徴から7世紀の第1四半期の頃と考えられ、8433の飛鳥時代の軒丸瓦の年代に最も近い時期の溝である。(高畑)



- 1 暗灰褐色やや粘質土
- 2 暗黄褐色やや粘質土
- 3 暗茶褐色やや粘質土

第581図 溝-469(1/30・1/60)・出土遺物

溝-470・471 (第582図)

〇17区南、〇i線、1705線の交点西南部に所在し、竪穴住居-313の西側に位置する。耕作土を除去するとすぐに検出された溝である。北西から南東方向に流走すると考えられる2条の溝であり、その中央部分が奈良時代中頃の南北溝により切断されている。溝-470、471の2条の溝は切り合っており、中央付近で交差をする格好になっている。西側の溝-470は全長8.4m、幅35~50cm、深さ46~48cmをはかり、溝-471を切っている。第1層の茶褐色粘質微砂が埋土である。

溝-471は溝-470より古く、幅は溝-470より広く、深さはほぼ同じである。

この溝は橋脚 (P1区) のみにみられ、北側の橋台 (A1区)、南側の橋脚 (P2区) にも現われておらず、東西の調査区にもみる事ができない。おそらく、植栽下の未調査区域内で連結していくものと考えられる。

遺物は土器小片であり、時期を決定するに十分な資料とは言えない。ここでは、古墳時代後期にみられる住居のまとまりを画する溝として考えておきたい。(高畑)

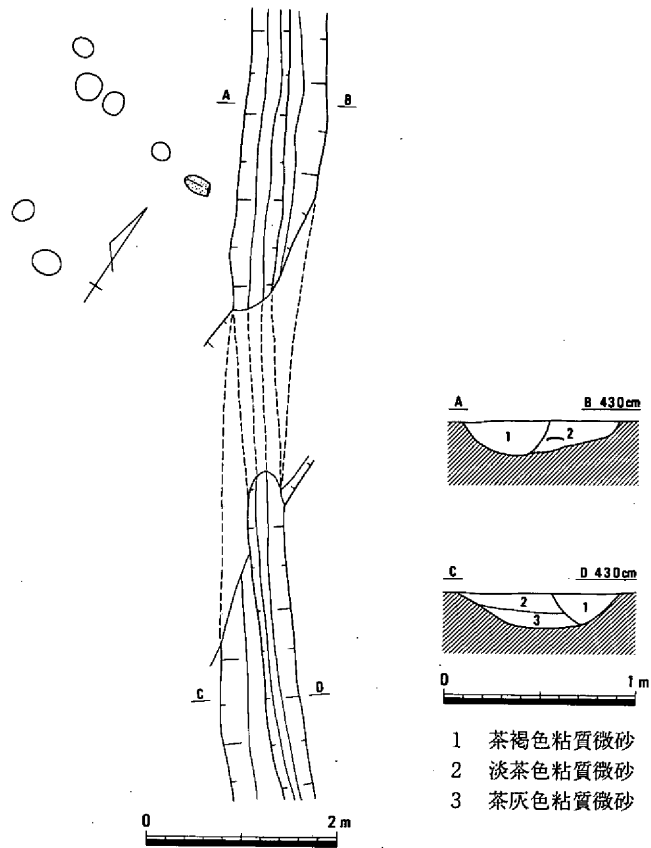
溝-472 (第583図)

この溝は、竪穴住居-320の南東約7mに位置している。溝は、部分的に蛇行するもののおおむね北東から南西方向に延びている。規模は、幅約77cm、深さ約34cmを測り、断面形は楕円形を呈する。溝内は、上層に暗茶褐色砂泥、下層に淡茶灰色砂泥がレンズ状に堆積していた。出土遺物としては8278・8279の須恵器が少量検出され、時期は6世紀後半と考えられる。

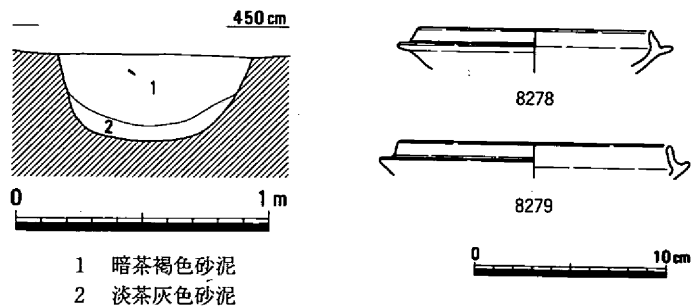
溝の存在する北西部および南東部には同時期の竪穴住居が数軒存在していることから、小単位の竪穴住居群を画する性格の溝とも考えられる。(中野)

溝-473 (第584図)

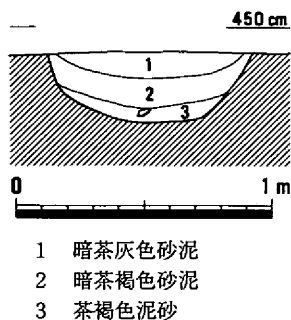
溝-473は、溝-472の南東約2.5mに検出された。溝は、ほぼ溝-472と平行しており、北東から南西方向に延びている。規模は、幅約80cm、深さ約28cmを測る。断面形は楕円形を呈して



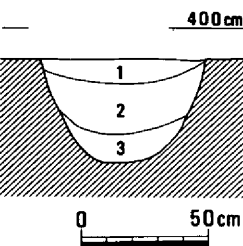
第582図 溝-470・471 (1/80・1/40)



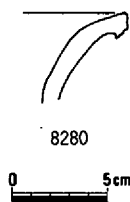
第583図 溝-472 (1/30)・出土遺物



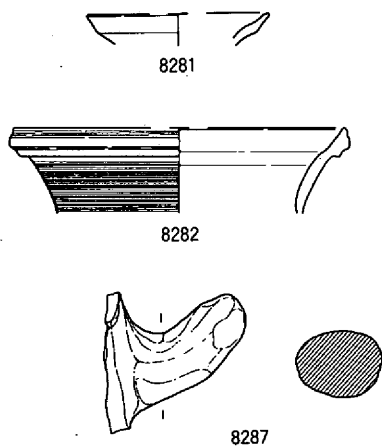
第584図 溝-473(1/30)



- 1 淡褐色砂質土
- 2 暗黄褐色砂質土
- 3 淡青黄褐色粘質土



第585図 溝-474(1/30)
・出土遺物



いる。溝内は、第1～第3層がレンズ状に堆積していた。溝内は、第1～第3層がレンズ状に堆積していた。このように溝は、溝-472と方向・規模なども類似した様相を示している。出土遺物は、図示できなかったが須恵器の破片が少量検出されている。溝-472と同時期と考えられる。

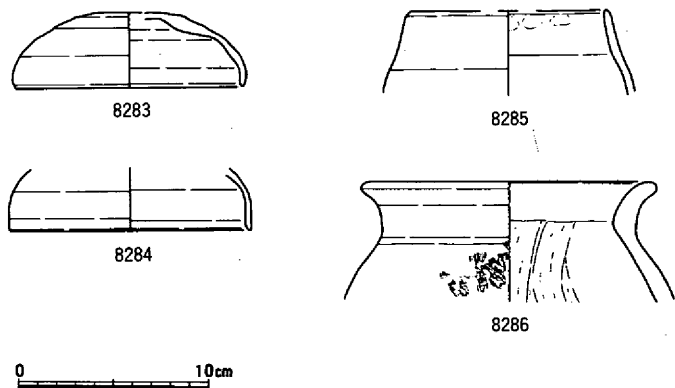
溝の性格についても溝-472と同様であると思われる。(中野)
溝-474(第585図)

この溝は、堅穴住居-343の南約8 mに位置している。溝は、やや蛇行しながら東西方向に延びている。規模は、約65 cm、深さ約41 cmを測る。断面形は「U」字形を呈している。溝内は、第1～第3層がレンズ状に堆積していた。出土遺物としては、8280の他に須恵器、土師器が少量検出された。出土した須恵器は6世紀後半の特徴を示していた。(中野)

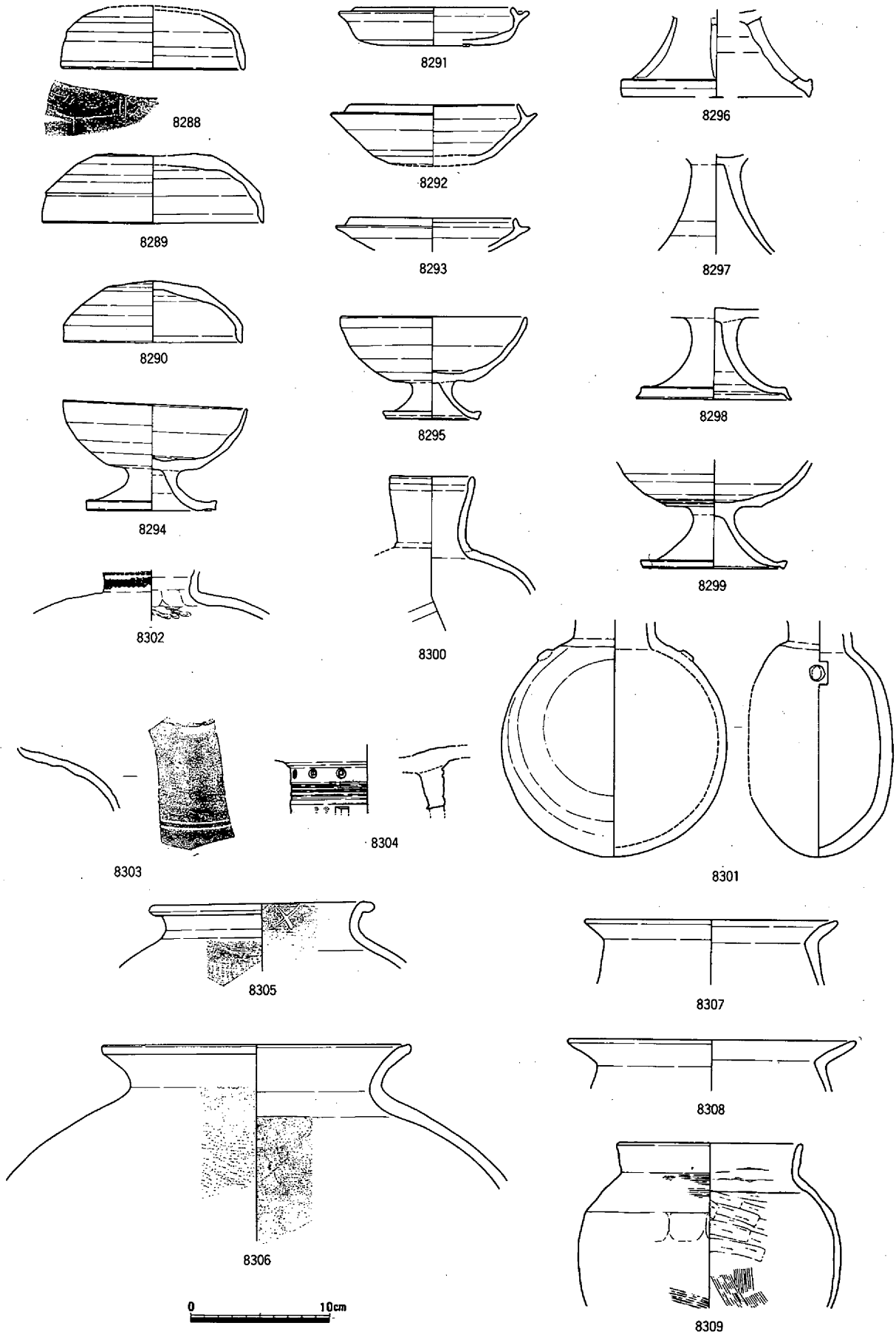
(6) 遺構に伴わない遺物

A地点：この地点からの古墳時代後期の遺物は少なかった。出土した遺物は8281～8287の須恵器、土師器がある。8281～8286は、堅穴住居-314、溝-469が検出された周辺から出土している。検出された遺物は、いずれも堅穴住居、溝と同時期のものであることから遺構と関連すると考えられる。

B地点：この地点は、5世紀後半～6世紀初頭、6世紀後半～7世紀初頭の2時期の遺構が多数検出されており、その関係で遺構と同時期の遺物が多かった。8288～8309の中で、5世紀後半～6世紀初頭のもは8296、8302～8304などがある。8304は、装飾壺か器台と考えられる。脚柱部の上端には、竹管文を配し、その下に沈線を巡らしている。沈線の下部には長方形の透しが一部確認できる。8288、8289の杯蓋は、6世紀の前半期のもので、周辺にはその時期の遺構は認められない。

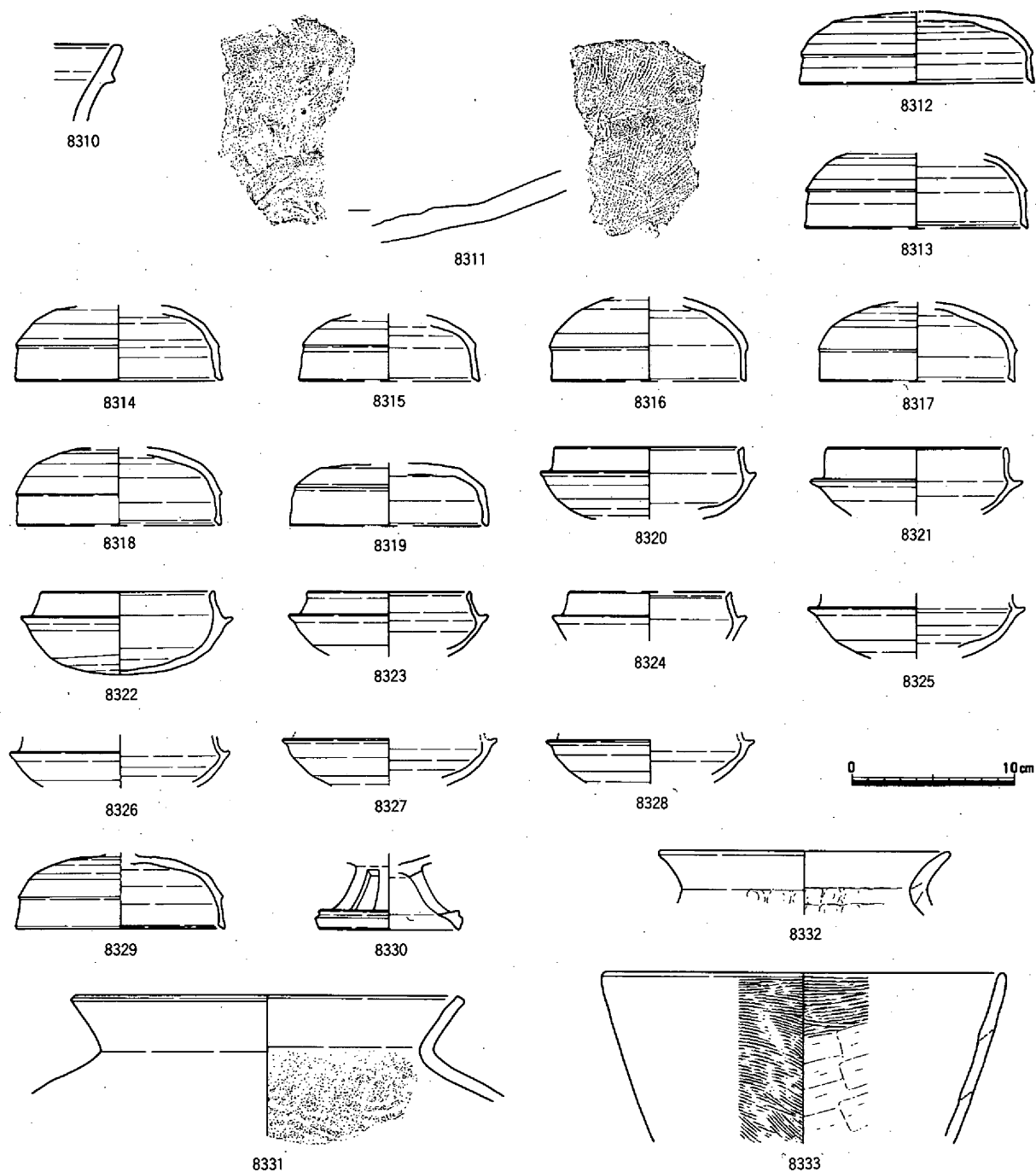


第586図 遺構に伴わない遺物(1)



第587図 遺構に伴わない遺物(2)

C地点：この地点での古墳時代後期の遺構に伴わない遺物は、8310～8333など多く遺物が出土している。時期としては、竪穴住居の存在する時期の土器が多く、5世紀後半～6世紀初頭および6世紀後半の2時期がその大半を占める。しかし、8310・8311の須恵器の最古型式に属する時期のものも検出されている。8310の甕は、口縁部の端部を丸くおさめており、外面の端面近くには1条の稜線を廻らしている。8311は、大甕の底部でシボリ痕を残している。外面はハケメで調整しており、内面はオサエ、ナデで仕上げている。胎土は砂粒を多く含んでいる。胎土・調整は、総社市の奥々谷窯址出土の土器に酷似している。(中野)



第588図 遺構に伴わない遺物(3)



第589図 古代全体図(1/600)

第5節 古代の遺構・遺物

(1) 古代の概要

今回の調査では、調査区全体に奈良時代中頃の長方形区画溝と掘立柱建物14棟、柱穴列2、土壇18基、焼成土壇1基、溝18条が確認されている。

長方形区画溝は北辺の外側溝（溝-N27）と南東部の内外溝の隅が後世の遺構により破壊され、明確に把握できていない。溝長辺の主軸は真北から磁北の西偏 $6^{\circ}30'$ 間におさまっている。

計測可能な範囲での規模を記すると、外側溝の区画が南北（溝-N27・S27間）約123.8m、東西（溝-E27・W27間）約94.30m、内側溝の区画が南北（溝-N28・S28間）約113.0m、東西（溝-E28・W28間）約84.20mをはかる。内外溝の間には内部を囲う塀等の存在が考えられるが、柱穴等の遺構は確認できていない。その部分の長さは、南北118.3m、東西89.10mをはかり、2重に巡る内外溝間の幅は、北辺で(5.8)m、南辺で4.5m、東辺で4.4m~6.0m、西辺で4.6m~5.8mである。東西辺側にバラツキがみられるが、平均では約5m幅となっている。

長方形区画溝、中央南側には、さらに溝-475、476の2条の溝が東西方向に整然と配置されている。溝内は長方形区画溝と同様に溝底に長さ5.0m、幅1.0m前後の土壇が連続して掘られており、その形状が繭に似ていることから、調査時に繭溝と呼称していたものである。両溝間の芯々距離は約5mをはかり、長方形区画溝間とはほぼ同数値を示しており、同機能を担っていたものと考えられる。さらに、北側のOj線の上に2条の溝の痕跡が認められたが、整然とした区画に一致するものではなく、東から北西に向ってゆるやかな弧を描くものである。溝-478、479が西側部分であり、溝-486、487が東側部分になる万能性がある。他に南北に並行する細い溝が5~6条みられる。

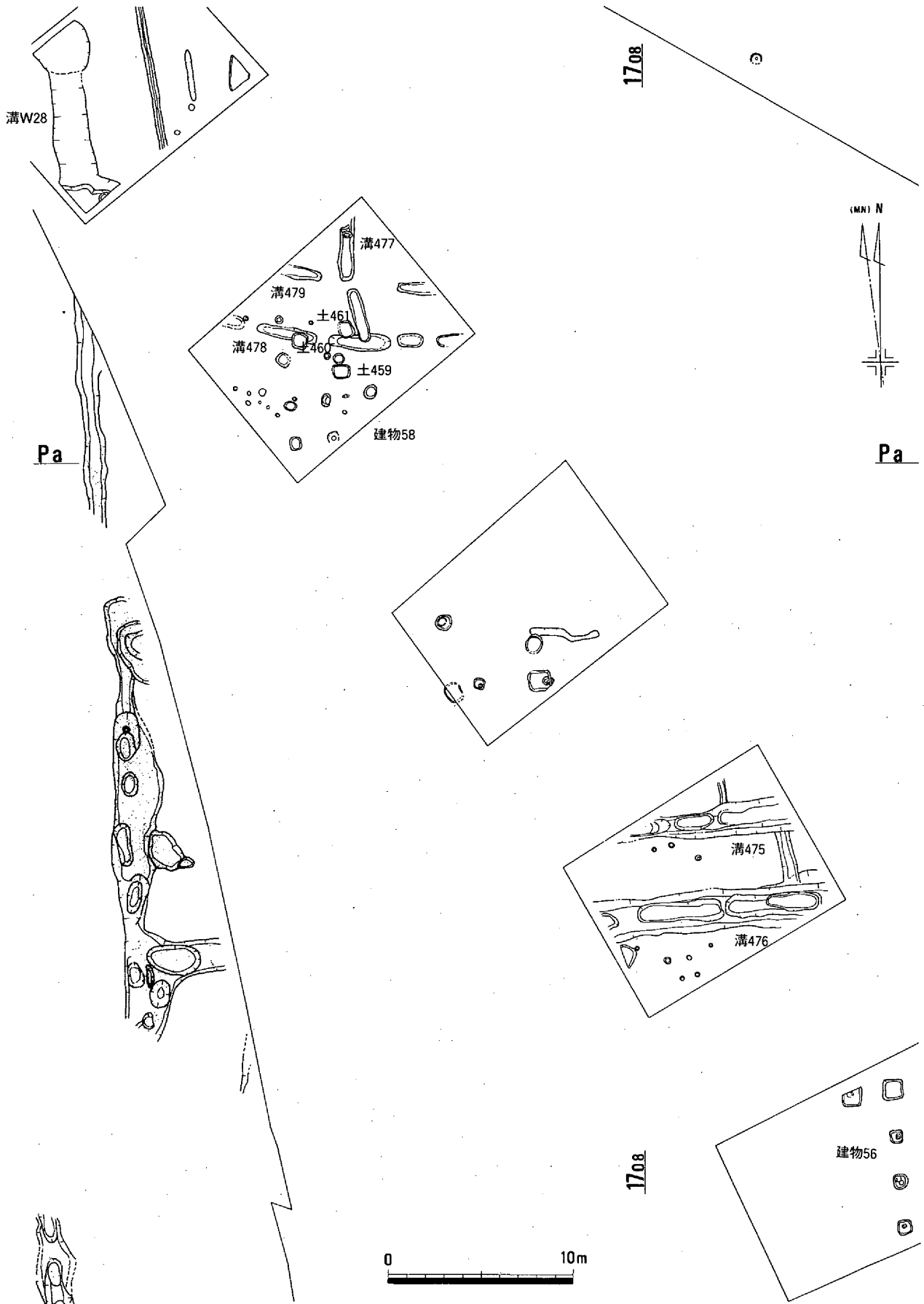
14棟の掘立柱建物は長方形区画同様に真北と磁北の範囲内に桁方向、梁方向をもち、総柱建物、側柱建物の2種類がみられる。総柱建物は3×3間の1棟、他は側柱建物であり、1×1間、3×2間、4×2間、5×2間の規模がみられる。小形の1×1間は254×227cm、面積5.6m²をはかり、大形の5×2間では1150×520cm、面積60m²をはかる。柱穴掘り方は方形が基調であり、若干不整形を呈するものもある。柱間は150cm、210cm、240cmを前後するものがあり、掘立柱建物-61が150cm、掘立柱建物-59、62、66、68、69が210cm、掘立柱建物-56、58、63、64、65、67が240cmをはかる。

18基の土壇は規模等において様々であるが、総じて小形のものが多く、土壇内に遺物をもつものが多い。

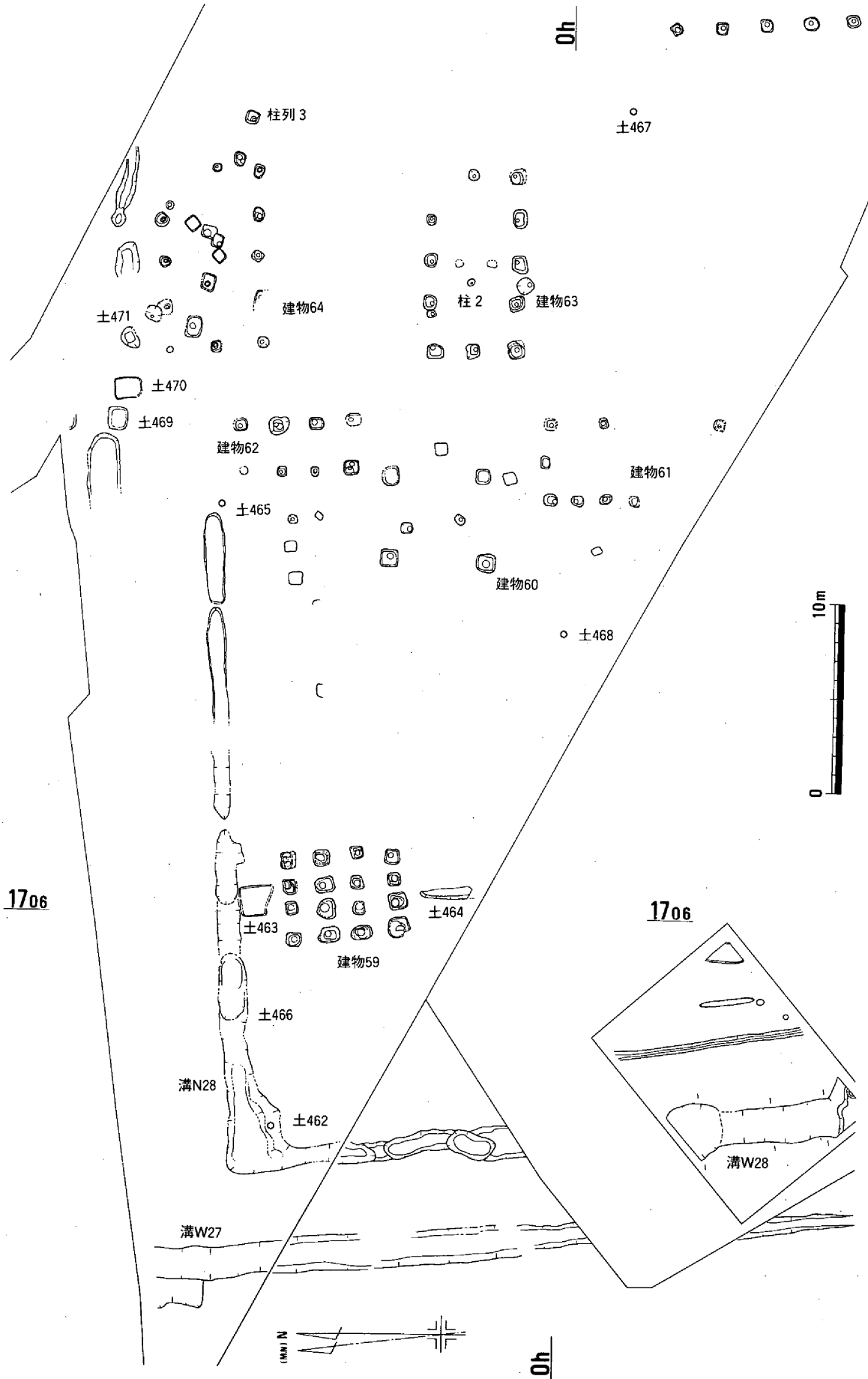
ここでは、土器650点、瓦42点の掲載を行った。これらの遺物は溝、土壇等から出土したものがほとんどであり、土器は破片が多く、瓦類も完形品はなく、小破片が多く認められる。大半の須恵器、土師器は奈良時代中頃の時期を示す形状であり、須恵器は蓋、壺蓋、杯、皿、高杯、稜椀、硯、盤、鉢、壺、甕、埴等がみられる。土師器では杯蓋、杯、皿、高杯、甕、壺、カマド、大形の不明土製品等がみられる。

瓦も土器とともに溝、土壇から出土している。しかし、長方形区画に伴う軒丸瓦、軒平瓦は確認できておらず、平瓦、丸瓦の破片のみである。なかでも、平瓦より丸瓦の残存状態がよく少し大形片が残っており、厚さの薄いものがみられる。他に飛鳥時代の軒丸瓦が1片出土している。（高畑）

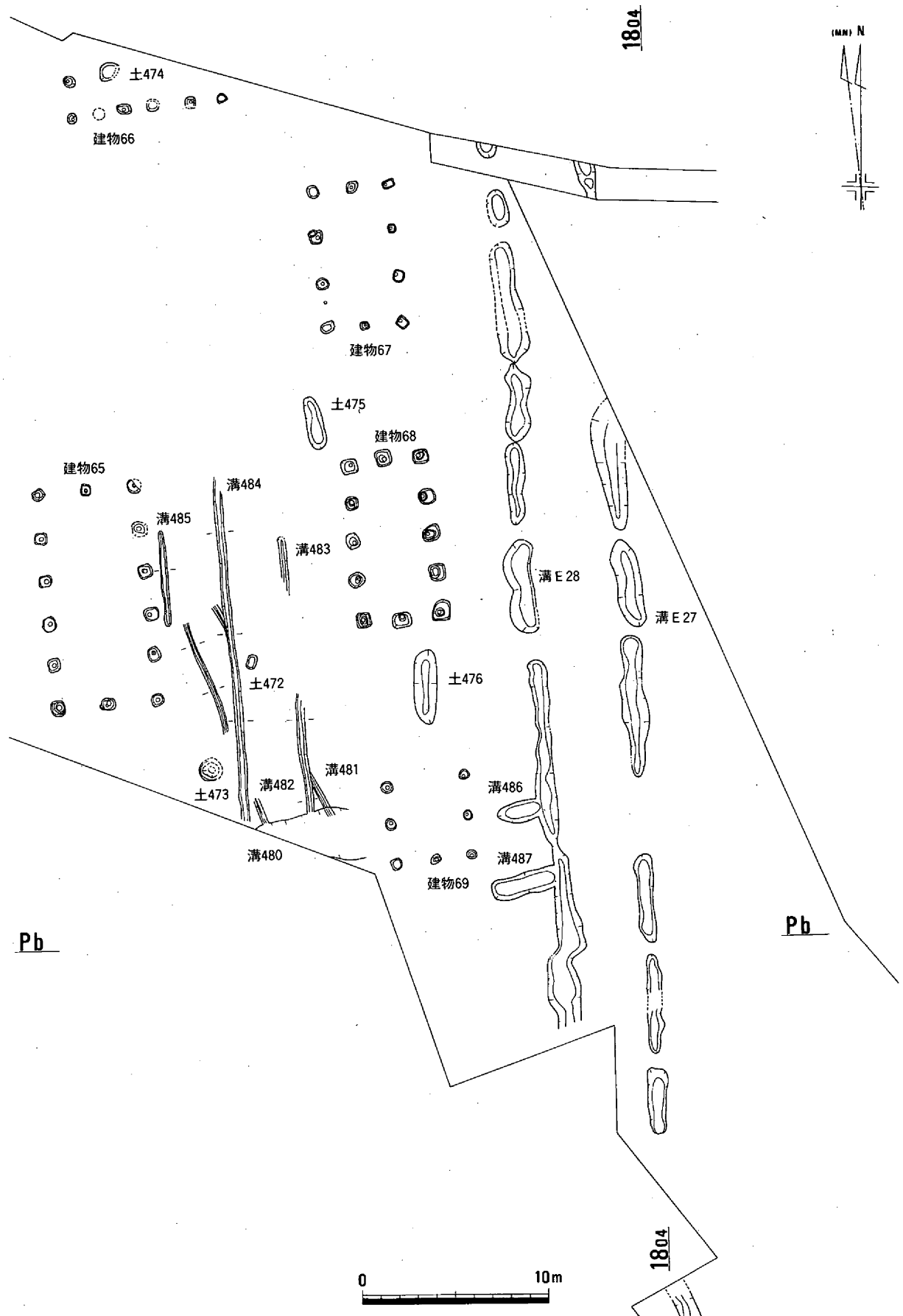
第3章 調査区の概要



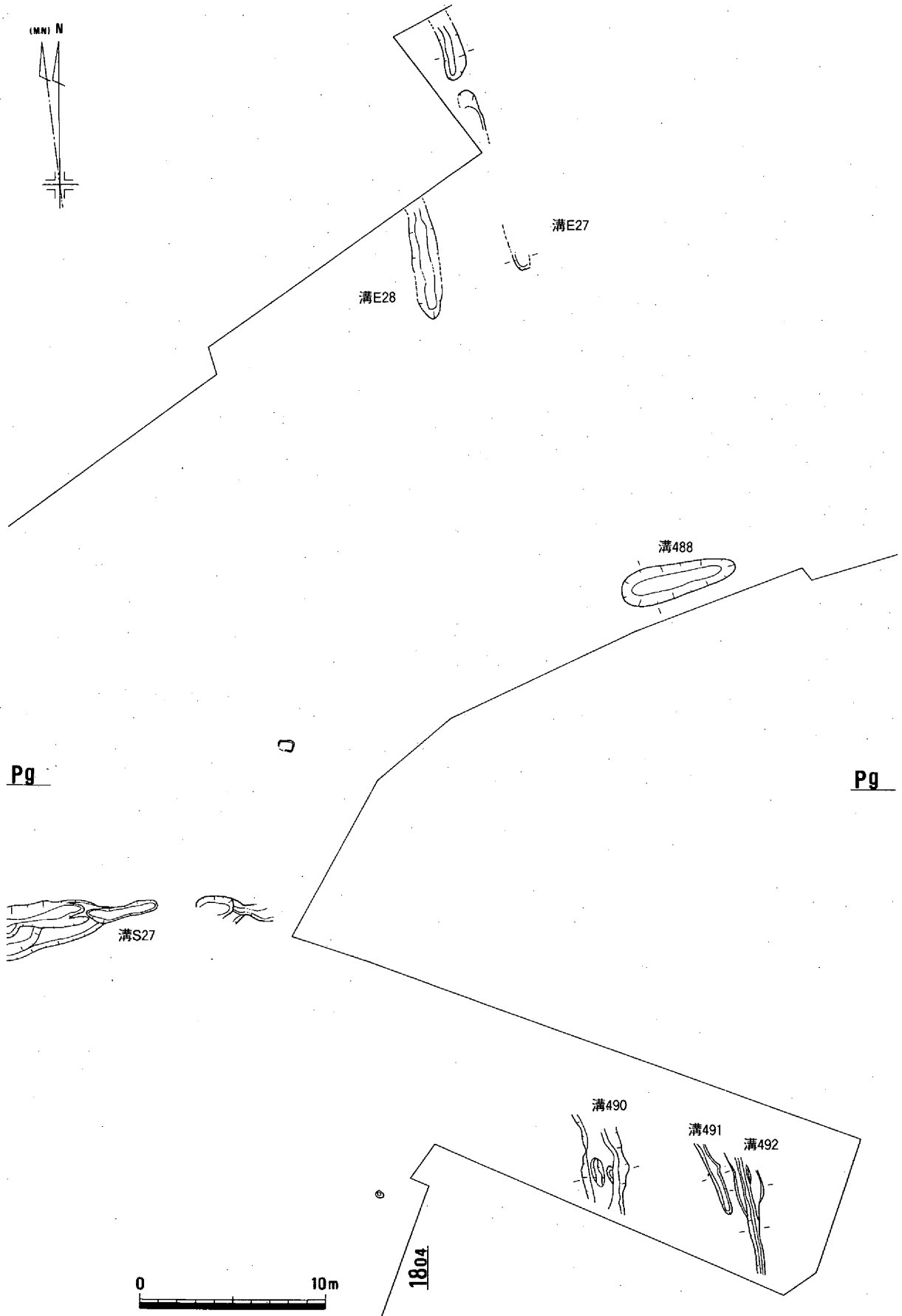
第590図 古代部分全体図(1)(1/300)



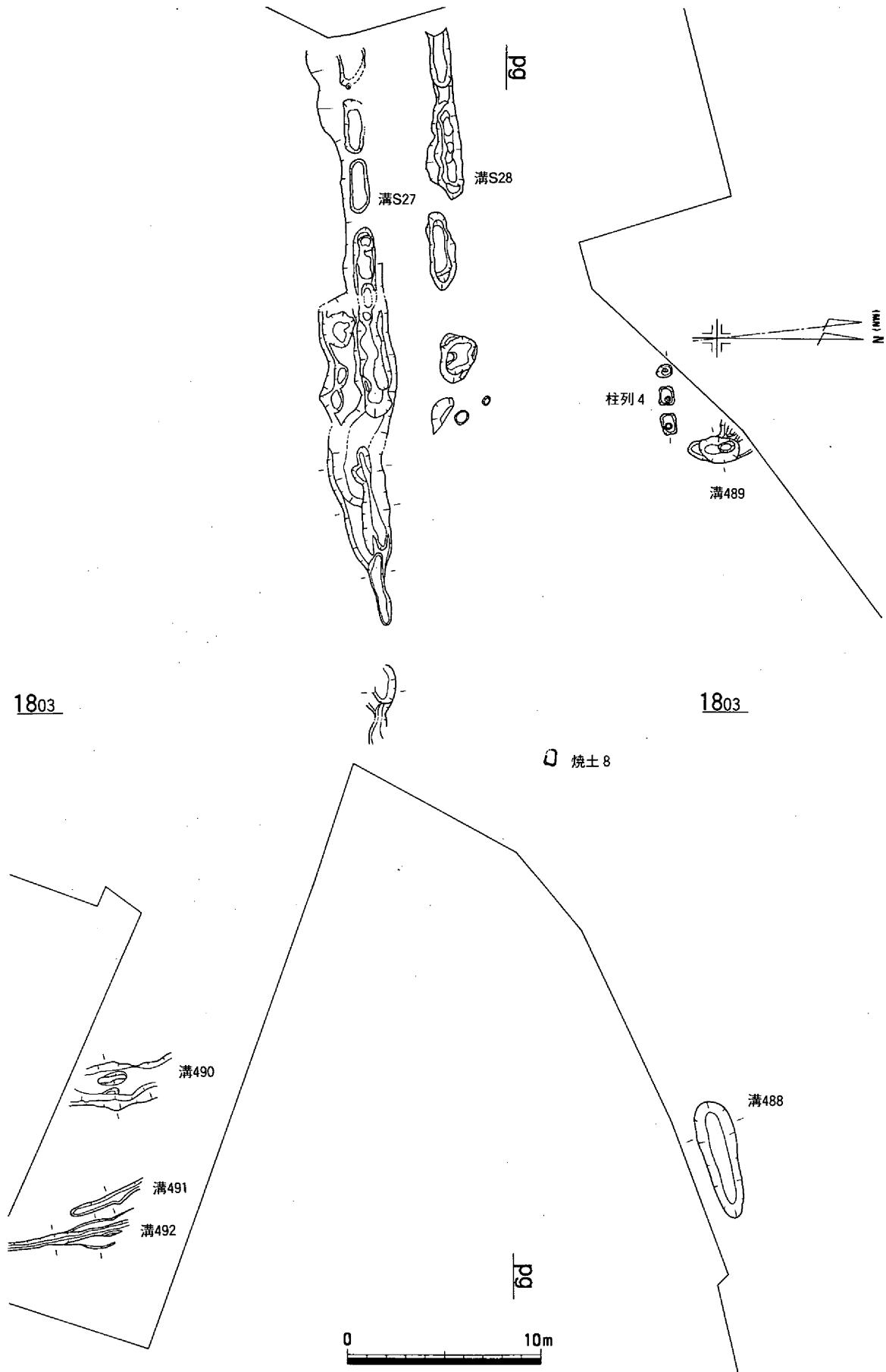
第591図 古代部分全体図(2)(1/300)



第592図 古代部分全体図(3)(1/300)



第593図 古代部分全体図(4)(1/300)



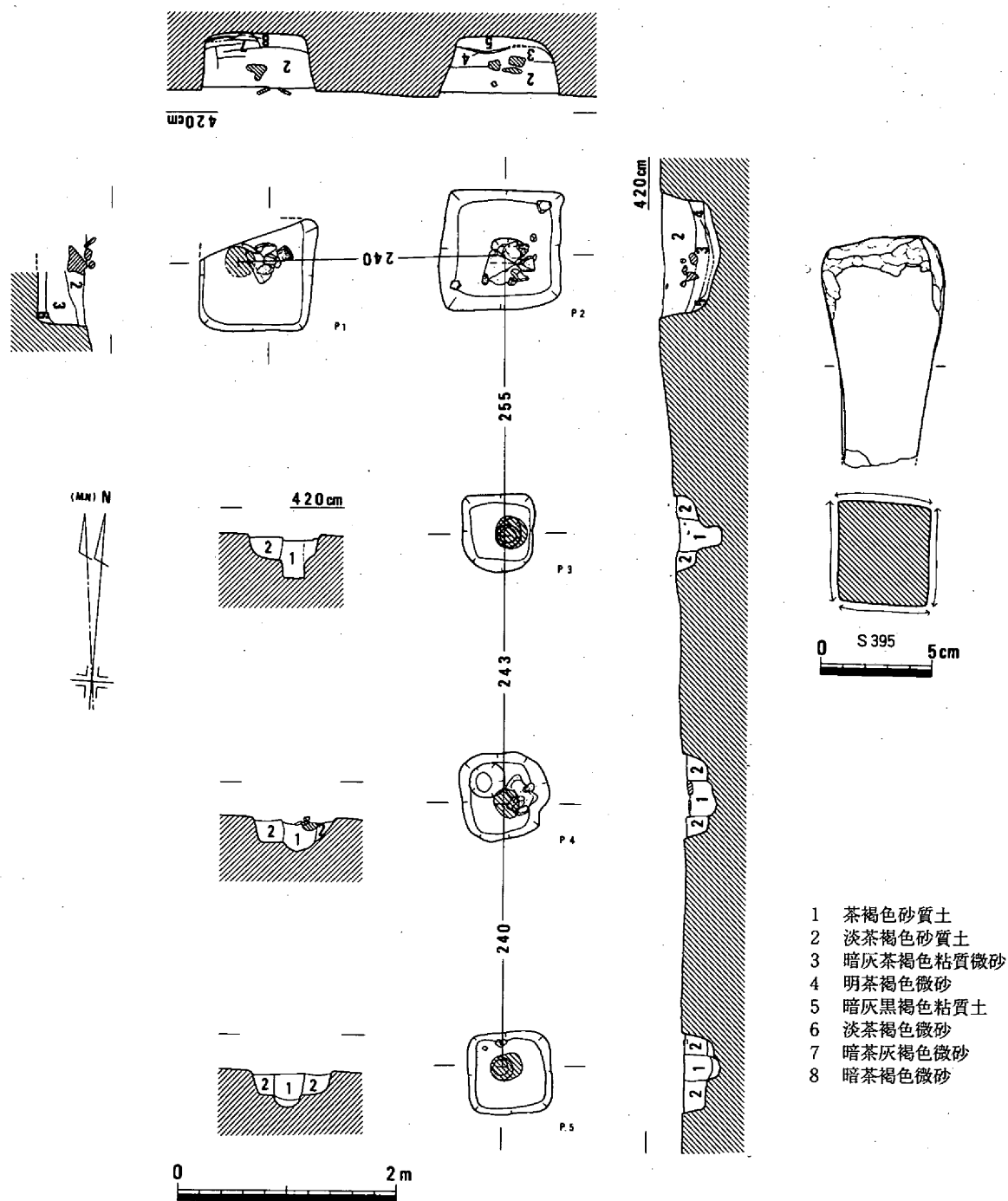
第594図 古代部分全体図(5)(1/300)

(2) 掘立柱建物

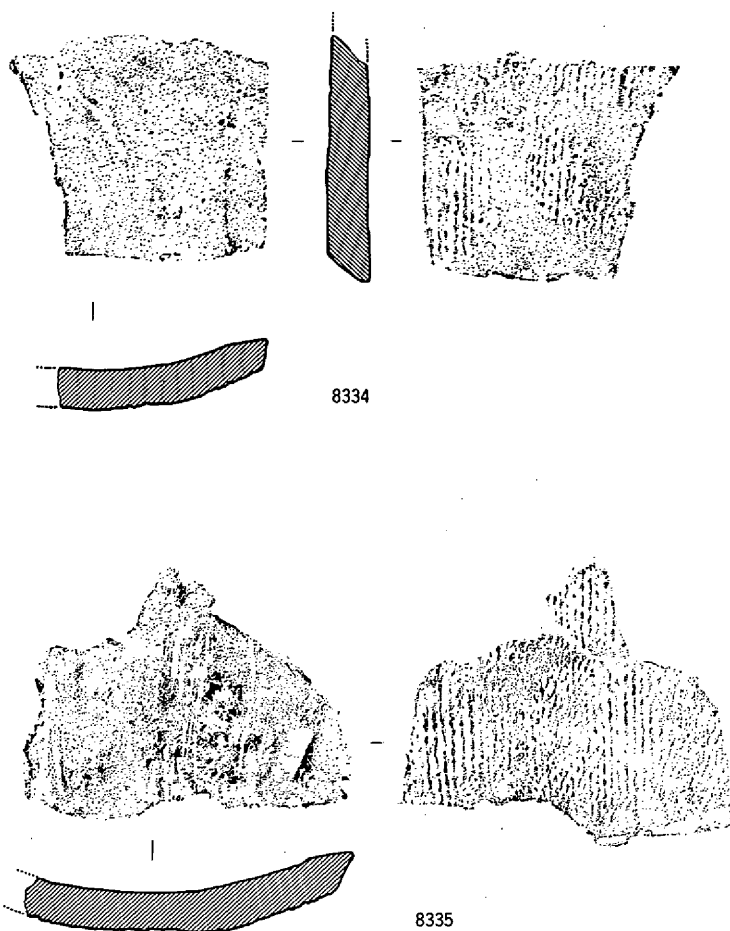
掘立柱建物-56 (第595・596図、図版36-1)

P17区の東北、橋脚 (P5区) に所在し、溝-476の南側9mに位置する掘立柱建物である。主軸をN-5°-Wにとり、真北と磁北の間におさまる。南北3間、東西1間までの確認であり、西および南に延びる可能性がある。

北側のP-1、2の柱穴掘り方が大きく、一辺90cmの方形にて深さ55cmをはかる。東側のP-3・



第595図 掘立柱建物-56(1/60)・出土遺物(1)



第596図 掘立柱建物-56出土遺物(2)

目上をナデ、ユビオサエ、凹面側に面取りが行なわれている。厚さ2cmをはかり、8335もほぼ同様であり、色調は灰色を呈する。S395はP-2より出土した流紋岩製の砥石であり、瓦と同じ目的で入れられている。

本建物桁行の738cmは掘立柱建物-67の桁行と同数値であり、桁においても240cm前後の単位が主である。柱間は8尺等間に近いものである。(高畑)

掘立柱建物-57 (第597図)

P17区の北東、橋脚(P3区)に所在し、東西溝-475の北西9.5mに位置する。1×1間の規模の建物と考えられるが、北東部の柱穴は検出が不可能であった。仮に、さらに延びるとすれば北側と東側の可能性が考えられる。

桁行475cm、梁間393cm、面積17.4m²をはかり、建物主軸はN-81°-Eをとる東西棟の掘立柱建物である。柱間は30cmで割切れ、桁行16尺、梁間13尺となる。柱穴掘り方は方形、あるいは不整形を呈し、一辺81~115cm前後、深さ48~67cmをはかる。P-1は掘り方直径81×86cm、深さ48cmをはかり、底面に60×45cm、深さ10cmの円形の窪みがみられる。P-3は平面方形にて119×114cm、深さ35~55cmをはかり、新旧2本の柱穴が重複している感じを受ける。P-4は掘り方上端(110)×85cm、深

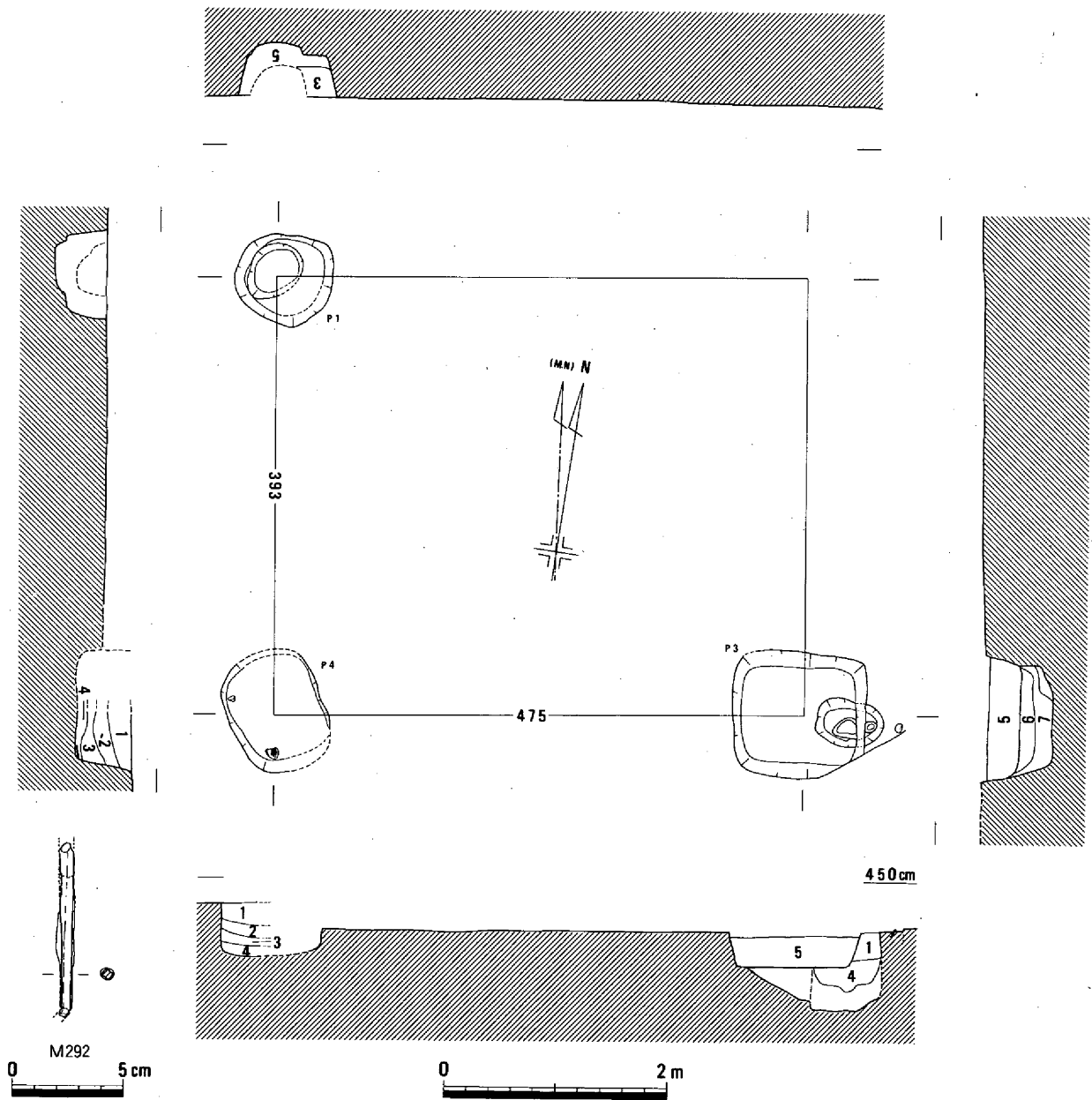
4・5は掘り方一辺65~68cm、深さ30~40cmをはかり、P-1、2より一回り小形である。P-2以外には直径25~30cmをはかる柱痕跡が認められる。柱穴埋土は淡茶褐色砂質土が使用されており、P-1、2では第2層の除去段階で本建物の柱を据えたと考えられる。長さ、幅ともに30cm前後、厚さ10cmの平石がみられ、柱の台石としている様子がかがえた。よって、第3層~第8層は少し古い段階の柱穴埋土と考えられるもので、柱穴掘り方規模の違い等からも建て替えの可能性が強い建物である。

遺物は埋土中に弥生土器、5世紀末~6世紀初頭の須恵器小片が混在している。P-1内からは柱の安定を保つため台石の基礎の一部に使用された平瓦の破片が出土している。8334、8335は凸面に縦位の縄目タタキを残し、5cm幅の縄目は11~12条と粗く、凹面は布

さ67cmをはかり、柱穴埋土は第1層～第4層の粘質微砂からなる。

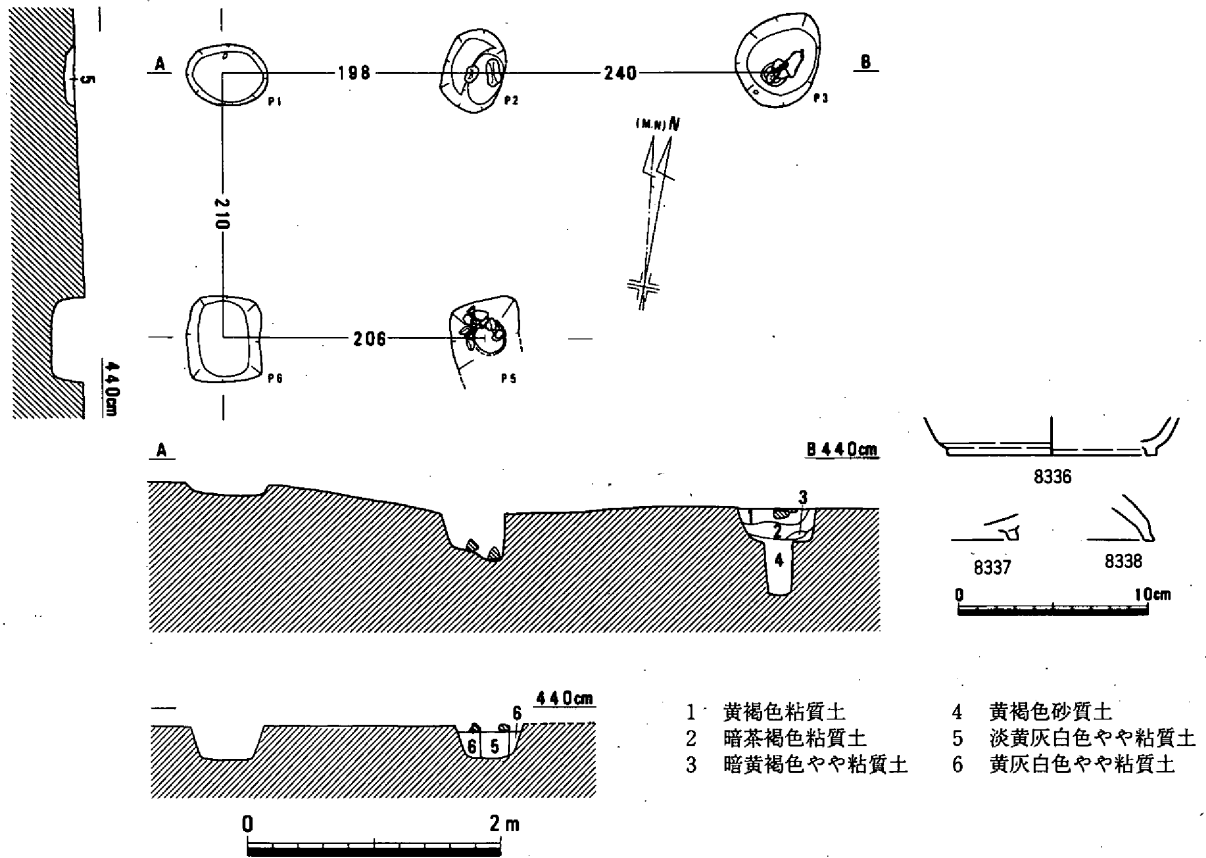
14棟の掘立柱建物の中で掘り方の規模は大形に入り、柱間の長い距離からは掘立柱建物-60に近い機能が考えられる。

遺物はP-3内から須恵器小片、鉄製品が出土している。M292は上端、下端が欠損しており、断面形は角釘状を呈する。残存長7.8cm、幅0.6cm、厚さ0.45cm、重量8.2gをはかる。(高畑)



- | | | | |
|--------------|------------|------------|-----------|
| 1 暗茶灰色褐色粘質微砂 | 3 暗茶灰色粘質微砂 | 5 暗灰茶色粘質微砂 | 7 暗茶黑色粘質土 |
| 2 暗褐色粘質微砂 | 4 暗灰茶色粘質微砂 | 6 暗茶色粘質土 | |

第597図 掘立柱建物-57(1/60)・出土遺物



第598図 掘立柱建物-58(1/60)・出土遺物

掘立柱建物-58 (第598図)

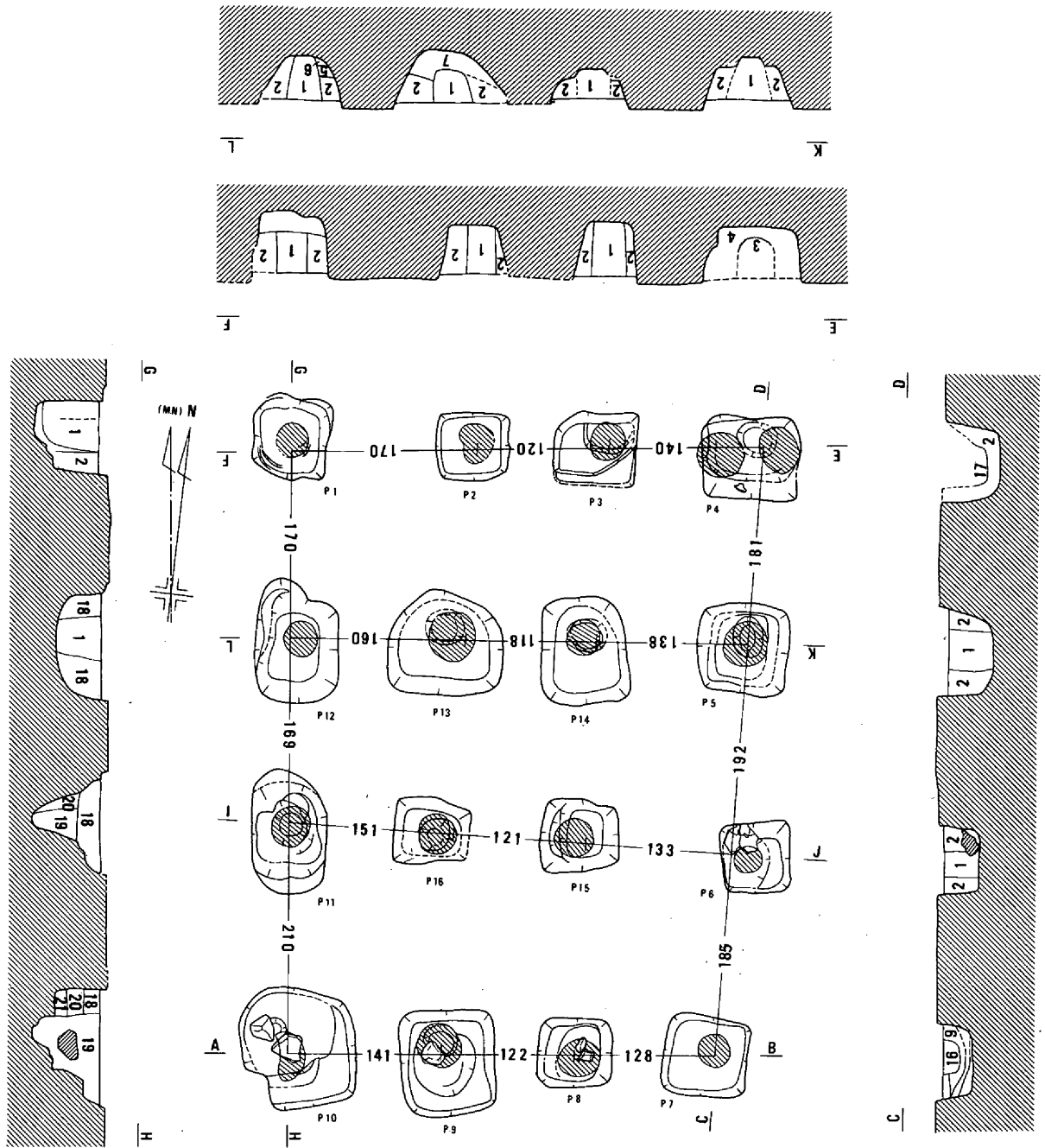
O17区の東北、橋脚 (P2区) に所在し、溝-478とか土壇-459の南側に位置する。2×1間以上の規模が想定できるが、南側、東側への延長は調査区内では確認できていない。よって、どの辺が桁行になるのか、梁間になるのかが不明確である。ここでは、とりあえず北辺を桁行と考えて規模を表示する。桁行 (438) cm、梁間210cmをはかり、棟方向はN-80°-Eの東西棟となる。しかし、今回出土した建物の中で梁間が210cmの1間で完結するものではなく、総柱的な建物になる可能性がある。桁は198cm、206cm、240cmのバラツキがみられる。

柱穴掘り方は方形、楕円形が混在しており、48~64cm~64×80cm、深さ8~68cmをはかる。P-5は一辺55cmをはかり、ほぼ中央に直径約25cmの柱痕跡がみられ、柱穴底より約20cm高い位置において、10cm前後の河原石でもって栗石状に根固めを行っている。P-3においても同様の行為が行なわれている。

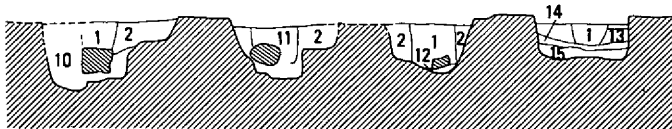
遺物はP-1内から須恵器片が2点、P-5から須恵器片が1点出土している。8336、8337は高台の付く杯身であり、底径11.0cmをはかる。8338は器の上下が不明である。 (高畑)

掘立柱建物-59 (第599・600図、図版36-2)

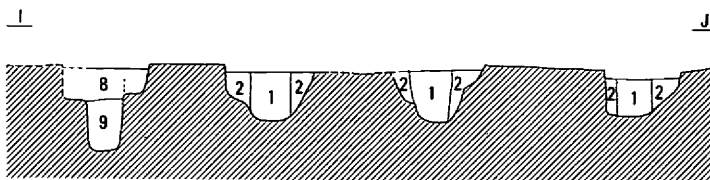
O17区の中央東寄り、長方形区画内の北西部に位置する。3×3間の総柱にて、棟方向をN-75°-Eにとる東西棟の掘立柱建物であり、立て替えが実施されている。西側桁行549~570cm、東側桁行558~570cm、北側梁間430~450cm、南側梁間が390~391cmをはかり、南側梁間が約40~60cm短い。



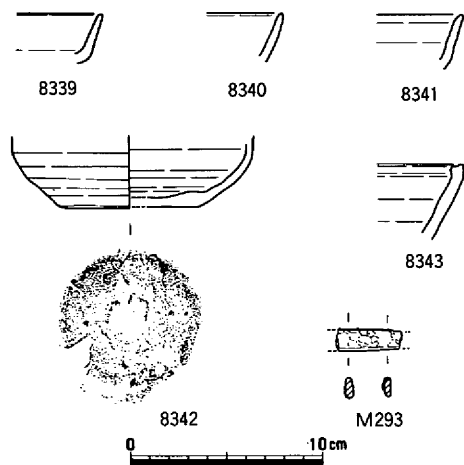
- 1 茶褐色粘質砂質土
- 2 茶灰色砂質土
- 3 茶灰褐色砂質土
- 4 明茶褐色粘質土
- 5 淡茶色微砂
- 6 茶色粘質砂
- 7 暗茶褐色粘質土
- 8 茶色粘質土
- 9 暗茶褐色粘質微砂
- 10 暗灰茶黑色粘質土
- 11 灰茶色砂が目立つ
- 12 茶色粘質微砂



- 13 暗茶褐色ブロック土
- 14 暗茶褐色ブロック土
- 15 淡茶色微砂
- 16 茶灰色微砂
- 17 こげ茶色微砂
- 18 茶褐色粘質微砂
- 19 暗茶褐色粘質微砂
- 20 灰茶褐色微砂
- 21 茶褐色粘質微砂



第599図 掘立柱建物—59(1/60)



第600図 掘立柱建物-59出土遺物

桁は170~210cm、梁118~170cmをはかり、柱穴掘り方は方形を呈する。掘り方規模は63×67cm~105×112cm、深さ35~69cmである。P-1、4、9、10等においては新旧の柱穴を合わせて計測を行っているため大きくなっている。

柱痕の直径は24~35cmまであり、柱は30cm前後のものが多く使用されている。柱痕は直接掘り方底に接地するもの、P-8~10のように古い柱の上に台石を設置したもの、あるいは、P-7のように第14、15層を客土し、その上に柱を立てたものなどがあり、立て替えが行なわれたことを物語っている。

台石の規模は小さいもので13×16cm、厚さ8cm、大きいもので22×28cm、厚さ17cmをはかり、南側の梁間

柱穴に使用されている。

遺物は柱穴内から須恵器小片が5点、鉄器1点が出土している。杯8339はP-4、杯8342はP-13、14内が接合、壺8343がP-2から出土している。8342は底径7.2cm、残存高3.8cmをはかり、底面に×印のヘラ描き沈線がみられる。 (高畑)

掘立柱建物-60 (第601図、図版36-3)

○17区東端、掘立柱建物-59の南側梁間から東側16mに掘立柱建物-60の北側梁間の西柱穴が位置する。1×1間で南北に少し長い方形を呈し、桁行485~505cm、梁間415~450cm、面積21.3m²をはかる。棟方向は南北になり、西桁でN-12°-E、東桁ではN-8°-Eの異なる方位がみられる。周辺の掘立柱建物と違い、主軸方位が磁北と真北間に納まらない建物である。柱穴掘り方は方形にて、73×76cm~95×95cm、深さ36~57cm、柱痕跡は直径30cm前後をはかる。掘立柱建物-57と構造的に類似すると考えられ、本建物の東桁と掘立柱建物-57の南桁行とが近い数値を示している。

遺物は柱穴内から須恵器片4点が出土しており、杯身8344がP-3、8345、8347がP-1、8346がP-2からの出土である。8344は混入品であり、古墳時代後期の杯身である。 (高畑)

掘立柱建物-61 (第602図、図版37-1)

○17区の東端、掘立柱建物-60の南側約3mに位置する。南側半分を近世の溝、土壌等により削平を受けており、確認できる範囲では(3)×2間まであり、東側桁行の南端柱穴が本建物のものかどうか不明である。

桁行440cm以上、梁間393cmをはかる南北棟の掘立柱建物であり、主軸はN-5.2°-Eである。桁は132~158cmをはかり、柱穴列-4に近い数値である。柱穴掘り方は方形にて、上面42×52cm~61×72cm、深さ36~57cmをはかり、柱痕の直径は25cm前後のものが多い。

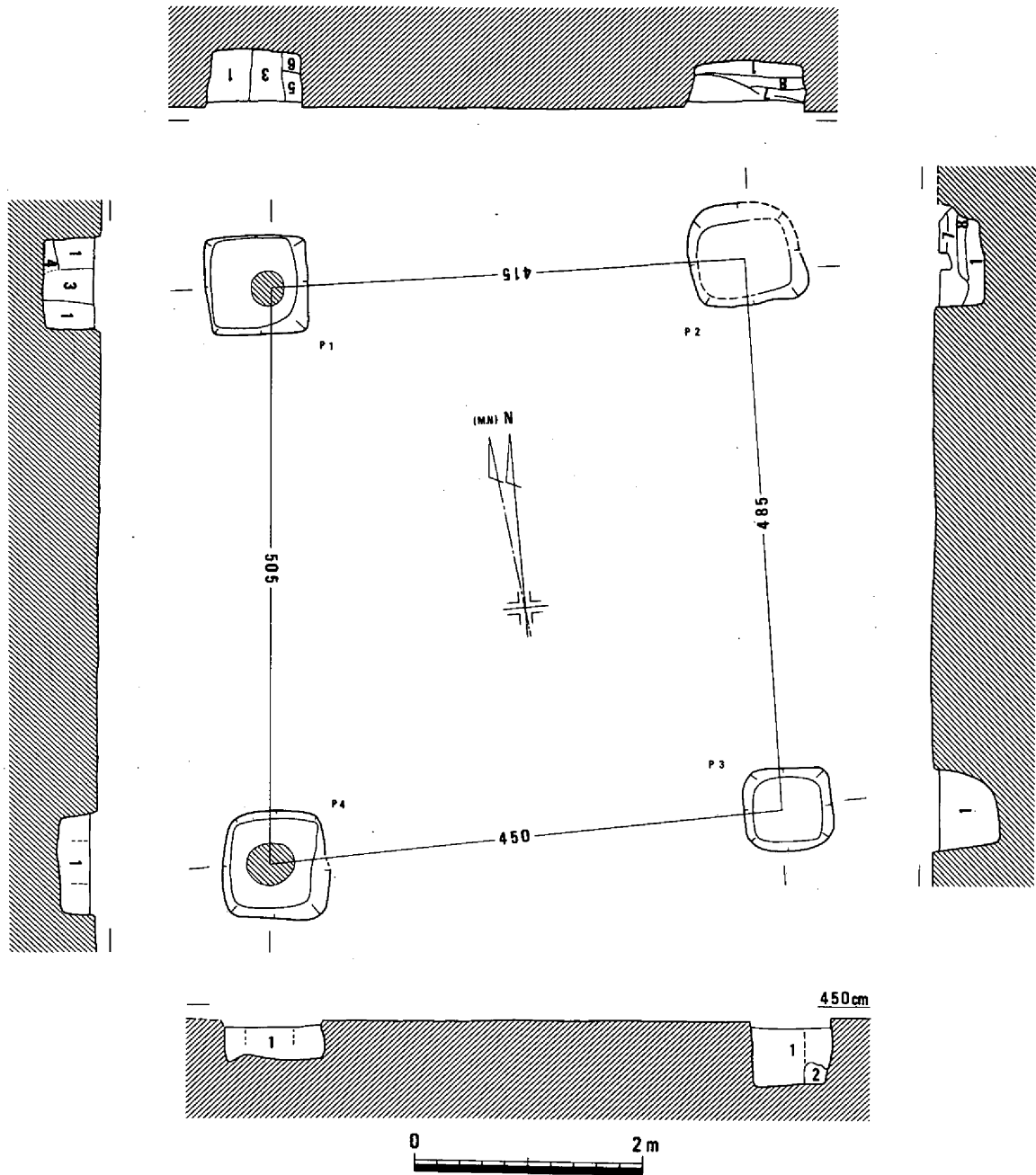
遺物は柱穴内から須恵器片が出土しており、そのうち西桁行の北から2番目の柱穴から須恵器8348、8349が出土している。

杯8348は口径13.8cm、残存高3.4cmをはかり、色調は灰白色を呈する。土器の回転は右廻りである。杯身8349は口径12.1cm、最大径14.9cm、器高4.35cmをはかり、底部整形は右廻りのヘラケズリであり、土器の回転(成形)は右廻りである。土器の示す年代は6世紀の第4四半期頃と考えられ、この時期

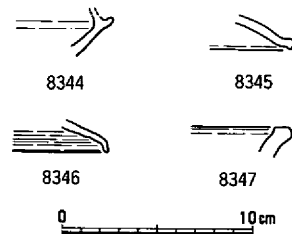
の竪穴住居は本建物のすぐ北東部に数軒がみられ、竪穴住居-318が最も近くに位置している。なんらかの形での混入と考えられるが、具体性は把握できていない。

奈良時代の掘立柱建物とは大幅に時期の隔たりがある。

(高畑)



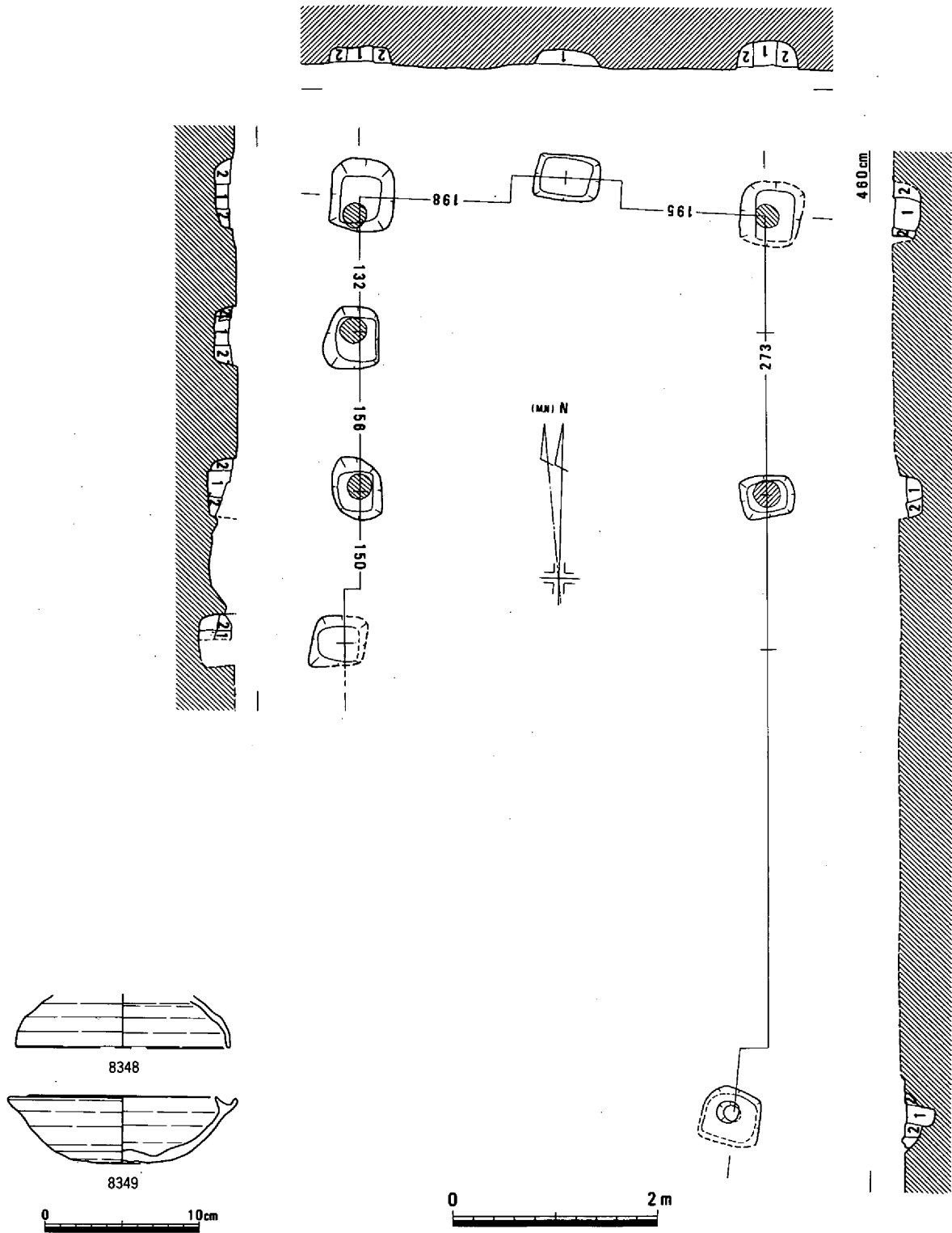
- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 明黄橙色粘質土
- 3 暗茶褐色粘質土
- 4 暗茶褐色粘質微砂 (鈍い橙色ブロック含む)
- 5 黄褐色粘質微砂
- 6 暗茶褐色粘質微砂
- 7 暗茶褐色土
- 8 鈍い橙色土



第601図 掘立柱建物-60(1/60)・出土遺物

掘立柱建物-62 (第603図)

〇17区の東側、長方形区画溝の北辺中央部に所在し、掘立柱建物-60、64に挟まれて位置する。
3×1間までが確認できたが、それ以上の広がりについては明確にしえなかった掘立柱建物である。



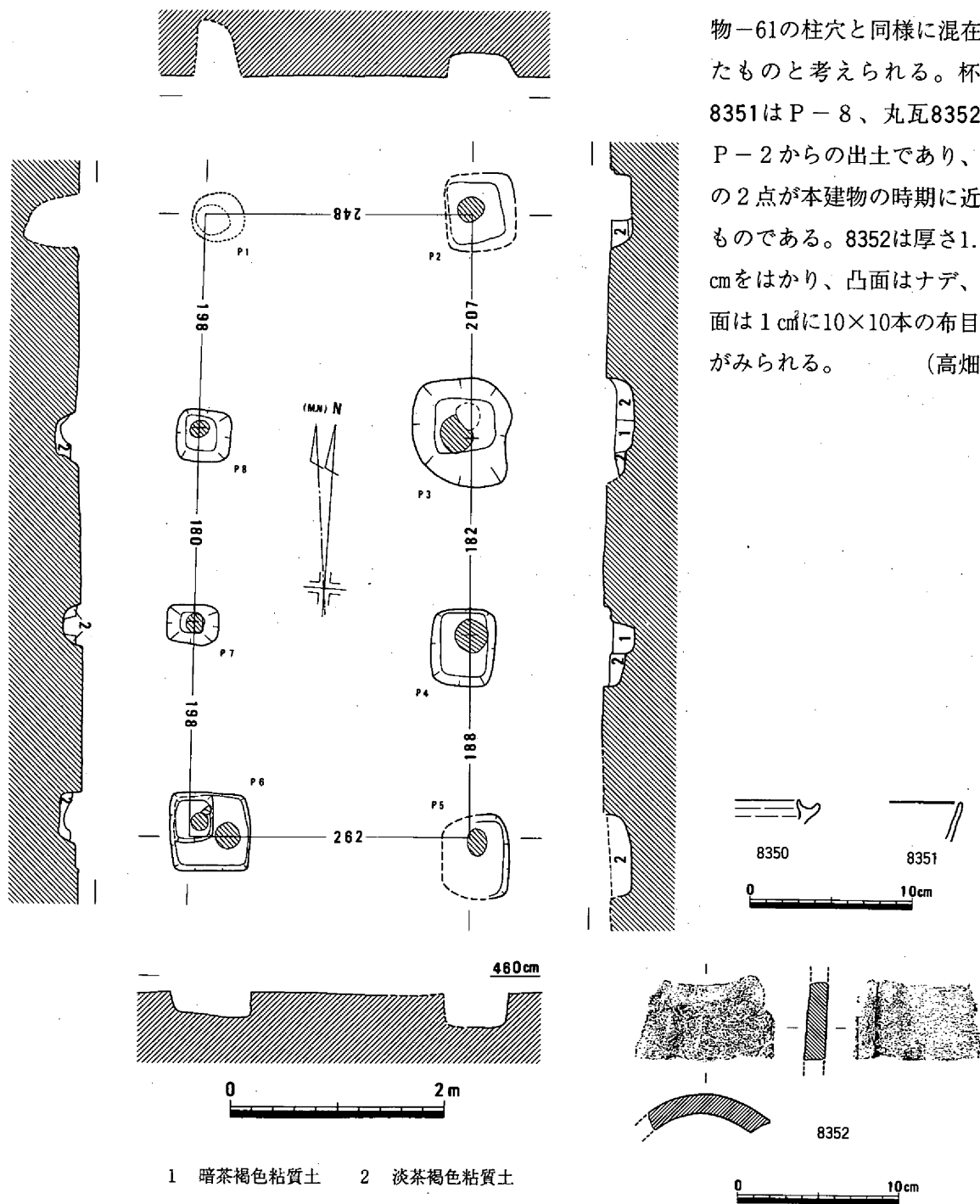
1 暗灰茶褐色粘質微砂 2 暗茶褐色粘質微砂

第602図 掘立柱建物-61(1/60)・出土遺物

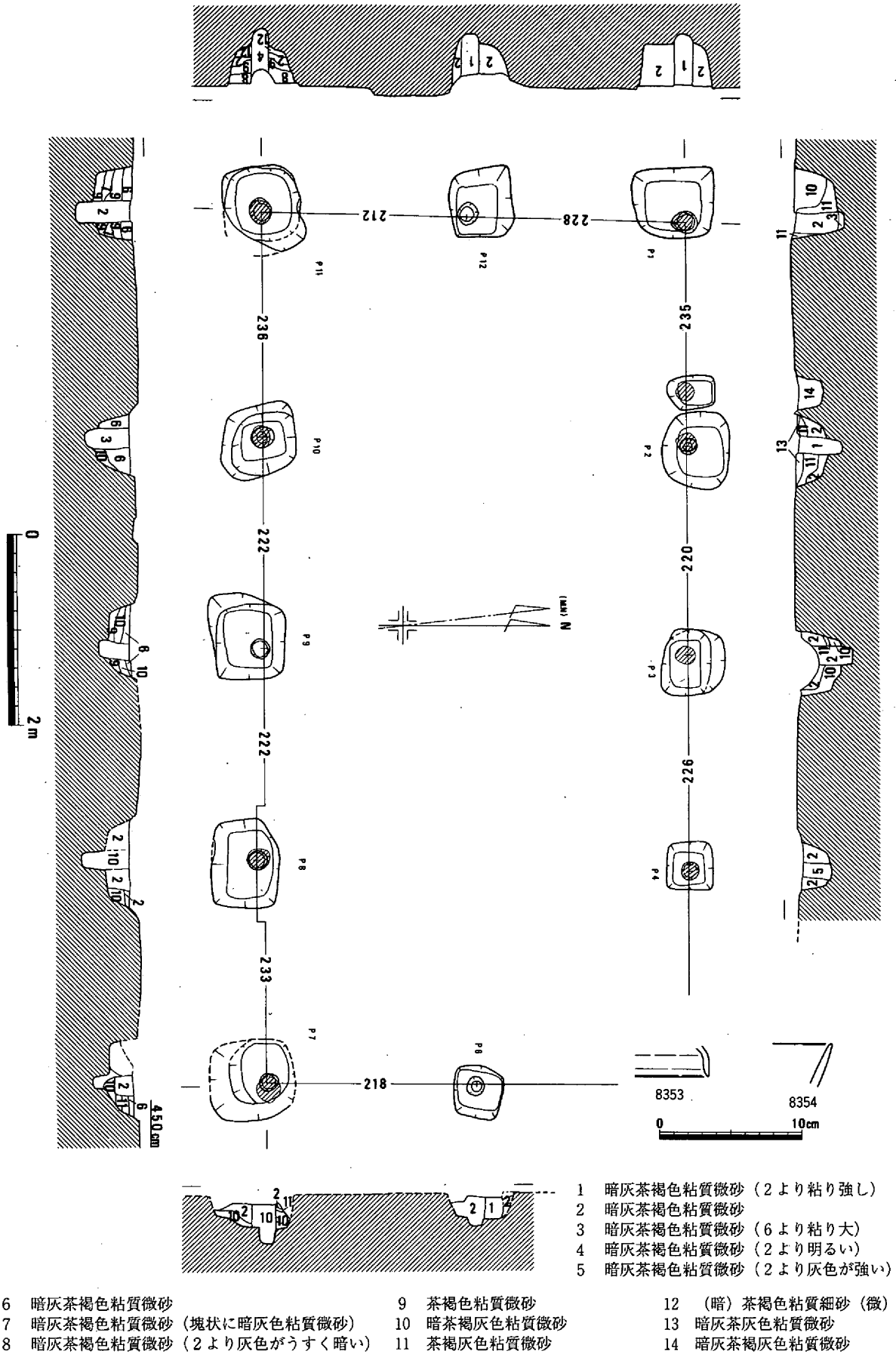
桁行577cm、梁間248~262cm、面積14.5m²をはかり、南北の棟方向でN-3.1°-Eをとる。桁は180~207cm、梁は248~262cmをはかる。柱穴掘り方は方形を呈し、37×48cm、91×102cmのバラツキがみられ、深さは17~20cmである。東桁行と両梁間の柱穴が大きく、西側のP-7、8が小規模であり、柱痕の直径は16~25cmをはかる。柱穴規模、建物西側の柱穴状の遺構を考慮すれば、建物は西に延びる可能性がある。本建物の東桁行の長さは、掘立柱建物-59の桁行の数値に近いものである。

遺物は、柱穴内から須恵器、土師器等の小片35点が出土しており、杯蓋、杯身、甕、壺の器種が認められる。しかし、小片ゆえに図化はむずかしく、8350、8351の2点のみである。杯身8350はP-5

から出土しており、掘立柱建物-61の柱穴と同様に混在したものと考えられる。杯身8351はP-8、丸瓦8352はP-2からの出土であり、この2点が本建物の時期に近いものである。8352は厚さ1.15cmをはかり、凸面はナデ、凹面は1cm²に10×10本の布目痕がみられる。(高畑)

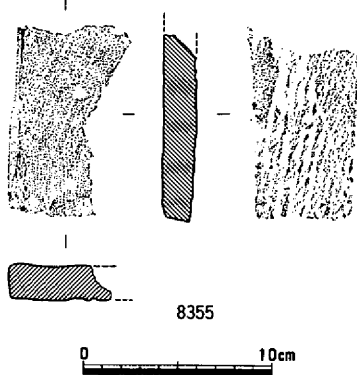


第603図 掘立柱建物-62(1/60)・出土遺物



第604図 掘立柱建物-63(1/60)・出土遺物(1)

掘立柱建物-63 (第604・605図、図版37-2)



第605図 掘立柱建物-63出土遺物(2)

O17区の東、長方形区画溝内の北に所在し、掘立柱建物-61の北東に位置する。4×3間の東西棟の掘立柱建物であり、主軸方位をN-82.5°-Wにとる。北東隅のP-9は中世の井戸によりほとんど削平を受けており、一部痕跡をかすかにとどめる。桁行905~913cm、梁間433~440cm、面積39.8m²をはかり、桁は220~236cm、梁は212~218cmである。

柱穴の掘り方は方形であり、35×47cm、74×96cm、深さ26~56cmをはかる。南北に長い掘り方と、東西に長い掘り方がみられ、桁行方向に長い掘り方が多く、P-2・3、7~9、11・12等がそれにあたる。柱穴内は直径16~25cmの柱根跡が認められ、直径20cmのものが多くみられる。どの柱穴底にも柱痕の径とほぼ同数値を示す小穴がみられ、5~25cmまでの深さがある。遺物はP-3を除いてすべての柱穴から出土しており、5世紀末から奈良時代までの時期幅が認められる。8353、8355がP-12、8354がP-6、出土であり、後者が掘立柱建物の時期に近い杯身である。(高畑)

掘立柱建物-64 (第606図)

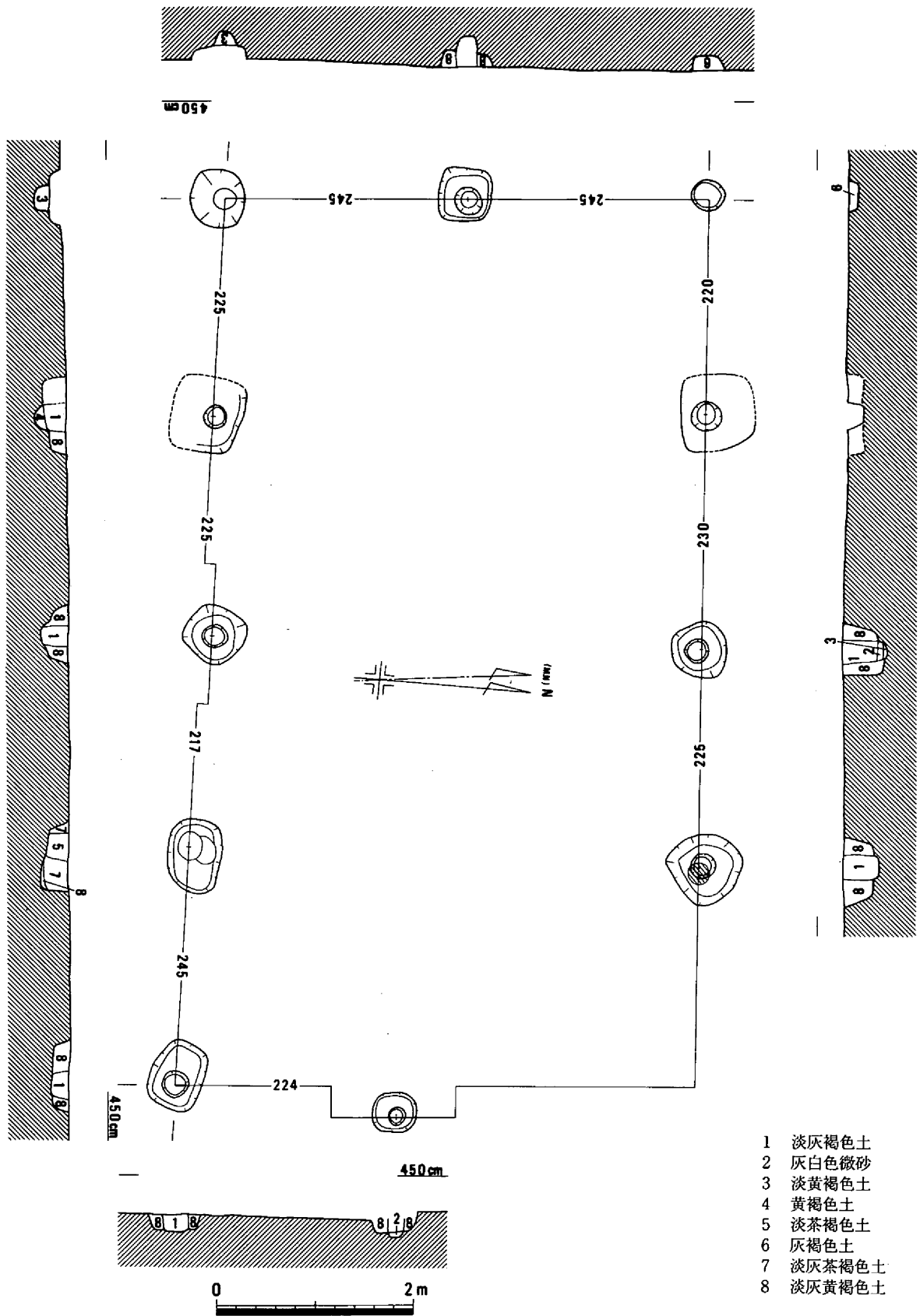
O17区東中央部で検出された建物である。方形区画の内側の溝-N28が途切れる北辺中央部に位置する。調査の進行上、3つの小調査区にまたがり、同時に調査を進行していないため、北東隅の1本が不確定であるものの掘立柱建物と認識した。掘立柱建物-63の北にあり、これと梁を揃える同規模の掘立柱建物である。

規模は、4×2間の側柱建物であり、棟方向は東西に向く。桁行は912cm、梁間490cmを測る。柱間は梁方向で245cm、桁方向で217~230cmを測った。柱穴はやや歪つであるものの、おおむね一辺80cmほどの方形を呈している。全体的に遺存状況は不良で、最も深いものでは45cmほどあるが、浅いものでは10cm未満である。特に北西隅の1本は掘り方自体は無く、柱痕跡のみが確認された。このことから、未検出である北東隅のものは削平されているとも考えられる。柱穴の掘り方の埋土は灰褐色を基調とするもので、柱痕跡はややこれに茶色を帯びる。なお、南辺の柱穴には、柱痕跡が2本認められるものがあり、建て替えがあったことが考えられる。

柱穴からの出土遺物には土師器・須恵器の細片があるものの、これらは、重複した古墳時代の竪穴住居のものが混入したものと判断された。この遺物の時期が建物の時期とは考えられず、他の方形掘り方を有する建物や、その棟方向、柱穴埋土などの状況から方形区画内の一群の建物の一つとして理解した。なお、この建物は区画北辺中央にあるが、正殿と判断されるほど突出した規模でもなく、また北門的な構造をとるものでもなく、評価に苦慮するものであり、今後の類例を待ちたい。(大橋)

掘立柱建物-65 (第607図)

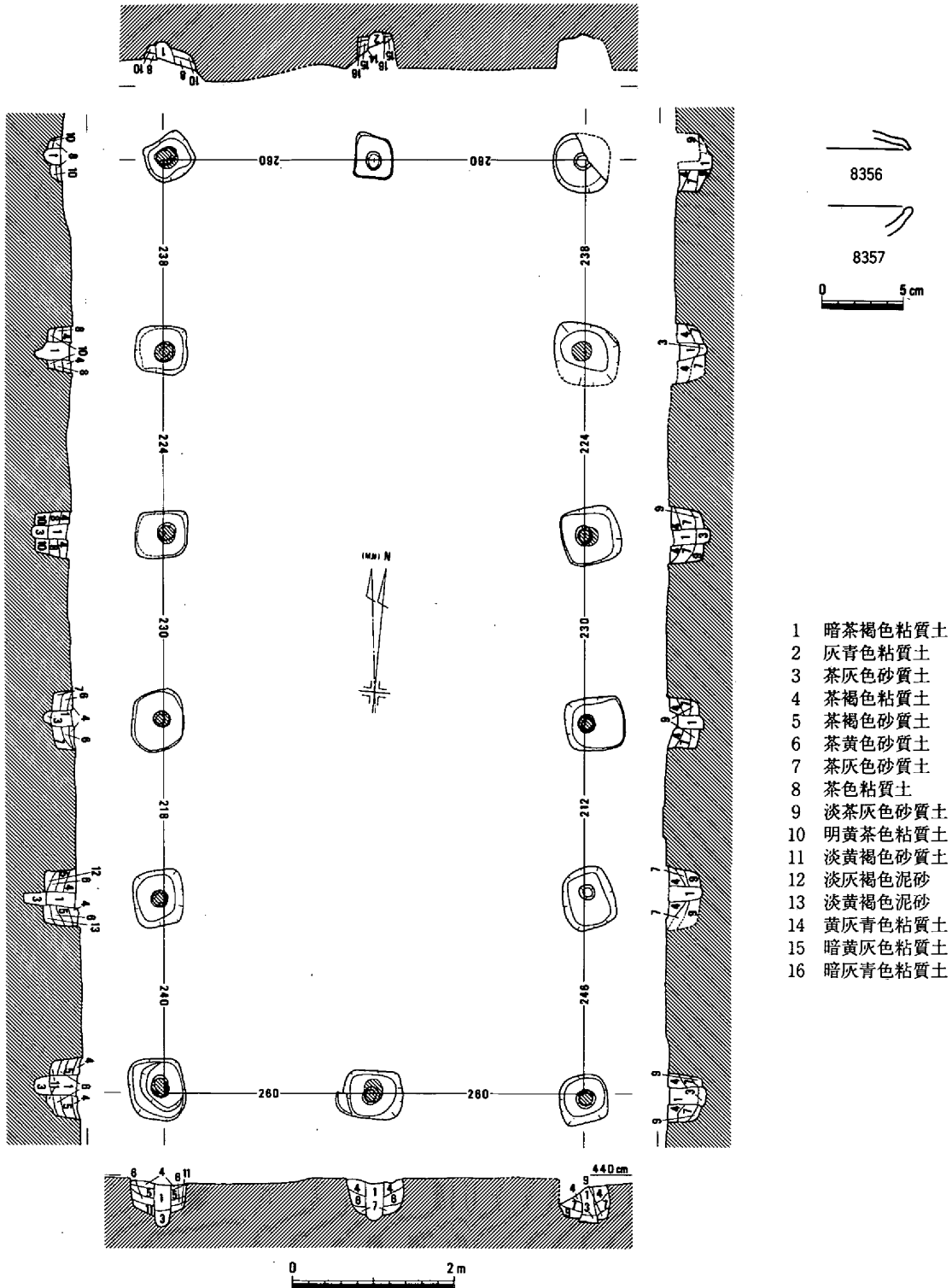
この掘立柱建物-65は、いわゆる方形区画内に存在し、掘立柱建物-63の南東約11mに検出された。後述する区画溝東辺際に存在する掘立柱建物-67~69の西側約12mに平行して存在し、区画溝(内側)からは西約20mの位置にあたる。掘立柱建物は、南北に長い5×2間の規模で、棟方向はN-1.5°-Eを示す。桁行は、約1,150cmで、梁間は約520cmを測り、面積は約60m²である。柱間は、桁が246~



第606図 掘立柱建物一64(1/60)

212cm、梁が260cmを測る。柱穴は、いずれも方形の掘り方で、柱痕跡が残存していた。柱痕は、径約20cm前後であった。

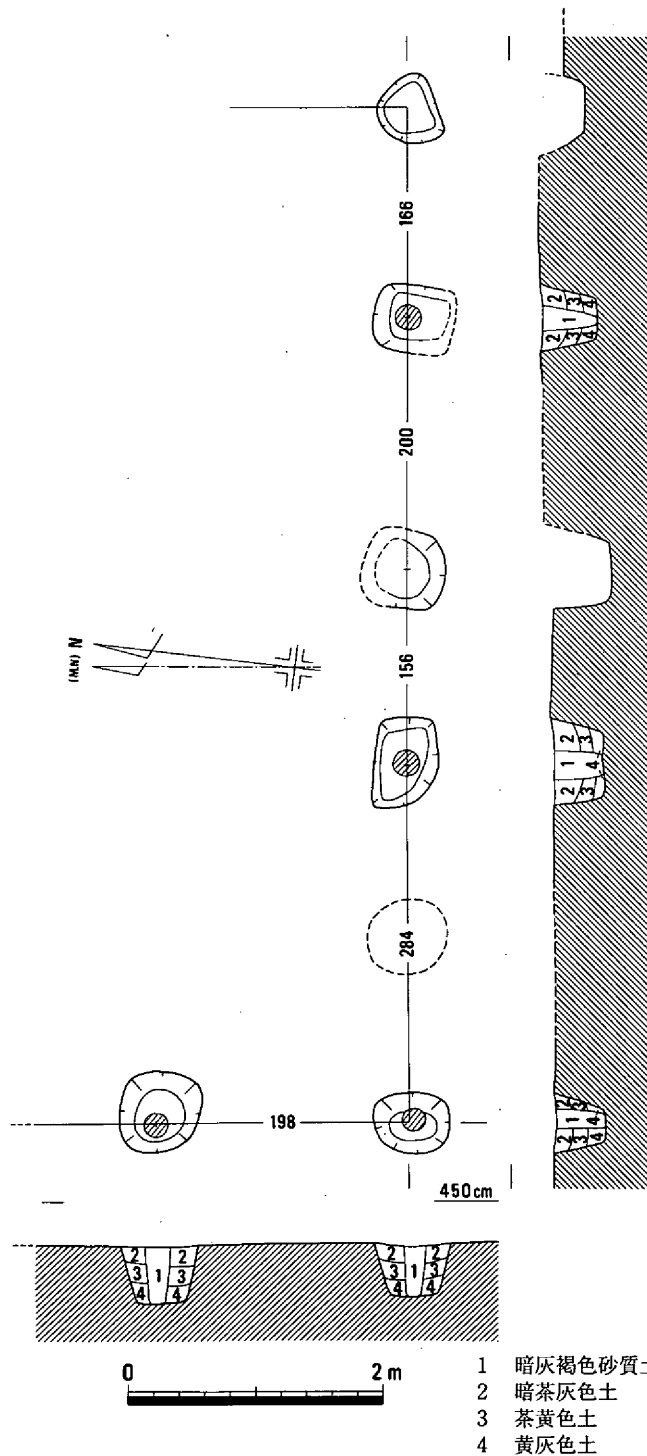
出土遺物は、須恵器、土師器の小片が少量検出された。図示できたものは8356・8357の2点であった。8356は、須恵器の杯蓋、8357は丹塗りの土師器の杯身である。これらの土器は、いずれも8世紀前半期の特徴を示していた。(中野)



第607図 掘立柱建物—65(1/80)・出土遺物

掘立柱建物-66 (第608図)

この掘立柱建物は中屋調査区の北端部分に存在するが、北側部分が調査範囲外になるため、全容を明らかにすることができなかった。同時期の建物には、南東方向約15mの地点に掘立柱建物-67が検出され、西方向約20mの地点に掘立柱建物-64が確認されている。これらの建物はほぼ直交または平行する方向に配置され、その東側と北側には建物群を囲む溝が存在している。



第608図 掘立柱建物-66 (1/60)

掘立柱建物の規模は、桁行が806cmで5間となり、柱間の最大距離は200cmである。梁行は不明であるが、検出された同時期の建物から推定して、2間になると考える。なお西側に検出された梁行の柱間は、別の建物とほぼ同じ距離の198cmである。建物の棟方向はN-83°-Eとなり、検出した柱穴の掘り方は方形または隅丸長方形に近い形を呈している。柱穴の深さは47~55cmで、断面形は「U」字形となり、柱痕跡を検出した。

この掘立柱建物-66は、2条の溝によって長方形に囲まれた掘立柱建物群のうちの1棟で、2×5間の規模で北東隅に位置すると考えられた。

この建物に伴う遺物は図示できなかったが、柱穴内から出土した少量の須恵器や土師器の小破片の観察結果から、掘立柱建物群を囲む溝と同時期の8世紀中葉に属するであろう。(福田)

掘立柱建物-67 (第609図、図版39-1)

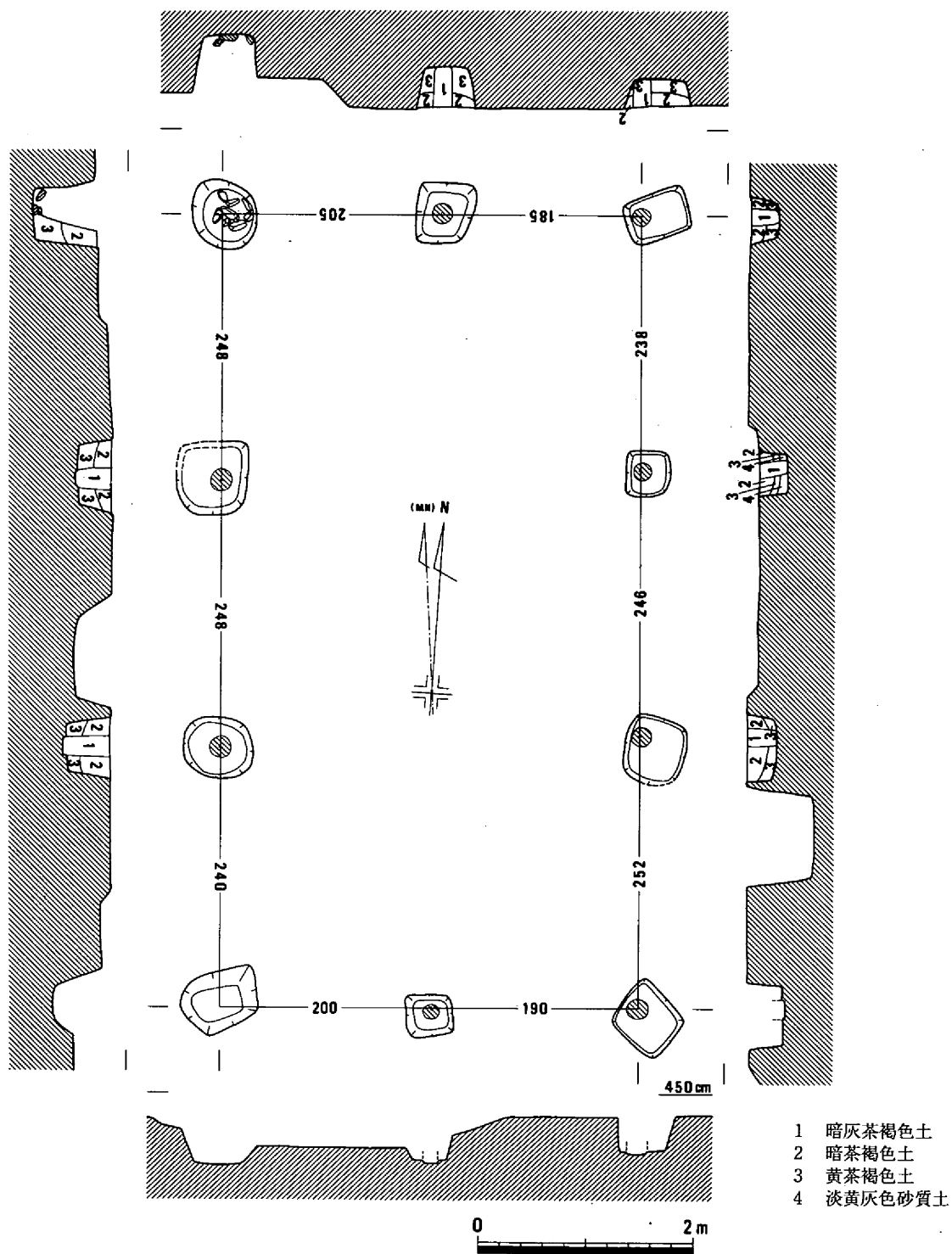
中屋調査区の北端部分に位置するが、東側には掘立柱建物群を囲む溝-E27と溝-E28が存在する。また北西方向約15mの地点には前述した掘立柱建物-66が検出され、南方向約15mの地点には掘立柱建物-68が確認されている。

この掘立柱建物の棟方向はN-4°-Wを示し、桁行が3間で736cm、梁行が2間で390cmになる。検出した柱穴の平面形は方形または隅丸長方形に近い形態を呈し、その大きさは43×44cmから68×68cmである。柱穴の検出面からの深さは

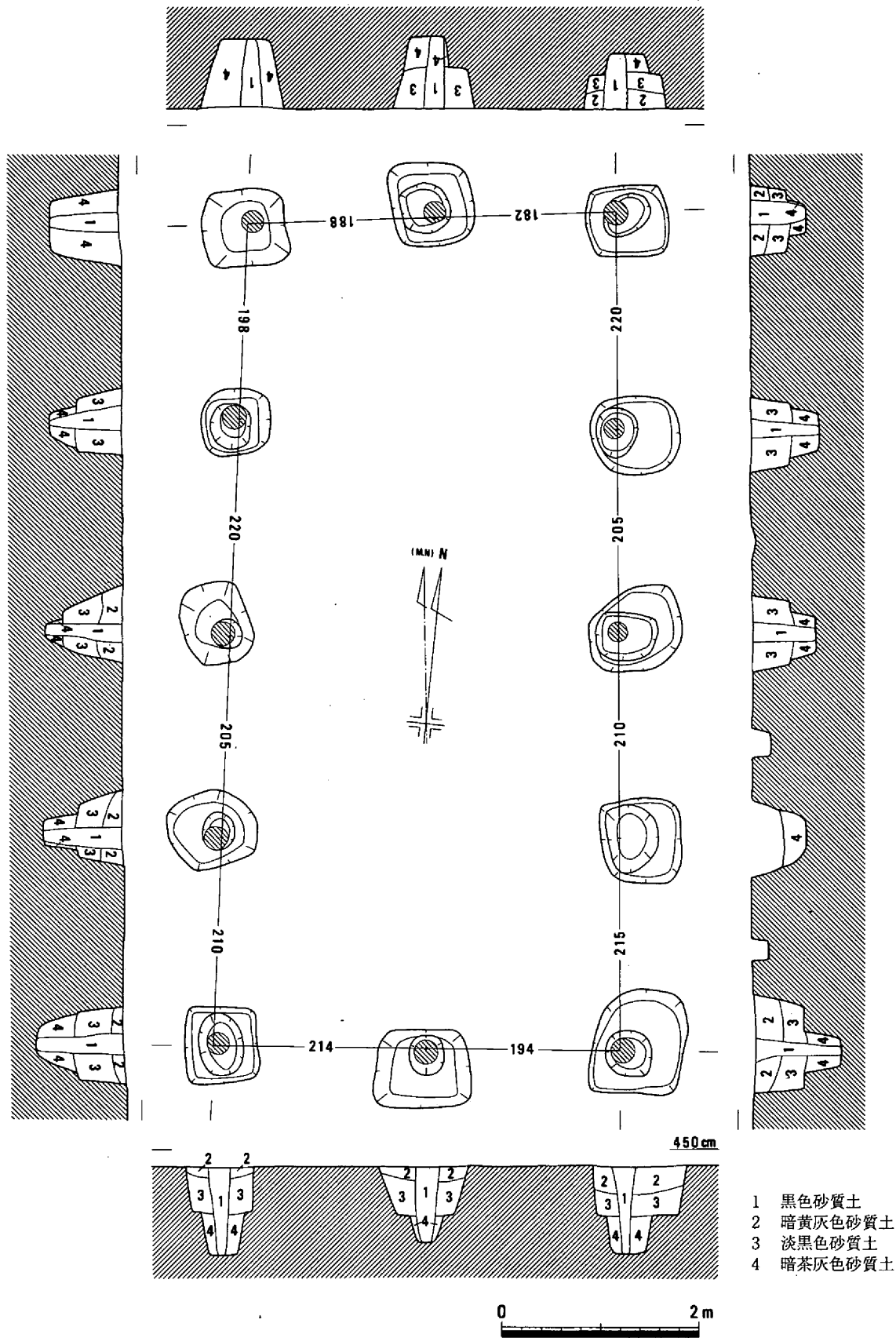
25～59cmを測り、断面形は「U」字形で柱痕跡が確認されている。北西隅に位置する柱穴では、底部に数個の河原石が存在した。柱間の計測値は、桁行で238～252cm、梁行で185～205cmである。

この掘立柱建物-67は、後述する掘立柱建物-68や掘立柱建物-69と棟方向が同じで直線的に並んでおり、東側に隣接して2条の溝が掘立柱建物の棟方向に平行して存在することが判明した。

掘立柱建物-67の柱穴から出土した遺物は、いずれも小破片の土器で図示することができなかったが、その調整手法や形態的特徴などから、8世紀中葉の時期に属するであろう。(福田)



第609図 掘立柱建物-67(1/60)



第610図 掘立柱建物一68(1/60)

掘立柱建物-68 (第610図、図版39-2)

中屋調査区の北側部分に位置する掘立柱建物で、北方向15mの地点には掘立柱建物-67が検出され、南方向約15mの地点には掘立柱建物-69が確認されている。

この掘立柱建物の棟方向はN-4°-Wを示し、桁行4間、梁行2間になっている。桁行の距離は西側833cm、東側850cmとなり、東側がやや長い。梁行についても北側が370cm、南側が408cmで、南側がやや広い。柱穴の平面形は隅丸方形または隅丸長方形に近い形態を呈し、その計測値が68×70cmから90×105cmで、どの掘立柱建物の柱穴よりも規模が大きくなっていた。また検出面から底部まで56~90cmを測り、すべての掘立柱建物の柱穴よりも深く掘り窪められていた。このような柱穴は2段掘りが行われ、柱痕跡も存在し、柱間が桁行で198~220cm、梁行で182~214cmであった。

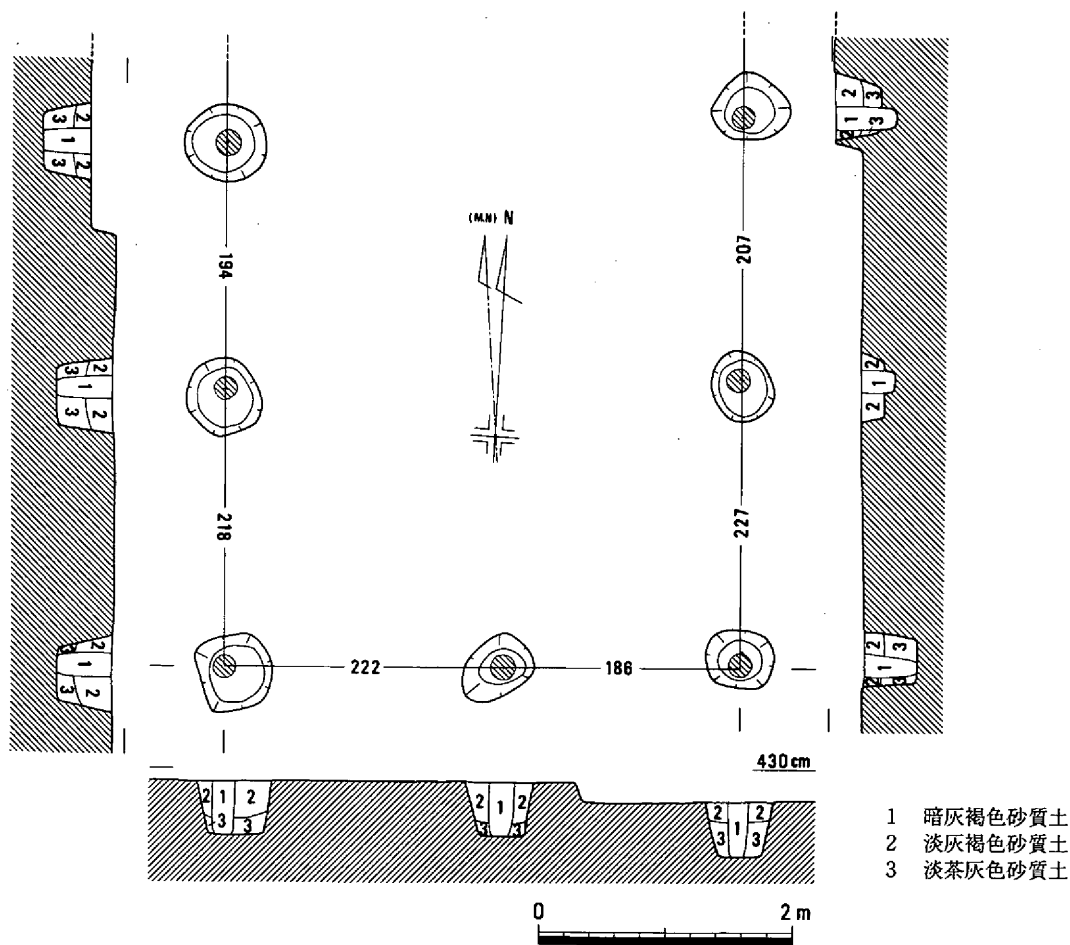
掘立柱建物-68の時期は、ほかの掘立柱建物と同様に8世紀中葉になるであろう。(福田)

掘立柱建物-69 (第611図)

中屋調査区の北側部分に位置し、北方向約15mの地点に掘立柱建物-68が存在する。

この掘立柱建物の棟方向はN-3°-Wを示し、梁行が2間で408cmを測るが、桁行は不明である。柱穴の平面形は楕円形に近い形態で規模が小さく、検出面から底部まで浅いものが多い。確認した柱間は、桁行が194~227cm、梁行が186~222cmであった。

この掘立柱建物-69も8世紀中葉の時期になると考えるが、遺物は出土しなかった。(福田)



第611図 掘立柱建物-69(1/60)

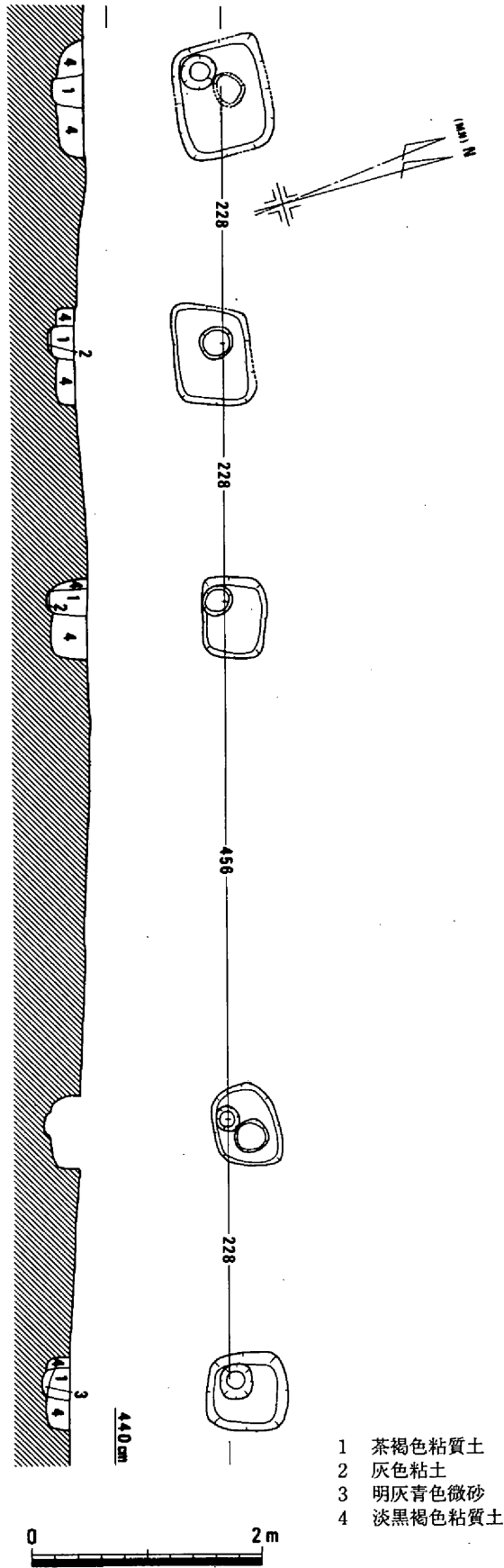
(3) 柱穴列

柱穴列-3 (第612図)

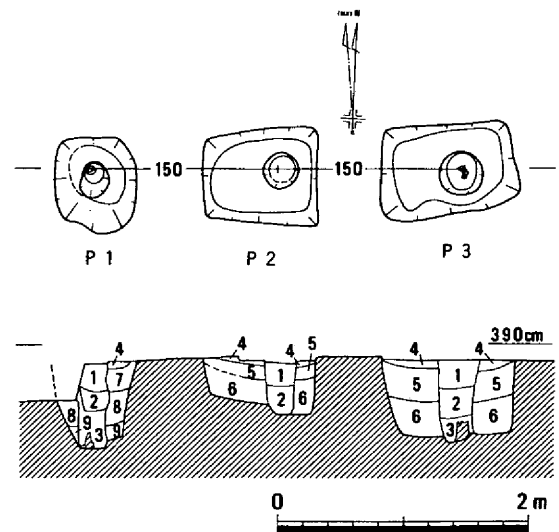
掘立柱建物-64と重複して検出された。柱間228cmで5本の柱穴が並ぶものであるが、うち1本が欠けているものと思われ、5間あったものと勘案される。掘立柱建物の側柱の列と推測されたが、対になる側柱が検出できなかった。柱穴は1辺100cm弱の方形を呈し柱痕跡は径約20cmほどあった。方形区画溝、およびその内部の建物の方形と異なり、同時期のものとは考えがたい。(大橋)

柱穴列-4 (第613図)

柱穴列は、方形区画の南端の中央やや東側に位置する。柱穴列は、東西方向に3本が検出され、柱間は各々約150cmを測る。柱穴の平面形は、方形および長方形を呈し、深さは約70cmを測る。P-1、P-3の底部には、柱痕が残存しており、ヒノキ材であった。P-3の東側には柱穴は検出されず、北側には溝-489が存在することから、P-3が北東隅部の柱穴と考えられる。柱穴列の



第612図 柱穴列-3 (1/60)



第613図 柱穴列-4 (1/60)

南側は後世の大溝のため大きく削平を受けており不明であるが、おそらく南・西に延びる東西方向に長い建物を構成する柱穴列と考えられる。(中野)

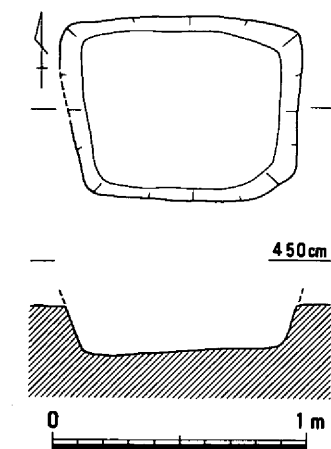
(4) 土壇

総数18基の土壇が確認されており、規模、平面形、深さ等は様々である。平面は方形、楕円形、円形がみられるが、用途等については不明である。土壇は奈良時代中頃の須恵器を含むものが多く、なかでも土壇-462、463、474~476等では須恵器以外に土師器皿・盤・甕・杯、瓦、釣燈籠形の土器等がみられる。

また、土壇-475、476は長方形区画溝内にみられる溝と呼称した土壇形状に非常に近いものである。(高畑)

土壇-459 (第614図)

第614図 土壇-459(1/30)



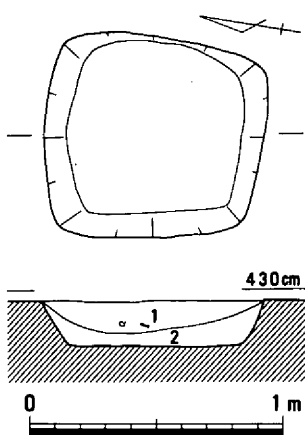
O17区の南東、橋脚(P2区)に所在し、土壇-461の1.5m南側に位置する土壇である。形状、規模ともに類似する土壇-460、461が1.5~1.7mの間隔でもって近くにまとまっている。長さ96cm、幅73cm、深さ19cm、底面海拔高は412cmをはかる隅丸方形の土壇である。底は平面であり、壁は約72°の傾斜で立ち上がっている。

遺物は、埋土中に奈良時代の須恵器、丹塗りの土師器、煮沸用の甕片等が含まれている。(高畑)

土壇-460 (第615図)

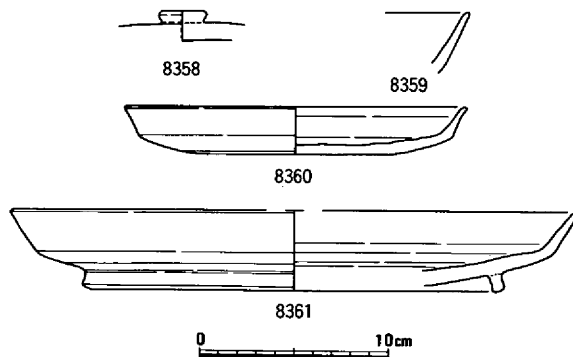
- 1 黄灰色土
- 2 褐色・灰色混合土

第615図 土壇-460(1/30)



土壇-459の北西1.8mに位置する隅丸方形の土壇である。長さ87cm、幅80cm、深さ18cm、底面海拔高407cmをはかる。底面は平坦であり、壁は約60°の傾斜で立ち上がっている。埋土は2層からなり、第1層の黄灰色土中に遺物がみられる。

遺物は土壇-459と同じく、弥生・古墳時代の土器片、奈良時代の須恵器、土師器片が含まれるが、すべてが実測不可の小片である。(高畑)

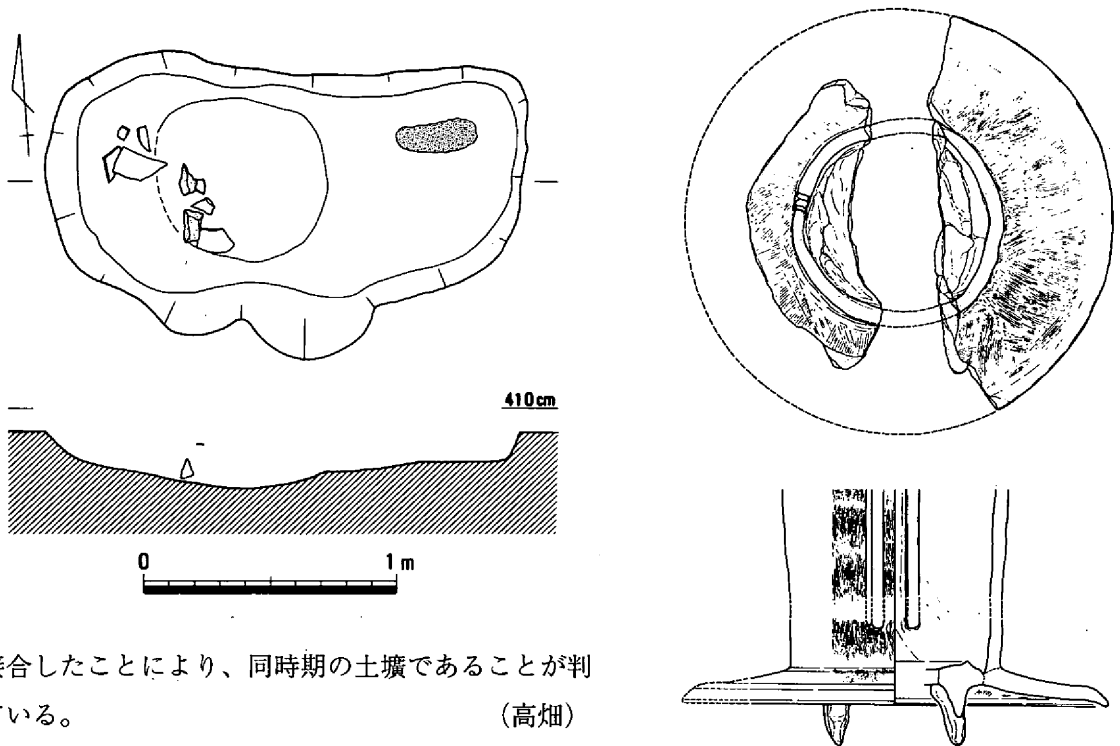


第616図 土壇-461(1/30)・出土遺物

土壙-461 (第616図)

〇17区の南東、橋脚 (P 2区) に所在し、土壙-459の1.5m北側に位置する土壙である。長さ95cm、幅79cm、深さ18cm、底面海拔高411cmをはかる。土壙-459と長軸は直角をなすが、ほぼ同規格の土壙と考えられ、底部平坦面から立ち上がる壁面の傾斜、掘り方等にも非常に類似点があり、これら3基は同時期に存在した可能性が指摘できる。

遺物は第1層の暗褐色土と灰色土の混土層内より出土しており、須恵器杯蓋、杯身、皿等がみられる。皿8360はほぼ完形品にて、口径18.0cm、器高2.61cmをはかり、色調は灰色を呈する瓦質の須恵器である。外面底は左廻りのヘラケズリ、内面底は仕上げナデが施されており、土器の回転は右廻りである。溝-478A内出土の破片と接合したものである。土壙-459~461の3基から出土した稜椀の小

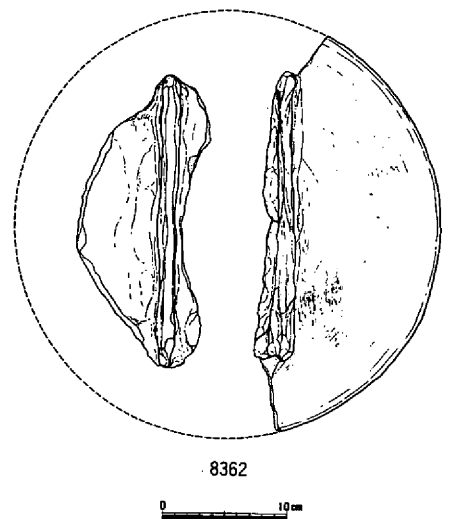


片が接合したことにより、同時期の土壙であることが判明している。(高畑)

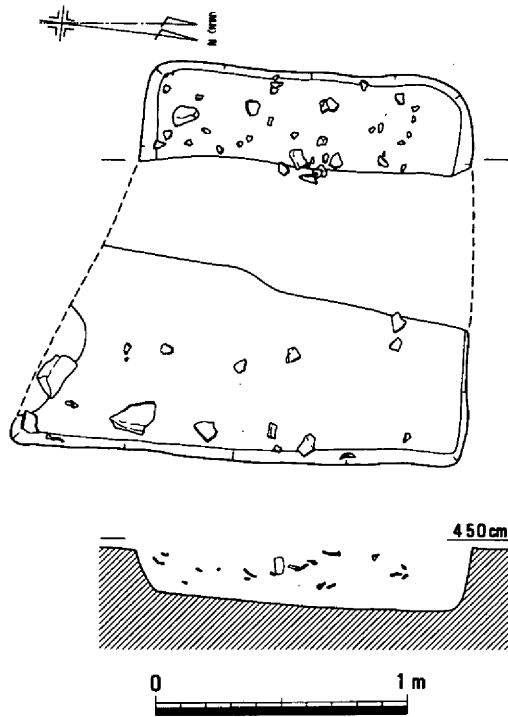
土壙-462 (第617図)

〇17区のほぼ中央、長方形区画溝内の北西隅に位置する不整楕円形の土壙である。長さ190cm、幅112cm、深さ22cm、底面海拔高411cmをはかる。断面は楕円形を呈し、底面の西側に直径約60cmの浅い窪みが見られる。

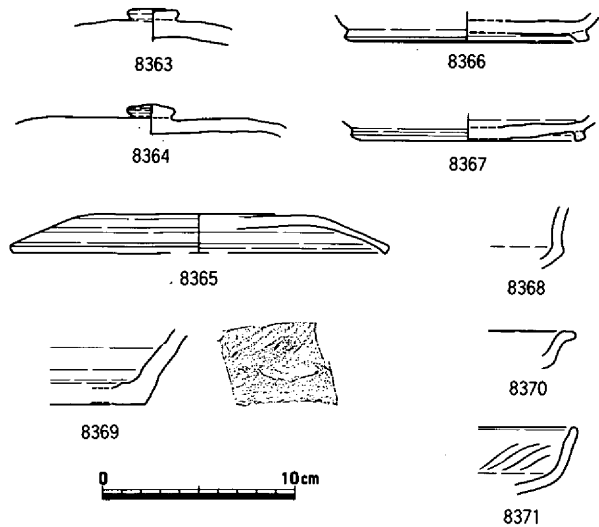
遺物は埋土中から出土しており、西側から投棄された状況を呈する土器である。一見、釣燈籠の形状に似るかと思うが、器形は把握できない。底部は直径33.9cm、厚さ1.5cmをはかる笠状の円板の下部に、長さ23cm、幅約2cm、高さ4.8cmの棒状粘土を下駄の歯の形状に貼り付け、足としている。そして、円板の上部に直径約17cm、厚さ1.3cmほどの円筒を立ち上げており、その胴部縦位には幅1.1~1.4cmの長方形透しが2条1対で四方向に設



第617図 土壙-462(1/30)・出土遺物



けられている。残存高は20.4cmをはかり、器外面は縦位のハケメ、円板と筒部の接合屈曲部はヨコナデが施されている。器内面はナデ、脚部はユビオサエによる圧痕がみられる。色調はにぶい橙色を呈し、



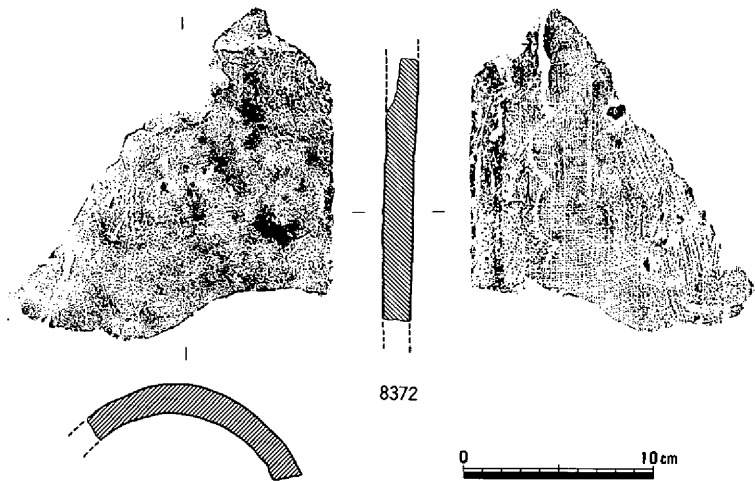
胎土に金雲母、および白色小砂粒を含んでいる。また、円板部には部分的に煤の付着が認められる。

この土器は溝-W28との破片接合による復元実測である。

(高畑)

土壌-463 (第618図)

O17区の中央東、溝-N28と掘立柱建物-59の間に位置する土壌である。長さ180cm、幅57cm、深さ25cm、底面海拔高



第618図 土壌-463(1/30)・出土遺物

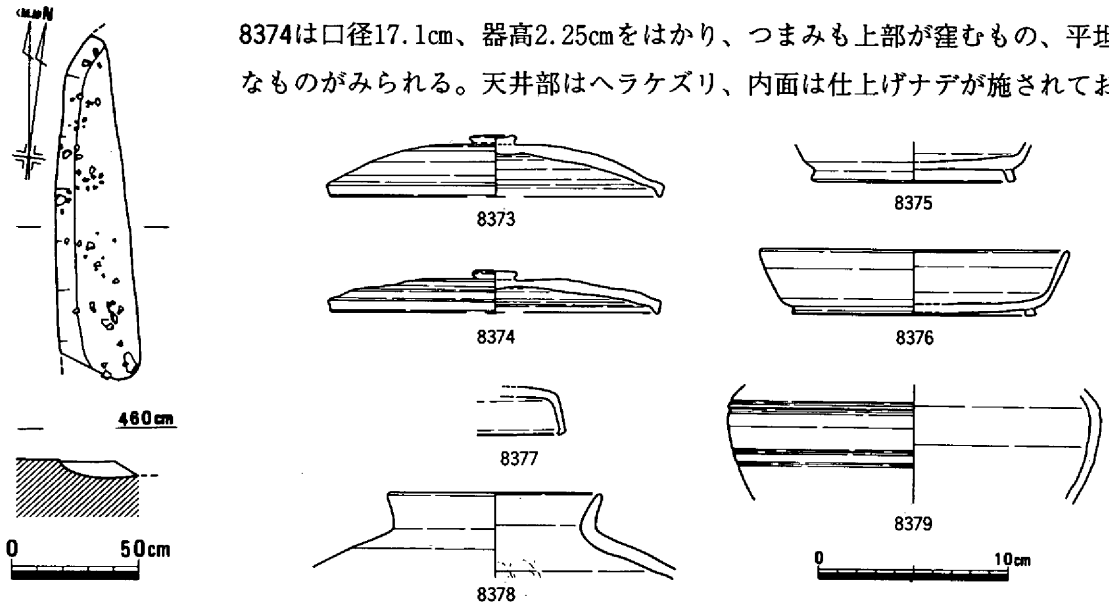
378cmをはかり、不整形を呈する。底部は平坦面を持ち、北側に少し傾斜している。土壌北辺は溝-N28と並行しており、土壌中心が掘立柱建物-59の中央線上に配されている。遺物は埋土上層から小片が多く出土しており、須恵器の杯蓋、杯身、稜椀、甕、土師器の皿、杯身、瓦等がみられる。土壌の掘削後にしばらく時間の経過があって投棄されたようである。8363、8364のつまみは扁平と宝珠の2種類がみられ、天井部のヘラケズリは左廻りである。杯身8366、8367の高台は外に少し張り出す短い付高台である。皿8370は内外面に丹塗りが施されており、8371は口辺部内面に斜放射暗文が1段みられる。丸瓦8372は凸面に不規則なナデ、凹面には粘土の接合痕が波状に残っており、その上に布目がみられ、1cm²に8~9本の糸を数える。(高畑)

土壌-464 (第619図)

O17区の中央東、掘立柱建物-59の南側に位置し、東、南側が削平された土壌である。土壌-463、

第3章 調査区の概要

464が掘立柱建物-59の南北に位置する格好となる。残存長133cm、幅31cm、深さ9cm、底面海拔高は439cmをはかる。土壙-463と対面する出土位置からは、掘立柱建物-59を挟んだ同規模の土壙の可能性も考えられる。遺物は土壙-463と同様に床着のものではなく、埋土上層からの出土遺物であり、破片が中心である。須恵器は杯蓋・身、壺蓋、壺、土師器は杯蓋・身があり、丹塗りのもの、そうでないものの二者がみられる。8373は推定復元で口径17.2cm、器高3.2cm、8374は口径17.1cm、器高2.25cmをはかり、つまみも上部が窪むもの、平坦なものがみられる。天井部はヘラケズリ、内面は仕上げナデが施されてお

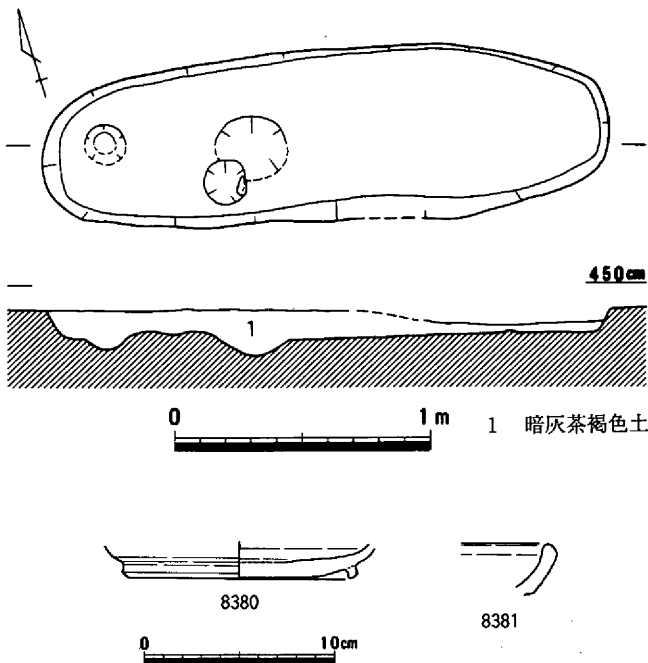


第619図 土壙-464(1/30)・出土遺物

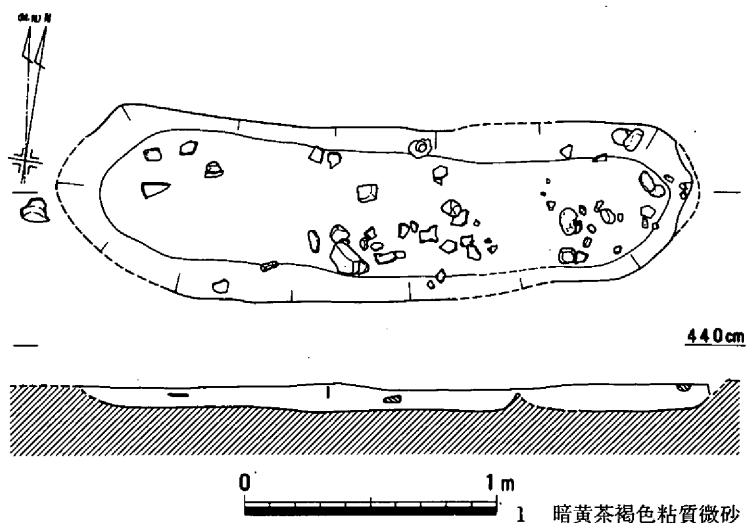
り、ヘラケズリは左廻り、土器の回転は右廻りである。8376は口径16.2cm、器高3.45cmをはかり、底部はヘラケズリ後に付高台になっており、内面は丁寧な仕上げナデが施されている。ヘラケズリは左廻り、土器の回転は右廻りである。8377、8378は薬壺の可能性がある。 (高畑)

土壙-465 (第620図)

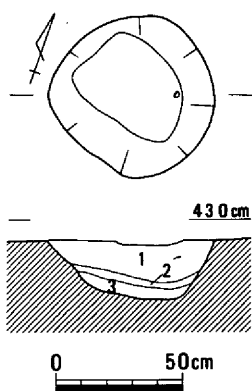
O17区の東、溝-N28の東端部、掘立柱建物-62の北西隅に位置する。6世紀末~7世紀初頭の竪穴住居-319の北東隅部を削平して作られた土壙である。平面は楕円形にて、長さ221cm、幅68cm、深さ11cm、底面海拔高は428cmをはかる。埋土は暗灰茶褐色土であり、溝-N28内の埋土とほぼ同一のものである。遺物は埋土中からであり、須恵器の杯蓋・身、壺、他に15片ほどが出土している。8380は杯身であり、高台径11.5cmをはかり、底部は左廻りのヘラケズリ、内面は仕上げナデが施されている。8381は大形の壺口縁部である。 (高畑)



第620図 土壙-465(1/30)・出土遺物

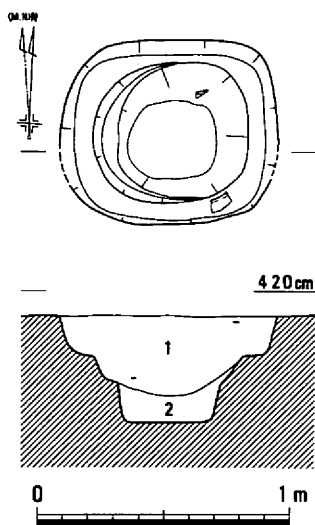


第621図 土壙-466(1/30)



- 1 暗黄褐灰色粘質微砂 (灰色強し)
- 2 黄褐色粘質微砂
- 3 暗灰褐色粘質微砂 (炭を含む)

第622図 土壙-467(1/30)



- 1 淡灰茶黑色粘質微砂
- 2 淡灰茶黑色粘質微砂(ブロック土多)

第623図 土壙-468(1/30)

土壙-466 (第621図)

○17区の中央東側、掘立柱建物-59の北西2.5mに位置する。長さ250cm、幅69cm、深さ11cm、底面海拔高は414cmをはかり、平面は楕円形を呈する。断面は平坦であり、皿形である。この土壙は溝-N28内に掘られたものであり、2基の土壙が連結をしている状態を示している。

検出面での海拔高が425cmをはかり、土壙底までの深さが約11cmである。検出面および土壙底の高

さは、ここより南113mに位置する溝-S28の検出面と35cm(海拔390cm)、土壙底では深いもので94cm(海拔320cm)、浅いもので49cm(海拔365cm)の差が認められる。

埋土は暗黄茶褐色粘質微砂の第1層である。

遺物は埋土中の上層であり、弥生時代中期末～後期初頭、古墳時代前期、奈良時代の須恵器、瓦等の小片がみられる。なかでも、古墳時代前期の土器片が目についた土壙である。これらの遺物に混り、円礫、角礫が26石出土しており、小さいものは2.5×3.0cm、大きいもので10×14cmをはかる。土器片等とともに投棄されたと考えられる。奈良時代の遺物については溝-28Nの説明で述べることとする。(高畑)

土壙-467 (第622図)

○18区の西、中世の井戸-9西隣に位置する円形の土壙である。長さ65cm、幅64cm、深さ23cm、底面海拔高399cmをはかり、断面は碗形を呈する。埋土は3層からなり、第3層の暗灰褐色粘質微砂には炭を含んでいる。

遺物は弥生時代後期初頭の土器片が10点ほどみられるが、土壙の時期は明確にしえなかった。(高畑)

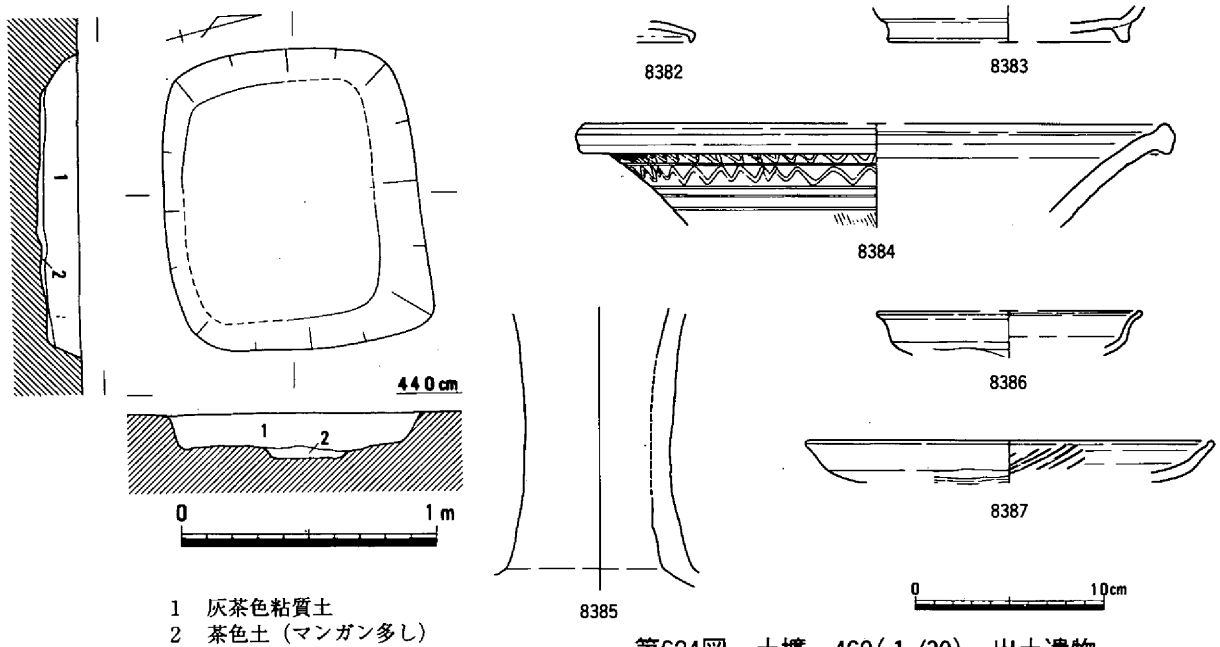
土壙-468 (第623図)

○17区の南東中央、掘立柱建物-65の西側に位置する土壙である。弥生時代中期末の土壙-373を切って作られており、長さ86cm、幅72cm、深さ42cm、底面海拔高368cmをはかる。平面は隅丸方形を呈し、断面は階段状になっており、2段を有する。埋土は2層からなり、第1層の淡灰茶黑色粘質微砂内に土器小片が含まれている。(高畑)

土壙-469 (第624図)

017区東端中央付近で検出された方形を呈する土壙である。掘立柱建物-64の北西約4mに位置する。長軸120cm、短軸100cmを測り、検出面からの深さは12cmほど残存していた。埋土は灰褐色を基調とするもので、区画溝の埋土と酷似する。なお、土壙底面には、マンガンの集積が認められた。

図示した出土遺物は、8382~8385が須恵器、8386・8387は土師器である。これらの出土遺物から土壙の時期は奈良時代前半に考えられる。 (大橋)



第624図 土壙-469(1/30)・出土遺物

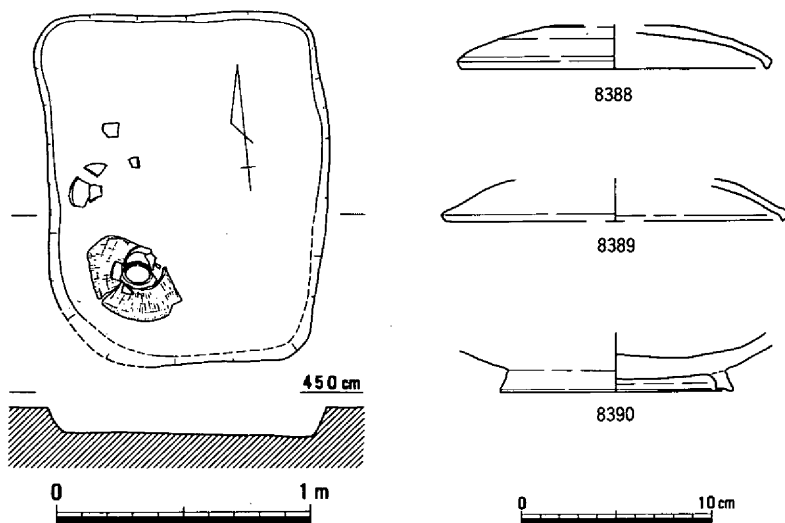
土壙-470 (第625・626図)

土壙-469の東隣に位置する。138×110cmの規模の方形をなす掘り方を有し、長軸方向を南北に向ける。検出面からの深さは12cmあり、底面の海拔高は435cmである。底面は平坦であり、埋土は土壙-469と同じく灰褐色土である。

遺物は、8388~8391の須恵器を図示したが、このほかに丹塗り土師器の細片が確認された。8388・8389は蓋、8390は長頸壺の高台部か。8391は甕であり、この体部破片は土壙-469からも出土している。

これらの遺物を勘案すれば、この土壙の時期も土壙-469と同じ時期が想定される。

(大橋)



第625図 土壙-470(1/30)・出土遺物(1)

土壙-471 (第627図)

土壙-470の約2 m東に位置する。検出面では、長軸方向120cm、短軸方向82cmを測る不整楕円形を呈するが、2段の掘り方になり、底面近くでは50×47cmの方形を呈するものである。埋土は、土壙-469・470と同じく灰褐色を基調とするものである。

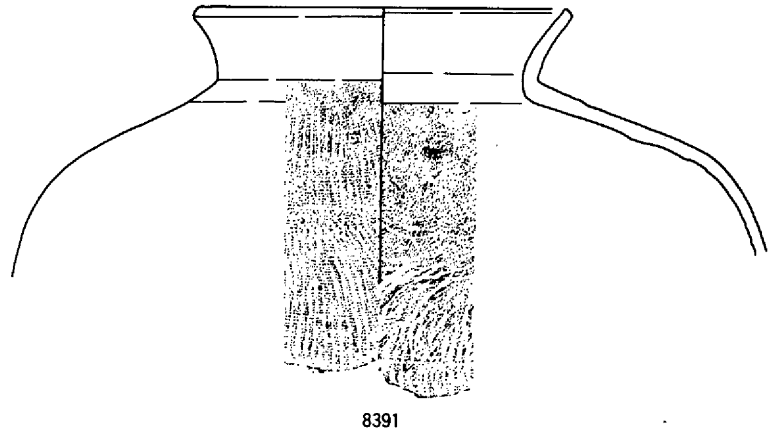
出土遺物は、図示した8392～8395が須恵器、8396は土師器の

甕であるが、この他に丹塗りの高杯とカマドの小破片がある。8392～8394は蓋であり、8392はほぼ完形品であり裏返しの状態で出土している。8395は甕の底部であろう。

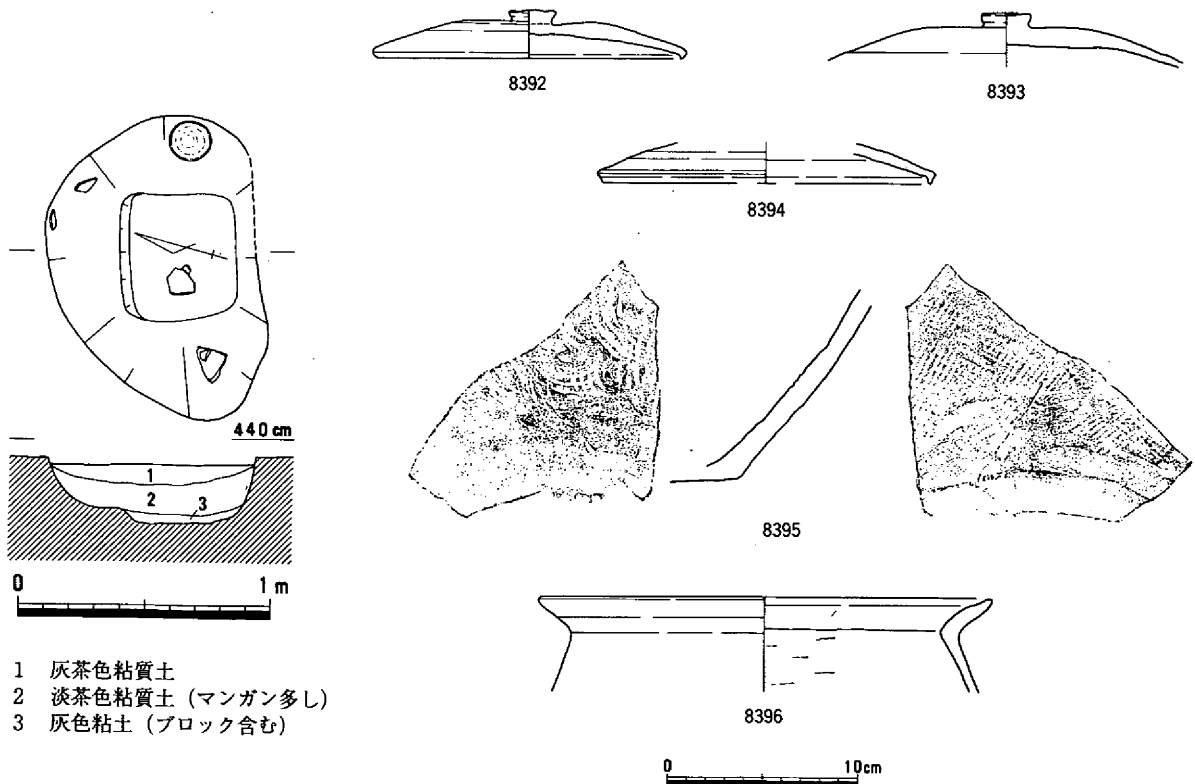
これらの出土遺物から、この土壙の時期は、奈良時代前半と考えられる。

土壙-469～471の3基については、方形区画溝の北辺中央に位置し、この外側の溝が途切れる箇所にあたる。検出当初、溝の底の残存部分とも想定したが、軸線が方位にはほぼ沿った方形の掘り方を有することから、単独の土壙として扱った。これら3基は柱穴とも想定可能であろうが、柱痕跡は確認できなかった。いずれにしても、出土遺物、埋土の状況、その位置等から方形区画溝、掘立柱建物群と有機的に関連づけられる遺構と推測される。

(大橋)

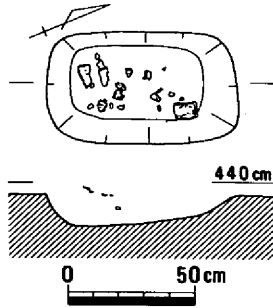


第626図 土壙-470出土遺物(2)

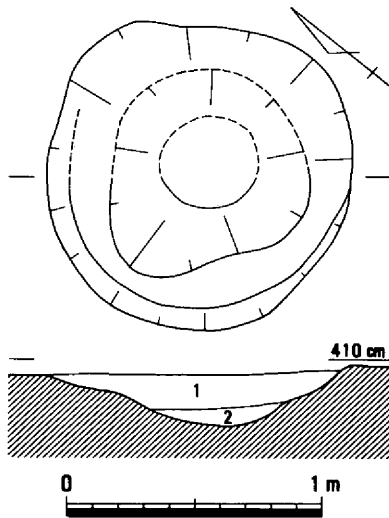


- 1 灰茶色粘質土
- 2 淡茶色粘質土 (マンガン多し)
- 3 灰色粘土 (ブロック含む)

第627図 土壙-471(1/30)・出土遺物

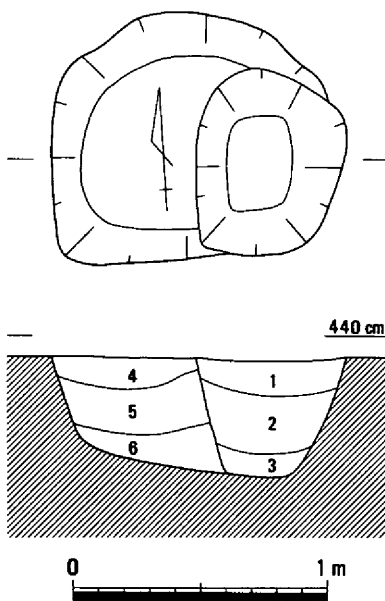


第628図 土壌-472
(1/30)



- 1 暗褐色泥砂
- 2 暗黄褐色泥砂

第629図 土壌-473(1/30)



第630図 土壌-474(1/30)

土壌-472 (第628図)

この土壌は、掘立柱建物-65の東約5mに位置する。規模は、長さ約75cm、幅約45cmで、深さは約13cmを測る。平面形はほぼ長方形を呈しており、長軸は南北方向にとる。土壌の底部は水平ではなく、南側が深くなっている。

出土遺物は、須恵器、土師器の破片が少量出土したが図化できるものはなかった。土器は、いずれも奈良時代と考えられる。(中野)

土壌-473 (第629図)

土壌は、土壌-472の南南西約5mに位置する。規模は、128×126cmで、平面形はほぼ円形を呈している。深さは約25cmで、断面形は皿形を呈する。出土遺物は、須恵器の小片が少量出土した。(中野)

土壌-474 (第630・631図)

この土壌は、中屋調査区の北端部分で検出された掘立柱建物-66内部の西側梁行に寄った所に位置するが、周辺部を精査したにもかかわらず、このような土壌は存在しなかった。

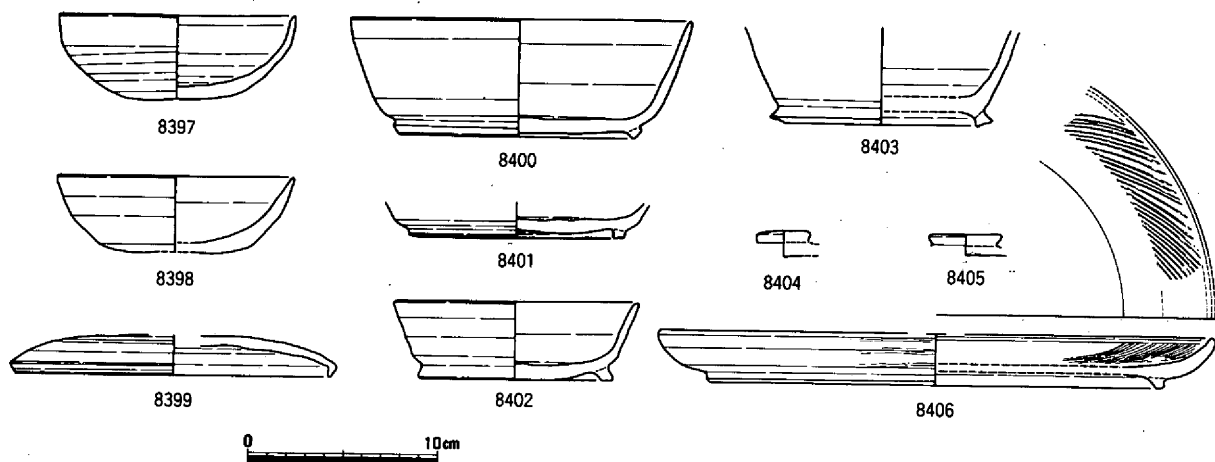
平面形は東西方向に長い隅丸長方形に近い形態を呈し、東側部分が中世または近世と思われる後世の土壌によって削平されている。土壌の規模は、長さ122cm、幅102cmを測り、検出面からの深さは48cmであった。断面形は箱形だが、底部が西から東方向に向かって緩やかに傾斜していた。

土壌内には、上位から底部にかけて灰茶褐色土、淡黄茶褐色土、暗茶褐色土が堆積し、底部に近い部分から8世紀中葉に属する須恵器8397~8403や土師器8404~8406が出土した。

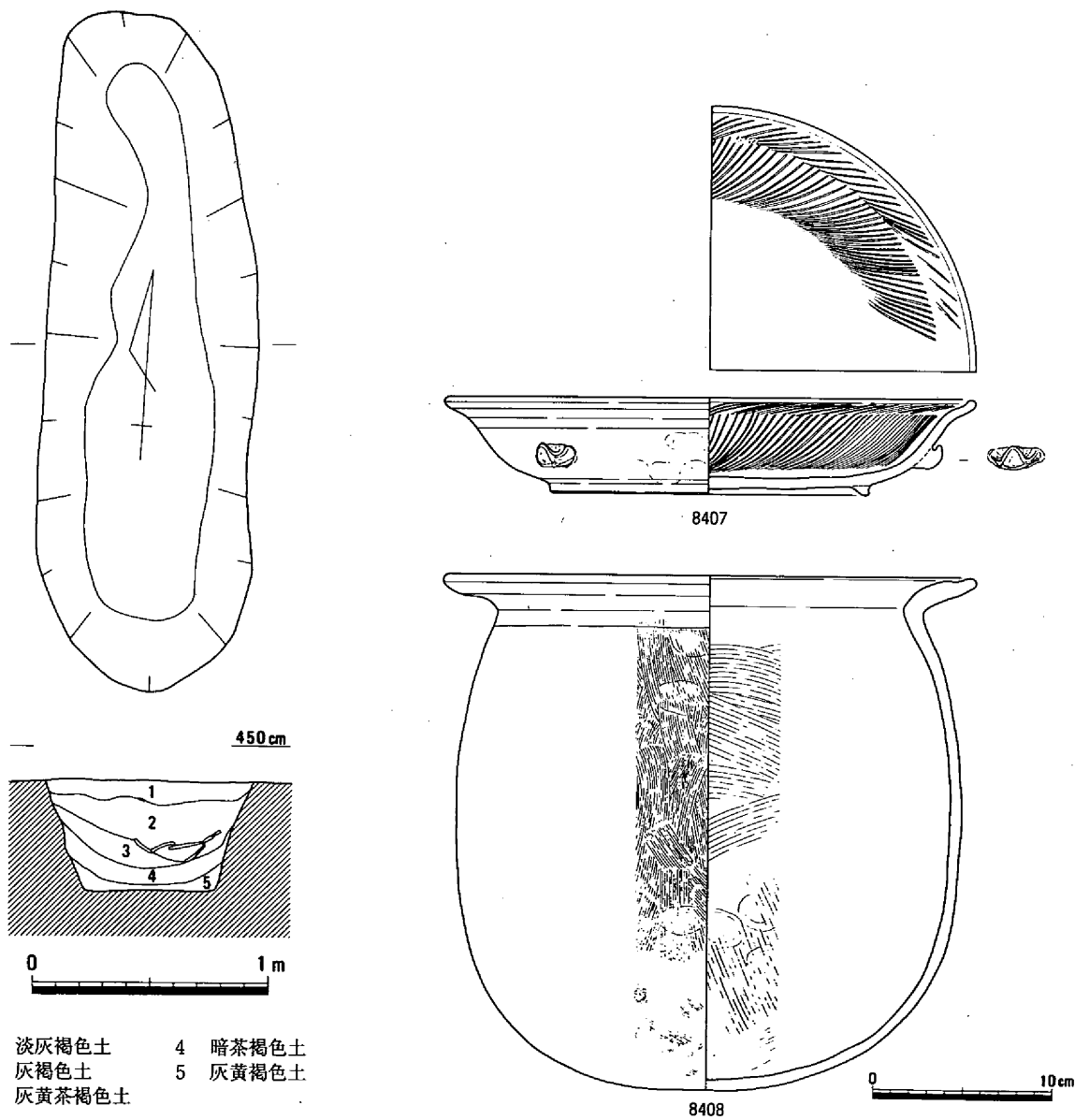
須恵器の杯身8397・8398は、底部から口縁部にかけて内湾して立ち上がり、口縁端部は丸く仕上げている。外面の底部はヘラ切り未調整であるが、それ以外は全体にヨコナデを施している。つまみが欠落した須恵器の杯蓋8399は、口縁端部が内側へ短く屈曲し、全体にヨコナデを施している。高台を有する須恵器の杯身8400~8402は、口縁部が斜め上方へ直線的に立ち上がり、全体にヨコナデを施している。

- 1 暗灰茶褐色土
- 2 黄茶褐色土
- 3 茶褐色土
- 4 灰茶褐色土
- 5 淡黄茶褐色土
- 6 暗茶褐色土

8403は須恵器の長頸壺の底部破片であり、8404と8405は土師器の杯蓋のつまみである。小破片の土師器の高台付盤8406は、底部から口縁部にかけて内湾して立ち上がり、口縁端部は丸く仕上げている。内外面に暗文を有するが、丹塗りは行っていない。(福田)



第631図 土壙-474出土遺物



第632図 土壙-475(1/30)・出土遺物

土壌-475 (第632図)

中屋調査区の北側部分に位置し、北東方向約10mの地点には掘立柱建物-67が存在し、南北方向約7mの地点には掘立柱建物-68が検出されている。この土壌の主軸方向が、掘立柱建物-67や掘立柱建物-68の棟方向とほぼ同じであったから、掘立柱建物群を囲む溝の一部になると思われたが、南北両方向の周辺を精査してもこの遺構に続くものが検出できなかったため、単独の土壌と判断した。

この土壌の平面形は、長さ287cm、幅91cmの楕円形を呈し、検出面からの深さが48cmで、断面形は箱形になっていた。土壌の底部はほぼ水平だが、北から南方向に向けてわずかに傾斜し、上位から下位にかけて淡灰褐色土、灰褐色土、灰黄茶褐色土、暗茶褐色土、灰黄褐色土が認められた。

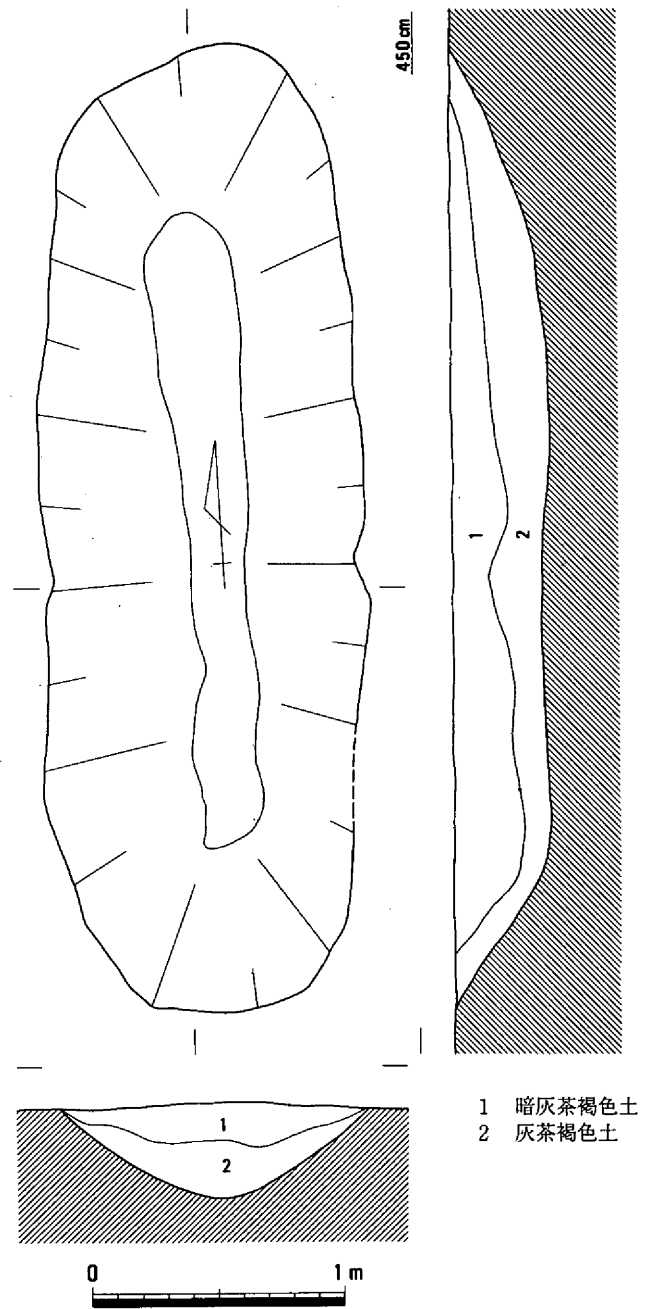
この土壌に伴う遺物はいずれも土器であるが、土壌の底部から浮いた状態で、灰褐色土内から検出されたものが多い。8407の高台を有する土師器の盤と8408の完形品の甕だけを図示したが、掘立柱建物群を囲む溝と同時期の8世紀中葉に属するであろう。(福田)

土壌-476 (第633・634図)

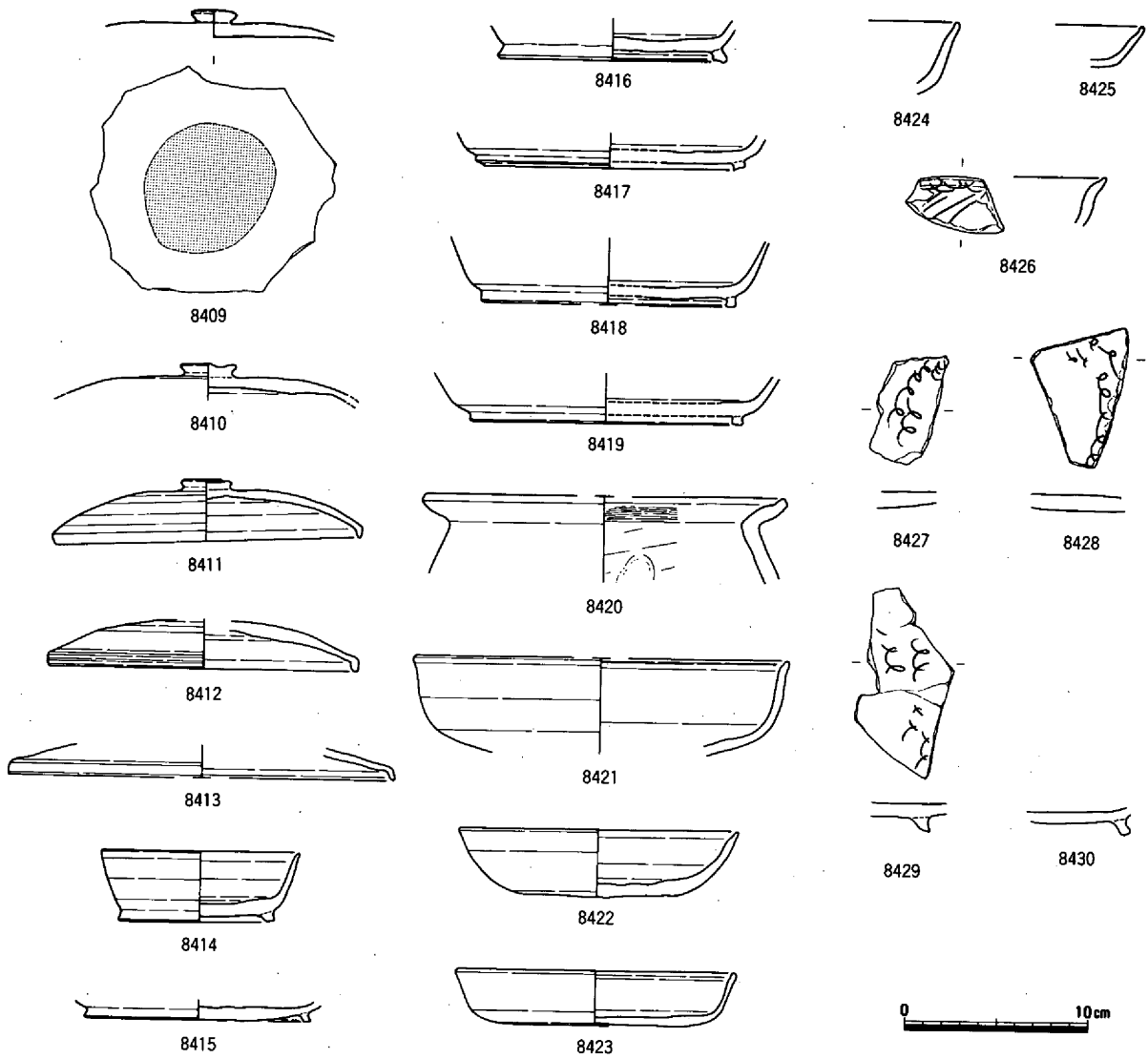
この土壌も中屋調査区の北側部分に位置し、北方向約8mの地点には掘立柱建物-68が存在し、南方向約7mの地点には掘立柱建物-69が検出されている。この土壌も前述の土壌-475と同様に、掘立柱建物群を囲む溝の一部ではないかと思われたが、2棟の掘立柱建物の間に位置し、この遺構に続くものが検出できなかったため、単独の土壌と考えた。

この土壌の平面形は長大な楕円形に近い形態を呈し、長さ387cm、幅123cm、検出面からの深さ37cmを測る。断面形は碗形を呈し、暗灰茶褐色土と灰茶褐色土が堆積していた。土壌の底部はほぼ水平になっていたが、北端部と南端部がわずかに深くなっていた。

この土壌から出土した遺物として、須恵器8409~8419と土師器8420~8430が存在するが、8409の杯蓋は硯として転用され、内面の天井部が滑らかになっている。これらの須恵器や土師器の調整手法と形態的特徴を観察した結果、土壌-476は8世紀中葉に属すると推定され、溝に囲まれた掘立柱建物群の時期と一致する。(福田)



第633図 土壌-476(1/30)

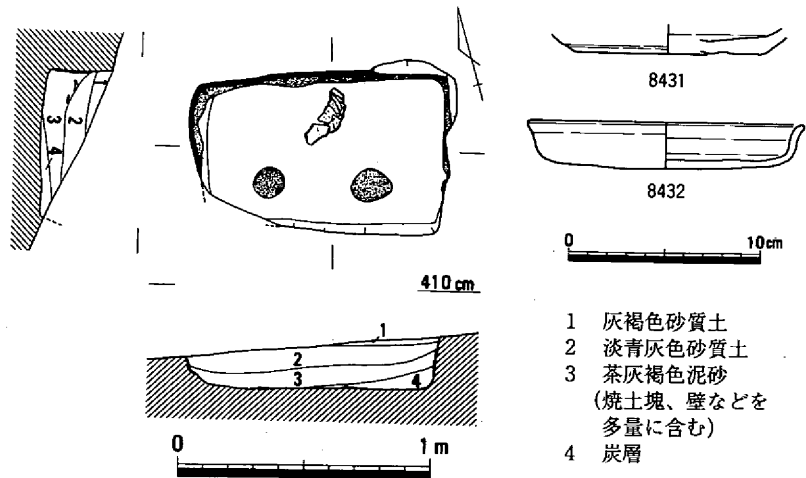


第634図 土壙-476出土遺物

(5) 焼成土壙

焼成土壙-8 (第635図)

この土壙は、柱穴列-4の東南東約18mに位置する。土壙の南側は、後世の大溝に削平を受けていた。長さ約102cm、幅約64cmで、深さは約20cmを測る。平面形は方形を呈し、長軸はほぼ東西にとる。壁面は底部より5cm前後上部が良く焼けており焼土面となっていた。また、底部は水平で、

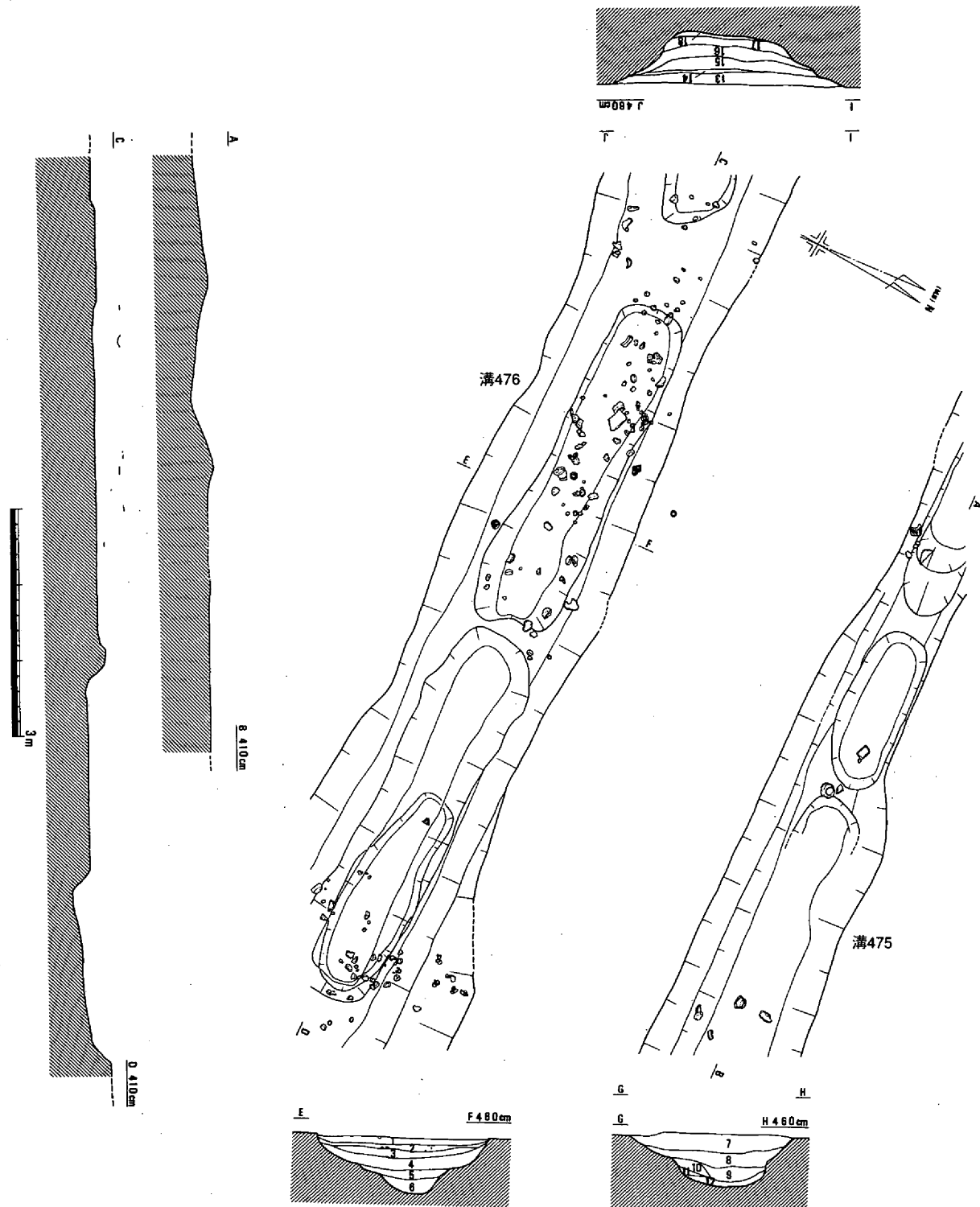


- 1 灰褐色砂質土
- 2 淡青灰色砂質土
- 3 茶灰褐色泥砂
(焼土塊、壁などを多量に含む)
- 4 炭層

第635図 焼成土壙-8 (1/30)・出土遺物

第3章 調査区の概要

2か所が10数cmの範囲で焼土面となっていた。出土遺物は、底部より8431の須恵器の杯身、8432の丹塗りの土師器の皿が検出された。これらの土器は奈良時代と考えられる。(中野)

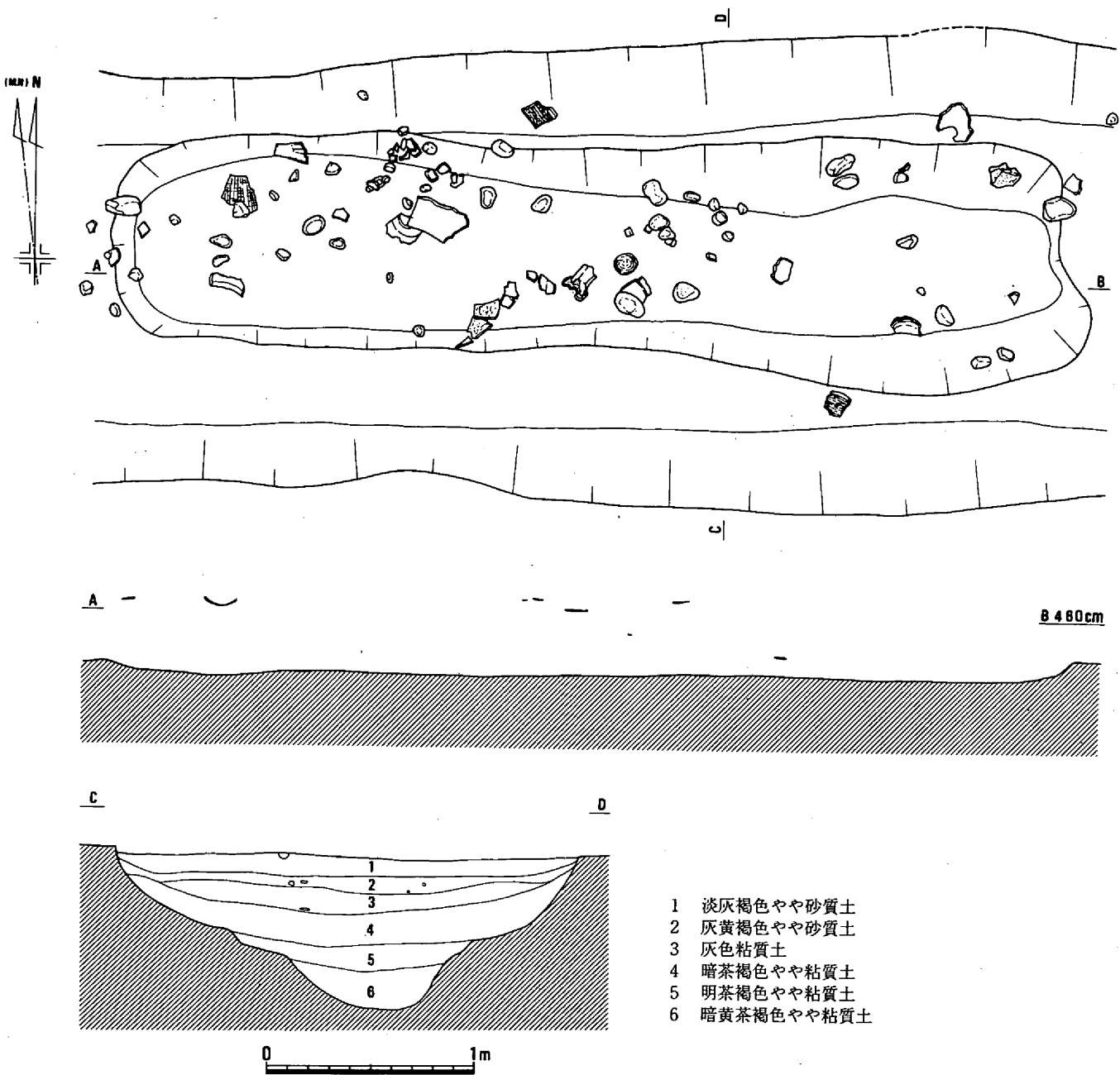


- | | | |
|-----------|--------------|---------------|
| 1 灰褐色粘質土 | 6 暗黄褐色やや粘質土 | 11 明茶褐色やや粘質土 |
| 2 淡黄褐色粘質土 | 7 淡灰褐色やや砂質土 | 12 暗黄茶褐色やや粘質土 |
| 3 黄褐色粘質土 | 8 灰黄褐色やや砂質土 | 13 灰色土 |
| 4 濃黄褐色粘質土 | 9 灰色粘質土 | 14 灰色・褐色混合土 |
| 5 暗黄褐色粘質土 | 10 暗茶褐色やや粘質土 | 15 黄褐色・灰色混合土 |
| | | 16 灰褐色土 |
| | | 17 黄灰褐色砂質土 |
| | | 18 灰黄色砂質土 |

第636図 溝—475・476(1/80)

(6) 溝

今回の報告でとりあげる古代の溝は、奈良時代中頃の長方形区画溝と関連をもつものである。溝-27が外側の長方形区画であり南北123.8m、東西93.5~94m、溝-28が内側の長方形区画であり、南北113m、東西84.2mをはかる。溝-475、476が長方形区画溝の中をさらに南北に区画する2条の東西溝であり、溝-27、28と同形状のものである。この2条1対の溝が基本になっていると考えられる。溝-N27から南に74.1mに東西溝-475、そこより南側4.5mに溝-476が配されている。溝底には長さ2~5mの土塊が連続して掘られている。また、溝-477~479は溝底の土塊だけが残存した可能性がある遺構である。



第637図 溝-476(1/30)

長方形区画溝は北東、南東の隅は用地外、近世溝等により充分把握できていないが、南東隅は開放状態になる可能性も考えられる。(高畑)

溝-475・476 (第636~645図、図版40-1・3)

溝-476が南側、溝-475が北側の溝であり、両溝の方向はN-87.5°-Wをはかる。上端部幅約250cm、下端部幅約150cm、上端部海拔高は440cm、下端部海拔高は390cmをはかりほぼ同数値を示す。溝底からさらに掘り込まれた藪溝と呼称した土窟は、小形のもので220×85cm、大形は525×115cmをはかり、溝-476内では大小の切り合いが認められる。これらの底面海拔高は345~380cmをはかるが、高低差の綿密な規則性は認められない。

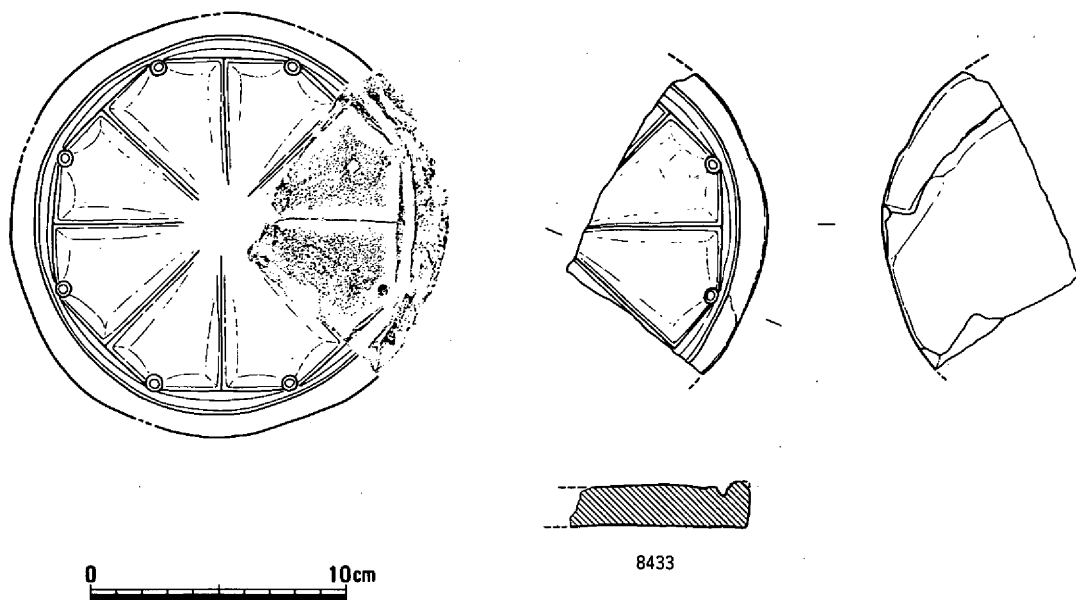
埋土は6層からなり、遺物は第1~第4層、第7~8層、第13~第16層に含まれ、なかでも溝-476内に多く認められる。基本的には上層が灰褐色等の灰色系統の粘質土・砂質土であり、下位にゆくにしたがって黄色系統の粘質土が多く、砂質土が少なくなっている。

遺物は土窟底埋土よりも、溝下端部までの埋土に多く含まれており、須恵器、土師器、瓦等がみられる。古いものでは、弥生土器、古墳時代前期の土器が多く、古墳時代後期の須恵器も含まれており、溝-475の上層では中世の亀山焼、早島式土器、鍋、天目茶碗の小破片が約30点ほど出土している。本溝は中世まで窪み状を呈していたものと考えられる。

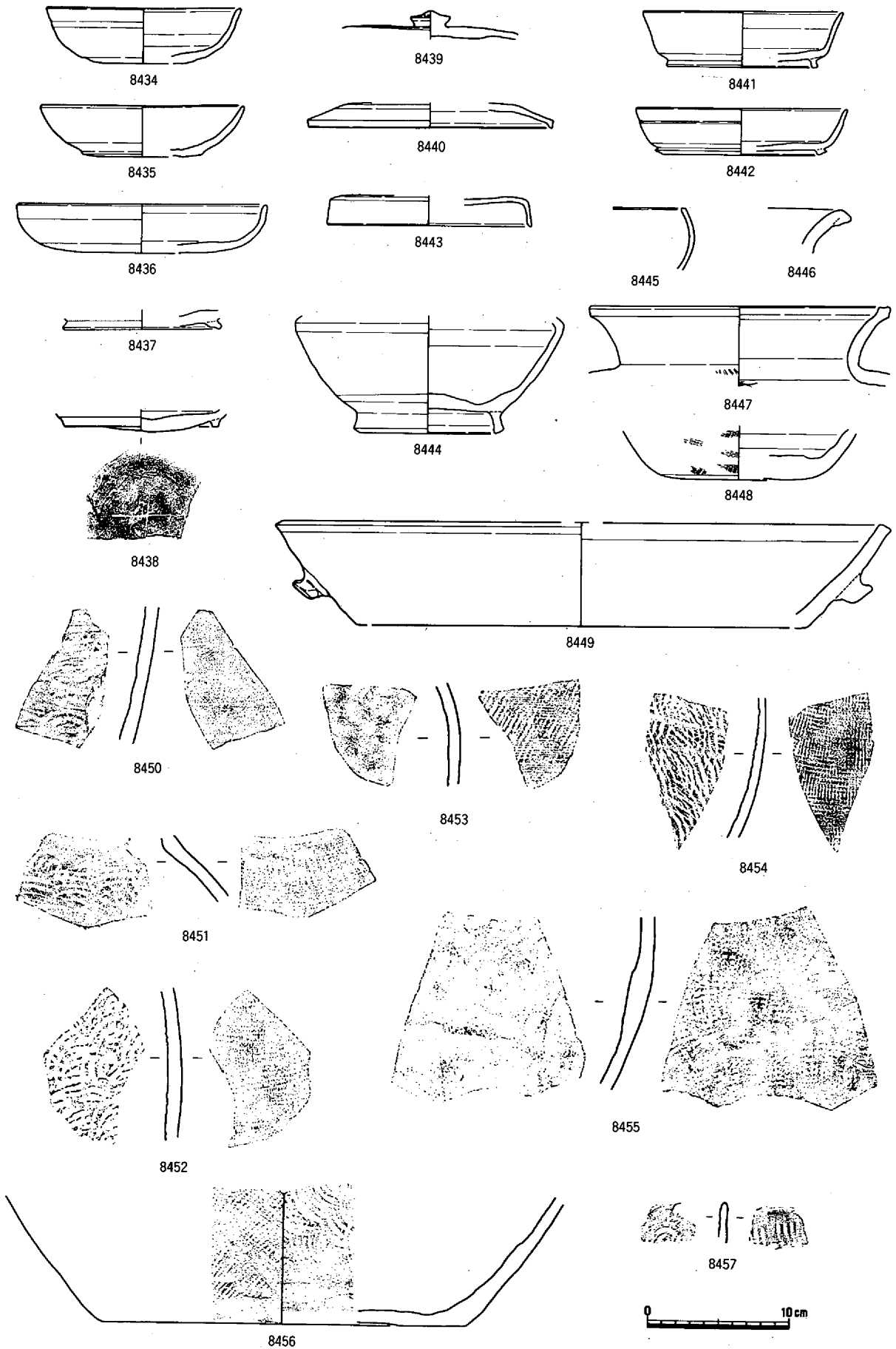
奈良時代の遺物が最も多く、須恵器、土師器、瓦、フイゴの羽口、鉄製品がみられるが、すべて小破片である。

ここでは、溝-475の出土遺物について説明を加える。まず、特筆すべきと思われるものに飛鳥時代の軒丸瓦片が出土している。瓦当の推定直径17cm前後と考えられるが、四分の一ほどの破片であり全体の把握は困難である。外縁部の厚さ1.8cm、内側の厚さ1.7cmをはかり、胎土は細砂が混入している。軒丸瓦8433は飛鳥寺様式と考えられ、角端点珠単弁八弁の文様構成が認められる。

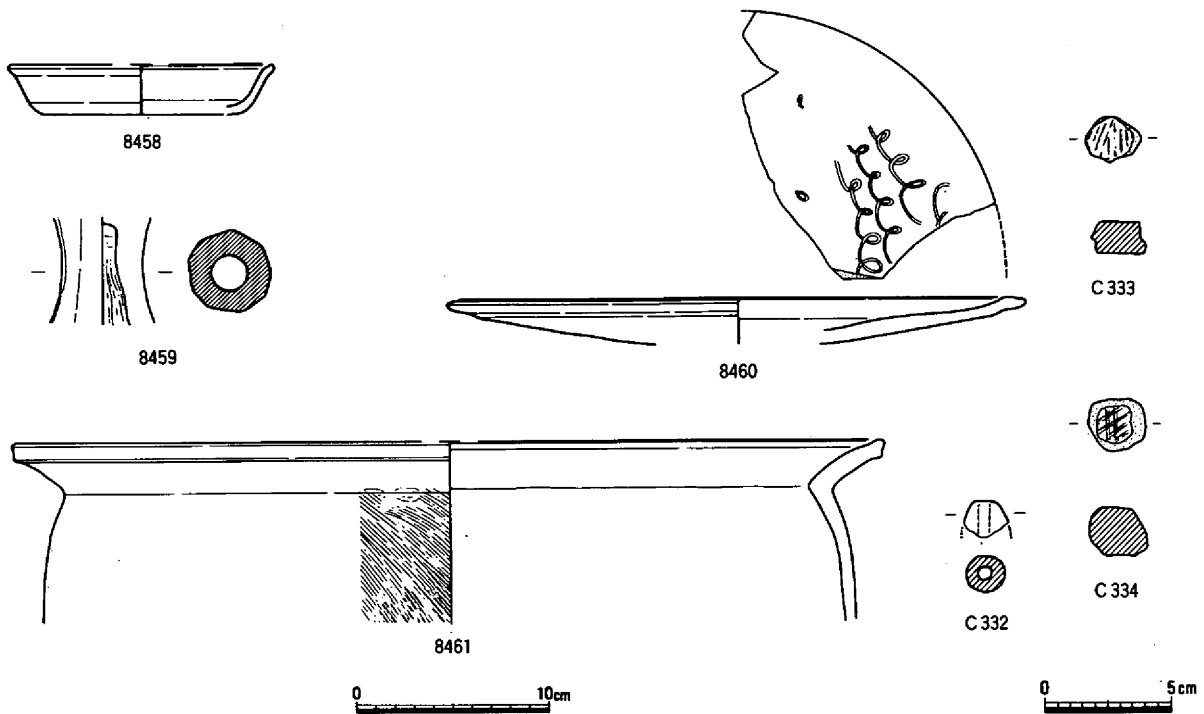
量的に多い遺物は須恵器であり、杯身、杯蓋、盃、長頸壺、甕、盤等がみられる。完形になるものは皆無である。高台をもたない杯身8434、8436の口径13.6~17.6cm、器高4.0~3.5cm、高台を持つ杯



第638図 溝-475出土遺物(1)



第639図 溝-475出土遺物(2)



第640図 溝一475出土遺物(3)

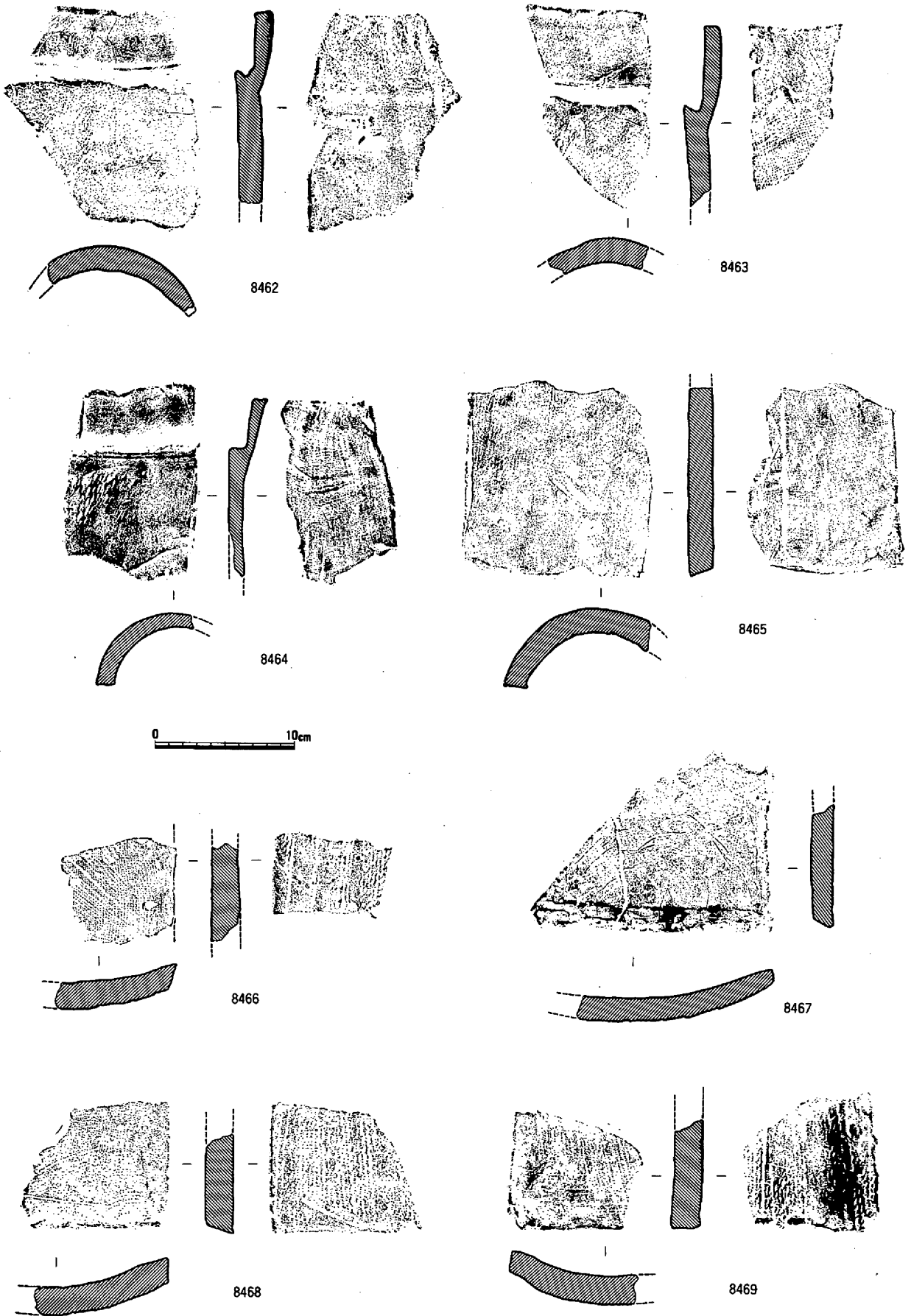
身8441、8442の口径13.9~14.7cm、器高4.0~3.3cmをはかる。杯身8438のように底面に×印のヘラ描きがみられるものもある。8434~8442の内面平坦部は仕上げナデがみられ、土器の回転は右廻りである。盃8445は器外面に細かいヘラミガキが施されており、胎土は精選された土が使用されている。大形品は器外面に格子のタタキメ、平行のタタキメ、内面は青海波文が見られるものが多い。8456は平底にて、直径26.4cmをはかる大形品である。

土師器は非常に少なく、数点である。8458は口径13.4cm、底径10.2cm、器高2.6cmをはかり、橙色を呈する丹塗りの杯身である。高杯8459は脚部に9面をもち、丹塗りが施されている。高杯8460は内面に螺旋状の暗文がみられ、内外面丹塗りが行なわれている。甕8461は口径45.3cmをはかる大形品であり、8458~8460の土器の胎土と異なり、雲母等が混じり少し荒い感じがする。

瓦は平、丸の2種類が出土しており、丸瓦が16点、このうち玉縁つきの丸瓦が3点である。それぞれの規模、調整が異なり、玉縁部分の長さが3.5cm、4.8cm、6.0cm、器厚にも統一がなく、1.0、1.5、1.8cmの差が認められる。凹面は布目であり、1cm²内に10~11条の糸がみられる。平瓦は24点が出土している。凸面は縦方向の縄目タタキであり、5cm幅内に14~17条の縄がみられ、凹面は布目で1cm²に6~10条の糸が認められる。色調は灰白色系統の瓦が多い。8463、8464、8468、が溝上層、8462、8465~8467、8469が溝下層出土である。

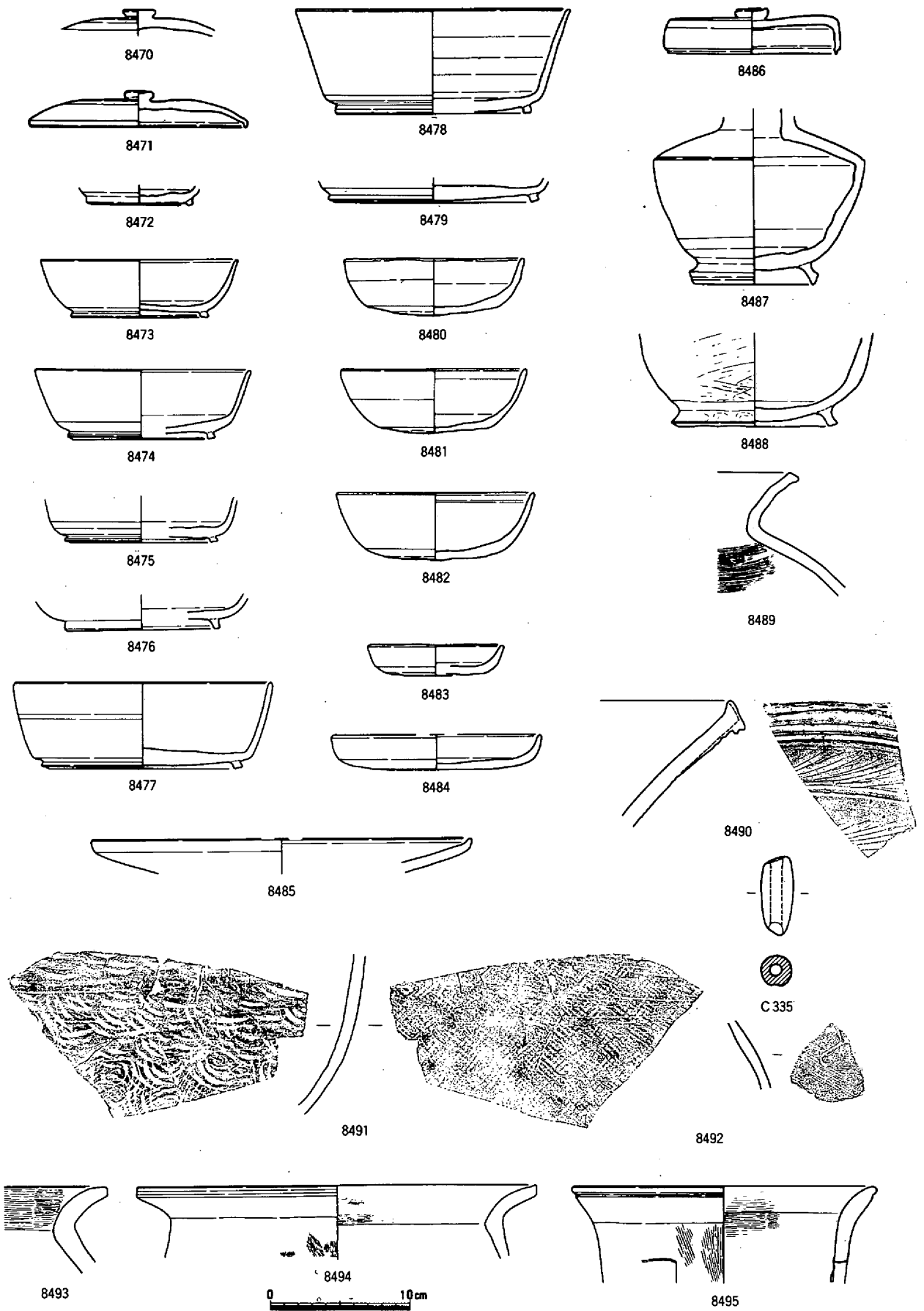
溝一476は溝一475とほとんど同じ遺物が出土しており、須恵器、土師器、瓦等の破片が投棄されたものと考えられる。杯身8477は口径18.15cm、底径13.25cm、器高6.25cmをはかり、全体に丁寧な作りである。硬質にて表面に自然釉がみられ、寒風古窯跡の作品の感じを受ける。この規模の杯身の底部は厚く、鈍重な感じを受けるものがある。8483を除く、8470~8488の土器の回転は右廻りである。

8492~8495は土師器であり、溝一475の8461の胎土に類似し、粗砂、金雲母を含む煮炊き用の土器

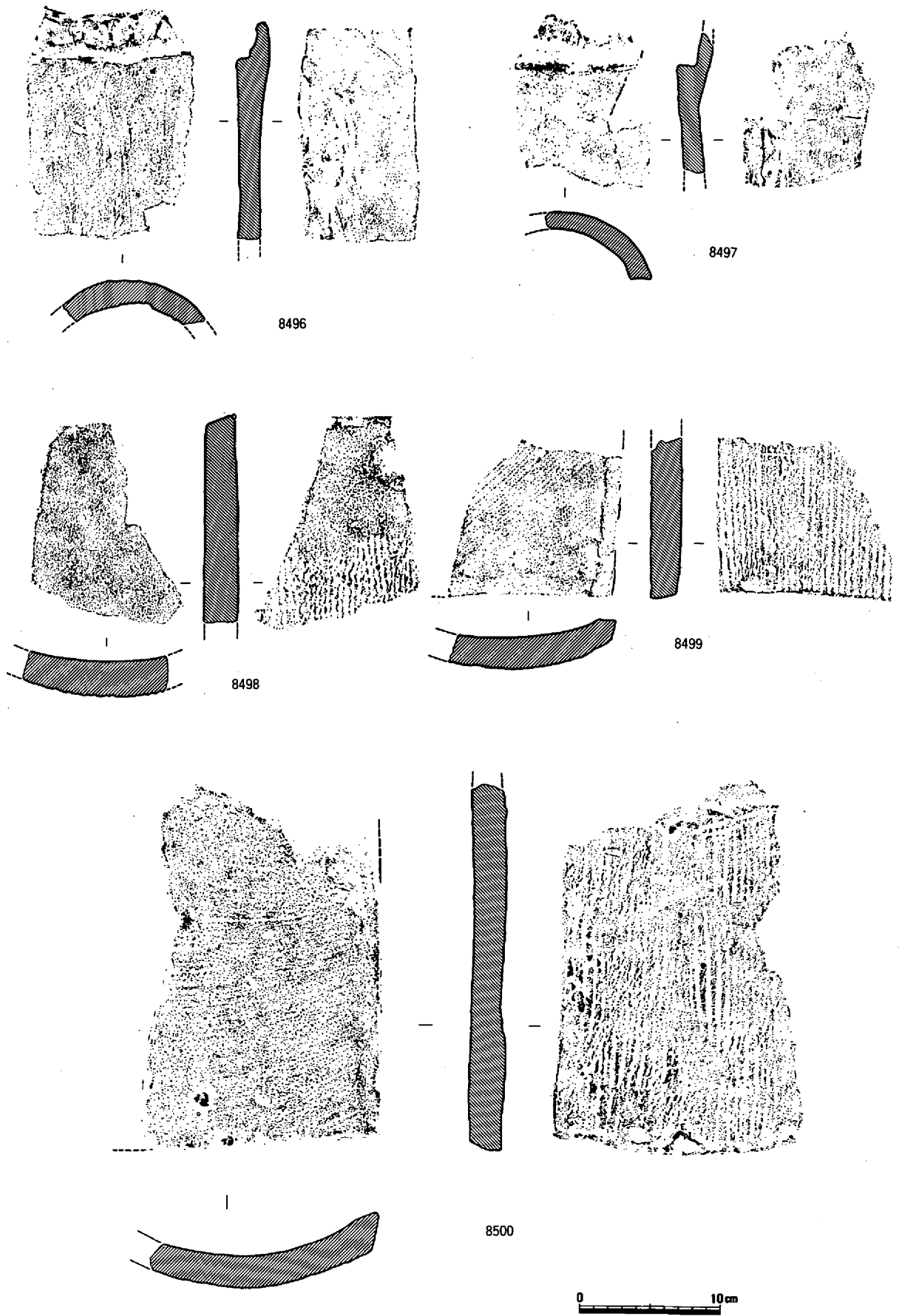


第641図 溝-475出土遺物(4)

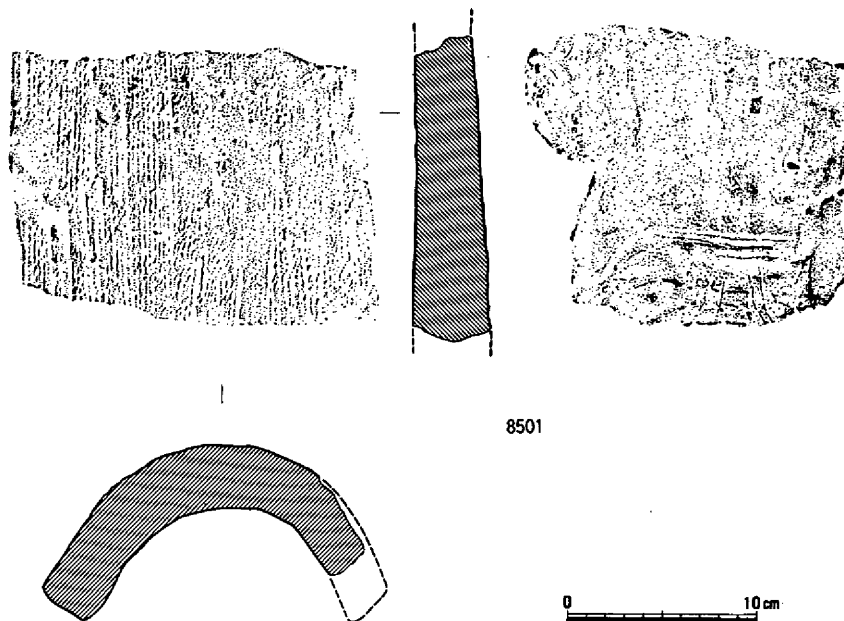
第3章 調査区の概要



第642図 溝一476出土遺物(1)



第643図 溝-476出土遺物(2)



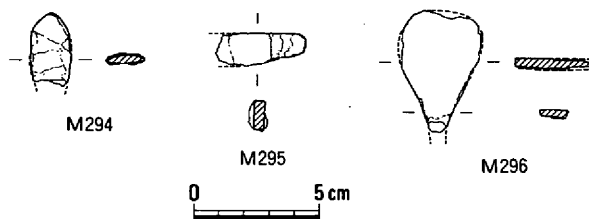
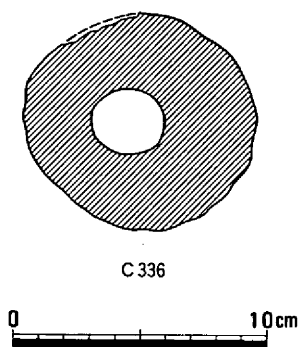
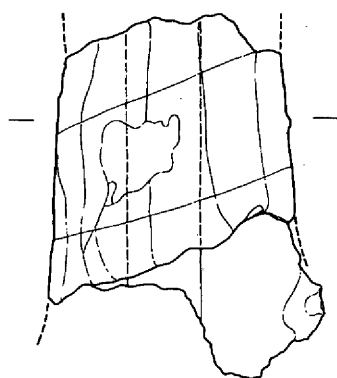
第644図 溝-476出土遺物(3)

である。8495は体部に窓がみられ、外面に煤が付着している。

瓦は丸瓦9点、平瓦34点が出土している。基本的には溝-475と同じく、平瓦の凸面は縄タタキであり、5 cm幅内に縦位の縄目が10~13条みられる。凹面は布目の上位をナデている。側のヘラキリは凹面にもみられ、器厚は2 cm以上をはかる。丸瓦8501は器厚3 cmをはかり、凸面縄目タタキ、凹面指ナデがみられる。縦位の縄目が5 cm幅内に17~18条みられる。

C 336は残存長14.5cm、幅11.0cm、送風孔は2.8cm、厚さ3.2~4.8 cmをはかる先細りの羽口である。胎土中に砂礫を含み、色調は鈍い黄橙色を呈する。表面に残る被熱具合から約20°の角度で炉壁に埋め込まれていた可能性がある。鉄滓は溝-476内からも出土しており、分析を行っている。

M294、M295、M296の3点の鉄製品が出土しており、鉄鏃、刀子、鉄鏃の破片である。
(高畑)



第645図 溝-476出土遺物(4)

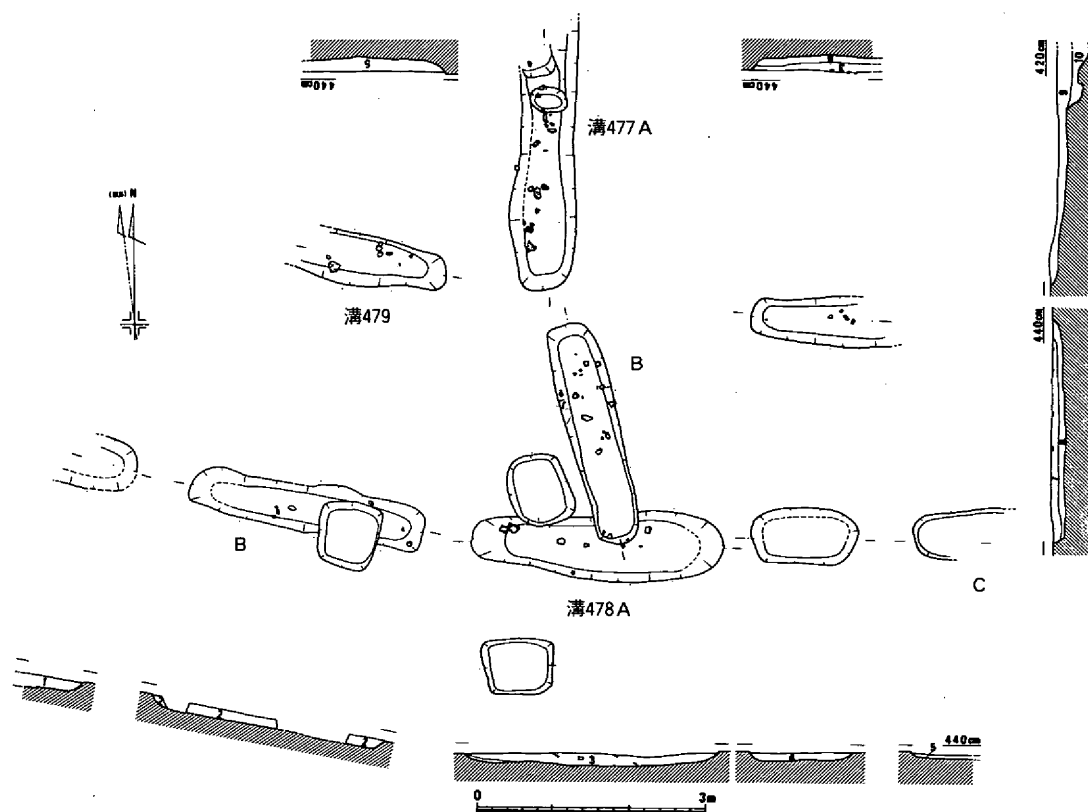
溝-477~479 (第646~653図)

O17区の南東、橋脚(P2区)に所在し、掘立柱建物-58の北側に位置する。溝の形状は留めておらず、おそらく、溝の下端部より掘り込まれた土壌のみが残った状況を呈しているものである。従来みられた直線的な溝ではなく、弧を描く溝であり、溝-E28にその一部と考えられる溝-486・487がみられる。

ここでは南北の土壌A、Bを溝-477、北側の東西土壌を溝-479、南側の東西土壌A、B、C等を溝-478と呼称する。

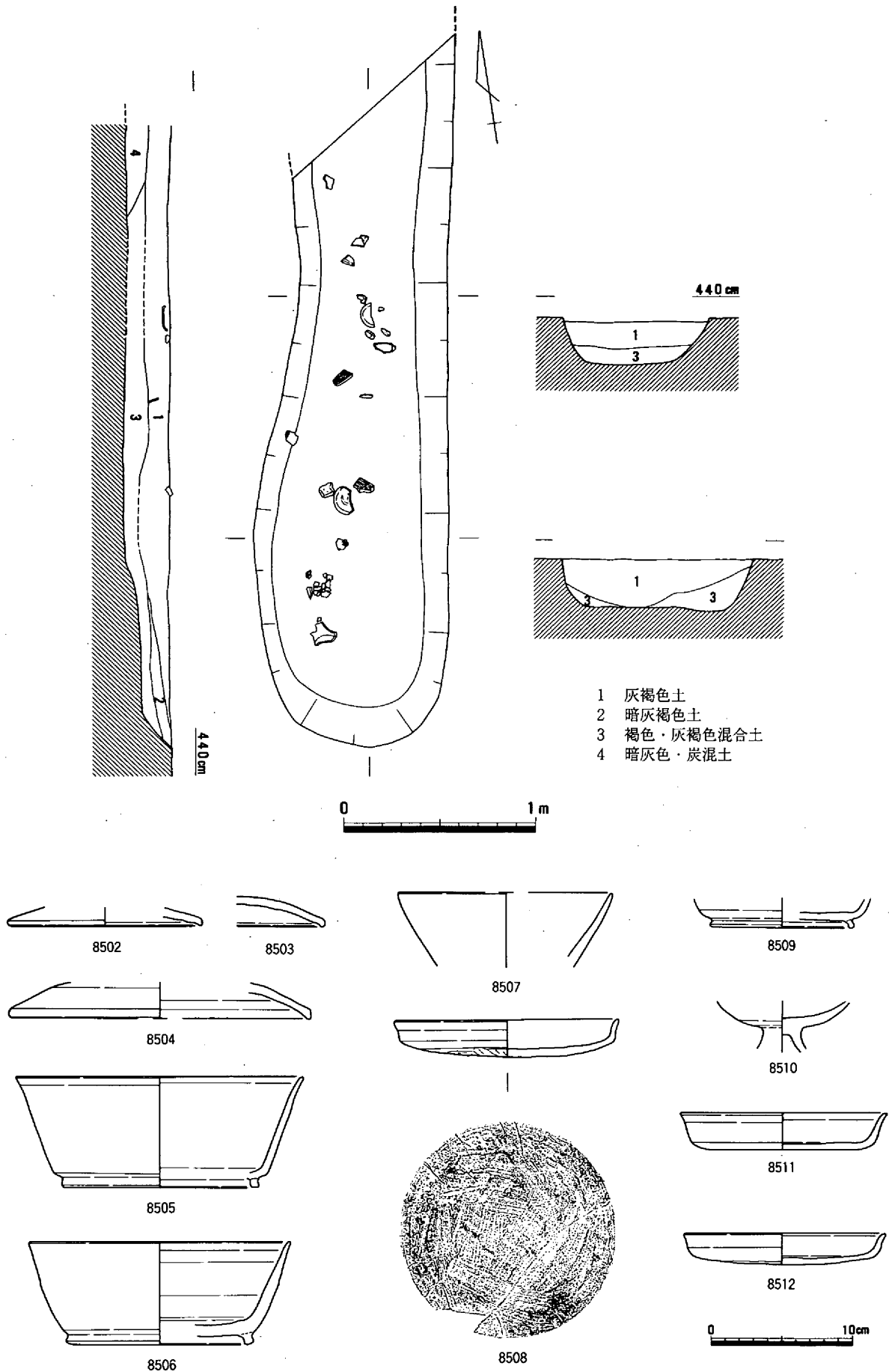
溝-477は溝-478を切ることが確認されており、新旧の溝が存在することとなる。溝-477Aは残存長383cm、幅76~101cm、深さ26cm、底面海拔高403cmをはかる。平面は楕円形、断面は皿形を呈し、平坦部をもっている。埋土は4層からなり、第1層の灰褐色土を中心に遺物が出土している。

遺物は須恵器8502~8510、土師器8511、8512、瓦8513をとりあげている。杯蓋8503は器外面に丁寧なヘラミガキが施されており、同技法の稜椀の蓋になるものである。杯身8508は口径15.5cm、器高2.7cmをはかり、器外面はヘラケズリ、内面は円滑なナデにより仕上げられている。土器の回転方向は右廻りである。杯身8511は丹塗りの土師器であり、口径14.6cm、器高2.6cmをはかり、平坦な底面をもつ。底部外面はヘラケズリ後にナデ、屈曲部はヘラミガキが施されており、口縁付近はヨコナデ

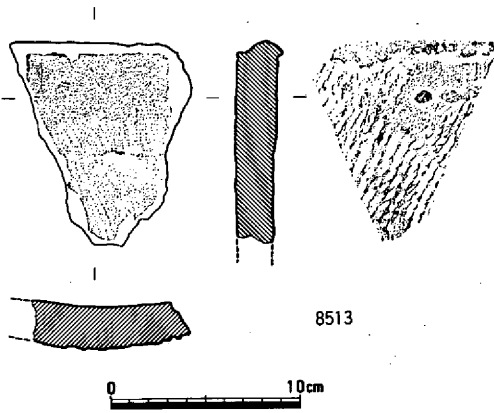


- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1 灰褐色粘質土 | 5 黄灰褐色弱粘質土 | 9 灰褐色土 |
| 2 暗灰褐色弱砂質土 | 6 淡黄灰褐色弱粘質土 | 10 暗灰褐色土 |
| 3 灰褐色弱粘質土 | 7 灰褐色弱砂質土 | |
| 4 黄灰褐色土 | 8 淡黄灰褐色弱砂質土 | |

第646図 溝-477~479(1/100)



第647図 溝-477A(1/30)・出土遺物(1)



第648図 溝-477A出土遺物(2)

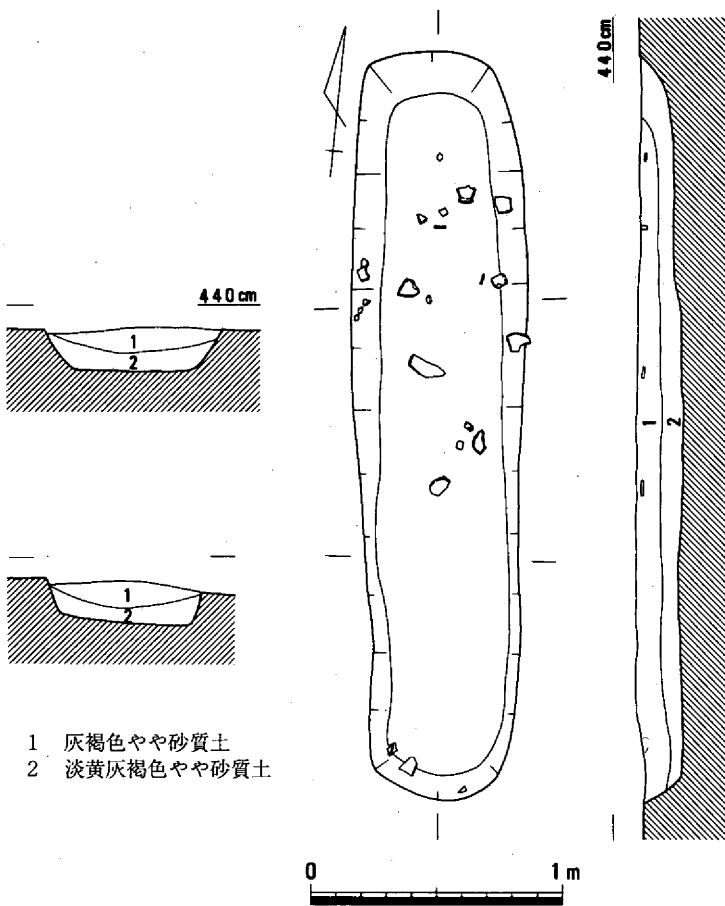
である。杯身8512は口径14.4cm、器高2.2cmをはかり、底部に粘土紐巻き上げ痕と一部ヘラケズリが認められる。底部が少し下がり丸みをもつ形態であり、8511とは胎土も異なる土器である。

溝-477Bは溝-477Aの南側40cmに位置する。溝-477Aの主軸N-6°-Wと異なりN-12°-Eをとり、2基の土壇の位置は「く」字状になる。長さ300cm、幅約70cm、深さ18cm、底面海拔高411cmをはかり、溝-477Aより底面は高い。

遺物は第1層中より須恵器、丹塗りの土師器片が出土している。

溝-478Aは南側で東西に5基並ぶ土壇の中央に位置し、溝-477Bにより北側を切られている。長さ328cm、幅60~93cm、深さ16cm、底面海拔高411cmをはかる。埋土上層からの遺物が多い。

遺物はすべて破片であり、瓦9点、須恵器、土師器が出土している。8516は器厚2.2cm、凸面に縄目タタキ、凹面にハケナデがみられる平瓦であり、5cm幅内の縄目は17条を数える細筋の撚である。8518~8520は丹塗りの土師器であり、8518、8519の底部はヘラの動



- 1 灰褐色やや砂質土
- 2 淡黄灰褐色やや砂質土

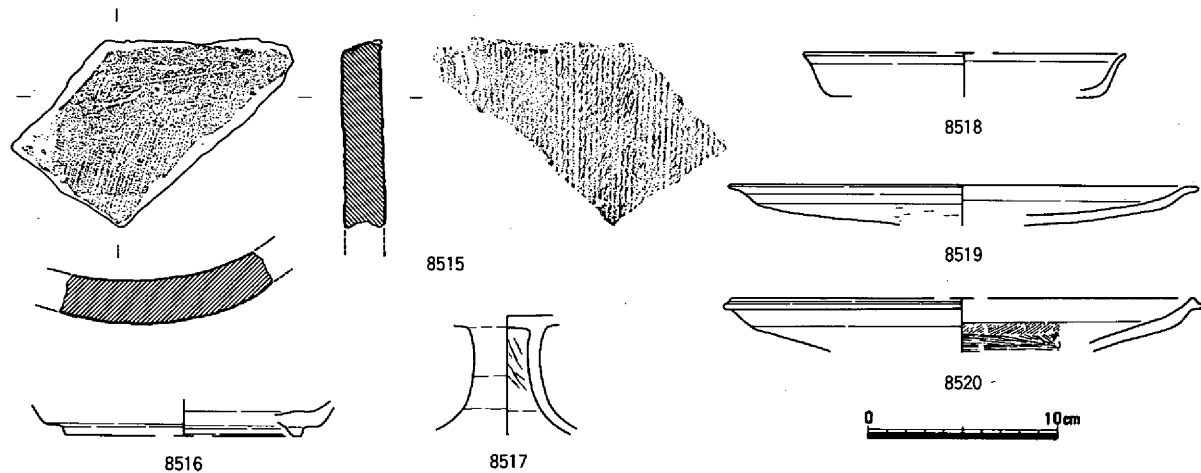
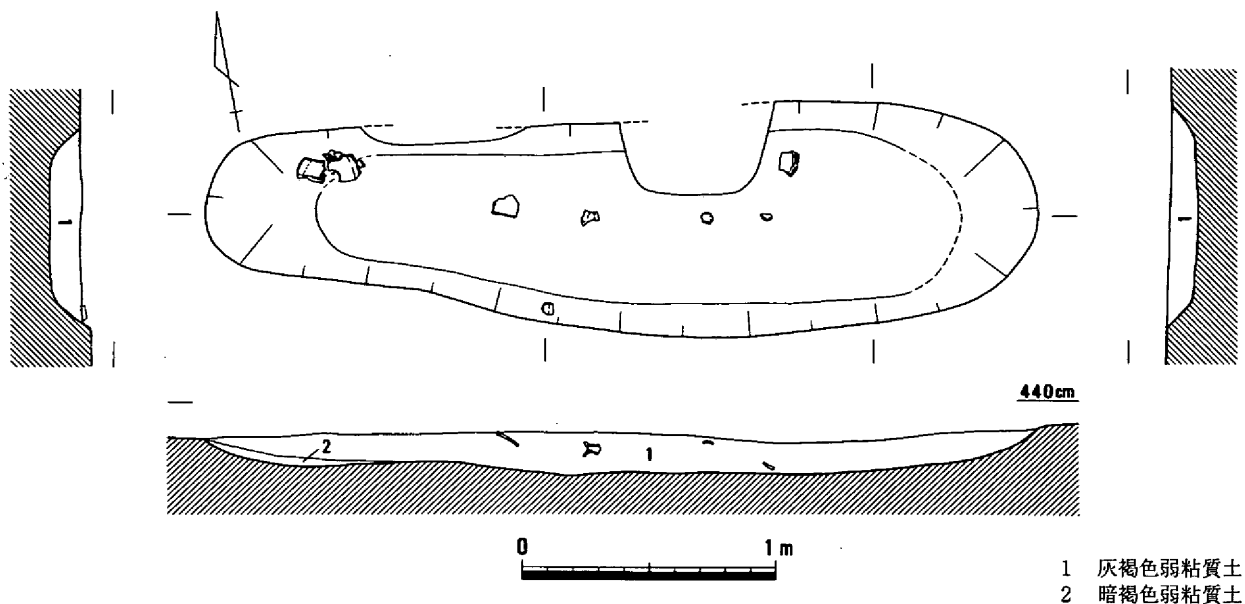
第649図 溝-477B(1/30)・出土遺物

きがみられる。8520は器外面ヘラミガキの感じがする。

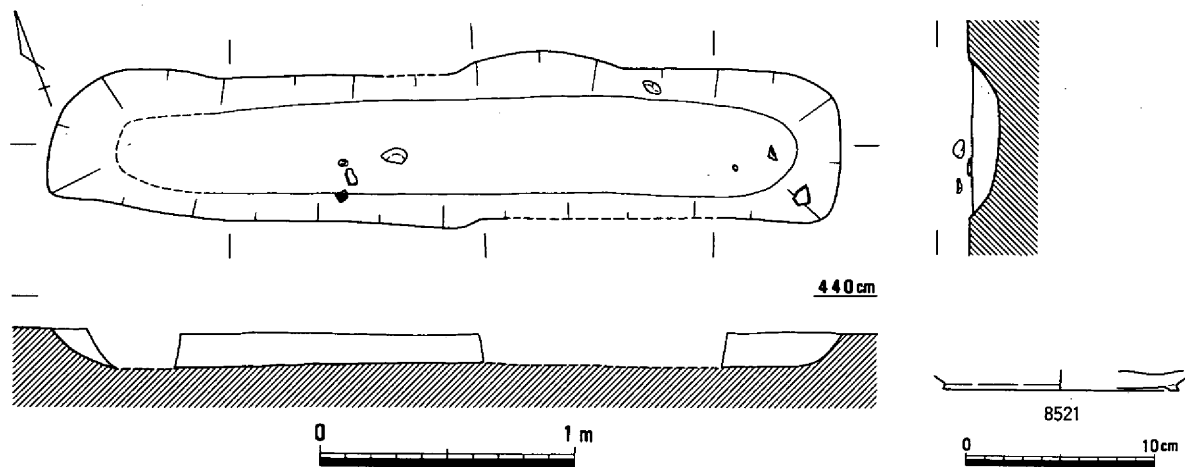
溝-478Bは溝-478Aの60cm西側に位置する。長さ310cm、幅55~65cm、深さ16.5cm、底面海拔高410cmをはかり、前述した溝と形状に近いものである。

遺物は瓦が1点、須恵器が8点出土している。

溝-478Cは溝-478の東端の溝であり、東側の半分以上が調査地外に含まれる。長さ120cm、幅60cm、深さ9cm、底面海拔高412cmをはかる溝である。埋土は黄灰褐色土の1層であり、須恵器が出土している。



第650図 溝-478A (1/30)・出土遺物



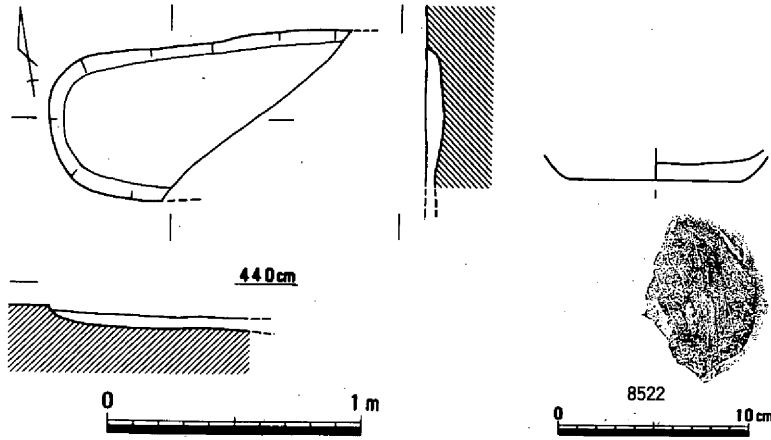
第651図 溝-478B (1/30)・出土遺物

遺物は杯身8522が1点である。焼成がやや悪い須恵器であり、底部半分を残している。底径9.0cmをはかり、底部外面はヘラケズリが施されている。

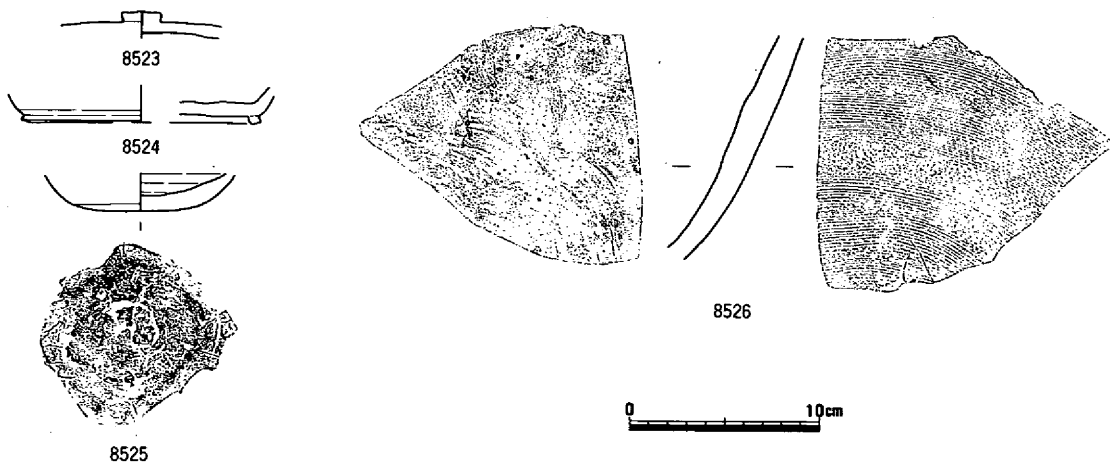
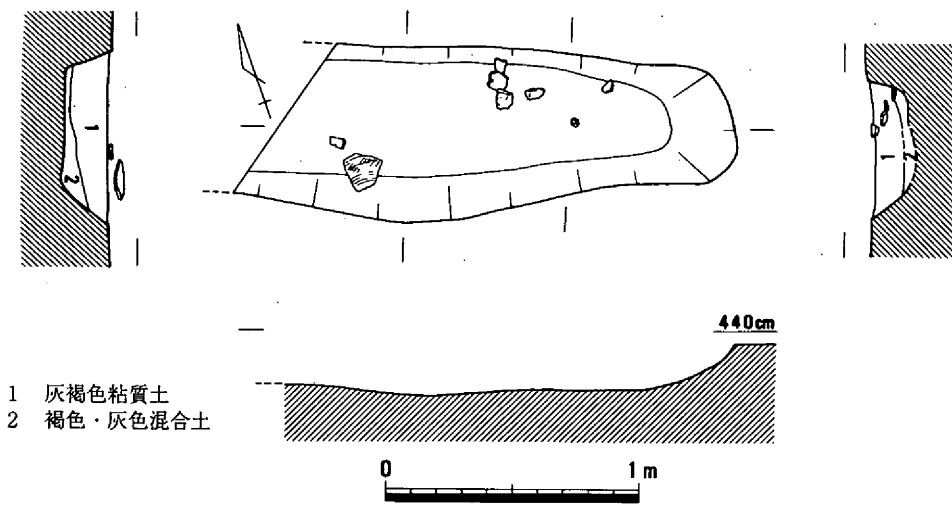
溝-479は溝-478の北側に位置し、長さ200cm、幅50~70cm、深さ20cm、底面海拔高411cmをはかる。

遺物は須恵器片、丹塗り土師器片が出土している。

(高畑)



第652図 溝-478C (1/30)・出土遺物

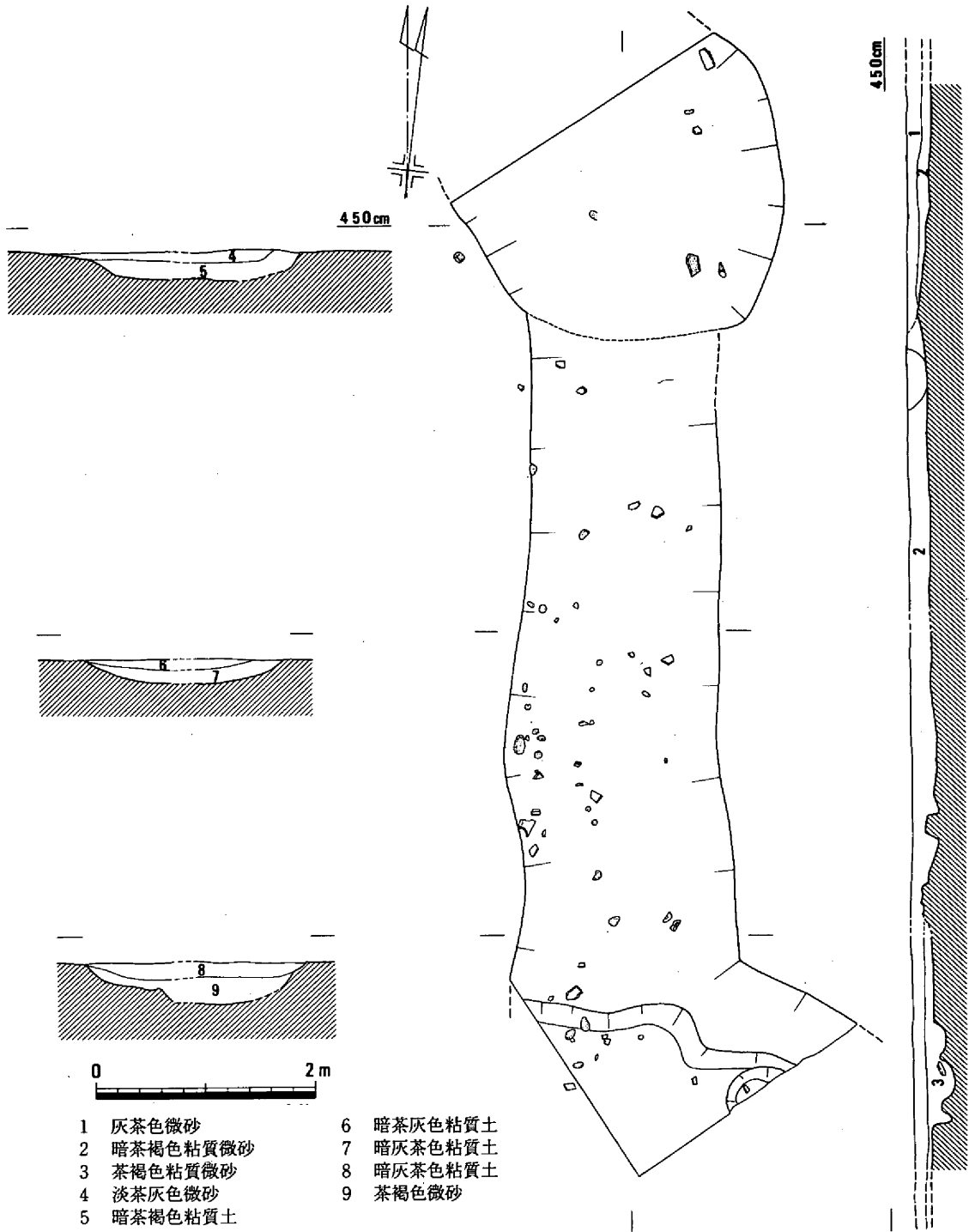


第653図 溝-479 (1/30)・出土遺物

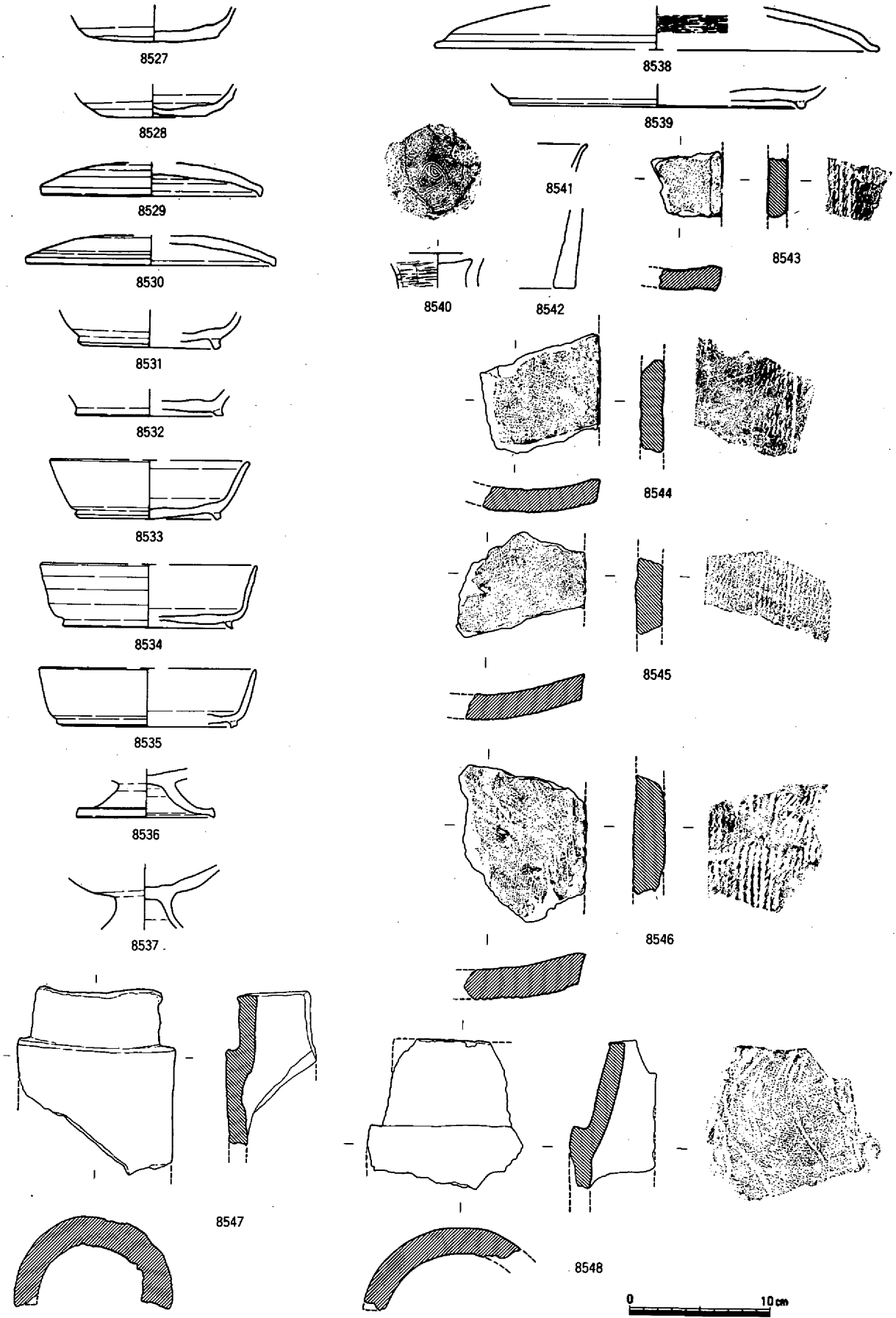
溝-W28(第654・655図)

〇17区の中央南側、1705線上に所在し、溝-478・479の西側9mに位置する。古墳時代前期の竪穴住居-217の埋土を切って真上を通っている。

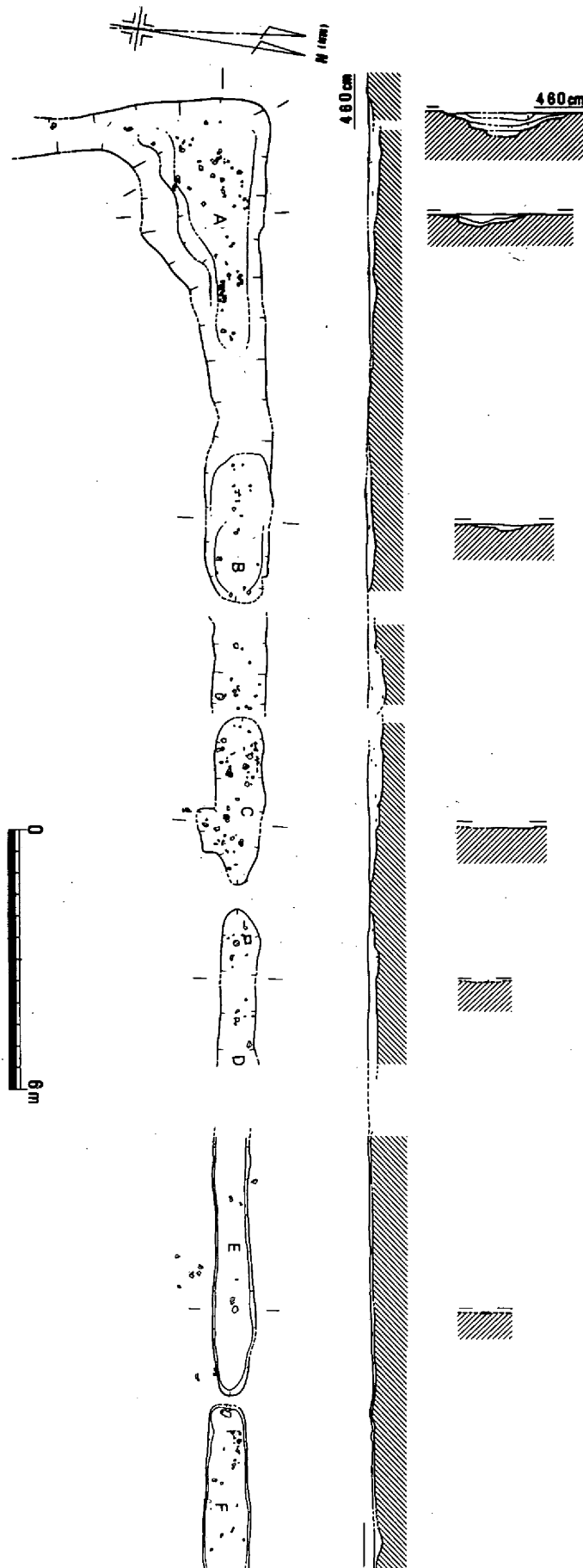
溝主軸はN-1°-Wの南北をとり、残存長約11m、幅170~200cmをはかる。深さは16~23cm、底面海拔高3.99mであり、埋土は2層からなる。溝内の遺物は高い所で海拔431cm、低い所で399cmをはかり、北から南に向かって少し傾斜をしている。



第654図 溝-W28(1/60)



第655図 溝-W28出土遺物



第656図 溝-N28(1/150)

遺物は溝内の西側に多く分布しており、須恵器、土師器、瓦の破片がみられる。須恵器は8527～8537で杯蓋・身、高杯があり、8538～8542は土師器の蓋(高杯)、杯身であり、8538～8540には丹塗りが施されている。8540は杯部内底に螺旋状の暗文がみられる。溝内の瓦は5点であるが、橋脚(P1区)では平、丸瓦あわせて38点が出土しており、平瓦30点、丸瓦8点を数える。丸瓦は玉縁つきが4点、他は破片であり、平瓦は凸面縄タタキが29点、無文、条線文が1点、凹面は布目痕跡をとどめる。凸面の縄タタキは5cm幅内に10～15条までがあり、12条前後が多い。凹面の布目は1cmに6×5本～9×9本までがみられる。器厚も1.3、1.5、1.9、2.3cmと様々である。側の断面形態は凹面にヘラケズリがあるものが多い。

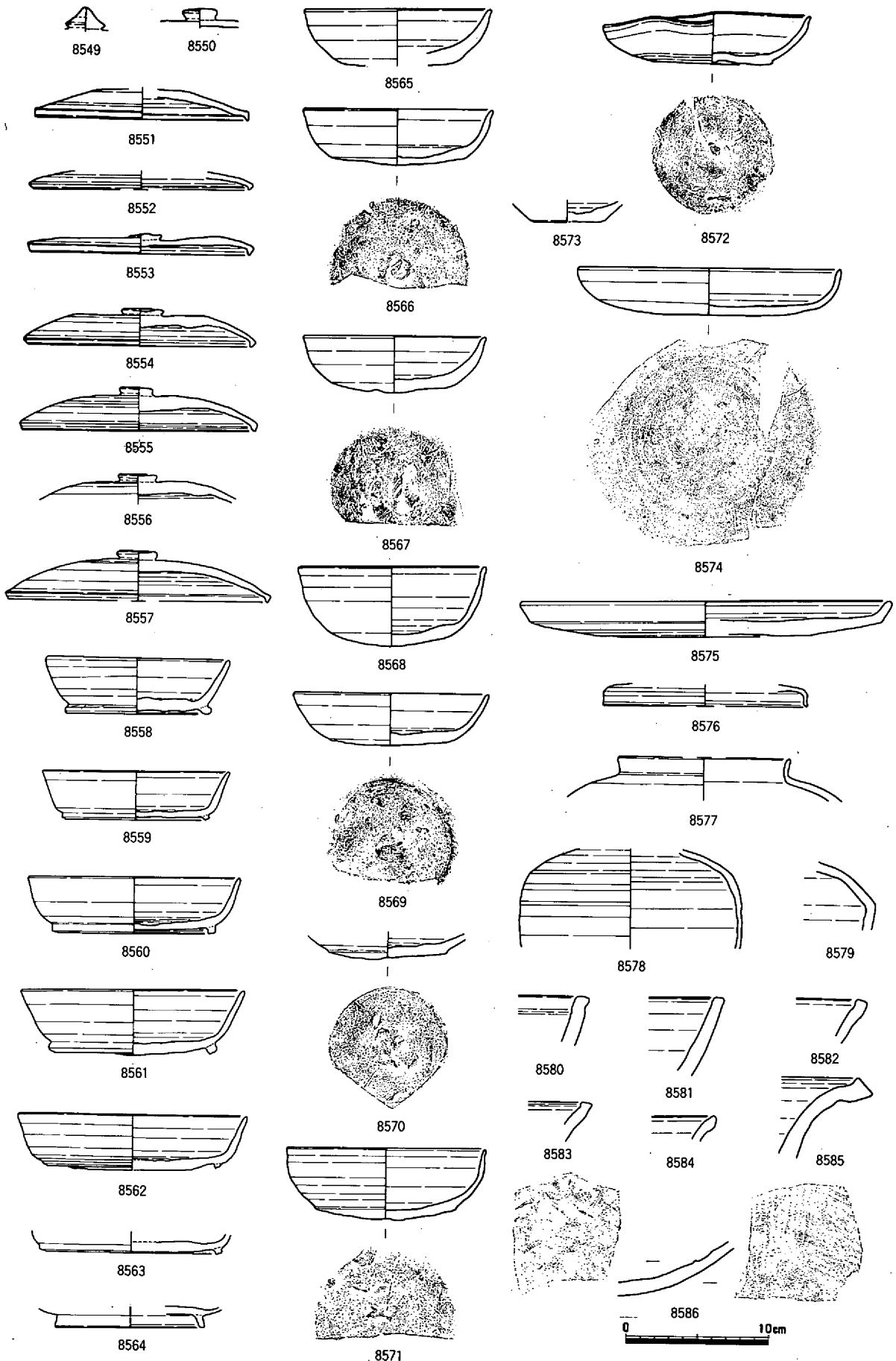
(高畑)

溝-N28 (第656～661図、図版35-1・2)

O17区のほぼ中央に位置する東西溝である。長方形区画の北辺にある内側の溝で、溝-W28と出合う北西隅から東に35mまで延びている。そこより東側については溝の存在は確認できないが、遺物は東に3.5m続く。この溝もすでに溝の形状は削平により失っており、溝下端より掘り込まれたと考えられる土壌が6基連続しており、N-87°-Wの方向で一直線に並ぶ。

西端の土壌を溝-N28Aとし、東端を溝-N28Fとして説明を加える。

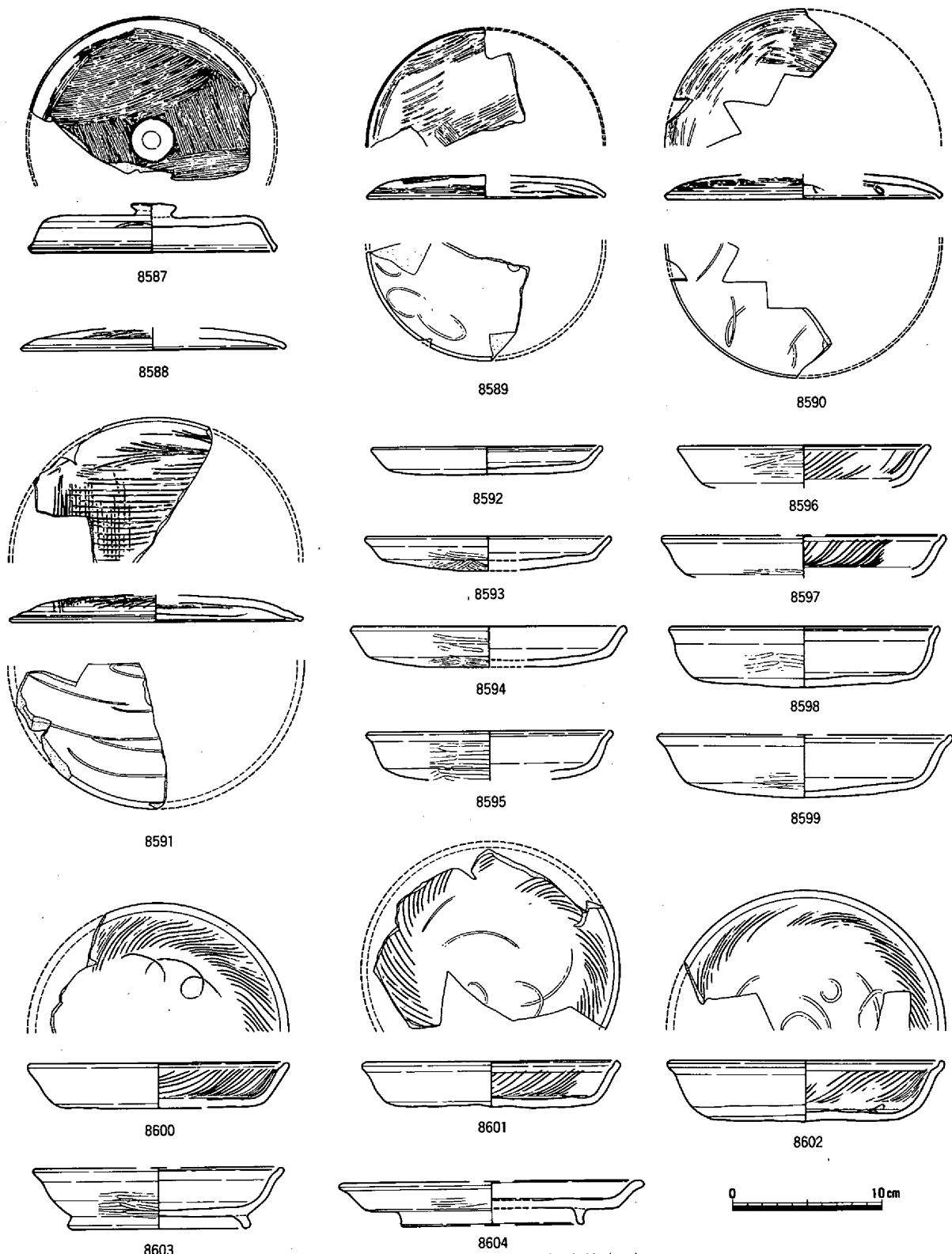
溝-N28Aは長方形区画の内側溝の隅部にあたり、他の土壌より広く深く掘り込まれている。隅部の幅280cm、深さ53cm、底面海拔高395cmをはかり、



第657図 溝一N28出土遺物(1)

第3章 調査区の概要

埋土は灰茶色系の粘質微砂4層からなる。遺物の出土範囲は窪みを中心に散布し、海拔400~440cmの中間層中に多くみられる。溝-N28Bは長さ約170cm、幅70cm、深さ29cm、底面海拔高430cmをはかり、埋土は灰茶色系の粘質微砂からなる。遺物は土壌内に散布し、海拔441~449cmの上層内にみられる。溝-N28Cは深さ約195cm、幅55cm、深さ2.0cm、底面海拔高は445cmをはかる。埋土は灰茶色粘質微



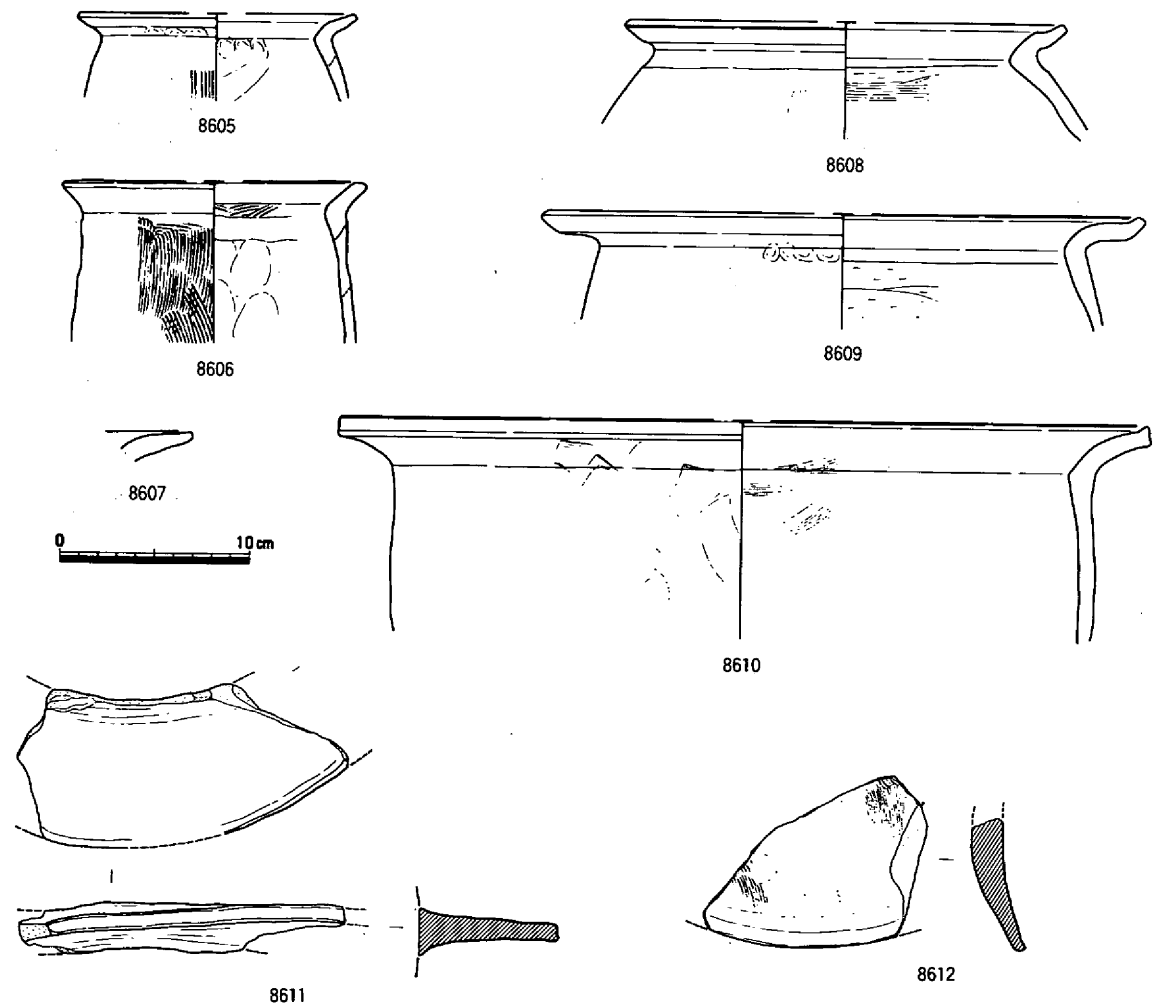
第658図 溝-N28出土遺物(2)

砂であり、遺物は海拔445～460cm間にみられる。溝-N28Dは近世の溝により切られており、残存長170cm、幅約40cm、深さ2.0cm、底面海拔高428cmをはかる。遺物は全体に散布し、海拔428～461cm間にみられる。溝-N28Eは近世の溝に切られており、残存長300cm、幅35～48cm、深さ1.0cm、底面海拔高441cmをはかる。遺物は少なく、海拔441～455cm間に分布する。溝-N28Fは長さ238cm、幅38～52cm、深さ8.0cm、底面海拔高は4.24cmをはかる。遺物は少なく、海拔431～460cm間にみられる。溝-N28C～Fでは遺物の分布を把握してから、土壌掘り方の検出を行なわざるをえないほど土壌埋土と周辺の土色の判別が困難であった。後世に削平を受けており、埋土の残りが少ないことにも起因する。全長38.5mの溝底は東端で海拔447cm、西端で海拔436cmをはかり、10cmの高低差があり、土壌底は東端で海拔447cm、西端で海拔395cmをはかり、52cmの高低差が認められる。溝底、および土壌底は西から東に向かい高くなっており、流水は西方に動くことになるが、土壌底には水がいつも残る状況になる。溝-N27については明確に押え切れていない。

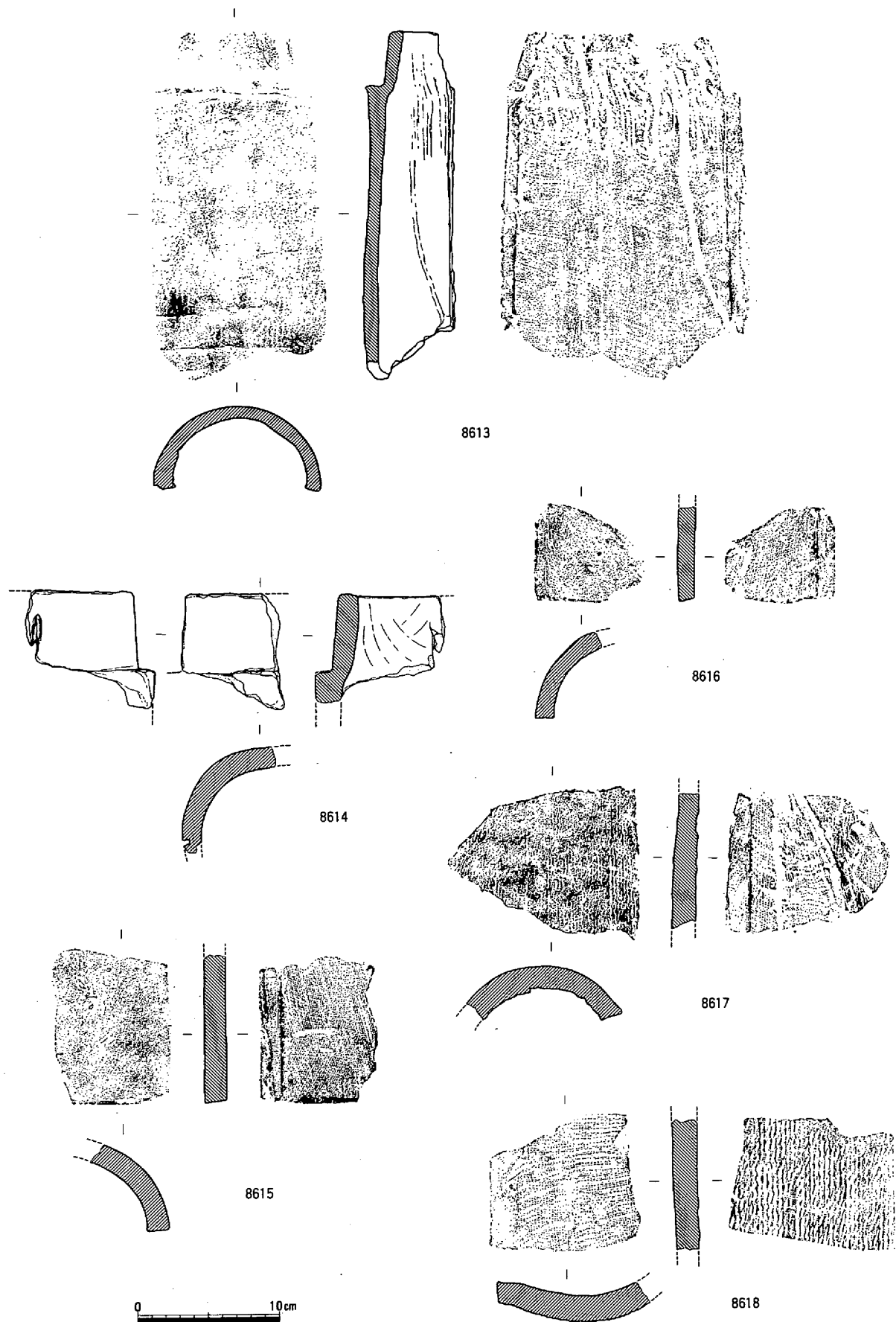
遺物は須恵器、土師器、瓦、鉄製品等がみられ、今回の調査区では比較的まとまった出土量である。須恵器が38点、土師器26点、瓦6点、鉄製品6点であり、すべて破片である。

溝-N28Aから須恵器8550・8559・8566・8580・8581、土師器8604・瓦8614が出土している。

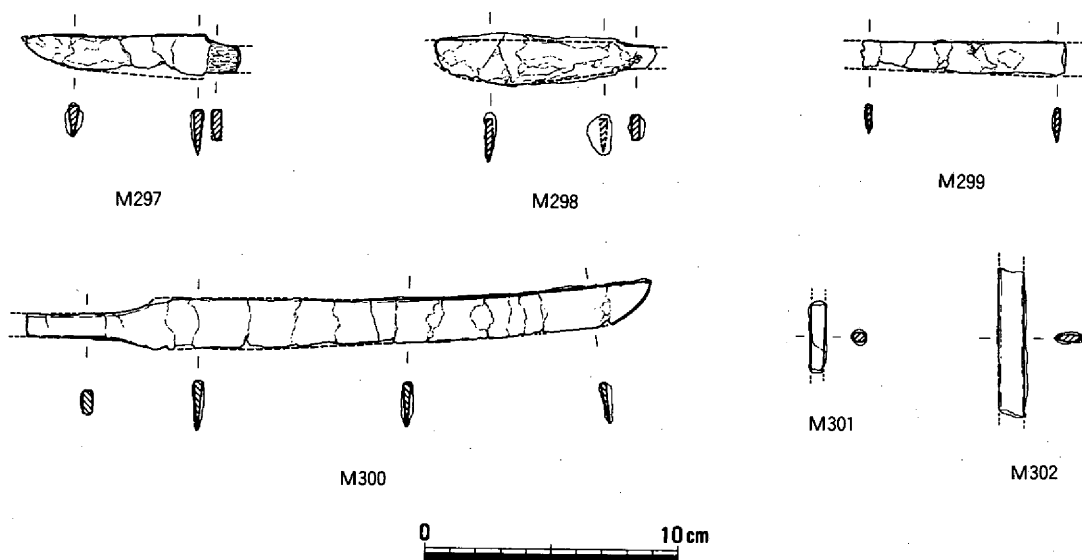
溝-N28Bから須恵器8551・8560・8582・8583、土師器8611、瓦8616、鉄製品M300・M301が出土



第659図 溝-N28出土遺物(3)



第660図 溝一N28出土遺物(4)



第661図 溝-N28出土遺物(5)

している。

溝-N28Cは遺物を最も多く含む。須恵器8549・8553・8554・8556・8561・8563・8565・8567～8569・8571・8575・8577・8585、土師器8587～8594、8596・8597・8600～8603・8605・8606・8608・8610・8612、瓦8618、鉄製品M299・M302の総数36点である。

溝-N28Dは須恵器8552・8555・8557・8562・8570・8572・8579、土師器8595が出土している。

溝-N28Eは須恵器8574・8586が出土している。

溝-N28Fは須恵器を含まず、土師器8595・8598、瓦8613が出土している。

溝-N28D・E、E・F間では土器の接合が認められる。

これらは、他の遺構でもみられる土器であるが、とりわけ、溝-N28C内では比較的多くの土器が出土している。溝-N28の土師器は食器と煮炊き具の2種類にわけられ、前者が8587～8604の杯、皿の類、後者が8605～8612の甕、羽釜等の類である。食器は丹塗りの有無以外にも、整形、調整等の技法、および胎土に相異がみられる。

丹塗りの土師器には、斜放射状、螺旋状の暗文はみられず、外底部における顕著なユビオサエもあまりみられない。反面、斜放射状、螺旋状の暗文のみられる土師器には丹塗りが認められず、外底部のユビオサエが認められる。平城宮との暗文のみの比較では平城宮土器Ⅲ古段階に位置づけられそうである。

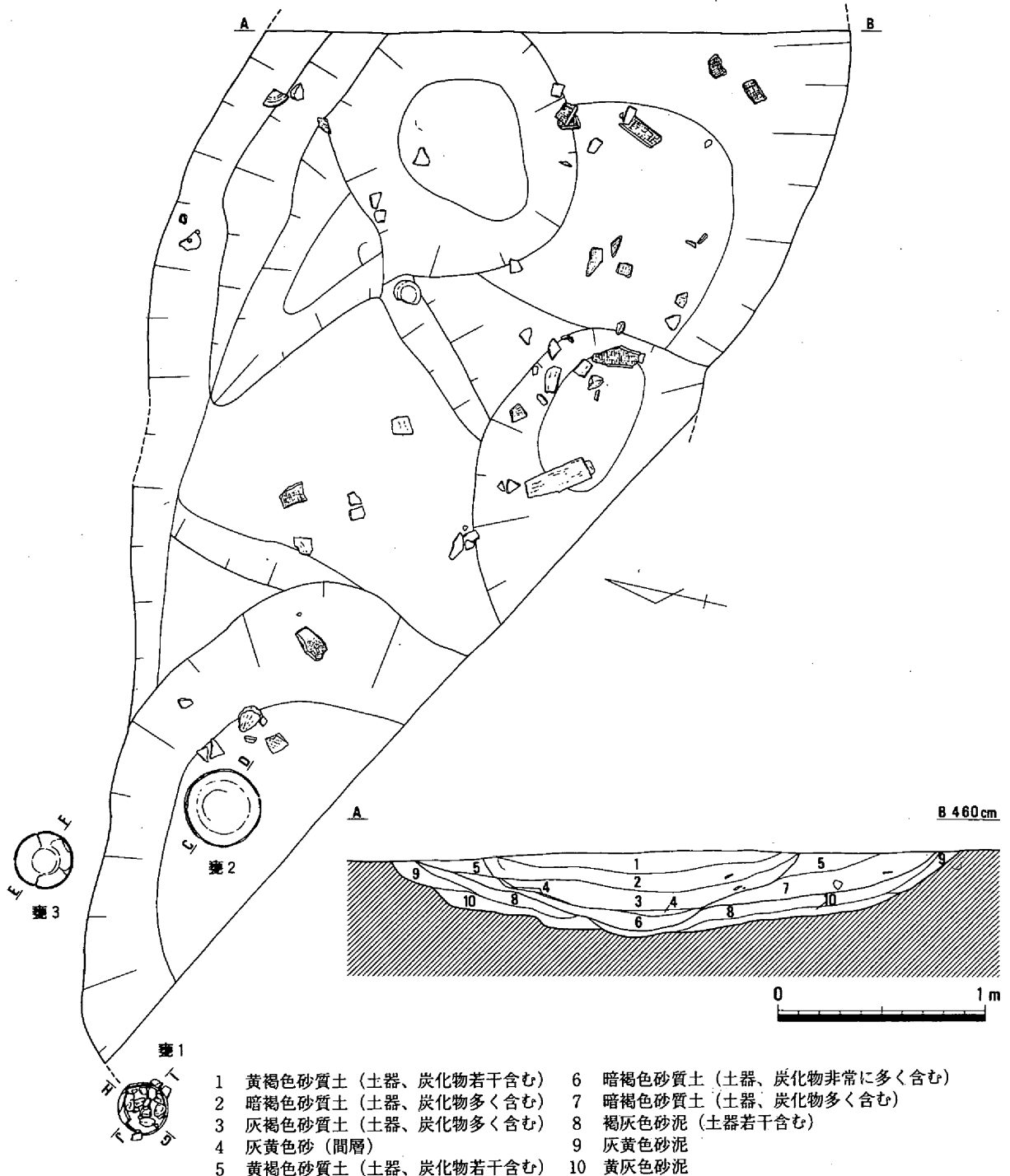
須恵器の食器（杯蓋・身・稜椀）、貯蔵器（壺・甕）の胎土分析では20点中の4点が少し分離するが、他の16点ではほぼ同一の粘土が使用されていることが判明している。また、平・丸瓦の胎土分析においても10点中、丸瓦1点のみが分離するが、他の瓦にはほぼ同一の粘土が使用されているようである。丸瓦8613は非常に残りの良い部類に入り、ほとんどが8614～8618の破片程度の瓦が多い。

掲載した76点の遺物はすべて投棄されたものと考えられる。

(高畑)

溝-480 (第662~672図)

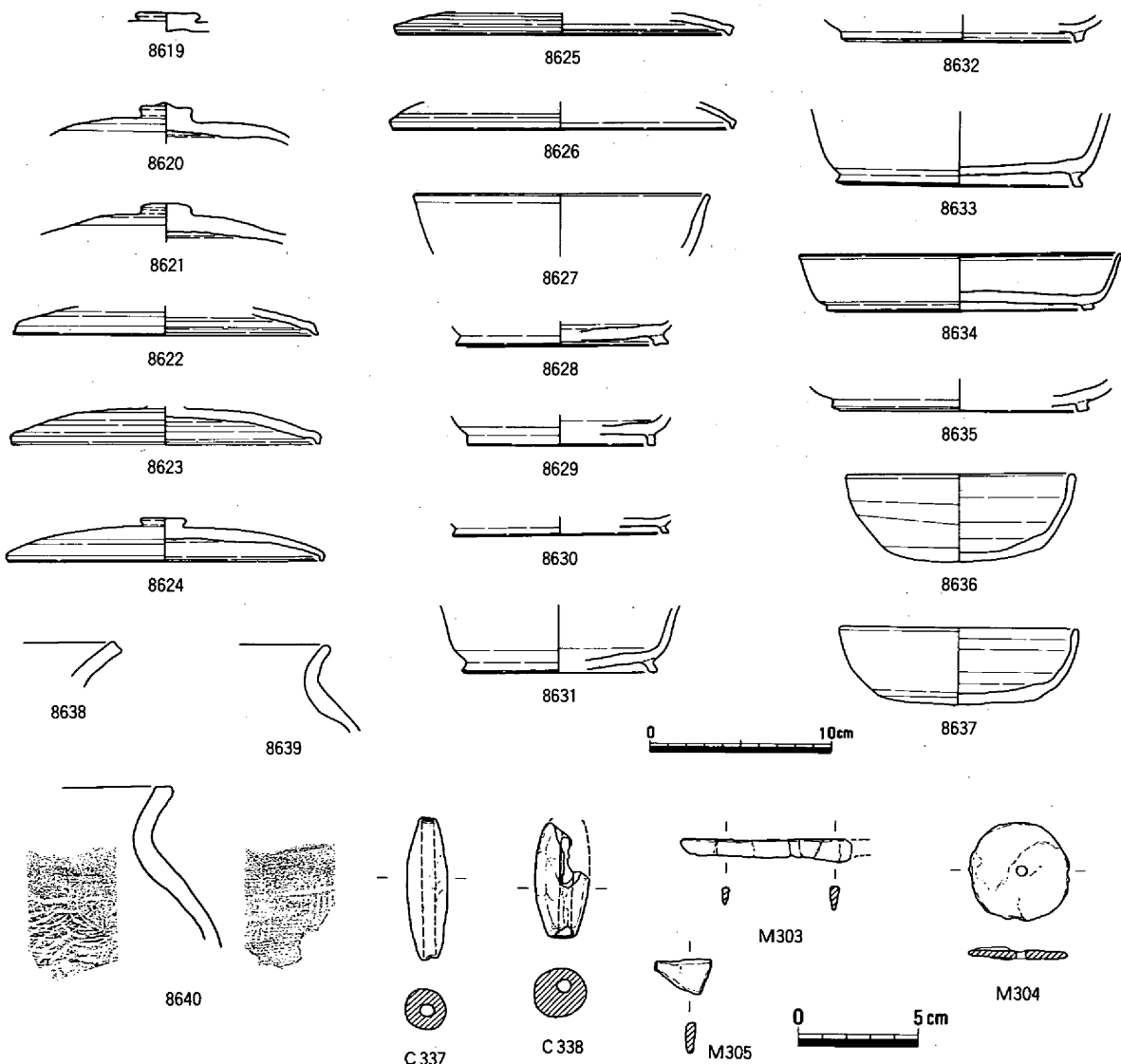
この溝は、溝-27・28で区画された方形区画の内側に位置しており、掘立柱建物-69の西側に隣接して検出された。溝は、方形区画の中央やや北側の東側に存在し、溝-E27・E28から西側に延びる溝-486・487の西側延長上に位置しているが、溝-486・487との間には掘立柱建物-69が存在しており、直線的には続かない。しかし、溝は東西方向に延びており、掘立柱建物との時期差なども考えられ、溝-486・487との関連で考えられるべきであろう。また、溝は位置的には溝-486の方と直続上に位置する。



第662図 溝-480(1/30)

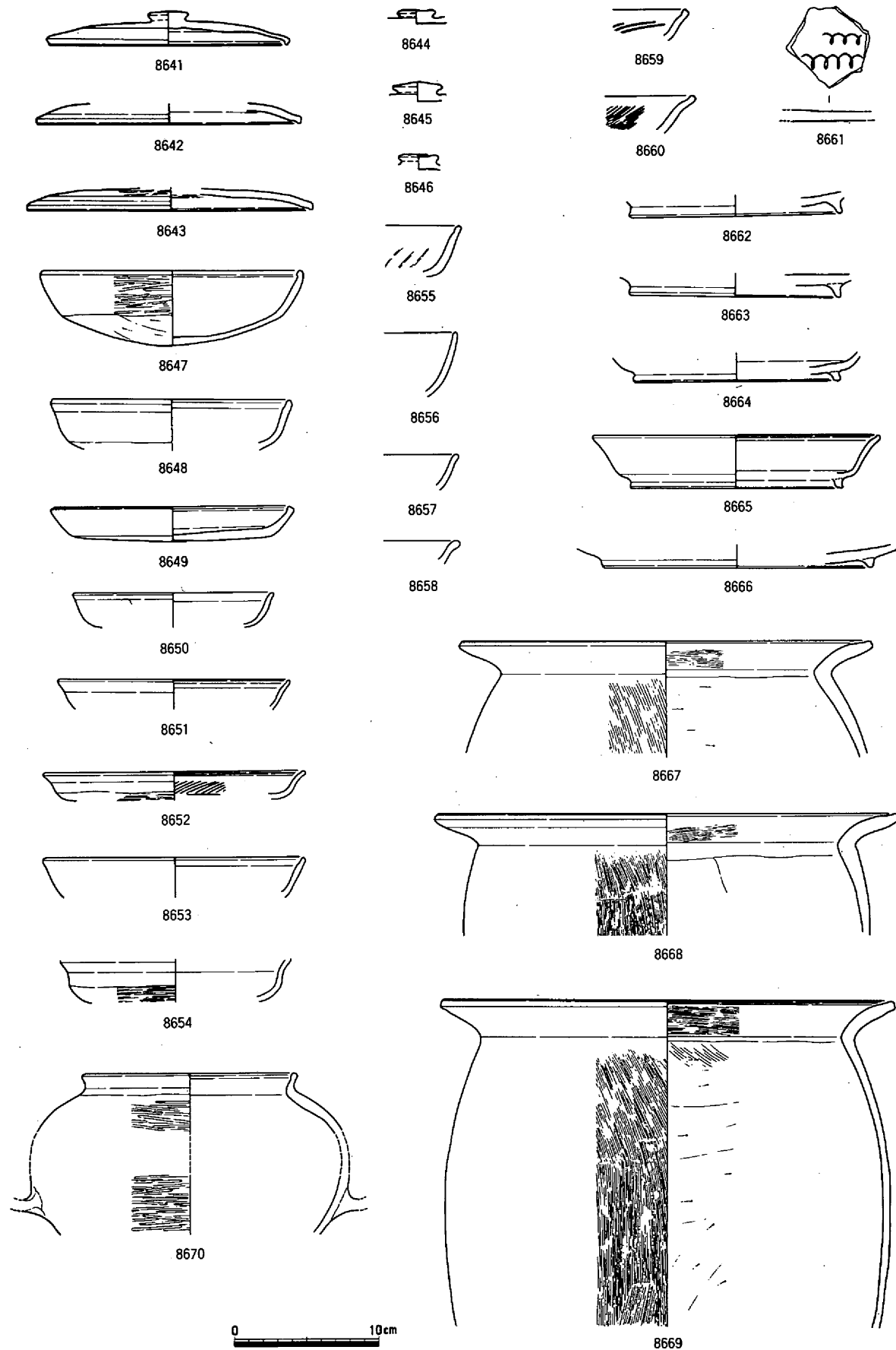
溝の規模は、幅が約275cm、深さが約40cmを測る。溝内は、第1～10層がレンズ状に堆積しているが、第7～10層が堆積したのち第1～第5層が掘り直された状況を示している。各層とも炭化物を多く含んでおり、第6層は特に顕著であった。堆積状況からは流路としての堆積は認められず、底部は凹凸が激しかった。出土遺物は、各層から検出されたが、第662図は底部近くの遺物の出土状況で丸瓦が多く認められ、個体も大きいものが目立った。また、溝の西端部には、甕が置かれたかの状態で検出された。この甕1～甕3は後述するが、甕3は溝の肩部より外側で検出されたが、甕1、甕3と類似しているため同様なものとしてこの項で報告する。

出土遺物は、須恵器、土師器、瓦などを中心に大量を検出された。8619～8640の須恵器は量的には杯類が中心で、8619～8626の杯蓋、8627～8635の高台付の杯身が多く、8636・8637の杯身が少なかった。土師器の8641～8669は、須恵器と同様に杯類が大半を占めた。杯類も丹塗りのものが比率的には高かった。8641～8646は杯蓋で、8647～8666の杯身には高台が付くものもたないものがあった。また、杯身には8652、8655、8659～8661のように暗文を施しているものも認められた。8661は、螺旋文が2重に付いている。8667～8669の甕は、頸部から屈曲気味に外反する口縁部をもつ。外面体部、口

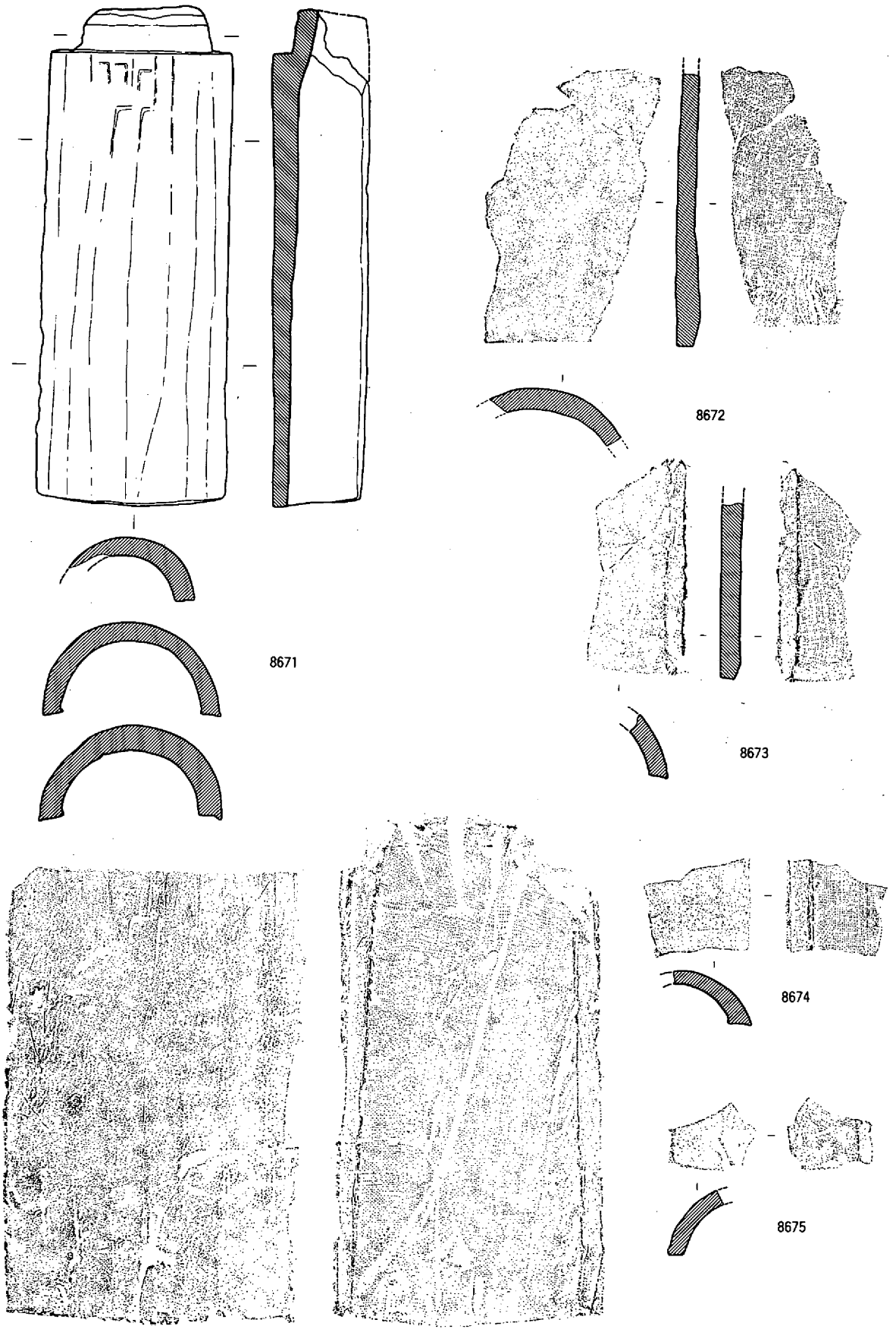


第663図 溝-480出土遺物(1)

第3章 調査区の概要

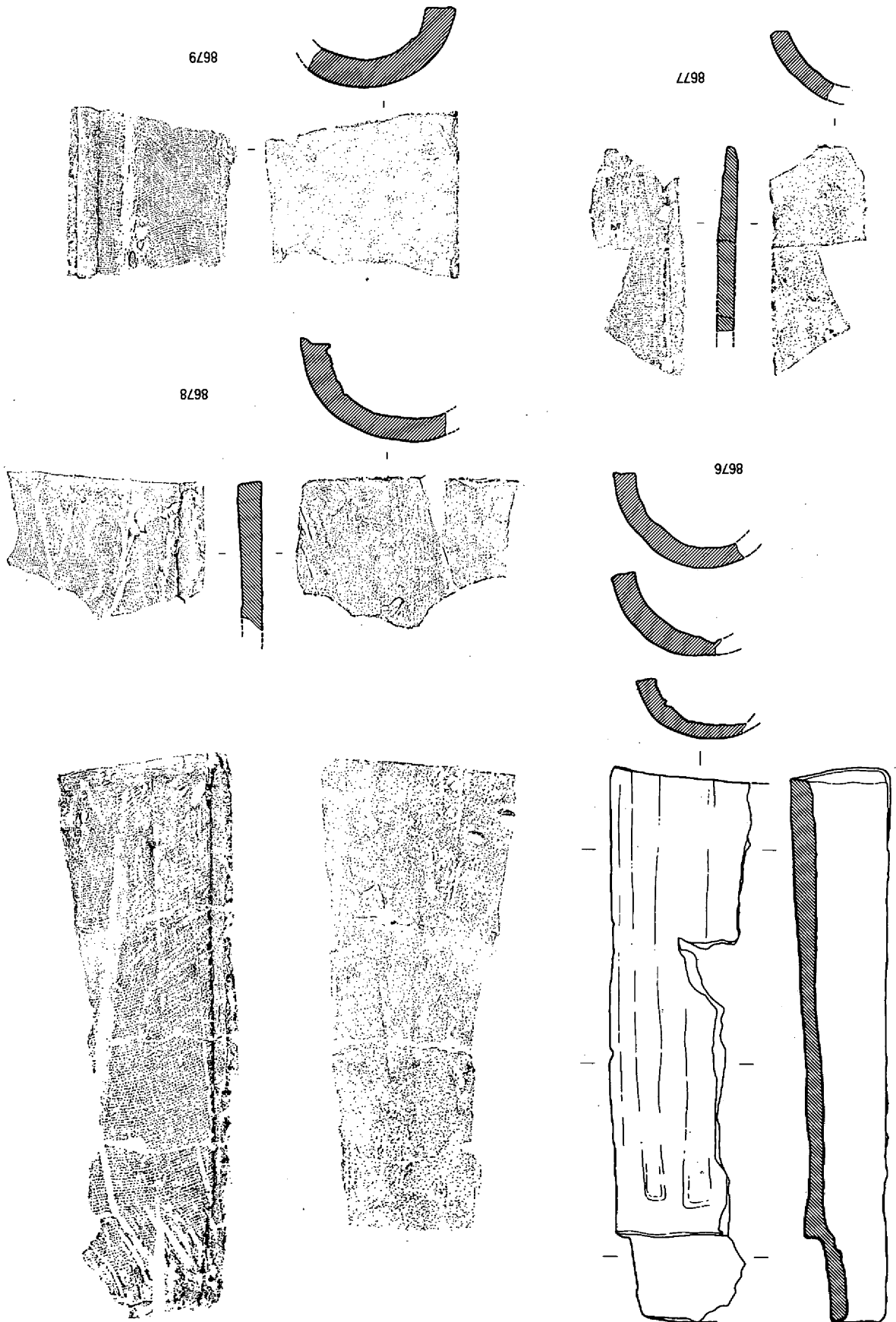
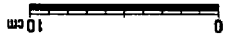


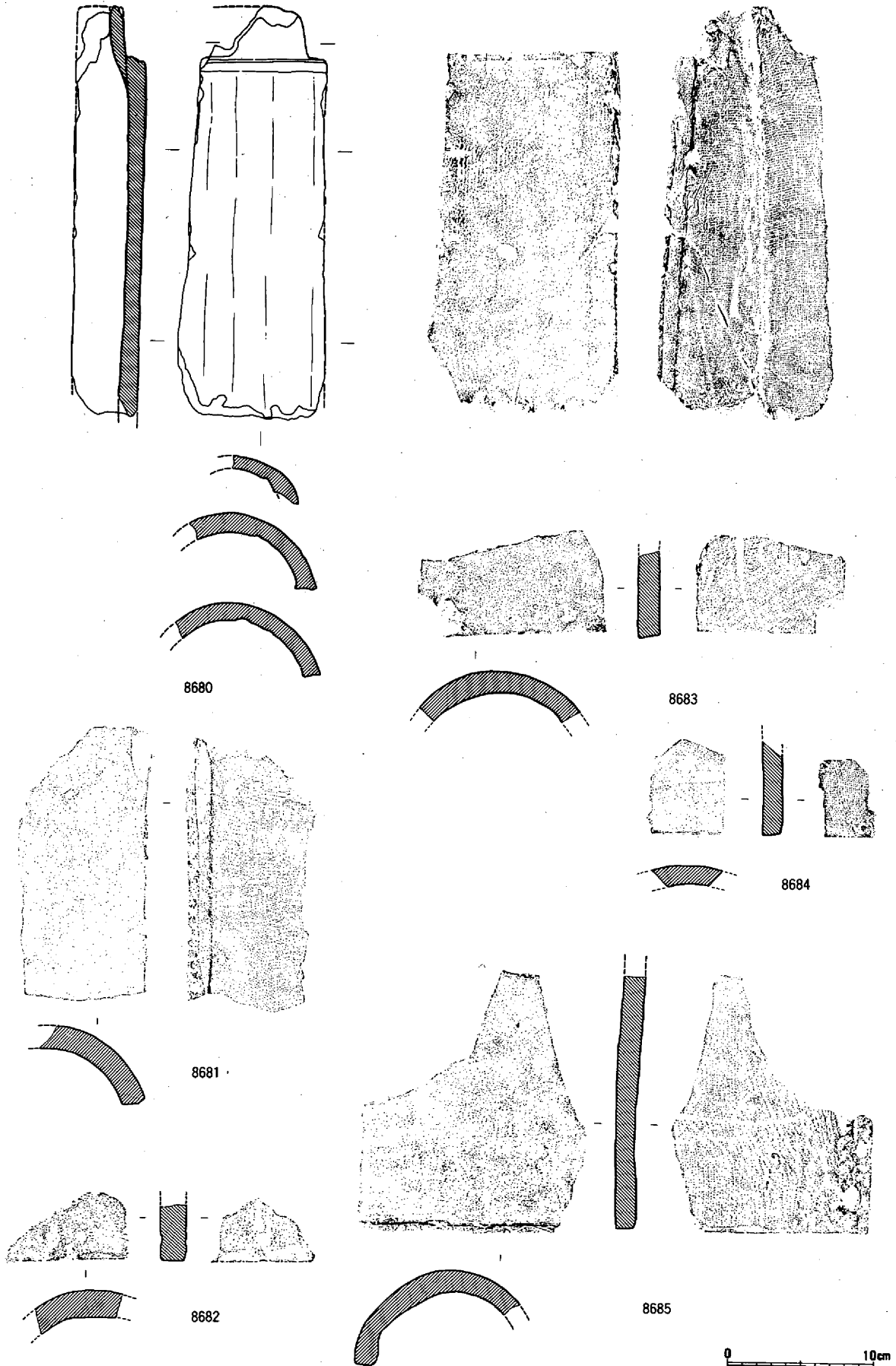
第664図 溝-480出土遺物(2)



第665図 溝-480出土遺物(3)

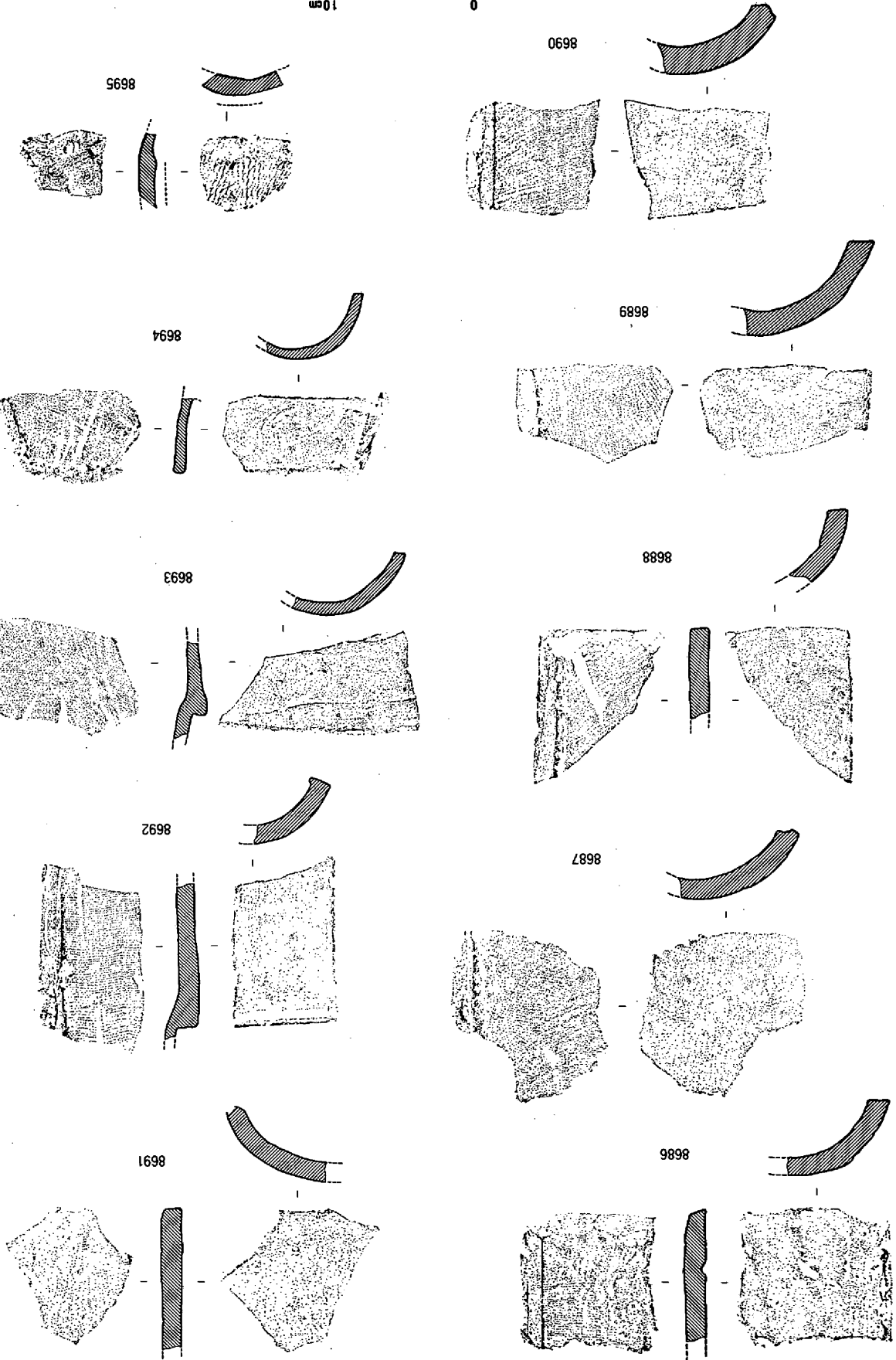
第666図 溝一480出土遺物(4)

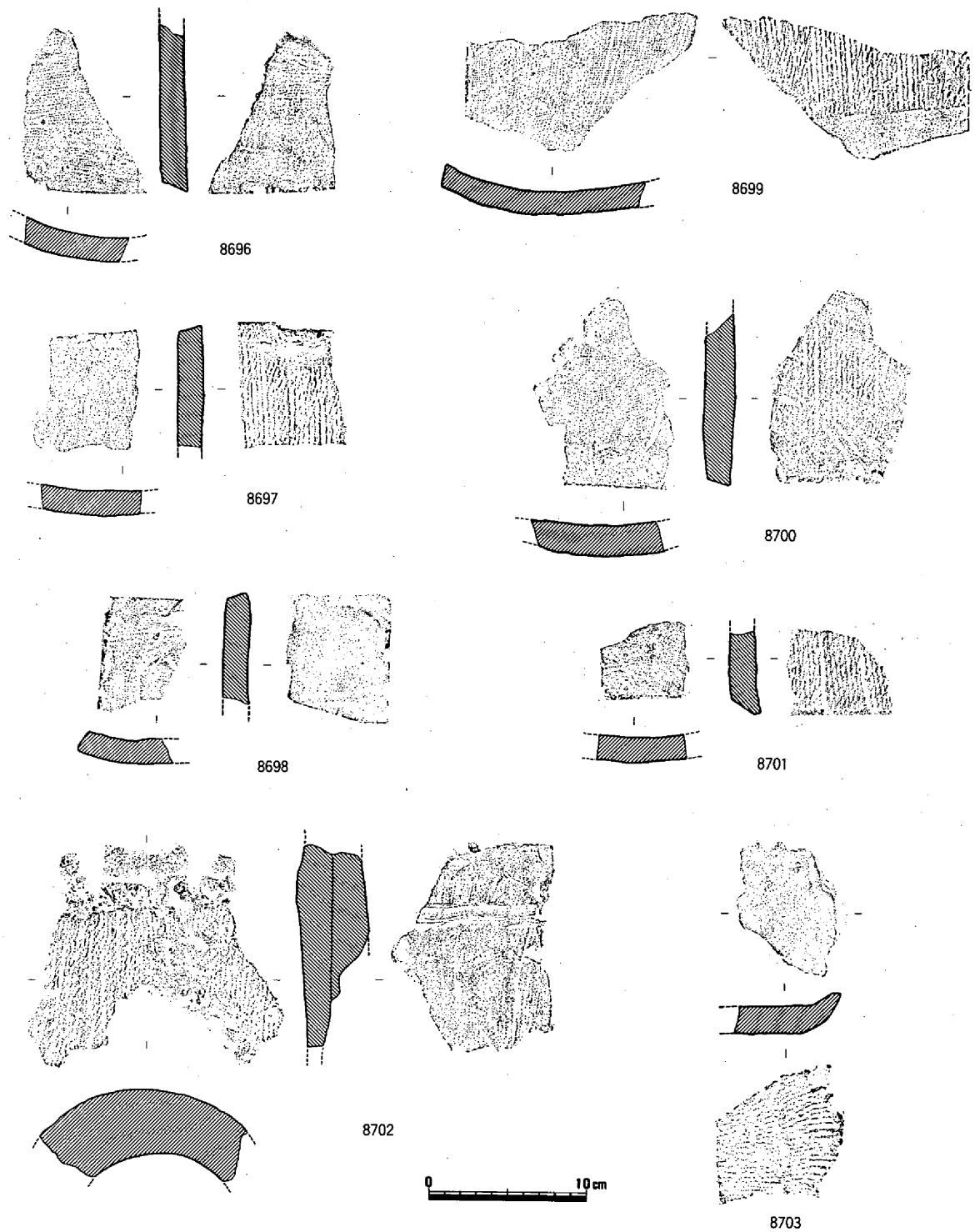




第667図 溝-480出土遺物(5)

第668図 溝一480出土遺物(6)





第669図 溝一480出土遺物(7)

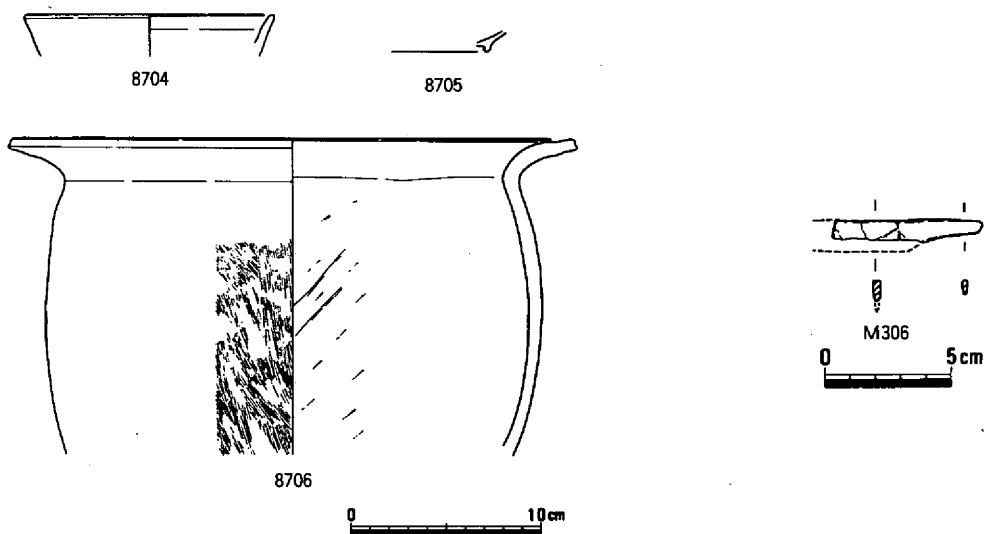
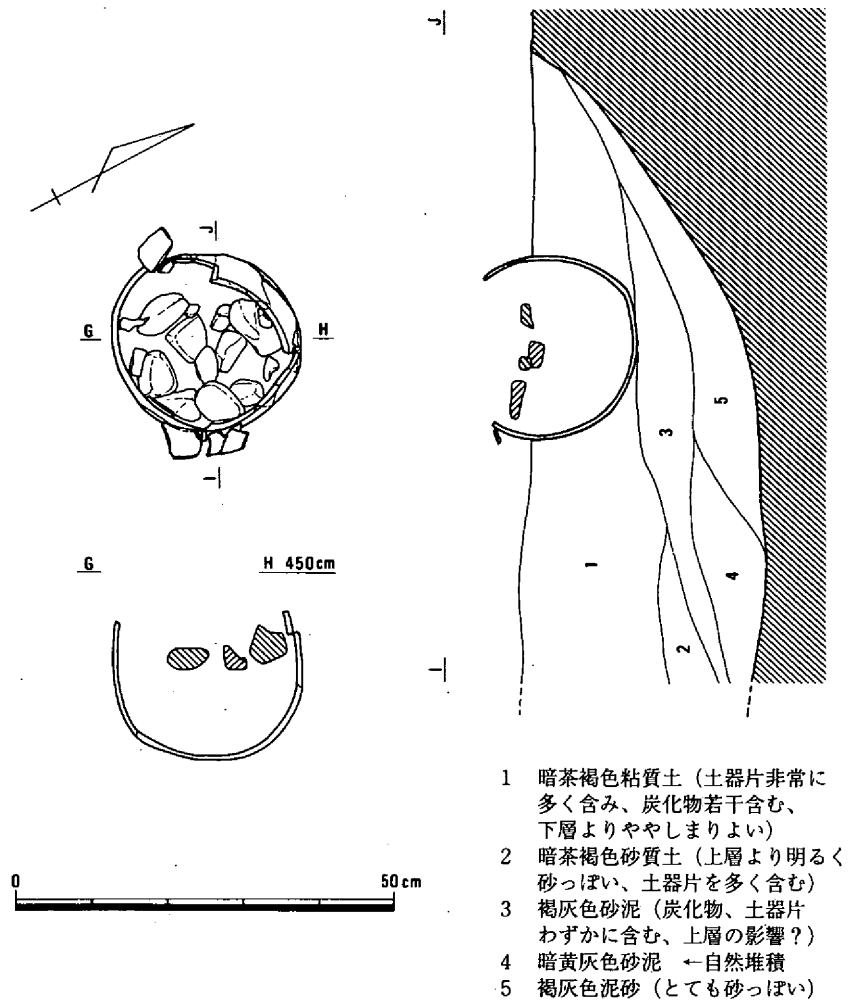
縁内側をハケメ、内面体部はヘラケズリを施している。8670の把手付短頸壺は、精良な胎土で、外面を丁寧なヘラミガキで仕上げている。

8680～8703の瓦は、焼成が良好で須恵質に焼かれているものが多かった。瓦の種類は、圧倒的に丸瓦が多く、平瓦は少なかった。8671～8695の丸瓦は、8671・8676・8680のように完形に近いものも含まれていた。丸瓦は、基本的には玉線が付き、凹面は布目、凸面は縄目が付く。8696～8701の平瓦は、

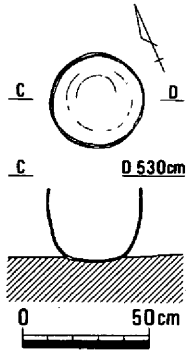
第3章 調査区の概要

丸瓦に比べて量的には非常に少なかった。8702は、器壁が厚く、断面形は丸みをもっており、粘土板を2枚重ねている。この瓦は、破片であるため用途は不明である。また、8703は端部が屈曲して細くなっており、下面には縄目が付いている。上面は丁寧にナデしており水平面をなしている。8703は、瓦に属するかも不明で、8362・8856のような特殊な土器の一部である可能性も考えられる。

甕1は溝-480の西端に検出された。甕は、置かれたような状態で検出され、周辺には同様な甕2、甕3が存在する。甕は底部より浮いた状態で、口縁部を上部にしている。甕の中には、5cm前後の河原石を敷いたような状況で検出された。河原石の下部からは8704・8705の土器片の他にM306の刀子が出土した。このような状況からみて、埋葬施設ではないかと考えられたが骨などは検出できなかった。8706の甕は、検出当初は底部が存在したが、その後粉々になり復元は不可能であった。



第670図 溝-480内甕1 (1/10)・出土遺物



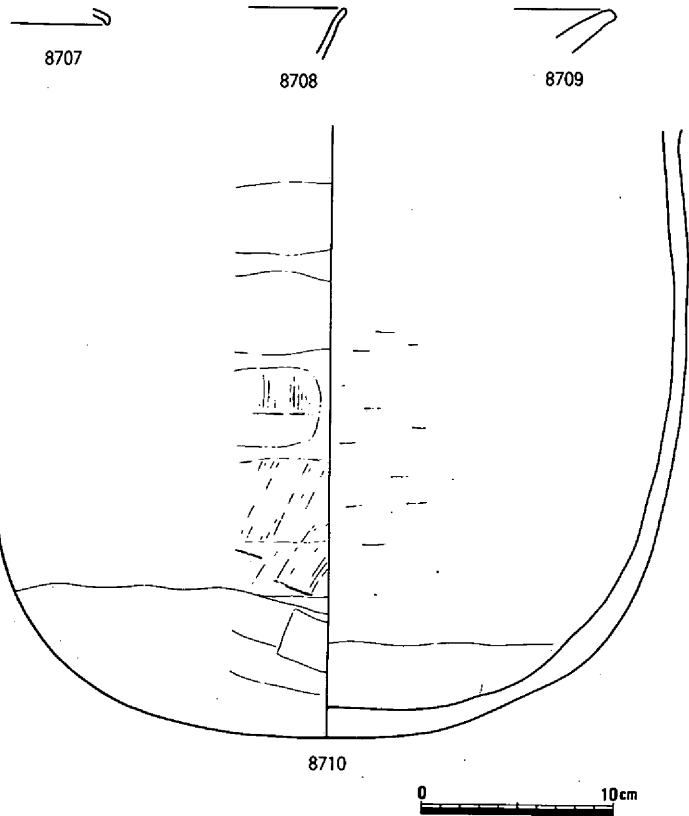
甕2は、溝-480の西端部に位置し、甕1の東側約110cmに検出された。甕は、溝の底部に接地し、甕1と同様に口縁部側を上部に置かれたような状態で検出された。甕は、甕1、甕3に比べて大形のもので、頸部から上部は欠損していた。甕内には、8707~8709の土器の小片が確認されたのみであった。甕2

は、甕1と同様に埋葬施設の可能性が考えられたが、骨などは検出できなかった。8707は、須恵器の杯蓋、8708は丹塗り土師器の杯身で、8708は8710の口縁部と考えられる。8710は、外面をハケメ、オサエで、内面をヘラケズリを施している。

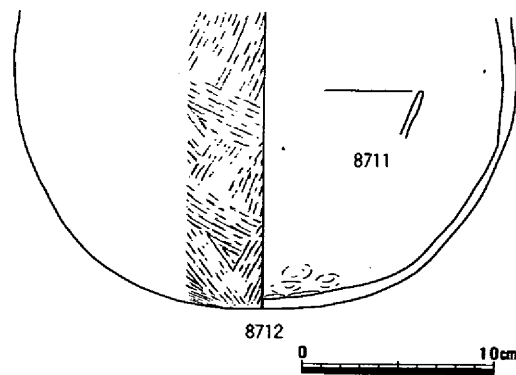
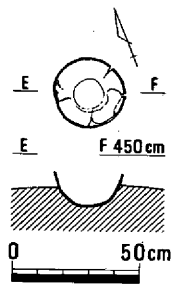
甕3は、溝-480の北側肩部よりやや外側に検出されたが、甕1、甕2と同様のものと考えてこの項で取り扱った。甕3は、甕2の北側約50cm、甕1の北東約100cmに位置する。甕1・甕2と同様な状況で検出された。甕は基盤層にやや掘り込まれた状態であった。甕の上部は欠損していたが、甕1と大きさは殆ど同じである。甕内からは8711の土器片が出土したのみであった。8711は須恵器の杯身で高台が付くと考えられる。8712は、外面に荒いハケメを施し、内面はオサエ、ナデで仕上げている。

甕1~甕3は、いずれも同様な状況で検出され、近接して存在していた。骨などは認められなかったが、甕1では河原石、刀子など特徴的な状況であり、埋葬施設として想起されるものであった。

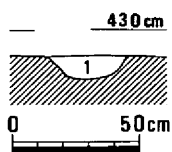
(中野)



第671図 溝-480内甕2 (1/30)・出土遺物



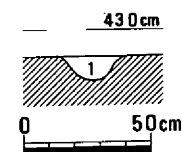
第672図 溝-480内甕3 (1/30)・出土遺物



1 暗褐色砂泥
第673図 溝-481 (1/30)

溝-481 (第673図)

この溝は、溝-483・484に切られて、北西から南東方向に検出された。また、溝-400を切って存在した。規模は、幅約30cm、深さ約8cmを測る。溝内には暗褐色砂泥が堆積していた。出土遺物は、時期を示すものはほとんどなかったが、他の遺構との切り合いから奈良時代と考えられる。(中野)



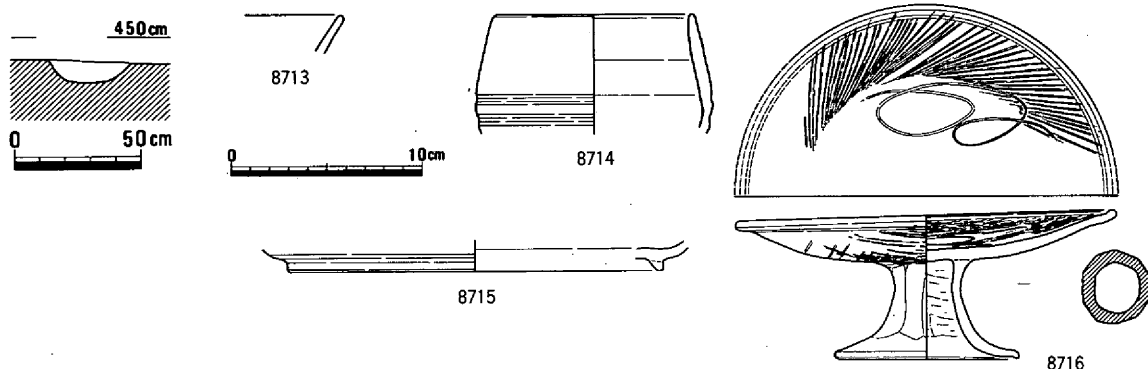
1 暗褐色砂泥
第674図 溝-482 (1/30)

溝-482 (第674図)

溝は、溝-481の西側約3mに検出された。溝-481とは、平行に近い位置関係にある。規模は、幅約24cm、深さ約10cmを測る。溝内は、溝-481と同様の暗褐色砂泥が堆積していた。出土遺物はないが溝-481と同時期であろう。(中野)

溝-483 (第675図)

溝-483は、溝-480とほぼ直角位置に検出された。溝は、溝-480・481を切って存在する。溝の方向は、掘立柱建物と平行しており、南北方向に延びる。規模は、幅約32cm、深さ約8cmを測る。溝内は、茶褐色泥砂が堆積していた。出土遺物は、図示した他に須恵器、土師器が少量検出された。8716は、脚柱部を10面に面取りしており、杯部内面には暗文を施している。(中野)



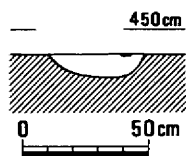
第675図 溝-483(1/30)・出土遺物

溝-484 (第676図)

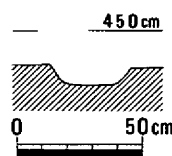
溝は、溝-483の西側約3mに平行して検出された。溝-483~485は、ほぼ3m間隔で平行して存在する。幅は約38cmで、深さは約9cmを測る。溝内は茶褐色泥砂が堆積していた。出土遺物は8717・8718の須恵器が検出された。時期は奈良時代と考えられる。(中野)

溝-485 (第677図)

この溝は、溝-484の西約3mに平行して検出された。幅約30cm、深さ約6cmを測る。溝-483・484とは、規模、方向、埋土などが同様である。時期も同様であろう。(中野)



第676図 溝-484(1/30)・出土遺物



第677図 溝-485(1/30)

溝-486 (第678・679図)

この溝は中屋調査区の北側部分に存在し、掘立柱建物群を囲む2条の溝の内側に位置する溝-E28から直角に枝分かれした状態で検出された。西方向約5mの地点には掘立柱建物-69が存在し、南方向約4mの地点には、この溝-486と対になる溝-487が確認されている。

平面形は長さ230cm、幅115cmの楕円形に近い形態を呈し、精査したがこの溝そのものが西側に向かって続かなかった。検出面からの深さは40cmを測り、断面形は「U」字形になっていた。

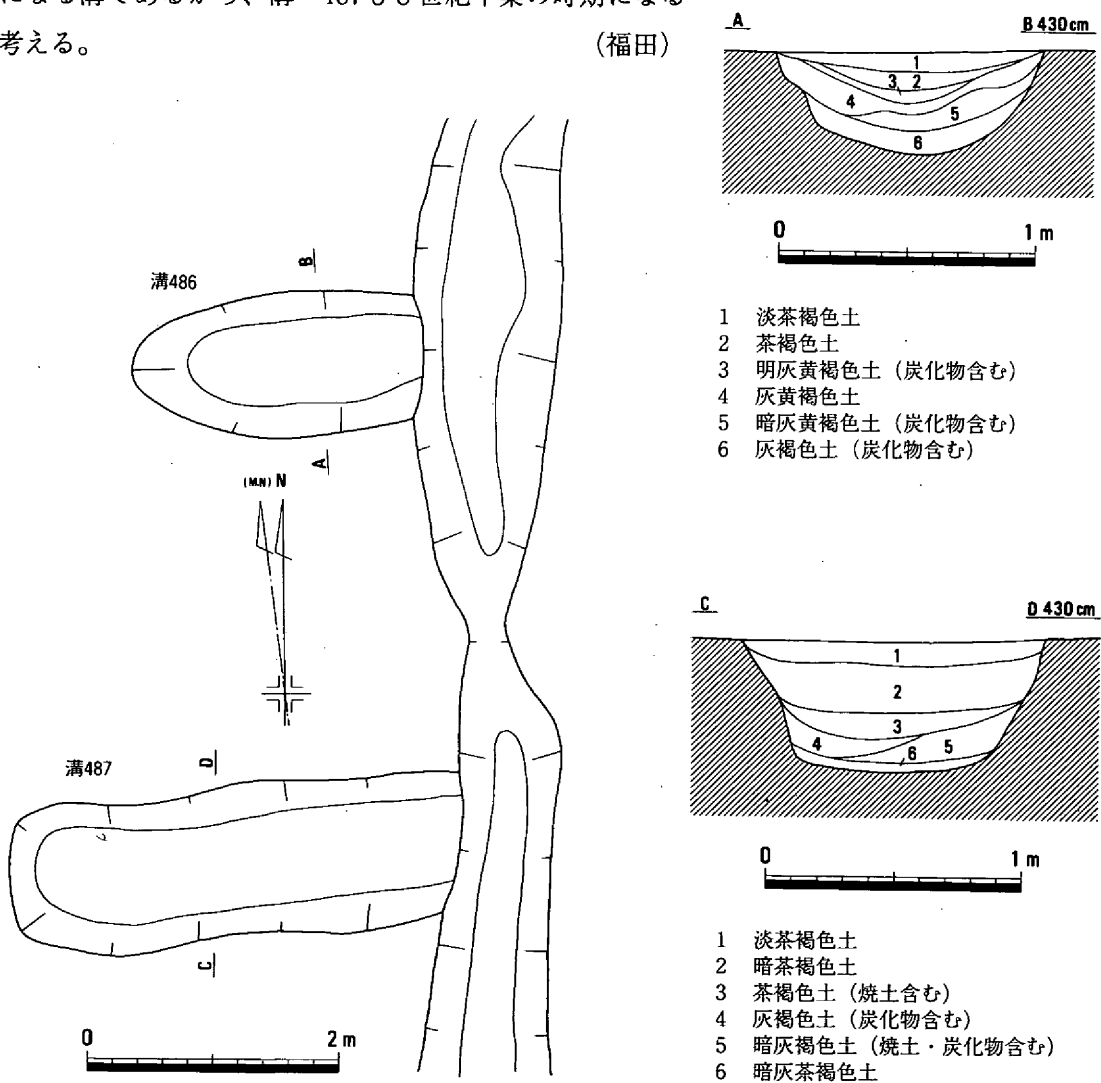
出土遺物として須恵器8719~8725と土師器8726~8729があるが、それらの調整手法や形態的特徴などから、溝-486は8世紀中葉の時期に属すると考える。(福田)

溝-487 (第678図)

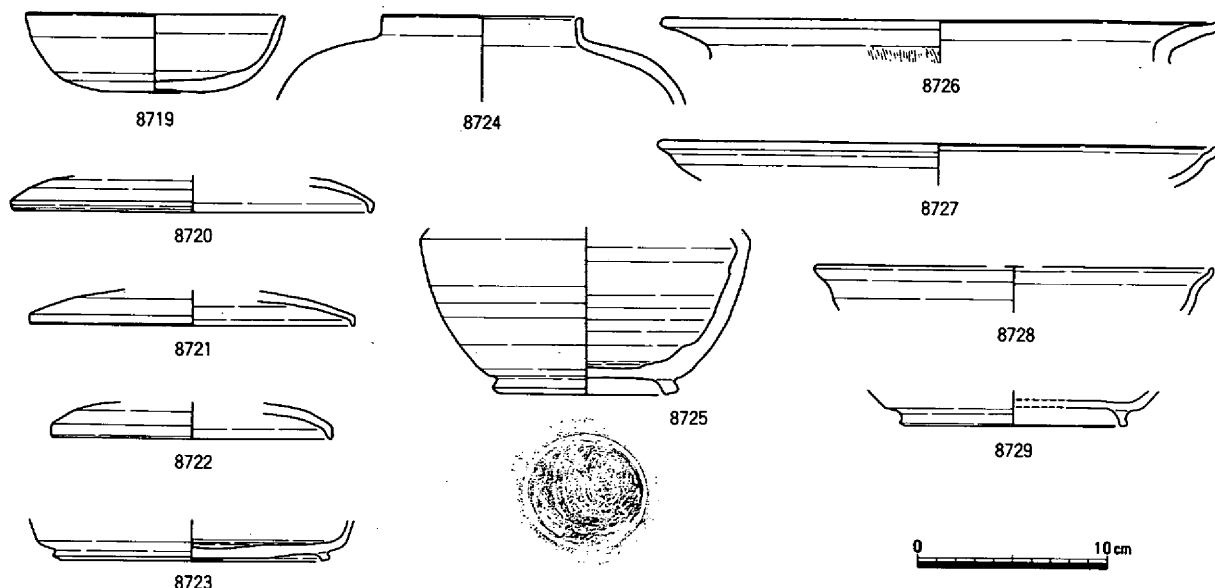
この溝は、前述した溝-486と対になる溝で、約4mの幅で東西方向に平行する状態で存在した。この溝も掘立柱建物群を囲む内側の溝-E28から直角に枝分かれしていたが、西側へ続かなかった。

平面形は長さ355cm、幅120cmの隅丸方形を呈し、検出面からの深さが50cmで、断面形が「U」字形になっていた。

溝内から図化できる遺物は出土しなかったが、溝-486と対になる溝であるから、溝-487も8世紀中葉の時期になると考える。(福田)



第678図 溝-486・487(1/60・1/30)



第679図 溝一486出土遺物

溝一E27 (第680～683図、巻頭図版1-2)

この溝は、掘立柱建物群を囲む2条の溝のうち、外側に位置するものである。中屋調査区の北側約半分の範囲に、南北方向を示して繭状に連なる溝が直線的に検出されている。北側の部分は調査範囲外になるため、全容を明らかにすることができなかったが、境界地点から南方向に向かって延長約75mまで、繭状を呈する10個以上の痕跡を確認した。

それぞれの繭状を呈する溝の長さは、長いもので約8m、短いもので約4mであり、幅についても60～180cmと、個々の溝の規模に差が認められた。これらの溝の検出面からの深さは30～60cmで、断面形がいずれも「U」字形を呈し、内部から須恵器や土師器の土器片が出土した。(福田)

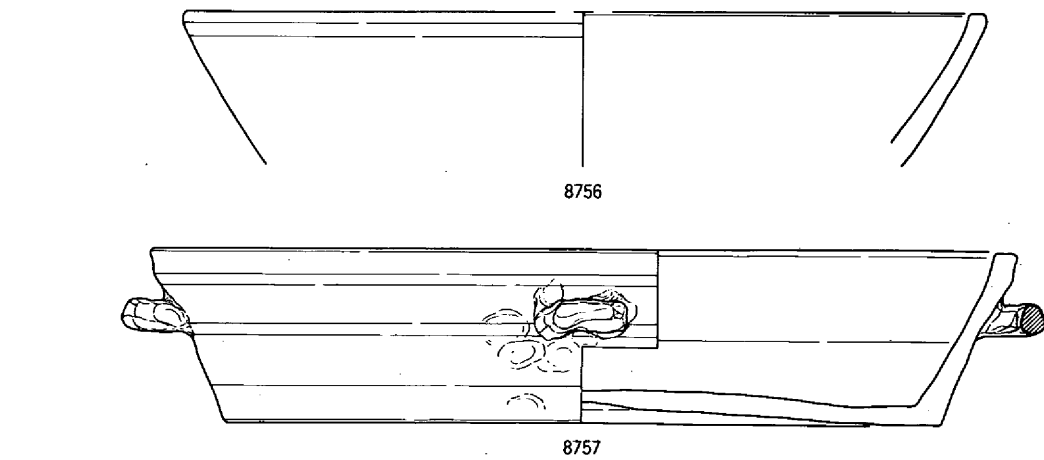
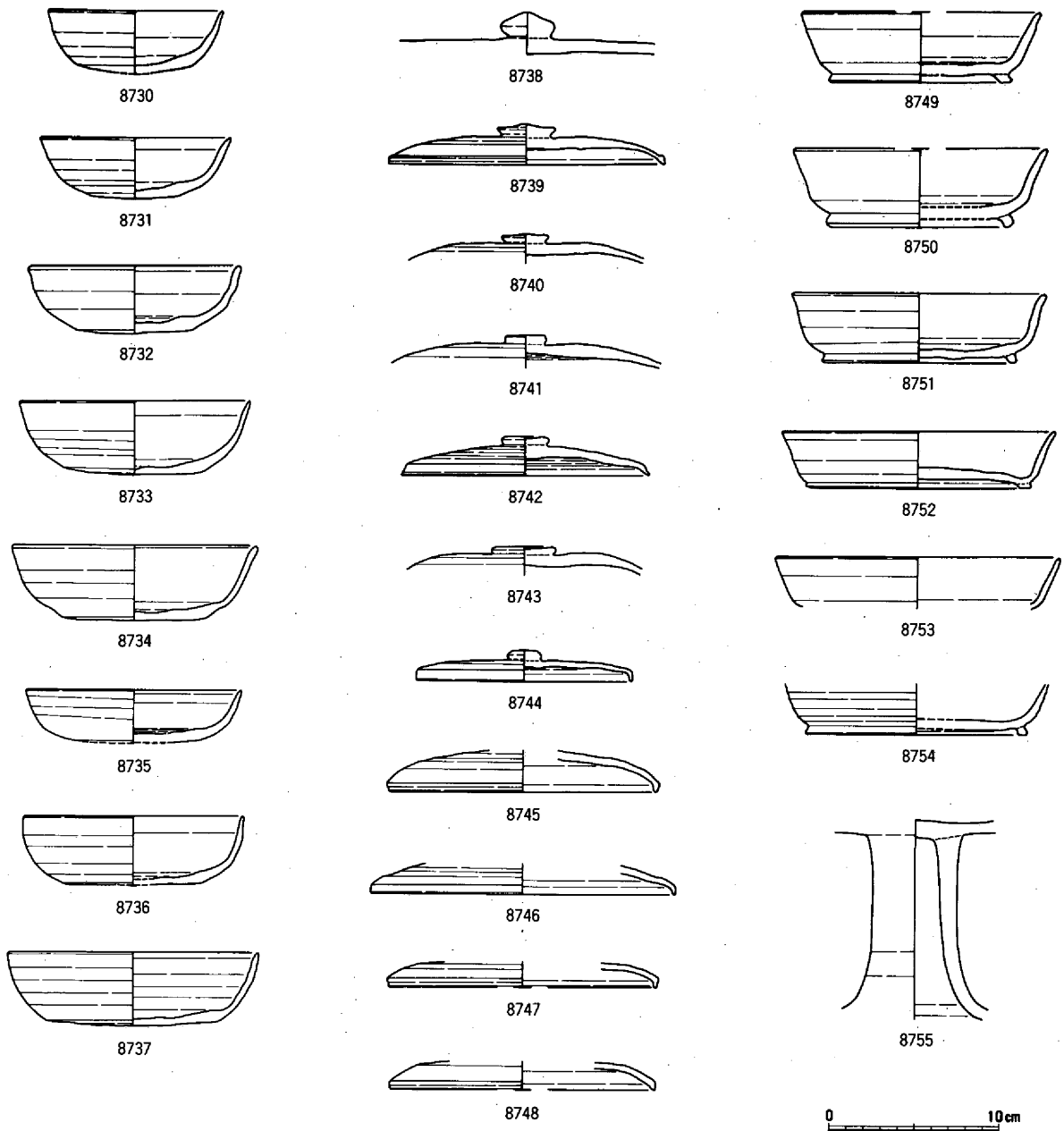
溝一E28 (第680～683図、巻頭図版1-2)

この溝は、前述した溝一E27と対になって掘立柱建物群を囲むもので、内側に位置している。溝一E27とは約5mの幅を隔てて、繭状を呈する8個以上の溝が直線的に連なっている。南北両端部については、調査範囲外になるため、全容を明らかにすることができなかった。

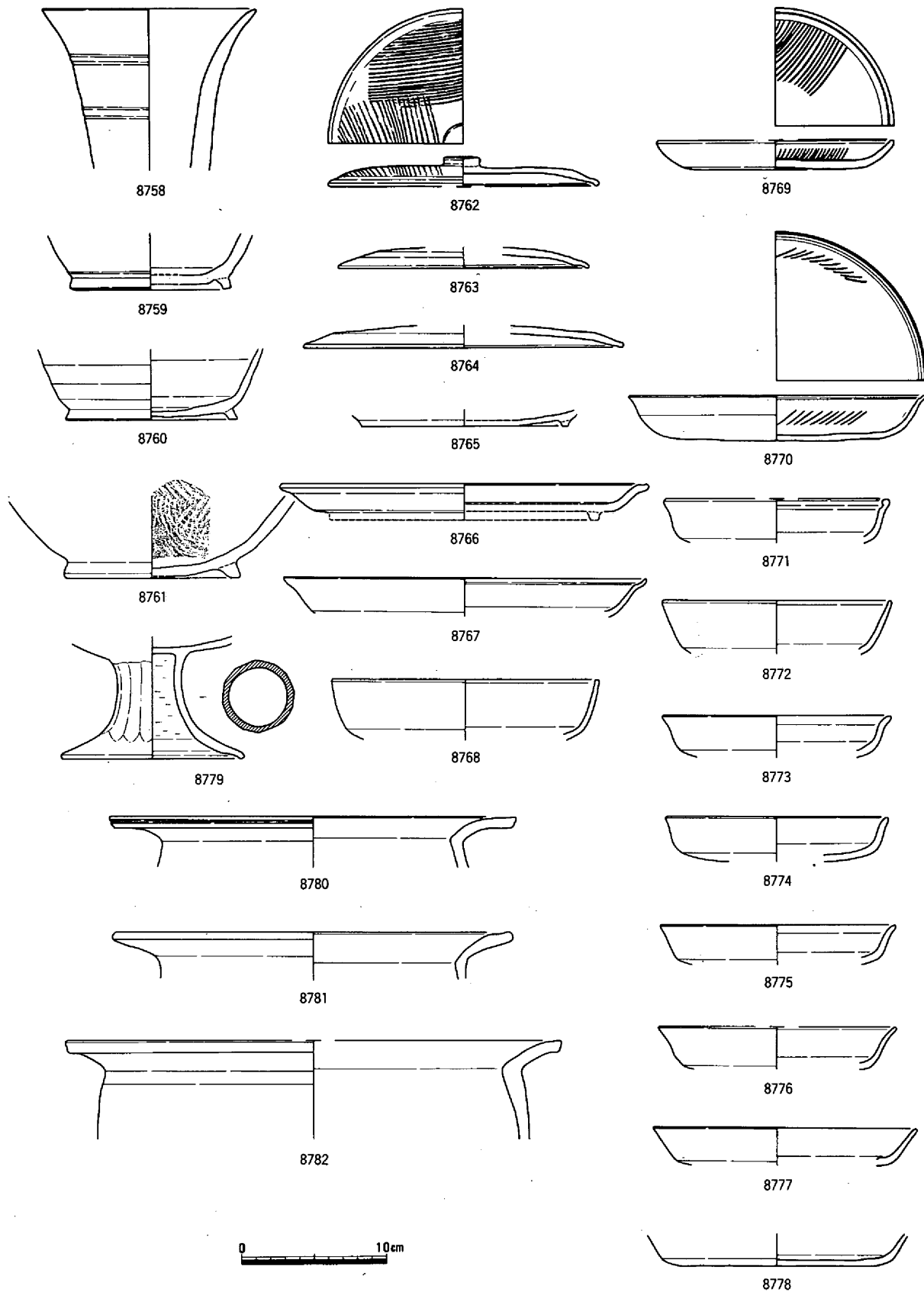
この溝の西側には、掘立柱建物一67、掘立柱建物一68、掘立柱建物一69が棟方向を同じにして直線的に並んでいるが、溝と東側の桁行の距離が、掘立柱建物一67で約5.60m、掘立柱建物一68で約5.00m、掘立柱建物一69で約4.40mと、北から南方向へ移行するにしたがって幅が狭くなっていた。この溝には、溝一486と溝一487が約4mを隔てて直角に枝分かれしているが、西側方向へその痕跡が続かない。掘立柱建物一69が築造される以前に、繭状を呈する溝によって囲まれた広い区画を、小範囲に分割する施設があったかもしれない。

個々の繭状を呈する溝の規模や形態などについては、前述した溝一E27のものとはほぼ同じである。

溝一E27と溝一E28からは、比較的多くの遺物が出土した。この2条の溝は対になって検出され、溝内に堆積していた土砂や出土した遺物に変化が認められなかったため、須恵器8730～8757と土師器8758～8782を一括して提示している。これらの土器の調整手法や形態的特徴から、掘立柱建物群を囲む東側に位置する溝一E27と溝一E28の2条の溝は、8世紀中葉の時期に属すると考える。(福田)



第680図 溝一E27・E28出土遺物(1)



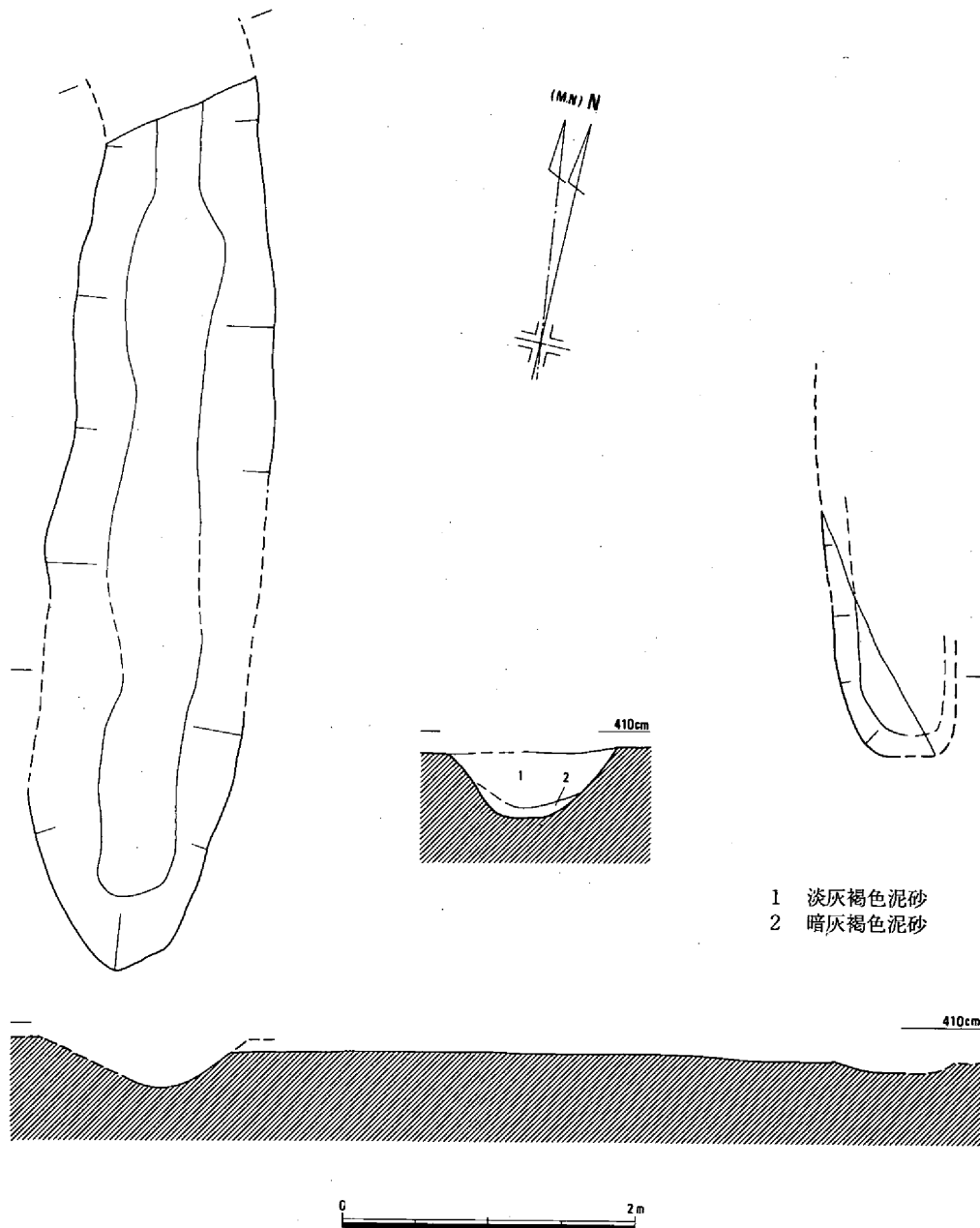
第681図 溝一E27・E28出土遺物(2)

溝-E27・E28 (B地点) (第682・683図)

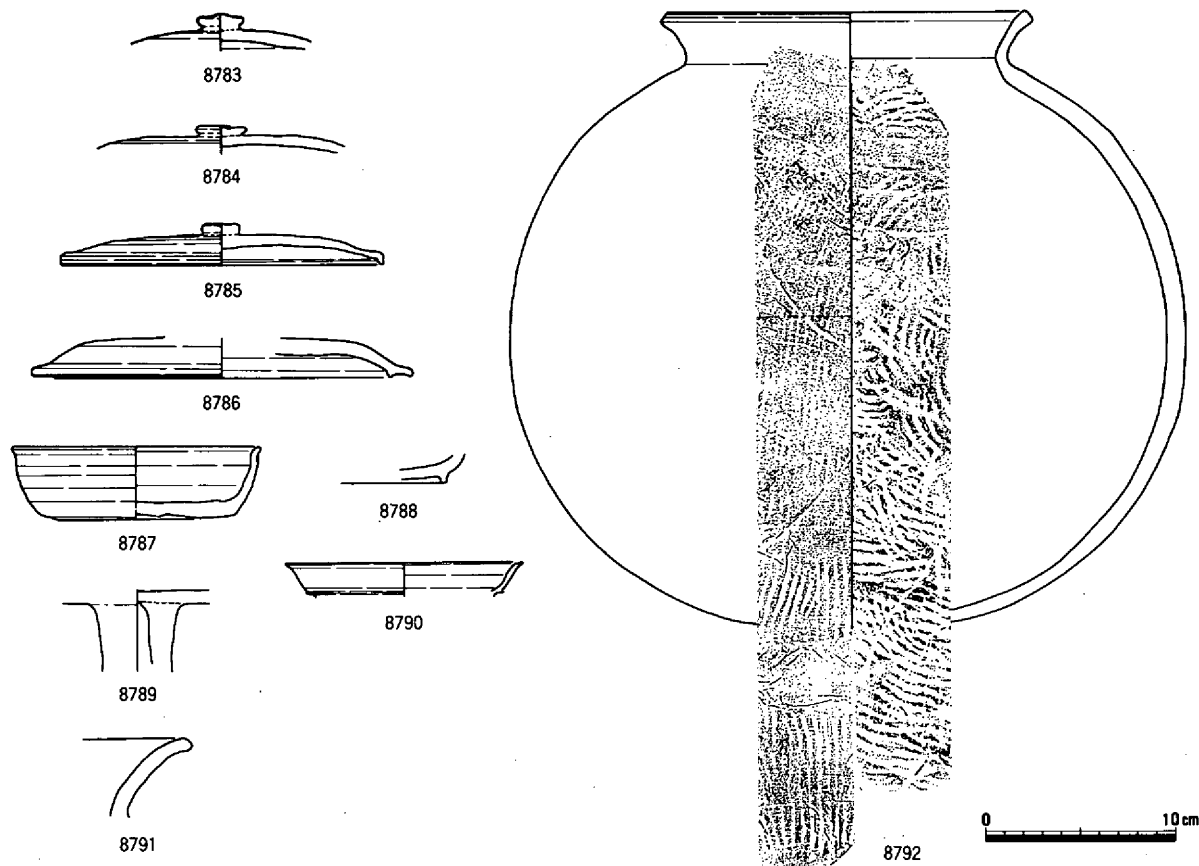
この溝は、方形区画の溝である溝-27・28の東辺部分の南端にあたる。第682図のように南北方向に約500cmの間をおいて検出され、溝-27・28の延長部と考えられた。外側の溝-E27は、北側で検出されている溝とは直線的に続くものの、Og~Pcラインで検出されている溝と比べてみると、やや東側に振っている状況が認められる。残存状態の良好であったOg~Pcラインでの溝を直線的に延ばしてみると、この地点での溝-E28が、Og~Pcラインでの溝-E27の延長上に位置する。

溝-E27は、調査区の端部に一部が検出された。幅は推定約80cm、深さは約10cm前後であった。出土遺物は、8792の須恵器の壺が出土している。8792は、頸部から外反する口縁部をもち、端部は肥厚させている。体部外面は平行タタキ、内面は同心円タタキを施している。

溝-E28は、溝-E27の西側5mに検出された。溝は、ほぼ南北方向で、長さ約6m検出され、幅



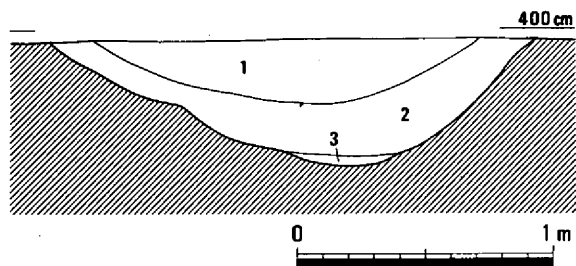
第682図 溝-E27・E28(1/50)



第683図 溝-E27・E28出土遺物

は約150cmを測り、深さは約45cmであった。溝は、南側では肩口が上がり、細長い土塊状を呈しており、北側で検出されている溝-E28と同様な状態で検出された。溝内は、上下2層が堆積しており、上層より8783~8791などの須恵器、土師器が出土した。図示した遺物はいずれも須恵器である。

8783~8786の杯蓋は、8786が口縁内側にかえりを残している。他は8785のような口縁部を呈する。8786は、胎土、焼成とも良好で、外面には自然釉が掛っている。杯身には、高台の付く8788と高台の付かない8787がある。8787は、底部からやや内湾して立ち上がり、口縁端部で外側に開く。また、8789の高杯、8790の椀、8791の甕が出土している。図示した遺物は、8786を除くと8世紀の特徴を示している。
(中野)

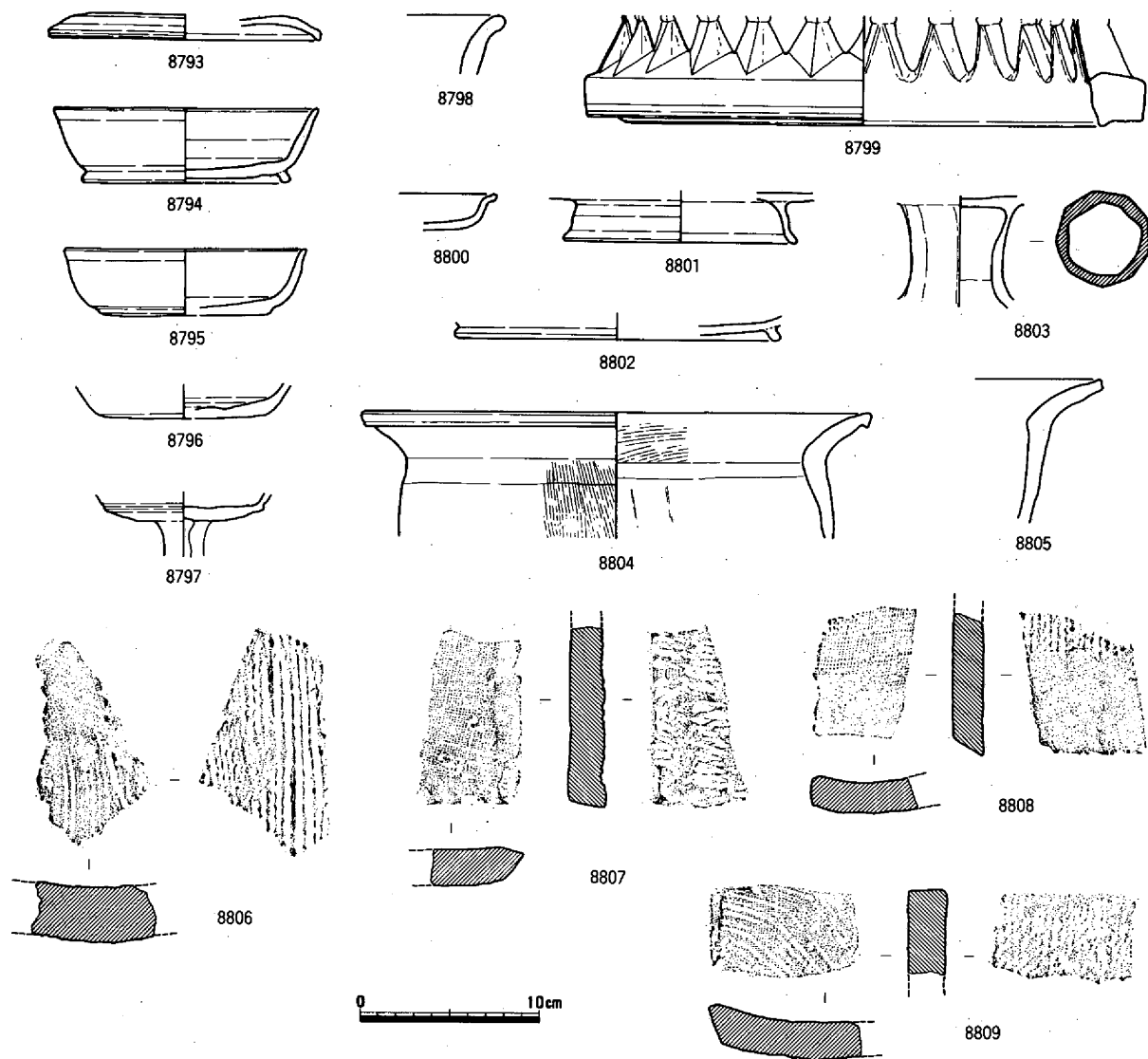


- 1 淡茶褐色砂質土 (マンガンを含む)
- 2 暗黄褐色砂質土
- 3 暗褐色粘質泥砂

第684図 溝-E48(1/30)

溝-E48 (第684・685図)

この溝は、方形区画の南東隅部付近に位置し、溝-E27の南端から南南東約17mに検出された。溝は、長さ約600cm、幅約200cmの規模で、溝-E27・E28などの一単位と同様なものである。溝は、この一単位しか検出できず、前後には続いていない。溝はほぼ東西方向に検出され、方形区画の溝-E27・E28よりは外側に位置する。溝の深さは約50cmで、第1~第3層がレンズ状



第685図 溝-488出土遺物

に堆積しており、方形区画溝の堆積土と類似している。溝の上面では、図示したような遺物が多数検出された。

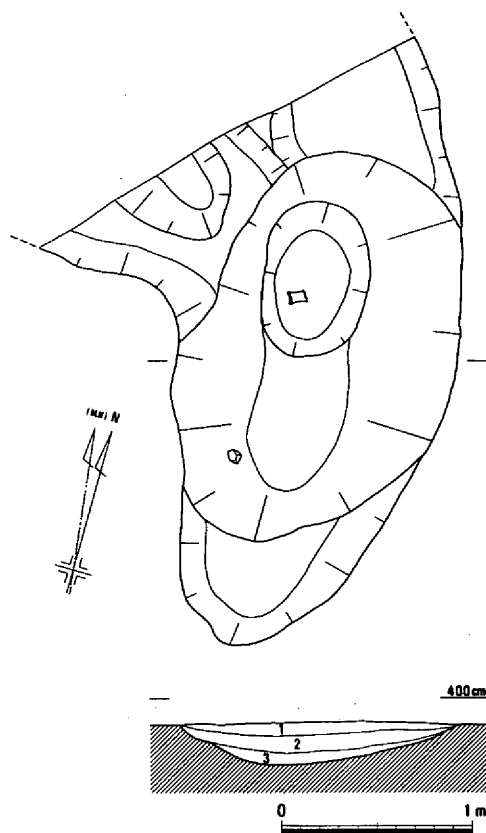
8793～8799が須恵器、8800～8805が土師器、さらに8806～8809が平瓦である。8793の杯蓋は図示できるものが一点しかなかった。8794～8796の杯身は、高台の付く8794と高台の付かない8795・8796がある。8797の高杯はやや小形のものである。また、広口壺の8798も出土している。8799は、縮脚硯で底径は約27cmを測り大形のものである。胎土は精良で焼成は良好である。透かし部分は、推定25か所前後と考えられ、ヘラケズリののち丁寧なナデで仕上げている。この縮脚硯と類似したものは「津寺4」掲載の4601で、焼成・胎土とも同様なもので同一個体の可能性が高い。

8800～8802は土師器の皿で、8801は内外面とも丹塗りを施している。8801の高台部は高く、端部は丸くおさめている。8803の高杯は外面に丹塗りが認められる。脚柱部はやや短めで、9面に面取りをしている。また、8804・8805の甕も出土している。

8806～8809はいずれも平瓦で、表面に布目、裏面に縄目が付く。

これらの遺物はいずれも8世紀代の特徴を示している。

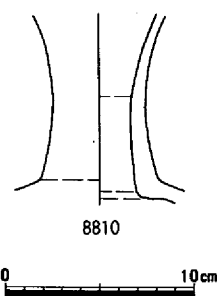
(中野)



溝-489 (第686図)

この溝は、方形区画内の中央やや東側の南側に位置し、柱穴列-4の北側に近接して検出された。溝は、北側が調査区外であるが、東西方向から南北方向に「カギ」状に検出された。柱穴列-4は、掘立柱建物の一部と考えられ溝はこの柱穴列-4を囲うような状況であり、掘立柱建物に付随する溝である可能性が高い。溝の底部は凹凸があり、深さは約22cmを測る。溝内は第1～第3層がレンズ状に堆積している。溝内からは8810の須恵器の長頸壺が出土している。(中野)

- 1 淡黄灰色粘質土
- 2 淡灰黄色粘質土
- 3 淡茶灰色粘質微砂



第686図 溝-489(1/40)・出土遺物

溝-S27・S28 (第687～690図)

この溝-S27・S28は、南北約124m、東西約94m二重の溝によって方形に区画された南辺の溝である。今回報告する位置は、南辺の中央から東側にかけての部分である。方形区画される溝の南西隅部はすでに報告されており、その延長上の位置に検出された。溝が検出された位置には、後世の大溝が一部重複しており、部分的に削平を受けていた。外側の溝-S27と内側の溝-S28は、他の方形区画の溝と同様に約5mの間隔を保っている。溝-S27は全長約37m、溝-S28は全長約21m検出された。

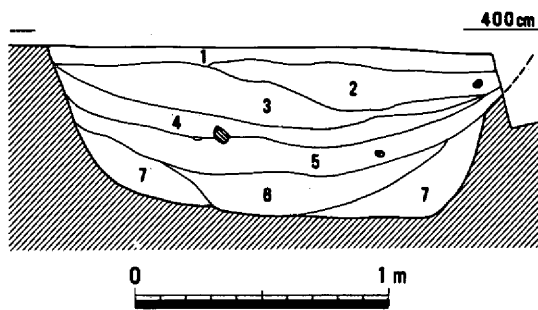
溝-S27は東側で後世の削平を受けていたものの全長約37m検出された。幅は最も幅の広いところで約390cmで、深さは約110cmを測る。第688図の断面図では、2か所に深い部分があり、第2～6層が堆積する部分が溝の内側である北側の位置にあたる。第7層の部分は、平面的にも約10m続いて掘られている部分が認められ、部分的ではあるが底部が二条に掘られている。他の方形区画溝ではこのような状況は認められない。溝の軸線としては、第2～6層部分が西側からの延長上になる。この部分は、底部の凹凸が激しく、長さ約2～3mの土塊状のものが連続するような状態を示している。このような状況は、方形区画溝の特徴的なもので、方形区画溝の東辺では顕著である。溝内の堆積土は、第1～7層で流路としての堆積土とは認められない。出土遺物は、各層から出土しているが特に上層である第2・3層を中心に遺物は多く検出されている。

溝-S28は、溝-S27の北側に位置し、ほぼ平行して東西方向に延びている。溝の東側は、後世の大溝による削平のため検出できず、西側部分の約21mが確認された。溝は、溝-S27のように連続し

ては検出されず、断続的に検出された。溝-S27の下半部と同様に、細長い土塊状のものが断続的に連続していた。第687図の断面図は、第2～第7層がレンズ状に堆積している。堆積土は、溝-S27と同様に流路としての堆積に示していない。さらに、堆積土は溝-S27と共通していた。出土遺物は、溝-S27に比べると少なかったが、須恵器、土師器、瓦などが検出された。

須恵器は、8811～8825などの蓋、杯蓋、杯身などが出土している。8811は、宝珠のつまみが付き、径はやや小さめであることから蓋と考えられる。8812・8813の杯蓋は、杯身に比べると出土量はやや少なかった。8813は、口縁端部が外方向に外反する。天井部はやや高く、偏平なつまみが付く。天井部のヘラケズリはロクロの回転形である。8814～8825の杯身は、高台の付く8814～8816、8820～8824、高台の付かない8818、8819がある。8820は、口径約20cm、高さ約6.1cmと大形の杯である。8825は、皿状を呈し、口径は約14.9cmを測る。底部はヘラケズリを施している。

土師器は、8826～8833などの皿、高杯、甕などが検出されているが、須恵器に比べると量は少ない。8826、8827は、丹塗りの皿である。8826は、口縁端部を外反させており、8827は端部を丸くおさめている。8828は高台付の皿で、口縁端部を外方向につまみ出している。8829の高杯は、内外面丹塗りを施しており、脚柱部から大きく裾部が広がる。脚柱部は、ヘラケズリによって9面に面取されている。8830～8832の甕は、「く」の字口縁をもち、内外面をハケメにより調整している。また、8833の手捏ね土器も出土している。



- 1 灰黄色泥砂（攪乱土）
- 2 灰黄褐色砂泥（土器、炭化物、焼土ブロック含む、7より砂っぽい）
- 3 灰茶褐色砂質土（土器粒含む、砂泥と砂質土の間くらい）
- 4 褐灰色砂質土
- 5 灰褐色砂質土
- 6 褐灰色粘質土
- 7 褐黄色砂泥

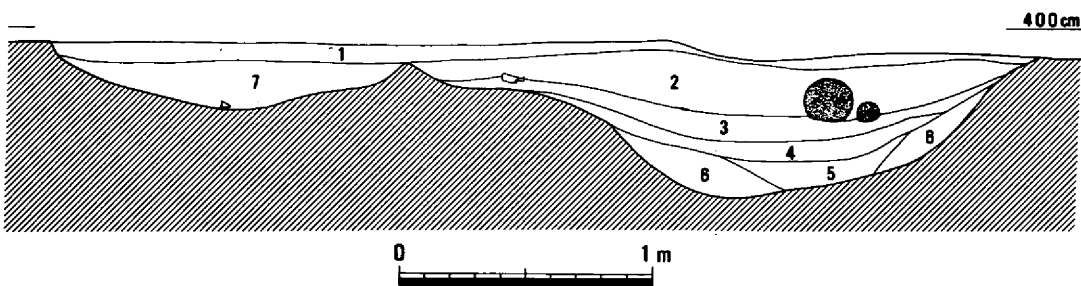
第687図 溝-S27(1/30)

瓦は、8834～8840などが検出されている。瓦はいずれも平瓦片で、丸瓦は認められなかった。表面には縄目、裏面には布目が残っている。

C339～C342の羽口は、いずれも表面がよく焼けており、復元口径は8cm前後と推定される。C343は管状土錘で長さ約7cm、径約2.6cmを測る。C344は、円盤状の土製品で用途は不明である。

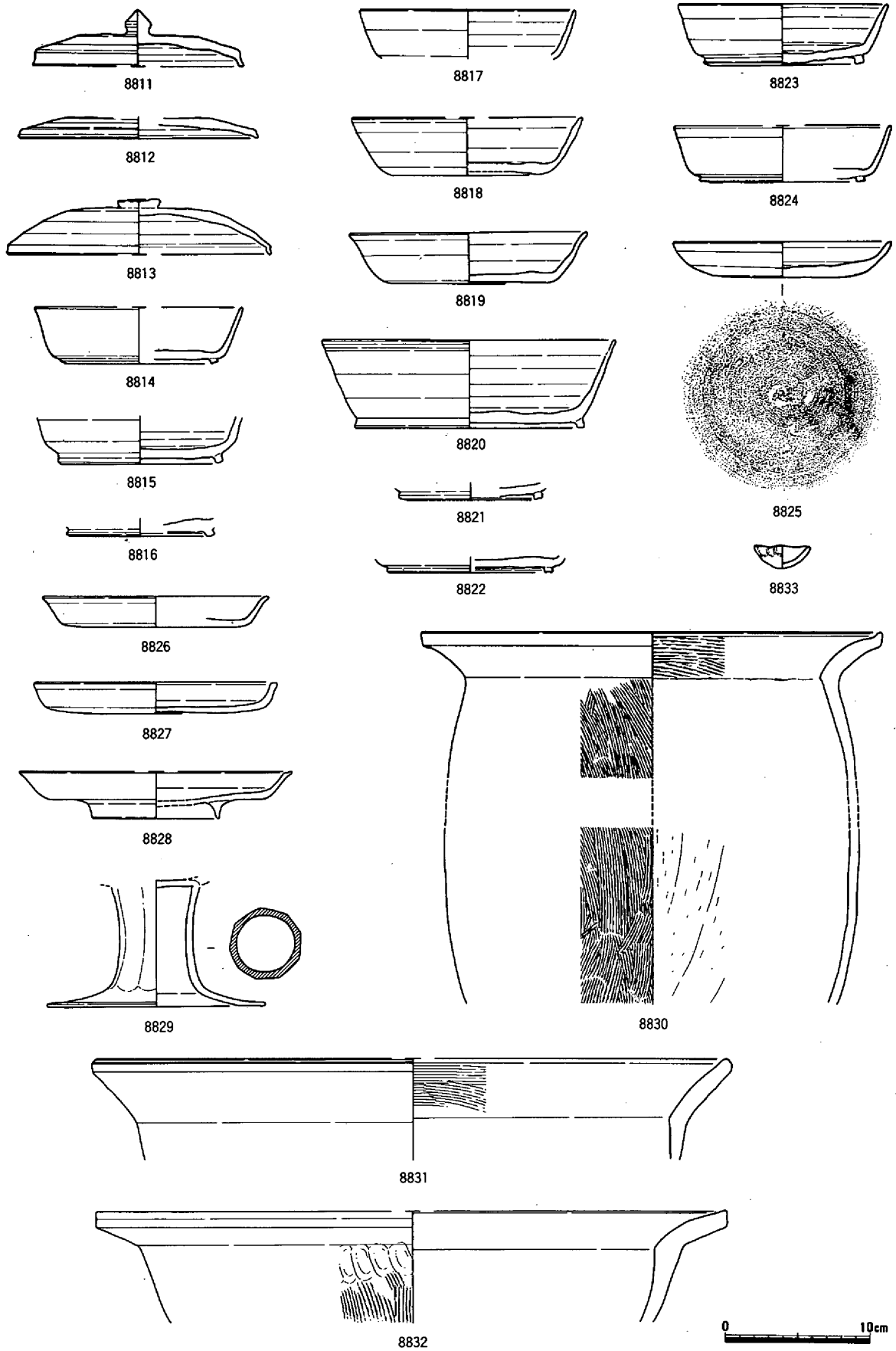
また、S396の砥石、M307の鉄器なども出土している。

以上の遺物は、いずれも奈良時代の特徴を示している。 (中野)

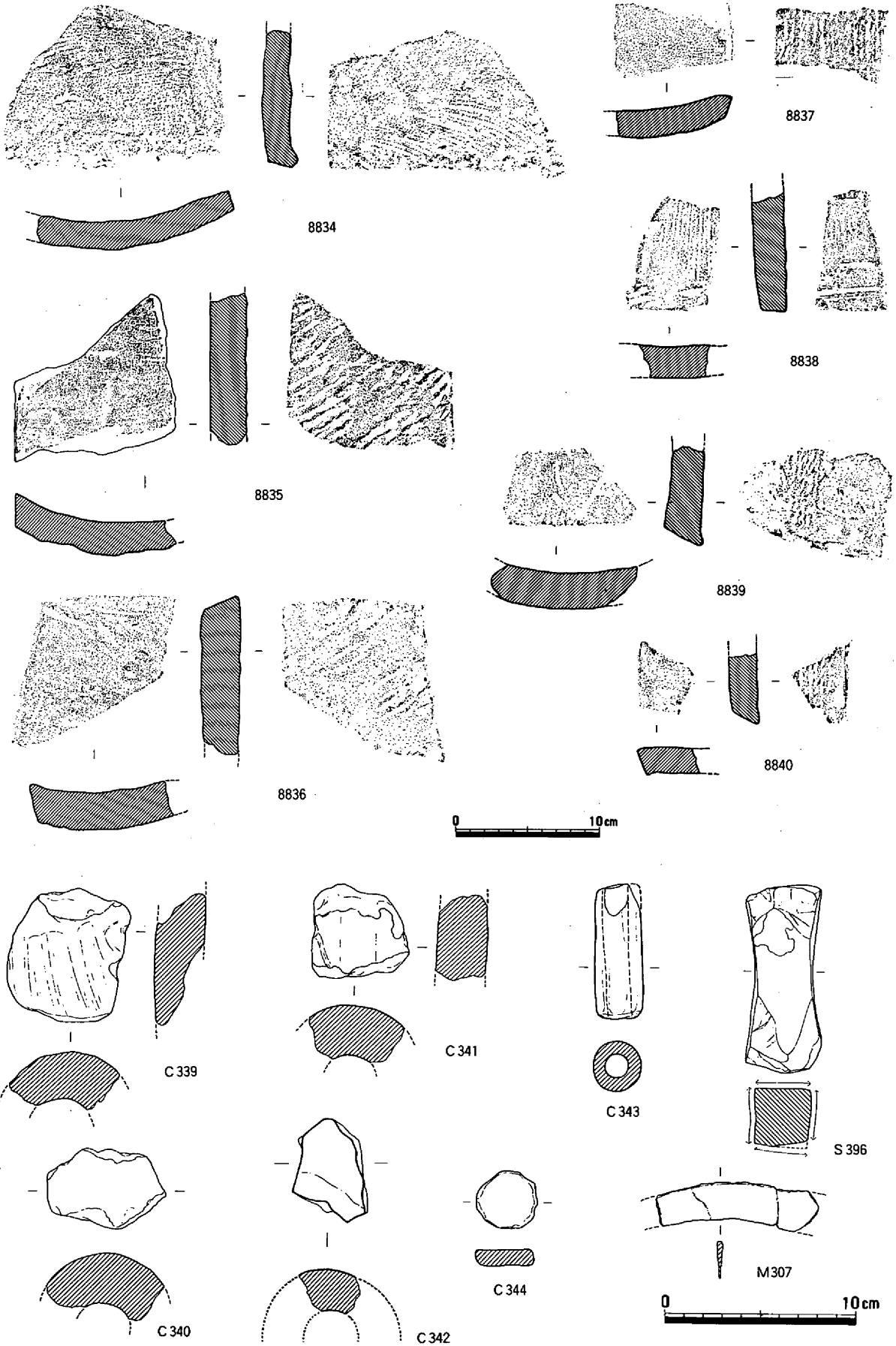


第688図 溝-S28(1/30)

- 1 灰黄色泥砂
- 2 灰黄褐色砂泥
- 3 暗茶褐色砂質土（マンガンは多い）
- 4 暗黄褐色砂質土（土器粒含む）
- 5 褐灰色砂質土
- 6 褐灰色粘質土
- 7 灰褐色砂質土



第689図 溝一S27・S28出土遺物(1)



第690図 溝一S27・S28出土遺物(2)

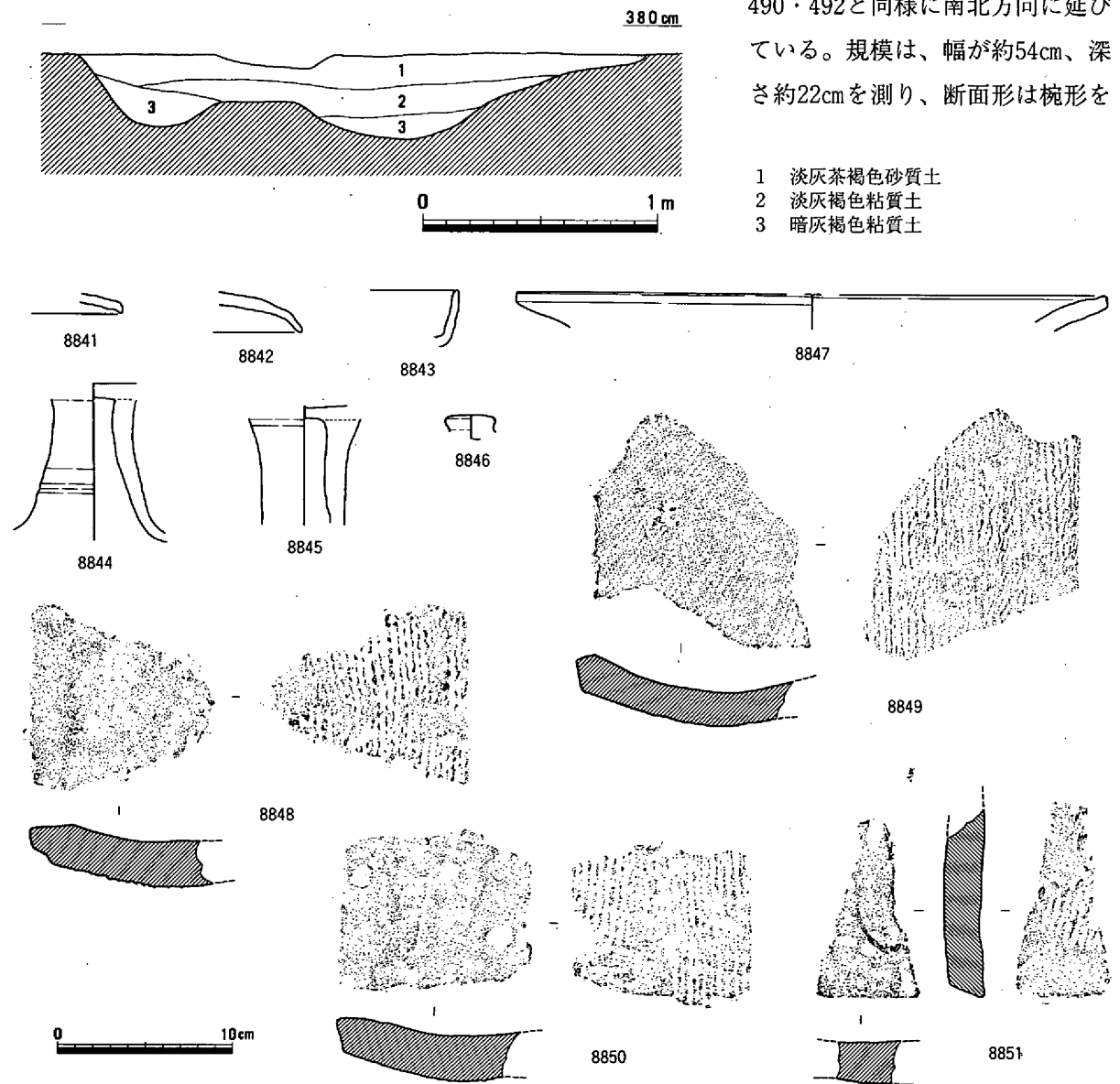
溝-490 (第691図)

この溝は、調査区の南東端部に位置し、溝-489の南東約43mに検出された。溝は、溝-27・28の2本の溝で区画される南東隅部の外側に位置する。方向は溝-27・28と同様に南北方向に延びている。規模は、幅が約245cmで、深さは約38cmを測る。溝の底部は、第691図の断面図のように凹凸がある。溝内は、第1～第3層が堆積していた。

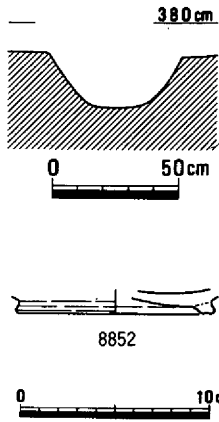
出土遺物は、図示した他に須恵器、土師器などが多量に検出された。8841～8845は須恵器で、いずれも小さな破片であった。8841・8842の杯蓋は、8842が大形の杯蓋である。杯身は、8843以外にはほとんど認められなかった。8844・8845は、いずれも高杯の脚部で、8844には沈線が1条廻っている。8846は、土師器の杯蓋である。8848～8851は平瓦で、表に布目、裏側に縄目が残っている。これらの土器は、いずれも奈良時代と考えられる。 (中野)

溝-491 (第692図)

溝-491は、溝-490の東側約4mに位置し、溝-492の西側に隣接して検出された。溝は、溝-490・492と同様に南北方向に延びている。規模は、幅が約54cm、深さ約22cmを測り、断面形は椀形を



第691図 溝-490(1/30)・出土遺物



第692図 溝-491 (1/30)
・出土遺物

呈している。

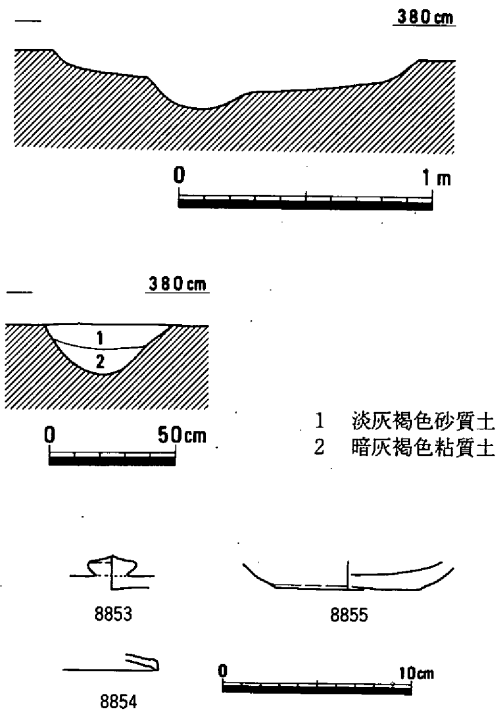
出土遺物は、奈良時代の須恵器、土師器が少量検出された。8852は、須恵器の杯身に貼り付け高台が付く。

(中野)

溝-492 (第693図)

この溝は、溝-491の東側に隣接して検出された。溝は、溝-490・491と同様に南北方向に流走する。検出状況からみて、溝-491・492は1本の溝としての可能性も考えられる。規模は、幅が約145cm、深さ約20cmを測る。断面形は、皿形を呈しており、中央部が幅40~50cm深くなっている。溝内は上下2層が堆積している。出土遺物としては、須恵器や丹塗りの土師器などが少量検出された。時期は溝-490・491と同様に奈良時代と考えられる。

(中野)

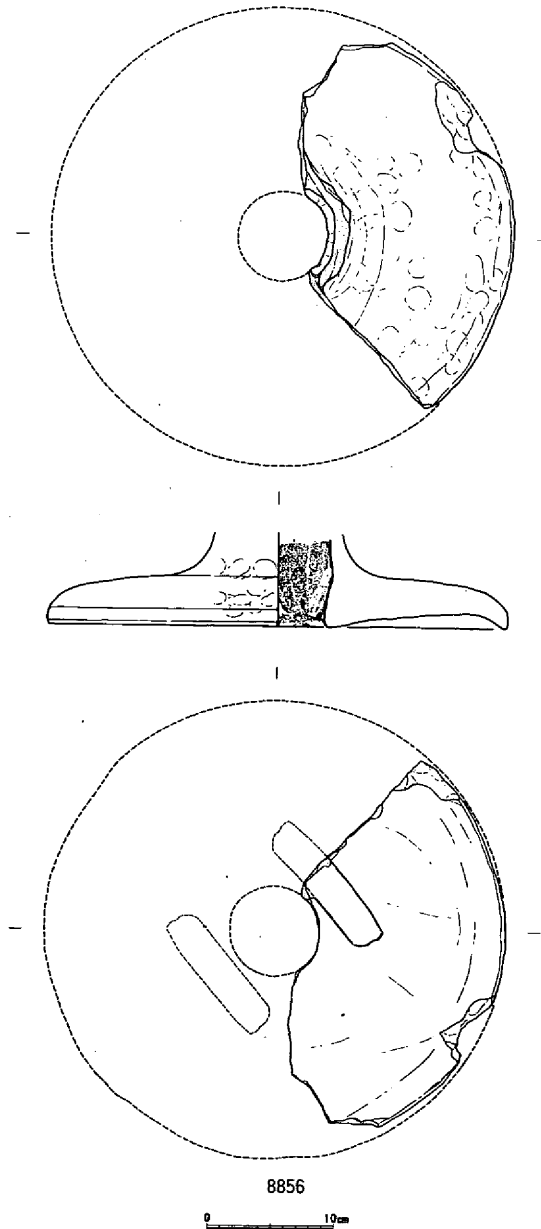


第693図 溝-492 (1/30) ・出土遺物

(7) 柱穴

柱穴-2 (第694図)

〇18区の中央南、掘立柱建物-63の中央に位置する柱穴である。直径37cm、深さ31cmをはかり、埋土中に8856がみられた。鈍重な作りで、笠形状にて直径約24cmをはかり、中央に4.7cmの円孔がある。上部に筒状にのびると考えられ、筒内面には瓦同様の布目痕跡が認められる。円板底は円孔を挟む格好で、長さ8.0cm、幅1.8cm



第694図 柱穴-2 出土遺物

をはかる粘土の接合面剥離痕が2か所みられる。土壙-462でみられた釣燈籠状の土器8362に共通点
がみいだせる。(高畑)

(8) 遺構に伴わない遺物

古代の遺構に伴わない遺物には須恵器・土師器・緑釉陶器・瓦などがある。その多くは方形区画溝
の検出中や、区画内の掘立柱建物周辺で出土し、時期的にも遺構出土遺物と同じく8世紀中葉のもの
が中心となる。

須恵器 (8857~8860・8862~8878・8882・8887~8899・8921~8950・9006~9009)

8857~8860・8862~8869・8921~8930・9006・9007は蓋である。つまみはほとんどが断面が扁平な
方形あるいは逆台形を呈するが、宝珠つまみの8862・8926や擬宝珠つまみ8921の他、つまみをもたな
い8867もある。8868・8869はそれぞれ口径21.0cm・23.0cmを測り、内面にヘラミガキを行う丁寧な作
りである。9006の口縁端部にはかえりが付く。8870・8871・8944~8946は無台の杯である。8871は丸
底に近いが、その他のものは扁平な平底である。8872~8878・8931~8940・8908・8909は有台の杯で、
8876の底部にはヘラ記号が認められる。8882・8941~8943は有台の皿で、底径は19.9~22.8cmを測る。
8885・8887・8948は高杯である。8948の脚柱部には5面の面取りが施されており、土師器の高杯の模
倣品と考えられる。焼成はやや甘い。8893・8949は盤である。8949は上方に強く屈曲する把手をもつ。
8889~8892・8897~8899は甕である。8899の口縁部は斜め上に強く外反しながら開く。8898は胴部片
で、内面には車輪文が残る。8894はバケツ状の鉢の口縁部である。器面はヨコナデを行い、口縁端部
はナデにより凹面に仕上げられる。長頸壺8947の頸部には2条の沈線を巡らす。円面硯8950は脚台部
を欠損しているため透しの数や形状は明らかではない。口径は推定12.0cmを測る。今報告中でも蹄脚
硯8799があり、古代官衙遺構の性格を示唆する遺物と言えよう。

土師器 (8879~8881・8883~8886・8951~8972・9011~9016)

蓋8861・8951はつまみのみの残存である。8879・8954は無台の杯である。丸みを帯びた体部で、口
縁部はわずかに外反させている。8952・8953・9015は有台の杯である。無台の杯に高台を付けた形態
のものである。皿には無台の8962~8964・8883・8884と、有台の8865・8866・8880・9011~9014があ
る。暗文は8959~8961に斜放射状の暗文が、8881・8964に螺旋状の暗文がそれぞれ施されている。
8884・8886・8967~8970は高杯である。脚柱部は面取りを行う。鍋8971、甕8972は粗製品で砂粒を多
く含み、外面にハケメ、内面にヘラケズリ調整がされている。

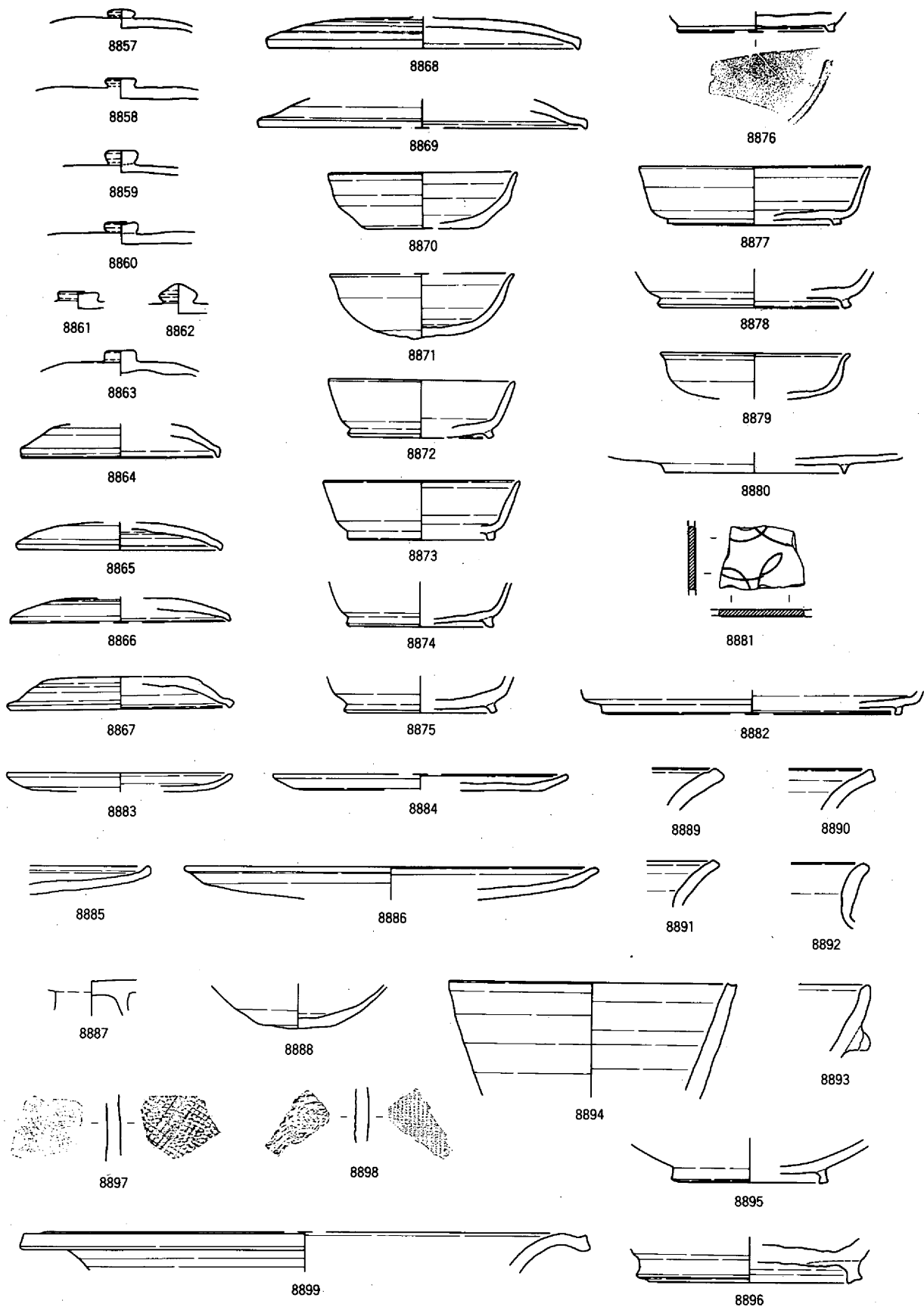
緑釉陶器 (9010)

今回の調査で出土した緑釉陶器は皿9010の一点のみである。器面は明灰黄褐色を呈し、底部は削り
出しの円盤高台で、底径は5.2cmを測る。その特徴から、9世紀後半の畿内産のものと思われる。

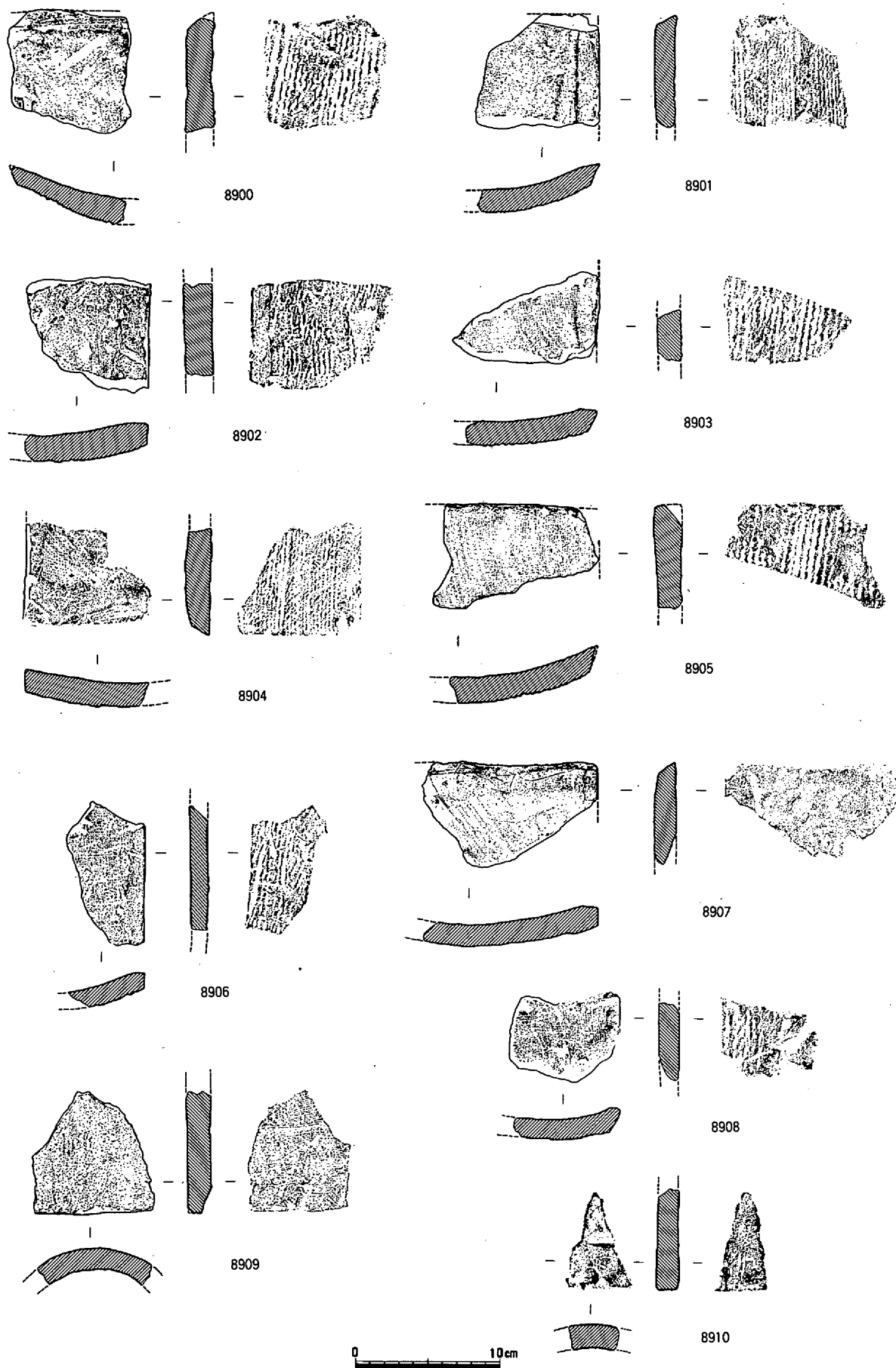
瓦 (8900~8920・8973~9005・9017~9025)

包含層出土瓦は丸瓦・平瓦で占められており、軒瓦・道具瓦は見ることができない。

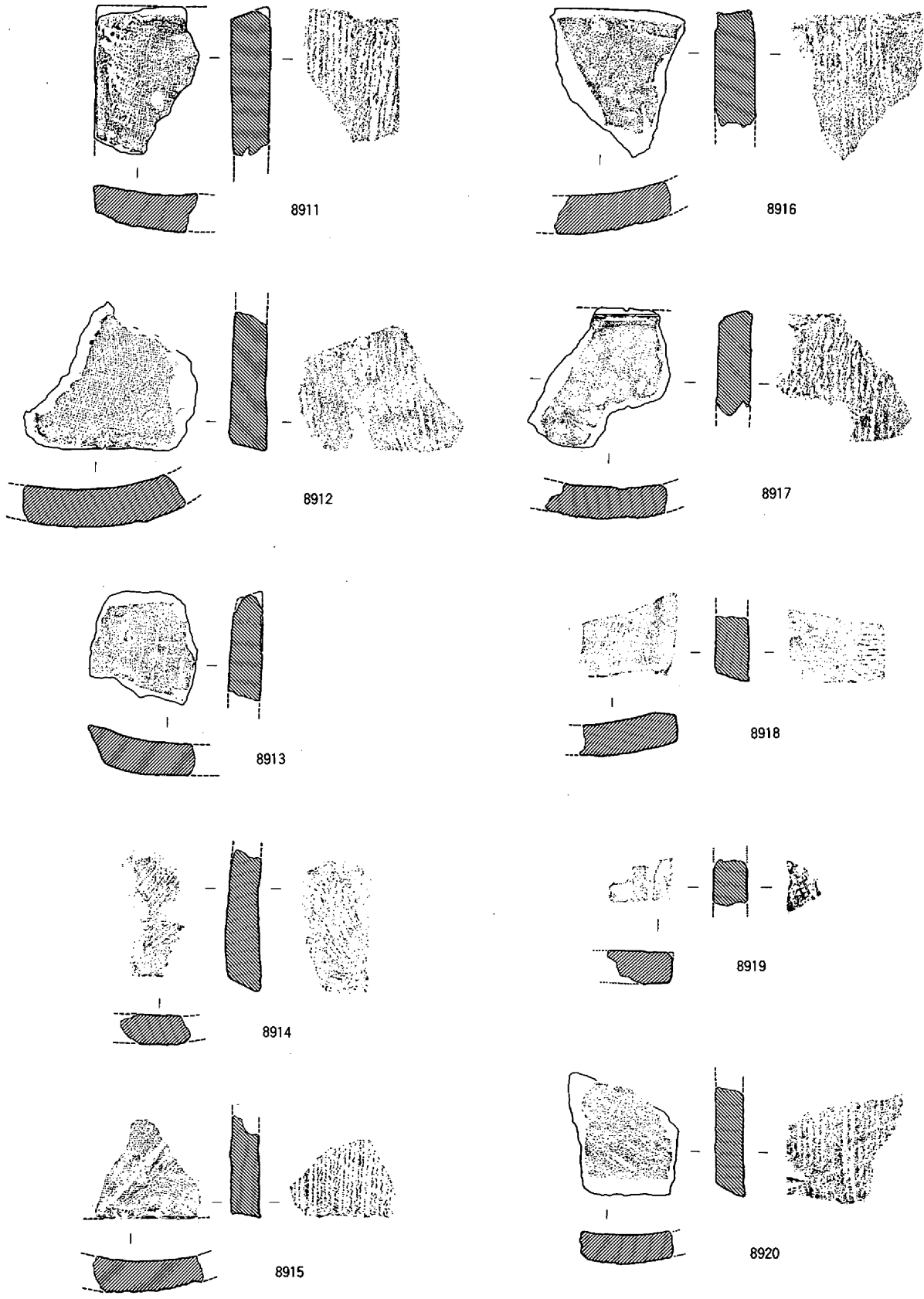
丸瓦はすべて玉縁式で、行基式と確認できるものはない。時期はほとんどが奈良時代のものと考え
られる。8973は凸面に縦位の縄タタキをした後にタタキメをナデ消しているが、不完全なためにタタ
キメがわずかに残る。凹面は布目痕の他に、S型の粘土板貼り合わせ痕と布筒の綴じ合わせ痕が明瞭
に認められる。側面には分割断面と分割破面が残り、その後の調整や面取りはされていない。このた
め玉縁付け根付近の破面には、丸瓦円筒の分割時に挿入した刃物の背の痕跡が残され、およそ2mm幅



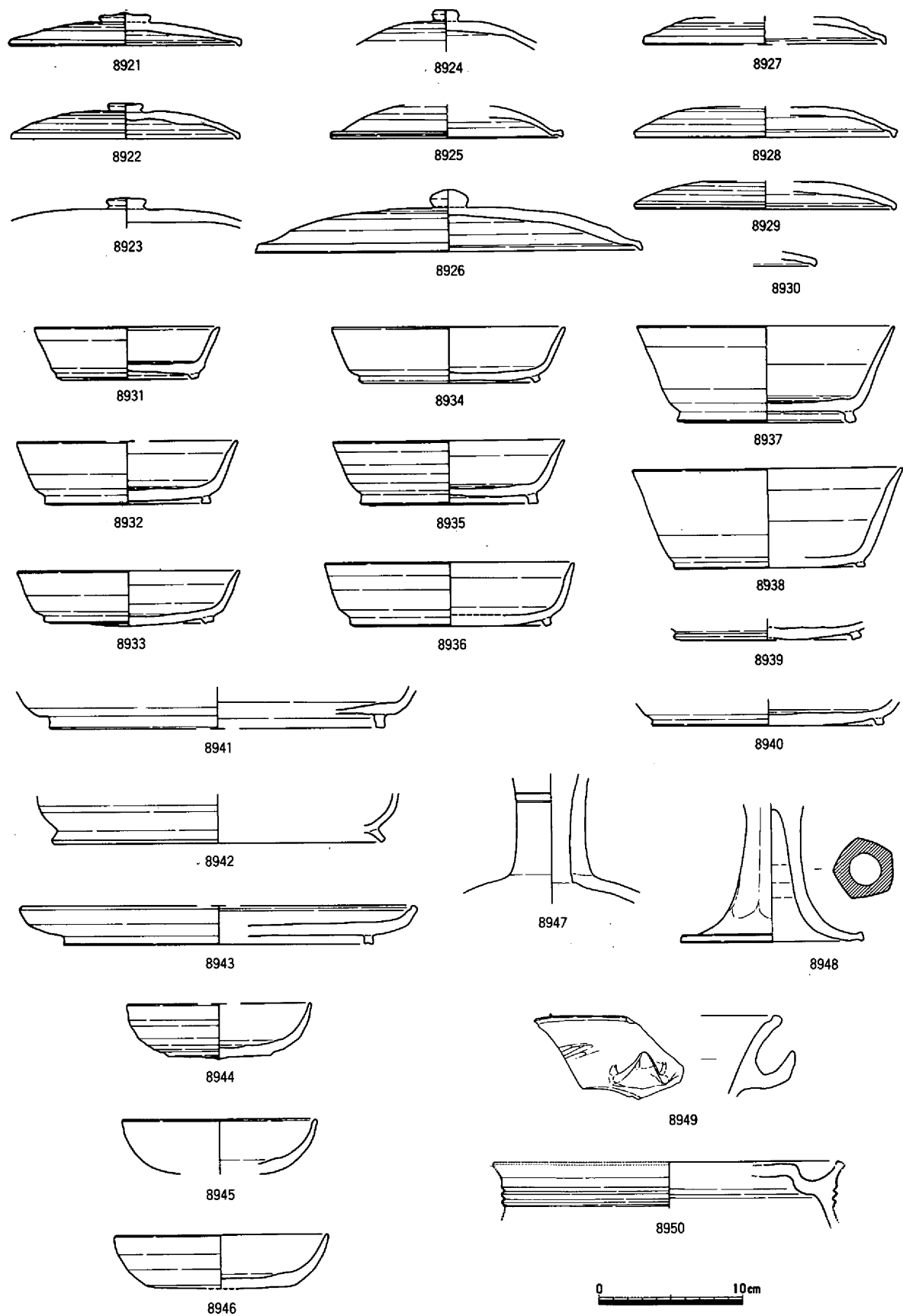
第695図 遺構に伴わない遺物(1)



第696図 遺構に伴わない遺物(2)



第697図 遺構に伴わない遺物(3)

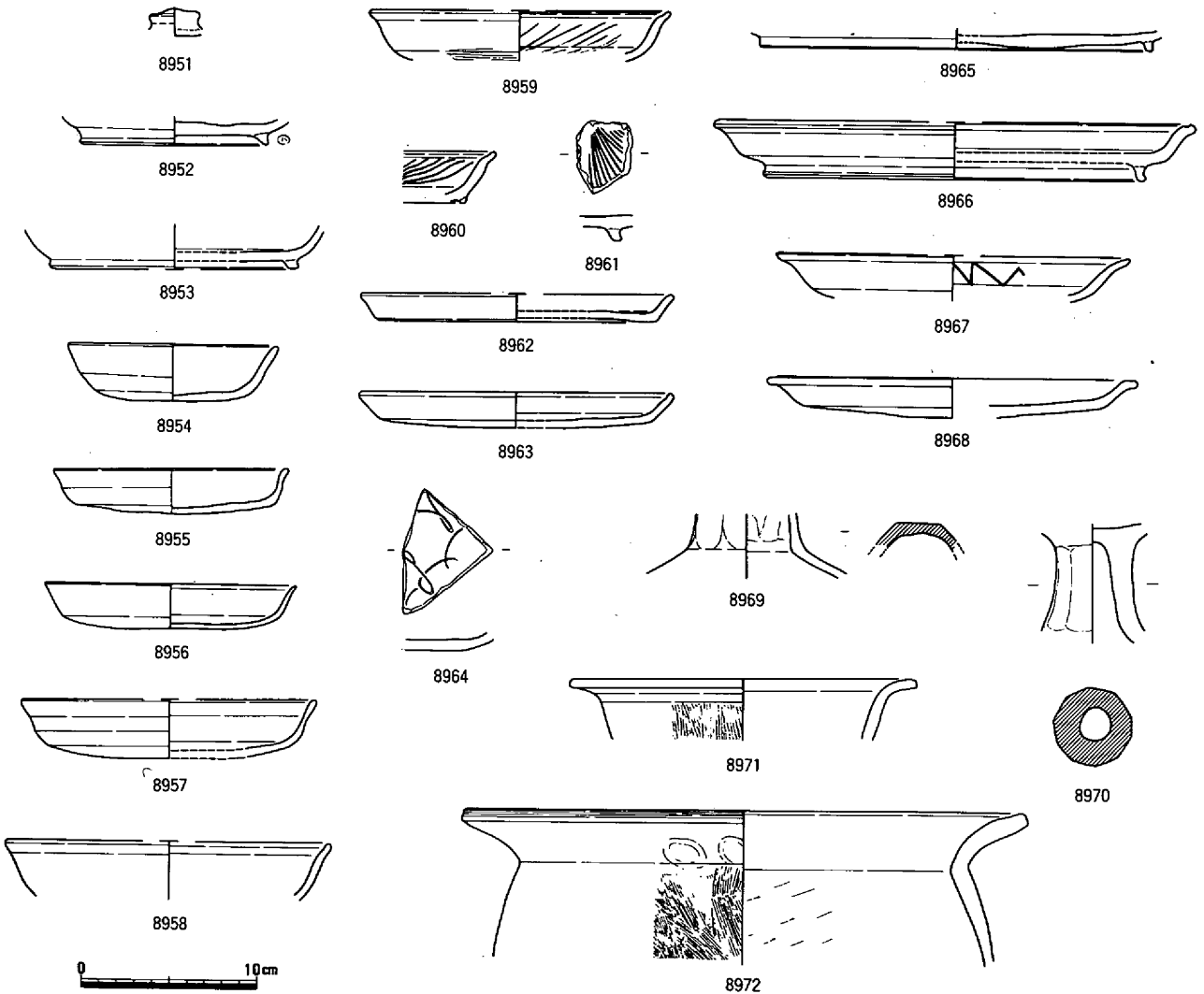


第698図 遺構に伴わない遺物(4)

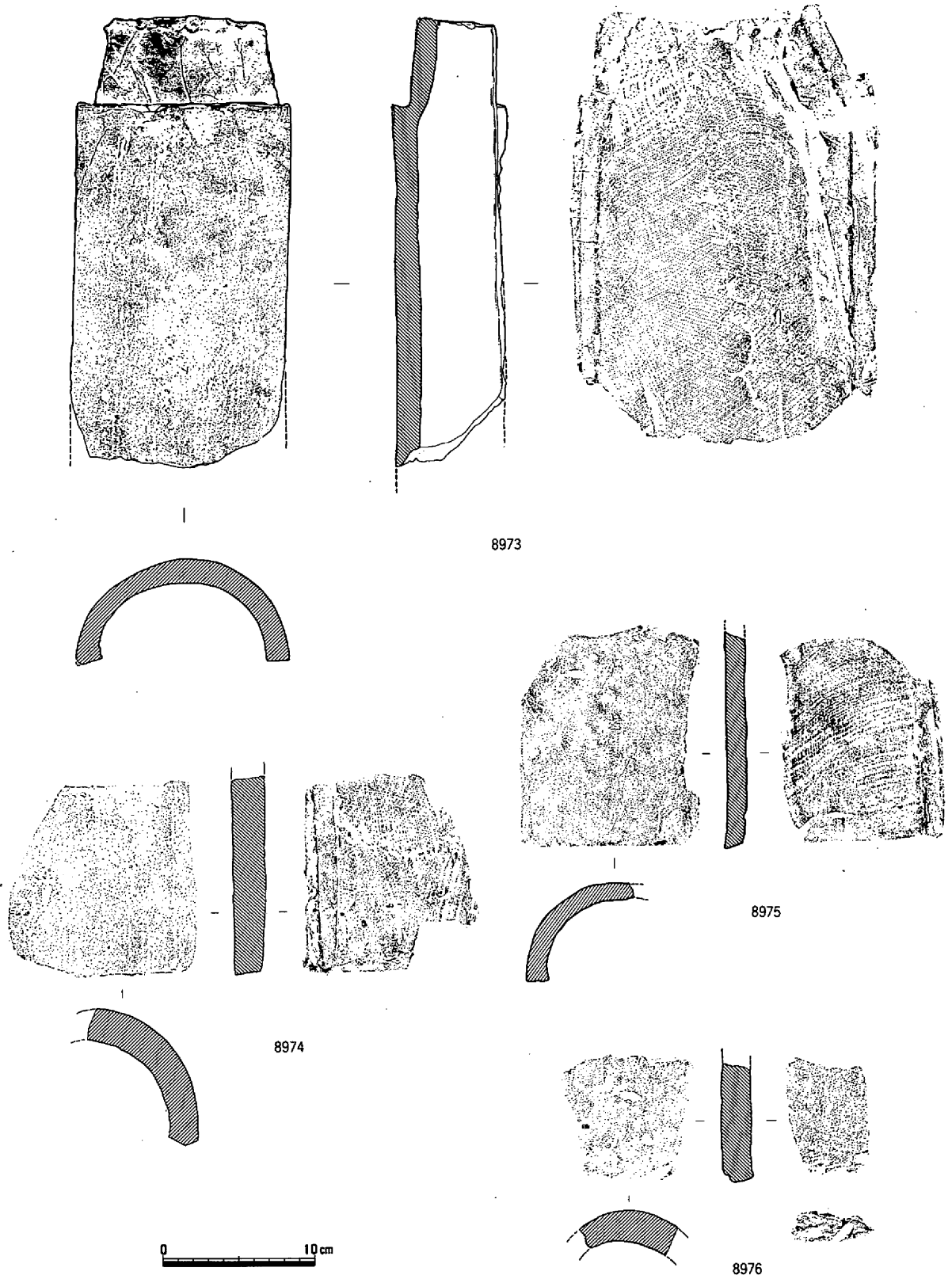
の工具が使用されていたことが分かる。8973に見られるようなこれらの特徴は溝-N28出土丸瓦8614の他、図示できなかった他の丸瓦にも少なからず認められるもので、当期の丸瓦製作工程を復元する貴重な資料となるだろう。8974の凹面には布が継ぎ足して縫い合わせた痕跡が認められる。8975の凹面には粘土板を切り出した際の弧状の糸切り痕が残る。8976は胎土・色調が飛鳥時代の素弁蓮華文軒丸瓦に類似しているため胎土分析を行ったが、山手村にある末の奥窯の飛鳥期の資料と比較しても両者に共通性を見ることはできなかった（第4章第2節参照）。

平瓦は大きく二種類に分けられる。一つは、凸面に格子タタキ（8977～8991・9020・9024・9025）、あるいは平行タタキ（8992～8995・9019）を行い、凹面に梓板痕・布目痕を残す桶巻造りによるもので、飛鳥～白鳳時代のものである。瓦質焼成で色調が灰白色から灰黄色を呈し、側面・端面を両側から面取りするものが多い。格子タタキの一辺は3～5mmであるが、タタキ本体が同じものかどうかは不明である。これらの平瓦は飛鳥期の軒丸瓦8433と一緒に使用されていた可能性も考えられる。

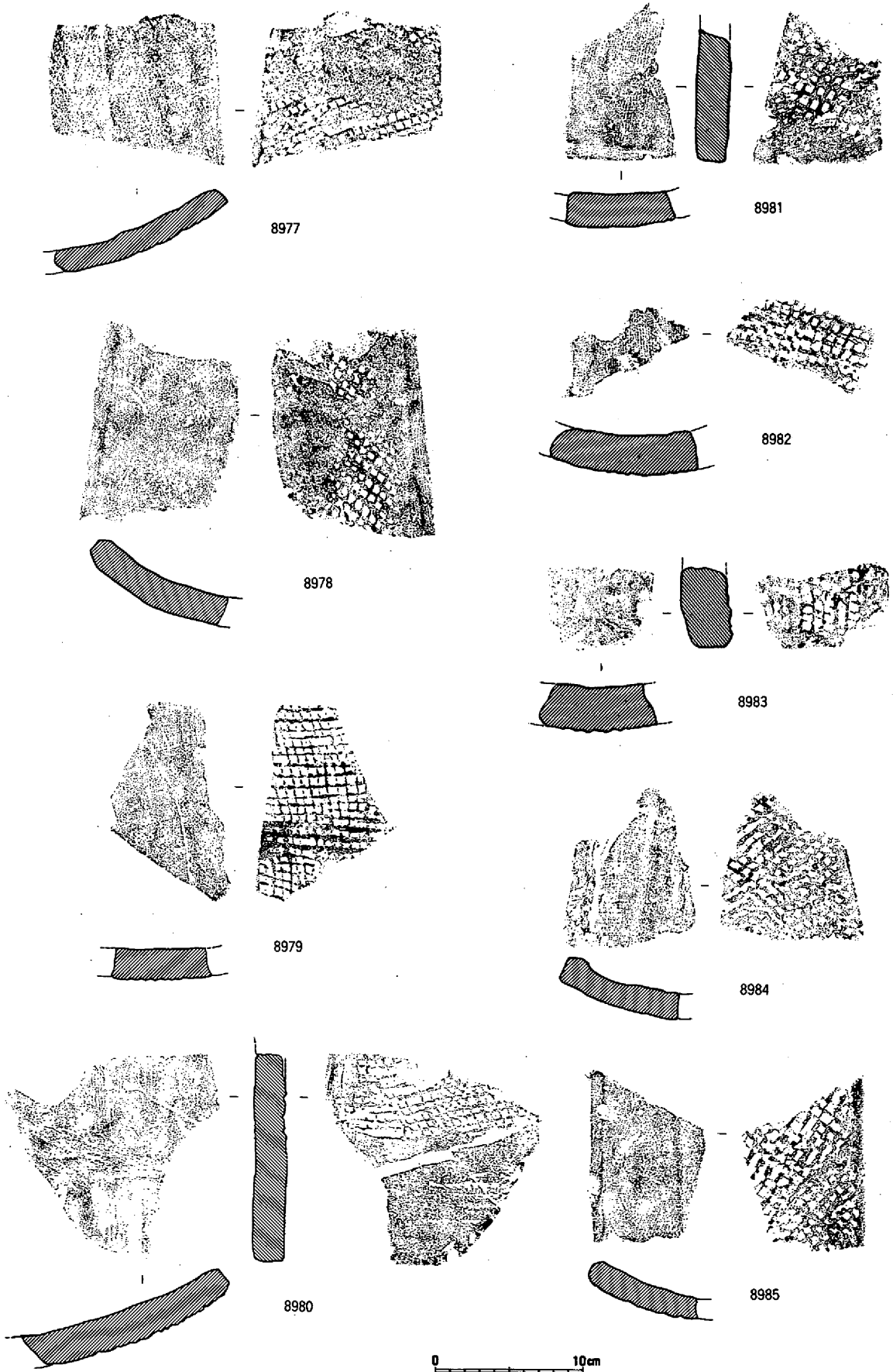
もう一つは凸面に縄タタキを行い、凹面に布目痕を残す一枚造りによるもので、奈良時代のものである。側縁は凹面側を面取り風にヘラケズリをし、端面は凸面側が鋭角になるようにヘラ切りをするものが多い。凸面の縄タタキは縦位に整然と叩くものと、わずかに傾斜するものがある。凸面の一部を横位に広くヘラケズリする9001もある。（清水）



第699図 遺構に伴わない遺物(5)

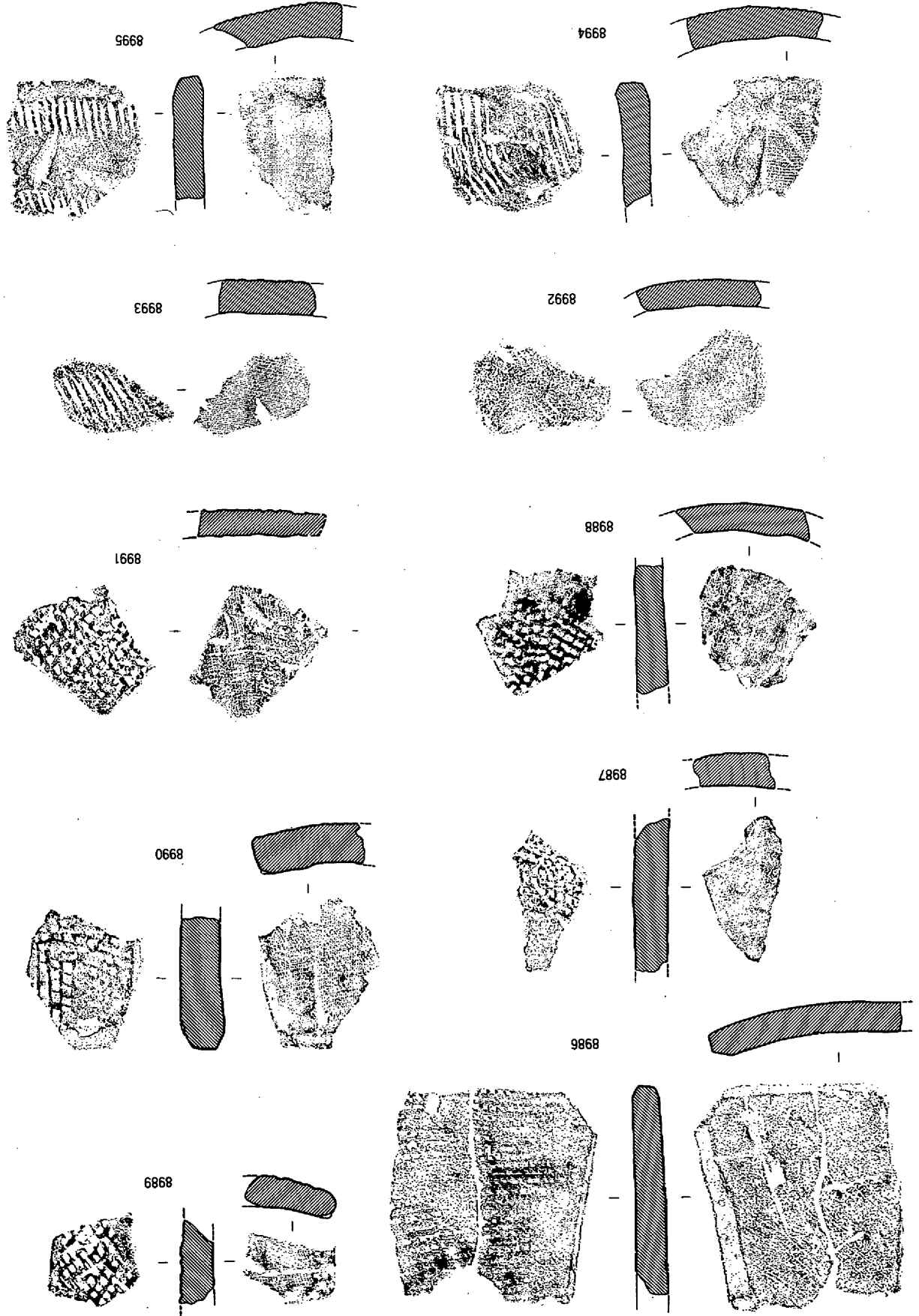
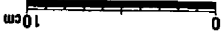


第700図 遺構に伴わない遺物(6)

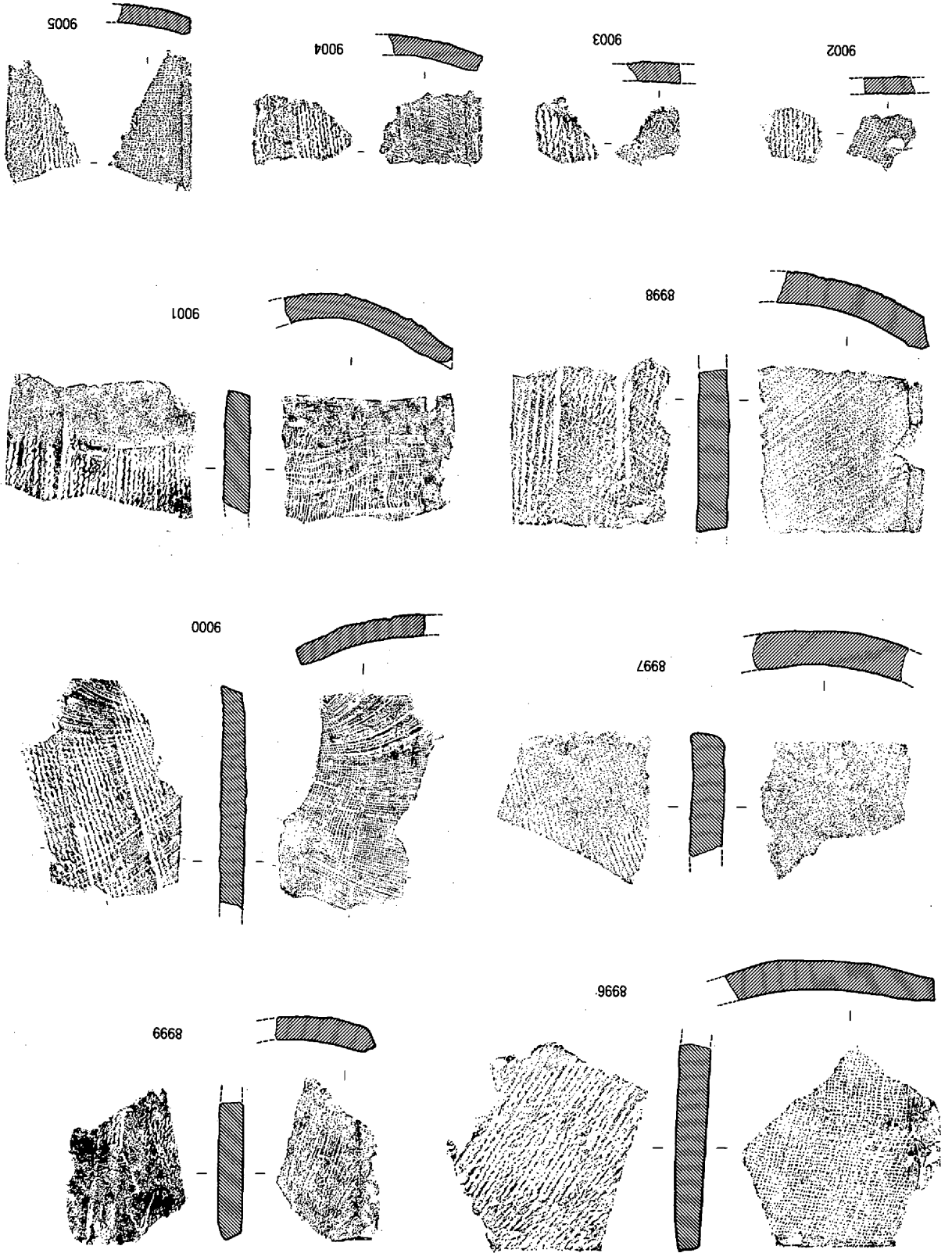


第701図 遺構に伴わない遺物(7)

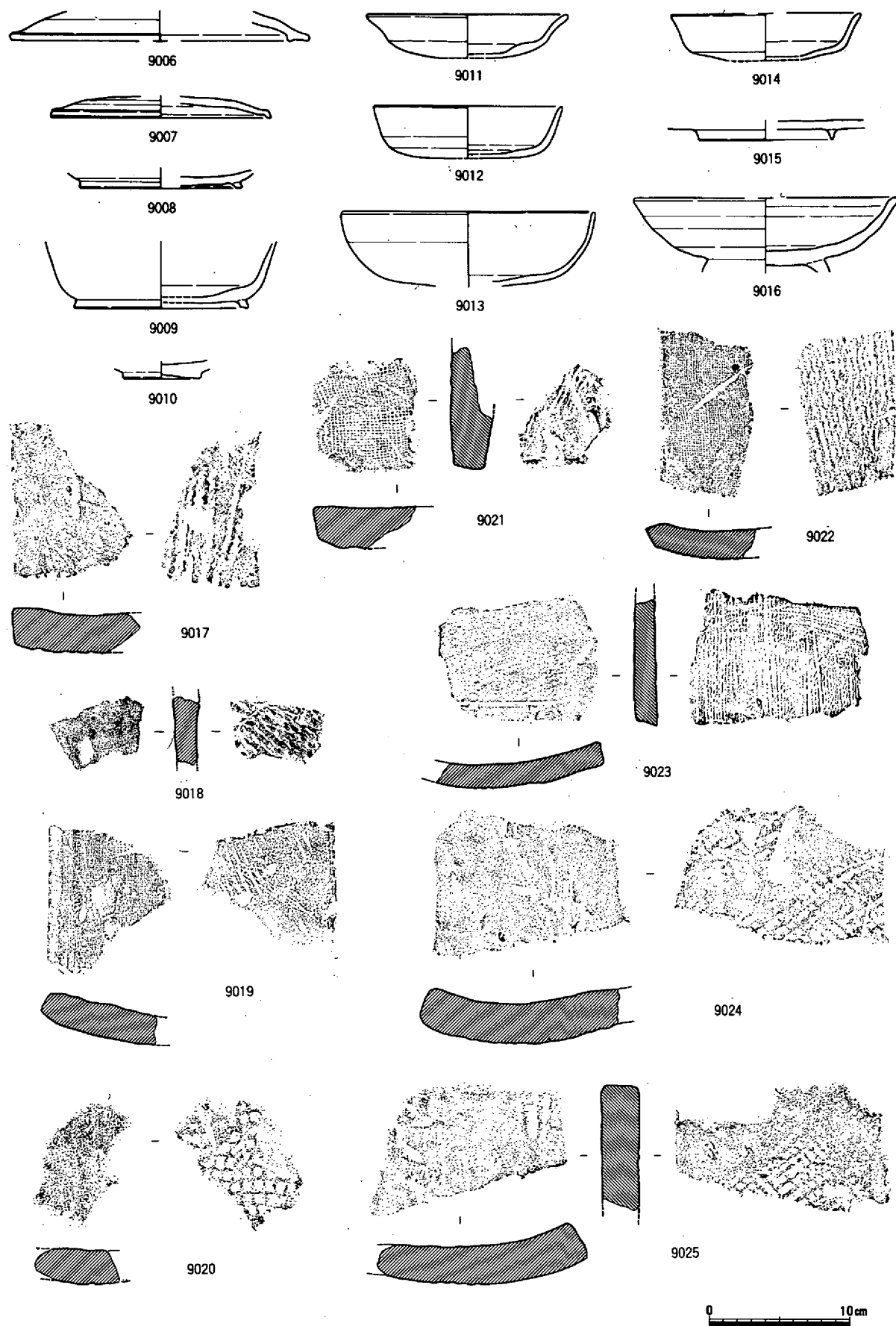
第702図 遺構に伴わない遺物(8)



第703図 遺構に伴わない遺物(9)



第3章 調査区の概要



第704図 遺構に伴わない遺物(10)



第705図 中世全体図(1/600)

第6節 中世の遺構・遺物

(1) 中世の概要

ここでは、鎌倉時代から室町時代にかけての中世に属する遺構と遺物を取り扱うが、土壙と溝については時期を決定するのが難しいので、遺物が出土して明らかに中世であると判断できたものだけを掲載した。土壙や溝以外の遺構として、掘立柱建物3棟、土壙墓12基、井戸2基、焼成土壙2基が検出されている。

3棟の掘立柱建物は、それぞれが離れた位置に単独で存在した。掘立柱建物-70は、自動車道の橋脚地点に位置したため、南側部分を調査することができなかった。2×1間の掘立柱建物-71も北端の橋脚地点で確認されたが、耕作に関係すると思われる溝群と重複していた。さらに掘立柱建物-72は、間取りが2×2間の総柱建物である。

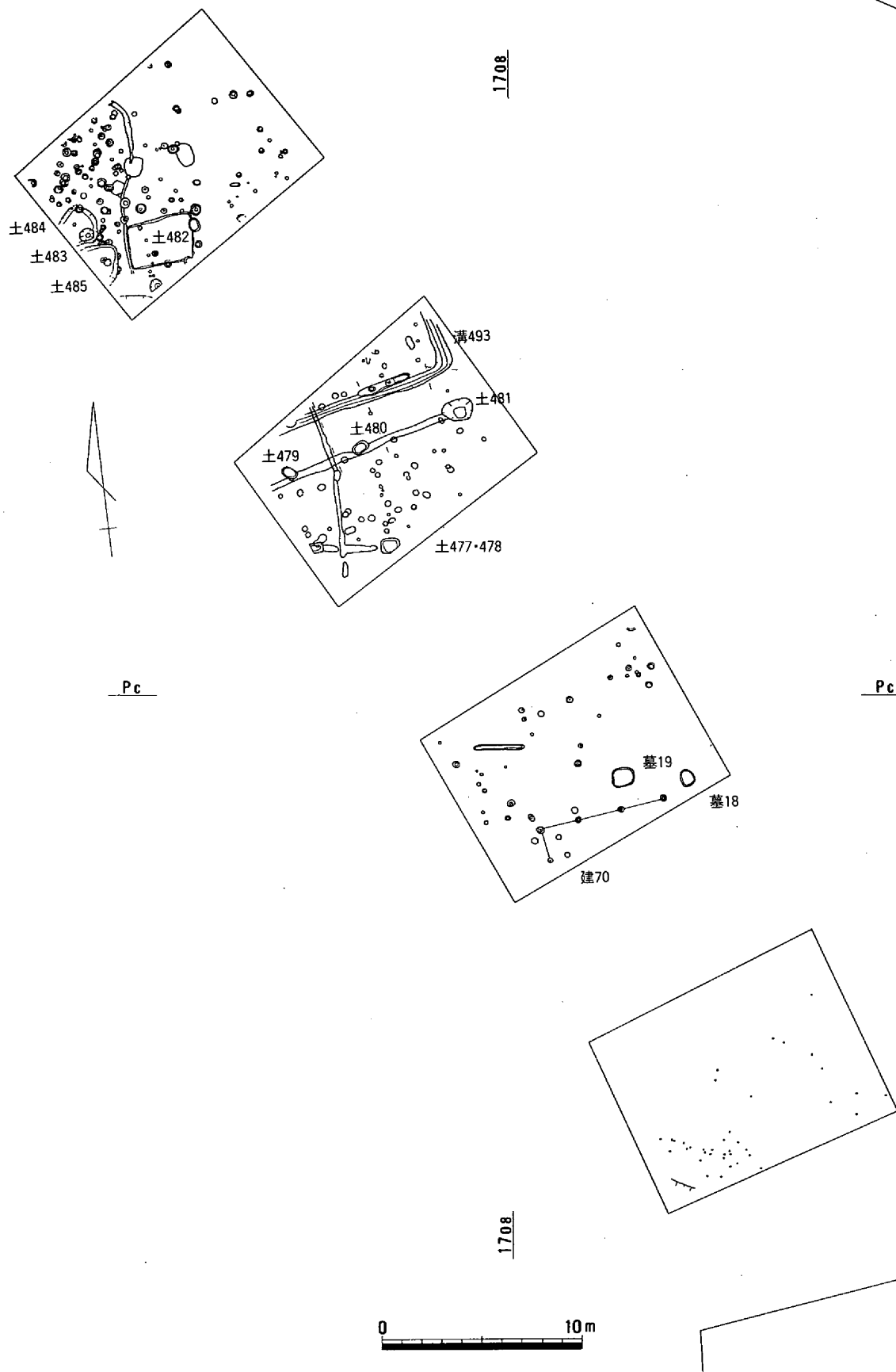
土壙墓と考えられる遺構が12基も検出されているが、特に注目したいのは、中屋調査区の北端部分に単独で存在した土壙墓-20である。主軸が南北方向を示す掘り方の平面形は、束帯の儀式で右手に持つ笏の形を思わせるような形態を呈し、片方の小口部分が丸くなっていた。遺体は、頭位を北にして伸展葬で安置され、青磁の碗、白磁の碗、蓋のない青白磁の高台付合子、在地産である吉備系土師質土器の椀とともに、菊花双鳥文鏡、鉄製の紡錘車、刀子、40点以上の小玉など豪華な遺物が副葬されていた。津寺遺跡全体で検出した中世の土壙墓を概観しても、すべての点でこの土壙墓-20を卓越するものは見出せないから、傑出した人物の墓であるのは間違いない。それに引き替え、残る土壙墓はいずれも小規模で、数基の墓が狭い範囲に集まった状態で検出され、下肢を屈葬にして右側臥の姿勢に埋葬したものが多い。出土した遺物としては、この地域で数多く見かける椀や小皿の土師質土器以外に、刀子や小玉が認められただけで、遺物が副葬されていない土壙墓も存在するのである。

2基の井戸は、中屋調査区の北端部分に近接して存在した。井戸-9は、掘り方の平面形が楕円形に近い形を呈する素掘りの井戸で、北方向へ寄った位置に板材で正方形になるように囲んだ井戸枠を設置し、その内部の北西隅に曲物を2段に積み上げた井筒が検出された。井戸枠周辺に堆積していた土砂はグライ化しており、在地の土師質土器のみならず東播系須恵器のこね鉢や白磁の碗の破片も出土した。一方井戸-10は、石組みの井戸である。掘り方の平面形は楕円形に近い卵形を呈し、上位の石組みは崩壊して井戸内に石材が転落していた。出土した遺物には、弥生土器や土師器などの土器片と古代の瓦片が多く、この井戸の時期を特定するものは確認できなかった。

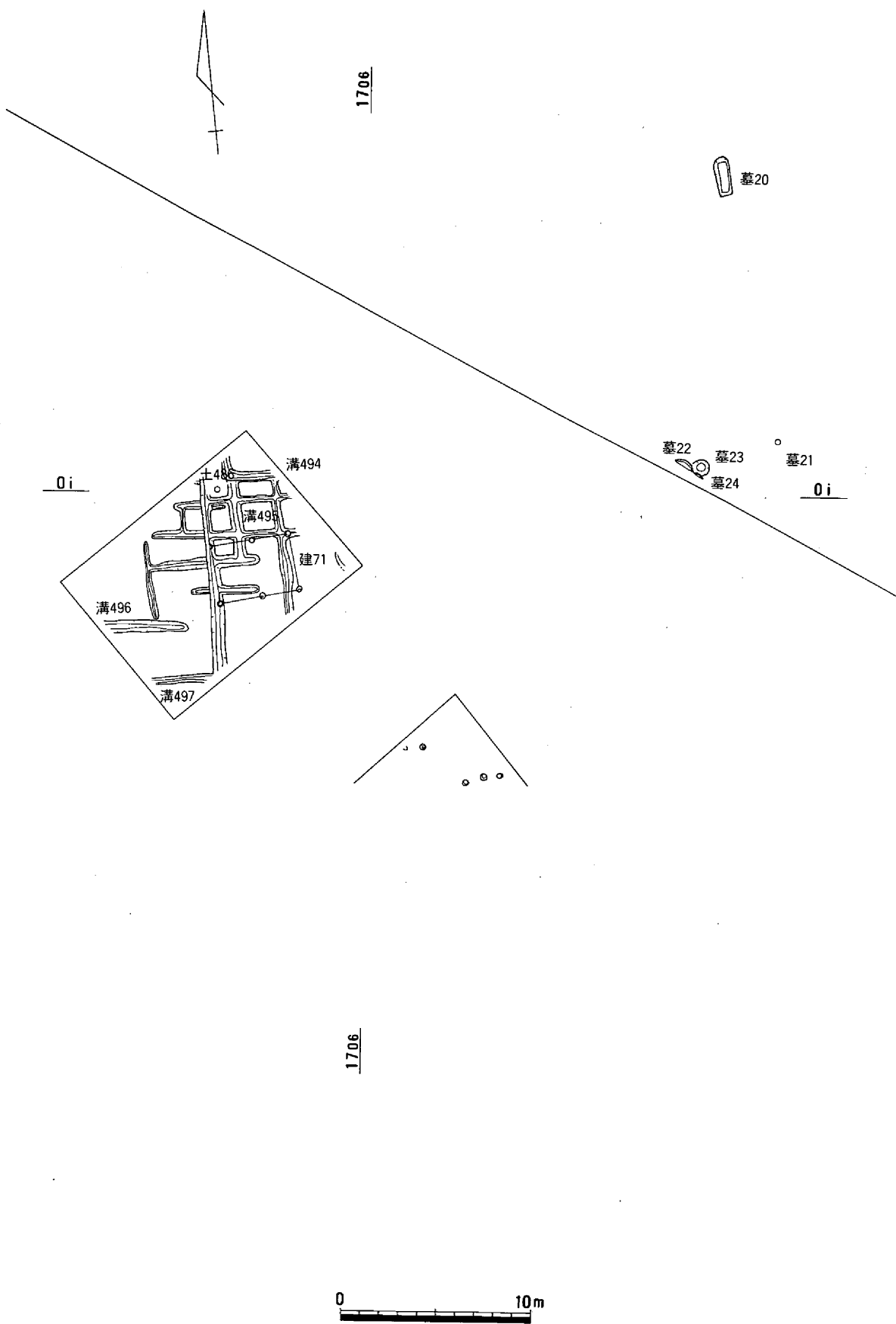
中世に属すると推定される焼成土壙が、中屋調査区の北端部分と南端部分に存在した。北端部分に位置するものが焼成土壙-9、南端部分に位置するものが焼成土壙-10である。長径や短径の長さや検出面からの深さに違いがあるが、どちらも平面形は隅丸長方形に近い形態を呈し、断面形は逆台形になっていた。また土壙の底部はほぼ水平で、壁面や底部は高温に熱されて堅くなり、表面には焼土が認められ、土壙内全体に炭化物を含む土砂が堆積していた。2基の焼成土壙から出土した遺物は極めて少なく、時期が特定できる小破片の土器片があるものの、図化することはできなかった。

なお土壙と溝については、遺物が出土して時期が推定できるものだけを取り扱ったので、中世に属する土壙や溝の総数は不明である。

(福田)



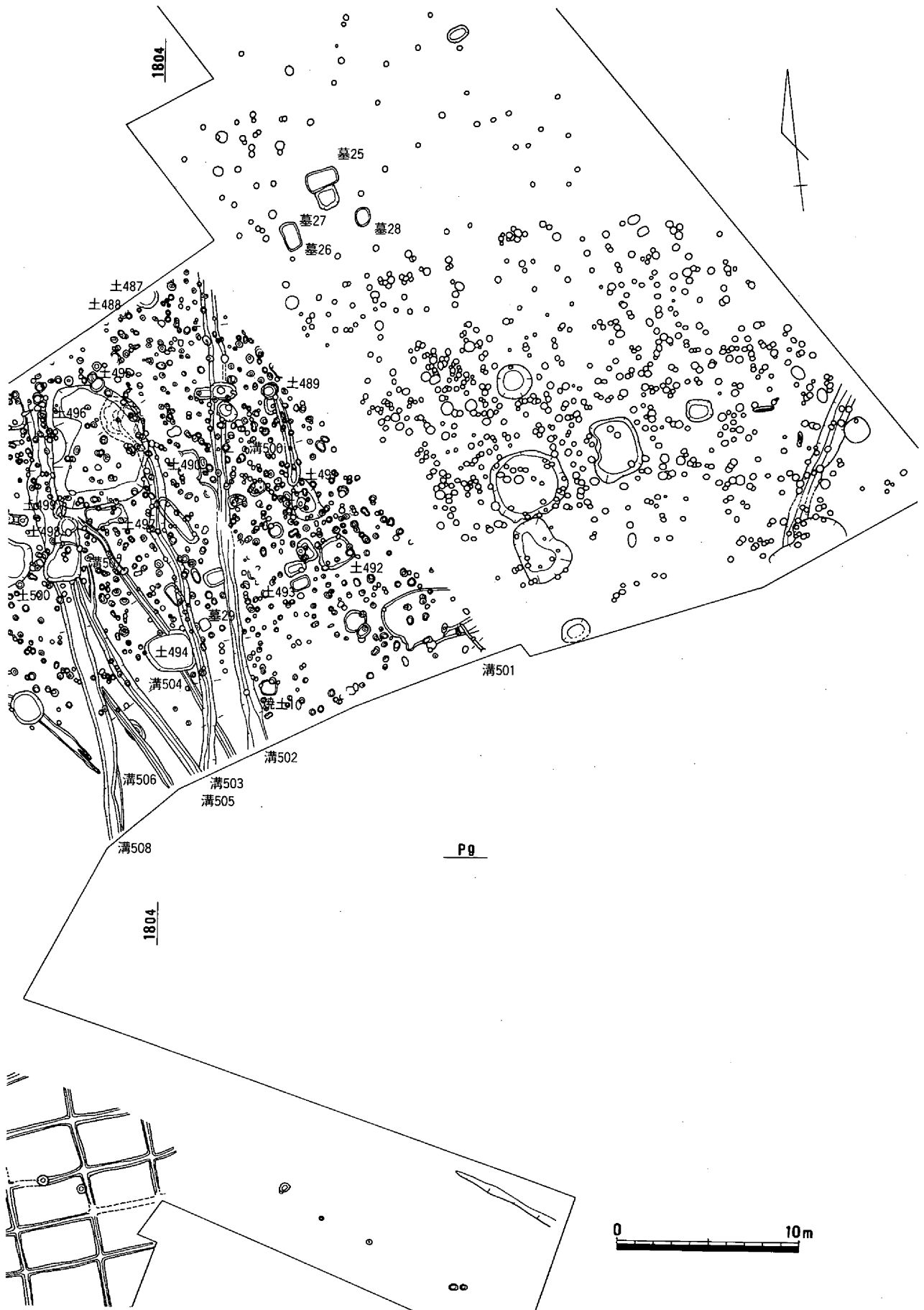
第706図 中世部分全体図(1)(1/300)



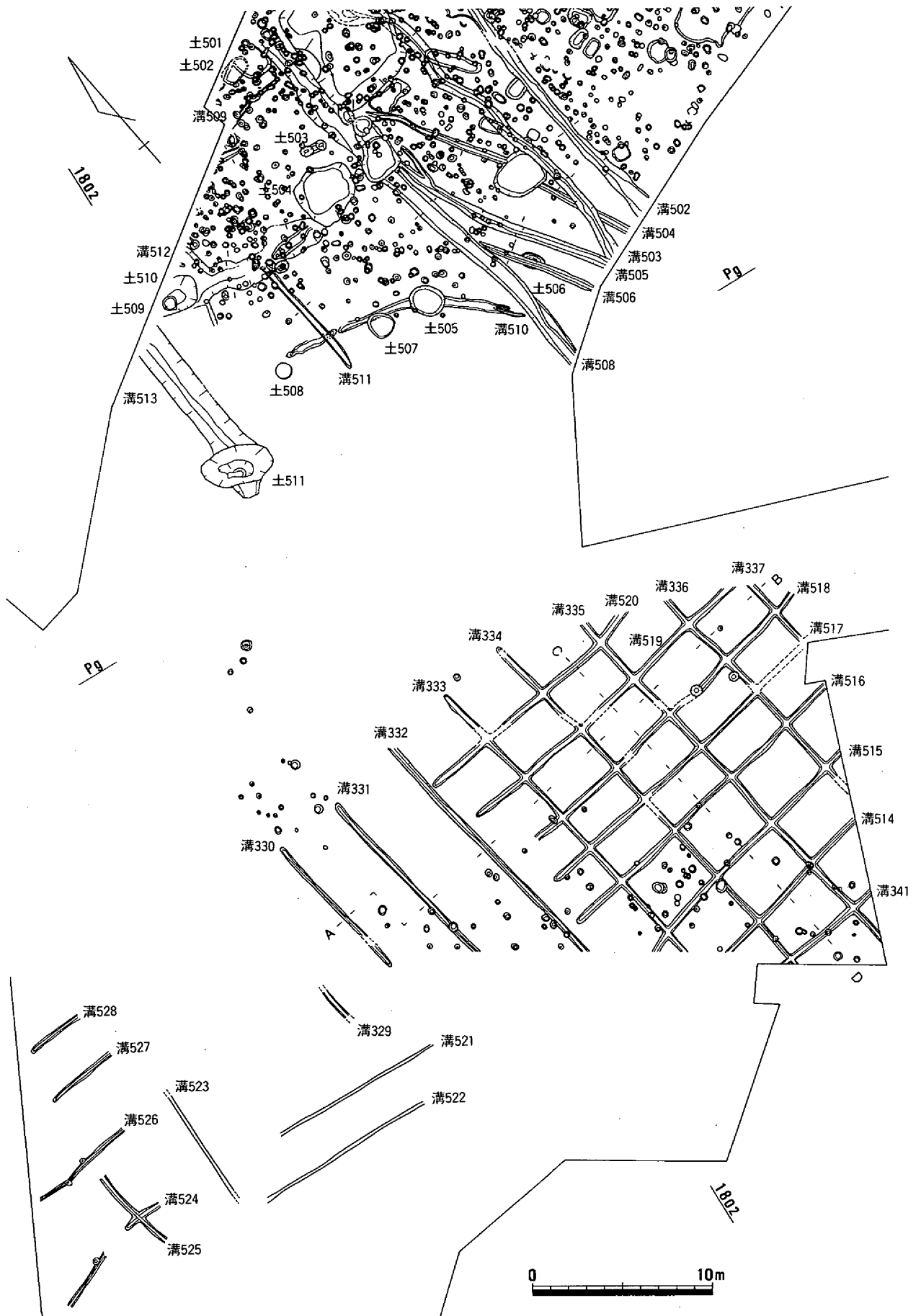
第707図 中世部分全体図(2)(1/300)



第708図 中世部分全体図(3)(1/300)



第709図 中世部分全体図(4)(1/300)



第710図 中世部分全体図(5)(1/300)

(2) 掘立柱建物

本調査での掘立柱建物の出土は3棟である。しかし、柱穴が集中してまとまる地域が所々にみられることから、中世の集落単位が存在したものと考えられる。

まず、西側では橋脚（P2～4区）を含む南北70m、東西50mを中心とする範囲、東側では盛土（M9 I区）を中心に南北140m、東西150mの範囲に柱穴が集中している。多い場所では100m²の範囲内に270個の柱穴がみられ、足の踏み場が少しある程度である。おそらく、立て替えが繰り返された状況を示しており、多くの掘立柱建物が存在していた可能性が推測できる。（高畑）

掘立柱建物-70（第711図）

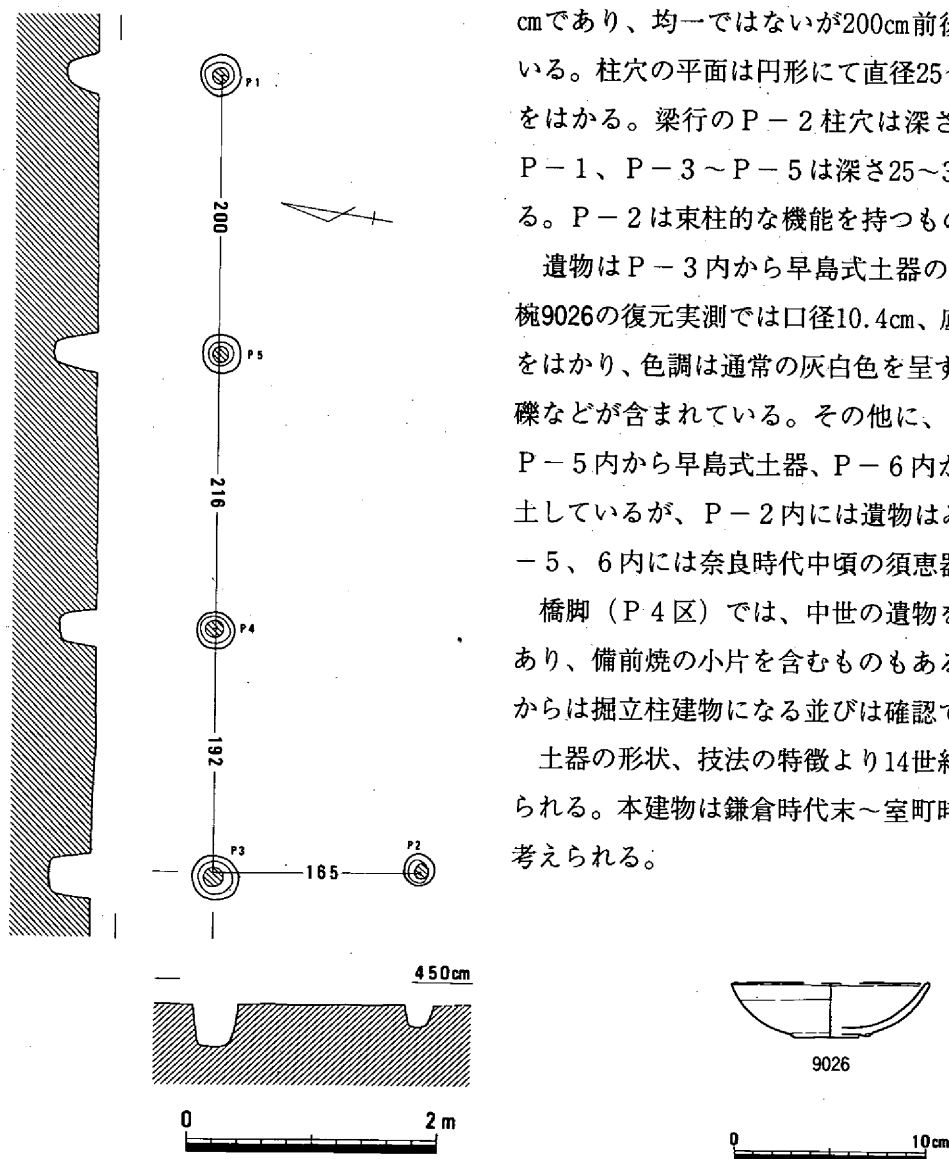
P17区の北東、橋脚（P4区）に所在し、土墳墓-18、19の南側に位置する。現状では3×1間の規模が確認できており、南側については植栽部分のため未調査である。棟の方向はほぼ東西となり、N-81°-Eをはかる。桁行3間以上、梁間1間以上と考えられ、P-1～P-3間が608cm、P-2

～P-3間が165cmをはかる。柱間の距離は桁が192～216cmであり、均一ではないが200cm前後の数値でまとまっている。柱穴の平面は円形にて直径25～35cm、深さ18～33cmをはかる。梁行のP-2柱穴は深さ16cmと浅く、桁行のP-1、P-3～P-5は深さ25～35cmと深く掘られている。P-2は束柱的な機能を持つものであろうか。

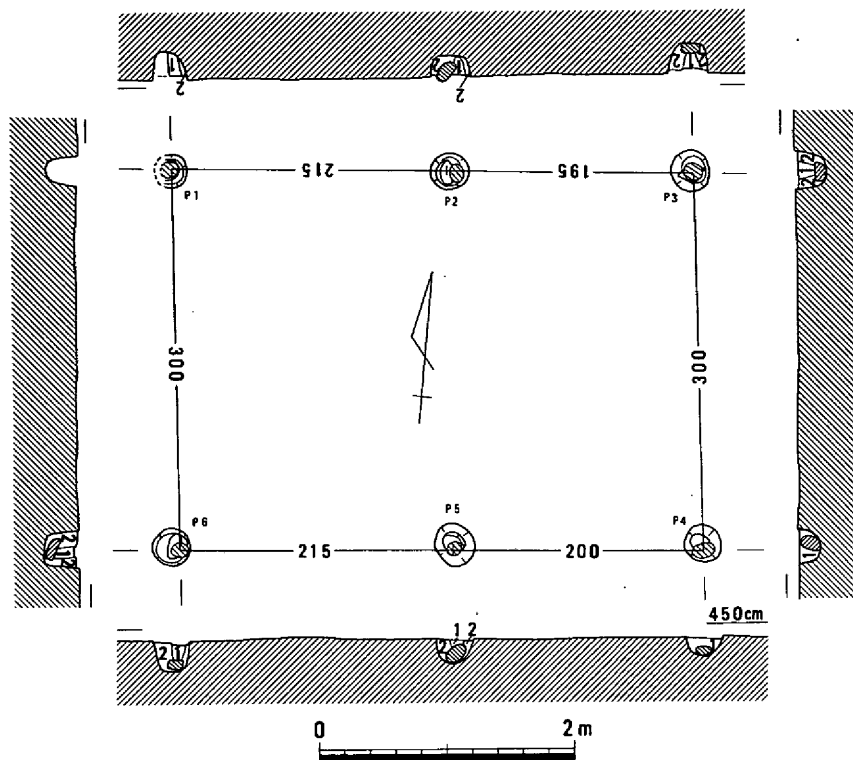
遺物はP-3内から早島式土器の破片が出土しており、碗9026の復元実測では口径10.4cm、底径3.9cm、器高2.8cmをはかり、色調は通常の灰白色を呈する。胎土中には粗砂、礫などが含まれている。その他に、P-4内から亀山焼、P-5内から早島式土器、P-6内から亀山焼の細片が出土しているが、P-2内には遺物はみられない。なお、P-5、6内には奈良時代中頃の須恵器片が混入している。

橋脚（P4区）では、中世の遺物を含む柱穴が5個ほどあり、備前焼の小片を含むものもある。しかし、その配列からは掘立柱建物になる並びは確認できない。

土器の形状、技法の特徴より14世紀前半頃のものと考えられる。本建物は鎌倉時代末～室町時代の初頭頃の時期と考えられる。（高畑）



第711図 掘立柱建物-70(1/60)・出土遺物



1 淡灰色微砂 2 灰白色微砂 (茶色土混土)

第712図 掘立柱建物一71(1/60)

掘立柱建物一71 (第712図)

O17区の南、橋脚 (P 1 区) に所在し、溝-494~497との切り合い関係が認められる。

2 × 1 間の掘立柱建物であり、棟方向を N-85°-E のほぼ東西にとっている。平面は長方形であり、桁行410~415cm、梁間300cm、面積12.3m²をはかる。柱間の距離は掘り方中心で195~215cm、柱痕の中心では185~226cmをはかり、掘立柱建物-70と同様に200cmに近い数値が用いられている。また、桁行の長さには梁間の裏尺に近い数値が使用されている。

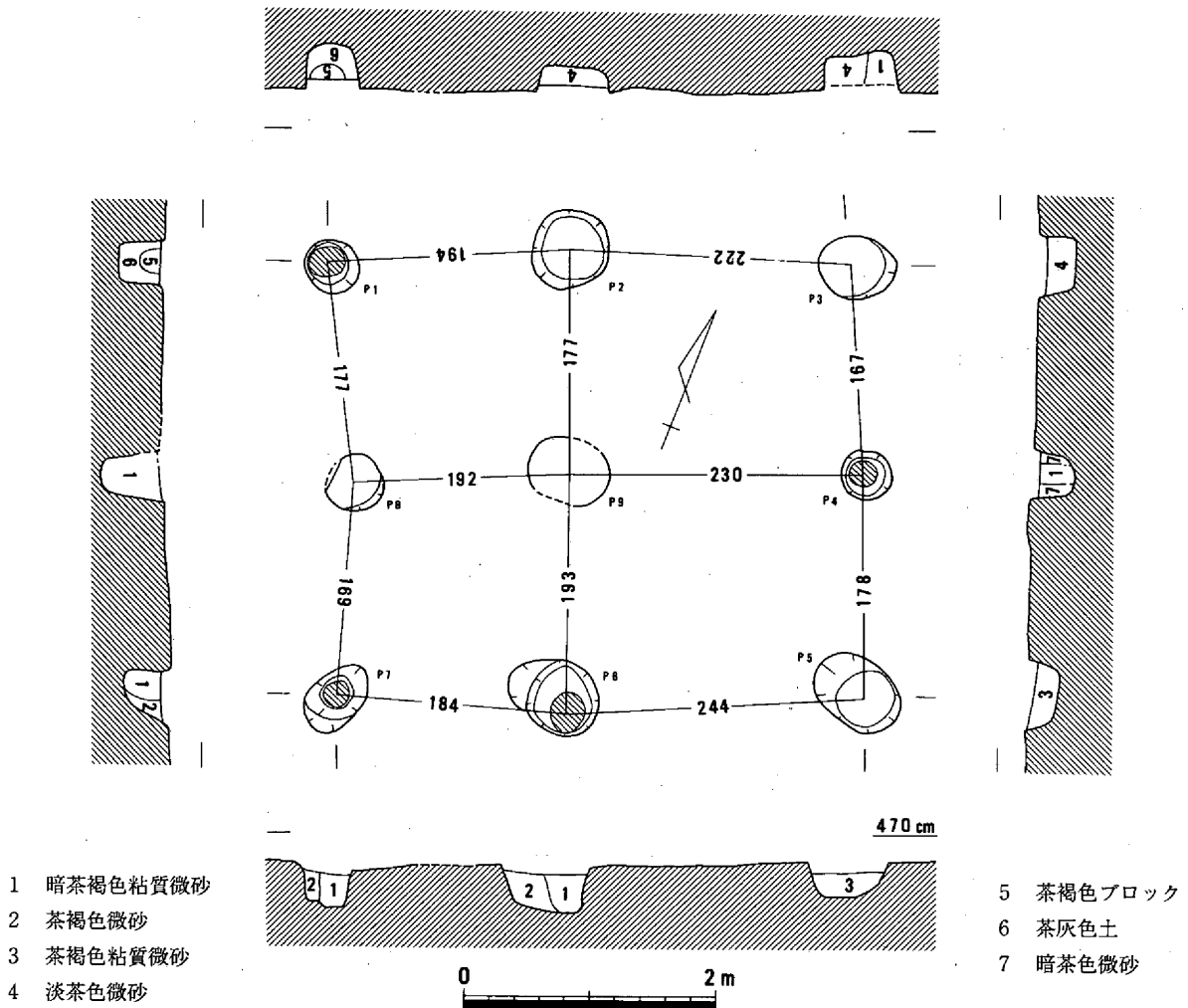
柱穴の平面形は円形にて、直径26~34cm、深さ16~24cmをはかり、柱の痕跡は直径11~15cmの幅がみられる。6柱穴のうちP-1を除く5柱穴内に扁平な河原石、角礫がみられ、小さいもので11×16cm、大きいもので15×17cm、厚さ7~13cmをはかる。これらは柱材を乗せる台石として、柱穴基底に配されたものと考えられ、掘立柱建物-74においても同様の台石がみられる。柱穴土層断面では、第1層の淡灰色微砂が柱の土壌化した痕跡であり、第2層の灰白色微砂が柱穴埋土である。

遺物は柱穴内の台石のみであり、他の土器等の遺物は皆無である。建物の時期は明確ではないが、柱間の数値、棟の方向、周辺状況から中世~近世に推定しておきたい。(高畑)

掘立柱建物一72 (第713図)

O17区の中央南、盛土 (M 8 I 区) に所在し、橋脚 (P 1 区) の溝-494~497の北側約13mに位置する。

2 × 2 間の掘立柱建物であり、棟方向を N-69°-E のおおむね東西にとっている。桁行416~428cm、梁間345~370cmをはかり、面積14.3m²の総柱建物である。桁行の柱間は184~244cmをはかり、南北の対応する辺の長さがほぼ同等になっており、梁間の柱間は167~178cmで対応する辺の長さが近い



第713図 掘立柱建物-72(1/60)

数値で構成されている。

柱穴の平面形は円形にて、直径37～65cm、深さ22～38cmをはかる。柱の痕跡はP-3、P-4、P-6、P-7にみられ、直径22～33cmの太い柱材が使用されている。第1層が土壌化した柱であり、第2、4、7層等が柱穴の埋土である。

遺物はP-7を除いたすべての柱穴内より出土しており、なかでもP-1～P-4、P-6、P-8に古墳時代前期の土師器片が多くみられる。古墳時代の5世紀末から6世紀初頭の須恵器がP-2、奈良時代と考えられる須恵器がP-5より、時期不明の須恵器がP-9から出土している。

このうち、最も新しい遺物はP-2から出土した備前焼の壺小片であり、この遺物の上限が中世であるところまでが判明している。

下限は、西川調査区から南に継続する南北溝-26が掘立柱建物のP-9を切って通過しており、溝内の近世陶磁器より17世紀の後半以前におくことができる。

(高畑)

(3) 土壙墓

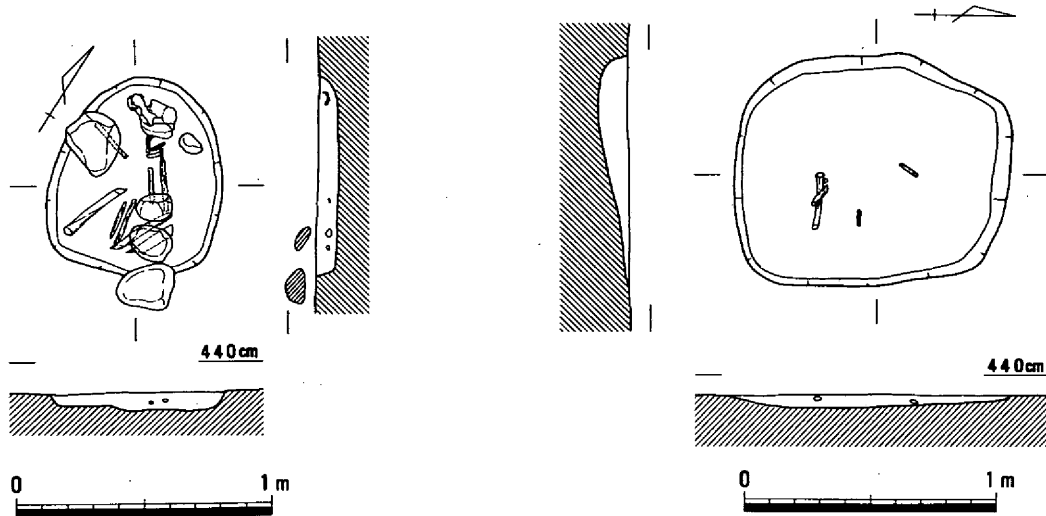
本調査区での土壙墓は12基をとりあげており、そのうち人骨が残る明確なものは9基である。おそらく、土壙としたものの中に土壙墓の可能性のあるもの、また、その逆も考えられる。

土壙墓の平面形は楕円形、円形、長方形、隅丸長方形、不整形、方形があり、規模においても大小様々である。また、木棺・棺釘・遺物の有無、伸展葬と屈葬・頭の方角・遺物の内容等の違いが認められる。

土壙墓の分布は基本的に集落内、あるいは集落の周縁に所在する。西側の集落に近い東端部に土壙墓-18~24が南北縦列にみられ、東側の集落の東部に土壙墓-25~29がまとまってみられる。これらの造墓時期は出土遺物からみると、12世紀の第4四半期頃に始まり、13世紀末頃までのものが散見できる。
(高畑)

土壙墓-18 (第714図)

P17区の北東、橋脚(P4区)に所在し、土壙墓-19の2.2m東側に位置する。2基ともに奈良時



第714図 土壙墓-18(1/30)

第715図 土壙墓-19(1/30)

代中頃の溝の埋没後に作られている。長さ79cm、幅67cm、深さ7cm、床面海拔高420cmをはかる隅丸方形の土壙墓である。西側臥屈葬の状態であり、押えに約25cm前後の石が乗せられている。熟年の女性と推定されている。
(高畑)

土壙墓-19 (第715図)

土壙墓-18の西隣に位置する。長さ110cm、幅91cm、深さ11cm、床面海拔高420cmをはかる隅丸方形の土壙墓である。人骨の脚部が一部残っており、西側臥屈葬の状態が考えられる。両土壙墓の埋土は灰褐色粘質土である。
(高畑)

土壙墓-20 (第716・717、図版94)

O17区の東南、Og線、1708線の交点の北西に所在し、土壙墓-22の北方13.5mに位置する。今回の調査では最も規模が大きく、丁寧な作りであり、伸展葬が行なわれており、副葬品の量、内容ともに優れた木棺直葬墓である。

墓壙掘り方はほぼ磁北に沿っており、長さ208cm、幅66~76cm、深さ10cmで掘られている。北側が

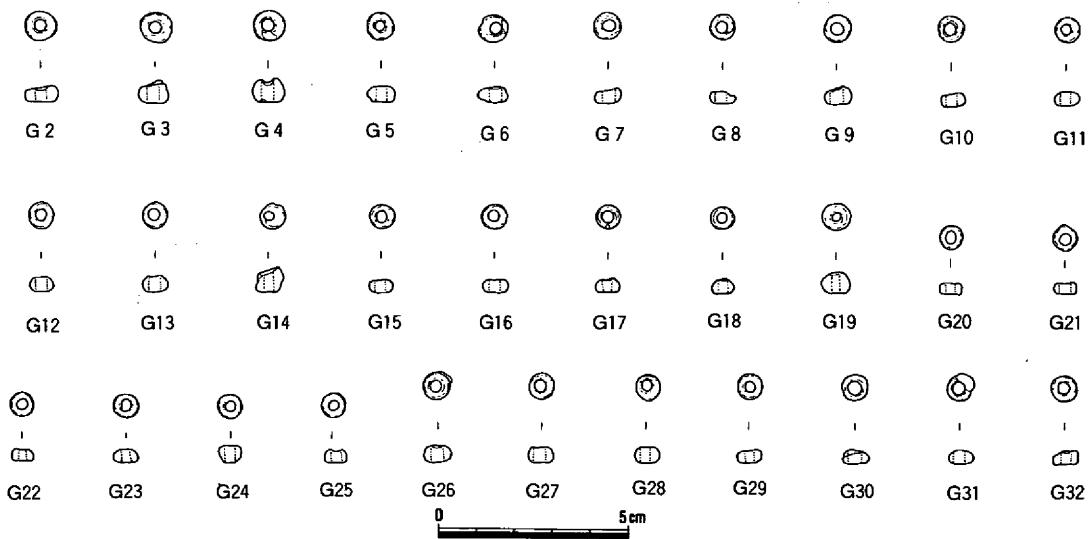
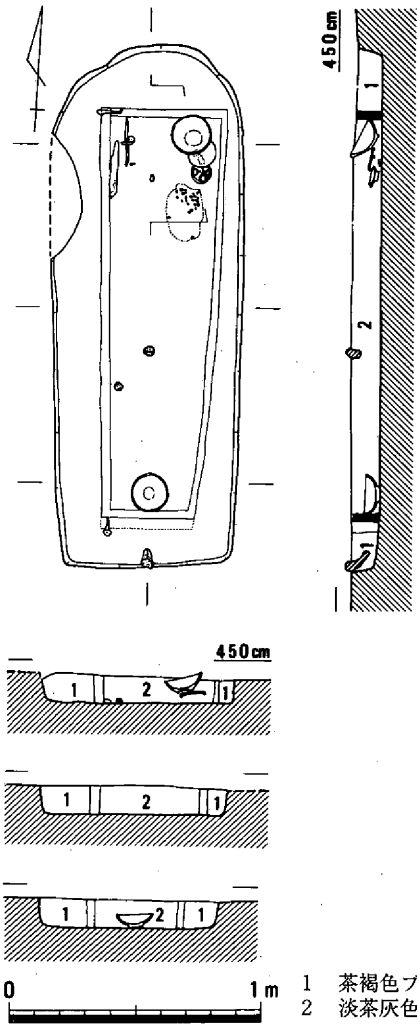
広く、南側が少し狭い長方形となり、北側短辺は丸みをもっている。掘り方内には木棺が納められており、頭部幅50cm、脚端部幅35cm、全長168cmをはかる。木棺は土壌化しており、板材幅3cm前後を

はかり、板材のつなぎは鉄釘によって行なわれている。木棺の小口板を止める長さ8.6cm、幅0.3cm、重量7.9gの釘M310が西側板から北側の小口板に打ち込まれており、同じ状況が南側の小口にもみられ、長さ8.6cm、幅2.5cm、重さ3.6gの釘が小口西端から側板に向けて打ち込まれている。鉄釘の使用はこの2本のみであり、後者のM309は小口板と側板との板目を良く残している。

さて、棺内には頭部を北に向けた被葬者の推定が可能である。北側小口より南へ22cmのところの上顎部に伴う歯のエナメル質の痕跡がわずかに認められる。頭部は小

表4 ガラス製小玉一覧表

番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
G 2	7.6	7.0	4.0	0.15
G 3	8.0	7.7	5.8	0.52
G 4	8.3	8.3	6.3	0.61
G 5	7.1	7.0	4.0	0.13
G 6	7.6	7.2	4.1	0.11
G 7	6.8	6.8	3.6	0.06
G 8	6.3	6.2	3.1	0.07
G 9	7.5	7.5	4.8	0.08
G10	6.5	6.5	3.6	0.18
G11	6.5	6.4	3.4	0.13
G12	6.6	6.5	3.4	0.14
G13	6.8	6.7	4.0	0.07
G14	6.6	6.6	6.8	0.38
G15	6.3	6.0	3.7	0.14
G16	6.8	6.5	3.4	0.10
G17	7.7	7.2	5.5	0.35
G18	6.5	6.3	3.7	0.07
G19	6.2	6.0	3.6	0.10
G20	6.3	6.0	3.25	0.05
G21	7.0	6.6	3.45	0.14
G22	6.3	6.25	3.75	0.09
G23	6.65	6.35	3.5	0.18
G24	6.6	6.4	4.4	0.11
G25	6.5	6.35	3.4	0.07
G26	7.3	6.8	4.0	0.11
G27	6.7	6.6	4.2	0.11
G28	6.7	6.3	4.2	0.08
G29	6.5	6.5	3.2	0.08
G30	6.5	6.5	3.8	0.08
G31	6.8	6.6	3.5	0.35
G32	6.6	6.6	3.8	0.10
G33	7.0	6.85	4.7	0.11
G34	6.7	6.5	4.0	0.11
G35	5.6	5.3	5.0	0.16
G36	6.5	6.3	3.0	0.07
G37	6.4	6.2	3.8	0.07
G38	6.8	6.8	3.6	(0.08)
G39	6.6	6.0	2.9	(0.05)
G40	6.8	6.0	3.5	(0.06)
G41	6.5	6.3	3.6	(0.05)
G42	6.9	6.0	3.8	(0.10)
G43	6.1	-	3.7	(0.04)
G44	5.6	5.0	3.7	(0.07)

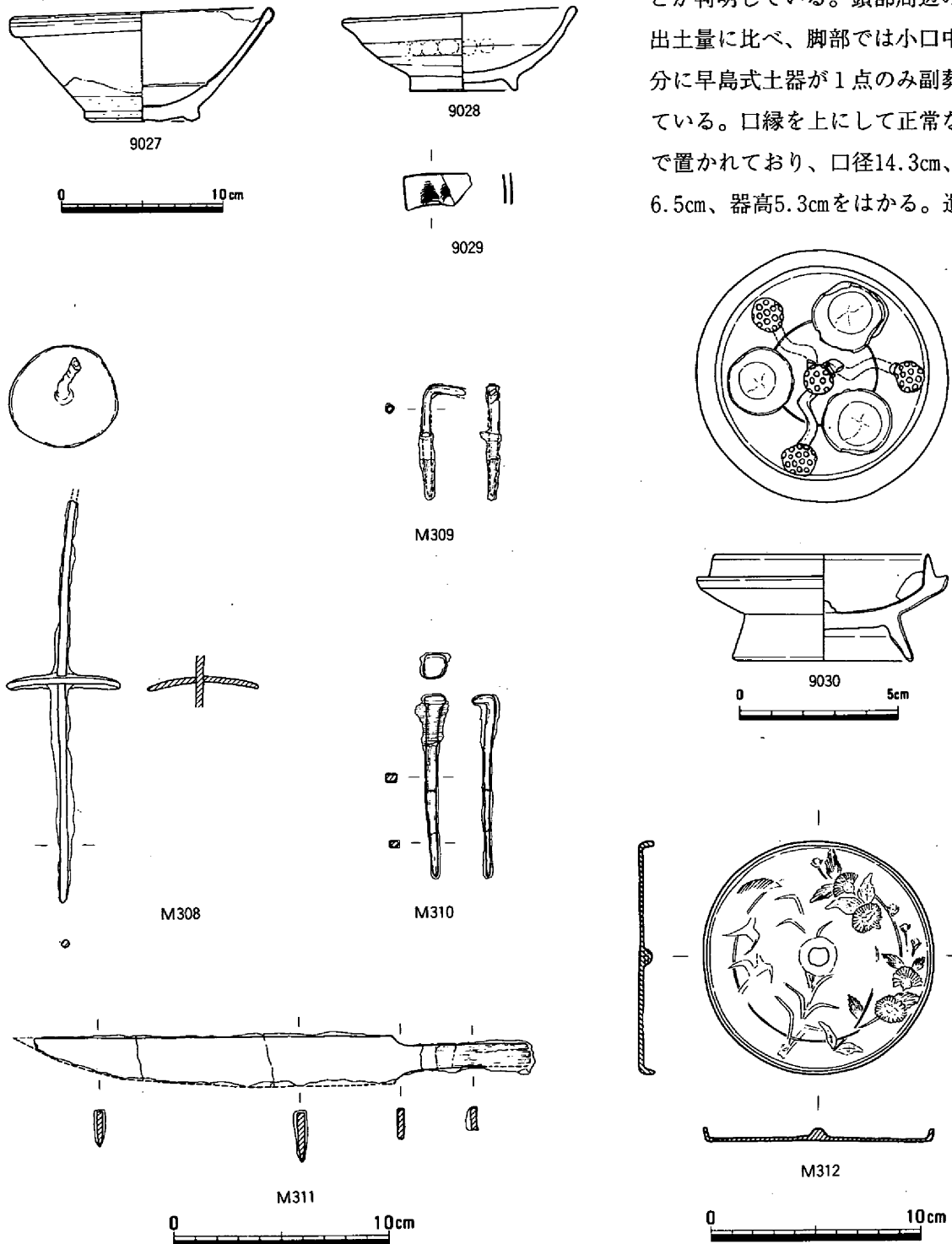


第716図 土壌墓-20(1/30)・出土遺物(1)

第3章 調査区の概要

口板にほぼ接していたものと考えられる。

遺物は頭部の東側に青磁片9029、台付合子9030を置き、その上に鏡面を上に向けたM312菊花双鳥文鏡、さらに白磁碗9027を重ねている。鏡背には鳥の羽毛状の付着物が認められる。頭部西側には紡錘車M308、鉄刀M311が置かれている。青白磁の台付合子の南側、被葬者の左胸あたり23×14cmの範囲内に灰白色のガラス小玉がまとめて置かれている。小玉の数は43個以上を数え、直径5.0～8.3mm、厚さ3.0～6.8mm、重さ0.05～0.61gの小粒である。また、成分分析ではPb（鉛）が含まれていることが判明している。頭部周辺の遺物出土量に比べ、脚部では小口中央部分に早島式土器が1点のみ副葬されている。口縁を上にして正常な状態で置かれており、口径14.3cm、底径6.5cm、器高5.3cmをはかる。遺物の

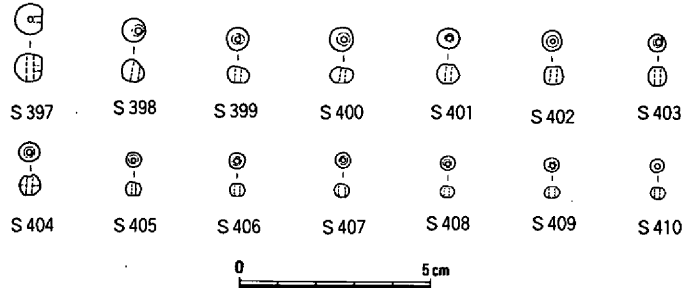
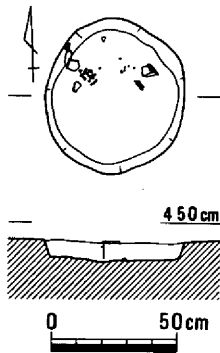


第717図 土壌墓一20出土遺物(2)

出土状況、内容等から12世紀の第3四半期～第4四半期にかけて、小柄な女性あるいは子供のために作られた可能性がある。(高畑)

土壙墓-21 (第718図)

〇17区の東南中央、土壙墓-22～24の近くに位置する。長さ62cm、幅56cm、



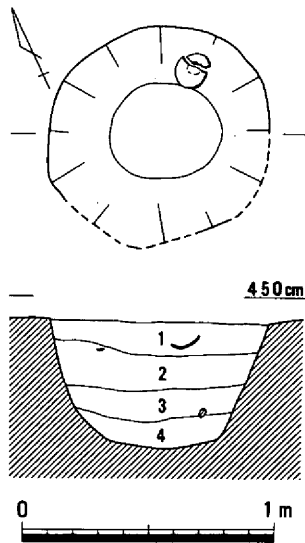
1 暗灰茶色粘質微砂 (炭含む)

第718図 土壙墓-21 (1/30)・出土遺物

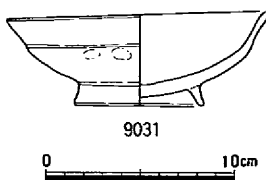
深さ7cm、床面海拔高431cmをはかる。水晶小玉が14個出土しており、6～9才程度の小児と推定される歯がみられる。中世～近世の所産か。(高畑)

土壙墓-22 (第719図)

〇17区の南東中央、土壙墓-23、24の隣に位置する。長さ92cm、幅85cm、深さ50cm、床面海拔高390cmをはかる円形の土壙である。土壙墓としての確証に欠けるものであるが、周辺状況から可能性を考えている。時期は13世紀の前半頃と考えられる。(高畑)



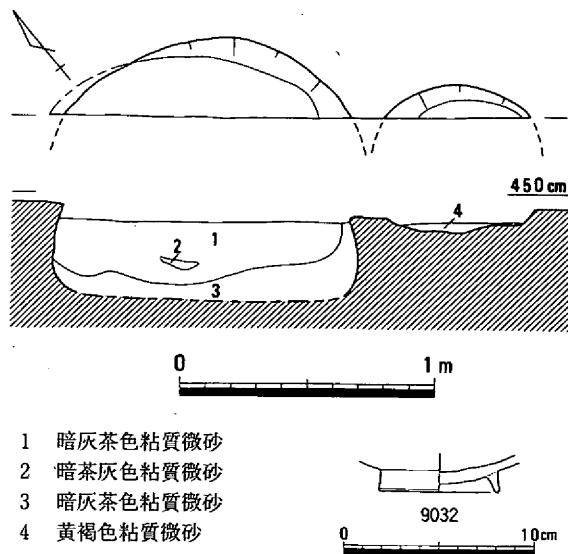
- 1 暗灰茶色粘質微砂 (炭含む)
- 2 暗茶褐色粘質微砂
- 3 暗茶褐色粘質微砂
- 4 暗茶灰色粘質微砂



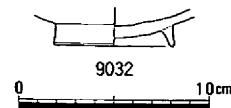
第719図 土壙墓-22 (1/30)・出土遺物

土壙墓-23・24 (第720図)

土壙墓-22の南隣に位置する。遺物は土壙墓-23から早島式土器が出土しており、土壙墓-20、22出土の土器と同類のものであり、13世紀前半頃に比定できる。(高畑)



- 1 暗灰茶色粘質微砂
- 2 暗茶灰色粘質微砂
- 3 暗灰茶色粘質微砂
- 4 黄褐色粘質微砂



第720図 土壙墓-23・24 (1/30)・出土遺物

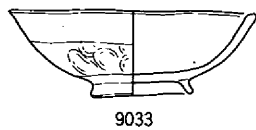
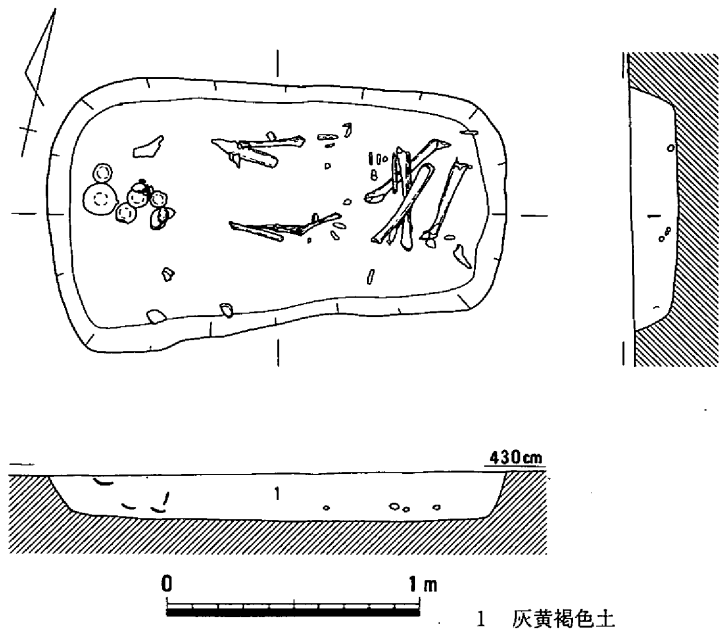
土壙墓-25 (第721図)

中屋調査区の南側部分に位置し、南側に接して土壙墓-27が存在する。また南東方向約3.50mの地点には土壙墓-28が検出され、南西方向約3.50mの地点には土壙墓-26が確認されている。

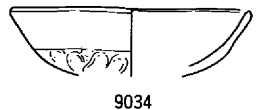
この土壙墓の平面形は、長径180cm、短径85~108cmの隅丸長方形に近い形態を呈し、西側の幅が東側よりも広がっていた。検出面からの深さは16~20cmを測り、人骨の一部と土器9033~9042や鉄器M313~M319が出土した。

その出土状況によると、人骨は鉄釘を使用した木棺に入れられ、頭位が西側で下肢は屈葬にし、右側臥の状態になって埋葬されていた。土師質の碗9033~9035や小皿9036~9042の土器は、西側に位置する人骨の頭位周辺からまとまって検出され、東側の下肢部分には存在しなかった。

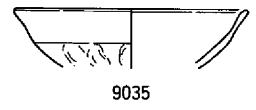
これらの土器の調整手法や形態的特徴から、土壙墓-25は13世紀前葉の鎌倉時代に属すると考えられる。
(福田)



9033



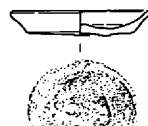
9034



9035



9036



9037



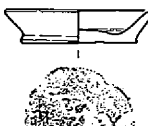
9038



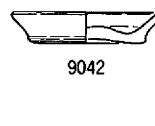
9039



9040



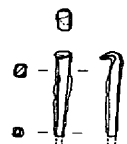
9041



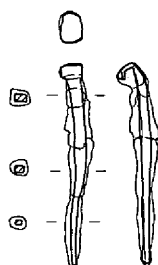
9042



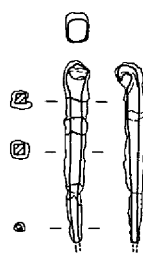
M313



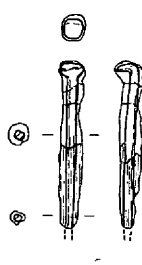
M314



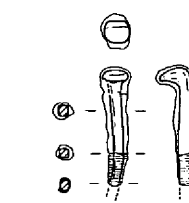
M315



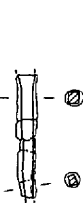
M316



M317



M318



M319



第721図 土壙墓-25(1/30)・出土遺物

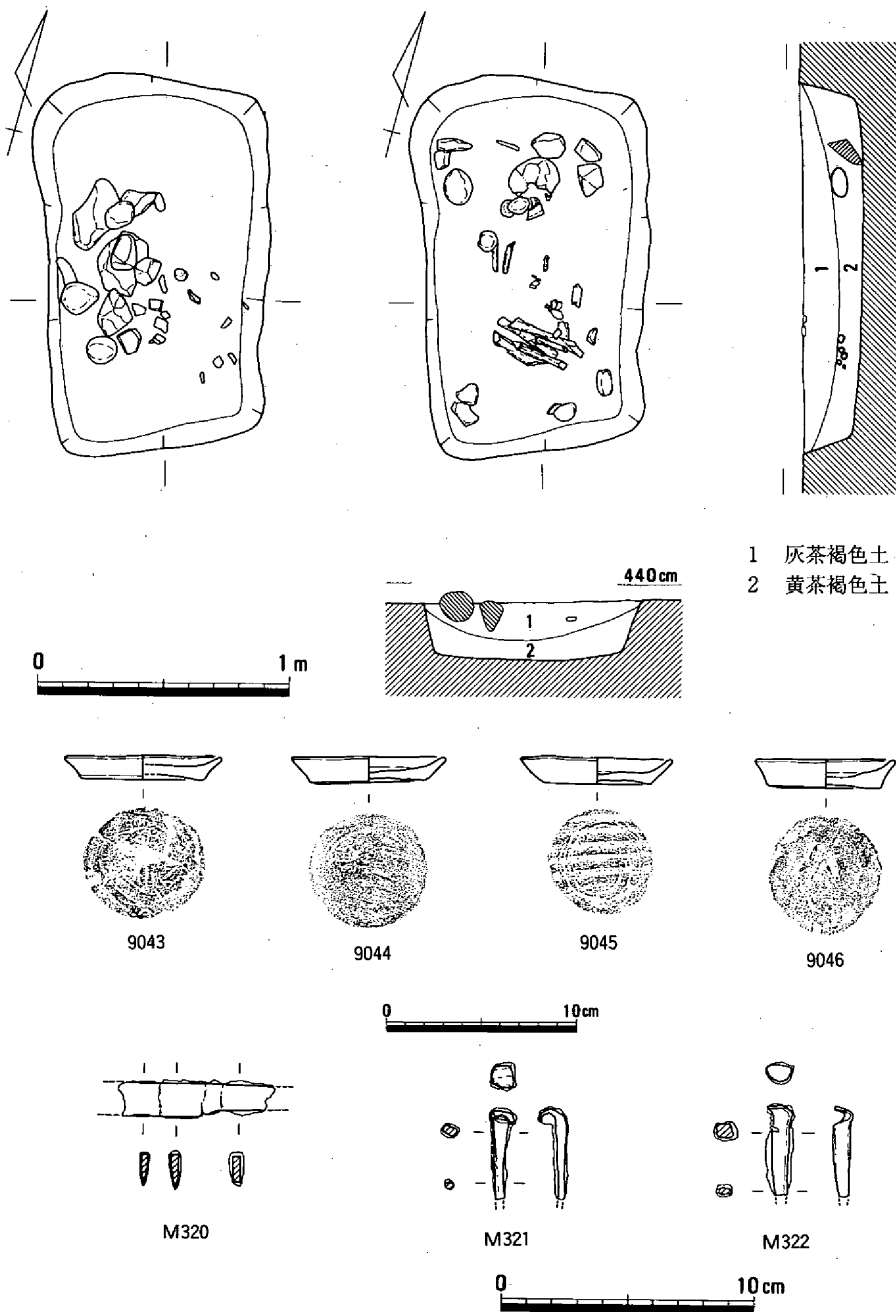
土壙墓-26 (第722図、図版41-1)

中屋調査区の南側に位置する土壙墓であるが、東方向約4mの地点には土壙墓-28が存在し、北東方向3~4mの地点には土壙墓-25と土壙墓-27が検出されている。

この土壙墓の平面形は、長径148cm、短径82~93cmの隅丸長方形に近い形態を呈し、北側の幅が広がっていた。検出面からの深さは18~23cmを測り、下肢を屈葬した右側臥の人骨が出土した。

この人骨を鑑定していただいた結果は、脛骨の太い成人男性だった。残存する骨は、頭蓋冠、下顎骨骨体、右の橈骨と尺骨、寛骨破、左右の大腿骨と脛骨である。

土壙墓-26の時期は、出土した小皿9043~9046から13世紀前葉の鎌倉時代であろう。 (福田)



第722図 土壙墓-26(1/30)・出土遺物

土壙墓-27 (第723図)

この土壙墓も中屋調査区の南側部分に位置しているが、北側に接して土壙墓-25が存在する。また南東方向約2mの地点には土壙墓-28が検出され、南西方向約3mの地点には土壙墓-26が確認されている。

平面形は長径120cm、短径115cmの隅丸方形に近い形態を呈し、検出面からの深さは7~10cmであった。土壙内からは下肢が屈葬された状態で人骨が出土し、炭化物とともに人頭大の2個の河原石が、底部から浮いた状態で存在した。頭骨は検出できなかったが、2個の河原石の付近に位置すると考えられた。

この土壙墓の時期を特定する遺物はないが、前述した土壙墓-25や土壙墓-26と同じである、13世紀前葉の鎌倉時代になるであろう。(福田)

土壙墓-28 (第724図)

中屋調査区の南側部分に位置する。

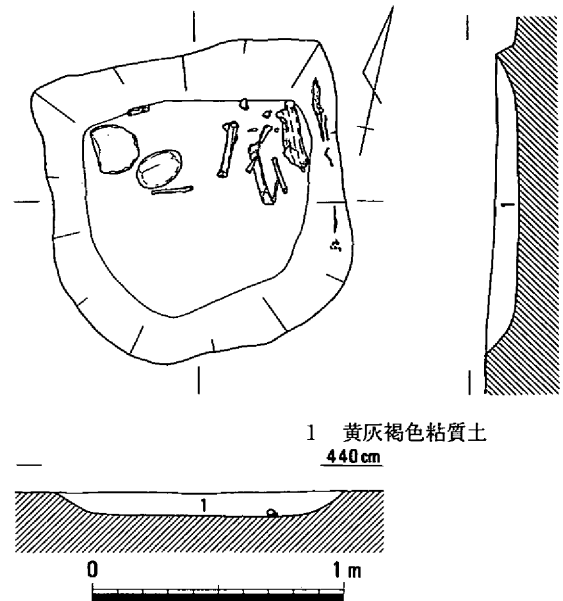
平面形は長径90cm、短径80cmの隅丸長方形に近い形態を呈し、検出面からの深さは6~9cmと浅かった。内部からは下肢が屈葬されて右側臥の状態になった人骨が出土し、歯の一部も検出した。

この人骨や歯を鑑定していただいたところ、大腿骨が細くて柱状性が弱いだけでなく、歯冠のサイズが小さいことなどから女性と推定され、大臼歯の磨耗が軽微なので壮年骨だと判断された。

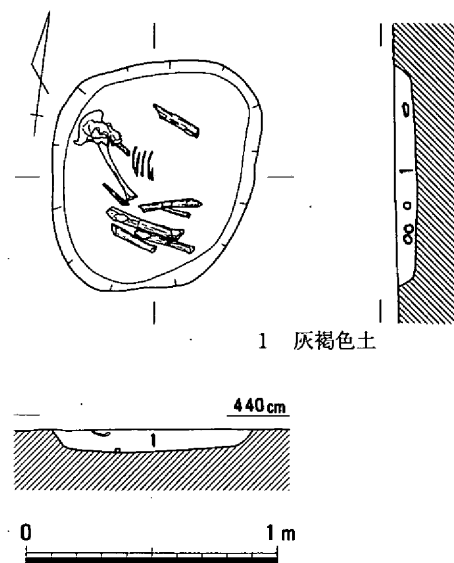
この土壙墓の時期も不明であるが、周辺の土壙墓と同様の13世紀前葉と思われる鎌倉時代になるであろう。(福田)

土壙墓-29 (第725図)

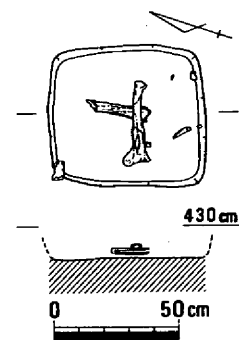
この土壙墓は、土壙墓-28の南西約24mに検出された。規模は、63×58cmを測り、平面形はほぼ方形を呈している。深さは残存状態が悪く数cmしか確認されていない。土壙の中央部を中心に大腿骨が検出され墓壙と判断された。出土遺物はほとんどなく、早鳥式の椀の細片が数点検出された。このことから、鎌倉時代である可能性が考えられる。(中野)



第723図 土壙墓-27(1/30)



第724図 土壙墓-28(1/30)



第725図 土壙墓-29(1/30)

(4) 土塋

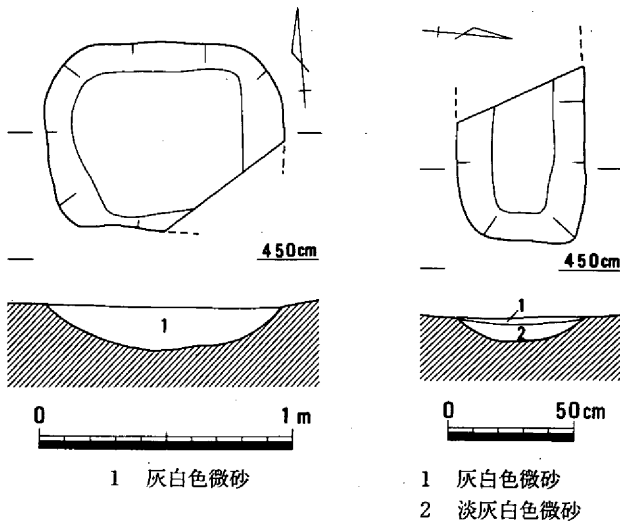
土塋規模は大小様々であり、それらの時期も13世紀後半頃から14世紀中葉頃までの土器等の遺物を含んでいる。早島式土器の椀、小皿が最も多く、他に亀山焼、東播系のこね鉢、常滑、中国製陶磁器、鍋、古銭等がみられる。(高畑)

土塋-477・478 (第726図)

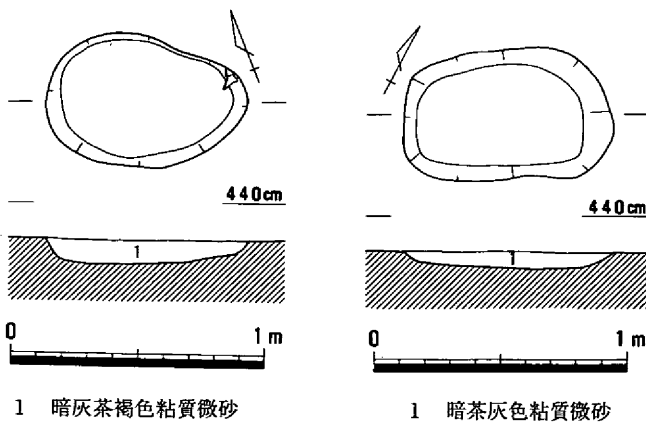
P17区の北東、橋脚(P3区)に所在し、土塋-479の南側に位置する。土塋-477は長さ94cm、幅75cm、深さ17cm、底面海拔高414cmをはかる隅丸方形の土塋である。土塋-478は長さ(69)cm、幅50cm、深さ9cm、底面海拔高422cmをはかる方形の土塋である。埋土は2基とも灰白色微砂であり、埋土中に早島式土器の台付椀小片を含む。(高畑)

土塋-479・480 (第727図)

P17区の北東、橋脚(P3区)に所在し、土塋-477・478の北側に位置する楕円形と隅丸方形を呈する浅い土塋である。土塋-479は長さ79cm、幅52cm、深さ10cm、底面海拔高416cmをはかる。土塋-480は長さ83cm、幅50cm、深さ7cm、底面海拔高419cmをはかる。土塋-479の埋土中には早島式土器の小片を含んでいる。(高畑)



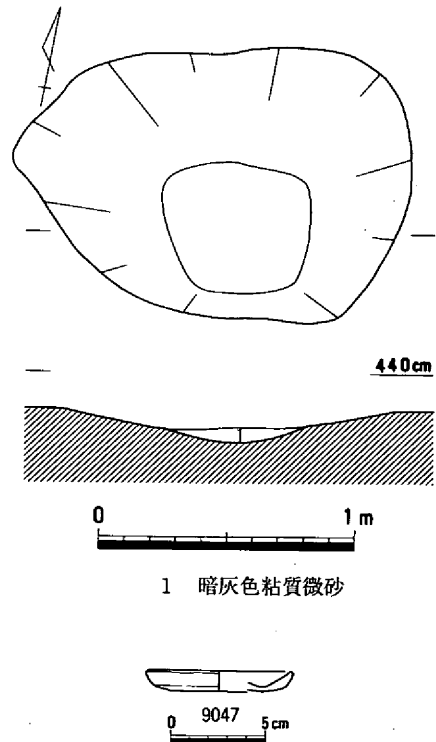
第726図 土塋-477・478(1/30)



第727図 土塋-479・480(1/30)

土塋-481 (第728図)

土塋-481は土塋-480の東4mに位置する。埋土中より小皿9047が出土しており、口径7.6cm、底径6.8cm、器高1.1cmをはかる。(高畑)

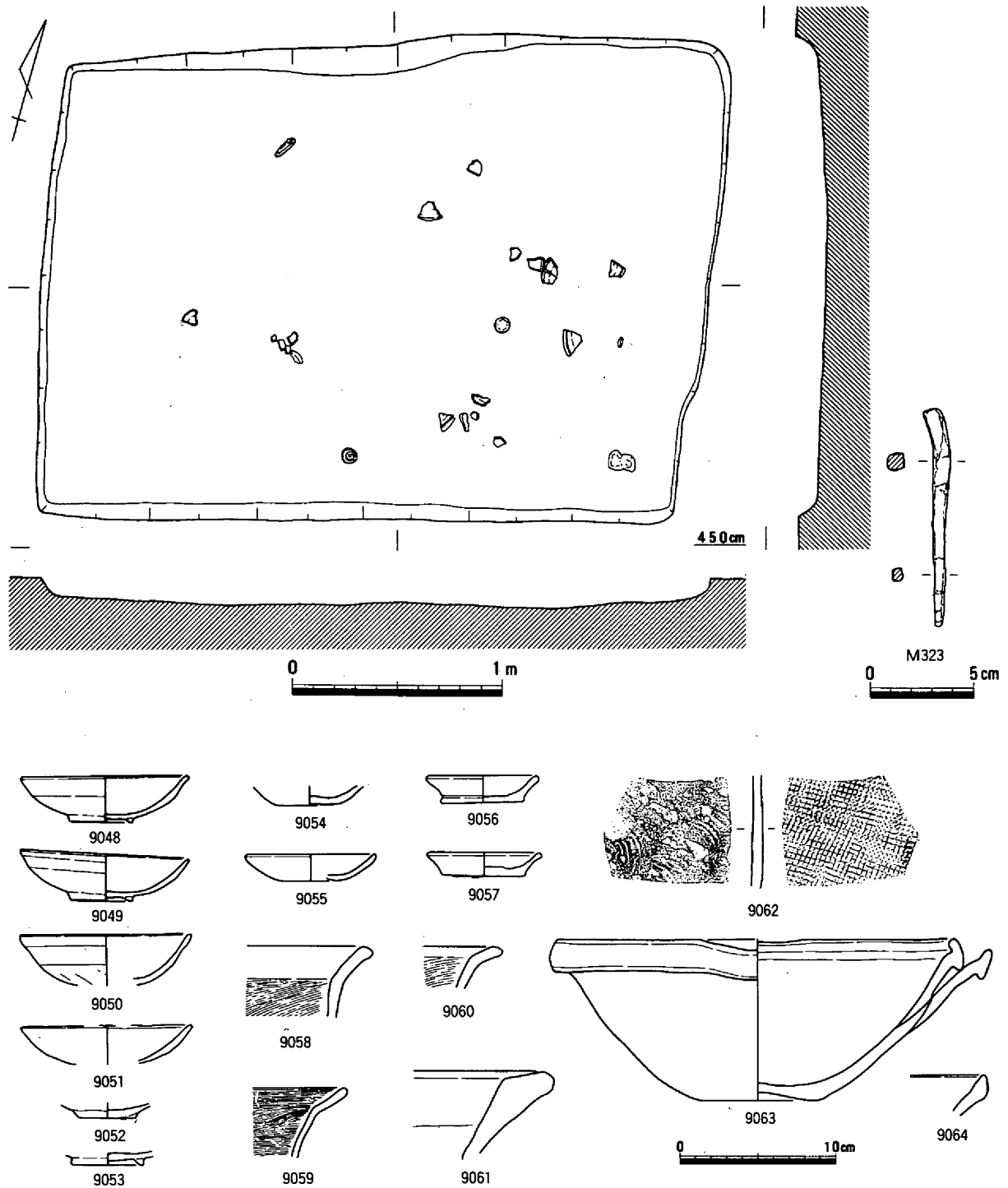


第728図 土塋-481(1/30)・出土遺物

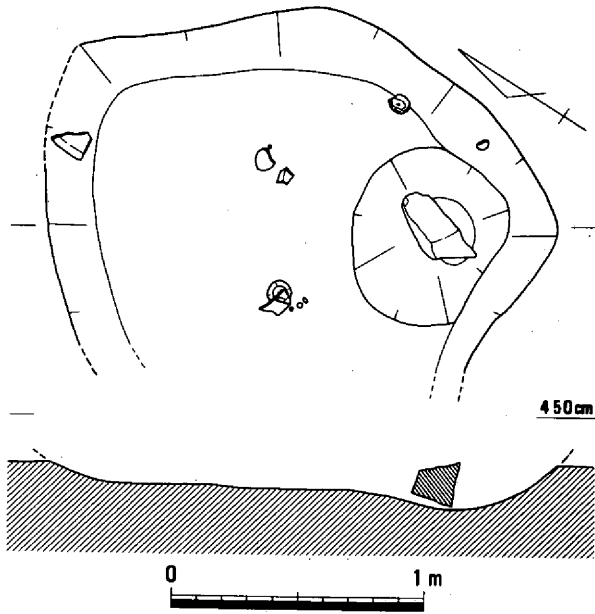
土壌-482 (第729図)

O17区の南東、橋脚 (P2区) に所在し、土壌-483、484の東隣に位置する。東西に長い方形土壌であり、長さ321cm、幅235cm、深さ13cm、底面海拔高42cmをはかり、底部はほぼ平坦に近い。底面には付属の施設は認められない。

遺物は底面に近い所に散布しており、早島式土器の椀・小皿、鍋、亀山焼の甕、東播系のこね鉢、白磁碗等20点前後の破片が出土している。



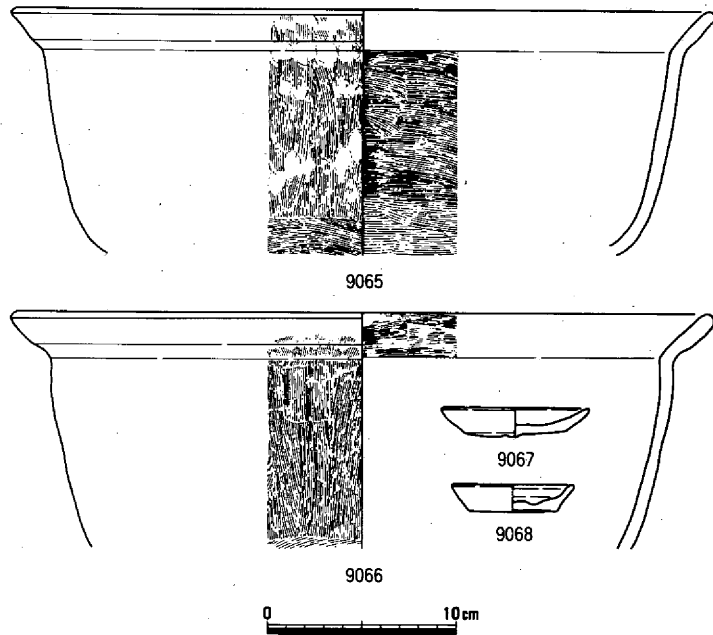
第729図 土壌-482 (1/30) ・出土遺物



早島式土器の台付椀9048は口径10.5cm、底径3.6cm、器高3.0cmをはかり、9049～9052とともに色調は灰白色を呈する。小皿9056、9057は口径7.0cm、底径5.3cm、器高1.5cmをはかる。9062が亀山焼の甕であり、9063、9064が東播系のこね鉢である。9063は口径25.5cm、底径7.9cm、器高10.2cmをはかり、その色調は青灰色を呈する。内面中位まで摩耗が顕著であり、よく使い込まれている。

これらの土器の形態、技法の特徴等から、13世紀末頃～14世紀前半頃と考えられる。

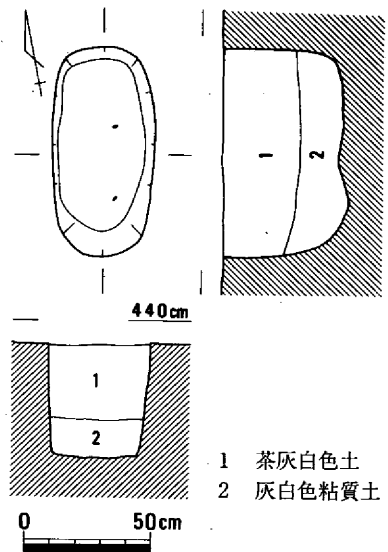
(高畑)



土壌-483 (第730図)

〇17区の南東、土壌-482の西隣に位置する不整形の土壌である。長さ202cm、幅(150)cm、深さ18cm、底面海拔高414cmをはかる。

遺物は埋土中から鍋、小皿、石(35×16×17)cmがみられる。鍋



第730図 土壌-483(1/30)・出土遺物

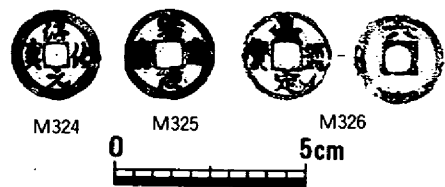
9065、9066は口径36.6cmをはかり、器外面はほぼ全体に煤が付着をしている。小皿9067は口径7.8cm、底径5.4cm、器高1.5cmをはかり、淡橙色を呈する。9068は口径6.5cm、底径4.8cm、器高1.4cmをはかり、浅黄橙色を呈する。

これらの土器の特徴等から、本土壌は13世紀末～14世紀前半に廃棄されたと考えられる。

(高畑)

土壌-484 (第731図)

〇17区の南東、橋脚(P2区)に所在し、土壌-483の北隣に位置する楕円形の土壌である。長さ83cm、幅40

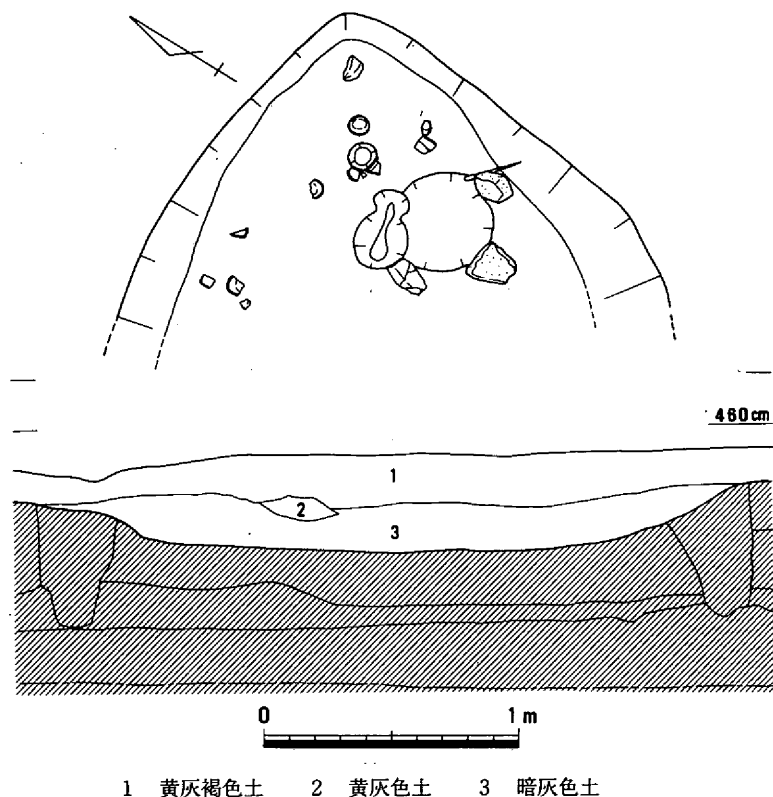


第731図 土壌-484(1/30)・出土遺物

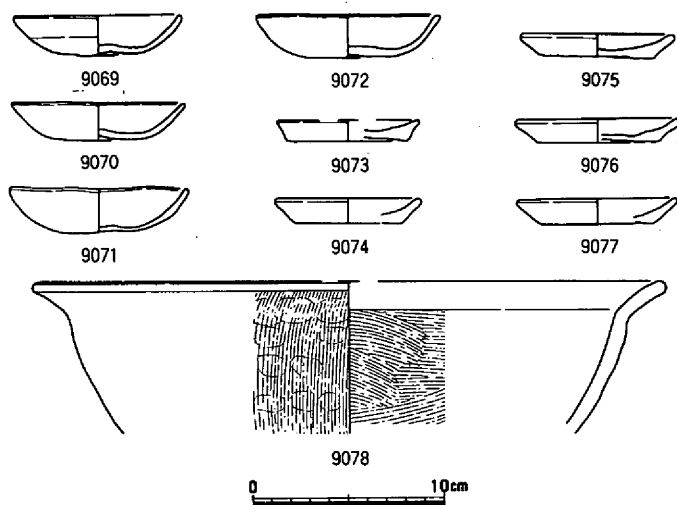
cm、深さ46cmをはかる。断面は箱形を呈し、埋土は2層からなる。第1層がやや粘性をおびた茶灰白色土、第2層が灰白色粘質土である。

遺物は古銭が3枚出土しており、いずれも第2層からであり、床面に着いているものではない。M324が淳化元宝（発行990年）、M325が熙寧元宝（発行1068年）、M326が嘉定通宝（発行1208年）であり、M326の裏面には「六」の文字が入っている。

M324、M325が北宋銭、M326が南宋銭であり、この土壌は13世紀以降のものであることがわかる。
(高畑)



1 黄灰褐色土 2 黄灰色土 3 暗灰色土



第732図 土壌-485(1/30)・出土遺物

土壌-485 (第732図)

O17区の南東、橋脚 (P2区) に所存し、土壌-483の南隣に位置する。不整形の土壌であり、長さ216cm、幅(130)cm、深さ25cm、底面海拔高410cmをはかる。埋土は第3層の暗灰色土であり、土壌断面は椀形を呈する。

遺物は土壌-482、483と同様に土器の破片、石等が散布する状況で出土しており、床面に着くものはなく、投棄されたものと考えられる。早島式土器に近い椀4点、小皿4点、鍋1点、他に亀山焼、支脚等の小破片がみられた。

椀9069~9072は従来の灰白色を呈する色調とは異なり、鈍い橙色、浅黄橙色、鈍い黄橙色等の色調のものである。完形に近いもので計測では、椀9069が口径8.5cm、底径5.0cm、器高2.1cm、小皿9075が口径7.8cm、底径6.0cm、器高1.3cmをはかる。椀は従来のものより、さらに口径、器高が小形化するものが含まれており、器高の縮少が顕著である。小皿は従来の規模、逆に大形のものがあり、椀の規模に近いものがみられる。

土壌の時期は、これらの土器

の形態的特徴等から14世紀中葉のものと考えられる。

土壙-82~85の所在する橋脚（P2区）は、従前の調査により掘立柱建物-4~15、井戸-2、土壙墓-5~11、土壙-166~191、溝等を検出した西側の集落の一部を構成するものである。

橋脚（P2区）では柱穴130個ほどが検出されており、それらは西側半分に集中をしている。そのうちの13穴内から遺物が出土しており、早島式土器の椀・小皿、備前焼等の小片がみられる。それらの時期は13世紀後半~14世紀中葉までの幅が認められ、この間の居住期間を示す、遺構・遺物である。土壙-482~485に伴う遺物も13世紀末~14世紀中葉を示しており、齟齬をきたさない。占地および利用は柱穴群（掘立柱建物）が若干先行するようであり、その後は柱穴群（掘立柱建物）と土壙が併存していたようである。

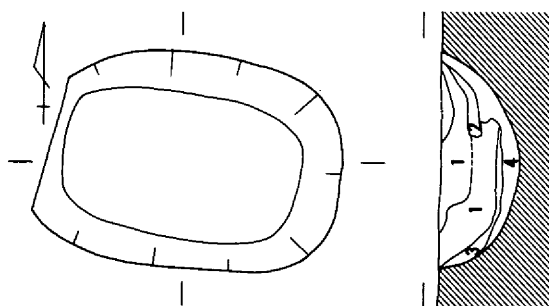
津寺の中屋調査区をおおまかにみると、多種の遺構の中で土壙墓の年代が総じて古く、掘立柱建物、井戸、土壙等の年代が総じて新しい傾向がうかがえる。土壙墓の古いものは12世紀の第4四半期頃には出現しており、しばらく時間をおいて13世紀の第2四半期ころに再び散見することができる。しかし、同時期と考えられる掘立柱建物、土壙等の遺構は両時期ともに確認できていない。また、遺物においてもほぼ同じことが言える。よって、両時期の集落の位置を用地外の場所に想定すべきかもしれない。

掘立柱建物、土壙等の出現は13世紀中葉頃からであり、東西の集落がほぼ同じ頃から始まっており14世紀の中葉頃まで存在していた可能性が強い。そうすると、墓と集落との開始時期の間を埋める遺構、遺物を確認することがむずかしい状況が理解できる。おそらく、12世紀末~13世紀の第2四半期頃までの間は墓、掘立柱建物、土壙等の遺構が存在しなかった可能性が考えられる。

墓と掘立柱建物、井戸、土壙の存在した両時期の遺物が同時にみられるのは溝のみであり、とくに東西の集落の南側を東南に流れる溝-70、南流して溝-70に注ぐ溝-295、320~322等である。水田、畑、集落内外の用排水を目的とし、12世紀後半頃には溝の計画整備が実施されていた可能性があり、その流路は調査前にまで及ぶものがみられた。（高畑）

土壙-486（第733図）

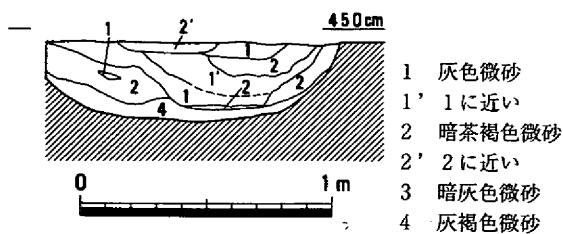
〇17区の南中央、橋脚（P1区）に所存し、掘立柱建物-71の北2.5mに位置する。溝-495を切る



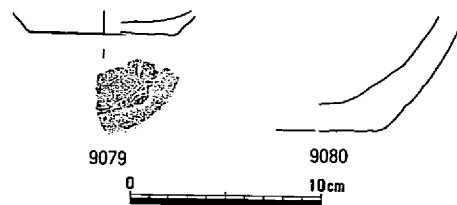
隅丸方形の土壙であり、長さ119cm、幅87cm、深さ32cm、底面海拔高414cmをはかる。埋土は第1層の灰色微砂と第2層の暗茶褐色微砂の互層になっている。

遺物の時期は中世~近世の範疇であろう。

（高畑）



- 1 灰色微砂
- 1' 1に近い
- 2 暗茶褐色微砂
- 2' 2に近い
- 3 暗灰色微砂
- 4 灰褐色微砂



第733図 土壙-486(1/30)・出土遺物

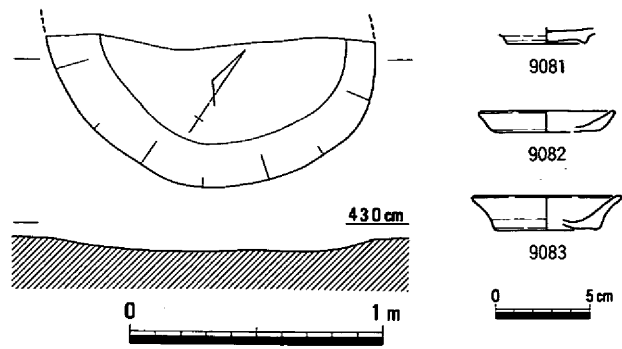
土壙-487 (第734図)

この土壙は、溝-502の西約2.5mに検出された。土壙の北側は調査区外となるため約半分が確認された。長さは約128cmで、検出状況からみて平面形は円形を呈すると推定される。深さは約5cmと浅く、断面形は皿形を呈する。出土遺物としては図示した9081~1983など少量の土器が検出された。

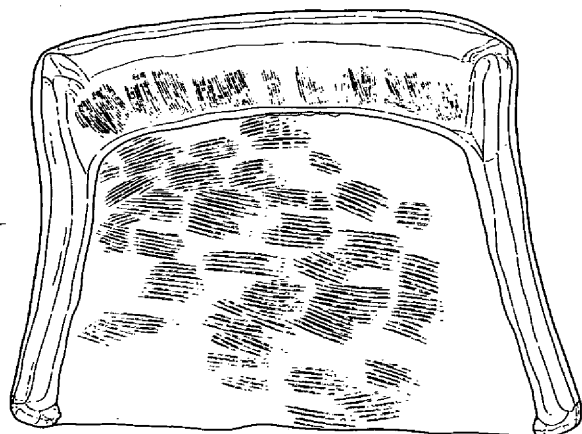
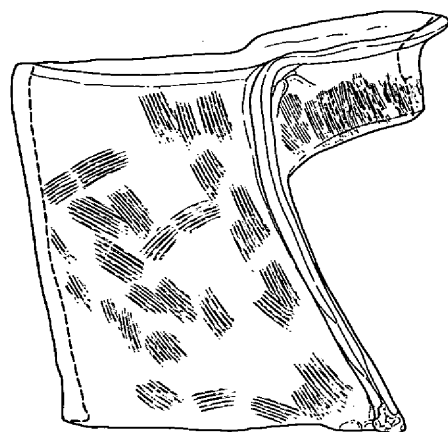
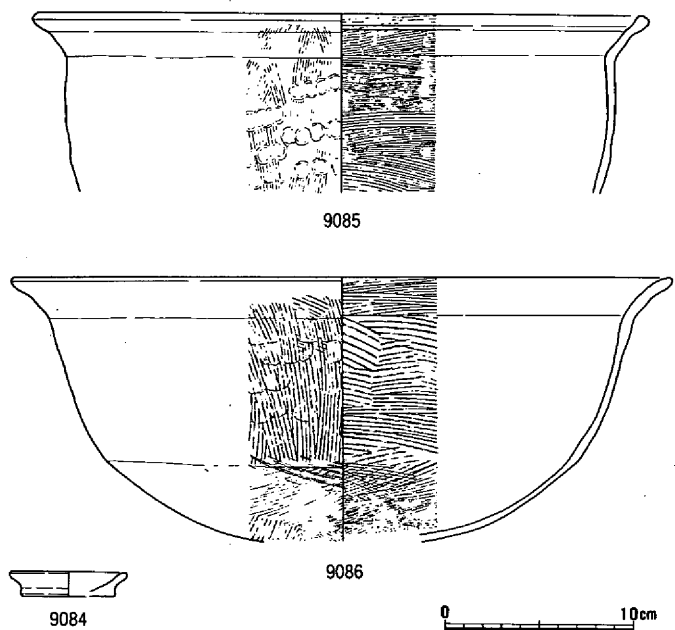
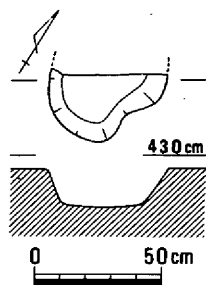
9081は、早島式土器の椀で、底部の高台はわずかに残っている。時期は14世紀前後。
(中野)

土壙-488 (第735図)

土壙-488は、土壙-487の南西約50cmに検出された。土壙の北側は調査区外となっており、南側半分が確認された。長さは約41cmを測り、平面形は不



第734図 土壙-487(1/30)・出土遺物



9087

0 20 cm

第735図 土壙-488(1/30)・出土遺物

整形である。深さは約16cmで、土壌内には図示した土器が集積していた。9085・9086は鍋でもう1個体検出している。9087のカマドは個体が約半分検出できた。出土した土器はその特徴からみて鎌倉時代。(中野)

土壌-489 (第736図)

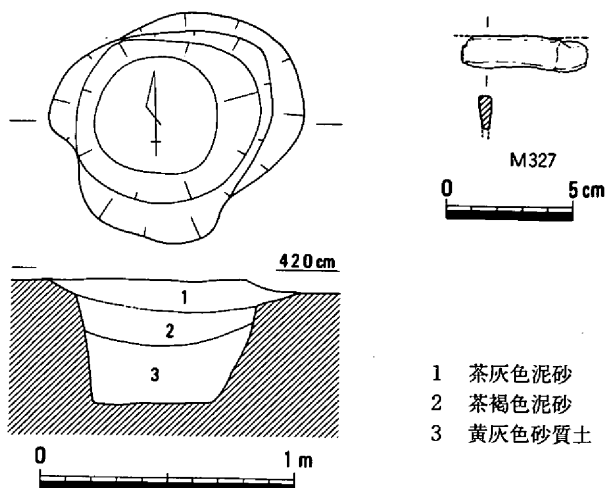
この土壌-489は土壌-488の南東約8.5mに位置している。土壌の東は溝-500によって一部削平を受けていた。規模は、約101×90cmで、平面形は不整の円形を呈している。深さは約49cmを測る。断面形は、上部は浅く掘

っておりさらに角度を変えて下方に掘り下げている。土壌内は、第1～第3層がレンズ状に堆積していた。出土遺物は、M327の鉄器が検出された。時期は、土器が出土していなく不明であるが、鎌倉時代であろう。(中野)

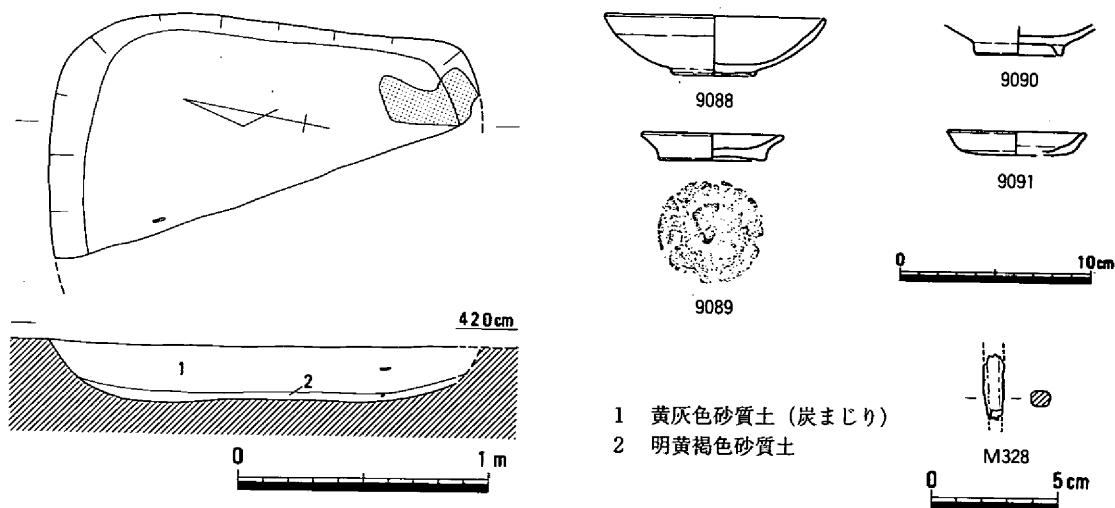
土壌-490 (第737図)

土壌-490は、土壌-489の南西約5mに位置している。土壌の西側は、後世の削平を受けており残存状態は良くなかった。長さは推定約170cmで、平面形は残存状況からみて隅丸方形になると考えられる。深さは約21cmを測り、断面形は皿形を呈している。土壌内は、上下2層が堆積しており、上層は黄灰色砂質土で炭を含んでいた。下層は明黄褐色砂質土が薄く堆積していた。土壌の南東隅部の底部には約40×10cmの範囲に炭の層が認められた。

出土遺物としては、図示した9088～9091などの土器の他にM328の鉄器が出土した。9088・9089は、早島式土器の椀で、高台はわずかに残っている。9090・9091は早島式土器の小皿で、口縁部のおさめかたが異なっている。これらの土器はその特徴からみて13世紀後半期。(中野)



第736図 土壌-489(1/30)・出土遺物



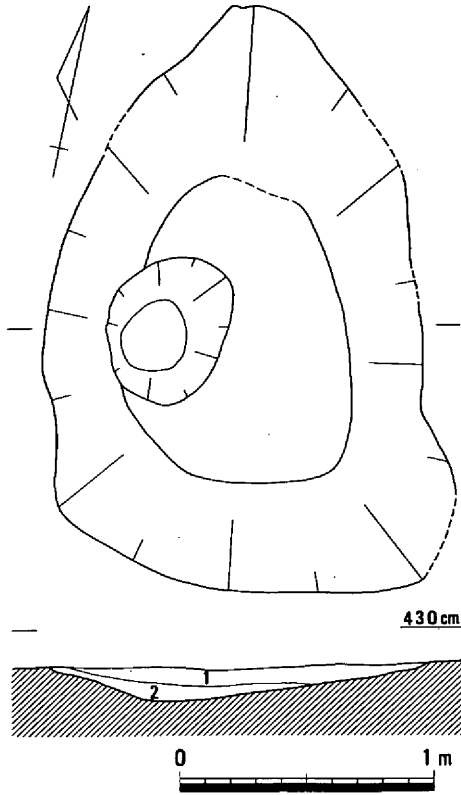
第737図 土壌-490(1/30)・出土遺物

土壙-491 (第738図)

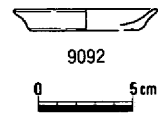
この土壙は、土壙-490の東側約5mに位置している。土壙の存在する地点は柱穴が多数検出されており、土壙は部分的に削平を受けていた。規模は、約230×146cmを測り、平面形は不整楕円形を呈している。深さは約9cmと浅く、断面形は皿形を呈している。土壙内は、上下2層が堆積しており、上層には暗黄灰色砂質土、下層には暗褐色灰色砂質土で炭を含んでいた。土壙の底部は、中央やや西側が一段低くなっている。土壙の性格については不明である。出土遺物としては亀山焼、早鳥式土器の碗・小皿さらに土師器の鍋などが少量出土している。

時期は鎌倉時代と考えられる。

(中野)



- 1 暗黄灰色砂質土
- 2 暗褐色灰色砂質土 (炭含む)



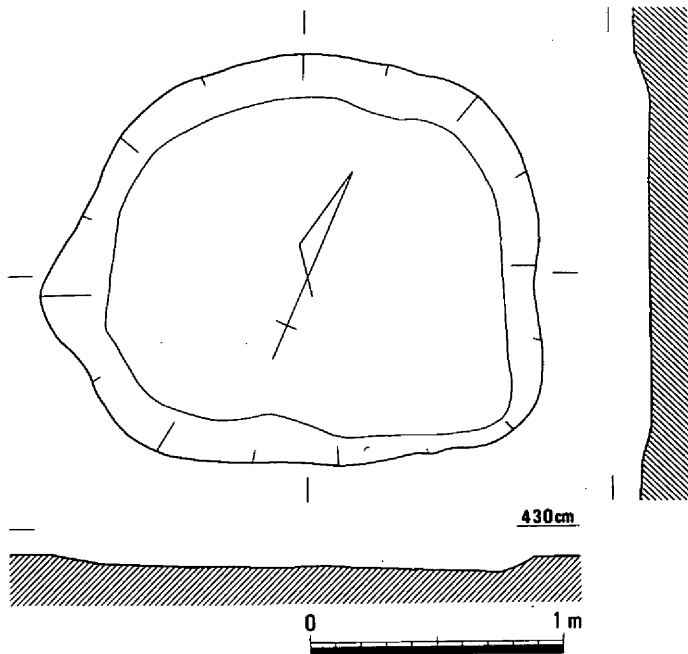
第738図 土壙-491(1/30)・出土遺物

土壙-492 (第739図)

土壙-492は、土壙-491の南東約1.5mに位置している。規模は約195×161cmで、平面形は不整円形を呈している。深さは約5cmで、断面形は皿形を呈する。土壙の周辺には同様の土壙が多数検出され

ているが性格については不明である。土壙からの出土遺物は、早鳥式土器の碗・小皿などの破片が少量検出された。図示できたのは9093の小皿だけであった。9093は、底部にヘラ切り痕を残しており、さらに板目痕跡が付いている。出土した土器は鎌倉時代と考えられる。

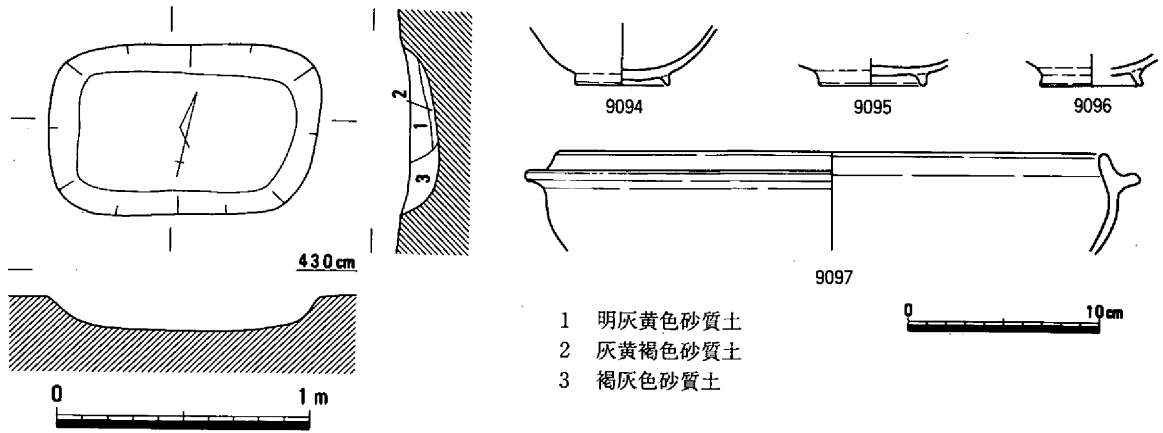
(中野)



第739図 土壙-492(1/30)・出土遺物

土壙-493 (第740図)

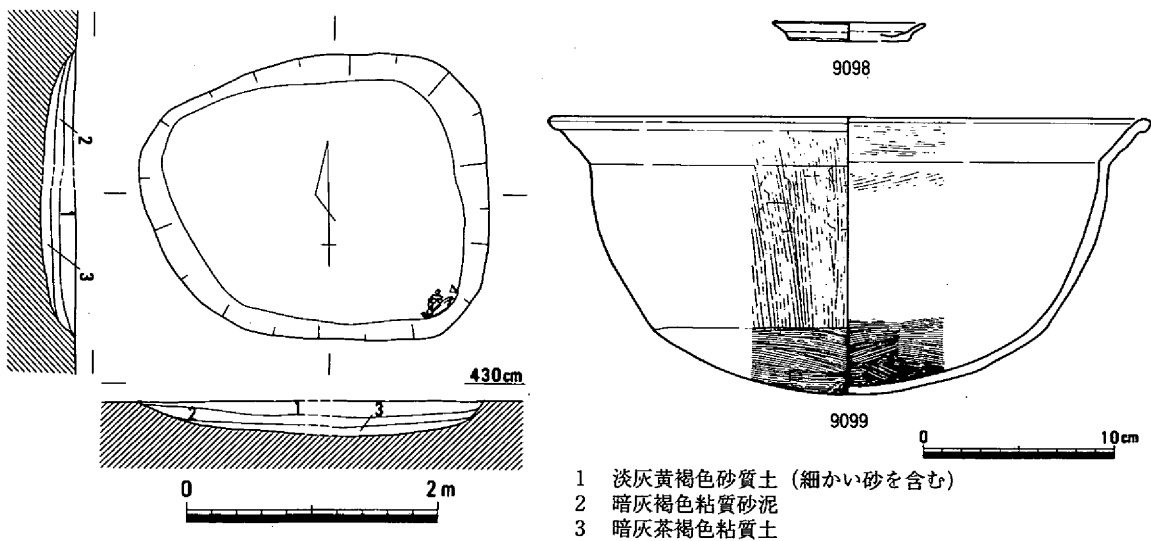
この土壙は、土壙-492の南西約1mに位置している。規模は約106×67cmを測り、平面形は隅丸の長方形を呈している。深さは約14cmで、断面形は皿形を呈する。土壙内は、第1～第3層が堆積していた。出土遺物は、図示した9094～9097の他に亀山焼、土師器の鍋、カマドなどが少量検出された。9094～9096は早鳥式土器の椀で、9097は瓦質の羽釜である。出土した土器は鎌倉時代の特徴を示している。(中野)



第740図 土壙-493(1/30)・出土遺物

土壙-494 (第741図)

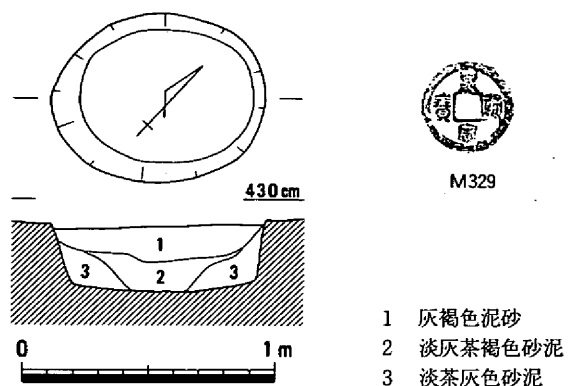
土壙-494は、土壙-493の南西約6.5mに位置しており、溝-513の上部に検出された。規模は約276×224cmを測り、平面形は不整楕円形を呈している。深さは約28cmで、断面形は皿形を呈する。土壙内は、第1～第3層がレンズ状に堆積していた。土壙底部の南東隅部には9099の土器が検出された。出土遺物は、図示した以外には早鳥式土器の椀などが少量検出された。9098は、早鳥式土器の小皿で9099は土師器の鍋で内外面をハケメ、オサエで調整している。出土した土器から鎌倉時代と考えられる。(中野)



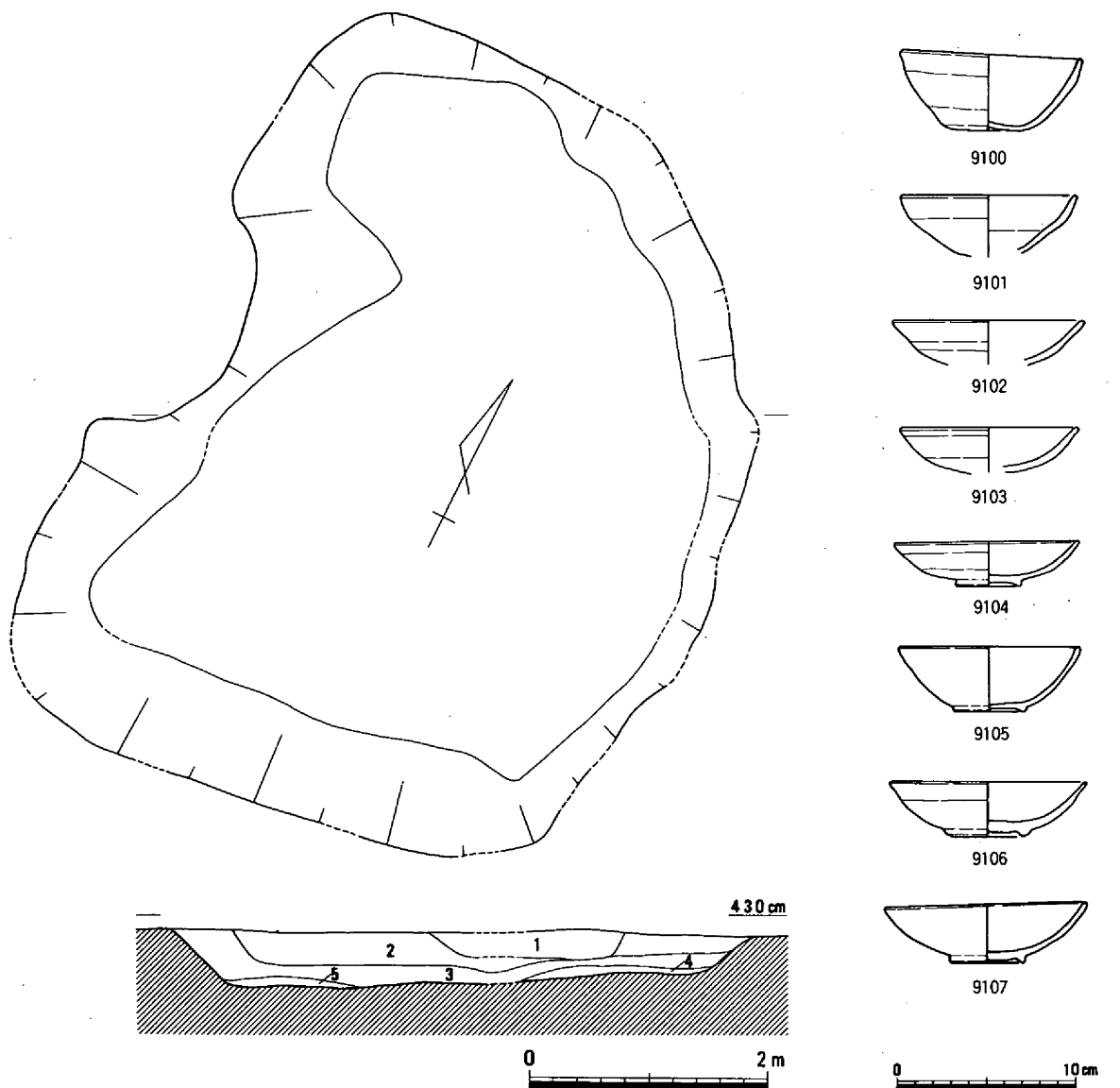
第741図 土壙-494(1/60)・出土遺物

土壙-495 (第742図)

この土壙-495は、土壙-488の南西約3.5mに位置しており、土壙-496を切って検出された。規模は約85×67cmで、平面形は楕円形を呈している。深さは約25cmを測り、断面形は箱形を呈する。土壙内には第1～第3層が堆積していた。出土遺物としては、土師器の小片が少量検出された。その他にM329の「皇宋通宝」が一枚出土した。出土した土器は、下部の土壙-496と同時期のもので、13世紀末～14世紀前半と考えられる。
(中野)

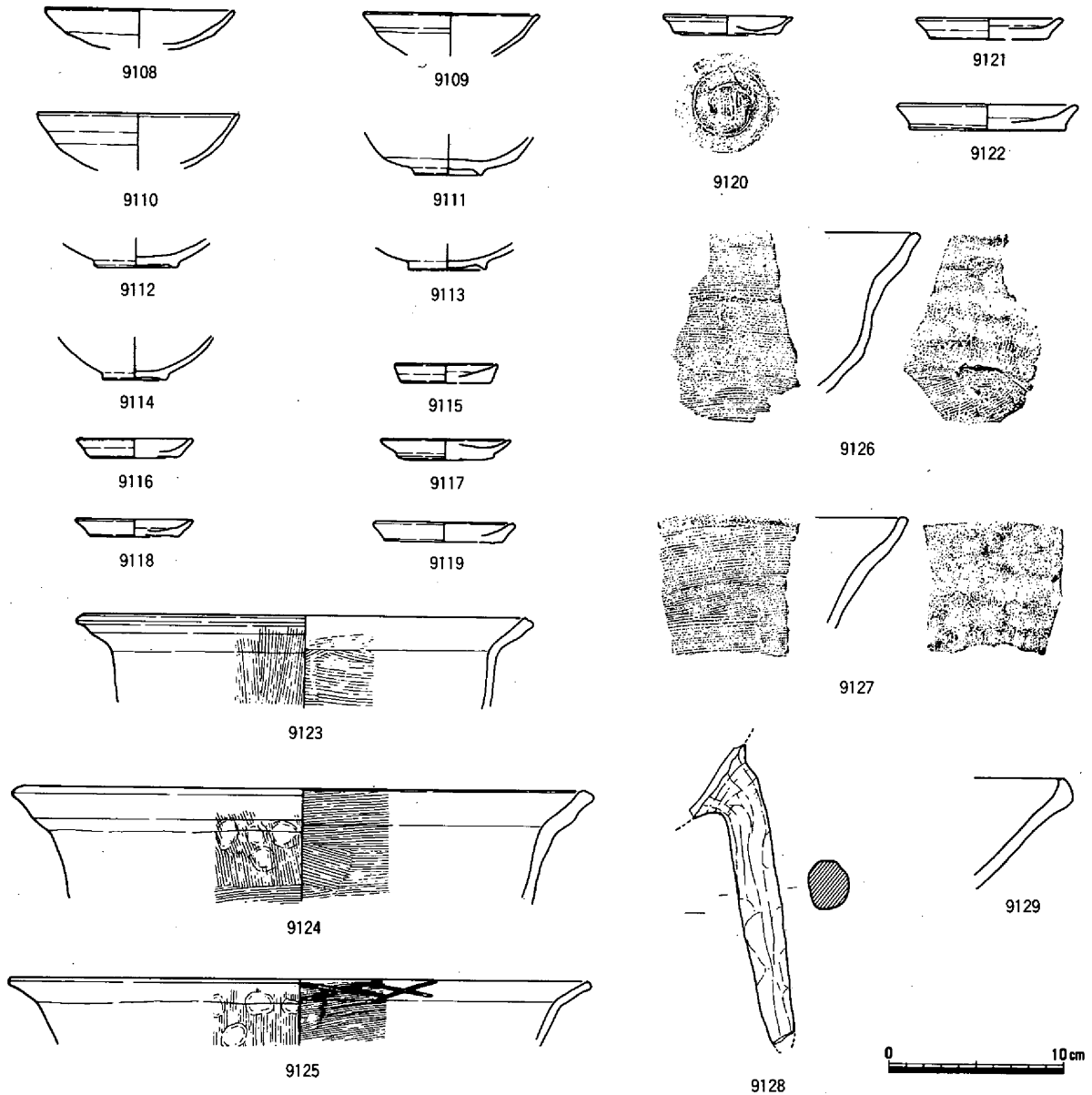


第742図 土壙-495(1/30)・出土遺物



1 暗灰色粘質砂泥 2 灰黄色砂泥 3 暗灰色茶褐色泥砂 (マンガンが多い) 4 暗灰色粘土 5 暗灰色粘土

第743図 土壙-496(1/60)・出土遺物(1)



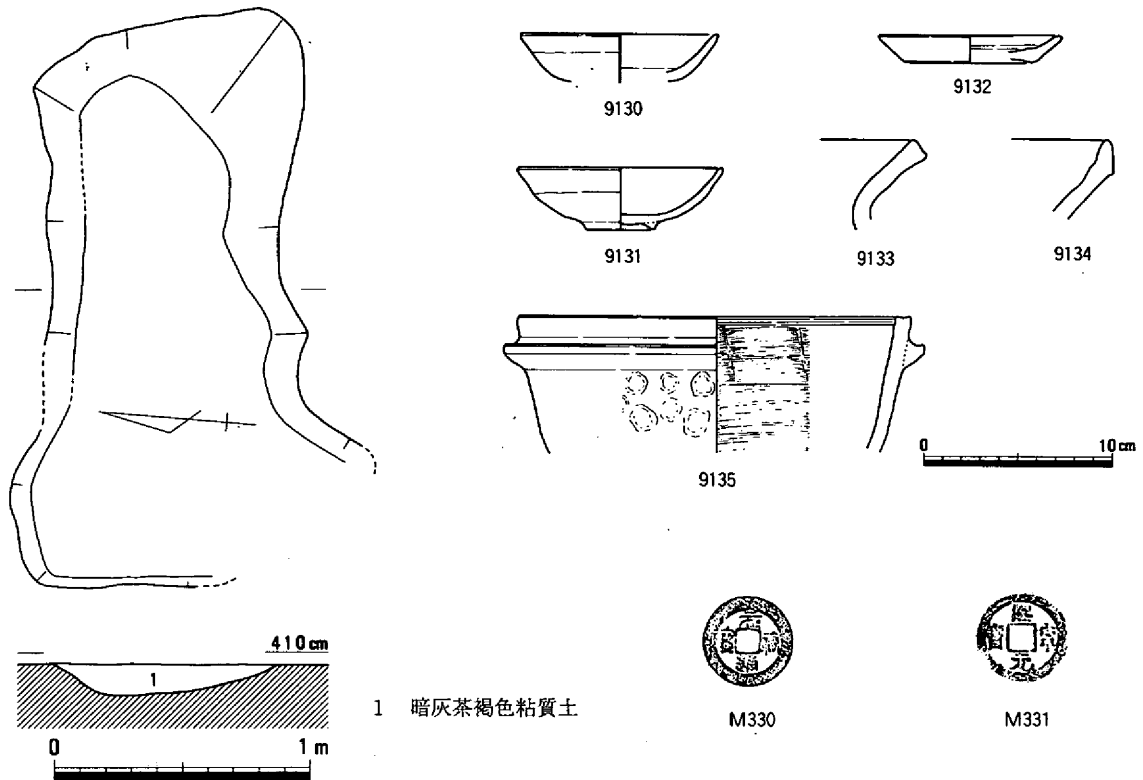
第744図 土壙-496出土遺物(2)

土壙-496 (第743・744図)

この土壙は、土壙-495の南側に隣接して検出された。土壙の一部は、溝-503を切っている。規模は約696×574cmと大規模な土壙であった。平面形は不整の楕円形を呈しており、深さは約42cmを測る。土壙内は第1～第5層が堆積している。出土遺物は、図示した以外にも亀山焼などが多量に検出された。9100～9114の碗には、高台がわずかに残るものと9100のような底部中央が上っている「ヘソ碗」がある。時期は13世紀末～14世紀前半と考えられる。(中野)

土壙-497 (第745図)

土壙-497は、土壙-496の南側に隣接して検出された。規模は約163×130cmで、平面形は不整形な形態を示している。深さは約12cmで、断面形は皿形を呈する。出土遺物は図示した以外に東播系須恵器、備前焼の鍔鉢や土師器などが出土している。9133は亀山焼、9134は東播系須恵器である。M330・M331の渡来銭も2枚検出されている。(中野)



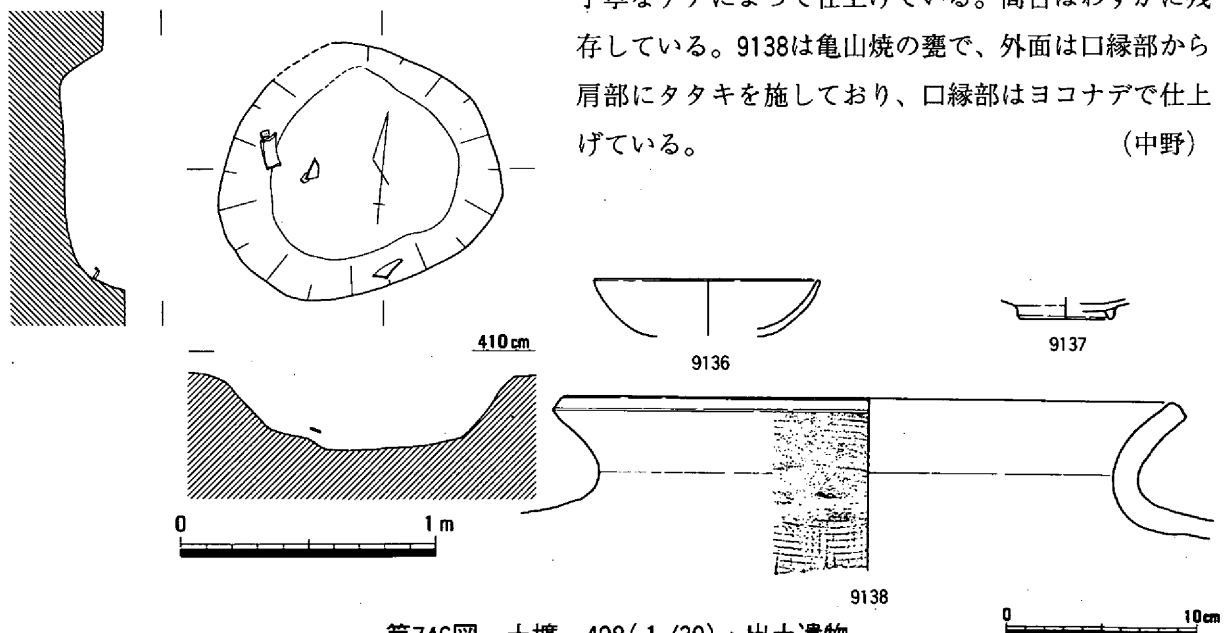
1 暗灰茶褐色粘質土

第745図 土壙-497(1/30)・出土遺物

土壙-498 (第746図)

この土壙は土壙-497の西約50cmに位置しており、土壙-500を切って検出された。規模は約111×97cmを測り、平面形はやや不整の円形を呈している。深さは約30cmを測り、底部からは図示した土器などが検出された。土壙の性格については不明である。

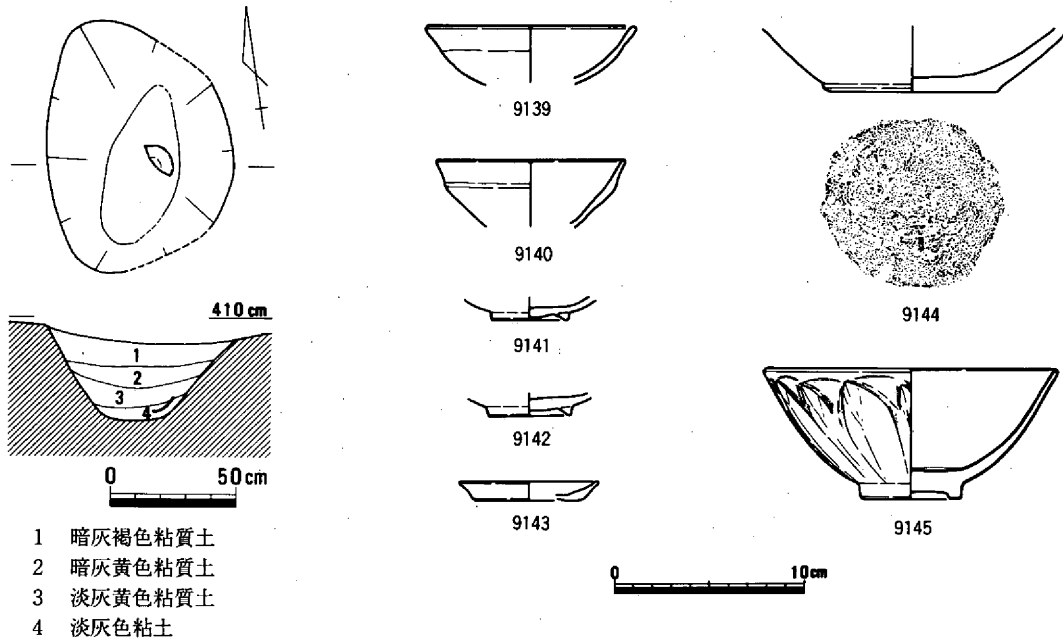
9136・9137は、いわゆる早鳥式土器の椀である。外面体部はオサエ・ナデで調整しており、内面は丁寧なナデによって仕上げている。高台はわずかに残存している。9138は亀山焼の甕で、外面は口縁部から肩部にタタキを施しており、口縁部はヨコナデで仕上げている。
(中野)



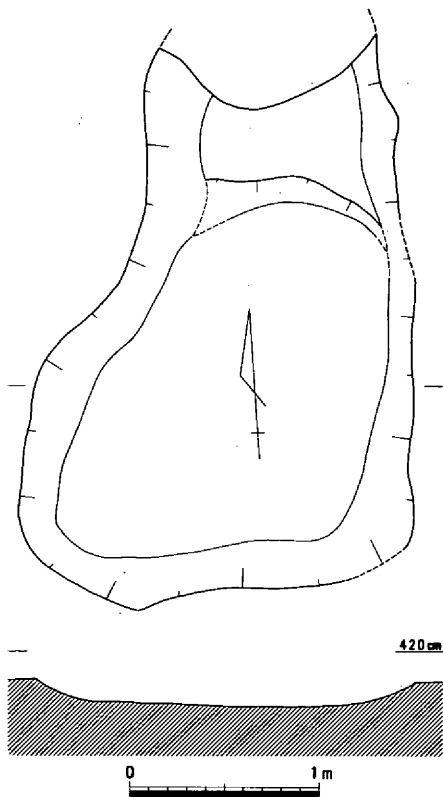
第746図 土壙-498(1/30)・出土遺物

土壙-499 (第747図)

この土壙は土壙-498の北側に隣接して検出された。規模は約95×74cmで、平面形は不整楕円形を呈する。深さは約38cmを測り、土壙内は第1～第4層がレンズ状に堆積していた。出土遺物は、9139～9145などが検出された。(中野)



第747図 土壙-499(1/30)・出土遺物



第748図 土壙-500(1/40)

土壙-500 (第748図)

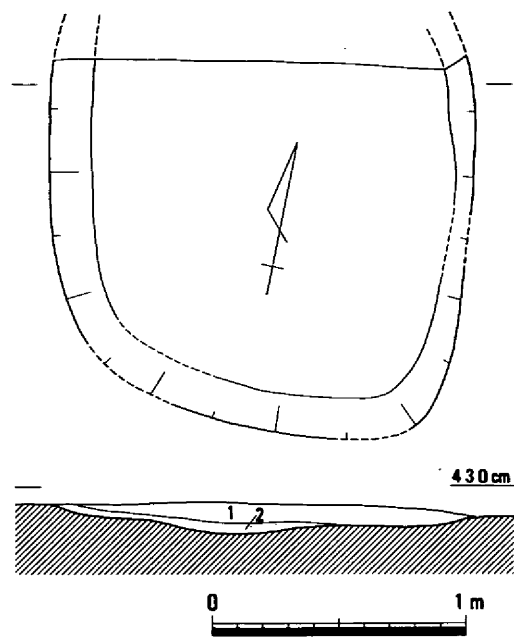
土壙は、土壙-499の南側に隣接する位置にあり、土壙-498の下部に検出された。また、溝-505・507・508を切って存在した。長さは土壙-498に切られているため不明であるが、推定約300cmで幅は約165cmを測る。深さは約14cmと浅い。出土遺物は、土師器が少量検出された。(中野)

土壙-501 (第749図)

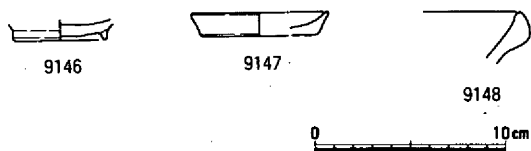
土壙-501は、土壙-500の北西約6mに位置し、土壙-502の上部に検出された。土壙の北側は調査区外となっているため長さは不明であるが、幅は約165cmを測る。平面形は検出部から推定すると楕円形になると考えられる。深さは約12cmで、土壙内は上下2層が堆積している。出土遺物は9146～9148などの土器が少量とM332の渡来銭が1枚検出された。(中野)

土壙-502 (第750図)

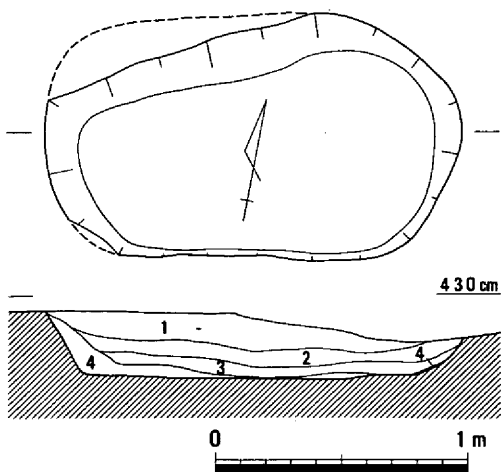
この土壙は、土壙-501の西側に重複して検出された。土壙の東側は、土壙-501によって上部を削平されてい



- 1 暗灰褐色泥砂 (炭、焼土含む)
- 2 茶灰色泥砂 (炭多く含む)



第749図 土壌-501(1/30)・出土遺物



- 1 暗灰茶褐色泥砂
- 2 暗灰黄褐色泥砂
- 3 茶褐色泥砂
- 4 茶灰褐色泥砂



第750図 土壌-502(1/30)・出土遺物

た。土壌の規模は、約165×98cmを測り、平面形は楕円形を呈している。深さは約25cmで、土壌内には第1～第4層が堆積していた。出土遺物は、土師器の小片が少量検出された他に、M333の渡来銭が1枚出土した。

(中野)

土壌-503 (第751図)

土壌-503は、土壌-502の南約5mに位置する。147×55cmの規模で長楕円形を呈する。深さは約19cmを測る。土壌の底部は両端が深くなっている。出土遺物は9149～9151など土器が少量検出された。

(中野)

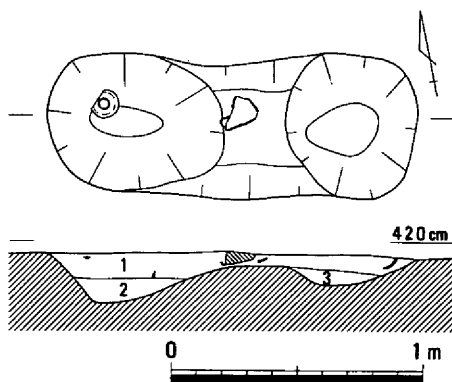
土壌-504 (第752図)

この土壌は、土壌-503の南約1mに位置している。規模は約332×300cmで、平面形は不整な形態である。深さは約20cmで、上下2層が堆積している。出土遺物は9152～9157などが検出されている。

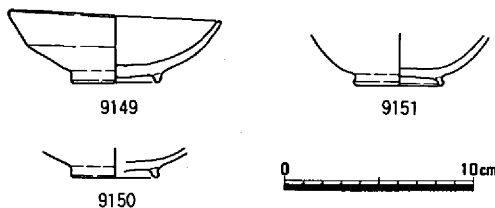
(中野)

土壌-505 (第753図)

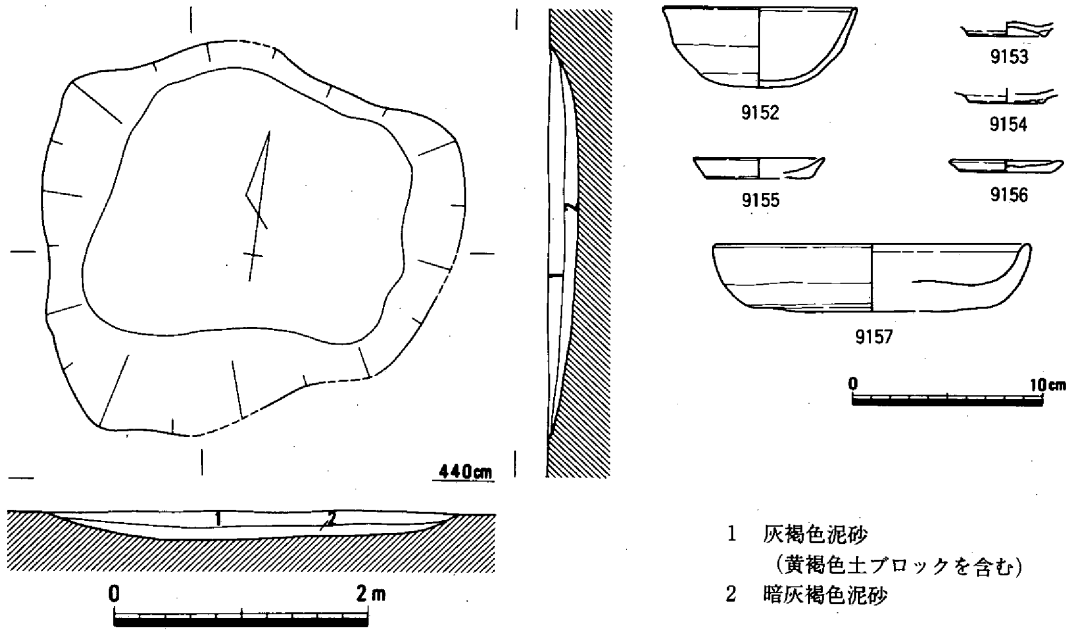
土壌-505は、土壌-504の南約6mに位置している。規模は約193×156cmで平面形は楕円形を呈する。深さは約17cmで、断面形は皿形を呈してい



- 1 灰褐色泥砂
- 2 茶灰褐色泥砂
- 3 炭茶黄色泥砂



第751図 土壌-503(1/30)・出土遺物

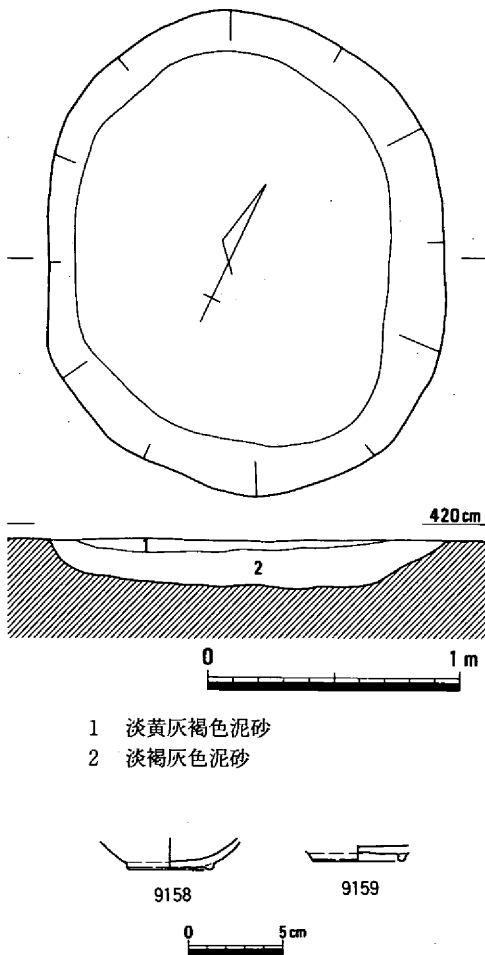


第752図 土壙-504(1/60)・出土遺物

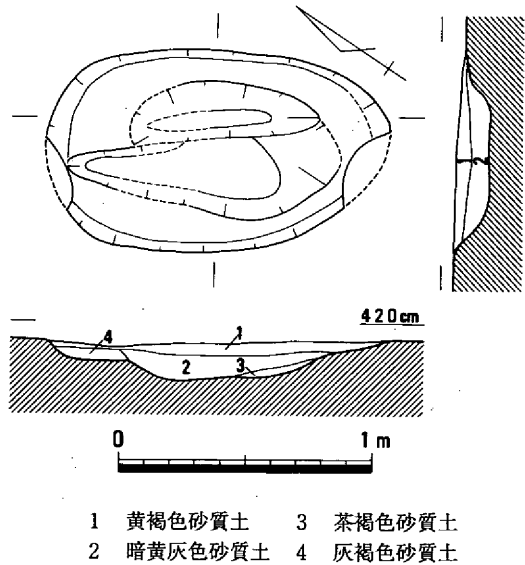
る。土壙内は上下2層が堆積しており、出土遺物は9158・9159の土師器碗の他小皿などが少量出土した。(中野)

土壙-506 (第754図)

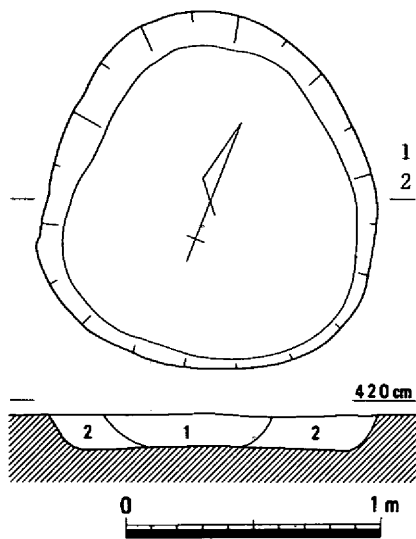
土壙は、土壙-505の西約5mに位置している。土壙の上部は溝-506によって削平を受けていた。規模は約135×79cmで、平面形は楕円形を呈している。出土遺物は土師器が少量検出された。(中野)



第753図 土壙-505(1/30)・出土遺物

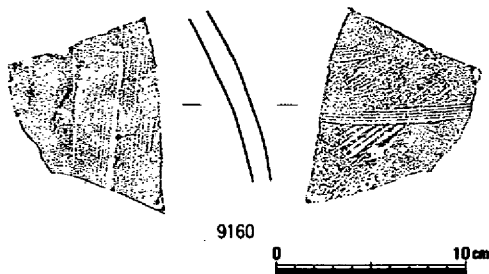


第754図 土壙-506(1/30)



- 1 灰茶褐色泥砂
- 2 灰黄褐色泥砂
(炭を含む)

第755図 土壌-507(1/30)・出土遺物



土壌-507 (第755図)

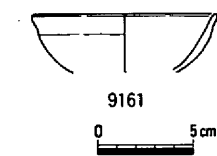
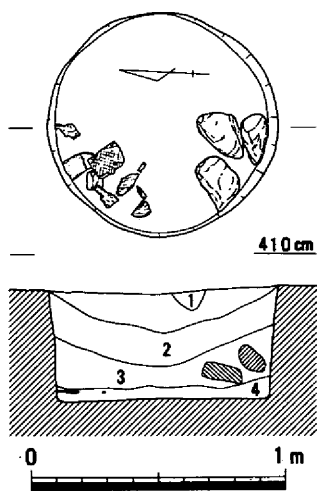
この土壌は、土壌-506の西側約1.5mに位置する。規模は約142×132cmを測り、平面形はやや不整な円形を呈している。深さは約13cmで、土壌内は上下2層が堆積している。出土遺物は、図示した9160の他に亀山焼、土師器の椀、小皿、鍋などの小片が少量出土している。(中野)

土壌-508 (第756図)

土壌は、土壌-507の西約5mに位置している。規模は約91×89cmで、円形を呈している。深さは約42cmを測り、断面形は箱形を呈する。土壌内には第1～第4層が堆積しており、土壌の底部近くには約10～20cm大の石数個が検出されている。出土遺物は、図示した9161の土師器の椀などの破片が少量出土している。(中野)

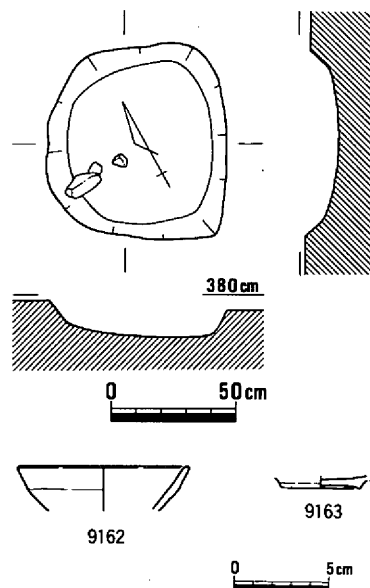
土壌-509 (第757図)

この土壌は、土壌-508の北西約6.5mに位置し、土壌-510の上部に検出された。規模は約82×75cmで、平面形は不整円形を呈する。深さは約28cmで、断面形は皿形を呈している。出土遺物は、図示した9162・9163などの土師器が少量検出された。9162・9163の椀は、貼り付け高台をわずかに付けている。時期は14世紀前半。(中野)



- 1 灰茶褐色砂泥
- 2 明灰褐色砂泥
- 3 暗青灰褐色粘質砂泥
- 4 青灰色粘質土

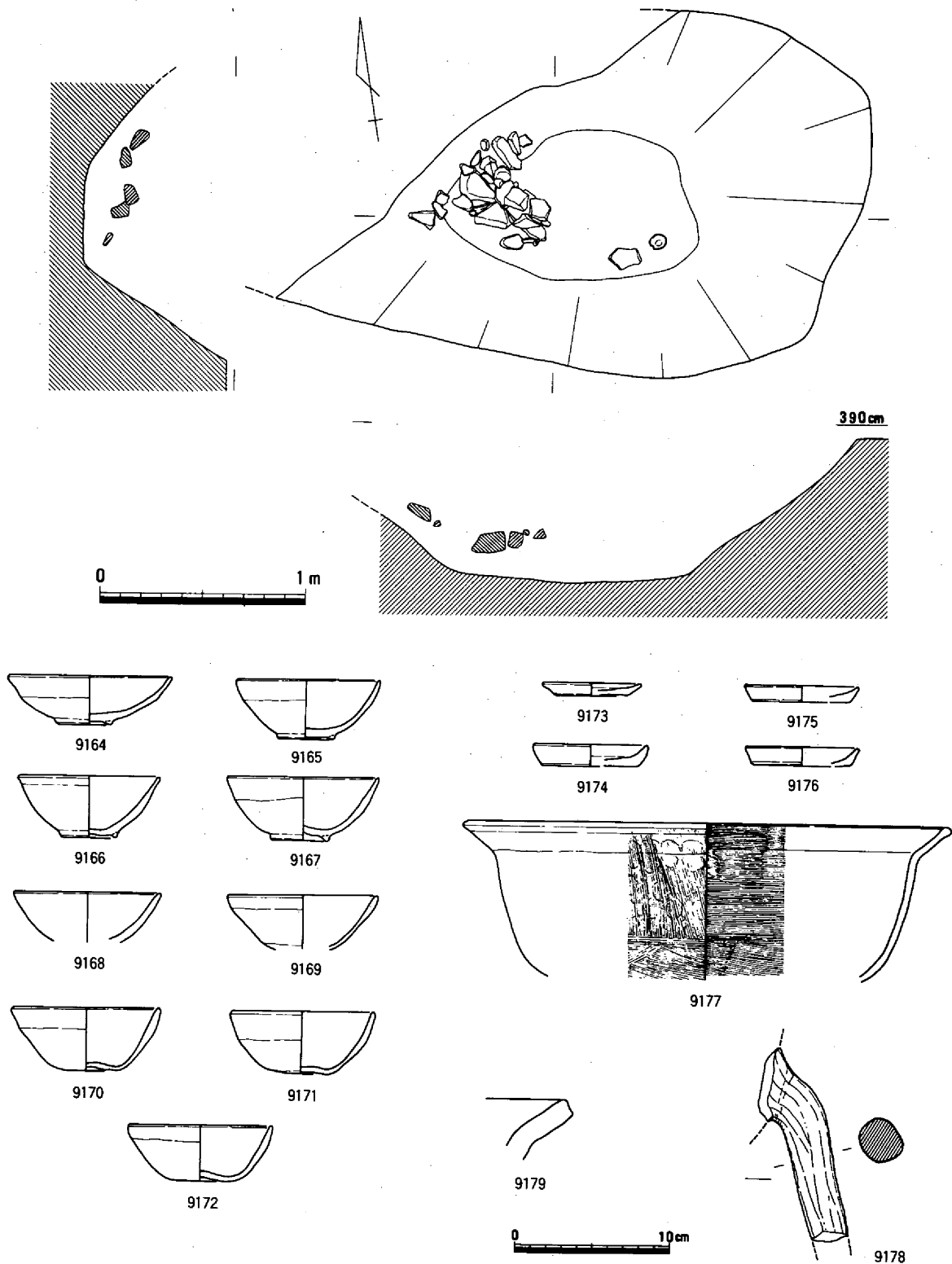
第756図 土壌-508(1/30)・出土遺物



第757図 土壌-509(1/30)・出土遺物

土壙-510 (第758図)

土壙-510は、土壙-509の下部に検出された。土壙の北西部は調査区外となっているため長さについては不明であるが、検出状況から推察すると約300cm前後と推定される。幅は約179cmで、平面形は楕円形を呈すると考えられる。深さは約70cmで、底部よりやや浮いた位置に角礫が集積しており、そ



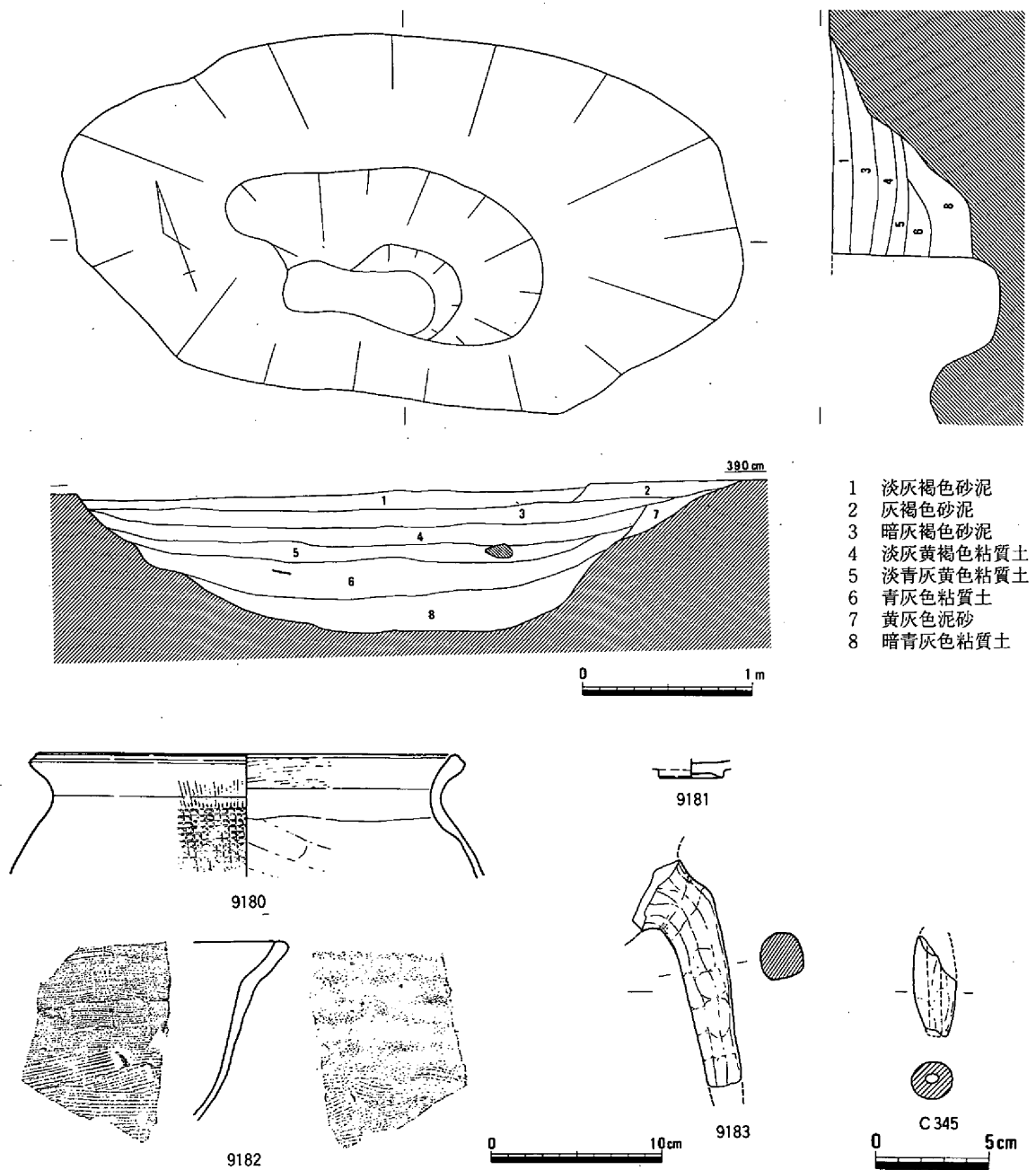
第758図 土壙-510(1/30)・出土遺物

の周辺に図示した土器が出土した。

9164～9172の椀は、9165～9167・9170～9172が完形であった。9164はやや古相であるが9165～9172は高台が付くか付かない差で、形態・調整は同様であった。椀は図示した以外に底部の高台が付くもの15個体、へそ椀になるものが3個体あった。小皿は図示したものも含めて10個体出土している。時期は14世紀前半。(中野)

土壌-511 (第759図)

土壌は、土壌-510の南約8mに位置する。後世の大溝の肩口に検出され、土壌の南側は削平を受けていた。また、溝-513を切って存在している。規模は、約386×212cmで、平面形は長楕円形を呈する。深さは約83cmを測る。出土遺物は各層より少量の土器が検出された。(中野)



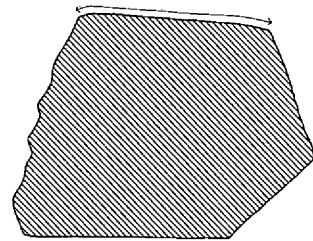
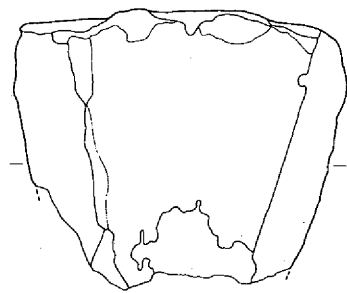
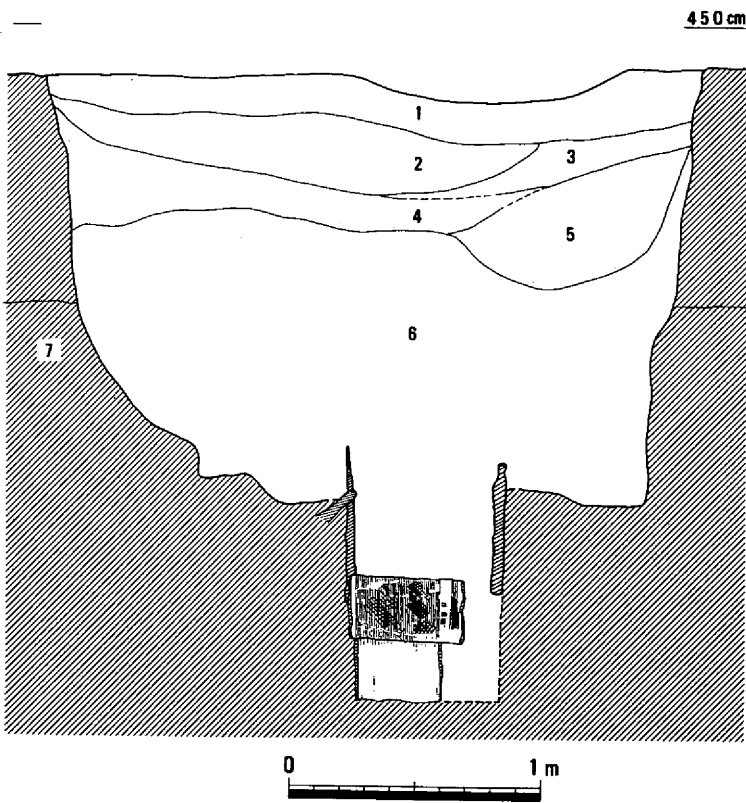
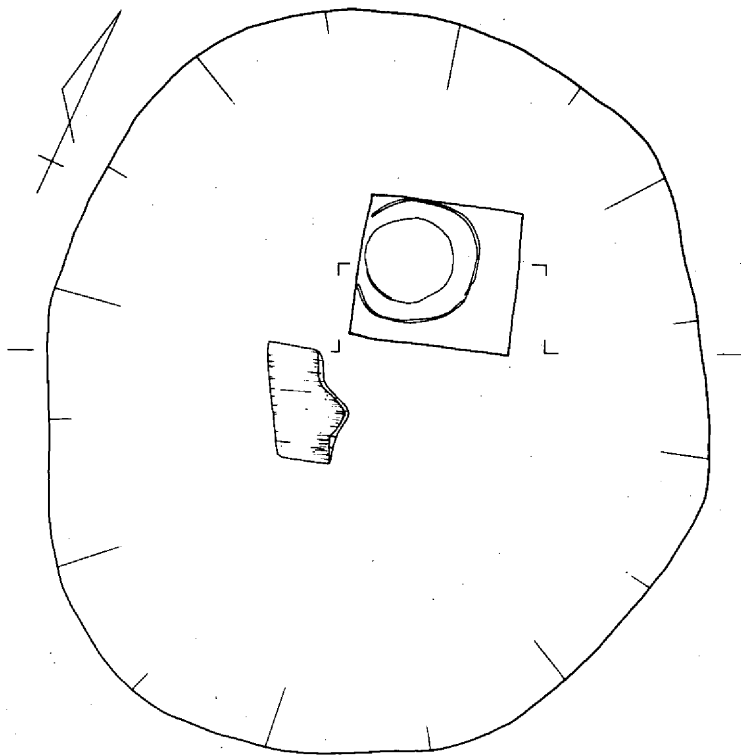
第759図 土壌-511(1/40)・出土遺物

(5) 井戸

本調査区では井戸が2基確認されている。木組みと石組みの井戸であり、前者には中世の遺物が伴っているが、後者では遺物が確認されておらず、所属の時期が不明である。井戸-9は12世紀第4四半期頃であり、調査区内での同時期の掘立柱建物、土壇等は無く、土壇墓、溝のわずかな遺構が認められるのみである。 (高畑)

井戸-9 (第760・761図、図版42-2)

O18区の西、盛土 (M8 I区) に所在し、土壇墓-20の東南24mに位置する。掘り方平面は円

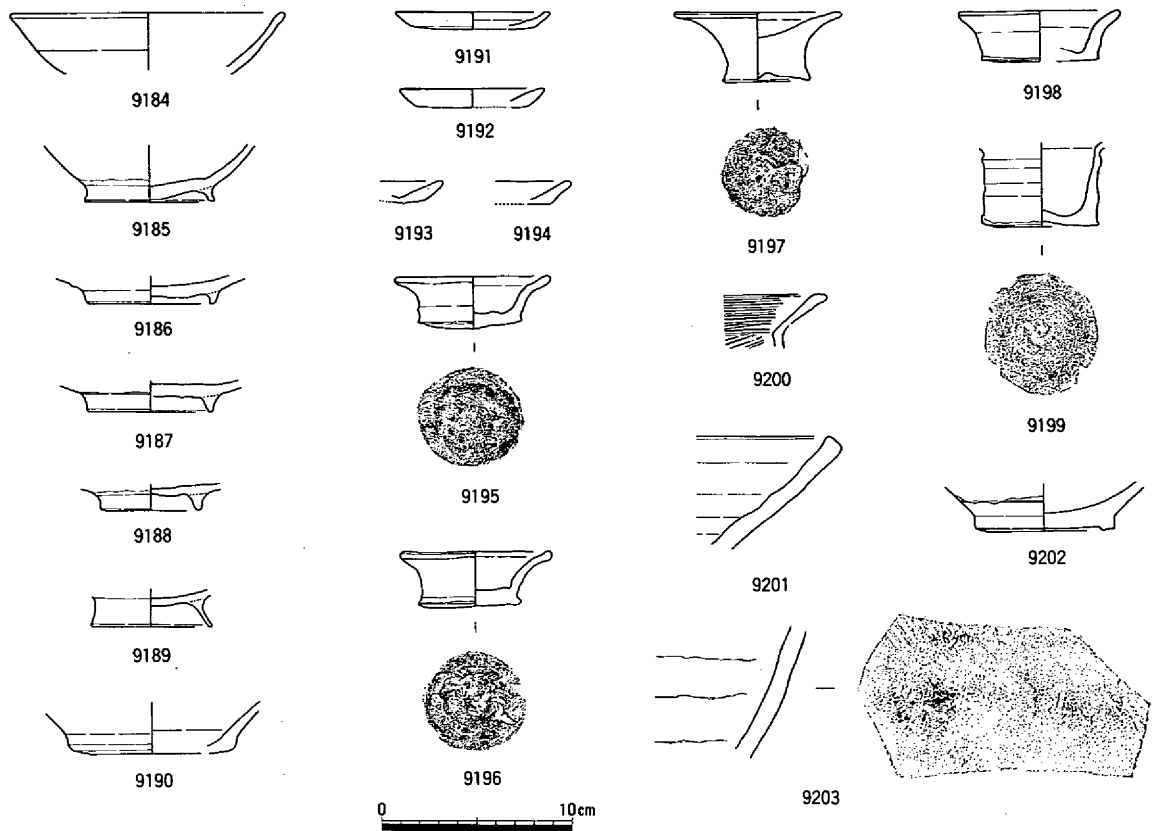


S411



- 1 暗茶褐色粗砂 (遺物混入)
- 2 鈍い橙色砂 (遺物混入)
- 3 橙色粘土
- 4 暗青灰黑色粘質砂 (グライ化)
- 5 暗い橙色粗砂
- 6 暗褐灰色粘質土 (遺物混入)
- 7 淡茶黄褐色砂質土

第760図 井戸-9 (1/30)・出土遺物(1)



第761図 井戸-9 出土遺物(2)

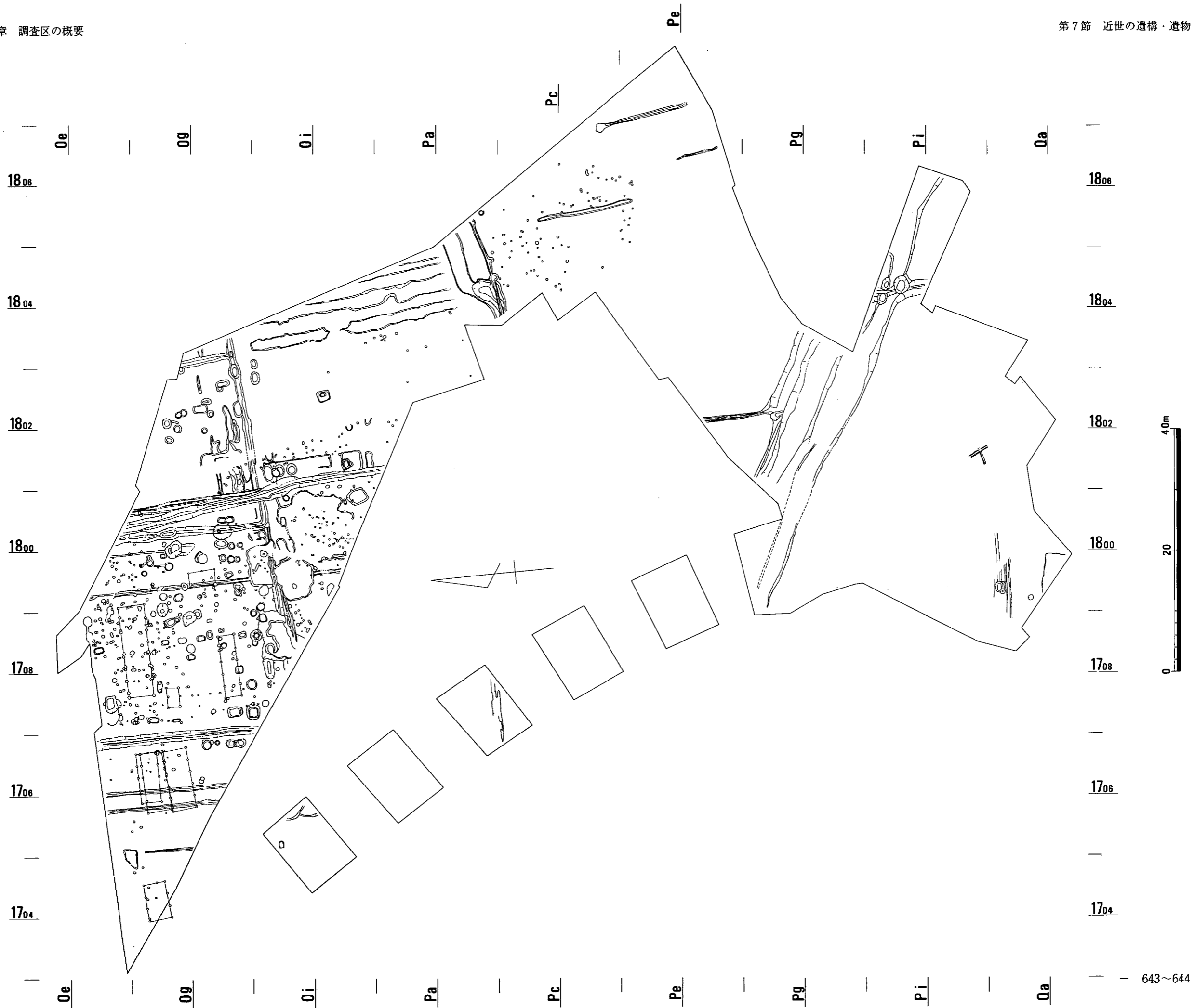
形であり、長さ295cm、幅280cm、深さ247cm、底面海拔高183cmをはかる井戸である。検出面から約145cmまで下げた地点で井戸材の頭部分が見えはじめ、そこから約45cm下がった所に横桟と4隅に柱を確認し、一辺約60cmの方形にて、その外側に縦板が打ち込まれている。

井戸底には曲物が2段に積まれており、下位の曲物が直径35cm、高さ22.8cm、上位が直径48cm、高さ23.8cmをはかり、樹種はヒノキである。他の使用材の樹種はモロマツ、クス、ヒノキ、コウヤマキ等があり、横桟にはクス、モロマツがみられる。縦材に混じりマダケも使用されている。

遺物は第6層中より多く出土しており、早鳥式土器の碗・杯、小皿、鍋、東播系のこね鉢、常滑焼、砥石等がみられる。他に50×50×10cmほどの石が数個投棄されている。土器はいずれも完形品ではなく、すべて破片を井戸内に廃棄した状況での出土である。碗9184～9189は早鳥式土器であり、9185の色調が淡黄色、他は灰白色を呈する。口径は14.2cm、底径5.4～6.8cmをはかり、付高台は外に張り出したもの、内湾するものがある。小皿は復元の口径が7.3～7.8cm、底径5.7～6.5cmをはかり鈍い橙色を呈する。杯9195～9199は口径7.7～8.6cm、底径4.6～6.0cm、器高2.7～(4.5)cmをはかり、早鳥式土器の色調、胎土である。底部のヘラキリが顕著であり、土器の回転は左廻りである。こね鉢9201は東播系の須恵器であり、土器の回転は右廻りである。碗9202は白磁、9203は常滑の焼物であり、器外面に斜位の平行タタキがみられる。

井戸は12世紀末頃に廃絶した可能性が考えられる。

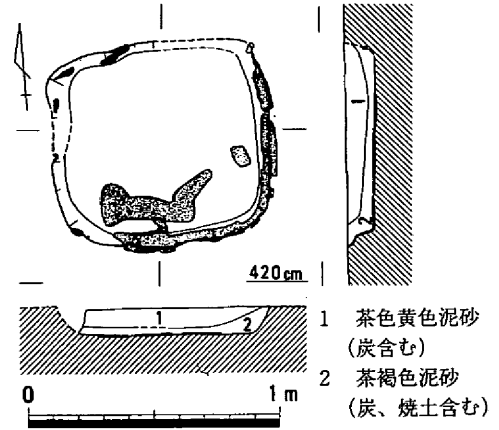
井戸-9は曲物を検出し、写真撮影段階で基盤層下の第7層微砂が崩壊を始め、下位から地下水が湧く状況となった。よって略測を行い、井戸材を取り上げたため精査にはいたらなかった。(高畑)



第785図 近世全体図(1/600)

焼成土壙-10 (第764図)

この土壙は、土壙-494の東南東約4mに位置している。規模は、約86×82cmで、平面形は方形を呈している。深さは約12cmを測る。壁面はよく焼けており、特に東側と南側の壁面は厚さ約1cm焼土面化していた。焼土壁は底部までは焼けておらず底部よりやや浮いた位置までであった。土壙の底部には、部分的に焼土面となっているところが認められた。土壙内は、上下2層の堆積層で、炭・焼土を多く含んでいた。(中野)



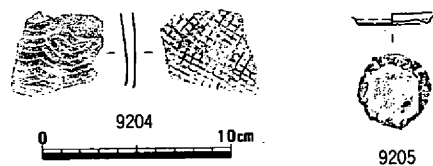
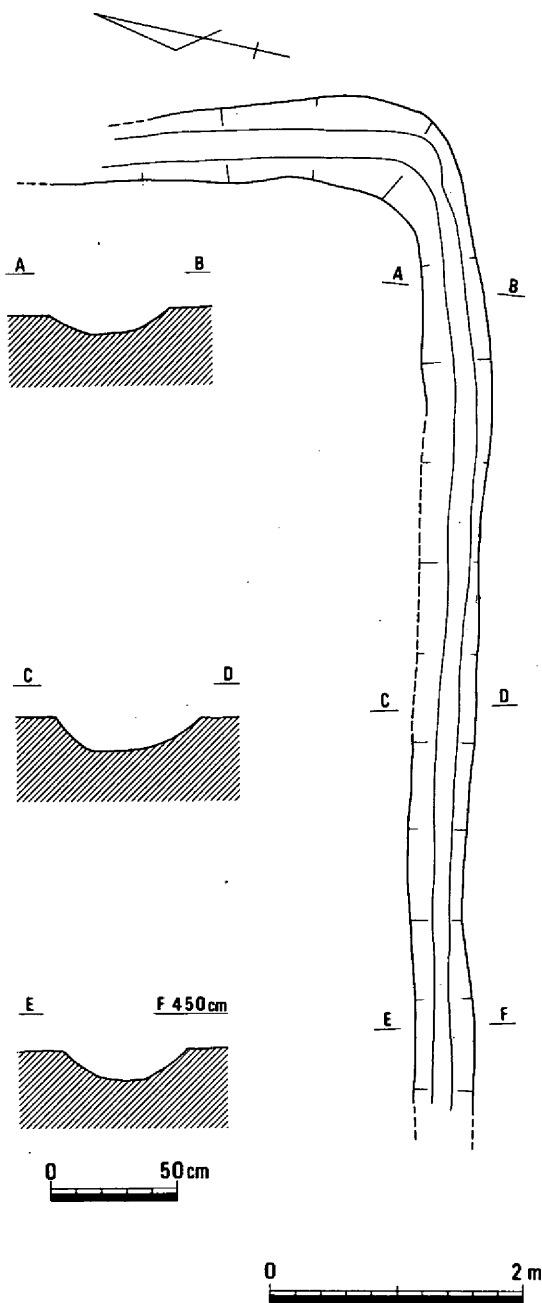
第764図 焼成土壙-10(1/30)

(7) 溝

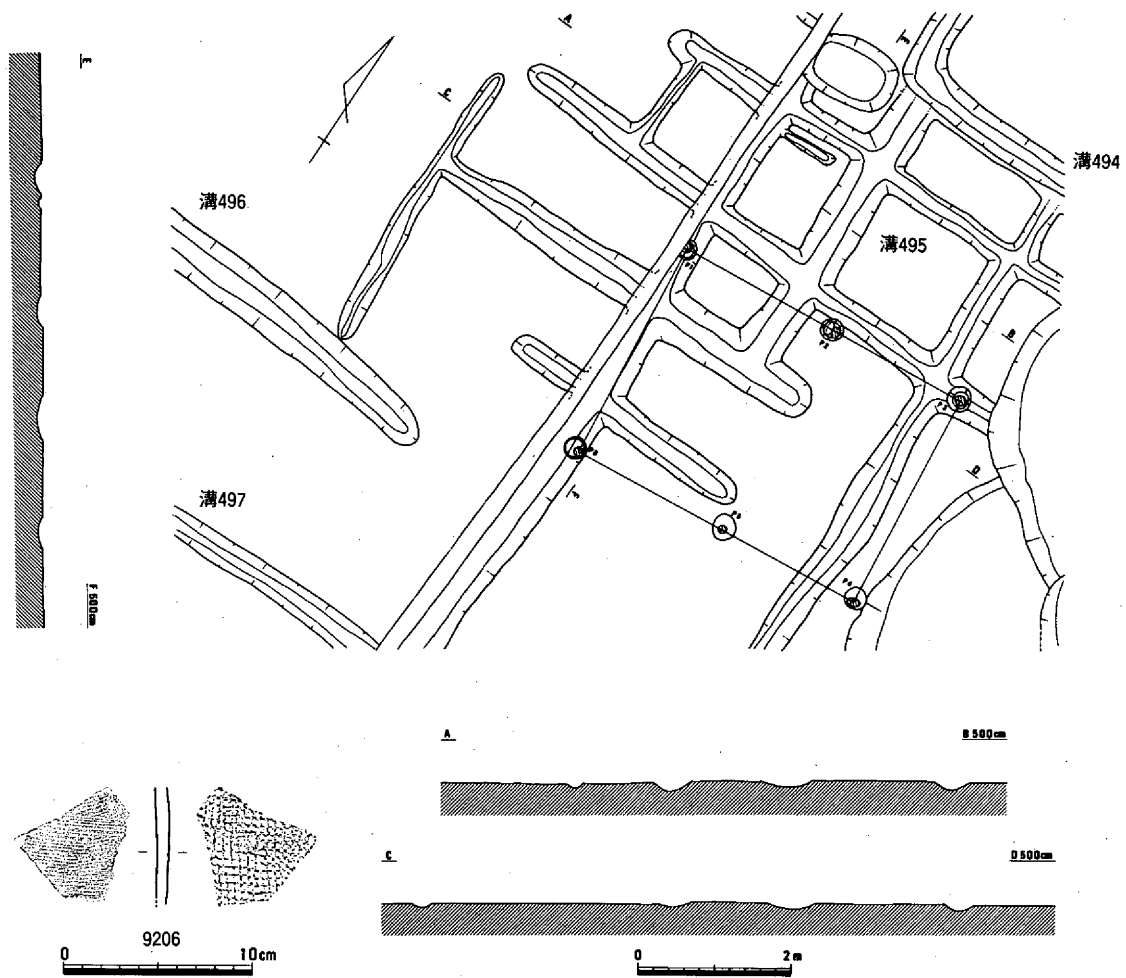
本調査区の溝は基本的に東西、南北方向を意識して作られたものが多く、流水は北から南へ向っている。しかし、幹線水路的なものは少なく、溝-513が幅1.8m、深さ0.75mをはかる程度である。他には溝-495、溝329~337・341・514~520等の規則的に配置された方形区画状の細く、浅い溝がみられる。(高畑)

溝-493 (第765図)

P17区北東、橋脚(P3区)に所在し、土壙-479~481の北側に位置する。「L」字形に曲がる溝であり、東西7.8m、南北3.0mまでが確認できており、幅40~70cm、深さ10cmをはかる。従前に報告されている西側集落にみられた方形に巡る溝-35~37に近いものと考えられ、方形区画の南辺部にあたる可能性がある。橋脚(P2区)においても北辺部、西辺部の溝は検出されておらず、その間で完結すれば溝-36の規模に近いものになる。囲い内と考えられる北側には、中世の遺物が入る柱穴は1個のみであり、溝より南側の方に5個存在する。

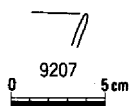


第765図 溝-493(1/30・1/60)・出土遺物



第766図 溝-494～497(1/100)・溝-495出土遺物

遺物は埋土中より亀山焼、早鳥式土器の小片が出土している。9204は亀山焼の甕片であり、器外面に3×4mm角の格子タタキメ、内面に青海波文がみられる。碗9205は浅黄橙色を呈し、底径3.9cmをはかる高台部分であり、高台底面に粉穀の圧痕がみられる。13世紀末～14世紀初頭と考えられる。(高畑)



第767図
溝-496
出土遺物

溝-494 (第766図)

O17区の南中央、橋脚(P1区)に所在し、溝-495を切って作られている。「L」字形に曲がる溝であり、東西2.5m、南北1.1m、幅43cm、深さ7～15cmをはかる。埋土は灰色粘質微砂であり、遺物は認められない。(高畑)

溝-495 (第766図)

本溝は溝-494、土塋-486、堀立柱建物-71によって切られている。磁北に沿って南北5条、東西に5条の溝により格子形状になっており、その範囲は東西8.5m、南北11mである。溝幅は35～67cmをはかり平均幅は45cm、深さ10～30cmである。埋土は淡灰色粘質微砂からなり、亀山焼9206が出土している。(高畑)

溝-496 (第767図)

溝-495の西南に位置し、長さ4.5mをはかる東西溝である。溝-495とは主軸の方位が異なる。幅

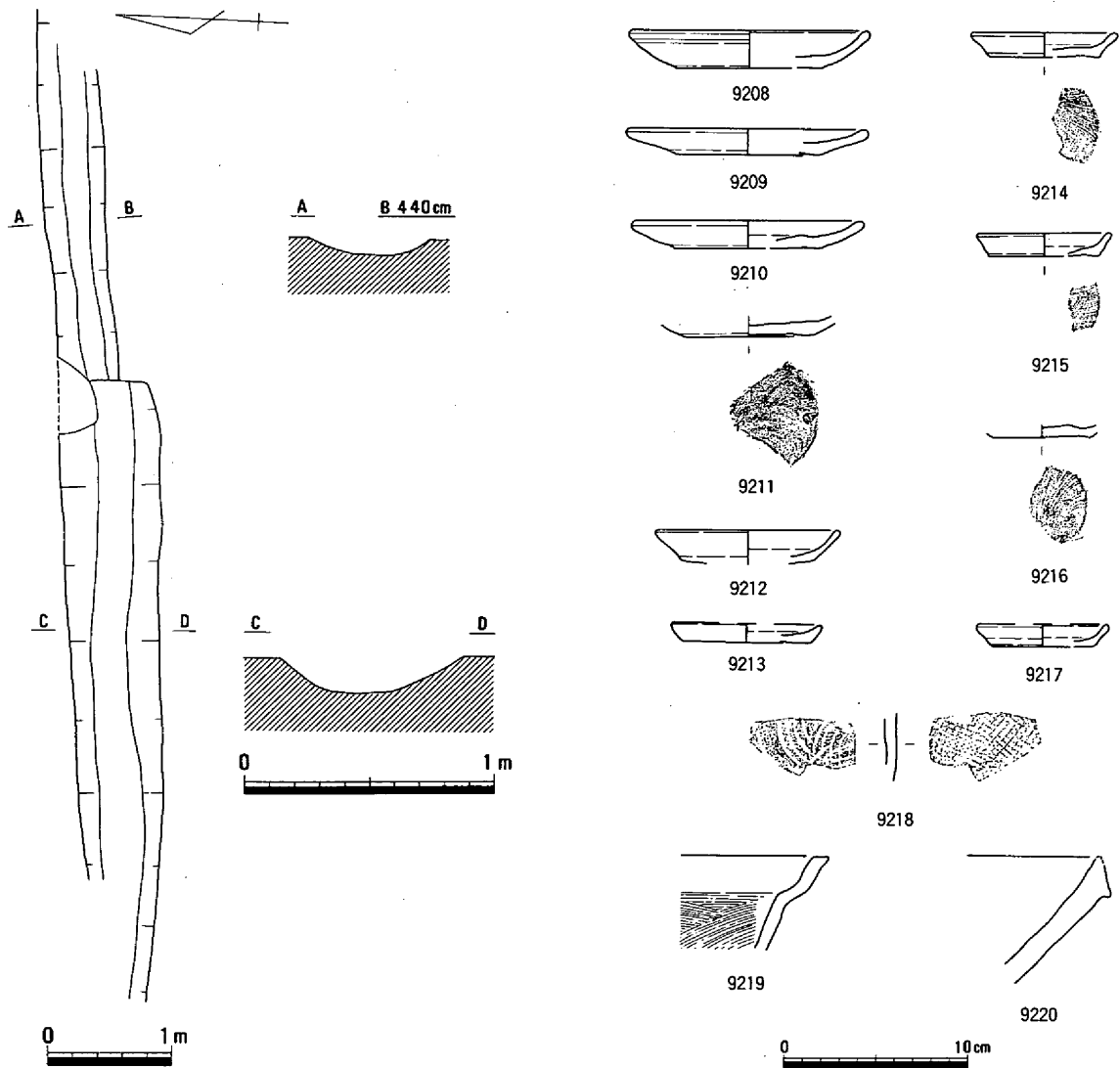
65cm、深さ約10cmをはかる。埋土上面より肥前陶磁器小片が出土している。(高畑)

溝-497 (第766図)

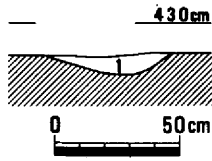
溝-496より2.8m南に位置し、溝-496と平行している。長さ3.3m、幅36cm、深さ約6cmをはかる。溝-495~497は時期的に近い関係にあると考えられるが、中世の範疇としかとらえることができない。(高畑)

溝-498・499 (第768図)

O17区の南東、盛土(M8 I区)に所在し、井戸-9の南西側12mに位置する。東西に残存長8mをはかり、溝-498が3m、溝-499が5mであり、溝-498が溝-499に切られた状況を呈している。溝-498は幅約50cm、深さ約7cm、底面海拔高424cm、溝-499は幅64~84cm、深さ約11cm、底面海拔高420cmをはかる。遺物は埋土中から土師器、亀山焼、鍋、備前焼の破片が出土している。9208~9211は口径12.1~12.7cm、底径6.8~7.9cm、器高1.4~2.0cmをはかる皿である。小皿9213~9217は口径6.9~7.8cm、底径5.2~6cm、器高1~1.33cmをはかる。皿類は9213を除く9点が糸切り底であり、色調は9208、9212が灰白色を呈し、他は淡黄色系、橙色系が多い。14世紀後半~15世紀前半と考えておきたい。(高畑)

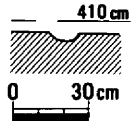


第768図 溝-498・499(1/30・1/60)・出土遺物

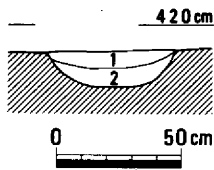


1 灰褐色泥砂

第769図 溝-500
(1/30)



第770図 溝-501
(1/30)



1 淡茶色泥砂
2 茶灰色泥砂

溝-500 (第769図)

この溝は、土壇-489の南側に隣接して検出された。幅は約50cmで、深さは約8cmを測り、溝は約5m検出され、北北西から南南西方向に延びている。溝内は、灰褐色泥砂が堆積していた。出土遺物は、土師器が少量検出された。鎌倉時代。(中野)

溝-501 (第770図)

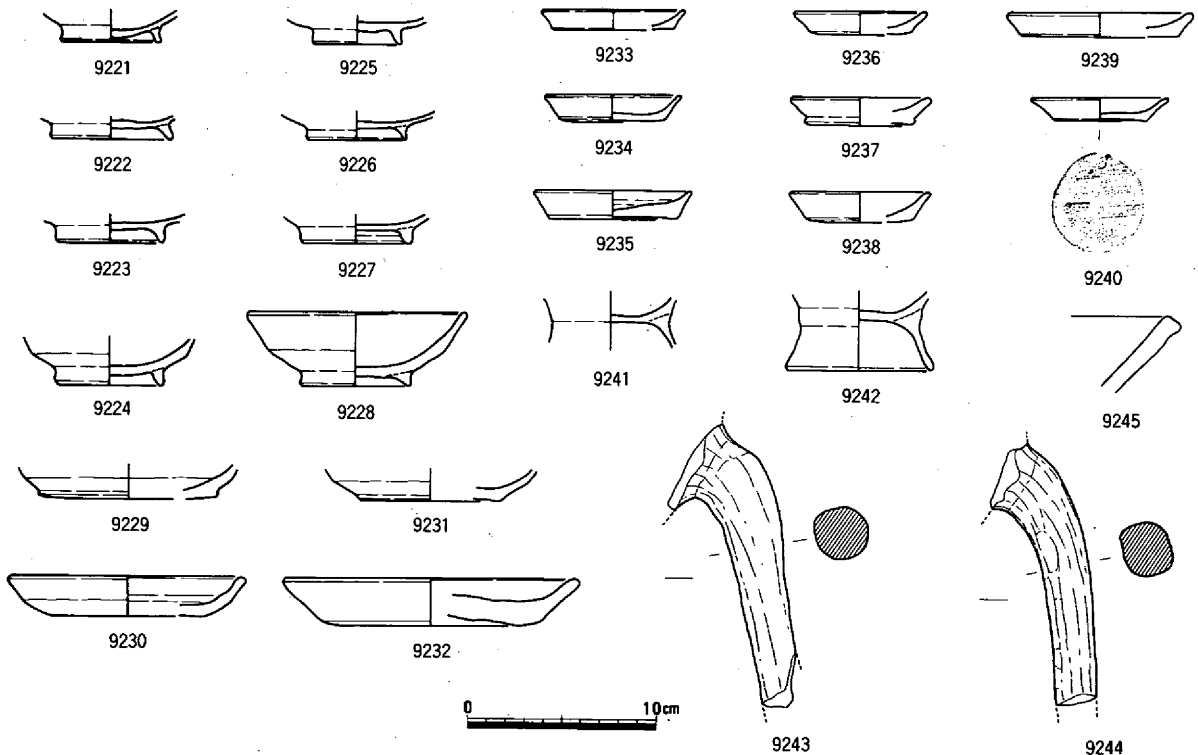
溝-501は、溝-500の南東約12mに位置する。溝の南側は調査区外に続き、約2m検出された。規模は、幅約12cm、深さ約4cmを測る。出土遺物は検出されないが、検出面等から中世と考えられる。(中野)

溝-502 (第771図)

溝は、溝-500の西約3mに平行して検出された。幅約50cm、深さ約14cmを測る。溝内は、上下2層がレンズ状に堆積していた。出土遺物は9221~9244など土器が多く出土した。9221~9228の早島式土器の椀は、高台部も径もまた大きく高さもある。時期は13世紀代と考えられる。(中野)

溝-503 (第772図)

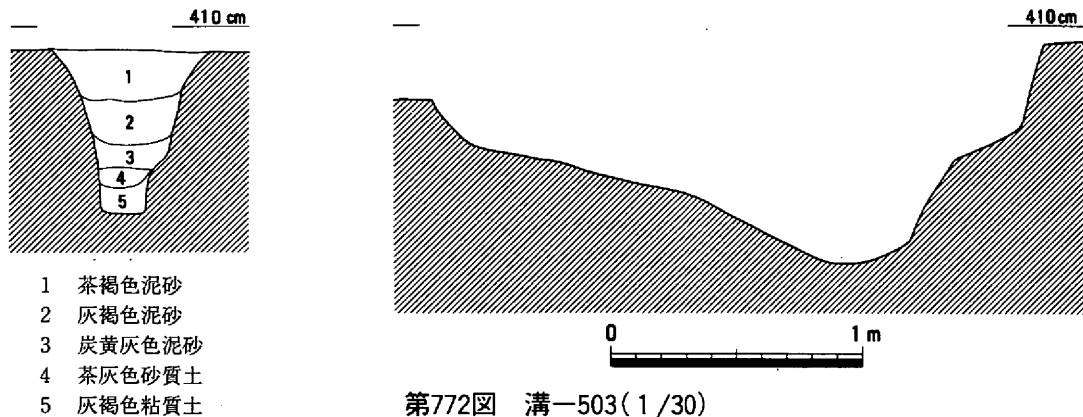
この溝は、溝-502の西2~3mにほぼ平行して検出された。溝は、溝-504、土壇-496などに切られていた。溝は、やや蛇行しているものの直線的に北北西から南南東方向に流走する。幅は約65cm、深さは約65cmを測り、断面形は「V」字形を呈している。溝内は第1~第5がレンズ状に堆積しており、何回かの掘り直しが行われた状況を示している。溝は、北



第771図 溝-502(1/30)・出土遺物

第3章 調査区の概要

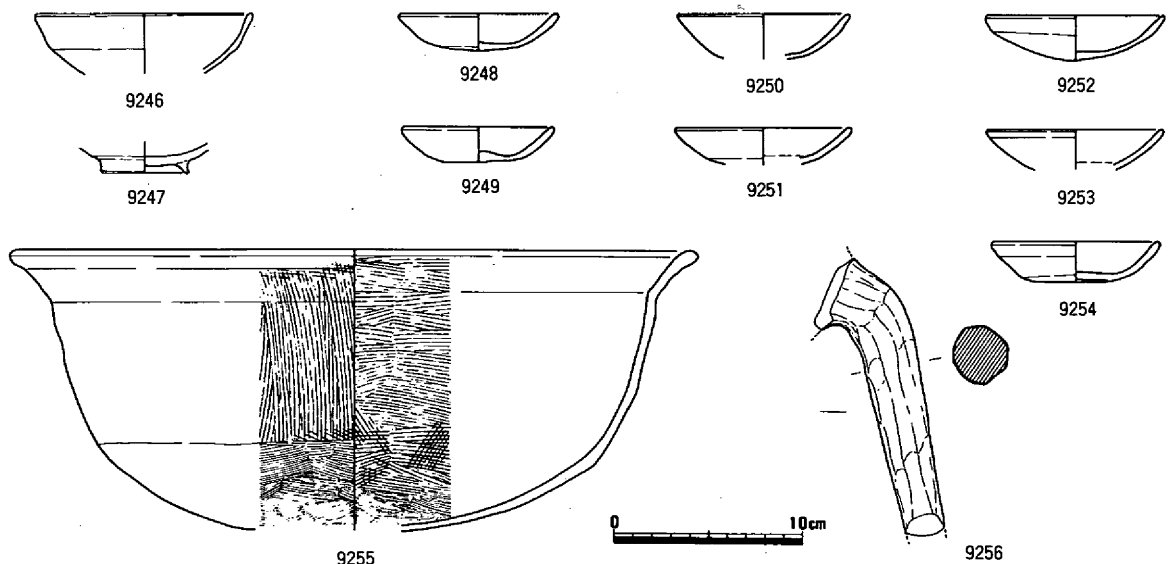
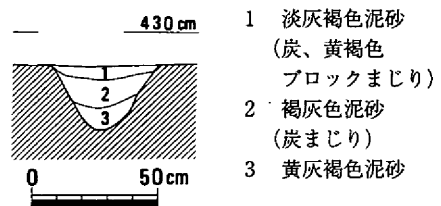
方向に調査区外には延びず、途中で切れている。この先端部は、約300×250cmの楕円形を呈している。深さは溝部より深く約90cmを測る。先端部は、小規模なため池状になっており、ここに溜まった水を南方向に流していると考えられる。この周辺は、柱穴が無数に検出されており、建物を復元できなかったものの相当数の建物が存在したと考えられるところから、この溝は居住域に付属している施設と考えられる。出土遺物は認められなかったが、鎌倉時代と考えられる。(中野)



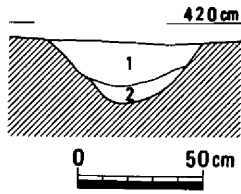
溝-504 (第773図)

溝-504は、溝-503と交差する位置にあり、溝-503を切っている。溝は、北西から南東方向に流走しており、幅約70cm、深さ約40cmを測る。溝内は、第1～第2層がレンズ状に堆積しており、第1・2層には炭を含んでいる。

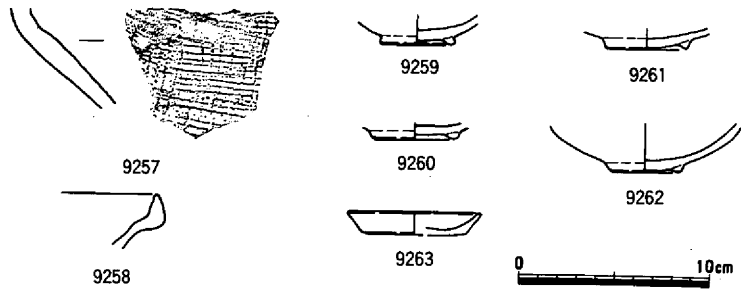
出土遺物は、図示した土師器以外には亀山焼が出土している。9248～9254の皿は、底部をオサエ・ナデによって調整している。9246・9247の椀は、高台部はしっかりしている。時期は、やや古相のものも含むものの14世紀後半か。(中野)



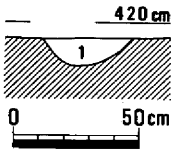
第773図 溝-504(1/30)・出土遺物



- 1 淡灰褐色泥砂
- 2 暗灰褐色砂泥

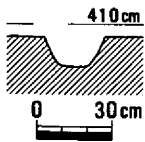


第774図 溝-505(1/30)・出土遺物

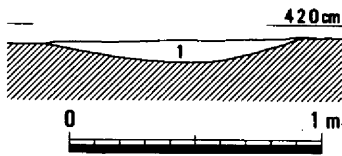


- 1 淡灰褐色砂泥

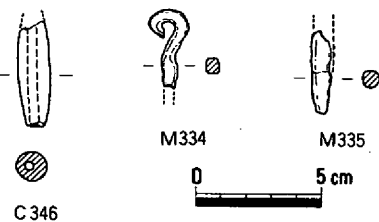
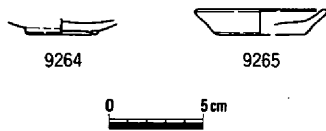
第775図 溝-506
(1/30)



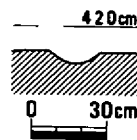
第776図 溝-507
(1/30)



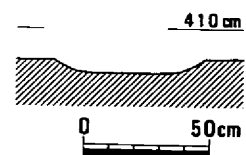
- 1 淡灰茶褐色砂泥



第777図 溝-508(1/30)・出土遺物



第778図 溝-509(1/30)



第779図 溝-510(1/30)

溝-505 (第774図)

この溝は、溝-504の西側約2mに平行して検出された。幅は約62cm、深さは約24cmを測る。上下2層が堆積しており、上層に淡灰褐色泥砂、下層に暗灰褐色泥砂がレンズ状に認められた。出土遺物は、図示した土器が少量検出された。碗はいずれも高台が付いているが退化している。時期は13世紀末と考えられる。(中野)

溝-506 (第775図)

溝は、溝-505の西約1mに平行して検出された。幅約35cm、深さ約10cmを測る。溝内は、淡灰褐色砂泥が堆積していた。出土遺物は、土器が少量出土した。時期は溝-505と同様であった。(中野)

溝-507 (第776図)

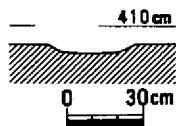
この溝は、溝-505から派生している。幅約22cm、深さ約12cmを測る。出土遺物はないが溝-505と同時期であろう。(中野)

溝-508 (第777図)

溝は、溝-505の西側に近接して検出された。溝-500・502・503とほぼ平行する位置関係にある。幅は約100cm、深さは約8cmと浅く、断面形は皿形を呈している。溝内には、淡灰茶褐色砂泥が堆積していた。出土遺物は亀山焼、土師器などの小片が少量検出された。また、C346の土錘、M334・M335の鉄器も出土している。時期は鎌倉時代と考えられる。(中野)

溝-509 (第778図)

溝は、溝-508の西側に位置し、直交する位置関係にある。幅は約20cmで、深さは約6cmを測る。出土遺物はなかった



第780図 溝-511
(1/30)

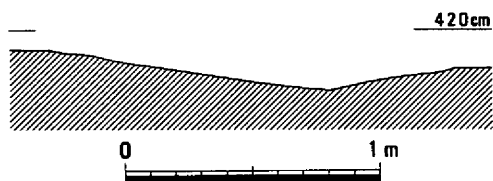
が、埋土等から中世と考えられる。

(中野)

溝-510 (第779図)

この溝は、溝-508の西側に位置する。溝はやや弧を描き西から南東方向に延びる。幅約60cm、深さ約5mを測る浅い溝である。出土遺物はなかったが、溝-511、土壌-505・507に切られていることと、埋土等から時期は中世の範囲と考えられる。

(中野)



第781図 溝-512(1/30)

溝-511 (第780図)

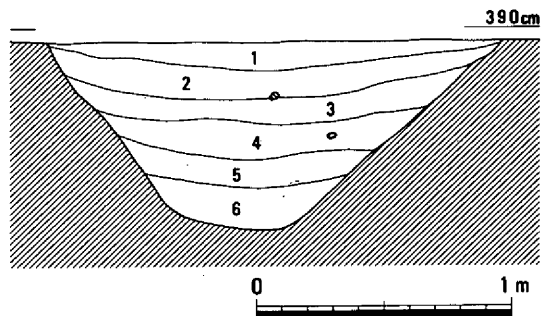
溝-511は、溝-510の上部に位置している。幅約33cm、深さ約4cmを測る。出土遺物はないが中世か。

(中野)

溝-512 (第781図)

溝は、溝-511の北側に検出された。東から西方向に延びており、西端部では大きく広がっている。幅約160cm、深さ約15cmを測る。出土遺物はないが中世か。

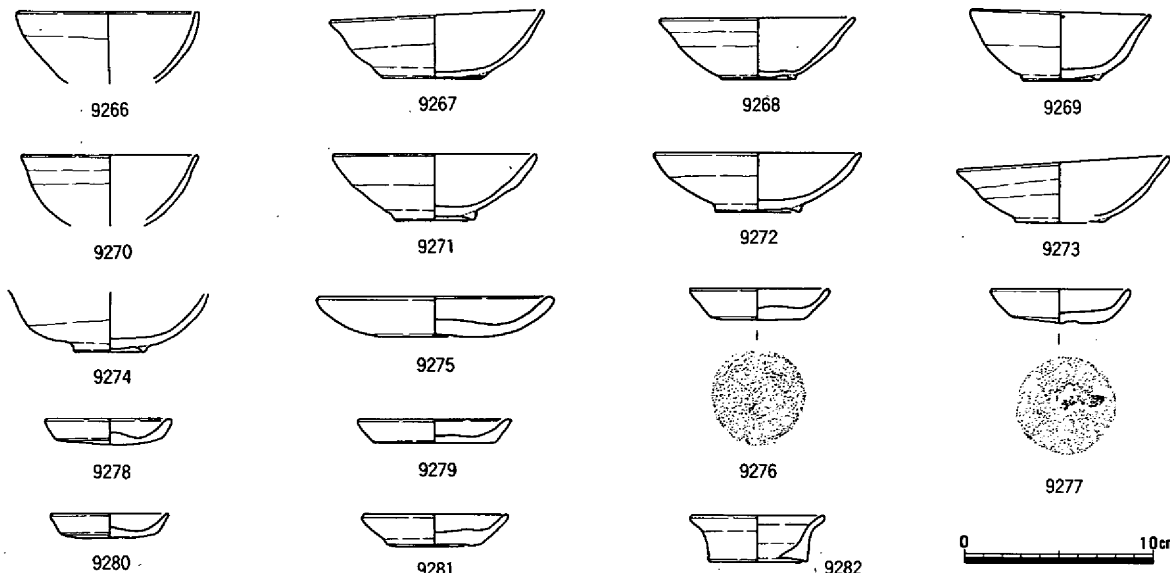
(中野)



- 1 淡灰褐色泥砂
- 2 暗灰褐色泥砂
- 3 暗灰褐色砂泥
- 4 青灰色粘質土
- 5 青灰黄色粘質土 (暗灰色粘土混じり)
- 6 青灰黄色粘土

溝-513 (第782図)

溝-513は、溝-512の西側に位置する。溝にほぼ北から南に流走し、南側に存在する中世～現代まで使用されていた大溝に合流している。幅は約178cm、深さは約75cmを測る。溝内は、第1～第6層がレンズ状に堆積していた。出土遺物は、図示した土師器の他に亀山焼が1点出土している。椀は、高台が退化しており、わずかに残存している。小皿は、胎土が精良なものと砂粒を多く含む

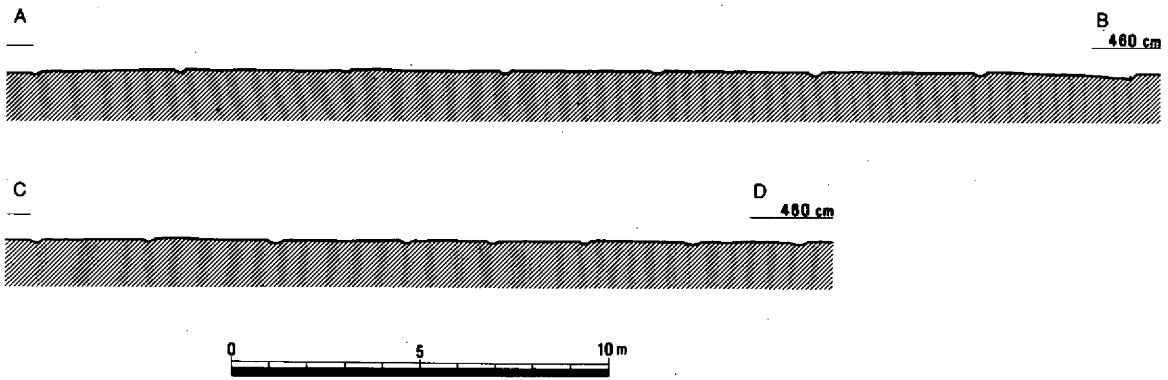


第782図 溝-513(1/30)・出土遺物

ものがあつた。また、9275の皿は精良な胎土であつた。9282は脚台と思われる。出土した土器はいずれも13世紀末～14世紀前半の特徴を示している。(中野)

溝-329～337・341・514～520 (第783図)

これらの溝は、調査区の南端に検出された。溝群は、南北および東西方向に延びており、格子状に検出された。溝はそれぞれ切り合い関係はなく、同一時に存在したと考えられる。これらの溝は、調査区南側にも続きが検出されておりすでに報告されている。幅は約20cm、深さは約5cmを測る。これらの溝は、検出状況からみて畝状遺構の溝部と考えられる。出土遺物は、ほとんどなく時期は限定しがたい。(中野)



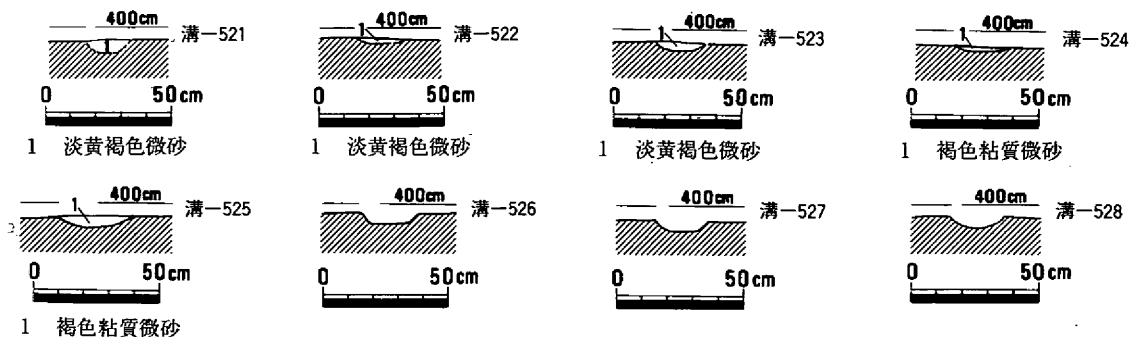
第783図 溝-330～337・341・514～520(1/200)

溝-521～528 (第784図)

調査区南端に近いP17区東側で検出された。溝-521・522・524・526～528が東西に、溝-523・525・529が南北にそれぞれ配されている。幅は18～20cm、深さは2～4cmを測り、長さ是最長で10m程検出しているが、溝-524・526～528などは西側の未調査部分に延びる可能性が高く、総長はもう少し長くなると考えられる。その規模や検出状況から見ると、耕作に関わる畝状の遺構と考えられる。

これらの溝群は、東側に所在する格子状に検出された溝とつながりのあるものと理解したいが、流路の主軸がわずかに異なっているものもあることから、それについては東側の溝とは関係のないものの可能性もある。

遺物は全く出土していないことから時期を特定することができないが、上記のことを前提とするならば中世の範囲内に収まると思われる。(清水)



第784図 溝-521～528(1/30)

第7節 近世の遺構・遺物

(1) 近世の概要

津寺全体では最も広範囲に土地が利用された時代であり、なかでも今回報告の地区の北側半分は遺構密度が非常に高く、それに伴う多くの陶磁器、備前焼等が出土している。しかし、南側半分では北西から南東に流走する幅14mの大溝が検出されている程度である。大溝内は17世紀初頭頃から19世紀前半頃までの肥前の陶磁器がみられ、明治時代以降の遺物はみられない。

反面、調査区北側に密集して所在する建物6～8棟、土壇43基以上（墓も含む）、井戸3～4基、溝18条等は16世紀の第4四半期頃に忽然と現われ、18世紀第2四半期頃まで継続し、その後は溝等の遺構が細々と残る程度で姿を消している。つまり、南側半分よりは遅れるが北側半分も18世紀第3四半期以降は数条の主溝、枝溝、道を残し、ほぼ全域が水田化していった可能性が考えられる。

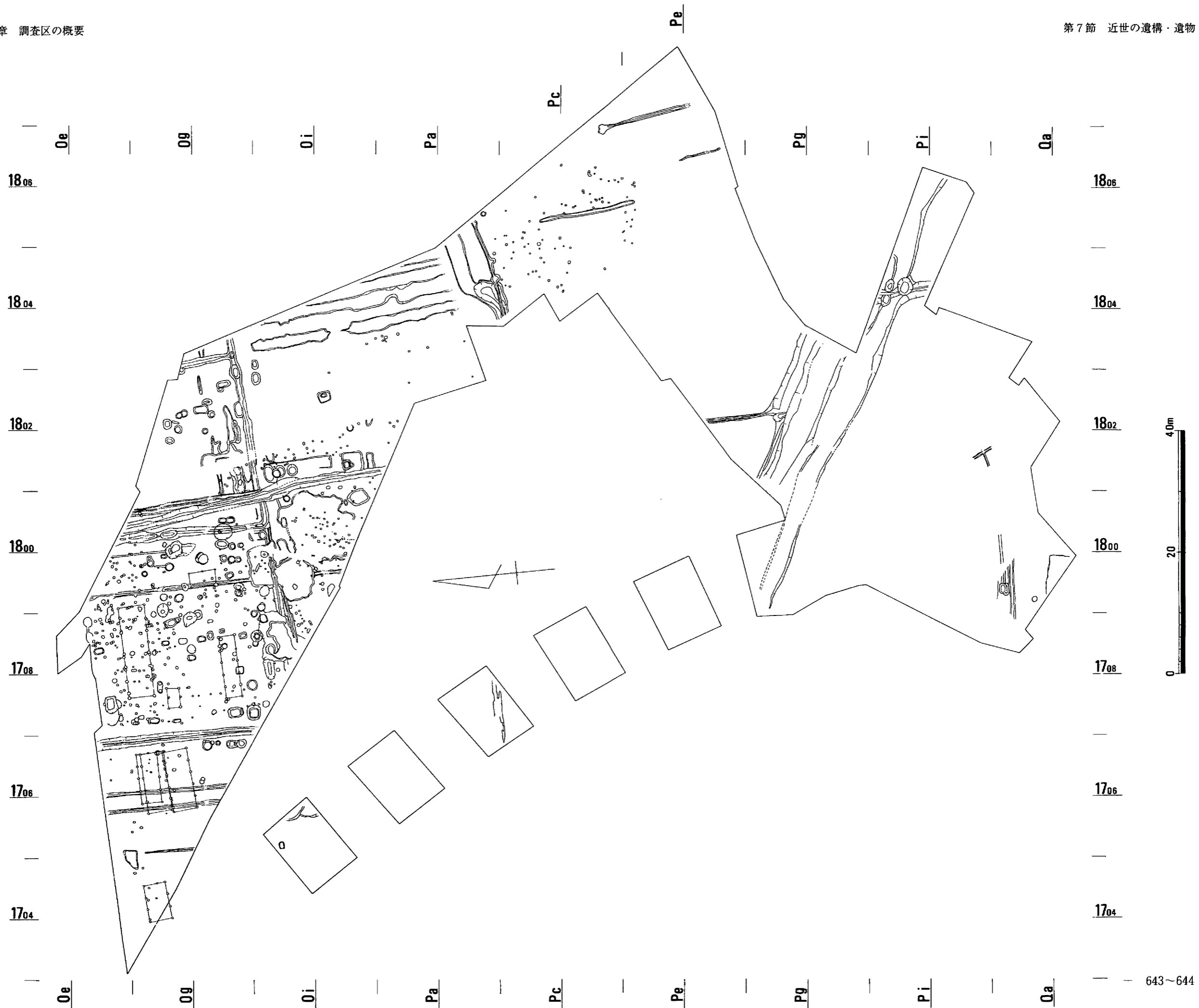
それでは、北側半分が屋敷地、墓地等として機能した16世紀末から18世紀中葉までを概観してみると、まず、整然と並ぶ南北溝があり、1802線を境にして西側に所在する溝-529～534、537の7条は磁北を基準として配置されている。先行する溝-533の埋土から1590～1610年に比定される胎土目の肥前陶器灰釉皿が出土しており、他にも17世紀全般の陶磁器が含まれ、18世紀代に入るものはみられない。溝-532の埋土から17世紀後半～18世紀前半期の肥前磁器が出土しており、溝-533・532が北側半分の居住消長期間を通じて存続していたことがわかる。

これらは屋敷地、墓地を区画する機能とともに、水田、居住域全体の用排水機能をも兼備していた可能性がある。溝-531の底面から胎土目の肥前陶器片が出土しており、溝-533とほぼ同じ時期に存在した可能性が考えられる。溝の廃絶は溝-530・531→溝-533→溝-529→溝-532・537の順序が陶磁器から読み取れる。大きくは、17世紀代に廃絶したと考えられる溝-530・531・533と、18世紀代に廃絶した溝-529・532・537にわかれる。

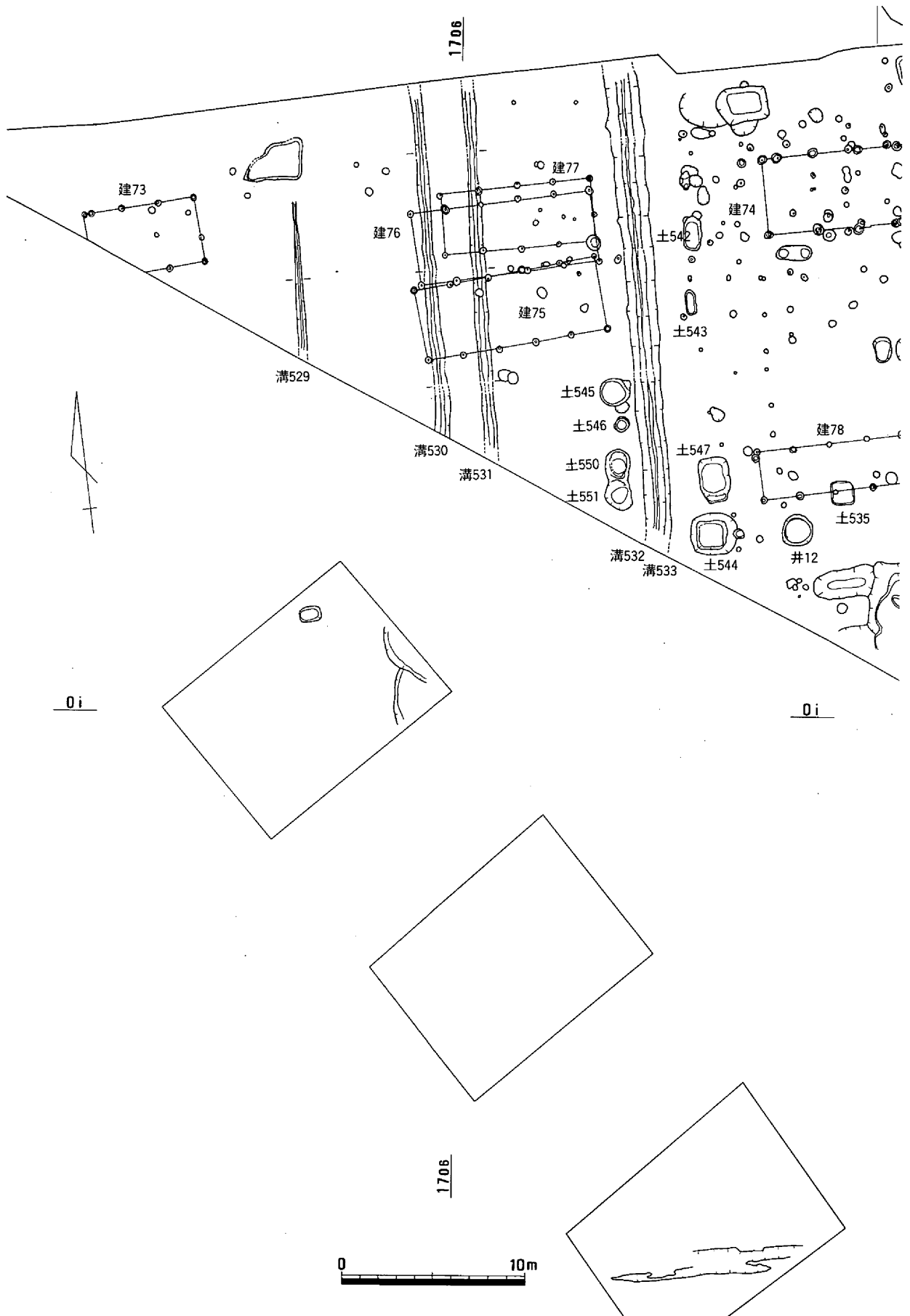
掘立柱建物は建物-75・76・77の切り合いに代表される3時期が考えられる。まず、切り合いから建物-76が建物-75より、建物-76・77が溝-530・531より新しいことが言える。溝-531→建物-75→建物-76と溝-531→建物-77の順序が成立するが、建物-76・77の先後関係は不明である。棟方向では建物-77・74、建物-75・73、建物-76・78に分けることができ、17世紀の初頭にまず建てられた可能性があり、18世紀前半まで継続したのであろうか。

井戸は、井戸-11→井戸-13→土壇-69→井戸-12の順序で作られ、井戸-11が16世紀末～17世紀初頭頃に始まり、井戸-13・12が18世紀前半まで継続している。

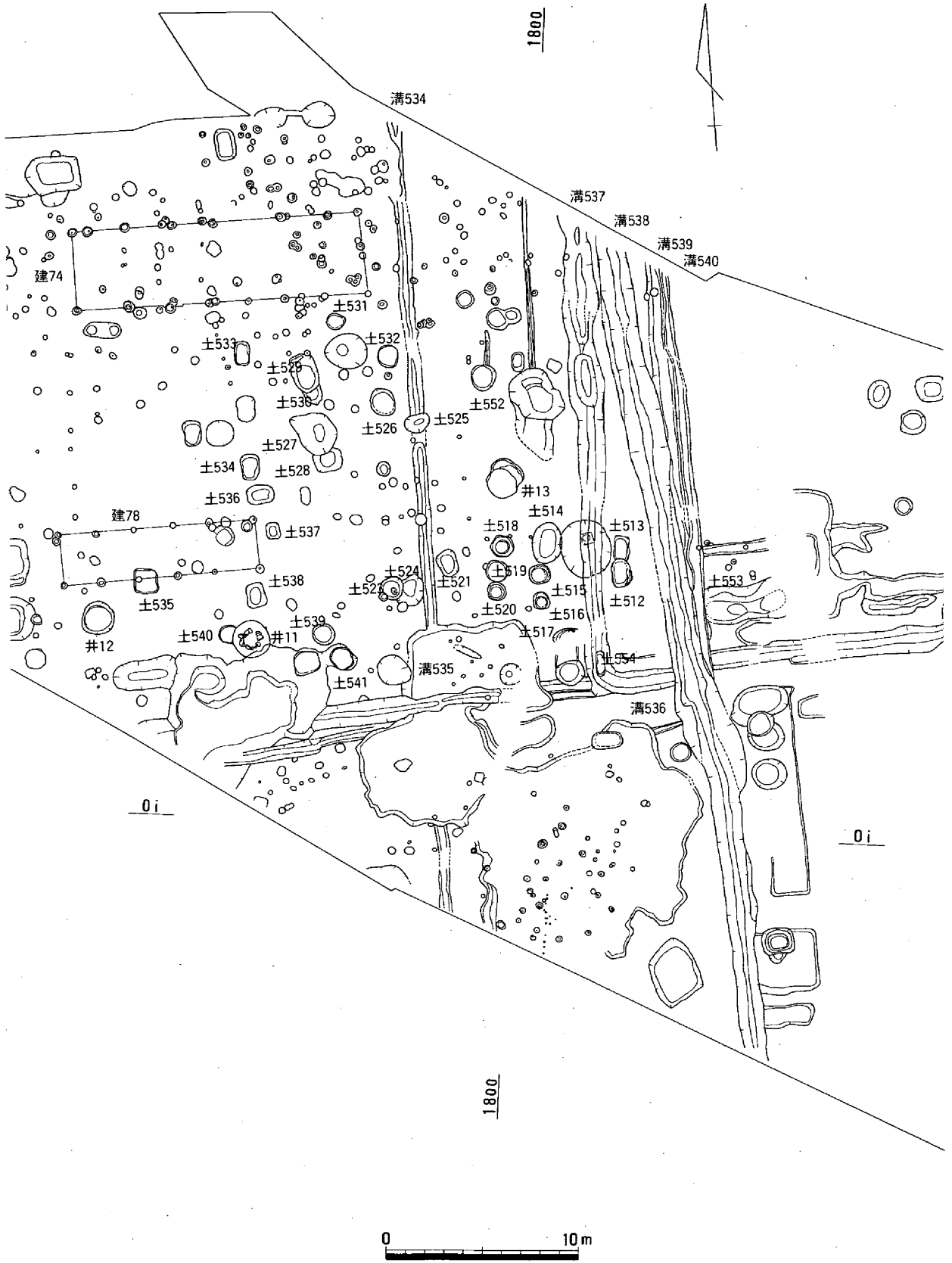
土壇墓、墓の並びは他の遺構同様に南北溝に規整された感じを受ける。土壇墓は平面が円形と長方形にわかれており、比較的小規模な土壇が多い。そのうち、円形にて座棺と思われる断面を残すものに、土壇-515～520・548、それらに準じるものに土壇-539～541がある。これら10数基は、東西溝-535の北側に40×20mの範囲内でまとまり、17世紀後半～18世紀前半期の陶磁器を持っている。長方形で寝棺風のものに、土壇-512・513・533・534・542のように主軸を南北にとり、さらに土壇自体が南北一列に並んでいる。特に土壇-533・534の並びは4～5基が直線的であり、16世紀末～17世紀前半期の陶磁器が入っている。土壇墓の分布は円形のものより幾分拡大している。 (高畑)



第785図 近世全体図(1/600)



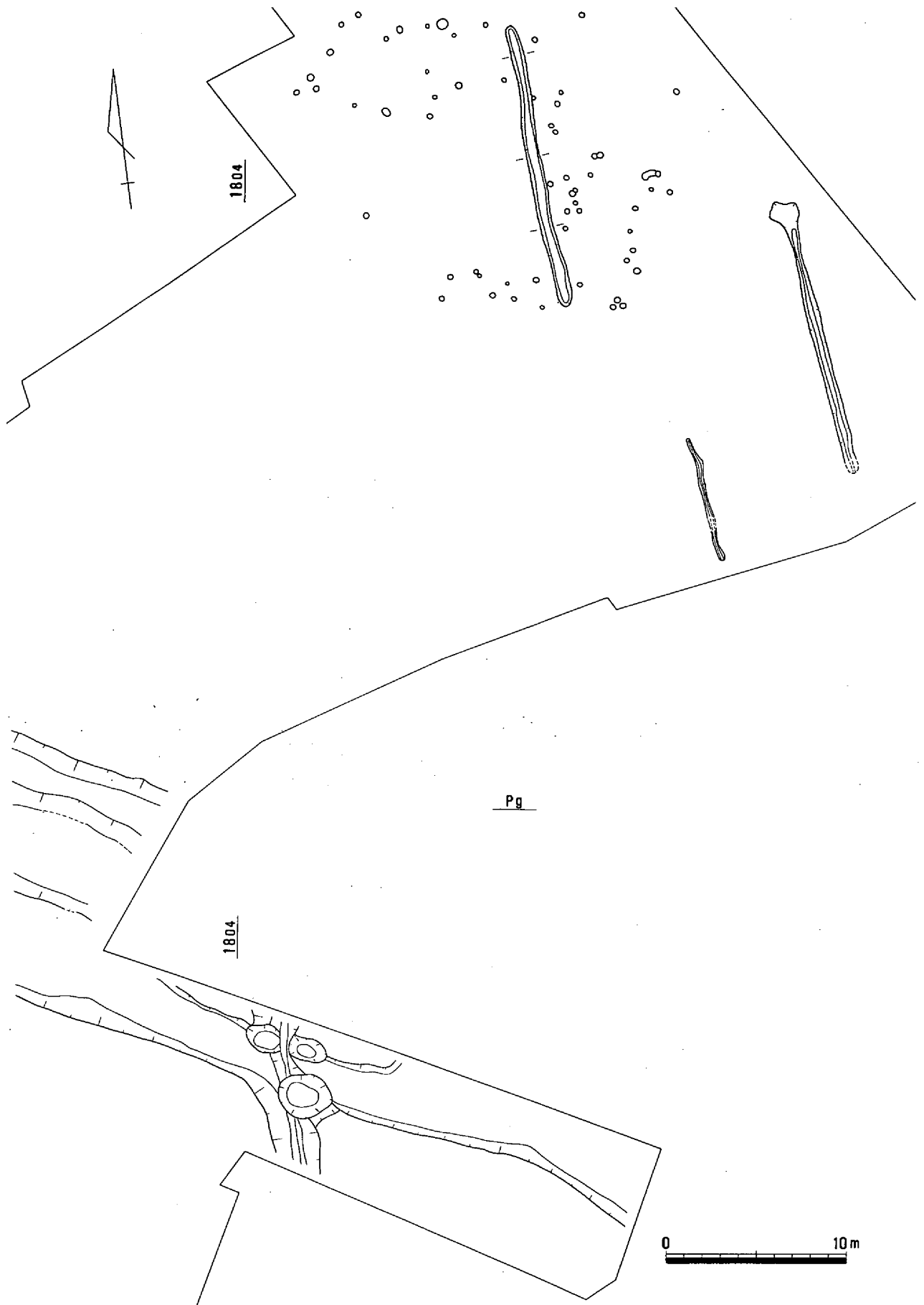
第786図 近世部分全体図(1)(1/300)



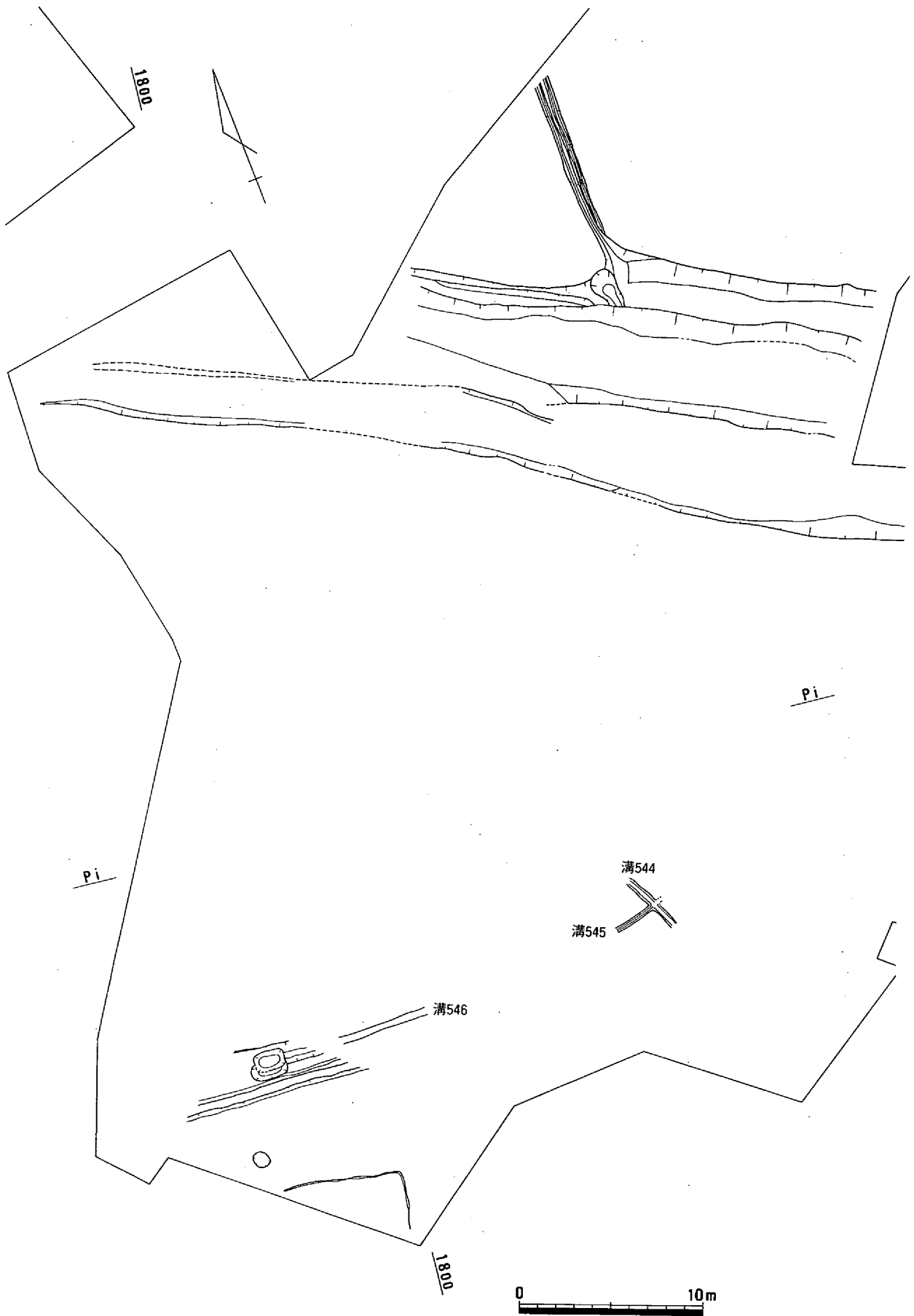
第787図 近世部分全体図(2)(1/300)



第788図 近世部分全体図(3)(1/300)



第789図 近世部分全体図(4)(1/300)



第790図 近世部分全体図(5)(1/300)

(2) 掘立柱建物

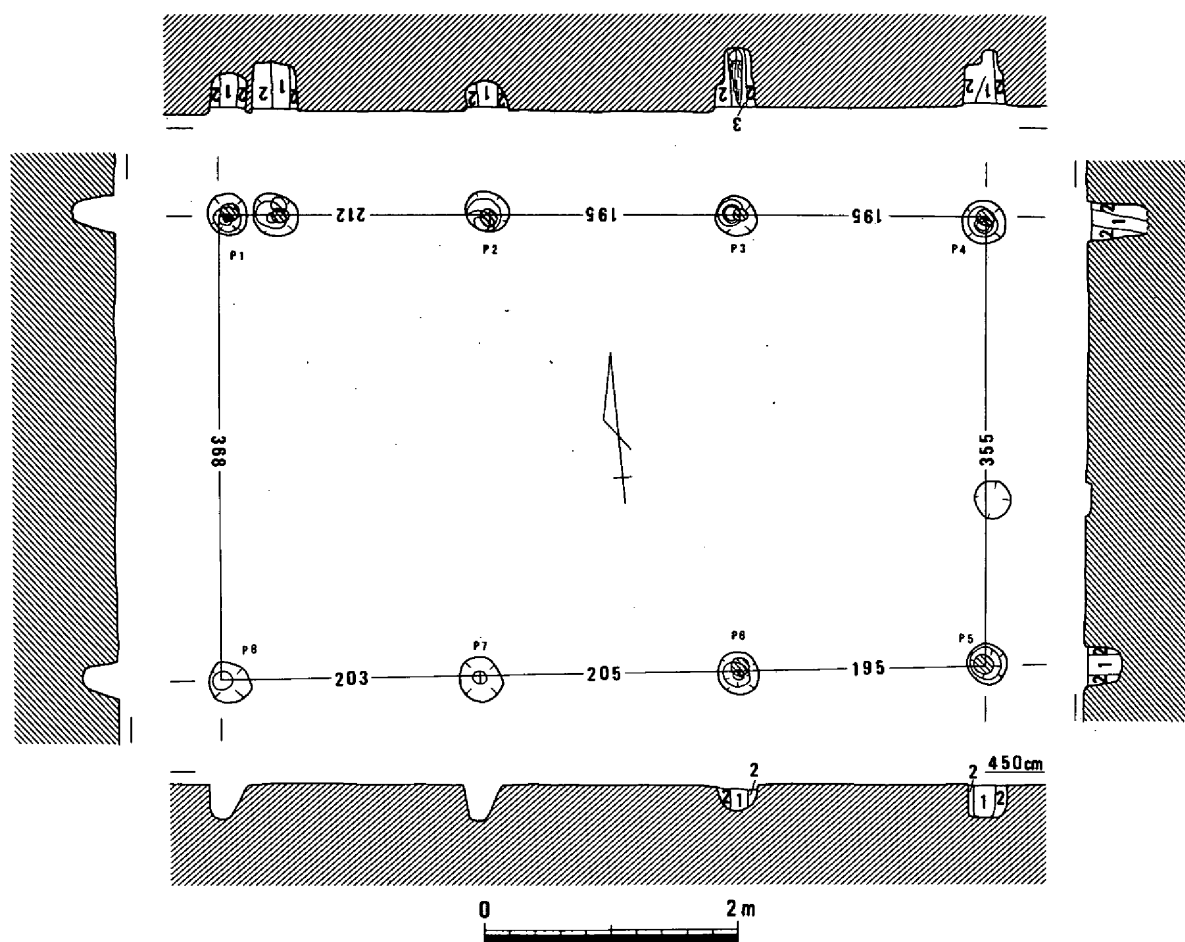
調査区域の北寄りには、東西方向に長い掘立柱建物がまとまっている。一部には重複したり、近接しすぎているものがあって、同時に存在するものは少なくなる。規模の点でも大小がみられる。梁間はいずれも1間で、桁行の数が異っている。

掘立柱建物の方向に平行ないし直交する溝が所在する。溝にも掘り直しがみられることから、この地区の利用のための区画にも変動がみられるが、道路や溝で区画された屋敷地である。 (正岡)

掘立柱建物-73 (第791図)

全体の調査区域の北寄りにあり、O17区に位置する桁行3間、梁間1間の掘立柱建物である。溝-530・531に挟まれた南北方向の道路と推定される遺構と主軸が直交している。

柱穴の掘り方は、すべて円形を呈し、柱痕跡の確認できるものが多く、P3では基底部の尖った柱根が残存していた。これらを見ると、柱材は円柱と推定される。北西隅の柱穴に近接して東側に1本



- 1 淡茶灰色粘質微砂 2 淡灰茶色粘質微砂 3 淡青灰色微砂 (グライ化)

第791図 掘立柱建物-73(1/60)

の柱穴が検出された。この柱穴は扉に伴うものか補強柱と推定される。

建物の大きさは、桁行602~603cm、梁間355~368cm、面積21.8m²を測る。主軸はN-85°-Wで、ほ

は東西方向を示している。柱穴の掘り方は、径32~36cm、深さ20~50cmとややばらつきがみられる。柱材の大きさは直径15cm前後と推測される。柱穴からは、早島式土器の細片が出土しているが、実測可能な遺物はみられない。中屋調査区の掘立柱建物-37・38と同形同大の規模であり、14世紀後半以降の年代が与えられる。

(正岡・高畑)

掘立柱建物-74 (第792図)

調査区の北寄りにあり、O17区に位置する桁行7間、梁間1間の掘立柱建物である。南北方向の溝-532と溝-534との間にあり、建物の主軸は東西方向を示している。

柱穴の掘り方は、すべて円形を呈し、柱痕跡の確認できるものもある。これによると柱材は円柱で、直径15cm前後と推定される。桁の柱には、近接した別の柱穴がみられ、補強のための柱と推定される。

建物の大きさは、桁行1468~1490cm、梁間414cm、面積59.2m²を測る。主軸はN-89°-Eで、ほぼ東西方向を示す。柱穴の掘り方は、径32~53cm、深さ37~68cmとかなり違っている。柱穴からは土師器の火鉢片9498、備前焼小片が出土している。

(正岡)

掘立柱建物-75 (第793図)

南北方向の溝-532の西側にあり、O17区に位置する桁行5間、梁間1間の掘立柱建物である。北側には、掘立柱建物-76・77が所在するが、近接しすぎていて共存するものではない。ほぼ同規模の掘立柱建物-76は、掘立柱建物-75の柱穴を切って作られている。

柱穴の掘り方は、すべて円形を呈し、柱痕跡の確認できるものも多い。これによると柱材は円柱で、直径15cm前後と推定される。

建物の大きさは、桁行988~994cm、梁間383~400cm、面積38.8m²を測る。主軸はN-89°-Eで、ほぼ東西方向を示している。柱穴の掘り方は、径26~40cm、深さ40~50cmと少し違いがみられる。

周辺から肥前陶器の輪花碗9499が出土している。時期は17世紀初頭に比定されている。周囲の遺構の年代も参考にするとこの建物は近世と考えることができる。

(正岡)

掘立柱建物-76 (第794図)

掘立柱建物-75の北側に位置し、一部柱列が重なっている。桁行5間、梁間1間の掘立柱建物である。2棟の建物は、主軸がわずかに違っているが、構造・規模がほぼ同じである。掘立柱建物-75の柱穴を掘立柱建物-76の柱穴が切り、新しく作られている。溝-530と溝-531の間は、南北方向の道路と推定されるが、柱穴が側溝を切っていることから、道路を廃止した後に建てられたものであることが分る。建物の東側2mに南北方向の溝-532が所在する。

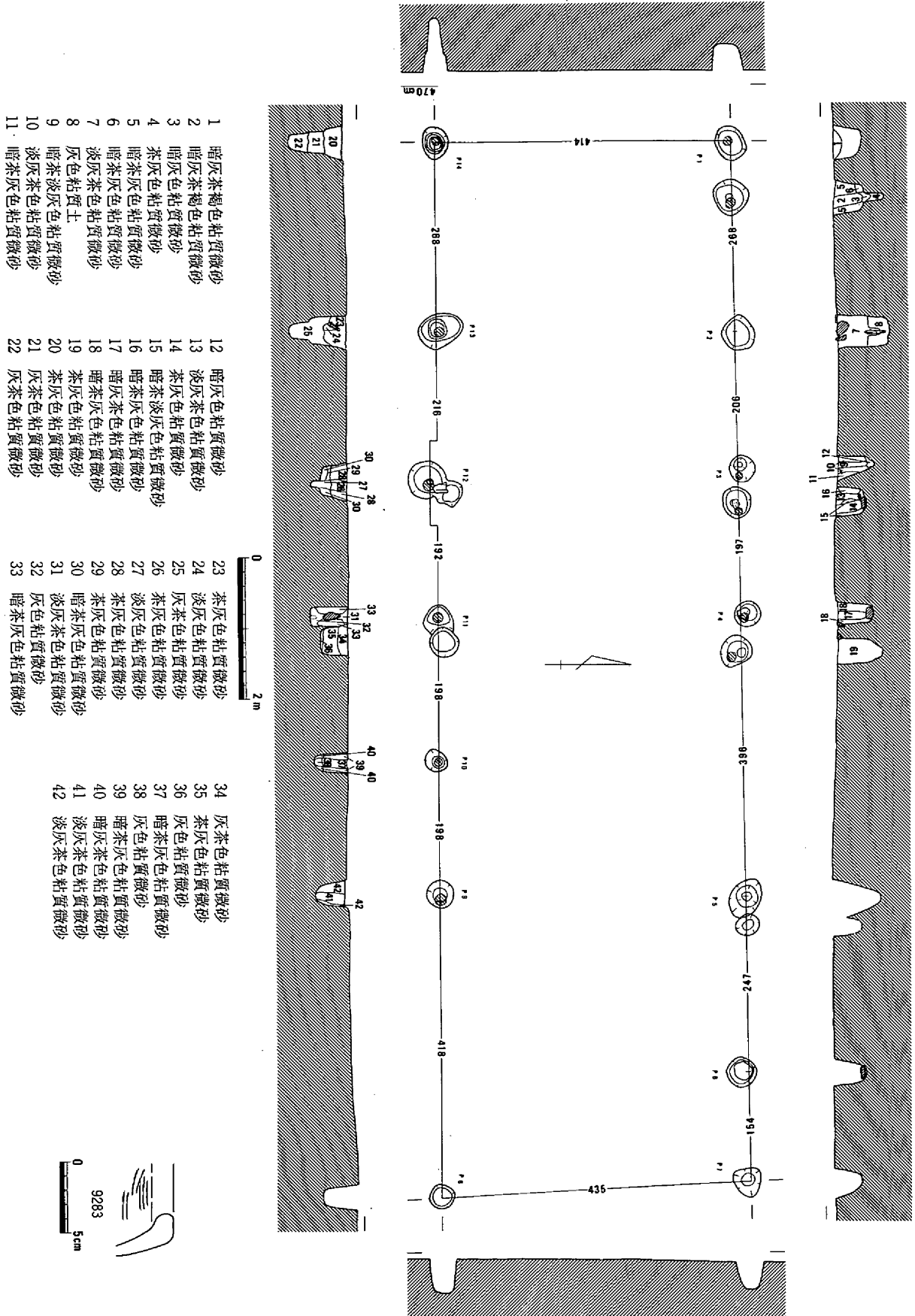
柱穴の掘り方はすべて円形を呈し、柱痕跡を確認することができた。これによると柱材は円柱で、直径15cm前後と推定される。

建物の大きさは、桁行971~979cm、梁間387~390cm、面積37.8m²を測る。主軸はN-90°-Eを示している。柱穴の掘り方は、径29~48cm、深さ28~53cmと少しばらつきがみられる。柱穴からは実測できるような遺物は出土していない。

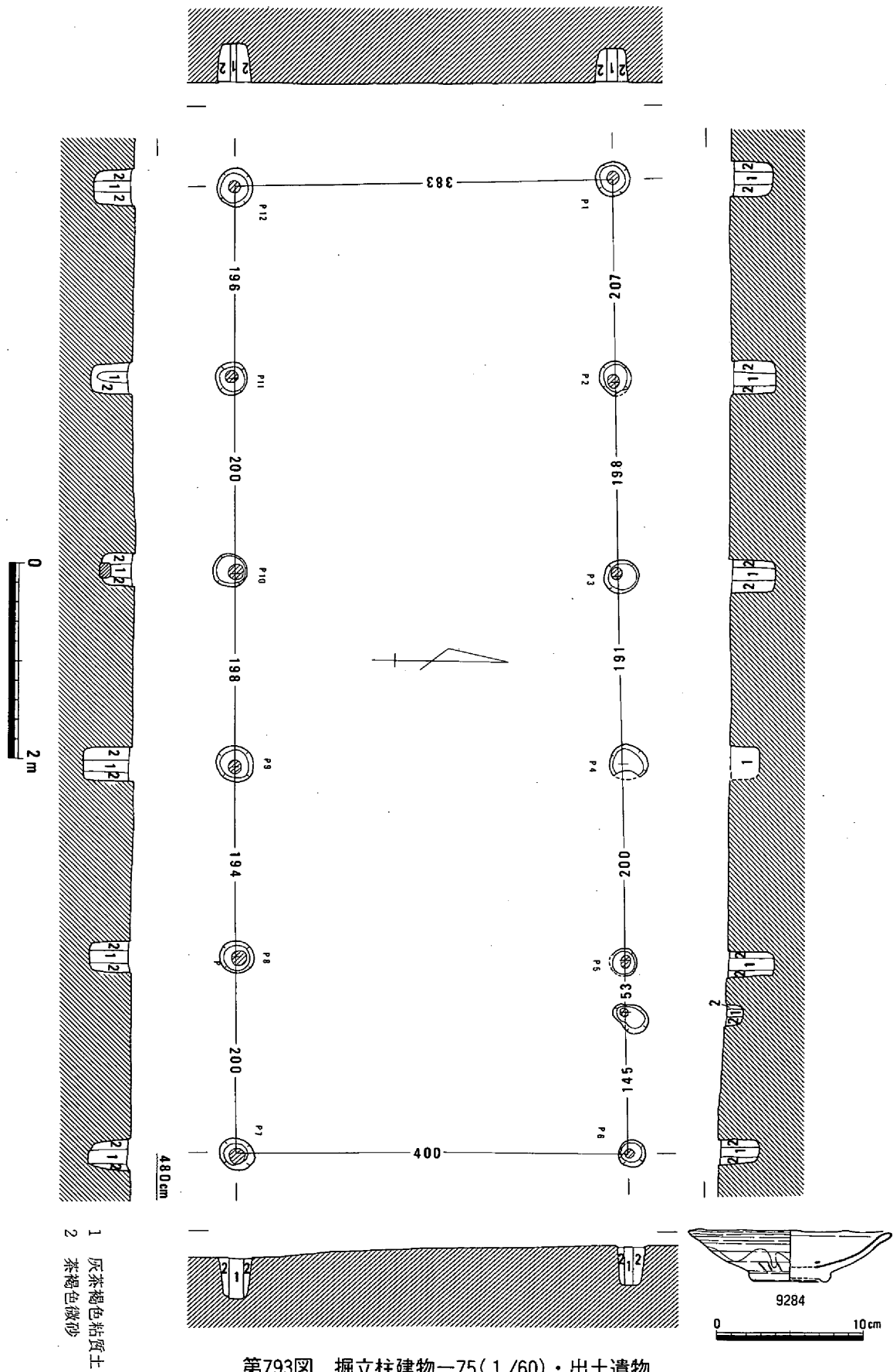
(正岡)

掘立柱建物-77 (第795図)

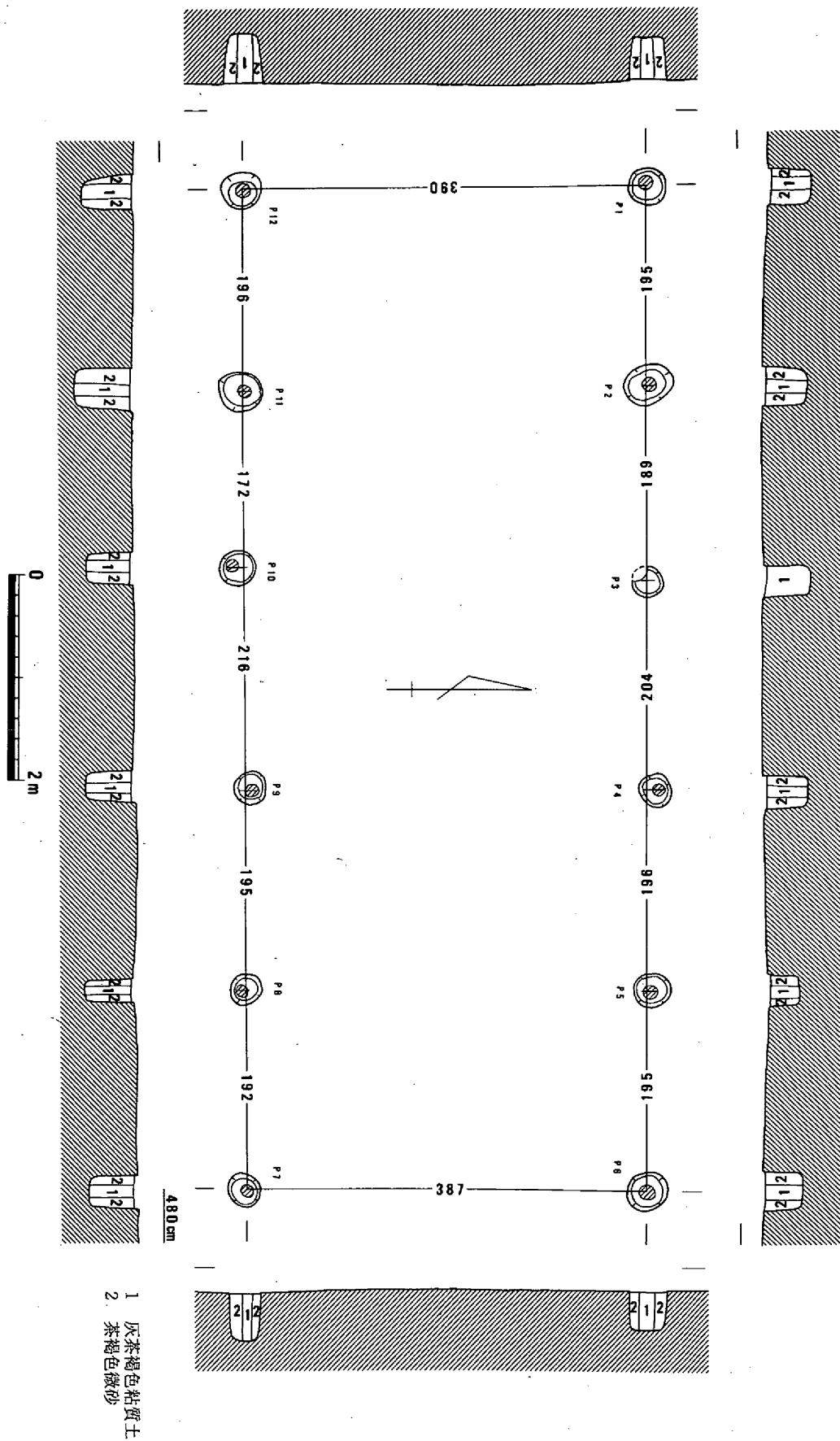
掘立柱建物-76と重複していて、少し規模が小さい。桁行4間、梁間1間の掘立柱建物である。南側に位置する掘立柱建物-75とは、主軸が1°くらい違うだけで、建物の柱の間隔は1.5mくらいあることから、共存の可能性はあるが確認できない。東側2mに位置する南北方向の溝-532と梁の方向は一致している。



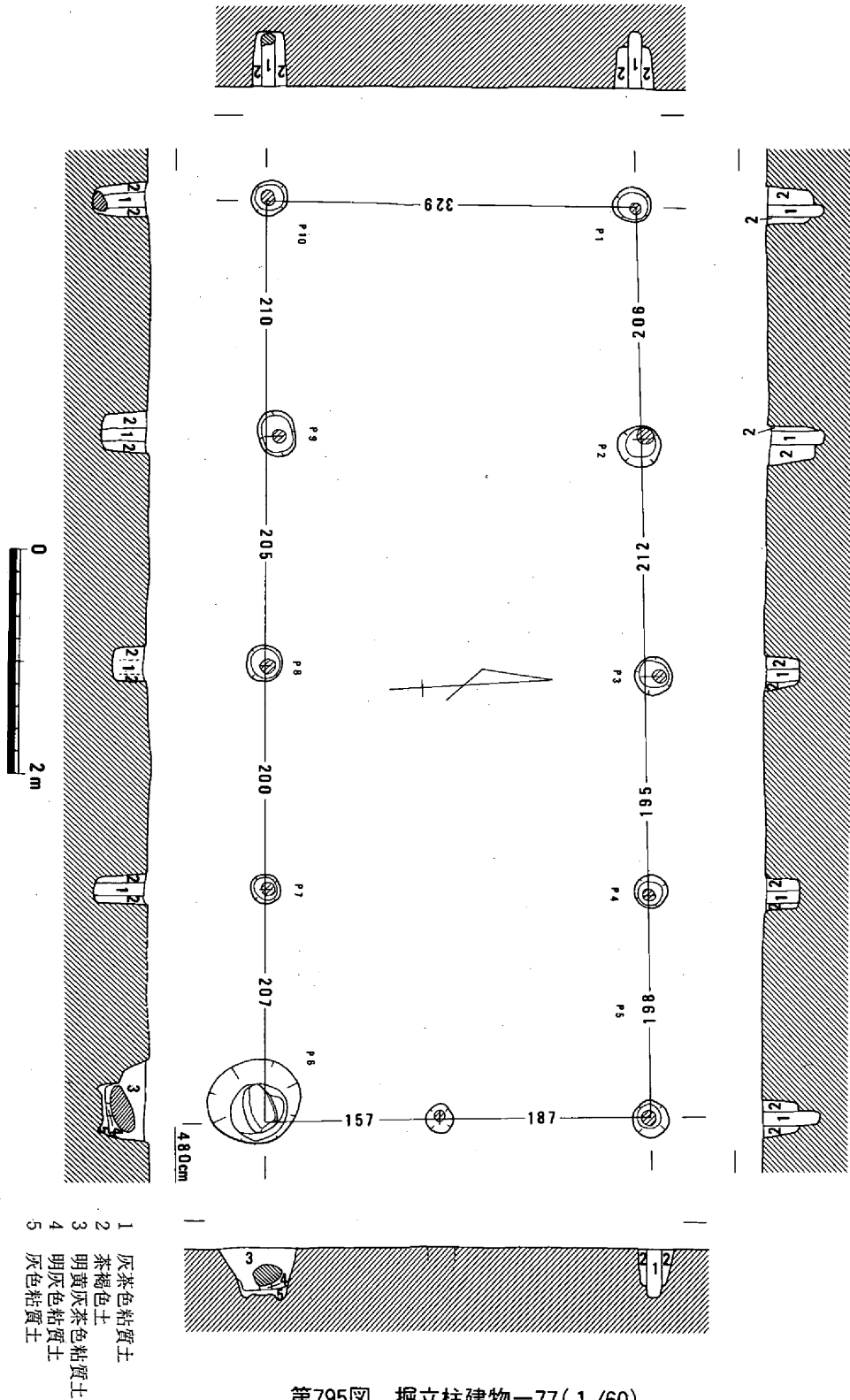
第792圖 掘立柱建物一74(1/80)・出土遺物



第793図 掘立柱建物—75(1/60)・出土遺物

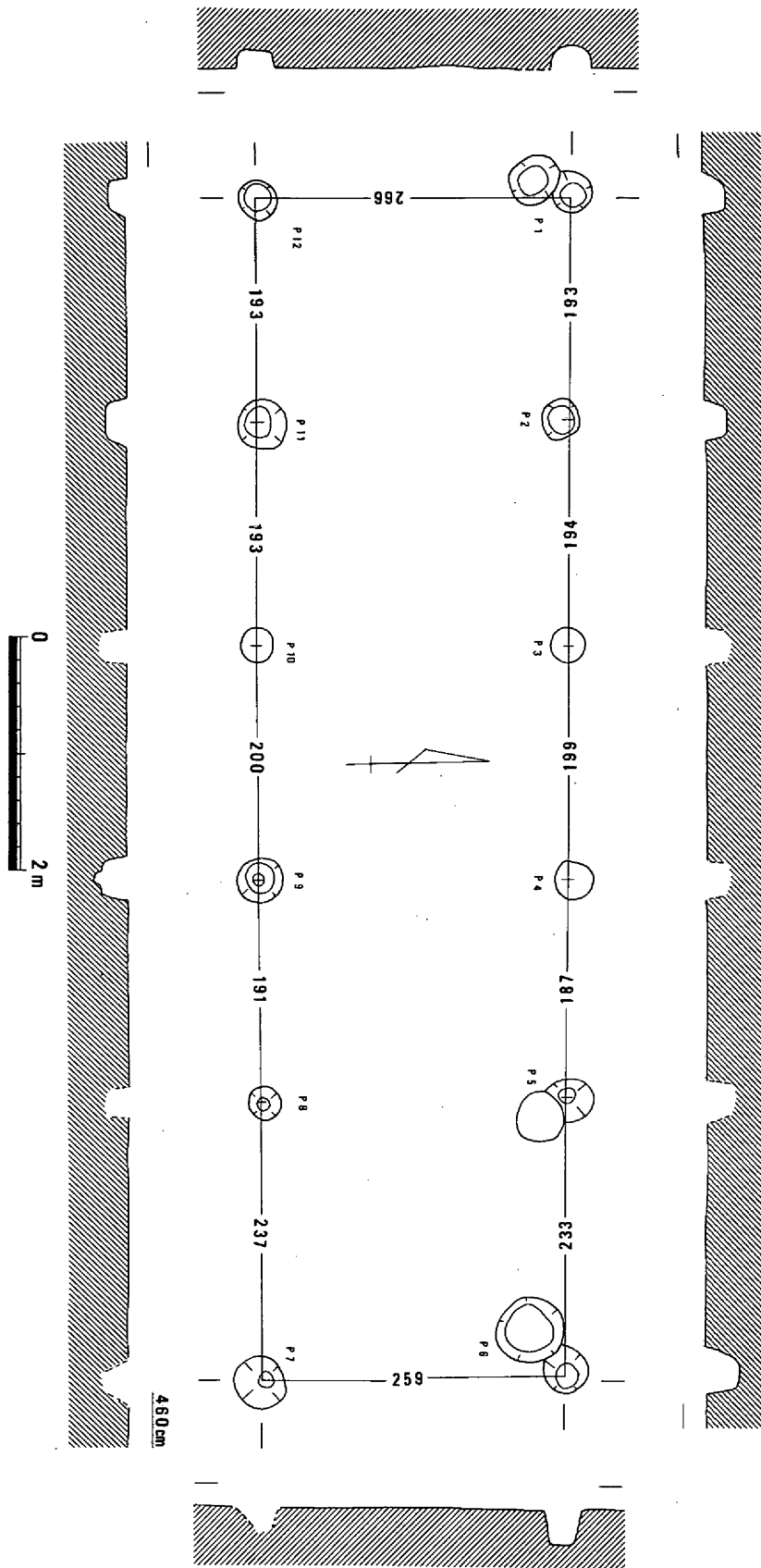


第794図 掘立柱建物—76(1/60)



柱穴の掘り方はすべて円形を呈し、柱痕跡がみられる。これによると、柱材は円柱で、直径15m前後と推定される。

建物の大きさは、桁行811~822cm、梁間329~344cm、面積27.4m²を測る。主軸はN-88°-Eで、ほぼ東西方向を示している。柱穴の掘り方は、径26~41cm、深さ29~50cmと少し違いがみられる。南東



第796図 掘立柱建物-78(1/60)

隅の柱穴は抜き取られたようで、あとから長径50cm程の石を入れている。(正岡) 掘立柱建物-78 (第796図)

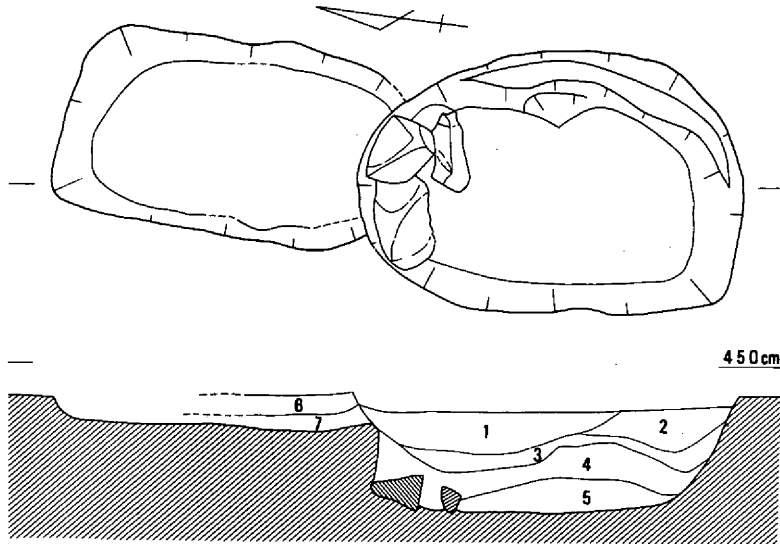
南北方向の溝-532と溝-534に挟まれた中にあり、掘立柱建物-74の南に位置する。桁行5間、梁間1間で、東西方向に長い掘立柱建物である。他の建物とは少し離れて南寄りにある。建物の南西方向には、井戸や土壇が「L」字形に囲むように配置していて関連しているものと考えられる。

柱穴の掘り方は、すべて円形を呈する。北東と北西隅の柱穴の一部が重なるように掘られた柱穴があり、補強のためのものと推測される。

建物の大きさは、桁行1006~1014cm、梁間259~266cm、面積26.3m²を測る。主軸はN-89°-Wを示している。

これら6棟の掘立柱建物は、重複する建物75~77の関係から少なくとも3時期に分かれる可能性が強い。それを建物の棟方向で見ると、建物-77・74、75・73、76・78がまとまりをみせる。掘立柱建物-76・77を切る溝-531からは16世紀末~17世紀初頭の胎土目が残る肥前陶磁器が出土している。(正岡・高畑)

(3) 土壇



- | | |
|------------|-----------|
| 1 灰茶色粘質微砂 | 5 淡青灰色粘土 |
| 2 淡灰色微砂 | 6 灰茶色粘質微砂 |
| 3 茶褐色微砂、Fe | 7 灰色粘質微砂 |
| 4 淡灰青色粘質微砂 | |

第797図 土壇-512・513(1/30)

土壇-512 (第797図)

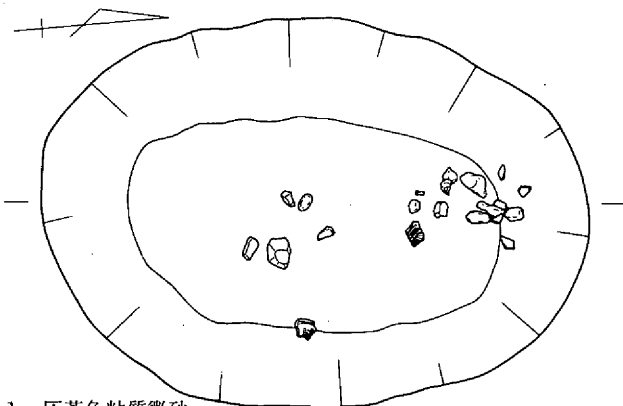
調査区の北東部に位置し、溝-537の東側に近接している。南北に並ぶ2基の土壇のうちの北側にあり、南側の一部を土壇-513によって切られている。平面形は隅丸長方形を呈し、断面は皿形である。大きさは、推定長117cm、幅77cm、深さ12cmを測る。

(正岡)

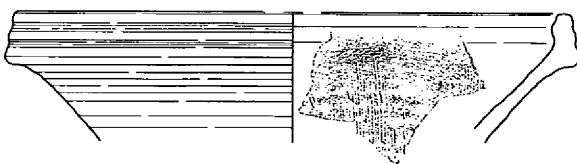
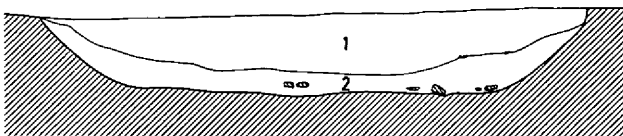
土壇-513 (第797図)

平面形は楕円形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長さ152cm、幅104cm、深さ46cmを測る。

(正岡)



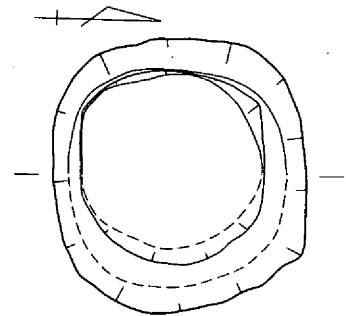
- | |
|------------|
| 1 灰茶色粘質微砂 |
| 2 暗灰茶色粘質微砂 |



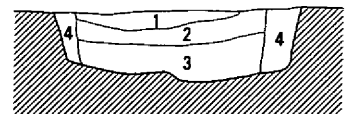
9285



第798図 土壇-514(1/30)・出土遺物



460cm



- | | |
|----------|-----------|
| 1 灰色粘質微砂 | 3 暗灰色粘質微砂 |
| 2 灰色粘質微砂 | 4 暗灰色粘質微砂 |

第799図 土壇-515(1/30)

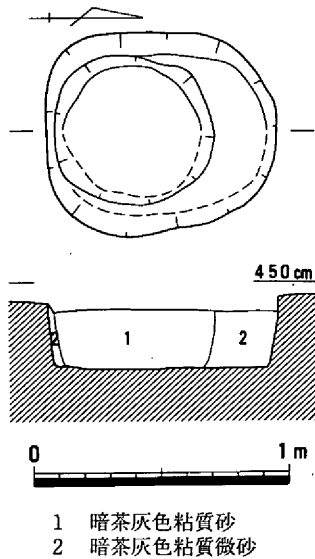
第3章 調査区の概要

には、備前焼の挿鉢9285や小礫がある。大きさは、長さ152cm、幅104cm、深さ46cmを測る。(正岡)
 土壙-515 (第799図)

土壙-514の南側に近接している。平面形はやや歪な円形を呈し、断面は箱形である。内側の周囲には、暗灰色粘質微砂がめぐる。大きさは、長さ108cm、幅100cm、深さ28cmを測る。(正岡)

土壙-516 (第800図)

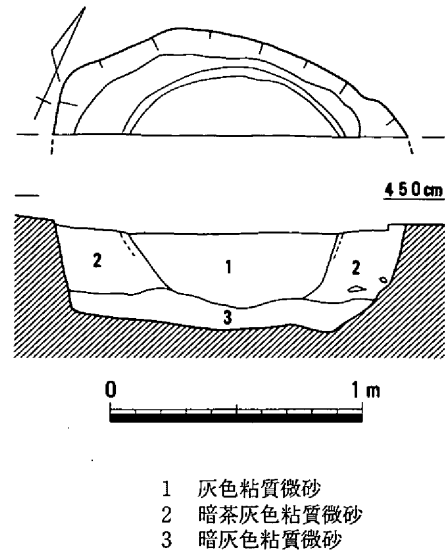
土壙-515の南側に近接している。平面形は円形を呈し、断面は箱形である。掘り方の中に南側に寄った大きな穴があり、掘り直しか何かを据え置いていたものと思われる。大きさは、長径90cm、短径81cm、深さ27cmを測る。(正岡)



第800図 土壙-516(1/30)

- 1 灰茶色粘質微砂
- 2 茶灰色粘質微砂
- 3 茶灰色粘質微砂
- 4 暗茶灰色粘質微砂

第802図 土壙-518(1/30)



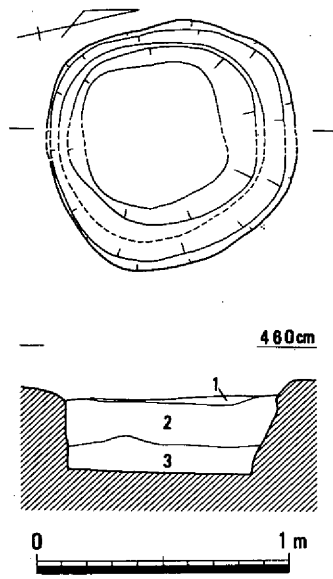
第801回 土壙-517(1/30)

- 1 灰茶色粘質微砂
- 2 灰茶色粘質微砂
- 3 茶灰色粘質微砂
- 4 暗灰茶色微砂
- 5 暗茶灰色粘質微砂

第803図 土壙-519(1/30)

土壙-517 (第801図)

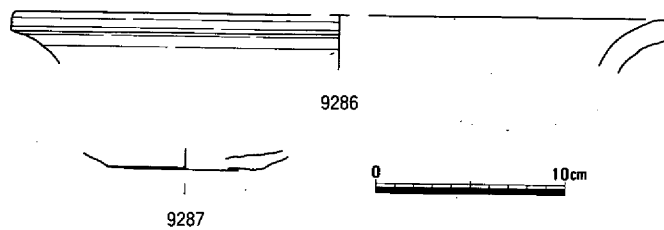
土壙-516の南東に位置し、調査区境となったため、南側の一部が完掘できていない。平面形は円形を呈し、断面は箱形である。大きさは、径141cm、深さ44cmを測る。(正岡)



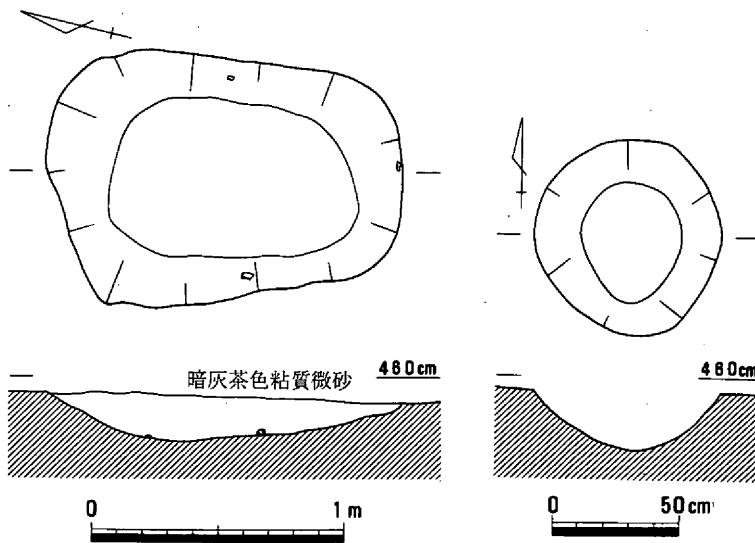
- 1 灰茶色粘質微砂
- 2 茶灰色粘質微砂
- 3 暗茶色粘質微砂 (マンガン多く含む)

土壙-518~520 (第802~804図)

土壙-517の西方に3基の土壙が並んでいる。土壙-518は北側に位置するものである。平面形は円形を呈し、断面形は箱形である。掘り方の内側に桶状の痕跡がみられる。大きさは、長径110cm、短径116cm、深さ28cmを測る。土壙-519は真中のもので、円形を呈し、断面は箱形である。底面には凹凸があり、端部が少し窪む。大きさは、長径117cm、短径116cm、深さ33cmを測る。土壙-520は南側のもの



第804図 土壙-520(1/30)・出土遺物



第805図 土壙-521・522(1/30)

のである。平面形は円形を呈し、断面は箱形である。大きさは、長径99cm、短径98cm、深さ36cmを測る。土壙-512~522は土壙墓の可能性が考えられる。(正岡)

土壙-521. (第805図)

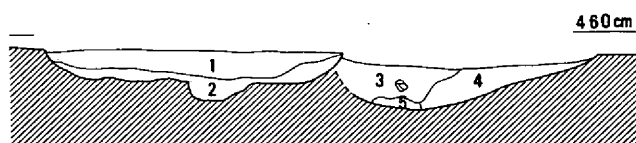
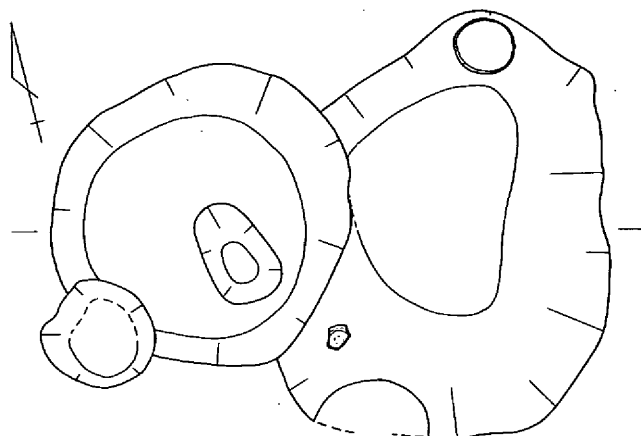
溝-534の東側に近接している。平面形は不整楕円形を呈し、断面は皿形である。南北方向に長くなっている。埋土は暗茶色粘質砂である。大きさは、長径141cm、短径100cm、深さ19cmを測る。(正岡)

土壙-522 (第805図)

土壙-521の南に近接している。平面形は南北にやや長い円形を呈し、断面は碗形である。大きさは、長径77cm、短径73cm、深さ23cmを測る。(正岡)

土壙-523 (第806図)

平面形は円形を呈し、断面は皿形である。出土遺物には、肥前陶器の灰釉皿9288、肥前陶磁器の皿



- | | |
|------------|------------|
| 1 暗茶灰色粘質微砂 | 4 暗茶褐色粘質微砂 |
| 2 暗灰茶色粘質微砂 | 5 暗灰茶色粘質微砂 |
| 3 暗灰茶色粘質微砂 | |

第806図 土壌-523・524(1/30)・土壌-523出土遺物

9289がある。時期は17世紀に比定される。大きさは、長径120cm、短径116cm、深さ22cmを測る。(正岡)

土壌-524 (第806図)

平面形は不整楕円形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長径171cm、深さ25cmを測る。(正岡)

土壌-525 (第807図)

調査区の北端近くに位置し、溝-534の



9288



9289



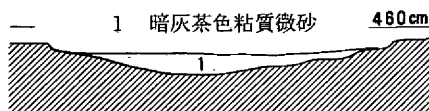
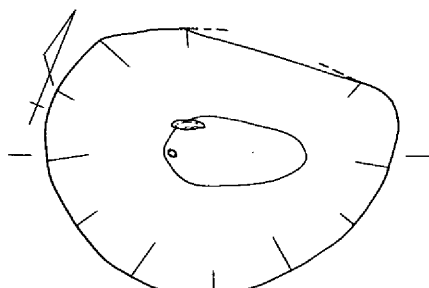
中央部で重なっている。平面形は東西にやや長い不整円形を呈し、断面は円形である。大きさは、長径138cm、短径105cm、深さ12cmを測る。(正岡)

土壌-526 (第808図)

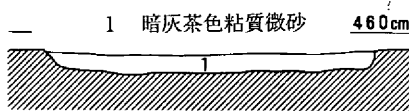
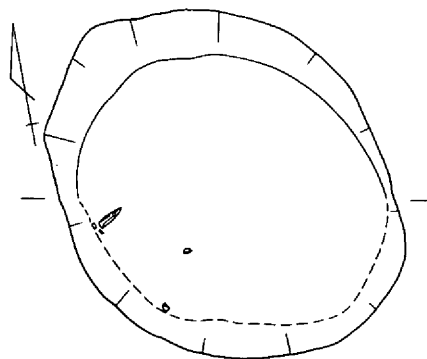
調査区の北端に近く、溝-534の西側に近接している。平面形は北西から南東に長い楕円形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長径159cm、短径129cm、深さ9cmを測る。(正岡)

土壌-527 (第809図)

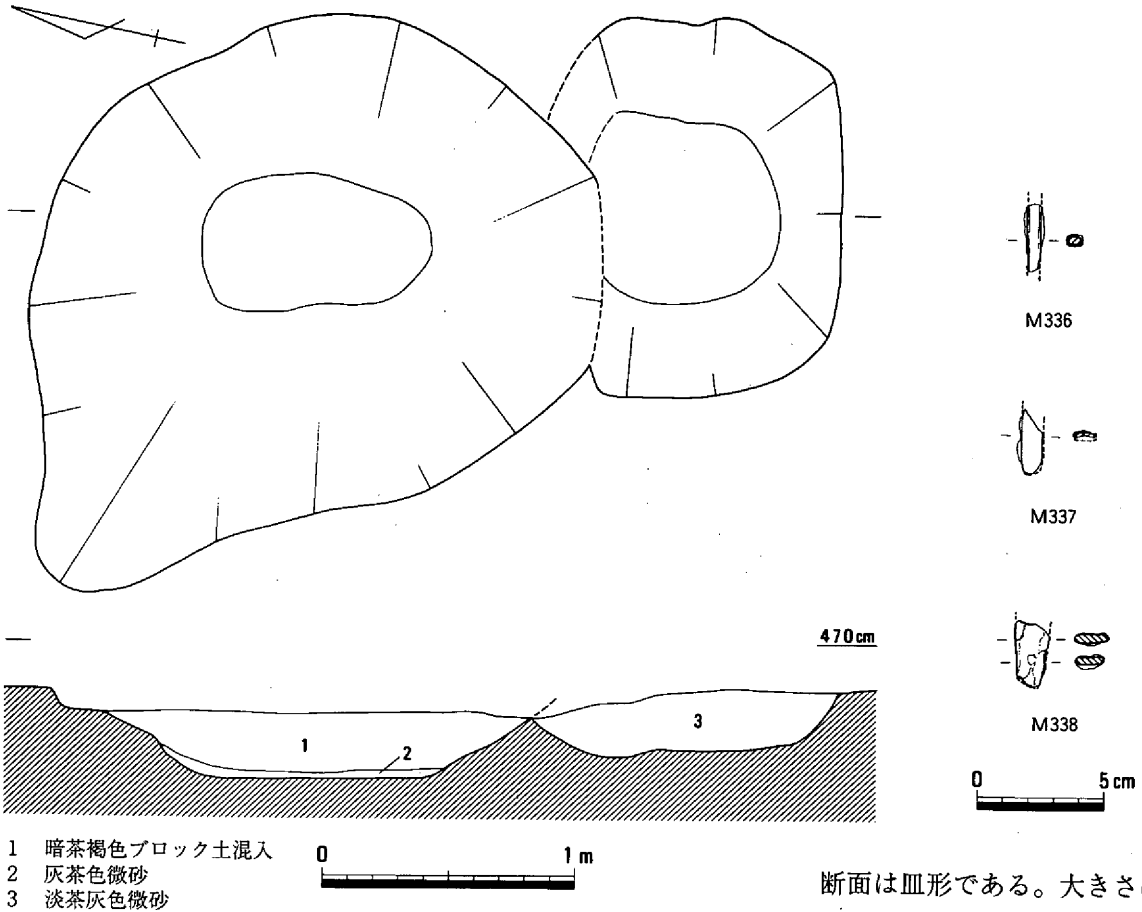
平面形は北西方向へ突出部のある不整楕円形を呈し、



第807図 土壌-525(1/30)



第808図 土壌-526(1/30)



第809図 土壙-527・528(1/30)・出土遺物

断面は皿形である。大きさは、長径266cm、短径202cm、深さ36cmを測る。埋土中からは鉄釘の小片M336~338が出土した。

(正岡)

土壙-528 (第809図)

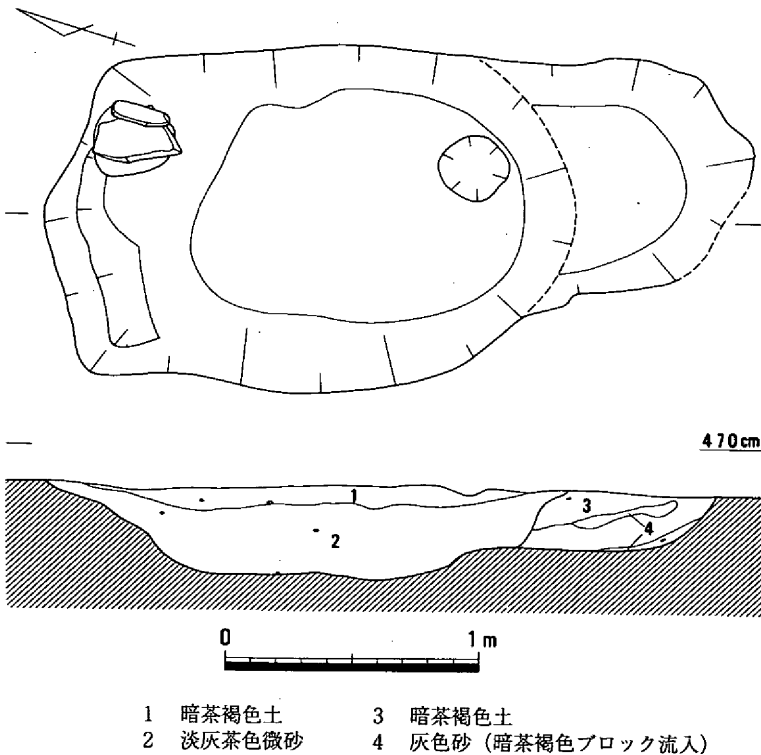
平面形は東西に少し長い隅丸方形を呈する。大きさは、長径152cm、深さ25cmを測る。(正岡)

土壙-529 (第810図)

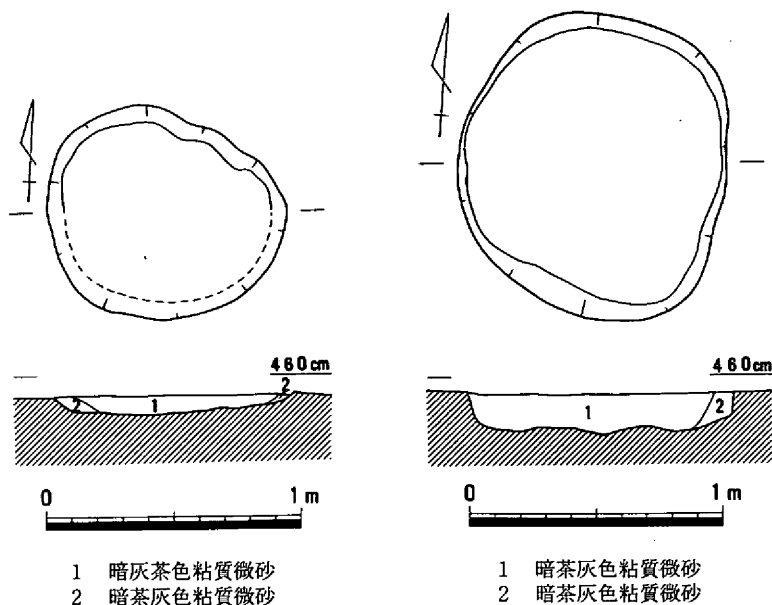
平面形は南北に長い楕円形を呈し、断面は皿形である。北側は段状になっている。床面の南寄りには浅い小ピットがある。大きさは、長径210cm、短径139cm、深さ38cmを測る。(正岡)

土壙-530 (第810図)

平面形は南北に長くなる楕円形と推測される。大きさは、現存長径110cm、短径98cm、深さ



第810図 土壙-529・530(1/30)



第811図 土壌-531・532(1/30)

23cmを測る。(正岡)

土壌-531 (第811図)

平面形はやや歪な円形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長径94cm、短径86cm、深さは、6cmを測る。(正岡)

土壌-532 (第811図)

調査区の北端部に位置し、溝-534の西側に近接している。平面形はやや歪な円形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長径127cm、短径111cm、深さは、7cmを測る。(正岡)

土壌-533 (第812図)

掘立柱建物-74の南には、南北に並ぶ長方形の土壌がある。本土壌は北側に位置するものである。平面形は南北に長い長方形を呈し、断面は箱形である。大きさは、長径126cm、短径77cm、深さ22cmを測る。(正岡)

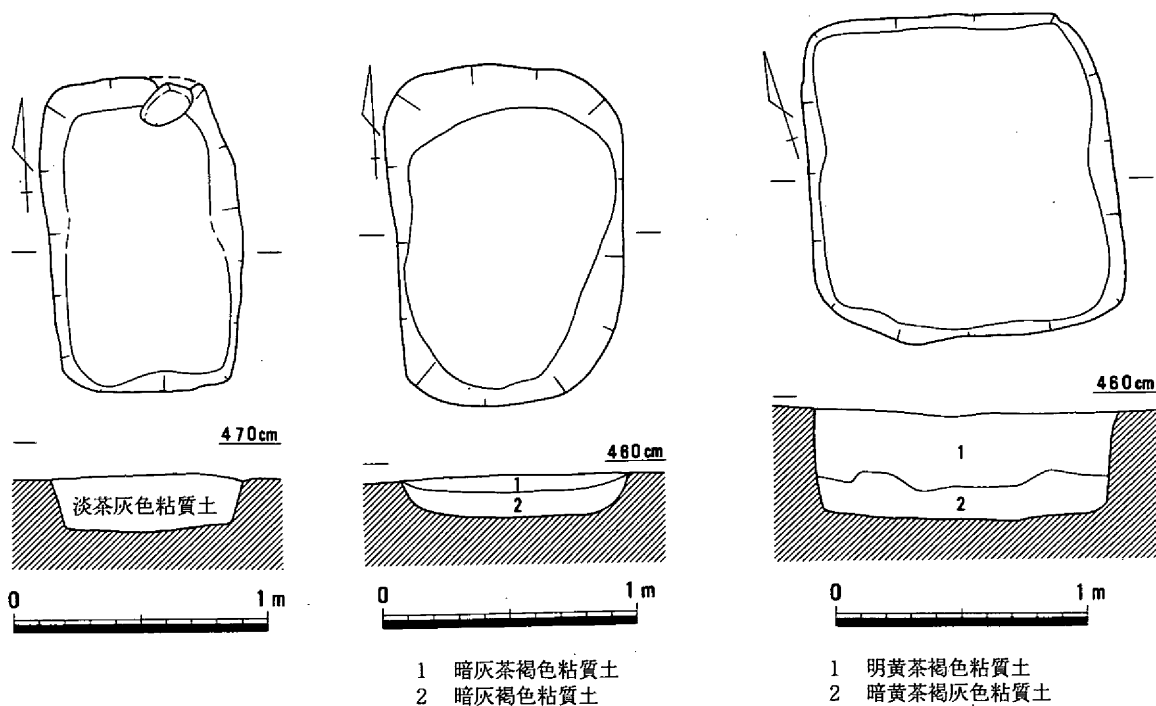
土壌-534 (第812図)

土壌-533の南側に位置する。大きさは、長径136cm、短径89cm、深さ16cmを測る。(正岡)

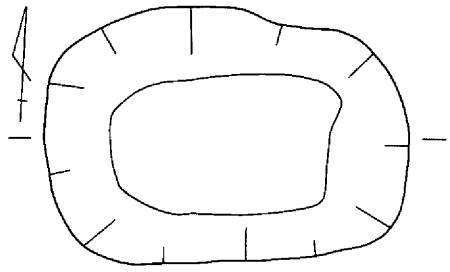
土壌-535 (第812図)

平面形は方形を呈し、断面は箱形である。大きさは、長径130cm、短径122cm、深さ45cmを測る。

(正岡)



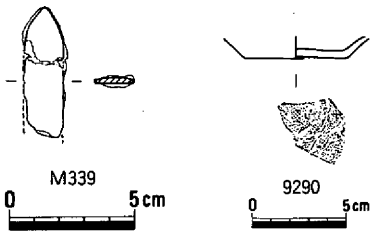
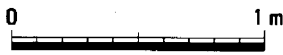
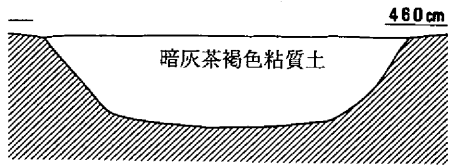
第812図 土壌-533~535(1/30)



土壇-536 (第813図)

平面形は東西に長い隅丸長方形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長径145cm、短径101cm、深さ36cmを測る。埋土中からM339と土師器の皿片9290が出土している。

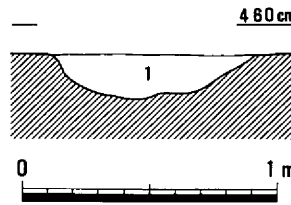
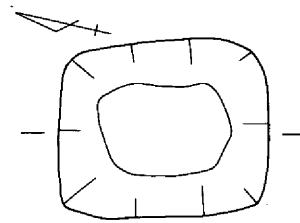
(正岡)



第813図 土壇-536(1/30)
・出土遺物

土壇-537 (第814図)

平面形は隅丸長方形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長径83cm、短径70cm、深さ18cmを測る。(正岡)



1 暗灰青褐色粘質土
第814図 土壇-537(1/30)

は、長径83cm、短径70cm、深さ18cmを測る。(正岡)

土壇-538 (第815図)

平面形は隅丸長方形を呈し、断面は椀形である。大きさは、長径129cm、短径100cm、深さ41cmを測る。(正岡)

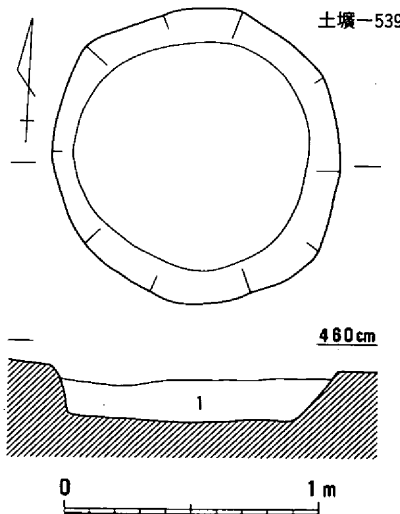
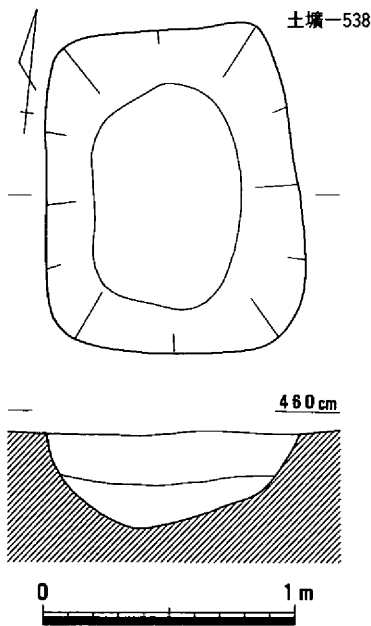
土壇-539 (第815図)

平面形は円形を呈し、断面は箱形である。大きさは、長径117cm、短径114cm、深さ22cmを測る。

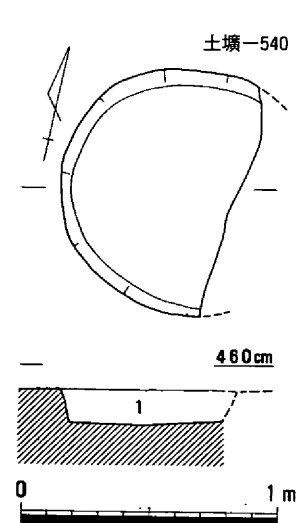
(正岡)

土壇-540 (第815図)

平面形は円形を呈し、断面は箱形である。大きさは、長径97cm、現存短径79cm、深さ19cmを測る。(正岡)

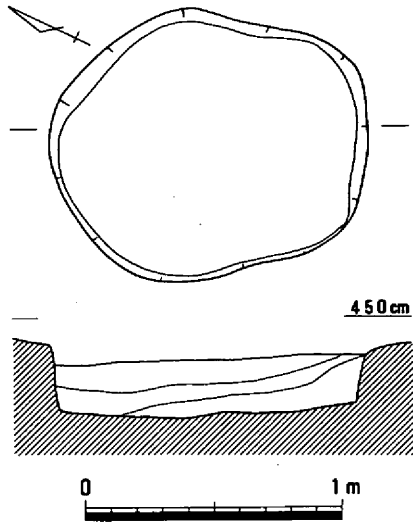


1 暗黄茶灰色粘質微砂

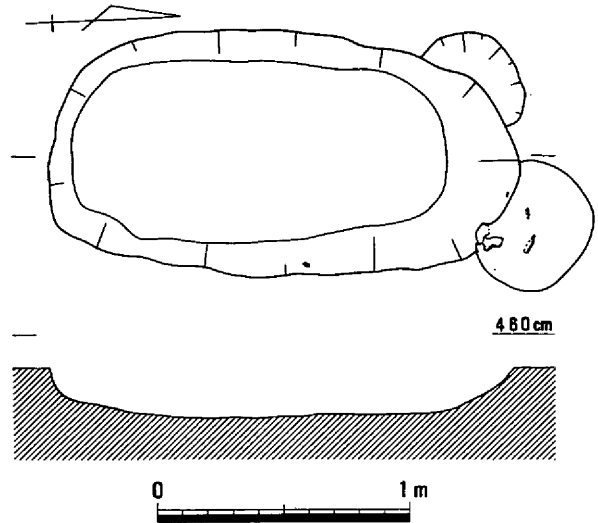


1 灰茶褐色粘質土

第815図 土壇-538~540(1/30)



第816図 土壌-541(1/30)



第817図 土壌-542(1/30)

土壌-541 (第816図)

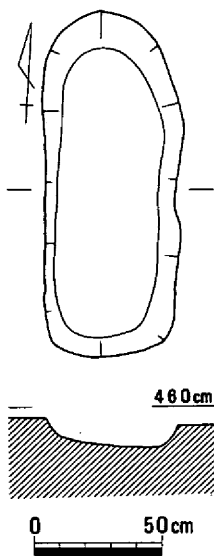
平面形はやや歪な円形を呈し、断面は箱形である。大きさは、長径123cm、短径110cm、深さ29cmを測る。(正岡)

土壌-542 (第817図)

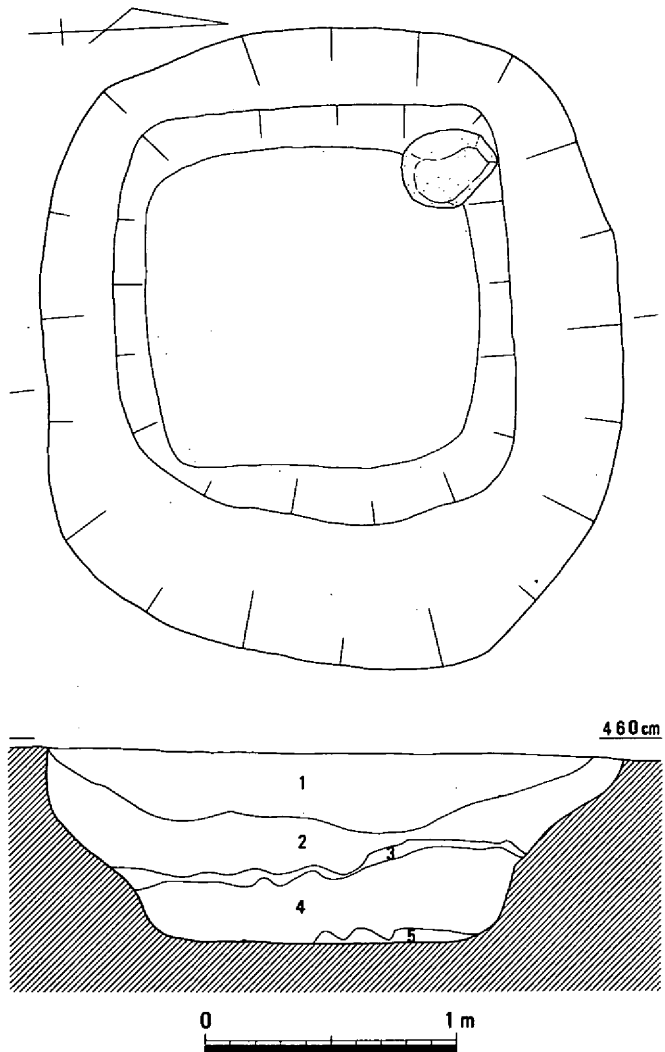
平面形は南北方向に長い楕円形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長径108cm、短径51cm、深さ12mを測る。(正岡)

土壌-543 (第818図)

平面形は楕円形を呈し、断面は皿形で

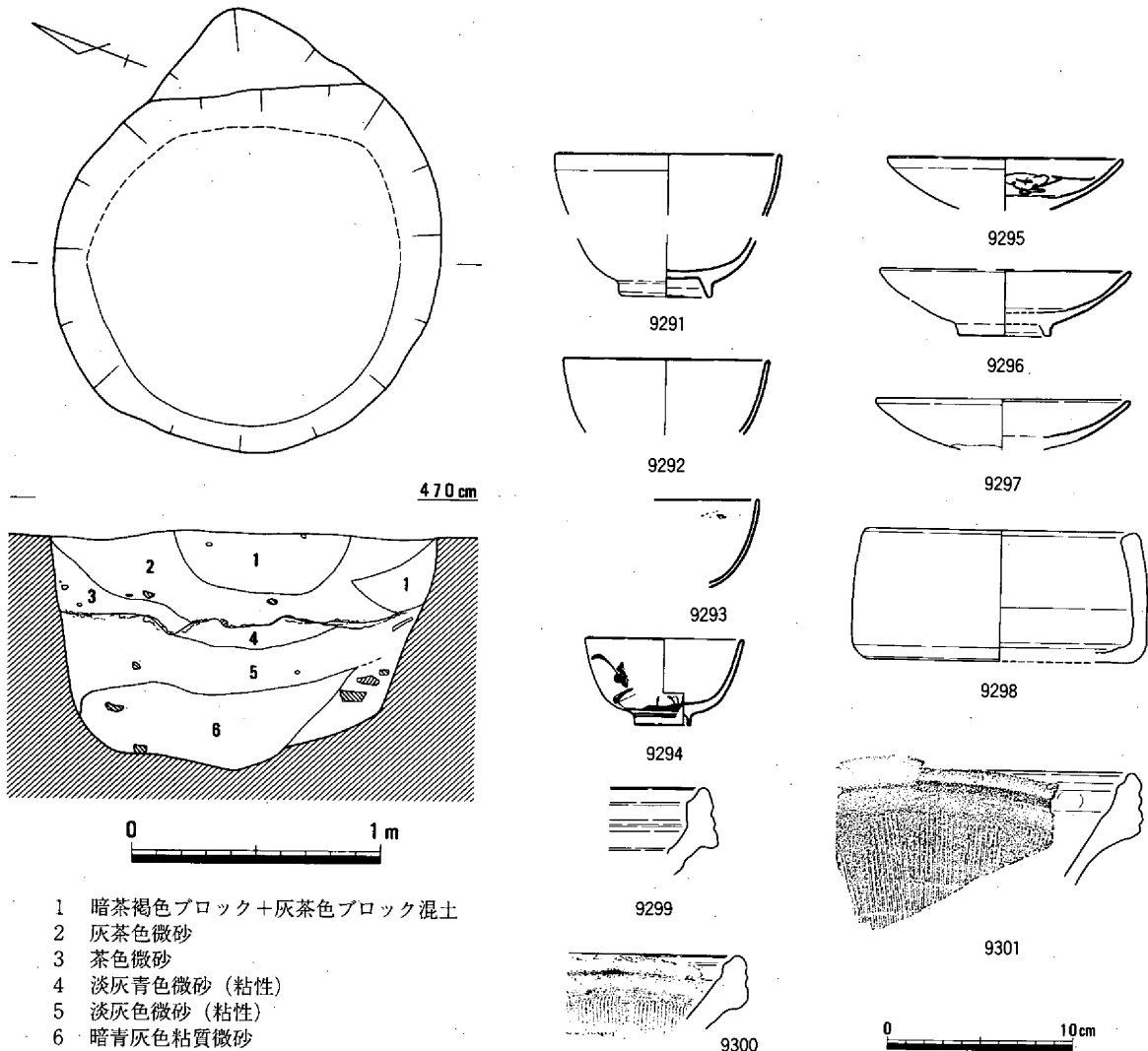


第818図 土壌-543(1/30)



- | | |
|--------------|------------|
| 1 明茶灰黒褐色粗粘質土 | 4 淡茶灰黄色粘質土 |
| 2 明茶灰黒褐色粘質土 | 5 暗黒灰色粘質微砂 |
| 3 暗黄茶灰色粘質微砂 | |

第819図 土壌-544(1/30)



第820図 土壌-545(1/30)・出土遺物

ある。大きさは、長径108cm、短径51cm、深さ12cmを測る。(正岡)
土壌-544 (第819図)

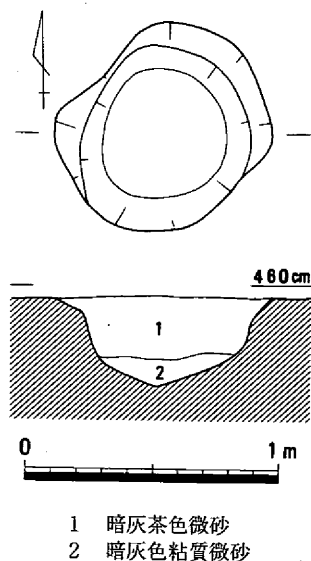
上端の平面形は不整形円形を呈するが、下部の平面形は隅丸方形で、断面は皿形である。大きさは、長径258cm、短径229cm、深さ77cmを測る。(正岡)

土壌-545 (第820図)

平面形は不整形円形を呈し、断面は椀形である。大きさは、長径181cm、短径156cm、深さ95cmを測る。出土遺物には、肥前陶器の碗9291、同染付碗9292~9294、同染付皿9295・9296、同皿9297、備前焼のさや9298、同播鉢9299~9301がある。(正岡)

土壌-546 (第821図)

平面形は不整形円形を呈し、断面は椀形である。大きさは、長径85cm、短径71cm、深さ35cmを測る。(正岡)



第821図 土壌-546(1/30)

第3章 調査区の概要

土壌-547 (第822図)

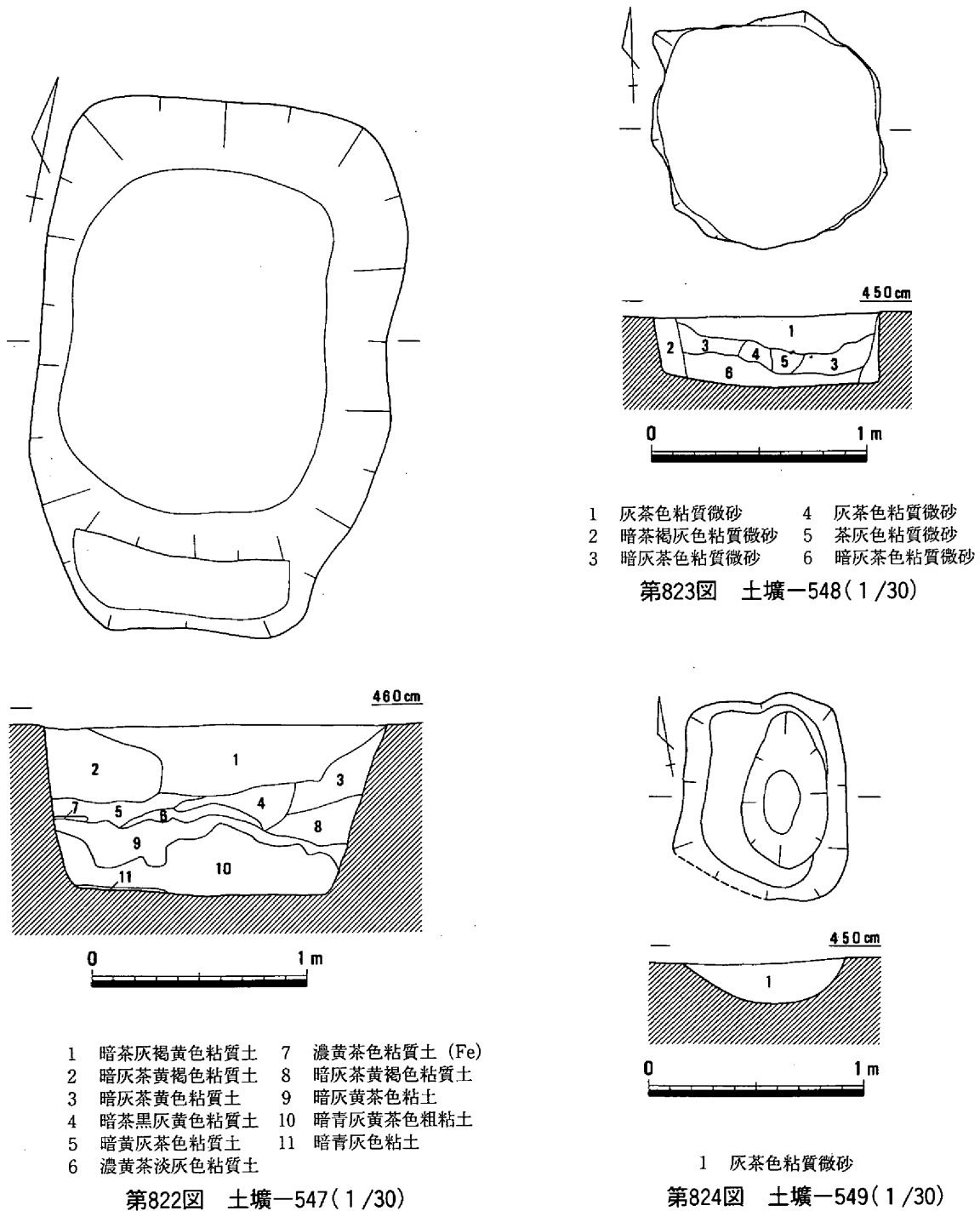
平面形は軸線を南北とする不整長方形を呈し、断面は箱形である。大きさは長径248cm、短径115cm、深さ80cmを測る。
(正岡)

土壌-548 (第823図)

平面形は不整円形を呈し、断面は皿形である。大きさは、長径136cm、短径105cm、深さ34cmを測る。
(正岡)

土壌-549 (第824図)

平面形は不整形を呈し、断面は碗形である。大きさは、長径96cm、短径78cm、深さ21cmを測る。
(正岡)

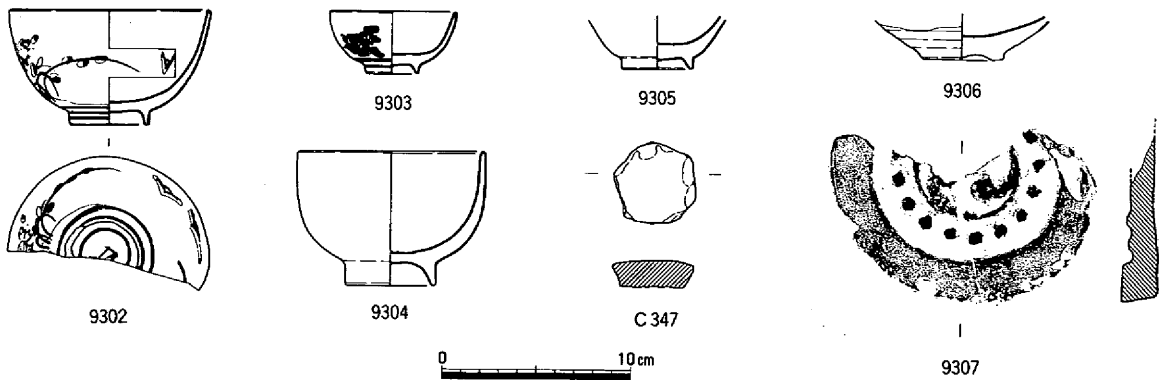
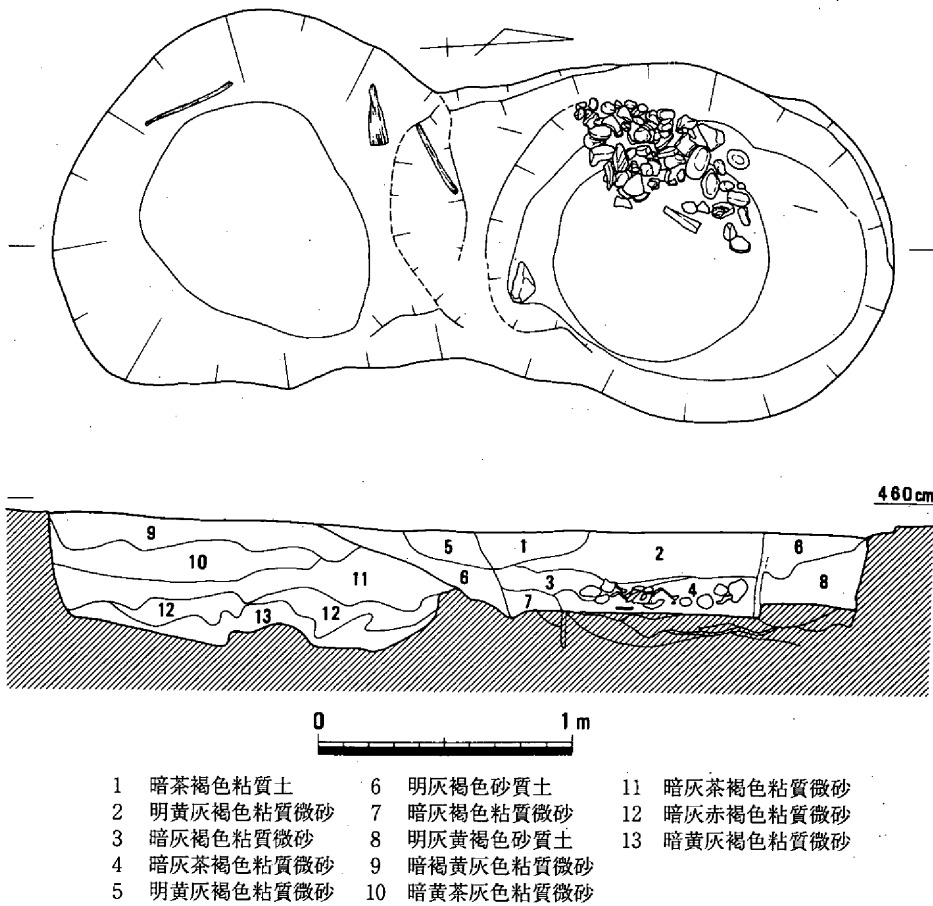


土壙-550 (第825図)

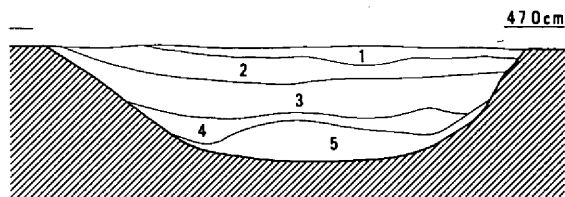
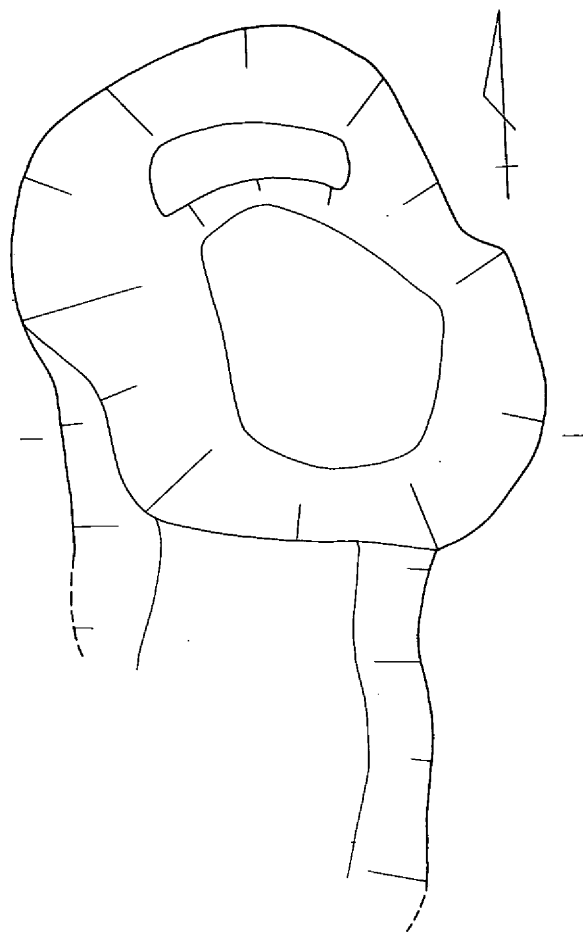
南北方向の溝-532の西側に近接した土壙2基が一部重複して南北に並ぶ。本土壙は北側のもので、平面形は不整形円形を呈し、断面は箱形である。大きさは、長径200cm、短径146cm、深さ33cmを測る。出土遺物には、肥前染付碗9302、同小杯9303、同呉器手碗9304、肥前白磁9305、肥前陶器の灰釉皿9306、軒丸瓦9307、土製円板C347がある。 (正岡)

土壙-551 (第825図)

土壙-550に北側の一部を切られている。平面形は楕円形を呈し、断面は皿形である。埋土中に木片が含まれている。大きさは、現存長径170cm、短径100cm、深さ38cmを測る。 (正岡)



第825図 土壙-550・551(1/30)・出土遺物



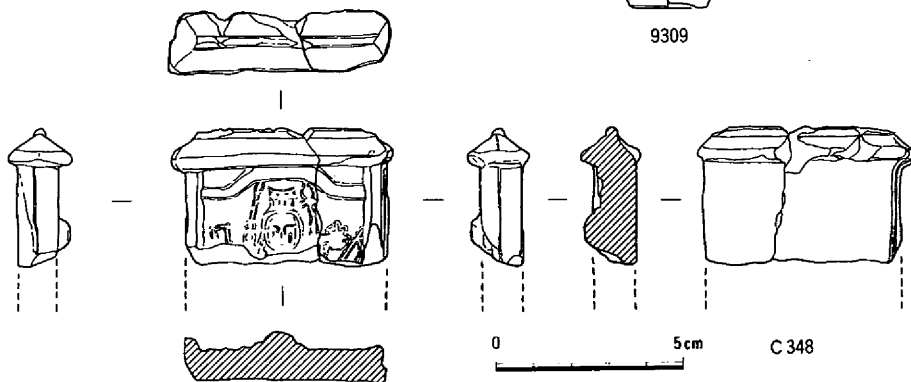
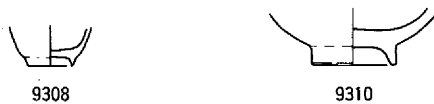
- 1 淡黄灰色微砂
- 2 淡灰色微砂
- 3 淡茶灰色微砂 (マンガン粒多く含む)
- 4 灰色微砂
- 5 淡青灰色砂

土壙-552 (第826図)

土壙-552の東1mに位置する。南端が調査区境にあたり、全容が明らかではないが、現状では、上面の長さが約420cm、幅は267cmを測る。断面形は椀形をなし、検出面からの深さは最深部で60cm、埋土5層からなる。底面の海拔高は400cmである。遺物は、肥前白磁の小杯9308、肥前陶器で砂目積みの皿9309、肥前陶器で呉器手の碗9310などの陶磁器や、土製品C348が出土している。

土製品C348は、土製仏で、像容と、弓・矢・宝珠等の持ち物から弁才天座像と考えられる。下半分が欠けており、残存する大きさは、縦が36mm、横が56mm、厚さが13mmであるが、同範と思われるものが、大阪の堺環壕都市遺跡で出土しており、完形であれば、縦は約68mmに復元できることがわかっている。表面に残る離型材の雲母や、表型と裏型の二つの型でそれぞれ作った生地を接合して成形した痕跡など、型づくり成形の技法が用いられており、伏見人形の影響を受けた土人形に類するものとみられる。

検出状況や出土遺物から時期は近世に属すると考えられる。(山本)



第826図 土壙-552(1/40)・出土遺物

土壌-553 (第827図)

調査区北寄りのO18区に所在する。南北方向に流走する溝-538に一部接しながら東へのびる溝状の土壌である。「L」字形に屈曲する溝-536と溝-537に囲まれた中に入っている。東西方向である溝-536からは1.5m程北側にあつて、主軸を平行させている。

平面形は、東と西で少し大きくて深くなり、瓢箪形を呈している。断面は椀形である。東端部については、調査区の関係で一部確認できていない。北側の肩部は崩れている。

現状での大きさは、長径432cm、短径215cm、深さ117cmを測る。

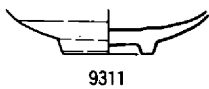
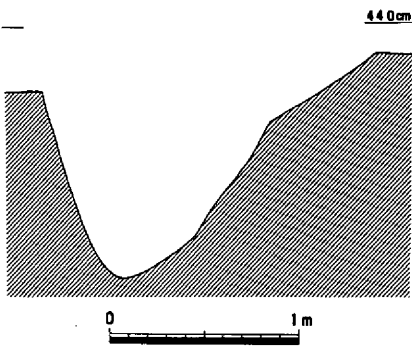
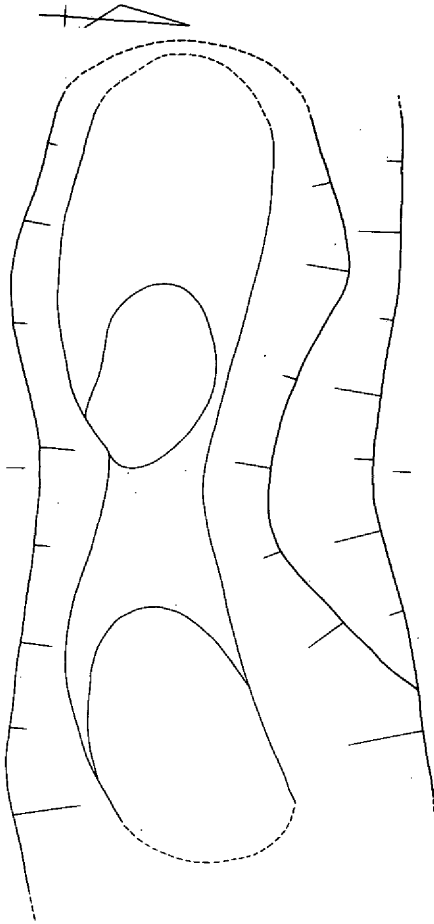
埋土中からは、陶器の皿9311、京風焼の碗9312、肥前陶磁器の碗9314が出土している。碗の高台はいずれも削り出し高台である。

土壌の時期は、出土遺物から近世のものと判断された。(正岡)

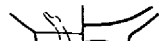
土壌-554 (第828図)

東西方向である溝-536から北へ直角に曲がる溝-537がある。溝-537へ屈曲してすぐの地点で、溝の中央部に土壌の長軸を合せて掘り込まれている。

平面形は長方形を呈し、断面は箱形である。大きさは、長径129cm、短径43cm、深さ37cmを測る。埋土中からは、肥前陶磁器の碗9314、陶器の高台9315などの破片が出土している。(正岡)



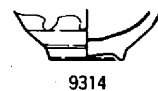
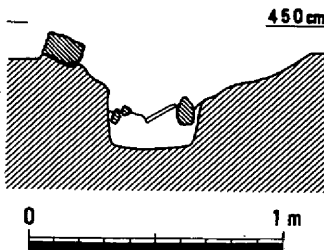
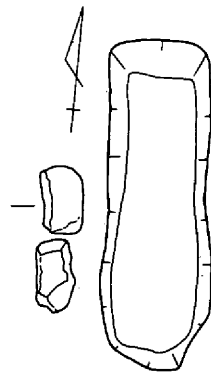
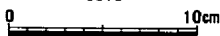
9311



9312



9313



9314



9315



第827図 土壌-553(1/40)・出土遺物

第828図 土壌-554(1/30)・出土遺物

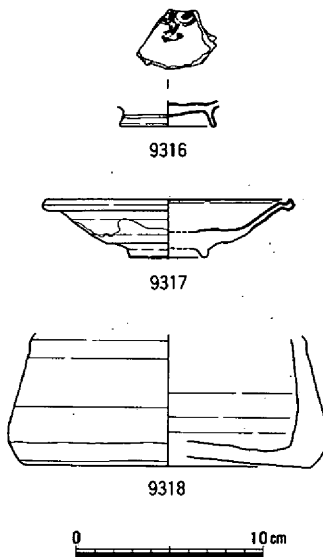
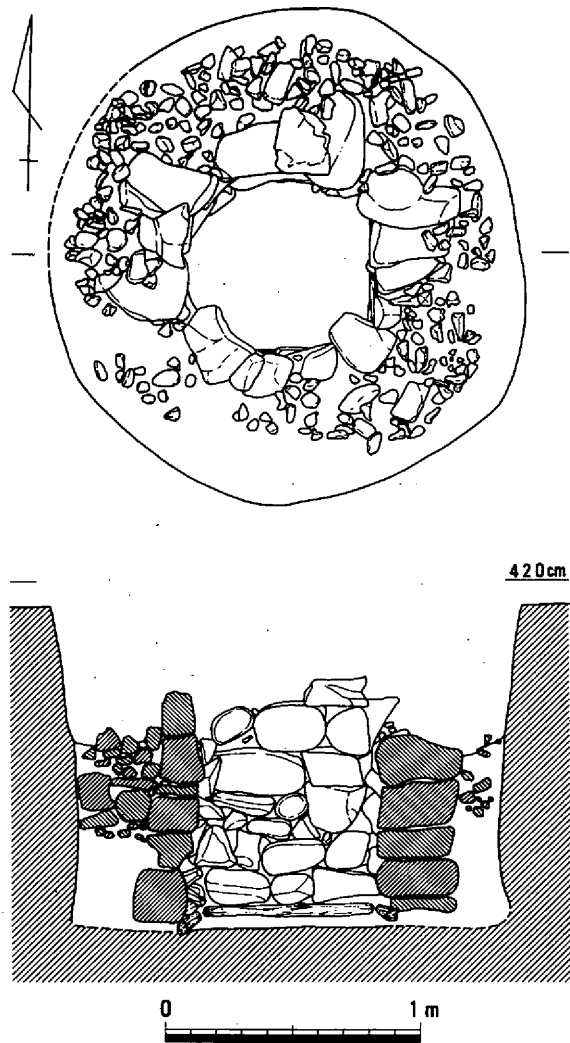
(4) 井戸

調査区の北端部には、溝で区画された中に掘立柱建物があり、近世の井戸も4基検出された。石積みのものと素掘りのものがある。いずれも建物に近接していることから、これらに関連するものと推測される。井戸に関する覆屋の遺構などは未確認であるが、何らかの施設が存在したと思われる。

土壌の中には、規模・構造の点から素掘りの井戸と区別が難しいものもある。少し掘り下げた地層が砂質土であることから、崩壊のため、下部の詳細を調査できなかったものもある。井戸の埋土中からは、かなりの遺物が出土していて、他の遺構に比べると年代の比定がやり易くなっている。 (正岡)

井戸-11 (第829図)

東西方向に長い掘立柱建物-78の東寄りの南側に位置している。西側の一部は土壌-540と重複している。上部は後に撤去されているが、下部の残存状況は良好である。掘り方は円形で、



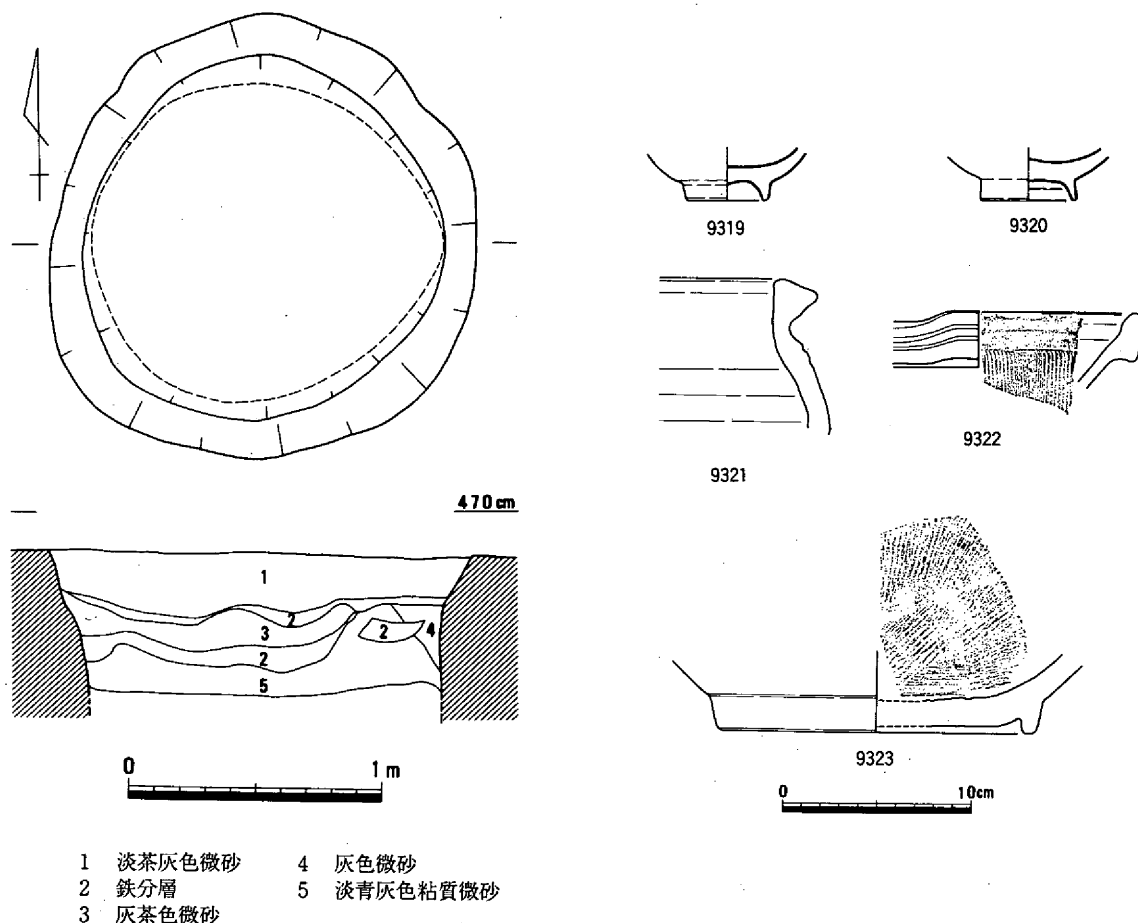
第829図 井戸-11(1/30)・出土遺物

底部に向ってわずかに傾斜しながら掘り込んでいる。検出面の大きさは、長径196cm、短径183cm、深さ128cm、底面の海拔高は282cmを測る。

掘り方のほぼ中央部に石積みの井戸が築かれている。基底部には直径10cm弱の丸太を敷き、その上に石を積み上げている。平面形は円形を呈し、ほぼ垂直に積んでいる。石材の使用方法は小口を内側にして、長く控えているものが多いが、横口を内側に向けたものもみられる。石材の大きさは、長径40cm、短径25cm、厚さ20cmくらいのもので、やや大きいもので、小さな石も使用している。裏込めには小礫を用いている。

埋土中からは、中国製陶磁器の染付碗9316、肥前陶器の灰釉皿9317、備前焼の水差し9318を出土した。染付碗は福建省からの輸入品である。

灰釉皿の年代が17世紀前半に比定されることから近世の井戸であることが確認された。(正岡)



第830図 井戸-12(1/30)・出土遺物

井戸-12 (第830図)

東西方向に長い掘立柱建物-78の西寄りの南に近接している。建物と井戸の間は1.5mくらいしか離れていない。井戸-11は7mくらい離れているが、共存したかどうか分からない。覆屋を推定させるような柱穴も検出されていない。

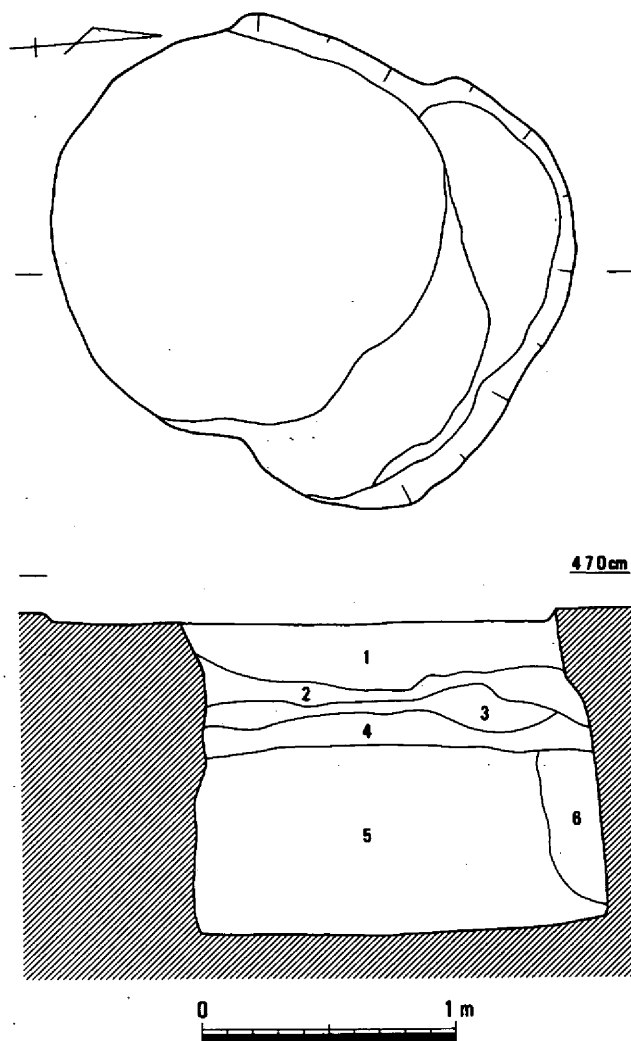
平面形は円形を呈し、急な傾きで掘り込んでいる。周辺の土が砂質土で、出水のため崩壊し、下部については調査することができなかった。したがって、素掘りの井戸と推定されるが、詳細は分らない。上層の埋土も微砂が多い。

埋土中から出土した遺物には、肥前陶器の刷毛目碗9319、同具器手碗9320、陶器の大甕9321、備前焼の播鉢9322・9323がある。備前焼の播鉢は内面にカキメを密に施すものである。9323には低い高台が付いている。

肥前陶器は17世紀後半から18世紀前半に比定されることから、井戸の時期は近世に比定される。(正岡)

井戸-13 (第831図)

調査区の北東部に位置し、南北方向の溝-534と溝-537の間にある。周辺部には多数の土壌が存在



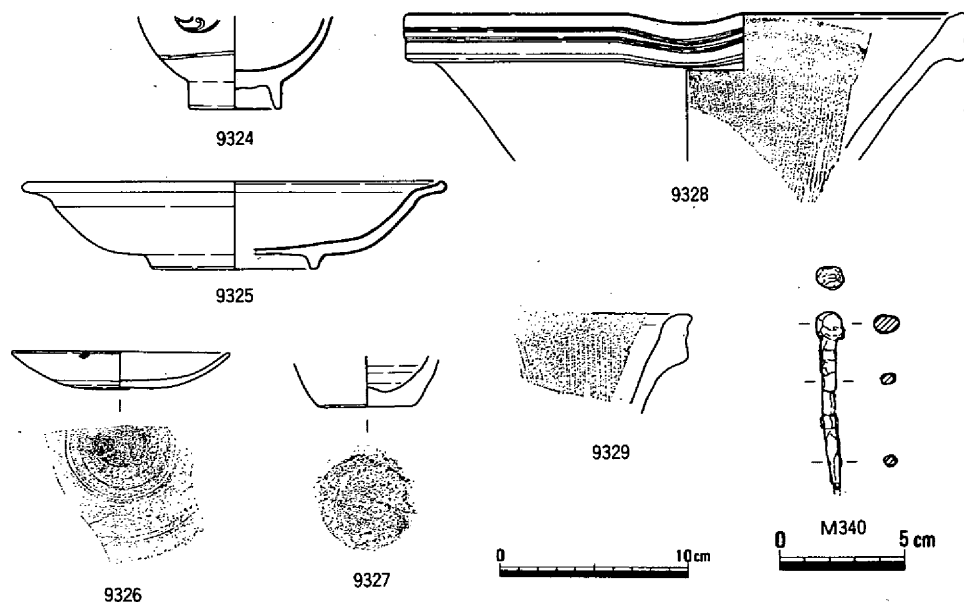
するが、関連する建物は分らない。覆屋を推定させる柱穴も検出されていない。

平面形は円形を呈するが、北側の肩部は崩れている。残存している上部の径は150 cm、深さ128 cmを測る。底部は少し広がっている。埋土はほとんどが粘質微砂で、下半部には多量の植物を含んでいる。

埋土中から出土した遺物には、肥前磁器の碗9324、肥前陶器の皿9325、備前焼の小皿9326、同壺9327、同播鉢9328・9329、鉄釘M340がある。備前焼の播鉢は内面にカキメを密に施すものである。小皿は灯明皿として使用されたものである。

肥前陶磁器は17～18世紀に比定されることから、近世の井戸であることが確認された。
(正岡)

- 1 暗茶褐灰色粘質微砂
- 2 暗灰色粘質微砂
- 3 暗灰色粘質微砂 (上層より灰色が濃い)
- 4 暗灰茶色粘質微砂 (中に根のようなもの多数含む)
- 5 暗灰色粘質微砂 (多く根のようなもの含む)
- 6 灰色粘質微砂



第831図 井戸-13(1/30)・出土遺物

(5) 溝

調査区域内には、南北方向と東西方向の溝が多数掘られている。上部は後世の耕作などで削平されているため、正確な規模は分らない。溝の数が多く、掘立柱建物と重複するものもあり、同時に存在した溝の数は少なくなる。南北方向と東西方向の溝で区画された中に掘立柱建物がまとまるものもあり、屋敷地を区画する溝と判断されるものもある。ほかに、同規模の溝が並行して走るものもあるが、これらは道路の両側に掘られた側溝と推定されるものである。(正岡)

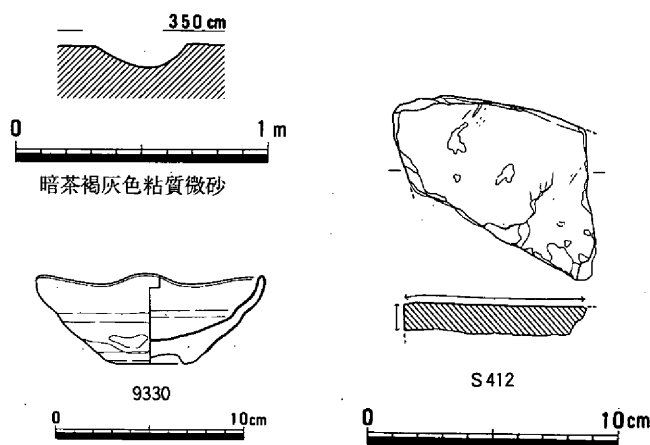
溝-529 (第832図)

調査区の北寄りにあり、掘立柱建物-73と掘立柱建物-76のほぼ中間に位置する南北方向の溝である。北側は削平によるため、消失してしまう。南へ向って傾斜し、調査範囲の南端部では、幅50cm、深さ10cmである。

埋土中からは、肥前陶器の灰釉皿9330、砥石S412が出土した。灰釉皿の年代は1590~1610年代に比定されていることから、溝の年代は近世と推定される。(正岡)

溝-530・531 (第833図)

調査区域の北寄りに位置し、南北方向に並ぶ2条の溝である。上部が削平されているため、本来の規模は明確でないが、規模が同じであることなどから、この2条の溝は同時に存在し、溝の間が道路であったと推測される。溝は側溝であろう。掘立柱建物-75・76・77とは重複しており、建物より古い時期に作られている。



第832図 溝-529(1/30)・出土遺物

い時期に作られている。

検出面では、溝の北側が浅く、幅は狭くなっていることから、南へ流れていることが分る。南寄りに設定した断面で見ると、溝-530は、幅72cm、深さ40cm、溝-531は、幅63cm、深さ25cmを測る。溝の間の幅は、180~220cmで、これより少し狭い道路と推定される。

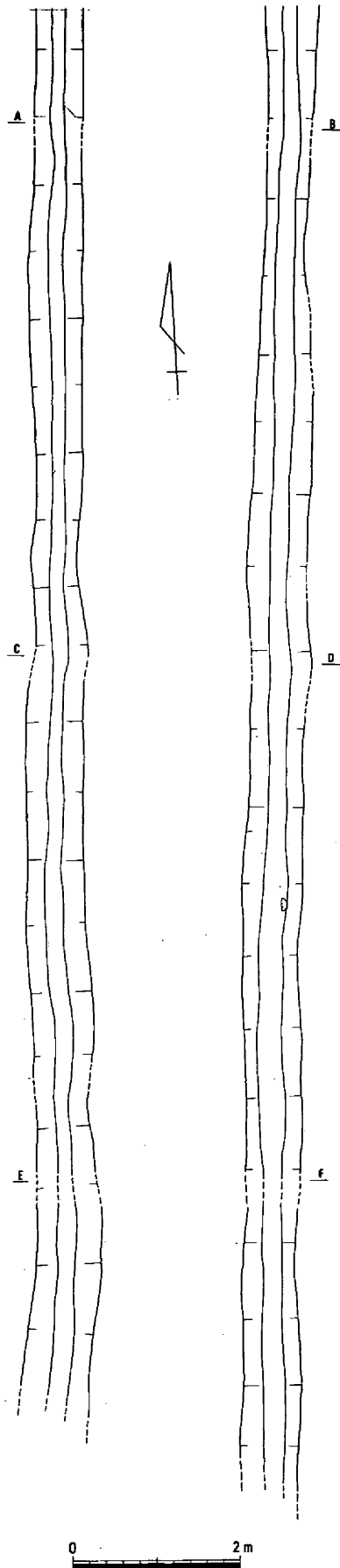
埋土をみると下部にやや粘質土が堆積し、上部は微砂で埋っている。埋土中から出土した遺物には、土師器の小皿9331、鉄釘M341・M342がある。(正岡)

溝-532・533 (第834図)

道路の側溝と推測される溝-531の東側7.5mに位置する南北方向の溝である。当初掘られていた溝が溝-533で、その後、一部重複して西寄りに掘られた溝が溝-532である。

西側に位置する掘立柱建物-77と梁の方向と一致し、柱穴と溝の肩部までの間は1.5mあり、併存していた可能性が高い。溝の東側に位置する東西方向の掘立柱建物-74・78の梁とも平行していて、建物群を区画する溝の可能性もある。この溝の東側と西側には、溝に並行する形で土壇が並んでいる。これらの穴には屋敷地内に掘られたごみ穴と考えられるものもある。

新しく掘り直された溝-532についてみると、幅100~120cm、深さ40~50cmを測る。埋土は粘質土を主体とし、断面で見ると、一度に埋め戻されたのではなく、徐々に埋没した様子が見られる。



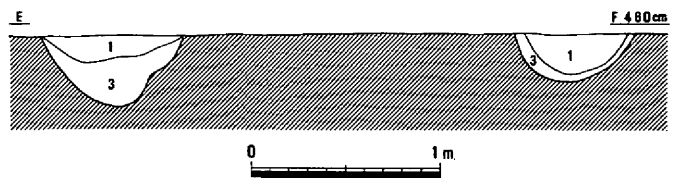
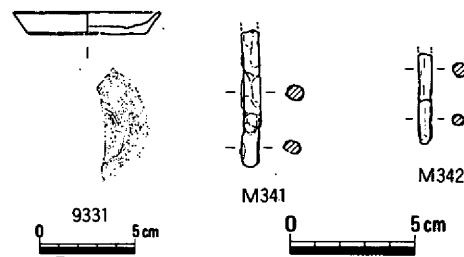
埋土中からは、備前焼の播鉢9332、鉄釘M343、2個の釘穴のある鉄板M344が出土している。鉄板は、長さ50.5mm、幅16.0mm、厚さ2.0mm、重さ4.7gである。

溝-533は西側の半分くらいを溝-532によって削られているが、方向はまったく同じである。幅も深さもほぼ同じである。埋土は灰色～黄色をおびた粘質土である。

埋土中の遺物には、肥前陶器の灰釉皿9333、同皿9334・9335・9341、同染付碗9336、同刷毛目碗9337、同碗9338、同鉄釉皿9337、備前焼の播鉢9342・9343、土鍋9344がある。

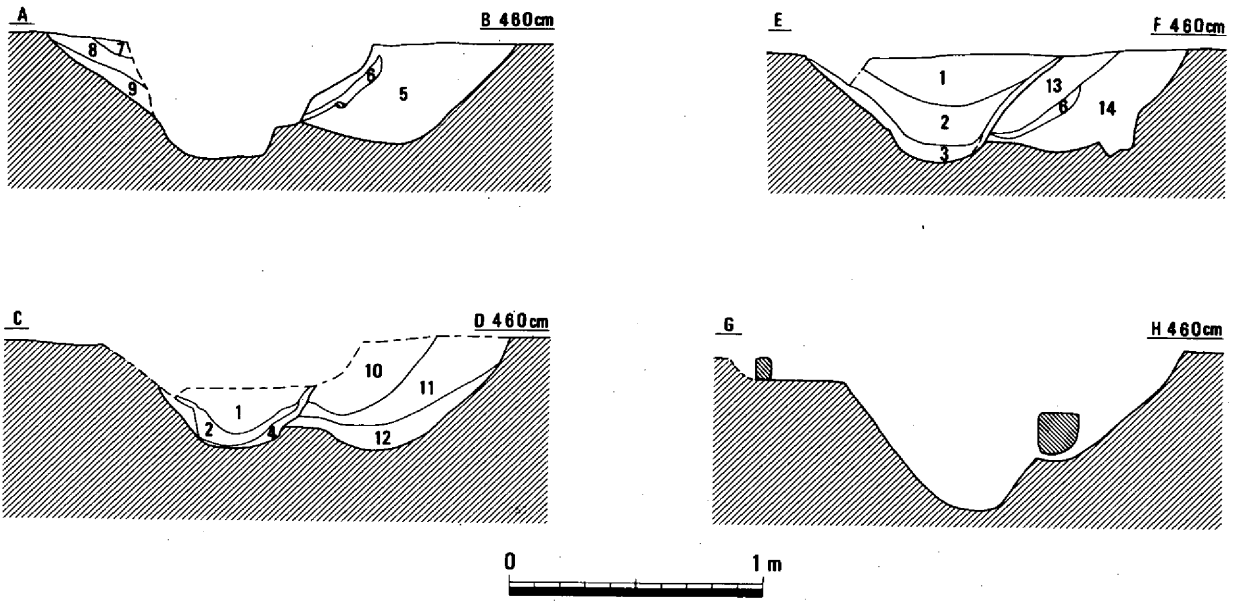
9342の播鉢のカキメは粗く交差させているが、9343の播鉢のカキメは細かく真直になっている。

肥前陶器の時期は、17世紀前半のものであり、溝の埋没は近世初期と推定される。(正岡)

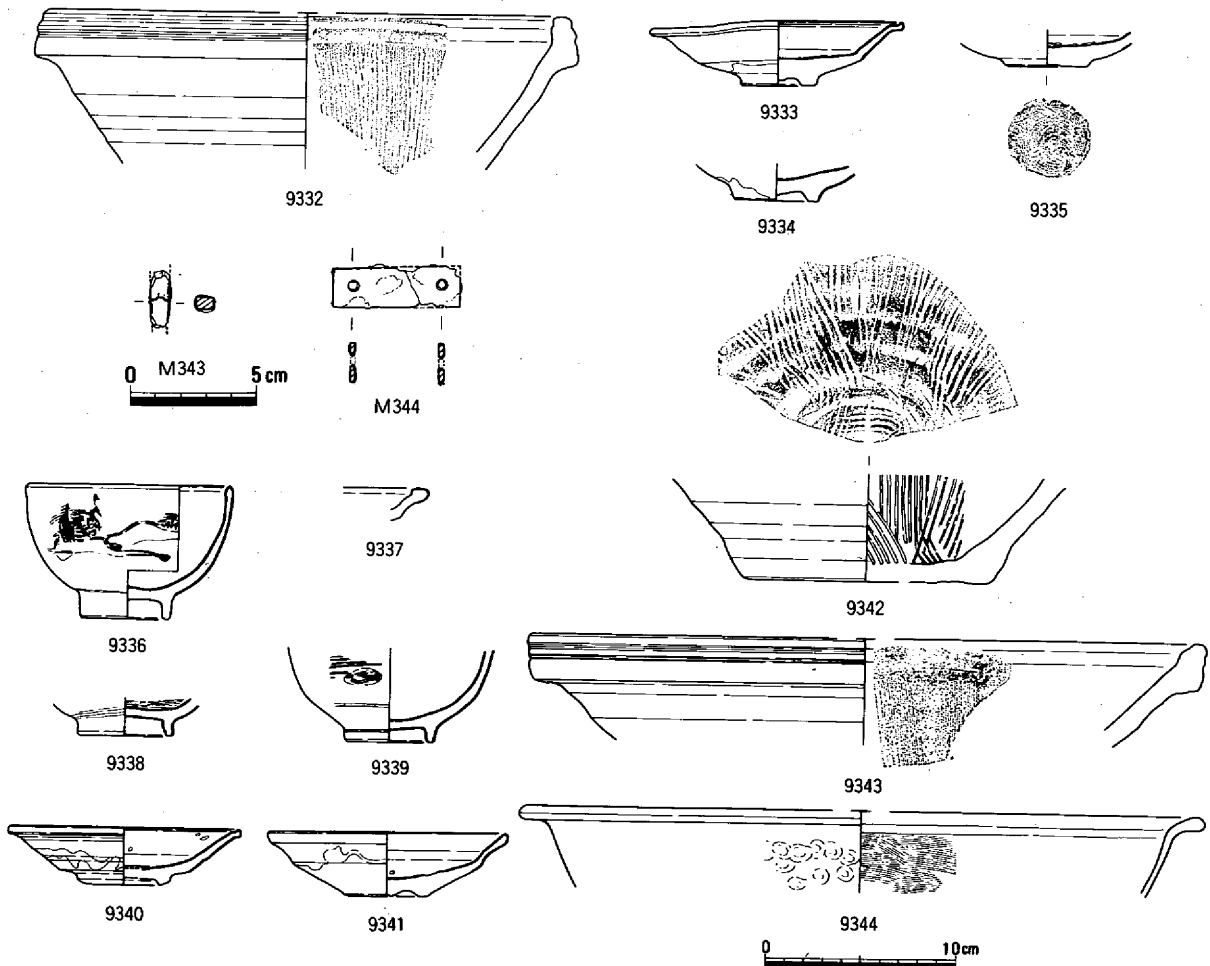


- 1 淡灰茶色微砂
- 2 茶褐色粘質微砂
- 3 淡灰茶色粘質土

第833図 溝-530・531(1/40・1/80)・出土遺物



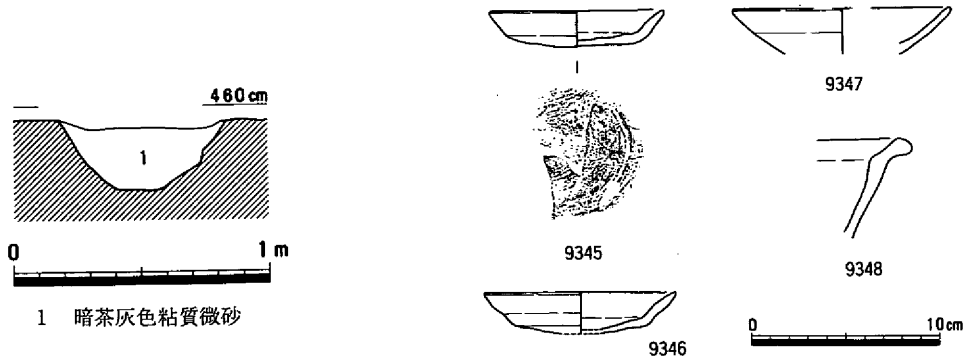
- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1 暗灰灰黄色粘質土 | 6 暗灰茶色粘質土 | 11 暗灰黄茶色粘質土 |
| 2 暗茶灰黄色粘質土 | 7 暗茶灰黄色粘質土 | 12 暗灰茶黄色粘質土 |
| 3 暗灰淡茶色粘質微砂 | 8 暗灰茶黄色粘質微砂 | 13 暗灰茶黄色粘質土 |
| 4 暗灰茶黄色粘質微砂 | 9 暗灰黄茶色微砂質土 | 14 暗灰茶色粘質土 |
| 5 暗灰茶褐色粘質土 | 10 暗茶灰黄色粘質土 | |



第834図 溝-532・533(1/30)・出土遺物

溝-534 (第835図)

溝-533の東23mに位置し、南北方向に並行して走る溝である。東西方向に長い掘立柱建物-74・78の主軸とは直交する関係にあり、併存していた可能性があり、屋敷地を区画する溝の一つと推定される。



第835図 溝-534(1/30)・出土遺物

上部は削平されているが、現存する大きさは、幅60cm、深さ30cmを測る。断面形は「U」字形を呈している。埋土は暗茶灰色粘質微砂である。

埋土中からは、土師器の小皿9345・9346、備前焼の碗9347、土鍋9348がある。9345の小皿の底部には、糸切りの痕が残っている。9348の土鍋の外面には煤が付着した状態で残っている。(正岡)

溝-535

O17・18区の中央南側を東西に走る溝である。近世、近代の土取りにより被害を受けており、残りは良好ではない。東西直線で約14.4mをはかり、東端は18世紀前半期埋没の溝-536・537により切られ、南北溝-534を切って所在する。幅2.5m、深さ16~39cmをはかり、溝内で完結する土壌により深さが異なっている。

この溝は、南北の溝-537より以西の溝とは直交せず、溝-538~540等の流走方向と直交するものであり、溝-538等の東側に所在する遺溝と関連すると思われる。(高畑)

溝-536 (第836図)

溝-534の東方に位置する溝で、東西方向に走る溝である。上層を直交して走る溝-538・539に切られている。西側は直角に折れ曲って北へのびる。東西方向の溝の延長線上には、西方へ直線的にのびる溝があり、屋敷地を区画する溝と判断される。

上部は削平されているが、大きさは、幅160cm、深さ20cmを測る。断面形は皿形である。埋土中には多数の遺物が含まれている。

出土遺物には、肥前陶磁器の碗9349・9356、陶器の碗9350・9352~9355・9357、白磁の杯9351、備前焼の水指9358、同さや9359、同壺9360、同播鉢9361などがある。

備前焼のさやは窯道具であるが、鉢として飼入れなどに使用したものであろう。9349・9352・9356の高台は削り出し高台である。播鉢のカキメは粗く、8本単位となっている。(正岡)

溝-537 (第837図)

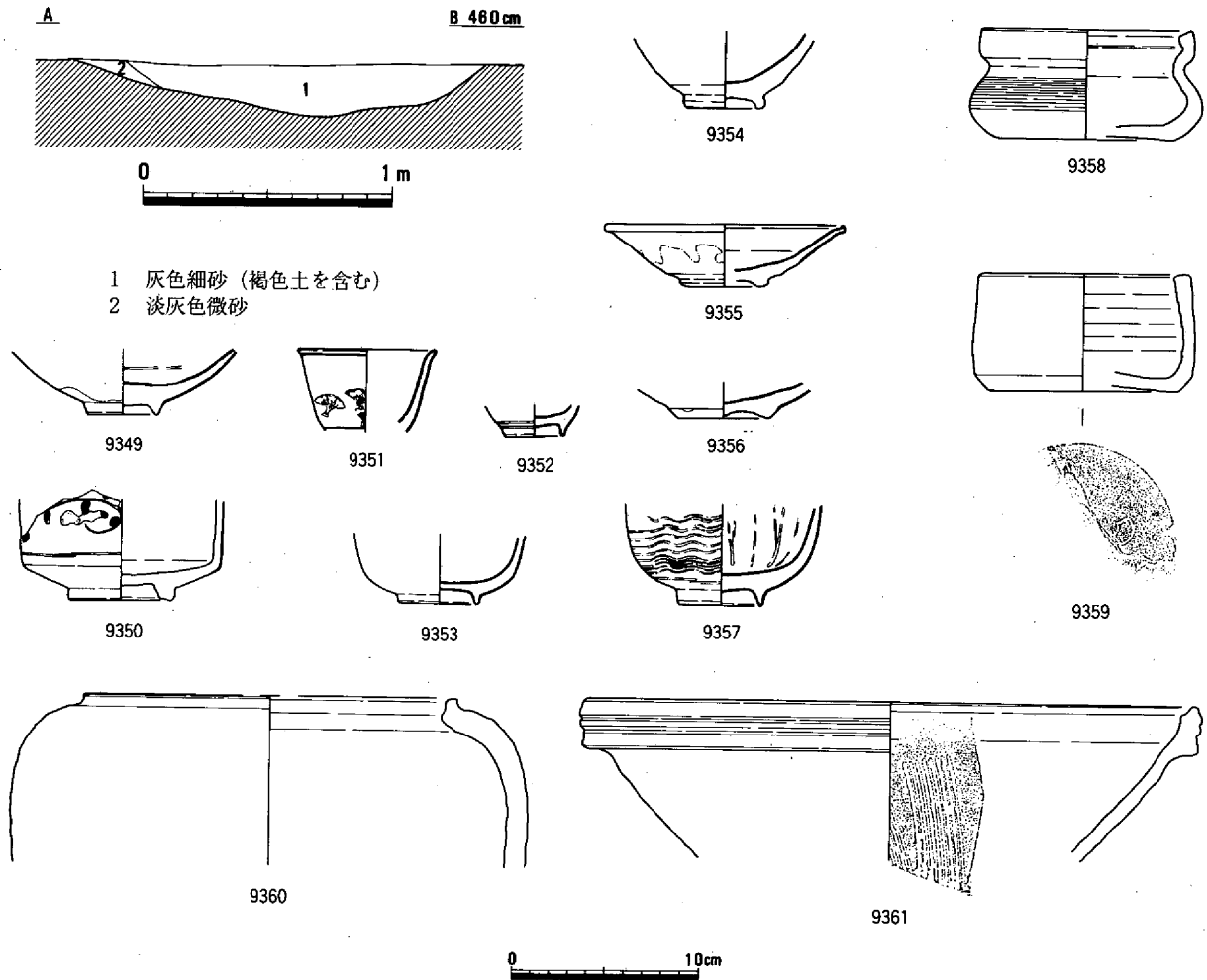
溝-536が北へ直角に折れ曲ってのびる溝であり、調査区の関係で区分されているが連続している。

埋土中からは、肥前磁器の染付碗9362・9363、備前焼の播鉢9585、中国製磁器の染付碗9365、鉄釘M345~M347、鏡片M348が出土している。備前焼の播鉢のカキメは粗く、交差している。

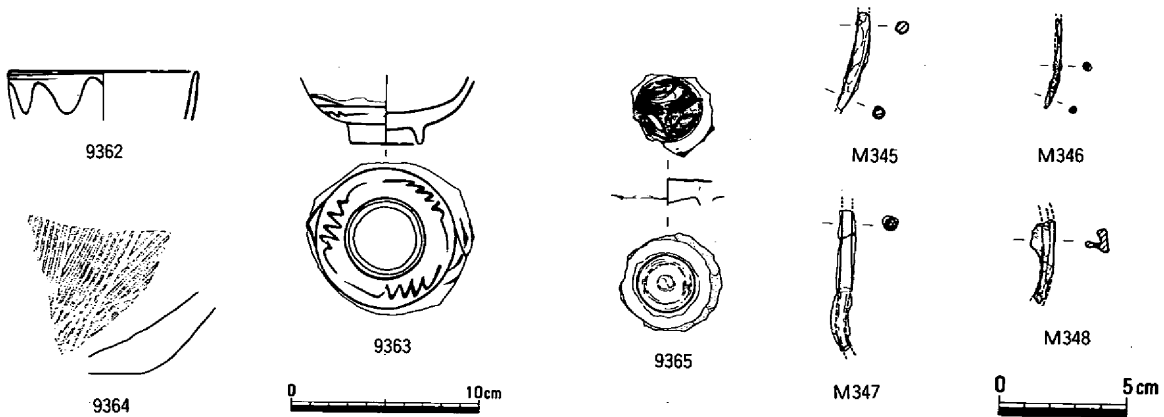
肥前磁器の染付碗の時期は、17世紀中頃のものが多く、18世紀前半までみられる。溝の埋没は近世中葉と判断される。
(正岡)

溝-538 (第838・839・841図)

調査区の北寄りに位置し、東西方向の溝-536を切って南北方向に走る。南北方向の溝は、3条が重っていて、この溝は西寄りの最上層に所在する。上部が削平されていることもあり、幅や深さは一定していない。南寄りの地点では、幅150cm、深さ50cmを測る。



第836図 溝-536 (1/30)・出土遺物



第837図 溝-537出土遺物

埋土中には多数の遺物が含まれていた。出土遺物には、備前焼の甕9366・936、7同播鉢9368～9370、肥前陶磁器の鉢9371、平瓦9373、丸瓦9374、軒丸瓦9375、陶器の蓋9376・9377、陶磁器の取手付壺9378、京風陶器の甕9379、陶器の鉢9380、肥前陶器の碗9382、青磁9383、陶磁器の底部9384・9385、肥前陶器の高台9386、京風陶器の灯明皿の台9387などがある。

備前焼の播鉢のカキメは、9368は細かく密で、9369は粗い。9384の底面には4本の沈線がみられる。9374の丸瓦には、針金を通す穴が2個ある。9375の軒丸瓦の文様は、尾が長い巴文とその周囲に珠文を16個配している。

溝の埋没時期は出土遺物から近世に比定される。(正岡)

溝-539 (第838・840図)

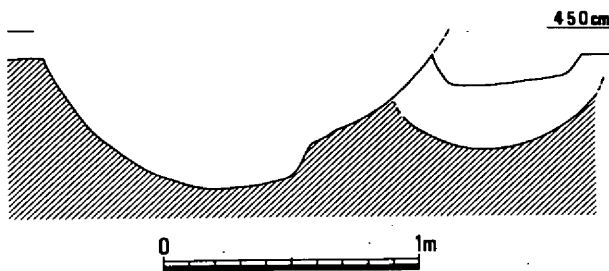
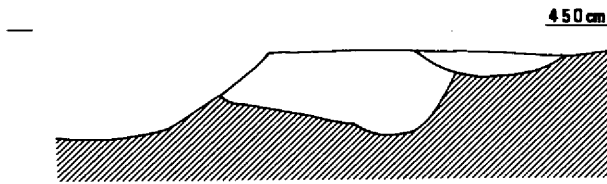
溝-538の東側に平行して流れるもので、北寄りの一部を除いて、南側は溝-538によって切られている。上部を削られているが、他の溝に比べて幅も狭くて浅い。南寄りの地点では、幅60cm、深さ10cmを測る。(正岡)

溝-540 (第838図)

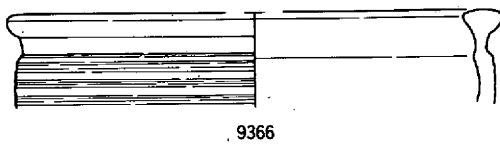
重なった3条の溝のうちで、最も古いものである。溝-538・539によって両肩部が削られていて、大きさは明確でない。南寄りの地点では、深さ40cmくらいである。

埋土中から実測できるような遺物は検出されなかった。

これら3条の近世溝は、本遺跡の最も新しい段階に入る溝である。18世紀前半期に埋没したと考えられる溝-536を切り、540→539→538の順序で作られている。これらの溝の流走方向は、若干南東に方向が振れており、ここより西側に所在する南北溝とは趣を異にしている。ここより東側に所在し、新しい傾向を示す溝方向に一致している。南流をし、110m付近で溝-70に合流する格好となる。(正岡・高畑)



第838図 溝-538・539・540(1/30)



9366



9367

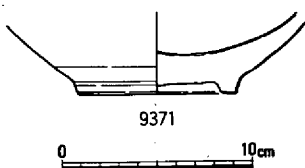


9368

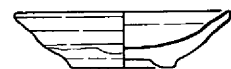


9369

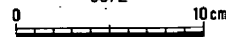
9370



9371

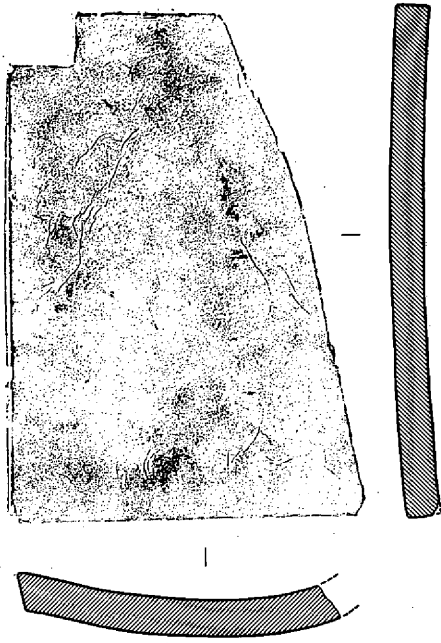


9372



第839図 溝-538出土遺物(1)

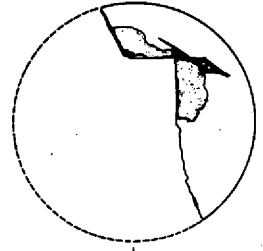
第840図 溝-539出土遺物



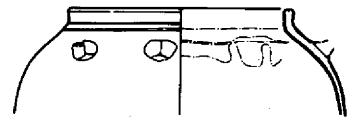
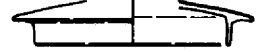
9373



9376



9377



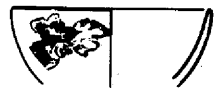
9378



9379



9380



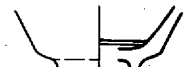
9381



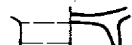
9382



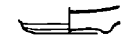
9383



9384



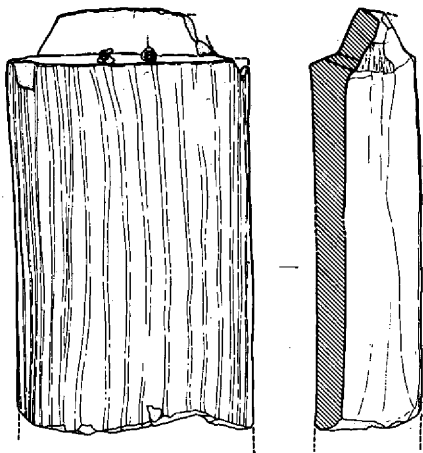
9385



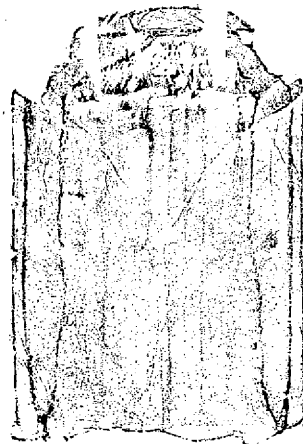
9386



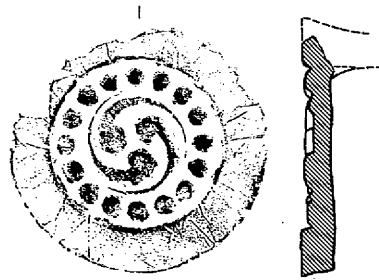
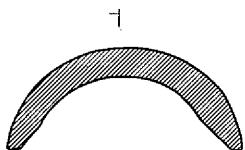
9387



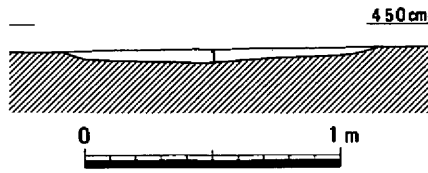
9374



9375

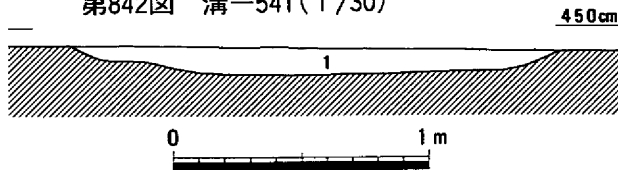


第841図 清-538出土遺物(2)



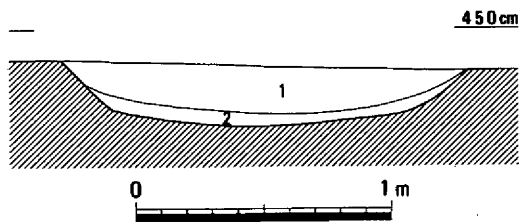
1 灰褐色砂質土

第842図 溝-541(1/30)



1 灰褐色砂質土

第843図 溝-542(1/30)



1 灰褐色砂質土 2 暗灰褐色土

第844図 溝-543(1/30)

溝-543 (第844図)

中屋調査区の北西部分に検出した溝だが、前述した2条の溝とは直交する東西方面を示していた。検出面での最大幅は約1.50mを測るが、部分的に幅が狭くなって跡切れた状態を呈する地点も認められた。検出面からの深さは約23cmで、断面形は皿形になっていた。溝の内部には灰褐色砂質土と暗灰褐色土が堆積していたが、遺物は確認できなかった。(福田)

溝-544・545 (第845図)

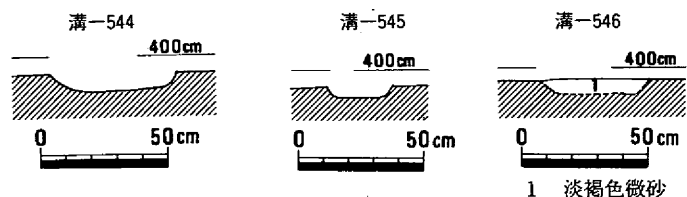
調査区のほぼ南端に位置する。溝-544は南南東から北北西にかけて約4mにわたって検出され、幅は約50cm、深さは約5cmを測る。これにほぼ直交する溝-545は544よりもやや規模が小さく、幅24cm、深さ3cm程度である。両者とも耕作に関連する溝であろう。遺物が出土していないためはっきりした時期は不明であるが、おおよそ近世に入るものと考えられる。(清水)

溝-546 (第845図)

調査区の南西隅に位置する。ほぼ東西にわたって4m検出された。溝-545につながる溝と考えられる。遺物は出土していないが近世段階の耕作に関連する溝であろう。(清水)

(6) 遺構に伴わない遺物

9388~9392は肥前産の陶器皿である。9392の見込みには砂目積み痕跡が4か所残る。9393は磁器の碗で、口縁内側には一条の圈線が巡る。



第845図 溝-544~546(1/30)

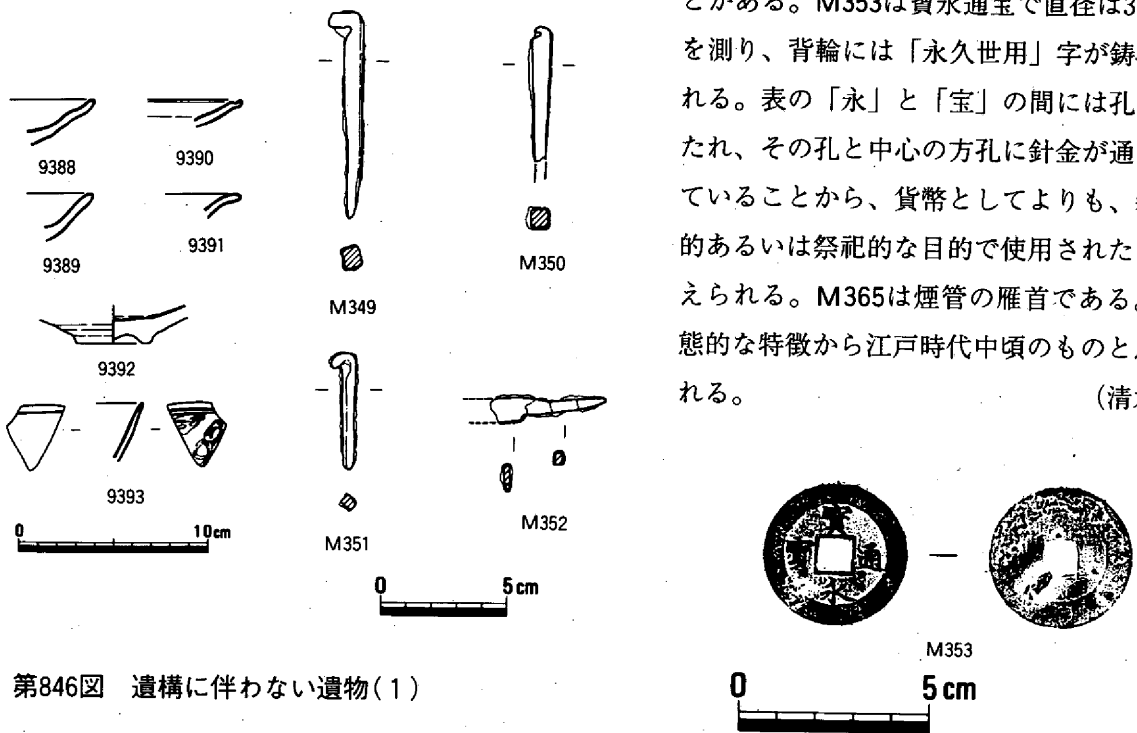
溝-541 (第842図)

中屋調査区の北西部分で検出した溝で、検出面からの深さは約5cmを測り、断面形は浅い皿形を呈していた。溝の内部には灰褐色砂質土が堆積していたが、遺物は何も確認できなかった。この溝は、後述する溝-542よりも幅が狭く、南北方向を示していた。(福田)

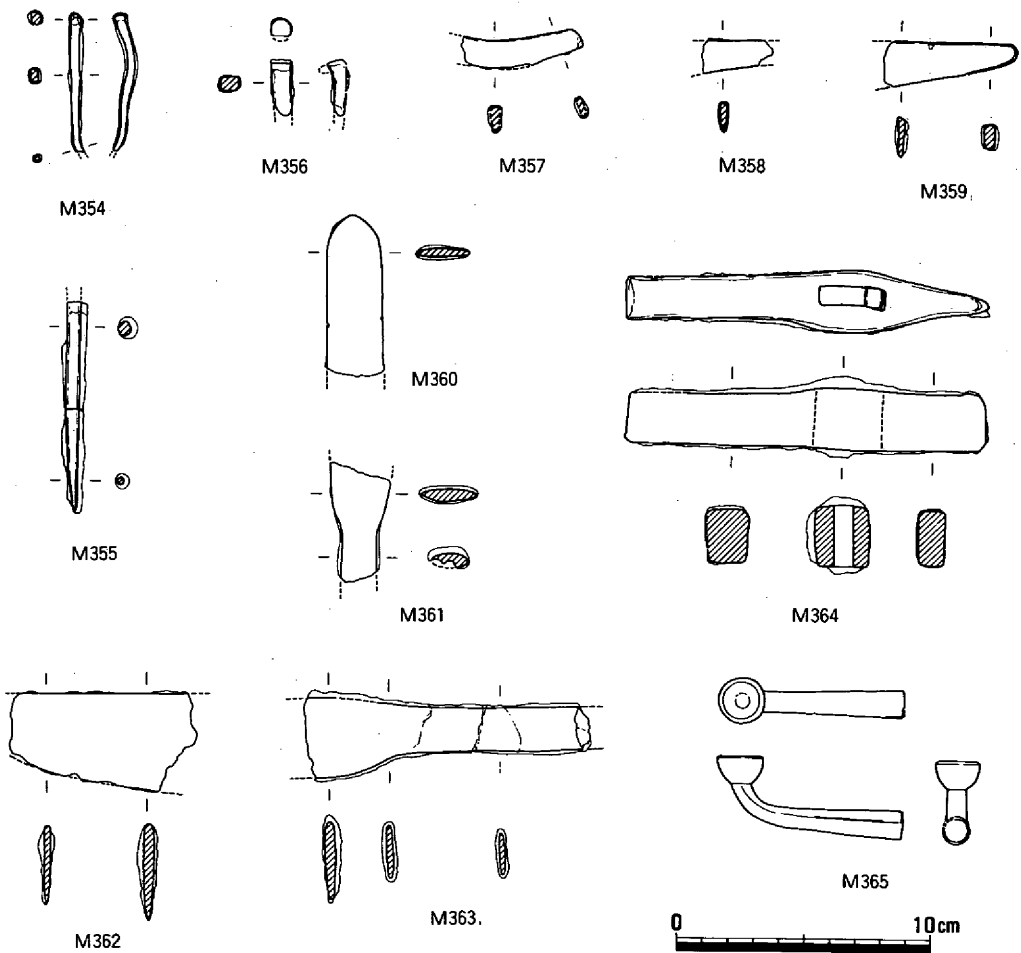
溝-542 (第843図)

この溝も中屋調査区の北西部分に存在したもので、溝-541と平行して南北方向になっていた。この溝の検出面での幅は1.80~2.50mを測り、北側よりも南側の幅が広がっていた。検出面からの深さは約12cmで、断面形は浅い皿形を呈していた。西側に面する溝の法面は、緩やかに屈曲していた。溝の内部には灰褐色砂質土が堆積していたが、精査したにもかかわらず遺物は存在しなかった。(福田)

金属器には銭・釘・刀子・金槌・煙管などがある。M353は寶永通宝で直径は3.7cmを測り、背輪には「永久世用」字が鑄込まれる。表の「永」と「宝」の間には孔が穿たれ、その孔と中心の方孔に針金が通されていることから、貨幣としてよりも、装飾的あるいは祭祀的な目的で使用されたと考えられる。M365は煙管の雁首である。形態的な特徴から江戸時代中頃のものと思われる。(清水)



第846図 遺構に伴わない遺物(1)



第847図 遺構に伴わない遺物(2)

第8節 まとめ

弥生時代

調査区内では弥・中・Ⅲから弥・後・Ⅳまでの竪穴住居が所在し、総数21軒を数える。弥・中・Ⅲから弥・後・Ⅱでは各期4～5軒の竪穴住居が南北にまとまって分布しており、弥・後・Ⅱでは4棟の掘立柱建物が出現している。それ以前の弥・中・Ⅲから弥・後・Ⅰでは袋状土壙67基が調査区西側、南北にまとまって分布している。弥・後・Ⅲでは竪穴住居が減少し、1軒のみとなっており、他の時期の住居にあまり見られなかった廃棄に伴う行為が認められる。柱根の抜き取り後に、器台に転用されたであろう長頸壺の口縁部を柱穴に埋納をしている。楯築弥生墳丘墓とほぼ同時期であり、興味ある行為である。

弥・後・Ⅲまでの住居平面は円形、隅丸方形であり、主柱穴4本、中央穴1が通常のものである。それ以外では柱穴6本が1軒、中央穴の無いものが3軒認められる。

弥・後・Ⅳでは3軒の竪穴住居がみられ、隅部が少し丸いが方形に近い平面形を呈し、主柱穴4本、中央穴1、高床部・土壙等の付設されるものが現われている。弥・中・Ⅲの集落は東西に広く散布状況を呈するが、他の時期と同様に南北の方向に集落単位を形成する可能性が考えられる。

埋葬施設は土器棺墓が4基出土しており、小児棺と考えられる。これらの分布は弥・後・Ⅰの竪穴住居がまとまるすぐ近くに存在する。他の時期の墓は調査区内では発見されていない。

遺物は弥・後・Ⅰの袋状土壙に投棄された土器類が最も多い。5933のような北部九州から搬入された可能性のある甕が出土しており、弥生時代中期末から後期初頭にかけてのものと考えられる。同時期のもので袋状土壙-116から出土した5524があり、壺の胴部に鹿、鳥等の動物が線刻されており、当時の生活をかいま見ることができる。分銅形土製品、紡錘車等も出土している。また、石器の材料としてのサヌカイトは、香川県坂出市の金山から産出するものである。(高畑)

古墳時代前期

調査区の全域に竪穴住居が分布しており、重複する住居を含めると総数107軒以上を数える。弥生時代後期末の3軒から、古・前・Ⅰの古相で11軒、古・前・Ⅰの中相で10軒、古・前・Ⅰの新相で21軒、古・前・Ⅰ～Ⅱが21軒、古・前・Ⅱが10軒と竪穴住居数が変化しており、最終段階は度重なる洪水により廃絶を迎えたものと考えられる。それらの分布は同時期の竪穴住居が1か所にまとまる状況ではなく、ほぼ全域を占有して分布しており、弥生時代の竪穴住居の在り方とは異なる感じを受ける。

おおまかに眺めると、調査区北側に所在する竪穴住居で南東に出入口(高床開口部)を設けるものと、南側Pf線上付近の竪穴住居で南西に出入口(高床開口部)を設けているものに分けることが可能である。これ以外のものもみられるが、おおむね同一方向が意識されており、それらの方向は、古・前・Ⅰから古・前・Ⅱにかけて踏襲されているようである。また、南端部では南東に出入口(高床開口部)を向けるものが多くなっている。現段階では、この方向の違いによりまとまりを判別する程度であるが、まとまりの中にあっても5軒から6軒の切り合い関係が認められる。

竪穴住居の平面形は方形、長方形、台形、不整形に分けられ、方形は大規模なものに多くみられ、長方形、台形は中・小規模なものにみられる。主柱穴の数は107軒中、2本柱が21軒、4本柱が41軒、主柱穴のないもの19軒、不明のもの26軒であり、4本柱が多く、2本柱とか主柱穴のない竪穴住居は

中・小規模である。また、高床部は58軒の半数以上の竪穴住居に付設されており、方形土壇、中央穴・焼土面もしかりである。

特筆すべきものに、柵に囲まれた掘立柱建物-54が所在する。調査区北側に所在する竪穴住居群内に位置する。柱穴掘り方は「布掘」であり、長さ875cm、幅98cm、深さ50～70cmの溝状土壇を設けている。建物規模は桁行817cm、梁間522cmをはかり、4×1間である。古墳時代初頭段階で建築されており、古・前・Iの中相段階の竪穴住居によって切られている。集落内における特殊な役割を担う構造物であったことが考えられる。

他では調査区の西端部に南流する溝が一条と南端の竪穴住居-304、306のすぐ近くに土器棺墓2基がある。両者の距離は、弥生時代の竪穴住居と土器棺墓の距離よりさらに短くなっている。

遺物は竪穴住居内に投棄された土器の類が最も多く、なかには東海、畿内、山陰、讃岐、九州地域から搬入された土器がみられる。土器の投棄は鏡M236、M271の出土した竪穴住居-218、310等に多くみられ、古・前・IIの竪穴住居-218では200個体以上におよんでいる。また、全体では管状の土錘、金属器、砥石、製塩土器等が多くみられ、鉄製品が目立っている。(高畑)

古墳時代後期

今回報告分の古墳時代後期の遺跡としては、竪穴住居33軒、掘立柱建物1棟、土壇1基、溝6条が検出された。これらの遺構は、おおむね5世紀後半～6世紀初頭と6世紀後半～7世紀初頭の時期に大別できる。遺構は、大きく2時期のものであったが、これらの前後の時期の遺構が確認されておらず、継続的な状況は認められなかった。

5世紀後半～6世紀初頭の遺構は、竪穴住居が15軒検出されている。この竪穴住居には、やや時期が不安定なものも含まれるが大きく3地点に集中して存在している状況が認められる。1地点には、6軒前後の竪穴住居が存在しているが、切り合っているものもあり、一時期では3～4軒が単位となっていた可能性もある。竪穴住居は、大きさ、形態、柱穴、カマドの位置など若干のばらつきは認められるものの、従来からの知見を大きく逸脱する状況ではなかった。また、竪穴住居以外の遺構としては土壇が1基確認されただけで、竪穴住居の検出数に比して非常に少なかった。

これらの遺構の中では、竪穴住居-324の出土遺物が特筆すべき状況を示していた。竪穴住居の廃絶後に一括廃棄された遺物で、土師器と他に各種の須恵器が多量に検出された。特に、須恵器の中には4個体の大型器台を含んでいた。この4個体の器台の内8164～8166の器台は、その形態および調整の特徴は愛媛県伊豫市の市場南組窯址出土の器台と酷似している。おそらく8164～8166の器台は、市場南組窯址で生産されたものと考えられ、搬入等の経緯については多くの問題が内包されている。

竪穴住居15軒の時期については、おおむねTK23～TK47型式と考えられるが、竪穴住居-324はこの中でもやや古相の状況を示している。

次に6世紀後半から7世紀初頭の遺構は、竪穴住居18軒、掘立柱建物1棟、溝6条が検出されている。竪穴住居は、調査区の北側部に集中して存在している。これは、5世紀代の竪穴住居が3地点に分離していた状況と異にする。1地点に集中した竪穴住居は、溝-472・473を挟んで両側に位置しており、溝は竪穴住居の構成単位を画している可能性も考えられる。竪穴住居の大きさ、形態、柱穴、カマドの位置などについても5世紀代の竪穴住居と同様に通常認められるものであった。しかし、竪穴住居の主軸については一定方向に集中する傾向が認められ、集落の構成およびその位置については、ある一定の規制が存在していたものと考えられる。(中野)

古 代

調査区の中央、微高地高所には長方形区画溝が2重に巡っており、外溝の中心から中心までの距離は南北123.80m、南西93.50~94.00m、面積11,606m²をはかる。区画内には植栽部を除いて13棟の掘立柱建物が確認されており、南北棟の桁、東西棟の梁方向は内外溝とともに真北と磁北の間に納まる方位を示している。その整然とした並びからは、綿密な計画の基に建築されたことがうかがえる。しかし、北辺中央部では掘立柱建物-64と柱穴列が切り合う場所がみられたり、掘立柱建物-59では同一場所に立て替えが認められることなどにより、施設機能の継続があったことが判明している。

東側に南北棟がまとまり、5×2間、4×2間、3×2間の側柱建物、北側に東西棟4×2間の側柱建物、1×1間の高楼風の建物、北西側に南北東で3×3間の総柱建物等の規模の明瞭なもの6棟が確認されている。これらの機能時期については、掘立柱建物掘り方内に遺物が少なく、奈良時代であるところまでは比定できるが、詳細な時期については区画溝内出土の遺物によらなければならない。区画溝内からは須恵器、土師器、瓦、鉄器等が出土をしている。須恵器の杯蓋、身等は美作国府の井戸ⅣA・B出土¹のものより古い形態、特徴をもっており、8世紀の第4四半期より古いことが判明している。また、杯口辺内側に施された1段の放射暗文、底部に施された螺旋暗文の形状からは、平城宮出土土器Ⅲの古段階に比定できそうであり、730~750年を前後する年代が与えられる。その時期および、それ以前に機能をしていたことがうかがえる。

この時期の軒平・丸瓦については1点も確認できておらず、平・丸瓦においても完形で残っているものはまずなく、すべては破片である。格子タタキ、平行タタキによる桶巻作りの平瓦は少なく、ほぼ奈良時代の縄タタキによる一枚作りのものが中心である。平瓦の厚さは1.43~2.9cmと統一はなく、側面の断面形態の凹面をヘラキリするものが圧倒的である。凹面は1cm²に布目が6×5・6×7・7×8・7×9・8×8・8×9・10×10条がみられ、7・8条が多い。凸面は縄タタキであり、縄目の太筋0.5cm、中筋0.35~0.45cm、細筋0.27cmが認められ、太筋が少なく、中・細筋が多い傾向がみられる。丸瓦は行基式のものではなく、すべて玉縁式のものであり、丸瓦円筒分割後の側面調整（面取り）がなされていないものが多い。おそらく、玉縁の端面を下にし、広端内側から分割する工具を玉縁先端部に押し当て、広端面に引き上げて半截したものと考えられる。丸瓦については急拵えの感を免がれない作りである。 (高畑)

註1. 岡田博「宮衙」『吉備の考古学的研究(下)』1992 山陽新聞社

井戸ⅣAの最終埋土から底部に「少目」と墨書された丹塗り土師器が出土している。『続日本紀』卷三十三 宝亀六年三月乙未条に「始置伊勢少目二員(中略)美作。備中。阿波。伊予。(後略)」とあり、775年に美作国に少目が配置をされている。

中 世

中世の遺構として、掘立柱建物3棟、土壙墓12基、井戸2基、焼成土壙2基を検出したが、遺物の伴わない土壙や溝も確認されている。

3棟の掘立柱建物は、それぞれが離れた位置に単独で存在した。調査区の中央付近でもやや東方向となる橋脚地点に確認した掘立柱建物-70は、東西方向に3間以上の間取りが判明したものの、南側部分は調査することができなかった。北西端部の橋脚部分で検出した2×1間の掘立柱建物-71は、耕作に関係すると思われる溝群と重複していた。さらに北西部分に存在した掘立柱建物-72は、2×2間の間取りの総柱建物であった。

12基の土壙墓が確認されたが、その中でも特に注目したいのは、調査区の北側部分に単独で存在し

た土壙墓-20である。遺体は頭位を北にして伸展葬で埋葬され、青磁碗、白磁碗、蓋のない青白磁の高台付合子、在地産の吉備系土師質土器碗とともに、菊花双鳥文鏡、鉄製紡錘車、刀子、小玉40点以上の豪華な遺物が副葬されていた。津寺遺跡全体の中世の土壙墓を概観しても、すべての点でこの土壙墓-20を卓越するものは見出せないから、傑出した人物の墓であるのは間違いない。それに引き替え、残る11基の土壙墓は、いずれも小規模で数基が狭い範囲に集まった状態で検出され、下股を屈葬にして右側臥の姿勢に埋葬されたものが多い。出土遺物としては、土師質土器碗や小皿の在地土器と刀子や小玉が認められるが、遺物が副葬されていない土壙墓も存在した。

2基の井戸は、調査区の北端部分に近接して存在した。井戸-9は素掘りの井手で、板材で正方形の井戸枠を設置し、その内部に曲げ物を2段に積み上げた井筒を検出した。一方の井戸-10は石組みの井戸で、上位に積み上げられていた石材が内部に転落していた。

調査区の北端部分と南端部分に、焼成土壙を検出した。平面形は隅丸長方形に近い形態を呈し、断面形は逆台形になっていた。土壙内は高温に熱されて堅くなり、炭化物が堆積していた。（福田）

近世

近世においては、遺構のほとんどが微高地に当たる調査区北半分に集中し、16世紀末から18世紀中葉以降までの陶磁器や瓦が出土している。18世紀後半以降の遺物は見られないことから、この頃になるとそれまで機能していた施設は数条の溝を除いて放棄され、耕地化されたようである。これに対して調査区南半分は足守川左岸の低地に当たり、中世に引き続き耕作地として利用されている。

調査区北半分の遺構群は、掘立柱建物・土壙・井戸の周囲を、磁北を基準に四方に掘削された溝が取り囲む。特に溝-532・533・溝-539と西川調査区溝-25は、それぞれが接続する東西の溝-535・西川調査区溝-18と共に一辺約40mの方形区画を2面形成している点で注目され、さらに東側の未調査部分にも延びる可能性がある。区画内の掘立柱建物は溝-532・533を挟んで東西に3棟ずつあり、すべて南北溝に棟筋を直交させる。3棟の掘立柱建物の重複に、3～4基ある井戸の時期差を考慮に入れば1～2棟の掘立柱建物と井戸の併存時期が最低でも3段階あったことが考えられる。また、報告文中では土壙として扱っているが、その平断面から土壙墓と推定できるものがある。それらは寝棺と思われる方形・隅丸方形の土壙と、座棺と思われる円形土壙に分けることができ、方形のものは南北溝に沿う列状に、円形のもの区画内南部に点状に分布している。埋土出土陶磁器からはそれぞれに16世紀末～17世紀前半、17世紀後半～18世紀前半の年代を与えられ、17世紀中葉を境に分布域の変化と、寝棺から座棺への変化があったことが推察される。なお、区画内の北端部にある土壙から「南無妙法蓮華經」と墨書された柿経W11～13が瓦などと共に投棄された状態で出土している。

これら北半分の遺構群における、区画された敷地、土壙墓の存在等の特徴は津寺遺跡における他の近世集落にはみられないものである。よって近世津寺村においても特殊な性格を有した場所と考えることができよう。（清水）

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127

津 寺 遺 跡 5

山 陽 自 動 車 道
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

15

(第1分冊)

1998年3月13日 印刷

1998年3月31日 発行

編 集 岡山県古代吉備文化財センター
岡山市西花尻1325-3
発 行 岡山県教育委員会
岡山市内山下2-4-6
印 刷 旭総合印刷株式会社

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127

津 寺 遺 跡 5

山 陽 自 動 車 道
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

15

(第2分冊)

1998

日本道路公団中国支社津山工事事務所
岡 山 県 教 育 委 員 会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127

津 寺 遺 跡 5

山 陽 自 動 車 道
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

15

(第2分冊)

1998

日本道路公団中国支社津山工事事務所
岡 山 県 教 育 委 員 会

第4章 自然科学分野における分析

第1節 津寺遺跡(中屋調査区)出土鉄滓の金属学的調査

大澤 正己

概要

津寺遺跡中屋地区出土の5点の鉄滓を調査した。古墳時代前半から奈良時代(750年前後)に属する鉄滓は、荒鉄(製錬生成鉄で、表皮スラグや捲き込みスラグ、更には炉材粘土など不純物を含む原料鉄:鉄塊系遺物)の成分調整で排出される精錬鍛冶滓に分類される。また、14世紀中頃に比定される1点の鉄滓は、磁鉄鉱を原料とする製錬滓に分類された。

1. いきさつ

津寺遺跡の中屋調査区は、岡山市津寺に所在する弥生・古墳時代から中・近世にかけての複合遺跡である。ここより古墳時代前半から奈良時代・中世にかけての層位から出土した鉄滓を通して、当時の鉄生産の実態を把握すべく目的から金属学的調査を行った。

2. 調査方法

2-1. 供試材

Table.1に示す。5点の鉄滓が供試材である。

Table. 1 供試材の履歴と調査項目

符号	試料	出土位置	推定年代	計測値		調査項目		
				大きさ(mm)	重量(g)	顕微鏡組織	ピッカース断面硬度	化学組成
T 2-1	鉄滓	竪穴住居-207埋土	古墳時代前半	31×31×8	4.1	○	○	-
T 2-2	〃	竪穴住居-314埋土	古墳時代後期	32×26×13	48.7	○	○	○
T 2-3	〃	溝-475上層	奈良時代(750年前後)	70×80×30	220.0	○	-	○
T 2-4	〃	溝-476下層	〃	24×20×16	7.8	○	-	-
T 2-5	〃	土壙-482	14世紀中頃	23×25×13	11.4	○	○	○

2-2. 調査項目

- (1) 肉眼観察
- (2) 顕微鏡組織
- (3) ピッカース断面硬度
- (4) 化学組成分析

3. 調査結果

(1) T2-1：鉄滓（精錬鍛冶滓）

① 肉眼観察：高温溶融化した滑らか肌に小気泡を露出した軟質ガラス状の小鉄滓（4.1g）である。裏面は青灰色微砂混じりの粘土を付着する。表面の色調は灰褐色を呈する。

② 顕微鏡組織：photo.1の①～③に示す。鉱物組成は、白色粒状結晶のヴスタイト（Wüstite： FeO ）と淡灰色長柱状結晶のファイヤライト（Fayalite： $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ ）、これに基地の暗黒色ガラス質スラグから構成される。酸化精錬で晶出した鉱物相で鍛冶滓に分類される。なお、白色方形状の結晶は、金属鉄で、フェライト（Ferrite： α 鉄もしくは純鉄に対する金相学上の呼称）である。

③ ビッカース断面硬度：photo.1の③に白色粒状結晶の硬度測定の影響を示す。硬度値は453Hvであった。ヴスタイトの文献硬度値が450～500Hvで^④、この範囲内に収まっている。

(2) T2-2：鉄滓（精錬鍛冶滓）

① 肉眼観察：平面が茸の傘状を呈し、全面が赤褐色錆に覆われ、亀裂と剥落面をもつ。また、表面は木炭痕と破面には木炭の噛み込みがみられる緻密質滓である。

② 顕微鏡組織：photo.1の④～⑧に示す。鉱物組成は白色粒状結晶のヴスタイトとファイヤライト、これに銹化鉄のゲーサイト（Goethite： $\alpha\text{-FeO} \cdot \text{OH}$ ）、木炭に鉄が置換した鉱物などが認められた。鍛冶滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：photo.1の⑧に白色粒状結晶の硬度測定の影響を示す。硬度値は332Hvと軟質の数値を呈している。前述T2-1鉄滓と同系結晶でヴスタイトと推定されるが、文献硬度値の450～500Hvから大きく外れている。硬度測定の影響に大きくクラックが生じており、これからの誤差かもしれない。

④ 化学組成分析：Table.2に示す。鍛冶滓組成であり、鉄分が多くガラス分は少ない。すなわち、全鉄分（Total Fe）が57.71%に対して金属鉄（Metallic Fe）が0.63%、酸化第1鉄（ FeO ）56.40%、酸化第2鉄（ Fe_2O_3 ）が18.93%の割合である。ガラス質成分（ $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ）は20.78%あり、このうち塩基性成分（ $\text{CaO} + \text{MgO}$ ）は鍛冶滓としては高めの3.71%を含む。二酸化チタン（ TiO_2 ）0.16%、バナジウム（V）0.01%以下と、この2成分は低めで磁鉄鉱を始発原料とした荒鉄の成分調整の精錬鍛冶滓を想定させる。また、酸化マンガン（ MnO ）0.38%、銅（Cu）0.060%と高め傾向も精錬鍛冶の作業を裏付ける。

(3) T2-3：鉄滓（精錬鍛冶滓）

① 肉眼観察：鍛冶炉の炉底に堆積形成された楕形状の鉄滓である。表裏共に濃緑色を呈し、深く木炭痕を刻み、大小の気泡を露出させた粗鬆状肌の鉄滓である。裏面は木炭痕と小気泡を散発させ2次汚染の鉄銹を疎らに付着させる。破面は黒色で緻密であった。

② 顕微鏡組織：photo.2の①に示す。前述してきたT2-1、T2-2と同系の鉱物相を呈して、白色粒状結晶のヴスタイト、淡灰色盤状結晶のファイヤライト、基地の暗黒色ガラス質スラグから構成される。鍛冶滓の組織である。

③ 化学組成分析：Table.2に示す。全鉄分（Total Fe）は44.02%に対して、金属鉄（Metallic

Fe)が0.29%、酸化第1鉄(FeO)47.22%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)10.05%の割合である。ガラス質成分は鍛冶滓としては高め傾向で39.03%あり、このうちに塩基性成分(CaO+MgO)を6.28%含む。精錬鍛冶滓も前半段階での排出であろう。二酸化チタン(TiO₂)0.22%、バナジウム(V)0.01%以下で磁鉄鉱荒鉄の鍛冶だったと想定される。酸化マンガン(MnO)0.38%、銅(Cu)0.065%は前述T2-3鍛冶滓に近似する。

(4) T2-4:鉄滓(精錬鍛冶滓) 銹化鉄含み。

① 肉眼観察:平面が不整形を呈した茶褐色滑らか肌に包まれた7.8gの小塊である。破面は多孔質な滓であった。

② 顕微鏡組織:photo.2の②~⑤に示す。いずれも銹化鉄のゲーサイトで、③は微かにフェライト結晶粒界の痕跡が読みとれるが正確なものではない。該品は、肉眼観察では鉄滓と判断したが、組織は4点の薄片を観察したが、いずれも銹化鉄組織であった。このような矛盾は、滅多にない事であり原因は定かでない。

(5) T2-5:鉄滓(鉍石製錬滓)

① 肉眼観察:全面が破面で表皮を失った滓である。基地は灰黒色で発錆による赤褐色の斑模様をもつ緻密質滓である。含鉄炉底塊のメタル分抽出の小割り残滓の可能性をもつ。

② 顕微鏡組織:photo.2の⑥⑦に示す。鉍物組成は、淡灰色不定形結晶のファイヤライト(Fayalite:2FeO·SiO₂)と基地の暗黒色ガラス質スラグから構成される。なお、左側に白色斑模様の縦状帯は金属鉄で凝集しきっていないフェライトである。この組織は、鉍石製錬滓に分類される。

③ ビッカース断面硬度:photo.2の⑦に示す。淡灰色盤状結晶の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は、666Hvであった。この値はファイヤライトの文献硬度値の600~700Hvの範囲内に収まっていて、ファイヤライトに同定できる。

④ 化学組成分析:Table.2に示す。全鉄分(Total Fe)は47.48%に対して金属鉄(Metallic Fe)が0.50%、酸化第1鉄(FeO)52.10%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)9.27%の割合である。ガラス質成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)は34.95%で、このうちに塩基性成分(CaO+MgO)は5.20%を含む。脈石成分として二酸化チタン(TiO₂)0.19%、バナジウム(V)0.01%以下と両成分とも低めで磁鉄鉱原料の製錬滓に分類される。脈石成分としての酸化マンガン(MnO)が0.48%と僅かであるが高めで鉍石系の成分傾向を傍証する。なお、銅(Cu)は0.050%であった。

4. まとめ

津寺遺跡中屋調査区出土の鉄滓は、古墳時代前半から奈良時代(750年前後)のものが荒鉄の成分調整を行った精錬鍛冶滓に分類された。鉍物組成は酸化精錬の鍛冶作業で晶出するヴスタイト(Wüstite:FeO)と、ファイヤライト(Fayalite:2FeO·SiO₂)で構成される。

また、14世紀中頃の層位出土品は、鉍物相はファイヤライトを晶出し、52%FeO-4.3%CaO-24%SiO₂-0.19%TiO₂の組成から鉍石製錬滓が想定された。この化学組成をCaO-酸化鉄-SiO₂系の三元状態図^⑧にプロットすると、ファイヤライトの領域に収まった。

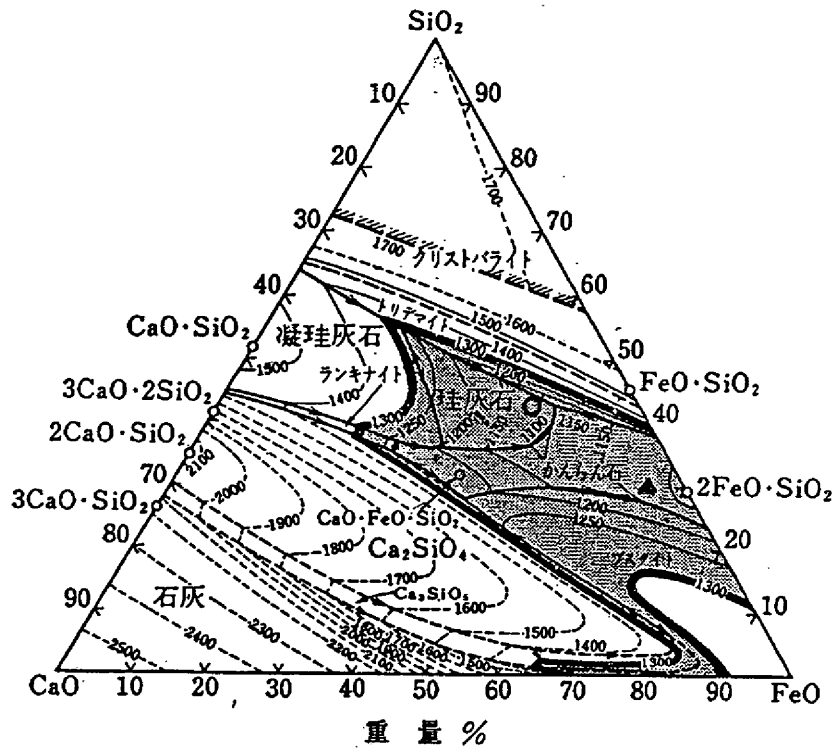


図3.1.27 金属鉄と接触下のCaO-酸化鉄-SiO₂系の相関係 (Brown, Schairer and Posnyak, 1933; Allen and Snow, 1955による)、灰色部は1300℃以下で融液状態となる低融点組成領域
 ○印：白壁奥遺跡出土製錬滓 35%FeO-11%CaO-32%SiO₂組成の位置
 ▲印：津寺遺跡出土製錬滓 52%FeO-4.3%CaO-24%SiO₂組成の位置^②

Table. 2 供試材の化学組成

試料番号	遺跡名	出土位置	種別	推定年代	全鉄分	金属鉄	酸化第1鉄	酸化第2鉄	二酸化珪素	酸化7MニウA
					(Total Fe)	(Metallic Fe)	(FeO)	(Fe ₂ O ₃)	(SiO ₂)	(Al ₂ O ₃)
T2-2	津寺遺跡	竪穴住居-314	精錬鍛冶滓	古墳時代後期	57.71	0.63	56.40	18.93	12.65	3.73
T2-3	津寺遺跡	溝-475上層	精錬鍛冶滓	奈良時代(750年前後)	44.02	0.29	47.22	10.05	25.39	5.34
T2-5	津寺遺跡	溝-476	鉱石製錬滓	14世紀中頃	47.48	0.50	52.10	9.27	23.91	4.26
	津寺遺跡	竪穴住居-196	鉱石系鍛冶滓	古墳時代後期	47.21	0.13	55.97	5.11	25.27	6.00

酸化カルシウム	酸化マグネシウム	酸化カリウム	酸化ナトリウム	酸化マンガン	二酸化チタン	酸化クロム	硫黄	五酸化燐	炭素	バナジウム	銅	造滓成分 Total Fe	TiO ₂ Total Fe	
(CaO)	(MgO)	(K ₂ O)	(Na ₂ O)	(MnO)	(TiO ₂)	(Cr ₂ O ₃)	(S)	(P ₂ O ₅)	(C)	(V)	(Cu)			
3.08	0.63	0.59	0.10	0.38	0.16	0.030	0.02	0.22	0.03	<0.01	0.060	20.78	0.360	0.003
5.03	1.25	1.47	0.55	0.38	0.22	0.020	0.02	0.37	0.10	<0.01	0.065	39.03	0.887	0.005
4.29	0.91	1.07	0.51	0.48	0.19	0.030	0.02	0.36	0.07	<0.01	0.050	34.95	0.736	0.004
2.30	1.41	1.35	0.63	0.39	0.28	0.015	0.01	0.27	0.10	0.885	0.036	36.96	0.783	0.005

注

- ① 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および鑑別法』1968、ヴスタイトは450~500Hv、マグネタイトは500~600Hv、ファイヤライトが600~700Hvとある。
- ② 今井秀喜他『鉱物工学~その現状と課題~』朝倉書店 1976 200頁 図3.1.27

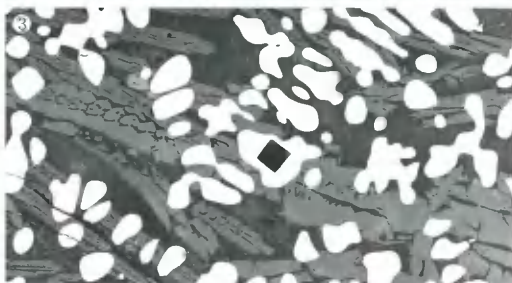
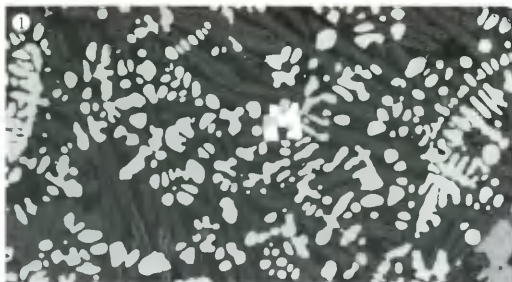
(1)T 2-1

竪穴住居-207埋土

精錬鍛冶滓

①×100 ②×400
ヴスタイト+ファイヤライト
③×200 硬度圧痕
ヴスタイト: 453Hv

外観写真 1/1



(2)T-2

竪穴住居-314埋土

精錬鍛冶滓

④×100 ⑤×400
ヴスタイト+ファイヤライト
⑥×100 錳化鉄とヴスタイト
⑦×100 木炭噛込み
⑧×200 硬度圧痕
ヴスタイト: 332Hv

外観写真 1/1

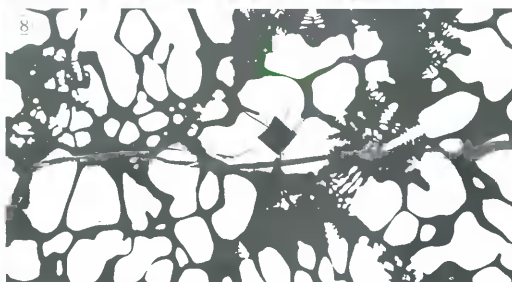
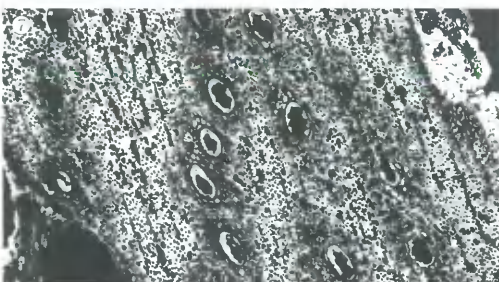
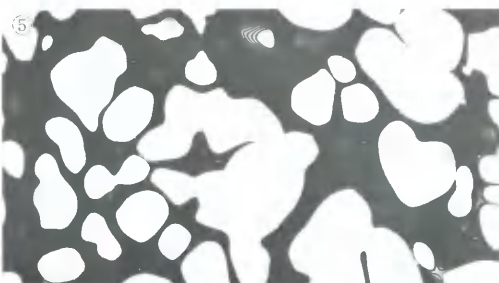
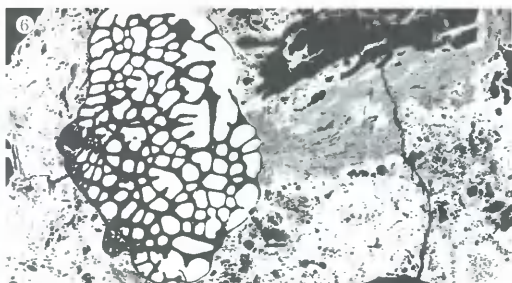
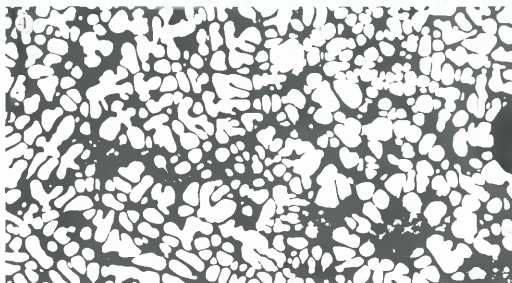


photo.1 鉄滓の顕微鏡組織

13T2-3

溝-475上層

精錬鍛冶滓

$\bar{1} \times 100$

ヴスタイト+ファイヤライト

外観写真 1/1



1T2-4

溝-476下層

精錬鍛冶滓

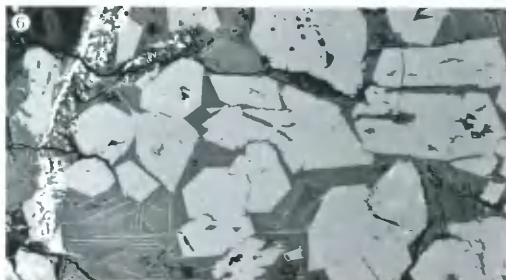
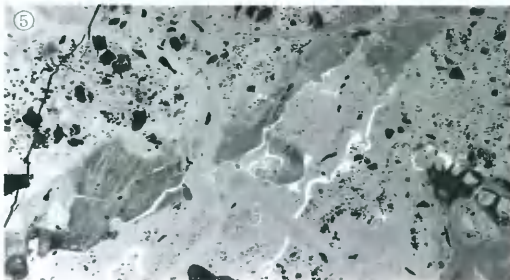
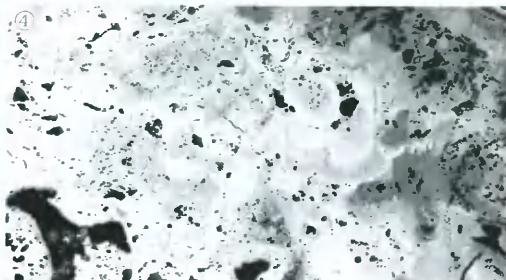
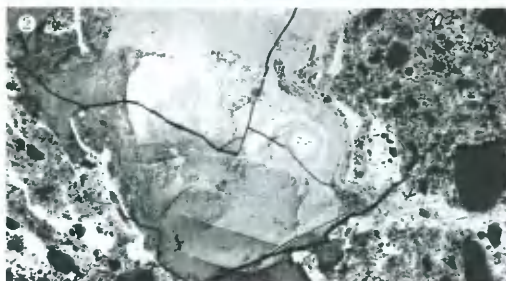
(銹化鉄)

2×100 3×400 銹化鉄

フェライト結晶粒界痕跡

1.5×100 銹化鉄

外観写真 1/1



5T2-5

土壙-482

鉍石製錬滓

6×100

ファイヤライト+金属鉄微量

7×200 硬度片痕

ファイヤライト: 666Hv, 200g

外観写真 1/1



photo.2 鉄滓の顕微鏡組織

第2節 津寺遺跡中屋調査区から検出された歯牙について

鳥取大学医学部解剖学第二講座

井上 貴央

1. はじめに

本稿は津寺遺跡中屋調査区から検出された歯牙に関するものである。同遺跡からは土壙墓が数多く検出されているが、低湿地の遺跡であるため骨の保存状況はきわめて悪い。今回検討を行った歯牙は調査団の手で取り上げられ、筆者のもとにもたらされたもので、骨の検出状況については不明な点が多い。以下、得られた所見について概説する。

2. 検討資料と歯牙所見

1) 津寺遺跡中屋調査区土壙墓-18 (中世)

検出状況の写真をみると、円形の土壙墓に埋葬されていたようで、四肢骨は痕跡が認められるものの、風化が著しく、取り上げに耐えなかったとのことである。四肢骨の検出状況が明らかではないので、埋葬肢位は特定できない。

同定を依頼された骨は左側を欠く下顎骨である。釘植している歯牙は右側の中切歯、犬歯、第1および第2小臼歯であり、そのほかの歯牙は脱落している。切歯と犬歯で咬耗が進んでおり、Martinの3度である。犬歯の頬側面には3条のエナメル質減形成が認められた。下顎骨は全体に小さく華奢で、女性骨をうかがわせる。また、切歯や犬歯も全体的に小さい印象を受ける。年齢は歯牙の咬耗から判断すると熟年ではないかと思われるが確言できない。

2) 津寺遺跡中屋調査区土壙墓-21 (中世～近世)

検出状況の写真をみると、円形の土壙墓に埋葬されていたようである。同定を依頼された資料は、歯牙であるが、上顎と下顎が咬合状態で検出されている。顎骨は完全に融解しており、歯牙の部分だけが残存している。検出された歯牙は上顎、下顎ともに2段の歯牙が並んでいる。これは顎骨に埋伏していた歯牙が、顎骨が融けてしまったために、現れてきたものであって、まだ永久歯が十分に萌出していないことを物語っている。

上・下顎全体が粘土質の中に埋まっており、歯牙の詳細を知ることは困難であるが、表面に現れている歯牙を観察すると、下顎骨乳歯では乳側切歯、第2乳臼歯が、永久歯では第1大臼歯が釘植していたようである。また、永久歯の側切歯、犬歯、第2小臼歯は埋伏状況にあったものと思われる。上顎では乳犬歯、第1乳臼歯、第2乳臼歯が釘植しており、第1乳小歯と第2乳小歯は埋伏状態にあったようである。

以上の歯牙の萌出状況から判断すると、被埋葬者の年齢は現代人でいえば、6～9才程度の小児と推定される。性別については判定できない。

3. おわりに

以上、今回依頼された歯牙資料のあらましについて述べた。保存状況が悪かったにもかかわらず、被埋葬者の年齢等について明らかにすることができたのは、歯牙の部分の保存が比較的良かったことと、取り上げの状態が良好であったことによる。慎重な取り上げ作業がなされていなければ、同定に耐えない資料となっていたことであろう。

稿を終わるにあたり、本人骨の検討の機会を与えていただいた岡山県古代吉備文化財センターの関係各位に御礼申し上げます。

第3節 津寺遺跡中屋調査区出土赤色顔料について

本田 光子（別府大学）

津寺遺跡中屋地区出土の赤色物について、その材質と状態を知るために顕微鏡観察と蛍光X線分析を行った。出土赤色物に関する現在までの知見に寄れば、出土赤色物は鉱物質の顔料であり、酸化第2鉄を主成分とするベンガラと、赤色硫化水銀を主成分とする朱の2種が用いられている。これ以外に古代の赤色顔料としては四三酸化鉛を主成分とする鉛丹があるが、出土例はまだ確認されていない。

試料

No 1 は土と赤色物が混在した状態、No 2、4 は土器から採取したもの、No 3 は土器片のみである。No 1、2、4 は実体顕微鏡下で混入土砂、夾雑物等の除去を行い、赤色物を針先に付く程度の量を取り検鏡用に、残りを蛍光X線分析に供した。No 3 はそのまま観察と蛍光X線分析を行った。

顕微鏡観察

三種類の赤色顔料は特に微粒のものが混在していなければ、粒子の形状、色調等に認められる外観の違いから、検鏡により経験的に見極めがつく。No 1 にはベンガラ、その他には朱粒子を認めた。No 3 は朱が土器胎土のヒビ割れの中に深く入り込んでおり内面付着土器の特徴と思われる。出土ベンガラには透明なパイプ状粒子を含む例があり、産地や製法に関する情報が得られるものと考えられているが、本例には含まれていなかった。

蛍光X線分析

掘場製作所(株)製MESA-500を用い、15kV-440 μ A；50秒、50kV-20 μ A；50秒、真空、の条件で測定を行った。主成分元素としては、No 1 からは鉄、その他は水銀と硫黄が検出された。他には珪素、アルミニウム、鉄等が検出されたが、砒素は確認できなかった。なお、鉛丹の主成分元素である鉛は検出されなかった。

結果

分析結果および推定される赤色顔料の種類を下表に示す。

No	試料	出土位置	蛍光X線分析		顕微鏡観察		赤色顔料の種類	備考
			鉄	水銀	ベンガラ	朱		
1	赤色物	堅穴住居-288床面	+	-	+	-	ベンガラ	
2	朱壺	堅穴住居-299土器番号7272	+	+	-	+	朱	内面朱付着土器
3	土器片	包含層土器番号8020	+	+	-	+	朱	内面朱付着土器
4	高杯内面	「津寺2」中屋土器番号584	+	+	-	+	朱	内面朱付着土器

第4節 津寺遺跡中屋調査区出土サヌカイト製剥片の産地について

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

1. はじめに

ここでは、蛍光X線分析法により中屋M8 I 調査区の住居跡・土壌内から出土した弥生時代後期のサヌカイト製剥片の産地推定を実施した。

分析資料は、表5に掲載した5点の剥片である。

2. 分析方法・結果

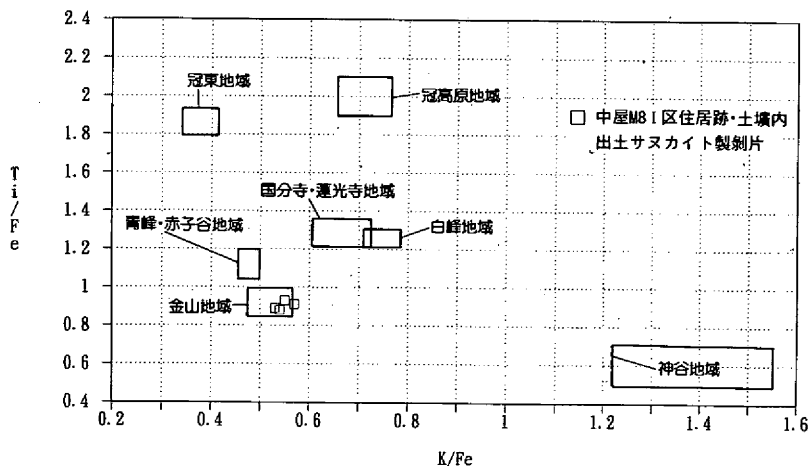
分析装置、測定方法、条件、試料作製などは現在まで筆者がおこなっている方法である⁽¹⁾。

第1図K/Fe-Ti/Feのサヌカイト原産地の散布図に中屋M8 I 調査区の住居跡・土壌内出土の剥片をプロットすると、香川県金山地域、原産地領域に入り、同区の住居跡・土壌内区出土のサヌカイト製の剥片(5点)はすべて産地が金山に推定された。

表5 津寺遺跡出土剥片の化学組成 (%)

No	遺構名	時期	SiO ₂	TiO	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	CaO	K ₂ O
1	竪穴住居-195 P-4	弥生後期	65.00	0.47	18.48	5.31	4.23	2.79
2	土壌-371	弥生後期	66.52	0.46	19.30	5.08	4.02	2.88
3	袋状土壌-97	弥生後期	64.65	0.47	19.25	5.29	4.22	2.81
4	竪穴住居-194	弥生後期	66.26	0.48	18.82	5.18	4.23	2.85
5	袋状土壌-120	弥生後期	65.07	0.45	18.76	5.11	4.12	2.77

註 (1)白石 純「蛍光X線による考古学遺物(石器・土器)の化学分析(Ⅱ)」『蒜山研究所研究報告』第12号 岡山理科大学 1986。



第848図 サヌカイト原産地分布範囲と津寺中屋調査区出土石器の分布図

第5節 津寺遺跡5出土土器の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

1. はじめに

この胎土分析では、蛍光X線分析法により津寺遺跡中屋調査区から出土した弥生後期、古墳時代前期・中期・奈良時代の遺物について分析を実施し、以下のことについて検討した。

(1) 中屋P1～P7区の住居跡から出土した弥生後期末～古墳前期・中期の土師器、須恵器を分析し、弥生・土師器では形態、技法、胎土（肉眼観察）などから生産地が想定されており（表6参照）、この各地から搬入された土器が胎土分析ではどの生産地に推定されるか。また、中屋M8Ⅰ、M9Ⅱ、P5、P7区から出土した弥生後期から奈良時代の粘土と前記した試料との比較をした。

同一住居跡内から出土した5世紀後半の須恵器が器種に関係なく胎土が同じかどうか。そして、これら須恵器の生産地はどこか。現在、岡山県内にはこの時期の窯跡がなく、大阪陶邑古窯跡群との比較検討をする。

(2) 中屋調査区の8世紀中葉の溝から一括で出土した土器のうち、土師質坏A（内面に暗文があり、形態・技法的に畿内で生産されたもの）と土師質坏B（内外面丹塗りで在地産のもの）の両者が胎土分析により分類できるか。

同遺構内から出土した須恵器で小型品（坏）と大型品（壺・甕）の間で胎土に差があるか、また遺跡周辺の窯跡出土須恵器との比較。

(3) 中屋H1、M8Ⅲ調査区出土の瓦で成形技法別（格子・平行・縄目）により胎土に差がみられるか。また、山手村末の奥瓦窯跡試料との比較検討。

2. 分析方法・結果

分析は、波長分散型蛍光X線分析装置を使用し、分析試料の作成、測定方法は現在まで行っている方法で実施した。

分析の結果、主にK、Ca、Sr、Rbの各元素に差がみられることから、これら元素を用いてXY散布図を作成し検討した。

(1) 弥生土器、土師器、須恵器の生産地推定

まず、弥生・土師器の分析では表6のように形態、技法、胎土の肉眼観察などから各生産地が想定されているが、胎土分析ではどの生産地に分類されるかでは、第849図（K-Ca）、第850図（Sr-Rb）のXY散布図で検討し、以下のような結果となった。

・畿内系に同定されている土器のうち試料No16、20、35、44の4点が明らかに識別され畿内系の領域に分布した。また、No41はSr-Rb散布図でどの領域にも入らず産地がはっきりしなかった。これ以外の畿内系土器は吉備南部を中心とした領域に分布している。

・讃岐系の土器No2、69は2が讃岐の西部地域の領域にプロットしたが、69は吉備南部の領域に入った。

・播磨系の土器のうちNo4、37、66がほぼ一つにまとまるものの、吉備南部の領域に分布している。また、No70はどの領域にも含まれなかった。

・No65の滋賀県産?の土器は、Sr-Rb散布図で東海系の領域に入った。

・山陰系の土器は、K-Ca散布図で39、40以外が山陰の領域に、Sr-Rb散布図では39、40、45、63以外が山陰の領域に分布した。

・吉備南部と考えられている土器のうち、No3、31が讃岐西部の領域に分布し、No1、17、64の土器はどの領域にも入らなかった。そして、それ以外の土器は吉備南部の領域に分布した。

・その他の生産地がはっきりしない土器は34が讃岐西部の領域に、Sr-Rb散布図で15、60、61、68の土器がどの領域にも入らなかった。

・中屋M8Ⅰ、P5、P7、M9Ⅱから出土した弥生後期から奈良時代の7点の粘土を第849・850図にプロットすると、No6（中屋P7（竪穴住居-311）出土：古墳前期）の粘土以外はすべて吉備南部の領域に分布した。

・須恵器の生産地の推定では、まず5世紀後半の須恵器14点のうち、器種別による胎土差の検討で、第851図（K/Ca-Sr/Rb）の散布図から小型品・大型品に関係なくほぼ同じ分析値であった。ただ、51（坏身）のみ離れて単独で分布した。次に大阪陶邑、岡山県内の窯跡群との比較では、51を除くすべてが陶邑の領域に分布した。51は時期は異なるが備中南部窯跡（二子御堂奥・末の奥・道金山）領域にプロットした。また、B-A2溝-1上層出土の陶質土器（7756）とM8Ⅱ出土の器台（8164）甕（8162）は、陶邑領域には入らなかった。

（2）8世紀中葉（溝内出土）の一括土器の分析

・土師質で内面に暗文のある坏A（畿内で生産）と内外面丹塗りの坏B（在地産）の比較では、第852図（K-Ca）、第853図（Sr-Rb）の散布図から両者の坏は識別でき胎土に差がみられた。また、暗文が施されている坏Aは二つのグループに分かれた。一つは試料番号3、6、7、8でもう一つは4、5、9、10のグループである。

・須恵器の小型品（坏）、大型品（壺・甕）により胎土に差があるかでは、器種に関係なく胎土に差はみられず、ほぼ同じ分析結果となった。また、その他の土師質（煮炊き具土器）、平瓦、丸瓦の分析では、土師質（煮炊き具土器）、瓦とも個々に別々のグループでまとまった。

（3）中屋H1・M8Ⅲ区出土した瓦の分析

・中屋H1・M8Ⅲ区から出土した瓦がタタキの種類別により、胎土に差がみられるかどうかでは、第854図（K-Ca）、第855図（Sr-Rb）の散布図から正格子タタキが二つに分かれる以外は、タタキの種類ごとに個々でグループをつくりまとまった。また、全体的にみると正格子タタキ（1、2、4、5、7、9、10）、平行タタキ（11、12、13、14、15）、格子タタキ（17、20、21、22）、擦り消し

(19)、縄目 (23) のAグループと正格子タタキ (3、6、8)、格子タタキ (16)、縄目 (18) のBグループに大きく分かれる傾向にある。前者のAグループには飛鳥瓦の胎土に類似しているものが含まれている。

・周辺の瓦窯試料との比較では、山手村末の奥窯跡試料と比較した。この結果、第854・855図から末の奥瓦窯跡試料は、Bグループに近い所に分布した。

3. まとめ

中屋調査区の弥生後期末から奈良時代までの土器を分析し、それぞれの課題を検討してきた。ここでは、若干の考察を加えてまとめとしたい。

(1) 弥生後期末、古墳前期の土器の胎土分析では、形態・技法・胎土の肉眼観察などで各地域からの搬入品と想定されている土器が、蛍光X線分析による胎土分析でどこまで搬入品と推定されるか検討した。そして、明らかに搬入品と推定される土器は以下のものであった。

・畿内系と考えられる土器………試料番号16 (甕)、20 (甕)、35 (甕)、44

・讃岐系と考えられる土器………試料番号2 (壺)

・滋賀県?産と考えられる65 (甕) の土器は、東海系の領域に入った。

・山陰系と考えられる土器は、39 (甕)、40 (甗?)、45 (甕)、63 (鼓形器台) の4点以外がほぼ山陰領域に分布した。この山陰領域は、鳥取県内出土土器の分布範囲であることから前記した4点の土器はこの地域以外から持ち込まれた可能性がある。

・吉備南部と考えられている3 (壺)、31 (壺) とその他の34が讃岐西部の領域にプロットした。

このように、弥生・土師器の分析では明確に生産地が推定される土器は限られている。これは各生産地土器の分布領域が重複することや、各地域の分析データが少ないことが起因していることが考えられる。

5世紀後半の須恵器の分析では、51を除く他の須恵器はすべて、陶邑領域と推定され、これらの須恵器はほぼ同じ分析値を示し、ほぼ同一の生産地から供給されていることが推測される。陶邑窯跡群のどの窯跡から持ち込まれたかは、陶邑窯跡の各窯跡群 (TK-73、TG-207、KM-12、MT-84) が重複し識別できない状況にあるため、推定は困難であった。

(2) 8世紀中葉の同一遺構内出土土器の分析では、土師質坏A (内面に暗文) と坏B (内外面丹塗) に胎土差があり識別された。このうち暗文が施されている坏Aは二つのグループに分かれ、この坏Aのなかでも胎土が異なっていることがわかった。また、須恵器では小型品、大型品で胎土差はみられず、煮炊き用具類も二つに分かれたが煮炊き具は、個々で単独のグループを作り識別できた。

(3) 瓦の分析では、同一のタタキでも胎土に差があり識別された。そして、ここで分析した23点の瓦より、Aグループ (Ca量が1.5%以上Rb量が100ppm以下) とBグループ (Ca量が1.5%以下、Rb量が100ppm以上) に大きく二つに分かれることが想定される。そして、Aグループには飛鳥瓦に胎土が類似の瓦が含まれており、Bグループには山手村末の奥瓦窯跡分布領域が入る結果となった。以上の分析結果から同地区から出土した瓦は胎土的に複数の粘土が使用されていることが考えられる。

この分析を実施する機会を頂いた、高畑知功氏、中野雅美氏をはじめ岡山県古代吉備文化財センターの職員の方々や分析資料の提供を頂いた山手村教育委員会の日野浦弘幸氏にはお世話になった。文末ではありますが記して感謝いたします。

表6 津寺遺跡出土土師器、須恵器の胎土分析一覧表(%)

ただしSr、Rbはppm

試料番号	掲載番号	旧調査区名	旧遺構名	種別	器種	時期	K	Fe	Si	Ti	Al	Ca	Sr	Rb	生産地	色調
1	6240	中屋P1	No19住居	土師器	壺	古・前・I・II	2.50	7.52	58.62	0.70	18.33	0.97	145	138	畿内、瀬戸内	鈍い橙色
2	6245	中屋P1	No19住居	土師器	壺	古・前・I・II	1.24	10.11	55.06	0.95	16.27	2.91	271	55	讃岐	橙色
3	6226	中屋P1	No19住居	土師器	壺	古・前・I・II	0.87	7.72	53.48	1.66	16.35	3.71	193	39	県南	褐色
4	6221	中屋P1	No19住居	土師器	壺	古・前・I・II	2.38	3.49	63.41	0.93	20.65	0.78	199	104	畿内?	浅黄褐色
5	6253	中屋P1	No19住居	土師器	甕	古・前・I・II	2.14	3.83	58.25	1.10	27.93	0.72	175	107	山陰?	灰白色
6	6345	中屋P1	No19住居	土師器	鉢	古・前・I・II	1.40	4.84	66.00	0.92	17.48	1.07	251	61	山陰?	浅褐色
7	6305	中屋P1	No19住居	土師器	甕	古・前・I・II	1.65	6.83	65.25	0.88	16.26	1.00	171	71	山陰?	浅黄色
8	6379	中屋P1	No19住居	土師器	鉢(皿)	古・前・I・II	1.58	9.02	59.89	0.96	16.51	0.92	170	88	県南?	褐色
9	8088	中屋P1	No18住居	須恵器	杯蓋	古・中・II	1.76	5.12	73.88	0.91	18.08	0.32	60	102	陶邑	灰白色
10	8086	中屋P1	包含層	須恵器	杯蓋	古・中・II	1.65	3.86	73.65	0.93	18.99	0.29	72	103	陶邑	灰色
11	8092	中屋P1	包含層	須恵器	杯身	古・中・II	1.74	6.82	69.18	0.97	18.87	0.40	82	85	陶邑	灰色
12	8100	中屋P1	No18住居	須恵器	壺	古・中・II	1.50	4.81	70.88	0.94	20.63	0.27	49	96	陶邑	灰白色
13	8091	中屋P1	No19住居	須恵器	杯身	古・中・II	1.97	7.72	64.51	1.01	19.71	0.40	87	115	陶邑	青灰色
14	8103	中屋P1	No24住居	須恵器	甕	古・中・II	1.67	7.14	64.01	1.04	22.73	0.23	43	84	陶邑	灰白色
15	8101	中屋P1	No19住居	須恵器	甕	古・前・I・II	2.14	6.07	66.37	0.99	20.36	0.48	82	113	陶邑	明青灰色
16	-	中屋P1	No18住居	土師器	甕	古・前・II	0.50	11.54	44.32	0.63	20.00	3.84	277	30	畿内?	鈍い橙色
17	6159	中屋P1	No21住居	土師器	壺	古・中・I	2.54	5.03	58.74	0.63	19.12	0.82	132	131	播磨、四国	鈍い橙色
18	8099	中屋P1	No18住居	須恵器	甕	古・中・II	1.99	6.39	67.01	0.94	20.47	0.36	55	101	陶邑	灰色
19	8085	中屋P1	No18住居	須恵器	杯蓋	古・前・II	1.44	10.43	66.10	0.99	19.38	0.25	29	73	陶邑	灰白色
20	6179	中屋P1	No20住居	土師器	甕	古・前・I・II	0.19	7.98	42.99	0.41	24.30	4.64	323	14	畿内?	灰褐色
21	6181	中屋P1	No20住居	須恵器	甕	古・中・I・II	1.79	2.66	73.42	0.87	15.40	0.84	148	84	山陰?	灰白色
22	8094	中屋P1	No18住居	須恵器	高杯	古・中・II	1.81	8.81	61.38	0.95	22.21	0.34	61	85	陶邑	灰色
23	-	中屋P1	No6溝	須恵器	杯身	古・中・II	1.70	7.30	69.94	0.91	18.78	0.30	61	106	陶邑	
24	-	中屋P1	包含層	須恵器	蓋	古・中・II	1.70	5.16	73.81	0.88	18.16	0.30	62	96	陶邑	
25	-	中屋P1	包含層	須恵器	器台	古・中・II	1.70	5.47	72.37	0.87	17.34	0.32	53	95	陶邑	
26	-	中屋P2	No26住居	弥生土器	壺	弥・後	2.27	9.46	58.57	0.96	17.47	1.05	172	92	畿内?	褐色
27	6108	中屋P2	No25住居	土師器	甕	古・前・I	1.88	7.85	56.79	0.81	19.82	2.04	304	74		浅黄褐色
28	6107	中屋P2	No25住居	土師器	甕	古・前・I	2.42	2.39	55.59	0.98	21.08	0.92	214	101	県南	鈍赤褐色
29	6136	中屋P2	No27住居	土師器	甕	古・前・I・II	2.07	6.88	61.96	1.00	19.31	0.58	103	94	県南	淡褐色
30	6120	中屋P2	No27住居	土師器	壺	古・前・I・II	1.63	7.45	50.89	0.85	21.67	1.60	198	72	県内	鈍い橙色
31	6137	中屋P2	No27住居	土師器	壺	古・前・I・II	1.12	10.06	49.88	1.85	16.32	3.20	202	52	畿内	鈍い橙色
32	6151	中屋P2	No27住居	土師器	鉢	古・前・I・II	1.78	8.88	56.72	0.89	19.76	2.18	249	77	県内	浅黄褐色
33	-	中屋P2	土器溜まりA	弥生土器	壺	弥生後期末	1.87	6.22	55.60	0.81	18.83	2.17	300	80	県内	鈍い黄褐色
34	-	中屋P2	No27住居	土師器	壺	古・前・I・II	1.17	9.47	50.77	1.77	16.34	3.13	186	50		
35	-	中屋P2	No23住居	土師器	甕	古・前・I	0.29	8.62	41.22	0.41	32.51	3.41	355	8	畿内?	灰オリーブ色
36	6057	中屋P3	No20住居	土師器	壺	古・前・I・II	2.14	6.37	61.12	1.14	17.93	0.87	230	95	山陰?	
37	-	中屋P3	No28住居	弥生土器	甕	弥生後期IV	2.28	4.52	65.25	0.64	18.29	0.86	170	115	播磨	浅黄褐色
38	6084	中屋P3	No21住居	土師器	甕	古・前・I・II	1.51	9.42	50.70	0.79	20.32	1.83	236	63	畿内?	褐色
39	6081	中屋P3	No21住居	土師器	甕	古・前・I・II	2.46	9.09	56.58	1.21	19.88	1.31	150	125	山陰?	鈍い橙色
40	7908	中屋P3	包含層	土師器	甕?	古・前・	2.45	3.39	56.52	0.62	24.65	1.29	317	181	山陰?	灰白色
41	7887	中屋P3	包含層	土師器	壺	古・前・	2.35	3.69	61.71	0.88	24.86	0.79	166	159	畿内?	灰白色
42	6080	中屋P3	No21住居	土師器	甕	古・前・I・II	1.85	8.58	54.45	0.79	18.36	2.14	274	74		鈍い橙色
43	-	中屋P3	No28住居	弥生土器		弥生後期末	1.82	9.60	54.36	0.87	17.27	1.45	227	78		
44	-	中屋P3	No28住居	弥生土器		弥生後期末	0.54	10.86	42.99	0.44	23.53	3.15	226	21	畿内?	鈍い橙色
45	-	中屋P3	No28住居	弥生土器	甕	弥生後期末	1.88	4.16	57.89	0.63	20.67	1.03	210	147	山陰?	浅黄褐色
46	6032	中屋P4	No17住居	土師器	甕	古・前・I	1.98	3.29	61.80	1.13	21.00	1.08	263	97	山陰?	灰白色
47	6007	中屋P4	No13住居	土師器	甕	古・前・I	1.94	5.64	62.22	0.81	18.46	1.19	220	83	畿内	淡褐色
48	6002	中屋P4	No13住居	土師器	壺	古・前・I	1.47	8.19	51.94	0.81	20.47	1.78	257	60	県南	鈍い橙色
49	6047	中屋P4	No17住居	土師器	鉢	古・前・I	1.79	45.02	54.12	0.80	24.62	1.09	190	116	県南	灰白色
50	6046	中屋P4	No17住居	土師器	鉢	古・前・I	1.49	7.77	53.16	0.84	18.31	1.92	303	59	県南	灰黄褐色
51	-	中屋P5	包含層	須恵器	杯身	古・中・II	1.96	8.33	59.81	0.92	21.56	1.23	146	90	陶邑	
52	-	中屋P5	No4住居	弥生土器	甕	弥生後期末	1.95	7.21	56.16	0.84	19.78	2.07	230	69		鈍い橙色
53	-	中屋P5	No4住居	弥生土器	甕	弥生後期末	1.53	7.87	50.58	0.94	21.95	1.69	209	70	畿内?	褐灰色
54	-	中屋P5	No4住居	弥生土器	甕	弥生後期末	1.84	7.76	52.77	0.80	18.38	1.86	235	75	県南	褐灰色
55	7519	中屋P7	No1住居	土師器	低脚杯	古・前・I	1.83	6.92	64.70	0.89	18.53	0.79	132	89	山陰?	褐色
56	-	中屋P7	包含層	土師器	鉢	古・前・I	1.17	9.91	49.58	1.47	21.47	1.21	155	68	播磨	黄褐色
57	7982	中屋P7	包含層	土師器	鉢	古・前・	1.30	7.56	50.88	0.93	22.63	1.45	212	64	畿内	褐色
58	7513	中屋P7	No1住居	土師器	甕	古・前・I	1.61	7.11	59.18	0.99	18.56	0.98	131	80	畿内	鈍い橙色
59	7983	中屋P7	包含層	土師器	甕	古・前・I	1.31	7.57	47.90	0.90	23.18	1.82	226	66	畿内	鈍い黄褐色
60	7840	中屋P7	No9土器溜まり	土師器	壺	古・前・I	2.44	3.19	57.85	0.61	21.52	0.93	134	182		
61	7838	中屋P7	No9土器溜まり	土師器	壺	古・前・I	2.30	4.91	53.13	0.82	22.69	0.93	106	115	山陰?	
62	7842	中屋P7	No9土器溜まり	土師器	壺	古・前・I	2.20	11.34	49.15	1.14	18.43	1.82	156	91	畿内?	
63	6620	中屋M8Ⅲ	No44住居	土師器	鼓形器台	古・前・I	2.09	5.21	67.35	0.65	19.56	0.66	117	139	山陰?	浅黄褐色
64	6602	中屋M8Ⅲ	No45住居	土師器	甕	古・前・I	2.48	3.66	63.50	0.63	20.87	0.96	187	148		鈍い橙色
65	7514	中屋P7	No1住居	土師器	壺	古・前・I	2.08	3.24	59.91	0.86	20.42	0.83	136	108	滋賀県?	
66	-	中屋P5	No5住居	土師器	鉢	古・前・	2.37	7.81	57.99	0.71	16.58	1.51	176	100	播磨	褐色
67	-	中屋P5	No5住居	土師器	甕	古・前・	1.70	8.43	49.58	0.95	22.64	1.30	212	90	畿内	褐色
68	-	中屋M8Ⅰ	No146住居	土師器	甕	古・前・II	2.39	2.98	63.39	0.57	17.48	1.13	211	167		
69	6488	中屋M8Ⅰ	No148住居	土師器	甕	古・前・I	1.75	9.00	52.55	0.83	18.46	2.10	322	71	讃岐	褐色
70	6552	中屋M8Ⅰ	No185住居	土師器	甕	古・前・I・II	1.36	6.27	71.66	0.67	15.23	0.38	60	60	畿内?	鈍い橙色
71	-	中屋M8Ⅰ	No202住居	弥生土器		弥生後期末	1.96	6.73	59.29	0.76	17.10	1.25	259	94		褐色
72	6584	中屋M8Ⅰ	No218住居	土師器	甕	古・前・I	2.06	3.86	64.85	1.23	19.95	0.80	199	93	山陰?	浅黄褐色
73	-	中屋P5	No5住居	弥生土器	甕	弥・後・IV	1.67	8.01	49.90	0.95	22.54	1.22	192	90		鈍い黄褐色
74	-	中屋P5	No5住居	弥生土器	甕	弥・後・IV	1.51	6.25	52.89	0.80	21.43	1.71	234	75	山陰?	鈍い黄褐色
75	7742	中屋P7	No5溝A	土師器	壺	古・前・I	2.26	4.26	63.32	1.14	22.44	0.80	157	99		
144	-	中屋M8Ⅱ	H-1	須恵器	甕	古・中・II	2.32	5.02	63.21	0.71	22.22	0.73	133	135		
149	-	中屋M8Ⅱ	H-1	須恵器	甕	古・中・II	1.77	5.12	75.77	0.95	16.08	0.70	90	106		
150	-	中屋M8Ⅱ	H-1	須恵器	甕	古・中・II	2.09	5.38	69.01	0.86	19.81	0.56	100	125		
陶質60	-	T2	溝1上層	陶質土器	壺	古・前・	2.34	8.39	55.61	1.00	17.52	1.83	220	122		
79	-	T2	溝1上層	陶質土器	壺	古・前・	1.87	8.87	68.27	1.10	16.25	0.55	121	94		

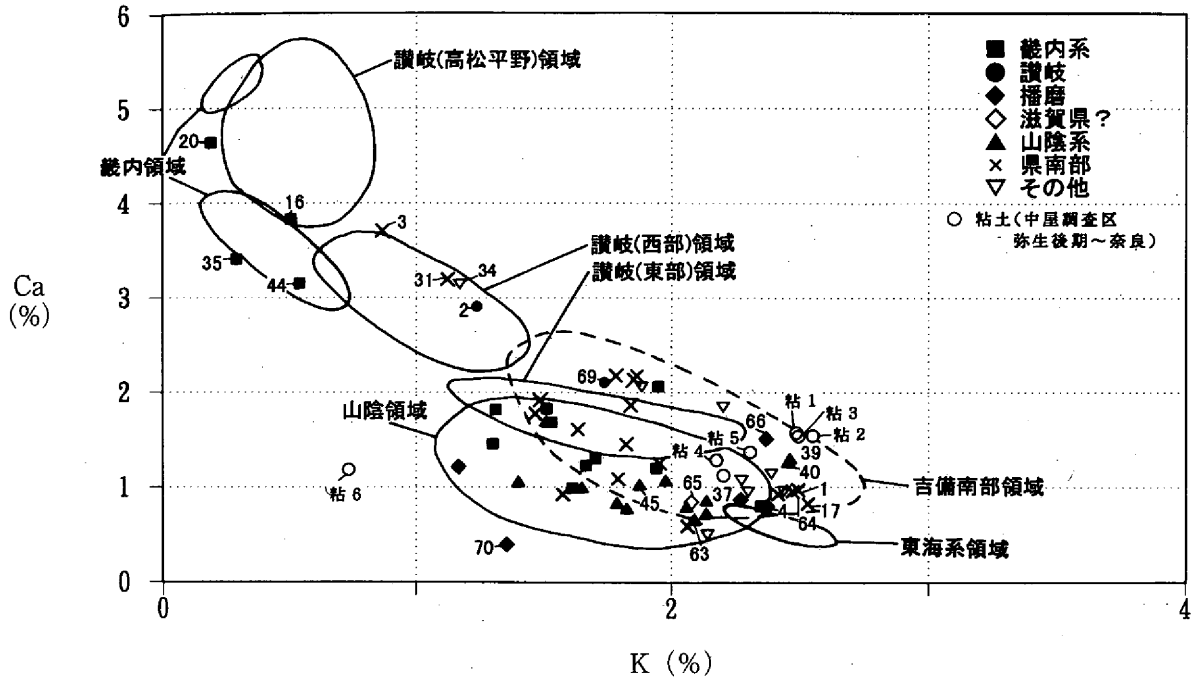
表7 中屋調査区出土土器(奈良時代)の胎土分析一覧表(%)

ただしSr、Rbはppm

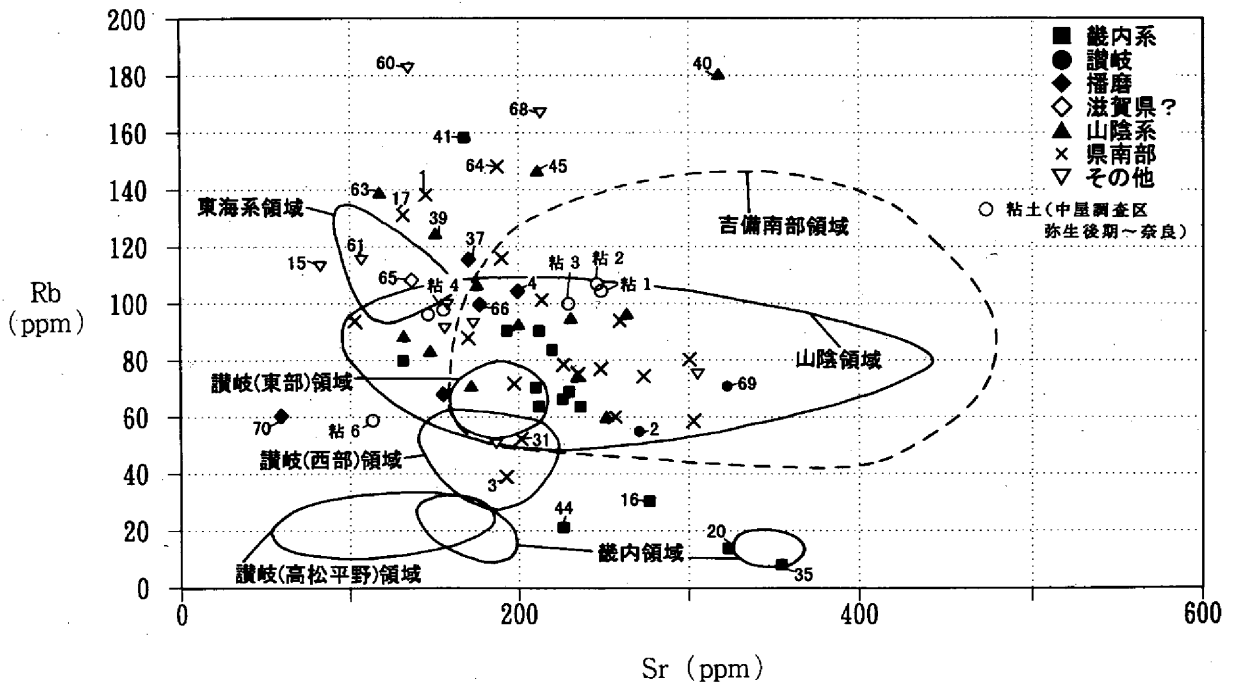
試料番号	旧調査区名	旧遺構名	時期	種別	器種	K	Fe	Si	Ti	Al	Ca	Sr	Rb	備考
1	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.85	9.50	51.70	0.97	19.53	1.10	197	93	暗文
2	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.26	6.40	56.73	1.01	19.88	1.11	308	94	暗文
3	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.87	9.37	51.48	1.02	19.52	0.98	189	90	暗文
4	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.87	9.16	51.40	0.97	19.10	1.20	282	92	暗文
5	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.86	9.03	52.22	1.01	19.52	1.16	274	92	暗文
6	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.88	9.47	51.96	1.00	19.66	0.97	189	84	暗文
7	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.86	9.43	52.72	0.96	19.50	0.94	164	98	暗文
8	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.83	9.54	50.91	1.03	20.06	0.92	175	86	暗文
9	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.81	9.15	50.52	0.99	19.76	1.14	275	95	暗文
10	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	1.85	9.09	51.70	0.95	19.59	1.16	280	87	暗文
1	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.25	7.12	52.15	1.17	21.56	1.65	253	124	丹塗り
2	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.10	7.02	50.77	1.20	21.74	2.05	288	118	丹塗り
3	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.02	5.47	58.29	0.90	19.10	1.19	281	114	丹塗り
4	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.04	5.49	56.49	0.95	20.40	1.60	323	108	丹塗り
5	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.09	7.03	55.99	0.91	18.57	1.31	290	122	丹塗り
6	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.12	5.57	58.00	0.76	18.98	1.50	283	124	丹塗り
7	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.28	6.75	52.12	1.14	22.21	1.70	252	120	丹塗り
8	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.08	5.62	58.48	0.99	18.91	1.58	272	99	丹塗り
9	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.10	7.83	59.39	0.95	17.52	1.22	264	99	丹塗り
10	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	杯身	2.06	8.01	58.54	0.95	16.72	1.24	273	103	丹塗り
1	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	杯身	2.08	6.26	58.30	0.94	24.84	0.98	204	185	
2	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	杯身	1.65	4.70	64.52	0.73	22.76	0.85	141	130	
3	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	蓋	2.80	3.58	67.66	0.68	21.63	0.55	113	154	
4	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	蓋	2.46	4.09	68.24	0.79	21.97	0.62	119	130	
5	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	蓋	2.12	6.49	66.45	0.78	18.44	1.11	140	96	
6	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	杯身	2.79	4.73	64.83	0.74	22.85	0.85	137	150	
7	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	杯身	1.99	5.16	66.03	0.87	22.64	0.73	144	113	
8	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	杯身	1.97	4.85	67.21	0.88	21.61	0.74	141	108	
9	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	杯身、蓋	2.10	6.36	70.24	0.90	18.41	0.42	80	111	
10	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	杯身、蓋	2.06	6.61	67.23	0.87	19.92	0.45	95	109	
1	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	壺、甕	2.05	5.66	62.12	0.87	24.10	0.92	209	118	大形
2	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	壺、甕	1.62	7.78	61.06	1.13	22.82	0.72	118	106	大形
3	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	壺、甕	2.70	4.54	67.66	0.74	21.26	0.61	146	140	大形
4	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	壺、甕	2.01	7.93	65.94	0.93	20.34	0.52	94	87	大形
5	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	壺、甕	2.55	4.63	60.97	0.80	23.50	0.98	196	209	大形
6	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	壺、甕	2.18	7.96	59.50	0.89	22.13	1.00	146	100	大形
7	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	壺、甕	2.52	4.53	60.76	0.82	23.81	0.97	190	206	大形
8	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	瓶	1.79	5.67	65.57	1.62	19.68	0.84	153	85	
9	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	鉢	2.07	6.56	67.40	0.90	18.63	0.41	83	114	こね鉢
10	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	須恵器	蓋	2.13	6.56	64.94	0.83	18.20	1.16	136	92	
1	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	1.65	8.13	55.85	0.82	17.24	2.01	240	60	煮炊き具
2	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	1.66	9.04	55.81	0.89	18.65	1.83	226	63	煮炊き具
3	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	1.87	8.74	54.83	0.86	18.65	1.66	292	72	煮炊き具
4	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	2.84	6.16	60.46	0.63	17.54	1.14	175	196	煮炊き具
5	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	1.71	8.32	56.57	0.86	17.95	2.45	285	54	煮炊き具
6	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	1.76	8.29	56.13	0.86	18.04	1.99	239	58	煮炊き具
7	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	1.78	8.71	53.33	0.83	19.58	1.52	221	69	煮炊き具
8	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	1.62	8.99	54.58	0.90	18.91	1.59	241	59	煮炊き具
9	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	2.90	6.30	59.16	0.66	17.19	1.17	181	179	煮炊き具
10	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	土師器	甕	2.84	6.48	60.31	0.64	17.03	1.27	165	186	煮炊き具
1	中屋M8 I	No85-2	奈良時代	瓦	平瓦	1.87	6.32	55.21	0.98	21.13	1.29	167	130	
2	中屋M8 I	No102P-1	奈良時代	瓦	平瓦	1.64	5.34	52.61	1.03	23.57	0.85	150	137	瓦質
3	中屋M8 I	No85-1	奈良時代	瓦	平瓦	1.97	6.85	56.45	0.93	19.92	1.11	120	133	瓦質
4	中屋M8 I	No85-3	奈良時代	瓦	平瓦	2.02	6.93	63.32	0.89	18.99	1.06	163	138	
5	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	瓦	平瓦	1.92	6.07	56.34	1.03	22.02	0.87	181	137	瓦質
6	中屋M8 I	No102P-1	奈良時代	瓦	丸瓦	1.91	6.57	62.37	1.02	20.97	0.93	160	140	
7	中屋M8 I	No85-3	奈良時代	瓦	丸瓦	1.65	6.81	55.86	0.98	21.68	1.25	270	113	
8	中屋M8 I	No85溝	奈良時代	瓦	丸瓦	2.04	5.42	62.88	0.92	19.33	0.84	167	136	
9	中屋M8 I	No85-3	奈良時代	瓦	丸瓦	1.82	6.53	57.86	1.05	22.77	0.96	154	140	
10	中屋M8 I	No85-3	奈良時代	瓦	丸瓦	2.78	6.59	53.57	1.05	21.07	1.09	195	141	
1	中屋M8 I	No85-4	奈良時代	粘土塊		2.49	5.68	66.84	0.67	14.98	1.54	248	103	
2	中屋M8 I	No181住居no11	古墳前期	粘土塊		2.56	5.93	64.45	0.71	15.15	1.52	245	106	焼土粘土
3	中屋M8 I	No229袋状	弥生後期	粘土塊		2.50	6.16	63.93	0.70	15.51	1.53	229	99	焼土粘土
4	中屋P5	No4住居no9	古墳前期	粘土塊		2.21	6.39	55.82	0.88	20.14	1.09	155	97	
5	中屋P5	No12土壇壁	弥生後期	粘土塊		2.31	7.84	56.69	0.90	17.46	1.33	172	105	
6	中屋P7	No1住居no5	古墳前期	粘土塊		0.74	7.40	45.16	1.05	26.86	1.16	113	58	
7	中屋M9 II	住居3内(土器内の粘土)	古墳前期	粘土塊		2.18	10.54	52.57	0.91	16.91	1.25	147	96	整穴住居-298

表8 中屋調査区瓦胎土一覧表(%) ただしSr、Rbはppm

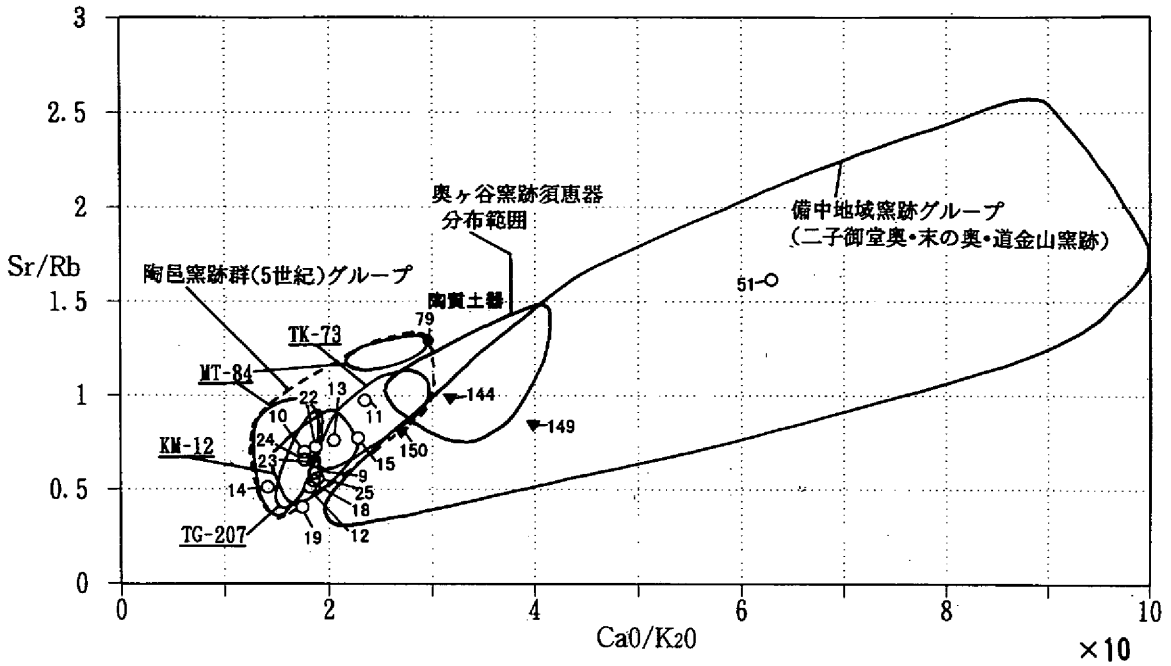
試料番号	旧調査区名	旧遺構名	成形技法	K	Fe	Si	Ti	Al	Ca	Sr	Rb	備考
1	中屋H1	No17土壌	正格子叩き	1.66	7.64	51.94	0.85	20.89	1.94	209	73	資料番号1~7は同一遺構
2	中屋H1	No17土壌	正格子叩き	1.65	7.01	53.05	1.00	22.30	1.79	198	75	資料番号1~7は同一遺構
3	中屋H1	No17土壌	正格子叩き	1.98	6.61	60.28	1.04	22.26	1.05	139	146	資料番号1~7は同一遺構
4	中屋H1	No17土壌	正格子叩き	1.68	6.99	53.81	0.90	20.67	1.76	212	61	資料番号1~7は同一遺構
5	中屋H1	No17井戸	正格子叩き	1.66	7.11	54.79	0.88	22.03	1.69	187	74	資料番号1~7は同一遺構
6	中屋H1	No17井戸	正格子叩き	1.96	6.06	57.75	1.01	20.93	1.14	168	131	資料番号1~7は同一遺構
7	中屋H1	北No17土壌	正格子叩き	1.63	7.66	51.68	1.01	22.02	1.81	209	69	資料番号1~7は同一遺構 飛鳥瓦の胎土に類似
8	中屋H1	土壌8	正格子叩き	1.88	6.31	55.98	1.01	22.26	1.23	167	127	
9	中屋H1	土壌8	正格子叩き	1.57	7.80	51.88	0.99	21.94	1.76	195	65	飛鳥瓦の胎土に類似
10	中屋H1	礎溝	正格子叩き	1.50	7.86	51.13	1.00	22.49	1.72	201	74	
11	中屋H1	No17土壌	平行叩き	1.76	11.86	53.76	0.91	18.45	2.07	223	62	
12	中屋H1	北No17土壌	平行叩き	1.90	10.10	55.36	0.85	18.97	2.10	231	72	
13	中屋H1	Mn下包含層	平行叩き	1.87	9.74	56.67	0.84	19.33	2.10	231	76	
14	中屋H1	Mn下包含層	平行叩き	1.76	11.01	55.08	0.92	19.50	2.01	227	61	
15	中屋H1	Mn下包含層	?	1.68	7.42	51.57	0.90	21.02	1.75	179	73	丸瓦 飛鳥瓦の胎土に類似
16	中屋M8	No17井戸	格子叩き	2.00	6.74	59.57	1.06	22.00	1.05	130	152	
17	中屋M8	No17井戸	格子叩き	1.64	7.26	52.43	0.91	20.78	1.72	182	70	
18	中屋M8	No17井戸	縄目	2.62	3.99	79.28	0.69	15.02	0.50	99	144	
19	中屋M8	No17井戸	擦り消し	1.64	7.90	56.10	0.98	23.08	1.57	151	69	
20	中屋M8	No17井戸	格子叩き	1.57	7.29	50.76	0.90	21.81	1.65	174	76	
21	中屋M8	No17井戸	格子叩き	1.65	8.54	55.43	1.02	23.26	1.54	160	79	
22	中屋M8	No17井戸	格子叩き	1.89	7.79	57.96	0.86	21.43	1.54	138	78	
23	中屋M8	No17井戸	縄目	2.13	6.40	63.63	0.86	14.91	1.72	175	76	



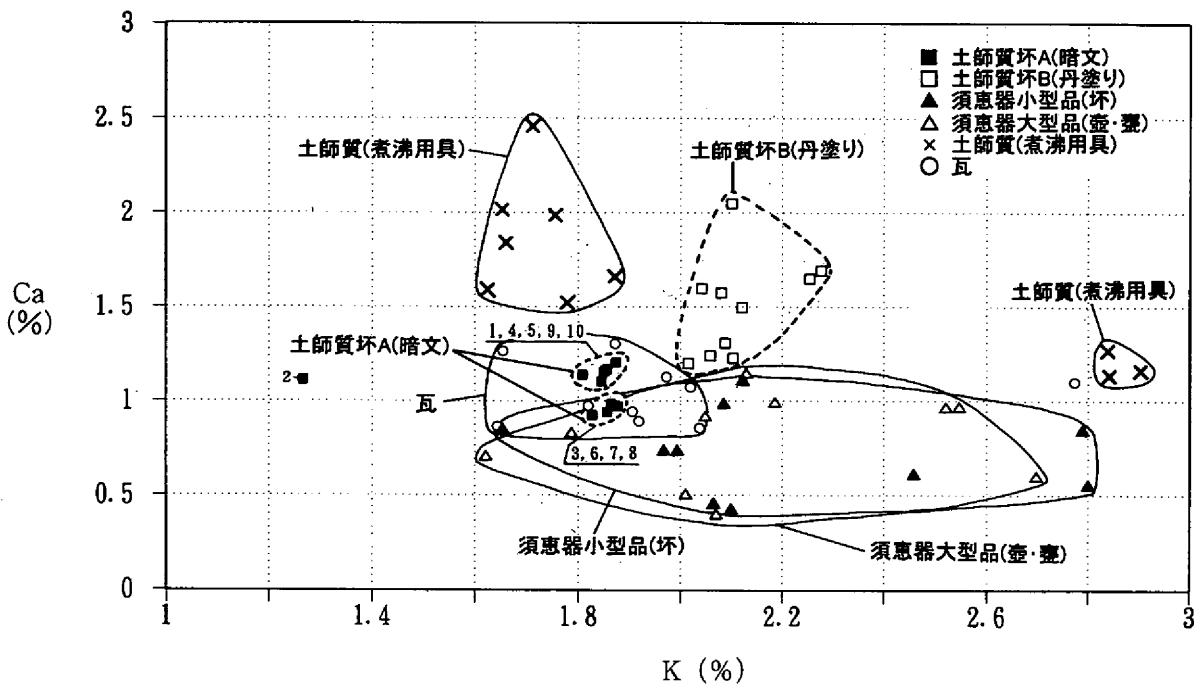
第849図 中屋調査区出土 弥生、古墳前期土器の生産地推定



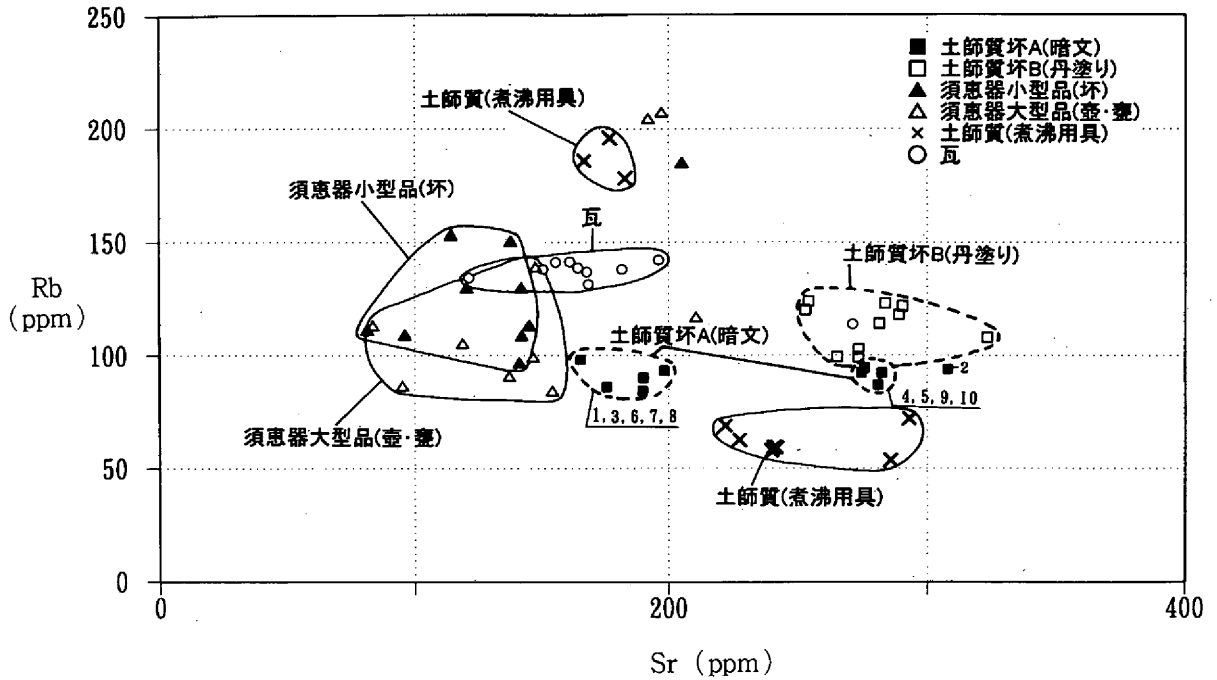
第850図 中屋調査区出土 弥生、古墳前期土器の生産地推定



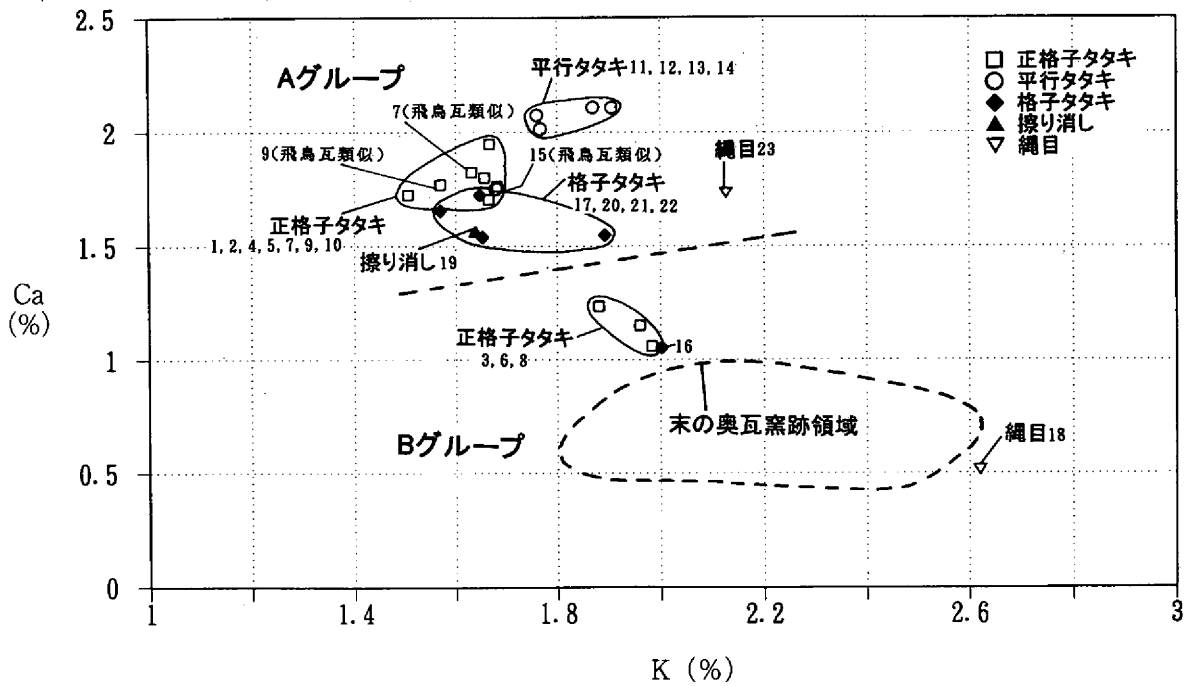
第851図 中屋調査区出土 須恵器の生産地推定



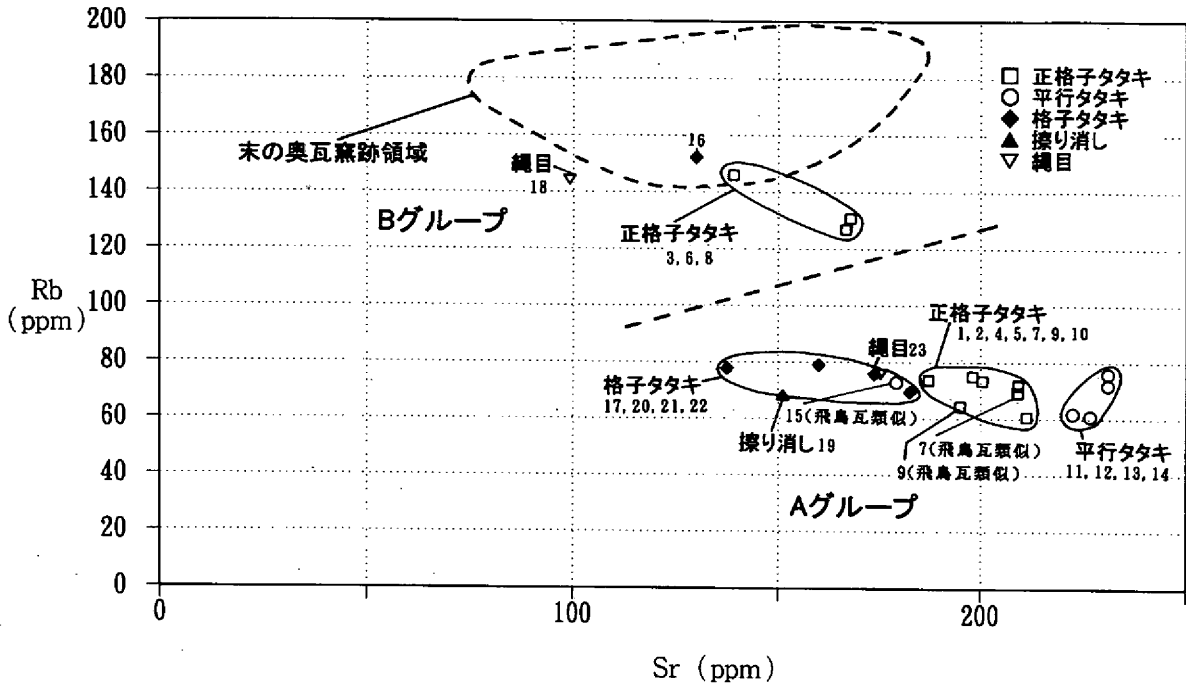
第852図 8世紀中葉一括土器の比較



第853図 8世紀中葉一括土器の比較



第854図 瓦のタタキ種別による比較



第855図 瓦のタタキ種別による比較

第5章 津寺遺跡のまとめ

第1節 弥生時代の津寺遺跡

弥生時代の遺構・遺物

津寺遺跡の弥生時代は、現在の岡山ジャンクションの位置する微高地、および周辺の発掘調査によりおおよその概要を把握することが可能である。

北東から南西に高さを減じながら延びる幅約300m、長さ約200mの微高地部分（第856図）の総面積は約30,000m²をはかる。微高地北西部の洪水による洗掘部 a、ジャンクション中央の植栽範囲 b、東側に展開する低位の水田 c を除いての面積である。未調査区を含めて約36,300m²の微高地には、多くの遺構が安定して存続する条件が揃っていたものと思われる。

本微高地の開発利用は、おそらく微高地の北側を南西に流走する河川から人工的に取水することに始まり、生活用水、水田等々の水の確保に努めたものと考えられる。野上田地区と西川地区の南北小字境の東側約10m付近の自然の窪地を利用し、溝-1を掘っている。微高地北端と河川との間に設けた取入口から下流に南流をさせ、中屋地区内において南西、南東の2方向に分水させている。この流水の方向が今日まで本地域の分水の基礎になっているものと考えられる。

さて、この微高地において確認できた弥生時代の遺構総数は741である。竪穴住居が87軒、掘立柱建物7棟、柱穴列2、土器棺墓17基、土壙墓3基、袋状土壙283基、土壙306基、井戸4基、溝23条、溝状土壙2基、土器溜り6、水田3、柱穴等がある。

このうち、出土遺物等から時期の明らかな遺構の総数が461である。表-9は、それらの遺構および包含層の出土遺物を参考にして、弥生時代の生活の消長を表現したものである。

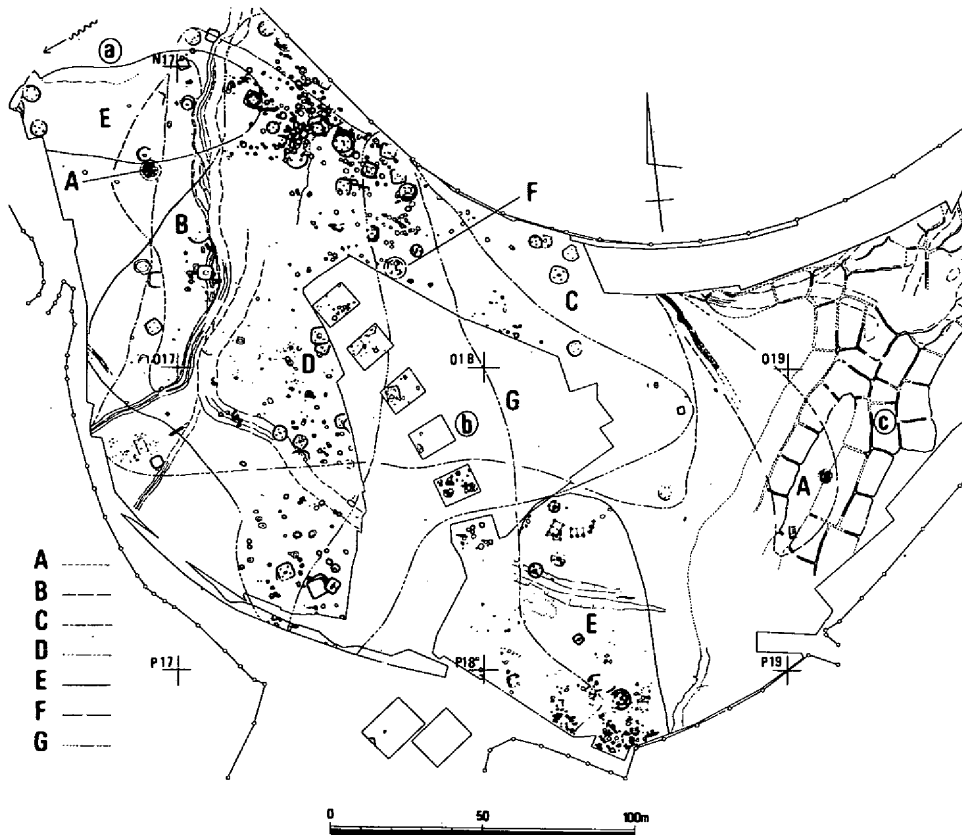
遺構は弥・前・Ⅲの土壙-334が1基、橋脚（P4区）に出現しており、北東から南西に延びる微高地の稜線上に位置する。遺物は野上田、中屋の両地区で散見できるが、非常に少ない。しかし、縄文時代の後・晩期の遺物よりは多い。

弥・中・Ⅰの古相段階の遺構はみられず、しばらく間隔を置いて、弥・中・Ⅰの新相段階の竪穴住居2軒、掘立柱建物1棟、溝等が微高地西端の野上田地区と東端低位部の中屋地区の2か所にみられる。第857図のAがその位置である。弥・中・Ⅱの古相段階では、前述の微高地西端野上田地区の竪穴住居の位置から南北に広げた110×30m²に竪穴住居、土壙、溝等が認められる。Bを中心とする範囲である。

弥・中・Ⅱの中、新相段階は弥・中・Ⅱの古相の遺構分布範囲とあまり変化をしていないが、竪穴住居、土壙数が増加し、遺構密度が高くなっている。この時期までの遺物の量はあまり多くはないが、包含層、溝の埋土中に弥・前・Ⅰ、Ⅱの遺物を散見することができる。しかし、弥・中・Ⅰの古相段階の遺物に関しては確認できない状況であり、調査区内には遺構も存在しないようである。弥・中・Ⅰの新相段階から、数軒の竪穴住居が微高地地上を利用し、低位部への開発にも同時に目が向けられ始

める最初の段階である。

集落範囲が拡大されるのは、弥・中・Ⅲから弥・後・Ⅰの時期である。弥・中・Ⅲの段階では遺構、遺物ともに増加傾向に入り、弥・中・Ⅰ、Ⅱの数軒の竪穴住居から10数軒になり、土壇の増加、袋状土壇・墓の出現へと変化をしている。しかし、弥・中・Ⅲの段階にも古相と新相の遺構が存在する。ちなみに、弥・中・Ⅲの古相では竪穴住居9軒、袋状土壇7基、土壇13基、掘立柱建物1棟、井戸1



第856図 時期別遺構分布図(1/2,500)

表9 弥生時代の遺構・遺物消長概要

弥生時代		弥前Ⅰ	弥前Ⅱ	弥前Ⅲ	弥中Ⅰ	弥中Ⅱ	弥中Ⅲ	弥後Ⅰ	弥後Ⅱ	弥後Ⅲ	弥後Ⅳ
調査区	野上田遺構(9)遺物				■		●	■	●	●	●
	西川遺構(136)遺物			■	■	■	■	■	■	■	■
	中屋②遺構(33)遺物			■	■	■	■	■	■	■	■
	中屋③遺構(96)遺物			■	■	■	■	■	■	■	■
	中屋④遺構(63)遺物			■	■	■	■	■	■	■	■
中屋⑤遺構(177)遺物	●●●●●●●●●●		■	■	■	■	■	■	■	■	
主な遺構数	土壇	0	0	1	0	4	26	80	45	0	6
	竪穴住居	0	0	0	2	2	13	22	18	1	14
	墓	0	0	0	0	0	2	12	2	0	4
	袋状土壇	0	0	0	0	0	13	152	8	0	0
掘立柱建物	0	0	0	1	0	1	1	4	0	0	

※ ②～⑤は津寺遺跡報告書番号

基、土器溜り1がみられる。新相段階では竪穴住居が若干少ないが、他の遺構においてはほぼ同数を示している。古、新相の集落範囲はCであり、面積18,500m²をはかる。また、弥・中・Ⅱ～Ⅲの溝は西川地区の溝-1、中屋地区の溝-3があり、川濠えを繰り返しつつ幹線水路として機能している。この時期には微高地東端の低位部において、造、開田が実施されている。

弥・後・Ⅰでは、弥・中・Ⅲの東西に長い集落範囲が約65m縮小し、南側に約80m拡大され、140×220mの南北に細長



第857図 津寺遺跡弥生時代全体図(1/1,500)

い集落となっており、Dの範囲(18,300m²)がそれにあたる。竪穴住居22軒、袋状土壇152基、土器棺墓9基、土壇墓3基、土壇80基、掘立柱建物1棟、土器溜りが2である。住居分布は北に濃く、南に薄い状況を呈しているが、さらに用地外の南北に拡大しそうである。袋状土壇、竪穴住居には2～4回の切り合い、立て替えが認められる。土器棺墓、土壇墓は居住単位とする竪穴住居の近くとか、集落西側の外れ、溝の側に位置する。

弥・後・Ⅱでは、南北に延びる弥・後・Ⅰの集落の帯が分断されており、北側では弥・後・Ⅰの集落の西側E範囲(2,300m²)と南側では弥・後・Ⅰの集落東側E範囲(3,100m²)に分散している。竪穴住居18軒、掘立柱建物4棟、袋状土壇8基、土器棺墓2基、土壇45基と本地域では縮小傾向を見せ始める。この時期になって掘立柱建物のしっかりした下部構造のものがあらわれている。溝では西川地区の溝-2、中屋地区の溝-3が機能し、水田経営が行なわれていたと考えられる。弥・後・Ⅱの新相から弥・後・Ⅲの段階になると、従来みられた竪穴住居はどこかに移動し、O18区の北西40mに位置する竪穴住居-195の1軒のみとなる。これは、弥・後・Ⅱの新相段階において本調査区から集落が消え、弥・後・Ⅲに再び出現した1軒として捉えることが可能である。また、廃棄時においても遺物投棄の特殊な行為が実施された様子がうかがえる竪穴住居であり、楯築弥生墳丘墓と同時期のものである。

遺物に関してもあまり多くの数を見ることのできない状況であり、野上田地区の低位部包含層中、溝の埋土中に若干の土器を認めることができる程度である。

弥・後・Ⅳの段階での集落形態は再編が整いつつあり、次にくる古墳時代前期への胎動が感じられる。竪穴住居は南北溝より東側、微高地の中央部分を占地し、南北170m、東西100mの範囲(8,500m²)である。竪穴住居14軒、土器棺墓4基、土壇6基を数え、溝では西川地区の溝-2、中屋地区の溝-3が水田と伴に機能していたと考えられる。

このように各時期の微高地利用には、竪穴住居間の著しい重複関係は認められず、当時の生活体験に基づいて住み分けに配慮した充分な占地計画が実施されたようである。

津寺の場合は南北に延びる微高地の形状に合わせて、竪穴住居の分布範囲が南北の帯状となり、南北に長い集落を形成しているようである。例外的には弥・後・Ⅱの北側集落は東西に長い、これもそこより北側河川の微高地の洗掘を考慮に入れる必要がある。弥・中・Ⅲの竪穴住居分布は東西に200mと非常に長い、その中においても40～50mの東西間隔をもって、3～5軒の竪穴住居が南北に並んで分布する。西川地区の溝-1より西側に3軒、中央部に5軒、水田に近い微高地東側に5軒と並び、弥・中・Ⅲの集落内においても、小単位を構成しているようである。これは、弥・後・Ⅱの古相段階についても同様と考えられる。弥・後・Ⅰ、弥・後・Ⅳの段階の竪穴住居東西間の隔りはあまり顕著ではないようである。

このように南北に並ぶ住居配置は、微高地の形状、河川の流走方向、および自然環境をも考慮に入れ、当時の人達が洪水時等における被害を最少限に食い止めるために用いた方法かも知れない。

(高畑)

註1. 大橋雅也ほか「津寺遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告98』岡山県教育委員会、1995
 亀山行雄ほか「津寺遺跡3」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104』岡山県教育委員会、1996
 大橋雅也・亀山行雄ほか「津寺遺跡4」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116』岡山県教育委員会、1997

第2節 古墳時代前期の津寺遺跡

遺構

竪穴住居の構成

古墳前期の遺構は、南北300m、東西200mほどの微高地上に展開する竪穴住居252（建て替えを含めると288）軒、掘立柱建物4棟、井戸1基、土壇162基、土壇墓7基、土器棺墓16基、土器溜まり16箇所、溝45条と、その東の低位部に広がる水田がある。これらは長さ100m、幅50m余りの領域をもつA～Fの6群に分けることができる。A群は35（44）軒、B群は51（56）軒、C群は22（24）軒、D群は24（31）軒、E群は43（46）軒、F群は24（26）軒の竪穴住居からなるが、最大で4軒の切り合いが認められ、同時に存在した住居は8～10軒ほどと見られる。住居の規模は、床面積25～30㎡で4・5本柱の大型が16軒（14%）、20㎡前後で2・4本柱の中型が72軒（61%）、10㎡前後の柱を持たない小型が30軒（25%）で構成される¹。これを群別に見るとその組成は必ずしも一様ではないが、C群に大型の住居が多く見られる点は注意される²。

また、A群では住居がほぼ同位置に継続して建て替えられるのに対し、B群では位置を移して建て替えられるなど、住居地利用の在り方も各群で異なっているようである。

竪穴住居の構造

つづいて、住居構造の変遷について触れておきたい。弥・後・Ⅳ期の竪穴住居は、円形・多角形のほか四辺が弧状を呈する隅丸方形が見られる。主柱は4～6本あり、壁体からの距離は100cm前後と短い。中央ないしやや偏った位置に二段掘りの深い土壇が穿たれており、方形ないし楕円形の浅い土壇がこれに付設されることが多い。これらはしばしば土堤によって囲まれており、古・前・Ⅰ期まで見られる³。高床部は壁体に沿って設けられる（Ⅴ類）が、その保有率は必ずしも高くない。

古・前・Ⅰ期の竪穴住居は四隅の丸い方形が主体であるが、大型住居では円形ないし多角形も見られる。2ないし4本ある主柱は壁体から120cmほどの位置に据えられており、柱間距離が350cmを越えるものが現れる。中央に設けられた土壇は浅くなり、かわって壁際に二段掘りの土壇が設けられるようになる。高床部は口字形のⅤ類も見られるが、壁際に土壇を設ける関係からかコ字形をなすⅣ類が多い。

古・前・Ⅱ期の竪穴住居はほぼ方形ないし長方形に統一される。主柱は2ないし4本で、壁体からの距離は古・前・Ⅰ期よりさらに長くなっている。中央施設は円形ないし楕円形の浅い土壇のみとなり、壁際に設けられた方形土壇とのセットが確立される。この時期の方形土壇には壁際中央のほか隅に設けるものも見られる。また高床部はⅣ類が一般的であるが、Ⅱ・Ⅲ類も少数ながら存在する。

このように津寺遺跡において認められた住居構造の変遷は、若干の異同はあるものの中・四国地方においてたどることができるようである。ことに、古墳時代初頭における竪穴平面の方形化や方形土壇の採用は、西日本全体に見られる現象でもある⁴。そこで、弥生時代に溯って周辺地域を概観してみると、九州地方ではすでに弥生中期後半に方形土壇が出現しており、住居平面の方形化もいち早く進んでいる⁵。そうすると、住居の方形化と方形土壇の採用は北九州地方の影響による可能性が高く⁶、2本の主柱で上屋を支持する構造もまた同時に伝えられた可能性がある⁷。しかし中・四国地方では、



第858図 津寺遺跡古墳時代前期全体図(1/1,500)

住居の方形化は多角形や隅丸方形を経て漸移的に進行しており、かつまた4本柱やⅣ・Ⅴ類の高床部など九州地方に見られない要素も多い。これらは弥生時代以来の要素であり⁸、伝統的な住居構造に新来の要素を取り込んでいった様子が窺える。

少ない掘立柱建物

3棟ある側柱建物のうち、最も大きい建物-54は桁間8mあり、4間分ある柱は布掘り状の掘り方をもつ⁹。梁間は5mあるが妻柱は確認されておらず、独立した棟持柱を有していたとも考えられる。限定的な調査にとどまったためその性格を知る手掛かりに乏しいが¹⁰、集落中央の、柵列に囲まれた空間内にあるこの建物が、この集落において重要な役割を果たしていたことは間違いないであろう。しかし、この建物も古・前・Ⅱ期には姿を消しており、集落から切り離されて他地へ移された可能性がある¹¹。

一方、貯蔵施設と考えられるような総柱建物は1棟しか確認されておらず、弥生後期～古墳前期を通じてこの遺跡の特色をなしている¹²。しかし、この集落が物資の流通の拠点として機能していたことを考えれば、こうした貯蔵施設が本来欠落していたとは考えにくい。むしろ、調査区外での集中的な管理を想定すべきかもしれない¹³。このことはまた、この集落が隣接する津寺一軒家・三本木遺跡、あるいは加茂A・B遺跡などと有機的な関連をもって機能していたことを想像させる。

遺物

非在地系土器の出土

この遺跡から出土した土師器は4000箱にもものぼるが、とくに非在地系土器が多く含まれている点で注意される¹⁴。これらには、他地域から搬入されたもののほか、他地域の土器を模倣したものが含まれている。搬入土器は集落の西に偏したC・F群に多く見られ、時期的には古・前・Ⅱよりも古・前・Ⅰに集中する傾向にある。また、系譜の明らかなものに限って見ると、瀬戸内沿岸地域のものが最も多く、以下、山陰地方、畿内地方、西部瀬戸内、東海地方、北陸地方の順となる。遺構群とのかわりは必ずしも明確ではないが、土壙墓や土器棺墓にもこうした非在地系土器が見られることからすれば、単に物の移動に留まらず、移住をも含めた人の移動を想定してよいように思われる。

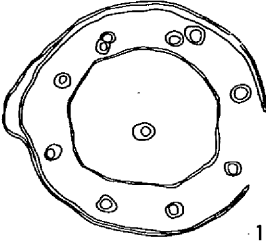
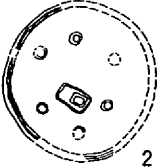
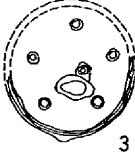
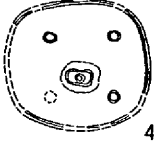
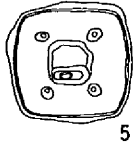
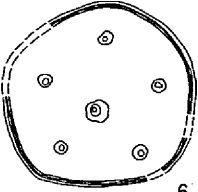
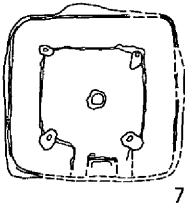
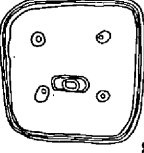
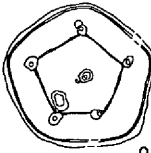
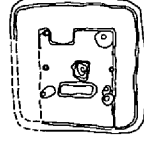
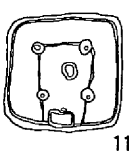

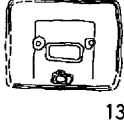

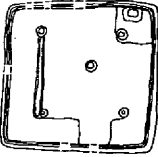
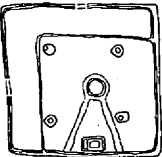
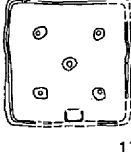
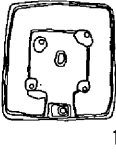
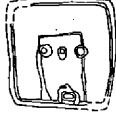
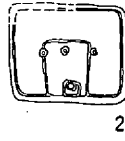
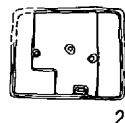


一方、津寺遺跡では庄内甕を模倣した土器がまとまって出土しているが、これらは遺跡近傍での製作が想定されている¹⁵。このような甕がどのような要請によって製作されたかは明らかではないが¹⁶、流通の拠点として機能したこの集落の性格と無関係ではないものと思われる。

豊富な鉄器

また、津寺遺跡では多量の鉄器が出土しているのも注目される。器種としては鉄鏃が74点と最も多く、鉋(22点)や刀子(9点)、摘鎌(5点)、鎌(5点)、斧(4点)、鋤・鋤(2点)といった農工具がこれにつづく。これらはF群を除く各群で偏りなく出土している。こうした鉄器やその鉄素材は、非在地系土器に示されるような広範な交流を通して入手されたものと思われ、この集落の性格を裏付けるものでもある¹⁷。また、このように多量の鉄器が見られるようになった背景に、生産技術の進展があったことは間違いなく¹⁸、津寺遺跡でも小規模な生産が行われていたものと想定されている¹⁹。

遺物の廃棄

ところで、こうした遺物の多くは廃絶した住居や窪地、溝、微高地の斜面などに投棄された状態で出土している。これらを時期別に見ると、古・前・Ⅰ期では窪地にまとまって廃棄され土器溜まりを

	D 類	C 類	B 類	A 類
弥・後・Ⅳ		   		
古・前・Ⅰ	 	   	 	
古・前・Ⅱ	 	  	 	 

1 奥坂遺跡 2・3・15 矢部南向遺跡 4 加茂B遺跡 5～14・16～23 津寺遺跡

第859図 竪穴住居の変遷(1/300)

形成しているものが多い²⁰。また、用水路と考えられる溝-16(西川調査区溝-5)からもまとまった土器が出土しているが、これは溝の改修(つけかえ)によって機能が停止した後に廃棄されたものようである。ところが古・前・Ⅱ期になると、廃絶した住居や水田、溝-4(西川調査区溝-4)に多量の遺物が廃棄されるようになる。これらは、集落の廃絶に際して一括廃棄されたものと考えられ、銅鏡なども混在していることからすれば、集落の廃絶にあたって何らかの祭祀が執り行われたことも想定しうる。

小結

これまで、古墳時代前期の遺構・遺物を概観してきたが、最後に前期集落の終焉について触れておきたい。古墳前期を通して300軒近くの竪穴住居が営まれた津寺遺跡も、古・前・Ⅱに至って解体に向かう。その原因は判然としないが、下流に位置する足守川遺跡群ではこの時期の遺構が厚い洪水砂

で覆われていることからすれば²¹、この一帯が大規模な水害に見舞われたものと推測される。津寺遺跡においても東の低位部に洪水の痕跡をとどめており、その生産基盤に壊滅的な打撃を被ったことも容易に想像される。しかし、居住域が冠水した様子は窺われず、中期には再び集落の展開が見られることからすれば、あるいはそうした災害によって、この集落の担っていた機能の減退ないし喪失を招いたことが、集落解体の主たる要因として働いたとも考えられる。これはまた、中山茶臼山古墳から車塚古墳へと続いた首長系譜の終焉とも時期的に一致する可能性があり²²、政治的な動向とも深くかかわっていたことも考えられる。(亀山)

註1. 弥生後期に見られた床面積が50m²を越えるような大型住居は姿を消しており、住居が小型化・均質化する傾向にある。これは沖積地の拠点集落において顕著であり、これらの集落では大型竪穴がいち早く掘立柱建物へ転換していた可能性がある。

2. 亀山行雄「古墳時代の津寺遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116』岡山県教育委員会、1997
3. 埋土の観察から、中央ピットは灰穴炉、付設された土壇は炊爨の場として機能したものと想定される。
4. 宮本長二郎「九州地方の弥生時代住居」『王子遺跡』鹿児島県教育委員会、1985
5. 宮本長二郎「古墳時代竪穴住居論」『研究論集Ⅶ』奈良国立文化財研究所、1989
6. 石野博信「播磨の中の出雲と筑紫」『兵庫県史の研究』1985
7. 津寺遺跡では4本柱から2本柱に建て替えられている例が少なくなく、床面積も縮小する傾向にある。
8. 同一箇所において建て替え(拡張)を繰り返すのも、弥生時代以来のこの地域の特色である。

註5 文献

9. 大阪府武庫庄遺跡や滋賀県下釣遺跡、兵庫県大中遺跡など、弥生時代の大型建物に類例が認められる。
10. 近年、独立棟持柱をもつ建物を祭儀にかかわる施設(神殿)とする意見が多く出されている。
広瀬和夫「神殿と農耕祭祀」『弥生の環濠集落と大型建物』1996
11. 榎宣田佳男「近畿地方の集落と墓の変化」『吉備の弥生社会』考古学研究会、1997
12. 弥生後期には200基もの貯蔵穴がつくられているが、掘立柱建物は5棟しか確認されていない。
澤山孝之「弥生時代の津寺遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104』岡山県教育委員会、1996
亀山行雄「弥生時代の津寺遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116』岡山県教育委員会、1997
13. 宇垣匡雅「吉備弥生社会の諸問題」『吉備の弥生社会』考古学研究会、1997
14. 亀山行雄「古墳時代初頭の土器」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104』岡山県教育委員会、1996
15. 集中的な生産・供給が想定される甕Bを補完する目的で集落ごとに製作された甕Aの一つと思われる。
中田宗伯「中部瀬戸内における甕形土器の地域色」『吉備の考古学的研究(下)』1992
16. この種の甕を庄内甕の祖形として理解する意見もあり、さらなる比較検討が必要である。
草原孝典「吉備における庄内併行の土器」『庄内式土器研究Ⅸ』1995
奥田尚・米田敏幸「庄内大和型甕に関する新知見について」『庄内式土器研究Ⅹ』1995
奥田尚・米田敏幸「津寺遺跡出土の非在地系土器」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104』岡山県教育委員会、1996
17. 山田隆一「大阪湾沿岸における鉄器化について」『弥生後期の瀬戸内海』古代学協会、1996
18. 村上匡通「九州瀬戸内に見られる鉄器普及の諸段階と跛行性」『弥生後期の瀬戸内海』古代学協会、1996
19. 金田善敬「津寺遺跡出土の金属器」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104』岡山県教育委員会、1996
20. 高橋護は、単純型式の土器溜まりが形成される契機として、広域にわたる住居地利用の割り直しを想定している。
高橋護「弥生終末期の土器編年」『研究報告9』岡山県立博物館、1988
21. 島崎東ほか「足守川加茂A遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告96』岡山県教育委員会、1996
22. 葛原克人は尾上車山古墳を2期に位置付けるが、宇垣匡雅のように3期にまで下げる意見もある。
葛原克人「備中」『前方後円墳集成 中国・四国編』1991

第3節 古墳時代後期の津寺遺跡

この項では、おおむね5世紀前半期から7世紀代についての遺構・遺物を述べる。各々の問題点については、『津寺遺跡2～4』に詳細が述べられており、ここでは津寺遺跡の全体的な概要を記してまとめとしたい。

今回調査を行った津寺遺跡は、南北約1km、東西約500mにもおよぶ広大な面積であった。しかし、古墳時代後期の遺構は、調査地の南端部のジャンクション部分を中心とする野上田・西川・中屋の各調査区、および東側部の高田調査区で検出されている（第860図）。調査地の北側の各調査区では、遺構は皆無であった。地形的には、旧足守川の氾濫地域と考えられ、この地への進出は古代からと思われる。今回古墳時代後期の遺構が多数検出された調査区では、弥生時代から古墳時代前半には居住域および水田域として占地していた地域とほとんど重複している。検出された遺構は、竪穴住居168軒をはじめとして土壇、溝、焼成土壇など多数の遺構が確認されている。これらの遺構は、大きく5世紀後半～6世紀初頭と6世紀後半～7世紀前半の時期に集中しており、他の前後の時期の遺構はきわめて少なく、時期による居住域の移動があったものと考えられる。

5世紀代の遺構は、野上田・西川・中屋調査区に集中して検出されている。この地点は、推定南北約240m、東西約220mの微高地で、弥生時代以来の遺構が多数検出されている安定した微高地である。しかし、この地域は前節で述べられているように、古墳時代前半（古・前・Ⅱ期）の大洪水によって集落はほとんど消滅した状況であったと考えられる。津寺遺跡の北側に存在する三手遺跡では、5世紀代の遺構が認められる微高地の土中に古墳時代前期の遺物が混入していたことから明らかである。この地域が再び居住域として占地されたのは5世紀前半になってからである。最も古い遺構としては、西川調査区の竪穴住居-49bで、初期須恵器の新相が伴う時期と考えられる。次に中屋調査区の竪穴住居-118・119が続きその後微高地の全域に竪穴住居が広がり、その軒数も大きく増加していく。竪穴住居-49bが占地するまでは、古・前・Ⅱ期の洪水から数十年の空白時期が生じている。このような状況は、津寺遺跡北側約2kmの高塚遺跡でも認められ、再び居住域として占地されるのは初期須恵器の古相の段階からである。旧足守川流域の洪水によって荒廃した地域に渡来系の居住域が設定され、この地を母村として周辺の三手遺跡や津寺遺跡への進出が計られたと考えられる。中屋調査区を中心とする微高地は、当初は小規模な進出であったが、陶邑TK23～TK47型式期には広範囲に居住域が認められ、竪穴住居は70数軒にもおよんでいる。この竪穴住居群は、小規模なまとまりを見せており、数グループの単位に存在していた可能性が考えられる。これは後述する6世紀後半の状況とは異なる集落形態を示している。次の竪穴住居の面積、形態、柱穴およびカマドなど各々の問題点については『津寺遺跡3・4』に詳細が述べられており、その報告と大きく逸脱するものではない。カマドについて少しふれておくと、その位置は北西～北東方向の壁体中央部に設けられている。カマドの燃焼部は、壁体よりやや内側に位置する例が多く、6世紀後半の壁体の線上に位置する状況との差異が認められる。また、カマド内の支柱石は、5世紀代の場合には遺存していることが多く、6世紀後半のものは残存していないという指摘がなされている。このことは、カマドに対する祭祀形態の変化を示しており、意識的に新たな竪穴住居へ支柱石の移動が考えられる。また、カマドの下部には、不整形な土壇が存在している例が多く、除湿的効果を得るものと考えられる。



第860図 津寺遺跡古墳時代後期全体図(1/1,500)

これらの微高地全域に存在した陶器TK23～TK47型式期の竪穴住居は、次の時期に続くものとしては中屋調査区の竪穴住居-117の1軒だけが検出されているのみである。他の遺構も認められず単独で認識されている。これは、明らかに別地点への集落の移動と考えられるが、その要因として洪水等の状況を示すものは認められない。さらに、竪穴住居-117に続く遺構も一定期間の空白状態が再び続いている。

次に微高地を占地するのは6世紀後半からで、中屋調査区の中央部から北側にかけて出現する。竪穴住居は20軒が検出されており、陶器TK43～TK209型式期のものである。竪穴住居は、切り合っているものもあり、時期差はあるものの一定地域に集中して存在する傾向が指摘できる。これは、5世紀後半を中心とする竪穴住居が微高地全域に存在し、小規模なまとまりをもっていた状況とは明らかに集落形態の差異を示している。また、掘立柱建物も数棟伴っていることも特徴付けている。さらに、同時期およびやや遅れて微高地の東側低位部をはさんだ高田調査区（一部中屋調査区内）にも竪穴住居が認められる。この地点でも、竪穴住居が中屋調査区と同様に集中して存在する。このような5世紀後半～6世紀初頭に、広範に集落を形成していたものが消えさり、さらにまた集落を形成している状況は、洪水等による要因が考えられないとすれば、集落内の意志としての結果と考えられることもできる。しかし、くりかえされる集落の移動がただ集落の意志としての結果ととらえることにも疑問が残り、さらに大きな意志の存在も想起できる。中屋調査区では、竪穴住居は陶器TK217型式に続くものはなく、集落は前段階で消滅している。一方、高田調査区では、陶器TK43～TK209型式期に集落が成立しており、さらに陶器TK217型式には若干東側へ移動するものの規模の大きな集落を形成している。この高田調査区は、弥生時代～古墳時代前半期には低位部にあたり居住域ではなく水田域として選地されていた。その後、この地域は安定しているものの中屋調査区の微高地に比べると海拔高は低く不安定要素がある。この不安定要素をもつ微高地に集約するように集落が形成されていく。高田調査区では、竪穴住居が105軒検出されており、その一定地域に集中している。これらの竪穴住居の他に焼成土壌なども多数存在し、鍛冶集落としての特徴を示す遺構・遺物が明らかになっている。詳細については、『津寺遺跡4』に報告されている。一方、中屋調査区の集落は、前段階に消滅したが、その地には7世紀中～後半に後述する第4節に示されているように公的施設の存在が明らかとなっている。この公的施設は、南北約124m、東西約94mの二重の溝によって方形に区画された広大な施設である。この公的施設の立地は、周辺域の中でも最も安定した位置に存在している。このような状況の中で、中屋調査区の集落の移動は、公的施設の整備と深くかかわるものと考えられる。つまり、集落の移動は集落の意志ではなく、より大きな意志である公の意志による集落の移動と考えたい。また、高田調査区での集中して集落を形成した陶器TK209～217型式期の後に続く竪穴住居は認められない。

以上、津寺遺跡での古墳時代後期の集落の変遷を中心に述べたが、古墳時代前半の洪水のあと5世紀前半以来数十年単位で集落の消長が繰り返されている状況が認められた。繰り返される集落の移動が、洪水等による自然的な要因であるのか、それとも集落の意志さらにはより大きな意志と考えられるのかはさらなる吟味が必要であろう。

(中野)

第4節 古代の津寺遺跡

古代の遺構・遺物

古代の遺構

古代の遺構は微高地西端の野上田地区から、東端の高田地区までの約49,000m²に分布している。

まず、野上田地区では南流する幅約59mの河川両岸に築造された護岸施設があげられ、特に左岸の施設が大規模に実施されている。この築堤は6世紀末から7世紀初頭に行なわれ、12世紀後半に河川の埋没が完了するまでの間、おおよそ、550年以上の年月が経過している。その埋没過程の堆積土中には7世紀初頭の須恵器、奈良時代中頃の須恵器、土師器、奈良時代末から平安時代中頃にかけての土師器、須恵器が投棄されており、奈良時代と平安時代の遺物が目立っている。埋没最上層には12世紀第3四半期～第4四半期頃の掘立柱建物、土壙墓、土壙等があり、中世の集落が営まれている。

この河川は幅約59m、深さ1.4m以上をはかり、本微高地西端に北方向から激突し、逆「く」の字状に流れを変えて南流することが判明している。古墳時代前期末には、古くより本河川に注ぎ込んでいた北東側からの大形河川の機能低下に伴い、主流への一本化が進んでいったものと考えている。護岸施設は北東側からの大形河川と、北からの主流との合流点、大形河川跡を閉止める形で南北80mまでが確認されている。大形河川跡の軟弱な堆積土を、主流の洗掘から防禦する格好で築造されており、この築堤により北東河川の水利管理、主流の水衝部にあたる旧河道部の保護、陸橋等の役目を果たしたものと考えられる。微高地西端のこの地区は築堤後は、さらに安全な水上交通による利用価値が高まり奈良時代末から平安時代まで機能していたと考えられる。

この間には微高地高所部を中心に野上田地区から高田地区、約49,000m²に主に奈良時代の遺構が分布している。土壙57基、掘立柱建物32棟、柱穴列5、焼成土壙8基、溝188条、溝群1、溝状遺構1を数える。

西端の野上田、西川地区には土壙6基、掘立柱建物4棟、柱穴列1、焼成土壙3基、溝4条、溝群1、溝状遺構の20遺構が散見できる。

中屋地区では微高地高所部を中心に2条の長方形区画溝を持つ大形遺構が占地している。この区画溝は内側の掘立柱建物等の施設を囲む築地の外溝、内溝となるものであり、施設の廃棄に伴い、土器・鉄器等の遺物が投棄されている。その規模は築地（2条の溝間）中心で南北118.30m、東西89.10m、面積10,540m²をはかる。外溝の中心で南北123.80m、東西93.50～94.00m、面積11,606m²、内溝の中心で南北113m、東西84.20m、面積9.51m²をはかる。溝-W27の北端で海拔435cm、南端で海拔400cmであり、高低差35cm、溝-W28の北端で海拔430cm、南端で海拔390cmであり、高低差40cmをはかる。総じて、外溝が内溝より少し浅く掘られており、雨水・排水は基本的に北から南へ、南辺は西から東へ、北辺は中央から西へ流れる高低差がつけられている。溝底の繭状の土壙に関しては水が溜る形状である。

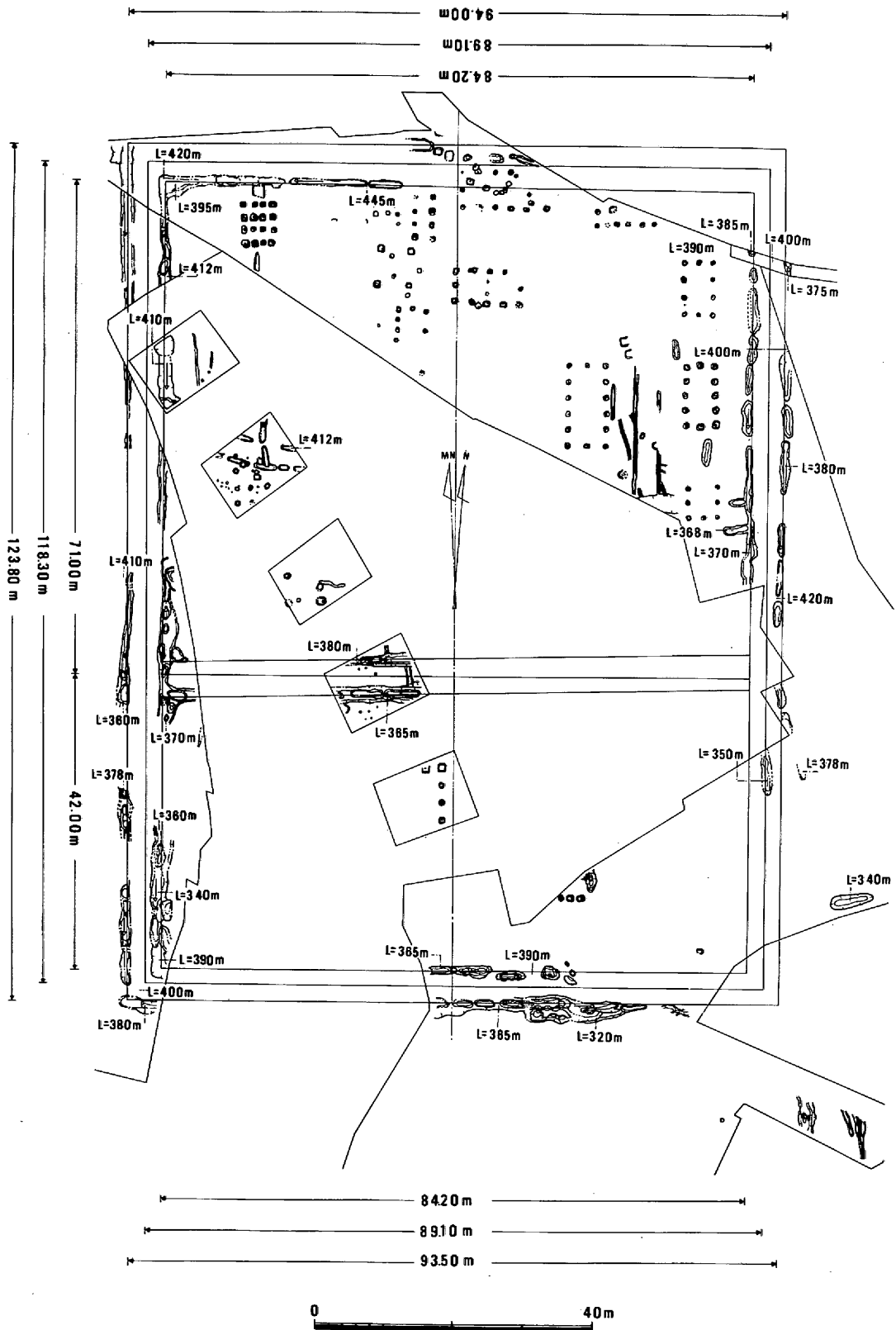
内側の長方形区画溝内には、区画をさらに細分する溝2～4条、掘立柱建物14棟、柱穴列1、土壙8基等が区画軸に合わせて、桁・梁を真北と磁北間に配置されている（第862図）。

植栽部を除いて、東半分は南北に主軸をもつ側柱建物4棟、東西に主軸をもつ側柱建物3棟。西半



第861図 津寺遺跡古代全体図(1/1,500)

分には南北に主軸をもつ側柱建物3棟、総柱建物1棟、東西に主軸をもつ建物1棟、不明2棟の計14棟が確認されている。なお、北辺および南東隅部においては、後世の遺構の重複、削平により区画溝の把握が充分でない。北辺では調査前まで西川、中屋地区を南北に分ける小字境があり、畦路と用水



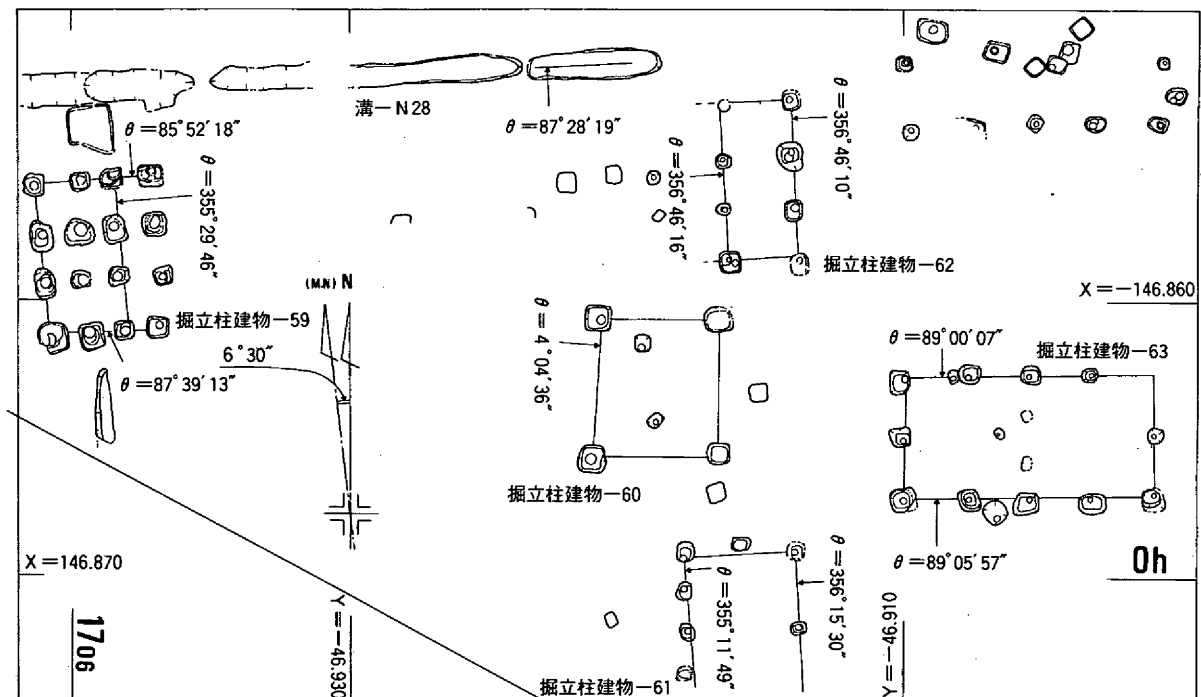
第862図 長方形区画・遺構配置図(1/900)

路が所在しており、それらの改修等により消滅したことも考えられる。南東隅部も中世から現代までの河道となっており、大規模な掘削を受けている。北からの区画溝と西からの区画溝が完結することなく、本施設の出入口の機能を持つ場所となる可能性を考えている。また、2条の溝間の平坦部には柱穴等の遺構は北辺以外には認められず、門等の発見は不可能であった。掘立柱建物を中心とした長方形区画は、東西南の空閑地と一体化して存在し、同時に機能した施設と考えられる。

さらに、長方形区画溝より東側 (13,400m²) には低位部を南流する溝-137を境にし、微高地上に掘立柱建物14棟、焼成土壇4基、土壇32基、溝157条が大きく4か所に分散して所在する。これらは、長方形区画内にみられた整然とした配置ではなく、長方形区画と同方位をもつ遺構は存在していない。長方形区画の北東側を西川地区から中屋地区の低位部に、弧を描きながら南流する幅2~2.5m、深さ80~100cmの溝-132が所在し、古代の遺物を包含している。その溝の右岸南側45×60mと左岸北側33×38mに分離して、小区画の格子溝が方形の範囲を占めており、奈良時代の遺物を多く含んだ土壇により切られている。土壇内の遺物は長方形区画内の施設で使用され、不用となった土器の類が多く投げ込まれている。掘立柱建物では柱穴内に遺物を持つものが少なく、明確に時期を推定することがむずかしい。出土遺物の小片、柱穴の掘り方の平面形、等々から古代の範疇、奈良時代に比定されている。総柱建物が8棟、側柱建物が6棟である。格子溝の方位に一致する掘立柱建物-20、23、24、31の4棟、掘立柱建物-21、27、32が溝-132の南側直線軸に一致しているようである。

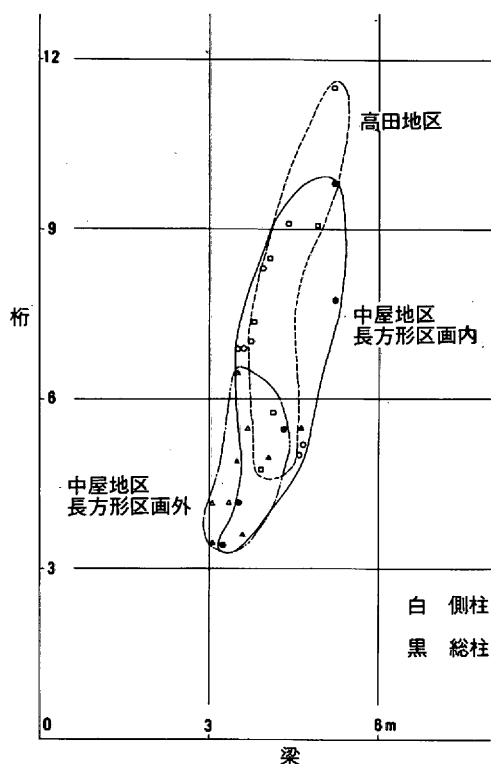
掘立柱建物の切り合い、重複等からは3時期以上の土地利用が認められ、3~4棟がまとまって存在した可能性も考えられる。掘立柱建物-23・24の重複関係は長方形区画内に所在する掘立柱建物-59にもみられ、規模の面でも類似する。本地区の遺構、遺物の傾向は時期的にも、東側の高田地区より中屋地区の長方形区画に近いと考えられる。

東端の高田地区は県道箕島高松線を含め、中屋地区の東側に位置する。6世紀第3四半期から7世



第863図 掘立柱建物方位図(1/300)

紀第2四半期の集落が廃絶後に古代の遺構が出現している。掘立柱建物19棟、土壙4基、土器埋納壙3基、たわみ3か所、溝16条、柱穴多数が確認されており、溝-40、41の西側に平安時代の掘立柱建物、東側に奈良時代の掘立柱建物が所在している。平安時代の掘立柱建物は建物-1～3であり、掘立柱建物-4～19が奈良時代である。東側に分布する掘立柱建物は中屋地区の長方形区画内ほどは整然としていないが、西の溝-40、41と東の溝-46、47に挟まれた90～95m間に納まり、配置に方位が



第864図 掘立柱建物の規模(津寺)

意識されている。例えば、掘立柱建物-14は中屋地区の長方形区画内の掘立柱建物-56、61、62、65、67、69等と同様に、真北と磁北間に主軸を有する。また、掘立柱建物-8は長方形区画内の建物-59と、建物-11は建物-64・66、建物-17は建物-63、建物-18は建物-60・68等の主軸とほぼ一致をしている。本地区の奈良時代の遺物は、中屋地区の長方形区画関係の遺物より若干新しい須恵器、土師器が目立っており、長方形区画溝内の施設より新しい時期まで継続していた可能性が強い。反面、掘立柱建物-17の南側では定形の二彩小壺、掘立柱建物-18の東側では和銅開珙が5枚入った胞衣容器が埋納されており、長方形区画溝内の遺物より古い様相を呈している。また、西端に位置する溝-38・39が一对となり、その間の幅6mをはかる遺構がみられる。両側に溝をもつ道路状の道溝と考えられ、中屋地区の奈良時代の掘立柱建物-22～24、高田地区の平安時代の掘立柱建物-1等の棟方位に近く、 $N-11^{\circ}-W$ をはかる。

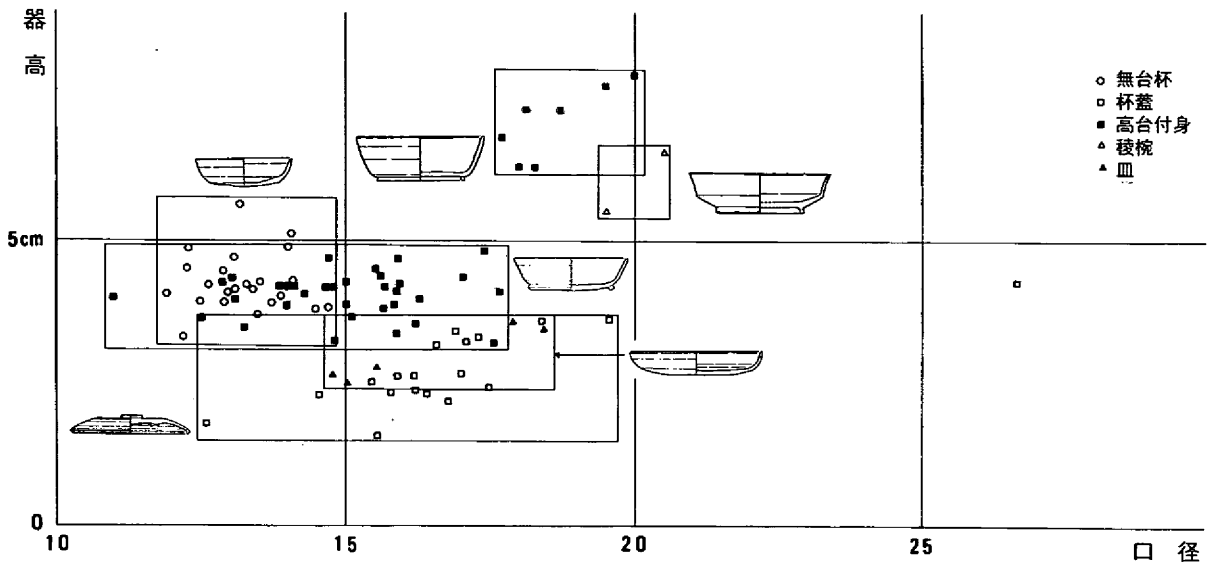
古代の遺物

奈良、平安時代を通して、出土量の多い遺物は須恵器、土師器等の容器であり、次いで丸、平瓦等がみられる。最も古い瓦は中屋地区の溝-475より出土した飛鳥寺様式の軒丸瓦片(8433)があり、文様から角端点珠単弁八弁軒丸瓦と呼称されているものである。この瓦は奈良県の奥山久米寺式軒丸瓦¹に類似しており、7世紀前半に比定されている。

須恵器は平城宮出土土器²の名称に従い、器種をみると、杯A・B・E・F・L、皿A・C・D、盤A、鉢A・F、平瓶、横瓶、壺A・C・E・K・L・N、甕A・Bの形態に類似するものが出土している。他には、壺Aに足が付くもの、平瓶に高台が付くもの、小さい蓋、浄瓶、あるいは多嘴壺の胴部と思われるものがみられる。平城宮出土土器の器種にそっくり合致するとは考えにくいようである。

これらの器種のうち、出土数が多いのは食器類であり、杯Bと杯Eに近い碗形の杯身であり、杯L等が散見できる。杯蓋、杯身、稜碗、皿等の法量をおおまかに呈示したのが、第865図であり、ほぼ同時期における器種構成の可能性を考えている。

杯Bの口径は11.0～20.0cm、器高3.3～7.9cmをはかり、口径17.5～20cm、器高6.3～7.9cmの大形とそれ以外の小形に分かれ、小形はさらに細分されるが、器高では大差は認められない。小形の口径は

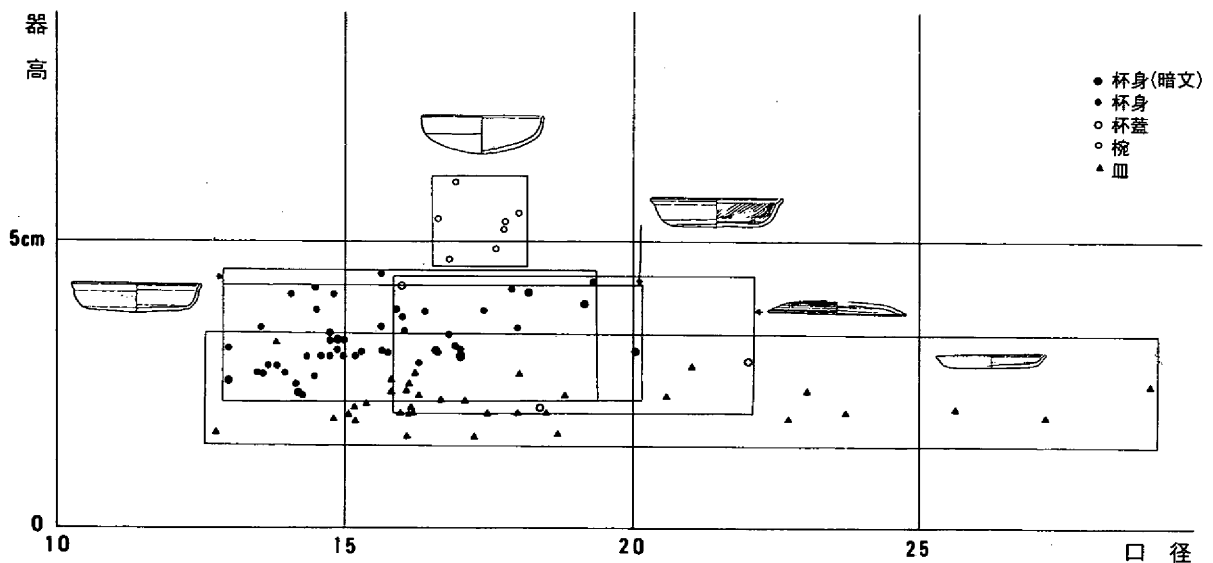


第865図 須恵器（食器）の法量

11.0～17.0cm、器高3.3～4.7cmであり、口径は個々に13、14、15、16cmの前後にまとまり、器高は4cm前後にまとまるようである。しかし、口径14cm以上の杯身とセット関係になる杯蓋は存在するが、口径14cm以下の杯身とセット関係になる杯蓋はほとんどみられない。

一見、杯Eに似る椀形の杯身の口径は10.4～15cm、器高3.6～5.2cmをはかり、杯Bの身の口径と14cm前後で一部重複するが、総じて杯Bより小振りである。器高は3.7～5.6cmの幅内であり、4.0～5.0cm間に集中している。7世紀代の蓋・身の送転以後、定着してきた器形であり、古いものは杯蓋の形状を残し、口縁部内湾の度合いが強い。皿は高台の有無により2種類に分かれ、口径は9.4～26.9cm、器高は2～3.5cmをはかる。須恵器の回転はほとんど右廻りであり、溝-N28内出土の大・小形の須恵器の胎土分析においても、器種に関係なく胎土差は認められておらず、ほぼ同じ分析結果である。他には硯、転用硯、椀等がみられる。

土師器は須恵器に比べて少なく、須恵器の半分強の出土量である。器種も杯A・B、皿A、椀、高



第866図 土師器（食器）の法量

杯A、鉢B・E、盤等の食器と、壺Aのような貯蔵具、鍋B、甕A・B・C、甌、カマド等の煮炊き具がみられる。須恵器と同様に食器が多くみられ、杯A、皿等が中心を占める。

杯Aでは、丹塗りを施すもの、暗文を施すもの、丹塗りと暗文を同時に施すものと、そうでない4種類が認められる。なかでも丹塗りがされたものが多く、暗文の施された土器の約5倍の出土であり、丹塗りと暗文を同時に施すものは少ないようである。

ここでは、暗文の施された土師器を平城宮出土土器³との対比によって年代を考えてみたい。確認できる暗文は杯A・B、皿、高杯、盤等にみられ、盤8407は口縁内面に上下2段の斜放射暗文、底部ヘラケズリが施されており、今回出土の土師器では古い技法を残すものである。他の杯、皿類は口縁内面に1段の斜放射暗文が主で、底部内面には杯蓋同様に螺旋暗文が認められる。とくに、溝-28N内の土器に良好に残っており、外底面のユビオサエは暗文が施されたものに目立ち、丹塗りの土器にはユビオサエがあまり顕著でない。溝-N28出土の丹塗り、暗文の施された土器と煮炊き具との3者の胎土分析では、まず3者が異なることが判明し、さらに暗文の施された土器が2グループに分かれている。煮炊き具においても2グループに分かれる結果を得ている。溝-N28に代表される暗文の施された土器は、法量において平城宮出土土器より小振りであり、規模が異なっている。

法量ではなく、暗文を基準に概観すると、連弧文のみられる食器類はなく、すでに消失している。口縁部内面の2段の斜放射暗文は8407を除いて他にみられず、1段で右上がりの斜放射暗文と底面の螺旋暗文が主流になっている。この特徴は平城宮出土土器Ⅱ・Ⅲ⁴に近い様相を呈しており、長方形区画溝内の遺物は平城宮出土土器Ⅱの新相からⅢの中・新にかけてのものと考えられる。

さて、南北123.8m、東西94.0mをはかる長方形区画溝、および掘立柱建物群は8世紀の第2四半期に立てられ、若干の立て替えを行いながら、8世紀の第3四半期頃まで継続した可能性がうかがえる。真北と磁北の間に統一された棟方向、整然と並ぶ建物配置、遺物では円面硯、転用硯、暗文や丹塗りが施された土師器、周辺では銅製鍔帯が3点、胞衣壺、和銅開珎、萬年通寶等の通常の集落ではあまり見ることのできない遺物が出土している。

周辺の遺跡では、南西1.3kmに古代山陽道における津嶋の駅家に比定される矢部廃寺、南2.2kmには白鳳期の日畑廃寺、北西7.3kmには朝鮮式山城「鬼ノ城」、また、足守川左岸では津宇郡の郡家に比定されている「幸利神社」⁵が北東0.8km、北東3.15kmに吉備津神社が所在する。

これらの遺跡と少なからず関連を持ちながら、本長方形区画溝の所在する津寺は陸、海の交通の要所、政治・経済・文化の物流拠点とし、公的な機能⁶を果していた可能性が考えられる。

また、津宇郡（下郡）⁷における公的施設のほぼ全体像が判明した遺跡でもある。そして、この施設は何らかの理由により、他の場所に移転しており、溝、土壇内には瓦、土器等の破片のみが廃棄された状況であった。おそらく、次の移転先に再利用可能な瓦、土器等が搬出された結果であろう。

（高畑）

註1. 大脇潔「七堂伽藍の建設」町田章編『古代史復元』8講談社、1989

なお、大脇氏には津寺、政所遺跡出土の同種5片を観察して頂いた。そして、両者が異范、あるいは同一瓦范の彫り直しなのかは不明であるが、ほぼ同時期（630年）のものであり、奥山久米寺系統の工人がこちらで瓦を焼いたものと思われるという所見を頂いた。

2. 田辺征夫ほか「土器」『平城宮発掘調査報告Ⅺ』奈良国立文化財研究所、1981

別表4、5を参考にして、須恵器、土師器の土器分類を行った。今度、さらに器種分類についての具

体的な検討が必要と考えている。

3. 小笠原好彦、西弘海「平城宮Ⅰ～Ⅶの大別」『平城宮発掘調査報告Ⅻ』奈良国立文化財研究所、1976
法量、器形において差異が認められるので、ここでは土師器の暗文を中心にして対比を行った。
4. 玉田芳英「土器」『平城京長屋王邸跡』奈良国立文化財研究所、1996
5. 千田稔「埋もれた港」1974
「幸利神社」の所在する場所は地形が周辺より少し高く、弥生時代後期～中世にかけての土器片が表採できる。「おこおりさん」と呼称されている。
6. 秋本吉郎校注「風土記」『日本古典文学大系2』岩波書店、1958
賀夜郡の松岡に国司・郡司が新しい御宅を造る。備中国風土記云。賀夜郡。松岡。去岡東南維二里。駅路在今新造御宅。奈良朝廷。以天平六年。国司従五位下勲十二等石川朝臣賀美。郡司大領従六位上勲十二等下道朝臣人主。少領従七位下勲十二等菴臣五百国等時。造始云々。の記載がある。天平6年(734)と長方形区画溝内の施設とは近い年代を示しているが、本遺跡は津宇郡内と考えており、賀夜郡域には入っておらず、今後の郡域の研究が必要であろう。
7. ① 池邊彌「和名類聚抄郡郷里驛名考證」吉川弘文館
備中国九郡の1つ。津宇郡四郷として、眞壁、撫河、深井、駅家の郷名が記されている。高山寺本には駅家郷を欠いている。
② 竹内理三『寧樂遺文』所収「備中国大税負死亡人帳」による。
天平11年(739)の備中国大税負死亡人帳(正倉院文書)によれば、建部郷岡本里、河面郷神沼里・辛人里、撫川郷鳥羽里、深井郷岡田里の4郷5里が見える。
河面郷死亡人參人とあり、神沼里戸主津臣益磨の戸口建部猪磨、辛人里戸主秦人部稻磨の戸口秦人部弟嶋、戸主赤染部首馬手の名がみられる。渡来系の氏名が多い地域である。河面郷は現在の岡山市加茂、造山古墳の所在する新庄下、新庄上あたりに比定されている。

参考文献

1. 浅倉秀昭ほか「津寺遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告90』岡山県教育委員会、1994
2. 大橋雅也ほか「津寺遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告98』岡山県教育委員会、1995
3. 亀山行雄ほか「津寺遺跡3」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104』岡山県教育委員会、1996
4. 亀山行雄ほか「津寺遺跡4」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116』岡山県教育委員会、1997
5. 高畑知功「古代の役所とその周辺」『特集山陽自動車道と埋蔵文化財』教育時報第507号 岡山県教育委員会、1991
6. 『鬼ノ城』鬼ノ城学術調査委員会、1980
7. 岡田博「官衙」『吉備の考古学的研究(下)』山陽新聞社、1992

第5節 中世の津寺遺跡

津寺遺跡で検出した中世の遺構には、掘立柱建物、土墳墓、井戸、土壙、溝、水田などがある。

掘立柱建物は、土筆山から高田まですべての調査区で確認されているが、どの調査区でも全体にくまなく存在するのではなく、ある限られた地点に数棟が集中する様相になっていた。遺構の残存状態が良好な土筆山調査区では、溝によって区画された内部に掘立柱建物群が存在する屋敷地が南北方向に並んで検出され、中世における集落構成を知ることができた。それによると、調査範囲内に7区画の屋敷地を想定することが可能で、北端に位置する屋敷地1は、屋敷地2と南辺の区画溝を共有し、東西方向は水田によって隔絶されていた。屋敷地2は、長さ約30mの北辺区画溝が集落東側の水田と接続する導入水口となっており、西辺区画溝は集落と水田を分離していた。東西に接して検出された屋敷地3と屋敷地4は、後者が前者を拡張したもので、拡張期の区画規模は、南北30m、東西40m以上である。屋敷地5は12×20mの大きさを有し、南辺は水田で区画されていた。屋敷地6は北辺と西辺の一部が溝(25×30m)で区画され、屋敷地7は西辺に水田が存在した。このように、区画された屋敷地の1辺は約15~30mの正方形または長方形を呈し、区画溝を隣接の屋敷地と共有するものが多い。各屋敷地内には数棟の掘立柱建物が重複して存在するため、2~3時期に細分できると思われるが、集落内における各時期の建物構成を明らかにすることはできなかった。しかし、柱穴数の密度が建物が建て替えられた回数に比例すると仮定すれば、屋敷地3と屋敷地4が他の屋敷地と比べて建物数が多く、かつ長期にわたって建物が存在したところと思われる。この土筆山調査区で検出した集落の風景は、津寺遺跡の別の調査区においても存在したと考えられるが、掘立柱建物や区画溝と推定される痕跡を断片的には確認できたものの、遺構面の一部が削平されていたり後世の遺構と重複していたりして遺構の残存状態が悪かったから、土筆山調査区のように集落構成を把握することはできなかった。

土墳墓は、津寺遺跡全体で50基以上も検出されているが、出土した人骨には、仰臥伸展葬のものと右(左)側臥屈葬されたものが認められ、木棺に埋葬されたものと埋葬施設を持たない土壙に直接入れられたものがある。野上田調査区の土墳墓-7では曲物の桶棺を使用していたが、このような埋葬法は室町時代に入ってから普及するのであろう。土墳墓が存在した立地状況では、区画溝に囲まれた屋敷地の中に位置する屋敷墓と思われるものと、集落から少し離れた微高地に数基が集まった状態のものがある。丸田調査区や中屋調査区などでは火葬墓も確認されているが、津寺遺跡全体の中世墓のうちでは数が少ない。ここで津寺遺跡において検出された土墳墓で、特に注目されるものを列挙したい。中屋調査区の土墳墓-20は、土墳墓としては単独で存在し、遺体の頭位は北で伸展葬の状態に埋葬されていた。この土墳墓から出土した遺物は、青磁碗、白磁碗、蓋のない青白磁の高台付合子、在地産の吉備系土師質土器碗とともに、菊花双鳥文鏡、鉄製紡錘車、刀子、小玉40点以上と、豪華な品物ばかりである。さらに土筆山調査区の中世墓-5では、身と蓋がセットになった白磁合子、白磁碗、吉備系土師質土器の碗と小皿とともに、菊花双鳥文鏡と刀子が検出され、前述の土墳墓-20に類似した副葬品が出土した。この2基の土墳墓は、輸入磁器や和鏡など優秀な副葬品を有するから、この地域で傑出した人物が埋葬されているのではなかろうか。また丸田調査区の土墳墓-6では、右側臥屈葬された壮年男性の人骨とともに、金鎚、相鎚、炭掻き、火打ち鎌、鍬、鍬、鉄鉗などの鍛冶道

具一括が副葬されていて、被葬者の生前の職業をうかがい知ることができたのである。そのほかにも輸入磁器や刀子などの鉄器が出土した土壌墓もあるが、遺物が存在しなかった土壌墓も認められる。

井戸は、素掘りのものと石組みのものが存在した。中屋調査区の井戸-9は、板材で正方形の井戸枠を設置し、その内部に曲げ物を2段に積み上げた井筒を据えていた。また高田調査区で検出した井戸-3は、コウヤマキの丸木を刳り貫いて井筒とし、その上部に加工痕を持ったヒノキ板を巡らせていた。中屋調査区の井戸-10は石組みの井戸であるが、上位に積み上げられていた石材が内部に転落していた。中屋調査区で検出した井戸の周辺には、屋敷地を囲む区画溝と思われる痕跡は認められたものの、掘立柱建物は検出されていない。井戸が屋敷地に伴う遺構であるならば、中世の柱穴は周囲に数多く存在するから、確認できなかった別の掘立柱建物が隠されているのかもしれない。

土壌は、平面形や深さが千差万別で、種々の形態を呈したものが認められた。土筆山調査区の土壌-48では、土壌の底部に存在する角礫を中心に獣骨（牛の下顎骨と上腕骨）と小角礫を周囲に置き、15個体の吉備系土師質土器碗を積み重ねて入れていた。この土壌が屋敷地内に所在したことから、建物地鎮の可能性が想定できるが、一方では屋敷地の区画溝下層に位置していたことから、水利に関する祭祀遺構であることも否定できない。土筆山調査区の土壌-63からは、残存状態の悪い牛骨（下顎や後足など）が出土している。牛は農耕にも貴重な労力であったから、特別の思い入れがあったのかもしれない。中屋調査区の土壌-176と土壌-183は、全体の規模が大きいにもかかわらず検出面から底部まで浅い。内部には人頭大の石を直線的に並べ、部分的には2段に積み上げられていた。この2基の土壌については、性格が不明である。野上田調査区の土壌-23や中屋調査区の焼成土壌-9と焼成土壌-10は、平面形が隅丸長方形に近い形態を呈し、断面形が逆台形になっていた。土壌内は高温に熱されて堅くなり、炭化物が堆積していた。これらの焼成土壌は鉄器生産に関係すると考えるが、丸田調査区で検出した土壌墓-6の副葬品に鍛冶道具一括が認められたことは、このことを傍証していると思われる。

溝は、土地の小字名が変わるほどの大溝から水田または畑に伴う畝溝まで存在した。西川調査区と中屋調査区の境界に位置する溝-18と野上田調査区と西川調査区の境界に位置する溝-19は、発掘調査に着手する直前まで利用されていた灌漑用水路だが、その起源は、1182年（寿永元年）に妹尾太郎兼康によって築造されたという伝承を持った、「湛井十二か郷用水」の分水路である加茂用水に通じている。土筆山調査区の溝-3や西川調査区の溝-13~16などは、水田への用排水路である。土筆山調査区の溝-1や溝-9と高田調査区の溝-54などは、集落の居住区である屋敷地を区画する溝と考える。丸田調査区や中屋調査区の南端部分で検出した格子目状を呈する細い溝や、高田調査区の溝-71~80と溝-89~104などは、水田または畑に伴う畝溝で、掘立柱建物や土壌などの遺構が存在しない居住区から離れた地域に、広く分布しているのが認められた。

水田は、津寺遺跡のほとんどの調査区から検出したが、集落の縁辺部に広く存在するようである。野上田調査区の北側に位置する低位部では、一部に畦畔の存在が確認され、水田利用の変遷を把握することができた。ところで、津寺遺跡で検出した中世の遺構の時期であるが、丸田調査区の窪地状遺構や東斜面から古代末に属する土器が多く出土していることや、高田調査区に存在する溝-54が古代の溝の流路を踏襲していたことなどから、古代から継続的に構造物が構築され、中世全般を通じて緩やかに経過して近世に至ったと思われるが、居住域の耕地化が進みはじめる萌芽は、すでに中世の後葉期に入った早い段階にあったと考える。

(福田)



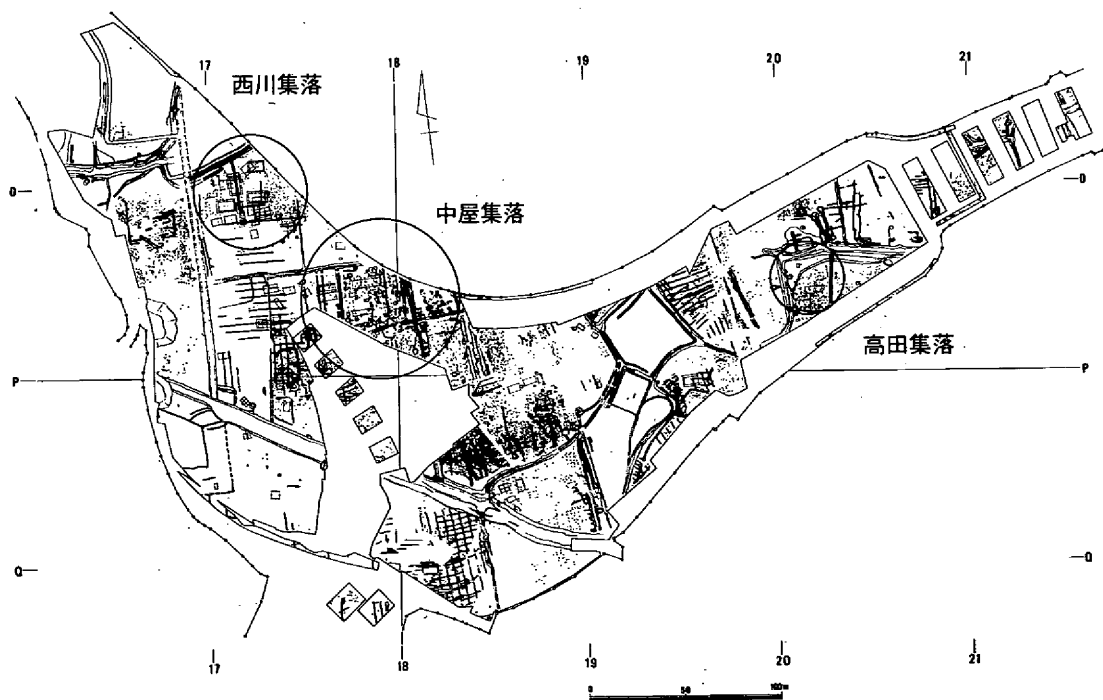
第867図 津寺遺跡中・近世全体図(1/1,500)

第6節 近世の津寺遺跡

肥前において陶器生産が始まった16世紀末以降を対象とする本節では、中世からのつながりを考慮に入れて近世の位置付けを考えてみたい。この両時期を構成する遺構として掘立柱建物・井戸・土壙(墓)・溝などがあるが、この中に掘立柱建物群・柱穴群と井戸によって構成された遺構のまとまりをいくつか指摘することができる(この遺構群を集落と呼ぶ)。この中から少なくとも16世紀末以降に存続していたと思われる集落を抽出してみると、O17区の北西部・O17区の南東部・O20区の南西部の3か所(以後それぞれ西川集落・中屋集落・高田集落と呼称する)確認できる(第868図)。それぞれの集落の詳細はこれまでの報告¹に詳しいが概要は以下の通りである。

西川集落は、北は西川溝-13~16、西を西川溝-19、南を西川溝-18に囲まれた範囲内に掘立柱建物22棟、井戸1基がある。掘立柱建物の棟数がかかなり多く、四面庇の特殊な構造をもつものもあることは注目すべき点であるが、この中には中世のものも含まれており、近世段階での棟数・構造は他の2集落と大差はないだろう。存続期間はおおむね16世紀から17世紀初頭の間で捉えることができる。

中屋集落は西川集落から約70m南に西川溝-18を挟んで位置する。掘立柱建物6棟・土壙(墓)43基・井戸4~5基は、西川溝-18・中屋溝-535・西川溝-25・中屋溝-532・533・中屋溝-539で四方を囲まれており、それぞれが約40mの間隔をとって配置される。掘立柱建物・土壙墓はこの溝に規制されて造られており、計画的に居住域と墓域が設定されていた可能性が高い。存続期間は16世紀末から18世紀中葉と長いために、井戸も多く掘削されている。土壙墓には副葬品が見られないものの、墓地周辺から柿経・土製仏等の祭祀的な遺物が出土している。遺構の構成から見ても特殊な集落であったことが推察される。



第868図 津寺遺跡における近世集落の分布(1/4,000)

遺構一覽表
遺物觀察表
遺構名称对照表

凡 例

遺構一覽表

竪穴住居

- ・平面形は床面の形状を表す。少ない残存面積でも推測できるものは()で表す。
- ・規模は対向する上端間の最大距離を記載する。()は残存長を表す。
- ・長軸の向きは、柱穴のあるものは対向する柱間の中点を結んだ直線、柱穴のないものや柱穴が一部しか検出されていないものは床面の短辺の中点を結んだ直線の角度をN- $^{\circ}$ -Eで記載する。
- ・床面積は壁体溝の下端(外側)で囲まれた範囲を記載する、()は残存面積である。
- ・標高は床面の中央付近の値を記載する。
- ・高床部は設けられた辺の数を記載する。
- ・中央穴をともなう場合は○、中央穴が焼けている場合は●をする。
- ・中央穴、カマド以外に焼土面をともなう場合は○をする。
- ・カマドをともなう場合は住居中央からの位置を記載する。

掘立柱建物

- ・規模・柱間距離・柱穴掘り方は、それぞれ最大値と最小値を記載する。
- ・棟方向は梁の中点を結んだ線の方法をN- $^{\circ}$ -Eで表す。

土壌墓

- ・主軸の向きは、木棺痕跡など頭位がわかればその方向を、わからなければ底面の短辺の中点を結ぶ線の方向を16方位で記載した(頭位がわからない場合は北を優先した)。
- ・標高は底面最深部の海拔高を示した。

袋状土壌

- ・口部直径、底部径は最大値を記載した。
- ・底面海拔高はそれぞれ底面中央付近の高さを基準にcmで記載した。
- ・断面形態は、壁面の形態を上部が内傾する1型、円筒上の2型、上部が外傾する3型の3種に、底面の形態を平らなA型、中央が窪むB型、中央が盛り上がるC型、周囲にあるD型の4種に分け、それぞれを組合せて1A型～3D型の12の型に分類する。

土壌

- ・標高は底面最深部の海拔高を示す。
- ・断面形は、皿状、椀状、箱状の3種に分類した。

遺物観察表

遺物観察表のうち、()の数値は以下で説明を加えない限りその残存値を表す。

土器

- ・法量のうち、(径)は残存率が1/6以下のものを表す。なお脚台径は底径として表した。
- ・瓦の法量は、口径・低径・器高の欄にそれぞれ長さ・幅・厚さを表す。
- ・色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- ・胎土は、含まれる砂礫の粒径が2.0mm以上を砂礫、2.0～1.0mmを細砂、1.0～0.5mmを微砂、0.5mm以下を精良として表す。
- ・煤は土器全体に及ぶものをA、胴部上半に及ぶものをB、胴部下半にとどまるものをCとし、B・Cにあっても口縁部に煤が見られるものはB'・C'に分類して表した。
- ・黒斑は、口縁部をA、胴部をB、底部をCとしてその部位を示した。

土製品、石器・石製品、金属器

- ・法量は、長さ、幅、厚さ、孔径の最大値を表す。
- ・土製品の色調、胎土は土器に準ずる。

竪穴住居一覧表

掲載遺構名	平面形	規模 (cm)		長軸の向き	床面積 (m ²)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)		付属施設					時期	備考
		長さ	幅					最大	最小	高床部	方形土堀	中央穴	焼土面	カマド		
竪穴住居-187	(円形)	(304)	(132)	-	(3.25)	380.6	1/	-	-	-	-	-	-	-	弥・中・Ⅲ	
竪穴住居-188	(円形)	-	-	-	-	391.0	2/	234	-	-	-	○	○	-	弥・中・Ⅲ	
竪穴住居-189	(方形)	-	-	-	(4.95)	393.9	1/	-	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居-190	(方形)	(200)	(184)	-	(2.55)	325.6	1/	-	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居-191	(方形)	(370)	(214)	-	(3.82)	341.6	1/	-	-	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居-192	(方形)	(558)	510	N-88°-W	(22.13)	361.8	4/4	298	290	4	○	○	○	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居-193ABC	方形	436	-	N-82°-W	10.14	354.0	4/4	243	203	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居-193ABC	方形	503	(352)	N-88°-W	13.19	360.0	4/4	277	256	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居-193ABC	(方形)	不能	不能	N-87°-W	-	358.0	4/4	243	226	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居-194	円形	428	394	N-66°-E	12.37	405.5	4/4	248	144	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居-195	(円形)	540	526	N-90°	19.80	396.0	4/4	252	238	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅲ	
竪穴住居-196	不整形	470	394	N-42°-E	12.43	402.0	4/4	190	153	-	-	○	-	-	弥・中・Ⅲ	
竪穴住居-197	(隅丸方形)	440	414	(N-61°-W)	(11.81)	414.5	3/4	248	227	-	-	○	○	-	弥・中・Ⅲ	
竪穴住居-198	不整形	554	526	N-43°-W	(19.54)	422.9	4/4	212	185	-	-	-	○	-	弥・中・Ⅲ	
竪穴住居-199	隅丸多角形	622	560	N-16°-E	26.40	404.2	4/4	279	246	-	-	○	-	-	弥・中・Ⅲ	
竪穴住居-200	不整形	480	470	N-19°-W	16.70	400.3	4/4	196	153	-	-	-	-	-	弥・中・Ⅲ	
竪穴住居-201	(円形)	514	500	N-28°-E	19.71	373.5	6/6	23.9	12.9	-	-	-	-	-	弥・中・Ⅲ	
竪穴住居-202	円形	410	390	N-28°-W	10.18	338.7	4/4	176	158	-	-	○	○	-	弥・後・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-203	(円形)	495	(495)	-	(5.38)	327.4	4/4	250	230	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-204	円形	488	460	N-63°-W	15.77	300.0	4/4	220	202	-	-	●	-	-	弥・後・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-205	隅丸方形	344	332	N-40°-W	8.14	312.4	4/4	206	186	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-206	(隅丸方形)	(520)	(510)	N-60°-W	(18.43)	384.3	4/4	262	230	-	-	○	○	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-207	不明	(220)	(140)	-	(1.80)	330.0	1/	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-208	(方形)	402	(244)	-	(8.40)	401.0	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-209	不明	-	-	-	-	396.0	1/	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-210	方形	430	430	N-87°-W	15.34(15.20)	354.4	2/2	143	-	3	○	○	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-211	(方形)	(250)	(146)	-	(19.97)	407.0	1/?	-	-	-	-	-	○	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-212	(方形)	386	318	N-75°-E	10.28(10.06)	374.0	-	-	-	3	○	●	○	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-213	(方形)	(376)	(330)	-	(10.12)	365.0	2/2	226	-	(3)	○	-	○	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-214	(隅丸方形)	546	(360)	-	(14.37)	369.8	3/4	253	234	(3)	-	○	○	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-215	方形	450	430	N-80°-E	15.11	373.0	4/4	171	157	3	○	●	○	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-216	(方形)	-	-	-	-	393.0	-	-	-	-	-	○	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-217	(方形)	400	380	N-67°-W	13.38(12.30)	388.6	2/2	158	-	-	○	○	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-218	(隅丸方形)	496	(494)	N-80°-W	(15.50)	365.0	4/4	227	203	4	○	○	○	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	鏡
竪穴住居-219	(方形)	424	418	N-10°-W	(13.54)	388.8	4/4	230	202	4	○	○	○	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-220	方形	378	364	N-10°-W	11.58	400.0	-	-	-	3	-	●	○	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-220	方形	378	364	-	11.35	399.2	-	-	-	-	○?	●?	○	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-221	(隅丸方形)	-	-	-	(2.55)	420.9	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-222	長方形	384	315	N-75°-W	10.87	386.0	-	-	-	-	-	○	○	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-223	不整形	445	430	N-89°-W	19.13	385.0	4/4	240	210	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-224	不整形	428	410	N-2°-E	15.70	395.7	4/4	247	208	-	-	○?	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-225	不整形	428	358	N-69°-W	13.83	390.2	2/2	154	-	4	-	●?	○	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-225	不整形	428	358	N-69°-W	13.83	387.6	2/2	154	-	-	○	○	○	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-226	隅丸方形	455	405	-	18.00	394.0	-	-	-	-	-	○?	-	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-227	(方形)	636	578	N-72°-W	34.02	401.0	4/4	340	291	(3)	○	●	-	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-228	(方形)	500	494	N-14°-E	22.93	388.5	4/4	238	230	-	○	○	○	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-229	方形	406	364	N-87°-E	12.87	371.2	-	-	-	3	○	●	○	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-230	隅丸方形	488	376	N-80°-W	16.45	390.5	2/2	190	-	-	-	○	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-231	不整形	374	310	N-66°-W	10.37	395.0	-	-	-	3	○	●	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-232	方形	576	570	N-89°-W	30.49	404.0	4/4	310	282	4	○	●	○	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-233	長方形	450	394	N-7°-E	15.09	402.2	-	-	-	-	○	-	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-234	方形	616	600	N-80°-E	33.68	369.8	4/4	288	269	2	○	○	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-235	長方形	492	390	N-14°-E	17.13	388.5	-	-	-	2	○	○	○	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-236	隅丸方形	416	386	N-83°-E	13.82	385.4	-	-	-	-	○	●	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-236	(方形)	370	348	-	(12.45)	376.3	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-237	方形	510	494	N-8°-W	(21.86)	385.0	4/4	271	260	2	○	●	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-238	不明	(284)	(30)	-	-	410.0	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-239	(方形)	(420)	(230)	-	(5.02)	387.6	1/	-	-	(2)	-	-	-	-	弥・後~古・前	
竪穴住居-240	方形	412	316	N-80°-W	11.34	374.8	2/2	160	-	-	○	○	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-241	不明	460	420	N-20°-E	16.96	382.7	2/2	151	-	○	○	-	-	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-242	不明	(158)	(20)	-	-	392.7	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-243	方形	360	332	N-20°-W	10.99	393.5	-	-	-	-	○	○	○	-	古・前・Ⅱ	
竪穴住居-244	(隅丸方形)	280	(156)	N-7°-E	(2.42)	408.7	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-245	方形	554	540	N-10°-W	28.2(28.0)	385.0	4/4	330	313	○	3	○	○	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-246	不明	(215)	(140)	-	(1.83)	428.0	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-247	(隅丸方形)	458	392	N-70°-E	(12.63)	407.7	3/4	236	196	4	○	-	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-248	隅丸方形	502	462	N-63°-E	19.38	387.0	4/4	250	202	4	-	○	-	-	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
竪穴住居-249	隅丸方形	560	528	N-37°-E	24.56	395.0	4/4	262	230	3	-	○	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-250	不整形	486	450	N-20°-W	14.29	379.3	4/4	202	220	-	-	○	-	-	古・前	
竪穴住居-251	(方形)	(268)	246	(N-4°-E)	(3.22)	404.5	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前	
竪穴住居-252	不整形多角形	592	526	N-77°-E, N-90°-E	22.08	380.0	4/5, 4/4	216, 260	196, 200	3	-	-	○	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-252	不整形多角形	592	526	N-77°-E, N-90°-E	22.08	380.4	4/5, 4/4	216, 260	196, 200	-	-	○	-	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居-253	方形	470	458	N-6°-W	17.58	387.4	4/4	194	182	3	○	●	○	-	古・前	
竪穴住居-253	方形	420	400	N-5°-W	14.80	381.2	4/4	194	182	4	○	○	○	-	古・前	
竪穴住居-254	不整形	422	388	N-83°-E	13.27	402.3	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ	

遺構一覽表

竪穴住居一覽表

掲載遺構名	平面形	規模 (cm)		長軸の向き	床面積 (㎡)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)		付属施設					時期	備考
		長さ	幅					最大	最小	高床部	方彩土	中央穴	焼土面	カマド		
竪穴住居-255	(方形)	(238)	(202)	-	(3.32)	423.6	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前	
竪穴住居-256	(方形)	-	-	-	-	401.5	1/4	-	-	-	-	-	○	-	古・前・II	
竪穴住居-257	隅丸方形	606	510	N-85°-E	24.64	386.3	4/4	258	231	-	-	●	○	-	古・前・I	
竪穴住居-258	不整形	512	474	N-65°-E	21.16	421.8	4/4	182	156	-	-	-	-	-	古・前・II	
竪穴住居-259	不整形	436	354	N-40°-W	13.60	412.0	4/4	198	150	-	-	-	-	-	古・前・II	
竪穴住居-260	不整形	520	340	N-90°-E	14.54	416.0	4/4	318	167	-	-	●	-	-	古・前・I	
竪穴住居-261	隅丸長方形	430	378	N-2°-E	13.55	389.5	2/2	163	-	-	-	-	○	-	古・前・I	
竪穴住居-262	不整形	(470)	-	-	(5.13)	400.4	1/4	-	-	-	-	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-263	(隅丸方形)	826	(422)	(N-5°-W)	(28.35)	356.8	2/4	372	-	-	○	○	○	-	古・前・II	
竪穴住居-264	不整形	(414)	(144)	-	(4.07)	397.6	1/4	-	-	-	-	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-265	方形	474	(360)	N-5°-W	(14.90)	393.0	4/4	232	198	-	-	○	-	-	古・前・II	
竪穴住居-266	(不整形)	536	494	N-43°-W	(22.67)	421.0	4/4	215	153	-	-	-	-	-	古・前・II	
竪穴住居-267	隅丸長方形	566	(506)	N-82°-E	(21.96)	363.2	4/4	242	214	4	-	●	-	-	古・前・I	
竪穴住居-268	(隅丸方形)	530	-	-	-	不明	357.6	-	-	-	-	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-269	(方形)	464	(338)	(N-50°-W)	(8.61)	374.0	1/4	-	-	-	-	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-270	隅丸方形	414	356	N-62°-W	10.63	355.2	2/2	270	-	2	○	○	-	-	古・前・I	
竪穴住居-271	(方形)	(300)	(146)	-	(2.25)	353.1	1/	-	-	-	-	○?	-	-	古・前	
竪穴住居-272	(隅丸方形)	606	594	-	11.31(18.50)	345.4	3/4?	243	234	(3)	-	○	-	-	古・前・I	
竪穴住居-272	(隅丸方形)	608	596	-	11.31(18.50)	344.1	3/4?	246	240	(1)	-	-	○	-	古・前・I	
竪穴住居-273	不整形	424	368	N-16°-E	12.37	339.0	2/2	136	-	4	-	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-273	不整形	420	366	N-15°-E	12.12	333.0	2/2	136	-	-	○	-	-	○	古・前・I	
竪穴住居-274	方形	392	344	N-32°-E	(9.80)	344.2	-	-	-	2	○	○	○	-	古・前・I	
竪穴住居-275	方形	504	500	N-27°-E	21.04	340.0	4/4	196	187	-	○	●	○	-	古・前・I・II	
竪穴住居-276	方形	444	390	-	15.12	335.0	?	-	-	-	-	○?	○	-	古・前・I・II	
竪穴住居-276	方形	444	390	N-43°-E	15.12	335.0	4/4	247	221	(3)	○	○	-	-	古・前・I・II	
竪穴住居-277	隅丸方形	540	478	-	22.50	335.2	-	-	-	3	○	○	-	-	古・前・I・II	
竪穴住居-277	隅丸方形	534	478	N-74°-W	20.26	318.5	4/4	267	220	(4)	○	○	-	-	古・前・I・II	
竪穴住居-278	(隅丸方形)	390	(102)	-	(0.83)	339.5	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前	
竪穴住居-279	(不整形)	(370)	(146)	-	(3.49)	340.2	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前	
竪穴住居-280	不明	(150)	(78)	-	(0.66)	345.8	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前	
竪穴住居-281	方形	410	370	N-30°-E	12.17	345.5	2/2	133	-	-	○	○	-	-	古・前・I~II	
竪穴住居-282	不整形	356	336	N-38°-W	9.57	325.8	-	-	-	2	○	○	-	-	古・前・I	
竪穴住居-282	方形	356	336	N-38°-W	9.30	314.7	-	-	-	2	○	-	○	-	古・前・I	
竪穴住居-283	方形	498	432	N-23°-E	17.09	341.0	4/4	215	164	4	-	●	○	-	古・前・II	
竪穴住居-283	方形	498	432	N-23°-E	17.08	334.7	4/4	215	164	4?	○	-	○	-	古・前・II	
竪穴住居-284	(方形)	(260)	(220)	-	(3.59)	330.0	1/	-	-	3	○	-	○	-	古・前・I	
竪穴住居-285	方形	412	310	(N-90°-E)	10.85	329.4	1/	-	-	-	-	○	-	-	古・前・I	床面2面
竪穴住居-286	不整形	354	342	N-10°-E	9.98	368.2	-	-	-	-	-	○	-	-	古・前	
竪穴住居-286	方形	382	370	N-76°-W, N-82°-W	10.73	357.4	2/2	108.144	-	4	○	○	-	-	古・前	
竪穴住居-287	方形	508	418	N-82°-W	17.39	327.0	2/2	173	-	4	○	○	-	-	古・前	
竪穴住居-288	隅丸方形	560	500	N-28°-E	22.73	354.8	4/4	266	235	-	-	○	-	-	古・前・I	炉
竪穴住居-289	(方形)	(312)	(230)	-	(5.39)	316.5	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-290	(方形)	(560)	(418)	-	(13.98)	336.2	1/	-	-	2	-	●?	○	-	古・前	
竪穴住居-291	不整形	286	234	N-3°-E	5.72	365.5	-	-	-	-	-	-	○	-	古・前	
竪穴住居-292	(方形)	(220)	(70)	-	(0.31)	315.8	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・I・II	
竪穴住居-293	不整形	418	380	N-22°-E	12.51	324.5	2/2	154	-	4	○	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-294	(方形)	490	(270)	N-25°-E	(10.41)	319.6	4/4	242	226	-	-	○	-	-	古・前・I	
竪穴住居-295	(方形)	(260)(424)	366	-	(8.13)(13.46)	318.5	3/4	148	142	(2)	-	●	○	-	古・前・I	
竪穴住居-296	(不整形)	500	390	N-72°-W	16.42	284.3	2/2	176	-	(2)	○	-	-	-	古・前・II	
竪穴住居-297	不整形	564	562	N-8°-E	26.35	291.0	4/4	279	272	(2)	○	○	-	-	古・前・I	
竪穴住居-297	不整形	562	552	N-11°-E	25.50	289.0	4/4	275	198	(3)	○	-	○	-	古・前・I	
竪穴住居-298	方形	412	398	N-67°-W	12.73	315.7	4/4	163	154	4	-	○	-	-	古・前・I	粘土塊
竪穴住居-299	方形	384	306	N-75°-E	9.92	335.0	-	-	-	4	-	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-299	方形	384	306	N-75°-E	9.77	334.0	-	-	-	-	○	-	●	-	古・前・I	朱壺?
竪穴住居-300	方形	455	376	N-62°-W	13.76	320.0	2/2	160	-	2	○	●	○	-	古・前・II	土製紡錘車
竪穴住居-301	(隅丸方形)	561	452	N-53°-E	(14.33)	322.0	2/2	196	-	3	○	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-302	(方形)	708	640	N-67°-E	(38.37)	303.0	4/4	358	313	4	○	○	-	-	古・前・I	
竪穴住居-303	(長方形)	340	337	N-70°-W	(8.45)	325.0	-	-	-	2	○	○	-	-	古・前・II	
竪穴住居-304	(方形)	526	518	N-85°-E	(19.15)	307.0	4/4	250	227	3	-	○	-	-	古・前・I	
竪穴住居-305	(方形)	275	125	-	(208)	349.0	1/	-	-	-	-	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-306	(方形)	500	420	N-84°-E	(12.34)	329.0	2/1	-	-	(2)	-	○	-	-	古・前・II	
竪穴住居-307	(方形)	(188)	(100)	-	(1.07)	328.0	-	-	-	-	-	-	-	-	古・前・II	
竪穴住居-308	不整形	548	542	N-75°-E	(23.15)	345.0	4/4	241	231	(2)	○	-	-	-	古・前・I	
竪穴住居-309	長方形	535	368	N-64°-E	(17.42)	340.0	2/2	215	-	-	○	○	-	-	古・前・I	
竪穴住居-310	隅丸方形	461	376	N-53°-W	(14.07)	340.0	2/2	195	-	2	○	-	○	-	古・前・II	鏡
竪穴住居-311	方形	330	310	N-84°-E	8.15	341.3	-	-	-	-	○	●	○	-	古・前・I	
竪穴住居-312	(隅丸方形)	(320)	-	-	(5.02)	368.0	-	-	-	-	-	○	-	-	古・前・I・II	
竪穴住居-313	方形	502	492	N-65°-E	(22.79)	403.5	4/4	280	235	-	-	-	○	-	古・中・II	
竪穴住居-313	(不整形)	502	492	N-65°-E	(22.76)	-	4/4	-	-	-	-	-	-	-	古・中・II	
竪穴住居-314	(方形)	378	(150)	-	(4.34)	400.0	2/4	152	-	-	-	-	-	-	古・後・I	
竪穴住居-315	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	古・中	
竪穴住居-316	不明	-	-	-	-	451.5	-	-	-	-	-	-	-	-	古・中・II	
竪穴住居-317	不整形	516	410	(N-89°-W)	(13.27)(18.9)	428.8	-	-	-	-	-	○	-	-	古・中・II	
竪穴住居-318	方形	464	452	N-30°-W	19.68	436.5	-	-	-	-	-	-	-	-	古・後・II	
竪穴住居-319	隅丸方形	470	360	N-70°-W	14.98	437.0	-	-	-	-	-	-	-	-	古・後・II	

竪穴住居一覽表

掲載遺構名	平面形	規模 (cm)		長軸の向き	床面積 (㎡)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)		付属施設					時期	備考
		長さ	幅					最大	最小	高床部	方形土敷	中央穴	焼土面	カマド		
竪穴住居-320	方形	530	500	N-75°-E	23.58	422.0	4/4	293	220	-	-	-	○	北	古・後・II	
竪穴住居-321	(方形)	(408)?	440	N-57°-E	(9.87)	424.4	4/4	250	198	-	-	-	-	北西	古・後・II	
竪穴住居-322	(方形)	(258)	(178)	-	(3.82)	431.0	1/	-	-	-	-	-	-	-	古・後	
竪穴住居-323	(隅丸方形)	(394)	(326)	-	(9.21)	429.8	-	-	-	-	-	-	-	-	古・後	
竪穴住居-324	方形	596	548	N-50°-W	30.27	420.0	-	-	-	-	-	-	-	北西	古・中・II	
竪穴住居-325	方形	552	498	N-18°-E	25.31	417.2	4/4	276	254	-	-	-	-	北北東	古・中・II	
竪穴住居-326	(方形)	284	(140)	N-74°-W	(3.32)	439.2	-	-	-	-	-	-	-	-	古・後	
竪穴住居-327	(方形)	460	436	N-85°-W	(10.89)	434.7	-	-	-	-	-	-	-	北西	古・中	
竪穴住居-328	(方形)	(280)	(220)	N-44°-W	(4.07)	430.1	-	-	-	-	-	-	-	-	古・後	
竪穴住居-329	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	北	古・中	カマドのみ
竪穴住居-330	(方形)	(456)	396	(N-67°-E)	(13.45)	415.8	3/4	246	180	-	-	-	○	北北西	古・後	
竪穴住居-331	不整形	524	462	N-37°-W	22.52	425.5	3/4	295	218	-	-	-	-	北東	古・後	
竪穴住居-332	隅丸長方形	546	510	N-86°-E	23.16	387.0	2/2	254	-	-	-	-	-	-	古・後	
竪穴住居-333	長方形	660	594	N-28°-W	36.66	408.8	4/4	317	272	-	-	-	●	北北西	古・後	床面に炉跡
竪穴住居-334	(方形)	(450)	-	N-29°-W	-	426.3	2/4	295	-	-	-	-	-	○	古・後	
竪穴住居-335	不整形	458	454	N-64°-E	17.56	414.0	4/4	219	188	-	-	-	-	北北西	古・後	
竪穴住居-336	隅丸長方形	466	404	N-51°-W	16.82	418.2	4/4	226	221	-	○	-	-	北西	古・後	
竪穴住居-337	隅丸方形	436	428	N-25°-W	15.71	404.2	4/4	152	132	-	-	-	-	-	古・後	
竪穴住居-338	(隅丸方形)	446	(186)	N-28°-W	4.73	385.2	1/4	-	-	-	-	-	-	-	古・後	
竪穴住居-339	長方形	388	350	N-35°-W	10.58	346.5	4/4	222	126	-	-	-	-	-	古・中	
竪穴住居-340	(方形)	(345)	-	N-68°-E	-	-	2/4	220	-	-	-	-	-	-	古・中	
竪穴住居-341	不明	(172)	(90)	-	(0.77)	370.2	-	-	-	-	-	-	-	-	古・中	
竪穴住居-342	(隅丸方形)	348	(236)	-	(方形)	368.4	1/	-	-	-	-	-	-	北北西	古・中	
竪穴住居-343	方形	290	254	N-43°-E	5.75	369.0	-	-	-	-	-	-	-	北東	古・中	
竪穴住居-344	方形	434	376	N-49°-E	15.29	350.0	-	-	-	-	○	-	-	○	古・中	
竪穴住居-345	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	北東	古・中	

掘立柱建物一覽表

掲載遺構名	規模			柱間距離(cm)		面積 (㎡)	棟方向	柱穴掘り方			時期
	間数	桁行(cm)	梁間(cm)	桁	梁			平面形	径(cm)	深さ(cm)	
掘立柱建物-49	2×2	438~434	303	226~210	303	13.2	N-29°-E	不整形, 円形	112×75~78×84	62~45	弥・後・II
掘立柱建物-50	(2)×1	(407)	179	215~205	179	不能	N-89.5°-E	方形, 楕円形	91×93~98×70	55~20	弥・後・II
掘立柱建物-51	2×1	416~414	260	214~204	260	10.8	N-88°-W	円形, 楕円形	128×98~86×78	58~10	弥・後・II
掘立柱建物-52	(2)	384, 385	-	200~184, 197~188	-	不能	N-22°-E	不整形	110×77~52×525	44~32	弥・後・II
掘立柱建物-53	(2)×1	(278)	(153)	151~127	153	不能	N-27°-W	方形	40×37~37×37	34~23	古・前・I
掘立柱建物-54	4×1	802~817	515~527	180~237	515~527	12.5	N-77.5°-E	長方形	875×98	50~80	古・前・I 布掘
掘立柱建物-55	3×2	375~364	312~284	140~119	164~132	10.6	N-2°-W	円形	72×56~55×45	26~11	古・後
掘立柱建物-56	(3)×1	(738)	(240)	255~240	240	不能	N-2.5°-E	方形	110×110~70×64	57~26	奈良
掘立柱建物-57	1×1	475	393	475	393	17.4	N-87.5°-E	方形	119×114~86×81	67~48	奈良
掘立柱建物-58	(2)×1	(438)	210	240~198	210	不能	N-85.5°-E	楕円形	80×64~64×48	68~8	奈良
掘立柱建物-59	3×3	549~528	430~391	210~155	170~120	22.6	N-10°-W	方形	112×105~67×63	69~35	奈良
掘立柱建物-60	1×1	505~485	450~415	505~485	450~415	21.3	N-12°-E	方形	95×95~76×73	57~36	奈良
掘立柱建物-61	(3)×2	(878)~(438)	393	156~132	198~195	不能	N-5.2°-E	方形	72×61~52×42	35~15	奈良
掘立柱建物-62	3×1	577~576	262~248	207~180	262~248	14.5	N-3°-E	方形	102×91~48×37	20~17	奈良
掘立柱建物-63	4×2	913~(681)	440~(218)	236~220	228~212	39.8	N-82.5°-W	方形	96×74~47×35	57~26	奈良
掘立柱建物-64	4×2	912	490	245~217	245~224	不能	N-87°-W	方形	78×75~34×32	18~15	奈良
掘立柱建物-65	5×2	1150	520	246~212	260	60.0	N-3.4°-E	方形	75×70~55×47	70~22	奈良
掘立柱建物-66	5×(2)	806	(198)	200~156	198	-	N-89.5°-E	方形	45×55~65×75	55~47	奈良
掘立柱建物-67	3×2	736	390	252~238	205~185	28.7	N-3°-E	方形	68×68~43×44	59~25	奈良
掘立柱建物-68	4×2	850~833	408~370	220~198	214~182	32.5	N-3°-E	方形	105×90~70×68	90~56	奈良
掘立柱建物-69	(2)×2	(434)~(412)	408	227~194	222~186	不能	N-3.5°-E	円形, 方形	66~54×45	46~26	奈良
掘立柱建物-70	(3)×1	(608)	(165)	216~192	165	不能	N-81°-E	円形	37~24	33~18	中世
掘立柱建物-71	2×1	415~410	300	215~195	300	12.3	N-85°-E	円形	34×30~26×24	24~20	中世~近世
掘立柱建物-72	2×2	428~416	370~345	244~184	193~167	14.3	N-69°-E	円形	65~41	38~22	中世~近世
掘立柱建物-73	3×1	603~602	368~355	212~195	368~355	21.8	N-85°-W	円形	36~32	50~20	近世
掘立柱建物-74	7×1	1490~1468	435~414	268~154	435~414	59.2	N-89°-E	円形	53~32	68~37	近世
掘立柱建物-75	5×1	994~988	400~383	207~191	400~383	38.8	N-89°-E	円形	40×36~26×26	50~40	近世
掘立柱建物-76	5×1	979~971	390~387	216~172	390~387	37.8	N-90°-E	円形	48×38~29	53~28	近世
掘立柱建物-77	4×1	822~811	344~329	212~195	187~157	27.4	N-88°-W	円形	41~26	50~29	近世
掘立柱建物-78	5×1	1014~1006	266~259	237~187	266~259	26.3	N-89°-W	円形	56~29	30~16	近世

土器棺墓一覽表

掲載遺構名	掘り方				棺身		棺蓋	開口方向	埋設状態	副葬品	時期	備考
	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	器種	口径×器高						
土器棺墓-12	不整形円形	60	59	25	甕	(27)×48.2	鉢	西	斜位	無	弥・後・I	
土器棺墓-13	円形	57.5	55	30	甕	(28.2)×34.3	鉢	西北西	斜位	無	弥・後・I	
土器棺墓-14	不整形円形	103	95	24	甕	24.6×41.5	鉢	東南東	斜位	無	弥・後・I	
土器棺墓-15	円形	60	53	14	甕	13.9×28.5	鉢	西	斜位	無	弥・後・I	
土器棺墓-16	円形	45	45	24	壺	(20.5)×37.0	鉢	東	斜位	無	古・前・II	
土器棺墓-17	円形	58	58	32	甕	16.7×33.8	鉢	北東	斜位	無	弥・後・IV	

遺構一覽表

土墳墓一覽表

掲載遺構名	規模 (cm)			底面海拔高 (cm)	平面形	断面形	主軸	副葬品	時期	備考
	長さ	幅	深さ							
土墳墓-18	79	67	7	420	隅丸方形	皿形	北西	-	中世	人骨
土墳墓-19	110	91	11	420	隅丸方形	皿形	東	-	中世	人骨
土墳墓-20	208	76	12	433	長方形	皿形	北	多数	12世紀末	歯
土墳墓-21	62	56	7	433	円形	皿形	北	水晶小玉	中世~近世	歯
土墳墓-22	92	85	50	390	円形	椀形	-	-	13世紀前葉	
土墳墓-23	112	31	37	407	不明	皿形	-	-	13世紀前葉	
土墳墓-24	58	13	9	434	不明	椀形	-	-	13世紀前葉	
土墳墓-25	180	85~108	16~20	408.0	(隅丸長方形)	皿形	N-102°-W	◎	13世紀前葉	右側臥下肢屈葬の人骨
土墳墓-26	148	82~93	18~23	410.0	(隅丸長方形)	皿形	N-15°-W	○	13世紀前葉	右側臥下肢屈葬の人骨 成人男性
土墳墓-27	120	115	7~10	411.0	(隅丸方形)	皿形	N-103°-W	-	13世紀前葉	下肢屈葬の人骨
土墳墓-28	90	80	6~9	425.0	(隅丸長方形)	皿形	N-10°-E	-	13世紀前葉	右側臥下肢屈葬の人骨 壮年女性
土墳墓-29	63	58	5	418	方形	皿形	-	-	中世	

袋状土墳一覽表

掲載遺構名	規模 (cm)			底面形	断面形	底面標高 (cm)	土器	時期	備考
	上面径	底面径	深さ						
袋状土墳-081	136	136	10	円形	I-d	312.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-082	120	105	45	楕円形	I-c	318.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-083	227	158	92	円形	II-d	246.0	×	弥・後・I	
袋状土墳-084	141	135	38	不整円形	I-d	325.0	×	弥・後・I	
袋状土墳-085	120	110	35	(円形)	I-d	309.0	×	弥・後・I	
袋状土墳-086	170	195	128	楕円形	I-d	237.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-087	163	128	98	円形	II-c	266.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-088	不明?(96)	不明?(87)	126	円形	I-a	312.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-089	75	44	50	楕円形	II-a	339.0	△	弥・中・IV	
袋状土墳-090	97	85	67	円形	I-a	327.0	×	弥・後・I	
袋状土墳-091	112	99	17	円形	I-b	353.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-092	99	96	71	円形	I-c	333.0	×	弥・後・I	
袋状土墳-093	140	124	148	隅丸方形	I-a	277.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-094	109	124	62	円形	I-b	353.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-095	118	106	102	隅丸方形	II-b	311.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-096	140	140	108	円形	I-b	307.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-097	110	117	104	円形	I-a	306.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-098	105	122	62	円形	I-a	321.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-099	70	85	45	不整円形	I-b	369.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-100	138	108	73	円形	I-a	351.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-101	115	109	59	円形	I-a	366.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-102	112	105	45	円形	II-a	376.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-103	190	195	70	不整円形	I-a	353.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-104	78	70	37	円形	I-a	386.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-105	204	174	94	円形	I-a	329.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-106	106	98	62	円形	I-a	350.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-107	145	125	37	不整楕円形	II-a	384.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-108		118	75	不整形	I-a	349.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-109	95	85	31	円形	III?-b	388.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-110	119	105	60	円形	III?-c	363.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-111	176	155	94	不整円形	III-c	325.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-112	106	85	58	円形	III-?	352.0	×	弥・後・I	
袋状土墳-113	188	210	75	不整円形	II-c	345.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-114	106	105	66	不整円形	II-b	344.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-115	131	130	70	不整円形	II-a?	333.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-116	137	145	66	円形	III-b	328.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-117	136	119	69	円形	III-a	335.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-118	113	102	41	円形	II-b	361.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-119	110	108	63	円形	II-a	327.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-120	154	148	64	円形	I-b	324.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-121	135	128	107	円形	I-a	288.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-122	126	142	69	円形	I-a	312.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-123	138	159	71	円形	I-b	337.5	○	弥・後・I	
袋状土墳-124	121	109	25	楕円形	III-d	382.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-125	140	160	73	円形	I-a	351.0	×	弥・後・I	
袋状土墳-126	99	99	39	円形	III-a	381.3	×	弥・後・I	
袋状土墳-127	140	136	40	楕円形	II-a	373.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-128	107	82	55	円形	III-d	385.8	×	弥・後・I	
袋状土墳-129	174	150	40	円形	III-b	374.8	△	弥・後・I	
袋状土墳-130	127	122	87	不整楕円形	I-a	305.0	○	弥・後・II	
袋状土墳-131	128	(145)	115	円形	I-a	289.0	○	弥・後・II	
袋状土墳-132	139	131	90	楕円形	II-a	231.0	○	弥・後・I	
袋状土墳-133	106	81	78	不整円形	I-b	249.5	×	弥・後・I	
袋状土墳-134	118	146	70	円形	I-b	334.0	×	弥・後・I	
袋状土墳-135	108	105	36	円形	II-b	273.0	△	弥・後・I	
袋状土墳-136	118	106	32	円形	I-a	281.0	△	弥・後・I	

袋状土壇一覽表

掲載遺構名	規模 (cm)			底面形	断面形	底面標高 (cm)	土器	時期	備考
	上面径	底面径	深さ						
袋状土壇-137	(105)	(92)	58	不明	I-b	317.0	×	弥・後・I	
袋状土壇-138	63	53	36	円形	I-b	313.0	△	弥・後・I	
袋状土壇-139	98	82	53	円形	II-a	279.0	○	弥・後・I	
袋状土壇-140	140	130	40	円形	III-c	254.3	○	弥・後・I	
袋状土壇-141	146	148	28	円形	III-a	258.7	△	弥・後・I	
袋状土壇-142	140	130	93	円形	I-a	257.0	×	弥・後・I	
袋状土壇-143	193	210	95	円形	I-a	259.0	△	弥・後・I	
袋状土壇-144	132	134	19	円形	II-a	270.7	×	弥・後・I	
袋状土壇-145	138	136	48	楕円形	II-a	263.0	×	弥・後・I	
袋状土壇-146	122	116	18	円形	II-c	276.0	×	弥・後・I	
袋状土壇-147	114	108	88	楕円形	I-a	260.0	×	弥・後・I	
袋状土壇-148	164	142	104	楕円形	II-a	248.0	×	弥・後・I	

土壇一覽表

掲載遺構名	規模 (cm)			底面標高 (cm)	平面形	断面形	土器	時期	備考
	長さ	幅	深さ						
土壇-334	133	87	30	320.0	隅丸方形	碗形	△	弥・前・III	
土壇-335	(75)	69	35	345.0	(楕円形)	碗形	◎	弥・後・I	
土壇-336	77	73	19	325.0	(円形)	碗形	△	弥・後・I	
土壇-337	100	(36)	23	323.0	不明	皿形	△	弥・後・I	
土壇-338	60	51	24	408.0	不整方形	碗形	◎	弥・中・III	
土壇-339	64	52	15	418.0	不整方形	皿形	◎	弥・中・III	
土壇-340	124	112	29	391.0	不整方形	皿形	○	弥・中・III	
土壇-341	105	85	26	398.0	楕円形	皿形	△	弥・後・I	
土壇-342	143	114	40	370.0	楕円形	皿形	◎	弥・中・III	
土壇-343	140	83	17	385.0	楕円形	皿形	△	弥・中・III	
土壇-344	155	114	64	335.0	楕円形	碗形	△	弥・後・I	
土壇-345	97	64	15	348.0	不整楕円形	皿形	×	弥・中・III後・I	
土壇-346	75	64	26	332.0	不整円形	碗形	△	弥・中・III後・I	
土壇-347	63	55	16	349.0	円形	皿形	△	弥・中・III後・I	
土壇-348	76	61	29	336.0	楕円形	皿形	△	弥・中・III後・I	
土壇-349	117	69	10	349.0	不整楕円形	皿形	△	弥・中・III	
土壇-350	128	94	28	335.0	隅丸方形	皿形	△	弥・中・III後・I	
土壇-350	184	82	22	341.0	楕円形	皿形	△	弥・中・III後・I	
土壇-352	101	66	23	376.0	隅丸方形	碗形	×	弥・後・I	
土壇-353	117	67	49	349.0	不整円形	碗形	×	弥・後・I	
土壇-354	101	(31)	23	365.0	不明	皿形	×	弥・後・I	
土壇-355	124	97	14	378.0	楕円形	皿形	×	弥・後・I	
土壇-356	74	64	28	364.0	不整円形	碗形	×	弥・後・I	
土壇-357	60	59	11	365.0	円形	皿形	×	弥・後・I	
土壇-358	158	128	28	370.0	不整楕円形	皿形	×	弥・後・I	
土壇-359	150	90	42	383.0	不整形	碗形	△	弥・後・IV	
土壇-360	56	56	15	400.0	方形	碗形	△	弥・後・IV	
土壇-361	60	57	21	383.0	円形	碗形	×	弥・後・I	
土壇-362	(70)?	-	26	380.0	不明	碗形	×	弥・後・I	
土壇-363	141	125	17	385.0	円形	皿形	×	弥・後・I	
土壇-364	-	-	16	389.0	不明	(皿形)	×	弥・後・I	
土壇-365	93	63	40	357.0	不整形	碗形	△	弥・後・I	
土壇-366	(84)	(74)	25	353.0	不明	不明	△	弥・後・IV	
土壇-367	(347)	55	23	405.0	(楕円形)	皿形	△	弥・中・III	
土壇-368	109	108	23	390.0	円形	碗形	○	弥・後・I~II	
土壇-369	98	85	14	392.0	円形	皿形	△	弥・後・II	
土壇-370	82	59	19	393.0	楕円形	皿形	△	弥・後・II	
土壇-371	103	96	35	380.0	円形	碗形	△	弥・後・I	
土壇-372	138	97	33	386.0	方形	碗形	○	弥・後・I	
土壇-373	175	120	24	386.0	楕円形	皿形	○	弥・中・III	
土壇-374	103	69	9	411.0	不整楕円形	皿形	△	弥・後・I	
土壇-375	75	60	15	405.0	隅丸方形	皿形	△	弥・後・I	
土壇-376	(67)	90	20	389.0	(楕円形)	皿形	○	弥・後・I	
土壇-377	99	91	23	391.0	隅丸方形	碗形	×	弥・後・I	
土壇-378	63	50	20	404.0	円形	碗形	×	弥・後・I	
土壇-379	93	57	12	407.0	楕円形	皿形	×	弥・後・I	
土壇-380	73	57	13	408.0	楕円形	皿形	×	弥・後・I	
土壇-381	(163)	102	33	382.0	(不整楕円形)	碗形	×	弥・後・I	
土壇-382	112	不明	21	388.0	(円形)	皿形	×	弥・後・I	
土壇-383	194	116	21	430.0	楕円形	皿形	×	弥・後・I	
土壇-384	61	61	31	419.0	円形	箱形	○	弥・後・III	
土壇-385	121	102	20	398.0	不整形	皿形	△	弥・中・III	
土壇-386	125	87	27	396.0	楕円形	皿形	△	弥・中・III	
土壇-387	120	87	17	397.0	楕円形	皿形	△	弥・中・III	
土壇-388	115	113	37	388.0	不整方形	碗形	○	弥・中・III	
土壇-389	(128)	(63)	64	382.0	不明	碗形	○	弥・中・III後・IV	

遺構一覽表

土壙一覽表

掲載遺構名	規模(cm)			底面標高 (cm)	平面形	断面形	土器	時期	備考
	長さ	幅	深さ						
土壙-390	70	(50)	22	388.0	不明	碗形	×	弥・中・Ⅱ・弥・後・Ⅰ	
土壙-391	204	66	13	401.0	不整楕円形	皿形	×	弥・中・Ⅲ	
土壙-392	86	45	24	386.0	不整楕円形	碗形	×	弥・中・Ⅱ・弥・後・Ⅰ	
土壙-393	98	53	29	381.0	不整楕円形	碗形	×	弥・中・Ⅱ・弥・後・Ⅰ	
土壙-394	183	169	47	369.0	不整形	碗形	○	弥・中・Ⅲ	
土壙-395	108	103	27	382.0	方形	碗形	○	弥・中・Ⅲ	
土壙-396	79	67	34	355	円形	碗形	△	弥・後	
土壙-397	99	(92)	56	305	不整円形	箱形	△	弥・後・Ⅰ	
土壙-398	76	56	36	322	楕円形	(碗形)	△	弥・後・Ⅰ	
土壙-399	97	67	22	342.0	楕円形	皿形	○	弥・後・Ⅱ	
土壙-400	70	66	51	314.0	円形	箱形	△	弥・後・Ⅰ	
土壙-401	104	79	27	321.0	楕円形	箱形	×	弥・後・Ⅰ	
土壙-402	61	52	33	327.0	不整形	碗形	△	弥・後・Ⅰ	
土壙-403	(108)	(65)	79	298.0	不明	箱形	△	弥・後・Ⅰ	
土壙-404	76	49	18	366.0	長方形	碗形	△	弥・後・Ⅰ	
土壙-405	101	90	34	319.0	不整形	碗形	△	弥・後・Ⅰ	
土壙-406	82	60	11	377.0	楕円形	皿形	△	弥・後・Ⅳ	
土壙-407	(85)	63	20	386.0	楕円形	碗形	△	古・前・Ⅰ	
土壙-408	178	(54)	10	396.0	不明	皿形	△	古・中	
土壙-409	224	178	14	400.0	方形	皿形	△	古・前・Ⅱ	
土壙-410	70	64	17	389.0	円形	碗形	△	古・前	
土壙-411	(235)	94	13	427.0	楕円形	皿形	△	古・前・末・中	
土壙-412	90	78	18	385.0	円形	碗形	△	古・前・Ⅱ	
土壙-413	143	90	35	389.0	不整円形	碗形	△	古・前・Ⅱ	
土壙-414	124	113	33	386.0	不整楕円形	皿形	△	古・前	
土壙-415	107	100	12	402.0	不整円形	皿形	△	古・前	
土壙-416	149	132	42	392.0	隅丸方形	碗形	△	古・前	
土壙-417	193	122	18	391.0	楕円形	皿形	×	古・前	
土壙-418	150	86	13	392.0	不整楕円形	箱形	△	古・前	
土壙-419	109	73	16	394.0	長方形	皿形	△	古・前	
土壙-420	74	42	47	263	楕円形	箱形	△	古・前	
土壙-421	(78)	69	15	312	(楕円形)	皿形	△	古・前	
土壙-422	130	94	38	343.6	不整長方形	皿形	×	古・前	
土壙-423	136	103	31	349	不整楕円形	皿形	△	古・前	
土壙-424	202	120	15	314	不整楕円形	碗形	×	古・前	
土壙-425	122	58	23	368	楕円形	皿形	×	古・前	
土壙-426	165	105	53	349	(楕円形)	碗形	○	古・前・Ⅰ	
土壙-427	82	75	28	360	(円形)	皿形	×	古・前	柱穴?
土壙-428	91	85	30	359.1	円形	皿形	×	古・前	
土壙-429	(124)	74	(19)	364	(不整楕円形)	皿形	×	古・前	
土壙-430	169	50	13	367	長方形	皿形	×	古・前	
土壙-431	90	(83)	36	341	不整形	碗形	×	古・前	
土壙-432	72	74	20	360	(楕円形)	皿形	×	古・前	
土壙-433	78	60	32	348	楕円形	碗形	×	古・前	
土壙-434	213	183	16	372	不整円形	皿形	×	古・前	
土壙-435	107	(51)	35	344	(不整円形)	皿形	×	古・前	
土壙-436	169	80	10	379.5	長方形	皿形	×	古・前	
土壙-437	87	74	33	356	円形	碗形	×	古・前	
土壙-438	(74)	61	36	339	(不整楕円形)	(皿形)	×	古・前	
土壙-439	97	79	16	321	円形	皿形	×	古・前	
土壙-440	205	108	57	347	長方形	皿形	×	古・前・Ⅰ	
土壙-441	(124)	(47)	23	340	(不整楕円形)	皿形	○	古・前	
土壙-442	137	96	32	271	楕円形	皿形	×	古・前	
土壙-443	157	117	60	311.0	不整楕円形	碗形	○	古・前・Ⅰ	
土壙-444	117	38	9	325.0	楕円形	皿形	×	古・前	
土壙-445	65	61	12	357.0	円形	碗形	×	古・前	
土壙-446	185	49	16	342.0	楕円形	碗形	△	古・前	
土壙-447	80	56	28	341.0	楕円形	皿形	×	古・前	
土壙-448	204	86	29	365.0	長方形	皿形	○	古・前・Ⅰ	
土壙-449	(98)	(51)	(29)	(343)	不明	不明	×	古・前	
土壙-450	89	83	31	364.0	不整形	碗形	×	古・前	
土壙-451	120	45	20	364.0	長方形	皿形	×	古・前	
土壙-452	153	78	67	317.0	楕円形	碗形	△	古・前・Ⅱ	
土壙-453	65	62	13	381.0	円形	皿形	○	古・前・Ⅱ	
土壙-454	132	(43)	(13)	(366.0)	不明	不明	×	古・前	
土壙-455	113	98	3	363.0	楕円形	皿形	△	古・前	
土壙-456	44	40	9	350.0	円形	皿形	×	古・前・Ⅰ	
土壙-457	67	(66)	(19)	(341.0)	不明	碗形	△	古・前・Ⅰ	残存部が少なく形不明
土壙-458	285	(106)	28	356.0	(方形)	皿形	△	古・中	
土壙-459	96	73	19	412.0	隅丸方形	碗形	×	奈良	
土壙-460	87	80	18	407.0	隅丸方形	碗形	×	奈良	
土壙-461	95	79	18	411.0	隅丸方形	碗形	△	奈良	
土壙-462	190	112	22	378.0	不整楕円形	皿形	△	奈良	
土壙-463	180	57	25	422.0	不整形	碗形	○	奈良	
土壙-464	(133)	(31)	9	439.0	楕円形?	皿形?	△	奈良	

土壙一覽表

掲載遺構名	規模(cm)			底面標高 (cm)	平面形	断面形	土器	時期	備考
	長さ	幅	高さ						
土壙-465	221	68	11	428.0	楕円形	皿形	△	奈良	
土壙-466	250	69	11	414.0	楕円形	皿形	×	奈良	
土壙-467	65	64	23	399.0	円形	碗形	×	奈良?	
土壙-468	86	72	42	368.0	隅丸方形	碗形	×	奈良	
土壙-469	119	100	18	415.0	方形	皿形	△	奈良	
土壙-470	138	111	12	432.0	方形	皿形	△	奈良	
土壙-471	121	83	27	407.0	不整形	碗形	○	奈良	
土壙-472	75	45	13	423.0	長方形	皿形	△	奈良	
土壙-473	128	126	25	383.0	不整形	碗形	×	奈良	
土壙-474	122	102	48	384.0	(隅丸長方形)	箱形	○	奈良	新しい土壙と重複
土壙-475	287	91	48	388.0	楕円形	箱形	△	奈良	
土壙-476	387	123	37	399.0	楕円形	碗形	◎	奈良	
土壙-477	94	75	17	414.0	(方形)	皿形	×	中世	
土壙-478	(69)	50	9	422.0	(方形)	皿形	×	中世	
土壙-479	79	52	10	416.0	楕円形	皿形	×	中世	
土壙-480	83	50	7	419.0	隅丸方形	皿形	×	中世	
土壙-481	156	106	12	412.0	不整形	皿形	×	中世	
土壙-482	321	235	13	422.0	方形	皿形	○	13世紀~14世紀	
土壙-483	202	(150)	18	414.0	不明	碗形	△	13世紀~14世紀	
土壙-484	83	40	46	385.0	楕円形	箱形	△	13世紀以降	
土壙-485	216	-	25	410.0	不明	碗形	○	14世紀中葉	
土壙-486	119	87	32	414.0	隅丸方形	碗形	△	中世~近世	
土壙-487	128	(56)	5	419	(円形)	皿形	△	中世	
土壙-488	(46)	(26)	16	410	不整形	皿形	○	中世	
土壙-489	101	90	49	367	不整形	箱形	△	中世	
土壙-490	(172)	(65)	21	391	(方形)	皿形	△	中世	
土壙-491	230	146	9	404	不整形楕円形	皿形	△	中世	
土壙-492	195	161	5	415	方形	皿形	△	中世	
土壙-493	106	67	14	404.3	長方形	皿形	△	中世	
土壙-494	276	224	28	390	不整形	皿形	△	中世	
土壙-495	85	67	25	393	楕	皿形	△	中世	
土壙-496	696	574	42	374	不整形	皿形	○	中世	
土壙-497	163	(130)	12	391	不整形	皿形	○	中世	
土壙-498	111	97	30	372	円形	皿形	△	中世	
土壙-499	95	74	38	369	不整形楕円形	碗形	○	中世	
土壙-500	(286)	210	14	391	不整形	皿形	△	中世	
土壙-501	(149)	165	12	411	(長方形)	皿形	△	中世	
土壙-502	165	(98)	25	397	(楕)	皿形	△	中世	
土壙-503	147	55	6	408.7	長方形	皿形	△	中世	
土壙-504	332	300	20	394	不整形	皿形	△	中世	
土壙-505	193	156	17	395.7	楕円形	皿形	△	中世	
土壙-506	135	79	14	398	楕円形	皿形	×	中世	
土壙-507	142	132	13	400.6	不整形	皿形	△	中世	
土壙-508	91	89	42	373	円形	箱形	△	中世	
土壙-509	82	(71)	29	359	(不整形)	箱形	△	古墳前	
土壙-510	(201)	179	70	313.4	(楕円形)	皿形	○	中世	
土壙-511	386	212	83	300	楕円形	皿形	△	中世	
土壙-512	(117)	77	12	426	隅丸長方形	皿形	×	近世	
土壙-513	152	104	46	392	楕円形	皿形	×	近世	
土壙-514	216	154	33	416	楕円形	皿形	×	近世	
土壙-515	108	100	28	420	円形	箱形	×	近世	
土壙-516	90	81	27	415	円形	箱形	×	近世	
土壙-517	141	(42)	44	396	(円形)	箱形	×	近世	
土壙-518	110	116	28	426	円形	箱形	×	近世	
土壙-519	117	116	33	420	円形	箱形	×	近世	
土壙-520	99	98	36	410	円形	箱形	×	近世	
土壙-521	141	100	19	435	不整形楕円形	皿形	×	近世	
土壙-522	77	73	23	432	円形	碗形	×	近世	
土壙-523	120	116	22	432	円形	皿形	×	近世	
土壙-524	171	(115)	22	428	不整形楕円形	碗形	×	近世	
土壙-525	138	105	12	442	不整形	皿形	×	近世	
土壙-526	159	129	9	444	楕円形	皿形	×	近世	
土壙-527	266	202	36	416	不整形楕円形	皿形	×	近世	
土壙-528	152	(116)	25	427	(楕円形)	皿形	×	近世	
土壙-529	210	139	38	418	楕円形	皿形	×	近世	
土壙-530	(110)	98	23	430	不明	皿形	×	近世	
土壙-531	94	86	7	444	円形	皿形	×	近世	
土壙-532	127	111	17	437	円形	皿形	×	近世	
土壙-533	126	77	22	434	長方形	箱形	×	近世	
土壙-534	136	89	16	438	隅丸長方形	皿形	×	近世	
土壙-535	130	122	45	411	方形	箱形	×	近世	
土壙-536	145	101	36	420	隅丸長方形	皿形	×	近世	
土壙-537	83	70	18	430	隅丸長方形	碗形	×	近世	
土壙-538	129	100	41	411	隅丸長方形	碗形	×	近世	
土壙-539	117	114	22	428	円形	箱形	×	近世	

遺構一覽表

土壙一覽表

掲載遺構名	規模(cm)			底面標高 (cm)	平面形	断面形	土器	時期	備考
	長さ	幅	深さ						
土壙-540	97	(79)	14	436	(円形)	箱形	×	近世	
土壙-541	123	110	29	410	円形	箱形	×	近世	
土壙-542	186	99	21	426	楕円形	皿形	×	近世	
土壙-543	108	51	12	444	楕円形	皿形	×	近世	
土壙-544	258	229	77	379	不整円形	皿形	×	近世	
土壙-545	181	156	95	361	不整円形	碗形	○	近世	
土壙-546	85	71	35	420	不整円形	箱形	×	近世	
土壙-547	248	115	80	372	不整長方形	箱形	×	近世	
土壙-548	(136)	149	53	402.0	(不整円形)	皿形	×	近世	
土壙-549	96	78	21	424.0	不整方形	碗形	×	近世	
土壙-550	107	106	36	409	不整円形	箱形	○	近世	
土壙-551	(196)	739	38	416	(楕円形)	皿形	×	近世	
土壙-552	(270)	(267)	60	400.0	不明	碗形	△	近世	土製仏
土壙-553	(432)	215	117	308.0	不方形	碗形	×	近世	
土壙-554	129	43	37	401.0	不整形	箱形	×	近世	

井戸一覽表

掲載遺構名	規模(cm)			底面海拔高 (cm)	平面形	土器	時期	備考
	長さ	幅	深さ					
井戸-07	130	126	170	176	隅丸方形	×	弥・後・I	
井戸-08	128	121	137	275	円形	△	弥・後・I	
井戸-09	295	280	247	183	円形	○	19世紀末	曲物
井戸-10	163	143	222	110	(楕円形)	×	中世	石組み
井戸-11	196	183	128	282	円形	△	近世	石組み
井戸-12	179	170	不明	不明	円形	△	近世	素堀り
井戸-13	(205)	173	128	328	不整形	△	近世	素堀り

焼成土壙一覽表

掲載遺構名	規模(cm)			底面海拔高 (cm)	平面形	断面形	土器	時期	備考
	長さ	幅	深さ						
焼成土壙-08	102	64	20	372.0	長方形	箱形	△	奈良	
焼成土壙-09	128	109	35	406.0	隅丸長方形	逆台形	×	中世	小皿の小破片出土
焼成土壙-10	86	82	12	400.0	方形	逆台形	×	中世	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5009	包含層	縄文土器	甕	14.2		(6.9)	鈍い赤褐色(5YR5)	粗砂、礫	良好	
5010	包含層	縄文土器	甕	21.8		(9.8)	褐灰色(5YR6/1)	粗砂	良好	
5011	竪穴住居-187	弥生土器	甕	15.4		(27.8)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	底部被熱剥落、ススB
5012	竪穴住居-187	弥生土器	甕			(2.5)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	棒状浮文
5013	竪穴住居-187	弥生土器	甕		5.2	(1.9)	褐灰色(10YR6/1)	粗砂	良好	
5014	竪穴住居-187	弥生土器	甕		5.8	(4.7)	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂	良好	
5015	竪穴住居-187	弥生土器	甕		6.6	(4.5)	褐灰色(10YR6/1)	精良	良好	
5016	竪穴住居-187	弥生土器	壺		7.2	(4.5)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂、砂礫	良好	
5017	竪穴住居-187	弥生土器	高杯	20.4		(4.3)	鈍褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好	
5018	竪穴住居-187	弥生土器	高杯		11.8	(16.9)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂、砂礫	良好	接点のない同一個体図上で接合
5019	竪穴住居-187	弥生土器	把手			(9.8)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	
5020	竪穴住居-188	弥生土器	甕	(30.0)		(2.3)	灰白色(10YR8/)	細砂	良好	
5021	竪穴住居-188	弥生土器	甕	(13.6)		(4.0)	灰白色(10YR8/)	細砂	良好	
5022	竪穴住居-188	弥生土器	甕	(21.0)		(1.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5023	竪穴住居-188	弥生土器	甕	(22.0)		(2.9)	浅黄褐色(10YR8/)	細砂	良好	
5024	竪穴住居-188	弥生土器	甕	(16.0)		(2.4)	浅黄褐色(10YR8/)	細砂	良好	
5025	竪穴住居-188	弥生土器	甕			(1.6)	明褐色(7.5YR7/)	細砂	良好	
5026	竪穴住居-188	弥生土器	甕			(3.0)	灰白色(10YR7/)	細砂	良好	
5027	竪穴住居-188	弥生土器	甕	10.0		(6.1)	浅黄褐色(7.5YR8/)	細砂	良好	
5028	竪穴住居-188	弥生土器	壺・甕?		7.4	(3.1)	灰白色(10YR8/)	細砂	良好	
5029	竪穴住居-188	弥生土器	壺・甕?		6.6	(3.2)	灰白色(2.5Y8/)	粗砂、礫	良好	
5030	竪穴住居-188	弥生土器	壺・甕?		8.0	(5.1)	灰黄褐色(10YR6/)	細砂	良好	
5031	竪穴住居-188	弥生土器	鉢	(13.4)		(2.0)	灰黄褐色(10YR4/)	精良	良好	
5032	竪穴住居-188	弥生土器	高杯	(20.0)		(5.0)	褐灰色(7.5YR5/1)	精良	良好	
5033	竪穴住居-188	弥生土器	高杯		(10.4)	(2.3)	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	
5034	竪穴住居-188	弥生土器	高杯		(15.0)	(4.9)	灰白色(2.5Y8/)	粗砂	良好	
5035	竪穴住居-188	弥生土器	鉢	(34.6)		(2.9)	浅黄褐色(10YR8/)	細砂	良好	
5036	竪穴住居-188	弥生土器	鉢	(37.6)		(2.5)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5037	竪穴住居-188	弥生土器	鉢	(35.6)		(2.8)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
5038	竪穴住居-189	弥生土器	甕	14.8		(17.2)	橙色(5YR7/)	粗砂、礫	良好	煮沸
5039	竪穴住居-189	弥生土器	甕		7.4	(15.4)	鈍い褐色(5YR7/)	粗砂、礫	良好	底部穿孔
5040	竪穴住居-189	弥生土器	高杯		14.4	(5.2)	鈍い褐色(5YR7/)	細砂、粗砂	良好	透し孔
5041	竪穴住居-190	弥生土器	甕	15.2		(20.0)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	刺突記号1か所残存(類型不明)、黒斑C
5042	竪穴住居-190	弥生土器	甕		5.8	(2.5)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂、粗砂	良好	黒斑C
5043	竪穴住居-190	弥生土器	甕	13.0		(6.8)	橙色(2.5Y7/6)	細砂	良好	刺突記号B2、黒斑A・B
5044	竪穴住居-190	弥生土器	甕	(19.0)		(2.6)	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	良好	
5045	竪穴住居-190	弥生土器	甕	14.6		(4.9)	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5046	竪穴住居-190	弥生土器	高杯			(6.0)	橙色(2.5YR6/8)	精良	良好	
5047	竪穴住居-190	弥生土器	鉢			(4.4)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
5048	竪穴住居-190	弥生土器	壺	(6.5)	(1.5)	(6.5)	褐灰色(5YR4/1)	細砂	良好	
5049	竪穴住居-190	弥生土器	鉢	13.0		(5.4)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	黒斑B
5050	竪穴住居-191	弥生土器	甕			(3.4)	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	良好	
5051	竪穴住居-191	弥生土器	甕			(5.5)	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5052	竪穴住居-191	弥生土器	甕	15.8		(5.2)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5053	竪穴住居-191	弥生土器	甕		5.0	(14.9)	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	ススB
5054	竪穴住居-191	弥生土器	高杯	17.7		(5.0)	鈍褐色(2.5YR6/4)	精良	良好	黒斑A
5055	竪穴住居-191	弥生土器	高杯			(4.8)	橙色(2.5YR7/6)	精良	良好	
5056	竪穴住居-191	弥生土器	高杯		13.2	(6.4)	灰白色(5YR8/2)	精良	良好	透し穴4
5057	竪穴住居-191	弥生土器	高杯			(4.3)	橙色(2.5YR6/6)	精良	良好	
5058	竪穴住居-191	弥生土器	鉢	11.3	2.7	6.7	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	タタキ、黒斑A・B・C
5059	竪穴住居-191	弥生土器	碗			(4.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	暗文、黒斑A
5060	竪穴住居-192	弥生土器	壺	(15.7)		(4.2)	灰褐色(7.5YR4/2)	粗砂	良好	被熱
5061	竪穴住居-192	弥生土器	壺	12.8		(8.2)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	波状文、竹管文
5062	竪穴住居-192	弥生土器	壺			(13.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	タタキ
5063	竪穴住居-192	弥生土器	壺	21.0		22.5	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂	良好	
5064	竪穴住居-192	弥生土器	壺		9.7	(4.8)	鈍い黄色(2.5Y6/3)	細砂、粗砂	良好	
5065	竪穴住居-192	弥生土器	甕	12.7		(7.4)	浅黄色(2.5Y7/3)	粗砂	良好	
5066	竪穴住居-192	弥生土器	甕	15.4		(8.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5067	竪穴住居-192	弥生土器	甕	13.5		22.0	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	ススA
5068	竪穴住居-192	弥生土器	甕			(3.9)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
5069	竪穴住居-192	弥生土器	甕			(3.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線5条
5070	竪穴住居-192	弥生土器	甕			(3.2)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	ススA
5071	竪穴住居-192	弥生土器	甕			(2.6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
5072	竪穴住居-192	弥生土器	甕	12.4		(3.6)	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	良好	ススA
5073	竪穴住居-192	弥生土器	甕	14.6		(11.2)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	ススA
5074	竪穴住居-192	弥生土器	甕	12.1	4.5	19.8	鈍い褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	ススB
5075	竪穴住居-192	弥生土器	甕	14.1		(9.7)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	ススB
5076	竪穴住居-192	弥生土器	甕	11.0		(5.1)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	ススA
5077	竪穴住居-192	弥生土器	甕	15.5		(9.1)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	粗砂、細砂	良好	ススA
5078	竪穴住居-192	弥生土器	甕	(16.0)		(2.4)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5079	竪穴住居-192	弥生土器	甕	14.7		(9.0)	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	
5080	竪穴住居-192	弥生土器	甕	16.7		(8.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	ススA
5081	竪穴住居-192	弥生土器	甕	(12.8)		(7.8)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	黒斑B
5082	竪穴住居-192	弥生土器	甕			(3.9)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	タタキ
5083	竪穴住居-192	弥生土器	甕			(3.7)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

採回 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5084	竪穴住居-192	弥生土器	甕			(4.8)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	タタキ、ススA
5085	竪穴住居-192	弥生土器	甕		4.1	(7.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5086	竪穴住居-192	弥生土器	甕		4.6	(6.9)	黒色(2.5Y2/1)	細砂	良好	ススB
5087	竪穴住居-192	弥生土器	高杯	16.4	12.6	11.9	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
5088	竪穴住居-192	弥生土器	高杯	16.2		(6.5)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	初の痕跡
5089	竪穴住居-192	弥生土器	高杯	19.4		(4.4)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
5090	竪穴住居-192	弥生土器	高杯	19.2		(5.7)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5091	竪穴住居-192	弥生土器	高杯	(16.1)		(5.6)	鈍い赤褐色(5YR5/4)	精良	良好	
5092	竪穴住居-192	弥生土器	高杯		14.1	(6.5)	橙色(5YR6/8)	精良	良好	透し孔4
5093	竪穴住居-192	弥生土器	高杯		(11.7)	(6.1)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	透し孔4
5094	竪穴住居-192	弥生土器	高杯		(12.8)	(4.1)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔2/4
5095	竪穴住居-192	弥生土器	高杯			(4.9)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
5096	竪穴住居-192	弥生土器	高杯			(5.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	
5097	竪穴住居-192	弥生土器	鉢	(19.1)		(5.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5098	竪穴住居-192	弥生土器	鉢	19.4	3.5	9.5	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	良好	
5099	竪穴住居-192	弥生土器	鉢	(32.5)		(14.4)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂、礫	良好	
5100	竪穴住居-192	弥生土器	鉢			(8.8)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5101	竪穴住居-192	弥生土器	鉢			(13.9)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	良好	
5102	竪穴住居-192	弥生土器	鉢			(6.4)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	
5103	竪穴住居-192	弥生土器	鉢	(42.1)		(8.6)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂	良好	
5104	竪穴住居-192	弥生土器	甕			(3.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
5105	竪穴住居-192	弥生土器	高杯(?)	8.8		(3.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	
5106	竪穴住居-192	弥生土器	壺	7.4		4.9	鈍い黄褐色(10YR6/4)	細砂	良好	タタキ?
5107	竪穴住居-192	弥生土器	鉢		3.2	(5.1)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂、粗砂	良好	
5108	竪穴住居-192	弥生土器	甕		4.0	(3.5)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
5109	竪穴住居-192	弥生土器	壺		(3.2)	(7.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5110	竪穴住居-192	弥生土器	台付鉢	18.1	8.6	11.1	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	黒斑C
5111	竪穴住居-192	弥生土器	台付鉢	13.8	3.6	(9.4)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	接点のない同一個体図上で接合、黒斑C
5112	竪穴住居-192	弥生土器	甕	18.4	4.2	14.8	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、粗砂	良好	底部穿孔1つ、ススB
5113	竪穴住居-192	弥生土器	手堀形土器				橙色(5YR7/6)	精良	良好	
5114	竪穴住居-193ABC	弥生土器	壺	(12.6)		(4.4)	橙色(2.5Y7/6)	細砂	良好	
5115	竪穴住居-193ABC	弥生土器	甕	12.9		(3.1)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	
5116	竪穴住居-193ABC	弥生土器	甕		8.0	(4.3)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	
5117	竪穴住居-193ABC	弥生土器	甕		6.8	(6.2)	淡褐色(5YR8/3)	粗砂	良好	黒斑C
5118	竪穴住居-193ABC	弥生土器	高杯	20.6		3.1	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
5119	竪穴住居-193ABC	弥生土器	高杯	(17.0)		(5.1)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5120	竪穴住居-193ABC	弥生土器	高杯			1.6	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
5121	竪穴住居-193ABC	弥生土器	高杯			4.5	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	黒斑C
5122	竪穴住居-194	弥生土器	甕	18.8		(3.3)	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	
5123	竪穴住居-194	弥生土器	甕			(5.8)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
5124	竪穴住居-194	弥生土器	甕		(5.4)	(6.2)	鈍い赤褐色(5YR5/3)	粗砂	良好	
5125	竪穴住居-194	弥生土器	高杯			(7.6)	橙色(5YR7/6)	礫	良好	脚部沈線3条
5126	竪穴住居-194	弥生土器	高杯		(14.3)	(6.3)	鈍い赤褐色(5YR5/3)	細砂	良好	
5127	竪穴住居-195	弥生土器	甕	15.4	5.1	28.5	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	スス
5128	竪穴住居-195	弥生土器	高杯	20.1	13.9	12.0	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
5129	竪穴住居-195	弥生土器	高杯			(4.7)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
5130	竪穴住居-195	弥生土器	高杯	12.7		(5.8)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
5131	竪穴住居-195	弥生土器	高杯	11.9		(7.3)	橙色(7.5YR7/6)	礫	良好	
5132	竪穴住居-195	弥生土器	高杯			(4.0)	橙色(2.5YR7/8)	粗砂	良好	
5133	竪穴住居-195	弥生土器	高杯		7.7	(3.4)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
5134	竪穴住居-195	弥生土器	器台壺			(18.0)	灰白色(10YR8/2)	礫	良好	壺からの転用
5135	竪穴住居-195	弥生土器	壺	27.5		(22.7)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
5136	竪穴住居-195	弥生土器	器台壺	28.8		(15.9)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	黒斑A、壺からの転用
5137	竪穴住居-195	弥生土器	器台壺	35.5		(20.2)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	頸部に線刻文様一巡、壺からの転用
5138	竪穴住居-195	弥生土器	器台壺	35.0		(21.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	壺からの転用
5139	竪穴住居-195	弥生土器	鉢	36.4	10.3	23.2	赤褐色(10R6/8)	粗砂	良好	黒斑BC
5140	竪穴住居-196	弥生土器	甕	17.8		(5.2)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5141	竪穴住居-196	弥生土器	甕	11.2		(6.2)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
5142	竪穴住居-196	弥生土器	甕		(9.4)	(5.2)	灰白色(10YR8/1)	粗砂	良好	
5143	竪穴住居-196	弥生土器	甕		(9.3)	(3.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
5144	竪穴住居-196	弥生土器	甕		(7.8)	(4.6)	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	良好	
5145	竪穴住居-196	弥生土器	甕		(6.1)	(12.6)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	黒斑C
5146	竪穴住居-196	弥生土器	高杯	28.8		(10.7)	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	
5147	竪穴住居-196	弥生土器	高杯	(30.1)		(9.9)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5148	竪穴住居-196	弥生土器	高杯		(10.8)	(6.3)	淡黄色(5Y8/3)	細砂	良好	
5149	竪穴住居-196	弥生土器	鉢				淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	鋸歯文、5198の底部
5150	竪穴住居-198	弥生土器	甕		7.5	(10.7)	淡黄色(5Y8/3)	細砂	良好	黒斑B
5151	竪穴住居-198	弥生土器	台付鉢		8.3	(6.9)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	脚部の底凹線2条、黒斑C
5152	竪穴住居-199	弥生土器	壺	12.7	(9.2)	22.2	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
5153	竪穴住居-199	弥生土器	壺	16.0		(11.0)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5154	竪穴住居-199	弥生土器	壺	13.4		(4.8)	褐色(5YR6/1)	細砂	良好	
5155	竪穴住居-199	弥生土器	壺	11.0		(3.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5156	竪穴住居-199	弥生土器	甕	14.0		(7.6)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
5157	竪穴住居-199	弥生土器	甕	13.6		(5.2)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
5158	竪穴住居-199	弥生土器	甕	12.6		(7.5)	浅黄褐色(7.5YR8/)	細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5159	竪穴住居-199	弥生土器	甕	12.0		(4.9)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
5160	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(13.0)		(4.1)	明褐灰色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
5161	竪穴住居-199	弥生土器	甕	11.6		(3.5)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5162	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(15.2)		(3.5)	浅黄色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5163	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(12.6)		(4.0)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
5164	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(14.4)		(4.8)	鈍い黄橙色(10YR7/)	細砂	良好	ススB'
5165	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(15.4)		(3.6)	明褐灰色(7.5YR7/)	細砂	良好	
5166	竪穴住居-199	弥生土器	甕	13.6		(8.1)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5167	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(13.0)		(4.5)	褐灰色(10YR8/1)	細砂	良好	
5168	竪穴住居-199	弥生土器	甕	13.0		(6.5)	灰白色(2.5YR8/)	細砂	良好	
5169	竪穴住居-199	弥生土器	甕	16.8		(9.8)	灰白色(2.5Y8/)	細砂	良好	
5170	竪穴住居-199	弥生土器	甕	17.6		(7.8)	橙色(5YR7/0)	細砂	良好	
5171	竪穴住居-199	弥生土器	甕	16.8		(6.4)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
5172	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(17.0)		(5.8)	浅黄橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
5173	竪穴住居-199	弥生土器	甕	17.8		(7.7)	鈍い橙色(5YR7/)	細砂	良好	
5174	竪穴住居-199	弥生土器	甕	14.4		(5.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5175	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(25.0)		(10.7)	灰白色(10YR8/)	細砂	良好	
5176	竪穴住居-199	弥生土器	甕	(14.0)		(4.0)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
5177	竪穴住居-199	弥生土器	甕	18.8		(6.7)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
5178	竪穴住居-199	弥生土器	甕	18.0		(5.4)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
5179	竪穴住居-199	弥生土器	甕		4.8	(2.8)	灰色(5Y4/1)	細砂	良好	
5180	竪穴住居-199	弥生土器	甕		(5.8)	(2.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5181	竪穴住居-199	弥生土器	甕		5.7	(5.6)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
5182	竪穴住居-199	弥生土器	甕		(6.0)	(5.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑C
5183	竪穴住居-199	弥生土器	甕		(6.3)	(5.4)	鈍い橙色(5YR7/4、7/3)	精良	良好	底部ヘラミガキ
5184	竪穴住居-199	弥生土器	甕		(10.4)	(3.3)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	底部ヘラミガキ
5185	竪穴住居-199	弥生土器	甕		(11.4)	(18.6)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5186	竪穴住居-199	弥生土器	高杯	21.1		(4.7)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
5187	竪穴住居-199	弥生土器	高杯	22.9		(4.8)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5188	竪穴住居-199	弥生土器	高杯	20.6		(5.0)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
5189	竪穴住居-199	弥生土器	高杯	20.5		(7.8)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5190	竪穴住居-199	弥生土器	高杯	14.8	11.4	20.9	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5191	竪穴住居-199	弥生土器	高杯	22.0		(6.7)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	鋸歯文
5192	竪穴住居-199	弥生土器	高杯	(22.0)		(3.7)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
5193	竪穴住居-199	弥生土器	台付鉢	46.0		(9.3)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	きざみ2条、5230と同一個体
5194	竪穴住居-199	弥生土器	高杯			(10.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5195	竪穴住居-199	弥生土器	高杯		(11.8)	(3.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑C
5196	竪穴住居-199	弥生土器	高杯		(8.5)	(5.9)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	刺突文10個
5197	竪穴住居-199	弥生土器	高杯		(9.8)	(4.3)	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	透し孔5~6
5198	竪穴住居-199	弥生土器	鉢	(7.2)		(3.7)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	体部に縷杉文、鋸歯文
5199	竪穴住居-199	弥生土器	製塩土器		4.3	(3.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
5200	竪穴住居-200	弥生土器	壺	24.1	(10.6)	51.2	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂	良好	黒斑A・B
5201	竪穴住居-200	弥生土器	壺	23.0		(38.6)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	胴部刺突文、黒斑B
5202	竪穴住居-200	弥生土器	壺	26.7		(9.4)	浅黄橙色(2.5Y8/4)	細砂	良好	
5203	竪穴住居-200	弥生土器	壺	14.4		(23.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	胴部刺突文、ススB
5204	竪穴住居-200	弥生土器	壺	15.8		(29.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	肩部刺突文、黒斑C
5205	竪穴住居-200	弥生土器	壺	12.4	(6.6)	25.2	浅黄色(2.5Y8/)	粗砂	良好	肩部刺突文
5206	竪穴住居-200	弥生土器	壺	15.4		(18.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	体部刺突文
5207	竪穴住居-200	弥生土器	壺	14.0		(17.8)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5208	竪穴住居-200	弥生土器	壺	12.9		(7.3)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑A・B
5209	竪穴住居-200	弥生土器	壺	10.2		(8.0)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5210	竪穴住居-200	弥生土器	壺	10.4		(24.6)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	良好	内部スス有り
5211	竪穴住居-200	弥生土器	甕	15.2		(14.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5212	竪穴住居-200	弥生土器	甕	22.4		(23.6)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	黒斑B・C
5213	竪穴住居-200	弥生土器	甕	20.9	8.6	39.9	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑C
5214	竪穴住居-200	弥生土器	甕	16.6		(9.3)	灰白色(7.5YR8/2)	粗砂	良好	
5215	竪穴住居-200	弥生土器	甕	(14.6)		(6.9)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	
5216	竪穴住居-200	弥生土器	甕		(5.7)	(17.1)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5217	竪穴住居-200	弥生土器	甕		6.0	(3.8)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	
5218	竪穴住居-200	弥生土器	甕		4.8	(12.4)	灰白色(10YR8/4)	細砂	良好	ススB
5219	竪穴住居-200	弥生土器	甕		8.6	(4.5)	明褐灰色(7.5YR7/2)	粗砂	良好	
5220	竪穴住居-200	弥生土器	甕		6.6	(8.3)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5221	竪穴住居-200	弥生土器	回輪台形土器	23.4		(11.2)	灰白色(5Y8/2)	細砂	良好	黒斑A
5222	竪穴住居-200	弥生土器	高杯	22.2		(5.7)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	黒斑A・B
5223	竪穴住居-200	弥生土器	高杯	(22.0)		(5.8)	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	
5224	竪穴住居-200	弥生土器	高杯	17.4		(4.2)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	内側スス有り
5225	竪穴住居-200	弥生土器	台付鉢	32.6		(5.7)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5226	竪穴住居-200	弥生土器	高杯		11.5	(14.1)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	透し孔10、鋸歯文
5227	竪穴住居-200	弥生土器	高杯		12.4	(13.7)	灰白色(10YR8/)	細砂	良好	透し孔8
5228	竪穴住居-200	弥生土器	高杯		10.6	(10.3)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	透し孔8、櫛描沈線3条
5229	竪穴住居-200	弥生土器	高杯		10.0	(10.2)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑C
5230	竪穴住居-200	弥生土器	台付鉢	(46.0)		(13.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	刺突文有り
5231	竪穴住居-200	弥生土器	台付鉢	(46.6)	16.4	24.2	浅黄橙色(10YR8/)	細砂	良好	透し孔8
5232	竪穴住居-200	弥生土器	台付鉢	37.0	14.0	19.8	浅黄橙色(2.5Y8/3)	細砂	良好	透し孔8、完形
5233	竪穴住居-200	弥生土器	台付鉢	46.0	16.4	24.8	黄灰色(2.5Y8/)	細砂	良好	透し孔6、黒斑A

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5234	竪穴住居-201	弥生土器	直口壺	9.0		(4.3)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5235	竪穴住居-201	弥生土器	甕		7.2	(3.8)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5236	竪穴住居-201	弥生土器	甕	29.9	(11.2)	50.1	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	頸部貼付連続刺突文、ススC
5237	竪穴住居-201	弥生土器	甕	(14.2)		(7.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	ススB
5238	竪穴住居-202	弥生土器	甕	14.3	5.0	20.4	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	ススB、黒斑B
5239	竪穴住居-202	弥生土器	甕	14.0		(12.7)	鈍い褐色(5YR6/4)	礫	良好	
5240	竪穴住居-202	弥生土器	甕	15.0		(4.2)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	
5241	竪穴住居-202	弥生土器	高杯		12.6	(3.5)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	
5242	竪穴住居-202	弥生土器	鉢?		6.8	(5.2)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	礫	良好	黒斑C
5243	竪穴住居-203	弥生土器	甕	15.0		(3.7)	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	ススA
5244	竪穴住居-203	弥生土器	甕	15.8		(3.6)	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂	良好	
5245	竪穴住居-203	弥生土器	高杯	19.0		(3.7)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5246	竪穴住居-203	弥生土器	鉢	15.8	3.0	8.5	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	完形、黒斑B
5247	竪穴住居-204	弥生土器	壺	18.6		(14.7)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	頸部右回り螺旋状凹線、肩部刺突文、黒斑A
5248	竪穴住居-204	弥生土器	甕	10.1		(12.3)	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	良好	ススB
5249	竪穴住居-204	弥生土器	甕	13.0		(5.2)	鈍い赤褐色(5YR5/3)	細砂	良好	
5250	竪穴住居-204	弥生土器	高杯	23.8		(2.7)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	
5251	竪穴住居-204	弥生土器	高杯	25.1		(6.9)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
5252	竪穴住居-204	弥生土器	鉢	15.8		(8.5)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5253	竪穴住居-205	弥生土器	壺	7.1		(3.9)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	
5254	竪穴住居-205	弥生土器	壺	9.0		13.1	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5255	竪穴住居-205	弥生土器	壺	14.7		(6.2)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	口縁部鋸歯文4個
5256	竪穴住居-205	弥生土器	壺	22.0		(6.4)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5257	竪穴住居-205	弥生土器	壺	18.7	9.8	39.0	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	螺旋状凹線、肩部刺突文、黒斑BC
5258	竪穴住居-205	弥生土器	甕	13.8		(19.7)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5259	竪穴住居-205	弥生土器	甕	16.2		(20.7)	灰褐色(5YR5/2)	細砂	良好	ススA
5260	竪穴住居-205	弥生土器	甕	18.8		(4.7)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
5261	竪穴住居-205	弥生土器	甕	13.8		(16.6)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好	
5262	竪穴住居-205	弥生土器	甕	23.2		(6.2)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5263	竪穴住居-205	弥生土器	甕	22.4		(14.4)	灰褐色(7.5YR6/2)	粗砂	良好	
5264	竪穴住居-205	弥生土器	甕	16.8		(4.7)	鈍い褐色(5YR6/4)	礫	良好	
5265	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.4		(7.4)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
5266	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.0		(9.9)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	
5267	竪穴住居-205	弥生土器	甕	12.5	3.9	19.6	鈍い褐色(5YR6/4)	礫	良好	口縁部沈線2条、ススB
5268	竪穴住居-205	弥生土器	甕		7.2	(3.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑C
5269	竪穴住居-205	弥生土器	高杯	22.0		(3.2)	褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
5270	竪穴住居-205	弥生土器	高杯	(24.6)		(4.0)	鈍い褐色(5YR7/3)	細砂	良好	
5271	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		12.0	(14.1)	鈍い褐色(5YR7/3)	粗砂	良好	透し孔上段3、下段3
5272	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		15.7	(10.8)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	透し孔上段3、下段2、脚部渦巻状凹線
5273	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		11.7	(6.8)	赤褐色(10R6/6)	礫	良好	脚部透し孔2個ずつ3か所、脚部凹線3条
5274	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		6.8	(3.6)	褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
5275	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		16.6	(8.3)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	透し孔2~4?、黒斑C
5276	竪穴住居-205	弥生土器	鉢	19.4		(7.7)	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	
5277	竪穴住居-205	弥生土器	鉢	16.4		(12.1)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好	
5278	竪穴住居-205	弥生土器	小壺	5.2	3.1	8.0	褐色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
5279	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		3.1	(2.8)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
5280	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		4.1	(3.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5281	竪穴住居-205	弥生土器	壺	7.7		(5.9)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	ススB
5282	竪穴住居-205	弥生土器	壺?	10.0		(10.0)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	ススB
5283	竪穴住居-205	弥生土器	壺	8.8		(5.4)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5284	竪穴住居-205	弥生土器	壺?	11.7		(4.6)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
5285	竪穴住居-205	弥生土器	壺	18.8		(4.8)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
5286	竪穴住居-205	弥生土器	壺			(11.8)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	
5287	竪穴住居-205	弥生土器	壺			(6.8)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5288	竪穴住居-205	弥生土器	壺	7.8	4.6	15.0	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	黒斑BC
5289	竪穴住居-205	弥生土器	壺	15.9		(7.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5290	竪穴住居-205	弥生土器	壺	18.0		(7.1)	鈍い褐色(5YR7/4)	礫	良好	
5291	竪穴住居-205	弥生土器	壺	18.8		(4.8)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	口縁部鋸歯文
5292	竪穴住居-205	弥生土器	壺	20.5		(3.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	礫	良好	
5293	竪穴住居-205	弥生土器	壺	18.0		(8.6)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5294	竪穴住居-205	弥生土器	壺	19.4		(8.1)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
5295	竪穴住居-205	弥生土器	壺	17.0		(17.4)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	肩部刺突文
5296	竪穴住居-205	弥生土器	壺	20.8		(16.0)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	肩部竹管文
5297	竪穴住居-205	弥生土器	壺	16.6		(14.5)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
5298	竪穴住居-205	弥生土器	壺	21.4		(8.7)	褐色(5YR6/6)	礫	良好	
5299	竪穴住居-205	弥生土器	壺	21.5		(18.9)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好	
5300	竪穴住居-205	弥生土器	甕	21.2		(4.3)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	礫	良好	
5301	竪穴住居-205	弥生土器	甕	19.6		(6.5)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	
5302	竪穴住居-205	弥生土器	甕	20.2		(8.0)	鈍い褐色(5YR7/4)	礫	良好	
5303	竪穴住居-205	弥生土器	甕	18.2		(8.7)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	
5304	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.5		(5.0)	鈍い褐色(5YR6/4)	礫	良好	
5305	竪穴住居-205	弥生土器	甕	15.2		(4.2)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5306	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.8		(5.8)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	
5307	竪穴住居-205	弥生土器	甕	12.4		(8.2)	鈍い褐色(5YR6/4)	礫	良好	
5308	竪穴住居-205	弥生土器	甕	12.4		(3.9)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など	
				口径	底径	器高					
5309	竪穴住居-205	弥生土器	甕	15.4		(5.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	礫	良好		
5310	竪穴住居-205	弥生土器	甕	15.0		(4.3)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	肩部刺突文	
5311	竪穴住居-205	弥生土器	甕	11.6		(4.2)	鈍い橙色(5YR6/4)	粗砂	良好		
5312	竪穴住居-205	弥生土器	甕	13.2		(5.5)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好		
5313	竪穴住居-205	弥生土器	甕	12.6		(4.8)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好		
5314	竪穴住居-205	弥生土器	甕	12.6		(7.2)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好		
5315	竪穴住居-205	弥生土器	甕	13.6		(6.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好		
5316	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.2		(4.2)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好		
5317	竪穴住居-205	弥生土器	甕	15.2		(5.2)	鈍い橙色(5YR6/4)	粗砂	良好		
5318	竪穴住居-205	弥生土器	甕	11.8		(3.4)	橙色(5YR6/6)	礫	良好		
5319	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.6		(3.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好		
5320	竪穴住居-205	弥生土器	甕	16.4		(4.0)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	礫	良好		
5321	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.4		(11.2)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好		
5322	竪穴住居-205	弥生土器	甕	11.6		(4.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好		
5323	竪穴住居-205	弥生土器	甕	13.0		(3.5)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	粗砂	良好		
5324	竪穴住居-205	弥生土器	甕	12.8		(4.2)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好		
5325	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.6		(4.4)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好		
5326	竪穴住居-205	弥生土器	甕	10.3		(10.7)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好		
5327	竪穴住居-205	弥生土器	甕	13.6		(3.5)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好		
5328	竪穴住居-205	弥生土器	甕	12.6		(9.9)	鈍い褐色(10YR7/3)	細砂	良好		
5329	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.8		(4.3)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好		
5330	竪穴住居-205	弥生土器	甕	15.6		(5.0)	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	良好		
5331	竪穴住居-205	弥生土器	甕	16.0		(10.7)	鈍い褐色(5YR7/3)	細砂	良好	黒斑B	
5332	竪穴住居-205	弥生土器	甕	25.5		(5.6)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好		
5333	竪穴住居-205	弥生土器	甕	14.8		(13.4)	灰褐色(7.5YR6/2)	粗砂	良好		
5334	竪穴住居-205	弥生土器	甕	16.9		(19.9)	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	良好		
5335	竪穴住居-205	弥生土器	甕	21.4		(26.6)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	黒斑BC	
5336	竪穴住居-205	弥生土器	甕		6.6	(7.5)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑C	
5337	竪穴住居-205	弥生土器	甕		3.6	(2.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好		
5338	竪穴住居-205	弥生土器	甕		6.4	(5.5)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	黒斑C(外・内)	
5339	竪穴住居-205	弥生土器	甕		4.0	(5.2)	橙色(5YR6/8)	細砂	良好		
5340	竪穴住居-205	弥生土器	鉢?		9.2	(11.9)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	黒斑C	
5341	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		20.8	(5.4)	橙色(2.5YR6/6)	礫	良好		
5342	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		19.6	(3.7)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好		
5343	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		23.5	(6.4)	浅黄褐色(10YR8/3)	礫	良好		
5344	竪穴住居-205	弥生土器	高杯			(4.1)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	粗砂	良好		
5345	竪穴住居-205	弥生土器	高杯			(3.2)	鈍い黄褐色(10YR6/4)	細砂	良好		
5346	竪穴住居-205	弥生土器	高杯				淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	円盤	
5347	竪穴住居-205	弥生土器	高杯				橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	円盤	
5348	竪穴住居-205	弥生土器	高杯			(4.3)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好		
5349	竪穴住居-205	弥生土器	高杯			(7.2)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	脚柱部粘土ひも	
5350	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		12.0	(3.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	礫	良好	透し孔5	
5351	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		13.6	(5.1)	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	透し孔2段	
5352	竪穴住居-205	弥生土器	高杯		11.2	(6.6)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	透し孔4	
5353	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		12.4	(5.0)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	透し孔4	
5354	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		10.9	(5.6)	鈍い褐色(5YR7/4)	礫	良好	透し孔上段4、下段4	
5355	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		11.6	(6.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	礫	良好	透し孔2段、凹線2条	
5356	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		12.4	(8.2)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	下段透し孔7、竹管文2個、上段透し孔5	
5357	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		8.8	(3.9)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	推定貫通6個、未貫通7個	
5358	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		12.1	(6.8)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	透し孔2段	
5359	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		12.0	(5.8)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	透し孔上段4、下段4	
5360	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		13.0	(6.1)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好		
5361	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		5.9	(3.8)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	粗砂	良好		
5362	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		8.7	(4.7)	鈍い褐色(5YR7/3)	粗砂	良好		
5363	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		6.7	(5.2)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好		
5364	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		6.6	(7.8)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好		
5365	竪穴住居-205	弥生土器	脚部		12.0	(9.2)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好		
5366	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		13.4	(5.6)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	礫	良好		
5367	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		15.7	7.7	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	良好		
5368	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		19.1	(4.8)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好		
5369	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		21.5	(4.7)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好		
5370	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		13.8	(3.0)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好		
5371	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		20.0	(7.0)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好		
5372	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		19.8	(14.9)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好		
5373	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		33.6	(6.1)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好		
5374	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		20.0	(9.1)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	礫	良好		
5375	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		35.9	(8.8)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B	
5376	竪穴住居-205	弥生土器	鉢		29.4	8.1	20.6	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	黒斑BC
5377	竪穴住居-205	弥生土器	器台		12.7	13.5	10.4	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	透し孔13個残
5378	竪穴住居-205	弥生土器	器台		18.0	(10.4)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好		
5379	竪穴住居-205	弥生土器	器台		29.6	(17.0)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	透し孔4	
5380	竪穴住居-205	弥生土器	器台		49.8	42.0	橙色(5YR6/6)	礫	良好	脚部凹線4条、透し孔上段4下段4	
5381	竪穴住居-205	弥生土器	手捏土器		3.2	(2.3)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好		
5382	竪穴住居-205	弥生土器	ジョッキ型土器		4.8	6.2	7.8	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5383	掘立柱建物-49	弥生土器	壺		13.0	7.2	30.9	鈍い褐色(5YR7/3)	礫	良好	黒斑B・C

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5384	土器棺墓-12	弥生土器	鉢	37.2		(15.8)	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	ススA
5385	土器棺墓-12	弥生土器	鉢		(12.9)	(48.2)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
5386	土器棺墓-13	弥生土器	鉢	39.2		(20.1)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
5387	土器棺墓-13	弥生土器	壺		13.6		鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑AC
5388	土器棺墓-14	弥生土器	鉢	40.8		(20.1)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	黒斑BC
5389	土器棺墓-14	弥生土器	甕	24.6	(11.1)	(41.5)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
5390	土器棺墓-15	弥生土器	甕	13.9	7.1	28.5	橙色(5YR7/8)	礫	良好	黒斑BC
5391	袋状土壘-81	弥生土器	壺	15.3		(11.8)	灰白色(10YR8/2)	粗砂、砂礫	良好	
5392	袋状土壘-81	弥生土器	甕	10.6		(13.4)	灰白色(10YR8/2)	粗砂、砂礫	良好	
5393	袋状土壘-81	弥生土器	甕			(5.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	良好	被熱
5394	袋状土壘-81	弥生土器	甕		10.6	(2.6)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、砂礫	良好	
5395	袋状土壘-82	弥生土器	甕			(5.9)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5396	袋状土壘-82	弥生土器	高杯		10.4	(9.2)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	良好	透し穴(未貫通)9個内8個残存
5397	袋状土壘-86	弥生土器	無頸壺	8.8		4.8	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	良好	刺孔2個
5398	袋状土壘-86	弥生土器	台付鉢		6.7	(7.2)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
5399	袋状土壘-86	弥生土器	鉢			(3.4)	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂	良好	
5400	袋状土壘-86	弥生土器	鉢	16.3		12.8	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	黒斑A・B
5401	袋状土壘-87	弥生土器	壺	15.5		(14.0)	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂、砂礫	良好	
5402	袋状土壘-87	弥生土器	壺	15.3		(27.2)	灰白色(10YR8/2)	粗砂、砂礫	良好	黒斑B
5403	袋状土壘-87	弥生土器	壺	14.6		(14.5)	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂、砂礫	良好	
5404	袋状土壘-87	弥生土器	壺	20.9		(24.1)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
5405	袋状土壘-87	弥生土器	甕	13.5	6.5	29.1	灰白色(10YR8/1)	粗砂	良好	黒斑C
5406	袋状土壘-87	弥生土器	甕	12.6		(24.5)	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	良好	煮沸、ススA
5407	袋状土壘-87	弥生土器	甕	14.0		26.5	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂、砂礫	良好	底部穿孔、被熱、ススA
5408	袋状土壘-87	弥生土器	甕	14.4		(33.0)	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	列点文、ススB
5409	袋状土壘-87	弥生土器	甕		6.0	(7.2)	褐色(7.5YR4/3)	粗砂、砂礫	良好	ススC
5410	袋状土壘-87	弥生土器	甕		12.0	(3.7)	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂、砂礫	良好	
5411	袋状土壘-87	弥生土器	高杯		8.0	(10.6)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	透し穴12
5412	袋状土壘-87	弥生土器	脚部高杯		13.8	(14.7)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5413	袋状土壘-87	弥生土器	台付鉢	17.3		15.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5414	袋状土壘-88	弥生土器	壺	14.0		(11.9)	浅黄橙色(7.5YR8/)	粗砂	良好	ススB
5415	袋状土壘-88	弥生土器	甕	16.0		(24.0)	橙色(2.5YR7/)	粗砂	良好	ススB、黒斑B・C
5416	袋状土壘-89	弥生土器	甕	13.6		(20.5)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	ススA
5417	袋状土壘-89	弥生土器	高杯		11.0	(13.8)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	上段12ヶの透し孔内6ヶ未貫通、下段9ヶの透し孔
5418	袋状土壘-91	弥生土器	甕	15.2		(5.3)	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	
5419	袋状土壘-91	弥生土器	甕			(10.0)	淡橙色(5YR8)	粗砂	良好	刺突文
5420	袋状土壘-91	弥生土器	甕		7.4	(14.2)	橙色(2.5YR7)	粗砂	良好	
5421	袋状土壘-91	弥生土器	高杯			(7.6)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	ヘラ描き沈線、透し孔2段6個残存
5422	袋状土壘-91	弥生土器	高杯		13.0	(5.6)	浅黄橙色(7.5YR8)	細砂	良好	ヘラ描き沈線、透し孔12?
5423	袋状土壘-91	弥生土器	高杯		14.0	(7.2)	鈍い橙色(5YR7)	精良	良好	ヘラ描き沈線
5424	袋状土壘-93	弥生土器	壺	13.5		(5.0)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
5425	袋状土壘-93	弥生土器	甕	14.2		17.9	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	ススB、右下がりの細筋タタキ
5426	袋状土壘-93	弥生土器	甕		7.1	(4.9)	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	良好	
5427	袋状土壘-93	弥生土器	高杯		14.0	(1.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5428	袋状土壘-94	弥生土器	壺	14.4		(5.5)	橙色(5YR7/8)	細砂、精良	良好	
5429	袋状土壘-94	弥生土器	壺	(11.0)		(3.0)	鈍い赤褐色(5YR5/3)	細砂	良好	
5430	袋状土壘-94	弥生土器	壺			(2.1)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5431	袋状土壘-94	弥生土器	壺	(12.6)		(1.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5432	袋状土壘-94	弥生土器	壺	(12.2)		(3.1)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
5433	袋状土壘-95	弥生土器	壺	(20.1)		(9.1)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5434	袋状土壘-95	弥生土器	壺		(14.0)	(1.6)	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	
5435	袋状土壘-95	弥生土器	甕			(1.1)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
5436	袋状土壘-95	弥生土器	甕	16.4		(13.6)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	ススA、被熱
5437	袋状土壘-95	弥生土器	高杯	(23.7)		(3.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5438	袋状土壘-95	弥生土器	高杯		(14.2)	(3.6)	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	
5439	袋状土壘-96	弥生土器	甕	14.9		(7.2)	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	
5440	袋状土壘-96	弥生土器	甕		7.6	(4.2)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	粗砂	良好	黒斑、焼成後に底部穿孔
5441	袋状土壘-96	弥生土器	高杯			(5.2)	橙色(5YR6/6)	礫	良好	蓋に転用(煮沸)
5442	袋状土壘-96	弥生土器	高杯	11.2		(6.2)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5443	袋状土壘-97	弥生土器	壺	9.3		(12.9)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑B
5444	袋状土壘-97	弥生土器	壺	11.4	6.0	16.1	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	
5445	袋状土壘-97	弥生土器	甕	16.8	10.3	(19.0)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
5446	袋状土壘-97	弥生土器	甕	11.4		15.3	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	把手
5447	袋状土壘-97	弥生土器	甕	15.2		(16.9)	鈍い褐色(7.5YR6/3~7/3)	粗砂	良好	ススA、被熱
5448	袋状土壘-97	弥生土器	甕	14.9	5.4	25.0	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	ススB'、被熱、鈍重
5449	袋状土壘-98	弥生土器	甕	(11.8)		(5.9)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
5450	袋状土壘-98	弥生土器	甕		(6.6)	(2.4)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	ススC、被熱
5451	袋状土壘-99	弥生土器	甕	13.4		(5.7)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	ススB、被熱
5452	袋状土壘-99	弥生土器	甕				褐色(5YR6/8)	細砂	良好	
5453	袋状土壘-99	弥生土器	製塩土器		3.4	(3.4)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	被熱
5454	袋状土壘-100	弥生土器	甕		15.0	(3.8)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
5455	袋状土壘-100	弥生土器	甕				褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	
5456	袋状土壘-100	弥生土器	鉢		10.8	(3.9)	明褐色(7.5YR7/2)	礫	良好	
5457	袋状土壘-101	弥生土器	壺	17.0		(1.6)	褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	
5458	袋状土壘-101	弥生土器	高杯			(1.4)	灰黄褐色(10YR5/2)	礫	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5459	袋状土壇-102	弥生土器	甕	11.2		(5.3)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	礫	良好	
5460	袋状土壇-102	弥生土器	高杯		15.0	(3.7)	橙色(5YR7/6)	礫	良好	
5461	袋状土壇-103	弥生土器	壺	13.8		(4.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	粗砂	良好	
5462	袋状土壇-103	弥生土器	甕		7.1	(3.2)	橙色(5YR6/6)	礫	良好	
5463	袋状土壇-103	弥生土器	甕			(3.1)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
5464	袋状土壇-103	弥生土器	高杯			(3.8)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	色調、胎土、焼成
5465	袋状土壇-104	弥生土器	壺		8.6	(5.4)	浅黄橙色(7.5YR8/6)	礫	良好	黒斑C
5466	袋状土壇-104	弥生土器	甕			(1.6)	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	良好	
5467	袋状土壇-105	弥生土器	甕	13.2	4.4	22.5	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	ススB、被熱
5468	袋状土壇-105	弥生土器	甕	13.4	7.1	23.2	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	ススB、黒斑、被熱
5469	袋状土壇-105	弥生土器	甕	12.6	6.4	25.9	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	ススB、被熱
5470	袋状土壇-105	弥生土器	甕	15.1	7.2	30.4	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	ススB、被熱
5471	袋状土壇-105	弥生土器	甕	(18.8)		(14.9)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	ススB、被熱
5472	袋状土壇-105	弥生土器	高杯	20.8		(9.9)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	7分割のヘラミガキ
5473	袋状土壇-105	弥生土器	高杯	(22.0)		(4.0)	橙色(2.5YR7/8)	細砂	良好	
5474	袋状土壇-105	弥生土器	高杯	22.4		(6.1)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	転用して使用か
5475	袋状土壇-105	弥生土器	高杯		4.7	(6.0)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
5476	袋状土壇-105	弥生土器	高杯		15.8	(20.1)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	黒斑
5477	袋状土壇-106	弥生土器	甕	16.6		(7.1)	橙色(5YR7/7)	礫	良好	ススA、被熱
5478	袋状土壇-107	弥生土器	甕			(5.9)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5479	袋状土壇-107	弥生土器	甕		(7.6)	(3.6)	鈍い橙色(5YR6/4)	粗砂	良好	
5480	袋状土壇-107	弥生土器	台付鉢	10.0		(7.0)	淡橙色(5YR8/4)	粗砂	良好	黒斑A B
5481	袋状土壇-107	弥生土器	甕		(7.8)	(7.7)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
5482	袋状土壇-108	弥生土器	壺	(11.4)		(3.3)	鈍い黄橙色(10YR6/3)	細砂	良好	玉縁
5483	袋状土壇-108	弥生土器	甕		(12.0)	(2.3)	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	黒斑
5484	袋状土壇-108	弥生土器	甕	(14.2)	5.4	24.2	赤灰色(10R5/1)	細砂	良好	ススB'、被熱、焼成後底部穿孔
5485	袋状土壇-108	弥生土器	甕	16.1		9.5	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
5486	袋状土壇-108	弥生土器	甕	19.2	9.4	(34.0)	橙色(5YR7/8)	礫	良好	スス、被熱
5487	袋状土壇-108	弥生土器	甕		9.4	17.4	鈍い橙色(5YR6/4)	粗砂	良好	
5488	袋状土壇-108	弥生土器	甕			(2.1)	橙色(2.5YR6/6)	精良	良好	
5489	袋状土壇-108	弥生土器	甕	8.8		(6.6)	灰褐色(5YR5/2)	細砂	良好	
5490	袋状土壇-108	弥生土器	高杯			(7.7)	赤灰色(2.5Y4/1)	細砂	良好	
5491	袋状土壇-109-110	弥生土器	壺	25.6		(4.3)	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	
5492	袋状土壇-109-110	弥生土器	鉢	14.0		(4.3)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
5493	袋状土壇-109-110	弥生土器	鉢	22.6		(14.4)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	黒斑A
5494	袋状土壇-109-110	弥生土器	高杯	22.6		(3.9)	橙色(5YR7/6)	礫	良好	
5495	袋状土壇-109-110	弥生土器	高杯	15.6		(3.6)	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	良好	
5496	袋状土壇-109-110	弥生土器	高杯	14.0		(4.7)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
5497	袋状土壇-111	弥生土器	壺	13.2		(32.5)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
5498	袋状土壇-111	弥生土器	壺	13.4		(7.8)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	口縁部に歪み有り
5499	袋状土壇-111	弥生土器	甕	19.6		(3.3)	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	
5500	袋状土壇-111	弥生土器	甕	13.1		(6.8)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
5501	袋状土壇-111	弥生土器	甕	(12.2)		(5.6)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	ススA
5502	袋状土壇-111	弥生土器	甕	(19.8)		(6.3)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	黒斑A
5503	袋状土壇-111	弥生土器	甕	(29.8)		(13.8)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5504	袋状土壇-111	弥生土器	高杯		(10.3)	(5.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5505	袋状土壇-111	弥生土器	高杯		(12.6)	(3.3)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
5506	袋状土壇-113	弥生土器	甕		(16.2)	(3.9)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5507	袋状土壇-113	弥生土器	甕	(13.8)		(7.7)	橙色(5YR7/8)	細砂	良好	スス
5508	袋状土壇-113	弥生土器	甕	13.2		(15.1)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	スス
5509	袋状土壇-113	弥生土器	甕	(15.8)		(9.0)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	スス
5510	袋状土壇-113	弥生土器	底部	(16.8)		(5.0)	橙色(5YR7/8)	細砂	良好	玉縁
5511	袋状土壇-113	弥生土器	高杯		5.0	(4.4)	淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
5512	袋状土壇-113	弥生土器	高杯	(14.6)		(3.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5513	袋状土壇-114	弥生土器	甕			(7.8)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5514	袋状土壇-114	弥生土器	甕				橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5515	袋状土壇-115	弥生土器	壺	8.4		(2.3)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5516	袋状土壇-115	弥生土器	壺	9.6		(7.2)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
5517	袋状土壇-115	弥生土器	壺	(19.0)		(4.9)	橙色(5YR8/4)	細砂	良好	
5518	袋状土壇-115	弥生土器	壺	(14.0)		(8.2)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
5519	袋状土壇-115	弥生土器	鉢	6.4		(4.1)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
5520	袋状土壇-116	弥生土器	壺	(8.0)	3.3	6.8	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	黒斑
5521	袋状土壇-116	弥生土器	壺	(16.8)		(5.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5522	袋状土壇-116	弥生土器	壺	15.0		(5.7)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5523	袋状土壇-116	弥生土器	高杯		9.3	(5.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5524	袋状土壇-116	弥生土器	壺	(20.8)		(3.5)	淡褐色(5YR8/4)	細砂	良好	
5525	袋状土壇-117-118	弥生土器	壺		(10.5)	(10.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	鳥・鹿等の線刻画
5526	袋状土壇-117-118	弥生土器	甕	(11.8)		(3.6)	橙色(5YR7/8)	礫	良好	
5527	袋状土壇-117-118	弥生土器	甕	13.6		(4.5)	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	スス
5528	袋状土壇-117-118	弥生土器	壺	13.5		(6.3)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
5529	袋状土壇-117-118	弥生土器	壺			(1.8)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5530	袋状土壇-117-118	弥生土器	甕			(1.4)	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	
5531	袋状土壇-117-118	弥生土器	高杯		6.2	(2.3)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
5532	袋状土壇-117-118	弥生土器	高杯	(19.0)		(4.9)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5533	袋状土壇-117-118	弥生土器	高杯		14.0	(4.1)	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5533	袋状土壇-119	弥生土器	甕	(19.7)		(2.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5534	袋状土壇-119	弥生土器	高杯			(2.2)	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂	良好	
5535	袋状土壇-119	弥生土器	高杯			7.1	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	
5536	袋状土壇-119	弥生土器	壺		(5.3)	(4.6)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
5537	袋状土壇-120	弥生土器	甕	17.4		(12.2)	褐色(5YR7/8)	粗砂	良好	黒斑、5538と同一個体
5538	袋状土壇-120	弥生土器	甕		8.6	(21.1)	浅黄褐色(10YR8/4)	礫	良好	スス、黒斑B、5537と同一個体
5539	袋状土壇-120	弥生土器	壺	21.2		(4.9)	浅黄褐色(10YR8/3)	礫	良好	
5540	袋状土壇-120	弥生土器	甕	11.9		(7.3)	褐色(5YR6/8)	礫	良好	スス、被熱
5541	袋状土壇-120	弥生土器	甕	16.2		(3.0)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	
5542	袋状土壇-120	弥生土器	甕	(17.6)		(3.6)	黒褐色土(10YR3/1)	細砂	良好	
5543	袋状土壇-120	弥生土器	甕	10.8	4.6	19.8	褐色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	ススB、被熱
5544	袋状土壇-120	弥生土器	高杯	17.2	8.2	9.1	褐色(5YR6/6)	礫	良好	スス
5545	袋状土壇-120	弥生土器	高杯		14.4	(19.4)	褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	
5546	袋状土壇-121	弥生土器	甕	10.0		(4.5)	明赤褐色(5YR5/8)	粗砂	良好	
5547	袋状土壇-121	弥生土器	高杯	23.2		(6.3)	褐色(2.5YR7/6)	礫	良好	
5548	袋状土壇-122	弥生土器	壺	16.4		(8.9)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	口縁部に3ヶ1単位の竹管文が巡る
5549	袋状土壇-122	弥生土器	壺	(14.2)		(5.6)	灰褐色(7.5YR6/2)	粗砂	良好	
5550	袋状土壇-122	弥生土器	甕		7.6	(9.7)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	礫	良好	スス、黒斑C、被熱
5551	袋状土壇-122	弥生土器	高杯	(21.8)		(4.5)	褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	
5552	袋状土壇-122	弥生土器	高杯		(12.6)	(4.2)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
5553	袋状土壇-122	弥生土器	高杯		14.9	(6.1)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
5554	袋状土壇-122	弥生土器	壺		7.4	18.8	褐色(5YR7/6)	礫	良好	黒斑C
5555	袋状土壇-123	弥生土器	壺	8.5		(6.9)	鈍い褐色(5YR6/4)	粗砂	良好	
5556	袋状土壇-123	弥生土器	壺	8.0		(7.5)	褐色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	擬凹線3条、沈線3条
5557	袋状土壇-123	弥生土器	壺	16.0		(14.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	黒斑B
5558	袋状土壇-123	弥生土器	壺	17.0		33.4	浅黄褐色(7.5YR8/6)	粗砂	良好	黒斑B
5559	袋状土壇-123	弥生土器	壺	15.5	8.2	32.9	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂、礫	良好	ススB、黒斑C
5560	袋状土壇-123	弥生土器	壺	17.2	9.6	34.3	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑B
5561	袋状土壇-123	弥生土器	壺	12.8		(16.0)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	礫	良好	
5562	袋状土壇-123	弥生土器	壺	16.2		10.5	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	口縁部擬凹線2条
5563	袋状土壇-123	弥生土器	壺	12.4		(8.1)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	口縁部斜格子
5564	袋状土壇-123	弥生土器	壺	7.8	4.2	19.0	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	内面黒斑C
5565	袋状土壇-123	弥生土器	壺	9.4	5.1	14.5	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	黒斑B・C
5566	袋状土壇-123	弥生土器	壺		6.8	(11.6)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	5576と同一個体?
5567	袋状土壇-123	弥生土器	甕	16.8		(31.7)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	肩部刺突文、黒斑C
5568	袋状土壇-123	弥生土器	甕	17.4		21.3	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
5569	袋状土壇-123	弥生土器	甕	21.8		(16.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5570	袋状土壇-123	弥生土器	甕	14.5		20.7	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	胴部刺突文、黒斑B
5571	袋状土壇-123	弥生土器	甕	14.0		(10.6)	鈍い褐色(5YR7/3)	粗砂	良好	黒斑B
5572	袋状土壇-123	弥生土器	甕	15.4		(9.8)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	礫	良好	ススB
5573	袋状土壇-123	弥生土器	甕	13.9		(18.3)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂、礫	良好	
5574	袋状土壇-123	弥生土器	甕	14.3		(10.3)	明褐色(7.5YR7/2)	礫	良好	
5575	袋状土壇-123	弥生土器	壺	11.2		(9.0)	暗灰黄色(2.5Y4/2)	細砂	良好	擬凹線2条(口縁部)
5576	袋状土壇-123	弥生土器	甕	12.8		(4.3)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑AB・BC、5566と同一個体?
5577	袋状土壇-123	弥生土器	甕	14.2	6.7	28.7	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	ススB、黒斑C
5578	袋状土壇-123	弥生土器	甕	13.8	6.4	25.9	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	黒斑C
5579	袋状土壇-123	弥生土器	甕	13.8		(25.3)	明褐色(7.5YR7/2)	粗砂	良好	ススA
5580	袋状土壇-123	弥生土器	甕	13.3	6.8	29.5	灰白色(N7/0)	細砂	良好	ススA
5581	袋状土壇-123	弥生土器	甕	14.2	6.9	30.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	ススB、黒斑C
5582	袋状土壇-123	弥生土器	甕	16.0		(3.7)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
5583	袋状土壇-123	弥生土器	甕		11.1	(18.1)	灰白色(10YR8/2)	礫	良好	ススB、黒斑C
5584	袋状土壇-123	弥生土器	甕		8.4	(19.3)	鈍い黄褐色(10YR4/1)	粗砂	良好	
5585	袋状土壇-123	弥生土器	甕?		11.6	(28.2)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	肩刺突文、黒斑C
5586	袋状土壇-123	弥生土器	甕		9.5	(17.9)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	黒斑B
5587	袋状土壇-123	弥生土器	高杯	26.2	15.8	22.0	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	胴部三角形2穿穴、円形孔11個、黒斑B
5588	袋状土壇-123	弥生土器	高杯	23.0	10.8	14.5	褐色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	透し孔15、完形
5589	袋状土壇-123	弥生土器	高杯	22.8	11.1	14.0	浅黄色(2.5Y7/3)	粗砂	良好	胴部透し孔15個?、歪み有り
5590	袋状土壇-123	弥生土器	高杯	24.8	14.2	21.8	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	透し孔22
5591	袋状土壇-123	弥生土器	高杯	21.3	12.5	19.9	鈍い褐色(5YR6/3)	粗砂	良好	黒斑B
5592	袋状土壇-123	弥生土器	高杯		13.0	(19.5)	褐色(5YR6/8)	粗砂	良好	透し孔19、ススB、黒斑A
5593	袋状土壇-123	弥生土器	高杯	21.6	12.3	22.0	鈍い赤褐色(10R6/4)	粗砂、礫	良好	透し孔上段6、下段17
5594	袋状土壇-123	弥生土器	台付鉢	17.0	12.6	23.8	灰白色(2.5Y8/2)	礫、粗砂、細砂	良好	肩部刺突文一列、胴部透し孔列
5595	袋状土壇-123	弥生土器	脚部		13.0	(15.0)	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	透し孔16
5596	袋状土壇-123	弥生土器	脚部		12.0	6.0	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	透し孔8
5597	袋状土壇-124	弥生土器	底部		(11.3)	(13.2)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
5598	袋状土壇-124	弥生土器	高杯	20.8		(4.6)	鈍い褐色(5YR7/4)	礫、粗砂	良好	
5599	袋状土壇-124	弥生土器	高杯	11.0		(3.6)	鈍い褐色(5YR6/4)	粗砂	良好	
5600	袋状土壇-124	弥生土器	高杯			(4.2)	鈍い褐色(5YR6/4)	粗砂	良好	脚柱部御描沈線7条
5601	袋状土壇-124	弥生土器	製塩土器		5.2	(7.3)	明褐色(7.5YR7/2)	粗砂	良好	
5602	袋状土壇-127	弥生土器	壺		6.5	(31.8)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	頸部竹管文4個、黒斑C、接点無し同一個体
5603	袋状土壇-127	弥生土器	甕	10.5		(8.5)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂、細砂	良好	黒斑ABC
5604	袋状土壇-127	弥生土器	壺	(12.5)		(6.8)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5605	袋状土壇-129	弥生土器	壺	(24.6)		(4.3)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	礫、粗砂、細砂	良好	
5606	袋状土壇-129	弥生土器	高杯	24.4	14.0	22.7	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂、細砂	良好	御描沈線7条6段、透し孔3が6段、へら描き文
5607	袋状土壇-129	弥生土器	高杯	24.2		(6.2)	褐色(7.5YR7/6)	粗砂、細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5608	袋状土壇-129	弥生土器	高杯		(12.2)	(5.1)	淡橙色(5YR4/8)	粗砂、細砂	良好	櫛描沈線6条2段、ヘラ描き文
5609	袋状土壇-130	弥生土器	甕	14.6		(4.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
5610	袋状土壇-130	弥生土器	甕	13.4	6.0	24.5	鈍い橙色(5YR6/4)	礫	良好	底部穿孔、ススB
5611	袋状土壇-130	弥生土器	甕	15.1		(21.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5612	袋状土壇-130	弥生土器	甕		6.8	(7.3)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	黒斑C
5613	袋状土壇-130	弥生土器	甕		6.1	(3.1)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	
5614	袋状土壇-130	弥生土器	甕		5.1	(4.6)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5615	袋状土壇-130	弥生土器	高杯	22.4		(3.4)	鈍い褐色(5YR7/4)	礫	良好	
5616	袋状土壇-130	弥生土器	高杯		12.6	(2.9)	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	良好	脚部竹管文、推定32個、8個残
5617	袋状土壇-130	弥生土器	甕?	12.3		(9.0)	灰褐色(5YR5/2)	細砂	良好	
5618	袋状土壇-130	弥生土器	脚部		10.4	(2.7)	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
5619	袋状土壇-131	弥生土器	壺	8.8		(4.4)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	黒斑A B
5620	袋状土壇-131	弥生土器	壺	8.9		(8.8)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	頸部ヘラ描き沈線8条、肩部刺突文
5621	袋状土壇-131	弥生土器	甕	14.9		(7.7)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	ススA
5622	袋状土壇-131	弥生土器	甕	15.0		(4.9)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
5623	袋状土壇-131	弥生土器	甕	12.9		(11.1)	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	ススA
5624	袋状土壇-131	弥生土器	甕	(13.7)		(17.4)	褐色(7.5YR6/6)	細砂	良好	口縁部擬凹線4条、黒斑AB・BC
5625	袋状土壇-131	弥生土器	甕	15.6		(5.3)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	黒斑A
5626	袋状土壇-131	弥生土器	甕	13.3		(6.7)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B
5627	袋状土壇-131	弥生土器	甕	13.5		(8.8)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	黒斑A・B
5628	袋状土壇-131	弥生土器	壺		8.6	(6.7)	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	ススC
5629	袋状土壇-131	弥生土器	高杯		(24.2)	(4.8)	鈍い褐色(7.5YR5/4)	細砂	良好	ススA
5630	袋状土壇-131	弥生土器	高杯	(25.6)			鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5631	袋状土壇-131	弥生土器	高杯		14.8	(7.9)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	透し孔4、柱部ヘラ描き沈線4条
5632	袋状土壇-131	弥生土器	高杯		(17.6)		鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	透し孔3/4
5633	袋状土壇-131	弥生土器	高杯		13.0	(4.0)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔2/5
5634	袋状土壇-132	弥生土器	壺	19.3		(15.2)	淡褐色(5YR8/4)	細砂	良好	口縁部凹線4条、頸部凹線2条、頸部刺突文
5635	袋状土壇-132	弥生土器	壺	15.5		(22.1)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	黒斑B C
5636	袋状土壇-132	弥生土器	甕	14.6		(4.7)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
5637	袋状土壇-132	弥生土器	甕	13.2		(7.3)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5638	袋状土壇-132	弥生土器	甕	15.0		(7.7)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5639	袋状土壇-132	弥生土器	甕	13.8		16.7	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、礫	良好	黒斑B
5640	袋状土壇-132	弥生土器	甕		7.0	(15.6)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	黒斑C
5641	袋状土壇-132	弥生土器	高杯	22.4		(7.9)	灰褐色(2.5YR8/2)	細砂	良好	黒斑A
5642	袋状土壇-132	弥生土器	高杯	19.9		(3.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	口縁上部擬凹線2条
5643	袋状土壇-132	弥生土器	台付鉢		10.1	(13.2)	灰白色(5Y8/2)	細砂	良好	透し孔12(うち4個未完通)、底部凹線5条
5644	袋状土壇-132	弥生土器	台付鉢	21.4	12.3	25.1	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	肩部刺突文
5645	袋状土壇-132	弥生土器	鉢	8.4		(4.4)	灰黄色(2.5Y7/2)	礫	良好	
5646	袋状土壇-135	弥生土器	小型壺	7.3	3.6	12.8	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑A B
5647	袋状土壇-135	弥生土器	甕	(17.0)		(17.5)	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	ススA
5648	袋状土壇-135	弥生土器	高杯		13.7	(7.8)	淡褐色(5YR8/4)	細砂	良好	透し孔上段4、透し孔下段8、黒斑C
5649	袋状土壇-136	弥生土器	甕	(14.2)		(2.8)	褐色(2.5YR6/8)	精良	良好	口縁歪み有り
5650	袋状土壇-136	弥生土器	高杯	21.4		(4.3)	褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
5651	袋状土壇-136	弥生土器	高杯		(13.4)	(5.9)	褐色(2.5YR7/8)	細砂	良好	ハケメによる6条、8条の文様
5652	袋状土壇-138	弥生土器	甕	9.4	5.0	11.7	鈍い褐色(2.5YR6/3)	礫	良好	ススB
5653	袋状土壇-139	弥生土器	壺	9.2		12.5	褐色(2.5YR7/8)	細砂	良好	
5654	袋状土壇-139	弥生土器	壺	15.2	8.8	30.2	浅黄褐色(10YR8/4)	粗砂	良好	
5655	袋状土壇-139	弥生土器	甕	15.0	6.5	23.9	褐色(2.5YR7/8)	細砂	良好	体部ヘラ状工具による刺突文、ススB
5656	袋状土壇-139	弥生土器	甕	16.2		(13.4)	褐灰色(5YR6/7)	細砂	良好	
5657	袋状土壇-139	弥生土器	甕	13.0	5.4	24.0	褐色(5YR7/8)	細砂	良好	ススA
5658	袋状土壇-139	弥生土器	甕		8.3	(6.7)	褐色(2.5Y7/6)	細砂	良好	黒斑C
5659	袋状土壇-140	弥生土器	壺	16.8		(7.7)	灰黄色(2.5Y7/2)	粗砂	良好	ススA、黒斑A B?
5660	袋状土壇-140	弥生土器	甕	14.1	7.6	29.8	鈍い褐色(5YR6/4)	粗砂	良好	ススB'
5661	袋状土壇-140	弥生土器	壺		(24.7)		鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	タタキあり
5662	袋状土壇-140	弥生土器	高杯	(24.8)		(7.4)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	砂礫	良好	
5663	袋状土壇-140	弥生土器	高杯	11.9	8.9	14.6	灰白色(5Y8/2)	粗砂	良好	
5664	袋状土壇-141	弥生土器	壺	26.2		(9.1)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	棒状浮文2刻目3個1組、黒斑A
5665	袋状土壇-143	弥生土器	甕	15.4	6.9	(26.6)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	接点無し同一個体、ススC、黒斑A B
5666	袋状土壇-143	弥生土器	高杯	17.6		(6.0)	褐色(5YR7/6)	砂礫	良好	外面赤色顔料、黒斑B
5667	袋状土壇-143	弥生土器	高杯	22.3		(3.0)	褐色(5YR6/6)	砂礫	良好	黒斑A
5668	袋状土壇-143	弥生土器	高杯		(13.1)	(5.7)	褐色(5YR7/6)	砂礫	良好	
5669	袋状土壇-143	弥生土器	台付鉢		13.5	(8.2)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好	
5670	土壇-334	弥生土器	甕	17.6	9.0	(19.0)	褐灰色(7.5YR6/2)	粗砂	良好	接点なし図上で接合、ススA、黒斑A・B
5671	土壇-335	弥生土器	壺	13.0	9.0	32.1	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	列点文、黒斑C
5672	土壇-335	弥生土器	甕	12.4	8.6	26.1	灰白色(10YR8/2)	粗砂、砂礫	良好	黒斑B・C
5673	土壇-335	弥生土器	壺	18.1	11.6	39.8	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	列点文、破片後被熱
5674	土壇-335	弥生土器	甕	15.0		(10.5)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	ススA
5675	土壇-335	弥生土器	甕	19.4		(21.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	列点文2条、赤色顔料
5676	土壇-335	弥生土器	甕		11.0	(3.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑C
5677	土壇-335	弥生土器	甕		9.8	(3.9)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	良好	黒斑C
5678	土壇-335	弥生土器	甕		7.0	(8.1)	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂、粗砂	良好	煮沸
5679	土壇-335	弥生土器	高杯	23.5	13.8	20.4	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂、砂礫	良好	透し穴20
5680	土壇-335	弥生土器	高杯	21.8	11.8	18.1	褐色(2.5YR6/8)	細砂	良好	透し穴17
5681	土壇-336	弥生土器	甕	15.6		(4.7)	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂、砂礫	良好	
5682	土壇-337	弥生土器	高杯		10.9	(5.3)	褐色(2.5YR6/6)	粗砂、砂礫	良好	ヘラ描き線刻6か所残存、黒斑C

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5683	土壇-338	弥生土器	甕	17.4	9.5	(37.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑B・C
5684	土壇-338	弥生土器	甕	26.5	11.9	(53.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	頸部粘土紐、棒状浮文3本1組4か所
5685	土壇-338	弥生土器	甕	26.8		(43.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	頸部粘土紐
5686	土壇-339	弥生土器	壺			(8.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5687	土壇-339	弥生土器	甕	(28.0)		(6.9)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5688	土壇-339	弥生土器	甕	(16.7)		(4.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5689	土壇-339	弥生土器	甕	16.4		(4.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5690	土壇-339	弥生土器	甕	14.9		(4.6)	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	良好	
5691	土壇-339	弥生土器	甕	(13.0)		(6.6)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	ススA
5692	土壇-339	弥生土器	甕			(1.1)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5693	土壇-339	弥生土器	甕			(5.9)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
5694	土壇-339	弥生土器	甕			(7.3)	灰黄色(2.5Y6/1)	細砂	良好	
5695	土壇-339	弥生土器	甕			(4.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	内面丹塗り
5696	土壇-339	弥生土器	甕		11.2	(5.6)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
5697	土壇-339	弥生土器	甕		(6.6)	(4.7)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5698	土壇-339	弥生土器	甕		5.6	(2.0)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
5699	土壇-339	弥生土器	高杯			(2.6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	外面丹塗り
5700	土壇-339	弥生土器	高杯	(20.6)		(3.6)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
5701	土壇-339	弥生土器	高杯			(7.1)	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	良好	
5702	土壇-339	弥生土器	高杯			(4.0)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5703	土壇-339	弥生土器	高杯			(3.5)	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	良好	透し孔
5704	土壇-340	弥生土器	壺			(2.9)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	やや不良	
5705	土壇-340	弥生土器	無頸壺	(10.0)		(3.6)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	やや不良	
5706	土壇-340	弥生土器	甕			(1.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5707	土壇-340	弥生土器	甕	6.8		(3.9)	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
5708	土壇-340	弥生土器	甕			(9.3)	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	良好	棒状浮文
5709	土壇-340	弥生土器	高杯			(3.0)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5710	土壇-340	弥生土器	高杯	19.0		(5.4)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	やや不良	被熱
5711	土壇-340	弥生土器	高杯			(2.9)	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂	良好	
5712	土壇-341	弥生土器	壺	4.2		(10.5)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
5713	土壇-343	弥生土器	高杯		(14.0)	(6.5)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	透し孔
5714	土壇-342	弥生土器	壺	15.4		(30.9)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	首に5条の沈線、黒斑B
5715	土壇-342	弥生土器	甕	10.8	5.0	18.0	褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	刺突文、口縁部4条の沈線、被熱、ススA
5716	土壇-342	弥生土器	甕	(12.0)		(5.3)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5717	土壇-342	弥生土器	甕	12.4		(6.4)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5718	土壇-342	弥生土器	甕	14.0		(17.9)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑A・B
5719	土壇-342	弥生土器	甕	13.6		(12.3)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	ススB
5720	土壇-342	弥生土器	甕	(15.0)		(5.4)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5721	土壇-342	弥生土器	甕	14.5		(10.0)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5722	土壇-342	弥生土器	甕	(15.4)		(7.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂	良好	
5723	土壇-342	弥生土器	甕	(17.0)		(5.8)	灰白色(10YR8/1)	粗砂、礫	良好	
5724	土壇-342	弥生土器	甕	(19.6)		(3.5)	鈍い褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5725	土壇-342	弥生土器	甕	19.1		(9.8)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑A
5726	土壇-342	弥生土器	甕	(18.8)		(6.8)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	黒斑B
5727	土壇-342	弥生土器	甕		6.1	(16.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂	良好	黒斑B・C
5728	土壇-342	弥生土器	甕		6.6	(2.7)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	黒斑C
5729	土壇-342	弥生土器	甕	(6.9)		(4.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	ススC
5730	土壇-342	弥生土器	甕		(5.8)	(19.5)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	良好	煮沸、ススC
5731	土壇-342	弥生土器	高杯	(21.4)		(4.1)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5732	土壇-342	弥生土器	高杯			(5.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5733	土壇-342	弥生土器	高杯		(12.7)	(6.5)	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	良好	透し孔6
5734	土壇-342	弥生土器	高杯		11.9	(11.1)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	透し孔7
5735	土壇-342	弥生土器	鉢	(30.0)		(8.3)	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	良好	赤色顔料
5736	土壇-344	弥生土器	壺	(22.0)		(5.0)	浅黄褐色(10YR8/4)	粗砂	良好	
5737	土壇-344	弥生土器	高杯	(24.6)		(2.6)	褐色(5YR7)	粗砂	良好	
5738	土壇-359	弥生土器	甕			(1.2)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5739	土壇-359	弥生土器	甕		3.8	(1.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5740	土壇-359	弥生土器	高杯	20.0		(5.7)	褐色(5YR6/6)	精良	良好	黒斑A
5741	土壇-360	弥生土器	甕	5.5		(5.0)	黒色(2.5Y2/1)	細砂	良好	
5742	土壇-360	弥生土器	甕		4.8	(13.2)	鈍い赤褐色(10YR6/4)	粗砂	良好	ススB
5743	土壇-365	弥生土器	甕	6.6		(5.6)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	
5744	土壇-366	弥生土器	鉢		7.4	(1.8)	褐色(2.5YR7)	精良	良好	黒斑C
5745	土壇-366	弥生土器	高杯	13.0		(5.4)	浅黄褐色(10YR8/3)	精良	良好	
5746	土壇-367	弥生土器	甕	(15.6)		(4.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5747	土壇-367	弥生土器	甕			(3.1)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5748	土壇-367	弥生土器	高杯	17.8		(6.0)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5749	土壇-368	弥生土器	壺	(19.2)		(4.2)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5750	土壇-368	弥生土器	壺			(4.0)	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	二重の竹管文
5751	土壇-368	弥生土器	壺		6.8	(5.0)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	スス
5752	土壇-368	弥生土器	甕	11.4		(7.1)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	ススB
5753	土壇-368	弥生土器	甕			(3.2)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5754	土壇-368	弥生土器	甕	13.0	5.7	21.1	鈍い赤褐色(5YR5/4)	細砂	良好	被熱著しい
5755	土壇-368	弥生土器	高杯			(3.0)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	
5756	土壇-368	弥生土器	高杯			(2.8)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
5757	土壇-368	弥生土器	鉢			(5.1)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	内面にスス付着

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5758	土壇-368	弥生土器	鉢				鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	内面にスス付着
5759	土壇-368	弥生土器	鉢	(12.7)		(6.3)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
5760	土壇-368	弥生土器	手捏土器	4.9		2.6	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	スス、完形、歪み有り
5761	土壇-369	弥生土器	高杯	24.8		(3.9)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5762	土壇-369	弥生土器	器台			(3.0)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
5763	土壇-371	弥生土器	台付鉢(円板)			(1.6)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
5764	土壇-371	弥生土器	甕		8.5	(14.1)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	スス、被熱
5765	土壇-372	弥生土器	壺	(10.5)		(3.3)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5766	土壇-372	弥生土器	壺			(8.9)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
5767	土壇-372	弥生土器	甕	(11.5)		(6.0)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5768	土壇-372	弥生土器	甕	(17.6)		(3.4)	橙色(5YR6/8-7/6)	細砂	良好	
5769	土壇-372	弥生土器	甕			(1.3)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
5770	土壇-372	弥生土器	甕			(4.8)	鈍い赤褐色(5YR5/4)	細砂	良好	
5771	土壇-372	弥生土器	甕	(12.8)		(1.9)	褐色(7.5YR5/1)	細砂	良好	
5772	土壇-372	弥生土器	甕		6.2	(2.1)	橙色(7.5YR6/8)	細砂	良好	
5773	土壇-372	弥生土器	(高杯)	11.4		(3.0)	橙色(5YR7/8)	細砂	良好	
5774	土壇-372	弥生土器	高杯	(18.8)		(2.4)	黄灰色(2.5Y5/?)	細砂	良好	
5775	土壇-372	弥生土器	高杯		11.4	(8.6)	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	
5776	土壇-372	弥生土器	高杯		9.4	(7.7)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
5777	土壇-373	弥生土器	壺	(16.0)		(2.8)	褐色(7.5YR5/1)	細砂	良好	玉縁
5778	土壇-373	弥生土器	壺	16.6		6.6	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5779	土壇-373	弥生土器	甕	12.4		(17.5)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
5780	土壇-373	弥生土器	甕	14.8		(11.9)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
5781	土壇-373	弥生土器	甕	14.0		(14.2)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
5782	土壇-373	弥生土器	甕	(19.6)		(1.7)	褐色(7.5YR6/1)	細砂	良好	
5783	土壇-373	弥生土器	甕				明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
5784	土壇-373	弥生土器	甕		(6.2)	(3.0)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
5785	土壇-373	弥生土器	高杯	(21.6)		(4.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	被熱
5786	土壇-373	弥生土器	高杯	(19.6)		(5.1)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
5787	土壇-373	弥生土器	高杯		10.6	(3.1)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
5788	土壇-374	弥生土器	壺			(2.1)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
5789	土壇-374	弥生土器	高杯			(5.8)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5790	土壇-375	弥生土器	甕		3.5	(5.5)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	スス、被熱
5791	土壇-376	弥生土器	甕	(13.4)		(5.2)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
5792	土壇-384	弥生土器	甕	(13.8)		(9.6)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	ススB
5793	土壇-384	弥生土器	甕	14.6		(11.6)	明褐色(7.5YR5/6)	細砂	良好	ススB
5794	土壇-384	弥生土器	甕	15.2		(10.1)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	ススB
5795	土壇-384	弥生土器	甕	14.8	6.0	(23.4)	灰褐色(5YR5/2)	細砂	良好	ススB
5796	土壇-384	弥生土器	甕	17.8		(11.3)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	5797と同一個体?
5797	土壇-384	弥生土器	甕		8.3	(9.8)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	5796と同一個体?、ススB
5798	土壇-384	弥生土器	甕	12.2	3.9	10.4	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	黒斑、粘土による補修痕
5799	土壇-384	弥生土器	鉢	(39.2)		(9.2)	鈍い褐色(5YR6/3)	細砂	良好	5800と同一個体?
5800	土壇-384	弥生土器	鉢		13.2	(4.6)	鈍い褐色(5YR6/3)	細砂	良好	5799と同一個体?
5801	土壇-385	弥生土器	鉢		(9.6)	(5.1)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	被熱、ススC
5802	土壇-385	弥生土器	高杯	(17.4)		(3.8)	褐色(7.5YR4/1)	細砂	良好	蓋転用か?
5803	土壇-386	弥生土器	壺	13.0		(2.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5804	土壇-386	弥生土器	甕	17.8		(5.1)	褐色(10YR6/1)	細砂	良好	
5805	土壇-386	弥生土器	甕			(3.0)	褐色(10YR6/1)	細砂	良好	
5806	土壇-386	弥生土器	甕			(2.0)	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	口縁部棒状浮文
5807	土壇-386	弥生土器	高杯			(2.2)	褐色(7.5YR4/1)	精良	良好	
5808	土壇-387	弥生土器	甕	12.1		(4.3)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	口縁部棒状浮文、8条
5809	土壇-387	弥生土器	甕			(2.0)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	ススC
5810	土壇-387	弥生土器	高杯			(5.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	精良	良好	
5811	土壇-387	弥生土器	鉢	(34.0)		(13.7)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	
5812	土壇-387	弥生土器	製塩土器		5.5	(2.2)	赤褐色(10R6/6)	粗砂	良好	
5813	土壇-388	弥生土器	甕	14.0		(6.3)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
5814	土壇-388	弥生土器	甕	16.4		(6.1)	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	良好	
5815	土壇-388	弥生土器	甕	18.7		(4.4)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
5816	土壇-388	弥生土器	甕	16.0	6.8	22.7	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	黒斑B
5817	土壇-388	弥生土器	甕		6.0	(3.7)	褐色(10YR5/1)	粗砂	良好	
5818	土壇-388	弥生土器	底部		19.2	(2.4)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
5819	土壇-388	弥生土器	高杯	19.5		(3.0)	褐色(7.5YR4/1)	細砂	良好	
5820	土壇-388	弥生土器	高杯		12.8	(3.6)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	透し孔6
5821	土壇-391	弥生土器	甕	16.0		(2.3)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	棒状浮文3本
5822	土壇-394	弥生土器	壺	(15.8)		(7.0)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	凹線3条(口縁)、凹線4条(頸部)、黒斑B
5823	土壇-394	弥生土器	甕	14.8		(3.1)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5824	土壇-394	弥生土器	甕	13.4		(6.1)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	黒斑A B
5825	土壇-394	弥生土器	甕	(14.0)		(3.7)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5826	土壇-394	弥生土器	甕	16.8		(4.6)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑A(内)
5827	土壇-394	弥生土器	甕	18.4		(6.4)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5828	土壇-394	弥生土器	甕	18.4		(7.5)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	
5829	土壇-394	弥生土器	壺?	17.0	9.0	37.6	淡黄色(5Y8/3)	細砂	良好	口縁部棒状浮文、肩部刻文、黒斑B・BC
5830	土壇-394	弥生土器	甕	12.6		(10.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	ススB、黒斑B
5831	土壇-394	弥生土器	甕	17.1	7.3	35.0	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	底部穿孔1個、黒斑B(外)・C(内)
5832	土壇-394	弥生土器	甕		6.0	(5.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑B・C

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5833	土壙-394	弥生土器	甕		5.5	(6.3)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑C
5834	土壙-394	弥生土器	高杯	(22.8)		(3.5)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	横部5条
5835	土壙-394	弥生土器	高杯		(10.6)	(4.0)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
5836	土壙-394	弥生土器	高杯		15.0	(6.5)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	透し孔4/8
5837	土壙-395	弥生土器	壺	11.8	5.6	18.2	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	透し孔4?、黒斑C
5838	土壙-395	弥生土器	長頸壺	15.0		(15.1)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5839	土壙-395	弥生土器	壺		10.0	(37.0)	褐灰色(7.5YR6/1)	粗砂	良好	ススA
5840	土壙-395	弥生土器	甕	7.4		(11.3)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	脚部横溝沈線1条
5841	土壙-395	弥生土器	甕	20.2		(16.4)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
5842	土壙-395	弥生土器	甕	23.1	10.5	31.3	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	胴部刺突文2段
5843	土壙-395	弥生土器	甕	18.6		(1.9)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5844	土壙-395	弥生土器	甕	16.9		(6.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5845	土壙-395	弥生土器	甕	20.0		(10.0)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5846	土壙-395	弥生土器	甕		6.9	(5.5)	灰黄褐色(10YR6/2)	礫	良好	
5847	土壙-395	弥生土器	甕		6.1	(10.6)	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂	良好	黒斑C
5848	土壙-395	弥生土器	高杯	37.1		(2.9)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
5849	土壙-395	弥生土器	高杯			(8.5)	灰白色(10YR8/2)	礫	良好	黒斑A
5850	土壙-395	弥生土器	台付鉢	8.0		(12.8)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	脚柱部横溝沈線4条
5851	土壙-395	弥生土器	脚部		12.6	(4.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	透し孔1/0
5852	土壙-395	弥生土器	高杯		12.2	(9.7)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	脚柱部横溝沈線3条
5853	土壙-396	弥生土器	甕	13.2		(6.5)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	粗砂	良好	黒斑B
5854	土壙-396	弥生土器	底部		9.8	(6.1)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
5855	土壙-396	弥生土器	壺		10.4	(18.3)	鈍い褐色(5YR6/4)	粗砂	良好	黒斑C
5856	土壙-396	弥生土器	高杯		10.6	(5.6)	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	透し孔4
5857	土壙-398	弥生土器	壺		11.2	(17.0)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	粗砂	良好	二次的に火を受けている、黒斑C
5858	土壙-398	弥生土器	底部		4.0	(3.2)	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	良好	
5859	土壙-398	弥生土器	高杯		13.0	(7.0)	褐色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	透し孔5
5860	土壙-399	弥生土器	甕	14.9		(5.2)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5861	土壙-399	弥生土器	甕	15.2		(7.4)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	黒斑B
5862	土壙-399	弥生土器	甕		3.7	(4.0)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5863	土壙-399	弥生土器	高杯	(21.0)		(3.8)	鈍い褐色(10YR7/4)	細砂	良好	
5864	土壙-399	弥生土器	高杯		23.8	(5.4)	淡褐色(5YR8/4)	細砂	良好	
5865	土壙-399	弥生土器	高杯		7.8	(1.7)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
5866	土壙-400	弥生土器	甕?	15.0		(15.2)	灰白色(2.5Y8/7)	細砂	良好	
5867	土壙-402	弥生土器	高杯	10.5		(7.6)	鈍い赤褐色(10R6/4)	細砂	良好	脚柱部沈線4条
5868	土壙-403	弥生土器	甕	(15.4)		(6.3)	褐色(7.5YR6/6)	精良	良好	刺突文
5869	土壙-403	弥生土器	甕		(6.7)	(3.4)	淡褐色(5YR8/4)	粗砂	良好	
5870	土壙-403	弥生土器	高杯	(14.0)		(6.7)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
5871	土壙-403	弥生土器	高杯		(10.0)	(4.3)	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	
5872	土壙-404	弥生土器	高杯	(16.8)		(15.5)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	体部二枚貝の貝殻の刻目
5873	土壙-404	弥生土器	台付鉢		(8.3)	(3.3)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑C
5874	土壙-405	弥生土器	甕	20.2		(19.6)	鈍い褐色(5YR7/3)	粗砂	良好	口縁部沈線5条
5875	土壙-405	弥生土器	甕	20.8		(17.9)	鈍い褐色(5YR7/3)	粗砂	良好	ススA
5876	土壙-406	弥生土器	甕	(14.0)		(10.7)	褐色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	
5877	土壙-406	弥生土器	甕	14.7		(10.6)	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
5878	土壙-406	弥生土器	甕	15.7		(2.7)	淡赤褐色(5YR6/3)	細砂	良好	
5879	井戸-8	弥生土器	壺			(2.3)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
5880	井戸-8	弥生土器	壺			(1.8)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
5881	井戸-8	弥生土器	甕		7.0	(7.3)	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	ススC
5882	井戸-8	弥生土器	甕		5.4	(5.4)	褐色(5YR7/8)	細砂	良好	
5883	井戸-8	弥生土器	高杯	(19.2)		(2.7)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
5884	井戸-8	弥生土器	高杯	(24.4)		(3.3)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5885	井戸-8	弥生土器	高杯			(3.0)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	円板充填
5886	溝-457	弥生土器	甕		(7.2)	(3.2)	黒褐色(5YR2/1)	粗砂	良好	黒斑、底部外面ユビオサエ
5887	溝-458	弥生土器	底部		4.7	(7.8)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑C
5888	土器溜り-10	弥生土器	壺	(14.8)		(12.7)	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	5889と同一個体、黒斑B
5889	土器溜り-10	弥生土器	壺		9.6	(21.1)	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	5888と同一個体、黒斑B C
5890	土器溜り-10	弥生土器	甕		6.5	(2.9)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	スス
5891	土器溜り-10	弥生土器	高杯	19.0		(6.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	黒斑A
5892	土器溜り-10	弥生土器	壺			(4.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	線刻
5893	土器溜り-10	弥生土器	壺			(4.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	線刻
5894	土器溜り-11	弥生土器	壺	14.5	9.0	32.9	褐色(2.5YR)	細砂	良好	黒斑C
5895	土器溜り-11	弥生土器	長頸壺	19.7		(8.5)	赤褐色(10R6/8)	細砂	良好	口縁部刻目、頸部凹線6条残存、黒斑A
5896	土器溜り-11	弥生土器	長頸壺	19.2		(28.1)	赤褐色(10R6/8)	細砂	良好	肩部刺突文、黒斑B
5897	土器溜り-11	弥生土器	長頸壺	16.8		(28.3)	褐色(5YR7/8)	細砂	良好	肩部に刺突文、黒斑B
5898	土器溜り-11	弥生土器	長頸壺			(9.5)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	肩部に刺突文、ススB
5899	土器溜り-11	弥生土器	長頸壺	21.0		(23.3)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	肩部に竹管文、黒斑B
5900	土器溜り-11	弥生土器	長頸壺	18.9		(24.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	口縁部鋸歯文、頸部1周凹線17条
5901	土器溜り-11	弥生土器	長頸壺	15.6	5.5	31.6	鈍い褐色(5YR7/3)	細砂	良好	黒斑B・C
5902	土器溜り-11	弥生土器	甕	23.1	9.3	44.3	褐色(5YR7/8)	細砂	良好	
5903	土器溜り-11	弥生土器	甕	26.4	10.8	41.6	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
5904	土器溜り-11	弥生土器	高杯	23.4	13.6	15.0	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	透し孔1段目3個?(1個残存)、2段目6個
5905	土器溜り-11	弥生土器	高杯	21.8	10.5	14.6	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	透し孔4
5906	土器溜り-11	弥生土器	高杯	21.3	15.0	16.0	褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	透し孔4
5907	土器溜り-11	弥生土器	高杯	21.0	14.7	15.9	褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	

土器観察表

挿入 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5908	土器溜り-11	弥生土器	器台		20.0	(12.2)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	透し孔上段3下段3、脚部凹線5条
5909	包含層	弥生土器	壺	17.5		(16.3)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	良好	刺突文
5910	包含層	弥生土器	壺			(13.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5911	包含層	弥生土器	壺			(2.3)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
5912	包含層	弥生土器	壺			(4.4)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	棒状浮文
5913	包含層	弥生土器	壺	(18.6)		(5.5)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5914	包含層	弥生土器	壺	10.6		(3.7)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
5915	包含層	弥生土器	壺	10.9		(4.5)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	赤色顔料
5916	包含層	弥生土器	壺			(4.2)	灰白色(5YR8/1)	細砂	良好	
5917	包含層	弥生土器	壺			(4.1)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
5918	包含層	弥生土器	壺	14.7		(4.8)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
5919	包含層	弥生土器	甕	14.8		(3.6)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
5920	包含層	弥生土器	壺	15.7		(8.3)	浅黄橙色(7.5YR8/)	細砂	良好	
5921	包含層	弥生土器	甕	(20.0)		(5.2)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
5922	包含層	弥生土器	甕	(17.2)		(2.5)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	刻目、円形浮文
5923	包含層	弥生土器	甕	(13.6)		(5.6)	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂	良好	
5924	包含層	弥生土器	甕			(7.7)	明褐灰色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
5925	包含層	弥生土器	甕			(7.4)	灰白色(2.5YR8/2)	細砂	良好	
5926	包含層	弥生土器	甕	10.5		(11.9)	淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	ススA
5927	包含層	弥生土器	甕	12.6		(10.4)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	タタキ、黒斑A・B
5928	包含層	弥生土器	甕	16.0		(5.3)	明褐灰色(7.5YR7/2)	細砂	良好	ススA
5929	包含層	弥生土器	甕	15.6		(7.3)	褐灰色(10YR6/1)	細砂	良好	ススA
5930	包含層	弥生土器	甕			(6.8)	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
5931	包含層	弥生土器	甕			(6.1)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
5932	包含層	弥生土器	壺			(2.8)	鈍い褐色(7.5YR5/)	細砂	良好	
5933	包含層	弥生土器	甕			(4.2)	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	
5934	包含層	弥生土器	甕	11.2		(9.0)	鈍い黄褐色(10YR7/)	粗砂、礫	良好	黒斑C
5935	包含層	弥生土器	甕	(5.2)		(4.8)	灰褐色(7.5YR5/2)	粗砂	良好	
5936	包含層	弥生土器	甕	7.4		(4.8)	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	
5937	包含層	弥生土器	甕			(4.3)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
5938	包含層	弥生土器	甕		5.9	(9.9)	明褐灰色(5YR7/2)	粗砂	良好	黒斑B・C
5939	包含層	弥生土器	甕	16.4	7.2	25.2	橙色(7.5YR6/6)	砂礫	良好	ススA
5940	包含層	弥生土器	甕	9.7	5.1	14.6	明褐灰色(5YR7/2)	細砂	良好	ススA
5941	包含層	弥生土器	甕	12.2		(5.0)	淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	
5942	包含層	弥生土器	甕	11.4		(6.1)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	黒斑B
5943	包含層	弥生土器	甕	13.8		(6.5)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	
5944	包含層	弥生土器	壺			(2.2)	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂、砂礫	良好	
5945	包含層	弥生土器	甕			(3.6)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
5946	包含層	弥生土器	甕			(4.0)	橙色(5YR6/6)	細砂	やや不良	ススA
5947	包含層	弥生土器	甕	8.2		(7.4)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	良好	黒斑B
5948	包含層	弥生土器	鉢			(6.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂、砂礫	良好	
5949	包含層	弥生土器	甕	12.0		(7.5)	灰白色(10YR7/)	細砂	良好	
5950	包含層	弥生土器	台付鉢			(4.8)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
5951	包含層	弥生土器	高杯			(5.4)	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
5952	包含層	弥生土器	高杯			(2.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	天井凹線
5953	包含層	弥生土器	高杯	(18.0)		(2.4)	鈍い黄褐色(10YR7/)	細砂	良好	
5954	包含層	弥生土器	高杯			(3.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5955	包含層	弥生土器	高杯			(3.7)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
5956	包含層	弥生土器	高杯			(2.8)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
5957	包含層	弥生土器	高杯			(3.1)	褐色(2.5YR7/8)	細砂	良好	
5958	包含層	弥生土器	?	13.0		(2.4)	褐灰色(10YR4)	細砂	良好	
5959	包含層	弥生土器	高杯	12.2		(3.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5960	包含層	弥生土器	高杯		8.0	(7.8)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	透し孔、ススC
5961	包含層	弥生土器	高杯		10.9	(9.3)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂、砂礫	良好	
5962	包含層	弥生土器	高杯		10.8	(6.9)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	透し孔窓3/8、ヘラ描き沈線
5963	包含層	弥生土器	高杯		12.6	(15.6)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	赤色顔料
5964	包含層	弥生土器	高杯	27.6		(27.6)	褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	ヘラ描き沈線9条単位、竹管文、黒斑A・C
5965	包含層	弥生土器	甕			(5.2)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	波状の凹線、粘土紐貼り付け
5966	包含層	弥生土器	壺	14.0		(16.8)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂	良好	黒斑B
5967	包含層	弥生土器	甕	15.7		(4.1)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5968	包含層	弥生土器	甕	12.4		(18.8)	灰白色(10YR8/)	粗砂、礫	良好	
5969	包含層	弥生土器	小型鉢	15.3	3.0	7.9	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	黒斑A・B
5970	包含層	弥生土器	埴	8.4		5.7	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
5971	包含層	弥生土器	高杯	(12.2)		(3.8)	淡黄色(2.5Y8/)	粗砂、礫	良好	
5972	包含層	弥生土器	壺	(14.4)		(1.6)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
5973	包含層	弥生土器	蓋	8.5		1.7	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	良好	穿孔3、完形、5974とセット
5974	包含層	弥生土器	壺	(8.0)	6.4	10.2	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	黒斑C、穿孔3
5975	包含層	弥生土器	甕	13.6		(7.6)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
5976	包含層	弥生土器	甕	(16.8)		(3.6)	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	良好	
5977	包含層	弥生土器	甕	19.0		(5.5)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	ススC
5978	包含層	弥生土器	甕	(14.9)		(20.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	ススA
5979	包含層	弥生土器	甕	(12.4)		(5.1)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	
5980	包含層	弥生土器	甕	30.0		(8.9)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	
5981	包含層	弥生土器	高杯		12.2	(7.2)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	透し孔
5982	包含層	弥生土器	甕			(9.8)	褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	把手付き

遺物観察表

土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
5983	包含層	弥生土器	台付鉢	10.6		(8.4)	橙色(5YR7/6)	礫	良好	黒斑B
5984	包含層	弥生土器	鉢		3.0	(6.2)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
5985	包含層	弥生土器	壺	16.3		(2.9)	鈍黄橙色(10YR7/4)	粗砂	良好	
5986	包含層	弥生土器	壺	14.9		(8.7)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	精良	良好	内面貝殻文4個確認、連続刺突文
5987	包含層	弥生土器	壺	14.3		(3.4)	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
5988	包含層	弥生土器	壺	16.8		(3.3)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
5989	包含層	弥生土器	壺	13.9		(5.7)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
5990	包含層	弥生土器	壺	15.4		(2.8)	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	良好	
5991	包含層	弥生土器	壺	(13.2)		(2.2)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
5992	包含層	弥生土器	壺	12.7	5.4	(20.9)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	タタキ、黒斑A・B・C、接点なしの同一個体
5993	包含層	弥生土器	壺	(27.8)		(7.5)	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
5994	包含層	弥生土器	底部		5.1	(7.5)	赤褐色(10R5/4)	細砂	良好	ススC
5995	包含層	弥生土器	高杯	(21.2)		(8.5)	赤色(10R5/6)	細砂	良好	
5996	包含層	弥生土器	高杯	12.1		13.8	橙色(5YR7/8)	粗砂	良好	器壁磨滅
5997	包含層	弥生土器	高杯		13.2	(11.2)	鈍い橙色(5YR7/3)	礫	良好	透し孔4、凹線4条
5998	包含層	弥生土器	高杯		7.8	(5.0)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	透し孔15、黒斑C
5999	包含層	弥生土器	高杯		(10.8)	(2.8)	淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	竹管連続1つ紋(未貫通)、黒斑C
6000	包含層	弥生土器	高杯		(6.8)	(6.2)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	脚部凹線1条?
6001	包含層	弥生土器	高杯		(10.4)	(7.7)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	透し孔4?
6002	竪穴住居-206	土師器	壺	13.8		(19.5)	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	赤色顔料
6003	竪穴住居-206	土師器	壺	14.4		(10.0)	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	ススB
6004	竪穴住居-206	土師器	壺	15.1		(8.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑A
6005	竪穴住居-206	土師器	壺	15.0		(2.8)	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6006	竪穴住居-206	土師器	壺			(11.3)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	タタキ
6007	竪穴住居-206	土師器	壺	13.2		(4.8)	淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	
6008	竪穴住居-206	土師器	高杯	19.0		(7.3)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
6009	竪穴住居-206	土師器	高杯	7.4		(7.5)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	黒斑C
6010	竪穴住居-206	土師器	高杯	11.2	16.9	11.6	黄褐色(7.5YR7/8)	精良	良好	透し孔2/4
6011	竪穴住居-206	土師器	鉢	21.0		(7.5)	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	良好	
6012	竪穴住居-206	土師器	椀	14.2		(4.1)	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6013	竪穴住居-206	土師器	鉢		3.7	(1.8)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
6014	竪穴住居-206	土師器	鉢		4.0	(4.1)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	黒斑C
6015	竪穴住居-206	土師器	埴	9.9	1.7	6.7	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	完形
6016	竪穴住居-206	土師器	埴	7.7		5.9	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	良好	
6017	竪穴住居-206	土師器	器台		9.9	(7.6)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
6018	竪穴住居-206	土師器	製塩土器		5.6	(2.2)	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	
6019	竪穴住居-207	土師器	壺	(14.7)		(3.4)	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
6020	竪穴住居-207	土師器	壺	(13.4)		(4.6)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
6021	竪穴住居-207	土師器	壺			(9.8)	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	良好	黒斑B
6022	竪穴住居-207	土師器	高杯			(6.4)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔4
6023	竪穴住居-207	土師器	高杯	10.0		(5.8)	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	良好	
6024	竪穴住居-207	土師器	鉢	(8.7)		(4.2)	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
6025	竪穴住居-207	土師器	鉢	(9.6)		(3.1)	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
6026	竪穴住居-207	土師器	鉢			(8.6)	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6027	竪穴住居-207	土師器	器台		12.6	(6.9)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
6028	竪穴住居-208	土師器	壺	(11.3)		(2.0)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
6029	竪穴住居-208	土師器	鉢?		4.1	(2.5)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6030	竪穴住居-208	土師器	器台	9.9		(1.8)	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
6031	竪穴住居-210	土師器	壺	12.4		(2.9)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
6032	竪穴住居-210	土師器	壺	(15.2)		(3.3)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
6033	竪穴住居-210	土師器	壺			(2.0)	鈍橙色(7.5YR6/4)	粗砂、砂礫	良好	
6034	竪穴住居-210	土師器	高杯		(15.4)	(8.5)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
6035	竪穴住居-210	土師器	壺	11.2		(5.0)	橙色(7.5YR6/8)	細砂	良好	沈線9条、化粧土
6036	竪穴住居-210	土師器	壺	13.9		(9.0)	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6~7条、ススB
6037	竪穴住居-210	土師器	壺	14.6		(4.1)	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線10条
6038	竪穴住居-210	土師器	壺	(16.6)		(4.0)	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6039	竪穴住居-210	土師器	壺	(15.6)		(5.5)	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6040	竪穴住居-210	土師器	壺	(15.9)		(4.0)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6041	竪穴住居-210	土師器	壺			(4.0)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6042	竪穴住居-210	土師器	壺			(3.0)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6043	竪穴住居-210	土師器	高杯	18.5		(6.6)	鈍褐色(5YR7/4)	精良	良好	黒斑A
6044	竪穴住居-210	土師器	高杯	19.1		(7.4)	鈍褐色(7.5YR7/4)	精良	良好	
6045	竪穴住居-210	土師器	高杯	19.5		(7.1)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6046	竪穴住居-210	土師器	壺	(16.2)		(8.1)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	黒斑A・B
6047	竪穴住居-210	土師器	鉢	15.4		(4.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	内外面赤色顔料(化粧土)
6048	竪穴住居-210	土師器	脚付椀	13.5	8.2	9.3	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑A・B・C
6049	竪穴住居-210	土師器	鉢	11.7		(5.8)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	良好	ススA
6050	竪穴住居-210	土師器	椀	(12.8)		4.8	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
6051	竪穴住居-210	土師器	鉢	9.9		(4.9)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑C
6052	竪穴住居-210	土師器	製塩土器	10.6		(5.3)	鈍褐色(10R6/4)	粗砂、砂礫	良好	タタキ
6053	竪穴住居-211	土師器	壺	(15.3)		(3.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6054	竪穴住居-211	土師器	高杯			(4.3)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
6055	竪穴住居-212	土師器	壺	14.3		(14.3)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
6056	竪穴住居-212	土師器	壺	15.1		(17.4)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	良好	櫛描沈線8条、刺突記号A1、ススB
6057	竪穴住居-212	土師器	壺	10.5		(12.0)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	刺突文

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6058	竪穴住居-212	土師器	甕			(5.6)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
6059	竪穴住居-212	土師器	高杯			(3.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	
6060	竪穴住居-212	土師器	高杯			(10.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	
6061	竪穴住居-212	土師器	高杯		13.8	(8.9)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔3、黒斑C
6062	竪穴住居-212	土師器	高杯			(7.9)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
6063	竪穴住居-212	土師器	高杯	11.8		(5.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
6064	竪穴住居-212	土師器	高杯	14.3		(5.4)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6065	竪穴住居-212	土師器	高杯			(4.3)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔3/4
6066	竪穴住居-212	土師器	碗	13.3	3.5	5.8	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6067	竪穴住居-212	土師器	碗	12.7	3.8	5.7	橙色(5YR7/8)	精良	良好	黒斑B
6068	竪穴住居-212	土師器	鉢	29.1		(12.7)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
6069	竪穴住居-212	土師器	器台	8.5	11.7	9.2	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔4
6070	竪穴住居-213	土師器	壺	9.8		14.7	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	黒斑B
6071	竪穴住居-213	土師器	甕	12.4		(6.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	櫛描沈線8条
6072	竪穴住居-213	土師器	甕	12.4		(11.3)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条、煮沸被熱、ススB
6073	竪穴住居-213	土師器	甕	13.1		(9.1)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	櫛描沈線8条、刺突記号B3、黒斑A・B
6074	竪穴住居-213	土師器	甕	12.6		(17.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A2、被熱、ススA、黒斑C
6075	竪穴住居-213	土師器	甕	12.8		(10.2)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
6076	竪穴住居-213	土師器	甕	(15.0)		(7.4)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線5~6条
6077	竪穴住居-213	土師器	甕	14.8		(16.3)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	粗砂	良好	櫛描沈線8条、黒斑B
6078	竪穴住居-213	土師器	甕	14.8		(5.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	
6079	竪穴住居-213	土師器	甕		4.4	(5.2)	褐灰色(10YR4/1)	粗砂	良好	ススC、黒斑C
6080	竪穴住居-213	土師器	甕	15.0	5.8	18.7	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	黒斑B・C
6081	竪穴住居-213	土師器	甕	13.6		20.2	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	黒斑B・C
6082	竪穴住居-213	土師器	甕	15.0		15.0	鈍い黄橙色(10YR7/2)	粗砂、礫	良好	被熱(煮沸)、黒斑B
6083	竪穴住居-213	土師器	甕		5.2	(11.9)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	被熱、ススB
6084	竪穴住居-213	土師器	甕			(2.4)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
6085	竪穴住居-213	土師器	高杯	21.0	14.3	15.0	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔4
6086	竪穴住居-213	土師器	高杯	20.6	14.2	14.7	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔4/3
6087	竪穴住居-213	土師器	高杯		14.0	7.8	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	透し孔2/4
6088	竪穴住居-213	土師器	高杯		14.4	(8.9)	鈍い橙色(14.4)	精良	良好	透し孔4、黒斑C
6089	竪穴住居-213	土師器	高杯	11.5		6.8	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
6090	竪穴住居-213	土師器	高杯	11.7		(5.8)	黄橙色(7.5YR7/8)	精良	良好	
6091	竪穴住居-213	土師器	高杯			(5.8)	淡橙色(5YR8/4)	精良	良好	
6092	竪穴住居-213	土師器	高杯		15.2	(5.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
6093	竪穴住居-213	土師器	高杯			(4.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔1/〇
6094	竪穴住居-213	土師器	鉢			(3.0)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6095	竪穴住居-213	土師器	鉢	11.8	3.3	5.2	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
6096	竪穴住居-213	土師器	鉢	15.0		(5.8)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
6097	竪穴住居-213	土師器	鉢	33.6		(14.2)	灰白色(5YR8/2)	精良	良好	
6098	竪穴住居-213	土師器	鉢	(39.8)	(8.2)	21.2	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	黒斑A・B・C
6099	竪穴住居-213	土師器	鉢			(7.3)	橙色(7.5YR7/6)	粗砂、礫	良好	
6100	竪穴住居-213	土師器	手捏土器	3.4		(3.8)	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	良好	液状沈線文、竹管文
6101	竪穴住居-213	土師器	製塩土器		4.4	(3.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂、礫	良好	
6102	竪穴住居-213	土師器	製塩土器		5.0	(2.3)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	粗砂、礫	良好	
6103	竪穴住居-213	土師器	製塩土器		4.8	(3.0)	明赤灰色(7.5YR7/1)	粗砂、礫	良好	
6104	竪穴住居-213	土師器	製塩土器		4.0	(2.8)	明赤灰色(2.5YR7/2)	粗砂、礫	良好	
6105	竪穴住居-213	土師器	手捏形土器			(2.0)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	刻目
6106	竪穴住居-213	土師器	手捏形土器			17.9	橙色(5YR7/6)	粗砂、礫	良好	ススA、黒斑A・B・C
6107	竪穴住居-214	土師器	甕	10.0	4.0	13.8	鈍い赤褐色(2.5Y5/1)	粗砂	良好	黒斑B・C
6108	竪穴住居-214	土師器	甕			(3.0)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	沈線条数不明、岡山風ではない、黒斑A
6109	竪穴住居-214	土師器	甕	13.2		20.6	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂、礫	良好	刺突記号A3、沈線8条、黒斑B・C
6110	竪穴住居-214	土師器	甕	(14.9)		(3.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	ススA
6111	竪穴住居-214	土師器	高杯	20.5		(7.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	黒斑A
6112	竪穴住居-214	土師器	高杯	(20.7)		(7.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	黒斑A
6113	竪穴住居-214	土師器	高杯		14.0	(8.1)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4、黒斑C
6114	竪穴住居-214	土師器	高杯	(10.1)	7.4	(6.7)	鈍い橙色(7.5YR6/)	粗砂	良好	透し孔3
6115	竪穴住居-214	土師器	皿?	(16.0)		(3.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6116	竪穴住居-214	土師器	碗(鉢)	(13.8)	3.0	7.3	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
6117	竪穴住居-214	土師器	碗(高杯)	11.4		(4.8)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6118	竪穴住居-214	土師器	製塩土器		4.3	(2.6)	鈍い橙色(5YR7/4)	粗砂	良好	
6119	竪穴住居-215	土師器	壺	19.6		(8.0)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6120	竪穴住居-215	土師器	壺	(20.5)		(6.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6121	竪穴住居-215	土師器	直口壺	10.2		(6.0)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6122	竪穴住居-215	土師器	壺	9.8		(8.0)	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	ススA
6123	竪穴住居-215	土師器	甕	12.5		(11.2)	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	擬凹線7条、ススA
6124	竪穴住居-215	土師器	甕	12.5		(7.1)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9~10、条刺突記号A3
6125	竪穴住居-215	土師器	甕			(3.0)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	櫛描沈線10条
6126	竪穴住居-215	土師器	甕			(2.5)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6127	竪穴住居-215	土師器	甕	14.0		(8.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススB
6128	竪穴住居-215	土師器	甕	14.0		(3.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6129	竪穴住居-215	土師器	甕	13.8	4.6	17.4	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A4、ススB
6130	竪穴住居-215	土師器	甕	14.0		(9.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススA
6131	竪穴住居-215	土師器	甕	14.6		(7.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6132	竪穴住居-215	土師器	甕	14.1		21.0	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A2、ススC

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6133	竪穴住居-215	土師器	甕	13.5		23.9	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	櫛描沈線?条、ススB
6134	竪穴住居-215	土師器	甕	(15.6)		(15.4)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	櫛描沈線9条、ススB
6135	竪穴住居-215	土師器	甕	13.2		26.4	鈍い褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A2、露部穿孔、ススA
6136	竪穴住居-215	土師器	甕	11.8		(12.3)	淡褐色(5YR8/4)	礫	良好	ススA
6137	竪穴住居-215	土師器	甕		6.4	(5.0)	鈍い黄褐色(10YR7/)	粗砂、礫	良好	
6138	竪穴住居-215	土師器	高杯	18.4		(6.9)	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
6139	竪穴住居-215	土師器	高杯	20.0		(8.6)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
6140	竪穴住居-215	土師器	高杯	20.8	13.2	15.1	鈍い褐色(7.5YR7/3)	精良	良好	透し孔3、黒斑A・C
6141	竪穴住居-215	土師器	高杯	20.6		(5.4)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
6142	竪穴住居-215	土師器	高杯			(7.5)	褐色(5YR6/6)	精良	良好	
6143	竪穴住居-215	土師器	高杯			(7.8)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
6144	竪穴住居-215	土師器	高杯	13.3		(5.2)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
6145	竪穴住居-215	土師器	高杯	13.5	17.3	11.2	褐色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
6146	竪穴住居-215	土師器	高杯		16.6	(5.6)	褐色(5YR6/6)	水漉粘土	良好	透し孔4
6147	竪穴住居-215	土師器	高杯	13.6	17.8	(10.7)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
6148	竪穴住居-215	土師器	高杯		19.1	(6.5)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
6149	竪穴住居-215	土師器	高杯	12.8		(5.6)	褐色(5YR7/8)	精良	良好	
6150	竪穴住居-215	土師器	器台	8.6		(4.8)	褐色(2.5YR7/6)	細砂	良好	透し孔
6151	竪穴住居-215	土師器	碗	13.5		(4.5)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6152	竪穴住居-215	土師器	碗	14.2		4.9	褐色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
6153	竪穴住居-215	土師器	鉢	34.2		(18.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	赤色顔料、黒斑A・B・C
6154	竪穴住居-216	土師器	壺	11.0		15.1	鈍い褐色(7.5YR7/4)	精良	良好	黒斑B・C
6155	竪穴住居-216	土師器	甕	(13.4)		(2.6)	鈍い褐色(7.5YR5/4)	細砂	良好	ススA
6156	竪穴住居-216	土師器	甕	12.8		(8.8)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6157	竪穴住居-216	土師器	甕	13.7	4.0		鈍い黄褐色	細砂	良好	黒斑B・C
6158	竪穴住居-216	土師器	甕	12.1		15.1	褐色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	ススA
6159	竪穴住居-216	土師器	壺		10.8	(19.4)	褐色(5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	黒斑B・C
6160	竪穴住居-216	土師器	高杯			(6.5)	淡褐色(5YR8/4)	細砂	良好	透し孔1/O
6161	竪穴住居-217	土師器	壺	(15.4)		(3.4)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	
6162	竪穴住居-217	土師器	壺	(20.2)		(4.6)	浅黄褐色(10YR8/)	細砂、粗砂	良好	
6163	竪穴住居-217	土師器	壺	16.0		(5.7)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	良好	
6164	竪穴住居-217	土師器	直口壺	11.0		(9.7)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	良好	
6165	竪穴住居-217	土師器	壺	(16.6)		(5.3)	赤褐色(5YR4/6)	細砂	良好	赤色顔料
6166	竪穴住居-217	土師器	壺			(5.3)	褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	
6167	竪穴住居-217	土師器	甕	13.1		(5.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6168	竪穴住居-217	土師器	甕	13.7		(4.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススA
6169	竪穴住居-217	土師器	甕	13.8		(3.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススA
6170	竪穴住居-217	土師器	甕	13.8		(5.8)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6171	竪穴住居-217	土師器	甕	15.4		(3.4)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6172	竪穴住居-217	土師器	甕	15.6		(4.3)	褐色(7.5YR6/1)	細砂	良好	櫛描沈線9条、ススA
6173	竪穴住居-217	土師器	甕	12.8		(5.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6174	竪穴住居-217	土師器	甕	(13.4)		(3.9)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
6175	竪穴住居-217	土師器	甕	10.6		(4.6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	良好	
6176	竪穴住居-217	土師器	甕	(12.6)		(3.7)	浅黄褐色(10YR8/)	粗砂	良好	
6177	竪穴住居-217	土師器	甕	(13.0)		(5.4)	褐色(5YR7/)	細砂	良好	タタキ
6178	竪穴住居-217	土師器	甕	20.0		(9.6)	鈍い褐色(5YR7/)	粗砂	良好	
6179	竪穴住居-217	土師器	甕	15.8		(2.9)	灰褐色(7.5YR4/2)	粗砂、礫	良好	
6180	竪穴住居-217	土師器	甕	(15.7)		(2.1)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
6181	竪穴住居-217	土師器	甕			(12.6)	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂	良好	ススB
6182	竪穴住居-217	土師器	高杯	20.0		(5.5)	灰白色(10YR8/)	粗砂	良好	
6183	竪穴住居-217	土師器	高杯	19.0		(6.7)	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
6184	竪穴住居-217	土師器	高杯	20.2		(6.5)	褐色(7.5YR7/)	細砂	良好	
6185	竪穴住居-217	土師器	高杯			(10.8)	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
6186	竪穴住居-217	土師器	高杯			(8.1)	褐色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔2/4
6187	竪穴住居-217	土師器	高杯			(8.4)	鈍い赤褐色(5YR5/3)	精良	良好	透し孔1/O
6188	竪穴住居-217	土師器	高杯		14.6	(7.7)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔2/4
6189	竪穴住居-217	土師器	高杯			(7.9)	褐色(2.5YR7/8)	精良	良好	透し孔1/O
6190	竪穴住居-217	土師器	高杯		14.3	(9.0)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	
6191	竪穴住居-217	土師器	高杯		16.0	(9.9)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	精良	良好	透し孔2/5
6192	竪穴住居-217	土師器	高杯		13.4	(7.6)	褐色(5YR7/6)	精良(水漉粘土)	良好	透し孔2/3
6193	竪穴住居-217	土師器	高杯	23.2		(17.8)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	精良	良好	ススA
6194	竪穴住居-217	土師器	高杯			(3.8)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	6195と同一個体?
6195	竪穴住居-217	土師器	高杯		17.8	(3.5)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔1/O、6194と同一個体?
6196	竪穴住居-217	土師器	高杯		15.4	(7.5)	淡褐色(5YR8/4)	細砂	良好	透し孔2/O
6197	竪穴住居-217	土師器	器台	7.0	7.4	5.8	灰白色(2.5Y8/)	細砂	良好	透し孔1/3
6198	竪穴住居-217	土師器	器台	8.8		(3.2)	鈍い褐色(7.5YR7/)	精良	良好	
6199	竪穴住居-217	土師器	器台	10.2		(2.0)	褐色(5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	
6200	竪穴住居-217	土師器	器台		11.0	(6.8)	褐色(5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	透し孔3
6201	竪穴住居-217	土師器	器台	11.1	9.5	8.8	淡褐色(5YR8/3)	細砂、粗砂	良好	
6202	竪穴住居-217	土師器	碗	9.6		(5.6)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	良好	
6203	竪穴住居-217	土師器	碗	(11.6)		7.0	鈍い褐色(10YR7/)	細砂	良好	黒斑A・B
6204	竪穴住居-217	土師器	碗	16.0		6.3	鈍い黄褐色(10YR7/)	細砂	良好	黒斑B・C
6205	竪穴住居-217	土師器	鉢		4.8	(4.1)	灰褐色(5YR6/2)	粗砂	良好	
6206	竪穴住居-217	土師器	鉢	13.4		(3.2)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
6207	竪穴住居-217	土師器	碗	16.0		(3.5)	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6208	竪穴住居-217	土師器	鉢	(25.0)		(7.3)	鈍い橙色(5YR6/1)	粗砂、礫	良好	黒斑A
6209	竪穴住居-217	土師器	鉢	(34.0)		(8.3)	浅黄橙色(7.5YR8/)	粗砂	良好	
6210	竪穴住居-217	土師器	製塩土器		4.7	(2.3)	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	良好	
6211	竪穴住居-217	土師器	製塩土器			(2.9)	鈍い橙色(7.5YR7/)	粗砂、礫	良好	タタキ
6212	竪穴住居-217	土師器	製塩土器		5.2	(2.3)	赤褐色(10R6/6)	粗砂	良好	
6213	竪穴住居-217	土師器	製塩土器		4.8	(1.8)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
6214	竪穴住居-217	土師器	製塩土器		4.0	(3.3)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	良好	
6215	竪穴住居-217	土師器	製塩土器		4.4	(2.4)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	粗砂	良好	
6216	竪穴住居-217	土師器	製塩土器		5.0	(2.5)	鈍い赤褐色(10R6/4)	細砂、粗砂	良好	
6217	竪穴住居-217	土師器	製塩土器		4.6	(2.2)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
6218	竪穴住居-217	土師器	製塩土器		5.0	(2.8)	淡褐色(5YR8/)	粗砂、礫	良好	
6219	竪穴住居-217	土師器	手焙形土器			(17.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
6220	竪穴住居-218	土師器	直口壺	9.6		(13.7)	淡褐色	精良(水漉粘土)	良好	
6221	竪穴住居-218	土師器	壺	13.0	3.6	(11.3)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	タタキ
6222	竪穴住居-218	土師器	壺	18.2		(7.1)	灰白色(2.5Y8/)	細砂	良好	
6223	竪穴住居-218	土師器	壺	15.8		(10.5)	鈍い橙色(5YR6/)	粗砂、礫	良好	黒斑A
6224	竪穴住居-218	土師器	壺	18.1		(22.1)	鈍い橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
6225	竪穴住居-218	土師器	壺	19.8		(7.7)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂、細砂	良好	
6226	竪穴住居-218	土師器	壺	19.8		(8.8)	明褐色(5YR7/1)	礫、粗砂	良好	6244と同一個体?
6227	竪穴住居-218	土師器	壺	19.0		(9.0)	浅黄褐色(10YR8/3)	礫、粗砂	良好	
6228	竪穴住居-218	土師器	壺	(18.0)		(6.7)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
6229	竪穴住居-218	土師器	壺	16.6		(5.6)	淡黄色(2.5Y8/)	細砂	良好	
6230	竪穴住居-218	土師器	壺			(6.5)	鈍い橙色(7.5YR6/)	細砂	良好	
6231	竪穴住居-218	土師器	壺	13.6		20.7	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
6232	竪穴住居-218	土師器	壺	16.0		(28.9)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	礫、粗砂	良好	
6233	竪穴住居-218	土師器	壺	17.2		(10.8)	浅黄褐色(10YR8/)	粗砂、細砂	良好	
6234	竪穴住居-218	土師器	壺	17.8		(18.5)	灰白色(7.5YR8/2)	粗砂、細砂	良好	
6235	竪穴住居-218	土師器	壺	17.9		(16.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂、細砂	良好	
6236	竪穴住居-218	土師器	壺	17.3		31.7	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	赤色顔料、黒斑C
6237	竪穴住居-218	土師器	壺	20.2		(13.2)	淡褐色(5YR8/)	砂礫、粗砂、細砂	良好	
6238	竪穴住居-218	土師器	壺	19.0		(22.4)	浅黄褐色(10YR8/)	細砂	良好	ススA
6239	竪穴住居-218	土師器	壺	19.6		(26.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂、細砂	良好	
6240	竪穴住居-218	土師器	壺	21.6	4.9	39.9	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	黒斑B・C
6241	竪穴住居-218	土師器	壺			(3.9)	橙色(7.5YR7/)	粗砂	良好	
6242	竪穴住居-218	土師器	壺	17.4		(20.3)	浅黄褐色(7.5YR8/)	粗砂	良好	粘土紐接合痕
6243	竪穴住居-218	土師器	壺		5.8	(23.0)	浅黄褐色(7.5YR8/)	精良	良好	
6244	竪穴住居-218	土師器	壺		6.5	(30.0)	明褐色(5YR7/1)	礫、粗砂	良好	6226と同一個体?、黒斑B
6245	竪穴住居-218	土師器	壺		5.5	(5.5)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	黒斑C
6246	竪穴住居-218	土師器	甕			(3.1)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	
6247	竪穴住居-218	土師器	甕			(4.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6248	竪穴住居-218	土師器	甕			(4.6)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
6249	竪穴住居-218	土師器	甕			(4.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6250	竪穴住居-218	土師器	鉢			(7.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6251	竪穴住居-218	土師器	鉢			(10.8)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6252	竪穴住居-218	土師器	甕	(11.4)		(3.6)	鈍い黄褐色(10YR7/)	細砂	良好	ススA
6253	竪穴住居-218	土師器	甕	14.2		(3.7)	灰白色(7.5YR8/)	細砂	良好	
6254	竪穴住居-218	土師器	壺	18.1	6.6	35.0	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	良好	赤色顔料、黒斑C
6255	竪穴住居-218	土師器	甕	14.1		(5.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6256	竪穴住居-218	土師器	甕	16.2		(4.8)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛形沈線7~8条
6257	竪穴住居-218	土師器	甕	15.9		(4.2)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	櫛形沈線7条、黒斑A
6258	竪穴住居-218	土師器	甕	14.4		25.2	浅黄褐色(10YR8/)	細砂	良好	櫛形沈線7条、刺突記号B2、ススA
6259	竪穴住居-218	土師器	甕	15.0		24.2	淡黄色(2.5Y8/)	細砂、粗砂	良好	櫛形沈線7~9条
6260	竪穴住居-218	土師器	甕	14.6		20.6	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛形沈線8条、刺突記号B2、ススB'
6261	竪穴住居-218	土師器	甕	14.7		(14.7)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛形沈線8条
6262	竪穴住居-218	土師器	甕	13.8		22.7	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	ススB、黒斑C
6263	竪穴住居-218	土師器	甕	14.2		(22.1)	淡褐色(5YR8/3)	細砂、粗砂	良好	櫛形沈線8条
6264	竪穴住居-218	土師器	甕	14.6		(14.3)	灰黄褐色(10YR6/)	粗砂	良好	櫛形沈線7条、刺突記号A3、ススA
6265	竪穴住居-218	土師器	甕	14.2		(13.8)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	櫛形沈線8条
6266	竪穴住居-218	土師器	甕	14.0		(7.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛形沈線9~10条
6267	竪穴住居-218	土師器	甕	(13.0)		(4.8)	黄灰色(2.5Y6/)	細砂、粗砂	良好	櫛形沈線6条、二次焼成?、黒斑A
6268	竪穴住居-218	土師器	甕	12.6		21.1	灰白色(7.5YR8/)	細砂、粗砂	良好	櫛形沈線7条
6269	竪穴住居-218	土師器	甕	13.6		(4.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛形沈線7条
6270	竪穴住居-218	土師器	甕	14.2		(7.2)	浅黄褐色(10YR8/)	細砂、粗砂	良好	櫛形沈線8~9条
6271	竪穴住居-218	土師器	甕	14.0		(9.4)	鈍い橙色(7.5YR6/)	細砂、粗砂	良好	櫛形沈線9条、刺突記号C3
6272	竪穴住居-218	土師器	甕	13.1	4.0	20.1	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	櫛形沈線7条、ススA、黒斑B
6273	竪穴住居-218	土師器	甕	16.2		(12.0)	鈍い橙色(10YR7/)	細砂	良好	櫛形沈線10条、ススB
6274	竪穴住居-218	土師器	甕	15.4		(7.9)	浅黄褐色(10YR8/)	細砂、粗砂	良好	櫛形沈線9条
6275	竪穴住居-218	土師器	甕	15.0		(7.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛形沈線9条
6276	竪穴住居-218	土師器	甕	14.8		(8.7)	灰白色(5YR8/2)	細砂	良好	櫛形沈線9条
6277	竪穴住居-218	土師器	甕	15.0		(4.1)	灰白色(7.5YR8/2)	粗砂	良好	櫛形沈線8条
6278	竪穴住居-218	土師器	甕	15.0		(14.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	良好	櫛形沈線10条前後
6279	竪穴住居-218	土師器	甕	14.4		(17.1)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	櫛形沈線7条、ススB
6280	竪穴住居-218	土師器	甕	11.0		(7.6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛形沈線8条
6281	竪穴住居-218	土師器	甕	11.7		(11.2)	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂	良好	刺突記号D4、黒斑A・C
6282	竪穴住居-218	土師器	甕	11.2		(12.1)	橙色(7.5YR7/)	粗砂、礫	良好	櫛形沈線8条、黒斑C

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6283	竪穴住居-218	土師器	甕	12.0		(8.9)	浅黄橙色(10YR8/)	細砂、粗砂	良好	襷描沈線6条、刺突記号B3
6284	竪穴住居-218	土師器	甕	11.8		(6.4)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	良好	襷描沈線7条
6285	竪穴住居-218	土師器	甕	(11.9)		(3.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	襷描沈線7条、ススA
6286	竪穴住居-218	土師器	甕	12.6		(8.4)	鈍い黄橙色(10YR7/)	細砂	良好	襷描沈線6条
6287	竪穴住居-218	土師器	甕	12.3		(11.2)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	襷描沈線5~6条、刺突記号B3、ススB'
6288	竪穴住居-218	土師器	甕	14.7		21.8	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	襷描沈線8条、ススB、黒斑B
6289	竪穴住居-218	土師器	甕	15.0		23.5	浅黄橙色(7.5YR8/)	細砂、粗砂	良好	襷描沈線9条、刺突記号B3、ススB、黒斑C
6290	竪穴住居-218	土師器	甕	14.8		(24.6)	淡橙色(5YR8/)	細砂	良好	襷描沈線11条
6291	竪穴住居-218	土師器	甕	14.2		(5.9)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	襷描沈線6~7条、赤色顔料
6292	竪穴住居-218	土師器	甕	(14.8)		(3.0)	灰白色(7.5YR8/)	粗砂、礫	良好	襷描沈線6条
6293	竪穴住居-218	土師器	甕	14.4		(13.6)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	襷描沈線9条
6294	竪穴住居-218	土師器	甕	14.0		(12.1)	浅黄橙色(7.5YR8/)	粗砂、礫	良好	襷描沈線7条、ススB、黒斑B
6295	竪穴住居-218	土師器	甕	14.0		(10.2)	鈍い黄橙色(10YR7/)	粗砂	良好	襷描沈線6~7条
6296	竪穴住居-218	土師器	甕	13.5		(18.1)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	襷描沈線8条、刺突記号B2、黒斑A・B・C
6297	竪穴住居-218	土師器	甕	13.6		(4.9)	灰黄色(2.5Y7/)	細砂、粗砂	良好	襷描沈線7条
6298	竪穴住居-218	土師器	甕			(15.7)	鈍い橙色(5YR6/4)	粗砂、礫	良好	刺突記号C3
6299	竪穴住居-218	土師器	甕	13.0		(14.8)	浅黄橙色(10YR8/)	粗砂	良好	襷描沈線6条、ススB
6300	竪穴住居-218	土師器	甕	13.4		(12.0)	鈍い橙色(5YR6/3)	細砂	良好	襷描沈線6~7条、刺突記号B2、ススA
6301	竪穴住居-218	土師器	甕			(6.7)	灰白色(2.5Y8/)	細砂	良好	襷描沈線9条
6302	竪穴住居-218	土師器	甕			(2.1)	浅黄橙色(7.5YR8/)	粗砂	良好	襷描沈線7~8条
6303	竪穴住居-218	土師器	甕	(13.4)		(7.3)	橙色(7.5YR7/)	細砂	良好	刺突記号B2
6304	竪穴住居-218	土師器	甕	15.3		(8.7)	浅黄橙色(10YR8/)	粗砂	良好	
6305	竪穴住居-218	土師器	甕	14.4		(15.8)	淡黄色(2.5Y8/)	粗砂	良好	
6306	竪穴住居-218	土師器	甕	13.8		(7.5)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	ススA
6307	竪穴住居-218	土師器	甕	14.4		(4.4)	淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
6308	竪穴住居-218	土師器	甕	(19.1)		(2.5)	褐色(7.5YR6/1)	細砂	良好	
6309	竪穴住居-218	土師器	甕	(17.4)		(3.4)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6310	竪穴住居-218	土師器	甕	(21.8)		(2.5)	褐色(5YR6/)	細砂	良好	
6311	竪穴住居-218	土師器	甕	(18.4)		(30.0)	鈍い褐色(5YR8/2)	細砂	良好	
6312	竪穴住居-218	土師器	甕	11.9		(10.3)	鈍い黄橙色(10YR7/)	粗砂	良好	ススB
6313	竪穴住居-218	土師器	甕	14.8		(5.2)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	ススA
6314	竪穴住居-218	土師器	甕	10.2		(13.0)	淡橙色(5YR8/)	粗砂、礫	良好	
6315	竪穴住居-218	土師器	甕	14.0		(4.6)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6316	竪穴住居-218	土師器	高杯	17.0		12.0	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	透し孔2
6317	竪穴住居-218	土師器	高杯	19.2		(6.8)	褐色(7.5YR7/6)	精良	良好	黒斑A
6318	竪穴住居-218	土師器	高杯	18.9		(9.9)	褐色(5YR7/)	精良	良好	黒斑A、歪み有り
6319	竪穴住居-218	土師器	高杯	19.2		15.0	褐色(5YR7/)	精良	良好	透し孔1/〇、黒斑A
6320	竪穴住居-218	土師器	高杯	19.5		(7.0)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
6321	竪穴住居-218	土師器	高杯	20.6		(6.5)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	黒斑A・B
6322	竪穴住居-218	土師器	高杯	21.8	15.7	15.0	鈍い褐色(7.5YR7/)	礫、粗砂	良好	透し孔3、歪み有り
6323	竪穴住居-218	土師器	高杯	22.8		(4.6)	褐色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	
6324	竪穴住居-218	土師器	高杯	18.8		(7.0)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	黒斑A
6325	竪穴住居-218	土師器	高杯		12.5	(8.8)	褐色(5YR7/6)	精良(水漉粘土)	良好	透し孔3
6326	竪穴住居-218	土師器	高杯		14.0	(8.1)	褐色(5YR7/6)	精良(水漉粘土)	良好	透し孔3/〇
6327	竪穴住居-218	土師器	高杯		13.8	(7.6)	淡赤褐色(2.5YR7/)	細砂	良好	黒斑C
6328	竪穴住居-218	土師器	高杯		13.4	(9.3)	褐色(5YR7/6)	精良(水漉粘土)	良好	透し孔1/〇、黒斑C
6329	竪穴住居-218	土師器	高杯	13.8		(7.1)	褐色(2.5YR7/6)	細砂	良好	透し孔2/4
6330	竪穴住居-218	土師器	高杯		14.1	(8.9)	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	透し孔2/3
6331	竪穴住居-218	土師器	高杯	13.8		(9.4)	褐色(5YR6/)	精良	良好	透し孔3
6332	竪穴住居-218	土師器	高杯			(7.1)	鈍い褐色(5YR7/)	細砂	良好	
6333	竪穴住居-218	土師器	高杯			(7.7)	褐色(7.5YR7/)	細砂(精良)	良好	
6334	竪穴住居-218	土師器	高杯			(8.2)	鈍い褐色(5YR7/)	細砂	良好	
6335	竪穴住居-218	土師器	高杯		15.3	7.6	褐色(7.5YR7/6)	精良(水漉粘土)	良好	透し孔1/〇
6336	竪穴住居-218	土師器	高杯	13.0		(5.3)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
6337	竪穴住居-218	土師器	高杯	13.0		(6.7)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	歪み有り
6338	竪穴住居-218	土師器	高杯	12.4		(9.0)	淡赤褐色(2.5YR7/)	細砂	良好	
6339	竪穴住居-218	土師器	高杯			(4.1)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
6340	竪穴住居-218	土師器	高杯			(4.4)	褐色(5YR6/)	細砂	良好	
6341	竪穴住居-218	土師器	高杯			(4.1)	褐色(5YR7/)	細砂	良好	
6342	竪穴住居-218	土師器	高杯		10.0	(3.4)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂、細砂	良好	透し孔4
6343	竪穴住居-218	土師器	高杯		(17.2)	(6.0)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
6344	竪穴住居-218	土師器	高杯		18.0	(7.9)	明黄褐色(10YR7/)	精良	良好	透し孔3
6345	竪穴住居-218	土師器	鉢	15.9		(8.7)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	刻目、ススA
6346	竪穴住居-218	土師器	鉢	(27.6)		(6.3)	灰白色(10YR8/)	粗砂	良好	
6347	竪穴住居-218	土師器	鉢	33.6		(10.2)	浅黄褐色(7.5YR8/)	礫、粗砂	良好	
6348	竪穴住居-218	土師器	鉢	(30.8)		(6.4)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	黒斑A
6349	竪穴住居-218	土師器	鉢	(36.8)		(10.5)	鈍い黄褐色(10YR7/)	礫、粗砂	良好	
6350	竪穴住居-218	土師器	鉢	35.4		(20.0)	浅黄褐色(7.5YR8/)	礫、粗砂	良好	
6351	竪穴住居-218	土師器	鉢	37.0		(6.6)	褐色(2.5YR7/)	細砂	良好	
6352	竪穴住居-218	土師器	鉢	36.6		(11.4)	鈍い黄褐色(10YR7/)	礫、粗砂	良好	
6353	竪穴住居-218	土師器	鉢	(39.0)		(12.9)	浅黄褐色(7.5YR8/)	細砂	良好	
6354	竪穴住居-218	土師器	甕	11.1		10.8	鈍い褐色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	黒斑C
6355	竪穴住居-218	土師器	甕	11.6		(3.7)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6356	竪穴住居-218	土師器	甕	12.0		(7.2)	鈍い褐色(5YR7/)	粗砂	良好	
6357	竪穴住居-218	土師器	甕	10.6		(5.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	ススA

土器観察表

押固 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6358	竪穴住居-218	土師器	甕	10.5		(4.8)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	ススA
6359	竪穴住居-218	土師器	甕	11.6		(6.4)	褐色(7.5YR6/8)	精良	良好	
6360	竪穴住居-218	土師器	甕	(10.6)		(2.6)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
6361	竪穴住居-218	土師器	甕	(11.3)		(4.9)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6362	竪穴住居-218	土師器	甕	(13.0)		(4.6)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6363	竪穴住居-218	土師器	器台	(8.1)		(1.9)	褐色(7.5YR7/)	精良	良好	
6364	竪穴住居-218	土師器	器台	9.0		(2.5)	褐色(7.5YR6/)	精良	良好	
6365	竪穴住居-218	土師器	器台	9.3	12.7	(9.1)	淡褐色(5YR8/)	細砂	良好	透し孔4/〇、外面赤色顔料
6366	竪穴住居-218	土師器	器台			(6.0)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔2/3
6367	竪穴住居-218	土師器	器台	8.8		(4.1)	褐色(5YR6/)	細砂	良好	
6368	竪穴住居-218	土師器	鼓形器台			(3.9)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
6369	竪穴住居-218	土師器	鉢			(4.7)	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	良好	内外面全体に赤色顔料
6370	竪穴住居-218	土師器	碗	13.2		(4.6)	浅黄褐色(10YR8/)	礫、粗砂	良好	
6371	竪穴住居-218	土師器	台付碗	14.5	7.0	9.8	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑A・B・C
6372	竪穴住居-218	縄文土器	碗	17.0		(7.3)	褐色(10YR4/)	細砂	良好	
6373	竪穴住居-218	土師器	碗	13.0		(3.5)	灰白色(10YR8/)	細砂	良好	
6374	竪穴住居-218	土師器	碗	14.8		4.7	褐色(5YR7/)	精良	良好	
6375	竪穴住居-218	土師器	碗	14.4		5.3	鈍い褐色(7.5YR7/)	礫、粗砂	良好	黒斑C
6376	竪穴住居-218	土師器	碗	15.2		6.1	褐色(5YR6/)	粗砂	良好	黒斑B・C、歪み有り
6377	竪穴住居-218	土師器	碗	16.4		(5.2)	鈍い褐色(2.5YR6/)	細砂	良好	
6378	竪穴住居-218	土師器	碗	15.8		6.5	灰白色(10YR8/)	細砂	良好	黒斑A
6379	竪穴住居-218	土師器	碗	22.6		6.1	鈍い褐色(5YR7/)	細砂	良好	黒斑C
6380	竪穴住居-218	土師器	碗	10.4		5.8	褐色(5YR6/)	礫、粗砂	良好	
6381	竪穴住居-218	土師器	鉢	11.2		5.8	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
6382	竪穴住居-218	土師器	鉢	12.4		10.3	浅黄褐色(10YR8/)	粗砂	良好	ススC
6383	竪穴住居-218	土師器	埴				浅黄褐色(7.5YR8/)	細砂	良好	
6384	竪穴住居-218	土師器	埴			(3.2)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	精良	良好	
6385	竪穴住居-218	土師器	埴	6.4		5.4	褐色(2.5YR7/6)	精良	良好	
6386	竪穴住居-218	土師器	埴	9.0		(5.6)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6387	竪穴住居-218	土師器	埴	9.2		(3.4)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	黒斑A・B
6388	竪穴住居-218	土師器	埴	10.4		15.9	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
6389	竪穴住居-218	土師器	埴形土器	11.1		6.6	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	ススB'
6390	竪穴住居-218	土師器	埴	11.9		(6.9)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
6391	竪穴住居-218	土師器	埴	8.8		10.6	褐色(5YR7/6)	粗砂、礫	良好	黒斑B・C
6392	竪穴住居-218	土師器	蓋		12.1	(5.0)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
6393	竪穴住居-218	土師器	手捏土器			(2.0)	灰色(N4/)	粗砂	良好	
6394	竪穴住居-218	土師器	手捏土器	4.8		2.6	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	黒斑A・B・B・C
6395	竪穴住居-218	土師器	碗	9.8		4.5	灰色(5Y6/)	細砂	良好	
6396	竪穴住居-218	土師器	手捏土器			(5.0)	明褐色(5YR7/2)	細砂	良好	黒斑B
6397	竪穴住居-218	土師器	製塩土器		(4.6)	(2.0)	鈍い黄褐色(10YR7/)	細砂	良好	
6398	竪穴住居-218	土師器	製塩土器		5.0	(1.9)	鈍い褐色(2.5YR6/)	礫、細砂	良好	
6399	竪穴住居-218	土師器	製塩土器		5.0	(2.4)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	粗砂	良好	
6400	竪穴住居-218	土師器	製塩土器		4.7	(4.5)	鈍い赤褐色(10R6/3)	粗砂、細砂	良好	タタキ、風化
6401	竪穴住居-218	土師器	製塩土器		5.0	(4.0)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	粗砂	良好	
6402	竪穴住居-219	土師器	壺	17.5		(8.3)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	
6403	竪穴住居-219	土師器	壺	20.8		(8.4)	淡褐色(5YR8/3)	粗砂	良好	
6404	竪穴住居-219	土師器	壺	(20.4)		(7.0)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	
6405	竪穴住居-219	土師器	壺	16.4		(6.4)	赤色(10R5/6)	粗砂	良好	被熱
6406	竪穴住居-219	土師器	甕	17.6		(9.6)	灰白色(7.5YR8/2)	粗砂	良好	スス
6407	竪穴住居-219	土師器	甕	13.2		(6.2)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	粗砂	良好	
6408	竪穴住居-219	土師器	甕	12.3		(16.7)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	ススA
6409	竪穴住居-219	土師器	甕	13.7		(20.8)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	ススB'
6410	竪穴住居-219	土師器	甕	15.0		(8.1)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	ススB'
6411	竪穴住居-219	土師器	甕	15.0		(9.5)	褐色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	ススB
6412	竪穴住居-219	土師器	甕	15.2		(24.4)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	ススB
6413	竪穴住居-219	土師器	甕	15.2		(13.7)	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	良好	ススB
6414	竪穴住居-219	土師器	甕	(12.2)		(8.1)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	ススC'
6415	竪穴住居-219	土師器	鉢	11.5	3.3	5.6	褐色(5YR7/8)	精良	良好	
6416	竪穴住居-219	土師器	鉢	14.7	4.5	5.2	浅黄褐色(7.5YR8/3)	精良	良好	口縁部歪み
6417	竪穴住居-219	土師器	台付鉢		6.4	(7.0)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	被熱か
6418	竪穴住居-219	土師器	鉢	14.2		5.3	褐色(2.5YR7/6)	精良	良好	
6419	竪穴住居-219	土師器	埴	8.0		(3.4)	褐色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	
6420	竪穴住居-219	土師器	鉢	(10.2)		(3.7)	褐色(2.5YR7/6)	精良	良好	
6421	竪穴住居-219	土師器	埴			(7.6)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6422	竪穴住居-219	土師器	埴			(9.6)	灰白色(10YR8/2)	礫	良好	
6423	竪穴住居-219	土師器	高杯	(18.6)		(6.2)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
6424	竪穴住居-219	土師器	高杯	(20.0)	14.0	13.9	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
6425	竪穴住居-219	土師器	高杯		13.3	(7.9)	褐色(2.5YR7/6)	精良	良好	
6426	竪穴住居-219	土師器	高杯		(13.3)	(7.8)	褐色(5YR7/8)	精良	良好	
6427	竪穴住居-219	土師器	高杯	13.4	13.5	(9.5)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	黒斑
6428	竪穴住居-219	土師器	高杯		(12.4)	(8.2)	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
6429	竪穴住居-219	土師器	高杯		(9.2)	(3.9)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
6430	竪穴住居-219	土師器	鉢	(35.0)		12.0	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	
6431	竪穴住居-219	土師器	鉢	36.4		(26.8)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	土器棺
6432	竪穴住居-220	土師器	壺	8.0		(3.2)	褐色(5YR7/8)	精良	良好	黒斑

遺物観察表

土器観察表

採回 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)		色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径				
6433	竪穴住居-220	土師器	壺	14.6		(4.0) 橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
6434	竪穴住居-220	土師器	壺	18.2		(8.2) 黄褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6435	竪穴住居-220	土師器	甕	(11.4)		(16.1) 鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6436	竪穴住居-220	土師器	甕	(14.8)		(3.5) 浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6437	竪穴住居-220	土師器	高杯			(6.0) 橙色(5YR6/6)	細砂、精良	良好	
6438	竪穴住居-220	土師器	高杯	11.9	18.4	10.4 橙色(5YR7/8)	細砂、精良	良好	
6439	竪穴住居-220	土師器	高杯	13.2		(9.2) 鈍い橙色(5YR6/3)	細砂	良好	
6440	竪穴住居-221	土師器	甕			(2.8) 灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
6441	竪穴住居-221	土師器	甕			(2.5) 橙色(2.5YR7/8)	細砂	良好	
6442	竪穴住居-222・223	土師器	壺	17.8		(30.1) 鈍い黄褐色(10YR7/3)	礫	良好	黒斑C
6443	竪穴住居-222・223	土師器	甕	14.9		(3.9) 鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
6444	竪穴住居-222・223	土師器	甕			灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
6445	竪穴住居-222・223	土師器	甕		4.6	(12.9) 鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	スス
6446	竪穴住居-222・223	土師器	高杯	13.0		(5.7) 黄褐色(7.5YR7/8)	精良(水澆)	良好	
6447	竪穴住居-222・223	土師器	高杯			(3.0) 橙色(5YR7/8)	細砂、精良	良好	
6448	竪穴住居-222・223	土師器	鉢	12.8		9.3 橙色(5YR7/6)	礫	良好	完形
6449	竪穴住居-222・223	土師器	椀	15.2		(3.9) 鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	黒斑A B
6450	竪穴住居-222・223	土師器	手捏土器		2.8	3.6 橙色(5YR6/8)	細砂	良好	スス
6451	竪穴住居-222・223	土師器	製塩土器		5.0	2.3 鈍い褐色(5YR7/4)	礫	良好	
6452	竪穴住居-224	土師器	甕	(17.7)		(7.1) 鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	
6453	竪穴住居-224	土師器	甕	(17.6)		(1.7) 褐灰色(5YR4/1)	細砂	良好	スス、胎土色調が異なる
6454	竪穴住居-224	土師器	高杯			橙色(5YR7/8)	細砂、精良	良好	
6455	竪穴住居-225	土師器	甕	13.1		(2.6) 灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
6456	竪穴住居-225	土師器	埴	9.6		(7.3) 鈍い黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6457	竪穴住居-226	土師器	甕	(13.4)		(2.6) 鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6458	竪穴住居-226	土師器	甕	14.2		(3.5) 鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6459	竪穴住居-226	土師器	高杯	19.0		(11.7) 橙色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
6460	竪穴住居-226	土師器	高杯			(5.3) 褐色(7.5YR7/6)	細砂、精良	良好	
6461	竪穴住居-226	土師器	埴	10.4		(6.4) 鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6462	竪穴住居-226	土師器	鉢			褐色(7.5YR7/6)	細砂、精良	良好	スス
6463	竪穴住居-226	土師器	手捏土器	5.7	3.4	4.1 鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6464	竪穴住居-226	土師器	椀	14.3		5.0 褐色(5YR6/6)	細砂	良好	完形、鈍重
6465	竪穴住居-226	土師器	椀	17.8		5.0 褐色(5YR6/6)	細砂	良好	ススA、被熱
6466	竪穴住居-226	土師器	鉢	(32.0)		(11.1) 褐色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	被熱
6467	竪穴住居-226	土師器	鉢	(31.4)		(12.9) 浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6468	竪穴住居-226	土師器	鉢	(36.8)		(21.8) 鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	黒斑
6469	竪穴住居-226	土師器	鉢	35.4		(15.4) 鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6470	竪穴住居-226	土師器	甕	(12.6)		(3.1) 鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
6471	竪穴住居-226	土師器	甕	12.8		(15.9) 淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	
6472	竪穴住居-227・228	土師器	壺	7.2		13.4 褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	
6473	竪穴住居-227・228	土師器	甕	11.6		(14.6) 鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	黒斑B
6474	竪穴住居-227・228	土師器	甕	14.2		23.5 鈍い褐色(5YR7/3)	細砂	良好	ススB、被熱
6475	竪穴住居-227・228	土師器	甕	14.2		22.7 浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	ススC、被熱
6476	竪穴住居-227・228	土師器	高杯	18.9	13.1	13.7 褐色(5YR7/8)	精良	良好	
6477	竪穴住居-227・228	土師器	高杯		12.7	(7.1) 褐色(5YR6/8)	精良	良好	
6478	竪穴住居-227・228	土師器	椀	10.3		3.9 鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6479	竪穴住居-227・228	土師器	椀	17.6		5.6 浅黄褐色(7.5YR8/4)	粗砂	良好	黒斑BC
6480	竪穴住居-227・228	土師器	鉢	11.5		7.5 浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
6481	竪穴住居-227・228	土師器	鉢	13.1		8.5 灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	良好	
6482	竪穴住居-227・228	土師器	埴	9.7		(7.6) 浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	焼成後に穿孔
6483	竪穴住居-227・228	土師器	埴	12.9		8.0 褐色(5YR6/6)	精良	良好	完形
6484	竪穴住居-228	土師器	埴	7.6	3.1	6.0 褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	
6485	竪穴住居-228	土師器	甕			(2.8) 鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6486	竪穴住居-229	土師器	甕	(10.2)		(16.8) 鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	ススA
6487	竪穴住居-229	土師器	甕	(15.2)	3.7	27.4 浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	ススB、黒斑C
6488	竪穴住居-229	土師器	甕	14.2	4.8	22.6 褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	ススB、黒斑C、完形、胎土色調異なる
6489	竪穴住居-229	土師器	高杯	(13.3)	(9.8)	10.8 褐色(5YR7/8)	精良	良好	
6490	竪穴住居-229	土師器	製塩土器		(4.6)	(2.0) 明褐色(5YR7/1)	粗砂	良好	
6491	竪穴住居-229	土師器	皿	7.9		2.1 褐色(5YR7/6)	精良	良好	歪み有り
6492	竪穴住居-230	土師器	壺	(16.6)		(4.3) 褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6493	竪穴住居-230	土師器	甕	(14.8)		(8.0) 鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6494	竪穴住居-230	土師器	高杯			(7.0) 褐色(7.5YR7/6)	細砂、精良	良好	
6495	竪穴住居-230	土師器	高杯			(5.4) 褐色(5YR6/6)	細砂、精良	良好	
6496	竪穴住居-230	土師器	製塩土器		4.9	1.4 鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
6497	竪穴住居-231	土師器	甕	15.4		14.1 鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
6498	竪穴住居-231	土師器	高杯	18.7		(8.1) 褐色(5YR6/6)	精良	良好	黒斑A
6499	竪穴住居-231	土師器	椀	15.6		(5.3) 鈍い褐色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	
6500	竪穴住居-231	土師器	鉢	35.1		24.2 鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	黒斑BC、焼成後に穿孔
6501	竪穴住居-232	土師器	壺	21.0		(7.8) 褐色(5YR5/6)	細砂	良好	
6502	竪穴住居-232	土師器	壺		8.0	(9.5) 褐色(5YR5/6)	細砂	良好	
6503	竪穴住居-232	土師器	甕	14.3		(3.6) 褐色(7.5YR6/6)	礫	良好	
6504	竪穴住居-232	土師器	甕	14.2		(7.8) 褐色(7.5YR6/6)	礫	良好	
6505	竪穴住居-232	土師器	高杯		10.5	(5.7) 褐色(7.5YR6/8)	精良	良好	
6506	竪穴住居-232	土師器	高杯		12.9	(7.1) 淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
6507	竪穴住居-232	土師器	高杯		14.7	(8.1) 褐色(7.5YR6/8)	精良	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)		色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径				
6508	竪穴住居-232	土師器	高杯			(4.5) 淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
6509	竪穴住居-232	土師器	鉢	13.4	3.6	5.6 鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
6510	竪穴住居-232	土師器	鉢	10.0		(6.8) 鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
6511	竪穴住居-232	土師器	鉢	25.7		15.1 鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
6512	竪穴住居-232	土師器	製塩土器		5.1	(3.7) 淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
6513	竪穴住居-232	土師器	製塩土器		4.5	(3.2) 淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
6514	竪穴住居-232	土師器	製塩土器			(3.4) 淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
6515	竪穴住居-232	土師器	製塩土器		5.1	(2.6) 淡橙色(5YR8/3)	礫	良好	
6516	竪穴住居-232	土師器	製塩土器		5.2	(2.2) 淡橙色(5YR8/3)	粗砂	良好	
6517	竪穴住居-232	土師器	製塩土器		5.0	(1.9) 鈍い橙色(5YR7/4)	粗砂	良好	
6518	竪穴住居-233	土師器	壺	10.0		(3.4) 鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6519	竪穴住居-233	土師器	壺	17.2		(25.5) 浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	ススB、被熱
6520	竪穴住居-233	土師器	壺	18.6		9.5 灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	
6521	竪穴住居-233	土師器	壺	20.2		20.5 鈍い橙色(7.5YR7/3)	礫	良好	黒斑B
6522	竪穴住居-233	土師器	甕	12.0		16.6 浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	ススB、被熱
6523	竪穴住居-233	土師器	甕	12.3		9.9 橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	
6524	竪穴住居-233	土師器	甕	12.8		19.1 鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	ススB、黒斑A・B、被熱
6525	竪穴住居-233	土師器	甕	13.0		6.9 鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	ススA、被熱
6526	竪穴住居-233	土師器	甕	13.3		10.6 浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	ススA、被熱
6527	竪穴住居-233	土師器	甕	14.6		24.1 鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	ススB、被熱
6528	竪穴住居-233	土師器	甕	14.4		(11.1) 鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B
6529	竪穴住居-233	土師器	甕	15.2		(11.1) 鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	ススA、被熱
6530	竪穴住居-233	土師器	甕	15.3		(7.3) 鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6531	竪穴住居-233	土師器	甕	16.0		(7.9) 鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
6532	竪穴住居-233	土師器	甕	14.6		(12.5) 鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
6533	竪穴住居-233	土師器	高杯	20.1	12.6	13.3 黄橙色(7.5YR7/8)	精良	良好	黒斑
6534	竪穴住居-233	土師器	高杯		13.8	(8.8) 橙色(5YR7/8)	精良	良好	
6535	竪穴住居-233	土師器	高杯			(8.3) 淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
6536	竪穴住居-233	土師器	鉢	8.4		6.0 鈍い橙色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	黒斑B・C、完形
6537	竪穴住居-233	土師器	鉢	15.3		9.5 鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	黒斑C
6538	竪穴住居-233	土師器	椀	10.4		3.7 鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	完形
6539	竪穴住居-233	土師器	埴	10.4	2.7	9.8 灰白色(5YR8/2)	細砂	良好	ススB、被熱
6540	竪穴住居-233	土師器	埴			(6.3) 淡赤橙色(2.5YR7/4)	精良	良好	
6541	竪穴住居-233	土師器	埴	8.1		8.9 淡橙色(5YR8/4)	精良	良好	
6542	竪穴住居-233	土師器	埴	11.0		7.2 鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	ススA、被熱
6543	竪穴住居-233	土師器	埴	11.6		7.2 鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	ススA、被熱
6544	竪穴住居-233	土師器	埴	12.6		7.8 橙色(2.5YR6/6)	精良	良好	
6545	竪穴住居-233	土師器	製塩土器		4.5	(2.1) 淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
6546	竪穴住居-233	土師器	製塩土器		4.7	(2.4) 鈍い橙色(2.5YR6/4)	礫	良好	
6547	竪穴住居-234	土師器	壺	16.4		(6.8) 橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
6548	竪穴住居-234	土師器	甕	12.6		(7.4) 橙色(7.5YR6/6)	粗砂	良好	
6549	竪穴住居-234	土師器	甕	13.0		18.3 鈍い黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	ススB、口縁部歪み、被熱
6550	竪穴住居-234	土師器	甕	14.8		(7.6) 鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6551	竪穴住居-234	土師器	甕	15.9		(2.8) 鈍い橙色(5YR6/4)	粗砂	良好	
6552	竪穴住居-234	土師器	甕	11.7	1.6	14.1 鈍い橙色(2.5YR6/3)	細砂	良好	ススB、完形、被熱、胎土色調が異なる
6553	竪穴住居-234	土師器	壺	9.4		14.2 灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	黒斑A・B・C
6554	竪穴住居-234	土師器	高杯		13.8	(8.3) 鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
6555	竪穴住居-234	土師器	台付鉢	20.5	10.6	9.9 橙色(5YR6/8)	細砂	良好	黒斑B
6556	竪穴住居-234	土師器	埴	10.2		(5.9) 浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
6557	竪穴住居-234	土師器	手握土器	4.0	2.9	2.4 灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	完形
6558	竪穴住居-234	土師器	製塩土器		5.1	(2.4) 鈍い赤橙色(10R6/4)	細砂	良好	
6559	竪穴住居-235	土師器	直口壺	14.4	12.2	14.9 橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6560	竪穴住居-235	土師器	甕 (13.2)			(9.0) 赤橙色(10R6/6)	粗砂	良好	
6561	竪穴住居-235	土師器	椀 (15.4)			6.9 橙色(5YR6/8)	細砂	良好	黒斑
6562	竪穴住居-235	土師器	鉢		2.5	(4.8) 橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	黒斑C
6563	竪穴住居-235	土師器	製塩土器		4.8	(10.4) 鈍い黄橙色(10YR7/4)	礫	良好	
6564	竪穴住居-236	土師器	壺	17.0		(8.6) 浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	
6565	竪穴住居-236	土師器	壺	17.9		(6.7) 橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	口縁部歪み
6566	竪穴住居-236	土師器	壺 (20.8)			(5.5) 橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
6567	竪穴住居-236	土師器	甕 (11.1)			(8.6) 橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6568	竪穴住居-236	土師器	甕 (16.2)			(18.6) 鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	ススC、被熱
6569	竪穴住居-236	土師器	埴 (9.8)			(7.2) 鈍い黄橙色(10YR7/4)	精良	良好	
6570	竪穴住居-237	土師器	壺	17.3		(18.1) 灰白色(2.5YR8/1)	細砂	良好	
6571	竪穴住居-237	土師器	壺	17.1		(5.2) 鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
6572	竪穴住居-237	土師器	壺	18.4		(5.0) 浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	
6573	竪穴住居-237	土師器	甕	13.3		(4.8) 橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
6574	竪穴住居-237	土師器	高杯		(14.3)	(8.5) 橙色(7.5YR7/6)	細砂、精良	良好	
6575	竪穴住居-237	土師器	鉢	10.2		6.0 浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	黒斑B
6576	竪穴住居-240	土師器	甕	13.2		(3.2) 鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	ススA、被熱
6577	竪穴住居-240	土師器	壺	14.3		(6.6) 鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6578	竪穴住居-240	土師器	壺	10.3		10.9 鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	ススB'、黒斑C、外面丹塗り、被熱
6579	竪穴住居-240	土師器	埴	7.6		(7.0) 橙色(5YR6/6)	精良	良好	黒斑C
6580	竪穴住居-240	土師器	高杯	18.2	14.7	16.6 橙色(5YR7/6)	精良(赤色土粒)	良好	黒斑A 2か所
6581	竪穴住居-240	土師器	鉢	9.2	3.2	7.3 鈍い橙色(7.5YR7/3)	礫	良好	完形
6582	竪穴住居-240	土師器	椀	14.2		5.1 鈍い橙色(5YR7/4)	粗砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6583	竪穴住居-241	土師器	甕	(13.6)		(1.6)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
6584	竪穴住居-241	土師器	甕	12.3		(9.6)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	ススC
6585	竪穴住居-241	土師器	高杯	12.0		(4.1)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
6586	竪穴住居-241	土師器	高杯			(4.7)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6587	竪穴住居-241	土師器	高杯		16.7	(3.1)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	ススC
6588	竪穴住居-241	土師器	台付鉢	18.1		(7.3)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A、口径部歪み
6589	竪穴住居-241	土師器	台付鉢			(6.6)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	粗砂	良好	ススA
6590	竪穴住居-242	土師器	高杯	18.6		(6.6)	橙色(5YR6/8)	精良	良好	
6591	竪穴住居-243	土師器	甕	10.9		(8.8)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	粗砂	良好	
6592	竪穴住居-243	土師器	甕	13.6		(12.4)	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	ススB'
6593	竪穴住居-243	土師器	高杯	(19.0)		(5.9)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
6594	竪穴住居-243	土師器	高杯		12.8	(7.0)	橙色(5YR7/8)	細砂	良好	
6595	竪穴住居-243	土師器	高杯	12.9		(8.1)	橙色(7.5YR7/6)	細砂、精良	良好	
6596	竪穴住居-244	土師器	甕	(12.3)		(4.1)	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	良好	
6597	竪穴住居-244	土師器	甕	11.9		(14.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6598	竪穴住居-244	土師器	壺			(7.1)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
6599	竪穴住居-244	土師器	高杯	(10.7)		(4.1)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	黒斑B
6600	竪穴住居-245	土師器	直口壺	12.6		(12.8)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
6601	竪穴住居-245	土師器	壺			(9.0)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	粘土板接合(輪積み)
6602	竪穴住居-245	土師器	壺			(29.2)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	頸部に部分的線刻有り、貝殻文有り
6603	竪穴住居-245	土師器	甕	12.6		(11.7)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススB
6604	竪穴住居-245	土師器	甕	11.0		(3.1)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6605	竪穴住居-245	土師器	甕	(14.6)		(1.8)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6606	竪穴住居-245	土師器	高杯	(20.4)	15.0	(16.6)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	透し孔4、2つの破片合成
6607	竪穴住居-245	土師器	高杯	(20.6)		(11.4)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	ススA
6608	竪穴住居-245	土師器	高杯	20.0		(7.9)	橙色(5YR7/8)	細砂	良好	ススA
6609	竪穴住居-245	土師器	高杯	21.5		(10.7)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	口径部凹線4条
6610	竪穴住居-245	土師器	高杯	(11.4)	16.4	10.9	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	透し孔3
6611	竪穴住居-245	土師器	高杯		13.6	(7.5)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	精良	良好	透し孔4、黒斑C
6612	竪穴住居-245	土師器	高杯			(6.9)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
6613	竪穴住居-245	土師器	高杯		9.4	5.6	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	透し孔4、歪んでいる
6614	竪穴住居-245	土師器	鉢				鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6615	竪穴住居-245	土師器	鉢	(15.8)		(4.4)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
6616	竪穴住居-246	土師器	鉢	14.6		(3.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6617	竪穴住居-246	土師器	甕	12.6		(4.0)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線4条
6618	竪穴住居-246	土師器	高杯	12.7		(8.3)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
6619	竪穴住居-246	土師器	高杯			(4.5)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6620	竪穴住居-246	土師器	鼓形器台	17.6		(5.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	表面に丹塗り
6621	竪穴住居-247	土師器	壺	23.6		(35.9)	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂、礫	良好	波状文上部9条?、下部11条?
6622	竪穴住居-247	土師器	甕	13.8		(4.5)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線11条
6623	竪穴住居-247	土師器	甕	12.9		(5.1)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、黒斑C
6624	竪穴住居-247	土師器	甕	14.3		(4.2)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線11条
6625	竪穴住居-247	土師器	甕	14.4		(4.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6626	竪穴住居-247	土師器	甕	13.0		(7.1)	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条
6627	竪穴住居-247	土師器	甕	13.6		(9.1)	灰黄褐色(10YR6/2)	精良	良好	櫛描沈線12条
6628	竪穴住居-247	土師器	甕	15.1		(24.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススC
6629	竪穴住居-247	土師器	甕	16.7		(7.9)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	口径部赤化
6630	竪穴住居-247	土師器	甕	13.7		16.6	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	ススC
6631	竪穴住居-247	土師器	高杯		12.6	(10.1)	黄褐色(7.5YR8/6)	精良	不良	透し孔3、底部歪み有り
6632	竪穴住居-247	土師器	高杯			(4.4)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	透し穴1/2残存
6633	竪穴住居-247	土師器	高杯		13.0	(9.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	水漉粘土	良好	脚端部に凹線1本、黒斑C
6634	竪穴住居-247	土師器	台付鉢		3.5	(3.8)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	底部歪み有り
6635	竪穴住居-247	土師器	鉢	36.6		(20.5)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
6636	竪穴住居-247	土師器	碗	13.8		(5.0)	橙色(5YR7/6)	細砂	不良	
6637	竪穴住居-247	土師器	鉢	15.4		6.2	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6638	竪穴住居-247	土師器	鉢	10.1		8.4	浅黄褐色(10YR8/3)	精良	良好	黒斑A B
6639	竪穴住居-247	土師器	手捻形土器			(6.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6640	竪穴住居-248	土師器	壺	(18.8)		(6.7)	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	良好	
6641	竪穴住居-248	土師器	甕	16.4		(3.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6642	竪穴住居-248	土師器	甕	14.2		(2.9)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6643	竪穴住居-248	土師器	甕	15.1		(4.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6644	竪穴住居-248	土師器	甕	11.9		(15.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条、ススC、黒斑B C
6645	竪穴住居-248	土師器	甕	12.8		19.1	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、黒斑A B C
6646	竪穴住居-248	土師器	甕	13.4		(10.3)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6647	竪穴住居-248	土師器	甕	14.9		(15.2)	鈍い橙色(5YR7/4)	礫	良好	櫛描沈線10条、黒斑B
6648	竪穴住居-248	土師器	甕	16.1		(11.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条、黒斑A B・B
6649	竪穴住居-248	土師器	高杯	19.4		(5.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6650	竪穴住居-248	土師器	高杯	18.6		(6.9)	褐灰色(5YR4/1)	精良	良好	
6651	竪穴住居-248	土師器	高杯			(4.4)	鈍い橙色(7.5YR4/7)	精良	良好	
6652	竪穴住居-248	土師器	高杯		13.4	(9.2)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し穴2/3
6653	竪穴住居-248	土師器	高杯	19.3	13.8	15.0	鈍い橙色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔3
6654	竪穴住居-248	土師器	高杯	13.0	17.2	11.3	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し穴3、黒斑C
6655	竪穴住居-248	土師器	高杯			(5.7)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し穴2/3
6656	竪穴住居-248	土師器	台付鉢		7.4	(3.8)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	
6657	竪穴住居-248	土師器	碗	14.8		5.2	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6658	竪穴住居-248	土師器	器台	9.2	11.6	7.6	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	透し孔4
6659	竪穴住居-249	土師器	甕	15.0		(9.4)	灰白色(10YR8/1)	粗砂、礫	良好	黒斑B
6660	竪穴住居-249	土師器	高杯		14.0	(7.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
6661	竪穴住居-249	土師器	高杯			(7.3)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6662	竪穴住居-249	土師器	鉢	31.6		(18.5)	鈍い黄橙色(10YR6/3)	粗砂、礫	良好	
6663	竪穴住居-249	土師器	鉢			(6.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6664	竪穴住居-249	土師器	鉢	17.2		7.0	鈍い橙色(5YR7/4)	粗砂	良好	
6665	竪穴住居-250	土師器	甕	15.5		(4.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6666	竪穴住居-250	土師器	甕	15.8		(9.9)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6667	竪穴住居-250	土師器	高杯		14.8	(4.4)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔1/O
6668	竪穴住居-250	土師器	鉢	9.4		(6.1)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
6669	竪穴住居-250	土師器	製塩土器		4.8	(2.0)	鈍い橙色(5YR6/3)	粗砂	良好	
6670	竪穴住居-250	土師器	製塩土器		4.6	(2.5)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	粗砂	良好	
6671	竪穴住居-251	土師器	高杯		14.2	(6.1)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
6672	竪穴住居-251	土師器	鉢?			(4.8)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
6673	竪穴住居-252	土師器	壺	15.0		(4.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線2条
6674	竪穴住居-252	土師器	甕	12.8		(4.7)	鈍い黄橙色(10YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6675	竪穴住居-252	土師器	甕	13.8		20.0	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススB、黒斑A B
6676	竪穴住居-252	土師器	甕	16.6		(3.6)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6677	竪穴住居-252	土師器	甕	15.0		(7.5)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6678	竪穴住居-252	土師器	甕	16.6		(7.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線11条、刺突記号B3
6679	竪穴住居-252	土師器	高杯	18.8		(6.1)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
6680	竪穴住居-252	土師器	高杯	20.0		(5.5)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6681	竪穴住居-252	土師器	高杯		14.0	(8.6)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔3
6682	竪穴住居-252	土師器	高杯			(7.7)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔2/O
6683	竪穴住居-252	土師器	高杯	12.0		(10.3)	橙色(2.5YR6/6)	精良	良好	透し孔3個
6684	竪穴住居-252	土師器	鉢			(12.6)	鈍い橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
6685	竪穴住居-252	土師器	鉢	8.9		(5.6)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6686	竪穴住居-252	土師器	鉢	8.3		9.0	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B
6687	竪穴住居-252	土師器	鉢	9.3		6.3	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6688	竪穴住居-252	土師器	鉢	11.4		(5.3)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6689	竪穴住居-252	土師器	鉢	9.9		7.1	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	良好	
6690	竪穴住居-252	土師器	鉢	11.9		4.1	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	黒斑BC
6691	竪穴住居-253	土師器	壺	16.0		(4.8)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6692	竪穴住居-253	土師器	壺	18.4		(11.0)	明黄褐色(10YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
6693	竪穴住居-253	土師器	甕	13.9		(3.9)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条
6694	竪穴住居-253	土師器	甕	13.1		(9.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6695	竪穴住居-253	土師器	高杯	19.0		(7.0)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6696	竪穴住居-253	土師器	高杯		10.5	(7.6)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
6697	竪穴住居-253	土師器	高杯			(10.1)	黄褐色(7.5YR7/8)	精良	良好	透し孔3?
6698	竪穴住居-253	土師器	高杯		(16.4)	(5.2)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔4
6699	竪穴住居-253	土師器	鉢	13.1		(5.6)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6700	竪穴住居-253	土師器	製塩土器		4.6	(1.4)	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	
6701	竪穴住居-253	土師器	製塩土器		4.4	(1.5)	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	
6702	竪穴住居-254	土師器	壺	17.4		(27.7)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	口縁部凹線4条、黒斑A
6703	竪穴住居-254	土師器	甕	17.0		(15.8)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、肩部刺突記号B2、ススA
6704	竪穴住居-254	土師器	甕	11.8		(16.7)	灰灰色(2.5Y6/1)	礫	良好	
6705	竪穴住居-254	土師器	高杯	19.9		(13.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
6706	竪穴住居-254	土師器	高杯		12.9	(9.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
6707	竪穴住居-256	土師器	甕	12.8		(4.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6708	竪穴住居-256	土師器	高杯	13.6		(7.2)	黄褐色(7.5YR8/8)	精良	良好	透し孔3個、完形
6709	竪穴住居-256	土師器	鉢	34.6		(11.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑A
6710	竪穴住居-257	土師器	壺	16.0		(4.4)	鈍い黄褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
6711	竪穴住居-257	土師器	甕	14.2		(3.9)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6712	竪穴住居-257	土師器	台付鉢	8.8	5.8	5.8	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	完形
6713	竪穴住居-259	土師器	甕	11.0		(4.3)	灰黄色(2.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6714	竪穴住居-259	土師器	甕	13.0		(3.4)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6715	竪穴住居-259	土師器	甕	16.8		(7.2)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
6716	竪穴住居-259	土師器	鉢	12.6		11.5	橙色(2.5YR7/8)	精良	良好	ススB
6717	竪穴住居-259	土師器	鉢				橙色(5YR7/6)	細砂	良好	表面に赤色顔料塗布?、黒斑有り
6718	竪穴住居-260	土師器	甕	(15.1)		(2.9)	黄褐色(7.5YR7/8)	細砂	良好	櫛描沈線6条?
6719	竪穴住居-260	土師器	鉢	11.4		8.9	灰黄色(2.5Y4/1)	微砂	良好	ススA
6720	竪穴住居-260	土師器	鉢	11.4		6.7	黄褐色(7.5YR8/8)	細砂	良好	内外面に赤色顔料塗布?、完形
6721	竪穴住居-260	土師器	高杯				橙色(5YR7/8)	微砂	良好	
6722	竪穴住居-261	土師器	甕	13.0		(22.1)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、刺突記号A2、ススB、黒斑C
6723	竪穴住居-261	土師器	甕	15.0		(13.0)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6724	竪穴住居-261	土師器	高杯	21.0		(6.0)	黄褐色(7.5YR8/8)	精良	良好	外面に赤色顔料塗布?
6725	竪穴住居-261	土師器	鉢	13.0		9.0	橙色(7.5YR6/8)	粗砂	良好	
6726	竪穴住居-261	土師器	鉢	16.6		6.1	浅黄褐色(7.5YR8/4)	粗砂	良好	黒斑C
6727	竪穴住居-263	土師器	壺	17.2	6.4	28.2	橙色(5YR7/)	細砂	良好	黒斑C
6728	竪穴住居-263	土師器	甕	16.8		(11.2)	褐色(10YR6/)	粗砂	良好	ススA
6729	竪穴住居-263	土師器	甕	14.0		20.4	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	櫛描沈線6条、肩部刺突記号B2、ススC
6730	竪穴住居-263	土師器	甕	14.8		24.2	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	櫛描沈線4条、ススC
6731	竪穴住居-263	土師器	甕	14.0	3.9	22.5	浅黄褐色(2.5Y8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、肩部刺突記号A3、ススB
6732	竪穴住居-263	土師器	甕	13.8		20.0	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	櫛描沈線6条、刺突記号A1、ススB

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6733	竪穴住居-263	土師器	甕	13.5	4.2	40.0	浅黄橙色(10YR8/)	細砂	良好	櫛描沈線9条、ススB
6734	竪穴住居-263	土師器	甕	13.6	2.0	18.8	浅黄橙色(10YR8/)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号B3、ススB'
6735	竪穴住居-263	土師器	甕	14.8	3.5	17.9	黄橙色(10YR8/6)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススB'
6736	竪穴住居-263	土師器	甕	14.4		(23.0)	橙色(5YR7/)	細砂	良好	
6737	竪穴住居-263	土師器	甕	14.4		(15.3)	鈍い橙色(7.5YR7/)	粗砂	良好	櫛描沈線6条、刺突記号A3
6738	竪穴住居-263	土師器	甕	12.9		(14.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	ススB
6739	竪穴住居-263	土師器	甕	14.0		(11.4)	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条、刺突記号B3、ススC
6740	竪穴住居-263	土師器	甕	11.2		(11.0)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススA
6741	竪穴住居-263	土師器	甕	9.6		8.9	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6742	竪穴住居-263	土師器	鉢	10.6		5.9	灰白色(5YR8/2)	微砂	良好	
6743	竪穴住居-263	土師器	鉢	13.6	4.4	6.0	橙色(5YR7/8)	微砂	良好	
6744	竪穴住居-263	土師器	鉢	31.6		(10.5)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6745	竪穴住居-263	土師器	器台	9.8	10.6	8.4	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔3
6746	竪穴住居-263	土師器	器台	10.6	11.4	8.4	黄橙色(7.5YR8/8)	精良	良好	透し孔3
6747	竪穴住居-263	土師器	高杯	13.6		10.3	浅黄橙色(7.5YR8/3)	微砂	良好	透し孔4
6748	竪穴住居-263	土師器	高杯	20.2		(6.3)	橙色(5YR7/8)	微砂	良好	
6749	竪穴住居-263	土師器	高杯	20.6	13.4	15.4	橙色(5YR7/6)	微砂	良好	透し孔3、脚部内側に指頭圧痕
6750	竪穴住居-265	土師器	甕	18.0		(5.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	微砂	良好	
6751	竪穴住居-265	土師器	壺	18.0		(4.6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
6752	竪穴住居-265	土師器	壺	18.2		(8.1)	橙色(5YR7/8)	微砂	良好	
6753	竪穴住居-265	土師器	壺	17.0		(7.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	微砂	良好	
6754	竪穴住居-265	土師器	壺		4.4	(15.5)	淡褐色(5YR8/4)	微砂	良好	黒斑C
6755	竪穴住居-265	土師器	甕	12.2		(3.1)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	微砂	良好	
6756	竪穴住居-265	土師器	甕	13.2		(3.1)	鈍い橙色(5YR6/4)	微砂	良好	櫛描沈線4条
6757	竪穴住居-265	土師器	甕	13.0		(2.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
6758	竪穴住居-265	土師器	甕	12.2		(3.7)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	微砂	良好	櫛描沈線7条
6759	竪穴住居-265	土師器	甕	13.0		(3.4)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条
6760	竪穴住居-265	土師器	甕	14.6		(3.8)	橙色(7.5YR7/6)	微砂	良好	櫛描沈線6条
6761	竪穴住居-265	土師器	甕	15.2		(5.0)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線5条
6762	竪穴住居-265	土師器	甕	13.8		(8.5)	鈍い橙色(5YR7/3)	微砂	良好	櫛描沈線6条
6763	竪穴住居-265	土師器	高杯	12.4	17.0	11.1	橙色(5YR7/8)	微砂	良好	透し孔3
6764	竪穴住居-265	土師器	器台	11.4		(6.1)	鈍い橙色(5YR7/6)	微砂	良好	透し孔4
6765	竪穴住居-265	土師器	高杯		11.8	(6.4)	淡褐色(5YR8/4)	微砂	良好	透し孔4
6766	竪穴住居-265	土師器	高杯		16.0	(6.9)	褐色(5YR7/8)	微砂	良好	透し孔4
6767	竪穴住居-265	土師器	高杯			(5.4)	褐色(5YR7/8)	微砂	良好	透し孔4
6768	竪穴住居-265	土師器	高杯		15.4	(5.9)	褐色(5YR7/8)	微砂	良好	透し孔4
6769	竪穴住居-265	土師器	高杯			(7.2)	褐色(5YR7/8)	微砂	良好	透し孔4
6770	竪穴住居-265	土師器	高杯			(7.8)	鈍い赤褐色(5YR5/4)	微砂	良好	透し孔4
6771	竪穴住居-265	土師器	台付鉢		4.8	(6.7)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	微砂	良好	
6772	竪穴住居-265	土師器	鉢	38.2		(9.1)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
6773	竪穴住居-267	土師器	壺	21.4		(8.2)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	
6774	竪穴住居-267	土師器	壺	16.5		(7.1)	鈍い褐色(5YR6/3)	細砂	良好	
6775	竪穴住居-267	土師器	甕	11.2		(10.9)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
6776	竪穴住居-267	土師器	甕	(15.7)		(4.9)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	ススA
6777	竪穴住居-267	土師器	甕	14.0		(11.0)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線10条
6778	竪穴住居-267	土師器	甕	14.5		(6.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
6779	竪穴住居-267	土師器	甕	16.0		(2.8)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6780	竪穴住居-267	土師器	甕	14.9		(3.0)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6781	竪穴住居-267	土師器	甕	13.1		(7.9)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
6782	竪穴住居-267	土師器	甕	(16.1)		(4.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6783	竪穴住居-267	土師器	甕	13.0		(10.7)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条、ススB
6784	竪穴住居-267	土師器	甕	13.2		(10.3)	灰赤色(2.5YR5/2)	細砂	良好	櫛描沈線4条、二次の焼成?
6785	竪穴住居-267	土師器	甕	(14.0)		(3.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6786	竪穴住居-267	土師器	甕	14.2		(4.5)	明褐色(5YR7/1)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6787	竪穴住居-267	土師器	甕	(15.2)		(4.7)	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂	良好	櫛描沈線9条
6788	竪穴住居-267	土師器	甕	12.0		(7.3)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条、肩部刺突記号B2
6789	竪穴住居-267	土師器	甕	15.8		(4.3)	明褐色(5YR7/1)	細砂	良好	櫛描沈線6条、ススA
6790	竪穴住居-267	土師器	甕	15.8		(3.7)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線10条
6791	竪穴住居-267	土師器	甕	13.2		(4.9)	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	良好	櫛描沈線6条
6792	竪穴住居-267	土師器	甕	(14.8)		(4.8)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6793	竪穴住居-267	土師器	甕	12.4		(17.2)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
6794	竪穴住居-267	土師器	甕	14.9		(4.5)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
6795	竪穴住居-267	土師器	甕	16.0		(3.6)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6796	竪穴住居-267	土師器	甕	14.9		(3.9)	褐色(7.5YR6/6)	細砂	良好	ススA
6797	竪穴住居-267	土師器	甕	13.6		(6.6)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
6798	竪穴住居-267	土師器	高杯	23.6		(7.2)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	精良	良好	黒斑A
6799	竪穴住居-267	土師器	高杯	(20.7)		(6.5)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
6800	竪穴住居-267	土師器	高杯	20.3		(5.8)	褐色(7.5YR7/6)	精良	良好	
6801	竪穴住居-267	土師器	高杯		13.6	(8.4)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔3個
6802	竪穴住居-267	土師器	鉢	(10.8)	2.9	7.1	褐色(7.5YR6/8)	細砂	良好	黒斑C
6803	竪穴住居-267	土師器	鉢	9.9	2.8	6.9	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	完形、黒斑C
6804	竪穴住居-267	土師器	鉢	12.6	4.8	7.4	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	ススA
6805	竪穴住居-267	土師器	鉢	11.2	2.4	6.4	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A B
6806	竪穴住居-267	土師器	鉢	10.3	3.2	4.9	鈍い褐色(5YR7/3)	細砂	良好	黒斑B
6807	竪穴住居-267	土師器	鉢	12.2	4.0	5.7	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑A B

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6808	竪穴住居-267	土師器	器台		10.2	(8.4)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	透し孔上段4、下段3
6809	竪穴住居-267	土師器	器台	8.7	10.8		8.2 鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	透し孔4
6810	竪穴住居-267	土師器	器台	9.1		(6.6)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
6811	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		5.0		鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
6812	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		5.1	(2.1)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
6813	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		4.4	(2.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6814	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		5.3	(1.5)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
6815	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		4.8	(1.7)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
6816	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		5.7	(2.0)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
6817	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		4.9	(2.1)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
6818	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		5.2	(2.1)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
6819	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		4.8	(2.4)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
6820	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		4.8	(1.8)	鈍い赤褐色(10R6/3)	細砂	良好	
6821	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		5.3	(1.8)	鈍い赤褐色(10R6/4)	細砂	良好	
6822	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		4.5	(2.2)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
6823	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		4.6	(1.4)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
6824	竪穴住居-267	土師器	製塩土器		5.0	(2.3)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	
6825	竪穴住居-269	土師器	壺	17.7		(5.6)	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂	良好	
6826	竪穴住居-269	土師器	壺	23.6		(6.1)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
6827	竪穴住居-269	土師器	壺	14.2		(8.9)	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	
6828	竪穴住居-269	土師器	甕	14.2		(6.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条?
6829	竪穴住居-269	土師器	甕	13.2		(6.2)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	丹塗り痕跡あり
6830	竪穴住居-269	土師器	甕	14.5		(3.4)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
6831	竪穴住居-269	土師器	甕	11.0		(6.7)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	
6832	竪穴住居-269	土師器	甕	10.2		(8.7)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	ススB
6833	竪穴住居-269	土師器	高杯		13.6		(6.1) 橙色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔4
6834	竪穴住居-269	土師器	甌	15.0	1.4	11.3	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6835	竪穴住居-269	土師器	鉢	(13.2)	4.1	6.6	淡黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
6836	竪穴住居-269	土師器	台付鉢	(15.3)	8.9	8.6	淡黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	黒斑B
6837	竪穴住居-270	土師器	壺	14.1		(9.1)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	
6838	竪穴住居-270	土師器	甕	(12.9)		(2.9)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条
6839	竪穴住居-270	土師器	甕	(16.8)		(3.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6840	竪穴住居-270	土師器	甕	14.3		22.3	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条、刺突記号B3
6841	竪穴住居-270	土師器	甕	12.2		(3.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条
6842	竪穴住居-270	土師器	甕	(16.0)		(3.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線9条
6843	竪穴住居-270	土師器	高杯		16.8	(4.7)	黄褐色(7.5YR7/8)	精良	良好	透し孔3
6844	竪穴住居-271	土師器	鉢	11.3	4.2	7.3	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6845	竪穴住居-272	土師器	甕	12.7		(10.1)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明、黒斑BC
6846	竪穴住居-272	土師器	甕	14.3		(12.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A1
6847	竪穴住居-272	土師器	甕			(10.0)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6848	竪穴住居-272	土師器	底部		5.2	(5.5)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	黒斑C
6849	竪穴住居-272	土師器	高杯	20.8		(7.1)	橙色(2.5YR6/6)	精良	良好	黒斑A
6850	竪穴住居-272	土師器	高杯		13.5	(11.5)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
6851	竪穴住居-272	土師器	手焙形土器			15.5	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6852	竪穴住居-272	土師器	壺	12.4		(8.0)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6853	竪穴住居-272	土師器	壺			(9.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6854	竪穴住居-272	土師器	壺	14.8		(9.0)	橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6855	竪穴住居-272	土師器	壺	18.0		(4.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	
6856	竪穴住居-272	土師器	壺	21.5		(7.4)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
6857	竪穴住居-272	土師器	壺	17.5		(8.5)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6858	竪穴住居-272	土師器	壺	20.0		(6.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6859	竪穴住居-272	土師器	壺	19.6		(10.4)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	黒斑A(内外)
6860	竪穴住居-272	土師器	壺	19.4		(7.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
6861	竪穴住居-272	土師器	壺	18.2		31.1	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	ススC
6862	竪穴住居-272	土師器	壺	20.6		36.3	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	黒斑BC
6863	竪穴住居-272	土師器	壺?	14.5		(4.6)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
6864	竪穴住居-272	土師器	小壺	8.0		(2.6)	鈍い黄褐色(10YR5/3)	細砂	良好	
6865	竪穴住居-272	土師器	小壺	10.5		(3.2)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6866	竪穴住居-272	土師器	甕	12.0		16.6	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
6867	竪穴住居-272	土師器	甕	15.6		26.1	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	櫛描沈線9条、ススB
6868	竪穴住居-272	土師器	甕	14.1		21.4	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススB、黒斑B
6869	竪穴住居-272	土師器	甕	8.7		(7.9)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	櫛描沈線5条
6870	竪穴住居-272	土師器	甕	15.5		(17.8)	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	良好	
6871	竪穴住居-272	土師器	高杯	17.2		(5.9)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
6872	竪穴住居-272	土師器	高杯	20.4		(5.9)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
6873	竪穴住居-272	土師器	高杯	21.7	13.8	13.8	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔4
6874	竪穴住居-272	土師器	高杯	13.4		(5.6)	橙色(7.5YR6/6)	精良	良好	
6875	竪穴住居-272	土師器	高杯		17.1	(8.2)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔2/3、黒斑C
6876	竪穴住居-272	土師器	高杯		13.4	(9.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	透し孔3
6877	竪穴住居-272	土師器	鉢	13.8		5.3	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6878	竪穴住居-272	土師器	鉢	15.1		(5.3)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6879	竪穴住居-272	土師器	鉢	16.8		(4.5)	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	
6880	竪穴住居-272	土師器	器台	9.1		(2.3)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
6881	竪穴住居-272	土師器	鼓形器台			(4.0)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
6882	竪穴住居-272	土師器	製塩土器		4.4	(1.5)	赤褐色(10R6/6)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6883	竪穴住居-272	土師器	製塩土器		4.4	(1.7)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
6884	竪穴住居-272	土師器	製塩土器		5.2	(2.9)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
6885	竪穴住居-272	土師器	製塩土器		5.6	(2.8)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6886	竪穴住居-273	土師器	壺	9.8		(3.8)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
6887	竪穴住居-273	土師器	壺	14.8		(6.1)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
6888	竪穴住居-273	土師器	壺	17.2		(2.6)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
6889	竪穴住居-273	土師器	壺	14.8		(4.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
6890	竪穴住居-273	土師器	壺	20.2		(3.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
6891	竪穴住居-273	土師器	壺	16.0		(14.7)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
6892	竪穴住居-273	土師器	壺	15.3		(17.6)	鈍い褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
6893	竪穴住居-273	土師器	甕	12.2		(3.5)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
6894	竪穴住居-273	土師器	甕			(2.3)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
6895	竪穴住居-273	土師器	甕	13.6		(2.7)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
6896	竪穴住居-273	土師器	甕	13.8		(4.3)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	ススA
6897	竪穴住居-273	土師器	甕	18.2		(2.7)	灰黄褐色(10YR6/2)	礫	良好	
6898	竪穴住居-273	土師器	甕	15.8		(4.2)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
6899	竪穴住居-273	土師器	甕	15.2		(10.5)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
6900	竪穴住居-273	土師器	甕	14.6		(9.0)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線9本、刺突記号B3、黒斑B
6901	竪穴住居-273	土師器	甕	14.4		(5.1)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	良好	櫛描沈線8条
6902	竪穴住居-273	土師器	甕	15.6		(9.6)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
6903	竪穴住居-273	土師器	甕	15.8	4.6	23.8	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	良好	櫛描沈線8条、黒斑C
6904	竪穴住居-273	土師器	高杯	20.7		(5.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	精良	良好	
6905	竪穴住居-273	土師器	高杯	12.3		(10.7)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	透し孔4
6906	竪穴住居-273	土師器	高杯			(5.6)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	精良	良好	
6907	竪穴住居-273	土師器	高杯		13.7	(2.5)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
6908	竪穴住居-273	土師器	鉢	9.8		(5.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	良好	
6909	竪穴住居-273	土師器	鉢	13.2		(3.5)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	良好	
6910	竪穴住居-273	土師器	鉢	13.0		5.7	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	良好	
6911	竪穴住居-273	土師器	鉢	14.0		6.4	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
6912	竪穴住居-273	土師器	鉢	12.6		(4.0)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
6913	竪穴住居-273	土師器	鉢	9.8		6.4	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
6914	竪穴住居-273	土師器	鉢	13.7		6.2	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	
6915	竪穴住居-273	土師器	鉢	14.3		7.1	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	黒斑BC
6916	竪穴住居-273	土師器	鉢	11.6		7.6	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	黒斑B・C
6917	竪穴住居-273	土師器	鉢	28.2		11.8	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
6918	竪穴住居-274	土師器	甕	15.8		(3.8)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線10条
6919	竪穴住居-274	土師器	甕	16.8		(5.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6920	竪穴住居-274	土師器	甕	16.0		(6.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6921	竪穴住居-274	土師器	高杯	12.4		(5.7)	褐色(5YR7/8)	細砂	良好	
6922	竪穴住居-274	土師器	高杯			(7.2)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔3?
6923	竪穴住居-274	土師器	高杯	17.5	13.6	12.6	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
6924	竪穴住居-274	土師器	手捏土器	6.5		3.3	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	
6925	竪穴住居-274	土師器	手捏土器	7.7		4.6	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	完形、黒斑ABC
6926	竪穴住居-274	土師器	鉢	13.7		6.2	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6927	竪穴住居-274	土師器	鉢	9.2		7.4	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6928	竪穴住居-274	土師器	鉢	9.7		6.9	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑B
6929	竪穴住居-274	土師器	鉢	9.2		5.5	淡黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	黒斑AB(内外)
6930	竪穴住居-274	土師器	鉢	10.7		6.2	淡黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6931	竪穴住居-275	土師器	壺	16.5		(11.3)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	
6932	竪穴住居-275	土師器	壺	14.0		(4.8)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条
6933	竪穴住居-275	土師器	壺	14.0		(5.3)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススB'
6934	竪穴住居-275	土師器	壺	15.6		(5.9)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線10条
6935	竪穴住居-275	土師器	壺	16.0		(2.8)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
6936	竪穴住居-275	土師器	甕	12.2		16.8	褐色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
6937	竪穴住居-275	土師器	高杯	19.6		(7.9)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	精良	良好	
6938	竪穴住居-275	土師器	高杯	20.6		(4.6)	褐色(5YR6/8)	微砂	良好	
6939	竪穴住居-275	土師器	高杯	21.1	15.1	14.2	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	黒斑A・C
6940	竪穴住居-275	土師器	高杯			(4.8)	褐色(5YR6/8)	微砂	良好	
6941	竪穴住居-275	土師器	高杯		13.5	(7.9)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	精良	良好	透し孔4
6942	竪穴住居-275	土師器	高杯		13.4	(3.2)	淡黄褐色(7.5YR8/6)	微砂	良好	透し孔
6943	竪穴住居-275	土師器	高杯		14.5	(9.1)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	透し孔4
6944	竪穴住居-275	土師器	(台付)鉢	14.4		(5.2)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
6945	竪穴住居-275	土師器	鉢	14.2		(5.2)	淡黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
6946	竪穴住居-275	土師器	鉢	12.4		5.6	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
6947	竪穴住居-275	土師器	鉢			(12.2)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6948	竪穴住居-275	土師器	製塩土器	5.4		(1.7)	淡赤褐色(2.5YR7/3)	粗砂	良好	
6949	竪穴住居-275	土師器	製塩土器	4.4		(2.3)	褐色(2.5YR6/8)	礫	良好	
6950	竪穴住居-275	土師器	製塩土器	4.4		(2.4)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	礫	良好	
6951	竪穴住居-275	土師器	製塩土器	5.0		(1.6)	淡赤褐色(2.5YR7/3)	粗砂	良好	
6952	竪穴住居-275	土師器	製塩土器	5.6		(3.1)	赤褐色(10Y6/6)	粗砂	良好	
6953	竪穴住居-275	土師器	支脚			(7.7)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
6954	竪穴住居-276	土師器	壺	11.4		(5.0)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
6955	竪穴住居-276	土師器	壺	19.0		(7.9)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6956	竪穴住居-276	土師器	壺	13.5		(3.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
6957	竪穴住居-276	土師器	壺			(7.0)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	

土器観察表

挿入番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
6958	竪穴住居-276	土師器	高杯	13.0		(7.7)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
6959	竪穴住居-276	土師器	高杯			(7.3)	鈍い橙色(5YR3/6)	精良	良好	透し孔3
6960	竪穴住居-276	土師器	鉢	13.2		5.5	橙色(5YR7/8)	微砂	良好	
6961	竪穴住居-276	土師器	鉢	17.6		5.0	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	良好	黒斑B
6962	竪穴住居-276	土師器	壺	16.6		(8.5)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
6963	竪穴住居-276	土師器	壺			(8.3)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6964	竪穴住居-276	土師器	壺	18.0		(13.3)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	粗砂	良好	
6965	竪穴住居-276	土師器	壺	13.6		(14.5)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	口縁部凹線3条
6966	竪穴住居-276	土師器	甕	12.3		14.2	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
6967	竪穴住居-276	土師器	甕	12.5		17.7	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線9条、ススB
6968	竪穴住居-276	土師器	甕	14.6		23.5	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条、刺突記号B2、ススC
6969	竪穴住居-276	土師器	甕	12.4		(4.1)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
6970	竪穴住居-276	土師器	甕?	9.9		14.5	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑BC
6971	竪穴住居-276	土師器	高杯	18.6		(6.2)	橙色(5YR6/8)	微砂	良好	
6972	竪穴住居-276	土師器	高杯			(11.7)	橙色(5YR7/8)	微砂	良好	透し孔3?
6973	竪穴住居-276	土師器	高杯	18.3	13.1	13.7	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	透し孔3
6974	竪穴住居-276	土師器	高杯			(4.8)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
6975	竪穴住居-276	土師器	高杯	11.8		(5.7)	橙色(5YR7/6)	微砂	良好	
6976	竪穴住居-276	土師器	高杯		17.4	(6.8)	橙色(5YR6/8)	微砂	良好	透し孔3
6977	竪穴住居-276	土師器	鉢	34.9		(6.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
6978	竪穴住居-276	土師器	鉢	11.8		3.5	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
6979	竪穴住居-276	土師器	台付鉢	16.0	7.2	7.7	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
6980	竪穴住居-276	土師器	台付鉢		6.6	(2.7)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	
6981	竪穴住居-276	土師器	器台	10.4	12.7	8.9	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	透し孔3、黒斑ABC
6982	竪穴住居-276	土師器	鉢?	4.5		(4.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
6983	竪穴住居-276	土師器	製塩土器	4.6		(4.8)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
6984	竪穴住居-276	土師器	製塩土器	3.7		(2.5)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6985	竪穴住居-276	土師器	製塩土器	4.1		(2.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6986	竪穴住居-276	土師器	土脚			(3.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
6987	竪穴住居-277	土師器	壺	14.4		(7.6)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
6988	竪穴住居-277	土師器	壺	21.2		(9.0)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
6989	竪穴住居-277	土師器	高杯	12.8		(5.5)	橙色(5YR6/6)	微砂	良好	
6990	竪穴住居-277	土師器	高杯	18.5		(7.2)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
6991	竪穴住居-277	土師器	鉢	11.0		(7.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
6992	竪穴住居-277	土師器	製塩土器		4.4	(2.5)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	
6993	竪穴住居-277	土師器	製塩土器		4.4	(2.3)	鈍い褐色(7.5YR5/4)	粗砂	良好	
6994	竪穴住居-277	土師器	壺			(6.8)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	
6995	竪穴住居-277	土師器	高杯	19.3		(7.1)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
6996	竪穴住居-277	土師器	高杯	18.3	13.2	11.6	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔3
6997	竪穴住居-277	土師器	鉢	17.0		6.1	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	
6998	竪穴住居-277	土師器	低脚付鉢	16.9	4.8	5.5	灰白色(10YR8/1)	粗砂	良好	
6999	竪穴住居-277	土師器	壺			(4.1)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7000	竪穴住居-277	土師器	壺	17.4		(5.7)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7001	竪穴住居-277	土師器	壺?	15.6		(8.5)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7002	竪穴住居-277	土師器	高杯	13.4		(5.7)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	微砂	良好	
7003	竪穴住居-277	土師器	鉢	11.6		(4.4)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
7004	竪穴住居-277	土師器	鉢	17.0		(5.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
7005	竪穴住居-277	土師器	鉢	10.2		(5.7)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
7006	竪穴住居-277	土師器	台付鉢		8.6	(3.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
7007	竪穴住居-277	土師器	鉢	39.4		(9.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7008	竪穴住居-277	土師器	器台			(5.9)	橙色(5YR6/6)	微砂	良好	透し孔3
7009	竪穴住居-281	土師器	甕	15.8		(3.8)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線10条
7010	竪穴住居-281	土師器	甕	12.8		(1.5)	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	良好	
7011	竪穴住居-281	土師器	甕	16.4		(3.0)	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	良好	
7012	竪穴住居-281	土師器	甕	16.0		(3.5)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
7013	竪穴住居-281	土師器	甕	14.8		(5.1)	鈍い橙色(2.5YR1/4)	細砂	良好	ススB
7014	竪穴住居-281	土師器	甕			(3.6)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
7015	竪穴住居-281	土師器	壺		1.6	(6.1)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	肩部綾杉文、胴部凹線2条
7016	竪穴住居-281	土師器	高杯	17.8		(4.5)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7017	竪穴住居-281	土師器	高杯			(6.7)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	精良	良好	
7018	竪穴住居-281	土師器	高杯			(3.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	透し孔2/3
7019	竪穴住居-281	土師器	高杯		14.4	(2.1)	橙色(7.5YR6/8)	精良	良好	透し孔1/〇
7020	竪穴住居-281	土師器	製塩土器		4.2	(1.5)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
7021	竪穴住居-281	土師器	製塩土器		5.0	(2.7)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	
7022	竪穴住居-282	土師器	壺	23.7		(4.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7023	竪穴住居-282	土師器	甕	13.0		(7.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
7024	竪穴住居-282	土師器	甕	16.2		(3.0)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	
7025	竪穴住居-282	土師器	甕	13.5		(11.1)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条、刺突記号A3、ススA
7026	竪穴住居-282	土師器	甕	14.9		(17.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7027	竪穴住居-282	土師器	甕	15.6		24.7	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A1、ススB
7028	竪穴住居-282	土師器	高杯	12.8		(6.2)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7029	竪穴住居-282	土師器	高杯	16.4		(5.8)	橙色(7.5YR6/8)	細砂	良好	
7030	竪穴住居-282	土師器	高杯	22.9		(5.2)	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
7031	竪穴住居-282	土師器	高杯	19.7	14.3	14.0	黄褐色(7.5YR7/8)	精良	良好	透し孔4
7032	竪穴住居-282	土師器	鉢	10.1	2.6	7.7	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	黒斑BC(内外)

遺物観察表

土器観察表

押図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7033	竪穴住居-282	土師器	鉢	11.4		7.5	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7034	竪穴住居-282	土師器	製塩土器		5.4	(2.3)	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	
7035	竪穴住居-283	土師器	壺	10.9		(4.2)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
7036	竪穴住居-283	土師器	壺			(8.4)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7037	竪穴住居-283	土師器	壺	19.4		(5.7)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
7038	竪穴住居-283	土師器	壺	23.8		(4.8)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	
7039	竪穴住居-283	土師器	壺	20.3		(7.2)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7040	竪穴住居-283	土師器	甕?	13.0		(4.6)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7041	竪穴住居-283	土師器	甕	12.7		(3.0)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7042	竪穴住居-283	土師器	甕	12.7		(3.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7043	竪穴住居-283	土師器	甕	10.2		(2.9)	鈍い黄褐色(10YR5/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7044	竪穴住居-283	土師器	甕	14.7		(2.6)	鈍い黄褐色(10YR5/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7045	竪穴住居-283	土師器	甕	13.6		(4.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7046	竪穴住居-283	土師器	甕	15.4		(4.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線10条
7047	竪穴住居-283	土師器	甕	14.8		(22.2)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススB、黒斑B
7048	竪穴住居-283	土師器	高杯	17.9		(6.2)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
7049	竪穴住居-283	土師器	高杯			(8.1)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
7050	竪穴住居-283	土師器	高杯		12.2	(6.7)	浅黄褐色(10YR8/3)	精良	良好	透し孔4
7051	竪穴住居-283	土師器	高杯	17.4	12.1	14.9	褐色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔3
7052	竪穴住居-283	土師器	鉢	8.2		(3.2)	鈍い黄褐色(10YR6/4)	細砂	良好	
7053	竪穴住居-283	土師器	鉢	8.3		(4.7)	鈍い黄褐色(10YR5/3)	細砂	良好	ススB
7054	竪穴住居-283	土師器	鉢			(4.3)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	黒斑C
7055	竪穴住居-283	土師器	鉢(台付?)	10.8		(3.8)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7056	竪穴住居-283	土師器	鉢	13.0		(4.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7057	竪穴住居-283	土師器	鉢	13.8		(4.8)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7058	竪穴住居-283	土師器	鉢	15.9		3.6	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7059	竪穴住居-283	土師器	鉢	17.8		(4.9)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7060	竪穴住居-283	土師器	鉢	14.8		(4.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
7061	竪穴住居-283	土師器	鉢	14.8		(6.1)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7062	竪穴住居-283	土師器	鉢	17.8		6.4	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7063	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		4.4	(2.0)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
7064	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		4.8	(2.1)	赤褐色(10R6/6)	細砂	良好	
7065	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		4.0	(2.2)	赤褐色(10R6/6)	細砂	良好	
7066	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		4.0	(2.2)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
7067	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		5.2	(1.8)	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	良好	
7068	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		5.5	(2.5)	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
7069	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		5.2	(2.9)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7070	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		4.9	(3.3)	鈍い赤褐色(10R6/4)	細砂	良好	
7071	竪穴住居-283	土師器	製塩土器		4.8	(4.2)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
7072	竪穴住居-284	土師器	甕	13.2		(12.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7073	竪穴住居-284	土師器	鉢?			(10.2)	灰白色(2.5YR8/2)	細砂	良好	タタキ
7074	竪穴住居-284	土師器	高杯	20.4		(11.2)	淡褐色(5YR8/4)	細砂	良好	
7075	竪穴住居-284	土師器	高杯	11.2	17.5	8.5	鈍い橙色(7.5YR7/3)	精良	良好	透し孔4
7076	竪穴住居-284	土師器	鉢	16.4	3.3	7.4	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7077	竪穴住居-284	土師器	台付鉢	11.9	4.5	7.0	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	内外面赤色顔料
7078	竪穴住居-285	土師器	甕	14.7	3.8	(22.0)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	ススB
7079	竪穴住居-285	土師器	甕	14.8		(3.6)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7080	竪穴住居-285	土師器	甕	16.2		(3.8)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7081	竪穴住居-285	土師器	甕	14.2		(6.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	礫	良好	
7082	竪穴住居-285	土師器	鉢	13.0	5.2	4.1	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	良好	
7083	竪穴住居-285	土師器	高杯?	13.2		(5.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	精良	良好	
7084	竪穴住居-285	土師器	高杯			(5.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
7085	竪穴住居-286	土師器	鉢		4.0	(2.5)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7086	竪穴住居-286	土師器	高杯	11.7		(4.9)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7087	竪穴住居-286	土師器	製塩土器		6.0	(4.5)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7088	竪穴住居-287	土師器	壺			(2.8)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	口縁部竹管文、波状文、その上に竹管文
7089	竪穴住居-287	土師器	甕	13.9		(2.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7090	竪穴住居-287	土師器	甕	13.7		(2.4)	鈍い黄褐色(10YR6/4)	細砂	良好	
7091	竪穴住居-287	土師器	高杯	18.4		(5.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7092	竪穴住居-287	土師器	高杯	18.6		(7.1)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7093	竪穴住居-287	土師器	鉢	6.4		(2.4)	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	良好	
7094	竪穴住居-288	土師器	甕	14.2	3.6	18.8	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	ススB
7095	竪穴住居-288	土師器	甕	13.1	3.1	18.5	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	ススB
7096	竪穴住居-288	土師器	甕	15.8		19.8	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	底部孔1個、ススB
7097	竪穴住居-288	土師器	甕	15.8		(2.8)	灰黄色(2.5Y5/1)	細砂	良好	ススA
7098	竪穴住居-288	土師器	甕	13.7		(3.1)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
7099	竪穴住居-288	土師器	甕		2.7	(3.3)	黒褐色(7.5YR3/1)	細砂	良好	ススC
7100	竪穴住居-288	土師器	甕	14.0		(16.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7101	竪穴住居-288	土師器	甕	14.8		(13.8)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線10条
7102	竪穴住居-288	土師器	甕			(25.7)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線3条残存、刺突記号A2、ススB
7103	竪穴住居-288	土師器	高杯	19.4		(11.2)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	礫	良好	
7104	竪穴住居-288	土師器	高杯			(4.8)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔4
7105	竪穴住居-288	土師器	壺	7.8		(2.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
7106	竪穴住居-288	土師器	鉢	10.1		(4.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
7107	竪穴住居-288	土師器	製塩土器		5.0	(2.7)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7108	竪穴住居-288	土師器	製塩土器		5.6	(1.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7109	竪穴住居-289	土師器	壺	15.6		(7.7)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
7110	竪穴住居-289	土師器	甕	12.0		(6.5)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線 8条
7111	竪穴住居-289	土師器	甕	14.6		(2.8)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線 8条
7112	竪穴住居-289	土師器	高杯			(3.9)	鈍い橙色(5YR7/3)	精良	良好	
7113	竪穴住居-289	土師器	高杯			(4.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	
7114	竪穴住居-289	土師器	高杯		13.0	(8.7)	鈍い橙色(5YR6/4)	精良	良好	透し孔 1/〇
7115	竪穴住居-289	土師器	高杯	19.4	13.7	13.9	鈍い橙色(2.5YR6/4)	精良	良好	透し孔 3
7116	竪穴住居-289	土師器	鉢	11.6		5.8	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
7117	竪穴住居-292	土師器	高杯	21.9		(5.6)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
7118	竪穴住居-293	土師器	壺	15.7		(9.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7119	竪穴住居-293	土師器	壺	14.7		(5.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7120	竪穴住居-293	土師器	甕	14.4		(3.2)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	櫛描沈線 9条
7121	竪穴住居-293	土師器	甕	15.4		(6.2)	鈍い褐色(7.5YR5/4)	細砂	良好	櫛描沈線 8条
7122	竪穴住居-293	土師器	鉢	11.5		(6.0)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7123	竪穴住居-293	土師器	鉢	14.6		(5.0)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7124	竪穴住居-293	土師器	鉢	17.9		(3.9)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	ススA
7125	竪穴住居-293	土師器	製塩土器		4.0	(2.0)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
7126	竪穴住居-293	土師器	製塩土器		4.8	(1.7)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
7127	竪穴住居-294	土師器	甕	15.8		(3.4)	明赤褐色(5YR5/8)	細砂	良好	櫛描沈線 8条
7128	竪穴住居-294	土師器	製塩土器		4.6	(2.5)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	
7129	竪穴住居-294	土師器	製塩土器		5.0	(2.0)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7130	竪穴住居-295	土師器	壺	23.9		(6.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7131	竪穴住居-295	土師器	壺	23.0		(8.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7132	竪穴住居-295	土師器	壺	16.6		(5.4)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7133	竪穴住居-295	土師器	壺?	17.7		(6.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7134	竪穴住居-295	土師器	壺	14.5		(6.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7135	竪穴住居-295	土師器	壺	10.1		(12.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B
7136	竪穴住居-295	土師器	甕	15.9		(2.3)	鈍い褐色(10YR7/4)	細砂	良好	ススA
7137	竪穴住居-295	土師器	甕	13.3		(10.2)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	ススB
7138	竪穴住居-295	土師器	甕	18.0		(11.0)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	粗砂	良好	
7139	竪穴住居-295	土師器	甕	15.7		(3.1)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線 9条
7140	竪穴住居-295	土師器	甕	16.7		(4.1)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	櫛描沈線 11条
7141	竪穴住居-295	土師器	甕	13.0		(7.6)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線 7条
7142	竪穴住居-295	土師器	甕	15.0		(8.6)	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7143	竪穴住居-295	土師器	甕	15.8		(9.4)	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	良好	櫛描沈線 9条、ススB
7144	竪穴住居-295	土師器	高杯	13.2		(5.6)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
7145	竪穴住居-295	土師器	高杯	15.3		(9.9)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	透し孔 2/〇
7146	竪穴住居-295	土師器	高杯		16.3	(5.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	透し孔 3
7147	竪穴住居-295	土師器	高杯		14.2	(9.2)	褐色(5YR7/8)	精良	良好	透し孔 4
7148	竪穴住居-295	土師器	鉢	13.7		7.0	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
7149	竪穴住居-295	土師器	鉢	16.9		(6.6)	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
7150	竪穴住居-295	土師器	製塩土器		5.4	(3.9)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
7151	竪穴住居-295	土師器	製塩土器		4.8	(2.4)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7152	竪穴住居-295	土師器	製塩土器		4.5	(1.9)	赤色(10R5/6)	細砂	良好	
7153	竪穴住居-295	土師器	手形土器			21.1	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	口縁部波状文
7154	竪穴住居-296-297	土師器	壺	28.7		(4.1)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
7155	竪穴住居-296-297	土師器	壺			(3.9)	褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	口縁部波状文、浮文上に竹管文
7156	竪穴住居-296-297	土師器	壺	11.9		(4.6)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7157	竪穴住居-296-297	土師器	壺?	14.9		(5.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7158	竪穴住居-296-297	土師器	壺	16.0		(6.2)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7159	竪穴住居-296-297	土師器	壺	10.6		(2.6)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7160	竪穴住居-296-297	土師器	壺	18.2		(3.7)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7161	竪穴住居-296-297	土師器	壺	20.7		(6.8)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	
7162	竪穴住居-296-297	土師器	壺	12.1		(5.7)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	
7163	竪穴住居-296-297	土師器	壺	15.2		(7.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7164	竪穴住居-296-297	土師器	壺	19.6		(6.3)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	
7165	竪穴住居-296-297	土師器	小壺		2.4	(6.5)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	精良	良好	肩部竹管文 2段
7166	竪穴住居-296-297	土師器	甕	11.0		(8.0)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線 6条
7167	竪穴住居-296-297	土師器	甕	10.4		(7.9)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	櫛描沈線 5条
7168	竪穴住居-296-297	土師器	甕	11.6		(2.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線 6条
7169	竪穴住居-296-297	土師器	甕	12.8		(3.1)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線 7条
7170	竪穴住居-296-297	土師器	甕	13.4		(2.9)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線 6条
7171	竪穴住居-296-297	土師器	甕	12.8		(4.3)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線 8条
7172	竪穴住居-296-297	土師器	甕	13.4		(4.2)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線 8条
7173	竪穴住居-296-297	土師器	甕	13.6		(4.9)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線 7条
7174	竪穴住居-296-297	土師器	甕	15.0		(5.5)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	櫛描沈線 7条
7175	竪穴住居-296-297	土師器	甕	13.2		(2.7)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線 8条
7176	竪穴住居-296-297	土師器	甕	14.0		(3.0)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	櫛描沈線 7条
7177	竪穴住居-296-297	土師器	甕	14.0		(3.1)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線 7条
7178	竪穴住居-296-297	土師器	甕	14.8		(3.2)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	櫛描沈線 8条
7179	竪穴住居-296-297	土師器	甕	15.1		(3.1)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線 9条
7180	竪穴住居-296-297	土師器	甕	15.8		(4.5)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7181	竪穴住居-296-297	土師器	甕	15.4		(5.6)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	櫛描沈線 9条
7182	竪穴住居-296-297	土師器	甕	14.4		(4.0)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7183	竪穴住居-296・297	土師器	甕	12.7		(5.2)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
7184	竪穴住居-296・297	土師器	甕	12.5		(5.9)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
7185	竪穴住居-296・297	土師器	甕	14.0		(3.3)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
7186	竪穴住居-296・297	土師器	甕			(2.3)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
7187	竪穴住居-296・297	土師器	甕			(2.9)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
7188	竪穴住居-296・297	土師器	高杯		9.2	(5.1)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	透し孔3
7189	竪穴住居-296・297	土師器	高杯			(6.1)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	
7190	竪穴住居-296・297	土師器	高杯			(6.9)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	精良	良好	
7191	竪穴住居-296・297	土師器	高杯		13.0	(2.9)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	精良	良好	透し孔3
7192	竪穴住居-296・297	土師器	高杯	13.4		(5.0)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	精良	良好	
7193	竪穴住居-296・297	土師器	高杯			(7.8)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	透し孔4
7194	竪穴住居-296・297	土師器	高杯		8.7	(5.8)	褐色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔3
7195	竪穴住居-296・297	土師器	高杯	19.6		(5.4)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	精良	良好	
7196	竪穴住居-296・297	土師器	高杯	22.8		(5.6)	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	
7197	竪穴住居-296・297	土師器	高杯		12.8	(6.5)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	精良	良好	透し孔3
7198	竪穴住居-296・297	土師器	高杯		12.8	(8.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	精良	良好	透し孔3
7199	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	11.8		6.6	鈍い黄褐色(10YR7/2)	礫	良好	
7200	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	14.2		(4.3)	褐色(5YR6/6)	精良	良好	
7201	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	15.8		(5.1)	褐色(5YR6/6)	精良	良好	
7202	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	15.6		(4.8)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
7203	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	15.6		(4.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7204	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	12.3		5.4	灰黄褐色(10YR6/2)	礫	良好	
7205	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	13.9		5.7	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7206	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	16.8		(4.8)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	
7207	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	15.2		6.1	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	ススB
7208	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	10.8		(3.7)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
7209	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	15.0		(4.6)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7210	竪穴住居-296・297	土師器	鉢			(4.7)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
7211	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	8.0	3.4	6.8	鈍い黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	
7212	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	9.4		(5.0)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7213	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	10.1		(5.3)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	精良	良好	
7214	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	10.6		(5.0)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
7215	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	11.8		(5.3)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
7216	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	11.6		(6.5)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
7217	竪穴住居-296・297	土師器	鉢	11.4		(4.1)	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
7218	竪穴住居-296・297	土師器	鉢			(10.5)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7219	竪穴住居-296・297	土師器	台付鉢	16.5	7.8	7.8	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	
7220	竪穴住居-296・297	土師器	台付鉢			(3.7)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7221	竪穴住居-296・297	土師器	器台	9.2		(1.9)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
7222	竪穴住居-296・297	土師器	器台	9.0		(6.8)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
7223	竪穴住居-296・297	土師器	器台?	12.2		(4.2)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
7224	竪穴住居-296・297	土師器	器台		11.1	(6.4)	褐色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
7225	竪穴住居-296・297	土師器	手捏土器	3.9		1.5	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7226	竪穴住居-296・297	土師器	手捏土器	3.0		(5.1)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7227	竪穴住居-296・297	土師器	製塩土器		4.2	(3.6)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好	
7228	竪穴住居-296・297	土師器	製塩土器		4.7	(2.2)	鈍い褐色(5YR6/4)	礫	良好	
7229	竪穴住居-296・297	土師器	製塩土器		4.8	(2.3)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	粗砂	良好	
7230	竪穴住居-296・297	土師器	製塩土器		4.4	(2.2)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	礫	良好	
7231	竪穴住居-296・297	土師器	製塩土器		4.4	(2.5)	鈍い褐色(2.5YR6/3)	細砂	良好	
7232	竪穴住居-296・297	土師器	製塩土器		5.2	(2.0)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	粗砂	良好	
7233	竪穴住居-296・297	土師器	製塩土器		4.8	(2.6)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7234	竪穴住居-297	土師器	壺	13.5		18.8	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	ススB
7235	竪穴住居-297	土師器	甕	14.3		20.5	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号B2、ススA
7236	竪穴住居-297	土師器	甕	16.2		(2.8)	浅黄褐色(2.5Y7/3)	細砂	良好	櫛描沈線5条
7237	竪穴住居-297	土師器	甕	14.4		(5.1)	明黄褐色(10YR7/6)	細砂	良好	
7238	竪穴住居-297	土師器	甕	14.6		(5.1)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
7239	竪穴住居-297	土師器	甕	15.5		(2.6)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7240	竪穴住居-297	土師器	高杯	24.8		(5.4)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	
7241	竪穴住居-297	土師器	高杯		11.4	(7.5)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔3
7242	竪穴住居-297	土師器	高杯		17.6	(6.9)	褐色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔3
7243	竪穴住居-297	土師器	高杯		17.7	(7.0)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔3
7244	竪穴住居-297	土師器	鉢	13.6		(6.3)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7245	竪穴住居-297	土師器	鉢	12.2		(5.3)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
7246	竪穴住居-297	土師器	鉢	14.0		(5.0)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7247	竪穴住居-297	土師器	鉢	9.8		(4.5)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
7248	竪穴住居-297	土師器	手捏土器	9.3		2.7	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	
7249	竪穴住居-297	土師器	蔽形器台	20.1	17.0	13.2	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7250	竪穴住居-297	土師器	製塩土器		4.6	(1.6)	淡赤褐色(2.5YR7/3)	礫	良好	
7251	竪穴住居-297	土師器	製塩土器		4.5	(2.4)	鈍い褐色(5YR7/3)	細砂	良好	
7252	竪穴住居-298	土師器	壺	12.2		(3.5)	褐色(2.5YR6/6)	精良	良好	内外面丹塗り
7253	竪穴住居-298	土師器	壺	16.8		(5.9)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7254	竪穴住居-298	土師器	壺	15.2		35.3	鈍い黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	黒斑C
7255	竪穴住居-298	土師器	壺	18.0		(6.9)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7256	竪穴住居-298	土師器	碗			(3.2)	鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	
7257	竪穴住居-298	土師器	甕	11.8		(3.0)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススA

土器観察表

挿入 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7258	竪穴住居-298	土師器	甕	15.2		(2.6)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7259	竪穴住居-298	土師器	高杯	13.2		(5.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
7260	竪穴住居-298	土師器	高杯			(4.9)	橙色(2.5YR6/6)	精良	良好	
7261	竪穴住居-298	土師器	高杯			(7.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7262	竪穴住居-298	土師器	鉢	10.6		(4.9)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7263	竪穴住居-298	土師器	鉢	12.2		(2.7)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7264	竪穴住居-299	土師器	壺	14.8		(5.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7265	竪穴住居-299	土師器	甕	14.2		(24.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、スズB
7266	竪穴住居-299	土師器	甕	15.6		26.6	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線9条、スズC
7267	竪穴住居-299	土師器	甕	17.2		(3.9)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7268	竪穴住居-299	土師器	高杯	18.6	13.0	13.4	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔3、黒斑C
7269	竪穴住居-299	土師器	高杯			(5.7)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7270	竪穴住居-299	土師器	高杯		18.4	(5.3)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	透し孔3/〇
7271	竪穴住居-299	土師器	鉢	9.8		(6.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
7272	竪穴住居-299	土師器	鉢	12.6		9.4	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	朱塗か、黒斑A B
7273	竪穴住居-299	土師器	鉢	37.6		(18.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7274	竪穴住居-299	土師器	器台		11.6	(3.8)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	透し孔
7275	竪穴住居-299	土師器	手捏土器			(23.1)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	
7276	竪穴住居-299	土師器	製塩土器		5.5	(1.6)	鈍い橙色(5YR6/4)	粗砂	良好	
7277	竪穴住居-299	土師器	製塩土器		5.2	(1.8)	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
7278	竪穴住居-299	土師器	製塩土器		5.3	(2.3)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	粗砂	良好	
7279	竪穴住居-299	土師器	製塩土器		5.6	(2.6)	灰赤色(2.5YR6/2)	粗砂	良好	
7280	竪穴住居-300	土師器	壺	22.2		(7.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7281	竪穴住居-300	土師器	壺	23.5		(11.0)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7282	竪穴住居-300	土師器	壺	21.4		(15.7)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
7283	竪穴住居-300	土師器	壺	18.3		(6.5)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
7284	竪穴住居-300	土師器	甕	15.2		(16.1)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、刺突記号A3
7285	竪穴住居-300	土師器	甕	13.9		(13.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A1
7286	竪穴住居-300	土師器	甕	22.1		(22.7)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線11条、スズC
7287	竪穴住居-300	土師器	甕	12.5		(10.8)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7288	竪穴住居-300	土師器	甕	13.3		(5.3)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7289	竪穴住居-300	土師器	甕	15.1		(5.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7290	竪穴住居-300	土師器	甕	13.7		(20.4)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条?、スズB
7291	竪穴住居-300	土師器	甕	13.6		(6.6)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線5条
7292	竪穴住居-300	土師器	甕	(12.4)		(13.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7293	竪穴住居-300	土師器	甕	16.4		(6.1)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7294	竪穴住居-300	土師器	高杯	(12.6)		(6.0)	浅黄褐色(10YR8/3)	精良	良好	
7295	竪穴住居-300	土師器	高杯		17.0	(6.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	不良	透し孔4個?
7296	竪穴住居-300	土師器	高杯	18.8		(11.6)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	精良	良好	黒斑A
7297	竪穴住居-300	土師器	高杯			(7.7)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
7298	竪穴住居-300	土師器	高杯		12.6	(8.6)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	透し孔3、黒斑C
7299	竪穴住居-300	土師器	高杯		14.4	(8.6)	黄褐色(7.5YR8/6)	精良	良好	透し孔4
7300	竪穴住居-300	土師器	小形壺	7.7		(8.5)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	黒斑有り
7301	竪穴住居-300	土師器	鉢	11.4		(5.9)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
7302	竪穴住居-300	土師器	鉢	13.8		18.5	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7303	竪穴住居-300	土師器	鉢	16.5		(4.7)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7304	竪穴住居-300	土師器	鉢	13.8		(3.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7305	竪穴住居-300	土師器	鉢	14.6		4.8	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	スズC
7306	竪穴住居-300	土師器	鉢	14.2		(4.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	口縁部に歪み有り
7307	竪穴住居-300	土師器	鉢	17.2		6.4	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	スズC
7308	竪穴住居-300	土師器	鉢	33.2		(21.4)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	スズB
7309	竪穴住居-300	土師器	鉢	38.4		(12.6)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7310	竪穴住居-300	土師器	鼓形器台	11.6		(3.2)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	
7311	竪穴住居-300	土師器	器台		11.8	(8.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	透し孔4
7312	竪穴住居-300	土師器	手捏土器	3.7		1.6	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	完形、歪み有り
7313	竪穴住居-300	土師器	手捏土器	7.4		3.3	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	完形
7314	竪穴住居-300	土師器	製塩土器		4.9	(1.3)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A B C
7315	竪穴住居-300	土師器	製塩土器		4.4	(2.1)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
7316	竪穴住居-300	土師器	製塩土器		5.2	(2.0)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	完形
7317	竪穴住居-301	土師器	壺	11.6	5.7	28.6	橙色(5YR7/8)	細砂	良好	黒斑C
7318	竪穴住居-301	土師器	壺	(17.4)		(5.1)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	口縁部波状文、円形群文全体で15個か?
7319	竪穴住居-301	土師器	甕	14.0		21.4	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条、刺突記号A2
7320	竪穴住居-301	土師器	甕	14.4		24.0	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線11条、刺突記号A2、スズB'
7321	竪穴住居-301	土師器	甕	13.2	4.0	18.5	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A1
7322	竪穴住居-301	土師器	甕	12.2		20.8	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	櫛描沈線6条、スズC
7323	竪穴住居-301	土師器	甕			(10.0)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7324	竪穴住居-301	土師器	甕			(3.9)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	櫛描沈線8条?、黒斑A
7325	竪穴住居-301	土師器	高杯	19.9		(8.0)	黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	黒斑A
7326	竪穴住居-301	土師器	高杯			(4.3)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔1/〇
7327	竪穴住居-301	土師器	高杯	19.1		6.9	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
7328	竪穴住居-301	土師器	高杯			(7.7)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔1/〇
7329	竪穴住居-301	土師器	鉢	17.0		(4.7)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
7330	竪穴住居-301	土師器	鉢	(15.9)		(4.7)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
7331	竪穴住居-301	土師器	手捏土器	3.0		(6.6)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7332	竪穴住居-301	土師器	手捏土器			3.1	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7333	竪穴住居-302	土師器	壺			(5.2)	浅黄橙色(7.5YR8/6)	粗砂	良好	
7334	竪穴住居-302	土師器	壺	14.0		(8.5)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7335	竪穴住居-302	土師器	壺			(8.4)	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	黒斑B
7336	竪穴住居-302	土師器	甕	(13.6)		(4.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7337	竪穴住居-302	土師器	甕			(3.2)	鈍い褐色(7.5YR5/4)	細砂	良好	
7338	竪穴住居-302	土師器	甕	16.0		(3.9)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
7339	竪穴住居-302	土師器	甕			(6.2)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	ススA
7340	竪穴住居-302	土師器	甕	19.1		(20.6)	明赤褐色(5YR5/8)	細砂	良好	ススB
7341	竪穴住居-302	土師器	甕			(3.4)	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7342	竪穴住居-302	土師器	甕	14.6		(5.3)	鈍い橙色(5YR6/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7343	竪穴住居-302	土師器	甕			(6.7)	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、刺突記号A1?
7344	竪穴住居-302	土師器	高杯	12.5		7.8	鈍い橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
7345	竪穴住居-302	土師器	高杯			(5.8)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
7346	竪穴住居-302	土師器	高杯			(4.5)	橙色(5YR6/8)	精良	良好	
7347	竪穴住居-302	土師器	高杯			(7.9)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	透し孔、単位・方向不明
7348	竪穴住居-302	土師器	高杯	22.6	17.7	16.7	橙色(5YR7/8)	精良	良好	透し孔3、杯部沈線、完形
7349	竪穴住居-302	土師器	高杯		(20.4)	(2.8)	褐色(5YR6/8)	精良	良好	
7350	竪穴住居-302	土師器	鉢			6.1	淡黄色(2.5YR8/8)	細砂	良好	黒斑AB
7351	竪穴住居-302	土師器	器台			(2.7)	褐色(5YR6/8)	精良	良好	櫛描沈線条数不明
7352	竪穴住居-302	土師器	器台			(5.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7353	竪穴住居-303	土師器	壺			(6.6)	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂	良好	内面ススA
7354	竪穴住居-303	土師器	壺	21.2		(6.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7355	竪穴住居-303	土師器	壺	21.4		(7.5)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
7356	竪穴住居-303	土師器	甕			(4.8)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7357	竪穴住居-303	土師器	甕	14.4		(4.9)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7358	竪穴住居-303	土師器	甕			(3.5)	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7359	竪穴住居-303	土師器	甕	(15.6)		(6.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7360	竪穴住居-303	土師器	甕	13.2		(14.5)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号A3
7361	竪穴住居-303	土師器	甕	13.9		23.2	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススB
7362	竪穴住居-303	土師器	甕			(27.0)	褐色(7.5YR6/6)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
7363	竪穴住居-303	土師器	甕	14.3		25.0	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条?、口縁歪み
7364	竪穴住居-303	土師器	甕	14.1		21.5	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線7条、被熱
7365	竪穴住居-303	土師器	甕			(4.9)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	ススA
7366	竪穴住居-303	土師器	高杯			(5.0)	褐色(5YR6/8)	精良	良好	
7367	竪穴住居-303	土師器	高杯		16.3	(2.8)	褐色(5YR6/8)	精良	良好	透し孔4? 一部被熱?
7368	竪穴住居-303	土師器	高杯		14.0	(2.9)	黄褐色(7.5YR7/8)	精良	良好	透し孔個数不明
7369	竪穴住居-303	土師器	鉢			(4.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7370	竪穴住居-303	土師器	鉢	10.2		(4.7)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
7371	竪穴住居-303	土師器	小形壺			(5.6)	褐色(5YR7/8)	精良	良好	
7372	竪穴住居-303	土師器	製塩土器		4.4	(2.6)	褐色(5YR7/8)	細砂	良好	
7373	竪穴住居-304	土師器	壺	18.5		(11.2)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7374	竪穴住居-304	土師器	壺	19.2		(6.3)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7375	竪穴住居-304	土師器	壺	18.4		(6.5)	淡黄色(2.5YR8/3)	精良	良好	
7376	竪穴住居-304	土師器	甕	16.2		(9.2)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7377	竪穴住居-304	土師器	甕	15.0		(8.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7378	竪穴住居-304	土師器	甕			(2.5)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7379	竪穴住居-304	土師器	甕	13.2		(16.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
7380	竪穴住居-304	土師器	甕	12.2		(9.0)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明、ススA
7381	竪穴住居-304	土師器	甕			(3.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6~7条
7382	竪穴住居-304	土師器	甕	14.3		10.6	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、刺突記号B2、ススB
7383	竪穴住居-304	土師器	高杯?			(4.5)	褐色(5YR6/8)	精良	良好	
7384	竪穴住居-304	土師器	高杯			(9.4)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔4?
7385	竪穴住居-304	土師器	高杯			(2.9)	褐色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔1/〇
7386	竪穴住居-304	土師器	高杯	21.2		(14.0)	褐色(5YR6/8)	精良	良好	
7387	竪穴住居-304	土師器	高杯	19.6	13.6	14.3	褐色(5YR7/8)	精良	良好	透し孔3、黒斑A
7388	竪穴住居-304	土師器	鉢	10.6		5.1	鈍い褐色(5YR7/3)	精良	良好	ススA
7389	竪穴住居-304	土師器	椀	12.2		5.0	褐色(5YR7/8)	精良	良好	
7390	竪穴住居-304	土師器	鉢	12.3		(5.3)	褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
7391	竪穴住居-304	土師器	鉢	14.4		6.0	灰白色(10YR8/1)	精良	良好	内面櫛状工具による調整、ススC
7392	竪穴住居-304	土師器	鉢	12.4		6.3	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	ススB
7393	竪穴住居-304	土師器	器台		(11.4)	(7.3)	褐色(5YR6/8)	精良	良好	透し孔1/〇
7394	竪穴住居-304	土師器	製塩土器		5.0	3.2	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	完形
7395	竪穴住居-306	土師器	鉢	9.9		6.0	鈍い褐色(7.5YR5/4)	粗砂	良好	畿内系土器、黒斑C
7396	竪穴住居-306	土師器	鉢	15.0		6.0	鈍い褐色(7.5YR5/3)	礫	良好	
7397	竪穴住居-306	土師器	鉢	14.0		4.9	褐色(5YR7/6)	精良	良好	
7398	竪穴住居-306	土師器	鉢	15.0		5.0	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	黒斑AB
7399	竪穴住居-306	土師器	鉢	13.6		3.7	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
7400	竪穴住居-306	土師器	鉢	10.7		3.1	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	完形、内面黒斑C
7401	竪穴住居-306	土師器	鉢	10.0	7.3	3.1	褐色(7.5YR5/1)	粗砂	良好	完形、歪み有り
7402	竪穴住居-306	土師器	高杯			(3.9)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3個?
7403	竪穴住居-306	土師器	器台	10.1		(4.5)	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂	良好	
7404	竪穴住居-306	土師器	器台	10.0		7.0	褐色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	透し孔4
7405	竪穴住居-306	土師器	製塩土器	10.1	5.0	16.4	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	黒斑B
7406	竪穴住居-307	土師器	甕	14.4		(4.3)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7407	竪穴住居-307	土師器	高杯	12.5	16.8	11.8	褐色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔3

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7408	竪穴住居-307	土師器	鉢	14.8		(6.0)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7409	竪穴住居-307	土師器	台付鉢	9.2	4.6	3.7	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
7410	竪穴住居-308	土師器	壺	19.8		21.0	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	
7411	竪穴住居-308	土師器	鉢	15.4		7.0	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	完形、黒斑C
7412	竪穴住居-308	土師器	鉢	12.0		8.5	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	黒斑BC
7413	竪穴住居-309	土師器	甕	14.5		8.2	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7414	竪穴住居-309	土師器	甕	15.1		11.1	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条?
7415	竪穴住居-309	土師器	高杯	17.1		8.2	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
7416	竪穴住居-309	土師器	鉢	11.7		4.5	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
7417	竪穴住居-309	土師器	鉢	10.4		6.8	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
7418	竪穴住居-310	土師器	壺	20.0		(4.8)	明赤褐色(2.5Y5/6)	細砂	良好	外面に丹塗り、黒斑B・C
7419	竪穴住居-310	土師器	壺	20.8	7.0	37.0	明赤褐色(2.5YR5/8)	粗砂	良好	外面全体丹塗り、黒斑C
7420	竪穴住居-310	土師器	壺	17.6		37.4	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	スC
7421	竪穴住居-310	土師器	壺	(16.4)		(4.2)	浅黄色(10YR8/4)	細砂	良好	内外面に丹塗り
7422	竪穴住居-310	土師器	壺	15.5		15.8	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	黒斑A
7423	竪穴住居-310	土師器	壺	(23.3)		(6.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	口縁部わずかにスス
7424	竪穴住居-310	土師器	壺	20.5		(6.5)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
7425	竪穴住居-310	土師器	壺	20.7		(6.7)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
7426	竪穴住居-310	土師器	壺	20.0		(18.9)	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	
7427	竪穴住居-310	土師器	甕	25.4		(11.4)	灰褐色(7.5YR5/2)	粗砂	良好	
7428	竪穴住居-310	土師器	壺	21.4		(8.7)	橙色(5YR6/6)	礫	良好	沈線1条
7429	竪穴住居-310	土師器	壺	17.5		27.5	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	黒斑B・C
7430	竪穴住居-310	土師器	壺	17.0		(9.8)	橙色(5YR6/8)	粗砂	良好	
7431	竪穴住居-310	土師器	壺	18.0		(6.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	礫	良好	
7432	竪穴住居-310	土師器	壺		6.8	(16.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7433	竪穴住居-310	土師器	甕	13.4		(11.0)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	粗砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
7434	竪穴住居-310	土師器	甕	12.0		(17.0)	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	刺突記号B2、ススB
7435	竪穴住居-310	土師器	甕	14.3		(13.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条、ススB
7436	竪穴住居-310	土師器	甕	(13.2)		(2.5)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7437	竪穴住居-310	土師器	甕	13.3		(3.6)	鈍い黄橙色(10YR7/8)	細砂	良好	櫛描沈線7条?
7438	竪穴住居-310	土師器	甕	(12.7)		(2.6)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	櫛描沈線5条
7439	竪穴住居-310	土師器	甕	12.4		(2.9)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線4条?
7440	竪穴住居-310	土師器	甕			(2.9)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7441	竪穴住居-310	土師器	甕			(3.1)	鈍い黄橙色(10YR6/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、黒斑A
7442	竪穴住居-310	土師器	甕	14.8		(3.1)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7443	竪穴住居-310	土師器	甕	(15.4)		(2.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7444	竪穴住居-310	土師器	甕	13.2		(2.8)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線6~7条?
7445	竪穴住居-310	土師器	甕	(13.3)		(6.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7446	竪穴住居-310	土師器	甕	15.3		(3.2)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7447	竪穴住居-310	土師器	甕	(17.4)		(3.0)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条?
7448	竪穴住居-310	土師器	甕	16.5		(4.0)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7449	竪穴住居-310	土師器	甕			(7.0)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7450	竪穴住居-310	土師器	甕	(15.6)		(5.0)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7451	竪穴住居-310	土師器	甕			(3.9)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7452	竪穴住居-310	土師器	甕	14.5		(16.2)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	粗砂	良好	刺突記号A1、ススB
7453	竪穴住居-310	土師器	甕	11.5		(6.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線4条
7454	竪穴住居-310	土師器	甕	14.0		(7.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	刺突記号A2
7455	竪穴住居-310	土師器	甕	15.2		(10.9)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	櫛描沈線8条、刺突記号B3
7456	竪穴住居-310	土師器	甕			3.3	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	良好	櫛描沈線10条
7457	竪穴住居-310	土師器	甕			(2.4)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
7458	竪穴住居-310	土師器	甕			(2.1)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	
7459	竪穴住居-310	土師器	甕	14.4		21.1	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	ススB
7460	竪穴住居-310	土師器	甕	11.2		(4.3)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
7461	竪穴住居-310	土師器	甕	13.8		(3.6)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	
7462	竪穴住居-310	土師器	高杯	(18.7)		(2.2)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑A
7463	竪穴住居-310	土師器	高杯			(5.9)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
7464	竪穴住居-310	土師器	高杯	18.1	(13.2)	13.9	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	良好	透し孔3、黒斑A
7465	竪穴住居-310	土師器	高杯	19.4		13.3	橙色(5YR6/6)	精良	良好	透し孔4、黒斑AC
7466	竪穴住居-310	土師器	高杯	19.3		(5.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	黒斑A
7467	竪穴住居-310	土師器	高杯	18.8	12.7	13.1	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	透し孔3、黒斑A
7468	竪穴住居-310	土師器	高杯			(6.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	透し孔4?
7469	竪穴住居-310	土師器	高杯	13.0		(6.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	透し孔4
7470	竪穴住居-310	土師器	高杯			(6.2)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
7471	竪穴住居-310	土師器	高杯			(6.7)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7472	竪穴住居-310	土師器	高杯		13.2	(2.8)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
7473	竪穴住居-310	土師器	高杯	13.0	10.0	9.7	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔4
7474	竪穴住居-310	土師器	高杯		9.7	(4.7)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	透し孔3
7475	竪穴住居-310	土師器	高杯	19.2		(6.9)	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	良好	
7476	竪穴住居-310	土師器	高杯	13.4		(6.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
7477	竪穴住居-310	土師器	高杯	14.6	16.8	10.2	褐色(5YR7/8)	精良	良好	透し孔3
7478	竪穴住居-310	土師器	高杯	14.0	17.6	11.0	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔3
7479	竪穴住居-310	土師器	碗	13.8		(5.1)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
7480	竪穴住居-310	土師器	鉢	14.0		(3.2)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	黒斑A
7481	竪穴住居-310	土師器	鉢	15.4		(3.5)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7482	竪穴住居-310	土師器	鉢	16.3		(5.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿圖 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など	
				口径	底径	器高					
7483	竪穴住居-310	土師器	碗		14.9	(5.5)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好		
7484	竪穴住居-310	土師器	碗		14.0	(4.1)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好		
7485	竪穴住居-310	土師器	鉢		15.0	5.8	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好		
7486	竪穴住居-310	土師器	碗	(13.4)		(3.4)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好		
7487	竪穴住居-310	土師器	碗		15.4	5.8	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	良好		
7488	竪穴住居-310	土師器	碗			(4.4)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好		
7489	竪穴住居-310	土師器	杯		16.4	5.1	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好		
7490	竪穴住居-310	土師器	鉢		15.0	(3.5)	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	黒斑C	
7491	竪穴住居-310	土師器	低脚杯			6.5	(5.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
7492	竪穴住居-310	土師器	鉢		10.2	5.7	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好		
7493	竪穴住居-310	土師器	鉢		9.4	(5.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好		
7494	竪穴住居-310	土師器	鉢	(33.6)		(9.3)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好		
7495	竪穴住居-310	土師器	鉢		34.0	22.1	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	黒斑C	
7496	竪穴住居-310	土師器	器台	(8.4)	9.3	8.5	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3?4?	
7497	竪穴住居-310	土師器	器台		7.4	11.5	7.8	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔4
7498	竪穴住居-310	土師器	器台		11.7	(6.8)	橙色(5YR6/8)	精良	良好	透し孔4	
7499	竪穴住居-310	土師器	製塩土器			4.6	(3.8)	鈍い橙色(5YR6/3)	細砂	良好	
7500	竪穴住居-310	土師器	製塩土器			5.2	(1.8)	鈍い橙色(2.5YR6/3)	細砂	良好	
7501	竪穴住居-310	土師器	製塩土器			4.9	(2.7)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	
7502	竪穴住居-310	土師器	製塩土器			4.5	(1.7)	鈍い赤褐色(10R6/4)	細砂	良好	
7503	竪穴住居-310	土師器	製塩土器			4.4	(2.8)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7504	竪穴住居-310	土師器	製塩土器			(1.7)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好		
7505	竪穴住居-311	土師器	甕		12.0	(11.9)	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂	良好	櫛描沈線7条	
7506	竪穴住居-311	土師器	甕			3.9	(8.6)	褐灰色(7.5YR5/2)	細砂	良好	
7507	竪穴住居-311	土師器	甕				(20.0)	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂	良好	
7508	竪穴住居-311	土師器	甕		15.0	(23.6)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	黒斑B	
7509	竪穴住居-311	土師器	甕		12.3	(21.0)	鈍黄橙色(10YR6/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条	
7510	竪穴住居-311	土師器	甕		15.2	(8.6)	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	良好		
7511	竪穴住居-311	土師器	甕	(16.2)		(9.0)	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	良好	櫛描沈線8条	
7512	竪穴住居-311	土師器	甕		13.3	(13.9)	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条	
7513	竪穴住居-311	土師器	甕		16.5	(6.0)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好		
7514	竪穴住居-311	土師器	白付甕	(16.5)		(4.4)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	東海系土器	
7515	竪穴住居-311	土師器	高杯		20.6	(7.1)	橙色(5YR6/6)	精良	良好		
7516	竪穴住居-311	土師器	高杯			(7.3)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好		
7517	竪穴住居-311	土師器	高杯			15.3	(7.6)	橙色(2.5YR7/8)	精良	良好	透し孔2/3、黒斑C
7518	竪穴住居-311	土師器	甕		20.1	(12.6)	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好		
7519	竪穴住居-311	土師器	脚付碗		12.0	5.1	鈍褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好		
7520	竪穴住居-311	土師器	器台		8.6	11.1	8.5	淡褐色(5YR8/3)	粗砂、砂礫	良好	完形、透し孔4
7521	竪穴住居-312	土師器	壺		19.0	(15.3)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	頸部に輪積み痕	
7522	竪穴住居-312	土師器	甕		15.8	(3.6)	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好		
7523	竪穴住居-312	土師器	甕		14.8	(6.1)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	良好	タタキメ	
7524	竪穴住居-312	土師器	甕		14.2	4.5	19.9	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂	良好	タタキメ、黒斑C
7525	竪穴住居-312	土師器	甕		13.0	2.4	21.8	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	タタキメ、ススB'
7526	竪穴住居-312	土師器	高杯		20.1	(8.0)	橙色(5YR8/3)	精良	良好		
7527	竪穴住居-312	土師器	高杯		20.2	13.2	14.7	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3、黒斑A・C
7528	竪穴住居-312	土師器	高杯		18.8	(6.0)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好		
7529	竪穴住居-312	土師器	高杯			14.1	(8.0)	淡褐色(5YR8/3)	精良	良好	透し孔4
7530	竪穴住居-312	土師器	鉢		8.7	5.9	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好		
7531	竪穴住居-312	土師器	器台		9.5	9.6	8.9	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	透し孔4
7532	竪穴住居-312	土師器	器台			11.6	(7.0)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	透し孔4
7533	掘立柱建物-53	土師器	壺			(5.6)	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好		
7534	掘立柱建物-53	土師器	甕			(3.7)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好		
7535	掘立柱建物-53	土師器	甕			(3.5)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好		
7536	掘立柱建物-53	土師器	埴	(10.0)		(6.9)	黒色(10YR1.7/1)	細砂	良好		
7537	掘立柱建物-54	土師器	高杯			(4.0)	橙色(2.5YR7/8)	精良	良好		
7538	土器箱-17	土師器	壺			37.0	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	良好	刺突記号C3、黒斑C	
7539	土器箱-17	土師器	鉢		22.0	9.3	12.5	橙色(5YR6/8)	粗砂	良好	完形
7540	土器箱-17	土師器	壺		16.7	9.3	33.8	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	黒斑C
7541	土壙-407	土師器	甕		13.4	4.6	(24.2)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	ススB
7542	土壙-407	土師器	高杯		19.2	(12.2)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	透し孔2/4、黒斑A	
7543	土壙-407	土師器	高杯			13.6	(2.9)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	透し孔4
7544	土壙-408	土師器	壺		17.0	(5.4)	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好		
7545	土壙-409	土師器	甕			(2.7)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	沈線7条	
7546	土壙-409	土師器	甕	(17.8)		(3.0)	灰オリーブ色(7.5Y6/2)	細砂	良好		
7547	土壙-409	土師器	埴	(10.8)		(4.2)	橙色(5YR7/6)	精良	良好		
7548	土壙-409	土師器	鉢		8.4	(4.1)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B	
7549	土壙-409	土師器	製塩土器			4.2	(2.4)	鈍い赤褐色(7.5YR5/3)	粗砂	良好	
7550	土壙-410	土師器	甕			(2.7)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線10条	
7551	土壙-411	土師器	甕			(14.9)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	焼成後に穿孔	
7552	土壙-412	土師器	甕		11.5	(9.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	スス、被熱	
7553	土壙-412	土師器	甕		12.2	(14.0)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	スス	
7554	土壙-413	土師器	甕			(2.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好		
7555	土壙-413	土師器	甕			(1.7)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好		
7556	土壙-413	土師器	甕			(2.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好		
7557	土壙-413	土師器	甕			(3.3)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好		

土器観察表

押図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7558	土壇-414	土師器	壺			(7.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	礫	良好	
7559	土壇-414	土師器	甕	14.9		(7.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	
7560	土壇-414	土師器	高杯			(6.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
7561	土壇-415	土師器	壺	(10.8)		(3.0)	橙色(5YR7/8)	細砂	良好	
7562	土壇-416	土師器	甕	16.8		(3.3)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7563	土壇-416	土師器	高杯			(5.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
7564	土壇-416	土師器	鉢?			(4.2)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	
7565	土壇-418	土師器	高杯	17.0		(3.8)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	黒斑A
7566	土壇-420	土師器	甕	14.9		(4.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7567	土壇-421	土師器	甕	15.8		(2.5)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7568	土壇-423	土師器	甕	14.4		(6.5)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7569	土壇-423	土師器	甕	14.6		(4.9)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7570	土壇-423	土師器	鼓形器台	19.0		(7.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7571	土壇-423	土師器	製塩土器		4.5	(2.0)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	粗砂	良好	
7572	土壇-426	土師器	壺	18.5		(6.2)	淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	黒斑A
7573	土壇-426	土師器	壺	18.7	7.2	28.3	明褐色(5YR7/2)	礫	良好	
7574	土壇-426	土師器	甕	13.2		(6.2)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
7575	土壇-426	土師器	甕	15.3		(6.0)	鈍い黄褐色(10YR5/3)	細砂	良好	
7576	土壇-426	土師器	甕	14.4		(7.9)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7577	土壇-426	土師器	甕	15.7		(4.4)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7578	土壇-426	土師器	甕	13.3		(19.7)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線6条、刺突記号A2、
7579	土壇-426	土師器	甕	12.7		(15.5)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススC
7580	土壇-426	土師器	甕	12.2		(13.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条、ススB
7581	土壇-426	土師器	甕	12.8		(12.7)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
7582	土壇-426	土師器	甕	15.4		(5.9)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7583	土壇-426	土師器	高杯	19.6		(5.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7584	土壇-426	土師器	高杯	21.0		(11.0)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	杯部と底部で粘土質が異なる。黒斑A
7585	土壇-426	土師器	高杯	22.6	13.4	14.7	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	透し孔4、黒斑A
7586	土壇-426	土師器	高杯		14.6	(3.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	透し孔2/4、間隔不均等
7587	土壇-426	土師器	鉢	9.8		(6.0)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
7588	土壇-426	土師器	鉢	11.7		(4.1)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7589	土壇-440	土師器	壺	14.2		(3.8)	褐色(5YR7/8)	細砂	良好	
7590	土壇-440	土師器	壺	12.6		(17.2)	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂	良好	ススB
7591	土壇-440	土師器	壺			(12.5)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
7592	土壇-440	土師器	壺	21.0		(9.5)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑A
7593	土壇-440	土師器	壺	14.9		(6.0)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
7594	土壇-440	土師器	壺	14.8		(4.1)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7595	土壇-440	土師器	壺	15.6		(4.1)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7596	土壇-440	土師器	壺	14.8		(9.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	礫	良好	
7597	土壇-440	土師器	甕	13.2		(5.8)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	黒斑A
7598	土壇-440	土師器	甕	10.2		(12.7)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	ススA
7599	土壇-440	土師器	甕	12.8		16.4	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	ほぼ完形
7600	土壇-440	土師器	甕	13.0		16.8	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	ススB、黒斑B
7601	土壇-440	土師器	壺			(1.9)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	口縁部内面波状文
7602	土壇-440	土師器	甕	13.0		(3.0)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
7603	土壇-440	土師器	甕	14.2		(4.5)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	
7604	土壇-440	土師器	甕	14.4		(3.8)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7605	土壇-440	土師器	甕	17.6		(3.5)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7606	土壇-440	土師器	甕	15.6		(5.2)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	沈線3条
7607	土壇-440	土師器	甕	12.4		(6.3)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	平行直線文、波状文
7608	土壇-440	土師器	甕	15.7		(12.2)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	周部平行直線文(4条)、波状文(4条)
7609	土壇-440	土師器	甕	13.5		(5.3)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂、礫	良好	タタキ
7610	土壇-440	土師器	甕	14.2		(14.7)	灰白色(5YR8/2)	細砂	良好	黒斑BC
7611	土壇-440	土師器	甕	15.6		(6.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
7612	土壇-440	土師器	甕	14.9		(9.9)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
7613	土壇-440	土師器	甕	16.0		23.5	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	ススA、黒斑B・C
7614	土壇-440	土師器	甕	12.8		(10.8)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線6条、ススB'
7615	土壇-440	土師器	甕	12.8		(14.9)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、黒斑B
7616	土壇-440	土師器	甕	12.8		(12.1)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条、黒斑B
7617	土壇-440	土師器	甕	15.0		(10.8)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	櫛描沈線7条、ススB'
7618	土壇-440	土師器	甕	15.0		(9.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、黒斑A
7619	土壇-440	土師器	甕	15.8		(7.7)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線5条
7620	土壇-440	土師器	甕	12.0		(13.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	ススB
7621	土壇-440	土師器	甕	12.3		(9.6)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好	櫛描沈線8条、刺突記号B2
7622	土壇-440	土師器	甕	12.5		(10.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7623	土壇-440	土師器	甕	13.6		(17.5)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	櫛描沈線6条、ススB
7624	土壇-440	土師器	甕	15.2		(17.0)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	櫛描沈線12条、黒斑B
7625	土壇-440	土師器	甕	13.8		(14.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	櫛描沈線7条、ススB
7626	土壇-440	土師器	甕	16.6		(10.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7627	土壇-440	土師器	高杯	20.8		(6.4)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑A
7628	土壇-440	土師器	高杯	20.2		(6.4)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7629	土壇-440	土師器	高杯	21.8		(7.2)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
7630	土壇-440	土師器	高杯	21.1		(12.3)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	透し孔1/O
7631	土壇-440	土師器	高杯	20.0		(12.3)	鈍い褐色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
7632	土壇-440	土師器	高杯	13.8		(11.8)	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	透し孔2/4、黒斑A

遺物観察表

土器観察表

挿入 番号	掲載遺構名	種別	器種	、 質量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7633	土壇-440	土師器	高杯		13.7	(8.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	透し孔4
7634	土壇-440	土師器	高杯	20.6		(7.5)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
7635	土壇-440	土師器	高杯	20.0		(6.6)	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	
7636	土壇-440	土師器	高杯	20.0		(12.6)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	透し孔、黒斑A
7637	土壇-440	土師器	高杯	18.0	14.2	15.4	鈍い橙色(5YR6/3)	精良	良好	透し孔4、黒斑A
7638	土壇-440	土師器	高杯	21.1	14.6	13.2	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7639	土壇-440	土師器	高杯	21.4	15.0	14.4	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	透し孔4
7640	土壇-440	土師器	高杯		13.4	(3.2)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	黒斑C
7641	土壇-440	土師器	高杯		13.6	(4.8)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔4
7642	土壇-440	土師器	高杯	16.3		(10.9)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
7643	土壇-440	土師器	高杯	23.5	18.5	15.8	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	透し孔4
7644	土壇-440	土師器	高杯	20.6		(6.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7645	土壇-440	土師器	高杯	22.5	17.5	16.3	褐色(5YR6/6)	粗砂、礫	良好	透し孔4、黒斑C
7646	土壇-440	土師器	鉢	11.1		6.0	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B
7647	土壇-440	土師器	鉢	12.7	3.2	7.1	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B・C
7648	土壇-440	土師器	鉢	15.6		(7.5)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	擬凹線2条
7649	土壇-440	土師器	白付鉢		6.4	(6.6)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
7650	土壇-440	土師器	器台	7.8		(1.3)	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	
7651	土壇-440	土師器	器台	8.8		(3.8)	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	透し孔4
7652	土壇-440	土師器	器台		11.4	(3.6)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	2段透し孔
7653	土壇-440	土師器	器台			(4.9)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	2段透し孔
7654	土壇-440	土師器	製塩土器		5.8	(4.1)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7655	土壇-440	土師器	製塩土器		4.4	(3.3)	鈍い橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
7656	土壇-440	土師器	製塩土器		5.0	(2.5)	鈍い黄橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7657	土壇-440	土師器	製塩土器		5.5	(2.3)	浅黄褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
7658	土壇-443	土師器	壺	9.0		14.0	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B・C
7659	土壇-443	土師器	壺	20.4		(5.2)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7660	土壇-443	土師器	底部			(4.9)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	礫	良好	
7661	土壇-443	土師器	壺	14.6		(5.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	粗砂	良好	
7662	土壇-443	土師器	甕	12.0		(3.4)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7663	土壇-443	土師器	甕			(2.7)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	
7664	土壇-443	土師器	甕	13.6		(2.6)	黄灰色(2.5Y5/1)	粗砂	良好	
7665	土壇-443	土師器	甕	15.5		(3.7)	灰黄褐色(10YR6/2)	礫	良好	
7666	土壇-443	土師器	甕	13.2		(6.5)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	
7667	土壇-443	土師器	甕	13.0		(6.3)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
7668	土壇-443	土師器	甕	14.4		(9.7)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	粗砂	良好	
7669	土壇-443	土師器	甕			(6.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	礫	良好	
7670	土壇-443	土師器	甕	15.2		(5.5)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7671	土壇-443	土師器	甕	14.0		(7.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7672	土壇-443	土師器	甕	16.6		(5.3)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7673	土壇-443	土師器	甕	15.0		(7.5)	灰黄色(2.5Y7/2)	粗砂	良好	
7674	土壇-443	土師器	高杯	15.2		(3.2)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	外面丹塗り?
7675	土壇-443	土師器	高杯		13.5	(8.5)	鈍い橙色(5YR6/4)	精良	良好	透し孔4
7676	土壇-443	土師器	鉢	13.7		(4.7)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7677	土壇-443	土師器	鉢	13.8		(5.3)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
7678	土壇-443	土師器	鉢	33.0		(16.2)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
7679	土壇-443	土師器	鉢	38.2	6.8	24.0	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
7680	土壇-443	土師器	手捏土器	5.2		2.7	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
7681	土壇-446	土師器	壺	(19.0)		(5.6)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	黒斑B(内)
7682	土壇-448	土師器	壺	23.0		(16.7)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	口縁に鋸歯文、頸部へラ描き沈線5条
7683	土壇-448	土師器	甕	(20.1)		(8.8)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7684	土壇-448	土師器	甕	(12.8)		(8.5)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	ススB
7685	土壇-448	土師器	鉢	(13.4)		(7.2)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
7686	土壇-448	土師器	甕	(12.8)		(9.1)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	ススB
7687	土壇-448	土師器	高杯	12.9		(5.5)	褐色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔4方向
7688	土壇-448	土師器	鉢	16.0		(6.6)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	外面数か所に丹塗り
7689	土壇-448	土師器	鉢	(34.4)		(21.1)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	内面黒斑B、黒斑A・B・C
7690	土壇-448	土師器	器台		(11.2)	(6.2)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	透し孔4
7691	土壇-448	土師器	製塩土器		4.4	(3.3)	灰赤色(2.5Y5/2)	粗砂	良好	
7692	土壇-448	土師器	製塩土器		6.0	(2.6)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	粗砂	良好	
7693	土壇-448	土師器	製塩土器		4.3	(2.1)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	粗砂	良好	
7694	土壇-452	土師器	甕	12.7		19.2	鈍い黄褐色(10YR7/2)	礫	良好	黒斑A
7695	土壇-452	土師器	高杯	20.5	13.0	14.3	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	透し孔4、黒斑C
7696	土壇-453	土師器	甕	12.0		(3.3)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線5条
7697	土壇-453	土師器	甕	15.2		(3.4)	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線5条
7698	土壇-453	土師器	埴	11.2		(5.0)	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7699	土壇-453	土師器	碗	15.2		(3.9)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	黒斑C
7700	土壇-453	土師器	鉢(杯型)		3.6	(2.1)	鈍褐色(7.5YR)	精良	良好	
7701	土壇-457	土師器	甕	15.4		25.5	鈍い褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	櫛描沈線9条、刺突記号B2、ススC
7702	溝-16	土師器	壺	20.9		(9.0)	鈍い褐色(5YR6/4)	粗砂	良好	粘土輪積み痕跡
7703	溝-16	土師器	壺	22.2		(29.3)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	礫	良好	黒斑
7704	溝-16	土師器	壺			(14.0)	褐色(7.5YR6/6)	粗砂	良好	
7705	溝-16	土師器	壺			(12.1)	鈍い黄褐色(10YR6/4)	礫	良好	黒斑A・B
7706	溝-16	土師器	甕	13.8		(17.0)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	スス
7707	溝-16	土師器	甕	13.8	4.4	20.7	褐色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	ススC、被熱

土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7708	溝-16	土師器	甕	15.0		26.1	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	黒斑C、被熱
7709	溝-16	土師器	甕	15.8		(19.8)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	礫	良好	
7710	溝-16	土師器	甕	15.4		(24.9)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	ススB、被熱
7711	溝-16	土師器	甕	12.6		(8.0)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
7712	溝-16	土師器	甕	(13.8)		(5.9)	灰黄色(2.5Y7/2)	礫	良好	
7713	溝-16	土師器	甕	15.0		(6.0)	黄褐色(2.5Y5/3)	粗砂	良好	
7714	溝-16	土師器	甕	15.8		(2.8)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	礫	良好	
7715	溝-16	土師器	高杯	19.4		(7.1)	橙色(5YR6/6)	精良	良好	黒斑A
7716	溝-16	土師器	高杯		12.8	(8.5)	橙色(5YR6/8)	精良	良好	
7717	溝-16	土師器	高杯		14.0	(7.6)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
7718	溝-16	土師器	鉢	12.8	3.3	6.6	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	黒斑BC
7719	溝-16	土師器	鉢	14.5		6.3	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	黒斑ABC
7720	溝-16	土師器	壺		3.3	(5.4)	鈍い黄橙色(10YR6/4)	粗砂	良好	
7721	溝-16	土師器	手捏土器	5.2	4.4	5.1	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	黒斑A
7722	溝-16	土師器	鉢	25.0		(14.0)	橙色(7.5YR6/6)	礫	良好	
7723	溝-16	土師器	甕	9.0	3.6	9.3	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	黒斑ABC
7724	溝-16	土師器	器台		14.0	(8.6)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
7725	溝-461	土師器	壺			(15.8)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	黒斑B
7726	溝-102	土師器	壺			(2.4)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
7727	溝-102	土師器	高杯			(3.3)	淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
7728	溝-102	土師器	?			(2.6)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
7729	溝-104	土師器	壺	16.5		(8.1)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
7730	溝-104	土師器	壺	17.9		(6.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7731	溝-104	土師器	壺	19.2		(9.1)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7732	溝-104	土師器	壺	20.8		(7.1)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
7733	溝-104	土師器	壺	16.6		(8.6)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	黒斑A(内)
7734	溝-104	土師器	壺			(29.4)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑C
7735	溝-104	土師器	杯	16.3		6.4	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	
7736	溝-104	土師器	鉢	13.7	5.0	5.0	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	黒斑AB
7737	溝-104	土師器	手捏土器		16.0	(17.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	黒斑C
7738	溝-464	土師器	壺	16.2		(5.9)	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	被熱、黒斑A
7739	溝-464	土師器	壺	16.8		(6.6)	鈍褐色(7.5YR1/5)	細砂	良好	
7740	溝-464	土師器	壺	15.6		(6.4)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
7741	溝-464	土師器	壺	15.9	5.0	28.4	鈍褐色(5YR7/3)	細砂、砂礫	良好	黒斑C
7742	溝-464	土師器	直口壺	10.2		(7.4)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	良好	
7743	溝-464	土師器	甕	13.4		(14.0)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススB
7744	溝-464	土師器	甕			(3.9)	橙色(5YR7/8)	細砂	良好	
7745	溝-464	土師器	甕	(16.8)		(2.9)	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
7746	溝-464	土師器	甕	(13.8)		(8.1)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	タタキメ、ススC
7747	溝-464	土師器	甕		3.5	(3.1)	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	良好	タタキメ
7748	溝-464	土師器	甕		3.7	(2.1)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	黒斑C
7749	溝-464	土師器	高杯			(3.0)	鈍褐色(7.5YR7/4)	精良	良好	
7750	溝-464	土師器	高杯			(7.8)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7751	溝-464	土師器	高杯			(7.7)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
7752	溝-464	土師器	鉢	9.3	3.9	6.2	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑C
7753	溝-464	土師器	椀	8.8		4.1	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
7754	溝-464	土師器	埴	(8.6)		(3.8)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	
7755	溝-464	土師器	製塩土器		4.5	(2.2)	鈍褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7756	溝-100	陶質土器	壺	13.5		(6.5)	赤褐色(10R5/3)	細砂	良好	縄文文、肩部ヘラ描き沈線
7757	溝-100	陶質土器	壺			(2.8)	鈍い赤褐色(5YR5/4)	細砂	良好	縄文文
7758	溝-100	土師器	壺	(22.3)		(4.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	
7759	溝-100	土師器	甕	(13.8)		(4.4)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
7760	溝-100	土師器	甕	(12.0)		(8.2)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	胸部櫛描沈線5条
7761	溝-100	土師器	甕	14.4		(4.5)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	
7762	溝-100	土師器	甕	12.5		(3.6)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7763	溝-100	土師器	甕	(15.5)		(3.8)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7764	溝-100	土師器	高杯		(12.2)	(5.5)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	透し孔4
7765	溝-100	土師器	壺	(9.1)		(5.6)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
7766	溝-100	土師器	鼓形器台			(3.0)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
7767	溝-100	土師器	製塩土器		(5.8)	(1.9)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
7768	溝-461	土師器	壺?	19.3		(7.1)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
7769	溝-461	土師器	壺?	22.6		(4.7)	黄褐色(7.5YR8/6)	粗砂	良好	
7770	溝-461	土師器	甕	15.1		(4.8)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7771	溝-461	土師器	甕	12.6		(4.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7772	溝-461	土師器	甕	15.1		(3.4)	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	櫛描沈線10条
7773	溝-461	土師器	甕	(13.1)		(11.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7774	溝-461	土師器	甕	14.2		(3.6)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	口縁部わずかに沈線有り
7775	溝-461	土師器	甕	12.8		(7.2)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	歪み有り
7776	溝-461	土師器	甕	(12.8)		(8.2)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
7777	溝-461	土師器	高杯	(13.4)		(7.7)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7778	溝-461	土師器	高杯		(9.1)	(4.7)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
7779	溝-461	土師器	低脚杯		(6.9)	(4.6)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7780	溝-461	土師器	鉢	(15.6)		(8.8)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	黒斑AB
7781	溝-467	土師器	壺	25.2		(7.2)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
7782	溝-467	土師器	甕	12.6		(3.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7783	溝-467	土師器	甕	12.0		(2.4)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7784	溝-467	土師器	甕	14.0		(12.7)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	
7785	溝-467	土師器	器台			(5.3)	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	良好	内面へラ状工具でケズリ、透し孔4個
7786	溝-467	土師器	製塩土器		4.6	(2.4)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7787	溝-467	土師器	製塩土器		5.2	(2.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7788	溝-467	土師器	製塩土器		5.4	(1.7)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
7789	溝-467	土師器	製塩土器		5.2	(1.8)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7790	溝-467	土師器	製塩土器		5.0	(1.7)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7791	溝-468	土師器	壺	16.2		(13.7)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
7792	溝-468	土師器	甕	12.4		(3.7)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条、ススA
7793	溝-468	土師器	甕	(14.2)		(3.4)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明、ススA
7794	溝-468	土師器	甕	(13.6)		(4.1)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7795	溝-468	土師器	甕	14.2		(5.0)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7796	溝-468	土師器	甕	11.5		(3.4)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	精良	良好	ススA
7797	溝-468	土師器	鉢	15.5		(5.0)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	歪み有り
7798	土器溜り-12	土師器	壺	20.8		(8.5)	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	
7799	土器溜り-12	土師器	壺	24.0		(11.6)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	頸部貼り付け
7800	土器溜り-12	土師器	甕	13.1		(20.5)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7801	土器溜り-12	土師器	甕	16.4		(5.6)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7802	土器溜り-12	土師器	甕	12.8		(14.3)	浅黄褐色(10YR8/4)	粗砂	良好	
7803	土器溜り-12	土師器	甕	12.4		(17.6)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
7804	土器溜り-12	土師器	高杯			(5.4)	灰白色(10YR8/2)	微砂	良好	
7805	土器溜り-12	土師器	鉢	13.2		7.1	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	
7806	土器溜り-12	土師器	鉢	20.4		9.5	鈍い褐色(5YR7/3)	細砂	良好	
7807	土器溜り-12	土師器	手捏土器	6.0		4.4	鈍い黄褐色(10YR5/3)	粗砂	良好	
7808	土器溜り-12	土師器	製塩土器		4.8	(3.7)	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	
7809	土器溜り-12	土師器	支脚		8.2	(7.8)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7810	土器溜り-13	土師器	甕			(17.6)	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7811	土器溜り-13	土師器	甕	14.8		25.5	鈍い褐色(7.5YR5/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススC
7812	土器溜り-13	土師器	甕	16.7		(7.5)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	タタキ
7813	土器溜り-13	土師器	甕	19.2		22.7	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
7814	土器溜り-13	土師器	甕	14.6		(6.5)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	良好	
7815	土器溜り-13	土師器	甕	15.2		(21.3)	灰黄色(2.5Y7/2)	粗砂	良好	
7816	土器溜り-13	土師器	甕	18.0		(23.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
7817	土器溜り-13	土師器	甕	16.3		(20.2)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	タタキ
7818	土器溜り-13	土師器	甕	14.0		14.9	灰白色(5Y8/2)	粗砂	良好	
7819	土器溜り-13	土師器	甕	12.7		14.1	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
7820	土器溜り-13	土師器	甕	12.1		13.3	黒褐色(2.5Y3/1)	細砂	良好	櫛描沈線?、ススA
7821	土器溜り-13	土師器	甕	12.0		17.2	赤褐色(10R6/6)	粗砂	良好	黒斑B2か所
7822	土器溜り-13	土師器	甕	15.6		18.0	灰白色(5Y8/2)	粗砂	良好	
7823	土器溜り-13	土師器	甕	14.8		15.7	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	
7824	土器溜り-13	土師器	高杯		16.1	(3.1)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7825	土器溜り-13	土師器	鉢	17.6		(7.3)	明灰黄色(2.5Y4/2)	細砂	良好	
7826	土器溜り-13	土師器	鉢	21.8		(7.3)	浅黄褐色(10YR8/4)	粗砂	良好	黒斑A
7827	土器溜り-13	土師器	台付甕	16.0	13.1	18.5	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	
7828	土器溜り-13	土師器	鉢	17.2		(6.9)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
7829	土器溜り-13	土師器	鉢	20.8		8.6	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
7830	土器溜り-13	土師器	鉢	34.8	7.0	21.9	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
7831	土器溜り-13	土師器	器台	7.4	9.8	9.4	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂	良好	黒斑ABC
7832	土器溜り-13	土師器	器台	10.6	11.2	9.3	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	黒斑C
7833	土器溜り-13	土師器	支脚		8.0	7.5	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7834	土器溜り-13	土師器	支脚			(6.5)	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	
7835	土器溜り-13	土師器	製塩土器		4.4	(2.5)	赤色(10R5/6)	粗砂	良好	
7836	土器溜り-13	土師器	製塩土器		4.4	(2.5)	明赤灰色(7.5Y7/1)	粗砂	良好	
7837	土器溜り-15	土師器	壺	22.0		(13.6)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	ススA
7838	土器溜り-15	土師器	壺	(16.9)		(20.5)	褐色(7.5YR7/6)	礫	良好	
7839	土器溜り-15	土師器	壺		5.6	(23.0)	褐色(7.5YR7/6)	礫	良好	
7840	土器溜り-15	土師器	壺			(25.1)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	
7841	土器溜り-15	土師器	壺	(23.4)		(8.1)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
7842	土器溜り-15	土師器	壺	21.3		(5.2)	褐色(5YR6/8)	精良	良好	外面赤色顔料
7843	土器溜り-15	土師器	壺			(13.4)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	体部鋸齒文
7844	土器溜り-15	土師器	甕	12.9		(3.5)	褐色(7.5YR6/6)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7845	土器溜り-15	土師器	甕	13.4		(4.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	精良	良好	櫛描沈線7条
7846	土器溜り-15	土師器	甕	14.4		(3.1)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7847	土器溜り-15	土師器	甕	15.1		(3.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	精良	良好	櫛描沈線7条
7848	土器溜り-15	土師器	甕	16.0		(4.2)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条?
7849	土器溜り-15	土師器	甕	16.0		(10.8)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7850	土器溜り-15	土師器	甕	17.0		(13.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	ススC
7851	土器溜り-15	土師器	甕	(13.4)		(5.9)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7852	土器溜り-15	土師器	甕	14.2		(2.6)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7853	土器溜り-15	土師器	甕	(18.6)		(2.8)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	
7854	土器溜り-15	土師器	甕			(2.7)	褐色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
7855	土器溜り-15	土師器	甕			(8.6)	褐色(5YR6/8)	礫	良好	
7856	土器溜り-15	土師器	甕		2.8	(10.3)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	良好	ススC
7857	土器溜り-15	土師器	高杯	19.4		(5.8)	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7858	土器溜り-15	土師器	高杯	20.0		(7.8)	橙色(2.5YR7/6)	精良	良好	
7859	土器溜り-15	土師器	高杯	20.6		(6.1)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	粗砂	良好	
7860	土器溜り-15	土師器	高杯			(7.4)	橙色(5YR7/8)	精良	良好	透し孔3
7861	土器溜り-15	土師器	椀			(3.0)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	タタキ
7862	土器溜り-15	土師器	椀	12.6		(7.0)	浅黄橙色(7.5YR8/6)	精良	良好	
7863	土器溜り-15	土師器	椀	14.4		(4.5)	明黄褐色(10YR7/6)	粗砂	良好	内面暗文
7864	土器溜り-15	土師器	椀	(14.6)		(5.4)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
7865	土器溜り-15	土師器	椀	11.9		(5.7)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	
7866	土器溜り-15	土師器	鉢	15.4		(6.4)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7867	土器溜り-15	土師器	台付鉢?		4.6	(4.0)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
7868	土器溜り-15	土師器	鉢	33.6		(12.9)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	粗砂	良好	
7869	土器溜り-15	土師器	鉢	40.0		(17.1)	橙色(5YR6/8)	粗砂	良好	黒斑C
7870	土器溜り-15	土師器	製塩土器		5.1	(2.4)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	粗砂	良好	
7871	土器溜り-15	土師器	製塩土器		4.8	(2.2)	灰白色(7.5YR8/2)	粗砂	良好	
7872	土器溜り-15	土師器	製塩土器		5.1	(2.8)	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	良好	
7873	土器溜り-15	土師器	製塩土器		5.3	(2.5)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
7874	土器溜り-15	土師器	製塩土器		3.8	(2.2)	鈍い赤褐色(10R6/4)	細砂	良好	
7875	土器溜り-15	土師器	製塩土器		5.3	(2.3)	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	
7876	土器溜り-15	土師器	製塩土器		4.5	(1.9)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
7877	土器溜り-15	土師器	製塩土器		5.0	(3.6)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
7878	土器溜り-15	土師器	製塩土器		5.0	(2.3)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7879	土器溜り-15	土師器	製塩土器		4.8	(3.2)	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	良好	
7880	土器溜り-15	土師器	製塩土器		5.5	(2.5)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	
7881	土器溜り-15	土師器	製塩土器		4.8	(1.8)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7882	包含層	土師器	壺	10.7		(5.3)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
7883	包含層	土師器	壺	18.8		(4.5)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	良好	
7884	包含層	土師器	壺	14.0		(8.9)	橙色(7.5YR7)	粗砂、礫	良好	
7885	包含層	土師器	壺			(7.3)	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	良好	
7886	包含層	土師器	壺	13.5		(3.4)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7887	包含層	土師器	壺			(2.6)	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂	良好	口縁部波状文、円形浮文、竹管文
7888	包含層	土師器	甕	13.3		(4.6)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7889	包含層	土師器	甕	(13.6)		(12.3)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	櫛描沈線9条、刺突記号A2、黒斑B
7890	包含層	土師器	甕	15.0		(4.3)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線8~9条
7891	包含層	土師器	甕	16.0		(4.0)	橙色(7.5YR6/)	細砂	良好	
7892	包含層	土師器	甕		3.3	(18.9)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	
7893	包含層	土師器	甕	(14.5)		(5.0)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
7894	包含層	土師器	甕	(16.4)		(5.7)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	やや不良	
7895	包含層	土師器	甕	14.8		(5.6)	鈍い黄褐色(10YR7/)	粗砂	良好	
7896	包含層	土師器	甕	(14.8)		(2.5)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	
7897	包含層	土師器	甕	14.4		(9.7)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	タタキ、黒斑A・B
7898	包含層	土師器	甕	16.4		(4.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	タタキ
7899	包含層	土師器	甕			(15.4)	灰白色(5YR8/2)	細砂	良好	タタキ、黒斑C
7900	包含層	土師器	高杯	(22.8)		(6.8)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	良好	
7901	包含層	土師器	高杯	13.4		(7.4)	橙色(5YR6/8)	精良	良好	
7902	包含層	土師器	高杯	9.0		(3.2)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
7903	包含層	土師器	椀	(14.6)		(3.8)	鈍褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
7904	包含層	土師器	鉢	(32.9)		(11.7)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
7905	包含層	土師器	鉢			(10.6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	良好	
7906	包含層	土師器	製塩土器		4.3	(5.8)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	タタキ
7907	包含層	土師器	製塩土器		4.7	(2.5)	鈍褐色(2.5YR6/4)	粗砂	良好	
7908	包含層	土師器	甕?把手			(5.8)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
7909	包含層	土師器	甕	6.0		(2.7)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	微砂	良好	櫛描沈線7条
7910	包含層	土師器	甕	6.8		(2.4)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7911	包含層	土師器	甕	8.4		(3.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7912	包含層	土師器	甕	8.6		(3.0)	鈍い橙色(10YR7/4)	微砂	良好	櫛描沈線7条
7913	包含層	土師器	甕	8.7		(2.8)	橙色(7.5Y7/6)	細砂	良好	
7914	包含層	土師器	甕	13.6	2.2	19.7	(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線9条、ススA
7915	包含層	土師器	甕		2.8		浅黄色(2.5Y8/3)	微砂	良好	ススC
7916	包含層	土師器	甕	(18.5)		(7.0)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
7917	包含層	土師器	高杯	12.4		(6.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	内面暗文、外面ミガキ、脚柱部面取り
7918	包含層	土師器	壺?	(14.0)		(7.9)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
7919	包含層	土師器	壺	15.0		(7.7)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
7920	包含層	土師器	壺	15.4		(7.3)	淡黄色(2.5Y8/3)	精良	良好	
7921	包含層	土師器	壺			(5.6)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	
7922	包含層	土師器	壺	17.1		(5.4)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	
7923	包含層	土師器	広口壺			(7.4)	明赤褐色(5YR5/8)	粗砂、砂礫	良好	
7924	包含層	土師器	壺	20.3		(6.2)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
7925	包含層	土師器	壺			(8.5)	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	
7926	包含層	土師器	壺	18.6		(23.5)	浅黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	ススC
7927	包含層	土師器	甕	(18.2)		(7.0)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	
7928	包含層	土師器	壺	(19.3)		(4.5)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	
7929	包含層	土師器	壺			(3.4)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	連続刺突文
7930	包含層	土師器	壺	11.0		(7.0)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	
7931	包含層	土師器	壺	(18.6)		(8.7)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
7932	包含層	土師器	壺	25.6		(4.5)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	口縁部凹線5条+円形浮文

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
7933	包含層	土師器	甕	19.6		(22.4)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	ススB
7934	包含層	土師器	壺	13.7		(4.3)	橙色(5YR6/8)	精良	良好	内外面丹塗り
7935	包含層	土師器	壺			(5.9)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7936	包含層	土師器	壺	20.4		(7.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
7937	包含層	土師器	壺	23.8		(7.9)	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	
7938	包含層	土師器	壺	(21.8)		(5.2)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7939	包含層	土師器	壺	(24.0)		(4.6)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
7940	包含層	土師器	壺	(12.6)		(5.5)	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂	良好	
7941	包含層	土師器	壺	16.9		(4.8)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
7942	包含層	土師器	壺	17.4		(5.2)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
7943	包含層	土師器	壺	(20.0)		(7.2)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
7944	包含層	土師器	壺	17.7		(9.6)	浅黄橙色(10YR8/4)	粗砂	良好	
7945	包含層	土師器	壺	20.2		(7.9)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
7946	包含層	土師器	壺	(20.0)		(6.5)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
7947	包含層	土師器	壺	20.8		(8.4)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
7948	包含層	土師器	壺	9.7		(10.0)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7949	包含層	土師器	壺		6.4	(13.0)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	ススC
7950	包含層	土師器	壺	(11.8)		(2.9)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7951	包含層	土師器	甕	12.4		(3.1)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7952	包含層	土師器	甕	12.4		(2.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条、ススA
7953	包含層	土師器	甕	(13.0)		(3.3)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7954	包含層	土師器	甕	13.2		(4.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	不良	櫛描沈線6条
7955	包含層	土師器	甕	(12.5)		(2.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7956	包含層	土師器	甕	(12.9)		(3.3)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7957	包含層	土師器	甕	14.0		(3.7)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7958	包含層	土師器	壺	14.0		(3.4)	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線条数不明
7959	包含層	土師器	甕	13.4		(4.2)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7960	包含層	土師器	甕	(14.6)		(3.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条?
7961	包含層	土師器	甕	14.9		(3.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7962	包含層	土師器	甕	13.4		(5.8)	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	櫛描沈線9条
7963	包含層	土師器	甕	(13.9)		(4.8)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7964	包含層	土師器	甕	14.0		(6.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7965	包含層	土師器	甕	(15.3)		(3.9)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7966	包含層	土師器	甕	(15.4)		(3.7)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7967	包含層	土師器	甕	14.4		(5.2)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7968	包含層	土師器	甕	15.0		(9.5)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条、B2
7969	包含層	土師器	甕	(16.7)		(3.8)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7970	包含層	土師器	甕	(18.6)		(6.0)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7971	包含層	土師器	甕	13.6		(7.7)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	粗砂	良好	櫛描沈線7条
7972	包含層	土師器	甕	13.8		(4.2)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7973	包含層	土師器	甕	(14.0)		(4.0)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7974	包含層	土師器	甕	15.8		(3.9)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7975	包含層	土師器	甕	(15.0)		(3.2)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7976	包含層	土師器	甕	15.1		(4.4)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線6条
7977	包含層	土師器	甕	15.2		(3.6)	鈍い橙色(10YR7/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7978	包含層	土師器	甕	15.6		(5.3)	浅黄橙色(1YR8/3)	細砂	良好	櫛描沈線7条
7979	包含層	土師器	甕	16.4		(3.0)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	櫛描沈線10条
7980	包含層	土師器	甕	17.8		(2.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	櫛描沈線8条
7981	包含層	土師器	甕	(16.1)		(2.9)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
7982	包含層	土師器	甕	(16.6)		(1.8)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	
7983	包含層	土師器	甕	14.3		(13.6)	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	タタキ
7984	包含層	土師器	甕	(16.0)		(2.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7985	包含層	土師器	甕	(12.6)		(2.7)	灰褐色(5YR5/2)	細砂、粗砂	良好	
7986	包含層	土師器	甕	16.2		(12.8)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	
7987	包含層	土師器	甕	16.1	5.3	21.7	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	良好	ススB
7988	包含層	土師器	甕	13.6		(4.0)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
7989	包含層	土師器	壺	(14.6)		(7.1)	淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	
7990	包含層	土師器	甕	15.0		(12.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	ススB
7991	包含層	土師器	甕	(18.4)		(6.4)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	良好	黒斑A(内面)
7992	包含層	土師器	甕			(7.3)	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
7993	包含層	土師器	甕			(18.5)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
7994	包含層	土師器	甕	(10.0)		(7.8)	鈍い橙色(7YR7/3)	細砂	良好	
7995	包含層	土師器	甕	12.0		(3.7)	灰白色(2.5YR8/2)	細砂	良好	
7996	包含層	土師器	甕	(10.0)		(4.2)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
7997	包含層	土師器	甕		3.8	(3.2)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	スス
7998	包含層	土師器	甕			(5.0)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	ススC
7999	包含層	土師器	底部		4.2	(3.1)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	黒斑C(外・内)
8000	包含層	土師器	鉢		3.5	(3.2)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
8001	包含層	土師器	壺?		1.3	(4.6)	浅黄褐色(10YR8/3)	精良	良好	
8002	包含層	土師器	高杯	(20.0)		(5.7)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
8003	包含層	土師器	高杯	20.7		(6.5)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	精良	良好	黒斑A
8004	包含層	土師器	高杯	(21.2)		(6.5)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	精良	不良	
8005	包含層	土師器	高杯	(17.4)		(5.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
8006	包含層	土師器	高杯	17.6		(6.9)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
8007	包含層	土師器	高杯	20.0		(11.0)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	

土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8008	包含層	土師器	高杯			(4.0)	橙色(7.5YR6/8)	精良	良好	
8009	包含層	土師器	高杯			(5.5)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
8010	包含層	土師器	高杯			(8.2)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	透し孔4
8011	包含層	土師器	高杯			(7.4)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	外面赤色顔料
8012	包含層	土師器	高杯			(6.2)	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	透し孔?
8013	包含層	土師器	高杯			(6.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
8014	包含層	土師器	高杯			(8.8)	橙色(7.5YR7/6)	精良	不良	透し孔4?
8015	包含層	土師器	高杯		14.7	(8.2)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	精良	良好	透し孔3
8016	包含層	土師器	高杯		(13.4)	(9.0)	浅黄橙色(10YR8/4)	精良	良好	
8017	包含層	土師器	鉢	(18.2)		(9.0)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
8018	包含層	土師器	鉢	(23.4)		(10.5)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
8019	包含層	土師器	鉢	13.2		(5.2)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	
8020	包含層	土師器	皿			(2.0)	黒褐色(7.5YR3/1)	細砂	良好	丹塗り
8021	包含層	土師器	鉢	11.4		7.5	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂	良好	ススC
8022	包含層	土師器	鉢	10.0		4.3	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
8023	包含層	土師器	鉢	10.6		(4.3)	灰白色(5YR8/2)	細砂	良好	
8024	包含層	土師器	鉢	10.9		4.4	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
8025	包含層	土師器	碗	11.6		4.5	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
8026	包含層	土師器	鉢	4.1		(4.6)	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	良好	
8027	包含層	土師器	碗	11.0	4.3	4.9	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
8028	包含層	土師器	鉢	(10.0)	3.0	5.7	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	二次的焼成痕
8029	包含層	土師器	鉢	12.6		6.4	浅黄橙色(7.5YR8/)	精良	良好	完形
8030	包含層	土師器	鉢	13.6		5.1	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	黒斑BC
8031	包含層	土師器	鉢	16.9		(6.6)	黄褐色(10YR5/6)	砂礫	良好	
8032	包含層	土師器	碗	15.0		5.6	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
8033	包含層	土師器	鉢	17.2		5.3	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
8034	包含層	土師器	器台	8.5		(6.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	ススA
8035	包含層	土師器	高杯		10.6	(8.6)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
8036	包含層	土師器	器台		(12.4)	(6.8)	黄橙色(7.5YR7/8)	精良	良好	透し孔1/3?
8037	包含層	土師器	器台		10.4	(7.8)	赤橙色(10R6/6)	精良	良好	透し孔2/〇
8038	包含層	土師器	鼓形器台	10.6	(11.4)	5.6	灰白色(5Y8/2)	精良	良好	
8039	包含層	土師器	鼓形器台			(7.7)	黄褐色(7.5YR8/6)	精良	良好	
8040	包含層	土師器	鉢	(14.4)		(6.3)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
8041	包含層	土師器	手握土器			(6.7)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	完形
8042	包含層	土師器	手握土器	4.6		4.0	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
8043	包含層	土師器	手握土器	7.3		6.5	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	完形、黒斑ABC
8044	包含層	土師器	製塩土器			(3.2)	鈍い黄褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
8045	包含層	土師器	製塩土器			(2.8)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
8046	包含層	土師器	製塩土器		4.8	(1.4)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	
8047	包含層	土師器	製塩土器		4.4	(2.1)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	
8048	包含層	土師器	製塩土器		5.0	(1.5)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
8049	包含層	土師器	製塩土器		4.8	(1.6)	橙色(2.5Y6/6)	細砂	良好	
8050	包含層	土師器	製塩土器		5.2	(1.5)	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
8051	包含層	土師器	製塩土器		4.2	(2.1)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
8052	包含層	土師器	製塩土器		4.2	(1.9)	灰黄色(2.5Y6/2)	粗砂	良好	
8053	包含層	土師器	製塩土器		4.7	(2.2)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	
8054	包含層	土師器	製塩土器		5.2	2.0	淡赤橙色(2.5YR7/3)	粗砂	良好	
8055	包含層	土師器	製塩土器		4.7	(2.0)	鈍い褐色(7.5YR6/3)	細砂	良好	
8056	包含層	土師器	製塩土器		4.3	(2.6)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	粗砂	良好	
8057	包含層	土師器	製塩土器		4.4	(2.2)	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂(礫)	良好	
8058	包含層	土師器	製塩土器		4.5	(2.5)	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂	良好	
8059	包含層	土師器	製塩土器		4.8	(2.2)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
8060	包含層	土師器	製塩土器		4.8	(2.8)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
8061	包含層	土師器	製塩土器		4.3	(2.6)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	粗砂	良好	
8062	包含層	土師器	製塩土器		5.4	(2.3)	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂、砂礫	良好	
8063	包含層	土師器	製塩土器		4.4	(2.8)	明褐灰色(5YR7/2)	粗砂	良好	
8064	包含層	土師器	製塩土器		4.7	(3.2)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂	良好	
8065	包含層	土師器	製塩土器		5.4	(1.9)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	完形
8066	包含層	土師器	製塩土器		4.8	(2.8)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
8067	包含層	土師器	製塩土器		4.5	(3.0)	淡橙色(5YR8/4)	粗砂	良好	
8068	包含層	土師器	製塩土器		5.0	(2.5)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	粗砂	良好	
8069	包含層	土師器	製塩土器		5.4	(2.4)	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	
8070	包含層	土師器	製塩土器		5.1	(3.2)	褐灰色(5YR5/1)	精良	良好	
8071	包含層	土師器	製塩土器		4.8	(2.8)	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	
8072	包含層	土師器	製塩土器		5.0	(3.1)	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	
8073	包含層	土師器	製塩土器		4.5	(3.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	粗砂	良好	
8074	包含層	土師器	製塩土器		4.8	(3.6)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	
8075	包含層	土師器	製塩土器		3.8	(3.4)	赤灰色(2.5YR6/1)	細砂	良好	
8076	包含層	土師器	製塩土器		4.6	(5.5)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
8077	包含層	土師器	支脚		11.0	(6.0)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
8078	包含層	土師器	支脚		8.0	(5.3)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
8079	包含層	陶質土器	壺			(3.1)	鈍い赤褐色(5YR5/4)	細砂	良好	8079~8084同一個体
8080	包含層	陶質土器	壺			(2.1)	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	良好	
8081	包含層	陶質土器	壺			(2.9)	灰赤色(2.5YR5/2)	細砂	良好	
8082	包含層	陶質土器	壺			(2.3)	灰褐色(5YR4/2)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)		色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径				
8083	包含層	陶質土器	壺			(4.7) 鈍い赤褐色(5YR5/3)	細砂	良好	
8084	包含層	陶質土器	壺			(5.2) 灰赤色(10YR4/2)	細砂	良好	
8085	竪穴住居-313	須恵器	杯蓋	11.9		4.3 灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	自然釉
8086	竪穴住居-313	須恵器	杯蓋	12.0		4.2 灰色(5Y6/)	粗砂、礫	良好	
8087	竪穴住居-313	須恵器	杯蓋	12.4		4.3 オリーブ灰色(5Y6/)	粗砂、礫	良好	自然釉
8088	竪穴住居-313	須恵器	杯蓋	12.5		(3.9) 灰白色(N7)	細砂、粗砂	良好	
8089	竪穴住居-313	須恵器	杯蓋	(12.2)		(4.3) 灰白色(N7)	細砂	良好	
8090	竪穴住居-313	須恵器	杯蓋	(11.6)		(4.1) 灰色(N6)	細砂	良好	
8091	竪穴住居-313	須恵器	杯身	12.8		(4.7) 青灰色(5B6/1)	細砂	良好	
8092	竪穴住居-313	須恵器	杯身	(11.2)		(4.8) 灰色(N5)	粗砂	良好	
8093	竪穴住居-313	須恵器	高杯蓋			(1.5) 灰白色(N7)	細砂	良好	
8094	竪穴住居-313	須恵器	高杯	(9.8)	9.0	9.0 灰色(N6)	細砂	良好	透し孔3
8095	竪穴住居-313	須恵器	高杯	(8.8)		(1.7) 灰色(N6)	細砂	良好	
8096	竪穴住居-313	須恵器	高杯	(17.0)		(5.4) 灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	波状文
8097	竪穴住居-313	須恵器	高杯		9.3	5.2 灰白色(N7)	精良、細砂	良好	
8098	竪穴住居-313	須恵器	高杯	8.8		(4.4) 灰白色(N8)	細砂	良好	
8099	竪穴住居-313	須恵器	甕	(7.2)		(2.1) 灰色(N5)	細砂	良好	波状文
8100	竪穴住居-313	須恵器	壺	20.2		(5.0) 灰白色(N10Y7/1)	細砂、粗砂	良好	波状文
8101	竪穴住居-313	須恵器	甕			(4.9) 明青灰色(5B4/1)	粗砂	不良	
8102	竪穴住居-313	須恵器	甕			(10.9) 灰白色(N6)	細砂	良好	
8103	竪穴住居-313	須恵器	甕			(6.1) 灰白色(N8)	粗砂	良好	
8104	竪穴住居-313	土師器	杯	12.6		4.6 橙色(5YR7/)	粗砂	良好	完形
8105	竪穴住居-313	土師器	杯	6.3		(4.5) 橙色(5YR7/)	粗砂、礫	良好	
8106	竪穴住居-313	土師器	高杯			(2.5) 明黄橙色(10YR7/)	礫	良好	
8107	竪穴住居-313	土師器	甕	10.1		(5.8) 鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
8108	竪穴住居-313	土師器	甕	(13.6)		(2.6) 明褐色(7.5YR5/)	細砂	良好	
8109	竪穴住居-313	土師器	甕	11.9		13.8 赤橙色(10R6/)	細砂	良好	完形、黒斑B
8110	竪穴住居-313	土師器	甕	13.4		17.3 浅黄橙色(10YR8/)	礫	良好	完形、黒斑B
8111	竪穴住居-313	土師器	甕	14.4		(13.0) 鈍い橙色(5YR6/3)	細砂	良好	黒斑A・B
8112	竪穴住居-313	土師器	把手			橙色(5YR7/)	細砂	良好	
8113	竪穴住居-313	土師器	把手			(8.6) 浅黄橙色(10YR8/)	粗砂、礫	良好	
8114	竪穴住居-314	須恵器	杯身			(2.8) 青灰色(5B6/1)	細砂	良好	
8115	竪穴住居-315	土師器	鉢	(9.8)		(6.6) 赤色(10R5/6)	細砂	良好	
8116	竪穴住居-315	土師器	甕	15.0		22.4 橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	ススB
8117	竪穴住居-315	土師器	甕	17.8		31.1 橙色(5YR7/8)	細砂	良好	スス、黒斑
8118	竪穴住居-316	須恵器	杯身	11.0		5.1 灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	ヘラケズリ右
8119	竪穴住居-316	須恵器	無蓋高杯	17.9	13.2	13.0 灰色(N/6)	細砂	良好	ヘラケズリ右
8120	竪穴住居-316	土師器	甕	14.0		(15.4) 明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	良好	スス、被熱
8121	竪穴住居-316	土師器	高杯	14.9	9.2	11.5 鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
8122	竪穴住居-316	土師器	高杯	14.0		(9.3) 鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
8123	竪穴住居-316	土師器	高杯	14.6		(6.1) 鈍い橙色(2.5YR6/4)	細砂	良好	鈍重
8124	竪穴住居-316	土師器	高杯	(27.0)		(5.0) 橙色(5YR6/8)	細砂	良好	
8125	竪穴住居-316	土師器	高杯	(27.3)		(11.4) 鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
8126	竪穴住居-316	土師器	高杯	14.0		(4.5) 鈍い橙色(2.5YR7/4)	細砂	良好	
8127	竪穴住居-316	土師器	鉢	12.6		6.9 褐色(5YR7/6)	細砂	良好	黒斑、完形
8128	竪穴住居-316	土師器	鉢	12.7		5.1 褐色(5YR7/8)	細砂	良好	黒斑A
8129	竪穴住居-317	土師器	甕	12.2		(5.8) 鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
8130	竪穴住居-317	土師器	鉢	27.3		(12.6) 鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
8131	竪穴住居-317	須恵器	甕			(5.3) 赤灰色(5R5/1)	細砂	良好	器内面ナア
8132	竪穴住居-318	須恵器	杯蓋	13.6		(2.7) 灰白色(N7)	精良	良好	土器の回転右
8133	竪穴住居-318	須恵器	高杯			(4.9) 灰色(N5)	細砂	良好	土器の回転右
8134	竪穴住居-318	須恵器	甕?	(12.2)	(9.6)	(2.7) 灰色(N5)	細砂	良好	
8135	竪穴住居-318	土師器	甕	19.0		(3.5) 褐色(5YR7/6)	細砂	良好	
8136	竪穴住居-319	須恵器	杯蓋	12.6		(4.4) 灰オリーブ色(5Y6/2)	細砂	良好	土器の回転右
8137	竪穴住居-320	須恵器	杯蓋	13.4		4.2 灰白色(7.5Y7/1)	粗砂	良好	鈍重、ヘラケズリ左
8138	竪穴住居-320	須恵器	杯身	11.2		4.2 灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	ロクロ回転方向右
8139	竪穴住居-320	須恵器	高杯	(12.7)	8.4	7.4 灰白色(2.5Y8/1)	粗砂	不良	粘土の貼付有り、ロクロ回転方向右
8140	竪穴住居-320	須恵器	甕			灰白色(N7/)	細砂	良好	
8141	竪穴住居-320	土師器	甕	(12.3)		16.7 鈍い褐色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	
8142	竪穴住居-320	土師器	壺		8.3	(2.5) 鈍い褐色(5YR7/3)	精良	良好	
8143	竪穴住居-320	土師器	甕	(24.8)		29.8 褐色(5YR7/6)	礫	良好	スス、被熱
8144	竪穴住居-320	土師器	甕	(29.2)		(7.4) 褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	
8145	竪穴住居-320	土師器	甕	28.7		25.4 浅黄褐色(7.5YR8/4)	礫	良好	黒斑A B
8146	竪穴住居-321	須恵器	杯蓋	13.0		(4.0) 灰白色(2.5Y7/1)	粗砂	良好	
8147	竪穴住居-321	須恵器	杯身	10.5		4.0 灰白色(2.5Y7/1)	粗砂	良好	
8148	竪穴住居-321	須恵器	蓋	10.4		3.8 灰白色(2.5Y7/1)	粗砂	良好	
8149	竪穴住居-321	土師器	甕			(6.0) 褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	
8150	竪穴住居-324	土師器	高杯	13.8		(4.9) 褐色(2.5YR6/8)	粗砂、細砂	良好	内面にスス
8151	竪穴住居-324	土師器	高杯		9.5	(7.1) 褐色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	黒斑C
8152	竪穴住居-324	土師器	高杯		9.1	(5.8) 褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
8153	竪穴住居-325	須恵器	杯蓋	11.8		4.2 灰白色(N6)	細砂	良好	
8154	竪穴住居-325	須恵器	杯身	10.8		4.7 灰色(5Y5/1)	細砂	良好	
8155	竪穴住居-325	須恵器	杯身			(3.8) 灰色(5Y5/1)	粗砂、細砂	良好	
8156	竪穴住居-325	須恵器	杯身			(4.2) 灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	接点無し同一個体
8157	竪穴住居-325	須恵器	高杯			(4.1) 灰色(N6)	細砂	良好	受部外面凸帯2段、波状文

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8158	竪穴住居-325	須恵器	甗			(2.5)	黒色(7.5YR2/1)	細砂	良好	
8159	竪穴住居-325	須恵器	甗	10.0		(10.1)	灰色(5Y4/1)	細砂	良好	口縁外面凸帯一段、波状文、胴部波状文
8160	竪穴住居-325	須恵器	壺	17.7		(2.2)	灰色(N4)	細砂	良好	口縁端部凹線1条、口縁外面波状文
8161	竪穴住居-325	須恵器	壺	19.2		(9.7)	灰白色(N8)	粗砂	良好	
8162	竪穴住居-325	須恵器	甗			(30.5)	褐灰色(10YR6/1)	粗砂	良好	
8163	竪穴住居-325	須恵器	壺	37.4		(44.1)	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
8164	竪穴住居-325	須恵器	器台	(40.9)		(16.4)	灰黄色(2.5Y6/2)	礫、粗砂、細砂	良好	透し孔4、全体自然釉、接点無し同一個体
8165	竪穴住居-325	須恵器	器台	41.1	28.0	31.8	灰色(5Y5/1)	粗砂、細砂	良好	透し孔4×3段、杯部カキメ、格子タタキ
8166	竪穴住居-325	須恵器	器台	42.2	24.6	33.7	灰色(5Y4/1)	粗砂、細砂	良好	透し孔4×3段、内面自然釉
8167	竪穴住居-325	須恵器	器台	(41.5)		?	灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	内面自然釉
8168	竪穴住居-325	土師器	壺	9.1		(4.6)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	
8169	竪穴住居-325	土師器	甗	16.9		(15.9)	橙色(5YR7/6)	粗砂、細砂	良好	
8170	竪穴住居-325	土師器	壺	13.5		(6.2)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
8171	竪穴住居-325	土師器	甗	12.4		(12.8)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	米粒圧痕?
8172	竪穴住居-325	土師器	甗	18.5		(10.4)	橙色(7.5YR7/6)	粗砂、細砂	良好	
8173	竪穴住居-325	土師器	甗	23.0		(7.5)	橙色(5YR7/6)	礫	良好	
8174	竪穴住居-325	土師器	高杯	16.7	9.8	11.6	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
8175	竪穴住居-325	土師器	高杯	14.7		(10.4)	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	
8176	竪穴住居-325	土師器	高杯	14.0	9.9	12.5	褐色(7.5YR7/6)	精良	良好	透し孔3
8177	竪穴住居-325	土師器	高杯	14.7	10.4	11.7	橙色(2.5YR6/8)		良好	
8178	竪穴住居-325	土師器	高杯	14.4	9.4	11.8	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	透し孔3、黒斑A
8179	竪穴住居-325	土師器	高杯	14.0	9.8	11.2	褐色(2.5YR7/8)	粗砂、細砂	良好	
8180	竪穴住居-325	土師器	高杯	15.0	9.8	11.8	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	透し孔3
8181	竪穴住居-325	土師器	高杯	14.1		(5.5)	褐色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂	良好	
8182	竪穴住居-325	土師器	高杯	15.0		(5.3)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	粗砂、細砂	良好	
8183	竪穴住居-325	土師器	高杯		9.0	(6.1)	褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
8184	竪穴住居-325	土師器	高杯		10.1	(6.7)	褐色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
8185	竪穴住居-325	土師器	高杯		9.1	(6.0)	明赤灰色(5YR5/6)	細砂	良好	赤色顔料、黒斑C
8186	竪穴住居-325	土師器	高杯	24.2	11.7	8.0	赤色(10R5/6)	細砂	良好	
8187	竪穴住居-325	土師器	高杯			(9.5)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	
8188	竪穴住居-325	土師器	甗	11.4		5.6	褐色(2.5YR6/8)	細砂	良好	黒斑B・C
8189	竪穴住居-325	土師器	鉢	13.2		(5.6)	淡褐色(5YR8/4)	精良	良好	
8190	竪穴住居-325	土師器	鉢	25.6		9.9	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	
8191	竪穴住居-325	土師器	鉢	16.3	7.5	11.0	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂	良好	籠目
8192	竪穴住居-325	土師器	甗	26.0	12.6	(32.3)	褐色(5YR6/8)	粗砂	良好	穿穴6個、黒斑B
8193	竪穴住居-325	土師器	手捏土器	5.6	2.9	3.7	褐色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
8194	竪穴住居-326	須恵器	高杯	12.6		(3.7)	青灰色(5B5/1)	細砂	良好	
8195	竪穴住居-327	土師器	甗	20.9		(2.7)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
8196	竪穴住居-328	須恵器	杯蓋	13.1	9.2	4.1	灰白色(10Y7/1)	粗砂	良好	
8197	竪穴住居-328	土師器	鉢	18.6		(7.0)	褐色(7.5YR6/8)	粗砂	良好	黒斑B
8198	竪穴住居-330	須恵器	杯蓋	11.6		4.0	灰色(N6/)	細砂	良好	
8199	竪穴住居-330	須恵器	杯蓋	12.8		4.1	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	不良	
8200	竪穴住居-330	須恵器	杯身	10.9		(2.1)	灰白色(N8/)	細砂	良好	
8201	竪穴住居-330	須恵器	杯身	12.0		(2.3)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8202	竪穴住居-330	須恵器	杯身	10.2		(3.1)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8203	竪穴住居-330	須恵器	杯身	12.0		3.6	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8204	竪穴住居-330	須恵器	高杯	13.5		8.5	灰白色(5Y8/1)	細砂	良好	
8205	竪穴住居-330	須恵器	甗	12.8		(4.6)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8206	竪穴住居-330	須恵器	杯蓋	11.4		4.9	灰色(N6/)	細砂	良好	
8207	竪穴住居-330	須恵器	甗	17.1		(5.2)	灰白色(N8/)	細砂	良好	
8208	竪穴住居-330	土師器	甗			(28.0)	鈍い褐色(5YR7/4)	粗砂	良好	
8209	竪穴住居-330	土師器	甗	12.6		(3.4)	鈍い赤褐色(5YR5/4)	細砂	良好	
8210	竪穴住居-330	土師器	甗	15.4		(3.9)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
8211	竪穴住居-330	土師器	甗	19.4		(7.2)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
8212	竪穴住居-330	土師器	甗	16.6		(10.3)	鈍い褐色(2.5YR6/4)	細砂	良好	
8213	竪穴住居-330	土師器	壺	14.9		18.3	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	良好	
8214	竪穴住居-330	土師器	取手付鍋	23.8		24.3	褐色(5YR6/8)	細砂	良好	黒斑B
8215	竪穴住居-330	土師器	甗	26.8		31.5	褐色(2.5YR6/8)	細砂	良好	透し孔4、黒斑BC
8216	竪穴住居-330	土師器	甗		9.4	(8.9)	褐色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
8217	竪穴住居-330	土師器	甗		10.0	(9.5)	鈍い赤褐色(5YR5/4)	細砂	良好	黒斑C
8218	竪穴住居-330	土師器	甗		13.0	(6.7)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	礫	良好	
8219	竪穴住居-330	土師器	製塩土器			(2.8)	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	良好	
8220	竪穴住居-330	土師器	製塩土器			(4.8)	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂	良好	
8221	竪穴住居-330	土師器	製塩土器			(8.6)	明褐色(7.5YR5/6)	粗砂	良好	
8222	竪穴住居-330	土師器	製塩土器	16.0		(16.7)	暗灰色(N3/)	粗砂	良好	
8223	竪穴住居-330	土師器	角杯?			(8.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	黒斑あり
8224	竪穴住居-332	土師器	甗	20.0		(5.0)	鈍い褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
8225	竪穴住居-332	土師器	甗	21.4		(7.2)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	
8226	竪穴住居-332	土師器	甗	(19.4)		(5.4)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
8227	竪穴住居-332	土師器	甗		8.0	(13.5)	褐色(2.5YR6/8)	細砂	良好	透し孔4
8228	竪穴住居-332	須恵器	杯身	(14.2)		(4.4)	褐灰色(10YR5/1)	細砂	良好	
8229	竪穴住居-332	須恵器	器台			(5.4)	灰色(N5/)	細砂	良好	
8230	竪穴住居-337	土師器	甗			(28.0)	鈍い褐色(7.5YR6/4)	細砂	良好	表面に赤色顔料塗布?、ススB
8231	竪穴住居-339	須恵器	杯蓋	11.5		4.7	灰色(N6/)	細砂	良好	自然釉、ロクロ回転左
8232	竪穴住居-339	須恵器	杯蓋	12.8		(4.8)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転左

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8233	竪穴住居-339	須恵器	杯蓋	(11.8)		(4.6)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8234	竪穴住居-339	須恵器	杯蓋	12.7		(3.7)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8235	竪穴住居-339	須恵器	杯身	10.2		(4.4)	灰色(N6/)	精良	良好	底自然釉、ロクロ回転右
8236	竪穴住居-339	土師器	甕	20.3		(6.0)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	
8237	竪穴住居-339	土師器	甕	(39.0)		(8.3)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
8238	竪穴住居-339	土師器	甕			(5.5)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	
8239	竪穴住居-340	須恵器	杯蓋	(12.4)		(5.0)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転右
8240	竪穴住居-340	土師器	手捏土器	4.4		4.1	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	黒斑C、歪み有り
8241	竪穴住居-341	須恵器	杯蓋	10.8		(4.5)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8242	竪穴住居-341	須恵器	杯蓋			(3.7)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8243	竪穴住居-341	須恵器	壺	10.8		(12.4)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8244	竪穴住居-342	須恵器	杯蓋	13.0		4.8	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8245	竪穴住居-342	須恵器	杯身	11.0		5.0	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	不良	
8246	竪穴住居-342	須恵器	杯身	11.4		4.4	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8247	竪穴住居-342	須恵器	杯身	11.4		5.5	灰色(N5/)	細砂	良好	
8248	竪穴住居-342	須恵器	杯蓋	12.4		5.7	灰色(N6/)	細砂	良好	
8249	竪穴住居-342	須恵器	杯蓋	12.0		5.4	灰白色(N7/)	細砂	良好	自然釉あり
8250	竪穴住居-342	須恵器	高杯		8.0	(5.7)	灰色(N5/)	細砂	良好	透し孔3個
8251	竪穴住居-342	須恵器	甕			(13.7)	灰色(N6/)	細砂	良好	頸部と胴部に波状文あり、肩部自然釉
8252	竪穴住居-342	須恵器	壺	48.0		(18.9)	灰色(N5/)	細砂	良好	口縁部自然釉あり
8253	竪穴住居-342	土師器	甕	17.5		(19.4)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
8254	竪穴住居-342	土師器	甕			(5.3)	鈍い褐色(7.5YR5/3)	細砂	良好	
8255	竪穴住居-342	土師器	取手			(3.8)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
8256	竪穴住居-343	須恵器	高杯蓋	12.8		5.0	灰色(N5/)	細砂	良好	
8257	竪穴住居-343	須恵器	高杯蓋	12.0		5.3	灰色(N6/)	細砂	良好	上部に線刻あり
8258	竪穴住居-343	須恵器	高杯蓋	12.8		(4.8)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8259	竪穴住居-343	須恵器	杯身	10.2		(4.6)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8260	竪穴住居-343	須恵器	高杯		8.8	(6.8)	灰色(N5/)	細砂	良好	
8261	竪穴住居-343	須恵器	高杯	10.4	8.7	9.4	灰色(N6/)	細砂	良好	透し孔3
8262	竪穴住居-344	土師器	壺	14.4		32.0	褐色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	完形
8263	竪穴住居-344	土師器	壺	16.4		24.0	褐色(5YR6/6)	粗砂	良好	黒斑B
8264	竪穴住居-344	土師器	高杯	(18.4)		(5.9)	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂	良好	杯部スス少し有り
8265	竪穴住居-344	土師器	高杯	20.0		(8.5)	褐色(2.5YR6/8)	粗砂	良好	全体が風化
8266	土壇-458	須恵器	蓋	3.1		(0.8)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8267	土壇-458	須恵器	杯蓋	11.5		(3.5)	灰白色(N8/)	細砂	良好	
8268	土壇-458	須恵器	杯身	10.4		5.1	灰白色(N7/)	細砂	良好	ロクロ右回り
8269	土壇-458	須恵器	甕			(25.8)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8270	土壇-458	土師器	手捏土器	6.7		(6.3)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
8271	溝-469	須恵器	杯蓋	11.1		(3.0)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8272	溝-469	須恵器	高杯	14.6		(4.1)	灰白色(N8)	粗砂	良好	
8273	溝-469	須恵器	高杯			(7.6)	褐色(10YR6/3)	精良	良好	
8274	溝-469	須恵器	高杯			(3.2)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
8275	溝-469	土師器	甕	(18.5)		(6.7)	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂、砂礫	良好	
8276	溝-469	土師器	甕	(18.7)		(5.7)	鈍褐色(7.5YR6/3)	粗砂、砂礫	良好	
8277	溝-469	土師器	甕	12.2		(18.4)	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂、砂礫	良好	
8278	溝-472	須恵器	杯身	12.1		(2.2)	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	
8279	溝-472	須恵器	杯身	14.0		(1.8)	灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	
8280	溝-474	須恵器	甕			(4.8)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	内面自然釉
8281	包含層	須恵器	甕	(13.0)		(0.7)	灰色(N6)	細砂	良好	
8282	包含層	須恵器	壺	(17.3)		(4.5)	青灰色(5BG6/1)	細砂	良好	カキメ
8283	包含層	須恵器	杯蓋	11.9		(4.0)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8284	包含層	須恵器	杯蓋	12.6		(3.2)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8285	包含層	土師器	製塩土器	(10.3)		(4.6)	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂	良好	
8286	包含層	土師器	甕	14.7		(6.4)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
8287	包含層	土師器	把手			(7.8)	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	良好	
8288	包含層	須恵器	杯蓋	13.0		(4.2)	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8289	包含層	須恵器	杯蓋	15.8		(4.8)	褐色(10YR6/1)	細砂	良好	
8290	包含層	須恵器	杯蓋	12.8		4.4	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8291	包含層	須恵器	杯身	11.2		(2.6)	褐色(10YR6/1)	細砂	良好	
8292	包含層	須恵器	杯身	12.0		(4.3)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	外面自然釉
8293	包含層	土師器	杯身	11.8		(2.4)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
8294	包含層	須恵器	高杯		9.2	7.6	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
8295	包含層	須恵器	高杯	13.2		7.3	明褐色(5YR7/1)	細砂	良好	
8296	包含層	須恵器	高杯		(13.0)	(6.2)	灰色(N5/)	細砂	良好	透し孔4
8297	包含層	須恵器	高杯			(7.0)	灰白色(10Y7/1)	細砂	良好	
8298	包含層	須恵器	高杯		11.0	(6.5)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
8299	包含層	須恵器	高杯		10.0	(7.6)	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
8300	包含層	須恵器	平瓶	5.9		(11.7)	灰白色(N7/)	精良	良好	口縁歪んでいる
8301	包含層	須恵器	提瓶			(16.8)	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	口縁部自然釉
8302	包含層	須恵器	壺			(3.6)	灰白色(N8/)	細砂	良好	頸部波状文
8303	包含層	須恵器	壺			(4.6)	灰白色(N7/0)	細砂	良好	肩部波状文
8304	包含層	須恵器	器台			(4.7)	灰白色(N7/)	精良	良好	
8305	包含層	須恵器	甕	15.4		(4.4)	灰白色(N8/)	細砂	良好	
8306	包含層	須恵器	甕	22.0		(10.4)	灰白色(N8/)	細砂	良好	自然釉有り
8307	包含層	土師器	甕	17.8		(4.6)	褐色(7.5YR6/8)	細砂	良好	

土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8308	包含層	土師器	甕	20.2		(3.6)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
8309	包含層	土師器	甕	12.9		(11.8)	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂	良好	
8310	包含層	須恵器	壺			(4.7)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8311	包含層	須恵器	甕			(3.1)	灰色(7.5Y6/1)	粗砂	良好	内面の底部紋り
8312	包含層	須恵器	蓋	14.2		4.4	灰白色(N7)	細砂	良好	ロクロ回転方向右
8313	包含層	須恵器	杯蓋	(13.7)		(4.6)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転右
8314	包含層	須恵器	杯身	12.6		(4.7)	灰白色(N7/)	細砂	良好	ロクロ回転右
8315	包含層	須恵器	杯蓋	(10.9)		(4.1)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8316	包含層	須恵器	杯蓋	(12.0)		(5.2)	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	ロクロ回転左
8317	包含層	須恵器	杯蓋	(12.0)		(4.9)	褐灰色(10YR6/1)	細砂	良好	ロクロ回転方向左
8318	包含層	須恵器	杯蓋	(12.4)		(4.9)	灰白色(N7/)	粗砂	良好	ロクロ回転左
8319	包含層	須恵器	蓋	(12.0)		(3.9)	灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	ロクロ回転方向左
8320	包含層	須恵器	杯身	11.6		(4.4)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8321	包含層	須恵器	杯身	11.0		(4.1)	赤灰色(5R5/1)	礫	良好	ロクロ回転方向不明
8322	包含層	須恵器	杯身	11.5		5.1	灰色(N7/)	粗砂	良好	ロクロ回転左
8323	包含層	須恵器	杯身	9.8		(4.0)	明赤灰色(5R7/1)	細砂	良好	ロクロ回転不明
8324	包含層	須恵器	杯身	(10.0)		(3.1)	灰白色(N7/)	細砂	良好	ロクロ回転方向不明
8325	包含層	須恵器	杯身			(4.0)	灰色(N5/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8326	包含層	須恵器	杯身			(3.3)	灰白色(N7/)	細砂	良好	ロクロ回転右
8327	包含層	須恵器	杯身			(3.0)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8328	包含層	須恵器	杯身			(2.6)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8329	包含層	須恵器	杯蓋	12.6		(4.7)	灰色(N6/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8330	包含層	須恵器	高杯		8.6	(4.6)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	透し孔3方向
8331	包含層	須恵器	壺	23.4		(6.5)	灰色(6N)	細砂	良好	
8332	包含層	土師器	壺?	17.9		(3.9)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	
8333	包含層	土師器	甕	24.5		(10.5)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
8334	掘立柱建物-56	瓦	平瓦	(13.2)	(12.0)	2.1	灰色(N4)	粗砂	良好	縄タタキ
8335	掘立柱建物-56	瓦	平瓦	(10.0)	(17.4)	2.0	灰色(5Y4/1)	粗砂	良好	縄タタキ
8336	掘立柱建物-58	須恵器	杯身		11.0	(2.0)	灰白色(N7)	精良	良好	
8337	掘立柱建物-58	須恵器	杯身			(1.4)	灰色(N5)	細砂	良好	
8338	掘立柱建物-58	須恵器	杯			(2.4)	灰色(N4)	細砂	良好	
8339	掘立柱建物-59	須恵器	杯身			(2.4)	灰色(N6/)	精良	良好	
8340	掘立柱建物-59	須恵器	杯身			(2.5)	灰白色(N7/)	精良	良好	
8341	掘立柱建物-59	須恵器	杯身			(2.8)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8342	掘立柱建物-59	須恵器	杯身		7.2	(3.8)	灰白色(2.5Y8/2)	精良	良好	土器の回転右、底外面×印
8343	掘立柱建物-59	須恵器	壺			(4.0)	灰色(N6/)	精良	良好	
8344	掘立柱建物-60	須恵器	杯身			(2.2)	灰色(N6/)	精良	良好	
8345	掘立柱建物-60	須恵器	杯蓋			(1.8)	灰色(N5/)	細砂	良好	金属器うつし
8346	掘立柱建物-60	須恵器	杯蓋			(1.6)	灰色(N6/)	礫	良好	
8347	掘立柱建物-60	須恵器	甕			(1.7)	灰白色(2.5Y8/)	細砂	良好	
8348	掘立柱建物-61	須恵器	杯蓋	(13.8)		(3.4)	灰白色(N7/)	細砂	良好	ロクロの回転右
8349	掘立柱建物-61	須恵器	杯身	12.1		4.4	灰白色(10Y7/1)	細砂	良好	ロクロの回転右
8350	掘立柱建物-62	須恵器	杯身			(1.5)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8351	掘立柱建物-62	須恵器	杯身			(2.2)	灰色(N5/)	精良	良好	
8352	掘立柱建物-62	瓦	丸瓦	(4.7)	(7.5)	1.5	鈍い黄橙色(10YR7/4)	粗砂	良好	
8353	掘立柱建物-63	須恵器	杯蓋			(2.0)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8354	掘立柱建物-63	須恵器	杯蓋			(3.0)	灰白色(2.5Y7/)	精良	良好	寒風古窯か
8355	掘立柱建物-64	瓦	平瓦	(10.2)	(6.0)	1.9	橙色(5YR7/6)	粗砂	良好	縄タタキ
8356	掘立柱建物-65	須恵器	杯蓋			(1.1)	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8357	掘立柱建物-65	土師器	杯			(1.8)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	丹塗り
8358	土壇-461	須恵器	杯蓋			(1.6)	灰白色(N7)	精良	良好	
8359	土壇-461	須恵器	杯身			(3.2)	灰白色(N7)	精良	良好	
8360	土壇-461	須恵器	皿	18.0		2.5	灰白色(N7)	粗砂	良好	瓦質
8361	土壇-461	須恵器	皿	(30.0)	21.0	4.2	灰白色(N8)	粗砂	良好	
8362	土壇-462	土師器	釣燈籠形			(20.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	ゲタをはき、円筒部透し孔4
8363	土壇-463	須恵器	杯蓋			(1.9)	灰白色(5Y7/1)	粗砂	良好	
8364	土壇-463	須恵器	杯蓋			(1.6)	灰白色(N8/)	細砂	良好	ヘラケズリ左
8365	土壇-463	須恵器	杯蓋	(19.3)		(2.1)	灰白色(5Y7/2)	精良	良好	内面仕上げナデ
8366	土壇-463	須恵器	杯身		(11.3)	(1.6)	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	
8367	土壇-463	須恵器	杯身		11.2	(1.4)	灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8368	土壇-463	須恵器	稜椀			(3.3)	灰色(2.5Y7/1)	精良	良好	
8369	土壇-463	須恵器	底			(4.0)	灰白色(5Y8/1)	精良	良好	
8370	土壇-463	土師器	杯			(2.0)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	内外面に丹塗り
8371	土壇-463	土師器	杯			(3.6)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	内面暗文
8372	土壇-463	瓦	丸瓦	(15.0)	(11.3)	1.6	灰白色(5Y7/2)	粗砂	良好	ナデ
8373	土壇-464	須恵器	杯蓋	(17.2)		3.2	灰白色(N7/)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8374	土壇-464	須恵器	杯蓋	(17.1)		2.3	灰白色(N7/)	粗砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8375	土壇-464	須恵器	杯身		10.7	(2.2)	灰色(N4/)	精良	良好	瓦質、内面仕上げナデ
8376	土壇-464	須恵器	杯身	16.2	12.9	3.5	灰白色(N7/)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8377	土壇-464	須恵器	葉壺蓋			(2.4)	灰白色(N8/)	精良	良好	土器の回転右、寒風古窯か
8378	土壇-464	須恵器	短頸壺	11.0		(4.5)	灰白色(N8/)	細砂	良好	
8379	土壇-464	須恵器	壺			(6.1)	明オリブ色(2.5GY7/1)	細砂	良好	
8380	土壇-465	須恵器	杯身		11.5	(1.9)	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	内面仕上げナデ
8381	土壇-465	須恵器	壺			(2.8)	暗オリブ灰色(2.5GY4/1)	細砂	良好	
8382	土壇-469	須恵器	杯蓋			(1.1)	灰白色(N7)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8383	土壇-469	須恵器	杯身		(11.8)	(1.9)	灰色(N5)	細砂	やや不良	
8384	土壇-469	須恵器	壺	(30.5)		(5.5)	灰色(N6)	細砂、粗砂	良好	ヘラ描き波状文2条、沈線3条
8385	土壇-469	須恵器	長頸壺			(14.8)	明オリ-ブ灰色(2.5GY7/1)	細砂	良好	
8386	土壇-469	土師器	杯	(13.8)		(2.4)	淡黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	
8387	土壇-469	土師器	皿	21.2		(2.2)	橙色(2.5Y7/6)	精良	良好	
8388	土壇-470	須恵器	杯蓋	16.0		(2.3)	灰白色(7.5Y7/1)	粗砂	良好	
8389	土壇-470	須恵器	杯蓋	(17.6)		(2.2)	灰色(N6)	精良	良好	
8390	土壇-470	須恵器	台付杯?		12.1	(3.1)	灰白色(10Y8/1)	粗砂	良好	
8391	土壇-470	須恵器	壺	19.2		(12.9)	灰色(N5)	細砂、砂礫	良好	
8392	土壇-471	須恵器	杯蓋	16.1		2.6	灰色(N6)	細砂	良好	
8393	土壇-471	須恵器	杯蓋			(2.8)	灰白色(N8)	細砂	良好	
8394	土壇-471	須恵器	杯蓋	(17.2)		(2.1)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8395	土壇-471	須恵器	甕			(9.9)	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8396	土壇-471	土師器	甕	23.5		(5.0)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	粗砂、砂礫	良好	ススA
8397	土壇-474	須恵器	杯身	12.4		4.5	灰白色(10Y7/1)	細砂	良好	
8398	土壇-474	須恵器	杯身	12.4		(4.0)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
8399	土壇-474	須恵器	杯蓋	16.4		(2.1)	灰色(10Y5/1)	細砂	良好	
8400	土壇-474	須恵器	杯身	17.8		6.2	灰白色(7.5Y8/2)	細砂	良好	
8401	土壇-474	須恵器	杯身	11.4		(1.8)	褐灰色(10YR6/1)	細砂	良好	
8402	土壇-474	須恵器	杯身	12.8		4.1	灰色(N6/)	細砂	良好	
8403	土壇-474	須恵器	長頸壺		10.0	(5.0)	灰色(N4/)	細砂	良好	
8404	土壇-474	土師器	蓋			(1.4)	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	
8405	土壇-474	土師器	蓋			(1.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	
8406	土壇-474	土師器	高台付盤	(28.6)	23.8	2.7	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	内面暗文
8407	土壇-475	土師器	高台付盤	29.2	17.8	5.4	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	把手3か所、内面暗文
8408	土壇-475	土師器	甕	29.0		29.1	鈍い黄橙色(10YR6/4)	細砂	良好	黒斑A B
8409	土壇-476	須恵器	碗			(1.7)	灰白色(N8/)	細砂	良好	杯蓋からの転用、ロクロ回転左
8410	土壇-476	須恵器	杯蓋			(2.1)	灰白色(2.5GY8/1)	細砂	良好	ロクロ回転左
8411	土壇-476	須恵器	杯蓋	16.9		3.4	灰白色(N8/)	細砂	良好	ロクロ回転左
8412	土壇-476	須恵器	杯蓋	17.0		(2.7)	灰白色(2.5GY8/1)	細砂	良好	ロクロ回転左
8413	土壇-476	須恵器	杯蓋	(21.2)		(1.7)	灰白色(7.5Y7/1)	精良	良好	自然釉有り
8414	土壇-476	須恵器	杯身	11.0	7.8	3.9	灰白色(10Y8/1)	細砂	良好	ロクロ回転左
8415	土壇-476	須恵器	杯身		12.6	(1.2)	灰色(7.5Y5/1)	精良	良好	ロクロ回転左
8416	土壇-476	須恵器	杯身		12.4	(2.3)	灰色(N6/)	精良	良好	
8417	土壇-476	須恵器	杯身		13.7	(2.0)	灰白色(7.5Y7/1)	精良	良好	
8418	土壇-476	須恵器	杯身		(14.0)	(3.7)	灰白色(N7/)	精良	良好	
8419	土壇-476	須恵器	杯身		15.0	(2.7)	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	
8420	土壇-476	土師器	甕	(19.6)		(5.2)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
8421	土壇-476	土師器	杯	(20.4)		(5.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	丹塗り痕
8422	土壇-476	土師器	杯	15.2	9.8	3.7	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8423	土壇-476	土師器	皿	15.2	11.0	3.0	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	丹塗り
8424	土壇-476	土師器	杯			(4.0)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
8425	土壇-476	土師器	皿			(2.6)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
8426	土壇-476	土師器	杯			(2.5)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	丹塗り、暗文有り
8427	土壇-476	土師器	?			-	鈍い橙色(7.5YR7/3)	精良	良好	丹塗り、暗文有り
8428	土壇-476	土師器	?			-	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
8429	土壇-476	土師器	杯?			(1.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	精良	良好	丹塗り、内面暗文
8430	土壇-476	土師器	杯?			(1.5)	浅黄橙色(7.5YR8/6)	精良	良好	丹塗り
8431	焼成土壇-8	須恵器	杯身		10.0	(1.4)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8432	焼成土壇-8	土師器	皿	14.2	11.2	2.5	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	内外に赤色顔料
8433	溝-475	瓦	軒丸瓦			(11.0)	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	推定径17cm、厚さ1.7cm飛鳥期
8434	溝-475	須恵器	杯身	13.6	5.6	4.0	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	不良	
8435	溝-475	須恵器	杯身	14.3	8.5	3.6	灰色(10Y6/1)	細砂	良好	
8436	溝-475	須恵器	皿	17.6		(3.5)	灰白色(10Y8/1)	細砂	不良	
8437	溝-475	須恵器	高台付鉢		11.0	(1.4)	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	
8438	溝-475	須恵器	高台付鉢		10.9	(1.6)	青灰色(5B6/1)	細砂、粗砂	良好	
8439	溝-475	須恵器	蓋			(2.1)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8440	溝-475	須恵器	蓋	17.2		(1.8)	青灰色(5B6/1)	細砂	良好	
8441	溝-475	須恵器	杯身	13.9	10.4	4.0	暗青灰色(5B4/1)	細砂	良好	
8442	溝-475	須恵器	杯身	14.7	11.0	3.3	青灰色(5B5/1)	細砂	良好	
8443	溝-475	須恵器	薬壺蓋	14.4		2.9	灰白色(N7)	細砂	良好	
8444	溝-475	須恵器	長頸壺		9.6	(8.3)	暗緑灰色(10GY4/1)	細砂	良好	自然釉(ゴマ)
8445	溝-475	須恵器	罎			4.4	灰色(10Y6/1)	細砂	良好	金属器うつし
8446	溝-475	須恵器	壺			(3.2)	灰色(N5)	細砂	良好	
8447	溝-475	須恵器	甕	21.0		(5.7)	灰色(N5)	細砂	良好	
8448	溝-475	須恵器	甕		11.1	(3.7)	灰色(N5)	細砂、粗砂	良好	
8449	溝-475	須恵器	盤	(42.2)		7.4	灰白色(N7)	細砂	良好	
8450	溝-475	須恵器	甕			(9.7)	青灰色(5B6/1)	細砂	良好	
8451	溝-475	須恵器	壺			(2.7)	灰色(N6)	細砂	良好	
8452	溝-475	須恵器	甕			(10.9)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8453	溝-475	須恵器	甕			(7.3)	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8454	溝-475	須恵器	壺			(10.0)	灰色(N6)	細砂	良好	
8455	溝-475	須恵器	甕			(12.5)	灰白色(N7/1)	粗砂	良好	
8456	溝-475	須恵器	甕		26.4	(9.4)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8457	溝-475	須恵器	甕			(2.8)	灰白色(N7)	細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8458	溝-475	土師器	杯身	(13.4)	10.2	(2.6)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
8459	溝-475	土師器	高杯			(5.7)	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	丹塗り
8460	溝-475	土師器	高杯	28.5		(2.4)	鈍黄橙色(10YR7/4)	精良	良好	丹塗り、内面暗文
8461	溝-475	土師器	甕	(45.3)		(9.7)	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
8462	溝-475	瓦	丸瓦	15.0	11.0	1.7	褐灰色(10YR4/1)	細砂、粗砂	良好	
8463	溝-475	瓦	丸瓦	13.0	7.5	1.8	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	良好	
8464	溝-475	瓦	丸瓦	13.1	5.0	1.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
8465	溝-475	瓦	丸瓦	14.3	10.6	1.7	灰色(N6)	細砂	良好	
8466	溝-475	瓦	平瓦	7.8	8.6	2.0	灰白色(N7)	細砂	良好	縄タタキ、糸切り
8467	溝-475	瓦	平瓦	13.2	16.6	1.7	明褐色(7.5YR7/1)	細砂、粗砂	良好	
8468	溝-475	瓦	平瓦	9.5	10.7	2.1	灰白色(7.5YR8/2)	粗砂、砂礫	良好	縄タタキ
8469	溝-475	瓦	平瓦	10.2	9.4	2.1	暗灰色(N3)	細砂	良好	縄タタキ
8470	溝-476	須恵器	杯蓋			(1.9)	灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	
8471	溝-476	須恵器	杯蓋	15.2		2.6	青灰色(5B6/1)	細砂	良好	
8472	溝-476	須恵器	杯身		6.9	(1.4)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8473	溝-476	須恵器	杯身	13.9	9.5	4.2	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8474	溝-476	須恵器	杯身	15.2	9.7	5.1	灰色(N6)	細砂	良好	
8475	溝-476	須恵器	杯身		10.0	(3.2)	青灰色(5B6/1)	細砂	良好	
8476	溝-476	須恵器	杯身		10.6	(2.5)	青灰色(5PB6/1)	細砂	良好	
8477	溝-476	須恵器	杯身	18.1	13.3	6.3	灰白色(N7/6)	細砂	良好	自然釉
8478	溝-476	須恵器	杯身	19.4	13.7	7.5	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8479	溝-476	須恵器	杯身		14.0	(1.7)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8480	溝-476	須恵器	杯身	12.6		4.1	灰白色(7.5Y7/1)	粗砂、砂礫	良好	
8481	溝-476	須恵器	杯身	13.1	7.8	4.7	黒褐色(10YR3/1)	細砂、粗砂	不良	瓦質
8482	溝-476	須恵器	杯身	14.0	10.0	4.9	灰白色(7.5YR7/1)	細砂、粗砂	良好	
8483	溝-476	土師器	小皿	9.5	7.1	2.2	鈍黄橙色(10YR6/4)	細砂	良好	
8484	溝-476	須恵器	皿	(14.8)	9.3	2.5	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂	不良	瓦質
8485	溝-476	須恵器	高杯	(27.0)		(2.5)	灰白色(N8)	細砂	良好	
8486	溝-476	須恵器	薬壺蓋	12.1		3.2	オリーブ灰色(2.5GY7/1)	細砂	良好	自然釉
8487	溝-476	須恵器	長頸瓶		8.4	(12.6)	青灰色(5B6/1)	細砂、粗砂、砂礫	良好	
8488	溝-476	須恵器	長頸瓶		10.9	(6.7)	青灰色(5B5/1)	細砂、粗砂	良好	
8489	溝-476	須恵器	甕			(8.9)	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	細砂	良好	自然釉
8490	溝-476	須恵器	壺			(9.1)	青灰色(5B6/1)	細砂	良好	
8491	溝-476	須恵器	壺			(11.8)	灰白色(N7)	粗砂	良好	
8492	溝-476	土師器	甕			(4.8)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	線刻
8493	溝-476	土師器	甕			(6.2)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	ススA
8494	溝-476	土師器	甕	28.4		(5.3)	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	良好	透し穴
8495	溝-476	土師器	器台?	21.5		(7.0)	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	良好	ススA
8496	溝-476	瓦	丸瓦	(15.7)	(10.5)	1.8	灰白色(5Y7/1)	粗砂	良好	
8497	溝-476	瓦	丸瓦	(10.4)	(8.1)	1.3	暗青灰色(5B4/1)	細砂	良好	
8498	溝-476	瓦	平瓦	(14.8)	(10.3)	2.5	灰色(N6)	細砂	良好	縄タタキ
8499	溝-476	瓦	平瓦	(11.6)	(12.4)	2.3	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8500	溝-476	瓦	平瓦	(27.1)	(17.1)	2.3	暗青灰色(10BG3/1)	細砂、粗砂、砂礫	良好	縄タタキ
8501	溝-476	瓦	丸瓦	(11.1)	(11.8)	3.4	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	良好	
8502	溝-477A	須恵器	杯蓋	13.2		(1.3)	明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	細砂	良好	自然釉
8503	溝-477A	須恵器	杯蓋			(2.1)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8504	溝-477A	須恵器	杯蓋	(20.5)		(2.5)	灰色(N6)	細砂	やや不良	
8505	溝-477A	須恵器	杯身	19.8	13.4	7.8	青灰色(5B6/1)	細砂	良好	自然釉
8506	溝-477A	須恵器	杯身	17.9	12.0	7.3	明青灰色(5B7/1)	細砂	良好	
8507	溝-477A	須恵器	壺	(14.8)		(5.2)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8508	溝-477A	須恵器	皿	15.5	12.5	2.7	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂、礫	良好	ヘラケズリ
8509	溝-477A	須恵器	杯身		10.6	(2.1)	灰色(N4)	細砂	良好	瓦質
8510	溝-477A	須恵器	高杯			(3.6)	灰色(N6)	細砂	良好	
8511	溝-477A	土師器	杯身	14.6	10.2	2.6	橙色(2.5YR6/4)	精良	良好	丹塗り
8512	溝-477A	土師器	杯身	14.0	8.9	2.2	鈍い橙色(5YR7/)	精良	良好	
8513	溝-477A	瓦	平瓦	(10.7)	(8.8)	(2.3)	暗灰色(N3)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8514	溝-477B	須恵器	杯身		10.0	(2.8)	灰白色(N8)	細砂	良好	
8515	溝-478A	瓦	平瓦	(9.9)	(10.9)	2.3	灰色(N4)	細砂、粗砂、礫	良好	縄タタキ
8516	溝-478A	須恵器	杯身		(11.4)	(1.9)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
8517	溝-478A	須恵器	高杯			(6.3)	灰色(N7)	精良	良好	
8518	溝-478A	土師器	杯身	(17.1)		(2.3)	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	良好	内外面丹塗り
8519	溝-478A	土師器	高杯	24.6		(1.9)	橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	良好	
8520	溝-478A	土師器	高杯	(27.0)		(2.8)	橙色(2.5YR6/6)	精良	良好	内外面丹塗り
8521	溝-478B	須恵器	杯身		12.4	(1.1)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8522	溝-478C	須恵器	杯身		9.0	(1.8)	灰白色(N8)	粗砂、礫	良好	
8523	溝-479	須恵器	杯蓋			(1.4)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8524	溝-479	須恵器	杯		(11.6)	(1.9)	灰白色(N8)	細砂	良好	
8525	溝-479	須恵器	杯身			(2.0)	灰白色(N8)	細砂	不良	瓦質
8526	溝-479	須恵器	甕			(12.0)	灰白色(N7)	粗砂、礫	良好	カキメ
8527	溝-W28	須恵器	杯身		9.4	(2.7)	灰白色(N7)	粗砂	良好	
8528	溝-W28	須恵器	杯身		7.6	(2.3)	灰白色(N8)	細砂	やや不良	
8529	溝-W28	須恵器	杯蓋	15.5		(2.4)	オリーブ灰色(2.5GY)	細砂	良好	
8530	溝-W28	須恵器	杯蓋	17.8		(2.1)	灰白色(5YR8/1)	粗砂	やや不良	
8531	溝-W28	須恵器	杯蓋		9.4	(2.6)	灰白色(N8)	細砂	良好	
8532	溝-W28	須恵器	杯身		10.6	(1.9)	灰白色(N8)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8533	溝-W28	須恵器	杯身	(14.2)	9.8	4.2	灰白色(N8)	細砂	やや不良	
8534	溝-W28	須恵器	杯身	(15.4)	12.1	4.5	灰白色(N8)	細砂	良好	
8535	溝-W28	須恵器	杯身	(15.5)	12.2	4.1	灰白色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
8536	溝-W28	須恵器	高杯		9.8	(3.5)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8537	溝-W28	須恵器	高杯			(4.5)	灰白色(N8)	細砂	やや不良	
8538	溝-W28	土師器	蓋	(31.2)		(3.1)	橙色(2.5YR7/6)	精良	良好	丹塗り
8539	溝-W28	土師器	皿		20.6	(1.6)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	丹塗り
8540	溝-W28	土師器	高杯			(2.5)	橙色(2.5YR7/6)	精良	良好	暗文
8541	溝-W28	土師器	碗			(2.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	黒斑A
8542	溝-W28	土師器	カマド			(5.8)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
8543	溝-W28	瓦	平瓦	(5.0)	(4.4)	1.4	灰白色(N7)	粗砂	良好	縄タタキ
8544	溝-W28	瓦	平瓦	(6.9)	(8.6)	1.6	灰黄色(2.5Y7/2)	粗砂、礫	良好	縄タタキ
8545	溝-W28	瓦	平瓦	(6.6)	(8.9)	1.8	褐灰色(10YR5/1)	細砂、粗砂、礫	良好	縄タタキ
8546	溝-W28	瓦	平瓦	(10.4)	(8.8)	2.2	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8547	溝-W28	瓦	丸瓦	(13.4)	11.4	2.1	灰白色(N8)	粗砂	良好	
8548	溝-W28	瓦	丸瓦	(10.6)	(11.3)	1.9	灰白色(5Y7/)	粗砂、礫	良好	
8549	溝-N28	須恵器	杯蓋			(1.6)	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	不良	
8550	溝-N28	須恵器	杯蓋			(1.4)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
8551	溝-N28	須恵器	杯蓋	15.0		(2.2)	灰白色(N8/)	細砂	良好	土器の回転右、寒風古窯か、内面仕上げナデ
8552	溝-N28	須恵器	杯蓋	(15.2)		(1.3)	灰白色(2.5G8/1)	精良	良好	
8553	溝-N28	須恵器	杯蓋	15.4		1.4	灰白色(N7/)	精良	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8554	溝-N28	須恵器	杯蓋	15.8		2.6	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8555	溝-N28	須恵器	杯蓋	16.4		3.1	灰白色(N7/)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8556	溝-N28	須恵器	杯蓋			(2.4)	灰白色(N7/)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8557	溝-N28	須恵器	杯蓋	(18.3)		3.5	灰白色(N7/)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ、瓦質
8558	溝-N28	須恵器	杯身	12.7	9.2	3.9	灰色(N6/)	礫	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8559	溝-N28	須恵器	杯身	13.1	9.9	3.4	灰白色(N7/)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8560	溝-N28	須恵器	杯身	14.9	10.4	4.0	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8561	溝-N28	須恵器	杯身	15.7	10.7	4.6	灰白色(10Y7/1)	粗砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8562	溝-N28	須恵器	杯身	16.1	11.8	3.9	灰白色(N7/)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8563	溝-N28	須恵器	杯身		12.0	(1.5)	灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	ヘラケズリ左、内面仕上げナデ
8564	溝-N28	須恵器	椀		10.6	(1.5)	灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	器内外面ヘラミガキ、金属器うつし
8565	溝-N28	須恵器	杯身	13.0	(9.0)	(4.0)	灰白色(N8/)	細砂	良好	鈍重、内面仕上げナデ
8566	溝-N28	須恵器	杯身	13.2	9.4	4.0	灰白色(N8/)	細砂	良好	土器の回転右、口縁歪み、内面仕上げナデ
8567	溝-N28	須恵器	杯身	12.8	8.8	4.0	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	土器の回転右、内面仕上げナデ
8568	溝-N28	須恵器	杯身	13.1	8.8	5.6	灰白色(10Y8/1)	細砂	良好	土器の回転右、内面仕上げナデ
8569	溝-N28	須恵器	杯身	13.7	8.8	3.7	灰白色(N8/)	細砂	良好	土器の回転右
8570	溝-N28	須恵器	杯身		8.4	(2.0)	灰白色(N7/)	細砂	良好	土器の回転右、内面仕上げナデ
8571	溝-N28	須恵器	杯身	14.0	10.0	5.1	灰白(5Y8/2)	細砂	良好	土器の回転右、内面仕上げナデ
8572	溝-N28	須恵器	杯身	14.3	8.5	3.6	灰白色(N7/)	細砂	良好	土器の回転右
8573	溝-N28	須恵器	壺		5.2	(1.5)	灰白色(5Y7/1)	精良	良好	土器の回転右
8574	溝-N28	須恵器	皿	18.2	15.4	3.4	灰白色(5Y7/)	細砂	良好	土器の回転右、内面仕上げナデ
8575	溝-N28	須恵器	高杯		25.7	(2.5)	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	土器の回転右、仕上げナデ
8576	溝-N28	須恵器	蓋	(14.3)		(1.6)	灰色(N6/)	細砂	良好	ヘラケズリ左
8577	溝-N28	須恵器	薬壺	(12.0)		(3.0)	灰白色(N7/)	精良	良好	
8578	溝-N28	須恵器	壺			(7.0)	灰白色(N8/)	細砂	良好	
8579	溝-N28	須恵器	瓶			(5.0)	灰色(N6/)	精良	良好	
8580	溝-N28	須恵器	鉢			(3.6)	灰白色(N8/)	細砂	良好	
8581	溝-N28	須恵器	鉢			(5.6)	灰白色(N8/)	細砂	良好	
8582	溝-N28	須恵器	壺			(3.1)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
8583	溝-N28	須恵器	壺			(2.8)	灰白色(N7/)	精良	良好	
8584	溝-N28	須恵器	壺			(1.8)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8585	溝-N28	須恵器	壺			(5.7)	灰色(N6/)	細砂	良好	
8586	溝-N28	須恵器	壺			(4.0)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8587	溝-N28	土師器	蓋	16.0		3.3	橙色(5YR7/8)	精良	良好	天井部暗文
8588	溝-N28	土師器	杯蓋	17.1		(1.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	天井部暗文
8589	溝-N28	土師器	杯蓋	(15.5)		(1.5)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	内外面暗文あり
8590	溝-N28	土師器	杯蓋	(18.2)		(1.6)	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	内外面暗文あり
8591	溝-N28	土師器	杯蓋	(19.0)		(1.8)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	内外面暗文あり
8592	溝-N28	土師器	皿	15.1	13.1	1.9	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂、精良	良好	内外面丹塗り
8593	溝-N28	土師器	皿	16.1	14.1	(2.3)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	良好	内外面丹塗り
8594	溝-N28	土師器	杯身	18.0	18.3	2.8	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	良好	内外面丹塗り
8595	溝-N28	土師器	杯身	16.0	(14.0)	(3.2)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、精良	良好	内外面丹塗り
8596	溝-N28	土師器	杯身	16.6		(2.8)	橙色(7.5YR7/6)	細砂、精良	良好	内面暗文あり
8597	溝-N28	土師器	杯身	(18.8)	(15.8)	2.8	橙色(5YR7/6)	精良	良好	内面暗文あり、外面下位ヘラミガキ
8598	溝-N28	土師器	杯身	17.7	14.8	4.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、精良	良好	内外面丹塗り
8599	溝-N28	土師器	杯身	(19.4)	15.8	4.2	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	内外面丹塗り
8600	溝-N28	土師器	杯身	17.0	14.0	3.0	橙色(5YR7/6)	精良	良好	内面暗文あり、底部外面ユビオサエ
8601	溝-N28	土師器	杯身	16.6	14.1	3.1	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	内面暗文あり、底部外面ユビオサエ
8602	溝-N28	土師器	杯身	17.9	12.2	4.0	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	内面暗文あり、底部外面ユビオサエ
8603	溝-N28	土師器	杯身	(16.4)	11.2	4.1	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、精良	良好	内外面丹塗り
8604	溝-N28	土師器	皿	(20.0)	(12.1)	2.9	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	内外面丹塗り
8605	溝-N28	土師器	壺	(14.4)		(4.6)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
8606	溝-N28	土師器	壺	(16.0)		(8.6)	橙色(5YR6/6)	粗砂	良好	
8607	溝-N28	土師器	壺			(1.6)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8608	溝-N28	土師器	甕	(22.6)		(6.1)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
8609	溝-N28	土師器	甕	(30.8)		(6.0)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	良好	
8610	溝-N28	土師器	甕	(42.4)		(11.5)	鈍い橙色(10YR7/3)	細砂	良好	黒斑
8611	溝-N28	土師器	カマド			(2.6)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
8612	溝-N28	土師器	不明			(1.6)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	黒斑、8362と同器形か
8613	溝-N28	瓦	丸瓦	(24.8)		2.0	灰色(N6/)	粗砂	良好	縄タタキ
8614	溝-N28	瓦	丸瓦	(7.8)	(9.5)	1.6	暗灰色(N3/)	細砂	良好	半截痕跡が顕著
8615	溝-N28	瓦	丸瓦	(6.0)	(7.6)	1.6	灰白色(10YR8/1)	粗砂	良好	縄タタキ後ナデ
8616	溝-N28	瓦	丸瓦	(6.9)	(7.4)	1.4	浅黄色(2.5YR7/3)	粗砂	良好	ナデ
8617	溝-N28	瓦	丸瓦	(10.7)	(11.1)	1.8	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	縄タタキ
8618	溝-N28	瓦	平瓦	(9.8)	(10.9)	1.9	灰白色(10Y8/1)	粗砂	良好	縄タタキ
8619	溝-480	須恵器	杯蓋			(1.0)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8620	溝-480	須恵器	杯蓋			(2.3)	灰白色(10YR8/1)	細砂	やや良	
8621	溝-480	須恵器	杯蓋			(2.2)	灰白色(N7/0)	粗砂	良好	順回り
8622	溝-480	須恵器	杯蓋	16.8		(1.6)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8623	溝-480	須恵器	杯蓋	17.0		(2.1)	灰色(N6/0)	細砂	良好	順回り
8624	溝-480	須恵器	杯蓋	17.4		2.4	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	逆回り、重ね焼痕
8625	溝-480	須恵器	杯蓋	18.4		(1.2)	灰白色(N7/0)	粗砂	良好	
8626	溝-480	須恵器	杯蓋	18.8		(1.5)	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	良好	
8627	溝-480	須恵器	杯身	16.2		(3.4)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8628	溝-480	須恵器	杯身		10.4	(1.3)	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8629	溝-480	須恵器	杯身		10.3	(1.7)	灰白色(5Y7/1)	粗砂	良好	
8630	溝-480	須恵器	杯身		11.9	(1.0)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8631	溝-480	須恵器	杯身		10.7	(3.7)	灰色(N5/0)	細砂	良好	
8632	溝-480	須恵器	杯身		12.6	(1.5)	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	
8633	溝-480	須恵器	杯身		12.8	(4.1)	灰白色(10YR8/2)	礫	やや良	
8634	溝-480	須恵器	杯身	17.6	13.7	(3.2)	灰色(N6/0)	細砂	良好	
8635	溝-480	須恵器	杯身		13.2	(1.8)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
8636	溝-480	須恵器	杯身	12.4		4.9	灰白色(N7/0)	細砂	良好	
8637	溝-480	須恵器	杯身	13.0		4.3	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8638	溝-480	須恵器	壺			(2.5)	灰色(N6/0)	粗砂	良好	
8639	溝-480	須恵器	甕			(4.9)	灰色(7.5Y6/1)	礫	良好	
8640	溝-480	須恵器	甕			(9.0)	灰白色(5Y7/1) ?	細砂	良好	カキ目、青海波文
8641	溝-480	須恵器	杯蓋	16.3		2.4	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	順回り、重ね焼痕
8642	溝-480	土師器	杯蓋	18.0		(1.4)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	精良	良好	丹塗り
8643	溝-480	土師器	杯蓋	19.4		(1.6)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	丹塗り
8644	溝-480	土師器	杯蓋			(0.9)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	丹塗り
8645	溝-480	土師器	杯蓋			(1.4)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
8646	溝-480	土師器	杯蓋			(1.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	丹塗り
8647	溝-480	土師器	杯身	17.6		5.2	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	丹塗り
8648	溝-480	土師器	杯身	16.2		(3.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
8649	溝-480	土師器	皿	16.0		2.4	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	丹塗り
8650	溝-480	土師器	皿	13.6		(2.4)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	丹塗り
8651	溝-480	土師器	皿	15.8		(2.1)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	丹塗り
8652	溝-480	土師器	皿	18.8		(2.0)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	暗文
8653	溝-480	土師器	杯身	17.8		(2.8)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	丹塗り
8654	溝-480	土師器	皿			(3.2)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	丹塗り
8655	溝-480	土師器	杯身			(3.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	精良	良好	内面暗文、丹塗り
8656	溝-480	土師器	皿			(4.5)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	丹塗り
8657	溝-480	土師器	杯身			(2.5)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	丹塗り
8658	溝-480	土師器	皿			(1.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	丹塗り
8659	溝-480	土師器	皿			(2.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	暗文
8660	溝-480	土師器	皿			(2.5)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	暗文
8661	溝-480	土師器	底部			(0.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	暗文、丹塗り
8662	溝-480	土師器	皿		14.4	(1.5)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	精良	良好	丹塗り
8663	溝-480	土師器	皿		14.4	(1.6)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	丹塗り
8664	溝-480	土師器	皿		14.0	(2.0)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	丹塗り
8665	溝-480	土師器	皿	19.8	14.6	3.7	鈍い黄橙色(10YR7/3)	精良	良好	丹塗り
8666	溝-480	土師器	皿		18.5	(1.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
8667	溝-480	土師器	甕	28.2		(8.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
8668	溝-480	土師器	甕	31.9		(8.5)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	
8669	溝-480	土師器	甕	31.2		22.6	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	ススB
8670	溝-480	土師器	把手付短頸壺	14.3		(8.3)	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
8671	溝-480	瓦	丸瓦	34.8	13.2	1.7	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	重さ1578.3g
8672	溝-480	瓦	丸瓦	(18.9)	(9.4)	1.6	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
8673	溝-480	瓦	丸瓦	(14.7)	(5.0)	1.3	褐灰色(10YR6/1)	細砂	良好	
8674	溝-480	瓦	丸瓦	(6.2)	(6.5)	0.9	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8675	溝-480	瓦	丸瓦	(5.0)	(5.6)	1.1	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
8676	溝-480	瓦	丸瓦	38.0	(11.3)	1.4	鈍い橙色(5YR7/3)	粗砂	良好	
8677	溝-480	瓦	丸瓦	(12.8)	(6.1)	1.2	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
8678	溝-480	瓦	丸瓦	(10.4)	(12.0)	1.6	灰色(N6/0)	細砂	良好	
8679	溝-480	瓦	丸瓦	(11.1)	(11.0)	2.1	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8680	溝-480	瓦	丸瓦	(28.5)	(10.2)	1.3	灰色(7.5Y4/1)	細砂	良好	
8681	溝-480	瓦	丸瓦	(18.9)	(8.0)	1.6	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	良好	
8682	溝-480	瓦	丸瓦	(4.3)	(7.8)	1.8	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8683	溝-480	瓦	丸瓦	(7.0)	(11.0)	1.5	鈍い黄橙色(10YR7/3)	粗砂	良好	
8684	溝-480	瓦	丸瓦	(6.5)	(5.1)	1.3	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
8685	溝-480	瓦	丸瓦	(17.6)	(12.0)	1.5	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
8686	溝-480	瓦	丸瓦	(9.0)	(8.7)	1.3	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
8687	溝-480	瓦	丸瓦	(11.1)	(9.3)	1.4	鈍い橙色(7.5YR7/3)	礫	良好	
8688	溝-480	瓦	丸瓦	(10.3)	(7.6)	1.3	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8689	溝-480	瓦	丸瓦	(6.6)	(10.6)	1.6	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
8690	溝-480	瓦	丸瓦	(7.5)	(8.7)	1.9	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	
8691	溝-480	瓦	丸瓦	(9.6)	(8.0)	1.3	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
8692	溝-480	瓦	丸瓦	(11.0)	(7.1)	1.2	灰黄色(2.5Y7/2)	粗砂	良好	
8693	溝-480	瓦	丸瓦	(6.3)	(10.9)	0.9	褐灰色(10YR6/1)	粗砂	良好	
8694	溝-480	瓦	丸瓦	(5.3)	(8.4)	0.3	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	
8695	溝-480	瓦	丸瓦	(5.0)	(6.0)	1.1	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	良好	
8696	溝-480	瓦	平瓦	(10.6)	(7.7)	1.6	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	縄タタキ
8697	溝-480	瓦	平瓦	(7.8)	(6.2)	1.6	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	縄タタキ
8698	溝-480	瓦	平瓦	(7.5)	(6.0)	1.6	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	縄タタキ
8699	溝-480	瓦	平瓦	(7.2)	(13.2)	1.5	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	縄タタキ
8700	溝-480	瓦	平瓦	(11.8)	(8.4)	1.9	灰白色(2.5Y7/1)	粗砂	良好	縄タタキ
8701	溝-480	瓦	平瓦	(5.6)	(5.7)	1.7	灰白色(2.5Y7/1)	粗砂	良好	縄タタキ
8702	溝-480	瓦	丸瓦	(12.8)	(12.8)	4.3	鈍い橙色(5YR7/3)	礫	良好	
8703	溝-480	瓦?	?	(7.1)	(7.5)	1.7	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8704	溝-480	須恵器	杯身	13.0		(1.2)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8705	溝-480	土師器	杯身			(1.1)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
8706	溝-480	土師器	甕	29.3		(16.7)	鈍い黄褐色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	
8707	溝-480	須恵器	杯蓋			(0.8)	灰白色(N7/0)	細砂	良好	
8708	溝-480	土師器	杯身			(2.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	丹塗り
8709	溝-480	土師器	甕			(2.3)	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	
8710	溝-480	土師器	甕			(32.3)	鈍い橙色(5YR6/4)	粗砂	良好	黒斑B
8711	溝-480	須恵器	杯身			(2.5)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
8712	溝-480	土師器	甕			(15.6)	鈍い橙色(5YR7/3)	粗砂	良好	黒斑B
8713	溝-483	土師器	杯身			(2.1)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	丹塗り
8714	溝-483	須恵器	盃	10.2		(6.3)	灰色(7.5Y6/1)	粗砂	良好	胴部凹線2条
8715	溝-483	土師器	皿		19.6	(1.2)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	表面丹塗り
8716	溝-483	土師器	高杯	19.9	9.8	7.6	橙色(5YR7/6)	精良	良好	杯部ミガキ、内部暗文
8717	溝-484	須恵器	杯身			(3.3)	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8718	溝-484	土師器	杯身		10.3	(2.8)	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	丹塗り
8719	溝-486	須恵器	杯身	10.6		3.8	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	回転方向右
8720	溝-486	須恵器	杯蓋	18.6		(1.8)	灰色(5YR6/1)	細砂	良好	
8721	溝-486	須恵器	杯蓋	16.8		(1.8)	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	回転方向右
8722	溝-486	須恵器	杯蓋	14.6		(1.9)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
8723	溝-486	須恵器	杯身		14.5	(2.0)	灰白色(10Y7/1)	細砂	良好	回転方向右
8724	溝-486	須恵器	有蓋短頸壺	10.4		(4.5)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	表面に自然釉有り
8725	溝-486	須恵器	壺		9.2	(8.8)	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	良好	胴部下半は回転方向が右
8726	溝-486	土師器	長頸甕	29.0		(2.1)	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
8727	溝-486	土師器	台付皿	29.2		(2.1)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	内外面丹塗り
8728	溝-486	土師器	皿	(20.9)		(2.4)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
8729	溝-486	土師器	杯	12.0		(1.8)	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
8730	溝-E27・E28	須恵器	杯身	10.2		(3.7)	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
8731	溝-E27・E28	須恵器	杯身	11.2		3.6	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
8732	溝-E27・E28	須恵器	杯身	12.2	6.7	4.0	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	
8733	溝-E27・E28	須恵器	杯身	13.6		4.3	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	ロクロ回転左、ヘラキリ底未調整
8734	溝-E27・E28	須恵器	杯身	14.3	8.6	4.4	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	ロクロ回転左、ヘラキリ底未調整
8735	溝-E27・E28	須恵器	杯身	12.8		(3.1)	灰黄色(2.5Y6/1)	細砂	良好	
8736	溝-E27・E28	須恵器	杯身	13.0		(4.1)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
8737	溝-E27・E28	須恵器	杯身	14.8		4.3	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂	良好	
8738	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋			2.5	灰白色(N8/1)	細砂	良好	
8739	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	16.8		2.4	黄灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8740	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋			(1.2)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8741	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋			(1.1)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8742	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	14.6		2.3	褐色(7.5YR6/1)	細砂	良好	
8743	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋			(1.7)	灰白色(5Y7/1)	粗砂	良好	
8744	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	12.6		1.8	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	
8745	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	15.6		(2.4)	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
8746	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	18.0		(1.7)	灰白色(N7/)	細砂	良好	
8747	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	(15.8)		(1.5)	褐色(10YR6/1)	細砂	良好	
8748	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	(15.6)		(1.6)	灰白色(7.5Y8/1)	粗砂	良好	
8749	溝-E27・E28	須恵器	杯身	(13.8)	10.6	4.1	灰白色(N7/)	細砂	良好	貼付高台、ロクロ回転左
8750	溝-E27・E28	須恵器	杯身	(14.6)	10.0	4.6	明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	精良	良好	貼付高台
8751	溝-E27・E28	須恵器	杯身	14.6	11.4	4.1	灰白色(10Y7/1)	細砂	良好	貼付高台、ロクロ回転左
8752	溝-E27・E28	須恵器	杯身	16.0		3.4	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8753	溝-E27・E28	須恵器	杯身	16.4		(3.0)	灰白色(10Y7/1)	精良	良好	
8754	溝-E27・E28	須恵器	杯身		12.8	(3.0)	褐色(7.5YR6/1)	細砂	良好	底部爪の圧痕有り
8755	溝-E27・E28	須恵器	高杯			(11.2)	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8756	溝-E27・E28	須恵器	鉢	(42.2)		(8.0)	灰白色(2.5Y8/1)	精良	良好	
8757	溝-E27・E28	須恵器	鉢	45.1	37.7	9.2	灰白色(10Y8/1)	細砂	良好	把手2個貼り付け

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)		色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径				
8758	溝-E27・E28	須恵器	長頸壺	14.4		(11.2) 灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
8759	溝-E27・E28	須恵器	長頸壺		11.0	(3.7) 灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8760	溝-E27・E28	須恵器	長頸壺		11.8	(4.9) 灰色(10Y5/)	細砂	良好	
8761	溝-E27・E28	須恵器	長頸壺		18.0	(5.3) 灰白色(2.5Y8/)	細砂	良好	内面タタキ痕跡
8762	溝-E27・E28	土師器	杯蓋	(18.5)		2.1 橙色(5YR6/6)	精良	良好	外面暗文
8763	溝-E27・E28	土師器	杯蓋	17.2		(1.4) 浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	良好	内外面に丹塗り
8764	溝-E27・E28	土師器	皿蓋	22.0		(1.5) 浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	内外面に丹塗り
8765	溝-E27・E28	土師器	皿	14.2		(1.1) 橙色(5YR7/6)	精良	良好	
8766	溝-E27・E28	土師器	皿	25.2		(1.9) 橙色(2.5YR6/6)	精良	良好	内外面に丹塗り
8767	溝-E27・E28	土師器	皿	25.0		(2.7) 浅黄橙色(7.5YR8/6)	精良	良好	内外面に丹塗り
8768	溝-E27・E28	土師器	杯	18.4		(4.2) 浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	内面に指頭圧痕、内外面に丹塗り
8769	溝-E27・E28	土師器	皿	(16.2)	12.0	(1.9) 橙色(5YR7/6)	精良	良好	内面暗文
8770	溝-E27・E28	土師器	皿	20.4	14.8	3.1 黄橙色(7.5YR8/8)	精良	良好	内面暗文
8771	溝-E27・E28	土師器	杯	(15.4)		(3.0) 橙色(5YR7/6)	精良	良好	
8772	溝-E27・E28	土師器	杯	15.8		(3.7) 浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	内外面とも丹塗り
8773	溝-E27・E28	土師器	杯	15.8		(2.9) 浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	良好	内外面に丹塗り
8774	溝-E27・E28	土師器	杯	15.4		(3.3) 淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	内外面とも丹塗り
8775	溝-E27・E28	土師器	杯	16.2		(2.7) 淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	内外面に丹塗り
8776	溝-E27・E28	土師器	杯	(16.4)		(2.9) 橙色(5YR7/6)	精良	良好	内外面に丹塗り
8777	溝-E27・E28	土師器	皿	19.2		(2.6) 淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	内外面に丹塗り
8778	溝-E27・E28	土師器	皿?		13.6	(2.1) 淡橙色(5YR8/4)	精良	良好	内外面に丹塗り
8779	溝-E27・E28	土師器	高杯	12.4		(8.4) 浅黄橙色(10YR8/4)	精良	良好	脚柱部面取り
8780	溝-E27・E28	土師器	甕	24.0		(3.5) 鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	
8781	溝-E27・E28	土師器	甕	27.2		(3.2) 灰褐色(5YR6/2)	細砂	良好	
8782	溝-E27・E28	土師器	甕	(34.0)		(6.8) 鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
8783	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋			(2.0) 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8784	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋			(1.5) 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8785	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	16.7		2.2 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8786	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	15.6		(2.1) オリーブ黒色(10Y3/2)	細砂	良好	外面に自然釉
8787	溝-E27・E28	須恵器	杯身	12.7	8.1	3.8 灰色(N6/)	細砂	良好	
8788	溝-E27・E28	土師器	皿			(1.5) 淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	丹塗り
8789	溝-E27・E28	須恵器	高杯			(4.3) 灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	
8790	溝-E27・E28	須恵器	はそう	12.3		(1.9) 灰色(N6/)	細砂	良好	自然釉付着
8791	溝-E27・E28	須恵器	壺			(4.2) 灰色(N4/)	細砂	良好	
8792	溝-E27・E28	須恵器	壺	18.9		32.6 灰色(N6/)	細砂	良好	
8793	溝-488	須恵器	杯蓋	14.8		(1.3) 灰色(N5/)	細砂	良好	外面に自然釉、内面中央付近摩滅(既用張?)
8794	溝-488	須恵器	杯身	24.5	11.3	4.1 灰色(N6/)	細砂	不良	
8795	溝-488	須恵器	杯身	13.2	9.3	3.7 灰色(N7/)	細砂	良好	
8796	溝-488	須恵器	杯身		8.6	(2.0) 灰白色(7.5Y8/1)	細砂	不良	
8797	溝-488	須恵器	高杯			(3.7) オリーブ灰色(2.5GY5/1)	細砂	良好	外面に自然釉あり
8798	溝-488	須恵器	壺			(3.4) 灰色(N6/)	細砂	良好	自然釉
8799	溝-488	須恵器	締脚碗		26.2	(6.0) 灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	脚25ヶ推定
8800	溝-488	土師器	皿			(2.1) 灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
8801	溝-488	土師器	高台部		12.8	(2.9) 浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	内外に赤色顔料あり
8802	溝-488	土師器	高台部		17.6	(1.4) 灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
8803	溝-488	土師器	高杯			(6.3) 鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	丹塗りあり
8804	溝-488	土師器	甕	28.0		(7.0) 褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	
8805	溝-488	土師器	甕	42.2		(8.0) 鈍い褐色(7.5YR5/4)	細砂	良好	
8806	溝-488	瓦	平瓦	(12.2)	(6.7)	3.0 灰色(5Y6/1)	礫	良好	縄タタキ
8807	溝-488	瓦	平瓦	(9.9)	(5.5)	2.0 灰白色(2.5Y7/1)	粗砂	良好	縄タタキ
8808	溝-488	瓦	平瓦	(7.7)	(5.7)	1.7 褐灰色(10YR4/1)	礫	良好	縄タタキ
8809	溝-488	瓦	平瓦	(5.0)	(8.0)	2.0 鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8810	溝-489	須恵器	長頸壺			(10.2) 灰色(N6/)	細砂	良好	自然釉内外にあり
8811	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	(14.4)		3.9 灰白色(N7)	細砂	良好	
8812	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	16.0		(1.5) 灰白色(N8/)	細砂	良好	
8813	溝-E27・E28	須恵器	杯蓋	(18.9)		3.8 灰白色(8N)	?	良好	ロクロ回転左
8814	溝-E27・E28	須恵器	杯身	(14.2)	10.0	3.9 灰白色(N7)	細砂	良好	
8815	溝-E27・E28	須恵器	杯身		10.6	(3.2) 灰白色(7N)	粗砂	良好	
8816	溝-E27・E28	須恵器	杯身		8.6	(1.2) 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8817	溝-E27・E28	須恵器	杯身	15.5		(3.4) 灰色(N6/)	細砂	良好	
8818	溝-E27・E28	須恵器	杯身	(15.6)		4.0 灰白色(7/110Y)	細砂	良好	
8819	溝-E27・E28	土師器	皿	16.2	10.7	3.5 橙色(5YR6/6)	細砂	良好	ロクロ左回り、黒斑C
8820	溝-E27・E28	須恵器	杯身	20.0		6.1 灰白色(7N)	精良	良好	底部ヘラケズリ
8821	溝-E27・E28	須恵器	杯身		9.8	(1.1) 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8822	溝-E27・E28	須恵器	杯身		11.2	(1.2) 灰白色(N7)	細砂	良好	
8823	溝-E27・E28	須恵器	杯身	14.4		4.2 灰白色(7N)	細砂	良好	ロクロ回転右
8824	溝-E27・E28	須恵器	杯身	14.9	10.2	3.9 灰白色(N7)	細砂	良好	
8825	溝-E27・E28	須恵器	皿	14.9	9.6	2.5 灰白色(N7)	粗砂、砂礫	良好	ヘラケズリ
8826	溝-E27・E28	土師器	皿	18.2	12.5	(2.2) 鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	丹塗り
8827	溝-E27・E28	土師器	皿	16.6		(2.2) 淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	全体丹塗り
8828	溝-E27・E28	土師器	皿	(18.6)	8.6	3.3 淡橙色(5YR8/4)	精良	良好	
8829	溝-E27・E28	土師器	高杯		14.8	(8.7) 灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	内外面丹塗り
8830	溝-E27・E28	土師器	甕	31.8		(25.7) 鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	ススB
8831	溝-E27・E28	土師器	鍋	(43.4)		(6.9) 褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	ススA
8832	溝-E27・E28	土師器	鍋	(43.4)		(7.7) 橙色(7.5YR6/8)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8833	溝-E27・E28	土師器	手捏土器		3.9		1.6 灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
8834	溝-E27・E28	瓦	平瓦	(14.9)	(9.2)		2.1 黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	良好	縄タタキ
8835	溝-E27・E28	瓦	平瓦	(10.3)	(11.3)		2.5 灰白色(5Y7/)	粗砂、砂礫	良好	縄タタキ
8836	溝-E27・E28	瓦	平瓦	(11.1)	(9.4)		2.7 灰白色(10Y7/1)	細砂	良好	縄タタキ
8837	溝-E27・E28	瓦	平瓦	(8.1)	(5.3)		2.0 鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	縄タタキ
8838	溝-E27・E28	瓦	平瓦	(8.4)	(4.8)		2.2 褐灰色(10YR5/1)	礫	良好	縄タタキ
8839	溝-E27・E28	瓦	平瓦	(9.0)	(9.3)		2.9 灰色(5Y6/1)	細砂	良好	縄タタキ
8840	溝-E27・E28	瓦	平瓦	(4.9)	(3.8)		1.9 灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	縄タタキ
8841	溝-490	須恵器	杯蓋				(1.2) 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8842	溝-490	須恵器	杯蓋				(2.3) 灰白色(N8/)	細砂	良好	
8843	溝-490	須恵器	杯身				(3.3) 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8844	溝-490	須恵器	高杯				(9.1) 灰色(N6/)	細砂	良好	
8845	溝-490	須恵器	高杯				(6.9) 灰白色(N8/)	細砂	不良	
8846	溝-490	土師器	杯蓋				(1.4) 浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	
8847	溝-490	土師器	甕	(33.6)			(2.1) 灰褐色(5YR5/2)	細砂	良好	
8848	溝-490	瓦	平瓦	(10.5)	(10.2)		2.6 鈍い黄褐色(10YR7/2)	礫	良好	縄タタキ
8849	溝-490	瓦	平瓦	(12.2)	(12.5)		2.0 灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	縄タタキ
8850	溝-490	瓦	平瓦	(8.6)	(10.9)		2.6 淡赤褐色(2.5YR7/4)	礫	良好	縄タタキ
8851	溝-490	瓦	平瓦	(10.7)	(5.6)		2.3 鈍い橙色(7.5YR7/3)	礫	良好	縄タタキ
8852	溝-491	須恵器	杯身		10.1		(1.3) 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8853	溝-492	須恵器	杯蓋				(1.8) オリーブ灰色(2.5GY5/1)	細砂	良好	自然釉
8854	溝-492	須恵器	杯蓋				(0.9) オリーブ灰色(2.5GY5/1)	細砂	良好	自然釉
8855	溝-492	須恵器	底部		7.6		(1.6) 灰白色(N7/)	細砂	良好	
8856	柱穴-2	土師器	不明				(7.4) 灰白色(2.5Y7/1)	粗砂	良好	8362と同器形か?
8857	包含層	須恵器	杯蓋				(1.6) 灰白色(N8)	細砂	良好	
8858	包含層	須恵器	杯蓋				(1.6) 灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
8859	包含層	須恵器	杯蓋				(1.7) 褐灰色(5YR5/1)	細砂	良好	
8860	包含層	須恵器	杯蓋				(1.6) 灰白色(N7)	細砂	良好	
8861	包含層	須恵器	杯蓋				(1.2) 灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
8862	包含層	須恵器	杯蓋				(2.1) 灰白色(10Y8/1)	細砂	良好	
8863	包含層	須恵器	杯蓋				(1.8) 灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8864	包含層	須恵器	杯蓋		13.7		(2.3) 灰白色(N7)	細砂	良好	
8865	包含層	須恵器	杯蓋	14.1			(1.9) 灰白色(2.5Y)	細砂、礫	良好	
8866	包含層	須恵器	杯蓋	(15.3)			(1.7) 灰白色(N7)	細砂	良好	
8867	包含層	須恵器	杯蓋	15.3			(2.2) 灰白色(7.5YR8/1)	粗砂	良好	
8868	包含層	須恵器	杯蓋	21.6			(1.6) 赤白色(7.5Y5/1)	精良	良好	金属器うつし
8869	包含層	須恵器	杯蓋	(23.0)			(2.0) 灰白色(N7)	精良	良好	
8870	包含層	須恵器	杯身	13.0	8.5		3.9 灰白色(2.5Y7/)	細砂	良好	
8871	包含層	須恵器	杯身	(12.8)			(4.5) 灰白色(N8)	細砂	良好	
8872	包含層	須恵器	杯身	12.9	9.6		4.0 灰白色(N8)	細砂	不良	
8873	包含層	須恵器	杯身	13.6	9.4		4.2 灰色(N6)	細砂	良好	
8874	包含層	須恵器	杯身		9.8		(3.2) 灰白色(2.5Y8/1)	粗砂、礫	良好	
8875	包含層	須恵器	杯身		10.0		(2.6) 灰白色(N8)	粗砂	良好	
8876	包含層	須恵器	杯身		(5.4)		(1.3) 灰白色(N8)	細砂	良好	
8877	包含層	須恵器	杯蓋	15.8			(4.1) 青灰色(5B5/1)	細砂	良好	
8878	包含層	須恵器	杯身	12.5			(2.7) 灰色(N6)	細砂	良好	
8879	包含層	土師器	杯身	12.4			(3.0) 鈍い橙色(7.5YR7/)	精良	良好	
8880	包含層	土師器	杯身		11.6		(1.6) 淡橙色(5YR8/4)	粗砂、礫	良好	内外面丹塗り
8881	包含層	土師器	杯				橙色(2.5YR7/)	精良	良好	暗文、内外面丹塗り
8882	包含層	須恵器	皿		(19.9)		(1.6) 灰白色(7.5YR8/1)	細砂	不良	
8883	包含層	土師器	皿	15.8			(1.2) 浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂、礫	良好	
8884	包含層	土師器	皿	(20.4)			(1.1) 橙色(5YR6/6)	精良	良好	内外面丹塗り
8885	包含層	須恵器	皿				(2.0) 灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8886	包含層	土師器	皿	28.6			(2.3) 灰白色(2.5Y8/)	精良	良好	
8887	包含層	須恵器	高杯				(2.5) 灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8888	包含層	須恵器	杯		5.2		(3.2) 灰色(N5)	細砂	良好	
8889	包含層	須恵器	甕				(2.9) 明青灰色(5B7/1)	細砂、粗砂	良好	
8890	包含層	須恵器	甕				(2.7) 灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
8891	包含層	須恵器	甕				(3.3) 灰白色(N7)	細砂	良好	
8892	包含層	須恵器	蓋				4.5 青灰色(5B5/1)	細砂	良好	
8893	包含層	須恵器	鉢				(5.1) 灰白色(2.5Y8/1)	細砂、粗砂	良好	
8894	包含層	須恵器	鉢	20.0			(7.9) 灰白色(N8)	粗砂、礫	良好	
8895	包含層	須恵器	杯身		9.8		(3.1) 灰色(N6)	細砂	良好	
8896	包含層	須恵器	長頸瓶		13.8		(3.2) 灰白色(N8)	細砂	良好	
8897	包含層	軟質土器	甕				(4.2) 淡赤褐色(2.5YR7/4)	粗砂	良好	格子タタキ
8898	包含層	須恵器	甕				(3.9) 灰白色(N8)	細砂	良好	車輪文
8899	包含層	須恵器	甕	(40.0)			(2.8) 灰白色(N8)	粗砂	良好	
8900	包含層	瓦	平瓦	(8.2)	(8.5)		1.9 灰白色(10YR7/1)	粗砂、礫	良好	縄タタキ
8901	包含層	瓦	平瓦	(7.8)	(8.6)		1.6 青灰色(5B5/1)	細砂、粗砂、礫	良好	縄タタキ
8902	包含層	瓦	平瓦	(7.8)	(8.5)		1.9 灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	縄タタキ
8903	包含層	瓦	平瓦	(6.0)	(10.1)		1.7 浅黄褐色(2.5Y7/3)	細砂	良好	縄タタキ
8904	包含層	瓦	平瓦	(7.0)	(8.5)		1.8 灰黄褐色(10YR6/2)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8905	包含層	瓦	平瓦	(7.4)	(10.9)		1.9 鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	縄タタキ
8906	包含層	瓦	平瓦	(8.6)	(5.4)		1.3 灰白色(2.5Y8/1)	粗砂	良好	縄タタキ
8907	包含層	瓦	平瓦	(7.3)	(12.3)		1.5 灰白色(7.5Y7/1)	細砂、粗砂、礫	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8908	包含層	瓦	平瓦	(5.6)	(3.7)	1.4	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	良好	縄タタキ
8909	包含層	瓦	丸瓦	(8.5)	(8.2)	1.3	灰白色(N8)	細砂、粗砂、礫	良好	
8910	包含層	瓦	丸瓦	(6.2)	(4.6)	1.6	灰色(N5)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8911	包含層	瓦	平瓦	(9.9)	(7.1)	2.5	暗灰色(N3)	細砂	良好	縄タタキ
8912	包含層	瓦	平瓦	(10.0)	(11.5)	2.6	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	縄タタキ
8913	包含層	瓦	平瓦	(7.2)	(7.3)	2.1	表灰色(N5)裏灰色(N8)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8914	包含層	瓦	平瓦	(9.9)	5.1)	2.0	灰白色(10YR7/1)	細砂、粗砂、砂礫	良好	縄タタキ
8915	包含層	瓦	平瓦	(6.9)	(7.5)	2.1	灰白色(7.5Y7/1)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8916	包含層	瓦	平瓦	(10.1)	(9.0)	2.7	灰色(N4)	細砂、粗砂	良好	縄タタキ
8917	包含層	瓦	平瓦	(9.4)	(8.2)	2.2	鈍い黄橙色(10YR7/3)	粗砂	良好	縄タタキ
8918	包含層	瓦	平瓦	(5.4)	(6.6)	2.3	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	縄タタキ
8919	包含層	瓦	平瓦	(3.7)	(4.5)	2.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	縄タタキ
8920	包含層	瓦	平瓦	(7.2)	(6.8)	2.0	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂、礫	良好	縄タタキ
8921	包含層	須恵器	杯蓋	15.8		2.3	灰色(5Y6/1)	粗砂	良好	
8922	包含層	須恵器	杯蓋	15.6		2.5	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	
8923	包含層	須恵器	杯蓋			(2.0)	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	良好	外面自然釉
8924	包含層	須恵器	杯蓋			(2.8)	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	良好	
8925	包含層	須恵器	杯蓋			(2.4)	明褐色(5YR7/1)	細砂	良好	
8926	包含層	須恵器	杯蓋	26.6		4.3	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
8927	包含層	須恵器	杯蓋	(16.8)		(1.9)	灰白色(N7)	細砂	良好	
8928	包含層	須恵器	杯蓋	18.0		(2.1)	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	良好	
8929	包含層	須恵器	杯蓋	18.0		(1.9)	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	良好	
8930	包含層	須恵器	杯蓋			(1.0)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	金属器うつし
8931	包含層	須恵器	杯身	12.6	8.9	3.7	赤灰色(7.5R6/1)	細砂	良好	
8932	包含層	須恵器	杯身	(15.0)		4.4	褐色(10YR6/1)	細砂	良好	
8933	包含層	須恵器	杯身	15.2		3.8	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	
8934	包含層	須恵器	杯身	16.0	11.6	3.9	灰白色(7N)	細砂	良好	貼付高台、回転方向右
8935	包含層	須恵器	杯身	15.8		4.4	灰白色(5Y8/1)	細砂	良好	
8936	包含層	須恵器	杯身	16.2	13.2	4.4	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	
8937	包含層	須恵器	杯身	17.8		6.8	褐色(10YR5/1)	細砂	良好	
8938	包含層	須恵器	杯身	16.8		6.9	灰色(5Y5/1)	細砂	良好	
8939	包含層	須恵器	杯身		11.8	(1.3)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	貼付高台、ロクロ回転方向右
8940	包含層	須恵器	杯身		16.0	(1.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
8941	包含層	須恵器	高台		(22.8)	(2.9)	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
8942	包含層	須恵器	杯身		22.5	(3.4)	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	良好	
8943	包含層	須恵器	皿	(26.8)	21.0	2.7	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	貼付高台、回転方向右
8944	包含層	須恵器	杯身	(12.6)		3.8	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	口縁部に歪み
8945	包含層	須恵器	杯身or高杯	13.2		(13.8)	灰白色(7N)	細砂	良好	ロクロ回転方向右
8946	包含層	須恵器	杯身	14.6		3.7	褐色(5YR5/1)	細砂	良好	
8947	包含層	須恵器	長頸壺			(9.0)	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	頸部凹線2条
8948	包含層	須恵器	高杯		12.8	(9.5)	明褐色(5YR7/1)	細砂	良好	
8949	包含層	須恵器	盤			(5.8)	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	細砂	良好	
8950	包含層	須恵器	硯			3.7	灰白色(N8)	細砂	良好	
8951	包含層	土師器	蓋			(1.6)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
8952	包含層	土師器	杯		10.7	1.6	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	外面丹塗り
8953	包含層	土師器	杯		(14.1)	(2.5)	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	丹塗り
8954	包含層	土師器	杯	11.6	8.8	3.2	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
8955	包含層	土師器	皿	13.2	11.1	2.7	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	全体丹塗り
8956	包含層	土師器	皿	14.2		2.4	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	
8957	包含層	土師器	杯	(16.5)	13.6	(3.3)	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	全体丹塗り
8958	包含層	土師器	杯	(18.3)		(3.3)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	
8959	包含層	土師器	杯	(16.8)		(2.8)	橙色(5YR7/6)	精良	良好	内面暗文あり、外面下位ヘラミガキ
8960	包含層	土師器	杯			2.9	橙色(7.5YR7/6)	精良	良好	内面暗文あり
8961	包含層	土師器	高台破片			(1.6)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	丹塗り、内面暗文
8962	包含層	土師器	皿	(17.4)	15.4	(1.6)	赤橙色(10R6/6)	細砂	良好	
8963	包含層	土師器	皿	17.5	15.2	2.0	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	外面丹塗り
8964	包含層	土師器	皿?			(1.1)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	丹塗り、内面暗文
8965	包含層	土師器	盤?		22.0	1.2	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	表面丹塗り痕跡有り
8966	包含層	土師器	蓋	(26.3)	21.4	3.2	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	全面丹塗り
8967	包含層	土師器	皿	(19.6)		(2.5)	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	丹塗り、内面暗文
8968	包含層	土師器	皿	19.6	14.8	2.2	橙色(2.5YR6/6)	細砂	良好	全体丹塗り
8969	包含層	土師器	高杯			(3.6)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	良好	丹塗り、脚柱部面取り
8970	包含層	土師器	高杯			(6.7)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	丹塗り、脚柱部面取り
8971	包含層	土師器	甕	18.8		(3.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
8972	包含層	土師器	甕	31.4		(8.4)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	黒斑B
8973	包含層	瓦	丸瓦	(25.1)	(14.1)	(1.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	玉縁残存、半截痕
8974	包含層	瓦	丸瓦	(12.6)	(12.2)	2.1	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	凹面布織ぎ合わせ痕跡
8975	包含層	瓦	丸瓦	(14.6)	(11.8)	1.3	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	
8976	包含層	瓦	丸瓦	(8.0)	(8.1)	2.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
8977	包含層	瓦	平瓦	(11.5)	(9.3)	1.6	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	格子タタキ
8978	包含層	瓦	平瓦	(13.4)	(9.8)	2.1	淡黄色(5Y8/2)	細砂	やや不良	格子タタキ
8979	包含層	瓦	平瓦	(12.3)	(7.7)	2.1	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	格子タタキ、凹面一部ヘラケズリ
8980	包含層	瓦	平瓦	(13.4)	(14.8)	2.4	灰白色(2.5Y4/1)	細砂	良好	格子タタキ
8981	包含層	瓦	平瓦	(10.8)	(7.5)	2.1	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	格子タタキ
8982	包含層	瓦	平瓦	(6.2)	(8.2)	2.6	灰白色(5Y8/2)	細砂	良好	格子タタキ

遺物観察表

土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
8983	包含層	瓦	平瓦	(6.4)	(9.1)	3.0	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	格子タタキ、被熱
8984	包含層	瓦	平瓦	(10.3)	(8.9)	1.9		細砂	良好	格子タタキ
8985	包含層	瓦	平瓦	(12.0)	(7.5)	1.7	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	良好	格子タタキ
8986	包含層	瓦	平瓦	(15.1)	(13.8)	2.2	灰白色(5Y7/1)	粗砂	良好	格子タタキ
8987	包含層	瓦	平瓦	(10.2)	(5.4)	2.4	灰白色(N7/)	細砂	良好	格子タタキ
8988	包含層	瓦	平瓦	(9.3)	(8.6)	2.2	灰白色(5Y5/1)	細砂	良好	格子タタキ
8989	包含層	瓦	平瓦	(5.6)	(5.9)	2.2	灰白色(N7/)	細砂	良好	格子タタキ
8990	包含層	瓦	平瓦	(10.2)	(8.3)	3.0	灰色(10Y4/1)	細砂	良好	格子タタキ
8991	包含層	瓦	平瓦	(8.8)	(9.7)	1.9	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	格子タタキ
8992	包含層	瓦	平瓦	(7.1)	(9.5)	1.9	明褐色(7.5YR5/6)	細砂	良好	平行タタキ
8993	包含層	瓦	平瓦	(5.5)	(8.0)	2.4	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	平行タタキ
8994	包含層	瓦	平瓦	(9.9)	(9.8)	2.3	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	平行タタキ
8995	包含層	瓦	平瓦	(9.8)	(9.3)	2.2	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	良好	平行タタキ
8996	包含層	瓦	平瓦	14.3	10.3	2.1	褐色(10YR6/1)	細砂	良好	縄タタキ
8997	包含層	瓦	平瓦	10.1	9.8	2.5	灰白色(5Y8/2)	粗砂	良好	縄タタキ
8998	包含層	瓦	平瓦	(11.0)	(11.1)	2.1	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	縄タタキ、両面粘土板系切り痕
8999	包含層	瓦	平瓦	(9.9)	(6.7)	1.8	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	縄タタキ
9000	包含層	瓦	平瓦	(14.5)	(8.6)	1.3	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	縄タタキ、両面粘土板系切り痕
9001	包含層	瓦	平瓦	(8.4)	(11.6)	1.7	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	縄タタキ、凸面横位のヘラケズリ
9002	包含層	瓦	平瓦	(3.6)	(3.5)	1.2	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	良好	平行タタキ
9003	包含層	瓦	平瓦	(4.2)	(3.6)	1.3	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	平行タタキ
9004	包含層	瓦	平瓦	(4.6)	(6.3)	1.3	灰色(5Y5/1)	細砂	良好	平行タタキ
9005	包含層	瓦	平瓦	(8.2)	(4.9)	1.2	灰色(10Y5/1)	細砂	良好	平行タタキ
9006	包含層	須恵器	杯蓋	(18.0)		(1.5)	灰白色(2.5Y6/1)	細砂	良好	表面に自然釉有り
9007	包含層	須恵器	蓋	15.4		(1.5)	褐色(10YR6/1)	細砂	良好	表面に自然釉
9008	包含層	須恵器	杯身		11.2	(1.1)	灰白色(10Y8/1)	粗砂	良好	
9009	包含層	須恵器	杯身			(4.7)	灰白色(N8)	細砂	良好	貼付高台
9010	包含層	緑釉	碗		5.2	(1.3)	明灰黄色(2.5Y5/2)		良好	
9011	包含層	土師器	皿	14.0		(3.1)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9012	包含層	土師器	杯身	13.2		(3.7)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	内面黒斑
9013	包含層	土師器	碗	17.6		(5.3)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	奈良時代丹塗り
9014	包含層	土師器	皿	(13.2)		(3.3)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	内外面丹塗り
9015	包含層	土師器	?		9.5	(1.4)	橙色(2.5YR6/8)	細砂	良好	貼付高台、両面丹塗り
9016	包含層	土師器	?	(18.4)		(5.3)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
9017	包含層	瓦	平瓦	(10.1)	(8.0)	2.7	灰白色(2.5Y7/1)	細砂、礫	良好	縄タタキ
9018	包含層	瓦	平瓦	4.5	7.0	1.7	灰白色(7.5Y8/)	粗砂、砂礫	良好	
9019	包含層	瓦	平瓦	10.0	8.5	2.5	灰色(7.56/1)	細砂	良好	平行タタキ
9020	包含層	瓦	平瓦	8.5	7.0	2.4	橙色(7.5YR7/6)	微砂	良好	格子タタキ
9021	包含層	瓦	平瓦	(7.7)	(7.2)	2.8	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂、礫	良好	
9022	包含層	瓦	平瓦	(10.9)	(7.7)	2.0	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	縄タタキ
9023	包含層	瓦	平瓦	(8.8)	(12.0)	1.6	褐色(10YR5/1)	礫	良好	縄タタキ
9024	包含層	瓦	平瓦	(10.3)	(14.3)	2.8	灰白色(5Y7/1)	細砂	良好	格子タタキ
9025	包含層	瓦	平瓦	(8.9)	(14.2)	2.8	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	格子タタキ
9026	掘立柱建物-70	土師器	碗	(10.4)	3.9	(2.8)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂、砂礫	良好	早鳥式土器
9027	土壌墓-20	白磁	碗	15.8	6.2	7.2	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	土器の回転左、完形
9028	土壌墓-20	土師器	碗	14.3	6.5	5.3	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	重ね焼き痕、早鳥式土器
9029	土壌墓-20	青磁	碗			(2.0)	灰白色(5Y8/1)	細砂	良好	
9030	土壌墓-20	青白磁	合子	6.7	5.5	3.4	灰白色(2.5GY8/1)	精良	良好	完形
9031	土壌墓-22	土師器	碗	14.1	6.6	4.8	灰白色(10Y8/1)	細砂	良好	早鳥式土器、完形
9032	土壌墓-23・24	土師器	碗		6.0	(2.0)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9033	土壌墓-25	土師器	碗	12.8	5.3	4.2	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	完形、全体に歪み有り
9034	土壌墓-25	土師器	碗	12.4		(3.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	歪み有り
9035	土壌墓-25	土師器	碗	12.0		(3.1)	灰黄色(2.5Y7/2)	精良	良好	内面黒斑A
9036	土壌墓-25	土師器	小皿	7.7	5.7	1.5	浅黄褐色(10YR8/3)	精良	良好	ロクロ回転右、歪み有り
9037	土壌墓-25	土師器	小皿	7.4	5.6	1.1	淡黄色(2.5Y8/3)	精良	良好	ロクロ回転右、歪み有り
9038	土壌墓-25	土師器	小皿	7.2	5.1	1.2	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	ロクロ回転右、歪み有り
9039	土壌墓-25	土師器	小皿	7.7	5.8	1.2	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	ロクロ回転右、歪み有り、完形
9040	土壌墓-25	土師器	小皿	7.9	6.0	1.7	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	ロクロ回転右、歪み有り
9041	土壌墓-25	土師器	小皿	7.8	5.8	1.7	浅黄褐色(7.5YR8/4)	精良	良好	ロクロ回転右、歪み有り
9042	土壌墓-25	土師器	小皿	7.8	6.1	1.6	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	
9043	土壌墓-26	土師器	小皿	8.1	6.5	1.3	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	ロクロ回転左、歪み有り
9044	土壌墓-26	土師器	小皿	8.2	6.0	1.4	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	歪み有り
9045	土壌墓-26	土師器	小皿	8.0	5.7	1.4	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	ロクロ回転右、歪み有り、完形
9046	土壌墓-26	土師器	小皿	7.1	5.9	1.7	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	ロクロ回転左、歪み有り、完形
9047	土壌-481	土師器	小皿	7.6	6.8	1.1	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	
9048	土壌-482	土師器	碗	10.5	3.6	3.0	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9049	土壌-482	土師器	碗	10.6	3.6	3.2	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9050	土壌-482	土師器	碗	10.8		(3.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	良好	早鳥式土器
9051	土壌-482	土師器	碗	(10.7)		(2.4)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9052	土壌-482	土師器	碗		3.2	(1.0)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9053	土壌-482	土師器	碗		4.1	(0.9)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂	良好	早鳥式土器
9054	土壌-482	土師器	へそ碗		2.9	(1.2)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9055	土壌-482	土師器	皿	8.1	3.4	1.7	橙色(2.5YR7/6)	細砂	良好	
9056	土壌-482	土師器	皿	6.9	5.2	1.7	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	完形
9057	土壌-482	土師器	皿	7.0	5.3	1.5	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	完形

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
9058	土壇-482	土師器	土鍋			(4.5)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
9059	土壇-482	土師器	土鍋			(4.5)	淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
9060	土壇-482	土師器	土鍋			(2.7)	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
9061	土壇-482	土師器	器台			(5.7)	鈍い橙色(5YR6/3)	細砂	良好	
9062	土壇-482	亀山焼	甕				暗青灰色(5B4/1)	細砂、粗砂	良好	
9063	土壇-482	東播系須恵器	こね鉢	25.5	7.9	10.3	青灰色(5PB6/1)	細砂、礫	良好	底部糸切り
9064	土壇-482	東播系須恵器	こね鉢			(2.6)	灰白色(N8)	細砂	良好	瓦質
9065	土壇-483	土師器	土鍋	36.6		12.9	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	ススA・B・C
9066	土壇-483	土師器	土鍋	36.6		(12.4)	褐灰色(7.5YR5/2)	細砂	良好	ススA・B
9067	土壇-483	土師器	小皿	7.8	5.4	1.5	淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
9068	土壇-483	土師器	小皿	6.5	4.8	1.4	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	
9069	土壇-485	土師器	へそ碗	8.5	5.0	2.1	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9070	土壇-485	土師器	へそ碗	9.0	6.0	1.9	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	早鳥式土器風
9071	土壇-485	土師器	へそ碗	9.2		1.4	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	早鳥式土器
9072	土壇-485	土師器	へそ碗	9.4	4.6	2.1	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	早鳥風
9073	土壇-485	土師器	小皿	(7.3)	6.4	1.1	鈍い黄橙色(10YR7/3)	細砂	良好	
9074	土壇-485	土師器	小皿	7.4	5.6	1.3	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9075	土壇-485	土師器	小皿	7.8	6.0	1.3	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
9076	土壇-485	土師器	小皿	8.4	6.3	1.2	淡橙色(5YR8/3)	細砂	良好	
9077	土壇-485	土師器	小皿	8.1	5.8	1.3	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
9078	土壇-485	土師器	土鍋	(32.4)		(8.0)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
9079	土壇-486	土師器	皿		8.4	(1.3)	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	糸切り
9080	土壇-486	須恵器	甕?			(5.4)	灰白色(10Y7/1)	細砂	良好	
9081	土壇-487	土師器	碗		4.1	(0.8)	灰白色(7.5YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9082	土壇-487	土師器	皿	7.0	5.7	1.1	鈍い橙色(7.5YR7/4)	精良	良好	早鳥式土器
9083	土壇-487	土師器	皿	7.7	5.2	1.8	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	早鳥式土器
9084	土壇-488	土師器	小皿	6.0	4.8	1.3	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	早鳥式土器
9085	土壇-488	土師器	鍋	31.8		(9.6)	灰褐色(5YR4/2)	細砂	良好	ススA
9086	土壇-488	土師器	鍋	34.6		(14.1)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
9087	土壇-488	土師器	カマド			33.5	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	寸法33.5×45.8×34.9cm、ススA
9088	土壇-490	土師器	碗	11.4	4.1	3.2	灰白色(2.5Y8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9089	土壇-490	土師器	碗		4.4	1.7	黄灰色(2.5Y6/1)	精良	良好	早鳥式土器
9090	土壇-490	土師器	皿	7.2	5.5	1.4	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	
9091	土壇-490	土師器	皿	7.0	5.6	1.2	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9092	土壇-491	土師器	皿	7.4	5.8	1.1	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9093	土壇-492	土師器	皿	6.0	4.8	1.5	鈍い橙色(7.5YR7/3)	精良	良好	
9094	土壇-493	土師器	碗		4.8	(3.2)	灰白色(10YR8/1)	粗砂	良好	早鳥式土器
9095	土壇-493	土師器	碗		5.3	(1.4)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9096	土壇-493	土師器	土器		5.2	(1.7)	灰色(N4/0)	細砂	良好	早鳥式土器
9097	土壇-493	瓦質土器	羽釜	28.4		(5.3)	灰色(5Y5/1)	細砂	良好	
9098	土壇-494	土師器	皿	7.8	6.2	1.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
9099	土壇-494	土師器	鍋	31.0		14.5	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	ススA
9100	土壇-496	土師器	碗	9.9	3.4	4.4	褐灰色(10YR6/1)	細砂	良好	口縁に歪み有り
9101	土壇-496	土師器	碗	9.7		(3.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9102	土壇-496	土師器	碗	10.6		(2.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9103	土壇-496	土師器	碗	9.8		(2.5)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9104	土壇-496	土師器	碗	10.2	2.6	3.8	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9105	土壇-496	土師器	碗	9.9	3.9	3.6	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	早鳥式土器
9106	土壇-496	土師器	碗	10.8	4.4	3.1	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9107	土壇-496	土師器	碗	11.2	4.1	3.3	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9108	土壇-496	土師器	碗	10.8		(2.4)	灰白色(10YR7/1)	精良	良好	早鳥式土器
9109	土壇-496	土師器	碗	10.0		(2.5)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9110	土壇-496	土師器	碗	11.6		(3.2)	灰白色(2.5Y8/1)	精良	良好	早鳥式土器
9111	土壇-496	土師器	碗		3.8	(2.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器、内面重ね焼痕
9112	土壇-496	土師器	碗		4.4	(1.7)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器、内面にスス附着
9113	土壇-496	土師器	碗		4.4	(1.6)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	早鳥式土器、内面重ね焼痕
9114	土壇-496	土師器	碗		3.6	(2.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	精良	良好	早鳥式土器、内面重ね焼痕
9115	土壇-496	土師器	皿	5.8	5.2	1.1	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	早鳥式土器
9116	土壇-496	土師器	皿	6.5	5.0	1.1	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9117	土壇-496	土師器	皿	7.4	5.4	1.2	鈍い橙色(7.5YR7/3)	精良	良好	早鳥式土器
9118	土壇-496	土師器	皿	6.6	5.1	1.0	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9119	土壇-496	土師器	皿	8.0	6.8	1.1	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9120	土壇-496	土師器	皿	7.2	6.0	1.1	鈍い黄褐色(10YR7/3)	精良	良好	早鳥式土器
9121	土壇-496	土師器	皿	8.1	6.6	1.2	鈍い橙色(7.5YR7/3)	精良	良好	
9122	土壇-496	土師器	皿	10.0	8.8	1.5	鈍い橙色(5YR7/3)	精良	良好	
9123	土壇-496	土師器	鍋	25.6		(5.3)	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	良好	
9124	土壇-496	土師器	鍋	32.5		(6.6)	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	良好	
9125	土壇-496	土師器	鍋	33.4		(3.7)	灰黄褐色(10YR4/2)	粗砂	良好	内面線刻
9126	土壇-496	土師器	鍋			(9.3)	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	良好	
9127	土壇-496	土師器	鍋			(6.4)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	礫	良好	
9128	土壇-496	土師器	鍋支脚			(16.9)	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	良好	
9129	土壇-496	東播系須恵器	こね鉢			(6.4)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
9130	土壇-497	土師器	碗	10.2		(2.5)	明褐色(7.5YR7/2)	微砂	良好	早鳥式土器
9131	土壇-497	土師器	碗	10.6	3.5	3.3	灰褐色(7.5YR4/2)	微砂	良好	早鳥式土器
9132	土壇-497	土師器	皿	9.6	6.8	1.4	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	早鳥式土器

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
9133	土壇-497	龜山焼	甕			(4.8)	灰色(N5/0)	微砂	良好	
9134	土壇-497	東播系須恵器	擂鉢			(4.2)	灰白色(10YR7/1)	微砂	良好	
9135	土壇-497	土師器	羽釜	20.6		(7.2)	黄灰色(2.5Y5/1)	微砂	良好	
9136	土壇-498	土師器	碗	11.8		(3.0)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9137	土壇-498	土師器	碗		4.8	(1.1)	灰白色(2.5Y8/1)	精良	良好	早鳥式土器
9138	土壇-498	須恵器	甕	32.0		(7.1)	灰色(N5/0)	粗砂	良好	
9139	土壇-499	土師器	碗	10.8		(3.1)	灰白色(N7/0)	細砂	良好	早鳥式土器
9140	土壇-499	土師器	碗	9.8		(3.5)	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	良好	早鳥式土器
9141	土壇-499	土師器	碗		3.9	(1.3)	灰白色(10YR8/1)	精良	良好	早鳥式土器
9142	土壇-499	土師器	碗		4.2	(1.2)	灰白色(10YR8/1)	精良	良好	早鳥式土器
9143	土壇-499	土師器	皿	7.2	6.0	1.0	灰白色(2.5Y8/1)	精良	良好	早鳥式土器
9144	土壇-499	陶器	底部		8.8	(3.4)	鈍い橙色(5YR7/3)	細砂	良好	
9145	土壇-499	青磁	碗	15.2	5.2	6.9	オリーブ灰色(10Y6/2)	細砂	良好	鍋蓮弁文、13~14C
9146	土壇-501	土師器	碗		4.8	(1.1)	灰白色(10YR8/1)	精良	良好	早鳥式土器
9147	土壇-501	土師器	皿	7.0	6.0	1.2	鈍い黄橙色(10YR7/3)	精良	良好	
9148	土壇-501	土師器	鉢			(2.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
9149	土壇-503	土師器	碗	11.1	4.4	3.6	灰白色(10YR8/1)	粗砂	良好	早鳥式土器、内面重ね焼痕
9150	土壇-503	土師器	碗		4.4	(1.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	早鳥式土器
9151	土壇-503	土師器	碗		4.5	(2.7)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9152	土壇-504	土師器	碗	10.0		4.3	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	早鳥式土器
9153	土壇-504	土師器	碗		4.0	(0.8)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9154	土壇-504	土師器	碗		3.8	(0.8)	灰白色(2.5Y8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9155	土壇-504	土師器	皿	6.8	5.5	1.1	鈍い橙色(5YR7/4)	精良	良好	
9156	土壇-504	土師器	皿	5.6	4.8	0.6	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
9157	土壇-504	土師器	鉢	16.4	12.4	3.6	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
9158	土壇-505	土師器	碗		4.2	(1.5)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9159	土壇-505	土師器	碗		4.7	(0.9)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9160	土壇-507	陶器				(9.1)	灰色(N6/0)	細砂	良好	
9161	土壇-508	土師器	碗	9.6		(3.1)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9162	土壇-509	土師器	碗	8.8		(2.4)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9163	土壇-509	土師器	碗		4.1	(0.7)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9164	土壇-510	土師器	碗	10.4	3.4	3.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	内面重ね焼痕、内面スス附着
9165	土壇-510	土師器	碗	9.1	3.4	3.9	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
9166	土壇-510	土師器	碗	9.0	3.4	4.0	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9167	土壇-510	土師器	碗	9.7	3.6	4.2	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9168	土壇-510	土師器	碗	9.4		(3.2)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9169	土壇-510	土師器	碗	9.6		(3.5)	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9170	土壇-510	土師器	碗	9.4	3.1	4.1	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9171	土壇-510	土師器	碗	9.1	4.0	4.0	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9172	土壇-510	土師器	碗	9.2	3.4	3.7	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9173	土壇-510	土師器	皿	6.1	4.4	0.8	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9174	土壇-510	土師器	皿	9.2	6.1	1.4	鈍い黄橙色(10YR7/3)	礫	良好	早鳥式土器
9175	土壇-510	土師器	皿	7.2	6.6	1.0	鈍い黄橙色(10YR7/2)	精良	良好	早鳥式土器
9176	土壇-510	土師器	皿	7.1	6.2	1.2	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	早鳥式土器
9177	土壇-510	土師器	鍋	30.6		(10.0)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	ススA
9178	土壇-510	土師器	鍋支脚			(12.6)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
9179	土壇-510	龜山焼	甕			(3.9)	灰色(N6/0)	細砂	良好	瓦質焼成
9180	土壇-511	龜山焼	甕	24.0		(7.2)	灰黄褐色(10YR4/2)	礫	良好	
9181	土壇-511	土師器	碗		3.6	(1.0)	灰白色(10YR8/1)	精良	良好	早鳥式土器
9182	土壇-511	土師器	鍋			(11.1)	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	良好	
9183	土壇-511	土師器	鍋支脚			(13.4)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	粗砂	良好	
9184	井戸-9	土師器	碗	14.2		(3.2)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	早鳥式土器
9185	井戸-9	土師器	碗		6.8	(3.0)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	早鳥式土器
9186	井戸-9	土師器	碗		6.6	(1.5)	淡黄色(2.5Y8/4)	粗砂	良好	早鳥式土器
9187	井戸-9	土師器	碗		6.5	(1.7)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	良好	早鳥式土器
9188	井戸-9	土師器	碗		5.4	(1.4)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9189	井戸-9	土師器	碗		6.2	(2.0)	灰白色(2.5Y8/2)	礫	良好	早鳥式土器
9190	井戸-9	土師器	皿		8.4	(2.7)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
9191	井戸-9	土師器	小皿	7.8	6.5	0.9	鈍い橙色(7.5YR7/3~7/4)	細砂	良好	
9192	井戸-9	土師器	小皿	7.3	5.7	1.0	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	
9193	井戸-9	土師器	小皿			(1.2)	灰白色(2.5Y8/1~8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9194	井戸-9	土師器	小皿			(1.2)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	早鳥式土器
9195	井戸-9	土師器	器台	8.0	5.4	2.8	浅黄褐色(10YR8/3)	礫	良好	土器の回転左、底部ヘラ切り
9196	井戸-9	土師器	器台	7.7	5.2	2.9	灰白色(2.5Y8/2)	礫	良好	早鳥式土器、土器の回転左、底部ヘラ切り
9197	井戸-9	土師器	器台	8.6	4.6	3.7	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器、土器の回転左、底部ヘラ切り
9198	井戸-9	土師器	器台	(8.3)	6.0	2.7	灰黄色(2.5Y7/2)	精良	良好	
9199	井戸-9	土師器	器台		6.0	(4.5)	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	早鳥式土器、土器の回転右
9200	井戸-9	土師器	鍋			(2.8)	灰黄褐色(10YR5/2)	粗砂	良好	スス
9201	井戸-9	東播系須恵器	捏ね鉢			(6.0)	灰白色(2.5Y7/1)	礫	良好	
9202	井戸-9	白磁	碗		7.4	(2.6)	灰白色(2.5Y8/1~8/2)	細砂	良好	
9203	井戸-9	常滑焼	大甕			(7.1)	鈍い褐色(7.5YR5/3~5/4)	礫	良好	外面タタキメ
9204	溝-493	龜山焼	甕			(3.6)	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	良好	
9205	溝-493	土師器	高台		3.9	(0.6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	精良	良好	高台モミ痕
9206	溝-494	須恵器	甕?			(6.1)	灰白色(7.5Y7/1)	礫	良好	
9207	溝-495	肥前系磁器	碗?			(1.8)	灰白色(10YR8/1)	精良	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
9208	溝-498・499	土師器	皿	12.7	7.9	2.0	灰白色(10YR8/2)	礫	良好	糸切り底
9209	溝-498・499	土師器	皿	12.6	7.6	1.4	淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	糸切り底
9210	溝-498・499	土師器	皿	10.2	7.8	1.5	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	糸切り底
9211	溝-498・499	土師器	皿		6.6	1.1	淡黄色(5YR8/4)	粗砂	良好	糸切り底
9212	溝-498・499	土師器	小皿	9.6	7.0	1.8	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	糸切り底
9213	溝-498・499	土師器	小皿	(8.0)		1.0	鈍い橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
9214	溝-498・499	土師器	小皿	7.8	5.6	1.3	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	糸切り底
9215	溝-498・499	土師器	小皿	7.0	6.0	1.3	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	糸切り底
9216	溝-498・499	土師器	小皿		5.3	1.7	淡橙色(5YR8/3)	粗砂	良好	糸切り底
9217	溝-498・499	土師器	小皿		6.9	1.2	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	糸切り底
9218	溝-498・499	亀山焼	甕			(3.7)	灰色(N6/)	細砂	良好	
9219	溝-498・499	土師器	土鍋			(5.2)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
9220	溝-498・499	備前焼	清鉢			(6.8)	暗赤灰色(10R4/1)	粗砂	良好	
9221	溝-502	土師器	椀		5.0	(1.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9222	溝-502	土師器	椀		6.2	(1.3)	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9223	溝-502	土師器	椀		5.5	(1.5)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9224	溝-502	土師器	椀		5.4	(2.5)	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9225	溝-502	土師器	椀		4.5	(1.4)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9226	溝-502	土師器	椀		5.1	(1.6)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9227	溝-502	土師器	椀		5.6	(1.5)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	早鳥式土器
9228	溝-502	土師器	椀	11.3	5.6	3.9	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	早鳥式土器
9229	溝-502	土師器	鉢		9.2	(1.8)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9230	溝-502	土師器	皿	12.1	8.0	2.1	鈍い黄橙色(7.5YR7/2)	細砂	良好	
9231	溝-502	土師器	鉢		7.4	(1.7)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
9232	溝-502	土師器	杯	15.3	11.8	2.5	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
9233	溝-502	土師器	皿	7.4	6.3	1.1	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
9234	溝-502	土師器	皿	7.0	5.5	1.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
9235	溝-502	土師器	皿	8.1	6.7	1.5	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9236	溝-502	土師器	皿	6.7	5.2	1.2	浅黄橙色(7.5YR8/3)	礫	良好	
9237	溝-502	土師器	皿	7.1	5.3	1.5	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
9238	溝-502	土師器	皿	7.1	5.5	1.1	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
9239	溝-502	土師器	皿	9.4	8.0	1.3	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9240	溝-502	土師器	皿	7.0	4.7	1.3	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	完形
9241	溝-502	土師器	器台			(2.6)	鈍い橙色(7.5YR7/3)	粗砂	良好	
9242	溝-502	土師器	器台		7.5	(4.2)	灰白色(10YR8/2)	礫	良好	
9243	溝-502	土師器	鍋支脚			(14.8)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
9244	溝-502	土師器	鍋支脚			(13.8)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
9245	溝-502	須恵器	鉢			(4.1)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
9246	溝-504	土師器	椀	11.2		(3.2)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
9247	溝-504	土師器	高台部		4.4	(1.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
9248	溝-504	土師器	小皿	8.2	4.4	2.0	淡橙色(5YR8/4)	細砂	良好	
9249	溝-504	土師器	小皿	7.7	3.5	1.9	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
9250	溝-504	土師器	小皿	9.0		(2.4)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
9251	溝-504	土師器	小皿	9.2		(2.0)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
9252	溝-504	土師器	小皿	9.4		2.4	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	
9253	溝-504	土師器	小皿	9.2		(1.9)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
9254	溝-504	土師器	小皿	8.7	4.0	2.2	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	
9255	溝-504	土師器	鍋	35.1		(14.9)	鈍い黄褐色(10YR6/4)	細砂	良好	ススA
9256	溝-504	土師器	脚部			(14.7)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	
9257	溝-505	亀山焼	甕			(5.3)	灰色(5Y6/1)	細砂	良好	
9258	溝-505	東播磨須恵器	捏ね鉢			(2.9)	灰色(5Y5/1)	細砂	良好	
9259	溝-505	土師器	椀		3.6	(1.6)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
9260	溝-505	土師器	椀		4.2	(0.9)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
9261	溝-505	土師器	椀		4.2	(1.2)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
9262	溝-505	土師器	椀		3.5	(2.7)	鈍い黄褐色(10YR8/2)	細砂	良好	内部重ね焼き痕
9263	溝-505	土師器	皿	6.8	5.3	1.2	鈍い橙色(7.5YR7/3)	精良	良好	
9264	溝-508	土師器	椀		3.6	(0.8)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	
9265	溝-508	土師器	皿	6.8	4.8	1.3	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9266	溝-513	土師器	椀	9.3		(3.8)	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
9267	溝-513	土師器	椀	11.0	5.3	3.7	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	良好	高台部に米の痕跡
9268	溝-513	土師器	椀	10.2	3.9	3.2	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	
9269	溝-513	土師器	椀	9.4	4.0	3.8	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂	良好	
9270	溝-513	土師器	椀	9.0		(3.7)	灰白色(10YR8/1)	粗砂	良好	
9271	溝-513	土師器	椀	10.4	4.1	3.6	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
9272	溝-513	土師器	椀	10.8	4.4	3.1	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
9273	溝-513	土師器	椀	11.1	4.6	3.5	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	
9274	溝-513	土師器	椀		3.6	(3.2)	灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	
9275	溝-513	土師器	皿	12.0	7.1	2.1	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	
9276	溝-513	土師器	皿	7.2	5.0	1.7	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9277	溝-513	土師器	皿	7.2	5.0	2.1	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9278	溝-513	土師器	皿	6.3	5.4	1.4	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
9279	溝-513	土師器	皿	7.8	6.2	1.3	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
9280	溝-513	土師器	皿	6.0	4.8	1.3	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	
9281	溝-513	土師器	皿	7.4	4.8	1.7	鈍い橙色(7.5YR7/3)	細砂	良好	
9282	溝-513	土師器	器台	5.1	7.0	2.5	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	

遺物観察表

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
9283	掘立柱建物-74	土師器	火鉢			(4.0)	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	
9284	掘立柱建物-75	肥前陶器	輪花碗	13.7	4.5	5.5	黄褐色(10YR6/4)	礫	良好	1590~1610
9285	土壙-514	備前焼	播鉢	(28.8)		(6.9)	灰赤色(2.5YR6/2)	細砂	良好	
9286	土壙-520	龜山焼	羹	(34.0)		(2.8)	青灰色(5B6/1)	細砂	良好	
9287	土壙-520	土師器	小皿		8.2	(0.7)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	
9288	土壙-523・524	肥前陶器	灰軸皿		3.1	3.5	鈍い橙色(7.5YR7/4)	粗砂	良好	1600~1620年代
9289	土壙-523・524	肥前陶器	皿	12.8	3.7	3.2	赤褐色(10R5/3)	細砂	良好	1600~1630年代
9290	土壙-536	土師器	小皿		5.5	(1.1)	明黄褐色(10YR7/6)	細砂	良好	底部系切り
9291	土壙-545	肥前陶器	刷毛目碗	11.9	4.3		鈍い橙色(5YR6/4)	密	良好	17世紀末~18世紀前
9292	土壙-545	肥前磁器	染付碗	10.8		(3.1)	青い灰白色(5GY8/1)	密	良好	17世紀末~18世紀初
9293	土壙-545	肥前磁器	染付碗			(4.7)	灰白色(5GY8/1)	密	良好	
9294	土壙-545	肥前磁器	染付碗	8.3	2.6	4.6	明緑灰色(7.5GY8/1)	細砂	良好	草花、17世紀末~18世紀前半
9295	土壙-545	肥前磁器	染付皿	12.5		(3.7)	灰白色(5Y8/2)	密	良好	17世紀後~18世紀初
9296	土壙-545	肥前磁器	染付皿	(13.0)		3.5	灰白色(N8/)	細砂	良好	17世紀後半~18世紀初
9297	土壙-545	肥前磁器	染付皿	13.5		(3.7)	明オリブ灰色(2.5GY7/1)	密	良好	17世紀後半~18世紀初
9298	土壙-545	備前焼	鉢	14.3	14.0	7.1	灰褐色(5YR4/2)	粗砂	良好	
9299	土壙-545	備前焼	播鉢			(4.7)	鈍い赤褐色(2.5YR5/4)	礫	良好	
9300	土壙-545	備前焼	播鉢			(3.9)	鈍い橙色(2.5YR6/4)	礫	良好	
9301	土壙-545	備前焼	播鉢			(6.1)	黒褐色(2.5Y3/1)	粗砂	良好	
9302	土壙-550・551	肥前染付	碗	10.4	3.7	6.1	淡黄色(2.5Y8/3)	密	良好	
9303	土壙-550・551	肥前染付	小杯	6.6	2.4	3.2	灰白色(2.5Y8/2)	密	良好	1690~18世紀初、菊文(コンニャク印判)
9304	土壙-550・551	肥前陶器	呉器手碗	9.8	4.3	7.1	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	良好	18世紀後半
9305	土壙-550・551	肥前白磁	小碗		3.3	(2.8)	灰白色(2.5Y8/1~8/2)	密	良好	17世紀末~18世紀初
9306	土壙-550・551	肥前陶器	灰軸皿		3.1	(2.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	粗砂	良好	1600~1630年
9307	土壙-550・551	瓦	軒丸瓦	(14.0)			灰色(N6/)	礫	良好	
9308	土壙-552	肥前白磁	小杯		2.4	(2.0)	地:白色、釉:透明	精良	良好	17C後半
9309	土壙-552	肥前陶器	皿		4.2	(1.9)	釉:灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	胎土目積み跡3個
9310	土壙-552	肥前陶器	呉器手碗		4.6	(3.0)	地:淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	17C後半
9311	土壙-553	陶器	皿		3.8	(2.3)	灰白色(5Y8/1)	精良	良好	脚土目4ヶ
9312	土壙-553	京風焼	碗		4.8	(2.3)	釉薬:淡黄色	精良	良好	砂目粘着、削り出し高台、釉調:光沢あり
9313	土壙-553	肥前陶磁器	碗		4.0	(4.5)	明緑灰色	精良	良好	削り出し高台、釉調:光沢あり
9314	土壙-554	陶器	碗		3.8	(2.5)	黒褐色	精良	良好	鉄釉、削り出し高台、釉調:鈍い光沢
9315	土壙-554	陶器	高台		5.3	(1.9)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	
9316	井戸-11	中国製磁器	染付碗		4.6	(1.4)	灰白色(N8/)	細砂	良好	福建省
9317	井戸-11	肥前陶器	灰軸皿	13.0	3.6	3.1	灰オリブ色(5Y6/2)	細砂	良好	1600~1630年代、砂目積み
9318	井戸-11	備前焼	水差し		15.2	(7.0)	褐灰色(10YR6/9)	細砂	良好	土器の回転右
9319	井戸-12	肥前陶器	刷毛目椀		3.8	(2.8)	鈍い赤褐色(5YR4/4)	細砂	良好	18世紀前半
9320	井戸-12	肥前陶器	呉器手碗		4.6	(2.8)	灰黄色(2.5YR7/2~6/2)	細砂	良好	17世紀後半
9321	井戸-12	陶器	大壺			(8.5)	暗褐色(7.5YR3/3~3/4)	礫	良好	
9322	井戸-12	備前焼	播鉢			(3.7)	灰赤色(2.5YR4/2)	粗砂	良好	
9323	井戸-12	備前焼	播鉢		15.5	(4.3)	鈍い赤褐色(2.5YR5/4~4/4)	礫	良好	削し目11本
9324	井戸-13	肥前磁器	碗		4.2	(4.9)	明褐灰色(10GY8/1)	細砂	良好	17世紀中葉
9325	井戸-13	肥後陶器	皿	21.8	8.0	4.6	黄褐色(2.5Y5/4)	細砂	良好	17~18世紀
9326	井戸-13	備前焼	小皿	11.4		2.0	灰赤色(10R4/2)	細砂	良好	底部系切り、土器の回転左、灯明皿
9327	井戸-13	備前焼	壺		5.1	(2.6)	鈍い赤褐色(5YR5/4)	細砂	良好	底部系切り、土器の回転右
9328	井戸-13	備前焼	播鉢	29.4		(7.8)	灰褐色(5YR5/2)	粗砂	良好	
9329	井戸-13	備前焼	播鉢			(5.3)	灰赤色(2.5YR5/2)	細砂	良好	
9330	溝-529	肥前陶器	灰軸皿	11.6	3.5	4.7	鈍い褐色(7.5YR6/3)	粗砂	良好	1590~1610年代
9331	溝-530・531	土師器	小皿	7.6	6.2	(1.2)	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	良好	
9332	溝-532・533	備前焼	播鉢	(27.0)		(8.2)	赤褐色(10R6/6)	細砂	良好	
9333	溝-532・533	肥前陶器	皿	(13.0)	3.9	3.4	鈍い黄褐色(10YR6/4)	粗砂	良好	1600~1630年
9334	溝-532・533	肥前陶器	灰軸皿		4.5	(1.9)	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	貫入あり、1600~1620年代
9335	溝-532・533	肥前陶器	皿?		4.3	(1.9)	鈍い黄褐色(10YR7/2~7/4)	礫	良好	
9336	溝-532・533	肥前磁器	染付碗	10.5	3.8	7.1	明緑灰色(7.5GY8/1)	細砂	良好	鉄泥
9337	溝-532・533	備前焼	皿			(1.6)	鈍い赤褐色	細砂	良好	
9338	溝-532・533	肥前陶器	刷毛目碗		4.4	(1.9)	鈍い黄褐色(10YR5/3)	密	良好	
9339	溝-532・533	肥前染付	碗		4.0	(4.9)	明緑灰色(7.5GY7/1)	粗砂	良好	1630~1640年
9340	溝-532・533	肥前陶器	皿	(12.0)	3.8	3.0	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	1600~1630年
9341	溝-532・533	肥前陶器	鉄軸皿	(12.5)	3.3	3.4	灰褐色(5YR5/2)	粗砂	良好	1590~1610年
9342	溝-532・533	備前焼	播鉢		13.0	(5.7)	鈍い橙色(5YR7/4)	細砂	良好	
9343	溝-532・533	備前焼	播鉢	(25.2)		5.5	橙色(2.5YR7/6)	礫	良好	
9344	溝-532・533	土師器	鍋	(25.4)		(4.3)	黒褐色(10YR3/9)	礫	良好	ススA
9345	溝-534	土師器	小皿	8.0	5.0	(1.8)	明褐灰色(2.5YR7/2)	細砂	良好	土器の回転右、底部系切り
9346	溝-534	土師器	小皿	10.0	6.9	(2.2)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	
9347	溝-534	備前焼	椀	(11.4)		(2.4)	灰赤色(2.5YR6/2)	細砂	良好	土器の回転右
9348	溝-534	土師器	鍋			(5.1)	褐灰色(10YR4/1)	細砂	良好	ススA
9349	溝-536	肥前陶磁器	碗		3.7	(2.3)	明緑灰色	精良	良好	釉ハキ乾の目、削り出し高台、砂目付着
9350	溝-536	陶器	椀		5.4	(5.4)	灰白色(10Y7/1)	細砂	良好	絵付
9351	溝-536	白磁	杯	7.2		(4.3)	灰白色	精良	良好	表面:松絵、釉調:光沢あり
9352	溝-536	陶器	高台(椀?)		3.1	(1.6)	釉薬:透明	精良	良好	削り出し高台、釉調:光沢あり
9353	溝-536	陶器	椀		4.1	(3.7)	黒色(5YR7/1)	細砂	良好	
9354	溝-536	陶器	椀		4.1	(4.1)	橙色(5YR6/6)	細砂	良好	
9355	溝-536	陶器	椀	12.4	4.4	(3.3)	灰白色(7.5Y7/2)	細砂	良好	砂目
9356	溝-536	肥前陶磁器	碗		4.8	(1.9)	釉薬:明緑灰色	精良	良好	内面鉄粘繪字、削り出し高台、砂目付着
9357	溝-536	陶器	椀		4.2	(5.4)	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	良好	

土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴など
				口径	底径	器高				
9358	溝-536	備前焼		10.9		5.9	赤灰色(7.5R4/2)	細砂	良好	
9359	溝-536	備前焼		10.4	10.0	6.3	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	
9360	溝-536	備前焼	壺	(19.8)		(9.0)	赤灰色(7.5R6/2)	細砂	良好	
9361	溝-536	備前焼	槽鉢	32.2		(8.4)	赤褐色(10R5/3)	細砂	良好	摺り目単位8本
9362	溝-537	肥前磁器	染付碗	9.9		(2.5)	灰白色(7.5Y7/1)	密	良好	1650~1670年代
9363	溝-537	肥前磁器	染付碗		3.8	(3.6)	灰白色(5Y7/1)	密	良好	1630~1650年代
9364	溝-537	備前焼	槽鉢			(4.3)	灰赤色(10R4/2)	細砂	良好	
9365	溝-537	中国製磁器	染付碗			(1.1)	鈍い赤褐色(2.5YR5/4)	密	良好	16世紀末~17世紀初
9366	溝-538	備前焼	甕	(24.0)		(5.0)	褐灰色(5YR5/1)	細砂	良好	
9367	溝-538	備前焼	甕	(26.0)		(4.4)	赤褐色(10R4/4)	細砂	良好	
9368	溝-538	備前焼	槽鉢	(31.0)		(5.6)	灰赤色(2.5Y6/2)	細砂	良好	
9369	溝-538	備前焼	槽鉢			(4.2)	赤褐色(10R5/4)	細砂	良好	
9370	溝-538	備前焼	槽鉢			(2.9)	赤灰色(2.5YR5/1)	粗砂	良好	
9371	溝-538	肥前陶磁器	鉢		8.3	(4.2)	灰褐色(5YR6/2)	細砂	良好	削り出し高台
9372	溝-539	陶器(京風)	皿	11.4	5.6	3.0	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	砂目積み
9373	溝-538	瓦	平瓦	26.8	20.0	2.0	オリーブ灰色(2.5GY3/1)	細砂	良好	
9374	溝-538	瓦	丸瓦	22.2	17.8	1.8	暗青灰色(5B3/1)	細砂	良好	
9375	溝-538	瓦	軒丸瓦	12.3	13.6		灰色(N4/)		精良	
9376	溝-538	陶器	蓋			(2.7)	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	良好	沈線3条
9377	溝-538	陶器	蓋	10.0		(2.4)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良好	染付け
9378	溝-538	陶磁器	取手付壺	11.6		(5.6)	灰白色(7.5Y8/2)	精良	良好	口縁部付近に模様あり
9379	溝-538	陶器(京風)	甕	16.0		(3.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	精良	良好	
9380	溝-538	陶器	鉢	(16.2)		(4.8)	鈍赤褐色(5YR5/4)	精良	良好	
9381	溝-538	肥前陶器	椀	10.3		(4.0)	灰白色(10Y8/1)	精良	良好	菊(こんにゃく印判)
9382	溝-538	肥前陶器	椀	(14.2)		(4.5)	明緑灰色	精良	良好	釉調:光沢あり
9383	溝-538	青磁		9.6		(1.8)	明緑灰色	精良	良好	釉調:光沢あり
9384	溝-538	陶磁器	底部		4.0	(3.3)	明緑灰色(5G7/1)	精良	良好	内側底部に4本線(明青灰色5BG7/1)あり
9385	溝-538	陶磁器	底部		5.1	(2.1)	淡黄色(2.5Y8/3)	精良	良好	
9386	溝-538	肥前陶器	碗?皿?		3.5	(1.4)	釉薬:緑色	細砂	良好	内面胎土目2個
9387	溝-538	京風焼	灯明皿の台	3.7	4.6	3.9	淡黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	釉調:光沢あり
9388	包含層	陶器	皿			(2.4)	胎土:灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	(釉)不透明
9389	包含層	緑釉	皿			(2.5)	鈍い黄橙色(10YR7/2)	細砂	良好	(釉)不透明
9390	包含層	肥前系磁器	皿?			(1.4)	灰白色(10YR8/2)	精良	良好	釉不透明
9391	包含層	磁器	皿			(1.3)	胎土:灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	(釉)不透明
9392	包含層	肥前系陶磁器	皿		4.0	(2.0)	褐灰色(5YR6/1)	精良	良好	胎土目4ヶ
9393	包含層	磁器	碗			(3.1)	胎土:灰白色(N8)	精良	良好	(釉)透明

土製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名	器種	法量 (cm)				重量 (g)	色調	胎土	焼成	時期	特徴・備考
			長さ	幅	厚さ	孔径						
C205	竪穴住居-192	土錘	4.7	4.1	1.5	1.4	92.9	鈍い橙色(5YR7/4)	粗砂、糠	良好	弥・後・IV	
C206	袋状土城-98		(3.9)	6.5	1.3	0.2	39.9	橙色(2.5YR7/8)	細砂	良好	弥・後・I	2孔
C207	包含層	分銅形土製品	(4.5)	(3.2)	(1.1)			灰白色(7.5YR8/1)	細砂	良好	弥・後・I	
C208	包含層	分銅形土製品	(6.9)	(6.4)	1.2	-	49.4	灰白色(10YR8/1)	細砂	良好	弥・後	
C209	包含層	分銅形土製品	3.8	5.9	0.9	-	18.3	褐色(10YR4/1)	細砂	良好	弥	
C210	包含層	紡錘車	6.8	6.0	0.6	-	27.7	褐色(7.5YR6/1)	細砂	良好	弥	
C211	包含層	ひさご型	4.0	4.3	3.7	-	24.5	褐色(5YR7/6)	粗砂	良好	弥	
C212	包含層	分銅形土製品	7.3	8.7	1.9	-	131.9	鈍い黄褐色(10YR7/2)	細砂	良好	弥	
C213	包含層	紡錘車	5.4	4.9	0.5	0.6	16.3	上褐色(5YR4/1) 下鈍い褐色(5YR6/4)	細砂	良好	弥	上の調整-タタキ+櫛状工具によるナデ、 下の調整-櫛状工具によるナデ、完形
C214	竪穴住居-218	土錘	5.4	1.4	0.6	0.3	10.2	褐色(5YR5/1)	細砂	良好	古・前・II	
C215	竪穴住居-218	土錘	6.1	2.3	0.6	1.3	40.7	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	古・前・I, II	指痕
C216	竪穴住居-218	土錘	6.7	2.3	0.8	0.8-1.4	34.8	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	古・前・I, II	
C217	竪穴住居-218	土錘	6.7	2.5	0.6	1.2	41.2	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	良好	古・前・I, II	
C218	竪穴住居-218	土錘	7.1	2.8	0.8	1.15	48.7	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	古・前・I, II	
C219	竪穴住居-218	土錘	7.1	2.1	0.7	0.8-1.2	28.3	褐色(7.5YR7/6)	粗砂	良好	古・前・I, II	
C220	竪穴住居-218	土錘	7.4	2.4	0.8	1.2	41.2	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	古・前・I, II	指痕
C221	竪穴住居-218	土錘	7.2	2.9	1.1	1.1	75.2	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	古・前・I, II	
C222	竪穴住居-218	土錘	7.6	2.3	0.8	1.1	22.4	鈍黄褐色(10YR7/2)	粗砂	良好	古・前・I, II	
C223	竪穴住居-218	土錘	7.2	2.8	0.9	1.05	67.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	古・前・I, II	
C224	竪穴住居-218	土錘	9.0	2.4	0.7	0.9	48.6	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	古・前・I, II	
C225	竪穴住居-218	土錘	8.8	3.2	1.1	0.9	87.5	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	良好	古・前・I, II	
C226	竪穴住居-219	土錘	6.6	3.2	1.0	1.4	72.0	褐色(7.5YR7/)	細砂	良好	古・前・I, II	
C227	竪穴住居-219	土錘	7.0	2.6	0.8	1.3	40.2	鈍い褐色(5YR7/)	細砂	良好	古・前・I, II	
C228	竪穴住居-219	土錘	7.5	2.6	0.7	1.3	41.2	灰白色(7.5YR8/)	細砂	良好	古・前・I, II	
C229	竪穴住居-219	土錘	7.6	2.4	0.7	1.2	46.2	灰白色(2.5Y8/)	細砂	良好	古・前・I, II	
C230	竪穴住居-219	土錘	7.8	2.1	0.8	1.4	48.9	灰白色(2.5Y8/)	細砂	良好	古・前・I, II	
C231	竪穴住居-252	土錘	7.5	7.9	0.8	1.5	71.4	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	古・前・II	
C232	竪穴住居-252	土錘	7.6	2.3	0.7	1.3	43.4	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	古・前・II	完形
C233	竪穴住居-252	土錘	6.9	2.9	1.0	1.2	50.8	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	古・前・II	
C234	竪穴住居-252	土錘	(6.5)	(2.1)	0.8	1.2	(17.7)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	古・前・II	
C235	竪穴住居-252	土錘	(6.9)	2.5	0.7	1.2	(29.3)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	古・前・II	
C236	竪穴住居-257	土錘	6.6	3.5	1.2	1.2	69.7	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	古・前・I	
C237	竪穴住居-263	土錘	7.6	2.8	0.7	1.4	56.1	黄褐色(2.5YR6/1)	細砂	良好	古・前・I	
C238	竪穴住居-267	紡錘車	4.1	4.1	0.5	0.4	7.1	鈍い黄褐色(10YR7/3) ~黄褐色(2.5Y4/1)	細砂	良好	古・前・I	土器片使用
C239	竪穴住居-270	土錘	7.5	3.1	0.9	1.2	64.4	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	古・前・I	
C240	竪穴住居-272	土錘	8.1	3.0	1.0	1.2	(44.7)	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	古・前・II	
C241	竪穴住居-272	土錘	7.2	2.7	1.0	1.1-1.4	(46.7)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	古・前・II	
C242	竪穴住居-272	土錘	8.1	3.0	1.0	1.3	(64.9)	褐色(5YR7/6)	細砂	良好	古・前・II	
C243	竪穴住居-272	土錘	7.7	2.6	0.9	1.2	(39.1)	褐色(5YR6/6)	細砂	良好	古・前・II	
C244	竪穴住居-272	土錘	7.1	2.8	0.8	1.1-1.4	58.4	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	古・前・II	完形
C245	竪穴住居-272	土錘	6.5	3.0	0.9	1.3	(60.8)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	古・前・II	
C246	竪穴住居-276	土錘	6.8	2.9	0.7	1.4	54.2	褐色(5YR7/8)	細砂	良好	古・前・II	完形
C247	竪穴住居-283	土錘	(4.1)	(2.4)	0.6	1.3	(12.1)	鈍い黄褐色(10YR6/4)	細砂	良好	古・前・I, II	
C248	竪穴住居-283	土錘	(4.9)	2.6	0.8	1.2	(15.1)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	古・前・I, II	
C249	竪穴住居-283	土錘	(6.0)	(2.3)	0.6	1.1	(9.9)	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	古・前・I, II	
C250	竪穴住居-289	土錘	6.7	2.8	0.9	1.1	50.6	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	古・前・I	黒斑、完形
C251	竪穴住居-296・297	土錘	7.6	2.6	0.9	1.2	55.3	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	古・前・I, II	完形
C252	竪穴住居-296・297	土錘	6.6	2.7	0.9	1.1	(53.8)	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	古・前・I, II	黒斑
C253	竪穴住居-296・297	土錘	5.7	2.7	0.8	1.1	42.7	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	古・前・I, II	完形
C254	竪穴住居-298	土錘	7.9	3.4	1.1	1.3	88.5	鈍い褐色(5YR7/4)	細砂	良好	古・前・I	完形
C255	竪穴住居-300	紡錘車	2.7	2.5	0.3	0.15	3.0	鈍い黄褐色(10YR6/3)	細砂	良好	古・前・I	完形
C256	竪穴住居-300	土錘	6.9	2.7	0.8	1.15	34.1	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	良好	古・前・I	口径11.3cm、完形
C257	竪穴住居-301	紡錘車	3.3	3.4	0.4	0.3	4.9	鈍い褐色(10YR7/4)	細砂	良好	古・前・I	
C258	竪穴住居-302	土錘	7.1	3.6	1.3	1.4	90.2	褐色(7.5YR7/6)~浅黄 褐色(10YR8/3)	粗砂	良好	古・前・II	
C259	竪穴住居-308・309	土錘	6.9	3.0	1.0	1.0	68.4	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂	良好	古・前・I	完形
C260	竪穴住居-308・309	土錘	6.7	3.0	0.9	1.1	53.3	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	古・前・I	
C261	竪穴住居-308・309	土錘	6.5	3.0	1.1	1.2	55.6	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	古・前・I	完形
C262	竪穴住居-308・309	土錘	7.1	8.7	0.8	1.1	43.4	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	良好	古・前・I	完形
C263	竪穴住居-308・309	土錘	6.5	2.9	1.0	1.1-1.4	49.0	鈍い褐色(7.5YR7/4)	細砂	良好	古・前・I	完形
C264	竪穴住居-308・309	土錘	7.8	2.7	1.1	1.2	57.2	褐色(7.5YR7/6)	細砂	良好	古・前・I	完形
C265	竪穴住居-310	土錘	5.8	3.0	0.9	1.2	35.7	明赤褐色(10YR7/6)	細砂	良好	古・前・II	
C266	竪穴住居-310	土錘	6.4	2.8	0.8	1.1	38.6	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	古・前・II	
C267	竪穴住居-310	土錘	9.6	2.7	0.8	1.1	65.6	鈍い黄褐色(10YR7/4)	精良		古・前・II	
C268	溝-104	土錘	(3.7)	2.2	0.7	0.9	(18.3)	鈍い黄褐色(10YR7/4)	細砂	良好	古・前・I, II	黒斑あり
C269	溝-464	土錘	7.2	3.8	1.9	0.9	115.6	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	古・前・I, II	
C270	溝-100	土錘	6.1	4.8	1.3	2.4	110.8	黄褐色(2.5Y6/1)~浅 黄色(2.5Y7/3)	細砂	良好	古・前・I, II	
C271	土器溜り-14	土錘	7.7	3.3	1.1	1.1	(56.1)	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	古・前	
C272	土器溜り-15	土錘	5.0	3.0	1.1	1.2	39.9	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	古・前・II	
C273	包含層	土錘	5.1	3.2	1.1	1.1	44.4	灰褐色(5YR5/2)	細砂	良好	古・前	
C274	包含層	土錘	5.7	3.3	1.3	1.1	54.0	褐色(2.5YR7/6)	細砂	良好	古・前	
C275	包含層	土錘	6.2	2.9	1.0	1.0	40.4	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	古・前	

土製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名	器種	法量(cm)				重量(g)	色調	胎土	焼成	時期	特徴・備考
			長さ	幅	厚さ	孔径						
C276	包含層	土錘	5.9	3.6	1.2	1.8	73.5	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	古・前	
C277	包含層	土錘	7.2	2.4	0.7	1.1	(35.9)	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	古・前	
C278	包含層	土錘	7.3	3.4	0.7	1.4	55.0	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	古・前	完形
C279	包含層	土錘	5.5	4.9	2.4	0.7	131.9	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	古・前	
C280	包含層	勾玉	4.3	1.6	1.5	0.3	15.4	浅黄橙色(7.5YR8)	細砂	良好	古・前	
C281	包含層	土錘	7.4	2.7	0.8	1.1	50.0	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	古・前	
C282	包含層	土錘	7.4	2.6	0.7	1.1	29.2	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	良好	古・前	
C283	包含層	土錘	8.2	3.1	1.1	1.0	62.0	橙色(7.5YR7/8)	粗砂	良好	古・前	
C284	包含層	土錘	8.0	3.4	1.3	1.1	(67.6)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	古・前	
C285	包含層	土錘	8.2	3.3	1.1	1.1	(86.2)	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	古・前	黒斑
C286	包含層	土錘	7.6	3.1	1.0	1.1	60.1	橙色(5YR6/8)	精良	良好	古・前	
C287	包含層	土錘	8.0	2.7	0.6	1.45	47.3	黄橙色(10YR8/6)	細砂	良好	古・前	黒斑、完形(少し欠けあり)
C288	包含層	土錘	6.5	3.3	1.0	1.6	71.1	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	古・前	
C289	包含層	土錘	7.5	2.9	0.9	1.1	(46.9)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	良好	古・前	
C290	包含層	土錘	7.1	2.8	0.8	1.3	52.5	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	古・前	完形(少し欠けあり)
C291	包含層	土錘	6.9	2.7	0.9	1.3	(50.5)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	良	古・前	
C292	包含層	土錘	7.9	2.8	1.0	1.0~1.4	44.8	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	古・前	
C293	包含層	土錘	7.0	3.2	1.0	1.3	65.7	黄橙色(10YR8/6)	細砂	良好	古・前	完形(少し欠けあり)
C294	包含層	土錘	7.2	2.5	0.7	1.1	38.3	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	古・前	
C295	包含層	土錘	8.1	3.0	1.1	1.3	50.8	橙色(5YR7/6)~橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	古・前	
C296	包含層	土錘	6.5	2.9	0.7	1.4	(51.0)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	古・前	黒斑
C297	包含層	土錘	7.2	2.7	0.8	1.1	(39.8)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	古・前	
C298	包含層	土錘	6.8	3.1	1.0	1~1.2	55.9	灰白色(10YR8/2)	細砂	良好	古・前	完形
C299	包含層	土錘	6.5	2.6	0.8	1.2	(32.6)	浅赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	良	古・前	
C300	包含層	土錘	6.5	2.8	0.9	1.35	44.4	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	良好	古・前	
C301	包含層	土錘	7.6	2.7	0.8	1.0	(42.8)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	古・前	
C302	包含層	土錘	6.8	2.2	0.6	1.15	28.1	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	古・前	
C303	包含層	土錘	5.9	3.0	0.8	1.4~1.6	49.7	浅黄橙色(7.5YR8/4)~浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	古・前	
C304	包含層	土錘	6.4	4.7	0.8	1.4	43.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	良好	古・前	
C305	包含層	土錘	7.0	2.6	0.9	1.0	51.0	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	古・前	
C306	包含層	土錘	6.1	2.8	1.1	1.2	49.1	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	古・前	
C307	包含層	土錘	6.1	2.8	0.9	1.4	41.7	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	良好	古・前	
C308	包含層	土錘	6.9	2.8	1.0	1.0	53.0	浅黄橙色(10YR8/4)	精良	良好	古・前	完形
C309	包含層	土錘	5.8	(2.7)	0.9	1.1	(21.2)	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	古・前	
C310	包含層	土錘	6.0	2.2	0.6	1.0	25.0	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	良好	古・前	
C311	包含層	土錘	5.6	2.6	1.0	1.0	27.6	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	古・前	
C312	包含層	土錘	(3.8)	(3.5)	1.2	1.2	(37.4)	灰白色(2.5Y8/1)~灰色(N4)	細砂	良好	古・前	
C313	包含層	土錘	(2.6)	(2.9)	0.9	1.2	13.2	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	古・前	
C314	包含層	土錘	6.9	4.3	1.8	1.2	133.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	古・前	
C315	包含層	土錘	6.0	4.5	1.7	1.6	85.8	浅黄橙色(10YR8/3)	精良	良好	古・前	
C316	包含層	紡錘車	6.2	6.0	1.2	0.95	(28.4)	上灰黄褐色(10YR6/2)下淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	古・前	黒斑
C317	包含層	紡錘車	3.4	6.4	1.0	1.0	19.7	オリーブ黒色(10Y3/1)~灰白色(10YR7/1)	細砂	良好	古・前	
C318	竪穴住居-313	紡錘車	2.9	4.3	2.0	0.7	42.3	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C319	竪穴住居-313	土錘	3.9	1.6	0.3	0.65	8.0	褐色(7.5YR5/1)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C320	竪穴住居-325	土錘	6.4	3.2	1.3	1.1	69.8	橙色(5YR7/6)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C321	竪穴住居-325	土錘	6.4	3.3	1.3	1.0	67.2	橙色(7.5YR7/8)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C322	竪穴住居-325	土錘	6.1	3.2	1.3	0.9	70.5	橙色(7.5YR7/6)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C323	竪穴住居-325	土錘	5.6	3.2	1.1	1.0	59.4	鈍い橙色(7.5YR6/4)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C324	竪穴住居-325	土錘	6.8	3.2	1.4	1.0	78.8	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C325	竪穴住居-325	土錘	(4.7)	(1.5)	0.6	0.5	(5.3)	黒褐色(5YR2/1)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C326	竪穴住居-325	土錘	6.2	1.6	0.6	0.5	10.9	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C327	竪穴住居-325	土錘	6.0	1.2	0.3	0.4	(7.8)	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C328	竪穴住居-325	不明	3.2	2.3	0.6	-	8.4	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C329	竪穴住居-325	不明	2.6	1.7	1.4	-	4.9	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C330	竪穴住居-325	不明	2.5	1.7	1.5	-	6.3	橙色(5YR6/8)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C331	竪穴住居-344	土錘	(5.6)	4.8	1.0	1.5	(87.9)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	良好	古・中・Ⅱ	
C332	溝-475	土錘	(1.4)	(1.8)	0.5	0.4	(2.8)	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	奈良	
C333	溝-475	メンコ	2.3	1.8	1.2	-	-	青灰色(5B5/1)	細砂	良好	奈良	須恵器からの転用
C334	溝-475	メンコ	2.3	2.1	1.8	-	-	灰白色(N7)	細砂	良好	奈良	瓦からの転用
C335	溝-476	土錘	4.2	1.7	0.6	0.4	9.9	鈍橙色(7.5YR6/4)	粗砂	良好	奈良	
C336	溝-476	ふいご羽口	14.5	11.3	3.7	2.8	()	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂、礫	良好	奈良	
C337	溝-480	土錘	6.0	1.7	0.7	0.55	12.8	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	良好	奈良	
C338	溝-480	土錘	(4.8)	2.3	1.2	0.5	(17.3)	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	奈良	
C339	溝-E27・E28	羽口	(7.0)	(7.3)	(2.5)	-	(97.5)	鈍い橙色(5YR6/4)	細砂	良好	奈良	灰かぶり痕
C340	溝-E27・E28	羽口	(4.2)	(7.2)	(2.7)	-	(60.5)	鈍い黄橙色(10YR7/4)	細砂	良好	奈良	灰かぶり痕
C341	溝-E27・E28	羽口	(5.0)	(7.8)	(2.6)	-	(62.5)	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	奈良	灰かぶり痕
C342	溝-E27・E28	羽口	5.5	4.0	2.1	-	-	鈍い橙色(7.5YR7/4)	細砂	良好	奈良	
C343	溝-E27・E28	土錘	7.1	2.5	0.7	1.3	(45.9)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	良好	奈良	
C344	溝-E27・E28	土製円盤	3.3	3.0	0.8	-	10.9	灰色(7.5Y6/1)	細砂	良好	奈良	完形
C345	土塊-511	土錘	(4.4)	1.9	0.7	0.56	(10.2)	黒褐色(10YR3/1)	細砂	良好	中世	

遺物観察表

土製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名	器種	法量(cm)				重量(g)	色調	胎土	焼成	時期	特徴・備考
			長さ	幅	厚さ	孔径						
C346	溝-508	土錘	4.2	1.2	0.5	0.35	(5.3)	鈍い黄褐色(10YR7/3)	細砂	良好	中世	
C347	土壇-550・551	円板(メンコ)	4.6	4.4	1.4	-	37.1	赤灰色(2.5YR5/1)	粗砂	良好	中世~近世	備前焼
C348	土壇-552	土製仏	3.6	5.0	1.3	-	29.0	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	良好	近世	

石器・石製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名	遺物名	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				長さ	幅	厚さ			
S217	竪穴住居-188	R. F	サヌカイト	47.5	22.0	4.8	5.1	弥・中・Ⅲ	完形
S218	竪穴住居-188	楔	サヌカイト	27.5	25.0	10.0	7.2	弥・中・Ⅲ	完形
S219	竪穴住居-188	スクレイパー?	サヌカイト	37.5	31.0	5.4	9.5	弥・中・Ⅲ	完形
S220	竪穴住居-189	石鏃	サヌカイト	38.0	13.5	4.2	2.1	弥・後・Ⅰ	完形
S221	竪穴住居-191	敲石	ひん岩	144.5	59.0	34.0	390.7	弥・後・Ⅳ	完形
S222	竪穴住居-192	砥石	流紋岩	60.5	34.5	12.0	42.8	弥・後・Ⅳ	欠
S223	竪穴住居-192	石鏃	流紋岩	78.5	64.5	60.0	266.4	弥・後・Ⅳ	欠
S224	竪穴住居-192	磨石	石英半岩	91.0	78.5	31.0	239.1	弥・後・Ⅳ	欠
S225	竪穴住居-193A B C	石鏃	サヌカイト	20.0	17.0	3.3	1.3	弥・後・Ⅰ	欠
S226	竪穴住居-193A B C	石鏃	サヌカイト	39.5	16.0	4.0	2.1	弥・後・Ⅰ	欠
S227	竪穴住居-195	砥石	古銅輝石安山岩	177.0	84.0	52.5	1164.0	弥・後・Ⅲ	欠
S228	竪穴住居-196	大型蛤刃石斧	ひん岩	127.0	62.0	44.0	556.5	弥・中・Ⅲ	完
S229	竪穴住居-196	石鏃	サヌカイト	14.0	19.0	3.3	1.0	弥・中・Ⅲ	欠
S230	竪穴住居-196	大型蛤刃石斧(転用)敲石	安山岩	66.0	68.5	48.0	363.6	弥・中・Ⅲ	完
S231	竪穴住居-198	大型蛤刃石斧	安山岩	153.5	70.0	50.0	839.6	弥・中・Ⅲ	完
S232	竪穴住居-199	石槍	サヌカイト	158.5	29.5	12.0	76.2	弥・中・Ⅲ	完
S233	竪穴住居-199	扁平片刃石斧	流紋岩	64.0	38.0	10.5	40.5	弥・中・Ⅲ	完
S234	竪穴住居-200	石鏃	サヌカイト	25.5	17.5	3.0	1.2	弥・中・Ⅲ	完
S235	竪穴住居-201	石鏃	サヌカイト	18.5	19.5	5.2	1.5	弥・中・Ⅲ	欠
S236	竪穴住居-202	石鏃	サヌカイト	28.5	19.0	3.5	1.8	弥・後・Ⅱ	欠
S237	竪穴住居-203	敲石	砂岩	85.5	70.5	51.0	408.8	弥・後・Ⅱ	完
S238	竪穴住居-203	石鏃	サヌカイト	37.0	12.0	5.3	2.2	弥・後・Ⅱ	欠
S239	竪穴住居-204	砥石	流紋岩	130.5	43.5	45.0	306.5	弥・後・Ⅱ	欠
S240	竪穴住居-204	石鏃	サヌカイト	18.0	16.0	3.0	0.7	弥・後・Ⅱ	欠
S241	竪穴住居-205	石包丁	サヌカイト	84.0	44.0	13.5	44.0	弥・後・Ⅱ	完
S242	袋状土壇-81	R. F	サヌカイト	53.0	22.5	7.5	8.0	古・前・Ⅰ	欠
S243	袋状土壇-87	R. F?スクレイパー?	サヌカイト	51.0	43.5	6.0	12.3	古・前・Ⅰ,Ⅱ	完形
S244	袋状土壇-107	楔	サヌカイト	27.5	19.0	5.5	3.0	古・前・Ⅰ	完形
S245	袋状土壇-115	管玉	緑石凝灰岩	10.3	3.8	3.8	0.2	弥・後・Ⅰ	完形
S246	袋状土壇-115	管玉	緑石凝灰岩	10.2	3.5	3.5	0.1	弥・後・Ⅰ	完形
S247	袋状土壇-115	管玉	緑石凝灰岩	13.2	1.5	1.5	0.3	弥・後・Ⅰ	完形
S248	袋状土壇-115	管玉	緑石凝灰岩	14.5	4.0	4.0	0.3	弥・後・Ⅰ	完形
S249	袋状土壇-115	管玉	緑石凝灰岩	15.0	3.8	3.8	0.3	弥・後・Ⅰ	完形
S250	袋状土壇-115	管玉	緑石凝灰岩	16.9	3.8	3.8	0.3	弥・後・Ⅰ	完形
S251	袋状土壇-115	管玉	緑石凝灰岩	17.7	1.7	1.7	0.4	弥・後・Ⅰ	完形
S252	袋状土壇-117・118	石鏃	サヌカイト	22.5	11.0	2.8	0.7	弥・後・Ⅰ	欠
S253	袋状土壇-120	石包丁	サヌカイト	43.0	54.5	10.0	35.8	弥・後・Ⅰ	欠
S254	土壇-343	扁平片刃石斧	流紋岩	114.5	61.0	15.4	219.4	弥・中・Ⅲ	完形
S255	包含層	石鏃	サヌカイト	20.0	16.5	2.8	0.7	弥・中~後	完形
S256	包含層	石鏃	サヌカイト	24.0	16.5	4.0	1.7	弥・中~後	完形
S257	包含層	石鏃	サヌカイト	38.0	12.0	4.8	1.8	弥・中~後	完形
S258	包含層	石鏃	サヌカイト	11.5	12.5	1.9	0.3	弥・中~後	欠
S259	包含層	石鏃	サヌカイト	20.5	14.5	3.8	1.0	弥・中~後	欠
S260	包含層	石鏃	サヌカイト	25.5	14.5	3.7	1.3	弥・中~後	欠
S261	包含層	石鏃	サヌカイト	28.5	16.0	3.0	1.5	弥・中~後	欠
S262	包含層	石鏃	サヌカイト	30.0	24.5	5.5	4.9	弥・中~後	欠
S263	包含層	R. F	サヌカイト	24.0	23.5	3.5	2.4	弥・中~後	完形
S264	包含層	石鏃?	サヌカイト	30.5	16.0	4.4	2.3	弥・中~後	欠
S265	包含層	スクレイパー	サヌカイト	64.0	42.0	9.5	26.7	弥・中~後	欠?
S266	包含層	楔	サヌカイト	47.0	50.0	15.5	47.1	弥・中~後	完形
S267	包含層	スクレイパー	サヌカイト	33.0	38.0	6.5	7.4	弥・中~後	完形
S268	包含層	石包丁?	サヌカイト	56.0	35.0	8.0	15.4	弥・中~後	欠
S269	包含層	スクレイパー	サヌカイト	46.5	38.5	8.5	23.1	弥・中~後	欠
S270	包含層	スクレイパー	サヌカイト	33.5	44.0	9.0	12.7	弥・中~後	欠
S271	包含層	石包丁片	サヌカイト	41.0	42.0	8.5	21.9	弥・中~後	欠
S272	包含層	石包丁	サヌカイト	77.0	57.5	12.5	64.4	弥・中~後	完形
S273	包含層	石包丁	サヌカイト	115.5	54.5	14.0	83.2	弥・中~後	完形
S274	包含層	スクレイパー	サヌカイト	76.0	59.5	11.5	53.5	弥・中~後	完形
S275	包含層	石鏃	サヌカイト	16.0	11.0	2.7	0.4	弥・中~後	欠
S276	包含層	石鏃	サヌカイト	16.5	15.5	2.3	0.5	弥・中~後	欠
S277	包含層	石鏃	サヌカイト	22.5	18.5	3.8	1.1	弥・中~後	欠
S278	包含層	石鏃	サヌカイト	19.5	11.0	4.0	0.8	弥・中~後	欠
S279	包含層	石鏃他	サヌカイト	17.0	11.5	2.4	0.6	弥・中~後	欠
S280	包含層	石鏃	サヌカイト	16.0	13.5	4.8	0.8	弥・中~後	欠
S281	包含層	石鏃	サヌカイト	25.5	16.5	5.0	1.8	弥・中~後	完形

石器・石製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名	遺物名	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				長さ	幅	厚さ			
S282	包含層	石鏃	サヌカイト	21.5	17.5	4.2	1.4	弥・中～後	欠
S283	包含層	石鏃	サヌカイト	28.5	15.5	5.0	2.0	弥・中～後	完
S284	包含層	石鏃	サヌカイト	28.5	18.5	4.8	2.1	弥・中～後	完
S285	包含層	石鏃	サヌカイト	31.5	19.0	4.5	2.3	弥・中～後	欠
S286	包含層	石鏃	サヌカイト	30.0	18.5	5.5	2.8	弥・中～後	欠
S287	包含層	石鏃	サヌカイト	30.0	18.5	6.0	3.0	弥・中～後	欠
S288	包含層	石鏃	サヌカイト	36.5	18.0	4.3	2.6	弥・中～後	欠
S289	包含層	石鏃	サヌカイト	38.0	12.0	3.8	1.8	弥・中～後	欠
S290	包含層	石鏃	サヌカイト	36.5	14.0	5.0	2.4	弥・中～後	欠
S291	包含層	R. F	サヌカイト	57.0	21.0	6.4	7.2	弥・中～後	完形
S292	包含層	R. F	サヌカイト	47.5	15.0	6.0	4.0	弥・中～後	完形
S293	包含層	石包丁片	サヌカイト	27.5	27.5	5.2	4.1	弥・中～後	欠
S294	包含層	R. F	サヌカイト	20.0	17.0	5.3	1.7	弥・中～後	完形
S295	包含層	R. F	サヌカイト	35.5	27.0	6.0	6.4	弥・中～後	完形
S296	包含層	R. F	サヌカイト	38.0	37.0	6.0	8.5	弥・中～後	完形
S297	包含層	磨石?	サヌカイト	32.0	36.0	28.0	30.6	弥・中～後	完
S298	包含層	スクレイパー	サヌカイト	29.0	35.0	7.0		弥・中～後	欠
S299	包含層	石包丁片	サヌカイト	38.0	52.0	13.0	21.9	弥・中～後	欠
S300	包含層	石包丁	サヌカイト	89.0	58.0	13.0	68.6	弥・中～後	欠
S301	包含層	石包丁?	サヌカイト	78.5	50.0	17.0	84.0	弥・中～後	欠
S302	包含層	石包丁	サヌカイト	101.5	44.0	14.0	71.0	弥・中～後	完
S303	包含層	石包丁	サヌカイト	111.5	53.0	14.5	111.3	弥・中～後	完
S304	包含層	大型蛤刃石斧	安山岩?	37.0	50.5	24.5	60.5	弥・中～後	欠
S305	包含層	石鏃	サヌカイト	19.5	11.0	2.5	0.4	弥・中～後	完
S306	包含層	石鏃	サヌカイト	23.0	18.0	4.0	1.4	弥・中～後	欠
S307	包含層	石鏃	サヌカイト	23.5	14.5	3.8	1.1	弥・中～後	欠
S308	包含層	石鏃	サヌカイト	23.0	14.5	3.5	1.0	弥・中～後	欠
S309	包含層	石鏃	サヌカイト	28.5	14.5	3.8	1.5	弥・中～後	欠
S310	包含層	石鏃	サヌカイト	39.0	15.0	5.8	3.4	弥・中～後	欠
S311	包含層	楔	サヌカイト	39.5	53.5	8.0	17.2	弥・中～後	欠
S312	包含層	刃器?石鏃?	サヌカイト	34.5	30.0	7.8	6.9	弥・中～後	完
S313	包含層	石包丁	サヌカイト	54.0	50.0	13.0	43.4	弥・中～後	欠
S314	包含層	刃器	サヌカイト	60.0	49.5	9.5	33.6	弥・中～後	欠
S315	包含層	石鏃	花崗岩	90.5	61.0	89.5	760.3	弥・中～後	完
S316	包含層	敲石・磨石	砂岩	119.5	93.5	51.5	797.1	弥・中～後	完
S317	竪穴住居-206	砥石	流紋岩	96.0	39.5	32.0	146.7	古・前・I	欠
S318	竪穴住居-211	砥石	流紋岩	55.0	49.0	30.0	156.5	古・前・I	欠
S319	竪穴住居-211	石鏃	石英斑岩	72.0	65.0	46.0	296.8	古・前・I	完形
S320	竪穴住居-212	砥石	流紋岩	93.5	34.5	28.5	130.2	古・前・I, II	欠
S321	竪穴住居-214	砥石	流紋岩	78.0	31.5	29.5	75.6	古・前・I	欠
S322	竪穴住居-214	砥石	頁岩	56.5	57.5	16.0	69.3	古・前・I	欠
S323	竪穴住居-215	敲石	石英斑岩	99.5	39.5	20.5	122.0	古・前・I, II	完形
S324	竪穴住居-218	砥石	流紋岩	94.0	52.5	48.0	302.8	古・前・II	完形?
S325	竪穴住居-218	砥石	流紋岩	93.0	60.0	39.0	273.5	古・前・II	欠
S326	竪穴住居-218	砥石	流紋岩	82.5	47.5	29.5	172.8	古・前・II	欠
S327	竪穴住居-218	砥石	流紋岩	59.0	50.0	32.0	77.6	古・前・II	欠
S328	竪穴住居-218	砥石	流紋岩	71.0	44.5	34.0	149.2	古・前・II	欠
S329	竪穴住居-219	砥石	流紋岩	123.5	45.5	33.5	267.5	古・前・I, II	完形
S330	竪穴住居-219	敲石	花崗岩	143.5	65.5	58.0	728.6	古・前・I, II	完形
S331	竪穴住居-220	砥石	流紋岩	104.5	44.5	34.0	178.1	古・前・I, II	欠
S332	竪穴住居-225	砥石	流紋岩	127.0	49.5	50.0	385.5	古・前・II	欠
S333	竪穴住居-227・228	管玉	?	11.0	3.5	3.3	0.2	古・前・II	完形
S334	竪穴住居-236	砥石	頁岩	122.0	25.5	11.5	47.2	古・前・II	欠
S335	竪穴住居-248	砥石	頁岩	169.0	66.0	52.0	530.9	古・前	欠
S336	竪穴住居-267	砥石	アフライト(半花崗岩)白雲母入	77.0	64.0	49.0	268.2	古・前・I	欠
S337	竪穴住居-272	砥石	細粒花崗岩	188.5	65.5	46.0	887.3	古・前・I, II	欠
S338	竪穴住居-273	砥石	流紋岩	29.0	49.0	26.5	30.7	古・前・I	欠
S339	竪穴住居-273	砥石	花崗斑岩	195.5	70.0	58.0	901.3	古・前・I	欠
S340	竪穴住居-274	砥石	砂岩	180.0	96.0	91.5	1695.2	古・前・I	欠
S341	竪穴住居-275	砥石	流紋岩	90.0	54.5	33.5	156.7	古・前・I	欠
S342	竪穴住居-276	砥石	安山岩	365.5	201.0	111.0	10kg	古・前・II	完
S343	竪穴住居-276	石皿	流紋岩	134.0	128.0	51.0	826.2	古・前・II	完
S344	竪穴住居-276	磨石	角閃ひん岩	70.0	55.5	23.0	119.5	古・前・II	欠
S345	竪穴住居-276	砥石	流紋岩	50.0	37.0	34.0	82.7	古・前・II	欠
S346	竪穴住居-282	敲石?	花崗斑岩	60.5	52.0	24.5	105.3	古・前・I	欠
S347	竪穴住居-283	砥石	頁岩	53.5	30.0	9.5	24.8	古・前・I, II	欠
S348	竪穴住居-283	砥石	流紋岩	26.5	17.0	16.0	10.3	古・前・I, II	欠
S349	竪穴住居-284	敲石	ひん岩	101.5	44.0	30.0	215.5	古・前・I	完
S350	竪穴住居-296・297	砥石	流紋岩	76.5	48.0	46.0	228.2	古・前・I	欠
S351	竪穴住居-296・297	砥石	流紋岩	71.0	38.5	17.5	51.7	古・前・I	欠
S352	竪穴住居-296・297	砥石	流紋岩	39.0	38.5	31.0	46.3	古・前・I	欠
S353	竪穴住居-298	砥石	流紋岩	53.0	50.5	55.5	111.2	古・前・I	欠
S354	溝-463	砥石	溶結凝灰岩	116.0	35.0	36.8	176.1	古・前・I~II	欠
S355	包含層	砥石	流紋岩	64.0	41.0	17.0	49.0	古・前・I~II	欠
S356	包含層	砥石	流紋岩	56.0	37.0	17.0	50.0	古・前・I~II	欠

石器・石製品一覧表

掲載 番号	掲載遺構名	遺物名	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				長さ	幅	厚さ			
S357	包含層	砥石	ホルンフェルス	34.5	32.5	11.8	32.6	古・前・I~II	完形
S358	包含層	砥石	流紋岩	62.0	37.0	23.5	66.4	古・前・I~II	欠
S359	包含層	砥石	流紋岩	52.5	35.5	29.0	62.9	古・前・I~II	欠
S360	包含層	砥石	流紋岩	47.0	46.0	23.0	64.5	古・前・I~II	欠
S361	包含層	砥石	流紋岩	78.0	33.5	20.5	63.6	古・前・I~II	欠
S362	包含層	砥石	流紋岩	81.0	45.0	43.0	180.2	古・前・I~II	欠
S363	包含層	砥石	流紋岩	46.5	33.5	30.0	84.4	古・前・I~II	欠
S364	包含層	砥石	ひん岩	52.5	43.5	38.2	133.1	古・前・I~II	完形
S365	包含層	砥石	流紋岩	98.5	25.0	22.5	106.6	古・前・I~II	欠
S366	包含層	磨石?	流紋岩	72.5	39.0	22.5	102.5	古・前・I~II	欠
S367	包含層	砥石	ひん岩	130.0	45.0	45.5	418.7	古・前・I~II	完形
S368	包含層	砥石&磨石	流紋岩	159.0	79.5	58.0	846.1	古・前・I~II	完形
S369	包含層	砥石	ひん岩	99.0	65.5	61.5	602.4	古・前・I~II	欠
S370	包含層	砥石	砂岩	94.5	67.0	59.0	516.5	古・前・I~II	欠
S371	包含層	磨石? 砥石	流紋岩	49.0	36.5	9.0	15.0	古・前・I~II	欠
S372	包含層	砥石	流紋岩	40.5	45.5	14.0	37.6	古・前・I~II	欠
S373	包含層	砥石	流紋岩	45.0	23.5	17.5	25.9	古・前・I~II	欠
S374	包含層	砥石	頁岩	125.5	25.5	13.5	40.0	古・前・I~II	欠
S375	包含層	砥石	流紋岩	84.5	38.0	25.0	104.4	古・前・I~II	欠
S376	包含層	砥石	流紋岩	101.0	70.0	86.0	729.2	古・前・I~II	欠
S377	包含層	砥石	流紋岩	54.5	54.5	29.5	113.2	古・前・I~II	欠
S378	包含層	砥石	流紋岩	50.5	32.0	38.5	66.4	古・前・I~II	欠
S379	包含層	砥石	流紋岩	82.5	48.5	50.5	216.3	古・前・I~II	欠
S380	包含層	砥石	古銅輝石安山岩(?)	53.5	44.0	57.0	211.9	古・前・I~II	欠
S381	包含層	砥石	流紋岩	86.5	41.5	32.5	170.4	古・前・I~II	欠
S382	包含層	砥石	流紋岩	120.5	66.5	24.5	226.2	古・前・I~II	欠
S383	包含層	砥石	流紋岩	57.5	53.5	53.0	181.5(石膏を含む)	古・前・I~II	欠
S384	包含層	砥石	古銅輝石安山岩?	72.0	68.5	12.0	70.4	古・前・I~II	欠
S385	包含層	砥石	流紋岩	69.0	43.5	25.0	57.8	古・前・I~II	欠
S386	竪穴住居-313	剣形模造品	滑石	52.5	21.5	4.0	7.5	古・中・II	完形
S387	竪穴住居-317	白玉	滑石	5.0	-	2.0	0.1	古・中・II	孔径2.0mm
S388	竪穴住居-317	白玉	滑石	5.0	-	2.0	0.1	古・中・II	計測不能
S389	竪穴住居-325	双孔円盤	滑石	29.0	29.0	5.0	6.7	古・中・II	孔径1.9mm
S390	竪穴住居-325	白玉	滑石	6.0	-	2.7	0.2	古・中・II	孔径2.0mm
S391	竪穴住居-325	白玉	滑石	4.8	-	2.1	0.1	古・中・II	孔径1.6mm
S392	竪穴住居-332	切子玉	水晶	12.5	13.8	-	1.8	古・後	欠
S393	竪穴住居-337	砥石	細粒花崗岩	195.5	166.5	81.0	400.0	古・後	欠
S394	竪穴住居-342	砥石	細粒花崗岩	84.0	46.0	33.0	117.9	古・中	欠
S395	掘立柱建物-56	砥石	流紋岩	107.0	55.5	63.0	484.7	古・前・I	欠
S396	溝-E27・E28	砥石	流紋岩	99.0	40.0	32.5	185.1	奈良	完
S397	土墳墓-21	小玉	水晶	7.0	8.0	8.0	0.6	中世~近世	完形
S398	土墳墓-21	小玉	水晶	5.5	6.0	6.0	0.3	中世~近世	完形
S399	土墳墓-21	小玉	水晶	4.5	5.5	5.5	0.2	中世~近世	完形
S400	土墳墓-21	小玉	水晶	4.0	6.0	6.0	0.2	中世~近世	完形
S401	土墳墓-21	小玉	水晶	5.0	5.5	5.5	0.2	中世~近世	完形
S402	土墳墓-21	小玉	水晶	4.5	5.0	5.0	0.2	中世~近世	完形
S403	土墳墓-21	小玉	水晶	4.5	4.5	4.5	0.2	中世~近世	完形
S404	土墳墓-21	小玉	水晶	5.0	5.5	5.5	0.2	中世~近世	完形
S405	土墳墓-21	小玉	水晶	3.5	4.0	4.0	0.1	中世~近世	完形
S406	土墳墓-21	小玉	水晶	3.5	4.0	4.0	0.1	中世~近世	完形
S407	土墳墓-21	小玉	水晶	3.5	4.0	4.0	0.1	中世~近世	完形
S408	土墳墓-21	小玉	水晶	3.8	4.0	4.0	0.1	中世~近世	完形
S409	土墳墓-21	小玉	水晶	3.0	4.0	4.0	0.1	中世~近世	完形
S410	土墳墓-21	小玉	水晶	3.0	3.8	4.0	0.1	中世~近世	完形
S411	井戸-9	砥石	流紋岩	112.0	131.0	90.0	1715.3	古代~中世	欠
S412	溝-529	砥石	流紋岩	82.0	73.0	14.0	94.1	近世	欠

金属器一覧表

掲載番号	掲載遺構名	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				長さ	幅	厚さ			
M216	竪穴住居-188	鎌	鉄	(32.3)	27.0	4.0		弥・中・Ⅲ	
M217	竪穴住居-190	やりがんな?	鉄	(84.9)	13.5	2.4	10.0	弥・後・Ⅳ	
M218	竪穴住居-195	鎌	鉄	(33.9)	10.0	4.2	2.0	弥・後・Ⅲ	
M219	竪穴住居-195	鎌	鉄	(44.0)	(24.5)	4.0	15.4	弥・後・Ⅲ	
M220	竪穴住居-204	鎌	鉄	(23.0)	(11.0)	4.0	1.7	弥・後・Ⅱ	
M221	竪穴住居-206	刀子の基?	鉄	(42.5)	19.2	7.8	9.1	古・前・Ⅰ	
M222	竪穴住居-208	鎌?	鉄	(33.5)	7.5	4.0	1.8	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M223	竪穴住居-208	鎌?	鉄	(36.5)	7.2	4.5	2.2	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M224	竪穴住居-208	鎌?	鉄	(36.0)	8.5	2.5	1.5	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M225	竪穴住居-212	やりがんな	鉄	(198.0)	16.0	4.0	13.9	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M226	竪穴住居-213	鎌	銅	(34.0)	18.1	2.0	(2.1)	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M227	竪穴住居-213	刀子?	鉄	(24.4)	18.0	2.0	3.9	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M228	竪穴住居-214	やりがんな	鉄	(23.3)	11.7	4.5		古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M229	竪穴住居-214	釘?	鉄	(55.0)	17.7	7.2		古・前・Ⅰ	
M230	竪穴住居-214	鎌	鉄	(35.3)	7.8	2.5		古・前・Ⅰ	
M231	竪穴住居-217	鎌	鉄	51.0	11.0	3.0		古・前・Ⅰ	完形
M232	竪穴住居-218	鎌	鉄	(35.0)	(13.0)	2.0	3.3	古・前・Ⅱ	
M233	竪穴住居-218	鎌	鉄	(35.0)	14.0	4.0	3.1	古・前・Ⅱ	
M234	竪穴住居-218	鎌	鉄	72.0	(15.0)	5.0	9.6	古・前・Ⅱ	
M235	竪穴住居-218	鎌	鉄	59.0	12.0	2.0	4.1	古・前・Ⅱ	完形
M236	竪穴住居-218	花文鏡	鉄	(10.15)	(10.15)	4.0	18.21	古・前・Ⅱ	
M237	竪穴住居-219	やりがんな	鉄	(152.0)	(13.0)	3.5	24.3	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M238	竪穴住居-219	鎌	鉄	128.5	34.5	2.5	52.5	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M239	竪穴住居-222・223	鎌	鉄	(29.2)	15.0	4.0	3.5	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M240	竪穴住居-222・223	鎌?	鉄	(20.0)	4.0	2.5		古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M241	竪穴住居-226	刀子	鉄	(78.0)	(22.5)	4.0		古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M242	竪穴住居-234	鎌	鉄	(74.7)	16.3	3.6	11.0	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M243	竪穴住居-234	鎌	鉄	(50.0)	17.0	3.0		古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M244	竪穴住居-249	刀子	鉄	(32.5)	18.0	2.0	3.6	古・前・Ⅰ	
M245	竪穴住居-252	鎌	鉄	(20.0)	14.0	3.0	1.2	古・前・Ⅱ	
M246	竪穴住居-253	鎌	鉄	(32.0)	10.0	5.0	3.2	古・前・Ⅱ	
M247	竪穴住居-272	三角鉄片?	鉄	11.0	19.0	4.0	1.3	古・前・Ⅱ	
M248	竪穴住居-273	鎌	鉄	(38.0)	24.0	4.0	5.3	古・前・Ⅰ	
M249	竪穴住居-275	鎌	鉄	(83.0)	8.0	4.0	5.2	古・前・Ⅰ	
M250	竪穴住居-276	鎌	鉄	(26.0)	(17.0)	4.5	3.5	古・前・Ⅱ	
M251	竪穴住居-276	鎌?	鉄	(34.0)	9.0	4.0	2.2	古・前・Ⅱ	
M252	竪穴住居-276	鎌	鉄	(54.0)	9.0	5.0	4.6	古・前・Ⅱ	
M253	竪穴住居-277	鎌	鉄	(47.0)	7.0	4.0	2.2	古・前・Ⅰ	
M254	竪穴住居-277	鎌	鉄	(21.5)	6.0	4.0	2.1	古・前・Ⅰ	
M255	竪穴住居-283	銅鎌	銅	(33.0)	15.0	4.0	2.9	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M256	竪穴住居-283	鎌	鉄	(47.0)	16.5	6.0	10.2	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M257	竪穴住居-283	鎌?	鉄	38.0	11.0	5.0	5.0	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M258	竪穴住居-283	鎌?	鉄	(37.5)	8.0	4.0	3.3	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M259	竪穴住居-284	鎌	鉄	(106.0)	8.0	4.0	6.3	古・前・Ⅰ	
M260	竪穴住居-288	刀子	鉄	(94.0)	10.0	4.5	9.1	古・前・Ⅰ	
M261	竪穴住居-289	鎌	鉄	(40.0)	18.5	6.0	4.8	古・前・Ⅰ	
M262	竪穴住居-289	鎌	鉄	(32.0)	17.0	3.0	3.5	古・前・Ⅰ	
M263	竪穴住居-290	鎌	鉄	(27.0)	21.0	4.0	3.5	古・前	
M264	竪穴住居-296・297	鎌	鉄	92.0	28.0	5.0	10.6	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M265	竪穴住居-296・297	やりがんな?	鉄	(25.0)	14.0	4.0	3.1	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M266	竪穴住居-296・297	鎌	鉄	(21.0)	8.0	7.0	1.4	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M267	竪穴住居-296・297	三角鉄片?	鉄	17.0	21.0	4.0	1.6	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M268	竪穴住居-302	鎌	鉄	(39.0)	17.0	3.0	4.0	古・前・Ⅱ	
M269	竪穴住居-303	鎌	鉄	(121.0)	34.0	3.0		古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M270	竪穴住居-308・309	鎌	鉄	(38.0)	17.0	3.5	4.3	古・前・Ⅰ	
M271	竪穴住居-310	重圏文鏡	銅	径60.0	高7.3	2.4	37.6	古・前・Ⅱ	重圏文鏡 ほぼ完形
M272	土壇-423	鎌	鉄	(31.0)	13.0	6.0	2.6	古・前	
M273	土壇-426	刀子	鉄	70.0	14.0	4.0	6.6	古・前	
M274	溝-16	鎌	鉄	(49.2)	14.9	3.6	5.2	古・前・Ⅰ	
M275	溝-16	鎌	鉄	(43.8)	15.0	6.4	9.1	古・前・Ⅰ	
M276	溝-104	鎌?	鉄	(58.0)	26.0	4.5	11.4	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M277	溝-100	やりがんな	鉄	(136.5)	8.5	3.5	14.6	古・前・Ⅰ,Ⅱ	
M278	土器溜り-12	鎌?	鉄	34.0	8.0	6.0	1.8	古・前・Ⅰ	
M279	土器溜り-14	やりがんな	鉄	(47.0)	9.5	2.0	3.2	古・前	
M280	土器溜り-15	鎌	鉄	(31.5)	13.5	3.0	2.0	古・前・Ⅱ	鎌身部一部欠損
M281	土器溜り-15	鎌	鉄	44.0	9.5	4.0	2.7	古・前・Ⅱ	
M282	水田層	斧	鉄	105.0	44.5	9.5	154.1	古・前	
M283	柱穴-1	鎌	銅	26.5	9.5	2.5	1.84	古・前	
M284	包含層	鎌	銅	(41.0)	23.5	3.0	2.0	古・前・Ⅰ~Ⅱ	
M285	包含層	刀子	鉄	(66.0)	18.0	3.0	6.8	古・前・Ⅰ~Ⅱ	
M286	包含層	鎌	鉄	42.0	14.0	5.0	5.0	古・前・Ⅰ~Ⅱ	
M287	包含層	鎌	鉄	(61.0)	23.0	5.0	10.8	古・前・Ⅰ~Ⅱ	
M288	包含層	やりがんな	鉄	39.0	14.0	4.0	3.6	古・前・Ⅰ~Ⅱ	
M289	竪穴住居-323	釘	鉄	107.5	11.0	4.5	15.9	古・後	
M290	竪穴住居-331	やりがんな?	鉄	(34.0)	14.0	4.0	5.6	古・後	

金属器一覧表

掲載番号	掲載遺構名	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				長さ	幅	厚さ			
M291	竪穴住居-330	鎌?	鉄	(60.0)	7.0	6.0	3.3	古墳後期	
M292	掘立柱建物-57	鎌?	鉄	78.0	6.0	4.5	8.2	奈良時代中葉	
M293	掘立柱建物-59	やりがんな?	鉄	(34.0)	12.0	4.0	2.2	奈良時代中葉	
M294	溝-476	鎌	鉄	(30.0)	16.0	5.0	4.2	奈良時代中葉	
M295	溝-476	刀子の茎?	鉄	(35.0)	13.0	5.0	4.3	奈良時代中葉	
M296	溝-476	鎌	鉄	(48.0)	32.0	4.0		奈良時代中葉	
M297	溝-N28	刀子	鉄	(84.0)	(16.0)	4.0	11.2	奈良時代中葉	
M298	溝-N28	刀子	鉄	(87.0)	(18.0)	3.0	18.8	奈良時代中葉	
M299	溝-N28	刀子	鉄	(81.0)	(12.0)	2.1	5.4	奈良時代中葉	
M300	溝-N28	刀子	鉄	(247.0)	(19.5)	4.4	38.2	奈良時代中葉	
M301	溝-N28	鎌	鉄	(28.6)	5.0	3.5	1.9	奈良時代中葉	
M302	溝-N28	やりがんな	鉄	(57.0)	10.0	3.2	7.1	奈良時代中葉	
M303	溝-480	刀子?	鉄	(70.0)	10.0	4.0	7.4	奈良時代中葉	
M304	溝-480	紡錘車	鉄	42.0	40.0	4.0	13.3	奈良時代中葉	
M305	溝-480	三角鉄片	鉄	22.0	15.0	4.0	2.9	奈良時代中葉	
M306	溝-480	刀子	鉄	(60.0)	(10.0)	3.0	4.3	奈良時代中葉	
M307	溝-S27・S28	鎌?	鉄	(85.0)	21.0	3.0	14.6	奈良時代中葉	
M308	土墳墓-20	紡錘車	鉄	(190.5)	54.0	4.0	31.4	12世紀末	
M309	土墳墓-20	釘	鉄	(52.0)	3.5	3.0	3.6	12世紀末	
M310	土墳墓-20	釘	鉄	86.0	10.0	4.0	7.9	12世紀末	
M311	土墳墓-20	刀子	鉄	(232.0)	(23.5)	3.5	51.6	12世紀末	
M312	土墳墓-20	鏡	銅	110.0	109.5	7.5	97.8	12世紀末	
M313	土墳墓-25	刀子	鉄	(44.0)	11.0	2.5	3.0	13世紀前葉	
M314	土墳墓-25	釘	鉄	(34.0)	4.0	4.0	1.9	13世紀前葉	
M315	土墳墓-25	釘	鉄	78.5	4.5	3.5	9.9	13世紀前葉	
M316	土墳墓-25	釘	鉄	(71.0)	4.5	4.0	7.2	13世紀前葉	
M317	土墳墓-25	釘	鉄	(65.5)	4.2	3.5	8.4	13世紀前葉	
M318	土墳墓-25	釘	鉄	(46.5)	4.0	5.0	6.6	13世紀前葉	
M319	土墳墓-25	釘	鉄	(49.0)	7.0	5.0	4.5	13世紀前葉	
M320	土墳墓-26	刀子	鉄	(63.0)	13.0	3.5	7.3	13世紀前葉	
M321	土墳墓-26	釘	鉄	(35.0)	6.5	4.0	3.4	13世紀前葉	
M322	土墳墓-26	釘	鉄	(36.0)	7.0	7.0	5.1	13世紀前葉	
M323	土墳-482	釘?	鉄	105.5	9.2	8.2		13世紀末~14世紀	
M324	土墳-484	錢	銅	24.1	24.1	1.1	2.4	13世紀以降	
M325	土墳-484	錢	銅	24.7	24.6	1.0	3.0	13世紀以降	
M326	土墳-484	錢	銅	23.8	23.8	1.0	2.2	13世紀以降	
M327	土墳-489	釘?刀子	鉄	(49.0)	13.0	5.0	4.6	中世	
M328	土墳-490	釘	鉄	(26.0)	8.0	6.0	2.0	中世	
M329	土墳-495	錢	銅	24.0	24.0	-	3.0	中世	皇宋通寶(北宋1039)
M330	土墳-497	錢	銅	24.0	24.0	-	3.0	中世	元祐通寶(北宋1093)
M331	土墳-497	錢	銅	24.0	24.0	-	3.4	中世	熙寧元寶(北宋1068)
M332	土墳-501	錢	鉄	(19.0)	(15.0)	-	(1.0)	中世	
M333	土墳-502	錢	銅	21.0	21.0	-	1.8	中世	
M334	溝-508	?	鉄	30.0	7.0	6.0	3.8	中世	
M335	溝-508	釘	鉄	(33.0)	(8.0)	7.0	3.3	中世	
M336	土墳-527・528	鎌	鉄	(27.0)	5.5	3.0	2.2	近世	
M337	土墳-527・528	鎌?刀子?	鉄	(26.6)	9.0	3.8	2.2	近世	
M338	土墳-527・528	鎌 刀子?	鉄	25.0	14.0		0.9	近世	
M339	土墳-536	やりがんな 鎌?	鉄	(51.0)	15.5	2.5	6.5	近世	
M340	井戸-13	釘	鉄	(70.7)	10.0	5.0	6.0	近世	
M341	溝-530・531	鎌?釘?	鉄	(55.0)	6.7	6.2	2.4	近世	
M342	溝-530・531	釘	鉄	(36.5)	5.3	5.3	1.5	近世	
M343	溝-532・533	釘	鉄	(23.0)	7.7	5.1	2.8	近世	
M344	溝-532・533	?	鉄	50.5	16.0	2.0	4.7	近世	
M345	溝-537	釘	鉄	(39.4)	5.2	4.6	2.2	近世	
M346	溝-537	釘	鉄	(35.8)	2.0	2.3	0.4	近世	
M347	溝-537	釘	鉄	(5.6)	4.5	4.5	4.0	近世	
M348	溝-537	鏡の縁	鉄	(33.2)	9.0	9.2	4.7	近世	
M349	包含層	釘	鉄	82.0	9.0	8.0		近世	
M350	包含層	釘	鉄	53.0	9.0	7.0		近世	
M351	包含層	釘	鉄	47.0	6.0	4.0		近世	
M352	包含層	刀子	鉄	(46.0)	12.0	2.0		近世	
M353	包含層	寛永通寶	銅	37.0	37.0	-		近世	大型古錢
M354	包含層	釘	鉄	(54.0)	3.0	2.0	3.4	近世	
M355	包含層	釘	鉄	(82.0)	5.5	6.0	10.6	近世	No.10と接合
M356	包含層	釘	鉄	(22.0)	7.5	5.5	2.7	近世	
M357	包含層	刀子	鉄	(49.0)	(10.0)	(3.5)	(5.3)	近世	
M358	包含層	刀子	鉄	(28.5)	13.0	3.0	2.4	近世	
M359	包含層	刀子	鉄	(53.0)	18.0	4.5	9.8	近世	
M360	包含層	鎌	鉄	(64.0)	23.0	3.5	15.6	近世	
M361	包含層	鎌	鉄	(48.0)	24.0	5.5	12.4	近世	
M362	包含層	剣	鉄	(75.0)	38.5	5.0	32.6	近世	
M363	包含層	鎌	鉄	(112)	33.0	4.0	(3669.0)	近世	
M364	包含層	金槌	鉄	(143)	24.5	17.0	337.8	近世	タガネ部分のみ残存
M365	包含層	煙管	銅	73.0	11.0	11.2	15.3	近世	ほぼ完形

遺構名称対照表

1. 竪穴住居

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
竪穴住居-187	中屋P4	No.16	高畑
竪穴住居-188	中屋P2	No.26	高畑
竪穴住居-189	中屋P2	No.28	高畑
竪穴住居-190	中屋P5	No.4	高畑
竪穴住居-191	中屋P5	No.5	高畑
竪穴住居-192	中屋P3	No.28	高畑
竪穴住居-193ABC	中屋M8I	No.147A	高畑
竪穴住居-193ABC	中屋M8I	No.147B	高畑
竪穴住居-193ABC	中屋M8I	No.147C	高畑
竪穴住居-194	中屋M8I	No.178	高畑
竪穴住居-195	中屋M8I	No.117	高畑
竪穴住居-196	中屋H1	No.55	福田
竪穴住居-197	中屋H1	No.56	福田
竪穴住居-198	中屋H1	No.52	福田
竪穴住居-199	中屋H1	No.53	福田
竪穴住居-200	中屋H1	No.37	福田
竪穴住居-201	中屋H2	No.18	福田
竪穴住居-202	中屋M9I	住-19	中野
竪穴住居-203	中屋M9I	住-3	中野
竪穴住居-204	中屋M9II	住-5	中野
竪穴住居-205	中屋M11II	No.15	中野
竪穴住居-206	中屋P4	No.13	高畑
竪穴住居-207	中屋P4	No.9	高畑
竪穴住居-208	中屋P4	No.14	高畑
竪穴住居-209	中屋P4	No.20	高畑
竪穴住居-210	中屋P4	No.17	高畑
竪穴住居-211	中屋P3	No.22	高畑
竪穴住居-212	中屋P3	No.20	高畑
竪穴住居-213	中屋P3	No.21	高畑
竪穴住居-214	中屋P2	No.25	高畑
竪穴住居-215	中屋P2	No.27	高畑
竪穴住居-216	中屋P1	No.21	高畑
竪穴住居-217	中屋P1	No.20	高畑
竪穴住居-218	中屋P1	No.19	高畑
竪穴住居-219	中屋M8I	No.88	高畑
竪穴住居-220	中屋M8I	No.100	高畑
竪穴住居-220	中屋M8I	No.100	高畑
竪穴住居-221	中屋M8I	No.118	高畑
竪穴住居-222	中屋M8I	No.141	高畑
竪穴住居-223	中屋M8I	No.142	高畑
竪穴住居-224	中屋M8I	No.143	高畑
竪穴住居-225	中屋M8I	No.144上	高畑
竪穴住居-225	中屋M8I	No.144下	高畑
竪穴住居-226	中屋M8I	No.145	高畑
竪穴住居-227	中屋M8I	No.146	高畑
竪穴住居-228	中屋M8I	No.226	高畑
竪穴住居-229	中屋M8I	No.148	高畑
竪穴住居-230	中屋M8I	No.149	高畑
竪穴住居-231	中屋M8I	No.150	高畑
竪穴住居-232	中屋M8I	No.163	高畑
竪穴住居-233	中屋M8I	No.181	高畑
竪穴住居-234	中屋M8I	No.185	高畑
竪穴住居-235	中屋M8I	No.186	高畑
竪穴住居-236	中屋M8I	No.187上	高畑
竪穴住居-236	中屋M8I	No.187下	高畑
竪穴住居-237	中屋M8I	No.192	高畑
竪穴住居-238	中屋M8I	No.213	高畑
竪穴住居-239	中屋M8I	No.201	高畑
竪穴住居-240	中屋M8I	No.217	高畑
竪穴住居-241	中屋M8I	No.218	高畑
竪穴住居-242	中屋M8I	No.219	高畑
竪穴住居-243	中屋M8I	No.221	高畑
竪穴住居-244	中屋M8I	No.231	高畑
竪穴住居-245	中屋M8III	No.45	高畑
竪穴住居-246	中屋M8III	No.44	高畑
竪穴住居-247	中屋M8II	H-7	大橋
竪穴住居-248	中屋M8II	H-9	大橋
竪穴住居-249	中屋M8II	H-10	大橋
竪穴住居-250	中屋M8IV	No.36	中野
竪穴住居-251	中屋M8IV	No.41	中野
竪穴住居-252	中屋M8IV	No.30(A)	中野
竪穴住居-252	中屋M8IV	No.30(B)	中野
竪穴住居-253	中屋M8IV	No.33(A)	中野
竪穴住居-253	中屋M8IV	No.33(B)	中野

報告名称	調査区	調査名称	調査担当者
竪穴住居-254	中屋M8IV	No.42	中野
竪穴住居-255	中屋H1	No.58	福田
竪穴住居-256	中屋H1	No.66	福田
竪穴住居-257	中屋H1	No.33	福田
竪穴住居-258	中屋H1	No.61	福田
竪穴住居-259	中屋H1	No.22	福田
竪穴住居-260	中屋H1	No.23	福田
竪穴住居-261	中屋H1	No.26	福田
竪穴住居-262	中屋H1	No.63	福田
竪穴住居-263	中屋H1	No.29	福田
竪穴住居-264	中屋H1	No.64	福田
竪穴住居-265	中屋H1	No.28	福田
竪穴住居-266	中屋H1	No.62	福田
竪穴住居-267	中屋H2	No.22	福田
竪穴住居-268	中屋H2	No.26	福田
竪穴住居-269	中屋H2	No.17	福田
竪穴住居-270	中屋H2	No.19	福田
竪穴住居-271	中屋M9I	住-29	中野
竪穴住居-272	中屋M9I	住-30上	中野
竪穴住居-272	中屋M9I	住-30下	中野
竪穴住居-273	中屋M9I	住-26上	中野
竪穴住居-273	中屋M9I	住-26下	中野
竪穴住居-274	中屋M9I	住-4	中野
竪穴住居-275	中屋M9I	住-15	中野
竪穴住居-276	中屋M9I	住-7上	中野
竪穴住居-276	中屋M9I	住-7下	中野
竪穴住居-277	中屋M9I	住-10上	中野
竪穴住居-277	中屋M9I	住-10下	中野
竪穴住居-278	中屋M9I	住-10(A)	中野
竪穴住居-279	中屋M9I	住-10(B)	中野
竪穴住居-280	中屋M9I	住-10(C)	中野
竪穴住居-281	中屋M9I	住-24	中野
竪穴住居-282	中屋M9I	住-23-上	中野
竪穴住居-282	中屋M9I	住-23-下	中野
竪穴住居-283	中屋M9I	住-5上	中野
竪穴住居-283	中屋M9I	住-5下	中野
竪穴住居-284	中屋M9I	住-9	中野
竪穴住居-285	中屋M9I	住-8	中野
竪穴住居-286	中屋M9I	住-14上	中野
竪穴住居-286	中屋M9I	住-14下	中野
竪穴住居-287	中屋M9I	住-22	中野
竪穴住居-288	中屋M9I	住-27	中野
竪穴住居-289	中屋M9I	住-17	中野
竪穴住居-290	中屋M9I	住-16	中野
竪穴住居-291	中屋M9I	住-20	中野
竪穴住居-292	中屋M9I	住-25	中野
竪穴住居-293	中屋M9I	住-13	中野
竪穴住居-294	中屋M9I	住-2	中野
竪穴住居-295	中屋M11II	No.9	中野
竪穴住居-296	中屋M11II	No.12	中野
竪穴住居-297	中屋M11II	No.12上	中野
竪穴住居-297	中屋M11II	No.12下	中野
竪穴住居-298	中屋M9II	住-3	中野
竪穴住居-299	中屋M11II	No.19A	中野
竪穴住居-299	中屋M11II	No.19B	中野
竪穴住居-300	中屋T1	H-5	亀山
竪穴住居-301	中屋T1	H-6	亀山
竪穴住居-302	中屋T2	A-A2 H3	亀山
竪穴住居-303	中屋T2	A-A2 H1	亀山
竪穴住居-304	中屋T2	A-A2 H2	亀山
竪穴住居-305	中屋T2	A-A2 H5	亀山
竪穴住居-306	中屋M11III	H-1	亀山
竪穴住居-307	中屋M11III	H-7	亀山
竪穴住居-308	中屋M11III	H-2	亀山
竪穴住居-309	中屋M11III	H-3	亀山
竪穴住居-310	中屋M11III	H-4	亀山
竪穴住居-311	中屋P7	No.1	高畑
竪穴住居-312	中屋P7	No.10	高畑
竪穴住居-313	中屋P1	No.18A	高畑
竪穴住居-313	中屋P1	No.18B	高畑
竪穴住居-314	中屋P4	No.12	高畑
竪穴住居-315	中屋M8I	No.114西	高畑
竪穴住居-316	中屋M8I	No.91	高畑
竪穴住居-317	中屋M8I	No.115	高畑

遺構名称対照表

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
竪穴住居-318	中屋M 8 I	No. 101	高畑
竪穴住居-319	中屋M 8 I	No. 107	高畑
竪穴住居-320	中屋M 8 III	No. 24, M8I No. 198	高畑
竪穴住居-321	中屋M 8 III	No. 24, M8I No. 195	高畑
竪穴住居-322	中屋M 8 III	No. 25	高畑
竪穴住居-323	中屋M 8 III	No. 22	高畑
竪穴住居-324	中屋M 8 II	H- 6	大橋
竪穴住居-325	中屋M 8 II	H- 1	大橋
竪穴住居-326	中屋M 8 II	H- 5	大橋
竪穴住居-327	中屋M 8 II	H- 4	大橋
竪穴住居-328	中屋M 8 II	H- 2	大橋
竪穴住居-329	中屋M 8 II	H- 3	大橋
竪穴住居-330	中屋M 8 IV	No. 27	中野
竪穴住居-331	中屋H 1	No. 48	福田
竪穴住居-332	中屋H 1	No. 51	福田
竪穴住居-333	中屋H 1	No. 50	福田
竪穴住居-334	中屋H 1	No. 49	福田
竪穴住居-335	中屋H 1	No. 25	福田
竪穴住居-336	中屋H 1	No. 60	福田
竪穴住居-337	中屋H 1	No. 21	福田
竪穴住居-338	中屋H 1	No. 27	福田
竪穴住居-339	中屋H 2	No. 15	福田
竪穴住居-340	中屋H 2	No. 14	福田
竪穴住居-341	中屋M 9 I	住-28	中野
竪穴住居-342	中屋M 9 I	住- 1	中野
竪穴住居-343	中屋M 9 I	住-21	中野
竪穴住居-344	中屋M11 III	H- 5	龜山
竪穴住居-345	中屋T 2		龜山

2. 掘立柱建物

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
掘立柱建物-49	中屋M 9 I	1	中野
掘立柱建物-50	中屋M 9 I	2	中野
掘立柱建物-51	中屋M 9 I	3	中野
掘立柱建物-52	中屋M 9 I	4	中野
掘立柱建物-53	中屋P 4	No. 10	高畑
掘立柱建物-54	中屋M 8 I	No. 128溝No. 129橋	高畑
掘立柱建物-55	中屋M 8 I	No. 97	高畑
掘立柱建物-56	中屋P 5	No. 2	高畑
掘立柱建物-57	中屋P 3	No. 29	高畑
掘立柱建物-58	中屋P 2	No. 7	高畑
掘立柱建物-59	中屋M 8 I	No. 82	高畑
掘立柱建物-60	中屋M 8 I	No. 102	高畑
掘立柱建物-61	中屋M 8 I	No. 99	高畑
掘立柱建物-62	中屋M 8 I	No. 87	高畑
掘立柱建物-63	中屋M 8 I	No. 98	高畑
掘立柱建物-64	中屋M 8 II	1	大橋
掘立柱建物-65	中屋M 8 IV	1	中野
掘立柱建物-66	中屋H 1	No. 67	福田
掘立柱建物-67	中屋H 1	No. 65	福田
掘立柱建物-68	中屋H 1	No. 40	福田
掘立柱建物-69	中屋H 1	No. 57	福田
掘立柱建物-70	中屋P 4	No. 6	高畑
掘立柱建物-71	中屋P 1	No. 1	高畑
掘立柱建物-72	中屋M 8 I	No. 3	高畑
掘立柱建物-73	中屋M 8 I	No. 1	高畑
掘立柱建物-74	中屋M 8 I	No. 58	高畑
掘立柱建物-75	中屋M 8 I	No. 67	高畑
掘立柱建物-76	中屋M 8 I	No. 66	高畑
掘立柱建物-77	中屋M 8 I	No. 65	高畑
掘立柱建物-78	中屋M 8 I	No. 96	高畑

3. 井戸

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
井戸- 7	中屋P 5	No. 18	高畑
井戸- 8	中屋M 8 I	No. 139	高畑
井戸- 9	中屋M 8 I	194	高畑
井戸-10	中屋H 1	No. 17	福田
井戸-11	中屋M 8 I	No. 48	高畑
井戸-12	中屋M 8 I	No. 62	高畑
井戸-13	中屋M 8 I	No. 10	高畑

遺構名称対照表

4. 袋状土壌

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
袋状土壌-081	中屋P 5	No. 8	高畑
袋状土壌-082	中屋P 5	No. 9	高畑
袋状土壌-083	中屋P 5	No. 23	高畑
袋状土壌-084	中屋P 5	No. 27	高畑
袋状土壌-085	中屋P 5	No. 28	高畑
袋状土壌-086	中屋P 5	No. 7	高畑
袋状土壌-087	中屋P 5	No. 12	高畑
袋状土壌-088	中屋P 2	No. 45	高畑
袋状土壌-089	中屋P 2	No. 46	高畑
袋状土壌-090	中屋P 1	No. 44	高畑
袋状土壌-091	中屋P 1	No. 27	高畑
袋状土壌-092	中屋M 8 I	No. 178住内	高畑
袋状土壌-093	中屋M 8 I	No. 124	高畑
袋状土壌-094	中屋M 8 I	No. 137	高畑
袋状土壌-095	中屋M 8 I	No. 138	高畑
袋状土壌-096	中屋M 8 I	No. 152	高畑
袋状土壌-097	中屋M 8 I	No. 153	高畑
袋状土壌-098	中屋M 8 I	No. 154	高畑
袋状土壌-099	中屋M 8 I	No. 140	高畑
袋状土壌-100	中屋M 8 I	No. 157	高畑
袋状土壌-101	中屋M 8 I	No. 158	高畑
袋状土壌-102	中屋M 8 I	No. 159	高畑
袋状土壌-103	中屋M 8 I	No. 161	高畑
袋状土壌-104	中屋M 8 I	No. 160	高畑
袋状土壌-105	中屋M 8 I	No. 162	高畑
袋状土壌-106	中屋M 8 I	No. 167	高畑
袋状土壌-107	中屋M 8 I	No. 171	高畑
袋状土壌-108	中屋M 8 I	No. 172(B)	高畑
袋状土壌-109	中屋M 8 I	No. 174	高畑
袋状土壌-110	中屋M 8 I	No. 175	高畑
袋状土壌-111	中屋M 8 I	No. 183	高畑
袋状土壌-112	中屋M 8 I	No. 200	高畑
袋状土壌-113	中屋M 8 I	No. 202	高畑
袋状土壌-114	中屋M 8 I	No. 204	高畑
袋状土壌-115	中屋M 8 I	No. 211	高畑
袋状土壌-116	中屋M 8 I	No. 212	高畑
袋状土壌-117	中屋M 8 I	No. 224	高畑
袋状土壌-118	中屋M 8 I	No. 225	高畑
袋状土壌-119	中屋M 8 I	No. 227	高畑
袋状土壌-120	中屋M 8 I	No. 228	高畑
袋状土壌-121	中屋M 8 I	No. 229	高畑
袋状土壌-122	中屋M 8 I	No. 230	高畑
袋状土壌-123	中屋M 8 II	29	大橋
袋状土壌-124	中屋M 8 II	38	大橋
袋状土壌-125	中屋M 8 II	26	大橋
袋状土壌-126	中屋M 8 II	25	大橋
袋状土壌-127	中屋M 8 II	27	大橋
袋状土壌-128	中屋M 8 II	24	大橋
袋状土壌-129	中屋M 8 II	28	大橋
袋状土壌-130	中屋M 9 I	47	中野
袋状土壌-131	中屋M 9 I	41	中野
袋状土壌-132	中屋M 9 I	79	中野
袋状土壌-133	中屋M 9 I	60	中野
袋状土壌-134	中屋T 2	A-BA, 1	龜山
袋状土壌-135	中屋T 2	A-A 2, 3	龜山
袋状土壌-136	中屋T 2	A-A 2, 2	龜山
袋状土壌-137	中屋T 2	A-A 2, 1	龜山
袋状土壌-138	中屋M11 III	11	龜山
袋状土壌-139	中屋M11 III	12	龜山
袋状土壌-140	中屋P 6	9	山磨・大橋
袋状土壌-141	中屋P 6	12	山磨・大橋
袋状土壌-142	中屋P 6	7	山磨・大橋
袋状土壌-143	中屋P 6	2	山磨・大橋
袋状土壌-144	中屋P 6	8	山磨・大橋
袋状土壌-145	中屋P 6	10	山磨・大橋
袋状土壌-146	中屋P 6	11	山磨・大橋
袋状土壌-147	中屋P 6	3	山磨・大橋
袋状土壌-148	中屋P 6	5	山磨・大橋

5. 焼成土壌

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
焼成土壌- 8	中屋M 9 I	炉1	中野
焼成土壌- 9	中屋H 1	No. 16焼土壌	福田
焼成土壌-10	中屋M 9 I	炉2(土壌30)	中野

遺構名称対照表

6. 土塋

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
土塋-334	中屋P4	No.22	高畑
土塋-335	中屋P5	No.6(土器だまり)	高畑
土塋-336	中屋P5	No.21	高畑
土塋-337	中屋P5	No.24	高畑
土塋-338	中屋P3	No.6	高畑
土塋-339	中屋P3	No.16	高畑
土塋-340	中屋P3	No.18	高畑
土塋-341	中屋P3	No.17	高畑
土塋-342	中屋P2	No.21	高畑
土塋-343	中屋P2	No.38	高畑
土塋-344	中屋P1	No.28	高畑
土塋-345	中屋P5	No.17	高畑
土塋-346	中屋P5	No.15	高畑
土塋-347	中屋P5	No.14	高畑
土塋-348	中屋P5	No.16	高畑
土塋-349	中屋P5	No.13	高畑
土塋-350	中屋P5	No.11	高畑
土塋-351	中屋P5	No.10	高畑
土塋-352	中屋P1	No.29	高畑
土塋-353	中屋P1	No.30	高畑
土塋-354	中屋P1	No.33	高畑
土塋-355	中屋P1	No.34	高畑
土塋-356	中屋P1	No.35	高畑
土塋-357	中屋P1	No.6	高畑
土塋-358	中屋P1	No.32	高畑
土塋-359	中屋P3	No.11	高畑
土塋-360	中屋P3	No.26	高畑
土塋-361	中屋P2	No.31	高畑
土塋-362	中屋P2	No.35	高畑
土塋-363	中屋P2	No.36	高畑
土塋-364	中屋P2	No.37	高畑
土塋-365	中屋P1	No.37	高畑
土塋-366	中屋P1	No.43	高畑
土塋-367	中屋M8I	No.121	高畑
土塋-368	中屋M8I	No.125	高畑
土塋-369	中屋M8I	No.133	高畑
土塋-370	中屋M8I	No.134	高畑
土塋-371	中屋M8I	No.136	高畑
土塋-372	中屋M8I	No.206	高畑
土塋-373	中屋M8I	No.209	高畑
土塋-374	中屋M8I	No.173	高畑
土塋-375	中屋M8I	No.176	高畑
土塋-376	中屋M8I	No.203	高畑
土塋-377	中屋M8I	No.151	高畑
土塋-378	中屋M8I	No.166	高畑
土塋-379	中屋M8I	No.188	高畑
土塋-380	中屋M8I	No.190	高畑
土塋-381	中屋M8I	No.170	高畑
土塋-382	中屋M8I	No.222	高畑
土塋-383	中屋M8II	土塋39	大橋
土塋-384	中屋M8I	No.81	高畑
土塋-385	中屋M8III	No.34	高畑
土塋-386	中屋M8III	No.36	高畑
土塋-387	中屋M8III	No.33	高畑
土塋-388	中屋M8IV	土塋37	中野
土塋-389	中屋M8IV	土塋40	中野
土塋-390	中屋M8IV	土塋53	中野
土塋-391	中屋M8IV	土塋52	中野
土塋-392	中屋M8IV	土塋47	中野
土塋-393	中屋M8IV	土塋48	中野
土塋-394	中屋M8IV	土塋45	中野
土塋-395	中屋M8IV	土塋44	中野
土塋-396	中屋M9I	土塋44A	中野
土塋-397	中屋M9I	土塋48	中野
土塋-398	中屋M9I	土塋55	中野
土塋-399	中屋M9II	土塋3	中野
土塋-400	中屋M11III	土塋7	亀山
土塋-401	中屋M11III	土塋13	亀山
土塋-402	中屋M11III	土塋14	亀山
土塋-403	中屋T2	土塋 A-A2	亀山
土塋-404	中屋T2	土塋1A-BA	亀山
土塋-405	中屋P6	土塋1	山磨・大橋
土塋-406	中屋P7	No.8	高畑
土塋-407	中屋P2	No.30	高畑

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
土塋-408	中屋P4	No.18	高畑
土塋-409	中屋P2	No.22	高畑
土塋-410	中屋P2	No.33	高畑
土塋-411	中屋M8I	No.109	高畑
土塋-412	中屋M8I	No.214	高畑
土塋-413	中屋M8I	No.168	高畑
土塋-414	中屋M8I	No.169	高畑
土塋-415	中屋M8I	No.135	高畑
土塋-416	中屋M8IV	土塋31	中野
土塋-417	中屋M8IV	土塋51	中野
土塋-418	中屋M8IV	土塋50	中野
土塋-419	中屋M8IV	土塋49	中野
土塋-420	中屋M9I	住26	中野
土塋-421	中屋M9I	住26下層土塋2	中野
土塋-422	中屋M9I	土塋61	中野
土塋-423	中屋M9I	土塋62	中野
土塋-424	中屋M9I	住30下層土塋	中野
土塋-425	中屋M9I	土塋44B	中野
土塋-426	中屋M9I	土塋42	中野
土塋-427	中屋M9I	土塋40A	中野
土塋-428	中屋M9I	土塋41	中野
土塋-429	中屋M9I	土塋49	中野
土塋-430	中屋M9I	土塋67	中野
土塋-431	中屋M9I	土塋69	中野
土塋-432	中屋M9I	土塋68	中野
土塋-433	中屋M9I	土塋63	中野
土塋-434	中屋M9I	土塋45	中野
土塋-435	中屋M9I	土塋66	中野
土塋-436	中屋M9I	土塋43B	中野
土塋-437	中屋M9I	土塋51	中野
土塋-438	中屋M9I	土塋59	中野
土塋-439	中屋M9I	土塋70	中野
土塋-440	中屋M9I	土塋43A	中野
土塋-441	中屋M9I	土塋54	中野
土塋-442	中屋M9I	土塋37	中野
土塋-443	中屋M11II	土塋13	中野
土塋-444	中屋M9II	土塋1	中野
土塋-445	中屋M9II	土塋2	中野
土塋-446	中屋M9II	溝8	中野
土塋-447	中屋M11II	土塋14	中野
土塋-448	中屋M11III	土塋1	亀山
土塋-449	中屋T2	土塋1A-A2	亀山
土塋-450	中屋M11III	土塋2	亀山
土塋-451	中屋M11III	土塋3	亀山
土塋-452	中屋M11III	土塋6	亀山
土塋-453	中屋P7	No.4	高畑
土塋-454	中屋M11III	土塋9	亀山
土塋-455	中屋M11III	土塋4	亀山
土塋-456	中屋M11III	土塋8	亀山
土塋-457	中屋M11III	土塋5	亀山
土塋-458	中屋M11II	土塋7	中野
土塋-459	中屋P2	No.8	高畑
土塋-460	中屋P2	No.9	高畑
土塋-461	中屋P2	No.10	高畑
土塋-462	中屋M8I	No.179	高畑
土塋-463	中屋M8I	No.104	高畑
土塋-464	中屋M8I	No.103	高畑
土塋-465	中屋M8I	No.108	高畑
土塋-466	中屋M8I	No.120	高畑
土塋-467	中屋M8I	No.207(柱穴)	高畑
土塋-468	中屋M8I	No.208(柱穴)	高畑
土塋-469	中屋M8II	土塋8	大橋
土塋-470	中屋M8II	土塋9	大橋
土塋-471	中屋M8II	土塋10	大橋
土塋-472	中屋M8IV	土塋29	中野
土塋-473	中屋M8IV	土塋35	中野
土塋-474	中屋H1	土塋32	福田
土塋-475	中屋H1	土塋43	福田
土塋-476	中屋H1	土塋24	福田
土塋-477	中屋P3	No.1	高畑
土塋-478	中屋P3	No.2	高畑
土塋-479	中屋P3	No.8	高畑
土塋-480	中屋P3	No.9	高畑
土塋-481	中屋P3	No.10	高畑

遺構名称対照表

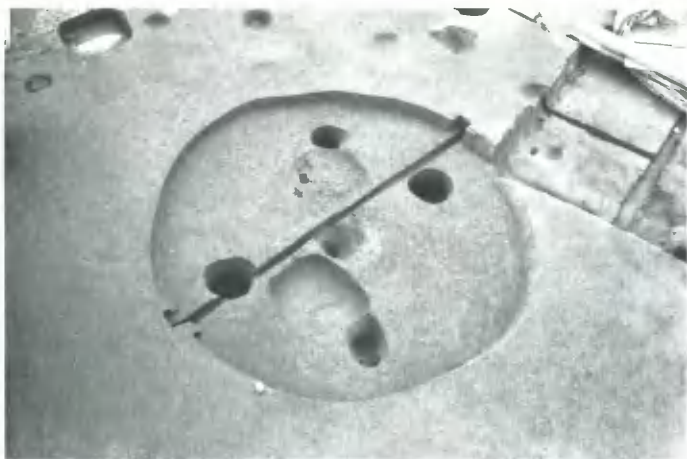
報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
土壊-482	中屋P 2	No. 2	高畑
土壊-483	中屋P 2	No. 4	高畑
土壊-484	中屋P 2	No. 6	高畑
土壊-485	中屋P 2	No. 3	高畑
土壊-486	中屋P 1	No. 51	高畑
土壊-487	中屋M 9 I	土壊19	中野
土壊-488	中屋M 9 I	土壊21A	中野
土壊-489	中屋M 9 I	土壊24	中野
土壊-490	中屋M 9 I	土壊27	中野
土壊-491	中屋M 9 I	土壊15	中野
土壊-492	中屋M 9 I	土壊B	中野
土壊-493	中屋M 9 I	土壊10	中野
土壊-494	中屋M 9 I	土壊2	中野
土壊-495	中屋M 9 I	土壊1	中野
土壊-496	中屋M 9 I	土壊17	中野
土壊-497	中屋M 9 I	落ち込み1	中野
土壊-498	中屋M 9 I	土壊32A	中野
土壊-499	中屋M 9 I	土壊26	中野
土壊-500	中屋M 9 I	たわみ(土壊32南)	中野
土壊-501	中屋M 9 I	土壊6	中野
土壊-502	中屋M 9 I	土壊9	中野
土壊-503	中屋M 9 I	土壊13	中野
土壊-504	中屋M 9 I	土壊14	中野
土壊-505	中屋M 9 I	土壊5	中野
土壊-506	中屋M 9 I	土壊29	中野
土壊-507	中屋M 9 I	土壊4	中野
土壊-508	中屋M 9 I	土壊3	中野
土壊-509	中屋M 9 I	土壊40B	中野
土壊-510	中屋M 9 I	土壊39	中野
土壊-511	中屋M 9 I	土壊36	中野
土壊-512	中屋M 8 I	No. 5	高畑
土壊-513	中屋M 8 I	No. 16	高畑
土壊-514	中屋M 8 I	No. 6	高畑
土壊-515	中屋M 8 I	No. 7	高畑
土壊-516	中屋M 8 I	No. 8	高畑
土壊-517	中屋M 8 I	No. 9	高畑
土壊-518	中屋M 8 I	No. 12	高畑
土壊-519	中屋M 8 I	No. 13	高畑
土壊-520	中屋M 8 I	No. 14	高畑
土壊-521	中屋M 8 I	No. 15	高畑
土壊-522	中屋M 8 I	No. 24	高畑
土壊-523	中屋M 8 I	No. 21	高畑
土壊-524	中屋M 8 I	No. 23	高畑
土壊-525	中屋M 8 I	No. 25	高畑
土壊-526	中屋M 8 I	No. 26	高畑
土壊-527	中屋M 8 I	No. 27	高畑
土壊-528	中屋M 8 I	No. 28	高畑
土壊-529	中屋M 8 I	No. 30	高畑
土壊-530	中屋M 8 I	No. 30'	高畑
土壊-531	中屋M 8 I	No. 33	高畑
土壊-532	中屋M 8 I	No. 34	高畑
土壊-533	中屋M 8 I	No. 35	高畑
土壊-534	中屋M 8 I	No. 37	高畑
土壊-535	中屋M 8 I	No. 40	高畑
土壊-536	中屋M 8 I	No. 41	高畑
土壊-537	中屋M 8 I	No. 42	高畑
土壊-538	中屋M 8 I	No. 43	高畑
土壊-539	中屋M 8 I	No. 44	高畑
土壊-540	中屋M 8 I	No. 49	高畑
土壊-541	中屋M 8 I	No. 45	高畑
土壊-542	中屋M 8 I	No. 57	高畑
土壊-543	中屋M 8 I	No. 59	高畑
土壊-544	中屋M 8 I	No. 64	高畑
土壊-545	中屋M 8 I	No. 69	高畑
土壊-546	中屋M 8 I	No. 71	高畑
土壊-547	中屋M 8 I	No. 72	高畑
土壊-548	中屋M 8 I	No. 79	高畑
土壊-549	中屋M 8 I	No. 90	高畑
土壊-550	中屋M 8 I	No. 76	高畑
土壊-551	中屋M 8 I	No. 77	高畑
土壊-552	中屋M 8 II	土壊1	大橋
土壊-553	中屋M 8 III	No. 16(溝状)	高畑
土壊-554	中屋M 8 III	No. 19	高畑

7. 土壊墓

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
土壊墓-18	中屋P 4	No. 7	高畑
土壊墓-19	中屋P 4	No. 5	高畑
土壊墓-20	中屋M 8 I	No. 89	高畑
土壊墓-21	中屋M 8 I	No. 92	高畑
土壊墓-22	中屋M 8 I	No. 93	高畑
土壊墓-23	中屋M 8 I	No. 94	高畑
土壊墓-24	中屋M 8 I	No. 95	高畑
土壊墓-25	中屋H 2	No. 11土壊墓	福田
土壊墓-26	中屋H 2	No. 5土壊墓	福田
土壊墓-27	中屋H 2	No. 12土壊墓	福田
土壊墓-28	中屋H 2	No. 4土壊墓	福田
土壊墓-29	中屋M 9 I	土壊墓	中野

8. 土器棺墓

報告書名称	調査区	調査名称	調査担当者
土器棺墓-12	中屋M 8 I	No. 80	高畑
土器棺墓-13	中屋M 8 I	No. 106	高畑
土器棺墓-14	中屋M 8 I	No. 119	高畑
土器棺墓-15	中屋M 8 I	No. 177	高畑
土器棺墓-16	中屋T 1	土器棺2	亀山
土器棺墓-17	中屋T 1	土器棺1	亀山



1. 竪穴住居-194
(北東から)

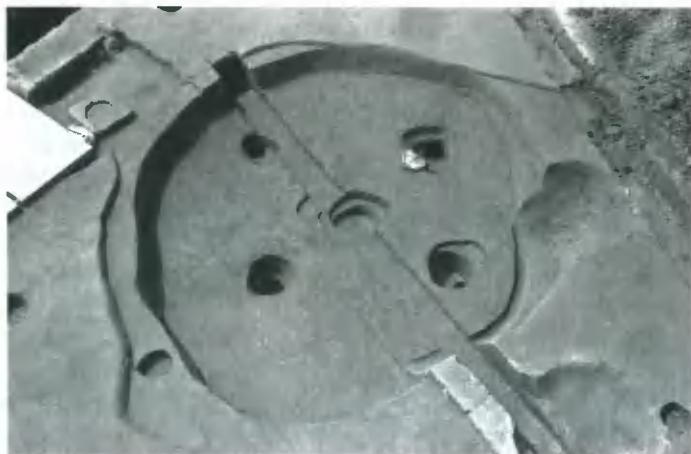


2. 竪穴住居-195遺物
出土状況 (東から)



3. 竪穴住居-195柱穴
遺物出土状況
(南西から)

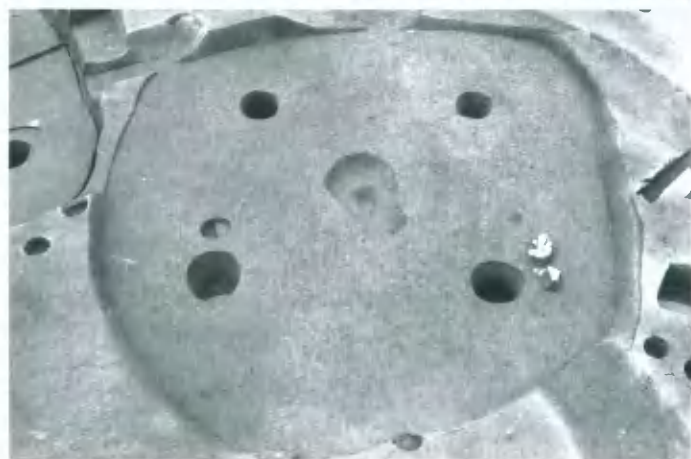
図版 2



1. 竪穴住居-196
(南東から)



2. 竪穴住居-198
(南東から)

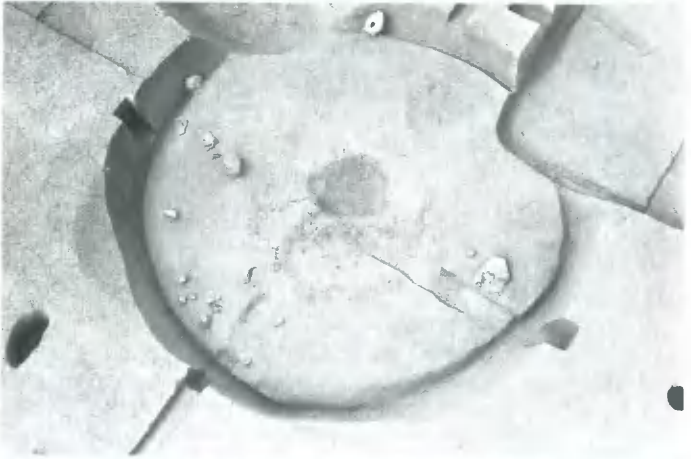


3. 竪穴住居-199
(東から)

1. 竪穴住居-200遺物
出土状況（西から）



2. 竪穴住居-202遺物
出土状況
（南東から）



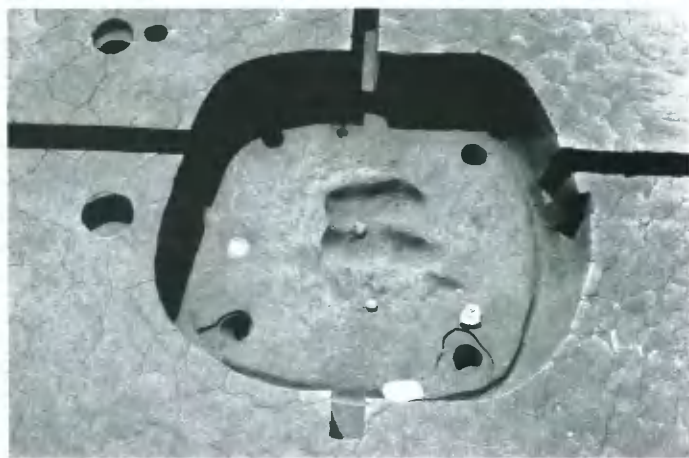
3. 竪穴住居-203
（北東から）



図版 4



1. 竪穴住居-204
(南東から)

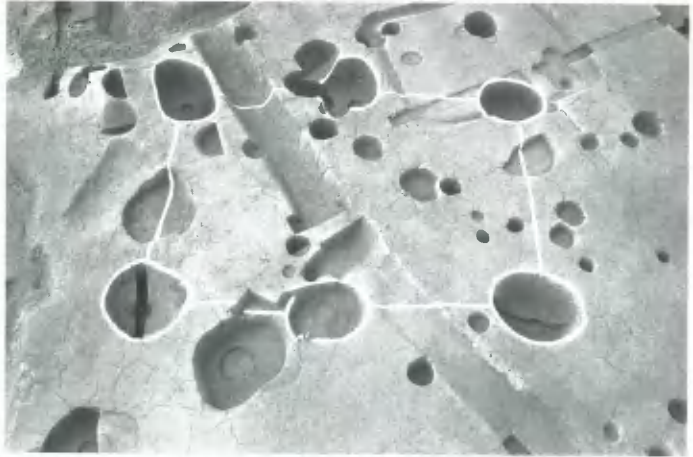


2. 竪穴住居-205
(北西から)



3. 竪穴住居-205上面
土器溜り
(南西から)

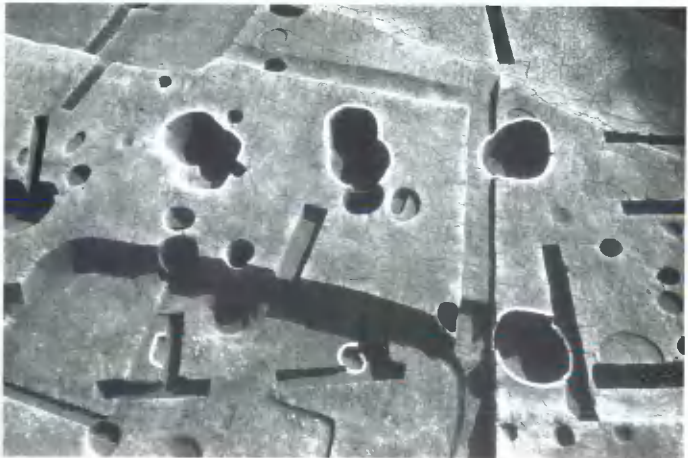
1. 掘立柱建物-49
(南東から)



2. 掘立柱建物-49柱穴
遺物出土状況
(北から)



3. 掘立柱建物-51
(北から)



図版 6



1. 土器棺墓-12
(北西から)

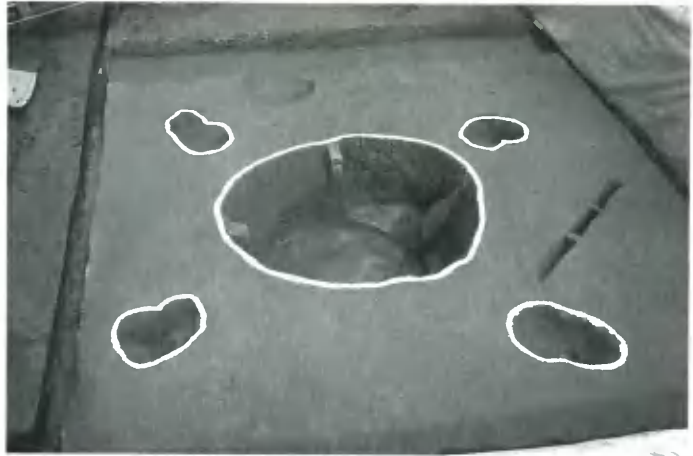


2. 土器棺墓-14
(南から)



3. 土器棺墓-15
(南から)

1. 袋状土壙-83
(南から)



2. 袋状土壙-83土層断面
面 (南西から)



3. 袋状土壙-87遺物出土状況 (北西から)



図版 8



1. 袋状土壙-97上層遺物出土状況
(東から)



2. 袋状土壙-105下層遺物出土状況
(南西から)



3. 袋状土壙-108遺物出土状況
(南西から)

1. 袋状土壙-123遺物
出土状況(南から)



2. 袋状土壙-125
(南西から)



3. 袋状土壙-129遺物
出土状況
(南東から)



図版10



1. 袋状土壙-131遺物
出土状況（北から）

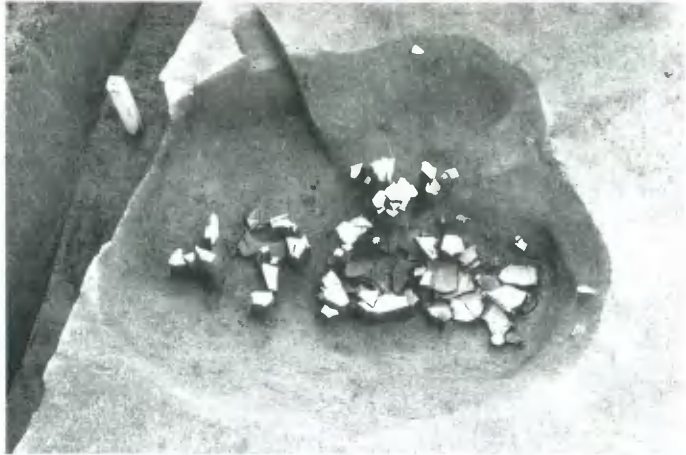


2. 袋状土壙-135遺物
出土状況（南から）



3. 袋状土壙-139遺物
出土状況
（南東から）

1. 土壙-394遺物出土
状況 (東から)



2. 土壙-395上層遺物
出土状況 (南から)



3. 土壙-400遺物出土
状況 (北西から)



図版12



1. 溝-458
(北西から)



2. 溝-458土層断面
(西から)



3. 土器溜り-11
(南から)



1. 竪穴住居-206
(北西から)



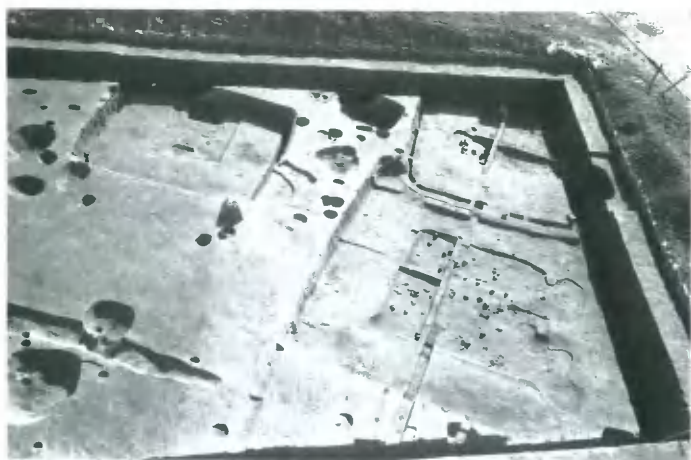
2. 竪穴住居-210
(南から)



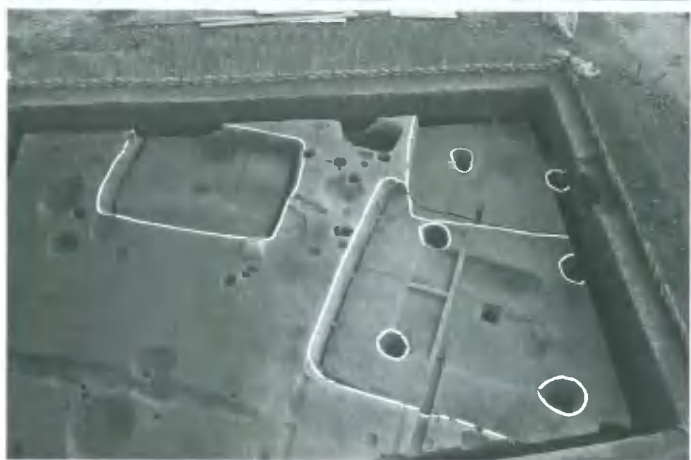
3. 竪穴住居-212遺物
出土状況
(北東から)



図版14



1. 竪穴住居-192・212・
213調査状況
(北から)



2. 竪穴住居-192・212・
213 (北から)



3. 竪穴住居-215
(北から)



1. 竪穴住居-217遺物
出土状況（南から）

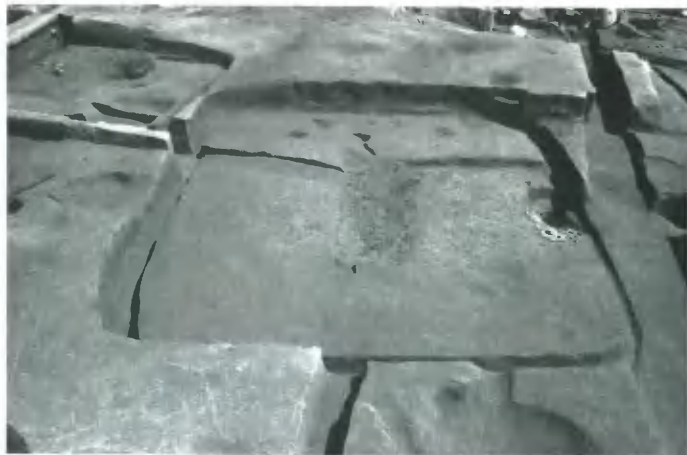


2. 竪穴住居-217
（西から）



3. 竪穴住居-219
（北から）

図版16



1. 竪穴住居-229
(西から)



2. 竪穴住居-230
(南から)



3. 竪穴住居-231遺物
出土状況 (南から)

1. 竪穴住居-232
(北から)



2. 竪穴住居-232方形
土壇周辺敷石
(西から)

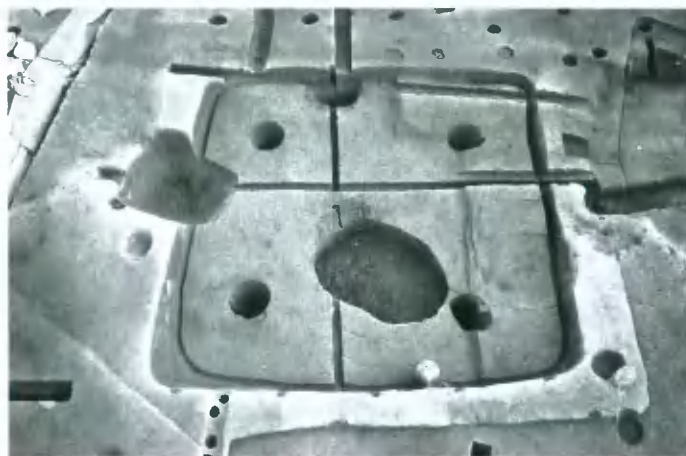


3. 竪穴住居-234
(北から)





1. 竪穴住居-234南側
床面 (北から)



2. 竪穴住居-237
(北から)



3. 竪穴住居-245
(西から)

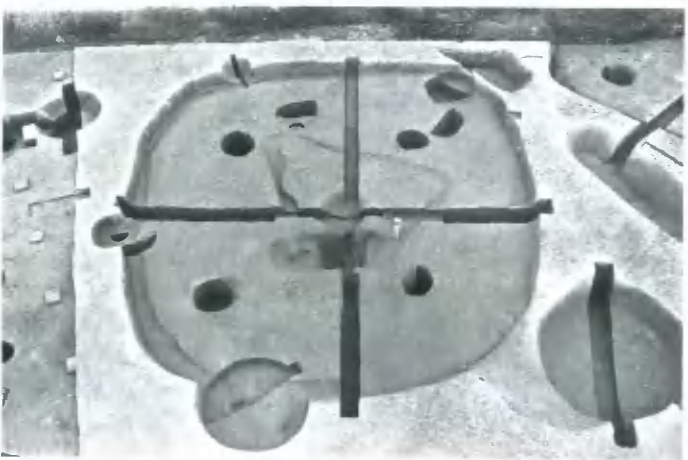
1. 竪穴住居-248
(南西から)



2. 竪穴住居-249上層
(北西から)



3. 竪穴住居-249下層
(南西から)





1. 豎穴住居-252
(西から)



2. 豎穴住居-252中央
部床面 (西から)

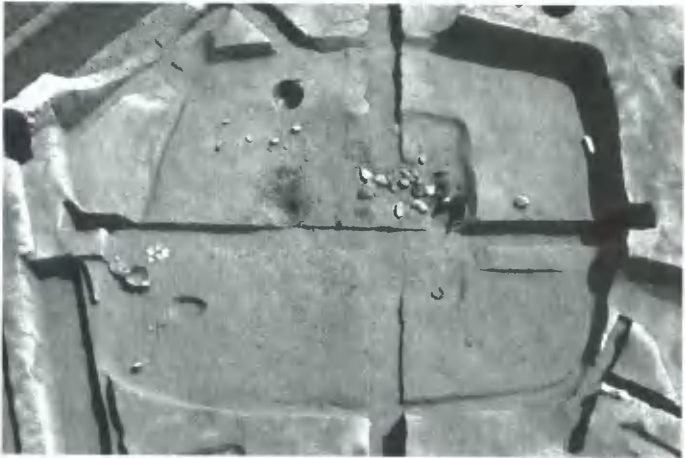


3. 豎穴住居-253
(北から)

1. 竪穴住居-257
(南から)

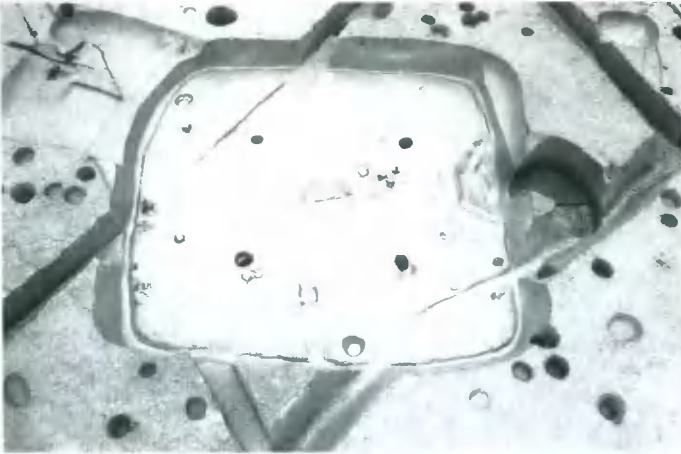


2. 竪穴住居-273上層
遺物出土状況
(西から)

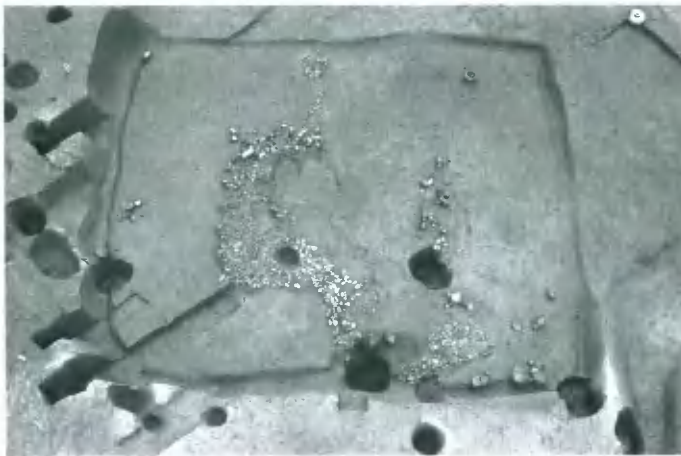


3. 竪穴住居-273下層
遺物出土状況
(西から)





1. 竪穴住居-275遺物
出土状況
(南西から)



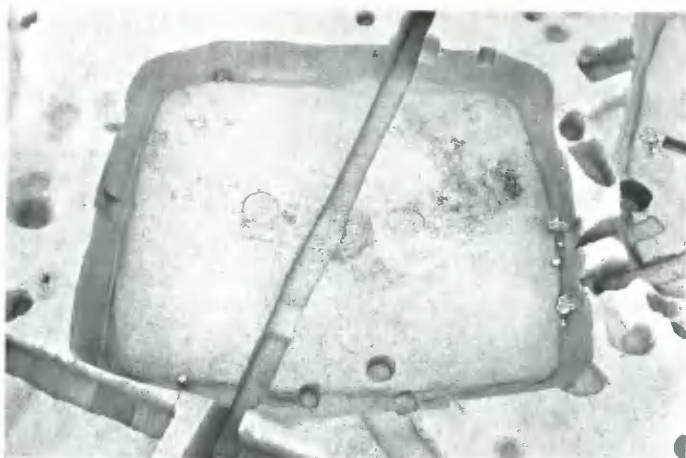
2. 竪穴住居-276遺物
出土状況
(南東から)



3. 竪穴住居-277
(南から)

1. 竪穴住居-281遺物
出土状況

(南東から)



2. 竪穴住居-282遺物
出土状況

(北東から)



3. 竪穴住居-283遺物
出土状況

(南東から)





1. 竪穴住居-283・285
(東から)



2. 竪穴住居-286
(北から)



3. 竪穴住居-287
(北から)

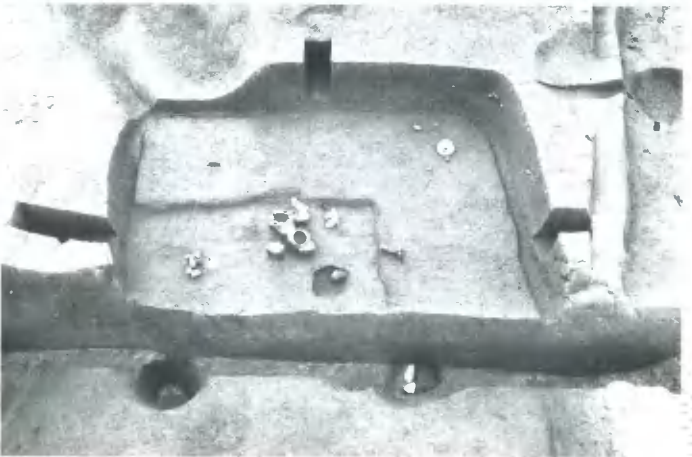
1. 竪穴住居-288遺物
出土状況
(北西から)



2. 竪穴住居-293遺物
出土状況 (東から)



3. 竪穴住居-295遺物
出土状況 (東から)





1. 竪穴住居-298
(北から)



2. 竪穴住居-298遺物
出土状況(北から)



3. 竪穴住居-302遺物
出土状況(南から)



1. 竪穴住居-303・304
(南から)



2. 竪穴住居-308・309
(南から)



3. 竪穴住居-311遺物
出土状況(東から)



1. 掘立柱建物-54遠景
(南西から)

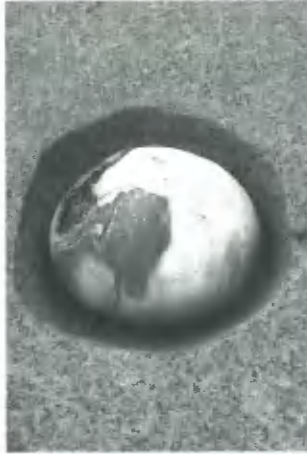


2. 掘立柱建物-54遠景
(東から)



3. 掘立柱建物-54近景
(西から)

1. 土器棺墓-16
(北から)



2. 土器棺墓-17
(南東から)

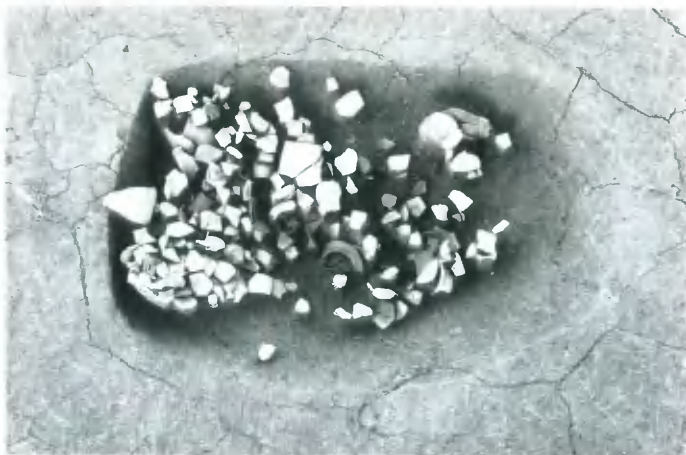


3. 土壙-426遺物出土
状況 (南から)



4. 土壙-440遺物出土
状況 (西から)

図版30



1. 土壙-443遺物出土
状況 (西から)



2. 土壙-448遺物出土
状況 (南から)



3. 水田層断面
(西から)

1. 竪穴住居-320
(南から)



2. 竪穴住居-325遺物
出土状況 (東から)



3. 竪穴住居-325
(南から)





1. 竪穴住居-330遺物
出土状況
(北東から)



2. 竪穴住居-330カマ
ド周辺遺物出土状況
(南東から)



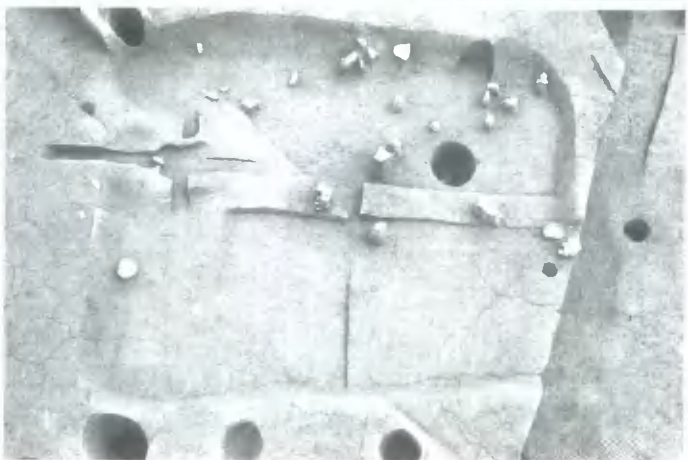
3. 竪穴住居-331
(南西から)



1. 竪穴住居-333
(南東から)



2. 竪穴住居-335
(南東から)



3. 竪穴住居-343遺物
出土状況
(北西から)



1. 竪穴住居-344遺物
出土状況
(南西から)



2. 竪穴住居-344カマ
ド (南西から)



3. 土壙-458遺物出土
状況 (北東から)

1. 長方形区画溝北西隅
(西から)



2. 長方形区画溝北西建
物群 (西から)

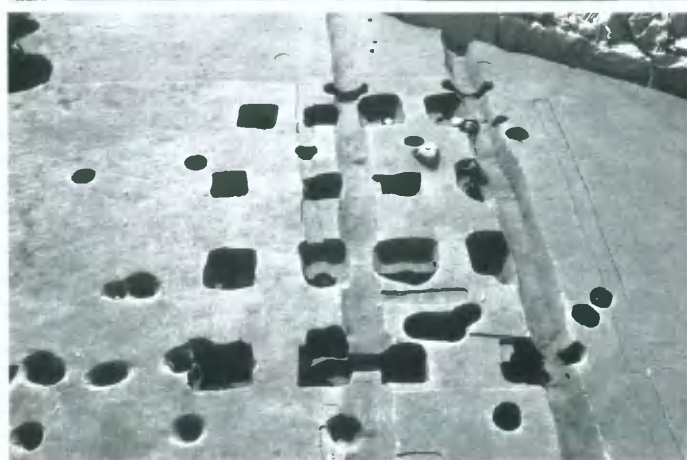


3. 長方形区画溝北西建
物群 (東から)

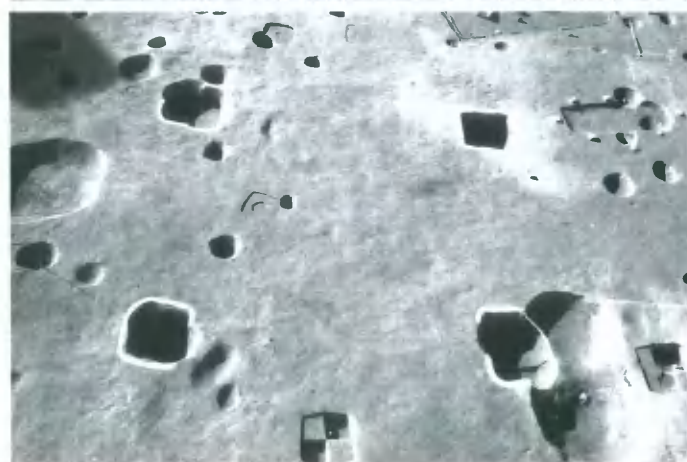




1. 掘立柱建物-56
(北西から)



2. 掘立柱建物-59
(北から)

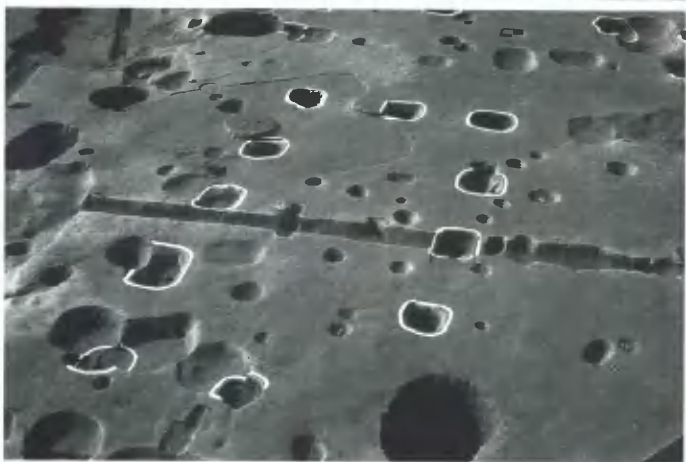


3. 掘立柱建物-60
(西から)

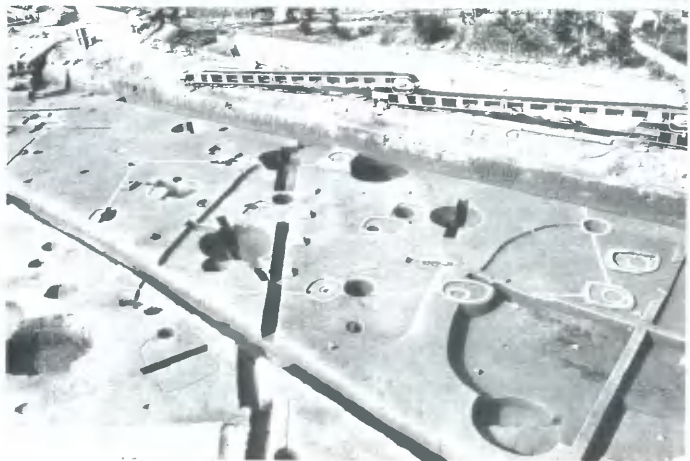
1. 掘立柱建物-61
(北から)



2. 掘立柱建物-63
(北東から)



3. 掘立柱建物-64・66
(南から)





1. 掘立柱建物-65
(東から)

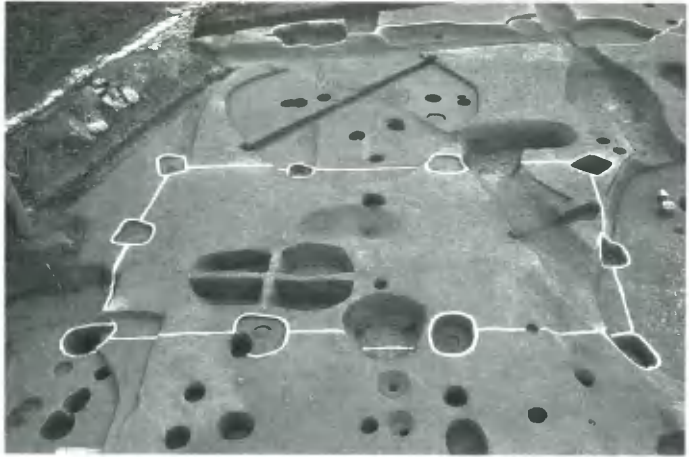


2. 掘立柱建物-65
(南から)

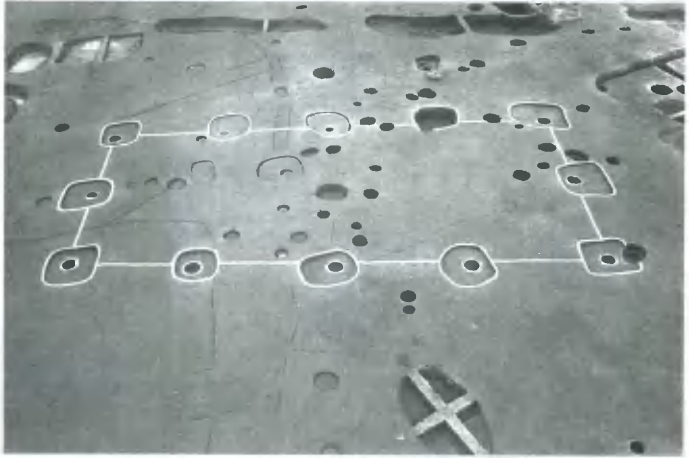


3. 掘立柱建物-65
(南から)

1. 掘立柱建物-67
(西から)



2. 掘立柱建物-68
(西から)



3. 焼成土塊-8 遺物出土状況
土状況 (南から)





1. 溝-475・476遺物出土状況(南東から)



2. 溝-477~479(南東から)



3. 区画溝の土層断面(東から)

1. 土壙墓一26人骨検出
状況 (西から)



2. 土壙一482遺物出土
状況 (北から)



3. 土壙一529遺物出土
状況 (西から)



図版42



1. 土壙-540遺物出土
状況 (南から)



2. 井戸-9 (北から)



3. 井戸-10 (東から)

1. 焼成土壙-10
(北から)



2. 溝-494~497検出状
況 (北東から)

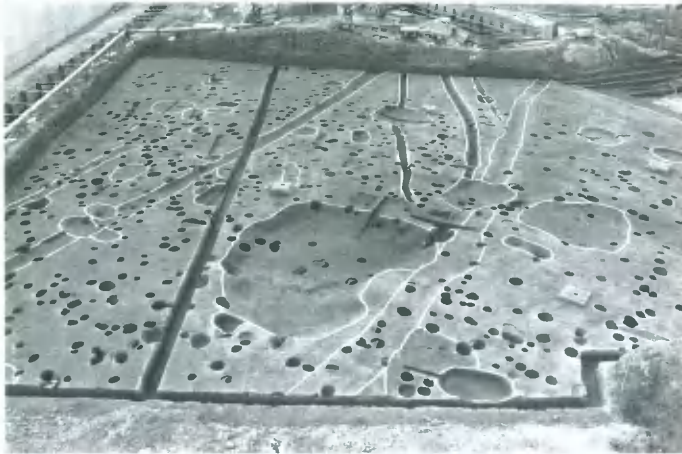


3. 溝-513土層断面
(南から)





1. 中屋M9 I 調査区検出中世遺構群遠景
(南西から)



2. 中屋M9 I 調査区検出中世遺構群近景
(北西から)



3. 中屋M11 II 調査区検出溝群 (西から)

1. 中屋HⅠ調査区検出
近世遺構群
(南から)



2. 中屋HⅠ調査区検出
近世遺構群
(北から)



3. 中屋HⅡ調査区検出
近世遺構群
(北から)





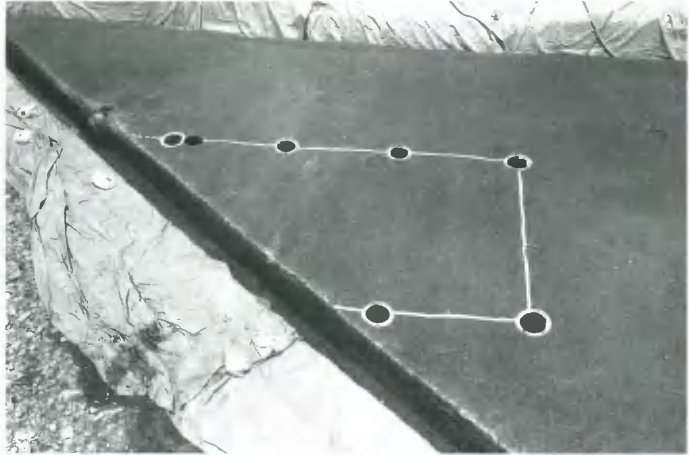
1. 中屋M8 I 調査区検出近世遺構群遠景
(西から)



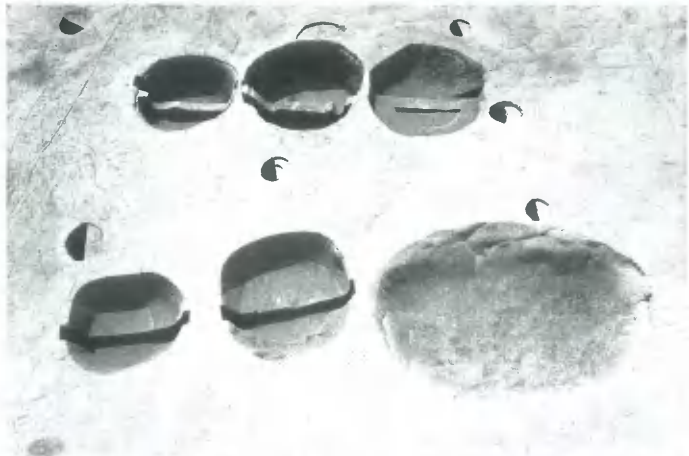
2. 中屋M8 I 調査区検出近世遺構群近景
(南から)



3. 中屋M8 I 調査区検出近世遺構群近景
(北から)



1. 掘立柱建物-73
(南から)



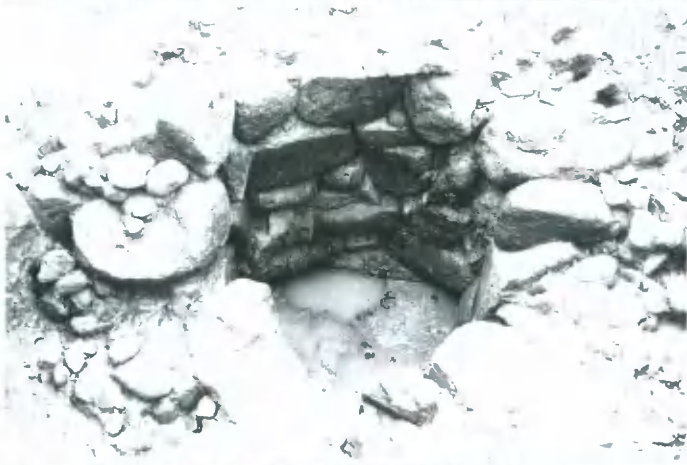
2. 土壙-544~546・
548~550 (東から)



3. 土壙-590検出状況
(南から)



1. 井戸-11 (南から)



2. 井戸-11石組み状況
(東から)



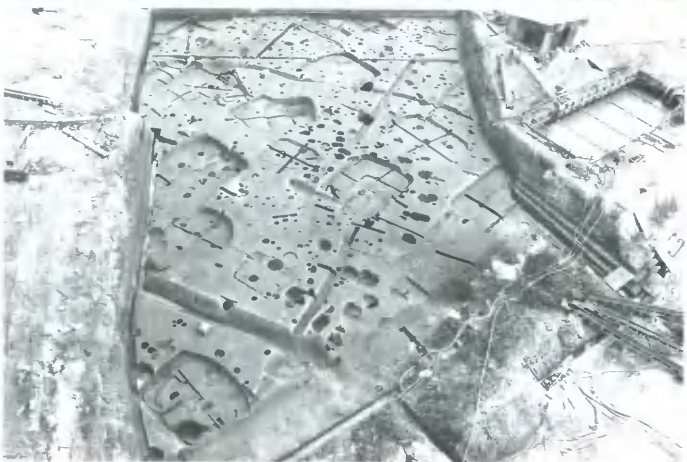
3. 土壇-580・581、
溝-532・533検出状
況 (北から)



1. 中屋M8 I 調査区調査状況 (南から)



2. 中屋M8 I 調査区調査状況 (南西から)



3. 中屋M9 I 調査区調査後全景 (西から)



1. 作業風景 (西から)



2. 作業風景
(南東から)



3. 作業風景 (西から)



5127



5137



5128



5138



5130



5131



5139



5200



5226



5227



5228



5203



5204



5201



5205



5213



5210



5221



5231



5232



5233



5254



5255



5278



5267



5388



5257



5389



5282



5288



5377



5382



5335



5383



5380

竪穴住居-205上部土器溜り出土遺物と建物-49柱穴出土土器(1/4)



5384・5385



5840



5850



5867



5973



5974



5386・5387

土器棺墓-12・13と弥生時代中期の土器(1/4)



5559



5570



5560



5577



5564



5565



5580



5587



5591



5588



5593



5589



5590



5594



5671



5673



5672



5679



C212



C210



M217



C209



C213



M218



M219

土壙-335出土遺物(1/4)と弥生時代の土製品および鉄製品(1/2)



弥生時代の石製品(1/2、1/3)



6070



6080



6085



6074



6081



6086



6077



6106



6122



6145



6129

6135



6147

6139



6132



6140



6152



6133



6153



6220



6223



6224



6232



6235



6231



6236



6237



6258



6238



6259



6240



6260



6244



6263



6264



6254



6268



6272



6288



6305



6354



6365



6289



6306



6380



6312



6382



6290



6314



6389



6345



6391



6392



6316



6375



6319



6376



6378



6322



6379



6393



6395



6338



6371



6350



6727



6731



6729



6732



6730



6733

图版70



6740



6741

6734



6742



6743



6735



6745



6746



6747



6736



6749



6861

6862



6866



6869



6867



6851



6870



7266



7268



7271



7272



7275



7280



7281



7282



7284



7320



7300



7302



7285



7296



7312



7313



7319



7331



7317



7322

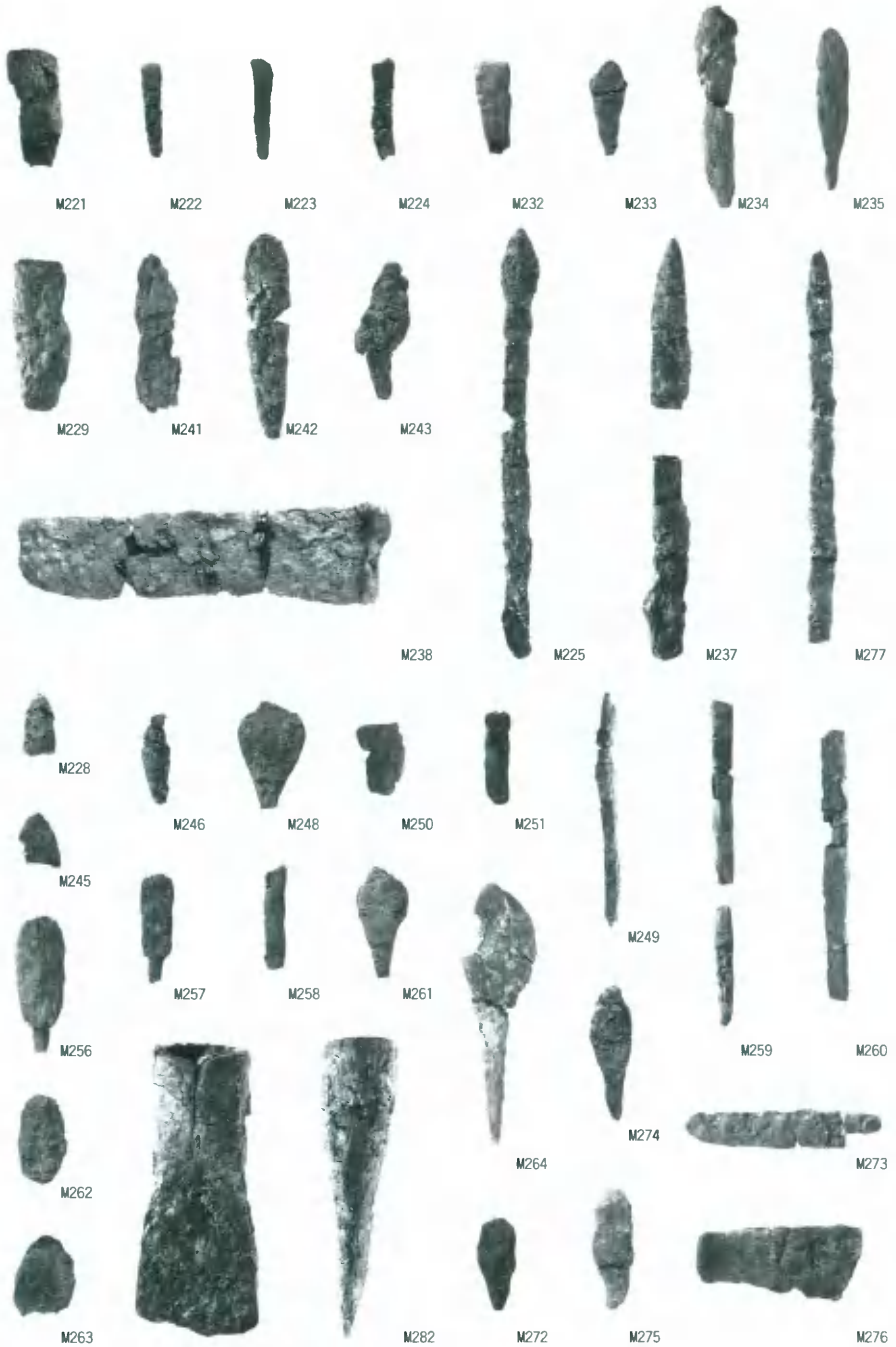


7303



7307

図版74



古墳時代前期の鉄製品(1/2)



M226



M284



C238



C316



C236



C237



C239



C240



C241



C242



C243



C244



C245



C250



C251



C252



C253



C254



C271



C279



C289



C295



C306



C314

古墳時代前期の銅鏃と土製品(1/2)



8154



8188



8193



S389



8163



S390

S391

G1



8161



8169



8191



8165



8166



8177



8178



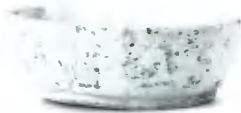
8179

竖穴住居-325出土遺物2\1(1/4)と部分拡大

図版78



8360



8400



8414



8392



8402



8422



8397



8411



8423



8407



8706



8477



8478



8716



8557



8770



8575



8820



8471



8511



8568



8474



8512



8569



8481



8553



8571



8482



8554



8572



8486



8555



8587



8487



8558



8592



8559



8593



8508



8562



8594

図版80



8598



8647



8752



8600



8649



8779



8601



8732



8762



8602



8734



8813



8603



8735



8827



8624



8739



8829



8634



8744



8823



8636



8751



8931



8408



8710



8757



M297

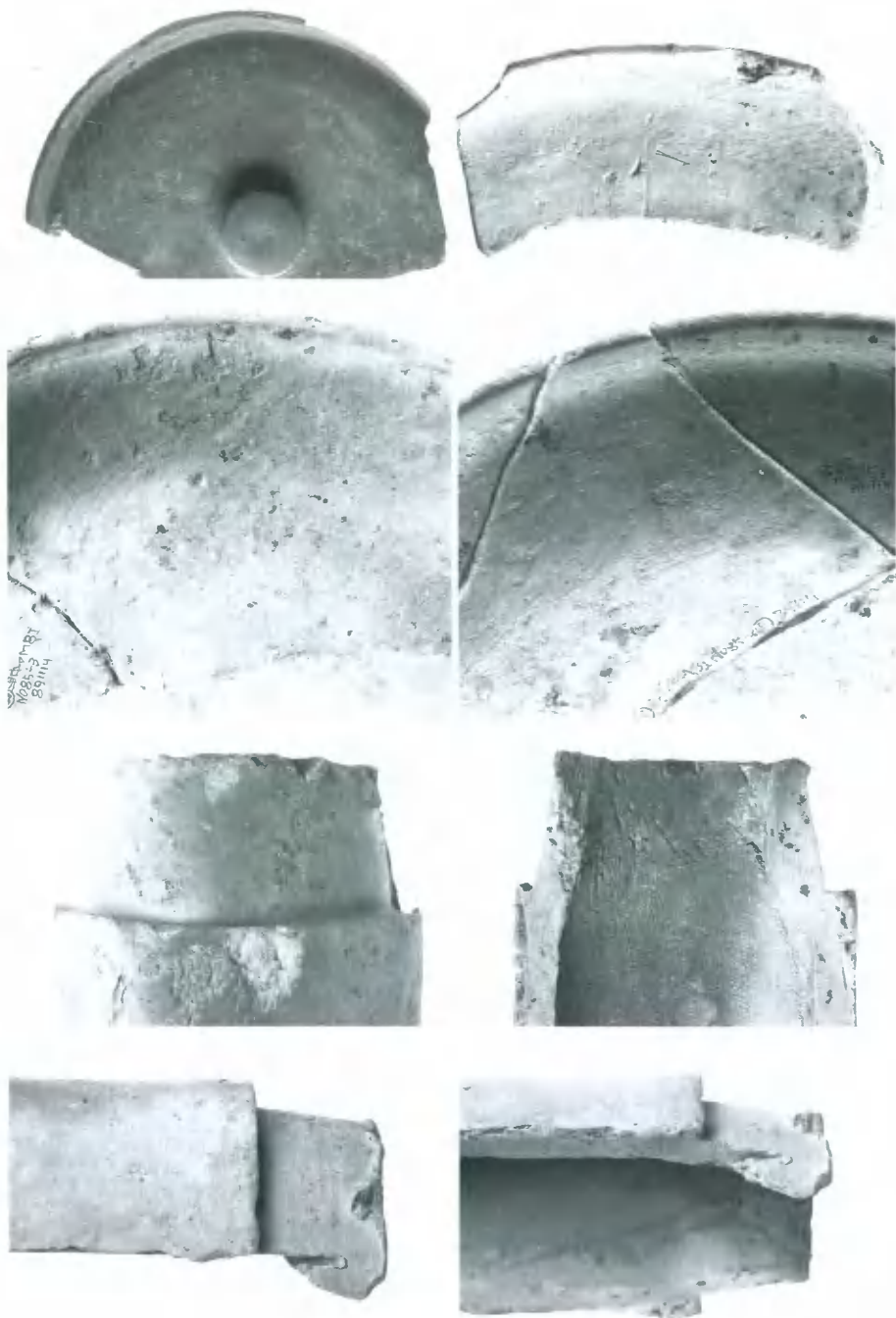


M298



M300

古代の大形土器(1/4)と鉄製品(1/2)



土師器の暗文と丸瓦の半截断面



8799



8950



8671



8676

8680

砚片(1/3)と丸瓦(1)(1/4)



8501



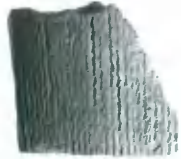
8614



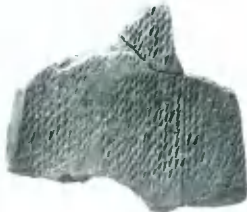
8615



8334



8499



8335



8498



8500



8546



8618

丸瓦(2)と平瓦(1)(1/4)



8983

8977



8984



8978



8985



8979



8992



8990



8994

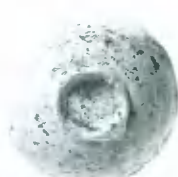


8981



8995

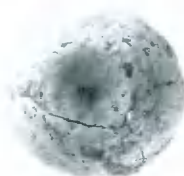
平瓦(2)/(1/4)



9165

9166

9167



9170

9171

9172



9087



M312

土壙一504出土遺物(1/5)と土壙墓一20出土鏡(1/1)



M353

C348



W11



W12



W13

報告書抄録

ふりがな	つでらいせき5							
書名	津寺遺跡5							
副書名	山陽自動車道建設に伴う発掘調査							
巻次	15							
シリーズ名	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	127							
編著者名	高畑知功 中野雅美 福田正継 小延祥夫 山本晋也 清水竜太 亀山行雄 大橋雅也 渡邊恵理子 大澤正己 井上貴央 本田光子 白石純 正岡睦夫 葛原克人							
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター							
所在地	〒701-0136 岡山県岡山市西花尻1325-3			TEL 086-293-3211				
発行機関	岡山県教育委員会							
所在地	〒700-8570 岡山県岡山市内山下2-4-6			TEL 086-224-2111				
発行年月日	西暦 1998年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	〃	〃		m ²	
つでら 津寺	おかやましつでら 岡山市津寺	33201		34度 40分 24秒	133度 49分 20秒	19880401～ 19900730 (掲載分)	8,050m ² (掲載分)	山陽自動車 道建設に伴 う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
津寺	集落 水田 官衙 墓	縄文	包含層		縄文土器		弥生時代から中・近世にか けて大規模な集落遺跡 古墳時代初頭の大量の非在 地系土器 二重の溝で囲まれた方形区 画と方形区画内の建物群で 構成される公的施設 本書は5分冊予定のうちの 第5分冊 表の数値等は掲載分のみ	
		弥生	竪穴住居	19軒	弥生土器、石器(石包丁、 石鏃、砥石他)、土製品 (分銅形土製品・紡錘車 他)、金属器			
		古墳	掘立柱建物	4棟	土師器、陶質土器、須恵 器、石器(砥石)、土製 品(土錘、羽口他)、金 属器(銅鏡、銅鏃、鉄鏃 他)			
			土器棺墓	4基				
	袋状土壇	68基						
	土壇	73基						
		井戸	2基	土師器、須恵器、瓦、土 製品(土錘)、金属器				
		溝	2条					
		土器溜り	2基					
		柱穴	1基					
		古代	掘立柱建物	14棟	土師器、陶器、磁器、石 器(砥石)、土製品、金 属器(銅銭、鉄釘)			
			柱穴列	2基				
			土壇	18基				
			焼成土壇	1基				
			溝	20条	土師器、陶器、磁器、石 器(砥石)、土製品、金 属器(銅銭、鉄釘)			
			柱穴	1基				
		中・近世	掘立柱建物	9棟				
			土壇墓	12基				
			土壇	78基	土師器、陶器、磁器、石 器(砥石)、土製品、金 属器(銅銭、鉄釘)			
			井戸	5基				
			焼成土壇	2基				
			溝	64条				

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127

津 寺 遺 跡 5

山 陽 自 動 車 道
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

15

(第2分冊)

1998年3月13日 印刷

1998年3月31日 発行

編 集 岡山県古代吉備文化財センター
岡山市西花尻1325-3
発 行 岡山県教育委員会
岡山市内山下2-4-6
印 刷 旭総合印刷株式会社